

渡来人研究会掲示板の過去ログ(2012-13) <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/>

魔鏡 投稿者：管理人 投稿日：2014年1月29日(水)21時38分4秒 返信・引用 編集済

ちょっと書き込み休もうとおもっていたら、面白いニュースが入ってきました。三角縁神獣鏡の表面が魔鏡の構造で、光を反射すると、紋様が浮かびあがるそうです。

下記の記事参照。どうも、絵柄からみて、四方に放射線がでており、裏面同様に、方位測量に使ったのでしょう。裏面の方位を示す四獣紋様を、北斗七星や北極星位置とあわせながら方位を換算する測量方法を昨年は論議して会報に掲載したとおりですが、表面も同様に測量に使えとなると、かなり方位測量が楽になるはずです。

つまり、上記のようにして裏面で方位をある程度確定して、さらにそれを今度は太陽光や火の光反射をつかって、表面に反射させて、測量の目的としたい地面、つまり古墳や測量したい土地のマウンドに反射させると、一気に方位を示す紋様そのマウンドに投影されて、すぐに方位確定ができるわけです。そういう用い方をしたのではないのでしょうか。

相当な技術者集団ですね。官営工房でもトップレベルの技術者でないと、こういうものは造れないはずです。当時中国の官営工房に入り込んでいた、キシさんの投稿にもあるスキタイ・サカ・月氏系の技術者かもしれません。

「卑弥呼の鏡」は魔鏡…太陽光を反射し「文様」浮かぶ、呪術具で使用か 3Dレプリカ実験

2014.1.29 17:09 (1/2 ページ) [west ライフ]

太陽光を反射させると文様を浮かび上がらせる「魔鏡」であることが分かった古代青銅鏡の三角縁神獣鏡（レプリカ）＝29日午前、京都市東山区の京都国立博物館（恵守乾撮影）

「卑弥呼の鏡」とされる3世紀後半の三角縁神獣鏡が、日光などの光をあてると反射光のなかに背面の文様が浮かび上がる「魔鏡」の構造だったことがわかり29日、京都国立博物館の村上隆学芸部長（歴史材料科学）が発表した。最新技術で復元模造鏡を作り、確認した。謎に包まれた鏡の祭器としての使い方などの解明にもつながる可能性がある。

村上氏らは、愛知県犬山市で出土した三角縁神獣鏡（重要文化財）の表面にレーザーをあて、表面の凹凸を精密に計測。そのデータをもとに最新の3Dプリンターを使うなどして完全に復元し、実験した。

銅鏡などは、鏡面を研磨するさい、薄い部分は微妙にへこみ、厚い部分に比べるとあまり削れない。魔鏡は、この仕組みを使って鏡面に微妙な凹凸をつけ、日光などを反射すると、模様を浮かび上がらせる構造になっている。

三角縁神獣鏡は最も厚い部分が約2センチ、薄い部分は1ミリ以下。この肉厚差を使って魔鏡に仕上げ、祭祀などで使っていたとみられる。

京都大大学院人文科学研究科の岡村秀典教授（中国考古学）は「出土品は磨いたり、実験をすることができないが、この技術では完全な復元品を作ることができる。三角縁神獣鏡の用途や製作地などをめぐる謎の解明にも役立つ可能性がある」と話している。

復元した鏡は、富山県高岡市の市美術館で6月28日から展示される予定。

http://sankei.jp.msn.com/west/west_life/news/140129/wlf14012917170013-n1.htm

Re: (無題) 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月29日(水)11時41分42秒 返信・引用

> No.1976[元記事へ]

>整理しますと、瑞穂→倭国：秦国(タイ国)→倭国→日本になるな。

秦国(タイ国)・・・アルタイ スキタイ・・・放浪する・・・回族？

「アブー・ターイ」は“クンヤふう”ですが、「放浪する 父親、さまよえる先祖」という“部族名”なのです。

「アブー・ターイフ」は、「ターイフの父親の」という意味ではないのです。この「ターイフ」の正体は、<http://ameblo.jp/nirenoya/day-20090120.html>...

['ターイフ']「さまよう、道に迷った、放浪する」

東方のサカは西方のスキタイより活動時期が長く、現在のアフガニスタンやパキスタンにも侵入する
..... 19:04:37. 東アジアでクルガン(>61)の作り方を初期に教えて貰ったのは、アルタイ系の人達ですか？ ウズベキスタンや雲南の回族なんかに F 1 がそこそこいる。 mt-F や B と >794 ヒッピーとかジプシーとか 20 世紀後半まで放浪してたろ

スキタイ、サカとサルマタイ、アランはともにイラン系騎馬遊牧民であるが
前者の軍事形態は軽装騎乗弓兵であり、後者は重装突撃騎兵
民族出自と宗教が似通っているが、他はあまり関連性がない

西方のスキタイは黒海沿岸のステップからサルマタイに BC2C 頃駆逐され
遊牧ができないクリミア半島に閉じ込められ定住化した
その後、クリミアに閉じ込められたスキタイは AD3C 頃フンが到来する以前に消滅する

東方のサカは西方のスキタイより活動時期が長く、現在のアフガニスタンやパキスタンにも侵入する
もともとギリシャ語のスキタイはサカの転訛した言葉といわれる

藤原氏は「扶余国を開いたペルシャ系のスキタイ・サカ族（塞族）である」という指摘がある。ペル
シャではスキタイのことをサカと呼んでいた。中国ではサカ ...スキタイ・サカ族は中臣氏、秦氏から
藤原氏に合流したとも考えられる。 <http://aoisekai487.blog7.fc2.com/?tag=%A5%B9%A5%AD%A5%BF%A5%A4%A1%A6%A5%B5%A5%AB%C2%B2>

古代から現在に至るまで、公家や貴族として日本の支配層を占めてきたとされる藤原氏は、新羅系とも、
伽耶系とも唐系とも言われる。

さらに遡れば、藤原氏は「扶余国を開いたペルシャ系のスキタイ・サカ族（塞族）である」という指
摘がある。

ペルシャではスキタイのことをサカと呼んでいた。中国ではサカを音訳して塞（サク）と呼んだ。

また、藤原氏は古代イスラエルのタルシン船でやって来て、九州に邪馬台国系の国を建国したイッサカ
ル族ではないかという説もある。

スキタイ・サカ族は中臣氏、秦氏から藤原氏に合流したとも考えられる。

エーと、それじゃ スキタイ・サカ族 て何？

インド・ヨーロッパ語族に属するスキタイ族は、黒海の北部に居住する平和的な遊牧民であったが、
金属の武器と馬具で武装した強力な騎馬軍団を組織して、黒海の北部からアッシリア、イラン高原を席
巻し、紀元前 6 世紀には南ロシア、コーカサスを領域とする広大な騎馬民族国家を形成した。

彼らは武力による略奪だけでなく、ギリシャ植民地との交易、すなわち、毛皮、家畜、食糧などを輸
出し、貴金属、陶器、ワインなどを輸入して大きな利益を獲得した。

スキタイ・サカ族が好戦的な征服王朝を建国する過程で、イスラエル支配勢力、即ちイスラエル亡命貴
族、イスラエル商人、イスラエル人の介在があったと考えられる。

交易と財力と技術力と権謀術数に任せて、イスラエル人はスキタイ族の国に取り入って行った。

スキタイ・サカ族は「黄金の道」と言われたステップシルクロードを騎馬部隊によって席卷し、遠距離地域と交易や農耕民からの略奪を繰り返した。

イスラエル支配勢力とスキタイ騎馬民族の連合体は、スキタイ・サカ族としてシルクロード各地で植民・建国活動を行う。パルティア王国、クシャン王国等がそれである。

その後もスキタイ文化の影響は中央アジアからモンゴル、華北にまで拡大し、タタール、突厥、匈奴等の遊牧騎馬民族国家が発生する。

この影響は朝鮮半島や日本列島にも達した。

後半3つの引用はこちらから

「シルクロード渡来人が建国した日本」 久慈力

ちなみにタタールは中国名は韃靼（だつたん）。

浅田次郎の小説「蒼窮の昴」の中で、清朝の皇族は女真ではなく韃靼と称していた。

「韃靼の女」とか・・・

清朝はスキタイ・サカ族の末裔ってことになるのでしょうか？

そうだとすると日本の皇統とは藤原氏を通じて御親戚。

傀儡政権、清王朝の設立もうなづけますね。

おっと話がそれてしまいました。

大化の改新に戻りましょう。

秦氏のルーツは古代イスラエル王国にまでさかのぼりますから、

秦氏はスキタイ・サカ族に近寄って利用しながら、途中いくつかの王国を創りながら、朝鮮半島、日本にまでやってきた。

大化の改新のときも、秦氏が藤原氏をかついで蘇我氏の勢力をそいだということになりますね。

対立する勢力のの裏に潜んで操作していたということ。

蘇我氏はもともとカッシート人だが、バビロニアを滅ぼすときにヒッタイトと手を組んで、呼応してことを起こしたらしい。

イスラエル王国のソロモン王の母はヒッタイト人で彼はユダヤ人とヒッタイトの混血。

何が何だか分からなくなりなりそうですが、一言で言えば「内ゲバ」ということでしょう。

メソポタミアや中央アジアからやってきた渡来人たちがはるか東方にやってきて権力争いをした。

(きっと先住の縄文人たちは奴隷になったり、兵士になったりしていたのでしょう。)

そうして、最終的に主権をとったのが、藤原氏を前面に出した秦氏。

秦氏は先に書いたように聖徳太子をバックアップしていたが、その時に蘇我氏が物部氏を討伐している。
聖徳太子もその討伐に自ら馬に乗って出陣している。

蘇我氏はその討伐により、物部一族の莫大な財産を手にした。
それとシルクロードで築いた財産が蘇我氏の繁栄の源になった。

蘇我氏はその財宝で屯倉を各地に造り、イネや穀物による貢納体制を築いた。
中央集権国家の基礎・税制＝律令制を築き、戸籍制度の確立させた。

その体制が出来上がった頃、蘇我入鹿・蝦夷を葬った。
つまり、労せず、おいしいところは頂いた。

藤原氏(＝秦氏)は日本書紀を作り、自分たちの都合のよいように歴史を書き、
蘇我氏のやった業績を聖徳太子一人のものとして、聖徳太子を神格化した・・・

お休み 投稿者：管理人 投稿日：2014年1月28日(火)21時49分48秒 返信・引用

キシさんお疲れさまです。秦野さんもお休みなようですし、私もちょっと多忙につきしばらく書き込みを中止します。また再開の時期になりましたら、連絡します。

管理人

Re: 突き刺すいばら ソロ人 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月28日(火)00時17分28秒 返信・引用

> No.2008[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 約十年万年前、スンダ大陸の旧人である ソロ人が移動して、黄河流域周辺で非定住の狩猟採取生活を営むように ...<http://blog.yoshiokamanabu.com/?eid=1314>

> 一万二千年前のビュルム氷河期終焉の大洪水 スンダ大陸文明海没～

> 現在のインドネシアの島々が形成され、シュメール人が率いる人々がエブス人の舟によって脱出し、東南アジア・メコン河の中・下流域に移動定住する・・・

> ソロ人

> 20～15 万年前に「ソロ人」と呼ばれる旧人が住んでいたことが知られています

http://www1.tcat.ne.jp/eden/Hst/indonesia/jawa_genjin_no_kokyou.html

> ルーシー (アウストラロピテクス)[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%BC_\(%E3%82%A2%E3%82%A6%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%AD%E3%83%94%E3%83%86%E3%82%AF%E3%82%B9\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%BC_(%E3%82%A2%E3%82%A6%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%AD%E3%83%94%E3%83%86%E3%82%AF%E3%82%B9))

> エチオピアの現地語ではディンキネシュ

>

> 『Lucifer』はラテン語の『lux(光)』と『fero(運ぶ、もたらす)』が語源のようです。時代も語派も異なる事から ... ルーシーの起源は、シラキユーズ (シラクサ) でディオクレチアンに迫害されて清い身で亡くなったセント・ルチア ルシフェルはリーダーズ

...http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1413781699

> ルーシーの起源は、シラキユーズ (シラクサ) でディオクレチアンに迫害されて清い身で亡くなったセント・ルチア

>

ルーシ人は、ラテン語で「ルテニア人」

漢＝カンの語源は、カナンもしくはカイン <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

ゴート族はルーシ人は、ラテン語で「ルテニア人」

突き刺すいばら ソロ人 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014 年 1 月 27 日(月)12 時 05 分 31 秒 返信・引用

約十年万年前、スンダ大陸の旧人である ソロ人が移動して、黄河流域周辺で非定住の狩猟採取生活を営むように ...<http://blog.yoshiokamanabu.com/?eid=1314>

一万二千年前のビュルム氷河期終焉の大洪水 スンダ大陸文明海没～

現在のインドネシアの島々が形成され、シュメール人が率いる人々がエブス人の舟によって脱出し、東南アジア・メコン河の中・下流域に移動定住する・・・

ソロ人

20～15 万年前に「ソロ人」と呼ばれる旧人が住んでいたことが知られています

http://www1.tcat.ne.jp/eden/Hst/indonesia/jawa_genjin_no_kokyou.html

ルーシー (アウストラロピテクス)[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%BC_\(%E3%82%A2%E3%82%A6%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%AD%E3%83%94%E3%83%86%E3%82%AF%E3%82%B9\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%BC_(%E3%82%A2%E3%82%A6%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%AD%E3%83%94%E3%83%86%E3%82%AF%E3%82%B9))

エチオピアの現地語ではディンキネシュ

『Lucifer』はラテン語の『lux(光)』と『fero(運ぶ、もたらす)』が語源のようです。時代も語派も異

なる事から ... ルーシーの起源は、シラキユーズ（シラクサ）でディオクレチアンに 迫害されて清い身で亡くなったセント・ルチア ルシフェルはリーダーズ

...http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1413781699

ルーシーの起源は、シラキユーズ（シラクサ）でディオクレチアンに迫害されて清い身で亡くなったセント・ルチア

シラクサのルチア（イタリア語：Santa Lucia, 英語：Saint Lucy 伝承による生没年：283 年-304 年）は、聖ルチアの名で知られるキリスト教の殉教者。

聖殿巫女というのは、聖殿を訪れた信者と床を共にしてお告げをする巫女兼娼婦といった職業です。

聖ルチアは民間伝承では天の光を運ぶ聖女とされ、また暗闇に光を与える女神、火を産み出す女神ともされています。

天の光を運ぶ聖女

「光の運び手」としても言及される。これらの述語は、ルシファーと同義 である。「金星が二つの体を有すると信じて、古代ギリシャ人は、朝の ...<http://satehate.exblog.jp/17352515/>

「金星が二つの体を有すると信じて、古代ギリシャ人は、朝の星を Φωσφόρος、フォスフォロス [Phosphoros]（ラテン語で Phosphorus）、『光の運び手』あるいはエオスフォロス[Eosphoros]（ラテン語で Eosphorus）、『夜明けの運び手』と呼んだ。夜の星は、ヘスペロス[Hesperos]（ラテン語で Hesperus）（?σπερος、『宵の明星』）と呼んだ。ヘレニズム時代までには、古代のヘスペロスは、ラテン語でヴェスパー[Vesper]として、そしてフォスフォロスは、後に天国から追放された墮天使と言及される詩的な術語ルシファー[Lucifer]（『光の運び手』）として翻訳されるだろう。」 -

「ピタゴラスの弟子たちはまた、金星を大いに崇拜した。なぜなら、それが影を投げかけるに十分明るい唯一の惑星だったからである。明けの明星として、金星は、夜明け前に可視であり、そして宵の明星として、それは日没直後真っ先に輝く。これらの特質のゆえに、それに対して多数の名前が古代人たちによって与えられてきた。日没時に空に見えるので、それはヴェスパーとよばれた。そして、それは太陽より先に昇るので、それは、偽の光、明けの明星、あるいは光の運び手を意味するルシファーと呼ばれた。」 - Manly P. Hall, The Secret Teachings of All Ages

フォスファーとヘスパーは、同じ実体、旋回の異なった段階で、オカルト的にルシファーと関連づけられている天体である金星を意味する二つの言葉である。

フォスファーを表している人物は、モーゼス、ゾロアスター、そしてブッダのような東洋の哲学者たちの名前を擁しており、他方ヘスパーは、ソクラテス、フランシス・ベーコン、イマニュエル・カントなどの西洋の思想家の名前を擁している。

これらの歴史上の人物たちは、ランダムに選択されてはいない：彼らはみな、神秘学校の教えにおいて重要な役割を果たしている。実際、フランシス・ベーコン、ルネ・デカルト、そしてイマニュエル・カントは、西洋文明における現代薔薇十字主義とフリーメイソン団の復活の中心的人物たちである。

その地球は、黄道十二宮の星座を含む一つの環に囲まれており、そして 48 のライトで照らされている。その環は、天井の日差しにつながる鎖に取り付けられている。すでに見たように、日差しは神性を表す古代のシンボルである。この意匠は、神の 72 の名を表すカバラ的版画を彷彿とさせる。

魚座時代が2000年続いた。南十字星は見えなくなった歳差運動によって地球の傾きが起こったのだ。天体観測による説明が目視できなくなった。魚座時代の橋渡し役でもあったグノーシスはキリスト教にバトンタッチして消滅した。<http://shizu.0000.jp/read.php/cult/1236441159/338-437>

金星南極の渦は歳差運動型循環を明らかにする」の情報です

<http://www.sciencemag.org/content/332/6029/577.abstract>

ガリレオが、地動説を証明した糸口は、金星の満ち欠けを観察していて、不思議なことを発見したことであると伝わっている。<http://www.gem.hi-ho.ne.jp/sogenji/hitokuchihouwa/chidousetu-zakkan.htm>

金星の会合周期を地球との関係で結ぶと5芒星に、水星の会合周期を地球との関係で結ぶと6芒星になる。<http://homepage1.nifty.com/metatron/zone-19/between03.htm>

$364.24 = 116 \times \pi(3.14)$ 。つまり水星の会合周期に円周率を掛けるとほぼ364日になる。金星の会合周期を地球との関係で結ぶと5芒星に、水星の会合周期を地球との関係で結ぶと6芒星になる。

商業の神、旅人の守護神

アフロディテ（金星）とヘルメス（水星）
<http://www14.ocn.ne.jp/~ant/Stars/lab0/solarSys/name.html>

ゼウス、神様のくせになかなかスキモノで奥さん以外の女性との間に次々と子供をこしらえてしまう。

ルーシー（アフール猿人）ファー

君主ツロ（ルシフェル）

ツロは旧約聖書の預言の中で何度も言及されています。

例; イザヤ書23章1～8節、エレミヤ書25章22節、27章3節、47章4節、ホセア書9章13節、ヨエル書3章4節、アモス1章9～10節、ゼカリヤ書9章2～4節。

1. 君主に擬人化されたツロの商業都市国家

ツロの王の破局の真の原因が28章において記されています。バビロン、エジプト、ペルシャなど、国の王の名前は聖書の中に記されていますが、不思議なことに、ツロの君主の名前が記されていません。ツロという繁栄した商業都市の魂の化身として、その誇りを「ツロの君主」と擬人化しながら、「私は神だ」（「エール・アーニー」??? ?????）と比喩的に表現しているのかもしれませんが。擬人化された「ツロの君主」だとしても、その知恵と政治的能力は、ツロを並々ならぬ繁栄に導きました。商売上の抜け目なさにより、ツロの君主は莫大な財宝と富を築き上げました。君主の心はその財宝と富によって高ぶったのです。

2. イザヤ書14章との比較

ツロの君主とイザヤ書 14 章 12～20 節にある「明けの明星」(ルシファー)との関連で、両者とも神の敵であるサタンを表わすものであるという見解があります。とすれば、これらの箇所はサタンの起源と墮落についての啓示となります。いずれも共通している点は「高ぶり」です。最終的なさばきはまだ先の事ですが、その運命はすでに

イスラエルの回復の預言

28:24 イスラエルの家にとって、突き刺すいばらも、その回りから彼らに痛みを与え、侮るとげもなくなるとき、彼らは、わたしが神、主であることを知ろう <http://meigata-bokushin.secret.jp/index.php?%E3%83%84%E3%83%AD%E3%81%AE%E7%8E%8B%E3%81%AB%E5%AF%BE%E3%81%99%E3%82%8B%E5%93%80%E6%AD%8C>

ユダヤ・キリスト教の象徴体系において、「あざみ」「アカンサス」「茨」をはじめとする棘のある植物(註1)は、罪の呪い、すなわち罪ゆえに神の祝福を受けることができない状態を象徴します。

http://antiquesanastasia.com/art/reference/symbols/plantes/herbes/chardon/general_info.html

「創世記」3 章には人祖アダムとその妻エヴァが「善悪を知る木」の実を食べ、楽園を追放される物語が書かれていますが、このとき神がアダムに語り給うた言葉に、新共同訳で「茨」「あざみ」と訳されている植物名がでてきます。

ヘブル語の植物名は、七十人訳のギリシア語では「アカントス」(引用文中では複数対格形アカンタス ?κ?vθας) となっています。アカントス (?κανθος) すなわちアカンサスという名称はギリシア語で「棘のある花」という意味で、「アカンタ」(?κανθα 「棘」)と「アントス」(?vθo? 「花」)に由来します。筆者(広川)の手許にあるリデル・スコット希英辞典第9版によると、「アカントス」はアカンサス (*Acanthus mollis*)、アラビアアカシア (*Acacia arabica*)、ハリエニシダの近縁種 (*Genista acanthoclada*) を指します。これらの植物は分類学上は互いに大きな隔たりがあり、また茨(バラ)もこれらのいずれとも大きく異なる植物種ですが、いずれも棘を有するという共通点があります。

gorse の意味や和訳。【名詞】【不可算名詞】【植物, 植物学】ハリエニシダ。<http://ejje.weblio.jp/content/gorse>

逆たつ、いら立つことを表す。 1.植物(gh%rzd-) 大麦(orgeat,orzo)。2.怒りっぽい人、ハリネズミ(urchin)。3.ロケット、急上昇する(erucic acidw)。4.毛深い。5.痛む、厄介な(hispid)。6.身震いする(horrible,horrid)。7.干し土地(chersonese)。

gorse

雄馬は horse,

horse とは。意味や和訳。[名]1(1) 馬. ⇒HARNESS (図) horse and cart 荷馬車 (▽× cart and horse とは言わない) work like a horse がむしやに働く eat like a horse もりもり食べる be (as) strong as a horse ものすごく力が強い ride [mount... - goo 辞書 は ...

4 ((集合的))騎兵；騎兵隊

6 ((通例複合語)) (物を載せたり支えたりする) 脚つきの枠 [台]；のこひき台, きゃたつ, (皮の) なめし台

7 ((主におどけて))人, やつ.

8 ((米俗))とらの巻.

9 ((略式))《チェス》ナイト.

gorse horse

子音字だけ

ヘブライ語も、元々は、古代エジプト語と同様に、母音 字というものはなく、旧約聖書も、書かれた時は子音字だけで書かれ ...

ゼベダイ（邪馬台）親族移住後の大ユダ キリスト 処刑後の移住/何故、移住は許可されたか/ゼベダイ定住後の大ユダ/記紀に見る伊都 ...

ゼベダイ（邪馬台）親族移住後の大ユダ. キリスト処刑後の移住 何故、定住は許可されたか ゼベダイ定住後の大ユダ 記紀に見る 伊都国王. 王と接見したゼベダイ「角がある人」. 垂仁天皇二十五年. 角がある人、饒速 日 ...<http://www.saturn.dti.ne.jp/~ttshk/newpage17.htm>

キリスト処刑後の移住

何故、定住は許可されたか

ゼベダイ定住後の大ユダ

記紀に見る伊都国王

王と接見したゼベダイ「角がある人」・・・ツヌガアラシト

都怒我阿羅斯等（ツヌガアラシト）と言い、天日槍（紀）[天之日矛（記）]の別名であるといひます。すなわち氣比大神＝天日槍（天日矛）であるといわれています。

<http://whalesongs.web.fc2.com/iwato/tunuga.html>

ツヌガ阿羅斯等「都怒我阿羅斯等」は意富加羅（おほから）の王子 と『日本書紀』にはあります。

「都怒我阿羅斯等」のまたの名は、于斯岐阿利叱智干岐ウシキアリシチカンキで"ウシ"の字が見えています。 天之日矛や、都怒我阿羅斯等（日本書紀）の説話にも、牛の話がありました。牛頭天王とはスサノヲのことですが、牛頭や角のある人とは、三日月型の兜をかぶった人が渡来したと読む人もいます。スサノヲが新羅で天降ったところが「曾戸茂梨」であり、ソシモリは牛の頭の意であるそうです。新羅といえば。天之日矛は新羅の王子でした。

佐賀県の「天衝舞」という大きな三日月型の被り物をかぶって舞うお祭りがあります。 角状の冠物は高さ3メートル以上にも及び冠の中央には、太陽・三日月・宝珠が描かれているといひます。異様な出で立ちではありますが、いずれも由来は北方系（サカ族、スキタイ、ペルシャ、アラブ）にあるといひられているそうです。

敦賀ツルガとは、 氣比の角鹿神社（祭神、都怒我阿羅斯等命）の「ツヌガ」であり、越前国ニの宮にあたる 劔神社（祭神 都留伎日古命）があるように、角ガアラシトは、つまり「劔ツルギのある人」、すなわち天之日矛であります。（天之日矛と都怒我阿羅斯等は同神。）そして矛を持つ神ともなれば、また、八千矛の神という多くの矛を持った神となり、鉄器と深いかわりを持ちタタラ師であったのであり、渡来してきた神、民族であり、なぜかいつもわき出る雲に覆われ、その痕跡は闇夜に雲隠れとなられたのでありましょうか。その偉大なるその神の名は、天の太陽を表し、あまねくその光をふりそそぐ劔を持つものだという結論にいたるわけなのですが、この神は世界共通であり、ここかしこに現れており、その名も偉大な光を表すものだったといわなければならないようです。

ゼバダイ（邪馬台）親族移住後の大ユダ、キリスト処刑後の移住インマヌエル・イエス様 処刑後、残ったユダヤ教徒は、エルサレムのマサダの砦で、ローマ兵に包囲されたまま 自害して果て、他の或る人々は散りました。<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/2065>

ゼバダイのアラム語形は「ザブダイ」ですので、「魏志倭人伝」ではこれに「邪馬台」と当て字したと考えられます。(12.23.)

イーシェを慕う「角がある人」は、自分達はエルサレムから来たと、伊都国の王に告げたのです。

王はゼバダイらに「自分が大ユダの王であり、他に王は居ない、だから他へ行くな」と云う。

引用文の中に「必ず王に非じといふことを知りぬ」とあるので通常、王ではないと解されていますが、「伊都都比古」とは伊都の王のことですから、その本来の意味は、王であるにも関わらず王にあるまじき行為をする王、という意味であったであろうと筆者は解します。大ユダ内部では、これはとても王とは言えない、というような評価であったと考えられるのです。

ゼバダイらは帰化、即ち定住の許可を得た後、王からは離れて日本海を沿岸に沿って船を北上させていき、現在の福井県敦賀市の辺りに上陸するのです。そして山を越えて琵琶湖にそって南下し、最終的には奈良周辺に住み着いたであろうと推理するのであります。

マルコ伝のゼバダイ

それらのことを聴き知って事情を理解したゼバダイの親族たちは、極東の列島のユダへ移住しようと決意したわけです。

「蝦夷」＝カナン先住民のエブス人・・・フェニキア人 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月27日(月)00時34分38秒 返信・引用

カナン人は、フェニキア人に符合

カナンのエブス人が住んだ町 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%AC%E3%83%A0>

サレム(英語:Salem)は旧約聖書に登場する地名で、エルサレムを指す古称の一つである。「平和」「平安」を意味するシャーレームが語源であるという説や、この場所で礼拝された異教の神にちなんでいるという説もある[1]。

本来、カナンのエブス人が住んだ町で、南東丘をさす「シオン」とも呼ばれた。創世記に登場する王

と祭司を兼務したメルキゼデクは、その町の代表者として、アブラハムに戦勝の祝福の言葉を述べた。新約聖書のヘブル人への手紙でもメルキゼデクは「サレムの王、すなわち平和の王」と言及されている。ダビデが先住民のエブス人を追放してから、イスラエル人が住むことになり、エルサレムと呼ばれるようになった。

カナン、あるいはカナアン（ヘブライ語: כְּנָעַן Kə'nā'an クナーアン、英語: Canaan）とは、地中海とヨルダン川・死海に挟まれた地域一帯の古代の地名である。聖書で「乳と蜜の流れる場所」と描写され、神がアブラハムの子孫に与えると約束した土地であることから、約束の地とも呼ばれる。現代のカナンに関する知識の多くは、1928年に再発見された都市ウガリットの発掘調査によってもたらされた。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%8A%E3%83%B3>

カナンという名称の起源は不明であるが、文献への登場は紀元前3千年紀とたいへん古い。シュメール人の都市マリの紀元前18世紀の残骸で発見された文書では、政治的な共同体として明瞭に見いだされる[1]。

紀元前2千年紀には古代エジプト王朝の州の名称として使われた。その領域は、地中海を西の境界とし、北は南レバノンのハマトを経由し、東はヨルダン渓谷を、そして南は死海からガザまでを含む[2]。

カナンはイスラエル人到来前には民族的に多様な土地であり、「申命記」によれば、カナン人とはイスラエル人に追い払われる7つの民の1つであった[3]。また「民数記」では、カナン人は地中海沿岸付近に居住していたに過ぎないともされる[4]。この文脈における「カナン人」という用語は、まさに「フェニキア人」に符合する。

カナン人は実際にはイスラエル人と混住し通婚した。ヘブライ語はカナン人から学んだものである（イスラエル王国を参照）。

カナン人は近東の広範な地域において、商人としての評判を獲得していた。メソポタミアの都市ヌジで発見された銘板では、赤あるいは紫の染料の同義語として "Kinahnu" の用語が使われ、どうやら有名なカナン人の輸出商品を指すらしい。これもまた、「ツロの紫」で知られるフェニキア人と関連付けることが可能である。染料は大抵の場合、その出身地にちなんだ名を付けられた（シャンパンのように）。同様に、旧約聖書に時折例示されるように、「カナン人」は商人の同義語として用いられ、カナン人を熟知した者によってその容貌が示唆されたものと思われる。

約3500年前、フェニキア人・エブス人・ヒッタイト人らが、タルシシ船で渡来し国東半島へ製鉄基地を築いて「殷文化圏」に鉄製品を供給し始め、それと呼び水にして水田稲作文化をもったシュメール人と苗族が日本列島に上陸し始めました。

<http://plaza.rakuten.co.jp/phoenix3/diary/200706160000/><http://plaza.rakuten.co.jp/phoenix3/diary/200706160000/>

長い縄文時代の後、弥生文化の新時代が到来し、人口も急激に増加しました。

続いて3100年前、エブス人・ヒッタイト人及び殷人らが豊ノ国（東表国・都は宇佐八幡宮）を打ち建てました。

これが私達の国第一王朝の始まりでありました。

そして、その金属文化を伴う水田稲作農業文化は、王国の拡大とともに急速に日本列島全体へ普及して

いきました。

縄文時代から弥生時代にかけての幾時代にも渡る、このような新しい民族の渡来ごとに新渡来人は、先住民である港川人・オロッコ人・ツングース（アイヌ人）・アエタ族らの縄文人を戦闘で打ち負かし、すべて捕虜にしました。

この捕虜達は、不必要に殺されず、できるだけ生かして、新文化の建設に活用されていきました。

日本人の先祖は、殷の時代から「南倭人」とも呼ばれ、南方からフェニキア人の船に乗り鉄文化と弥生農業を携えて渡来した夷人であり、「夷」をエミシとよんでいたのは、夷とはカナーンのエブス人のことであり、昔から親しまれてきたエビスさまのことでした。

実は、宇佐八幡では東表国の建国史を伝える秘儀が放生会として3000年以上も連綿と現在も続けられています。日本最古の儀礼です。

人形浄瑠璃などは、古代インドから渡来したクシャトリアの漂白民で男性は狩猟女性は遊女を業として、かたわら人形を舞わす芸を演じていたものが発展したものです。

またタタラ製鉄文化は、七福神を祭る「戎神社」や海洋民が崇拝する「金毘羅信仰」なども、その名残です。

エブス人・ユダヤ人などの弥生人である商人たちは、海岸縁に居を構え、縄文人のテリトリーを決して侵すようなことをしませんでしたから、港川人・オロッコ人・アイヌ人アエタ族などの多くの農民に親しまれ、「村の鍛冶屋」への各種の鍛鉄製品（農器具）を運びました。

その由来は、「エビスさま（エブス人）・大黒（アブラハム→ダビデ→ソロモン）さまとして現在でも日本の各家庭に祭られています。

弥生文化を先住民が受け入れ、各地の気候や風土に合うように改良されて普及するまでには1000年もの年月がかかったようです。

そしてこの千年が天の王朝として神武以前の歴史が日本に存在したのでした。

Re: 碧骨堤 羊太夫 秦氏 アモン人？ 投稿者：管理人 投稿日：2014年1月25日(土)22時51分36秒 返信・引用 編集済

> No.2005[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 羊太夫にゆかりのある神保氏や惟宗氏は、まぎれもない秦氏であることが歴史学的に証明されている。もつといえば、太夫 菅原道真も、怨霊と化したとき、清涼殿に雷を落としたことがきっかけで、天神様と呼ばれるようになったのだ。 <http://www.shundaichi.com/2003-3785739173etc.html>

> ユダヤ人はユダヤ暦でいう年越しと新年にかけて「過ぎ越しの祭り」を行う。このとき、彼らはマツォを食べるのだ。これは

>

確かに、東北の蝦夷と、北海道の粛慎との相違を考える上で、遊牧民や中東方面まで視野に入れることは正しい選択だと思います。

昨年論議したミトコンドリア DNA の分布がそれを顕著に物語っています。

下記のサイトから、その分布図を引用して、さらに結合した図を添付します。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08_1.mitochondria_karamita_sosennhtml.html

そうすると、ここで「関東縄文人」と「アイヌ」とが、まったく異なった人種であることが明らかになるでしょう。

アイヌは、沖縄系とも共通性があり、おそらくは古い縄文人、石器時代人の末裔だろうと感じます。

ところが、関東縄文人に多いのは「M10」「M8」といったもので、それは図2のように、中国山東省とか、はるか遊牧民のほうに多いそれなわけです。

半島にも流れ込んでいて、これは、去年論じた HLA 分析 の中東、半島経由で入ってきた系統の新縄文人だと言えるでしょう。

つまり、彼らは紀元前5～1世紀の間に、半島経由で、どういうわけか、関東から東北にかけて渡ってきて「蝦夷」と呼ばれていたのでしょう。

それ以前から東北北海道にいた古い縄文系の「粛慎」とは異なるわけです。

まったく異なる文化・遺伝子集団を、ひとまとめにしてアイヌ＝縄文人として、戦後ずっととりあつかっていて、まったく疑問の余地もなかったのかなとも感じるのですが、先のとおり書紀には、東北＝蝦夷、北海道＝粛慎で、あきらかに区別しているわけですね。彼らは、つまり遠征や交易をしていた阿倍氏や吉士集団、漢人等は、言語も習俗も人種も違うことを理解していたはずです。

しかし、どうして、東北へ半島から一気にむかったのか？それがいまいち不明ですね。

記録がないのですが、あえて求めるとすれば、前漢時代やその前の秦・戦国末期の穢・扶余の記載でしょうか。

となりにいた粛慎系の集団とは明らかに習俗もことなっていたのですが、ある時期に迫害などで、東扶

余が出来ていく、その前後で一気に東北方面へと渡って行った、陸伝いか、船によってかはわかりません。

関東武士とかの頭骨が、ちょっと違うらしいですね。堀が濃く、細長だそうで、ちょっとコーカソイド系をおもいつきます。アイヌ系とも違うのではないのでしょうか。

<http://www.asyura.com/09/reki02/msg/547.html>

確かにキシさんご指摘の群馬の羊大夫とか、ペガサス伝承、あるいはもっと異なる伝承が、東北北部にある可能性は否定できないような気がします。

製鉄とか、金属精錬技術、扶余系が得意としていたところですね。

言語面で、分析するには、確かにご紹介の東北民謡とか地名とか、そういうのを探すしかないでしょう。

先日論議した東北北部と推定した「後方羊蹄」の「羊」は、どういう発想ででてきたのか？、吉士集団などの渡来系の概念に、現地特有の概念が加わって地名が名付けられて行く、そんな感じでしょうか。

碧骨堤 羊太夫 秦氏 アモン人？ 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014 年 1 月 25 日(土)20 時 21 分 51 秒
返信・引用

羊太夫にゆかりのある神保氏や惟宗氏は、まぎれもない秦氏であることが歴史学的に証明されている。 もっといえば、太夫 菅原道真も、怨霊と化したとき、清涼殿に 雷を落としたことがきっかけで、天神様と呼ばれるようになったのだ。 <http://www.shundaichi.com/2003-3785739173etc.html>

ユダヤ人はユダヤ暦でいう年越しと新年にかけて「過ぎ越しの祭り」を行う。このとき、彼らはマツォを食べるのだ。これは

三宅氏の祖先で、ルーツを辿ると古代朝鮮の新羅の王子、天之日矛に遡る。

天之日矛を秦氏集団の象徴だと主張した。つまり、タジマモリは秦氏であり、ユダヤ人原始キリスト教徒 の末裔なのだ。彼がカッバーラを知っていた可能性は高い。

大規模貯水池だった史蹟 11 号碧骨堤は 1 千 500 余年の前にあつたと記録されている”

碧骨堤（ピョッコルチェ）は韓国最大かつ最古の貯水池で、330 年（百済 11 代比流王 27 年）に建設されました。碧骨堤のある全羅北道（チョルラブット）金堤市（キムジェシ）は韓国で最も広い万頃平野（マンギョンピョンヤ）を抱えており、古代から現代にいたるまで穀倉地帯で知られた土地です。

http://www.konest.com/contents/spot_mise_detail.html?id=4263

330 年（百済 11 代比流王 27 年）に高さ 3～4 メートル、全長約 3 キロの堤防を築き作られた貯水池、碧骨堤の歴史や構造を紹介しています。農耕社会において治水が何よりも重要であり、国家を維持する基盤と言っても過言ではなく、堤防を積み上げるのに 32 万人が動員されたと言われています。その後も 790 年（統一新羅）、1415 年（朝鮮時代）にも大規模な修築が行われています。その規模の大きさは、朝鮮時代の修築の際、全国から集められた人夫が碧骨堤に到着し、草鞋についた土をはらった場所が山となったところが、現在の草鞋山（チョヘサン）であるという言い伝えから伺い知ることができます。碧骨堤の維持・修築がどれほど巨大な国家規模の事業であったかを推し量ることができます。1420 年に暴風のため流失、1925 年の日本支配期には灌漑用水路として改造したため破損、現在に至っています。

世界遺産登録を目指す金堤第一の史跡

金堤という地名は黄金色に染まる田を表す「金」と農業用の貯水池を意味する「堤」つまり、碧骨堤に由来しているそうです。その金堤を代表する史跡「碧骨堤」は、世界遺産登録を目指して、現在、工法に共通点があり、築造年代も近い大阪府狭山市にある狭山池と共同で活動中です。そのため日本の研究者も頻繁に訪れているとのこと。日本とのつながりも深い「碧骨堤」、韓国の穀倉地帯を支えた先人の業績を振り返ってみてはいかがでしょうか。

http://www.konest.com/contents/spot_mise_detail.html?id=4263

狭山池（さやまいけ）とは、大阪府大阪狭山市大字岩室にある日本最古のダム式ため池である。7 世紀前半に築造されたとされ、『古事記』・『日本書紀』にもその名が記されている。

<http://search.yahoo.co.jp/search?fr=slv1-snvaio&p=%E7%8B%AD%E5%B1%B1%E6%B1%A0&ei=UTF-8>

狭山池は、長い歴史の中で幾度も改修が繰り返されてきました。奈良時代の行基（ぎょうき）や鎌倉時代の重源（ちょうげん）、安土桃山時代の片桐且元（かたぎり・かつもと）など、歴史上著名な人物が数多く池の改修にかかわってきました <http://www.city.osakasayama.osaka.jp/10,602,31,235.html>

東樋では時代の異なる遺構が上下 2 層から見つかりました。下層から見つかったものは狭山池が築造された当初に設置された古代の樋で、使われている木材の年代測定の結果、西暦 616 年ごろに伐採されたものであることもわかりました。それは狭山池が築造された時期を示すもので、それまで狭山池がつくられた時代はなぞただただに、池の歴史を解き明かす大発見になりました。

狭山池の築造ー 狭山池とは、大阪の南部、現在の大阪狭山市（おおさかさやまし）の中央北寄りにある、古代 筑紫国造が成立したのは 6 世紀の後半 ともみられているが、5 世紀後半にはすでに肥・豊（肥前・肥後・豊前・豊後）にまたがる ー ...

さやま

『毒』を意味する“sam”

サマエルは聖書偽典「ギリシア語バルク黙示録」などで言及される天使で、その名は ヘブライ語で『毒』を意味する“sam”が語源とされる。 ... 彼女はサマンの原型を「アーリア 人の死の神サマナ（サーマ）」としているが、この神についての一次出典は不明。 [http://dic.pixiv.net/a/](http://dic.pixiv.net/a/%E3%82%B5%E3%83%9E%E3%82%A8%E3%83%AB)

<http://dic.pixiv.net/a/%E3%82%B5%E3%83%9E%E3%82%A8%E3%83%AB>

サマエルについて、ヘブライ語の「毒(sam)」に由来するサマエルは、ユダヤ教において サタンと同一視されている天使。アジアの恐怖の神、サマナがその前身であるとも考えられています。

<http://tokag.com/std/sama.html>

ユダヤ教の伝承では蛇と密接に結びついた敵対者、誘惑者として描かれ、イヴを直接誘惑 するのではなく、そうするように蛇を唆したとも言われています。

大洪水が地上を一掃した後、大地再生に着手したノアは、エデンから投げ捨てられていた葡萄の蔓を見つけ、天使サラエルを通して神の許可を得、地上に植える。葡萄の苦さは葡萄酒となることで、甘さになり、呪いは祝福と変わった。

ローマ・カトリック教会と東方キリスト教会において、葡萄酒はイエス・キリストの血そのものと考えられています。しかし、『バルク黙示録』ではサマエルとアダムの罪から生じたもので、これを通して善いものを打ち立てる ことはできないと強調されているので、これは執筆当時における飲酒の習慣に対する著者の警告だといえます。

カバラの秘儀において、魂を形成する三つのパーツ、ネシャマー、ルアク、ネフェシュは組み合わせ次第で善なる天使ミカエルにも、悪の理念を体現するサマエルにもなる。人間は善の業（カルマ）と悪の業を併せ持った存在です。

蛇を唆した

イヴを唆した蛇とは何か。この世界を、地球を作ったのは、おそらくは 神であろう。神とは詰まる所、簡単に言うと宇宙人であろう。現世のことを取り扱うことを 主としている

<http://haetarou.web.fc2.com/Heisei25/Reptalian/Kaisetu1.html>

良い宇宙人がエデンの園を作り、そこにアダムとイヴに与えた。そこはこの世の楽園であった。食べ物にも飲み物にも不自由しない。と聖書にはある（上の絵）。

一方で悪い宇宙人もいた。その良い宇宙人に敵対する勢力である。

彼らは、爬虫類のような形状をしているのかもしれない。

魚と蛇 - 阿修羅 <http://www.asyura2.com/sora/bd19992/msg/153.html>

中国において、庖羲と女カの2人は絡み合う2人の蛇身像として画かれているが、同じ画 柄が古代エジプトでナルメル王のパレット、インドでナーガ神として伝わっている。…（中略）この言葉は、ヘブライ語の魛物の銅を表すネボシエットと同じ語源から派生している。

<http://www.asyura2.com/sora/bd19992/msg/153.html>

ペリシテ人の崇拝する魚神として登場している。

ダゴン（Dagon）は魚神であるが、農耕を司る神として信仰を集めていた。

現存する『バビロニア史』の原典に、ペリシテ人の信仰に関する記述はないが、歴史家アポロドロスが保存していた『ペロッソス』の断章には「魚と人間が合体した姿のオダコン（ODACON）がエリュトラ海（現在の紅海・ペルシア湾・インド洋の総称）から現れた」という記述が見える。

恐らく、聖書のダゴン（DAGON）は「オダコン」から転訛したものであろう。

…魚の尻尾を持つオアンネスの図（古代バビロニア期）。右図の星と目は「オシリス」を表すエジプトの象形文字である。（P263 図I）

カズキョイのイシス像。下の写真では、イシスは夫のセラピス（後にオシリスとなった）と魚の尾を絡み合わせている。（口絵写真24）

…祭神エンキには魚が奉納された。(『中国神話ルーツの謎』p34 7-1 エリドゥ神殿の平面図)

ティ人国は建木の西にあり、その人となり、人面で魚の身、足がない 『山海経』(同書冒頭)

中国において、庖犠と女カの2人は絡み合う2人の蛇身像として画かれているが、同じ画柄が古代エジプトでナルメル王のパレット、インドでナーガ神として伝わっている。

ところが(1)(2)(3)と同じ神話がバビロンに“魚人オアンネス”として伝わっているのである。(中略)

伏羲は「天の梯子」によって天と地を自由に行き来していたというのが、これは正に伏羲が「天より地に降りきたるもの（アメンナキ）」である事を示しているのではないか。(中略)

高名な生物学者としてのエンキの紋章は、絡み合っている蛇である。(

中略)シュメールでの別名ズズルには、2つの意味がある。1つは「秘密を明かす神」、もう1つは「鉾山の神」という意味である。

鉾山学の知識は、地球の秘密、その深部の秘密だと考えられていた。

エデンの園のアダムとイブの物語では、2回目の巧妙な遺伝子操作が行われ、彼らが「知恵」（聖書では性的子孫づくりの事をばかしてこう呼ぶ）を得る為の引き金になったのは、蛇だった。

ヘブライ語で、蛇はナハシュと言う。

そして面白い事に、これが預言者、つまり「秘密を明かす人」も意味している。(中略)この言葉は、ヘブライ語の鉾物の銅を表すネボシェットと同じ語源から派生している。

また、モーゼが「出エジプト」の際に疫病を止める為に作って掲げていた、ナハシュ・ネボシェットとは、銅の蛇の事だった。

この蛇の印は、正しくエンキの紋章である。

人々がネフシュタン（蛇ー銅ー秘密の解決ーの3つの意味をかけた言葉遊び）と呼んでいたこの銅の蛇は、エルサレムのヤハウェの神殿に、ほぼ7世紀に亘り、ヒゼキヤ王の時代まで奉示されていたと、聖書の列王記下18章4節に記されている。(『神々との遭遇 下』p235-236)

ナハシュ. (Nahash) [蛇]. 1. サウルが治めはじめたころの、アンモン人の王。

<http://wol.jw.org/ja/wol/d/r7/lp-j/1200003167>

アンモン人は聖書ではモアブ人の兄弟民族であり、先祖がロトであることからアブラハムの子孫であるイスラエルとは従兄弟に当たる民族とされている。ヨルダン川東岸のギレアド地方に国家を築いており、イスラエルとは敵対的関係にあった。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A2%E3%83%B3%E4%BA%BA>

ヨルダン川東岸のギレアド地方に国家を築いており、イスラエルとは敵対的関係にあった。後にダビデ王に依り征服されイスラエルの属国となり、ユダヤ人に吸収される。その首都はラバ(Rabbah)と呼ばれた。後にヘブライ語でラバト・アンモーン(Rabbath Ammon)と呼ばれ、現在はヨルダンの首都アンマンとなっている。

アメン神 はギリシャ、ローマではアンモンと呼ばれていました。そう、アンモニアやアンモナイトの語源になっているのです。なぜかと言うと、アメン神はしばしば羊の姿で描かれます。<http://www.m-matsu.com/egypt/study/gods.html>

その角の形がアンモナイトの巻き方に似ているためだそうです。また、アンモニアは羊の糞から作られていました。なんとなくこじ付けのような気もしますが…。因みにアメンヘテプとは、「アメン神は満足する」という意味で、ツタンカーメンは「アメン神の生ける姿」、アメンエムハトは「支配者アメン神」という意味です。

海馬（アンモン角）は脳の中でも詳しく研究されている部位の一つである。名前の由来は 海神ポセイドンがまたがる海獣（海馬）のしっぽの形に似ているから、また雄羊の角の形 に似ているのでアンモン角とも呼ばれる。（アンモンはエジプトの聖牛）<https://twitter.com/chary176/status/26525214507>

わたしは都ラバを、らくだが草をはむ所とし、アンモンの地を羊の憩う所とする。その とき、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。<http://seishonikka.org/201307/3713.html>

アンモン人に言いなさい。主なる神の言葉を聞け、主なる神はこう言われる。お前はわたしの聖所が汚され、イスラエルの地が荒らされ、ユダの家が捕囚となって行ったことを、あはは、と言って嘲った。

4 それゆえ、わたしはお前を東の人々に渡して彼らに所有させる。彼らはお前の中に陣営を張り、住まいを定める。彼らはお前の果実を食べ、お前の乳を飲む。 5 わたしは都ラバを、らくだが草をはむ所とし、アンモンの地を羊の憩う所とする。そのとき、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。 6 主なる神はこう言われる。お前は手を打ち、足を踏み鳴らし、イスラエルの地に対する嘲りの思いに満ちて喜んだ。 7 それゆえ、わたしはお前に向かって手を伸ばし、お前を国々の略奪にゆだね、諸国民の中から断ち、諸国から一掃して滅ぼし尽くす。そのとき、お前はわたしが主であることを知るようになる。」 8 主なる神はこう言われる。「モアブとセイルは、『ユダの家も他のすべての国のようになった』と言った。 9 それゆえ、わたしはモアブの脇腹を引き裂き、この国の町々をすべて、その誇りであるベト・エシモト、バアル・メオン、キルヤタイムをはじめひとつ残らず滅ぼし尽くす。 10 わたしは、アンモン人と共にモアブを東の人々に渡して所有させる。アンモン人が諸国民の間で思い起こされることはない。 11 わたしはモアブに裁きを行う。そのとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。」 12 主なる神はこう言われる。「エドムはユダの家に復讐をした。彼らはその復讐によって、大いに罪を犯した。 13 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしはエドムに向かって手を伸ばし、その中から人と獣を断って荒地とする。彼らはテマンからデダンにいたるまで剣で倒れる。 14 わたしは、わが民イスラエルによってエドムに復讐する。彼らは、わたしの怒りと憤りのままにエドムに対して行う。そのとき、彼らはわたしの復讐を知るようになる」と主なる神は言われる。 15 主なる神はこう言われる。「ペリシテ人は復讐し、嘲りの思いをもって大いに仇を報い、昔からの憎しみにかられて滅ぼそうとした。 16 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしは手をペリシテ人に向かって伸ばし、クレタ人を断ち、海辺に残っている者を一掃する。 17 わたしは、彼らを憤りをもって懲らしめ、大いに復讐する。わたしが彼らに仇を報いるとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。」

アンモナイトという化石動物 中国語での説明菊石叫做菊石的化石?物 <http://cjjc.weblio.jp/content/%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%A2%E3%83%B3%E8%B2%9D>

菊石姫

伝説の湖にふさわしい「菊石姫と蛇の目玉石」と呼ばれる大岩が現れる。 ていたこの地に、古の志賀の都や湖東平野と同様、古代朝鮮半島、特に新羅からの 渡来人が大きな足跡を残している地であることが良く分かった。http://yagiken.cocolog-nifty.com/yagiken_web_site/2007/01/post_a4b5.html

余呉湖のある滋賀県伊香郡余呉町は滋賀県の最北端に位置し、北は福井県に、東は岐阜県に接している県境の町である。古墳時代から開かれた地域であり、新羅からの渡来人も住みついた歴史のある地域である。また余呉湖の神秘性が日本最古の天女の羽衣伝説や、菅原道真誕生伝説を生んだところである。

仁明天皇の頃、領主桐畑太夫の娘の菊石姫が干ばつ時に余呉湖に身を投げ、蛇身となって雨をふらせ、母に疫病の薬にと蛇の目玉を抜き取って湖中から投げたところ、石に目玉が落ちて跡が残ったので、以来この石を「蛇の目玉石」という、とある。仁明天皇は在位 833-850 であるから平安時代初期の伝説である。

<新羅崎神社跡>

蛇の目玉石と道路を挟んで山側に、新羅崎（しらぎざき）の森壕という案内板がある。昼なお暗き場所で樹木が湖中に浮き出るほど生い茂っていたので、賤ヶ岳合戦では伏兵の絶好の隠れ場所であったと書いてある。矢印に従って山道を少し登ると、新羅崎神社舊跡と彫られた石碑があった。

朴鐘鳴編の「滋賀の中の朝鮮」にはこの神社のことが記されており、新羅からの渡来人である天日槍（あめのひぼこ）関連の神社で、明治末期の神社統合のうちに廃止され、近隣の北野神社に合祀されたとある。祭神の新羅大明神にちなんで、明治までは白木神社と書きこの一帯の森は白木の森と呼ばれたとのこと。とにかく今は1柱の石碑が残るのみである。

天女の衣掛柳の案内板の反対側に、北野神社舊跡と彫られた石碑が建っている。すなわちこの柳の傍に、かつては菅原道真ゆかりの北野神社があったが、明治初年の台風で倒壊し川並地区に移転しているとのことである。なお、この柳の向かいの田園の中に天女の銅像が建っている。

案内板には、伊香刀美という男が舞い降りた天女の衣を隠し、帰れなくなった天女を妻とし、その子孫が伊香郡開拓の祖となったという伝説と、菊石姫伝説にも出てきた桐畑太夫の妻となった天女が一男を産んだが衣を見つけて天に帰り、残された幼児の泣き声を法華経のように聞いた菅山寺の僧が養育し、菅原是清が養子として引き取り京都で成人して菅原道真になったという伝説が紹介されている。

<鉛練比古（えれひこ）神社>

やはり「滋賀の中の朝鮮」によると、近江伊香郡志には「天日槍（あめのひぼこ）新羅より来り、中之郷に止り、坂口郷の山を切り、余呉湖の水を排して湖面を四分の一とし、田畑を開拓し余呉之庄と名づけし、という伝説あり」と出ているらしい。余呉町中之郷には、古くは天日槍を主神とした鉛練比古（えれひこ）神社がある。

天日槍本人が余呉を開拓したとは思えないが、「鉛練」という名前から、新羅の王子である天日槍に従って日本へ渡ってきた高度な金属加工技術をもった渡来人集団がこの地に移住して、地域開発にあたったことが容易に想像される。草津穴村の安羅神社や竜王町の鏡神社と同様、彼らは天日槍をここに祀り祖神としたのであろう。

渡来人遺跡の項には、「中之郷の鉛練比古神社は今では大山咋命を主神としていますが、古くは天日槍が主神でありました。近くには古墳日槍塚や日槍屋敷といわれている所があります。また余呉湖畔には新羅崎神社があり、余呉は渡来人の通過した所でした。」とあり、この地が天日槍ゆかりの地であったことを述べられている。

アメノヒボコ（天之日矛、天日槍）説話のある地域は秦氏の居住地域と一致するとい

う...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%A6%E6%B0%8F>

新羅崎神社縁起に「菊石姫伝説」が ...<http://www.ne.jp/asahi/folk/collage/YogonoTennyu.htm>

余呉湖近くにある乎弥（おみ）神社の祭神は臣知人命と梨迹臣命で、この二神は天女伝説のなかの意美志留、那志等美です。また、伊香郡高月町雨森の雨川命神社には三神、伊香刀美・臣知人命・梨迹臣命、伊香郡木之本町木之本の意富布良神社には梨迹臣命が祀られ、天女伝説がこの地方に広く流布していたことが知られます。伊香郡木之本町杉野の本宮横山神社には伊香津臣命が合祀されています。このように天女伝説の中の人物が伊香郡の神社に祭られていることから、伊香郡に大きな勢力を持っていたのでしょうか。もしかすると、大和朝廷に匹敵するほどの力を持っていたのではないのでしょうか。だからこそ、後ほど述べる、菅原道真伝説も生まれたのではないのでしょうか。

川並集落は余呉湖に面してあるただ一つの集落です。山がせまる湖との狭隘な土地を利用して人々が開拓し、天女伝説に登場する桐畑太夫の住んでいたところと言い伝えられています。今は川並の北野神社に合祀されている新羅崎（しらぎ）神社は、天日槍（あめのひぼこ）を祭神とし、新羅崎神社縁起に「菊石姫伝説」があります。天日槍は記紀の中に出てくる新羅の皇子で、古代に日本へ渡来してきたと伝えられています。日本の各地に天日槍は足跡を残していますが、ここ余呉町中之郷にも日槍塚という古墳があり、多くの渡来人が住みつき、農耕などの優れた技術をもたらし、といわれています。この地方に盛んだった養蚕の技術も渡来人がもたらしたものでしょう。

早魃の時、娘が水に身を投げて雨を降らせる伝説は、全国の池や沼に伝わり、菊石姫の伝説もその系統に属するものです。川並では昭和初期まで早魃の年には湖畔にある菊石姫に縁のある、蛇の枕石を新羅崎神社境内にあげ、これを菊石姫として雨乞いをしていました。

川並の桐畑家には『桐畑太夫縁起』が代々伝わっており、この中にも「菊石姫伝説」が語られていますが、先の『新羅崎神社縁起』とは内容を異にしています。

「桐畑家に生まれた菊石姫は徐々に蛇体となり、このままでは太夫の家において置けなく、屋敷から一丁余り東北の屋賀原に仮屋を建て、そこへ捨て置いた。姫を守っていた下女は深く哀れみ、自らの食物を分け与えて養育した。姫が十八になったとき、姫は湖水へと入っていった。龍となった姫はこの時、長く養育してもらった下女にお礼として、自らの片目を与えた。不思議な力を持った龍の目の話しが、お上にまで聞こえ、両目を差し出せとの命が下った。片目しか持たない下女は、菊石姫を湖より呼び、もう片方の目を貰った。が、両目ともなくした龍には、時刻を知ることが出来ないため、鐘を撞く事を約し、もう片方の目を、湖の辺にあった石に投げつけた。このときの跡が石に残っている。この石を「目玉石」と呼び、新羅崎神社跡近くの湖岸に祀られている。」（『桐畑太夫縁起』から）

化身した龍の両目を差し出すところなどは、大津市三井寺にちなんだ「三井の晩鐘」を彷彿とさせます。

、日本三石碑に数えられる多胡碑には、「羊」という名前の人物が記されている。地元では、羊は有名で、もっぱら羊太夫という名称で呼ばれている。

そこで、注目したいのは、この羊太夫の正体である。伝承により、羊太夫の子孫だと称する人々がいる。羊太夫を祀る小波多神社を守る小幡氏も、そのひとつ。見ておわかりのように、波多、幡という名称がある。ハタは、これ秦氏である。

秦氏のルーツはユダヤ人原始キリスト教徒であり、その思想の根幹にはユダヤ教神秘主義カッバーラがある。カッバーラにおいて、数字を扱う神秘思想をゲマトリアという。

ゲマトリアにおいて、8とはいかなる数字か。基本は、絶対三神の3である。ゲマトリアで3を秘数とする場合、いくつか方法があるのだが、そのひとつに乗数がある。つまり、同じ数字を3回かけるのだ。

そこで、絶対三神、すなわち御父と御子と聖霊の順位をそれぞれ1、2、3とし、これを3乗する。すると、1、8、27という数字が現れる。おわかりのように、1は御父、8は御子、27は聖霊の秘数となる。

つまり、8は御子イエス・キリストの数字であることがわかる。このあたりの詳しいことについては、牧師であられる久保有政氏の最新刊『ゲマトリア数秘術』を参照してほしい。

さて、8はイエス・キリストの秘数だったということは、だ。当然ながら、神社や神名にある「八」もまた、イエス・キリストの秘数を示していることになる。

さらに、「八」は「ヤ」「ヤー」とも読む。ヤーとは、ヘブライ語で神を意味する。正確に言えば、ヤハウエの短縮形だ。カッバーラにおいて、ヤハウエはイエス・キリストと同一神である。よって、「八」の読み方においても、イエス・キリストの意味が込められていることがわかるだろう。

そして、もうひとつ。「八」という漢字はカタカナの「ハ」のもとになったといわれる。が、このカタカナの「ハ」という文字は、興味深いことにヘブライ語の「ヘー（H）」という文字に似ている。とくに、筆記体の形に、そっくりである。イスラエルへ行って、カタカナの「ハ」を書けば、そのままヘブライ語の「ヘー」として立派に通用する。

菅原道真は土師氏出身。直接、秦氏との関係はない。学者によっては、土師、すなわち須恵器は朝鮮半島から伝来したゆえ、土師氏もまた渡来人に違いないという。かつて土師氏は葬祭に関わる祭祀集団だったらしい。その祭祀が神道的な呪術にちなむものであれば、確かに、秦氏と関わってくるかもしれない。

しかし、気になるのは「天神」という名前だ。もともと天神とは、天の神。記紀の冒頭に記された造化三神及び、イザナギ命・イザナミ命に至る神代七代を天神と呼ぶ。

イザナギ命とイザナミ命

中国神話におけるフッキとジョカが、契りを結ぶにあたって、大木の周りをそれぞれ反対方向にまわっ ... ここまでの話をまとめると、直角定規とコンパス（イザナギ命とイザナミ命）によって描かれた日の丸（天照大神）という ...

ナーガ(1) 一蛇神ナーガと日本－<http://chaichai.campur.com/indoizatugaku/naga02.html>

イザナギとイザナミのモデルがナーガとナーギイであったとするなら、日本もまた、かつては蛇に支配されていた時代があったのかもしれない。ただし、それがインドからいつ頃伝承したものか、といったことはいまだ不明である。

縄文時代の土偶にも、蛇を頭に戴いた女神像があるが、同じように、沖縄のユタがハブを頭に戴くこともあったらしい。沖縄ではナギは虹を意味するが、アボリジニの世界でも虹は蛇と同一視されている。人頭と蛇の関係で言えば、遠く地中海のメデューサの髪の毛はあきらかに蛇の曲がりくねった形状を真似ている。メデューサはやはりモンスターであったが、その起源は、すべてを生み出す永遠の女神で

あったかもしれない。

裏天皇の正体 1 ～大和朝廷成立前夜、倭人の葛城ネットワークと韓人の秦氏 ネットワークが並存
(09/11); 【情報戦】 0 情報戦のこれまでとこれからを考える ～“情報” のパラダイム転換～
(09/10) ... また、モアブ人やアモン人も同じ一族である。 <http://blog.nihon-syakai.net/blog/2008/07/000755.html>

つまりアラブ人も広い意味ではヘブル人に含まれるわけだ。だから、アブラハムはユダヤ教・キリスト教のみならずアラブ人やイスラム教徒の間でも父祖として尊敬されている。また、モアブ人やアモン人も同じ一族である。その後、聖書の中では「ヘブル人」は他の民族がイスラエル人を侮蔑して呼ぶ場合、逆にイスラエル人が他民族と自分たちを区別して語る場合に使われているようだ。現在ではユダヤ人の言語を「ヘブル（ヘブライ）語」と呼ぶように、イスラエル人・ユダヤ人と同義語として使われている。ユダヤ資本はこのようなダマシ思想を根底にもっているため、現在の金融構造のようなすさまじいダマシの構造を考え付いたのだと思います。そしてダマシ能力が優れているため歴史の表舞台にもほとんどでてこないと考えているのですがみなさんはどう思いますか

Re: 日本中央」と刻んだ石文 蝦夷 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014 年 1 月 25 日(土)18 時 44 分 58 秒 返信・引用

> No.2002[元記事へ]

楔が打ち込まれている。

兵主神社のイメージとして、荒神谷遺跡と南西の加茂岩倉遺跡との真ん中に天日槍集団の楔が打ち込まれている。

荒神谷遺跡周辺の建御名方を祀る神社配置 <http://kamnavi.jp/log/koujinvry.htm>

この事は大国主系の銅剣や銅鐸を祭器とする機能は停止させられた「事件の現場」の一つとなろう、と書かれています。

また、大和の三輪の大神神社と大和神社との間に二つの兵主神社が鎮座し、一つは大兵主神社を冠している所から、天日槍集団に始まる天的宗儀が定着した記憶すべき場所であったためによるものと思われる。神社配置からこのような問題意識を提起されています。

氏は建御名方を祀る神社の点在については触れていませんが、それにしても、実に触発される次第です。

十和田湖に十和田神社という楔を打ち込んだ。 <http://obtweb.typepad.jp/obt/2010/02/leyline.html>

> 「シオン修道会の総長ジャック・ソニエールをはじめ 3 人の参事が命をかけて守り通した秘密とは一体何でしょうか。 <http://electronic-journal.seesaa.net/article/21525263.html>

> シオン修道会の 4 人の幹部が死ぬ間際に口を揃えていったことば——「サン・シュルピス教会のローズラインにある」を確かめるためです。

> ローズライン——北極と南極を結ぶ想像上の線のことで、子午線あるいは経線のことです。これは無数に引くことができるのですが、昔の航海者はそれらの線のどれを真のローズライン、つまり、経度ゼロの線とするかを決める必要があったのです。

> 現在、その線は英国のグリニッジにあり、世界共通になっています。

> しかし、それまでは、フランスの子午線が世界初であり、多くの国がそれを使っていたのです。

> パリの街路などには135個の青銅のメタルが埋め込まれており、これを結ぶと世界初の子午線——フランスの本初子午線になるのですが、それはサン・シュルピス教会を通っているのです。

> シラスは、ローズラインの端にある巨大なオベリスクの下の方の部分を鉄棒で壊します。

> そうすると、下は空洞になっていて、そこには古い石板があり、その石板の表面には次の文字が刻まれていたのです。

>

> ヨブ記38章11節」とは何か『ここまで来てもよい、越えてはならぬ、／おまえの高波はここにとどまるのだ』。

>

> 「これ以上の詮索はやめなさい。

> 必要以上に知りたいと思う心を自制しなさい」と自分を諭したように思えたので屈辱と絶望と怒りから、突発的にシスターを殺してしまったのである。

>

> サン・シュルピス教会の中にある 日時計（ローズライン）に秘密を解く鍵が隠されていると記されている。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%80%E3%83%BB%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%81%E3%83%BB%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%89>

> フィクションであるにもかかわらず、冒頭に実在の組織名を挙げ、「この小説における芸術作品、建築物、文書、秘密儀式に関する記述は、すべて事実に基づいている」と述べているために、扱われている内容の真偽について議論が起きた。例えば、冒頭に登場するオプス・デイは実在する組織であるが、「秘密結社」のシオン修道会やその「秘密儀式」は想像上のものである[3]。とりわけキリスト教、とくにカトリック教会の教義に深く関わる部分は大きな反響を巻き起こし、2006年3月には米国カトリック司教会議(USCCB)が、教義について反論するウェブサイト[4]を開設している。作品内でドラクロワの壁画で知られるカトリックの教会、サン・シュルピス教会の中にある日時計（ローズライン）に秘密を解く鍵が隠されていると記されている。これを鵜呑みにしたメディアが押し寄せた為、教会側は入り口に「日時計はローズラインと呼ばれた事となれば、異教徒の陣の名残でもない」という張り紙を張った。サン・シュルピス教会は観光名所ということもあり、書かれている文字は何ヶ国語かに訳されている[5]。

>

> シオン修道会は、1099年に設立されたヨーロッパの秘密結社であり、実在する組織である。1975年、パリの国立図書館が『秘密文書』として知られる資料を発見し、シオン修道会の会員多数の名が明らかになった。そこには、サー・アイザック・ニュートン、ボッティチェリ、ヴィクトル・ユゴー、そしてレオナルド・ダ・ヴィンチらの名前が含まれている。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%82%AA%E3%83%B3%E4%BF%AE%E9%81%93%E4%BC%9A>

>

> 第一次十字軍（1096 年～1099 年）に従軍した騎士たちが、聖地エルサレムに残る古代ユダヤの宗教遺跡・ソロモン王の神殿（ temple ）内にて秘宝を発見し、それをヨーロッパに持ち帰って“ temple 騎士団 ” を結成した、ということになっている。

> 実際には、ソロモン王の temple は十字軍よりはるか一千年も昔の帝政ローマ時代にローマ軍によって破壊されている。 temple の“ 跡地 ” に騎士たちが屯所を置いたので「 temple 騎士団」の名が付いたにすぎない。 <http://www.thecinema.jp/treasure/words/>

> また、劇中では、（やがて弾圧を受け滅んでいく）騎士団の残党が後に「フリーメイソン」を結成した、ともされているが、これらは本作オリジナルの設定ではなく、昔から存在する伝説に基づいている。

>

> 東京タワーの下にある「東京メソニック協会」は、フリーメイソンを母体とした公益法人である。

>

> 東京タワーから見下ろせる芝公園の中に、5 世紀後半築造と考えられている前方後円墳「丸山古墳」がある。

>

> その 30km の長さに達するラインを底辺として、北は三内丸山遺跡を頂点とする 直角三角形が現われ、南は岩手県の姫神山を頂点とする相似形の三角形が ... 東北の 太古に遡る歴史を秘めたこのレイラインには、いったい何が秘められているのか？

> 東北各地には、縄文時代の祭祀遺跡とされるストーンサークル（環状列石）や人工のピラミッドさ噂される山が数多くある。その中でも有名な秋田県鹿角の大湯環状列石から近くに聳える黒又山を結び、そのラインを延長すると、青森県新郷村の大石神ピラミッドに突き当たる。 http://www.ley-line.net/tohoku_ooyu/ooyu_top.html

>

> 黒又山をとりまくもの、十和田神社の秘密 http://www.ley-line.net/tohoku_ooyu/ooyu_04.html

> 9 世紀初頭に桓武天皇から蝦夷征伐を命じられた坂上田村麻呂は、北へと侵攻しながら、東北各地に拠点を築いていく。十和田神社はその一つで、ここで最終的な戦勝を祈願したという。桓武天皇といえば、「伊勢・元伊勢ライン」でも触れたように、風水や陰陽道についての造詣が深く、平安京に代表されるように、風水や呪術を駆使して都市計画や戦略を立てる人物だった。その桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂も風水や陰陽道の専門家と考えても不自然ではない。

> 十和田湖は、大湯ストーンサークルー黒又山ー大石神ピラミッドー三内丸山遺跡という縄文に遡る遺跡を結んだ直角三角形のちょうど真中に位置している。さらにその要ともいえる部分に、坂上田村麻呂は戦勝祈願の神社を創建した。それは、土地を守る結界であった太古のレイラインに楔を打ち込むことで無力化してしまったようにも見える。ちなみに、今年の東北は、坂上田村麻呂に最後まで対抗した東北蝦夷の指導者「アテルイ」没後 1200 年を記念する催しがあちこちで行われていた。案外、アテルイが破れた最大の原因は、坂上田村麻呂との呪術合戦に破れたところにあるのかもしれない。

>

> 三内丸山遺跡を起点に大規模なストーンサークルを繋いで南西に大湯 ストーンサークルまで辿り、大湯から北東へ黒又山、 上大石神ピラミッドを結ぶラインを 辿った。さらに、上大石神から三内丸山

ヘラインを引いてみる。<http://obtweb.typepad.jp/obt/2010/02/leyline.html>

> 東北における巨石信仰の源流とは何だろう。

> 縄文から続く原始信仰が蝦夷に伝わり、蝦夷は民族神としてアラハバキを信仰した。アラハバキ神は巨石に降臨する。鉾山の神、産鉄神でもあり、それは後に出雲の信仰にも通じていく。ストーンサークルや大石神ピラミッドに見られる巨石遺構などは、そんなアラハバキ信仰の源流ともいえるだろう。

> アラハバキ神が巨石に降り立つイメージは、そのまま神道にも取り入れられて今に続いている。神が降り立つ特別な岩、それを神道では「磐座（いわくら）」と呼び、磐座そのものが御神体とされているケースも多い。

>

> 方位角50度を示すこのラインを万座ストーンサークルの西側に立って、その中心にある立石と黒又山の頂上が並ぶように仰ぎ見る。するとその先、遙か彼方にかすんだ山並みが描くスカイラインが重なっているのがわかる。このスカイラインの一角が、まさに上大石神ピラミッドなのだ。これは、この仰角のついた直線の先に位置する星座を指すのではないだろうか。

> エジプトのギザピラミッド群を研究したグラハム・ハンコックは、ピラミッド群の配置が紀元前1万500年前のオリオン座の形を映すもので、そのときの春分の日夜明けにオリオン座が正確に南中することを確かめた。同様に、黒又山とこれを軸にしたレイラインは、ある時代の特定の星座を指し示しているのかもしれない。

>

> オーストラリアのアボリジナルは、聖地を結んで全土に網の目のように広がる「ソングライン」という精神的ネットワークをイメージしていた。聖地と聖地を結ぶ一本のラインには、それぞれ固有の歌があてはまる。歌にはライン上の地形や土地の資源などが織り込まれていて、初めて訪ねた土地でも、その歌さえ知っていれば、無事に旅を続けられた。このソングラインが道路や鉄道の建設によって寸断されてしまうと、聖地は力を失い、土地そのものが死んでしまう。アボリジナルは、長年受け継がれてきた精神遺産であるソングラインをずたずたにされて、まさに生きる屍となってしまった。

> アボリジナルと同様に、蝦夷たちも聖地を結ぶネットワークを持っていた。それが、三内丸山をハブとするレイラインであり、大湯-黒又山-上大石神ラインだったのだろう。蝦夷が東北に築き上げたソングライン同様のネットワークがうまく機能していれば、大地は健康であり、大地と不可分である自分たちも健康であり続けられる。蝦夷は、そんな風に考えていたのかもしれない。

> 田村麻呂はそんな蝦夷の精神世界を逆手に取った。

>

> 坂上田村麻呂はただちに武力攻撃でアテルイ軍を攻略せよという朝廷の命令を当初無視して、まったく異なる方法をとる。それが、蝦夷最大の聖地に対する霊的攻撃ともいえる十和田神社の創建だった。

> 大湯ストーンサークルから十和田神社は方位角22度45分の方角になる。このラインを十和田神社を超えてそのまま伸ばしていくと、下北半島のつけ根で「石文」という地名の場所に行き当たる。ここでは「日本中央の碑」が出土している。

> 「日本中央の碑」は「壺の碑（つぼのいしぶみ）」として古くから和歌に詠まれてきたもので、長く伝説上の架空の存在であると信じられてきた。

>

> 石文とは、今でも北東北に残る風習で、小石あるいは大型の置石に自分の意志や願いを込め、それを

神殿や道祖神、あるいは祭壇に当たる場所に置くというものだ。坂上田村麻呂がこの場所まで進軍したという記録はないが、坂上田村麻呂に代わる者がこの石を置いたとすれば、ここに記された「日本中央」の文字は、「日本中央=朝廷がこの地の支配者である」というメッセージであり、蝦夷の聖地に対する呪いであっただろう。

> 長い間、壺の碑は、千人の人間が引いて東北町にある千曳神社の地下に埋めたとされ、明治9年に明治天皇が北東北を巡幸した際に、千曳神社の境内の発掘を命じたが、結局、発見されなかった。

>

> 千曳神社の場所も大湯と十和田湖という蝦夷の一大聖地を結んだライン上にあるという点に注目したい。

> 坂上田村麻呂は、まずは北東北の聖地の中でももっとも重要だった十和田湖に十和田神社という楔を打ち込んだ。さらに蝦夷の領域の奥深く、十和田神社とも関係するラインの末端に「日本中央碑」という楔を打ち込んだ。

>

> 蝦夷のしたたかさは、太古から縄文そして中世へと脈々と受け継がれてきた巨石信仰＝アラハバキ信仰に由来するのかもしれない。巨石信仰と結びつくアラハバキは天空神であり漂泊神である。天の力と大地の力の両方に通じた神であり、巨石遺構の場所に降臨し、レイラインを伝わって移動していく。そして、アテルイにアラハバキが憑依して絶大な指導力と運を手にしたように、ある瞬間にその場にいた人間にとてつもない力をもたらす。たしかに坂上田村麻呂によって一つの重要なレイラインは封じられたが、北東北の巨石信仰レイラインのチャンネルはそれだけではなかった。

>

> 大石神ピラミッドと三内丸山を結ぶレイラインをそのまま北西へ伸ばしていくと、まさに「外東日流外三郡誌」に登場する聖地や大規模な巨石遺構がそこに並んでいるのが見て取れる。これは、坂上田村麻呂が封じたレイラインのまだその先に、もしかしたら大陸につながっていく、さらに強力なレイラインが存在し、それが後の藤原王朝の繁栄をもたらしたことを物語っているのではないだろうか。

>

> 押し寄せた潮が一気に引くように、忽然と姿をくらましてしまうかのように見える蝦夷。じつは、彼らにとって北東北は自らの文明の中心ではなく、南に伸びた前衛の一部で、その本拠は遠く大陸に存在するのかもしれない。だとしたら、世界のほかの地域の巨石文明ともその先で繋がっていたに違いない。

>

> アテルイ＝あたる人（ヤマトに立ち向かった人）＝アバと呼ばれた人＝ユダヤ人の子孫。 .

>

> 七つ森は出羽三山の子供たちで、支配星の北斗七星に言われるままに韓国の白頭山にエネルギーを与えていましたが、イシキは大元に帰っていなくなりました。

http://sorakaranojyouhou.at.webry.info/201301/article_16.html

>

日本中央」と刻んだ石文 蝦夷 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月25日(土)18時28分8秒 返信・引用

「シオン修道会の総長ジャック・ソニエールをはじめ3人の参事が命をかけて守り通した秘密とは一体何でしょうか。<http://electronic-journal.seesaa.net/article/21525263.html>

シオン修道会の4人の幹部が死ぬ間際に口を揃えていったことば——「サン・シュルピス教会のローズラインにある」を確かめるためです。

ローズライン——北極と南極を結ぶ想像上の線のことで、子午線あるいは経線のことです。これは無数に引くことができるのですが、昔の航海者はそれらの線のどれを真のローズライン、つまり、経度ゼロの線とするかを定める必要があったのです。

現在、その線は英国のグリニッジにあり、世界共通になっています。

しかし、それまでは、フランスの子午線が世界初であり、多くの国がそれを使っていたのです。

パリの街路などには135個の青銅のメダルが埋め込まれており、これを結ぶと世界初の子午線——フランスの本初子午線になるのですが、それはサン・シュルピス教会を通っているのです。

シラスは、ローズラインの端にある巨大なオベリスクの下の方の部分を鉄棒で壊します。

そうすると、下は空洞になっていて、そこには古い石板があり、その石板の表面には次の文字が刻まれていたのです。

ヨブ記38章11節」とは何か『ここまで来てもよい、越えてはならぬ、／おまえの高波は ここにとどまるのだ』。

「これ以上の詮索はやめなさい。

必要以上に知りたいと思う心を自制しなさい」と自分を諭したように思えたので屈辱と絶望と怒りから、突発的にシスターを殺してしまったのである。

サン・シュルピス教会の中にある 日時計（ローズライン）に秘密を解く鍵が隠されていると記されている。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%80%E3%83%BB%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%81%E3%83%BB%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%89>

フィクションであるにもかかわらず、冒頭に実在の組織名を挙げ、「この小説における芸術作品、建築物、文書、秘密儀式に関する記述は、すべて事実に基づいている」と述べているために、扱われている内容の真偽について議論が起きた。例えば、冒頭に登場するオプス・デイは実在する組織であるが、「秘密結社」のシオン修道会やその「秘密儀式」は想像上のものである[3]。とりわけキリスト教、とくにカトリック教会の教義に深く関わる部分は大きな反響を巻き起こし、2006年3月には米国カトリック司教会議(USCCB)が、教義について反論するウェブサイト[4]を開設している。作品内でドラクロワの壁画で知られるカトリックの教会、サン・シュルピス教会の中にある日時計（ローズライン）に秘密を解く鍵が隠されていると記されている。これを鵜呑みにしたメディアが押し寄せた為、教会側は入り口に「日時計はローズラインと呼ばれた事もない、異教徒の陣の名残でもない」という張り紙を張った。サン・シュルピス教会は観光名所ということもあり、書かれている文字は何ヶ国語かに訳されている[5]。

シオン修道会は、1099年に設立されたヨーロッパの秘密結社であり、実在する組織である。1975年、

パリの国立図書館が『秘密文書』として知られる資料を発見し、シオン修道会の会員多数の名が明らかになった。そこには、サー・アイザック・ニュートン、ボッティチェリ、ヴィクトル・ユゴー、そしてレオナルド・ダ・ヴィンチらの名前が含まれている。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%82%AA%E3%83%B3%E4%BF%AE%E9%81%93%E4%BC%9A>

第一次十字軍（1096年～1099年）に従軍した騎士たちが、聖地エルサレムに残る古代ユダヤの宗教遺跡・ソロモン王の神殿（テンプル）内にて秘宝を発見し、それをヨーロッパに持ち帰って“テンプル騎士団”を結成した、ということになっている。

実際には、ソロモン王のテンプルは十字軍よりはるか一千年も昔の帝政ローマ時代にローマ軍によって破壊されている。テンプルの“跡地”に騎士たちが屯所を置いたので「テンプル騎士団」の名が付いたにすぎない。<http://www.thecinema.jp/treasure/words/>

また、劇中では、（やがて弾圧を受け滅んでいく）騎士団の残党が後に「フリーメイソン」を結成した、ともされているが、これらは本作オリジナルの設定ではなく、昔から存在する伝説に基づいている。

東京タワーの下にある「東京メソニック協会」は、フリーメイソンを母体とした公益法人である。

東京タワーから見下ろせる芝公園の中に、5世紀後半築造と考えられている前方後円墳「丸山古墳」がある。

その30kmの長さに達するラインを底辺として、北は三内丸山遺跡を頂点とする直角三角形が現われ、南は岩手県の姫神山を頂点とする相似形の三角形が... 東北の太古に遡る歴史を秘めたこのレイラインには、いったい何が秘められているのか？

東北各地には、縄文時代の祭祀遺跡とされるストーンサークル（環状列石）や人工のピラミッドさ噂される山が数多くある。その中でも有名な秋田県鹿角の大湯環状列石から近くに聳える黒又山を結び、そのラインを延長すると、青森県新郷村の大石神ピラミッドに突き当たる。http://www.ley-line.net/tohoku_ooyu/ooyu_top.html

黒又山をとりまくもの、十和田神社の秘密 http://www.ley-line.net/tohoku_ooyu/ooyu_04.html

9世紀初頭に桓武天皇から蝦夷征伐を命じられた坂上田村麻呂は、北へと侵攻しながら、東北各地に拠点を築いていく。十和田神社はその一つで、ここで最終的な戦勝を祈願したという。桓武天皇といえ、**「伊勢・元伊勢ライン」**でも触れたように、風水や陰陽道についての造詣が深く、平安京に代表されるように、風水や呪術を駆使して都市計画や戦略を立てる人物だった。その桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂も風水や陰陽道の専門家と考えても不自然ではない。

十和田湖は、大湯ストーンサークルー黒又山ー大石神ピラミッドー三内丸山遺跡という縄文に遡る遺跡を結んだ直角三角形のちょうど真中に位置している。さらにその要ともいえる部分に、坂上田村麻呂は戦勝祈願の神社を創建した。それは、土地を守る結界であった太古のレイラインに楔を打ち込むことで無力化してしまったようにも見える。ちなみに、今年の東北は、坂上田村麻呂に最後まで対抗した東北蝦夷の指導者「アテルイ」没後1200年を記念する催しがあちこちで行われていた。案外、アテルイが破れた最大の原因は、坂上田村麻呂との呪術合戦に破れたところにあるのかもしれない。

三内丸山遺跡を起点に大規模なストーンサークルを繋いで南西に大湯 ストーンサークルまで辿り、大湯から北東へ黒又山、上大石神ピラミッドを結ぶラインを 辿った。さらに、上大石神から三内丸山へラインを引いてみる。<http://obtweb.typepad.jp/obt/2010/02/leyline.html>

東北における巨石信仰の源流とは何だろう。

縄文から続く原始信仰が蝦夷に伝わり、蝦夷は民族神としてアラハバキを信仰した。アラハバキ神は巨石に降臨する。鉾山の神、産鉄神でもあり、それは後に出雲の信仰にも通じていく。ストーンサークルや大石神ピラミッドに見られる巨石遺構などは、 そんなアラハバキ信仰の源流ともいえるだろう。

アラハバキ神が巨石に降り立つイメージは、そのまま神道にも取り入れられて今に続いている。神が降り立つ特別な岩、それを神道では「磐座（いわくら）」と呼び、磐座そのものが御神体とされているケースも多い。

方位角 50 度を示すこのラインを万座ストーンサークルの西側に立って、その中心にある立石と黒又山の頂上が並ぶように仰ぎ見る。するとその先、遙か彼方にかすんだ山並みが描くスカイラインが重なっているのがわかる。このスカイラインの一角が、まさに上大石神ピラミッドなのだ。これは、この仰角のついた直線の先に位置する星座を指すのではないだろうか。

エジプトのギザピラミッド群を研究したグラハム・ハンコックは、ピラミッド群の配置が紀元前 1 万 5000 年前のオリオン座の形を映すもので、そのときの春分の日々の夜明けにオリオン座が正確に南中することを確かめた。同様に、黒又山とこれを軸にしたレイラインは、ある時代の特定の星座を指し示しているのかもしれない。

オーストラリアのアボリジナルは、聖地を結んで全土に網の目のように広がる「ソングライン」という精神的ネットワークをイメージしていた。聖地と聖地を結ぶ一本のラインには、それぞれ固有の歌があてはまる。歌にはライン上の地形や土地の資源などが織り込まれていて、初めて訪ねた土地でも、その歌さえ知っていれば、無事に旅を続けられた。このソングラインが道路や鉄道の建設によって寸断されてしまうと、聖地は力を失い、土地そのものが死んでしまう。アボリジナルは、長年受け継がれてきた精神遺産であるソングラインをずたずたにされて、まさに生きる屍となってしまった。

アボリジナルと同様に、蝦夷たちも聖地を結ぶネットワークを持っていた。それが、三内丸山をハブとするレイラインであり、大湯-黒又山-上大石神ラインだったのだろう。蝦夷が東北に築き上げたソングライン同様のネットワークがうまく機能していれば、大地は健康であり、大地と不可分である自分たちも健康であり続けられる。蝦夷は、そんな風に考えていたのかもしれない。

田村麻呂はそんな蝦夷の精神世界を逆手に取った。

坂上田村麻呂はただちに武力攻撃でアテルイ軍を攻略せよという朝廷の命令を当初無視して、まったく異なる方法をとる。それが、蝦夷最大の聖地に対する霊的攻撃ともいえる十和田神社の創建だった。

大湯ストーンサークルから十和田神社は方位角 22 度 45 分の方角になる。このラインを十和田神社を超えてそのまま伸ばしていくと、下北半島のつけ根で「石文」という地名の場所に行き当たる。ここでは「日本中央の碑」が出土している。

「日本中央の碑」は「壺の碑（つぼのいしぶみ）」として古くから和歌に詠まれてきたもので、長く伝説上の架空の存在であると信じられてきた。

石文とは、今でも北東北に残る風習で、小石あるいは大型の置石に自分の意志や願いを込め、それを神殿や道祖神、あるいは祭壇に当たる場所に置くというものだ。坂上田村麻呂がこの場所まで進軍したという記録はないが、坂上田村麻呂に代わる者がこの石を置いたとすれば、ここに記された「日本中央」の文字は、「日本中央=朝廷がこの地の支配者である」というメッセージであり、蝦夷の聖地に対する呪いであっただろう。

長い間、壺の碑は、千人の人間が引いて東北町にある千曳神社の地下に埋めたとされ、明治9年に明治天皇が北東北を巡幸した際に、千曳神社の境内の発掘を命じたが、結局、発見されなかった。

千曳神社の場所も大湯と十和田湖という蝦夷の一大聖地を結んだライン上にあるという点に注目したい。

坂上田村麻呂は、まずは北東北の聖地の中でももっとも重要だった十和田湖に十和田神社という楔を打ち込んだ。さらに蝦夷の領域の奥深く、十和田神社とも関係するラインの末端に「日本中央碑」という楔を打ち込んだ。

蝦夷のしたたかさは、太古から縄文そして中世へと脈々と受け継がれてきた巨石信仰＝アラハバキ信仰に由来するのかもしれない。巨石信仰と結びつくアラハバキは天空神であり漂泊神である。天の力と大地の力の両方に通じた神であり、巨石遺構の場所に降臨し、レイラインを伝わって移動していく。そして、アテルイにアラハバキが憑依して絶大な指導力と運を手にしたように、ある瞬間にその場にいる人間にとてつもない力をもたらす。たしかに坂上田村麻呂によって一つの重要なレイラインは封じられたが、北東北の巨石信仰レイラインのチャンネルはそれだけではなかった。

大石神ピラミッドと三内丸山を結ぶレイラインをそのまま北西へ伸ばしていくと、まさに「外東日流外三郡誌」に登場する聖地や大規模な巨石遺構がそこに並んでいるのが見て取れる。これは、坂上田村麻呂が封じたレイラインのまだその先に、もしかしたら大陸につながっていく、さらに強力なレイラインが存在し、それが後の藤原王朝の繁栄をもたらしたことを物語っているのではないだろうか。

押し寄せた潮が一気に引くように、忽然と姿をくらましてしまうかのように見える蝦夷。じつは、彼らにとって北東北は自らの文明の中心ではなく、南に伸びた前衛の一部で、その本拠は遠く大陸に存在するのかもしれない。だとしたら、世界のほかの地域の巨石文明ともその先で繋がっていたに違いない。

アテルイ＝あたる人（ヤマトに立ち向かった人）＝アバと呼ばれた人＝ユダヤ人の子孫。。

七つ森は出羽三山の子供たちで、支配星の北斗七星に言われるままに韓国の白頭山にエネルギーを与えていましたが、イシキは大元に帰っていなくなりました。

http://sorakaranojyouhou.at.webry.info/201301/article_16.html

美人と肅慎（ミセハシ）の謎 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月25日(土)11時37分13秒 返信・引用

秋田美人と肅慎（ミセハシ）の謎に関わり、有史以前に日本列島に到達していた肅慎（ミセハシ）と呼ぶ部族、実は欧州系の白人種（ロシア人）だったのかも知れない。

<http://jiyodan.exblog.jp/16553654>

肅慎（ミセハシ）とされた渡来部族は白人種ではあるが「ヘブライ（ユダヤ）人の血流が濃い人種で在ったのではないか」と推測される痕跡が、奥州（東北地区）各地に存在する。

その指摘をされたのが岩手県出身の神学者・川守田英二博士で、長期に渡ってサンフランシスコで邦人キリスト教会の牧師をしながら「古代ヘブライ（ユダヤ）語を研究した」と伝えられている。

川守田英二氏が着目したのは青森県下北から南部地方に伝わる民謡「ナニャドヤラ」で、「ナニャドヤラは古代ヘブライ（ユダヤ）語である」と言うのだ。

青森県の新郷村と言う所には、伝・「キリストの墓」がある。

新郷村は古くは「戸来村」と言われていて、ヘブライに漢字を当てると‘戸無来’となり、無は無いから取ると戸来村となる。

新郷村に入ると「ようこそキリスト村へ」と言うアーケードが迎え、案内に沿って山を登ると十字架が二つ立っている。

その十字架はキリストと、キリストの双子の弟の墓だと伝えられている。

案内板には「ゴルゴダで処刑されたのはキリストの双子の弟イスキリの方で、兄は生きてこの地まで逃げ、この地で生涯を全うしたそうだ。

まあ信仰絡みの伝説には、信者の希望を未来に伝える傾向もある事からキリスト本人が渡来して来たのか、信者が「キリストは我等と伴にあり」と信じての創作なのかは定かではない。

この新郷村の民は、「キリストの墓」の周りに円を描いて「ナニャドヤラ」の盆踊りを歌い踊る。

つまり新郷村にはイスラエルの風習と思われるものが残っており、その代表的なものが「ナニャドラヤ盆踊り」と言われている。

地元の年寄りでも意味は分からないかったが、氏は「ナニャドヤラ」の歌詞を古代ヘブライ語の進軍歌と訳した。

ナーニャード・ヤラヨウ（御前に聖名をほめ讃えん）、ナーニャード・ナアサアレ・ダハアデ・サーエ（御前に毛人を討伐して）、ナーニャード・ヤラヨ（御前に聖名をほめ讃えん）と言う意味であると発表したのだ。

川守田英二氏の説に拠ると青森県から岩手県にかけて散在する地名の一戸（いちのへ）から九戸（くのへ）、そして十和田は、失われた渡来ユダヤ十支族に関係あるとしている。

「ナニャドヤラ」の歌詞は全部の歌詞が意味不明のまま伝えられており、神学学者・川守田英二博士はその意味をヘブライ語とすれば解説出来るとしている。

つまり、ナニャドラヤー（お前に聖名を誉め讃えん）、ナニャドナサレノ（お前に毛人を掃討し）、ナニャドラヤー（お前に聖名を誉め讃えん）と訳せるそうだ。

紀元前六百八十六年頃に流浪の民となって世界に散らばったヘブライ（ユダヤ）人が、「古代この地に来た」と言う事は否定できない。

日本列島から遠く離れたヘブライ（ユダヤ）発祥の地（現イスラエル）を思えば、この話しはにわかに信じ難いかも知れない。

だが、流浪の民がユーラシア大陸を東方へ伝い彷徨（さまよ）い、渡海して日本列島に渡って来ても不思議は無い。

何故ならその痕跡はこの新郷村に止まらないからで、事実「ナニャドヤラ」の踊りは下北半島でも踊られている。

紀元前の日本古代史の中に渡来ヘブライ（ユダヤ）人の失われた歴史が在り、日本の古代信仰にその影響を残したのではないだろうか？

肅慎系の靺鞨や勿吉とともに夫余もツングース系であるとされており[4]、日本では比較的 勿論、ユダ族に限定する必要はなく、ユダ族とベニヤミン 族で構成される「イスラエル2支族」のユダヤ人だと言えるだろう。

神が主であるのなら主に従え、バアルが神ならバアルについて行け」。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/2350>

肅慎（みしはせ）の容貌は「なまはげ」そのものである。 ツングース族の肅慎は ペルシャ人に似ていて、そうではない民族とは、ローマによって滅ぼされたユダヤ人もいたのかも。 古代中国人は、四方の ...

「天孫族の東国制覇はクナトノ神の先導によってなされた。」

とも照らし合わせて考えてみますと、『蝦夷征伐』とは即ち、「蝦夷人」とされていた「旧渤海国辺りから渡来した民族＝シウカラ族の末裔」を「富氏のご先祖様である、出雲神族系」の人達が「討伐した」って事になるのですが…(OO;)

…もう、頭の中は「何がなんやら」状態ですわ…orz<http://tsukimoto2011.blog65.fc2.com/>

『岩手県の由来』

盛岡市三ツ割の東顕寺に注連縄が張られた三つの大石がある。岩手山が噴火した時に飛んできた石で、「三ツ石様」と呼ばれて人々の信仰を集めていた。

「岩手」の地名が文献に現われた最古のものとしては、11世紀前後の奥州安倍氏の治世下、その勢力圏であった、現在の岩手県奥州市から盛岡市に掛けての地域、胆沢郡、江刺郡、和賀郡、紫波郡、稗貫郡、岩手郡の「奥六郡（おくろくぐん）」の統治権を朝廷から公認されて、「六箇郡の司」に任じられた時代に遡るようである。

いわ）（Rock）. ヘブライ語で書き記された聖書では、岩もしくは1個の大きな岩（ツール）と大岩（セウ）は区別されています。聖書の中ではこれらの語は両方共、字義通りの意味でも、比喩的な意味でも使われています。 <http://wol.jw.org/ja/wol/d/r7/lp-j/1200003751>

イザヤ 8章14節では、キリスト・イエスのことが「イスラエルの二つの家」がつかずいた「岩」として暗に示されています。—マタ 21:42-44 と比較。

「岩が屏風（ビョウブ）」と始まりますが、まず、この言葉にユダヤルーツを見出すことができます。ヘブライ語には「一緒」を意味する、ビヤッ（ド）（be-yakhad）という言葉があります。

http://www.naritacity.com/journal/japan/journal_japan_071115.asp

イスラエル人にとって、「岩」は、神の救いの象徴です。聖書には「救いの岩」という表現が使われている通り、特に後世のキリスト信仰者にとっても「岩」は、神の救いのシンボルです。そこで大陸では全く別の発音を持つ「岩」という漢字がなぜ、日本では「イワ」と発音するようになったのか、考察してみました。まず、ヘブライ系ユダヤ人のことをアラム語では「イワラ」（iwaraa）、またヘブライ語では ydwhy（yehoodee、イフディ）、または「イワデ」と呼び、原語には「神の民」という意味が込められていることに注目です。これらの呼び名の共通点は「イワ」という発音です、岩との関連性があるのではないのでしょうか。そしてヘブライ語では「イワ」という言葉の語源が「神」なのです。

神は、人間が呼び名で語れない程神聖なお方であるということから、ヘブライ語では発音することができない4文字の子音、hwhy（yhwh）から成り立っています。しかし発音できないと不便なことから、イスラエル人はあえて、YHWH にアとエの母音をつけて、当て字ながらも「ヤーウェー」と神の名を呼ぶ様になりました。同様に、日本でも YHWH という神を意味する言葉を日本流に発音するため、イとアの母音を足して、「イーワー」としたのではないのでしょうか。そして神の象徴は「岩」ですから、その漢字の発音が「iwa」となったのです。つまり「イワ」とは、人間が発音できないヘブライ語の「神」、YHWH を語源とした、「神」の呼び名だったのです。

八角形の洗礼堂 薔薇は「復活」を象徴 棘は「罪」の象徴 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月25日(土)11時14分49秒 返信・引用

八角形の洗礼堂 薔薇は「復活」を象徴 棘は「罪」の象徴

束シ・セキ 木部 解字 標識として立てた木の象形。木に袖木をつけ下で左右から支えたもので、聖所を表示する意味をもつ <http://blog.goo.ne.jp/ishiseiji/e/df74303e34fb8b240fa82446c8d26dee>

のぎ（芒）。五芒星

芒（のぎ、「ぼう」とも）は、コメ、ムギなどイネ科の植物の小穂を構成する鱗片（穎）の先端にある棘状の突起のこと。

漢字の偏の一。「私」「秒」などの「禾」の部分。<http://kotobank.jp/word/%E3%83%8E%E6%9C%A8%E5%81%8F%E3%83%BB%E7%A6%BE%E5%81%8F>

「黍は禾の属にして黏（ねば）る者なり」と記載されており、アワとの違いはその粘り気に注目されていた（このため「黍」字を糯粟や糯米の意と解すること ... 叶）＝「口」＋「十」：＝くち＋おとこ⇒おとこを口にする⇒（欲望が）かなう⇒かなう <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2512>

カノウ カナウ カナン？

「乳と蜜の流れる場所」

約束した土地 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%8A%E3%83%B3>

「叶」 解字:形声。 意符の口(意見)と、音符の十(あつまる意=集)とから成る。

『命』は「令」(いいつける)と「口」(くち)の合わせ字であり、集まってきてひざまずいている人に、大声で命令している形です。

大声で命令

ヤーウエの語りかけ

ヨブ記 38章 3節～6節

わたしはあなたに尋ねる。わたしに示せ。

わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。あなたに悟ることができるなら、告げてみよ。あなたは知っているか。だれがその大きさを定め、だれが測りなわをその上に張ったかを。その台座は何の上にはめ込まれたか。その隅の石はだれが据えたか

...<http://homepage3.nifty.com/sanbieikou/zuissou2011801.htm>

聖書は、現代人からすると幼稚とも思えるような表現が多く含まれている。それは、今日、私たちにとっては当たり前と思われるような科学的な知識が、聖書の書かれた時代の人々にはなかったからである。したがって、ともすれば、聖書のことばを原始的なものとして、拒絶することにもなる。そこが、現代人にとっての一つの大きな落とし穴である。ヨブが自分の身に起きた災いに関して友人らと論じたあと、神様は彼と語り、次のように言われた。

http://davarkg.com/Japanese/BibleStudy/Jeremiah05_07.html

知識もなく言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。...

わたしはあなたに尋ねる。わたしに示せ。

わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。

あなたに悟ることができるなら、告げてみよ。

あなたは知っているか。だれがその大きさを定め、

だれが測りなわをその上に張ったかを。

その台座は何の上にはめ込まれたか。その隅の石はだれが据えたか (ヨブ 38:2-6)。

あたかも何かを知っているかのように思っていたヨブに、神様は、創造の話しをされた。ヨブは何も言えなくなった。どうも、上に述べたような現代人の高ぶりは、今に始まったことではなかったようだ。

科学は、自然の世界における神の働きを、神から引き離し、単なる自然の法則か、何かの非人格的な力によるものだと説明する。そこには、神ご自身のご意志、みこころが消えてしまつて、宇宙があたかも、神を離れて、自分で動いているかのように思わせる。天地創造の神を信じるクリスチャンであつても、創造のあと、神様はもうこの世界に働いて関与されることはなく、私たち人間が自分で維持し、自分の必要を満たし、災いを恐れながら生きるしかないと考える。それは本当だろうか。

その大きさを定め

測りなわをその上に張ったかを

台座は何の上にはめ込まれたか

隅の石はだれが据えたか

隅

主イエスの御衣のすその四隅（原語では「隅＝カナフ」）http://blogs.yahoo.co.jp/squawk_roko/folder/1488410.html?m=lc&p=3

ヘブル語「カナフ」は、その動詞形に「隠す、隠れる」の意味があります。

「翼」（カナフ）

着物のすその四隅にふさを作り、その隅のふさに青いひもをつけるように言え。そのふさはあなたがたのためであって、あなたがたがそれを見て、主のすべての命令を思い起こし、それを行なうため」

（民数15：38－39）

一説では、ヘブル人は祭司の着物のふさに結ばれた「青いひも」をいやしの約束と見なしていたと言われています。

ここで着物の「端」と訳されているヘブル語も「ツィツイト：ふさ」です。

翼の下にいやしを見出した。

カノは基礎・台の意味、.....ただあなたに届くように（翼のある太陽の上に乗る？）

わたしの名を恐れるあなたがたには、義の太陽が上り、その翼には、癒しがある。」（マラキ4：2）「その翼には、癒しがある。」「翼」と訳されているヘブル語「カナフ」は、その動詞形に「隠す、隠れる」の意味があります。雌鳥が大き

な...http://blogs.yahoo.co.jp/squawk_roko/31367065.html

「翼」（カナフ）

「カノ」は基礎、台の意味を持つ言葉です。<http://www.historyjp.com/article.asp?kiji=171>

正教会の教会法（カノン・基本的な規定）<http://www.orthodox-jp.com/nagoya/nandemo28.htm>

教会法の下では、祭壇・聖書朗読台は、同じ重みで尊厳を与えられなければならない。

http://www.geocities.jp/fujisawa_church/shiryo/Abe-tenrei-com01.htm

藤沢教会の現在の聖堂配置——祭壇が聖堂入り口手前に、聖書朗読台が聖堂奥に、遠く分離されて配置され、信徒席がその周囲を三百六十度ぐると取り囲む方式——は、この聖ベネディクト会三位一体修道院聖堂をひとつのひな形として始められています。

大聖堂は東に至聖所、西に正面玄関をもつ（キリスト教において東はイエス・キリストを象徴する方角であり、教会の祭壇は東に正対しておかれるのが基本形であった）。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BB%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%BB%E3%83%87%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%95%E3%82%A3%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%AC%E5%A4%A7%E8%81%96%E5%A0%82>

全長153m、最大幅90m、高さ107m。八角形の大クーポラの内径は43m。聖堂の大きさとしては世

全長153m、最大幅90m、高さ107m。八角形の大クーポラの内径は43m。聖堂の大きさとしては世

界で4番目に大きい[要出典]。

建物の主軸はほぼ東西に通じ、西に八角形の洗礼堂、東にラテン十字の平面をもつ大聖堂が並び、両者の正面玄関が正対する。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BB%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%BB%E3%83%87%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%95%E3%82%A3%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%AC%E5%A4%A7%E8%81%96%E5%A0%82>

八角 円堂の基壇石、三尊磚仏、蓮華文や唐草文の軒瓦など、創建時の仏堂の様相を示す品々が出土し、白鳳時代の建立を示している。 ... <http://www.tsubosaka1300.or.jp/treasure.html>

八角の天上に8つの祝福の言葉が掲げられており、3人の牧師が祈りを捧げていました。 <http://www.a-shiina.co.jp/asano/book-seisyonohonbun.html>

イスラエルの冬の終りには、アmendウの花が咲くという、日本の梅と桜をひとつにしたような花、2千年のイスラエルの冬の終りを告げ、春が近いことの祝福を告げる花、アmendウ。

昔からカナンの地に栽培されていて、ヤコブはエジプトの宰相ヨセフへのみやげ物にアmendウ(アーモンド)を入れたという。その淡い桜色の花をつけるアmendウの花をみたいと、私は2月のイスラエルへと旅立ちました。

道は山を廻るように進み、カシオペアを上に見ながら進むと思うと、次は月を右後ろに小熊座の北極星を向いに見ながら進んでいました。

アmendウをヘブライ語では、シャケドとう。「目覚める者」「見張る者」という意味である。 <http://www.makuya.or.jp/hikari/hana/amendo.htm>

アmendウの花は、救いの光を待ち望んだ聖書の中の女性たちの祈りに似ていると言われています。また、ボトル11番はエッセネ派 も演じられるという事ですね。

バラ科ですね、桜やリンゴなどに似た花です・・・ http://nabe-sho.cocolog-tnc.com/fujieda_/2010/03/blo-7f8e-12.html

バラ科リンゴ属の落葉高木樹。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%B4>

トルコで紀元前6000年頃の炭化したリンゴが発見されている。スイスでは遺跡から紀元前2000年頃のリンゴの化石が見つかっており、その時点で既にリンゴは栽培されていたとする研究がある。

聖書におけるリンゴ 旧約聖書に登場するアダムとイヴが、蛇にそそのかされて食べた「善悪を知る果実」(禁断の果実)はリンゴだとされる。あわてて飲み込もうとしたアダムが善悪を知る果実をのどにつかえさせ、これがのどぼとけの始まりであるとの故事から、男性ののどぼとけは「アダムのリンゴ」ともいわれる。なお、食べたのがリンゴというのは後の時代に創作された俗説で、当時旧約聖書の舞台となったメソポタミア地方にはリンゴは分布せず、またその時代のリンゴは食用に適していなかった。

薔薇で弔う】薔薇にまつわる伝説・神話は数多くありますが、愛の象徴を語り継ぐ諸説が多い中、実は「弔いの花」としての薔薇の話も少なくないことをご存知でしょう

か。...<https://www.facebook.com/171143942926774/posts/417116284996204>

キリスト教において薔薇の花は「神の愛・赦し・殉教・勝利・慈悲」棘は「罪」の象徴。殉教者の墓に薔薇の花が掘られた場合は、薔薇は「復活」を象徴するのだそうです。

薔薇は忠実な恋人たちの墓から咲き出したという伝説もあり、これに類似した別の伝説もいくつかありますが、いずれも薔薇がはなつ芳香と輝く色が、古代より人々の悲嘆や沈鬱を和らげたことは間違いないでしょう。

Re:「後方羊蹄国（後志国）」 投稿者：管理人 投稿日：2014年1月24日(金)22時44分23秒 返信・引用 編集済

> No.1995[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

>>> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>>>> 同年、阿倍比羅夫臣が、「肉入籠（ししりこ）」（イッサカルの領域？）に至ると、「問兔（という）」（後の豊浦町？）の蝦夷二人、「胆鹿嶋（いかしま）」「兔穂名（うほな）」が「後方羊蹄（しりべし）」を政庁（郡家）としたいと願い入れたので、阿倍臣は郡家を設けて帰ったと、その年の条にあります。この時に「後方羊蹄国（後志国）」の運びに至ったと見られます。

>>>>

>>>>

>

> 蝦夷

>

先日の蝦夷国と肅慎国を、それぞれ東北と北海道に別けて考える件ですが、どうも大陸の肅慎が持つ竪穴式の住居や樹皮を用いる習俗と、北海道アイヌに伝わる古代からの竪穴住居、同じく樹皮をもちいるところが共通するようです。

おそらく、大陸の肅慎は、樺太経由で、北海道にまで影響力を及ぼしていたのではないのでしょうか。

ツングース系で、後の満州とかとも関わって行きますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/肅慎>

肅慎の習俗は、後継のユウ婁に見て取れます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ユウ婁>

こちらアイヌの習俗

<http://ja.wikipedia.org/wiki/チセ>

肅慎自体は周代の記録にもあるそうですが、それらの記録を元に、日本側で最北の民族を肅慎と名付けたというよりは、やはり彼ら自身は大陸の肅慎の一族であることを伝えたのではないのでしょうか。

彼らは7世紀代にすでに大陸との交易ルートを持っていた可能性があります。

だから、後に唐人とともに肅慎2人が同じ位階を受けるわけです。

唐人と同じくらい、肅慎集団は、海外交易で重要な役割を果たしていたのでしょう。

持統8年（694年）1月23日務広肆（むこうし、後の従七位下に相当）等の位を唐人7人と肅慎2人に与えた。

肅慎の記載を追って行くと、「越」と関係して出てきます。この越というのが、どうも日本海側から、はるか北海道渡島方面までさしていた可能性があるんですね。

持統10年（696年）3月12日[編集]

賜越度嶋蝦夷伊奈理武志與肅慎志良守叡草、錦袍袴・緋紺絶・斧等。

越（こし）の度嶋（わたりしま、渡島に同じ）の蝦夷の伊奈理武志（いなりむし）と肅慎の志良守叡草（しらすえそう）に錦でできた袍（上着）と袴・赤い太絹・斧などを下賜した。

それで肅慎の関係でオロchon族というのがいるのですが、これが越のヤマタオノオロチとどこか関係してくるのではないのでしょうか。

それで、肅慎と新羅使がまた深いつながりをもっていて、新羅はつまり肅慎と隣国なわけです。

この新羅・肅慎ルートが、樺太・北海道経由で、越を経由しながら交易してくるわけですね。

それで、新羅と肅慎がセットになって、そこで新羅系のスサノオ神話やオロチの話が、どこかで結びつく、そんなことも考えてみてもよいのかもしれない。

東北北部の蝦夷と、北海道の肅慎、かなり習俗的に異なっていたのではないのでしょうか。

毛が濃いなどはアイヌ系のそれとも関係しそうですが、肅慎の場合は、さらにその表現がオーバーなくらいですね。

それで、やはり大陸の肅慎とその辺も類似してくる。竪穴住居、樹皮、弓矢関連の習俗もそうです。

以前論議したDNAでも、縄文人に2種、東北海方面にいたことを論じたのですが、その2種の相違が、蝦夷、肅慎の相違なのではないのでしょうか。

片方はシベリア方面などに関係し、もう片方は半島経由で中東方面からやってきているわけです。紀元前5～1世紀くらいですね。

後者が蝦夷か肅慎かはちょっと今の時点では判断できませんが、肅慎自体は周代より古く、そうすると前者の可能性がgでくるわけです。竪穴関連とかは、ツングース・オーストロネシア言語と関係しながら、縄文人と関係するのでしょうか。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn5/005_04nihonngo_ha_konngougenngo.html

そうすると東北の蝦夷って、どこから来たのか？も課題になりますが、紀元前5世紀～1世紀前後に、なんらかの半島で半島経由で東北にやってきた集団、先日論議した東扶余とか扶余のはるか東の女国とか、キシさんご指摘の阿弋流為関連でしょうか。

東北の北部、その辺の古代を探る必要がありますね。

Re: 胆振(イブリ・・・ヘブライ人) ヘブル語では「ヘブル」を「イブリ」といいます 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月24日(金)20時34分15秒 返信・引用

> No.1996[元記事へ]

胆振・・・辰 北極星 旦（あらわれる） 時

胆振(イブリ・・・ヘブライ人)

【旦】5画 日(1) 準1級 ... 【旦日】たんじつ. あくる日。あした。また、明朝。夜明けの太陽。

【旦夕】たんせき. 明け方と夕方。朝も晩も。始終。旦暮。今日の夜か明日の朝かというほどに事態が切迫していること ... 金文の字形によると、雲上に日が半ばあらわれる形。

http://www.geocities.jp/growth_dic/honbun/zoukan-4336.html

日の出る頃。夜明け。明け方。

カム 神？

カム、クム, カム/kum/立ち上がる、現れる, kum, 立ち上がる、現れる.

<http://www.historyjp.com/dictionary.asp>

空海と法相宗のリーダーである善珠が、阿刀氏という家系の絆で結びついているだけでなく、平安京の造営を陰で支えた有力者である秦氏とも同じイスラエルのルーツで繋がっている可能性があることを、これまで解説してきました。 さて、その秦氏の絶大なる支援によって 794 年に平安京への遷都が実現しましたが、あらゆる怨霊対策がとられたにも関わらず、問題は解決することではなく依然として桓武天皇を悩まし続けていました。そして朝廷の周辺に不幸と災難が連続して起きている矢先の 797 年、空海は歴史の記録から忽然と消えてしまったのです

http://www.naritacity.com/journal/main/journal_main_091015.aspx
http://www.naritacity.com/journal/main/journal_main_091015.asp

また、空海の母方である阿刀氏のルーツを遡っていくと、単に秦氏らと共にイスラエルの起源で繋がっているだけでなく、神宝とも深い関わりのある歴史が存在していたことがわかります。つまり、空海が阿刀氏の家系に属する者として、イスラエルの神宝についての知識を事前に得ていた可能性が高いのです。そして空海は、神宝問題を解決する為の第一人者として朝廷より召されたのです。この仮説の信憑性を裏付けるのが聖書の記述です。

旧約聖書の「アテル氏」とアイヌの「アテルイ」も関連性が？

<https://twitter.com/shimazuyashichi/status/371603663770247168>

胆沢

八世紀の胆沢地方は、大墓公（たものきみ）アテルイという優れた指導者を得て、高度の政治軍事組織を作り上げていた。 第五十代 ... その先鋒は二手に分かれ、前軍三千は 村落に火を放ちつつ北上川の西岸を北上し、現在の水沢市跡呂井（あとりい）付近に 到達、

<http://joshua007.digi2.jp/mizusawaterui.htm>

アテルイとモレの日高見国（ひたかみのくに）英雄伝は悲劇で幕を閉じる

坂上田村麻呂を征夷大將軍とした朝廷軍に、アテルイはこれ以上の悲惨な戦いを止めようと降伏し民衆の身代わりとなって朝廷軍に投降した

田村麻呂は彼ら族長の赦免を願ったが叶わず、アテルイとモレは今の大阪の地で斬首される京の都で鬼と呼ばれ恐れられた男、坂上田村麻呂大將軍が惚れた男、アテルイの遺志は、安倍一族、藤原清衡、基衡、秀衡…と受け継がれていくこととなる

、「アテルイ」とは、列島イスラエルを閉じようとしなかった勢力のことでしょう。

胆振

辰 シン・たつ 辰部 解字 二枚貝がカラから足をだしている形の象形。蜃シン（大ハマグリ）の原字。二枚貝は足を出して小刻みに動いて移動することから「うごく」イメージを持つ。しかし、辰はもとの意味に関わりなく十二支の「たつ」に仮借カシャ

<http://blog.goo.ne.jp/ishiseiji/e/abbebd990c84610c17b6467bd79f6f4>

、星の動きの中心にいる北極星にも仮借カシャされたことから、日・月・星を含む天体、とき等の意味をもつ。

> 北海道胆振支庁の「胆振」は「イブリ」と読みます。

> 四国愛媛県の西海岸には、日振島があり、日振は「ヒブリ」と読みます。

> そして、山口県の南海岸には、目立たない幣振島があつて、これは「ヘブリ」と発音するのです。ヒブリ、ヘブリ、共に、冠詞のh音が付いた形で、つまり、「イブリ」「ヒブリ」「ヘブリ」と日本での呼び名が、ここには全て出揃っているのです。

> そしてこの「イブリ」「イブル」から、「燻（いぶ）る」「燻（いぶ）す」という動詞が生まれたと考えられます。

> さらに「ヒブリ」のブの母音を替えて、バとして「ヒバリ」として漢字の雲雀を充て「雲雀（ひばり）」としたのでしょう。

> ヘブライ人とは、日本列島へ飛来した雲雀であつたのです。(11.19.)

>

> ヘブライ"とは原語で"イブリ"といい、"川の向こうから来た者"という意味で、他の民族が 当時の彼らの呼称として使用し、彼らは自称" ...

> <http://www.kobemantoman.jp/sub/45.htm>

> もともとシリアやパレスチナ地方を中心とする地中海東岸地方には、セム系の先住民カナン人がいた（B.C.1500。"カナン"はパレスチナの古名）。カナン人はエジプトの象形文字をもとに、原カナン文字を発明し、シナイ半島にも南伝して原シナイ文字と呼ばれた。原カナン文字は後に発展してアルファベットになっていく。前2千年紀前半はこのカナン人が活躍するのだが、B.C.13世紀末からB.C.12世紀にかけては、東地中海一帯を、バルカン南部やエーゲ海域など、あらゆる海路で侵入し、国や都市を混乱に陥れた混成移民集団が現れた。この諸民族は"海の民"と呼ばれ、彼らの侵入で当時の鉄器大国ヒッタイト（B.C.18C 建国）は、海の民によってアナトリア高原西部を荒らされ、滅亡に至った（B.C.1190頃）。またシリアの重要繁栄都市ウガリットやエマルなども侵入を受けて滅び、エジプトもB.C.1175年、パレスチナに植民した海の民の一派ペリシテ人（"パレスチナ"の名はこの民族の名に由来）との抗戦には辛うじて成功するものの、その後勢力は弱体化した。

> こうしてヒッタイトとエジプトの二大国家形勢が崩れ、かわって独自の活動を行う民族が、シリア・パレスチナ地方で活躍するのである。アラム人・フェニキア人・ヘブライ人のセム系の3民族である。

>

> フェニキア人は冒頭のカナン人の一派が、現在のレバノン海岸に居住した民族で、ビブロス・シドン・ティルスといった海港都市国家を築いていった。B.C.12世紀以降、地中海貿易を独占する海商民として、やがて地中海・黒海・紅海沿岸に植民市を建設していく。なかでもB.C.814年頃、ティルス市がアフリカ北岸に建設した植民市カルタゴは重要地で、その後カルタゴは地中海域覇権をめぐって、世紀にわたるポエニ戦争（一次:B.C.264-B.C.241,二次:B.C.218-B.C.201,三次:B.C.149-B.C.146）で共和政ローマと戦うことになる。"ポエニ"はラテン語で"フェニキア"を表す。

> フェニキア人による地中海貿易は、アラム人同様、貿易品だけでなくあらゆる文化を伝播した。中でも最も重要なのが、フェニキア文字の流布である。フェニキア文字は、アルファベットの祖型である原カナン文字から発展したもので、まだエジプト象形文字に近い、絵文字の特性があつた原カナン文字を、線状文字に改良し、アルファベットの原形となる文字を、22の子音字として成り立った。

B.C. 9～B.C. 8 世紀にはギリシアに伝播し、ギリシアでは母音字が加わって 24 文字となった（ギリシア文字）。西方のギリシア文字と同じく、東方でも、前述のアラム文字に派生していく。

>

> 神武天皇の称号はヘブル語？ (2008 年 4 月 30 日発行) | 今日もイエス様

...http://melma.com/backnumber_151486_4080561/

> しかし、ヘブル語では「ヘブル」を「イブリ」といいます(ヘブル語創世記 14:13)。また古代イスラエル人はアラム語も話したのですが、アラム語で「ヘブル」は「イワラー」といいました。「イワレ」は、これらの語の訛ったものと想像されます。

>

> イブリ（ヘブル人）とアピル、あるいはハビルの間に何らかの関係があったとするならば、イブリも、また、元来、社会階層を指した語であったことが明らかとなる。

<http://michi01.com/tendoh/363isl26720701.html>

>、「得体の知れないよそ者」として常に警戒され、時には実際に、強盗殺戮を働いたのがカナン定着後のイスラエルだった。

> この否定的なニュアンスを多分にもつ一般語を自らの人種的な意味合いを込めた民族名としてイスラエルが受け容れたということこそ、驚くべき画期的なことだと言わなければならない。どのような民族にとっても、その民族名は神話伝説に基づく輝かしい栄光に満ちたものであるはずである。にもかかわらず、卑しむべき「お里」が知れることを承知しながら、あえてイブリ＝ヘブライ人と名乗ることを選択したユダヤ伝承編纂者たちの屈折した心理にこそ思いを致すべきなのであろう。ユダヤ人の伝承に憎悪と咒詛が渦巻いているのも故なしとしない。

> もっとも、その胸奥深くには、ユダ（イエフダ）という誇り高き名前と、イスラエル（その他雑多な人々）というやや誇らしくない名前とが秘められていたのではあるが……。

> イスラエルとペリシテ人との戦いは、したがって初期には山岳丘陵地帯からやって来る強盗集団に対するエジプト正規軍の防衛戦という様相をもっていた。

> アピル

> 阿比留文字（あびるもじ）は、神代文字の一種である。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E6%AF%94%E7%95%99%E6%96%87%E5%AD%97>

> 阿比留文字は表音文字であるハングルの基になったという見解を持つ人々もいる[1]が、学問的には認められていない。その理由の一つとして、開音節と閉音節が存在する朝鮮語の音韻においてハングルのような文字が作られるのは自然であるが、開音節しか存在しない日本語の音韻体系において阿比留文字のような文字が作られるのは不自然である（例えば、「カ」という音は子音の k と母音の a の組み合わせであるが、日本人は「カ」のみで一音と認識し、子音と母音が組み合わさっている音だとは意識しない）という指摘がある[要出典]。朝鮮との交流によって朝鮮語に親しんで事から子音と母音を意識していたのだという説明もある（後世において悉曇学により日本人も子音と母音を意識し、五十音表が作られたのは歴史的事実である）が、仮にそうだとしても当の朝鮮より先行して日本でこのような文字が作られるのは不自然である。

> しかしハングルが作られたとされる 1443 年以前に阿比留文字が存在していたとする資料もある。ト部兼方（1280 年位の人物）は「釈日本紀」の中に「大蔵省の御書の中に、肥人の字六、七枚許有り云々」という記述があり、この「肥人の字」を肥人書の異称をもつ阿比留文字のことをさすとする説である。阿比留文字は古代の鏡等[誰?]に掘られており[要出典]、これらも 1443 年よりも前に阿比留文

字があった物的証拠とされる。そして太古から日本と朝鮮半島には交流があった事から、ハングルとは何らかの関係があるのだろうとしている。[2]

>

> 阿比留文字とハングルは形が似ており、何らかの関係があると考えられている。但しハングルと違い、母音字母は必ず子音字母の右に置かれる（全て下に置くものもある。竹内文書では縦文字をアメコアヒルモジという）。日本語のエ段音を表すために朝鮮語で /ʔ/（現代の発音では[ʔ]、アとオの中間音、ただしかつてはeと発音されていた。）を表す字母が使用されていたり、ラ行を表すために朝鮮語で /d/ を表す字母を左右反転させた形が（あるいは朝鮮語で /r/ を表す字母の上半分の形ともいえる）使われている。朝鮮語ではヤ行 /j/ を表す子音字母はなく、/ja/、/ju/、/jo/ 全体を母音字母として表記するが、阿比留文字ではヤ行を表す子音字母が新設されている。ヂ・ヅはダ・デ・ドと同様、朝鮮語で/d/を表す字母で綴られている。

>

> 神社の神体等に記されていることが多く、全国で見られる。また、阿比留文字による銘文が刻まれた石碑が宮崎県の円野神社や安曇野市の道祖神として見つまっている。

>

> 氾濫（イブリ）

> 見よ 日の ヤハウエ 彼が来る(or 来ている) 酷い そして氾濫（イブリ） そして燃える怒りの鼻の穴 に位置させる事の その地 に浪費 そして罪ら彼女 彼が根絶させる から出て来る彼女ら

> 10・その時 星らの その空ら そしてケシール（=オリオン=つまらない）ら彼ら 無い 彼らが輝かさせる <http://blogs.yahoo.co.jp/ailandlife/7097306.html>

> イザヤ書 13 章 ヘブル語原典 直 訳

>

> ウルクの神官・王がテラであり、神官の一族をイブリ（ヘブルの語源）と呼んでいた。この テラの一族が、イスラエルの十二支族へと繋がってゆきます。加えて、シナイ半島は月 神・日神の支配地域であり、シンの発音と重なる。<http://bewithgods.com/hope/doc10/10-20.html>

>

>、「イブリ」「ヒブリ」「ヘブリ」と日本での呼び名が、ここには全て 出揃って
...<http://www.saturn.dti.ne.jp/~ttshk/framepage79.htm>

>「瀛洲」の「瀛」とは、「嬴氏」の「嬴」と同じ意味であり、「ヤーウェ」という意味です。

>「瀛洲」は「ヤーウェ神洲」という意味です。

> 前400年を少し過ぎた時期に、メソポタミヤに居住していた元北イスラエルの一部の民達が移住して来ており、彼らは、まとまって大倭の軍事防衛面を、部族ぐるみで担当することになっていたのです。

> 東てい人のヘブライ語

> では、このヘブライ語で自分達をトーテーと称した東てい人とは何者でしょうか？

> 徐福らより、200年前に移住してきた北イスラエル諸支族でありましょう。彼らは。倭奴王国にやってくると、主に列島の防衛面を担当することになったからです。

> 東てい人、即ち、列島移住の北イスラエルによって、200年の間に、二十余国が出来た。その内の

一つが、前出の「軍事防衛府」の「鬼国」でありましょう。

> 一掃する者、衛兵にとって、武器の管理は重要事のひとつです。つまり、徐福らは、この東てい人によって、鬼国へ誘導されたのです。

> 「鬼国」はヘブライ一掃後の日本国では、紀伊（きい）の国と命名され、そう呼ばれるようになりしました。現在の和歌山県です。(2010.7.12.) (7.13.) (修正 8.8.)

> 「イスラエル」から「忘れる」へ

> ヘブライ一掃とは、正確にはヘブライ隠蔽一掃ですが、大和朝廷による厳しい施行に際して、表現はその理念に抵触しない範囲で許されたのでした。

> 例えば、太秦広隆寺境内には幾つもあったと云われる「イサライの井戸」。日ユ同祖論では、これは「イスラエルの井戸」と呼ばれていたとされています。

> 「いさらい」の漢字文表記は「伊佐羅井」「伊佐良井」ですが、和文は「井浚ひ」です。井戸を定期的に浚って、ごみを取り、きれいな水を保つよう戒める言葉に変わっています。

> 羊氏の移住

> 群馬県多野郡（旧多胡郡）吉井町には、「羊太夫」に纏わる伝承が残されていて、この羊太夫は渡来人で、秦氏であるといわれています。多胡郡には、「和銅四年（711）」に刻まれた石碑が残されていて、そこには「給羊」と漢字がしっかりと刻まれています。

> 羊太夫は、多胡郡の統治を任された人で、さまざまな功績のあった人らしく、石碑はそれを記念したものです。（詳細は、久保有政著『日本の中のユダヤ文化』参照）

> 羊太夫の墓は、江戸時代後期に発掘されたらしく、同時代の大名であり、学者でもあった松浦静山（まつらせいざん、1760～1841）が自著『甲子夜話』に記したところによると、十字架と「J (I) N R I」のローマ字の刻まれた古銅券が、石碑の傍にあった石槨から見つかった。

> 物はもう失われたらしいのですが、要はその銅板に刻まれたローマ字です。

> このローマ字は、「ユダヤ人の王ナザレのイエス」のラテン語表記の頭文字を記したものであり、羊太夫はキリスト教徒であったことを、『日本の中のユダヤ文化』の著者久保氏は指摘しています。この表記は三カ国語で、イエス磔刑の時に、頭上に掲げられていたものでした。

> 景教と栗枝渡神社

> 景教徒移住について、もう一例。

> 徳島県三好郡旧東祖谷（いや）村（現三好市）には「栗枝渡（くりしと）神社」という名前の八幡神社があることを最近知りました。（詳細は『日本ユダヤ超文明』参照）

> 1185年に、栗枝渡神社と名前を改める以前は、栗須戸（くりすと）であったということです。

> 社殿には鳥居がなく、キリスト教会でも通常鳥居は置かないものですが、神社には、切支丹を思わせるようなものは一切ないらしい。現在も、残されているのは栗枝渡という地名だけです。

> 戸来村のキリストの墓

> 青森県戸来村（現新郷村）には、キリストの墓と呼ばれる十来塚があつて、戸来（へらい）村はかつて、古くはヘブライ村と呼ばれていたといわれています。

> 昭和10年に「竹内文書」で知られた神社の神主竹内巨麿が、戸来村にやって来て、一つの土まん

じゅうを指して、これはキリストの墓であると定めた時からキリストの墓、十來塚と呼ばれるようになったらしい。

> ユダヤ教秦氏と蘇民将来

> これまでの秦氏について纏めますと、百済系、新羅系、高句麗系、漢系、呉系に分けられた秦氏は、ヘブライ人の区分として、南ユダ系秦氏、北イスラエル系秦氏、北イスラエル景教徒系秦氏となりました。さらに、新羅系北イスラエル秦氏、新羅系南ユダ秦氏、百済系北イスラエル秦氏というように細分化され得るわけですが、景教徒秦氏は北イスラエル系のみであろうと思われます。

>

> 日江田（ひえだ）…「ユダ」。ヒは冠詞のh音を充てた。地名としては「稗田」があります。

>

> 牛頭天王＝畢星王＝モーセ

> 京都今宮神社の祭りは、夜須禮祭りといわれており、祭りでは、人々が神社を巡りながら「やすらい花よ」と囃したてる、夜須禮は「やすらい」と読むのです。

> 三村氏は、この「やすらい祭り」を「イスラエル祭り」とであると断定しました。

> この「やすらい」も、「いさらいの井戸」同様の基準で、改名されたとみられます。

> 「（ヤ）スラ（イ）」も「イ（サ）ラ（イ）」も、共に五音節目の「ル」を省き、二文字母音を変えた点で、共通していることが分かります。（（ ）内が変えられた母音の文字）

> 今宮神社の祭神は牛頭天王ですが、祇園祭りの八坂神社も同様牛頭天王でした。

> 牛頭天王は、スサノヲの尊と混同されたようですが、別の存在です。

> この「牛頭天王」とは一体誰のことか、と以前読者からよく質問を受けましたが、当時は答えることが出来ませんでした。今はズバリ、モーセのことであると言えます。

>

> 北海道胆振支庁の「胆振」は「イブリ」と読みます。

> 四国愛媛県の西海岸には、日振島があり、日振は「ヒブリ」と読みます。

> そして、山口県の南海岸には、目立たない幣振島があつて、これは「ヘブリ」と発音するのです。ヒブリ、ヘブリ、共に、冠詞のh音が付いた形で、つまり、「イブリ」「ヒブリ」「ヘブリ」と日本での呼び名が、ここには全て出揃っているのです。

> そしてこの「イブリ」「イブル」から、「燠（いぶ）る」「燠（いぶ）す」という動詞が生まれたと考えられます。

> さらに「ヒブリ」のブの母音を替えて、バとして「ヒバリ」として漢字の雲雀を充て「雲雀（ひばり）」としたのでしょう。

> ヘブライ人とは、日本列島へ飛来した雲雀であったのです。(11.19.)

>

胆振(イブリ・・・ヘブライ人) ヘブル語では「ヘブル」を「イブリ」といいます 投稿者：荊の紀氏
投稿日：2014年1月24日(金)20時14分32秒 返信・引用

北海道胆振支庁の「胆振」は「イブリ」と読みます。

四国愛媛県の西海岸には、日振島があり、日振は「ヒブリ」と読みます。

そして、山口県の南海岸には、目立たない幣振島があつて、これは「ヘブリ」と発音するのです。ヒブリ、ヘブリ、共に、冠詞のh音が付いた形で、つまり、「イブリ」「ヒブリ」「ヘブリ」と日本での呼び名が、ここには全て出揃っているのです。

そしてこの「イブリ」「イブル」から、「燠（いぶ）る」「燠（いぶ）す」という動詞が生まれたと考えられます。

さらに「ヒブリ」のブの母音を替えて、バとして「ヒバリ」として漢字の雲雀を充て「雲雀（ひばり）」としたのでしょう。

ヘブライ人とは、日本列島へ飛来した雲雀であつたのです。(11.19.)

ヘブライ"とは原語で"イブリ"といい、"川の向こうから来た者"という意味で、他の民族が 当時の彼らの呼称として使用し、彼らは自称" ...

<http://www.kobemantoman.jp/sub/45.htm>

もともとシリアやパレスチナ地方を中心とする地中海東岸地方には、セム系の先住民カナーン人がいた（B.C.1500。"カナーン"はパレスチナの古名）。カナーン人はエジプトの象形文字をもとに、原カナーン文字を発明し、シナイ半島にも南伝して原シナイ文字と呼ばれた。原カナーン文字は後に発展してアルファベットになっていく。前2千年紀前半はこのカナーン人が活躍するのだが、B.C.13世紀末からB.C.12世紀にかけては、東地中海一帯を、バルカン南部やエーゲ海域など、あらゆる海路で侵入し、国や都市を混乱に陥れた混成移民集団が現れた。この諸民族は"海の民"と呼ばれ、彼らの侵入で当時の鉄器大国ヒッタイト（B.C.18C 建国）は、海の民によってアナトリア高原西部を荒らされ、滅亡に至った（B.C.1190頃）。またシリアの重要繁栄都市ウガリットやエマルなども侵入を受けて滅び、エジプトもB.C.1175年、パレスチナに植民した海の民の一派ペリシテ人（"パレスチナ"の名はこの民族の名に由来）との抗戦には辛うじて成功するものの、その後勢力は弱体化した。

こうしてヒッタイトとエジプトの二大国家形勢が崩れ、かわって独自の活動を行う民族が、シリア・パレスチナ地方で活躍するのである。アラム人・フェニキア人・ヘブライ人のセム系の3民族である。

フェニキア人は冒頭のカナーン人の一派が、現在のレバノン海岸に居住した民族で、ビブロス・シドン・ティルスといった海港都市国家を築いていった。B.C.12世紀以降、地中海貿易を独占する海商民として、やがて地中海・黒海・紅海沿岸に植民市を建設していく。なかでもB.C.814年頃、ティルス市がアフリカ北岸に建設した植民市カルタゴは重要地で、その後カルタゴは地中海域覇権をめぐって、世紀にわたるポエニ戦争（一次:B.C.264-B.C.241,二次:B.C.218-B.C.201,三次:B.C.149-B.C.146）で共和政ローマと戦うことになる。"ポエニ"はラテン語で"フェニキア"を表す。

フェニキア人による地中海貿易は、アラム人同様、貿易品だけでなくあらゆる文化を伝播した。中でも最も重要なのが、フェニキア文字の流布である。フェニキア文字は、アルファベットの祖型である原カナーン文字から発展したもので、まだエジプト象形文字に近い、絵文字の特性があつた原カナーン文字を、線状文字に改良し、アルファベットの原形となる文字を、22の子音字として成り立った。B.C.9～B.C.8世紀にはギリシアに伝播し、ギリシアでは母音字が加わって24文字となった（ギリシア文字）。西方のギリシア文字と同じく、東方でも、前述のアラム文字に派生していく。

神武天皇の称号はヘブル語？ (2008 年 4 月 30 日発行) | 今日もイエス様

...http://melma.com/backnumber_151486_4080561/

しかし、ヘブル語では「ヘブル」を「イブリ」といいます(ヘブル語創世記 14:13)。また古代 イスラエル人はアラム語も話したのですが、アラム語で「ヘブル」は「イワラー」といいました。「イワレ」は、これらの語の訛ったものと想像されます。

イブリ (ヘブル人) とアピル、あるいはハビルの間に何らかの関係があったとすれば、イブリも、また、元来、社会階層を指した語であったことが明らかとなる。

<http://michi01.com/tendoh/363isl26720701.html>

、「得体の知れないよそ者」として常に警戒され、時には実際に、強盗殺戮を働いたのがカナン定着後のイスラエルだった。

この否定的なニュアンスを多分にもつ一般語を自らの人種的な意味合いを込めた民族名としてイスラエルが受け容れたということこそ、驚くべき画期的なことだと言わなければならない。どのような民族にとっても、その民族名は神話伝説に基づく輝かしい栄光に満ちたものであるはずである。にもかかわらず、卑しむべき「お里」が知れることを承知しながら、あえてイブリ＝ヘブライ人と名乗ることを選択したユダヤ伝承編纂者たちの屈折した心理にこそ思いを致すべきなのであろう。ユダヤ人の伝承に憎悪と呪詛が渦巻いているのも故なしとしない。

もっとも、その胸奥深くには、ユダ (イエフダ) という誇り高き名前と、イスラエル (その他雑多な人々) というやや誇らしくない名前とが秘められていたのではあるが……。

イスラエルとペリシテ人との戦いは、したがって初期には山岳丘陵地帯からやって来る強盗集団に対するエジプト正規軍の防衛戦という様相をもっていた。

アピル

阿比留文字 (あびるもじ) は、神代文字の一種である。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E6%AF%94%E7%95%99%E6%96%87%E5%AD%97>

阿比留文字は表音文字であるハングルの基になったという見解を持つ人々もいる[1]が、学問的には認められていない。その理由の一つとして、開音節と閉音節が存在する朝鮮語の音韻においてハングルのような文字が作られるのは自然であるが、開音節しか存在しない日本語の音韻体系において阿比留文字のような文字が作られるのは不自然である (例えば、「カ」という音は子音の k と母音の a の組み合わせであるが、日本人は「カ」のみで一音と認識し、子音と母音が組み合わさっている音だとは意識しない) という指摘がある[要出典]。朝鮮との交流によって朝鮮語に親しんで事から子音と母音を意識していたのだという説明もある (後世において悉曇学により日本人も子音と母音を意識し、五十音表が作られたのは歴史的事実である) が、仮にそうだとした場合の朝鮮より先行して日本でこのような文字が作られるのは不自然である。

しかしハングルが作られたとされる 1443 年以前に阿比留文字が存在していたとする資料もある。卜部兼方 (1280 年位の人物) は「釈日本紀」の中に「大蔵省の御書の中に、肥人の字六、七枚許有り云々」という記述があり、この「肥人の字」を肥人書の異称をもつ阿比留文字のことをさすとする説である。阿比留文字は古代の鏡等[誰?]に掘られており[要出典]、これらも 1443 年よりも前に阿比留文字があった物的証拠とされる。そして太古から日本と朝鮮半島には交流があったことから、ハングルとは何らかの関係があるのだろうとしている。[2]

阿比留文字とハングルは形が似ており、何らかの関係があると考えられている。但しハングルと違い、

母音字母は必ず子音字母の右に置かれる（全て下に置くものもある。竹内文書では縦文字をアメコアヒルモジという）。日本語のエ段音を表すために朝鮮語で /ʔ/（現代の発音では[ʔ]、アとオの中間音、ただしかつてはeと発音されていた。）を表す字母が使用されていたり、ラ行を表すために朝鮮語で /d/ を表す字母を左右反転させた形が（あるいは朝鮮語で /ɾ/ を表す字母の上半分の形ともいえる）使われている。朝鮮語ではヤ行 /j/ を表す子音字母はなく、/ja/、/ju/、/jo/ 全体を母音字母として表記するが、阿比留文字ではヤ行を表す子音字母が新設されている。ヂ・ヅはダ・デ・ドと同様、朝鮮語で/d/を表す字母で綴られている。

神社の神体等に記されていることが多く、全国で見られる。また、阿比留文字による銘文が刻まれた石碑が宮崎県の円野神社や安曇野市の道祖神として見つかった。

汜濫（イブリ）

見よ 日の ヤハウエ 彼が来る(or 来ている) 酷い そして汜濫（イブリ） そして燃える怒りの
鼻の穴 に位置させる事の その地 に浪費 そして罪ら彼女 彼が根絶させる から出て来る彼女ら

10・その時 星らの その空ら そしてケシール（=オリオン=つまらない）ら彼ら 無い 彼らが
輝かせる <http://blogs.yahoo.co.jp/ailandlife/7097306.html>

イザヤ書 13 章 ヘブル語原典 直 訳

ウルクの神官・王がテラであり、神官の一族をイブリ（ヘブルの語源）と呼んでいた。この テラの一
族が、イスラエルの十二支族へと繋がってゆきます。加えて、シナイ半島は月 神・日神の支配地域で
あり、シンの発音と重なる。<http://bewithgods.com/hope/doc10/10-20.html>

、「イブリ」「ヒブリ」「ヘブリ」と日本での呼び名が、ここには全て 出揃って
...<http://www.saturn.dti.ne.jp/~ttshk/framepage79.htm>

「瀛洲」の「瀛」とは、「嬴氏」の「嬴」と同じ意味であり、「ヤーウェ」という意味です。

「瀛洲」は「ヤーウェ神洲」という意味です。

前4000年を少し過ぎた時期に、メソポタミヤに居住していた元北イスラエルの一部の民達に移住して
来ており、彼らは、まとまって大倭の軍事防衛面を、部族ぐるみで担当することになっていたのです。

東てい人のヘブライ語

では、このヘブライ語で自分達をトーテーと称した東てい人とは何者でしょうか？

徐福らより、2000年前に移住してきた北イスラエル諸支族でありましょう。彼らは。倭奴王国にやっ
てくると、主に列島の防衛面を担当することになったからです。

東てい人、即ち、列島移住の北イスラエルによって、2000年の間に、二十余国が出来た。その内の一
つが、前出の「軍事防衛府」の「鬼国」でありましょう。

一掃する者、衛兵にとって、武器の管理は重要事のひとつです。つまり、徐福らは、この東てい人によ
って、鬼国へ誘導されたのです。

「鬼国」はヘブライ一掃後の日本国では、紀伊（きい）の国と命名され、そう呼ばれるようになりま
した。現在の和歌山県です。(2010.7.12.) (7.13.) (修正 8.8.)

「イスラエル」から「忘れる」へ

ヘブライ一掃とは、正確にはヘブライ隠蔽一掃ですが、大和朝廷による厳しい施行に際して、表現はその理念に抵触しない範囲で許されたのでした。

例えば、太秦広隆寺境内には幾つもあったと云われる「イサライの井戸」。日ユ同祖論では、これは「イスラエルの井戸」と呼ばれていたとされています。

「いさらい」の漢字文表記は「伊佐羅井」「伊佐良井」ですが、和文は「井浚ひ」です。井戸を定期的に浚って、ごみを取り、きれいな水を保つよう戒める言葉に変わっています。

羊氏の移住

群馬県多野郡（旧多胡郡）吉井町には、「羊太夫」に纏わる伝承が残されていて、この羊太夫は渡来人で、秦氏であるといわれています。多胡郡には、「和銅四年（711）」に刻まれた石碑が残されていて、そこには「給羊」と漢字がしっかりと刻まれています。

羊太夫は、多胡郡の統治を任された人で、さまざまな功績のあった人らしく、石碑はそれを記念したものです。（詳細は、久保有政著『日本の中のユダヤ文化』参照）

羊太夫の墓は、江戸時代後期に発掘されたとしく、同時代の大名であり、学者でもあった松浦静山（まつらせいざん、1760～1841）が自著『甲子夜話』に記したところによると、十字架と「J (I) N R I」のローマ字の刻まれた古銅券が、石碑の傍にあった石槨から見つかった。

物はもう失われたらしいのですが、要はその銅板に刻まれたローマ字です。

このローマ字は、「ユダヤ人の王ナザレのイエス」のラテン語表記の頭文字を記したものであり、羊太夫はキリスト教徒であったことを、『日本の中のユダヤ文化』の著者久保氏は指摘しています。この表記は三カ国語で、イエス磔刑の時に、頭上に掲げられていたものでした。

景教と栗枝渡神社

景教徒移住について、もう一例。

徳島県三好郡旧東祖谷（いや）村（現三好市）には「栗枝渡（くりしと）神社」という名前の八幡神社があることを最近知りました。（詳細は『日本ユダヤ超文明』参照）

1185年に、栗枝渡神社と名前を改める以前は、栗須戸（くりすと）であったということです。

社殿には鳥居がなく、キリスト教会でも通常鳥居は置かないものですが、神社には、切支丹を思わせるようなものは一切ないらしい。現在も、残されているのは栗枝渡という地名だけです。

戸来村のキリストの墓

青森県戸来村（現新郷村）には、キリストの墓と呼ばれる十来塚があつて、戸来（へらい）村はかつて、古くはヘブライ村と呼ばれていたといわれています。

昭和10年に「竹内文書」で知られた神社の神主竹内巨磨が、戸来村にやって来て、一つの土まんじゅうを指して、これはキリストの墓であると定めた時からキリストの墓、十来塚と呼ばれるようになったらしい。

ユダヤ教秦氏と蘇民将来

これまでの秦氏について纏めますと、百済系、新羅系、高句麗系、漢系、呉系に分けられた秦氏は、ヘブライ人の区分として、南ユダ系秦氏、北イスラエル系秦氏、北イスラエル景教徒系秦氏となりました。さらに、新羅系北イスラエル秦氏、新羅系南ユダ秦氏、百済系北イスラエル秦氏というように細分化され得るわけですが、景教徒秦氏は北イスラエル系のみであろうと思われます。

日江田（ひえだ）…「ユダ」。ヒは冠詞のh音を充てた。地名としては「稗田」があります。

牛頭天王＝畢星王＝モーセ

京都今宮神社の祭りは、夜須禮祭りといわれており、祭りでは、人々が神社を巡りながら「やすらい花よ」と囃したてる、夜須禮は「やすらい」と読むのです。

三村氏は、この「やすらい祭り」を「イスラエル祭り」とであると断定しました。

この「やすらい」も、「いさらいの井戸」同様の基準で、改名されたとみられます。

「（ヤ）スラ（イ）」も「イ（サ）ラ（イ）」も、共に五音節目の「ル」を省き、二文字母音を変えた点で、共通していることが分かります。（（ ）内が変えられた母音の文字）

今宮神社の祭神は牛頭天王ですが、祇園祭りの八坂神社も同様牛頭天王でした。

牛頭天王は、スサノヲの尊と混同されたようですが、別の存在です。

この「牛頭天王」とは一体誰のことか、と以前読者からよく質問を受けましたが、当時は答えることが出来ませんでした。今はズバリ、モーセのことであると言えます。

北海道胆振支庁の「胆振」は「イブリ」と読みます。

四国愛媛県の西海岸には、日振島があり、日振は「ヒブリ」と読みます。

そして、山口県の南海岸には、目立たない幣振島があつて、これは「ヘブリ」と発音するのです。ヒブリ、ヘブリ、共に、冠詞のh音が付いた形で、つまり、「イブリ」「ヒブリ」「ヘブリ」と日本での呼び名が、ここには全て出揃っているのです。

そしてこの「イブリ」「イブル」から、「燠（いぶ）る」「燠（いぶ）す」という動詞が生まれたと考えられます。

さらに「ヒブリ」のブの母音を替えて、バとして「ヒバリ」として漢字の雲雀を充て「雲雀（ひばり）」としたのでしょう。

ヘブライ人とは、日本列島へ飛来した雲雀であつたのです。(11.19.)

Re: 「後方羊蹄国（後志国）」 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月24日(金)11時35分58秒
返信・引用

> No.1994[元記事へ]

>> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>>

>>

>>> 同年、阿倍比羅夫臣が、「肉入籠（ししりこ）」（イッサカルの領域？）に至ると、「問兔（という）」（後の豊浦町？）の蝦夷二人、「胆鹿嶋（いかしま）」「兔穂名（うほな）」が「後方羊蹄（しりべし）」を政庁（郡家）としたいと願い入れたので、阿倍臣は郡家を設けて帰ったと、その年

の条にあります。この時に「後方羊蹄国（後志国）」の運びに至ったと見られます。

>>>

>>>

蝦夷

レビ族（レヴィ）・・・海老・・・蝦・・・えびす・・・夷（羌・胡）

レヴィまたはレーヴィ (Levi, Lévy, Levy etc.) は、ヘブライ語系の男性名・姓。ヘブライ語で「結びついた」を意味し、姓としては祭司階級レヴィ族の家系であることを示す。

英語の読みはリーヴァイ・リーヴィ（一般名詞の levy はレヴィ）だが、日本ではしばしばレヴィとされる。

名のみ レビ - 旧約聖書の人物。ヤコブの子でレヴィ族の祖。

レビ - 新約聖書で言及される人物。イエスの高祖父。

収税人レビ - 新約聖書の人物。おそらくマタイと同一。

レヴィ族（レヴィ支族・レヴィ氏族・レヴィ人）(Levite) - イスラエル 12 氏族の 1 つの祭司階級。

徴兵・徴用 (levy)。

番韓・北扶余後期王朝(濊族)のエビス系濊王(実はガド族族長)<http://dy712.tripod.com/shrinestaff/links.htm>

物部氏

中臣氏とともに神道派。物部氏は仏教を信奉してやまない蘇我氏によって討ち滅ぼされた(587 AD)。(因みに、日本の歴史にとって残念なことに、645 AD、同じく蘇我氏によって古代日本の重要書物が焼かれてしまい、日本人はルーツを知らない民族になってしまいました。)

ルーツはレビ族、目は茶色。杖刀人(刀を杖のように用いていた土師族・武士)の一族。中国→大隅・薩摩→奈良。

扶余族の神官? 新羅系。

物部氏の祖神 ニギハヤヒ……扶余族の王族、(孝昭系)北夫餘(後期王朝)王 饒速日命(にぎはやひのみこと)、神武に敗れる。別説……祖王は西藏(チベット)ホータン月氏の王 月読命(ツキヨミノミコト)。番韓・北扶余後期王朝(濊族)のエビス系濊王(実はガド族族長)。高句麗王子 発岐(涓奴部水軍)に攻撃され、白丁軍団を率いて「天の鳥船」に乗り日本海寄りに移動南下して九州に至り、同族 陝父(義兄弟の王)の了解を得て熊本の多婆羅国に合流した。そして球磨川をさかのぼり人吉盆地の相良郡に居を構えた(のちに朝廷の傭兵となった白丁隼人の起こり)。

Uratu 人……フェニキア人とヒッタイト人の混血人種。Uratu 王国崩壊後、シルクロードを流浪するウガヤ王朝となる。オリエントから東遷して華北に趙国(大夫餘)を建てる。その末裔は扶余人=百濟人

へつながる。

倭人……ナーガ族(シュメール人の王族)。殷人(シュメール人)は「夷」すなわちエビス/エブスと呼ばれた。

東表国……国東半島重藤の製鉄基地が発展して、殷人(シュメール人)が日本列島にやってきて豊前(福岡県)京都郡・宇佐八幡(バハン)を都とする東表国(豊日国)を打ち建てた(前8世紀)。神武以前の先王朝、天の王朝。豊前宇佐を中心とする南倭人のクニ。

ヒッタイト人……国東半島重藤に製鉄基地を築いた。末裔は蘇我氏、上田氏、真田氏、青山氏?

弥生人……苗族

縄文人……港川人、オロッコ人

実際に派遣されたのだとしたら、その役割は、後にレビ族が担当させられたような、イスラエルの内部で民たちに常に「主」の現存在を強く意識させる、所謂「祭祀」の役割にならざるを得なかったことだろうとも感じるからなのです。

旧約聖書の中では、レビの性格について、これとは全く逆のことが記述されているのです。このレビはシメオンと共謀して、近隣のある部族全員を騙して惨殺したことがある、非常に残虐で暴力的な人間だったと書かれているのです。確かに、その部族の若者の内のひとりが彼等の妹の純血を汚したからという尤もらしい理由がありました。とは言えその若者は、レビとシメオンに求められるがままに自分を含む一族の男子全員に割礼を受けさせるなど、彼等の妹に対する自分の愛情の深さを十分に証明しつつ、彼等に赦しを懇願していたのでした。それなのにレビとシメオンは、彼の部族全員を騙して惨殺してしまったというのです。そのことによって近隣諸部族の非難をイスラエル族に集め、イスラエル族を窮地に追い込むことにもなったと言って、ヤコブに激しく呪われもします。つまりはレビ自身に、行き倒れの奴隷の子で誰の子だかも分からなかったのに、まるで自分の子であるかのような愛着を示してしまうほどの気立ての良さなどなかったということになる訳です。しかも、「兄弟達の僕の僕となれ」という内容の過酷な呪いの言葉をノアからかつて情け容赦なく浴びせかけられた、かの悪名高きハムの子孫たる黒人だった。このことも考え合わせると尚更、不思議な話と言わざるを得ないのではないのでしょうか?

行き倒れの黒人奴隷女性が産んだ、誰の子だか分からないレビをヤコブが、特筆すべき美点もないのに自分の子として育てた。そればかりか、卑怯で残虐な、一族の安全への配慮にも欠けたとんでもない事件を彼とシメオンが引き起こした際に、彼等を自ら激しく罵り、呪っているにも拘わらず、その呪いの言葉ですら何と「兄弟達の間に散らされる」といった比較的寛容な内容に留めて、即座に追放などといったことも一切行なわなかった。その代わりに、その後も引き続きイスラエルの重要な一員として遇し続けた。これにはやはり何か、重要な理由があったと言わざるを得ないのではないのでしょうか?

ひとつには、聖書の記述通り、レビがヤコブの実子だったからと考え直す途もあり得ます。しかしながら、レビが示した残虐性は、たとえ実子であっても追放の憂き目に遭わせられかねないような類のものであり、ノアがかつて実子であったハムを呪う際に一族からの除外という過酷な処置を行った事例も実際に存在することを考えると、その可能性は極めて少ないと判断する方が妥当かもしれません。

日韓中朝全ての指導層を現時点で一括して牛耳りつつ、ヤコブの直系、I N R I の国の民に対する韓中朝の民の呪いを、何らかの目的で演出し、扇動している者たちがいて、彼らの出自がカナン人かあるいはエソウ族であることが問題の最も奥の淵源にあるのだという主張をしているのです。この場合に、悪の根源は韓国だとか、中国だ、朝鮮だとか主張するのは、何でも日本のせいにして韓中朝それぞれで騒

ぎ立てている職業的反日扇動家達と全く同じレベルの、近代の国家観に思考を縛られて真実が全く見えなくなった人達による愚行だと断定しています。韓国人とか中国人とか、朝鮮人とか日本人とか、一括りにして語られる集団などこの世に実在しないのは明らかなのに、それには全く気づいていないが故の愚行なのでしょう。

エビスと読むこの字こそ羌キリスト教へと導くのであり 羊の元＝羌 七福神のうちの唯一 日本の神エビス これが レビっす・・・>>エビっす>>羌＝エビスさま こうして聖書に記述された かのイスラエルである 神の 祭司 の任務をさずかった レビ族 ...

イスラム のラムは羊 IS RUM

シュメール やシュメール語はシュシャ SUSA の民の言葉

日本の神さまは7人のうち エビス 戎 モーセの十戒
あまりに類似している

エビスと読むこの字こそ羌キリスト教へと導くのであり 羊の元＝羌 七福神のうちの唯一日本の神
エビス

これが レビっす・・・>>エビっす>>羌＝エビスさま
こうして聖書に記述された かのイスラエルである

レビ族は 実は エビスの神日本とめでたく・・・継承と敬称において一致をみたのである

ヤマ(双子) 戸 ユダ族 レビ族 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/2102>

周」も「秦」も、西方の遊牧民族（戎）であった。戎はジュと読み、周と同じ読みだ。つまり、ユダのことだ。 3. 易姓革命の始まり 五帝に関しては、自分の息子ではないが、血縁関係にある者、すなわち才能と徳のある者に、王位を禅譲してきました。<http://bewithgods.com/hope/doc10/10-11.html>

戎

回族

夏回族自治区にいた遊牧民族で、白犬（または白狼）を崇拝。それをトーテム としていたことから、古代羌族の部族（西羌族）だとされるが、犬戎や古代匈奴も トーテムは犬であり、後には、高車、鮮卑、突厥、契丹なども犬のトーテムを崇拝している ...

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kozoku/kozoku6-touko.htm>

犬戎（けんじゅう）、

回族自治区. に相当する地域で最も有力だったのは、戎. じゅう.、允. いん. 戎. じゅう.、姜. きょう. 戎. じゅう. (羌と同一か?)、犬戎などで. ある。獫狁 (獫. けん. 狁 ヴェーダ ではヤミーがヤマ（ヤマは「双子」を意味する）にセックスを迫. るが、ヤマは拒絶する。

イスラエルの祭祀族レビ族 と言われている鴨氏と縁の深い上賀茂、下鴨神社・
<http://ameblo.jp/tsukioto2011/entry-11660330686.html>

ユダ族・レビ族・ダン族の関係 ユダ族とレビ族とダン族は、ペトロとヤコブとヨハネの 三角形の関係
と同じ役割を持っています。 <http://ameblo.jp/biblehhs/entry-11237086707.html>

ユダヤ人の祭司職（コーヘン、レビ族、アロンの子孫）については、その特徴ある DNA 配列が Y 染色体上にあることが、1997年 ... しかしながら、北イスラエル10部族の DNA については、レビ族の大部分が南ユダと北イスラエルの分裂の時、ヤロブアムから職を解

...<http://www.k2.dion.ne.jp/~yohane/000000sekaiidennsi2.htm>

普通のユダヤ人（ユダ族+ベニヤミン族の一部）の間ではそれほど一般的でなく、ユダヤ人でない集団の間では稀であるという調査結果だった。（アシュケナージ系コーヘンで45%、スファラディー系コーヘンで56%、一般のユダヤ人では全体の3~5%） したがって、アシュケナージ系コーヘンもスファラディー系コーヘンとほとんど同じように、約半分はこの男系遺伝の DNA 群を保っていることになる。

このユダヤ人コーヘンの変異個所は、外見上全く異なるアフリカのグループに発見された。

アフリカ南部、ジンバブエのレンバ族は、外見上完全な黒人であり、割礼と安息日を守り、豚肉とカバの肉を食べないなどの風習を持ち、イスラエルからセンナという所を経て南アフリカに移住してきたという伝承が代々伝えられている。また、彼らの祭司職のグループは”ズバ族”と呼ばれ、彼らによるとズバ族はイスラエルの12部族の一つであるとされている。

このレンバ族についての DNA 調査結果では、レンバ族全体の男の9%、”ズバ族”では53%が、コーヘンに特徴的な DNA 変異を持っていることが分かった。これは、イスラエルやアメリカのユダヤ人と全く変わらない割合である。（by. ニューヨークタイムズより）

また、エチオピアのユダヤ人（ベト・イスラエル）のグループは、イスラエル王国が分裂した時、自ら捕囚として国を脱出し、エジプトからナイル川沿いに移動したダン族の末裔であり、（口伝トーラーではなく）成文化されたトーラーだけを守って暮らしている。これらの証言や証拠により、イスラエルは彼らを受け入れ、すでに8万人がイスラエルに帰還している。

しかしながら、北イスラエル10部族の DNA については、レビ族の大部分が南ユダと北イスラエルの分裂の時、ヤロブアムから職を解かれ、南ユダへ移動したので（II歴11：13-15）、今のところ、この DNA 配列によっては、イスラエル10部族の手がかりを知ることはできない。新たに特徴ある DNA 変異を見つけなければならない。ユダ族などが混じっていれば、その中にレビ族の DNA 変異が発見されるかもしれない。

日本への DNA の移動は、D2 系統の縄文人が先行し、その後 O 系統の弥生人、百済からの移民などが大陸から移動してきた。

では、D2 系統の人々はどこから移動してきたのだろうか？ チベットには、日本と同様 D 系統

が約半分存在するが、D系統の亜型のD1とD2が混じったものである。日本がD2系統のみであり、華南やインドシナ半島にD1系統がわずかに存在することから、チベット方面から華北・朝鮮半島を通して日本にやって来たと考えられる。

D系統の祖型であるD*は、ベンガル湾東部のアンダマン諸島に、部落ごとに集中して存在している。(オンゲ集団(23人)、ジャワラ集団(4人)は100%D*(xD1D2)) モンゴルのハルハ集団ではD*は0.5%(2人/422人)であり、こちらのほうにも一部分散したようである。

さらに、D系統とE系統が分岐する前の、DE*(DE祖型)は、アフリカのナイジェリアで5例見つかったと報告されているので、このあたりが日本人の先住民である縄文人のルーツであると考えられる。

したがって、現在アイヌ人にも残っている日本古来のアニミズム(精霊信仰)は、アフリカが発祥であると考えられる。そうすると、日本のピラミッド伝説や海底遺跡などの古代文明の説明がつく。
(* これは、カナンのアシェラ崇拜、ユダヤ教とは異なる)

奈良・平安時代にその名で呼ばれていたエミシ、ツチグモ、クマソは、C3、D2系統がその構成員だったと考えられる。

O系統のうち、日本で見られるのは、大陸で北に偏った分布をしているO2b(朝鮮半島、日本)、O3(華北の漢民族)であり、朝鮮半島から渡ってきたことを物語る。台湾や南方からのO1、O2aは、沖縄も含めて非常に少ない。

北方アジア系(アルタイ語族、シベリア、モンゴル)のC3系統は数%~10数%で日本に広く分布している。日本列島における南方系C1系統の影響はごくわずかである。琉球から南九州にかけての貝文文化は、大規模な火山噴火で滅亡する前はC1系統がその担い手であったと思われる。C*(C祖型)は南インド(一部オセアニア)に局在している。

日本の青森や戸来村に来ていても不思議ではない。

Re:「後方羊蹄国(後志国)」 投稿者: 荊の紀氏 投稿日: 2014年1月24日(金)10時48分36秒
返信・引用

> No.1993[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

>

>> 同年、阿倍比羅夫臣が、「肉入籠（ししりこ）」（イッサカルの領域？）に至ると、「問兔（という）」（後の豊浦町？）の蝦夷二人、「胆鹿嶋（いかしま）」「兔穂名（うほな）」が「後方羊蹄（しりべし）」を政庁（郡家）としたいと願い入れたので、阿倍臣は郡家を設けて帰ったと、その年の条にあります。この時に「後方羊蹄国（後志国）」の運びに至ったと見られます。

>>

>>

>

>

> この辺、先の名付け方において、重要ですね。

>

> 兔のウ音を使うわけですね。

>

> それでまた別にある地名の「鹿嶋」をそのまま使う。

>

> 「肉」はジク・ニク音で、訓読みで しし

>

> 確かに「問兔」は、「豊浦」に近い発音ですね。

>

> 原文はこちら。

>

>

ウ 于夷（倭人）

「ゲマトリア」「土地の測量」ギリシャ語の「G E O M E T R I A」（Γεωμετρία）

ヘブライ語で蛇という単語「ナホッシュ」（N C h S h）が救世主という単語「マシアハー」（M S h Y C h）と数値的に一致 <http://kodai.navi100.com/>

「ゲマトリア」という用語は、「土地の測量」を意味するギリシャ語の「G E O M E T R I A」（Γεωμετρία）という言葉からつくられたとされています。

つまり、英語でいう「幾何学」（ジオメトリー）と同じルーツというわけです。まさに「言葉の幾何学」であるゲマトリアこそは、言語魔術の代表的な特性だといえるでしょう。

カバラにおける伝統的なゲマトリアは、本来はヘブライ文字で行うべきものでした。しかし、数秘術としてのゲマトリアは、占いの歴史の中で徐々に英語のアルファベットに数値を付したものに代わっていったのです。

これは、ヘブライ語が基本的に子音文字で構成される言語であることなど、ヨーロッパやアメリカの人にはもともと馴染みにくい言語体系であったことも要因にあるのでしょうか。

日本人のルーツ汗国（わこく） <http://www.wakoku.net/>

後漢書』鮮卑せんび伝の「倭（u a）国」（＝『三国志』鮮卑伝の「汗（u a）国」）は『漢書』地理志の泗水しすい国「于う」（江蘇省北部）。

江蘇省北部発掘の春秋時代の古人骨は、日本の古人骨のDNAと一致。

前一〇世紀の青銅器に残された倭人の王「于方うほう雷らい」の記録。

『論語』憲問篇・『礼記らいき』檀だん弓ぐう下篇によると、孔子の幼なじみの原壤げんじょうは于夷（倭人）。

『三国志』の最古の刊本（南宋の紹興しょうこう刊本）目次の「倭る韓」は韓伝の「倭韓」。

（お詫び：最古の「写本」は最古の「刊本」に訂正しました）

> （3月）是の月に、阿倍臣、名を闕せり。を遣して、船師一百八十艘を率て、蝦夷國を討つ。阿倍臣、飽田・淳代、二郡の蝦夷二百四十一人、其の虜三十一人、津輕郡の蝦夷一百十二人、其の虜四人、膽振鉏の蝦夷二十人を一所に簡び集めて、大きに饗たまひ 祿賜う。膽振鉏、此をば伊浮梨娑陸と云ふ。即ち船一隻と五色の綵帛とを以て、彼の地の神を祭る。肉入籠に至る。時に、問菟の蝦夷膽鹿嶋・菟穂名、二人進みて曰く、「後方羊蹄を以て、政所とすべし」といふ。肉入籠、此をば之之梨姑と云ふ。問菟、此をば塗?字と云ふ。菟穂名、此をば宇保那と云ふ。後方羊蹄、此をば斯梨蔽之と云ふ。政所は蓋し蝦夷の郡か。膽鹿嶋等が語に隨ひて、遂に郡領を置きて 歸る。道奥と越との國司に位二階、郡領と主政とに各一階授く。或本に云はく、阿倍引田臣比羅夫、肅慎と戦ひて歸れり。虜四十九人獻るといふ。

> 【6年】

> 三月に、阿倍臣、名を闕せり。を遣して、船師二百艘を率て、肅慎國を伐たしむ。阿倍臣、陸奥の蝦夷を以て己が船に乗せて、大河の側に到る。是に、渡嶋の蝦夷一千餘、海の畔に屯聚みて、河に向かひて營す。營の中の二人、進みて急に叫びて曰はく、「肅慎の船師多に來りて、我等を殺さむとするが故に、願ふ、河を濟りて仕官へまつらむと欲ふ」といふ。阿倍臣、船を遣して、両箇の蝦夷を喚し至らしめて、賊の隱所と船數とを問う。両箇の蝦夷、便ち隱所を指して曰はく、「船二十餘艘なり」といふ。即ち使を遣して喚す。而るを來肯へず。阿倍臣、乃ち綵帛・兵・鐵等を 海の畔に積みて、貪め嗜ましむ。肅慎、乃ち船師を陳ねて、羽を木に繋けて、舉げて旗とせり。棹を齊めて近づき來て、淺き處に停りぬ。一船の裏より、二の老翁を出して、廻り行かしめて、熟積む所の綵帛等の物を視しむ。便ち單衫に換へ着て、各布一端を提げて、船に乗りて還去りぬ。俄ありて老翁更來て、換衫を脱き置き、并て提げたる布を置きて、船に乗りて退りぬ。阿倍臣、數船を遣して喚さしむ。來肯へずして、弊賂辨嶋に復りぬ。食頃ありて和はむと乞す。遂に聽し 肯へず。弊賂辨は、渡嶋の別なり。己が柵に據りて戦ふ。時に能登臣馬身龍、敵の爲に殺されぬ。猶戦ひて倦まざる間に、賊破れて己が妻子を殺す。

Re: 「後方羊蹄国（後志国）」 投稿者：管理人 投稿日：2014年1月22日(水)23時18分29秒 返信・引用 編集済

> No.1992[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 同年、阿倍比羅夫臣が、「肉入籠（ししりこ）」（イッサカルの領域？）に至ると、「問兔（とう）」（後の豊浦町？）の蝦夷二人、「胆鹿嶋（いかしま）」「兔穂名（うほな）」が「後方羊蹄（しりべし）」を政庁（郡家）としたいと願い入れたので、阿倍臣は郡家を設けて帰ったと、その年の条にあります。この時に「後方羊蹄国（後志国）」の運びに至ったと見られます。

>

>

この辺、先の名付け方において、重要ですね。

兔のウ音を使うわけですね。

それでまた別にある地名の「鹿嶋」をそのまま使う。

「肉」はジク・ニク音で、訓読みで しし

確かに「問兔」は、「豊浦」に近い発音ですね。

原文はこちら。

（3月）是の月に、阿倍臣、名を闕せり。を遣して、船師一百八十艘を率て、蝦夷國を討つ。阿倍臣、飽田・淳代、二郡の蝦夷二百四十一人、其の虜三十一人、津輕郡の蝦夷一百十二人、其の虜四人、膽振鉏の蝦夷二十人を一所に簡び集めて、大きに饗たまひ 祿賜う。膽振鉏、此をば伊浮梨娑陸と云ふ。即ち船一隻と五色の綵帛とを以て、彼の地の神を祭る。肉入籠に至る。時に、問菟 の蝦夷膽鹿嶋・菟穂名、二人進みて曰く、「後方羊蹄を以て、政所とすべし」といふ。肉入籠、此をば之之梨姑と云ふ。問菟、此をば塗?字 と云ふ。菟穂名、此をば宇保那と云ふ。後方羊蹄、此をば斯梨蔽之と云ふ。政所は蓋し蝦夷の郡か。膽鹿嶋等が語に隨ひて、遂に郡領を置きて 歸る。道奥と越との國司に位二階、郡領と主政とに各一階授く。或本に云はく、阿倍引田臣比羅夫、肅慎と戦ひて歸れり。虜四十九人獻るといふ。

【6年】

三月に、阿倍臣、名を闕せり。を遣して、船師二百艘を率て、肅慎國を伐たしむ。阿倍臣、陸奥の蝦夷を以て己が船に乗せて、大河の側に到る。是に、渡嶋の蝦夷一千餘、海の畔に屯聚みて、河に向かひて營す。營の中の二人、進みて急に叫びて曰はく、「肅慎 の船師多に來りて、我等を殺さむとするが故に、願ふ、河を濟りて仕官へまつらむと欲ふ」といふ。阿倍臣、船を遣して、両箇の蝦夷を喚し至ら

しめて、賊の隠所と船數とを問う。両箇の蝦夷、便ち隠所を指して曰はく、「船二十餘艘なり」といふ。即ち使を遣して喚す。而るを來肯へず。阿倍臣、乃ち綵帛・兵・鐵等を海の畔に積みて、貪め嗜ましむ。肅慎、乃ち船師を陳ねて、羽を木に繋けて、擧げて旗とせり。棹を齊めて近づき來て、淺き處に停りぬ。一船の裏より、二の老翁を出して、廻り行かしめて、熟積む所の綵帛等の物を視しむ。便ち單衫に換へ着て、各布一端を提げて、船に乗りて還去りぬ。俄ありて老翁更來て、換衫を脱き置き、并て提げたる布を置きて、船に乗りて退りぬ。阿倍臣、數船を遣して喚さしむ。來肯へずして、弊賂辨嶋に復りぬ。食頃ありて和はむと乞す。遂に聽し肯へず。弊賂辨は、渡嶋の別なり。己が柵に據りて戰ふ。時に能登臣馬身龍、敵の爲に殺されぬ。猶戰ひて倦まざる間に、賊破れて己が妻子を殺す。

(日本古典文学大系『日本書紀』による。なお、以下で取り上げるその他の史料については、諸論文等からの孫引きである。漢字については、MS－IMEの文字セットの制約があり、同一の字形を表示できなかったものもある。)

<http://www5e.biglobe.ne.jp/~menme/mmj04.html>

なるほど、秋田から胆振方面へ向かったわけですね。

胆振というのは、この辺、うちの実家の別荘あるあたりですね。去年も行きました。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/胆振支庁>

ただ、これも明治の推定なんですよ。本当に北海道まで彼らは遠征しに行ったのかな？

『日本書紀』によると、蝦夷征討が盛んであった飛鳥時代の齊明天皇のころ、阿倍比羅夫による遠征がしばしば行われ、北海道や樺太に分布するヒグマを献上したとあることから、渡島国域にも訪れたとの説が有力である。このころにはすでに本州と北海道との間に交流があったと見られているが、後に渡島半島を中心とする地域では擦文文化と本州

<http://ja.wikipedia.org/wiki/渡島国>

確かにヒグマの件を考えると、渡島は北海道の可能性が高くなるわけですね。

これたぶん、先の蝦夷国征伐は、陸奥つまり東北方面なんですよ。おそらく、それでその翌年の肅慎国征伐が、渡島のある北海道方面で、その際には前年に征伐した陸奥つまり東北の蝦夷を今度は軍隊として利用しているんです。

だから、後方羊蹄は、青森とかその辺の可能性がでてきますね。

あと、

「政所は蓋し蝦夷の郡か」ということは、記紀撰者はよく理解できてないんですよね。この「後方羊蹄」の起源が。先のとおり渡来系が名付けた件です。

もうすこし掘り下げてみましょう。

そういえば、秦野さんはみかけませんね。加齢 S にでも入られたのかな？

「後方羊蹄国（後志国）」 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014 年 1 月 21 日(火)23 時 53 分 45 秒 返信・引用

海神とは聖ミカエルのことです。

同年、阿倍比羅夫臣が、「肉入籠（ししりこ）」（イッサカルの領域？）に至ると、「問兔（という）」（後の豊浦町？）の蝦夷二人、「胆鹿嶋（いかしま）」「兔穂名（うほな）」が「後方羊蹄（しりべし）」を政庁（郡家）としたいと願い入れたので、阿倍臣は郡家を設けて帰ったと、その年の条にあります。この時に「後方羊蹄国（後志国）」の運びに至ったと見られます。

五番目の移住「秦氏」<http://www.saturn.dti.ne.jp/~ttshk/framepage79.htm>

ツガルには「カル」の二文字を入れ、ナンブには「ナフ」の二文字を入れ、氏（うじ）の名前は構成されたと考えられます。<http://www.saturn.dti.ne.jp/~ttshk/framepage79.htm>

「ハタ」は、ヘブライ語で「かき集めた者」を意味しますから、秦氏とは、大陸のヘブライ人をかき集めた人々の総称でしょう。当然、自らもヘブライ人であったのです。

かき集めた人々の指導者は「弓月君（ゆつきのきみ

前400年を少し過ぎた時期に、メソポタミヤに居住していた元北イスラエルの一部の民達に移住して来ており、彼らは、まとまって大倭の軍事防衛面を、部族ぐるみで担当することになっていたのです。

北イスラエルは、主に九州の北部から西部にかけて住み付き、子孫を増やしていました。そして、主に北西海上の監視に当たっていたところへ、徐市らの船団がやって来て、移民は拒否されたのです。徐市らがやって来る度毎に、大倭の側も衛兵の船の数を増やしていったことでしょう。やって来ても、蹴散らされる。その間、何が起ったかは判りませんが、徐市は、一度帰国して、大鯨に苦しめられるので、弓の名手が欲しいと始皇帝に要請するのです。弓で鯨を射止めるためにと。

しかし、大倭の衛兵船団との交戦となったら、移民は絶望的。弓は何が目的だったのでしょうか。

当時の大倭の王は、後の日向に居住していたユダ（倭奴）王で、この秦からの移民は受け入れなかったのです。王が、正式に認可しなかったということが、後の「古事記」や「日本書紀」に記載されなかった理由でしょう。

三柱鳥居＝三方向鳥居

京都の「蚕の社（かいこのやしろ）神社」では、三柱鳥居（みはしらとりい）が珍しい鳥居として知られていて、前出の佐伯博士がこれに注目し、この鳥居の三本柱は景教の三位一体を表したものと主張したと云われています。

通常、鳥居は門のようなものなので、柱よりも、柱と柱の間を重んじるべきと考えた場合、三柱鳥居は三方向鳥居とも捉えられます。

この鳥居は、池の中に建てられていて、真上から見ると、正三角形をしており、真中には、小石がうずたかく積まれていて、ちょうど小島を模った恰好になっています。つまり、小島を三方向から眺めるような形になっているのです。

これは、『史記』にある「蓬萊・方丈・瀛洲」が日本列島のことであることを、三柱鳥居で表現したものと筆者は考えます。

「蓬萊・方丈・瀛洲」とは、日本列島を三つの視点から捉えたもので、池の中の小島は、海の中の日本列島を表し、三方向鳥居は、三方向からそれを眺めたもの。日本列島を三視点の方向から眺めると「蓬萊・方丈・瀛洲」となる、それを神社の神官達は説明しようとしたのではなかったでしょうか。

羊氏の移住

群馬県多野郡（旧多胡郡）吉井町には、「羊太夫」に纏わる伝承が残されていて、この羊太夫は渡来人で、秦氏であるといわれています。多胡郡には、「和銅四年（711）」に刻まれた石碑が残されていて、そこには「給羊」と漢字がしっかりと刻まれています。

羊太夫は、多胡郡の統治を任された人で、さまざまな功績のあった人らしく、石碑はそれを記念したものです。（詳細は、久保有政著『日本の中のユダヤ文化』参照）

羊太夫の墓は、江戸時代後期に発掘されたらしく、同時代の大名であり、学者でもあった松浦静山（まつらせいざん、1760～1841）が自著『甲子夜話』に記したところによると、十字架と「J (I) N R I」のローマ字の刻まれた古銅券が、石碑の傍にあった石槨から見つかった。

羊氏の移住

群馬県多野郡（旧多胡郡）吉井町には、「羊太夫」に纏わる伝承が残されていて、この羊太夫は渡来人で、秦氏であるといわれています。多胡郡には、「和銅四年（711）」に刻まれた石碑が残されていて、そこには「給羊」と漢字がしっかりと刻まれています。

羊太夫は、多胡郡の統治を任された人で、さまざまな功績のあった人らしく、石碑はそれを記念したものです。（詳細は、久保有政著『日本の中のユダヤ文化』参照）

羊太夫の墓は、江戸時代後期に発掘されたらしく、同時代の大名であり、学者でもあった松浦静山（まつらせいざん、1760～1841）が自著『甲子夜話』に記したところによると、十字架と「J (I) N R I」のローマ字の刻まれた古銅券が、石碑の傍にあった石槨から見つかった。

研究者の間では、日本とユダヤとの習慣の類似性やら、聖書との比較研究が盛んに行われ、試行錯誤を繰り返していたらしい。その類似性を指摘するあまりに、語呂合わせや、こじつけと思われるような事柄も稀ではなく、荒唐無稽な話と、識者からは顔を背けられる一面も多々あったようです。言語的な

側面から入って行こうとすると、どうしても、語呂合わせ的な面が出て来ます。ただの語呂合わせで終らせない為には、どうしてそうかという明確な根拠が求められなければなりませんし、資料が充分でない以上は止むを得なかったといえます。

蘇民将来とは語義通り捉えれば「将来蘇える民」の意味です。未来に蘇える民とはどのような民を指すのでしょうか。

それは言うまでもなく、割礼の習慣があった民、それも南北に分断される前のユダヤ教の国、即ち、ダビデ王、ソロモン王時代の古代イスラエルを指すでしょう。

つまり、蘇民将来とは、古代イスラエルがこの日本列島に蘇えるという預言の言葉です。

例えば、「来るべき日、民はよみがえるであろう。('m y h y h y w m b w')」という神による預言の言葉があったとします。これを漢文に置きかえたところ、蘇民将来となったのであります。

、「ソムロ」の第一音節が母音化された形、「オムロ」から「御室（おむろ）」（山城国）が生まれました。

エフライムは、新たな移住場所に岐阜県周辺を選んだと見られ、岐阜市と美濃市に「御手洗（みたらい）」と呼ぶ地名が見られますが、ミタライの「ライ」は、エフライムのライを入れた造名と見られます。御手洗氏はエフライム出の氏族ではなかったでしょうか。

また、その近くには「室」の付く地名、室町、室原、室村町、室津町など、七ヵ所ほど見られます。

さらにエフライムは群馬県榛名（はるな）山周辺にも、住み着いたと見られます。

ハルは、エフライムから抜いた「フラ」の母音「ウア」を「アウ」に替え、「ハル」とし、ナを加えて「榛名（はるな）」としたものと思われます。

群馬県榛名町には、上室田、中室田、下室田と、室の付く地名が見られます。

岐阜から群馬にかけては、列島全体から見たエフライムのほぼ定位置と見る事が出来ます。

ユダヤビンヤミンの民が自分達の住んでいる所をシオンと呼んだように、エフライムもまた自分達の住む小さな都を、ソムロンと呼んでいたのではなかったでしょうか。(12.1)

台東区浅草には浅草神社がありますが、祭神には「真名知（まなし）」があり、これはマナセの母音を少し変えた形です。神社の紋章は「三立網紋」ですが、これはヘブライ一掃によって、ガドの三立天幕の紋章が三立網紋に変えられた、と見る事が出来ます。即ち、浅草神社は、「ガド」と「マナセ」を祭った神殿に由来することが判ります。これは二つの氏族が共同で建てた神殿と思われるのですが、ガドとマナセの共同神殿と思われる神社が福岡にもあります。宗像（むなかた）神社がそれです。「ムナ」はマナセ、「カタ」はガドの清音化された形で、マナセとガドの間ではある種の協定が結ばれ、共同で住み着くようになったのではないのでしょうか。

ガド、マナセが共同で住み着いたと考えられる例として、埼玉県行田（ぎょうだ）市があります。

行田市には真名板（まないた）と呼ばれる地名がありますが、「ギョウダ」はガドのヴァリエーションであり、真名板の真名は、マナセから取ったことがわかります。「俎（まないた）」はどうやら、マナセから造語されたようです。

まず、最初にガドはどこから始めたのでしょうか。ガドは移住後、防衛の為に衛兵に多くの力を割くことになり、沿岸警備の関係上、列島中の沿岸を探索するようになったのです。関東一体を定位置と見定め

ると、房総半島の突端の館山市にまず拠点を置いたのではなかったでしょうか。

マナシから、第一音節を母音化した地名が埼玉県美里町の阿那志（あなし）です。

読者が悩むのが、何故「イナバ」が「マナセ」なのか、でしょう。

阿那志の例のように、マナセのマをヤに変えた表記が「ヤナセ」です。実在の地名として、埼玉県長瀬町に「矢那瀬（やなせ）」、群馬県安中市に「築瀬（やなせ）」、栃木県宇都宮市に「築瀬（やなぜ）」があります。

ヤナセから、「稲瀬（いなせ）」（岩手）が出来ることになります。

茨城県鉾田（ほこた）町青柳の「ホコタ」のコタはガドを清音化したヴァリエーションです。

カトの母音を入れ替えるとコタとなることが判ります。ホコタは、ハカタ（博多）と同じ系列のヴァリエーションです。

造名では、三音節のマナセを二音節にしたり、二音節のガドを三音節にするといった工夫が凝らされたようです。三音節のガドとして、m音が冠頭音に加えられ「ミカド」、n音が「ナガト」、s音が「サカド」、h音が「ハカタ」「ホコタ」、といったように。

マナセと組んでいないガドの住み着いた地名は「青木（あおき）」というように「青柳」とは区別していると見られます。

また、ガドとマナセが組んだ地名「青柳」とは別のヴァリエーションで「青梨（あおなし）」があります。

「ナシ」をマナシから取って梨を充てる、青い梨に引っ懸けた名でしょう。

「青梨」は群馬県万場町と前橋市（青梨子町）にあり、前橋には青柳もあります。

イッサカルから「桜」という名詞が生まれたのだとしても、筆者は驚きません。何故なら、イッサカル、ナフタリ、ユダ、ガドといった十二支族の始祖たちは、子孫からは半ば神格化され畏敬されていたからです。

前述したイッサカルのヴァリエーションとして、長野県の「軽井沢（かるいざわ）」は、別荘地としてよく知られ最も有名ですが、同じ地名「軽井沢」は秋田県にも二ヶ所、大館市と羽後町に存在します。

前出、青森の砂子瀬についてですが、これは当初イッサカルのイサを込めて、イサゴゼと読まれたものが、スナゴゼに読み直されたと推測します。その読み直しは造名者自身によって行なわれたと捉えることが出来ます。

例えば、石川県能登半島には「富来（とぎ）町」という地名があります。これは、エフライムの「フライ」に、漢字「富来」を充て、「トギ」と読み直したと見る事が出来るわけです。これを筆者は、「読み直し命名」と呼んでいますが、この命名法は数多くの地名で行なわれています。

前700年頃、移住して来たユダとベンヤミンは、既に先住者となっていたエドムと交わって行き、積極的に混血を繰り返していました。日本神話で、スサノヲの尊が出雲（エドム）の稲田姫を娶ったように、双方の支族が互いに配偶者を娶り合ったのです。

このエドムとユダ、ベンヤミンの混血氏族は、北九州の筑紫平野の辺りに住んでおり、その氏族の国は

ヘブライー掃時、「筑紫（つくし）国」と命名されることになったのです。ここから「筑前（ちくぜん）国」「筑後（ちくご）国」が生まれました。地名のヴァリとしては「筑波（つくば）」。「月読（つくよみ）尊」の「ツク」から採った音と見えます。

筆者はこの支族を「筑氏族」と呼ぶことにしました。

つまり、都岐沙羅柵とは、北海道の「筑氏」対策の為の柵（き）であったと捉えられるわけです。

Re: 「神の泉」 （エン）は輪ワ・・・倭人？ 投稿者：管理人 投稿日：2014 年 1 月 21 日(火)17 時 02 分 5 秒 返信・引用 編集済

> No.1989[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 日本ではウラルアルタイ語が、基本文法になってしまったのではないのでしょうか。

> ウラルアルタイ語

> スキタイは鉄器文化を取り入れて馬具をつくった。それを遊牧型鉄器文化 として成熟させたのが、アルタイ族。日本語はウラル・アルタイ語族の末裔なんだよ。

http://www.isis.ne.jp/tanalogue/020619_3.html

先日の「後方羊蹄」の件ですが、この「後方」というのは、先にお話したように「前方」の対立語だと思っうんですね。

それで似たような事例として、舞楽に「左方」「右方」というのがあります。

高麗楽と関係するようです。

楽器のみによる合奏である「管絃」に対して、舞を伴うものを「舞楽」と呼びます。「管絃」のページで説明したように、「舞楽」には唐楽と高麗楽の2種類があります。唐楽による「舞楽」を左方（さほう）、高麗楽による「舞楽」を右方（うほう）と呼びます。また舞そのものをそれぞれ左舞（さまい）・右舞（うまい）とも呼んだりします。

舞楽の場合には曲のテンポなども管絃と比べてリズムカルに演奏され、管絃と同じ曲であっても舞楽の場合には拍子が違ったりします。

また、雅楽の舞は型の美しさを楽しむものが多く、ストーリー性のある舞はごく一部です。

<http://www.gagaku.net/Gagaku/bugaku.html>

東北方面の横穴墓から、舞楽の法器が出土するのですが、吉士集団や、新漢人等の渡来系集団の動きとかかわってきます。

先にお話したケルト剣などもそうですね。

それで、吉士集団というのが、大陸系舞楽に強く関係していて、阿倍氏の配下にいました。

阿倍氏というのが、先のとおり蝦夷遠征をした主だったわけで、彼らの船を漕いでいたのが吉士だったわけです。

そこで問題となるのが、吉士集団の地名の名付け方ですね、これに左方、右方、前方、四方、五方といった要素がくわわってくるかどうか。

四方観念というのが、7世紀頃になってくると、いわゆる四夷のそれと関係してきて、蝦夷の名付け方もその辺にあるとおもうのですが、蝦夷の蝦はエビの意味です。

蝦夷の夷もえびす、えびしと読ませますね。

熟蝦夷、鹿蝦夷として、熟と鹿でまた対立語を用いて、名付けているわけですが、舞楽の用語で、「熟」という概念があるようです。

伽棚の思想があり、東=青龍、南=熟徴、西=白虎、北=刻蹄となっている。大太鼓の左方(東)の龍は・・・

http://wrs.search.yahoo.co.jp/FOR=ZY9FvHRV3igi0yQ78IDJUio0fs9PVgTRBaUhF1nohXDKcNX1wN25RWT0.8XrlPGsEI7LQVk3g8.DvCTwv3f195GUYeC_vlfy5y3qvB.MzCJg0Ick_0A1UaASdSgLeAXTWR1.dfLg1Q0h0BgHypiMDZg_nAHblbON8DhUkA1qBYYGROY.mA_xb_Wc46OGXxnDN4UhK2ypo8boRH7ILlKi8ogsnaUC3UJBVmogFdeSDuqFrvYdbaGYIpndP4wG_N60NbgC1LPORPYrezFMdW5uVmnPtIAZvFKsFN7cp_8t_TLK94SrV6q2nFVrqvhEma0V2lULcRzEJvRPCGB1_rKY0lAwVKGZFczXT1NEhafQgWvsLqG8qcqx3xUf2bNsD3Ods8raG5bloSXW0TBd2wpUog_ulaQPOJ3U3pI1TK24XqrHyW4CggMimP9EMT_q5uGVfblUr8t4bCF0PFw-/_ylt=A3xT6KiZJt5STUUBEm6DTwx.;;_ylu=X3oDMTBtdTY1Z3BjBHBvcwMyBHNlYwNzcgRzbGsDdGI0bGU

-/SIG=16tqhbpju/EXP=1390391385/**https%3A//sapporo-u.repo.nii.ac.jp/index.php
%3Faction=pages_view_main%26active_action=repository_action_common_download
%26item_id=3963%26item_no=1%26attribute_id=18%26file_no=1%26page_id=13%26block_id=
17

つまり、ここで北＝「刻蹄」の概念がすでにみえていて、これがつまり「後方羊蹄」の「蹄」と一致してきます。

そして左方、右方の概念、つまり中心に高御座＝天子のいる場所、それを地名をとおして、表現していたわけです。

そして、南側の蝦夷を、南＝熟徴として「熟」の語をあてたわけですね。

そうすると、「後方羊蹄」の「羊」とは何か？ということになるのですが、これはもう少し調べてみる必要があるでしょう。先のように半島の形を意味していたのか、あるいは方角で羊＝未＝南西を意味していたのですね。

前方を津軽方面、後方を北海道全体と意味するならば、その南西を未とすれば、渡島半島方面にかけてが推定できそうです。

ともあれ、そういう地名の付け方をする集団というのが、渡来系であり、舞楽などにもちいられていた四方観念に詳しい集団であったことは確かだと思います。

ヒトラーとナポレオンは日本の暦でつながる 投稿者：ねこ 投稿日：2014年1月21日(火)08時18分25秒 返信・引用

ヒトラーとナポレオンは日本の暦でつながる

<http://ichiba.geocities.jp/gbsg0309/0203/32/209.html>

結局、両者とも日本の送り込んだヨーロッパ破壊者だった。

日本の破壊者は、必ず英雄となり多くの人を殺し、最後は自分も消える。

(仮説を含む)

(<http://ichiba.geocities.jp/gbsg0309/0103/38/268.html>)

Re: 「神の泉」 (エン) は輪ワ・・・倭人? 投稿者: 荊の紀氏 投稿日: 2014 年 1 月 18 日(土)16 時 05 分 2 秒 返信・引用

> No.1988[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

日本ではウラルアルタイ語が、基本文法になってしまったのではないのでしょうか。

ウラルアルタイ語

スキタイは鉄器文化を取り入れて馬具をつくった。それを遊牧型鉄器文化として成熟させたのが、アルタイ族。日本語はウラル・アルタイ語族の末裔なんだよ。

http://www.isis.ne.jp/tanalogue/020619_3.html

大陸の遊牧民の動向だね。黒海の北側に騎馬民族が発生する。スキタイ文化というんだ。彼らは黒海を通じてギリシアと交易して、ギリシア型の青銅剣（十字型青銅剣）を使う。これがステップロードを介して、黄河中流域のオルドスに伝わった。そこでは、初期は中国から青銅器を輸入して、それを溶かしてギリシア風の十字剣をつくっている。これをスキト・シベリア文化と呼ぶのだけれど、その飛沫は日本にも伝わって、初期の弥生型の漂着民の集落に必ずある北九州の支石墓には、ギリシア・スキタイ型の十字剣が王権の象徴として埋葬されているね。

アルタイとは“金属の山”という意味なんだ。アルタイ族が独自に鉱山を開発し、冶金術を発見していったんだね。その鉄器生産の中心にいたのがアシナ氏族で、トルコ族の古い祖先の鉄王なんだ。これが砂漠を越えるのに高い鉄の車輪の馬車を使ったことから高車族といわれ、漠北（ばくほく）から南下して、鉄器を武器にして西に進み、イスラム帝国を包括して大トルコ帝国に発展させることになったんだ。

ソロモン王は、ファラオの娘と共に多くの異国の妻たち、すなわちモアブ人、アンモン人、エドム人、シドン人、[および]ヒッタイト人の女を愛した。・・・

<http://blogs.yahoo.co.jp/littleyoane/4297434.html>

メソポタミアの歴史を追求していくと、日ユ同祖論者も、シュメール人やヒッタイト人の存在を無視できなくなってしまうよう ...

10進法、12進法、60進法を用い、1日を12時間×2の24時間とし、1時間を60分、1週間を7日間、角度を360度として1年(約360日)とラップさせたのはシュメールであった。

これらの現代の基準はシュメール文明の名残りである <http://ameblo.jp/hex-6/entry-10730045504.html>

シュメールとユダヤに関連する点を追記すれば、度量衡がある

旧約聖書でも、契約の箱の記述でキュビトという単位が出てくる。2キュビトでほぼ1mであり、実はシュメールが使った長さの単位である

また、ユダヤも使うシュメールの重さの単位でシュケル・ミナがあるが、1シュケル=8.36g、1ミナ=60シュケル≒1kgである

六芒星もシュメールの遺跡で「命の水」と呼ばれるものと一緒にレリーフされて見つかっている

その遺物は、シリウスから神が降りたことを伝えるもので、シリウスはA星とB星(伴星)があり公転周期は50年である。このことから、最も単純な文様三角形を上下に2つ重ねて六芒星とした説がある

ユダヤ(ヘブライ)がいかにシュメール色が強いを示す事例であり、ユダヤがシュメールの後継者といわれる由縁でもある。

シュメールの神話の伝播とシンボル

気を取り直して神話とシンボルの件に戻れば.....

シュメール神話の太陽神アンは、16弁菊花紋を象徴とし、天皇家と同じである

ミトラ多神教が成立した、ミタンニ王国は、当時エジプト、バビロン(シュメール・アッカドの地を支配)と並ぶ3大勢力

他の2国も、エン・リル神の影響を受けミトラ神(後のバール神、牛頭天王)系信仰の影響を受け、菊花紋の遺跡を数多く残す。

ユダヤの菊花紋が天皇家と一致し、同祖の傍証とされる場合もあるが、一般に天皇家の菊花紋は、エル(アン)とエン・リル(ミトラ神・バール神)由来のバビロンの16弁菊花紋が元とされる。

オリエントに起こった各帝国では、シュメールの文明が絶大な影響力を持っており、ミトラ神(バール神)由来の16弁菊花紋を持つ王家が幾つも存在する

ユダヤのダビデ王もそれであり、シュメールと連携していたアッカドのナラム・シン王の紋も16弁菊花紋である

この地域では、16弁菊花紋自体が神紋で重視されていたのである。エジプト、イスラム、インドでもその影響は及び16弁菊花紋が見られる。

また、六角の亀甲紋をそのバリエーションとし、六芒星(六角星・ヘキサグラム)が生まれ、ユダヤで信奉されたバール神の神紋は、16弁菊花紋と六芒星である。

その為、ダビデの星として六芒星は知られ、ユダヤのシンボルマークである

パール神は仏教に取り込まれ、牛頭天王をなり、朝鮮半島にも数多くの痕跡を残す

日本では神仏混交の時代、スサノオミコトと同一とされ、祇園社や牛頭天王社に祀られた

スサノオミコトを祀る神社は多くが16弁菊花紋を神紋としており、エンリル（ミトラ神・パール神）信仰との関連が強く伺われる

ヒッタイトは、日本人であると唱えた。骨格も似ていて「髪は神武天皇時代の人を絵に見るように、弁髪を束ねていた」という

イスラエルの流れを汲む大陸人出雲ユダヤ人種と、ヒッタイトの流れを汲む海人族弥生 アラブ人
...<http://thebeginning.sblo.jp/>

ヒッタイト民族は、小アジア、トルコから大移動しながらアラブ圏を形成し、その後ヒマラヤを中心にアッサム、ビルマ、バングラディッシュに定住し、騎馬民族から農耕民族へと体質を変えていきます。

八重垣「ヤエ（ヤヘー）」は「立ち上がる」（そして嘆いた）<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

万民の主 エホバ（軍神）、

>

> それで、先の羊蹄の件で、その「羊」の字なのですが、この字の形が、どこか青森の下北半島の形に似ているように感じます。つまり2つの点がつまり羊の角なわけですが、また先のとおり足の2又に別れた蹄にも似ていると思うんですね。

>

> もともと津軽の下北半島あたりを、前方の羊蹄と記して、函館周辺つまり渡島半島南部の2又の部分の後方の羊蹄と呼んでいたのではないのでしょうか。

>

> 都加留（津刈）が一番北で、その南に鹿蝦夷、その南が熟 蝦夷となるわけです。

> 鹿は荒いの意味で、鹿が三つ重なった字ですね。ス音。ここで先の鹿がまた出てきます。

>

> 熟はジユク音で、うるのの意味。

>

> それで津軽の発音は、ツガリに近いのではないかと思います。以前論議したスガルとスガリ関係と類似しますね。

>

>

> つがり【▽連り／▽鎖り／×縄り】

> 《つながる意の動詞「つがる」の連用形から。「つかり」とも》

> 1 くさり。

> 「鉄(くろかね)の一」〈仁徳紀〉

> 2 糸でからげてつないだもの。すがり。

> 「今朝はまた誰きて見よと藤袴(ふぢばかま)玉貫(ぬ)く露の一しつらん」〈新撰六帖・六〉

> 3 袋の口をひもを通して引き締めるようにしたもの。また、その部分。すがり。

> 「袋の口あくるを遅しと一を引き切り」〈伽・三人法師〉

> 提供元：「デジタル大辞泉」凡例

> 「つがり【▽連り／▽鎖り／×縋り】」の前の言葉

> <http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/146650/m0u/>

>

> おそらく、半島が2つ連なった様子、それで連りになり、さらにそれが津軽になった。

>

> もともと、アイヌ語ではなく、中国語に関係した和語ではないでしょうか。

> おそらく7世紀代までに前方後円墳を残した集団が津軽まで測量してますから、その関係でツガルの地名がすでにあって、その後、意味が忘れられて津の意味に変化して、津軽になったという線です。

>

> そうすると、もっと以前、古墳時代中期あたりの渡来人が、もってきた中国語なり、外来習俗、以前お話した新漢人たちの東北移住でしょうか。そのあたりで、一度、羊とか蹄とか、後方、前方の概念が、その測量とともに地名をつける際に用いられていて、それで津軽とか後方羊蹄という名称が、地図に書き込まれたのかもしれませんが。

>

> 新漢人と、吉士集団、どちらも6世紀～7世紀代に阿倍とか東漢氏、蘇我の配下で、全国各地に航海をしながら移動していくわけですが、特に前者については、もとはかなりの中国系の知識をもっていて、漢字にも精通していたので、書紀の遣唐使はほとんど彼らの力によっていて、天智あたりも重宝していたわけです。

>

> それで、彼らの漢字知識、地名の名付け方に、羊とか鹿とか、動物を用いていたとすると、その漢字の意味を理解しながら、あえて名付けていたと考えるべきかもしれません。津軽（都加留・津刈）も、都牟刈之（ツムガリ）の太刀みたいに、古墳時代の彼らの概念が影響して出来ていた可能性があるでしょう。新羅・スサノオ神話とも関係するのでしょうか。

>

> スガルの太刀も同様。この時期で、おそらくは新羅・半島系の東欧系の系譜につながる黄金はめ込みのケルト剣を造っていた職人集団ですね、これが新漢人たちの祖先で、元は北燕遺民。

>

> それで、尾張から鹿嶋、東北へと移動していった製鉄集団のそれともかわりながら、最後に津軽、

渡島まで向かうわけです。

>

> それで、津軽とか、羊蹄にその古墳時代後期にすでに郡を置いたんですね。日高見国。

> 群馬などもその一つの例でしょう。発音は「車」なのですが、あえて羊と馬を入れるわけです。どちらかというと遊牧民的な思想ですね。

>

> ただ、その間に挟まっていた蝦夷つまり毛人集団の勢力がしばしば強くなったり弱まったりしていて、あるいは逆に倭側の勢力の盛衰ですね、それでいろいろ入れ替えあって、再度大彦系阿倍が7世紀代になって、斉明の指示で遠征する。

>

> 斉明は天智同様に、新漢人とかに強く血縁があって、それで関東・東北にも縁があったので、何かその辺も関係しながら、津軽・羊蹄まで遠征しなおした、そういう感じがしますね。

Re: 「神の泉」 (エン) は輪ワ・・・倭人? 投稿者: 管理人 投稿日: 2014 年 1 月 16 日(木)22 時 51 分 50 秒 返信・引用 編集済

> No.1987[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> パーン 番 幡

> パーンは羊飼いと羊の群れを監視する神で、サテュロスと同じく四足獣のような臀部と脚部、山羊のような角をもつ(→獣人)。何者がパーンの親かは諸説がある。父親はゼウスともヘルメースともいわれ、母親はニュムペーであるといわれている。

> 実際には古形「パオーン、Παων、Paon」(「牧夫」の意、現代英語の *pasture* と同じ接頭辞) から名付けられたものだが、ギリシア語の「パン」(「全ての」の意) としばしば誤って同一視された結果、パーン神は性格と名前が誘惑的なものと思われるようになった。[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%B3_\(%E3%82%AE%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%82%A2%E7%A5%9E%E8%A9%B1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%B3_(%E3%82%AE%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%82%A2%E7%A5%9E%E8%A9%B1))

>

> ハンは返ヘン・ハン・ホン(むきを変える)に通じ、巾(ぬの)がむきを変えてはためく幡(はた)。<http://blog.goo.ne.jp/ishiseiji/e/2ded27cd152bace2a6ded0346009de2f>

> 音符 「番バン」 <動物の足あと>

> 番 バン 田部

>

> 解字 動物の足跡を描いた象形。また動物の足のひらを表す。采ハンは獣の指の別れている形で、田は足のひら(掌)である。大きな動物が通ったあとは、はっきりと順々に足あとが地上に残っている。

そこで、足あとの象形は、順序よくの意となり、当番・順番の意味となる。

> 意味 (1) 順序。順位。「番号バンゴウ」「一番イチバン」 (2) かわるがわる。「輪番リンバン」「当番トウバン」 (3) 見張り。「番人バンニン」

>

> イメージ 動物の足跡の形が「順々に」(番・播)、「はつきりと」(審)、

> 「同音代替(ハン・バン・ホン)」(藩・幡・蟠・蕃・翻)

> 音の変化 バン：番・幡・蕃 ハン：藩・幡 ハ：播 ホン：翻 シン：審

>

> 順々に

> 播 ハ・バン・まく てへん部

> 解字 「てへん(手)＋番(順々に)」の形声。手で種を順々にまくこと。

> 意味 (1) まく(播く)。種をまく。「播種ハシュ」「播植ハシヨク」(種子をまき、苗を植える) (2) まきちらす。ひろく及ぼす。「伝播デンパ」 (3) 播磨(はりま)の国の略。現在の兵庫県南西部。「播州バンシュウ」

>

> はつきりと

> 審 シン・つまびら

それで、先の羊蹄の件で、その「羊」の字なのですが、この字の形が、どこか青森の下北半島の形に似ているように感じます。つまり2つの点がつまり羊の角なわけですが、また先のとおり足の2又に別れた蹄にも似ていると思うんですね。

もともと津軽の下北半島あたりを、前方の羊蹄と記して、函館周辺つまり渡島半島南部の2又の部分の後方の羊蹄と呼んでいたのではないのでしょうか。

都加留(津刈)が一番北で、その南に麓蝦夷、その南が熟 蝦夷となるわけです。

麓は荒いの意味で、鹿が三つ重なった字ですね。ス音。ここで先の鹿がまた出てきます。

熟はジュク音で、うるの意味。

それで津軽の発音は、ツガリに近いのではないかと思います。以前論議したスガルとスガリの関係と類似しますね。

つがり【▽連り／▽鎖り／×縫り】

《つながる意の動詞「つがる」の連用形から。「つかり」とも》

1 くさり。

「鉄(くろかね)の一」〈仁徳紀〉

2 糸でからげてつないだもの。すがり。

「今朝はまた誰きて見よと藤袴(ふぢばかま)玉貫(ぬ)く露の一しつらん」〈新撰六帖・六〉

3 袋の口をひもを通して引き締めるようにしたもの。また、その部分。すがり。

「袋の口あくるを遅しとーを引き切り」〈伽・三人法師〉

提供元：「デジタル大辞泉」凡例

「つがり【▽連り／▽鎖り／×縫り】」の前の言葉

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/146650/m0u/>

おそらく、半島が2つ連なった様子、それで連りになり、さらにそれが津軽になった。

もともと、アイヌ語ではなく、中国語に関係した和語ではないでしょうか。

おそらく7世紀代までに前方後円墳を残した集団が津軽まで測量してますから、その関係でツガルの地名がすでにあって、その後、意味が忘れられて津の意味に変化して、津軽になったという線です。

そうすると、もっと以前、古墳時代中期あたりの渡来人が、もってきた中国語なり、外来習俗、以前お話した新漢人たちの東北移住でしょうか。そのあたりで、一度、羊とか蹄とか、後方、前方の概念が、その測量とともに地名をつける際に用いられていて、それで津軽とか後方羊蹄という名称が、地図に書き込まれたのかもしれませんが。

新漢人と、吉士集団、どちらも6世紀～7世紀代に阿倍とか東漢氏、蘇我の配下で、全国各地に航海をしながら移動していくわけですが、特に前者については、もとはかなりの中国系の知識をもっていて、漢字にも精通していたので、書紀の遣唐使はほとんど彼らの力によっていて、天智あたりも重宝していたわけです。

それで、彼らの漢字知識、地名の名付け方に、羊とか鹿とか、動物を用いていたとすると、その漢字の意味を理解しながら、あえて名付けていたと考えるべきかもしれません。津軽（都加留・津刈）も、都牟刈之（ツムガリ）の太刀みたいに、古墳時代の彼らの概念が影響して出来ていた可能性があるでしょう。新羅・スサノオ神話とも関係するでしょうか。

スガルの太刀も同様。この時期で、おそらくは新羅・半島系の東欧系の系譜につながる黄金はめ込みのケルト剣を造っていた職人集団ですね、これが新漢人たちの祖先で、元は北燕遺民。

それで、尾張から鹿嶋、東北へと移動していった製鉄集団のそれともかかわりながら、最後に津軽、渡

島まで向かうわけです。

それで、津軽とか、羊蹄にその古墳時代後期にすでに郡を置いたんですね。日高見国。

群馬などもその一つの例でしょう。発音は「車」なのですが、あえて羊と馬を入れるわけです。どちらかというと遊牧民的な思想ですね。

ただ、その間に挟まっていた蝦夷つまり毛人集団の勢力がしばしば強くなったり弱まったりしていて、あるいは逆に倭側の勢力の盛衰ですね、それでいろいろ入れ替えあって、再度大彦系阿倍が7世紀代になって、斉明の指示で遠征する。

斉明は天智同様に、新漢人とかに強く血縁があって、それで関東・東北にも縁があったので、何かその辺も関係しながら、津軽・羊蹄まで遠征しなおした、そういう感じがしますね。

Re: 「神の泉」 (エン) は輪ワ・・・倭人? 投稿者: 荊の紀氏 投稿日: 2014年1月16日(木)21時56分28秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

パーン 番 幡

パーンは羊飼いと羊の群れを監視する神で、サテュロスと同じく四足獣のような臀部と脚部、山羊のような角をもつ(→獣人)。何者がパーンの親かは諸説がある。父親はゼウスともヘルメースともいわれ、母親はニュムペーであるといわれている。

実際には古形「パオン、Παων、Paon」(「牧夫」の意、現代英語のpastureと同じ接頭辞)から名付けられたものだが、ギリシア語の「パン」(「全ての」の意)としばしば誤って同一視された結果、パーン神は性格と名前が誘惑的なものと思われるようになった。[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%B3_\(%E3%82%AE%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%82%A2%E7%A5%9E%E8%A9%B1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%B3_(%E3%82%AE%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%82%A2%E7%A5%9E%E8%A9%B1))

ハン は返ヘン・ハン・ホン(むきを変える)に通じ、巾(ぬの)がむきを変えてはためく幡(はた)。
<http://blog.goo.ne.jp/ishiseiji/e/2ded27cd152bace2a6ded0346009de2f>

音符 「番バン」 <動物の足あと>

番 バン 田部

解字 動物の足跡を描いた象形。また動物の足のひらを表す。采ハンは獣の指の別れている形で、田は足のひら(掌)である。大きな動物が通ったあとは、はっきりと順々に足あとが地上に残っている。そこで、足あとの象形は、順序よくの意となり、当番・順番の意味となる。

意味 (1) 順序。順位。「番号バンゴウ」「一番イチバン」 (2) かわるがわる。「輪番リンバン」「当番トウバン」 (3) 見張り。「番人バンニン」

イメージ 動物の足跡の形が「順々に」(番・播)、「はっきりと」(審)、

「同音代替（ハン・バン・ホン）」（藩・幡・幡・蕃・翻）

音の変化 バン：番・幡・蕃 ハン：藩・幡 ハ：播 ホン：翻 シン：審

順々に

播 ハ・バン・まく てへん部

解字 「てへん（手）＋番（順々に）」 の形声。手で種を順々にまくこと。

意味 （１）まく（播く）。種をまく。「播種ハシュ」「播植ハショク」（種子をまき、苗を植える）（２）まきちらす。ひろく及ぼす。「伝播デンパ」 （３）播磨（はりま）の国の略。現在の兵庫県南西部。「播州バンシュウ」

はっきりと

審 シン・つまびらか 宀部

解字 「宀（やね）＋番（はっきりする）」 の会意。物事をくわしく調べ明らかにすること。建物のなかで関係者が集まって行なわれる。

意味 （１）つまびらか（審らか）。あきらか。「審問シンモン」（くわしく問いたす）「不審フシン」（疑わしい） （２）つまびらかにする。あきらかにする。「審議シンギ」（くわしく討議する）「審査シンサ」（よく調べて適否を決める）

同音代替（ハン・バン・ホン）

藩 ハン 艸部

解字 「艸（草木）＋潘（ハン）」 の形声。ハンは楸ハン（まがき）で、「木＋爻（まじわる）＋木」からなり、木を交差させて作った「まがき」の意。藩は草木の生垣のこと。転じて、王室を守る垣根の役をする諸侯の意。

意味 （１）まがき。かきね。かこい。「藩塀ハンペイ」（防ぎ守るための垣根や塀） （２）はん（藩）。江戸時代の大名の領地。「藩主ハンシュ」「親藩シンパン」（徳川家の近親が封ぜられた藩）

覚え方 くさ（?）や、みず（?）の番する、もと藩主 <明治維新後>

幡 ハン・ホン・マン 巾部

解字 「巾（ぬの）＋番（ハン）」 の形声。ハンは返ヘン・ハン・ホン（むきを変える）に通じ、巾（ぬの）がむきを変えてはためく幡（はた）。

意味 （１）はた（幡）。のぼり（幟）。「幡旗ハンキ」（はたやのぼり） （２）ひるがえる。「幡然ハンゼン・ホンゼン」（旗のひるがえるさま） （３）「八幡はちまん」とは、八幡宮の略で、武道の神として信仰される八幡神をまつる神社。

翻 ホン・ハン・ひるがえる・ひるがえす 羽部

解字 「羽＋番（ホン）」 の形声。ホンは返ヘン・ハン・ホン（むきを変える）に通じ、鳥の羽がむきを変えてひらひらとひるがえること。

意味 （１）ひるがえる（翻る）。ひるがえす（翻す）。「翻意ホンイ」（決心や意志をひるがえす）「翻弄ホンロウ」（もてあそぶ） （２）写し替える。「翻案ホンアン」（原作を生かして改作する）

「翻訳ホンヤク」（ある国の文章を他の国の言葉に直す）「翻刻ホンコク」（写本などをそのままの内容で製版・印刷して出版する）

蟠 バン・ハン・わだかまる 虫部

解字 「虫（へび）＋番（バン・ハン）」の形声。バン・ハンは、盤バン・ハン（まるい・わだかまる）に通じ、蛇がとぐろをまくこと。

意味 わだかまる（蟠る）。とぐろをまく。まがりくねる。「蟠踞バンキョ」（領地を占領して勢力を振う＝盤踞バンキョ）「蟠屈バンクツ」（めぐり曲がる。気が晴れない）

蕃 バン・ハン・しげる 艸部

解字 「艸（くさ）＋番（バン・ハン）」の形声。バン・ハンは繁ハン・バン（しげる）に通じ草が生いしげること。また、藩ハンに通じ「かきね」の意、蛮バンに通じ野蛮の意もある。

意味 （１）しげる（蕃る）。ふえる。（２）まがき。かきね。「蕃屏ハンベイ」（まがき・囲い。帝を守護すること）（３）草が生い茂る所に住む人。未開人。外国人。「蕃人バンジン」（原住民。外国人）「蕃書バンショ」（洋書。特にオランダの書物）

田は足のひら（掌）である。大きな動物が通ったあとは、はっきりと順々に足あとが地上に残っている

日本：ぐうのあし（音がグウである禹の脚であることから）；韓国：??? (jagwi yu bu、獣の足跡の内部)；英米：Radical track ...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3>
<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1695%83%A5%E3%82%A6%E9%83%A8> 「内」字は獣の足跡を意味 ...

躬は身体という意味の字。音訓: 音読みはキュウ（漢音）、グ、グウ（呉音）、訓読みは、きわまる、きわめる。<http://dic.nicovideo.jp/a/%E7%AA%AE>

グウ（呉音）

ぐうのあし（音がグウである禹の脚である、「九」....禹 解字：形声。意符の「ノ＋虫」（大きな蛇の形。水の神の意）と、音符の九（＝冂。まがりくねる意）とから成る。虫の名。

<http://shoukei.blog65.fc2.com/blog-entry-40.html> 台（われ）：大鳥 鳥
...<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/880>

鬣という漢字は、まず長い という字に似た文字を書きます。ただしこの赤い部分がカタカナの「ム」になっているので 注意 ...

ム」が獣の足が地面を踏んだものの象形、「九」が声符であるとする。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%82%A6%E9%83%A8>

ぐうのあし（音がグウである禹の脚である

、「九」

....禹 解字：形声。意符の「ノ＋虫」（大きな蛇の形。水の神の意）と、音符の九（＝冂。まがりくねる意）とから成る。虫の名。 <http://shoukei.blog65.fc2.com/blog-entry-40.html>

台（われ）：大鳥 鳥鳳凰・・・ム（私）＝禹台（われ）己（おのれ）「九」「風」鳥：（後に虫に

変わった) 凡: (おおきい意) 禹・竜・雲 - 一枝堂雑録「禹」は「虫+九」です。虫(き)がオスの竜、九がメスの竜です。... 「禹」の字の「冂」の部分は、「九」です。

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2359>

Y形の竜

今回の漢字はアルファベットの「Y (ワイ)」にととても似ていますね。意味1の「総角 (あげまき)」とは、古代の少年の髪のかき方で“頭髪を左右に分けて頭上に巻きあげ、角状に両輪をつくったもの” <http://www21.tok2.com/home/toshinopage/kanji/1ji31.html>

解字: 象形。木の先の分かれた形。

Υ, υ (希: ύψιλον / ? ψιλόν、英: ypsilon、ユプシロン、イプシロン、ウプシロン) はギリシア文字の一つで、伝統的な配列では、その20番目に置かれる。文字の名前は「単なるユ」を意味する。元の発音は「ウ」だったが、古典期には「ユ」に変化した <http://ja.wikipedia.org/wiki/%CE%A5>

占星術での牡牛座の記号のよう (?) に書かれることがある。

。

>

> 当時、おそらく羊がいたんですね。しばしば記紀には羊の記載があります。後に群馬の羊大夫の伝承なども出てくるのですが、彼らは羊の爪の形を知っているんです。

>

Re: 「神の泉」 (エン) は輪ワ・・・倭人? 投稿者: 管理人 投稿日: 2014年1月15日(水)22時54分24秒 返信・引用 編集済

> No.1984[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 際・・・端 (境)・・・尻・・・シリウス?

> > アイヌ語でしょうか。

> > 記紀には、原住民の言葉を、そのまま音を拾って記したものがわずかならあるようですね。

> > ただ、下記のは意味だけなのか、音もそうなのか? どうしてこの名前をつけたんでしょうね。

>

> > 後方羊蹄山 (しりべしやま)

> シリベシ (水際の険しい川) 山 http://www.yamakei-online.com/yamanavi/yama.php?yama_id=105

>

>

先の「後方羊蹄」の件ですが、羊の爪というのは、蹄に近いようですが、下記の動画でみると、二つに別れた爪がみえますね。

<http://www.youtube.com/watch?v=1KZXUsssg74>

それで、後方というのは「あとへ」と読むそうで、後ろの意味がある。

思うに、青森県の2又に別れた半島の形、もしくは北海道の函館周辺の2又に別れた半島の形、これらを、羊の蹄にたとえて、前者を前方、後者を後方と言ったのではないのでしょうか。

だから、津軽とは別に記載されているところを見ると、やはり北海道の函館周辺、そのあたりの可能性が高いように感じますね。しっかり彼らは測量しているんです。地図も持っていたので、正確な位置に当時から前方後円墳を北海道にも造営していったわけですね。

その測量地図情報が7世紀半当時の飛鳥にも届いていたわけです。

当時、おそらく羊がいたんですね。しばしば記紀には羊の記載があります。後に群馬の羊大夫の伝承なども出てくるのですが、彼らは羊の爪の形を知っているんです。

斉明5年（659年）に阿倍比羅夫がここに郡領を置いたわけですが、阿倍氏はオオヒコ系で航海民族の末裔ですから、船で東北方面までしばしば向かっていたのでしょう。その配下に吉士集団などの渡来系もいて、昨年論議したように、東北・北海道方面の古墳から、渡来系遺物が出て来ることと関係あるのだろーと思います、阿倍氏が親玉だった可能性もありそうですね。

確かに7世紀代も阿倍氏の影響力はかなり朝廷でも強かったですし、内部の測量知識、つまり軍事機密を把握していた可能性あると思うんですね。それらの軍事地図をみながら、蝦夷に向かって遠征して攻撃をしかけていったわけで、これらは白村江のときも同様な作戦で半島へ向かったことでしょう。

だから彼らはアバウトな航路地図で向かったわけではなく、かなり詳細に測量された地図にのっとり作戦を建てていた、そう考えるべきでしょう。

それで、もうひとつ面白いのは、地名の名付け方ですね。動物の姿を地図の形にたとえて名付けています。キシさんご指摘の飛鳥もそうですが、これは元は別の音があつて、それに鳥の姿を重ねて地名にし

てます。

動物を地名につけるのはどういう意味でしょうね。先の五島列島の「知訶島（ちかのしま）」つまり血鹿（ちか）、両児島のケースもそうでしたね。鹿です。これらも航海民族系がかかわっていました。

オオヒコ系は九州にも基盤があり、もとは日向方面から畿内に4世紀前半に流れ込んできた勢力だろうと考えてます。畿内の古墳から航海民族系のそれがでてくる時期ですね。彼らはなにか動物と関係する名付け方をしたのでしょうか。そういえば、鹿島神宮も鹿嶋も鹿ですね。奈良の鹿・・・。

Re: 「神の泉」 (エン) は輪ワ・・・倭人? 投稿者: 荊の紀氏 投稿日: 2014年1月14日(火)11時21分1秒 返信・引用

> No.1983[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

際・・・端(境)・・・尻・・・シリウス?

> アイヌ語でしょうか。

> 記紀には、住民の言葉を、そのまま音を拾って記したものがわずかながらあるようですね。

> ただ、下記のは意味だけなのか、音もそうなのか? どうしてこの名前をつけたんでしょうね。

> 後方羊蹄山(しりべしやま)

シリベシ(水際の険しい川)山 http://www.yamakei-online.com/yamanavi/yama.php?yama_id=105

尸(しりの意)と、意符の毛とからなる。尻にある毛、「お」の意「尿」字義:によろ。解字:会意。...
する鳥=>決まった季節にくるもの=>季節労働者=>やとう左右に分かれたたくさんの木=>観音
開きの戸=>とびら 戸=境 <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2666>

結界(けっかい、Skt:Siimaabandha)とは、聖なる領域と俗なる領域を分け、秩序を維持するために区域を
限ること。本来は仏教用語であるが、古神道や神道における神社なども、同様の概念があることから、言
葉として用いられているが、大和語としては端境やたんに境ともいう。

奥」は後出の「羽山津見の神」の「端」に対する。火神(火之...道)は現し国と黄泉国との境の道。
伊耶那岐命 (ギリシャ神話における)風の父の名前であるとともに、「嵐、台風」

...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2519>

『台』は、四方を見渡すための物見台

立見・・・竟と通じる

境とは、物と物との区切りを指す言葉。境界、境目のこと。 ... 意味: さかい、領域の端、 場所、地方、領土、状況、状態、段階、という意味がある。竟と通じる。

「疆（さかい）なり」「經典にて竟と通用す」とある。

音読みは、ケイ（漢音）、キョウ（呉音）。訓読みは、さかい。

ケイ・・・景 キョウ・・・京・教（景教？）

教

数は「婁（じゅずつなぎ）＋支（動詞の記号）」で、一連の順序につないでかぞえること。

一連の順序

一連の列島が本州に突き当たる所に、淡路島 を ...<http://www.historyjp.com/article.asp?kiji=204>

一連の巨石は、六甲山最高峰の周辺に集中していることから、列島周辺の聖地と紐づけ られていることを意識した磐座を含む ... <http://www.historyjp.com/article.asp?kiji=199>

一連の作業によって過去の自分の思考を 振り返り、どうして自分がレイラインに魅かれたのかを客観的に見つめる ...<http://e4.gofield.com/culture/archives/000373.php>

シリ（山） シリア（北の地） 尻 亜細亜・・・端 亜・・・ハ（あ） ジア？

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

アジア（亜細亜、Asia、羅音は「アシア」、英音は「エイジャ」、日本語では「アジア」[2]と音訳されている）は、アッシリア語で東を意味する「アス」に語源をもつ。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%B8%E3%82%A2>

東を意味する「アス」

紀元前 8 世紀から紀元前 7 世紀にかけての頃、古代メソポタミアのアッシリア人がエーゲ海の東を「アス」 asu（「東」「日の出」の意）、西を「エレブ」 ereb（「西」「日没」の意）と呼称したことにはじまるといわれ、のちに「アス」にラテン語の接尾辞「イア」 ia がついて Asia の語が生まれたといわれる[3]。

アジアという言葉が同一の文化・文明あるいは人種・民族を基盤として定義された概念ではなく、そもその由来がヨーロッパ以外の（東方）地域全部という意味であったため、結果的に異なる文明が分立する地域を一つの言葉で定義してしまった事に由来すると考えられる。サミュエル・P・ハンティントンの著書『文明の衝突』によれば、アジアには日本文明・中華文明・ヒンドゥー文明・イスラム文明が存在するとされている。

アスカ・・・東の カ（夏・華・鹿・ 蝦

「あすか」の語源については外来語由來說、地形名称由來說などがあるがはっきりとしたことはわかっていない。

外来語由来とする説は、アソカ(ムユウジュ)、アショーカなどのサンスクリット語とする説。

「角を持つ神」神の元型の一つだった

神農 禹

牛頭天王、神農黄帝、素盞鳴尊 工師 九(禹)氏 狗士 矩氏 紅(丹・赤) オベリスク 「串」＝〔甲骨文字の【□□】＋【|】(甲骨文字の10・十 ジュウ 縦・獣)〕 「オベリスコス」がそれです。これは現在、古代エジプトの建造物のオベリスクを意味します .<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1895>

漂白の民 <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1895>

牛頭天王、神農黄帝、素盞鳴尊 工師 九(禹)氏 狗士 矩氏 紅(丹・赤)

オベリスク 「串」＝〔甲骨文字の【□□】＋【|】(甲骨文字の10・十 ジュウ 縦・獣)〕

「オベリスコス」がそれです。これは現在、古代エジプトの建造物のオベリスクを意味しますが、同時にギリシャ語の「串」という意味があります。

「串」＝オベリスク

何らかのものを串に刺した状態を表す象形文字。...

<http://mei2jikai.blog113.fc2.com/blog-entry-28.html>

つらぬく(≒貫く)。

V字は角(つの)の部分

コラム 「おうし座とすばる」

おうし座：上図の中心付近で、横向きのV字の形をもつ星座がおうし座。V字は角(つの)の部分。右上が、すばる(プレアデス星団)(上図の左下は、オリオン座)。かに星雲：すばる(プレアデス星団)：晩秋の夜空を見上げると、東の空におうし座が輝いている。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/tshiba111/colum11.html>

角宿(かくしゅく)

二十八宿の起点は秋分点に近い「角宿(かくしゅく)、おとめ座中央部」にあります

.<http://www.ne.jp/asahi/stellar/scenes/china28/>..

北極星は「天帝」の座とされ、そのすぐそばをめぐる星たちには宮殿の庭園や官庁、役人といった、高貴な事物をあてはめました。

東方七宿・青竜(せいりゅう)・・・現在のさそり座のS字カーブと、それに続くてんびん座、おとめ座の領域を巨大な竜の姿に当てはめて、星宿名がつけられています。

竜の姿

二本の角のついた頭は安食(あじき)に、腹は本塾(もとの)に、尾は大寺(おおでら)に落ちていたの...<http://www.city.sosa.lg.jp/index.cfm/16,6917,247,488,html>

天球上を3区画に分けた三垣

尻・・・尾

尾宿(びしゅく)、和名で足垂れ星(あしたればし)は、二十八宿の一つで東方青龍七宿の第六宿。距星はさそり座 μ 1星。星官[編集]. 星官(星座)としての尾は、さそり座の μ 、 ϵ 、 ζ 、 η 、 θ 、 ι 、 χ 、 λ 、 ν の9つの星によって構成される。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%BE%E5%AE%BF>

天市垣(てんしえん)とは、古代中国天文学において天球上を3区画に分けた三垣の下垣。房宿・心宿・尾宿・箕宿・斗宿より北の区域。あるいはその主体となった星官(星座)のことを指す場合もある。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%B8%82%E5%9E%A3>

星官[編集]

星官としての天市垣は、天における市場を囲う藩垣(城壁)の形を象っており、その中枢には帝座が位置する。

帝座 - ヘルクレス座 α 1・ α 2星(ラス・アルゲティ)。

東藩11星(宋・南海・燕・東海・徐・呉越・斉・中山・九河・趙・魏) - ヘビつかい座 η 星、ヘビ座 ξ 星、ヘビつかい座 ν 星、ヘビ座 η ・ θ 星、わし座 ζ 星、ヘルクレス座112番・ σ ・ μ ・ λ ・ δ 星。

西藩11星(韓・楚・梁・巴・蜀・秦・周・鄭・晋・河間・河中) - ヘビつかい座 ζ ・ ϵ ・ δ 星、ヘビ座 ϵ ・ α ・ δ ・ β ・ γ 星、ヘルクレス座 κ ・ γ ・ β 星。

東藩を「左垣牆」、西藩を「右垣牆」ともいう。

冬の星で一番美しいマイナス六等星のシリウス。大犬座の尾の先で青白く燃える冷たい炎。

小熊座も小さなヒシャクの形です。柄の先端が尾の先っぽに相当します。これが小熊座 α 星で、北極星(ポラリス)になります。ちょうど「額」とは反対方向になります。これも語感優先でしょうか。あるいは賢治の小熊絵は北極星を仰いでいるのかもしれませんが

http://pliocena.com/trek/frame_hoshi.html

四神舎 <http://www.4jinsha.com/>

西洋の星座では北極星がこぐま座のしっぽの先端の星であり、おおぐま座の北斗七星のひしゃくの2

つの星の距離を5倍したあたり、ということも ... そしてその四方にきらめく 星座を皇帝を鎮護する動物、東の青龍、西の白虎、北の玄武、南の朱雀としたのです。

中国の星座の歴史も大変に長く、約3000年前といわれています。

西洋の星座では北極星がこぐま座のしっぽの先端の星であり、おおぐま座の北斗七星のひしゃくの2つの星の距離を5倍したあたり、ということもよく知られていますが、古代中国人は北極星を皇帝に、そして天帝の集まる周辺を宮殿を囲う城壁に見立て、紫微垣（しびえん）と称しました。そしてその四方にきらめく星座を皇帝を鎮護する動物、東の青龍、西の白虎、北の玄武、南の朱雀としたのです。

尾の九星そろふて明かなれば国富なり うつり動けば国のうれひありて大洪水の難あり

四神の思想はその後、地上における都造りにも影響されました。

東に青龍を表す流水を、西に大道あるを白虎、南に窪地あるを朱雀、そして北に丘陵あるを玄武としたのです。

唐の都長安は四神相応の地とされました。

天子は北に住むため、都に入る門は南に設けられ、朱雀門となづけられていました。その手法は朝鮮から日本にも伝わり藤原京を経て、中国風の都・平安京に至って、完全な四神相応の地となりました。 .

また相撲の土俵の天蓋の四隅の房の色も四神をあらわしています。 .

> 尻別の地名が今でもあります。羊蹄山を廻り、後志管内を貫流して日本海に注ぐ大河。内陸深くから来る川の意で、アイヌ語ではシリ・ペツ（Shir-pet 山の・川）と呼ぶ。

Re: 「神の泉」 （エン）は輪ワ・・・倭人？ 投稿者：管理人 投稿日：2014年1月12日(日)23時16分34秒 返信・引用

> No.1982[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 「エンヤー」という甲高い歌声で親しまれている囃子詞も、実はヘブライ語にルーツがあるようです。（エン）はヘブライ語で「泉」を意味します。「ヤ」は神の呼び名です。つまり「エンヤー」は「神の泉」を意味します。http://www.naritacity.com/journal/japan/journal_japan_061015.asp

>

> 「ウバイド文化」、「エリドゥ」、および「車輪」を参照. <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB>

アイヌ語でしょうか。

記紀には、原住民の言葉を、そのまま音を拾って記したものがわずかながらあるようですね。

ただ、下記のは意味だけなのか、音もそうなのか？ どうしてこの名前をつけたんでしょうね。

後方羊蹄山（しりべしやま）

『日本書紀』で阿倍比羅夫が後方羊蹄に政庁を置いた事例を引き合いに出した。そして、この山を後方羊蹄山（シリベシ山）

http://www.yamakei-online.com/yamanavi/yama.php?yama_id=105

http://www.viajar.jp/pc/special/grand_top/driveplan_view/tokushu5_dt01.html

尻別の地名が今でもあります。羊蹄山を廻り、後志管内を貫流して日本海に注ぐ大河。内陸深くから来る川の意で、アイヌ語ではシリ・ペツ（Shir-pet 山の・川）と呼ぶ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/尻別川>

「神の泉」（エン）は輪ワ・・・倭人？ 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月12日(日)12時13分34秒 返信・引用

「エンヤー」という甲高い歌声で親しまれている囃子詞も、実はヘブライ語にルーツがあるようです。（エン）はヘブライ語で「泉」を意味します。「ヤ」は神の呼び名です。つまり「エンヤー」は「神の泉」を意味します。

http://www.naritacity.com/journal/japan/journal_japan_061015.asp

「ウバイド文化」、「エリドゥ」、および「車輪」を参照. <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB>

シュメール人自身は自らを「ウンサンギガ」（シュメール語: ??? - ûĝ saĝ gíg-ga（発音：un san giga）、「混ざり合わされた者」の意）と呼び、その土地を「キエンギ」（シュメール語: ??? - ki-en-ĝir15、「君主たちの地」の意）と呼んでいた。

「シュメール」という用語はアッカド人により用いられた異称で、このことはアッカドやその北東のスバル人（英語版）へと知覚された関係を示す。アッカド語の「シュメール」はおそらくこの名前を方言で表したものであろう。彼らが「キエンガ」（「カンガ」とも）と自称する言語学的グループの異称のままであった。[要説明]シュメールとはたんに言語学的な概念であり、シュメール語についてのみ適用され、民族集団としてのシュメール人を分離して示すことはできないともいわれ、その場合、シュメール人は正確には「ウンサンギガ」あるいは「キエンギ人」ないし「言語学的シュメール人」と呼ばれる。スバル人による異称は、メソポタミアやレバントにおけるセム語を話すさまざまな言語グループと結びついていて、シュメール語の言語的基盤とは関係がなかった。そのほかシュメール語と、エラム語やドラヴィダ語との言語学的結びつきを指摘する学者もいるが、言語学においてより一般的に受け入れられている説では、シュメール語は孤立した言語であり、たとえばアッカド語がセム語族に属するような形で近縁関係にある言語をもっていない。

シュメールの言語、文化、また、おそらくは外見も周囲のセム系の民族とは異なっていた。しかしシュメールの男子像を見る限り、大きく彫りの深い目、高い鼻、巻き毛で髭が多いなどセム系と変わりないような容貌した像もあり、民族系統は未だ謎である。シュメール人は広範に征服民か移住民であると信じられている。しかしそのような移住がいつ行われたのか、またシュメール人の地理的な起源がどこなのかを正確に決定することは難しい。一部の考古学者はシュメール人が実際にはメソポタミア平原に出自を持つとの観点にいたっている。

小規模の農業をもつ組織化され紀元前 5500 年頃に始まったウバイド文化は、この地域において現在確認されている最古の文化層である。ウバイドは、ウル市から西 6 キロメートルに位置する遺跡名である。ウバイド文化は、ザグロス高原北西部付近（Jarmo など）に文化的根拠地をもち、ウバイドが主体[2]となった。[3]

当初は天水農耕に頼っていた彼らであったが、ウバイド 2 期（ウバイド文化中期、紀元前 4800 年-紀元前 4500 年）には灌漑農法を考案し、これまでの天水農法とは比較にならないほどの農業能率と農業収益を実現し、年間降水量 200mm の限界線を超えて周辺地帯にまで農耕文化は拡大、穀物の収穫は大幅に増加した。これによって、ウバイド文化は他の文化を圧倒し、西アジア全域に影響を与えた。

ウバイド期は紀元前 3800 年頃に短期間のうちに終焉を迎えたと考えられている。アラビア半島東部やオマーンでの考古学調査から、この時期が湖水面の低下、砂丘の活動開始などの直後[出典 1]であることが明らかになり[4]、乾燥の広がりによって耕作活動が不可能になった。エリドゥからウルクへ移住したという神話[5]が残されている。

キンダットゥに占領されたシュメールのウルは、アムル人のイシュビ・エッラに奪還され、イシン第 1 王朝が成立した。リピト・イシュタル法典が知られている。紀元前 2000 年頃、アムル人が南部を支配する間に、アルメニアのフルリ人がミタンニ帝国を打ち立てた。両者とも、古代エジプトとヒッタイトに対抗して自らを守った。ヒッタイトはミタンニを破ったが、バビロニア人によって撃退された。紀元前 1757 年頃、バビロン第 1 王朝のハンムラビがシュメール及びアッカドを統一し、イシン・ラルサ時代が終わった。

シュメール人は、地母神であるナンム（英語版）、愛の女神であるイナンナまたはイシュタル、風神であるエンリル、雷神であるマルドゥクなどを崇拝した。シュメール人が崇拝する神々（? - DINGIR - デインギル）は、それぞれ異なる都市からの関連を持っていた。神々の信仰の重要性は、関連する諸都

市の政治的権力に伴って、しばしば増大したり減少したりした。言い伝えによれば、ディンギル（神）たちは、彼らに奉仕させる目的で、粘土から人間を創造した。ディンギルたちは、しばしば彼らの怒りや欲求不満を地震によって表現した。シュメール人の宗教の要点が強調しているのは、人間性のすべては神々のなすがままにあるということである。

シュメール人は戦車を発明し、オナガー（ロバの一種）を牽引に利用した。初期の戦車は後世の物に比べて、戦闘時においてあまり有効に機能せず、搭乗員は戦斧や槍を運び、戦車はおもに輸送手段として役だったとされる。戦車は、二人の搭乗員が乗り込んだ四輪の装置で、4頭のオナガーを牽引に利用していた。台車は、一つの織られた籠と頑丈な三片設計の車輪から構成されていた。

仲小路は、上代において日本を根軸とする「スメラ太平洋圏」があり、進行中の太平洋戦争を「上代スメラ太平洋圏復興への皇御軍（すめらみいくさ）」と考えていた[出典 7]。しかし、坂倉の義父である西村伊作は、「（坂倉らが関係しているスメラという団体は）人類の根本の人種であるスメル人が日本にも移り住み、それが日本の天皇のすめら命になったと言っているが、一種の誇大妄想狂だ。坂倉はこの戦争に勝ってオーストラリアを全部取ったら別荘を作って遊びに行ったり、飛行機でパリに買物に飛んで行く、というようなことを空想していた。」と書き残している[出

ジャップ Jewish 「倭」 神まと・・・ヤマト <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

(無題) 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014年1月11日(土)19時12分44秒 返信・引用

以前「富士信仰」の稿で久能山・世良田・日光3東照宮がNE27°のペンタラインで一直線に並ぶことを示し、また筑波一富士ペンタラインNE54°が富士山頂・西北峰に当たることを指摘しましたが(図Ⅲ)、ここが山頂第二峰の「白山岳」で曼荼羅図の薬師如来座と重なります。

★もういちど関東のペンタラインを見てみましょう(図Ⅳ)。

★各東照宮の「本地仏」は総て「薬師如来」です(注・久能山薬師堂は明治時代に日枝神社にすり替えられた)。

★また秩父神社に南接する慈眼寺は、秩父観音霊場のひとつなのに何故か薬師如来が本尊で、「あめ薬師」として知られています。

★そして久能山東照宮の本殿もペンタラインに沿って造られています。

☆関東支配での縄文・弥生時代の主軸は<筑波一富士ライン>で、古墳時代からの主軸は<鎌倉一筑波ライン>ですが、江戸期に至って徳川幕府は新たに「特定秘密結界」として<東照宮一富士ライン>を<鎌倉一筑波ライン>と平行して設定しました。これは徳川家の大参謀「天海」の知恵でしょう。

【新春コラム】：「余と朕」・「将軍家と天皇家」

★「余の顔を見忘れたか！」暴れん坊将軍・徳川吉宗のセリフです。

★実は「余」と自称した一族が古代にもありました。蓋鹵王・余慶や武寧王・余隆などを輩出した百濟王家で、騎馬民族「扶余」の血脈であることを中国側に伝える柵封姓として使われました。

★対して「朕」は中国天子の自称で、これを日本天皇が取り入れています。

★さて百済王家は中国の臣下・将軍として仕えており、これも日本と同じです。

★これは武家の棟梁が騎馬民族・扶余氏の血脈を受け継ぐものかどうかは解りませんが、少なくとも「半島騎馬文化を受け継ぐ列島武家文化」の色彩が濃厚です。

※ところで「倭の五王」が登場する宋書を日本側が読んでいないはずはないのですが、記紀には書かれていません。近畿天皇家には該当者がいなかったか、または書く都合の悪いことだったのか（中国の家来になった将軍なので）。私は五王のうち安東大將軍・倭済を紀小弓だと推定していますが、書紀におもしろい記事があります。「半島征伐に向かう紀小弓を天皇が大將軍に任命した」というもの。「始めに任命したのは俺の方だ」との主張でしょうか。いずれにしても倭の五王は天皇家の人物ではありませんね。

革命的な利水文化を齎した周濠古墳&土師集団の輝蹟 <http://blogs.dion.ne.jp/pentacross/>

★古墳を立地別に分類すると①山稜②山麓③平原の3種に分類できそうです。

★この巨大事業ですが、単に「墓」機能のみということでは、やはり人民の疲弊・人心乖離を招くでしょう。

★で、山稜古墳では「昇天」という宗教的価値と共に、外敵監視や通信機能といった実利の付加が考えられます。

★対して今編では「周濠を伴う巨大古墳」が当初山麓に次に平原に造成されたことで指摘した「制水」機能。それが豊かで広大な農耕を約束することで人心掌握のみならず多大な農民流入をもたらしたことが、容易にうかがえます。

★その端緒が巻向・箸墓（図Ⅰ）、正円と五芒星一つでのシンプルな設計が可能です。弥生末期に突然出現した「周濠を伴う巨大古墳」で、巻向川の水利を掌握しました。結果この地の発展は、皆さんよく知るところです。

★次いで登場するのがその北方山麓に築かれた伝崇神陵・伝景行陵（図Ⅱ）で、段々周濠での用水ダム機能がうかがわれます。

★で、これらの前期大古墳はいずれも「一ツ星」が設計基準であることが想定されます。

★ところが5世紀、突然異次元の設計思想が席卷します、中期ダブルペンタ設計（図Ⅲ）。

★これは直接地面に描け、しかも黄金比に従っていくらでも大設計が可能な技法で、主に河内平原の少雨量荒地に築造されました。周濠は多量の灌漑用水を提供し、豊かな農耕を保証します。

★彼らは九州からの紀氏系豪族@応神G（竹内宿禰一族）、古墳には故地から阿蘇凝灰岩製石棺を持ち込んでいました。

★で、何故か応神陵と称される誉田御廟山古墳（図Ⅳ）がこの後に登場します。

★不思議なことにここでまた「一ツ星」設計に戻

ります。ここは山塊上に造られた起伏立地で、どうしても外囲いが必要だったのでしょう。

★そして中期古墳が列島中を席卷した後登場するのが後期型古墳、一ツ星が基本です（図V）。

★規模は前・中期の巨大古墳に劣りますが、やはり満々と水を湛えた周濠が寄り添っています。

★ここでまた「一ツ星」に戻ったのは、周濠も一体化した設計への進化かも知れません。

★こうして国土がほぼ開発された後の古墳は小規模の墓機能のみ、終末期へと向かいます。

★ここで改めて大和・河内の「大古墳の変遷」を俯瞰してみましょう（図VI）。

★当初大和東部の巻向で箸墓を端緒に展開したのが山辺古墳群で、それが北部の佐紀盾列へと移り西部の馬見へと展開します。

★それが5世紀ごろ、一山越えた西の河内へと飛び火、古市古墳群です。更に西の大阪湾を望む百舌鳥丘陵へと進み、この地域の「改造」主体が完成します。

★これを地図で見てください（図VII）。

★＜山辺→馬見→古市→百舌鳥＞と東西軸に見事に連鎖した構造には何か強い「意図」が感じられます。また地域の主墳く崇神陵—巢山古墳—応神陵—仁徳陵も直列、不思議です。

※この「大和・河内ダブル円」、実は箸墓のラインとソックリで、ちょうど前方底部中心に「土師町」が当たります。「箸墓は土師墓ではないか」との説が有力で、この両地域の開発ランドプランは「巻向発」であることがうかがわれます。

★さて後期型古墳ですが、特に古市古墳群南部に

集中しているのが目立ちます（図VIII）。

しかもこのエリアは5世紀後半に造られたという「古市大溝」の西側、水原地帯。一体なんで？。

★古市大溝は灌漑用水とも水運路とも言われていますが、後期型4古墳を連結することによる「何か今までにない新機能」を付加したことがうかがわれます。で、図を広く見ると東部の先行する中期古墳群とは分離された形で築かれており、多分新開地だったのでしょう。

★話はまた箸墓に戻ります（図IX）。この墓の北部には周濠に直結して巻向三塚・中心部に一直線に伸びる水路があったことが確認されており（巻向運河）、開発は単なる古墳築造だけではない「総合的な利水事業」、その先駆が箸墓だったことが解ります。

☆巻向には西日本各地からの土器が頻出します。邪馬台国巻向論者はこれを「卑弥呼支配の証拠」としていますが、江戸時代の参勤交代のようなことがあったとでもいうのでしょうか？。

☆もうお解りかと思いますが、これは「巻向地域の画期的な開発事業により、豊かさを求める民が集結した」と考えるべきでしょう。

☆戦鬪の絶えない九州の地に嫌気がさした連中には格好の新天地、記紀に登場する「神武集団」にとっては、まさに「垂涎の地」だったことでしょう。

★最後に、巻向は天皇家にとっては「目の上のタンコブ」出雲系土師氏が開発した所で、神さまも建物も五芒星結界もみんな「出雲製」です。天皇家は崇神の代に至ってようやくスリ寄れた程度です。

【追 1.3】 ハシハカ物語

★箸墓は、記紀では崇神代に「倭迹迹日百襲姫命が箸で陰部を突いて死んだ墓」としており、別名「大市墓」は彼女とは関係ないので「地名」だとしています。

★ところが「大市」は、実は櫛田姫の姉でスサノオの妻となる「神大市比売」に附された名で、こうなると巻向の神々は総て「出雲系」となります。

★崇神期と箸墓築造期は合いません。「土師墓と大市比売」がピッタリですね。

★それにしても「土師土木集団」は古代列島改造の立役者です。巻向・土師墓に始まり古市・土師里や百舌鳥・土師町など、代々転々と現場に住み着いた技術集団。私は密かに彼らを「日本のフリーメーソン」と呼んでいます、「五芒星の秘密」をしっかりと秘匿して。

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2014 年 1 月 7 日(火)23 時 13 分 6 秒 返信・引用 編集済

> No.1979[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> 「知訶島（ちかのしま）」

>

> 血鹿（ちか：五島列島の古称）

> 亀山勝氏による「海から見た日本列島」では、中国春秋時代の呉の末裔である安曇族 という海人による東シナ海航路が指摘されています。日本と中国大陆を結ぶ五島は まさに高天原に相応しい地勢と考えられます。http://blogs.yahoo.co.jp/haiku_square/54170483.html?from=relatedCat

>

> 日中往来と五島列島 - 瀬戸音信 <http://wkmseton.d.doool.jp/seoto/sot04.html>

> 古代の例を挙げれば、「磐井の反乱」（『日本書紀』巻第十七「継体天皇」21 年<527>の条）として知られている筑紫国造磐井の勢力が、中国との交易のため有明海から「血鹿（ちか：五島列島の古称）」、

> 『日本書紀』巻第二十「敏達天皇」12 年（583）の条に、「（百済へ行くために）血鹿に向けて発進した」という記載がある。

>

> 五島列島に牛を連れた新たな海人の集団が到着したようです。

<http://www.mekong.ne.jp/column/eguchi/eguchi25.html>

情報ありがとうございます。

やはりそうすると「知訶島（ちかのしま）」の語源が、鹿になるようですね。

そして、当初は 血（チ）もしくは知（チ）音が加わっていたわけですね。雄略時代までは、そのチ音があったのですが、後にカ音だけが残ったのでしょうか。

先の国産みの古事記の伝承も、そうすると、継体・敏達時代のその成立に近い時期のものを含んでいるということになるのでしょうか。

五島列島から中国へ直通するルートは、しかしまた磐井の時代には知られていたわけですね。百済に行くために五島を経由するという敏達の記事も考えてみると不思議です。

新羅との対立関係にあったからでしょうけど、五島からすると済州島つまり先のタムラ島経由で百済南岸に向かうのかな？

敏達系の皇族に田村皇子というのがいますね。タムラ。このころには、加羅などの「羅」音が半島南部の地名につきはじめているはずで、耽羅国(タン羅国)だったのでしょうか。

耽羅国(タン羅国)の皇族が、百済と日本との間を取り持っていて、その関係でその王族の娘をもらうとかすれば、その息子の皇子は、母方の出身地のそれに影響されるので、耽羅皇子とかいう皇子名ができてもおかしくはないでしょうね。

似たような事例は、欽明と秦氏との間でもあったようですし、百済や伽耶諸国の王族との間でも、同様に娘を差し出していて、その名が逆に残ったままである可能性もありそうです。

Re: (無題) 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014 年 1 月 7 日(火)01 時 54 分 36 秒 返信・引用

> No.1978[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 「知訶島（ちかのしま）」

血鹿（ちか：五島列島の古称）

亀山勝氏による「海から見た日本列島」では、中国春秋時代の呉の末裔である安曇族 という海人による東シナ海航路が指摘されています。日本と中国大陸を結ぶ五島は まさに高天原に相応しい地勢と考えられます。http://blogs.yahoo.co.jp/haiku_square/54170483.html?from=relatedCat

日中往来と五島列島 - 瀬戸音信 <http://wkmseton.d.doood.jp/seoto/sot04.html>

古代の例を挙げれば、「磐井の反乱」（『日本書紀』巻第十七「継体天皇」21 年<527>の条）とし

て知られている筑紫国造磐井の勢力が、中国との交易のため有明海から「血鹿（ちか：五島列島の古称）」、

『日本書紀』巻第二十「敏達天皇」12年（583）の条に、「（百済へ行くために）血鹿に向けて発進した」という記載がある。

五島列島に牛を連れた新たな海人の集団が到着したようです。

<http://www.mekong.ne.jp/column/eguchi/eguchi25.html>

「神武東征」のような大規模な軍事行動は、列島内（とりわけ九州・瀬戸内・近畿）の狭い領域から自発したものとは考えられず、280年の三国の呉の滅亡の余波を受けたものではないかと考えられるからです。呉は扶南と通交し朝鮮半島に一万の兵を送るほどの海軍力を持っていたが、晋の軍勢が呉の都に進軍するやたちまち土崩瓦解し、孫皓は降伏しました。このときかなりの海軍が列島に逃れてきたのではなかったでしょうか。また神武の祖父（ヒコホホデミ）は海の彼方の海神の宮殿を訪れていますが、これは呉の海軍の一将領の邸宅だったのではないのでしょうか。さらに言えばヒコホホデミはこのとき海神よりタイ系の水族の儀礼で迎えられていますが、水族によって構成される海軍の船隊もあったのではないのでしょうか。呉は滅んだ国でありそのことのハンディに加えて、大陸中心の中国の史官の眼からすれば、海上の出来事はほとんど視野の外だったと思われます。この場合、海人に伝わる伝説が下敷きとなったと思われる『古事記』のはじめの部分は、中国の史官には窺い知ることのできない海を通じた世界の消息を伝えているように思われます。

鹿（カ）

軍門にたてる標木の字 鹿（カ） 禾（カ） 夏（カ）・・・禹（わたくし） <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

ひょうぼく【標木】とは。意味や解説。目印にする木。

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/188096/m0u/>

ツクシはもと標木の義であったものが、転じて広く境のしるしを意味するに至ったものとしている。古くは標木を立てて境の目印にする風が盛んであったという。

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2517>

「濡みをつくし標」だが、これは万葉集にも歌われている語で「航路の目印として立てた標識」と解されている。

しかし、ミヲは水ミ緒ヲ、ツクシは境だとすれば、山の稜線を表す語とも解され、むしろこれが本来の意味ではないかと思う

対馬五島の大円寺川畔の水神社は、消防の神として昔から有名で、河童を祀っており、同川の深淵には河童 ... 単立神社、創建は紀元前90年(崇神天皇7年)で、奈良時代に行基が藏王権現を祀ったのが始まりと伝えられ、御祭神は櫛真智命(クシマチ) ...

<http://members3.jcom.home.ne.jp/narui-tadao/subpage06.html>

白山社は、石神社と並んで古来から歯の神様として有名で、歯痛の治療法のなかった時代には神様に頼るほかなかったのであろう？

齒（ハ・シ）

齒の神様・・・

むし齒の神さま

「むし齒」の神さまは全国的に散在しているが、白山神社の系列で、この社もその一つなのかもしれない。なぜ白山神社は「むし齒」の痛みにきくのか不明であるが、「むし齒」→「はくさ」→「白山」という語呂合わせ説もあるらしい。...

<http://www.izcc.tohoku-gakuin.ac.jp/kyoyoblog/log/eid576.html>

禹貢」をうちたてる。... 水神信仰で降雨の能力があります。... また九頭龍さんの頭は戸隠、妙高山の麓、関山神社が胴体で、尾が能生の白山神社という伝承もあります。これもおなじような話が大和にあります!

<http://kamnavi.jp/log/ktba0610.htm>

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2014 年 1 月 6 日(月)23 時 09 分 54 秒 返信・引用

> No.1977[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> 秦野さんの地図に見える五島列島って古代になんて言われていたんでしょうね。

>

> 五島列島(甞羅國)は夜冥不知著岸、遙視火光(灯台)になるな。

> 竹島(筑島：済州島)から、南に甞羅国(タン羅国)の灯台を望み、都斯麻国(対馬)を経て、東に一支国(壹岐)、竹斯国(筑紫)に至る。東に秦王国に至る。

>

> 甞羅國は火國(灯台)の火國。阿蘇國は阿蘇山の火國

>

> 五島列島(甞羅國)

> 五月壬辰朔、從葦北發船到火國。於是、日沒也。夜冥不知著岸。遙視火光。天皇詔挾抄者曰、直指火處。因指火往之。得著岸。天皇問其火光之處曰、何謂邑也。國人對曰、是八代縣豐村。亦尋其火、是誰人之火也。然不得主。茲知、非人火。故名其國曰火國也。

>

> 阿蘇國

> 六月辛酉朔癸亥、自高來縣、渡玉杵名邑。時殺其處之土蜘蛛津頗焉。丙子、到阿蘇國。其國也郊原

曠遠、不見人居。天皇曰、是國有人乎。時有二神。曰阿蘇都彥・阿蘇都媛。忽化人以遊詣之曰、吾二人在。何無人耶。故號其國曰阿蘇。

> http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_07.html

>

>

> 『古事記』・国産み神話においては、隠岐の次、壱岐の前に生まれた筑紫島（九州）の四面のひとつとして語られ、別名を「建日向日豊久土比泥別（タケヒムカヒトヨクジヒネワケ）」といったとされる。

> 次生、筑紫島。此島亦、身一而、有面四。面每有名。故、筑紫国謂、白日別。豊国、言、豊日別。肥国、言、建日向日豊久土比泥別。熊曾国、言、建日別。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%81%AB%E5%9B%BD>

>

> 秦野は国産みを読み解いています。現在の場所は多くは出鱈目だな。まともなのは小豆島だけ。

>

> 五島列島

> 古事記の国産みにおいて、イザナギ・イザナミが大八州を生んだ後、更に「児島」「小豆島」「大島」「女島」「知訶島（ちかのしま）」「両児島（ふたごのしま）」を生むが、この中の知訶島が五島列島である。古くは福江島を「おおぢか（大知訶、大値嘉）」と呼び、上五島の島を「こぢか」と呼んでおり、現在行政区画上ではたまたま五島列島に入られていないものの五島列島の一部としてその北に位置する小値賀島（おぢかじま）がその呼称の名残である。また、イザナギ・イザナミが生んだ最後の「両児島（ふたごのしま）」は、五島の南西に離れて浮かぶ男女群島のことであるとするのが通説である。五島列島に比してかなり小さい男女群島は現在の行政区画では五島市 に入るが、・・・。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%B3%B6%E5%88%97%E5%B3%B6>

>

> 国産み（大八州）

> 知訶島（ちかのしま）：五島列島 長崎県

> 別名は天之忍男（あめのおしを）

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%B3%B6%E5%88%97%E5%B3%B6>

>

> 両児島（ふたごのしま）：男女群島 長崎県五島市

> 別名は天両屋（あめふたや）

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%B7%E5%A5%B3%E7%BE%A4%E5%B3%B6>

昨年も議論しましたが、この「竹島」はつまり竹斯島のことで、筑紫＝九州のことでしょう。

半島から九州＝竹島に至るまでのルート説明文なんです。

「竹」＝「ツキ」＝倭人伝の「都支国」ですね。

奇しくも九州の形が、三日月に似ているのはちょっと留意してもよいかもしれません。

それで、先の五島列島＝知訶島の件ですが、となりの男女列島＝両児島（ふたごのしま）とあわせて、「鹿＋児島」となったのではないのでしょうか。

つまり「知訶」＝「シカ」という考えです。その福江島に今でも五島特有の鹿が多数いるらしいです。

それで、そのあたりから、ある時期に今の鹿児島北部方面へ、渡ってきた人たちがいて、その人たちがそこを鹿児島と名付けたので、鹿児島の地名だけのこったのではないのでしょうか。

だから、今でも「知訶島」の別名の「天忍男」が、鹿児島周辺でも類似した神名で祀られているという線です。

航海民でしょうか。

ある意味かなり早い時点、弥生末から古墳時代ころには、その五島と鹿児島方面での行き来あったかもしれませんね。だから類似した神名の神社が残る。やはり物部・穗積系とも関わりますね。

天押穂耳尊

『古事記』では、アマテラスとスサノオとの誓約の際、スサノオがアマテラスの勾玉を譲り受けて生まれた五皇子の長男（『日本書紀』の一書では次男）で、勾玉の持ち主であるアマテラスの子としている[1][2]。高木神の娘であるヨロヅハタトヨアキツシヒメとの間にアメノホアカリとニニギをもうけた[1][2]。

葦原中国平定の際、天降って中つ国を治めるようアマテラスから命令されるが、下界は物騒だとして途中で引き返してしまう[1]。タケミカツチらによって大国主から国譲りがされ、再びオシホミミに降臨の命が下るが、オシホミミはその間に生まれた息子のニニギに行かせるようにと進言し、ニニギが天下ることとなった（天孫降臨）[1][2]。

名前の「マサカツアカツ（正勝吾勝）」は「正しく勝った、私が勝った」の意、「カチハヤヒ（勝速日）」は「勝つこと日の昇るが如く速い」または「素早い勝利の神霊」の意で、誓約の勝ち名乗りと考えられる[1][2]。「オシホミミ（忍穂耳）」は威力（生命力）に満ちた稲穂の神の意である[1]。合気道開祖植芝盛平は正勝を「敵に屈せず、正しいことを行なって勝つ」、吾勝を「たゆまず修行し、己

に勝つ」、勝速日を「相手と対峙した時にすでに勝っている」と解釈し、合気道の理念を表す用語とした。

稲穂の神、農業神として信仰されており[2]、富田八幡宮（勝日神社、島根県安来市）、太郎坊宮（滋賀県東近江市）[2]、英彦山神宮（福岡県田川郡添田町）[1]、西寒多神社（大分県大分市）[2]、木幡神社（京都府宇治市）[1]、天日神社（兵庫県伊丹市） 二宮神社（兵庫県神戸市）、天忍穂別神社（高知県香南市）[1]などに祀られている。

<http://search.yahoo.co.jp/search?p=%E5%A4%A9%E5%BF%8D%E7%A9%82%E8%80%B3%E5%91%BD&ei=UTF-8&fr=appsfc2>

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2014 年 1 月 6 日(月)14 時 01 分 21 秒 返信・引用 編集済
> No.1976[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 秦野さんの地図に見える五島列島って古代になんて言われていたんでしょうね。

五島列島(甞羅國)は夜冥不知著岸、遙視火光(灯台)になるな。

竹島(筑島：済州島)から、南に甞羅国(タン羅国)の灯台を望み、都斯麻国(対馬)を経て、東に一支国(壹岐)、竹斯国(筑紫)に至る。東に秦王国に至る。

甞羅國は火國(灯台)の火國。阿蘇國は阿蘇山の火國

五島列島(甞羅國)

五月壬辰朔、從葦北發船到火國。於是、日沒也。夜冥不知著岸。遙視火光。天皇詔挾抄者曰、直指火處。因指火往之。得著岸。天皇問其火光之處曰、何謂邑也。國人對曰、是八代縣豐村。亦尋其火、是誰人之火也。然不得主。茲知、非人火。故名其國曰火國也。

阿蘇國

六月辛酉朔癸亥、自高來縣、渡玉杵名邑。時殺其處之土蜘蛛津賴焉。丙子、到阿蘇國。其國也郊原曠遠、不見人居。天皇曰、是國有人乎。時有二神。曰阿蘇都彥・阿蘇都媛。忽化人以遊詣之曰、吾二人在。何無人耶。故號其國曰阿蘇。

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_07.html

済州島:竹島(筑島)

済州島ですが、最近まで4郡で古事記の4別と一致するな。

白日別、豊日別、建日向日豊久土比泥別、建日別。

1914年4月1日 - 郡面併合により、済州郡・旌義郡・大静郡および莞島郡の一部(楸子面)が合併し、済州郡が発足。済州郡に以下の面が成立。(13面)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%88%E5%B7%9E%E7%89%B9%E5%88%A5%E8%87%AA%E6%B2%BB%E9%81%93>

『古事記』・国産み神話においては、隠岐の次、壱岐の前に生まれた筑紫島（九州）の四面のひとつとして語られ、別名を「建日向日豊久土比泥別（タケヒムカヒトヨクジヒネワケ）」といったとされる。

次生、筑紫島。此島亦、身一而、有面四。面毎有名。故、筑紫国謂、白日別。豊国、言、豊日別。肥国、言、建日向日豊久土比泥別。熊曾国、言、建日別。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%81%AB%E5%9B%BD>

秦野は国産みを読み解いています。現在の場所は多くは出鱈目だな。まともなのは小豆島だけ。

五島列島

古事記の国産みにおいて、イザナギ・イザナミが大八州を生んだ後、更に「児島」「小豆島」「大島」「女島」「知訶島（ちかのしま）」「両児島（ふたごのしま）」を生むが、この中の知訶島が五島列島である。古くは福江島を「おおぢか（大知訶、大値嘉）」と呼び、上五島の島を「こぢか」と呼んでおり、現在行政区画上ではたまたま五島列島に入られていないものの五島列島の一部としてその北に位置する小値賀島（おぢかじま）がその呼称の名残である。また、イザナギ・イザナミが生んだ最後の「両児島（ふたごのしま）」は、五島の南西に離れて浮かぶ男女群島のことであるとするのが通説である。五島列島に比してかなり小さい男女群島は現在の行政区画では五島市に入るが、・・・。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%B3%B6%E5%88%97%E5%B3%B6>

国産み（大八州）

吉備児島（きびのこじま）：児島半島 岡山県南部

別名は建日方別（たけひかたわけ）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%90%E5%B3%B6%E5%8D%8A%E5%B3%B6>

小豆島（あづきじま）：小豆島 香川県小豆郡

別名は大野手比売（おほのでひめ）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E8%B1%86%E5%B3%B6>

大島（おほしま）：周防大島、山口県大島郡周防大島町

別名は大多麻流別（おほたまるわけ）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%A8%E9%98%B2%E5%A4%A7%E5%B3%B6>

女島（ひめじま）：姫島 大分県北東部

別名は天一根（あめひとつね）

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A7%AB%E5%B3%B6_\(%E5%A4%A7%E5%88%86%E7%9C%8C\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A7%AB%E5%B3%B6_(%E5%A4%A7%E5%88%86%E7%9C%8C))

知訶島（ちかのしま）：五島列島 長崎県

別名は天之忍男（あめのおしを）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%B3%B6%E5%88%97%E5%B3%B6>

両児島（ふたごのしま）：男女群島 長崎県五島市

別名は天両屋（あめふたや）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%B7%E5%A5%B3%E7%BE%A4%E5%B3%B6>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E7%94%A3%E3%81%BF>

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2014 年 1 月 5 日(日)23 時 16 分 41 秒 返信・引用 編集済
> No.1975[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> それで、ご紹介の「南望朥羅國：タン羅国」ですが、羅がつくのは、かなり後代で、加羅とか新羅とかの「羅」の時代のそれですね。元は「伽耶」とかの「ヤ」あるいは、任那などの「ナ」音でしょう。

>

> まあ、地図にしましょうか。

>

> ① 朥羅國は五島列島になるな。韓半島の名前が当て嵌まらないな。

> ② 対馬ですが地図の方向から見て島は2つに見えないな。

> ③ 筑紫の東が倭だというのは、今と同じで正解なんですね・・・。

> 残念ですが倭国：秦国(タイ国)です。倭国は韓半島にある、説明済みですぞ。

> 秦国は、馬韓、辰韓、弁韓の頃で中国史籍に辰韓：秦韓の字を目にしたと思うが。

> それまでは瑞穂が正しいな。

>

> 整理しますと、瑞穂→倭国：秦国(タイ国)→倭国→日本になるな。

>

>

>

秦野さんの地図に見える五島列島って古代になんて言われていたんでしょうね。

これだけ大きな島だと古代史書とかにも確かに記載されていてもおかしくはないのですが。

古事記の国産みにおいて、イザナギ・イザナミが大八州を生んだ後、更に「児島」「小豆島」「大島」「女島」「知訶島（ちかのしま）」「両児島（ふたごのしま）」を生むが、この中の知訶島が五島列島である。古くは福江島を「おおぢか（大知訶、大値嘉）」と呼び、上五島の島を「こぢか」と呼んでおり、現在行政区画上ではたまたま五島列島に入られていないものの五島列島の一部としてその北に位置する小値賀島（おぢかじま）がその呼称の名残である。また、イザナギ・イザナミが生んだ最後の「両児島（ふたごのしま）」は、五島の南西に離れて浮かぶ男女群島のことであるとするのが通説である。五島列島に比してかなり小さい男女群島は現在の行政区画では五島市に入るが、この島も女島灯台が設置されるなど近年に至るまで重要な島であった。これらのことから、古代において五島列島や周辺の島々が中央にもよく知られていたことが分かる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/五島列島>

#E4.B8.8A.E5.8F.A4.E6.99.82.E4.BB.A3.E3.81.8B.E3.82.89.E5.B9.B3.E5.AE.89.E6.99.82.E4.BB.A3.E3.81.BE.E3.81.A7

いわゆる対馬の南北にながいのに対して、五島列島は東西に長い島、双子のイメージがあったようですね。

「知訶島（ちかのしま）」「両児島（ふたごのしま）」

なんで「チカ」というんでしょうね。

『かく言ひ竟へて御合して、生める子は、淡道の穂の狭別島。次に伊予の二名島を生みき。この島は、身一つにして面四つあり。面毎に名あり。故、伊予国は愛比売（えひめ）と謂ひ、讃岐国は飯依比古（いひよりひこ）と謂ひ、粟国は大宜都比売（おほげつひめ）と謂ひ、土左国は建依別（たけよりわけ）と謂ふ。次に隠岐の三子島を生みき。亦の名は天之忍許呂別（あめのおしころわけ）。次に筑紫島を生みき。この島もまた、身一つにして面四つあり。面毎に名あり。故、筑紫国は白日別（しらひわけ）と謂ひ、豊国は豊日別（とよひわけ）と謂ひ、肥国は建日向日豊久土比泥別（たけひむかひと

よくじひねわけ)と謂ひ、熊曾国は建日別(たけひわけ)と謂ふ。次に伊伎島を生みき。亦の名は天比登都柱(あめひとつばしら)と謂ふ。次に津島を生みき。亦の名は天之狭手依比売(あめのさでよりひめ)と謂ふ。次に佐渡島を生みき。次に大倭豊秋津島を生みき。亦の名は天御虚空豊秋津根別(あまつみそらとよあきづねわけ)と謂ふ。故、この八島を先に生めるによりて、大八島国と謂ふ。然ありて後、還ります時、吉備児島を生みき。亦の名は建日方別(たけひかたわけ)と謂ふ。次に小豆(あづき)島を生みき。亦の名は大野手比売と謂ふ。攻に大島を生みき。亦の名は大多麻流別(おほたまるわけ)と謂ふ。次に女(ひめ)島を生みき。亦の名は天一根(あめのひとつね)と謂ふ。次に知訶島を生みき。亦の名は天之忍男(あめのおしを)と謂ふ。次に両児島を生みき。亦の名は天両屋(あめふたや)と謂ふ。』

<http://www3.kitanet.ne.jp/~nihirata/20070511.html>

天之忍男は、九州・四国の物部関連に近い名前が見えますよね。

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2014年1月5日(日)14時12分15秒 返信・引用 編集済
> No.1973[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> それで、ご紹介の「南望耨羅國：タン羅国」ですが、羅がつくのは、かなり後代で、加羅とか新羅とかの「羅」の時代のそれですね。元は「伽耶」とかの「ヤ」あるいは、任那などの「ナ」音でしょう。

まあ、地図にしましょうか。

①耨羅國は五島列島になるな。韓半島の名前が当て嵌まらないな。

②対馬ですが地図の方向から見て島は2つに見えないな。

③筑紫の東が倭だというのは、今と同じで正解なんですね。・・・

残念ですが倭国：秦国(タイ国)です。倭国は韓半島にある、説明済みですぞ。

秦国は、馬韓、辰韓、弁韓の頃で中国史籍に辰韓：秦韓の字を目にしたと思うが。

それまでは瑞穂が正しいな。

整理しますと、瑞穂→倭国：秦国(タイ国)→倭国→日本になるな。

> それで北の島と、南の島の方角認識を取り違えて推理したので、結果として、日本列島は、対馬の南にあることになってしまった、それで台湾方面まで伸びると勘違いしたのかもしれませんが。

>

>

> 対馬にいくとわかるんですが、とにかく南北に長い島なんです。まったく北の港からみる風景と南の港からのそれとはことなり、列島や半島との方角、距離も異なります。

>

> それで、対馬を、2つの島と認識できずに、1つの小さな島と認識したので、その間の千里が抜けているんじゃないかと推測したのですが、この辺、隋の時代においてもまだ解消されずに、壱岐は対馬の東にあると言っているわけですから驚きですね。遣唐使時代になれば、それも解消されていたのだと思うのですが。

>

> ただ、さらにこの論理でいくと、「自竹斯國以東 皆附庸於倭」も、筑紫の東が倭だというのは、今と同じで正解なんですね。

>

> だから、対馬と壱岐との方向認識だけ間違っていたのでしょうか。倭人伝時代から間違っていた

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2014 年 1 月 5 日(日)08 時 18 分 0 秒 返信・引用

> No.1973[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> だから、対馬と壱岐との方向認識だけ間違っていたのでしょうか。倭人伝時代から間違っていた。

明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。

翌年、上（天子）は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百濟(帯方郡から倭国までの海上を沿い)を渡り、竹島(筑島：済州島)に行き着き、南に耽羅国(タン羅国)を望み、都斯麻国(対馬)を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国(壱岐)に至り、また竹斯国(筑紫)に至り、また東に秦王国に至る。その人は華夏（中華）と同じ、以て夷洲となす。疑わしいが解明は不能である。また十余国を経て、

海岸に達した。竹斯国(筑紫)より以東は、いずれも倭に附庸している。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

①竹島(筑島：済州島)に行き着き

②南に耽羅国(タン羅国)を望み、

③都斯麻国(対馬)を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国(壱岐)に至り、また竹斯国(筑紫)に至り、また東に秦王国に至る。

文章から裴世清の位置

裴世清の船は①竹島(筑島：済州島)と②耽羅国(タン羅国)の北、③都斯麻国(対馬)の西の位置ですな。三角法で位置は定まるな。

秦王国は①竹島(筑島：済州島)で教えて貰う、聞いたと思われるな。

> それで、対馬を、2つの島と認識できずに、・・・。

裴世清の位置から③都斯麻国(対馬)は2つの島には見えないな。

> どうしてズレたかという、対馬が予想以上に南北にながいの、北の島からみると、壱岐はその南、南の島からみると、東にあたるんです。

裴世清は船を基準に記録したのであって、島を基準に書いていない。

過去から島の名前も理解できず解読する努力をしたが、総てが漢字表記の理解不足・・・。

訂正ですな、何の恥じらいはいらない。古田、安田はもっとひどいな、詐欺師になるな。

>

> 丹、丹治、多治比・・・。

>

> 対馬は、「經都斯麻國 廻在大海中 又東至一支國」とあるように、今の発音とかわらないのですhが、壱岐がその東になってますね。本来は対馬の南とするべきところを東と記す。

>

> ちょっと方向感覚がずれてますね。そのままの論理だと、畿内方面も東じゃなくて南になる、倭人伝

の方位認識に近い。

>

> やはり、以前会報2か3号で論じたように、対馬で方向がズレてるんですね。

>

> どうしてズレたかという、対馬が予想以上に南北にながいの、北の島からみると、壱岐はその南、南の島からみると、東にあたるんです。

>

> それで北の島と、南の島の方角認識を取り違えて推理したので、結果として、日本列島は、対馬の南にあることになってしまった、それで台湾方面まで伸びると勘違いしたのかもしれませんが。

>

>

> 対馬にいくとわかるんですが、とにかく南北に長い島なんです。まったく北の港からみる風景と南の港からのそれとはことなり、列島や半島との方角、距離も異なります。

>

> それで、対馬を、2つの島と認識できずに、1つの小さな島と認識したので、その間の千里が抜けているんじゃないかと推測したのですが、この辺、隋の時代においてもまだ解消されずに、壱岐は対馬の東にあると言っているわけですから驚きですね。遣唐使時代になれば、それも解消されていたのだと思うのですが。

>

> ただ、さらにこの論理でいくと、「自竹斯國以東 皆附庸於倭」も、筑紫の東が倭だというのは、今と同じで正解なんですね。

>

> だから、対馬と壱岐との方向認識だけ間違っていたのでしょうか。倭人伝時代から間違っていた。
ていた。

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2014 年 1 月 4 日(土)23 時 00 分 32 秒

返信・引用 編集済

> No.1972[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> やっと、『隋書』倭国伝、(身冉は、𠂔の俗字)𠂔羅(たんら)国で南望○羅國が読めたな。

> 𠂔羅 dān、耽牟羅、屯羅などとも表記される。いずれも"島国"を意味する。

>

> 『隋書』倭国伝

>

> 大業三年、其王多利思比孤遣使朝貢。使者曰：「聞海西菩薩天子重興佛法、故遣朝拜、兼沙門數十人來學佛法。」其國書曰「日出處天子致書日沒處天子無恙」云云。帝覽之不悅、謂鴻臚卿曰：「蠻夷書有無禮者、勿復以聞。」

>

> (原文身冉は、𠂔の俗字) 𠂔羅 (たんら) 国

> <http://glyphwiki.org/wiki/u803c-ue0100>

>

> 『隋書』倭國伝

> 【度百濟 行至竹島 南望?羅國 經都斯麻國 迴在大海中 又東至一支國 又至竹斯國 又東至秦王國 其人同於華夏 以為夷洲 疑不能明也 又經十餘國 達於海岸 自竹斯國以東 皆附庸於倭】

>

> 南望𠂔羅國：タン羅国

>

>

<http://textream.yahoo.co.jp/message/1835208/bcygobf9qoc0aha4ac9a5a4ada4jbfmbd8a4dea4la1aa?comment=186168>

>

> 南に𠂔羅国(タン羅国)を望み、都斯麻国(対馬)を経て、遙か大海中に在り。

> 地図からタン羅国は秦王国で倭國になる。

>

>

>

なるほど、壱岐のことを、隋書では「一支国」と記してある訳ですね。

やはり、倭人伝の「一大国」はこの「一支国」と同じ壱岐島を現すわけですから、誤写の可能性もあるのでしょう。

でも「一大率」が別に邪馬台国の軍事官職として見えるわけですから、これもそうすると「一支率」だった可能性もでてくるわけですね。何か漢字で「一」の地名なりが伝承されていた可能性もある。

そもそも大宰府の「大」はどこからくるのかな。

それで、ご紹介の「南望耽羅國：タン羅国」ですが、羅がつくのは、かなり後代で、加羅とか新羅とかの「羅」の時代のそれですね。元は「伽耶」とかの「ヤ」あるいは、任那などの「ナ」音でしょう。

だから、タムヤ、タムナ、タンヤ・・・あたりが、元々の名称で、その後「羅」と発音する人々が移住してきたので、タムラになった。

丹、丹治、多治比・・・。

対馬は、「經都斯麻國 迴在大海中 又東至一支國」とあるように、今の発音とかわらないのですhが、壱岐がその東になってますね。本来は対馬の南とするべきところを東と記す。

ちょっと方向感覚がずれてますね。そのままの論理だと、畿内方面も東じゃなくて南になる、倭人伝の方位認識に近い。

やはり、以前会報2か3号で論じたように、対馬で方向がズレてるんですね。

どうしてズレたかという、対馬が予想以上に南北にながいの、北の島からみると、壱岐はその南、南の島からみると、東にあたるんです。

それで北の島と、南の島の方角認識を取り違えて推理したので、結果として、日本列島は、対馬の南にあることになってしまった、それで台湾方面まで伸びると勘違いしたのかもしれませんが。

対馬にいくとわかるんですが、とにかく南北に長い島なんです。まったく北の港からみる風景と南の港からのそれとはことなり、列島や半島との方角、距離も異なります。

それで、対馬を、2つの島と認識できずに、1つの小さな島と認識したので、その間の千里が抜けているんじゃないかと推測したのですが、この辺、隋の時代においてもまだ解消されずに、壱岐は対馬の東にあると言っているわけですから驚きですね。遣唐使時代になれば、それも解消されていたのだと思うのですが。

ただ、さらにこの論理でいくと、「自竹斯國以東 皆附庸於倭」も、筑紫の東が倭だというのは、今と同じで正解なんですね。

だから、対馬と壱岐との方向認識だけ間違っていたのでしょう。倭人伝時代から間違っていた。

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2014年1月4日(土)11時55分45秒 返信・引用 編集済

> No.1971[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

やっと、『隋書』倭国伝、（身冉は、𠂔の俗字）𠂔羅（たんら）国で南望○羅國が読めたな。

𠂔羅 dān、耽牟羅、屯羅などとも表記される。いずれも"島国"を意味する。

『隋書』倭国伝

大業三年、其王多利思比孤遣使朝貢。使者曰：「聞海西菩薩天子重興佛法、故遣朝拜、兼沙門數十人來學佛法。」其國書曰「日出處天子致書日沒處天子無恙」云云。帝覽之不悅、謂鴻臚卿曰：「蠻夷書有無禮者、勿復以聞。」

大業三年（607年）、その王の多利思比孤が遣使を以て朝貢。

使者が曰く「海西の菩薩天子、重ねて仏法を興すと聞き、故に遣わして朝拝させ、兼ねて沙門数十人を仏法の修学に來させた」。

その国書に曰く「日出ずる處の天子、書を日没する處の天子に致す。恙なきや」云々。帝はこれを見て悦ばず。鴻臚卿が曰く「蛮夷の書に無礼あり。再び聞くことなかれ」と。

明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。

翌年、上（天子）は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百濟(帶方郡から倭国までの海上を沿い)を渡り、竹島(筑島：済州島)に行き着き、南に𠂔羅国(タン羅国)を望み、都斯麻国(対馬)を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国(壱岐)に至り、また竹斯国(筑紫)に至り、また東に秦王国に至る。その人は華夏（中華）と同じ、以て夷洲となす。疑わしいが解明は不能である。また十余国を経て、海岸に達した。竹斯国(筑紫)より以東は、いずれも倭に附庸している。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/803>

（原文身冉は、𠂔の俗字）𠂔羅（たんら）国

<http://glyphwiki.org/wiki/u803c-ue0100>

『隋書』倭國伝

【度百濟 行至竹島 南望?羅國 經都斯麻國 迴在大海中 又東至一支國 又至竹斯國 又東至秦王國 其人同於華夏 以為夷洲 疑不能明也 又經十餘國 達於海岸 自竹斯國以東 皆附庸於倭】

南望朐羅國：タン羅国

<http://textream.yahoo.co.jp/message/1835208/bcygobf9qoc0aha4ac9a5a4ada4jbfmbd8a4dea4la1aa?comment=186168>

南に朐羅国(タン羅国)を望み、都斯麻国(対馬)を経て、遙か大海中に在り。

地図からタン羅国は秦王国で倭國になる。

尚、倭國 tuī は秦王国で倭は秦の訓読み「タイ」になる。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E7%A7%A6>

朐羅国(タン羅国)、耽牟羅、屯羅などとも表記される。いずれも"島国"を意味する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%80%BD%E7%BE%85>

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2014 年 1 月 3 日(金)23 時 07 分 55 秒 返信・引用
> No.1970[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> ヒナモリ（卑奴母離、比奈毛里、夷守）

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%83%8A%E3%83%A2%E3%83%AA>

>

> 雛とは理解できないな。ひな人形：ちいさい、かわいらしい人形が適切ですな。

>

> 東夷とよばれた民族

>

> 夫餘国，高句麗，東沃沮，北沃沮，肅慎氏（挹婁），濊，韓（三韓），倭人（倭国），百济国，加羅国，勿吉国（靺

> ヒナモリ（卑奴母離、比奈毛里、夷守）の夷だが歴史が古いんだな。

>

> 始皇帝の時代にも夷洲があるな、年代特定は徐福になる。BC200 年

>

> 夷（い、えびす）

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%B7>

>

>

> 會稽海外有東鯤人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。

>

> 『後漢書』倭人伝 注）翻訳の一部に間違いがあるな。

>

> 會稽海外有東鯤人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬萊神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東冶縣人有入海行遭風、流移至澶洲者。所在絕遠、不可往來。

>

> 会稽の海の外に東鯤人があり、二十余国に分かれている。また、夷洲および澶洲がある。伝承によると、秦の始皇帝が方士の徐福を遣わし、数千人の少年少女を連れて海に入った。蓬萊山の神仙を探し求めたが、出会えず、徐福は誅罰を畏れて敢えて帰らず、遂にこの島に留まった。代々に相伝し、数万家を有した。人民は時に会稽に至り交易する。会稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して澶洲に至る者がいる。絶海の遠地に在り、往来すべきではない

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

>

>

>

秦野さん、今年も宜しくお願いします。

確かに「夷」の字は重要ですね。

昨年も論議したように夷洲は、九州から壱岐・対馬方面と考えていたことがあり、奇しくもヒナモリ・夷守のそれと一致してきます。

隋使あたりまでは、まだ夷洲の語を、秦王国以西の地域につかっているんですね。

夷守の当て字も、そのころに形成されたとすると、確かに「夷」をもってヒナと呼ばせるようにした可能性も出て来るでしょうか。

エビス・エミシ・蝦夷・エヒシ＝ヒス・ヒシ・、ヒナ・ヒコ。蝦日子・・・。

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2014 年 1 月 3 日(金)12 時 27 分 54 秒 返信・引用 編集済
> No.1967[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

ヒナモリ（卑奴母離、比奈毛里、夷守）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%83%8A%E3%83%A2%E3%83%AA>

雛とは理解できないな。ひな人形：ちいさい、かわいらしい人形が適切ですな。

東夷とよばれた民族

夫餘国，高句麗，東沃沮，北沃沮，肅慎氏（挹婁），濊，韓（三韓），倭人（倭国），百濟国，加羅国，勿吉国（靺鞨），失韋国（室韋），豆莫婁国，地豆于国，庫莫奚国（奚），契丹国，烏洛侯国，裨離国，養雲国，寇莫汗国，一群国，新羅，琉求国（流求国），日本国，流鬼

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%A4%B7>

韓半島に倭国があり、邪馬台国（やまと）が在ったのですが、理解できないようだな。

ヒナモリも卑弥呼が奈良に来て、九州の国境に派遣した東夷の杜：駐屯地をヒナモリ（卑奴母離、比奈毛里、夷守）と言った様だな。

ヒナモリ（卑奴母離、比奈毛里、夷守）の夷だが歴史が古いんだな。

始皇帝の時代にも夷洲があるな、年代特定は徐福になる。BC200 年

夷（い、えびす）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%B7>

會稽海外有東鯤人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。

『後漢書』倭人伝 注）翻訳の一部に間違いがあるな。

會稽海外有東鯤人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬萊神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東冶縣人有入海行遭風、流移至澶洲者。所在絕遠、不可往來。

会稽の海の外に東鯤人があり、二十余国に分かれている。また、夷洲および澶洲がある。伝承によると、秦の始皇帝が方士の徐福を遣わし、数千人の少年少女を連れて海に入った。蓬萊山の神仙を探し求めたが、出会えず、徐福は誅罰を畏れて敢えて帰らず、遂にこの島に留まった。代々に相伝し、数万家を有した。人民は時に会稽に至り交易する。会稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して澶洲に至る者がいる。絶海の遠地に在り、往来すべきではない

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

>

> ヒナモリの件ですが、ヒナには、雛でひよこの他に、ひな人形のような平安時代にまで遡る王夫妻？を現す人形に対して「ヒナ」の語が用いられていたことに注目すべきかもしれません。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/雛祭り>

>

> おそらく、「ヒコ」に対しての「ヒナ」で、地域に派遣された皇族などの副としての意味、なにかその辺のそれと関係して出来上がっていたことばではないでしょうか。

>

> 確かにご指摘の壬生のような王族子弟を養い守る意味なら、ヒナモリの語も相当ですが、それだけではなんとも言えないところですね。

>

> ただ、奴国領域には、倭人伝に見えるように複数の「奴」国の連合が見えます。

>

> それで、その奴国連合の諸国王はもしかすると、倭奴国王の親戚だったかもしれません。

>

> 奴国、不弥国、壹岐、対馬の官職には、ヒコとヒナモリがいたわけですね。

>

> そのヒコは、王族の子孫とすると、ヒナモリは、その王族子弟を守る役目、そういうふうを考えて行くと面白いかもしれませんね。

>

> 狗奴国のククチヒコもヒコの一種ですが、会報にも掲載したように、奴国連合のやや南あたりの古い都と推定した好古都國、ようするに菊池郡あたりに、これらの連合国家のヒコがいた可能性もなくはないわけです。

>

> それでヒコというのが、やはり王族の呼称で、中国系の彦に由来していた可能性が高いと思うんですね。

>

> 雛については、下記のとおり。

>

> 雛（ひな）

> ひな、ひよこ。

> ちいさい、かわいらしいという意味。

>

> <http://ja.wiktionary.org/wiki/雛>

>

> 中国語では、ス、とかジュと発音されていたものが、日本的にヒナと呼ばれる。

>

> それがさらに日守になり、ある時期に全国各地へと展開していくわけです。

>

> 日向も、ヒナ守があるとする、もとはヒナ+向かう・・・、などの意味もあったのでしょうか。

>

> 日辺国ですね。

>

> 壹岐氏は、白鳳時代に勢力を伸ばしてきます。

>

> おそらくは、一大国時代からの流れを汲んでいて、かなり古い伝承を独自に伝承していた可能性があるでしょう。しばしば孤島には古い歴史が残存してます。

>

> 壱岐については、こちら。

> <http://komatsu0513.heteml.jp/iki.html>

>

Re: (無題) 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2014 年 1 月 2 日(木)02 時 14 分 4 秒 返信・引用

> No.1967[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

今年もお世話になります 宜しくお願いいたします。

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

>> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>>

>>> 名前や冶金のために陸奥国・・・。

>>

>> ところで、『唐会要』倭国・日本国伝に、倭国は自らの名が雅ではないことを憎み、日本に改名した・・・。

>> 理解できますかな。陸奥国は日辺に在り。濊、倭、馬韓時代は瑞穗(倭国)ですな。日本は百済、新羅時代で白村江、

>> 以後が日本ですぞ。天武天皇の時代は日本ですな。

>>

>> 谷川健一、森浩一さんは時代認識がないな、どうみても、鹿嶋と壬生と冶金、は 800 年の時間の流れがあるな。

入唐八家（最澄・空海・常暁・円行・円仁・恵運・円珍・宗叡）の一人。下野国の生まれで出自は壬生氏...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%86%E4%BB%81>

空海は讃岐の佐伯直氏出身であり、安芸国の佐伯直氏は後に厳島神社の神主家となった。

天皇は征夷大將軍・近衛權中將・陸奥出羽按察使・從四位上・陸奥守・鎮守將軍の坂上大宿禰田村麻呂(さかのうえのおおすくねたまらろ)を諸国に派遣して、移住した蝦夷の監督をさせることにしました。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%90%E4%BC%AF%E7%9B%B4>

佐伯直（さえきのあたい）は古代日本の氏族で、佐伯連の下、伴造として諸国の佐伯部を率いた。

佐伯部として設定・編成したのは事実のようで、「佐伯直」や「佐伯造」といった在地の豪族が伴造と

してこれを管掌し、これら地方豪族が更に畿内の中央豪族佐伯連（後に宿禰に改賜姓された）に管掌されたため、佐伯部は間接的に中央佐伯氏の部民とされ、その中からは宮廷警衛の任務に上番させられた者もいたと見られている。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%90%E4%BC%AF%E9%83%A8>

円仁 4 4 才の頃、天台の教義の勉強のために当時の中国の唐に入る。以後 9 年間、一心に学んだのであったが、この円仁の入唐の理由は、空海（774?835）がもたらした密教の教義が日本国内で急速に広まる機運を見せるなかで、日本に天台宗の教義の深化をするための命がけの旅であったと推測される。http://www.st.rim.or.jp/~success/ennin_ye.html

円仁・円珍（空海の親類ということもあり）などが真言密教を取り入れ比叡山を謗法化（正しい法を信じずそしること）したものだと批判している。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1482107029

慈覚派と智証派の対立により天台宗は動揺。智証派は延暦寺を降り園城寺を創設。

<http://www.page.sannet.ne.jp/gutoku2/tendaisyunonaiFun.html>

園城寺

園城寺(三井寺)は 7 世紀に大友氏 (古代)の氏寺として草創され、9 世紀に唐から帰国した留学僧 円珍（天台寺門宗宗祖）によって再興された。三井寺は平安 ... 俗名は和気広雄、母方の姓は佐伯氏で、円珍の母は弘法大師空海の妹（もしくは姪）にあたる。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%92%E5%9F%8E%E5%AF%BA>

開基は園城寺（三井寺）の僧快賢

壬生寺（みぶでら）は、京都市中京区壬生にある律宗大本山の寺院である。本尊は地藏菩薩、開基は園城寺（三井寺）の僧快賢である。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A3%AC%E7%94%9F%E5%AF%BA>

、「新羅訓村には近江の園城寺（三井寺）の宗祖「円珍」の祖と同族の佐伯氏の祖を祀る「佐伯神社」がある。赤穂市には秦氏の族長の一人「秦河勝」（大避大明神（おおさけ だいまようじん））を祀る大避神社がある。<http://www.shiga-miidera.or.jp/serialization/shinra/159.htm>

銅鐸の耳が出土しており、弥生時代後期のものと言われている

白髭は新羅ということであるので、この社は新羅神社であった。白の着く神や神社、また、白髭をたくわえた翁の神を鍛冶翁といっているが、これらの神々は新羅系の神が大半である。

新羅

拝殿の奥の梁に扁額が二つあり、右側の縦長の額には、中央に猿田彦大神、右に武内宿禰命、左には葛城襲津彦命の名が書かれていた。その左側に、横長の額があり、十六柱の神名が記載されている。祭神・猿田彦命、武内宿禰、葛城襲津彦命、菅田別命、須佐男命、市杵島姫命、大山祇命、金山彦命、天萬梛幡千々比売命（たくはたちぢひめのみこと）、菅原道真、火魂日命、大日貴命など。葛城襲津彦は「古事記」の孝元天皇の条にて、武内宿禰の子とされる。河内の志紀長吉神社に祀られている。

葛城襲津彦

役行者が生まれ育った葛木山周辺の豪族の祖は葛城襲津彦（かつらぎのそつひこ）。<http://www.oh->

kouhei.org/kobo/kobosan1208.html

日下部、山部、海部、隼人

葛城襲津彦の娘の磐之媛は仁徳天皇の皇后となって、履中、反正、允恭など、のちの 天皇となる御子たちを生んでいる。 稲員氏の出自を同氏系図でみると高良大明神の 神裔を称し、延暦二十一年（八〇二）草壁保只が山を降って、三井郡稲数村（現在は 北野
...<http://www.sysken.or.jp/Ushijima/voyage8.htm>

稲員氏の出自を同氏系図でみると高良大明神の神裔を称し、延暦二十一年（八〇二） 草壁保只が山を降って、三井郡稲数村（現在は北野町）に居住したことにより稲員（稲数）を姓としたという。

<http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/kaihou26/koga26.html>

四世紀から六世紀にかけて九州王朝の都が筑後地方（三潞久留米市）にあり、筑後国一宮の高良大社祭神玉 垂命こそその時代の歴代倭王であったことを論証してきたが、今回は玉垂命の末裔、稲員家と高良大社の伝承について報告する。<http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/kaihou26/koga26.html>

（四〇二）、新羅も倭国に王子（末斯欣）を人質に出していることを考えると、東アジアの軍事バランスが倭国優位 となっていたのであろうが、倭の五王が中国への上表文にて、たびたび朝鮮半島（百済など）の支配権を認めることを要請しているのも、こうした力関係を背景にしていたのではあるまいか。

三井家の家伝によると、藤原道長の六男長家の五代孫藤原右馬之介信生が近江国に土着し、武士になったのが三井家の始まりとされるが、史料の裏付けはない <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E4%BA%95%E5%AE%B6>

三井家も三井寺・長等山園城寺（ながらさんお んじょうじ）と新羅神社の関係、三囲神社 の三角鳥居 から三井家と園城寺は全て秦氏として捉えることでつ

<http://6707.teacup.com/gamenotatsujinn/bbs/1028>

一ノ宮方位線は【秦氏】が作り上げたと考えるべきですが様々な神社を建立する秦氏と鉾山労働から被差別部落の民に落とし込まれる落差は何なのでしょう。

それは朝鮮の古代史を調べることで理解できます。

朝鮮半島では【白丁】と呼ばれた奴隷制が存在していたのです。

新羅から渡来した秦氏も王族や貴族・祭祀集団そして技能集団と分化しており民を支配した王族と大多数の【奴隷集団】だったと判断することで理解できるでしょう。

奴隷

卑奴

卑奴母離」（鄙守、夷守、ヒナモリ）などの役職名や固有名詞の語彙が見られる。日本人 が記したもののとしては471 年銘の稲荷山古墳鉄剣に「獲加多支鹵」（ワカタケル）などの 固有名詞や役職名がある。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E4%BB%A3%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E>

鄙守

邪馬台国 30 国～魏志倭人伝記載の倭国国名現代地名対照表 - nifty

リンク. 神話のなかの地名 ... 2, 一支, 一, 壹岐, 卑狗, 彦・日子, 卑奴母離, 鄙守, 三千戸. 3, 末盧, 一 ...
国名, 比定候補 1, 候補 2, 候補 3, 候補 4, 近畿説. 9, 斯馬 ... それぞれの国 の個別の位置は、地名から語呂合わせ・ダジャレなどを駆使してあてはめてみてね。

夷守

夷 俘

エミシとその時代 6 延暦 16 年(797)～弘仁 2 年(811) - kominato ...

天皇は勅を下します。「相模・武蔵・常陸・上野・下野・出雲等の国に居住する帰服した夷 俘は、朝廷の恩沢により生活している。彼らに望郷の念を起こさせないようにするため、絶えず慈しみを加えるべきである。帰服した夷俘には毎年、季節ごとの服、禄物を支給 ...<http://kominato-kataumi.jimdo.com/%E3%82%A8%E3%83%9F%E3%82%B7%E3%81%A8%E3%81%9D%E3%81%AE%E6%99%82%E4%BB%A3-6-%E5%BB%B6%E6%9A%A616%E5%B9%B4-797-%E5%BC%98%E4%BB%812%E5%B9%B4-811/>

蝦夷

佐伯 今毛人が勤務評定で今蝦夷（正確には夷の字に虫偏がつく）と書かれた例が

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%9D%A6%E5%A4%B7>

蘇我蝦夷は『日本書紀』では蝦夷だが、『上宮聖徳法王帝説』では蘇我豊浦毛人と書かれている。毛人の毛が何を指しているかについても諸説あるが、一つは体毛が多いことをいったのだとして、後のアイヌとの関連性をみる説である。また、中国の地理書『山海経』に出てくる毛民国を意識して、中華の辺境を表すように字を選んだという説もある[8]。

土蜘蛛(つちぐも)

東国のいなかの中に、日高見（ひたかみ）国があり、その国の人は蝦夷（えみし）と呼ばれ、男も女も髪を椎（つち）のような形に結って、... 常陸の国造(くにみやつこ)には、筑波 国造の壬生連・那珂国造の壬生直・上野国造の壬生公と、壬生(にゅう)氏が三名もいる が、

...<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/oni-megami/oni-megami-1-3.htm>

『日本書紀』には各地の土蜘蛛が登場するが、蜘蛛のことではない。先住の縄文人とする説もあるが、鉾山の坑道で働く人々を「土蜘蛛」や「穴居民」と蔑称したもので、国栖（くす）・国櫛（くず）・佐伯（さへき）・八束脛(やつかはぎ)・隼人(はやと)、いずれも土蜘蛛であり穴居民を意味しており、土蜘蛛の分布地と丹生(ニウ)・砂金・砂鉄など鉾山資源の産地が合致する。というより、合致するからこそ冷酷に駆逐されたのである。

高尾張邑(タカワリム)に土蜘蛛（つちくも）がいた。その人態は、身丈が低く、手足が長かった。磐余彦尊(いわれひこ＝後の神武天皇)の軍は葛(桂)の網を作り、罌をはって捕らえ、これを殺した。そこで邑の名を変えて葛城とした。

邑の名を変えて葛城

『常陸国風土記』の編纂は、養老年間(717－723 年)に常陸国守の藤原宇合(うまかい)によってされたが、大和朝廷で権勢を誇る藤原氏四家の一人である藤原宇合が国守として派遣されるほど、常陸国は重要視されていたことがわかる。

常陸国の辰砂(左の写真)・砂金・砂鉄の確保、これは大和朝廷にとっては死活問題だったのである。常陸の国造(クニミヤコ)には、筑波国造の壬生連・那珂国造の壬生直・上野国造の壬生公と、壬生(にゅう)氏が三名もいるが、壬生とは丹生(にゅう＝辰砂・水銀)のことである。これが潮来の伝承を裏付けているのではないだろうか。

ちなみに、壬生氏は壬生古志の一族で、『新選姓氏録』には「吉志、難波忌寸と同祖、大彦命之後也」となっている。要するに安倍貞任と同族の安倍氏である。

常陸の国造(クニミヤコ)には、筑波国造の壬生連・那珂国造の壬生直・上野国造の壬生公と、壬生(にゅう)氏

> 天がどこだったのか？その辺も課題です。

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 31 日(火)23 時 20 分 6 秒 返信・引用

> No.1965[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

> > 名前や冶金のために陸奥国・・・。

>

> ところで、『唐会要』倭国・日本国伝に、倭国は自らの名が雅ではないことを憎み、日本に改名した・・・。

> 理解できますかな。陸奥国は日辺に在り。濊、倭、馬韓時代は瑞穗(倭国)ですな。日本は百済、新羅時代で白村江、

> 以後が日本ですぞ。天武天皇の時代は日本ですな。

>

> 谷川健一、森浩一さんは時代認識がないな、どうみても、鹿鐮と壬生と冶金、は 800 年の時間の流れがあるな。

> この世の人でないから・・・。

>

> 『唐会要』倭国・日本国伝

>

> 日本。倭國之別種。以其國在日邊。故以日本國為名。或以倭國自惡其名不雅。改為日本。或云日本舊小國。吞併倭國之地。其人入朝者。多自矜大。不以實對。故中國疑焉。

>

> 日本。倭国の別種である。その国は日辺に在る故に、日本国を以て名と為した。あるいは倭国は自らの名が雅ではないことを憎み、日本に改名した、あるいは日本は昔は小国だったが、倭国の地を併呑したという。そこの人が入朝したが、多くは自惚れが強く、不実な対応だったので、中国はこれを疑う。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

>

>

皆さん、今年もお疲れさまでした。

ヒナモリの件ですが、ヒナには、雛でひよこの他に、ひな人形のような平安時代にまで遡る王夫妻？を現す人形に対して「ヒナ」の語が用いられていたことに注目すべきかもしれません。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/雛祭り>

おそらく、「ヒコ」に対しての「ヒナ」で、地域に派遣された皇族などの副としての意味、なにかその辺のそれと関係して出来上がっていたことばではないでしょうか。

確かにご指摘の壬生のような王族子弟を養い守る意味なら、ヒナモリの語も相当ですが、それだけではなんとも言えないところですね。

ただ、奴国領域には、倭人伝に見えるように複数の「奴」国の連合が見えます。

それで、その奴国連合の諸国王はもしかすると、倭奴国王の親戚だったかもしれません。

奴国、不弥国、壱岐、対馬の官職には、ヒコとヒナモリがいたわけですね。

そのヒコは、王族の子孫とすると、ヒナモリは、その王族子弟を守る役目、そういうふうを考えて行くと面白いかもしれませんね。

狗奴国のククチヒコもヒコの一種ですが、会報にも掲載したように、奴国連合のやや南あたりの古い都と推定した好古都國、ようするに菊池郡あたりに、これらの連合国家のヒコがいた可能性もなくはないわけです。

それでヒコというのが、やはり王族の呼称で、中国系の彦に由来していた可能性が高いと思うんですね。

雛については、下記のとおり。

雛（ひな）

ひな、ひよこ。

ちいさい、かわいらしいという意味。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/雛>

中国語では、ス、とかジュと発音されていたものが、日本的にヒナと呼ばれる。

それがさらに日守になり、ある時期に全国各地へと展開していくわけです。

日向も、ヒナ守があるとする、もとはヒナ+向かう・・・、などの意味もあったでしょうか。

日辺国ですね。

壱岐氏は、白鳳時代に勢力を伸ばしてきます。

おそらくは、一大国時代からの流れを汲んでいて、かなり古い伝承を独自に伝承していた可能性があるでしょう。しばしば孤島には古い歴史が残存してます。

壱岐については、こちら。

<http://komatsu0513.heteml.jp/iki.html>

次に隠伎の三つ子の島を生みき。またの名を天之忍許呂別

あめのおしころわけ

、次に筑紫島を生みき。

この島もまた身ひとつにして面

おも

四つあり。面毎に名あり。中略・・・・・・・・

次に伊伎島

いきのしま

を生みき。またの名を天之比登都柱

あめのひとつばしら

という。次に津島を生みき。．．． 中略

次に佐渡島を生みき。次に大倭豊秋津島

おおやまととよあきつしま

を生みき。またの名は天御虚空豊秋津根別

あめのみそらとよあきつねわけ

という。故この八島を先に生めるによりて、大八島国

おおやしまぐに

といふ。

<http://komatsu0513.heteml.jp/iki.html>

壱岐のことを、天之比登都柱というのがおもしろいですね。

柱は、梯子などと同様に、半島と倭を橋渡しするの意味でしょうか。

天がどこだったのか？その辺も課題です。

神風伊勢國 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 31 日(火)21 時 55 分 45 秒 返信・引用

お正月、新年のプレゼントですな。

日本書記の垂仁天皇に廿五年春二月丁巳朔甲子、．．．。

この文章の志懷沖退(志しを抱き、おき(韓半島)を退く)の内容になる。卑弥呼が奈良、

邪馬台国に来て、天照大神として、神風伊勢國に祭られる内容が記録されている。

暦から 243 年に神風伊勢國。

活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

廿五年春二月丁巳朔甲子、詔阿倍臣遠?武渟川別・和珥臣遠?彦國菫・中臣連遠?大鹿嶋・物部連遠?十千根・大伴連遠?武日、五大夫曰、我先皇御間城入彦五十瓊殖天皇、惟叡作聖。欽明聰達。深執謙損、志懷沖退。綢繆機衡、禮祭神祇。剋己勤躬、日愼一日。是以人民富足、天下太平也。今當朕世、祭祀神祇、豈得有怠乎。三月丁亥朔丙申、離天照大神於豐稻入?命、託于倭?命。爰倭?命求鎮坐大神之處、而詣菟田筱幡。筱、此云佐佐。更還之入近江國、東廻美濃、到伊勢國。時天照大神誨倭?命曰、是神風伊勢國、則常世之浪重浪歸國也。傍國可怜國也。欲居是國。故隨大神教。其祠立於伊勢國。因興齋宮

于五十鈴川上。是謂磯宮。則天照大神始自天降之處也。

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_06.html

よいおとしを・・・。

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 31 日(火)14 時 30 分 7 秒 返信・引用 編集済
> No.1964[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

>名前や冶金のために陸奥国・・・。

ところで、『唐会要』倭国・日本国伝に、倭国は自らの名が雅ではないことを憎み、日本に改名した・・・。

理解できますかな。陸奥国は日辺に在り。濊、倭、馬韓時代は瑞穗(倭国)ですな。日本は百済、新羅時代で白村江、

以後が日本ですぞ。天武天皇の時代は日本ですな。

谷川健一、森浩一さんは時代認識がないな、どうみても、鹿鐔と壬生と冶金、は 800 年の時間の流れがあるな。

この世の人でないから・・・。

『唐会要』倭国・日本国伝

日本。倭國之別種。以其國在日邊。故以日本國為名。或以倭國自惡其名不雅。改為日本。或云日本舊小國。吞併倭國之地。其人入朝者。多自矜大。不以實對。故中國疑焉。

日本。倭国の別種である。その国は日辺に在る故に、日本国を以て名と為した。あるいは倭国は自らの名が雅ではないことを憎み、日本に改名した、あるいは日本は昔は小国だったが、倭国の地を併吞したという。その人が入朝したが、多くは自惚れが強く、不実な対応だったので、中国はこれを疑う。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

> 鹿鐔と壬生と冶金[編集]

> 谷川健一は、記紀神話において伊弉冉尊が火の神軻遇突智を産むに際して女陰（ほと）を焼かれて死

んだとある叙述が、「火処（ほど）」とも呼ばれたたたら炉から溶解した金属を取り出す光景を髣髴とさせること、鍛冶屋の母や妻が産婆の役割を担っていたこと、南西諸島では新生児に対し金属のように丈夫に育つようにとの呪詞を発したり（奄美大島）、新生児を抱きかかえて火がもたらされたと伝わる竹富島を見せる産育習俗があったり（八重山諸島）、全般に「カネ」や「カマ」、「カマド」といった金属や火に関する名前をつける風習があること、といった点に着目し、女胎から取り上げた子供を丈夫に育てることが、たたら炉から溶け出た金属を鍛えるという作業に重ねられ、そこから皇子や貴人の子供には丈夫に育つようにとの願いを込めて鍛冶や冶金に長けた氏族が壬生（養育係）として選ばれる習いがあったのではないかと推測し、更に、凡海氏と同族とされる阿曇氏には祖神を宇都志日金杵命（うつしひかなさくのみこと）とする伝えがあり（『古事記』）、その神名に見える「金杵」が金属に因むもので[4]、その阿曇氏が各地の開墾や岩盤の開鑿伝承に現われることから、同氏が海部の伴造という海洋氏族であるとともに朝鮮半島との交易を通じて金属器に深くなじんだ氏族でもあった可能性を指摘、同様に凡海氏も冶金技術に優れた氏族で、そのために天武天皇の壬生に選ばれたのではないかと、少なくとも鹿「鎌」という名前や冶金のために陸奥国に派遣されたことから、鹿鎌が鉱山採掘や金属精錬に詳しい人物であったと思われる、とする[5]。

Re: (無題) 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 31 日(火)08 時 05 分 19 秒 返信・引用
> No.1962[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

副官は卑奴母離(ひなもり)という。・・・教育係・・・壬生？

伊都国に絡む難解語句のルーツを徹底検証 | 日本とユダヤのハーモニー
<http://www.historyjp.com/article.asp?kiji=159>

モリ、モレ、モリ/moreh/先生, moreh, 先生. モリッ、モリッシュ
<http://blog.livedoor.jp/genkimaru1/archives/1785939.html>

雌鳥が大きな翼を広げてひなをおおい隠す イメージです。

http://blogs.yahoo.co.jp/squawk_roko/folder/1488410.html?m=lc&p=3

「わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。」
(マタイ 23 : 37)

「翼」（カナフ）は、詩篇でも明らかに主のご自身の臨在を指して使われています。

「主は、ご自分の羽で、あなたをおおわれる。あなたは、その翼の下に身を避ける。」（詩篇 91 : 4）

翼の下とは、いと高さ方の隠れ場であり、全能者の陰です。

神の子達が安心して身を避けることの出来る唯一の場所です。

そこでは敵に襲われる恐れもなく、脅かされる心配もない。そこは平安と信頼の場所であり、そこにはいやしが約束されているのです。「その翼には、癒しがある。」（マラキ4；2）

壬生（みぶ）は養育

朱鳥元年9月9日に天武天皇が崩御し、同月11日から殯（もがり）が行われたが、9月27日にはその儀礼の1つとして、幾人もの官人が次々に誄（しのびごと）を述べ、その最初の人的大海宿禰葛蒲で、「壬生のこと」を誄している。壬生（みぶ）は養育のことで、具体的には天皇の幼時の有様を語ったものとされるが[2]、この場合直接養育にあたった者としてではなく、大海人皇子と一緒に育った乳兄弟か、あるいは一族の代表として述べたものと思われる[3]。

大宝元年3月15日には、陸奥国に金を冶すために遣されたが、続報はなく、ずっと後の天平21年（749年）に初めて陸奥国が金を献じたことが大事件とされたので、この鹿鐔の冶金は成功しなかったのであろう。

鹿鐔の生年は不明だが、天武天皇と同年代と仮定すると、大宝元年には70才ぐらいであったことになり、その年齢で陸奥に派遣されたとは思えず、従って天武天皇より少なくとも1世代は降る人物であると思われる。本人が直接大海人皇子の養育にあたったと考えにくい理由である。

鹿鐔と壬生と冶金[編集]

谷川健一は、記紀神話において伊弉冉尊が火の神軻遇突智を産むに際して女陰（ほと）を焼かれて死んだとある叙述が、「火処（ほど）」とも呼ばれたたたら炉から溶解した金属を取り出す光景を髣髴とさせること、鍛冶屋の母や妻が産婆の役割を担っていたこと、南西諸島では新生児に対し金属のように丈夫に育つようにとの呪詞を発したり（奄美大島）、新生児を抱きかかえて火がもたらされたと伝わる竹富島を見せる産育習俗があったり（八重山諸島）、全般に「カネ」や「カマ」、「カマド」といった金属や火に関する名前をつける風習があること、といった点に着目し、女胎から取り上げた子供を丈夫に育てることが、たたら炉から溶け出た金属を鍛えるという作業に重ねられ、そこから皇子や貴人の子供には丈夫に育つようにとの願いを込めて鍛冶や冶金に長けた氏族が壬生（養育係）として選ばれる習いがあったのではいかと推測し、更に、凡海氏と同族とされる阿曇氏には祖神を宇都志日金柝命（うつしひかなさくのみこと）とする伝えがあり（『古事記』）、その神名に見える「金柝」が金属に因むもので[4]、その阿曇氏が各地の開墾や岩盤の開鑿伝承に現われることから、同氏が海部の伴造という海洋氏族であるとともに朝鮮半島との交易を通じて金属器に深くなじんだ氏族でもあった可能性を指摘、同様に凡海氏も冶金技術に優れた氏族で、そのために天武天皇の壬生に選ばれたのではないかと、少なくとも鹿「鐔」という名前や冶金のために陸奥国に派遣されたことから、鹿鐔が鉱山採掘や金属精錬に詳しい人物であったと思われる、とする[5]。

>

> ご紹介の「国内で鉄を産出し、濊、倭、馬韓などが、これを求めに来る。おおよそ諸々の交易では皆、鉄を以て通貨とする。習俗」の部分が重要ですね。

>

> そすうると、やはり倭との交易でも鉄の貨幣を仲介していたとなるのでしょうか。

>

> 鉄テイそのものが貨幣代わりだったのかな？

>

> 対馬・壱岐にまず船で鉄を運び、さらに倭に向かうわけですね。

>

> 対馬・壱岐人に対して、何か彼らにとって利益になりそうなものを、港や市で支払ったのでしょうか。鉄テイは彼ら自身は必要としていなかったかもしれませんが、貨幣代わりに保持していたでしょうか。

> 保持していたなら、鉄テイが対馬・壱岐から出土してもおかしくないのですが、ただ貨幣の類いは役所や市場から出土しても、王の墓から出るとは限らない訳ですね。金印が王墓から出ないのと同じ論理です。

>

> 彼らが主に船を運搬していた可能性もあります。

>

> 当然バイリンガルで、半島・中国・倭の言葉をはなせたことでしょう。

>

> そして、鉄テイなどを文字を用いて計算する能力も持ち合わせていた。

>

> さらに、盗賊から荷物を守るだけの武力もあって、それで交易していたはずです。

>

> 後代の安曇族の世界ですね、倭奴国の金印が出たところに役所があった。

>

> ヒナモリの守は、おそらくそれらの交易拠点を守る軍の意味ですね。

>

> これが壱岐、対馬、そして北九州に見えるわけです。

>

> ここで、問題となるのは、邪馬台国の一つの軍事組織としてのヒナモリという通説から脱却する必要があるかもしれないことです。

>

> つまり、壱岐・対馬・奴国・不弥国のヒナモリは、邪馬台国とは別の独立した海人系の集団による組織によったのではないかと感じます。かなり独立した地位を得ていて、自由貿易都市集団のような感じだったはずです。

>

> 半島側からも倭側からも独立した地位をもっていたであろうことは、昨年いろいろ論議したところですが、邪馬台国の同様な軍事組織は「一大率」で、また市場を管理していた官吏は「大倭」でした。

>

> ヒナ守ではない。そうすると伊都国のあった領域と、上記の奴国、不弥国、壱岐、対馬の領域とでは、境界線があり、やや異なっていた、そういうふうにも捉えうるかもしれません。

>

> その差ですね。せめぎあっていて、ある時期にヒナ守集団が、日向方面や、越後方面まで進出していった、そういう可能性もあるのでしょうか。宮廷関連の祭祀で、壱岐方面のそれが、かなり力があつた時代があります。

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 30 日(月)23 時 15 分 6 秒 返信・引用

> No.1961[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 辰韓は『後漢書』辰韓伝では、秦の逃亡者で、・・・ですが、実の所は倭人なんですか。

> 古事記の八岐大蛇退治、オオクニヌシの神話がつながるな。

>

> 『後漢書』辰韓伝の古老は秦の逃亡者で、・・・この部分の逃亡者ですが、創作になる。

>

>

> 『後漢書』辰韓伝

>

> 辰韓、耆老自言秦之亡人、避苦役、適韓國、馬韓割東界地與之。其名國為邦、弓為弧、賊為寇、行酒為行觴、相呼為徒、有似秦語、故或名之為秦韓。有城柵屋室。諸小別邑、各有渠帥、大者名臣智、次有儉側、次有樊紙、次有殺奚、次有邑借。土地肥美、宜五穀。知蠶桑、作縑布。乘駕牛馬。嫁娶以禮。行者讓路。國出鐵、澁、倭、馬韓並從之。凡諸（貨）〔貿〕易、皆以鐵為貨。俗喜歌舞飲酒鼓瑟。兒生欲令其頭扁、皆押之以石。

>

> 辰韓、古老は秦の逃亡者で、苦役を避けて韓国に往き、馬韓は東界の地を彼らに割譲したのだと自称する。そこでは国を邦、弓を弧、賊を寇、行酒を行觴（酒杯を廻すこと）と称し、互いを徒と呼び、秦語に相似している故に、これを秦韓とも呼んでいる。

> 城柵、家屋、宮室がある。諸々の小邑落には各自に渠帥がおり、大長は臣智、次に儉側、次に樊

祇、次に殺奚、次に呂借がいる。土地は肥沃、五穀の栽培に適している。養蚕を知っており、縑布を作る。牛馬の車に乗る。嫁は婚礼をして娶る。道で行き合えば道を譲る。

> 国内で鉄を産出し、濊、倭、馬韓などが、これを求めに来る。おおよそ諸々の交易では皆、鉄を以て通貨とする。習俗は歌舞、飲酒、鼓を打ち瑟（しつ＝弦が25本か16本の琴）を弾くことを好む。幼児はその頭を扁平にするため、皆でこれを石に押し付ける。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-sinkan.htm>

>

ご紹介の「国内で鉄を産出し、濊、倭、馬韓などが、これを求めに来る。おおよそ諸々の交易では皆、鉄を以て通貨とする。習俗」の部分が重要ですね。

そすると、やはり倭との交易でも鉄の貨幣を仲介していたとなるのでしょうか。

鉄テイそのものが貨幣代わりだったのかな？

対馬・壹岐にまず船で鉄を運び、さらに倭に向かうわけですね。

対馬・壹岐人に対して、何か彼らにとって利益になりそうなものを、港や市で支払ったのでしょうか。鉄テイは彼ら自身は必要としていなかったかもしれませんが、貨幣代わりに保持していたのでしょうか。

保持していたなら、鉄テイが対馬・壹岐から出土してもおかしくないのですが、ただ貨幣の類いは役所や市場から出土しても、王の墓から出るとは限らない訳ですね。金印が王墓から出ないのと同じ論理です。

彼らが主に船を運搬していた可能性もあります。

当然バイリンガルで、半島・中国・倭の言葉をはなせたことでしょう。

そして、鉄テイなどを文字を用いて計算する能力も持ち合わせていた。

さらに、盗賊から荷物を守るだけの武力もあって、それで交易していたはずです。

後代の安曇族の世界ですね、倭奴国の金印が出たところに役所があった。

ヒナモリの守は、おそらくそれらの交易拠点を守る軍の意味ですね。

これが壱岐、対馬、そして北九州に見えるわけです。

ここで、問題となるのは、邪馬台国の一つの軍事組織としてのヒナモリという通説から脱却する必要があるかもしれないことです。

つまり、壱岐・対馬・奴国・不弥国のヒナモリは、邪馬台国とは別の独立した海人系の集団による組織によったのではないかと感じます。かなり独立した地位を得ていて、自由貿易都市集団のような感じだったはずです。

半島側からも倭側からも独立した地位をもっていたであろうことは、昨年いろいろ論議したところですが、邪馬台国の同様な軍事組織は「一大率」で、また市場を管理していた官吏は「大倭」でした。

ヒナ守ではない。そうすると伊都国のあった領域と、上記の奴国、不弥国、壱岐、対馬の領域とでは、境界線があり、やや異なっていた、そういうふうにも捉えうるかもしれません。

その差ですね。せめぎあっていて、ある時期にヒナ守集団が、日向方面や、越後方面まで進出していった、そういう可能性もあるのでしょうか。宮廷関連の祭祀で、壱岐方面のそれが、かなり力があつた時代があります。

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 30 日(月)11 時 39 分 52 秒 返信・引用 編集済
> No.1959[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

辰韓は『後漢書』辰韓伝では、秦の逃亡者で、・・・ですが、実の所は倭人なんですか。
古事記の八岐大蛇退治、オオクニヌシの神話がつながるな。

中国系の漢字知識は必要ない。倭人どうしの交易になるな。小さな歴史の落とし穴ですな。
研究家は、どうも、時間軸が引けないようですな。

八岐大蛇退治は BC200 年ぐらいですな。

『後漢書』辰韓伝の古老は秦の逃亡者で、・・・この部分の逃亡者ですが、創作になる。

> 半島の鉄と、倭の塩とか……。上手くやれば結構儲かったかもしれないのですが、それを行うには高度な文書管理能力をもった地元有力者が必要で、そこで中国系の漢字知識をもった人も出てくるかもしれない。

>

> 秦野さんのおっしゃるとおり、給与を官僚なり兵士に出すのは、国としては確かに当然ですね。

> そうすると、その官職自体が官僚的な色彩をもった名称だった可能性もできます。

> 「ヒコ」「ヒナモリ」。確かに「守」でしょう。

>

>

> 当時の弁辰では、鉄製の貨幣らしきものが使われていた記載があります。

> その貨幣が、この対馬・壱岐からも出て来るかどうか？、出土すると、すくなくとも対馬・壱岐人は、半島側とは鉄貨幣をもって交易していた可能性もでてくるわけです。

>

> 壱岐に古墳群がありますね。中はどうだったかな？

>

> 九州側の玄関は、おそらく福岡の西新町遺跡とか鉄製品や文字遺物がでている、その辺でしょう。

>

> そこから壱岐まで船で向かうわけですね。

>

『後漢書』辰韓伝

辰韓、耆老自言秦之亡人、避苦役、適韓國、馬韓割東界地與之。其名國為邦、弓為弧、賊為寇、行酒為行觴、相呼為徒、有似秦語、故或名之為秦韓。有城柵屋室。諸小別邑、各有渠帥、大者名臣智、次有儉側、次有樊祗、次有殺奚、次有邑借。土地肥美、宜五穀。知蠶桑、作縑布。乘駕牛馬。嫁娶以禮。行者讓路。國出鐵、濊、倭、馬韓並從之。凡諸（貨）〔貿〕易、皆以鐵為貨。俗喜歌舞飲酒鼓瑟。兒生欲令其頭扁、皆押之以石。

辰韓、古老は秦の逃亡者で、苦役を避けて韓国に往き、馬韓は東界の地を彼らに割譲したのだと自称する。そこでは国を邦、弓を弧、賊を寇、行酒を行觴（酒杯を廻すこと）と称し、互いを徒と呼び、秦語に相似している故に、これを秦韓とも呼んでいる。

城柵、家屋、宮室がある。諸々の小邑落には各自に渠帥がおり、大長は臣智、次に儉側、次に樊祗、次に殺奚、次に邑借がいる。土地は肥沃、五穀の栽培に適している。養蚕を知っており、縑布を作る。牛馬の車に乗る。嫁は婚礼をして娶る。道で行き合えば道を譲る。

国内で鉄を産出し、濊、倭、馬韓などが、これを求めに来る。おおよそ諸々の交易では皆、鉄を以て通貨とする。習俗は歌舞、飲酒、鼓を打ち瑟（しつ＝弦が25本か16本の琴）を弾くことを好む。幼児はその頭を扁平にするため、皆でこれを石に押し付ける。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-sinkan.htm>

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 29 日(日)23 時 13 分 25 秒 返信・引用

> No.1958[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 南北に物々交換に出かけ・・・。もしや、地酒、蜂蜜生産、若田硯を穀物に物々交換か??

>

> 『三国志魏書』倭人伝（通称：魏志倭人伝）

>

> 又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

>

> また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という、一大国に至る。官もまた卑狗、副は卑奴母離という。四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

>

> 官卑狗、副は卑奴母離には給与が支給されていた、はず。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%A6%E6%96%99>

>

バーター交換経済の件は、もっと興味もってもよいかもしれませんね。

確かにご指摘のとおり、島で採れる特産物なりがないと、双方購入しないでしょうし、そうすると生きて行けないわけです。

思うに単に半島と九州北部の市に出かけて地元の特産物をもっていくだけではなく、半島のそれと倭のそれとを仲介する仲介交易もしていたのではないのでしょうか。

半島の鉄と、倭の塩とか・・・。上手くやれば結構儲かったかもしれないのですが、それを行うには高度な文書管理能力をもった地元有力者が必要で、そこで中国系の漢字知識をもった人も出てくるかもしれない。

秦野さんのおっしゃるとおり、給与を官僚なり兵士に出すのは、国としては確かに当然ですね。

そうすると、その官職自体が官僚的な色彩をもった名称だった可能性もできます。

「ヒコ」「ヒナモリ」。確かに「守」でしょう。

当時の弁辰では、鉄製の貨幣らしきものが使われていた記載があります。

その貨幣が、この対馬・壱岐からも出て来るかどうか？、出土すると、すくなくとも対馬・壱岐人は、半島側とは鉄貨幣をもって交易していた可能性もでてくるわけです。

壱岐に古墳群がありますね。中はどうだったかな？

九州側の玄関は、おそらく福岡の西新町遺跡とか鉄製品や文字遺物がでている、その辺でしょう。

そこから壱岐まで船で向かうわけですね。

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 29 日(日)12 時 58 分 35 秒 返信・引用 編集済
> No.1957[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

南北に物々交換に出かけ・・・。もしや、地酒、蜂蜜生産、若田硯を穀物に物々交換か？？

『三国志魏書』倭人伝（通称：魏志倭人伝）

又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という、一大国に至る。官もまた卑狗、副は卑奴母離という。四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

官卑狗、副は卑奴母離には給与が支給さえていた、はず。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%A6%E6%96%99>

物々交換（ぶつぶつこうかん、英: barter：バーター）は、貨幣などの媒介物を経ず、物品と物品を直接に交換すること。「物」とあるが、無形のサービスについても使う。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%89%A9%E3%80%85%E4%BA%A4%E6%8F%9B>

対馬の伝統海女漁 天然アワビ・天然サザエ

対馬の伝統漁業 イカ釣り漁

対馬の伝統漁一本釣り 天然鯛・天然ブリ

対馬特産 二ホンミツバチ 蜂蜜生産

対馬特産 若田硯

対馬特産 地酒

対馬の郷土祭り 高浜漁師市

壱岐の島特産 壱岐牛

<http://jpsatobunka.net/meisan/nagasaki/nagasaki-03.html>

> 中国系の知識人が、広くて、波が高い海に対してつけた名でしょう。

広くて、波が高い海にはみえないぞ。

>

> やはり、瀚海の「ガン」を使った意図ですね。

> 瀚は、広い、波の意味。

>

> 中国系の知識人が、広くて、波が高い海に対してつけた名でしょう。

>

> 竹木の密林が多いという特殊事情を記してます。

>

> 南北に向かうというのは、島の南北に向かうとのことで、半島と九州を行き来しながら生活していたわけですね。

>

> 市が双方にあった。かなり半島と倭との間で市場間交換があったであろうことも予想できます。

>

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 28 日(土)23 時 28 分 12 秒 返信・引用

> No.1954[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

>

> また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という、一大国に至る。官もまた卑狗、副は卑奴母離という。四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

>

やはり、瀚海の「ガン」を使った意図ですね。

瀚は、広い、波の意味。

中国系の知識人が、広くて、波が高い海に対してつけた名でしょう。

竹木の密林が多いという特殊事情を記してます。

南北に向かうというのは、島の南北に向かうとのことで、半島と九州を行き来しながら生活していたわけですね。

市が双方にあった。かなり半島と倭との間で市場間交換があったであろうことも予想できます。

卑奴母離 母離＝杜(守) 卑奴守 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 28 日(土)11 時 54 分 26 秒 返信・引用 編集済

三角縁神獸鏡に杜（もり）があるな。京師杜・・・。

卑奴母離 母離＝杜(守) 卑奴守になり、卑弥呼の奴婢(男児の兵士)

魏志倭人伝の対馬国は、南部の上島だな。図参照

絶島で 400 余里四方の広さ。400 余里×約 53 m≒21km

21km 四角になるな。対馬島（上島、下島）

2.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗（ひこ）、副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

三角縁神獸鏡 秦野訳

景初三年陳是作鏡自有經述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫寿如金石兮

景初三年、陳が自ら経述した鏡を作る。もとは京師(杜)の出、銘は位至三公の吏人、銘は母人（おものひと）、保子(開花天皇)の孫（卑弥呼）、金印(親魏倭王)をもって祝う。

陳：銘文の文脈から魏の明帝、または陳？

孫：宜孫、宜しい孫を約し孫

母：母屋（おもや）の母（おも）

杜地命出：杜（もり）、地命（地名）：地名は杜、杜の出

（鎮守の杜：今は神社の杜になっている。本来は京師の杜駐屯地）

京師：韓半島（開城）の楽浪郡から西に 2000 里にある。駐屯地

金石:金印(親魏倭王)

梁書 扶桑

南北 2 つの監獄があり、軽罪の者は南獄、重罪の者は北獄に入る。南獄には恩赦があるが北獄にはな

い。北獄では男女を番わせ、生まれた男児は8歳・女児は9歳で奴婢とし、罪人自身は一生出られない。貴人が有罪となれば、穴の中に座らせ、酒宴を開いて処刑し、その上に灰を撒く。初犯なら当人が責を受けるだけだが、再犯なら子と孫、三犯なら7世に及ぶ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

生まれた男児は8歳・女児は9歳で奴婢とし、・・・。

男児＝奴

女児＝婢

厳島神社（伊都岐島神社） 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月27日(金)19時50分56秒 返信・引用 編集済

厳島神社（伊都岐島神社）

厳島神社は古くは「伊都岐島神社」とも記された。壱岐の岐は支になるな。

意味は伊都に支(つか)える島。伊都岐島にもヒナモリが居るかも・・・。

魏志倭人伝では「南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日陸行一月」

で一括され、厳島は省略ですな。女王之所、南至水行十日、陸行一月、邪馬壹國

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%B3%E5%B3%B6%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

魏志倭人伝では、対馬、壱岐、奴国と不弥国には副官として遠隔地の国境を防ぐ軍人ヒナモリ（卑奴母離）が配置されていますが・・・。

<http://hirohatakibisetsu.blog100.fc2.com/blog-category-13.html>

一般には北九州や東北にあって朝鮮や蝦夷の防衛に当たる者。

<http://www.weblio.jp/content/%E3%83%92%E3%83%8A%E3%83%A2%E3%83%AA>

南に水行10日と陸行1月で女王の都のある邪馬台国に至る（「南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日陸行一月」）。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳鞮があり、推計7万余戸。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC>

%9D

支

呉音: シ

漢音: シ

訓読み

常用漢字表内

ささ-える

表外

つか-える、か-う

壹岐は触（ふれ）の島

壹岐：一支国（いきこく、一支國）

一支國は一大に支(つか)える 国、

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%80%E6%94%AF%E5%9B%BD>

壹岐市

旧武生水（むしょうず）地区

片原触（かたばるふれ）

郷ノ浦（ごうのうら）

庄触（しょうふれ）

永田触（ながたふれ）

東触（ひがしふれ）

本村触（ほんむらふれ）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A3%B1%E5%B2%90%E5%B8%82>

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 27 日(金)16 時 26 分 50 秒 返信・引用 編集済
> No.1952[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という、一大国に至る。官もまた卑狗、副は卑奴母離という。四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

上記の文章を忠実に訳すと次になる。文法、思考上の問題ですな。

また、南に一海を渡ること千余里、名は瀚海（瀚海国：玄海国）。一大国官の卑狗、副は卑奴母離に至る。四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

現在の壱岐ですが、当時は瀚海国でそこに駐屯する一大国官、邪馬台国官の名前が卑狗、副の卑奴母離。になる。Wikiに糟屋郡（現在の福岡市）に「夷守（ひなもり）駅」、
『和名抄』は越後国頸城郡に「夷守郷」に分布するのは、魏志倭人伝からも読み取れる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%83%8A%E3%83%A2%E3%83%AA>

一大國とは、一大率國と思われる。一大率は邪馬台国が、北方の国々を検察するために派遣した官で伊都国に

駐留していたことから、邪馬台国と理解できる。

<http://kotobank.jp/word/%E4%B8%80%E5%A4%A7%E7%8E%87>

一支国（いきこく、一支國）

一支國は一大に支(つか)える 国、

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%80%E6%94%AF%E5%9B%BD>

邪馬台国の支配のもと、「一大國」が存在したと記されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A3%B1%E5%B2%90%E5%B3%B6>

支

呉音: シ

漢音: シ

訓読み

常用漢字表内

ささ-える

表外

つか-える、か-う

又南渡一海千餘里、名曰瀚海、
また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という、
瀚海(ガンカイ)は、南に一海を渡ること千余里で距離から瀚海は国名で瀚海国になる。

至一大國官、亦曰卑狗、副曰卑奴母離。
一大國官の卑狗、副の卑奴母離。瀚海国の一大國官の卑狗、副の卑奴母離。

方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、
亦南北市糴。
四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても
食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

瀚

音読み

呉音：ガン

漢音：カン

訓読み

ひろ-い、なみ

海

音読み

呉音、漢音：カイ、唐音：ハイ

慣用音：ハイ（現代音；上海）

訓読み：うみ

奴国が位置した筑前国には？

距離から筑前国には奴国はないな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AD%91%E5%89%8D%E5%9B%BD>

Re: (無題) 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 27 日(金)01 時 47 分 38 秒 返信・引用

> No.1952[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

呼邑国

「q a w」に充てたもので「測り縄」の意味です。呼邑国は所有者の土地、畑の面積を測り、管理する測量府でしょう。所有者の土地登記は各郡国の役所で行なわれたことでしょう。(4.12.)

副官は卑奴母離、ヒナモリとされていますが、これは、h d b l の子音に充てたものとして捉え、その直訳は「その記録人」という意味 ...<http://www.saturn.dti.ne.jp/~ttshk/framepage46.htm>

対馬国－卑狗、卑奴母離

別項で、ツァバに充てた漢字で、その意味は「軍務」「兵役」であるとしました。それが後のヘブライ一掃で、「つしま」と読まれるようになったのであります。

一支国－卑狗、卑奴母離

魏志には、一大とも記されたこともありましたが、後にそれは誤りであるとされ、今の「壱岐」の前身であろうと考えられるようになりました。筆者も一大は、伊都と混同されたものと考えます。

一支は、y q に充てた漢字で、「間節がはずれる」「遠ざかる」という意味で、この動詞の変化形には、「つるす」「さらし者にする」「刺し殺す」という強い意味が込められたものもあります。密入国者は、ここでこっそり油をしぼられたものと考えられます。ここは、いわば出入国者の検問所であり、管理のための記録が取られていたのでありましょう。(12.15.)

伊都国（王都）－爾支、泄謨觚、柄渠觚

伊都王亡き後も、その郡国が魏に知らされたものです。

「イト」は「入り口」を意味する「イトン」を充てたもので、「伊都国」は「入口の国」の意味です。九州の北端にあって、文字通り大倭列島への入り口の役割りを果たした郡国といえるでしょう。(修正更新3.26.)

爾支は、「ネキ」に充てられたもので、「私のネコ（軍兵）」を意味しているので、王直属の軍兵を指すと見られます。

泄謨觚は、'b q の子音に充てられたもので、意味は王の「護衛官」でありましょう。

'は、無子音で、ここに母音が充てられます。

母音を充ててオベクとしますと、直訳は「格闘する者」「組打ちする者」で、護衛の意味に充てたものであります。

柄渠觚は、h q qに充てたもので、直訳は法を「制定する者」の他に「書き込む者」の意味があるので、「書記官」としました。

各府で記録されたものがここに集められ主要なものが記録される、言わば最高書記官でありましょう。これらの官は、王の遷都に伴って一緒に移動したことでしょう。

奴国—シ馬觚、卑奴母離

「奴」はヘブライ語のダンに充てた「裁く者」の意味です。

「刑務管理府」で、「紀（齐明天皇の項）」に載っている、後の「刑部省」でありましょう。

シ馬觚は、セバカに充てたもので、直訳は「格子窓」で、監獄や今日の刑務所を意味しています。

「シ馬觚」は監獄管理の長官であります。「卑奴母離」によって、その記録も行われ管理されていた。

不弥国—多模、卑奴母離

不弥は、h mに充てたもので、不弥国とは「声明を発する国」という意味です。

「多模」は、子音 t 'mに充てたもの、直訳は「布告」で、お触れを出す者、広報官のことです。その記録も取られ残されたのであります。

タアムには、「判断」の意味も込められています。(2.14.)

投馬国（教育府）—弥弥、弥弥那利

エドムは、後のヘブライ一掃で「出雲」となったことは別述しました。そして、投馬国はエドムにありました。

出雲の国、島根県の隠岐島には、都万村（つまむら）という名の村がありますが、この都万は、投馬から取ったものでありましょう。投馬は、ヘブライ一掃後は、「つま」と読まれることになったのです。

エドムからは、エトマも生まれました。エトマという地名が生まれる陰には、この投馬をトマと読んだこともあるでしょう。

筆者は以前には、投馬はエドムに充てたものと見ておりましたが、「投」はトウであってd音には充てない、この「馬」はどう見てもb音に充てたものである。従って、「投馬」は純粋にt b音に充てたものであると考えるようになりました。

その結果、投馬はトーブに充てた音と理解しました。倭人の発音が魏の書記者には、トーバと聞こえたかも知れませんが、それはどちらでもよいことです。

「トーブ」とは、宮沢賢治の童話に出て来るイーハトーブのトーブです。ヘブライ語で、「良い」「幸せ」「慈愛」「美しい」「立派な」の意味のこもった言葉です。イーハトーブをヘブライ語であると仮定しますと、その意味は「貴方の島は美しい」という意味になります。勿論、宮沢賢治がそのように意

識して造語したかどうかまでは判りません。

つまり、大ユダでは、教育府をエドムに置くことになり、その新しい命名が、「トープ」であったのです。エドムは、トープとも呼ばれるようになったのです。

官職、「弥弥」はm'm nに充てたもの、直訳は「教育させる者」「育成させる者」の意味になり、教育官のことです。

副官「弥弥那利」の「那利」は、n l yに充てたもの、直訳は、「完遂した人」「終えた人」の意味で、教育官を終えた人、即ち、名誉職のことです。大学教授を退官して名誉教授になる、と考えると判り易いのです。

n l y「ナリ」は、後の日本語の「成り」になったことでしょう。

大ユダの民の中で志の高い人々が、この「慈愛の国」に集まって高い教育を受けたのであります。(12.18.)

邪馬台国（司法府）—伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳ダイ

大ユダの頃のユダの当て字は「倭奴」でありました。

志賀島で発見された金印に記された「漢委奴国王」はその頃のものです。後漢書には、「倭奴」の表記があります。国内で作られたともいわれていましたが、この金印が国内で作られたものであるのなら、「奴」の文字は使わなかったでしょう。

卑弥呼の時代にはユダは「倭」一文字で記されています。「魏志倭人伝」には大ユダは「大倭」と表記されたのであります。

「日本書紀」には、魏志倭人伝に関する記載は、よそ事のようにしか載っていません。ところが実際には、この古文書は大ユダでは、大いに研究されたのであります。それは地名を改めるに際して大いに役立ちました。魏志が未来の国民に読まれるであろうことは充分想定されていたのであります。

「後漢書」からしますと、ヘブライ人の国は百余国あったのでありますが、卑弥呼が女王になって、魏に知らされたのが、魏志倭人伝に記載された三十国であったのです。大ユダの権力基盤が九州から近畿地方にまたがって集中していたので、この三十国で大方のまとまりが付いたのであります。

この頃には、飛脚が毎日のように飛ばされ、情報交換が繁茂に行われたことでしょう。その官名からして、邪馬台国は大ユダの司法府でありました。

伊支馬は、'q bに充てたもの、直訳は「足跡」「追跡者」の意味で、「捜査官」のことです。恐らくこの頃から、「強いて晒す者（自白させる者）＝オカッピキ」と「曲がった者（容疑者）とする者＝メアカシュ」が活躍していたと考えられます。

その頃から「しきりにせがんで争いを仕掛ける者＝ゴロツキ」と「震え慄かれる刺し殺す者＝ヤクズア」が存在していたからであります。

ヘブライ一掃後、伊支馬の官名は無くなりましたが、オカッピキとメアカシュの名は、江戸時代には「岡引き」「目明し」と当て字されて、残ったのであります。この二つは魏志には記されなかったからです。

次に、弥馬升ですが、m b s hに充てたもので、直訳は「恥をかかせる者」「恥を見させる者」です。裁判官にクロと判決を下されることで被疑者は恥をかかせることになり、犯行の証拠を見せられることで、恥を見させられることになります。即ち、「恥をかかせる者」とは「裁判官」のことです。大きな裁判に至っては、卑弥呼が裁判長となったことでしょう。

弥馬獲支は、m b q s hに充てたもの、直訳は「求めさせる者」「捜させる者」「追求させる者」で、証拠を捜し求めさせる者、取り調べて明らかにするために追求させる者としても、「検察官」のことであります。

奴佳ダイは、d n k d y nに充てたもの、直訳は「弁護としての裁く者」で、「弁護官」となります。(2.14)

狗奴国—狗古智卑狗

「魏志倭人伝」には、「その南に狗奴国あり、男子を王となす。その官に狗古智卑狗あり。女王に属せず」「倭の女王卑弥呼、狗奴国の男王卑弥弓呼と素より和せず」とあります。

狗奴は、g d、ガドに充てたもので、「攻撃する」の意味で「軍事実動府」。「末盧国」とされた兵の駐屯地と密接に繋がっていたと見られます。

狗奴国の男王は、「卑弥弓呼」と呼ばれていて、「狗古智卑狗」は、大ユダにおける官職名です。

「卑弥弓呼」は当時、既に蔑称であり、h m q qに充てたものなら、「入墨の騒ぐ者」となり、h m n q qでは、「入墨の反逆者」「入墨の狂暴者」という意味になります。これは「新羅本記」記載の「葛那子」のことです。

狗奴の男王（軍事府の司令官）は、卑弥呼が大ユダの女王となっても、それを受け入れようとしなかったのです。

「狗古智卑狗」の「卑狗」は、対馬国と一支国のホゲと同じもので、衛兵、兵士のことです。「古智」は「葛」と同じものカツインに充てたもので、「指揮官」「首領」の意味になります。残りの「狗」g音は、「高官」を示す「高い」という意味の語でありましょう。

「狗古智」は「最高司令官」、即ち、狗奴国の男王は、大ユダ軍事府の組織マトウラの最高司令官であったのです。この司令官「那古」が女王卑弥呼に対して叛乱を起こしたことにより、大ユダを二分する大きな戦闘となったのであります。

『万葉集巻1の6、ヘブライ語修復訳』にある、入墨の男とは、この最高司令官のことを言っているのです。(修正6.12.)

伊都国の一大率

魏志には、「尊卑各々差序あり、相臣服するに足る。租賦を収む、邸閣あり、国国市あり。有無を交易し、大倭[大ユダ]をしてこれを監せしむ。」とあるように、大ユダが税としての貢（租賦）を受け、各郡国の人々の市場における物と物、労働と物、といった交易を、統括管理していたのです。

「女王国より以北には、特に一大率（いちだいそつ）を置き、諸国を検察せしむ。諸国これを畏憚す。常に伊都国に治す。国中において刺史の如きあり。」

意味の判り難いのがこの「一大率」ですが、これが、y t s - d y - s h y tに充てたものとしなすと、「出て行く（来る）者の度毎に置く」という意味になります。その郡国から出て行く者が出る度毎に、そこに検察を置いて調べるということでしょうか。

理由なくそこを出て行く者が出るからには、その国には何か問題があると捉えられたのでしょう。諸国はこれを非常に畏れた。

「刺史」とは、各国の長の政績を報告する官のことです。常に伊都国に治すとあるのは、伊都国の王の所には各国のことが定期的に報告されていたのであります。女王国より以北の七十余国に関しては、そ

の報告により、おおよそのことは王都には把握されていたことでしょう。

卑弥呼が女王となったことによって、その報告は邪馬台国の卑弥呼の所にもいくことになります。その報告から、狗奴の男王が服さないことが知らされたわけです。

それまでは、それほど置かれることも少なかった一大率も、卑弥呼が女王となってからは、繁茂に置かれるようになったことで、各郡国の国民もそれを恐れたのであります。

帰郷していた兵士の中には、入墨の最高司令官那古の強い影響下にあった者もあって、各郡国の内部には争いも生じ、所によっては厳戒体制が敷かれたことでしょう。(2.14.)

n 音の脱落

恐らく読者はお感じになったであろうと思われますが、魏の書記者は、発音を正確に記録することにそれほど熱心ではなかったこと。「ン」に該当する「n」を表記から省略してしまったこと。等が挙げられると思います。

通訳を介したとしても、魏の記録者は、聴き取れた子音のみを漢字に充てたこと。

官名にしても、官名そのものよりも、官名の説明の方を官名として充てた可能性も少なくないと考えられます。例えば、「裁く者」は、ダンでありますが、裁判官をダンとした場合、奴国のダンと混同することになります。

そこで倭人が、ダンとは「恥をかかせる者」と説明を加える。魏の使いは、その説明の方の「メバシュ」を官名として、「弥馬升」とした、とも考えられるからです。

「一大率」にしても、その当て字は巧みでしたが、説明としてはわかり難いものともなりました。(2.14.)

統一大ユダ（大倭）と郡国ユダ（倭奴国）

「魏志倭人伝」「後漢書倭伝」には、「皆倭種なり」とあります。これは、どの郡国もみな古代イスラエル十二部族に繋がる血筋で同じ種族という意味です。

郡国のユダとは分ける意味で、統合のユダを大ユダ（大倭）としたのであります。(2.14.)

聖徳太子の大倭国

「倭」は今日でこそ、おくり仮名をつけて「倭（ゆだ）ねる」と読まれています。まだ大和言葉や、日本語の文法も充分発達していない頃は、「倭」一文字で「ユダ」と読まれたこともあったのです。

文法が統一されていない時期にはこうした書き方がしばしば行われたことは、『君が代』の項を読まればお分かり頂けると思います。

聖徳太子が注釈を加えたとされている『法華義疏』の注釈には「大倭国」とあり、この「倭」はこの一文字で、ユダと読まれたのであります。

要するに太子は、かつて「大倭国」と記したことがあったのです。

ただ、太子が著したとされる書物の殆どが後世の人が覚書を基にして書き著したもので、太子直筆の書き物というのは焼却され残されていないでしょう。

もう一つは、ヘブライ語を用いていた大ユダ時代には、「大倭」「大倭」の文字を使用した国名は一度も使われたことがなく、「大倭国」とは「大ユダ」を表現する一つの試みとして造語されたものとも

思えます。

ただこの試案の使用は後に否定されたのです。それ故「大倭国」の表記は「記紀」には使用されませんでした。「大倭」が専ら用いられるようになったのです。(2.14.)

国名としての官府

「魏志倭人伝」に録された倭国三十国各々の国名は、官府としての名称がその殆どを占めているようです。これと考えられるものを挙げていくことにします。

魏に対して、倭人は主に大ユダ直轄のそれぞれの官府を紹介したのです。というよりも大ユダの行政機構そのものを説明したのです。

その行政組織そのものが「魏志倭人伝」では倭国三十国として記載されたのであります。

新たに判明したこと

これは何を意味するのかと申しますと、邪馬台国の遣使が魏に行った際に、大ユダの行政組織やら事情やらの総てを説明したのです。

魏ではその倭人の説明通りに記録したのであります。恐らくはその説明者は難升米（実は難斗米の誤記）だろうと思われそうですが、その故もあって卑弥呼は魏から絶大な信頼を得たのです。

倭国三十国で固有名詞と考えられるものは邪馬台国と伊都国のみで、その他は皆一般名詞化したものばかりです。どういうことかと申しますと、東京国、大阪国、神奈川国といった記し方をした固有名詞は邪馬台国と伊都国のみで、他は皆、文部科学国、農林水産国、総理官邸国といった表記の仕方をしていくということです。

解説して判明したことですが、狗奴も奴も烏奴も既に一般名詞としての記録です。

躬臣国、巴利国、好古都国と国名として並んでいますと、誰もが吉備国、播磨国、薩摩国というように地方の固有名詞が並んでいるのだらうと思います。ですが現実には下記のように、今で言う官庁や省庁の役所を意味する言葉に国を付けて表わしたに過ぎなかったということです。

ヘブライ語の子音は比較的しっかりと表記されているのは、記録者が倭人の発音から直に聴き取ったものであるからでしょう。

晋の陳寿はその魏の記録を元にして「三国志」に「魏志倭人伝」として残したものの、「難斗米」から「難升米」への誤記はその時に生じたものと考えられます。

水行何十日といった表記で場所の特定が不明瞭なのは、書記者が倭国に行ったことがあるわけでもなく、言葉もよく通じないのと当人もよく理解しないまま、倭人の言ったことをそのまま記したので、不正確になったのは当然と言えば言えるかも知れません。(4.15.)

弥奴国（貢納府）

弥奴は「md」「ミッダ」に充てたものでしょう。その意味は「貢納義務」ですから、国民の税としての貢納を管理していた官府、今の国税庁に似たものといえましょうか。取り敢えず「貢納府」とでもしておきましょう。

鬼国（軍事防衛府）

漢音は「キ」ですが、これは「q y n」に充てたもので意味は「槍」。勿論、倭人が魏の使いに武器庫を案内したわけではなく、ここは軍事に関する官府でしょう。武器や軍事に関する事の管理、「軍事防衛府」としておきます。

「マトウラ」はあくまで衛兵や軍兵の駐屯地で、軍事作戦に基づく指令はここから出されていたのではないのでしょうか。

蘇奴国（監獄管理府）

蘇奴は「s a d」「サド」に充てたもの。意味は足枷（あしかせ）の「枷」、監獄管理でありましょう。

蘇奴を小豆島に比定する学者もおられますが、監獄そのものは島かも知れません。島流しの刑は早くから行なわれていたのでしょう。この監獄管理の官府は島の対岸にあったのかも知れません。囚人を隔離する場として島は利用し易かったからです。〔監獄管理府〕としておきます。

姐奴国（衣料府）

姐奴も蘇奴も、どちらも子音は「s d」ですが、こちらは女性に関わりが深い、或いは官職は女性が多かったかしたので、女扁の「姐」をs音に充てたのでしょう。「s d y n」のサディンに充てたもので、意味は「亜麻布の着物」。

この役所は衣料全般に亘る管理をしていたのでありましょう。各郡国の衣料、織物技術、布団、服飾、装身具に関する職業訓練（織物製作所）の指導、管理。官使の為の制服のデザイン、製作、等。「衣料府」。

躬臣国（薬事府）

クジ、またはコジと読まれている躬臣は、「q t s y'」「ケジア」に充てたものと思われます。ケジアはヨブの二女の名前でもありますが、この場合の「ケジア」は、「桂皮、肉桂」の意味です。

桂皮は、その薬効としての発汗、解熱、鎮痛、興奮に作用する生薬として、漢方薬に多く用いられています。

薬剤師は治療師と兼ねていたでしょうから、主に薬草、薬物の手配と管理。即ち、躬臣国は薬事に関する管理の「薬事府」としておきます。

巴利国（医療府）

ハリ国の「ハリ、h l y」は「病人」の意味ですので、「医療府」としておきましょいか。病人の治療に当たる治療師の手配、各郡国内の優秀な治療師の把握、治療所の管理。場合によって入院病棟の管理？官使が非常設看護師となる？常駐治療師が看護師代わり？非常事態に際しては「薬事府」「医療府」総動員？

好古都国（庶務管理府）

コカタ国と読まれています。古都は「q t n、カトン」に充てたもの、「好」は「q w、コエ」に充てたものと捉え、その意味は「身分の低い者の集まる所」とされます。

住民登録は各々郡国内の役所で行なっていたでしょうから、ここは大ユダ国と一般庶民の折衝する場、国からの窓口、が主目的だったのではないのでしょうか。庶民の全国規模に亘る職業安定所の役割と庶民の相談窓口。全国の職業技能者の把握。「庶務管理府」としておきましようか。(4.6.)

斯馬国

「s h b'」に充てたもので「豊作、豊富、満腹」の意味があります。

他に食物、食糧を意味する言葉があるにも関わらず、「シャバ」が選ばれたのはやはり「豊作」がベストのネーミングであったからでありましょう。多分、米、麦に限らず、穀物全般と野菜、果物、酢、塩、酒、魚貝、海藻も含む食物全般を含む管理の府と思われます。

「斯馬」をs o b e'に充てたと考えると「上等の酒」という意味になりますが、やはり「豊作(s h a b a')」に充てたと考えるほうが妥当でしょう。一応、穀物管理府、食物管理府、食糧府と色々に表現出来ます。

「記紀」に出て来る「アヒラ」「タラシ」はこの食糧府の官職の中の一部門を表現したものでありましょう。

伊邪国

「y e z a」に充てたもので意味は「汗(あせ)」です。ここは言わば労働省で、土木、建設、林業、採石、採鉱、漁業、農業、農園、労働全般に関する管理府でしょう。「労働府」としておきます。

邪馬国

「z a b」に当てたもの。「流れるもの、漏出る、衰え」を意味していて、河川敷、堤防の決壊、通行道の破損、橋の破損、それらの修繕、修復。言わば国土交通省で、河川敷や通行道全般に関する管理の府でありましょう。

自然災害の多い島国では大いに重用されたのであります。国土府。

対蘇国

「対」は「t s o a」に当てたもので、「汚物、排泄物、糞尿」を意味する言葉です。「蘇」は「s o h e」で「一掃」の意味なので、汚物処理に関する管理と指導の府と言ったらよいでしょう。

各郡国には保健所のような役割を持った部署があつて、そこへの指導府のようなものでしょう。

呼邑国

「q a w」に充てたもので「測り縄」の意味です。呼邑国は所有者の土地、畑の面積を測り、管理する測量府でしょう。所有者の土地登記は各郡国の役所で行なわれたことでしょう。(4.12.)

華奴蘇奴国

華奴は「q a d o」に充てたもので、「火をつける、燃やす」という意味です。蘇奴は「s h a d e」で「野、畑、地」のことです。つまり華奴蘇奴とは「野焼き、焼畑」のことを言っているのです。

農地を拡大していくのに野焼きをして、畑を増やしていったのです。各郡国の役所に届け出された焼畑を全国的に管理していた府と考えられましょうか。焼畑管理府としておきます。

華奴蘇奴国に関する以前の解釈は誤りでした。

鬼奴国

「k i d d a」に充てたと考えられます。この意味は「桂皮、桂枝」。桂枝は、漢方薬、柴胡桂枝湯で使われる生薬、つまり薬事府です。

ケジア躬臣国がやはり同じ意味を持っていましたが、この場合の当て字は鬼の奴隷です。「鬼」は軍事府でした。つまり、キッダは軍事府直属の薬事府でありましょう。

負傷兵の為の薬事局であったり、戦時には、救急医療班の設置なども行なわれたのではないでしょう

か。

平時には兵士の健康管理にあたる。軍事薬事府としておきます。

狗奴国

「g a d, g u d」は「攻撃する」という意味なので、狗奴国は軍事訓練をする実動部隊の宿舎のあった府ではなかったでしょう。軍事實動府としておきます。

奴国

「d a n」は「裁く」の意味であることと、官名がシ馬觚(刑務管理官)であることから、刑務管理府としておきましょう。

古代ヘブライ語では他に、「裁く、弁護する」の意味を持つ語として「s h a p h e t」がありますが、何故か「d a n」が用いられたのです。これは元北イスラエルのダンと懸けた言葉と、筆者は見ているのであります。

他に「懲らしめ」の意味である「s h e p h e q」がありますが、日本語の「ショッピク」はここから出た言葉ではないかと見ます。(4.13.)

烏奴国

「'w d」に充てた国名としますと、そこには「警告する、注意する、諭す、戒める、取り巻く、囲む、証言する」等の意味が込められています。つまり、ここは大倭の警邏府でありましょう。今の警察庁のような存在。

三国史記の中の、將軍于道朱君（うどうしゅくん）とはこの烏奴、警邏府の兵の長でありましょう。

（『上古天皇の加増在位年について』神武天皇の項参照）神武天皇が派遣したのは軍隊ではなく、警邏兵であったのです。

支惟国

「q w y」に充てたと考えられますが、その意味は「人が集る」。恐らくは大集会場、全国から人が集って、大集会が行なわれる為の宿泊施設などが整備されていた府ではないかと推察します。

大集会は野外や楼閣を用いて行なわれたか、部門別は小さな家屋で、どれかの府が主催する研修会や講習会、講演会などが全国規模のものとして開かれていたと推察します。大王のする話は誰もが聴きたがったのではないのでしょうか。

今日的な宿泊施設というのが無いので、それ相応の努力を払って、大勢の人々を招き易いようにしていたと思われます。地方の人は年にそう何回も来られないので、集会の計画も綿密に立てられ、滞在期間なども考えられたことでしょう。全国集会管理府としておきましょうか。

都支国

「t w o k h」に充てたとしますと意味は「中央、真中」で、大倭の行政組織の中心ということになります。

各府を統括管理しているのがこの「中央府」であり、大王直属の府でありましょう。

巳百支国

「巳」は呉音の「ジ」ですが、これは「多種類」という意味の「z a n」が充てられたのです。

「百支（ハクキ）」は「h q q」が充てられ、合わせた意味は「多種類の法制定」です。つまり、巳百支国は、国会のように議会の置かれた立法府でありましょう。

郡国の王達や立法官が議会を開いて、法の制定を行なう場で、予算配分などもここで決められたことでしょう。(4.14.)

為吾国

「y a g a」に充てたと見られますが、意味は「苦勞して得たもの、稼ぎ」で、貨幣が用いられていない時代ですから、この場合の稼ぎは物の蓄えを意味するでしょう。

物は主に食糧などの備蓄、在庫を管理する府であると考えられます。備蓄管理府。

魏の書記者は「為吾国」では「g」音に「狗」ではなく「吾」を充てています。恐らく「為吾」は司馬遷の「史記」の中にある「呉太伯世家の夷吾」に引っ懸けた言葉ではないかと見ます。

勿論、この場合の為吾は夷吾とは何の関わりもないのですが、それは、「魏略」や「晋書倭人伝」には旧聞として「自謂太伯之後」とあるからです。「倭人は自ら自分達は太伯の後裔であると謂う」という意味ですが、さらには「昔夏后小康之子、封於会稽」とあります。

「史記」によれば、夏の後「小康」は太伯より時代が古い夏の人です。「太伯（たいはく）」は、三国時代の呉が興る以前の「呉」の始祖とされている人で、その子孫の系譜に「夷吾」の名があるのです。

この太伯と小康は、共に古代ではヘブライの流れを汲んでいた民と見ます。

太伯の父は「古公亶父（ここうたんぽ）」という人で、途中からそれまでの様式から離れて中国の様式に従って生活するようになった人とされています。

そして、古公亶父の先祖が「周」の始祖とされている神話的人物「弃（き）」であります。この弃という人の母は姜原（きょうげん）といって、巨人の足跡を踏んで妊娠し、弃を生んだと「史記」に書かれています。

要するに、弃の父親は神であったのです。このように出生、出自がはっきりしない伝説に包まれた人というのは、歴史的にも神の霊によって導かれた人が多いのです。(4.16.)

狗邪韓国

「g w z」に充てたと考えられますが、意味は「過ぎ去る、運んで来る」です。

いわば、渡し場、韓国にある船着場といった意味でしかないかも知れません。恐らくは定まった固有名詞の地名としては存在していなかったでしょう。ただ倭人が朝鮮半島の南端を「グズ、或いはグザ」と自分たちの間でそう呼んでいたかも知れないのです。

当時倭人はそれほど制約を受けずに朝鮮半島に出入り出来たのです。それは同じ血族のヘブライ人が南端にまだ住んでいたからに他なりません。

大雑把な推論ですが、B. C. 1150年前後頃、エドム一族が日本列島に移住してきた際に、一族は列島と朝鮮半島にまたがって居住し、列島への移住者の出入国管理を既にしていました。

だんだん数を増やしていった或る日、B.C. 700から660年頃、イザヤの三人の子らが率いるユダの民が移住してきます。後に数を増やしたこのユダがエドムに替わって列島の統治権を握ることになったのです。

これが「倭奴」「倭」即ち、ユダ王国の始まりです。ユダが列島における支配権を握ったことは朝鮮半島に住むエドムとの間に或る種の溝を生むことになるのです。

列島においても朝鮮半島においてもエドムとユダの混血は相当に進んでいました。にも関わらず、倭に対して線引きするようになっていきました。エドムから後の箕子朝鮮や高句麗、三韓が生れ、数が増えていった力を増していくごとに、次第に朝鮮半島のユダ、倭人は南端へと押しやられる格好となっていったのです。

これが次第に両者の間に愛憎半ばする近親憎悪的な、丁度、後の新羅と倭のような関係になっていったのです。

早い時代から少しずつ自分達の文化を形成させていたことでしょう。ですが卑弥呼の時代にはまだ、昔の近所付き合いのよしみでといった関係がまだあったのであります。言葉も通じていました。

ヘブライ語の父は「アブ」母は「エム」ですが、朝鮮語の父は「アバジー」母は「オモジー」でヘブライ語の名残りが残ります。同じヘブライ人ではあっても、日本民族とは異なる経緯を持って朝鮮民族となったのです。

何故、このような結果か？

知られている語彙がそう多くない古代ヘブライ語の辞典から、倭国三十国のそれぞれは探し当てたものです。

充てられた漢字の音は漢音か呉音と捉え、その子音から該当すると考えられる語彙を探すという作業でした。

こうでなくてはならないと考えられる単語に焦点を当てていくと、分厚いヘブライ語辞典でも該当単語は一つに絞られます。それで仕上がったのが上記の結果です。

ですから、誰が作業しても大体同じような結果が出るだろうと思います。

以上のような結果を見て、読者の中にはこのようであったかも知れないと思う読者と、卑弥呼の時代にこんな行政組織などがある筈がないと思う読者とがあることでしょう。しかし、これらはあつて当然と考えるのが妥当な考えです。

何故、そう言えるのでしょうか？共同体が形成される前には、まず人々による話し合いが行なわれま

す。

そこでは最初にリーダー、即ち王が決められるでしょう。次には各自が何をするか、役割り分担が決められるでしょう。

つまり、その役割り分担が大きくなり組織化される、その役割り分担の延長上にあるのが行政組織なのです。

ですから、どんな小国であれ、これらの行政組織があるのは当然なのです。

最初、役割りは自分の仕事、例えば農業などをしながら奉仕としてすることになります。ところが共同体の中で人の数が増えてきますと、片手間でそれらの役割りをこなすことは難しくなります。そうしますと、他の人々が貢物をしてその役割りを維持してもらうことになります。

王や役割りにある人は自分の仕事から離れ、役割りに徹し、貢を受けて務めを維持していくことになります。ここから貢納が始まります。

共同体が大きくなると貢納を管理しなければならなくなります。そこで貢納府が誕生することになります。

人が増えてくると様々なことで揉め事が生じやすくなります。その為に生活していく為の様々な規則が作られなければならなくなります。そこで規則が決められる話し合いの場が出来る、それが大きくなって立法府となる。一番最初の話し合いは立法府の始まりです。

王の住居が今日的な目で見ても、掘っ立て小屋のようなものであったとしても、それは立派な王宮だったのです。それが貢納府であっても立法府であっても同様です。(4.18.)

使訳は使駅の誤り

倭国三十国が行政機関の役所としますと、いろいろなことが分ってきます。

「後漢書」には、「凡そ百余国。使駅漢に通ずる者、三十許国」とあって、これが「魏志倭人伝」では「旧百余国。使訳通ずる所三十国」となっており、通常「使駅」は「使訳」の誤りとされています。ですが、実際は「使駅」が正しいということになります。

駅といえば、私達が思い出すのは、東京駅や上野駅といった電車の駅ですが、古代における駅とは、中継所、宿場の意味を持っていました。

「日本書紀」神功皇后の項には「多沙城を足し賜わって、往還の道の駅とされた」とありますが、つまり「後漢書」の場合の駅とは、中継所でもある役所を言ったものです。漢の使者が行く際に役所として通じるのが三十国、という意味であります。

駅は馬廄ですが、現代の駐車場のように、馬で行き来する役人のために馬を留めておく場所が用意されていて、宿をも兼ねたものであったのかも知れません。電話もファックスも無い時代、役所は互いに徒歩で、或いは馬を使って行き来し情報交換していたのでしょう。我が国でも、郵便局のことを古くは駅通局とっていました。

「使訳」は通常、「使者と通訳」と解されていますが、そうしますと三十国は通訳が通じるが、残りは通じないのかということになって、意味がまったく分らなくなります。

范曄は、陳寿が「魏志」で犯した誤りを「後漢書」で訂正したのであります。

皆、王を称する

さらに「後漢書」の倭伝には「国は、みな王を称する」とあります。

これは要するに、倭国ではその役所の長であっても皆、王を称するという意味です。

固有名詞の国の長も王、労働府や衣料府のような役所の長も王を称するということでもあります。

「魏志倭人伝」記載中の「狗奴国の男王」という表記がそれを端的に物語っています。これは軍事実動府の長に過ぎないわけですが、その長は王を称していたことから、このような表記になったのであります。(6.14.) (修正更新'05.3.26.)

訓読みの「いわ」に続き、音読みや中国語の読みが混在しますが、ヘブライ語の発音に漢字があてられた際に、そのルーツがあからさまにならないように、異なる読み方になるように工夫されているの
...<http://www.historyjp.com/article.asp?kiji=173>

魏志』倭人伝[12]では、「対馬国」は倭の一国として登場する。帯方郡から邪馬台国への経路の途上、「狗邪韓国」（韓国慶尚南道金海）の記述につづいて「一海を渡ること一千余里」の南に位置するとしており、邪馬台国に服属した30余国のなかの一国であった。そこには、対馬は、居る処は絶島で、土地は山が険しく、深林が多く、道は獣の径（みち）のようであり、千余戸の家はあるものの、良田がないので海産物を採集して自活し、船による南北の交易によって生活していたと記されている。また、他の倭の諸国にもみられる「卑狗」（ヒコ）という大官と、「卑奴母離」（ヒナモリ）という副官による統治がなされていたとする。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q14117022264

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%BE%E9%A6%AC>

魏志「倭人伝」の中に倭国の島として対馬が登場

満州族、朝鮮民族、ベトナム民族等のO2B*と、弥生人のO2B1は、約7870年前に完全に別れ、その後、何ら接触がなかったという事です。もちろん、弥生人は朝鮮半島を経由したのかもしれませんが、あるいは中国から直接来たのかもしれませんが。しかし、現在のところ、（経由でも痕跡くらいは残っているはずですが）中国東北部から「O2B1」が検出されない為、弥生人は中国本土から直接渡来した可能性があります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%9D%E9%AE%AE%E6%B0%91%E6%97%8F#...>

「Y染色体ハプロタイプ」から「日本民族」の系統を、おおよそでまとめてみると、以下の通りとなります。

★日本人と「チベット民族、そして中東、地中海沿岸民族」とは近縁であるというのは、こういった経緯があるからです。そして、日本列島では、しばらくの間（1万年～2万6千年間）、縄文人（D2）だけの世界が続きます。

「wikipedia」を参照して下さい。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E...>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E...>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%83%99%E3%83%83%E3%83%88%E...>

【DE 系統 E 亜型 E1b1b】

http://www.eupedia.com/europe/Haplogroup_E1b1b_Y-DNA.shtml

さて次に、やはり 6 万年前にアフリカを出て東へ向かった、別の系統「C F 系統 F」です。「C F 系統 C F」から「C F 系統 F」が誕生し、中央アジア（インド付近）に留まります。その後、幾たびかの変遷を経て、東アジアで一般的な「N O 系統 O」の民族が誕生します。2 万年～2 万 5 千年前に「O 3」が誕生し、今の中国人（漢民族）となります。また「O 2 B」も誕生しますが、こちらは今から約 7 8 7 0 年前に、2 つに分かれ、その一方は、満州族、韓国人（韓民族）の「O 2 B *」、もう一方は「弥生人」の「O 2 B 1」となります。「O 2 B 1」に「O 3」も加わって、有史以前の、今から 3 千年～4 千年前に日本列島に渡来しました（有史以降の渡来は少数です）。日本列島へ「弥生人（O 2 B 1 と O 3）」が渡来した後、「縄文人（D 2）」との混血として今の日本人（大和民族）と琉球民族が誕生します。しかし、アイヌ民族は、弥生人と混血する事はありませんでした。

http://www.soken.ac.jp/news_all/2719.html

JAPAN DNA Project

<http://www.familytreedna.com/public/japan/default.x?section=yresult...>

ISOGG(遺伝的系譜国際学会)

<http://www.isogg.org/tree/>

http://www.isogg.org/tree/ISOGG_HapgrpD.html

http://www.isogg.org/tree/ISOGG_HapgrpO.html

<http://ja.wikipedia.org/wiki/Y%E6%9F%93%E8%89%B2%E4%BD%93%E3%83%8F%...>

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

>> 一大率さんへのお返事です。

>>

>>> 邪馬壹【臺】國は畿内です。

>>

>> 一大率さんのおっしゃるとおり、邪馬壹は畿内の奈良ですな。

>> 秦野の魏志倭人伝、等から、卑弥呼の墓、邪馬台国の建築物が現在でも残っています。

>>

>>> 1 度が 108km、故に 4 度で 432km。 432km が千里、故に 1 里は 432m。

>>

>> 1 里は実測で約 53 m になるな。今までの研究家は、ろくに文章を読まず文章では・・・。

>> 無責任ですな。短里は存在しますが、古田の单里＝77 m は精度がわるい。

>>

>> 対馬国

>>

>> 絶島で 400 余里四方の広さ。400 余里×約 53 m≒21km

>> 21km 四角になるな。対馬島（上島、下島）かは不明。図添付

>>

>> 2.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗（ひこ）、副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

>>

>> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

>>

>

>

> やはり邪馬台国の位置と領域を考える上では、その境界までの距離と、境界から都までの距離とを別にして考える必要がありそうですね。

>

> その境界を守っていたのが、ヒナモリと考えるべきでしょうか。下記参照。

>

>

>

> 邪馬台国時代の軍事的長[編集]

>

> 『魏志倭人伝』は、邪馬台国に属する北九州の対馬国、一支国、奴国、および不弥国の副官に「卑奴母離」（ヒナモリ）がいたことを伝えている。これらの国々は邪馬台国の外国交易ルートに位置し、外敵や賊に対する守りを固めるために置かれた男子の軍事的長の称号と考えられる[1]。

> 魏志倭人伝の卑奴母離は、奈良時代以後の夷守と同じ言葉と見られるが、上代特殊仮名遣で夷守の「も」は甲類であるのに対し、卑奴母離の「母」は乙類であり発音が少し違う。可能性としては、卑奴母離の方が魏志倭人伝の誤記であるとか、或いは夷守の「も」が弥生時代は乙類の発音で、奈良時代までに甲類の発音に変化した事も考えられる。卑奴母離と夷守が別の意味の言葉である可能性も残る。「も」の甲類と乙類の区別は古事記には残っているが、日本書紀では使い分けはなくなっている（乙類の発音はある）。「も」乙類は奈良時代でも既に消滅しかけていた。

> 地名・施設名のヒナモリ[編集]

>

> 奴国が位置した筑前国には、糟屋郡（現在の福岡市）に「夷守（ひなもり）駅」（『和名抄』）があり、現在は日守（ひもり）神社が建っており、卑奴母離が駐在したところと考えられる。『延喜兵部式』（延長元年、923 年）には日向国諸県郡に夷守（ひなもり）駅を記し、『日本書紀』、『景行天

皇紀』に登場する兄夷守・弟夷守が所在した所であり、現在は「宮崎県小林市細野夷守」となっている。近くの霧島岑神社は夷守（ひなもり）神社とも称されている。3 - 4 世紀頃、熊襲や隼人に対する守備隊が駐屯した所と考えられる。『和名抄』は越後国頸城郡に「夷守郷」を収め、現在は新潟県妙高市に「美守（ひだもり）」があり、新潟県上越市にはかつて美守村が存在した。3 - 4 世紀頃、北陸道の守備隊が駐屯した所と考えられている。『延喜式神名帳』には、美濃国厚見郡（現在の岐阜県岐阜市茜部本郷）に比奈守（ひなもり）神社を収めている。3 - 4 世紀頃、飛驒（ひだ）人に対する守備隊が駐屯した所と考えられる[2]。

> ヒナモリに見る邪馬台国の範囲[編集]

>

> 日向国、美濃国、越後国に残るヒナモリの名前は、そこに邪馬台国の軍事的長がいたことを意味し、そこまで邪馬台国の勢力が及んでいたことを示唆している、とする考えもある。しかし日向国以外のヒナモリと卑奴母離については、その関連は不明である。また日向国のヒナモリは地名・神社名であり、卑奴母離は役職名と考えられることに注意。<http://ja.wikipedia.org/wiki/ヒナモリ>

>

>

>

>

> 確かに境界にヒナモリが配置されていた可能性は高そうです。

>

> 「ヒナ」が後に「日」になる。「日守」は神道系ですね。「日」信仰の出現と、「ヒナ」の意味とが重複してくるとまた興味深いところです。

>

> 長官の「ヒコ」も同様な意味をもっていたとするとどうなるか。「ヒコ」は中国系の美男を現す「彦」に由来していて、後代「日子」になる。

>

> ある時期から「日」が自分たちを示す言葉になっていったのでしょうか。

>

> なお「卑+難」の組み合わせは、魏志韓伝の半島東南部の地域名に多く見えるんですね。おそらく、馬韓や邪馬台国にあったであろう鬼神信仰、江南系の稲作関連習俗などとかかわっていて、それが乙の時代かに、倭へともたらされていったときに、「ヒナ」「ヒコ」の呼称ももたらされていったのでしょうか。

>

> 「卑弥呼」「日巫女」・・・。

>

> そもそも、彼らの文化圏で、巫女はどこにいたのか？も課題ですね。

> 武人はヒナ守のように、境界付近にいたでしょうけど、巫女、女王は、かならずしも境界に板とは限りません。

>

> 卑難の領域については、会報に掲載した下図参照。

Re: (無題) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 26 日(木)23 時 05 分 8 秒 返信・引用

> No.1951[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 一大率さんへのお返事です。

>

>> 邪馬壹【臺】國は畿内です。

>

> 一大率さんのおっしゃるとおり、邪馬壹は畿内の奈良ですな。

> 秦野の魏志倭人伝、等から、卑弥呼の墓、邪馬台国の建築物が現在でも残っています。

>

>> 1 度が 108km、故に 4 度で 432km。 432km が千里、故に 1 里は 432m。

>

> 1 里は実測で約 53 mになるな。今までの研究家は、ろくに文章を読まず文章では・・・。

> 無責任ですな。短里は存在しますが、古田の单里=77 mは精度がわるい。

>

> 対馬国

>

> 絶島で 400 余里四方の広さ。400 余里×約 53 m≒21km

> 21km 四角になるな。対馬島（上島、下島）かは不明。図添付

>

> 2.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗（ひこ）、副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

>

やはり邪馬台国の位置と領域を考える上では、その境界までの距離と、境界から都までの距離とを別

にして考える必要がありそうですね。

その境界を守っていたのが、ヒナモリと考えるべきでしょうか。下記参照。

邪馬台国時代の軍事的長[編集]

『魏志倭人伝』は、邪馬台国に属する北九州の対馬国、一支国、奴国、および不弥国の副官に「卑奴母離」（ヒナモリ）がいたことを伝えている。これらの国々は邪馬台国の外国交易ルートに位置し、外敵や賊に対する守りを固めるために置かれた男子の軍事的長の称号と考えられる[1]。

魏志倭人伝の卑奴母離は、奈良時代以後の夷守と同じ言葉と見られるが、上代特殊仮名遣で夷守の「も」は甲類であるのに対し、卑奴母離の「母」は乙類であり発音が少し違う。可能性としては、卑奴母離の方が魏志倭人伝の誤記であるとか、或いは夷守の「も」が弥生時代は乙類の発音で、奈良時代までに甲類の発音に変化した事も考えられる。卑奴母離と夷守が別の意味の言葉である可能性も残る。「も」の甲類と乙類の区別は古事記には残っているが、日本書紀では使い分けはなくなっている（乙類の発音はある）。「も」乙類は奈良時代でも既に消滅しかけていた。

地名・施設名のヒナモリ[編集]

奴国が位置した筑前国には、糟屋郡（現在の福岡市）に「夷守（ひなもり）駅」（『和名抄』）があり、現在は日守（ひもり）神社が建っており、卑奴母離が駐在したところと考えられる。『延喜兵部式』（延長元年、923年）には日向国諸県郡に夷守（ひなもり）駅を記し、『日本書紀』、『景行天皇紀』に登場する兄夷守・弟夷守が所在した所であり、現在は「宮崎県小林市細野夷守」となっている。近くの霧島岑神社は夷守（ひなもり）神社とも称されている。3 - 4世紀頃、熊襲や隼人に対する守備隊が駐屯した所と考えられる。『和名抄』は越後国頸城郡に「夷守郷」を収め、現在は新潟県妙高市に「美守（ひだもり）」があり、新潟県上越市にはかつて美守村が存在した。3 - 4世紀頃、北陸道の守備隊が駐屯した所と考えられている。『延喜式神名帳』には、美濃国厚見郡（現在の岐阜県岐阜市茜部本郷）に比奈守（ひなもり）神社を収めている。3 - 4世紀頃、飛驒（ひだ）人に対する守備隊が駐屯した所と考えられる[2]。

ヒナモリに見る邪馬台国の範囲[編集]

日向国、美濃国、越後国に残るヒナモリの名前は、そこに邪馬台国の軍事的長がいたことを意味し、そこまで邪馬台国の勢力が及んでいたことを示唆している、とする考えもある。しかし日向国以外のヒナモリと卑奴母離については、その関連は不明である。また日向国のヒナモリは地名・神社名であり、卑奴母離は役職名と考えられることに注意。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/ヒナモリ>

確かに境界にヒナモリが配置されていた可能性は高そうです。

「ヒナ」が後に「日」になる。「日守」は神道系ですね。「日」信仰の出現と、「ヒナ」の意味とが重複してくるとまた興味深いところです。

長官の「ヒコ」も同様な意味をもっていたとするとどうなるか。「ヒコ」は中国系の美男を現す「彦」に由来していて、後代「日子」になる。

ある時期から「日」が自分たちを示す言葉になっていったのでしょうか。

なお「卑+難」の組み合わせは、魏志韓伝の半島東南部の地域名に多く見えるんですね。おそらく、馬韓や邪馬台国にあったであろう鬼神信仰、江南系の稲作関連習俗などとかかわっていて、それが乙の時代かに、倭へともたらされていったときに、「ヒナ」「ヒコ」の呼称ももたらされていったのでしょうか。

「卑弥呼」「日巫女」・・・。

そもそも、彼らの文化圏で、巫女はどこにいたのか？も課題ですね。

武人はヒナ守のように、境界付近にいたでしょうけど、巫女、女王は、かならずしも境界に板とは限りません。

卑難の領域については、会報に掲載した下図参照。

Re: (無題) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 26 日(木)13 時 17 分 55 秒 返信・引用 編集済
> No.1948[元記事へ]

一大率さんへのお返事です。

> 邪馬壹【臺】國は畿内です。

一大率さんのおっしゃるとおり、邪馬壹は畿内の奈良ですな。

秦野の魏志倭人伝、等から、卑弥呼の墓、邪馬台国の建築物が現在でも残っています。

> 1 度が108km、故に4 度で432km。 432km が千里、故に1 里は432m。

1 里は実測で約53 mになるな。今までの研究家は、ろくに文章を読まず文章では・・・。

無責任ですな。短里は存在しますが、古田の単里=77 mは精度がわるい。

対馬国

絶島で400 余里四方の広さ。400 余里×約53 m≒21km

21km 四角になるな。対馬島（上島、下島）かは不明。図添付

2.始めて海を1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗（ひこ）、副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獸道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

魏志倭人伝と邪馬壹を整理して著書：徐福と邪馬台国に纏めています。参考。

amazon.co.jp 秦野北斗、著書：徐福と邪馬台国

>> それ以前の尺は若干それより短い10.5km、 10.8km を用いていて、それは各時代の尺単位の伸びに対応していました。

>

> 1 度が108km、故に4 度で432km。 432km が千里、故に1 里は432m。

> で

> 魏志倭人伝は記述されている。

>

> 狗邪韓國

> ↓

> 對海【馬】國

> ↓

> 一大國

> ↓

> 末廬國 は、

> 緯度的に4度差つまり1000里=432 kmで記述している。

>

>

Re: (無題) 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013年12月26日(木)12時30分47秒 返信・引用

> No.1949[元記事へ]

> 一大率さんへのお返事です。

> 案山子さんへのお返事です。

>

「一里=約七六～七メートル」だった。これはわたしがかつて『「邪馬台国」はなかった』でしめした魏晉（西晋）朝短里（一里=約七五メートル。精しくは「七五～九〇メートル」の間で、七五メートルに近い、とした）と驚くべき一致をしめたのである。氏はこの両者の一致を「単なる偶然の一致」としてすませることは出来ない」と結ばれた。

思えば、わたしにとって氏との邂逅（かいこう）は、楽しき思い出にみたまされている。当時京大の工学部の学生であった氏は、わたしに一葉の書便をもたらされた。その中で、わたしの本に着目したのは、一に「学問としての方法」にあることを、懇切にのべておられたのである。

爾来、氏はわたしの家にしばしば訪れられ、わたしもこの若き探究者に最近の発見を告げることを楽しみとするようになった。そのある日（一九七五年）、氏は“『周髀算経』が「短里」で書かれている”という、自己の発見を告げられたのであった。わたしの家の夕食の席でしめされた一片の計算用紙、それが今もわたしの手もとになつかしく保存されている。

魏志倭人伝と短里 『周髀算経しゅうひさんけい』の里単位

<http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/tyosaku14/atogaki.html>

倭人伝の「一万二千里」（帯方郡治→女王国）が「短里」という実定値で書かれている、とすれば、あの「邪馬台国」近畿説がもはや成り立ちえないことは、自明だ。なぜなら従来の近畿説は、この里程記事を誇張として「無視」ないし「軽視」するところに成り立っていたからである。

さらに、「誇張」等の名に乗じて、「部分里程」の総和が「全里程」（一万二千里）にならぬまま放置して、その上に立論してきた、従来のすべての「邪馬台国」論者も、今や鼎（かなえ）の輕重を問われるに至ったのである。

その第三は、卑弥呼の墓だ。「径百余歩」と書かれた、その長さは、「一里=三百歩」（『周髀算経』等）であるから、「三〇～三五メートル」の円冢（=塚）となる。従って「一五〇～二〇〇メートル」の前方後円墳（たとえば箸墓）などにあててきた、従来の知見は当然否定されざるをえない。

このように、「短里」問題を契機として、邪馬一國研究史は画期をむかえた。後代、忘るべからざる必須文献となるであろう、この谷本論文を、氏の御快諾をえてここに収載させていただくことを喜びとする。現代の若き探究者が独創的に、未来の広大な研究の基礎を築いた、これこそその明らかな証跡となるものであらうから。

『周髀算經』という中国古代の天文算術書の中に現われる「一里」は約七十六ないし七十七メートル程度である（拙著「中国最古の天文算術書『周髀算經』之事」『数理科学』一九七八年三月号）。

有名な「魏志倭人伝」の中の里は、通常の里単位認識では到底理解できない。これを、誇大値の類とせず、従来知られていた里とは異なる「短い里」として理解されたのが、安本美典氏、野津清氏、古田武彦氏などであった。特に、古田氏は、『「邪馬台国」はなかった』その他の著作で「魏晉（西晉）朝短里」という概念を提出された。それによれば、一（短）里は約七十五ないし九十メートルであり、しかも七十五メートルに近い数値であるという。『周髀算經』の里と古田氏の提示された短里とは、数値がきわめて近く、単なる偶然の一致とみなすことはできないであらう。

『周髀算經』は周の時代（西周はBC一〇五〇年～BC七七一）に行なわれた天文観測の方法を記載する中国最古の天文算術書であるといわれている。

中国の古代の算術書は、いわゆる算經十書として版本が伝わっており、その中でも、『周髀算經』『九章算術』『海島算經』などは漢から三国時代（二～三世紀）にかけて整理され、教科書として使用されていた模様であるから、中国古代の算術知識を知る上で興味深いと言えよう。

『周髀算經』という書物の成立時期は、だいたい三世紀初め頃と思われる。初めて注釈した趙君卿（ちょうくんけい）という人が、「漢」の趙君卿と記しており、その注に引用されている書物のなかで後漢の劉洪（りゅうこう）の作といわれる『乾象歴けんしょうれき』（二〇六年頃）が最も新しいことから、趙君卿が注釈整理したのは、二〇六年から二二〇年（後漢末）の間の時期ということが分かる。『漢書』芸文志には『周髀算經』の名は見られないので、前漢以前には現存のような形では知られていなかったようである。

『周髀算經』は、周公（周の武王の弟）と商高（当時の賢大夫）の問答から始まる。ここでは天文観測の方法の基礎が、勾股弦（こうこげん）の法、用矩（ようこ）の法として述べられており、内容的には原始的な三角測量の原理と簡単なピタゴラスの定理の応用である。

直角三角形の直角を挟む二辺を勾（句とも記す）、股といい、斜辺を弦と呼ぶ。三対四対五の率は、「自然の率」として非常に古くから知られていたようである。なお、本書では、二辺が既知の場合に他の一辺を開平により求める一般的なピタゴラスの定理の応用も見られる。用矩の法とは、直角三角形の相似関係により、距離・高さ・深さなどを求める方法で、原始的な三角測量法ということができよう。「矩」とは、その正確な形状は分からないが、さしがねの様な形をした測量具である

南北に各々千里離れた三地点で夏至の日の影の長さが分かっているのであるから、三角法の簡単な計算により（図3参照）、観測地点は北緯約三十五度であり、一里は約七十六ないし七十七メートルと知ることができる。勿論観測の誤差などを考えれば、有効数字としては慎重に処理しなければならないにしても、従来知られていた約四百～五百メートルの里とは明らかに異なる里単位である点を確認することが重要である。

Re: (無題) 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013年12月26日(木)12時16分9秒 返信・引用

一大率さんへのお返事です。

案山子さんへのお返事です。

魏志倭人伝は単里になる。『四百里』を一辺『四百里』の正方形は里と考えます。

中国史籍は単里になっている。

案山子さんの一里＝1800 尺×24cm＝4 3 2 mで計算すると

方四百里は一辺：400×4 3 2 m＝172800＝172.8 k m

九州：162 k m×240 k m

古田の単里＝77 m

方四百里は一辺：400×77 m＝30800＝30.8 k m

対馬(厳原)：24 k m×25 k m

伯爵で九州の領地は、これは1つの国ですな。伯爵の領地としては対馬(厳原)：24 k m×25 k mぐらいが妥当でしょう。中国史籍に従い単里に訂正です。注、古田の単里＝77 mは間違っていますので注意してください。実際もっと小さい。

尚、領域を円で示されてますが、魏志倭人伝の文書には四方、方位＋直線距離で記されている。円はありません。

>> それ以前の尺は若干それより短い10.5km、 10.8kmを用いていて、それは各時代の尺単位の伸びに対応していました。

>

> 1度が108km、故に4度で432km。 432kmが千里、故に1里は432m。

> で

> 魏志倭人伝は記述されている。

>

> 狗邪韓國

> ↓

> 對海【馬】國

> ↓

> 一大國

> ↓

> 末廬國 は、

> 緯度的に4度差つまり1000里=432 kmで記述している。

>

>

> 邪馬壹【臺】國は畿内です。

(無題) 投稿者：一大率 投稿日：2013年12月26日(木)10時53分12秒 返信・引用

> それ以前の尺は若干それより短い10.5km、10.8kmを用いていて、それは各時代の尺単位の伸びに対応していました。

1度が108km、故に4度で432km。432kmが千里、故に1里は432m。

で

魏志倭人伝は記述されている。

狗邪韓國

↓

對海【馬】國

↓

一大國

↓

末廬國 は、

緯度的に4度差つまり1000里=432 kmで記述している。

邪馬壹【臺】國は畿内です。

Re: ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると1332=666+666 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013年12月24日(火)00時17分53秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

霧島連山にある高千穂峰もまた、高千穂町と同じくニニギノミコト天孫降臨伝説の残る地。... この剣は、イザナキとイザナミの「天の沼矛（あめのぬぼこ）」であるとか、ニニギノミコトが雲の上から地上に降り立つ場所をさぐるために使った後、山頂にさかさに立てた...<http://www.kanko-miyazaki.jp/kaido/animation/index05.html>

頂上に座する天の逆鉾は、三叉（みつまた）の剣で鉄あるいは銅製、長さ138cm、周囲26cmの大きさとされており、

4尺6寸（138cm）、

26cm(8寸)・・・3.25cm

1寸=0.1尺 = 約3.03センチ

>天戟の寸法 長さ 8寸+4寸=12寸 「月牙」（刃）弧の直径6寸 2寸

12寸=3.9メートル

.....

鑑（かがみ）凹面鏡 ?母（倭の偉大な人） 我・・・戈（かが）・・・ノーモン？

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

皿に水を張って水鏡としてそれを上から覗く

鑑とは（カンとは）[単語記事] - ニコニコ大百科

意味: 鏡、鑑みる（鑑と通じる）、上から下を見る、見張る、取り締まる、お目付け役、政治を代行する、役人、宦官、監獄、という意味がある。

字形諸説ある。〔説文〕は、臥に従い?の省略を声符とする形声としている。ほかに、臥+皿の会意で、皿に水を張って水鏡としてそれを上から覗くという字であるという説、臨声で皿に従う形声説、臨声で血に従う形声説などがある。音訓音読みは、カン（漢音）、ケン（呉音）、訓読みは、かがみ、みる。名のりに、あき・あきら・かね・ただ・てる、などがある。

臥す、うつぶせる、休む、眠りにつく、倒れる、横になる、捨てる、隠れる、寝室、という意味がある。〔説文解字・巻八〕に「休するなり」とある。段注本では、休を伏の誤りとして「伏するなり」としている。字形人+臣の会意。〔説文〕に「人臣に従ふは、其の伏するを取るなり」とあり、臣下が伏せる意としている。ほかに机に伏す意味があるので、臣+几の会意説もある（几は机の象形）。しかし臣は甲骨文・金文では目の象形であるので、下を覗き見る意とする説がある。音訓音読みは、ガ（漢音、呉音）、訓読みは、ふす。<http://dic.nicovideo.jp/a/%E8%87%A5>

反射望遠鏡ってなに？ | キヤノンサイエンスラボ・キッズ

レンズだけを組み合わせたくっ折望遠鏡に対して、反射鏡を利用した望遠鏡が反射望遠鏡です。くっ折望遠鏡では、とつレンズの持つ「光を集める」「像をつくる」というはたらきを利用していますが、おう面鏡も、これと同じはたらきを持っているのです

反射望遠鏡ではこの部分におう面鏡を使います（対物鏡と呼びます）。つまり反射望遠鏡では、対物鏡の作った像を、接眼レンズで観察するわけです。ただし、反射鏡ですので、天体からの光はやってきた方向にはね返って像をつくります。この像をのぞくと頭がじゃまになるので、反射望遠鏡ではいろいろな方法で光を筒（つつ）の外に導き出し、観察するような工夫がされています。

http://web.canon.jp/technology/kids/mystery/m_02_07.html

中国鏡の日本への渡来は弥生時代中期から確認される（日本での金属鏡の 始まりは前2世紀前後）。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8F%A1>

最初の鏡は、水溜りの水面に自らの姿形などを映す水鏡であったと考えられる。その後、石や金属を磨いて鏡として使用していたことが遺跡発掘などから分かっている。現存する金属鏡で最も古いものは、エジプトの第6王朝（紀元前2800年）のもの。以来、銅・錫およびそれらの合金を磨いたもの、および水銀が鏡として用いられる。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

>> 秦野北斗さんへのお返事です。

>>

>

>> 地球の子午線周長は約40 008kmである。

>> すなわち、平均的には

>> 緯度1度の長さ 約111 km

>> 緯度1分の長さ 約1.85 km

>> 緯度1秒の長さ 約30.9 m

>> と求められるが、実際には地球は回転楕円体に近い形をしているため、緯度によって僅かながら緯度1秒の長さに違いがある。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B7%AF%E5%BA%A6>

>>

>>

>

>

> ちょっと込み入った話になってきてますが、昨年論議したように、111kmの10分の11,1kmの尺度で、6世紀ごろの渡来系技術集団が測量していたことがありました。

>

> それ以前の尺は若干それより短い10.5km、 10.8kmを用いていて、それは各時代の尺単位の伸びに対応していました。

>

> 昨年は、先に定規である尺（鏡の直径）があつて、その延長線上に、上記の距離があるとの考え方がメインで、地球の円周から分割して、上記の尺度を出し、さらに23~30cmの尺を等分して算出したという視点はサブだったように感じます。

>

> ただ、こう論議をお聞きしていくと、サブがメインだった可能性もでてくるわけですね。

>

>

> しかし、そうすると、111km は1 度分ですから、地球の円周に対して、9 0 度（1 8 0 分割）という概念がまず成立していなければなりません。

>

> 1 周を3 6 0 分割する概念は、3 6 0 日に由来して、ギリシャにあります。おそらくはもっと古代の各文明にあった概念でしょう。

>

> 関連して、360 分割するか、365 分割するかで、パーセンテージが少し異なります。

>

>

> 11 1 km は、109km まで短くなりますね。

>

> この数値がどうして比例的に時代とともに長くなっていったのか？

> が課題です。何か北斗七星と北極星などの2 星を基準としていて、地球の周回距離を算出して、その星と星の間の距離が長くなったので、必要以上に長く計算された。その長くなった原因は以前から論議にあるご指摘の地軸の傾きでしょうか。

>

>

> 官位的な計算法があったはず。それが古代中国の文献や測量技術などにも痕跡がみられるかどうか？

Re: ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると 1332=666+666 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 23 日(月)23 時 16 分 9 秒 返信・引用

> No.1943[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

> 地球の子午線周長は約 40 008km である。

> すなわち、平均的には

> 緯度1 度の長さ 約 111 km

> 緯度1 分の長さ 約 1.85 km

> 緯度1 秒の長さ 約 30.9 m

> と求められるが、実際には地球は回転楕円体に近い形をしているため、緯度によって僅かながら緯度 1 秒の長さに違いがある。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B7%AF%E5%BA%A6>

>

>

ちょっと込み入った話になってきてますが、昨年論議したように、111km の 10 分の 11,1km の尺度で、6 世紀ごろの渡来系技術集団が測量していたことがありました。

それ以前の尺は若干それより短い 10.5km、 10.8km を用いていて、それは各時代の尺単位の伸びに対応していました。

昨年は、先に定規である尺（鏡の直径）があつて、その延長線上に、上記の距離があるとの考え方がメインで、地球の円周から分割して、上記の尺度を出し、さらに 23~30cm の尺を等分して算出したという視点はサブだったように感じます。

ただ、こう論議をお聞きしていくと、サブがメインだった可能性もでてくるわけですね。

しかし、そうすると、111km は 1 度分ですから、地球の円周に対して、90 度（180 分割）という概念がまず成立していなければなりません。

1 周を 360 分割する概念は、360 日に由来して、ギリシャにありますがおそらくはもっと古代の各文明にあった概念でしょう。

関連して、360 分割するか、365 分割するかで、パーセンテージが少し異なります。

111 km は、109km まで短くなりますね。

この数値がどうして比例的に時代とともに長くなっていったのか？

が課題です。何か北斗七星と北極星などの 2 星を基準としていて、地球の周回距離を算出して、その星と星の間の距離が長くなったので、必要以上に長く計算された。その長くなった原因は以前から論議にあるご指摘の地軸の傾きでしょうか。

官位的な計算法があつたはずですが。それが古代中国の文献や測量技術などにも痕跡がみられるかどうか

か？

Re: ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると $1332=666+666$ 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 23 日(月)20 時 43 分 43 秒 返信・引用 編集済

> No.1944[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

議論は実測になっているが、結論から言えば、大宝律令の里：約 533 m ですな、短里：約 53m は十分の一になる。

エジプトスタディオンとアッティカスタディオンは測定方法が異なるな。

結構、過去に苦しめられたな。

エジプトスタディオン 157.5

250,000 スタディアの地球周長を意味し

$250000 \times 157.5 = 39375000$

<http://astrohouse.fc2web.com/hate606.htm>

アッティカスタディオン 185

緯度 1 度が 111km : 185.185×60

$185 \times 60 \times 60 \times 60 = 39960000$

<http://9019.teacup.com/qametarou/bbs/671>

過去のログには間違いが多いな。難しいものだな。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1365>

短里を元に魏志倭人伝を読むと卑弥呼が生きた当時の韓半島が現れる。

秦野著書：徐福と邪馬台国

> 一里 = 580 m (600 m に近いです!) 2005 年 10 月 14 日 11:15:40 いばらの紀氏古代 中国に一里 580 m で古代の地球の円周 4 万 6250km を割った数 = 582.49 582.49 で 4 万 6250km を割った数 = 79.400 79.4 79.4 k m ビンゴでしょうか ...<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/keijiban10.htm>

Re: ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると 1332=666+666 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 23 日(月)15 時 45 分 32 秒 返信・引用

> No.1943[元記事へ]

一里=580 m (600 mに近いです!) 2005 年 10 月 14 日 11:15:40 いばらの紀氏古代 中国に一里 580 mで古代の地球の円周 4 万 6250km を割った数=582.49 582.49 で 4 万 6250km を割った数=79.400 79.4・・・79.4 k m・・・ビンゴでしょうか ...<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/keijiban10.htm>

中国の地図史

漢代の地理学

領土を広げた漢(202B.C.~220A.D.)の時代になると地理学は大きく進歩します。天文学者の張衡(2世紀ころ)は、中国地図の特色である“方格図”の創始者とされています。これは100里(58キロ)間隔の直交する縦横線で区切られた地図ですが、中国では西洋科学がもたらされるまで、大地が平らであると考えられていたため、投影法が考案されることはありませんでした

<http://homepage1.nifty.com/ptolemy/history/history.htm>

参考HP

天文学年表

http://wwwsoc.nii.ac.jp/icic/08_MUSEUM/03_HISTRY_ROOM/ERASTO/ERA.html

エラステネスはこうやって地球の大きさを測った 4万6250kmと計算した

エラステネスは実際には「ノーモン」という円柱で太陽高度を測りました。また7.2°は円周の50分の1ですから50×5000スタジア=25万スタジア=4万6250kmと計算したともいわれます。

古代中国に一里580 mで古代の地球の円周4万6250kmを割った数=582.49 582.49で4万6250kmを割った数=79.400

79.4・・・79.4 k m・・・ビンゴでしょうか？偶然でしょうか？

「奈良→伊勢間の距離が80キロであり、伊勢→白山仲居社までは80*2の160キロの単位である。三春→一関も160キロであり、三春は旧百済のソウルに、一関は旧高句麗・平壤と同緯度である。80キロの尺単位が、ソウル→平壤間の緯度差にあるとすると、レイラインの基礎単位が大陸起源の可能性もあるだろう。」・・・・・・・・

・・・レイラインの基礎単位が大陸起源 でした？

訂正です。

2005 年 10 月 14 日 11:35:02 いばらの紀氏

一里 580 mで古代の地球の円周 4 万 6250km を割った数=582.49 ではなく

「80キロの尺単位が、ソウル→平壤間の緯度差」の80キロの尺単位

80キロ=(79.4)の「79.4キロで地球の円周4万6250kmを割った数=582.49 です

Re: ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると 1332=666+666 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 23 日(月)15 時 32 分 8 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

1400 年間に約 8 度南に移動

長い年月のうちには星も位置を変え「恒星」ではなくなり、北極星も「北極星」ではなくなる。その原因は恒星自身の個々の運動（固有運動）によるものと、観測点すなわち地球の運動によるものがある。前者は数万年のタイムスケールでは重要だが、数千年間では圧倒的に後者の責任の方が重い。地球の自転軸は北極と南極を結ぶ線であるが、その軸は空間に常に固定されているのではない。物体の自転運動をもっと身近な例で見てみよう。このごろ正月の遊びとしてあまり見かけなくなったが、こまを回してみよう。いつまで勢い良く回っているだろうか。いや、こまは回転方向と同じ方向に首振り運動を始めるだろう。初めはゆっくりだが、こまの心棒の傾きが大きくなるにつれ次第に激しくなっていく。こまの重心に働く重力は回転軸を倒そうとするが、回転軸はそれと直角に傾き首振りが起こる。この運動は「歳差運動」と呼ばれる。地球の自転においても同じような首振り運動が起こる。こまの心棒が時々刻々向きを変えるように、地球の自転軸も年々歳々その方向を変える。地球の歳差運動を起こす外力は他の天体（主として太陽）による万有引力である。地球は実は球ではなく赤道方向に膨らみを持つ回転楕円体で（赤道半径は極半径より約 20km 大きい）、また自転軸は公転軸に対し約 23 度 4 分の傾斜角をもっている。そのため地球の太陽に近い半球と他の半球では太陽からの引力差が出てきて、この傾斜角を小さくしようとする作用を起こす。その結果、地球は自転方向と逆方向に首振り運動を起こすというわけだ。

地球の自転軸が向きを変えるため天球の座標原点、すなわち春分点は 1 年間に約 50 秒（視力 1.2 の眼で分解できる限界角度）の速さで西へ西へと移動していき、約 26000 年で黄道を一周して元に戻る。ギリシア時代におひつじ座にあった春分点は今うお座にある。2000 年間で黄道一二宮の一星座分移動したというわけだ。春分点移動そのものはすでに BC150 年頃ギリシアのヒッパルコスが発見している。時計も望遠鏡もない時代にどうしてこの事実が発見できたのだろうか？ 歳差運動を起こす外力は太陽からだけでなく月からも、さらに僅かではあるが惑星からももたらされる。地球は太陽の周りに楕円軌道を描いているので太陽・地球の距離は一定ではなく、同じ理由で地球・月の距離もやはり一定ではない。そのため万有引力は絶えず変化し、地球の首振りも僅かながら常に変動している。したがって全ての天体はたとえ自分自身は不動であっても時々刻々天球上の座標値を変える。その変化を表す公式は数十年程度の短期間であれば時間の一次式で与えられるが、一般には非常に複雑な三角関数となる。

天の北極が移動するに伴って北極星はどうなっていくのだろうか。私達が「北極星」と呼んでいる星の正式名称はこぐま座 α 星（2.0 等星）であり、今たまたま地球の自転軸の延長上近くに見えるに過ぎない。現在天の北極はこの星に接近中で 2100 年頃最も近づく。北極星の候補はたくさんありその席には様々な星が座る。事実 BC1000 年頃中国で「帝星」という名で呼ばれていた当時の北極星はこぐま座 β 星（2.1 等星）であったし、BC3000 年頃エジプトで北極星とされていた星はりゅう座 α 星（3.6 等星）であったという。こぐま座 α 星の次に「北極星」と呼べる明るい星はケフェウス座 α 星（2.4 等星）だがそれはまだ 6000 年も後のことだ。天の北極は今から約 8000 年後に、はくちょう座のデネブ（1.3 等星）の近くに、12000 年後には、こと座のベガ（0.0 等星）の近くにやって来る。しかしその離角は

数度もあるので私達の子孫は（もし生き長らえていたとして）これら明るい星を「北極星」とは呼ばないだろう。

天の北極が移動するのだから当然全ての星の見え方も変わる。現在私達が日本から眺められる星座も将来見えなくなることもあるし、またその逆もある。南十字星は、現在わが国では沖縄（那覇で北緯26度2分）でしか見ることができないが、1400年前には近畿地方でも見えたはずだ。その様子を筆者の天文シミュレーションソフト「ASTRON」で再現してみよう。図1は今年の5月15日20時の飛鳥（北緯34度5分）の夜空で4等星までが表示されている。中心は天頂を、大きい円は地平線を表す。南十字星は「春の大曲線」の延長上、南の地平線の東南（左下円の外）に描かれている4個の星であり、その一番北の星、みなみじゅうじ座γ星でさえ南中高度はマイナスである。一方、図2は600年の同日同時刻の同地点における夜空で、南の地平線ぎりぎりに一番南の星、みなみじゅうじ座α星が見え、南十字星全体が確かに認められる。1992年と600年の両星の赤経・赤緯および飛鳥における南中高度を計算して表にまとめた。南十字星はこの1400年間に約8度南に移動したこととなる。飛鳥は南に吉野の山々を控えているので南の低空は見えにくいですが、小高い山に登れば十分見えたであろう。頃は聖徳太子が隋より優れた文化を輸入し始めた飛鳥時代である。仏教美術・四書五経等のほかに暦学・天文学の知識も導入されたであろう。聖徳太子のブレーンの中には天文の専門家もいただろうし、太子自身、生駒山頂からあるいは難波の浦から南十字星を観たかも知れない。ひょっとして法隆寺のどこかに、あるいは御陵の中のどこかに、十字の星の画が秘蔵されているのではないだろうか。

星の航海術 <http://contest.japias.jp/tqj2004/70542/koukai.html>

北極星が見られない南半球では南十字星が使われました。

「南十字星の十の字のかたちの上の星と下の星をむすんで下へ4倍半のばしたあたりが天の南極です。」

（北極星は天の北極にデンといすわっていてくれるので、説明がラクだ）でも、北極星より南十字星の方にロマンを感じるのはどうしてだろう。

16世紀、ヨーロッパの探検家が南方開拓に出る途上、この星を見て、新しい世界にキリスト教布教を 神が助けているしるしだと感じて、礼賛したからだと言われています。

この星が重んじられている

もうひとつの理由は方向指針になっているからです。日本にはポルトガル人によって航海術と共に南十字星の名前が伝わりました。

緯度は北極星や太陽、南十字星などの高度から知ることができますが、経度は簡単には計測できません。... これは簡単そうですが、時計が正確でないと誤差が大きくなります。

http://socyo.high.hokudai.ac.jp/More_HTML/Hosokawa/essa/essay128.html

手近な天体を測定して、正確な時間と合わせることで推定する方法です。これは簡単そうですが、時計が正確でないと誤差が大きくなります。1秒の正確さがどれくらいの距離の誤差になるか、赤道上で試算してみましょう。赤道の長さ4万キロを24時間で割れば1時間の誤差が、さらに3600で割れば秒の誤差が計算できます。答えはおおよそ500メートルです。誤差が10秒あると5キロメートルの誤差になりますから、精度の高い海図を使うには不適です。1761年に世界で初めて開発された正確な時計クロノメーターは年間誤差30秒、測定誤差2キロ以内という優れものでした。ちなみに、正確な時

計と太陽の正中高度から経度を割り出す表は大正時代の日本人の手によるもので、米村表と呼ばれ、現在でも愛用されているそうです。カーナビが位置を割り出すのも原理的に同じですが、天体の代わりに人工衛星からの信号を使っています。

中国はついに緯度経度の入った海図を創ることはなかったが、10 C 頃の天球図は円筒投影法を用いている <http://skasuga.talktank.net/works/GThesis/N-chap1.html>

古代中国の天文学において太陽が真上を通るとされる地点を天球図で表現する際に赤い線を用いたことが由来である。赤道の全周長は約 40,075 km。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B5%A4%E9%81%93>

「赤道」という言葉は、古代中国の天文学において太陽が真上を通るとされる地点を天球図で表現する際に赤い線を用いたことが由来である。

赤道の全周長は約 40,075 km。春分と秋分の年 2 回、太陽が真上にくる。

赤道は世界で唯一、太陽が天頂から天底までまっすぐに沈む場所である。そしてそのような場所は理論上、昼の長さや夜の長さが、共に一年を通じて 12 時間である。しかし実際は大気が太陽光を屈折させるので、2、3 分のずれが出る。

2、3 分のずれ？

古代中国に一里 580 m で古代の地球の円周 4 万 6250km を割った数 = 582.49 582.49 で 4 万 6250km を割った数 = 79.400 79.4 79.4 k m <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/keijiban10.htm>

古代の地球の円周 4 万 6250km

> 赤道の全周長は約 40,075 km。

地球の子午線周長は約 40 008km である。

すなわち、平均的には

緯度 1 度の長さ 約 111 km

緯度 1 分の長さ 約 1.85 km

緯度 1 秒の長さ 約 30.9 m

と求められるが、実際には地球は回転楕円体に近い形をしているため、緯度によって僅かながら緯度 1 秒の長さに違いがある。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B7%AF%E5%BA%A6>

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

> 一寸千里の法.は地球の半径 6357km を仮定しているな。

> <http://home.b06.itscom.net/kodaishi/page010.html>

>

> 言えることは、短里があったと言えるだけで、一里：76～77 mとは断言できないな。

> 仮定が地球の半径 6357km は大きすぎるぞ。

> <http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1907>

>

> 結論は簡単で魏志倭人伝の対馬国から一大国(壹岐)までの距離 1000 余里を実測すれば。

> 対馬国(厳原)から一大国(壹岐：勝本港)の距離が約 53km

>

> 短里＝約 53m、になるな。

>

> 2.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗

> （ひこ）、副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山

> は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の

> 市へいく。

> 3.また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る（「又南渡一海千餘里、名曰

> 瀚海、至一大國」）。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000

> の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく

>

> 文章に気をとられ、現場をみない悪い癖だな。古田も同様だな。

> 理論家は現実を目の前にするのが怖い、理由は正誤の審判が降りる、また、次の課題が

> 生じるため。

>

>> 秦野北斗さんへのお返事です。(T)・・・ノーモン？ 8 尺の髀の影が 1 尺 6 寸・・・△大地が平らであるなら

>> 中国では、古くは「天円地方説」と、てん えん ち ほう せつ、いう、正方形の大地の上を丸い(お、そらく半球形の)天が覆っている、. という考え方が普通であったが、漢. の時代(ほぼ紀元前 2 世紀から紀元後 .<http://historyofscience.jp/wp-content/uploads/38-2.pdf#search='%E6%B8%BE%E5%A4%A9'>

>> 南へ 1 万 6 千里を行ったところ(T)で影がなくなり、その真上に太陽(S)があるとしている（1 里は 1800 尺）。

>> そして、そこ(T)から北へ 1 万 6 千里のところで、8 尺の髀の影が 1 尺 6 寸であることから、相似

三角形の比例関係(例えば△STM と△KLM)によって、太陽の高さ(TS)は8万里であるとした。

>> これは、図3(b)のように大地が平らであるなら、幾何学的には成り立つ。

>>

>

Re: ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると 1332=666+666 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 23 日(月)09 時 29 分 47 秒 返信・引用 編集済

荊の紀氏さんへのお返事です。

一寸千里の法.は地球の半径 6357km を仮定しているな。

<http://home.b06.itscom.net/kodaishi/page010.html>

言えることは、短里があったと言えるだけで、一里：76～77 mとは断言できないな。

仮定が地球の半径 6357km は大きすぎるぞ。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1907>

結論は簡単で魏志倭人伝の対馬国から一大国(壱岐)までの距離 1000 余里を実測すれば。

対馬国(厳原)から一大国(壱岐：勝本港)の距離が約 53km

短里＝約 53m、になるな。

2.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗（ひこ）、副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

3.また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る（「又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國」）。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000 の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく

文章に気をとられ、現場をみない悪い癖だな。古田も同様だな。

理論家は現実を目の前にするのが怖い、理由は正誤の審判が降りる、また、次の課題が生じるため。

> 秦野北斗さんへのお返事です。(T)・・・ノーモン？ 8 尺の髀の影が 1 尺 6 寸・・・△大地が平らで

あるなら

> 中国では、古くは「天円地方説」と、てんえんちほうせつ、いう、正方形の大地の上を丸い(お、そらく半球形の)天が覆っている、. という考え方が普通であったが、漢、の時代(ほぼ紀元前2世紀から紀元後、<http://historyofscience.jp/wp-content/uploads/38-2.pdf#search='%E6%B8%BE%E5%A4%A9'>

> 南へ1万6千里を行ったところ(T)で影がなくなり、その真上に太陽(S)があるとしている(1里は1800尺)。

> そして、そこ(T)から北へ1万6千里のところで、8尺の髀の影が1尺6寸であることから、相似三角形の比例関係(例えば△STMと△KLM)によって、太陽の高さ(TS)は8万里であるとした。

> これは、図3(b)のように大地が平らであるなら、幾何学的には成り立つ。

>

Re: ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると 1332=666+666 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013年12月23日(月)01時09分44秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。(T)・・・ノーモン？ 8尺の髀の影が1尺6寸・・・△大地が平らであるなら

中国では、古くは「天円地方説」と、てんえんちほうせつ、いう、正方形の大地の上を丸い(お、そらく半球形の)天が覆っている、. という考え方が普通であったが、漢、の時代(ほぼ紀元前2世紀から紀元後、<http://historyofscience.jp/wp-content/uploads/38-2.pdf#search='%E6%B8%BE%E5%A4%A9'>

南へ1万6千里を行ったところ(T)で影がなくなり、その真上に太陽(S)があるとしている(1里は1800尺)。

そして、そこ(T)から北へ1万6千里のところで、8尺の髀の影が1尺6寸であることから、相似三角形の比例関係(例えば△STMと△KLM)によって、太陽の高さ(TS)は8万里であるとした。

これは、図3(b)のように大地が平らであるなら、幾何学的には成り立つ。

蓋天説では、昼夜が生ずる原因は、太陽の光が一定範囲にしか届かないとして説明するのであるが、明らかに日出・日没の実際の様子と相違するので、結局、後漢ころからは図2のような渾天説が主流となった。

これは、天は球形であるとするもので、現代天文学での天球の概念と同様に、経度・緯度に相当する球面座標を設定することができる。

これが、後漢からの中国天文学の発展に大きな役割を果たすことになる。

渾天説についての最も重要な文献は、後漢の張衡（AD 78~139）の『渾天儀』である3)。

張衡の『渾天儀』には、天の一周は365度と4分の1であること、天の北極は地平線の真北から36度の高度のところにあることなどが書かれている

天球儀〈（渾天新図）／（銅製）〉 てんきゅうぎ〈（こんてんしんず）／（どうせい）〉 ... 天球儀は、天に散りばめられた星々、黄道や赤道などの位置を球面上に表わした器具である。

<http://bunka.nii.ac.jp/SearchDetail.do?heritageId=187722>

太陽の南中高度を測定し、一太陽年を求めることが出来る観測機器、「圭表」

圭表

【影】より

…太陽の影は季節によって異なるから、垂直棒を立て、その影の位置、長さを観測することによって東西南北の方位や太陽高度、あるいは時刻を知ることができる。古代の天文観測器のノーモンがこれで、中国では圭表あるいは晷儀（きぎ）と呼んでいた。

圭表」の構造と機能

「圭表」は、中国文明（黄河文明）最古の天文観測機器であるが、その構造は極めて簡単である。

まず、垂直に8尺の棒を立てる。これが「表」である。

この「表」で太陽の影の長さを測るのであるが、その物差しが「圭」である。

後世には、正確に測定するために、水準器も付属した「圭」もある。

「表」が8尺であるのは、正確に垂直に立てるためと考えられる。

つまり、最も簡単な整数比の直角三角形は3：4：5なので、このような比率で作った定規のようなものを二つ組み合わせれば、容易に垂直が決まるからである。また、天を意味する「表」が身長より低いというのは不都合であるし、弦を区切りのよい1丈（10尺）にするために、6尺：8尺：10尺としたと考えれば、「表」が8尺であることは容易に理解できよう。

午前中の任意の時間に影の長さを測り、この点をaとする。

a点を通り、「表」oを中心とした円を描く。

次に、午後に影の先がこの円と一致した点をa'とする。

aとa'を結べば、正確に東西が決まるというものである。

蓋天論と呼ばれるもので、『周髀算経』にあるように、夏至の影の長さが1尺6寸となる地点（緯度）を世界の中心、「地中（註7）」と考えている。

そして、南に1000里行くと影の長さが1寸短くなるので、1万6000里南が太陽直下になると計算し、さらに、比例計算から太陽高度が8万里と計算している。

しかし、これらは地球が平面であり、しかも、三角関数が一次式になるという仮定での計算であり、直観的な宇宙論と言えよう。

1 高さが10尺であること

2 「圭」の北端に直立した「小表」があることの2点で異なっている

(1744年)に「表」高10尺(清尺)に改造したのである。従来の「表」の上に継ぎ足した形跡が、現在でも確認できる。

「圭」の方は改造した形跡はなく、長さ16尺5寸(清尺)であるから、明代に製造した時は15尺(明尺)として設計されたようである(註9)。そして、この「圭」の北端に「小表」3尺5寸(清尺)が立っている。

まず、この「小表」から考えてゆこう。これは、冬季に影が伸びたとき、「圭」に収まりきれなる場合がある。

そこで、「圭」の北端を立てて、影の高さを読み取り、これを換算して測定するというものである。

尚、観測記録には、「小表」に影が達したときでも「圭」に換算した数値を記録している。

南京で、最も影が長くなる冬至での長さは、3)式で、「表」の高さ $b = 8$ 尺、南京の緯度 $\varphi = 32.05^\circ$ 、当時の赤黄交角 $\varepsilon = 23.47^\circ$ 、冬至 $x = 270^\circ$ であるから、

、「表」を10尺にしたことを考えてみたい。このことは、8尺の「表」で構築された蓋天論を顧みなくなかったということであり、伝統的な宇宙論を捨て去ってまで10尺にした理由は何だったのだろう。

、「表」は清尺の10尺であり、「圭」は明尺の15尺である。そのため、今述べたような機能はこの「圭表」にはない。

もしも、この仮説のように天文家が考えたとしても、明尺と清尺を混同するという失敗をしたことになる。

「表」と「圭」が分離可能であったので、現場でその失敗に気が付かなかったのかも知れない。

8尺以外の「表」には、『淮南子・天文訓』にあるような実在したかどうか不明であるが、10尺のもの記載がある。

また、梁代の大同10年(544年)には、「地中」より南にある荊州(現在の湖北省江陵県)で、「地中」と影長を合わせようとして9尺の「表」を試みたことがある。

元代には、相対誤差を少なくするために、8尺を5倍にした40尺の「表」が作られた(前出、『中国天文学史』、p.177～178)。

9 明の1尺は31.10cm、清の1尺は32.00cmである(呉承洛、『中国度量衡史』、商務印書館、1937年、p.66)。

10 前出、『中国天文学史』、p.177。

11 直径1丈2尺の椀状の機器。中心にピンホールがあり、太陽の像が「仰儀」の球面に投影され

る仕組みになっており、太陽の位置を観測する。

圭は「土+土」で、土を盛ることを示す。 <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2466>

【圭】

《意味》

- ・{名}天子が領土を与えたしるしとして、諸侯に与える玉器。▽正式の場では手に持って貴族のしるしとする。〈同義語〉・珪ケイ。「玉圭ギョクケイ」「執圭=圭ヲ執ル」〔・論語〕
- ・{形}かど。きちんとかど目がたっているさま。転じて、すっきりしたさま。〈類義語〉・佳カ。「圭角ケイカク」
- ・{単位}ますの容量の単位。一圭は、一升の十万分の一。

《解字》

会意。圭は「土+土」で、土を盛ることを示す。土地を授けるとき、その土地の土を三角の形に盛り、その上にたって神に領有を告げた。その形をかたちどったのが圭という玉器で、土地領有のしるしとなり、転じて、諸侯や貴族の手に持つ礼器となった。その形はまた、日影をはかる土圭トケイ(日時計の柱)の形ともなった。

「土圭」は中国周代の方角や日影を測る磁針のことで、平安時代以前に日本に伝えられ、機械時計の無かった時代は、「日時計」の意味として「土圭」が用いられていた。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

> 秦野です。荊の紀氏さんの思考を疑う文章ばかりですな。

> 論理性がない、出鱈目の羅列ですな。価値を見出せないな。

Re: ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると 1332=666+666 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 22 日(日)19 時 30 分 31 秒 返信・引用

荊の紀氏さんへのお返事です。

秦野です。荊の紀氏さんの思考を疑う文章ばかりですな。

論理性がない、出鱈目の羅列ですな。価値を見出せないな。

> 180

> 天香語山が弓で矢を放つと、矢は加佐郡矢原(やぶ)山に落ちた。天香語山が南東に到ると荒水があり、そこに神籬を建て大神を遷し祭った。さらにそこから百八十軍神を率いて由良之水門に率いて退いたとき、父の彦火明命と再会し、神宝を授けられ速やかに国土を造り修めんと詔りがあり、余社郡久志備之浜に到ると、御祖多岐津姫命がこの地は伊射奈岐命が天降りますいと清き地であり、来るのを待っていたという。そこでさっそく天香語山は天津磐境を起てて神宝を斎い奉り、豊受大神を遷し祭ると、分霊を矢原山に祭った。ここに国が成ったが、そのとき霊泉が湧き、天村雲命が天真名井の水を汲んでそそぎ、その水をもって神饌の料(みず)とした。<http://www012.upp.so-net.ne.jp/houi/tango.htm>

>

ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると 1332=666+666 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 22 日(日)18 時 41 分 48 秒 返信・引用

180

天香語山が弓で矢を放つと、矢は加佐郡矢原(やぶ)山に落ちた。天香語山が南東に到ると荒水があり、そこに神籬を建て大神を遷し祭った。さらにそこから百八十軍神を率いて由良之水門に率いて退いたとき、父の彦火明命と再会し、神宝を授けられ速やかに国土を造り修めんと詔りがあり、余社郡久志備之浜に到ると、御祖多岐津姫命がこの地は伊射奈岐命が天降りますいと清き地であり、来るのを待っていたという。そこでさっそく天香語山は天津磐境を起てて神宝を斎い奉り、豊受大神を遷し祭ると、分霊を矢原山に祭った。ここに国が成ったが、そのとき霊泉が湧き、天村雲命が天真名井の水を汲んでそそぎ、その水をもって神饌の料(みず)とした。<http://www012.upp.so-net.ne.jp/houi/tango.htm>

180日と30時間で144:1であると言われている。10進法ホロンを見ていけば、4直角は1440度だし、1日は1440分である。また上で見たように $52 \cdot 42 \cdot 32 \cdot 22 \cdot 12$ は14400...<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1100>

108m

大川神社は標高約108mの徹光(てっこう)山之東山腹にあるが、もともとは山頂にあったともいう。地図上ではその正確な山頂を確定できないが、大川神社から百ないし二百メートルのところのどこかということはいえるので、大川神社をめぐる方位線はその場合も成立するであろう。大川神社の社伝によれば、顕宗天皇の元年三月に、由良川域の漁師野々四郎が漁を営んでいたところに、『金色の鮭に乗り、右手に五穀の種、左手に蚕を携えた神』が川下から現れて、野々四郎に「当地に鎮座したいので社殿を造営せよ」と託宣したのが大川神社の起こりなのだというが、この「金色の鮭に乗り、右手に五穀の種、左手に蚕を携えた神」は、冠島より海を渡り、川を上ってやってきたのであり、冠島から金色の鮭に乗ってやってきた神の伝承は由良川流域に多いという。

大川神社—磯砂山(W0.276km、0.69度)—兜山熊野神社(E0.237km、0.37度)の西北30度線

大川神社—中津神グリ(W0.193km、0.34度)—冠島▲168.8m(E0.032km、0.06度)の東北60度線

108と144の比は3:4である。麻雀は4人でやり、牌も4枚ずつある。ツオルキン260は4

$4 + 4 = 260$ と表すこともできる。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1100>

500

五百箇御統之瓊を濯いで御子をお生みになったというような神話があったであろうことは、伊去奈子嶽の北麓、藤神社から遠からぬところに、天照大神がお生まれになった処と云い伝えて、今に同大神をお祭りしているというところがあることによって考えられ、伊去奈子嶽の上代の信仰は伊佐奈岐大神及び天照大神をお祭りすることにあつたと考えられるという。

ゲマトリア」とは - 〇 数値等価法。「A=1、B=2、K=20、語尾 K=500」と、ヘブライ語 聖書は端から端まで全て数値に置換できるようになっている。○ <http://d.hatena.ne.jp/keyword/%A5%B2%A5%DE%A5%C8%A5%EA%A5%A2>

360

大枝山についてホームページを検索してみると、標高 568m の大暑山のこと、標高 470m の山、西山団地の西の山とするものや、老ノ坂近くの標高 3~400m の山並みの総称と記すものなど、様々である。大枝山として方位線的に注目される山のひとつは首塚のすぐ南の標高 360m の山である。出雲大神宮と愛宕山が東西線をつくるが、この山と愛宕山が南北線をつくり、出雲大神宮とも西北 60 度線をつくるからである。標高 568m の大暑山も出雲大神宮と西北 60 度線が成り立つ。また、出雲大神宮の西北 60 度線は真名井神社とも結びつくのであるから、真名井神社に注目すると真名井神社と西北 45 度線をつくる貴船神社とも東北 60 度線をつくる。出雲大神宮との方位線三角形としては、愛宕山の代りに、やはり出雲大神宮と東西線をつくる上賀茂神社あるいは片岡山と東北 45 度線をつくる。また、平安京との関係でいえば、平安京大極殿と東北 30 度線をつくる。

出雲大神宮 (S0.025km、0.28 度) — 愛宕山 — 上賀茂神社 (N0.100km、0.53 度) — 片岡山 (N0.150km、0.77 度) の東西線

▲360m 山 — 愛宕山 (E0.024km、0.16 度) の南北線

$QSR = 360$. $NRWN + QSR = 306 + 360 = 666$ 666 は獣の数字となる。666 またローマ皇帝 ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると $1332 = 666 + 666$. <http://app.f.m-cocolog.jp/t/typecast/75944/74549/15974914>

▲380m 山 — 出雲大神宮 (E0.047km、0.27 度) の西北 60 度線

380m 山

これは【K L B A R B A】(大犬、380) だけに、【X W Y A】(蛇、38) を指し示す。

36 は三位一体の数、一方、10 の 3 乗は至聖所の立方体に見られる神的な数である。

そしてこの 3 万 6 0 0 0 立方キュビトという総容積も、3 で割り切れる数であるから、各桁の数字の 3 乗をたすというあの作業を繰り返せば、やはり 153 に帰結するのである。

45m

標高 45m の丘が三鬼の砦があった場所なのであろう。また、立熊山はその東の標高 217m の山ということになるのだろうか。もしそだとすれば、土熊を祀る祠が竹野神社の東北 60 度線、立熊山が西北 60 度線上にあったという可能性も出てくる。また、砦は大江山の南北線上に位置し、また久次岳の東北 60 度線にも位置している。また、真名井神社からの西北 60 度線に対しても、竹野神社よりは近いし、出雲大神宮とは西北 60 度線をつくる。出雲大神宮と兜山の西北 45 度線上に大江山があるのであるから、願興寺の丘の砦と出雲大神宮の方位線も無視できないであろう。また、出雲大神宮と真名井神社は西北 60 度線をつくっていたのであるから、真名井神社の西北 60 度線上に願興寺の丘の砦があるといってもいいのかもしれない。出雲大神宮と西北 60 度線をつくるということは、大枝山と願興寺の土熊の砦が西北 60 度線をつくるということである。大枝山と大江山には願興寺の土熊の砦からの方位線上に位置しているという共通項があることになる。

45×10000 ここに 4 5 という数字が出てきたが、これは アダムに深く関係した数値である。「アダム」というヘブル語のゲマトリアは、4 5 なのである。

<http://www2.biglobe.ne.jp/remnant/104seisho.htm>

1 万 5000 1 万 2000

菟狹族が大江山で発祥したのが菟狹族が大江山で発祥したのが 1 万 5000 年前のことで、1 万 2000 年ほど前に貴船山に根拠地を移したという。年前のことで、1 万 2000 年ほど前に貴船山に根拠地を移したという。

霊界・精神世界等 (150) http://blog.livedoor.jp/genkimaru1/archives/cat_49586.html

120 : (三角数かつ 5! の特殊数)、<http://blog.trinity-in.com/article/246415009.html>

「1 2 0」も三角数である。

9000 8500

狹族は貴船山からさらに稲荷山に 9000 年ほど前に根拠地を移したが、裏日本沿いに移動してきて鞍馬山に住んでいたシベリア種族の猿田族が勢力を伸ばしてきて、8500 年ほど前に稲荷山を追われ、各地に分散して行ったという。

サンプシイも、今のギリシャ語アルファベットにはないが、古い時代に 9 0 0 を表す数字として用いられた。

サンプシイ(サンピ)と言った古代に使われていたギリシア文字(ギリシャ語アルファベット)があります。
<http://occult-weblog.cosmic-egg.com/magic/greek-alphabet.html>

ギリシャ文字(ギリシャ語アルファベット)はヘブライ文字(ヘブル語アルファベット)の様にそれぞれに固有の数の値を持っています。ゲマトリアによって数字に変換される事もあります。

宇佐公康氏の本ではただ、6000 年以上前の出来事と推測できる記述がある。ただそうすると、吉田大洋『謎の出雲帝国』によれば富氏の伝承に「この世界が、一夜にして氷の山になった。大祖先であるクナトノ大神は、その難を避けるため、一族をひき連れて移動を始めた。東の彼方から氷の山を越え、海ぞいに歩いた。そうして何代もかかって、ようやくたどりついたのが出雲の地であった。(今から4000 年も前のことである)」とあり、それからすると出雲神族が出雲にきたのはどんなに古くても4000 年前ということになり、宇佐氏の伝承と少なくとも 2000 年以上食い違うことになる。宇佐氏が大江山から九州の宇佐へ移動していったのは、もっと後の時代、それともかなり後の時代の可能性もあるのではないだろうか。

600 : 世界; 611 : (13×47)、http://on-linetprgsite.sakura.ne.jp/human/post_99.html

T は、tau=400 にしてるけど、tau は Th と、書いてる。<http://hontoka.ina-ka.com/666>

tau=400 にしてるけど、tau は Th と、書いてる。T は Teth=9 ではないのか？。とか。右の、ギリシャ語のほう（だよな、多分、）、MAITREYA を、数字にするとこで、T を、tau と、theta の、両方の、数字を、使ってるのは、何故か、最後に付いた S は、なにか、とか、考えると、あやしすぎる。ギリシャ語で、マイトレーヤを、どう、書くのが正しいのか、わからんが。（正しい、ゆうても、元がサンスクリット語で、ギリシャと、関係ないから、それで何が正しい、ゆうのも、ない、思うが、））（それと、シュタイナーが、ゲマトリア使って、6 6 6 は SWRT で、ソラトゆう悪魔だと、言ってたけど、マイトレーヤと、言ってた記憶がないが、それとの関係は、どうなのか。わからん。）ただ、この HP の Tags:のところに、benjamin creme messiah あるから、このビデオ作った人は反シェアなのは、分かる。外人で、Maitreya と 666 の関係を言う人で、反シェア（反ベンジャミンクレーム）な人以外いるか不明。（Maitreya is the Beast 666）とか(Anti-Christ Index: Hard Truth)も、英語系の反マイトレーヤの HP だけど、このどっちも、「マイトレーヤ」はベンジャミンクレームのマイトレーヤ、はっきり言うと右の写真みたいなマイトレーヤをイメージして書いてるっぽい。（ただし、ロードマイトレーヤの名誉？のため、言っておくと、この写真は、人相が悪く、写りすぎてる。他の写真を見ると、きつと、もうちょっと、ましな印象を、持つ、思う。とにかく、この写真は、あんまりだ。）この、シェアが言ってるマイトレーヤが、僕らが知ってる、弥勒菩薩、と、同じ、ゆわれても、ぶっちゃけ僕らも、困るんすけど、でも、それよりも、とくに、あの、9. 11 の、テロの後、普通のアメリカ人が、メシア言われて、この写真見せられたら、どう思うか 考えると、普通『有り得ねえ』、ゆう風に、思いそうだし、だから、そう言う、第一印象で、「反キリストに間違いはない」、ゆう確信される、可能性、大である。

マイトレーヤ 36 666 弥勒菩薩

弥勒菩薩（みろくぼさつ）、梵名マイトレーヤ(Skt.??????? [maitreya])、パーリ名 メッテーヤ (Pali. metteyya ????????)は仏教の菩薩の一尊である。一部の大乘 経典では字（あざな）が阿逸多 Aji...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%A5%E5%8B%92%E8%8F%A9%E8%96%A9>
獣の数字

>QSR = 360. NRWN + QSR = 306 + 360 = 666 666 は獣の数字となる。666 またローマ皇帝 ネロをギリシア語ゲマトリアで変換すると 1332=666+666.<http://app.f.m-cocolog.jp/t/typecast/75944/74549/15974914>

秦氏はなんで太秦に弥勒菩薩を祀る仏教の寺である広隆寺を建てたんでしょうね。景教の教会を建てるべきではないですか？http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1051637255

華僑然り、イスラエル然り、在日朝鮮人然りです。

アイルランドとイングランドのように対立を選ばず、あくまで同化・融和を選らんだ彼らが「和を以て尊しとなす」の聖徳太子を崇拝したのも当然でしょうね。

太秦の弥勒菩薩はキリスト像だという説があります。

秦河勝は聖徳太子に気を遣い、仏教寺院に見立てたのではないのでしょうか？

秦氏は俗に「景教徒」と言われますが、実際には景教(ネストリウス派)より古い、十二使徒直系のユダヤ系原始キリスト教徒であったと考えられます。一方、日本に伝わった仏教は、仏教の体裁こそしているものの、実際には景教でした。原始キリスト教徒であった秦氏は、仏教が、流派は違えど同じキリスト教であることを見抜き、積極的に導入しようとしたのかも知れません。

ところが更に裏があり、その景教も既に本来のキリスト教ではなく、ミトラ教と習合していたようです。ほかでもない、弥勒とはマイトレーヤー＝ミトラなのです。つまり、秦氏が信望した仏教とは、「ミトラ教化したキリスト教」若しくはその逆だったわけです。

後年、空海と最澄が唐より密教を持ち帰り、秦氏の主導によって造営されたばかりの平安京を舞台に活躍しますが、ふたりとも秦氏とは深い関係にありました。空海の母方の出自は秦氏だったと言われます。ふたりが入唐した際の遣唐使団の長・藤原葛野麿は、秦氏を母親に持ち、実質的に秦氏の人間でした。空海は帰朝後、伏見稲荷に接近し真言宗の守護神としましたが、伏見稲荷は秦氏の氏神です。一方最澄は比叡山の日吉神社を守護神としましたが、こちらも秦氏ゆかりの神社です。更に最澄は、マタラ神を念仏の守護神としましたが、これはその名のとおりミトラ神でしょう。現在の日本仏教のほとんどは空海・最澄の門下から出ています。日本仏教には、浄土宗の開祖法然が秦氏の出だとか、浄土真宗とキリスト教の教理の類似とか(本願寺には漢訳のマタイ福音書が秘蔵されてるとの噂あり)、キリスト教との類似が少なからず見られます。一方、密教呪術等はキリスト教とは異質であり、ミトラ教由来とも考えられます。

中間地点に、現在の京都御所がある。城南宮の参道. 城南宮の参道の 延長線上に広隆寺あり。レイライン. 夏至の日の出のライン 松尾大社－蚕の社－下鴨 神社－比叡山. 夏至の夕日のライン. 愛宕－蚕ノ社－伏見稲荷. 貴船－元真幡寸ライン.<https://maps.google.co.jp/maps/ms?ie=UTF8&oe=UTF8&msa=0&msid=201593315152463110257.0004a79014a4fea93d27a>

【聖方位】<http://blog.livedoor.jp/genkimaru1/archives/1771072.html>

<http://221110sw.qj.shopservice.jp/hpgen/HPB/entries/19.html>

シリウスが人類のふるさとであり、古代メソポタミア時代からシリウス信仰があったと 前述しましたが、その証拠が現在でも残されています。それは「聖方位」といわれるもので、古代の神殿、神社仏閣は、冬至の夜に位置するシリウス星に向かって、総て 建造されているということです。日本では聖徳太子が建立したとされる法隆寺、中宮 寺、法起寺、さらに広隆寺、四天王寺などの寺院がそうですし、斑鳩京（いかるが きょう）、平安京の都そのものも、その「聖方位」に従って建設されたといわ

れています。

古代では、シュメールのジグラッド神殿、バビロンの神殿、そしてメキシコのテオ ティワカンの太陽の神殿といわれるジグラッドも、この「聖方位」に向かって建造されています。ギザのピラミッドも実はそうなのです。ピラミッドにある通気孔と呼ばれる通り道が、ピッタリとシリウスを目ざしているのです。

そして古代の都市も、その中心となる神殿から「聖方位」に向いてのびる大通りを 中心に建造されました。バビロニアのバビロンを始めとして、ローマのポンペイ、メソポタミア、ペルシャ、そして中国西域にある西安、洛陽の都市がこれに当てはまります。

【聖方位】

聖方位とは、日本の著名な研究家で古代史家の【渡辺豊和教授】

(京都造形芸術大学) が最初にペルセポリスと日本の巨大前方後円墳

および主要神社、仏閣に共通する不思議な方位として発見し研究されたもので、真北から 20 度西に振った特別な北を持つ方位のことだ。

言うなれば、北が 20 度西に振れている角度である。

これを私は「聖方位」と名づけ、日本を中心にペルセポリス、バビロンなど多くの実例とその関係を研究したのが『シリウスの都 飛鳥』（たちばな出版 二〇〇五年）だ。(るいネット記事より抜粋)

<http://www.rui.jp/ruinet.html?i=200&c=400&m=216602>

Re: 加齢 S (カレーズ) から帰還しました。 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 22 日(日)12 時 19 分 2 秒 返信・引用

大和三山とは、奈良県橿原市にある畝傍山、耳成山、天香久山の総称で、万葉集などの歌の中に登場することでも有名な山です。... なお、これら三つの山が二等辺三角形を形成していることは一般によく指摘されるところであり、また、人工説などもあります。

> 吾輩が阿波の国の出身だから徳島の古代歴史を強調するわけではない

> 日本は世界のひな型＝地球のヘソ としてグランドデザインされている

> 剣山を有する徳島は獅子に刻まれている

> この獅子を囲むように 3 つの国＝生き物が配置されている (ヨハネの黙示録)

> 大和三山の秘密 - ライブドアブログ - Livedoor

> 2013 年 8 月 24 日 - 大和三山の秘密. ～三種の神器～ 004 ... この獅子を囲むように 3 つの国＝生き物が配置されている (ヨハネの黙示録) 飛ぶ鷲＝土佐＝高知 こ ... 奈良の橿原には大和三山 畝傍山 耳成山 香具山 の三種の神器がある これまでこの三種の ...

>

> 大和三山の配置の秘密 - 全ては古事記の中に <http://kojiki.imawamukashi>.

>

Re: 加齢 S (カレーズ) から帰還しました。 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 22 日(日)11 時

58 分 30 秒 返信・引用

> No.1936[元記事へ]

吾輩が阿波の国の出身だから徳島の古代歴史を強調するわけではない

日本は世界のひな型＝地球のヘソ としてグランドデザインされている

剣山を有する徳島は獅子に刻まれている

この獅子を囲むように 3 つの国＝生き物が配置されている（ヨハネの黙示録）

大和三山の秘密 - ライブドアブログ - Livedoor

2013 年 8 月 24 日 - 大和三山の秘密. ～三種の神器～ 004 ... この獅子を囲むように 3 つの国＝生き物が配置されている（ヨハネの黙示録） 飛ぶ鷲＝土佐＝高知 こ ... 奈良の橿原には大和三山 畝傍山 耳成山 香具山 の三種の神器がある これまでこの三種の ...

大和三山の配置の秘密 - 全ては古事記の中に <http://kojiki.imawamukashi>.

Re: 加齢 S（カレズ）から帰還しました。 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 22 日(日)11 時 51 分 58 秒 返信・引用

> No.1935[元記事へ]

>5.東南へ 500 里陸行すると伊都国に到着する（「東南陸行五百里、到伊都國」）。長官は爾支（にき）、副官は泄謨觚（せもこ）と柄渠觚（へくこ）。

弥・彌

爾（じ）は柄公用印の姿を描いた象形文字

彌は「弓＋（音符）爾」で、弭（び）（弓＋耳） n い代用したもの。弭は、弓の A 端から B 端に弦を張ってひっかける耳（かぎ型の金具）のこと。弭・彌は、末端まで届く意を含み、端までわたる、とくに及ぶなどの意となった。→弭（び、み）は、端に届いて止まる、の意に用いられる。

<http://homepage3.nifty.com/giboshi/kaijitbl012.htm>

彌勒（みろく）

A 端から B 端

阿?卑斯山＝アルプス・・・高山（ヤーマは冥府の神）・・・卑彌呼

2013 年 6 月 12 日 - 爾（じ）は柄公用印の姿を描いた象形文字。彌は「弓＋（音符）爾」で、弭（び）（弓＋耳） n い代用したもの。弭は、弓の A 端から B 端に弦を張ってひっかける耳（かぎ型の金具） <http://homepage3.nifty.com/giboshi/kaijitbl012.htm> 阿弥（あみ）、

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1968>

弥卑

卑彌呼 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%91%BC>

姜 羌 阿?卑

中国史において羌族は氏族とともに最も古くみえる部族の一つである。しかしながら『漢書』に氐羌の列伝は設けられておらず、西域伝に?羌などが記されているのみであった。そして『三国志』で引用されている魚豢（ぎょかん）の『魏略』においてようやく氐羌についての記述が現れ、『後漢書』において羌族について詳細に記された「西羌伝」が設けられた。

『後漢書』西羌伝では「羌の源流は三苗、姜氏[1]の別種」とあり、とても古い時代から中国の人に知られていたようである。紀元前5世紀に戎族出身の無弋爰剣（むよくえんけん）という者が現れ、彼の一族に率いられた者たちが羌族を形成していくこととなる。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%8C>

後漢末に黄巾の乱が起きると（184年）、羌族は再び勢力を盛り返し、漢人の韓遂や馬超といった軍閥と組んで独自の勢力を築いた。三国時代（220年 - 280年）においては、魏と蜀の国境地帯において勢力を保ち、その趨勢に応じて魏や蜀に附いて戦った。

五胡十六国時代に入ると、南安赤亭羌の酋長である姚萇が前秦から独立して後秦を建国した（384年）。後秦は417年に東晋の劉裕（後の宋武帝）によって滅ぼされる。

彌彌は役職になる？。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1627>

彌彌は「投馬国」の官名です。

>彌彌は役職になる？。奈良の耳成山が気になる。彌彌＝耳

オシホミミ命とは、「投馬国」＝「元祖大和」の官名です。

応神天皇は、騎馬民族の大王であると同時に秦氏（イスラエル10支族にしてユダヤ人キリスト教徒）だったのである。応神天皇が朝鮮半島から渡来してきた4世紀の畿内には邪馬台国と投馬国が平和的な併合を果たした ... <http://ameblo.jp/cpa-togo/page-14.html>

官の彌彌の「ミミ」と言えば、パツと頭にひらめくのは、「オシホミミ命」の「ミミ」でしょう。

オシホミミ命と言えば、英彦山に祀られ、3尺6寸の八角形の水晶の台座がご神体、とされています。

また、遠賀川上流の岩石山に、天下ったとも言われます。 <http://www.geocities.jp/oden1947/196.html>

筑豊地方は、オシホミミ命の別名「吾勝命」に由来する、「吾勝野」と古代呼ばれていました。

吾勝野＝アカツ野＝アシハラナカツ国であり、逆に言えばアシハラナカツ国を省略して、「アカツの国」と言っていたと考えた方が正解でしょう。図2参照。

彌勒とは?歴史民俗用語。〔梵 Maitreya「慈氏」とも訳す〕(1)「弥勒菩薩」に同じ。(2)インドの大乗仏教の一派唯識派の開祖。三世紀中頃から四世紀中頃の人といわれる。のちに弥勒菩薩と混同さ

れることがある。>>『三...<http://www.weblio.jp/content/%E5%BD%8C%E5%8B%92>

大和三山（香具山、畝傍山、耳成山） - 旅行のクチコミサイト フォートラベル

香具山は 畝傍を愛しと 耳成と 相争ひき 神代より かくにあるらし 古も しかにあれこそ うつせみも 妻を争ふらしき 畝傍山を巡って、香具山と耳成山が争ったという三角関係の 歌です。天香具山（天香久山） 標高が150 m程の香具山は、談山神社のある多武峰（

...<http://4travel.jp/domestic/area/kinki/nara/kashihara/kashihara/nature/10010950-tips/?page=2&sort=time>

耳成山

標高が140 m程の耳成山は、綺麗な円錐形をした山。火山岩が侵食されて出来たものだそうで、万葉集では青菅山と呼ばれていました。

地図で見ると一番北に在り、三山を結ぶ三角形の頂点となって、このトライアングルススペースに藤原京が造られました。

耳成山, 青菅山 あおすがやま, 神々しくそびえ立つ山. 影面 かげとも

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~itou/hon/yamatosanzan.htm>

Re: 加齢 S（カレーズ）から帰還しました。 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 22 日(日)11 時 23 分 36 秒 返信・引用

> No.1934[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

公孫氏による創設 西 700m、南北 600m

長さ約 4. 5km、幅約 600m、

吉野ヶ里遺跡は、背振山南麓から佐賀平野に向かって細長く伸びた段丘上にあります。この段丘は、長さ約 4. 5km、幅約 600m、<http://www.vesta.dti.ne.jp/~yagi413/yosinogari.html>

標高およそ 7～20m で、この尾根線上を佐賀県神埼町、三田川町、東背振村の三町村の境界線が走っています。

この遺跡は、昭和 61 年からの工業団地開発に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果などから、弥生時代（紀元前 3 世紀から紀元 3 世紀ごろ）の約 600 年という長い期間を通して小さなムラが大陸の文化を取り入れ、やがて国の中心集落へと発展する過程を教えてくれる極めて学術的価値の高い遺跡であることがわかりました。なかでも弥生時代後期の環壕集落跡は我が国でも最大規模のものであり、中国の史書「魏志倭人伝」に記された邪馬台国の様子を彷彿とさせるものとして、全国的に注目を集め、平成 3 年 5 月には国の特別史跡に指定されています。

三町村の境界線・・・疆（境）

西 700m、南北 600m

土塁で囲まれた東西 700m、南北 600m の遺構に、当時のさまざまな遺物のほか、官印「楽浪太守章」の封泥（封印の跡...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B8%AF%E6%96%B9%E9%83%A1>

帯方郡（たいほうぐん）は、204 年から 313 年の 109 年間、古代中国によって朝鮮半島の中西部に置かれた軍事・政治・経済の地方拠点（植民地との見方も存在する[1][2][3][4][5]）。楽浪郡の南半を裂いた数県（晋代では 7 県〈『晋書地理志』〉）と、東の濊、南の韓、南端の倭（半島南端）がこれに属す。後漢から魏、西晋の時代にかけて、郡の経営や羈縻支配を通じて韓・倭という東夷地域へ中国の文化や技術を持ち込んだほか、直轄となった魏朝以降には華北の中国文化の窓口としても重要な役割を果たした。郡の長が太守であり、その配下の官吏と軍団の在する郡役所が郡治である。帯方郡治は、楽浪郡治（平壤）の南方にあったことは確かだが、詳しい位置については諸説ある（後述）。

公孫氏による創設[編集]

後漢の末、中平 6 年（189 年）に中国東北部の遼東太守となった公孫度は、勢力を拡大して自立を強め、後漢の放棄した朝鮮半島へ進出、現在の平壤付近から漢城北方にかけての一带にあった楽浪郡を支配下に置いた[6]。その後を継いだ嫡子・公孫康は、建安 9 年（204 年）楽浪郡 18 城の南半、屯有県（現・黄海北道黄州か）以南を割くとともに南方の土着勢力韓・濊族を討ち、併せて帯方郡として「是より後、倭・韓遂に帯方に属す」[7]という朝鮮半島南半の統治体制を築く。郡治とは、その周囲の数十県（城）の軍事・政治・経済を束ねる一大機構であり、個々の県治よりもひととき大きな城塞都市であった。公孫康はほどなく魏の曹操に恭順し、その推薦によって後漢の献帝から左將軍・襄平侯に任ぜられ、帯方郡も後漢の郡として追認された。

帯方郡治の比定地については決め手がなく、現代の 38 度線を挟んで諸説ある（東潮「古代朝鮮との交易と文物交流」『日本の古代 3』1986 年）。『魏志倭人伝』では、帯方郡が邪馬台国への旅の出発点であるだけに、かの邪馬台国論争からの関心も厚い（安本美典「魏志倭人伝を読む その 3」邪馬台国の会・第 232 回講演記録）。

古代里の魏は約 6 00 m とすると

尺は 6 00 m（大里）÷1500＝4 0 cm（大尺）

4 0 ÷1.2＝3. 3 3 3 3 cm（小尺）、3. 3 3 3 3 ×1500＝4 9 9. 9 9 9 m（小里）

3. 3 3 3 3 ÷1.2＝2 7 7. 7 7 7 cm（鏡尺）

帯方郡から倭国に至るには、水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000 余里

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

邪馬台国までの国と行程[編集]

国名や官名には諸説がある。

1. 帯方郡から倭国に至るには、水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000 余里で北岸の狗邪韓国（くやかんこく）に到着する（「從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七

千餘里」）。

2.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗（ひこ）、副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

3.また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る（「又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國」）。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000 の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく。

4.また海を 1000 余里渡ると末廬国に至る（「又渡一海千餘里、至末廬國」）。4000 余戸が有る。草木が茂り、前を行く人が見えない。魚や、アワビ[要出典]を捕るのを好み、皆が潜る。

5.東南へ 500 里陸行すると伊都国に到着する（「東南陸行五百里、到伊都國」）。長官は爾支（にき）、副官は泄謨觚（せもこ）と柄渠觚（へくこ）。

眉山にあるゴルフ場、ここに前方後円墳があるんです。

眉山は徳島市のシンボル。

万環玄亀？4_徳島県 謎解き散歩

古代神話では、淡路島とかさなつて、難波とつながりあつて、日本の発祥ともいわれた 徳島・阿波国。

... 奈良時代天平期の 734 年、聖武天皇と難波宮に出向いた天武天皇の皇子の子、船王は、徳島県の眉山を春三月、「眉のごと 雲居に見ゆる 阿波の山」と歌に ...http://www.tabizuru.jp/mankan_genki/%E4%B8%87%E7%92%B0%E7%99%BE%E8%A9%B1/4_%E5%BE%B3%E5%B3%B6%E7%9C%8C-%E8%AC%8E%E8%A7%A3%E3%81%8D%E6%95%A3%E6%AD%A9/

、「眉のごと 雲居に見ゆる 阿波の山」と歌に詠む。これが山の名の由来。徳島市内、眉山の山頂までは、ロープウェイで 6 分で到着する。紀伊水道を一望できる。こぐ船の泊も知らずと終わる船王の歌の海である。大化の改新までの北の粟国と大和朝廷は、水運を使いつながりあっていた。そこには仏教思想もかきなり、眉山の穏やかなる山姿に、仏心を見る。

古墳や古代遺跡、海外なら ピラミッドやストーンヘンジ が挙げられるように、大昔からパワースポットは存在します。<http://web-fron.sakura.ne.jp/p/tokushima/bizanten/index.html>

潮音寺（当神社の北方 50m、徳島市西山手町に位置）

出雲 岡山 徳島県剣山

本貝塚遺跡は縄文前期から後・晩期・弥生・古墳時代まで 4,000 年以上もの間、人々の生活拠点として存続していた。.... また諏訪神社もそこにみえることは、同じく諏訪大社 鹿嶋神宮の東西同緯度レイラインとの関連も気に留めておくべきかと ...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2388>

渡来人研究会 ご意見総覧 10

... ソウル平壤間の緯度差にあるとすると、レイライン ... 阜県位山、徳島県剣山、奈良県三輪山など)。レイライン 完結近し ... 「出雲系ライン」・主に海上から陸上の目印を定め測量 (北極星を北の基準

としたらしく北が約33度 東にずれる。 ...

<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/keijiban10.htm>

歴史 | 徳島県

原始・古代. 徳島に人々が住み始めたのは、約2万年前頃からだと考えられています。 ... 米づくりが本格的に始まった弥生時代には、青銅器や鉄器といった金属器の使用も始まりました。

<http://www.pref.tokushima.jp/kids/history-culture/>

徳島は銅鐸の多い地域で、全国で発見されている銅鐸の約1割、50個近くが発見されています。稲作が発達するとむらの有力者の中から地域の首長が生まれ、その埋葬のために古墳がつくられるようになりました。県内最大の前方後円墳は徳島市の渋野丸山古墳です。

大化の改新（645年）のあと、次第に律令（りつりょう）制度が整えられ、国府などの役所が置かれました。徳島市国府町はその名前の示すとおり古代に国府の置かれていた地域です。

方位盤(コンパスローズ)から多数の方位線が複雑に交差し、網状に描かれて、 ... 濃尾平野では35キロ内陸に縄文貝塚が分布し、当時の海岸線はこの付近だったことを物語っている。貝塚の貝殻の年代測定によれば、 ...

<http://ameblo.jp/hustler/day-20080816.html>

31. 大航海時代を可能にしたのは「ポルトシ」「ピサ図」と呼称された地図の製作からで、この地図では、方位盤(コンパスローズ)から多数の方位線が複雑に交差し、網状に描かれて、使いにくい面があったが、16世紀後半以降に世に出た「メルカトル図法」のおかげで、現代でも航海者にとってGPS(衛星を使った技術)以外にも有用な地図となっている。

(現在、世界地図上不明な部分は僅かだが、かつては自国の沿岸を測量されることは軍事的利害に直結していたため、他国による沿岸測量は容易にできなかった。そういうなかにあつて、日本の間宮林蔵がサハリンを北上、アムール川沿いに大陸に渡った実績は、「間宮海峡」という名前とともに世界地図に残り、日本人が誇っていることだが、サハリンを領土化しようとの意思を持たなかった平和主義の江戸幕府の心底は不可解というしかない。江戸幕府と異なり、早くから琉球王国に侵入し、奄美大島から南へと順に徴税対象にしていった薩摩藩の領土欲、金銭欲に比べ、徳川政権の穏やかな平和主義が結局は薩摩、長州になす術なくやられ、日本の軍隊の創設から支配にまで及んだこと、やがては太平洋戦争にまではまり込む結果を招いたのだと、私は思っている。当時、サハリンにロシア人の姿はなかったという事実もあり、領土化することは簡単だった)。

地図の話. 現存する最古の地図は、バビロニア人が、BC2500年前頃に粘土板に描かいたものだ。 ... 経緯度を決めた世界最初の地図帳を 作成した。 ... 原図が残っているもの地図 ということでは、これが最古。伊能忠敬(1745～1818)は

<http://www.bekkoame.ne.jp/~prtybell/kyoukai/tizunoha.htm>

前方後円墳がなんと徳島や香川などの東四国から発祥したのではないかという新たな説が今、持ち上がっています。<http://www.jrt.co.jp/tv/ohayo/2001/0920.htm>

「東四国起源説」北條先生がその根拠としてあげているのは主にこの4つです。

- ①徳島や香川の古墳のつくられた年代が古いこと。
- ②徳島・香川の古墳の構造が複雑であるということ。
- ③古墳のサイズが小さいこと。
- ④徳島の青石が近畿地方の古墳に使われていたということ。

この4つです。

「萩原墳丘墓（はぎわらふんきゅうぼ）」箸墓古墳から遡ることおよそ500年、西暦2000年前後につくられたと考えられています。

日本最古の前方後円墳です。

古墳時代のはじめ、3世紀から4世紀につくられたと考えられる年代の古い古墳が東四国にはこれだけあるんです。

香川県が58基、徳島が12基、これ非常に多い数なんです。

8 60メートル 18メートル

「八人塚古墳」8人の武将を葬っていることからこの名前が付いています。

全長およそ60メートルの前方後円墳です。

さらに棺を納めていた「石郭」の構造も東四国起源説を大きく裏付けるといいます。

次に訪れたのは石井町で現在発掘調査中の「前山古墳」。3世紀の後半につくられたと考えられる全長18メートルの小さな前方後円墳です。

香川県の鶴尾神社4号墳は36メートル

石井の前山古墳はわずか18メートル

横山は東西約1,200メートル、南北400メートル～600メートルの独立丘陵で、西端近くで南に延びる小山が接しています。この横山の南斜面のほぼ中央部に位置します。直径約20メートル、高さ7メートルの円墳で、南に開口する横穴式複室墳である。

直径約20メートル、高さ7メートルの円墳で、南に開口する横穴式複室墳である。玄室の奥壁から羨道端までの全長9.6メートル。玄室の奥行3.58メートル、幅2.67メートル、床面より天井までの高さ3.77メートル。奥壁と両側壁に石屋形を構築している。

側壁は床面より1.76メートルまで一枚の凝灰岩を用い、その上は持ち送り式に積みあげ、一枚の巨石をのせて天井としている。奥壁は全面に丹塗が施されていたと推察されるが、媒が付着していて、図形化されたものかどうか不明である。遺物には古墳の副葬品と考えられるものと後世の遺物がある。近くに塚園古墳群、池上古墳、南原古墳などがある。

鬼のいわや古墳 <http://www.manyou-kumamoto.jp/contents.cfm?type=A&id=210>

玄室の奥行 3.58 メートル、

「358」とゲマトリア聖書の中の「シロ（＝平和、平和を もたらすもの）が来る」「メシア」「（青銅の）蛇」がいずれも 358 になるらしい。<http://mandalanb.exblog.jp/11456992>

玄室の幅 2.67 メートル

「ゼブルンの門」の位置づけ

テーマ：聖書のゲマトリア

「鉤」・・・𐤅 「若犬」は「山羊」

#ここで実は、【KLBA OLYMA】（若犬、267）は、【QLYDA】（鍵、267）や、（※「鉤」にも作る）

#【NQDA】（sheep-master、267）や、【OYNA B・LLYA】（夜の目、267）や、

#【DQNA】（顎鬚、267）と等価だ。【QLYDA】（鍵、267）は「Makara」を表すし、

#且つ【DQNA】（顎鬚、267）と言え、ば、「山羊」である。「若犬」は「山羊」である。

#例えばシュメール語の「ur」は、「犬」（dog）もしくは「獣」（beast）という点に注意。

床面より天井までの高さ 3.77 メートル

0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, 89, 144, 233, 377, 610, 987, ... << で >> フィボナッチ数列の隣り合う 2 項の比は黄金比に収束する。<http://yu-moa.seesaa.net/article/115051633.html>

旧約聖書の原文のほとんどはヘブライ語だ。そのヘブライ語でメシアのことを「???? [māšîaʔ] [マーシーアハ]」っていうんだけど、このことばの数が「358」になる。

ヘブライ文字は、ギリシャ文字みたいに数字としてもつかわれるから、「????」のつづりを数字としてよむと（ヘブライ語は右から左にむかってかく）、「? (m)」は 40、「? (š)」は 300、「? (y)」は 10、「? (?)」は 8 で、これを全部たしあわせると $40+300+10+8=358$ だから、メシアの数は「358」ってことになる。

側壁は床面より 1.76 メートル

聖書のゲマトリア (176) ?

大バビロン; 1408 : (8×176)、

8 はイエスの数 <http://www2.biglobe.ne.jp/remnant/104seisho.htm>

「8」は、イエス・キリストに深く関連した数字なのである。なぜなら、「イエス」というギリシャ語のゲマトリアは 888 である。

イエス Ιησους (イエスース)

$10+8+200+70+400+200=888$

ちなみに、888も3で割り切れる数であるから、先ほどの作業を施せば、153に帰結する。

「ソロモン王が主のために建設した神殿は、長さ60キュビト、幅20キュビト、高さ30キュビトであった」（1列王6・2）。

したがって、その総容積は、

$$60 \times 20 \times 30 = 36,000$$

$$= 36 \times 10 \text{ の } 3 \text{ 乗}$$

$$= (1 \text{ の } 3 \text{ 乗} + 2 \text{ の } 3 \text{ 乗} + 3 \text{ の } 3 \text{ 乗}) \times 10 \text{ の } 3 \text{ 乗}$$

となる。これは、御子・御父・御霊を表す1、2、3のそれぞれを3乗した数の合計である「36」と、幕屋の至聖所の容積——「10の3乗」とを、かけ合わせたものとなっている。

36は三位一体の数、一方、10の3乗は至聖所の立方体に見られる神的な数である。

そしてこの3万6000立方キュビトという総容積も、3で割り切れる数であるから、各桁の数字の3乗をたすというあの作業を繰り返せば、やはり153に帰結するのである。

聖数36の意味

36の意味を、もう少し詳しく見てみよう。

聖書は、キリスト再臨の後、千年王国があり、そののち古い天地は過ぎ去って新天新地が創造されると、記している。この新天新地の中心は、神の住む「新エルサレム」である。

新エルサレムは、幕屋や神殿にあった至聖所と同じく、立方体の形をしている。ただし、巨大な立方体である。

「都は四角で、その長さと幅は同じである。彼がそのさおで都を計ると、1万2000スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである」（黙示21・16）。

新エルサレムは「長さも幅も高さも同じ」であり、1万2000スタディオンずつの立方体なのである。その容積を計算してみると、それはやはり36の倍数である。

$$12000 \times 12000 \times 12000$$

$$= 1,728,000,000,000$$

$$= 36 \times 48 \times 1,000,000,000$$

ここに出てきた1728という数字は、 36×48 であり、36の倍数である。48は8の倍数である。

つまりこの都は、三位一体の神の神性によって貫かれ、そこにはイエスの救いに入った人々が住んでいることがわかる。

新エルサレムは、神が聖徒たちと共に住んで下さる都である。そこで「エルサレムの聖徒たち」というギリシャ語のゲマトリアを調べてみると、それもやはり36の倍数であり、同時に8の倍数である。

2013年12月15日 - 九字」は禹歩（うほ）二進法の3桁を八進法の1桁秦氏はゲマトリア的手法によって、8を多くの神社名や神名につけていった

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1917><http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?67>を2進法であらわした数78を5進法であらわした数3852を8進法で.

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

> 古代人は地球の円周を知っていた模様。円周が元なら、距離は世界共通の可能性はあるな。

>

> 里、尺は地球の円周をもとに3、4、5をランダムに組合わせると

> 3、4、5はピタゴラス数

>

> 地球の円周4万km

> 千里533.5km(大宝律令の里：533.5m)

> $40000\text{km} \div 533.5\text{km} \approx 75$

>

> $1500 \div 3 = 500$

> $1500 \div 5 = 300$

>

> $75 \div 3 = 25$

> $75 \div 5 = 15$

>

> $(3 \times 4 = 12) \div 10 = 1.2$

>

> $(3 \times 5 = 15) \times 100 = 1500$

>

> $(75 \times 2 = 150) \times 10 = 1500$

>

> 大宝律令533.5mを基準に鏡尺を推測

> 尺は533.5m(大里) $\div 1500 = 35.5\text{cm}$ (大尺)

> $35.5 \div 1.2 = 29.6\text{cm}$ (小尺)、 $29.6 \times 1500 = 444.5\text{m}$ (小里)

> $29.6 \div 1.2 = 24.7\text{cm}$ (鏡尺)

>

> 古代里の魏は約 500 m とすると

> 尺は 500 m (大里) $\div 1500 = 33.3\text{cm}$ (大尺)

> $33.3 \div 1.2 = 27.7\text{ cm}$ (小尺)、 $27.7 \times 1500 = 415\text{ m}$ (小里)

> $27.7 \div 1.2 = 23.1\text{ cm}$ (鏡尺)

>

Re: 加齢 S (カレーズ) から帰還しました。 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 21 日(土)12 時 54 分 41 秒 返信・引用 編集済

> No.1933[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

古代人は地球の円周を知っていた模様。円周が元なら、距離は世界共通の可能性はあるな。

里、尺は地球の円周をもとに 3、4、5 をランダムに組合わせると

3、4、5 はピタゴラス数

地球の円周 4 万 k m

千里 533.5 k m(大宝律令の里：533.5 m)

$40000\text{km} \div 533.5\text{k m} \doteq 75$

$1500 \div 3 = 500$

$1500 \div 5 = 300$

$75 \div 3 = 25$

$75 \div 5 = 15$

$(3 \times 4 = 12) \div 10 = 1.2$

$(3 \times 5 = 15) \times 100 = 1500$

$(75 \times 2 = 150) \times 10 = 1500$

大宝律令 533.5 m を基準に鏡尺を推測

尺は $533.5 \text{ m (大里)} \div 1500 = 35.5 \text{ cm (大尺)}$

$35.5 \div 1.2 = 29.6 \text{ cm (小尺)}$ 、 $29.6 \times 1500 = 444.5 \text{ m (小里)}$

$29.6 \div 1.2 = 24.7 \text{ cm (鏡尺)}$

古代里の魏は約 500 m とすると

尺は $500 \text{ m (大里)} \div 1500 = 33.3 \text{ cm (大尺)}$

$33.3 \div 1.2 = 27.7 \text{ cm (小尺)}$ 、 $27.7 \times 1500 = 415 \text{ m (小里)}$

$27.7 \div 1.2 = 23.1 \text{ cm (鏡尺)}$

Re: 加齢 S (カレーズ) から帰還しました。 投稿者: 荊の紀氏 投稿日: 2013 年 12 月 21 日(土)07 時 06 分 19 秒 返信・引用

> No.1932[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

>> 管理人さんへのお返事です。

>

>>>

>>

>> 寸縮んで 1 尺伸びる。 天の北極へ最も近づいた後、次第に天の北極から離れて いきます。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>>

>> 歳差運動とよばれる地球の自転軸の首振り運動の ため、北極星は 2 1 0 3 年に天の北極へ最も近づいた後、次第に天の北極から離れて いきます。

<http://homepage2.nifty.com/turupura/season/summer/umi.htm>

>>

>>>

>

>

> ちょっと尺の算出起源についてさらに考えを進めてみましょう。

>

>

> 尺は年々長くなっていくもので、それは周の時代から中世に至るまでずっと伸び続けていったことで

しょう。

>

> それで、いろいろ年々伸び続けるものについて考えてみたのですが、昨年論じ合ったキシさんご指摘の北極星と店長との距離の問題もそうですね。

>

> また、たとえば年輪なども、1000年単位の大木なら、長期間にわたり太くなり続ける要素があります。

>

> あるいは、地層もそうですね。毎年すこしずつ積み重なって行き、100年で数十cmも積み重なって行きます。

>

> 洛陽とか長安の井戸の深さなんかも、毎年だんだん地下水脈からの距離が地層が厚くなるにつれて伸びるので、20mだったものが30mになったりするかもしれません。たとえば、その10分の1を尺（杓）にしたとかいう感じですね。

>

>

> あるいは、唐の小尺と大尺がともに535mの里を基礎単位としていて、それらを1500に分割するか、1800に分割するかで、尺単位に差をつけました。

>

> ということは535mの距離が基礎となっていて、その長さが年代とともにながくなるので、尺も伸びて行った、そんな経緯もあるかもしれません。1800分割というのは、何か意味がある。

>

> 535mは、洛陽の宮殿からたとえばどこかの河までの距離で、その河がだんだん蛇行して南にむかったのが、年代とともに距離が伸びて行って、それを基準にしていた尺も伸びて行った、そういうことも一例としてあげられるでしょう。

>

> あとは山の高さが400mから535mまで、膨張して高くなっていたとか、あるとき噴火でさらに高くなったとか

>

>

> 自然現象でそのようにして、年代とともに比例的に伸びて行くもの、その辺に注目してみたいところ
です。

$$1800 \text{ 分割} \cdots \div 5 = 360$$

$$535 \text{ m} \cdots \div 9 = 59.99999 \cdots$$

71 番目の素数は 535 $3+5+3=11$ <http://blogs.yahoo.co.jp/macrobiocticstudio/archive/2012/6/10>

五芒星 2 個で 10 10 番目の素数は 29 $2+9=11$

分析をしているときに「17」が頻繁にでてきたので、6/17 も注意ですね。

なんといっても、死と再生の儀式を行う救世主の誕生日ですから。（たんぼ日記さん参照のこと）

http://gigazine.net/news/20081211_jesus_born_on_june_17th/

71 番目の素数は 353. 72 番目の素数は 359. 73 番目の素数は 367. 74 番目の素数は 373. 75 番目の素数は 379. 76 番目の素数は 383. 77 番目の素数は 389. 78 番目の素数は 397. 79 番目の素数は 401. 80 番目の素数は 409. 81 番目の素数は 419. <http://cage1729.web.fc2.com/text/lab/sosu2.htm>

尺(cm) 22.5 23.04 24.12 29.51 31.1

$22.5 \text{ cm} \times 1800 = 405 \text{ m}$ 48 番目～49 番目？

$23.04 \text{ cm} \times 1800 = 414.72 \text{ m}$. . . 51 番目～52 番目

$24.12 \text{ cm} \times 1800 = 434.16 \text{ m}$. . . 53 番目～

$31.1 \text{ cm} \times 1800 = 559.8 \text{ m}$ 64 番目の素数は 311 . . . 64？ 46 番目の素数は 199？

99.05085 朔望周期⇒地球の 8 年(2922 日)。□991(=191+193+197+199+211)⇒素数、5 つの連続した素数の和。 <http://homepage3.nifty.com/enoch/fo-number2/num99.htm>

999999999⇒。12345679 を 9 倍すると 111111111 となり、これをさらに 9 倍した値。

$999999999 = 9 \times 9 \times 12345679$ 。

$9999999909 \Rightarrow = 9 \times 9 \times 123456789$ 。

48 番目の素数は 223

49 番目の素数は 227

50 番目の素数は 229

51 番目の素数は 233

52 番目の素数は 239

53 番目の素数は 241

54 番目の素数は 251

55 番目の素数は 257

56 番目の素数は 263

57 番目の素数は 269

58 番目の素数は 271

59 番目の素数は 277

60 番目の素数は 281

61 番目の素数は 283

62 番目の素数は 293

63 番目の素数は 307

64 番目の素数は 311

素数の表 <http://cage1729.web.fc2.com/text/lab/sosu2.htm>

最新の研究によるとキリストの生誕は 12 月 25 日ではなく、実は 6 月 17 日ではないかという説が出てきました。キリストが生まれたときに輝いたという「ベツレヘムの星」が大きなカギとなったようです。 http://gigazine.net/news/20081211_jesus_born_on_june_17th/

詳細は以下

Astronomer Dave Reneke believes he has solved the Star of Bethlehem mystery | Christmas | News.com.au

キリストが生まれた時に現れた「ベツレヘムの星」の正体は恐らく木星と金星が重なったもので紀元前 2 年にはこの二つの星が接近し、一つの大きな星として見えたそうです。「キリストが生まれた時、明るく輝く星が現れ人々の知るところとなった」と聖書にあるのですが、おそらくこのことなのだろうと Dave Reneke は考えているそうです。

Re: 加齢 S（カレーズ）から帰還しました。 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 20 日(金)23 時 17 分 1 秒 返信・引用 編集済

> No.1931[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>>

>

> 寸縮んで 1 尺伸びる。 天の北極へ最も近づいた後、次第に天の北極から離れて いきます。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

> 歳差運動とよばれる地球の自転軸の首振り運動の ため、北極星は 2 1 0 3 年に天の北極へ最も近づいた後、次第に天の北極から離れて いきます。

<http://homepage2.nifty.com/turupura/season/summer/umi.htm>

>

>>

ちょっと尺の算出起源についてさらに考えを進めてみましょう。

尺は年々長くなっていくもので、それは周の時代から中世に至るまでずっと伸び続けていったことでしょう。

それで、いろいろ年々伸び続けるものについて考えてみたのですが、昨年論じ合ったキシさんご指摘の北極星と店長との距離の問題もそうですね。

また、たとえば年輪なども、1000年単位の大木なら、長期間にわたり太くなり続ける要素があります。

あるいは、地層もそうですね。毎年すこしずつ積み重なって行き、100年で数十cmも積み重なって行きます。

洛陽とか長安の井戸の深さなんかも、毎年だんだん地下水脈からの距離が地層が厚くなるにつれて伸びるので、20mだったものが30mになったりするかもしれません。たとえば、その10分の1を尺（杓）にしたとかいう感じですね。

あるいは、唐の小尺と大尺がともに535mの里を基礎単位としていて、それらを1500に分割するか、1800に分割するかで、尺単位に差をつけました。

ということは535mの距離が基礎となっていて、その長さが年代とともにながくなるので、尺も伸びて行った、そんな経緯もあるかもしれません。1800分割というのは、何か意味がある。

535mは、洛陽の宮殿からたとえばどこかの河までの距離で、その河がだんだん蛇行して南にむかったのが、年代とともに距離が伸びて行って、それを基準にしていた尺も伸びて行った、そういうことも一例としてあげられるでしょう。

あとは山の高さが400mから535mまで、膨張して高くなっていたとか、あるとき噴火でさらに高くなったとか

自然現象でそのようにして、年代とともに比例的に伸びて行くもの、その辺に注目してみたいところですよ。

Re: 加齢 S（カレーズ）から帰還しました。 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 20 日(金)11 時 57 分 16 秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

> 尺がだんだん伸びて行くわけですね。しかも新井さんが示したように比例直線で伸びて行く。

>

> 何か天文的な単位、たとえば北斗七星と北極星の距離云々とか、ノーモン長と年代との関係で云々といった尺度で、時代とともに比例的に伸びて行った長さをもとに、尺度にしていたのではないのでしょうか。この件は昨年も論議しましたが、まだ未解明でしたね。

>

> 遊牧民や商人を通して、その尺度が東西に同時に伝えられていた。イングランドまで行く訳ですね。もっと追求してみたいところです。

>

>

寸縮んで 1 尺伸びる。天の北極へ最も近づいた後、次第に天の北極から離れていきます。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

歳差運動とよばれる地球の自転軸の首振り運動のため、北極星は 2 1 0 3 年に天の北極へ最も近づいた後、次第に天の北極から離れていきます。

<http://homepage2.nifty.com/turupura/season/summer/umi.htm>

>

Re: 加齢 S（カレーズ）から帰還しました。 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 19 日(木)22 時 54 分 24 秒 返信・引用 編集済

> No.1927[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 長さとしての歩は、古代中国の周代に制定された。右足を踏み出し、次に左足を踏み出した時の、起点から踏み出した左足までの長さ（現代日本語でいう「2歩」）を「1歩」とする身体尺で、約 1.35 m（面積は 1.822 m²）だった。

> 漢代に尺と関連づけられて、6 尺と換算されるようになった。当時の尺は約 23cm であり、1 歩は約 1.38m（面積は 1.38 m²）となった[1]。その後、尺の長さが伸びるのに比例し従い歩の長さも伸び、隋代には約 1.77 m（面積は 3.14 m²）となった[1]。

> 唐代には5 尺、つまり約 1.56 m（面積は 2.42 m²）となった（唐書食貨志）[1]。ただしこれは、歩の長さ・面積が変わったというよりは、尺が伸びたことに對し歩を変えないようにした結果だとする説もある[2]。その後（尺と共に）若干変化し、中華民国時代の 1929 年からの市制では 5?3 = 約 1.67 m（面積は 25?9 = 約 2.778 m²）である。。

>

> 1 フィート = 30.48 センチメートル <http://search.yahoo.co.jp/search?fr=slv1-snvaio&p=%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%88&ei=UTF-8>

> パッスス[編集]

> 歩幅を長さの単位にすることは世界各地で行われており、英語圏ではペース（pace, 約 76cm）、ドイツではシュリット（Schritt, 71~75cm）という単位が使われていた。古代ローマにはパッスス（passus）という単位があり、この 1000 倍のミレパッスム（mille passuum）がマイル（mile）の由来とされている。

> 1 フィート=30.48cm（12 インチ） 1 尺=30.3cm（10 寸）ですから、フィートと尺の寸法はそっくりですね。でも決定的に異なるのは、フィートは 12 進、尺は 10 進。

>

キシさん、お帰りなさい！思ったより早く退院なされたようでなによりです。

さて、フィートと尺は、あまりにも近似しすぎているように感じます。

30 cm は唐尺ですよ。

ヘンリー 1 世がそのサイズに定めたとなると 1100 年前後。

唐は907年までですから、少しタイムラグがありますが、しかし唐尺は正確には29cm台で、もう少し後の時代になって30cm代に入ったとすると時代的にあってくるんですね。

ヘンリー1世時代の人の足が30cmもあったはずもなく、これは明らかに別の尺度体系から持ってきたものでしょう。

尺がだんだん伸びて行くわけですね。しかも新井さんが示したように比例直線で伸びて行く。

何か天文的な単位、たとえば北斗七星と北極星の距離云々とか、ノーモン長と年代との関係で云々といった尺度で、時代とともに比例的に伸びて行った長さをもとに、尺度にしていたのではないのでしょうか。この件は昨年も論議しましたが、まだ未解明でしたね。

遊牧民や商人を通して、その尺度が東西に同時に伝えられていた。イングランドまで行く訳ですね。もっと追求してみたいところです。

圓丘方丘を并（ナラ）べ、 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月19日(木)22時02分2秒 返信・引用 編集済

『晋書』泰始二年・266年条に「圓丘方丘を并（ナラ）べ、二至の祀を南北の郊においてす」

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1399>

二至の祀の意味

一至は圓丘方丘

圓丘：耳成山、畝傍山は金剛山ライン

方丘：大仙陵古墳、大泉緑地、応神天皇陵は大仙陵古墳ライン

二至は妙見山ライン

南北の郊：山辺の道

圓丘方丘を并（ナラ）べ、二至の祀を南北の郊の交点に郊祀（こうし）がある。

郊祀はオカダ塚古墳になり、オカダ塚古墳から妙見山（能勢）までの距離：54km

方丘はオカダ塚古墳から大仙陵古墳方向へ距離：37.7km

圓丘はオカダ塚古墳から耳成山、畝傍山、金剛山方向へ距離：54km

金剛山方向の終点から山辺の道へ距離：37.7km のライン上に高野山：郊野になる。

オカダ塚古墳から大仙陵古墳方向へ距離：37.7km を 10 等分した距離が古墳間の距離
3.77km になる。等間隔に大仙陵古墳、大泉緑地、応神天皇陵・・・龍王山古墳群と並ぶ。
尚、難波宮、平城宮跡とラップする。

圓丘：耳成山、畝傍山

耳成山

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%80%B3%E6%88%90%E5%B1%B1>

畝傍山

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%95%9D%E5%82%8D%E5%B1%B1>

方丘：大仙陵古墳、大泉緑地、応神天皇陵

大仙陵古墳

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E4%BB%99%E9%99%B5%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

大泉緑地

<http://www.osaka-park.or.jp/nanbu/oizumi/main.html>

応神天皇陵

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AA%89%E7%94%B0%E5%BE%A1%E5%BB%9F%E5%B1%B1%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

南北の郊：山辺の道

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%B1%E8%BE%BA%E3%81%AE%E9%81%93>

郊祀：オカダ塚古墳、龍王山古墳群

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%83%8A%E7%A5%80>

<http://www.kashikoken-yushikai.jp/reikai/reikai0405.htm>

妙見山 (能勢)

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A6%99%E8%A6%8B%E5%B1%B1_\(%E8%83%BD%E5%8B%A2\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A6%99%E8%A6%8B%E5%B1%B1_(%E8%83%BD%E5%8B%A2))

金剛山 (金剛山地)

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91%E5%89%9B%E5%B1%B1_\(%E9%87%91%E5%89%9B%E5%B1%B1%E5%9C%B0\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91%E5%89%9B%E5%B1%B1_(%E9%87%91%E5%89%9B%E5%B1%B1%E5%9C%B0))

難波宮

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A3%E6%B3%A2%E5%AE%AE>

平城宮跡

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E5%9F%8E%E5%AE%AE>

Re: 加齢 S (カレーズ) から帰還しました。 投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2013 年 12 月 19 日(木)18 時 58 分 4 秒 返信・引用

> No.1927[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

ややこしい事になったな。里=5 町=300 歩の条件で

漢代 1 歩は 6 尺、里=1800 尺

唐代 1 歩は 5 尺、里=1500 尺

貝塚茂樹らは尺(cm)×1800 を里(m)としておるな。

度量衡は朝廷が公布するもので、時代とともに変遷する。『角川漢和中辞典』(貝塚茂樹ほか)巻末の度量衡表を引く。

王朝 周 秦・漢 魏 隋 唐

尺(cm) 22.5 23.04 24.12 29.51 31.1

丈(m) 2.25 2.304 2.412 2.951 3.11

歩(m) 1.35 1.3824 1.4472 1.7706 1.555

里(m) 405 414.72 434.16 531.18 559.8

<http://www.mctv.ne.jp/~kawai/old/log/note2012/20121130.html>

$22.5 \text{ cm} \times 1800 = 405 \text{ m}$

$23.04 \text{ cm} \times 1800 = 414.72 \text{ m}$

$24.12 \text{ cm} \times 1800 = 434.16 \text{ m}$

$29.51 \text{ cm} \times 1800 = 531.18 \text{ m}$

$31.1 \text{ cm} \times 1800 = 559.8 \text{ m}$

歩 (尺貫法)

歩（ぶ、拼音: Bù プー）は、尺貫法の長さと同面積の単位である。長さとしての1歩は本来は6尺で、面積としての1歩はその平方である。

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A9_%E2%80%B0%BA%E8%B2%AB%E6%B3%95%29

漢代1歩は6尺

里=5町=300歩、里=1800尺、町=60歩=360尺、

漢代に尺と関連づけられて、6尺と換算されるようになった。当時の尺は約23cmであり、1歩は約1.38m（面積は1.38 m²）となった。その後、尺の長さが伸びるのに比例し従い歩の長さも伸び、隋代には約1.77 m（面積は3.14 m²）となった。

唐代1歩は5尺

里=5町=300歩、里=1500尺、町=60歩=300尺、

唐代1歩は約1.56m

唐代には5尺、つまり約1.56 m（面積は2.42 m²）となった（唐書食貨志）。ただしこれは、歩の長さ・面積が変わったというよりは、尺が伸びたことに対し歩を変えないようにした結果だとする説もある。その後（尺と共に）若干変化し、中華民国時代の1929年からの市制では5?3 = 約1.67 m（面積は25?9 = 約2.778 m²）である。

大宝律令で「里＝5 町＝300 歩」と規定されている。当時の 1 里はおよそ 533.5m であったと推定されている

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%8C>

里＝5 町＝300 歩

歩＝533.3÷300 m＝1.78 m

漢代 1 歩は約 1.38m、里＝414 m、尺＝23.0cm

唐代 1 歩は約 1.56m、里＝468 m、尺＝31.2cm

大宝律令 1 歩は約 1.78m、里＝534 m、尺＝35.6、29.6 cm

35.6 cm×1500?＝533.5 m

29.6 cm×1800?＝532.8m

加齢 S（カレーズ）から帰還しました。 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 19 日(木)10 時 23 分 34 秒 返信・引用

歩（ぶ、拼音: Bù プー）は、尺貫法の長さ・面積の単位である。長さとしての 1 歩は本来は 6 尺で、面積としての 1 歩はその平方である。[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A9_\(%E5%B0%BA%E8%B2%AB%E6%B3%95\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A9_(%E5%B0%BA%E8%B2%AB%E6%B3%95))

長さとしての歩は、古代中国の周代に制定された。右足を踏み出し、次に左足を踏み出した時の、起点から踏み出した左足までの長さ（現代日本語でいう「2 歩」）を「1 歩」とする身体尺で、約 1.35 m（面積は 1.822 m²）だった。

漢代に尺と関連づけられて、6 尺と換算されるようになった。当時の尺は約 23cm であり、1 歩は約 1.38m（面積は 1.38 m²）となった[1]。その後、尺の長さが伸びるのに比例し従い歩の長さも伸び、隋代には約 1.77 m（面積は 3.14 m²）となった[1]。

唐代には 5 尺、つまり約 1.56 m（面積は 2.42 m²）となった（唐書食貨志）[1]。ただしこれは、歩の長さ・面積が変わったというよりは、尺が伸びたことに對し歩を変えないようにした結果だとする説もある[2]。その後（尺と共に）若干変化し、中華民国時代の 1929 年からの市制では 5?3＝約 1.67 m（面積は 25?9＝約 2.778 m²）である。。

1 フィート＝30.48 センチメートル <http://search.yahoo.co.jp/search?fr=slv1-snvaio&p=%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%88&ei=UTF-8>

パッスス[編集]

歩幅を長さの単位にすることは世界各地で行われており、英語圏ではペース（pace, 約 76cm）、ドイツではシュリット（Schritt, 71～75cm）という単位が使われていた。古代ローマにはパッスス（passus）という単位があり、この 1000 倍のミレパッスム（mille passuum）がマイル（mile）の由

来とされている。

1 フィート=30.48cm (12 インチ) 1 尺=30.3cm (10 寸) ですから、フィートと尺の寸法はそっくりですね。でも決定的に異なるのは、フィートは12進、尺は10進。

> 4 対 3 . . . フィートは12進？

3 次メッシュ

基準メッシュ (3 次メッシュ) から緯度経度 (南端、西端) <http://ikasumiwt.hatenadiary.jp/entry/2012/06/25/041013>

総務省のによると

3 次メッシュコードは8桁からなっていて

1 次メッシュ4桁 (①) + 2 次メッシュ2桁 (②) + 3 次メッシュ2桁 (③)

になっている。

上2桁=緯度×1.5 という変換なので、上2桁/1.5 をすると緯度が算出できる。

下2桁は経度-100 で算出されているので下2桁+100 で算出できる。

歩 禹歩 9 歩ずつ反問を繰り返し . . . 9 進法? <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

命の動脈・カレーズ <http://kazetokodou.web.fc2.com/CCP002.html>

15 5 0 3 0 0 0 1 0 0 0 0 . . . 3 5 ?

トルファンには約1500本のカレーズが掘られていて、総てを繋げると、約5000kに及ぶといわれている。井戸の最も深いところで67mあり、井戸間の長さはふつう3kだが、長い部分では10kあるという。

まさに人間の血管と同じで、カレーズが詰まったら、村は死んでしまう。まさに、命の動脈でもある。

サイラすし 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月19日(木)00時04分42秒 返信・引用

西羅、サイラすし、紀伊半島から釜石漁港。隋書 列傳第四十六 東夷 倭國に文林郎裴清が南望[身冉]羅國は位置から釜山になる。鮒寿司(ふなずし)、の田舎寿司は雑賀衆と関係が有りそうだな。韓半島の西羅(雑賀衆)が日本、倭国(倭国)に持込んだ模様。寿司は韓半島の筑紫が発祥になるかな。尚、倭国は添付図の瑞穂。

田舎寿司 九州北部、四国北部、近畿、中部地区に多く

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%BF%E5%8F%B8>

滋賀県に鮒寿司（ふなずし）は、フナを用いて作られる「熟れ鮒（鮒）」として有名で、滋賀県の郷土料理である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AE%92%E5%AF%BF%E5%8F%B8>

天智 10 年（670 年）正月には、佐平（百済の 1 等官）鬼室福信の功により、その縁者である鬼室集斯は小錦下の位を授けられた（近江国蒲生郡に送られる）。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BD%E6%9D%91%E6%B1%9F%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

倭国（倭国）多利思比孤 [身冉]羅國（サイラ?：西羅?）

明年 上遣文林郎裴清使於倭國 度百濟 行至竹嶋 南望[身冉]羅國 經都斯麻國 迴在大海中 又東至一支國 又至竹斯國 又東至秦王國 其人同於華夏 以爲夷州疑不能明也

? 隋書 列傳第四十六 東夷 倭國

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%A6%E7%8E%8B%E5%9B%BD>

西羅古墳群（滋賀県）

にしらこふんぐん

衣川の集落の背後にある。古墳群は、全長 46 メートル、高さ 7 メートルの帆立貝式古墳（1 号墳）と一辺 30 メートルの方墳（2 号墳）からなる。1 号墳は葺石がほどこされており、5 世紀代の築造で、市指定史跡。古墳頂部までのぼれるようになっている。また 2 号墳は衣川自治会館横に復元されている。

<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/jiten/data/026.html>

サイラスし、サンマすし（サイラ：西羅）紀伊半島南端部

属名 Cololabis は、ギリシア語の「kolos（コロス、意：short、短い）」とラテン語「labia（ラビア、意：lip、唇）」を合成したもの。種小名 saira は、日本語での一古称であり紀伊半島の方言名である「サイラ（佐伊羅魚）」に由来している。

漁業 釜石漁港

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%83%9E>

雑賀衆（サイガ：西賀：西羅の賀）

雑賀衆（さいかしゅう）は、「さいが」とも読み、また、史料に見られる「惣国」と同じと考えられているため、「紀州惣国」もしくは「雑賀惣国」とも呼ばれている。雑賀衆は紀伊国北西部（現在の和歌山市及び海南市の一部）の「雑賀荘」「十ヶ郷」「中郷（中川郷）」「南郷（三上郷）」「宮郷（社家郷）」という五つの地域（五組・五搦などという）から成り立っている。すなわち、雑賀衆とは、この五つの地域が地縁により結びついている一揆集団である。16 世紀当時としては非常に多い数千丁

単位の数鉄砲で武装しており、きわめて高い軍事力を持って傭兵集団としても活躍した。又海運や貿易も営んでいた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%91%E8%B3%80%E8%A1%86>

Re: 渡来人（とらいじん） 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 18 日(水)23 時 09 分 44 秒 返信・引用

> No.1924[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 秦野の対象は紀元前 1700 年からになるが渡来人（とらいじん）の認識が大きく異なるな

> 卑弥呼も 240 年、古墳もこの頃からですな。渡来人の認識を変える必要があるな。

> 蘇我が 4 世紀から 7 世紀頃になるが・・・？

>

> 渡来人（とらいじん）とは、広義には、海外から日本に渡って来た人々を意味するが、歴史用語としては、4 世紀から 7 世紀頃に、中国大陆及び朝鮮半島から日本に移住した人々を指すことが多い。帰化人との違いについては下記節を参照。

> 渡来は一時期に集中して起こった訳ではなく、幾つかの移入の波があったと考えられている。また、そのルーツに関しても、黄河流域～山東半島、揚子江流域、満洲～朝鮮半島など様々である。渡来の規模は過去に議論の対象となったが近年は人口動態には僅かな影響しか与えていないとする向きが多い。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%A1%E6%9D%A5%E4%BA%BA>

>

確かに「渡来人」の定義は、ちょっと考え直す必要がありますね。

渡来人の定義の研究史についてはこちら参照。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/渡来人>

<http://ksfj.jp/wp-content/uploads/2012721.pdf>

帰化は、（日本の）王朝を慕ってくることを、投化は半島などから逃亡してくることを。

渡来は「参渡来」の略で、参るに、帰化に近い意味があるものの、ただ天日矛他、かならずしも狭義の5～7世紀の渡来人を示すとは限らない用語。

渡来には海を渡るの意味があり、いわゆる対馬海峡や奄美諸島等を渡ってきたとの意味で考えるのが妥当。

ただ、渡来をもっと広義にとらえて、弥生人など、あるいは江戸時代に至るまでの流民も含めて、「海峡を超えて日本に渡ってきた人」と定義しなおすか？その辺も課題ですね。

実際論議してきたように、4世紀後半にタケウチシュクネの伝承に関わる渡来集団がすでに来ており、さらにそれ以前に

同様な史書には「明確に」されず曖昧にされてきた渡来集団がいたことは、先の会報で明らかにしたとおりです。

その地域も半島だけでなく、中国、中東を含めた遊牧民・商人・宗教者・・・、南洋諸島など遺伝子的にみれば非常に広い。

問題は史書でいう「帰化__渡来」人と、現実的に渡ってきた渡来集団との概念分離ですね。

後者は史書にはあらわれてないものの、実に膨大。天皇家の子孫された氏族集団にも多数いるわけです。

だから「帰化人」の用語はあくまで、史書上での特定の限定された氏族集団のみに使用すべきであって、それ啞害には適用すべではない。

というのも渡来の目的が、帰化のほか、逃亡、支配・・・と多種多用だからで、それも3～7世紀までに至る訳ですから、そうすると、問題が起こるでしょう。

渡来の用語をさらに、上記の史書的で限定された活用法と、広義な活用法とにも分類して使用する必要がでてくるわけです。

渡来を2種に分けると混乱が生じるという場合は、さらに別の概念を後者に対して定義しなおす件も考慮すべきかもしれません。

たとえば、渡人、渡人集団、渡海人、海渡集団・・・・・・・・・・。

過去の用例から当てはめようとする、実際問題で逆に限定されたり、矛盾が生じたりする可能性もでてきますね。

秦野さんはその辺どうおもわれますか？

渡来人（とらいじん） 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月18日(水)22時37分16秒 返信・引用

秦野の対象は紀元前1700年からはなるが渡来人（とらいじん）の認識が大きく異なるな
卑弥呼も240年、古墳もこの頃からですな。渡来人の認識を変える必要があるな。
蘇我が4世紀から7世紀頃になるが・・・？

渡来人（とらいじん）とは、広義には、海外から日本に渡って来た人々を意味するが、歴史用語としては、4世紀から7世紀頃に、中国大陆及び朝鮮半島から日本に移住した人々を指すことが多い。帰化人との違いについては下記節を参照。

渡来は一時期に集中して起こった訳ではなく、幾つかの移入の波があったと考えられている。また、そのルーツに関しても、黄河流域～山東半島、揚子江流域、満洲～朝鮮半島など様々である。渡来の規模は過去に議論の対象となったが近年は人口動態には僅かな影響しか与えていないとする向きが多い。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%A1%E6%9D%A5%E4%BA%BA>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月18日(水)00時13分20秒 返信・引用
管理人さんへのお返事です。

> おそらくは、楽浪・魏・呉など複数の渡来技術者の系統があつて、その神聖視した尺度がことなるので、バラバラな鏡の径の分布となったのでしょう。でもその分布はあきらかに、それらのどれかに対応して偏った分布となるわけです。

渡来技術者とは何者なのか、八咫鏡（やたのかがみ）直径2尺（46cm前後）で尺は23cm
は尺から魏鏡を基準に日本で製作した物だろうな。
どうも、渡来技術者で終わっているな。

古墳は渡来技術者・・・。

鏡は渡来技術者・・・。

どこかの、古代史研究者だな。

> 特に鏡の径を考える上では、分布曲線が重要です。

> たとえば三角縁神獣鏡だと、21.7~22.1cm が最も多いようです。

>

> これは 23.0 の前漢尺、23.3cm の後漢尺、さらには魏の 24.2cm 前後より短くなります。

>

> この理由をどこに求めるかは以前お話したとおりですが、その可能性のひとつとしてあげたのが、緯度差とノーモン長（影の長さの差）による尺誤差の関係、あるいは戦国時代末期の 22cm 代の尺度を用いた集団が、楽浪方面へ移住して、その楽浪から、さらに秦韓方面へと移住する。その秦韓人は、自分たちの言葉で「国」ことを「邦」と記すように、前漢皇帝劉邦の諱を割けることを知らない集団なんですね。だから、かれらはおそらく戦国末期の秦とか燕とかの遺民で、それを自分たち独自の尺度として、神殿尺のキュビットのごとくして神聖視して使い続けていた可能性となるのでしょうか。

>

> その一方で、魏の年号銘鏡や盤龍鏡は 24.5 cm 前後で、魏さらには晋尺にちかいんですね。また呉系の画像鏡は 21 cm 代で、呉尺にちかい。

>

> おそらくは、楽浪・魏・呉など複数の渡来技術者の系統があって、その神聖視した尺度がことなるので、バラバラな鏡の径の分布となったのでしょう。でもその分布はあきらかに、それらのどれかに対応して偏った分布となるわけです。

>

> それで、戦国・楽浪・秦韓系と魏系、呉系、3種のうちのどれを、どの氏族集団が取り入れていたかが重要で、それは古墳分布や、その古墳を結んででてくる方位区画の kM 単位の距離差で明らかになっていたこともありました。

>

> その辺を、もっと追求したいですね。秦野さんご紹介のような多くのデータが必要です。そしてその鏡の出土地、さらには分布と方位ラインの関係、古墳のサイズ、この辺をパソコンつかって一度グラフに落としたいですね。ちょっと時間がないかなー。人手も必要。

>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 16 日(月)23 時 11 分 26 秒 返信・引用
編集済

> No.1921[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 三角縁神獣鏡、等の古代の鏡を羅列し、後漢の尺は 23.04cm を基準に「咫」を計算すると

> 「咫」 2.16 から 4.50 までであり、何の共通性も見出せないな。だが、8 咫は異常だなあ。

> 後漢の尺(23.04cm)は鏡・・・。

>

> 秦野は鏡の尺と通常の尺は異なるのでは・・・。

> 古代里を約 500 m とすると

> 尺は 500 m (大里) ÷ 1500 = 33.3cm (大尺)

> $33.3 \div 1.2 = 27.7$ cm (小尺)、 $27.7 \times 1500 = 415$ m (小里)

> $27.7 \div 1.2 = 23.1$ cm (鏡尺)

>

> 説文解字の「咫」に、「周尺の八寸を咫とし、十寸を尺とする」とある。この「周」とは円周のことであり、咫とは円周の単位であった。円周率は約 3.14 であるが、これを 3.2 で近似すると、径 1 尺の円の円周は 3.2 尺となり、これを 4 咫とした。従って 1 咫は 0.8 尺である。

> 日本の八咫鏡は円周 8 咫、すなわち径 2 尺という意味である。後漢の尺は 23.04cm であるから、直径 46cm 前後の円鏡を指し、現在 4 枚の出土例がある。

>

> <http://webcache.googleusercontent.com/search?q=cache:http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%92%AB&strip=0>

>

> 1 咫は 18.4 cm

> 直径 咫

> 12.42 2.16

> 14.85 2.58

> 15.91 2.77

> 16.1 2.8

> 16.5 2.87

> 16.97 2.95

> (17.4) 3.02

> 17.7 3.08

> 18.1 3.14
> 20.3 3.53
> 21.0 3.65
> 21.9 3.81
> 22.1 3.84
> 22.2 3.86
> 22.3 3.88
> 22.4 3.89
> 22.5 3.91
> 22.7 3.95
> 22.73 3.95
> (23.0) 4.00
> 23.18 4.03
> 23.94 4.16
> 25.5 4.43
> 25.9 4.50
> 25.91 4.50
>
> <http://www.ne.jp/asahi/issshun/original/mater10.html>
>
>

特に鏡の径を考える上では、分布曲線が重要です。

たとえば三角縁神獣鏡だと、21.7~22.1cm が最も多いようです。

これは 23.0 の前漢尺、23.3cm の後漢尺、さらには魏の 24.2cm 前後より短くなります。

この理由をどこに求めるかは以前お話したとおりですが、その可能性のひとつとしてあげたのが、緯度差とノーモン長（影の長さの差）による尺誤差の関係、あるいは戦国時代末期の 22cm 代の尺度を用いた集団が、楽浪方面へ移住して、その楽浪から、さらに秦韓方面へと移住する。その秦韓人は、自分たちの言葉で「国」ことを「邦」と記すように、前漢皇帝劉邦の諱を割けることを知らない集団なんですね。だから、かれらはおそらく戦国末期の秦とか燕とかの遺民で、それを自分たち独自の尺度として、神殿尺のキュビットのごとくして神聖視して使い続けていた可能性となるのでしょうか。

その一方で、魏の年号銘鏡や盤龍鏡は 24.5 cm 前後で、魏さらには晋尺にちかいんですね。また呉系の画像鏡は 21 cm 代で、呉尺にちかい。

おそらくは、楽浪・魏・呉など複数の渡来技術者の系統があつて、その神聖視した尺度がことなるので、バラバラな鏡の径の分布となつたのでしょう。でもその分布はあきらかに、それらのどれかに対応して偏つた分布となるわけです。

それで、戦国・楽浪・秦韓系と魏系、呉系、3種のうちのどれを、どの氏族集団が取り入れていたかが重要で、それは古墳分布や、その古墳を結んででてくる方位区画の km 単位の距離差で明らかになっていたこともありました。

その辺を、もっと追求したいですね。秦野さんご紹介のような多くのデータが必要です。そしてその鏡の出土地、さらには分布と方位ラインの関係、古墳のサイズ、この辺をパソコンつかって一度グラフに落としてほしいですね。ちょっと時間がないかなー。人手も必要。

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 16 日(月)21 時 45 分 10 秒 返信・引用
管理人さんへのお返事です。

三角縁神獣鏡、等の古代の鏡を羅列し、後漢の尺は 23.04cm を基準に「咫」を計算すると
「咫」2.16 から 4.50 までであり、何の共通性も見出せないな。だが、8 咫は異常だなあ。
後漢の尺(23.04cm)は鏡・・・。

秦野は鏡の尺と通常の尺は異なるのでは・・・。

古代里を約 500 m とすると

尺は 500 m (大里) ÷ 1500 = 33.3cm (大尺)

33.3 ÷ 1.2 = 27.7 cm (小尺)、27.7 × 1500 = 415 m (小里)

27.7 ÷ 1.2 = 23.1 cm (鏡尺)

説文解字の「咫」に、「周尺の八寸を咫とし、十寸を尺とする」とある。この「周」とは円周のことであり、咫とは円周の単位であつた。円周率は約 3.14 であるが、これを 3.2 で近似すると、径 1 尺の円の円周は 3.2 尺となり、これを 4 咫とした。従つて 1 咫は 0.8 尺である。

日本の八咫鏡は円周 8 咫、すなわち径 2 尺という意味である。後漢の尺は 23.04cm であるから、直径 46cm 前後の円鏡を指し、現在 4 枚の出土例がある。

<http://webcache.googleusercontent.com/search?q=cache:http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%92%AB&strip=0>

1 咫は 18.4 cm

直径	咫

12.42	2.16

14.85	2.58

15.91	2.77

16.1	2.8

16.5	2.87

16.97	2.95

(17.4)	3.02

17.7	3.08

18.1	3.14

20.3	3.53

21.0	3.65

21.9	3.81

22.1	3.84

22.2	3.86

22.3	3.88

22.4	3.89

22.5	3.91

22.7	3.95

22.73	3.95

(23.0)	4.00

23.18	4.03

23.94	4.16

25.5	4.43

25.9	4.50

25.91 4.50

<http://www.ne.jp/asahi/isshun/original/mater10.html>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 16 日(月)08 時 34 分 32 秒 返信・引用
荊の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。
>
> 御世話様になって居ります
> 申し訳御座いませんが これから 加齢のため入院します、
> 帰りましたら、考えさせていただきます。
> 4～5日 休みます ヨロシク。

キシさん、こんにちは。了解しました。ご回復をお祈りいたします。

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 16 日(月)08 時 03 分 15 秒 返信・引用
> No.1918[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

御世話様になって居ります
申し訳御座いませんが これから 加齢のため入院します、
帰りましたら、考えさせていただきます。
4～5日 休みます ヨロシク。

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 15 日(日)23 時 02 分 55 秒 返信・引用
> No.1917[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

>> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>>

>>

>> 八咫鏡（やたのかがみ）直径2尺（46cm 前後）で尺は23 cm

>>

八咫鏡の件は、もう少し掘り下げてみたいですね。

「神鏡」や「宝鏡」という言葉は普通名詞であり、八咫鏡だけをさすとは限らないので注意が必要である。咫（あた）は円周の単位で、0.8 尺である。径1 尺の円の円周を4 咫としていた。したがって「八咫鏡」は直径2 尺（46cm 前後）の円鏡を意味する[2]が、桶代（御神体の入れ物）の大きさから考えてもっと小さいはずであり、「八咫（やた）」は単に「大きい」ということを表しているだけで具体的な数値ではないという説もある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/八咫鏡>

しかし、なぜ4 6 cm 鏡を2 尺鏡と言わなかったんでしょうね。わざわざ八咫鏡という表現を使う理由がわかりません。

ただ、その解決案としては、円周部分を利用していたということです。

つまり銅鏡の円周をひとつの定規単位としていたので、咫が重要視されたということでしょう。

昨年論議したように、銅鏡の円周を数回回転させることで、一定の長さの尺単位を造り出していたんですね。

秦野さん曰くロードメーター、そういう類いでしょう。

銅鏡の用途が、そもそも定規と分度器と尺単位の提供にあったので、そういう八咫の名が残ったと考えるのが筋ですね。

八咫と四咫鏡では、電車の車輪が2 倍違うようなもので、より大きな距離を造り出す、測量するのに八咫鏡が特注されたとかんがえるとどうなるか？

この銅鏡の径は古墳の径とも対応している事も会報で論じたとおりなのですが、2 倍尺の定規をつかえば、同じ設計図でも2 倍の大きさの古墳ができるのかもしれませんが。1・5 倍なら、1・5 倍の定

規を使う・・・。

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 15 日(日)21 時 33 分 41 秒 返信・引用
> No.1916[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

>

> 八咫鏡（やたのかがみ）直径 2 尺（46cm 前後）で尺は 23 cm

>

> 三角縁同向式神獣鏡（島根県大原郡加茂町 神原神社古墳）が 23 cm ですな。

> 景初三年（239 年）陳是作鏡と同尺になるのかな。八咫鏡は陳是作鏡ですか。

> それとも、新作明鏡・・・銅出徐州。八岐の大蛇は景初三年に居た、創られた？

> さあ、アマテラス・・・。アマテラスが古事記の卑弥呼・・・？。

>

> <http://www.ne.jp/asahi/issun/original/mater10.html>

>

> 角川漢和辞典』（貝塚茂樹ほか）巻末の度量衡表を引く。で・・・。

> 確か、時代で尺の大きさが異なるのだな。

> 王朝 周 秦・漢 魏 隋 唐

> では尺 23 cm は景初三年になり、八咫鏡（やたのかがみ）は魏のものになる・・・。

> ノア伝説、「長：幅：高=30：5：3」、8 進法はどう関係ある？

「九字」は禹歩（うほ） 二進法の 3 桁を八進法の 1 桁

秦氏はゲマトリア的手法によって、8 を多くの神社名や神名につけていった

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

67 を 2 進法であらわした数 78 を 5 進法であらわした数 3852 を 8 進法で ...

shiritaiooshietai2012 さん. 5 進数は、1 桁目が $5^0=1$ 、2 桁目が $5^1=5$ 、3 桁目が $5^2=25$ 、4 桁目が・・・、の倍数を表します。ですから、十進数を 25 や 5 や 1・・・で割り込んで商 と余りを算出します。商が 0 の時は、その桁が 0 になります。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1297316442

5進数は、1桁目が $5^0=1$ 、2桁目が $5^1=5$ 、3桁目が $5^2=25$ 、4桁目が・・・、の倍数を表します。
ですから、十進数を25や5や1・・・で割り込んで商と余りを算出します。商が0の時は、その桁が0になります。

78の場合は、

25で割ると、3余り3。

余りの3を5で割ると、0余り3。

余りの3を1で割ると、3余り0。

なので、「3」「0」「3」となります。

(4桁目は、 $5^3=125$ で割る事になるので、0です。)

4 0 4 10 14 20 24 30 34

6 0 6 14 22 30 36 44 52

八進記数法とは、8を底とする位取り記数法である。慣用に従い、通常のアラビア数字は十進数とし、八進記数法の表記は括弧および下付の8で表す。八進記数法で表された数を八進数と呼ぶ。

例えば十進法の100は、

$$100 = 1 \times 8^2 + 4 \times 8^1 + 4 \times 8^0 = (144)_8$$

となり、逆に

$$(100)_8 = 1 \times 8^2 + 0 \times 8^1 + 0 \times 8^0 = 64$$

となる。二進法の3桁を八進法の1桁で表現できるため二進数を人間に分かりやすく記述するのに適している。しかし初期の一部のコンピュータを除いて1バイトは8ビットであり、 $8n$ 桁(n は整数、例えば32桁や64桁)の二進数を扱うことが多いため、二進数の4桁を1桁で表す十六進数のほうが表記が分かりやすく、頻繁に使われる。CやPerlなどでは、数の前に0を付けると八進数と見なされる。例えば011は11ではなく $(11)_8$ すなわち9である。

9

$$9 = 11(8) \quad 9^2 = 121(8) \quad 243(8) = 2 \times 121 + 1 = 201(9) \quad // \quad 1001011(2) = 113(8) = 10 \times 11 + 3 = 83(9)$$

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10117191575

9進法では9で桁上がりするので上記の数は、右端から $13 = 9 + 4$ 、 $11 = 9 + 2$ 、 $13 = 9 + 4$ で、桁上げは、9が各々1として桁上する(上位に...九の位は繰り上がってくる1も加えて、 $4 + 7 + 1 = 13$ で、八十一の位に1繰り上がります。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1032615335

9

九星・気学(きゅうせい・きがく)とは、生れた年月日の九星と干支、五行を組合わせた占術。方位の吉凶を知るために使われることが多い。九星術を元に明治42年に園田真次郎が気学としてまとめたものと、それ以前の九星術と合わせて九星・気学と総称される。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%9D%E6%98%9F%E6%B0%97%E5%AD%A6>

九星の循環[編集]

日時の九星の九星の循環には幾つかの異説があるが、年月の九星についてはその循環のさせ方がほぼ固まっている。年については180年を一つの周期としている。180年の最初の干支は甲子で、干支の周期である60年を一つのくくりとして、上元、中元、下元に分けられている。最も近い上元は1864年から始まっており、2008年現在は下元であり、一白の年である。上元の甲子年を一白として、九紫、八白と星についている数字が減るように循環させて行く。この数が減る循環のさせ方を陰遁とよんでいる。

月の九星の循環のさせ方は、年でいう上元甲子年の九星術における正月である丙寅月を八白として陰遁させる。

1年は12ヶ月であり、12と9の最小公倍数が36であるので、月の九星の循環は3年を一つの周期としている。

5, 8, 13 をそれぞれ単数化 ... 金星の13公転 $225 \times 13 = 2920(+5)$ 日 地球の5公転 $365 \times 8 = 2920(+2)$ 日 2星の8会合 $584 \times 5 = 2920$ 日 月の99朔望日
...<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1005>

ゲマトリア（ユダヤ起源の数秘術）、5, 8, 13 をそれぞれ単数化すると5, 8, (1+3=)4となり、この3数から584という数を得ることができる。

金星と地球の会合周期は584日だ。

5, 6, 7のバリエーションの5, 8, 13という数が、地球と金星と太陽との間の関係において、明白に現れているのは誰の目にも明らかだろう。

なおこの間に月は99回朔望する。

つまり初日が満月だったら、地上から私たちは100回の満月を見る期間であるということなのだ。

金星の13公転 $225 \times 13 = 2920(+5)$ 日

地球の5公転 $365 \times 8 = 2920(+2)$ 日

2星の8会合 $584 \times 5 = 2920$ 日

月の99朔望日 $29.5 \times 99 = 2929(+0.5)$ 日

10進法の30を2進法に変換したら何になりますか？ ...

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1412331124

30から求める時は、元の数を2で割って商が0になるまで繰り返した時の余りから出します。

$$30/2=15...0$$

$$15/2=7...1$$

$$7/2=3...1$$

$$3/2=1...1$$

$$1/2=0...1$$

4/8 というような表記はせずに約分して 1/2 と書くが、読みは 4 分（よんぶ）と 8 進法。1 分は 1/8 ... 単位とする 4 進法。ここまでの例で考えると、ヤード・ポンド制は 4 を基本数として、公差 4 の 8、12、16、20 と位取り法が展開しているように思える。<http://app.m-cocolog.jp/t/typecast/49267/48442/61846108>

、「周尺の八寸を咫とし、十寸を尺とする」とある。この「周」とは円周のことであり、咫とは円周の単位であった。円周率は約 3.14 であるが、これを 3.2 で近似すると、径 1 尺の円の円周は 3.2 尺となり、これを 4 咫とした[1]。従って 1 咫は 0.8 尺である。

日本の八咫鏡は円周 8 咫、すなわち径 2 尺という意味である。後漢の尺は 23.04cm であるから、直径 46cm 前後の円鏡を指し、現在 4 枚の出土例がある。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%92%AB>

「アタ」には「来る」の意味 <http://www.historyjp.com/article.asp?kiji=171>

回り来る！

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 15 日(日)18 時 08 分 2 秒 返信・引用
編集済

> No.1915[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

八咫鏡（やたのかがみ）直径 2 尺（46cm 前後）で尺は 23 cm

三角縁同向式神獣鏡（島根県大原郡加茂町 神原神社古墳）が 23 cm ですな。

景初三年（239 年）陳是作鏡と同尺になるのかな。八咫鏡は陳是作鏡ですか。

それとも、新作明鏡・・・銅出徐州。八岐の大蛇は景初三年に居た、創られた？

さあ、アマテラス・・・。アマテラスが古事記の卑弥呼・・・？。

<http://www.ne.jp/asahi/issun/original/mater10.html>

角川漢和辞典』（貝塚茂樹ほか）巻末の度量衡表を引く。で・・・。

確か、時代で尺の大きさが異なるのだな。

王朝 周 秦・漢 魏 隋 唐

では尺 23 cm は景初三年になり、八咫鏡（やたのかがみ）は魏のものになる・・・。

ノア伝説、「長：幅：高=30：5：3」、8進法はどう関係ある？

八咫鏡

『古事記』では、高天原の八百万の神々が天の安河に集まって、川上の堅石（かたしは）を金敷にして、金山の鉄を用いて鍛造させたと記されている。『日本書紀』には、別の名を真経津鏡（まふつのかがみ）ともいうと記されている。単に神鏡（しんきょう）または宝鏡（ほうきょう）とよばれることも多いが「神鏡」や「宝鏡」という言葉は普通名詞であり、八咫鏡だけをさすとは限らないので注意が必要である。咫（あた）は円周の単位で、0.8 尺である。径1 尺の円の円周を4 咫としていた。したがって「八咫鏡」は直径2 尺（46cm 前後）の円鏡を意味するが、桶代（御神体の入れ物）の大きさから考えてもっと小さいはずであり、「八咫（やた）」は単に「大きい」ということを表しているだけで具体的な数値ではないという説もある。

本来は祭祀に用いる鏡を表す一般名詞であったものが、後に三種の神器の一つである鏡を指す固有名詞になったと考えられている。八咫鏡は伊勢神宮のものと皇居のもの（形代）との2 つがある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AB%E5%92%AB%E9%8F%A1>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 15 日(日)11 時 00 分 35 秒 返信・引用
> No.1914[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> ところで、8進数はコンピュータ独特のものと思っていたら、WikipediaのOctalの項には、なんとアメリカやメキシコの一部では実際に8進数が使われていると書かれています。しかも、その由来は「指を数える」のではなく「指の股を数える」のだからだそうです。なるほど！（笑）

>

> 8進数にこだわるな。8進数であるなら、四則演算も8進数で行うのが必須ですぞ。

> 四則演算が10進数で表記が8進数、コンピュータ独特と言っているが進数を合わせるのが

> 数学の基本ですぞ。大丈夫ですかな。

>

> 「指の股を数える」ですか、割り算はどうやるのかな。

> 8進数で表記なら中国史籍の1万2千里は10進数で幾らですかな。

>

>> それが、ある時期にペルシャやおそらくは遊牧民スキタイなどへと流れて行く。その過程で古代中国や半島方面へとながれていき、各種に器物が方位区画測量をしていった。その名残で、27.5や52の

尺度が頻繁に半島や倭の弥生後期のそれに見えて来る、その辺なんとも難しいですがね。

>

> 先入観

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%88%E5%85%A5%E8%A6%B3>

>

八咫鏡は円周8咫、すなわち径2尺

「長：幅：高=30：5：3」の比率は、現在のタンカーなどの大型船を造船する際に、最も安定しているといわれる比率とほぼ同じとなる。

ノア伝説とアホラ・ゴルジェ <http://hachi-style.jugem.jp/?eid=64>

ノアの方舟が着いた場所はアララト山山頂（現在のトルコ共和国東端の標高5.165mの山）、もしくは山腹。洪水は西暦前2370年（紀元前3000年頃とも）に起こったとされる。方舟のサイズは長さ300キュビト（133.5m）、幅50キュビト（22.2m）、高さ30キュビト（13.3m）とあり（1キュビト＝約44.5cmとして換算）この「長：幅：高=30：5：3」の比率は、船が最も安定する「黄金比」とほぼ同比率。一般的に、『聖書』の内容は伝説であると考えられているが『創世記』を伝承した人々は海上での長さ100m以上の船の安定比率を知っていたと思える。

66

、「1/5の7進法展開は如何？」ということが話題になった。http://www004.upp.so-net.ne.jp/s_honma/p-exp/p-exp.htm

私は、頭の中で、上記のように、 $1/5 = 0.2$ を順次7倍して整数部分をつなげて、

0. 1 2 5 4 1 2 5 4

を得たが、飯高先生は次のような別解を紹介された。

1は5で割れないから0がたち、0を補って10（7進数）とする。これは十進法で7で、5で割ると1がたち2余る。

20（十進法で14）として5で割ると2がたち4余る。

40（十進法で28）として5で割ると5がたち3余る。

30（十進法で21）として5で割ると4がたち1余る。以下、繰り返しとなる。

従って、1/5の7進法展開は、0. 1 2 5 4 1 2 5 4

さらに、飯高先生は、次のような性質も面白いと紹介された。

1/5の7進法展開の循環節 1 2 5 4 を2と5の間で2つの数12と54に分け足してみると、

$$12 + 54 = 66$$

となる。ここで、6は、 $6 = 7 - 1$ からくる。十進法展開で、1/7の循環節は、142857であるが、これも、 $142 + 857 = 999$ （ $9 = 10 - 1$ ）となり、同じ現象である。

（→ 参考：「循環小数の不思議」）

1、2、・・・ と並んでいる数列で、数字の「4」、「9」が使われているときは、その整数は飛ばして数えるものとする。

最初から数えて400番目の整数は何だろうか？

この問題を考えるために、下表のような十進法の数字と8進法の数字の対応を考える。

十進法の数字 1 2 3 5 6 7 8 0

8進法の数字 1 2 3 4 5 6 7 0

400 を8進法で表せば、620 である。これを上表の対応する数字に置換すると、求める整数は、720 となる。

(コメント) p 進数の意外というか、真の使い方を知って感動しました。2進法は、十進法の数字の2～9を「飛ばしたもの!」という発想がとても新鮮です。

(追記) 平成20年12月31日付け

0 と 1 のみを使って出来る2進法の整数列

1 、 10 、 11 、 100 、 101 、 110 、 111 、 ・・・

10進法の111を8進法で表すと

$8 \times 2 + 1 + 8 \times 1 + 5 + 8 \times 0 + 7$ となります

つまり157です

普段の10で繰り上げてるのを8で繰り上げるというのだと難しいですが、100の位は64の位、10の位は8の位、といった具合にとらえるとわかりやすいかもしれません、つまり111は、64が1個、出来るだけ桁を使わないように8が5個、1が7個と見る感じです

(笑)http://blog.livedoor.jp/jyoso_blogg-1203/archives/32186158.html

七男一女

>牛頭天王

牛頭天王（ごずてんのう）は、日本の神仏習合における神。京都東山祇園や播磨国広峰山に鎮座する神であり、蘇民将来説話の武塔天神と同一視された。インドの釈迦の生誕地に因む祇園精舎の守護神とされ、祇園神という祇園信仰の神である。陰陽道では天道神と同一視された。神仏習合では薬師如来の垂迹であるとともに、スサノオの本地とされた。現在の八坂神社にあたる感神院祇園社から勧請されて全国の祇園社、天王社で祀られた。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%89%9B%E9%A0%AD%E5%A4%A9%E7%8E%8B>

8年 七男一女

龍宮へ赴いた牛頭天王は、沙竭羅の三女の婆利采女を娶り、8年をそこで過ごすあいだに七男一女の王子（八王子）をもうけた。

牛頭天王は武塔神とも称され、スサノオと同一視されたうえで富貴な兄の巨旦将来と貧しい弟蘇民将来の説話を記している。それに対し、『先代旧事本紀』ではオオナムチノミコト（大国主）の荒魂が牛頭天王であると解説する[4]。

また、平安時代末期に成立した『伊呂波字類抄』（色葉字類抄）では、牛頭天王は天竺の北にある「九相国」の王であるとしている[4]。

八坂

八咫鏡

八尋 8

八神はやて？八神ひろき？八神庵？八神千歳？八進細分記号？八進数？八進法？八尋？八尋殿？八寸？八姓？八正道？八聖道？八切？八仙？八仙飯店之人肉 饅頭 ...

日本の八咫鏡は円周8咫、すなわち径2尺という意味である。

八岐の大蛇

8 又 ヤマタ

「指の股を数える」

> ところで、8進数はコンピュータ独特のものと思っていたら、WikipediaのOctalの項には、なんとアメリカやメキシコの一部では実際に8進数が使われていると書かれています。しかも、その由来は「指を数える」のではなく「指の股を数える」のだからだそうです。なるほど！（笑）

> http://blogs.itmedia.co.jp/pina/2006/06/8_bf7b.html

>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月15日(日)06時51分14秒 返信・引用 編集済

> No.1913[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> ところで、8進数はコンピュータ独特のものと思っていたら、WikipediaのOctalの項には、なんとアメリカやメキシコの一部では実際に8進数が使われていると書かれています。しかも、その由来は「指を数える」のではなく「指の股を数える」のだからだそうです。なるほど！（笑）

8進数にこだわるな。8進数であるなら、四則演算も8進数で行うのが必須ですぞ。

四則演算が10進数で表記が8進数、コンピュータ独特と言っているが進数を合わせるのが

数学の基本ですぞ。大丈夫ですか。

「指の股を数える」ですか、割り算はどうやるのかな。

8進数で表記なら中国史籍の1万2千里は10進数で幾らですか。

> それが、ある時期にペルシャやおそらくは遊牧民スキタイなどへと流れて行く。その過程で古代中国や半島方面へとつながっていき、各種に器物が方位区画測量をしていた。その名残で、27.5や52の尺度が頻繁に半島や倭の弥生後期のそれに見えて来る、その辺なんとも難しいですがね。

先入観

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%88%E5%85%A5%E8%A6%B3>

先入観では古代史は読めませんぞ。古代には船があり、交易があった。それが、知られる一つがアトランテス、また、船の記録もノアの方舟、……。海の道ですな。
日本もその一つですな。

アトランテス

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B9>

ノアの方舟

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8E%E3%82%A2%E3%81%AE%E6%96%B9%E8%88%9F>

> ここで尺併用という概念を用いる必要が出てきそうですが、周尺とその後の尺、呉・南方系と、北方系のそれ、その辺の問題ですね。

>

> それが、魏志倭人伝の短里にも当てはまっていたとするならば、そもそも長里の8分の1の短里を用いたのは誰だったのか？、ここが課題になってきます。

>

> 8進数で1繰り上げる概念ですね。8短里で1長里にする。

>

>

> 8進数は人間界にも存在した！

>

> ところで、8進数はコンピュータ独特のものと思っていたら、WikipediaのOctalの項には、なんとアメリカやメキシコの一部では実際に8進数が使われていると書かれています。しかも、その由来は「指を数える」のではなく「指の股を数える」のだからだそうです。なるほど！（笑）

> http://blogs.itmedia.co.jp/pina/2006/06/8_bf7b.html

>

>

> ヤードが16進数で、2、4、8が関わってきますね。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/ヤード>

>

> 元はダブルキュビット、

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/キュビット>

>

>

> キュビット体系がおもしろいですね。523.5～524 mm

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/キュビット>

>

> これがつまり長里405～15の8分1、51～2と関係してくる。

>

> 古代エジプト、ペルシャの尺体系

>

> 初期のピラミッドは、イスラエルの技術者と関係しているはずなのですが、その時代のそれなんですよ。以前ご紹介したDNAの流れに対応していきます。エジプト・イスラエル方面から、スキタイ、半島、倭へとながれていくあれです。一部はマヤ方面へと向かう。

>

>

> それが、ある時期にペルシャやおそらくは遊牧民スキタイなどへと流れて行く。その過程で古代中国や半島方面へとながれていき、各種に器物が方位区画測量をしていた。その名残で、27.5や52の尺度が頻繁に半島や倭の弥生後期のそれに見えて来る、その辺なんとも難しいですがね。

>

>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：管理人 投稿日：2013年12月14日(土)23時16分39秒 返信・引用

> No.1911[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> だが、大宝律令には小尺と大尺があり、また里もあるな

>

> $35.6\text{ cm} \times 1500 = 533.5\text{ m}$

> $29.6\text{ cm} \times 1500 = 444\text{ m}$

>

> が対応するなら、貝塚茂樹は

>

> $29.6\text{ cm (小尺)} \times 1800 = 533.5\text{ m (大里)}$

> $1500 \times 1.2 = 1800$

> $\times 1800$ 取り間違い

>

> 周（しゅう、紀元前 1046 年頃 - 紀元前 256 年）

> 呉（ご、拼音：wú、紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年）

>

> 古代中国の周は呉(春秋)を含むので大宝律令の尺は呉(春秋)の尺と思われるな。

>

> 大宝律令の尺

>

> 約 35.6 cm （大尺）

> 約 29.6 cm （小尺）（小尺一尺二寸＝大尺一尺）

>

> 大宝律令 隋(晋)尺＝（小尺）

> 35.6 cm （大尺） $\div 1.2 = 29.6\text{ cm}$ （小尺）

> $35.6\text{ cm} \div 1.2 = 29.6\text{ cm}$

>

> 大宝律令里

>

> 533.5 m （大里） $\div 1.2 = 444\text{ m}$ （小里）

>

> $35.6 \text{ cm} \times 1500 = 533.5 \text{ m}$

> $29.6 \text{ cm} \times 1500 = 444 \text{ m}$

>

尺が2つある理由という部分が重要ですね。つまり前王朝の時代の尺度が、どうしても過去の大工道具とか、いろいろな物差しで使う必要があつて、新しい尺度に変化しきれてない場合に、2つの尺度を同時併用することになったのだらうと思います。

確かに秦野さんのご指摘のとおり、2種の尺度が大宝律令にあることは、そのことと関係するでしょう。

まだ唐が成立して新しい尺度が導入されたものの、過去の古いのを日本でも残す必要があつたということですね。

逆に言えば、隋代から日本には里や尺が導入されていたということでしょう。唐人が渡来してきてはじめて新しい尺度が導入された。

つまり高麗尺とかも含めて、いろいろあつたわけですね。

それでなぜ日本独自の尺を造ろうとしなかったのか？が課題です。

ひとは渡来系技術者の問題。つまり祖国の技術・道具をそのまま使用して設計・構築する必要があつたのでしょう。

ただ、その前のプレ渡来人の時代に、以前お話したように三角縁神獣鏡の径をもって尺として利用しながら、各種の方位区画を構築して地図測量を行っていた経緯がありました。

その時代の尺度を、渡来人はほとんど切り捨てた、そんなふうに見えるんですね。

2つ併用する時代があつたかどうか？ここも課題なのですが、古墳づくりの尺度をみれば、同時併用時期、おそらくあるとすれば、4世紀半ば～末期、この辺ですね。その辺を調査する必要があります。

方位区画面では、最後の4世紀半ばの鴨津波古墳あたりを結ぶ正方位の三角縁の尺の区画を最後に、 $11 \cdot 1 \text{ km}$ 尺に変遷していき、さらに屯倉関連の尺度へ、そしてプレ律令時代のそれへと変遷していくわけですね。

ここで尺併用という概念を用いる必要が出てきそうですが、周尺とその後の尺、呉・南方系と、北方系のそれ、その辺の問題ですね。

それが、魏志倭人伝の短里にも当てはまっていたとするならば、そもそも長里の8分の1の短里を用いたのは誰だったのか？、ここが課題になってきます。

8進数で1繰り上げる概念ですね。8短里で1長里にする。

8進数は人間界にも存在した！

ところで、8進数はコンピュータ独特のものと思っていたら、WikipediaのOctalの項には、なんとアメリカやメキシコの一部では実際に8進数が使われていると書かれています。しかも、その由来は「指を数える」のではなく「指の股を数える」のだからだそうです。なるほど！（笑）

http://blogs.itmedia.co.jp/pina/2006/06/8_bf7b.html

ヤードが16進数で、2、4、8が関わってきますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ヤード>

元はダブルキュビット、

<http://ja.wikipedia.org/wiki/キュビット>

キュビット体系がおもしろいですね。523.5～524 mm

<http://ja.wikipedia.org/wiki/キュビット>

これがつまり長里405～15の8分1、51～2と関係してくる。

古代エジプト、ペルシャの尺体系

初期のピラミッドは、イスラエルの技術者と関係しているはずなのですが、その時代のそれなんですよ。以前ご紹介したDNaの流れに対応していきます。エジプト・イスラエル方面から、スキタイ、半島、倭へとながれていくあれです。一部はマヤ方面へと向かう。

それが、ある時期にペルシャやおそらくは遊牧民スキタイなどへと流れて行く。その過程で古代中国や半島方面へとながれていき、各種に器物が方位区画測量をしていった。その名残で、27.5 や 52 の尺度が頻繁に半島や倭の弥生後期のそれに見えて来る、その辺なんとも難しいですがね。

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 14 日(土)21 時 01 分 21 秒 返信・引用
編集済

> No.1909[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

キュビトはもっと身近なものですぞ。

キュビト

それ以外の多くの西洋の文化も、キュビットは使われた。ペルシャのキュビットは 52～64 cm、古代ギリシャでは $\pi\chi\upsilon\varsigma$ (pechys; ペーキウス) と呼ばれ約 47.4 cm、古代ローマでは cubitus と呼ばれて約 44.46 cm、アラブでは arsh と呼ばれて 48～64 cm であった。ユダヤでは ????? (アマ) と呼ばれて 46～61 cm であるが、これは今日でもユダヤ教で用いられている。

古代イスラエルでは、第一神殿時代のキュビットは 428 mm であった。第二神殿時代には、一般的には 445 mm のキュビットが使われていたが、宗教的な目的には 437 mm のキュビットが使用されていた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%88>

エジプトスタディオ 157.5

250,000 スタディアの地球周長を意味し

$$250000 \times 157.5 = 39375000$$

アッティカスタディオ 185

緯度 1 度が 111km : 185.185×60

$$185 \times 60 \times 60 \times 60 = 39960000$$

アッティカスタディオとエジプトスタディオの比

$$185 \div 157.5 = 1.175 \approx 1.2$$

53.4cm (ペルシャキュビット) $\div 1.2 = 44.5 \text{ cm}$ (一般的キュビット)

44.46 cm (古代ローマキュビット)

ペルシャのキュビットは 52~64 cm から 53.4cm (ペルシャキュビット) は妥当。

大宝律令里とキュビットの比は 1000 : 1 になるな。

533.5 m (大里) $\div 1.2 = 444 \text{ m}$ (小里)

>> 彼の用いた「里」の長さ？

> . . . 大地が平らであるなら

>

> 図 3(b)のように大地が平らであるなら、幾何学的には成り立つ。

> なお、中国では度量衡は時代による変遷があるが、普通は漢の時代には 1 里は 400m あまりとされている。

> しかし、実際には千里(400km あまり)を南北に移動すると、影の長さの変化はもっと大きくなるので、上記のデータは現実には合わない。

> 上記のデータで想定されている度量衡が違うものだったのかどうかはわからないが、以下では定性的な議論に止めたい。

> さて、南北に離れて同時に影を測定したら長さが違うのは、本当は図 3(a)のように地球が丸いからであって、古代ギリシャのエラトステネース (紀元前 3 世紀後半頃) は、このことから地球の大きさを推定したのであった。

>

>

> 当時の 1 里はおよそ 533.5m . . . 約 600 メートル 米升法とものさし

> 投稿日 : 2013 年 12 月 13 日(金)13 時 07 分 50 秒

> <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

> 古代の条里制の 1 条里 (本来の 1 坪) 日本では 6 が重視

> 投稿日 : 2013 年 12 月 13 日(金)14 時 08 分 28 秒

>

>> 1 里は 1800 尺 【里】 田 . . . (渾儀) ? 日影棒 (土) ノーモン

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

>

>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 14 日(土)00 時 43 分 26 秒 返信・引用
編集済

> No.1910[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

根本に間違いがあるな。

貝塚茂樹らは尺(cm)×1800 を里(m)としておるな。

度量衡は朝廷が公布するもので、時代とともに変遷する。『角川漢和中辞典』(貝塚茂樹ほか)巻末の度量衡表を引く。

王朝	周	秦・漢	魏	隋	唐
尺(cm)	22.5	23.04	24.12	29.51	31.1
丈(m)	2.25	2.304	2.412	2.951	3.11
歩(m)	1.35	1.3824	1.4472	1.7706	1.555
里(m)	405	414.72	434.16	531.18	559.8

<http://www.mctv.ne.jp/~kawai/old/log/note2012/20121130.html>

22.5 cm×1800=405 m

23.04 cm×1800=414.72 m

24.12 cm×1800=434.16m

23.04 cm×1800=414.72 m

31.1 cm×1800=559.8m

だが、大宝律令には小尺と大尺があり、また里もあるな

$$35.6 \text{ cm} \times 1500 = 533.5 \text{ m}$$

$$29.6 \text{ cm} \times 1500 = 444 \text{ m}$$

が対応するなら、貝塚茂樹は

$$29.6 \text{ cm (小尺)} \times 1800 = 533.5 \text{ m (大里)}$$

$$1500 \times 1.2 = 1800$$

×1800 取り間違い

また、『梁書』倭国伝から周の尺(cm)には2種類あり、22.5(cm)は35.6、29.6(cm)になるな。

貝塚茂樹のほころびですな。推測だが里は約400m、500mになるな。

中国史籍は約500mが一致するな。尚、中国史籍は短里(里の十分の一)約50mを使用。

三角縁神獣鏡の尺は両者の比に該当しないため、尺のひと回り小さい23(cm)にした。が結論。

周 秦・漢 魏 の里は間違いですな。どうせ、鏡の数値を入れたのだろうな。

『梁書』倭国伝

倭者、自云太伯之後。俗皆文身。去帶方萬二千餘里、大抵在會稽之東、相去絶遠。

倭とは、自らは太伯の後裔だという。俗は皆、身体に刺青をする。帶方郡から一万二千余里、おおよそ会稽郡の東に在り、互いに絶海の遠方である。

秦野訳：秦野著書(徐福と邪馬台国)参照

倭者は自らは太伯の後裔だという。俗は皆、身体に刺青をする。帶方郡(江華島)から一万二千余里(約600km、秦野距離で640km)狗耶韓国(釜山)の遠方、おおよそ会稽郡(上海)の東、絶海の遠方日本列島に在り。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun4-ryosho.htm>

周（しゅう、紀元前 1046 年頃 - 紀元前 256 年）

呉（ご、拼音：wú、紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年）

古代中国の周は呉(春秋)を含むので大宝律令の尺は呉(春秋)の尺と思われるな。

大宝律令の尺

約 35.6 cm（大尺）

約 29.6 cm（小尺）（小尺一尺二寸＝大尺一尺）

大宝律令 隋(晋)尺＝（小尺）

35.6 cm（大尺） $\div 1.2 = 29.6$ cm（小尺）

$35.6 \text{ cm} \div 1.2 = 29.6 \text{ cm}$

大宝律令里

533.5 m（大里） $\div 1.2 = 444$ m（小里）

$35.6 \text{ cm} \times 1500 = 533.5 \text{ m}$

$29.6 \text{ cm} \times 1500 = 444 \text{ m}$

> 聞追豫州，輕騎一日一夜行三百餘里，此所謂‘強弩之末，勢不能穿魯縞’者也。

三百餘里は短里(里の十分の一) 約 50m の 15km ですな。

$50 \text{ m} \times 300 = 15000 \text{ m} = 15 \text{ km}$

管理人さん 15km・・・さすが。ですな。

>>> ちょっと目につくところでは、

>>>

>>> 聞追豫州，輕騎一日一夜行三百餘里，此所謂‘強弩之末，勢不能穿魯縞’者也。

>>>

>>> 彼の用いた「里」の長さがわかるかもしれません。

>>

>>

>> 1里は1800尺 【里】田・・・(渾儀)？日影棒(土)ノーモン

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>> 『周髀算經』では、夏至の日の正午に、高さ8尺の髀(ノーモン、水ひ平な地面に垂直に立てた棒、図3(b)のHGやLK)の影の長さは1尺6寸(=1.6尺)であったが、そこから南へ千里のところでは影は1尺5寸であり、北へ千里のところでは影は1尺7寸であった、という観測結果から、南方に千里を行くごとに影が1寸ずつ短くなり、ついに南へ1万6千里を行ったところ(T)で影がなくなり、その真上に太陽(S)があるとしている(1里は1800尺)。

>>

>

>

> 先の「諸葛亮集」の「輕騎一日一夜行三百餘里」の記載によれば、馬で1日は走り続けてたどり着く距離範囲内と言えそうですね。

>

> ということは、通常の長里で1000里=410KMとすると、300里=130KM前後でしょうか。

>

> 馬の時速が30KMとしても、4時間分、なんとも難しいところですね。馬って130KMも1日で走れるのかな？

>

> 汗血馬は500KM走ったらしいですが、下記の回答だと80KM前後がせいぜいのようです。

> http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1135358261

>

>

> 短里で考えてさらに8分の1で、15km前後なら、馬なら1日かからないでしょうね。ちょっと短い。

>

> 陳寿がこの書物を書いたと確定できれば、おそらく彼は魏志倭人伝にもその尺度を使った可能性があるわけですね。ま、この馬の距離計算からいけば、長里の可能性が高いですね。

>

> ただし、倭人や半島人、元楽浪・帯方関連の距離記録を、陳寿がそのまま引用した場合は、短里の可能性もでてきます。

>

> つまり、陳寿は短里計算の尺度記録を、現地人から受け取って、そのまま長里だと思い込んだまま、倭や半島世界を想像したので、台湾方面まで伸びている国だと勘違いした可能性がでてくるわけですね。

>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 13 日(金)23 時 31 分 59 秒 返信・引用
編集済

> No.1906[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> ちょっと目につくところでは、

>>

>> 聞追豫州，輕騎一日一夜行三百餘里，此所謂‘強弩之末，勢不能穿魯縞’者也。

>>

>> 彼の用いた「里」の長さがわかるかもしれません。

>

>

> 1 里は 1800 尺 【里】田・・・(渾儀)？日影棒（土）ノーモン

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

> 『周髀算経』では、夏至の日の正午に、高さ 8 尺の髀（ノーモン、水ひ平な地面に垂直に立てた棒、図 3(b)の HG や LK）の影の長さは 1 尺 6 寸（=1.6 尺）であったが、そこから南へ千里のところでは影は 1 尺 5 寸であり、北へ千里のところでは影は 1 尺 7 寸であった、という観測結果から、南方に千里を行くごとに影が 1 寸ずつ短くなり、ついに南へ 1 万 6 千里を行ったところ(T)で影がなくなり、その真上に太陽(S)があるとしている（1 里は 1800 尺）。

>

先の「諸葛亮集」の「輕騎一日一夜行三百餘里」の記載によれば、馬で 1 日は走り続けてたどり着く距離範囲内と言えそうですね。

ということは、通常の長里で 1 0 0 0 里=410KM とすると、3 0 0 里=130KM 前後でしょうか。

馬の時速が30 KMとしても、4時間分、なんとも難しいところですね。馬って130 KMも1日で走れるのかな？

汗血馬は500 KM走ったらしいですが、下記の回答だと80 KM前後がせいぜいようです。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1135358261

短里で考えてさらに8分の1で、15 km前後まら、馬なら1日かからないでしょうね。ちょっと短い。

陳寿がこの書物を書いたと確定できれば、おそらく彼は魏志倭人伝にもその尺度を使った可能性があるわけです。ま、この馬の距離計算からいけば、長里の可能性が高いですね。

ただし、倭人や半島人、元楽浪・帯方関連の距離記録を、陳寿がそのまま引用した場合は、短里の可能性もでてきます。

つまり、陳寿は短里計算の尺度記録を、現地人から受け取って、そのまま長里だと思い込んだまま、倭や半島世界を想像したので、台湾方面まで伸びている国だと勘違いした可能性がでてくるわけですね。

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013年12月13日(金)16時12分15秒 返信・引用
> No.1908[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 彼の用いた「里」の長さ？

・・・大地が平らであるなら

図3(b)のように大地が平らであるなら、幾何学的には成り立つ。

なお、中国では度量衡は時代による変遷があるが、普通は漢の時代には1里は400mあまりとされている。

しかし、実際には千里(400kmあまり)を南北に移動すると、影の長さの変化はもっと大きくなるので、上記のデータは現実には合わない。

上記のデータで想定されている度量衡が違うものだったのかどうかはわからないが、以下では定性的な議論に止めたい。

さて、南北に離れて同時に影を測定したら長さが違うのは、本当は図3(a)のように地球が丸いからで

あつて、古代ギリシャのエラトステネース（紀元前3世紀後半頃）は、このことから地球の大きさを推定したのであった。

当時の1里はおよそ533.5m・・・約600メートル 米升法とものさし

投稿日：2013年12月13日(金)13時07分50秒

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

古代の条里制の1条里（本来の1坪）日本では6が重視

投稿日：2013年12月13日(金)14時08分28秒

> 1里は1800尺 【里】田・・・(渾儀)？日影棒（土）ノーモン

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月12日(木)21時52分27秒 返信・引用
> No.1906[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

大宝律令の里は、呉（春秋）の里になる。1里は1500尺が正しいな。

1里は1500尺で1800尺は間違いですな。

>> ちょっと目につくところでは、

>>

>> 聞追豫州，輕騎一日一夜行三百餘里，此所謂‘強弩之末，勢不能穿魯縞’者也。

>>

>> 彼の用いた「里」の長さがわかるかもしれません。

>

>

> 1里は1800尺 【里】田・・・(渾儀)？日影棒（土）ノーモン

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

> 『周髀算経』では、夏至の日の正午に、高さ8尺の髀（ノーモン、水ひ平な地面に垂直に立てた棒、図3(b)のHGやLK）の影の長さは1尺6寸（＝1.6尺）であったが、そこから南へ千里のところでは影は1尺5寸であり、北へ千里のところでは影は1尺7寸であった、という観測結果から、南方に千

里を行くごとに影が1寸ずつ短くなり、ついに南へ1万6千里を行ったところ(T)で影がなくなり、その真上に太陽(S)があるとしている(1里は1800尺)。

谷本茂氏による一寸千里の法の解法 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月12日(木)17時21分56秒 返信・引用 編集済

谷本茂氏による一寸千里の法の解法は大きな間違いをしているな
間違いは、地球の半径を6,370kmとして・・・この半径で距離は変化する
「周髀算経」当時の地球の半径を入れる必要がある。

半径が4000 km・・・48.4～47.9 km

半径が5000 km・・・60.5～59.9 km

半径が6000 km・・・72.6～71.9 km

半径が7000 km・・・72.6～71.9 km

谷本茂氏による一寸千里の法の解法

周の地で棒が影を作る角度 $\tan^{-1} 16/80 = 0.1974(\text{rad}) = 11.3^\circ$

南へ千里の地で棒が影を作る角度 $\tan^{-1} 15/80 = 0.1853(\text{rad}) = 10.6^\circ$

北へ千里の地で棒が影を作る角度 $\tan^{-1} 17/80 = 0.2094(\text{rad}) = 12.0^\circ$

北回帰線は北緯23～24°であるので、この計算からは周の地は北緯35°あたりにあることになる。
古代の地図から、ちょうどこのあたりに周はあったはずなので場所は合っていることが確認できる。

(それにしても記号の変換が上手く行かない。そのうちPDFにでも変えてやるか)

ここで、地球の半径を6,370kmとして、周の地から南へ千里行ったところまでの距離を求めてみる。

$6,370 \times (0.1974 - 0.1853) = 77.1$ 千里 = 77.1Km

次に周の地から北へ千里行ったところまでの距離を求めてみる。

$6,370 \times (0.2094 - 0.1974) = 76.4$ 千里 = 76.4Km

「周髀算経」は、西周の時代(紀元前1050年～771年)、周の最盛期に成立したと伝えられる天文観測や数学について記された天文算術書。

その内容は原始的な三角測量や部分的なピタゴラスの定理等が含まれ、

従来の説から一寸千里の法をみれば、古代人の愚しさに映るであろうが、その内容を真面目に検討することにより短里と巡り合うことができたと言えるであろう。私にとってこのささやかな経験は、古田氏が力説される「史料批判の重要性」を実感するに充分であった。

<http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/tyosaku14/atogaki.html>

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 12 日(木)14 時 55 分 33 秒 返信・引用
管理人さんへのお返事です。

> ちょっと目につくところでは、

>

> 聞追豫州，輕騎一日一夜行三百餘里，此所謂‘強弩之末，勢不能穿魯縞’者也。

>

> 彼の用いた「里」の長さがわかるかもしれません。

1 里は 1800 尺 【里】田・・・(渾儀)？日影棒(土) ノーモン <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

『周髀算經』では、夏至の日の正午に、高さ 8 尺の髀（ノーモン、水ひ平な地面に垂直に立てた棒、図 3(b)の HG や LK）の影の長さは 1 尺 6 寸（＝1.6 尺）であったが、そこから南へ千里のところでは影は 1 尺 5 寸であり、北へ千里のところでは影は 1 尺 7 寸であった、という観測結果から、南方に千里を行くごとに影が 1 寸ずつ短くなり、ついに南へ 1 万 6 千里を行ったところ(T)で影がなくなり、その真上に太陽(S)があるとしている（1 里は 1800 尺）。

そして、そこ(T)から北へ 1 万 6 千里のところで、8 尺の髀の影が 1 尺 6 寸であることから、相似三角形の比例関係(例えば△STM と△KLM)によって、太陽の高さ(TS)は 8 万里であるとした。

これは、図 3(b)のように大地が平らであるなら、幾何学的には成り立つ。

なお、中国では度量衡は時代による変遷があるが、普通は漢の時代には 1 里は 400m あまりとされている。

しかし、実際には千里(400km あまり)を南北に移動すると、影の長さの変化はもっと大きくなるので、上記のデータは現実には合わない。

上記のデータで想定されている度量衡が違うものだったのかどうかはわからないが、以下では定性的な議論に止めたい。

さて、南北に離れて同時に影を測定したら長さが違うのは、本当は図 3(a)のように地球が丸いからであって、古代ギリシャのエラトステネース（紀元前 3 世紀後半頃）は、このことから地球の大きさを推定したのであった。

しかし、大地が平面であるという前提に立てば、図 3(b)のようになるわけである。

ここで、もし数値が正確であったら、図3(b)の天の高さはどの程度になるはずかを考えてみるのも興味深い。

ノーモンの用語解説 <http://kotobank.jp/word/%E3%83%8E%E3%83%BC%E3%83%A2%E3%83%B3>

【中国天文学】より

…中国の歴史時代は殷王朝から始まったが、前1300年ごろからの甲骨文によると、当時すでに太陰太陽暦が行われていた。地面に垂直に立てた棒(ノーモン、中国では〈髀〉もしくは〈表〉という)が落とす太陽の影の長さを測り、冬至や夏至の日を決定し、1年の長さを知った。しかし当時採用された1年や1月の長さは確かめられていない。…

【天文学】より

…のちには正しい閏月挿入法が考案され、ギリシアの〈メトン Metōn 法〉(前5世紀)と同じく、19年間に7回の閏月を挿入することが、西方諸国よりも早く知られたようである。観測器械としては地面に垂直棒を立ててその影を測る簡単な〈ノーモン〉が用いられ、これによって1年の長さが正確に求められるようになった。また若干の星座をみて季節の推移を知ることもできた。…

【時計】より

…太陽の動きにつれて木や岩などの影が長さと方向を変えていくことに気づき、これを時計として利用したものである。このような日時計の利用は前5000年ごろのエジプトで始まったらしいが、やがて日影棒(ノーモン gnomon)と呼ばれる棒を地面に垂直に立てて日時計とするようになった。オベリスクの高い尖塔も日影棒として用いられたという説もある。…

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：管理人 投稿日：2013年12月11日(水)23時12分6秒 返信・引用
> No.1902[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 陳の痕跡ですね。確かに秦野さんご指摘の陳寿というのは、どこから出てきた人なのか？

> なぜ半島や倭に詳しいのか？について考える必要はあると思います。どこまでせまれるかな？

>

> 中国史籍の内容と魏志倭人伝の内容は同一になるな。三角縁神獣鏡に陳の文字があるな。

>

> > 陳 寿 (ちん じゅ、建興11年(233年) - 元康7年(297年)) は、三国時代の蜀漢と西晋に仕えた官僚。字は承祚(しょうそ)。『三国志』の著者である。自身の伝は『晋書』にある。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%B3%E5%AF%BF>

>

>

なるほど、陳寿については、もっと調べる必要がありますね。

蜀・益州方面には住んでいたことがあり、地理感があったのでしょうか。ただ、半島や倭については、秦野さんのような陳寿の渡来はなかったようにも感じますね。あくまで伝聞記録を彼なりの知識と手段で編纂した。

特に諸葛亮集は彼の著作で、かなり倭人伝を考える上でも重要になってくるかもしれません。

<http://www.epochtimes.com/b5/1/8/16/c3361.htm>

ちょっと目につくところでは、

聞追豫州，輕騎一日一夜行三百餘里，此所謂‘強弩之末，勢不能穿魯縞’者也。

彼の用いた「里」の長さがわかるかもしれません。

降集氏、羌，興復二郡

の二郡、

故五月渡瀘，深入不毛。今南方已定，兵甲已足，當獎率三軍，北定中原，庶竭駑鈍，攘除奸凶，興復漢室，還于舊都。

特に、ここでは東西南北の方角観念ですね・

爰整六師，無?不征，神武赫然

神武

贈君丞相武?侯印綬，謚君為忠武侯。魂而有靈，嘉茲寵榮。

印綬

蜀破之明年春，厥、建?詣京都，

京

身高八尺

尺単位

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 11 日(水)22 時 44 分 4 秒 返信・引用
> No.1903[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

ところで、古代史と関係が？疑問だな。

秦野は秦野距離こと大宝律令の里がどこから来たかが問題だな。

> 上下・・・氏 二等辺三角形にしてグルグル 回族 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

> 台形の上底の長さが知りたいのですが、
http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1299108227

> 台形の中心線を延長して二等辺三角形にしてグルグルしました。

>

> 天と地がひっくりかえっている

> （8進法?の）八卦には、数字やアルファベットではなくて、意味のある漢字 があてられています。
<http://www3.ocn.ne.jp/~fukiyo/math-osy/uranai.htm>

> 「地天泰（ちてんたい）」というのは、天と地がひっくりかえっているので、たいへんなことがお
きる・・・ということではありません。

> 物事は変化するので、上にある「地」は下にさがろうとするし、下にある「天」は上にあがろうとするのです。

>

> 桁ごとの重みの増え方を「基数」<http://docs.olab.org/XXX/netmemo/base.html>

>

> 等脚台形のうち、底辺 BC と AD の長さも等しい場合は長方形となる。したがって長方形は等脚台形の特殊な形である。長方形とは、等脚台形であり、かつ平行四辺形でもある四角形だということができる。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AD%89%E8%84%9A%E5%8F%B0%E5%BD%A2>

> 2本の対角線の長さは互いに等しく、対角線の交点 E と上底にある頂点 B,C までの距離はともに等しい。下底にある頂点 A,D に対しても同様である。また、三角形 EAB と三角形 EDC は合同な図形となり、対角線の交点 E から台形の脚 AB,CD までの距離は等しい。

> 等脚台形は円に内接する。つまり 4 本の辺それぞれの垂直二等分線は一点で交わる。

> 正六角形を最も長い対角線を境に 2 つに分割すると 4 本の辺のうち 3 本の長さが等しい等脚台形が得られる。

>

>、「平行な 2 辺が軸(格子の線)に平行 or 軸と 45° の角をなす等脚台形」は、容易にそれが等脚台形であることが分かります。<http://nadamath2012.web.fc2.com/program/kyouen2.html>

> 8 角形の 8 つの頂点から任意に 4 点をとると、

> (1) その 4 点は「単純等脚台形」をなす

> (2) その 4 点からさらに 3 点 A,B,C をうまく選ぶと、 $\angle ABC = 90^\circ$ となる

> のどちらか少なくとも一方が必ず成り立ちます。

> つまり、8 角形は、「単純等脚台形」または「円周角・対角 90° 」に帰着されるのです。

>

> エケルト図法またはエッケルト図法とは、ドイツの地理学者マックス・エケルト (en:Max Eckert-Greifendorff) によって 1906 年に考案された 6 つの地図投影法の総称である。主に世界地図を描くために使用される。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%82%B1%E3%83%AB%E3%83%88%E5%9B%B3%E6%B3%95>

> エケルト第 2 図法[編集]

> 外形は第 1 図法と同じであるが、緯線の間隔を調節して正積になるようにしたものである。

>

> 符号化パターン及び緯度・経度をそれぞれ 8 分割していき 64 分割した図を十進数 (白抜き数字) と八進数 (黒数字) で表した図です。<http://geopo.creco.net/intl/ja/developer/>

> ジオポの符号化方法ですが、こちらで紹介する方法以外にもアルゴリズム (8 進数化してビット演算など) はあると思います。ここでは、一番わかりやすいアルゴリズムを紹介します。また、文字ではわかりにくいと思いますので、実際にいろいろな言語で実装したコードは、付録をご覧ください。

>

Re: 倭・伽耶 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 11 日(水)22 時 33 分 22 秒 返信・引用
> No.1897[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> だんだん渡来系集団は、間違いですな。8 進数が何を意味するかも不明ですな。

上下・・・氏 二等辺三角形にしてグルグル 回族 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

台形の上底の長さが知りたいのですが、
http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1299108227
台形の中心線を延長して二等辺三角形にしてグルグルしました。

天と地がひっくりかえっている

(8 進法? の) 八卦には、数字やアルファベットではなくて、意味のある漢字 があてられています。
<http://www3.ocn.ne.jp/~fukiyo/math-osy/uranai.htm>

「地天泰 (ちてんたい)」というのは、天と地がひっくりかえっているので、たいへんなことがおきる・・・ということではありません。

物事は変化するのですから、上にある「地」は下にさがろうとするし、下にある「天」は上にあがろうとするのです。

桁ごとの重みの増え方を「基数」<http://docs.olab.org/XXX/netmemo/base.html>

等脚台形のうち、底辺 BC と AD の長さも等しい場合は長方形となる。したがって長方形は等脚台形の特殊な形である。長方形とは、等脚台形であり、かつ平行四辺形でもある四角形だということができる。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AD%89%E8%84%9A%E5%8F%B0%E5%BD%A2>

2 本の対角線の長さは互いに等しく、対角線の交点 E と上底にある頂点 B,C までの距離はともに等しい。下底にある頂点 A,D に対しても同様である。また、三角形 EAB と三角形 EDC は合同な図形となり、対角線の交点 E から台形の脚 AB,CD までの距離は等しい。

等脚台形は円に内接する。つまり 4 本の辺それぞれの垂直二等分線は一点で交わる。

正六角形を最も長い対角線を境に 2 つに分割すると 4 本の辺のうち 3 本の長さが等しい等脚台形が得られる。

、「平行な 2 辺が軸(格子の線)に平行 or 軸と 45°の角をなす等脚台形」は、容易にそれが等脚台形で

あることが分かります。 <http://nadamath2012.web.fc2.com/program/kyouen2.html>

8 角形の 8 つの頂点から任意に 4 点をとると、

(1) その 4 点は「単純等脚台形」をなす

(2) その 4 点からさらに 3 点 A,B,C をうまく選ぶと、 $\angle ABC = 90^\circ$ となる

のどちらか少なくとも一方が必ず成り立ちます。

つまり、8 角形は、「単純等脚台形」または「円周角・対角 90° 」に帰着されるのです。

エケルト図法またはエッケルト図法とは、ドイツの地理学者マックス・エケルト (en:Max Eckert-Greifendorff) によって 1906 年に考案された 6 つの地図投影法の総称である。主に世界地図を描くために使用される。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%82%B1%E3%83%AB%E3%83%88%E5%9B%B3%E6%B3%95>

エケルト第 2 図法[編集]

外形は第 1 図法と同じであるが、緯線の間隔を調節して正積になるようにしたものである。

符号化パターン及び緯度・経度をそれぞれ 8 分割していき 64 分割した図を十進数（白抜き数字）と八進数（黒数字）で表した図です。 <http://geopo.creco.net/intl/ja/developer/>

ジオポの符号化方法ですが、こちらで紹介する方法以外にもアルゴリズム（8 進数化してビット演算など）はあると思います。ここでは、一番わかりやすいアルゴリズムを紹介します。また、文字ではわかりにくいと思いますので、実際にいろいろな言語で実装したコードは、付録をご覧ください。

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 11 日(水)00 時 15 分 0 秒 返信・引用
編集済

管理人さんへのお返事です。

陳の痕跡ですね。確かに秦野さんご指摘の陳寿というのは、どこから出てきた人なのか？

なぜ半島や倭に詳しいのか？について考える必要はあると思います。どこまでせまれるかな？

中国史籍の内容と魏志倭人伝の内容は同一になるな。三角縁神獣鏡に陳の文字があるな。

>陳 寿（ちん じゅ、建興 11 年（233 年） - 元康 7 年（297 年））は、三国時代の蜀漢と西晋に仕えた官僚。字は承祚（しょうそ）。『三国志』の著者である。自身の伝は『晋書』にある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%B3%E5%AF%BF>

> 彼らは製鉄など金属精錬技術をもっていて、

三角縁神獣鏡は銅なのに製鉄の金属精錬技術なのか、遊牧民がなぜ古墳の埋葬品を作る
渡来人がいきなり遊牧民ですか。

三角縁神獣鏡の材質は、銅とスズの合金である青銅で、鉛も数%は含まれています。スズを 20%以上も含むため、たいへん硬くて脆く、そして金色をほのかに帯びた銀灰色をしています。錆びて緑青に覆われた今の姿とはずいぶん印象が違いますね。あらかじめ用意した鋳型に、溶けた青銅を流し込む鋳造技術で作りますから、同じ鋳型から同じ形の鏡を作ることにも可能です。三角縁神獣鏡には、いわゆる「同範鏡」、あるいは「兄弟鏡」と呼ばれる同じ文様を持つグループがいくつもあります。同じ文様を持つ三角縁神獣鏡が実際にどうやって作られたのか、これまた大きな問題なのです。

http://www.kyohaku.go.jp/jp/kankou/haifu/yomimono_data/0063.html

> 「吾」氏はすでに、上記のとおり半島・倭に進出していましたが、元は尚方として、官営工房で高級官僚トウ氏の配下で各種の器物・遊牧民系の車馬つまりチャリオットを作成していたはずで

チャリオットにこだわり過ぎですな。魏志倭人伝は大宝律令の短里で記入されている。

中国史籍の距離が短里になる。実測でのこと。

漢代の尺約 23.09 cm 三角縁同向式神獣鏡 23.0 で一致する。

魏志のころは漢尺で、三角縁神獣鏡は漢尺この点を考慮していないな。

魏志倭人伝には月の単位があるな。漢の距離単位とは異なる。

チャリオット＝三角縁神獣鏡は捨てるべき・・・。漢尺は使用していない。

チャリオット (Chariot) とは古代の戦争に用いられた戦闘用馬車である。ここでは、中国語で「戦車」 (tank ではない) と呼ばれるチャリオットを含め、戦闘馬車全般について記す。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%AA%E3%82%AA%E3%83%83%E3%83%88>

秦野も短里はふり出しに戻る事情が生じた。

> その月氏系技術者を配下においていた中国高官のトウ氏の子孫たちが、後漢末期の政治抗争にやぶれて迫害され、半島へと逃げて行く。もともと、半島にはすでに前漢時代から月氏・羌系の商人集団によって開拓された山東・遼東半島を結ぶ海運ルートが構築されていたはずなのですが、その流れで漢鏡が半島や日本へも随時流入していたはずで

>

> それで、後漢末期に政争に田ぶれたトウ氏らは、山東半島経由で、朝鮮半島へと逃れていったのでしょう。その際に、技術者も一緒に渡海する。そしてその一部が、半島南部の秦韓や、さらに倭へと移住しながら、支配を広げていったのだと感ずります。大国主の世界ですね。

>

> その集団のひとつが「吾氏」で、これが楽浪から秦韓にかけて移動した「阿」集団であろうと以前考えました。

>

> 彼らは製鉄など金属精錬技術をもっていて、倭とも交流していたはずです。その交流の担い手が、つまり漢鏡ももたらしていったんですね。伊都国あたりには、深いコネクションあったので、しばしばその辺で製鉄遺跡や文字の書かれた弥生土器がでてくるわけです。

>

> それで、「杜地命出」は、おそらく長安の西の「杜地」で、材料が出土したで間違いはないとおもうのですが。ただ「海東」に至るのは、つまり半島・倭のこととみて間違いはないでしょう。

>

> 「吾」氏はすでに、上記のとおり半島・倭に進出していましたが、元は尚方として、官営工房で高級官僚トウ氏の配下で各種の器物・遊牧民系の車馬つまりチャリオットを作成していたはずです。

>

> ところが、その後、地方へ移住するハメになったので、「尚方」と記載するのをやめて、「吾作」と記すようになったはずで、その地方は、トウ氏の配下にあった山東半島付けねのあたりですね。

>

> それでそこに月氏系の遊牧民系の技術者集団が多く移住していて、その中に「陳是」つまり「陳」氏がいたかどうかは課題です。

>

> かれらは、おそらく西域や四川方面とも商業ネットワークをもっていて、しばしば楽浪まで器物や人材を派遣していたはずです。

>

> それで「陳是」が、卑弥呼時代の三角縁を作っている背景には、おそらく彼らも楽浪から秦韓にかけえの「阿」集団と一緒に行動していたので、その鏡が今日本に残っているわけです。

>

> 陳の痕跡ですね。確かに秦野さんご指摘の陳寿というのは、どこから出てきた人なのか？なぜ半島や倭に詳しいのか？について考える必要はあると思います。どこまでせまれるかな？

Re: 三角縁神獣鏡 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 10 日(火)23 時 08 分 31 秒 返信・引用

> No.1900[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 卑弥呼、母人(もやの人)

> 王となつてから後は、彼女を見た者は少なく（自爲王以來、少有見者）、ただ一人の男子だけが飲食を給仕するとともに、彼女のもとに出入りをしていた（唯有男子一人、給飲食、傳辭出入）。宮室は樓觀や城柵を厳しく設けていた（居處宮室・樓觀、城柵嚴設）。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%91%BC>

>

> 景初三年、陳是作鏡自有經述、本是京師杜地命出、吏人銘之位至三公、母人銘之保子宜孫、

> 寿如金石兮

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8E%AE%E5%AE%88%E3%81%AE%E6%A3%AE>

>

> 三角縁神獸鏡の解説ができないのだな。

>

> 3、■始元年 陳是作鏡 自有經述 本自州師 杜地命出 寿如金石 保子■■■

縁同向式神獸鏡

> 景初三年 陳是作鏡 自有經述 本是京[卩市] 杜地□(命)出 吏人□□(銘之) 位至三公
母人銘之 保子宜孫 壽如金石兮 (左回り)

>

> 三角縁同向式神獸鏡

> 正始元年 陳是作鏡 自有經述 本自[くさかんむりに州][卩市](京師) 杜地命出 壽如金石 保子宜孫 (右回り)

>

> 三角縁神獸車馬鏡

> 陳氏作竟甚大好 上有仙人不知老 君宜高官 保子宜孫 壽如金石 (右回り)

>

> 三角縁四神四獸鏡

> 陳是作竟甚大好 上有王父母 左有倉龍右白虎 宜遠道相保 (右回り)

>

> 三角縁神獸車馬鏡

> 陳氏作竟甚大好 上有仙人不知老 君宜高官 保子宜孫 壽如金石 (右回り)

>

ま、この銘文も昨年解説しましたが、母人は、三公を排出した家系のトウ太后だと思うんですね。

景初三年、陳是作鏡自有經述、本是京師杜地命出、吏人銘之位至三公、母人銘之保子宜孫、

その月氏系技術者を配下においていた中国高官のトウ氏の子孫たちが、後漢末期の政治抗争にやぶれて迫害され、半島へと逃げて行く。もともと、半島にはすでに前漢時代から月氏・羌系の商人集団によって開拓された山東・遼東半島を結ぶ海運ルートが構築されていたはずなのですが、その流れで漢鏡が半島や日本へも随時流入していたはずです。

それで、後漢末期に政争に田ぶれたトウ氏らは、山東半島経由で、朝鮮半島へと逃れていったのでしょうか。その際に、技術者も一緒に渡海する。そしてその一部が、半島南部の秦韓や、さらに倭へと移住しながら、支配を広げていったのだと感じます。大国主の世界ですね。

その集団のひとつが「吾氏」で、これが楽浪から秦韓にかけて移動した「阿」集団であろうと以前考えました。

彼らは製鉄など金属精錬技術をもっていて、倭とも交流していたはずですよ。その交流の担い手が、つまり漢鏡ももたらしていったんですね。伊都国あたりには、深いコネクションあったので、しばしばその辺で製鉄遺跡や文字の書かれた弥生土器がでてくるわけです。

それで、「杜地命出」は、おそらく長安の西の「杜地」で、材料が出土したで間違いはないとおもうのですが。ただ「海東」に至るのは、つまり半島・倭のこととみて間違いはないでしょう。

「吾」氏はすでに、上記のとおり半島・倭に進出していましたが、元は尚方として、官営工房で高級官僚トウ氏の配下で各種の器物・遊牧民系の車馬つまりチャリオットを作成していたはずですよ。

ところが、その後、地方へ移住するハメになったので、「尚方」と記載するのをやめて、「吾作」と記すようになったはずで、その地方は、トウ氏の配下にあった山東半島付けねのあたりですね。

それでそこに月氏系の遊牧民系の技術者集団が多く移住していて、その中に「陳是」つまり「陳」氏がいたかどうかは課題です。

かれらは、おそらく西域や四川方面とも商業ネットワークをもっていて、しばしば楽浪まで器物や人材を派遣していたはずですよ。

それで「陳是」が、卑弥呼時代の三角縁を作っている背景には、おそらく彼らも楽浪から秦韓にかけえの「阿」集団と一緒に行動していたので、その鏡が今日本に残っているわけです。

陳の痕跡ですね。確かに秦野さんご指摘の陳寿というのは、どこから出てきた人なのか？なぜ半島や倭に詳しいのか？について考える必要はあると思います。どこまでせまれるかな？

三角縁神獣鏡 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月10日(火)21時58分54秒 返信・引用
編集済

三角縁神獣鏡の解説ができないのだな。こうなると管理人さんなは理解不能だろうな。

保子(開花天皇)、京師(州師)、杜(もり)、杜は、鎮守の杜の意味。鏡の内容は、鎮寿が自ら鏡を作る。卑弥呼は京師こと杜(兵站)の出身で三公を従える。母人(もやの人)で開花天皇の孫になる。これを金石(金印)で祝う。

母屋で現在残されている。母屋は伊勢神宮の内宮で卑弥呼は日本書紀に天照大御神と記されている。尚、墓は古代大君、邪馬台国の近くにある。

卑弥呼、母人(もやの人)

王となってから後は、彼女を見た者は少なく(自爲王以來、少有見者)、ただ一人の男子だけが飲食を給仕するとともに、彼女のもとに出入りをしていた(唯有男子一人、給飲食、傳辭出入)。宮室は樓觀や城柵を厳しく設けていた(居處宮室・樓觀、城柵嚴設)。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%91%BC>

景初三年、陳是作鏡自有經述、本是京師杜地命出、吏人銘之位至三公、母人銘之保子宜孫、
寿如金石兮

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8E%AE%E5%AE%88%E3%81%AE%E6%A3%AE>

三角縁神獣鏡の解説ができないのだな。

3、■始元年 陳是作鏡 自有經述 本自州師 杜地命出 寿如金石 保子■■■

「(正)始元年、陳是が鏡を作った。私自身の経歴があるので述べる。元、私は楊州(又は徐州)の鏡師であつたが、地を閉ざされ、出づるを命ぜられた。……」

その後の二句は、金石の如く長生きし、子孫は繁栄するという意味の吉祥句で、鏡の効能を記したものです。前の句と離れているように感じますが、そういうこともあったが、自分は長生きして、子孫は栄えていると言っているのかもしれませんが。ここでも述（じゅつ）、出（しゅつ）と韻が踏まれています。

陳是の是（漢音シ、呉音ジ）は、氏の代わりに使われる文字だといいます。王仲殊氏は州師を楊州の鏡師と解釈していますが、徐州と解することも可能です。1の「吾作明鏡…至海東」の鏡が出土した柏原市、国分茶臼山古墳からは、他にも二面の鏡が出ています。一つは小さな盤竜鏡で、銘文に「胡虜殄滅、天下復」という文字が含まれていて、「胡を全滅させて、天下は元通りになる。」という意味ですから、匈奴に苦しめられた「新（*）」の鏡であると見当がつきます。《*／漢と後漢の間に短期間存在した国》

あと一面は三角縁神獣鏡で、びっしり銘文が刻まれています。（銘文は「柏原市史」による）

http://www.eonet.ne.jp/~temb/1/wajinden_4.htm

三角縁同向式神獣鏡

景初三年 陳是作鏡 自有經述 本是京〔β市〕 杜地□（命）出 吏人□□（銘之） 位至三公
母人銘之 保子亘孫 壽如金石兮 （左回り）

三角縁同向式神獣鏡

正始元年 陳是作鏡 自有經述 本自〔くさかんむりに州〕〔β市〕（京師） 杜地命出 壽如金石
保子亘孫 （右回り）

三角縁神獣車馬鏡

陳氏作竟甚大好 上有仙人不知老 君亘高官 保子亘孫 壽如金石 （右回り）

三角縁四神四獣鏡

陳是作竟甚大好 上有王父母 左有倉龍右白虎 亘遠道相保 （右回り）

三角縁神獣車馬鏡

陳氏作竟甚大好 上有仙人不知老 君亘高官 保子亘孫 壽如金石 （右回り）

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月10日(火)13時39分35秒 返信・引用
編集済

> No.1898[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> ところが、秦人については、彼らとは異なるとおそらくは現地に精通した中国人が伝えていることです。

秦は韓半島へは勢力を広げていない。広げたのは漢になるが > ところが、・・・は歴史の流れに逆らうな。三角縁神獣鏡も同様に成っているな。

今回から細目にまでチェックして行く。今まではザルにしていた・・・。

> これが後に三角縁神獣鏡を制作した「吾作」集団で、元は中国系、日本に渡来して「阿・吾」を自称とする集団であることを会報で論じたところでした。

>

日本に渡来して「阿・吾」を自称とする集団はない。考えられない。

衛氏朝鮮

『通典』 邊防

武帝元封三年、遣樓船將軍楊僕從齊浮渤海、兵五萬、左將軍荀彘出遼東、討之。朝鮮人相與殺 王右渠來降。遂以朝鮮為真蕃、臨屯、樂浪、玄菟四郡。今悉為東夷之地。昭帝時罷臨屯、真蕃以并樂浪、玄菟。

元封三年（前 108 年）、樓船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、樂浪、玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、樂浪と玄菟に併合した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

三角縁神獣鏡を制作した「吾作」集団 どう見ても、卑弥呼の鏡と同様に制作年代は近いと思うが。

吾作明竟

吾作明竟 幽涑三商 統德序道 配象萬彊 曾年益□（壽） 子孫番昌 （右回り）

陳是作鏡

景初三年 陳是作鏡 自有經述 本是京〔市〕 杜地□（命）出 吏人□□（銘之） 位至三公
母人銘之 保子亘孫 壽如金石兮 （左回り）

> これが後に三角縁神獣鏡を制作した「吾作」集団で、元は中国系、日本に渡来して「阿・吾」を自称とする集団であることを会報で論じたところでした。

>

> それで、秦人の実態ですね。言語的には以前論じたように、音韻法則に特徴があるのですが、それでここで「非但燕、齊之名物也。」と言っていることです。

>

> 燕、齊の流民は、すでに漢代までには朝鮮北部に流入していて、扶余・穢との関係する祖先になっていたはずです。

>

> ところが、秦人については、彼らとは異なるとおそらくは現地に精通した中国人が伝えていることです。

>

> 現地でも流民の系統がだいたい習俗・言語的な差から把握できていたんでしょう。

>

>

> それで「謂樂浪人本其殘餘人。今有名之為秦韓者。始有六國、稍分為十二國。」

> の部分ですね。

>

> 6と12、これが彼らの習俗における重要な数です。12進数の可能性すらあります。

>

>

> 辰韓・弁辰は、この12を使って地域統治していました。

>

>

> でも考えてみると初め6国だったと言っているわけです。ということは、その6国を比定できれば、後にできた残りの6国は、その最初の6国と類似した名前を持つ可能性がでてきます。

>

>

>> 弁辰亦十二國、又有諸小別邑、各有渠帥、大者名臣智、其次有險側、次有樊濊、次有殺奚、次有邑借。

>> 有己柢國、不斯國、弁辰彌離彌凍國、弁辰接塗國、勤耆國、難彌離彌凍國、弁辰古資彌凍國、弁辰古淳是國、冉奚國、弁辰半路國、弁〔辰〕樂奴國、軍彌國（弁軍彌國）、弁辰彌烏邪馬國、如湛國、弁辰甘路國、戸路國、州鮮國（馬延國）、弁辰狗邪國、弁辰走漕馬國、弁辰安邪國（馬延國）、弁辰瀆盧國、斯盧國、優由國。

>> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

>

>

>

> たとえば、弁辰の安邪國と狗邪國は、同類の名前をもったペアです。安と狗で、意味、おそらくは方角に相違を示して区別した。

>

> 同様に

> 弁辰瀆盧國、斯盧國、「盧」がつくのですが、これらの国は隣接していながらも「斯」と「瀆」で、「盧」という地域を2分割したわけです。片方は後の新羅となる。

>

> 方角だとすると「子（シ）」といったあたりを「斯」とした。でも「瀆（ドク・トク）」は、その南にあたるはずですが、別の意味でつけられた可能性がありますね。

>

> 弁辰彌離彌凍國の離は、元あった「彌凍國」から分割されたの意味か？

>

> そして古資彌凍国も、「古い」もとももとの「彌凍國」

>

> 半路国なども、甘路国、戸路国あたりの半分を分割してできたか？

>

> それなりに合理的に名前がついているはずです。これは倭人伝の国名も同じでしょう。

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013年12月9日(月)23時12分22秒 返信・引用

> No.1895[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 凡七十八國の訳は、およそ七十八國。なんですか。

> 弁辰と辰韓の合計二十四国、また諸々の小さな別邑があり、各自に渠帥（首領）がおり、大首領は臣智と言ひ、その次に險側、次に樊濊、次に殺奚、次に邑借がいる。

> （ただし、上記には辰韓は十一国しか記載がなく、難彌離彌凍国は両者に重複する）、

>

> （弁辰には）

>

> 13 諸々の小さな別邑

> がある。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

>

>> 1 2 国というのは、後にでてきますね。

>>

>> 『三国志魏書』辰韓伝

>> 辰韓在馬韓之東、其耆老傳世、自言古之亡人避秦役來適韓國、馬韓割其東界地與之。有城柵。其言語不與馬韓同、名國為邦、弓為弧、賊為寇、行酒為行觴。相呼皆為徒、有似秦人、非但燕、齊之名物也。名樂浪人為阿殘；東方人名我為阿、謂樂浪人本其殘餘人。今有名之為秦韓者。始有六國、稍分為十二國。

なるほど、小さな別邑があるとの記載は重要ですね。おそらく僻地にあるんでしょう。

ここで、秦韓の出自が楽浪にあり、楽浪から別れて東南へ向かった経緯が記されています。楽浪人を秦韓人は「阿残」と呼び、自分たちを「阿」つまり「吾」と称してわけですね。

これが後に三角縁神獸鏡を制作した「吾作」集団で、元は中国系、日本に渡来して「阿・吾」を自称とする集団であることを会報で論じたところでした。

それで、秦人の実態ですね。言語的には以前論じたように、音韻法則に特徴があるのですが、それでここで「非但燕、齊之名物也。」と言っていることです。

燕、齊の流民は、すでに漢代までには朝鮮北部に流入していて、扶余・穢との関係する祖先になっていたはずです。

ところが、秦人については、彼らとは異なるとおそらくは現地に精通した中国人が伝えていることです。

現地でも流民の系統がだいたい習俗・言語的な差から把握できていたんでしょう。

それで「謂樂浪人本其殘餘人。今有名之為秦韓者。始有六國、稍分為十二國。」

の部分ですね。

6 と 12、これが彼らの習俗における重要な数です。12進数の可能性すらあります。

辰韓・弁辰は、この12を使って地域統治していました。

でも考えてみると初め6国だったと言っているわけです。ということは、その6国を比定できれば、後にできた残りの6国は、その最初の6国と類似した名前を持つ可能性がでてきます。

> 弁辰亦十二國、又有諸小別邑、各有渠帥、大者名臣智、其次有險側、次有樊濊、次有殺奚、次有邑借。

> 有己柢國、不斯國、弁辰彌離彌凍國、弁辰接塗國、勤耆國、難彌離彌凍國、弁辰古資彌凍國、弁辰古淳是國、冉奚國、弁辰半路國、弁〔辰〕樂奴國、軍彌國（弁軍彌國）、弁辰彌烏邪馬國、如湛國、弁辰甘路國、戸路國、州鮮國（馬延國）、弁辰狗邪國、弁辰走漕馬國、弁辰安邪國（馬延國）、弁辰瀆盧國、斯盧國、優由國。

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

たとえば、弁辰の安邪國と狗邪國は、同類の名前をもったペアです。安と狗で、意味、おそらくは方角に相違を示して区別した。

同様に

弁辰瀆盧國、斯盧國、「盧」がつくのですが、これらの国は隣接していながらも「斯」と「瀆」で、「盧」という地域を2分割したわけです。片方は後の新羅となる。

方角だとすると「子（シ）」といったあたりを「斯」とした。でも「瀆（ドク・トク）」は、その南にあたるはずですが、別の意味でつけられた可能性がありますね。

弁辰彌離彌凍國の離は、元あった「彌凍國」から分割されたの意味か？

そして古資彌凍国も、「古い」もともとの「彌凍國」

半路国なども、甘路国、戸路国あたりの半分を分割してできたか？

それなりに合理的に名前がついているはずです。これは倭人伝の国名も同じでしょう。

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 9 日(月)13 時 41 分 30 秒 返信・引用 編集済
荊の紀氏さんへのお返事です。

太伯、中国周王朝、時代に日本に来ているな。馬韓から日本に鉄器製造技術・・馬韓は元封三年（前 108 年）頃からなので、400 年の差があるな。

だんだん渡来系集団は、間違いですな。8 進数が何を意味するかも不明ですな。

羌族・氏族は匈奴で満系になり阿毎になる。方向は逆ですな。

進数は籠目がルーツの可能性があるぞ。

籠目

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B1%A0%E7%9B%AE>

『通典』邊防

武帝元封三年、遣樓船將軍楊僕從齊浮渤海、兵五萬、左將軍荀彘出遼東、討之。朝鮮人相與殺王右渠來降。遂以朝鮮為真蕃、臨屯、樂浪、玄菟四郡。今悉為東夷之地。昭帝時罷臨屯、真蕃以并樂浪、玄菟。

元封三年（前 108 年）、樓船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、樂浪、玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、樂浪と玄菟に併合した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

濊人の国に移り住んで鉄器を製造したのではないか。その後、濊系扶余種族と共に、朝鮮半島を南下し、馬韓に辿り着いた。そして、馬韓から日本に鉄器製造技術を持って渡来したのではないのでしょうか。個人的な推測ですな。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

太伯・虞仲は、父の意を量った太伯と虞仲は、季歴に後を継がせるため荊蛮の地へと自ら出奔した。後になって周の者が二人を迎えに来たが、二人は髪を切り全身に刺青を彫って、自分たちは中華へ帰るに相応しくない人物だとしてこれを断った。荊蛮の人々は多くこれに従った。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs?>

> 8 進数 等脚台形 氏に平らか 氏族 -チベット系 羌族・氏族（現在のチャン族）
<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

>>

>>> この辺、キシさんの8進数の話はある意味面白いんです。

>>> その辺から、だんだん渡来系集団の出自もあきらかになっていくでしょう。

Re: 倭・伽耶 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 9 日(月)12 時 16 分 55 秒 返信・引用
> No.1895[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 凡七十八國の訳は、およそ七十八國。なんですか。

>

> 『三国志魏書』辰韓伝の国の数は（弁辰には）12 国、（辰韓には）11+伯濟=12 国になるな。

> （馬延国）、（弁軍彌国）、のダブリを考慮して、各十二国だな。

> ・ ・ ・ 始めには六国あり、十二国に細分化した。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-sinkan.htm>

>

> 韓有三種：一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。

> 馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。

> 辰韓在東、十有二國、其北與濊貊接。

> 弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。

> 凡七十八國、伯濟是其一國焉。

>

> 十有二國が問題だな。総数は十二國の模様

> 二國は・・・とするのが正しい様だな。前の訳はミスだな。

> 同様にすると、八有一国もありうるな。

> 九国有り、一国は・・・・。だな。

>

> 韓は三種あり。一曰く馬韓、二曰く辰韓、三曰く弁辰。

> 馬韓は西にあり、五十四國で北の樂浪と交わり、南の倭に接し交わる。

> 辰韓は東に十二國有り、二國は北の濊貊に接し交わる。

> 弁辰は辰韓の南にまた十二國有り、二國は南の倭と接し交わる。

> およそ七十八國。その一國が伯濟。

>

> キシさんの8進数は、秦野は疑問があるな。十二支を地支（ちし）に従うな。

>

8進数 等脚台形 氏に平らか 氏族 -チベット系 羌族・氏族（現在のチャン族）<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

>> この辺、キシさんの8進数の話はある意味面白いんです。

>> その辺から、だんだん渡来系集団の出自もあきらかになっていくでしょう。

>

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月9日(月)03時38分15秒 返信・引用 編集済
> No.1894[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

凡七十八國の訳は、およそ七十八國。なんですか。

『三国志魏書』辰韓伝の国の数は（弁辰には）12国、（辰韓には）11+伯濟=12国になるな。

（馬延国）、（弁軍彌国）、のダブリを考慮して、各十二国だな。

・・始めには六国あり、十二国に細分化した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-sinkan.htm>

韓有三種：一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。

馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。

辰韓在東、十有二國、其北與濊貊接。

弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。

凡七十八國、伯濟是其一國焉。

十有二國が問題だな。総数は十二國の模様

二國は・・・とするのが正しい様だな。前の訳はミスだな。

同様にすると、八有一国もありうるな。

九国有り、一国は・・・・。だな。

韓は三種あり。一曰く馬韓、二曰く辰韓、三曰く弁辰。

馬韓は西にあり、五十四國で北の樂浪と交わり、南の倭に接し交わる。

辰韓は東に十二国有り、二国は北の濊貊に接し交わる。

弁辰は辰韓の南にまた十二国有り、二国は南の倭と接し交わる。

およそ七十八國。その一国が伯濟。

キシさんの8進数は、秦野は疑問があるな。十二支を地支（ちし）に従うな。

十干（じっかん）は、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の10

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%81%E5%B9%B2>

十二支（じゅうにし）は、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の総称

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%81%E4%BA%8C%E6%94%AF>

> この辺、キシさんの8進数の話はある意味面白いんです。

> その辺から、だんだん渡来系集団の出自もあきらかになっていくでしょう。

???

弁辰と辰韓の合計二十四国、また諸々の小さな別邑があり、各自に渠帥（首領）がおり、大首領は臣智と言ひ、その次に險側、次に樊濊、次に殺奚、次に邑借がいる。

（ただし、上記には辰韓は十一国しか記載がなく、難彌離彌凍国は両者に重複する）、

（弁辰には）

1 彌離彌凍国、

2 接塗国、

3 古資彌凍国、

4 古淳是国、

5 半路国、

- 6 樂奴国、
- 7 彌烏邪馬国、
- 8 甘路国、
- 9 狗邪国、
- 10 走漕馬国、
- 11 安邪国（馬延国）、
- 12 瀆盧国
- 13 諸々の小さな別邑
（辰韓には）
- 1 已祗国、
- 2 不斯国、
- 3 勤耆国、
- 4 難彌離彌凍国、
- 5 冉奚国、
- 6 軍彌国（弁軍彌国）、
- 7 如湛国、
- 8 戸路国、
- 9 州鮮国（馬延国）、
- 10 斯盧国、
- 11 優由国
- 12 伯濟（追加？）？
- 13 諸々の小さな別邑
がある。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

> 1 2 国というのは、後にでてきますね。

>

> 『三国志魏書』辰韓伝

> 辰韓在馬韓之東、其耆老傳世、自言古之亡人避秦役來適韓國、馬韓割其東界地與之。有城柵。其言語不與馬韓同、名國為邦、弓為弧、賊為寇、行酒為行觴。相呼皆為徒、有似秦人、非但燕、齊之名物也。名樂浪人為阿殘；東方人名我為阿、謂樂浪人本其殘餘人。今有名之為秦韓者。始有六國、稍分為十二國。

> 三国志魏書』弁辰伝

>

> 弁辰亦十二國、又有諸小別邑、各有渠帥、大者名臣智、其次有險側、次有樊濊、次有殺奚、次有邑借。

> 有己柢國、不斯國、弁辰彌離彌凍國、弁辰接塗國、勤耆國、難彌離彌凍國、弁辰古資彌凍國、弁辰古淳是國、冉奚國、弁辰半路國、弁〔辰〕樂奴國、軍彌國（弁軍彌國）、弁辰彌烏邪馬國、如湛國、弁辰甘路國、戸路國、州鮮國（馬延國）、弁辰狗邪國、弁辰走漕馬國、弁辰安邪國（馬延國）、弁辰瀆盧國、斯盧國、優由國。

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 8 日(日)23 時 05 分 15 秒 返信・引用 編集済

> No.1891[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 『後漢書』馬韓伝を読み切れてないな。

> 理解不足ですな。

>

> 韓有三種：一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。

> 馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。

> 辰韓在東、十有二國、其北與濊貊接。

> 弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。

> 凡七十八國、伯濟是其一國焉。

>

>

> 堀貞雄 古代史探訪館より

>

> 韓有三種：一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。辰韓在東、十有二國、其北與濊貊接。弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。凡七十八國、伯濟是其一國焉。大者萬餘戸、小者數千家、各在山海間、地合方四千餘里、東西以海為限、皆古之辰國也。馬韓最大、共立其種為辰王、都目支國、盡王三韓之地。其諸國王先皆是馬韓種人焉。

>

> 韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁辰という。馬韓は西に在り、五十四カ国、その北に楽浪、南に倭と接する。辰韓は東に在り、十有二国、その北に濊貊と接する。弁辰は辰韓の南に在り、また十有二国、その南はまた倭と接する。およそ七十八国、伯濟はその一国である。大国は万余戸、小国は数千家、各々に山海の間に在り、土地は合計四千余里、東西は海が限界で、いずれも昔の辰国である。馬韓が最大、その苗裔を辰王として共立し、都は目支国、三韓の地の大王である。その諸国王の先祖は皆、馬韓の血族である。

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun2-gokanzho.htm>

12国というのは、後にでてきますね。

『三国志魏書』辰韓伝

辰韓在馬韓之東、其耆老傳世、自言古之亡人避秦役來適韓國、馬韓割其東界地與之。有城柵。其言語不與馬韓同、名國為邦、弓為弧、賊為寇、行酒為行觴。相呼皆為徒、有似秦人、非但燕、齊之名物也。名樂浪人為阿殘；東方人名我為阿、謂樂浪人本其殘餘人。今有名之為秦韓者。始有六國、稍分為十二國。

三国志魏書』弁辰伝

弁辰亦十二國、又有諸小別邑、各有渠帥、大者名臣智、其次有險側、次有樊濊、次有殺奚、次有邑借。

有已柢國、不斯國、弁辰彌離彌凍國、弁辰接塗國、勤耆國、難彌離彌凍國、弁辰古資彌凍國、弁辰古淳是國、冉奚國、弁辰半路國、弁〔辰〕樂奴國、軍彌國（弁軍彌國）、弁辰彌烏邪馬國、如湛國、弁辰甘路國、戸路國、州鮮國（馬延國）、弁辰狗邪國、弁辰走漕馬國、弁辰安邪國（馬延國）、弁辰瀆盧國、斯盧國、優由國。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

ただ、注目すべきは「弁辰」と「弁」の差です。おそらく方角の差でしょう。「辰」の方角は東南、「弁」はもっと南ですね。楽奴国が弁とされたのは、その推定位置がかなり「南」であることからわかります。

「弁辰」はその間の方位として、著者は認識していたはずです。

ちなみに馬韓の「馬＝午」は南の方角です。会報で論じたように楽浪から見た方角ですね。

それで、辰韓が1国足りないように見えるんです。弁（辰）は12国。

難彌離彌凍國あたりを2国に分割すると12国になるでしょう。

あと「狗」は犬で、これも北西の方角なのですが、逆にして東南になるところが重要な部分でした。

狗邪韓国、狗奴国、どちらも名前的には「北西」を示すものの、実際のほうがくは「東南」となり、いわば主体と客体が反対になる方位概念に基づいています。

おそらく、これらの半島の「韓」の諸国の王は、「馬韓の種」とされていて、ある時期に馬韓系の種族が、元々いた辰王国系の種族を支配したのではないのでしょうか。

それで、その地方に派遣された官吏が王となった。

半島南部の各方角で地域区分して、さらに12分割したんでしょう。それで合計24国ができあがる。

これが、月支国に都を置く、その馬韓系とされた種族は、そうすると12分割して地域支配をする習俗があったということになるのでしょうか。

12国は、日本でいえば九州とか四国とか、そういう数字ですね。

それで雄略の話になって、55国、と66国をひとつの単位としているんです。

11国+α?、この辺の地域統治の概念ですね。

西を5つの区域に区分して、それをさらに11国に分割するんです。

東も同じく6つの区域に区分して、さらに11国に分割。

つまり $5 + 6 = 11$ 、で11にさらに分割するので、結果として121国になるわけですね。

それで海北95国ですが、これは残念ながら11の倍数ではないので、別観念の数字でしょう。

この辺、キシさんの8進数の話はある意味面白いんです。

その辺から、だんだん渡来系集団の出自もあきらかになっていくでしょう。

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 8 日(日)19 時 31 分 5 秒 返信・引用 編集済
> No.1892[元記事へ]

荆の紀氏さんへのお返事です。

太伯・虞仲は、父の意を量った太伯と虞仲は、季歴に後を継がせるため荆蛮の地へと自ら出奔した。後になって周の者が二人を迎えに来たが、二人は髪を切り全身に刺青を彫って、自分たちは中華へ帰るに相応しくない人物だとしてこれを断った。荆蛮の人々は多くこれに従った。

文章の内容は、太伯は呉の王を継承していない。継承したのは夫差で呉の第 7 代、最後の王。

「自謂太伯之後、」文章に従い訳すと「倭人は呉太伯の子孫」になるな。

太伯が自ら出奔した地の者が「倭人は呉太伯の子孫」になるな。

「倭人は呉王夫差の子孫」は誤訳になる。

誤訳の原因は、呉の地、と太伯が自ら出奔した地を同一とした。軽率に言っているな。

歴史の理解不足ですな。誤訳ですな。

> 五王・・・呉王？太伯や呉王夫差の後裔のキ氏 木 一定の間隔に配置

倭の五王ですな。雄略朝をヤマト王権などないぞ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%80%AD%E3%81%AE%E4%BA%94%E7%8E%8B>

夫差

夫差（ふさ、?- 紀元前 473 年）は、中国春秋時代の呉の第 7 代、最後の王。姓は姫。春秋五霸の一人に数えられる。先代の呉王闔閭の次男。越王勾践によって討たれた父・闔閭の仇を討つため、伍子胥の尽力を得て国力を充実させ、一時は覇者となったが、勾践の反撃により敗北して自決した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%AB%E5%B7%AE>

けいばん 0 【▼荊蛮】

中国、春秋時代から、長江の中流域の原住民への蔑称。南の野蛮人。

<http://www.weblio.jp/content/%E8%8D%8A%E8%9B%AE>

太伯・虞仲

古公亶父には長子・太伯、次子・虞仲、末子・季歴がいた。季歴が生まれる際に様々な瑞祥があり、さらに季歴の子の昌（文王）が優れた子であったので、古公亶父は「わが家を興すのは昌であろうか」と言っていた。

父の意を量った太伯と虞仲は、季歴に後を継がせるため荊蛮の地へと自ら出奔した。後になって周の者が二人を迎えに来たが、二人は髪を切り全身に刺青を彫って、自分たちは中華へ帰るに相応しくない人物だとしてこれを断った。

太伯は句呉（こうご）と号して国を興し、荊蛮の人々は多くこれに従った。この国は呉ともいわれる。太伯が死んだとき子がいなかったため、弟の虞仲（仲雍）が跡を継いだ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%AA%E4%BC%AF%E3%83%BB%E8%99%9E%E4%BB%B2>

周（しゅう、紀元前 1046 年頃 - 紀元前 256 年）は、中国古代の王朝。殷を倒して王朝を開いた。また、時代の名前にも使い、「周代（西周、英語：Western Zhou）」と言えば、紀元前 1046 年頃から、遷都して東周となる紀元前 771 年の間のことを指す。国姓は姬（き）。周代において中国高文明が成立したとみられる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%A8>

『晋書』倭人伝

倭人在帶方東南大海中、依山島為國。地多山林、無良田、食海物。舊有百餘小國相接、至魏時、有三十國通好。戸有七萬。男子無大小、悉黥面文身。自謂太伯之後、又言上古使詣中國、皆自稱大夫。

倭人は帶方郡東南の大海中に在り、山島に拠って国を為す。土地には山林が多く、良田はなく、海産物を食す。旧来は百余の小国が互いに接していたが、魏の時代に至って、三十国が通好してきた。戸数は七万。男子は大小なく、悉く顔と身体に刺青をしている。自ら太伯（呉の始祖。断髪文身をしたと言われる）の後裔だといい、また、上古に使者が中国に詣でると、皆が大夫を自称したという。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun3-sinzho.htm>

Re: 倭・伽耶 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 8 日(日)12 時 00 分 53 秒 返信・引用

> No.1891[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 『後漢書』馬韓伝を読み切れてないな。

> 理解不足ですな。

>

> 韓有三種：一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。

> 馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。

> 辰韓在東、十有二國、其北與濊貊接。

> 弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。

> 凡七十八國、伯濟是其一國焉。

>

> 韓は三種あり。一曰く馬韓、二曰く辰韓、三曰く弁辰。

> 馬韓は西にあり、五十四國で北の樂浪と交わり、南の倭に接し交わる。

> 辰韓は東に有り、十国の内の二国は、北の濊貊に接し交わる。

> 弁辰は辰韓の南に有り、また十国の内の二国は、南の倭と接し交わる。

> およそ七十八國。その一国が伯濟。

>

> どこにも、 $54 + 12 + 12 = 78$ 国は言っていないぞ？

>

> それと、韓の歴史は、馬韓、辰韓、弁辰、倭国の時代と。

> 百濟、高句麗、新羅、倭国(越を含む)の時代があったのですな。

> 注意は弁辰と弁韓は同一としているな。

>

> すでに、認識していると思っていたが・・・？

>

> 堀貞雄 古代史探訪館の堀さんの訳にも誤があるが、管理人さんも問題がありますな。

>

> 雄略の上表文は倭の五王になりますな、

>

> 文章を読むと雄略は第三者で平定したのは倭の五王ですな。

>

「倭人は呉太伯の子孫」ではなく「倭人は呉王夫差の子孫」といわれねばおかしいはずで、

<http://textream.yahoo.co.jp/message/1835208/6ebda32a6daba4ka4da4a4a4f?comment=33654>

「・・・揚子江流域と弥生文化の關係に着目して、日本民族の起源にこじつける説も（有力説ではなく一部だが）ある。こっちの場合は、こないだまで弥生時代のはじまりが前三世紀とされていたせいもあって「呉」の始祖である太伯ではなく、呉国が越国（浙江省方面にあった国）に滅ぼされた BC473 年にこじつけられることが多い。

・・・呉と越は BC496 年から BC473 年まで激しい戦争状態にあり「臥薪嘗胆」や「呉越同舟」などの格言を今に伝えている。この時に大量の難民が発生しその一部は日本にも逃れてきたと考えられている。・・・したがって日本列島との経済的・文化的な交流もまたさかんであって不思議はない。

しかしこの時の王は始祖である太伯ではなく、夫差（ふさ）という最後の王（在位 BC495～473 年）なのだから、もし倭人と関係があるのなら「倭人は呉太伯の子孫」ではなく「倭人は呉王夫差の子孫」といわれねばおかしいはずで、コジツケ説としてもあまり出来が良くない。・・・

歴代の呉王は、太伯の弟の「仲雍」という人物の子孫なので、呉王自体がすでに太伯の子孫ですらないのである。呉太伯には子孫がいなかったから弟の仲雍が後を継いだのであって、子孫がいたならその人が後を継いだだろう。・・・」

五王・・・呉王？太伯や呉王夫差の後裔のキ氏 木 一定の間隔に配置

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 7 日(土)15 時 37 分 17 秒 返信・引用 編集済

> No.1889[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

『後漢書』馬韓伝を読み切れてないな。

理解不足ですな。

韓有三種：一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。

馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。

辰韓在東、十有二國、其北與濊貊接。

弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。

凡七十八國、伯濟是其一國焉。

韓は三種あり。一曰く馬韓、二曰く辰韓、三曰く弁辰。

馬韓は西にあり、五十四國で北の樂浪と交わり、南の倭に接し交わる。

辰韓は東に有り、十国の内の二国は、北の濊貊に接し交わる。

弁辰は辰韓の南に有り、また十国の内の二国は、南の倭と接し交わる。

およそ七十八國。その一国が伯濟。

どこにも、 $54 + 12 + 12 = 78$ 国は言っていないぞ？

それと、韓の歴史は、馬韓、辰韓、弁辰、倭国の時代と。

百濟、高句麗、新羅、倭国(越を含む)の時代があったのですな。

注意は弁辰と弁韓は同一としているな。

すでに、認識していると思っていたが・・・？

堀貞雄 古代史探訪館の堀さんの訳にも誤があるが、管理人さんも問題がありますな。

雄略の上表文は倭の五王になりますな、

文章を読むと雄略は第三者で平定したのは倭の五王ですな。

堀貞雄 古代史探訪館より

韓有三種：一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。辰韓在東、十有二國、其北與濊貊接。弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。凡七十八國、伯濟是其一國焉。大者萬餘戸、小者數千家、各在山海間、地合方四千餘里、東西以海為限、皆古之辰國也。馬韓最大、共立其種為辰王、都目支國、盡王三韓之地。其諸國王先皆是馬韓種人焉。

韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁辰という。馬韓は西に在り、五十四カ国、その北に楽浪、南に倭と接する。辰韓は東に在り、十有二国、その北に濊貊と接する。弁辰は辰韓の南に在り、また十有二国、その南はまた倭と接する。およそ七十八国、伯濟はその一国である。大国は万余戸、小国は数千家、各々に山海の間に在り、土地は合計四千余里、東西は海が限界で、いずれも昔の辰国である。馬韓が最大、その苗裔を辰王として共立し、都は目支国、三韓の地の大王である。そこの諸国王の先祖は皆、馬韓の血族である。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun2-gokanzho.htm>

> 弁辰在辰韓之南から、辰韓の南に弁辰があり、その南に倭があるわけです。韓の合計は $54 + 12 + 12 = 78$ 国

>

> 辰韓の北が濊貊。

>

> 馬韓は西にあって、楽浪の南にある。

>

> 三種というのは、地域だけではなく、習俗・民族のことになっていると認識していたのでしょうか。

>

> ううん、平凡な解釈ですね。

>

> 十有二國というのは、12国なのでしょうけど、どうしてこういう書き方になるのが気になりますね。

>

> 雄略の上表文

> 「私の先祖は、自ら甲冑を纏い山川を跋涉し戦を 続け、東 は毛人55カ国を、西は衆夷66カ国を征服し、また海北へ渡り95カ国を平定 した。」

>

>

> 海北が、後漢当時の78国じゃないんですよね。95国、もっと北の高句麗・扶余方面までの支配を意識しているようにも見えます。17国多い。

>

> 百済・新羅時代なら3国で済むはずなのに95国という。おそらく百済・新羅を、小国の共同国家のように見なしていたのでしょうか？

>

>

>

>

徳川幕府の歴史にイランの政治家が浮かんた 投稿者：うさぎ 投稿日：2013 年 12 月 7 日(土)13 時 27 分 20 秒 返信・引用

徳川幕府の歴史にイランの政治家が浮かんた

http://park.geocities.jp/j_con4/0204/p042.html#page278

アフマディーネジャード前大統領も、勿論だ。

(http://book.geocities.jp/japans_conspiracy/01/p002.html)

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 6 日(金)23 時 12 分 59 秒 返信・引用

> No.1888[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 魏書東夷伝は短文の組合せですな。魏書東夷伝韓条を 7 つに分けるぞ。

>

> 先入観があり理解できない模様ですな。子供の文章にするぞ。

>

> 魏書東夷伝韓条は

>

> 1. 韓は帶方郡の南にあり、

> 2. 東西は海を限界とし、

> 3. 南は倭と接し、

> 4. 四方は四千里ばかり。

> 5. 韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁韓。

> 6. 辰韓とは昔の辰国のことで

> 7. 馬韓は西にある

>

>

この文書はもっと深く掘り下げる必要がありますね。

「韓は帶方郡の南にあり、東西は海を限界とし、南は倭と 接し、四方は四千里ばかり。韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁韓。辰韓とは 昔の辰国のことで馬韓は西にある」

辰韓とは 昔の辰国であるとの記載は、気になりますね。辰国がもともとあったものの、東遷したか、もともと東にあったのか？この辺も課題でしょう。

『後漢書』馬韓伝. 韓有三種：一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。辰韓在東、十有二國、其北與濊貊接。弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。凡七十八國、伯濟是其一國焉。

弁辰在辰韓之南から、辰韓の南に弁辰があり、その南に倭があるわけです。韓の合計は $54 + 12 + 12 = 78$ 国

辰韓の北が濊貊。

馬韓は西にあって、樂浪の南にある。

三種というのは、地域だけではなく、習俗・民族のことになっていると認識していたのでしょうか。

ううん、平凡な解釈ですね。

十有二國というのは、12国なのでしょうけど、どうしてこういう書き方になるのが気になりますね。

雄略の上表文

「私の先祖は、自ら甲冑を纏い山川を跋涉し戦を 続け、東 は毛人55カ国を、西は衆夷66カ国を征服し、また海北へ渡り95カ国を平定 した。」

海北が、後漢当時の78国じゃないんですよね。95国、もっと北の高句麗・扶余方面までの支配を意識しているようにも見えます。17国多い。

百済・新羅時代なら3国で済むはずなのに95国という。おそらく百済・新羅を、小国の共同国家のように見なしていたのでしょうか？

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月6日(金)22時05分37秒 返信・引用
> No.1887[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

魏書東夷伝は短文の組合せですな。魏書東夷伝韓条を7つに分けるぞ。

先入観があり理解できない模様ですな。子供の文章にするぞ。

魏書東夷伝韓条は

1. 韓は帶方郡の南にあり、
2. 東西は海を限界とし、
3. 南は倭と接し、
4. 四方は四千里ばかり。
5. 韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁韓。
6. 辰韓とは昔の辰国のことで
7. 馬韓は西にある

地図を添付、里は秦野距離(短里)

秦野距離は秦野北斗著書：徐福と邪馬台国より

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 5 日(木)23 時 13 分 2 秒 返信・引用

> No.1886[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 倭(倭国)と匈奴、フン族の関係が見えてきたな。燕王盧綰反、匈奴、満亡命、・・・。

> 西方に移動した子孫がフン族・・・。

>

> 今の所は山海経の蓋国は鉅燕の南、倭の北にあり。倭は燕に属す。の文章が漠然と倭を示す。

> 魏志倭人伝の行程の解説は秦野北斗が行う著書：徐福と邪馬台国。

> 倭国、韓半島。金剛山の麓にある「やまと」、クムガンこと錦江(白村江)・・・・・・・・。

> 三角縁神獣鏡の名文でおなじみの京師、三公は後の武内宿禰・・・・・・・・。

>

>> 南匈奴（みなみきょうど、拼音：Nán Xiōngnú）は、48 年に匈奴から分かれた南の勢力。これに対して北に残った勢力を北匈奴という。南匈奴は後漢に服属し、長城の内側に住むことを許され、後漢と共に北匈奴や鮮卑と戦った。以来、西晋までの間、中国王朝に仕えるが、304 年に劉淵が漢王を称して西晋から独立したため、五胡十六国時代が始まる。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E5%8C%88%E5%A5%B4>

>

>

確かに匈奴国との関係は面白いですね。

狗邪韓国の位置とあわせて再検討する必要があるでしょう。

三国志[編集]

三国志魏書東夷伝倭人条に「（帯方）郡より倭に至るは海岸にそって水行で南へ行ったり東へ行ったりして韓国を経て海の北岸にある狗邪韓国へ到る。七千余里で始めて海をわたり、千余里で対馬国に至る」とあり[1]、狗邪韓国到着を以て倭国へ到り、玄界灘の北岸と記述している。

また、同じ魏書東夷伝韓条では「韓は帯方郡の南にあり、東西は海を限界とし、南は倭と接し、四方は四千里ばかり。韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁韓。辰韓とは昔の辰国のことで馬韓は西にある」とし[2]、韓と倭は接している（陸続きである）と記述している。

なお弁辰十二国の中には「狗邪」がつく「弁辰狗邪国」[3]が見受けられるが、こちらは「首露王」による建国の「金官駕洛」に比定されることでほぼ収まっている現状である。[4]。

後漢書[編集]

『後漢書』（正史としての順番は三国志より前だが、成立は三国志より遅い）東夷伝倭人条では「倭は韓の東南、大海中の山島によっており、およそ百余国ある。（前漢の）武帝が（衛氏）朝鮮を滅ぼしてから、三十余国が漢に使訳を通じてきた。国では皆が王を称することが代々の伝統である。その大倭王は、邪馬臺国に居する。楽浪郡の境界から、その国までは一万二千里、その西北端の狗邪韓国から七千余里。その地はだいたい会稽郡東冶の東にあり、朱崖や儋耳と相似しており、その法俗も多くが同じである[5]とあり、狗邪韓国を倭国の西北端と記述している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/狗邪韓国>

ここで「大倭」との言葉に注目です。

また「西北端」を狗邪韓国とする認識は続いているんですよね。

後漢書の解釈は、かなりアバウトで、楽浪から倭国までは1万2千里、その倭国の西北端から7千里四方の島国と考えているわけです。

ところが、それ以前にできていた魏志倭人伝は7千里は楽浪・帯方から狗邪韓国までの距離、

あれれ、とおもうくらい同じ中国人でも読み方が異なっているんですよね。

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年12月5日(木)19時59分27秒 返信・引用 編集済
> No.1885[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

倭(倭国)と匈奴、フン族の関係が見えてきたな。燕王盧綰反、匈奴、満亡命、・・・。
西方に移動した子孫がフン族・・・。

今の所は山海経の蓋国は鉅燕の南、倭の北にあり。倭は燕に属す。の文章が漠然と倭を示す。
魏志倭人伝の行程の解説は秦野北斗が行う著書：徐福と邪馬台国。
倭国、韓半島。金剛山の麓にある「やまと」、クムガンこと錦江(白村江)・・・・・・・・・・。
三角縁神獣鏡の名文でおなじみの京師、三公は後の武内宿禰・・・・・・・・。

卑弥呼が何者かが理解できるな。「劉 豹、蔡文姫の間に2子・・・」。魏志倭人伝に卑弥呼は鬼道を祭祀して人心を惑わし、既に高齢で夫は持たず、弟が国の支配を補佐した。卑弥呼は姉弟（きょうだい）になるな。劉 豹と蔡文姫の2子の可能性があるな・・・。

卑弥呼の歌と思われるのが「釜山港へ帰れ」ですな。

日本語

つばき咲く春なのに あなたは帰らない
たたずむ釜山港(プサンハン)に 涙の雨が降る
あついその胸に 顔うずめて
もういちど幸せ 噛みしめたいのよ
トラワヨ プサンハンへ 逢いたい あなた

行きたくてたまらない あなたのいる町へ
さまよう釜山港は 霧笛が胸を刺す
きっと伝えてよ カモメさん
いまも信じて 耐えてるあたしを
トラワヨ プサンハンへ 逢いたい あなた

韓国語

花咲くトンベク島に春が来たが
兄弟が去っていった釜山港には
オリュッ島を回る連絡線ごとに
喉を枯らして呼んでみても返事の無い兄弟よ
帰って来いよ、釜山港へ、恋しい我が兄弟よ

劉 豹195年、董卓の残党による叛乱に際して、蔡文姫を得て側室とする。207年に曹操により身代金が支払われ、蔡文姫が引き取られるまでの間に2子をもうけるが、名は伝わっていない。

「蓋國在鉅燕南 倭北 倭屬燕」（山海經 第十二 海内北經）

蓋国は鉅燕の南、倭の北にあり。倭は燕に属す。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%80%AD%E3%83%BB%E5%80%AD%E4%BA%BA%E9%96%A2%E9%80%A3%E3%81%AE%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E6%96%87%E7%8C%AE>

衛氏朝鮮

『史記』朝鮮列伝

朝鮮王満者、故燕人也。自始全燕時、嘗略屬真番、朝鮮、為置吏、鄣塞。

朝鮮王の満とは、昔の燕の国民である。燕は全盛期の初めから真番と朝鮮を服属せしめ、統治官を置いて鄣（楽浪郡有雲鄣）を塞いでいたことがある。

秦滅燕、屬遼東外徼。漢興、為其遠難守、復修遼東故塞、至?水為界、屬燕。

秦が燕を滅ぼし、遼東の外徼（がいげき＝異民族）を帰属させた。

漢王朝が勃興すると、そこが遠方で守るのが難しいので、遼東の故塞（燕の遼東長城）を修復し、?水（ばいすい）までを国境として、燕に属させた。

燕王盧綰反、匈奴、満亡命、聚黨千餘人、魑結蠻夷服而東出塞、渡?水、居秦故空地上下鄣、稍役屬真番、朝鮮蠻夷及故燕、齊亡命者王之、都王險。

燕王の盧綰（ロワン）が背き、匈奴に亡命すると、鬻（まげ）を結び、蛮夷の衣服を着た満は千余の人々を連れて長城を出て東に逃れ、?水（清川江）を渡り、秦の時代の昔の空地に居を構えて鄣（長城）を出入し、真番に軽く属していた朝鮮蛮夷や、その地に暮らす昔の燕や齊からの亡命者らの王となり、王險城（王儉城とも）を都とした。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

匈奴（呉音：くぬ、漢音：きょうど、拼音：Xiōngnú）は、紀元前4世紀頃から5世紀にかけて中央ユーラシアに存在した遊牧民族および、それが中核になって興した遊牧国家（紀元前209年 - 93年）。モンゴル高原を中心とした中央ユーラシア東部に一大勢力を築いた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%88%E5%A5%B4>

南匈奴（みなみきょうど、拼音：Nán Xiōngnú）は、48年に匈奴から分かれた南の勢力。これに対して北に残った勢力を北匈奴という。南匈奴は後漢に服属し、長城の内側に住むことを許され、後漢と共に北匈奴や鮮卑と戦った。以来、西晋までの間、中国王朝に仕えるが、304年に劉淵が漢王を称して西晋から独立したため、五胡十六国時代が始まる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E5%8C%88%E5%A5%B4>

きょうど 【×匈奴】

前3世紀末から後1世紀末にかけて、モンゴル高原を中心に活躍した遊牧騎馬民族。秦代末の前209年、冒頓(ぼくとつ)が単于(ぜんう)(君主)となり、北アジア最初の遊牧国家を建設。東胡(とうこ)、大月氏を征圧し全盛となり、漢にも侵入したが、漢の武帝の遠征と内紛により、東西に分裂し、後48年さらに南北に分裂。南匈奴は漢に服属し、北匈奴は91年漢に討たれた。人種的にはトルコ系説が有力。西方に移動した子孫がフン族であるといわれる。

<http://kotobank.jp/word/%E5%8C%88%E5%A5%B4>

Re: 倭・伽耶 投稿者: 管理人 投稿日: 2013年12月4日(水)22時55分34秒 返信・引用

> No.1882[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 匈奴や遊牧民系

>

> 劉豹(りゅう ひょう、生没年不詳)は、中国後漢末期から西晋時代の南匈奴の左賢王。南匈奴の単于於夫羅の子、前趙の劉淵の父。

> 南匈奴で叛乱が起こったことで於夫羅が漢に留まり、196年に漢地で死ぬと、於夫羅の弟呼廚泉が単于の位を継ぎ、劉豹は左賢王となる。後、曹操によって五部に分けられた匈奴の左部を統括する。

> 匈奴出身者が漢化した後に劉姓を名乗るのは劉豹からであるが、これは前漢代より匈奴と漢宗室との間に姻戚関係があることに由来する。

> 195年、董卓の残党による叛乱に際して、蔡文姫を得て側室とする。207年に曹操により身代金が支払われ、蔡文姫が引き取られるまでの間に2子をもうけるが、名は伝わっていない。

> 嫡子とされる前趙の祖・劉淵は、生年が251年頃であり、であるとすれば相当な長命である。

>

> [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%89%E8%B1%B9_\(%E5%8C%88%E5%A5%B4\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%89%E8%B1%B9_(%E5%8C%88%E5%A5%B4))

>

>

>

漢王朝の末裔劉氏の件は、以前もお話した通り下記の劉協の子孫が重要です。

報が伝えられると、漢室の後継者として皇帝を称した上で（蜀漢）、献帝に対して独自に孝愍皇帝の諡を贈った。また、揚州を中心に勢力を保っていた孫権も呉王となり、大陸が魏・呉・蜀とで三分される三国時代に突入した。

その後、劉協は山陽公夫人となった曹節と共に暮らし、青龍2年（234年）3月、54歳で死去した。魏は孝献皇帝と諡した。

末裔[編集]

劉協の太子は父に先立って死んでおり、劉協の孫の劉康が青龍2年（234年）に祖父の跡を継いで山陽公となった。魏より禅譲を受けた西晋の時代になっても山陽公はそのまま存続を許された。劉康は太康6年（285年）に死去し、子の劉瑾が跡を継いだ。劉瑾は太康10年（289年）に死去し、子の劉秋が跡を継いだ。

永嘉の乱の真っ最中の永嘉3年（309年）、劉秋は匈奴系の趙漢（前趙）の將軍である汲桑の軍によって家族共々殺害され、爵位は断絶した。こうして後漢王朝の嫡流は途絶えた。後に東晋の時代になって、山陽公の末裔を搜索する詔勅が出されている。

真偽は不明ながら、4世紀から6世紀にかけて日本列島に渡来した渡来人の中には、献帝の子孫を称するものが多く見られる（東漢氏参照）。

ここで先の趙漢（前趙）の將軍がでてくるんですね。

この前後で漢王朝から趙漢の劉氏へと、たとえば玉璽などが継承されようとしていた、そういうアイデアもないでしょうか。

ただ、この趙漢は304年の時点で漢を名乗っているのも、その劉秋が309年に滅ぼされる前にすでに漢なんですよ。

そうすると、あまり劉秋のことは、正統な漢王朝の嫡流とは意識していなかったのか？も調べる必要がありますが、ともあれ、かれらはその後滅ぼされたか、その子孫の一部が東漢氏として、山東、朝鮮方面へと流れて行ったのか？この辺も課題です。

歴史教科書にも乗っているような学会の通説では、秦氏が秦の始皇帝の子孫だと詐称したのに対抗して、漢氏は後漢皇帝の子孫だと名乗ったんだ！というのでして、これが数十年疑われることなく科学的検証のもとにある通説として信じられてきたわけです。

ただ、秦氏の系譜も先の会報のとおり、半島・大陸時代の系譜伝承を多く取り込んでできあがってきたもので、それなりにかれらがそこにルーツを求める根拠があるんですね。

この辺は、史料批判の際の懐疑的に思考しすぎた際に逆に出てきてしまう論理的欠陥なんです。

結局、後漢時代からの各種劉氏や漢王朝、楽浪・帯方郡から、百済にいたるまでの系譜の流れですね、この辺を細かく検証する作業が必要だということでしょう。その前提の上で日本での系譜伝承の発生にはじめて着手するのが正解ですね。時間がかかります。情報あつめましょう。

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 4 日(水)18 時 19 分 35 秒 返信・引用 編集済
> No.1883[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

古代の九州は韓半島を含むものですな。九州にある県は六つで、九つには三つ不足する。

韓半島の倭国、馬韓(満)と琉球を加えれば九つになるな。

一般に「九州」とは、西海道のうち筑前国・筑後国・肥前国・肥後国・豊前国・豊後国・日向国・大隅国・薩摩国の九国の総称とされている。しかし、筑前国・筑後国、肥前国・肥後国、豊前国・豊後国が二つに分けられ数字合わせを行っているな。本来は、筑国・肥国・豊国・日向国・大隅国・薩摩国・倭国・馬韓(満)・琉球の九国で九州の模様。筑国・肥国・豊国は検討が必要だな。阿蘇国の存在が考えられるな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%9D%E5%B7%9E>

扶桑国 扶桑国の位置は特定済みですぞ。

1) 山海経、史記は九州の扶桑木

山海経

下有湯谷 湯谷上有扶桑 十日所浴 在黑齒北 居水中 有大木 九日居下枝 一日居上枝

史記

大荒之中 有山名曰孽搖顓羝 上有扶木 柱三百里 其葉如芥 有谷曰?源谷 湯谷上有扶木 一日方至 一日方出 皆載於鳥

2) 宋書は扶桑と女国

宋書

東造扶桑游紫庭 西至?嶮戲曾城

3) 『梁書』、史書『扶桑略記』は扶桑国の位置

『梁書』によると、僧慧深（けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン）が普通年間（520年?527年）に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北7000余里に文身国が、その東5000余里に大漢国があり、大漢国の東2万余里に扶桑がある。

史書『扶桑略記』

疑ハクハ是當ルカニ北東ニ一乎誤チ以爲ニ日本ト一而扶桑ノ爲ルニ日本ノ別號一者不レ當タラ

（疑はくはこれ北東に当たるかや、誤ちもつて日本とす。而して、扶桑の日本の別號なるは當たらず）

? 『和漢三才図会』 卷之十四 外夷人物「扶桑」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

> 八進法 河図と八卦 屋居旦鐸（オクタント：八分儀）<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/2549>

> 耜（すき）」の原字、ひじを曲げた形・・・ム＝角度

>

> 僧慧深（けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン）が普通年間（520年?527年）に扶桑という国から梁へやってきたという。

> 古代の中国では、九州（九夷）[1]が扶桑の生えるところで「紫庭」としての憧れの地だった面があるという説もある。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

> 九州（九夷）

> 前漢の武帝が紀元前106年に全国に13州を設置したことにより、九州は具体的な9つの州ではなく、中国全土の雅称として使用されるようになった。[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%9D%E5%B7%9E_\(%E4%B8%AD%E5%9B%BD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%9D%E5%B7%9E_(%E4%B8%AD%E5%9B%BD))

>

> 東夷（とうい、拼音：Dōng yí）は、古代中国東方の異民族の総称で、四夷の一つである。夷（い）。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%A4%B7>

> 本来は古代中国が東に位置する山東省あたりの人々に対する呼び名であったが、秦以降は朝鮮半島、日本列島などに住む異民族を指すようになった。後に日本でも異民族を意味する「エビス」という語と一体化し、朝廷（京）から見て東国や蝦夷の人々のことを「東夷（あずまえびす・とうい）」「夷（い・えびす）」と呼んだ。

>

Re: 倭・伽耶 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 4 日(水)17 時 22 分 8 秒 返信・引用

> No.1880[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 里でなく、km に換算できないかな。「大漢国」文章からヤケクソですな。

> そうそう、韓国に大漢門があるな。

>

> 大漢門 - 旧名「大安門」現在のものは 1907 年完成。正門である。王宮守門将交代式（衛兵交代式）が見られる。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%B3%E5%AF%BF%E5%AE%AE>

>

> 梁書

>

> 『梁書』によると、僧慧深（けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン）が普通年間（520 年?527 年）に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北 7000 余里に文身国が、その東 5000 余里に大漢国があり、大漢国の東 2 万余里に扶桑がある。ただし、倭国・文身国・大漢国までについては地の文で事実として書かれているが、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。また、地の文の大漢国と慧深の言う大漢国が同じものかもはっきりしない。

>

八進法 河図と八卦 屋居旦鐸（オクタント：八分儀）<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/2549>

耜（すき）」の原字、ひじを曲げた形・・・ム＝角度

僧慧深（けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン）が普通年間（520 年?527 年）に扶桑という国から梁へやってきたという。

古代の中国では、九州（九夷）[1]が扶桑の生えるところで「紫庭」としての憧れの地だった面があるという説もある。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

九州（九夷）

前漢の武帝が紀元前 106 年に全国に 13 州を設置したことにより、九州は具体的な 9 つの州ではなく、中国全土の雅称として使用されるようになった。[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%9D%E5%B7%9E_\(%E4%B8%AD%E5%9B%BD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%9D%E5%B7%9E_(%E4%B8%AD%E5%9B%BD))

東夷（とうい、拼音：Dōng yí）は、古代中国東方の異民族の総称で、四夷の一つである。夷（い）。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%A4%B7>

本来は古代中国が東に位置する山東省あたりの人々に対する呼び名であったが、秦以降は朝鮮半島、日本列島などに住む異民族を指すようになった。後に日本でも異民族を意味する「エビス」という語と一体化し、朝廷（京）から見て東国や蝦夷の人々のことを「東夷（あずまえびす・とうい）」「夷（い・えびす）」と呼んだ。

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 4 日(水)16 時 14 分 1 秒 返信・引用
> No.1881[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

匈奴や遊牧民系

劉 豹（りゅう ひょう、生没年不詳）は、中国後漢末期から西晋時代の南匈奴の左賢王。南匈奴の単于於夫羅の子、前趙の劉淵の父。

南匈奴で叛乱が起こったことで於夫羅が漢に留まり、196 年に漢地で死ぬと、於夫羅の弟呼廚泉が単于の位を継ぎ、劉豹は左賢王となる。後、曹操によって五部に分けられた匈奴の左部を統括する。

匈奴出身者が漢化した後に劉姓を名乗るのは劉豹からであるが、これは前漢代より匈奴と漢宗室との間に姻戚関係があることに由来する。

195 年、董卓の残党による叛乱に際して、蔡文姫を得て側室とする。207 年に曹操により身代金が支払われ、蔡文姫が引き取られるまでの間に 2 子をもうけるが、名は伝わっていない。

嫡子とされる前趙の祖・劉淵は、生年が 251 年頃であり、であるとすれば相当な長命である。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%89%E8%B1%B9_\(%E5%8C%88%E5%A5%B4\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%89%E8%B1%B9_(%E5%8C%88%E5%A5%B4))

> 大漢国の件ですが、「漢」を名乗る王朝は、匈奴や遊牧民系にもあったようで、その理由は劉氏との血縁関係を持つ子孫などのケースがあるようです。たとえば、

>

> 前趙（ぜんちょう、拼音：Qiánzhào、304 年 - 329 年）は、中国の五胡十六国時代に存在した国。建国者は劉淵。当初の国号は漢であり、劉曜の時代に趙に改めたため、漢趙国ともいわれる[1]。同時代に石勒が同じ趙を国号とした国を建てているので、劉淵の趙を前趙、石勒の趙を後趙と呼んで区別

している。

>

> 劉淵（在位：304 年 - 308 年） - 「漢王」を自称。

> 高祖光文帝（劉淵、在位：308 年 - 310 年） - 皇帝と称する。

> 梁王/帝和（劉和、在位：310 年）

> 烈宗昭武帝（劉聰、在位：310 年 - 318 年）

> 少主隱帝（劉粲、在位：318 年）

> 趙主（劉曜、在位：318 年 - 329 年） - 国号を趙と改める。

> 末主（劉熙、在位：329 年）

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/前趙>

>

>

> 以前お話したとおり、後漢王朝の末裔と関係の技術者集団が、山東半島方面にいて、かれらが東晋經由で、半島に渡って、さらに百済經由で日本にきたのが、東漢氏の由来だと考えてます。彼らは後漢末に流民となって半島へ逃げ延びた伝承をもっています。

>

> それで、そのころに大漢国も出現していくわけですが、「大漢」を名乗る理由は、その辺にあるのではないですかね。

>

> 後漢時代の遊牧民系の製鉄・金属精錬技術者集団なわけです。それが東晋の配下に入り、さらに4世紀半ば前後に山東半島から、百済へ渡って七枝刀などをつくるわけですね。そして375年～400年頃に日本へやってくる。タケウチスクネとその後裔集団の時代です。つまり応神朝ですね。

>

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 12 月 3 日(火)23 時 01 分 41 秒 返信・引用

> No.1880[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 里でなく、kmに換算できないかな。「大漢国」文章からヤケクソですな。

> そうそう、韓国に大漢門があるな。

>

> 大漢門 - 旧名「大安門」現在のものは1907年完成。正門である。王宮守門將交代式（衛兵交代式）が見られる。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%B3%E5%AF%BF%E5%AE%AE>

>

大漢国の件ですが、「漢」を名乗る王朝は、匈奴や遊牧民系にもあったようで、その理由は劉氏との血縁関係を持つ子孫などのケースがあるようです。たとえば、

前趙（ぜんちょう、拼音：Qiánzhào、304年 - 329年）は、中国の五胡十六国時代に存在した国。建国者は劉淵。当初の国号は漢であり、劉曜の時代に趙に改めたため、漢趙国ともいわれる[1]。同時代に石勒が同じ趙を国号とした国を建てているので、劉淵の趙を前趙、石勒の趙を後趙と呼んで区別している。

劉淵（在位：304年 - 308年） - 「漢王」を自称。

高祖光文帝（劉淵、在位：308年 - 310年） - 皇帝と称する。

梁王/帝和（劉和、在位：310年）

烈宗昭武帝（劉聰、在位：310年 - 318年）

少主隱帝（劉粲、在位：318年）

趙主（劉曜、在位：318年 - 329年） - 国号を趙と改める。

末主（劉熙、在位：329年）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/前趙>

以前お話したとおり、後漢王朝の末裔と関係の技術者集団が、山東半島方面にいて、かれらが東晋經由で、半島に渡って、さらに百濟經由で日本にきたのが、東漢氏の由来だと考えてます。彼らは後漢末に流民となって半島へ逃げ延びた伝承をもっています。

それで、そのころに大漢国も出現していくわけですが、「大漢」を名乗る理由は、その辺にあるのでは

ないですかね。

後漢時代の遊牧民系の製鉄・金属精錬技術者集団なわけですね。それが東晋の配下に入り、さらに4世紀半ば前後に山東半島から、百済へ渡って七枝刀などをつくるわけですね。そして375年～400年頃に日本へやってくる。タケウチスクネとその後裔集団の時代です。つまり応神朝ですね。

Re: 倭・伽耶 投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2013年12月3日(火)12時55分4秒 返信・引用 編集済
管理人さんへのお返事です。

里でなく、kmに換算できないかな。「大漢国」文章からヤケクソですな。
そうそう、韓国に大漢門があるな。

大漢門 - 旧名「大安門」現在のものは1907年完成。正門である。王宮守門将交代式（衛兵交代式）が見られる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%B3%E5%AF%BF%E5%AE%AE>

梁書

『梁書』によると、僧慧深（けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン）が普通年間（520年?527年）に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北7000余里に文身国が、その東5000余里に大漢国があり、大漢国の東2万余里に扶桑がある。ただし、倭国・文身国・大漢国までについては地の文で事実として書かれているが、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。また、地の文の大漢国と慧深の言う大漢国が同じものかもはっきりしない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

> この「倭国の東北7000余里に文身国が、その東5000余里に大漢国」は短里ではないですかね。

>

> 長里の8分の1

>

> つまり8で割るといいんです。

>

> 倭の東北 900 里に文身国、その東 800 里に大漢国となるでしょうか。扶余・高句麗の南、百済の東、穢のあたりに大漢国があった。だから日本の「漢」氏は、隅田八幡鏡に「穢」人とかかれたという線です。

>

> 文身というのは、刺青のことでしょうか。新羅・扶余系で刺青記載がありますね。最後の扶桑は、2 万割る 8 で、その 2500 里東かな？東扶余とか、その辺どうでしょうかね。

>

> それで、短里が扶余出身であろう僧侶の知識に残った理由ですね。後漢時代の楽浪郡の尺の名残が、まだ扶余・穢方面に残存してうて、その尺度で測っていたという線です。日本に渡来した漢氏の伝承には、帯方・楽浪伝承が残っているんですね。何か後漢時代のそれと関係があるので、「大漢国」なのでしょう。

>

Re: 倭・伽耶 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 12 月 2 日(月)18 時 11 分 55 秒 返信・引用

> No.1878[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

>> 管理人さんへのお返事です。

>>

>

>> 梁書

>> 『梁書』によると、僧慧深（けいしん、拼音: Huishēn ホイシェン）が普通年間 (520 年?527 年) に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北 7000 余里に文身国が、その東 5000 余里に大漢国があり、大漢国の東 2 万余里に扶桑がある。ただし、倭国・文身国・大漢国までについては地の文で事実として書かれているが、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。また、地の文の大漢国と慧深の言う大漢国が同じものかもはっきりしない。

>>

>> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

>>

>>

>

>

> この「倭国の東北 7000 余里に文身国が、その東 5000 余里に大漢国」は短里ではないですかね。

>

> 長里の 8 分の 1

>

>

> つまり 8 で割るといいんです。

八進法では 0 から 7 までの八種類の文字を数字として扱い数を表現するので、十進法で 8 と書き表される数は、八進法では 10 と表 ... から、 $5213 = 3 + 2 \times 5 + 3 \times 5^2 + 1 \times 5^3 + 3 \times 5^4 + 1 \times 5^5$ となるので、五進表記では 1313... <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%8D%E5%8F%96%E3%82%8A%E8%A8%98%E6%95%B0%E6%B3%95>

日常的に最多用されている記数法は十進法である。また、時間は三百六十単位を基本にして、十二単位、三十単位、六十単位の組合わせで表現され、場合によってはこれらの累乗数（十二進法、六十進法。三十進法は今の所使われていない）が用いられる。

日常用いられている、十倍ごとに位をとる数の表記法は十進法と呼ばれ、零から九までの十通りの数値については、それぞれを表す 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9 というような専用の文字（数字）が用意されている。そして 9 より一だけ大きい十を一文字で表記せず、1 と 0 の二文字を組み合わせで 10 と桁を上げて表記する。

同時に二文字の数字を使えば、00 から 99 まで百通り（十の平方）の数を表現することができる。99 より大きな数を表現するには、更にもう一文字（桁）増やして、100 と表記する（この表記法は 0 が発見されてから可能になった）。

このように、十種類の文字を列べて十通りの数を一桁で表し、百通りの数を二桁で、千通りの数を三桁で、というように十の N 乗通りの数を N 桁で表すのが十進法である。十進表記で記された数を十進数と呼ぶ流儀もある。

ここで、「十」という数を二に変えると二進法に、二十に変えると二十進法になる。例えば、二十進法では普通、0 から 9 までの数字十種類と、A から J までのアルファベット十種類、合わせて二十種類の文字を共に数字として扱い、数を表現する。例えば、十進法では 15 と二桁で表記される数も、二十進法では F と一文字で表記できる。

逆に、八進法では 0 から 7 までの八種類の文字を数字として扱い数を表現するので、十進法で 8 と書き表される数は、八進法では 10 と表され、二桁を必要とする。

16 進数の便利さを理解出来ない人は答えないで下さい。 将来、.. - 人力 ...

昔の人（古代メソポタミア）は指の数よりも日常が大体 360 日周期であること、月がその間に 12 周期で変わるなどから、12 進法を もしも人類が片手 8 本、両手 合わせて 16 本の指だったら 16 進法を人類は普通に使っていたでしょうね。 <http://q.hatena.ne.jp/1090732623>

あちきは昔16進でハタチ！とか言っていました。

をっと、気が付いたらもうすぐ30だぜ。

あと、片手で31まで、両手で1023まで数えられます。

これは2進ですけどね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/12%E9%80%B2%E6%95%B0>

十二進法 - Wikipedia

昔の人（古代メソポタミア）は指の数よりも日常が大体360日周期であること、月がその間に12周期で変わることなどから、12進法を採用していました。

時間が60進法であるのもこのため。

一時期フランスで全部100を基準に変えるなど試み（革命直後）も行われましたが頓挫しました。

では、なぜ時計や角度などで直せる部分でも今も残っているか。

それは12が2でも3でも4でも6でも割り切れる性質を利用されているからです。

例えばビール1ダース入れる入れ物ですが、10本だけ入れる入れ物を長方形にするのは1*10か2*5しかなく構造上壊れやすいし持ちにくいなど弊害が出ますよね。

って、密かに10進数の利点は我々が5本指であることしかないという恐るべき事実！

しかしその利点のなさを乗り越えて、「0を発見して10個の数字で表現すればいいや！」っと気づいて以降は、その利用範囲があまりにも広大になりすぎ、後戻りができなくなっている、という背景もあります。

ということで人間が一時言葉を全て忘れて又再構成するなど、無茶なことが起こらない限り10進数がマイナーに落ちることは難しいでしょうね。

っと当たり前のことを長々と書かせていただきましたm（__）m

↓余録

<http://srd.yahoo.co.jp/PAGE=P/LOC=P/R=1/>

Yahoo! JAPAN

*_

<http://www.asahi-net.or.jp/~rc4t-ishr/kensiro.html>

ケンシロウ進数

学生の頃、電流に関して流れる流れないの他に少し流れる（？）の第3の状態を作って3進数を基底にする回路を研究している人がいると聞きましたが、そうするとアルファベットとひらがなを動員して81進数が圧縮後でしょうか。27進数？

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013年12月1日(日)23時10分0秒 返信・引用 編集済

> No.1876[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 梁書

> 『梁書』によると、僧慧深（けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン）が普通年間（520年?527年）に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北7000余里に文身国が、その東5000余里に大漢国があり、大漢国の東2万余里に扶桑がある。ただし、倭国・文身国・大漢国までについては地の文で事実として書かれているが、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。また、地の文の大漢国と慧深の言う大漢国が同じものかもはっきりしない。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

>

>

この「倭国の東北7000余里に文身国が、その東5000余里に大漢国」は短里ではないですかね。

長里の8分の1

つまり8で割るといいんです。

倭の東北900里に文身国、その東800里に大漢国となるのでしょうか。扶余・高句麗の南、百済の東、穢のあたりに大漢国があった。だから日本の「漢」氏は、隅田八幡鏡に「穢」人とかかれたという線です。

文身というのは、刺青のことでしょうか。新羅・扶余系で刺青記載がありますね。最後の扶桑は、2万割る8で、その2500里東かな？東扶余とか、その辺どうでしょうかね。

それで、短里が扶余出身であろう僧侶の知識に残った理由ですね。後漢時代の楽浪郡の尺の名残が、まだ扶余・穢方面に残存してうて、その尺度で測っていたという線です。日本に渡来した漢氏の伝承には、帯方・楽浪伝承が残っているんですね。何か後漢時代のそれと関係があるので、「大漢国」なのでしょう。

アフリカに蔓延する日本の「死の商人」 投稿者：ねこ 投稿日：2013 年 12 月 1 日(日)11 時 51 分 32 秒 返信・引用

アフリカに蔓延する日本の「死の商人」

<http://ichiba.geocities.jp/gbsg0309/0203/31/204.html>

天皇一族は、混血を作り、赤ちゃんを交換し、

完全に日本人の形跡を消して外国に潜入し、地域の実権を金で握る。

(仮説を含む)

(<http://ichiba.geocities.jp/gbsg0309/0103/33/224.html>)

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 12 月 1 日(日)08 時 22 分 28 秒 返信・引用 編集済
> No.1875[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

どこをさしているか？をしらべれば明らかになると思います。・・・は結論ではないな。

短里は里の 10 分の 1 なんですね。結論を先送りは考え物ですね。もう一つの確認方法が扶桑の文章になるな。

梁書に扶桑国の文章がある。管理人さんの短里を単位に計算すれば、大漢国が浮かび上がる。

正確には秦野距離が対応する。

一つの大漢国が京師、もう一つの京師が邪馬台国(一般に知られる任那日本府)。

扶桑の位置は図になるな。

> 京師については、おそらく旧唐書の他の用例で、どこをさしているか？をしらべれば明らかになると思います。

答えは出ていないな。 引用：だが、日本の学界の場合、国公立大学や私立大学の研究者は、わたしの「短里」説が実在していることは、十二分に承知していながら、これを一切「学問討議」の対象から“カット”しつづけてきた。「学問の自由」とは、「自由に言わせたまま、相手にしない」と言う意味

なのだろうか。それが本来の「自由」の意義として「西欧近代社会」の中で通用する、とでも思っているのだろうか。

「日本の学界に学問はなかった」。

後世の研究者から、このように批評されたとき、彼等はいかに答えるのであろうか。

<http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/nakatta6/tanrisimi.html>

梁書

『梁書』によると、僧慧深（けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン）が普通年間（520年?527年）に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北7000余里に文身国が、その東5000余里に大漢国があり、大漢国の東2万余里に扶桑がある。ただし、倭国・文身国・大漢国までについては地の文で事実として書かれているが、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。また、地の文の大漢国と慧深の言う大漢国が同じものかはっきりしない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013年11月30日(土)22時25分23秒 返信・引用

> No.1874[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> おそらく、旧唐書の1万4千里は、唐時代の長くなった長里でしょうね。京師・長安からの寄りでしょうか。

>

> 京師（けいし）とは、東アジアなど漢字文化圏で帝王の都のこと。京都。京城。

> 都合よく、計りもせず、短里、長里、ぐらい、ですか。

> 帝王の都は一つではないな。韓半島に楽浪郡、帶方郡があるように京師も存在したな。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E5%B8%AB>

>

>

>

京師については、おそらく旧唐書の他の用例で、どこをさしているか？をしらべれば明らかになると思います。

関連していろいろ意見はあるようです、

<http://search.yahoo.co.jp/search?p=%E6%97%A7%E5%94%90%E6%9B%B8%E3%80%80%E4%BA%AC%E5%B8%AB&ei=UTF-8&fr=appsfc2>

仮に楽浪・帶方境から1万2千里の記載をもとに、1万4千里と入れ替えたとなると、2千里加わった理由が必要になりますね。

1・2が、1・4になります。7/6=1.17倍で、

そうですね、漢尺=24cm;唐尺=30cm 5/4=1.2倍

おそらく唐代にすでに、秦尺との対比で大尺と小尺の観念がありましたから、その辺で、距離を1.2倍前後までのばして、1万2千里から1万4千里としたという線でいかがでしょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/唐尺>

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年11月29日(金)07時21分27秒 返信・引用 編集済
> No.1873[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> おそらく、旧唐書の1万4千里は、唐時代の長くなった長里でしょうね。京師・長安からの寄りでしょうか。

京師（けいし）とは、東アジアなど漢字文化圏で帝王の都のこと。京都。京城。

都合よく、計りもせず、短里、長里、ぐらい、ですかな。

帝王の都は一つではないな。韓半島に楽浪郡、帶方郡があるように京師も存在したな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E5%B8%AB>

> それに比して、短里と長里の差は大きいです。短里を使う理由は、1千里区画単位で計算すると、半

島や倭が小さすぎるからでしょうね。

どこの倭を言っている？『隋書』倭国伝に其國境東西五月行、南北三月行、・・・ですな。

どこの倭ですか？。例ですが日本と日本の対馬があるが、日本の大きさが対馬の大きさになる？。

『隋書』倭国伝

倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國、三十餘國、皆自稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。都於邪靡堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與儋耳相近。

倭国は、百済や新羅の東南に在り、水陸を越えること三千里、大海中の山島に依って居する。三国魏の時代、通訳を伴って中国と通じたのは三十余国。皆が王を自称した。東夷の人は里数（距離）を知らない、ただ日を以って計っている。

その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。その地形は東高西低。都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。古伝承では楽浪郡の境および帯方郡から一万二千里、会稽の東に在り、儋耳と相似するという。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

> それに対して、魏志倭人伝に掲載されたであろう、漢時代の尺度は、いわゆる短里でしょう。長い里の8分の1。

> 漢城周辺からの距離だと思うのですが、ソウルの南郊、河を渡ったあたりに土城があります。ここが漢代の拠点でしょう。

>

> 確かに卑弥呼の周辺にいた集団は、高度な測量技術をもっており、尺里の計算も知り尽くしています。

>

> 彼らから距離や地図を聞いたとしても何の不思議ありません。

>

> ご指摘のとおり尺・定規・分度器代わりに三角縁神獣鏡を使っていたわけです。

>

> それで、陳寿が倭人に聞いたのか？というと、その判断は当時倭で使われていた尺度と、魏で新たに採用されていた尺度のどちらで、倭人伝の距離が記載されたか？によって是非がわかります。

>

> 確かに漢四郡時代に設定されたであろう四方区画のそれよりちょっと長短があるような気もしないでもないです。

>

> ソウルから釜山まで、先のように7つの四方区画でたどり着くわけですが、ただもし海岸沿いで向かったとすれば、もっと長くなるわけで、8千里を超えていてもおかしくない。

>

> ところが7千余里と記した背景には、漢時代の尺度から魏時代になって、すこし尺度が伸びた件を考慮したかどうか？ここなのですが、ただ距離的には伸びた分は10%にもみたくないわけで、余里程度縮まる、そうなるでしょうか。

>

> そうすると、アバウトなまま過去の距離尺を記載した可能性も出て来るわけですね。

>

> それに比して、短里と長里の差は大きいです。短里を使う理由は、1千里区画単位で計算すると、半島や倭が小さすぎるからでしょうね。

>

。

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013年11月28日(木)23時03分0秒 返信・引用

> No.1872[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>

> 管理人さんの区画分では帯方郡と楽浪郡の距離が約4千里は離れているな。

> 中国史籍では、楽浪郡の境および帯方郡から一万二千里ですな。

> 管理人さんの方位は何か意味があるので再考が必要だな。図を添付

> 白四角だな。

>

> 一万二千里と一万四千里の位置が特定できないな。重要なのは、京師から一万四千里

>

> 三角縁神獣鏡の銘文に京師があるな。銘文から倭国の大乱、前に卑彌呼が居た所です。

> 倭国の大乱は韓半島での事件ですな。教科書の間違いですな。

>

> 桓靈間倭國大亂、更相攻伐、曆年無主。有一女子名曰卑彌呼。年長不嫁、事神鬼道、能以妖惑衆。於是共立為王。侍婢千人、少有見者。唯有男子一人給飲食、傳辭語。居處宮室樓觀城柵、皆持兵守衛。法俗嚴峻。

>

> 桓帝と靈帝の間（146－189年）、倭国は大乱、互いに攻伐しており、暦年に亘って君主がいなかった。一人の女子がいて、名を卑彌呼という。年増だが嫁がず、神鬼道に仕え、よく妖術を以て大衆を惑わす。ここにおいて（卑彌呼を）王に共立した。侍婢は千人、会える者は少ない。ただ飲食を給仕し、言葉を伝える一人の男子がいる。暮らしている宮殿、楼観、城柵、いずれも武器を持って守衛する。法俗は峻厳である。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

>

>> 卑彌呼がみたか？陳寿が軍部から聞いたか？楽浪から聞いたか・・・、どこのだれからでしょうね。

>

> 卑彌呼ですな。景初三年陳是作鏡の陳が陳寿だな。

>

>

> 其國境、東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢、東高西下。居於邪摩堆、則魏志所謂邪馬臺者也。又云：去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽東、與儋耳相近。俗皆文身、自云太伯之後。

>

> その国境は東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程、各々が海に至る。その地形は東が高く西が低い。邪摩堆で暮らす、魏志に則れば、言うところの邪馬臺である。また言う、楽浪郡の境および帶方郡から一万二千里、会稽の東に在り、儋耳と相似する。俗は皆が身体に刺青をし、太伯の後裔だと自称する。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun5-hokusi.htm>

>

>

> 倭國者、古倭奴國也。去京師一萬四千里、在新羅東南大海中、依山島而居。東西五月行、南北三月行。世與中國通。其國、居無城郭、以木為柵、以草為屋。四面小島五十餘國、皆附屬焉。其王姓阿每氏、置一大率、檢察諸國、皆畏附之。設官有十二等。

>

> 倭国とは、古の倭奴国なり。京師から一万四千里、新羅の東南の大海中に在り、山島に依って暮らす。東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程。代々中国と通じている。

> その国、居住地に城郭がなく、木を以て柵とし、草を以て屋根とする。四面の小島、五十余国、皆、これに附属している。その王姓は阿每氏、一大率を置き、諸国を檢察させ、皆はこれを畏怖している。官には十二等級を設けている。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun10-kyutosho.htm>

>

>

おそらく、旧唐書の1万4千里は、唐時代の長くなった長里でしょうね。京師・長安からの寄りでしょうか。

それに対して、魏志倭人伝に掲載されたであろう、漢時代の尺度は、いわゆる短里でしょう。長い里の8分の1。

漢城周辺からの距離だと思うのですが、ソウルの南郊、河を渡ったあたりに土城があります。ここが漢代の拠点でしょう。

確かに卑弥呼の周辺にいた集団は、高度な測量技術をもっており、尺里の計算も知り尽くしています。

彼らから距離や地図を聞いたとしても何の不思議ありません。

ご指摘のとおり尺・定規・分度器代わりに三角縁神獣鏡を使っていたわけです。

それで、陳寿が倭人に聞いたのか？という点、その判断は当時倭で使われていた尺度と、魏で新たに採用されていた尺度のどちらで、倭人伝の距離が記載されたか？によって是非がわかります。

確かに漢四郡時代に設定されたであろう四方区画のそれよりちょっと長短があるような気もしないでもないです。

ソウルから釜山まで、先のように7つの四方区画でたどり着くわけですが、ただもし海岸沿いで向かったとすれば、もっと長くなるわけで、8千里を超えていてもおかしくない。

ところが7千余里と記した背景には、漢時代の尺度から魏時代になって、すこし尺度が伸びた件を考慮したかどうか？ここなのですが、ただ距離的には伸びた分は10%にもみえないわけで、余里程度縮まる、そうなるのでしょうか。

そうすると、アバウトなまま過去の距離尺を記載した可能性も出て来るわけですね。

それに比して、短里と長里の差は大きいです。短里を使う理由は、1千里区画単位で計算すると、半島や倭が小さすぎるからでしょうね。

唐代になると、それに比してアバウトな日本地理理解になっていきます。日本側の距離尺理解は、実はアバウトにはなっていなかったのですが、機密になって唐代の使者が正確な情報を知りうるころでは

なかったんですね。

ただ魏の時代には、まだ魏と倭の政権内部における技術者集団間で、技術共有があつて、三角縁とかも一緒につくっていたくらいですから、尺度や地図の情報交換も厳密にできたであろうことも予想できます。その後の王朝交替で双方、バラバラになったんでしょうね。

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 11 月 28 日(木)08 時 43 分 8 秒 返信・引用 編集済
管理人さんへのお返事です。

管理人さんの区画分では帯方郡と楽浪郡の距離が約4千里は離れているな。

中国史籍では、楽浪郡の境および帯方郡から一万二千里ですな。

管理人さんの方位は何か意味はあるので再考が必要だな。図を添付

白四角だな。

一万二千里と一万四千里の位置が特定できないな。重要なのは、京師から一万四千里

三角縁神獸鏡の銘文に京師があるな。銘文から倭国の大乱、前に卑彌呼が居た所です。

倭国の大乱は韓半島での事件ですな。教科書の間違いですな。

桓靈間倭國大亂、更相攻伐、曆年無主。有一女子名曰卑彌呼。年長不嫁、事神鬼道、能以妖惑衆。於是共立為王。侍婢千人、少有見者。唯有男子一人給飲食、傳辭語。居處宮室樓觀城柵、皆持兵守衛。法俗嚴峻。

桓帝と靈帝の間（146－189 年）、倭国は大乱、互いに攻伐しており、曆年に亘って君主がいなかった。一人の女子がいて、名を卑彌呼という。年増だが嫁がず、神鬼道に仕え、よく妖術を以て大衆を惑わす。ここにおいて（卑彌呼を）王に共立した。侍婢は千人、会える者は少ない。ただ飲食を給仕し、言葉を伝える一人の男子がいる。暮らしている宮殿、楼観、城柵、いずれも武器を持って守衛する。法俗は峻厳である。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

> 卑彌呼がみたか？陳寿が軍部から聞いたか？楽浪から聞いたか・・・、どこのだれからでしょうね。

卑彌呼ですな。景初三年陳是作鏡の陳が陳寿だな。

三角縁神獸鏡のうち、銘文中に魏の年号が記された鏡が4面ある。島根県雲南市加茂町大字神原・神原神社古墳出土の「景初三年」鏡、群馬県高崎市柴崎町蟹沢・蟹沢古墳、兵庫県豊岡市森尾字市尾・森尾古墳、山口県周南市（旧新南陽市）竹島御家老屋敷古墳の3古墳から出土した同型の「正始元年」鏡3面である。これらの鏡4面は、すべて文様の神像と獣形像が同じ方向に並ぶ同向式である。

「景初三年」鏡

景初三年陳是作鏡自有經述本是京師杜□□出吏人□□□（位）□（至）三公母人？之保子宜孫寿如金石

「正始元年」鏡

□ 始元年陳是作鏡自有經述本自州師杜地命出寿如金石保子宜孫

□

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%A7%92%E7%B8%81%E7%A5%9E%E7%8D%A3%E9%8F%A1>

其國境、東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢、東高西下。居於邪摩堆、則魏志所謂邪馬臺者也。又云：去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽東、與儋耳相近。俗皆文身、自云太伯之後。

その国境は東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程、各々が海に至る。その地形は東が高く西が低い。邪摩堆で暮らす、魏志に則れば、言うところの邪馬臺である。また言う、楽浪郡の境および帶方郡から一万二千里、会稽の東に在り、儋耳と相似する。俗は皆が身体に刺青をし、太伯の後裔だと自称する。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun5-hokusi.htm>

倭國者、古倭奴國也。去京師一萬四千里、在新羅東南大海中、依山島而居。東西五月行、南北三月行。世與中國通。其國、居無城郭、以木為柵、以草為屋。四面小島五十餘國、皆附屬焉。其王姓阿每氏、置一大率、檢察諸國、皆畏附之。設官有十二等。

倭国とは、古の倭奴国なり。京師から一万四千里、新羅の東南の大海中に在り、山島に依って暮らす。東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程。代々中国と通じている。

その国、居住地に城郭がなく、木を以て柵とし、草を以て屋根とする。四面の小島、五十余国、皆、これに附属している。その王姓は阿每氏、一大率を置き、諸国を檢察させ、皆はこれを畏怖している。官には十二等級を設けている。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun10-kyutosho.htm>

> なお、九州に入ると、

> 宇佐から伊都までが105 km、2区画分です。2千里

> 宇佐から西都原までが158 KM、3区画分ですね。3千里。

>

>

> 52.5km より、おそらくさらに細かい27.7あたりも使われてます。

> 結局の漢鏡の直径を尺としたサイズの倍数なんです。詳細は会報に記したとおりですが、今年はさらに別の部分をつきつめていきましょう。

>

> この尺距離は、七千余里と記してあるように、海岸沿いを通った場合の余分な距離を加えているように感じます。漢城から釜山までは、海路を使うともっと長くなる。

>

> しかし、地図上では、7千里なので、プラスで余里とした、実測ではないですね。

> すでにあった方位区画図を見て、それでプラス要素を加えた、実践的な軍事地図です。

>

> 卑弥呼がみたか？陳寿が軍部から聞いたか？楽浪から聞いたか・・・、どこのだれからでしょうね。

>

>

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013年11月27日(水)23時09分49秒 返信・引用

> No.1870[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> 先に添付した方位区画図でいけば、1区画を1千里とみなすと、楽浪郡（王險城）から、釜山（狗邪韓国）までの距離とすると明らかに長過ぎます。

>

> 話しは遡るが、管理人さん尺は何尺ですかな。

>

> 秦野の調べでは、呉尺(春秋)と漢尺の2種類で古代史では呉尺(春秋)ですな。

> これからは呉尺(春秋)を呉尺とする。

> 魏志倭人伝の距離は呉尺。陳寿は距離を測らず卑弥呼に聞き記録したが正解ですな。

> 今までの尺、水行の議論は意味を成さないのだな。漢代には呉尺は無いのが自然だな。

>

> 管理人さんの区画は多分、漢尺だな。漢尺と呉尺の比は漢尺1で呉尺1.2になる。

> 秦野距離ですな。

>

> 区画ですが、神武の功が神武により引かれているな。もっと、単純ではないか。

> 1ヶ月単位で引けばよいのでは・・・。

>

> 神武天皇2年、功を定め、道臣命は築坂邑に大来目を畝傍山の西に居住させ、椎根津彦を倭国造に、弟狛を猛田邑の県主、弟磯城を磯城の県主に任じ、高皇産靈尊の子孫の剣根を葛城国造に任じた。併せて八咫鳥を「幸を運ぶ鳥」と褒賞した。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E5%A4%A9%E7%9A%87>

>

> 9.南に水行10日と陸行1月で女王の都のある邪馬台国に至る（「南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日陸行一月」）。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳鞮があり、推計7万余戸。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

>

> 秦野著書(徐福と邪馬台国)に秦野距離(呉尺)と短里、1ヶ月。神武の功を具体的に図で添付していませんぞ。難問で意味不明かな？

>

>

尺の件ですが、こちら去年論じたように、1千里=1区画=158/3=52.5kmとなりますね。

なお、九州に入ると、

宇佐から伊都までが105 km、2区画分です。2千里

宇佐から西都原までが158 KM、3区画分ですね。3千里。

52.5km より、おそらくさらに細かい27.7あたりも使われてます。

結局の漢鏡の直径を尺としたサイズの倍数なんです。詳細は会報に記したとおりですが、今年はさらに別の部分をつきつめていきましょう。

この尺距離は、七千余里と記してあるように、海岸沿いを通った場合の余分な距離を加えているように感じます。漢城から釜山までは、海路を使うともっと長くなる。

しかし、地図上では、7千里なので、プラスで余里とした、実測ではないですね。

すでにあった方位区画図を見て、それでプラス要素を加えた、実践的な軍事地図です。

卑弥呼がみたか？陳寿が軍部から聞いたか？楽浪から聞いたか・・・、どこのだれからでしょうね。

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年11月27日(水)10時11分49秒 返信・引用 編集済
管理人さんへのお返事です。

> 先に添付した方位区画図でいけば、1区画を1千里とみなすと、楽浪郡（王險城）から、釜山（狗邪韓国）までの距離とすると明らかに長過ぎます。

話しは遡るが、管理人さん尺は何尺ですか。

秦野の調べでは、呉尺(春秋)と漢尺の2種類で古代史では呉尺(春秋)ですな。

これからは呉尺(春秋)を呉尺とする。

魏志倭人伝の距離は呉尺。陳寿は距離を測らず卑弥呼に聞き記録したが正解ですな。

今までの尺、水行の議論は意味を成さないのだな。漢代には呉尺は無いのが自然だな。

管理人さんの区画は多分、漢尺だな。漢尺と呉尺の比は漢尺1で呉尺1.2になる。

秦野距離ですな。

区画ですが、神武の功が神武により引かれているな。もっと、単純ではないか。

1ヶ月単位で引けばよいのでは・・・。

神武天皇2年、功を定め、道臣命は築坂邑に大来目を畝傍山の西に居住させ、椎根津彦を倭国造に、弟猾を猛田邑の県主、弟磯城を磯城の県主に任じ、高皇産靈尊の子孫の剣根を葛城国造に任じた。併せて八咫鳥を「幸を運ぶ鳥」と褒賞した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E5%A4%A9%E7%9A%87>

9.南に水行10日と陸行1月で女王の都のある邪馬台国に至る（「南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日陸行一月」）。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳鞮があり、推計7万余戸。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

秦野著書(徐福と邪馬台国)に秦野距離(呉尺)と短里、1ヶ月。神武の功を具体的に図で添付していますぞ。難問で意味不明かな？

試しに四方を一ヶ月で作図する。まあよく合っているな。

> ところが、漢城（ソウル南部か）から、狗邪韓国（釜山）とすれば、ちょうど南北に4区画＋東西に3区画で、7区画分になり、つまり7千里で正解となるわけです。

>

> この件はすでに去年論じて会報にも掲載していますが、郡治はソウルあたりではなかったかと感じますね。狗邪韓国も釜山周辺。

>

> 同様に伊都あたりまでが12区画で、1万2千里ですね。

>

> 釜山のラインの南を倭としたかどうか？この辺が課題ですが、楽奴国というのは、明らかに倭の奴国の系統だと感じます。邪と彌と馬の領域ですね。ここが九州北部まで連結していくかどうか？その間に対馬と壱岐が入るのですが、

>

>

Re: 倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 11 月 26 日(火)23 時 06 分 4 秒 返信・引用

> No.1868[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 距離単位が明確でないのが問題ですな。七千餘里は・・・？

>

> 魏志倭人伝

> 「從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七千餘里」

>

> 從郡至倭、循海岸水行、歷韓國 : 郡から倭にいたる。海岸を循、水行し歷韓國

> 乍南乍東、北岸狗邪韓國に到る、歷韓國から北岸狗邪韓國の距離が七千餘里。

>

確かに「七千餘里」をどう見るかが課題です。

先に添付した方位区画図でいけば、1 区画を 1 千里とみなすと、樂浪郡（王險城）から、釜山（狗邪韓國）までの距離とすると明らかに長過ぎます。

ところが、漢城（ソウル南部か）から、狗邪韓國（釜山）とすれば、ちょうど南北に 4 区画＋東西に 3 区画で、7 区画分になり、つまり 7 千里で正解となるわけです。

この件はすでに去年論じて会報にも掲載していますが、郡治はソウルあたりではなかったかと感じますね。狗邪韓國も釜山周辺。

同様に伊都あたりまでが 1 2 区画で、1 万 2 千里ですね。

釜山のラインの南を倭としたかどうか？この辺が課題ですが、楽奴国というのは、明らかに倭の奴国の系統だと感じます。邪と彌と馬の領域ですね。ここが九州北部まで連結していくかどうか？その間に對馬と壱岐が入るのですが、

Re: 倭・伽耶 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 11 月 26 日(火)09 時 22 分 11 秒 返信・引用 編集済
管理人さんへのお返事です。

距離単位が明確でないのが問題ですな。七千餘里は・・・？

魏志倭人伝

「從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七千餘里」

從郡至倭、循海岸水行、歷韓國　：郡から倭にいたる。海岸を循、水行し歷韓國
乍南乍東、北岸狗邪韓國に到る、歷韓國から北岸狗邪韓國の距離が七千餘里。

文章で注意が必要なのは、「郡から倭にいたる。・・・」は水行し歷韓國に至るで、歷韓國
は倭国だな。邪馬台国ではないな。邪馬台国だが秦野の調べでは邪馬台国は狗邪韓國だった。
魏志倭人伝の頃に邪馬台国は奈良に移った模様。

「方四千里」歴史家の文章とは思えないな。議論は夢物語でなく具体性を求めている。

「方四千里に倭・奴・弁（面）の地域があった可能性を感じます・・・。」

「楽奴国というのは、その南部の海岸沿いと比定されているようです。」

楽奴国は北朝鮮の開城（ケソン）なんです。

倭国とは、古の倭奴国なり。京師から一万四千里、新羅の東南の大海中に在り、山島に依って暮らす。
東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程。東西五カ月、南北に三カ月の行程が神武の功(効)なんです。

今まで、功(効)と方位とを混同しているので分けなければならないな。

九州の方位は功(効)で、方位は大きさを表す表記法だな。

馬韓は「地合方四千餘里、東西以海為限、皆古之辰國也」は212k m四角なんだな。

白村江の戦い頃の地図ですな倭国、越が削除されているな。

出雲の綱引き神話に越(光州)があるが・・・ない。地図は参考ですな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BD%E6%9D%91%E6%B1%9F%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

> その「方四千里」の件なのですが、以前お知らせした添付の朝鮮四方区画に見えるように、後代の漢城以南にあたる4×4の方位区画のことだと考えています。

>

> そして、この方位区画の南辺に狗邪韓国・後代のプサンがあったわけですね。

>

> その南部にもしかしたら倭・奴・弁（面）の地域があった可能性を感じます・

>

> 楽奴国というのは、その南部の海岸沿いと比定されているようです。

> 図2参照。

>

>

倭・伽耶 投稿者：管理人 投稿日：2013年11月25日(月)22時47分16秒 返信・引用

> No.1866[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> 辰国の件は、ちょっと考えています。おそらく、辰国の辰王が後の三韓地域をすべて治めていたはずです。馬韓・辰韓・弁辰は、会報で論じたように3方位の大まかな区分で、おそらく辰国内で、三つくらいに領域を区分して、そのいわゆる地方レベルでそれぞれまとめて統治させていたのではないのでしょうか。

>

> 馬韓は「地合方四千餘里、東西以海為限、皆古之辰國也」とあり、三韓の地の四方で四千里と記している点です。の文章の距離の説明を無視するのですかな。

>

>

その「方四千里」の件なのですが、以前お知らせした添付の朝鮮四方区画に見えるように、後代の漢城以南にあたる4×4の方位区画のことだと考えています。

そして、この方位区画の南辺に狗邪韓国・後代のプサンがあったわけですね。

その南部にもしかしたら倭・奴・弁（面）の地域があった可能性を感じます・

楽奴国というのは、その南部の海岸沿いと比定されているようです。

図2参照。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年11月25日(月)13時10分29秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

> 辰国の件は、ちょっと考えています。おそらく、辰国の辰王が後の三韓地域をすべて治めていたはず
です。馬韓・辰韓・弁辰は、会報で論じたように3方位の大まかな区分で、おそらく辰国内で、三つ
くらいに領域を区分して、そのいわゆる地方レベルでそれぞれまとめて統治させていたのではないで
しょうか。

馬韓は「地合方四千餘里、東西以海為限、皆古之辰國也」とあり、三韓の地の四方で四千里と記し
ている点です。の文章の距離の説明を無視するのですかな。

> 「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」ですが、この「蓋国」が「カイ」の発音を有しています。

読み方はどうでもいい、「伽耶」「狗邪」が有ったのですな。「蓋国」も同様ですな。

> あと秦韓ですが、以前論じたように東北部の辰韓とはやや別系統とみています。

> 音的には同じなのですが、狗邪秦の語に見えるように、「狗邪」地域にあった「秦」集団で、「辰
韓」地域にあった秦集団ではないわけです。

魏志倭人伝の国は信じて「蓋国」を信じない。また、馬韓・辰韓・弁辰の具体的な距離を見ようと
しないのは、自己矛盾ですな。

近い内に古代史は一変するでしょうな。最近のモンゴル発掘で匈奴に製鉄技術があったことが分か
った。

製鉄技術は匈奴に亡命した衛満が伝えた模様。衛満には大夫が存在する。大夫は始皇帝の五大夫の司

馬氏になる。司馬氏と衛満を繋げるのは徐福になる。徐福は司馬氏に瑞穂の国の民に製鉄技術を出雲で伝えた。瑞穂の国の民、中国史籍では阿毎。瑞穂の国の民は神武東征で韓半島に「やまと」を移し統治した模様。管理人さんの「辰韓」地域にあった秦集団。会報の修正には決断が必要だが勇気を持って欲しい。

秦野北斗著書：徐福と邪馬台国、徐福が総てを物語る模様。

Re: 講演会のお知らせ 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年11月25日(月)11時51分21秒 返信・引用

> No.1864[元記事へ]

じじさんへのお返事です。

古田史学の会

古田の古代史には理論上の議論がなく、単なる遊びでしかないな。
めざわりだ。

講演会のお知らせ 投稿者：じじ 投稿日：2013年11月24日(日)20時38分34秒 返信・引用

黄 当時教授(仏教大学)講演会

中国語学の専門家の立場から、金印「漢委奴国王」の読みと意味を解く。

- 1 日時 平成26年3月16日13:30～
- 2 場所 名古屋市市政資料館 第3会議室
- 3 主催 古田史学の会・東海
- 4 会費 500円

http://www.geocities.co.jp/furutashigaku_tokai/index.htm

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：管理人 投稿日：2013年11月24日(日)16時56分39秒
返信・引用

> No.1862[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> それで、辰国から、三韓が生じて、それらは馬韓の系統だと言っている訳ですね。

>

> ざんねんですな。辰国から・・・は辰国の位置関係を見ればよい。辰国は倭国と近接している。辰国は後の新羅ですぞ。

>

> 辰韓伝、今はこの国の名称を秦韓とする。始めには六国あり、十二国に細分化した。

>

> 文章から秦韓は阿毎ですな。古事記を整理していて「辰韓伝、秦語に相似しているが・・・」が理解できる。直読みでは背景が見えませんぞ。

>

> 『三国志魏書』辰韓伝

> 辰韓在馬韓之東、其耆老傳世、自言古之亡人避秦役來適韓國、馬韓割其東界地與之。有城柵。其言語不與馬韓同、名國為邦、弓為弧、賊為寇、行酒為行觴。相呼皆為徒、有似秦人、非但燕、齊之名物也。名樂浪人為阿殘；東方人名我為阿、謂樂浪人本其殘餘人。今有名之為秦韓者。始有六國、稍分為十二國。

>

> 辰韓は馬韓の東、そこの古老の伝承では、秦の苦役を避けて韓国にやって来た昔の逃亡者で、馬韓が東界の地を彼らに割譲したのだと自称している。城柵あり。言語は馬韓と同じではない。そこでは国を邦、弓を弧、賊を寇、行酒を行觴（酒杯を廻すこと）、皆のことを徒と呼び合い、秦語に相似しているが、燕や齊の名称ではない。楽浪人を阿残と呼ぶ；東方人は自分を阿と言うが、楽浪人は本来、その残余の人だと言われる。今はこの国の名称を秦韓とする。始めには六国あり、十二国に細分化した。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-sinkan.htm>

>

>

> 文章の内容から衛満を見ると朝鮮王の満とは、昔の燕の国民である。

> 盧綰が（前漢に）叛き、匈奴に亡命すると、燕人の衛満は胡服を着て亡命。

> 衛満と満は同一だな。

> 衛：常用漢字表外 い、まもる、もり

> 『山海経』海内北経に、「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」という一節がある。

> [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

> 衛満は倭人を指す。韓半島は倭国、馬韓、辰韓、弁韓は倭人の領地だな。

> この文章が古事記に海幸と山幸に記録される。後は神武東征になるな。

> http://www15.plala.or.jp/kojiki/umisachi_yamasachi/umisachi_yamasachi_02.html

>

> 元封三年（前108年）に倭国を除き、朝鮮：馬韓、弁韓、辰韓とし、臨津江(イムジン川)を境に

> 真蕃、臨屯、楽浪、玄菟とする。臨津江は現在の38度線ですな。

>

> 楼船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、楽浪、玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、楽浪と玄菟に併合した。

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

>

辰国の件は、ちょっと考えています。おそらく、辰国の辰王が後の三韓地域をすべて治めていたはずで
す。馬韓・辰韓・弁辰は、会報で論じたように3方位の大まかな区分で、おそらく辰国内で、三つくら
いに領域を区分して、そのいわゆる地方レベルでそれぞれまとめて統治させていたのではないでしょ
うか。

それで、ある時期から「辰」の語をつかわずに「韓」を名乗りはじめる。

中心は月支国のあったおそらくは真番衆のいた近接地域でしょう。

それで、ご指摘の

「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」ですが、この「蓋国」が「カイ」の発音を有しています。

音読み

呉音：カイ(表外)、ゴウ(ガフ)(表外)

漢音：カイ(表外)、コウ(カフ)(表外)

慣用音：ガイ

<http://ja.wiktionary.org/wiki/漢音>

これがもしかすると「韓」の「ガン・カン」と近いかもしれませんね。

「伽耶」「狗邪」（カヤ・クヤ）とも近い音のように感じます。

そうすると、もともと南韓地域では「カイ・ゴウ」と自称していたので、それに近い「韓」を名乗り始

めたという線もありそうですね。

あと秦韓ですが、以前論じたように東北部の辰韓とはやや別系統とみています。

「秦」の音は、音読み

呉音：ジン

漢音：シン

「辰」は音読み

呉音：ジン

漢音：シン

です。音的には同じなのですが、狗邪秦の語に見えるように、「狗邪」地域にあった「秦」集団で、「辰韓」地域にあった秦集団ではないわけです。

おそらくは、蘇塗のあったカヤ領域でも、やや内陸西部百済寄りの地域ですね。

そこで問題の倭国の領域ですが、まず「弁」「辰」の方角的な相違を理解する必要があります。

「辰」の方角は、楽浪からみて新羅方面、南東です。

「弁」は。それよりは西寄りになる。

「弁辰」はその中間の方角で、カヤ東部方面でしょう。

馬韓の馬は午のことで楽浪からみて南を示します・

それで馬と辰の間の方角は、巳で「ジ・シ」音になるのですが、蛇を充てると「イ・ジャ・タ」がでてくるわけです。

邪馬台国、狗邪韓国の「邪」と関係するのでしょうか。

弁韓を、倭面土国王の面とするとどうなるか？

以前、倭の弁韓・奴国の王と考えたわけですが、楽奴国がちょうど弁韓最南部の地域にあります。ここも「奴」国の領域でしょう。邪と彌と馬の領域はその東部へと広がっているわけですね。

倭の領域を、秦野さんのように半島最南部も設定するとするならば、おそらくかなり南の海岸線沿いに

なるのではないのでしょうか。狗邪韓国のあたりを含むかどうか？そこも課題ですね。

壱岐・対馬を通じて九州北部の奴・伊都・八女方面まで倭が後漢初期ごろから伸びていったのではないのでしょうか。

全 1922 件の内、新着の記事から 10 件ずつ表示します。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 11 月 17 日(日)23 時 20 分 14 秒
返信・引用

> No.1847[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 濊の地は衛満、燕の地の様だな。 濊。南は辰韓、北は高句麗と沃沮に接し、東は

> 大海（日本海）に尽き、北朝鮮だな。大夫の禮・・・。五大夫との関係があるのか？

> <http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1704>

>

> 燕の亡名者の衛満がすべてを奪い取る。東の地（朝鮮の領地）を略奪しようとしたので、朝鮮侯もまた王を自称して、周の宗室を尊んで兵をあげ、燕を迎撃しようとしたが、大夫の禮が諫言したことで止めた。

>

> 『三国志魏書』

> 濊南與辰韓、北與高句麗、沃沮接、東窮大海、今朝鮮之東皆其地也。戸二萬。昔箕子既適朝鮮、作八條之教以教之、無門戸之閉而民不為盜。其後四十餘世、朝鮮侯淮（準）、僭號稱王。陳勝等起、天下叛秦、燕、齊、趙民避地朝鮮數萬口。

> 燕人衛満、魑結夷服、復來王之。漢武帝伐滅朝鮮、分其地為四郡。自是之後、胡漢稍別。

> 濊。南は辰韓、北は高句麗と沃沮に接し、東は大海（日本海）に尽き、今の朝鮮の東は皆、濊の土地である。戸数は二万。昔、箕子が朝鮮に行き着き、八條の教えを作り、これを教えたので、門戸を閉じずとも民衆は盗むことをしない。

> その後、四十余代の朝鮮侯準は王を僭称。陳勝（と呉広が反乱を）起したことで、天下は秦王朝に叛くと、燕・齊・趙の民は戦乱を避けて朝鮮の地に数万人も逃げ込んだ。

> 燕人の衛満が魑（まげ）を結び、夷服を着て、何度も往来して、ここの王となる。漢の武帝が朝鮮

を討滅。その地を四郡に分けた。これの後、胡と漢は少し別れた。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-wai-.htm>

>

> 侯準既僭號稱王、為燕亡人衛滿所攻奪①

> 注記① 魏略曰：昔箕子之後朝鮮侯、見周衰、燕自尊為王、欲東略地、朝鮮侯亦自稱為王、欲興兵逆擊燕以尊周室。其大夫禮諫之、乃止。使禮西說燕、燕止之、不攻。後子孫稍驕虐、燕乃遣將秦開攻其西方、取地二千餘里、至滿番汗為界、朝鮮遂弱。

>

> すでに侯準は王を僭称していたが、燕の亡名者の衛滿がすべてを奪い取る。

> 注記① 魏略に曰く。昔、箕子の後裔の朝鮮侯は、周朝の衰退を知った燕が自ら王と尊称して、東の地（朝鮮の領地）を略奪しようとしたので、朝鮮侯もまた王を自称して、周の宗室を尊んで兵をあげ、燕を迎撃しようとしたが、大夫の禮が諫言したことで止めた。

> 禮を西に遣わして燕を説くと、燕は進撃を止め、攻撃をしなかった。その後、朝鮮侯の子孫がやや驕慢で暴虐だったので、燕は秦開將軍を派遣して、その西方を攻め、二千余里の地を奪い取って、滿番汗を以て国境とした。朝鮮は衰弱した。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

>

特に、最後の

「後子孫稍驕虐、燕乃遣將秦開攻其西方、取地二千餘里、至滿番汗為界、朝鮮遂弱。」

が重要ですね。

この「滿番汗」との地名には、諸説あるようです。

漢代の遼東郡の番汗県は今の北朝鮮平安北道の博川（博川江西岸）に比定され通説となっており、滿番汗はこの番汗に似ていることから同一地と考えられる。また同じく遼東郡内の文県は今の遼寧省營口市と考えられており「滿」はこの「文」ではないかともいわれる。ただ問題は文県と番汗県があまりに離れすぎており、滿＝文県は遼東郡の西方なので、朝鮮との境界というのにあわない。これをどう考えるかで説がわかる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/滿番汗>

それで、なぜ重要かというと、以前論じた、後代の百済・秦韓系の真番衆の「番」にかかわってくるからです。

「至満番汗為界、朝鮮遂弱。」

その周辺に「真番（郡）衆」がいたわけです。これが中国からの亡命遺民ですね。一部が扶余・ワイ・高句麗・百済方面へと流れ込んで行きます。

それで「番」「汗」の分離です。

「真番」を類似性をもつ華南系に見える「テン・チン番」と解釈する可能性を以前論じたわけですが、ここで「真」「秦」あるいは「満」といった語に関係しそうです。チャン族つまり羌の類で、当時北京北方まで彼らの一派がいたはずです。

「満」は呉音でマンですが、漢音で「バン」

「汗」については、後代「ハン」を「カン」と記すわけですが、これはどういうことかな。

「滅南與辰韓」

ワイの南に辰韓、真韓・つまり真番郡があって、ワイは北朝鮮の遼東半島の北部あたりでしょう。

辰韓は、最初真韓だったのではないかと思います。その後、東南に移動して楽浪からみて辰の方角になったので「辰」と記されたのではないかと思います。

番と韓ですね。番と汗。

韓を名乗り始めるのがいつごろかによりますが、中国の戦国時代の韓の子孫だから、韓と名乗ったのか？、あるいは吾的に「汗」「番」が「韓」にちかかったから「韓」の字をつかったのか？この辺も課題ですが、すこしその辺の通説を調べねばなりませんね。

Re: 1 3等に分かれた官位 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 11 月 17 日(日)21 時 21 分 29 秒 返信・引用 編集済

> No.1850[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

田中俊明 (歴史学者) は広開土王碑の碑文と古代の状況を知らずに話しを進めているな。

まあ、勝手に創造すればいい。碑文に応神天皇の姿があるな。きずかないだろう。

官位制 1 3 等は聖徳太子の影響ですな。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%B0%E4%B8%AD%E4%BF%8A%E6%98%8E_\(%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E5%AD%A6%E8%80%85\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%B0%E4%B8%AD%E4%BF%8A%E6%98%8E_(%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E5%AD%A6%E8%80%85))

> 高句麗と渤海の歴史

> そのためとうぜんながら、高句麗の遺跡は 3 国にひろがっており、また高句麗系の人びと が日本列島に渡来して残した足跡として指摘できるものも知られて 支配層は、王権 の伸長に対応して、王を中心とした一元的な 1 3 等に分かれた官位制に組み込まれた。

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~tosikenn/kogltre.html>

1 3等に分かれた官位 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 11 月 15 日(金)20 時 56 分 4 秒 返信・引用

高句麗と渤海の歴史

そのためとうぜんながら、高句麗の遺跡は 3 国にひろがっており、また高句麗系の人びと が日本列島に渡来して残した足跡として指摘できるものも知られて 支配層は、王権 の伸長に対応して、王を中心とした一元的な 1 3 等に分かれた官位制に組み込まれた。

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~tosikenn/kogltre.html>

高句麗の国を建てたツングース系民族で朝鮮人の祖とされる。・京族（キン） 九真（ベトナム系）趙姫ユニーク兵種：象弓騎兵（タフ ... 瑤族と同じく龍神（ジョカ・伏羲）を祀る が、犬ではなく蛇や蝶を神と崇めるのが特徴。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1642>

境神・塞の神（道【祖】神 地【蔵】 庚申【塚】 馬【頭】 観音・・・・）や巨石・奇岩などや川（人為的な境も存在）にかかる橋 伏羲(フッギ)と女媧(ジョカ) これは度量衡の単位とは直接関係は無いのですが、実は一昨年の辰年の新年賀詞交換会で「伏羲(フッギ)と女媧(ジョカ)」の話をし

...<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/keijiban16.htm>

フギ？ジョカ？・道祖神？・・・・定規にコンパス・・・・石工メイソンも）

<http://kamnavi.web.fc2.com/log/yumv0510.htm>

直角定規とコンパスは、現代フリーメーソンのシンボルなので、フギとジョカを中国のフリーメーソンの起源という人もいる <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/501>

アスターナ古墳. 伏羲女媧(ふつぎじょか)図。 左側、コンパスを持つのが女媧(正しくは女偏がつく)、右側の伏羲は曲り尺を持っている。古代の人々は、生物が誕生したとき、雌雄は一体だったと考えていたのかもしれない。

[6732] R E [6730] なにか意味があるのだろうか。 倭亞府

<http://www.venus.dti.ne.jp/~shigerui/uygur/myth01.htm>

古代フリーメーソン派の教義の規範は、「プレアデス星系」にあり

...<http://mihoh.seesaa.net/article/110327274.html>

道祖神とは、猿田毘古神（さるたひこのかみ）さんと、

天宇受売命（あめのうずめのみこと）さんのペアであり、

日本の記紀などの古文書においても伝えられていますように、

「道を示す」神であります。

13 という数字は、フリー・メーソンの誕生と密接に関連している。

<http://blog.goo.ne.jp/capitarup0123/e/4808cc147459d34a34d19bcbb5dac7b1>

米国は、13 という数字と密接にかかわっている。

- ☐ 最初の植民地の数は 13 であった。
- ☐ 独立宣言の署名者は 13 人であった。
- ☐ 米国国旗のストライプは 13 本である。
- ☐ 1 ドル札の ANNUIT COEPTIS は 13 文字。
- ☐ 1 ドル札及び米国国璽に記された文字 E PLURIBUS UNUM は 13 文字。
- ☐ 1 ドル札の鷲の上にある星の数は 13 個。
- ☐ 鷲の前にある盾のストライプは 13 本。
- ☐ 鷲がつかんでいるオリーブの枝の葉は 13 枚。
- ☐ 13 個の果実と、13 本の矢。
- ☐ 第二次世界大戦後に GHQ に接収された巣鴨拘置所に設置された絞首台の階段は 13 段。

□ 連邦準備制度が設立されたのが1913年。

十三まいりは3月13日から5月13日までの間、京都嵐山の大堰川にかかる渡月橋を渡り、嵐山の中腹にある法輪寺（虚空蔵 ... 和銅6年（713）行基菩薩の開基と伝えられています、

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/iwatasin/sub42.html>

和銅6年（713）行基菩薩の開基と伝えられています、古義真言宗に属す

もと葛井寺（クズイ）と称したが、弘法大師の高弟の道昌僧正が貞観10年（868）に堂塔をおこして法輪寺と改め、弘法大師の修行の遺跡として有名な境内の井戸に姿を現した虚空蔵菩薩を自ら彫って本尊としたと伝えられる。

奥州柳井津・伊勢朝熊（アサマ）と共に日本三代虚空蔵といわれ、智福技芸の守護仏として信仰されている

天慶年間（938～947）に空也上人が参籠し勧進によって堂塔を修造した

本尊は幼年期から成長期に移ろうとする人生の転換期を守護されるというので、毎年4月13日に13歳になる男女が参詣する。これを十三まいり という。

本堂は元治元年（1864）の兵火にかかって焼失したのを明治になって再建したもので、堂内には本尊の傍らに持国天、多聞天立像2体（重要文化財）を安置する

ユダヤ人は現在でも13歳の男子に、成人を迎える儀式「バル・ミツバ」を行なうことで有名だが、日本人も昔、13歳の男子に成人を迎える儀式「元服式」を行なっていた。.....これは京都では「十三参り」と呼び、京都嵐山の法輪時に参拝します。

<http://blog.goo.ne.jp/2005tora/e/e627fc6b839741591e0522014e7c9da6>

十三参り 生まれた年の干支が、初めて巡ってくる年（数え年の13歳）に行われるのが十三参りだ。数え年13歳の男女が、...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2937>

大乘仏教誕生に決定的な役割を果たしたのはキリスト教であり、大乘仏教には隠れキリスト教という側面があるという仮説は非常に有望なものと思われるので、さらに検討してみることにしたい。

バル・ミツバというのは男の子が13才になったことを祝うユダヤ教の成人式のことです。... 正確には式をしなくてもユダヤ人の子供たちは13才になると宗教上では大人になりバル ...

<http://www.scarsdalemura-kara.com/barandbatmitzvah.htm>

女の子の場合は、バット・ミツバまたはバス・ミツバと呼ばれ、（出身国による発音が少し違うだけでバス、バットはともに娘の意）12才を過ぎればいつでもよいとされていますが、男の子の場合と同様、13才の誕生日の前後の安息日に式を受けることが多いようです。

5歳にして聖書を、十歳にしてミシュナーを学び始め、13歳にして掟（ミツバー）に従う。

.....

それ（トーラー）に向かいなさい。一切が含まれているそれに向かいなさい。それを見つめつつ年をとり老いなさい。それからわきにそれではならない。それにまさるものをあなたは持たないからである」。（ミシュナー 父祖の項より）

http://www.makuya.or.jp/teatime/aj_page/h20090401.htm

日本にも昔は元服式があり、その元服の時は12～15歳前後でした。特に武士の家庭では、武士の作法として、責任の取り方をきちんと教えて、元服する息子に「切腹の作法」を父親は伝授したといひます。今、その精神が伝えられているのでしょうか。是非とも回復したい日本精神の一つです。

13参り

... 帰り道にある渡月橋を渡る時に授けてもらった。知恵が戻らないように、渡り終るまで決して、振り返らないという習慣があります。13参りを子供から大人へと成長する節目と考え、お祈り、お祝いをするのが、今では全国に広がっています。

<http://www.fukayastudio.co.jp/13.html>

嵐山-虚空蔵 法輪寺-

智恵や福德・技芸上達、さらに丑寅年生の守り本尊として知られる「虚空蔵菩薩(こくぞうぼさつ)」を祀り、通称「嵯峨の虚空蔵さん(さかのこくぞうさん)」と呼ばれています。寺伝では和銅6年(713年)、元明天皇の勅願により行基が葛井寺(かどのいでら)...

http://www.rohm.co.jp/rohm-saijiki/arashiyama/recomend/recomend_07.html

寺伝では和銅6年(713年)、元明天皇の勅願により行基が葛井寺(かどのいでら)を建立したことが起源。

天長6年(829年)には道昌僧正が虚空蔵菩薩像を安置して、法輪寺に改称しました。

虚空蔵尊大祭

数え年13歳の男女が、福德と智恵と健康を授かるため、親子ともども虚空蔵菩薩にお参りする習わしで「知恵詣り」「知恵貰い」とも言う。... 養願寺 正安元年の創建と伝えられ、天台宗明鏡山善光院養願寺と号し、御本尊は虚空蔵菩薩を安置し、丑寅年生れの守本尊。

[http://members2.jcom.home.ne.jp/ichikondo/04%20kokuuzoumatsuri\(juusanmairi\).html](http://members2.jcom.home.ne.jp/ichikondo/04%20kokuuzoumatsuri(juusanmairi).html)

十三参り 生まれた年の干支が、初めて巡ってくる年(数え年の13歳)に行われるのが十三参りだ。数え年13歳の男女が、福德と智恵と健康を授かるため、親子ともども虚空蔵菩薩にお参りする習わしで「知恵詣り」「知恵貰い」とも言う。当日女の子は、本裁ちの晴れ着に踊り華や、かかえ帯を結び、一人前の娘としての装いにする。男子は元服をする年にあたる。親子で参拝し、「知」「美」など、祈願する事柄を本人の自筆で一文字書いたものを供え祈祷してもらう。

虚空蔵菩薩(こくぞうぼさつ)、梵名アーカーシャ・ガルバ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%99%9A%E7%A9%BA%E8%94%B5%E8%8F%A9%E8%96%A9>

三昧耶形は宝剣、如意宝珠。種子(種字)はタラク(Trâ?). 真言は「オン バザラ アラタンノウ オン タラク ソワカ」(Oṃ vajraratna, Oṃ trā? svâhâ)や、記憶力増進を祈念する修法「虚空蔵求聞持法」で用いられる「ノウボウ アキャシャ ギャラバヤ オン アリキャ マリ ボリ ソワカ」(Nama? Âkâśagarbhâya, Oṃ arika mari muri svâhâ)などが知られる。

「虚空蔵」はアーカーシャ・ガルバ（「虚空の母胎」の意）の漢訳で、虚空蔵菩薩とは広大な宇宙のような無限の智慧と慈悲を持った菩薩、という意味である。そのため智慧や知識、記憶といった面での利益をもたらす菩薩として信仰される。その修法「虚空蔵求聞持法」は、一定の作法に則って真言を百日間かけて百万回唱えるというもので、これを修した行者は、あらゆる経典を記憶し、理解して忘れる事がなくなるという。元々は地蔵菩薩の地蔵と虚空蔵は対になっていたと思われる。しかし虚空の空の要素は他の諸仏にとって変わられた様で、また地蔵菩薩の独自の信仰もあり、対で祀られる事はほぼ無い。

空海が室戸岬の洞窟 御厨人窟に籠もって虚空蔵求聞持法を修したという伝説はよく知られており、日蓮もまた 12 歳の時、仏道を志すにあたって虚空蔵菩薩に 21 日間の祈願を行ったという。また、京都嵐山の法輪寺では、13 歳になった少年少女が虚空蔵菩薩に智慧を授かりに行く十三詣りという行事が行われている。胎蔵曼荼羅の虚空蔵院の主尊であり、密教でも重視される。

ΨΨ

五大虚空蔵菩薩 [編集]

五大虚空蔵菩薩は、虚空蔵菩薩のみ 5 体を群像として表わしたものである。虚空蔵菩薩の五つの智慧を 5 体の菩薩像で表わしたものともし、五智如来の變化身（へんげしん）とも言う。五大虚空蔵菩薩像は、息災・増益などの祈願の本尊にもなっている。五大虚空蔵菩薩の名称、方位、身色は次のとおりである。

法界虚空蔵（中央、白色）

金剛虚空蔵（東方、黄色）

宝光虚空蔵（南方、青色）

蓮華虚空蔵（西方、赤色）

業用（ごうよう）虚空蔵（北方、黒紫色）

五大虚空蔵菩薩の彫像の作例としては、京都・神護寺多宝塔安置の像（平安初期・国宝）が著名である。京都・東寺観智院安置の五大虚空蔵菩薩像（重文）は、空海の孫弟子にあたる恵運が唐から将来した像である。法界、金剛、宝光、蓮華、業用の各像はそれぞれ馬、獅子、象、金翅鳥（こんじちょう）、孔雀の上の蓮華座に乗っている。この観智院像は、もとは山科（京都市山科区）の安祥寺にあったものである。

<論文>漆工職祖神と虚空蔵菩薩：秦氏および木地屋との関係を中心にして ...

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/handle/2241/14312>

とんでもニャ〜Mの推測 1－7

「虚空蔵求聞持法」を空海に伝授した「勤操」も秦氏で、「狭山池」で行基と繋がると思われ、「大安寺」で太子や行教とも繋がり、「大安寺」... 大和氏著の秦氏関係の本によりますと、「宇佐八幡宮」の神宮寺「弥勒寺」は、「虚空蔵寺」が改名されたお寺だそうです。

http://www.geocities.jp/easyclub_choro/tonde7.htm

、「韃靼」「靺鞨」については前回ご紹介したサイトをご覧くださいことで、ほぼ私の書くことはなくなったわけですが、「弥勒」の「勒」についてがまだ関連がわからない……。が、妙な関連が「行基」についてのネット検索で見られまして。

「なんでもアルバム」の「行基編・行基ゆかりの場所」に、新たに見つけたゆかりの場所として

「広島県・権現山 治暦元年(1065)修行僧教道が行基作の毘沙門天を祀ったのが始まり。」

(参照:<http://homepage3.nifty.com/ishildsp/kikou/hirosima.htm>)

を追加したのですが、「修行僧教道」を早とちりして「行教」と読んでしまった……。 「ん？また宇佐との繋がりが？」と思いつつ、「宇佐八幡宮」に関するサイトを見ていたところ、「宇佐八幡宮神宮寺」が「弥勒寺」と書かれていた！辛島・宇佐氏は秦氏系ということで、そういうこともあるのかなと思っていたのですが、辛島・宇佐氏系のお寺に「虚空蔵寺」とあると、大和氏の秦氏に関する著書にありまして。

これはどういうこと！？と思いつつ、「虚空蔵」で検索したらうちのサイトが。行基ゆかりの寺院の「新潟」のところで、「虚空蔵堂:天平2年(730)民の苦難を救うため、行基により像が刻まれた。」と。

広島の「権現山」での行基のことについて書かれているファイルの下の方に、「大空の虚空を切るように立つ大岩には、虚空蔵菩薩がおられると古代人は空想した。」と、「虚空蔵信仰」について書かれていて、「大岩」といえば、行基建立とされる奈良の「神野寺」の近くにある巨岩「王塚」「八畳岩」「天狗岩」が、「デネブ」「ベガ」「アルタイル」の位置関係と一致するということが、「山添村のホームページ」に書かれていて、位置的に「神野寺」が「北極星」になるんじゃないかと[其の86]で書いてて……。と、つい行基一色の世界へと。

いつものこととは言え、我ながらどこまで脱線するんだろうかと、上記のことが気になりつつも今度は「虚空蔵信仰」の検索をしていると、

「秋田の星の民俗」さんのサイト(<http://ww5.et.tiki.ne.jp/~koremamaru/star/index.htm>)に、

「蘇民将来

……。新潟県では、朝日村に同様のタラの木の小正月のお札があった。中魚沼地方では釜神のお札に型が書かれる。(佐野賢治「虚空蔵信仰」雄山閣出版、1991年、5～6頁)」

とあり、朝日村には先ほどの「虚空蔵堂」があるので、何か関連があるのだろうか？と読み続けていると

「安倍晴明

……。岩田慶治「コスモスの思想」(岩波書店1993年、263頁)によると、ラオス、タイ北部では稲の脱穀場に竹竿を立て、その先に放射状の構造の作り物を結びつける。これはムカデを模したものでターレオ(呪標)の一種である。ターレオは脱穀場を悪霊から守るとされる。佐藤貢の指摘によると、五芒星の起源は紀元前500年頃の古代ギリシャのピタゴラス学派の紋章に由来するという。しかし紀元前3000年頃のペルシャの出土品には、すでにこの星形が描かれていた。真珠採取は古代のペルシャ湾に始まり、幾つもの海を経て日本の海女にまで伝えられた。(中西進「キリストと大国主」文藝春秋、1994年)」

と、ありまして。「ムカデ」から、太子ゆかりの「信貴山朝護孫子寺」の額と「五芒星」に、何か関連があることになるのかな？と思い、また、真珠採取の技術は、海上交通に長けた氏族との関連が？と、さらに気になる事柄が増えつつも検索を続けると、「戸田氏ゆかりの稲荷神社」というのがあって、

「虚空蔵」とどういう関係があるのかな？と拝見したところ、

「深坂西村にある稲荷神社は明治元年（1868）神仏分離令が施行されてお稲荷さんが本神となるまで、虚空蔵さんが本神でした。氏栄は虚空蔵信仰が篤かったので、稲荷神社には戸田家ゆかりのものがたくさんあります。本殿の扉には戸田家九曜の紋所が残っています。」

(参照:<http://www.vill.tanigumi.gifu.jp/htm/sanpo/nanbu4.htm>)

とのことで、そりゃあもうビックリ！まず「お稲荷さんが本神となるまで、虚空蔵さんが本神」というのに驚き、「戸田家九曜の紋所」ということで「将門」に繋がる！？と。ひょっとするとさっきの「ムカデ」は、「藤原秀郷」の伝説にも繋がるということになる？「戸田家」とは？お稲荷さんというとはやはり秦氏？ということとは、秦氏と将門が繋がるということになる？さらに謎が増えつつも、検索を続けていたら、

岐阜県・洞戸村のサイト(<http://www.horado.com/>)には、

「高賀山

・・・高賀神社、新宮神社、星宮神社などに残る懸仏の造頭年代や御正体については、鎌倉後期から南北朝時代に虚空蔵菩薩が圧倒的に多くなり、従来の各社独自の信仰を保持していたものから虚空蔵菩薩が高賀山信仰の主流となったことがわかる。この信仰の変化については、白山中居神社（現郡上郡白鳥町）の本地仏が虚空蔵菩薩であり、この信仰をもった白山修験の影響、また伊勢金剛證寺（現三重県伊勢市）の虚空蔵信仰とのかかわりが考えられる。」

ん！？「白山」というと「泰澄」で秦氏、ということとは、「石動山」も同様(詳しくは[其の64]を)ということで、前回の「2001 うそ発見の億のウソ道」さんのサイトの「イルギ」にも繋がる？

「虚空蔵求聞持法」を空海に伝授した「勤操」も秦氏で、「狭山池」で行基と繋がると思われる、「大安寺」で太子や行教とも繋がり、「大安寺」に行基と仲の良かった(?)「菩提僊那」が「安摩の舞」を伝授したということで、安倍晴明にも繋がる？

神道では、「虚空蔵菩薩」と関係づけられた「三光天子」が「日吉三神」の「本地」とされ、「山王神道」の骨格をなしているとのことですが、御主神は「大山咋神」「大己貴神」。「大山咋神」は賀茂氏神系で京都の「松尾大社」の御祭神でもあり、最初の方に書いた「三島神社」との繋がりがあろう。

「大己貴神」は「三輪山」の御祭神「大物主大神」と同様「大国主神」。

Re: お齒黒 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013年11月15日(金)20時32分54秒 返信・引用

> No.1846[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

>> お齒黒

>

>> 古墳に埋葬されていた人骨や埴輪にはお歯黒の跡が見られる。

>> 山海経に黒齒国（『三国志（歴史書）』魏志倭人伝では倭国東方）があると記述がある。

>

> 中国・東南アジア・等 [編集] 現代においても、以下の少数民族地域において、本式のお歯黒が見られる。主に、年配の女性に限られ、既婚でも若い女性が、お歯黒をすることは稀である。この地域向けに、お歯黒の義歯が作られる。照葉樹林文化圏も参照。* 中国雲南省 o ミャオ族 o ラフ族 o ヤオ族 * ベトナム(ハノイ、及び中国に接する地域) o ザオテン族 o ルー族 o 黒ザオ族 o ヌン族 * ラオス(現代では付けない場合が多い) o ハニ族 o カトゥ族 o プーノイ族 * タイ(キンマとビンロウと一緒に噛む習慣と関連あり) o アカ族 o リス族

>>

>

>

> お歯黒と黒齒国、そして古墳時代の黒齒人骨、東南アジアとの関わり重要ですね。

>

>

お歯黒 ユダヤ教における、聖数 13

お歯黒」の習慣が始まりました。 対馬の塔ノ首 ... 女子の風習だったお歯黒が男子にも 見られるよう なりました。 1608 年（慶長 13 年）イエズス会の外科医アルメイダが 創設した洋式の慈恵病院 とミゼリコルディア（慈善事業団体）が長崎に開設されたました 。<http://www.nda.or.jp/history/>

<弥生時代の歯の事情>

弥生人は縄文人以上にむし歯に苦しめられていました。「お歯黒」の習慣が始まりました。

13、14 歳でお歯黒を真似た儀礼をする地域が分布していた。

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/rekishi/kenshi/asp/hakken2/detail.asp?record=402>

13 という数字は、ユダヤ教における、聖数なのだろう、

<http://blog.goo.ne.jp/kidotomoaki/e/a0c03eef6536204afafc33deaf51649f>

13 歳になると、ユダヤ教では成人式が行われ、神と向き合う年とされるみたいです、

そして、ユダヤ人の言葉、ヘブライ語で13は「愛」と「ひとつ」を表すらしいです、

そして、各々の13をたした、26はなんと、宇宙の絶対神ヤハウエを表す数字になるのだそう、

悪しき風習、エジプト13歳の少女が女子割礼で死亡. 東南アジア諸国で行なわれる、女性の割礼で死亡者がでました。女子割礼は人権問題でよく問題視されていますが、危険性や死者に触れる事はあまりありません。この機会に紹介します。<http://matome.naver.jp/odai/2137085128581602201>

「13」については、聖書学と言うよりも「オカルト」に分類されがちな「ゲマトリア」という、文字を数字に変換する「技」から見るものである。 <http://ameblo.jp/hierophany/entry-11135163420.html>

、「13」という数字は「六芒星数」と言って、縁起の良い数字である。「六芒星数」というのは、小さな三角形（あるいは点）を、「ダビデの星」の形に集めるときに現れる数のことである（「ダビデの星」とはイスラエルの国旗に描かれているヒキサグラムのことである）。

数学的に言えば、最小の六芒星数は「1」であるが、図形として成り立つのは「13」からである。ついで、37、73、121、181、253……と続く。ちなみに、n 番目の六芒星数を調べる公式は「 $6n^2 - 6n + 1$ 」である。

この六芒星数は、「イエス」や「神」のゲマトリアにも見られる、良い数字である。「13」も例外ではない。ユダヤ人の男子は13歳で元服式を行うし、ユダヤ教では神の属性を13数えている（あわれみ深く、赦しに富み、怒るのに遅く、情け深く、親切であり、厳格で、忍耐強く、義なる、正しい、忠実な、恵み深い、まことに富む、良い御方）。

しかし、サタンは神の真似ごとが好きであり、良いものを悪くしようとする。この「13」という、本来は神のために用いられた数字を、自分のために用い始めた。奇しくも、ヘブル語（古代ヘブライ語）の「愛された（アーバー）」と「憎まれた（アーヤブ）」のゲマトリアは「13」である。サタンは、愛された「13」という数字を、憎まれたものに変えてしまったのである。

聖書において、「13」という数字は、「サタン」や「サタンに関する事柄」や「反逆」などに関係した数字として現れる。サタン自身のギリシャ文字のゲマトリアは「559」であり、13の倍数である。ヘブル語のサタンのゲマトリアは「364」であり、やはり13の倍数である。ちなみに、「364」は13に数学的完全数である「28」をかけたものであり、こうした作業は神のゲマトリアに頻繁に見られる。いかにサタンが神の真似ごと好んだかが伺えるだろう。また、ヘブル語の「悪霊たち（シェディン）」も「364」である。

他にも、「ヨハネの黙示録」に登場するサタンの象徴である「竜（ドラコーン）」のゲマトリアは「975」であり、13の倍数である。ちなみに、この竜は『新約聖書』においては「ヨハネの黙示録」だけに現れ、13回使用されている。また、イヴを唆した蛇のゲマトリアは、ヘブル語もギリシャ語も13の倍数である（蛇はヘブル語で「シャラフ」、ギリシャ語で「オフィス」という）。

「あらゆる野の獣のうちで、蛇が最も狡猾であった」（「創世記」第3章1節）、「試みる者（ペイラゾーン）」（「マタイの福音書」第4章3節）、「ベリアル」（「コリント人への手紙 第二」第6章15節）、「人殺し（アンスロポクトノス）」（「ヨハネの福音書」第8章44節）、「ベルゼブルによって（エンベルゼブル）」（ルカの福音書）第11章15節、「悪魔（ディアポリス）」など、これら全てのゲマトリアは13の倍数となっている。

ちなみに、ラテン語の文字も、一部ではあるが、数字として用いられている。I=1、V=5、X=10、L=50、C=100、D=500といった具合である。さて、墮天使である「ルシファー」のラテン語表記は「LUCIFER」であるが、その元のスペルは「LVCIFER」とされている。これをラテン語でゲマトリアすると、「L=50、V=5、C=100、I=1（F、E、Rは対応する数字がないため0とする）」となる。これを足すと「156」で、13の倍数となる。少々、話がそれるが、I、V、X、L、C、Dの数字を足してみたい。どんな数字が現れるだろうか。……答えは「666」である。もはやお馴染みの数字であろう。

「彼ら（古代バビロンの諸王）は12年間ケドルオメルに仕えていたが、13年目にそむいた」（「創

世記」第14章4節)とあり、裏切りは13年目に起こった。また、「エステル記」には、ペルシャ帝国の時代にユダヤ人虐殺計画があったことが記されているが、アガグ人ハマンは、その計画を第1月の「13日」に立て、実行日を第12月の「13日」に定めたとある(「エステル記」第3章12~13節)。因みに、「アガグ人ハマン」のゲマトリアも13の倍数である(767)。偶然の産物か、彼の悪妻ゼレシュのゲマトリアも13の倍数である(507)。

明治政府は皇族や貴族に対して「お歯黒禁止令」を出しました。

<http://goodboone.com/izime/education/post-401.html>

明治時代になると、明治政府は皇族や貴族に対して「お歯黒禁止令」を出しました。明治政府は、フランスやイギリスを見習って日本を西欧化しようとしていたため、ヨーロッパの人達から「お歯黒」を野蛮な風習のように見られたくなかったためです。ただ、一度の「お歯黒禁止令」だけでは、お歯黒の習慣を一掃することが出来なかったため、3度(1868年・1870年・1873年)もお歯黒禁止令が出されました。そして、次第にお歯黒をする習慣が無くなっていき、現在では「演劇・花柳界・一部の祭り」などで行われるだけとなっています。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年11月14日(木)20時32分15秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

濊の地は衛満、燕の地の様だな。 濊。南は辰韓、北は高句麗と沃沮に接し、東は大海(日本海)に尽き、北朝鮮だな。大夫の禮・・・。五大夫との関係があるのか？

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1704>

燕の亡名者の衛満がすべてを奪い取る。東の地(朝鮮の領地)を略奪しようとしたので、朝鮮侯もまた王を自称して、周の宗室を尊んで兵をあげ、燕を迎撃しようとしたが、大夫の禮が諫言したことで止めた。

『三国志魏書』

濊南與辰韓、北與高句麗、沃沮接、東窮大海、今朝鮮之東皆其地也。戸二萬。昔箕子既適朝鮮、作八條之教以教之、無門戸之閉而民不為盜。其後四十餘世、朝鮮侯准(準)、僭號稱王。陳勝等起、天下叛秦、燕、齊、趙民避地朝鮮數萬口。

燕人衛満、魑結夷服、復來王之。漢武帝伐滅朝鮮、分其地為四郡。自是之後、胡漢稍別。

濊。南は辰韓、北は高句麗と沃沮に接し、東は大海(日本海)に尽き、今の朝鮮の東は皆、濊の土地である。戸数は二万。昔、箕子が朝鮮に行き着き、八條の教えを作り、これを教えたので、門戸を閉じずとも民衆は盗むことをしない。

その後、四十余代の朝鮮侯準は王を僭称。陳勝(と呉広が反乱を)起したことで、天下は秦王朝に叛くと、燕・齊・趙の民は戦乱を避けて朝鮮の地に数万人も逃げ込んだ。

燕人の衛満が魑(まげ)を結び、夷服を着て、何度も往来して、ここの王となる。漢の武帝が朝鮮を

討滅。その地を四郡に分けた。これの後、胡と漢は少し別れた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-wai-.htm>

侯準既僭號稱王、為燕亡人衛滿所攻奪①

注記① 魏略曰：昔箕子之後朝鮮侯、見周衰、燕自尊為王、欲東略地、朝鮮侯亦自稱為王、欲興兵逆擊燕以尊周室。其大夫禮諫之、乃止。使禮西說燕、燕止之、不攻。後子孫稍驕虐、燕乃遣將秦開攻其西方、取地二千餘里、至滿番汗為界、朝鮮遂弱。

すでに侯準は王を僭称していたが、燕の亡名者の衛滿がすべてを奪い取る。

注記① 魏略に曰く。昔、箕子の後裔の朝鮮侯は、周朝の衰退を知った燕が自ら王と尊称して、東の地（朝鮮の領地）を略奪しようとしたので、朝鮮侯もまた王を自称して、周の宗室を尊んで兵をあげ、燕を迎撃しようとしたが、大夫の禮が諫言したことで止めた。

禮を西に遣わして燕を説くと、燕は進撃を止め、攻撃をしなかった。その後、朝鮮侯の子孫がやや驕慢で暴虐だったので、燕は秦開將軍を派遣して、その西方を攻め、二千余里の地を奪い取って、満番汗を以て国境とした。朝鮮は衰弱した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

Re: お齒黒 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 11 月 12 日(火)22 時 09 分 38 秒 返信・引用

> No.1843[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> お齒黒

> 古墳に埋葬されていた人骨や埴輪にはお齒黒の跡が見られる。

> 山海經に黒齒国（『三国志（歴史書）』魏志倭人伝では倭国東方）があると記述がある。

中国・東南アジア・等 [編集] 現代においても、以下の少数民族地域において、本式のお齒黒が見られる。主に、年配の女性に限られ、既婚でも若い女性が、お齒黒をすることは稀である。この地域向けに、お齒黒の義齒が作られる。照葉樹林文化圏も参照。 * 中国雲南省 o ミャオ族 o ラフ族 o ヤオ族 * ベトナム(ハノイ、及び中国に接する地域) o ザオテン族 o ルー族 o 黒ザオ族 o ヌン族 * ラオス(現代では付けない場合が多い) o ハニ族 o カトゥ族 o プーノイ族 * タイ(キンマとビンロウを一緒に噛む習慣と関連あり) o アカ族 o リス族

>

お齒黒と黒齒国、そして古墳時代の黒齒人骨、東南アジアとの関わり重要ですね。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 11 月 11 日(月)15 時 49 分 36 秒 返信・引用 編集済

> No.1842[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

瀧の意味に接近しましょうかな。

一部に穢と瀧を間違えた模様だ。ここは瀧ですな。

穢多（えた）は？

瀧は「穢」とも書き（草刈りをつけることもある）「わい」とも「かい」とも読む（「かい」の方がより正しいとの説もある）。「穢（けが）れる、穢（きた）ない」などの意味をもつ文字で書かれたのは、異民族に対する中華王朝の蔑称ともみえるが、音は何らかの自称名を写したものであろう。一説に、前二世紀の中国東北部の「瀧」は（かい）、後三世紀の韓国江原道の「瀧」は（わい）と読む。

<http://uyopedia.a.wiki-site.com/index.php/%E7%A9%A2%EF%BC%88%E3%82%8F%E3%81%84%EF%BC%89>

和邇国

邇は近いで、意味どう訳すが問題だな。倭国に近いのか、血の繋がりが密接なのか。

もともと、和邇国を倭国とした模様。瑞穂国が倭国になるな。

理解するには倭国を隔て倭国が存在するな。

滋賀県大津市は経緯があり現在に至っている所以和邇氏の発祥と勘違いしない様に。

現在の滋賀県大津市の地名、和邇氏の根拠地があった事に由来する。鞍馬・大原方面から山越えて北近江・越前・若狭方面への山越えの中継地点で、京都と外部の境とされていた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%92%8C%E9%82%87>

和邇(わに)は和と邇にわけ

邇は「ちか-い」、和は倭国の倭で意味は倭に近い

形容詞

ちかい【近い】

二つの物の間の距離が小さい。

時間的な隔たりが小さい。

人間関係が親しい。血の繋がりが密接。

近眼である。

性質や内容が似ている。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E3%81%A1%E3%81%8B%E3%81%84>

>

>

> おそらく、それ以前は、違う名称だった。ところが、後漢初期の楽浪・扶余系つまり穢人たちの南下にしたがって、一部が九州北部に入ってきます。そのときに自分たちのことを、特に楽郎・秦韓系は「ア」と呼ぶ事は以前論議したとおりです。これが「吾（ア・ワ）」「（残）阿」へと変化していきます。百済方面に残ったのは後の「百残」で、秦韓系に移動した集団は「阿」「安邪」「安那」で「ア」音を有します。

>

> それで、そのときに「穢（ワイ）」おそらくは「アイ」に近い発音で、自身を呼ぶ集団が、後漢の使者や役人に「アイ」を伝えて、「倭」と記された可能性はないでしょうか？

>

> 元々穢は「wei」なんじゃないですね。「ウエイ」

>

> おそらくは中東遊牧民系の国名や集団名の後に「タイ」音をつけて使用する集団で、ゲッタイ、アオルサイ、サウロマタイ、スキタイ、レンダイ、ヤマタイ・・・。

>

> 月氏、は「ゲタイ」で、かなり繋がりはあるだろうと予測していることも先日の会報のとおりです。

>

>

濊貊 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 11 月 11 日(月)11 時 20 分 52 秒 返信・引用

沃沮と濊貊は朝鮮国に帰属して国家体制を固めていった。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-4-waihaku.htm>

『春秋時代』（紀元前 770 年－同 476 年）

穢王の印璽を持つ扶余族について「体形は大柄で勇猛だが、謹厳実直で略奪をしない」と『三国志魏書』扶余国伝を記しており、この誠実で勇敢な性質が、移住した地域に接する他の民族や部族にも好まれ、定住農耕を伸展させていったと思われる。

また、南シベリア地方のタガール文化（紀元前 700 年-前 200 年）が、オルドス（内蒙古自治区の南部）地方で中国青銅器文化と融合して誕生したオルドス文化（遼寧式青銅器文化）を発展させた原動力ともなっていると推察する。

『戦国時代』（紀元前 475 年－同 221 年）

この時代、鉄器文化の発展で農業生産力が一挙に増大した中原諸国では中華統一の機運が生じ、群雄割拠の戦乱期に突入する。穢系部族連合も順調に国力を付けていく。

『史記』匈奴列伝

百有余年後、趙襄子（趙の先祖、紀元前 430 年に死去）は句山を越え、代国も破り、胡族と貉族（後世の注記に、貉とは濊なり）に臨んだ。

上記から戦国時代初期に、すでに貉（後の高句麗）が勢力を有していたことが窺えるが、徐々に人口が増加し、新たな開拓地が必要となり、穢系連合も各部族が新天地を求めて移住を始める時期がきたのではないだろうか。

そして、穢王の王統である扶余族は故地（吉林省から黒竜江省）に留まり、その他の部族は新天地を求めて南下。中原諸国の戦乱を横目にしながら、「貉族」は居住領域の重なる「發、高夷」を吸収して「高句麗」、朝鮮半島の東北部（北朝鮮、咸鏡南・北道）に移住した部族は「沃沮」、更に南下して朝鮮半島北部の東岸（北朝鮮、江原道）に移住した部族は「濊」を各々が建国する。

濊。南は辰韓、北は高句麗と沃沮に接し、東は大海（日本海）に尽き、今の朝鮮の東は皆、濊の土地である。戸数は二万。昔、箕子が朝鮮に行き着き、八條の教えを作り、これを教えたので、門戸を閉じずとも民衆は盗むことをしない。

その後、四十余代の朝鮮侯準は王を僭称。陳勝（と呉広が反乱を）起したことで、天下は秦王朝に叛くと、燕・齊・趙の民は戦乱を避けて朝鮮の地に数万人も逃げ込んだ。

紀元前 205 年、秦始皇帝の死去の翌年に、陳勝と呉広が大沢郷で反乱「陳勝呉広の乱」を起した。ここから劉邦と項羽の覇権争いに発展していくが、この動乱から逃れて朝鮮に流入した人々の子孫が辰韓に多数いたことから、後に辰韓は「秦韓」とも称されるようになる。

「穢貊は辰韓の北、高句麗と沃沮の南に在り、東は大海に尽きる」

『契丹古伝』

紀元前 108 年、洛兔(楽浪郡と玄菟郡)が設置され、漢に裏切られた濊君南閭時は憤慨して自害した。

このとき玄菟郡に従属することを嫌い、「穢王之印」を抱いて北方の故地へと逃げた穢族の一部が、その地で「扶余」という国を建てた。

楽浪郡には夫祖県、遼東群には扶黎県があった。これらは扶余にりんせつするように 所在し、その呼称の発音からも明らかな通り、扶余人の居住地だったかも。日本の別名は「扶桑」といって、夫祖と似てるのは、扶余→扶桑（日本）という皇族の

...<https://twitter.com/t7a7t0o1/statuses/193975862301962242>

中国の地方にも「扶」の字のつく「扶余」という民族がいた。「扶余法」の内容が、扶桑とは中国の東海の日が出る所にあるという「神木」、またはその地の名称である。満州、松花江流域の平野地帯を中心に成長した、その先の民族を扶桑と呼んだのである http://books.google.co.jp/books?id=-xfhYIQfp3QC&pg=PA26&lpg=PA26&dq=%E6%89%B6%E4%BD%99+%E6%89%B6%E6%A1%91&source=bl&ots=SrcA5RVDNi&sig=7FYL5zQ-Ng9w3-zb_E2QG9MYqyw#v=onepage&q=%E6%89%B6%E4%BD%99%20%E6%89%B6%E6%A1%91&f=false

倭族とは

さらに鳥越は、馬韓・辰韓・弁辰などが倭族が築いた国であることを立証するために、それぞれの国の神話に着目する。まず、馬韓諸国を統一して建国されたのが、百済である。建国者は扶余国の王族の一人である。（扶余族は、もと黒竜江上流域にいた モンゴル

...http://www.geocities.jp/ikoh12/kennkyuuno_to/008_1wajinn_no_syutuji_nituite.html

魏略は、魏志倭人伝の種本であったと考えられており、その本では、より明確に長江下流域・江南地方の出身であったと記述していたという。

日本民族起源新説

... 恩智遺跡、船橋遺跡、下池田遺跡、兵庫県の玉津田中遺跡、奈良県の唐古遺跡、岡山県の日瀬遺跡など、近畿地方から瀬戸内海 ... そして長江下流域では、七千年前と推定される浙江省の河姆渡遺跡に、二羽の鳥が太陽を真ん中に向かい合う象牙の彫刻が ... 蓋以聖徳所致、天使鳥獸報祐之也」とあり、つまり夏王朝を創った禹が亡くなって会稽山に葬られたとき、天はその聖徳を嘉み も鳥族も蛇族もすべて「苗族たち」としているが、苗族と信仰も生業も民族も異なる江南の鳥族を視野に納めるべきところであろう。http://www.geocities.jp/jiangnankejp03/lunwen/jp_lunwen06.htm

鳳凰信仰の原型である鳥崇拜は、長江各地では異なった様相を呈する。たとえば、長江中流域にある湖南省の高廟遺跡からは、太陽を両羽にかかえる怪鳥の姿が造形されていた七千年前の土器が出土しており、その鳥は立派なトサカを持ち、鶏の面影をとどめている。そして長江下流域では、七千年前と推定される浙江省の河姆渡遺跡に、二羽の鳥が太陽を真ん中に向かい合う象牙の彫刻が発見され、その姿はどうやら水鳥に似ている。時代はくだるが、長江上流域の四川省三星堆遺跡から、青銅製の扶桑木といわれるものが発見され、その枝にとまっている九羽の鳥は、明らかにカラスをモデルにしている。

、「禹葬會稽、鳥為之田。蓋以聖徳所致、天使鳥獸報祐之也」とあり、つまり夏王朝を創った禹が亡くなって会稽山に葬られたとき、天はその聖徳を嘉みし、鳥を遣わして田を耕させたという。

中国の文献、たとえば『越絶書』と『論衡』はこの故事をしばしば「鳥田」と約して称しているが、そ

れは「鳥の田」という意味ではなく、「鳥が田を耕す」と理解すべきことは、『墨子』（佚文）の「禹葬於会稽、鳥為之耘」、『吳越春秋』（無余外伝）の「天美禹德、而勞其功、使百鳥還為民田」などによっても裏書きされる。

鳥が人力のかわりに田を耕すことは後世の伝承にすぎないが、しかし原始農業のころ、鳥は稲作民によってありがたい存在に違いない。禹が葬られた会稽山は今の紹興にあり、そこに「大禹陵」と呼ばれる墓が現存している。『論衡』はさらに「会稽衆鳥所居」といい、「鳥自食苹」とも伝えている。「苹」は「草」の意味で、『水経注』（四十）は「鳥為之耘、春拔草根、秋啄其穢」と説明している。

このように、鳥は稲の種を運び、土を柔らかくし、害虫や雑草を除去してくれることで、稲作民から崇拜され、さらに鳳凰信仰と発展し、同じく農耕から生まれた太陽信仰に融合していく。鳳凰信仰と太陽信仰との結合は、南方の稲作民において、独自の宗教世界あるいは宇宙像がついに体系をととのえたことを物語る。鳳凰族の誕生である。

さまざまな鳥を崇拜している民族が淮河より南に散らばっているため、東の青龍、北の玄武、西の白虎に対して、南方を守る四方神に朱雀が選ばれた。朱雀は鳳凰をさらに抽象化したもので、古代天文学では南の七つの星宿を総称する。

この朱雀の影響は日本文化のなかに深く浸透している。今年の四月、キトラ古墳の壁画から躍動感のある朱雀図が発見されて世論を賑わしたが、著者は「このキトラ古墳に描かれた朱雀のルーツは、長江文明の鳳凰にまでたどりつく」（P.68）と指摘し、「その翼を広げ、長い足を大きく開き、するどい目をした精悍なその躍動する姿は、長江文明の最後の華ともいべき楚の国の鳳凰を思い起こさせるに十分であった」（P.69）とも述べている。

しかしキトラ古墳は八世紀の初頭に建造されたもので、紀元前に滅びた楚の国とは約千年の時間的な隔たりがあり、両者を安易に結びつけることには慎重さを要する。また朱雀は、秦漢帝国の中国統一によって民族融合が進んでいるうちに、漢民族の信仰世界に統合された鳳凰の変形であり、著者のいう「南方の長江文明のにおいを感じ」ることは、そう容易ではなろう。（P.69）

禹にかかわる伝説の多くが長江下流域に発祥し、禹が各地に課したとされる貢納品の殆どが長江流域の産物である点や、洪水伝説との時期的な ... <http://home.t02.itscom.net/izn/ea/c011.html>

西周

B1023?~B772

姬姓。はじめ半農半獵を営んでいたが、近縁の姜姓集団との通婚を保ちつつ、安陽文化期には汾河下流域の邰に移って定住社会に移行した。古公の代に岐山に遷って勢力を増し、孫の昌の時代には殷から方伯とされ、殷の東方経略に乗じて次第に東進し、昌の子の発が武王を称して殷を滅ぼした。

関中の鎬京を宗周城として旧領統治と宗廟祭祀の中心とし、洛邑に王城・成周城を造営して東方支配の拠点とし、三監の乱を克服した成王の時代に統治体制がほぼ整い、昭王・穆王の代には漢水・長江中流域に遠征するなど最盛期を現出した。

西周時代は殷の安陽期に比して文字史料の出土が圧倒的に少なく、王墓が未発見なこともあり、成王を襲いだ康王以降の実態も殆ど判明しておらず、金文や諸史には攜王・休王・匚王などの名も確認されている。拡大の停止と体制の硬直化で次第に王室が弱体化し、財政強化を図った厲王は法治を強めて国人に追放され、中興と称される宣王も晩年には中央集権化で失敗した。幽王が失政の末に獫狁に敗死したことで宗周政権は中絶し、関中の攜王と成周の平王がそれぞれ諸侯の支援で並立した。

お齒黒 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 11 月 11 日(月)10 時 59 分 5 秒 返信・引用

お齒黒

2012 年 12 月 8 日 ->扶桑は常陸。大漢国は金印(漢委奴国王印)から(やまと)邪馬台国。 > 漢委奴国王印の 印字を分解すると、漢と委奴国に分ける。漢は漢(韓)国でこの中に委奴国。 > 整理すると、大漢(韓)国=邪馬台国=大和になる。大和の倭国(わこく)、現在 ...<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/970>、 「お齒黒の国」

扶桑国東北説. 台湾の篤学・李学勲（1920～1998）は『山海経』の解説に生涯を捧げ、その「海外東経」「大荒東経」にある黒齒国は、「お齒黒の国」すなわち日本の山形県・秋田県の羽黒山系のことであると解いた。したがって、その黒齒国に隣接するとされる

...<http://www8.ocn.ne.jp/~douji/tohoku.htm>

田中勝也氏は中国唐代の『梁書』の扶桑国・女国、『酉陽雜俎』の扶桑州・長鬚国、日本の『伊予三島縁起』の扶桑州はいずれも日本列島の東北部にある国家を指すと思われるとして、それを『日本書紀』にいう蝦夷にあてた。ただし、田中氏は『李朝実録』にある夷千島王の使者（1482年に朝鮮李朝に入朝）の国書に現れる扶桑は日本のこととする。また、14～15世紀の地図においては、扶桑・女国を日本から離れたところ、具体的には東シベリア・沿海州・樺太・千島とおぼしき中国東北方に置く傾向があるとも指摘する。田中氏は扶桑が日本の雅号としても用いられたことや、情報の混乱から、中国における扶桑の所在の認識にも異動が生じているとするが、それでも、かつて日本の東北方が扶桑と呼ばれていたという痕跡は一貫して見出すことができるという。

なお、中国の常征氏も『梁書』の扶桑国はすなわち大漢国のことで本州島最北端もしくは北海道にあったとする。常氏は邪馬台国すなわち倭国の中心を九州の宮崎県西都市あたりに求め、魏志倭人伝における邪馬台国までの航路記事を延長することで、文身国を能登半島東北、大漢国=扶桑国を日本列島北端に求めることになったのである。

倭国東方

お齒黒（おはぐろ）とは、明治時代以前の日本や中国南東部・東南アジアの風習で 主として既婚女性、まれに男性などの歯を黒く染める化粧法のこと。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%8A%E6%AD%AF%E9%BB%92>

歴史[編集]

起源はわかっていないが、初期には草木や果実で染める習慣があり、のちに鉄を使う方法が鉄器文化とともに大陸から伝わったようである。

古墳に埋葬されていた人骨や埴輪にはお齒黒の跡が見られる。

山海経に黒齒国（『三国志（歴史書）』魏志倭人伝では倭国東方）があると記述がある。

天平勝宝5年（753年）に鑑真が持参した製法が東大寺の正倉院に現存する。

鑑真が中国から伝えた製造法は古来のものより優れていたため徐々に一般に広まっていったが、その製造法は当初は仏教寺院の管理下にあった。このあたりが一般に日本のお齒黒が仏教に由来する習俗と言われる所以かもしれない。

お齒黒に関する言及は『源氏物語』、『堤中納言物語』にもある。平安時代の末期には、第二次性徴に達し元服・裳着を迎えるにあたって女性のみならず男性貴族、平氏などの武士、大規模寺院における稚児も行った。特に皇族や上級貴族は袴着を済ませた少年少女も化粧やお齒黒、引眉を行うようになり、皇室では幕末まで続いた[1]。

皇室では幕末まで続いた <http://shade.xxxxxxxx.jp/>

1870年2月5日、政府から皇族・貴族に対してお歯黒禁止令が出され、それに伴い民間でも徐々に廃れ(明治以降農村では一時的に普及したが)、大正時代にはほぼ完全に消えた。

中国・東南アジア・等 [編集] 現代においても、以下の少数民族地域において、本式のお歯黒が見られる。主に、年配の女性に限られ、既婚でも若い女性が、お歯黒をすることは稀である。この地域向けに、お歯黒の義歯が作られる。照葉樹林文化圏も参照。 * 中国雲南省 o ミャオ族 o ラフ族 o ヤオ族 * ベトナム(ハノイ、及び中国に接する地域) o ザオテン族 o ルー族 o 黒ザオ族 o ヌン族 * ラオス(現代では付けない場合が多い) o ハニ族 o カトゥ族 o プーノイ族 * タイ(キンマとビンロウを一緒に噛む習慣と関連あり) o アカ族 o リス族

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：管理人 投稿日：2013年11月8日(金)22時41分40秒
返信・引用

> No.1841[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 「穢」（わい）は「遊牧民系なわけですから、・・・」どこから拾ったのか疑問だな。

> 『後漢書』に「礼儀や農耕を教え、・・・」の文章があるな。農耕民族が正しいな。

>

> 『後漢書』

>

> 濊北與高句麗、沃沮、南與辰韓接、東窮大海、西至樂浪。濊及沃沮、句麗、本皆朝鮮之地也。昔武王封箕子於朝鮮、箕子教以禮義田蠶、又制八條之教。其人終不相盜、無門戶之閉。婦人貞信。飲食以籩豆。

>

> 濊、北は高句麗と沃沮、南は辰韓と接し、東は日本海に尽き、西は樂浪郡に到る。

> 濊、沃沮、高句麗、元はいずれも朝鮮の領地である。昔、武王が箕子を朝鮮に封じる。箕子は礼儀や農耕を教え、また、八条の教えを制定した。そこの人々は互いに盗むことはなく、門戸を閉じることがない。婦女子は貞節で信用できる。飲食には膳を用いる。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-wai-.htm>

>

>

>

「穢」の発音を、ちょっと調べ直すと面白いことがわかりますね。

「穢」 呉音；エ（ゑ、ウェ） 漢音；ワイ

「沃沮」 呉：オクソ 漢：オクショ

「扶余」 呉：ブヨ 漢：フヨ

「倭」 呉；イ(キ ウィ)、ワ 漢：イ(キ)、ワ

こう見ると、倭と穢に、若干の共通性があるように見えます。

倭の初現は以外と遅く、後漢時代なんですよ。

古くは戦国から秦漢期にかけて成立した『山海経』に、東方の海中に「黒齒国」とその北に扶桑国があると記され、倭人を指すとする説もある。また後漢代の1世紀ころに書かれた『論衡』に「倭」「倭人」についての記述がみられる。しかし、これらがの記載と日本列島住民との関わりは不明である。また『論語』にも「九夷」があり、これを倭人の住む国とする説もある。

倭人についての確実な初出は75年から88年にかけて書かれた『漢書』地理志である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/倭人>

おそらく、それ以前は、違う名称だった。ところが、後漢初期の楽浪・扶余系つまり穢人たちの南下にしたがって、一部が九州北部に入ってきます。そのときに自分たちのことを、特に楽郎・秦韓系は「ア」と呼ぶ事は以前論議したとおりです。これが「吾（ア・ワ）」「（残）阿」へと変化していきます。百済方面に残ったのは後の「百残」で、秦韓系に移動した集団は「阿」「安邪」「安那」で「ア」音を有します。

それで、そのときに「穢（ワイ）」おそらくは「アイ」に近い発音で、自身を呼ぶ集団が、後漢の使者や役人に「アイ」を伝えて、「倭」と記された可能性はないでしょうか？

元々穢は「wei」なんじゃないですね。「ウエイ」

おそらくは中東遊牧民系の国名や集団名の後に「タイ」音をつけて使用する集団で、ゲッタイ、アオルサイ、サウロマタイ、スキタイ、レンダイ、ヤマタイ・・・。

月氏、は「グエタイ」 で、かなり繋がりはあるだろうと予測していることも先日の会報のとおりです。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 11 月 8 日(金)20 時 18 分 47 秒
返信・引用

管理人さんへのお返事です。

「穢」（わい）は「遊牧民系なわけですから、・・・」どこから拾ったのか疑問だな。

『後漢書』に「礼儀や農耕を教え、・・・」の文章があるな。農耕民族が正しいな。

『後漢書』

濊北與高句麗、沃沮、南與辰韓接、東窮大海、西至樂浪。濊及沃沮、句麗、本皆朝鮮之地也。昔武王封箕子於朝鮮、箕子教以禮義田蠶、又制八條之教。其人終不相盜、無門戶之閉。婦人貞信。飲食以籩豆。

濊、北は高句麗と沃沮、南は辰韓と接し、東は日本海に尽き、西は樂浪郡に到る。

濊、沃沮、高句麗、元はいずれも朝鮮の領地である。昔、武王が箕子を朝鮮に封じる。箕子は礼儀や農耕を教え、また、八条の教を制定した。その人々は互いに盗むことはなく、門戸を閉じることがない。婦女子は貞節で信用できる。飲食には膳を用いる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-wai-.htm>

> それで元々の「穢」（わい）を、「アヤ」と読ませていたのかどうか？ここが課題で、扶余・穢系は確かに、遊牧民系なわけですから、中国西方まで起源を探して行く必要があります。

>

> ただ、その樂浪・帶方時代、あるいは扶余周辺にて「アヤ」の発音をもった地名や集団が出て来るかどうかにも気になるところです。「穴」の件は、以前お話したとおりで、月氏と関係してきます。中国から半島経由で日本へと古墳時代初期あたりに渡って来る、そこと関わるかどうかですね。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 11 月 7 日(木)22 時 47 分 2 秒
返信・引用

> No.1838[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>

>> 大漢国、高句麗・扶余周辺ですね。漢氏の故地でしょう。穢の地域で「アヤ」と読ませるわけですが、書紀を記載した集団の記録と好太王碑との間にもっと接点を見いだして行く必要があります。

>

> 穢・・・「アヤ」・・・月・・・

>>大漢国、高句麗・扶余周辺ですね。漢氏の故地でしょう。穢の地域で「アヤ」と読ませるわけですが、書紀を記載した集団の記録と好太王碑との間にもっと接点を見いだして行く必要があります。

>

> 「アヤソフィア」は「聖なる叡智」「聖ソフィア」のギリシャ語「アギオス・ソフィア」から派生したものです。http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1421468004

> ハギア

、「aya」はトルコ語で「月(month)」という意味でした。

<http://blog.livedoor.jp/m231dl/archives/1764263.html>

>

確かに「漢」「穢」で「アヤ」と読ませる件は、未だ解明されてませんね。

一説によれば「安邪」から来たので「漢氏」だというわけですが、その場合「安那」「アナ」の発音とも、漢氏は関連性があるかどうかを見いださねばならないわけですね。

「狗邪（韓国）」「狗那（奴）」などとの対比からも、その是非を考えていきたいところです。

確かに「穢」の地は、秦野さんのおっしゃるように北朝鮮方面で、これを「アヤ」と読むならば、南韓の「安邪」との間には距離差があるので、ある時期に南下した集団が「アヤ」を名乗った、百済にも残りの集団がいて、そこから「穢」人が、派遣されたと考えていくとどうなるか？という視点も重要です。

それで元々の「穢」（わい）を、「アヤ」と読ませていたのかどうか？ここが課題で、扶余・穢系は確かに、遊牧民系なわけですから、中国西方まで起源を探して行く必要があります。

ただ、その楽浪・帯方時代、あるいは扶余周辺にて「アヤ」の発音をもった地名や集団が出て来るかどうかにも気になるところです。「穴」の件は、以前お話したとおりで、月氏と関係してきます。中国から半島経由で日本へと古墳時代初期あたりに渡って来る、そこに関わるかどうかですね。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 11 月 6 日(水)23 時 50 分 18 秒
返信・引用
> No.1837[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

好太王碑は国境に建てたな。扶余、高句麗、濊は北朝鮮。

濊、馬韓、弁韓、辰韓、どうも漢に属していた模様

志賀島の金印から当時は馬韓は馬漢の様だな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BC%A2%E5%A7%94%E5%A5%B4%E5%9B%BD%E7%8E%8B%E5%8D%B0>

漢委奴國王は大漢国 (韓半島)の倭国の奴國王の様だな。

『三国志魏書』

濊南與辰韓、北與高句麗、沃沮接、東窮大海、今朝鮮之東皆其地也。戸二萬。昔箕子既適朝鮮、作八條之教以教之、無門戸之閉而民不為盜。其後四十餘世、朝鮮侯准（準）、僭號稱王。陳勝等起、天下叛秦、燕、齊、趙民避地朝鮮數萬口。

燕人衛滿、魋結夷服、復來王之。漢武帝伐滅朝鮮、分其地為四郡。自是之後、胡漢稍別。

濊。南は辰韓、北は高句麗と沃沮に接し、東は大海（日本海）に尽き、今の朝鮮の東は皆、濊の土地である。戸数は二万。昔、箕子が朝鮮に行き着き、八條の教えを作り、これを教えたので、門戸を閉じずとも民衆は盗むことをしない。

その後、四十余代の朝鮮侯準は王を僭称。陳勝（と呉広が反乱を）起したことで、天下は秦王朝に叛くと、燕・齊・趙の民は戦乱を避けて朝鮮の地に数万人も逃げ込んだ。

燕人の衛滿が魋（まげ）を結い、夷服を着て、何度も往来して、ここの王となる。漢の武帝が朝鮮を討滅。その地を四郡に分けた。これの後、胡と漢は少し別れた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-wai-.htm>

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013年11月6日(水)21時23分0秒
返信・引用

> No.1837[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 大漢国、高句麗・扶余周辺ですね。漢氏の故地でしょう。穢の地域で「アヤ」と読ませるわけですが、書紀を記載した集団の記録と好太王碑との間にもっと接点を見いだして行く必要があります。

穢・・・「アヤ」・・・月・・・

> 大漢国、高句麗・扶余周辺ですね。漢氏の故地でしょう。穢の地域で「アヤ」と読ませるわけですが、書紀を記載した集団の記録と好太王碑との間にもっと接点を見いだして行く必要があります。

「アヤソフィア」は「聖なる叡智」「聖ソフィア」のギリシャ語「アギオス・ソフィア」から派生したものです。http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1421468004

ハギア

ハギア・ソフィア聖堂 - 「聖」を意味する語 を古典ギリシャ語読みで転写し「ハギア」とした表記。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%81%96%E3%82%BD%E3%83%95%E3%82%A3%E3%82%A2%E8%81%96%E5%A0%82>

聖

ローマ・カトリック教会で教えているように、「ハギアゾー」 (?γιαζω hagiozo : ハギオス〔
ἅγιος、hagios〕の動詞形) は「聖別する」の意味があるが、時代が進むにつれて「ハギアゾー」に相
当するヘブル語は「純化する」という意味も帯びてきた。[http://ja.wikipedia.org/wiki/
%E8%81%96%E5%8C%96_\(%E3%83%97%E3%83%AD
%E3%83%86%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%83%88\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%81%96%E5%8C%96_(%E3%83%97%E3%83%AD%E3%83%86%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%83%88))

聖化 (プロテスタント)

プロテスタントにおける聖化 (Sanctification) とは、ギリシア語のハギアスモス (希:
ἁγιασμος、hagiasmos) の訳語であり、キリストの贖いに依り頼んで、義とされた (義認、成義) 信
仰者が、聖と義との神の御像に変貌されてゆく、転機をも含む過程である
[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%81%96%E5%8C%96_\(%E3%83%97%E3%83%AD
%E3%83%86%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%83%88\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%81%96%E5%8C%96_(%E3%83%97%E3%83%AD%E3%83%86%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%83%88))

ローマ・カトリック教会で教えているように、「ハギアゾー」 (?γιαζω hagiozo : ハギオス
〔ἅγιος、hagios〕の動詞形) は「聖別する」の意味があるが、時代が進むにつれて「ハギアゾー」に
相当するヘブル語は「純化する」という意味も帯びてきた。イザヤ書 6 章などにその面が顕著である。

「ハギアスモス」は「聖化 (Sanctification)」と訳されるとともに、「ホーリネス・聖め」
(Holiness) とも訳されている。前者のように翻訳する場合は、聖とする過程に強調点が置かれ、後者
のように訳すときには、聖とする過程の結果、そこに生じた聖い状態に強調点がある。「ハギアスモ
ス」の語は、この双方の概念を含む。

人にとって「聖」は、「聖化・聖とする過程」の結果生じた状態 (ヘブル 12 : 14) であるが、「神の
聖」は、本質的なもので「ハギアスモス」ではなく、もう一つの同系語「ハギオテース」 (ヘブル
12 : 10) によって表され、区別されている。被造物である人は、どのように聖とされても「神」にな
ることはない。これがキリスト教と他の宗教との大きな分岐点であるとされる。

「全的」とは、アダム以来の課題である生来の罪の腐敗性・「肉」の性質・罪 (単数の SIN) が、き
よめられた人の心中から放逐されたと言う意味において、アダムの墮罪との関連においてその影響感化
を考える時、「全的」なのである。近年、この「全的」、「全き」との語が誤解を与えるとの理由で、
転機的なきよめを「全的聖化・Entire Sanctification」と呼ばず「実効的な聖化・Effective
Sanctification」と称する聖書学者も出てきている。

人の罪へ傾く性質は、生来の腐敗性から来るのみならず、その個人の過去の生き方、さらに、気質と
いった面を含めるならば、家系といった家族的な過去にも関わっているとされる。この面での罪への
傾き易さを、アダム以来の人類の罪への傾き易さ「生来の罪の腐敗性」と区別して「取得された罪の腐
敗性」と呼ぶ。漸進的聖化の過程は、この後者がもたらす課題の「聖化」に関わることでありと理解
できる。

それは他の表現を用いるならば、人格の歪みからの「きよめ」であり、キリスト教信者が、愛におい
てイエス・キリストの身の丈までに成長するまで、信仰に応じて継続的になされる聖霊による業である
(コリント第二の手紙 3:18)。この面での「聖化」は生涯的なもので、地上において完成されること
はない。ウェスレアン神学における聖化論の特徴は、この過程と転機的経験との釣り合いにある。

古代ヘブライの神殿と日本の神社の構造は、驚くほど酷似している。

http://inri.client.jp/hexagon/floorA3F_hb/a3fhb010.html

もともと古代ヘブライの神殿は「幕屋」と呼ばれる移動式だったが、幕屋はその名の通り、周囲を幕や板で囲み、中で神に捧げる祭祀を行なった。全体ではないが、囲むという概念は日本の神社でも見られ、同様に祭祀は極秘である。

また、幕屋の中の構造は、基本的には聖所・至聖所・拝殿に分かれていて、祭壇には明かりをともし常夜灯があり、脇には手を洗う水盤があった。

また有名な古代ソロモン神殿の前には、お賽銭（さいせん）を入れる箱も置かれていた。

日本史上、最大最強の渡来人でありながら、今なお多くの謎に包まれている「秦氏」は、昔から多くの研究家によって「ヘブライ系渡来人」ではないかと指摘されている。

秦氏は第15代応神天皇のとき、大陸から渡来してきたのだが、この時、10万もの人々が日本に帰化したと伝えられている。その一部は大和の葛城に、多くは山城に住んだのだが、雄略天皇（5世紀半ば）の時に、京都の太秦（ウズマサ）の地に定住するようになったという。

秦家は非常に有力なファミリーで、794年の平安京は秦氏の力によって事実上作られ、仁徳天皇陵のような超巨大古墳建築にも秦氏の力があつた。

ちなみに、羽田元首相は遠い親戚に当たるという。

グノーシス研究に携わった多くの者は、国内外を問わず、プロテスタントの立場にある聖書学者であつた。その業績には、もちろん無視しえない貴重なものがあるが、一つ注意しておくべき点がある。

<http://gnosticthinking.nobody.jp/twitter101008.html>

「カトリシズムの倫理と資本主義の精神」について - Comments by Dr ...

今日はふと耳にしたことから、ふと思ったことを、宗教のようでもあり宗教のようではないようなことを書いてみる。標題はもちろんマックス・ウェーバーのもじりだが、プロテスタンティズムよりも昨今はカトリシズムのほうに合っているような気がする ...

カトリシズムとプロテスタンティズムとの相違

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1436362919

・カトリックは、ローマ帝国が分裂した際に、西ローマ帝国＝カトリック、東ローマ帝国＝東方正教会、といった形で分裂しました。このため、当然のごとく、正教会系宗派は、ローマ教皇の首位権を認めません（彼らは総主教をTOPと考えます）。カトリックにも諸教団がありますが、根本に教皇首位権があり、全ての教団は教皇で繋がっています（教皇主催の公会議、という会議があり、そこで様々なキリスト教の問題の解決を試みています）。

・プロテスタントは、カトリックのローマ教皇首位権の問題や、教会を絶対的な存在としていることなどに反発して生じました（イメージ的には、教会が力を持ちすぎて、「救い」を与えることを忘れ権力を濫用し始めたことに反発・・・といった感じででしょうか）。プロテスタントの語源は「抗議する者」という意味であり、カトリックから分裂した宗派の総称、といった感じです。そのため、カトリック側からすれば「裏切り者」的存在であり、迫害も行われました。しかし、反発しているのは主に上記の二点（教会絶対性と、教皇絶対性）であり、教えとしてはかなり似通った部分もあります。イギリス国教会のように、成立過程的には「プロテスタント」であるが、教団自身は否定しているところもあります。

また、各地で同時多発的に反乱のような形で諸派が成立したため、一言にプロテスタント、といっても皆同類、というわけではありません。結構差異がありますが、「聖書を読む」ことにより救われる、とする福音主義は特徴的です。

③性格

- ・カトリックは上下関係が結構はっきりしています。厳格なイメージです。その組織的な性格は、官僚制や、近代軍隊制の源になった、と考える人もいます。教皇は絶対唯一の存在として、司教や司祭などの聖職者にも厳格な序列があり、聖職者には結婚が許されていません（ただの信者（平信徒）は教会で認められることにより結婚可能ですが、これは秘蹟の一つであり、神に引き合わされた仲であるため離婚はできません）。ちなみに呼称は神父さんです。

- ・プロテスタントはそれに比べると自由なイメージです。そもそも総称的な呼称で、一つのまとまった集団ではありません。何よりも「救い」に重きをおき、親しみやすいイメージです。牧師さんも、結婚できます。信者も聖職者も神の元に平等なのです。救いのために新約聖書を主に読みますが、「プロテスタント＝新約聖書」は偽です。キリスト教である限り、旧約聖書と新約聖書両方使います。

余談ながら、聖書について。カトリックとプロテスタントの共同訳の聖書が出ていますが、こんな聖書が出せるのも、基本的にイエスに対する考え方は一緒だからでしょう。但し、救いの方法や教団組織など具体的な面で異なり、そしてそれはカトリックの方が厳格です。そのため、共同訳聖書はカトリックにとって譲れないところはプロテスタントが譲る、といった感じで作成されたようです。

④マリア

- ・カトリックでは聖母マリアについて主イエスと共に神扱いされています。原罪を免れるのです。そして、聖母マリア信仰も強いです。聖母マリアについても、公会議で話し合いが持たれたこともあります。その公会議で、マリアも最後の審判で天に昇ることとなったようです。

- ・プロテスタントはそれに比べ、マリアについての考え方はばらばらです。何度も言うように、教皇や教会に対し反発し、聖書によって救われる、とした教派の総称だからです。そのため、プロテスタントの中ではマリアについては様々な考え方があります。マリア様信仰、といってもいいくらいの教団があれば、そもそも処女降誕についての現代の説に不満、みたいな教団もあるようです。

⑤余談

- ・キリスト教系の新宗教

プロテスタントがカトリックから分裂した諸宗派の総称である、といっても、いわゆるカルト教団扱いされている「キリスト教系の新宗教」などはプロテスタントに該当しません。プロテスタントが自由なイメージだからといって、そこまで何でもありではありません。キリスト教にとってイエスは不可侵の存在であるし、プロテスタントにとって救いは聖書によってもたらされます。壺とかその他のグッズではすくわれません。

、「aya」はトルコ語で「月(month)」という意味でした。

<http://blog.livedoor.jp/m231dl/archives/1764263.html>

『ヤレ』 <http://www.bfpj.org/known/teachingletter/?id=37>

ヘブル語の動詞『ヤレ』は、正確には「尊敬する」という意味を持っています。ですから、文字どおり解釈するなら、「両親を尊敬し、うやうやしく恐れるように」と勧告しています。

<http://www.bfpj.org/known/teachingletter/?id=37>

「恐れる」と翻訳されているヘブル語の動詞『ヤレ』は、正確には「尊敬する」という意味を持っています。ですから、文字どおり解釈するなら、「両親を尊敬し、うやうやしく恐れるように」と勧告しています。これは決して不安に思っただけで怖がったり、恐れたいしなさいと言っているのではありません。興味深いことに、『ヤレ』という動詞は、聖書の中で、神および両親への尊敬に関してのみ使われています。

ユダヤの儀式「シムハット・トーラー」では、父親と息子が、愛情深い天の父によって聖書が与えられたことを祝う。

ちょうど結婚が神によって計画されるように、「神－親－子ども」の関係は、神に定められたものです。しかし哀しいかな、世の汚れにまみれていく現代の世界においては、どちらの関係も軽視されています。家族は崩壊し、その結果、社会全体も崩壊の一途をたどっています。

「神－親－子ども」の関係が神によって定められているなら、神は、双方がどうあるべきだとお考えになっているのでしょうか。

アク（霊）として...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9C%8A%E9%AD%82>

靈魂（れいこん、英：Soul、もしくは Spirit）とは、

肉体とは別に精神的実体として存在すると考えられるもの[1]。肉体から離れたり、死後も存続することが可能と考えられている、体とは別にそれだけで一つの実体をもつとされる、非物質的な存在のこと[2]。

人間が活着している間はその体内にあって、生命や精神の原動力となっている存在[2]、人格的・非物質的な存在[3]。個人の肉体や精神をつかさどる人格的存在で、感覚による認識を超えた永遠の存在[4]。

古代エジプトの時代から、人が死ぬと肉体から離れるが、肉体に再び戻って来る、という考えがあった。古代インドでは、靈魂は何度もこの世に生まれ変わるという考え方が一般的であった。輪廻転生（転生輪廻）の思想である。「あの世」（霊界）へ行ったり、「この世」（生者の世界、現世）に影響を及ぼしたりすると考える文化・思想も存在している。人間だけでなく、命あるもの全般、動物や植物に宿ると考えられたり、さらには鉱物にも靈魂が宿る、とされることもある[4]。靈魂を心と同一視することもある[要出典]。「心は霊体、魂は神魂[要出典]」とする、靈魂と心を同一視しない考え方もある。また他方、すでにサンジャヤ・ペーラティプッタが来世に関する問いへの確答を避け、不可知論の立場をとった。（→宗教などにおける説明）

靈魂は、生きること、死生観の根源的な解釈のための概念の一つともされる。現代では、靈魂を肯定的にとらえることが、生きがいや健康といったものと深く関係があることが、様々な学者の研究によって明らかにされている。（→靈魂と死生観・全人的健康）

キリスト教など[編集]

旧約聖書では、ネフェシュ(ヘブライ語で「咽喉」の意)と表現される。これに聖なる靈(ルーアッハ。風、息の意)が入って預言がなされるという思想があった。

欧州においては人間を構成する要素は靈魂（アニマ、ANIMA）、精神（SPIRITVS）及び肉体（CORPVS）であり、錬金術ではこれらは三原質と結び付けられて考えられていた。また、3という数からキリスト教では三位一体に比せられることも多かった。靈魂と精神は肉体に宿り、肉体が滅びる

と精神と靈魂は分かれると考えられており、靈魂と精神は肉体という泉を泳ぐ二匹の魚に擬せられたこともあった。

ここにおける靈魂は人間の本能のようなものであり、成長することはないと考えられていたのに対し、精神は理性のようなものであって成長するものであるとされていた。

中国の宗教（道教など）[編集]

中国の道教では魂と魄（はく）という二つの異なる存在があると考えられていた。魂は精神を支える気、魄は肉体を支える気を指した。合わせて魂魄（こんぱく）ともいう。魂と魄は易の思想と結びつき、魂は陽に属して天に帰し、魄は陰に属して地に帰すと考えられていた。

民間では、三魂七魄の数があるとされる。三魂は天魂（死後、天に向かう）、地魂（死後、地に向かう）、人魂（死後、墓場に残る）であり、七魄は喜び、怒り、哀しみ、懼れ、愛、惡しみ、欲望からなる。また、殭屍（キョンシー）は、魂が天に帰り魄のみの存在とされる。（三魂は「胎光・爽靈・幽精」「主魂、覺魂、生魂」「元神、陽神、陰神」「天魂、識魂、人魂」、七魄は「尸狗、伏矢、雀?（陰）、容?（吝賊）、非毒、除?（陰穢）、臭肺」とされることもある。）

ツキミタマ【月靈魂】

月靈魂。＝夜靈波。和魂。『我が上は 日・月の潤を 下す故 世嗣 生まんと 思ふ時 目の 垢 濯ぎ 朝日 祈り 目より月日の 潤を得て 婚げば背の 潤波が 玉島川の 妹が靈と はらむ 精髓 精の波 穢の和靈と 靈・波 合ひ』14文『女の子には 女の日より受く 月靈魂 宮を
...<http://gejirin.com/src/Tu/tukinomitama.html>

グノーシス主義は、個人の靈魂の中に存在しているこの物質世界に属さない神性を 見出すことで救われると考えました。「グノーシス」とは ... 特に、アイオーンが30ほどで存在するという点には月神との関連が深いと思われます。 <http://morfo.seesaa.net/article/198725247.html>

グノーシス主義の成立にはゾロアスター教やズルワン主義の影響を受けながらヘレニズム化したユダヤ教の異端派が主なバックボーンになっていると言われています。

ですが、グノーシス主義はユダヤ教だけでなく、ヘルメス主義、キリスト教、そしてペルシャ系の宗教など、宗教や民族の枠を越えて生まれました。

グノーシス主義は本来的にハイブリッドなので、様々な地方で様々な派が生れ、変化していきました。

グノーシス主義は、個人の靈魂の中に存在しているこの物質世界に属さない神性を見出すことで救われると考えました。

「グノーシス」とはこの靈魂の本来的な神性の認識のことです。

人間の中に神性があるってこれを認識できるという考えは、秘儀宗教やプラトン主義、ズルワン主義の考えを受け継いだものです。

ですが、プラトン主義は自然の中にある神的なものから出発して靈的な世界を認識することで靈魂が救われると考えたのに対して、グノーシス主義は世界の一切を悪と考えたので、靈魂自身を認識することで救われると考えた点で異なっています。

グノーシス主義はその派によって様々な教義と神話を持っていましたが、全体的な特徴としては、宇宙の創造神話を人格神ではなくて抽象的な対になった男性／女性原理の系譜として表現しました。

そして、墮落するのは原人間アントロポスではなくて、多くの場合は「知恵（ソフィア）」や「思考（エンノイア）」などの女性原理なのです。

ただ、「言葉（ロゴス）」のような男性原理の場合もあります。

そして、この女性原理の墮落によって悪神である創造神（デミウルゴス、ヤルダバアト）が生まれ、創造神が魂と宇宙を作り、この中に女性原理に由来する霊・神性が入ります。

これは創造神が閉じ込めたとも、女性原理が魂を救うために密かに植え付けたとも言われます。

最も初期の単純なグノーシス派の神話は、まず、「父」なる存在と「母」なる存在があつて、「母」が墮落してこれらを「父」が救う、というものだったと想像されています。

ですがやがて、「父」から救済や啓示の役割が「子（息子）」として分かれて、「母」から墮落する存在が「娘」として分かれていきました。

さらに、どんどん複雑化して、30 ほどの神的存在（アイオン）が考えられるようになりました。

多数のアイオンの中で墮落すると考えられた存在が、「知恵（ソフィア）」や「思考（エンノイア）」なのは、アントロポスの墮落のように地上の人間の靈魂の由来を説明するだけなのに対して、グノーシス主義の場合は宇宙そのものの創造の原因まで問題にしているからでしょう。

そして、この墮落するものがたいい男性原理よりも女性原理なのは、女性原理の方が物質性と関係が深いことと、内在的な性質が強いからでしょう。

この女性原理が「知恵」や「思考」といった性質であることには、アナーヒター、マアト、イシス、ホクマーなどのオリエントの女神、ギリシャ哲学の「知恵（ソフィア）」からの影響があるのでしょう。

また、その墮落するという性質には、満ち欠けする月神（ダイアナ、セレーネー）、身を隠す豊穰神（イシス、デルメル）、冥界に下る豊穰神（ペルセポネー、イシュタル）などからの影響があるでしょう。

特に、アイオンが30 ほどで存在するという点には月神との関連が深いと思われます。

女性原理の墮落の原因は、「自らが創造したものに次々捕まって引きずり降ろされた」、「本来の伴侶を無視して一方的に知り（交わり）得ない父を知ろう（交わろう）とした」などです。

キリスト教側からグノーシス主義の創始者であると言われているのは、サマリア出身でアレキサンドリアで魔術を学んだと言われているシモン・マゴスです。

ですが、この説は伝説のようなものです。

ユダヤの北にあるサマリアは、一般にユダヤ（エルサレム）とは別の神殿や宗教を持っていましたが、シモンはサマリアの自分の信者からは神と信じられていました。

シモン自身は自分を父なる「ロゴス」＝「ヌース」であり救済者と考え、「第1の思考（エンノイア）」が墮落した地上での姿とされた娼婦ヘレネーを連れていました。

シモンのグノーシス主義のバックボーンには、サマリアの月神セレーネーや娼婦になったとも言われていたイシス神などが考えられます。

洗礼者ヨハネの弟子であると自らが語っている一派にマンダ教があります。

ですが、これは後世の創作かもしれません。

マンダ教は神的な至高の領域を至高神から順に生まれる4段階の神的存在として考えました。

また、グノーシス主義のアレキサンドリアの一派ベルベーロー派は、これを5段階で考えてそれぞれが

男女のカップルであるとしてしました。

グノーシス主義の中でも最も複雑で体系的な世界観を発展させたのはアレキサンドリアのヴァレンティノス派やプトレマイオス派です。

彼らは新プラトン主義の影響を受けたキリスト教系のグノーシス主義者です。

彼らは、世界を3つの階層で捉えました。

それは「アイオーン界（プロレーマ）」と呼ばれる神の世界と、そこから分離された「中間的な世界（恒星天）」、そして、悪神が作った「物質界（地上と7惑星天）」です。

そして、人間の要素に関しても、神の世界に由来する「プネウマ（霊）」と、中間的な「プシュケー（魂）」、そして「肉体」として3元論で捉えました。

プネウマは恒星天や7惑星天のそれぞれに対応する魂や身体性の衣服を何重にも着せられて、地上に囚われます。

そして、プネウマは人間の死後、7惑星天と恒星天の悪い神々に捕まることを避けて服を返しながら、それらを通り抜けて、神の世界にまで帰るのです。

ところで、グノーシス主義のオフィス派は、創世紀の墮落の物語を独自に解釈します。

彼らによると、悪の創造神ヤーヴェがアダムとエヴァをエデンに閉じ込めていたのを、救世主的存在である蛇＝霊が知恵の樹の実を食べさせることで解放したのです。

イエスも蛇＝救世主の一つの形であって、イエスは人間に生命の樹の実を食べさせるために現われるのです。

この解釈には、認識を重んじるグノーシス主義のアンチ・ユダヤ的性質がよく現われています。

グノーシス主義は特別な霊的認識を求めるので、当然、秘教的な性質を持っていて、公に向かって布教するような運動ではありませんでした。

また、グノーシス主義者はその反宇宙論的な世界観の結果として、現世否定的で、物質的な欲望の一切を否定する禁欲的な傾向を持っていました。

ですが同時に逆説的ですが、地上的な道徳の一切を否定してそれからの自由を主張する傾向がありました。

ローマの法律であれユダヤの律法であれ、地上の秩序を定めたものは悪神である創造神（デミウルゴス）や悪の天使・支配者（アルコーン）だからです。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：管理人 投稿日：2013年11月5日(火)23時09分45秒
返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

> どうも内容が時系列でないですな。どこかの誰かが書いた物ばかりで、意味を成さないな。

>

> 整理しなければ宝の山がごみの山ですな。

>

> 日本書紀の記録も好太王碑と同様だな。韓半島の歴史・・・、

>

> 最近ですが扶桑の大漢国は邪馬台国(やまと)ですな。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

>

>

大漢国、高句麗・扶余周辺ですね。漢氏の故地でしょう。穢の地域で「アヤ」と読ませるわけですが、書紀を記載した集団の記録と好太王碑との間にもっと接点を見いだして行く必要があります。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 11 月 4 日(月)16 時 42 分 29 秒
返信・引用

> No.1835[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

どうも内容が時系列でないですな。どこかの誰かが書いた物ばかりで、意味を成さないな。

整理しなければ宝の山がごみの山ですな。

日本書紀の記録も好太王碑と同様だな。韓半島の歴史・・・、

最近ですが扶桑の大漢国は邪馬台国(やまと)ですな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

まあ、現在の誤記は誤記で修正せず話は進める。

> 372 七支刀献上：百済から倭国（垂仁天皇）へ。暗記法「皆 に献上七支刀」；391 倭国の高句麗侵攻（高句麗好太王碑文）：倭国の侵攻は失敗。暗記法「作為があるのか好太王碑」。好太王＝広開土王。息子の長寿王が414 に建立。<http://tbook.net/wiki/index.php?%B8%C5%CA%AF%BB%FE%C2%E5>

> 391 倭国の高句麗侵攻（高句麗好太王碑文）：倭国の侵攻は失敗。暗記法「作為があるのか好太王碑」。好太王＝広開土王。息子の長寿王が414 に建立。

>

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 11 月 4 日(月)15 時 47 分 41 秒
返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

> 秦野が計算結果は（271 年）になる。日本書紀と好太王碑の文章が一致。

好太王碑

414 に建立。

372 七支刀献上：百済から倭国（垂仁天皇）へ。暗記法「皆 に献上七支刀」；391 倭国の高句麗侵攻（高句麗好太王碑文）：倭国の侵攻は失敗。暗記法「作為があるのか好太王碑」。好太王＝広開土王。息子の長寿王が414 に建立。<http://tbook.net/wiki/index.php?%B8%C5%CA%AF%BB%FE%C2%E5>

391 倭国の高句麗侵攻（高句麗好太王碑文）：倭国の侵攻は失敗。暗記法「作為があるのか好太王碑」。好太王＝広開土王。息子の長寿王が414 に建立。

垂仁天皇。（すいにんてんのう 紀元前 69 年 1 月 27 日～70 年 8 月 8 日）とは、第 11 代天皇 である。治世時には相撲と発祥とされる死闘が行われた他、死後に殉死を禁止して埴輪 を埋めるようにした開明的な人物だったとされている。<http://dic.nicovideo.jp/a/%E5%9E%82%E4%BB%81%E5%A4%A9%E7%9A%87>

治世時には相撲と発祥とされる死闘が行われた他、死後に殉死を禁止して埴輪を埋めるようにした相撲

大相撲モンゴル帝国に思う？...チベットはもとはといえば吐蕃。ラマ教の本山である。かつてはモンゴル ... チベットは 吐蕃だったを参照しているブログ<http://jun.typepad.jp/junhara/2008/03/post-f7c1.html>

東夷西絨（絨の糸へんは不要）北荻（荻のくさかんむりも不要）南蛮。中国を侵略する外敵のことだ。

記紀の成立した頃、西域の大陸では、吐蕃が元気になり、ターリム盆地侵入の後 バルチスタン（大勃律）へ、722 年頃からヤシン（小勃律）までも其の勢力範囲に収めた。

<http://pamir1093.typepad.jp/blog/2008/03/post-0423.html>

天武帝が政権の安定を図るためか、氏姓の尊卑をたてて社会の経緯をまとめようと、帝記・旧辞類の改訂選録をはかり、元明帝の和銅 5 年（712）献上された古事記、相次いで養老 4 年（720）に完成されたとする日本書紀には、従って数多くのルーツ物語を含む。其の垂仁記には埴輪を初めて創案して后妃、日葉酢媛命の墓にたてた功により土部（土師(はじ)）連(むらじ)を賜った野見宿禰(のみのすくね)をはじめ三宅氏の始祖とされる田道間守の物語が記される。

652 白雉 3 年. 班田 収授法. 班田収授法を実施・戸籍をつくる.

「垂仁天皇（第 11 代）の時代に常世の国に使いした田道間守（たじまもり）であろう。」としている。 直角の出し方、大矩の作り方、長さを測る間竿直角作りはいずれも ピタゴラスの定理が基本です、現場では必ず道具を水平に扱います。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1143>

直角の出し方、大矩の作り方、長さを測る間竿

直角作りはいずれもピタゴラスの定理が基本です、現場では必ず道具を水平に扱います。大矩の作り方（おおがね）大矩の応用、水盛遣り方 現場で簡単に作るには、一番下の 大矩の作り方図を参考下さい（材は 3 寸×5 分水貫 4M 程度の板に任意に墨を打ち 3 対 4
...<http://www2u.biglobe.ne.jp/~tyouken/dougu/d-2.htm>

チベット(吐蕃) '朝鮮(高麗)を属国としました。http://books.google.co.jp/books?id=z8_RlxpESvsC&pg=PA45&lpg=PA45&dq=%E5%90%90%E8%95%83+%E6%9C%9D%E9%AE%E9%AE&source=bl&ots=dgLhetM7Hf&sig=cZg09jtq0rxvW1OoIdmbPCanScA#v=onepage&q=%E5%90%90%E8%95%83%20%E6%9C%9D%E9%AE%E9%AE&f=false

朝鮮(高麗)

垂仁天皇の頃の創建で、神皇産霊神、瓊々杵尊、神功皇后、応神天皇を祭神 としているが、実体は高麗若光を祀った高麗一族の氏神ではないかといわれている。<http://books.google.co.jp/books?id=g9zaeliLEPUC&pg=PA158&lpg=PA158&dq=%E5%9E%82%E4%BB%81%E5%A4%A9%E7%9A%87+%E9%AB%98%E9%BA%97&source=bl&ots=8c4BYSKG4U&sig=eam9sulZBf-WO5COrcs9a7KC-wc#v=onepage&q=%E5%9E%82%E4%BB%81%E5%A4%A9%E7%9A%87%20%E9%AB%98%E9%BA%97&f=false>

id=g9zaeliLEPUC&pg=PA158&lpg=PA158&dq=%E5%9E%82%E4%BB%81%E5%A4%A9%E7%9A%87+%E9%AB%98%E9%BA%97&source=bl&ots=8c4BYSKG4U&sig=eam9sulZBf-WO5COrcs9a7KC-wc#v=onepage&q=%E5%9E%82%E4%BB%81%E5%A4%A9%E7%9A%87%20%E9%AB%98%E9%BA%97&f=false

高麗王若光は大磯へ上陸し花水川を り日向に落ち着いたといわれる。日向山に ... は 俗称であって、若光を大明神の名で呼ぶなら本来は「白鬚大明神」が正しい

白鬚神社と白鬚神社と白髯神社

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/sirahige2.pdf#search='%E5%9E%82%E4%BB%81%E5%A4%A9%E7%9A%87+%E9%AB%98%E9%BA%97%E5%A4%A7%E6%98%8E%E7%A5%9E'>

関東では、しらひげの神といえば高麗王・若光のことだから白鬚である。

高麗王・若光が大磯に上陸して、やがては高麗（現在の埼玉県入間郡日高町）に落ち着くのだが、一時、日向に住んでいたことがあった。

高麗王若光は大磯へ上陸し花水川を り日向に落ち着いたといわれる。日向山に巡錫 してきた行基が薬師三. 尊を彫ろうとして良材がなく、若光は数尺の香木を与え協力した という。

行基

行基は感謝の しるしに参道入口の近くに日向の鎮守として「白髯神社」を建立して若光を祀り熊野権現 を勧請したのです。<http://blogs.yahoo.co.jp/pokochino6324/62754375.html>

霊亀元年（715）、行基が日向薬師を開創するにあたって日向山を訪れました。ところが仏を彫る

良材がなくて困っていたのです。その様子を見て日本に亡命し日向付近に住んでいた高麗王若光（じゃこう）が桂の霊木を寄付しました。行基はこの桂の木で薬師三尊を彫ってご本尊としたと伝えられています。行基は感謝のしるしに参道入口の近くに日向の鎮守として「白髯神社」を建立して若光を祀り熊野権現を勧請したのです。このとき若光は行基より熊野権現の修験道について多くを学んだものと考えられます。

若光一族は一時大磯の「もろこしが原」に居を構えました。大陸の治水土木の先進技術集団と治水などを含め社会貢献していた行基との出会いはごく当たり前のことだったと考えられます。

高麗若光は国の命で全国に武蔵国高麗郡の技術者を派遣し開拓を進めましたが、これらの人々は「秦氏」を名乗っていました。「秦氏」はすでに百済から帰化した人々も名乗っていたので、渡来人全ての姓となっているようです。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 11 月 3 日(日)19 時 52 分 16 秒
返信・引用 編集済
> No.1833[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

少し、算数でもしますかな。現代の古代史が崩れますぞ。

辛卯年の特定方法は日本書紀には三月壬申朔等の暦の記録が複数個存在するな。
暦と辛卯年の交わるところが求める辛卯年になるな。日本書紀は年表記はない。

複数個存在

三月壬申朔、夏四月壬寅朔甲辰、秋九月庚午朔己卯、冬十月己亥朔辛丑、十二月戊戌朔辛亥、三月丙申朔庚子、冬十月癸亥朔甲子、二年冬十一月丁亥朔甲午、十三年春二月丁巳朔甲子、・・・

秦野が計算結果は（271 年）になる。日本書紀と好太王碑の文章が一致。

氣長足尊、稚日本根子彦大日々天皇之曾孫、氣長宿禰王之女也。母曰葛城高額媛。足仲彦天皇二年、立爲皇后。幼而聰明叡智。貌容壯麗。父王異焉。

九年春二月、足仲彦天皇崩於筑紫橿日宮。時皇后傷天皇不從神教而早崩、以爲、知所崇之神、欲求財寶國。是以、命群臣及百寮、以解罪改過、更造齋宮於小山田邑。

三月壬申朔、皇后選吉日、入齋宮、親爲神主。・・・三月壬申朔、夏四月壬寅朔甲辰、秋九月庚午朔己卯、冬十月己亥朔辛丑、十二月戊戌朔辛亥、三月丙申朔庚子、冬十月癸亥朔甲子、二年冬十一月丁亥朔甲午、十三年春二月丁巳朔甲子、・・・

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_09.html

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

〈そもそも新羅・百殘は（高句麗の）属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年（391 年は間違いで 271 年が正）に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。〉

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%BD%E5%A4%AA%E7%8E%8B%E7%A2%91>

卑弥呼（240 年 - 249 年）死後、宗女「壹與」を 13 歳で王に立てる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%91%BC>

辛卯年（271 年）には「壹與」（35～44 歳）。壹與と神功皇后が一致。

これが武内宿禰・・・の糸口になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E5%8A%9F%E7%9A%87%E5%90%8E>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%86%85%E5%AE%BF%E7%A6%B0>

> 倭の古代朝鮮半島における戦闘等の活動は、日本の史書『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』、朝鮮の史書『三国史記』『三国遺事』、中国側の史書『宋書』においても記録されている。また、2011 年に発見された職貢図新羅題記にも「或屬倭（或る時は倭に属していた）」という記述があり、議論を呼ぶだろうとした

>、「[海]を渡り」は残欠の研究から「海を渡り」とされ、日本学会の通説では以下のように解釈される。

> 百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

> 〈そもそも新羅・百殘は（高句麗の）属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年（391 年）に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。〉

> しかし、韓国の学会では異説が主流である（#韓国・北朝鮮の学会による解釈参照）。また、倭を大和朝廷とするのか九州の支配者とするのかなど、倭をどう理解するかでも異論が多い。日本の史学者は、日本書紀の神功皇后による、所謂三韓征伐を念頭に入れて理解しているため倭を大和朝廷と理解することが一般的である。

>

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 11 月 3 日(日)12 時 12 分 14 秒
返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

>> こちらのサイトによると、やはり面土国王が正解のようですが、どうでしょうね。

>> 付録 11-6-2 倭面土国

>>

>> 本文の「翰苑」<倭伝>(サ)にある倭面上国は、「通典（北宋版）」<倭伝>(ツ)からもわかるように倭面土国の誤記または誤写であると思われる。つまり、7世紀の「翰苑」と11世紀の「通典（北宋版）」は同じ倭面土国の語句を記しているのである。

>> 倭面土国の読み方を探るのには、倭面の意味を知る事が重要である。中国史書には、倭に関連した記事の中に委面、黥面などの語句が見られる。

>> <http://www.k3.dion.ne.jp/~kodaira/xyz1106b.htm>

而なんじ倭

>委面、黥面などの語句が見られる。

> <http://www.k3.dion.ne.jp/~kodaira/xyz1106b.htm>

而。(二人称代名詞) なんじ。

象形。頬ひげ（説文解字など）、または、結髪をせず髪を振り乱した様をかたどる。巫女が、そのようにして雨乞いをするさまを「需」という（白川）。早くに元の意味は失われ、音を仮借した意味のみ残る。<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E8%80%8C>

而倭以未卯年来渡[海]破百殘□□新羅以爲臣民」）<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%BD%E5%A4%AA%E7%8E%8B%E7%A2%91>

好太王碑（こうたいおうひ）は、高句麗の第19代の王である好太王（広開土王）の業績を称えた石碑である。広開土王碑（こうかいどおうひ）とも言われ、付近には陵墓と見られる將軍塚・大王陵があり、合わせて広開土王陵碑（こうかいどおうりょうひ）とも言われる。

4世紀末から5世紀初の朝鮮半島の歴史・古代日朝関係史を知る上での貴重な一次史料である。

1961年（昭和36年）、洞溝古墓群の一部として、全国重点文物保护单位に指定される。

好太王碑は現在の吉林省集安市の好太王陵の近くに位置している。碑は、高さ約6.3メートル・幅約1.5メートルの角柱状の石碑である。その四面に総計1802文字が刻まれ、碑文は純粋な漢文での記述となっている[4]。碑文は風化によって判読不能な箇所も存在する。なお、2010年（平成22年）現在、この碑文は風化・劣化を防ぐためにガラスケースで保護されている。

碑文は三段から構成され、一段目は朱蒙による高句麗の開国伝承・建碑の由来、二段目に好太王の業績、三段目に好太王の墓を守る「守墓人烟戸」の規定が記されている。

そのうち、倭に関する記述としては、いわゆる辛卯年条（後述）の他に、以下がある。

399 年、百済は先年の誓いを破って倭と和通した。そこで王は百済を討つため平壤に出向いた。ちょうどそのとき新羅からの使いが「多くの倭人が新羅に侵入し、王を倭の臣下としたので高句麗王の救援をお願いしたい」と願い出たので、大王は救援することにした。

400 年、5 万の大軍を派遣して新羅を救援した。新羅王都にいっぱいいた倭軍が退却したので、これを追って任那・加羅に迫った。ところが安羅軍などが逆をついて、新羅の王都を占領した。

404 年、倭が帯方地方（現在の黄海道地方）に侵入してきたので、これを討って大敗させた[5]。

碑文では好太王の即位を辛卯年（391 年）とするなど、干支年が後世の文献資料（『三国史記』『三国遺事』では壬辰年（392 年）とする）の紀年との間に 1 年のずれがある。また、『三国史記』の新羅紀では、「実聖王元年(402 年)に倭国と通好す。奈勿王子末斯欣を質となす」と新羅が倭へ人質を送っていた記録等があり、他の史料と碑文の内容がほぼ一致しているところが見られる。

この碑文からは、好太王の時代に永楽という元号が用いられたことが確認された。

碑文では、高句麗と隣接する国・民族はほぼ一度しか出てこず、遠く離れた倭が何度も出てくることから、倭国と高句麗の「17 年戦争」と称する研究者も存在している[6]。その一方で、韓国などには高句麗が百済征伐のために倭を「トリックスター」として用いただけであると主張する研究者も存在している。

倭の古代朝鮮半島における戦闘等の活動は、日本の史書『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』、朝鮮の史書『三国史記』『三国遺事』、中国側の史書『宋書』においても記録されている。また、2011 年に発見された職貢図新羅題記にも「或屬倭（或る時は倭に属していた）」という記述があり、議論を呼ぶだろうとした

、「[海]を渡り」は残欠の研究から「海を渡り」とされ、日本学会の通説では以下のように解釈される。

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

〈そもそも新羅・百殘は（高句麗の）属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年（391 年）に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。〉

しかし、韓国の学会では異説が主流である（#韓国・北朝鮮の学会による解釈参照）。また、倭を大和朝廷とするのか九州の支配者とするのかなど、倭をどう理解するかでも異論が多い。日本の史学者は、日本書紀の神功皇后による、所謂三韓征伐を念頭に入れて理解しているため倭を大和朝廷と理解することが一般的である。

Re: 翰苑（かんえん）偽書 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 11 月 2 日(土)22 時 20 分 19 秒 返信・引用 編集済

> No.1831[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 翰苑（かんえん）は間違いが多い偽書でないか疑う。まあ、邪馬台国が明らかになれば

> 明確になるな。簡単に言いますと、翰苑は偽書ですな。

>

> 韓苑 (かんえん)

>

> 分職命官、統女王而列部。

> 魏略曰。從帶方至倭、循海岸水行、曆韓國到枸耶韓國七十餘里、始度一海千餘里、至對馬國。其大官曰卑拘、副曰卑奴。無良田、南北布糴。南度海至一支國、置官至對同。地方三百里。又度海千餘里、至末廬國、人善捕魚、能浮沒水取之。東南五東里、到伊都國。戸万餘。置曰爾支、副曰洩溪觚、柄渠觚。其國王皆屬王女也。

>

> http://www.seisaku.bz/rekidai_waden/111_kan-en.html

>

いや、韓苑の中に、邪馬台国時代のデータが多く詰まっています。

> 南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日、陸行一月。官有伊支馬、次曰彌馬升、次曰彌馬獲支、次曰奴佳靱、可七萬餘戸。

>

> 南に邪馬壹国の女王の都に至るには、水行十日、陸行一ト月。官には伊支馬があり、次を彌馬升といい、その次が彌馬獲支、その次が奴佳靱という。七万余戸ほどか。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

>

邪馬台国の官職は下記のとおりです。

伊支馬 一大（伊都）国の王「爾支」の「馬」

彌馬+升 任那地域の「升」＝王＝「面土（弁（韓）・奴）国王」・「師升」の「升」＝「ミマキ」「イリ」「ヒク（卑狗）」

彌馬+獲支 任那地域の「獲支」＝「別（ワケ）」＝王族の別氏族

奴佳鞮（ヌ・ケテイ）（ド・カイダイ）＝「奴国」の王、「鞮」は革靴の意味で、遊牧民の王につける蔑称か。

そういえば「額田」（ヌカタ）という発音が後代ありますね。これはどこからくるのかな？

「沼（ヌ）」「淳（テイ）」がつく王統があることは、先日論議したとおりです。大彦系で武+沼河別、つまりヤマトタケルの系統です。元は南方海人系、筑紫に本拠がある。

翰苑（かんえん）偽書 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年11月1日(金)21時54分19秒 返信・引用

翰苑（かんえん）は間違いが多い偽書でないか疑う。まあ、邪馬台国が明らかになれば明確になるな。簡単に言いますと、翰苑は偽書ですな。

翰苑（かんえん）

分職命官、統女王而列部。

魏略曰。從帶方至倭、循海岸水行、曆韓國到枸耶韓國七十餘里、始度一海千餘里、至對馬國。其大官曰卑狗、副曰卑奴。無良田、南北布糴。南度海至一支國、置官至對同。地方三百里。又度海千餘里、至末廬國、人善捕魚、能浮沒水取之。東南五東里、到伊都國。戸万餘。置曰爾支、副曰洩溪觚、柄渠觚。其國王皆屬王女也。

http://www.seisaku.bz/rekidai_waden/111_kan-en.html

『三国志魏書』倭人伝（通称：魏志倭人伝）

從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國、七千餘里。始度一海、千餘里至對馬國。其大官曰卑狗、副曰卑奴母離。所居絶島、方可四百餘里、土地山險、多深林、道路如禽鹿徑。有千餘戸、無良田、食海物自活、乖船南北市糴。

帶方郡より倭に至るには、海岸に沿って水行、韓国を経て、南へ行ったり、東へ行ったりして、北岸の狗邪韓国に到ること七千余里。初めて一海を渡り、千余里で対馬国に至る。そこの大官は卑狗、副は卑奴母離という。極めて険しい島に住み、四方は四百余里ほど。土地は山が険阻で、深い林が多く、道路は獣や鹿の小道（獣道）。千余戸あり、良田は無く、海産物を食べて自活しており、船で南北の市（物々交換の場）に出かけて、糴（てき＝穀物を買求める）する。

又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という、一大国に至る。官もまた卑狗、副は卑奴母離という。四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

又渡一海、千餘里至末盧國、有四千餘戸、濱山海居、草木茂盛、行不見前人。好捕魚鰕、水無深淺、皆沈沒取之。

また別の海を渡り、千余里で末盧国に至る。四千余戸あり、山海に沿って暮らしている。草木が盛に茂っており、前を行く人の姿が見えない。上手に魚や鰕（アワビ）を捕り、水深の深淺にかかわらず、皆が水中に潜って、これを採取する。

東南陸行五百里、到伊都國、官曰爾支、副曰泄謨觚、柄渠觚。有千餘戸、世有王、皆統屬女王國、郡使往來常所駐。

東南に陸行すること五百里、伊都国に到る。官は爾支、副は泄謨觚、柄渠觚という。千余戸あり、代々王がおり、皆、女王国の統治下に属し、郡使の往来では常にここに逗留する。

東南至奴國百里、官曰兕馬觚、副曰卑奴母離、有二萬餘戸。

東南の奴国に至るには百里、官は兕馬觚、副は卑奴母離といい、二万余戸ある。

東行至不彌國百里、官曰多模、副曰卑奴母離、有千餘家。

東に行き、不彌国に至るには百里、官は多模、副は卑奴母離といい、千余家ある。

南至投馬國、水行二十日、官曰彌彌、副曰彌彌那利、可五萬餘戸。

南に投馬国に至るには水行二十日、官は彌彌、副は彌彌那利といい、五万余戸ほどか。

南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日、陸行一月。官有伊支馬、次曰彌馬升、次曰彌馬獲支、次曰奴佳靺、可七萬餘戸。

南に邪馬壹国の女王の都に至るには、水行十日、陸行一ト月。官には伊支馬があり、次を彌馬升といい、その次が彌馬獲支、その次が奴佳靺という。七万余戸ほどか。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 11 月 1 日(金)19 時 15 分 12 秒
返信・引用

> No.1828[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

師升は古代の意味と読みが残り、現代は師匠(ししょう)

『後漢書』使人自稱大夫は五大夫で鉄、武器に関する技術者でしょうな。

古代の製鉄は松炭を使い精錬した模様。堺の黒姫山古墳に鉄製武具・武器が出土。

精錬に松炭を使用している。司馬氏が五大夫だろうな。

製鉄の師升（師匠）で権力があり、弟子がいたのだろう。この音が残ったのだろう。

《秦の始皇帝が泰山で雨宿りをした松の木に五大夫の位を授けたという「史記」にある故事から》松の別名。

司馬氏の家系

遠い部分の信憑性には疑問があるが、父・司馬談が亡くなる際の遺言によると、司馬遷の家系は堯・舜の時代に功績を挙げ、代々歴史・天文を司る一族であるという。秦の恵文王らに仕えた司馬錯、その孫で白起の部下として長平の戦いに従軍した司馬靳（中国語版）（しばきん）、さらにその孫である司馬昌は始皇帝時代に鉄鉞を管理する役職にあった。昌の子は毋慚（無澤、むえき）と言ひ、漢市の長官に就いた。その子で五大夫の爵位を得た司馬喜は司馬遷の祖父に当たる

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B8%E9%A6%AC%E9%81%B7>

師升の読みは(ししょう)だな。

師匠と呼ばれる人たち

新宿の師匠(元新宿駅の駅員)

のっち師匠

平沢進（音楽家）

本田雄（アニメーター）

マサヤング師匠（→小野坂昌也）

松井秀喜

<http://dic.nicovideo.jp/a/%E5%B8%AB%E5%8C%A0>

現代日本では、熟練芸人や落語家などに対する、また学問や文化を教え伝える人に対する敬称としても使われる。師匠から物を教わったり、お共に使える人は弟子と呼ばれる。

<http://thesaurus.weblio.jp/content/%E5%B8%AB%E5%8C%A0>

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 31 日(木)23 時 50 分 30 秒 返信・引用 編集済

> No.1828[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

日本書紀ですな。

まあ、崇神天皇、垂仁天皇だの五大夫だのメンバーがいますな。

内容は天照大神を伊勢に祭り、祭りをすれば天下泰平になるらしい。

どうも、この頃の行事が祭りに成っている模様。

五大夫、我先皇御間城入彦五十瓊殖天皇

更還之入近江國、東廻美濃、到伊勢國。神風伊勢國、天照大神

活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

廿五年春二月丁巳朔甲子、詔阿倍臣遠?武渟川別・和珥臣遠?彦國葺・中臣連遠?大鹿嶋・物部連遠?十千根・大伴連遠?武日、五大夫曰、我先皇御間城入彦五十瓊殖天皇、惟叡作聖。欽明聰達。深執謙損、志懷沖退。綢繆機衡、禮祭神祇。剋己勤躬、日愼一日。是以人民富足、天下太平也。今當朕世、祭祀神祇、豈得有怠乎。三月丁亥朔丙申、離天照大神於豐稻入?命、託于倭?命。爰倭?命求鎮坐大神之處、

而詣菟田筱幡。筱、此云佐佐。更還之入近江國、東廻美濃、到伊勢國。時天照大神誨倭?命曰、是神風伊勢國、則常世之浪重浪歸國也。傍國可憐國也。欲居是國。故隨大神教。其祠立於伊勢國。因興齋宮于五十鈴川上。是謂磯宮。則天照大神始自天降之處也。

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_06.html

小平一郎説は理解しがたいですな。古田も同様な誤訳をしているな。

>

> こちらのサイトによると、やはり面土国王が正解のようですが、どうでしょうね。

> 付録 11-6-2 倭面土国

>

> 本文の「翰苑」<倭伝>(サ)にある倭面上国は、「通典（北宋版）」<倭伝>(ツ)からもわかるように倭面土国の誤記または誤写であると思われる。つまり、7世紀の「翰苑」と11世紀の「通典（北宋版）」は同じ倭面土国の語句を記しているのである。

> 倭面土国の読み方を探るのには、倭面の意味を知る事が重要である。中国史書には、倭に関連した記事の中に委面、黥面などの語句が見られる。

> <http://www.k3.dion.ne.jp/~kodaira/xyz1106b.htm>

>

>

> ただ問題は上記サイトのように面の意味をどうとるかですね。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：管理人 投稿日：2013年10月31日(木)23時13分31秒
返信・引用

> No.1827[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 面上國王師升（面土国王）だが、筆者は崇神天皇、垂仁天皇だろうな。

> 卑弥娥(卑弥呼)と臺與が見られるな。

>

> 『後漢書』使人自稱大夫こと師升が有?面上國王で朝賀。

> 有?面上國王だが、國王は?(接)面上に有り。國王を上面接だな。

> 単純な誤訳だろうな。大夫なので印は貰えませんな。

こちらのサイトによると、やはり面土国王が正解のようですが、どうでしょうね。

付録 11-6-2 倭面土国

本文の「翰苑」＜倭伝＞(サ)にある倭面上国は、「通典（北宋版）」＜倭伝＞(ツ)からもわかるように倭面土国の誤記または誤写であると思われる。つまり、7世紀の「翰苑」と11世紀の「通典（北宋版）」は同じ倭面土国の語句を記しているのである。

倭面土国の読み方を探るのには、倭面の意味を知る事が重要である。中国史書には、倭に関連した記事の中に倭面、黥面などの語句が見られる。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~kodaira/xyz1106b.htm>

ただ問題は上記サイトのように面の意味をどうとるかですね。

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 31 日(木)21 時 07 分 6 秒
返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

面上國王師升（面土国王）だが、筆者は崇神天皇、垂仁天皇だろうな。

卑弥娥(卑弥呼)と臺與が見られるな。

『後漢書』使人自稱大夫こと師升が有?面上國王で朝賀。

有?面上國王だが、國王は?(接)面上に有り。國王を上にな面接だな。

単純な誤訳だろうな。

卑弥娥、惑翻叶群情、臺與幼齒、方諧衆望、

後漢書曰。安帝永初元年、有?面上國王師升至。桓遷之間、倭國大乱、更相攻伐、歷年無主。有一女子名曰卑弥呼、死更立男王、國中不服、更相誅攻、復立卑弥呼宗女臺與、年十三爲王、國中遂定。其國官有伊支馬、次曰弥馬升、次曰弥馬獲、次曰奴佳鞮之也。

http://www.seisaku.bz/rekidai_waden/111_kan-en.html

史料『後漢書』（卷八十五 東夷列伝第七十五）

建武中元二年、倭奴國奉貢朝賀、使人自稱大夫、倭國之極南界也。光武賜以印綬。安帝永初元年、倭國王帥升等獻生口百六十人、願請見。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B8%A5%E5%8D%87>

『梁書』倭国伝

漢靈帝光和中、倭國亂、相攻伐歴年、乃共立一女子卑彌呼為王。彌呼無夫婿、挾鬼道、能惑衆、故國人立之。有男弟佐治國。自為王、少有見者、以婢千人自侍、唯使一男子出入傳教令。所處宮室、常有兵守衛。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun4-ryosho.htm>

>

> 烏奴（国）は、宇土（ウド）ではないですかね？九州西南部に宇土の遺跡があります。

>

>

> 倭の奴の国も、奴＝ドです。後に倭の面土国王（師升）が出てきます。この「土」が「奴」で「ド」音となるはずです。

>

> 「面」は「ベン」で「弁韓」の弁でしょう。

>

> この国王は、九州の奴国領域と半島南部を支配していた可能性があります。

>

>

> そして、「升」こそは、邪馬台国の官職に見える「升」なわけです。

>

> 邪馬台国の「奴佳代」という官職も、奴国領域を治める官のことです。

>

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 31 日(木)17 時 13 分 40 秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

枯野：烏奴(からぬ)は船だな。烏奴（国）は国でないぞ。??

日本書紀 応神天皇の処

五年冬十月伊豆国に命じて船を造らせた。長さ十丈の船ができた。ためしに海に浮かべると、軽く浮かんで早く行くことは、走るようであった。その船を名づけて枯野といった。

> 烏奴（国）は、宇土（ウド）ではないですかね？九州西南部に宇土の遺跡があります。

>

>

> 倭の奴の国も、奴＝ドです。後に倭の面土国王（師升）が出てきます。この「土」が「奴」で「ド」音となるはずです。

>

> 「面」は「ベン」で「弁韓」の弁でしょう。

>

> この国王は、九州の奴国領域と半島南部を支配していた可能性があります。

>

>

> そして、「升」こそは、邪馬台国の官職に見える「升」なわけです。

>

> 邪馬台国の「奴佳デイ」という官職も、奴国領域を治める官のことです。

>

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 30 日(水)16 時 27 分 46 秒 返信・引用 編集済

> No.1824[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

「浮土」

土は慣用音なので呉音でなく漢音ですな。「浮土」の命名は聖徳太子 600 年代辺りだな。

烏奴は 300 年代・・・。

今日の宇土市を含む宇土郡は古代から見られる地名であり、その由来は、宇土半島がもとは島で「浮土」と表したのが転じたという説と、細く長い谷の意味を持つとの説がある。日本の渚 100 選の 1 つ御輿来海岸は、4 世紀に九州遠征の際に立ち寄った景行天皇が景色の美しさに見惚れて、御輿を止めて、休んだという伝説が名前の由来である。また、網田には景行天皇がその手を洗ったという御手洗（みたらい）があり、現在も澄んだ水が湧き出ている。中世宇土城は 1048 年に築城されたと考えられている。中世初期に紀氏の一族が宇土氏を名乗る武士団を形成した。やがて、鎌倉時代末期に菊池氏の一族がやはり宇土氏を名乗り、宇土城の城主となった。

景行天皇は 250 年代なので引用文の年代は疑わしい・・・。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%87%E5%9C%9F%E5%B8%82>

>

> 烏奴（国）は、宇土（ウド）ではないですかね？九州西南部に宇土の遺跡があります。

>

>

> 倭の奴の国も、奴＝ドです。後に倭の面土国王（師升）が出てきます。この「土」が「奴」で「ド」音となるはずです。

>

> 「面」は「ベン」で「弁韓」の弁でしょう。

>

> この国王は、九州の奴国領域と半島南部を支配していた可能性があります。

>

>

> そして、「升」こそは、邪馬台国の官職に見える「升」なわけです。

>

> 邪馬台国の「奴佳代」という官職も、奴国領域を治める官のことです。

>

Re: 扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 10 月 29 日(火)23 時 00 分 2 秒
返信・引用

> No.1823[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 扶桑木は応神天皇の枯野：烏奴(からぬ)。補陀落は行基が行った中国の五台山。ですな。

>

> 扶桑国は能の桜川だな。

>

> <http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/742>

>

> 枯野：烏奴(からぬ)

>

> <http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

烏奴（国）は、宇土（ウド）ではないですかね？九州西南部に宇土の遺跡があります。

倭の奴の国も、奴＝ドです。後に倭の面土国王（師升）が出てきます。この「土」が「奴」で「ド」音となるはずです。

「面」は「ベン」で「弁韓」の弁でしょう。

この国王は、九州の奴国領域と半島南部を支配していた可能性があります。

そして、「升」こそは、邪馬台国の官職に見える「升」なわけです。

邪馬台国の「奴佳デイ」という官職も、奴国領域を治める官のことです。

扶桑国、扶桑木、補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 28 日(月)23 時 08 分 28 秒
返信・引用 編集済

扶桑国、扶桑木、補陀落渡海の謎が解けたな。

過去には誤訳と思われたが記録を読み返すと正しいのだ。反省して/742 訂正する。

扶桑木は応神天皇の枯野：烏奴(からぬ)。補陀落は行基が行った中国の五台山。ですな。

扶桑国は能の桜川だな。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/742>

枯野：烏奴(からぬ)

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

Re: 家形石棺 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 10 月 27 日(日)01 時 39 分 13 秒 返信・引用

> No.1821[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> ちょっと多忙で返信できませんでしたが、古代日本・ユダヤ人研究会というのも作ってもいいかもしれませんね。

>

2世紀にはキリスト教徒の巡礼の場所

ヨハネ福音書3章のイエスとニコデモとの対話には、仏教の輪廻転生思想が表われているという説がありま

輪廻転生

ゴホウラ(護法螺)[http://kotobank.jp/word/%E3%82%B4%E3%83%9B%E3%82%A6%E3%83%A9\(%E8%AD%B7%E6%B3%95%E8%9E%BA\)](http://kotobank.jp/word/%E3%82%B4%E3%83%9B%E3%82%A6%E3%83%A9(%E8%AD%B7%E6%B3%95%E8%9E%BA))

…埋葬人骨の例では、男性が貝輪をはめている例も少数あるが、一般的には成人女性の場合が圧倒的に多い。

転生

ゴホウラは中国語 由来だ、ということになります。 <http://6009.teacup.com/agenahiroshi/bbs/2149>

燕の子安貝 -永命線-」. 燕（つばくらめ、つばめ）. ツバメは古代中国の時代から 安産の象徴とされる鳥。 また、殷王の先祖はツバメの子だと言われていた。 <http://www.toho-motoneta.net/index.php?%CB%A9%CD%E9%BB%B3%B5%B1%CC%EB%2F%C6%F1%C2%EA%A1%D6%B1%ED%A4%CE%BB%D2%B0%C2%B3%AD%A1%A1-%B1%CA%CC%BF%C0%FE-%A1%D7>

永「ながい」 命

「永」 解字：象形。川の本流から分かれている支流の形にかたどる。支流のある長い草の意。ひいて、「ながい」意に用いる。 <http://shoukei.blog65.fc2.com/blog-entry-94.html>

>西は衆夷（熊襲、隼人などか）を服すること66国。 ... 雄略天皇は吉備・播磨・伊勢を始め、中部・関東地方にも東征していますので、記録には残されていませんが、当時既にディアスポラ（強制分散移住）を用いていた可能性は有ると思われます ... <http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1302>

>ディアスポラ（強制分散移住）を用いていた可能性は有ると思われます。

隼人研究者としては、沖縄のゴホウラを運ぶのは、隼人、是は森浩一先生の説。鵜飼は 長江上流の蜀由来で吉野の阿多族すなわち隼人の裔も鵜飼をする民、これは早大の 古賀先生の説。 土井が浜にはゴホウラ貝と鵜が出てくる。 この弥生人は隼人と関係が ... <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/keijiban13.htm>

この弥生人は隼人と関係があるのでしょうかね。

先般、放送大学で鳥取の砂丘の話が出ていました。

弥生時代はこの地も草原であった。中世から砂丘が発達したそうです。

土井が浜と鳥取砂丘は大分離れていますが、同じ山陰の日本海沿いということで、土居が浜も昔は緑の地であったのではありませんか。

サハラ砂漠だって、ゴビ砂漠だって昔は緑の時代があった。

アマゾンも今は緑の地、焼畑が進めば来世紀は砂漠化するといわれていますものね・・・

土井ヶ浜遺跡は、山口県の日本海、響灘に面する海岸沿いにある約2300～2000年前の弥生時代の埋葬遺跡です。... <http://www.iokikai.or.jp/kodai.doigahama.html>

土井ヶ浜遺跡での埋葬方法には、①遺体を入れるための穴を掘るだけの土壙墓、②やや大きな板石を箱型に組み遺体を収納する石棺墓、③遺体の周囲や両側あるいは一部を石で囲った配石（石囲）墓、④遺体の四隅に石を配置する墓などがある。北九州のような甕棺墓はない。この違いは渡来系弥生人のルーツの違いと見られている。土井ヶ浜弥生人は大陸辺縁部から、北部九州の甕棺墓の弥生人は中国大陸内陸部にそのルーツがあるようだ。

④遺体の四隅に石を配置する墓

四隅に白い石柱が立っています。... <http://www1.ocn.ne.jp/~koinonia/john/ch01/04intro4.htm>

ヨハネ福音書が書かれる＜以前の＞ヨハネ共同体には、深刻な内部分裂はまだ見られません。論争は共同体と外部のユダヤ教徒との間で行なわれたからです。したがって、ユダヤ教との論争はヨハネ福音書執筆以前の時期にすでに始まっていたことになります〔Brown. The Community of the Beloved Disciple. 56.〕。共同体のメンバーもユダヤ系がほとんどで、ヨハネ共同体に多くの異邦人キリスト教徒が参入してくるのは、エフェソに移住した後のことです。

エフェソでの場所は特定できませんが、現在のトルコのセルチュク郊外にあるエフェソの遺跡には、中心にケルススの図書館跡があり、そこから直線距離で北東に2キロほどのところにアヤスルクの丘があります。その丘に、壮麗な聖ヨハネ大聖堂の遺跡があります。遺跡の内部に白い石が一段高く正方形に敷かれていて、四隅に白い石柱が立っています。その石畳には「聖ヨハネの墓」と記された札が置かれていて、その正方形の敷石の下に聖ヨハネの墓があります。その墓を中心に彼の弟子5人の小さな墓が十字架の型に配置されているとガイドブックに記されています〔Naki Keskin. Ephesus. Translated into English by Anita Gillette. Keskin Color Kartpostalcilik A.S. 9-10.〕。

この大聖堂は、6世紀に、ユスティニアヌス帝とその後テオドラによって建てられました。そこで2世紀後半の貨幣が発掘されていますから、この墓は、2世紀にはキリスト教徒の巡礼の場所であったことが分かります。墓の側には、巡礼に訪れた人たちのための聖なる井戸の跡があり、これらの遺跡から判断すると、おそらくここが、かつてヨハネ共同体が礼拝を行っていた場所だと推定できましょう。そうだとすれば、ヨハネ共同体の礼拝は、エフェソの市街からかなり離れた静かな丘の上で行なわれていたことになります。

「地の民」

しかし、ファリサイ派の基準に照らす民が救われ、その他の者は救いから＜漏れる＞のなら、「地の民」は1世紀のユダヤ人の大多数を含むことになりますから、彼らがすべて契約から＜除外される＞と見るのは实际的でないでしょう。だから、ラビ的な律法解釈に照らして除外される者を除くなら、

「地の民」にも「寛容と赦し」が用意されていました。

旧約聖書では、神との契約を守り続けた「残りの者」から預言者が出て、民を悔い改めに導いたとありますから、クムラン宗団は、自分たちこそ「真のイスラエル」であり、「残りの者」だと定義しました。だから、異教徒／異邦人を厳しく排除したのです。ところが、ユダヤ人キリスト教徒は、自分たちこそ真のイスラエルであり「残りの者」であると見なし、自分たちこそが終末に救われる者を「体现」するという自己理解に立っていました。しかも彼らは、この自己理解と同時に、異邦人キリスト教徒をも受け容れたのです。だから彼らキリスト教徒は、反ファリサイ的ではあったけれども、反ユダヤ主義ではなかったのです。ファリサイ派はこれに対抗して、自分たちこそ真のイスラエルであるという自負のもとに、ユダヤ人キリスト教徒は旧約の契約から断絶されていると見なしたのです〔Keener, John (1) 201.〕。

律法に関して言えば、ユダヤ人キリスト教徒は、キリストこそ律法の成就者であると主張します。他方ファリサイ派のほうは、神との契約を遵守するラビと、これを知らない「地の民」、この二つを区別するラインこそが救いを分ける境界だと強調します。こうして、キリスト教のエクレスシアとユダヤ教の会堂とは、「神の民」とは何か？をめぐって相対立することになります。だからこの問題が、ファリサイ派とユダヤ人キリスト教徒との間の緊急な課題になったのです〔Keener, John (1) 201.〕。

アジアのユダヤ教とキリスト教徒

キリスト教に対する弾圧は、90年代に新たな段階を迎えます。ローマ皇帝ドミティアヌス（在位81～96年）は、己が「主であり神である」と称して皇帝崇拝を強要し、これがキリスト教への弾圧につながったからです。ヨハネ黙示録13章18節にでてくる「獣の数字666」とは、この皇帝の称号を記号化したという説があります。ただし、この弾圧が行なわれたのは彼の治世の末期（95年頃）のことで、それも組織的な弾圧ではなく地域によって差がある散発的なものだったと考えられます。この時期のキリスト教を外から見れば、ユダヤ教との区別がまだ明確ではなく、このためにローマ側も、キリスト教徒をどのように扱うべきかよく分からなかったようです。なおこの時期は、ヨハネ福音書が書かれた90年代ですから、共同体がエフェソへ移住していた頃になります。

エルサレム滅亡以後のローマの支配下では、ユダヤ戦争以前に認められていたユダヤの神殿税は、皇帝に捧げた社と異教の神殿の維持にまわされました。ドミティアヌス帝は、さらに、異邦人からユダヤ教に改宗した者、割礼を受けていないがユダヤ教を敬う「敬神の異邦人」にもこの税制を適用しました。これは、異邦人からユダヤ教への参入を阻止するねらいがあったからです。アジアのユダヤ教の会堂には、大量の異邦人の改宗者や敬神者たちがいましたから、このような税制はユダヤ教の指導層を困惑させたに違いありません。だから、ラビたちは、ユダヤ教内部の「やっかい者」や、キリスト教徒を含む「メシア主義者」を厳しく取り締まらざるを得なかったのです。

イエスこそ「ユダヤ人の王」であるというキリスト教の主張は、このようなユダヤ教側の処置に対抗するためだったのかもしれませんが。ドミティアヌス帝は、「王の死」を預言する占星術者を厳しく罰しましたから、ヨハネ福音書の預言者的で王権的キリスト論は、ローマとキリスト教との板挟みになったユダヤ教の指導層には大きな脅威だったことでしょう。ユダヤ教徒は皇帝崇拝に参加することを免除されていました。このために、少なからぬ異邦人たちが皇帝崇拝からの免除をユダヤ教に求めてきたようです。こういう状況の中で、ユダヤ教の指導者たちは、カリスマ的な預言活動にいかに対応するかが迫られていたのです。

アジアのディアスポラ

1世紀頃のローマ帝国内で、「ディアスポラ」と呼ばれる離散のユダヤ人たちが住んでいた地域は、

ごくおおざっぱに見て、チグリスとユーフラテス河のメソポタミアの地域と、現在の小アジアの西方と、現在のギリシアのコリントスを中心にする地域と、エジプトのナイル川流域でした。その数は、パレスチナに250万、エジプト、シリア、小アジアにそれぞれ100万、メソポタミアに100万ほどで、合計すると750万に達します〔大澤武男『ユダヤ人とローマ帝国』講談社現代新書（2001年）60～62頁〕。ちなみに1世紀半ばのローマ市内には4万人近いユダヤ人が住んでいたようです〔大澤前掲書62頁〕。

ユダヤのハスモン朝は、ギリシア系のセレウコス朝の支配下にある時代、その圧迫を逃れるために伝統的にローマと同盟関係を結んでいました。また小アジアのポントスの王ミトリダテスがローマに反旗を翻した時（前88～85年）、ギリシアの諸都市が王に味方した際に、小アジアのユダヤ人はローマ側に付いたのです。このために、アジアのユダヤ人に兵役免除などの特権が与えられました。ローマの元老院でカエサルが暗殺された後、甥のオクタウィアヌスがアントニウスと結んで、元老院のブルートゥスとカッシウスの同盟軍とフィリピで闘い、オクタウィアヌス側がカッシウス側を破りました（前42年）。この際にも、タルソスを始め小アジアのユダヤ人は、初代皇帝となるオクタウィアヌスの側についたのです。このために、カッシウスから手痛い復讐を受けたものの、その代わりこの初代皇帝から、多くのユダヤ人にローマの市民権が与えられ、会堂保有の保証やユダヤ人内の裁判権や安息日の認可などの特権が授与されました〔アラン・ドゥコー『聖パウロ』奈須瑛子訳。女子パウロ会（2006年）18～21頁〕。

このように、小アジアのユダヤ人たちはその地位と自由に比較的恵まれていました。アジア州のスマイルナの東方にあるサルデイスでは、地域の裕福なユダヤ人たちが町の中心地に立派な会堂を持っていました。今に遺るその会堂跡は、市場の通路よりも一段高い場所にあり、立派な体育館と隣接しています。またエフェソの劇場の座席は、座席の中央部の下段を中心に半円形に広がっていて、要（かなめ）となる中心の座席は、総督など行政の最高権力者のためのものでした。この中心部に近い座席に、「神を敬うユダヤ人の席」と刻まれた座席が現在も遺っていて、当時のエフェソの裕福なユダヤ人が、社会の上層を占めていたことを示しています。アジアの地方行政とユダヤ人とのこの関係は、ヨハネ共同体とユダヤ教の会堂との関係を知る上で見逃すことができません。

このようなユダヤ教と帝国との関係から判断すると、パレスチナのユダヤ人による帝国への反乱は、アジアの裕福な離散のユダヤ人に、彼らの立場へ悪影響を及ぼしかねない深刻な懸念をもたらしたと思われます。だからアジアのユダヤ人たちは、黙示的なメシア運動には用心深かったのです〔Keener, John (1) 176-77.〕。

公認ユダヤ教とキリスト教徒

ネロ帝（在位54～68年）によるキリスト教徒への迫害は、キリスト教と「帝国公認の」ユダヤ教とを区分する最初のきっかけになったと言えます。公認のユダヤ教から「離反した」と見なされた場合、キリスト教は、皇帝崇拝への強要を免れることができなくなります。トラヤヌス帝によるキリスト教徒への散発的な迫害に続いて、ネルヴァ帝（在位98～117年）までのローマ帝国は、ユダヤ人を人種的に扱うよりも、むしろ宗教的な側面でユダヤ教徒として扱っていました。

2世紀前半までのローマ帝国は、キリスト教徒を皇帝に対する「反逆者」としてではなく、一般の「犯罪人」として扱ったようです。使徒言行録で、ルカはイエスの弟子たちと古代イスラエルの宗教との継続を強調していますが、これは、当時置かれていたアジアのキリスト教という観点から見れば、そこにルカの興味深い意図を読み取ることができます。

一般の離散のユダヤ人がキリスト教徒を直接迫害したとは思えません。しかし彼らは、キリスト教徒が帝国に忠実でないことを知った場合には、自分たちの保身のために、そのキリスト教徒をローマの官憲に引き渡すことがあったと推定されます。アジアでは、皇帝崇拝がかなり早い時期に始まりました。ティベリウス帝（在位14～37年）は、初代皇帝アウグストゥスに倣って、その死後に神格

化されましたが、アジアでは、皇帝は、その生前から神性を帯びていました。だから、ヨハネ黙示録 1～3 章にでてくる諸教会の地域、すなわちアジア州一帯では、皇帝崇拜が強要されていて、エフェソはそのような都市の典型だったのです〔Keener, John (1) 178.〕。今に遺るエフェソの遺跡には、ケルスの図書館からまっすぐ伸びるクレテス通りに沿って、ハドリアヌス帝の社、トラヤヌス帝の泉、ドミティアヌス帝の社などが跡を留めています。

だから、アジアに限って見るなら、ドミティアヌス帝によるキリスト教徒への 1 世紀末の圧迫は並々ならぬものがあつたでしょう。ユダヤ教という公認宗教から一度（ひとたび）外されたなら、皇帝崇拜を拒否したキリスト教徒に対する圧力はすさまじいものがあつたのは想像に難くありません。これに対して、例えばマタイ福音書の教会は、パレスチナに近いシリアのアンティオキアにありましたから、アンティオキアの主教イグナティオス（35 頃～107／117 年）の殉教のような特異な例を除くなら、このような圧力に曝されることはなつたと思われまゝす〔Keener, John (1) 179.〕。

このように、アジア州でのヨハネ共同体は、その他のユダヤ教のカリスマ運動共々に、当時のアジアのユダヤ人共同体の安全を脅かすものと見なされたようです。だから、ユダヤの会堂は、ユダヤ教徒やユダヤ人キリスト教徒の預言運動に対して過敏な懸念を抱いていたのです。中でもヨハネ共同体の抱く高度なキリスト観は、皇帝とこの世の秩序に反感を抱くものと見られたのでしょう。

ユダヤ教徒もユダヤ人キリスト教徒も、異教世界からある程度分離していましたが、それでも彼らの預言スタイルには、異教的な預言スタイルの影響を認めることができます。ローマ帝国への神の裁きを預言する際にも、その預言スタイルは、ヘレニズム化したユダヤ教から生じましたから、意図せずしてギリシア的な傾向を帯びていました。このために、ユダヤ人キリスト教徒もキリスト教への改宗異邦人も、例えばティアティラのイゼベルを真似たのでしょう（ヨハネ黙示録 2 章 20 節）。イゼベルのような預言者は、キリスト教に反対するユダヤ教徒やローマ側にまわったために、新約聖書で「大淫婦」の側に与することになったのです（ヨハネ黙示録 17 章 1～15 節／18 章 3 節）。コロサイ人への手紙（2 章 16～23 節）やガラテヤ人への手紙（1 章 8 節／4 章 9～10 節）もまた、アジアでのこのような混淆宗教の存在を証ししています。ただし、アジアにおける混淆やエクスタシー的なヴィジョンは、その程度や性格において多種多様で、ほとんど都市ごとに異なっていたとさえ言えるほどです。

こういう状況の中で、アジアでのヨハネ共同体は、ユダヤ教側から攻撃に曝されるだけでなく、周囲のヘレニズム世界からも敵視される傾向があつたのです。アジアにおけるユダヤ教の会堂がキリスト教徒に向ける拒否は、事情が異なるとは言えパレスチナに比して劣るところがなかったと言えます。非正統的ユダヤ教の中でも、キリスト教徒は、キリストが救いの唯一の道であると公言する（ヨハネ 14 章 6 節）セクトだったからです。この対立の起源は、イエスとファリサイ派との対立に求めるべきでしょう。イエスは、彼以後のキリスト教徒に劣らず反体制的だったからです。ただし、2 世紀の終わり頃までは、キリスト教に対するユダヤ教の対応は、他のユダヤ教内の異端への対応に比べると、必ずしも一貫性があつたわけではありません。

会堂とキリスト教徒

ユダヤ人キリスト教徒は 1 世紀の半ば過ぎ近くまで、会堂に留まっていたましたが（使徒 2 章 19 節／同 26 章 11 節）、エフェソにおいては、キリスト教の信者の多くが、1 世紀半ば過ぎには会堂を離れていたと思われまゝす（使徒 19 章 8～9 節）。しかし、その後も会堂内にキリスト教への同調者たちが現われたと推定されます。とすれば、当然、会堂内には分裂が生じたでしょう（ヨハネ黙示録 2 章 9 節／同 3 章 8～9 節）。パレスチナでは 2 世紀に入ってから、ユダヤ人キリスト教徒が、ユダヤ教との連帯を保とうとして会堂に留まろうとしていた形跡があります。離散のユダヤ人の場合も、同様の者たちがいたと思われまゝすが、パレスチナ以外の地域ではその実態が多様でよく分かりません。

「イエスが受けた迫害が、弟子たちに及ぶ」という出来事は、イエスの真正な言葉に由来するもの

ですが（ヨハネ5章18～21節／ルカ6章22節）、異端者への呪いを祈る18祈願も同様でした。ただし、この祈りがあらゆる会堂で一様に実行されたとは考えられません。祈りを一人一人が声に出して唱えたのか、一斉に朗唱したかも確かではありません。しかし、離散のユダヤ人の会堂でもヤブネ並みの呪いが祈られたのは、かなり早かったと思われます〔Keener, John (1) 209.〕。

ヤブネは、統一したハラカーを制定することで、密かなキリスト教徒をあぶり出そうとしました。離散のユダヤ人の会堂でも、パレスチナのヤブネのモデルに従おうとしたでしょう。このような状況が、少なくともヨハネ共同体の周辺で生じていたのは確かです。サタンが、「神の民」からクリスチャンを追い出そうとしたのです(黙示録3章8～9節)。

「異端者への呪い」はヨハネ福音書が書かれる以前に起こったと考えられますから、この祈願と、これによって生じた会堂からのキリスト教徒の追放が、ヨハネ福音書に直接反映しているとは見るのは憶説でしょう。祈願とヨハネ福音書のテキストとの間に直接の関係は見いだせないからです。ヨハネ7章49節／同9章28節も、そうだと思えばそうのように読める程度です。パレスチナでの「呪いの祈願」は80年代のことです。これらの呪いは、直接キリスト教徒を追放する目的ではなかったにせよ、ユダヤ人キリスト教徒を居づらくして、会堂から去らせる効果があったでしょう。ヤブネに始まるこの祈願は、東地中海圏の会堂全体に広がった形跡があります。ただし、アジアの諸会堂がどこまでヤブネ（ヤムニア）のモデルに従ったのか確かではありません。パレスチナのラビたちは、理論上は、律法がパレスチナにおいても離散の地域においても同じだと決めていましたが〔Keener, John (1) 212.〕、この祈りがあらゆる地域で実行されたとは考えられません。離散のユダヤ人は、必ずしもユダヤ式の儀礼に固執しなかったからです。

しかし、アジアの地方行政は、皇帝崇拜を含む地方の宗教行事からユダヤ教徒を免除する点では、パレスチナに比してより厳しい措置をとっていました。だから、皇帝崇拜への免除が与えられるユダヤ教徒も、より厳しく限定されていたと思われます。会堂からの追放は、公式に、あるいは非公式に、局地的に、あるいは全面的に起こったはずですが、実態は明らかではありません。どちらにせよ、追放は直ちにこの免除の特権を失うことを意味しましたから、ユダヤ人キリスト教徒とユダヤ教徒との間に深刻な亀裂が生じたと思われます〔Keener, John (1) 213-14.〕。

ヨハネ福音書とヘレニズム

ユダヤ人キリスト教徒はヨハネ共同体の核を形成していましたから、共同体の異邦人キリスト教徒は、自分たちがユダヤ教的な信仰へ改宗したことを十分理解していたでしょう。ヨハネ福音書のヘレニズム的特徴は、ユダヤ教の影響を抜きに理解できません。もっとも、その「ユダヤ教」は、パレスチナ特有のユダヤ教と言うより、パレスチナも離散のユダヤ人も両方を含めた「ユダヤ教」のことです。

この時期ユダヤ教はヘレニズム化していましたから、神殿崩壊から20年も経つと、異邦人キリスト教徒同様に、離散のユダヤ人向けにもパレスチナ的用語の説明が必要だったでしょう。例えば「ラビ」（ヨハネ1章38節）の説明は、マタイ福音書の聴衆には必要なかったでしょう。「メシア」（ヨハネ1章41節）は、離散のユダヤ人でも全員が理解できたでしょうが、異邦人キリスト教徒には説明が必要だったのです。ギリシア語の「キリスト」でなく、セム語の「メシア」がそのままてくるのは、新約聖書中でヨハネ福音書だけです（1章41節／4章25節）。

ギリシア・ローマの古典について言えば、例えばサルディスの上流のユダヤ人の間では、ホメーロスからの引用も理解できたでしょう。しかし、ヨハネ福音書は、ルカ系の文書ほど（使徒17章28節）古典的な世界を反映していません。この福音書は標準的なヘレニズム世界のユダヤ人に宛てられているからです。ヘレニズムの哲学を代表するストア哲学は、ヨハネ福音書の読者が置かれたヘレニズム世界の背景として認められるものの、この福音書には、直接に当時のストア哲学を反映している箇所はありません。この点でパウロ書簡とは異なっています〔Keener, John (1) 157-58.〕。

ユダヤのヘレニズム化とはむしろ逆に、ヘレニズムそのものはユダヤ化していませんでした。「ユダヤの神観」として広く知られていた「目に見えぬ唯一神」を除くなら、ユダヤ思想はヘレニズムに直接影響を与えていたとは言えません。ユダヤ教に対する理解度は、ヘレニズム世界の地域によって差がありましたが、1世紀末のアジア州の異邦人キリスト教徒なら、改宗の前も後も、ヨハネ福音書のユダヤ思想にそれほど違和感を覚えることがなかったと思われます〔Keener, John (1) 155-56.〕。もっとも、ヨハネ2章6節／7章37～39節は、ユダヤ的な理解なしにはありえないものです〔Keener, John (1) 172-73.〕。またヨハネ福音書のイエスは、共観福音書に比べると「ユダヤ的な」メシアの特徴を帯びています〔Keener, John (1) 174.〕。

使徒的な教会を含むキリスト教徒の諸教会が、東地中海圏に国際的な広がりを見せる中で、ヨハネ共同体は、ヨハネ福音書の「高度なキリスト」観を諸教会全体に実現しようとしています。主イエスこそ「イスラエルの王」であり、この王に導かれた「霊によるイスラエルの民」こそが、全世界を「唯一の神の真理」へ導く歴史的役割を担っていると自覚していたからです。だから、異邦人キリスト教徒も、この「ユダヤ的な」運動に参加することになります。ヘレニズム世界を表わす「この世」に向けてユダヤ的な見方を擁護すること、これが異邦人キリスト教徒の役目であったとすれば、この点で、ヨハネ福音書はマタイ福音書に最も近くなります〔Keener, John (1) 175.〕。だから、キリスト教のヘレニズム世界への拡大に伴って、ユダヤのヘレニズム化が進んだのではなく、逆にヘレニズムのユダヤ化が始まったと見ることができます。

ヨハネ共同体と異邦人キリスト教徒

すでにエフェソ人への手紙において、ユダヤ人キリスト教徒と異邦人キリスト教徒との融合が語られ奨励されているように、ヨハネ共同体でも、ユダヤ人キリスト教徒と異邦人キリスト教徒の融合が語られたでしょう。しかし、ヨハネ共同体では、異邦人キリスト教徒は、自分たちがイスラエルの「残りの者」と共にいることを、より強く自覚させられたに違いありません。

「メシア」や「ラビ」がギリシア語で説明されているという理由で、ヨハネ福音書が異邦人キリスト教徒向けであることを強調する説があります。しかし、離散のユダヤ人のほとんどは、ヘブライ語もアラム語も理解できなかったのです。50年頃のローマのユダヤ人キリスト教徒は、「メシア」ではなくギリシア語の「キリストス」を用いていたことが、クラウディウス帝のユダヤ人追放事件でも理解できます。ヨハネ福音書でも、ギリシア人に言及している箇所がありますが（7章35節／12章20節）、これは、異邦人を受け容れるように奨励する意図があったからでしょう。ヨハネ共同体内では、異邦人キリスト教徒は多数派ではありませんが、彼らはおそらく、ユダヤ教の会堂に属する異邦人と同様に「神を畏れる異邦人」か、これに近い人たちだったのでしょう〔Keener, John (1) 158-159.〕。

ヨハネ福音書と仏教

仏教の伝来について言えば、ヨハネ福音書3章のイエスとニコデモとの対話には、仏教の輪廻転生思想が表われているという説があります〔Gruber and Kersten. The Original Jesus: The Buddhist Sources of Christianity. English translation. Element (1995). 90-91.〕。この見解は、ヨハネ福音書の知恵思想に注目するところから生じているのでしょう。この説を不可能だと断定することはできないまでも、ヨハネ福音書と仏教との直接の関わりは認められません。ヘレニズム世界と仏教との関わりの中で可能だという意味です。また、ヘレニズム世界の神秘主義もユダヤの知恵思想に入り込んでいた形跡がありますが、この神秘主義も、ヨハネ福音書の背景として間接的に見るのができるだけです〔Keener, John (1) 159-61. 参照〕。

ヨハネ福音書のユダヤ的特徴

近年の傾向として、最初期のユダヤ人キリスト教徒へ注意が向けられるにしたがって、福音書をヘレニズム世界から見る視点が後退し、イエスの思考もユダヤ的だと見なされるようになりました。ヨハ

ネ福音書のヘレニズム的特徴さえも、パレスチナの風土から見直されました。1970年代半ばで、ヨハネ福音書の世界は完全にユダヤ的だと見なされるにいたったのです。これは死海文書による影響が大きかったと言えます。ヨハネ共同体にはエッセネ派がいたと言われたのもこの時期です。ギリシア・ローマ世界に精通した学者までもが、最初期のキリスト教文書にユダヤ的な要素を見出していた頃です。ヨハネ福音書はアジアのギリシア人のために書かれたと唱えたラムゼイでさえ、パレスチナ的な風土の理解なしにはヨハネ福音書を理解できないと考えました〔Keener, John (1) 171-172.〕。

ヨハネ福音書の旧約からの引用は、ヘブライ語原典と七十人訳に基づいていますが、直接引用するのではなく、内容を汲んだものが多いようです。このような引用の仕方は、ヘブライ語聖書の知識、あるいはパレスチナの伝統を知っている者によるものです。出エジプトのモーセとイエスとのタイポロジー（予型・対型）関係やイザヤ書からの引用など、ユダヤ的思想風土においてのみ理解できる解釈も見られます。

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013年10月26日(土)23時03分29秒 返信・引用

> No.1819[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

> ユダヤ人は中近東ですな。「彼ら(隼人の先祖)が日本人ではなくユダヤ人だと考えれば・・・」

> どの様に中近東のユダヤ人が日本に来たかが謎ですな。

>

>> ユダヤ人はエジプト軍が海に呑み込まれることで、奴隷の状態から逃れることができ しかしここでも、彼ら(隼人の先祖)が日本人ではなくユダヤ人だと考えれば、完全に納得 れるのを喜ぶ理由を説明できない。http://books.google.co.jp/books?id=3I0aHAoIK3YC&pg=PA80&lpg=PA80&dq=%E3%82%A8%E3%82%B8%E3%83%97%E3%83%88+%E9%9A%BC%E4%BA%BA&source=bl&ots=_trd0Iqezd&sig=zBn3hgKITwhzhDLNGvFqFmuZDcQ#v=onepage&q=%E3%82%A8%E3%82%B8%E3%83%97%E3%83%88%20%E9%9A%BC%E4%BA%BA&f=false

>>

ちょっと多忙で返信できませんでしたが、古代日本・ユダヤ人研究会というもの作ってもいいかもしれませんね。

補陀落渡海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 26 日(土)12 時 14 分 58 秒 返信・引用 編集済

補陀落渡海の補陀落は行基が行った五台山(中国)。

説明する。秦野北斗著書(徐福と邪馬台国)魏志倭人伝の行程に侏儒國があるな。

侏儒國は高知に当たる。「五台山」命名者は行基になる。著書の航路をたどれば中国山西省東北部の五台县、五台山 (中国)が浮かびあがるな。

魏志倭人伝から補陀落渡海だが航海は 1 年を要するのだ、小型の木造船では自殺行為だな。

補陀落渡海

この行為の基本的な形態は、南方に臨む海岸に渡海船と呼ばれる小型の木造船を浮かべて行者が乗り込み、そのまま沖に出るというものである。その後、伴走船が沖まで曳航し、綱を切って見送る。場合によってはさらに 108 の石を身体に巻き付けて、行者の生還を防止する。ただし江戸時代には、既に死んでいる人物の遺体（補陀洛山寺の住職の事例が知られている）を渡海船に乗せて水葬で葬るという形に変化する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A3%9C%E9%99%80%E8%90%BD%E6%B8%A1%E6%B5%B7>

五台山 (中国)

五台山（ごだいさん）は、中国山西省東北部の五台县にある古来からの靈山である。標高 3,058m。仏教では、文殊菩薩の聖地として、古くから信仰を集めている。旧字表記では、五臺山。別名は、清涼山。2009 年にユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録された。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%8F%B0%E5%B1%B1_\(%E4%B8%AD%E5%9B%BD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%8F%B0%E5%B1%B1_(%E4%B8%AD%E5%9B%BD))

五台山 (高知市)

高知市街地から国分川を越えた東に位置する。地形が五台山 (中国)に似ていることから、これに肖って「五台山」と命名された。命名者は行基だと言われている。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%8F%B0%E5%B1%B1_\(%E9%AB%98%E7%9F%A5%E5%B8%82\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%8F%B0%E5%B1%B1_(%E9%AB%98%E7%9F%A5%E5%B8%82))

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 25 日(金)22 時 41 分 26 秒

返信・引用

> No.1818[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

ユダヤ人は中近東ですな。「彼ら(隼人の先祖)が日本人ではなくユダヤ人だと考えれば・・・」
どの様に中近東のユダヤ人が日本に来たかが謎ですな。

> ユダヤ人はエジプト軍が海に呑み込まれることで、奴隷の状態から逃れることができ しかしここでも、彼ら(隼人の先祖)が日本人ではなくユダヤ人だと考えれば、完全に納得 れるのを喜ぶ理由を説明できない。http://books.google.co.jp/books?id=3I0aHAoIK3YC&pg=PA80&lpg=PA80&dq=%E3%82%A8%E3%82%B8%E3%83%97%E3%83%88+%E9%9A%BC%E4%BA%BA&source=bl&ots=_trd0Iqezd&sig=zBn3hgKITwhzhDLNGvFqFmuZDcQ#v=onepage&q=%E3%82%A8%E3%82%B8%E3%83%97%E3%83%88%20%E9%9A%BC%E4%BA%BA&f=false

>

> エジプト神話やシュメール文明以降の西アジアの歴史を取り入れた部分 がある。

http://www010.upp.so-net.ne.jp/fruit-1/omoi_01.html

> 古事記の編纂者は、イッソスが地名であるとは知らず、人名であると誤解したものと思われる。北アフリカのエジプトは、北九州になってしまっている。

> 神武天皇が北九州に入ると、その地の住民はこれを歓迎する。エジプト勢は、アレクサンドロス以下のマケドニア・ギリシア同盟軍をペルシア帝国からの解放軍として受け入れる。アレクサンドロス大王は、ここで民心をつかみ、ファラオ（エジプト王）に即位し、「太陽神アモンの子」と呼ばれる。五瀬命は、日の神の御子である。

> 神武天皇は、中国地方を渡り歩き、速吸門（潮流の速い海峡）で亀の甲に乗った人物に出会う。アレクサンドロス大王は、エジプトを出発してメソポタミアに入り、チグリス川を渡ったところで、再度ペルシア軍と会戦する。この会戦は、ガウガメラの戦いと呼ばれている。亀の甲に乗った者と出会うという表現は、ガウガメラという地名から来ているのであろう。ここでも、地名を人物名と混同している。

>

Re: 家形石棺 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 10 月 25 日(金)22 時 18 分 44 秒

返信・引用

管理人さんへのお返事です。

>

> 鷹の件はあるいは・・・の可能性はあります。阿蘇周辺調べていくのはよいアイデアだと思いますね。

>

>

肉食の掟 猛禽類 と鳩 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

『ラーは太陽神であり、古代エジプト人は太陽の昇り沈みとともにラー自体も変形すると考えた。日の出のときはタマオシコガネ(フンコロガシ)の姿のケプリとして現れ、日中はハヤブサの姿をして天を舞い、夜は雄羊の姿で夜の船に乗り死の世界(夜)を旅するとされている。これは太陽の動きを神格化したものであるとされている』

とあった。 ⇒『太陽の船』でなく『夜の船』 トアル。

『日中は「ハヤブサ」の姿で「天を舞う」とする「日神」』の信仰者があった！！ ノダ。

《ナラバ！！ 鹿児島県教育委員会は、『太陽神の信奉者「隼人」』<http://yatusiro.cocolog-nifty.com/blog/2009/12/index.html>

とする方が「蛮族」とするより ”教育的”ではないか ???》

ユダヤ人はエジプト軍が海に呑み込まれることで、奴隷の状態から逃れることができ しかしここでも、彼ら(隼人の先祖)が日本人ではなくユダヤ人だと考えれば、完全に納得 れるのを喜ぶ理由を説明できない。http://books.google.co.jp/books?id=3I0aHAoIK3YC&pg=PA80&lpg=PA80&dq=%E3%82%A8%E3%82%B8%E3%83%97%E3%83%88+%E9%9A%BC%E4%BA%BA&source=bl&ots=_trd0Iqezd&sig=zBn3hgKITwhzhDLNGvFqFmuZDcQ#v=onepage&q=%E3%82%A8%E3%82%B8%E3%83%97%E3%83%88%20%E9%9A%BC%E4%BA%BA&f=false

エジプト神話やシュメール文明以降の西アジアの歴史を取り入れた部分 がある。

http://www010.upp.so-net.ne.jp/fruit-1/omoi_01.html

古事記の編纂者は、イッソスが地名であるとは知らず、人名であると誤解したものと思われる。北アフリカのエジプトは、北九州になってしまっている。

神武天皇が北九州に入ると、その地の住民はこれを歓迎する。エジプト勢は、アレクサンドロス以下のマケドニア・ギリシア同盟軍をペルシア帝国からの解放軍として受け入れる。アレクサンドロス大王は、ここで民心をつかみ、ファラオ（エジプト王）に即位し、「太陽神アモンの子」と呼ばれる。五瀬命は、日の神の御子である。

神武天皇は、中国地方を渡り歩き、速吸門（潮流の速い海峡）で亀の甲に乗った人物に出会う。アレクサンドロス大王は、エジプトを出発してメソポタミアに入り、チグリス川を渡ったところで、再度ペルシア軍と会戦する。この会戦は、ガウガメラの戦いと呼ばれている。亀の甲に乗った者と出会うという表現は、ガウガメラという地名から来ているのであろう。ここでも、地名を人物名と混同している。

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 23 日(水)23 時 03 分 43 秒

返信・引用

> No.1815[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

ヨーロッパの紋章に鷲が多く見られるな。

アメリカの白頭鷲はヨーロッパの名残だな。

>

> 秦氏は、蘇我氏と一緒に秦韓からやってきた集団でしょう。

> 欽明と血縁関係にあります。吉士や新漢人等と同時代にやってくるわけですね。

>

> 鷹の件はあるいは・・・の可能性はあります。阿蘇周辺調べていくのはよいアイデアだと思いますね。

>

>

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 23 日(水)23 時 01 分 11 秒 返信・引用

> No.1814[元記事へ]

まれびとさんへのお返事です。

まあ、いろんな説がありあすな。

弓月君は月氏で匈奴になるな。

この説の糸口は魏志倭人伝の解説する事で理解できる。

秦野著書：徐福と邪馬台国 で古代 220 年の韓半島の全景が浮かび上がらせた。

今、古事記を解説している所ですな。

できれば、まれびとさんの地元の祭りを紹介して頂ければ嬉しいですな。

>

> 忌部氏の祖は天日鷲で、その鷲は、古代シュメールの女神ニンフルサグ(イムドゥグドゥフ)であるという方もいらっしゃいます。

>

> 『「魏志倭人伝」 里程記事について 最終章 03(完)』〔飛鷹満随想録〕

> http://blog.goo.ne.jp/sophia_h/e/17a05b7e78a8ac9b94fad90ad327cec9

>

> 『文集：オリエント幻想(2)』

> <http://www2s.biglobe.ne.jp/~ipsenon/kk2.html>

>

> このオリエント幻想様にて、ニンフルサグの使いが鹿であるとありますが、鹿島神社等に鹿がいるのは対応性があるのでしょうか？

> 扶余も鹿を神の使いと考えていただとか、

> 鹿は角が七枝の世界樹やメノラーを隠喩するだとか、

> 新羅王だったかの冠の装飾にも世界樹の意匠が施されていたとか、

> そういった事を思い出します。

>

> 阿蘇の豪族やら鷹の羽紋を用いる菊池氏も、何れは筑紫君の末裔であり、

> 筑紫君は阿波忌部氏と同祖とどこかで目にした覚えがあります。

>

>

> 『三日月王国(クルジャ)』〔この世は謎だらけ〕

> <http://ameblo.jp/tsukimoto2011/entry-11497856138.html>

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 10 月 23 日(水)22 時 56 分 18 秒 返信・引用

> No.1811[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>

> 秦氏、はて、秦氏の起こりを知りたいが中国五胡十六国時代では・・・年代が新しい。

> まだ、まだ、ですな。結論は「イザナギ」の末裔ですな。弓月君は末裔ですな。

>

> 弓月君は中国五胡十六国時代の羌族が興した後秦に由来する。また、羌族がチベット・ビルマ語派に属するチベット系民族であって、同言語においてハタは辺鄙の土地、ウズは第一、キは長官を意味す

ることから、ハタのウズキとは「地方を統治する第一の長官」を意味する。同様に、マは助詞「の」、サは都を意味することから、ウズマサは「第一の都市」を指す。（田辺尚雄）

> 弓月の朝鮮語の音訓が、百済の

秦氏は、蘇我氏と一緒に秦韓からやってきた集団でしょう。

欽明と血縁関係にあります。吉士や新漢人等と同時代にやってくるわけですね。

鷹の件はあるいは・・・の可能性はあります。阿蘇周辺調べていくのはよいアイデアだと思いますね。

Re: 家形石棺 投稿者：まれびと 投稿日：2013 年 10 月 23 日(水)21 時 01 分 22 秒 返信・引用

> No.1813[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

秦野北斗先生、いつもながら私のような素人には、後にしてご尤もと解る、無償にしてご善意のご教示恐縮です。

忌部氏の祖は天日鷲で、その鷲は、古代シュメールの女神ニンフルサグ(イムドゥグドゥフ)であるという方もいらっしゃいます。

『「魏志倭人伝」 里程記事について 最終章 03(完)』〔飛鷹満随想録〕

http://blog.goo.ne.jp/sophia_h/e/17a05b7e78a8ac9b94fad90ad327cec9

『文集：オリエント幻想(2)』

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~ipsenon/kk2.html>

このオリエント幻想様にて、ニンフルサグの使いが鹿であるとありますが、鹿島神社等に鹿がいるのは対応性があるのでしょうか？

扶余も鹿を神の使いと考えていただとか、

鹿は角が七枝の世界樹やメノラーを隠喩するだとか、

新羅王だったかの冠の装飾にも世界樹の意匠が施されていたとか、

そういった事を思い出します。

阿蘇の豪族やら鷹の羽紋を用いる菊池氏も、何れは筑紫君の末裔であり、
筑紫君は阿波忌部氏と同祖とどこかで目にした覚えがあります。

『三日月王国(クルジャ)』〔この世は謎だらけ〕

<http://ameblo.jp/tsukioto2011/entry-11497856138.html>

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 22 日(火)20 時 53 分 8 秒 返信・引用

> No.1812[元記事へ]

まれびとさんへのお返事です。

「違い鷹の羽」は弓月君ですな。

使用

藤紋、片喰紋、木瓜紋、桐紋と並んで五大紋のひとつに数えることがある。江戸時代には、安芸浅野氏や備後阿部氏、下総関宿久世氏などの大名や旗本など約 120 家が鷹の羽紋を用いた。阿蘇神社が、「違い鷹の羽」を神紋として起用している影響により、南九州に多く分布している。また、武士が多く用いた紋であることから、かつて武家政権があった土地に多いのも特徴である（京都や東京、九州の太宰府など）。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B7%B9%E3%81%AE%E7%BE%BD>

>

> 『地名の一致は阿波忌部進出の名残か？⑤茨城編』

> http://blogs.yahoo.co.jp/noraneoblues/46964414.html?s=art_cmt

>

> 『酒列磯前神社』

> <http://5.pro.tok2.com/~tetsuyosie/ibaraki/hitachinaka/sakaretuiso/sakaretuiso.html>

Re: 家形石棺 投稿者：まれびと 投稿日：2013 年 10 月 22 日(火)19 時 46 分 8 秒 返信・引用

> No.1811[元記事へ]

山形県で丸に違い鷹の羽紋の岸氏なる余りにも漠然とした乏しい情報で(笑)そのルーツについて、以前にこちらでお尋ねさせていただきました。

どうやら次第に解って参りました。

福島県昭和村で麻のからむし(麻)の植栽地の開拓を始め、「岸の稲荷神社」を創建した岸氏と座間氏の関連について、

福島県昭和村の岸の稲荷神社の本社である岸町王子稲荷神社(旧名は「岸稲荷」。関東の稲荷神社総本社で東京都北区)と岸氏との関係について、

これら岸氏と武蔵・都筑・茅ヶ崎の地や菖家(花菖蒲園「武蔵園」)を巡り繋がる座間氏との関係につきましては下記を。

『カラムシ資料集 その1-008/028page』〔昭和村教育委員会〕

<http://is2.sss.fukushima-u.ac.jp/fks-db//txt/10068.101.showa/html/00008.html>

『座間の森 フラワー』

<http://www.ne.jp/asahi/zama/nobi/toppage3.htm>

更には、座間氏と佐々木氏との繋がり、その座間氏で都筑・安房など一部の座間氏が丸に(違い)鷹の羽紋を用いている事等につきましてはついでに下記を。

『座間の歴史』〔野火のコラム〕小机郷の座間氏

<http://www.ne.jp/asahi/zama/nobi/interest.htm>

佐々木氏と座間郷との繋がりにつきましては直上記リンク先文中「三つの鐘」の記事および、下記を挙げさせていただきます。

『星谷寺。座間市入谷にある真言宗大覚寺派寺院』〔猫の足あと〕

http://www.tesshow.jp/kanagawa/yamatozama/temple_iriya_shokoku.html

佐々木氏の方々は少彦名様を尊崇する沙沙貴神社の氏子になれるようですが、

上記リンク先にもありますように佐々木源氏は本流はむしろ佐々木姓ではなく土着した郷の名前にどんどん変えて行ってしまう。

本流はむしろ上記リンク等のように資料を付き合わせ点と線で浮かび上がるようにして佐々木源氏一族ですので、

私のようなのは、沙沙貴神社よりも星谷寺やら阿波山上神社や酒列磯前神社にでも行くしかありません。

むしろこちらが少彦名命様がいらっしゃる佐々木源氏や秦氏が尊崇すべき場所でしょう。

阿波忌部や秦氏、ヤタガラスや金鳥、白鷺や高皇靈産神こと徐福らやら神農やらに関係あるとされる

少彦名命様ですが、

父祖神達には彦星だとか海龍王の息子で蛇だとかはたまた鬼だとか天若日子やら迦毛大神(カモノオオカミ)やら天津甕星等諸説で、

私のような者は謎に包まれて行く一方です。

下記を見ますと少彦名様ご本人はアラハバキ信仰という事になりますね。

また少彦名命様ゆかりの地に阿波の名が付くと共に、何やら岩船神社があり、その周辺地に那珂川や那珂氏等、付き纏うナーガ族を匂わせるのが何だか知りませんが興味深いです。

茨城には他に鹿島神社や香取神社の神様でも敵わなかったという天津甕星を建葉槌で封じる大甕倭文神社やら、

鹿島神社と香取神社に挟まれて出雲神(大国主?)を封じているという神栖神社やらでナーガ族大国主様と敵対関係にあり、

しかし鹿島神社の神は蛇神様であり大国主の幸魂である大物主様の子とも云われますしその辺も興味深いです。

大国主様・少彦名命様は出雲王朝、大物主様はそれに乗っ取った三輪王朝という感じが致します。

神棚の鏡や神社のしめ縄も蛇神様の霊力による日本全体に及ぶ目や呪縛を意味しているように思いますし、

今日本は余り良い事になっていないように思いますが、これは果たしてナーガ族大国主様の呪縛のせいなのか大物主様の呪縛のせいなのか、それとも逆に大国主様や大物主様の力を封じる呪術なのでしょうか。...

『地名の一致は阿波忌部進出の名残か?⑤茨城編』

http://blogs.yahoo.co.jp/noraneoblues/46964414.html?s=art_cmt

『酒列磯前神社』

<http://5.pro.tok2.com/~tetsuyosie/ibaraki/hitachinaka/sakaretuiso/sakaretuiso.html>

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 21 日(月)19 時 30 分 20 秒
編集済

返信・引用

> No.1810[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

秦氏、はて、秦氏の起こりを知りたいが中国五胡十六国時代では・・・年代が新しい。

まだ、まだ、ですな。結論は「イザナギ」の末裔ですな。弓月君は末裔ですな。

弓月君は中国五胡十六国時代の羌族が興した後秦に由来する。また、羌族がチベット・ビルマ語派に属するチベット系民族であって、同言語においてハタは辺鄙の土地、ウズは第一、キは長官を意味することから、ハタのウズキとは「地方を統治する第一の長官」を意味する。同様に、マは助詞「の」、サは都を意味することから、ウズマサは「第一の都市」を指す。（田辺尚雄）

弓月の朝鮮語の音訓が、百済の和訓である「くだら」と同音であることにより、百済の系統とする。（笠井倭人）

秦の遺民が朝鮮半島に逃れて建てた秦韓（辰韓）の系統とする。（太田亮）

新羅系の渡来人とする見解が有力といわれる。聖徳太子に仕えた秦河勝は新羅仏教系統を信奉していた。これは蘇我氏と漢氏が百済仏教を信奉していたのと対照的である。

景教（キリスト教のネストリウス派）徒のユダヤ人とする（日ユ同祖論）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%A6%E6%B0%8F>

>

> そうすると、前者だと「イギシマ」「イザナギ」となるわけですが、後者だと「イザナキ」と読ませるのが正解。

>

> たぶん「キ」音なんですね。「イキ」が正解。そうすると南朝・呉音系で、秦氏・東漢氏らの古い時代の当て字の可能性がでてきます。

>

> 宇佐に「イチキシマヒメ」「市寸嶋比売」とかで、秦氏の本拠だと考えると納得いくような気もします。

>

>

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 10 月 16 日(水)23 時 06 分 35 秒 返信・引用

> No.1807[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 「岐」は山道で枝状にわかれたもの。何を意味するか？

>

> 巖島神社（いつくしまじんじゃ）

>

> 伊都「岐」島神社

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%B3%E5%B3%B6%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

>

> 伊都国（いとこく）

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%8A%E9%83%BD%E5%9B%BD>

>

> 巖原町（いづはらまち）

>

> 巖=伊都「岐」

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%B3%E5%8E%9F%E7%94%BA>

>

> 壱「岐」島（いきのしま）

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A3%B1%E5%B2%90%E5%B3%B6>

>

> 岐

>

> 会意形声。「山」+音符「支」、「支」は「枝」の原字で、「細かく分かれていく」の意を有する。山道で枝状にわかれたもの。

>

> <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E5%B2%90>

>

>

「岐」ですが、「キ・ギ」音ですね。キシさんの用例を見ると、後代の撰者が当て字として使ったよ

うにもみえますが、その場合、呉音なら「ギ」、漢音なら「キ」になります。

秦氏とか東漢氏とかの古い渡来系は南朝呉音系の当て字を使うんですよね。ところがそれ以後の新漢人や唐人らは漢音を使う。

そうすると、前者だと「イギシマ」「イザナギ」となるわけですが、後者だと「イザナキ」と読ませるのが正解。

たぶん「キ」音なんですね。「イキ」が正解。そうすると南朝・呉音系で、秦氏・東漢氏らの古い時代の当て字の可能性がでています。

宇佐に「イチキシマヒメ」「市寸嶋比売」とかで、秦氏の本拠だと考えると納得いくような気がします。

> 「岐」は 何を意味するか？ 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 10 月 16 日(水)14 時 31 分 56 秒
返信・引用

伊岐（いき）の島から出てくる逸脱で、伊耶那岐の神、伊耶那美の神の領域、つまり「母」というのはこの二神のこと、あるいは伊耶那岐の大神のことをさします。

<http://blogs.yahoo.co.jp/ieuo324/9970944.html>

天の守護神 アブラクサス 365 契約の神

岐 丰 (杉紋)・・・古代測量の形。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

ストーンサークル、ドルメン、メンヒル、磐座（いわくら）は皆、同じような役割

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 14 日(月)01 時 25 分 35 秒
編集済

返信・引用

> No.1802[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

「岐」は山道で枝状にわかれたもの。何を意味するか？

巖島神社（いつくしまじんじゃ）

伊都「岐」島神社

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%B3%E5%B3%B6%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

伊都国（いとこく）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%8A%E9%83%BD%E5%9B%BD>

巖原町（いづはらまち）

巖=伊都「岐」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%B3%E5%8E%9F%E7%94%BA>

壱「岐」島（いきのしま）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A3%B1%E5%B2%90%E5%B3%B6>

岐

会意形声。「山」+音符「支」、「支」は「枝」の原字で、「細かく分かれていく」の意を有する。山道で枝状にわかれたもの。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E5%B2%90>

>

> ううん、なるほど、先日の「郎」とともに、倭の「大夫」も、ただならぬ官職のようですね。秦代から武帝以前の前漢にかけて日本に渡来してきた中国系集団の官職だったのでしょうか。

>

>

> 燕時代に半島に流れ込んだ移民、穢、扶余系集団、その前漢～後漢初期にかけての南下、その延長線上にある倭の王族ですね。そこで中国系官職を引き継いでいて、それでそれらの官職を継承していたという線になるのでしょうか。あるいはそれ以前の江南弥生人が半島経由で流れ込んだ際に、受け継いだ

官職、「太伯」の類いと一緒にどうかの見極めが重要です。

>

Re: E-mail アドレス： 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 10 月 12 日(土)02 時 50 分 40 秒 返信・引用
> No.1805[元記事へ]

岩淵國人さんへのお返事です。

> E-mail アドレス 以上です。

さっそくメールアドレスのほう、お知らせいただきありがとうございました。

それではまたメーリングリスト等で、詳細のお知らせを差し上げたく感じますので、今後とも宜しくお願いいたします。

なお、先のメール情報に関する書き込みのほうも、プライバシー保守の件から削除させていただきましたので、ご了承ください。

Re: 問い合わせページの件 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 10 月 11 日(金)13 時 58 分 0 秒 返信・引用

> No.1803[元記事へ]

岩淵國人さんへのお返事です。

> 拝復：ご返事をいただきありがとうございました。「名前など指定の項目を記載・送信いただければ、後日メーリングリストに登録しまして、情報を提供させていただきます。宜しくお願いします。」とありますが、指定の項目が何なのかを見つけかねております。一応私に関するいくつかの情報をお送りいたします。①氏名：岩淵國人。

岩淵様、さっそく詳細についてお知らせいただきありがとうございました。

それでは、こちらにて登録させていただきます。あと、メールアドレスのほうをお持ちでしたら、下記の問い合わせページから、そのメールアドレスと名前とを入力して、「確認画面」ボタンから、送信していただければ、後日メールにて、詳細をお知らせいたします。お手数ですが、宜しくお願いします。

<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/contact.htm>

あと、岩淵様の先の書き込みにつきましては、岩淵様のプライバシー情報が列記されておりますので、

こちらで念のため削除させていただきます。ご了承ください。

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 10 月 10 日(木)23 時 21 分 8 秒 返信・引用

> No.1796[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

>> 管理人さんへのお返事です。

>>

>>

>> 難升米（なしめ、なんしょうまいとも、生没年不詳）は、弥生時代後期、3 世紀の人物。邪馬台国の卑弥呼が魏に使わした大夫。

>>

>> 難升米は大夫。まだ大夫が不明ですな。

>>

>> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A3%E5%8D%87%E7%B1%B3>

>>

>>

>>

>>> やはり「率」は「ソツ」「シュチ」で、中国系の官職でしょう。

>>

>>>

>>> 中郎将

>>> 中郎将（ちゅうろうしょう）は、中国の前漢以降の官職名。

>>> 前漢においては、光禄勳（郎中令）に属し、宮殿の門戸を守り戦時には戦車や騎兵に充てられる中郎（秩比六百石）を統率した。

>>> 五官中郎将、左中郎将、右中郎将の3将がおり、また、宣帝の時に羽林を統率する羽林中郎将が、平帝の元始元年（1 年）に虎贲郎を統率する虎贲中郎将が置かれた。中郎将は全て秩比二千石であった。

> 九卿の1つ。秦において、宮殿における脇の門（「掖門」）の守衛を管轄した郎中令を起源とする。属官には、大夫、郎、謁者があった。 ... <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%89%E7%A6%84%E5%8B%B2>

> 秦において、宮殿における脇の門（「掖門」）の守衛を管轄した郎中令を起源とする。属官には、大夫、郎、謁者があった。

>

> 前漢でも引き続き置かれ、武帝の太初1年（紀元前104年）に、光禄勳と改称された。属官は、秦代の3属官に加え、期門、羽林が加えられている。

> 大夫 - 「論議」、すなわち朝廷での政策進言等を管轄。太中大夫（秩禄比千石）、諫大夫（武帝が元狩5年（紀元前118年）に設置。秩禄比八百石）、中大夫（太初1年に光禄大夫と改称。秩禄比二千石）がある。定員は無く、多いときは数十人置かれた。

> 郎 - 宮門の守衛を管轄し、皇帝の巡幸の際には車騎に乗った。議郎、中郎（秩禄比六百石）、侍郎（秩禄比四百石）、郎中（秩禄比三百石）がある。定員は無く、多いときは千人置かれた。中郎将 - 五官、左、右の3将がある（いずれも秩禄比二千石）。

> 郎中將 - 車、戸、騎の3将がある（いずれも秩禄比千石）。

>

>

ううん、なるほど、先日の「郎」とともに、倭の「大夫」も、ただならぬ官職のようですね。秦代から武帝以前の前漢にかけて日本に渡来してきた中国系集団の官職だったのでしょうか。

燕時代に半島に流れ込んだ移民、穢、扶余系集団、その前漢～後漢初期にかけての南下、その延長線上にある倭の王族ですね。そこで中国系官職を引き継いでいて、それでそれらの官職を継承していたという線になるのでしょうか。あるいはそれ以前の江南弥生人が半島経由で流れ込んだ際に、受け継いだ官職、「太伯」の類いと一緒かどうかの見極めが重要です。

伊勢の鉾物と五十鈴姫 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013年10月10日(木)22時29分30秒 返信・引用

伊勢の鉾物と五十鈴姫 - 民族学伝承ひろいあげ辞典 - Yahoo!ブログ

2013年5月16日 - 神武天皇の近畿における妻となった五十鈴比売（ひめたたらいすけより・ほとたたらいすず比売）がある。この比売の父親は淀川 ... 水銀に関しては二大産地として伊勢と、四国阿波国の忌部氏や紀氏に関わる水生鉾山が有名。あるいは熊野・

...http://blogs.yahoo.co.jp/kawakatu_1205/55566772.html

伊勢の五十鈴川の「いすず」を、この高師小僧由来とする意見もある。

神武天皇の近畿における妻となった五十鈴比売（ひめたたらいすけより・ほとたたらいすず比売）がある。

この比売の父親は淀川中流の摂津三島地方の地主である三島溝咋耳（みしまの・みぞくい・みみ）。

「みみ」は南九州由来を示す官名。

「ほと・たたら」で製鉄や精錬の竈を指す。

※たたら・・・「たた」は一文字で「多」であるので、「たたら」「たた」は火を使う者を指すのだろう。

同類語に「おおたたねこ」「多氏」「太田命（伊勢地主神で猿田彦後裔を名乗る）」

ちなみにスズの語源は鋳物の錫だとも言われる。スズは精錬途中でチンチンという音をたてる。

五十鈴川と五十鈴姫は遠く離れた場所の名前で、双方の関連があったかどうかは知らない。あるいは三島豪族が伊勢へ鋳物を探しに行っていたか（そもそもが海人由来の氏族ゆえ、伊勢も紀伊も行っておかしくない）？

水銀に関しては二大産地として伊勢と、四国阿波国の忌部氏や紀氏に関わる水生鋳山が有名。

あるいは熊野・紀ノ川沿線に水銀？あるは褐鉄鋳があるために、空海はここに高野山を置いたともいう。

「こうや」もある種の鋳物地名であろうし、空海は最初に丹生川上にいき、そこから狩場明神という地主神に立ち入りを許可してもらったとある。狩場も鋳物開発地名である。

「かる」は「狩る」で、広くものを採集するときに使う言葉。

「かりた」「かんだ」などとなり、いずれも鋳物地名の場合が多い。

場合によってはさらに「神田」となり、聖地とされた。

Re: 家形石棺 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 10 月 10 日(木)22 時 22 分 19 秒 返信・引用
> No.1799[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

> 一大卒の大は五大夫の大でないか。五十鈴との共通性が出てくる。

>

>

> 『日本書紀』の崇神天皇 8 年 12 月 20 日の条には「大夫」の文字があるが、大夫というのは律令制度における官位の呼称であって、律令制が確立される以前の崇神天皇の代に「大夫」という呼び方や官職があったわけではない。これは『日本書紀』が編纂されたときにその執筆者によって加えられた文飾であり、「大夫の身分に相当する者」すなわち今でいえば大臣や側近というほどの意味で使われたとみられる。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%A4%AB>

>

>

> 日本書紀の垂仁天皇に五大夫がありますな。

> <http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1709>

>

>

> 建武中元二年、倭奴國奉貢朝賀。使人自稱大夫。倭國之極南界也。光武賜以印綬。 安帝永初元年、倭國王帥升等獻生口百六十人、願請見。（『後漢書』倭人伝）

>

> 建武中元二年（57 年）、倭の奴国が謹んで貢献して朝賀した。使人は大夫を自称する。倭国の極南界なり。光武帝は印綬を賜る。

> 安帝の永初元年（107 年）、倭国王が帥升らに奴隷百六十人を献上させ、朝見（天子に拝謁する）を請い願う。

>

> <http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano4.htm>

日本における大夫

神職でも下位の者である御師を太夫と呼ぶようになった。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%A4%AB>

大夫の称は日本の律令制度にも取り入れられ、『公式令』の規定では太政官においては三位以上、寮においては四位以上、中国以下の国司においては五位以上の官吏の称とされた。すなわち、五位以上の男性官吏を指す称号であるといつてよい。官職としての大夫はだいふと読み（「東宮大夫」など）、単に五位を意味する場合にはたいふと読み分ける。また五位以下相当の官職の者が五位に叙せられた時、官職の下に大夫と付記する（例えば六位相当の官職である左衛門尉が五位に昇った際、左衛門大夫と称する）。五位にありながら散位即ち無官の者は無官大夫と称される。また従五位下の者は唐名を朝散大夫と称した。

女官の場合、五位以上の者を命婦という（詳細は命婦の項を参照）。

なお『日本書紀』の崇神天皇 8 年 12 月 20 日の条には「大夫」の文字があるが、大夫というのは律令制度における官位の呼称であって、律令制が確立される以前の崇神天皇の代に「大夫」という呼び方や官職があったわけではない。これは『日本書紀』が編纂されたときにその執筆者によって加えられた文飾であり、「大夫の身分に相当する者」すなわち今でいえば大臣や側近というほどの意味で使われたとみられる。

やがて時代が下ると大夫は五位の通称となり、さらに転じて身分のある者への呼びかけ、または人名の一部として用いられるようになった。五位というのは貴族の位の中では最下の位であったが、地方の大名や侍、また庶民にとってはこれに叙せられるのは名誉なことであった。そこでたとえ朝廷より叙せられなくとも一種の名誉的な称号として、大夫（太夫）を称するようになったのである。以下その例をあげる。ただし「太夫」と表記し「たゆう」と読む例が多い。

神道 伊勢神宮の神職である権禰宜が五位に叙せられていたことから、神職のことをいう。のちに神職でも下位の者である御師を太夫と呼ぶようになった。

伊勢神宮の内宮、外宮とも、神官は忌部氏

豊受大神という伊勢神宮の外宮の神様ですが、じつは外宮の神官度会氏は忌部氏の末裔。

元々は内宮、外宮とも、神官は忌部氏だったそうです。

紫 青と黄色の舟ルッソ <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

三木氏・・・（箕 姫氏）？

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 10 日(木)20 時 35 分 8 秒 返信・引用
> No.1796[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

一大卒の大は五大夫の大でないか。五十鈴との共通性が出てくる。

『日本書紀』の崇神天皇 8 年 12 月 20 日の条には「大夫」の文字があるが、大夫というのは律令制度における官位の呼称であって、律令制が確立される以前の崇神天皇の代に「大夫」という呼び方や官職があったわけではない。これは『日本書紀』が編纂されたときにその執筆者によって加えられた文飾であり、「大夫の身分に相当する者」すなわち今でいえば大臣や側近というほどの意味で使われたとみられる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%A4%AB>

日本書紀の垂仁天皇に五大夫がありますな。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1709>

建武中元二年、倭奴國奉貢朝賀。使人自稱大夫。倭國之極南界也。光武賜以印綬。 安帝永初元年、倭國王帥升等獻生口百六十人、願請見。（『後漢書』倭人伝）

建武中元二年（57 年）、倭の奴国が謹んで貢献して朝賀した。使人は大夫を自称する。倭国の極南界なり。光武帝は印綬を賜る。

安帝の永初元年（107 年）、倭国王が帥升らに奴隷百六十人を献上させ、朝見（天子に拝謁する）を請い願う。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano4.htm>

Re: 会費の件 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 10 月 8 日(火)21 時 43 分 29 秒 返信・引用

> No.1795[元記事へ]

岩淵國人さんへのお返事です。

> 前略：貴研究会の会員にさせていただき、誠にありがとうございます。貴会運営にはそれなりの経費が掛かりましょう。会費はおいくらを、どちらに、いつ、どのようにして、振り込むのでしょうか？会員数は何人くらいおられますか？（岩淵國人：岩手県奥州市）

岩淵様、こんばんは。会費についてはいただいておりません、現在30人前後が参加しておりますが、主にメーリングリストを通して、情報交換をしています。もしよろしければ、こちらの問い合わせページから、名前など指定の項目を記載・送信いただければ、後日メーリングリストに登録しまして、情報を提供させていただきます。宜しくお願いします。

<http://www.asahi-net.or.jp/%7Eerg1h-smed/contact.htm>

Re: 家形石棺 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 10 月 8 日(火)09 時 31 分 52 秒 返信・引用

> No.1794[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>

> 難升米（なしめ、なんしょうまいとも、生没年不詳）は、弥生時代後期、3世紀の人物。邪馬台国の卑弥呼が魏に使わした大夫。

>

> 難升米は大夫。まだ大夫が不明ですな。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A3%E5%8D%87%E7%B1%B3>

>

>

>

>> やはり「率」は「ソツ」「シュチ」で、中国系の官職でしょう。

>

>>

>> 中郎将

>> 中郎将（ちゅうろうしょう）は、中国の前漢以降の官職名。

>> 前漢においては、光禄勳（郎中令）に属し、宮殿の門戸を守り戦時には戦車や騎兵に充てられる中郎（秩比六百石）を統率した。

>> 五官中郎将、左中郎将、右中郎将の3将があり、また、宣帝の時に羽林を統率する羽林中郎将が、平帝の元始元年（1年）に虎賁郎を統率する虎賁中郎将が置かれた。中郎将は全て秩比二千石であった。

>> 後漢においても光禄勳に属し、五官中郎将、左中郎将、右中郎将、虎賁中郎将、羽林中郎将が引き続き置かれ、いずれも秩比二千石であった。

>> 五官中郎将、左中郎将、右中郎将は中郎（秩比六百石）、侍郎（秩比四百石）、郎中（秩比三百石）を統率した。

>> 虎賁中郎将は宿衛侍従を掌り、属官には左右僕射、左右陛長（秩比六百石）があり、中郎（秩比六百石）、侍郎（秩比四百石）、郎中（秩比三百石）を統率した。虎賁郎は本人が死んだら子が代わり就任することとなっていた（『統漢書』劉昭注引荀綽『晋百官表注』）。

>> 羽林中郎将もまた宿衛侍従を掌り、羽林郎（秩比三百石）を統率した。また羽林には羽林左監、羽林右監（秩六百石）があり、羽林騎を司った。

>> また後漢末頃には東西南北の方位を付した四中郎将があり、遠征軍の指揮官となった。

>> 後漢末の戦乱の時期には、各軍閥が配下を独自の名を持つ中郎将に任命することがあった（例えば、劉備は諸葛亮を軍師中郎将とした）。

>> 二千石には皇帝の許可なく逮捕できない特権（『漢書』文帝紀、文帝前7年）や、兄弟や子を郎に就けることができる任子（『漢書』哀帝紀注）などの特権があった。比二千石以上の官が持つ印綬は銀印青綬であった。

>> <http://ja.wikipedia.org/wiki/中郎将>

>>

>>

>> 重要なのは、邪馬台国の使者たちに、「率善中郎将」等が賜与されていることです。

>> 「使匈奴中郎将」「五官中郎将」「左中郎将」などに見えるのですが、問題は「率善」がついたケースがあるかどうかですね。

>>

>> つまりこの「率」は、「一大率」という、倭に遠く過去に与えられていた官職・称号を、そのまま流用して「善く率いる」の意味にしたというケースも考慮すべきかもしれません。つまり、倭の使者が「大夫」と名乗ると同時に「一大率」という、過去の中国系の官職を持っていると主張したので、それでその「率」をとって「率善」としたという線です。

>>

>> 本来なら「倭中郎将」「南西官・・・」となっていってもおかしくないんですね。しかし「率善」とした。

>>

>> なお彼らも規定どおり「銀印青綬」されています。そうすると逆に、難升米等は、規定どおり2千石とか、「郎」の名前を兄弟・子孫につける権威とかも授けられていた可能性があるわけですね。

>>

>> 似たような事例で邪馬台国の官職には、「升」が多くつきます。またそれは奴国時代の「師升」以来の「升」の字を継承した可能性もあるわけです。

>>

>> 先日お話した神話の神名にでてくる「(槌)ヅチ」も、上記の(一大)「率(シュチ)」由来と推定しましたが、おそらくは、中国系の官職、権限の継承を意味していたのでしょう。兄弟、子孫のみに継承が赦され、支配権を意味していたわけです。

>>

>> 「郎」は「ロウ(ラウ)」です。物部とか和邇氏系などの氏族名とかに、それらの発音の名前がつく特徴などがあると、難升米の子孫だとか、わかってきますね。

>>

>>

>> 「都尉」も授けられてますが、こちらも調べる必要ありそうですね。

一大卒・・・一大(近衛団) 異動？

契丹(きったん、キタン、キタイ、英語: Khitan/Khitai、ピンイン: Qidān)は、4世紀から14世紀にかけて、満州から中央アジアの地域に存在した半農半牧の民族。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%91%E4%B8%B9>

墓はつくらず、これは室韋や豆莫婁と似ている、と記す。墳墓群も発見されており、多くは火葬された遺骨や遺灰が武具や陶器などと共に土坑へ埋葬されているが、高麗や扶余の影響を受け堅穴や石棺に埋葬されている場合もある。

宗教

遼代に仏教、道教、儒教が流入する以前は、上記の木吐山と魂を司る黒山に神が宿るとして、木吐山神、黒山神、天、地、日を祀り信仰していた。

羽林郎中(近衛団長)

尚書の陸麗・羽林郎中(近衛団長)の劉尼・殿中尚書の源賀らが立ち上がり、逸早く宗愛を殺害し、亡き皇太子の長男の拓跋濬を擁立した。即位後は民力休養を是とし、開墾殖産を奨励した。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%87%E6%88%90%E5%B8%9D_\(%E5%8C%97%E9%AD%8F\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%87%E6%88%90%E5%B8%9D_(%E5%8C%97%E9%AD%8F))

452年、宗愛が太武帝を弑し、さらに皇后令を曲げて、東平林王・拓跋翰(拓跋晃の異母弟)を殺害した。こうして宗愛は、文成帝の季父(末の叔父)の南安王拓跋余を擁立した。だが、8ヶ月後には拓跋余も宗愛に対して辟易し、親政すべく宗愛の誅殺を諮るも、それを敏感に嗅覚し、先手を打った宗愛によって殺害される事件が発生した。これに対して、尚書の陸麗・羽林郎中(近衛団長)の劉尼・殿中尚書の源賀らが立ち上がり、逸早く宗愛を殺害し、亡き皇太子の長男の拓跋濬を擁立した。

即位後は民力休養を是とし、開墾殖産を奨励した。また国内の求心力を高める意味からも仏教弾圧を廃止し、沙門の曇曜に命じて雲崗石窟の造営を始めた。曇曜五窟と言われる巨大な仏像のうち、最大

の第20窟の仏像は道武帝の姿を模したものとされ、以下、明元帝・太武帝・景穆帝（拓跋晃）・文成帝の姿を模したとされる（「皇帝即如来」の思想の始まり）。また、曇曜の上奏により僧祇戸や仏図戸を設けた。

九卿は、郎中令・太僕・大理・大農・少府・中尉、奉常・宗正、衛尉

魏公国は、http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q11109116361

郎中令・太僕・大理・大農・少府・中尉の六卿です。

奉常・衛尉・大鴻臚・宗正は王国時に設置されて九卿となりました（中尉がおそらく九卿から外れる）。

魏公（王）国では、相国（丞相に相当）、御史大夫（副首相）だけですね。太尉に相当するポジションはありません。

太常、郎中令（建安の終盤あたりまでは光禄勳らしいです。荀爽が光禄勳で、黄初年間にまた光禄勳なので、郎中令は短い復活のようですね）、衛尉、宗正、太僕、大理（郎中令と同じく、建安の終盤。その前も後も廷尉）、大鴻臚、大農（建安の終盤。前後は大司農）、少府、でしょうか・・・。

九卿の1つ。秦において、宮殿における脇の門（「掖門」）の守衛を管轄した郎中令を起源とする。

属官には、大夫、郎、謁者があった。... <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%89%E7%A6%84%E5%8B%B2>

秦において、宮殿における脇の門（「掖門」）の守衛を管轄した郎中令を起源とする。属官には、大夫、郎、謁者があった。

前漢でも引き続き置かれ、武帝の太初1年（紀元前104年）に、光禄勳と改称された。属官は、秦代の3属官に加え、期門、羽林が加えられている。

大夫 - 「論議」、すなわち朝廷での政策進言等を管轄。太中大夫（秩禄比千石）、諫大夫（武帝が元狩5年（紀元前118年）に設置。秩禄比八百石）、中大夫（太初1年に光禄大夫と改称。秩禄比二千石）がある。定員は無く、多いときは数十人置かれた。

郎 - 宮門の守衛を管轄し、皇帝の巡幸の際には車騎に乗った。議郎、中郎（秩禄比六百石）、侍郎（秩禄比四百石）、郎中（秩禄比三百石）がある。定員は無く、多いときは千人置かれた。中郎将 - 五官、左、右の3将がある（いずれも秩禄比二千石）。

郎中將 - 車、戸、騎の3将がある（いずれも秩禄比千石）。

謁者 - 迎賓等を管轄。定員は70人。秩禄比六百石。謁者僕射 - 秩禄比千石。

期門 - 武帝が建元3年（紀元前138年）に設置。護衛兵を統括。定員は無く、多いときは千人置かれた。僕射も置かれる。地位は郎と同格であった。平帝の元始1年（1年）に虎賁郎と改称された。虎

賁中郎将 - 元始1年設置（秩禄比二千石）。

羽林 - 武帝が太初1年に設置。期門より低位である。皇帝の警護を担当。最初は建章營騎と呼んだが、後に羽林騎と改められた。従軍して戦死した者の子孫を羽林として養成し、5種類の武器（「五兵」）を訓練させ、これを羽林孤兒と呼んだ。羽林には、令、丞が置かれた。羽林中郎将、羽林騎都尉 - 宣帝の時代に設置。羽林を監督。秩禄比二千石。

会費の件 投稿者：岩淵國人 投稿日：2013年10月8日(火)07時51分10秒 返信・引用

前略：貴研究会の会員にいただき、誠にありがとうございます。貴会運営にはそれなりの経費が掛かりましょう。会費はいくらを、どちらに、いつ、どのようにして、振り込むのでしょうか？会員数は何人くらいおられますか？（岩淵國人：岩手県奥州市）

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年10月8日(火)01時54分8秒 返信・引用

> No.1793[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

難升米（なしめ、なんしょうまいとも、生没年不詳）は、弥生時代後期、3世紀の人物。邪馬台国の卑弥呼が魏に使わした大夫。

難升米は大夫。まだ大夫が不明ですな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A3%E5%8D%87%E7%B1%B3>

> やはり「率」は「ソツ」「シュチ」で、中国系の官職でしょう。

>

> 中郎将

> 中郎将（ちゅうろうしょう）は、中国の前漢以降の官職名。

> 前漢においては、光禄勳（郎中令）に属し、宮殿の門戸を守り戦時には戦車や騎兵に充てられる中郎（秩比六百石）を統率した。

> 五官中郎将、左中郎将、右中郎将の3将があり、また、宣帝の時に羽林を統率する羽林中郎将が、平帝の元始元年（1年）に虎賁郎を統率する虎賁中郎将が置かれた。中郎将は全て秩比二千石であった。

> 後漢においても光禄勳に属し、五官中郎将、左中郎将、右中郎将、虎贲中郎将、羽林中郎将が続ぎ置かれ、いずれも秩比二千石であった。

> 五官中郎将、左中郎将、右中郎将は中郎（秩比六百石）、侍郎（秩比四百石）、郎中（秩比三百石）を統率した。

> 虎贲中郎将は宿衛侍従を掌り、属官には左右僕射、左右陛長（秩比六百石）がおり、中郎（秩比六百石）、侍郎（秩比四百石）、郎中（秩比三百石）を統率した。虎贲郎は本人が死んだら子が代わり就任することとなっていた（『続漢書』劉昭注引荀綽『晋百官表注』）。

> 羽林中郎将もまた宿衛侍従を掌り、羽林郎（秩比三百石）を統率した。また羽林には羽林左監、羽林右監（秩六百石）がおり、羽林騎を司った。

> また後漢末頃には東西南北の方位を付した四中郎将があり、遠征軍の指揮官となった。

> 後漢末の戦乱の時期には、各軍閥が配下を独自の名を持つ中郎将に任命することがあった（例えば、劉備は諸葛亮を軍師中郎将とした）。

> 二千石には皇帝の許可なく逮捕できない特権（『漢書』文帝紀、文帝前7年）や、兄弟や子を郎に就けることができる任子（『漢書』哀帝紀注）などの特権があった。比二千石以上の官が持つ印綬は銀印青綬であった。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/中郎将>

>

>

> 重要なのは、邪馬台国の使者たちに、「率善中郎将」等が賜与されていることです。

> 「使匈奴中郎将」「五官中郎将」「左中郎将」などは見えるのですが、問題は「率善」がついたケースがあるかどうかですね。

>

> つまりこの「率」は、「一大率」という、倭に遠く過去に与えられていた官職・称号を、そのまま流用して「善く率いる」の意味にしたというケースも考慮すべきかもしれません。つまり、倭の使者が「大夫」と名乗ると同時に「一大率」という、過去の中国系の官職を持っていると主張したので、それでその「率」をとって「率善」としたという線です。

>

> 本来なら「倭中郎将」「南西官・・・」となっていってもおかしくないんですね。しかし「率善」とした。

>

> なお彼らも規定どおり「銀印青綬」されています。そうすると逆に、難升米等は、規定どおり2千石とか、「郎」の名前を兄弟・子孫につける権威とかも授けられていた可能性があるわけですね。

>

> 似たような事例で邪馬台国の官職には、「升」が多くつきます。またそれは奴国時代の「師升」以来の「升」の字を継承した可能性もあるわけです。

>

> 先日お話した神話の神名にでてくる「（槌）ヅチ」も、上記の（一大）「率（シュチ）」由来と推定しましたが、おそらくは、中国系の官職、権限の継承を意味していたのでしょう。兄弟、子孫のみに

継承が赦され、支配権を意味していたわけです。

>

> 「郎」は「ロウ（ラウ）」です。物部とか和邇氏系などの氏族名とかに、それらの発音の名前がつく特徴などがあると、難升米の子孫だとか、わかってきますね。

>

>

> 「都尉」も授けられてますが、こちらも調べる必要ありそうですね。

《前のページ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 次のページ》

以上は、新着順 1 番目から 10 番目までの記事です。

／175

新着順 投稿順

teacup. [掲示板] [掲示板作成] [有料掲示板] [ブログ]

RSS

teacup. レンタル掲示板

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 10 月 7 日(月)23 時 23 分 2 秒 返信・引用 編集済

> No.1792[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

伊都は古代ローマの体制が共和制の組織だな。

> 共和制（きょうわせい、英: republic）は、人民または人民の大部分が統治上の最高決定権を持つ政体

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%B1%E5%92%8C%E5%88%B6>

>

> まあ、古事記は紀元 200 年代だな。一大率（イツタイリツ）を遡るなら伊都（イト）の

> イ=伊。大（タイ）は大秦。率（リツ）はひき-いる

>

> 一大率=伊大(秦)率=伊大利=伊大利亜→ローマ-ていこく 【ローマ帝国】

> <http://kotobank.jp/word/%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%9E%E5%B8%9D%E5%9B%BD>

>

やはり「率」は「ソツ」「シュチ」で、中国系の官職でしょう。

中郎将

中郎将（ちゅうろうしょう）は、中国の前漢以降の官職名。

前漢においては、光禄勳（郎中令）に属し、宮殿の門戸を守り戦時には戦車や騎兵に充てられる中郎（秩比六百石）を統率した。

五官中郎将、左中郎将、右中郎将の3将があり、また、宣帝の時に羽林を統率する羽林中郎将が、平帝の元始元年（1年）に虎贲郎を統率する虎贲中郎将が置かれた。中郎将は全て秩比二千石であった。

後漢においても光禄勳に属し、五官中郎将、左中郎将、右中郎将、虎贲中郎将、羽林中郎将が引き続き置かれ、いずれも秩比二千石であった。

五官中郎将、左中郎将、右中郎将は中郎（秩比六百石）、侍郎（秩比四百石）、郎中（秩比三百石）を統率した。

虎贲中郎将は宿衛侍従を掌り、属官には左右僕射、左右陛長（秩比六百石）があり、中郎（秩比六百石）、侍郎（秩比四百石）、郎中（秩比三百石）を統率した。虎贲郎は本人が死んだら子が代わりに就任することとなっていた（『続漢書』劉昭注引荀綽『晋百官表注』）。

羽林中郎将もまた宿衛侍従を掌り、羽林郎（秩比三百石）を統率した。また羽林には羽林左監、羽林右監（秩六百石）があり、羽林騎を司った。

また後漢末頃には東西南北の方位を付した四中郎将があり、遠征軍の指揮官となった。

後漢末の戦乱の時期には、各軍閥が配下を独自の名を持つ中郎将に任命することがあった（例えば、劉備は諸葛亮を軍師中郎将とした）。

二千石には皇帝の許可なく逮捕できない特権（『漢書』文帝紀、文帝前7年）や、兄弟や子を郎に就けることができる任子（『漢書』哀帝紀注）などの特権があった。比二千石以上の官が持つ印綬は銀印青綬であった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/中郎将>

重要なのは、邪馬台国の使者たちに、「率善中郎将」等が賜与されていることです。

「使匈奴中郎将」「五官中郎将」「左中郎将」などに見えるのですが、問題は「率善」がついたケースがあるかどうかですね。

つまりこの「率」は、「一大率」という、倭に遠く過去に与えられていた官職・称号を、そのまま流用して「善く率いる」の意味にしたというケースも考慮すべきかもしれません。つまり、倭の使者が「大夫」と名乗ると同時に「一大率」という、過去の中国系の官職を持っていると主張したので、それでその「率」をとって「率善」としたという線です。

本来なら「倭中郎将」「南西官・・・」となっていてもおかしくないんですね。しかし「率善」とした。

なお彼らも規定どおり「銀印青綬」されています。そうすると逆に、難升米等は、規定どおり2千石とか、「郎」の名前を兄弟・子孫につける権威とかも授けられていた可能性があるわけですね。

似たような事例で邪馬台国の官職には、「升」が多くつきます。またそれは奴国時代の「師升」以来の「升」の字を継承した可能性もあるわけです。

先日お話した神話の神名にでてくる「(槌)ヅチ」も、上記の(一大)「率(シュチ)」由来と推定しましたが、おそらくは、中国系の官職、権限の継承を意味していたのでしょう。兄弟、子孫のみに継承が赦され、支配権を意味していたわけです。

「郎」は「ロウ(ラウ)」です。物部とか和邇氏系などの氏族名とかに、それらの発音の名前がつく特徴などがあると、難升米の子孫だとか、わかってきますね。

「都尉」も授けられてますが、こちらも調べる必要ありそうですね。

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年10月7日(月)06時57分40秒 返信・引用 編集済
> No.1791[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

伊都は一大率、厳島：伊都岐島に見られるな。

伊都は古代ローマの体制が共和制の組織だな。

共和制（きょうわせい、英: republic）は、人民または人民の大部分が統治上の最高決定権を持つ政体

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%B1%E5%92%8C%E5%88%B6>

まあ、古事記は紀元 200 年代だな。一大率（イツタイリツ）を遡るなら伊都（イト）の
イ＝伊。大（タイ）は大秦。率（リツ）はひき-いる

一大率＝伊大(秦)率＝伊大利＝伊大利亜→ローマ-ていこく 【ローマ帝国】

<http://kotobank.jp/word/%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%9E%E5%B8%9D%E5%9B%BD>

ローマ帝国（ローマていこく、羅: Imperium Romanum）は、古代ローマがイタリア半島に誕生した都市国家から、地中海にまたがる領域国家へと発展した段階以降を表す言葉である。従って厳密には古代ローマの体制が共和制だった頃を含んでいる。最盛期には地中海沿岸全域に加え、ブリタンニア、ダキア、メソポタミアなど広大な領域を版図とした。シルクロードの西の起点であり、古代中国の文献では大秦の名で登場する

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%9E%E5%B8%9D%E5%9B%BD>

厳島神社（いつくしまじんじゃ）は、広島県廿日市市の厳島（宮島）にある神社。式内社（名神大社）、安芸国一宮。旧社格は官幣中社で、現在は神社本庁の別表神社。神紋は「三つ盛り二重亀甲に剣花菱」。

古くは「伊都岐島神社」とも記された。全国に約 500 社ある厳島神社の総本社である。ユネスコの世界文化遺産に「厳島神社」として登録されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%B3%E5%B3%B6%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

共和制（きょうわせい、英: republic）は、人民または人民の大部分が統治上の最高決定権を持つ政体

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%B1%E5%92%8C%E5%88%B6>

> 「一大率（イツタイシュチ）」→（イツタイシュチ）→「五十鈴（いつとおすず）」→「伊都（イツ）」

> 倭訓でも、特に「五」などの数詞系統が、扶余・高句麗系・中東系の遊牧民の影響を受けていること

は、以前お話したとおりです。アラム語とかに近い。

>

> 以前はその倭訓の導入をもっと早く考えていて、3世紀末、4世紀前半とみていたわけですが、もっと遅くするべきか再考すべきかどうかというところですね。

>

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013年10月6日(日)23時16分16秒 返信・引用

> No.1784[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 「五十鈴（イジッスズ＝イスズ）」は古事記の国生み、大八島国の寄港地の川がイスズ川で、所在地は黄泉の国辺りだな。どうも、国生み航海で黄泉に残った船数が川の名前に変化した様だな。

>

> 第2章 日本列島の誕生（1） 国生み

> 第3章 日本列島の誕生（2）（大八島国）

> <http://www15.plala.or.jp/kojiki/>

>

> 「十」

> 呉音：ジュウ(ジフ)、ジッ

> 漢音：シュウ(シフ)(表外)

> 慣用音：ジュッ

> 「十」の伝来時の音は[?ip]と推定され、当時の日本語にない[-p]の音（入声）は「-フ（音は[-?u]と推定されている）」と音写されたため、「十」は「ジフ」として受け入れられ、後に「ジュウ」に変化した。一方、入声はk,s,t,h,pといった無声子音が後続するときは促音便化するという性質（例.合[ガフ]→合算[ガッサン]）があったため、「十」も促音便は「ジッ」であり「十本」は「ジッポン」、「十間」は「ジッケン」と発音された。近年になり、「ジュウ」の音に引きずられ、促音便は「ジュッ」が広く受け入れられるようになった。改定常用漢字表では、備考に「『ジュッ』とも。」と注記されている。

「五十」の発音を再検討する必要があるそうですね。

「五十（いつとお）」＝「伊都（いつ）」は、「（五）イツ」も「（十）トウ」訓読みです。

「五十（ゴジュウ）」は中国音。

だから、「一大率（イツタイシュチ）」→（イツタイシュチ）→「五十鈴（いつとおすず）」→「伊都（イツ）」

への流れでは、倭人伝の時代（呉音系の漢字があった時代：3世紀）→（漢字が忘れられて音だけが伝わっていた時代：？～4世紀前半？）→それを「倭訓」で記し直した時代；4世紀？～6世紀？→さらに中国音でそれを書き直した時代：6世紀？～7世紀

となるでしょうか。

倭訓でも、特に「五」などの数詞系統が、扶余・高句麗系・中東系の遊牧民の影響を受けていることは、以前お話したとおりです。アラム語とかに近い。

以前はその倭訓の導入をもっと早く考えていて、3世紀末、4世紀前半とみていたわけですが、もっと遅くするべきか再考すべきかどうかというところですね。

百済(ほづみ) タタライズズ 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013年10月6日(日)18時56分34秒
返信・引用

五十鈴川 - 三重県を流れる河川？

皇后：媛蹈鞬五十鈴媛命（ひめたたらいすずひめのみこと） - 大物主の女、のち手研耳命の妻

百済(ほづみ) タタライズズ

ヒメタタライズズヒメ（媛蹈鞬五十鈴媛命）は、神武天皇の皇后である。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%83%A1%E3%82%BF%E3%82%BF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%82%BA%E3%83%92%E3%83%A1>

神武天皇は、東征以前の日向ですでに吾平津姫を娶り子供も二人いたが、大和征服後、在地の豪族の娘を正妃とすることで、在地豪族を懐柔しようとした。天照大神の子孫である神武天皇と媛蹈鞬五十鈴媛命が結婚することで、天津神系と国津神系に分かれた系譜がまた1つに統合されることになる。

皇后の名の中にある「タタラ」とは、たたら吹き製鉄を指したり、その時に用いられる道具を示す場合もあり、このことは、皇后の出身氏族が、製鉄と深い関係がある出雲（安来市圏域、安来市、横田町、奥出雲町を含む）地域であったことを物語っていると考えられている(加藤義成『古事記参究』素

行会（1986年）など）。

『古事記』では、三輪大物主神（スサノオの子孫大国主の和魂とされる）と勢夜陀多良比売（セヤダタラヒメ）の娘である。

勢夜陀多良比売が美人であるという噂を耳にした大物主は、彼女に一目惚れした。大物主は赤い矢に姿を変え、勢夜陀多良比売が用を足しに来る頃を見計らって川の上流から流れて行き、彼女の下を流れていくときに、ほと（陰所）を突いた。彼女がその矢を自分の部屋に持ち帰ると大物主は元の姿に戻り、二人は結ばれた。こうして生れた子がヒメタタライスズヒメである。ホトを突かれてびっくりして生まれた子であるということでホトタタライスキヒメと名づけ、後に「ホト」を嫌ってヒメタタライスケヨリヒメに名を変えた。

五十鈴依媛命(いすずよりひめのみこと) これは物部氏の3人娘のこのようです。

ヒメタタラ五十鈴媛命（事代主神の娘）、

物部氏の遠祖とされる宇摩志麻治命（事代主神）は十種の瑞宝を献上してニニギに帰順した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/oni-megami/oni-megami-2-4.htm>

扶余人

扶余、百済は藤原氏など支配系のルーツだが、大半の日本人は縄文人、海の民（夷、饒速日、穗積[火の民／鉄の民]、素戔鳴、大国主といった先王朝の子孫）、始皇帝から逃げた徐福の一団（秦族？）、稲荷社や八幡社、住吉社を創建した秦

...<https://twitter.com/chinshioshoku/statuses/234284440497582080>

扶余は南風（ハヤ・ふえー）。<http://www.asyura2.com/12/cult10/msg/766.html>

鉄分が豊富な粘土層にススキなどが生育すると ススキ 鈴木？

十五が意味するのは金星女神 「ホ（当て字は穂、火）」がつく系譜

十と五の組み合わせが天草とかで見つかるけど、十五が意味するのは金星女神。十には、〇っていう書き方もあって、五〇だと天地の子・風神エンリルを意味する。◎だと20で、日神ウツ、別名をバ・バル(輝く神)。そしてフェニキアのバアル神は、このバ・バルがなまったものらしい。

<http://www.geocities.jp/kamuiluke/essay/truehistory3.html><http://www.geocities.jp/kamuiluke/essay/truehistory3.html>

「倭人」系と思われるのが、天照大御神から始まり、天のオシホミミの命、天のホアカリの命、ホのニニギの命、ホスセリの命、ホヲリの命ホホデミの命と連なる「ホ（当て字は穂、火）」がつく系譜。

ミマキイリヒコ五十二エ天皇、イクメイリヒコ五十サチ天皇、ヒコ五十サチ命、五十日鶴ヒコ命、五十二シキイリヒコ命というふうに、イリとか五十（イソ、オシ）がつく。

これは氏族が違うんだな。同じ時代に存在した別々の王朝の系譜を、縦につないでしまうという手法は、シュメールからずっと使われてきている。それで、2つの王朝をつなぐと過去が2倍になるみたい

な事があって、「欠史八代（神武天皇と崇神天皇の間の、記述の少なく実在はしなかったと考えられる世代）」みたいなのが生まれてくるわけだ。これは、歴史を実際より古く見せて中国・朝鮮と張り合おうとしたのじゃなくて、別々の氏族の系譜をつないで、「侵略者が土着の王族の系譜に編入される」手法ってわけだ。

垂仁天皇の三十九年天皇は、太刀佩部（当時の軍閥であった物部、大久米部の内から精鋭の一部隊）を創設し、皇子五十瓊敷命（イソタマシキノミコト）を将軍に任じ、さらに大和鍛冶部に属する川上伴に、一千振にも及ぶ大量の剣を造らせて、非常事態に備え、宮中の警備に当らせました。

これが後世に授刀舎人（ジュトウノトネリ・宮中護衛職）となりました。

これらは伝統の大和鍛冶部を重んじたものであり、まだ外国から鍛冶の移住がほとんどなかったことを意味しています。

継体天皇の二十一年、筑紫国の国造であった磐井一族が反乱を起した時、天皇は物部麤鹿火（モノノベノアラカビ）に追討の勅命をくだされ、その出陣の際、剣を授けられました。

これが節刀（将軍が出征の際天皇より賜る刀剣）の始まりです。

呂智伝説が生れるには、いったい何人の技術者がいただろう。鈴や砂鉄炉片で 充滿している。

http://books.google.co.jp/books?id=AUAtgjHpeQgC&pg=PA208&lpg=PA208&dq=%E9%88%B4+%E3%82%BF%E3%82%BF%E3%83%A9&source=bl&ots=YBSpMoVqx7&sig=0kg9AvVJeWK_9UIJ83WQAwd-DnM#v=onepage&q=%E9%88%B4%20%E3%82%BF%E3%82%BF%E3%83%A9&f=false

鈴

砂鉄による“たたら製鉄”が始まる以前の日本では、高師小僧のような褐鉄鉱を用いた製鉄が行われていたともいわれます。また、沼沢のアシ原には高師小僧と同じような成因で、鳴石（なるいし）とか鈴石（すずいし）と呼ばれる褐鉄鉱が産出します。

<http://www.tdk.co.jp/techmag/ninja/daa01030.htm>

鉄分が豊富な粘土層にススキなどが生育すると、根の周囲に鉄分が凝集し、根が枯れたあとに褐鉄鉱として残存します。雨水などで表土が取り払われると、これが地表にたくさん顔をのぞかせるので小僧の名がついたようです。

信濃にかかる枕詞である「みすずかる」も、こうした褐鉄鉱と関係するともいわれます。大昔、信濃の地には鳴石・鈴石を原料とする古代製鉄文化があり、のちに砂鉄原料のたたら製鉄文化により駆逐され、「みすずかる」という枕詞として残ったというのです。

「みすずかる」

みすずかる【水簀刈る】とは。意味や解説。〔枕〕篠竹が信濃(しなの)に多く産するところから、「信濃」にかかる。「一信濃ゆ甲斐ゆ遠長く」〈賀茂翁家集〉[補説]賀茂真淵が「水薦 苅(みこもかる)」を「水簀苅」の誤りとしたことによる語。→みこもかる

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/211703/m0u/>

みこもかる

みすずかる信濃の国の鉄バクテリア

<http://blog.goo.ne.jp/morimorikids/e/d3e2c7b425365727446f014849fc38d9>

すずは鈴であり、水中に含有される鉄分が沈澱し、鉄バクテリア（沼などに石油を流したように漂うもの、写真参照）が自己増殖して細胞分裂を行い、固い外殻を作ったもので、振るとカラカラ音がするものがあります。これを鳴石（なりいわ）、鈴石、壺石、高師小僧などといいます。

信濃に生えているのは「こも」ばかりではない。葦や茅もあり（中略）やはり真淵が訓んだ「すず」が正しいと思う。薦・葦・茅の様な禾本（かほん）植物をひろく「すず」と称したとしてよいであろう。---というような内容です。

私達が学生の頃は、古墳時代に渡来人がもたらすまでは日本では鉄は作られていなかったと教わりました。その後、褐鉄鋼を利用すると弥生式土器を焼くのと同じ位の低い温度でも鉄を作ることができるという事がわかったのです。日本の神話を象徴する葦原こそが、鉄バクテリアが長い年月をかけて褐鉄鉱を作り出し、古代の鉄の産地となったというわけです。また、信濃、埴科、更級のシナも鉄を意味するそうで、とすればシナノとは、鉄出（いずる）野という意味になります。「みすずかる信濃」という枕詞は、砂鉄から作る「たたら製鉄」がもたらされて、みすずを刈る必要がなくなってもなお、信濃の枕詞としてのみ残ったというわけです。

五十鈴（いすず）. 五十鈴川 - 三重県を流れる河川？

信濃の古代製鉄 - nifty

伊那の谷から古代が見える. 古代 信濃では、『みすず = カッ鉄鉱』から鉄が造られていた。信濃では、縄文中期から製鉄が行われていた。【南宮の本山は信濃国とぞ 承る さぞ申す 美濃国には中の宮 伊賀国には稚き児の宮（梁塵秘抄・262）】 埴科・更級 (...<http://homepage3.nifty.com/utukusinomori/newpage11.html>

シナには鉄の意味もあるという。

真弓常忠氏によれば、鉄を意味する多くの古語について次の五つの語群に分けられる。

- (1) テツ・タタラ・タタール・韃靼 (2) サヒ・サビ・サム・ソホ・ソブ
- (3) サナ・サヌ・サニ・シノ・シナ (4) ニフ・ニブ・ニビ・ネウ
- (5) ヒシ・ヘシ・ベシ・ペシ

豊前の「犀川」「佐比川」には(2)サヒ音＝古代産鉄の可能性があり、また「犀川」は、加賀にも信濃にもあり「犀」は産鉄の可能性を示す「サヒ」ではないか？と指摘する。

また、信濃の国にかかる枕詞は「ミスズカル」であるが、ミスズとシナの関連を、真弓氏は「古代の鉄と神々」のなかで、

『ミスズは「御鈴」であり、鈴は「鈴石・鳴石」などと呼ばれ、水辺の禾本(カホン)植物の根に形成された褐鉄鉱団塊（高師小僧とも言う）のことだと考える。』と説明する。

この鈴は古代製鉄の原料となったもので、氏は沼沢から禾科植物を抜き取り鈴石を採取することが、ミスズカルということばで表されていると指摘する。

(落合直澄は、古代文字の解説時に、『美鈴刈る』と記している)

古代縄文鉄の原料であるカッ鉄鉱 (高師小僧)

【みすずかる信濃の真弓わが引かば 貴人(ウマヒト)さびて いなと言はむかも (万葉集巻2・96)】

五十鈴川

五十鈴川 (いすずがわ) は、三重県伊勢市を流れる宮川水系の一級河川。

Re: 家形石棺 投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2013 年 10 月 6 日(日)06 時 57 分 10 秒 返信・引用 編集済
荊の紀氏さんへのお返事です。

神武天皇と伊勢神宮の年代を比較すると「鈴木氏」は五十鈴川から名前を貰ったな。

伊勢神宮の五十鈴川は港 (津) ですな。古事記の背景を読み解かないと理解できないな。後日、徐福と日本神話で説明だな。

「鈴木氏」は五十鈴川から名前を貰った。は共通点かな？

伊勢神宮は磯の宮ですか、イソ 五十 五十鈴川 五十 伊雑宮は苦しいな・・・。

伊勢神宮は 磯の宮と呼ばれていたそうだ イソ 五十 五十鈴川 五十 伊雑宮 いざわのみや 地元ではいぞうさん イソ 五十 五十のタブレットがあった。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

神武天皇 (じんむてんのう、庚午年 1 月 1 日 - 神武天皇 76 年 3 月 11 日) は、日本神話に登場する人物で、日本の初代天皇 (古事記、日本書紀による)。

神武天皇 42 年、皇后媛蹈鞴五十鈴媛命

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E5%A4%A9%E7%9A%87>

伊勢神宮 (いせじんぐう) は、三重県伊勢市にある神社。正式名称は地名の付かない「神宮」 (じんぐう)。他の神宮と区別するため「伊勢の神宮」と呼ぶこともあり、親しみを込めて「お伊勢さん」「大神宮さん」とも称される。神社本庁の本宗 (ほんそう) である。

鈴木氏 (すずきし) は、日本の代表的姓氏のひとつ。かつての武家である鈴木氏との関係は諸説あって定まらないが、祭礼の際に祭られる稲穂や神社の本坪鈴に由来した神官の姓氏とされる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%88%B4%E6%9C%A8%E6%B0%8F>

Re: 家形石棺 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 10 月 6 日(日)01 時 04 分 51 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

> 荊の紀氏さんへのお返事です。

>

> 鈴木氏、五十鈴は共通点はないな。

>

> 国生み航海で黄泉に残った船数が川の名前に変化した様だな。

>

> 状況は川の津で伊勢神宮の五十鈴川のイメージだな。

>

> 「五十鈴（イジッスズ＝イスズ）」は五十津（イスズ＝イジツツ）

>

> 五十鈴川（いすずがわ）は、三重県伊勢市を流れる宮川水系の一級河川

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%8D%81%E9%88%B4%E5%B7%9D>

>

>

> 鈴木氏は穂積姓だな。『三国志魏書』馬韓伝に「旧民は少ししか見出せなかった」

> 旧民は卑弥呼、崇神天皇、垂仁天皇を指す模様。旧民以外が穂積姓で三韓征伐後に渡来

> した模様。鈴木氏は中臣だな。以後平氏になる。

>

> 『三国志魏書』馬韓伝

> 桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

>

> 桓帝と靈帝の末（146 年－189 年）、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。

> 建安年間（196 年－220 年）、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帶方郡とし、公孫模や張敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帶方に帰属させた。

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

>

> ニギハヤヒノミコトは、日本神話に登場する神。『日本書紀』では饒速日命、『古事記』では邇藝速

日命と表記する。

>

> 『古事記』では、神武天皇の神武東征において大和地方の豪族であるナガスネヒコが奉じる神として登場する。ナガスネヒコの妹のトミヤスビメ（登美夜須毘売、日本書紀では三炊屋媛という）を妻とし、トミヤスビメとの間にウマシマジノミコト（宇摩志麻遲命）をもうけた。ウマシマジノミコトは、物部連、穗積臣、采女臣の祖としている。イワレビコ（後の神武天皇）が東征し、それに抵抗したナガスネヒコが敗れた後、イワレビコがアマテラスの子孫であることを知り、イワレビコのもとに下った。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8B%E3%82%AE%E3%83%8F%E3%83%A4%E3%83%92>

>

> 一族には継体朝に百済への使者となり

> 「鈴木氏」の多くが穂積姓の末裔とされている。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A9%82%E7%A9%8D%E6%B0%8F>

>

>

穂積氏と伊勢神宮の関係は、となると、斎宮のヤマトヒメから草薙の剣を授かった ヤマトタケルに穂積氏の女性であるオトタチバナヒメがつき従った、という、非常に間接的 なものになるのです。

<http://blog.goo.ne.jp/sadalon/e/766599d1811e9d18689c1a39f3b320ac>

穂積氏は、『古事記』には宇摩志麻遲命（ウマシマジノミコト）を始祖とすることが記されていますが、ウマシマジノ ミコトを始祖とする氏族には、穂積氏の他に物部氏、媛氏が 挙げられます。

媛（うねめ）氏は采女を管轄した氏族であるなどと言われ たりしますが、『日本書紀』には、雄略天皇の時代に采女に関連した記事が多く取り上げられ、そこに媛氏とは同族の物 部氏や職業としての物部も絡んでいます。

しかも、伊勢の采女に関する記事が多く見られることから、やはり伊勢に関係 している氏族と思われます。

穂積氏と伊勢神宮の関係 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 5 日(土)20 時 56 分 2 秒 返信・引用 編集済

> No.1785[元記事へ]

荊の紀氏さんへのお返事です。

鈴木氏、五十鈴は共通点はないな。

国生み航海で黄泉に残った船数が川の名前に変化した様だな。

状況は川の津で伊勢神宮の五十鈴川のイメージだな。

「五十鈴（イジッスズ＝イスズ）」は五十津（イスズ＝イジツツ）

五十鈴川（いすずがわ）は、三重県伊勢市を流れる宮川水系の一級河川

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%8D%81%E9%88%B4%E5%B7%9D>

鈴木氏は穂積姓だな。『三国志魏書』馬韓伝に「旧民は少ししか見出せなかった」

旧民は卑弥呼、崇神天皇、垂仁天皇を指す模様。旧民以外が穂積姓で三韓征伐後に渡来した模様。鈴木氏は中臣だな。以後平氏になる。

『三国志魏書』馬韓伝

桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

桓帝と靈帝の末（146年－189年）、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。

建安年間（196年－220年）、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帶方郡とし、公孫模や張敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帶方に帰属させた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

ニギハヤヒノミコトは、日本神話に登場する神。『日本書紀』では饒速日命、『古事記』では邇藝速日命と表記する。

『古事記』では、神武天皇の神武東征において大和地方の豪族であるナガスネヒコが奉じる神として登場する。ナガスネヒコの妹のトミヤスビメ（登美夜須毘売、日本書紀では三炊屋媛という）を妻とし、トミヤスビメとの間にウマシマジノミコト（宇摩志麻遲命）をもうけた。ウマシマジノミコトは、物部連、穂積臣、采女臣の祖としている。イワレビコ（後の神武天皇）が東征し、それに抵抗したナガスネヒコが敗れた後、イワレビコがアマテラスの子孫であることを知り、イワレビコのもとに下った。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8B%E3%82%AE%E3%83%8F%E3%83%A4%E3%83%92>

一族には継体朝に百済への使者となり

「鈴木氏」の多くが穂積姓の末裔とされている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A9%82%E7%A9%8D%E6%B0%8F>

Re: 家形石棺 投稿者：荊の紀氏 投稿日：2013 年 10 月 5 日(土)10 時 01 分 49 秒 返信・引用

> No.1784[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 「五十鈴（イジッスズ＝イスズ）」は古事記の国生み、大八島国の寄港地の川がイスズ川で、所在地は黄泉の国辺りだな。どうも、国生み航海で黄泉に残った船数が川の名前に変化した様だな。

>

> 第2章 日本列島の誕生（1） 国生み

> 第3章 日本列島の誕生（2）（大八島国）

> <http://www15.plala.or.jp/kojiki/>

>

> 「十」

> 呉音：ジュウ(ジフ)、ジッ

> 漢音：シュウ(シフ)(表外)

> 慣用音：ジュッ

> 「十」の伝来時の音は[?ip]と推定され、当時の日本語にない[-p]の音（入声）は「-フ（音は[-?u]と推定されている）」と音写されたため、「十」は「ジフ」として受け入れられ、後に「ジュウ」に変化した。一方、入声はk,s,t,h,pといった無声子音が後続するときは促音便化するという性質（例.合[ガフ]→合算[ガッサン]）があったため、「十」も促音便は「ジッ」であり「十本」は「ジッポン」、「十間」は「ジッケン」と発音された。近年になり、「ジュウ」の音に引きずられ、促音便は「ジュッ」が広く受け入れられるようになった。改定常用漢字表では、備考に「『ジュッ』とも。」と注記されている。

> 十円（じゅうえん）

> 十個（現代の発音: じゅっこ、伝統的な発音: じっこ）

> 訓読み

> 常用漢字表内

> とお、と

> <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E5%8D%81>

>

>> 「五十」が「イツト」＝「伊都」「一大（率）（イツタイシュチ）」と呼ばれていたころの記載、これをどこに探し求めるかが課題です。

>>

>> 「五十鈴（イソスズ）」もそういわれてみると「「一大（率）（イツタイシュチ）」にちょっと似てる。

>>

>> 伊勢を考えると、確かに崇神・景行にかけてのマキムク方面も意識する必要がありますね。

>

鈴 すず,りん,れい 了・・・悟る・・・吾（われ）

鈴木 穂積氏はニギハヤヒの命の後物部氏に属す。

・・・ 参考になれば、幸いです。

令は神意をうける姿、命は令に 祝詞を収める器の（さい）をつけたもので啓示として与えられるものをいい、その神を降した神を送るときに用いるものが鈴。<http://jigen.net/kanji/37428>

了とは（リョウとは）<http://dic.nicovideo.jp/a/%E4%BA%86>

うける姿・・・五（ゴ・・・吾・・・呉？）

収める器・・・十（ジュー・・・獣・・・ユダヤ？）

神を降した神を送るときに用いるものが鈴・・・キリスト教徒は木の十字架、ユダヤ教徒は鈴を常に身に付けるよう義務付けた。<http://www.cocorila.jp/article/articles.html?num=2011122701>

鈴の音に神秘性を感じたのは日本だけではありません。ユダヤ教やキリスト教の聖典である『旧約聖書』には祭司が着る衣装には鈴をつけるように指示がありますし、ロシアなどで信仰されている正教会の香炉には鈴がつけられて、祈る人の心を神の国へと導いてくれるとされています。

どうしてこんなに鈴の音が神秘的な力を持つのかはわかりませんが、鈴の音にまつわる言い伝えもさまざまなものがあります。例えば、夢の中で鈴の音を聞いたら、それは「霊夢＝意味のある夢、高次の存在からのお告げ」であるというものや、霊からのメッセージであるというもの。

ココリラでもお馴染み、オラクルカードのドリーン・バーチューさんによると「アースエンジェル」である人たちは、片方の耳だけに響く鈴の音を聞くということですし、鈴の音というのは高次の世界とのこちら側を繋ぐ架け橋にもなっているのかもしれませんが。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%83%BC%E3%82%AD%E3%83%A0>

八十(ヤソ)

キリスト教は昔、耶蘇(ヤソ)教だとか基督教と表現されていました。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q127373457

13 番目の天使 13 は「不可能（未知）の数」[http://ja.wikipedia.org/wiki/13_\(%E5%BF%8C%E3%81%BF%E6%95%B0\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/13_(%E5%BF%8C%E3%81%BF%E6%95%B0))

古代より暦の必要性から時間や方位などに六十進法が使われており、中でも 60 の約数の一つである 12 はそれらを構成する基準の数として、12 か月や 12 時間、12 方位などのようにしばしば用いられてきた。生活に広く根付いた基数の 12 に対し、12 より一つ多く素数である 13 は、その調和を乱すものとして不吉な数と考えられた。

1 年を 360 日にしたら、太陽の南中時刻が 12 時じゃなくなるな。

<http://koyomi.wafusozai.com/archives/161>

3 6 0（み・ろく）=<http://www.chojin.com/text/ac4s2.htm>

トウシタ天での一年は $360 \times 400 = 144000$ 年（一年を 360 日とする）。そして天上での寿命が 4000 年といわれているので、それに 4000 を掛けて 5 億 7600 年となるが、「これを五七億六千万と読み、のちに口調のよいところから五六億七千万と読みならわしたように思われる」と解釈しておられる（『愛と平和の弥勒経』P.263～264）。

ここにも 13 が隠れている。それは神の名である神聖四文字、ヤハウエ, YHVH (????)。合計数は 26 だが、さらに分解し加算すると、 $2+6=8$ になる。数秘術で 8 は権威・力を象徴する。また無限大のシンボル。そして 8 の字母名はヘト(????)、

<http://blogs.yahoo.co.jp/decadent3791711/12266426.html>

13 はユダヤ教徒の男児にとって「成人」の年齢。そしてユダヤ教では神の属性を 13 数えている。

ヤハウエ, YHVH (????)。合計数は 26 だが、さらに分解し加算すると、 $2+6=8$ になる。数秘術で 8 は権威・力を象徴する。また無限大のシンボル。そして 8 の字母名はヘト(????)、この数価は（ヘト・ヨッド・タウ） $8+10+400=418$ $8+1+4=13$ 。

ヘトの 13。メタトロンは「契約の天使」「神の代理人」「小 YHWH」と呼ばれ、76 の異名を持つ。

ヘトとは? ヒッタイト <http://www.weblio.jp/content/%E3%83%98%E3%83%88>

十三

五十(?) (うそ)・・・禹(塙・兎・鳥・・・)

十二羽の鷺と十三羽目の? <http://blog.livedoor.jp/aisyunokotatsumikan/archives/27900710.html>

?張 u2a02f 鳩?-UniHan Database24 腔 URO 範囲外 うつけ愚か者のこと

<http://shimapucchi.blog93.fc2.com/?mode=m&no=325>

愚か者

武器を持つもの=>【私・ム=禹・塙・于・・・】... <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3106>

悟り

霊隠山の巢構塙（そうこうう）に至ると、？光法師はさっと悟り、師匠が語った言葉を思い出しました
塙（う）

益都蓼塙大白山に逃れた。

蓼バラなり

バラの意味では？とも書く。〔説文解字〕には「薔虞、蓼なり」、〔<http://dic.nicovideo.jp/a/%E8%96%94>

「蓼の澤に生ずる者なり」

水蓼【ミズタデ】. 2 件の用語解説（水蓼で検索）. Tweet. デジタル大辞泉の解説. みず- たで〔みづ-〕【水×蓼】〔名〕カワタデのこと。ヤナギタデの変種で、水中に生える。〔枕〕穂状に花が咲くところから「穂」または地名の「穂積」にかかる。「

「穂積」にかかる <http://kotobank.jp/word/%E6%B0%B4%E8%93%BC>

穂積鈴木

穂積鈴木氏の本拠地は熊野新宮周辺だが、やがて名草郡藤白湊に移って同地王子社の神官となり以後発展した。熊野神社の神職として各地熊野神社の勧請による布教活動あるいは熊野水軍として海上に活躍したことから、全国的に鈴木氏 ...<http://akitsuri.exblog.jp/2401980>

十二本の榎の木を勧請したので榎本姓を、次男基成は餅を供えて丸子（宇井）姓を、三男基行は稲を献上したので穂積姓を賜った」とある。

鈴木氏の本姓が穂積氏であることを伝えているが、穂積氏はニギハヤヒの命の後物部氏に属す。穂積とは積まれた稲穂のことで、熊野地方ではススキと呼んだところから鈴木氏の漢字を当てたのが鈴木氏の由求である。なおススキは聖なる意味をもち、ススキ・なる木なので神事にも縁がある。

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 10 月 5 日(土)08 時 27 分 39 秒 返信・引用 編集済
> No.1783[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

「五十鈴（イジッスズ＝イスズ）」は古事記の国生み、大八島国の寄港地の川がイスズ川で、所在地は黄泉の国辺りだな。どうも、国生み航海で黄泉に残った船数が川の名前に変化した様だな。

第2章 日本列島の誕生（1） 国生み

第3章 日本列島の誕生（2）（大八島国）

<http://www15.plala.or.jp/kojiki/>

「十」

呉音：ジュウ(ジフ)、ジッ

漢音：シュウ(シフ)(表外)

慣用音：ジュツ

「十」の伝来時の音は[ʔip]と推定され、当時の日本語にない[-p]の音（入声）は「-フ（音は[-ʔu]と推定されている）」と音写されたため、「十」は「ジフ」として受け入れられ、後に「ジュウ」に変化した。一方、入声はk,s,t,h,pといった無声子音が後続するときは促音便化するという性質（例.合[ガフ]→合算[ガッサン]）があったため、「十」も促音便は「ジッ」であり「十本」は「ジッポン」、「十間」は「ジッケン」と発音された。近年になり、「ジュウ」の音に引きずられ、促音便は「ジュツ」が広く受け入れられるようになった。改定常用漢字表では、備考に「『ジュツ』とも。」と注記されている。

十円 (じゅうえん)

十個 (現代の発音: じゅっこ、伝統的な発音: じっこ)

訓読み

常用漢字表内

とお、と

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E5%8D%81>

> 「五十」が「イット」＝「伊都」「一大（率）（イツタイシュチ）』と呼ばれていたころの記載、これをどこに探し求めるかが課題です。

>

> 「五十鈴（イソスズ）」もそういわれてみると「「一大（率）（イツタイシュチ）』にちょっと似てる。

>

> 伊勢を考えると、確かに崇神・景行にかけてのマキムク方面も意識する必要がありますね。

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 10 月 3 日(木)22 時 43 分 37 秒 返信・引用

> No.1782[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 「五十」は皇后媛蹈鞴五十鈴媛命の五十鈴にあたるな。

>

> 神武天皇 42 年、皇后媛蹈鞴五十鈴媛命の皇子の神渟名川耳尊（かむぬなかわみみのみこと）を皇太子と定めた。

>

>

> 媛蹈鞰五十鈴媛命の末裔が崇神天皇、垂仁天皇、・・・

> 崇神天皇：御間城入彦五十瓊殖天皇（みまきいりびこいにえのすめらのみこと）

> 垂仁天皇：活目入彦五十狹茅尊（いくめいりびこいさちのみこと）

>

>

そういえば、伊勢というと、遷宮がありましたね。伊勢（イセ）と五十（イソ）も、同系統の語源でしょうか。

ただ、上記の「五十」は、おそらく後代編者が使った「たくさんの」の意味でしょうね。八百万と同じ類いです。

このころには、もう「イソ」で読んでいたでしょう。

「五十」が「イット」＝「伊都」「一大（率）（イツタイシュチ）」と呼ばれていたころの記載、これをどこに探し求めるかが課題です。

「五十鈴（イソスズ）」もそういわれてみると「「一大（率）（イツタイシュチ）」にちょっと似てる。

伊勢を考えると、確かに崇神・景行にかけてのマキムク方面も意識する必要がありますね。

大国主、大物主の「主・シュ」です。「タイ・クニ・シュチ」

4世紀後半のタケウチ宿禰系集団や、?氏の渡来する時代にかけて、竹内街道が河内から桜井をこえて伊勢へと結ばれていきます。ここで渡来系の発音・語音や文字が充てられていくわけですが、「五十」は、「イツ・トウ」で、この磁気かなー。それ以前は漢字なしで音だけで「イット・シュチ」だけが残存していて、その前は倭人伝の時代でまた漢字が使われていて「一大率」

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年10月1日(火)21時03分54秒 返信・引用

> No.1781[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

「五十」は皇后媛蹈鞰五十鈴媛命の五十鈴にあたるな。

神武天皇 42 年、皇后媛蹈鞰五十鈴媛命の皇子の神渟名川耳尊（かむぬなかわみみのみこと）を皇太子と定めた。

媛蹈鞰五十鈴媛命の末裔が崇神天皇、垂仁天皇、・・・

崇神天皇：御間城入彦五十瓊殖天皇（みまきいりびこいにえのすめらのみこと）

垂仁天皇：活目入彦五十狹茅尊（いくめいりびこいさちのみこと）

> 確かに伊蘇国の件は重要です。伊都の語源を、五十（イツト）→（イソ）に筆者は求めているわけですが、これはやはり元々音だけが「イツト」とかいう具合で存在して、それが後に「五十」さらには「伊都」を充てたという形になるのでしょうか。

神武天皇 2 年、功を定め・・・は検討を付けている。

神功皇后の神功は「神武の功」から来ているな。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/mobile/index/list/?page=273&reverse=1&TEACUPRBBS=fb0b4c0b07f2d3f717e1023033625b2f>

神武天皇 2 年、功を定め・・・。

倭国伝の「その国境は東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程」が功にあたるな。

『北史』倭国伝

其國境、東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢、東高西下。居於邪摩堆、則魏志所謂邪馬臺者也。又云：去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽東、與儋耳相近。俗皆文身、自云太伯之後。

その国境は東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程、各々が海に至る。その地形は東が高く西が低い。邪摩堆で暮らす、魏志に則れば、言うところの邪馬臺である。また言う、楽浪郡の境および帶方郡から一万二千里、会稽の東に在り、儋耳と相似する。俗は皆が身体に刺青をし、太伯の後裔だと自称する。

神武天皇 31 年、巡幸して、腋上の丘に登り、蜻蛉（あきつ）のとなめ（尾）に似ていることから、その地を秋津洲と命名した。

神武天皇 42 年、皇后媛蹈鞴五十鈴媛命（ヒメタタライスズヒメ）の皇子の神渟名川耳尊（かむねなかわみみのみこと）を皇太子と定めた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun5-hokusi.htm>

即位

辛酉の歳（神武天皇元年）の正月、磐余彦は橿原宮で踐祚し、始馭天下之天皇（はつくにしらすすめらみこと）と称した。52 歳であった。

神武天皇 2 年、功を定め、道臣命は築坂邑に大来目を畝傍山の西に居住させ、椎根津彦を倭国造に、弟狛を猛田邑の県主、弟磯城を磯城の県主に任じ、高皇産靈尊の子孫の剣根を葛城国造に任じた。併せて八咫鳥を「幸を運ぶ鳥」と褒賞した。

神武天皇 4 年、天下を平定し海内無事を以て詔し、鳥見山に皇祖天神を祀った。

神武天皇 31 年、巡幸して、腋上の丘に登り、蜻蛉（あきつ）のとなめ（尾）に似ていることから、その地を秋津洲と命名した。

神武天皇 42 年、皇后媛蹈鞴五十鈴媛命の皇子の神渟名川耳尊（かむねなかわみみのみこと）を皇太子と定めた。

神武天皇 76 年、127 歳にして崩御した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E5%A4%A9%E7%9A%87>

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 30 日(月)22 時 38 分 22 秒 返信・引用 編集済
> No.1780[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 伊蘇国は韓国、慶尚南道沿岸の地名ですな。筑紫の隣ですな。

>

> 仲哀天皇と神功皇后が穴門から岡田宮へ行く……。の岡田宮は

> 日本書紀に天皇は筑紫に行き、岡県主の先祖の熊鰐（わに）が、来たことを聞いて大きな賢木を根こそぎにして、大きな船の舳に立てて、……。の岡県は岡田宮と同一ですな。

>

> 天孫降臨、神武東征、国引き神話、仲哀天皇条より(神功皇后)の共通点が筑紫で岡県主の
> 先祖の熊鰐（わに）が越ですな。
>

秦野さん、岸さん情報ありがとうございます。

確かに伊蘇国の件は重要です。伊都の語源を、五十（イット）→（イソ）に筆者は求めているわけですが、これはやはり元々音だけが「イット」とかいう具合で存在して、それが後に「五十」さらには「伊都」を充てたという形になるのでしょうか。

ただそれ以前の倭人伝の時代には「一大（率）（イツタイシュチ）」「イチダイソツ」を使っていて、そのときにはまだ呉音系の漢字が残っていた。それは弥生末期の九州の製鉄遺跡や漢字記載入の土器でわかります。

その後、漢字が失われて音だけで「イット」とかで伝わって、さらに渡来人が来る5世紀代になって、その音に「五十」「伊都」を充てたという具合でしょうか。

正月4日、筑紫へ発つ。そこへ熊鰐（クマワニ＝岡県主の祖）が船の舳先に白銅鏡・十握剣・八尺瓊を取り付けた櫓を取り付け、周防の佐波の浦に現れ、恭順を示した。

また同時に伊都県主の祖・五十迹手も同じように恭順し、穴門の引島に姿を見せた。

天皇はこれを賞し、五十迹手のことを「伊蘇志（いそし）」と言った。これにより五十迹手の本国は「伊蘇国（いそのくに）」と言われるようになった。ところが、今は「伊都（いと）国」と言うようになってしまったが、それは誤りである。

7月になって那ノ津（灘県）に到り、そこに檀日（かしひ）宮を建て、熊襲討伐の協議を行った。すると皇后に神が懸かり、「熊襲は空国であるから撃つほどのことも無い。それより新羅という宝の国があるから、それを討つがよい。そうすれば熊襲も自然と帰服しよう」とのことだったが、天皇は従わず、強いて熊襲を討つことにした。

<http://kamodoku.dee.cc/chuusiki-wo-yomu.html>

この文章も上記と同様な変遷過程をたどっていて、まず先祖の名前が音で「イット＋アトシュ」で伝わった系譜があつて、その後、これに渡来人の時代になって「五十迹手（イット＋アトデ・シャクシュ、アトシュ）」と名付け直し、さらに時代が下って「伊都県主（イト＋アガタヌシ＝ア（ガ）タ＋シュ）」になったわけです。

ここで「主」の発音は、もとは「シュ」と発音していたものを、ある時期に「ヌシ」といい変える、もしくは変化させたのですね。

「県」を漢字でそこに代入替えあと考えると、郡県制の導入は、意外に新しかったのかもしれない。

そして「主（シュ）」が「率（シュツ）」に由来していた可能性もあります。これが先日のように「ヅチ」「ツチ」「槌・椎」になる。

「ヌシ」は、ヌ＋シュ？

> 日本書紀 仲哀天皇条より

>

> 治世八年1月4日、天皇は筑紫に行き、岡県主の先祖の熊鰐（わに）が、来たことを聞いて大きな賢木を根こそぎにして、大きな船の舳に立てて、上枝に白銅鏡（ますみのかがみ）をかけ、中枝には十握剣（とつかのつるぎ）をかけ、下枝には八尺瓊（やさかに）をかけて、周芳（すわ）の沙塵（さば）の浦に迎えた。

> 御料の魚や塩が採れる土地を献上し言った。

> 熊鰐> 穴門より向津野大済（むかつのおおわたり）に至るまでを東門とし、名籠屋大済（なごやのおおわたり）を西門とし、没利（もとり）島（六連島）、阿閉（あへ）島（藍島）を限って御宮（みはこ）とし、柴島（白島）を割いて供養の魚を捕るための地とする。逆見の海を塩地としたい。

> 天皇> そちの思うようにいたせ。

>

> http://www.geocities.jp/ojyaru_24/itokoku.html

>

この「穴門」と「西門」「東門」の「門」の対応関係は留意すべきですね。

「戸」を宮や大路や方位区画の辺にあたるの名称につける件は、すでに4世紀代にはあったようですが、「門」というのは、どうかな。

周芳（すわ）国のことをいっているわけですが、山口県のあたりのことです。

秦王（スオウ）国かどうかが課題でした。

それで西門にあたる「名籠屋大済（なごやのおおわたり）」というのは、思うに大分の半島のあるところに今でも名護屋港というのがあったはずです。佐伯市蒲江名護屋港。佐賀唐津にも名護屋港はあるようです。唐津かな。

藍島。阿閉島も北九州博多方面ですよね。

御筥は箱崎宮あたりのことか。

4つの門で囲まれた地域を「ハコ」とするわけです。御筥はt字佐関連で出て来る御輿の文化とも関係しそう。

御」は「三」とも記されて、下図の屯倉方位区画と関係してきます。?氏など渡来人時代のものです。

「

阿倍氏の本拠が、筑紫方面にあることは、以前会報でオオヒコ系南方航海集団の件で論じましたが、出雲、飯の関連の地名、多の関連地名とも重なって行きます。阿倍・オオヒコはつまり景行（オオタラシヒコ）のことで、4世紀前半に南方海人系文化を畿内にもたらし、佐紀盾列古墳群等を畿内につくります。

それで。神武・日向系の伝承が、この時代のそれと深くかかわっていくのですが、ともあれ、この阿閉島ですね。ここに阿倍氏の本拠があって、そこにさらに秦氏系の渡来系集団が、?韓から渡って行って、「?王国」になったのでしょうか。

もとは「スワ・シュオ（ホ）ウ」の音が残る地域で、そこに、渡来系漢字文化が入ってきて「?王国」「周防」になる・

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 30 日(月)21 時 22 分 20 秒 返信・引用 編集済
> No.1777[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

伊蘇国は韓国、慶尚南道沿岸の地名ですな。筑紫の隣ですな。

仲哀天皇と神功皇后が穴門から岡田宮へ行く・・・の岡田宮は

日本書紀に天皇は筑紫に行き、岡県主の先祖の熊鰐（わに）が、来たことを聞いて大きな賢木を根こそぎにして、大きな船の舳に立てて、・・・の岡県は岡田宮と同一ですな。

天孫降臨、神武東征、国引き神話、仲哀天皇条より(神功皇后)の共通点が筑紫で岡県主の先祖の熊鰐（わに）が越ですな。

手掛かりは出雲神話、国引き神話「北門裏波（隠岐道後）」「高志（越）」

八束水臣津野命（やつかみずおみつぬのみこと）は、出雲の国は狭い若国（未完成の国）であるので、他の国の余った土地を引っ張ってきて広く継ぎ足そうとした。そして、佐比売山（三瓶山）と火神岳（大山）に綱をかけ、以下のように「国来国来（くにこくにこ）」と国を引き、できた土地が現在の島根半島であるという。国を引いた綱はそれぞれ藺の長浜（稲佐の浜）と弓浜半島になった。そして、国引きを終えた八束水臣津野命が叫び声とともに大地に杖を突き刺すと木が繁茂し「意宇の杜（おうのもり）」になったという。

新羅の岬→去豆の折絶から八穂爾支豆支の御埼（やほにきづきのみさき。杵築崎）

北門（きたど）の佐伎（さき）の国→多久の折絶から狭田（さだ）の国

北門の良波（よなみ）の国→宇波の折絶から闇見（くらみ）の国

越国の都都（珠洲）の岬→三穂埼

http://www.pref.shimane.lg.jp/life/bunka/bunkazai/izumo_fuudo/izumofudoki/fudoki/fudokif/fudo03.html

天孫降臨

「穴門より向津野大済に至るまでを東門とし、名護屋大済を以ては西門とす。没利島・阿閉嶋を限りて御宮とし、柴嶋を割りて、御[扁瓦]

<http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/sinjitu5/unmeini2.html>

神武東征

『古事記』では、神倭伊波礼毘古命（カムヤマトイワレビコ）は、兄の五瀬命（イツセ）とともに、日向の高千穂で、葦原中国を治めるにはどこへ行くのが適当か相談し、東へ行くことにした。舟軍を率いて日向を出発して筑紫へ向かい、豊国の宇沙（現 宇佐市）に着くと、宇沙都比古（ウサツヒコ）・宇沙都比売（ウサツヒメ）の二人が仮宮を作って食事を差し上げた。そこから移動して、岡田宮で1年過ごした。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E6%9D%B1%E5%BE%81>

伊都国という思い出されるのは、仲哀天皇と神功皇后が穴門から岡田宮へ行く途中で、迎えに来た熊和邇と五十迹手のことです。

日本書紀 仲哀天皇条より

治世八年1月4日、天皇は筑紫に行き、岡県主の先祖の熊鰐（わに）が、来たことを聞いて大きな賢木を根こそぎにして、大きな船の舳に立てて、上枝に白銅鏡（ますみのかがみ）をかけ、中枝には十握剣（とつかのつるぎ）をかけ、下枝には八尺瓊（やさかに）をかけて、周芳（すわ）の沙摩（さば）の浦に迎えた。

御料の魚や塩が採れる土地を献上し言った。

熊鰐＞ 穴門より向津野大済（むかつのおおわたり）に至るまでを東門とし、名籠屋大済（なごやのおおわたり）を西門とし、没利（もとり）島（六連島）、阿閉（あへ）島（藍島）を限って御筥（みはこ）とし、柴島（白島）を割いて供養の魚を捕るための地とする。逆見の海を塩地としたい。

天皇＞ そちの思うようにいたせ。

http://www.geocities.jp/ojyaru_24/itokoku.html

> これもそうで、いずれも伊邪ナギ系の瀬戸内・南方航海民系の集団。北九州の伊都国に最重要拠点を置いていました。

>

Re: 家形石棺 投稿者：ワープ 投稿日：2013年9月29日(日)10時11分10秒 返信・引用

> No.1777[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 「槌」・・・ツイ（対）島・・・対岸？

> 呉音：ズイ(ツイ)

> 漢音：ツイ

筒 津 津・・・両神は対「フツ」断ち切られる様

軻遇突智の血が天の安河のほとりの岩群を染めたために岩裂神・根 裂神が生まれ、その御子の磐筒男神・磐筒女神が経津主神を生んだとしている。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%8C%E6%B4%A5%E4%B8%BB%E7%A5%9E>

経津主神は武甕槌神と関係が深いとされ、両神は対で扱われることが多い。有名な例としては、経津主神を祀る香取神宮と、武甕槌神を祀る鹿島神宮とが、利根川を挟んで相対するように位置することがあげられる。

>神名の「フツ」は刀剣で物が断ち切られる様を表し、刀剣の威力を神格化した神とする説のほか、「フツ」は「フツフツ」と沸き上がり「フルイ起す」フツであるとする説や[1]。、神武東征で武甕槌神が神武天皇に与えた布都御魂（ふつのみたま）[2]の剣を神格化したとする説がある。なお、『先代旧事本紀』では経津主神の神魂の刀が布都御魂であるとしている。『古事記』では、建御雷之男神の別名が建布都神（たけふつのかみ）または豊布都神（とよふつのかみ）であるとし、建御雷之男神が中心となって葦原中国平定を行うなど、建御雷之男神と経津主神が同じ神であるかのように記載している。

「逆しまに立つ剣の形」

>彼らは、会報で論じたように、刀をノーモン・測量尺として利用していたのですが、その刀剣関連の伝承が、後代タケミカヅチなどの刀剣伝承へと変化していったことでしょう。一部、そこに東欧系集団を配下いっていた新漢人等の伝承も影響していきます。

Re: 家形石棺 投稿者：ワープ 投稿日：2013 年 9 月 29 日(日)02 時 47 分 16 秒 返信・引用

> No.1773[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 倭人伝の「対蘇国（タイソ）」「都支国（ツキ）」ですが、これが後代の「大分（タイ・キタ）＋阿蘇（アソ）」「竹斯（チク・シ）」に関係してきます。

伊都国 「伊蘇国」 イスラエル <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs?>

五十迹手の国が「伊蘇国」と呼ばれるようになったのは、天皇が「伊蘇志」と仰せられたからですが、その名称に当てられた「蘇」という漢字は、蘇民将来の字にも用いられていることに注目してみました。日本各地に伝承されてきた蘇民将来の信仰は、主に牛頭 ...<http://www.historyjp.com/article.asp?kiji=159>

ヤタガラスが言っている「賀茂氏＝レビ族」

2013 年 1 月 9 日 - 鰐族の出自はイスラエルのレビ族新天地に足. を踏み入れる際は誰よりもまず. レビ族が先行して出向き、立地. 条件を 検証して宗教儀式にふさ. わしい神聖な土地を選別し、そ. こで神を祀ることから移民の 歴 ...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3284>

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 28 日(土)23 時 06 分 41 秒 返信・引用 編集済
> No.1776[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 物部系集団

>

> 天地開闢 (日本神話)ですな、天地開闢は日本の古代の国の構成と組織だな。

> 後は国生みになる。

>

> 「ツチ」ですが「タケミカツチ」「アシナヅチ」等は天地開闢から・・・。

>

> 文章に国狭槌尊（くにのさつちのみこと）国狭立尊（くにのさたちのみこと）

> 槌（つち）がある。狭槌は京都、滋賀、福井、岐阜のエリアを指すな。

>

> 槌（つち）系集団

>

> 天地開闢 (日本神話)

> [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%9C%B0%E9%96%8B%E9%97%A2_\(%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%A5%9E%E8%A9%B1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%9C%B0%E9%96%8B%E9%97%A2_(%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%A5%9E%E8%A9%B1))

>

> 槌

> 呉音：ズイ(ツイ)

> 漢音：ツイ

> 訓読み

> つち

> <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E6%A7%8C>

>

なるほど、そうすると「率」「鎚」「師」には、音的にかなり有意な相関関係がありますね。再度整理すると、

「率」

音読み

呉音：シュチ(表外)、スイ(表外)、ソチ(表外)、リチ(表外)

漢音：スイ(表外)、ソツ、リツ

訓読み

常用漢字表内

ひき-いる

「槌」

呉音：ズイ(ツイ)

漢音：ツイ

訓読み

つち

「師」音読み

呉音 漢音：シ

訓読み

常用漢字表内

常用漢字表内の訓読みはありません。

常用漢字表外

のり、もろ、のし

こう見ると、漢音に近かった率が、呉音文化圏だった弥生末期の倭の九州世界にとりこまれて、「スイ・ソツ」から「シュチ」「ズイ」へと濁音化して、さらに後代「ヅチ」へと変化していったのではありませんでしょうか。

だから北方系の漢音だった「一大率」（イチ・タイ・ソツ（スイ））は、倭で呉音化して「伊都台率」（イツ・ダ（イ）・シュチ（スイ・ソチ））となり、さらに後代「伊（五）太槌」（イダヅチ）みたいな名へと変化して行った可能性を感じます。

たとえば、五十猛命（いたけるのみこと） - 別名：大屋毘古神、がいますね。

これを祀る神社がm 伊太祁曽神社（いたきそじんじゃ）

タケミカヅチ（タケミカヅチオ）は、日本神話に登場する神。雷神、かつ剣の神とされる[2]。後述するように相撲の元祖ともされる神である。

『古事記』では建御雷之男神・建御雷神、『日本書紀』では、武甕槌、武甕雷男神

<http://ja.wikipedia.org/wiki/タケミカヅチ>

「イカヅチ」の発音も（イダヅチ）に少し近い。

火神軻遇突智（カグツチ）もいますね。

天之尾羽張神（あめのおはばりのかみ）という。別名 伊都之尾羽張（いつのおはばり）

これもそうで、いずれも伊邪ナギ系の瀬戸内・南方航海民系の集団。北九州の伊都国に最重要拠点を置いていました。

もともとは「率（ズイ・シュチ）」の意味で伊都周辺で管理していた一族の伝承や末裔、これが「槌」を尊称として受け継ぎ続けた、そんな感じでしょうか。南方海人系で、伊勢、鹿島、尾張・諏訪・出雲・伊豆・・・へと全国展開していきます。

彼らは、会報で論じたように、刀をノーモン・測量尺として利用していたのですが、その刀剣関連の伝承が、後代タケミカヅチなどの刀剣伝承へと変化していったことでしょう。一部、そこに東欧系集団を

配下いにいた新漢人等の伝承も影響していきます。

Re: 家形石槌 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 28 日(土)07 時 00 分 0 秒 返信・引用 編集済
> No.1775[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

物部系集団

天地開闢 (日本神話)ですな、天地開闢は日本の古代の国の構成と組織だな。
後は国生みになる。

「ツチ」ですが「タケミカヅチ」「アシナヅチ」等は天地開闢から・・・。

文章に国狭槌尊（くにのさつちのみこと）国狭立尊（くにのさたちのみこと）
槌（つち）がある。狭槌は京都、滋賀、福井、岐阜のエリアを指すな。

槌（つち）系集団

天地開闢 (日本神話)

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%9C%B0%E9%96%8B%E9%97%A2_\(%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%A5%9E%E8%A9%B1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%9C%B0%E9%96%8B%E9%97%A2_(%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%A5%9E%E8%A9%B1))

槌

呉音：ズイ(ツイ)

漢音：ツイ

訓読み

つち

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E6%A7%8C>

秦野著書：徐福と邪馬台国、魏志倭人伝の著書行程を日本神話に当て嵌め導き古代地図とする。

>

> 邪馬台国や倭奴国の官職・王名につく「師（スイ）」ですね。これも関係するでしょう。

>

> 「臣智（シンチ）」は弁・辰韓方面の官職。これが「臣（オミ）」に関係していきます。

>

> 「タケミカツチ」「アシナヅチ」等の「ツチ」が、以前お話したように「椎（ツチ）」と書いて、南方海人系・物部系集団の尊称です。

>

> 海人族の長・「椎根津彦」にも「椎」の字がつき、後に九州方面から移動して三輪山祭祀へとかかわっていきます。

>

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 27 日(金)23 時 50 分 12 秒 返信・引用 編集済
> No.1774[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> イザナギ、イザナミの伊ですな。地名を拾うと島、海岸ですな。徐福伝説とリンクしそうですな。

>

>> そうすると、伊豆は「ズ」、伊和は「ワ」、伊邪ナミは、「ザ+ナミ」、「伊予」も「ヨ」が、本来の地名。

>

> イザナギ（伊弉諾、伊邪那岐、伊耶那岐）

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%B6%E3%83%8A%E3%82%AE>

>

> イザナミ（伊弉冉、伊邪那美、伊耶那美、伊弉弥）

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%B6%E3%83%8A%E3%83%9F>

>

>

> イチキシマヒメ（イツキシマヒメとも）は、日本神話に登場する水の神である。『古事記』では市寸島比売命、『日本書紀』では市杵嶋姫命と表記する。

>

おそらく、イ+ツキシマなんですよ。 「竹斯（国）+島」＝「九州」

対馬＝「都斯麻国」もやはり同類の名称のように感じます。

九州から壱岐・対馬あたり全体を「ツキ・ツク+シマ」と呼んでいたのではないでしょう。

その首都が「伊+都」「一大（イ+ツ+タイ）」（率）

「率」にあたる日本の古代官職名が見当たらないでしょうか。

「率」

音読み

呉音：シュチ(表外)、スイ(表外)、ソチ(表外)、リチ(表外)

漢音：スイ(表外)、ソツ、リツ

訓読み

常用漢字表内

ひき-いる

邪馬台国や倭奴国の官職・王名につく「師（スイ）」ですね。これも関係するでしょう。

「臣智（シンチ）」は弁・辰韓方面の官職。これが「臣（オミ）」に関係していきます。

「タケミカヅチ」「アシナヅチ」等の「ツチ」が、以前お話したように「椎（ツチ）」と書いて、南方海人系・物部系集団の尊称です。

海人族の長・「椎根津彦」にも「椎」の字がつき、後に九州方面から移動して三輪山祭祀へとかわっていきます。

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 27 日(金)20 時 15 分 35 秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

イザナギ、イザナミの伊ですな。地名を拾うと島、海岸ですな。徐福伝説とリンクしそうですな。

> そうすると、伊豆は「ズ」、伊和は「ワ」、伊邪ナミは、「ザ+ナミ」、「伊予」も「ヨ」が、本来の地名。

伊豆：静岡県伊豆市

伊和：福島県いわき市

伊邪：熊野（くまの、ゆや、いや）

伊予：伊予国（いよのくに）

イザナギ（伊弉諾、伊邪那岐、伊耶那岐）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%B6%E3%83%8A%E3%82%AE>

イザナミ（伊弉冉、伊邪那美、伊耶那美、伊弉弥）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%B6%E3%83%8A%E3%83%9F>

イチキシマヒメ（イツキシマヒメとも）は、日本神話に登場する水の神である。『古事記』では市寸島比売命、『日本書紀』では市杵嶋姫命と表記する。

厳島神社（広島県廿日市市）の祭神ともなっており、「イツクシマ」という社名も「イチキシマ」が転じたものとされている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%83%81%E3%82%AD%E3%82%B7%E3%83%9E%E3%83%92%E3%83%A1>

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 26 日(木)23 時 09 分 35 秒 返信・引用

> No.1771[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> > 「伊」 集団

>

> 伊 イ族は中国西部の古羌の子孫 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1713>

>

> 大昔の石巻一帯には倭人同化が進む最中、姓名の最初にイがつく一族が勢力を誇った 時期がある。
イの漢字は「石」「伊」「井」など。一般にイ族と言えば中国の少数民族の こと。（漢民族？倭人は他民族を蔑称で呼ぶのが倣い。<http://ameblo.jp/geneumi/entry-11466198061.html>

>

> 日本の地名や人名にはなぜ「伊（イ）」が付いていることが多いのでしょうか ...

> 中国長江流域のイ族と関係があるのでしょうか？ ... その内かたかなの「イ」は漢字「伊」のにんべんから変化したものですひらがなよりもカタカナの方が先に成立しているので、人名や地名の固有名詞としても成立する確立は高かったのではない

...http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1485955279

>

岸さん、秦野さん、ご意見ありがとうございます。

イ族の話は、興味深いですね。

おそらく、この倭の中でイ音を地名につける集団は、南方航海民とも関係しているでしょう。

DNA 的には、台湾や華南方面の集団とも関係してくると思うのですが、特に舟の神話ですね。

物部の磐舟、鳥船、日向の山幸神話、伊豆・枯野、

出雲の「イ」は関係あるかな？

「イツ+モ」

先の北九州の「イツ（伊都）」地域の東方「モ」かな？

倭人伝の「対蘇国（タイソ）」「都支国（ツキ）」ですが、これが後代の「大分（タイ・キタ）+阿蘇（アソ）」「竹斯（チク・シ）」に関係してきます。

宇佐方面の「イチキシマヒメ」、壱岐の「イツクハラ」も同系の発音で、「イ」という定冠詞が装飾後

のようにつけられていきます。

もとは「ツキシマ」「ツクハラ」

そうすると、伊豆は「ズ」、伊和は「ワ」、伊邪ナミは、「ザ+ナミ」、「伊予」も「ヨ」が、本来の地名。

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 25 日(水)23 時 28 分 39 秒 返信・引用
> No.1770[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

石上神宮、石切神社、伊都国、一大の共通点だな。「伊」集団は？

伊は神の意志を伝える聖職者、軍隊、劔ですな。

石上神宮、石切神社は劔で新羅ですな。神功皇后。

伊都国、一大は軍隊ですな。これは卑弥呼。

伊

会意形声

「人」+音符「尹」。「尹」は、手で神杖を持った様を表わす象形文字。伊は神の意志を伝える聖職者。治める人の意を表す。調和をさせる様、殷初期の伝説の宰相伊尹（いいん）に因み嘉字とされ、人名、地名に用いられる。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E4%BC%8A>

> 石上神宮や石切神社、のように「石」「磐」も彼らの拠点の地名の特徴ですが、「イ」音です。

石上神宮は七枝刀

https://www.google.co.jp/search?q=%E4%B8%83%E6%9E%9D%E5%88%80&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&tbm=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=7etCUsXZPM-ZlQW174GACw&ved=0CDwQsAQ&biw=1056&bih=838&dpr=1

石切劔箭神社は劔と矢／×箭ですな。劔神社では神功皇后

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%94%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

石上神宮（いそのかみじんぐう）は、奈良県天理市にある神社。式内社（名神大社）、二十二社（中七社）の一社。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁の別表神社。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E4%B8%8A%E7%A5%9E%E5%AE%AE>

石切劔箭神社（いしきりつるぎやじんじゃ）は、大阪府東大阪市にある神道石切教の神社。延喜式神名帳に記載されている河内郡の式内小社（旧社格）。「石切劔箭命神社二座」。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E5%88%87%E5%89%A3%E7%AE%AD%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

>

> 「伊」のつく地名に関わる航海集団が弥生末の倭にいたことは、すでに会報で論じたとおりですが、具体的には「伊都」「伊和」「伊予」「伊勢」「伊豆」「伊邪」・・・といった具合で、地名の最初に「イ」音を入れるのが特徴です。

>

>

> その「伊」集団の「都」だったので、「伊都」になって、そこに彼らの支配拠点があったのでしょう。平原墓の主ですね。割竹型木棺などの後の畿内に入っていく習俗を有しています。椎根津彦・ニニギ・ニギハヤヒで、物部系です。

>

> 石上神宮や石切神社、のように「石」「磐」も彼らの拠点の地名の特徴ですが、「イ」音です。

>

>

>

Re: 家形石棺 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 9 月 25 日(水)10 時 56 分 56 秒 返信・引用

> No.1770[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 「伊」 集団

伊 イ族は中国西部の古羌の子孫 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1713>

大昔の石巻一帯には倭人同化が進む最中、姓名の最初にイがつく一族が勢力を誇った 時期がある。イの漢字は「石」「伊」「井」など。一般にイ族と言えば中国の少数民族のこと。（漢民族？倭人は他民族を蔑称で呼ぶのが倣い。<http://ameblo.jp/geneumi/entry-11466198061.html>

日本の地名や人名にはなぜ「伊（イ）」が付いていることが多いのでしょうか ...

中国長江流域のイ族と関係があるのでしょうか？ ... その内かたかなの「イ」は漢字「伊」の にんべんから変化したものですひらがなよりもカタカナの方が先に成立しているので、人名や地名の固有名詞としても成立する確立は高かったのではない

...http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1485955279

「百済人伊志麻呂、姪を福地造と賜ふ」と見ゆ。川口に存す。伊、井は、飯、伊井、井伊とも称す。飯族は常陸国に多く渡来し、飯島、飯田、飯塚、飯野、飯山等を名乗る。島、田、塚、山は、同じ意味で、国、村、集落の意味 ...<http://homepage1.nifty.com/joichi/1-2i.html>

福地 造（みやつこ）百済族にして、天平寶字五年紀に「百済人伊志麻呂に姓福地造と 賜ふ」と見ゆ。無尸（かばね）の福智氏 福地造の後なるべし。山城の福地氏 山城國 住人福地信盛の後と云ふ。桓武平氏 伊賀國発祥ならん。 http://www.geocities.jp/howard_fkc/fukuchi.html

福地造（みやつこ）百済族にして、天平寶字五年紀に「百済人伊志麻呂に姓福地造と賜ふ」と見ゆ。無尸（かばね）の福智氏 福地造の後なるべし。

山城の福地氏 山城國住人福地信盛の後と云ふ。

桓武平氏 伊賀國発祥ならん。柘植（つげ） 弥兵衛宗清の弟宗俊の後也と云ふ。

江戸系図には「柘植弥兵衛尉宗清の子を福地の祖」と載せたり。

勢州四家記に「伊賀の國の住人福地・信長公の幕下に参る」と。瀧川條参照。

和邇部（わにべ）姓 駿河國の豪族にして、駿河郡福知天神（富知神社）と縁故あるか。

浅間富士系図に「大宮司義孝－義勝（富士六郎）－義邦（福地十郎）－義古（福地三郎）」と見ゆ。

富士，不知，福士等皆同姓也，各條参照。

清和源氏武田氏族 甲斐國都留郡福地郷より起る。家紋丸に三條，霞菱。

寛政系譜に「福知市左衛門信定（百五十俵，教順）－助三郎信氏」等見ゆ。

信濃の福地氏 伊那郡福智郷より起る。承久記卷四に「信濃の國の住人福地の十郎俊政」見ゆ。

奥州の福地氏 葛西家臣にて，葛西記に福地下總守見ゆ。陸前國桃生郡福地邑より起りしか。

肥前の福地氏 肥陽軍記，天文三年に「龍造寺家臣福地氏」，筑後軍記略に「天文廿年，肥前國土福地

主計允等，龍造寺隆信に通ず」と。

雑載 その他，東作志に普請奉行福地彌右衛門を載せ，また伯太渡邊藩重臣に福知氏あり。

又京極殿給帳に「五十石，小人頭・福地兵助」を載せ，水戸藩志士福知政次郎廣延（砲術家）は 佐藤重遠の次男，福知家を嗣ぐ。その男勝右衛門道遠と共に難に死す。

又京都の書家に福智白瑛，その他，美濃，摂津，備前，武蔵等に在り。

又福地源一郎（櫻痴居士）は福知苟庵の末子，父はもと長府藩士，長崎に移りて 醫（くすし）となり，福地嘉昌の嗣となりて，源一郎（八十吉）を生む。幕臣となり，海外に遊び，明治に入りても功多く，又盛に文筆を振へり。

、「伊」「井」の項では《百済族にて、天平宝字五年三月に「百済人伊志麻呂、姪を 福地造と賜ふ」と見ゆ。川口に存す。伊、井は、飯、伊井、井伊とも称す。飯族は常陸国 に多く渡来し、飯島、飯田、飯塚、飯野、飯山等を名乗る。島、田、塚、山

...<http://blogs.yahoo.co.jp/sunekotanpako/33222940.html>

島、田、塚、山は、同じ意味で、国、村、集落の意味なり。》と書いています。

著者の茂木和平氏は、一部分だけ、Web 上に公開していますので、ご覧になってみてください。

<http://homepage1.nifty.com/joichi/>

伊賀氏流飯野氏について読むと、伊賀氏は藤原秀郷の流れを汲むようです。飯野氏の居住地をざっと見ただけでも産鉄地が多いのは明らかです。

茂木氏のいうことが正しいとすると、飯野氏のイは、やはり忌部氏と同様に、鑄のことでしょうか。忌部氏の遠祖が高皇産靈神であることも、それを証明しているように思われます。

山田 案山子（かか氏）

山田の中の一本足のかかし 弓矢 でおどして力んで居れど 山では鳥がかあかと笑う 耳が無いのか山田のかかし [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%8B%E3%81%8B%E3%81%97_\(%E7%AB%A5%E8%AC%A1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%8B%E3%81%8B%E3%81%97_(%E7%AB%A5%E8%AC%A1))

華夏族 - かか族？

また夏王朝（紀元前 21 世紀 - 紀元前 16 世紀）の創立者の大禹の末裔が「夏族」と称されていたことから、中原に居住していた族群を「華夏族」と称するようになったと言われている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8F%AF%E5%A4%8F%E6%97%8F>

華夏文化あるいは華夏文明として近隣の東夷族や北狄族、西戎族、南蛮族に賞され、模倣され、ついに中国大陸の東西南北へと拡大していった。このように数千年間に渡るプロセスにより、華夏系は他の民族系を吸収したり影響したりしながら今日の漢民族を形成してきたのである[1]。

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 24 日(火)23 時 17 分 32 秒 返信・引用 編集済
> No.1768[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 魏志倭人伝の陳寿は「九州の郡は博多で古名が末廬国(魏志倭人伝の地名)に郡が在る」

> 魏志倭人伝から読み取れるな。

>

> 一大の文章を訳す。

>

> 又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

>

> また、南に一海を渡ること千余里、名は瀚海(げんかい：いずはら)という、一大の国官また卑狗、副は卑奴母離に至る。四方は三百里(15.9km)、竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

>

> 尚、壹岐は一大(一支)が島の名になったようだな。伊岐島(古事記)、壹岐洲(日本書紀)に残る。

> 瀚海は呉音読み、ガンカイ。壹岐は玄界灘にあり、正式名はゲンカイだろう。

> 倭読みは厳原(いずはら)だろうな。

一大率、一大国の発音ですが、「一」は漢音で「イツ」、呉音で「イチ」です。

「大」は漢音で「タイ」、呉音で「ダイ」です。

魏の北方音で解釈するならば、「イツ・タイ・率」ですね。

「一」の文字をわざわざ借用している理由は、「伊都（イツ・イト）」の発音を、「一（イツ）」に充てたためかもしれません。

「タイ」音は、「台」の「タイ」音と同じですね。「大分」などの「タイ」地域です。「豊（トヨ）」とも呼ばれますが、もとは「タイヨ」ではないでしょうか。

邪馬台国は、邪馬国（八女）国と、その北東方の大分方面・「台」地域のあたりにあったので、邪馬台国だったのでしょうか。それが後に東遷して領域を拡張していきます。

やはり伊都国周辺と邪馬台国北東の「台」地域に常駐して治めていたので、「伊都・台率」と呼ばれていたはずのものが、「一大率」と中国風に記される結果となったのでしょうか。

伊都国は、倭の面土（ベンド）の国王、帥升がいたところですね。弁韓＋奴国地域の王でもあります。王というのは、昨日の穢侯→（印授与）→穢王の論理からいくと、中国から認められてはじめて「王」と呼ばれる可能性があります。それまでは「帥」の類いです。

あと厳原は、イツキシマの語と関係して、「イツキ」が元の名称でしょう。

「伊都」の分岐した支城、支族の住む地域か。

「一海」も同様に、一つの海を渡るの意味ではなく、「イツ」という地域の海のことかもしれません。が、なんとも証明しにくいですね。

「伊」のつく地名に関わる航海集団が弥生末の倭にいたことは、すでに会報で論じたとおりですが、具体的には「伊都」「伊和」「伊予」「伊勢」「伊豆」「伊邪」・・・といった具合で、地名の最初に「イ」音を入れるのが特徴です。

その「伊」集団の「都」だったので、「伊都」になって、そこに彼らの支配拠点があったのでしょうか。平原墓の主ですね。割竹型木棺などの後の畿内に入っていく習俗を有しています。椎根津彦・ニニギ・ニギハヤヒで、物部系です。

石上神宮や石切神社、のように「石」「磐」も彼らの拠点の地名の特徴ですが、「イ」音です。

>カクハク

>郭璞(276～324)

> 『山海経十八卷』という注釈書を残した。山海経の注釈書としては最も古く権威のあるものとされている。 <http://www.chinjuh.mydns.jp/sengai/libro/jinmei.htm#01>

魏志倭人伝 に倭国のはるか東方にあるとされることから実在の国とする研究者も多い。韓国では黒 齒 常之が関係するとの説がある。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%BB%92%E6%AD%AF%E5%9B%BD>

黒齒の国がある。倭帝の子孫である。姜姓である。黍を食べ四鳥を使う。

郭璞（かくはく）は『山海経』の「黒齒國在其北爲人黒」の「黒齒國」を注する為に「東夷伝曰、倭國東四十餘里有裸國、裸國東南有黒齒國、船行一年可至也」と記している。これは倭人伝の「黒齒国」が『山海経』のそれと同一である見解 ... <http://wakokujyoo.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/post-433a.html>

山海経』は言うまでもなく倭人伝より以前に存在した古代中国の神話と地理の書である。元来、禹の治水事業を助けた伯益の著とされてきたが、禹は夏朝の始祖であるから伯益の著であれば、約四千年の昔から存在したことになる。ただ実際は戦国時代から秦漢時代の作と言う。それでも約二千二百年の昔から存在したことになる。

このことから倭人伝に「裸国」、「黒齒国」の二国名を記入する原作者の作意は、對海國、一大國間の海峡を「瀚海」と呼称することによって倭人の生活領域が古代中国天文地理志上の「北海」の中に存在するという認識を持たせたかったのである。

倭人伝は卑弥呼の祖を夏后少康のように述べるが、夏后少康の祖は『山海経』には、夏朝の創始者禹の後胤とされている。禹は鯀の子である。鯀は堯の臣顓頊（せんきょく）の子である。顓頊は黄帝の孫である。また『山海経』に「有儋耳國、任姓禹號子食北海之渚中有神、人面鳥身、珥兩青蛇、踐兩赤蛇、名曰禺彊」と言う。つまり北海の支配者は禺彊であると言っている。禺彊も黄帝の孫である。儋耳は黄帝の後胤なのでありこのことは黄帝の後胤である夏后少康もまた儋耳であることになる。この中国古代伝説上の系譜を巡り、卑弥呼が夏后少康の胤であり儋耳の子孫であると倭人伝は説いている。

当時の中国社会には、『山海経』の古代聖王の系譜に対する認識は恐らく常識であったろう。とすれば卑弥呼を夏后少康の後胤の如く記すだけで、卑弥呼が儋耳朱崖の後胤と目される。倭人伝は「所有無與儋耳朱崖同」の論拠を『山海経』等を使って、倭の卑弥呼は「儋耳朱崖」そのものと主張している。

帝俊の妻

羲和 【ぎか】 <http://kotobank.jp/word/%E7%BE%B2%E5%92%8C>

中国神話の女神。帝俊の妻で 10 個の太陽を産み、毎日産湯をつかわせているという。のち太陽の御者とされ、馬または竜の引く車に太陽を載せて天空をかけるとも。なお、《書経》では非神話化され、羲仲・羲叔・和仲・和叔の 4 人の総称で、天文をつかさどる官吏。

大月氏 羊氏 司馬師 貌族 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 23 日(月)14 時 17 分 6 秒 返信・引用 編集済
> No.1766[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

魏志倭人伝に「女王国の北方の諸国には「一大率（或るいは一支率）」があるな。

>ただ、この場合、「装飾語」＋「率」で、実質的には385年代も東晋などの南朝の影響を受けて成立したものでしょう。

どうも、歴史家は日本の歴史を劣等国としているな。

根拠は【佐伯 有清】ですかな。

佐伯さんの根拠はともかく、三角縁神獣鏡の銘文に卑弥呼の出身が京師とありますな。京師は楽浪郡の北になる。帯方郡より京師が先に成立しているな、帯方郡は疑問ありですな。一大率は卑弥呼の統治組織ですな。

簡単に言いますと匈奴の組織ですな。

3世紀の邪馬台国の時代の官名。《魏志倭人伝》に〈女王国より以北には、特に一大率を置き、諸国を檢察せしむ〉とある。さらに同書には〈諸国之（これ）を畏憚す。常に伊都国に治す〉とみえるので、一大率は邪馬台国が、北方の国々を檢察するために派遣した官で伊都国に駐留していたことがわかる。一大率の〈率〉は、漢語系の用字なので、帯方郡から派遣されてきた官ではないかとみなす説も出されている。【佐伯 有清】

<http://kotobank.jp/word/%E4%B8%80%E5%A4%A7%E7%8E%87>

魏志倭人伝の陳寿は「九州の郡は博多で古名が末廬国(魏志倭人伝の地名)に郡が在る」

魏志倭人伝から読み取れるな。

一大の文章を訳す。

又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

また、南に一海を渡ること千余里、名は瀚海(げんかい：いずはら)という、一大の国官また卑狗、副は卑奴母離に至る。四方は三百里(15.9km)、竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

尚、壱岐は一大(一支)が島の名になったようだな。伊岐島(古事記)、壹岐洲(日本書紀)に残る。

瀚海は呉音読み、ガンカイ。壱岐は玄界灘にあり、正式名はゲンカイだろう。

倭読みは厳原(いずはら)だろうな。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

公孫淵が誅伐は陳寿が帰国後になってるな。卑弥呼が誅伐を依頼したとも考えられるな。

> 公孫淵が誅伐されたとき、玄菟郡治の庫には、なお玉匣一具が保管されていた。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1129>

>

> この「羌」の一部は、扶余・高句麗方面へと流れて、日本へ向かってます。

>

>

> それで「率」の語源を考えると、元々は「一大率～民族の王」とかいう印やそういう役職に由来していて、それが後に簡略化して、「一大率」になったのではないのでしょうか。

>

> ただ、「魏」＋「率」の順番なら、「支配国」＋「率」＋「被支配国」となるかもしれません。

>

>

> そうすると「一大」が「支配国」になるわけですね。「一支国」「伊都国」

>

> 百濟官職に、その名残が見えます。

>

> 達率（たつそつ） - 二品官

> 恩率（おんそつ） - 三品官

> 徳率（とくそつ） - 四品官

> 扞率（かんそつ） - 五品官

> 奈率（なそつ） - 六品官

>

>

> ただ、この場合、「装飾語」＋「率」で、実質的には385年代も東晋などの南朝の影響を受けて成立したものでしょう。

>

>

> 扶余伝に近いものがあります、「大」のつく官職名、扶余・高句麗系の特徴です。

>

>

> 国には君王がいる。いずれも六畜（ろくちく）の名を官名にしており、馬加、牛加、猪加、狗加、大使、大使者、使者などがいる

>

> 魏略には、そこの風俗は、服喪の停止は五カ月とし、その期間が永いほど栄誉とする。そこの葬祭は老若を問わない。喪主は速い葬儀を望まず、他人にこれを強い、常に諫められて終えることを節度とする。その喪に居合わせる男女は皆、純白、婦人は顔を覆う布のベールを着て、ベルト状の宝石飾りを外す。大体中国に相通じるものがある

>

>

> 白服で喪を行うのは、先の隋書の倭人の古墳と関係するであろう喪のあり方と同じですね。喪の期間も長いほうが栄誉なのも同じ。元は中国・遊牧民系の習俗でしょう。

>

>

> 公孫淵が誅伐されたとき、玄菟郡治の庫には、なお玉匣一具が保管されていた。今の扶余の庫には玉璧・珪・瓚など先祖伝来の遺物があり、伝家の家宝である。古老は、先祖が下賜された印璽には「濊王之印」と彫られているという。国内に故城あり、名を濊城という。濊貊の故地で、扶余王は濊城にいと、まるで亡命者のようだと言った。そもそも有りえる話である

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-fuyo-.htm>

>

>

> この「濊王之印」と同類の印を、「率」の役職とともに、「一大国」はすでに漢時代、あるいはそれ以前に与えられていた可能性がありますね。

>

>

> 245年に「不耐侯」が出てくるのですが、降伏後の247年の記載では「不耐濊王」になっているですね。

> おそらくこの間に、王印が授けられたか。

>

>

> 建武六年（紀元前 30 年）、都尉の官を省き、遂に領東の地を放棄し、ことごとくその渠帥（きょすい＝部族長）を県侯となし

>

> 『通典』边防（東夷上の一節）

> 歳亦朝鮮之地、南與辰韓、北與高句麗、沃沮接、東窮大海、西至樂浪、後漢光武建武六年、悉封其渠帥爲縣侯。皆歲時朝賀。無大君長。自漢以來、其官有侯、邑君、三老、統主下戸。其耆舊自謂與高麗同種、

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-wai-.htm>

>

>

> 郡とか都尉を置くのは、前漢ですね。それで、また後漢になって「県侯」とするわけです。

>

> その「県」が、倭で最も古い部類の呼称「県・主」に通じていくわけですが、こう考えて行くと、やはり後漢末期の中国系集団の影響で、「県・主・率」といった中国系の官職が、邪馬台国北方地域へと浸透していった可能性があるでしょう。

>

> 「大国主」の中東系月氏を配下にいた中国系官僚集団の世界で、ニギハヤヒ・ニニギの東遷、その後の孝靈朝、黒田庵戸宮の時代です。その後マキムクの時代となります。

>

>

>

Re: 家形石棺 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 9 月 23 日(月)10 時 28 分 36 秒 返信・引用

> No.1766[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> やはり、「率」とう官はあきらかに中国系なんですよ。

> 「魏率」とか、後代の中国に影響されていた百済の「奈率」とか、その関連です。

>

> ということは、邪馬台国自体も、それらの官を設置した集団に支配されていたので、その北方官職が、中国系の官によって統治されていたということになるのでしょうか。

>

> この辺はすでに会報第4号で論じたとおりですが、後漢時代の高級官僚が半島経由で、弥生末期から古墳初期の倭に流れ込んでいるんですね。

>

> その影響で「率」が支配しているわけです。南のほうの「狗奴国」方面は、別系統の呉に支援された南方系集団に影響されていたことでしょう。

>

> 「率」というのは漢字表記のままの呼称なので、「一大」も何らかの意味を持つ漢字表記だった可能性を感じます。

>

> 「魏率善羌邑長」の印があります。西域から一部は北京北方方面まで伸びていた「羌」集団に与えられた印ですね。

> <http://museum.city.fukuoka.jp/jg/html/backnumber/shozohin/41.htm>

>

> この「羌」の一部は、扶余・高句麗方面へと流れて、日本へ向かってます。

>

>

> それで「率」の語源を考えると、元々は「一大率～民族の王」とかいう印やそういう役職に由来していて、それが後に簡略化して、「一大率」になったのではないのでしょうか。

>

> ただ、「魏」＋「率」の順番なら、「支配国」＋「率」＋「被支配国」となるかもしれません。

>

>

> そうすると「一大」が「支配国」になるわけですね。「一支国」「伊都国」

>

> 百濟官職に、その名残が見えます。

>

> 達率（たつそつ） - 二品官

> 恩率（おんそつ） - 三品官

> 徳率（とくそつ） - 四品官

> 扞率（かんそつ） - 五品官

> 奈率（なそつ） - 六品官

>

>

> ただ、この場合、「装飾語」＋「率」で、実質的には385年代も東晋などの南朝の影響を受けて成

立したものでしょう。

>

>

> 扶余伝に近いものがあります、「大」のつく官職名、扶余・高句麗系の特徴です。

>

>

> 国には君王がいる。いずれも六畜（ろくちく）の名を官名にしており、馬加、牛加、猪加、狗加、大使、大使者、使者などがいる

>

> 魏略には、その風俗は、服喪の停止は五カ月とし、その期間が永いほど榮譽とする。その葬祭は老若を問わない。喪主は速い葬儀を望まず、他人にこれを強い、常に諫められて終えることを節度とする。その喪に居合わせる男女は皆、純白、婦人は顔を覆う布のベールを着て、ベルト状の宝石飾りを外す。大体中国に相通じるものがある

>

>

> 白服で喪を行うのは、先の隋書の倭人の古墳と関係するであろう喪のあり方と同じですね。喪の期間も長いほうが榮譽なのも同じ。元は中国・遊牧民系の習俗でしょう。

>

>

> 公孫淵が誅伐されたとき、玄菟郡治の庫には、なお玉匣一具が保管されていた。今の扶余の庫には玉璧・珪・瓚など先祖伝来の遺物があり、伝家の家宝である。古老は、先祖が下賜された印璽には「濊王之印」と彫られているという。国内に故城あり、名を濊城という。濊貊の故地で、扶余王は濊城にいと、まるで亡命者のようだと言った。そもそも有りえる話である

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-fuyo-.htm>

>

>

> この「濊王之印」と同類の印を、「率」の役職とともに、「一大国」はすでに漢時代、あるいはそれ以前に与えられていた可能性がありますね。

>

>

> 245年に「不耐侯」が出てくるのですが、降伏後の247年の記載では「不耐濊王」になっているですね。

> おそらくこの間に、王印が授けられたか。

>

>

> 建武六年（紀元前30年）、都尉の官を省き、遂に領東の地を放棄し、ことごとくその渠帥（きょすい＝部族長）を県侯となし

>

> 『通典』 辺防（東夷上の一節）

> 濊亦朝鮮之地、南與辰韓、北與高句麗、沃沮接、東窮大海、西至樂浪、後漢光武建武六年、悉封其渠帥爲縣侯。皆歲時朝賀。無大君長。自漢以來、其官有侯、邑君、三老、統主下戸。其耆舊自謂與高麗同種、

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-wai-.htm>

>

>

> 郡とか都尉を置くのは、前漢ですね。それで、また後漢になって「県侯」とするわけです。

>

> その「県」が、倭で最も古い部類の呼称「県・主」に通じていくわけですが、こう考えて行くと、やはり後漢末期の中国系集団の影響で、「県・主・率」といった中国系の官職が、邪馬台国北方地域へと浸透していった可能性があるでしょう。

>

> 「大国主」の中東系月氏を配下にいた中国系官僚集団の世界で、ニギハヤヒ・ニニギの東遷、その後の孝靈朝、黒田庵戸宮の時代です。その後マキムクの時代となります。

>

>

壺（位置）台（指南魚）率（民？を率いる）

吉キツは、結と同系

壺何壮也＝壺ニナンゾ壮ナルヤ」〔漢書〕 イツニ {副} ひたすら。「子卿壺聴陵言＝子卿、壺ニ陵ノ言ヲ聴ケ」〔漢書〕 《解字》 会意兼形声。吉キツは、結と同系で、口をかたく締め た意を含む。壹はもと「壺（つぼ）＋音符吉」で、口を結んで締め、中にいっぱいにつめた ...

結

結は「糸＋（音符）吉」で、糸やひもで入り口をしっかりとくびること。中身が出ないように しめくくる意を含む。 <http://homepage3.nifty.com/giboshi/kaijitbl040.htm>

紀は「糸＋（音符）己」で、糸のはじめを求め、目じるしをつけ、そこから巻く、織るなどの動作をおこすこと。

合（欠けめをふさぐ）」で、織り糸の欠けた所をすぐつぐあわすことを示す。欠けめや、すきを入れずに、くつつくの意を含む。

くつつくの意・・・ライン？

壺囊 鳥、魚は飛ぶ方向や泳ぐ方向を判断する という

...<http://homepage1.nifty.com/PUREPRIZE/seitai-mgt.htm>

給・・・台（たい、人出を加える、使いすぎる）。・・・民を使いすぎる・・・一大

いちだいじ【一大事】とは。意味や解説。1 放置できない重大な出来事。容易でない事態。「お家の一」2 仏語。仏が衆生救済のためこの世に出現するという重大事。いちだいじ いんねん【一大事因縁】1 仏語。仏がこの世に現れた最も大切な目的。<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/12579/m0u/>最も大切な目的。あらゆる人々を導き、生あるものすべてを救うという目的。

目的

目的を達成するために長い間耐えることという意味の四字熟語またはことわざ臥薪嘗胆
http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q12108562592

「下を向いている人」皿をのぞき込んでいる様子

臥 - Facebook

西暦 100 年ごろの後漢の許慎による漢字辞典「説文解字」には、人臣に従ふは、其の 伏するを取るなり。とあり、やはり伏せるという意味と説明されている。頭を下げて従う という感じだ。「監」という字の上部は「臥」と同じだが、これは皿をのぞき込んでいる様子

...http://www.facebook.com/note.php?note_id=3175166951399

昔中国では、目を潰して神に仕えるということがあったらしく、そこから「仕える人」、「神の奴隷」という意味になったらしい。つまり、「総理大臣」といえども、国家元首たる天皇陛下の前では謙るべき存在ということだ。

ただし、単純に目が下を向いている形とみて「下を向いている人」という説もある。

「臥轍」は車の前に伏して進行を遮ること。

磁石と化すようです。ちょうど ... 三角縁神獣鏡を、再度よく見直していくと、鏡というよりは、（指南魚を浮かべるための）水を入れるための深皿、御碗にちかいことがわかります。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/248>

鏡・・・皿・・・台？

「皿（台のついた容器）＋不（まるくふくらむ）」の会意形声。まるくふくらんだ皿。さかずき。意味 さかずき（盃）。杯の俗字。坏 ハイ・つき 土部 解字「土＋不（まるくふくらむ）」の会意形声。まるくふくらんだ丘や、積み上げた土のやま。（台のついた容器）＋不（まるくふくらむ）」の会意形声。まるくふくらんだ皿。さかずき。意味 さかずき（盃）。杯の俗字。坏 ハイ・つき 土部 解字「土＋不（まるくふくらむ）」の会意形声。まるくふくらんだ丘や、積み上げた土のやま。

<http://blog.goo.ne.jp/ishiseiji/e/773980d20e5a6ff7526cdd585672b51d>

日本では「杯」に対し土製の器（つき）の意で使われる。

「高坏たかつき」（食物を盛る脚付きの台）

磁器という漢字には磁力の磁が含まれていますが、実際に磁石にひきつけられるの ですか？

<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/3713494.html>

「慈石召鉄」の記述がある, 中国の本「呂氏春秋」に、「慈石召鉄」と書かれている 中国の河北省南端近くに磁県 (ツン) ここは昔良質の慈石を産出したことから 慈州と呼ばれていた。<http://www.geocities.jp/hiroyuki0620785/timeline.htm>

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1143>

、「慈石召鉄」の記述がある, 中国の本「呂氏春秋」に、「慈石召鉄」と書かれている 中国の河北省南端近くに ...

魚の耳石

耳石器官は「通囊」、「小囊」、「壺囊」という袋からできています。通囊には耳石のうちの「礫石」というものが入っており、壺囊には「星状石」<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1143>

櫃 (ひつ) の中 (掟コンパス 聖見通す 約指南魚?) <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1844>

し-なん【指南】：[名] (スル)《指南車が常に一定の方位を指示したところから》武術・芸能などを教示すること。指導すること。... 指南 zhǐnán: [名] 指針,手引き 行?指南 行動指針。
<http://dictionary.goo.ne.jp/srch/all/%E6%8C%87%E5%8D%97/m0u/>

ヘブライ語で神を示すエロアハー (Eloah, ?????) も同 語源と考えられる。エロヒム(????)はアラハヤム (アラー) とも読める。また、ヘブライ語 ではエジプトの太陽神のことをアラー(?)と表記する。
<http://www.islamreligion.com/jp/articles/195/>

指針,手引き

人生の指針、道を照らす灯り ...しかしながら、アッラーのしもべはこれらの責任や崇拝行為を異なった方法で理解しています。[http://fgulen.com/jp/his-works-jp/know-the-mind/28306-](http://fgulen.com/jp/his-works-jp/know-the-mind/28306-%E3%82%A4%E3%83%90%E3%83%BC%E3%83%80%E3%80%81%E3%82%A6%E3%83%96%E3%83%87%E3%82%A3%E3%83%A4%E3%80%81%E3%82%A6%E3%83%96%E3%83%80%EF%BC%88%E5%B4%87%E6%8B%9D%E3%80%81%E3%81%97%E3%82%82%E3%81%B9%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E3%81%93%E3%81%A8%E3%80%81%E6%B7%B1%E3%81%84%E4%BF%A1%E4%BB%B0%EF%BC%89.html)

%E3%82%A4%E3%83%90%E3%83%BC

%E3%83%80%E3%80%81%E3%82%A6%E3%83%96%E3%83%87%E3%82%A3%E3%83%A4%E3%80%81%E3%82%A6%E3%83%96%E3%83%80%EF%BC%88%E5%B4%87%E6%8B%9D

%E3%80%81%E3%81%97%E3%82%82%E3%81%B9%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E3%81%93%E3%81%A8%E3%80%81%E6%B7%B1%E3%81%84%E4%BF%A1%E4%BB%B0%EF%BC%89.html

イバーダ (崇拝) は日常の生活の中でアッラーの命令に従い、アッラーのしもべであるための義務を果たすことを意味

指針

アラー鉄?

磁鉄 in English - Japanese-English Dictionary - Glosbe

また 近江 は、「アラ」は鉄の古語であるということと、山砂鉄による製鉄や、その他の鉄物採取を実態としていた修験道はアラハバキ信仰を取り入れ、「ハバキ」は山伏が神聖視する「脛巾」に通じ、アラハバキはやがて「お

...<http://glosbe.com/ja/en/%E7%A3%81%E9%89%B1%E9%89%84>

率

ひきいる【率いる】とは。意味や解説。[動ア上一] [文] [ワ上一] 1 従えて行く。ひきつれて行く。「学生を一・いて研究旅行に行く」 2 多くの人々を指揮する。長として指図する。統率する。

「<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/183641/m0u/>

臥 -民？を率いる

支 配・・・長さを記す民？を率いる？

支 シ・ささえる 支部 解字 篆文第1字は、手に竹を支え持つ形で、竹の枝が上と下に描かれている。第2字は手に一本の竹の枝を持つさま。枝をささえる意と、持っている枝が、枝分かれしている意を表す。意味 (1) ささえる (支える)。

<http://blog.goo.ne.jp/ishiseiji/e/62fd0790be2004dbbfe026472562abef>

分かれる

枝 シ・えだ 木部

解字 「木+支 (わかれる)」 の会意形声。分かれた木、つまり木の枝の意。

意味 えだ (枝)。「枝葉末節ショウマッセツ」「枝道えだみち」

(1) えだみち。「岐路キロ」 (2) わかれる。枝状にわかれる。「分岐点ブンキテン」「多岐タキ」 (3) 地名。「岐阜ギフ」 (岐阜県南部、長良川に臨む商業・交通の要地)

>正 (せい) 政まつりごと。祭り事。祭祀

止 <あし>とめる？ 武 戈<ほこ>+止=前進

意味；足に関連。

《解字》象形。足の形を描いたもので、足がじっとひと所にとまることを示す。

趾(シ) (あし) の原字。

例；正 (一+止<あし>=足が目標の線めがけてまっすぐに進むさま)、武 (戈<ほこ>+止<あし>=戈をもって足で堂々と前進するさま)

又 (手)

支

氏 うじ支配下におかれる人々、の意

意味；偏の意としては『民』 (支配される人々) を表す。

《解字》象形。氏はもと、先の鋭いさじを描いたもので、匙(シ) (さじ) と同系。

ただし古くより伝通の通(テイ) (つぎつぎと伝わる) に当て、代々と伝わっていく血統を表す。

例；民 = ひとみのない目を針で刺すさまを描いたもので、目を針で突いて目を見えなくした奴隷を表す。のち、目の見えない人のように物のわからない多くの人々、支配下におかれる人々、の意となる。

氓(ぼり) (太古は、目をつぶされた奴隷のこと。のち、無知な人々のこと)

己(糸巻き)」 記 キ・しるす・・・長さを記す民？

配

Ⅲ人がひざまずく (配・妃) 音の変化 キ：己・紀・記・杞・起・忌 カイ：改 ハイ：配 ヒ：妃 糸巻き 紀 キ・のり 糸部 解字 「糸+己(糸巻き)」の会意形声。糸巻きに糸を巻きつけ、それをたくさん揃えて機織りのたて糸の準備をすること。

<http://blog.goo.ne.jp/ishiseiji/e/074f85880b4746b720cbdd1c0be2eaf0>

紀 キ・のり 糸部

解字 「糸+己(糸巻き)」の会意形声。糸巻きに糸を巻きつけ、それをたくさん揃えて機織りのたて糸の準備をすること。順序よくそろえてまとめる意を表わす。

意味 (1) のり(紀)。きまり。すじみち。「紀綱キコウ」(国を治める制度)「風紀フウキ」「紀律キリツ」「軍紀グンキ」 (2) とし。年代。「紀元前キゲンゼン」「世紀セイキ」 (3) しるす。記録する「紀行文キコウブン」「紀要キョウ」(研究論文を収載した定期刊行物)

記 キ・しるす 言部

>

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 23 日(月)04 時 11 分 39 秒 返信・引用 編集済

> No.1765[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 帯方郡(たいほうぐん)、楽浪郡(らくろうぐん)がありますな。

> 郡と略記することで会稽郡にはならないな。

>

やはり、「率」とう官はあきらかに中国系なんですよ。

「魏率」とか、後代の中国に影響されていた百済の「奈率」とか、その関連です。

ということは、邪馬台国自体も、それらの官を設置した集団に支配されていたので、その北方官職が、

中国系の官によって統治されていたということになるでしょうか。

この辺はすでに会報第4号で論じたとおりですが、後漢時代の高級官僚が半島経由で、弥生末期から古墳初期の倭に流れ込んでいるんですね。

その影響で「率」が支配しているわけです。南のほうの「狗奴国」方面は、別系統の呉に支援された南方系集団に影響されていたことでしょう。

「率」というのは漢字表記のままの呼称なので、「一大」も何らかの意味を持つ漢字表記だった可能性を感じます。

「魏率善羌邑長」の印があります。西域から一部は北京北方方面まで伸びていた「羌」集団に与えられた印ですね。

<http://museum.city.fukuoka.jp/jg/html/backnumber/shozohin/41.htm>

この「羌」の一部は、扶余・高句麗方面へと流れて、日本へ向かってます。

それで「率」の語源を考えると、元々は「一大率〜民族の王」とかいう印やそういう役職に由来していて、それが後に簡略化して、「一大率」になったのではないのでしょうか。

ただ、「魏」＋「率」の順番なら、「支配国」＋「率」＋「被支配国」となるかもしれません。

そうすると「一大」が「支配国」になるわけですね。「一支国」「伊都国」

百濟官職に、その名残が見えます。

達率（たつそつ） - 二品官

恩率（おんそつ） - 三品官

徳率（とくそつ） - 四品官

扞率（かんそつ） - 五品官

奈率（なそつ） - 六品官

ただ、この場合、「装飾語」＋「率」で、実質的には385年代も東晋などの南朝の影響を受けて成

立したものでしょう。

扶余伝に近いものがあります、「大」のつく官職名、扶余・高句麗系の特徴です。

国には君王がいる。いずれも六畜（ろくちく）の名を官名にしており、馬加、牛加、猪加、狗加、大使、大使者、使者などがある

魏略には、そこの風俗は、服喪の停止は五カ月とし、その期間が永いほど榮譽とする。そこの葬祭は老若を問わない。喪主は速い葬儀を望まず、他人にこれを強い、常に諫められて終えることを節度とする。その喪に居合わせる男女は皆、純白、婦人は顔を覆う布のベールを着て、ベルト状の宝石飾りを外す。大体中国に相通じるものがある

白服で喪を行うのは、先の隋書の倭人の古墳と関係するであろう喪のあり方と同じですね。喪の期間も長いほうが榮譽なのも同じ。元は中国・遊牧民系の習俗でしょう。

公孫淵が誅伐されたとき、玄菟郡治の庫には、なお玉匣一具が保管されていた。今の扶余の庫には玉璧・珪・瓚など先祖伝来の遺物があり、伝家の家宝である。古老は、先祖が下賜された印璽には「濊王之印」と彫られているという。国内に故城あり、名を濊城という。濊貊の故地で、扶余王は濊城にいと、まるで亡命者のようだと言った。そもそも有りえる話である

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-fuyo-.htm>

この「濊王之印」と同類の印を、「率」の役職とともに、「一大国」はすでに漢時代、あるいはそれ以前に与えられていた可能性がありますね。

245年に「不耐侯」が出てくるのですが、降伏後の247年の記載では「不耐濊王」になっているですね。

おそらくこの間に、王印が授けられたか。

建武六年（紀元前30年）、都尉の官を省き、遂に領東の地を放棄し、ことごとくそこの渠帥（きょすい＝部族長）を県侯となし

『通典』 边防（東夷上の一節）

濊亦朝鮮之地、南與辰韓、北與高句麗、沃沮接、東窮大海、西至樂浪、後漢光武建武六年、悉封其渠帥爲縣侯。皆歲時朝賀。無大君長。自漢以來、其官有侯、邑君、三老、統主下戸。其耆舊自謂與高麗同種、

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-wai-.htm>

郡とか都尉を置くのは、前漢ですね。それで、また後漢になって「県侯」とするわけです。

その「県」が、倭で最も古い部類の呼称「県・主」に通じていくわけですが、こう考えて行くと、やはり後漢末期の中国系集団の影響で、「県・主・率」といった中国系の官職が、邪馬台国北方地域へと浸透していった可能性があるでしょう。

「大国主」の中東系月氏を配下にいれた中国系官僚集団の世界で、ニギハヤヒ・ニニギの東遷、その後の孝靈朝、黒田庵戸宮の時代です。その後マキムクの時代となります。

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 20 日(金)23 時 36 分 38 秒 返信・引用 編集済
> No.1764[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

帯方郡（たいほうぐん）、楽浪郡（らくろうぐん）がありますな。

郡と略記することで会稽郡にはならないな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B8%AF%E6%96%B9%E9%83%A1>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A5%BD%E6%B5%AA%E9%83%A1>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%9A%E7%A8%BD%E9%83%A1>

魏志倭人伝に「女王国の北方の諸国には「一大率（或るいは一支率）」という

官が置かれて国々を監視している。」郡の構成に一大率が在るな。

読みが浅いですな。また、年代があわないな。

> ちょっと、会稽郡を、博多に持ってくるのはきつい感じがしますね。

北部に「角塚古墳」は弓月氏の平氏系だな。分かり易く、菊池ですな。

これで、九州と東北が繋がりますな。また、扶桑木からから関東常陸ですな。

> 「郡」というと、思い出すのが先日の阿蘇と石棺の件で論じた「倭名抄」の「磐井郡」の件です。

>

> 一関から気仙沼方面のようですが、北部に「角塚古墳」があります。

>

> これが、5 末～6 初の磐井の岩戸山古墳の時代にやや近いんですね。

> 胆沢城と関係するとなると、後代の坂上田村麻呂、つまり東漢氏系の支配地と関係するかもしれません。

> 磐井等の新漢氏は初期は漢氏の配下に入ったものも多かったでしょう。

>

> 角塚古墳 (つのづかこふん) 胆沢郡胆沢町南都田

> 墳丘長 46 m (総長 49 m 以上)、後円部径 30.4 m・高 4.9 m、前方部幅 20.4 m、くびれ部幅 13.6 m、後円部三段、前方部二段(?) の前方後円墳。主軸は南北を指す。主体部は未発掘。葺石があり、載頭卵円形の周濠がある。円筒・朝顔形、蓋、動物、人物、家などの埴輪を出土。現時点では、5 世紀～6 世紀初めの築造で、最北の前方後円墳である。出土品の埴輪は胆沢町文化創造センター内の郷土資料館で見ることができる。

> <http://2nd.geocities.jp/txinui/kitatouhoku-iseki11b.htm>

Re: 家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 20 日(金)23 時 10 分 21 秒 返信・引用 編集済
秦野北斗さんへのお返事です。

> 家形石棺は、271 年の神功皇后の三韓征伐以降ですな。

>

> 世間では台湾と思われているが、実は九州で郡は博多で古名が末廬国(魏志倭人伝の地名)ですな。末廬国の郡から東南に二千里(秦野距離で 106 km)に土地無霜雪、草木不枯、四面皆山、の阿蘇山があることが書かれている。四面皆山は外輪山ですな。

> 秦野距離は秦野著書：徐福と邪馬台国参照

>

ちょっと、会稽郡を、博多に持ってくるのはきつい感じがしますね。

「郡」というと、思い出すのが先日の阿蘇と石棺の件で論じた「倭名抄」の「磐井郡」の件です。

一関から気仙沼方面のようですが、北部に「角塚古墳」があります。

これが、5 末～6 初の磐井の岩戸山古墳の時代にやや近いんですね。

胆沢城と関係するとなると、後代の坂上田村麻呂、つまり東漢氏系の支配地と関係するかもしれません。

磐井等の新漢氏は初期は漢氏の配下に入ったものも多かったでしょう。

角塚古墳 （つのづかこふん） 胆沢郡胆沢町南都田

墳丘長 46 m（総長 49 m 以上）、後円部径 30.4 m・高 4.9 m、前方部幅 20.4 m、くびれ部幅 13.6 m、後円部三段、前方部二段（？）の前方後円墳。主軸は南北を指す。主体部は未発掘。葺石があり、載頭卵円形の周濠がある。円筒・朝顔形、蓋、動物、人物、家などの埴輪を出土。現時点では、5 世紀～6 世紀初めの築造で、最北の前方後円墳である。出土品の埴輪は胆沢町文化創造センター内の郷土資料館で見ることができる。

<http://2nd.geocities.jp/txinui/kitatouhoku-iseki11b.htm>

この古墳は、先日お話したように、仙台の飯野坂古墳と、青森の阿光坊古墳を結ぶライン上にあって、しかも飯野坂古墳から 112 km で、11.1 km 尺を使った可能性を考えていました。下図参照。

ただ飯野坂古墳はやや古く 4 末～5 世紀の前方後方墳とのことでした。

山岡古墳が発掘調査され、主体部は横穴式石室で、頭椎大刀（かぶつちたち）が出土している。薬師堂古墳の西くびれ部から壺形埴輪が出土している。<http://ja.wikipedia.org/wiki/飯野坂古墳群>

阿光坊古墳は

7 世紀前半まで遡る 11 号墳や県内最初となる平瓦の出土の成果が見られた。発掘では、刀、玉類、装

身具、馬具、農工具などが出土した

<http://ja.wikipedia.org/wiki/阿光坊古墳群>

ちょっとライン的にズレるので、阿光坊は別かもしれません。

筑紫君の岩戸山古墳は、埴輪ではなく、石人になるのが特徴ですね。

それが、近江君とか、毛野とも同族関係にあつて、新漢人系なので、群馬の古墳にも人物埴輪とかが出てきて、それで最後に東北のこの角塚古墳にも人物埴輪が出てくる。

元はシルクロードのゾグド人の習俗の石人が伝わったものだろうと考えてます。

この角塚古墳は未発掘ですが、発掘されれば、渡来系の遺物が出てくる可能性を感じますね。

後代このあたりから製鉄、金が出てきます。これも渡来系技術者の進出と関係するでしょう。

Re: 家形石棺 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 19 日(木)19 時 37 分 54 秒 返信・引用 編集済
> No.1759[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

家形石棺は、271 年の神功皇后の三韓征伐以降ですな。

世間では台湾と思われているが、実は九州で郡は博多で古名が末廬国(魏志倭人伝の地名)ですな。末廬国の郡から東南に二千里(秦野距離で 106 k m)に土地無霜雪、草木不枯、四面皆山、の阿蘇山があることが書かれている。四面皆山は外輪山ですな。

秦野距離は秦野著書：徐福と邪馬台国参照

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/753>

三国時代には、『臨海水土志』と『三国志』呉書の孫権伝の部分に記述が見られる。『臨海水土志』に、「夷州在浙江臨海郡の東南、離郡二千里、土地無霜雪、草木不枯、四面皆山、衆山夷所居。山頂有越王射的正白、乃是石也。」「部落間互不相属、各号為王、分割土地……」、および

夷洲在臨海東南、去郡二千里。土地無霜雪、草木不死。四面是山谿。人皆?髮穿耳、女人不穿耳。土地饒沃、既生五穀。又多魚肉。有犬、尾短如麕尾狀。此夷舅姑子婦臥息。共一大牀、略不相避。地有銅鐵、唯用鹿角爲矛以戰鬪、摩礪青石以作（弓）矢鏃。取生魚肉雜貯大瓦器中、以鹽鹵之、歷月所日、乃啖食之、以爲上肴

とあり、『孫権伝』には、

二年春正月、魏作合肥新城。詔立都講祭酒，以教學諸子。遣將軍衛?、諸葛直將甲士萬人，浮海求夷洲及亶洲。亶洲在海中，長老傳言：秦始皇帝遣方士徐福將童男童女數千人入海，求蓬萊神山及仙藥，止此洲不還。世相承有數萬家，其上人民。時有至會稽貨布，會稽東縣人海行，亦有遭風流移至亶洲者。所在?遠，卒不可得至，但得夷洲數千人還。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B0%E6%B9%BE>

>

> だから、家形石棺というのは、やはり東欧系の流れを汲んだ北燕遺民の影響でできた新羅、北九州・近江・常陸へと流れた、そのケルト系のキリスト教系信仰の流れで出来てきたもので、元は1古代ローマ時代のユダヤ墳墓の形態に起源があると考えられるべきでしょう。

>

> それで、問題は隋使が見たものというのは、阿蘇山とか、八女のそれらの石棺を埋葬した大型墳墓の儀礼だった可能性があるということです。6世紀中葉から後半にかけてのその地域の風習、それを見ている可能性があります。

>

> 白服の僧葬儀礼とか、宇佐八幡に関して出てくるような御輿の習俗、そういうものですね。阿蘇山が火柱をあげて噴火していた時代をもっと限定できれば、この習俗記載の正確な年代が割り出せるかもしれません。

>

家形石棺 投稿者：管理人 投稿日：2013年9月19日(木)02時48分8秒 返信・引用 編集済

先日の続きで、隋書の遺体を乗せた舟と御輿の記載について考えてます。

家形石棺というのは、思うに5世紀末～6世紀半ばあたりから入ってくる新漢人系のそれではないでしょうか。

岩戸山古墳などに典型的に見えるもので、元はローマ・ユダヤ系の墳墓に見える家形石棺を想起させます。

この当時新羅にローマ系遺物が入ってくる過程で、一部が九州北部、先の筑紫君磐井の世界へと受け継がれ、さらに近江毛野君等の近江方面へと流れて行く石人・石馬といったゾグド文化の流れと関係してきます。

それで、隋書の記載は、元々あった南方海人系の葬送儀礼、山幸神話に見えるような舟に関する葬送儀礼と関係する古墳と舟のセットとは別にあった、組み合わせ式の木棺・石棺の世界があって、その技術をそのまま受け継ぐ形で、5末～6世紀前半あたりに突然家形のそれが導入されたのではないかと感じます。

家形石棺と葬送儀礼の関係は、おそらくはアマテラス・スサノオ神話とか中臣の天児屋根にみえるような、「家」「神殿」に関するものに、残存が見いだせるのかもしれませんが。

舟系の葬送儀礼は、安曇族とか在来系集団のそれに関係し、家や御輿に関するものは、後者の中臣系祭祀に関係するかもしれません。

彼らの観念では、家＝教会・神殿なわけです。

特に刳抜（くりぬ）き式家形石棺を埋納した6世紀代の鴨稻荷山古墳、これが新羅王墓の装飾品と類似していて、ダイレクトに継体と関係していきます。これは私も見たことがあるのですが、後の藤の木古墳のそれとかとも同類です。

<http://www.bell.jp/pancho/travel/oumi/kamo%20inariyama.htm>

だから、家形石棺というのは、やはり東欧系の流れを汲んだ北燕遺民の影響でできた新羅、北九州・近江・常陸へと流れた、そのケルト系のキリスト教系信仰の流れで出来てきたもので、元は1古代ローマ時代のユダヤ墳墓の形態に起源があると考えるべきでしょう。

それで、問題は隋使が見たものというのは、阿蘇山とか、八女のそれらの石棺を埋葬した大型墳墓の儀礼だった可能性があるということです。6世紀中葉から後半にかけてのその地域の風習、それを見ている可能性があります。

白服の僧葬儀礼とか、宇佐八幡に関して出てくるような御輿の習俗、そういうものですね。阿蘇山が火柱をあげて噴火していた時代をもっと限定できれば、この習俗記載の正確な年代が割り出せるかもしれません。

Re: 天皇一族はユダヤ人に間違いない 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 19 日(木)02 時 21 分 49 秒 返信・引用

> No.1749[元記事へ]

ねこさんへのお返事です。

> 天皇一族はユダヤ人に間違いない

>

> http://book.geocities.jp/japan_conspiracy/0202/p004.html#page131

>

ねこさん、お知らせありがとうございます。

日本人のユダヤ人の受け止め方に関する濃い内容で勉強になりました。

天皇一族はユダヤ人に間違いない 投稿者：ねこ 投稿日：2013 年 9 月 18 日(水)16 時 33 分 37 秒 返信・引用

天皇一族はユダヤ人に間違いない

http://book.geocities.jp/japan_conspiracy/0202/p004.html#page131

「大和民族」物語は、でっち上げ。

実際は、天皇一族だけが古代から世界中を股にかけ、
混血を自由に作り出した。

一方で、「鎖国」などというでっち上げ作り話で、
一般国民を世界から、国内から、分断した。

一般国民は常に弱体化されていた。

徳川家康の「活かさず殺さず」とは、この戦術のことだった。

(仮説を含む)

(http://book.geocities.jp/japan_conspiracy/0102/p004.html)

Re: BC2001 年東北大津波 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 17 日(火)23 時 12 分 29 秒 返信・引用

> No.1747[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 倭名抄は 670 年以降だな。常陸の奥が陸奥とするならば陸奥は日本になるな。

>

> 日本は日本で扶桑でないな。扶桑は常陸ですな。日本は東北で瑞穂の政権の及ばない所。

> 670 年に統合されるまで手付かずですな。

>

> 死者斂以棺槨、親賓就屍歌舞、妻子兄弟以白布製服。貴人三年殯於外、庶人卜日而瘞。及葬、置屍船上、陸地牽之、或以小輿。有阿蘇山、其石無故火起接天者、俗以為異、因行禱祭。有如意寶珠、其色青、大如雞卵、夜則有光、云魚眼精也。新羅、百濟皆以倭為大國、多珍物、並敬仰之、恒通使往來。

>

> 死者は棺槨に納める、親しい来客は屍の側で歌舞し、妻子兄弟は白布で服を作る。貴人の場合、三年間は外で殯（かりもがり＝埋葬前に棺桶に安置する）し、庶人は日を占って埋葬する。葬儀に及ぶと、屍を船上に置き、陸地にこれを牽引する、あるいは小さな御輿を以て行なう。阿蘇山があり、その石は故無く火柱を昇らせ天に接し、俗人はこれを異となし、因って祭祀を執り行う。如意宝珠があり、その色は青く、雞卵のような大きさで、夜には光り、魚の眼の精霊だという。新羅や百濟は皆、倭を大國で珍物が多いとして、これを敬仰して常に通使が往来している。

>

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

>

>

この隋書の記載は、古墳の溝で掘り出される舟とか、その埋葬された木棺や石棺など話でしょうね。

刳拔式の石棺の一種であり、身と蓋を合わせた断面は扁円形をしており、同様の方法で作られた割竹形石棺より安定性があり、両端が斜めに切られている形状が船に似ていることからこの名称が付いている。

割竹形石棺の変容形と目されており[1]、縄架け突起が付けられていたり、石枕が作り出されていたりする。

主に4世紀中葉～6世紀前葉に熊本・佐賀・宮崎・香川・島根・福井・群馬・茨城などの各地で在地の石材を用いて首長の棺として造られ、各地に普及した。[2]

<http://ja.wikipedia.org/wiki/舟形石棺>

この「縄架け突起」に縄をかけて、ひっぱったり、おろしたりしたんでしょう。

阿蘇山の話がでているので、やはり九州の上記の地域の墓制を垣間みたく聞いた可能性を感じますね。

それで、「小さな御輿」ですね。

屍は、舟に乗せられて引っ張られるか、御輿の乗せられて、墓の前で3年モガリにあって、その後、舟形か組み合わせ式の木棺か石棺に埋葬されたのでしょうか。

木棺か石棺かで時代が4世紀半ば以前かそれ以降かで異なるし、その木棺・石棺ごと引きずったとするとうなるか？

木棺か石棺に引きずった跡が残るでしょう。割れるかもしれない。

長持型石棺の重さが6・8トンだそうですから、これを隋書の「小さな御輿」みなして担ぐとなると、100人前後で1人あたり68キロかつがないといけない計算で無理ですね。

そうすると、屍をのせる木製の御輿がまず先にあって、その後もガリをして、石製の御輿を模した石棺に埋葬するわけです。

木棺のケースも同様で、まず屍を乗せた舟があって、それを古墳の周囲の水溝に捨てる、そして古墳側面のモガリ場で屍を3年放置して、その後、石でできた舟形石棺に埋葬する、そんな感じでしょうか。

たまに古墳の溝から舟が出てくるのもそのせいでしょうか。そうすると、引きずった跡がその木製品にあるかどうかを確認すると面白いかもしれません。

御輿の習俗は華南の石炭山遺跡の銅鼓の紋様に見えるのですが、中国経由で半島、日本へと向かい、宇佐から御輿が畿内に向かう話が奈良時代にあります。

これらは結局、隋書記載の白服とか禊習俗とかかわって、穢・扶余経由で入った中東遊牧民のそれで

しょう。一部は華南にながれる。その辺は会報に記したとおりですね。

あと、阿蘇のピンク石の石棺ですね。これを少し掘り下げる必要があります。

大型の石棺には、石材を削り抜いたものと組み合わせたものがある。刳拔式の割竹形石棺・舟形石棺、組合式の箱形石棺が4世紀後半に現れた。

5世紀には組合式の長持形石棺が近畿中央部を中心に広がり、中部九州や山陰・北陸・関東などでは舟形石棺が発達した。

6世紀には、近畿・九州・山陽・山陰・東海・関東の一部に、地方の特色を備えた独自の刳拔式や組合式の家形石棺が盛んに用いられ、7世紀に入っても一部で継続して使用された。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/石棺>

石棺

<http://www2.tok2.com/home/sekisitu/sekkan.htm> 家形石棺

<http://www2.tok2.com/home/sekisitu/iegata.htm>

それで先の東北の「安蘇」の地名ですね。そのあたりから、阿蘇ピンク石石棺がでてくると面白い。

先日論議した東北岩手久慈方面のメノウの記載ですね。隋書だったかな？

石にその撰者はやたら拘ってます。

阿蘇山と宝石の話が連続している背景、そこに古墳石棺の話が関わって行くのですが、そこで九州北部と東北方面の日高見国、新漢人や吉士の世界がかかわってきて、特に「安曇」族が彼らを全国に運んで行きます。

ただ倭名抄では、安曇を「あずみ」と読まずに「あつし」と読ますのがきになります。

東山道 信濃 安曇 あつし あつし

阿倍の阿をつかわずに「安」をあてるのが特徴。

「つし」とは？

「吉士」「きし」とか・・・??類似した事例はあります。「津」「土」か？

Re: BC2001 年東北大津波 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 16 日(月)23 時 41 分 7 秒 返信・引用

> No.1746[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

倭名抄は 670 年以降だな。常陸の奥が陸奥とするならば陸奥は日本になるな。

日本は日本で扶桑でないな。扶桑は常陸ですな。日本は東北で瑞穂の政権の及ばない所。

670 年に統合されるまで手付かずですな。

> 東北の歴史を文献から探る件は課題ですね。

>

> 特に倭名抄が重要です。

>

> 東山道 陸奥 磐井 いはゐ いはゐ

>

> <http://homepage1.nifty.com/k-kitagawa/data/gunmei3.html>

>

「對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国」の蘇ですが、扶桑の桑だな。

面白い話しですが、麻生太郎、政治家ですが選挙地盤が福岡で代々の名家ですな。

麻生の元は阿蘇ですな。中国史籍『隋書』倭国伝

死者斂以棺槨、親賓就屍歌舞、妻子兄弟以白布製服。貴人三年殯於外、庶人ト日而瘞。及葬、置屍船上、陸地牽之、或以小輿。有阿蘇山、其石無故火起接天者、俗以為異、因行禱祭。有如意寶珠、其色青、大如雞卵、夜則有光、云魚眼精也。新羅、百濟皆以倭為大國、多珍物、並敬仰之、恒通使往來。

死者は棺槨に納める、親しい来客は屍の側で歌舞し、妻子兄弟は白布で服を作る。貴人の場合、三年間は外で殯（かりもがり＝埋葬前に棺桶に安置する）し、庶人は日を占って埋葬する。葬儀に及ぶと、屍を船上に置き、陸地にこれを牽引する、あるいは小さな御輿を以て行なう。阿蘇山があり、そ

この石は故無く火柱を昇らせ天に接し、俗人はこれを異となし、因って祭祀を執り行う。如意宝珠があり、その色は青く、鶏卵のような大きさに、夜には光り、魚の眼の精霊だという。新羅や百済は皆、倭を大国で珍物が多いとして、これを敬仰して常に通使が往来している。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

> 先の邪馬台国関連地名ででてくる「蘇」の字が、阿蘇周辺地名だと考えていることは以前お話したとおりです。

> 「對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国」

>

>

Re: BC2001 年東北大津波 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 16 日(月)23 時 00 分 49 秒 返信・引用

> No.1745[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 日本は日本で扶桑でないな。扶桑は常陸ですな。日本は東北で瑞穂の政權の及ばない所。

> 670 年に統合されるまで手付かずですな。津波による堆積物だけで文章はないな。

>

> 魏志倭人伝のその他の国

>

> 女王国より北方にある、対馬国、一大国、末盧国、伊都国、奴国、不弥国、投馬国、邪馬台国の他に、遠くに在って国名だけしか分からない国として斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国があり、女王国はこれら二十数箇国を支配[要出典]していた。日本列島の全てを支配した訳ではなく連合領域外の国々もあり、特に南の狗奴国の男王卑弥弓呼と不和で戦争状態にあった。

東北の歴史を文献から探る件は課題ですね。

特に倭名抄が重要です。

東山道 陸奥 磐井 いはゐ いはゐ

<http://homepage1.nifty.com/k-kitagawa/data/gunmei3.html>

磐井という、磐城と異なる、蝦夷方面の地名が気になりますね。

磐井というと九州の日高見国に関わる新漢人の長で、追放後、関東・東北へと多氏と関係して横穴墓を造営していくナガレでしょう。近江毛野臣も元は同族。

会津の近くに

東山道 陸奥 耶麻 (山) やま

がありますね。

普通「東山道 上野 山田 やまた やまた」

みたいに「山」の字を当てるはずなのですが。

あえて「耶麻」を使っている。

「安蘇」郡というのも興味深いですね。九州の阿蘇と関係するのかわかるといいですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/安蘇郡>

先の邪馬台国関連地名ででてくる「蘇」の字が、阿蘇周辺地名だと考えていることは以前お話したとおりです。

「對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国」

Re: BC2001 年東北大津波 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 14 日(土)23 時 52 分 3 秒 返信・引用 編集済

> No.1744[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

日本は日本で扶桑でないな。扶桑は常陸ですな。日本は東北で瑞穂の政権の及ばない所。

670 年に統合されるまで手付かずですな。津波による堆積物だけで文章はないな。

魏志倭人伝のその他の国

女王国より北方にある、対馬国、一大国、末盧国、伊都国、奴国、不弥国、投馬国、邪馬台国の他に、遠くに在って国名だけしか分からない国として斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国があり、女王国はこれら二十数箇国を支配[要出典]していた。日本列島の全てを支配した訳ではなく連合領域外の国々もあり、特に南の狗奴国の男王卑弥弓呼と不和で戦争状態にあった。狗奴国以外に日本ですな。注)新潟、青森は連合領域にあった模様

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

日本

扶桑は日本の異名の一つとされる。1094 年の史書『扶桑略記』のタイトルに初期の用例が見られる。

一方、1712 年の類書『和漢三才図会』は「扶桑」の項で、『三才図会』からの引用（『梁書』の要約）の後、注釈で

疑ハクハ是當ルカ二北東ニ一乎誤チ以爲二日本ト一而扶桑ノ爲ル二日本ノ別號一者不レ當タラ

（疑はくはこれ北東に当たるかや、誤ちもつて日本とす。而して、扶桑の日本の別號なるは當たらず）

？『和漢三才図会』卷之十四 外夷人物「扶桑」

と、日本説を否定している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

>

>

> 惑星 X の件がありましたね。

>

> 津波や地震の影響は、古墳などにもみられます。

>

> 東北のはどうか？

Re: BC2001 年東北大津波 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 14 日(土)23 時 06 分 3 秒 返信・引用

> No.1742[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 岩淵國人さん三陸地方津波の痕跡を追い。三陸地方に 2000 年前の津波は・・・。

> 三陸地震は 37～78 年周期で発生している模様。1000 年に Mw9.0 は 2～3 回

> とすると 2000 年前の痕跡は目立っただけで騒ぐ代物でないな。今回は隕石落下は

> 考慮していない。ニビルが紀元前 3 世紀頃と 1 世紀頃に接近通過しているな。

>

> 『旧唐書』倭国・日本国伝に三陸地方は日本と言われ小国ですな。津波被害で小国

> 荒地だったのでしょうな。

>

> 『旧唐書』倭国・日本国伝

>

> 日本國者、倭國之別種也。以其國在日邊、故以日本為名。或曰：倭國自惡其名不雅、改為日本。或云：日本舊小國、併倭國之地。其人入朝者、多自矜大、不以實對、故中國疑焉。又云：其國界東西南北各數千里、西界、南界咸至大海、東界、北界有大山為限、山外即毛人之國。

>

> 日本国は、倭国の別種なり。その国は日の出の場所に在るを以て、故に日本と名づけた。あるいは曰く、倭国は自らその名の雅ならざるを憎み、改めて日本と為した。あるいは日本は昔、小国だったが倭国の地を併せたという。その人が入朝したが、多くは自惚れが大にして不実な対応だったので、中国はこれを疑う。また、その国の界は東西南北に各数千里、西界と南界いずれも大海に至り、東界と北界は大山があり、限界となし、山の外は、すなわち毛人の国だという。

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun10-kyutosho.htm>

>

>

惑星 X の件がありましたね。

津波や地震の影響は、古墳などにもみられます。

東北のはどうかな？

Re: BC2001 年東北大津波 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 14 日(土)09 時 43 分 33 秒 返信・引用 編集済

> No.1740[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

岩淵國人さん三陸地方津波の痕跡を追い。三陸地方に 2000 年前の津波は・・・。

三陸地震は 37～78 年周期で発生している模様。1000 年に Mw9.0 は 2～3 回

とすると 2000 年前の痕跡は目立っただけで騒ぐ代物でないな。今回は隕石落下は考慮していない。ニビルが紀元前 3 世紀頃と 1 世紀頃に接近通過しているな。

『旧唐書』倭国・日本国伝に三陸地方は日本と言われ小国ですな。津波被害で小国荒地だったのでしょうな。

『旧唐書』倭国・日本国伝

日本國者、倭國之別種也。以其國在日邊、故以日本為名。或曰：倭國自惡其名不雅、改為日本。或云：日本舊小國、併倭國之地。其人入朝者、多自矜大、不以實對、故中國疑焉。又云：其國界東西南北各數千里、西界、南界咸至大海、東界、北界有大山為限、山外即毛人之國。

日本国は、倭国の別種なり。その国は日の出の場所に在るを以て、故に日本と名づけた。あるいは曰く、倭国は自らその名の雅ならざるを憎み、改めて日本と為した。あるいは日本は昔、小国だったが倭国の地を併せたという。その人が入朝したが、多くは自惚れが大にして不実な対応だったので、中国はこれを疑う。また、その国の界は東西南北に各数千里、西界と南界いずれも大海に至り、東界と北界は大山があり、限界となし、山の外は、すなわち毛人の国だという。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun10-kyutosho.htm>

地震は添付のプレート移動で生じているとのことだな。

マグネチュードの定義式からプレートの蓄積エネルギー $\int (1/x) dx$ が地震の大きさですな。

蓄積エネルギーの放出はプレートにより異なる。

造山運動

火山活動

大陸移動

フィリピンプレート：火山活動、造山運動

東日本マイクロプレート：造山運動、大陸移動

東日本マイクロプレートは火山活動がないので定期的に蓄積エネルギーの放出と思われる。

37～78 年、マイクロプレートの土質で異なるのだろうか。

計算から 1000 年に Mw9.0 で 13 回、M8.0 は 27 回の組合せ 2：8 なら 23 回ですな。

次回は M8.0 で 2048 年、Mw9.0 で 2090 年ですな。

明治三陸地震 1896 年、8.2- 8.5

昭和三陸地震 1933 年、8.4 37 年

東北地方太平洋沖地震 2011 年 Mw9.0 78 年

4 世紀～5 世紀頃 三陸から房総にかけて M 9 級の超巨大海溝型地震と津波発生の可能性。宮城県気仙沼市大谷海岸で津波による堆積物が発見されたため

紀元前 4 世紀～紀元前 3 世紀頃 三陸から房総にかけて M 9 級の超巨大海溝型地震と津波発生の可能性。宮城県気仙沼市大谷海岸で津波による堆積物が発見されたため

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E9%9C%87%E3%81%AE%E5%B9%B4%E8%A1%A8_\(%E6%97%A5%E6%9C%AC\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E9%9C%87%E3%81%AE%E5%B9%B4%E8%A1%A8_(%E6%97%A5%E6%9C%AC))

紀元前 4000 年頃・・・三陸地方で巨大津波の跡

紀元前 1500 年頃・・・三陸地方で巨大津波の跡

紀元前 1000 年頃・・・三陸地方で巨大津波の跡

紀元前 800 年頃（BP2860 - 2620）、仙台付近で巨大津波の被害（紀元前 1000 年頃と同一の可能性）

紀元前 100 年頃（BP2030 - 2190）、仙台付近で巨大津波の被害

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%B4%A5%E6%B3%A2%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7>

明治三陸地震（めいじさんりくじしん）は、明治時代の日本の三陸沖で発生した地震である。1896 年（明治 29 年）6 月 15 日午後 7 時 32 分 30 秒、岩手県上閉伊郡釜石町（現・釜石市）の東方沖 200km（北緯 39.5 度、東経 144 度）を震源として起こった、マグニチュード 8.2- 8.5 という巨大地震であった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%8E%E6%B2%BB%E4%B8%89%E9%99%B8%E5%9C%B0%E9%9C%87>

昭和三陸地震（しょうわさんりくじしん）は、1933 年（昭和 8 年）3 月 3 日午前 2 時 30 分 48 秒に、岩手県上閉伊郡釜石町（現・釜石市）の東方沖約 200 km（北緯 39 度 7.7 分、東経 145 度 7.0 分）を震源として発生した地震。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%AD%E5%92%8C%E4%B8%89%E9%99%B8%E5%9C%B0%E9%9C%87>

東北地方太平洋沖地震（とうほくちほうたいへいようおきじしん）は、2011 年（平成 23 年）3 月 11 日(金)14 時 46 分 18.1 秒、日本の太平洋三陸沖を震源として発生した地震である。東日本大震災を引き起こし、東北から関東にかけての東日本一帯に甚大な被害をもたらした。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%8C%97%E5%9C%B0%E6%96%B9%E5%A4%AA%E5%B9%B3%E6%B4%8B%E6%B2%96%E5%9C%B0%E9%9C%87>

最初の定義(C.F.Richter,1935

$$M = \log A + \log B = \log x + C$$

$$\int (1/x) dx = \log x + C = M$$

<http://pub.maruzen.co.jp/index/kokai/rikanenpyo/chi132.pdf>

中央構造線（ちゅうおうこうぞうせん）は、日本最大級の断層系。英語の Median Tectonic Line から、メディアンラインやメジアンラインとも言い、略して MTL とも言う。

地震活動との関連

歴史時代以降の活動歴は、地震が活発な地域と比較すると少ないが、下記の様なマグニチュード（以下 M）6 - 7 クラスの地震が発生している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E5%A4%AE%E6%A7%8B%E9%80%A0%E7%B7%9A>

Re: BC2001 年東北大津波 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 12 日(木)07 時 12 分 18 秒 返信・引用

> No.1739[元記事へ]

岩淵國人さんへのお返事です。

三陸地方津波の痕跡を追い。三陸地方に 2000 年前の津波は考えずらいな。

「東北地方へ光臨した巨大隕石」

<http://fujorinokuukan.blog108.fc2.com/blog-category-8.html>

先史時代

紀元前 4000 年頃・・・三陸地方で巨大津波の跡

紀元前 1500 年頃・・・三陸地方で巨大津波の跡

紀元前 1000 年頃・・・三陸地方で巨大津波の跡

紀元前 800 年頃（BP2860 - 2620）、仙台付近で巨大津波の被害（紀元前 1000 年頃と同一の可能性）

紀元前 100 年頃（BP2030 - 2190）、仙台付近で巨大津波の被害。

高知県土佐市蟹ヶ池では、2011 年時点の約 2000 年前の地層から津波による厚さ 50cm の堆積物が見つかっており、これは宝永地震（1707 年、M8.4 - 8.7、M9 説もあり）の津波堆積物の厚さを上回る。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%B4%A5%E6%B3%A2%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7>

> 別件で BC2001 年の三陸超々巨大津波を提唱しています。貴研究会では何を根拠にされたのですか？ビックリです。

Re: BC2001 年東北大津波 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 10 日(火)04 時 04 分 10 秒 返信・引用

> No.1739[元記事へ]

岩淵國人さんへのお返事です。

> 別件でBC2001年の三陸超々巨大津波を提唱しています。貴研究会では何を根拠にされたのですか？ビックリです。

岩淵さま、はじめまして。

上記の投稿で引用している「BC2001年三陸大津波」の件ですが、それ以前の投稿にあたる下記の4月21日の投稿に、引用元のURLを掲載しています。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/421>

こちら引用文の一部。

たとえばおうし座流星群の母天体は、BC2000年前後に地球軌道と交差したそうですが、BC2001年に数百メートルの津波を東北にもたらした彗星が推定されてます。

<http://iwabuchikunito.jp/archives/88>

ただ、すでにリンク切れになっているようですが、おそらくは岩淵さまのほうがよくご存知ではないかと感じます……。この津波関連で詳しい情報ございましたら、よろしくお教えくださるとこちらも大変助かります。

BC2001年東北大津波 投稿者：岩淵國人 投稿日：2013年9月9日(月)23時45分39秒 返信・引用

別件でBC2001年の三陸超々巨大津波を提唱しています。貴研究会では何を根拠にされたのですか？ビックリです。

Re: 軌道共鳴とプレートテクトニクス 投稿者：岩淵國人 投稿日：2013年9月9日(月)23時33分6秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

>> 過去 5 億年間の気候変化では 15000 万年周期、4000 万年周期過去

>> 45 万年間の気候変化と氷床量の変化 10 万年周期

>> 古代シュメールの記録から気温変化 1200 年周期は削除。約 3,600 年周期

>>

>> 一部の書籍に於いて、古代シュメール人が「ニビル」と呼んだ、約 3,600 年周期で太陽系と垂直方向の楕円

>> 「ニビル」が正しいなら 600~800 年に何かが確認されているはず。大宝律令あたりになる。

>> ニビルの約 3,600 年周期は歴史上の災害、異常現象から特定する方法しかない。

>> 削除した、候補の 1200 年周期、・・・を再考か。

>> 次の接近は 4200~4400 年になる。寿命がないので確認はあきらめます。

>>

>

>

> ニビルの件ですが、どうもシュメールの粘土板の星は、BC 2320 年のそれを元にしてしていると、それはハレー彗星ではないかという感じもします。ちょっと怪しいです・・・。

>

> それで再度おうし座流星群の母天体、エンケ彗星を調べてみました。3.3 年周期なのですが、木星の周期に軌道共鳴しています。7:2 です。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%B3%E3%82%B1%E5%BD%97%E6%98%9F>

>

> 実質的に木星周期と同じとみなしてよいかと考えました。木星周期は 11.86155 年です。

> エンケ彗星は、木星と 7:2 の周期で会合してます。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%A8%E6%98%9F>

>

> それで木星周期と地球の周期の公倍数ですが、130 回木星が周回すると、1542.0015 年で、地球と会合します。

>

> それで、木星が 2 回回ると、エンケ彗星が 7 回回って会合するわけですから、2 で割って、

> 771.00075 年が、地球とエンケ彗星の会合周期になるかと感じます。

>

> B C 2001 年の東北大津波をエンケ彗星接近によるものと過程すると、次に B C 1230 年にまた会合した計算になります。すると、ちょうど出エジプトの年が 1230 年なので、重なってきますね。

>

> さらに 459 年は、バビロン捕囚からユダヤ人が帰還した年にあたります。

>

> 次が

> A D 312 年

> 1083 年、富士山噴火

> 1854 年 安政東海地震

>

> と続きます。

>

> 逆に、2001 年の 771 年前は、2772 年ですが、あるいはこのあたりにノア洪水をもっていく手もあります。

>

> 12930 年の衝突についても、下記のサイトでエンケ彗星の母天体となった彗星が、現在のエンケ彗星の軌道に入り込んで、崩壊した後、その残骸が地球に降り注いだ可能性を指摘してます。

>

> <http://ameblo.jp/parasaurolophus4u/entry-10602452621.html>

>

>

> ただ、このエンケ彗星、つまりおうし座流星群の周期は、だんだん速くなってきているとのことで、当初から一定の周期だったかどうかは微妙です。

>

> あと、軌道共鳴の要素としては、地球の各周期を見ると理解しやすくなりそうです。

>

> 歳差運動 (Precession) の周期は 3 つあり、それぞれ 1 万 9000 年、2 万 2000 年、2 万 4000 年である。

> 自転軸の傾斜角 (Obliquity) の変化は周期 4 万 1000 年。

> 公転軌道の離心率 (Eccentricity) 変化は周期 9 万 5000 年、12 万 5000 年、40 万年。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%B8%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%AB>

>

> 太陽の自転周期

>

> 27 日 6 時間 36 分 (赤道)

> 28 日 4 時間 48 分 (緯度 30 度)

> 30 日 19 時間 12 分 (緯度 60 度)

> 31 日 19 時間 12 分 (緯度 75 度)

>

> 銀河系を一周する時間 2.2×10^8 年

>

> 月の公転周期

> 27 日 7 時間 43.1 分

>

>

> 要するに月の公転周期は、太陽の自転周期と共鳴関係にあるようです。

>

> また月の自転周期は地球との共鳴関係。

>

>

>

> 金星と地球の会合周期 $583.92 \text{ 日} \times 5 \div 365 = 7.9998904$

>

> となります。地球と金星も重力的に軌道共鳴の関係にあるのでしょうか。

>

> 公転周期は 224.701 日、自転周期は 243.0187 日 で太陽との軌道共鳴関係に近いです。

>

>

> 木星に対するエンケ彗星の関係は、地球に対する金星の関係と共通性があります。

>

> 難しいのですが、捕獲と軌道変化と公転スピードとの関係にあるのではないのでしょうか。

>

> 逆に、それをたどれば、どの星はどこからきてどういうふうに捕獲されたかがわかるかもしれません。

>

> 量子力学だと、プランク定数というのがあって、ある一定の整数比で、軌道・周期が徐々に共鳴していく過程が生じます。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AF%E5%AE>

%9A%E6%95%B0

>

> その安定するまでの間に、彗星のごとく火花を散らして余分なエネルギーを発散していくわけです。

>

> 同様にその軌道共鳴で安定するまでの過程を観察することで、いつどこからこの星がきて、まだ安定しきれてないとか、そういうこともわかってくるかもしれません。

>

> エンキ彗星や、月と金星はまだ安定しきってない感じがしますね。

>

>

Re: クシナダヒメ 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 9 日(月)23 時 10 分 15 秒 返信・引用

> No.1736[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 唐古・鍵遺跡はどうも、古事記の安の河原ですな。古事記の文章を探せば痕跡があるかも。

>

> 第2章 天の岩戸

> アマテラスオオミカミが作っていた田の畔（あぜ）を踏みつぶし、溝を埋め、大嘗祭を行う神殿に、何と「うんこ」をし散らかしたのです。しかし、アマテラスオオミカミは、・・・

>

> http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_02.html

>

> 唐古・鍵遺跡（からこ・かぎ・いせき）は奈良盆地中央部、標高約48メートル前後の沖積地、奈良県磯城郡田原本町大字唐古及び大字鍵に立地する弥生時代の環濠集落遺跡。

やはり天岩戸関係だと、鏡作神社と石凝姥女の関係でしょう。黒田庵戸宮から東にラインを伸ばしたところに神社があります。

石凝姥女こそが、物部系の孝霊・孝元天皇妃のウツシコとその姪のイカガシコです。卑弥呼と台与ですね。

唐子・鍵遺跡はそのすぐそばなのですが、また宮古の字名が残っています。宮古・保津遺跡です。

孝霊の黒田庵戸宮は後代皇室領として受け継がれ、倭屯倉になります。あの周辺には、先日も訪問しましたが孝霊神社があります。その前に中規模の河川があり、これがおそらく宮の周辺を流れていたはずで

です。

孝霊神社には、孝霊天皇、桃太郎の話がつたわってます。

鏡作神社の位置は、ちょうど中国の漢魏洛陽城でいうと、宮殿そばの官営工房、つまり鏡職人のいた尚方のあったあたりになるでしょう。だから鏡作の残存がそこにあるんですね。唐子・鍵はやや北東にあたり、そこで宮殿を描いた土器が出てくる理由は、宮が近かったからとおもうのですが、やや黒田宮あたりの宮殿を眺めるには、距離がありすぎる感じを受けました。もう少し近くの宮古・保津遺跡あたりの出土土器からも、そういう宮殿が描かれていたら、おもしろいですね。清水・・・遺跡というところからも、同様な土器が出ていたとおもいます。

マキムク方面へ宮が移動する古墳時代初期、4世紀末～5世紀半以前は、この黒田庵戸宮に中心があったでしょう。

もともとは、この黒田庵戸宮から東に5度偏角で伸びていた道路上にマキムク古墳群、つまり「大市」、中国都城でいう東西交流の市があって、そこで東西の交流があったので、広く東西の土器が出土していたわけですが、ある時期から、マキムク日代宮へと移行して、丘陵上に宮を置くようになります。

ひとつは水没ですね。なにか奈良にそのような水没伝承があるかもしれません。山幸、海幸もそうですし、アマテラス系だと、どうなるか？溝埋めは、ちょっと違うかもしれませんね。馬が出てくるのは、かなり後代の話です。

マキムクから伊勢へと道路が伸びて、神殿が構築されていくのが、竹内街道に関係する半島系武内宿禰の時代で、4世紀後半ですね。

その時代に4世紀前半の佐紀古墳群の海人族の時代が終わって、次に河内王朝へと移行していきます。

Re: クシナダヒメ 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年9月7日(土)23時12分17秒 返信・引用
編集済

> No.1735[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

唐古・鍵遺跡はどうも、古事記の安の河原ですな。古事記の文章を探せば痕跡があるかも。

第2章 天の岩戸

アマテラスオオミカミが作っていた田の畔（あぜ）を踏みつぶし、溝を埋め、大嘗祭を行う神殿に、何と「うんこ」をし散らかしたのです。しかし、アマテラスオオミカミは、・・・

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_02.html

唐古・鍵遺跡（からこ・かぎ・いせき）は奈良盆地中央部、標高約48メートル前後の沖積地、奈良県磯城郡田原本町大字唐古及び大字鍵に立地する弥生時代の環濠集落遺跡。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%94%90%E5%8F%A4%E3%83%BB%E9%8D%B5%E9%81%BA%E8%B7%A1>

>桃太郎伝説というと、孝霊天皇ですが、・・・

孝霊天皇

いわゆる欠史八代の1人で、実在しない天皇と捉える見方が一般的であるが実在説もある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%9D%E9%9C%8A%E5%A4%A9%E7%9A%87#.E8.99.9A.E6.A7.8B.E8.AA.AC>

聖書のカナの婚礼ですが、文書に、イエスは彼らに言われた。「水がめに水を満たしなさい。」

とあるが、聖書の一般訳では水をぶどう酒にした様に理解しているが解釈に問題がある。

どこにも、9 宴会の世話役はぶどう酒になったその水を味わってみた。それがどこから来たのか、知らなかったのも、??しかし、水をくんだ手伝いの者たちは知っていた。??彼は、花婿を呼んで、・・・。

「水をくんだ手伝いの者たちは知っていた。」これは水でなく、ぶどう酒を満たした様だな。何か大きな権力者の姿が隠れているな。

聖書のカナの婚礼の話が、多くの酒樽、婚姻で、どこかスサノオ神話と関係してきます。

”1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があつて、そこにイエスの母がいた。

2 イエスも、また弟子たちも、その婚礼に招かれた。

3 ぶどう酒がなくなったとき、母がイエスに向かって「ぶどう酒がありません。」と言った。

4 すると、イエスは母に言われた。「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」

5 母は手伝いの人たちに言った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」

6 さて、そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、それぞれ八十リットルから百二十リットル入りの石の水がめが六つ置いてあった。

7 イエスは彼らに言われた。「水がめに水を満たしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

8 イエスは彼らに言われた。「さあ、今くみなさい。そして宴会の世話役のところに持って行きなさい。」彼らは持って行った。

9 宴会の世話役はぶどう酒になったその水を味わってみた。それがどこから来たのか、知らなかったの
で、??しかし、水をくんだ手伝いの者たちは知っていた。??彼は、花婿を呼んで、

10 言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、人々が十分飲んだころになると、悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒をよくも今まで取っておきました。」”

Re: クシナダヒメ 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 7 日(土)22 時 13 分 6 秒 返信・引用

> No.1734[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> ナタ (中国神話)の『西遊記』と桃太郎 (ももたろう) の登場人物が共通するな。

>

> 『西遊記』：唐僧・三蔵法師が白馬・玉龍に乗って三神仙（神通力を持った仙人）、孫悟空、猪八戒、沙悟浄を供に従え

>

> 桃太郎：「桃太郎」が、お婆さんから黍団子（きびだんご）を貰って、イヌ、サル、キジを従えて

>

>

> 桃太郎 (ももたろう) は、日本のおとぎ話の一つ。

> 「桃太郎」が、お婆さんから黍団子（きびだんご）を貰って、イヌ、サル、キジを従えて、鬼ヶ島まで鬼を退治しに行く物語。

>

> 上流から流れてきた桃を食べて老夫婦が若返ったというくだりには、道教やさまざまな神話が影響しているとみられる。

桃太郎伝説というと、孝霊天皇ですが、先日はその孝霊黒田庵戸宮やそばの鏡作神社、唐子・鍵遺跡も見てきました。奈良の中国的都城区画の中心です。

弥生末から古墳初期に入った中国系集団によってもたらされた伝承でしょう。

唐子・鍵の動画

<https://www.youtube.com/watch?v=w379z722tUE>

<https://www.youtube.com/watch?v=GYLR5L0WDTc>

後代、箸墓、マキムク方面へと移動するのですが、三輪・箸墓伝承は、先のヤマタノオロチ伝承と、河・箸の要素で共通してきます。吉備とも関係する。

高天原を追放された須佐之男命は、出雲国の肥河（島根県斐伊川[1]）の上流の鳥髪（現・奥出雲町鳥上）に降り立った。箸が流れてきた川を上ると、美しい娘を間に老夫婦が泣いていた。その夫婦は大山津見神の子の足名椎命と手名椎命であり、娘は櫛名田比売（くしなだひめ）といった。

たちどころに湯津爪櫛(ゆつつまぐし)の形に変えてしまった。素戔鳴尊は湯津爪櫛になった少女を御髻（みづら）に挿し、脚摩乳と手摩乳に八回醸した酒を作らせ、八面に塀を立て、各々一つずつ樽を置き、酒を盛らして待った。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ヤマタノオロチ>

ヤマタの件ですが、「八」に固執しています。「八面」というのは、八角形になるのでしょうか。八角墳、八角堂となってくると、東欧系新漢人等の世界です。八角墳とかに影響していきます。

オリエント・ケルト・ローマキリスト教的要素が関わってきます。

八面大王

中房山の北、有明山の麓の宮城には「魏石鬼ヶ窟」がある。

八面大王の社と称する祠もあるという。一説には、魏石鬼の首を埋めたのが「塚魔」であり、その上に権現を勧請したのが今の筑摩八幡宮（つかまはちまんぐう）とされる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/魏石鬼八面大王>

安曇族と新漢人の関係ですね。

坂上氏は漢人集団の首長でした。

聖書のカナの婚礼の話が、多くの酒樽、婚姻で、どこかスサノオ神話と関係してきます。

”1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があつて、そこにイエスの母がいた。

2 イエスも、また弟子たちも、その婚礼に招かれた。

3 ぶどう酒がなくなったとき、母がイエスに向かって「ぶどう酒がありません。」と言った。

4 すると、イエスは母に言われた。「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」

5 母は手伝いの人たちに言った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」

6 さて、そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、それぞれ八十リットルから百二十リットル入りの石の水がめが六つ置いてあった。

7 イエスは彼らに言われた。「水がめに水を満たしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

8 イエスは彼らに言われた。「さあ、今くみなさい。そして宴会の世話役のところを持って行きなさい。」彼らは持って行った。

9 宴会の世話役はぶどう酒になったその水を味わってみた。それがどこから来たのか、知らなかったの
で、??しかし、水をくんだ手伝いの者たちは知っていた。??彼は、花婿を呼んで、

10 言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、人々が十分飲んだころになると、悪いのを出すもの
のだが、あなたは良いぶどう酒をよくも今まで取っておきました。」”

ぶどう酒というのが、つまり樽と血ですね。イエスが母の関係者に酒を用意するように命じる場面が、スサノオが奇稲田姫の両親に酒桶を用意させるシーンへと対応してきます。

稲はモチと的と酒関連の、先の会報で記した九州に入ったミサ伝承ですね。

大蛇退治は、オリエント系の竜退治神話。

> No.1733[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

ナタ (中国神話)の『西遊記』と桃太郎（ももたろう）の登場人物が共通するな。

『西遊記』：唐僧・三蔵法師が白馬・玉龍に乗って三神仙（神通力を持った仙人）、孫悟空、猪八戒、沙悟浄を供に従え

桃太郎：「桃太郎」が、お婆さんから黍団子（きびだんご）を貰って、イヌ、サル、キジを従えて

桃太郎（ももたろう）は、日本のおとぎ話の一つ。

「桃太郎」が、お婆さんから黍団子（きびだんご）を貰って、イヌ、サル、キジを従えて、鬼ヶ島まで鬼を退治しに行く物語。

上流から流れてきた桃を食べて老夫婦が若返ったというくだりには、道教やさまざまな神話が影響しているとみられる。『山海経』や西王母伝説、あるいは日本神話のイザナギの神産み#黄泉の国にみられるように、桃は邪気を祓い不老不死の力を与える霊薬である果実とされている。また、山奥に住む仙人にも桃は欠かせない存在である。桃太郎を齎した桃は、こうした力のある桃が山から流れて来たものとも考えられる。世界的には霊力のある植物は桃とは限らず、古くはギルガメシュ叙事詩での不死の薬草、旧約聖書の『創世記』における生命の樹と知恵の樹、田道間守の非時香菓（ときじくのかぐのこのみ、橘の実とされる）や徐福伝説の神仙薬などが挙げられる。桃太郎の対的説話としては瓜から生まれた瓜子姫が指摘され、沖縄県久高島には黄金の瓜から生まれた男子が後の琉球王（西威王とされる）となったという伝説のバリエーションもある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A1%83%E5%A4%AA%E9%83%8E>

『西遊記』（さいゆうき、繁体字: 西遊記; 簡体字: 西游?; ピン音: Xīyóu Jì; ウェード式: Hsiyu-chi; 粵ピン音: sai1 jau4 gei3）は、中国で16世紀の明の時代に大成した伝奇小説で、唐僧・三蔵法師が白馬・玉龍に乗って三神仙（神通力を持った仙人）、孫悟空、猪八戒、沙悟浄を供に従え、幾多の苦難を乗り越え天竺へ取経を目指す物語。全100回で中国四大奇書に数えられる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E9%81%8A%E8%A8%98>

哪咤（なた、英: Nata or Na-zha）は、道教で崇められている少年神、もしくは中国仏教もしくはヒンドゥー教の民話・説話の登場人物である。

托塔天王（毘沙門天）の三男である事から哪咤太子（なたたいし）、あるいは哪咤三太子（なたさんたいし）とも呼ばれる。信仰対象としては太子爺（たいしや）、太子元帥（たいしげんすい）、羅車太子（らしゃたいし）、中壇元帥（ちゅうだんげんすい）などとも呼ばれ、いくつもの尊称がある。

蓮の花や葉の形の衣服を身に着け、乾坤圈（円環状の投擲武器）や混天綾（魔力を秘めた布）、火尖鎗（火を放つ槍）などの武器を持ち、風火二輪（二個の車輪の形をした乗り物。火と風を放ちながら空を飛ぶ）に乗って戦う姿は『封神演義』『西遊記』などの民間説話や小説などでなじみ深く、道教寺院でもこのような姿で表される。

主要な文献とその漢字表記

文献 表記

封神演義 哪咤

西遊記 哪咤

西遊記雑劇 那咤

毘沙門儀軌 咤

尊容鈔 那咤

三教源流搜神大全 那咤

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8A%E3%82%BF_\(%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E7%A5%9E%E8%A9%B1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8A%E3%82%BF_(%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E7%A5%9E%E8%A9%B1))

>>

>> クシナダヒメは、

>> 日本神話に登場する女神。『古事記』では櫛名田比売、『日本書紀』では奇稻田姫と表記する。

>> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%8A%E3%83%80%E3%83%92%E3%83%A1>

>>

>>

>

> なるほどですね。スサノオ神話の件、もう少しほりさげたいですね。

>

>

Re: クシナダヒメ 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 6 日(金)23 時 17 分 45 秒

返信・引用

> No.1731[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>

> クシナダヒメは、

> 日本神話に登場する女神。『古事記』では櫛名田比売、『日本書紀』では奇稻田姫と表記する。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%8A%E3%83%80%E3%83%92%E3%83%A1>

>

>

なるほどですね。スサノオ神話の件、もう少しほりさげたいですね。

天皇は確かにクリスマスと関係がある。 投稿者：ねこ 投稿日：2013 年 9 月 6 日(金)15 時 48 分 13 秒 返信・引用

天皇は確かにクリスマスと関係がある。

http://park.geocities.jp/j_con4/0204/p049.html#page316

イギリスにも関ヶ原の戦いがあった。

(仮説を含む)

(<http://park.geocities.jp/jpcdebate/0103/p037.html>)

クシナダヒメ 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 9 月 5 日(木)21 時 52 分 41 秒 返信・引用 編集済

古事記の登場人物名は何か意味を持っている「諱（いみな）」だな。

クシナダヒメは、梳る哪タ（くしけず-る、なた、）の様だな。

古事記のヤマタノオロチの状況は中国神話：哪タで残った模様。

「哪タで梳る」は哪タで乱れを整える。の意味だな。

同様に、三韓征伐、白村江の戦いが祭りで残っている模様。

ヤマタノオロチと白村江の戦いの祭りを添付

クシナダヒメは、

日本神話に登場する女神。『古事記』では櫛名田比売、『日本書紀』では奇稻田姫と表記する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%8A%E3%83%80%E3%83%92%E3%83%A1>

櫛名田比売

訓読み：櫛:くし、くしけず-る

訓読み：名 :な

訓読み：田 :た

くしけず-る、なた

くし-けず・る [-けづる] 【×梳る】

梳く(すく)／梳る(くしけずる)

★乱れた髪をくしで整える。

ナタ (中国神話)

哪々 (なた, 英: Nata or Na-zha) は、道教で崇められている少年神、もしくは中国仏教もしくはヒンドゥー教の民話・説話の登場人物である。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8A%E3%82%BF_\(%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E7%A5%9E%E8%A9%B1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8A%E3%82%BF_(%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E7%A5%9E%E8%A9%B1))

Re: 帰宅しました 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 9 月 5 日(木)10 時 47 分 37 秒 返信・引用
> No.1729[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 「穴」は、製鉄との関わりがあるとの見方も興味深いですが、元は大国主が、スサノオの試練にあったときに、ネズミの教えによって「穴」に落ちて難を逃れたという大陸系伝承によるものだと考えてます。

>

> 稲田姫などのスサノオ伝承と「稲」とに、間接的には関係ありそうですね。

>

>

穴 万物を生み出した御祖（みおや）<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

紫微垣（しびえん）陰陽道紫微派では北極星を万物を生み出した御祖（みおや）、

「隧穴は大地母神の女陰」に「真名井の御霊水」と言うのが良く合っている。... 韓伝に鬼神が沢山出てくるが、韓伝の方は村落毎に違う神を祭っている ので、むしろ祖先信仰だった可能性もある。

<http://www.geocities.jp/taru638/page002.html>

隧穴を豊穰を司る大地母神（現在の豊受大神）のホトに見立てて

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1095321700

ネズミを従えています

【 聖天（歓喜天・ガネーシャ、ガナパティ） 】

ヒンドゥー教のシヴァ神の息子で象の姿をした神です。本来は原住民の障碍を起こす神でしたが、障碍を取り除く神、財宝神、学問の神に変化しました。商売繁盛や愛欲の神としても知られています。クペーラと同じく豊穰と暗黒の両面を持っていて、大きなお腹をしていて、ネズミを従えています。日本でも、夫婦和合やどんな願いでもかなえてくれる神とされました。好物とされる大根が捧げられます。後醍醐天皇が倒幕のために修したと言われています。

Re: 帰宅しました 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 3 日(火)23 時 06 分 19 秒

返信・引用

> No.1728[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

>> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

>> 大国主とマキムク遺跡の伝承は、再考の余地ありですね。

>

> 穴師の「穴」も稲田姫の「稲」も「鉄」の意味で、古代の当地は製鉄と関係が深い所です。製鉄関

連の「稲穂」は「製鉄の火」のことです。 <http://enkieden.exblog.jp/19307604/>

> 祭神： 兵主神（中）、大兵主神（左）、若御魂神（右、稲田姫命）

> ご神体： 鏡、 剣、 勾玉と鈴

> 創建： 10代崇神天皇の時代（西暦300年前後）

>

> JR 巻向駅の真東1.5km、穴師山の山麓に鎮座。兵主神信仰は中国山東半島からの伝来と言われます。海人族による楽浪郡や山東半島との交易の結果でしょう。製鉄・鍛冶の神です。

> 穴師大兵主（あなしおおひょうず）神社に穴師坐兵主神社（弓月岳）と巻向坐若御魂（まきむくにいますわかみたま）神社（巻向山）を合祀して、新神社名が穴師坐兵主神社となっています。従って3社の神様がお祀りされているのですが、合祀された兵主神が中央に祀られているので、主客転倒の形になっています。

> 穴師の「穴」も稲田姫の「稲」も「鉄」の意味で、古代の当地は製鉄と関係が深い所です。製鉄関連の「稲穂」は「製鉄の火」のことです。現在の周辺地では果樹園や製麺所（三輪そうめん）などが多いです。

> 穴師坐兵主神社（弓月岳）

> 西暦300年前後

>

「穴」は、製鉄との関わりがあるとの見方も興味深いですが、元は大国主が、スサノオの試練にあったときに、ネズミの教えによって「穴」に落ちて難を逃れたという大陸系伝承によるものだと考えてます。

稲田姫などのスサノオ伝承と「稲」とに、間接的には関係ありそうですね。

Re: 帰宅しました 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年9月3日(火)05時22分8秒 返信・引用

> No.1726[元記事へ]

> 秦野北斗さんへのお返事です。

> 大国主とマキムク遺跡の伝承は、再考の余地ありですね。

【大歳（饒速日）尊：オオトシ（ニギハヤヒ）】：大国主、大物主、葦原色許男、日本大国魂 大神、

布留御魂大神、賀茂別雷、櫛玉、櫛甕玉、鴨大神、事解男命、豊日別、等々である。とにかく、歴史（記紀）に残すと都合の悪い人物に多くの名前を与え、正体を抹殺する
...<http://www.syamashita.net/history/kodaishi/damasareta.html>

大歳神. 大年神（おとしのかみ）。日本神話の神。太歳神（たいさいしん）。陰陽道の神。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%AD%B3%E7%A5%9E>

年のはじめのお正月は万物が新しく蘇生（そせい）する時でもあり、年神（としがみ）さまをまつることが行事の中心です。http://www.pref.iwate.jp/~hp0910/kore_naani/t/f/22.html

「神農膏」は【人体を蘇生の方向に持っていくもの】<http://www.cosmic-energy.co.jp/lpo/>

神農

秦氏への太子の要請によるとされる河勝(秦河勝/香具師・神農行商の祖)<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2010>

> 元の穴師坐兵主神社は、垂仁天皇2年に倭姫命が天皇の御膳の守護神として祀ったとも、景行天皇が八千矛神（大国主）を兵主大神として祀ったともいう。旧鎮座地は「弓月岳」であるが、比定地には竜王山・穴師山・巻向山の3つの説がある。祭神の「兵主神」は現在は中殿に祀られ、鏡を神体とする。神社側では兵主神は御食津神であるとしているが、他に天鈿女命、素盞鳴尊、天富貴命、建御名方命、大己貴神の分身の伊豆戈命、大倭大国魂神とする説がある。

> 「穴師坐」は、穴師という地域に座した兵主神社の意味で、おそらくそれ以前から穴師という地名があったはず。兵主神は、どこからやってきた別系統の大陸系信仰。

穴師の「穴」も稲田姫の「稲」も「鉄」の意味で、古代の当地は製鉄と関係が深い所です。製鉄関連の「稲穂」は「製鉄の火」のことです。<http://enkieden.exblog.jp/19307604/>

祭神： 兵主神（中）、大兵主神（左）、若御魂神（右、稲田姫命）

ご神体： 鏡、 剣、 勾玉と鈴

創建： 10代崇神天皇の時代（西暦300年前後）

JR 巻向駅の真東1.5km、穴師山の山麓に鎮座。兵主神信仰は中国山東半島からの伝来と言われます。海人族による楽浪郡や山東半島との交易の結果でしょう。製鉄・鍛冶の神です。

穴師大兵主（あなしおおひょうず）神社に穴師坐兵主神社（弓月岳）と巻向坐若御魂（まきむくにいますわかみたま）神社（巻向山）を合祀して、新神社名が穴師坐兵主神社となっています。従って3社の神様がお祀りされているのですが、合祀された兵主神が中央に祀られているので、主客転倒の形になっています。

穴師の「穴」も稲田姫の「稲」も「鉄」の意味で、古代の当地は製鉄と関係が深い所です。製鉄関連の「稲穂」は「製鉄の火」のことです。現在の周辺地では果樹園や製麺所（三輪そうめん）などが多いです。

穴師坐兵主神社（弓月岳）

西暦 300 年前後

応神 天皇 14 年 (283 年) のことです。 <http://blog.goo.ne.jp/go-hot-ai2395/e/fdb80377b9bed555fc89f156c32445cd>

弓月君が百済からやってきた。奏上して「私は私の国の、百二十県の人民を率いてやってきました。しかし、新羅人が邪魔をしているので、みな加羅国に留まっています」といった。そこで葛城襲津彦を遣わして、弓月の民を加羅国によばれた。しかし三年たっても襲津彦は帰ってこなかった。

p 217 「日本書紀」上全現代語訳 宇治田猛 講談社学術文庫

280 年ごろ卑弥呼臺与 (トヨ) は亡くなっているはずです。そして、その後に、スサノヲは卑弥呼臺与 (トヨ) の子孫をつれて朝鮮半島に向かっているはずです。

すぐにスサノヲは南朝鮮を制圧したと考えています。その時なら、朝鮮の優れた技術を日本に取り入れようと多くの朝鮮人を日本に送り込むことはありえます。

となると、283 年ごろと 663 年ごろに同じことが起きたことになります。

また、『三代実録』なる本を、名前しか見たことはありませんでしたが、

『卷四十四元慶七年 (八八三) 』と 283 年を比べると

$883 - 283 = 600$ ・・・ちょうど 600 年離れています。

管理人さんへのお返事です。

Re: 帰宅しました 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 9 月 3 日(火)04 時 57 分 16 秒 返信・引用
> No.1725[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> あと、二上山越えは案外、標高差がなかったのが印象的でした。

>

聖なる山「ふたかみやま」へ <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

Re: 帰宅しました 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 2 日(月)23 時 12 分 38 秒 返信・引用
> No.1717[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 大国主（おおくにぬし）は、『古事記』『日本書紀』に登場する神である。ですな。

>

> マキムク遺跡と結び付けるは古事記、第3話 オオクニヌシですな。

>

> <http://www15.plala.or.jp/kojiki/index.html>

>

大国主とマキムク遺跡の伝承は、再考の余地ありですね。

元の穴師坐兵主神社は、垂仁天皇2年に倭姫命が天皇の御膳の守護神として祀ったとも、景行天皇が八千矛神（大国主）を兵主大神として祀ったともいう。旧鎮座地は「弓月岳」であるが、比定地には竜王山・穴師山・巻向山の3つの説がある。祭神の「兵主神」は現在では中殿に祀られ、鏡を神体とする。神社側では兵主神は御食津神であるとしているが、他に天鈿女命、素盞鳴尊、天富貴命、建御名方命、大己貴神の分身の伊豆戈命、大倭大国魂神とする説がある。

巻向坐若御魂神社の祭神「若御魂神」は稲田姫命のことであるとされる。現在は右社に祀られ、勾玉と鈴を神体とする。元は巻向山中にあった。若御魂神については、和久産巢日神のことであるとする説もある。

上記の2社は、『正倉院文書』に天平2年（730年）に神祭を行った記録があり、貞観元年（859年）に従五位上の神階が授けられた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/穴師坐兵主神社>

方位ライン面では、マキムク遺跡から5度偏角にあたる現在の位置が正しいとおもいますね。

もともと弥生末から穴師に関する何かがあったはずです。吉備方面に関係する兵主神、八千矛神が入ってくるのは、4世紀前半の大彦の時代でしょうか。

「穴師坐」は、穴師という地域に座した兵主神社の意味で、おそらくそれ以前から穴師という地名があったはずです。兵主神は、どこからやってきた別系統の大陸系信仰。

マキムクと関係するのは「穴師」で、オオアナムジの世界。三輪の大物主の関係でしょうか。マキムク式古墳の世界ですね。

ホケノ山の位置が、箸墓のライン上にあるのは、もっと注目すべきで、造り的には、おそらくマキムク式の初期のそれに近いように見えました。その辺から箸墓の造営年代もライン面から逆算できるかもしれません。

Re: 帰宅しました 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 9 月 2 日(月)23 時 00 分 18 秒

返信・引用

> No.1724[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

>> この辺再度水没予想をしなおす必要がありそうです。

>

> [旧河内湖、1] 河内湖 1m 現在の地図ですが標高 1 m に水を置いてみました。「銅鐸」 茨木市東奈良遺跡（石製銅鐸鋳型） 羽曳野市西浦銅鐸。 四条畷市砂山銅鐸（入れ子で、河内湖畔） 門真市大和田銅鐸（河内湖畔 ...http://www.d3.dion.ne.jp/~stan/kasi/kosk_kwtk.htm

>

> 写真は、弥生時代の大阪湾岸線と近郊地図及び古墳時代の河内平野。

http://blog.goo.ne.jp/tommz_1938/e/05940e5344f2aa005dc5be29aa8af36f

> 古墳時代の頃までには、汽水域である河内湖が淀川・大和川系による土砂で埋められつつあり、河内平野の原形が出来つつある。

> 河内平野は、北から時計回りに千里丘陵・枚方丘陵・生駒山地・羽曳野丘陵と上町台地に囲まれた平坦地を指す。

> 平野の北東隅からは淀川が、南東隅からは大和川が流れ込み、それらは大阪城の北側で合流し、やがて大阪湾へと流れ出る。

>

なるほど、河内湖の実態がわかりますね。

あと、二上山越えは案外、標高差がなかったのが印象的でした。

Re: 帰宅しました 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 9 月 1 日(日)10 時 39 分 34 秒

返信・引用

> No.1722[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> この辺再度水没予想をしなおす必要がありそうです。

[旧河内湖、1] 河内湖 1m 現在の地図ですが標高 1 mに水を置いてみました。「銅鐸」 茨木市東奈良遺跡（石製銅鐸鋳型） 羽曳野市西浦銅鐸。 四條畷市砂山銅鐸（入れ子で、河内湖畔） 門真市大和田銅鐸（河内湖畔 ...http://www.d3.dion.ne.jp/~stan/kasi/kosk_kwtk.htm

写真は、弥生時代の大阪湾岸線と近郊地図及び古墳時代の河内平野。

http://blog.goo.ne.jp/tommz_1938/e/05940e5344f2aa005dc5be29aa8af36f

古墳時代の頃までには、汽水域である河内湖が淀川・大和川系による土砂で埋められつつあり、河内平野の原形が出来つつある。

河内平野は、北から時計回りに千里丘陵・枚方丘陵・生駒山地・羽曳野丘陵と上町台地に囲まれた平坦地を指す。

平野の北東隅からは淀川が、南東隅からは大和川が流れ込み、それらは大阪城の北側で合流し、やがて大阪湾へと流れ出る。

Re: 弓月岳 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 31 日(土)23 時 04 分 42 秒 返信・引用

> No.1719[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 穴師上社の跡地は「ゲシノオオダイラ＝夏至の 大平」と呼ばれ、弓月岳頂上、上社の跡地、現下社、箸墓古墳後円部中心、前方部中心 が一直線に並ぶとの事である。夏至の祭祀の日の太陽はこのラインを照らす。

> 神奈備さんのHP <http://kamnavi.jp/as/yamanobe/anasi.htm>

> 千田稔氏は『鬼神の鎮魂歌』のなかで巻向山説を示されている。

> 【位置関係】

> 穴師川川波立ちぬ巻向の弓月が岳に雲居立てるらし （万葉一〇八七 柿本朝臣人麻呂之歌集）

> あしひきの山川の瀬の鳴るなへに弓月が岳に雲立ちわたる（万葉一〇八八 柿本朝臣人麻呂之歌集）

> 痛足川は穴師川のことで現在の巻向川、この川は巻向山の頂上近くに源流がある。巻向の弓月が岳というのは巻向山のこと。

> 伝崇神陵から南東30度で同じように穴師山頂上が見える。その延長上に巻向山頂上がある。やはり冬至の日出の線。

>

穴師と方位ラインの関係は、重要ですね。

マキムク遺跡（古墳群）からは、5度偏角になります。これが最初の起点です。

その後、箸墓や崇神の22度（夏至角）のそれが追加されたのでしょうか。その前後で西殿塚もラインに関わってくる。

Re: 帰宅しました 投稿者：管理人 投稿日：2013年8月31日(土)22時58分9秒 返信・引用

> No.1718[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> > 古墳自体も測量・軍事用の人工的なマウンドとしての可能性を考えているのですが、ただ今回マキムク遺跡の勝山、石塚、矢塚、ホケノ山といった初期のそれに登ってみた感じでは、ちょっと平べったく高さが低すぎる感じがしました。

>

>、古墳時代まで大阪平野は下図のようになっており、現在の大阪市街は、上町台地を除いてほとんど海か沼であった。沼は河内湖と呼ばれた。今の河内平野の大半を占める。<http://suido-ishizue.jp/nihon/09/03.html>

> 大阪平野の河川変遷

> 『大地への刻印』（公共事業通信社）より転載 http://suido-ishizue.jp/nihon/09/03_1.html

>

> 初期古墳は河内湖の水量の多い時代に作られた？（見通しが良かったので高さが低かった）デハ？

>

>

>

河内方面は、先日の水没地図のように、難波高津宮周辺の島地以外は水没していたはずですね。

あとは南部の柴垣宮あたりからの南方地域となるでしょうか。その北部は水没していたはずです。

そもそも水没地域に河内の場合は古墳自体ないですね。

仁徳～応神ライン以南です。

同様に大和の場合の水没地図でいくと、秋津方面はある時期沈んでいた可能性があつて、孝安陵や宮山古墳が高台なのもわかるような気がします。秋津州

ただ鴨津波古墳の周辺は、見た感じそれほど高さはなかったもので、水没してない時代、三角縁の末期の時代ですね、このころには、水没状態も改善していたのではないかと感じます。

この辺再度水没予想をしなおす必要がありそうです。

Re: 弓月岳 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 31 日(土)11 時 51 分 36 秒 返信・引用
> No.1720[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

神功皇后三韓征伐が271 年になるので「日本書紀」そこそこ合っているな。

> 応神天皇 14 年（283 年）弓月君 河内湖の水抜き？

> 応神天皇の時に、大勢の百済人が渡来したという記事が「日本書紀」にあります。応神天皇 14 年（283 年）のことです。 <http://blog.goo.ne.jp/go-hot-ai2395/e/fdb80377b9bed555fc89f156c32445cd>

Re: 弓月岳 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 8 月 31 日(土)00 時 35 分 10 秒 返信・引用
> No.1719[元記事へ]

応神天皇 14 年（283 年）弓月君 河内湖の水抜き？

応神天皇の時に、大勢の百済人が渡来したという記事が「日本書紀」にあります。応神天皇 14 年（283 年）のことです。 <http://blog.goo.ne.jp/go-hot-ai2395/e/fdb80377b9bed555fc89f156c32445cd>

日本書紀と古墳が示す年代の矛盾

仁徳天皇は民の竈の煙があがらないのを見て、疲弊していることを知り 3 年間の無税を決めるなどの徳

のある人と描かれており「聖帝」という言葉も使っています。池や堤を構築し治水に努めるとともに、河内湖の水を抜き今の大阪の地の基盤を作った人でもあります。書記の中に書かれた記述量も抜きん出て多く、最大の古墳に埋葬されている人物としては疑うものではありません。ただ、崩御する20年前の記述として「10月5日、河内の石津原においてになり、陵地を定められた。」という記述があり、18日には陵を築いていた時の出来事として、百舌鳥耳原の名前の由来の話が出てきます。そして、その20年後の10月7日百舌鳥野陵に葬ったとあります。この記述を信じるなら、陵墓は生前に既に築かれていることになります。そうすると、仁徳陵は数十年ですが新しすぎます。

<http://www.rekitan.co.jp/styled-2/styled-16/styled-18/index.html>

履中陵と仁徳陵の築造年代の差は50年。これは二世代違うことになります。書記によれば、仁徳の父は応神、応神の父は日本武尊、その父は仲哀天皇です。応神、日本武尊、仲哀の3名は古市古墳群に埋葬されています。つまり、該当者がいません。当時最大の墓を築いた人物は、日本書記から抹消されてしまった人物ということになります。逆に言えば、応神天皇の前に河内王朝を切り開いた大王が存在していたという証拠でもあるのです。筆者は、神功皇后の事跡を作り出した人物で応神の本当の父の初代ホムタワケ（ホムタワケは応神の名前ですが、応神はイザサワケであってホムタワケを継いだ王です。）の墓であると考えます。

弓月岳 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年8月31日(土)00時20分7秒 返信・引用

穴師上社の跡地は「ゲシノオオダイラ＝夏至の 大平」と呼ばれ、弓月岳頂上、上社の跡地、現下社、箸墓古墳後円部中心、前方部中心 が一直線に並ぶとの事である。夏至の祭祀の日の太陽はこのラインを照らす。

神奈備さんのHP <http://kamnavi.jp/as/yamanobe/anasi.htm>

千田稔氏は『鬼神の鎮魂歌』のなかで巻向山説を示されている。

【位置関係】

穴師川川波立ちぬ巻向の弓月が岳に雲居立てるらし （万葉一〇八七 柿本朝臣人麻呂之歌集）

あしひきの山川の瀬の鳴るなへに弓月が岳に雲立ちわたる（万葉一〇八八 柿本朝臣人麻呂之歌集）

痛足川は穴師川のことで現在の巻向川、この川は巻向山の頂上近くに源流がある。巻向の弓月が岳というのは巻向山のこと。

伝崇神陵から南東30度で同じように穴師山頂上が見える。その延長上に巻向山頂上がある。やはり冬至の日出の線。

Re: 帰宅しました 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年8月31日(土)00時11分19秒 返信・引用

> No.1716[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

お仕事 お疲れ様でした。

>古墳自体も測量・軍事用の人工的なマウンドとしての可能性を考えているのですが、ただ今回マキムク遺跡の勝山、石塚、矢塚、ホケノ山といった初期のそれに登ってみた感じでは、ちょっと平べったく高さが低すぎる感じがしました。

、古墳 時代まで大阪平野は下図のようになっており、現在の大阪市街は、上町台地を除いて ほとんど海か沼であった。沼は河内湖と呼ばれた。今の河内平野の大半を占める。<http://suido-ishizue.jp/nihon/09/03.html>
大阪平野の河川変遷

『大地への刻印』(公共事業通信社)より転載 http://suido-ishizue.jp/nihon/09/03_1.html

初期古墳は河内湖の水量の多い時代に作られた？（見通しが良かったので高さが低かった）デハ？

Re: 帰宅しました 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 30 日(金)23 時 32 分 26 秒 返信・引用
> No.1716[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

大国主（おおくにぬし）は、『古事記』『日本書紀』に登場する神である。ですな。

マキムク遺跡と結び付けるは古事記、第3話 オオクニヌシですな。

<http://www15.plala.or.jp/kojiki/index.html>

大国主神（おおくにぬしのかみ） - 大国を治める帝王の意

大穴牟遲神（おおなむぢ）・大穴持命（おおあなもち）・大己貴命（おほなむぢ） - 大国主の若い頃の名前

大汝命（おほなむぢ） - 『播磨国風土記』での呼称

大名持神（おおなもち）

八千矛神（やちほこ） - 矛は武力の象徴で、武神としての性格を表す

葦原醜男・葦原色許男神（あしはらしこを） - 「しこを」は強い男の意で、武神としての性格を表す

大物主神（おおものぬし） - 古事記においては別の神、日本書紀において別名

大國魂大神（おほくにたま） - 国の魂、国を作った神、開拓者

大國主大神

顕国玉神・宇都志国玉神（うつしくにたま）

国作大己貴命（くにつくりおほなむち）・伊和大神（いわおほかみ）伊和神社主神-『播磨国風土記』での呼称

所造天下大神（あめのしたつくらししおほかみ） - 『出雲国風土記』における尊称

幽冥主宰大神（かくりごとしろしめすおおかみ）

杵築大神（きづきのおおかみ）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%9B%BD%E4%B8%BB>

> 穴師坐兵主社の位置自体は、マキムク遺跡にかかるので、もっと古い古墳時代初期に由来する可能性を感じるのですが、後に渡来系集団がそのふもとに進出していく契機があったのかもしれませんが。渡来系は秦氏に関係する兵主神のほうですね。大彦系は、後代渡来系集団を多く配下に入れていきます。

>

> 穴師のほうは、大穴ムジの世界で、もっと古いでしょう。

Re: 帰宅しました 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 30 日(金)23 時 11 分 40 秒 返信・引用
編集済

> No.1715[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 孝安天皇陵は耳成山、畝傍山のつぎですぞ。巻向日代宮のように丘陵上からみわたせるな。

>

> 軍事的・祭祀的意図をもって宮殿を置くケースとの間に、若干の差があるのかもしれませんが。ですが・・・石上神宮（国宝の七支刀）は孝安天皇陵とはまるで反対方向ですな。

確かに石上神宮も丘陵になりますし、意図的なものがありますね。

古墳自体も測量・軍事用の人工的なマウンドとしての可能性を考えているのですが、ただ今回マキムク遺跡の勝山、石塚、矢塚、ホケノ山といった初期のそれに登ってみた感じでは、ちょっと平べったく高さが低すぎる感じがしました。

王墓としても小さすぎる。丘陵上から眺められるべき存在。

後の柳本、馬見古墳群あたりは、かなりマウンドとしても適切な高さがでてきます。

宮山古墳がやはり丘陵上にありましたね。これも方位ライン上に位置していて、奈良西南部を眺めるのにいい位置です。

さらに時代が下って、佐紀楯列古墳群になると、これは海人族系の侵入王朝ですから、ちょっと性格が異なってきます。古墳の作り方も、今回見たところでは、かなり密集していて、また方位ラインもあまり考慮されてないのが特徴的です。それまでの王族の古墳造営の仕方と異なるんですね。

それらの古墳の主が大彦系の海洋民だとも思うのですが、その大彦系の宮が、先の穴師兵主神社そばのマキムク日代宮となるわけです。そのふもとに珠城山古墳や芽原大塚も、見てはきたのですが、かなり後代のもので、渡来系の感じがしました。

穴師坐兵主社の位置自体は、マキムク遺跡にかかるので、もっと古い古墳時代初期に由来する可能性を感じるのですが、後に渡来系集団がそのふもとに進出していく契機があったのかもしれませんが。渡来系は秦氏に関係する兵主神のほうですね。大彦系は、後代渡来系集団を多く配下に入れていきます。

穴師のほうは、大穴ムジの世界で、もっと古いでしょう。

Re: 帰宅しました 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 30 日(金)19 時 00 分 9 秒 返信・引用
> No.1714[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

孝安天皇陵は耳成山、畝傍山のつぎですぞ。巻向日代宮のように丘陵上からみわたせるな。

軍事的・祭祀的意図をもって宮殿を置くケースとの間に、若干の差があるのかもしれませんが。ですが・・・石上神宮（国宝の七支刀）は孝安天皇陵とはまるで反対方向ですな。

<http://bell.jp/pancho/travel/yamanobe/isonokami.htm>

>

> 見晴らしという点では、今回訪問した秋津遺跡（宮）そばの孝安天皇陵も、やはり奈良全体を見渡すのに絶好の場所にありましたね。奈良の西南の測量・軍事拠点です。

>

> 先のとおり孝霊天皇陵も同様な立地であることを考えると、欠史の陵墓はある時期に、奈良都城区画の東西南北に、意図的に見晴らしのよい測量・軍事拠点として設置された可能性が高くなるでしょう。

>

> 一方で、河内の高津宮、柴垣宮、奈良田原町の黒田宮周辺は比較的平坦でしたね。若干の微高地なのは水はけや水没の関係だとおもいますが、巻向日代宮のように丘陵上から眺めるという意味は感じられません。

>

> 平地の中央に宮殿と置こうとするケースと、丘陵上の軍事的・祭祀的意図をもって宮殿を置くケースとの間に、若干の差があるのかもしれませんが。その原因がその集団の習俗や思想等によるものか、平野の水没等による環境的な時代差によるのかも課題ですね。

Re: 帰宅しました 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 30 日(金)01 時 07 分 34 秒 返信・引用
編集済

> No.1713[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 穴師兵主神社は古事記のスサノオに当たると思われる。

>

> 少し北に「オカタ古墳」がある。「オカタ古墳」の見晴らしは絶景ですぞ。

> <http://kodai.exblog.jp/18004127>

>

見晴らしという点では、今回訪問した秋津遺跡（宮）そばの孝安天皇陵も、やはり奈良全体を見渡すのに絶好の場所にありましたね。奈良の西南の測量・軍事拠点です。

先のとおり孝霊天皇陵も同様な立地であることを考えると、欠史の陵墓はある時期に、奈良都城区画の東西南北に、意図的に見晴らしのよい測量・軍事拠点として設置された可能性が高くなるでしょう。

一方で、河内の高津宮、柴垣宮、奈良田原町の黒田宮周辺は比較的平坦でしたね。若干の微高地なのは水はけや水没の関係だともいますが、巻向日代宮のように丘陵上から眺めるという意味は感じられません。

平地の中央に宮殿と置こうとするケースと、丘陵上の軍事的・祭祀的意図をもって宮殿を置くケースとの間に、若干の差があるのかもしれませんが。その原因がその集団の習俗や思想等によるものか、平野の水没等による環境的な時代差によるのかも課題ですね。

<http://>

Re: 帰宅しました 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 29 日(木)23 時 58 分 6 秒 返信・引用
> No.1712[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

穴師兵主神社は古事記のスサノオに当たるとされる。

少し北に「オカタ古墳」がある。「オカタ古墳」の見晴らしは絶景ですぞ。

<http://kodai.exblog.jp/18004127>

> 今朝関西から帰宅しました。

> 東・西求女塚、難波高津宮、柴垣宮、秋津宮（遺跡）、宮山古墳、鴨津波古墳、唐子・鍵遺跡、鏡作神社、馬見古墳群、佐紀盾列古墳群、巻向古墳群、巻向日代宮、穴師兵主神社、孝靈天皇陵といったあたりを巡ってきました。

>

> 卑弥呼についてはいろいろかんがえさせられましたね。

>

> 穴師兵主神社、これがどうも大陸・中東系です。ここから、奈良を見渡せます。夕方になると10キロくらい向こうの光も見えました。先日の奈良区画では、巻向古墳そばから伸びる道を伸ばして行ったライン上にあります。

>

> 同様に孝靈天皇陵、ここも以前から奈良都城区画の西北にあたる重要測量ポイントとして睨んでいた

のですが、やはり現地に行くと、丘陵上にあり、はるか奈良を見渡せる場所でした。

>

> おそらくは、崇神・垂仁の話にあるように、奈良の丘陵上から縄や灯火を炊いて、昼夜で数キロ単位の測量をしたのでしょう。灯火を正方形に古墳を配置して並べるんです。夜になると、支配地域の様子が一目でわかるんですね。だから、巻向日代宮は、かなり丘陵上にあって、いつでも奈良の様子を瞬時に把握できたことでしょう。

>

> その穴師は、会報で記した「穴」関連の中国の高級官僚トウ氏の話です。元は月氏を配下に入れた外戚技術者集団。「相撲」を遊牧民・中東地域から持ち込んだ民です。間接的にオオヒコ系とも関係しますね。大彦は佐紀盾列古墳群の主と関係して、南方海人族。

>

> ただ兵主神はその後のタケウチ・ハタ・ソガ氏等の半島系勢力とも関係してきます。この辺の分離が課題です。

帰宅しました 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 29 日(木)23 時 09 分 25 秒 返信・引用 編集済

今朝関西から帰宅しました。

東・西求女塚、難波高津宮、柴垣宮、秋津宮（遺跡）、宮山古墳、鴨津波古墳、唐子・鍵遺跡、鏡作神社、馬見古墳群、佐紀盾列古墳群、巻向古墳群、巻向日代宮、穴師兵主神社、孝靈天皇陵といったあたりを巡ってきました。

卑弥呼についてはいろいろかんがえさせられましたね。

穴師兵主神社、これがどうも大陸・中東系です。ここから、奈良を見渡せます。夕方になると10キロくらい向こうの光も見えました。先日の奈良区画では、巻向古墳そばから伸びる道を伸ばして行ったライン上にあります。

同様に孝靈天皇陵、ここも以前から奈良都城区画の西北にあたる重要測量ポイントとして睨んでいたのですが、やはり現地に行くと、丘陵上にあり、はるか奈良を見渡せる場所でした。

おそらくは、崇神・垂仁の話にあるように、奈良の丘陵上から縄や灯火を炊いて、昼夜で数キロ単位の測量をしたのでしょう。灯火を正方形に古墳を配置して並べるんです。夜になると、支配地域の様子が一目でわかるんですね。だから、巻向日代宮は、かなり丘陵上にあって、いつでも奈良の様子を瞬時に把握できたことでしょう。

その穴師は、会報で記した「穴」関連の中国の高級官僚トウ氏の話です。元は月氏を配下に入れた外戚技術者集団。「相撲」を遊牧民・中東地域から持ち込んだ民です。間接的にオオヒコ系とも関係します

ね。大彦は佐紀盾列古墳群の主と関係して、南方海人族。

ただ兵主神はその後のタケウチ・ハタ・ソガ氏等の半島系勢力とも関係してきます。この辺の分離が課題です。

<http://>

唐山地震は日米合作か？ 投稿者：ねこ 投稿日：2013 年 8 月 26 日(月)22 時 39 分 50 秒 返信・引用

唐山地震は日米合作か？

<http://park.geocities.jp/jpcdebate/0203/p034.html#page231>

1976 年 7 月 2 日 米国連邦最高裁は死刑制度を「合憲」とする。

1976 年旧暦 7 月 2 日 唐山地震発生。

(1976 年 7 月 28 日)

1976 年旧暦 7 月 28 日 安楽死国際会議が東京で開催。

(http://book.geocities.jp/japans_conspiracy/01/p001.html)

Re: 呉 (春秋) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 25 日(日)23 時 11 分 59 秒 返信・引用

> No.1709[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 日本書紀の垂仁天皇に五大夫がありますな。

> どうも、崇神天皇の諸大夫は五大夫の簡略した表記だな。

>

> 崇神天皇と卑弥呼は同年代である。五大夫が日本書紀に記されているので秦との関係が浮上する。

> 司馬の五大夫と魏志倭人伝「大夫」は同一だな。接点は徐福になるな。
> 秦野著書(徐福と邪馬台国)の魏志倭人伝の行程が古代史の解説の手掛かりになるな。
> 難問ですが、卑弥呼が司馬の五大夫を魏晉南北朝に復活させたと理解できるな。
>

ちょっと今関西方面に出張してます。奈良方面も見てきますね。崇神の原点を求めて・・・。

Re: 呉 (春秋) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 23 日(金)15 時 05 分 20 秒 返信・引用 編集済
> No.1708[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

日本書紀の垂仁天皇に五大夫がありますな。

どうも、崇神天皇の諸大夫は五大夫の簡略した表記だな。

崇神天皇と卑弥呼は同年代である。五大夫が日本書紀に記されているので秦との関係が浮上する。

司馬の五大夫と魏志倭人伝「大夫」は同一だな。接点は徐福になるな。

秦野著書(徐福と邪馬台国)の魏志倭人伝の行程が古代史の解説の手掛かりになるな。

難問ですが、卑弥呼が司馬の五大夫を魏晉南北朝に復活させたと理解できるな。

魏晉南北朝の爵位

曹魏に至ると秦漢以来の十二等爵を廃止して、儒教經典の公・侯・伯・子・男を擬古的に復活させた。文帝の黄初年間に王・公・侯・伯・子・男・県侯・郷侯（最初郷侯の下に亭侯が置かれていたが後に省かれる）・関内侯の九等の爵制が定められた。222 年（黄初 3 年）には皇子を王に封じ、王子を郷公に封じ、王世子の子を郷侯に封じ、公子を亭伯に封じていた。その後 224 年（黄初 5 年）には諸王の爵位が皆県王に改められ、明帝の 232 年（太和 6 年）に再調整されて郡王となった。以上の九等の外に庶民や兵士に対しての賜爵もあり、関内侯の下には名号侯・関中侯・関外侯・五大夫侯が創立された。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%88%B5%E4%BD%8D>

家系

遠い部分の信憑性には疑問があるが、父・司馬談が亡くなる際の遺言によると、司馬遷の家系は堯・舜の時代に功績を挙げ、代々歴史・天文を司る一族であるという。秦の恵文王らに仕えた司馬錯、その孫で白起の部下として長平の戦いに従軍した司馬靳（中国語版）（しばきん）、さらにその孫である司馬昌は始皇帝時代に鉄鉞を管理する役職にあった。昌の子は毋懌（無澤、むえき）と言い、漢市の長官に就いた。その子で五大夫の爵位を得た司馬喜は司馬遷の祖父に当たる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B8%E9%A6%AC%E9%81%B7>

御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

八年夏四月庚子朔乙卯、以高橋邑人活日、爲大神之掌酒。掌酒、此云佐介弭苔。冬十二月丙申朔乙卯、天皇、以大田々根子、令祭大神。是日、活日自舉神酒、獻天皇。仍歌之曰、

許能瀨枳破、和餓瀨枳那羅孺、椰磨等那殊、於朧望能農之能、介瀨之瀨枳、伊句臂佐、伊久臂佐。

如此歌之、宴于神宮。宴竟之、「諸大夫等」歌之曰、

宇磨佐開、瀨和能等能々、阿佐妬珥毛、伊弟氏由介那、瀨和能等能渡嶋。

於茲、天皇歌之曰、

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_05.html

活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

廿五年春二月丁巳朔甲子、詔阿倍臣遠?武渟川別・和珥臣遠?彦國葦・中臣連遠?大鹿嶋・物部連遠?十千根・大伴連遠?武日、「五大夫」曰、我先皇御間城入彦五十瓊殖天皇、惟叡作聖。欽明聰達。深執謙損、志懷冲退。綢繆機衡、禮祭神祇。

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_06.html

> この件はちょっと興味深いですね。

>

> 崇神記の記録した渡来系官人の系統がわかるかもしれません。「大夫」を常識的につかっていた地域、たとえば北朝とか、さらには前述の晋の後裔とかですね。かならずしも律令時代のそれを当てはめたとはいえ切れないかもしれません。

>

>

> ただ魏志倭人伝の「大夫」はやはりかなり古い系統となるでしょうか。

>

>

> 大夫とは、中国の周代から春秋戦国時代にかけての身分を表す言葉で、領地を持った貴族のことであつた。大夫は卿の下、士の上に位した。周代、周王室および諸侯に仕える小領主は大夫と呼ばれ、その上級のものが卿と呼ばれ、国政に参加した。諸侯が横暴であつた場合、大夫らにより追放されることもあり、主君を脅かし得る地位を得るようになった。後代には大夫や士の中に衰退する者も現れたが、その後、有力農民層が新たに士という階級を形成し、地位を得るようになったといわれる。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/大夫>

Re: 呉 (春秋) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 22 日(木)23 時 05 分 12 秒 返信・引用

> No.1707[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>

> なお『日本書紀』の崇神天皇 8 年 12 月 20 日の条には「大夫」の文字があるが、大夫というのは律令制度における官位の呼称であつて、律令制が確立される以前の崇神天皇の代に「大夫」という呼び方や官職があつたわけではない。これは『日本書紀』が編纂されたときにその執筆者によって加えられた文飾であり、「大夫の身分に相当する者」すなわち今でいえば大臣や側近というほどの意味で使われたとみられる。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%A4%AB>

>

>

この件はちょっと興味深いですね。

崇神記の記録した渡来系官人の系統がわかるかもしれません。「大夫」を常識的につかっていた地域、たとえば北朝とか、さらには前述の晋の後裔とかですね。かならずしも律令時代のそれを当てはめたとはい切れないかもしれません。

ただ魏志倭人伝の「大夫」はやはりかなり古い系統となるでしょうか。

大夫とは、中国の周代から春秋戦国時代にかけての身分を表す言葉で、領地を持った貴族のことであつた。大夫は卿の下、士の上に位した。周代、周王室および諸侯に仕える小領主は大夫と呼ばれ、その上級のものが卿と呼ばれ、国政に参加した。諸侯が横暴であつた場合、大夫らにより追放されることもあり、主君を脅かし得る地位を得るようになった。後代には大夫や士の中に衰退する者も現れたが、その後、有力農民層が新たに士という階級を形成し、地位を得るようになったといわれる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/大夫>

Re: 呉 (春秋) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 22 日(木)19 時 11 分 13 秒 返信・引用

> No.1706[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

大夫

律令制度における官位の呼称、どんな仕事を行っていたか現在では読み解けないだろうな。

歴史の流れから司馬遷から歴史・天文、鉄鉞を含む技術関係を司る家系だな。日本の弥生時代の技術がこれに当たる模様。弥生時代の技術から逆に中国の五大夫の役割を創作するのが近道だな。秦野は日本では五大夫が細分化され大夫「大夫の身分に相当する者」になったと考えたいな。

家系

遠い部分の信憑性には疑問があるが、父・司馬談が亡くなる際の遺言によると、司馬遷の家系は堯・舜の時代に功績を挙げ、代々歴史・天文を司る一族であるという。秦の恵文王らに仕えた司馬錯、その孫で白起の部下として長平の戦いに従軍した司馬靳（中国語版）（しばきん）、さらにその孫である司馬昌は始皇帝時代に鉄鉞を管理する役職にあつた。昌の子は毋慚（無澤、むえき）と言ひ、漢市の長官に就いた。その子で五大夫の爵位を得た司馬喜は司馬遷の祖父に当たる。

歴史・天文を司る一族

司馬昌は始皇帝時代に鉄鉞を管理する役職

なお『日本書紀』の崇神天皇 8 年 12 月 20 日の条には「大夫」の文字があるが、大夫というのは律令制度における官位の呼称であつて、律令制が確立される以前の崇神天皇の代に「大夫」という呼び方や官職があつたわけではない。これは『日本書紀』が編纂されたときにその執筆者によって加えられた文飾であり、「大夫の身分に相当する者」すなわち今でいえば大臣や側近というほどの意味で使われたとみられる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%A4%AB>

>

> 確かに製鉄職人と「大夫」の関係は興味深いですね。

>

> ただ、魏志倭人伝の「大夫」については、自身を「呉」の「太伯」の子孫で、その「大夫」と名乗っているの、「秦」の「五大夫」の子孫だと名乗っているわけではないところがポイントです。

>

> 呉の関連資料の中から、それらを見いだすことはできないでしょうか。

>

>

>

Re: 呉 (春秋) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 21 日(水)22 時 55 分 8 秒 返信・引用

> No.1704[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 司馬氏の家系から五大夫は鉄鉞を管理する役職になる。

> 古代の製鉄、踏鞴製鉄（「鑪（たたら）」では松炭が必須のようだな。

> 始皇帝は五大夫を製鉄の松炭の意味を込め松と言っているぞ。

>

> 徐福、中国の秦朝（紀元前3世紀頃）の一行に居た模様。

> 踏鞴製鉄（「鑪（たたら）」は司馬氏が・・・。

> 古事記の出雲で製鉄作業中に事故死したイザナミは司馬氏の模様。

>

> 《大星が松の木に留まって七昼夜赤く輝いていた》というのはタタラ製鉄のことを表しているのではなかろうか。タタラ製鉄には松炭が最も適しているという。

> <http://blogs.yahoo.co.jp/sunekotanpako/31176570.html>

>

> 踏鞴製鉄は大量の木炭を燃料として用いる為、近世以前の中国山地では踏鞴製鉄の為に禿げ山となった地域が珍しくなかった。また原料となる砂鉄の採取（「鉄穴流し」かんながし）は山間部の溪流を利用して行われた為、流出

確かに製鉄職人と「大夫」の関係は興味深いですね。

ただ、魏志倭人伝の「大夫」については、自身を「呉」の「太伯」の子孫で、その「大夫」と名乗っているの、「秦」の「五大夫」の子孫だと名乗っているわけではないところがポイントです。

呉の関連資料の中から、それらを見いだすことはできないでしょうか。

Re: 呉 (春秋) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 19 日(月)22 時 46 分 19 秒 返信・引用
> No.1704[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

ちょっとお盆休みにつき、変身おくれます。

Re: 呉 (春秋) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 17 日(土)20 時 06 分 50 秒 返信・引用
> No.1703[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

司馬氏の家系から五大夫は鉄鉞を管理する役職になる。

古代の製鉄、踏鞴製鉄（「鑪（たたら）」では松炭が必須のようだな。

始皇帝は五大夫を製鉄の松炭の意味を込め松と言っているぞ。

徐福、中国の秦朝（紀元前 3 世紀頃）の一行に居た模様。

踏鞴製鉄（「鑪（たたら）」は司馬氏が・・・。

古事記の出雲で製鉄作業中に事故死したイザナミは司馬氏の模様。

家系

遠い部分の信憑性には疑問があるが、父・司馬談が亡くなる際の遺言によると、司馬遷の家系は堯・舜の時代に功績を挙げ、代々歴史・天文を司る一族であるという。秦の恵文王らに仕えた司馬錯、その孫で白起の部下として長平の戦いに従軍した司馬靳（中国語版）（しばきん）、さらにその孫である司馬昌は始皇帝時代に鉄鉞を管理する役職にあった。昌の子は毋慄（無澤、むえき）と言い、漢市の長官に就いた。その子で五大夫の爵位を得た司馬喜は司馬遷の祖父に当たる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B8%E9%A6%AC%E9%81%B7>

ご-たいふ【五大夫】

《秦の始皇帝が泰山で雨宿りをした松の木に五大夫の位を授けたという「史記」にある故事から》松の別名。

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/79603/m0u/>

《大星が松の木に留まって七昼夜赤く輝いていた》というのはタタラ製鉄のことを表しているのではなかろうか。タタラ製鉄には松炭が最も適しているという。

<http://blogs.yahoo.co.jp/sunekotanpako/31176570.html>

踏鞴製鉄は大量の木炭を燃料として用いる為、近世以前の中国山地では踏鞴製鉄の為に禿げ山となった地域が珍しくなかった。また原料となる砂鉄の採取（「鉄穴流し」かんながし）は山間部の溪流を利用して行われた為、流出する土砂によって下流の農業に大きな影響を与えた。この為、鉄山師は操業に先立って流域の農村と環境破壊に対する補償内容を定める契約を交わし、冬のみを実施することとなった。だが、木を伐採する際は計画的に行っているので、辺りの山すべてを禿山にするわけではない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B8%8F%E9%9E%B4%E8%A3%BD%E9%89%84>

Re: 呉 (春秋) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 16 日(金)23 時 04 分 51 秒 返信・引用

> No.1702[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 司馬遷と陳寿が残した歴史だな。

> 司馬に、その子で五大夫の爵位を得た司馬喜は司馬遷の祖父に当たる。

> 司馬遷の『史記』「呉太伯世家」、卷百十八「淮南衡山列伝」

>

> 司馬氏

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B8%E9%A6%AC%E6%B0%8F>

>

ご指摘の五大夫の件ですが、倭人の言う「大夫」とは、どれにあたったのか？が課題ですね。

儒教の經典の主張するところによると夏王朝には公・侯・伯・子・男の五等があり、それが殷代には公・侯・伯の三等となり周代には再び五等となったとされる。

秦・漢の爵位[編集]

秦では商鞅の第一次変法により軍功褒賞制と爵位制が設けられ、二十等爵制として軍功により爵位を与えた。その爵位により、土地の保有量や奴婢数など生活水準が決められていた。

前漢には秦の軍功爵制を改め、軍功に限らず身分に応じて爵位を与えた。更に二十等爵の他に王爵を設けたが、これは次第に皇族に限られることとなった。また、爵位を持つ者は土地の保有を許可された。

二十等爵とは第二十級の徹侯（後に武帝の避諱から通侯・列侯と呼ばれた）を筆頭に第十九級の関内侯、第十八級の大庶長、第十七級の駟車庶長、第十六級の大上造と続き以下少上造、右更、中更、左更、右庶長、左庶長、五大夫と続いた。ここまでの官爵であり十二等に分かれることから十二等爵ともいい、官吏に与えられた。第八級の公乗以下、公大夫、官大夫、大夫、不更、簪褭、上造、公士までを民爵といい民に与えられた。

つまり、周代の五等級の官制の名残だということか、あるいは戦国・秦・漢代のもっと詳細な官位制度をうけついでそういつているのか？、ここが課題でしょう。

「大夫」というのが、おそらくは倭人が勝手に考え出した凡庸な名称ではないことは確かです。呉の太伯と同レベルの相関関係にある官職でしょう。

Re: 呉 (春秋) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 15 日(木)07 時 25 分 47 秒 返信・引用 編集済
> No.1700[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

司馬遷と陳寿が残した歴史だな。

司馬に、その子で五大夫の爵位を得た司馬喜は司馬遷の祖父に当たる。

司馬遷の『史記』「呉太伯世家」、卷百十八「淮南衡山列伝」

司馬氏

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B8%E9%A6%AC%E6%B0%8F>

司馬遼太郎

さらに、ある徐福研究者の情報によると徐福には全部で 10 人の子女がおり、四男の中国名「福寿」は後に和名「福田」姓を名乗ったという記述がある。ご存知のように司馬さんの本名は「福田」であり、こうした必然とも思えるおもしろいつながりに、ますます、さらに独りよがりの夢がつづくのである。

http://www.ryoma21.jp/member/essay/past/essay101122_01.html

司馬遷（しばせん、紀元前 145/135 年? ? 紀元前 87/86 年?）は、中国前漢時代の歴史家で、『史記』の著者。

姓は司馬。名は遷、字は子長。周代の記録係である司馬氏の子孫で、太史令の司馬談を父に持つ。太初暦の制定や、通史『史記』の執筆などの業績がある。

遠い部分の信憑性には疑問があるが、父・司馬談が亡くなる際の遺言によると、司馬遷の家系は堯・舜の時代に功績を挙げ、代々歴史・天文を司る一族であるという。秦の恵文王らに仕えた司馬錯、その孫で白起の部下として長平の戦いに従軍した司馬靳（中国語版）（しばきん）、さらにその孫である司馬昌は始皇帝時代に鉄鉞を管理する役職にあった。昌の子は毋懌（無澤、むえき）と言い、漢市の長官に就いた。その子で五大夫の爵位を得た司馬喜は司馬遷の祖父に当たる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B8%E9%A6%AC%E9%81%B7>

徐福、中国の秦朝（紀元前 3 世紀頃）

司馬遷の『史記』の巻百十八「淮南衡山列伝」によると、秦の始皇帝に、「東方の三神山に長生不老（不老不死）の霊薬がある」と具申し、始皇帝の命を受け、3,000 人の童男童女（若い男女）と百工（多くの技術者）を従え、五穀の種を持って、東方に船出し、「平原広沢（広い平野と湿地）」を得て、王となり戻らなかったとの記述がある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%90%E7%A6%8F>

呉（春秋）呉（ご、拼音：wú、紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年）

呉の成立については詳しいことはわかっていないが、司馬遷の『史記』「呉太伯世家」によると、以下のような伝説が載っている。周の古公亶父（ここうたんぽ）の末子・季歴は英明と評判が高く、この子に後を継がせると周は隆盛するだろうと予言されていた。長子・太伯（泰伯）と次子・虞仲（仲雍）は末弟の季歴に後継を譲り、呉の地にまで流れて行き、現地の有力者の推挙でその首長に推戴されたという。後に季歴は兄の太伯・虞仲らを呼び戻そうとしたが、太伯と虞仲はそれを拒み全身に刺青を施した。当時刺青は蛮族の証であり、それを自ら行ったということは文明地帯に戻るつもりがないと示す意味があったという。太伯と虞仲は自らの国を立て、国号を句呉（後に寿夢が呉と改称）と称し、その後、太伯が亡くなり、子がないために首長の座は虞仲が後を継いだという。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

> 雲南関係の歴史も重要ですね。その「羌族」ですね。雲南方面ですが、元はスキタイ遊牧民系の流れもあります。

>

> それで日本に江南系弥生人が来るにしても、呉の太伯の伝承の出来たすぐの時代に、そのまま日本に渡ったのではなくて、おそらくその後数百年たってから、半島なり、日本へと移行したことでしょう。

>

> その間に、馬韓にみられるような鬼神信仰も混合したでしょうし、いろいろ複雑かしていきます。

>

> 雲南・スキタイ系が入ってくるのは、結構あたらしいと思うのですが、島根方面の銅鐸に刻まれた江南・雲南系の銅鼓にみられるような紋様も、おそらくそんなに古くないのではないかと感じます。

>

> 周の時代に直接日本に伝来した紋様ではなくて、しばらく江南から半島を迂回して日本へと伝わって行くわけですね。

>

> それで、呉の太伯という言い方です。元々は「勾呉」と言っているので、「呉」と言い始めた時代以降になります。

>

> 太伯もいつごろからでしょうか。

>

> あと「大夫」ですね。おそらくこれが「太伯」とセットになっていたはずです。

>

> 自謂太伯之後、又言上古使詣中國、皆自稱大夫。 倭者、自云太伯之後。

>

>

> でも「大夫」は周代から春秋戦国時代の名称なので、漢代以前というところまでは限定できます。

>

> スパンがながいですね。どの時代に弥生人？は渡来したのか。

>

>

>

Re: 呉 (春秋) 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 8 月 15 日(木)06 時 55 分 10 秒 返信・引用

> No.1700[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

>

>> 八岐大蛇の櫛名田比売も意味があるな。また、蛇紐金印が結び付けるな。

>> 呉越同舟の記録には行き先の地名がないな。

>>

>> 『後漢書』『隋書』に夷洲及澶洲の澶洲は周の古公亶父（ここうたんぽ）の亶だな。

>>

>> 蛇紐金印は呉越の越のシンボルになるな。八岐大蛇は地名が八岐で、大蛇は越になるな。

>> また、盗賊が蛇頭ですな。

>>

>> 櫛名田比売

>>

>

>

> 雲南関係の歴史も重要ですね。その「羌族」ですね。雲南方面ですが、元はスキタイ遊牧民系の流れもあります。

>

> それで日本に江南系弥生人が来るにしても、呉の太伯の伝承の出来たすぐの時代に、そのまま日本に渡ったのではなくて、おそらくその後数百年たってから、半島なり、日本へと移行したことでしょう。

>

> その間に、馬韓にみられるような鬼神信仰も混合したでしょうし、いろいろ複雑かしていきます。

>

> 雲南・スキタイ系が入ってくるのは、結構あたらしいと思うのですが、島根方面の銅鐸に刻まれた江南・雲南系の銅鼓にみられるような紋様も、おそらくはそんなに古くないのではないかと感じます。

>

> 周の時代に直接日本に伝来した紋様ではなくて、しばらく江南から半島を迂回して日本へと伝わって行くわけですね。

>

> それで、呉の太伯という言い方です。元々は「勾呉」と言っているので、「呉」と言い始めた時代以降になります。

>

> 太伯もいつごろからでしょうか。

>

> あと「大夫」ですね。おそらくこれが「太伯」とセットになっていたはずです。

>

> 自謂太伯之後、又言上古使詣中國、皆自稱大夫。倭者、自云太伯之後。

>

>

> でも「大夫」は周代から春秋戦国時代の名称なので、漢代以前というところまでは限定できます。

>

> スパンがながいですね。どの時代に弥生人？は渡来したのか。

>

>

大夫 測量士？ <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/>

大・天・夫・立・並 ... 説文解字』に「天は大なり。地は大なり。人も亦（ま）た大なり。故に大は人の形に象（かたど）る」とあります。金文の大保（たいほ）関係の器に、大を特に図象にして、すぐれた体格の形に

...http://www.japanknowledge.com/contents/material/jitsu/html/column/column_jitsu_14.html

天を神聖であるとする考えは殷（いん）の時代にすでにあり、殷（自らは商と名のついていました）は、その都を「天邑商（てんゆうしょう）」とよんでいます。「商の神聖な都」という意味でしょう。天を祀（まつ）る宗教的な儀礼・儀式が行われたことが、周王朝初期の金文によって明らかになっています。

大・夫・立・・・台（☆）形・・・五分割 $360 \text{ 度} \div 5 = 72 \text{ 度} \cdots ?$

72 度・・・x 五=360 <http://www.lithos-graphics.com/picts/pictintroduction.html>

このローマ人が残した「入れ墨をした、野蛮な、好戦的な部族」というイメージが一人歩きし、誇張されて、図のように裸族で体全体が入れ墨で覆われていたかのようなイメージにまで発展した。それ以外にも、ピクト人は母権制社会だったとか、スキチア=中央アジア方面から男だけが移動してきて、アイルランドのスコット族に土地を求めたが叶わず、かわりにスコット族の女性を与えてもらい、スコットランドに住むようになったとか、様々な伝承があるが、いずれにも明確な根拠はない。現在のスコットランド人の祖先であるから小人であるはずはなく、また、寒さの厳しいスコットランドで一年中裸で暮らせるはずもない。スコット族に嫁さんをもらった云々というのもおそらく後に征服者となったスコット族に都合の良いように作られた話だといわれる。ただ、面白いことにスキチア（中央アジアのカルパティア山脈周辺をさすらしい）の名に由来するスキタイの動物を象った金細工にはピクト人が描く足の付け根に螺旋形の模様の入った様式が見られるという。

ケルト系装飾芸術の最高傑作と言われる装飾写本『ケルズの書』には明らかにピクトから影響を受けたと見られる、足の付け根に螺旋状の渦巻き模様がある動物像が現れる。これをみて、『ケルズの書』がピクトの地で作成されたと考える研究者もいるようだが、いずれにしても、ピクトの石碑に現れる様々な美術様式は当時のブリテン島北部における文化的混淆を具体的に示している。

19 世紀ころまでピクト人は「地下に住む 小人」だったという伝説が広く信じられてい ... の名に由来するスキタイの動物を象った金 細工にはピクト人が描く足の付け根に螺旋形の模様の入った様式が見られるという。

スキタイ・サカ<秦氏<渡来人<点在する古墳<謎多き群馬と埼玉

鎌足の父は中臣御食子、母は大伴の出とあります。鎌足の母である大伴嚙子は、常陸の国の豪族であつたことはわかっています。常陸とは、つまり今で言う鹿島の辺りを言います。そして、ここでもまたスキタイ・サカ族がやってきて鹿島神宮を建てたという噂を

...http://www.quickstar4uy.net/kofun/toraijin/sukitai_saka/sukitai_saka.html

多胡碑の多胡とは、胡(外国)人が多く住むことを示唆していると思われます。唐では、胡人と言えばソグド人を指すと言われていますが、ソグドというのは、今のイラン、ペルシャ系民族のことを言います。

653 年すでに常陸で測量が 653 年・茨城国造壬生連の麻呂と那珂国造壬生直の夫子らは高向大夫と中臣幡織田大夫に願つて茨城から 8 里、那珂から 7 戸を分割し行方郡を新設した。

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2788>

高向大夫と中臣幡織田大夫

>

Re: 呉(春秋) 投稿者: 管理人 投稿日: 2013 年 8 月 14 日(水)23 時 01 分 33 秒 返信・引用

> No.1699[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 八岐大蛇の櫛名田比売も意味があるな。また、蛇紐金印が結び付けるな。

> 呉越同舟の記録には行き先の地名がないな。

>

> 『後漢書』『隋書』に夷洲及澶洲の澶洲は周の古公亶父（ここうたんぽ）の亶だな。

>

> 蛇紐金印は呉越の越のシンボルになるな。八岐大蛇は地名が八岐で、大蛇は越になるな。

> また、盗賊が蛇頭ですな。

>

> 櫛名田比売

>

雲南関係の歴史も重要ですね。その「羌族」ですね。雲南方面ですが、元はスキタイ遊牧民系の流れもあります。

それで日本に江南系弥生人が来るにしても、呉の太伯の伝承の出来たすぐの時代に、そのまま日本に

渡ったのではなくて、おそらくその後数百年たってから、半島なり、日本へと移行したことでしょう。

その間に、馬韓にみられるような鬼神信仰も混合したでしょうし、いろいろ複雑かしていきます。

雲南・スキタイ系が入ってくるのは、結構あたらしいと思うのですが、島根方面の銅鐸に刻まれた江南・雲南系の銅鼓にみられるような紋様も、おそらくはそんなに古くないのではないかと感じます。

周の時代に直接日本に伝来した紋様ではなくて、しばらく江南から半島を迂回して日本へと伝わって行くわけですね。

それで、呉の太伯という言い方です。元々は「勾呉」と言っているので、「呉」と言い始めた時代以降になります。

太伯もいつごろからでしょうか。

あと「大夫」ですね。おそらくこれが「太伯」とセットになっていたはずです。

自謂太伯之後、又言上古使詣中國、皆自稱大夫。倭者、自云太伯之後。

でも「大夫」は周代から春秋戦国時代の名称なので、漢代以前というところまでは限定できます。

スパンがながいですね。どの時代に弥生人？は渡来したのか。

Re: 呉 (春秋) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 14 日(水)07 時 04 分 41 秒 返信・引用
> No.1698[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

八岐大蛇の櫛名田比売も意味があるな。また、蛇紐金印が結び付けるな。

呉越同舟の記録には行き先の地名がないな。

『後漢書』『隋書』に夷洲及澶洲の澶洲は周の古公亶父（ここうたんぽ）の亶だな。

蛇紐金印は呉越の越のシンボルになるな。八岐大蛇は地名が八岐で、大蛇は越になるな。

また、盗賊が蛇頭ですな。

櫛名田比売

櫛：機織りで横糸を通すための道具板で、女陰をついて死んでしまいました。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_02.html

名：（な）：ほまれ

田比売：稲(比売：アマテラス)：瑞穂の国

須佐之男命(瑞穂の国のほまれ)が越をついて殺した。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_03.html

高天原を追放された須佐之男命は、出雲国の肥河（島根県斐伊川）の上流の鳥髪（現・奥出雲町鳥上）に降り立った。箸が流れてきた川を上ると、美しい娘を間に老夫婦が泣いていた。その夫婦は大山津見神の子の足名稚命と手名稚命であり、娘は櫛名田比売（くしなだひめ）といった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A4%E3%83%9E%E3%82%BF%E3%83%8E%E3%82%AA%E3%83%AD%E3%83%81>

漢委奴国王印

紐は身体を振りながら前進する蛇が頭を持ち上げて振り返る形に作られた蛇紐である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BC%A2%E5%A7%94%E5%A5%B4%E5%9B%BD%E7%8E%8B%E5%8D%B0>

御史大夫ら二千石以上の官は銀印、諸侯王・丞相らは金印であった。さらに皇帝の印は玉を用いた。印の紐の形には亀紐、鼻紐、覆斗紐は最も多く、亀紐は千石以上の官が使ったという。少数民族や外国の君主の印にはラクダ紐や羊紐、蛇紐が多いようである

http://withinc.kobe-yamate.ac.jp/univ/course/kawakami/episode_10.shtml

学会でも定説が無く呉と越（呉越同舟との言葉もある）の戦いの後、越が敗北し大多数が雲南に逃れ、一部が日本に来たとの説と同じ環境からは同じ文化が生まれるとの説である。志賀島の金印とまったく同じ蛇紐金印が雲南からも見つかっている。日本を遠く離れた不思議ともいえる雲南の世界をご覧ください

下さい。

<http://www.fsinet.or.jp/~yukio/unnan/unhajimei.htm>

Re: 呉 (春秋) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 13 日(火)23 時 12 分 55 秒 返信・引用

> No.1696[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 国引き神話から越は会稽方面ではないな。会稽方面では謎は解けませんな。

>

> 八束水臣津野命は、遠く「志羅紀（新羅）」「北門佐岐（隠岐道前）」「北門裏波（隠岐道後）」
「高志（越）」の余った土地を裂き・・・。

>

> 出雲の対岸ですな。韓国ですな。

>

>

> 国引き神話（くにびきしんわ）は、出雲国に伝わる神話の一つである。『古事記』や『日本書紀』
には記載されておらず、『出雲国風土記』の冒頭、意宇郡の最初の部分に書かれている。

>

「越」の語源を考える必要がありますね。「高志」（コシ）が、後代「越す」の字を当てて
「越」になったのでは。中国の「越」との関係を見いだす接点が見つからない感じです。

日本書紀には一つの地域として越（こし）・越洲（こしのしま）[1]という名が書かれている。表記に
ついては、古くは「高志[2]」「古志[3]」などともされたが、7世紀末の分割時かそれに近い時期に
「越」にほぼ統一された。ここでは越国と題し、地域独自の文化形態も確認されているが、統一
的な国家の形態を成していたかどうかは現在時点では確認されていない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/越国>

古志郡という名称は古く大宝律令の時代からのものである。当初は越中国に属し、刈羽郡、三島郡の

地域も含んだ広大な郡であった <http://ja.wikipedia.org/wiki/古志郡>

高志公（こしのきみ）

「高志公」は、越＝高志＝古志という地域名＋公（きみ、カバネの一種）であり、8世紀後半の西大寺文書や木簡出土例などから「高志公」は古代の越後国頸城郡・古志郡など、越後南部に分布したウジ名と考えられる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/死亡帳>

#E7.A7.8B.E7.94.B0.E5.9F.8E.E8.B7.A1.EF.BC.8F.E6.AD.BB.E4.BA.A1.E5.B8.B316.E5.8F.B7.E6.96.87.E6.9B.B8

ベトナム 「越南」 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年8月13日(火)20時58分29秒 返信・引用

日本の銅鐸に施されている文様とよく似ている。ベトナムは、漢字の「越南」 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

青銅器文化[編集]

紀元前4世紀頃から北部ベトナムの紅河（ホンハー）流域一帯には東南アジア最古の青銅器文化として知られる東山（ドンソン）文化が広がり、原始的な部族国家群を形成していた。これがいわゆる古越人（後のベト族）である。また現在の中国、紹興一帯を支配した越の末裔が、民族のルーツとの説もある。

秦の始皇帝以後、1000年にわたって中国王朝の郡県支配を受け、中国文化の影響が深く浸透したが、完全に中国化することはなかった。

紀元前207年に南越国成立し、同前111年漢の武帝の遠征により、南越国滅亡している。40年チュン姉妹の叛乱。

一方中部ベトナムではオーストロネシア語族系統の古チャム人（後のチャム族）がインド化されたチャンパ王国を形成していた。

越州（えつしゅう）. 日本. 越州 (日本) - 令制国である越後国、越中国、越前国を総称して、またこれらのいずれかの国を指しての別称。かつての越国。中国. 越州 (広西チワン 族自治区) - 広西チワン族自治区にかつて存在した州。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B6%8A%E5%B7%9E>

チワン

中越関係（中国・ベトナム関係）

中国最大の少数民族チワン族の居住地。隣の広東省と併せて「両広」と言われることもある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BA%83%E8%A5%BF%E3%83%81%E3%83%AF%E3%83%B3%E6%97%8F%E8%87%AA%E6%B2%BB%E5%8C%BA>

地理[編集]

西は雲南省、北は貴州省、湖南省、東は広東省と接し、南はトンキン湾に面する。南西はベトナムと

国境を接する。北部には東西に南嶺山脈が走り、湖南省との境をなす。珠江の流域が区の内陸部の多くを占める。

亜熱帯性気候で、二期作、三期作が可能である。

周代の春秋時代には、呉や越の国を構成する。秦の始皇帝の中国統一後は、その帝国の支配下に置かれた。漢代には、2つの越の国が確認できる。1つは中国南部、すなわち現在の広東省、広西、ベトナムにかけて存在した南越、もう1つは、中国の閩江（福建省の川）周辺の閩越（びんえつ）である。この時代、中国の南方を占めた越人は、北方民族による力の支配とぶつかり、しばしば反乱がおきている。チュン姉妹の乱は、現代に伝わる当時の反乱の1つである。

その後は、徐々に北方からの人々の南下とともに、越人の一部は彼らと混じり、また他の一部は山岳の高地や丘陵地帯などに移り貧しく厳しい暮らしに身を投じる人々に分かれるなど、越人の生活圏には変化が起こっていく。北部ベトナムは中国王朝の支配が後退すると、939年に最初の民族王朝である呉朝が呉権により成立している。

「越」の国を失い、次第に「越人」々としてのアイデンティティーを失っていったものの、現在でも広東省一帯の方言である広東語を「粵語」と呼び、広東省の車のナンバープレートには「粵」と記載され、南方のベトナムは漢字で「越南」と書き表す。

文化面では、稲作、断髪、鯨面（入墨）など、百越と倭人の類似点が中国の歴史書に見受けられる。現代の中国では廃れたなれずし（熟鮓）は、百越の間にも存在しており、古い時代に長江下流域から日本に伝播したと考えられている[2]。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BE%E8%B6%8A>

Re: 呉 (春秋) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 13 日(火)11 時 34 分 11 秒 返信・引用 編集済
> No.1694[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

国引き神話から越は会稽方面ではないな。会稽方面では謎は解けませんな。

八束水臣津野命は、遠く「志羅紀（新羅）」「北門佐岐（隠岐道前）」「北門裏波（隠岐道後）」「高志（越）」の余った土地を裂き・・・。

出雲の対岸ですな。韓国ですな。

国引き神話（くにびきしんわ）は、出雲国に伝わる神話の一つである。『古事記』や『日本書紀』には記載されておらず、『出雲国風土記』の冒頭、意宇郡の最初の部分に書かれている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E5%BC%95%E3%81%8D%E7%A5%9E%E8%A9%B1>

> 韓非子和氏 勾踐は三年呉で辱めを受ける楚の昭王は礼をもって孔子を招聘する勾踐 は三度戦い呉を滅ぼす 和氏の璧とは「合致とは総括のこと」璧には、こだわっては、失う としている。和氏とは天の下の意である。

>

>

> 和（クワ）氏ですね。先の勾・句（ク）音で、ひとつの意味があって、勾呉は太白の字になったりする。

>

> 倭の音との関係も課題でしょうか。

>

> なお、越は会稽方面ですね。

ローラン（臣民） 楼蘭？ 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 8 月 13 日(火)01 時 23 分 27 秒 返信・引用

>最近は王国設定がありますので、「国民」また国歌から「ローラン（臣民）」とも言ったり呼ばれたりします。どれもファンの事です。

楼蘭 - Wikipedia

歴史-小国は大国の間にあり-鄯善国-西域の動乱

一説にはその原名はインドの地名に由来するとも言われる。一方漢によって命名された 鄯善という名前は、一説には漢にとって「善い国」という意味で「善善」とし、同じ字が続くのを避けるために新字を作って「鄯善」としたといわれる。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A5%BC%E8%98%AD>

楼蘭と呼ばれる都市、またその名を持つ国家がいつ、どのようにして成立したのかは定かではない。古くは新石器時代から居住が始まったことが考古学的に確認されており、いわゆる「楼蘭の美女」として知られるミイラは、纏っていた衣服の炭素年代測定によって紀元前 19 世紀頃の人物であると推定されている。しかし、文献史料に楼蘭の名が現れるのは『史記』匈奴列伝に収録された手紙の中で触れられているのが最初（紀元前 2 世紀）であり、その間の歴史は空白である。その手紙は匈奴の君主である冒頓単于が前漢の文帝に宛てて送ったもので、この中で冒頓単于は月氏に対して勝利し、楼蘭、烏孫、呼揭及び近隣の 26 国を平定したと宣言している。この手紙は文帝の 4 年（紀元前 176 年）に送られたものであるため、楼蘭は少なくとも紀元前 176 年以前に形成され、月氏の勢力圏にあったこと。そして紀元前 176 年頃匈奴の支配下に入ったことが推定されうる。『漢書』西域伝によれば、西域をことごとく支配下にいた匈奴は焉耆、危須、尉黎の間に僮僕都尉を置き、楼蘭を含む西域諸国に賦税し、河西回廊に数万の軍勢を置いてその交易を支配した。

楼蘭が漢の支配下に入って間もなく、匈奴の僮僕都尉であった日逐王が漢に降るという事件が発生した（紀元前 60 年）。この結果漢は西域南道に加えて西域北道の全域を支配するに至り、新たに西域都

護を置いて鄭吉を都護とした。以後漢の西域支配は王莽によって前漢が終焉するまで継続し、鄯善と名を改めた楼蘭も傀儡王国としてその支配下にあり続けたと考えられる。

西暦 61 年に莎車王賢が于闐国（現在のホータン市）との争いの中で暗殺されると西域の政治情勢は一変した。莎車国の支配下にあった諸国は殆どが独立して相互に争ったが、鄯善国はこの争いの中で数ヶ国を併合して西域の一角に勢力を築くことに成功した。同じ時期に于闐国、車師国（現在のトルファン市）、龟兹国（現在のクチャ県）、焉耆国（現在の焉耆回族自治县）などが強国として割拠した。この時期に鄯善国で作成された漢文文書には、昔ながらの名前である楼蘭が使用されていることが確認されている。

三国時代の騒乱の間も漢人商人らは鄯善国を訪れて交易に従事していたこともわかる。

ただし、こういった文書書類は商業文書や命令書、徴税記録等が大半で政治的事件の記録は乏しく、3 世紀の鄯善国の政治史はあまりわかっていない。わずかに知りうるのは、当時鄯善国は、西隣の于闐（ホータン、当時の文書ではコータンナ）と国境を巡って争っていたことと、チベット系である羌の一派といわれているスピの侵入と略奪に悩まされたことなどである。一方でこういった実用文書類から、鄯善国の国政や社会についての知見は、この時代に関する物が多くを占める。

楼蘭はその記録が残る全時代を通じて国王を頂点とする国家であった。しかし、国王の権力がどの程度強力なものであったのか、又は制約されていたのかはまだ不明な点が多い。少なくとも現存する史料からは、高位役人の人事権を国王が掌握していたらしいことがうかがわれる。王妃はしばしば周辺国との政略結婚によって楼蘭王と結婚した。漢から宮女が与えられて楼蘭王の妻となったことが『漢書』に記録されている他、3 世紀頃には隣国の于闐（ホータン、またはコータンナ）の王女が王妃として迎えられた。于闐国と鄯善国は国境を巡って争っていたが、一方で鄯善王妃となった于闐の王女が、故郷へ里帰りした事なども記録にのこっており、当時の外交交渉の複雑さを今に伝える。

臣民(ローラン・ローラン).

臣下であり臣民(ローラン・ローラン). 栄光あれ！嗚呼…栄光あれ！（グロリア！ オォ… グロリア！）
地平を駆け巡る我らの移動王国に！（サウンド・ホライズン・キングダム）栄光あれ！嗚呼…栄光あれ！
（グロリア！ オォ…グロリア！）地平を駆け巡る我らの 移動 ...

メイン＞創作小説入り口＞騎士道物語＞ローランの歌 <http://www.geocities.co.jp/Playtown-Spade/3320/rolan0.html>

Re: 呉 (春秋) 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 13 日(火)00 時 58 分 43 秒 返信・引用
> No.1692[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 呉 (春秋)の呉が支配したのは蘇州周辺とあるが、古事記、日本書記に呉と越の痕跡が多く見られる。古事記、日本書記には韓半島南部に越国。対馬を越の島。

>

>

> どうも、呉 (春秋)は蘇州周辺から現在の日本が含まれていたと考えるべきだな。

> 太白山を繋いだ地図添付。

>

> 『後漢書』『隋書』

なるほど、呉と日本列島との関係は重要ですね。

先の3兄弟の話をまとめると、末子だけが中国の主要な領地を継ぎ、長子（太伯）と次子（呉仲）は、共に刺青をして「荊蛮の地」へと逃れて、それが呉になったということなんですよ。

それで、その長子の子孫だと倭人が語ったわけです。

この構造は、山幸三兄弟の構造とも類似していて、末子が火遠理命（ほおりのみこと）、兄に火照命（ほでりのみこと）（海幸彦）、火須勢理命（ほすせりのみこと）がいます。

末子相続は共通しますね。でも、末子は中国を支配したはずなので、日本とは地理的に逆になっています。

「父の意を量った太伯と呉仲は、季歴に後を継がせるため荊蛮の地へと自ら出奔した。後になって周の者が二人を迎えに来たが、二人は髪を切り全身に刺青を彫って、自分たちは中華へ帰るに相応しくない人物だとしてこれを断った。」

ここで、注目すべきは、キシさんの情報にあるように、素潜り漁をするために、刺青をしたのではなく、「罪人」として、刺青をしたであろうことです。「ふさわしくないもの」の意味でしょう。

倭人伝で刺青を自分たちがしている理由として、刺青をして蛮族の地へと逃げた太伯を持ってくるわけですが、ここで倭人の意図するところは、漁をするために刺青を下という意味ではなく、上記の理由にあると主張した可能性もでてきます。

ところが倭人伝の著者はその意味を後に理解せずに、素潜りのための刺青と解釈したわけです。

「男子は大小と無く、皆黥面（げいめん）文身す」とあるから、当時の日本人の男は大人も子供も顔や体に入れ墨をしていたらしい。水に潜って魚をとる海人が大魚の襲撃を防ぐまじないにしたのが、後に飾りとなったのだという

海に入る豊玉姫の姿がワニになってますが、これも隼人の刺青記載と関係しないでしょうか。刺青模様を見てしまったという意味です。

句呉,句?というのは、句はカギ・マガリの意味ですね。鉤と関係させるべきでしょうか。

韓非子和氏 勾踐は三年呉で辱めを受ける楚の昭王は礼をもって孔子を招聘する勾踐は三度戦い呉を滅ぼす 和氏の璧とは「合致とは総括のこと」璧には、こだわっては、失うとしている。和氏とは天の下の意である。

和（クワ）氏ですね。先の勾・句（ク）音で、ひとつの意味があって、句呉は太白の字になったりする。

倭の音との関係も課題でしょうか。

なお、越は会稽方面ですね。

Re: 呉 (春秋) 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 8 月 13 日(火)00 時 50 分 47 秒 返信・引用

> No.1692[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 文章もいいが進展がないな。地名ですな。スケールが大きすぎるかな。

>

> 呉 (春秋)の呉が支配したのは蘇州周辺とあるが、古事記、日本書記に呉と越の痕跡が多く見られる。古事記、日本書記には韓半島南部に越国。対馬を越の島。

>

> 『後漢書』『隋書』に夷洲及澶洲の澶洲は周の古公亶父（ここうたんぽ）の亶だな。

> 夷洲は【×夷／×戎】えびす <http://kotobank.jp/word/%E5%A4%B7>。

>

> どうも、呉 (春秋)は蘇州周辺から現在の日本が含まれていたと考えるべきだな。

ばん【𧈧〔蠻〕】?+虫 エビス 弓月国 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

亦とは (エキとは) [単語記事] - ニコニコ大百科

2012年10月8日 - 〔説文解字・卷十〕には「人の臂亦なり」とある。字形: 人の正面形に両脇を示す点を加えた指事（または象形）。…符: 亦を声符とする漢字に、奕、弈、霈、夜、迹、跡、などがある。参考: 冠としての?を略して亦の形に書くことがある（𧈧、𧈧など）。<http://dic.nicovideo.jp/a/%E4%BA%A6>

声符亦を声符とする漢字に、奕、弈、霈、夜、迹、跡、などがある。参考冠としての?を略して亦の形に書くことがある（𧈧、𧈧など）。

変=變《解字》会意文字。變の上部は「絲+言」の会意文字で、乱れた糸を解こうとしても解けないさま。変にもつれた意を含み、乱と同系の

…http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1119561016

絲+言（ことばでけじめをつける）

もつれた糸にけじめをつけようとしても容易に分けられないこと。

乱（もつれる）と同系のことば。

音は「レン」「ラン」、字義は“みだれる”、“おさめる”、“つながる”

「蠻(𧈧)」の場合も発音記号ですが、「變」の[文]を省いたものと考えられます。

呉(春秋) 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年8月12日(月)16時39分23秒 返信・引用

文章もいいが進展がないな。地名ですな。スケールが大きすぎるかな。

呉(春秋)の呉が支配したのは蘇州周辺とあるが、古事記、日本書記に呉と越の痕跡が多く見られる。古事記、日本書記には韓半島南部に越国。対馬を越の島。

『後漢書』『隋書』に夷洲及澶洲の澶洲は周の古公亶父（ここうたんぽ）の亶だな。

夷洲は【×夷／×戎】えびす <http://kotobank.jp/word/%E5%A4%B7>。

どうも、呉(春秋)は蘇州周辺から現在の日本が含まれていたと考えるべきだな。

太白山を繋いだ地図添付。

『後漢書』『隋書』

會稽海外有東鯤人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬萊神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東冶縣人有入海行遭風、流移至澶洲者。所在絕遠、不可往來。

呉（ご、拼音：wú、紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年）は、中国の春秋時代に存在した君国の一つ。現在の蘇州周辺を支配した。君主の姓は姫。元の国号は句呉、勾?。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

Re: 参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 10 日(土)22 時 36 分 13 秒 返信・引用

> No.1690[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>

>> 思うに、倭人伝の呉の太伯の子孫という伝承は、もっと付随した伝承を元にしていた可能性がありますね。それで、その関連伝承が、日本にも残っていた可能性があるでしょう。

>>

>>

>> まず刺青の風習

>>

>> 。紀元前 12 世紀・紀元前 11 世紀頃の人物。

>> 古公亶父には長子・太伯、次子・虞仲、末子・季歴がいた。季歴が生まれる際に様々な瑞祥があり、さらに季歴の子の昌（文王）が優れた子であったので、古公亶父は「わが家を興すのは昌であろうか」と言っていた。

>> 父の意を量った太伯と虞仲は、季歴に後を継がせるため荆蛮の地へと自ら出奔した。後になって周の者が二人を迎えに来たが、二人は髪を切り全身に刺青を彫って、自分たちは中華へ帰るに相応しくない人物だとしてこれを断った。

>> 太伯は句呉（こうご）と号して国を興し、荆蛮の人々は多くこれに従った。この国は呉ともいわれる。太伯が死んだとき子がいなかったため、弟の虞仲（仲雍）が跡を継いだ。

>> <http://ja.wikipedia.org/wiki/虞仲>

確かに「上帝鬼神」と墨家、刺青との関係は興味深いですね。

天の側は「天命」「上帝」「天」「天之时」「鬼神」などの語で表され一定していないが、いずれも、「上帝是れ祐く（上帝是祐）」「上帝乃ち怡ぶ（上帝乃怡）」「天之以従う（天従之）」「鬼神是れ祐く（鬼神是祐）」「上帝之を喜ぶ（上帝喜之）」のように <http://www.shutudo.org/in-society/shinsyutsu/shinsyutsu3>

Re: 参考HP?? アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 8 月 9 日(金)14 時 01 分 11 秒 返信・引用

> No.1689[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 思うに、倭人伝の呉の太伯の子孫という伝承は、もっと付随した伝承を元にしていた可能性がありますね。それで、その関連伝承が、日本にも残っていた可能性があるでしょう。

>

>

> まず刺青の風習

>

> 。紀元前 12 世紀・紀元前 11 世紀頃の人物。

> 古公亶父には長子・太伯、次子・虞仲、末子・季歴がいた。季歴が生まれる際に様々な瑞祥があり、さらに季歴の子の昌（文王）が優れた子であったので、古公亶父は「わが家を興すのは昌であろうか」と言っていた。

> 父の意を量った太伯と虞仲は、季歴に後を継がせるため荆蛮の地へと自ら出奔した。後になって周の者が二人を迎えに来たが、二人は髪を切り全身に刺青を彫って、自分たちは中華へ帰るに相応しくない人物だとしてこれを断った。

> 太伯は句呉（こうご）と号して国を興し、荆蛮の人々は多くこれに従った。この国は呉ともいわれる。太伯が死んだとき子がいなかったため、弟の虞仲（仲雍）が跡を継いだ。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/虞仲>

>

> 太伯（たいはく）は、中国周王朝の古公亶父の長男で、呉（句呉,勾?) の祖とされる人物。泰伯とも。

> 虞仲（ぐちゅう）は古公亶父の次男。『史記』『周本紀』では弟が虞仲とあるが、「呉世家」では仲雍とあり、『越春秋』『太伯傳』では一名仲とある。季歴の兄、文王の伯父に当たる。

> 后稷を始祖とすることから、姓は周宗家と同じ姫（き）。紀元前 12 世紀・紀元前 11 世紀頃の人物。

> 古公亶父には長子・太伯、次子・虞仲、末子・季歴がいた。季歴が生まれる際に様々な瑞祥があり、さらに季歴の子の昌（文王）が優れた子であったので、古公亶父は「わが家を興すのは昌であろうか」と言っていた。

>

> 卑弥呼のいたところは平地だったでしょうか？あるいは山奥か。半島方面だとシャーマン王は山にいて、世俗王は平地にいるんです。2つの王権が同時に存在する。馬韓の鬼神なども関連するでしょうか。卑弥呼も鬼神崇拝。

>

>

>

前 480 頃～前 390 頃

上帝鬼神への敬虔な宗教的信仰，および祭祀祈禱 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

封建的社会体制の解体過程で結束して作ったギルド的工人集団に由来する。…

墨家の墨は入れ墨の意味

文王 - 国語辞書 - goo 辞書

礼楽・制度を定めたと... ご-せい【五聖】：中国古代の五人の聖人。堯(ぎょう)・舜(しゅん)・禹(う)・湯(とう)・文王。ここう-たんぽ【古公亶父】：中国、周の文王の祖父。初め豳(ひん)にあったが、岐山(きざん)のふもとに移り、周を建てたといわれる。太王と諡号(しごう)

...<http://dictionary.goo.ne.jp/srch/jn/%E6%96%87%E7%8E%8B/m3u/tab/>

文王

楚の国の和氏（かし）という人が、楚山で玉＝宝石の原石を見つけました。「とてもすばらしい玉になるのは間違いない」と思った和氏は、さっそく、厲王（れいおう）に献上しました。ところがなぜか「どこにでもある石だ」と鑑定されてしまい、だました罰として左足を斬

...<http://www3.kcn.ne.jp/~jarry/koji/kj010.html>

楚

夏 (三代) - Wikipedia

考古学的比定-夏の実在性-二里頭遺跡-建国神話：黄帝の...

夏・殷・周を三代という。『史記』『竹書紀年』など中国の史書には初代の禹から末代の桀まで 14 世 17 代、471 年間続いたと記録されている。 一部は周代に華夏民族と同化し、一部の部族は春秋の強国である楚や呉の建国に関わった。[http://ja.wikipedia.org/wiki/](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_(%E4%B8%89%E4%BB%A3))

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_\(%E4%B8%89%E4%BB%A3\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_(%E4%B8%89%E4%BB%A3))

夏・殷・周

入れ墨

楚は古くから蛮夷の国とされ、楚の人々は中原の人々とは風俗習慣を異にしていたし、後に出てくる越を建てた越人は 入れ墨・ ...<http://www.wind.ne.jp/khari/hist/keizu-1,ka,in,syuu.html>

儒家の思想を批判し、儒家から攻撃された墨子（前480頃～前390頃）を祖とする学派が墨家である。墨子も孔子と同じ魯の国に生まれた。彼も最初は儒家の思想を学んだが満足せず、儒家を去って一派を開いた。墨家の墨は入れ墨の意味である。古くは入れ墨は刑罰の1つで徒刑者は顔に入れ墨された。墨家の思想に勤儉節約がある。彼らはぼろをまとい、夜も昼も休まずに働いた。その有様が徒刑者のような暮らしだと言うことで墨家と呼ばれるようになったと言われている。墨家の思想の中で特に注目されるのが「兼愛」と「非攻」である。

Re: 参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：管理人 投稿日：2013年8月8日（木）23時13分54秒 返信・引用

> No.1688[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> >約3200年ほど前、古代中国の殷（いん）王朝の武丁という王の時代に文字は生まれました。

> 特に天地開闢神話が、どういうものだったか？盤古神話だったのか？あるいは別の何かだったのか？その辺も気になるところです。洪水神話というのは、ひとつ重要ですね。伏ギ系の神話はどうですか？その洪水・キープ関連の要素は、旧縄文系・北米系に共通しますが、これは弥生よりずっと古い要素です。

>

> 大洪水

> (無題)“? (シュウ) ” 「うわー」、「あー」であり、「天の気」と「地の気」との合一 半人半獣でライオンの頭部を持つ <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

思うに、倭人伝の呉の太伯の子孫という伝承は、もっと付随した伝承を元にしていた可能性がありますね。それで、その関連伝承が、日本にも残っていた可能性があるでしょう。

まず刺青の風習

。紀元前 12 世紀・紀元前 11 世紀頃の人物。

古公亶父には長子・太伯、次子・虞仲、末子・季歴がいた。季歴が生まれる際に様々な瑞祥があり、さらに季歴の子の昌（文王）が優れた子であったので、古公亶父は「わが家を興すのは昌であろうか」と言っていた。

父の意を量った太伯と虞仲は、季歴に後を継がせるため荆蛮の地へと自ら出奔した。後になって周の者が二人を迎えに来たが、二人は髪を切り全身に刺青を彫って、自分たちは中華へ帰るに相応しくない人物だとしてこれを断った。

太伯は句呉（こうご）と号して国を興し、荆蛮の人々は多くこれに従った。この国は呉ともいわれる。太伯が死んだとき子がいなかったため、弟の虞仲（仲雍）が跡を継いだ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/虞仲>

おそらく倭人は、この伝承を知り尽くしているので、自分たちの刺青の習俗がそれらに由来したと主張するわけです。

つぎに、太伯の 3 兄弟ですね。

太伯（たいはく）は、中国周王朝の古公亶父の長男で、呉（句呉,勾?) の祖とされる人物。泰伯とも。

虞仲（ぐちゅう）は古公亶父の次男。『史記』『周本紀』では弟が虞仲とあるが、「呉世家」では仲雍とあり、『越春秋』『太伯傳』では一名仲とある。季歴の兄、文王の伯父に当たる。

后稷を始祖とすることから、姓は周宗家と同じ姬（き）。紀元前 12 世紀・紀元前 11 世紀頃の人物。

古公亶父には長子・太伯、次子・虞仲、末子・季歴がいた。季歴が生まれる際に様々な瑞祥があり、さらに季歴の子の昌（文王）が優れた子であったので、古公亶父は「わが家を興すのは昌であろうか」と言っていた。

父の意を量った太伯と虞仲は、季歴に後を継がせるため荆蛮の地へと自ら出奔した。後になって周の者が二人を迎えに来たが、二人は髪を切り全身に刺青を彫って、自分たちは中華へ帰るに相応しくない人物だとしてこれを断った。

この手の神話としては、山幸 3 兄弟がちかいでしょうか。

それで興味深いのが、山奥に籠って、民衆がそれをしたってそこに移動して、国？が出来上がった伝承。邪馬台国の記載関連でも、山について政治を行っているようなものがあつたと思います。

史記によれば、幽から財物をかすめようとした異民族に侵略される前に与えたが、その上、人や土地を奪おうとしたので民が怒って戦おうとした。しかし、古公は「民が君を立てるのは民の利益のためで、異民族でも利益を図るなら民にとってはそれでかまわないはずだ。自分が必ずしも国を治める必要は無い。民が戦うのは私のためで人の父子を殺して君主であることはできない」と、自分の一族を率いて岐山の麓に逃れた。国人はそれを慕って幽から岐山の麓へと移住した。その後、古公は城郭家屋を築き、村落を分けて民を定住させ、五官の役人を作って政を行った。民は詩を作って、古公の徳を称えたとされる。

詩経の大雅の緜編には、姜族の妻と共に岐山の麓へやってきたこと、住むべき洞窟すらない岐山の麓で古公が一から国を建国する様子、その後の繁栄などがうたわれている。

卑弥呼のいたところは平地だったでしょうか？あるいは山奥か。半島方面だとシャーマン王は山にいて、世俗王は平地にいます。2つの王権が同時に存在する。馬韓の鬼神なども関連するでしょうか。卑弥呼も鬼神崇拝。

Re: 参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年8月7日(水)05時08分4秒 返信・引用

> No.1687[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>

> しかし問題はいわゆる長江江南からきた弥生系ですね。紀元前10世紀くらいから移動しはじめる。

>

> 稲作文化として、全体的に残存しているはずなのですが、しいていけば倭人伝の呉の太ハクの末裔といたごとく、その呉の神話だったはず。この紀元前10～5世紀くらいまでの長江流域の中国神話ですね。特に天地開闢神話が、どういうものだったか？盤古神話だったのか？あるいは別の何か

だったのか??その辺も気になるところです。洪水神話というのは、ひとつ重要ですね。伏ギ系の神話はどうですか?その洪水・キープ関連の要素は、旧縄文系・北米系に共通しますが、これは弥生よりずっと古い要素です。

>約3200年ほど前、古代中国の殷(いん)王朝の武丁という王の時代に文字は生まれました。

特に天地開闢神話が、どういうものだったか?盤古神話だったのか?あるいは別の何かだったのか??その辺も気になるところです。洪水神話というのは、ひとつ重要ですね。伏ギ系の神話はどうですか?その洪水・キープ関連の要素は、旧縄文系・北米系に共通しますが、これは弥生よりずっと古い要素です。

大洪水

(無題)“?(シュウ)” 「うわー」、「あー」であり、「天の気」と「地の気」との合一 半人半獣でライオンの頭部を持つ <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

Re: 参考HP??アイヌ民族(アフリカ系ロシア人奴隷) 投稿者:管理人 投稿日:2013年8月6日(火)22時53分36秒 返信・引用

> No.1686[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

>

>

> 司馬遼太郎が注目した水野祐氏の出雲の民族と文化に関する三層説を紹介している。

<http://structure.cande.iwate-u.ac.jp/korea/japan.htm>

>

> これは民族学的な立場から言語・習俗・血液型などについて考察されたものだという。

> (1) 第一層 北方狩猟民族系の部族 縄文文化の担い手である原日本人

> (2) 第二層 南方漁労民族系の海人族 インドネシア系・苗族系の漁労航海民

> (3) 第三層 朝鮮半島系の部族 朝鮮半島南部の新羅人

>

> 著者はそれぞれ初期縄文人、晩期縄文人、初期弥生人としている。

>

キシさん、情報ありがとうございます。

どうも、第2層の長江・江南のそれは、半分スキタイ系なんですよ。原住民のミャオ・南方海人系とは異なり、北方イラン・スキタイ民族が、雲南方面へ南下して、イ族等にもたらされたものなので、厳密には2つに分類しないといけないでしょう。

山幸神話とか釣り針神話というのは、旧約に記されたようなメソポタミアのそれです。大国主のそれと同類で、ある時期に中国を経由して、弥生末期に日本へと伝来します。

アマテラス・スサノオ神話は、それからだいぶ後の時代になって、6世紀代に渡来人によってもたらされたものですね。

これは第3層に対応するかもしれません。

それで第1層の縄文系ですね。これは、2種に別れて、hla-62と61、y-dnaでDとC、ですね。

新しいほうは中東方面から半島経由で紀元前1～5世紀くらいに流れ込んでき、古いのはもっと前で氷河期。一部はベーリング海を超えて、北米へ。

そうすると、アイヌ系の神話は、実は中国雲南・長江方面へ流れ込んだスキタイ系神話と共通項が出てくる可能性があるわけです。

先の分析のとおり、日本の天地開闢神話とアイヌ神話に共通項が多いのですが、イザナギと同様な2柱神の誕生、カムイ＝神。

神の命令によって成立する雲・霧、大地、動物の伝承は、旧約聖書同様に、元は中東系のそれでしょう。

この辺のイザナギ系神話は、山幸神話とも共通して、南方海人系要素、さらにいえば、先のスキタイ系・イ族などのそれと関わってくるはずです。

ただ縄文・アイヌ系のほうが、同じ系統でもやや早く日本に入っているはずで、そうすると、そこで神話要素に相違がでてくるはずです。

アイヌ系はダイレクトに日本に渡ってくる、しかし南方海人系は、一度雲南・長江・タイ方面に迂回してから、日本にくるわけです。

そうすると、同じ神話伝承でも、後者には南方系の要素が加わるはずで、それが海の竜宮城関連の話ですね、釣り針神話とかにも、若干影響がある。

しかし問題はいわゆる長江江南からきた弥生系ですね。紀元前10世紀くらいから移動しはじめる。

稲作文化として、全体的に残存しているはずなのですが、しいていけば倭人伝の呉の太ハクの末裔と
いったごとく、その呉の神話だったはず。この紀元前10～5世紀くらいまでの長江流域の中国神
話ですね。特に天地開闢神話が、どういうものだったか？盤古神話だったのか？あるいは別の何か
だったのか？その辺も気になるところです。洪水神話というのは、ひとつ重要ですね。伏ギ系の神話
はどうですか？その洪水・キープ関連の要素は、旧縄文系・北米系に共通しますが、これは弥生より
ずっと古い要素です。

Re: 参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年8月5
日(月)23時21分20秒 返信・引用

> No.1685[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> ただ葦原の語ですね、九州筑紫の地名にもあるわけですが、安曇・海人系の先の南方系の山幸・イ
ザナギ神話の影響もあって、安曇氏や阿倍氏といった航海民たちの船にのっかって、後代に新漢人が九
州から畿内へと進出していく過程で、これらの神話が、徐々に混じりあい、今の日本神話を形成して
いった、その中でどう伝承要素を再分離していくかが課題ですね。もっと神話の比較サンプルが必要。

>

>

司馬遼太郎が注目した水野祐氏の出雲の民族と文化に関する三層説を紹介している。

<http://structure.cande.iwate-u.ac.jp/korea/japan.htm>

これは民族学的な立場から言語・習俗・血液型などについて考察されたものだという。

- (1) 第一層 北方狩猟民族系の部族 縄文文化の担い手である原日本人
- (2) 第二層 南方漁労民族系の海人族 インドネシア系・苗族系の漁労航海民
- (3) 第三層 朝鮮半島系の部族 朝鮮半島南部の新羅人

著者はそれぞれ初期縄文人、晩期縄文人、初期弥生人としている。

「日本神話と中国長江流域神話」<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~ori-www/suwa-f04/suwa30.htm>

海幸彦・山幸彦として漁労と狩猟に従事していたホデリとホオリの兄弟が、釣針と弓矢を交換し、弟が
兄から借りた釣針をうしなつて、竜宮をおとずれる神話は『古事記』と『日本書紀』がつたえている。
日本人にもっともなじみのふかい神話の一つである。

この神話の源流として、これまでに、インドネシアのケイ族の伝承、パラウ島の伝承などが指摘されている。インドネシア方面の「失われた釣針型説話」を原型として、日本の海幸彦・山幸彦の神話が成立したというのが現在の定説である。

東南アジアの「失われた釣針型説話」の存在を最初に報告したのは、十九世紀以来、この地方に入って調査にしたがったフリードリヒ・ミュラーやフロベニウスといったヨーロッパの研究者たちであった。日本の神話研究はその成果を借用してきたのである。

しかし、最近、中国の長江南部に海幸彦・山幸彦と類似の話が存在することが報告されている。大林太良氏は、この神話を海の原理と山の原理の闘争にとらえ、江南地方につたえられる呉越の戦いにかかわる伝説を、山を代表する越と海を代表する呉の対立として分析し、日本神話の原型として紹介している(『日本神話の構造』)。

また、伊藤清司氏は、湖南省のトゥチャ族につたわる「格山竜珠を与えられる」という話を紹介し、兄弟の争い、水界訪問、水界の女性との結婚、水界よりの呪宝の将来、呪宝による水の支配、兄への復讐、という六つのモチーフが共通することを説いている(「日本と中国の水界女房譚」)。

私自身はこのほかに、雲南省のラフ族、貴州省のコーラオ族、四川省のイ族、貴州省のプーイー族などがつたえる二十種を超える異型の水界女房譚を、現時点で発掘している。この数はもっとふえるはずである。これらを総合すると、日本の海幸彦・山幸彦の神話の源流は中国の長江南部であると確信をもって断定することができる。

もう一例、イザナギ・イザナミの国生み神話について検討する。この神話の原型についてもポリネシア、内陸アジア、インドなどの神話との類似がこれまでに説かれてきた。

日本の国生み神話は、A洪水で生存した兄妹が結婚する、Bその結婚ははじめうまくゆかず身体不完全な子が誕生したが試行の結果国土と人類などが誕生する、Cしかもそうした行為が神、動物などの指示によっておこなわれる、という三つのモチーフから成る、いわゆる洪水神話の不完全型である。

アマテラスの天石屋戸隠れ」、「天孫降臨」、「オオクニヌシの根の国訪問」など、日本の王権の成立にかかわる神話の重要な骨格部分が、ほとんどすべて、中国の長江流域の稲作民居住地の伝承を源流としていることがあきらかになっている。太陽神・女神・祖先神・稲魂という四つの性格を兼備して、皇室の祖先となったアマテラスと同一神格への信仰もこの地方に存在している。

このような中国長江流域神話と日本神話の類似という事実はけっして偶然の暗合ではない。アジアの稲作は一万年以前に長江中流域にはじまって、長い年月をかけてアジア各地にひろまっていた。そのときに稲作の技術とともに、稲作にかかわる信仰や民俗、神話伝承もまた伝播していった。その末端が日本に保存されているのである。

沖縄にオナリ神とよばれる、兄弟を守護する姉妹の霊にたいする信仰があることはよく知られています。柳田國男が『妹の力』(1940)収載の論文で先鞭をつけ、伊波普猷がそのあとを受けて解明をすすめた問題でした。

オナリは、奄美・沖縄・宮古・八重山の諸地域で兄弟から姉妹をさすことばです。姉妹から兄弟をさすときはエケリといいます。オナリ神信仰は、宮古をのぞく前記の各地にみられます。

オナリ神の働きは呪詛にもしめされますが、多くは兄弟が危機にたったときの守護に力を発揮します。航海や戦争などの出発のさい、姉妹は守護のしるしとして、手ぬぐいや毛髪をもたせ、兄弟が危地におちいったとき、姉妹の霊は白鳥になって現地に飛ぶといいます。

姉妹は兄弟にたいし霊的守護の役割をはたしますが、同時に兄弟は姉妹にたいし俗的守護の役割をします。しかも家族のレベルを超えたさまざまな上位の祭祀集団にもこの関係を見ることが出来ます。根神(ニギハヤヒ)と根人(ニギハヤヒ)、ノロと按司(アジ)、聞得大君と王の関係などです。

こうなると、本土古代のヒメ・ヒコ制の関わりと完全にかさなります。

興味ぶかいことは、このヒメ・ヒコ制、オナリ神信仰の源流についても、ポリネシアなどのオセアニアやインドネシアにもとめる説(馬淵東一『馬淵東一著作集3』、鍵谷明子『インドネシアの魔女』、他)が有力であるのにたいし、少数意見として、中国の守護女神媽祖(まそ)信仰との関係をかんがえる説があることです(植松明石「オナリ神」『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社・1983年)。

Re: 参考HP??アイヌ民族(アフリカ系ロシア人奴隷) 投稿者:管理人 投稿日:2013年8月5日(月)22時43分28秒 返信・引用

> No.1683[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> 第二の一書によれば、天地に葦の芽のようなものが生成された。これが神となったとされる。すなわち、本書と同じであるが、神々の名称が異なる。

>

> 葦から生まれてきた。栽培植物の起源の神話

> <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

> ばん-こ【盤古／盤固】：中国神話で、神人の名。天地開闢(かいびやく)の時初めて出現し、その死後、からだの各部分が、日月をはじめ、天地の万象... バンコ：(九州地方で)腰掛け。ベンチ。バン-こ

【バン湖】：《Van Gölü》トルコ東部にある同国最大の湖。 <http://dictionary.goo.ne.jp/dicindex/jn/%E3%81%B0%E3%82%93%E3%81%93/u/%E3%81%B0/>

> バン-こ【バン湖】.

> 《Van Gölü》トルコ東部にある同国最大の湖。イランとの国境近くに位置する。塩湖であり、流出河川はない。湖面標高1646メートル。湖に浮かぶアクダマル島には10世紀建造のアルメニア教会が残っている。ワン湖。

>

> ヴァン湖には、ヴィシャップというドラゴンの伝説が、それはそれは古い時代から伝えられていた。語源から推測されるのは、この怪物の起源がゾロアスター教にさかのぼるというものである。

<http://www.torioia.info/dragon/index.php?>

<http://www.torioia.info/dragon/index.php?%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%83%E3%83%97>

> 天と地は産気づいていた、
> 深紅の海も産気づいていた、
> 海の陣痛は葦を赤くした。
> 葦の茎の上から煙が上がった、
> 葦の茎の上から炎が上がった、
> そして、その炎から一人の小さな男が飛び出した。
> その男は火の髪をもち、
> 炎の髭をもち、
> その小さい目は太陽であった。
>
> あるときヴィシャップが天から降りてきて人類を滅亡させようとしたとき、神はヴィシャップを石に変えたという。このヴィシャップの石はゲラム山地のふもとに4つある。
[http://www.toroia.info/dragon/index.php?
%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%83%E3%83%97](http://www.toroia.info/dragon/index.php?%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%83%E3%83%97)
> アルメニアの翻訳者たちは、ナングの訳語として「河馬」と「ワニ」を使っている。
>

確かに、アルメニア神話は、日本神話の起源を考える上で欠かせないと思います。イラン系要素も強いわけですが、アマテラス・スサノオ神話とも関係するとの見方がありますね。

この地方の竜泰治伝承は、スサノオの大蛇退治にも影響していくわけですが、途中で遊牧民や半島を経由していきます。

「葦」「目＝太陽」「火神」といったあたりが、日本神話との比較要素となるでしょう。

スサノオ・アマテラス神話関連は、比較的新しい渡来人、おそらくは新漢人が半島経由でもたらしたものではないでしょうか。そのころに吉備臣関連で竜退治伝承も入って行きます。

関連の海原を支配させる記載もあったと思いますが、新漢人が、北朝系の中国人とともに、東欧系の人種を含有しながら、新羅・カヤ経由で日本へ渡来していった過程で、その東欧系ガラス製品などともに、白鳥伝承とか、竜退治といった東欧系伝承ももたらしたのではないかと予想してます。

ただ葦原の語ですね、九州筑紫の地名にもあるわけですが、安曇・海人系の先の南方系の山幸・イザ

ナギ神話の影響もあって、安曇氏や阿倍氏といった航海民たちの船にのっかって、後代に新漢人が九州から畿内へと進出していく過程で、これらの神話が、徐々に混じりあい、今の日本神話を形成していった、その中でどう伝承要素を再分離していくかが課題ですね。もっと神話の比較サンプルが必要。

西道に派遣された四道将軍の一人が「黄蕨津彦」 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 8 月 4 日(日)13 時 34 分 53 秒 返信・引用

屎で出来た神 突蕨 <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2302>

古代日本人とトルコ人 (前 1200 年ー5 世紀)<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

Re: 参考HP??アイヌ民族(アフリカ系ロシア人奴隷) 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 8 月 4 日(日)12 時 23 分 39 秒 返信・引用

> No.1682[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 第二の一書によれば、天地に葦の芽のようなものが生成された。これが神となったとされる。すなわち、本書と同じであるが、神々の名称が異なる。

葦から生まれてきた。栽培植物の起源の神話

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

ばん-こ【盤古／盤固】：中国神話で、神人の名。天地開闢(かいびやく)の時初めて出現し、その死後、からだの各部分が、日月をはじめ、天地の万象... バンコ：(九州地方で) 腰掛け。ベンチ。バン-こ

【バン湖】：《Van Gölü》トルコ東部にある同国最大の湖。 <http://dictionary.goo.ne.jp/dicindex/jn/%E3%81%B0%E3%82%93%E3%81%93/u/%E3%81%B0/>

バン-こ【バン湖】。

《Van Gölü》トルコ東部にある同国最大の湖。イランとの国境近くに位置する。塩湖であり、流出河川はない。湖面標高 1646 メートル。湖に浮かぶアクダマル島には 10 世紀建造のアルメニア教会が残っている。ワン湖。

ヴァン湖には、ヴィシャップというドラゴンの伝説が、それはそれは古い時代から 伝えられていた。語源から推測されるのは、この怪物の起源がゾロアスター教に さかのぼるというものである。

<http://www.toroia.info/dragon/index.php?>

<http://www.toroia.info/dragon/index.php?%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%83%E3%83%97>

天と地は産気づいていた、

深紅の海も産気づいていた、

海の陣痛は葦を赤くした。

葦の茎の上から煙が上がった、

葦の茎の上から炎が上がった、

そして、その炎から一人の小さな男が飛び出した。

その男は火の髪をもち、

炎の髭をもち、

その小さい目は太陽であった。

あるときヴィンチャップが天から降りてきて人類を滅亡させようとしたとき、神はヴィンチャップを石に変えたという。このヴィンチャップの石はゲラム山地のふもとに4つある。

[http://www.toroia.info/dragon/index.php?](http://www.toroia.info/dragon/index.php?%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%83%E3%83%97)

<http://www.toroia.info/dragon/index.php?%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%83%E3%83%97>

アルメニアの翻訳者たちは、ナングの訳語として「河馬」と「ワニ」を使っている。

Re: 参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：管理人 投稿日：2013年8月3日
(土)23時01分47秒 返信・引用 編集済

> No.1679[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

>>

>>> 旧約聖書に書かれているアフリカ人

>>> 大洪水を生き延びたノアの3人の息子セム、ハム、ヤペテのうち、「ハムの子孫はクシュ（エチオピア人）、

>>

>>

>> 旧約聖書の題材については、ちょっと全体的に再度比較検討してみたいところです。

>

問いかけの仕方が悪かったようです。

ご紹介のノアの話じゃなくて、天地開闢神話の件です。

根源神たちの登場[編集]

本文によれば、太古、天地は分かれておらず、互いに混ざり合って混沌としていた。しかし、その混沌

の中から、清浄なものは上昇して天となり、重く濁ったものは大地となった。そして、神が生まれる。
天地の中に葦の芽のようなものが生成され、神となる。

国常立尊（くにのとこたちのみこと）

国狭槌尊（くにのさつちのみこと）

豊樹淳尊（とよくむぬのみこと）

これらの神々には性別がなかった。

第一の一書によれば、天地に生成されたものの形は不明である。しかし、これが神となったことは変わらない。生まれた神々は次の通り。なお、段落を下げて箇条書きされるのは上の神の別名である。

国常立尊（くにのとこたちのみこと）

国底立尊（くにのそこたちのみこと）

国狭槌尊（くにのさつちのみこと）

国狭立尊（くにのさたちのみこと）

・ ・

第二の一書によれば、天地に葦の芽のようなものが生成された。これが神となったとされる。すなわち、本書と同じであるが、神々の名称が異なる。

アイヌの天地開闢神話はおもしろいですね。

天地（空・島）とカムイの始まり[編集]

昔、この世に国も土地もまだ何もない時、ちょうど青海原の中の浮き油のような物ができ、これがやがて火の燃え上がるように、まるで炎が上がるように、立ち昇って空となった。そして後に残った濁ったものが、次第に固まって島となった。島は長い間に大きく固まって島となったのであるが、その内、モヤモヤとした氣が集まって一柱の神（カムイ）が生まれ出た。一方、炎の立つように高く昇ったという清く明るい空の氣からも一柱の神が生まれ、その神が五色の雲に乗って地上に降って来た。

五色雲による世界の構築[編集]

この二柱の神達が五色の雲の中の青い雲を（現在の）海の方に投げ入れ、「水になれ」と言うと海ができた。そして黄色の雲を投げて、「地上の島を土でおおいつくせ」と言い、赤い雲をまかれて、「金銀珠玉の宝物になれ」、白い雲で、「草木、鳥、獣、魚、虫になれ」と言うと、それぞれのモノができあがった。

多くのカムイの誕生[編集]

その後、天神・地神の二柱の神達は、「この国を統率する神がいなくては困るが、どうしたものだろう」と考えていられるところへ、一羽のフクロウが飛んで来た。神達は「何だろう」と見ると、その鳥が目をパチパチして見せるので、「これは面白い」と二柱の神達が、何かしらをされ、沢山の神々を産まれたという。

日の神と月の神[編集]

沢山の神々が生まれた中で、ペケレチュプ（日の神）、クンネチュプ（月の神）という二柱の光り輝く美しい神々は、この国（タンシリ）の霧（ウラ）の深く暗い所を照らそうと、ペケレチュプはマツネシリ（雌岳）から、クンネチュプはピンネシリ（雄岳）からクンネニシ（黒雲）に乗って天に昇られたのである。また、この濁ったものが固まってできたモシリ（島根）の始まりが、今のシリベシの山（後方羊蹄山）であると言う。[http://ja.wikipedia.org/wiki/天地開闢_\(アイヌ神話\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/天地開闢_(アイヌ神話))

こうみると、日本神話の大地・島の誕生、二柱の神の出現とも共通性があります。

中国の盤古神話は、後代のアマテラス・スサノオの日神・月神との関連で共通しますね。

中国・半島系渡来人の影響でしょうか。

盤古が死ぬと、その死体の

頭は五岳(東岳泰山を筆頭とした北岳恒山、南岳衡山、西岳華山、中岳嵩山の総称)に、その左目は太陽に、その右目は月に、その血液は海に、その毛髪は草木に、その涙が川に、その呼気が風に、その声が雷になった。[http://ja.wikipedia.org/wiki/天地開闢_\(中国神話\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/天地開闢_(中国神話))

旧約聖書の天地創造は、混沌、闇、水の面から神の霊がでてきて、創造を命じるわけですね。

構造・順番的には、日本神話、アイヌ神話と同じで、命令して地上のものができあがるところは、アイヌ神話と共通します。アイヌの神話は、おそらく紀元前に半島経由でやってきた中東人の遺伝子に近い新縄文系のそれではないでしょうか。琉球、九州方面のそれと関係するか。

初めに、神は天地を創造された。

地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。

神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。

神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、

光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

神は言われた。「水の中に 大空あれ。水と水を分けよ。」

神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。

神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。

神は言われた。「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。」そのようになった。

神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神はこれを見て、良しとされた。

神は言われた。「地は草を 芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を、地に芽生 えさせよ。」そのようになった。

地は草を芽生えさせ、それぞれの種を持つ草と、 それぞれの種を持つ実をつける木を芽生えさせた。神はこれを見て、良しとされ た。

夕べがあり、朝があつた。第三の日である。

神は言われた。「天の大空に光 る物があつて、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。

天の大 空に光る物があつて、地を照らせ。」そのようになった。

神は二つの大きな光 る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。

神 はそれらを天の大空に置いて、地を照らさせ、

昼と夜を治めさせ、光と闇を分け させられた。神はこれを見て、良しとされた。

夕べがあり、朝があつた。第四 の日である。

神は言われた。「生き物が水の中に群がれ。鳥は地の上、天の大空 の面を飛べ。」

神は水に群がるもの、すなわち大きな怪物、うごめく生き物をそ れぞれに、また、翼ある鳥をそれぞ れに創造された。神はこれを見て、良しとさ れた。

神はそれらのものを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、海の水に満ち よ。鳥は地の上に増えよ。」

夕べがあり、朝があつた。第五の日である。

神

http://www12.ocn.ne.jp/~sokkidou/sokkig_01/0101_0131.html

古代距離（旧約聖書、魏志倭人伝、中国史籍、・・・） 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 8 月 2 日
(金)19 時 07 分 16 秒 返信・引用

古代距離は、総てが地球の円周距離が生んだ距離の様ですな。

呉尺、隋(晋)尺からペルシャキュビット、古代ローマキュビトが導かれる。ノアの箱舟は

ペルシャキュビットが相当すると思われるな。対応関係は以下

53.35 cm（ペルシャキュビット）÷1.2=44.46 cm（古代ローマキュビト）

ノアの箱舟の形状

方舟は「長さ 300 キュビト、幅 50 キュビト、高さ 30 キュビト」で 3 つのデッキを持っている。

長さ 300×53.35 cm=160.05 m

幅 50×53.35 cm=26.67 m

高さ 30×53.35 cm=16.00 m

これらは、総てが地球の円周距離が生んだ距離の様ですな。

エジプトスタディオン 157.5

250,000 スタディアの地球周長を意味し

$$250000 \times 157.5 = 39375000$$

アッティカスタディオン 185

緯度1度が111km : 185.185×60

$$185 \times 60 \times 60 \times 60 = 39960000$$

里も同様に地球周長を 90,000 で割ったのだらうな。

$$1 \text{ 里} = 40,000,000 \text{ m} \div 90,000 = 444 \text{ m}$$

大宝律令の尺(秦野距離)は呉尺で隋尺の関係は 1.2 倍になる。

呉尺 隋(晋)尺

$$35.6 \text{ cm} \div 1.2 = 29.6 \text{ cm} \text{ (大尺)}$$

$$29.6 \text{ cm} \div 1.2 = 24.6 \text{ cm} \text{ (小尺)}$$

呉代、隋代の尺を里に当て嵌めるならば、大里、小里が存在する。

呉尺 隋(晋)尺

$$533.5 \text{ m (里)} \div 1.2 = 444 \text{ m (大里)}$$

$$444 \text{ m (大里)} \div 1.2 = 370 \text{ m (小里)}$$

アッティカスタディオンとエジプトスタディオンの比

$$185 \div 157.5 = 1.175 \approx 1.2$$

周と呉の時期に 1.2 が存在する。何かあったのだらうな。歴史のほころびですな。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1365>

呉尺 隋(晋)尺

533.5 m (里) ÷1.2=444 m (大里)

(里) ÷10= (短里)

53.35 m (短里) ÷1.2=44.46 m (短里)

キュビト = (里) ÷1000 = (短里) ÷100

53.35 cm (ペルシャキュビット) ÷1.2=44.46 cm (古代ローマキュビト)

キュビト

それ以外の多くの西洋の文化も、キュビットは使われた。ペルシャのキュビットは 52～64 cm、古代ギリシャでは π?χυς (pechys; ペーキウス) と呼ばれ約 47.4 cm、古代ローマでは cubitus と呼ばれて約 44.46 cm、アラブでは arsh と呼ばれて 48～64 cm であった。ユダヤでは ????? (アマ) と呼ばれて 46～61 cm であるが、これは今日でもユダヤ教で用いられている。

古代イスラエルでは、第一神殿時代のキュビットは 428 mm であった。第二神殿時代には、一般的には 445 mm のキュビットが使われていたが、宗教的な目的には 437 mm のキュビットが使用されていた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%88>

ノアの箱舟の形状

方舟は「長さ 300 キュビト、幅 50 キュビト、高さ 30 キュビト」で 3 つのデッキを持っている。これは、タバナクル (テント式神殿) の 3 倍の高さであり、タバナクルの前庭の 3 倍の広さとなっている。この大きさによって、神の考えにおける人類の魂の救済という意味が同時にこめられていることを聖書の著者が念頭においていたことが示唆される。

さらに長さ 300 キュビトは 60 の 5 倍、高さ 30 キュビトは 60 の半分であり、このサイズには、60 という数字が根底にあると言われている。(1 キュビトを伝統に従って約 44.5cm として換算すると、およそ「長 133.5m、幅 22.2m、高 13.3m」となる。)

またこの「長：幅：高=30：5：3」の比率は、現在のタンカーなどの大型船を造船する際に、最も安定しているといわれる比率とほぼ同じとなる。

キュビットは、紀元前 6000 年ごろの古代メソポタミアで生まれたとされている。

ノアの方舟 (ノアのはこぶね、英語: Noah's Ark) は、旧約聖書の『創世記』 (6 章-9 章)

方舟は「長さ 300 キュビト、幅 50 キュビト、高さ 30 キュビト」で 3 つのデッキを持っている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8E%E3%82%A2%E3%81%AE%E6%96%B9%E8%88%9F>

Re: 参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年8月2日(金)03時55分3秒 返信・引用

> No.1679[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

>>

>>> 旧約聖書に書かれているアフリカ人

>>> 大洪水を生き延びたノアの3人の息子セム、ハム、ヤペテのうち、「ハムの子孫はクシュ（エチオピア人）、

>>

>>

>> 旧約聖書の題材については、ちょっと全体的に再度比較検討してみたいところです。

ごめんなさい。

とちりました σ(-c_-'。)... ようこそ！ミレニアム(小説)のホームページへ！

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

ロシア（「ゴグ」）・・・「ロシュ（あるいはロシ）」

他の外国語の聖書で調べてもここに「ロシ」という国名が確かにあります。むかし日本では古代ロシアのことを「ロシ」と呼ぶことがありました。終末戦争はロシアがイスラエルに侵攻することから勃発します。http://www.fgtc777.com/n-gaikoku/russian_federation.htm

エゼキエル書38章「ゴグとマゴグ」

そして、ゴグと連携して、ペルシヤ、クシュ、プテが出陣し、またゴメル、ベテ・トガルマも参戦します。http://www.logos-ministries.org/old_b/ezk38.html

出エジプト記において、主はこれでもか、これでもかというばかりにエジプトに災いを下し、最後、紅海を分け、そこを通らせることによって、ご自分がヤハウェであることを示され、イスラエルは神とモーセを信じました。同じように、主は、豊かな地、安全になっているところに、絶体絶命の危機を、ゴグを通して与えられ、そしてゴグを打ち碎かれることによって、イスラエルの民、また諸国の民が、この方こそまことの神、まことの主であることを認めるように仕向けられます。

Re: 参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年8月2

日(金)03 時 16 分 10 秒 返信・引用

> No.1678[元記事へ]

>

>> 旧約聖書に書かれているアフリカ人

>> 大洪水を生き延びたノアの 3 人の息子セム、ハム、ヤペテのうち、「ハムの子孫はクシュ（エチオピア人）、

>

>

> 旧約聖書の題材については、ちょっと全体的に再度比較検討してみたいところです。

千島アイヌは「クシ(エチオピア?)」と呼ばれた。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

クシはヘブライ語でエチオピアを意味し、ゼファニヤの家系はエチオピアの出であった
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BC%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%8B%E3%83%A4%E6%9B%B8>

『ゼファニヤ書』（ゼファニヤしょ、ゼパニヤ書）は『旧約聖書』文書の 1 つである。全 3 章で構成される。ユダヤ教では「後の預言者」、キリスト教では十二小預言書に分類される。『ハバクク書』の後、『ハガイ書』の前、十二小預言書の中では 9 番目に位置する。伝統的にゼファニヤが筆者とされる。紀元前 7 世紀後半ないしそれ以降に成立した。

Re: 参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 8 月 1 日
(木)23 時 06 分 42 秒 返信・引用

> No.1677[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 旧約聖書に書かれているアフリカ人

> 大洪水を生き延びたノアの 3 人の息子セム、ハム、ヤペテのうち、「ハムの子孫はクシュ（エチオピア人）、

旧約聖書の題材については、ちょっと全体的に再度比較検討してみたいところです。

天地創造神話との関係ですね。漂うものが固まっていく過程、そのモチーフがどこから来たのかが重要です。

Re: 参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年8月1日(木)12時17分38秒 返信・引用

> No.1676[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

旧約聖書に書かれているアフリカ人

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1086371180

もちろん、旧約聖書に「アフリカ」という言葉は出てきません。大洪水を生き延びたノアの3人の息子セム、ハム、ヤペテのうち、「ハムの子孫はクシュ（エチオピア人）、ミツライ...

旧約聖書に書かれているアフリカ人ですが、この「アフリカ人」黒人以外の人種、例えば北アフリカの住民（ベルベル人など）を差している言葉だと思いませんか？

アフリカという地名の起源は現在のチュニジアですし

古くは北アフリカのベルベル人やカルタゴ（現：チュニス）を中心に商業を行っていたフェニキア人もいますから？

なにも旧約聖書のアフリカ人＝黒人とは限らないと思うのですが？

大洪水を生き延びたノアの3人の息子セム、ハム、ヤペテのうち、「ハムの子孫はクシュ（エチオピア人）、ミツライム（エジプト人）、プテ（ベルベル人）、カナン（もともとイスラエル住民）」とされています。カナン人は、やがてイスラエル人によって滅ぼされます。

エレミヤ書に「クシュ人がその皮膚を、ひょうがその斑点を、変えることができようか」という表現があり（13章23節）、少なくともクシュ人は特徴的な肌を持っていたことが伺えます。

とはいえ、現在のエチオピア人を見れば分かるように、どちらかと言えば赤茶けた人々で、南アラビア人に近いです。中央アフリカや西アフリカの黒光りする人々とは違います。

モーセの妻の一人はクシュ人とされ（民数記12章1節）、イスラエル人にはなじみのある人々でした。一方で、クシュ人が（エジプト人と一緒に）南ユダ王国と戦争をした記録もあります（歴代誌下12章）。ユダヤ地方がローマの支配下になっても、エルサレムにやってくるクシュ人もいました（使徒行伝8章）。

「リビア（アフリカのこと）

ヤマド」（天壤無窮の意味）<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

参考HP??アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷） 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年7月31日
(水)13時23分34秒 返信・引用

投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年7月31日(水)13時22分0秒
返信・引用

参考HP??

旧土人保護法の土人 = 奴隷 = Slave = スラブ民族 = The Slavs (英語)
奴隷 = Slave (英語)
↓
スラブ民族 = The Slavs (英語)
↑
アイヌ民族（アフリカ系ロシア人奴隷）

※ スラブ民族とは、
東欧のロシア、および、「ソ連の権力人種」である、
東欧のモスクワ民族顔の人種の民族を意味します。

※ アイヌ民族には文字はないが、アフリカ人奴隷の出身地は、アフリカ全土でもあり、さまざまな言語です。

片言で、親分(奴隷の所有者)のモスクワ民族語を話していたようである。

モスクワ語をローマ字読みして、奴隷の片言ロシア語に、アフリカ人訛りで発音をすると、アイヌ語である。http://www.geocities.jp/orionseijin_cacakah/xoposhow/pu/EroppMasai.html

Re: 似てる? 「コヲロコヲロ」 掻き混ぜ 「ンゴロンゴロ」 (大きな穴) 投稿者：秦野北斗 投稿

日：2013年7月31日(水)12時26分4秒 返信・引用 編集済

> No.1674[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

オノコロの語源もアイヌ語ですか。ヤマトも確かアイヌ語ですな。

表記は呉音ですな。

淤能碁呂島の場所は厳島で魏志倭人伝の行程、投馬國から水行十日または邪馬台国から陸行1月の所ですな。

淤能碁呂を添付、予想とは違いますな。碁呂ゴロ、碁の占いで周りを歩いたようだな。

厳島までの行程は秦野著書(徐福と邪馬台国の行程)参照ですな。

秦野著書は古事記、日本書紀、中国史籍とも関係している模様。陳寿は偉い・・・。

南に水行10日と陸行1月で女王の都のある邪馬台国に至る（「南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日陸行一月」）。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳鞮があり、推計7万余戸。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

厳島神社の社殿の裏には、康頼の卒塔婆が流れ着いたという伝説を持つ「卒塔婆石」があります。上の写真のように、満潮時には見えなくなっていますが、干潮時にはその姿を現します。中央の写真の右寄りの大きめの石がそうです。左の写真の「康頼灯籠」は、許されて帰京した康頼が神霊に感謝して奉納したと伝えられています。厳島神社の中でもっとも時代の古い灯籠ということです。

<http://homepage1.nifty.com/heiankyo/heike/heike10.html>

アイヌ語

結婚する u-nu-kar 互いを・持つこと・をする（分類・人間編）→オノコロ？

互いに見る u-nu-kar→オノコロ？

<http://www.dai3gen.net/onokoro.htm>

> 似てる？「コヲロコヲロ」 掻き混ぜ 「ンゴロンゴロ」（大きな穴）

> 天の沼矛（瓊矛、玉で飾った矛）で塩（潮）を「コヲロコヲロ」に掻き混ぜてその矛を引き上げた時に矛の先から滴り落ちた塩が累積して島となった。これがオノコロ島である。

似てる？「コヲロコヲロ」 掻き混ぜ 「ンゴロンゴロ」（大きな穴） 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年7月31日(水)00時50分15秒 返信・引用

似てる？「コヲロコヲロ」 掻き混ぜ 「ンゴロンゴロ」（大きな穴）

天の沼矛（瓊矛、玉で飾った矛）で塩（潮）を「コヲロコヲロ」に掻き混ぜてその矛を引き上げた時に矛の先から滴り落ちた塩が累積して島となった。これがオノコロ島である。

<http://www.dai3gen.net/onokoro.htm>

コヲロコヲロ

ンゴロンゴロ

「ンゴロンゴロ」とはマサイの言葉で「大きな穴」という意味。

<http://www.geocities.jp/kozurevacation/afngorongoro.html>

Re: オノコロ島・・・小さな平和の島！ビンゴ？ 投稿者：管理人 投稿日：2013年7月30日(火)23時06分34秒 返信・引用

> No.1671[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> 南方海人系の集団の言語に、「コル」があったのでしょうか。

>

> cor コル 「心は」（主格） cordis コルデイス 「心の」（属格） cordi コルディー 「心に」（与格） cordem コルデム 「心を」（対格） corde コルデ 「心で、心から」（奪格） http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1257694482

>

お知らせありがとうございます。

凝は中国音で「ギョウ」ですね。

先の「淤能碁呂島」の「碁呂（ゴロ）」音と、ギ音で共通します。

「碁」は、ギが正しい発音ですね。

「碁馭廬」の「馭」も、ゴ・ギョ。

ギョ音を、中国系渡来人が聞き取って、漢字を当てたかもしれません。

石凝姥女は、ある意味、礫馭廬ともどこか共通性を持っています。

南方呉系文化の影響でしょうか。

Re: オノコロ島・・・小さな平和の島！ビンゴ？ 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年7月30日
(火)23時02分35秒 返信・引用

> No.1670[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

凝る(こ)る 凝固 こおり (こおり)

>凝るには、かき回す、混ぜる、という意味もあるのではないのでしょうか。

凝るの言い換えや別の言い方。・意義素・用例類語・縁語肩・筋肉などが凝る（肩が）張る・（筋肉が）こわばる・固まる・固くなる・こり固まる・しこる・つつばる・重くなる・（まだ）硬さが残る趣味 <http://thesaurus.weblio.jp/content/%E5%87%9D%E3%82%8B>

凝りに凝る・完全主義（者）・凝り性の・徹底的に・周到に・念入りに・（細部について）手を抜かない・趣味の域をこえた・趣向をこらす・工夫に工夫を重ねた・（細部に）こだわる・手が込む・突き詰めて（考える）

氷」,「氷」の俗字の「凝」 <http://tonan.seesaa.net/archives/201002-1.html>

ひ【氷／冰】とは。意味や解説。1 水のこおったもの。こおり。「一を、物の蓋に置いて割る とて」〈源・蜻蛉〉2 雹(ひょう)。「いとかく地の底とほるばかりの一降り」〈源・明石〉
<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/182256/m0u/>

Re: オノコロ島・・・小さな平和の島！ビンゴ？ 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年7月30日
(火)11時22分4秒 返信・引用

> No.1670[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>南方海人系の集団の言語に、「コル」があったのでしょうか。

cor コル 「心は」 (主格) cordis コルディス 「心の」 (属格) cordi コルディー 「心に」 (与格)
cordem コルデム 「心を」 (対格) corde コルデ 「心で、心から」 (奪格) http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1257694482

田氏作竟 斉国の田氏 (田常) cor コル 「心は」 石 コロ <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re: オノコロ島・・・小さな平和の島！ビンゴ？ 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 29 日(月)23 時 05 分 51 秒 返信・引用

> No.1669[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 茨の紀氏さんへのお返事です。

>

> 淤能碁呂島の淤能碁呂は呉音読みでオノゴロですな。

>

> 礮馭慮島の礮馭慮は呉音読みで？ゴロなので礮はオノですな。

>

> 結論は単純で呉音読みだな。

>

>

凝の発音の件ですが、石凝姥女の件を考えはじめています。物部系・卑弥呼か？

イシコリドメ

イシコリドメは、日本神話に登場する神である。作鏡連 (かがみづくりのむらじ) らの祖神とされている。『古事記』では伊斯許理度売命、別名 櫛石窓神、豊石窓神、『日本書紀』では石凝姥命と表記されている。

神話での記述[編集]

岩戸隠れの際に八咫鏡を作った。ちなみに日前神宮・國懸神宮 (和歌山市) には八咫鏡に先立って鋳造された鏡である日像鏡・日矛鏡 (ひがたのかがみ・ひぼこのかがみ) がある。日像鏡は日前神宮の神体、日矛鏡は國懸神宮の神体となっている。

天孫降臨の際瓊瓊杵尊（ににぎ）に付き従って天降るよう命じられ、天児屋命（あめのこやね）、太玉命（ふとだま）、天鈿女命（あめのうずめ）、玉祖命（たまのおや）と共に五伴緒の一人として随伴した。

解説[編集]

<http://ja.wikipedia.org/wiki/イシコリドメ>

ここで「矛」が出てきます。国産みの際に、矛でかき回す記載がありますよね。

凝るには、かき回す、混ぜる、という意味もあるのではないのでしょうか。

南方海人系の集団の言語に、「コル」があったのでしょうか。

Re: オノコロ島・・・小さな平和の島！ビンゴ？ 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 29 日
(月)20 時 28 分 30 秒 返信・引用

> No.1668[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

淤能碁呂島の淤能碁呂は呉音読みでオノゴロですな。

礮馭慮島の礮馭慮は呉音読みで？ゴロなので礮はオノですな。

結論は単純で呉音読みだな。

チベット語のC O L O（コロ）は碁石の小さな平『輪』で淤・・・
なんだな。結論はないな。

淤

土と水が混じり合って粘性の大きい液体状になったもの。またそれが何かに固着して乾燥したもの。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E3%81%A9%E3%82%8D>

> オノ(小さな平野) コロとはチベット語で『輪』=小さな平『輪』

>

> C O L O (コロ) とはチベット語で『輪』を意味します。 http://www.sasaki-kg.co.jp/03iedukuriomoi/post_34.html

>

> オノ(小さな平野) コロ <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

>

オノコロ島・・・小さな平和の島！ビンゴ？ 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 29 日(月)16 時 38 分 37 秒 返信・引用

オノ(小さな平野) コロとはチベット語で『輪』=小さな平『輪』

C O L O (コロ) とはチベット語で『輪』を意味します。 http://www.sasaki-kg.co.jp/03iedukuriomoi/post_34.html

オノ(小さな平野) コロ <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

Re: 自凝島（こねまわして）土塊）を 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 28 日(日)19 時 11 分 47 秒 返信・引用 編集済

> No.1666[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 瓢箪はオノコロ（ころ＝葫蘆＝瓢箪）島

>、オノコロ島は日本であり、イスラエルがそのまま日本に接続していくのです。

>

台与（とよ）と天孫降臨 年代があわないぞ。なにか、出鱈目のようすな。

そして、天孫降臨とは、筑紫地方にあった邪馬台国の部民が、日田盆地（ここには日向の地名が多い）

を經由し、耶馬溪のある山国川を下り、豊前の中津（仲津）に到着した経緯を描いたものでしょう。天孫が降臨した場所である豊葦原中国（とよあしはらのなかつくに）とは、正しく台与（とよ）が祭祀する中津の国（豊前国＝秦氏の国）ではないでしょうか。年代があわないぞ？

<http://suisekiteishu.blog41.fc2.com/blog-entry-194.html>

オノゴロ島、又はオノコロ島は、日本神話のイザナギノミコト・イザナミノミコトによる国生み神話に登場する島を言う。『古事記』では淤能碁呂島（おのごろじま）、『日本書紀』では礪馭慮島（おのころじま、初字は「石殷」で一字）と表記する。オノコロ島は日本であり、イスラエルがそのまま日本に接続？

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%8E%E3%82%B4%E3%83%AD%E5%B3%B6>

Re: 自凝島（こねまわして）土塊）を 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 28 日(日)10 時 41 分 30 秒 返信・引用

> No.1665[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

瓢箪はオノコロ（ころ＝葫蘆＝瓢箪）島

、オノコロ島は日本であり、イスラエルがそのまま日本に接続していくのです。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re: 自凝島（こねまわして）土塊）を 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 28 日(日)08 時 12 分 50 秒 返信・引用 編集済

> No.1664[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

自凝島神社（おのころじまじんじゃ）は2つあるようだな。

淤能碁呂島と礪馭慮島神社ですな。

オノゴロ島、又はオノコロ島は、日本神話のイザナギノミコト・イザナミノミコトによる国生み神話に登場する島を言う。『古事記』では淤能碁呂島（おのごろじま）、『日本書紀』では礪馭慮島（おのころじま、初字は「石殷」で一字）と表記する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%8E%E3%82%B4%E3%83%AD%E5%B3%B6>

秦野は「（自凝（オノコロ）島）」ですが、解釈が異なるな。熱中すると理解する。

オノゴロ島は、「自（おの）ずから凝り固まってできた島」「（自凝（オノコロ）島）」という意味である。だが。

秦野は自ずと熱中するだな。祭事に熱中・・・。

こる【凝る】

1. 柔らかいものが冷えるなどして固まる。
（趣味や思想などに）熱中する、入れ込む
2. 彼は珍しい切手の収集に凝っている。
3. 筋肉が疲労などで固くなる。

> 自凝島（こねまわして）土塊）を

> 淡路島の自凝島（こねまわして）神社で、弥勒大神の出現の神業を行い、翌年に阪神大

自凝島（こねまわして）土塊）を 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年7月28日(日)01時11分3秒
返信・引用

自凝島（こねまわして）土塊）を

淡路島の自凝島（こねまわして）神社で、弥勒大神の出現の神業を行い、翌年に阪神大震災が起きた。
<http://tsukioto2011.blog65.fc2.com/page-2.html>

10はゲマトリアで $1+0=1$ で、神業が行われた10月17日と震災が起きた1月17日は同日を意味する。

弥勒大神（日の出大神）は太陽神ミトラ（イエス・キリスト）であり、それは「スサノオ＝国常立尊」と同一神である。

「ころ」は場所や 位置を表す接尾語 <http://gejirin.com/gsrc/ko/koro.html>

【(凝)・塊】

凝り固まったもの。凝縮。結晶。塊。

「ころ」は「こる(凝る)」の名詞形。

変態：「くれ(塊)」

アダム（土塊）とイヴ（命）－ 旧約聖書勝手訳その2 「元始（はじめ）に神、天地を創造（つくり）たまへり」「地は定形（かたち）なく曠空（むなし）くして黒暗淵（やみわだ）の面にあり。神の霊、水の面を覆いたりき」「神、光あれと言いたまひければ光 ...<http://www.el-saito.co.jp/cafe/cafe.cgi?mode=res&one=1&no=1120>

（土塊）をこねまわして人間第一号を創ったわけで、

こねまわして・・・矛を海に下ろしてかき混ぜ（おのころじま）

日本神話ではあまり馴染みのない、天地の始まりの話をしよう。北欧神話やギリシア神話、聖書の記述などにおいて、この世界の始まりはすなわち天空を統べる主神の誕生と深く結びついており、宇宙の誕生はそれぞれ、オーディン、ゼウス、唯一神の存在と深く結びついている。ところが日本神話における主神、天照大神とこの神話は必ずしも結びつくものではない。このあたりが日本神話の特異な点でもあり、この話が人々にあまり知られていない理由ともなっている。また、男女の肉体の相違、さらには性交についてけっこうな描写をしており、書いていて気恥ずかしいものがある。

<http://www.din.or.jp/~a-kotaro/gods/method/kuniumi.html>

Re: 礫礫馭慮島（おのころじま）＝石（中心）＋殷 の 国家主権の及ぶ地域。国土？ 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 28 日(日)00 時 37 分 46 秒 返信・引用

> No.1662[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

「オノ」（都市名）「コロ」（コロサイ地名）<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

ギリシャ語で「オノ」は名前でマトペは作るで「名前を作る」という意味でもあります。

<http://dic.nicovideo.jp/b/a/%E3%82%AA%E3%83%8E%E3%83%9E%E3%83%88%E3%83%9A/61->

オノ. (Ono) . エルパアルの「子」であるベニヤミン人シェメドが建てたと思われる都市

<http://wol.jw.org/ja/wol/d/r7/lp-j/1200003332>

ベニヤミン族（南ユダ王国）

パウロは生粋のベニヤミン人。 ... 正統派のユダヤ教に改宗する日本人が まとまって存在するとすれば（当然、すべての日本人がイスラエル（四国ほどの面積）に 移住することは不可能であるから）、それは日本人全体から見てごく限られた人たちであろう。

<http://www.k2.dion.ne.jp/~yohane/0000isuraeru4.htm>

「子宮」

靈魂や聖靈の宿る 「子宮」 を意味する「ラハム」
<http://www.rock.sannet.ne.jp/hg31cc/medi.html/md10.html>

日本語訳の聖書ではやはり「憐れみ」と訳されてしまうのだが、本来この言葉は「子宮」を意味する「ラハム」を複数形にしたもので、子宮の痛み、すなわち産みの苦しみを表す言葉であるらしい。

直訳的には「あなたの子宮が命をもたらしますように」となる。子宮が苦しみ痛みの末に命をもたらすように、子宮をその感情の座とする「ラハミーム＝憐れみ」は人に命をもたらす。一つの命を生み出し生かすために、自分自身が痛み苦しむこと。それがヘブライ語のラハミームが意味していることであり、それはギリシャ語のスプランクニゾマイ、沖縄の言葉の「ちむぐりさ」と重なり合う表現だと言えよう。
http://www.ne.jp/asahi/church/sasebo/youshi05'09_18.htm

腹と訳されているギリシャ語「コイリヤ」は腹の他、子宮、心臓の意味があります。新改訳は「心の奥底から」と意識し、欄外の注に、直訳「腹から」と小さく書き添えていますが、そうではなく、逆に「腹から」を本文に、「心の奥底から」を欄外の注に書き添えて欲しかったと思います。

靈魂や聖靈の宿る人体の部位として、聖書は腸、心臓、子宮などの内臓を挙げています（エレミヤ 31：20；詩篇 40：8；創世記 43：30；ヨブ 32：18，19；1ヨハネ 3：17）

メルル・テニーがヨハネ伝注解（聖書図書刊行会版）の中で、天使が墓石を転がして墓の入り口を開けたのは、復活の主を外に出すためでなく（天国のからだを持たれた主は、墓石を通過されたのであり）、復活の証人になるはずの弟子たちを中に招き入れるためであったとし、墓の中に残されていた遺体を巻いた衣はあたかもセミの抜け殻のように置かれていたのだというキリストの復活のからだ観は正解であろうと考えます。

ターミナルドグマも 地下の洞窟にあり、子宮を表わし、ターミナルドグマへの道は産道を表わすと考えられる。
<http://y-honpo.net/EVA/eva24.html>

紀元前後は、ミトラス教やミスラ教、バール教、グノーシス主義などがメジャーな宗教であった。

古代ミトラス教の秘儀では、祭壇は地下の洞窟にあり、これは子宮に例えられている。

>

> オノゴロ島つまり小豆島を子宮として、次に淡路島を産んで、大和の秋津地域（本州か）、それから、四国伊予、九州筑紫、吉備に戻って児島、隠岐、佐渡と日本海を北上して、最後に越島（北海道？）に行くわけですね。

>

>

>> 淡路から秋津つまり葛城方面は、大彦系の南方海人族の基盤です。これらの伝承は日向伝承とかかわりながら、阿倍氏など大彦系集団の子孫の伝承によるものでしょう。

>

>

> 彼らの中心拠点が、吉備と淡路、伊予の間の交通の要所小豆島にあったとすると、ここを独占し国産みの起点とした意味もわかります。

>

> 彼らの葬送観念には、山幸神話のような、子宮に関するものがあるようです。古墳の葬送観念ともかかわっていくわけですが、イザナギ神話にもかかわっていく。

>

> オノゴロというのは、その南方海人族系の言葉ではないでしょうか。ホオにアイデンティティーがある。

>

> 中国呉から、インド・中東系にまで広まる、蠍座と乙女座の信仰が、そのまま赤い針を持つ山幸と、水瓶をもつ海神の娘の話となっていく経緯があるのですが、どうようにして、中東・インド系の国土創成神話が、インドシナ・呉経由で、日本へとつたわっていく、その家庭で、国土創成に必要なだった子宮なりが、どう呼ばれていたか？が課題でしょう何か似たような物語があるかもしれません。

Re: 礫礫馭慮島（おのころじま）＝石（中心）＋殷 の 国家主権の及ぶ地域。国土？ 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 27 日(土)23 時 11 分 37 秒 返信・引用

> No.1661[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

>> それで、なぜ「碓」と彼らのことを呼んだのか？が課題になりますね。

> >

> 碓 ウス（土盛？台・胎） うす【臼／×碓】 からの垂直線

>

> 碓＝佳（私的に測量土）＋石（道標）

> 「石」は交通の要衝にあたる場所であり、賽の神の要素を見ている。大甕神社の前にも「泉川道」の道標が立っている。また境に埋められる伝承を持つ「甕」にちなむ土地であり、大甕山の巨岩もあって、後世に天津甕星神と関連つけられたとの指摘がある。むべなるかな。

<http://kamnavi.jp/en/higasi/oomika.htm>

>

> 淤能碁呂・礫馭慮。(央心・央凝)。

> 央心。中心。核心。本源。<http://gejirin.com/src/O/onokoro.html>

なるほど日本書紀の礫馭慮の礫は特殊ですね。

発音としては、イン・オン

中国人的に聴くと、礪駟慮（インゴロ・オンギョロ）

「ン」音が、日本語では「ノ・ヌ」になる。

小豆（オド）島

オノゴロ島つまり小豆島を子宮として、次に淡路島を産んで、大和の秋津地域（本州か）、それから、四国伊予、九州筑紫、吉備に戻って児島、隠岐、佐渡と日本海を北上して、最後に越島（北海道？）に行くわけですね。

日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 原文】一書曰 以 駟慮嶋爲胞 生淡路洲 次大日本豊秋津洲 次伊豫二名洲 次筑紫洲 次吉備子洲 次雙生億岐洲與佐度洲 次越洲。【日本 書紀 卷第一 第四段 一書第八 読み下し】

子宮というのは、先日の臼・碓（タイ）ですね。確かに甕にも類似性があります。

大碓を大彦、オホ音とすれば、確かにご指摘のオホコオ島と関係してくる。

小碓はヤマトタケル。

淡路から秋津つまり葛城方面は、大彦系の南方海人族の基盤です。これらの伝承は日向伝承とかかわりながら、阿倍氏など大彦系集団の子孫の伝承によるものでしょう。

彼らの中心拠点が、吉備と淡路、伊予の間の交通の要所小豆島にあったとすると、ここを独占し国産みの起点とした意味もわかります。

彼らの葬送観念には、山幸神話のような、子宮に関するものがあるようです。古墳の葬送観念ともかわっていきわけですが、イザナギ神話にもかかわっていく。

オノゴロというのは、その南方海人族系の言葉ではないでしょうか。ホオにアイデンティティーがある。

中国呉から、インド・中東系にまで広まる、蠍座と乙女座の信仰が、そのまま赤い針を持つ山幸と、

水瓶をもつ海神の娘の話となっていた経緯があるのですが、どのようにして、中東・インド系の国土創成神話が、インドシナ・呉経由で、日本へとつたわっていく、その家庭で、国土創成に必要なだった子宮なりが、どう呼ばれていたか？が課題でしょう何か似たような物語があるかもしれません。

礮礮馭慮島（おのころじま）＝石（中心）＋殷 の 国家主権の及ぶ地域。国土？ 投稿者：茨の紀氏
投稿日：2013 年 7 月 27 日(土)11 時 23 分 1 秒 返信・引用

> それで、なぜ「碓」と彼らのことを呼んだのか？が課題になりますね。

>

碓 ウス（土盛？台・胎） うす【臼／×碓】 からの垂直線

碓＝佳（私的に測量士）＋石（道標）

「石」は交通の要衝にあたる場所であり、賽の神の要素を見ている。大甕神社の前にも「泉川道」の道標が立っている。また境に埋められる伝承を持つ「甕」にちなむ土地であり、大甕山の巨岩もあって、後世に天津甕星神と関連つけられたとの指摘がある。むべなるかな。

<http://kamnavi.jp/en/higasi/oomika.htm>

淤能碁呂・礮礮慮。(央心・央凝)。

央心。中心。核心。本源。<http://gejirin.com/src/O/onokoro.html>

中央部。中国。 都。中央政府。 核。源。種。凝縮。 実心。真心。

核心の影響力がつくるシステム・調和・秩序。(太陽の重力がまとめる太陽系みたいなもの。)

国家主権の及ぶ地域。国土。

央(心)の凝り。心の結実。思いの実現。

オノコロという名前は「ホオコホ」という音が訛ったものだともいう。

二神はうきはしに立ち、天(中央政府)から授けられた経と矛を用いて、退廃した日本に秩序と調和を復興しようと試みる。その努力の結晶(ホコの雫)がオノコロであり、二神はそれを国家再生の中心基地とする。その場所はオキツの宮に同じ。そこに八紘殿を造り、その御柱を廻ることによって万物を生み、稲作・養蚕の道を教え、ワイタメ(弁別)を回復する。

オノコロは日本(あるいは世界)の縮図に例えられることもある。

オノコロは「エナ(胞衣)」に掛かる。・・・子宮 包一匄＝己(おのれ)

夏帝禹は龍門を開拓して、大夏に通じさせ、九河を切り開き、曲九防決渟水致之... 専(もっぱ)ら天下が己(おのれ)にむかうことを用(もち)いてそれのみであり、これが天下を有するに於いて貴(とうと)ぶところなのである。<http://blogs.yahoo.co.jp/mirobii/25006370.html>

手持臣虜之作哉此不肖人之所勉也

手(て)は家来の甬(土を掘り返す道具 作＝甬?)を持(も)つことを欲つすることだろうか。こ

れらは不肖（ふしょう）の人の勉（つと）めるところであり、
甬（土を掘り返す道具 作＝甬？）を持（も）つことを欲つすることだろうか。

由

> 隗の原字はタイという音をあらわすとともに、塊の原字でもあって、クイ ということばをあらわす。
後者のクイ系統のことばは、堆積やかたまり、つまり、「まるい、めぐる、とり巻く」などの意味を
あらわす。たとえば、帷（まわりをとり巻く幕）匯（うずまき） ...

> 塊の原字 由

> 由は〔説文解字〕に「?（つちくれ）なり」とあり、つき固めた土のこと。経籍では塊字の方がよく
用いられている。蕢・蒯と通用する。塊は愧と通じて、ひとりのさま、という意味

...<http://dic.nicomoba.jp/k/a/%E5%A1%8A>

> 由は土+口の会意。

己（おのれ）

專用天下適己而已矣此所貴於有天下也

専（もっぱ）ら天下が己（おのれ）にむかうことを用（もち）いてそれのみであり、これが天下を有
するに於いて貴（とうと）ぶところなのである。

己 おのれ＝禹 鋤を手にとり <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2618>

Re: 昨日の中国の地震は、ロシアとインドを記念 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 27 日(土)02
時 27 分 0 秒 返信・引用

> No.1653[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> ねこさんへのお返事です。

>

> ねこさん、この掲示板は SF、予言掲示板ではないぞ。

>

> この掲示板にはあなたのスペースはありませんな。

>

>

>> 昨日の中国の地震は、ロシアとインドを記念

>>

>> 二カ国を祝福しながら、同時に他国をいじめる。
>> これは幸福度を高める陰謀の特徴だ。
>> 普通の人間にはこういった感情は想像もつかない。
>> 今日、日本とロシア、そして日本とインドの関係は、ただ事ではない。
>> (仮説を含む)
>

ま、古代史関連なら何書き込んでもいいですよ。自由にやりましょう・
ただ「十戒」に反するのは、こちらで勝手に削除します。

Re: ヤマト 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 25 日(木)23 時 14 分 46 秒 返信・引用
> No.1658[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。
>
>> 「馭慮嶋爲胞」の「胞」が、子宮の意味でした。
>
> え 【▽胞】 「胞衣荒神」 「塞の神」といえば「同祖神？」
> 胎盤。胞衣(えな)。 <http://www.weblio.jp/content/%E8%83%9E>
> 「同じーにして双(ふたご)に生(あ)れませり/日本書紀（景行訓）」
> 同じ胞・・・同胞・・・同邦？
>
> 、「同邦」は「同胞」 <http://duan.exblog.jp/6694992/>
> 皆様のご教示をお願いします。
>

なるほど「一日に同じ胞（え）にして双に（ふたご）に生れ（あれ）ませり」は、重要ですね。
大碓と小碓（ヤマトタケル）の双子が産まれたときの記載です。

そうすると、先のオノゴロ島からの国産み記載と、上記海人族系の王族のそれとで、漢字用法が同じ系統ということがわかってきますね。

「馭慮嶋爲胞」の「胞」

Re: ヤマト 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 25 日(木)10 時 47 分 58 秒 返信・引用
> No.1657[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 「馭慮嶋爲胞」の「胞」が、子宮の意味でした。

え 【▽胞】 「胞衣荒神」 「塞の神」といえば「同祖神？」
胎盤。胞衣(えな)。 <http://www.weblio.jp/content/%E8%83%9E>
「同じ一にして双(ふたご)に生(あ)れませり/日本書紀（景行訓）」
同じ胞・・・同胞・・・同邦？

、「同邦」は「同胞」 <http://duan.exblog.jp/6694992/>
皆さんのご教示をお願いします。

秦河勝の霊体は「胞衣荒神」となって猛威をふるった。
...<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/enasinko.html>

金春禅竹はそれこそが、秦河勝が宿神であり、荒神であり、胞衣であることの、まぎれもない証拠であると書いたのである。

坂越と書かれている地名は、当地では「シャクシ」と発音されていた。もちろんこれはシャグジにちがいない。この地名が中部や関東の各地に、地名や神社の名前として残っているミシャグチの神と同じところから出ていることは、すでに柳田国男が『石神問答』の冒頭に指摘しているとおりで、「シャグジ」の音で表現されるなにかの霊威をもったものへの「野生の思考」が、かつてこの列島のきわめて広範囲にわたって、熱心におこなわれていたことの痕跡をしめしている。

各地に残る「賽の神」も縄文時代から連綿と続く信仰であり、石棒信仰や丸石信仰、あるいは胞衣（えな）信仰と同じ系統のものである。それは、近年に至って、いろいろと変型して道祖神や賽の神の誕生に連なっている。それら全体を私は「和のスピリット」と呼びたいのだが、如何なものであろうか。「和のスピリット」の源流に・・・石棒信仰や丸石信仰、あるいは胞衣（しんこう）がある。

「賽の神」

「塞」とか「烏孫」

> 黄金文化を持つイラン系サルマタイ人、シルクロード交易商人で仏教徒のソグド人もスキタイの末裔である。

中国では「塞」とか「烏孫」の名で呼んだ。この部族の一支流が、アルタイ山脈から敦煌・酒泉を勢力範囲とした「月氏（大月氏）」である。

また、モンゴル草原地帯を勢力範囲とした、アルタイ系の匈奴族、ツングース族の鮮卑族、朝鮮半島北側の烏桓族、トルコ系の突厥族などもスキタイ系民族の末裔だった。

なおサカは京都の八坂神社の語源ともいわれている。

賽 塞

異教の偶像礼拝者へと身を落としたダン族 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

垂示の道 風水戦争 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re: ヤマト 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 24 日(水)22 時 21 分 24 秒 返信・引用 編集済
> No.1655[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> > 碓（土盛）＝石（神）＋隹

>

> 碓は **kucchi** 「胎」であり、それが語頭音消失によって「ウス」と発音されたことが知れるのである。
なお、臼や碓を意味するパーリ語は **udukkhala** で、ウスという日本語はその語尾消失(apocope) に対

応している可能性もあるが、kucchi もまたウスと ...

> 子宮

> 「土堤」

> 紅臼山とは?隠語辞典。読み方：べにうすざん、べにうすやま女陰の上部、即ち陰阜を云ふ。

<http://www.weblio.jp/content/%E7%B4%85%E8%87%BC%E5%B1%B1>

> うす【臼／×碓】[.http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/18716/m0u/](http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/18716/m0u/)

> 穀物を精白したり、粉にしたり、餅(もち)をついたりする道具。つき臼とひき臼とがある。

> 臼から杵

>

>

碓と子宮の関係はちょっと興味深いですね。碓はそうすると、元々は道具としての碓ではなく、その盛り上がったものがへこんで中が空洞になったような構造を示す語だったということでしょうか。カルデラ、盆地の形状にもあたはまりそうですね。

大碓（タイ）尊で、大きな盆地状の地域を示し、「シャビタイ＝邪靡堆」で、大（アビ）＋タイですね。
＝大彦で景行天皇（大帯彦）＝阿倍氏の祖。

日本の大王のことを後代「阿每（アバイ）」というのも、ちょっと関係ありそうです。

タイ（碓・堆）で、王に関する意味はないでしょうか。天皇名につく「帯」がタラシで、タイにちかいですね。

「タイ」音は、遊牧民系の国とか民族を象徴する語ですね。

サウロマタイ、スキタイ、アオルサイ、イキュウタイ、レン台、邪頭バイ、ヤマタイ。

あと、先日お話した、「馭慮嶋爲胞」の「胞」が、子宮の意味でした。

日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 原文】一書曰以馭慮嶋爲胞生淡路洲次大日本豊秋津洲次伊豫二名洲次筑紫洲次吉備子洲次雙生億岐洲與佐度洲次越洲【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 読み下し】

碓【選民】 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 24 日(水)21 時 56 分 6 秒 返信・引用

碓【選民】 ミト達(領民) 臼(選んだ民) から 杵(キネ) 「ねたみ」

「キネアー」(???????)で、「熱心、熱愛、熱意、熱情、ねたみ」を意味します。

「ねたむ」を意味する動詞の「カーナー」(?????)から由来しています。

旧約における神の「憤り、激怒、憤怒」(「ヘーマー」?????)は、神の「熱心、熱意、熱情、ねたみ」(「キネアー」???????)と表裏一体です。キネアーの中にある「ねたみ」は、人を(選んだ民を)深く愛するがゆえに、その不誠実さに対して起こる強い否定感情です。聖書の神はこのような情動表現を通してご自身のかかわりの愛の強さを表わされます。

Re: ヤマト 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 24 日(水)21 時 44 分 44 秒 返信・引用

> No.1651[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> それで、なぜ「碓」と彼らのことを呼んだのか？が課題になりますね。

>

碓 ウス(土盛?台・胎) うす【臼/×碓】 からの垂直線

ギリシア語ピュラミス pyramis に由来するが、その語源については古代エジプト語の幾何学用語ペル・エム・ウス per-em-us(〈ウスからの垂直線〉の意)、あるいは形が似たギリシアの菓子の名に基づくなど諸説があつて確定できない。<http://kotobank.jp/word/%E3%83%94%E3%83%A9%E3%83%9F%E3%83%83%E3%83%89>

初期は小石を積んだ古墳でしたが、徐々に大きくなり、あの独特な形も人間が再生するのを助ける力があるとして、王墓であると考えられてきました。しかし後世のピラミッドからは遺体は出てこなく、近年は異なる説も出てきて、今もなお史上最大級の謎の建物なのです。

古代エジプト語の幾何学用語ペル・エム・ウス per-em-us(〈ウスからの垂直線〉の意),

垂直

ウス

1 ガウスは、磁束の方向に垂直な面の1平方センチメートル(cm²)につき1 マクスウェル(Mx)の磁束密度と定義されている。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AC%E3%82%A6%E3%82%B9>

一般にはガウスは「磁石の強さ」を表す単位として広く知られていた。

>碓（土盛）＝石（神）＋隼

碓は **kucchi** 「胎」であり、それが語頭音消失によって「ウス」と発音されたことが知れるのである。
なお、臼や碓を意味するパーリ語は **udukkhala** で、ウスという日本語はその語尾消失(apocope) に対応している可能性もあるが、**kucchi** もまたウスと ...

子宮

「土堤」

紅白山とは?隠語辞典。読み方：べにうすざん、べにうすやま女陰の上部、即ち陰阜を云ふ。

<http://www.webl.io.jp/content/%E7%B4%85%E8%87%BC%E5%B1%B1>

うす【臼／×碓】<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/18716/m0u/>

穀物を精白したり、粉にしたり、餅(もち)をついたりする道具。つき臼とひき臼とがある。

臼から杵

Re: ヤマト 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 23 日(火)11 時 23 分 50 秒 返信・引用

> No.1651[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

靈魂、サルスベリの木、脱皮、蝶、蛇、蛙、蟬、3 月 3 日の三角形。

>全体的には「シャビタイ国」とか「邪馬台国」の発音に近くなる。

「シャビタイ国」

「チャビ」 なんですか？ - Yahoo!知恵袋

通常、日本でスペイン語と言うと、このカスティーリャ系統の言語を指しますから、多くの場合で【シャビ】と発音します。スペインと言う表現自体が【エスパーニャ】が語源です。これが、カタルーニャ地方に行くと、【Xa】を【チャ】に近い発音をする ...

【チャビ】語源：バスクの土地の名前 Etxaberri、意味は “新しい家”、<http://favotter.net/status.php?id=184935856241524736>

【ダヴィド・ビジャ】語源：David（ヘブライ語）「愛されている」の意味

脱皮、蝶、蛇、蛙、蟬

脱皮

ハビリ 再生

シャビ 脱皮 再生 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

Re: 昨日の中国の地震は、ロシアとインドを記念 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 23 日
(火)07 時 03 分 6 秒 返信・引用

> No.1652[元記事へ]

ねこさんへのお返事です。

ねこさん、この掲示板は SF、予言掲示板ではないぞ。

この掲示板にはあなたのスペースはありませんな。

> 昨日の中国の地震は、ロシアとインドを記念

>

> 二カ国を祝福しながら、同時に他国をいじめる。

> これは幸福度を高める陰謀の特徴だ。

> 普通の人間にはこういった感情は想像もつかない。

> 今日、日本とロシア、そして日本とインドの関係は、ただ事ではない。

> (仮説を含む)

昨日の中国の地震は、ロシアとインドを記念 投稿者：ねこ 投稿日：2013 年 7 月 23 日(火)02 時 35
分 14 秒 返信・引用

昨日の中国の地震は、ロシアとインドを記念

http://book.geocities.jp/japan_conspiracy/0202/p002.html#page117

<http://book.geocities.jp/conspiracycalendar/02/d/07/0722.html>

<http://book.geocities.jp/conspiracycalendar/02/Y01/jre020.html#0722>

二カ国を祝福しながら、同時に他国をいじめる。

これは幸福度を高める陰謀の特徴だ。

普通の人間にはこういった感情は想像もつかない。

今日、日本とロシア、そして日本とインドの関係は、ただ事ではない。

(仮説を含む)

(<http://park.geocities.jp/jpcdebate/0103/p038.html>)

Re: ヤマト 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 23 日(火)02 時 01 分 23 秒 返信・引用

> No.1650[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 碓日峠

> 碓 (タイ)

> 邪靡堆 泰時さかい <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3046>

> 土を盛った状態・・・古墳 胎 タイ 台 クイ 区異・・・境杭？

> 佳の字に「土」をつけると、堆積（たいせき）の堆の字となる。ずんぐりと土を盛った状態を表し、下太りにしまった土盛りのことである。

> このように、およそ「佳」を含む字はすべて、ずんぐりして、小太りにしまった形をしているという意味を含んでいる。

>

> 𡗗は土+口（目標）・・・凸、凹

> 土=至一云 「矢が下方に進むさま+横線」の会意文字で、矢が目標戦までとどくさまを示す。

>

> 佳の原字はタイという音をあらわすとともに、塊の原字でもあって、クイということばをあらわす。後者のクイ系統のことばは、堆積やかたまり、つまり、「まるい、めぐる、とり巻く」などの意味をあらわす。たとえば、帷（まわりをとり巻く幕）匯（うずまき） ...

情報ありがとうございます。

なかなか判断しにくいですね。

碓の由来ですが、まず大碓と小碓は、つまり、先日お話したように「大彦」とその息子「武ヌテ河別」の関係で、さらにいえば「大帯彦（景行天皇）」と息子「倭武」の関係になります。しばしば親子ではなく兄弟ともみなされます。

したがって、大碓の大は「大彦」の「大」に由来するものでしょう。その息子だから「小」碓になった。

伝承的には、仁賢・顕宗兄弟の話ともかかわってきますが、ともあれ、南方海人系の4世紀前半の王朝を象徴した2人の人物となるわけです。

それで、なぜ「碓」と彼らのことを呼んだのか？が課題になりますね。

彼らは、先日お話ししたとおり、南方系の勢力を味方につけて、大和に入り、佐紀楯列古墳群あたりに海人系の遺物を残していきます。

4世紀代の大和地域は、この大彦と息子の時代だったわけです。その後、4世紀後半から渡来系の武内宿根、応神といった集団が大和に入ってくるわけですが、しばらく大和に入るのを足止めされるんですね。その際に、彼らは大和地域の海人系国家をそのまま「倭」と読んでいて、天日矛やツヌガアラシトの伝承にみられるように、北部の但馬方面にまで手を拡げていく。但馬守。

それで、「倭国の東北千里」に但馬国があるとして、倭つまり河内・難波からみて東北の丹波方面に彼らの拠点が伸びており、そのときに大和にかけての地域について、彼らは「倭」と呼び、自分たちの瀬戸内方面は違う呼び方をしていたのかもしれませんが。半島系勢力の呼び名で読んでいたはずです。

それで、半島系勢力の伝承では、倭＝河内＋大和だったものが、受け継がれて、倭＝大和なってしまったのでしょうか。

倭＝大和に籠っていた海人系勢力の主は、つまり大彦と息子の倭武だったわけですが、元々は倭の勢力範囲は九州まで伸びていたはずですが。しかし半島系が強くなって東へと押されていったので、倭の領域も畿内以东へと変化していた。

そのころの様子を描いた記録が、北史の倭国記載で、邪比堆に都すという記載になるわけですね。

そこで大碓の碓が、何を示していたかですが、大彦＝飯入根であることも、以前お話ししたとおりで、「オオ」の発音で一致していくのですが、出雲振根との対立関係もありました。

これは、出雲健を、小碓（倭武）が殺す話と関係してきます。大彦・武ヌテ河親子の関連記載なんです。

出雲大社はもともと杵筑大社で、出雲振根は、やはり筑紫国に領土をもっています。大彦系なのですが、大分に臼杵という地名があります。

出雲国造の末裔である出雲大社宮司家の千家(せんげ)家では、その世継の神器として熊野大社から燧白（ヒキリウス）・燧杵（ヒキリキネ）を拝受してます。

ここにひとつの碓とか杵を象徴とする集団の影響があつて、間接的に大彦つまり景行（大帯彦）と息子倭武の関係してくる可能性を感じます。

そうすると、大碓を継承した小碓は、全国を征伐するのですが、ともあれ、この親子を碓と見なす理由のひとつに、出雲系の伝承の影響もあつたのかもしれない。

碓氷峠の話も、ヤマトタケルに氷を降らした岐阜方面の神信仰と関係しているとする、碓日としている系統と、碓氷としている系統の伝承があつて、少し内容が異なっていたはず。日高見国関係の伝承とは別か。

ともあれ、碓に氷を降らすという意味で、小碓を碓と見なす。

小碓は、武ヌテ河で、彼らは会津で親子また合流するわけです。

武ヌテ河は吉備とも関わり、開拓伝承とともに、尾張、鳥トーテムで仁徳とも関わってくる。

それで、邪ビ堆の「堆」が、この「碓」と関わるかどうかですが、やはり十分な証拠が出てこないですね。

難しい。指している相手は、当時の邪馬台国＝大彦・大和タケル親子の領地なのですが、何かもうひとつ資料が必要ですね。秦野さん紹介の下記の記録は注目です。

『新唐書』日本伝

彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次曰綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次孝靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。

神武親子の伝承というのは、つまり先日お話したとおり、大彦系の南方系集団の伝承を引用して造り出された伝承で、「徙治大和州。」は、ある時期に「大倭」から「大和」に転換して、「日本」にさらに転換する前の記録とも言えそうです。

それで、その文献をみながら、中国人が「大和州」と記しているわけですね。6世紀ごろかな。

まだこの当時、大和で日本全体を意味していなかったはずです。あくまで本州もしくは、その一部のこと。

大和州と対立するのが、九州、夷州、秦王国、越州・・・。再度下記を読み返して行くと、

『隋書』倭国伝

倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國、三十餘國、皆自稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。都於邪靡堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與儋耳相近。

唐書の日本伝よりは、隋書の倭国伝のほうが古い。

このときには、「大和州」に移動して治めたとはいわずに、「都於邪靡堆」というわけです。

この時点では、東征伝承を知らない。

「邪靡堆（シャビタイ）」の地名に関する音表記が残っていて、それがしばらくたつと「大和（ヤマト）」と表記しはじめる。

邪靡堆が、中国人が音で聴いてそれを漢字にしたものか、倭人が漢字でそう提出したかが課題ですが、前者の可能性がありそうですね。それで其の音が魏志倭人伝の「邪馬台」に似ているので、そう記載したのかもしれませんが。

「邪馬」に「大」の意味があれば解決するはずなんですよ。

「大彦」のことを、「アビヒコ・アベヒコ」というんですね。阿倍（アバイ）氏になる。「オオ」ではなくて、正確には「アフ」「吾（ア）」とか、楽浪・半島南部系のカヤ・秦韓集団の呼称にも関係してきます。

だから、「アバイヒコ」で、同様に彼らの南方海人＋カヤ系集団の呼称では、「大和」は「アバイ」とかなって、全体的には「シャビタイ国」とか「邪馬台国」の発音に近くなる。

ところが、最後にやってきて天智系のバックボーンとなった北朝系の新漢人の読みでは、「大和」は「タイカオ」で「大化」とかに近くなるんですよね。

なんか、その辺の集団同士で同じ国名を、いろいろ違う読み方で呼んでいたのが、そのまま第三者の中国路の耳なり目にはいつて、だんだんそうになっていったんじゃないでしょうか。

Re: ヤマト 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 22 日(月)11 時 14 分 27 秒 返信・引用
> No.1649[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>小碓は、ヤマトタケル、兄弟の大碓は、美濃の逃げています。つまり奈良盆地と尾張平野との対比。
>その大碓地域の東境界が、もしかすると碓日峠だったのではないのでしょうか。日高見国と碓（タイ）との境界??

碓日峠

碓（タイ）

邪摩堆 泰時さかい <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3046>

土を盛った状態・・・古墳 胎 タイ 台 クイ 区異・・・境杭？

佳の字に「土」をつけると、堆積（たいせき）の堆の字となる。ずんぐりと土を盛った状態を表し、下太りにしまった土盛りのことである。

このように、およそ「佳」を含む字はすべて、ずんぐりして、小太りにしまった形をしているという意味を含んでいる。

由は土+凵（目標）・・・凸、凹

土=至一云 「矢が下方に進むさま+横線」の会意文字で、矢が目標戦までとどくさまを示す。

佳の原字はタイという音をあらわすとともに、塊の原字でもあって、クイということばをあらわす。後者のクイ系統のことばは、堆積やかたまり、つまり、「まるい、めぐる、とり巻く」などの意味をあらわす。たとえば、帷（まわりをとり巻く幕）匯（うずまき）...

塊の原字 由

由は〔説文解字〕に「?（つちくれ）なり」とあり、つき固めた土のこと。経籍では塊字の方がよく用いられている。賁・蒯と通用する。塊は傀と通じて、ひとりのさま、という意味

...<http://dic.nicomoba.jp/k/a/%E5%A1%8A>

由は土+凵の会意。

「函・函＝カン、ゴン、はこ」「冂・カン」があり 土あな、方形 の底の深い函の象であるという。冂を部首とする字に「凶・由（カイ）・凸、凹」などがある。<http://asobimozi.exblog.jp/page/41/>

画 手に筆を持って区切るさまをあらわした会意文字で、ある面積を区切って区画を記すこと

<http://www.harakin.net/education/kanji/kanji.htm>

区 古くは區と書いた。「コの反対向き＋狭い口三つ」の会意文字で、こまごまして狭い区画を区切るさま。

由 酒や汁をぬきだす口のついたつぼを描いた象形文字で、ある事柄が生じた理由の意となる。

・・・凸、凹

時 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>>

>> 大和州＝邪靡堆＝邪馬臺で、奈良に大和三山、堆がありますな。

>>

>>> 山地の堆の部分に都があるのだと言っているわけです。これが「碓（ウス）」の部分を示すのであれば、つまり奈良のような盆地とか、阿蘇山カルデラのような山に囲まれた盆地の中に都があるという意味で解釈できるかもしれません。

>

>

> 碓日は、そういう意味で捉えると、日という領域の境界、その地形が碓＝堆（山に囲まれた土地）という感じではないでしょうか。

>

>

> 小碓は、ヤマトタケル、兄弟の大碓は、美濃の逃げています。つまり奈良盆地と尾張平野との対比。

>

> その大碓地域の東境界が、もしかすると碓日峠だったのではないのでしょうか。日高見国と碓（タイ）との境界??

>

Re: ヤマト 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 22 日(月)00 時 14 分 0 秒 返信・引用

> No.1646[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> その国(倭国)の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程が、神武天皇 2 年、功を定め、・・・。

> の功と思われるな。大和の首都が倭国に在った模様。首都名：大和州＝邪靡堆＝邪馬臺

>

> 何か卑弥呼さん事情があるな、これが問題で、ヤマトタケルの登場ですな。

>

> 大和州＝邪靡堆＝邪馬臺で、奈良に大和三山、堆がありますな。

>

>> 山地の堆の部分に都があるのだと言っているわけです。これが「碓（ウス）」の部分を示すとすれば、つまり奈良のような盆地とか、阿蘇山カルデラのような山に囲まれた盆地の中に都があるという意味で解釈できるかもしれません。

>

> 『新唐書』日本伝には、大和州に移って統治する。ですな。

>

> 『隋書』倭国伝には、都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。ですな。

>

問題はヤマトタケルのヤマトが、別名の小碓の碓（タイ）にどうかかるかです。

ヤマトタケル関連の地名に、碓日峠があります。

かつての倭と、蝦夷？の境界線です。

古来より坂東と信濃国をつなぐ道として使われてきたが、難所としても有名であった。この碓氷坂および駿河・相模国境の足柄坂より東の地域を坂東と呼んだ。『日本書紀』景行紀には、日本武尊（ヤマトタケル）が坂東平定から帰還する際に碓氷坂（碓日坂）にて、安房沖で入水した妻の弟橘媛をしのんで「吾妻（あづま）はや」とうたったとある。なお『古事記』ではこれが足柄坂だったとされ、どちらが正しいかという論争が存在する[9]<https://ja.wikipedia.org/wiki/碓氷峠>

ここで、碓（タイ）と日とが関係してきます。邪馬台国と倭と日本との関係。

ご引用の隋書倭国伝に、東高西低の記載があります。つまり東を高地としているわけです。おそらく碓氷峠や足柄坂より東に坂東まで領域が伸びてない時代の記載ですね。後に天智ごろになってようやく常陸がはいつてきます。

『隋書』倭国伝

倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國、三十餘國、皆自稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。都於邪靡堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與儋耳相近。

碓日は、そういう意味で捉えると、日という領域の境界、その地形が碓＝堆（山に囲まれた土地）という感じではないでしょうか。

小碓は、ヤマトタケル、兄弟の大碓は、美濃の逃げています。つまり奈良盆地と尾張平野との対比。

その大碓地域の東境界が、もしかすると碓日峠だったのではないのでしょうか。日高見国と碓（タイ）との境界？？

そして、天智ごろに九州日田（日高見）や、近江・中部（穂高見）、関東常陸（日高見）勢力を味方にした新漢人集団のいわゆる日本国が倭に進出していくわけですね。

Re: ヤマト 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 21 日(日)18 時 28 分 35 秒 返信・引用 編集済
> No.1645[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

その国(倭国)の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程が、神武天皇2年、功を定め、・・・。
の功と思われるな。大和の首都が倭国に在った模様。首都名：大和州＝邪靡堆＝邪馬臺

何か卑弥呼さん事情があるな、これが問題で、ヤマトタケルの登場ですな。

大和州＝邪靡堆＝邪馬臺で、奈良に大和三山、堆がありますな。

> 山地の堆の部分に都があるのだと言っているわけです。これが「碓（ウス）」の部分を示すとすれば、つまり奈良のような盆地とか、阿蘇山カルデラのような山に囲まれた盆地の中に都があるという意味で解釈できるかもしれません。

『新唐書』日本伝には、大和州に移って統治する。ですな。

『隋書』倭国伝には、都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。ですな。

その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程は魏志倭人伝に一カ月の距離があるな。

神武天皇2年、功を定め、道臣命は築坂邑に大来目を畝傍山の西に居住させ、椎根津彦を倭国造に、弟猾を猛田邑の県主、

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E5%A4%A9%E7%9A%87>

南に水行10日と陸行1月で女王の都のある邪馬台国に至る（「南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日陸行一月」）。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳鞮があり、推計7万余戸。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

『新唐書』日本伝

彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次曰綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次孝靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。

彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は綏靖、次は安寧、次は懿德、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、次は崇神、次は垂仁、次は景行、次は成務、次は仲哀という。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintoshoh.htm>

『隋書』倭国伝

倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國、三十餘國、皆自

稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。都於邪靡堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與儋耳相近。

倭国は、百済や新羅の東南に在り、水陸を越えること三千里、大海中の山島に依って居する。三国魏の時代、通訳を伴って中国と通じたのは三十余国。皆が王を自称した。東夷の人は里数（距離）を知らない、ただ日を以って計っている。

その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。その地形は東高西低。都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。古伝承では楽浪郡の境および帯方郡から一万二千里、会稽の東に在り、儋耳と相似するという。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

Re: ヤマト 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 21 日(日)02 時 41 分 18 秒 返信・引用 編集済
> No.1644[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> ヤマ(双子) 戸 ユダ族 レビ族 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

> オオウスノミコト. 大碓命 = ヤマトタケルの双子（ふたご）の兄.<http://www15.plala.or.jp/kojiki/yamatotakeru/yamatotakeru.html>

> クマソタケルの征伐（ヤマトタケルの名の由来）http://www15.plala.or.jp/kojiki/yamatotakeru/yamatotakeru_02.html

> 瓜

> 瓢箪（2）. [ウリ目・うり科・ヒョウタン属].

確かにヤマトタケルの表記をみると、倭武、日本武で、倭＝ヤマトで解釈しているんですね。

熊襲武は、つまりクマソの領域で、ヤマト＝倭の領域ではないとしているわけです。

『日本書紀』、『先代旧事本紀』では日本武尊、『古事記』では倭建命と書き、またの名を日本童男・倭男具那命（やまとをぐな）ともいった。また、『尾張国風土記』逸文と『古語拾遺』では日本武命、『常陸国風土記』では倭武天皇、『阿波国風土記』逸文では倭健天皇（または倭健天皇命）と書く[2]。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/ヤマトタケル>

日本は天智以降の表記で、それ以前は倭もしくは大倭・大和。近畿か吉備、北九州の大和地域を示したもので、南九州の熊襲領域と対峙していたのでしょう。

これ、おそらく邪馬（シャマ）と、熊（ク・キュウマ）は、対立する語ですね。

南九州に行くほど、ク・キュウ音が多くなります。クヌ国、宮崎・児湯郡、クウ臣国とか琉球など。

ヤマトタケルのことを、小碓と言ってますね。兄弟に大碓がいます。母は播磨系で先の小豆島とイザナギ神話と関係するか。

碓は「タイ」音。

確かに「邪馬」「熊」の並び立つ「碓」（タイ）と捉えれば、あるいは「ヤマタイ」の音意も理解できるかもしれませんが、要するに隋書とか北史では、「堆」（タイ）だと指摘しているわけですね。

山地の堆の部分に都があるのだと言っているわけです。これが「碓（ウス）」の部分を示すとすれば、つまり奈良のような盆地とか、阿蘇山カルデラのような山に囲まれた盆地の中に都があるという意味で解釈できるかもしれません。

この辺の漢字の意味と読みが課題ですね。

Re: ヤマト 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 20 日(土)11 時 45 分 38 秒 返信・引用
> No.1642[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

ヤマ(双子) 戸 ユダ族 レビ族 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

オオウスノミコト. 大碓命 = ヤマトタケルの双子（ふたご）の
兄.<http://www15.plala.or.jp/kojiki/yamatotakeru/yamatotakeru.html>
クマソタケルの征伐（ヤマトタケルの名の由
来）http://www15.plala.or.jp/kojiki/yamatotakeru/yamatotakeru_02.html
瓜

瓢箪（２）．[ウリ目・うり科・ヒョウタン属]．

双子塚古墳と呼ばれていたものです。高さ二間（約 3.6 m）、面積が三畝（約 300 平方メートル）の瓢箪形をした塚であったと言い伝えられています。この瓢箪形という形から前方後円墳の可能性が高いようです。<http://www.city.kawachinagano.lg.jp/static/kakuka/kyousha/history-hp/bunkazai/sanpo/rekishi/kofun/kofun5.htm>

双子塚古墳のある同じ岩原大地の北側絶壁には、100 基以上の横穴があります。まるで 神秘の国へ導いてくれる入り口でもあるかのようにぼっかりと口を開けて並んでいます。

<http://www.geocities.jp/bicdenki/newpage52.htm>

双子塚古墳を中心に、周りに 9 基の円墳

9 基の円墳

10 支族の行方は文書に残されていないため、2 部族によって「失われた 10 支族」と呼ばれた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E3%83%A6%E5%90%8C%E7%A5%96%E8%AB%96>

エズラ書第 4 書（第 2 書とも呼ばれる）13:39～では、「幻に現れたその群集は…九つの部族であった（写本によって、九部族/九部族半/十部族と異なる）。彼らは異教徒の群れを離れ、先祖がいまだかつて住んだことのない土地に行き、自国で守ることのできなかった規則をせめて守るようにとの計画を互いに持ち合って、さらに遠くの国へ向かった。……それはアルザレト（もうひとつの土地あるいは果ての地）という地方であった。彼らは最後までそこに住み…」とされている。

自国で守ることのできなかった規則をせめて守るようにとの計画

規則

戒(いましめ)

「戒」は[戈]+[井]の会意字 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/181>

戒(いましめ)戒(えびす)この二つの文字について - Yahoo!知恵袋

「戒」は[戈]+[井]の会意字です。... zd/zi/ZdicE7Zdic94ZdicB2.htm [字源字形] 甲骨文・金文では[+]の形だったのが、小篆(『説文解字』という最古の完備した字書の見出し字体)でがらりと違う字体に変わっていますね。...

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1135304166

「戈」は“ほこ”ですね。

アメノヒボコ（天之日矛、天日槍）は、『古事記』、『日本書紀』に見える新羅の王子。『播磨国風土記』には神として登場する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%8E%E3%83%92%E3%83%9C%E3%82%B3>

アメノヒボコは新羅の王家、朴氏、昔氏、瓠公との関連の可能性があるとする説もある。（新羅王族であった昔氏は、倭の但馬地域から新羅に渡り王となったとされており。新羅王族であるアメノヒボコは但馬・出石に定着した。ただし、昔氏のもともといた場所についてはこの他に日本の東北、丹波等が上げられている。）

>

> この「山戸」の発音が「ヤマト」

>

。

Re: ヤマト 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 20 日(土)01 時 17 分 30 秒 返信・引用 編集済
> No.1642[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

どうも、大日本豊秋津洲の意味が読めないようだな。大日本豊秋津洲が解ければ、マキムク式古墳は理解できるかも・・・。

大日本豊秋津洲はアメノトコタチ（天之常立神）の国だな。

天之常立神、天は高天原（たかまがはら）。常立は常陸（ひたち）まとめると

常立之天：（ひたちのてんし）

常陸国（ひたちのくに）は、日本のかつての行政単位だった国の一つで、東海道の最遠、関東地方の東北端に位置する。常州（じょうしゅう）と呼ぶこともある。『延喜式』での格は大国、遠国。親王任国でもある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E4%B9%8B%E5%B8%B8%E7%AB%8B%E7%A5%9E>

奈良県立橿原考古学研究所の寺沢薫は、1988 年（昭和 63 年）、奈良県桜井市の纏向遺跡に所在する纏向石塚古墳や纏向矢塚古墳、千葉縣市原市の神門古墳群中の神門（ごうど）4 号墳・5 号墳、福岡県小郡市の津古生掛古墳など墳丘形状が前方後円形をとる墳丘墓を「纏向型前方後円墳」として抽出し、これらの墳墓が箸墓古墳や椿井大塚山古墳に代表される定型化した前方後円墳の成立以前および成立期に、「初期ヤマト政権の中枢たる纏向遺跡との政治的、祭祀的關係のもとに成立した」との見解を示した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BA%92%E5%90%91%E5%9E%8B%E5%89%8D%E6%96%B9%E5%BE%8C%E5%86%86%E5%A2%B3>

邪馬臺は呉音で音は失われ、漢字から音を探すのは不可ですな。

はて、文章から「邪靡堆=邪馬臺」だな。発音は関東の語尾を上げる読み、関西の語尾を下げる読みの差だな。

> 隋書：「其の地勢は東高西下、邪靡堆に都す、則ち『魏志』に云うところの邪馬臺なり」（原文＝邪靡堆則魏志所謂邪馬臺者也）

http://www.21ccs.jp/soso/gyakujun/gyakujijunji_14.html

Re: ヤマト 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 19 日(金)23 時 04 分 46 秒 返信・引用 編集済
> No.1641[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 問題はヤマトの言葉が存在している事だな。また、中国史籍、魏志倭人伝の誤記説。

> どちらも、矛盾なく読み解く事ができなく、陥ったと理解する・・・。

> 結論は間違いを認められず深みに嵌っているな。

>

>>> 邪靡堆（ヤマタイ）yamadui の堆 dui の発音に注目すると、

>>>

>>> 邪靡堆（ヤマタイ）yamadui 邪馬臺

>>> 前に d を強く発音するとヤマトウ yamato （ヤマト）

>>> 後の i 強く発音するとヤマツイ yamayī （ヤマイ）邪馬壹

>>>

>>

邪靡堆は、（呉：ジャミタイ（テ）、漢：シャビタイ）が正解ですね。

原文は下記のとおり。

隋書：「其の地勢は東高西下、邪靡堆に都す、則ち『魏志』に云うところの邪馬臺なり」（原文＝邪靡堆則魏志所謂邪馬臺者也）

『三国志』より後の5世紀に書かれた『後漢書』倭伝では「邪馬臺国」、7世紀の『梁書』倭伝では「邪馬臺国」、7世紀の『隋書』では倭国について「都於邪摩堆 則魏志所謂邪馬臺者也」（魏志にいう邪馬臺）、唐代の『北史』四夷伝では「居于邪摩堆 則魏志所謂邪馬臺者也」となっている。これらの正史は、現存の宋代の『三国志』より古い写本を引用している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/邪馬台国>

「邪馬臺国」の「邪」は「ギ・キ」、キマタイ国

先の「邪摩堆」（シャビタイ・ジャミタイ）が正解なら、組み合わせて「ギビタイ国」

7世紀風にいけば、吉備??

ま、普通に考えると「邪」は「邪」の、「靡」は「摩」の誤写だと思うんですけどね。イザナギ神話の始点は先日のとおり小豆島。吉備児島の南ですね。

前からひと気になっているのは、兵庫県姫路市勝原区山戸の山戸4号墳の存在です。

これが3世紀前半のマキムク式古墳になるわけですね。庄内式でかなり古い。

この「山戸」の発音が「ヤマト」

同じく、庄内式のマキムク型古墳で、岡山県総社市三輪の宮山古墳も、「三輪」の地名をもっていて、いわゆる大和地域の古墳と関係しているわけです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/纏向型前方後円墳>

問題は、大和方面から「三輪・山戸」の地名を、この岡山・姫路方面にもってきたのか？あるいは逆なのか？ですね。

この辺の岡山のマキムク式古墳は、方位ラインでしっかり結ばれていたはずです。

合理的にどちらが古いかもわかってくる。

この辺は、もう少し掘り下げてみてもよいかもしれません。

Re: ヤマト 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 19 日(金)06 時 29 分 23 秒 返信・引用

> No.1639[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

問題はヤマトの言葉が存在している事だな。また、中国史籍、魏志倭人伝の誤記説。

どちらも、矛盾なく読み解く事ができなく、陥ったと理解する・・・。

結論は間違いを認められず深みに嵌っているな。

>

>> ヤマトは難解だが、発音で解決するな。

>>

>> 邪靡堆（ヤマタイ）yamadui の堆 dui の発音に注目すると、

>>

>> 邪靡堆（ヤマタイ）yamadui 邪馬臺

>> 前に d を強く発音するとヤマトウ yamato （ヤマト）

>> 後の i 強く発音するとヤマッイ yamayī （ヤマイ）邪馬壹

>>

>

>

> なるほど、そうすると、やはり先の神武の歌の「大日本」は、「大和」と同じ意味ですね。

> 先に紹介いただいた下記の万葉歌は、舒明天皇の時代のものです。

>

>

> 天皇の、香具山に登りて望国（くにみ）したまひし時の御製歌

>

> 大和（やまと）には 郡山（むらやま）あれど とりよろふ 天（あま）の香具山（かぐやま） 登り立ち 国見（くにみ）をすれば 国原（くにはら）は 煙（けぶり）立つ立つ 海原（うなはら）は 鷗（かまめ）立つ立つ うまし国そ 蜻蛉島（あきづしま） 大和の国は

>

> 卷一（二）

>

> 大和には多くの山があるけれど とりわけ立派な天の香具山 その頂に登って大和の国を見渡せば 土地からはご飯を炊く煙がたくさん立っているよ 池には水鳥たちがたくさん飛び交っているよ ほんとうに美しい国だ この蜻蛉島大和の国は

>

>

> 万葉集巻一の二番目に収録されている、舒明（じょめい）天皇の国見の歌です。

> 天の香具山（あまのかぐやま）は大和三山の一つに数えられ、現在では香久山とも書きます。

> その昔、天から降りてきた山ともいわれる大和で最も格式の高い山です。

>

「邪靡堆に都する」だが文章から随書の時代には過去に存在した・・・だ。

現在は同和地区で農地・・・。魏志倭人伝の伊都国、奴国、・・・、も同様だな。

> 随書の時代では「邪靡堆に都する」で「ヤマタイ」と言ってるわけですね。

> 都するというのは、隋時代の首都が大和地域にあったことによるならば、7世紀初頭の時点で、大和地域をヤマトと呼んでいた可能性がでてきます。

>

> 三国志』より後の5世紀に書かれた『後漢書』倭伝では「邪馬臺国」、7世紀の『梁書』倭伝では「邪馬臺国」、7世紀の『隋書』では倭国について「都於邪靡堆 則魏志所謂邪馬臺者 也」（魏志にいう邪馬臺）、唐代の『北史』四夷伝では「居于邪摩堆 則魏志所謂邪馬臺」

>

>

> ただ、この辺はちょっと即断しにくいところですね。

日本号 投稿者：管理人 投稿日：2013年7月19日(金)04時32分51秒 返信・引用 編集済

追記ですが、先の「虚空見大日本国」という名称は、「日（穂）高見国」と関係がありそうです。

先のとおり、神武紀の「虚空見（コクウミ）大日本国」は、つまり舒明紀の「国見（コクミ）・大和国」のことなのですが、「コクミ」の発音が、そのまま「（日・穂）高見」＝「（ヒ・ホ）コウミ」と対応することがわかります。

以前お話したように「穴穂」「穴日」という語があり、日と穂には、双方相関性があります。

そして「虚空」がまた「穴」にもかかってきますね。

何もない空間、空の意味で、穴日は、その空に浮かぶ日を意味するのですが、ここで先の神武を先導した物部氏の祖・饒速日（ニギハヤヒ）を考えると、饒と穂との間に収穫の豊かさの意味を看とれ

ます。

それでもどって「大和（倭）」と「大日本」の関係ですが、倭・和を日本に置き換えたようにも見えます。

「大和＝タイカオ」で、ニギハヤヒが飛んでいた地域「太虚＝タイキョ」のことなのですが、「大日本」が出てくるのが、おそらく天智朝、つまり「大化（タイカ）」の時代とすると、また相関性が出てきます。

「大和・大日」＝「タイカ」ともなりそうですが、「大日本」は「タイ・ヒ（ホ・カ）モト」となりますから、ここで「カ（ヒ・ホ）モト」が「ヤマト」と類似性がでてきます。

つまり「大日本＝タイ・カモト、カホン」が、「大和＝タイカオ（キョ）」と「ヤマトオ」とに掛かっていた可能性もできます。

音的には「日的」あるいは「矢的」のほうが「ヤマト」に近かったはずですが、ちょうど半島北部から日神信仰をもたらした新漢人の日信仰に関して、その横穴墓に描かれた「日（同心円紋）と的」の影響を感じます。

的（イクハ）臣戸田宿禰というのが、彼ら新漢人等と宮中に入り関係してくるのですが、ここで日置、比企や靱負も関係してきます。

彼らの本拠地が、つまり九州の日田で日高見と呼ばれていたわけですね。高木神の世界です。おそらくコウキ神の可能性が出てくるわけですが、つまり高句麗系です。元は高句麗に入った日神信仰と、景教信仰との融合した観音仏教との兼ね合いを考えているわけですが、そこで虚空の仏教用語も関わってくる。

ともあれ、「大倭（ダイワ）＝（ヤマタイ）」が、「大和（タイカオ）＝（ヤマト）」と変化して、さらに「大日本＝タイカ・モト」として、一体化して最後に「大」が抜けて、「日本＝カモト」となった可能性も一応考慮すべきでしょうか。

それでもうひとつ注目すべきは、先の「浦安国」との日本を示す別称です。

これは「ウラヤスクニ」で解釈されてますが、実際は「フ（ホ）アン」です。

これがやはり「本（ホン）」にかかってくる。

日本についても、日・浦安国とすれば、なんとなく近くなってきましたね。

これが、つまり

「日本者浦安国。」とのことで、ヒ・ホン=ホアンというわけです。

さらに、

「日本者浦安国。細戈千足国。磯輪上秀真国。

秀真国。此云袍図莽句爾。復大己貴大神目之曰。玉牆内国。」

となるわけですが、「秀真国。此云袍図莽句爾」の「ボウズモウ」「ホウトボウ」が、「日本（ヒ（ホ）＋ホン）」のことですね。

あるいは「日＝穂＋本」で「ヒモト・ホモト」

あと「細戈千足国」も、日本列島の細長く、半島がたくさん足にみたいについていることをしめして、ある程度正確な測量地図をもっていたこともわかるのですが、「ホソホコ」も、上記の「ホウ」音と関係してきます。

これが蜻蛉（トンボ＝秋津・アキツ）が交尾して重なって飛んでいて、その羽がたくさんある様子を示し、さらに、千秋万歳の「千秋（長い年月）」へとかかっていくわけです。飛ぶはニギハヤヒの虚空の飛翔の件ともかかっていますね。

Re: ヤマト 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 18 日(木)22 時 31 分 51 秒 返信・引用 編集済
> No.1638[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> ヤマトは難解だが、発音で解決するな。

>

> 邪摩堆（ヤマタイ）yamadui の堆 dui の発音に注目すると、

>

> 邪摩堆（ヤマタイ）yamadui 邪馬臺

> 前に d を強く発音するとヤマトウ yamato （ヤマト）

> 後の i 強く発音するとヤマツイ yamayī （ヤマイ）邪馬壹

>

なるほど、そうすると、やはり先の神武の歌の「大日本」は、「大和」と同じ意味ですね。
先に紹介いただいた下記の万葉歌は、舒明天皇の時代のものです。

天皇の、香具山に登りて望国（くにみ）したまひし時の御製歌

大和（やまと）には 郡山（むらやま）あれど とりよろふ 天（あま）の香具山（かぐやま） 登
り立ち 国見（くにみ）をすれば 国原（くにはら）は 煙（けぶり）立つ立つ 海原（うなはら）
は 鷗（かまめ）立つ立つ うまし国そ 蜻蛉島（あきづしま） 大和の国は

卷一（二）

.....
大和には多くの山があるけれど とりわけ立派な天の香具山 その頂に登って大和の国を見渡せば
土地からはご飯を炊く煙がたくさん立っているよ 池には水鳥たちがたくさん飛び交っているよ ほん
とくに美しい国だ この蜻蛉島大和の国は
.....

万葉集巻一の二番目に収録されている、舒明（じょめい）天皇の国見の歌です。

天の香具山（あまのかぐやま）は大和三山の一つに数えられ、現在では香久山とも書きます。

その昔、天から降りてきた山ともいわれる大和で最も格式の高い山です。

<http://manyou.plabot.michikusa.jp/yamatoniha.html>

もう一度先の神武の歌と比較するとまったく同じ構造になります。

『日本書紀』神武天皇31年4月の条、原文

三十有一年夏四月乙酉朔。皇輿巡幸。因登腋上 口 兼 間丘。

而廻望国状曰。妍哉乎国之獲矣。妍哉・・・此云鞅奈珥夜。雖内木錦之真■国。

猶如蜻蛉之臀 口 占 焉。由是始有秋津洲之号也。

昔伊弉諾尊目此国曰。日本者浦安国。細戈千足国。磯輪上秀真国。

秀真国。此云袍図莽句爾。復大己貴大神目之曰。玉牆内国。

及至饒速日命乘天磐船。而翔行太虚也。睨是郷而降之。

故因目之曰虚空見日本国矣。

おそらく舒明朝の時代以降に、それをもとにして神武の歌が挿入されたか、その逆かということになるでしょう。

「群山」＝「如蜻蛉之臀」「蜻蛉＝秋津（掖上）」「大和＝大日本」「国見」＝「虚空見」

普通にかんがえると、舒明の「大和」のほうが、神武の「大日本」より古いわけです。

おそらく元は「大倭」で、舒明時代には「大和」になって、さらに天智時代ごろに「大日本」となる。

どれも読みはご指摘のとおり「ヤマト」「ヤマタイ」

もともとは、舒明の時代には、天皇が山の上から畿内の大和周辺地域を国見した際に詠んだ歌だったのですが、それが後代、神武伝承となって、「大日本国」つまり列島全体を国見する話に変わったわけですね。

ここで、「大和」も「大日本」になって、読みはダイワ・ヤマトのまま受け継いだのでしょうか。

だから、「大倭」から「大和」にかわり、さらに「大日本」に変わって、その後「大」が抜けて、「日本」になる。

上記だと、「国見大和国」の語が、「虚空見日本国」となっていくわけです。仏教的な虚空の語が使用されてます。

「太虚也。睨是郷而降之。故因目之曰、虚空見日本国」

という部分を見ると

「及至饒速日命乘天磐船。而翔行太虚也。睨是郷而降之。とあるとおり、

これが「太虚（タイコ・キョ）」という地域を睨んで、ニギハヤヒ（日）が降り立ったので、

「故因日之曰虚空見日本国矣。」

それを理由にして、「虚空見日本国」つまり、「国見大和国」であると語るんですね。

「睨む＝見る」で「国見」にかかるわけですが。睨（ゲ・ゲイ）の発音が重要です。

この「太虚（タイコ・キョ）」というのが、装飾前は「大和（ダイワ・タイカ（キョ））」だったのでないでしょうか。

そう考えて行くと、実は「大和」は、北朝寄りの漢音では「タイカオ」と呼んでいた可能性が出てくるわけです。時代は舒明朝前後で、620年～40年代。

舒明天皇は、息長系になり、北朝系の新漢人の影響下にあります。蘇我の旧渡来系とは異なるはずです。この天皇名は「息長足日広額天皇」で「日」がつきはじめます。

次の皇極・斉明は「天豊財重日足姫尊」孝徳が「天豊財重日足姫尊」

遡って、用明が「橘豊日」で、だいたい「日」がつくのは、いわゆる息長系で新漢人よりなんです。聖徳太子とかですね。

それで「大和＝タイカオ（キョ）」と呼んでいたものを、皇極・孝徳・斉明・天智の時代に、「ヤマト」「大日本」に変化させていくわけですね。

それ以前は旧渡来人系もついていた弥生時代以来の呉音の時代で、「大倭・大和＝ダイワ」と呼んでいた。

元は「大倭」だったものの、倭が卑字だったので、和に改めて「大和」と記し「ダイワ」と呼んでいたものの、後に北朝系渡来人がきて「大和」の文字をみて「タイカオ」と発音し始めたのでしょうか。これが装飾された「太虚（タイキョ）」になる。

それで、最後に「ダイワ」と同時に「ヤマタイ」とも呼んでいたかどうかが課題になります。

5世紀代の倭の五王の時代は「大+倭（わ）」でした。

随書の時代では「邪靡堆に都する」で「ヤマタイ」と言ってるわけですね。

都するというのは、隋時代の首都が大和地域にあったことによるならば、7世紀初頭の時点で、大和地域をヤマトと呼んでいた可能性がでてきます。

三国志』より後の5世紀に書かれた『後漢書』倭伝では「邪馬臺国」、7世紀の『梁書』倭伝では「邪馬臺国」、7世紀の『隋書』では倭国について「都於邪靡堆 則魏志所謂邪馬臺者 也」（魏志にいう邪馬臺）、唐代の『北史』四夷伝では「居于邪摩堆 則魏志所謂邪馬臺」

ただ、この辺はちょっと即断しにくいところですね。

ヤマト 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年7月17日(水)23時50分12秒 返信・引用 編集済
ヤマトは難解だが、発音で解決するな。

邪靡堆（ヤマタイ）yamadui の堆 dui の発音に注目すると、

邪靡堆（ヤマタイ）yamadui 邪馬臺

前に d を強く発音するとヤマトウ yamato （ヤマト）

後の i 強く発音するとヤマツイ yamayī （ヤマイ）邪馬壹

邪馬台国（都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。）

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3350>

済州島は古事記に「筑紫島」、日本書紀に「筑紫洲」で出てくるな。

ちなみに、壱岐島は古事記に「伊岐島」、

日本書紀の「億岐洲」は隠岐島で壱岐島は「壹岐洲」ですな。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1631>

Re: 壱岐島 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 17 日(水)23 時 16 分 19 秒 返信・引用

> No.1636[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 「豊葦原中國・豊葦原千五百秋瑞穂國」は、

> 古事記の第1章 アメノワカヒコとキジ の文章の抜き取りですな。

>

> http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_01.html

>

> 万葉集

>

> 大和（やまと）には 郡山（むらやま）あれど とりよろふ 天（あま）の香具山（かぐやま） 登り立ち 国見（くにみ）をすれば 国原（くにはら）は 煙（けぶり）立つ立つ 海原（うなはら）は 鷗（かまめ）立つ立つ うまし国そ 蜻蛉島（あきづしま） 大和の国は

>

> <http://manyou.plabot.michikusa.jp/yamatoniha.html>

>

> 蜻蛉島（あきづしま）、秋津洲・・？。

>

なるほど、蜻蛉島（あきづしま）は、秋津に関わりそうですね。

■「あきづしま」の表記

「あきづしま」はヤマトノクニ、ヤマトにかかる枕詞で5首に詠まれている。

用字をみると、主な訓読み表記は「蜻嶋」である。

一字一音 首数 訓読み 首数

安吉豆之萬 1 蜻嶋 3

秋津嶋 1

■「あきづしま」の語源

「あきづしま」の語源は『日本書紀』の神武紀に、

「内（うつ）木錦（ゆふ）の眞■（まさ）き國と雖（いへど）も、蜻蛉（あきづ）の臀■（となめ）の如（ごと）くにあるかな・・・狭い国ではあるけれども、蜻蛉（あきづ）（とんぼ）がトナメして（交尾して）飛んで行くように、山々がつづいて囲んでいる国」という意で「是に由りて、始めて秋津洲の號有り。」とある。

『日本書紀』神武天皇31年4月の条、原文

三十有一年夏四月乙酉朔。皇輿巡幸。因登腋上 口 兼 間丘。
而廻望国状曰。妍哉乎国之獲矣。妍哉・・・此云鞅奈珥夜。雖内木錦之眞■国。
猶如蜻蛉之臀 口 占 焉。由是始有秋津洲之号也。
昔伊弉諾尊目此国曰。日本者浦安国。細戈千足国。磯輪上秀真国。
秀真国。此云袍図莽句爾。復大己貴大神目之曰。玉牆内国。
及至饒速日命乘天磐船。而翔行太虚也。睨是郷而降之。
故因目之曰虚空見日本国矣。

http://www1.kcn.ne.jp/~uehiro08/contents/parts/105_08.htm

トンボの尻のように、長く連なる国という意味で、先の「千秋万歳」とか「磐余」と同じ「永い」「長寿」といった意味のようにも見えます。

細長い日本列島を示すという見方もできますが、腋上といった大和東南部の秋津の地名にも関わっています。

トンボ・蜻蛉が（アキツ）と後代呼ばれ始めたのは、逆にこの伝承から語源をもってきたものですかね。

日本の別名について、列記して説明している文面がありますね。

昔伊弉諾尊目此国曰。日本者浦安国。細戈千足国。磯輪上秀真国。
秀真国。此云袍図莽句爾。復大己貴大神目之曰。玉牆内国。
及至饒速日命乘天磐船。而翔行太虚也。睨是郷而降之。
故因目之曰虚空見日本国矣。

細戈千足国が、先の蜻蛉＝トンボのイメージに近い。

最後にニギハヤヒの話が出てきているのが重要です。

ニギハヤヒが、鳥船で測量しながら駆け巡って、最後に「この」郷にくだった（磐舟神社などの物部氏の拠点の山＞あたりか）ので、「虚空見日本国」と言ったというわけですね。

「虚空」は、仏教とか大陸系の宗教用語でしょう。「コク」の発音で「国」とすれば「国見」で、河内と大和の間の河内磐船～かいがけのみち～交野山～国見山にあたる地域にかかっている可能性を感じます。

そうすると、「国見（イワフネ）の日本国」という意味なんですね。物部氏の測量関係です。

おそらく物部氏系の日本関連の国名由来に関する伝承から、書紀・帝記の撰者が引っ張り出してきたものかもしれません。

「饒速日命」の「日」と、その下った「場所」「本」とかいうあたりのことも、あるいは日本の語源について考慮すべきでしょうか。

Re: 壱岐島 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年7月17日(水)10時48分22秒 返信・引用 編集済
> No.1635[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

「豊葦原中國・豊葦原千五百秋瑞穂國」は、
古事記の第1章 アメノワカヒコとキジ の文章の抜き取りですな。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_01.html

> 「豊葦原中國・豊葦原千五百秋瑞穂國」などと同類です。

大日本豊秋津洲（シマ）ですな。

大日本は古代の日本国(東北)、豊は豊国ですな。

大日本豊秋津洲は扶桑国で「アメノトコタチ（天之常立神）」の国ですな。

扶桑国の秋津洲に居た様ですな。洲は中洲。淡路島のオノゴロ嶋と同様。

天之常立神は奈良にも来ていた模様。古事記から読み取れる。

淡路島のオノゴロ嶋は嶋の内陸だな。どうも、嶋でも「州」か「洲」で「洲」の中洲。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1635>

万葉集

大和（やまと）には 郡山（むらやま）あれど とりよろふ 天（あま）の香具山（かぐやま） 登り立ち 国見（くにみ）をすれば 国原（くにはら）は 煙（けぶり）立つ立つ 海原（うなはら）は 鷗（かまめ）立つ立つ うまし国そ 蜻蛉島（あきづしま） 大和の国は

<http://manyou.plabot.michikusa.jp/yamatoniha.html>

蜻蛉島（あきづしま）、秋津洲・・・？。

>

> もうひとつ先の条文で注目すべき記載としては、「大日本豊秋津洲（シマ）」の記載ですね。

>

> 【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 原文】. 一書曰 以 馭慮嶋爲胞 生淡路洲 次大日本豊秋津洲 次伊豫二名洲 次筑紫洲 次吉備子洲 次雙生億岐洲與佐度洲 次越洲. 【日本 書紀 卷第一 第四段 一書第八 読み下し】

>

> これが、室秋津島宮と関わってきます。

>

> おそらく大和地方の西南域の秋津遺跡があるあたりに、「秋津島（洲）」という地名があったはず。そのそばに「室」「宮」があった。あの辺はかなり低湿地なんですね。元は内陸の水没地域。秋津の津は、大和地方内陸まで入り込んだ河川の港と関係するのではないのでしょうか。

>

Re: 壱岐島 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 17 日(水)03 時 33 分 59 秒 返信・引用 編集済

> No.1633[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 馭慮（オノゴロ）嶋を胞（子宮・体内）・・・。まあ、文字通りの解釈で胞（子宮・体内）

> には、無理があるな。

>

> 淡路島のオノゴロ嶋は嶋の内陸だな。どうも、嶋でも「州」か「洲」で「洲」の中洲。

>

> 自凝島。『古事記』では淤能碁呂島（おのごろじま）、現在の淡路島

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%87%AA%E5%87%9D%E5%B3%B6%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

>

>> オノゴロ島は、なるほど、そうすると「◎豆島」で正解ですね。「オドシマ」

>>

>> 難波から見える淡路島、奥の児島の中間の島という意味でしょうか。

もうひとつ先の条文で注目すべき記載としては、「大日本豊秋津洲（シマ）」の記載ですね。

【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 原文】. 一書曰 以 馭慮嶋爲胞 生淡路洲 次大日本豊秋津洲 次伊豫二名洲 次筑紫洲 次吉備子洲 次雙生億岐洲與佐度洲 次越洲. 【日本 書紀 卷第一 第四段 一書第八 読み下し】

>

これが、室秋津島宮と関わってきます。

『魏志倭人伝』に記される邪馬台国の王宮が第6代孝安天皇の室秋津島宮ではないかとする説[3]があり、その場合、秋津遺跡周辺が邪馬台国の都城の一部であった可能性も指摘されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/秋津遺跡>

おそらく大和地方の西南域の秋津遺跡があるあたりに、「秋津島（洲）」という地名があったはずで

す。そのそばに「室」「宮」があった。あの辺はかなり低湿地なんですね。元は内陸の水没地域。秋津の津は、大和地方内陸まで入り込んだ河川の港と関係するのではないのでしょうか。

「馭慮（ゴロ・ギョロ）嶋」と「室（ムロ）」とはちょっと似てますね。

「秋津」は。「アキツ」→「アキ+イツ」で先の岸さんの指摘にある「津」と「イツ・イチ」の発音対応とも関係しそうです。

後代「高市（タケイチ・タケチ）」の地名も出てきます。

そして最後に「豊」が加わってきます。

「豊葦原中國・豊葦原千五百秋瑞穂國」などと同類です。

ここで「秋瑞穂国」がでてきます。これが「秋津」の「秋」に対応してくるとなると、

ちいおあき【千五百秋】とは。意味や解説。限りなく長い年月。永遠。千歳。千秋。「葦原 一の瑞穂の国は」〈神代紀・下〉

ということで、千秋万歳などの、渡来系の祝詞に出てくる皇帝祭祀用の祝詞の文面とかと関係してくるでしょう。

ま、中国的な装飾文なわけです。

葦原中国。

秋津に宮を置いた天皇は限定されていて、孝昭・孝安時代、あるいは磐余池辺双槻宮の用明天皇。

橘豊日皇子のことで、ここで「豊」「日」が出てきます。

磐余は、つまり長い年月のことで、上記の通り装飾文ですね。

、磐余池辺双槻宮（いわれいけのべのなみつきのみや）と呼ばれた。ところが、現在この宮跡の所在

がはっきりしない。磐余池は磐余の里に造られた大池のことで、『日本書紀』履中天皇2年11月に「磐余池を作る」とある。磐余とは、現在の桜井市南西部の池之内、橋本、阿部から橿原市の東池尻町を含む同市南東部にかけての古地名である

<http://bell.jp/pancho/travel/taisi-siseki/miyadokoro/namitukinomiya.htm>

池辺は、当時のこの地域が湿地帯だったことによるのでしょう。

類似した皇子名には市辺押磐皇子が見えます。

市辺押磐皇子（いちのへのおしはのみこ、?- 安康天皇3年（456年）10月）は、記紀・『風土記』に伝えられる5世紀頃の皇族（王族）。磐坂皇子（いわさかのみこ）・磐坂市辺押羽皇子・天万国万押磐尊（あめよろずくによろずおしはのみこと、以上『日本書紀』）・市辺之忍齒王・市辺忍齒別王（いちのへのおしはわけのみこ、以上『古事記』）・市辺天皇命（いちのへのすめらみこと、『播磨国風土記』）とも。履中天皇の第1皇子で、母は葛城草田宿禰（あしたのすくね）の女・黒媛である。また、顕宗天皇・仁賢天皇（・飯豊青皇女）の父、安康天皇・雄略天皇の従兄弟に当たる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/市辺押磐皇子>

妃：萯媛（はえひめ、萯は[草冠+夷]。葛城蟻臣の女）

居夏姫（いなつひめ）

億計王（おけのみこ、島稚子・大石尊・仁賢天皇）

弘計王（をけのみこ、来目稚子・顕宗天皇）

飯豊女王（いいとよのひめみこ、忍海部女王） 億計・弘計の姉とする方が妥当か。あるいは、叔母と姉の二人が類似した名前を称したとも考えられる。

橘王（たちばなのみこ）

つまり億計王（おけのみこ、島稚子・大石尊・仁賢天皇が、やはり葛城のこの地域と関係するんです。

「島」。

それで「飯豊女王」も、「豊」が「トヨ」ではなく「ホウ」が正解でしょう。

「大石」が、大石村主のそれで、百済系漢人の系統。

そして「橘」が、但馬守の世界で、山陰・吉備系になるわけです。

そうすると、「大日本豊秋津シマ」というのは、オオ、ジツホン（つまり日辺で ヘン）、ホウ、シュウ+イチの島ということで、かなり元々は中国系の名称だった可能性を示してます。

そこで再度「洲」を「島」の代わりに使った意味ですね。

ある時期の中国的な語句用法によった可能性があります。

たとえば先日論議した「越州」が、南北朝時代から隋・唐代にいたるまで、中国のどこを示していたかという変遷の問題もありました。

そしてご指摘の日本のことをしめした（東）エイ州とか、その辺ですね。

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 16 日(火)23 時 13 分 56 秒 返信・引用

> No.1629[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

>> 「越州」は確かに「州」で島と読ませているわけですね。

>

>

意味中洲、陸地、大陸、行政区画、国、古代の戸籍の単位、という意味がある。また醜と通じてケツの穴、聚と通じて、あつまる、という意味がある。〔説文解字（段注本）〕には、「水中に居る可き者を州と曰ふ。水、其の旁を?繞す」と中洲の意味があり、〔詩経・閟雎〕から「河の州に在り」を引用する。また「昔、堯、洪水に遭ふ。民、水中の高土に居る。或ひは九州を曰ふ」と水流によって分けされた地や地域のこと、「一に曰く、州、?なり。各、其の土を?して、生ずるなり」と耕作地のこと、とある。字形中洲の象形。〔説文〕は「川の重ぬるに従ふ」としている。もともと中洲の意味だが行政区画の意味で使われるようになって、区別のために洲の字が造られた。ただ洲は常用外なので、日本だと中洲の意味で州が使われることが多い。音訓音読みはシュウ、訓読みは、す、しま。

> 参考

> 一説に州を略して片仮名のツとなった。

> ツ

> 聿（イチ・・・）+ 彡＝津（ツ）

> イチ・・・「臺」

> 馬台国の章. ... 多くの学者達は、「台」の旧字である「臺」の誤植であるとして、「邪馬台国」が正しいとしています。ところがどこにでも <http://www4.hp->

洲の成り立ち、興味深いですね。津が、もしイチの発音を持つとすると、これも面白い。

イツシマ、イチシマ、イツ国、イチタイ率。

Re: 壹岐島 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 16 日(火)07 時 30 分 36 秒 返信・引用

> No.1632[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

馭慮（オノゴロ）嶋を胞（子宮・体内）・・・。まあ、文字通りの解釈で胞（子宮・体内）には、無理があるな。

淡路島のオノゴロ嶋は嶋の内陸だな。どうも、嶋でも「州」か「洲」で「洲」の中洲。

自凝島。『古事記』では淤能碁呂島（おのごろじま）、現在の淡路島

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%87%AA%E5%87%9D%E5%B3%B6%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

> オノゴロ島は、なるほど、そうすると「◎豆島」で正解ですね。「オドシマ」

>

> 難波から見える淡路島、奥の児島の中間の島という意味でしょうか。

>

>

>

> もう一度読み直して行くと、

>

> 【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 原文】. 一書曰 以 馭慮嶋爲胞 生淡路洲 次大日本豊秋津洲 次伊豫二名洲 次筑紫洲 次吉備子洲 次雙生億岐洲與佐度洲 次越洲. 【日本 書紀 卷第一 第四段 一書第八 読み下し】

>

> あと、「伊豫二名洲」の「二名」の意味ですね。「伊予」になるわけですが、先日の「翰苑」でその邪馬台国についての関連記載で、「伊邪国」と「伊邪分国」のふたつをもって四国伊予と淡路島、標語・伊和周辺と見なした視点と関係するかもしれません。

>

> 2つの島とか領域として四国周辺を認識しているんですね。

>

> それで越洲（島）ですが、たとえば能登半島あたりは、水没地図をつかうと、微妙に島みたいに分離しますが、その記載にある隠岐→佐渡と北上していくルートから推測すると、水没した能登半島や新潟平野というよりは、北海道を島と見なすと、あるいはルート・方角的にはあってきます。

>

Re: 壱岐島 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 16 日(火)02 時 27 分 53 秒 返信・引用 編集済

> No.1631[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 済州島は古事記に「筑紫島」、日本書紀に「筑紫洲」で出てくるな。

> ちなみに、壱岐島は古事記に「伊岐島」、

> 日本書紀の「億岐洲」は隠岐島で壱岐島は「壹岐洲」ですな。

>

> 壹が「イ」なら「やまと」の語源が無くなるぞ。かりに、呉音で漢字の音、豆から「ト」だが

> 見当たらないな。

オノゴロ島は、なるほど、そうすると「◎豆島」で正解ですね。「オドシマ」

難波から見える淡路島、奥の児島の中間の島という意味でしょうか。

もう一度読み直して行くと、

【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 原文】. 一書曰 以 馭慮嶋爲胞 生淡路洲 次大日本豊秋津洲 次伊豫二名洲 次筑紫洲 次吉備子洲 次雙生億岐洲與佐度洲 次越洲. 【日本 書紀 卷第一 第四段 一書第八 読み下し】

馭慮（オノゴロ）嶋を胞（子宮・体内）となす、ということで、国産みの最大の重要拠点を、瀬戸内中心のここにもってきているわけです。

なぜか？ここが課題ですね。

あと、「伊豫二名洲」の「二名」の意味ですね。「伊予」になるわけですが、先日の「翰苑」でその邪馬台国についての関連記載で、「伊邪国」と「伊邪分国」のふたつをもって四国伊予と淡路島、標語・伊和周辺と見なした視点と関係するかもしれません。

2つの島とか領域として四国周辺を認識しているんですね。

それで越洲（島）ですが、たとえば能登半島あたりは、水没地図をつかうと、微妙に島みたいに分離しますが、その記載にある隠岐→佐渡と北上していくルートから推測すると、水没した能登半島や新潟平野というよりは、北海道を島と見なすと、あるいはルート・方角的にはあってきます。

<http://flood.firetree.net>

「越の蝦夷」という記載がしばしばみえる。斉明天皇元年七月己卯条に「難波の朝にして、北北は越ぞ）の蝦夷九十九人、東東は陸奥ぞ）の蝦夷九十五人に饗たまう」（編七〇）とあり、また同五年三月甲午条に「甘樗丘の東の川上に、須弥山を造りて

<http://www.archives.pref.fukui.jp/fukui/07/kenshi/T1/2a3-01-04-04-05.htm>

孝徳朝時代は、「越」は、かなり北を意味していた可能性がありそうです。

「蝦夷（エゾ・エミシ）」の発音と、「越（エツ・コシ）」との間に類似性があるのは気のせいでしょうか。

あと、継体はそれ以前に、越からやってきます。

壱岐島 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年7月15日(月)20時46分6秒 返信・引用 編集済

済州島は古事記に「筑紫島」、日本書紀に「筑紫洲」で出てくるな。

ちなみに、壱岐島は古事記に「伊岐島」、

日本書紀の「億岐洲」は隠岐島で壱岐島は「壹岐洲」ですな。

壹が「イ」なら「やまと」の語源が無くなるぞ。かりに、呉音で漢字の音、豆から「ト」だが見当たらないな。

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 15 日(月)12 時 36 分 38 秒 返信・引用
> No.1629[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

日本書紀 越洲 (エツシマ) の「洲」を「州」と誤記していますな。

> 「越州」は確かに「州」で島と読ませているわけですね。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1627>

「州」音読み

呉音：ス

漢音：シュウ(シウ)

訓読み：す

(す) 主に川の中にある、島上の陸地。中州 (なかす)。海にあっても、河口部にあるものをこのように称することがある。

三角州、砂州。

(シュウ) 「洲」の代替字。字源は同一である。

(シュウ) 行政単位の呼称。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E5%B7%9E>

「洲」音読み

呉音：ス

漢音：シュウ(シウ)

訓読み

しま

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E6%B4%B2>

Re: 大倭 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 15 日(月)11 時 58 分 53 秒 返信・引用
> No.1627[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 「越州」は確かに「州」で島と読ませているわけですね。

日本列島・・・努力してある成果を得た 州（島） <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

中央がまるくふくれ・・・中洲の意味・・・州（島）

日本列島を指す雅称としては瀛州（えいしゅう）・東瀛（とうえい）という 徐は瀛姓、伯益の後 秦の始皇帝の姓は瀛

州とは（シュウとは）[単語記事] - ニコニコ大百科

また醜と通じてケツの穴、聚と通じて、あつまる、という意味がある。〔説文解字（段注本）〕には、「水中に居る可き者を州と曰ふ。水、其の旁を?繞す」と中洲の意味があり、〔詩経・閔睢〕から「河の州に在り」を引用する。また「昔、堯、洪水に遭ふ。<http://dic.nicovideo.jp/a/%E5%B7%9E>

意味中洲、陸地、大陸、行政区画、国、古代の戸籍の単位、という意味がある。また醜と通じてケツの穴、聚と通じて、あつまる、という意味がある。〔説文解字（段注本）〕には、「水中に居る可き者を州と曰ふ。水、其の旁を?繞す」と中洲の意味があり、〔詩経・閔睢〕から「河の州に在り」を引用する。また「昔、堯、洪水に遭ふ。民、水中の高土に居る。或ひは九州を曰ふ」と水流によって区分けされた地や地域のこと、「一に曰く、州、?なり。各、其の土を?して、生ずるなり」と耕作地のこと、とある。字形中洲の象形。〔説文〕は「川の重ぬるに従ふ」としている。もともと中洲の意味だが行政区画の意味で使われるようになって、区別のために洲の字が造られた。ただ洲は常用外なので、日本だと中洲の意味で州が使われることが多い。音訓音読みはシュウ、訓読みは、す、しま。

参考

一説に州を略して片仮名のツとなった。

ツ

聿（イチ・・・）+ ㇿ = 津（ツ）

イチ・・・「臺」

馬台国の章. ... 多くの学者達は、「台」の旧字である「臺」の誤植であるとして、「邪馬台国」が正しいとしています。 ところがどこにでも <http://www4.hp-ez.com/hp/picno/page8>

臺

シツ（死津?）・・・室 ム+ロ・・・台

>

> 【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 原文】. 一書曰 以 馭慮嶋爲胞 生淡路洲 次大日本豊秋津洲 次伊豫二名洲 次筑紫洲 次吉備子洲 次雙生億岐洲與佐度洲 次越洲. 【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 読み下し】

> No.1627[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

オノゴロ島は2つ存在しますな。『古事記』『日本書紀』はそれぞれ異なる方向から記録している模様。少し想像力が必要ですな。

自凝島。『古事記』では淤能碁呂島（おのごろじま）、現在の淡路島

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%87%AA%E5%87%9D%E5%B3%B6%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

礮馭慮島。『日本書紀』では礮馭慮島（おのころじま）「馭慮嶋（オノゴロ島）」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%8E%E3%82%B4%E3%83%AD%E5%B3%B6>

> この島（州）の並びはなんでしょうね。「馭慮嶋（オノゴロ島）」がどこなのかも興味深いですね。

> 仁徳の記載に、難波周辺の島としてみえます。？

国産みの島、大日本豊秋津洲は現在の八丈島になるな。位置は扶桑国だな。

国産み（くにうみ）とは日本の国土創世譚を伝える神話である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E7%94%A3%E3%81%BF>

秦野は『古事記』『日本書紀』の島と年代、ルートは読み解いていますぞ。

古代史の楽しみから『日本書紀』の礮馭慮島（おのころじま）はないしょですな。

> 【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 原文】. 一書曰 以 馭慮嶋爲胞 生淡路洲 次大日本豊秋津洲 次伊豫二名洲 次筑紫洲 次吉備子洲 次雙生億岐洲與佐度洲 次越洲. 【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 読み下し】

>

> 大日本豊秋津洲は、こう見ると、日本列島全体というよりは、ヤマトの秋津の水没地域みたいな感じでしょうか。

>

> 方角別に法則にしたがって記されているようです。河内から大和、それから四国伊予に向かい、筑紫で、山陰へ向かって、隠岐、佐渡、越へと向かう、そういう感じですね。

>

> これは、仁徳時代とかの街道とか何かのルートの優先順位ではないですかね。？

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 14 日(日)23 時 14 分 15 秒 返信・引用

> No.1626[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 茨の紀氏さんへのお返事です。

>

> 少し対馬ですな。それでは。対馬「つしま」は日本語ですな。古事記では港の島、日本書紀では越の島、魏志倭人伝では、對海國は二つの海だ。海は玄海(厳海)とガク海(鰐海)だ。厳原、鰐浦は古名のなごりだ。

>

> 古事記 津島 (ツシマ)

> 日本書紀 越洲 (エツシマ)

> 魏志倭人伝 對海國 (タイカイ) (玄海(厳海)とガク海(鰐海))

> 『隋書』倭国伝 都斯麻国 (ツシマコク)

>

>

古事記の「津島」の表記はおもしろいですね。

「対島」の意味と異なってます。

「越州」は確かに「州」で島と読ませているわけですね。

【日本書紀 卷第一 第四段 一書第八 原文】. 一書曰 以 馭慮嶋爲胞 生淡路洲 次大日本豊秋津洲 次伊豫二名洲 次筑紫洲 次吉備子洲 次雙生億岐洲與佐度洲 次越洲. 【日本 書紀 卷第一 第四段 一書第八 読み下し】

この島（州）の並びはなんでしょうね。「馭慮嶋（オノゴロ島）」がどこなのかも興味深いですね。
仁徳の記載に、難波周辺の島としてみえます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/オノゴロ島>

吉備児島のことを子洲と記すんですね。

大日本豊秋津洲は、こう見ると、日本列島全体というよりは、ヤマトの秋津の水没地域みたいな感じでしょうか。

方角別に法則にしたがって記されているようです。河内から大和、それから四国伊予に向かい、筑紫で、山陰へ向かって、隠岐、佐渡、越へと向かう、そういう感じですね。

これは、仁徳時代とかの街道とか何かのルートの優先順位ではないですかね。

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 13 日(土)14 時 59 分 21 秒 返信・引用 編集済
> No.1625[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

少し対馬ですな。それでは。対馬「つしま」は日本語ですな。古事記では港の島、日本書紀では越の島、魏志倭人伝では、對海國は二つの海だな海は玄海(厳海)とガク海(鰐海)だな。厳原、鰐浦は古名のなごりだな。

古事記 津島 (ツシマ)

日本書紀 越洲 (エツシマ)

魏志倭人伝 對海國 (タイカイ) (玄海(厳海)とガク海(鰐海))

『隋書』倭国伝 都斯麻国 (ツシマコク)

津 <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E6%B4%A5>

越 <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E8%B6%8A>

對 <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E5%B0%8D>

都 <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E9%83%BD>

島 <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E5%B3%B6>

韓民族文化研究院学術顧問さん、もう少し知れべたらどうだ。

魏志倭人伝の時代には新羅は影も形もないぞ。

魏志倭人伝の國官は卑狗になるな。

新羅時代に大耶城の提督であつた宗貞(チョン・ジョン)・・・自国領土だと最近言い張っている日本人・・・？

http://blog.livedoor.jp/ad_mini/archives/51135330.html

嚴原 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%B3%E5%8E%9F%E7%94%BA>

鰐浦 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%AF%BE%E9%A6%AC%E7%94%BA>

鰐 <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E9%B0%90>

>

> 「対馬（ツシマ）」の語源は韓国語 ...

> 今では「テマド」（対馬島）と呼ぶが、かつては「トゥシマ」（2つで成り立っている島という意味）と言った（訳注：韓国語で2は「トゥ」。ちなみに島は「ソム seom」）。日本人が「トゥ」という音を発音できないために、日本語では今「ツシマ」と言っている。

http://blog.livedoor.jp/ad_mini/archives/51135330.html

>

Re: 大倭 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 13 日(土)11 時 07 分 58 秒 返信・引用

> No.1623[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 「馬」は、倭人伝の「邪馬台国」「邪馬国」「斯馬国」の「馬」と同じ音でしょうね。

>

> 後に「都斯麻国」と記されていますが、このころには「つしま」の発音が定着しています。

>

> もとは「対馬」（ツイマ）の音でしょう。

2つで成り立っている島という 意味

馬マ・馬マの本来の意味が、「母親の乳房」<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

台地と台地の間の谷間（マー）

「対馬（ツシマ）」の語源は韓国語 ...

今では「テマド」（対馬島）と呼ぶが、かつては「トウシマ」（2つで成り立っている島という 意味）と言った（訳注：韓国語で2は「トゥ」。ちなみに島は「ソム seom」）。日本人が「トゥ」という音を発音できないために、日本語では今「ツシマ」と言っている。

http://blog.livedoor.jp/ad_mini/archives/51135330.html

>

>

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 13 日(土)10 時 19 分 21 秒 返信・引用

> No.1621[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

参考HP 魏使未踏の南海に連なる列島文化の源流「琉球弧」

掘り下げましょか。

『新唐書』日本伝

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintoshoh.htm>

倭国とは、古の倭奴国なり。京師から一万四千里、新羅の東南の大海中に在り、山島に依って暮らす。東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程。

韓半島南部と日本、沖縄を含んだ地域ですな。神武天皇が引いた功(郊)ですな。

即位：神武天皇

辛酉の歳（神武天皇元年）の正月、磐余彦は橿原宮で踐祚し、始馭天下之天皇（はつくにしらすすめらみこと）と称した。52 歳であった。

神武天皇 2 年、功(郊)を定め、道臣命は築坂邑に大来目を畝傍山の西に居住させ、椎根津彦を倭国造に、弟狛を猛田邑の県主、弟磯城を磯城の県主に任じ、高皇産靈尊の子孫の剣根を葛城国造に任じた。併せて八咫鳥を「幸を運ぶ鳥」と褒賞した。

神武天皇 4 年、天下を平定し海内無事を以て詔し、鳥見山に皇祖天神を祀った。

神武天皇 31 年、巡幸して、腋上の丘に登り、蜻蛉（あきつ）のとなめ（尾）に似ていることから、その地を秋津洲と命名した。

神武天皇 42 年、皇后媛蹈鞴五十鈴媛命の皇子の神渟名川耳尊（かむぬなかわみみのみこと）を皇太子と定めた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E5%A4%A9%E7%9A%87>

（大委）王・多利思北孤：次用明、亦曰目多利思比孤。日目（にちもく）多利思比孤
次は用明、また僧（そう）多利思比孤（テリシヒコ：照彦）

日目 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E7%9B%AE>

『隋書』倭国伝

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

聖徳太子：冠位十二階の小徳、用明天皇の太子＝小徳太子

倭国伝より

名太子為利歌彌多弗利。

名は為利歌彌多弗利（イリカヤテフリ：伊利、伽耶、照弗利）

倭国伝

古田武彦の解釈とはかけ離れるな。古田説はどうも漢文が読めないみたいだな？

> 興味深い情報が中国史書『漢書・地理誌』に記されています（図Ⅱ）。

> ★「東テ（魚是※）人」、呉の東海域に二十余国あったといえます。楽浪海中倭人百余国とは別表記なので、地理分析からは＜東海域の北・倭人／南・東テ人＞となります。※ヒシコ（カクイツ）、中国ではナマズ

> ★また『後漢書』では東テ人の次に夷州・セン州があつて徐福伝説を伝えていることからここは日本列

島を指していそうで、ますます＜東テ人＝琉球弧諸島人＞の可能性が高いと言えます。

> ★3世紀『魏志』では既述の如く薩南諸島までは及んでいません。これが5世紀『宋書』になると有名な倭武の上表文には「東征毛人55国／西服衆夷66国」（計121国）とあり、『漢書』の「倭人100余国／東テ人20余国」（計120余国）との対比が暗示的です。倭武が中国側の認識に合わせて領土を主張したとすれば、「衆夷66国（東テ20＋倭46※魏時での所通倭は九州中北部で30）となります。

> ★これを補強しそうなのが7世紀『隋書』でのテ（大倭）王・多利思北孤の領土主張「東西五月行／南北三月行」で、琉球弧まで含まれそうです。

> ★これらの分析を総まとめにして地図にプロットしたのが図VIです。

> ※なお多利思北孤の主張視点（倭武も同じ）ではその所在が九州北部でなくては成り立たず、彼は大和の聖徳太子ではないことになります。

> また書紀には同時期に「掖玖人が帰化した」と記しており、屋久島が大和の領有地ではなかったことを示しています。

> ★さてこの琉球弧東テ人と列島倭人との関係は古代どうだったのでしょうか。

> ★そしてもうひとつが「稲の道」（図Ⅷ）、列島への稲の伝播は、これまでは「弥生時代に半島経由での伝播」とされてきましたが、近年では「縄文時代から琉球弧経由での伝播」もあって、今のコメはこの熱帯種と半島温帯種のかけ合わせによる寒冷対応米であることがDNA鑑定により解っています。

>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013年7月12日(金)23時10分14秒 返信・引用

> No.1621[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

>> 管理人さんへのお返事です。

>>

>> 何処にも「順に韓国を歴訪して」の文字はないな。

>> 歴韓国は単なる国ですな。

>>

>> 至對馬國で馬鹿な遊びをやるか。

>> 「始度一海千餘里、至對馬國」の至對馬國を訳すと

>> 始めて海を 1000 余里渡ると「馬に對（あ）いて国に至る。」

>

>

> 馬に對（あ）いて国に至る。 考 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>>

「馬」は、倭人伝の「邪馬台国」「邪馬国」「斯馬国」の「馬」と同じ音でしょうね。

後に「都斯麻国」と記されていますが、このころには「つしま」の発音が定着しています。

もとは「対馬」（ツイマ）の音でしょう。

ロケット・エンジン大手エアロジェット社 投稿者：ねこ 投稿日：2013 年 7 月 12 日(金)16 時 28 分
13 秒 返信・引用

ロケット・エンジン大手エアロジェット社

http://book.geocities.jp/japan_conspiracy/0202/p006.html#page153

http://3rd.geocities.jp/jcon_tline/02/k/k13.html

この会社も日本企業の可能性が強い。

1941 年 8 月 16 日同社はロケット・エンジンテストに成功する。

だが、その日は蒙古襲来・弘安の役皇紀 660 周年記念日。

戦争自体が大規模な八百長であり、「神風」さえも、

当時の科学技術の粋（すい）を集めたものであったことを物語る。

(http://book.geocities.jp/japans_conspiracy/01/p008.html)

Re: 大倭 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 12 日(金)07 時 56 分 21 秒 返信・引用

> No.1620[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。

>

> 何処にも「順に韓国を歴訪して」の文字はないな。

> 歴韓国は単なる国ですな。

>

> 至對馬國で馬鹿な遊びをやるか。

> 「始度一海千餘里、至對馬國」の至對馬國を訳すと

> 始めて海を 1000 余里渡ると「馬に對（あ）いて国に至る。」

馬に對（あ）いて国に至る。 考 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>>

都「つ」（呉音） - 真説・魏志倭人傳

（Adobe PDF） - html で見る

http://www.gishiwajinden.net/upfiles/news/20100411_siryoku.pdf#search='%E9%82%91+%E5%93%81+%E8%A7%A3%E5%AD%97'

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 12 日(金)06 時 41 分 1 秒 返信・引用

> No.1619[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

何処にも「順に韓国を歴訪して」の文字はないな。

歴韓国は単なる国ですな。

至對馬國で馬鹿な遊びをやるか。

「始度一海千餘里、至對馬國」の至對馬國を訳すと

始めて海を 1000 余里渡ると「馬に對（あ）いて国に至る。」

漢文の名詞を先入観で分離できないな。

> その後「依山島為国邑 旧百余国 漢時朝見 者 今使訳所通三十国 從郡至倭 循海岸水行 歴韓国 乍南 乍東 到其北岸狗邪韓国」

>

> 「旧くは百余国があり、漢の時代に朝見するものあり、今使訳通ずるところ三十国、郡より倭に至るに、海岸をめぐって、水行し、順に韓国を歴訪して、乍ら南、乍ら東、其の北岸の狗邪韓国に到る」

>

> 正確には帯方郡の東南は大海ではないんですよね。韓国がある。

>

> ところが、当時の認識では、おそらく公孫氏の征伐後で帯方郡の配下に南の諸韓国があったという認識だったのではないのでしょうか。

>

> ともあれ、郡の中心地から、東南に海岸沿いに巡航して、「其の」「北岸」にあたる「狗邪韓国に到る」となるわけです。

>

> 「其の」が、倭の領域を指し、倭の北岸を意味したのか？あるいは、韓国、さらには帯方郡の領域の北岸を意味したかで、捉え方が異なるでしょう。

>

> 倭の領域を、海や対馬のような周辺諸島まで示したのかも課題です。

>

>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 11 日(木)23 時 19 分 36 秒 返信・引用

> No.1618[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 先入観ですな。

>

> 1.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗（ひこ）、副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

>

対馬の件がやはりきになりますね。「対海国」と「対馬国」の2種の表記があります。

「紹興本（1131 年～1162 年刊）」では「対馬」、その後の「紹熙本（1190 年～1194 年刊）」では「対海国」となります。書写のミスとの味方があるようですね。

http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/gishi/gishi_shoukou_shouki.htm

もうひとつ気になるのが、「島」の表記です。

これは旧字体の「島+山」の表記を使っています。（トウ）

「帶方東南大海之中、依山（島+山）、為国邑」

その後「依山島為国邑 旧百余国 漢時有朝見 者 今使訳所通三十国 從郡至倭 循海岸水行 歷韓国 乍南乍東 到其北岸狗邪韓国」

「旧くは百余国があり、漢の時代に朝見するものあり、今使訳通ずるところ三十国、郡より倭に至るに、海岸をめぐって、水行し、順に韓国を歴訪して、乍ら南、乍ら東、其の北岸の狗邪韓国に到る」

正確には帶方郡の東南は大海ではないんですよね。韓国がある。

ところが、当時の認識では、おそらく公孫氏の征伐後で帶方郡の配下に南の諸韓国があったという認識だったのではないのでしょうか。

ともあれ、郡の中心地から、東南に海岸沿いに巡航して、「其の」「北岸」にあたる「狗邪韓国に到る」となるわけです。

「其の」が、倭の領域を指し、倭の北岸を意味したのか？あるいは、韓国、さらには帶方郡の領域の北岸を意味したかで、捉え方が異なるでしょう。

倭の領域を、海や対馬のような周辺諸島まで示したのかも課題です。

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 10 日(水)22 時 39 分 24 秒 返信・引用 編集済
> No.1616[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

先入観ですな。

1.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗（ひこ）、

副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で400余里四方の広さ。1000余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

2.また南に瀚海と呼ばれる海を1000余里渡ると一大国に至る（「又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國」）。官は対馬国と同じ。300余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく。注、一大国は誤訳で正しくは瀚海国で国名。

3.また海を1000余里渡ると末廬国に至る（「又渡一海千餘里、至末廬國」）。4000余戸が有る。草木が茂り、前を行く人が見えない。魚や、アワビを捕るのを好み、皆が潜る。

説明は誤訳のまま行くぞ。

基点は狗邪韓國：フザンの港ですな。

1.狗邪韓國から対馬国まで1000余里

2.対馬国から一大国まで1000余里

3.一大国から末廬国まで1000余里

Google Earthで共通の距離を出せば1里=53mがでる。

秦野著書、徐福と邪馬台国で説明済みですな。

少し手間を省き先入観がすぎますな。

狗邪韓國（倭国と新羅の境）から帯方郡と楽浪郡の距離は同一距離

1万2千里

実の所、徐福と邪馬台国の筑後川ルートは秦野も驚いているのだ。

魏志倭人伝の記録に従うと九州のど真中に行く、常識では考えられないな
ここに解答があるなだな。

>管理人さんへのお返事です。

> 開城は、ちょっと内陸すぎる感じがしますね。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/楽浪郡>

>

東を目指す人々とは異なる考え・・・地球が丸い 東を目指す人々・・・地球が平ら 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年7月10日(水)11時46分55秒 返信・引用

コロンブスは、東を目指す人々とは異なる考えを持っていました。

http://www.mori7.net/marason/marason_sample.php?id=842819

彼は、地球が丸いことを信じていました。アフリカの南をまわってアジアを目指すよりも、大西洋を西へ進んだほうが、ずっと早くアジアにたどり着けるはずだと考えたのです。

「地球は丸い」と知っているため、緯度が高くなるにつれて二至の日の出の方位角が変化することは理解出来る。<http://www.enjoy.ne.jp/~hisasi/index98-8.html>

航海文化の果てに

青銅器は風葬の儀式に使われたものであり、その儀式は航海に必要な三角測量を基準に行ったのではないかとこれをこれまで説明してきた。そしてこれらの文化は農耕民の稲作文化ではなく、航海による交易を職業とする航海民達の航海文化に関係しているということを述べてきた。

それではなぜ彼らはわざわざ方位を定めて青銅器を埋納したり、遺跡を築いていったのだろうか？私はここである種の誘惑に駆られる。それは「彼らの航海文化が発展し続けた場合、その先にあるものは何なのか」という想像である。

船は準構造船から構造船に発展し、港に適した潟湖は大いに発展し、交易は盛んになる。航海技術は、操作技術の向上と測量技術の発展を迎え、そして航海航路が確定すると想像を広げてみる。その場合、その先に一体何が見えるのか。

結論を急ごう。私は「彼らが航海文化の総合芸術ともいえるべき「地図」の制作を試みた」と考える。わざわざ三角測量をして青銅器を埋納したり、遺跡を築いたりするのも、彼らが「地形図」を作るためだったと考えると納得がいく。勿論、「地形図」を作るという目的のために三角測量が始まったわけではないだろう。はじめは航海の必要上、海から判別しやすいものを目印とただけだっただろう。そのうち航海技術が発達するにつれて、日本の全体像を把握するために発展した技術を駆使して「地形図」を作ることを試みたのではないか。

測量技術が発達して三角測量が行われたとすれば、それを利用して正確に地形を把握したいと考えないほうが困難である。実際、現在の地図作りも三角測量を用いた放射測量(山当て法)で行われている。ただ現在は天文測量、つまり星の位置を基準に緯度経度を測りつつ三角測量を行うのに対し、(これまで述べてきたように)当時は太陽を基準に角度を決定し三角測量を行うという違いが存在する。これは簡単に言うと「地球は丸いと知っているか、そうでないか」ということである。我々は今では「地球は丸い」と知っているため、緯度が高くなるにつれて二至の日の出の方位角が変化することは理解出来る。

これまで、この「魏志倭人伝」の方位の問題は様々な解釈がなされてきた。そのなかで邪馬台国大和説をとる専門家は、この方位の記述は「混一疆理歴代国都之図」を用いて、当時の人々に地理上の過ちがあり、上図のような位置に日本があると信じていたためと解釈した。それは「魏志倭人伝」に「その道里を計るに、当に会稽の東冶(今の浙江省から江蘇省のあたり)の東にあるべし」というくだりがある

るためである。ただ何故このような間違いをおかしたかについては、これまで判然としなかった。しかしその間違いは、太陽を基準にして三角測量を用いた山当て法により地図を作った者達がいたためと考えればつじつまが合う。さらにそれは「魏志倭人伝」が作成される以前であったことは確かである。つまり、卑弥呼以前にこのような地図を作れた者達がいたと考えるべきであろう。

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 9 日(火)23 時 11 分 7 秒 返信・引用

> No.1613[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> 方向誤認の理由 - nifty

> ところが、

この問題も要考察ですが、特定の方向が間違っていれば、～も間違っているということを証明できればいいはずです。

一部だけ間違っているならば、誤写のケースとかもありえます。

全部間違っているのか？

距離は、方向が異なるとどの程度誤差がでるのか、伸びるのか、縮むのか？

その辺を具体的に、証明しないと駄目ですね。

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 9 日(火)23 時 04 分 21 秒 返信・引用

> No.1612[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 東西南北が合わないには、楽浪郡が平壤（ピョンヤン）にあると考えていますな。

> 平壤は玄菟郡。

>

> 楽浪郡は開城(ケソン)ですぞ。

>

開城は、ちょっと内陸すぎる感じがしますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/楽浪郡>

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 9 日(火)20 時 34 分 15 秒 返信・引用 編集済

> No.1613[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

鷺崎 弘朋

いまだに邪馬台国にたどり着くことが出来ない学者。

会稽山の東方海上は上海から東方向・・・あっているな。

東西南北の逆転は文章の理解度の問題ですな。魏志倭人伝が解説できないだけ。

方向座標軸を 65 度修正すれば、・・・は恥の上塗りですな。そんなものはない。

> 東西南北が逆

>> 先の北境を「狗邪韓国」としたり、倭人伝でしばしば東西南北が逆に記されていることも、その言語と方角の論理と記載に関係しているかもしれません。

>

> 拙著では倭人伝の全ての方向記事 17ヶ所（韓国沿岸水行の乍南乍東を除く）について、方向座標軸を 65 度修正すれば、四大国（伊都・投馬・邪馬台・狗奴）を含む各国の位置関係が矛盾なく説明できることを示しました。

> それでは、なぜ 60～70 度の方向誤認が起こったのかを以下で説明します。

>

> 邪馬台国の位置 <http://homepage3.nifty.com/washizaki/paper/paper1.html>

>

>
>

Re: 大倭 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 9 日(火)07 時 19 分 17 秒 返信・引用
> No.1611[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

東西南北が逆

> 先の北境を「狗邪韓国」としたり、倭人伝でしばしば東西南北が逆に記されていることも、その言語と方角の論理と記載に関係しているかもしれません。

南北逆

行基図を模写して掲載した現存最古の地図で この写図は南北逆の. 原図を忠実に 写し、 ...

kurepo.clib.kindai.ac.jp/modules/xoonips/download.php?file...

_ー 595 年刊 ティシェイ ラ 「日本図」 (Adobe PDF)

方向誤認の理由 - nifty

ところが、この混一疆理図はもともと中国での地図に日本からもたらされた行基図（飛鳥～奈良時代の僧侶・行基――生没 668～749 ... また、旧唐書日本伝（946 年作）、宋史（1345 年作）は「東西南北、各数千里」とし、日本が南北列島との認識はありません。

<http://homepage3.nifty.com/washizaki/paper/paper19.html>

拙著では倭人伝の全ての方向記事 17ヶ所（韓国沿岸水行の乍南乍東を除く）について、方向座標軸を 65 度修正すれば、四大国（伊都・投馬・邪馬台・狗奴）を含む各国の位置関係が矛盾なく説明できることを示しました。

それでは、なぜ 60～70 度の方向誤認が起こったのかを以下で説明します。

中国正史 25 書のうち日本を南北に細長い列島と記述するのは一書として存在しません。逆に、隋書（636 年作）、北史（659 年作）、通典（801 年作）、旧唐書倭国伝（946 年作）、新唐書（1060 年作）は、日本を「東西五月行」「南北三月行」と東西に細長い島国として記述しています。また、旧唐書日本伝（946 年作）、宋史（1345 年作）は「東西南北、各数千里」とし、日本が南北列島との認識はありません。すなわち、中国側の日本列島の認識は歴史的にほぼ一貫して「朝鮮半島の東南に連なる東西列島」せいぜい「東南列島」であって、決して「南北列島」ではありません。

なお、「会稽東治」について三国志版本は「東治」とするのに対し、後漢書は「東冶」と記しています。後漢書の「東冶」とは台湾対岸の福建省東冶（先ほどの地図参照）と言われ、この後漢書を根拠として、古代中国人は日本列島が台湾付近まで南北に延びていると誤認していた、との説がありますが、

この説も誤りです。

すなわち、「東冶」とするのは以下のように後漢書・晋書・翰苑の三書に過ぎません。

以上から言えることは、「東冶」「東冶」「閭川」にこだわるのは危険で、共通するのは「会稽」ということだけです。福建省「東冶」は永安三年（260年）以降は分郡で会稽郡から離れ建安郡に属したので、各時代に共通する「会稽」の概念から外れています。この各時代に共通する「会稽」とは、会稽山（揚子江下流の上海付近）を中心とする会稽郡のことで、古代中国では日本列島を会稽山の東方海上に位置するとして、60～70度の方向誤認をしていたのが大勢です。

邪馬台国の位置 <http://homepage3.nifty.com/washizaki/paper/paper1.html>

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 8 日(月)06 時 52 分 50 秒 返信・引用
> No.1611[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

まだ、古代の韓国の地図ができていませんな。

東西南北が合わないには、楽浪郡が平壤（ピョンヤン）にあると考えていますな。
平壤は玄菟郡。

楽浪郡は開城(ケソン)ですぞ。

郡より女王国に至るには一万二千余里である。ここの群は帯方郡ですな。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

>

> 馬韓、弁韓、辰・秦韓と同列の扱いということになるでしょうか。

>

> 「狗邪」が、「馬」、「弁」、「辰・秦」と同義の可能性がでできます。

>

> すでに会報で記したように、楽浪からみて、「馬」⇔南の方角を「馬韓」、東南→「辰」を「辰韓」としたわけですが、そういう論理からいくと、「狗（戌）」の（西北⇔東南）方角とみてよいかもしれません。当時の用法で、主多雨と客体が入れ替わる言語により、東西南北が逆に記されているんですね。

>

> たとえば、日本からみて西北は韓国なのですが、韓国を主体とする言語では、日本は韓国からみて「東南」にあると話すわけです。

>

> 先の北境を「狗邪韓国」としたり、倭人伝でしばしば東西南北が逆に記されていることも、その言語と方角の論理と記載に関係しているかもしれません。

>

> ともあれ、「韓」を、方角で4種類くらいに、楽浪郡がある時期に分割して呼んでいた可能性を感じます。

>

> それで「歴韓国」の意味も、解けてくるでしょう。

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 8 日(月)05 時 15 分 40 秒 返信・引用

> No.1610[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 『三国志魏書』馬韓伝に桓帝と靈帝の末（146 年－189 年）、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。

>

> （146 年－189 年）「多くの民が韓国に流入した。」の文章から韓国に流入した。ことになるな。表記の曆韓國は馬韓と韓国を分けられると思われる。狗邪韓国もいい例ですな。

> 桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

>

> 桓帝と靈帝の末（146 年－189 年）、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。

>

「韓国」の語に注目すると、確かに「狗邪韓国」の事例は重要ですね。

馬韓、弁韓、辰・秦韓と同列の扱いということになるのでしょうか。

「狗邪」が、「馬」、「弁」、「辰・秦」と同義の可能性がでてきます。

すでに会報で記したように、楽浪からみて、「馬」⇔南の方角を「馬韓」、東南→「辰」を「辰韓」としたわけですが、そういう論理からいくと、「狗（戌）」の（西北⇔東南）方角とみてよいかもしれません。当時の用法で、主多雨と客体が入れ替わる言語により、東西南北が逆に記されているんですね。

たとえば、日本からみて西北は韓国なのですが、韓国を主体とする言語では、日本は韓国からみて「東南」にあると話すわけです。

先の北境を「狗邪韓国」としたり、倭人伝でしばしば東西南北が逆に記されていることも、その言語と方角の論理と記載に関係しているかもしれません。

ともあれ、「韓」を、方角で4種類くらいに、楽浪郡がある時期に分割して呼んでいた可能性を感じます。

それで「歴韓国」の意味も、解けてくるでしょう。

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 7 日(日)20 時 55 分 8 秒 返信・引用

> No.1608[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

『三国志魏書』馬韓伝に桓帝と靈帝の末（146 年－189 年）、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。

（146 年－189 年）「多くの民が韓国に流入した。」の文章から韓国に流入した。ことになるな。表記の暦韓国は馬韓と韓国を分けられると思われる。狗邪韓国もいい例ですな。暦韓国の意味は韓国の暦でレキが地名になるな。同様に考えると狗邪韓国は韓国の狗邪。注意点は当時の韓国の位置が倭国の位置と一致しているな。現在は馬韓と倭国を韓国と言っているな。

また、梁書の扶桑から大漢国(やまと)を推定。大漢国は朝鮮(現在の韓国と北朝鮮)を意味し、志魏の韓国は倭国になるな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

『三国志魏書』馬韓伝

桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、

遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

桓帝と靈帝の末（146 年－189 年）、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。

建安年間（196 年－220 年）、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帶方郡とし、公孫模や張敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帶方に帰属させた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

>> 【曆韓國（群山、クンサン）をへて、あるいは、南しあるいは東し…】の文の意味は当方は、方向転回した所に倭奴国が存在したと考えています。狗邪韓國が「倭の北岸」、倭奴国が「倭の南岸」なのですね。

>

> 「歴韓国」ですが、「歴」は下記のような意味があります。

>

>

> 意義[編集]

> へる。順序に従って通る。

> 歴訪、経歴

> 順序を経てきたもの。

> 歴史

> 順番に海岸沿いの韓国を巡っていったというのが通説ですね。

>

>

蒋介石は中国の文化都市長沙に火を放った。 投稿者：ねこ 投稿日：2013 年 7 月 7 日(日)10 時 20 分 5 秒 返信・引用

蒋介石は中国の文化都市長沙に火を放った。

http://book.geocities.jp/japan_conspiracy/0202/p001.html#page111

それは、岸信介と吉田茂を祝福していた。

日本の完璧な傀儡（かいらい）だった。

(<http://park.geocities.jp/jpcdebate/0103/p038.html>)

全 1749 件の内、新着の記事から 10 件ずつ表示します。

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 6 日(土)23 時 05 分 35 秒 返信・引用

> No.1607[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>

> 済州島は「筑紫の宇佐」「竹島」になるな。オオクニヌシですな。

> また、

> 済州島は古事記に「筑紫島」、日本書紀に「筑紫洲」で出てくるな。

> ちなみに、壱岐島は古事記に「伊岐島」、日本書紀に「億岐洲」になるな。

> 対馬は古事記に「津島」、日本書紀に「越洲」。

>

> 過去ログですな。

>

> 【曆韓国（群山、クンサン）をへて、あるいは、南しあるいは東し…】の文の意味は当方は、方向転回した所に倭奴国が存在したと考えています。狗邪韓国が「倭の北岸」、倭奴国が「倭の南岸」なのですね。

>

> <http://9127.teacup.com/19syoucha/bbs/68>

>

>。

「歴韓国」ですが、「歴」は下記のような意味があります。

意義[編集]

へる。順序に従って通る。

歴訪、経歴

順序を経てきたもの。

歴史

<http://ja.wiktionary.org/wiki/歴>

順番に海岸沿いの韓国を巡っていったというのが通説ですね。

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 6 日(土)01 時 53 分 16 秒 返信・引用

> No.1606[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> ともあれ「一大」には、別々の語から同じ音を読み取って、同じ文字を当てたというより、同じ意味を持つ同系列の言葉と認識した可能性がありそうですね。

>

> 「始度一海」から、予想できることは、それまでは逆に大きな海峡は渡ってなかったということです。

> 「對海國」は「対馬国」

この辺は過去の誤訳を訂正しなければだめでしょうな。

論理上存在しないものがあるが、先輩には間違いがないですな・・・。

ばかげた事・・・。

济州島は「筑紫の宇佐」「竹島」になるな。オオクニヌシですな。

また、

済州島は古事記に「筑紫島」、日本書紀に「筑紫洲」で出てくるな。

ちなみに、壱岐島は古事記に「伊岐島」、日本書紀に「億岐洲」になるな。

対馬は古事記に「津島」、日本書紀に「越洲」。

伊

音読み

呉音 漢音：イ

伊達（だて）

億

音読み

呉音：オク

漢音：ヨク(表外)

訓読み

常用漢字表内

常用漢字表内の訓読みはありません。

常用漢字表外

お

壱岐島の壱は後世に当てた字ですな。「一大」の意味は見当たらないな。

「到其北岸狗邪韓國」は東北地方の東北の意味は何か・・・、南国の南は何か・・・

の質問ですな。

> 「絶島」として、「島」であることを認識しているのにも関わらず「対島」にしなかった理由は、別にあるのかもしれませんが。現地人の漢字表記ですでに「対海」だったのか。

>

> 対海の海に二つの海峡を意味していた可能性もなくはないですが・・・。

>

> 「到其北岸狗邪韓國」の意味ですが、おそらく一度済州島方面に南下して、海峡の真ん中の海流の強いところを東北へ北上しながら、プサンつまり狗邪韓国方面へ島伝いに向かうと、「北岸」の表現が正しくなるかもしれません。

>

> 陸路で行けば、狗邪韓国は「南岸」なんですけどね。

過去ログですな。

【曆韓國（群山、クンサン）をへて、あるいは、南しあるいは東し…】の文の意味は当方は、方向転回した所に倭奴国が存在したと考えています。狗邪韓国が「倭の北岸」、倭奴国が「倭の南岸」なのですね。

<http://9127.teacup.com/19syoucha/bbs/68>

。

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 5 日(金)23 時 17 分 42 秒 返信・引用

> No.1604[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 例だが、一大國官亦曰卑狗、一大率であるが一大率は女王国の制度になる。から訳すと

>

> 一大率は国名でない。ゆえ、後者がただしいな。

>

> 一大國の官亦曰卑狗は一大の國官亦曰卑狗になるな。

>

ともあれ「一大」には、別々の語から同じ音を読み取って、同じ文字を当てたというより、同じ意味を持つ同系列の言葉と認識した可能性がありそうですね。

『三国志魏書』倭人伝

從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國、七千餘里。始度一海、千餘里至對海國。其大官曰卑狗、副曰卑奴母離。所居絕島、方可四百餘里、土地山險、多深林、道路如禽鹿徑。有

千餘戸、無良田、食海物自活、乖船南北市糴。

「始度一海」から、予想できることは、それまでは逆に大きな海峡は渡ってなかったということです。

「對海國」は「對馬国」

「絶島」として、「島」であることを認識しているのにも関わらず「對島」にしなかった理由は、別にあるのかもしれませんが。現地人の漢字表記ですでに「對海」だったのか。

對海の海に二つの海峡を意味していた可能性もなくはないですが・・・。

「到其北岸狗邪韓國」の意味ですが、おそらく一度済州島方面に南下して、海峡の真ん中の海流の強いところを東北へ北上しながら、プサンつまり狗邪韓国方面へ島伝いに向かうと、「北岸」の表現が正しくなるかもしれません。

陸路で行けば、狗邪韓国は「南岸」なんですけどね。

Re: フン族の王子 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 5 日(金)03 時 51 分 3 秒 返信・引用
> No.1603[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

匈奴は紀元前からになるな。衛氏朝鮮の正体が問題ですな。

『山海経』海内北経に、「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」という一節がある。蓋国の位置について述べた文であるが、蓋国についてはいろいろな説があるため、ここでいう倭の位置については確定しない。また「属する」の意味も、普通に倭は燕の属国だったという一般的な解釈

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

衛氏朝鮮

燕王盧綰反、匈奴、滿亡命、聚黨千餘人、魑結蠻夷服而東出塞、渡?水、居秦故空地上下鄣、稍役屬真番、朝鮮蠻夷及故燕、齊亡命者王之、都王險。

燕王の盧綰（ロワン）が背き、匈奴に亡命すると、髡（まげ）を結い、蛮夷の衣服を着た満は千余の人々を連れて長城を出て東に逃れ、?水（清川江）を渡り、秦の時代の昔の空地に居を構えて鄣（長

城)を出入し、真番に軽く属していた朝鮮蛮夷や、その地に暮らす昔の燕や齊からの亡命者らの王となり、王險城(王儉城とも)を都とした。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

>

> フン族 楚(・・・いばら)

> 匈奴(呉音:くぬ、漢音:きょうど、拼音:Xiōngnú)は、紀元前4世紀頃から5世紀にかけて中央ユーラシアに存在した遊牧民族および、それが中核になって興した遊牧国家(紀元前209年 - 93年)。モンゴル高原を中心とした中央ユーラシア東部に一大勢力を築いた。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%88%E5%A5%B4>

> 壺衍鞬单于(在位:前85年 - 前68年)の代になり、東胡の生き残りで匈奴に臣従していた烏桓族が、歴代单于の墓をあばいて冒頓单于に敗れた時の報復をした。壺衍鞬单于是激怒し、2万騎を發して烏桓を撃った。

> 匈奴の内紛と呼韓邪单于[編集]

> 漢に対抗できなくなった匈奴は何度か漢に和親を求め、握衍?鞬单于(在位:前60年 - 前58年)の代にもその弟を漢に入朝させた。しかし一方で、握衍?鞬单于の暴虐殺伐のせいで匈奴内で内紛が起き、先代の虚閼渠单于の子である呼韓邪单于(在位:前58年 - 前31年)が立てられ、握衍?鞬单于是自殺に追い込まれた。

>

> キリストはアッシリアの言語であるアラム語を話していた <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

Re: 大倭 投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2013年7月5日(金)03時25分55秒 返信・引用 編集済

> No.1602[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

漢文の翻訳には背景が明確でなければ、駄目だな。

例だが、一大國官亦曰卑狗、一大率であるが一大率は女王国の制度になる。から訳すと

一大率は国名でない。ゆえ、後者がただしいな。

一大國の官亦曰卑狗は一大の國官亦曰卑狗になるな。

一大率

女王国の北方の諸国には「一大率（或るいは一支率）」という官が置かれて国々を監視している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

壹岐は瀚海(厳海：玄海)になり、壹岐の壹は漢音表記になる。

壹興の壹とは似ているが何の関係もない。

壹興の壹をさぐるか。

秦野著書、徐福と邪馬台国ですが一大国は瀚海(厳海：玄海)に変更だな。

対海国は國官亦曰卑狗(ひこま：彦馬?)の国になる。おそれいりました。

『三国志魏書』倭人伝（通称：魏志倭人伝）一部分は秦野訳

從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國、七千餘里。始度一海、千餘里至對馬國。其大官曰卑狗、副曰卑奴母離。所居絶島、方可四百餘里、土地山險、多深林、道路如禽鹿徑。有千餘戸、無良田、食海物自活、乖船南北市糴。

帶方郡より倭に至るには、海岸に沿って水行、韓国を経て、南へ行ったり、東へ行ったりして、北岸の狗邪韓国に到ること七千余里。初めて一海を渡り、千余里で対馬国に至る。その大官は卑狗、副は卑奴母離という。極めて険しい島に住み、四方は四百余里ほど。土地は山が険阻で、深い林が多く、道路は獣や鹿の小道（獣道）。千余戸あり、良田は無く、海産物を食べて自活しており、船で南北の市（物々交換の場）に出かけて、糴（てき＝穀物を買求める）する。

又南渡一海千餘里、名曰瀚海。至一大國官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という。一大の国官卑狗という。副は卑奴母離に至る。四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.ht>

Re: フン族の王子 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 5 日(金)03 時 00 分 47 秒 返信・引用

> No.1598[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> キリスト

>

> 推測ですが、キリストはフン族の王子でないかな。

>

> フン族（フンぞく、Hun）は、ヴォルガ川東方から現れた遊牧民の集団で、370 年頃にヨーロッパへ移住して大帝国を築いた。彼らは恐らく 300 年程前に中国の北隣に居住していた匈奴の子孫であり。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%B3%E6%97%8F>

>

フン族 楚（・・・いばら）

匈奴（呉音：くぬ、漢音：きょうど、拼音：Xiōngnú）は、紀元前 4 世紀頃から 5 世紀にかけて中央ユーラシアに存在した遊牧民族および、それが中核になって興した遊牧国家（紀元前 209 年 - 93 年）。モンゴル高原を中心とした中央ユーラシア東部に一大勢力を築いた。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%88%E5%A5%B4>

壺衍鞬单于（在位：前 85 年 - 前 68 年）の代になり、東胡の生き残りで匈奴に臣従していた烏桓族が、歴代单于の墓をあばいて冒頓单于に敗れた時の報復をした。壺衍鞬单于は激怒し、2 万騎を発して烏桓を撃った。

匈奴の内紛と呼韓邪单于[編集]

漢に対抗できなくなった匈奴は何度か漢に和親を求め、握衍?鞬单于（在位：前 60 年 - 前 58 年）の代にもその弟を漢に入朝させた。しかし一方で、握衍?鞬单于の暴虐殺伐のせいで匈奴内で内紛が起き、先代の虚閼權渠单于の子である呼韓邪单于（在位：前 58 年 - 前 31 年）が立てられ、握衍?鞬单于は自殺に追い込まれた。

キリストはアッシリアの言語であるアラム語を話していた <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 4 日(木)23 時 24 分 43 秒 返信・引用

> No.1601[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 残念だが、「一大國」は存在しないな。

> 魏志倭人伝の翻訳ミスだな。

>

> 「対海国」がヒントになったな。

> 対馬は対馬国で壱岐が厳海(瀚海)国になるな。

>

> 厳原(いづはら)から壱岐(いづ)になり、壱岐(イツキ)漢音

>

> 翻訳

> 又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

>

おそらく「瀚海」は、「ガン・カン+カイ」で、今の玄界（ゲンカイ）灘のことではないでしょうか。

「瀚」は「広い、しお」の意味があるそうです。

かなり中国文化圏の影響を受けて成立した名称ですね。

範囲[編集]

最も一般的な範囲として福岡県宗像市の鐘ノ岬から志賀島、糸島半島、唐津湾を経て佐賀県唐津市の東松浦半島までの海岸から、沖合は大島、沖ノ島、長崎県の壱岐、対馬までの海域を指すとされる。東方は響灘に接し、西方は東シナ海、北方は日本海に連なる[3]。一方で、東端を遠賀川河口まで、西端を平戸海峡（平戸瀬戸）までとすることもある

<http://ja.wikipedia.org/wiki/玄界灘>

それで宗像の市杵（いつき）嶋姫が、これが、「壱岐（いつき）」嶋姫のことで、「一大（いちだい）国」および「一大率」

「伊都」も「イツ」の可能性が有りますね。

先の厳原(いづはら) もそうです。原は西都原同様に九州特有の地名ですね。

「ガン」が「ゲン」に後代なるわけです。そしてそれに「厳・イツキ」という意味をもたせていくのですが、

邪馬台国の長官職も「伊支馬（イチマ）」といます。対馬が対海となったように、「馬」はしばしば「海」と変換します。

それに対して伊都国の長官職は「爾支（ニギ）」で、いわゆる物部系の祖・ニギハヤヒと関係してきます。

「一」と「二」の関係か？

「ニチ」と発音した可能性もあります。「日（ニチ）」→「速日」

「イチ」⇔「ニチ」の対応も重要ですね。

「イキ」⇔「ニキ」

そこで、物部系の孝元・開化妃のウツ（鬱）シコと姪のイカガ（伊香：イコウ）シコの関係になります。

彼女たちは「石凝姥女（イシコリボメ）」として鏡作神社に祀られるのですが、「石（イシ）」というのが、石切神社のように、物部系のアイデンティティーを現す発音なんです。

「イシ」⇔「イチシ」「イチキ」・・・

「ウツ」と「イコウ」の発音も、これらの物部系の要素と関わってくるとすると、どうなるか？

「ウツ」⇔「イツ」

「イコウ」⇔「イヨ」「イチヨ」「イチコウ」「イシコウ」⇔「シコ」

「伊迦賀色許売（イカガシコメ）命」

許は「コ・キョ」で、コとヨの間くらいの発音だったのではないのでしょうか。

そこから類するすると、「壹與（イチヨ）」は「壹興（イチコウ・キョウ）」と記されたのでしょうか。

「ヨ」「コウ」のどちらかの発音、あるいは中間的な「キョ」に近い音だったか、その辺がどう識別できるかという点が課題です。

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 4 日(木)21 時 43 分 25 秒 返信・引用
> No.1599[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

残念だが、「一大國」は存在しないな。

魏志倭人伝の翻訳ミスだな。

「対海国」がヒントになったな。

対馬は対馬国で壱岐が嚴海(瀚海)国になるな。

嚴原(いづはら)から壱岐(いづ)になり、壱岐(イツキ)漢音

翻訳

又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海。一大国の官、卑狗、副は卑奴母離に至る。四方は三百里、竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足りないので、また南北に物々交換に出かける。

翻訳ミス『三国志魏書』倭人伝（通称：魏志倭人伝）

又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という、一大国に至る。官もまた卑狗、副は卑奴母離という。四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

古代史のセミナーのお知らせ 投稿者：プジョー 106 投稿日：2013 年 7 月 4 日(木)01 時 11 分 26 秒 返信・引用

サマーセミナー 2013

「縄文から律令時代までの日本の古代史」

1 日時 2013 年 7 月 14 日(日)

<第3限> 13 時 10 分～14 時 30 分

<第4限> 14 時 50 分～16 時 10 分

2 場所 南山大学の R 棟－3 階 R 32 教室

3 費用 無料

http://www.geocities.co.jp/furutashigaku_tokai/index.htm

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 3 日(水)23 時 24 分 46 秒 返信・引用 編集済
> No.1594[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>> 壱岐のことを「一大國」といい、対馬のことを「対海」と記します。

>> 「対海国」は「タイカイ」。

>

> 気づきません出したな。

>

> 古代の表記でみると。「対海国」は「対馬国」と「?海国」になるな。

> 候補は厳原で玄海が相当ではないかな。

> 「対馬国」と「厳海国」

> 対馬は 2 つに別れ、2 国の可能性がある。

>

>

なるほど、両者もしかすると、関係ありそうですね。

壱岐島に「厳原（いづはら）港」というのもあります。おそらく元は「イツキハラ」ではないでしょうか。

つまり「壱岐（イチキ）」と関係して発音されていた可能性を感じます。

同じ九州北部で信仰されている宗像三女神のひとりに「市杵嶋姫命（イチキシマヒメ）」がいます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/イチキシマヒメ>

この「市杵嶋（イチキシマ）」が、つまり「壱岐島」のことなのでしょう。通説では「斎き」に解釈していますが、魏志倭人伝の発音だと、昨日お話したとおり「イチタイ」で、それが後代「イチキ（壱岐）」となり、最終的に「イキ」となったものと感じます。

だから、魏志倭人伝での「一」は、そのまま「イチ」と発音していた可能性が高いんです。

後に日本側で、その発音に「壱」の当て字をします。

フン族の王子 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 3 日(水)22 時 36 分 56 秒 返信・引用

キリスト

推測ですが、キリストはフン族の王子でないかな。

フン族（フンぞく、Hun）は、ヴォルガ川東方から現れた遊牧民の集団で、370 年頃にヨーロッパへ移住して大帝国を築いた。彼らは恐らく 300 年程前に中国の北隣に居住していた匈奴の子孫であり。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%B3%E6%97%8F>

Re: キリストと サタンの戦いの場 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 3 日(水)21 時 52 分 39 秒
返信・引用

> No.1596[元記事へ]

>> 777=十字架=獣 666 とイエス 888 の中間=神・天・地=神が天と地を結んだクロス
<http://www.geocities.co.jp/MusicHall/4053/Kabbale.html>

>

> 北緯 35 度 東経 135 神が天と地を結んだクロス

> 日本標準時子午線が東経 135 度ちょうどではないのはなぜ

> 日本標準時子午線東経 135 度上に明石市立天文科学館があります

>

> 明石市立天文科学館の緯度経度は、世界測地系で、

> 東経 135 度 00 分 05.3 秒 (135.001472222)

> 北緯 34 度 38 分 57.8 秒 (34.649388888)

>

> 参考ですが日本測地系で、

> 東経 135 度 0 分 15 秒 (135.004166666)

> 北緯 34 度 38 分 46 秒 (34.646111111)

>

> 日本標準時子午線は天文経緯度にもとづく東経 135 度ちょうどなのですが、世界測地系の東経 135 度より百数十メートルほど東よりにあります。

>

>

> 地図上の不思議な発見 (データ)

> 北西隅 北緯 35 度 4 分 14 秒, 東経 135 度 50 分 26 秒 南西隅 北緯 35 度 4 分 12 秒, 東経 135 度 50 分 26 秒 北東隅 北緯 35 度 4 分 14 ... 紀貫之墓, 北緯 34 度 56 分 36 秒, 東経 135 度 42 分 11 秒 北緯 35 度 3 分 48 秒, 東経 135 度 51 分 0 秒, 45°10'26.81"

18,898.705(m).<http://www.geocities.jp/yasuko8787/0-0husigihakken-d.htm>

> 根本中堂の四隅の緯度、経度

> 北西隅 北緯 35 度 4 分 14 秒, 東経 135 度 50 分 26 秒

> 南西隅 北緯 35 度 4 分 12 秒, 東経 135 度 50 分 26 秒

> 北東隅 北緯 35 度 4 分 14 秒, 東経 135 度 50 分 28 秒

> 南東隅 北緯 35 度 4 分 12 秒, 東経 135 度 50 分 28 秒

>

> 延暦寺根本中堂 (えんりゃくじこんぽんちゅうどう) は、比叡山延暦寺の総本堂である。伝教大師最澄が 788 年 (延暦 7 年) に、一乗止観院という草庵を建てたのが始まりとされる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BB%B6%E6%9A%A6%E5%AF%BA%E6%A0%B9%E6%9C>

%AC%E4%B8%AD%E5%A0%82

>

> 此の神は近淡海国の日枝の山に坐し」とあるのが初見である。日枝の山（ひえのやま）とは後の比叡山のことである。牛尾山（八王子山）山頂に磐座があり、これが元々の信仰の地であった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E5%90%89%E5%A4%A7%E7%A4%BE>

> 滋賀県大津市坂本5丁目1-1

> 位置

> 北緯 35 度 4 分 24.4 秒

> 東経 135 度 51 分 53.9 秒

> 主祭神

> 西本宮：大己貴神

> 東本宮：大山咋神

>

通常ナザレの人とはイエスのことですが

明石市立天文科学館の緯度経度は、世界測地系で、

東経 135 度 00 分 05.3 秒 (135.001472222)

北緯 34 度 38 分 57.8 秒 (34.649388888)

参考ですが日本測地系で、

東経 135 度 0 分 15 秒 (135.004166888)

北緯 34 度 38 分 46 秒 (34.646111888)

222

ゲマトリア数秘術では 2 2 2 はナザレ人を意味します。 <http://app.f.m-cocolog.jp/t/typecast/469843/456623/56896365>

888

666 はサタンを表しますが、888 はキリストを表します。

<http://apollomanroku.wordpress.com/2007/07/07/777-%E5%8D%81%E5%AD%97%E6%9E%B6%E3%81%A8%E5%85%AD%E8%8A%92%E6%98%9F/>

666

反キリスト $666 = (6+6+6) \times 37$

十字架 $777 = (7+7+7) \times 37$ <http://apollomanroku.wordpress.com/2007/07/07/777-%E5%8D%81%E5%AD%97%E6%9E%B6%E3%81%A8%E5%85%AD%E8%8A%92%E6%98%9F/>

イエス $888 = (8+8+8) \times 37$

>111 は、ギリシア語では「鍵」を意味する言葉のゲマトリアにも等しくなります。111 は、666 や 888 といった数の神秘を解き明かす鍵となるのです。さらに、111 は「北斗七星」のゲマトリアともなります。北斗七星は古来、方角や時刻、季節など ...<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1449>

Re: キリストと サタンの戦いの場 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 3 日(水)21 時 38 分 7 秒
返信・引用

> No.1595[元記事へ]

> 777 当麻蹴速 (たいまのけはや) 仁天皇 (7 年 7 月 7 日)

> 当麻蹴速 (たいまのけはや、たぎまのけはや、タエマクエハヤ、當麻蹶速、生年不明 - 垂仁天皇 7 年 7 月 7 日) は、垂仁天皇の時代 ... <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BD%93%E9%BA%BB%E8%B9%B4%E9%80%9F>

> 『日本書紀』によれば、大和国の当麻邑 (たいまのむら、現奈良県葛城市當麻) に住み、強力を誇って生死を問わない勝負をする者を欲していたため、これを聞いた垂仁天皇が出雲国から勇士であると評判の野見宿禰を召し寄せ、掬力 (すまひ) で対戦させたところ、互いに蹴り合った後に、腰を踏み折られて死んだといい、蹴速の土地は没収されて、勝者の野見宿禰の土地となったという [1]。

> 「蹴速」という名前は、蹴り技の名手であったことを示すために名付けられたと推測されている [2]。また、葛城市當麻には蹴速の塚と伝わる蹴速塚がある。

> 後世野見宿禰と共に相撲の神とされ、両者が相撲を取った地であると伝える奈良県桜井市の穴師坐兵主神社の摂社、相撲神社に野見宿禰とともに祀られている。

> 地元の奈良県葛城市當麻町には、蹴速の屋敷跡があるという地元伝承が残っている。

>

> 777=十字架=獣 666 とイエス 888 の中間=神・天・地=神が天と地を結んだクロス
<http://www.geocities.co.jp/MusicHall/4053/Kabbale.html>

北緯 35 度 東経 135 神が天と地を結んだクロス

日本標準時子午線が東経 135 度ちょうどではないのはなぜ

日本標準時子午線東経 135 度上に明石市立天文科学館があります

明石市立天文科学館の緯度経度は、世界測地系で、

東経 135 度 00 分 05.3 秒 (135.001472222)

北緯 34 度 38 分 57.8 秒 (34.649388888)

参考ですが日本測地系で、

東経 135 度 0 分 15 秒 (135.004166666)

北緯 34 度 38 分 46 秒 (34.646111111)

日本標準時子午線は天文経緯度にもとづく東経 135 度ちょうどなのですが、世界測地系の東経 135 度より百数十メートルほど東よりにあります。

地図上の不思議な発見 (データ)

北西隅 北緯 35 度 4 分 14 秒, 東経 135 度 50 分 26 秒 南西隅 北緯 35 度 4 分 12 秒, 東経 135 度 50 分 26 秒 北東隅 北緯 35 度 4 分 14 ... 紀貫之墓, 北緯 34 度 56 分 36 秒, 東経 135 度 42 分 11 秒 北緯 35 度 3 分 48 秒, 東経 135 度 51 分 0 秒, 45°10'26.81"

18,898.705(m).<http://www.geocities.jp/yasuko8787/0-0husigihakken-d.htm>

根本中堂の四隅の緯度、経度

北西隅 北緯 35 度 4 分 14 秒, 東経 135 度 50 分 26 秒

南西隅 北緯 35 度 4 分 12 秒, 東経 135 度 50 分 26 秒

北東隅 北緯 35 度 4 分 14 秒, 東経 135 度 50 分 28 秒

南東隅 北緯 35 度 4 分 12 秒, 東経 135 度 50 分 28 秒

延暦寺根本中堂（えんりやくじこんぽんちゅうどう）は、比叡山延暦寺の総本堂である。伝教大師最澄が788年（延暦7年）に、一乗止観院という草庵を建てたのが始まりとされる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BB%B6%E6%9A%A6%E5%AF%BA%E6%A0%B9%E6%9C%AC%E4%B8%AD%E5%A0%82>

此の神は近淡海国の日枝の山に坐し」とあるのが初見である。日枝の山（ひえのやま）とは後の比叡山のことである。牛尾山（八王子山）山頂に磐座があり、これが元々の信仰の地であった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E5%90%89%E5%A4%A7%E7%A4%BE>

滋賀県大津市坂本5丁目1-1

位置

北緯 35 度 4 分 24.4 秒

東経 135 度 51 分 53.9 秒

主祭神

西本宮：大己貴神

東本宮：大山咋神

キリストと サタンの戦いの場 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 7 月 3 日(水)21 時 20 分 14 秒 返信・引用

777 当麻蹴速 (たいまのけはや) 仁天皇 (7 年 7 月 7 日)

当麻蹴速 (たいまのけはや、たぎまのけはや、タエマクエハヤ、當麻蹴速、生年不明 - 垂仁天皇 7 年 7 月 7 日) は、垂仁天皇の時代 ... <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BD%93%E9%BA%BB%E8%B9%B4%E9%80%9F>

『日本書紀』によれば、大和国の当麻邑 (たいまのむら、現奈良県葛城市當麻) に住み、強力を誇って生死を問わない勝負をする者を欲していたため、これを聞いた垂仁天皇が出雲国から勇士であると評判の野見宿禰を召し寄せ、掬力 (すまひ) で対戦させたところ、互いに蹴り合った後に、腰を踏み折られて死んだといい、蹴速の土地は没収されて、勝者の野見宿禰の土地となったという[1]。

「蹴速」という名前は、蹴り技の名手であったことを示すために名付けられたと推測されている[2]。また、葛城市當麻には蹴速の塚と伝わる蹴速塚がある。

後世野見宿禰と共に相撲の神とされ、両者が相撲を取った地であると伝える奈良県桜井市の穴師坐兵主神社の摂社、相撲神社に野見宿禰とともに祀られている。

地元の奈良県葛城市當麻町には、蹴速の屋敷跡があるという地元伝承が残っている。

777 = 十字架 = 獣 666 と イエス 888 の中間 = 神・天・地 = 神が天と地を結んだクロス
<http://www.geocities.co.jp/MusicHall/4053/Kabbale.html>

777 は「十字架」を表すらしいのです。666 はサタンを表しますが、888 はキリストを表します。、「十字架」以外にも、「神・天・地」のギリシア語ゲマトリアが 777 となるそうです。「十字架 (クロス)」とは、「神」が「天」と「地」を結んだもの、つまり、
...<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1449>

十字架」のギリシア語ゲマトリアを見ると、777 となります。これは十字架が、キリストと サタンの戦いの場であったことを表しているのだそうです。キリストはその ...<http://app.f.m-cocolog.jp/t/typecast/75944/74549/45799298?page=2>

111 は 37 (六芒星数) の 3 倍です。

$111 = 37 + 37 + 37$

111 はヘブル語では、アレフ (ヘブル語アルファベットの最初の文字の名前) のゲマトリアに等しくなります。

111 は、ギリシア語では「鍵」を意味する言葉のゲマトリアにも等しくなります。111 は、666 や 888 といった数の神秘を解き明かす鍵となるのです。さらに、111 は「北斗七星」のゲマトリアともなります。北斗七星は古来、方角や時刻、季節など ...<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1449>

約 1 1 1 k m

地球上の計算では $40000 \div 360 = \text{約 } 111 \text{ km } 1 \text{ 度あたり}$ ですが、私が測りましたら 90 Km 位で結構差がありますがどちらの方が正しいですか。因みに東経 139 度から 140 度まで直線距離測りましたら 90.45 km と 111.111 km にはなりませ

...http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1029994330

『日本書紀』の該当部分をよくよく読んでみると、野見 宿禰は当麻蹶速を蹴り殺しているのである。

十字架が、キリスト（当麻蹶速）と サタン（野見 宿禰）の戦いの場 『日本書紀』？

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 3 日(水)06 時 55 分 14 秒 返信・引用

> No.1593[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 壱岐のことを「一大國」といい、対馬のことを「対海」と記します。

> 「対海国」は「タイカイ」。

気づきません出したな。

古代の表記でみると。「対海国」は「対馬国」と「？海国」になるな。

候補は厳原で玄海が相当ではないかな。

「対馬国」と「厳海国」

対馬は 2 つに別れ、2 国の可能性がある。

>

> 扶余・高句麗系の「邪頭味（ヤトウマイ）」「レン台」「尉キュウ台」の「イ」音も同じ遊牧民系の地名の語尾につく「イ」音ではないかと考えてます。

>

> 豊は、確かに倭人系の発音の可能性はありますね。倭人はどうも周代にすでに見えるそうですね。越人と比較されているのは、相関性があるからでしょう。

> http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/sitemap/sitemap.htm#map_3gokushiki

>

> 後漢書の倭人習俗記載は、そのまま魏志に挿入されるわけですが、もっと古い時代の南方系の倭人

認識のそれをもってきている可能性も感じます。冬でも温暖。百歳を越える長寿・・・云々。

>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 2 日(火)23 時 18 分 29 秒 返信・引用

> No.1592[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 豊は古事記まで遡る・・・。追跡不可能だな。アイヌ語、越、呉・・・？

> とよ-あしはら【豊葦原】は現在の博多、北九州辺りの豊国の様だな。

> 《豊かに葦の生い茂っている原の意》日本国の美称。

> 「代々絶えず継ぎて久しく栄へなん一の国安くして」〈玉葉集・賀〉

> <http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/160504/m0u/>

>

> 豊国

> <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E8%B1%8A>

>

> 古事記からトヨクモノカミ（豊雲野神）の領土が出雲になる。

> 豊雲野神の意味は、豊国から雲野=宇野 (岡山市)の地区で筑紫は豊国に属する。

>

豊の語源は難しいですね。おそらく「イヨ」とはダイレクトに関係ないように感じます。

「伊豆」「伊都」のほうが重要。

壱岐のことを「一大國」といい、対馬のことを「対海」と記します。

「壱（イチ）」の発音を中国人はちゃんと「一（イチ）」と聞き取っているようにも見えます。

でも「岐（ギ・キ）」は、「大（タイ・ダ）」になってしまった。

一方で「対馬（ツシマ）」の「馬」のマ・メ音を、「海（カイ）」と中国人は聞き取ったのでしょう。

「対海国」は「タイカイ」。

これらから考えうることは、「タイ」「カイ」のように、地名の最後に「イ」音を、小さくつける習俗があったのではないのでしょうか。これは、遊牧民系に多く見えるもので「サウロマタイ」「スキタイ」「アオルサイ」・・・といった「イ」音で、それをどうも聞き分けられない民族があつて「イ」音が記されないケースがあるんですね。

同じ理由で、倭人はのちにその語尾の「イ」音を忘れてしまったので、もともとは「一大（イチタイ）」「対海（ツイカイ）」と発音していて魏志にもそのように記されたものが、後代「壹岐（イキ）」「対馬（ツシマ）」と「イ」音がはずされた表示になったのではないのでしょうか。

邪馬台国も同じ論理で、もともとは「ヤマタイ」と「イ」音を最後につけていたものの、後代それがぬけて「ヤマタ（八股）」あるいは「ヤマト（山戸・大和）」となった可能性を感じます。

扶余・高句麗系の「邪頭味（ヤトウマイ）」「レン台」「尉キュウ台」の「イ」音も同じ遊牧民系の地名の語尾につく「イ」音ではないかと考えてます。

豊は、確かに倭人系の発音の可能性はありますね。倭人はどうも周代にすでに見えるそうですね。越人と比較されているのは、相関性があるからでしょう。

http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/sitemap/sitemap.htm#map_3gokushiki

後漢書の倭人習俗記載は、そのまま魏志に挿入されるわけですが、もっと古い時代の南方系の倭人認識のそれをもってきている可能性も感じます。冬でも温暖。百歳を越える長寿・・・云々。

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 7 月 2 日(火)20 時 45 分 56 秒 返信・引用 編集済
> No.1591[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

豊は古事記まで遡る・・・追跡不可能だな。アイヌ語、越、呉・・・？

とよ-あしはら【豊葦原】は現在の博多、北九州辺りの豊国の様だな。

《豊かに葦の生い茂っている原の意》日本国の美称。

「代々絶えず継ぎて久しく栄へなん一の国安くして」〈玉葉集・賀〉

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/160504/m0u/>

豊国

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E8%B1%8A>

古事記からトヨクモノカミ（豊雲野神）の領土が出雲になる。

豊雲野神の意味は、豊国から雲野=宇野 (岡山市)の地区で筑紫は豊国に属する。

豊雲野は瀬戸内海側に厳島（いつくしま）玄海灘側に厳原(いづはら)、豊国に筑紫
韓半島には筑紫、安芸、・・・と豊雲野と同地名が存在する。

対馬の港に厳原がある。厳原(いづはら)の「いづ」。

日本書紀 応神天皇の処に伊豆国(いづこく)

五年冬十月伊豆国に命じて船を造らせた。長さ十丈の船ができた。ためしに海に浮かべると、軽く浮かんで早く行くことは、走るようであった。その船を名づけて枯野といった。

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

伊豆国(いづこく)は伊都国（いとこく）と思われるな。

本来は伊都国 (いづこく)で厳国になる。厳島の関係は・・・。

伊都国

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%8A%E9%83%BD%E5%9B%BD>

厳島

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%B3%E5%B3%B6>

康居

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BA%B7%E5%B1%85>

だんだん古代が明確になるな。

> もっとも「邪馬台国」については、「邪馬臺国」の「タイ」音が正解ではないかと感じます。

>

> でも「壹与」については、上記のとおり「壹（いち）」音が正解。

>

> そもそも「豊」については「フ・ブ」音が原音で、「トヨ」と読ませた語源を考える必要があります。

>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 7 月 1 日(月)22 時 51 分 15 秒 返信・引用

> No.1590[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>

> 大和国＝大漢国＝大韓国＝邪馬壹国＝やまと、が韓半島である事は一生理解できないな・・・。

>

>> 「一大率」とか、「壹岐」と記していたのかもしれませんが。

>> やはり「壹與」で「壹（イチ）」が正解のようです。

>

> 古代には現在の博多、北九州辺りを豊国と言っていたのだな。

> 「一大率」は魏志倭人伝の内容から一大率を置いたとあるな。一大率から一大国・・・。

> 「壹岐」命名は以後に豊国の島とかんがえるのがいいな。

> 豊を「と」と読む。

>

> <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E8%B1%8A>

>

> 古田の亡霊だな・・・。

>

>

> 豊(とよ)

ちょっと昨日は出かけてました。やはり、下記の部分の解釈にかかっているかなと感じます。

「壹与、倭の大夫率善中郎将掖邪狗等二十人を遣わし、政等の還るを送らしむ。因つてに臺に詣り、

男女生口三十人を献上し、白珠五千孔・青大勾珠二牧・異文雜錦二十四を貢す。」

<http://www.g-hopper.ne.jp/bunn/gisi/gisi.html>

どうも先日の上文の解釈が間違いだったかもしれません。「臺」（たい）は、皇帝の居所とのことで、ここで明確に「壹（いち）」と「臺（たい）」をかき分けているわけですね。

「率善中郎将の印綬を壹拝す」の部分も、写真をみるかぎり、「壹（いち）」を使用します。

下記の見解が興味深いですね。

(二)このさい、注目すべき事例が倭人伝に出現しています。

(1) 壹拝（卑弥呼、正始四年の貢献）

(2) 臺に詣る（壹與貢献）

これはいずれも“中国側の事物”であり、佐伯さんに従えば“見まちがいにくい”事例です。また前代の史書と対比しても、(1)は「壹朝」「壹反」「壹至」といった夷蛮貢献の事例（いずれも漢書 一第一書三一五ページ参照）の一つですから、決して「臺拝」のまちがいではありません。いわんや(2)が「壹に詣る」のまちがいでないことは明白です。

一説では、皇帝の居所の「臺（たい）」を、倭の王の名につけるのはおこがましいから「壹（いち）」に書き換えたとのことですが、問題はそういう事例が魏志などに他にあるかどうかかもしれません。

<http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/yamatai/yamatai6.html>

ともかく誤写ではないことは、「壹与」がその前後で数回連続的に記されていることからわかります。

もっとも「邪馬台国」については、「邪馬臺国」の「タイ」音が正解ではないかと感じます。

でも「壹与」については、上記のとおり「壹（いち）」音が正解。

そもそも「豊」については「フ・ブ」音が原音で、「トヨ」と読ませた語源を考える必要があります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/豊国>

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 30 日(日)08 時 35 分 29 秒 返信・引用 編集済
> No.1589[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

中国史跡は皇帝でも書換えできないもの。権威がある。中国史跡が理解できず、書き間違いと理解するのは軽率ですな。古田、安田レベルですな。両名はまだ、邪馬台国の位置が読めていない学者ですな。一生かかってもだめですな。

なお、中国史跡と魏志倭人伝は同一内容になっているな。

また、こんな、アジアの島国の僻地に遊牧民が来るかな。日本はすごいと考えているな。世界では日本の位置も知らない人が居る。また、古代 600 年まで中国史跡を見る限り、日本の存在を知らない、かろうじて、記録に扶桑が出てくるが限界。謎の島ですな。

大和国＝大漢国＝大韓国＝邪馬壹国＝やまと、が韓半島である事は一生理解できないな・・・。

> 「一大率」とか、「壹岐」と記していたのかもしれませんが。

> やはり「壹與」で「壹（イチ）」が正解のようです。

古代には現在の博多、北九州辺りを豊国と言っていたのだな。

「一大率」は魏志倭人伝の内容から一大率を置いたとあるな。一大率から一大国・・・。

「壹岐」命名は以後に豊国の島とかんがえるのがいいな。

豊を「と」と読む。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E8%B1%8A>

古田の亡霊だな・・・。

豊(とよ)

邪馬台国は現在の畝火山口神社（うねびやまぐちじんじゃ、おむねやまじんじゃ）で、奈良県橿原市の畝傍山西麓にある神社である。俗に「お峯山」と呼ばれる。式内社で、旧社格は県社。

気長足姫命（神功皇后）・豊受比売命・表筒男命を祀り、神功皇后が応神天皇を出産した伝承により、安産の神として信仰されている。

気長足姫命が壺輿で豊受比売命の姉

豊受比売命は気長足姫命（神功皇后）の妹

表筒男命は卑弥呼の弟

ここで注意する事はトヨタマヒメ（豊玉比売）、トヨウケビメ（豊受比売命）、推古天皇の名が豊(とよ)になつている。

トヨタマヒメ（豊玉比売）

http://www15.plala.or.jp/kojiki/umisachi_yamasachi/umisachi_yamasachi_03.html

トヨウケビメ（豊受比売命）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%88%E3%83%A8%E3%82%A6%E3%82%B1%E3%83%93%E3%83%A1>

推古天皇

豊御食炊屋姫尊（とよみけかしきやひめのみこと、『日本書紀』による。『古事記』では豊御食炊屋比売命という）。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8E%A8%E5%8F%A4%E5%A4%A9%E7%9A%87>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 29 日(土)23 時 08 分 37 秒 返信・引用

> No.1587[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 臺輿でなく壹輿ですな。臺＝堆(タイ)、ですな。『隋書』倭国伝で、都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。

>

> 壹與の壹は呉音で現存していないと考えるべきもの。奈良のやまと、に当て嵌め邪馬壹を「やまと」、漢字の音部分を発音すると考えるが良いな。

>

> 扶桑国の文章に大漢国「やまと」がある、大韓国も「やまと」で、学者が言っている大和「やまと」は日本に存在しないな。日本は瑞穂の国、倭国(タイコク)よわい国。神武東征後から瑞穂の国には「尊」が不在になり政権は無かった。もっぱら、扶桑国が治めていたが、渡来政権になっていた模様。大和政権は大漢国のなごりですな。なお、倭国は「わこく」で大韓国の1国でしかない。日本は瑞穂の国、倭国(タイコク)よわい国ですな。その後、倭国、日本に改名。

>

> 政権は『隋書』倭国伝では邪馬壹は带方郡から一万二千里で、現在の釜山になる。

> 魏志倭人伝の行程から奈良に落ち延びている。文章は日本書紀の活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇、廿五年春二月丁巳朔甲子に志懷沖退と明記されている。

>

やはり「壹與」で「壹（イチ）」が正解のようです。

壹與 [編集]

『三国志』魏書東夷傳の倭人之条、（通称魏志倭人伝、陳寿編纂、3世紀・晋代）では2写本系統とも「壹與」と記載されている。発音は「い（ゐ）よ」か？。代用表記は「壹与」。

臺與 [編集]

『梁書』諸夷伝 倭（姚思廉編纂、636年・唐代）、『北史』東夷伝（李延寿編纂・唐代）などに記述[1]。代用表記は「台与」。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/台与>

魏志倭人伝の時点では「壹（イチ＝一）」だったものが、後代の書写のミスで「臺（タイ＝台）」になったわけです。

だから、トヨではなく、イ（チ）コウが正解でしょう。

以前論じて会報にも記したように、物部氏系の孝霊・開化妃の「伊香（イカガ＝イコウ）シコ」、お

よびその叔母の「鬱（ウツ）シコ」が、つまり上記の「壹與」と「卑弥呼」なわけです。

この「イコウ」の音が正解だと思うのですが、叔母の「ウツシコ」の「ウツ」音にも注目すべきかもしれません。

「イチ」と「ウツ」の関係は、イ行とウ行への変化になります。

先のとおり遊牧民系の「尉遲（イチ・ウッチ）」部（氏）」の発音と関係するかもしれません。

ウにちかいイ音で、そのあとに「チ」と小さく発音するのではないのでしょうか。それを聞き取れないと、「イチ」は「イ」と記されます。中国人は聞き取れたので「一大率」とか、「壹岐」と記していたのかもしれない。

ところが、日本人には聞き取れなかったので「伊香」となる。

それで先の扶余・百済系の2～3世紀の王族、「尉仇台（イキュウダイ）」「簡位居（ケンイコ・カンイキョ）」を考えて行くと、もしかすると「尉遲（イチ・ウッチ）」の「チ」音を聞き取れない人が記した可能性もできます。

さらにいえば「月氏」「月支国」「秦支」といった遊牧民系の「支（チ）」音は、何かその集団の支族名をしるす称号で、時に省略された可能性もあります。

同様に「台（ダイ）」も関連の称号だったとすると、だんだん、これらの扶余系王族の王号や国名の発音の特徴が明らかになってくるでしょう。もとは「サウロマタイ」といった遊牧民系の「タイ」音。

ご指摘の伊豆（イズ）、伊都（イト）もその延長線上にあるのでしょう。

邪馬台国の「タイ」も同じ論理です。

そうするとある時期に、遊牧民・扶余系集団が、半島南部に流れ込んだのが、後漢初期で、その流れで九州北部にも流れこんできたのが、伊都や邪馬台国。

それで、それらの支配領域ですが、もしかすると完全に半島と日本列島とで、彼らの組織は分離されきっていなかったかもしれないという可能性も出てきますね。民族としては習俗や言語も同じ。

確かに秦野さんの邪馬台国半島説は、それなりに面白い視点を提供しているようにも見えます。

どのくらい、それらが分離していたのか？も課題ですね。

魏志倭人伝に瀚海 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 29 日(土)21 時 18 分 59 秒 返信・引用
編集済

魏志倭人伝の 3.に瀚海と呼ばれる海がある。漢読みでカンカイ。呉読みではケンカイで現在は
玄海ゲンカイになる。対馬の港に厳原(いづはら)のいづ(厳)は、日本書紀 応神天皇の処のが出てくる。
どうも伊豆国(いづこく)のいづ (伊豆＝厳)ようだな。漢読みで伊都国(いとこく)になるな。伊豆国＝厳
国＝伊都国＝いづこく、ですな。

玄海灘は厳海＝玄海(ゲンカイ)、中国語の呉音：ケンカイと聞こえたのだろうな。

日本書紀 応神天皇の処

五年冬十月伊豆国に命じて船を造らせた。長さ十丈の船ができた。ためしに海に浮かべると、軽く浮
かんで早く行くことは、走るようであった。その船を名づけて枯野といった。

――船が軽く早く走るのに、枯野と名づけるのは、道理に合わない。もしかすると軽野と
いったのを、後の人がなまめたのでなかろうか。

筆者にはわるいが、枯野は烏奴(からぬ)で神武東征のヤタガラスで案内になるな。

奴は兵士で護衛船ですな。ちなみに烏(カラス)神社が船の神様になっているな。

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

魏志倭人伝

1.帯方郡から倭国に至るには、水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000 余里で北岸の狗邪韓
国（くやかんこく）に到着する（「從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七
千餘里」）。

2.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る（「始度一海千餘里、至對馬國」）。大官は卑狗（ひこ）、
副官は卑奴母離（ひなもり）。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獣道
のようで、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

3.また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る（「又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一
大國」）。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000 の家族が住める。田
畑はあるが足りず、市へいく。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

邪馬壹国の女王の都に至る。

『新唐書』日本伝

彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次曰綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次孝靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。

彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は綏靖、次は安寧、次は懿德、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、次は崇神、次は垂仁、次は景行、次は成務、次は仲哀という。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintoshoh.htm>

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 29 日(土)03 時 16 分 14 秒 返信・引用 編集済
> No.1586[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 豊と臺與の件は確かに面白いですね。

まあ、少しずつ明かして行きましょう。

臺與でなく壹與ですな。臺＝堆(タイ)、ですな。『隋書』倭国伝で、都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。

壹與の壹は呉音で現存していないと考えるべきもの。奈良のやまと、に当て嵌め邪馬壹を「やまと」、漢字の音部分を発音すると考えるが良いな。

扶桑国の文章に大漢国「やまと」がある、大韓国も「やまと」で、学者が言っている大和「やまと」は日本に存在しないな。日本は瑞穂の国、倭国(タイコク)よわい国。神武東征後から瑞穂の国には「尊」が不在になり政権は無かった。もっぱら、扶桑国が治めていたが、渡来政権になっていた模様。大和政権は大漢国のなごりですな。なお、倭国は「わこく」で大韓国の1国でしかない。日本は瑞穂の国、倭国(タイコク)よわい国ですな。その後、倭国、日本に改名。

政權は『隋書』倭国伝では邪馬壹は帶方郡から一万二千里で、現在の釜山になる。

魏志倭人伝の行程から奈良に落ち延びている。文章は日本書紀の活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇、廿五年春二月丁巳朔甲子に志懷沖退と明記されている。

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_06.html

『新唐書』日本伝

彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次曰綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次孝靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。

彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は綏靖、次は安寧、次は懿德、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、次は崇神、次は垂仁、次は景行、次は成務、次は仲哀という。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintoshoh.htm>

『隋書』倭国伝

倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國、三十餘國、皆自稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。都於邪靡堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與儋耳相近。

倭国は、百濟や新羅の東南に在り、水陸を越えること三千里、大海中の山島に依って居する。三国魏の時代、通訳を伴って中国と通じたのは三十余国。皆が王を自称した。東夷の人は里数（距離）を知らない、ただ日を以って計っている。

その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。その地形は東高西低。都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。古伝承では楽浪郡の境および帶方郡から一万二千里、会稽の東に在り、儋耳と相似するという。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuishoh.htm>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 28 日(金)23 時 21 分 52 秒 返信・引用

> No.1585[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 魏志倭人伝の陳寿が帰国後に公孫淵が誅殺される。
- > 後は臺與(豊：トヨ)こと、神功皇后の時代になるな。
- > 漢人(中臣氏)は三韓征伐からの登場になる。
- > 三韓征伐には木満致者が関係している模様。

豊と臺與の件は確かに面白いですね。

「臺」は「イチ」で姓との見方を中国撰者がしているのがやはり気になります。中国文献に「臺」をもって姓とみなすような記載があったのでしょうか。

先のとおり、月氏系の尉遲氏がいます。于闐の「尉遲（うっち）」は隋末に出てきますが、鮮卑に尉遲部がみえてきます。桜蘭方面からある時期に東遷している。

扶余、百済に「尉仇台」が見えます。尉氏。

「永寧元年（120年）、夫余王は嫡子の尉仇台を遣わして印闕貢獻してきたので、安帝は尉仇台に印綬金綵を賜った」。

公孫氏の時代になると下記の記載がでてきます。

「公孫度は扶余が二族の間で苦慮させられたので公孫氏の娘を妻とさせた。尉仇台が死に簡位居が立った。」

「簡位居（カンイキョ）（ケンイコ）」

どこか「臺興（イチキョウ）（イチコウ）」と似ていると思いませんか？

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年6月28日(金)00時55分44秒 返信・引用

> No.1584[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

魏志倭人伝の陳寿が帰国後に公孫淵が誅殺される。

後は臺與(豊：トヨ)こと、神功皇后の時代になるな。

漢人(中臣氏)は三韓征伐からの登場になる。

三韓征伐には木満致者が関係している模様。

豊の説明をする・・・。

豊は韓半島の意味ですな。能の桜川に木花咲耶姫神社が出てくるが、

木花咲耶姫神社は筑紫の神社になり、筑紫は日本書紀の崇神天皇に所在地があるな。

六十五年秋七月、任那國遣蘇那曷叱知、令朝貢也。任那者去筑紫國、二千餘里。北阻海以在鷄林之西南。になる。新羅の北、二千餘里になる。

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_05.html

桜川、常陸国(茨城県)は扶桑国ですな。木満致者の木満致（きみつち：君津）ですな

扶桑国から1千里が東女国ですな。女国は中近東・・・。

漢人(中臣氏)が見えてきましたかな。

<http://sakuragaworld.com/modules/tiny01/index.php?id=11>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

『梁書』倭国伝

至魏景初三年、公孫淵誅後、卑彌呼始遣使朝貢、魏以為親魏王、假金印紫綬。

正始中、卑彌呼死、更立男王、國中不服、更相誅殺、復立卑彌呼宗女臺與為王。其後復立男王、並受中國爵命。

魏の景初三年（239年）、公孫淵が誅殺された後、卑彌呼は初めて遣使を以て朝貢し、魏は親魏王と為し、仮の金印紫綬を授けた。

正始中（240－249年）、卑彌呼が死に、改めて男の王を立てたが、国中が服さず、互いに誅殺しあったので、再び卑彌呼の宗女「臺與」を王として立てた。

その後、また男の王が立った、いずれも中国の爵命を拝受した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun4-ryosho.htm>

木満致者が地名になり、現在も地名で残っていたな。

木満致（きみつち：君津）

伊都国と邪馬台国の通信を扶桑国の者が行うとは・・・。

ちなみに、扶桑国は女国で、魏志倭人伝は女王国が出てきますな。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1572>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 27 日(木)23 時 14 分 12 秒 返信・引用

> No.1583[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

『隋書』倭国伝に「ただ二人の男性が王の飲食を給仕し、言葉を伝えるため通じる。」

> この文章の二人の男性はどうしますか。政治は二人の男性が行っているな。

>

> 倭の女王卑弥呼、狗奴國の男王卑弥弓呼と素より和せず。この表現は第三者ですな。

>

> 『隋書』倭国伝

>

> 漢光武時、遣使入朝、自稱大夫。安帝時、又遣使朝貢、謂之倭奴國。桓、靈之間、其國大亂、遞相攻伐、歷年無主。有女子名卑彌呼、能以鬼道惑衆、於是國人共立為王。有男弟、佐卑彌理國。其王有侍婢千人、罕有見其面者、唯有男子二人給王飲食、通傳言語。其王有宮室樓觀、城柵皆持兵守衛、為法甚嚴。自魏至于齊、梁、代與中國相通。

>

>>

> 古代の成人は 13 歳ですな。奈良時代以降ですが。

>

2人というのは、ちょっと気になりますね。たとえば、巫女神功皇后と、夫の天皇、そしてサニワ者である中臣氏の男性という組み合わせが後代見えます。

卑弥呼（巫女王）＋王＋神官？

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 26 日(水)23 時 59 分 20 秒 返信・引用

> No.1582[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

『隋書』倭国伝に「ただ二人の男性が王の飲食を給仕し、言葉を伝えるため通じる。」

この文章の二人の男性はどうしますか。政治は二人の男性が行っているな。

倭の女王卑弥呼、狗奴國の男王卑弥弓呼と素より和せず。この表現は第三者ですな。

『隋書』倭国伝

漢光武時、遣使入朝、自稱大夫。安帝時、又遣使朝貢、謂之倭奴國。桓、靈之間、其國大亂、遞相攻伐、歷年無主。有女子名卑彌呼、能以鬼道惑衆、於是國人共立為王。有男弟、佐卑彌理國。其王有侍婢千人、罕有見其面者、唯有男子二人給王飲食、通傳言語。其王有宮室樓觀、城柵皆持兵守衛、為法甚嚴。自魏至于齊、梁、代與中國相通。

後漢の光武帝の時（25－57 年）、遣使が入朝し、大夫を自称した。

安帝の時（106－125 年）、また遣使が朝貢、これを倭奴国という。

桓帝と靈帝の間（146－189 年）、その国は大いに乱れ、順番に相手を攻伐し、何年もの間、国主がいなかった。卑彌呼という名の女性があり、鬼道を以てよく大衆を魅惑したが、ここに於いて国人は（卑彌呼を）王に共立した。弟がいて、卑彌呼の国政を補佐した。その王には侍婢が千人、その顔を見た者は極めて少なく、ただ二人の男性が王の飲食を給仕し、言葉を伝えるため通じる。その王の宮室や樓觀、城柵には皆、兵が持して守衛しており、法は甚だ厳しい。魏より齊、梁に至るが、代々中国と相通じた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

> その後、卑弥呼がなんらかの事情で亡くなり、そして男王（開化）が立ち、1 年で台与とその摂政崇神＝垂仁の時代へと移行していく、その時期が250 年ごろだろうと予想します。258 年ごろに崇神が退いて、20 歳になった台与の統治がはじまったのでしょ。

古代の成人は13 歳ですな。奈良時代以降ですが。

げん-ぶく 【元服】

[名] (スル) 《「げんぶく」とも》

1 奈良時代以降、男子が成人になったことを示す儀式。ふつう、11～16歳の間に行われ、髪を結い、服を改め、堂上家以上は冠、地下(じげ)では冠の代わりに烏帽子(えぼし)を着用した。中世以降は混同されて烏帽子を用いても加冠といい、近世には烏帽子も省略されて月代(さかやき)をそるだけで済ませた。また、これを機に幼名を廃して実名を名のった。加冠。

2 江戸時代、結婚した女性が齒を黒く染め、丸まげを結い、眉をそったこと。

<http://kotobank.jp/word/%E5%85%83%E6%9C%8D>

>

> 「その8年、太守王キ官に到る。倭の女王卑弥呼、狗奴國の男王卑弥弓呼と素より和せず。倭の載斯烏越等を遣わして郡に詣り、相攻撃する状を説く。塞曹エン史張政等を遣わし、因って詔書・黄幢をもたらし、難升米に拝仮せしめ、檄をつくりてこれを告諭す。」

>

> ここで「卑弥呼」がまだ出てきています。おそらくは卑弥呼の署名のある手紙が使者とともに送られたはずです。

>

> その後、卑弥呼がなんらかの事情で亡くなり、そして男王（開化）が立ち、1年で台与とその摂政崇神＝垂仁の時代へと移行していく、その時期が250年ごろだろうと予想します。258年ごろに崇神が退いて、20歳になった台与の統治がはじまったのでしょうか。

>

> あと、「壺与、倭の大夫率善中郎将掖邪狗等二十人を遣わし、政等の還るを送らしむ。因って台に詣り、男女生口三十人を献上し、白珠五千孔・青大勾珠二枚・異文雜錦二十匹を貢す。」

>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013年6月26日(水)23時20分42秒 返信・引用

> No.1581[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 垂仁天皇の文章を243年に入れる。卑弥呼の死後は垂仁天皇が狗奴國と戦闘した模様

> 狗奴國の男王卑弥弓呼は韓半島への帰還に反対したのが原因の模様だな。

> ・・・・神祇(国津神)をひろく祭る。

>

>

やはり卑弥呼の死亡年は秦野さんの243年ではなくて、247～8年ごろではないでしょうか。

次の部分になるわけですが、

「その8年、太守王キ官に到る。倭の女王卑弥呼、狗奴國の男王卑弥弓呼と素より和せず。倭の載斯烏越等を遣わして郡に詣り、相攻撃する状を説く。塞曹エン史張政等を遣わし、因って詔書・黄幢をもたらし、難升米に拝飯せしめ、檄をつくりてこれを告諭す。」

ここで「卑弥呼」がまだ出てきています。おそらくは卑弥呼の署名のある手紙が使者とともに送られたはずです。

その後、卑弥呼がなんらかの事情で亡くなり、そして男王（開化）が立ち、1年で台与とその摂政崇神＝垂仁の時代へと移行していく、その時期が250年ごろだろうと予想します。258年ごろに崇神が退いて、20歳になった台与の統治がはじまったのでしょうか。

あと、「壹与、倭の大夫率善中郎将掖邪狗等二十人を遣わし、政等の還るを送らしむ。因って台に詣り、男女生口三十人を献上し、白珠五千孔・青大勾珠二枚・異文雜錦二十匹を貢す。」

これもちょっと解釈が変で、張政等が壹与が献上した～とを掖邪狗等をもって送らしめたという内容かと感じます。

「壹与」の「壹」を姓と見なしているわけです。「与」が名前。

「壹」は「イチ」で、「一」と同じなのですが、扶余・百済に進出した月氏系の「～遲・イチ」氏と関係するとおもしろいですね。和邇氏や物部系の血筋にあたるはずですが。

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年6月26日(水)17時02分13秒 返信・引用 編集済
> No.1580[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

垂仁天皇の文章を243年に入れる。卑弥呼の死後は垂仁天皇が狗奴國と戦闘した模様
狗奴國の男王卑弥弓呼は韓半島への帰還に反対したのが原因の模様だな。

・・・・神祇(国津神)をひろく祭る。

大筋

韓半島から奈良に避難（邪馬台国を立てる：丘）

243 年廿五年春二月丁巳朔甲子の文章より

志懷沖退：志を持ち韓半島(大漢＝大韓：やまと)を退いた。

御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

狗奴國の男王卑弥弓呼

卑弥呼と卑弥呼の弟

邪馬台国（都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。）

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

240 年正始元年、太守弓遵、建中校尉梯儁等を遣わし、詣書・印綬を奉じて、倭國に詣り、倭王に拝
仮し、ならびに詣を齎し、金帛・錦ケイ・刀・鏡・サイ物を賜う。倭王、使に因って上表し、詣恩を答
謝す。

243 年活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

廿五年春二月丁巳朔甲子、詔阿倍臣遠?武渟川別・和珥臣遠?彦國菴・中臣連遠?大鹿

阿倍臣(遠い祖先、武渟川別)、和珥臣(遠い祖先、彦國菴)、中臣連(遠い祖先、大鹿嶋)、

物部連(遠い祖先、十千根)、大伴連(遠い祖先、武日)に詔する。

五大夫に曰く。我先皇(崇神天皇)の思いを明かす。作聖(作成)の出来は謙遜する。

志を持ち韓半島(大漢＝大韓：やまと)を退いた。事態はまつわる。

神祇(国津神)をひろく祭り、躬(自ら)勤め己に剋ち。日、気を配る。これゆえ人民は富む。天下太平な
り。今、朕世(垂仁天皇)になり、神祇(国津神)をひろく祭る。どうして怠ろうか

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1577>

244 年その四年、倭王、また使大夫伊声耆・掖邪狗等八人を遣わし、生口・倭錦・絳青ケン・緋衣・
帛布・丹・木?・短弓矢を上献す。掖邪狗等、率善中郎将の印綬を壺拝す。

246 年その 6 年、詔して倭の難升米に黄幢を賜い、郡に付して仮授せしむ。

248 年その 8 年、太守王キ官に到る。倭の女王卑弥呼、狗奴國の男王卑弥弓呼と素より和せず。倭の載
斯烏越等を遣わして郡に詣り、相攻撃する状を説く。塞曹エン史張政等を遣わし、因って詔書・黄幢を
もたらし、難升米に拝仮せしめ、檄をつくりてこれを告諭す。

卑弥呼以て死す。大いにチョウを作る。径百余歩、徇葬する者、奴婢百余人。更に男王を立てしも、國中服せず。

更更相誅殺し、当時千余人を殺す。また卑弥呼の宗女壹与年十三なるを立てて王となし、國中遂に定まる。政等、檄を以て壹与を告諭す。

壹与、倭の大夫率善中郎将掖邪狗等二十人を遣わし、政等の還るを送らしむ。因って台に詣り、男女生口三十人を献上し、白珠五千孔・青大勾珠二枚・異文雜錦二十匹を貢す。

> ただ、そうすると、こちらの正始8年の卑弥呼の記載はどう解釈しましょうか？

>

> 「その8年、太守王キ官に到る。倭の女王卑弥呼、狗奴國の男王卑弥弓呼と素より和せず。倭の載斯烏越等を遣わして郡に詣り、相攻撃する状を説く。塞曹エン史張政等を遣わし、因って詔書・黄幢をもたらし、難升米に拝仮せしめ、檄をつくりてこれを告諭す。」

> <http://www.g-hopper.ne.jp/bunn/gisi/gisi.html>

>

> 正始8年に張政が着てから、その後次の文書になったと考えるのが自然でしょう。

>

>

> 「卑弥呼以て死す。大いにチョウを作る。径百余歩、徇葬する者、奴婢百余人。更に男王を立てしも、國中服せず。

>

> 更更相誅殺し、当時千余人を殺す。また卑弥呼の宗女壹与年十三なるを立てて王となし、國中遂に定まる。政等、檄を以て壹与を告諭す。」

>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 25 日(火)23 時 13 分 58 秒 返信・引用

> No.1579[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 小さい文章だが、意味は大きい。付託の意味は、卑弥呼が死に喪にあると思われる。

>

> 正始六年（245 年） - 難升米に黄旗を仮授与（帶方郡に付託）。

>

> ふ-たく 【付託／附託】

> [名] (スル)物事の処置などを任せること。特に、議会で、議案の審査を本会議の議決に先だって他の機関に委ねること。「特別委員会に一する」

>

>

ただ、そうすると、こちらの正始8年の卑弥呼の記載はどう解釈しましょうか？

「その8年、太守王基官に到る。倭の女王卑弥呼、狗奴國の男王卑弥弓呼と素より和せず。倭の載斯烏越等を遣わして郡に詣り、相攻撃する状を説く。塞曹エン史張政等を遣わし、因って詔書・黄幢をもたらし、難升米に拝仮せしめ、檄をつくりてこれを告諭す。」

<http://www.g-hopper.ne.jp/bunn/gisi/gisi.html>

正始8年に張政が着てから、その後次の文書になったと考えるのが自然でしょう。

「卑弥呼以て死す。大いにチョウを作る。径百余歩、徇葬する者、奴婢百余人。更に男王を立てしも、國中服せず。

更更相誅殺し、当時千余人を殺す。また卑弥呼の宗女壹与年十三なるを立てて王となし、國中遂に定まる。政等、檄を以て壹与を告諭す。」

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 25 日(火)08 時 02 分 37 秒 返信・引用 編集済

> No.1578[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

小さい文章だが、意味は大きい。付託の意味は、卑弥呼が死に喪にあると思われる。

正始六年（245 年） - 難升米に黄旗を仮授与（帯方郡に付託）。

ふ-たく 【付託／附託】

[名] (スル)物事の処置などを任せること。特に、議会で、議案の審査を本会議の議決に先だって他の機関に委ねること。「特別委員会に一する」

正始元年（240 年） - 帯方郡から魏の使者が倭国を訪れ、詔書、印綬を奉じて倭王に拝受させた。

正始四年（243 年） - 倭王は大夫の伊聲耆、掖邪狗ら八人を復遣使として魏に派遣、掖邪狗らは率善中郎將の印綬を受けた。

正始六年（245 年） - 難升米に黄旗を假授与（帯方郡に付託）。

正始八年（247 年） - 倭は載斯、烏越らを帯方郡に派遣、援を請う。難升米に詔書、黄旗を授与。

正始九年（248 年） - またはその前後

卑弥呼が死に、墓が作られた。（『梁書』では正始年間（240 年 - 249 年）に卑弥呼死亡）

男の王が立つが、国が混乱し互いに誅殺しあい千人余が死んだ。

卑弥呼の宗女「壹與」を 13 歳で王に立てると国中が遂に鎮定した。

女王位についた壹與は掖邪狗ら 20 人に張政の帰還を送らせ、掖邪狗らはそのまま都に向かい男女の生口 30 人と白珠 5000 孔、青大句珠 2 枚、異文の雜錦 20 匹を貢いだ。

泰始元年（265 年） - 倭の遣使が重ねて入貢。『晋書』邪馬台国からの最後の入貢。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%91%BC>

> 卑弥呼死亡はいつなんでしょうね。

>

>

> これに対し(魏の朝廷は) 塞曹掾史の張政らを派遣した。邪馬台国に赴いた張政らは証書と黄幢を難升米(なしめ) に授け、檄文を作って論した。して、卑弥呼は死んだ。死後は直径 100 余歩の大きな塚が作られ、奴婢 100 余人が殉葬された。）

>

> この記述は、247 年（正始 8 年）に邪馬台国からの使いが狗奴国との紛争を報告したことに発する一連の記述である。卑弥呼の死については年の記載はなく、その後も年の記載がないまま、1 年に起こったとは考えにくい量の記述があるため、複数年にわたる記述である可能性が高いが、卑弥呼の死が 247 年か 248 年か（あるいはさらに後か）については説が分かれている。また 247 年（正始 8 年）の記述は、240 年（正始元年）に梯儻が来てから以降の倭の出来事を伝えたものとし、卑弥呼の死も 240 年から 246 年までに起きた出来事とする考えもある。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/卑弥呼#.E5.8D.91.E5.BC.A5.E5.91.BC.E3.81.AE.E6.AD.BB>

>

>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 24 日(月)23 時 12 分 17 秒 返信・引用

> No.1577[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 茨の紀氏さんへのお返事です。

>

> 日本書記の垂仁天皇、廿五年春二月丁巳朔甲子 243 年は卑弥呼が亡くなった年みたいだな。

>

> 神祇(国津神)をひろく祭る。これがアマテラスになるな。

>

>

> 卑弥呼が使者を送った相手というのが曹操の孫でした。レッドクリフがどこかで我々と繋がっているのも不思議です。もし曹操が死んでいれば卑弥呼は誰に使者を送っていたんでしょうね？

>

> 238 年（景初 2 年）に邪馬台国の卑弥呼が朝貢の使者を送ったことは、『魏書東夷伝倭人条』いわゆる『魏志倭人伝』に記されています。

>

卑弥呼死亡はいつなんでしょうね。

これに対し(魏の朝廷は) 塞曹掾史の張政らを派遣した。邪馬台国に赴いた張政らは証書と黄幢を難升米(なしめ) に授け、檄文を作って諭した。して、卑弥呼は死んだ。死後は直径 100 余歩の大きな塚が作られ、奴婢 100 余人が殉葬された。)

この記述は、247 年（正始 8 年）に邪馬台国からの使いが狗奴国との紛争を報告したことに発する一連の記述である。卑弥呼の死については年の記載はなく、その後も年の記載がないまま、1 年に起こったとは考えにくい量の記述があるため、複数年にわたる記述である可能性が高いが、卑弥呼の死が 247 年か 248 年か（あるいはさらに後か）については説が分かれている。また 247 年（正始 8 年）の記述は、240 年（正始元年）に梯儻が来てから以降の倭の出来事を伝えたものとし、卑弥呼の死も 240 年から 246 年までに起きた出来事とする考えもある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/卑弥呼#.E5.8D.91.E5.BC.A5.E5.91.BC.E3.81.AE.E6.AD.BB>

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 24 日(月)09 時 44 分 17 秒 返信・引用
> No.1576[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

日本書記の垂仁天皇、廿五年春二月丁巳朔甲子 243 年は卑弥呼が亡くなった年みたいだな。

神祇(国津神)をひろく祭る。これがアマテラスになるな。

卑弥呼が使者を送った相手というのが曹操の孫でした。レッドクリフがどこかで我々と繋がっているのも不思議です。もし曹操が死んでいれば卑弥呼は誰に使者を送っていたんでしょうね？

238 年（景初 2 年）に邪馬台国の卑弥呼が朝貢の使者を送ったことは、『魏書東夷伝倭人条』いわゆる『魏志倭人伝』に記されています。

ただ、この年は、魏 VS 公孫淵との戦闘の最中で、朝貢を受け付ける余裕はなく、魏の二代皇帝「曹叡」自体の体調の問題もあったようなので、239 年（景初 3 年）の誤りではないかという説が有力です。

239 年だったとすると、魏の二代皇帝「曹叡」が 1 月に早世し、その後を養子の「曹芳」が三代皇帝についた年です。

わずか 7 歳の幼帝です。

曹操が亡くなった 220 年には、既に卑弥呼が共立され（180 年頃）倭を治めていた時期といわれます。

以前から、57 年に金印を授与されたり、107 年倭国王の帥升が安帝に拝謁を願うとの後漢書の記載もありますので、お付き合いは細々とでしうが続いていたものと思います。

曹操が亡くなった時期に、弔問の使者を送るほどの親密さがあったと仮定すれば、当然、魏の初代皇帝である「曹丕」＝喪主が相手だったと思います。

曹操が亡くなった 220 年

建安年間（196 年－220 年）、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張敞などを派

遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。
この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

〔説文解字（義証）〕に「賜予なり」「此れ予と同じなり」とある。

魏志倭人伝には、「卑弥呼が死んで更に男王が立つ、国中不服、更に相誅殺、当時千人を殺した。また、卑弥呼の宗女・壹与(台与)、年13才を立て王と為す。国中ついに定まる

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

日本書記

活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

元年春正月丁丑朔戊寅、皇太子?天皇位。218年

廿五年春二月丁巳朔甲子、詔阿倍臣遠?武渟川別・和珥臣遠?彦國葺・中臣連遠?大鹿嶋・物部連遠?十千根・大伴連遠?武日、五大夫曰、我先皇御間城入彦五十瓊殖天皇、惟叡作聖。欽明聰達。深執謙損、志懷沖退。綢繆機衡、禮祭神祇。剋己勤躬、日愼一日。是以人民富足、天下太平也。今當朕世、祭祀神祇、豈得有怠乎。三月丁亥朔丙申、離天照大神於豐耜入?命、託于倭?命。爰倭?命求鎮坐大神之處、而詣菟田筱幡。筱、此云佐佐。更還之入近江國、東廻美濃、到伊勢國。時天照大神誨倭?命曰、是神風伊勢國、則常世之浪重浪歸國也。傍國可伶國也。欲居是國。故隨大神教。其祠立於伊勢國。因興齋宮于五十鈴川上。是謂磯宮。則天照大神始自天降之處也。243年

阿倍臣(遠い祖先、武渟川別)、和珥臣(遠い祖先、彦國葺)、中臣連(遠い祖先、大鹿嶋)、
物部連(遠い祖先、十千根)、大伴連(遠い祖先、武日)に詔する。

五大夫に曰く。我先皇(崇神天皇)の思いを明かす。作聖(作成)の出来は謙遜する。

志を持ち韓半島(大漢＝大韓：やまと)を退いた。事態はまつわる。

神祇(国津神)をひろく祭り、躬(自ら)勤め己に剋ち。日、気を配る。これゆえ人民は富む。天下太平なり。今、朕世(垂仁天皇)になり、神祇(国津神)をひろく祭る。どうして怠ろうか。

神祇：卑弥呼

志懷沖退：志を持ち韓半島(大漢＝大韓：やまと)を退く

沖：広々とした田畑や野原の遠い所。韓半島(大漢＝大韓：やまと)

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1542>

> 秦野北斗さんへのお返事です。

>

> > 邪馬台国の年代「249 年」とあわないな。

>

> 日本の発祥の地とされている邪馬台国が九州説か畿内説かの答えのヒントが旧約聖書にあるわけだ。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

>

>

>

Re: 大倭 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013 年 6 月 24 日(月)03 時 08 分 17 秒 返信・引用

> No.1575[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 邪馬台国の年代「249 年」とあわないな。

日本の発祥の地とされている邪馬台国が九州説か畿内説かの答えのヒントが旧約聖書にあるわけだ。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 23 日(日)06 時 45 分 58 秒 返信・引用 編集済

> No.1574[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

邪馬台国の年代「249 年」とあわないな。

本筋を捻じ曲げているな。魏志倭人伝、中国史籍が最大の手掛かりだが、理解できないようだな。

韓半島の地図も書き起こす勇気もないな。

『三国志魏書』馬韓伝

韓在帶方之南、東西以海為限、南與倭接、方可四千里。有三種、一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁韓。辰韓者、古之辰國也。馬韓在西。其民土著、種植、知蠶桑、作綿布。各有長帥、大者自名為臣智、其次為邑借、散在山海間、無城郭。

韓は帶方郡の南に在り、東西は海で尽きる。南に倭と接し、地積は四千里ばかり。韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁韓。辰韓とは昔の辰国なり。馬韓は西に在る。その民は土着し、種を植え、養蚕を知っており、綿布を作る。各邑落には長帥（邑落の長）がおり、大首領は自らを臣智と称し、その次が邑借で、山海の間に散在しており城郭はない。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

> 女王国以北に置かれた「一大率」の「率」は、「魏率」の率で、後代の384年ごろとされる百済の「奈率」「恩率」「達率」などと同じく、おそらくは楽浪・帶方郡時代の賜与官職の名残だろうと思います。日本から進出したバイリンガル氏族がその官職を賜っています。「率」が率いるの意味で、つまり中国系の統治官との意味ではないでしょうか。

>

>

> 同じく邪馬台国に置かれた交易監視官の「大倭」も、「一大率」の「大」で、高句麗の300年～331年ころの官職にある「大対盧」「大兄」「大使者」といった「大」と関係するかもしれません。扶余では諸加の下には大使、大使者がみえます。ご指摘の「大漠」もその関連で穢・扶余系でしょう。

>

> そうすると、「大倭」という官職そのものは、扶余系の可能性がありますね。

> 弥生中末期、古墳初期に南下した扶余系集団や、楽浪系集団の中に扶余系の官職をもたらしただけで、それで「大倭」が成立したのかもしれませんが。

>

> 楽浪郡の「邪頭マイ」や「レン台」といった地名が、後代カヤ地域にみえてきます。そしてそのまま「邪馬台」になるわけですが、その流れで「大+」の官職も設置されていったとすると、当然カヤ地域にも同類の官職があった可能性がでてきます。

>

> つまり「大倭・木満致」の招待は、百済・カヤ・倭を往復していた「大倭」という扶余・邪馬台国系の交易官だったのではないのでしょうか。

>

> 一方楽浪・帶方の地に残った百済には、上記のように「魏率」の流れを汲んだ「率」のつく官職がそのまま維持されていったわけですね。「一大率」は、そういう意味では、中国系「率」と扶余系

「大」の両方を共有したような複合官職だったようにもみえます。

>

> ともあれ、その「大倭」が「大和」となり、その後「邪馬台」つまり「ヤマタイ」「ヤマトウ」を現す文字として使われるようになるわけです。「倭」の起源は自身でそう呼称したのではなく、中国側がまず「倭」と名付けて、それから「倭」を統率する官職として「大倭」をおそらくは楽浪・扶余系の中国文化圏の人が支配の際に名付けた官職でしょう。

>

> 「倭」はおそらく「吾」の意味で、楽浪・秦韓方面へ流れた中国系集団の呼称「阿」でしょう。「阿」「吾」と自分のとを名乗るので、中国側でその音に卑字をつけて「倭」にした。後漢時代かな。楽浪系の「吾作」の銅鏡銘文の主です。技術者集団も多くいて日本列島へ弥生末ごろに渡ったはず。

>

> 「大和」になった理由は「倭」の字が卑字だったからかもしれません。後代かなり遅い時期に「和」にした。

>

> その統治官「大倭」が、海人族の進出で以前失ったであろう吉備・畿内の「ヤマト」地域に入ってくるのが、「木満致」の渡来してくる時代とすると、4末～6世紀の武内宿根系集団の紀（木）氏がやってくる時代、その後の同族蘇我氏が最終的に540年前後にやってくる時代かもしれません。

>

> 北九州から周防の秦王国を抜けて、吉備、畿内へと進出していったのでしょうか。

>

>

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 22 日(土)22 時 28 分 30 秒 返信・引用

> No.1573[元記事へ]

茨の紀氏さん、秦野さん、情報ありがとうございます。

女王国以北に置かれた「一大率」の「率」は、「魏率」の率で、後代の384年ごろとされる百済の「奈率」「恩率」「達率」などと同じく、おそらくは楽浪・帯方郡時代の賜与官職の名残だろうと思います。日本から進出したバイリンガル氏族がその官職を賜っています。「率」が率いるの意味で、つまり中国系の統治官との意味ではないでしょうか。

同じく邪馬台国に置かれた交易監視官の「大倭」も、「一大率」の「大」で、高句麗の300年～331年ごろの官職にある「大対盧」「大兄」「大使者」といった「大」と関係するかもしれません。扶余では諸加の下には大使、大使者がみえます。ご指摘の「大漢」もその関連で穢・扶余系でしょう。

そうすると、「大倭」という官職そのものは、扶余系の可能性がありますね。

弥生中末期、古墳初期に南下した扶余系集団や、楽浪系集団の中に扶余系の官職をもたらしたものがいて、それで「大倭」が成立したのかもしれない。

楽浪郡の「邪頭マイ」や「レン台」といった地名が、後代カヤ地域にみえてきます。そしてそのまま「邪馬台」になるわけですが、その流れで「大+」の官職も設置されていたとすると、当然カヤ地域にも同類の官職があった可能性がでてきます。

つまり「大倭・木満致」の招待は、百済・カヤ・倭を往復していた「大倭」という扶余・邪馬台国系の交易官だったのではないのでしょうか。

一方楽浪・帯方の地に残った百済には、上記のように「魏率」の流れを汲んだ「率」のつく官職がそのまま維持されていたわけですね。「一大率」は、そういう意味では、中国系「率」と扶余系「大」の両方を共有したような複合官職だったようにもみえます。

ともあれ、その「大倭」が「大和」となり、その後「邪馬台」つまり「ヤマタイ」「ヤマトウ」を現す文字として使われるようになるわけです。「倭」の起源は自身でそう呼称したのではなく、中国側がまず「倭」と名付けて、それから「倭」を統率する官職として「大倭」をおそらくは楽浪・扶余系の中国文化圏の人が支配の際に名付けた官職でしょう。

「倭」はおそらく「吾」の意味で、楽浪・秦韓方面へ流れた中国系集団の呼称「阿」でしょう。「阿」「吾」と自分のとを名乗るので、中国側でその音に卑字をつけて「倭」にした。後漢時代かな。楽浪系の「吾作」の銅鏡銘文の主です。技術者集団も多くいて日本列島へ弥生末ごろに渡ったはず。

「大和」になった理由は「倭」の字が卑字だったからかもしれません。後代かなり遅い時期に「和」にした。

その統治官「大倭」が、海人族の進出で以前失ったであろう吉備・畿内の「ヤマト」地域に入ってくるのが、「木満致」の渡来してくる時代とすると、4末～6世紀の武内宿根系集団の紀（木）氏がやってくる時代、その後の同族蘇我氏が最終的に540年前後にやってくる時代かもしれません。

北九州から周防の秦王国を抜けて、吉備、畿内へと進出していったのでしょうか。

Re: 大倭 投稿者：茨の紀氏 投稿日：2013年6月21日(金)08時03分29秒 返信・引用

> No.1571[元記事へ]

管理人さんへのお返事です

「大倭」とついていて天皇名みたいでおかしいので、平安時代に切り取ったとみるほうが、どちらかというとなじみがありますが・・・。

参考になれば幸いです。

木氏は宮殿式の屋敷を造営する時、中原地域の「座北面南」の風水理論に従わず、東方に向かうようにした。東方は五行の木に属する方角である。太陽と木はナシ族 トンバ教のトーテムとされるものである <http://language.ljgc.gov.cn/html/60/n-60.html>

羊トーテム【姫姓・氏】 鹿 トーテム 物部氏は扶余人<海人>牛の姫(木)氏なのです。

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1974>

物部氏は扶余人

だとすれば、ニギハヤヒは扶余族の王族である可能性が高い。 ... 貊族(ハク)・貊族(コマ)などが包含されていたものと想像するが、その連合体の王を出す主要部族が扶余族であり、扶余とはツングース語の鹿を意味する「プヨ」を漢字にあてたものと思われる。

扶余族もまた<海人>であったという。

<http://blogs.yahoo.co.jp/eraser1eraser/53126525.html>

都怒我阿羅斯等は、「角がある人」の意で、額に角の生えた牛トーテムを表し、ウシキアリシチカンキという別名がそのことを教えてくれます。牛の姫(木)氏なのです。

古くはすべらぎ（須米良伎）、すめらぎ（須賣良伎）、すめろぎ（須賣漏岐）、すめらみこと（須明樂美御徳）、すめまのみこと（皇御孫命）などと称した。

<http://soudan1.biglobe.ne.jp/qa6954893.html>

スメラ山脈の並ぶ今のアブダビ海沿岸は、当時は スメルと呼称 [ラテン語読みで『スメル』だそうです]。 <http://www2.odn.ne.jp/~caj52560/sankaseikatu.htm>

深沙大王は小野氏が神官を務めた二荒山神社でも星神と一緒に祀られているのですから、ここでも小野氏と丹生の ... 元 の場所は『武蔵風土記』や『和名類聚抄』に爾布田ニツガとあり、爾が取れて布田となったことは明らかですが、爾布の元は 将門は反乱を決意したとき「新皇」と自ら称した という。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/1446otfh/ban1000/dusto/tan/tan-3.htm>

秦氏と物部氏と八咫鳥陰陽道というものがある。 ... その賀茂氏の始祖が八咫鳥で、別名を賀茂建角身命（かもたけつぬみのみこと）といった。 <http://silicon-kid.cocolog-wbs.com/blog/2012/03/15-edc0.html>

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 21 日(金)07 時 59 分 34 秒 返信・引用 編集済
> No.1571[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

もう少し掘り下げれば、理解できるな。

秦野は古代の地図、カレンダー、辞書があるので有利ですぞ。

扶桑国は避けられないな。阿蘇の蘇が扶桑の桑になり、阿は阿毎＝天で天の香具山でお馴染みですな。
天の香具山は2つあるが、今回は魏志倭人伝なので奈良ですな。

魏志倭人伝

女王国の北方の諸国には「一大率（或るいは一支率）」という官が置かれて国々を監視している。一大率は伊都国にあり、魏の刺史のような役目を果たしている。伊都国は外交の中心地で魏や韓の国々の使節はここに停泊して文書や贈物の点検を受けて女王に送っている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

扶桑の所在地については、倭国の東北 7000 余里に文身国が、その東 5000 余里に大漢国があり、大漢国の東 2 万余里に扶桑がある。尚、距離単位は秦野距離（秦野北斗著書：徐福と邪馬台国、参照）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

伊都国と邪馬台国の通信を扶桑国の者が行うとは・・・。

ちなみに、扶桑国は女国で、魏志倭人伝は女王国が出てきますな。

木満致者が地名になり、現在も地名で残っていたな。

木満致（きみつち：君津）

千葉県君津市（扶桑国の一部）

君津の地名の由来 「南房総の地名」

書籍名を忘れましたが、下記の説が有力のようです。

木更津と隣の君津、共に由来は、日本武尊が詠んだ歌の冒頭の「君さらづ」からきているといわれているとありました。

由来の変更が必要ですね。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1313612673

> 「大倭・大和国」と大倭氏との関わりは切っても切れない関係にあるでしょう。

>

> 「大和」という地域に住んでいたのが、倭氏を名乗ったのではなくて、大倭氏がいたので、大和になった、とかいうケースも考慮すべきでしょうか。

>

> 本来は「山戸」とある時期まで記していた可能性を感じます。吉備のマキムク型古墳のあるところに、三輪とか山戸が見えました。

>

> それが、ある時期から畿内で「大倭」になったのでしょうか。ご指摘の「大日本」の「大」も重要。確かに「大漢国」の「大」の意味と類似しますね。高句麗など半島系官職に「大」をつけるものが多いみえます。

>管理人さんへのお返事です。

Re: 大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 20 日(木)23 時 10 分 29 秒 返信・引用 編集済

> No.1570[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 大倭木満致執国政を訳すと

>

> 大倭（やまと：大漢）の木満致（地名）が国政を執り行う。

>

> 木満致は神武天皇で「菟狹者」地名也。も「木満致者」も同様だな。

> さあ、木満致は何処かな？ 欠史八代にも「やまと」日本、大日本が出ているな。

> 時代から「やまと」は大倭＝大漢＝日本、だな。

>

> 即子久爾辛立為王。王年幼。大倭木満致執国政。与王母相姪。多行無礼。天皇聞而召之

> 〈 百濟記云。「木満致者」、是木羅斤資討新羅時。娶其国婦而所生也。

> 以其父功、専於任那。来入我国、往還貴国。承制天朝、執我国政。権重当世。然天朝聞其暴召之。
>

>

「大倭木満致執国政」については、どうも記紀の系統で「大倭」がないものがあるそうです。後から付加されたという見方をしている人がいますね。こちら参照。

<http://www.ookuninushiden.com/newpage63.html>

ただ、蘇我氏や武内宿根系と関係するだろう「木氏」にわざわざ後代「大倭」をつけるというのも不自然な気がするんですよね。田中本の系統が最も古く、原型だったとも言い切れるわけでもないのに、なんともいえない感じです。

「大倭」とついていて天皇名みたいでおかしいので、平安時代に切り取ったとみるほうが、どちらかというとも自然なわけですが・・・。

「大倭直」の系譜が興味深いですね。

<http://www17.ocn.ne.jp/~kanada/1234-7-39.html>

吉備・海部（丹波）方面関連の系図が出てきて、それから仁徳あたりで大和へ進出していったようにも見えます。

特に、倭直吾子籠というのが、仁徳時代に韓国に派遣されているのですが、これが木満致の伽耶・日本を行き来した動きとちょっと類似してます。

応神朝の記載も、やはり九州・吉備を経由して治世のだいぶ後になって畿内に入っていくようです。

半島系の武内宿祢系集団が吉備経由で畿内に入る時期ですね。

「大倭・大和国」と大倭氏との関わりは切っても切れない関係にあるでしょう。

「大和」という地域に住んでいたのも、倭氏を名乗ったのではなくて、大倭氏がいたので、大和になった、とかいうケースも考慮すべきでしょうか。

本来は「山戸」とある時期まで記していた可能性を感じます。吉備のマキムク型古墳のあるところに、三輪とか山戸が見えました。

それが、ある時期から畿内で「大倭」になったのでしょうか。ご指摘の「大日本」の「大」も重要。確かに「大漢国」の「大」の意味と類似しますね。高句麗など半島系官職に「大」をつけるものが多いくみえます。

Re: 大倭 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 20 日(木)06 時 55 分 28 秒 返信・引用 編集済
> No.1569[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

大倭木満致執国政を訳すと

大倭（やまと：大漢）の木満致（地名）が国政を執り行う。

木満致は神武天皇で「菟狹者」地名也。も「木満致者」も同様だな。

さあ、木満致は何処かな？ 欠史八代にも「やまと」日本、大日本が出ているな。

時代から「やまと」は大倭＝大漢＝日本、だな。

即子久爾辛立為王。王年幼。大倭木満致執国政。与王母相姪。多行無礼。天皇聞而召之

〈 百濟記云。「木満致者」、是木羅斤資討新羅時。娶其国婦而所生也。

以其父功、専於任那。来入我国、往還貴国。承制天朝、執我国政。権重当世。然天朝聞其暴召之。
〉

神日本磐余彦天皇 神武天皇

行至筑紫國菟狹。「菟狹者」地名也。を訳すと

筑紫國の菟狹に至る。菟狹者は地名なり。

内容は神武東征で筑紫海（有明海）の菟狹（済州島）へ道先案内する。

道先案内人が菟狹者で菟狹は地名と記している。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1555>

欠史八代

綏靖天皇 - 神渟名川耳天皇（かむぬなかわみみのすめらみこと）

安寧天皇 - 磯城津彦玉手看天皇（しぎつひこたまたみのすめらみこと）

懿德天皇 - 大日本彦耜友天皇（おおやまとひこすぎとものすめらみこと）

孝昭天皇 - 觀松彦香殖稻天皇（みまつひこかえしねのすめらみこと）

孝安天皇 - 日本足彦国押人天皇（やまとたらしひこくにおしひとのすめらみこと）

孝靈天皇 - 大日本根子彦太瓊天皇（おおやまとねこひこふとにのすめらみこと）

孝元天皇 - 大日本根子彦国牽天皇（おおやまとねこひこくにくるのすめらみこと）

開化天皇 - 稚日本根子彦大日日天皇（わかやまとねこひこおおびびのすめらみこと）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AC%A0%E5%8F%B2%E5%85%AB%E4%BB%A3>

> あと、追記ですが「大倭木満致執国政」の「大倭」は、魏志倭人伝の邪馬台国の官職「大倭」とも同じですね。

>

> 「租賦を収む、邸閣あり、國國市あり。有無を交易し、大倭をしてこれを監せしむ。」

>

> 百済系木氏の木満致、一説によれば仁徳朝の蘇我満智ですが、百済系でありながら、新羅もしくは秦韓系の母親をもち、日本と行き来していたことが推測されます。

>

> 邪馬台国の「大倭」は、邪馬台国各地において交易を管理をする管理官だったわけですが、また倭人伝では九州や半島南部に、魏使からの手紙や献物を受け取り、それを女王国まで運ぶ管理官がいたことを推測しました。

>

> 「女王國より以北には、特に一大率を置き、諸國を檢察せしむ。諸國これを畏憚す。常に伊都國に治す。國中において刺史の如きあり。王、使を遣わして京都・帶方郡・諸韓國に詣り、おろび郡の倭國に使用するや、皆津に臨みて搜露し、文書・賜遺の物を伝送して女王に詣らしめ」

>

大倭 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 19 日(水)23 時 14 分 15 秒 返信・引用 編集済

> No.1568[元記事へ]

あと、追記ですが「大倭木満致執国政」の「大倭」は、魏志倭人伝の邪馬台国の官職「大倭」とも同じですね。

「租賦を取む、邸閣あり、國國市あり。有無を交易し、大倭をしてこれを監せしむ。」

百済系木氏の木満致、一説によれば仁徳朝の蘇我満智ですが、百済系でありながら、新羅もしくは秦韓系の母親をもち、日本と行き来していたことが推測されます。

邪馬台国の「大倭」は、邪馬台国各地において交易を管理をする管理官だったわけですが、また倭人伝では九州や半島南部に、魏使からの手紙や献物を受け取り、それを女王国まで運ぶ管理官がいたことを推測しました。

「女王國より以北には、特に一大率を置き、諸國を檢察せしむ。諸國これを畏憚す。常に伊都國に治す。國中において刺史の如きあり。王、使を遣わして京都・帶方郡・諸韓國に詣り、おろび郡の倭國に使用するや、皆津に臨みて搜露し、文書・賜遺の物を伝送して女王に詣らしめ」

それらの管理官の名残だとすると、九州から半島南部にいてもおかしくはないかもしれません。

「大倭」は、女王国の北の伊都国あたりにいた武官らしき「一大率」と対照的な官職です。

「大倭」がいた時代というところ、おそらく「邪馬台国」の存続時期にあたるかと思いますが、3世紀～4世紀となるでしょうか。4世紀後半の成務・応神朝まで、なお存在していた可能性も考えてみてもよいかもしれません。

Re: 中臣氏 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 18 日(火)23 時 24 分 31 秒 返信・引用

> No.1567[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> そのうち、倭に関する記述としては、いわゆる辛卯年条（後述）の他に、以下がある。

>

> 399 年、百済は先年の誓いを破って倭と和通した。そこで王は百済を討つため平議に出向いた。ちょ

うどそのとき新羅からの使いが「多くの倭人が新羅に侵入し、王を倭の臣下としたので高句麗王の救援をお願いしたい」と願い出たので、大王は救援することにした。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%BD%E5%A4%AA%E7%8E%8B%E7%A2%91>

>

>

> 好太王碑の碑文は辛卯年ですな。辛卯年条（後述）の他に、・・・。

>

> 399年は碑文の辛卯年とは異なるな。399年代から倭の五王ですな。

>

>

たしかに399年ではなく391年ですね。399年ってどこから出てきた年代なのかな？

王の即位年について、好太王碑文では前述の通り辛卯年（391年）とするが、『三国史記』高句麗本紀や同書・年表、また『三国遺事[2]』王暦においては壬辰年（392年）の即位としており、1年の差異が見られる。これにより、治績年や死去年についても1年の差異があるが、本稿においては、干支表記年は好太王碑文によるものとし、干支を伴わない表記年は『三国史記』によるものとする。

治世[編集]

諡が示すとおり高句麗は領土を拡大させたが、礼成江を境に百済に対しては即位初めから攻勢を取った。壬辰年（392年）には石硯城（黄海北道開豊郡北面青石洞）を含めた10城を奪取し、閔彌城[3]を陥落させた。甲午年（394年）には水谷城（黄海北道新溪郡）を築き、乙未年（395年）には現在の礼成江まで反撃する百済軍を撃破して、百済との接境に7城を築いて防備を強化した。丙申年（396年）には漢江を越えて侵攻して百済の58城700村を陥落させ、百済王に多数の生口や織物を献上させ、永く隷属することを誓わせた。

しかし丁酉年（397年）、百済の阿莘王は王子腆支を人質として倭に送り通好する。（399年）庚子年（400年）高句麗は倭の侵攻を受けていた新羅に歩騎五万を派遣し、新羅を救援する。このとき新羅の王都は倭軍の侵攻を受けていたが、高句麗軍が迫ると倭軍は退き、任那・加羅まで後退する。ところが新羅は奈勿尼師今の王子末斯欣を人質として倭に送って通交する。（402年）甲辰年（404年）になると帯方界で倭軍の攻撃を受けるが撃退した。丁未年（407年）には後燕に侵攻して6城を討ち鎧一万領を得た。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/好太王>

400年前後の倭の動きは重要ですね。

倭の五王の時代としては、仁徳が413年に讃として即位して始まるわけですが、その前の応神が373年頃から即位していたとすると、応神の時代と言えそうですね。

ただ375年ごろ即位とすると、応神16年に、腆支王即位の話がでてくるので、390年即位となるとある時期の帝紀撰者は理解していた可能性があります。

腆支王（てんしおう、生年不詳 - 420年）は百済の第18代の王（在位:405年 - 420年）であり、先代の阿莘王の長男。『梁書』では余映(徐映)（余(徐)は百済王の姓）、『日本書紀』では直支王（ときおう）、『三国遺事』王暦では眞支王と記される。諱・諡は『三国史記』には伝わらない。また、『翰苑』に引用される『宋書』『通典』では百済王夫餘腆と表記される。ただし汲古閣本『宋書』では余映とある。子に久尔辛王。

373年即位とすると、応神27年前後に新羅包囲の記載がないといけませんが、

《応神天皇二五年（甲寅二九四）》二十五年。百済直支王薨。即子久爾辛立為王。王年幼。大倭木満致執国政。与王母相姪。多行無礼。天皇聞而召之。〈百済記云。木満致者、是木羅斤資討新羅時。娶其国婦而所生也。以其父功、専於任那。来入我国、往還貴国。承制天朝、執我国政。権重当世。然天朝聞其暴召之。〉

《応神天皇二八年（丁巳二九七）九月》二十八年秋九月。高麗王遣使朝貢。因以上表。其表曰。高麗王教日本国也。時太子菟道稚郎子読其表。怒之責高麗之使。以表状無礼。則破其表。

百済直支王薨となるんですよね。応神の在位年は41年で、413年に仁徳・讃が即位したと考えると、372～3年の即位になるはず。

上記28年条に高句麗の記載があるのは、ちょっと注目してみてもよいかもしれません。

碑文でいうと400年前後の記載では、下記のとおりです。

399年、百済は先年の誓いを破って倭と和通した。そこで王は百済を討つため平讓に出向いた。ちょう

どそのとき新羅からの使いが「多くの倭人が新羅に侵入し、王を倭の臣下としたので高句麗王の救援をお願いしたい」と願い出たので、大王は救援することにした。

このころ、高句麗王ではなく、百済王から使いが着てます。

25年の記載が新羅に間接的に関わるのですが、「大倭木満致執国政」という記載もきになりますね。

「大倭」は、「大和」という意味か、「大いに」はちょっとおかしい。木満致執は任那と倭の間を行き来していたでしょうから、伽耶や周防から北九州あたりに本拠があったタケウチスクネ系とみるべきかとおもうのですが、「大倭」というのは、「大倭直」の事例のように後代大和国の地名となるわけですね。

ちょっとこの辺うまく整理できないかな？

Re: 中臣氏 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年6月18日(火)00時34分23秒 返信・引用 編集済
> No.1566[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> ま、確かに碑文は399年なので、神功皇后の時代ではありますね。

> 「百残」という、楽浪遺民の名称を記しているところが重要です。

そのうち、倭に関する記述としては、いわゆる辛卯年条（後述）の他に、以下がある。

399年、百済は先年の誓いを破って倭と和通した。そこで王は百済を討つため平譲に出向いた。ちょうどそのとき新羅からの使いが「多くの倭人が新羅に侵入し、王を倭の臣下としたので高句麗王の救援をお願いしたい」と願い出たので、大王は救援することにした。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%BD%E5%A4%AA%E7%8E%8B%E7%A2%91>

好太王碑の碑文は辛卯年ですな。辛卯年条（後述）の他に、・・・。

399年は碑文の辛卯年とは異なるな。399年代から倭の五王ですな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BE%9B%E5%8D%AF>

好太王碑の碑文

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以耒卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

神功皇后の三韓征伐 271 年

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1103>

干支カレンダー 60 進

http://eclips.whoa.jp/kaiun/scalendar.cgi?x_sec=15873&y_sec=15825&pos=-2

日本書紀 氣長足?尊 神功皇后

三月壬申朔、皇后選吉日、入齋宮

夏四月壬寅朔甲辰、北到火前國松浦縣

秋九月庚午朔己卯、令諸國、

冬十月己亥朔辛丑、從和珥津發之。

神功皇后と干支カレンダー 270 年当たりが一致するな。

結論は399年は倭の五王ですな。

> 秦韓人は自身を「阿」、楽浪人を「殘阿」といいましたね。

> それらの伝承がすくなくとも、4世紀代まで半島に残存していたということでしょう。漢・秦氏の時代です。

殘阿または阿殘は4世紀代ではないな。元封三年（前108年）の衛氏朝鮮にまで遡る。

何処かの学者の説を真に受けているな。

衛氏朝鮮

『通典』 邊防

武帝元封三年、遣樓船將軍楊僕從齊浮渤海、兵五萬、左將軍荀彘出遼東、討之。朝鮮人相與殺王右渠來降。遂以朝鮮為真蕃、臨屯、樂浪、玄菟四郡。今悉為東夷之地。昭帝時罷臨屯、真蕃以并樂浪、玄菟。

元封三年（前108年）、樓船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、樂浪、玄菟の四郡とした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、樂浪と玄菟に併合した。

武帝は衛氏朝鮮が何譙を殺害した罪を責め、水陸あわせて五万の大軍を派遣した。

衛氏朝鮮の王族や大臣が漢朝に内応し、国王の右渠は殺害された。だが、地方豪族や民衆によって王儉城は、その後も一年以上も死守されたが、結局は漢軍に討滅された。

衛氏朝鮮は滅び、漢朝は衛氏朝鮮の故地に諸郡を設置して、植民地経営に乗り出した。

『後漢書』 高句麗伝

武帝滅朝鮮、以高句麗為縣、使屬玄菟、賜鼓吹伎人。其俗淫、皆絜淨自喜、暮夜輒男女群聚為倡樂。好祠鬼神、社稷、零星、以十月祭天大會、名曰「東盟」。其國東有大穴、號神、亦以十月迎而祭之。其公會衣服皆錦繡、金銀以自飾。大加、主簿皆著幘、如冠幘而無後；其小加著折風、形如弁。

武帝が朝鮮を滅ぼして、高句麗を県とし、玄菟郡に帰属させ、鼓吹の奏者を賜る。

その風俗は淫、皆が清潔に洗淨することを自らの喜びとし、日が暮れて夜になると男女が集まって歌や音楽に興じる。鬼神、社稷、零星を好んで祀る。十月には大いに会して天を祭る、名を「東盟」という。その国の東に大きな洞窟があり、それを隧神と号し、また十月を迎えると、これを祭る。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-kokuri-2gokanjo.htm>

> 高句麗人は、その「残阿」を「遼西から渡った百家の残り」の伝承記録によって、「百残」と読んだ。

> 後に百濟となるわけです。

『通典』 百濟

百濟、即後漢末夫餘王尉仇台之後、語魏時百濟王上表云：「臣與高麗先出夫餘。」初以百家濟海、因號百濟。

百済、すなわち後漢末の扶余王「尉仇台」の後裔、後の魏の時代に百済王が上表して言うには「臣は高麗の先、扶余より出る」。初め百家で済海（海を渡る）した故に百済と号す。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kudara-kanbun11-tsuden.htm>

位置関係の地図あり参照。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano2.htm>

百済とは渡来系の匈奴が設立した国ですな。中国史籍を読めば理解できるが、読みとけていないな。現在の歴史は真実とはほぼ遠いのが現実。干支カレンダーが明確に年代を表わすが読みとけていないな。

>

> 北の穢・扶余・高句麗と百済王族は親戚との見方があり、一方で楽浪人と伽耶方面へ移動した秦韓人も親族。

>

> それらの伝承がすくなくとも、4世紀代まで半島に残存していたということでしょう。漢・秦氏の時代です。

> 楽浪遺民、その前の遼西遺民の伝承がまだ受け継がれている。

>

>

>

Re: 中臣氏 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 17 日(月)23 時 21 分 4 秒 返信・引用

> No.1564[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 好太王碑の碑文

> 百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

> 神功皇后の三韓征伐 271 年

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%BD%E5%A4%AA%E7%8E%8B%E7%A2%91>

>

> 譽田天皇 應神天皇

> 元年春正月丁亥朔、皇太子即位。272 年

>

> 御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

> 元年春正月壬午朔甲午、皇太子即天皇位。216 年

> 天皇踐祚六十八年冬十二月戊申朔壬子、崩。 284 年

>

>

休日で更新できませんでした。

ま、確かに碑文は 399 年なので、神功皇后の時代ではありますね。

「百残」という、楽浪遺民の名称を記しているところが重要です。

秦韓人は自身を「阿」、楽浪人を「残阿」といいましたね。

高句麗人は、その「残阿」を「遼西から渡った百家の残り」の伝承記録によって、「百残」と読んだ。
後に百済となるわけです。

北の穢・扶余・高句麗と百済王族は親戚との見方があり、一方で楽浪人と伽耶方面へ移動した秦韓人も親族。

それらの伝承がすくなくとも、4 世紀代まで半島に残存していたということでしょう。漢・秦氏の時代です。

楽浪遺民、その前の遼西遺民の伝承がまだ受け継がれている。

干支カレンダー 60 進 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 17 日(月)21 時 22 分 23 秒 返信・引用
そろそろ、日本書紀の年代を明確にしようかな。

干支カレンダー 60 進

http://eclips.whoa.jp/kaiun/scalendar.cgi?x_sec=15873&y_sec=15825&pos=-2

うるう年を考慮すると 400 年周期になるな。

日本書紀 氣長足尊 神功皇后

三月壬申朔、皇后選吉日、入齋宮

夏四月壬寅朔甲辰、北到火前國松浦縣

秋九月庚午朔己卯、令諸國、

冬十月己亥朔辛丑、從和珥津發之。

上記は神功皇后の項目、干支カレンダーに当て嵌めれば、一致する年は 271 年当たりになるな。

Re: 中臣氏 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 16 日(日)08 時 54 分 50 秒 返信・引用 編集済
> No.1563[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

日本舞踊で、崇神天皇らしき者が確認できるな。

時期は神功皇后の三韓征伐後の筑紫、木花咲耶姫神社のようだな。

好太王碑の碑文

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以庚卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

神功皇后の三韓征伐 271 年

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%BD%E5%A4%AA%E7%8E%8B%E7%A2%91>

譽田天皇 應神天皇

元年春正月丁亥朔、皇太子即位。272 年

御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

元年春正月壬午朔甲午、皇太子即天皇位。216 年

天皇踐祚六十八年冬十二月戊申朔壬子、崩。 284 年

>

> そうですね、とくに「天皇崩於纏向宮」が重要かもしれません。

>

> 纏向に宮があったことを記しているんですね。

> 元の記録を再現していくと、～即位、～宮、崩。歳。～陵。

>

> これだけではなかったと感じます。

>

> 後からいろいろ後代の伝承が加えられて行く。

>

>

> 崇神と垂仁は、おそらく同一人物で、伝承系統が違うだけだろうと感じますが、崇神は三輪山西麓の瑞籬宮（みづかきのみや）、垂仁が纏向や師木玉垣宮宮に移動するのですが、後に菅原伏見陵という、後代の海人系景行天皇の拠点へと移動していくのが気になります。4世紀前半の記録が影響しています。

>

> マキムクの宮伝承は、もともと古くからあった可能性がありそうですね。

Re: 中臣氏 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 15 日(土)23 時 21 分 27 秒 返信・引用

> No.1562[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

> 元年春正月壬午朔甲午、皇太子即天皇位。

> 天皇踐祚六十八年冬十二月戊申朔壬子、崩。「時年百廿?」。

>

> 活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

> 元年春正月丁丑朔戊寅、皇太子即天皇位。

> 九十年春二月庚子朔、天皇命田道間守、遣常世國、令求非時香菓。

> 香菓、此云箇俱能未。今謂橘是也。

> 九十九年秋七月戊午朔、天皇崩於纏向宮。「時年百卅?」。

> 冬十二月癸卯朔壬子、葬於菅原伏見陵。

>

そうですね、とくに「天皇崩於纏向宮」が重要かもしれません。

纏向に宮があったことを記しているんですね。

元の記録を再現していくと、～即位、～宮、崩。歳。～陵。

これだけではなかったと感じます。

後からいろいろ後代の伝承が加えられて行く。

崇神と垂仁は、おそらく同一人物で、伝承系統が違うだけだろうと感じますが、崇神は三輪山西麓の瑞籬宮（みづかきのみや）、垂仁が纏向や師木玉垣宮宮に移動するのですが、後に菅原伏見陵という、後代の海人系景行天皇の拠点へと移動していくのが気になります。4世紀前半の記録が影響しています。

マキムクの宮伝承は、もともと古くからあった可能性がありそうですね。

Re: 中臣氏 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年6月15日(土)09時58分40秒 返信・引用 編集済
> No.1561[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

崩の年(六十八年冬十二月戊申朔壬子、崩。)は、干支カレンダーから正しい。

しかし、崩。「時年百廿?」は一致しない。出鱈目ですな。

御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

元年春正月壬午朔甲午、皇太子即天皇位。216年

天皇踐祚六十八年冬十二月戊申朔壬子、崩。「時年百廿?」。 284年

活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

元年春正月丁丑朔戊寅、皇太子即天皇位。 218年

九十年春二月庚子朔、天皇命田道間守、遣常世國、令求非時香菓。

香菓、此云箇俱能未。今謂橘是也。306年

九十九年秋七月戊午朔、天皇崩於纏向宮。「時年百卅?」。

冬十二月癸卯朔壬子、葬於菅原伏見陵。317年

> 部分的に、内宮と外宮と関係するかもしれません。

するどいですな。

両天皇、崇神天皇、垂仁天皇とも、入彦ですな。このイリは朝鮮半島の群山（伊利）。

白村江（錦江：クムガン）ですな。

万葉集に天の香具山と五十鈴川が同一の歌にでてくれば、間違いないが。認めないだろうな。

五十は五十鈴川が推測できる。朝鮮半島の白村江（現在の錦江河口付近）だな。

五十鈴川

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%8D%81%E9%88%B4%E5%B7%9D>

白村江（現在の錦江河口付近）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BD%E6%9D%91%E6%B1%9F%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

> 幸は「山幸」で、山野からの野菜などの収穫かもしれません。

>

> 「五十」は、イソで、たくさんあるという意味で、これらの天皇は、いわば「海幸」「山幸」といった対比を示している可能性があるわけです。

>

> 崇神はうまく祭祀を執り行われなかったので、早死にしたと記載されていましたね。

> 垂仁は、祭祀の仕方を理解していたという設定です。

>

> 海幸と山幸の話で、後者は前者に勝つことになります。

>

> 部分的に、内宮と外宮と関係するかもしれません。

Re: 中臣氏 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 14 日(金)23 時 20 分 57 秒 返信・引用

> No.1560[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

> 元年春正月壬午朔甲午、皇太子即天皇位。

> 天皇踐祚六十八年冬十二月戊申朔壬子、崩。

>

> 活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

> 元年春正月丁丑朔戊寅、皇太子即天皇位。

>

> 大足彦忍代別天皇 景行天皇

> 元年秋七月己巳朔己卯、太子即天皇位。

>

> 稚足彦天皇 成務天皇

> 元年春正月甲申朔戊子、皇太子即位。

>

> 足仲彦天皇 仲哀天皇

> 元年春正月庚寅朔庚子、太子即天皇位。

>

> 譽田天皇 應神天皇

> 元年春正月丁亥朔、皇太子即位。

>

上記の記載は比較していくと、いろいろ判ってることがありますね。

「太子即天皇位。」と「皇太子即位。」という2種の用法があります。

前者に仲哀天皇が入ることを考慮すると、どちらかが後から挿入された可能性があります。

景行つまり大足彦＝オオヒコは、なぜか秋7月に即位します。

後者にあたる成務と応神は、半島系で共通します。

同様に前者の景行と仲哀も、同系のいわば海人系の血統です。

「太子即天皇位。」という記載は、海人系氏族の文献記録による可能性があります。

「皇太子即位。」は、同様に半島・大陸系。

ここで「即位」という用語をつかってますね。元々は「即ち〜の位につく」。

おそらく、同じ中国系漢文を引用した文献でありながら、その扱い方がちがうんです。

倭製~文というのでしょうか・・・。

御間城入彦五十瓊殖

と、

活目入彦五十狹茅天皇

は、

同じ天皇についての別系統の伝承であることは以前指摘したとおりですが、「瓊殖（イニエ）」と「狹茅（サチ）」とが同義であった時代の名称だといえるでしょう。ニエとサチは、後代の儀礼で重要な意味をもってきます。

贅というのは、捧げ物なのですが、魚や鳥のような動物ですね。

幸は「山幸」で、山野からの野菜などの収穫かもしれません。

「五十」は、イソで、たくさんあるという意味で、これらの天皇は、いわば「海幸」「山幸」といった対比を示している可能性があるわけです。

崇神はうまく祭祀を執り行われなかったので、早死にしたと記載されていましたね。

垂仁は、祭祀の仕方を理解していたという設定です。

海幸と山幸の話で、後者は前者に勝つことになります。

部分的に、内宮と外宮と関係するかもしれません。

Re: 中臣氏 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 13 日(木)23 時 41 分 34 秒 返信・引用 編集済
> No.1559[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

崇神 2 5 8 年没説どこから出た説ですか。日本書記の年代と合わないな。

日本書記の年代を読み解くと崇神天皇、垂仁天皇、景行天皇、成務天皇。

御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

元年春正月壬午朔甲午、皇太子即天皇位。216 年

天皇踐祚六十八年冬十二月戊申朔壬子、崩。 284 年

活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

元年春正月丁丑朔戊寅、皇太子即天皇位。 218 年

大足彦忍代別天皇 景行天皇

元年秋七月己巳朔己卯、太子即天皇位。 236 年

卑弥呼（ひみこ、生年不明 - 248 年頃）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%91%BC>

稚足彦天皇 成務天皇

元年春正月甲申朔戊子、皇太子即位。250 年

足仲彦天皇 仲哀天皇

元年春正月庚寅朔庚子、太子即天皇位。262 年

譽田天皇 應神天皇

元年春正月丁亥朔、皇太子即位。272 年

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以耒卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

神功皇后之三韓征伐 271 年

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%BD%E5%A4%AA%E7%8E%8B%E7%A2%91>

> そうするとやはり崇神 258 年没説が妥当になってくるかもしれません。

>

> 崇神と雄略あたりの伝承との類似性が見いだせれば、上記の仮説を証明できるかもしれません。

>

> ううん、難しいなー、ミマキイリヒコは、任那（ミマナ）との関係が指摘されてますよね。

> 5 末～6 前の任那攻防の時代です。

>

> ただ、開化が 1 年で、ヒミコ以後の男王とみなしうることを考慮すれば、258 年没の記録はもともとあった可能性はある。

>

> 垂仁つまり活目入彦の子に円目王がいて、それが雄略時代の眉輪王との関係も指摘されてます。

>

> 雄略前後の伝承が、崇神・垂仁あたりに被る可能性もあるでしょう。

>

> 先の伊勢関連はその可能性があると思うんですね。

>

> ただ、一方で卑弥呼・台与の年代にもあわせようとしている。

>

> 崇神の 8 年在位は台与擁立までの期間で。仲哀 8 年と神功皇后伝承と相似形で、375 年まで。

>

> どう整理すべきでしょうね。

>

Re: 中臣氏 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 13 日(木)23 時 17 分 9 秒 返信・引用

> No.1558[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 中臣氏の当時の家紋

> 三つ巴：勾玉が三個。

> http://www.harimaya.com/o_kamon1/hanasi/kamon_h.html

>

>

> 六十五年秋七月、任那國遣蘇那曷叱知、令朝貢也。

> 任那者去筑紫國、二千餘里。北阻海以在鷄林之西南。281 年

なるほど、巴というのは「韃絵」なんですね。韃を象徴する集団といえば、確かにおっしゃるとおり新漢人です。九州各地に彼らの残した韃の絵を刻んだ横穴墓が残ってます。大伴、中臣もそれと関係しますね。

崇神65年はやはり、60年1千支差し引いて考えるべきですね。60を足したのは年代を合わせるためでもあるのですが、蘇那曷叱知は、つまり先日お話したとおり530～40年代の蘇我氏のことです。確かにそのころに上記の新漢人等も渡来してきます。

難しいのですが、崇神に60年、次の垂仁の99年加えたときの帝記編纂の状態を再現する必要があります。

ある時期に一気に各天皇の在位に1千支分や99年分などを加えて、年代を合わせたのか？あるいは、段階的に加えて伸ばしていったのか？この辺も課題でしょう。

①まず258年もしくは318年の崇神没年干支を記載した記録があったわけです。

②その後、垂仁（99年）、景行（60年）、成務（60年）といったその前後の時代を象徴した天皇が挟まれていきます。

③その前後で、1千支、60年分を挿入しているのです。

それで、③が②と同時になされたのか？あるいは後からなのか？ここも見極める必要があります。

ただご指摘のように、崇神65年に、540年代の蘇我・新漢人の渡来記載をもってきたとすると、崇神の年代をある時期には、そこから65年引いた475年前後にしていた時期があり、そこからさらに後になって250年前後まで、伸ばすのに、まず垂仁の99年を入れて、375年、次に景行・成務60年を2回入れて、255年へと移行させた可能性もあるでしょう。

そうするとやはり崇神258年没説が妥当になってくるかもしれません。

崇神と雄略あたりの伝承との類似性が見いだせれば、上記の仮説を証明できるかもしれません。

ううん、難しいなー、ミマキイリヒコは、任那（ミマナ）との関係が指摘されてますよね。

5 末～6 前の任那攻防の時代です。

ただ、開化が1年で、ヒミコ以後の男王とみなしうることを考慮すれば、258年没の記録はもともとあった可能性はある。

垂仁つまり活目入彦の子に円目王がいて、それが雄略時代の眉輪王との関係も指摘されてます。

雄略前後の伝承が、崇神・垂仁あたりに被る可能性もあるでしょう。

先の伊勢関連はその可能性があると思うんですね。

ただ、一方で卑弥呼・台与の年代にもあわせようとしている。

崇神の8年在位は台与擁立までの期間で。仲哀8年と神功皇后伝承と相似形で、375年まで。

どう整理すべきでしょうね。

中臣氏 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年6月13日(木)19時13分20秒 返信・引用 編集済

崇神天皇の六十五年間に古代史のなぞ・・・。

卑弥呼、神功皇后、中臣氏（渡来人）がこの年代に居る。

中臣氏の当時の家紋

三つ巴：勾玉が三個。

http://www.harimaya.com/o_kamon1/hanasi/kamon_h.html

御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

元年春正月壬午朔甲午 216年

六十五年秋七月、任那國遣蘇那曷叱知、令朝貢也。

任那者去筑紫國、二千餘里。北阻海以在鷄林之西南。281 年

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_05.html

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 12 日(水)01 時 56 分 17 秒
返信・引用

> No.1556[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 神日本磐余彦天皇 神武天皇

> 行至筑紫國菟狹。菟狹者地名也。を訳すと

>

> 筑紫國の菟狹に至る。菟狹者は地名なり。

> 内容は神武東征で筑紫海（有明海）の菟狹（済州島）へ道先案内する。

> 道先案内人が菟狹者で菟狹は地名と記している。

>

> 菟狹は①鵜崎で現在の済州島

> 済州島：竹島、筑紫の宇佐、②淤岐嶋（おきつどり）で表記される。

>

> ④.うざき：韓国語→「トッキ」

>

> http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1237394722

>

> 菟狹は「うさぎ」の狭い（津）ですな。これだけでは理解できないだろうな。

> 「うさぎ」=うざき=鵜崎（崎：岬：港：津：「トッキ」）

>

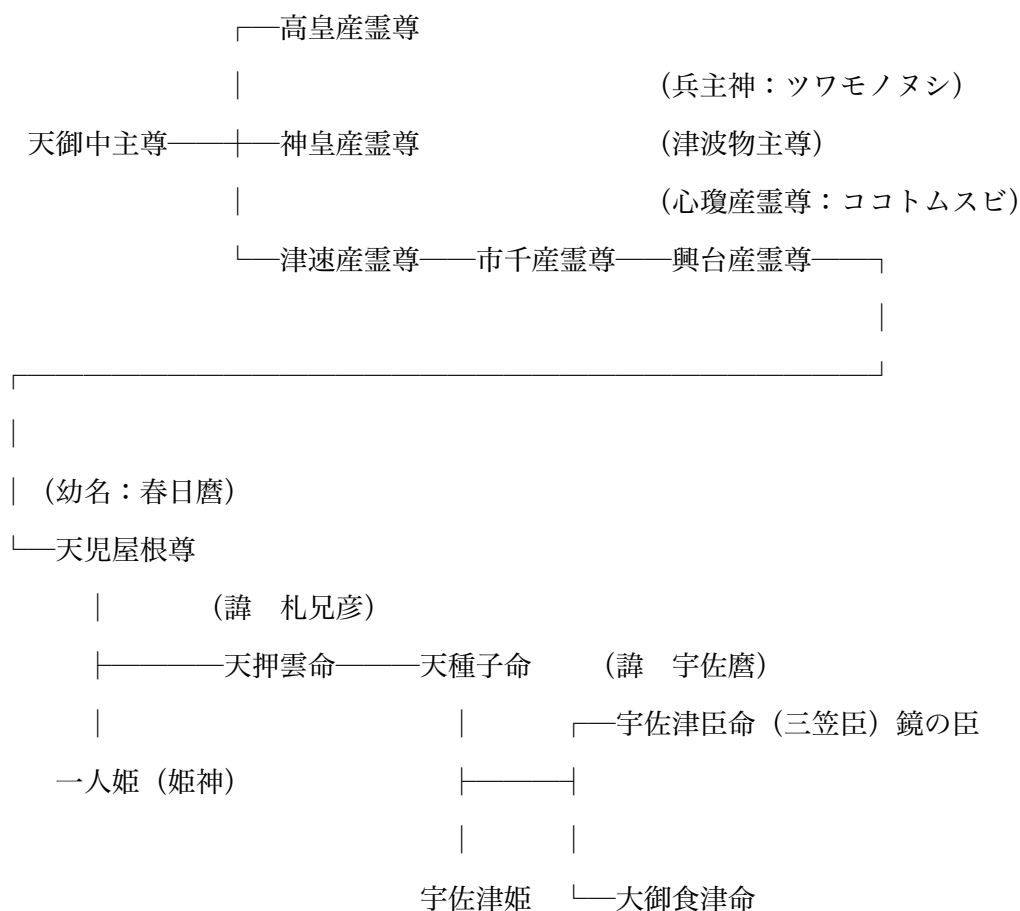
> 岬

>

なるほど、うさぎとの関わりは興味深いですね。

先の条文の菟狹津姫に関連して、中臣氏の祖先との婚姻関係が記されているわけですが、下記の中臣系譜 (<http://red.ap.teacup.com/oshika18/11.html> より引用) では、「宇佐」の名のつく祖先が見えます。

● 天児屋根命の系図



それで、興味深いのは、「宇佐津臣命」の兄弟？に「大御食津命」が見えることです。これはその別系譜に見えるような、月読、豊受といった保食神と関わってきます。

「トヨウケ」の「トヨ」と、先の条文の【一柱騰宮. 此云阿斯. 苔徒鞅餓離能宮】アシタイ、トヨウガ

り」の宮の「トヨ」とが関係してきそうです。間接的には先のとおり伊勢の斎宮とも関係する。

それで、興味深いのが、系譜祖「アマノコヤネ」の父「興台座霊尊」の存在です。

ここにも「台（タイ）」が出てきます。

会報で論じたように、秦氏との関わる系譜なのですが、中臣・秦氏系の北部九州・大陸系伝承と、これらの系譜や伝承とが関係しているようにも見えます。

確かに済州島や半島系のいわゆる白兔神話のモチーフとなる題材についても、さらに追求していく必要があるでしょう。ある時代に半島へ流れ込んでいた伝承が、渡来人の渡来とともに、日本へともたらされていった可能性もあります。そして白鳳時代の中臣氏の進出で記紀に記されて行くわけですね。

Re: 『日本書紀』巻六 垂仁天皇 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 11 日(火)17 時 07 分 53 秒
返信・引用 編集済
> No.1555[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

神日本磐余彦天皇 神武天皇

行至筑紫國菟狹。菟狹者地名也。を訳すと

筑紫國の菟狹に至る。菟狹者は地名なり。

内容は神武東征で筑紫海（有明海）の菟狹（済州島）へ道先案内する。

道先案内人が菟狹者で菟狹は地名と記している。

菟狹は①鶴崎で現在の済州島

済州島：竹島、筑紫の宇佐、②淤岐嶋（おきつどり）で表記される。

①.うざき：韓国語→「トッキ」

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1237394722

菟狹は「うさぎ」の狭い（津）ですな。これだけでは理解できないだろうな。

「うさぎ」＝うさぎ＝鵜崎（崎：岬：港：津：「トッキ」）

岬

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%AC>

ウガヤフキアエズ（日子波限建鵜草葺不合命・彦波瀲武廬茲草葺不合尊）

日子波限建鵜草葺不合命の「鵜」は「みさご」だろうな。どちらも、魚を取るんですな。

彦火火出見尊（山幸彦）と、海神の娘である豊玉姫の子。『古事記』では天津日高日子波限建鵜草葺不合命（あまつひこひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと）、『日本書紀』では彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊（ひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと）と表記。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%AC%E3%83%A4%E3%83%95%E3%82%AD%E3%82%A2%E3%82%A8%E3%82%BA>

漁をする鳥は「鵜」と「みさご」

鸕鷀

http://www.google.co.jp/search?q=%E9%B8%95%E9%B6%BF&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&tbm=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=rce2Ud6wBo2mkgWI-oGoCg&ved=0CDQQsAQ&biw=980&bih=815

みさご 【×鵜／睺＝鳩】

タカ科の鳥。全長約55センチ。上面は茶褐色で、頭と下面が白い。翼は細長く、短い冠羽をもつ。水辺にすみ、飛びながら魚を探し、水中に突入して足でつかみ取る。極地を除き世界中に分布。睺鳩（しよきゅう）。州鳥（すどり）。うおたか。オスプレイ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%82%B5%E3%82%B4>

http://www.google.co.jp/search?q=%E3%83%9F%E3%82%B5%E3%82%B4&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&tbm=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=xfC2UZeNFYaqkAWx_oDQDg&ved=0CDcQsAQ&biw=980&bih=815

現今叫做魚鷹的鳥類有兩種，一種是鸕鶿（鸕鶿形目、鸕鶿科，英名 cormorants，學名 *Phalacrocorax carbo*），另一種是鶚（鶚鷹目、鶚科，英名 osprey，學名 *Pandion haliaetus*）。鸕鶿身長約 80 公分，體重約 1.7-2.7 公斤，在中國南方，漁民常養來捕魚。我到桂林（漓江）、鳳凰（沱江）旅遊時，曾近距離觀察過這種大黑鳥。

<http://www1.ihns.ac.cn/readers/2004/zhangzhijie5.htm>

②因幡の白兔

菟は「私は隠岐の島からこの地に渡ろうと思ったが、渡る手段がありませんでした。そこで、ワニザメ（和邇）を欺いて

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%A0%E5%B9%A1%E3%81%AE%E7%99%BD%E5%85%8E>

因幡：「稻羽之素菟」では「淤岐嶋」と書き、「淤岐」の文字は「淤岐都登理」（おきつどり）

椎、此云辭？。此？倭直部始？也。行至筑紫國菟狹。菟狹者地名也。此云宇佐。

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_03.html

発音菟

音読み

呉音：ズ(ヅ)、ツ

漢音：ト

訓読み

うさぎ

発音狹

音読み

呉音：ギョウ(ゲフ)

漢音：コウ(カフ)

慣用音：キョウ(ケフ)

訓読み

せま-い、せば-める、せば-まる、さ

>

>

> なるほど、「狭」に開拓の意味があるとなると面白いですね。

>

> 屯倉の名前にもたとえば、「牟狭（身狭）」という屯倉があり、渡来系の開拓と深くかかわっています。

>

> 「タイ」音と「カイ」音が同義かどうかは、なんとも言えません。

>

Re: 『日本書紀』巻六 垂仁天皇 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 10 日(月)23 時 03 分 53 秒
返信・引用

> No.1554[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

> >興味深いのは「宇佐」のことを「菟狭」だったと記している点ですね。

> 菟獣

> 狭とは (キョウとは) <http://dic.nicovideo.jp/a/%E7%8B%AD>

> せまい、せばめる、心がせまい、（獣と通じて）けもの、という意味がある。

> 〔説文〕には「?なり」とある

>

> 辟(闢)とは。意味や日本語訳。[動]開拓する,開始する新辟了一?菜地新たに 野菜畑を作った.?辟切り開く. (<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/cj/19654/m0u/>

> 切り開く

> ?. (開) . kái

> kái

なるほど、「狭」に開拓の意味があるとなると面白いですね。

屯倉の名前にもたとえば、「牟狹（身狹）」という屯倉があり、渡来系の開拓と深くかかわっています。

「タイ」音と「カイ」音が同義かどうかは、なんとも言えませんが。

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者： 茨の紀氏 投稿日： 2013 年 6 月 10 日(月)09 時 38 分 24 秒
返信・引用

> No.1552[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>興味深いのは「宇佐」のことを「菟狹」だったと記している点ですね。

菟獸

狹とは (キョウとは) <http://dic.nicovideo.jp/a/%E7%8B%AD>

せまい、せばめる、心がせまい、（獸と通じて）けもの、という意味がある。

〔説文〕には「?なり」とある

辟(闢)とは。意味や日本語訳。[動]開拓する,開始する新辟了一?菜地新たに 野菜畑を作った.?辟切り開く。 (<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/cj/19654/m0u/>

切り開く

?。(開) . kāi

kāi

ギリシア文字の X（キー/ヒ/カイ）？

ヘブル語の「ヴェ」がギリシャ語に訳されると「カイ」 καί が使われます。イエスの語った ことばの一つの例として、ルカの福音書 16 章 18 節前半の箇所を取り上げると、そこには「だれでも妻を離別して(カイ)他の女と結婚する者は、姦淫を犯す者で ...[http://meigata-bokushin.secret.jp/index.php?%E7%9B%AE%E7%9A%84%E3%82%92%E8%A1%A8%E3%82%8F%E3%81%99%E6%8E%A5%E7%B6%9A%E8%A9%9E%E3%80%8C%E3%83%B4%E3%82%A7%E3%80%8D\(%E3%81%9D%E3%81%97%E3%81%A6\)%E3%80%8D](http://meigata-bokushin.secret.jp/index.php?%E7%9B%AE%E7%9A%84%E3%82%92%E8%A1%A8%E3%82%8F%E3%81%99%E6%8E%A5%E7%B6%9A%E8%A9%9E%E3%80%8C%E3%83%B4%E3%82%A7%E3%80%8D(%E3%81%9D%E3%81%97%E3%81%A6)%E3%80%8D)

「カイ」を、ヘブル語の目的を表わす「ヴェ」として解釈

切り開く

人生を切り開く知恵 みなさんは、なぜユダヤ人が非常に優秀な人々である ...

彼らは世界中で迫害されたり、いろいろな困難や障害にあつたりしてきたにもかかわらず、自分たちの道を切り開いて独創的な発明 ... 彼らは聖書を通して、決してあきらめず、どんな困難な絶体絶命の時でも神に信頼し、最善がなされる希望を持っているのです。

<http://www17.ocn.ne.jp/~izhopech/sub6-250.htm>

興国 皇国

復興

シオニズム（ヘブライ語: ??????, Zionism）は、イスラエルの地（パレスチナ）に故郷を再建しよう、あるいはユダヤ教、ユダヤ・イディッシュ・イスラエル文化の復興運動（ルネサンス）を興そうとするユダヤ人の近代的運動 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%82%AA%E3%83%8B%E3%82%BA%E3%83%A0>

↓ こちらも、ご覧ください。

菟 寄生植物「菟糸」（ねなしかずら） <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：秦野 投稿日：2013 年 6 月 10 日(月)08 時 15 分 3 秒 返信・引用 編集済

> No.1552[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

菟狹者地名也。此云宇佐。は日本書記の補足説明ですな。

古名は「菟狹」で、今は「宇佐」

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_03.html

済州島には「ウサギと亀」の伝承がありそうですね。

[韓国－済州旅行] 1泊2日 グルメ店「ウサギと亀」！

<http://blogs.yahoo.co.jp/jejuryoko/225650.html>

> 因幡の白兔の物語も、同様に海没地図では、完全に出雲大社のある側が島となっていて、下図のように大社に向かう小さな島づたいに海をわたらないと出雲大社へは迎えなかったはず。そこで白兔がワニを騙して対岸へ渡る話とも重なってくるのですが、これは、また高句麗や扶余始祖伝承の並んだスポンの背中に乗って対岸へ渡る王の話とも関わっているようにもみえます。

>

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 10 日(月)02 時 53 分 51 秒
返信・引用 編集済
> No.1551[元記事へ]

秦野さんへのお返事です。

> 日本書紀の年代から神武天皇東征、是?爲天皇元年を特定。

>

> 神日本磐余彦天皇 神武天皇

>

> 其年冬十月丁巳朔辛酉(BC 130 年)、天皇親帥諸皇子舟師東征。至速吸之門。時有一漁人、乘艇而至。天皇招之、因問曰、汝誰也。對曰、臣是國神。名曰珍彦。釣魚於曲浦。聞天神子來、故?奉迎。又問之曰、汝能爲我導耶。對曰、導之矣。天皇勅授漁人椎?末、令執而牽納於皇舟、以爲海導者。乃特賜名、爲椎根津彦。椎、此云辭?。此?倭直部始?也。行至筑紫國菟狹。菟狹者地名也。此云宇佐。時有菟狹國造?。號曰菟狹津彦・菟狹津媛。乃於菟狹川上、造一柱騰宮而奉饗焉。一柱騰宮、此云阿斯?苔徒鞆餓離能宮。是時、勅以菟狹津媛、賜妻之於侍臣天種子命。天種子命、是中臣氏之遠?也。

>

ちょっと土日外出していました。

神武記載は、おそらく崇神より新しい時代に付加されたものと考えてよいかと思います。

興味深いのは「宇佐」のことを「菟狹」だったと記している点ですね。

同様に、「難波」が「浪速・浪花」だったとも記してます。

6～7世紀に記されたであろう文献記録を見て、記紀撰者がその古い語源を確認記載しているんです。

ここで漢字の用法が替わっているのですが、たとえば「宇」は新しい用法で、元は「菟」とかを使っていたわけです。

なぜ変化させたのか?が課題ですね。

古いほうは、ちゃんとその地名に語源を現す「意味」が記されている点に注目です。新しくなるにつれ、意味が失われて行く。

「菟」は「(ズ・ツ)、ト」で宇佐の「ウ」じゃないようです。「狹」も「ギョウ・コウ」

これは訓読みとなるでしょう。つまり「ウサギ」の最初の音「う」＋「せまい」の最初の音「せ」で「うさ」

元の意味はうさぎとせまいという組み合わせの意義で地名をつけていた可能性があります。

宇佐周辺は、先日の海没地図の件でお話したとおり当時は海岸の入り江となっていて、宇佐神宮の位置は下図のようにその奥地でした。

因幡の白兔の物語も、同様に海没地図では、完全に出雲大社のある側が島となっていて、下図のように大社に向かう小さな島づたいに海をわたらないと出雲大社へは迎えなかったはずです。そこで白兔がワニを騙して対岸へ渡る話とも重なってくるのですが、これは、また高句麗や扶余始祖伝承の並んだスッポンの背中に乗って対岸へ渡る王の話とも関わっているようにもみえます。

同様に「難波」は「浪速」と同義で、波が速いので、船にとっても接岸が難しい港？みたいな意味にもとれます。

ここも、先日の海没地図では、完全な島地に難波宮などの京域を建てていましたね。

やや沖合いであったので、波が現在より速かったのかもしれませんが。「浪花」の「花」の意味も、波の中に浮かぶ花のような意味だったのでしょうか。

あと、

「造一柱騰宮而奉饗 焉。【一柱騰宮. 此云阿斯. 苔徒鞅餓離能宮】（あしひとつあがりのみや）」

とある件ですが、宇佐の河上に宮を造っているのは、先の伊勢の五十鈴川の河上に斎宮を造っているの同類です。

当時の神殿は、少し高地である必要があったのでしょうか。それで上記の宮名を分析すると、

鞅は「オウ・ヨウ」で、「むながい」の意。

徒は「ズ・ト」で「いたずら・あだ・かち」の意。

苔は「ダイ・タイ」で「こけ」の意。

餓は「ガ」で「飢える」の意。

そうすると、呉音でいくと、「アシダイ、ズオウガリ」の宮。

漢音でいくと「アシタイ、トヨウガリ」の宮

別名の「騰」（宮）が「ドウ・トウ」ですから、これは「アガリ」の宮もしくは「ドウ・トウ」の宮です。

だから、おそらく漢音のほうをとって、「トヨウガリ」と「トウガリ」がひとつの読みだったはずですよ。

それで、モガリの宮という用法が記紀でしばしば出てくるのですが。「モガリ」の「ガリ」が、仮宮、の意味があった可能性を感じます。王の死体を置いておくような仮宮ですね。喪ガリのミヤ

また「アシタイ」も、「ヤマタイ」といった遊牧民・扶余系のアイデンティティを示す語「タイ」と関係するとするならば、宇佐方面のたとえば赤塚古墳とか風土記の丘の弥生遺跡に関わるような、王都を意味する地名と関係していた可能性も出てきます。

「台与」で「トヨ・タイヨ」と読ませる件も関係するのでしょうか。そうすると女王「台与」の「仮宮」で、「トヨガリ」の宮という感じにもなりそうですね。

あと、「阿斯」なのですが、魏志にでてくる伽耶系諸国の首長（部族）名に「■斯」がつく件は先日お話したとおりで、また楽浪・秦韓系集団は自分ことを「阿」と呼称して記載があるので、「阿斯」にも、あるいは半島系自己集団の呼称と関係していた可能性も感じます。「阿斯台国」

倭人伝でいえば、「都支国」つまり「竹斯国」（福岡方面）と「対蘇国」（大分と阿蘇周辺）の近隣地域となるので、「阿斯」の「台・対」国。「阿蘇」もこの「阿斯」と「蘇塗」地域の近隣地域と理解すればわかりやすいです。

同様に「邪馬台国」も倭人伝の「邪馬国」（八女）と上記「台」地域との近隣地域から発祥して、後に東遷していったと考えれば、元々この辺に語源の由来があっただろうことも予想できます。その辺は先日論議して、会報4号に書いたとおりですね。

だから「大和・ヤマトウ」も上記の論理で推測すれば。「邪馬」「台・対（タイ）」＝「騰（ト

ウ)」で理解できるかもしれません。

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：秦野 投稿日：2013 年 6 月 9 日(日)21 時 38 分 56 秒 返信・引用 編集済

> No.1549[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

日本書紀の年代から神武天皇東征、是?爲天皇元年を特定。

神日本磐余彦天皇 神武天皇

其年冬十月丁巳朔辛酉(BC 130 年)、天皇親帥諸皇子舟師東征。至速吸之門。時有一漁人、乘艇而至。天皇招之、因問曰、汝誰也。對曰、臣是國神。名曰珍彦。釣魚於曲浦。聞天神子來、故?奉迎。又問之曰、汝能爲我導耶。對曰、導之矣。天皇勅授漁人椎?末、令執而牽納於皇舟、以爲海導者。乃特賜名、爲椎根津彦。椎、此云辭?。此?倭直部始?也。行至筑紫國菟狹。菟狹者地名也。此云宇佐。時有菟狹國造?。號曰菟狹津彦・菟狹津媛。乃於菟狹川上、造一柱騰宮而奉饗焉。一柱騰宮、此云阿斯?苔徒鞅餓離能宮。是時、勅以菟狹津媛、賜妻之於侍臣天種子命。天種子命、是中臣氏之遠?也。

十有一月丙戌朔甲午、天皇至筑紫國岡水門。

十有二月丙辰朔壬午、至安藝國、居于埃宮。

乙卯年春三月甲寅朔己未(BC 125 年)、徙入吉備國。起行館宮以居之。是曰高嶋宮。積三年間、脩舟楫、蓄兵食、將欲以一舉而平天下也。

戊午年春二月丁酉朔丁未(BC 119 年)、皇師遂東。舳艫相接。方到難波之碕、會有奔潮太急。因以、名爲浪速國。亦曰浪花。今謂難波訛也。訛、此云與許奈磨盧。

http://www.seisaku.bz/nihonshoki/shoki_03.html

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：秦野 投稿日：2013 年 6 月 8 日(土)10 時 47 分 11 秒 返信・引用 編集済

> No.1549[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

廿五年春二月丁巳朔甲子、230 年は間違いでした。243 年ですな。

活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

廿五年春二月丁巳朔甲子、詔阿倍臣遠祖武渟川別・和珥臣遠祖彦國葺・中臣連遠祖大鹿嶋・物部連遠祖十千根・大伴連遠?武日、五大夫曰、我先皇御間城入彦五十瓊殖天皇、惟叡作聖。欽明聰達。深執謙損、志懷沖退。綢繆機衡、禮祭神祇。剋己勤躬、日慎一日。是以人民富足、天下太平也。今當朕世、祭祀神祇、豈得有意乎。三月丁亥朔丙申、離天照大神於豐稻入?命、託于倭?命。爰倭?命求鎮坐大神之處、而詣菟田筱幡。筱、此云佐佐。更還之入近江國、東廻美濃、到伊勢國。時天照大神誨倭?命曰、是神風伊勢國、則常世之浪重浪歸國也。傍國可憐國也。欲居是國。故隨大神教。其祠立於伊勢國。因興齋宮于五十鈴川上。是謂磯宮。則天照大神始自天降之處也。

一云、天皇以倭?命爲御杖、貢奉於天照大神。是以倭?命以天照大神、鎮坐於磯城嚴櫃之本而祠之。然後隨神誨、取丁巳年冬十月甲子、遷于伊勢國渡遇宮。是時倭大神、著穗積臣遠祖大水口宿禰、而誨之曰、太初之時期曰、天照大神悉治天原。皇御孫尊、專治葦原中國之八十魂神。我親治大地官者。言已訖焉。然先皇御間城天皇、雖祭祀神祇、微細未探其源根、以粗留於枝葉。故其天皇短命也。是以、今汝御孫尊、悔先皇之不及而慎祭、則汝尊壽命延長、復天下太平矣。時天皇聞是言、則仰中臣連?探湯主、而卜之。誰人以令祭大倭大神。?淳名城稚?命食卜焉。因以命淳名城稚?命、定神地於穴磯邑、祠於大市長岡岬。然是淳名城稚?命、既身體悉瘦弱、以不能祭。是以命大倭直祖長尾市宿禰、令祭矣。

崇神没を 258 とみるか、318 とみるか、

六十五年秋七月、任那國遣蘇那曷叱知、令朝貢也。任那者去筑紫國、二千餘里。北阻海以在鷄林之西南。

天皇踐祚六十八年冬十二月戊申朔壬子、崩。 284 年

> その後、垂仁死後に出てくる景行天皇というのは、310 年ごろの南方海人族系の佐紀楯列古墳群を残した首長で、350 年ごろになって、半島系のタケウチスクネ系の集団が西日本から徐々に畿内へと

進出していきます。

>

> だから崇神318年没説というのも、崇神陵とか業績とかと、海人族系の接点が見えてこないといけないのですが、ちょっと問題があります。

>

> ただ、確かに伊勢というのは先日のとおり海人族系の港湾に沿った場所ではあります。伊勢の先の伝承をみると、宇陀、美濃、近江といった内陸経由で尾張に向かっており、物部・尾張氏系の伝承だとすると、ヤマトタケルと大彦の上記南方海人系の首長伝承に重なってくるようにも見えますね。

>

> 崇神没を258とみるか、318とみるか、台与との関わりを考えるなら前者にしなければならないし、伊勢との関係を考え始めると後者も考慮してみたい・・・、頭のひねりどころですね。

>

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 7 日(金)23 時 16 分 47 秒 返信・引用 編集済

> No.1548[元記事へ]

秦野さんへのお返事です。

> 少し、進みましたな。

>

> 御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

>

> 元年春正月壬午朔甲午 216 年

>

> 元年春正月壬午朔甲午、皇太子?天皇位。尊皇后曰皇太后。二月辛亥朔丙寅、立御間城?爲皇后。先是、后生活目入彦五十狹茅天皇・彦五十狹茅命・國方?命・千々衡倭?命・倭彦命・五十日鶴彦命。又妃紀伊國荒河戸畔女遠津年魚眼妙媛、一云、大海宿禰女八坂振天某邊。生豐城入彦命・豐鍬入?命。次妃尾張大海媛、生八坂入彦命・淳名城入?命・十市瓊入?命。是年也、太?甲申。

>

以前お話して会報にも掲載しましたが、崇神天皇の在位はそこから1千支分の60年を引いた8年だったはずです。短命ですね。だから、先の垂仁の別系統記載にあるように崇神は寿命が短かったと記されているわけです。下記の部分です。

「言已訖焉。然先皇御間城天皇、雖祭祀神祇、微細未探其源根、以粗留於枝葉。故其天皇短命也。是以、今汝御孫尊、悔先皇之不及而慎祭、則汝尊壽命延長、」

度会外宮の祭祀を創始したであろう物部・穗積・尾張といったあたりの別系統文書が、上記にも見える「一云」なのでしょう。

それ以前の記録には、御間城入彦五十瓊殖天皇つまり崇神の在位期間は8年と記載されていたはずで、だから短命だと言うんですね。それを飛鳥・白鳳時代に60年分のばして68年の在位にしたのでした。これは間接的に仲哀の在位期間と神功皇后との関係に対応し、つまり崇神と台与の関係になることは、以前お話したとおりです。

それで問題は、崇神の即位時期ですが、秦野さんご指摘の218年ではなく、258年の没年干支と考えると、卑弥呼死後2年後にあたる250年前後になるはずで、その後、台与の摂政を8年して、何らかの経緯で失脚したか死亡する。

崇神の直前の2年間は、つまり開化のことで在位は1年となります。つまり卑弥呼後の短命の男王のことです。

この記録があるので、7世紀代の編者は崇神は「短命」だし、その息子の垂仁という在位99年のこれまた架空の天皇を崇神の別系統伝承をもとに造りだす際に、いろいろ混ぜ込んだわけですね。

その後、垂仁死後に出てくる景行天皇というのは、310年ごろの南方海人族系の佐紀楯列古墳群を残した首長で、350年ごろになって、半島系のタケウチスクネ系の集団が西日本から徐々に畿内へと進出していきます。

だから崇神318年没説というのも、崇神陵とか業績とかと、海人族系の接点が見えてこないといけないのですが、ちょっと問題があります。

ただ、確かに伊勢というのは先日のとおり海人族系の港湾に沿った場所ではあります。伊勢の先の伝承をみると、宇陀、美濃、近江といった内陸経由で尾張に向かっており、物部・尾張氏系の伝承だとすると、ヤマトタケルと大彦の上記南方海人系の首長伝承に重なってくるようにも見えますね。

崇神没を258とみるか、318とみるか、台与との関わりを考えるなら前者にしなければならないし、伊勢との関係を考え始めると後者も考慮してみたい・・・、頭のひねりどころですね。

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：秦野 投稿日：2013年6月7日(金)07時04分46秒 返信・引用

> No.1547[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

少し、進みましたな。

御間城入彦五十瓊殖天皇 崇神天皇

元年春正月壬午朔甲午 216 年

元年春正月壬午朔甲午、皇太子?天皇位。尊皇后曰皇太后。二月辛亥朔丙寅、立御間城?爲皇后。先是、后生活目入彦五十狹茅天皇・彦五十狹茅命・國方?命・千々衝倭?命・倭彦命・五十日鶴彦命。又妃紀伊國荒河戸畔女遠津年魚眼妙媛、一云、大海宿禰女八坂振天某邊。生豐城入彦命・豐鍬入?命。次妃尾張大海媛、生八坂入彦命・淳名城入?命・十市瓊入?命。是年也、太?甲申。

>

> 下記の伊勢関連の記載はおもしろいですね。

>

> 近江、宇田、美濃、伊勢と移動していくわけですが、最終的に五十鈴川の上流の天岩戸神社とか、伊雑宮のある間あたりに斉宮をおいて、落ち着くわけです。

>

> 一方物部系穗積氏の一云には、外宮つまり渡会宮が出てくるわけですが、ここで崇神の寿命が短かった理由というのを述べていますね。祀り方を知らなかったためだと。次の垂仁にはその祀り方を教えています。天神・地祇の区別は、後代のものです。

>

> それで、ここから、崇神の寿命というのが、この記載の以前からすでに存在していたことが判るんです。

> 垂仁の話は、崇神を元にした別系統の伝承が元になっていることは、以前お話したとおりです。

>

> おそらく飛鳥・白鳳時代に、この辺をいじっていたはずですが、その際に崇神の寿命の記録だけが、帝記にあったんでしょう。崇神は一応、この時点では過去にいたことになっている。

>

> もちろん、それが秦野さんのおっしゃるような230年の記録かどうかは、まだここからわ判りませんけど、そういう統治期間を記録したものが、伝わっていた可能性はあると感じてます。

>

>

>

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 6 日(木)23 時 30 分 4 秒 返信・引用

> No.1546[元記事へ]

秦野さんへのお返事です。

> どうも、日本書紀の原文が間違っていたな。

>

> 年代特定は連立方程式になりそうですな。230 年だな。

>

> 活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

>

下記の伊勢関連の記載はおもしろいですね。

近江、宇田、美濃、伊勢と移動していくわけですが、最終的に五十鈴川の上流の天岩戸神社とか、伊雑宮のある間あたりに斎宮をおいて、落ち着くわけです。

一方物部系穗積氏の一云には、外宮つまり渡会宮が出てくるわけですが、ここで崇神の寿命が短かった理由というのを述べていますね。祀り方を知らなかったためだと。次の垂仁にはその祀り方を教えています。天神・地祇の区別は、後代のものです。

それで、ここから、崇神の寿命というのが、この記載の以前からすでに存在していたことが判るんです。垂仁の話は、崇神を元にした別系統の伝承が元になっていることは、以前お話したとおりです。

おそらく飛鳥・白鳳時代に、この辺をいじっていたはずですが、その際に崇神の寿命の記録だけが、帝記にあったんでしょう。崇神は一応、この時点では過去にいたことになっている。

もちろん、それが秦野さんのおっしゃるような230年の記録かどうかは、まだここからわかりませんが、そういう統治期間を記録したものが、伝わっていた可能性はあると感じてます。

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：秦野 投稿日：2013 年 6 月 6 日(木)21 時 36 分 44 秒 返信・引用 編集済

> No.1543[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

どうも、日本書記の原文が間違っていたな。

年代特定は連立方程式になりそうですな。230 年だな。

活目入彦五十狹茅天皇 垂仁天皇

廿五年春二月丁巳朔甲子、詔阿倍臣遠祖武渟川別・和珥臣遠祖彦國葺・中臣連遠祖大鹿嶋・物部連遠祖十千根・大伴連遠?武日、五大夫曰、我先皇御間城入彦五十瓊殖天皇、惟叡作聖。欽明聰達。深執謙損、志懷冲退。綢繆機衡、禮祭神祇。剋己勤躬、日慎一日。是以人民富足、天下太平也。今當朕世、祭祀神祇、豈得有意乎。三月丁亥朔丙申、離天照大神於豐稻入?命、託于倭?命。爰倭?命求鎮坐大神之處、而詣菟田筱幡。筱、此云佐佐。更還之入近江國、東廻美濃、到伊勢國。時天照大神誨倭?命曰、是神風伊勢國、則常世之浪重浪歸國也。傍國可伶國也。欲居是國。故隨大神教。其祠立於伊勢國。因興齋宮于五十鈴川上。是謂磯宮。則天照大神始自天降之處也。

一云、天皇以倭?命爲御杖、貢奉於天照大神。是以倭?命以天照大神、鎮坐於磯城嚴櫃之本而祠之。然後隨神誨、取丁巳年冬十月甲子、遷于伊勢國渡遇宮。是時倭大神、著穗積臣遠祖大水口宿禰、而誨之曰、太初之時期曰、天照大神悉治天原。皇御孫尊、專治葦原中國之八十魂神。我親治大地官者。言已訖焉。然先皇御間城天皇、雖祭祀神祇、微細未探其源根、以粗留於枝葉。故其天皇短命也。是以、今汝御孫尊、悔先皇之不及而慎祭、則汝尊壽命延長、復天下太平矣。時天皇聞是言、則仰中臣連?探湯主、而卜之。誰人以令祭大倭大神。?淳名城稚?命食卜焉。因以命淳名城稚?命、定神地於穴磯邑、祠於大市長岡岬。然是淳名城稚?命、既身體悉瘦弱、以不能祭。是以命大倭直祖長尾市宿禰、令祭矣。

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者：秦野 投稿日：2013 年 6 月 6 日(木)07 時 05 分 56 秒 返信・引用

> No.1543[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

にがて、ですか。訳は呉(春秋)まで遡りますな。

若乃知幾其神、惟叡作聖、玄妙之境、希夷不測。然則 [三五迭興、]

かく汝、幾らかの神祇(じんぎ)を知る。作聖の思い、玄妙の東夷は希に予測できない。

然則

> 若(も)し乃(すなわ)ち幾を知るは其れ神、惟(た)だ叡(えい)、聖を作(な)さば、玄妙の境、希夷にして測られず。然(しか)らば則ち [三五 迭(ご)も興(おこ)り、]

> 『微臣属書東觀、預聞前史。

> 若乃知幾其神、惟叡作聖、玄妙之境、希夷不測。然則 [三五迭興、]』

>

> 上記の文章はその昔、唐の太宗が学芸振興の為、長安に孔子廟という孔子の霊を祀る建物を再建した際に建てた、『孔子廟堂碑(こうしびょうどうし)』と呼ばれる碑の一部分の文章で、唐の時代、五五八年～六三八年に生きた『虞世南(ぐせいなん)』という書道家が七十一～七十三歳頃に書かれた書です。ですが、その碑は突如として火災が起き、唐時代末には失われてしまい、現代までに残る孔子廟堂碑は後に復刻されたものだそうです(*^-^)*b

>

> 『微 臣 書を東觀に属し、預め(あらかじめ)前史より聞く。

ヒトラーはユダヤ人だった。 投稿者：ねこ 投稿日：2013 年 6 月 6 日(木)03 時 27 分 43 秒 返信・引用

ヒトラーはユダヤ人だった。

<http://park.geocities.jp/jpcdebate/0203/p032.html#page209>

<http://book.geocities.jp/conspiracycalendar/02/d/04/0420.html>

ヒトラーの誕生日は、歴史上の大事件と語呂合わせになっている。

とりわけフランス革命とは100周年記念日に該当するが、

それはユダヤ暦で100周年記念日だった。

つまり、ヒトラーのユダヤ人迫害事件は、全て「でっち上げ」だった。

ユダヤ人には、「ディアスポラ」という伝統がある。

表面上「難民」を装うが、実際は「屯田兵」だ。

第二次世界大戦でも多くのユダヤ人が世界中に散って行った。

これは難民ではなく、「屯田兵」だった。

その後のユダヤ人の世界経済の支配を見れば一目瞭然だ。

つまり、ヒトラーは、「ディアスポラ」の仕掛け人だった。

(仮説を含む)

(<http://park.geocities.jp/jpcdebate/0103/p036.html>)

Re: 『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 投稿者: 管理人 投稿日: 2013 年 6 月 4 日(火)23 時 14 分 5 秒 返信・引用 編集済

> No.1542[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 秦野の訳をかきますが、一度、管理人さん訳して貰えないかな。

>

> 重大な文章になるぞ。

>

>

>> ★『日本書紀』 卷六 垂仁天皇 二五年（丙辰（236 年）前五）二月 甲子（244 年）《八》

>

>> 廿五年 春二月 丁巳（237 年）朔（ある日）。詔阿倍臣遠祖武渟川別。和珥臣遠祖彦國葺。中臣連遠祖大鹿嶋。物部連遠祖十千根。大伴連遠祖武日。五大夫曰。我先皇御間城入彦五十瓊殖天皇。惟叡作聖。欽明聰達。深執謙損。志懷沖退。綢繆機衡。禮祭神祇。剋己勤躬。日慎一日。是以人民富足。天下太平也。今當朕世。祭祀神祇。豈得有怠乎。

>>

この文章は、いろいろ確かに興味深い部分がありますね。

たとえば「惟叡作聖」の語ですが、検索すると、唐代の文章に引用されています。下記のサイトのとおりです。。

<http://ameblo.jp/gfas-x1/day-20090111.html>

『微臣属書東觀、預聞前史。

若乃知幾其神、惟叡作聖、玄妙之境、希夷不測。然則〔三五迭興、〕』

上記の文章はその昔、唐の太宗が学芸振興の為、長安に孔子廟という孔子の霊を祀る建物を再建した際に建てた、『孔子廟堂碑(こうしびょうどうし)』と呼ばれる碑の一部分の文章で、唐の時代、五五八年～六三八年に生きた『虞世南(ぐせいなん)』という書道家が七十一～七十三歳頃に書かれた書です。ですが、その碑は突如として火災が起き、唐時代末には失われてしまい、現代までに残る孔子廟堂碑は後に復刻されたものだそうです(*^-^*)b

『微臣書を東觀に属し、預め(あらかじめ)前史より聞く。

若(も)し乃(すなわ)ち幾を知るは其れ神、惟(た)だ叡(えい)、聖を作(な)さば、玄妙の境、希夷にして測られず。然(しか)らば則ち〔三五迭(ごと)も興(おこ)り、〕

そうすると、この文章は7世紀代の中臣時代、遣唐使の影響で記紀に挿入された可能性も考慮すべきなのかもしれません。孔子廟ということは、儒学者ですね。鎌足の師匠で、遣唐使人の博士・新漢人南淵氏あたりの影響があるとする見方もできそうです。

大伴らの五大夫はみな新漢人の影響下にありますし、「欽明聰達」も、淡海三船の中国知識の一部に、このあたりの文献がった可能性もありますね。7世紀代の遣唐使人がもちかえた中国関連書籍をもとに、天皇の諡を創出・記載したという線はどうでしょうか。

『日本書紀』卷六 垂仁天皇 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013年6月4日(火)22時43分41秒 返信・引用

気になる文章ですな。

秦野の訳をかきますが、一度、管理人さん訳して貰えないかな。

重大な文章になるぞ。

> ★『日本書紀』卷六 垂仁天皇 二五年（丙辰（236年）前五）二月 甲子（244年）《八》

> 廿五年 春二月 丁巳（237年）朔（ある日）。詔阿倍臣遠祖武渟川別。和珥臣遠祖彦國葺。中臣連遠祖大鹿嶋。物部連遠祖十千根。大伴連遠祖武日。五大夫曰。我先皇御間城入彦五十瓊殖天皇。惟叡作

聖。欽明聰達。深執謙損。志懷沖退。綢繆機衡。禮祭神祇。剋己勤躬。日愼一日。是以人民富足。天下太平也。今當朕世。祭祀神祇。豈得有怠乎。

>

阿倍臣(遠い祖先、武渟川別)、和珥臣(遠い祖先、彦國葺)、中臣連(遠い祖先、大鹿嶋)、物部連(遠い祖先、十千根)、大伴連(遠い祖先、武日) に詔する。

五大夫に曰く。我先皇(崇神天皇)の思いを明かす。作聖(作成)の出来は謙遜する。

志を持ち韓半島(大漢＝大韓：やまと)を退いた。事態はまつわる。

神祇(国津神)をひろく祭り、躬(自ら)勤め己に剋ち。日、気を配る。これゆえ人民は富む。天下太平なり。今、朕世(垂仁天皇)になり、神祇(国津神)をひろく祭る。どうして怠ろうか。

神祇：卑弥呼

志懷沖退：志を持ち韓半島(大漢＝大韓：やまと)を退く

沖：広々とした田畑や野原の遠い所。韓半島(大漢＝大韓：やまと)

Re: 新羅王族 投稿者：秦野 投稿日：2013 年 6 月 4 日(火)00 時 55 分 14 秒 返信・引用 編集済

> No.1540[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

大漢国は金印銘文の漢委奴國王。大漢国は現在の大韓国になるな。

漢委奴国王印

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BC%A2%E5%A7%94%E5%A5%B4%E5%9B%BD%E7%8E%8B%E5%8D%B0>

漢委奴国王印の意味は、大漢国の委奴国王。倭国の王になる。

大漢国（やまと）は韓半島で、馬韓、弁韓、辰韓、倭国と穢、扶余、高句麗。

現在の韓国で馬韓、弁韓、辰韓、倭国。北朝鮮は穢、扶余、高句麗になる。

扶余、高句麗が阿残になる。阿残の歴史は元封三年の武帝から始まるな。

衛氏朝鮮

『通典』邊防

武帝元封三年、遣樓船將軍楊僕從齊浮渤海、兵五萬、左將軍荀彘出遼東、討之。朝鮮人相與殺王右渠來降。遂以朝鮮為真蕃、臨屯、樂浪、玄菟四郡。今悉為東夷之地。昭帝時罷臨屯、真蕃以并樂浪、玄菟。

元封三年（前108年）、樓船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、樂浪、玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、樂浪と玄菟に併合した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

漢は中国でないぞ。百濟・新羅・伽耶・高句麗にも歴史があるな。

新羅が理解できるぞ。

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3328>

> そしてその一部が金官伽耶方面へ西進し首露王が158年頃にいたという伝承が成立したのかもしれない。

>

> それで、新羅系譜の

> 熱漢—阿都—首留

>

> なのですが、「阿」を秦韓の民衆自身を指す称号とし、「阿残」を樂浪に残った親族とする魏志の記載を考慮すると、やはり「阿都」あるいは「阿道」の「阿」は、秦韓つまり金官伽耶方面特有の称号に由来した可能性がでていますね。

>

>

> その前の「漢」はつまり、漢の樂浪郡時代のこととなるでしょうか。

>

> ここで考慮すべきなのは、後代の東漢氏の系譜ですね。やはり百濟王族とも関係しながら。「阿知」王の「阿」音や、穢=大漢国の「漢」にアイデンティティを持つ件です。

>

> この辺は、百濟・高句麗・新羅・伽耶・そして穢（大漢）で、ある程度系譜を共有していた可能性があるような気がします。それらは会報に記したように、漢氏や秦氏の系譜にも影響していくわけですが、もっと整理したいですね。

>

>

>

新羅王族 投稿者：管理人 投稿日：2013 年 6 月 3 日(月)23 時 25 分 43 秒 返信・引用 編集済

> No.1535[元記事へ]

ちょっと先日の新羅王系譜について考えはじめています。

どうも、扶余系の系譜と王族名が近いことに気がきますね。

『三国史記』新羅本紀・味鄒尼師今紀

金閼智—勢漢—阿道—首留—郁甫—仇道—味鄒

『三国遺事』金閼智脱解王代条

金閼智—熱漢—阿都—首留—郁部—俱道（仇刀）—未鄒

その王族は「葛文王」という別名を継承します。「カツ」音に注目。下記扶余系にも「曷思王（カツシ）」がみえます。

扶余系譜は。

東夫余 [編集]

解夫婁王（在位年不詳） 金蛙王（在位年不詳） 帶素王（?年 - 22 年） 曷思王（22 年 - ?年 ※夫余王か疑問） 都頭王（?年 - 68 年 ※夫余王か疑問）

北夫余 [編集]

夫台王 尉仇台王 簡位居王 麻余王 依慮王 依羅王 蔚王（※夫余王か疑問） 玄王 居王

東扶余の特徴は、金・「タイ」・「カツ」です。「タイ」音は月氏など北方遊牧民系につく「タイ」音を想起させます。サルマタイ・スキタイ・ヤマタイ・・・・・・先日の会報で列記して分析したとおりです。

北扶余は 「イ」「キュウ」で、これは百済王族のそれとも関係していきます。

それで新羅系譜にもどり、「仇道」の「キュウ」音は、扶余・百済系のそれです。

また「首留」は、高句麗の朱蒙などの「シュ」音と関係しそうです。金官伽耶の王族に首露王がいます。

首露王（しゅろおう、???）は、金官加羅国の始祖と伝えられている古代朝鮮半島の王で、金海金氏の始祖。首露王は158年間国を治めたとも伝えられている。妃は阿踰陀国の王女と伝わる許黄玉。

こう見て行くと、系譜面では、やはり東扶余の金蛙を始祖とする金氏が、後に半島東海岸の南下したとの記載にあるように、新羅方面へ向かい、東扶余3代目の曷思王にちなんで、新羅王族は別名として「葛文王」の封号を継承した可能性があります。

そしてその一部が金官伽耶方面へ西進し首露王が158年頃にいたという伝承が成立したのかもしれない。

それで、新羅系譜の

熱漢一阿都一首留

なのですが、「阿」を秦韓の民衆自身を指す称号とし、「阿残」を楽浪に残った親族とする魏志の記載を考慮すると、やはり「阿都」あるいは「阿道」の「阿」は、秦韓つまり金官伽耶方面特有の称号に由来した可能性がでていますね。

その前の「漢」はつまり、漢の楽浪郡時代のこととなるのでしょうか。

ここで考慮すべきなのは、後代の東漢氏の系譜ですね。やはり百済王族とも関係しながら。「阿知」王の「阿」音や、穢＝大漢国の「漢」にアイデンティティを持つ件です。

この辺は、百済・高句麗・新羅・伽耶・そして穢（大漢）で、ある程度系譜を共有していた可能性があるような気がします。それらは会報に記したように、漢氏や秦氏の系譜にも影響していくわけですが、もっと整理したいですね。

あと、邪馬台国卑弥呼時代と、上記の新羅王族系譜の件ですが、「ヤ」「タイ」音は、以前からお話

ししているように扶余系の発音です。元は北方遊牧民系。

女王は再び魏に使者として大夫「伊聲耆、掖邪狗」らを送ります。

ここに「イ・キュウ」音のつく人名がでてきますね。

女王は太守王（斤+頁）に載斯・烏越もつかわしますが、「斯」は伽耶諸国の首長の称号でした。

邪馬台国の高官が、かなり半島的な王族系譜に近い称号をもっていた可能性がでてきます。

彼らは倭に進出してから、まだそれほど時間が経っていなかったのかもしれませんが。

下記のサイトに、扶余・高句麗系の墓制と前方後円墳の比較が文献や考古面からなされています。

<http://www.geocities.jp/taru638/page005.html>

こうみると、南韓・北九州を破談だ文化圏に、ある時期に北方から邪馬台国の祖先となるような扶余系集団が南下してきて、その影響でこれらの古墳が出来てきたと考えると理解しやすくなるかもしれませんね。

おそらく始祖系譜にも上記のような特徴があった可能性もあります。日本の皇族、氏族系譜と、上記の王族の特徴となった語音「イ・キュウ」音等について比較する必要があるそうです。イザナミ、イワレヒコ、ミマキイリヒコ、イクメイリヒコ・・・。

Re: 纏向遺跡:の花粉 投稿者：秦野北斗 投稿日：2013 年 6 月 3 日(月)06 時 48 分 28 秒 返信・引用
編集済

> No.1538[元記事へ]

茨の紀氏さんへのお返事です。

メボウキ(バジル) 羅勒 (羅勒;E.Basil)

羅が気になるな。

メボウキ属 Ocimum(羅勒屬)。東アジアには自然分布するものはないが、次のものを栽培し、一部野

生化しているものがある。

O. americanum(灰羅勒)

メボウキ(バジル) O. basilicum (羅勒;E.Basil)

var. pilosum (毛羅勒・矮糠) 『中国本草図録』 VI/2808・『中国雜草原色図鑑』 188

インドメボウキ(広義) O. gratissimum(丁香羅勒)

インドメボウキ var. suave(毛葉丁香羅勒) 『中国本草図録』 I /0300・II/0797

カミメボウキ O. tenuiflorum(O.sanctum;聖羅勒・薰草・零陵香;E.Holy basil)

インド・東南アジア産。ヒンドゥー教の聖なる草トゥルシー tulsi。

シソ科 LABIATAE(LAMIACEAE;唇形科)については、シソ科を見よ。

後趙の石勒(274-333)の諱を避けて、羅勒を蘭香と改む。

和名メボウキ(目簾)は、その種子を目に入れると、寒天様物質が出て目のごみをぬぐい、かすみ目に効く、ということから。

小野蘭山『本草綱目啓蒙』 22(1806)羅勒に、「メバ>キ」と。

種小名・英名は、ギリシア語の basilikon(高貴な草)に由来、王侯貴族が香水に用いたことから。

バジリコ basilico は、イタリア語名。

アジア・アフリカの温帯・暖帯に分布し、中国の南部では一部野生化している。

説 日本には江戸時代に入る。

全草を 香辛料・薬用に用いる。

『名医別録』の薰草及び『開宝本草』以下の零陵香はメボウキあるいはカミメボウキだが、今日零陵香の正品は オカトラノオ属 *Lysimachia*(排草屬)のモロコシソウ *L.sikokiana*(*L.foenum-graecum*;排草)である、という。『中薬志Ⅲ』 pp.220-224、『中国本草図録』 X/4784

<http://www2.mmc.atomi.ac.jp/web01/Flower%20Information%20by%20Vps/Flower%20Albumn/ch4-vegitable/eng-basil.htm>

http://www.ootk.net/cgi/shikihtml/shiki_2186.htm

メボウキ 【basil】

バジルまたはバジリコと称し、香辛料や香草として知られるシソ科の一年草（イラスト）。メボウキ属 *Ocimum* はアフリカ、東南アジアから太平洋諸島に 50～60 種が分布する。そのなかで日本で香辛料として栽培されるのは、本種だけである。高さ 40～50cm、葉は波状の欠刻のある卵状披針形で、強烈な香りがする。夏には茎の先にシソに似た花穂を立て、紫白色の 6 輪の小花を輪生して咲き上がるが、とくに観賞価値はない。種まきは 4～5 月、小鉢で育苗したものを 5～6 月に鉢または花壇に植える。

<http://kotobank.jp/word/%E3%83%A1%E3%83%9C%E3%82%A6%E3%82%AD>

海進と古墳・神社説明動画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 5 月 15 日(水)05 時 20 分 26 秒 返信・引用
編集済

追伸です。先にお話した古墳時代にあったと予想する海進と、その時代の古墳・神社に位置に 関する説明動画
を作成しました。Google 海没地図を、録画編集してあります。

この動画をみると、弥生中期から古墳時代、さらには 7 世紀代あたりまで、現在より 9～13 メートルほ ど、海面
面が高かったことが明らかになると思います。標高 9～13 メートル前後の「海岸沿い」に、ほと んど例外なく主要
な大型古墳や主要な神社が構築されています。

説明動画はこちら。(2.8G バイトあります) <http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/kaisin.mov>

遺跡紹介順は下記のとおりです。

鹿島神宮→大宮氷川神社→さきたま古墳群→寒川神社→三島大社→熱田神宮→伊勢神宮(内宮+外 宮)→百舌古
墳群→住吉大社→四天王寺→難波宮(京域)→八尾刑部宮・石切神社→三島方面→神戸灘 区(東西求女塚)→淡路
島イザナギ神宮→児島屯倉(湾)→吉備津神社→作山・造山古墳→出雲大社→ 籠神社(元伊勢)→宇佐赤塚古墳(風土
記の丘)→大野城→吉野ヶ里遺跡→那珂八幡古墳(板付遺跡) →八女神ろう石→八女古墳群→山鹿横穴墓→江田船
山古墳→菊池城方面→宇土境目遺跡→出水方面→ 西都原古墳群→新潟岩船柵(神社)→北海道古墳(江別・恵庭)方
面→伊都平原遺跡→孝岐・原の辻遺跡 →対馬→プサン(狗邪韓国)→慶州方面→ソウル(漢城)方面→公州・熊津方
面→平壤方面→中国→ 中等・欧州

ただ問題は、縄文海進時代ですら、現在より 2～3 メートル高かっただけで、平安海進でも同様に現代よ り 50
cm 高くなっただけと言われていることです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/縄文海進>

なぜ弥生時代から弥生後期・古墳・白鳳時代に、10 メートル以上も高くなったのかが、地質学的に証明 できてな
いんですね。

ただ、可能性としては、たとえば、先の東日本大震災の際に、日本の下に潜り込んでいる太平洋プレート が東西
に 50 メートル移動し、7 メートル隆起したことが判ってます。

<http://sankei.jp.msn.com/science/news/110428/scn11042821520001-n1.htm>

ただ、潜り込む側のプレートが隆起しても、日本周辺の水海面は変化しないわけです。それでも数セン チは列
島全体と s ては隆起しているようです。 http://www.geocities.jp/beans8055/fuji_hendou.html

そして、もし日本列島を乗せている側にあたるユーラシアプレートや北アメリカプレートの側が隆起し たとし
たら、日本の陸地がそのくらい隆起したかもしれません。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/日本海東縁変動帯>

関連して白鳳大地震などで高知の海岸など水没した記載があります。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/白鳳地震>

あとは巨大火山による火山灰**体積**、下流域への沖積平野の造成、海流**変化**による海水面**変移**、そして埋め立てという線もあるかもしれませんが、はたして10メートルも**変化**するかどうか疑問ですね。一応埋め立て**関**連はこちら。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/埋立地#.E6.AD.B4.E5.8F.B2>

ともあれ、鹿島神宮等の立地を考えると、海岸から離れた山**奥**に建てたというよりは、あきらかに海岸沿いに建てたものの、後の時代に海水が引いたので、そばに大きな海岸浸食の地形の跡だけが**残**っているということがわかります。

この**辺**の地質学の成果と、古代史面から推測する地形立地(地名)との間にある矛盾を解く理論が必要 だと言えるでしょう。

『大宮の安くておいしい名店』ランキング 1816 人が見えています

『30 代男性のハートをわしづかみ!!かつて熱狂した駄菓子』ランキング 909 人が見えています

『宇都宮!おすすめのオシャレなカフェ』ランキング 3070 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO カメラ・レンズを超高価で買取中 - www.camera-takakuureru.com 月間依頼 15000 件突破。納得の高額買取 出張・宅配買取、査定も完全無料です スカイゲートの海外航空券 - www.skygate.co.jp オンラインで**検**索、空席照会。 予約、 購入まで可能。24 時間受付中。 太陽光**発**電が 100 万円安く? - www.tainavi.com

【都内 41 歳男】タイナビで太陽光**発**電 を見積ると訪販より 100 万安かったです 今すぐ住める賃貸物件 - www.athome.co.jp 急な引越しでも OK! 今すぐ住める賃貸物件《アットホーム》 パソコン、お**売**り下さい。 - pc.factory.co.jp 全国送料無料で宅配買取受付中。自宅 に居ながらパソコンを現金化。

Ads by Google 海進地**図**と古墳・神社 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 5 月 14 日(火)23 時 12 分 59 秒 編集済 返信・引用

> No.1494[元記事へ] あと、先日の造山古墳と作山古墳の件ですが、海**没**地**図**でみると、**両**者は尾根沿い(島地)に造営され

た古墳だったようです。

7 年くらい前から、古墳時代の海面水位が現在よりずっと高かった件は指摘してきたのですが、なかなか みなさんご理解くだらないんですね。ただ、最近になって下記の Google の海**没**地**図**が出来て、だいぶ その**実**態がわかるようになりました。 <http://flood.firetree.net>

その時代の海進**関**係の科学資料も以前も紹介しましたが、江戸時代の埋め立てによるとかいう話ではな いはず です。

たとえば+13 m で、地**図**表示してみてください。すると、ほとんどすべての大社と大古墳は、海岸沿いに建てられていたことがわかります。 ほぼ例外ないです。

具体的には、鹿島・大宮氷川・熱田・伊勢**内**宮・外宮・住吉・吉備津・出雲・宇佐神宮といった神社群と、同じく埼玉古墳群、仁徳・**応**神陵、造山・作山、西都原古墳群、八女古墳群、平原遺跡、宇佐赤塚古墳あたりを確認すれば一目瞭然でしょう。

宮都なども同様で難波宮(京)周**辺**とか、少し高台になってますよね。そして、逆に 7 M 以下の地には、弥生・古墳時代の遺跡がほとんどないんです。

おもったより、海人系の文化のもとで、古墳や神社が造営していたことがわかります。だから船型木棺とか鳥船信仰とかがでてるんですね。

特に島地に古墳があるということ、これはやはり航海の目印、つまり灯台とか測量**拠**点、軍事通信**拠**点 だった

ことを示すものでしょう。同じく埋葬された銅鏡の使用目的もそこに**関係**していたことでしょう。

やはり、古墳時代の分析をするまず基礎的前提として、「10メートルあげた海進地図をつかう」、おそらくこれは**数年以内**に教科書に載るレベルの**事実**だと思います。

Ads by Google Re:陵墓治定 投稿者:管理人 投稿日:2013年5月13日(月)22時22分21秒 返信・引用
編集済

> No.1493[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

- > 造山古墳の前後に龍王山、龍王山の横に妙見山
- > 崇神天皇陵から龍王山古墳群の中をぬけてゆく崇神ルート >
- > -戦国武将の山城跡へ登る路->何を意味しているのかな。 >>

妙見、竜王といえば、北極星(こぐま座)と北斗七星のことでしょうかね。

何か一定の起点から、その方角を特定の時期に割り出した結果、その位置にそれらの山が出てくるのではないのでしょうか。

ずいぶんありますね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/竜王山> <http://ja.wikipedia.org/wiki/妙見山>

それぞれ位置を網羅していけば、何か出てくるかもしれませんよ…。

あと、先の共同体の件ですが、確たる共同体を持たないこと、あるいは共同体から傭役や刑罰等によって無理矢理引き離されることについて、現代人も考える必要があるように感じます。先のホームレスの中でも、その集団中から孤立している人は、とても社会的疎外感や孤独感に悩まされることが多いのかもしれませんが。逆にホームレス集団とか、先の蘇塗のような罪人ばかりの隔離地域でも、それらの人々がよく集まるところでは、その集団内での自身の役割や生き甲斐、共感といったものを生み出すこととなり、それが自殺願望の減少、その共同体内での活動意欲の増加へとつながったことでしょう。

先の蘇塗の記載に、その地域の民衆(つまり罪人としてアジール地域に逃げ込んだ人)が、他の地域のそれと礼俗において大きく異なっていると記載されていたことを思い出します。彼らは彼らで徐々に共同体コミュニティを造りだしていったのでしょう。

さらに、古代から現代にいたるまで継続発展してきた資本主義(競争)社会というのは、そういう疎外された人(集団)の存在を必然的に産み出すシステムで、それを是としているものです。これらの資本主義社会への目覚めみたいなものを考える上で、確かに豪族私有地での傭役労働、荘園制度などを研究する意義はありそうですが、後代の非差別部落の集団についても考えることが書かせないのかもしれません。

サンカ

さらに朝倉喬司によれば、官憲の刑事政策によって、幕末から発生した流民の、虞犯者に対して「川魚漁をし、竹細工もする、漂泊民」の呼称であるサンカが(「山窩」という当て字で)使われ、それがマス・メディアに載って流通し、一人歩きした果てに、日本の中で異なる習俗をもった異なる種族の如き意味を孕むに至った[1]という。

サンカの発生にまつわる諸説 [編集]

古代難民説 サンカ(山人)は、原日本人(あるいは縄文人)であり、ヤマト王権により山間部に追いやられた異民族であるとする説。柳田國男の山人論に基くが、柳田はサンカと山人を区別して

記述している。また山人の起源に関する考察は、南方熊楠に私信において否定され、柳田もそれに積極的には反論していない。根拠に乏しい仮説であり、現在ではこれを主張する研究者を探すことは難しいが、俗説として広く信じられている。

サンカを山岳信仰や密教における山伏や、経済的な互助組織である無尽講などと関連づけた創作や論文体の物が読み物として流通することが多いが、それらを関連づける根拠は極めて曖昧であり、サンカの実態そのものがほぼ失われてしまった現代において、検証は困難である。そのため、研究と称した自家中毒的な文章が増

殖する傾向にある。サンカを含めた「山の民」というカテゴリーで論考を試みる向きもあるが、江戸時代において、身分制のなかで統制されてきた他の職能民と、あってはならない存在であるがゆえに「無籍非人」と称されたサンカを同一のカテゴリーで論考するには困難がともなう。近年ではサンカという言葉が一人歩きをし、以前にはサンカと呼ばれなかった人びとをサンカという言葉の範疇で語ろうとする論者もある。これらはサンカという言葉の流動性を示す端的な例であると言える。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/サンカ_\(民俗学\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/サンカ_(民俗学))

この辺ももしかすると、先の妙見信仰、龍王信仰の主、つまり山岳修験道とか測量集団、さらにいえば、それ以前の山岳部の屯倉=三宅(を結ぶ方位区画の)拠点=皇室領を守っていた特殊集団の残存を見いだすことはできないでしょうか。サンカの語源と、屯倉方位区画の拠点にかならずつく「三」「倉」「御」「宅」といった地名の語源との関係性ですね。このあたりも地道に民俗・地名学的な視点から調べていけば、何かでてくる可能性を感じます。

その三についての信仰は、また会報で記したように、神道にも影響した三神信仰、つまり三位一体論と関係するとみているのですが、その神のひとつに「妙身」がありますよね。なぜ景教がこの名称を使ったかも謎ですが、いろいろ探っていくと深いものが見えてきます。父なる神は子たるイエスといつもともにおり、また弟子は子たるイエスと父から流れ出る聖霊とともにいる。

だからいつも我々は苦難において引き離され孤立したとしても、一人ではない恐れるなということなのですが、あえて父神と子神という二極にしないで、そこに人間世界との仲介者としての聖霊つまり浄風を入れて「三」セットにするとくろに、この信仰的な特徴があるといえるでしょう。

住之江三神、宗像三女神、三蔵、三宅…と秦氏や蘇我氏を介して全国へ影響していきます。

階級的な観点からいくと、アジール地域は、また聖地でもあり、司祭つまり天君が支配する神聖不可侵な領域でもありました。逃亡してきた罪人集団と司祭つまり地域首長とが一体化しているケースもあります。山野や過疎地であるケースも多く、彼らの生業も限られていたことでしょう。

神別・皇別・諸蕃といった奈良時代には仕上がってくる3種の観念なども、元々宮廷職人の

雑戸・品部されていた技術系渡来人を、半ば差別・隷属的な身分として設定し、血縁的にも「蕃」としていく背景には、三韓に対しての日本の位置づけを高めるという狙いがあることも確かですが、常に最下層の階級を人工的に造り出して、それによって頂点にたつ集団の優位性を絶対化させようという元々の起源が、いつどこから導入されたものなのか?も考えてい

きたいところです。

山野地域に逃げ込んだクズつまり縄文人に関係するのか、あるいは服属儀礼を担当して山野における境界祭祀の犬の遠吠えをした隼人や、渡来人に由来するものなのか?、あるいは葬送儀礼や墓守、山部といった集団と関係していったのか?、山幸への海幸の服属に関する敗戦奴隷に起因しているのか?、神戸・官戸といった宗教部民や豪族私有民との関係から発生していったものなのか?、いろいろ考慮しながら、その自然発生的な部分と、人工的な法制度的な部分との比較研究をする上で、やはり先の扶桑つまり扶余国の刑罰奴隷の発生記載とか、重罪人やその子孫、あるいは死体そのものにたいしての「忌み・汚れ」といった部分に注目したいところです。

扶余系の渡来人つまり、大漢国からきた穢人に、あえて「穢」の語を用いたのは、中国側の周辺異民族への蔑視観念から由来するだろうと思うのですが、それがその後、最新技術者集団としての漢人として、継体・欽明朝擁立の原動力となってゆき、天智朝時代にいたるまで外交エリートとして、活躍していくわけです。

だから隅田八幡宮鏡の「穢人」の「穢」について、倭王朝側が、かならずしも蔑視観念をもってその文字を用いていたかという、やや疑問の余地もあり、また後代の忌部の「忌む」が、「斎」へと変化していくような、そういうものとも異なるように感じます。

やはり渡来系集団が蕃として一気に蔑視され始めて行く背景には、新羅との対立関係も考慮する必要があるでしょうし、日高見国・新漢人と密接につながる天智系から天武系への変換、律令制の導入にともなう中華思想原理の浸透など、カバネ組織の変遷など、いろいろ考慮すべきことも多いですね。

特に大彦系つまり南方海洋民を率いた安倍・膳・国造氏集団の子孫と、半島系の蘇我・武

内宿禰系の子孫、それ以前の崇神・開化といった初期半島系遊牧民の子孫、それ以前の中国系集団の子孫、さらには江南弥生人系の子孫、そして縄文系の子孫とが、複雑に重なりつつ構成されてきた倭人にとって、その先住の在地化した異民族集団を、どのようにみなしていくのが、本来の倭人的の一般的なあり方、習慣だったのかを、もっと確認していく必要があるの かもしれません。

それらは必ずしも新規導入の法制度的な差別観念とか、差別思想によって、すぐに取り払われたわけではないはずで、特に畿内から離れた在地社会においては、未だ古来からの民族受け入れに対する習慣みたいなものが残存していた可能性についても、考慮する必要があるの かもしれません。いわば民族的な性格とか体質とでもいうべきもので、それらは中国人のそれとも異なるし、欧米人のそれともことなり、独自の共同体形成をいつも行っている可能性 があるわけです。それらは祭祀・儀礼面における共食に関するものとか、女性巫女王の擁立とか、何かいろいろあるかもしれませんね。

そしてそれらは、方位区画分析の関係でも同様なことが言えるかもしれないわけですし、絶対的な基準に対しては、いかなる集団・民族・出自集団においても、それを守り服従しつづけることを、いわば義務化するかのようにして神聖不可侵なもの(領域・血統…)とする、そういう半ば信仰的ともいえる部分に、聖方位、聖ライン、聖区画のあり方について考えてみてもよいの かもしれません。

Re:陵墓治定 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 5 月 13 日(月)18 時 50 分 14 秒 返信・引用 編集済

> No.1492[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

造山古墳の前後に龍王山、龍王山の横に妙見山 崇神天皇陵から龍王山古墳群の中をぬけてゆく崇神ルート
-戦国武将の山城跡へ登る路-

龍王山へは3つのハイキングルートから登ることができます。天理ダムからのどかな林道を ゆくダムルート。崇神天皇陵から龍王山古墳群の中をぬけてゆく崇神ルート。長岳寺の横から尾根道をたどり、奥の院を抜けていく長岳寺ルート。どのルートを組み合わせても、変化に

とんだコースを楽しむことができます。 南城跡のある山頂からの眺めはすばらしく、大和三山を含む奈良盆地を一望することができます。また、条件が整えば大阪湾はもちろん、さらに遠く明石海峡大橋までをも望むことができます。

http://kanko-tenri.jp/hiking_course/ryuouzan.html

何を意味しているのかな。

Re:陵墓治定 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 5 月 12 日(日)23 時 24 分 45 秒 返信・引用 編集済

> No.1491[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

- > 日本古代労働編成の研究もよいが、扶桑国の奴婢制度も検討して貰いたいものだな。 >
- > > <<雇用の進展>>
- > > ★榎木謙周 『日本古代労働編成の研究』(98)
- > > 共同体・支配に還元されない社会関係としての「雇用」の進展は、在地にいかなる変化をもたらしたのか >>>

> 扶桑国

確かに雇用の問題は、現代社会のそれとも関係して重要なテーマですね。 先ほどもちょうどたまたま駅前で倒れていたホームレスを起こして、お金や食物を与える機会があったのですが、その人は、自身が人様のお世話になって迷惑をかけていることに対して、電車で飛び込んで死にたいとも感じるが、それをする力すらないと話していたことが印象的でした。いったいどうしたら、この人は生きることの価値を見いだすことができる のだろうか?我々はそれに対して何をすべきだろうかと考えさせられたものです。

ただ彼はその後しばらくして、電車で自殺するのをやめて大きな教会の前に移動して、多くの献金を箱の中に貯めることに成功した様子を後で発見したときに、何か彼がそこにいることの意味を感じた次第です。彼自身もそれらの行為の中で、何かを見いだしたことでしょう。

資本主義自由競争社会の中では、「仕事せざるもの食うべからず」ということが半ば常識と化しており、ある意味人間としての生きる価値、そういうものすら認めないシステムの中で我々サラリーマンは生きているわけです。

それに対して、共産共同体社会というのは、いろいろな形で競争社会では生き延びれないような人をも保護し、何らかの形で自立していけるように共同体として支援していく、いわば貨幣価値による計算世界と人間的な価値、生きる意味という部分において、それを別個にして考えて行く面において、その意義があるとも言えるでしょう。

原始共産社会の間においては、しかしながら、国家的な法制度・支配制度の元で、奴婢にさせられるような階級の構築を行うケースもあり、先の扶桑国の刑罰規定などはそのことよく表しているものでしょう。

刑罰の是非において、恩赦が得られるケース、あるいはそうでなく奴婢として子孫や親族・小共同体にまで、これらの影響を及ぼすケースも見えるわけですが、これらはまた弥生末期に渡来した支配層の実態を考えて行く上で、重要なモデルであることは、以前お話したとおりですね。

この扶桑国の習俗記載は、そのまま扶余・高句麗系の習俗記載と共通し、さらに半島南部へ移動した伽耶諸国の法治主義、さらには弥生後期から末期にその流れで渡来したいわゆる弥生墳丘墓や初期の前方後円墳をもたらし皇族支配層へと受け継がれていくわけです。

したがって、この扶桑国のそれと同様な社会制度を、彼らが渡来した当時に持っていた可能性も考慮すべきかもしれません。その社会制度、ある意味国家的とすらいえる法制度の元で弥生末期から古墳時代初期の共同体社会が構築されていったと考えるときに、このモデルは、何を意味しているのか？ここが古代史研究の課題とも言えるでしょう。

これは魏志倭人伝の奴隷関係記載とも関わってくるでしょうし、古墳時代の葬送祭祀や、階級関係、さらには傭役・雇用の存在の是非ともかかわってきます。

たとえば、上記の記載で刑罰規定で、もっとも重罪のものは、その親族や子孫の七世にまでその刑罰、つまり奴婢としての階級関係が産まれた可能性もありますね。これはローマの敗戦で国民を奴隷としたケースなどとも比されるべきで、ともあれ、だんだんその奴婢階級が増えていく可能性、そういう部分も考慮する必要がありそうです。

ただ恩赦規定や、三韓に見えるアジール・蘇塗といった、いわゆる罪人の逃げ込み地域があるケースでは、それは子孫もそこに墨付き、いわゆる罪人の子孫の集団の共同体社会と、そうでない共同体社会とが現れて行くことでしょう。そして、それらが蘇塗と関係した国名をもつような国として成立していくケースもあるわけですね。

これは九州北部の阿蘇地域などにもその蘇塗地域、つまりそのシステムがあったであろうことを、会報でも指摘したとおりですが、底や弥生末期九州から畿内にかけての共同体社会の実態というものが、どういうものであったのか？も徐々に具体的に明らかになっていくことでしょう。

結局、扶余や高句麗の当地システムが、その後どうなっていたのか？これもひとつの人類の行動様式を考える上での研究課題で、そのうちに何らかの矛盾がおきて制度的な改変が必要になるようなケースもあったかもしれません。罪人の子孫が多くなりすぎたとか、支配者層が多くなりすぎたとか、いろいろ考えうるでしょう。

そういう意味では、共産社会にもいろんな種類があって、キリスト教共産社会もあれば、マルクス共産主義社会、あるいは今の中国共産主義社会など、いろいろ地域性、在地という言い方は適切かどうか分かりませんが、変質・変遷していったであろうことも確かです。

そういう意味で、秦野さんご指摘の扶桑国の奴婢制度、法治主義社会について、比較研究する意味が大きいと思います。東アジア的といういい方は、やや大げさですが、ともあれ日本人の性質にあった共同体構築がどのようなべきなのか？、この辺についても、今年は少し考えてみたいところですね。

Re:陵墓治定 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 5 月 12 日(日)20 時 01 分 28 秒 返信・引用

> No.1490[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

日本古代労働編成の研究もよいが、扶桑国の奴婢制度も検討して貰いたいものだな。

> <<雇用の進展>> ★櫛木謙周 『日本古代労働編成の研究』(98) > 共同体・支配に還元されない社会関係としての「雇用」の進展は、在地にいかなる変化をもたらしたのか >

扶桑国

(扶桑国の話は以前はなかったが、普通年間 (520 年?527 年)、扶桑国から来たと言う者の話を記す。(中略) 永元元年(499 年)、扶桑国の僧慧深が荊州に来て言った。

「扶桑国は大漢国の東二万余里、中国の東方にある。「扶桑の木」が多いことからその名がある。扶桑の葉は桐に似て、生え始めはタケノコのように、扶桑国人は食用にする。実は梨のようで赤く、その皮を績いで布にして衣類や綿にしたり屋根を葺いたりする。文字はあり、扶桑の皮でできた紙に書く。城郭はなく、兵士や武装はなく、戦争をしをかけない。

南北 2 つの監獄があり、軽罪の者は南獄、重罪の者は北獄に入る。南獄には恩赦があるが北獄にはない。北獄では男女を番わせ、生まれた男児は 8 歳・女児は 9 歳で奴婢とし、罪人自身は一生出られない。貴人が有罪となれば、穴の中に座らせ、酒宴を開いて処刑し、その上に灰を撒く。初犯なら当人が責を受けるだけだが、再犯なら子と孫、三犯なら 7 世に及ぶ。国王の名は乙祁。貴人(「祁貴人」が王の名の可能性あり)の第 1 位は大対盧、第 2 位は小対盧、第 3 位は納咄沙と呼ぶ。国王が行くときには鼓笛を従える。その衣の色は年により変わり、甲乙年は青、丙丁年は赤、戊己年は黄、庚辛年は白、壬癸年は黒である。牛の角は非常に長く、20 斛以上を運ぶ。馬車、牛車にくわえ、鹿車がある。中国人が牛を飼うように、扶桑国人は鹿を飼い、乳から乳製品を作る。桑、梨、フトモモがある。鉄はないが銅(青銅か)はあり、金銀はふんだんにある。市場では税金がかからない。結婚するときは、婿が女の家へ行き、門外に建物を作り朝夕掃除する。女が喜ばなかったら取り壊し、喜べば成婚となる。結婚式は中国とほぼ同じである。

親の喪には 7 日間絶食する。祖父母は 5 日間、兄弟姉妹おじおばは 3 日間である。死者の霊を神像とし、朝夕拝む。(先王が死んで?)王の跡継ぎが立ったときには、3 年間国事に関わらなかった。かつては仏教はなかったが、大明 2 年(458 年)、罽賓国(ガンダーラ・カシミール近辺)から 5 人の僧が来て仏典と仏像をもたらした出家を勧めたので、風俗は変化した。また慧深はこうも言った。「扶桑の東 1000 余里に女国があり、(以下略、一部意訳)」

?『梁書』巻 54 列伝第 48 諸夷 海南 東夷 西北諸戎 扶桑國 ? <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

Re:陵墓治定 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 5 月 12 日(日)03 時 47 分 51 秒 返信・引用 編集済

> No.1489[元記事へ]

ちょっとまた眠れないので追記ですが、出雲大社の儀式的件が話題になってますね。これらの神道儀式的持つ意味についても考えてみたいところです。たとえば、こんな論議もあります。難しいようなことを話しているようですが、そんな大した事は話してません。

<http://www.geocities.co.jp/Playtown/4389/history/kodaima.htm>

<<雇用の進展>> ★櫛木謙周 『日本古代労働編成の研究』(98) 共同体・支配に還元されない社会関係としての「雇用」の進展は、在地にいかなる変化をもたらしたのか

・かつての初期荘園の労働力を庸役と考える説批判 →雇用であって、「有償労働」を可能とする動産の歴史的性格をいかに解するか? →自己労働に基づく動産から、私出挙など搾取に基づく動産へ(出挙については後ほど)・労働力が、「算定」される事の意味→基準化・対象化される“労働力”=共同体の原理とまったく異質・「魚酒の格」=農繁期に共同体外の労働力を魚酒を提供して集める行為。前代に共同体成員の間で行われていたものの“応用=変質”。但し、対価を蓄積できない(食べるから)。→中間的性格

《出挙の起源と社首》

★小口雅史 「日本古代における稲の収取について」(90) →かつての田租・出挙別起源説(石母田・早川・八木充)から、両者を結び付けて理解する 方向へ。 ・田租～初穂貢納儀礼 ・出挙～種稲分与 に、それぞれ起源を持ち、初穂として貢納された稲が出挙され るとする。

これらは今まで、税制として研究されてきたが、 1 田租は課役の範囲外であり、負担も税制としては半端に少ない。 2 出挙は律令に規定されていない。 3 生産物の直接収取の方が手間も掛からないのに税制として不自然。

川原秀夫「古代稲穀収取制成立試論」(93) →前代の共同体慣行の残存⇒『チカラ』

《チカラとは?》 ・首長の元で、成員が稲を出し合い、それをお互いに出挙する事で利稲を得、その稲を祭祀などの財源とすると共に、リスクの分散・共有を行う互酬的關係。 ↓ (税)制度でなく、社会関係としてのあり方が本義。 これは、8 世紀の神社()経済のあり方と同じ(ミツキ) 大関邦男「古代神社経済の構造」(93)

重要なのは、先のとおり、農繁期の労働力、農閑期の労働力と、古墳造営や地溝開発の問題で すね。農繁期の労働力提供は、ある意味収穫の削減にもつながるはずで、強いては首長や王権 側でもマイナス効果になりかねない行為だったでしょう。それをあえてしたとすれば、別 の意味を見いだす必要があるかもしれません。

それに比して農閑期の労働力については、搾取でも雇用でも差したる問題が起こらなかった かもしれませんが、古墳造営に対して、それが無償の搾取だったか、あるいは有償の雇用だっ たか?この辺も、記紀文献や後代の文献から推測して行く必要があるでしょう。

それで、租税の起源についての問題は、やはり渡来人の故地なりを確認しないと、まずいです ね、先日お話ししたとおり新漢人等の祖先は北朝系ですしカバネ・ウジの観念の由来は新羅 や半島系の社会組織を考慮しないと話にならないでしょう。

それ以前の旧渡来人、つまり河内王朝で巨大古墳を造営した集団は、又別の半島・南朝系の 税制観念を持っていたかもしれません。屯倉制度なんかもその辺と関わってくる。

その前の海人系集団のそれは、またまったく別で魚介類のアクセサリーを古墳に埋葬するく

らいですから、これもまた別の起源があったことでしょう。そしてその前の崇神…開化 やその直前の孝霊朝などでは、これは後漢代の支配システムを考慮しなければならないはず です。

それで公民制ですね、これも天智時代の思想背景を考慮する必要があるのですが、その導入 契機は彼らのバックボーンだった新漢人等の渡来系知識を考慮しないといけないわけで、や はり北朝系の当地システムを考慮すべきでしょう。

だから「未開」の話を、この時代に持ってくるのは不適切でしょうし、そもそも彼らは大陸系 知識を知り尽くして日本へ導入しているわけですから、渡来系という第 3 の視点を抜きにし て論議するのは無理があると言えますです。

それで首長がその共同体の云々を体現していたとかいう議論も、そもそもその首長がどこか ら着たのか?をケースバイケースで分離して論議しないと、体現していたかどうか不明と 言えそうです。ここでやはり渡来系首長あるいは弥生末期ごろから進出してきた皇族系の首 長の観点が必要になってきます。

それで、租税の問題で、ひとつ気になるのが、つまり首長層の人口ですね。500 万人の当時 の人口の内、身分的に農民より上位にいた人々、たとえば首長層、皇族の子孫とか云々がどの くらいいたのか?そして彼らにどのくらいの割合で税を納める必要があったのか?この辺 の数値比率を元にしないと、まず租税、労働、備役などの負担の具合がわからないわけです。

それが西欧の 10 分の 1 税とか位ならともかく、100 分 1 かもしれない。つまり、元々は 首長層が少なく、それがだんだん皇族や豪族の子孫が多くなるにつれて、階級分化が大き くなって、租税負担が増えたとかいうカーブ曲線だった可能性もでてくるわけです。概ね、こ の手のカーブ曲線は、比例曲線を描くケースは少なく、むしろ増減したりサインカーブみたいになっていた時期もあるかもしれません。

その辺の実態数値を律令前期において、どのようにして確認するか?ということも一つの 問題なのですが、白鳳時代とか蘇我氏の屯倉経営時代の戸籍関連、秦氏の戸籍…といった記載から若干の推測は可能とも思えますが、一方で資料的な制約もでてきます、

ただ先の方位区画分析を延長して考えていけば、その区画の交点に各種の屯倉なり宮なりがあり、そこに皇族なり豪族が派遣されていて、特定の方法で、収奪していったと考えて、それがたとえば7053 戸の秦氏の戸籍みたいな形で把握できるものならば、正確な数値が はじき出される可能性がでてきます。

それでまた神社への貢納の関係ですね。神社を中心とした宗教共同体と、それを利用・対立 する王権や在地首長側とのせめぎ合いの関係もあるのですが、海幸山幸、新嘗の問題にしても、それらの起源が遡れるのがプレ律令・白鳳時代以前までもっていけるのかどうか?という問題があるわけですし、要するに前方後円墳の上に神社があったかどうかということなん ですね。

これも先の方位区画分析では、実は神社を拠点とする方位区画と、古墳を拠点とする方位区画には分離があり、さらにいえば、屯倉の方位区画とも相違や、結合・分離があることに注目 すれば、それらの支配拠点が、在地の共同体において、どの時代にどの程度影響していたか? も明らかになっていくでしょう。

特に儀礼関連ですが、この辺が先の盂蘭盆会等の変則的な仏教儀礼が導入されていくのが、 白鳳時代になるわけですが、放生会などのような地方へ展開したものと、そうでなく畿内に 限定されたものとで分離が起こってくることもあります。さらにいえば、横穴墓に関わる外 来系アマテラス系の忌部儀式ですね。新嘗・大嘗祭も関係してくるのですが、これも九州・ 畿内・関東などへの分布は類推できても、そうでない地域にまで、これらの儀礼が分布した かどうかとも課題で、ばらつきがあったかもしれない。

特に宗教共同体のあり方についていえば、先日お話しして会報に掲載したように、かなり地域 差があり、特に伽耶南部の共同体の平等観念、厳格な法治主義、その部族間における首長選 出方法などは、ダイレクトに倭の王朝へと受け継がれた可能性もあり、また九州北部に見え る宗教共同体のモチの的関連の伝承にみえる儀礼や観念は、後代宮中へと導入されていくこ ととなります。これがアマテラス系の儀式にも関わってきて、そこでその穀物を捧げるという意味の起源となることも会報で論じたとおりです。

魚酒や煮え、初穂とも関係してきますが、その貢納する収穫物に対する畏敬の観念、それを食 するという、さらにそれをまた分配するとの意味と神との合体がいかにして成立してい ったかは、やはり外来系の宗教観念なしで論じると片手落ちになるでしょう。

さらにいえば、その収穫物を共有することで成員としての一致や平等感覚をもたらすという 部分にいたっては、つまるところ聖書の共産共同体のそれと同じ図式なんですね。マルクス 共産主義の起源を考えると、それ以前に西欧に存在していたキリスト教社会主義、原始 キリスト教共産主義モデル、ユダヤ教社会等を考慮しないと、欧米人との論議でおそらく片 手落ちになるだろうことと同様で、古代史面でも東アジア枠に限定されない広い宗教・共同 体知識を持って論議しないといけないでしょう。

特に以前はあまり顧みられなかったものの、最近になって注目されはじめている慈愛的な社 会奉仕・感情的共感等における共同体・アイデンティティ育成の部分も同様で、仏教・神道 系思想だけでそれを理解しようとすると、おそらく無理が生じてくるはずです。

また関係して先の畿内関連の方位区画を見て行くと、結局、郊祀関連や京畿の観念自体はす でに雄略朝時以前の時代からダイレクトに北朝系のそれが導入されているわけですから、こ れと後代の畿内制の起源とが、結びつくかどうかともっと考える必要があるでしょう。

つまり、方位区画面では連続性があつたりするかどうかという問題とも関わってきます。その連続性が、つまり宮の継承という問題ともかかわってきて、皇室財産の継承系統、その現実 的な数量とも、方位区画のサイズや拠点分析から明らかになるはずです。

それによって、当時の王権の影響力の強さや、皇族の結合力、そこへ介入してくる前王朝とか 豪族層とかとの兼ね合いが図式化して明らかにされていく、それが先の陵墓の移動経路とも かかわってきて、つまり移動構築可能だった地域とそうでなかった影響力を及ぼせなかった 地域に色分けされていくはず。ここで畿内制度の成立の是非も明らかにされるかもしれ ません。

それで発展的にみていくと、こちらの論文なども、今後の分析の参考になることでしょう。 <https://m->

地酋長制'

階級制・国家成立・公地公民といった歴史教科書の最初に出てくる問題についてや、東アジア的な共同体の考え方というのは、上記のような渡来系視点から考えるとどう捉えることができるのか？

これも、渡来系支配層のイデオロギーなり、その故地の制度なりをまず考慮しないと、全体的な話はできないだろうと思います。つまり、後漢系とか北朝系とか南朝系の王族の周辺にいた渡来系集団が、そのまま日本に渡来してきてエリート官人として働いていたわけですから、その成熟度合いで、国家成立への道筋とかも、比例曲線的に発展していくわけじゃないんです。サインカーブみたいに、ある時期に突然発展して、その後衰退して、また別の外来系集団で発展するという繰り返しによって、徐々に国家制度的なものが発展していった可能性のほうが高いでしょう。

決して弥生酋長層の独自発展で、国家が自然発生的に成立したなんてことはありえないわけです。弥生時代ごろからずっと強く支配制度に大陸系知識が日本に影響していったというのが、これまで見てきた研究会の結論なんですね。それがつまり厳密な方位区画とか都城区画にも体现していくということです。

市の発生なども自然発生的なものもあれば、中国式都城観念の延長上に人工的に出来たものもある。

階級制の成立も同様で、私有・公有の観念も、後漢・呉・魏系の屯田精度から北朝系のそれなどに至るまで、すべて日本の場合は考慮して論議しないと話にならないということでした。

そして頂点にたつ天皇がウジ名を持たないかどうか、先のとおり中国系の史蹟の分析で、天皇にウジ名らしきものも多く見えるわけですから、やはりその是非も考えて行かないと、白鳳時代の記紀撰者のトリックにごまかされたまま論議を進めることになるでしょう。つまり「帯」を入れたりして、いろいろウジ名を消すんですね。皇子・皇族名にも多く見えることは会報にすでに記したとおりです。

律令前期の国家論については、ある意味非常に難解で簡単に論議できないとは思いますが、それでも、先日の吉備に関係する死亡人帳簿に記された渡来系組織支配下の収税体系のあり方の分析とか、それに加えて上記のような在地・畿内における方位区画地割り分析等の最新の技術を用いれば、それなりの結果出てくる可能性もあるはずです。

そして、特に東アジア的とか日本的とかいう側面からいえば、弥生末の時点からすでに同じ制度なり技術を、日朝中で共有していた可能性が、以前よりずっと明らかになってきたというのが、ここ数年の会報で論じてきたところだとも言えるでしょう。方位区画は半島を越えて中国まで伸びてますが、この辺に東アジア方面にこれらの技術が導入されるとともに、独自発展した可能性を考慮すべきかと感じます。

屯倉制度などはその最たるもので、そもそも日本で独自に産まれたものではなく、三国時代に遡るであろう大陸系の軍屯制度などを応用しつつ、方位区画区割りの交点の一部を、皇室領として在地の酋長層に差し出させることとともに、その屯倉管轄内の部民については、その収穫のいくらかを貢納させ、それを渡来系氏族がそれを管理し、また管理とともに、おそらくは宗教的な儀礼・祭祀も執り行って、それと同様な祭祀がまた宮中でも執り行われることによって、結果として国家的な統合意識をもたらしたであろうことも予想できます。

それは弥生中期以降から見られる大陸系の支配・測量技術を元に発した方位区画地割りとして、

それ以降にやってきた渡来系集団の技術・宗教観念、そして皇室や日本特有の農業・祭祀観念が融合して仕上がってきた制度ともいえ、独自の発展をした一事例だとも言えるでしょう。

屯倉の多い先の吉備の収税帳簿には、渡来系や他の部民など入り乱れながら、伴造・部民制といったこれも日本的に独自変形した社会制度のもので、一定の規則のもとで、貢納がなされていったことを示すものであり、ある意味先の吉備の造山・作山古墳の2大拠点間に挟まれた方位区画区割りの住民も、そのようなシステムもとで、農地の境界領域の目安でもあっただろうそれらの古墳を眺めていたのかもしれない。

とりあえず、こういうちょっと難しい社会制度史的な視点も、頭の隅に入れておくと、案外古墳の意味や、方位ラインの意味とかも理解できるようになってくるかもしれません。参考までです。 Re:陵墓治定 投稿者:管理人 投稿日:2013年5月11日(土)22時28分34秒 返信・引用 編集済

> No.1488[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

> 古事記の神殿…。古墳のライン、形状から創作すると。 >>『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」 >

- > 圓丘方丘を并(ナラ)べ、神殿を置いたのではないかな。方向は大文字、妙見山…。 >
- > 例)起源・歴史
- > 山に画かれた字跡に点火する行為の起源については、平安時代とも江戸時代とも言われて いるが、公式な記録が存在するわけではない。場所と行為を具体的に特定した史料が登場す るのは近世に入っ てからである。『雍州府志』によると、孟蘭盆会や施餓鬼の行事として行わ れていたとあり、『花洛細見 図』にも「孟蘭盆会の魂祭」として紹介されていることから、江戸 時代前期から中期までにはそれに類す 性格を持っており、大文字、妙法、舟形、加えて所々 の山、原野で火を点けていた。 >

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%B1%B1%E9%80%81%E3%82%8A%E7%81%AB> >

なるほど、古墳の利用法を考える上で、神殿や祭祀場の在処についても考えてみたいですね。

そもそも、古墳というのは、おそらくエジプトのピラミッドのケースのように、冬の農閑期に 公共事業的な側面をもってやっていたのではないかと感じてます。

夏は農業で民衆をかり出せるわけなんですし、冬に不作の農家などは仕事が入って米などの 配給が古墳づくりに参加することでなされるなら、ある意味助かったとかいうケースも想定 できるかもしれません。

そういう点で古墳造営を考えていくと、1年で短期的に構築するより、数年がかりの公共事 業として構築した ほうが農民にとってもよかったわけでしょうし、また周辺地域の農民層へ の権力の誇示としての機能もあった でしょう。

かり出された農民としても、ある意味、旅行代わりとして楽しんだケースも想定すべきでし ょうし、さらには 地域同士の情報交換の機会として、双方重要な意味をもっていたかもしれ ませんので、かならずしも奴隷労働 の責め苦にあえいでいたとは断定できない部分もありま す。

それで、祭祀としての機能は構築後の話になりますが、西殿塚の上にある方形壇のように、な んらかの祭祀が行 われていた可能性を感じます。神社もあったとすると、柱跡とかが出てく るでしょうか。

それで、出雲とか吉備に前方後円墳を造った背景を考えていくと、一つは首長墓で、また測量 拠点でもあった のですが、また祭祀場であったかもしれません。

そういう点がいくと、秦野さんご指摘の妙見の話は興味深く、仏教とともに入ってくるので かなり新しいので すが、北極星信仰や測量とも関係し、天皇大帝などと呼ばれるところも重 要かもしれません。上記の孟蘭盆関 係の時代背景も重要ですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/妙見菩薩>

ただその首長が在地の首長、つまり弥生時代でも早い段階から在地を支配していた集団の首 長だったのか、あ るは弥生末期に來た集団か、あるいはその後の南方海人系、さらには半島 系集団の首長だったのか?この辺の 区別もとくに吉備を考える上では重要です。以前ご紹介 した HLA 遺伝子の解析から、それぞれの集団の人口比率等も割り出されて行くでしょう。案

外予想以上に渡来系集団は多いです。

それらの区別は、方位ライン面からも明らかにできるでしょう。たとえばその在地の弥生墳 丘墓に方位ライン がダイレクとに結びつく古墳の首長だったとすれば、それは在地系の首長 だった可能性が高くなるでしょうし、逆に畿内や半島など特定の渡来系方位ラインの延長線 上にある古墳なら、それはまた別の侵入者だった可能性 が高くなります。

先日お話しした下図の群馬の古墳の方位ライン(区画)などは、実に複数の侵入があり、その たびに古墳を結ぶ方位ラインが塗り替えられていった経緯がありました。

それらは伝承面では、トヨキイリヒコやオオヒコ、国造の子孫などとして伝わっていき、案外 信憑性があるこ とは、その方位ラインがそれぞれ特徴をもっていることから明らかにされ ていきます。

畿内系の派遣皇族の首長ということになりそうですが、皇族も時代とともにどんどん増えていくので、地方に派遣する必要があったはず。その皇族の子孫の枝分かれ予想数を換算して、それと古墳の数を形式ごとに比較していけば、どのくらい畿内から皇族の子孫が派遣されて、古墳を造営していったかも整合性がついてくるでしょう。

その間にももちろんそれ以前の在地首長との争奪戦があったことも想像に難くないわけですが、出雲のケースなどは、大国主として象徴されるような首長がいたので、結局出雲大社の位置も方位ライン的には、ある時期のものだといえるのですね。

だから、古墳を残した在地の首長を考える上では、まず前提条件として、縄文時代の首長、弥生中期からの弥生人の農作集団の首長、弥生末期から来る皇族系首長、4世紀前半代に地方展開した南方海人系の首長、後半代に展開した半島系の首長、さらに6世紀代にやってきた新漢人等の首長、その後また皇族として派遣された首長…といった具合で、まず捉える必要があります、その時代ごとに同じ前方後円墳や円墳や八角墳でも、古墳上での祭祀が異なっていて、その周囲に建てられる神殿なども変化していった可能性を考慮すべきです。

そういう意味で、秦野さんご指摘の方丘壇の時代から、神殿建築の時代までを、どう分離あるいは組み合わせて、その当時の古墳祭祀像を解析して行くか?が課題ですね。

Re:陵墓治定 投稿者:秦野 投稿日:2013年5月11日(土)21時35分50秒 返信・引用

編集済 > No.1486[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

古事記の神殿…。古墳のライン、形状から創作すると。『晋書』泰始二年・266年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」

圓丘方丘を并(ナラ)べ、神殿を置いたのではないかな。方向は大文字、妙見山…。

例)起源・歴史 山に画かれた字跡に点火する行為の起源については、平安時代とも江戸時代とも言われているが、公式な記録が存在するわけではない。場所と行為を具体的に特定した史料が登場するのは近世に入ってからである。『雍州府志』によると、孟蘭盆会や施餓鬼の行事として行われていたとあり、『花洛細見図』にも「孟蘭盆会の魂祭」として紹介されていることから、江戸時代前期から中期までにはそれに類する性格を持っており、大文字、妙法、舟形、加えて所々の山、原野で火を点けていた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%B1%B1%E9%80%81%E3%82%8A%E7%81%AB>

>

- > 古墳軸の方位を考える上では、関連する要素の時代背景も考慮する必要があります。 >
- > また古墳に関しての葬送観念ですね。これも重要です。 >
- > たとえば先の前秦時代のものと予想される北史で、倭人が船のような棺桶を引きずったり担いだりする記載がありますよね。 > > 被葬者を乗せるもの=船(輿)=木棺・石棺とつかえ棒とする観念があるようですか。ら、古墳の向きにもその船の向かう方向とか、そういうものが影響していた可能性もあります。

Re:陵墓治定 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年5月11日(土)09時30分23秒 返信・引用

編集済 > No.1486[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

吉備の造山古墳は妙立寺を基点を訂正。龍王ラインに変更 造山古墳の前後に龍王山、龍王山の横に妙見山

総社市にも同音の作山古墳(つくりやまこふん)があり、地元では造山古墳は「ぞうざん」、作山古墳は「さくざん」と区別して呼んでいる。

- > > 吉備の造山古墳は妙立寺を基点にする妙立ラインがあるな。
- > > 前方後円墳が少ないのでラインが引きにくいな。 >

- > ちょっと妙立寺は、時代が違いすぎるかもしれません。
- > その周囲や以前に何かがあった可能性はなくてもいいですが…。 >>
- > 古墳軸の方位を考える上では、関連する要素の時代背景も考慮する必要があります。 >
- > また古墳に関しての葬送観念ですね。これも重要です。 >
- > たとえば先の前秦時代のものと予想される北史で、倭人が船のような棺桶を引きずったり 担いだりする記載がありますよね。 >> 被葬者を乗せるもの=船(輿)=木棺・石棺とつかえ棒とする観念があるようですか。 ら、古墳の向きにもその船の向かう方向とか、そういうものが影響していた可能性もあります。 >> その辺は先の会報第3・4号で、山幸神話に見える葬送儀礼と指南魚(方位磁針)と古墳 軸の方位に関して論じたとおりですが、古墳軸の方位は山幸が常世国へ向かうための聖方位

ではないかと考えてます。

>

Re:陵墓治定 投稿者:管理人 投稿日:2013年5月10日(金)23時13分30秒 返信・引用

> No.1485[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

> 吉備の造山古墳は妙立寺を基点にする妙立ラインがあるな。 > 前方後円墳が少ないのでラインが引きにくいな。

ちょっと妙立寺は、時代が違いすぎるかもしれません。
その周囲や以前に何かがあった可能性はなくてもいいですが…。

古墳軸の方位を考える上では、関連する要素の時代背景も考慮する必要があります。 また古墳に関しての葬送観念ですね。これも重要です。

たとえば先の前秦時代のものと予想される北史で、倭人が船のような棺桶を引きずったり担いだりする記載がありますよね。

被葬者を乗せるもの=船(輿)=木棺・石棺とつかえ棒とする観念があるようですから、古墳の向きにもその船の向かう方向とか、そういうものが影響していた可能性もあります。

その辺は先の会報第3・4号で、山幸神話に見える葬送儀礼と指南魚(方位磁針)と古墳軸の方位に関して論じたとおりですが、古墳軸の方位は山幸が常世国へ向かうための聖方位ではないかと考えてます。

その方位の先に何があるのか?が課題で、たとえば秦野さんご指摘の妙立寺だったのかもしれませんし、あるいは…だったことでしょう。

ただ、山幸・日向系の葬送儀礼とは別に、黄泉の国みたいな葬送観念もあったことも確かです。後の横穴墓や八角墳の時代になるとまた異なってくるでしょうし、その辺の区別も重要です。

特に吉備の石棺・陶棺あたりの葬送観念についても、考えてみたいところです。 造山古墳については、特にこちら参照。 <http://blog.livedoor.jp/warabite/archives/51366874.html>

『何か違うんだってば!子育て中の妻が夫に本当に望んでいること』ランキング 917人が見えています

『京都で女子がランチするなら?ベスト 10』ランキング 1093人が見えています

『京都でおすすめのお花見スポット』ランキング 675人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:陵墓治定 投稿者:秦野 投稿日:2013年5月10日(金)20時47分16秒 返信・引用

> No.1484[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

吉備の造山古墳は妙立寺を基点にする妙立ラインがあるな。
前方後円墳が少ないのでラインが引きにくいな。

>> その安閑陵と宣化陵、そして欽明陵が方位ラインで結ばれて行きます。ここで欽明陵が見瀬丸山古墳ではなく、現在の欽明陵を意識している点に留意する必要がありますでしょう。 >> これらのことから、河内王朝の古墳の築造の年代や順序が方位ライン面から明らかになっていきます。

>> あと、応神・仁徳陵の方位ライン自体は、吉備の造山古墳と関係しています。これが吉備津彦=成務天皇とあった会報で論じたところとつながって半島系勢力と関わって行くはずですね。 >> ※下図の赤いラインが天皇の陵墓を結んだライン、青がその宮を結んだラインです。

Ads by Google 陵墓治定 投稿者:管理人 投稿日:2013年5月8日(水)22時48分3秒 済

> No.1483[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

返信・引用 編集

> 古墳ラインは結構ありますな。 > 仁徳天皇は妙見山ライン、畝傍、大文字、継体が交差しているな。 >> 治定について >『記紀』『延喜式』などの記述によれば、百舌鳥の地には仁徳天皇、反正天皇、履中天皇の3陵が築造されたことになっている。しかし、それぞれの3陵として現在宮内庁が治定している古墳は、考古学的には履中天皇陵(上石津ミサンザイ古墳)→仁徳天皇陵(大仙陵古墳)→反正天皇陵(田出井山古墳)の順で築造されたと想定されており、大きく矛盾が生じている。このことから、百舌鳥の巨大古墳の中で最も古く位置づけられる伝履中天皇陵を伝仁徳天皇陵にあてる見解もある。しかし、この場合は後述する『延喜式』の記述と大きく食い違うことになる。 >> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E4%BB%99%E9%99%B5%E5%8F%A4%E5%A2%B3> >

そう、陵墓の治定の問題は重要ですね。方位ライン面でもその治定が可能なことは以前お話したとおりですが、先の陵墓方位ラインの説明動画を再確認していきましょう。こちら説明動画。(河内王朝の陵墓ラインは説明動画の半ばから)

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/tennouryou-line.mov>

こうみていくと、河内王朝の古墳では、まず仲哀陵は次の応神陵ではなく後の雄略陵と関係づけられて設置されていることがわかります。

それで応神陵は仁徳陵と東西方位ラインにあるということは、ほとんど同年代の構築だといえるでしょう。河内の測量や都の設計段階からすでにこれらの陵墓の造営計画があった可能性が有りますね。

仁徳陵に続くのが、その東南の履中陵なのですが、この古墳とライン的に関係するのは、反正陵であることがわかります。これらの陵墓の流れでは古墳軸は仁徳陵よりやや西に傾いて行く様子が伺えますね。この時代磁気偏角の関係で、西に行くほど新しいはずですね。

その反正陵と東西方位ラインになるのが、古市古墳群の允恭陵となります。この反正・允恭陵の古墳軸の偏角がよく似ていることの留意しておきましょう。

次の安康陵が、先の仲哀・雄略関連の方位ライン上に載る事は、時代的にこの時代のもので、なんらかの血縁関係などを示すものだろうと感じます。このライン上に後の安閑陵が出てくる点も留意しておくべきでしょう。

雄略に続く清寧陵は、大和の顕宗陵と東西ラインで関係し、続く仁賢は清寧と雄略のラインを意識して造営されています。

そして武烈は先の仁賢を意識した東西方位ライン上になります。次の継体陵(今城塚古墳のほう)が意識しているのは、応神陵なんですね。南北方位ラインになるのですが、この5世紀～6世紀代の方位ラインは正方位ラインのほかに、-1度偏角のようにやや偏角が生じているケースが多い点に留意しておくべきでしょう。東西南北を意図していたのですが偏角が生じてしまっているのは、当時の測量法の問題です。

そしてその継体陵→応神陵のライン上に、次の安閑陵が来るんですね。その安閑陵と宣化陵、そして欽明陵が方位ラインで結ばれて行きます。ここで欽明陵が見瀬

丸山古墳ではなく、現在の欽明陵を意識している点に留意する必要がありますでしょう。これらのことから、河内王朝の古墳の築造の年代や順序が方位ライン面から明らかになって

いきます。

あと、応神・仁徳陵の方位ライン自体は、吉備の造山古墳と関係しています。これが吉備津彦 =成務天皇といった会報で論じたところとつながって半島系勢力と関わって行くはずです。

※下図の赤いラインが天皇の陵墓を結んだライン、青がその宮を結んだラインです。

Re:古地磁気測定 投稿者:秦野 投稿日:2013年5月8日(水)10時00分34秒 返信・引用

> No.1482[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古墳ラインは結構ありますな。 仁徳天皇は妙見山ライン、畝傍、大文字、継体が交差しているな。

治定について 『記紀』『延喜式』などの記述によれば、百舌鳥の地には仁徳天皇、反正天皇、履中天皇の 3 陵が築造されたことになっている。しかし、それぞれの 3 陵として現在宮内庁が治定している古 墳は、考古学的には履中天皇陵(上石津ミサンザイ古墳)→仁徳天皇陵(大仙陵古墳)→反正天皇陵(田出井山古墳)の順で築造されたと想定されており、大きく矛盾が生じている。 このことから、百舌鳥の巨大古墳の中で最も古く位置づけられる伝履中天皇陵を伝仁徳天皇陵にあてる見解もある。しかし、この場合は後述する『延喜式』の記述と大きく食い違うことになる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E4%BB%99%E9%99%B5%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

> 下記の記載が古墳の利用法を考える上で、興味深いですね。 >>> 周囲には陪墳と見られる 5 つの方墳(野中古墳、向墓山古墳、浄元寺山古墳、西墓山古墳、西馬塚古墳)が存在している。このうち現在は消滅した 1 辺 18 メートルの方墳である西墓山古墳の跡からは、発掘調査の結果大量の鉄器(刀剣 200 点、農耕具 2000 点以上)が出土している。人体の埋葬施設は確認できず、副葬品のための陪塚とみられている[1]。

> なお、西馬塚古墳は『古事記』に登場する、自分の馬と交換してもらった馬が翌日埴輪の馬 になっていたという話の舞台とされる。 >

Re: 古地磁気測定 投稿者:管理人 投稿日:2013年5月7日(火)22時58分20秒 返信・引用 編集済

> No.1479[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

> 黒姫山古墳と野中宮山古墳、PL 教団敷地に同族の古墳があるな。 > 箸墓古墳の横に国津神社がある。国津神社が黒姫山ラインの基点になるな。

> 古墳の方向と石上神宮が対応すれば、墓山古墳の年代、及び陪塚でなくなる。定説が崩れる な。似た古墳に仁徳天皇陵は畝傍ライン、大文字ライン。応神天皇陵の妙見山ライン…。 > 言える事は大文字、妙見山の年代が古墳の年代になるな。

下記の記載が古墳の利用法を考える上で、興味深いですね。

周囲には陪墳と見られる 5 つの方墳(野中古墳、向墓山古墳、浄元寺山古墳、西墓山古墳、西馬塚古墳)が存在している。このうち現在は消滅した 1 辺 18 メートルの方墳である西墓山古墳の跡からは、発掘調査の結果大量の鉄器(刀剣 200 点、農耕具 2000 点以上)が出土している。人体の埋葬施設は確認できず、副葬品のための陪塚とみられている[1]。 なお、西馬塚古墳は『古事記』に登場する、自分の馬と交換してもらった馬が翌日埴輪の馬に なっていたという話の舞台とされる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/墓山古墳>

最近、馬の埋葬が確認された話ありましたが、この場合は倉庫とか宝物庫ですね。佐味田・鴨津波古墳を結んだ南北ラインも、それに関係して三角縁などの測量道具を入れた倉庫のような古墳だったのですが、その辺の思想観念との関わりを感じます。

ただ形状が方墳とかになるわけで、前方後円墳の場合は、桜井茶臼山の副室のように、古墳内に別の倉庫や武器庫を造るわけです。

副室や陪塚のようにするケースにも、時代を降るにつれて相違や変化があって、その理由なり起源を考える必要があるでしょう。

バジリク古墳群みたいに、馬の埋葬する遊牧民系が入ってきた時代、たとえば北燕遺民の新 漢人の来た 5~6 世紀とかですね。彼らは鉄製品を造る技術もありましたが、彼らの故地において、たとえばそういう農具なり武具を、どういうふうに保管・継承していったか?など も気になるところです。

しかし、保管するのに正倉院みたいな高床建築では駄目だったのでしょうか?敵方に見つかるとか、焼かれてしまうとか…。

石室内なら、確かに石をこじ開けるのに時間も要するし、開けたところで、ダミー墓で武具がなかったとか、その間に反撃に出るとか、軍略的な部分も推測してみたいところですね。

測量道具や宝物も同様で、錆び付かないとか、次世代に継承しやすいとか、用途に併せて考える必要があったでしょう。

頻繁に使う祭具は、神社の中がベストだったでしょうね。役所の金印などは役所の奥深くとなるでしょう。

石上神宮の七支刀はそういう意味では、顕示する必要があったとか、なにか王と一緒に埋葬してしまっただけの理由もあったのかもしれませんが。

会報で記したように、神社の霊剣にはノーマンの尺単位を提供する役割があったと考えています。

測量道具はやはり測量拠点のそばになければならないでしょう。古墳もその一つですが、神社も然りですね。

神功 52 年の 100 年間の解釈エラー 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 5 月 7 日(火)22 時 41 分 23 秒 返信・引用 編集済

少し、訳しましょうかな。

★『日本書紀』卷九 神功皇后 攝政五十二年(壬申 二五二)九月丙子《十》◆ 五十二年 秋九月丁卯朔丙子。久氏等從千熊長彦詣之。則獻七枝刀一口。七子鏡一面。及種種重寶。仍啓曰。臣國以西有水源。出自谷那鐵山。其遡七日行之不及。當飲是水。便取是山鐵。以永奉聖朝。乃謂孫。枕流王曰。今我所通海東貴國。是天所啓。是以垂天恩。割海西而賜我。由是國基永固。汝當善脩和好。聚斂土物。奉貢不絕。雖死何恨。自是後。?年相續朝貢焉。

仍啓曰。臣國以西有水源。出自谷那鐵山。なお申し曰く。新羅の西に水源(湖)あり。谷那鐵山よりでる。

其遡七日行之不及。當飲是水。便取是山鐵。以永奉聖朝。乃謂孫。そこ 7 日行き着かず。水は飲むに当たり、山鐵は取りやすい。朝廷永奉もって、なんじの孫に謂う。

『旧唐書』新羅伝

新羅國、本弁韓之苗裔也。其國在漢時樂浪之地、東及南方俱限大海、西接百濟、北鄰高麗。東西千里、南北二千里。有城邑村落。王之所居曰金城、周七八里。衛兵三千人、設獅子隊。文武官凡有十七等。其王金真平、隋文帝時授上開府、樂浪郡公、新羅王。新羅国、昔の弁韓の苗裔である。その国は漢代には楽浪の地に在り、東と南方は大海を限界とし、西は百濟と接し、北隣は高句麗である。東西に千里、南北に二千里。城邑や村落があり。王の居城は金城といい、周囲七~八里。衛兵は三千人、獅子隊を設ける。文武官には凡そ十七等級ある。王の金真平、隋の文帝の時代に上開府、楽浪郡公、新羅王を授かる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/siragi-kanbun5-kyutosho.htm>

七支刀(しちしとう、ななつさやのたち) 石上神宮に伝世した上古刀で、両刃の剣の左右に 3 つずつの小枝を突出させたような特異な形状を示す。金象嵌で記された銘文の中に「泰□四年」の年紀がある。これを西暦 369 年にあたる「泰和四年」と読む福山敏男説が有力で、刀はその頃に百濟で製作されたと考えられている - 別項「七支刀」参照。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E4%B8%8A%E7%A5%9E%E5%AE%AE>

谷那鐵山と水源(湖)の地図を添付。

Re: 古地磁気測定 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 5 月 6 日(月)22 時 48 分 30 秒 返信・引用

> No.1478[元記事へ] 茨の紀氏さんへのお返事です。

- > 秦野さんへのお返事です。
- > > 話しが合わないな、地図の精度に問題ありそうだな。 >
- > 関連があれば、幸いです。 >
- > 古墳軸の偏角 利根川あたりから以北 北アメリカプレート
- > 関東山地北縁~北東縁部の群馬県下仁田地域、埼玉県、金、カネザワ、沢地域、および となるが、実測された残留磁化の偏角 20.8°とは約 73°の差がある。この結果は ... 昇は 太平洋プレートがユーラシアプレートの東縁に位置 ... した西南日本に対して直交 ... http://www.chs.nihon-u.ac.jp/institute/nature/kiyou/2012/pdf/2_7.pdf#search=%E5%8C%97%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%88+%E5%81%8F%E8%A7%92++%E5%9F%BC%E7%8E%89 >

ご意見ありがとうございます。

なるほど、この辺の古地磁気学の話は興味深いですね。 結局、古墳形成当時の偏磁気角を求めるには、その土地の地層の残留磁気を計るのがてっとり早いということになるでしょう。

日本でも地域毎に若干偏角が異なりますし、地形や地質によっても相違があり、それが時代とともにまた変化していくわけです。

上記の考察だと、プレートテクトニクスとかの影響で、本来あった場所にはなかった地層は 移動してきた経緯も見てとれますね。同様に残留磁気でも、どこか違うところで造られた土 器とか、違う時代、違う地層...で、変化してくるかもしれません。

それで古墳軸の向きが、その当時の空気中を漂っていた磁力線に影響されていたと仮定する

と、それがその地層に残留磁気として残存していれば、古墳軸の向きと、古墳の地層の残留磁 気の示す方角とが一致するということになるわけですね。

ただ、実際にそれを確認するとするならば、どういう手段が必要かということにもなりそう ですが、これは古墳の土葬を秦野さんのご指摘のように採取することになりそうですね。その地層はその古墳が造営された時代のものでなければならず、さらにいえば、古墳の最初の 設計段階の年代における土葬がベストですね。

仁徳陵とかの規模だと、そう考えて行くと、古墳完成時の数十年前の地層、磁気偏角を示している可能性もあるわけです。そうすると、年代的にも古く見積もることを必要とされます。

磁気偏角もサインカーブですから、激しく動く時代と、あまり変わらない時代があって、その 辺の見極めも重要です。 下図の栃木の古墳の古墳軸の向きと偏磁気曲線の図を参照。

同じ古墳群でも、徐々に東西に偏角を倒して行く傾向があるのがわかります。 これなども、古墳の年代が新しくなるにつれて、偏磁気曲線が傾いて行ったことに関係する のではないかと考えてます。

Re:古地磁気測定 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 5 月 6 日(月)07 時 07 分 26 秒 返信・引用 編集済

> No.1478[元記事へ] 茨の紀氏さんへのお返事です。

古墳の方向をラインとすると結構、宮内庁管理から漏れたものが多い

黒姫山古墳と野中宮山古墳、PL 教団敷地に同族の古墳があるな。 箸墓古墳の横に国津神社がある。国津神社が黒姫山ラインの基点になるな。 地図で見ると、円丘祭のようだな。

黒姫山古墳

百舌鳥古墳群と古市古墳群の中間に位置する前方後円墳で、前方部は西側を向いている。大 きさは、全長 114 メートル、後円部は直径 64 メートル・高さ 11 メートル、前方部は幅 65 メートル、高さ 11.5 メートル

である。北側くびれ部に造り出しがあり、墳丘の周囲には幅約 15メートル前後、深さ約 2メートルの濠がめぐっている。平坦部の古墳としては珍しい幅約 5メートルの周庭(しゅうてい)が濠の外側を取り巻くように存在する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%BB%92%E5%A7%AB%E5%B1%B1%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

野中宮山古墳 全長約 155m の前方後円墳。墳丘は 3 段に築かれ、葺石、埴輪(円筒、家、盾、馬、鶏、猪など)を備える。墳丘の周囲は濠と堤に囲まれている。後円部墳頂に竪穴系の埋葬施設が存在すると思われるが、詳細は不明。5 世紀前半の築造。

<http://kofun.info/kofun/603>

古墳の方向と石上神宮が対応すれば、墓山古墳の年代、及び陪塚でなくなる。定説が崩れるな。似た古墳に仁徳天皇陵は畝傍ライン、大文字ライン。応神天皇陵の妙見山ライン…。言える事は大文字、妙見山の年代が古墳の年代になるな。

磁気を測定するか。

> 古墳軸の偏角 利根川あたりから以北 北アメリカプレート > 関東山地北縁~北東縁部の群馬県下仁田地域、埼玉県・金・カネザワ・沢地域、および となるが、実測された残留磁化の偏角 20.8°とは約 73°の差がある。この結果は ... 昇は太平洋プレートがユーラシアプレートの東縁に位置した西南日本に対して直交 ...
...http://www.chs.nihon-u.ac.jp/institute/nature/kiyou/2012/pdf/2_7.pdf#search=%E5%8C%97%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%88+%E5%81%8F%E8%A7%92++%E5%9F%BC%E7%8E%89 > 寄居層の古緯度:寄居層の古地磁気は正磁極に換算すると偏角 20.8°, 伏角 46.0° I= 46.0°, D=20.8°, α95=5.6°に対応する古地磁気北極の位置は 70.5°N, 260.0°E, A95 (dm =5.5°, dp=3.6°) である。この平均伏角から計算で得られる古緯度は 28.5°±6.6°N であり

現在の寄居層の位置する緯度 36°05' N と有意な差がある。寄居層の堆積した緯度は現在より南であったことになる。>> .寄居層がナップを形成して中央構造線の海洋側に移動した時期を後述するように 50Ma 前後以降とし、高木・柴田 (2000) による 100~30Ma における 800 km を超えないとする 総変位量のうち 53~30Ma に約 370 km が見積もられていることから、寄居層の 50Ma 前後以降の変位量はおおよそ約 370km とすると、寄居層が堆積した領家帯は約 65Ma から 50Ma 前後にかけて約 480 km(=850km-370km) 北上したことになる。

>>>

Re:古地磁気測定 投稿者:茨の紀氏 投稿日:2013 年 5 月 5 日(日)20 時 51 分 47 秒 返信・引用

> No.1477[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

> 話しが合わないな、地図の精度に問題ありそうだな。

関連があれば、幸いです。

古墳軸の偏角 利根川あたりから以北 北アメリカプレート 関東山地北縁~北東縁部の群馬県下仁田地域、埼玉県・金・カネザワ・沢地域、および となるが、実測された残留磁化の偏角 20.8°とは約 73°の差がある。この結果は ... 昇は太平洋プレートがユーラシアプレートの東縁に位置した西南日本に対して直交 ...
...http://www.chs.nihon-u.ac.jp/institute/nature/kiyou/2012/pdf/2_7.pdf#search=%E5%8C%97%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%88+%E5%81%8F%E8%A7%92++%E5%9F%BC%E7%8E%89 寄居層の古緯度:寄居層の古地磁気は正磁極に換算すると偏角 20.8°, 伏角 46.0° I= 46.0°, D=20.8°, α95=5.6°に対応する古地磁気北極の位置は 70.5°N, 260.0°E, A95 (dm =5.5°, dp=3.6°) である。この平均伏角から計算で得られる古緯度は 28.5°±6.6°N であり 現在の寄居層の位置する緯度 36°05' N と有意な差がある。寄居層の堆積した緯度は現在より南であったことになる。

.寄居層がナップを形成して中央構造線の海洋側に移動した時期を後述するように 50Ma

前後以降とし、高木・柴田 (2000) による 100~30Ma における 800 km を超えないとする 総変位量のうち 53~30Ma に約 370 km が見積もられていることから、寄居層の 50Ma 前後 以降の変位量はおおよそ約 370km とすると、寄居層が堆積した領家帯は約 65Ma から 50Ma 前後にかけて約 480 km(=850km-370km) 北上したことになる。

・ > 管理人さんへのお返事です。 >

>

・ > 当方は googl Earth を使用している。 >

・ > 通常の地図だと経度、緯度の補正が必要になるな。 >

・ >> 詳細は先の書き込みのとおりです。 >>>> 石上神宮はちょっとやはり北すぎるんですね。強いていえば黒田庵戸宮・倭屯倉あたり でしょうか。 >>>> 景行陵と息子のヤマトタケルの羽曳野白鳥陵は動画のように、東西ラインです。 >>> Re:古地磁気測定 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 5 月 5 日 (日)01 時 09 分 52 秒 返信・引 用

> No.1476[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

話が合わないな、地図の精度に問題ありそうだな。 当方は googl Earth を使用している。 通常の地図だと経度、緯度の補正が必要になるな。 > 詳細は先の書き込みのとおりです。

>> 石上神宮はちょっとやはり北すぎるんですね。強いていえば黒田庵戸宮・倭屯倉あたりで しょうか。 >> 景行陵と息子のヤマトタケルの羽曳野白鳥陵は動画のように、東西ラインです。 >Re: 古地磁気測定 投稿者: 管理人 投稿日:2013 年 5 月 4 日(土)23 時 02 分 11 秒 返信・引 用

> No.1475[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

> 古墳の方向と石上神宮が対応すれば、墓山古墳の年代、及び陪塚でなくなる。定説が崩れる な。似た古墳に 仁徳天皇陵は畝傍ライン、大文字ライン。応神天皇陵の妙見山ライン…。

・ > 言える事は大文字、妙見山の年代が古墳の年代になるな。 >

・ > 墓山古墳 >>

とりあえず、百舌・古市古墳群の古墳軸に関する簡単な動画を作成してみました。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/kofunjiku01.mov>

詳細は先の書き込みのとおりです。

石上神宮はちょっとやはり北すぎるんですね。強いていえば黒田庵戸宮・倭屯倉あたりでし ょうか。

景行陵と息子のヤマトタケルの羽曳野白鳥陵は動画のように、東西ラインです。

『何か違うんだってば!子育て中の妻が夫に本当に望んでいること』ランキング 917 人が見えています

『京都で女子がランチするなら?ベスト 10』ランキング 1093 人が見えています

『京都でおすすめのお花見スポット』ランキング 675 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO "韓国航空券"まだ決まってない? - www.skygate.co.jp そんな貴方に大ニュース!<<SKYGATE>>【本日入荷】の格安航空券バーゲン中 カメラ・レンズを超高価で買取中 - www.camera-takakuureru.com

月間依頼 15000 件突破。納得の高額買取 出張・宅配買取、査定も完全無料です 太陽光発電が 100 万円安く? - www.tainavi.com【都内 41 歳男】タイナビで太陽光発電 を見積ると訪販より 100 万安かったです 企業用/紙媒体を電子化する - ebook.digitalink.ne.jp チラシ・カタログ・資料が電子化! 楽に管理できて、作成できる ActiBook パソコン、お売り下さい。 - pc.factory.co.jp 全国送料無料で宅配買取受付中。自宅 に居ながらパソコンを現金化。

Ads by Google Re:古地磁気測定 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 5 月 4 日(土)20 時 08 分 8 秒 返信・引 用
編集済

> No.1473[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古墳の方向と石上神宮が対応すれば、墓山古墳の年代、及び陪塚でなくなる。定説が崩れるな。似た古墳に仁徳天皇陵は畝傍ライン、大文字ライン。応神天皇陵の妙見山ライン…。言える事は大文字、妙見山の年代が古墳の年代になるな。

墓山古墳

全長約 225m の前方後円墳。墳丘は 3 段に築かれ、葺石、埴輪を伴う。周囲には濠と堤がめぐらされている。誉田御廟山古墳(応神天皇陵)の陪塚として宮内庁が管理しているため詳細は不明だが、後円部墳頂に長持形石棺を納めた竪穴系の埋葬施設が存在するという。5 世紀前半の築造。国指定史跡、1975(昭和 50)年指定。国指定史跡(古市古墳群)、2001(平成 13)年指定。

<http://kofun.info/kofun/197>

奈良県天理市石上神宮(いそのかみじんぐう)

七支刀(ななつさやのたち、しちしとう)は、大王家に仕えた古代の豪族物部氏の武器庫であつたとされる奈良県天理市の石上神宮に六叉の銚(ろくさのほこ)として伝えられてきた鉄剣。全長 74.8cm。製造地は中国とされている。

神功皇后 52(372)年、(秦野年は 282 年) 秋九月丁卯朔丙子(9 月 10 日)条に、百済の使である 久氏(くてい)らが、千熊長彦の引率で来倭し、七支刀(ななつさやのたち)、七子鏡(ななつこのかがみ)、および種々の重宝を倭国へ奉った。そして『臣(百済)の西に河があり、水源は谷那(こく)の鉄山(かねのむれ)から出ています。遠く、七日間でも到着できなません。この河の水を飲み、この山の鉄を採り、ひたすら聖朝(ひじりのみかど)に奉ります』と言った。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%83%E6%94%AF%E5%88%80>

Ads by Google Re:古地磁気測定 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 5 月 4 日(土)08 時 35 分 44 秒 返信・引用

> No.1473[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古墳築造した当時は、基点を定め、例えば妙見山(各地に有る)から光を元に測定し築造した。これも仮定ですがありますな。

古墳の年代ですが築造当時は土の磁極はバラバラのはず、数百年で磁極が固定されるなら痕跡が残るはず。

石上神宮は古市古墳群の応神天皇の小さな古墳ですぞ。

>> ちょっと古市古墳群の古墳軸の偏角を地図で調べたのですが、残念ながら石上神宮には向いていないようです。 >> おそらく応神陵と仁徳陵は、先日の河内国域の三島南方の北辺あたりに目がけて向いています。 >

Re:古地磁気測定 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 5 月 3 日(金)23 時 18 分 4 秒 返信・引用

> No.1472[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

- > 偏磁曲線の測定、案ですな。 >
- > 今回の 6 古墳ですが、石上神宮関連になる。 >
- > 1 石上神宮から直線を引く(古墳の中心へ)
- > 2 古墳の直線部分との角度差を測定
- > 3 角度差を偏角へ換算 >

ちょっと古市古墳群の古墳軸の偏角を地図で調べたのですが、残念ながら石上神宮には向いていないようです。

おそらく応神陵と仁徳陵は、先日の河内国域の三島南方の北辺あたりに目がけて向いています。

それで、それぞれの古墳群には主従関係があって、メインの古墳に対して、従者らしき古墳は、同じ角度を向けるか、90度横倒しにした角度に古墳軸をもっていく傾向があります。

その区別をした上で、真東、真西、真北、真南に古墳軸を向けようとしたものの、微妙に東西に

偏角がある古墳の分類をしていき、その偏角と偏磁曲線との関係を割り出す必要がありますね。

たとえば、百舌古墳群は微妙に偏角を東にもってきてますが、古市古墳群はその逆で微妙に西に持って行きます。

佐紀楯列は、正方位のものが多くありますが、微妙に東西にそれぞれ傾くものもあります。柳本でも景行陵はかなり西に傾きますね。西に傾く方を時期的にやや遅いとする、整合性が出てくるかもしれません。後でその辺もう少しまとめてみましょう。

Re:古地磁気測定 投稿者:秦野 投稿日:2013年5月3日(金)19時37分37秒 返信・引用

> No.1471[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 偏磁曲線の測定、案ですな。

今回の6古墳ですが、石上神宮関連になる。

1 石上神宮から直線を引く(古墳の中心へ) 2 古墳の直線部分との角度差を測定 3 角度差を偏角へ換算

>> この微妙な偏角の相違をもっと追求していくことで、その古墳の年代が測定できる可能性 があります。そしてその偏角が方位ラインや区画、偏磁曲線の影響の是非などをも特定していくことで、さらに精度があがってくることでしょう。

Re: 古地磁気測定 投稿者:管理人 投稿日:2013年5月2日(木)23時14分20秒 返信・引用 編集済

秦野さんへのお返事です。

> 質問ですが、古墳の年代は何処から出ているのかな。 >>> 神功皇后 52(372)年、(秦野年は 282 年) 秋九月丁卯朔丙子(9月10日)条に、百済の使である久氐(くてい)らが、千熊長彦の引率で来倭し、七枝刀(ななつさやのたち)、七子鏡(ななつこのかがみ)、および種々の重宝を倭国へ奉った。そして『臣(百済)の西に河があり、水源は谷那(こく)の鉄山(かねのむれ)から出ています。遠く、七日間でも到着できなません。この河の水を飲み、この山の鉄を採り、ひたすら聖朝(ひじりのみかど)に奉ります』と 言った。

>

古墳の年代は、結局先の図のように、考古学会の通説という形になりそうです。

それで、石上神宮関連だと、奈良の古墳も見て行く必要がありますね。下図が、奈良の古墳群の位置と古墳軸の向き、年代です。

こうみると、図1のように、同じ古墳群では同じ方向に古墳軸を倒す傾向が強いことがわかります。これは通説どおりです。

そして、たとえば景行陵など、先の古市方面の古墳群の古墳軸の向きと同じものも見えてくるので、そこから、その同族系統や時代を探ることが可能になるかもしれません。聖方位が同族や時代によって異なっていた可能性があります。

また以前から論議してきた古墳の向きと街道の向きとの関係ですね。これは秦野さんご指摘の図のような、方位ライン(街道)関係の偏角にも影響されていたことでしょう。

奈良の場合は5度偏角、7度偏角、そして-1度偏角へと街道(方位区画)の偏角が移行していきませんが、古墳軸の向きはそれに沿ったものと、そうでないものがあるようです。

また下図の四角で囲んだ同じ古墳群でも、微妙に偏角が異なっており、さらに例えばマキムク古墳群のように、ひとつまったく異なる向きをしているものもありますよね。こういう場合は、時代や系統、信仰が異なったり、外部進出者の古墳だったりして、その相違を確認することで、またその古墳の時代なり系統が理解できるようになるでしょう。

たとえば、10 や 18 の入るカテゴリーですが、これは正方位測量で偏角なしとのことで、あるいは後代の正方位測量の影響なども考慮すべきかもしれません。もっと古い西に偏角がある4、6とかがもともといたところに、新たに進出してきた可能性がありますね。

箸墓の年代なども、そのカテゴリーを見ると、ホケノ山と同じ向きで、5 が近いが、1 と 3 とは異なるようにも見えます。

この微妙な偏角の相違をもっと追求していくことで、その古墳の年代が測定できる可能性があります。そしてその偏角が方位ラインや区画、偏磁曲線の影響の是非などをも特定していくことで、さらに精度があがってくることでしょう。

Re:古地磁気測定 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 5 月 2 日(木)12 時 49 分 59 秒 返信・引用 編集済

> No.1469[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

質問ですが、古墳の年代は何処から出ているのかな。 >たとえば下図 2 の場合では、古い順から 5→6→8→12 興味深いのだが

古墳軸の方向から 6813161820 の 6 古墳ですが 石上神宮ラインになる。 七支刀から 7 古墳と思われる。古墳の候補は 9 青山になるな。

奈良県天理市石上神宮(いそのかみじんぐう)

七支刀(ななつさやのたち、しちしとう)は、大王家に仕えた古代の豪族物部氏の武器庫で あったとされる奈良県天理市の石上神宮に六叉の銚(ろくさのほこ)として伝えられてきた鉄剣。全長 74.8cm。製造地は中国とされている。

神功皇后 52(372)年、(秦野年は 282 年) 秋九月丁卯朔丙子(9 月 10 日)条に、百済の使である 久氏(くてい)らが、千熊長彦の引率で来倭し、七支刀(ななつさやのたち)、七子鏡(なな つこのかがみ)、および種々の重宝を倭国へ奉った。そして『臣(百済)の西に河があり、水源は谷那(こく)の鉄山(かねのむれ)から出ています。遠く、七日間でも到着できなません。この河の水を飲み、この山の鉄を採り、ひたすら聖朝(ひじりのみかど)に奉ります』と言った。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%83%E6%94%AF%E5%88%80>

古墳軸の方向から 5 は別物

> 古墳軸の方向の問題ですが、確かに百舌・古市古墳群はなんらかの目印や方角を元に方位を決めているように感じます。もちろん道の方角とか、山立ての可能性もありますね。 >> ただ、真北を向いているはずの古墳軸が、微妙に偏角をもってズレているケースに、指南 魚・方位磁針使用の痕跡があるのではないかと、第 3・4 号では論じたところです。

>> たとえば、下図の古市古墳群のケースですね。 >> おそらくこれらはほとんど先の-1 度偏角~正方位測量時代のものですから、本来はほぼ 真北に軸を向けて造営することが可能だったはずで。ところが、それぞれ図のように偏角が生じてます。

Re: 古地磁気測定 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 5 月 1 日(水)23 時 08 分 22 秒 返信・引用 編集済

秦野さんへのお返事です。

- > 百舌鳥、古市古墳の方角が高確率で一致する。秦野が解いた模様。
- > どうも、郊祀壇と古墳の方向は、南北の郊に多く見られる。 >>
- > 地磁気の測定でもしょうかな。バラバラの地磁気を理解するのが最大の問題..。 >
- > 管理人さんの指南魚・方位磁針は年代の特定になるな。 >

古墳軸の方向の問題ですが、確かに百舌・古市古墳群はなんらかの目印や方角を元に方位を決めている

ように感じます。もちろん道の方角とか、山立ての可能性もありますね。

ただ、真北を向いているはずの古墳軸が、微妙に偏角をもってズレているケースに、指南魚・方位磁針使用の痕跡があるのではないかと、第3・4号では論じたところです。

たとえば、下図の古市古墳群のケースですね。

おそらくこれらはほとんど先の-1度偏角~正方位測量時代のものですから、本来はほぼ真北に軸を向けて造営することが可能だったはずです。ところが、それぞれ図のように偏角が生じてます。

これは意図的とも言えることで、ひとつには上記のような目印や方角、指南魚・方位磁針を使って磁北を出したことによるものと考えてます。タイの遺跡に方位磁針の磁北に沿って建造物を立てたために、偏角のある北を向いた遺跡群が知られています。

おそらく南方系の航海集団の間では、羅針盤としてすでに古墳時代には方位磁針が利用されていたはずで、その方位磁針の示す向きはある種の神聖な方位だった可能性を考えてます。詳細は山幸神話と古墳葬送儀礼と南方日向系航海民との関係で論じているのでご参照ください。

それでその磁北のズレ、つまり偏角から逆に遺跡の年代を推定しようと考えたのが会報第3号の分析の意図でした。

たとえば下図2の場合では、古い順から

5→6→8→12の古墳を見ていただくと、時代とともに、徐々に西に傾いて行くのがわかります。

これは図1の中に挿入したS字型の偏磁曲線をみていただくとわかるように、偏角が東から西に変化するのが、ちょうど450年ごろとなります。

ところが、その東西偏角なしの中間時代は、図でいくと、6から8の時代でやや早いことがわかります。

同様に、13から20にかけての古墳のケースでも、おおむね西に傾いた時代のものだといえそうですが、最後の20が一番傾いていて、偏磁曲線でいえば550年前後になりそうです。

とこの論理でいけば、この応神陵はどの時代か?と15度近く西に傾いているわけだから、550年代だといいたくなくところですが、しかし、これはおそらく別に先のとおり目印なり方位ライン(街道)なりに沿って立てられたので、もともとの偏角(方角)があって、それに沿って造られたと考えるべきでしょう。

図3は西都原の古墳群の向きですが、これは明らかに方位ライン(街道や目印となる方角)に沿って造営されたので、偏角が生じているケースです。ただその方位ラインの向きに $+\alpha$ で磁気偏角が付加している可能性を考えてます。

この辺の磁気偏角と、そうでない偏角との見極め、区別がまず前提としてなければ、これらの測定法はなりたないわけですし、これも研究を地道に重ねてデータをとっていくしかないかなと感じてます。

<http://>

Re:古地磁気測定 投稿者:秦野 投稿日:2013年5月1日(水)08時44分26秒 返信・引

用 編集済 > No.1467[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

百舌鳥、古市古墳の方角が高確率で一致する。秦野が解いた模様。
どうも、郊祀壇と古墳の方向は、南北の郊に多く見られる。

方向基点は妙見山、大文字、左大文字、南北の郊
郊祀壇は南北の郊、妙見山、高野山のような。

地磁気の測定でもしょうかな。バラバラの地磁気を理解するのが最大の問題…。 管理人さんの指南魚・方位磁針は年代の特定になるな。

>> 地磁気の性質から古墳の周辺を掘り下げ磁気を層状に測定しなければならないな。 >> また、基準を何処に取るかだな。 >>>> まあ、水道管程度の穴を開ければ地磁気の変化で年代がだせるな。

>>>> 古地磁気学ですが、どうも縄文、弥生、平安、江戸の遺跡ですでに調査されて年代推定がなされているようです。 >> なぜ管理人が古地磁気の偏角から年代測定をする件に興味をもっているかというと、先日 お話した指南魚・方位磁針の導入の件にあります。詳細は会報第3・4号に記したとおりですが、各種科学的年代測定手段とともに、地磁気関連がこれからクローズアップされてくるのではないのでしょうか。そして秦野さんご指摘のような、その手段の是非ですね。

Re: 古地磁気測定 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 30 日(火)22 時 22 分 8 秒 返信・引用

> No.1466[元記事へ]

追記

すでに弥生・古墳時代の考古と地磁気編年との共同作業も開始しているようですね。こちら 必見。

<https://www.cps-jp.org/~mosir/pub/2011> 古地磁気測定 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 30 日(火)21 時 34 分 1 秒 返信・引用 編集済

> No.1465[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

- > 地磁気の性質から古墳の周辺を掘り下げ磁気を層状に測定しなければならないな。
 - > また、基準を何処に取るかだな。 >
 - > まあ、水道管程度の穴を開ければ地磁気の変化で年代がだせるな。
- >

古地磁気学ですが、どうも縄文、弥生、平安、江戸の遺跡ですでに調査されて年代推定がなされているようです。 <http://air.lib.akita-u.ac.jp/dspace/bitstream/10295/1114/3/nist8.pdf>

土器などの残留磁気も測定できるようなので、そのまま弥生末から古墳時代のそれにも適用すれば、第3の測定手段になるでしょう。もっとも精度の問題もありますが、下記の論文では C 14 の発生が、ちょうど磁気強度と逆になる性質を利用する可能性を指摘して興味深いですね。C 14 法とセットで使えば精度があがるということでしょうか。

<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/bitstream/2237/13236/1/KJ00000187604.pdf>

なぜ管理人が古地磁気の偏角から年代測定をする件に興味をもっているかというと、先日お話をした指南魚・方位磁針の導入の件にあります。詳細は会報第3・4号に記したとおりですが、各種科学的年代測定手段とともに、地磁気関連がこれからクローズアップされてくるのではないのでしょうか。そして秦野さんご指摘のような、その手段の是非ですね。

『何か違うんだってば!子育て中の妻が夫に本当に望んでいること』ランキング 917 人が見えています

『京都で女子がランチするなら?ベスト 10』ランキング 1093 人が見えています

『京都でおすすめのお花見スポット』ランキング 675 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:郊祀 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 4 月 29 日(月)07 時 10 分 59 秒

> No.1464[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

返信・引用

地磁気の性質から古墳の周辺を掘り下げ磁気を層状に測定しなければならないな。
また、基準を何処に取るかだな。

まあ、水道管程度の穴を開ければ地磁気の変化で年代がだせるな。 > やはり地磁気による年代推定が個人的には興味深いですね。

>

Ads by Google Re: 郊祀 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 27 日(土)23 時 09 分 35 秒 返信・引用

> No.1463[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > マヤの遺跡が C 14 法で BC 1000 年ごろ >
- > アトランティス消滅からマヤ遺跡まで長い距離を旅し、記録を残したのがアステカの記録
- > ですな。アトランティス、青海省、長江、日本、アステカ…。

>> 紀元前 2800 年頃 アトランティス消滅(現在名:マダガスカル島)>

C 14 法の測定でもいろいろ種類があるようです。2 万年を越えると、違う方法も必要かも しれませんね。

<http://www.crc-japan.com/data/n-soku.html>

地衣計測法というのがあるらしいです。9000 年前まで測定可能?

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/lichen/trend/airpollution.htm>

<http://www.earth.ees.hokudai.ac.jp/IAI/swiss12/report/lichen.pdf#search='地衣計測法'> <http://www.s-yamaga.jp/nanimono/chikyu/nendaisokuteiho-03.htm#%92Y%91f14%96@>

この辺も有用か? http://www.weblio.jp/wkpja/content/アミノ酸年代測定法_アミノ酸年代測定法の概要

やはり地磁気による年代推定が個人的には興味深いですね。

Re:郊祀 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 4 月 27 日(土)02 時 13 分 47 秒 済

> No.1462[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

返信・引用 編集

マヤの遺跡が C 14 法で BC 1000 年ごろ アトランティス消滅からマヤ遺跡まで長い距離を旅し、記録を残したのがアステカの記録

ですな。アトランティス、青海省、長江、日本、アステカ…。

紀元前 2800 年頃 アトランティス消滅(現在名:マダガスカル島)

アトランティス直撃の隕石の個数はアステカの神話にあり”4 つの花が我々の肉のすべてを 食べつくした。”4 個直撃すれば セーシエルの海上をカバーできる。隕石群の規模は以下の 文から”4 つの花が我々の肉のすべてを食べつくした。”また”島が沈んだ際にできた浅い泥に よって妨げられ、”、異口同音と思われる。紀元前 2800 年頃にインド洋に巨大隕石群の花が咲

いたようです。まるで花のコスモスをイメージしますな。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano29.htm>

紀元前 2600 年頃?大洋の時代になったとき、(青海省:大洋?) 紀元前 2375 年頃 400 年が過ぎていた。(三苗の国、夏) 紀元前 1975 年頃 それから 200 年。(夏王国) 紀元前 1776 年頃 次に 76 年が過ぎた。(夏→殷)

紀元前 1700 年頃 それからすべての人類が失われ溺れて魚になった。(殷) 紀元前 1700 年頃 古事記よりアメノミナカヌシノカミ(天之御中主神)筑紫城に居たな。 紀元前 1000 年頃 マヤまで 700 年ですか。マヤの遺跡が C 14 法で BC 1000 年 紀元前 200 年頃 神武天皇から日本の時代になる。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano20.htm> <http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano25.htm>

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano23.htm>

266 年頃 卑弥呼の姪である耜耜が残した郊祀なんですか。 <http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1411> 高野(交野、郊野)山、比叡山、妙見山、若草山、護国神社(古墳跡)

紫香楽宮の紫は筑紫城の紫だろうな。

鳥見山は韓国になるが、その位置は筑紫城に行けば理解できるだろうな。

> あと、マヤの遺跡が C 14 法で BC 1000 年ごろと推定されたそうですね。 >

<http://www.47news.jp/CN/201304/CN2013042501001909.html> >> おそらく会報で論じたとおり、マヤはどんなに遡っても、シュメール時代以降で、出エジプト前後ではないかと感じます。

>> それで、先日からの C 14 法の件ですが、なんとなく海外のほうが精度が高いような気がするんですね。日本のケースは、何か測定法とかに問題があるのではないのでしょうか。 >> 下のグラフ

(<http://wwr2.ucom.ne.jp/hetoyc15/hitori/wasi/wasizaki1.htm> より引用)見ると、布留 0 式と 1 式はそれぞれ、3 世紀と 4 世紀に C 14 の分布があるんです。 >> ただ、特に 0 式のグラフのケースでは、これは両方ということはありません。確率論ではなく、片方が正しいなら、もう片方は間違いで、2 者洗濯の議論をしないといけません。 > C 14 は、環境・食物関連の連鎖で古いものが混じり込む事は、容易に予想できるわけで、それらを含めてもっとも新しい数値との平均分布をとるのは間違いで、あくまでその年代でもっとも最後に新しく木棺なりに、含有された C 14 を測定しないことには、正確な数値がでてこないでしょう。

>> それで布留 0 式については、上記で特定できそうですが、庄内式や奈良 V 1 式のケースでは、C 14 の分布曲線自体に幅があって、結果として年代幅が大きく 100 年単位でしか特定できないということになるようです。 >> あと布留 1 式のケースが一番難しそうです。上記の 2 者が混在していて、複数年代の可能性がでてきます。 >

Re:郊祀 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 26 日(金)21 時 01 分 41 秒 返信・引用 編集 済

> No.1461[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

- > 管理人さんお疲れでした。秦野は連休にハイキングを兼ねて郊でも確認しますかな。 >
- > 高野(交野、郊野)山、比叡山、妙見山、若草山、護国神社(古墳跡)、大神神社 >
- > 紫香楽宮、鳥見山でも登ってみますかな。

>>

ぜひまた訪問されたら、写真でもその様子をお知らせください。 管理人のほうも、夏に関西・奈良方面参りたいと考えてます。

あと、マヤの遺跡が C 14 法で BC 1000 年ごろと推定されたそうですね。

<http://www.47news.jp/CN/201304/CN2013042501001909.html>

おそらく会報で論じたとおり、マヤはどんなに遡っても、シュメール時代以降で、出エジプト前後ではないかと感じます。

それで、先日からの C 14 法の件ですが、なんとなく海外のほうが精度が高いような気がするんですね。日本のケースは、何か測定法とかに問題があるのではないのでしょうか。

下のグラフ(<http://wwr2.ucom.ne.jp/hetoyc15/hitori/wasi/wasizaki1.htm> より引用)見ると、布留 0 式と 1 式はそれぞれ、3 世紀と 4 世紀に C 14 の分布があるんです。

ただ、特に 0 式のグラフのケースでは、これは両方ということはありません。確率論ではなく、片方が正しいなら、もう片方は間違いで、2 者洗濯の議論をしないといけません。

だから、3 世紀代前半~% 4 世紀代後半~% という分類表示ではなく、どちらも 10 0%、それでどちらかのみが正しい

こういう書き方をしないと、どちらかの年代に可能性があるような誤解を招く可能性を感じます。 布留 0 式

のケースでそれがあてはまりそうです。

数理的なグラフの処理法の問題だと思います。

それで、墓室内の木棺のような密閉された空間で、追葬などの可能性がない、つまり石室のフタが開けられないという条件ならばよいのですが、そうでないケースのみ、上記の確率論の適用可能性が出るはずです。

もし完全に密閉されていたならば、その測定値のうちで一番新しいものが目安となるでしょう。

う。ここでも、その中間値をとるような確率分布表示をすると、おかしくなりそうです。

C 14 は、環境・食物関連の連鎖で古いものが混じり込む事は、容易に予想できるわけで、それらを含有してもっとも新しい数値との平均分布をとるのは間違いで、あくまでその年代で もっとも最後に新しく木棺なりに、含有された C 14 を測定しないことには、正確な数値がでてこないでしょう。

それで布留 0 式については、上記で特定できそうですが、庄内式や奈良 V 1 式のケースでは、C 14 の分布曲線自体に幅があって、結果として年代幅が大きく 100 年単位でしか特定できないということになるようです。

あと布留 1 式のケースが一番難しそうです。上記の 2 者が混在していて、複数年代の可能性がでてきてます。

Re:郊祀 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 4 月 26 日(金)07 時 02 分 4 秒 返信・引用 編集 済

> No.1459[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

管理人さんお疲れでした。秦野は連休にハイキングを兼ねて郊でも確認しますかな。高野(交野、郊野)山、比叡山、妙見山、若草山、護国神社(古墳跡)、大神神社 紫香楽宮、鳥見山でも登ってみますかな。

> いえ、そんなに疲れてはないのですが、秦野さんもみなさんもまた連休は、家に籠らずどこか遺跡見学にでも出かけたほうがよいように感じます。

Re:郊祀 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 23 日(火)23 時 18 分 38 秒 返信・引用 編集 済

> No.1458[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > お疲れのようすな、これからは万葉集が手がかりになるみたいすな。 >
- > 暫く、休憩…。妙見山ラインの古墳分布に護国神社と東大寺がポイントすな。 >
- > 若草山が郊に…。休養を兼ね現地調査だな。 >>

いえ、そんなに疲れてはないのですが、秦野さんもみなさんもまた連休は、家に籠らずどこか遺跡見学にでも出かけたほうがよいように感じます。

それで、東大寺の件ですが、やはり先の年輪年代法による正倉院の創建年代との兼ね合いも重要です。間接的に方位区画や条坊区画の新旧とも関わってきます。年輪年代法の年代とその是非についてはこちら参照。 <http://wwr2.ucom.ne.jp/hetoyc15/hitori/wasi/wasizaki1.htm>

ただ先のとおり正倉院の推定年代は明らかに通説と異なり、辺材・心材型ではあまり信用できないですね。

一方で樹皮型の法隆寺、元興寺、紫香楽宮の年代についてはもっと注目すべきでしょう。

それで、紫香楽宮と関連して、下記の記載が面白いです。

740 年(天平 12 年)の藤原広嗣の乱ののち、聖武天皇は恭仁京(現在の京都府木津川市加茂地区)に移り、742 年(天平 14 年)には近江国甲賀郡紫香楽村に離宮を造営してしばしば行幸した。これが紫香楽宮である。

翌 743 年(天平 15 年)10 月、天皇は紫香楽の地に盧舎那仏を造営することを発願した。これは恭仁京を唐の洛陽に見立て、その洛陽と関係の深い龍門石窟の盧舎那仏を紫香楽の地で表現しようとしたものとみられる。

12 月には恭仁宮の造営を中止して、紫香樂宮の造営が更に 進められた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/紫香樂宮>

ここで、恭仁京を洛陽に見立てたという見方が記されてますよね。 この恭仁京の位置が木津川市加茂とのことで、先に論じた同じ木津川沿いの椿井大塚山古 墳や磐舟神社と同緯度となります。つまり洛陽と同緯度の 34 度 46 分なんです。

おそらく、彼らは洛陽と奈良で、すでに同じ緯度に都を立てる測量技術をもっているんです ね。 太陽高度と緯度との相関関係に気付いていたはずで、つまり中東・欧州系の緯度計算知識を もっているたとのことです。

だから、先日の同緯度を結んだ方位区画で、藤原京や平安京の位置が、34 度 30 分、35 度 00 分 と特定の緯度にかかることになるわけでして、さらにいえば、緯度 1 度=111KM の 10 分の 1 の 11.1km 尺で、当時の遺跡や宮都を構築していきます。

当時すでに菩提僊那とか、インド・中東系の僧侶や技術者が来朝してます。 これらと一緒に、中東・欧州系の建築・測量知識も入っていたのでしょう。 上記の龍門石窟の前時代にあたる雲崗石窟と、敦煌莫高窟が同意度の東西方位ラインで結 ばれることも、すでに会報に記したとおりです。敦煌方面から雲崗石窟へ僧侶等を呼んで造営した記載があります。彼らは後に高句麗古墳群造営を経てさらに日本へと 6~7 世紀代に 流れていったはずです。そこでエンタシス柱等の建築様式がもたらされていきます。

こうかんがえていくと、当時の権力者の日本地図認識は、行基図とか残存する莊園図みたいな曖昧なものではなく、かなり精密な測量地図を持っていたと考えるのが自然です。

Re:郊祀 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 23 日(火)06 時 32 分 25 秒 返信・引 用 編集済

> No.1456[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

お疲れのようすな、これからは万葉集が手がかりになるみたいすな。

暫く、休憩…。妙見山ラインの古墳分布に護国神社と東大寺がポイントすな。

若草山が郊に…。休養を兼ね現地調査だな。

> なんだか眠れないので、また調べてみたのですが、ご指摘の郊祀について、先に前方後円墳 との関わりを論じましたが、興味深い記載があります。 >> 下記の神武の記載に出てくる鳥見山は、桜井茶臼山古墳と関係する物部氏の本拠・磐舟神 社から富雄丸山古墳を結ぶ『とび』に関わるライン上にあります。神武は南方海人系の大彦系 集団と関わりますが、さらにトビモモソヒメとも関係してきます。

>

> 神武天皇 2 年、功を定め、道臣命は築坂邑に大来目を畝傍山の西に居住させ、椎根津彦を倭 国造に、弟猾を猛田邑の県主、弟磯城を磯城の県主に任じ、高皇産靈尊の子孫の剣根を葛城 国造に任じた。併せて八咫鳥を「幸を運ぶ鳥」と褒賞した。 > 神武天皇 4 年、天下を平定し海内無事を以て詔し、鳥見山に皇祖天神を祀った。

> 神武天皇 31 年、巡幸して、腋上の丘に登り、蜻蛉(あきつ)のとなめ(尾)に似ているこ とから、その地を秋津洲と命名 >> 秋津遺跡周辺を「州」と読んでますね、一時期、この辺が島地だった可能性を感じます。海進や河川の流域の変化と捉えて、そこからこの伝承の年代を逆算できないでしょうか。

>> 鳥見と「幸運を呼ぶ鳥」に関して、鳥トーテムで、仁徳一雄略…崇峻の鳥(ササギ)

と関わりそうです。三島・葛城鴨の南方海人族。

>

C14 法と年輪年代法 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 23 日(火)06 時 22 分 29 秒 返信・引用 編集済

ちょっと日曜日にひさしぶりに古代史例会に参加してから、年輪年代法と C 14 法の科学分析の取り扱いについて、考えを巡らしています。

ただ、両者いろいろ問題があり、すぐに信用できない部分も多いようです。下記ページ参照く ださい。

<http://wwr2.ucom.ne.jp/hetoyc15/hitori/wasi/wasizaki1.htm>

特に年輪年代法から出てきた結果については、ある時代以降は案外よく当たっているそうですが、ただやはり弥生~古墳時代前期の結果が100年ほど古く見積もる結果となり、従来 の通説と大幅にズレている原因を確認しておきたいと感じています。

確かに、そもそも不可能と言われていた領域を可能なラインまで持ってきた努力は評価すべきですし、この手法が完成すれば、暦年単位での年代測定も可能になるかもしれない点で重要です。

普通に素人目で考えれば、外側の樹皮の部分を削って使用したのでその分だけ、古く見積もられたと考えられるように感じますが、調べてみると、古木ほど外側の年輪が密に薄くなるそうで、同じ削り分でも、その換算年数も多くなるわけですね。 http://dendro.naruto-u.ac.jp/~yn/dendro/opening_j.html

そもそも樹皮部までない辺材だけでどうやって暦年単位の年代決定ができるのかもよくわからないのですが、ただ確かに年輪パターンやその木材の適正から、数百年単位での大まかな木の存在年代は判ることは理解できます。

樹齢500年の木があって、AD0年に植えて、AD300年に切っても、500年に切っても途中までの年輪パターンは同じわけですね。同じ木目が出てくる。

違うのは、樹皮部分とその近縁部の木目だけとすると、その部分が含まれない木材の木目を見ても当てにならないということになるでしょうか。

そうすると樹皮型の結果のみは当たっている可能性が高くなり、結果としては紫香楽宮の結果はドンピシャだったということですね。

池上曾根と二之蛙横枕のそれも樹皮型ですが、他の石塚とかのは、辺材型でおおよそ当てにならないということでしょうか。

その+αのαが、木材や樹齢、気候等で大幅に変化するので、その部分をいかに合理的に推理

するかが課題ですね。その推理した理由を、明確に公表しないと、辺材型では説得力がないということになるでしょうか。

素人目ですが、確かにこの辺の公表の是非の部分に問題がありそうですね。科学データの古代史応用はそれなりの力量がないと難しいですね。

方位ラインなんかも同じで、100メートルズレたので、もう間違っていると思ひこむケースもあるのですが、それも百分率の問題で、10 KMのうちの100 Mのズレは100分の1、1 KMのうちでは10分の1、100 KMでは1000分の1ですから、その相対距離でずいぶん、その精度の高低もかわってきますし、そこに地球球面による東西誤差みたいなキーンさん御特異の世界もあるわけですし、なかなかただどれだけズレている、合っているということだけに、惑わされないようにしたいところです。

郊祀 投稿者:管理人 投稿日:2013年4月21日(日)05時09分20秒 返信・引用 編集 済

なんだか眠れないので、また調べてみたのですが、ご指摘の郊祀について、先に前方後円墳との関わりを論じましたが、興味深い記載があります。

下記の神武の記載に出てくる鳥見山は、桜井茶臼山古墳と関係する物部氏の本拠・磐舟神社 から富雄丸山古墳を結ぶ『とび』に関わるライン上にあります。神武は南方海人系の大彦系集団と関わりますが、さらにトビモモソヒメとも関係してきます。

郊祀(こうし)とは、中国において天子が王都の郊外において天地を祀った祭。円丘を築いて併せて皇祖を祀ったことから、円丘祭(えんきゅうさい)とも称する。冬至の際には天子が自ら王都の南郊に至って天を祀り、夏至の際には天子が自ら北郊に至って地を祀る。大唐開元礼などに詳しい記述が残されている。日本では『日本書紀』において神武天皇が即位後に鳥見山にて靈時(まつりのにわ)を設置して郊祀を行ったとされる(神武4年2月甲申条)が後世の脚色であり、かつその祭礼の記述内容も中国の郊祀とは異なるものである。

中国の影響を受けて行われた郊祀の最初は桓武天皇の漢風化路線の一環として延暦4年11月10日と同6年11月5日に長岡京の南郊にあたる河内国交野郡の柏原にて郊祀が行われたものである。後者の際には天皇の実父である光仁天皇を併せて祀り、また祭文も「是天上帝に告ぐ」とする中国の郊祀の体裁を採用してい

る。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/郊祀>

ここで問題となってくるのは、神武天皇の郊祀記載をいつどこからどういう経緯で挿入したかということになりそうです。

おそらく鳥見山周辺が、ある時代の都城区画の東・東南隅だった可能性がありますね。いわゆる「東(南)祀」です。

下図の下から東端のライン、下から3弾目の方位ラインのあたりに桜井茶臼山古墳や、天皇の宮、鳥見山が位置しています。雄略時代の宮地、あるいは武烈、崇峻といった泊瀬部のつく天皇の宮地にちかいですね。

おそらく、上記の記載のとおり、冬至に鳥見山で南郊として祀るべきだったと思うのですが、神武4年2月甲申条になってます。つまり、春分にやっているのですが、これは鳥見山からみて真東に太陽が出てくるときともいえますね。つまり、その東に伊勢へのいわゆる「太陽の道」ラインがあるわけです。

ここで類推すると、南北郊祀は、冬至・夏至、東西郊祀は春分・秋分の可能性があります。その辺の中国文献はどうでしょうか。

そうすると、やはり南郊は、隅田八幡社あたりのラインにもってくるべきでしょうか。北郊は、ご注目の交野、時代によってこととなりますが、三島あたりから、さらに近江方面。

本来は、ライン的にみると、ある時期に(3~4世紀代と河内王朝の時代)西郊が百舌古墳群、東郊が柳本古墳群だったはずですが、神武の場合は、鳥見山から秋・葛城までの一段南のラインで考えてますね。河内王朝、継体朝時代に比して、南寄り、南端を隅田八幡のラインとすると、中間が先のライン、そして北橋が率川宮で、南方海人族の佐紀楯列古墳群となります。そうすると、この時期の北郊は、もしかすると、佐紀楯列古墳群のことで、ご注目の神功皇后陵も関係していたかもしれません。

その後、4世紀後半の成務朝つまり渡来系たけうちの時代に、近江まで伸びて、そして5世紀前半に三島や交野が出てくる。妙見信仰は推古朝との見方があるようです。これが夫から受け継いだ私部の領地とかかわってくることは、先日のとおりです。 <http://www3.ocn.ne.jp/~tohara/myouken-1.html>

そうすると、先のヤマトトビモソヒメと関わってくるのですが、伊勢へのラインが確立されるのが、先のとおり4世紀前半の南方海人・大彦系、あるいは後半の半島系の武内宿禰

の時代になりますが、下図の区画は後代まで使用されていきますから、その辺の時代背景を考慮する必要がありそうです。

神武天皇2年、功を定め、道臣命は築坂邑に大来目を畝傍山の西に居住させ、椎根津彦を倭国造に、弟狛を猛田邑の県主、弟磯城を磯城の県主に任じ、高皇産靈尊の子孫の剣根を葛城国造に任じた。併せて八咫鳥を「幸を運ぶ鳥」と褒賞した。神武天皇4年、天下を平定し海内無事を以て詔し、鳥見山に皇祖天神を祀った。

神武天皇31年、巡幸して、腋上の丘に登り、蜻蛉(あきつ)のとなめ(尾)に似ていることから、その地を秋津洲と命名

秋津遺跡周辺を「州」と読んでますね、一時期、この辺が島地だった可能性を感じます。海進や河川の流域の変化と捉えて、そこからこの伝承の年代を逆算できないでしょうか。

鳥見と「幸運を呼ぶ鳥」に関係して、鳥トーテムで、仁徳・雄略・崇峻の鳥(ササギ)と関わりそうです。三島・葛城鴨の南方海人族。

Re: 孟蘭盆会 投稿者: 管理人 投稿日: 2013年4月20日(土) 23時27分8秒 返信・引用 編集済

> No.1454[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

> はて、妙見山ラインを結ぶ継体天皇陵ラインを伸ばせば、神功皇后陵のラインが現れる。 >>

今確かめてみましたが、確かに現継体陵の100m東を通過するようです。先の私部のそばも通過しますね。いい線ついているかもしれません。

方位ラインを引くには、勘が重要です。要素や年代、方角などから、だいたい予測をつけて引くと、それなりの遺跡にあたります。

今日は将棋棋士がパソコンに負け越したというニュースがありましたが、パソコンとか最新

技術を扱うにしても、まずはその前提条件として勘の鋭さが重要ですね。直感力が上回って いれば、そのパソコンや科学分析も役に立つでしょうし、そうでなく力量が下回っていけば、 後からいろんな問題が生じてくるでしょう。

『水煙草(シーシャ)が吸える都内のスポット』ランキング 1196 人が見えています

『山梨のお土産にしたい!なかなか知らない名店のお菓子』ランキング 1848 人が見えています

『渋谷☆まったり出来る☆オ・ト・ナのお洒落カフェ』ランキング 1565 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO "韓国航空券"まだ決まってない? - www.skygate.co.jp そんな貴方に大ニュース!<<SKYGATE>>【本日入荷】の格安航空券バーゲン中 カメラ・レンズを超高価で買取中 - www.camera-takakuureru.com

月間依頼 15000 件突破。納得の高額買取 出張・宅配買取、査定も完全無料です 70%の男性が<<夜の自信>>を実感 - pr-kouraininjin.com 体験者の 90%が継続する【高麗人参】、信頼と実績の 100 万箱 2625 円 太陽光発電が 100 万円安く? - www.tainavi.com

【都内 41 歳男】タイナビで太陽光発電 を見積ると訪販より 100 万安かったです 賃貸物件はアットホーム - athome.co.jp こだわりの条件からあなたにぴったり のお部屋探し!絞込み機能充実 Ads by Google

Re:盂蘭盆会 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 4 月 19 日(金)23 時 35 分 31 秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。 はて、妙見山ラインを結ぶ継体天皇陵ラインを伸ばせば、神功皇后陵のラインが現れる。

> 特に盂蘭盆については、先に会報でトカラ人との兼ね合いで論じましたが、イラン系宗教 の影響が指摘されてますね。

>> 天智系の桓武は、皇太子時代から今来神つまり、新漢人の神を祀っているわけですが、後に 彼の好んだ皇帝祭祀とともに、それらの要素がピックアップされていった可能性もあるかと 感じますね。交野の分析も重要。

>>>> 桓武天皇の郊祀は南郊の交野になる。方位から交野は高野山が適切である。 >>>>

Ads by Google 盂蘭盆会 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 19 日(金)20 時 04 分 43 秒 返信・引用 編集済

> No.1452[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

- > 大文字の送り火は郊祀(こうし)のなごりか。 >
- > 起源・歴史 >
- > 山に画かれた字跡に点火する行為の起源については、平安時代とも江戸時代とも言われて いるが、公式な記録が存在するわけではない。場所と行為を具体的に特定した史料が登場す るのは近世に入ってからである。『雍州府志』によると、盂蘭盆会や施餓鬼の行事として行わ れていたとあり、『花洛細見図』にも「盂蘭盆会の魂祭」として紹介されていることから、江戸 時代前期から中期までにはそれに類する性格を持っており、大文字、妙法、舟形、加えて所々 の山、原野で火を点けていた。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%B1%B1%E9%80%81%E3%82%8A%E7%81%AB> >

特に盂蘭盆については、先に会報でトカラ人との兼ね合いで論じましたが、イラン系宗教の
影響が指摘されてますね。

盂蘭盆は、サンスクリット語の「ウランバナ」の音写語で、古くは「烏藍婆拏」「烏藍婆那」と音 写された[1]。「ウランバナ」は「ウド、ランブ」(ud-lamb)の意味があると言われ、これは倒懸(さ かさにかかるといふ意味である。亡くなった魂は中空に逆さにつり下げられたような苦しい状況にいると考えられていた)のである。[要出典] 近年、古代イランの言葉で「靈魂」を意味する「ウルヴァン」(urvan)が語源だとする説が出てい る。サンスクリット語の

起源から考えると可能性が高い。古代イランでは、祖先のフラワシ（Fravaši、ゾロアスター教における精霊・下級神。この世の森羅万象に宿り、あらゆる自然現象を起こす霊的存在。この「フラワシ」は人間にも宿っており、人間に宿る魂のうち、最も神聖な部分が「フラワシ」なのだという。ここから、フラワシ信仰が祖霊信仰と結びついた。）すなわち「祖霊」を迎え入れて祀る宗教行事が行われていた。一説によると、これがインドに伝えられて盂蘭盆の起源になったと言われている。[要出典]

<https://ja.wikipedia.org/wiki/盂蘭盆>

また東方キリスト教の悔過儀との兼ね合いも指摘されていたと思います。それが中臣・藤原氏の関わる二月堂の修二会などの然灯供養との関わりを考える見方もあって、さらにゾロアスター教の火に関する祭儀と関わりがあるとの見方もあります。

斉明朝のトカラ人渡来の際に、須弥山をつくり、盂蘭盆へ彼らを招待するわけですが、その須弥山に関する伝承としては、推古朝の百済からきた路子工の話があり、「白子」と呼ばれた渡来系石造職人の伝承に関わってきます。

日本書紀によれば、612年に御所に須弥山と唐風の呉橋(屋根、欄干つきの橋)がある庭を建設したことから、路子工と呼ばれるようになったという。当時の日本では、既に庭園建設も盛んに行われていたが、技術者として記録が残る人物としては日本最古である。その後、全国を回り当時の日本を代表する三河の矢引橋、水内の曲橋、木襲の梯橋、遠江の浜名橋、会津の闇川橋、兜岩の猿橋など180もの架橋に携わったとされる[1]。

山梨県猿橋との関連 [編集]

山梨県大月市の猿橋では、志羅呼(しらこ)という百済からの渡来人が建造したと伝えられる。現在の猿橋が、日本書紀にでてくる兜岩の猿橋と同一とは限らないが、路子工の出身地が同一であること、架橋の時期が推古天皇の代と路子工の活動期と重なることから、同一人物の可能性もある[2]。

百済の造園 [編集] 大韓民国忠清南道扶餘郡には、韓国で最初の人工庭園が作られたと伝えられているが、造成された年は634年と路子工が造園した年代より後のものである[3]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/路子工>

おそらく、この路子工と推古伝承、トカラ人と斉明の伝承とは、重複しているのではないかと考えたのが数年前に会報で論じたとおりなのですが、上記のように、造園技術と関係して、新羅庭園が、斉明朝に奈良にもたらされる契機と関わってきます。

トカラ人渡来と盂蘭盆会・須弥山に関する伝承、斉明時代のオリエント式のサイフォン管を用いた庭園の造営とは、深くつながっているのではないかと考えているのですが、その背景に藤原氏、さらにいえば新漢人の影響があって、中東系の宗教要素を含んだ仏教を、白鳳時代にもたらしていったのでしょうか。それがもしかすると、ご指摘の送り火の儀式にも関わっていただかもしれません。

天智系の桓武は、皇太子時代から今来神つまり、新漢人の神を祀っているわけですが、後に彼の好んだ皇帝祭祀とともに、それらの要素がピックアップされていった可能性もあるかと感じますね。交野の分析も重要。

> 桓武天皇の郊祀は南郊の交野になる。方位から交野は高野山が適切である。 >

Re:朝鮮・日本方位区画 投稿者:秦野 投稿日:2013年4月18日(木)16時39分23秒 返信・引用 編集済

> No.1446[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

大文字の送り火は郊祀(こうし)のなごりか。

大文字は円丘祭の位置ですな。

郊の線上にある。

起源・歴史

山に画かれた字跡に点火する行為の起源については、平安時代とも江戸時代とも言われているが、公式な記録が存在するわけではない。場所と行為を具体的に特定した史料が登場するのは近世に入ってからである。『雍

<http://www.kumaya.jp/atikoti17.html> <http://ja.wikipedia.org/wiki/常心塚古墳>

その西都原が三宅の地名を残すのも蘇我時代の屯倉経営の一端で、蘇我系の拠点は屯倉関連 地名が多く見えます。物部系は先のとおり「岩・船」の神社ですね。それぞれ相違した信仰を 持っていたはずです。

こちらが2 つ目です。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/touhoku-hokkaido-line02.mov>

遺跡紹介順は、丹後平古墳群→江別古墳群

7 世紀代以降のラインですが、先日お話したように双方円墳で南方海人系の遺物を出します 新漢人や吉士など渡来系の集団の子孫によるもので、彼らは渡来後に南方海人系を習俗を 受け継ぐ大彦系阿倍・膳氏の配下に入って蝦夷征伐にも加わっていったことでしょう。

Re:朝鮮・日本方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 17 日(水)23 時 07 分 19 秒 返信・引用

> No.1449[元記事へ] 秦野北斗さん、つぶやきさん、

こんばんは。確かに南方海人系の葛城氏の件は重要ですね。

尾張氏との結びつきも重要。

Re:朝鮮・日本方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 17 日(水)08 時 02 分 20 秒 返信・引用 編集済
管理人さんへのお返事です。 やっと、まともな方位ができたな。

北は比叡山(京都市左京区、滋賀県大津市)から南は稲荷山(京都市伏見区)までとするのが一般的である。狭義には、比叡山を含めず山中越の南の如意ヶ嶽(大文字山)(京都市左京 区)から南を指す向きもある。

「東山」とは一つの山系の名ではなく、京都の中心部から見て東に見える山を指す。したがって、他の山と鹿ヶ谷で隔てられている吉田山が含まれる一方、比叡山の北に連なる比良山系 の山は含まれない。

「東山」の呼称は古くは平安時代にも用いられたことがあるが、一般的になったのは室町時代以降である。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%B1%B1_\(%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BA%9C\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%B1%B1_(%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BA%9C))

次は韓半島の尺が問題になる。秦野は呉尺と見ている。

> 105~7km 前後の弥生末の後漢尺がしばしば見えますね。秦野さんご指摘のように、方位区 画をひっくり返したようなラインに見えますが、結局こういう方位区画のメッシュが無数に あったと考えると理解しやすくなるでしょう。「方~千里」の記載のとおりです。 >

> 元は中国系、さらに遡れば中東系のサカ・月氏等の測量集団の測量技術ではないかと考 えています。 >そしてその流れと扶余の祭祀や古代神道の信仰も関わってくることは、先日お話して今回 の会報に記したとおりですね。

>

Re:紀氏と岸が同族? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 16 日(火)20 時 32 分 55 秒 返信・引用 編集済

> No.1447[元記事へ] つぶやきさんへのお返事です。

武内 宿禰が何者かですな。どうも、卑弥呼の三公の様ですな。 三角縁神獣鏡の銘文、秦野北斗訳

景初三年陳是作鏡自有経述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫寿如金石 兮

景初三年、陳が自ら経述した鏡を作る。もとは京師(杜)の出、銘は位至三公の吏人、銘は母人 (おものひと)、保子(開花天皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/cult8frame.htm>

武内 宿禰(たけうちのすくね・たけのうちの・たけしうちの-、景行天皇 14 年(84 年) - 仁徳天皇 55 年(367 年)4 月?)は、『古事記』『日本書紀』で大和朝廷初期(景行・成 務・仲哀・応神・仁徳天皇の 5 代の天皇の時期)に棟梁之臣・大臣として仕え、国政を補佐 したとされる伝説的人物。建内宿禰とも表記される。紀・巨勢・平群・葛城・蘇

我氏などの 中央諸豪族の祖とされるが詳細は不明。神号は高良玉垂命とも。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%86%85%E5%AE%BF%E7%A6%B0>

- ・ > 葛城氏は加羅王族だった?(箕氏王-シュメール王族だった?)
- ・ > 『複合王朝としてのヤマト---葛城氏の正体』 >
- ・ > 雄略天皇は大王家を脅かすとして葛城一族家屋敷郎党の総てを焼き滅ぼした。
- ・ > その後に復活した葛城一族が蘇我氏(「我」は「蘇」りたり)。
- ・ > 『葛城氏』 >
- ・ > 蘇我氏自体が王族だった?『蘇我氏の正体-僕の頭の中にある世界』 >
- ・ > 紀氏の系図は失われてしまっているのですがこのような史実があります→天皇家は都合の悪い有力士族に系図その他を差し出させ史実の抹殺を図った
- ・ > 『【ヤマト】纏向は王権の礎の地か【マキムク】18』 >
- ・ > 『尾張氏葛城氏海部氏紀氏日下部氏草部吉見系阿蘇氏=多氏熊襲...』 >
- ・ > 蘇我をサカ(釈迦=ガド族)とする説も。
- ・ > しかし、聖書の神は、ユダヤ人の救世王はユダ族にすると約束すると言っているのを見ると、本来の人間界の王統であるエンリル系佛教系シュメール王統の紀氏(箕氏)葛城王朝から勝手に自分の都合だけで謂われなく正統な王座権威を奪い肉親の命や富を奪い全てを盗み取って潰して、新らしく自分で作った王統に与えておきながら、ご自身の権威は崇め言う事をよく聞けよなんて、天国で王様やってる聖書の神様というのはまるでマフィアのように、いやはや救いようもないですな。

Re:紀氏と岸が同族? 投稿者:つぶやき 投稿日:2013年4月16日(火)11時04分40秒 返信・引用

> No.1444[元記事へ]

葛城氏は加羅王族だった?(箕氏王-シュメール王族だった?)『複合王朝としてのヤマト---葛城氏の正体』
<http://web1.kcn.jp/tkia/mjf/mjf-53.html>

雄略天皇は大王家を脅かすとして葛城一族家屋敷郎党の総てを焼き滅ぼした。 その後に復活した葛城一族が蘇我氏(「我」は「蘇」りたり)。「葛城氏」 <http://www17.ocn.ne.jp/~kanada/1234-7-2.html>

蘇我氏自体が王族だった?『蘇我氏の正体-僕の頭の中にある世界』
<http://savage.blog.shinobi.jp/Entry/58/>

紀氏の系図は失われてしまっているのですがこのような史実があります →天皇家は都合の悪い有力士族に系図その他を差し出させ史実の抹殺を図った 『【ヤマト】纏向は王権の礎の地か【マキムク】18』
<http://awabi.2ch.net/test/read.cgi/history/1341536153>

『尾張氏葛城氏海部氏紀氏日下部氏草部吉見系阿蘇氏=多氏熊襲...』

http://blogs.yahoo.co.jp/kawakatu_1205/53248202.html

蘇我をサカ(釈迦=ガド族)とする説も。 しかし、聖書の神は、ユダヤ人の救世王はユダ族にすると約束すると言っているのを見ると、本来の人間界の王統であるエンリル系佛教系シュメール王統の紀氏(箕氏)葛城王朝から勝手に自分の都合だけで謂われなく正統な王座権威を奪い肉親の命や富を奪い全てを盗み取って潰して、新らしく自分で作った王統に与えておきながら、ご自身の権威は崇め言う事をよく聞けよなんて、天国で王様やってる聖書の神様というのはまるでマフィアのように、いやはや救いようもないですな。 朝鮮・日本方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013年4月16日(火)06時48分48秒 返信・引用 編集済

> No.1442[元記事へ]

秦野北斗さん、とおりがり・忠告者さん、ご意見ありがとうございます。

先日から、南方海人系の大彦・阿倍氏系の集団に関連する方位ラインについてとりあげていますが、確かに阿倍氏配下にはいった同じく半島系航海集団の吉士集団の件も重要ですね。

とりあえず、先日からの方位区画をまとめて、朝鮮・日本にまたがる方位区画を作成しました。こちらでも会報第1号ですでに紹介した朝鮮から日本に伸びる各種方位ラインから、下図のように区画を推定しています。

こちらはその説明動画です。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/cyosen-nihon-houikukaku.mov>

動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。

狗邪韓国→鹿島神宮→氷川神社→高麗郡周辺→籠神社(元伊勢)→出雲大社 狗邪韓国→熱田神宮→三島大社
狗邪韓国→伊勢内宮→三輪山周辺→仁徳陵→吉備 狗邪韓国→西都原遺跡→吉野ヶ里遺跡→伊都平原遺跡
狗邪韓国→漢城(ソウル)→楽浪郡治(平壤)→ジョウ平城(遼東) 西都原遺跡→伊勢→鹿島神宮

西都原遺跡→磐船神社 西都原遺跡→熱田神宮→柳本古墳群・マキムク遺跡・三輪山周辺 西都原遺跡→宇佐→
伊都平原遺跡→須玖・岡本遺跡→物部(高知市) 西都原遺跡→椿井大塚山古墳→仁徳陵

105~7km 前後の弥生末の後漢尺がしばしば見えますね。秦野さんご指摘のように、方位区画をひっくり返したようなラインに見えますが、結局こういう方位区画のメッシュが無数にあったと考えると理解しやすくなるでしょう。「方~千里」の記載のとおりです。

元は中国系、さらに遡れば中東系のサカ・月氏等の測量集団の測量技術ではないかと考えています。そしてその流れと扶余の祭祀や古代神道の信仰も関わってくることは、先日お話して今回の会報に記したとおりですね。

Re:紀氏と岸が同族? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年4月16日(火)00時00分29秒 返信・引用 編集済

> No.1443[元記事へ] 通りすがりさんへのお返事です。

家紋の始まりはとも、アマテラスになる様ですな。

秦野の調べでは三つ巴、あげは蝶になると神宮皇后の三韓征伐まで遡ることになる。阿蘇方面菊地氏は弓月君の末裔になり、菊地氏と中臣が平氏になる。平氏は源氏に対し、後発勢力のため、東北(古代の日本国)を領地に取る。弓月君は日本書記の著者。弓月君の家紋は鷹の羽になる。定かではないが、弓月君は大月氏(匈奴)でヨーロッパの紋章に見られる鷲と同族の鷹になっている。

歴史は源平合戦で平氏の家紋は全国に散っている。また、家紋の融合が見られる。現在では平氏の家紋と名字が一致するのは珍しい。九州、北海道、僻地に落ち延びたようだ。

因みに平の意味はアイヌ語で崖、荒地になる。

通りすがりさんの家紋は鷹の羽系の家紋ですか。

> 鷹の羽系の家紋という事で阿蘇方面菊地氏との事ですが、実は山形県を元々は「出羽」と言っていたのは、朝貢等する鷹の羽の産地だったのが由来のようで、これに因んだものではないでしょうか。

> この地方の岸氏と同族とされる事の多い大彦命後裔の阿部氏も多く鷹の羽紋が見られます。 > 更に阿部は出羽とも作りますが『新撰姓氏録考証』に、北陸遠征の大彦命の弟で彦太忍信命 という人の子孫を出羽臣に任じたとあります。

> この出羽臣の娶る女系一族が紀氏一族であった事も書かれています。 > 当時の紀氏一族は殆どが大和の京で中務史生等をして大和朝廷に仕え、神官や地方豪族をしていたようです。当時の地方豪族は自分達の勢力地に自分達の名前を付けました。 > 何かの理由で本家に遠慮して「紀氏」を「幾志」に変えて更にそれが「岸」になったのでしょうか。 > 彦太忍信命は葛城氏や蘇我臣、紀臣や許勢臣そして平群臣の祖とされています。 > また紀氏の方は元々は氏寺は岩清水八幡宮でしたが今は紀氏が神官をしているものの天皇のものとなっているようで、

日前神宮・國懸神宮が紀氏の神社じゃないでしょうか。造化 三神の神皇産靈尊の子神または5世孫にあたり天津神とされる天道根命を祖神としている ようです。 > 因みに大彦命後裔の北陸東征阿部氏縁の岸氏とは言っても、安倍首相縁の岸信介氏とは家 紋が違いますし、岸信介氏は元々は佐藤姓ですから違う系統ではないでしょうか。

『吉祥寺☆散歩の途中で寄りたいカフェ』ランキング 3117 人が見えています

『 茨城に旅行いくなら一度は行きたい!おすすめのおいしいお店』ランキング 1317 人が見えています

『30代男性のハートをわしづかみ!!かつて熱狂した駄菓子』ランキング 909 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO カメラ・レンズを超高価で買取中 - www.camera-takakuureru.com

月間依頼 15000 件突破。納得の高額買取 出張・宅配買取、査定も完全無料です スカイゲートの海外航空券 - www.skygate.co.jp オンラインで検索、空席照会。 予約、 購入まで可能。24 時間受付中。 太陽光発電が 100 万円安く? - www.tainavi.com

【都内 41 歳男】タイナビで太陽光発電 を見積ると訪販より 100 万安かったです 《新着物件あり》賃貸情報 - www.athome.co.jp 110 万件以上の賃貸情報 賃貸物件探しならアットホーム

企業用/紙媒体を電子化する - ebook.digitalink.ne.jp チラシ・カタログ・資料が電子化! 楽に管理できて、作成できる ActiBook Ads by Google Re:紀氏と岸が同族? 投稿者:忠告者 投稿日:2013 年 4 月 15 日(月)23 時 29 分 25 秒 返信・引用

> No.1443[元記事へ]

日前神宮・國懸神宮の紀氏神主は断絶し、途中から陰明術闇王の藤原氏にすり変わって紀氏 やらガド族やら出雲族やらを待ち受けておりますな。 ヤタガラスの旗もはためている。 ヤタガラスはやーさんみたくヤ(ハ=8)なんて出雲族やガド族の聖数字つけてその仲間に 思わせての、彼等から呪われないためのおまじない。 岩清水八幡宮の方もどうなっているんだかですね。

>通りすがりさんへのお返事です。

> 鷹の羽系の家紋という事で阿蘇方面菊地氏との事ですが、実は山形県を元々は「出羽」と言 ったのは、朝貢等する鷹の羽の産地だったのが由来のようで、これに因んだものではないで しょうか。 > この地方の岸氏と同族とされる事の多い大彦命後裔の阿部氏も多く鷹の羽紋が見られま す。

> 更に「出羽」は出庭とも作りますが『新撰姓氏録考証』に、北陸遠征の大彦命の弟で彦太忍信命 という人の子孫を出庭臣に任じたとあります。 > この出羽臣の娶る女系一族が紀氏一族であった事も書かれています。 > 当時の紀氏一族は殆どが大和の京で中務史生等をして大和朝廷に仕え、神官や地方豪族を していたようです。当時の地方豪族は自分達の勢力地に自分達の名前を付けました。

> 何かの理由で本家に遠慮して「紀氏」を「幾志」に変えて更にそれが「岸」になったのでしょ う。 > 彦太忍信命は葛城氏や蘇我臣、紀臣や許勢臣そして平群臣の祖とされています。 > また紀氏の方は元々は氏寺は岩清水八幡宮ででしたが今は紀氏が神官をしているものの天 皇のものとなっているようで、日前神宮・國懸神宮が紀氏の神社じゃないでしょうか。造化 三神の神皇産靈尊の子神または5世孫にあたり天津神とされる天道根命を祖神としている ようです。

> 因みに大彦命後裔の北陸東征阿部氏縁の岸氏とは言っても、安倍首相縁の岸信介氏とは家 紋が違いますし、岸信介氏は元々は佐藤姓ですから違う系統ではないでしょうか。

Ads by Google Re:紀氏と岸が同族? 投稿者:通りすがり 投稿日:2013 年 4 月 15 日(月)22 時 33 分 13 秒 返信・引用

> No.702[元記事へ]

鷹の羽系の家紋という事で阿蘇方面菊地氏との事ですが、実は山形県を元々は「出羽」と言 ったのは、朝貢等する鷹の羽の産地だったのが由来のようで、これに因んだものではないで しょうか。 この地方の岸氏と同族とされる事の多い大彦命後裔の阿部氏も多く鷹の羽紋が見られます。 更に「出羽」は出庭とも作りますが『新撰姓氏録考証』に、北陸遠征の大彦命の弟で彦太忍信命 という人の子孫を出庭臣に任じたとあります。 この出羽臣の娶

る女系一族が紀氏一族であった事も書かれています。 当時の紀氏一族は殆どが大和の京で中務史生等をして大和朝廷に仕え、神官や地方豪族をしていたようです。当時の地方豪族は自分達の勢力地に自分達の名前を付けました。 何かの理由で本家に遠慮して「紀氏」を「幾志」に変えて更にそれが「岸」になったのでしょうか。 彦太忍信命は葛城氏や蘇我臣、紀臣や許勢臣そして平群臣の祖とされています。 また紀氏の方は元々は氏寺は岩清水八幡宮でしたが今は紀氏が神官をしているものの天皇のものとなっているようで、日前神宮・國懸神宮が紀氏の神社じゃないでしょうか。造化三 神の神皇産靈尊の子神または5世孫にあたり天津神とされる天道根命を祖神としているようです。 因みに大彦命後裔の北陸東征阿部氏縁の岸氏とは言っても、安倍首相縁の岸信介氏とは家紋 が違いますし、岸信介氏は元々は佐藤姓ですから違う系統ではないでしょうか。 Re:物部方位区画 2 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 15 日(月)22 時 00 分 26 秒 返信・引用

> No.1441[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

30 度角から、後に角度が60 度の変化は方位を 90 度転回した結果に見えますな。

かなり古い弥生末からの区画で、当初の西日本における 30 度角から、後に角度が60 度に 変化して東海・関東・東北へと北上していきます。同じ測量方式で、おそらく 105km 尺の前 漢尺を利用していますが、後の 11km 尺も混入している可能性を感じます。

> 動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。

>> 石船神社(石船柵)→切田岩船→岩水神社(中野市岩船)→伊勢内宮→十二所神社(大 子町)→岩倉温泉→日光男体山(二荒神社)→恋路稻荷八角墳→小敷田遺跡(行田)→吉 見百穴→岩水神社→宇佐神宮→高知市物部(石船神社)→宇佐→三島→吉備津神社→白山 仲居神社→諏訪神宮上社前宮→鹿島神宮→白山仲居社→伊勢内宮→葛城一言主社→磐船神 社→高千穂方面→イザナギ神社(淡路島)

物部方位区画 2 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 15 日(月)21 時 03 分 47 秒 返信・引 用 編集済

> No.1440[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 秦野の調べではヤマトタケルの東征は韓半島になるが、定説では名古屋から関東になる。
- > 伊勢神宮と隋(晋)尺(小里)の 1 千里(3.7km)を知多半島に伸ばすと釜山がある。 >
- > これからだが、知多半島以北を韓半島と見立てヤマトタケルを創作した模様。
- > 神武東征、ヤマトタケル東征、神宮皇后の三韓征伐は同じ航路を言っているな
- > ヤマトタケルの方位区画は韓半島に対応が正しいのでは。

もうひとつ名古屋から関東にかけての方位区画があります。 これも会報第 1 号で紹介した方位ライン群ですが、また整理して動画と図を作成しました。

動画はこちら。物部氏のイワフネ信仰の拠点を主に結んだ区画です。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/monobe-houikukaku2.mov>

動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。

石船神社(石船柵)→切田岩船→岩水神社(中野市岩船)→伊勢内宮→十二所神社(大子 町)→岩倉温泉→日光男体山(二荒神社)→恋路稻荷八角墳→小敷田遺跡(行田)→吉見 百穴→岩水神社→宇佐神宮→高知市物部(石船神社)→宇佐→三島→吉備津神社→白山仲 居神社→諏訪神宮上社前宮→鹿島神宮→白山仲居社→伊勢内宮→葛城一言主社→磐船神社 →高千穂方面→イザナギ神社(淡路島)

かなり古い弥生末からの区画で、当初の西日本における 30 度角から、後に角度が60 度に 変化して東海・関東・東北へと北上していきます。同じ測量方式で、おそらく 105km 尺の前 漢尺を利用していますが、後の 11km 尺も混入している可能性を感じます。動画内の距離表参照。

おおむね主要な日本の神社はこの区画上にあるわけですし、古墳を拠点にしないタイプのや や新しい時代のそ

れでもあります。6世紀代の国府や八角墳などにも関わっていますね。葛城一言主社や三島、伊勢内宮、諏訪、鹿島あたりで、先日の呉に支援された南方海人系の方位区画と接合することがわかります。ご指摘のヤマトタケルと神功皇后、韓半島との関わりも、同じく会報第1号で紹介したプサン起点の方位ラインとの兼ね合いを考慮すると理解しやすくなるでしょう。

イワフネ信仰と物部氏の展開図なのですが、弥生末のニギハヤヒ時代以来の伝統的測量で、蘇我に破れて奈良から追放されて東北へ向かうまで、一環して同じラインを起点にしていたように見えます。

Re:ヤマトタケル方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年4月14日(日)09時41分10秒 返信・引用 編集済

> No.1439[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

秦野の調べではヤマトタケルの東征は韓半島になるが、定説では名古屋から関東になる。伊勢神宮と隋(晋)尺(小里)の1千里(3.7km)を知多半島に伸ばすと釜山がある。

これからだが、知多半島以北を韓半島と見立てヤマトタケルを創作した模様。
神武東征、ヤマトタケル東征、神宮皇后の三韓征伐は同じ航路を言っているな
ヤマトタケルの方位区画は韓半島に対応が正しいのでは。

呉尺 隋(晋)尺 533.5 m(里)÷1.2=444 m(大里) 444 m(大里)÷1.2=370m(小里)

> 伊勢、三重関係も、先の大彦系南方海洋民の流れを追う上で重要ですね。 >> 大彦=景行天皇、彼らの息子・武ヌテ河別=ヤマトタケルと見なし得ることは、先にお話して会報に掲載したとおりですが、ヤマトタケルの方位区画を作成しました。下図のとおりです。 >> 元は数年前の会報第1号の時代に作成したラインです。やはり数年経って方位ライン研究も進展してくると、当時考えていたものと若干変化も出てきますね。 >>

- > 説明動画はこちらです。
- > <http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/yamatotakeru-line.mov> >
- > こちらの方位ライン関係ページにも随時アップしていきます。
- > <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/houiline.htm> >>
- > 遺跡紹介順は下記のとおりです。記紀のヤマトタケル伝承に出てくる遺跡や地名です。 >
- > 白鳥陵(羽曳野)→景行天皇陵→葛城一言主神社→白鳥陵(大和)→伊勢内宮→熱田神宮→能ぼ野墓→三輪山→名張関所(中山神社)→伊富岐神社(伊吹山・不破の関)→多度神宮→熱田神宮→能ぼ野墓→焼津神社→諏訪前宮→碓氷峠→白根神社(草津)→山宮浅間神社→走水海(浦賀水道) >> これらは、先日の大彦・葛城系の南方海人族の正方位区画で春日社とも関わってくるのですが、後代の畿内方位区画の各関の位置とも近似することは、継体系、特に天智時代に影響を及ぼした海人系集団の測量を受け継いだ阿倍・安曇・吉士・新漢人の影響が見えるかもしれません。 >> 尺度は動画の距離表に見えるようにやはり 11.1~3km の倍数尺が多くてできます。 > それで予想方位区画図を見るとわかるように、若干南北もしくは東西が長い可能性があります。これは緯線と経線の長さとも関係して、いわゆる先日論議した中東・欧州系の緯度1度=111km 尺の使用を考慮すれば、赤道方面が若干長く計測されるのも当然かもしれませんが、完全な正方区画にならない可能性も感じます。

>> その微妙な正方区画の距離差を正確に割り出せば、上記の測量方式の是非が確認できるかもしれませんね。

>> あと、図の重要基礎拠点となる一言主神社(秋津遺跡)から東に伸ばして行くと、ちょうど先ほど震度6の地震があった淡路島のイザナギ神社周辺とか、ご指摘の猿田彦に關係する猿田彦神社(広島)も出てきます。要するに先日の呉年号銘・画紋帯神獸鏡方位区画に接続するんです。 >> ただその場合は、時代が古いので正方位ではなく、-1度の偏角が生じてくるようです。おそらく太陽測量で、暦の關係で-1度になるんでしょう。

>> この辺の微妙な誤差理論を、いかにして検証していくかが今年の課題です。 ヤマトタケル方位区画
投稿者:管理人 投稿日:2013年4月13日(土)07時52分45秒 返信・引用 編集済

> No.1438[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 古事記に灯台、灯籠の文章があるな。 >> アメノウズメノミコトが伊勢神宮内宮の近くの猿田彦神社(さるたひこじんじゃ)に送り届けていますな。阿耶詞(あざか。現在の三重県松阪市※)というところへ行った時に、海で魚を獲(と)っていた…。さざれ石が猿田彦の残骸ですな。 > メノウズメノミコトは、サルタヒコを送り届けて帰って来ると >> 猿田彦神社(さるたひこじんじゃ)は、三重県伊勢市の伊勢神宮内宮の近くにある神社である。 >> その子孫の大田命の文章は擬人化でしかない。猿田彦大神と、その子孫の大田命を祭神とする。 >> <http://pixta.jp/photo/6756229> >

伊勢、三重関係も、先の大彦系南方海洋民の流れを追う上で重要ですね。

大彦=景行天皇、彼らの息子・武ヌテ河別=ヤマトタケルと見なし得ることは、先にお話しして会報に掲載したとおりですが、ヤマトタケルの方位区画を作成しました。下図のとおりです。

元は数年前の会報第1号の時代に作成したラインです。やはり数年経って方位ライン研究も進展してくると、当時考えていたものと若干変化も出てきますね。

説明動画はこちらです。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/yamatotakeru-line.mov>

こちらの方位ライン関係ページにも随時アップしていきます。

<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/houiline.htm>

遺跡紹介順は下記のとおりです。記紀のヤマトタケル伝承に出てくる遺跡や地名です。

白鳥陵(羽曳野)→景行天皇陵→葛城一言主神社→白鳥陵(大和)→伊勢内宮→熱田神宮→能ぼ野墓→三輪山→名張関所(中山神社)→伊富岐神社(伊吹山・不破の関)→多度神宮→熱田神宮→能ぼ野墓→焼津神社→諏訪前宮→碓氷峠→白根神社(草津)→山宮浅間神社→走水海(浦賀水道)

これらは、先日の大彦・葛城系の南方海人族の正方位区画で春日社とも関わってくるのですが、後代の畿内方位区画の各関の位置とも近似することは、継体系、特に天智時代に影響を及ぼした海人系集団の測量を受け継いだ阿倍・安曇・吉士・新漢人の影響が見えるかもしれません。

尺度は動画の距離表に見えるようにやはり11.1~3kmの倍数尺が多くでてきます。それで予想方位区画図を見るとわかるように、若干南北もしくは東西が長い可能性があります。これは緯線と経線の長さとも関係して、いわゆる先日論議した中東・欧州系の緯度1度=111km尺の使用を考慮すれば、赤道方面が若干長く計測されるのも当然かもしれず、完全な正方区画にならない可能性も感じます。

その微妙な正方区画の距離差を正確に割り出せば、上記の測量方式の是非が確認できるか

もしれませんね。

あと、図の重要基礎拠点となる一言主神社(秋津遺跡)から東に伸ばして行くと、ちょうど先ほど震度6の地震があった淡路島のイザナギ神社周辺とか、ご指摘の猿田彦に関係する猿田彦神社(広島)も出てきます。要するに先日の呉年号銘・画紋帯神獣鏡方位区画に接続するんです。

ただその場合は、時代が古いので正方位ではなく、-1度の偏角が生じてくるようです。おそらく太陽測量で、暦の関係で-1度になるんでしょう。

この辺の微妙な誤差理論を、いかにして検証していくかが今年の課題です。

Ads by Google Re:説明動画の画像もアップ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年4月13日(土)00時17分 15秒 返信・引用 編集済

> No.1437[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古事記に灯台、灯籠の文章があるな。

アメノウズメノミコトが伊勢神宮内宮の近くの猿田彦神社(さるたひこじんじゃ)に送り届けていますな。阿耶

訶(あざか。現在の三重県松阪市※)というところへ行った時に、海で 魚を獲(と)っていた…。さざれ石が猿田彦の残骸ですな。

古事記 さて、そのサルタヒコが、阿耶訶(あざか。現在の三重県松阪市※)というところへ行った時 に、海で魚を獲(と)っていたところ、ヒラブ貝に手をはさまれて海の底に沈み、溺(おぼ) れてしまいました。そこで、そのサルタヒコの神が、海に沈んでいるときの名前を「底どく御 魂(そこどくみたま)」といい、沈んで行く時に海水がぶつぷつと泡立つときに名前を「つぶ 立つ御魂」といい、またその海の泡がはじけるときの名前を「あわ咲く御魂」と言いうのです。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_06.html

アメノウズメノミコトは、サルタヒコを送り届けて帰って来ると

猿田彦神社(さるたひこじんじゃ)は、三重県伊勢市の伊勢神宮内宮の近くにある神社で ある。

その子孫の大田命の文章は擬人化でしかない。猿田彦大神と、その子孫の大田命を祭神とする。

<http://pixta.jp/photo/6756229>

> ご指摘の呉年号銘・画紋帯神獣鏡の出土地点を結んだ方位区画は、確かに拠点が複数あつ たようですね。

>> まず伊都国や九州西部にあり、伊予や兵庫の武庫、淡路島あたりにもあったでしょう。その後 4 世紀前半代になり景行朝の時代に河内から奈良北部の佐紀楯並方面へと進出します。さらに 6 世紀にはいって継体朝に尾張や敦賀方面へと進出し、最後に関東へと流れていきます。 >

> それでその時代ごとに中心拠点があって、それがご指摘の都市のような方位ラインが集中 する拠点と鳴って行った模様です。またこういう場所は交通の拠点でもありますね。港が多いのは、彼らが海洋民だったこともあります。 >

- > 志摩とか敦賀あたり、後に伊豆などもそうですね。 >

- > ご指摘の光通信網は、特に海洋民にとっては、おそらく生命線を分けたことでしょう。

- > まず港に入る際に敵か味方かの区別をつけねばなりません。夜間なら船上でのたき火と鏡 による光信号ですね。 > また灯台側からも返信の信号を送る必要があったでしょう。原の辻に多鈕細紋鏡といった 凹面鏡が出土するのも、あるいは高尾山麓から出土するのも、遠隔地からのモルス信号的なサーチライト効果を狙っていたのではないかと考えてます。 >> ただ、凹面鏡とサーチライト効果については、実際に実験してみないと証明できない感じ ですね。凹面鏡ほうが、凸面鏡より遠く届くはずですが、凸面鏡ほうが、広角に光反射できる かもしれません。 >

> 灯台ならば広角から見れたほうがよいでしょうし、測量・軍事目的なら凹面のほうがピン ポイントで正確な角度で光線を届けれるのでベストでしょうか。方位ラインは確かにその 辺の精度に関わります。

Re:説明動画の画像もアップ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 12 日(金)22 時 25 分 24 秒 返信・引用 編集済

> No.1436[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 古代の都市の輪郭が出ていますな >> 古代の光通信網ですな。方位図が光通信網

ご指摘の呉年号銘・画紋帯神獣鏡の出土地点を結んだ方位区画は、確かに拠点が複数あつ たようですね。

まず伊都国や九州西部にあり、伊予や兵庫の武庫、淡路島あたりにもあったでしょう。その後 4 世紀前半代になり景行朝の時代に河内から奈良北部の佐紀楯並方面へと進出します。さらに 6 世紀にはいって継体朝に尾張や敦賀方面へと進出し、最後に関東へと流れていきます。

それでその時代ごとに中心拠点があって、それがご指摘の都市のような方位ラインが集中する拠点と鳴って行った模様です。またこういう場所は交通の拠点でもありますね。港が多い のは、彼らが海洋民だったこともあります。

志摩とか敦賀あたり、後に伊豆などもそうですね。

ご指摘の光通信網は、特に海洋民にとっては、おそらく生命線を分けたことでしょう。まず港に入る際に敵か味方かの区別をつけねばなりません。夜間なら船上でのたき火と鏡による光信号ですね。また灯台側からも返信の信号を送る必要があったでしょう。原の辻に多鈕細紋鏡といった凹面鏡が出土するのも、あるいは高尾山麓から出土するのも、遠隔地からのモルス信号的なサーチライト効果を狙っていたのではないかと考えてます。

ただ、凹面鏡とサーチライト効果については、実際に実験してみないと証明できない感じがしますね。凹面鏡ほうが、凸面鏡より遠く届くはずですが、凸面鏡のほうが、広角に光反射できるかもしれません。

灯台ならば広角から見れたほうがよいでしょうし、測量・軍事目的なら凹面のほうがピンポイントで正確な角度で光線を届けられるのでベストでしょうか。方位ラインは確かにその辺の精度に関わります。Re:説明動画の画像もアップ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年4月12日(金)07時39分44秒 返信・引用 編集済

> No.1435[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古代の都市の輪郭が出ていますな

古代の光通信網ですな。方位図が光通信網

- > ちょっとお知らせです。
- > 先日お知らせした方位区画動画ページに、方位区画画像もアップしました。
- > リンクをクリックしてご視聴ください。
- > <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/houiline.htm> >
- > あと、先日の物部方位区画も追加しています。詳細は上記ページから。

説明動画の画像もアップ 投稿者:管理人 投稿日:2013年4月11日(木)23時07分34秒 返信・引用

ちょっとお知らせです。先日お知らせした方位区画動画ページに、方位区画画像もアップしました。リンクをクリックしてご視聴ください。 <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/houiline.htm>

あと、先日の物部方位区画も追加しています。詳細は上記ページから。

魏志倭人伝方位区画・多鈕細紋鏡ライン説明動画 投稿者:管理人 投稿日:2013年4月10日(水)20時41分15秒 返信・引用 編集済

> No.1433[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 九州の方位も同時代の隋(晋)尺になるな。 >>

続いて、昨日お話した三嶋に関わる魏志倭人伝方位ラインの説明動画を作成しました。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/gisiwajinden-line-2.mov>

動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。三嶋鴨神社→葛城一言主社→当麻山口社→二上社→石切社→三島(大山祇社)→稲葉古墳

(伊都国・マキムク型)→伊都平原遺跡→出雲大社→鹿島神宮→熱田神宮 これは、図2の呉年号銘・画紋帯神獣鏡方位区画と同じで、呉に支援されたいわゆる大彦系

の南方航海民系のラインです。葛城氏・当麻氏・阿倍氏といった集団ですね。

弥生中期以来の正方位測量ですが、次の多鈕細紋鏡を結んだ弥生後期の方位区画と葛城あたりでやはり接点を持つようです。

説明動画はこちら。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/tacyusaimonkyo-line.mov>

遺跡紹介順は下記のとおりです。原の辻遺跡→宇木汲田・増田遺跡→小郡若山遺跡→吉武高木遺跡→大県遺跡(高尾山麓)

長柄遺跡あたりで葛城・秋津方面に出るんですね。この辺が大和の都城区画の西端になります。

Re:魏志倭人伝方位区画動画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年4月10日(水)00時34分 34秒 返信・引用
 > No.1432[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

[illegible]

吳尺 隋(晉)尺 $35.6\text{ cm} \div 1.2 = 29.6\text{ cm}$ (大尺) $29.6\text{ cm} \div 1.2 = 24.6\text{ cm}$ (小尺)

吳尺 隋(晉)尺 $533.5 \text{ m(里)} \div 1.2 = 444 \text{ m(大里)}$ $444 \text{ m(大里)} \div 1.2 = 370 \text{ m(小里)}$

魏志倭人伝方位区画動画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 9 日(火)23 時 25 分 14 秒 返信・引用 編集済

- > 平安京、難波京は同時代の隋(晋)尺の京になるな。
- > 大宝律令の尺(秦野距離)は呉尺で隋尺の關係は 1.2 倍になる。 >
- > 呉尺 隋(晋)尺
- > $35.6 \text{ cm} \div 1.2 = 29.6 \text{ cm}$ (大尺)
- > $29.6 \text{ cm} \div 1.2 = 24.6 \text{ cm}$ (小尺) >
- > 呉代、隋代の尺を里に当て嵌めるならば、大里、小里が存在する。 >
- > 呉尺 隋(晋)尺
- > $533.5 \text{ m(里)} \div 1.2 = 444 \text{ m(大里)}$
- > $444 \text{ m(大里)} \div 1.2 = 370 \text{ m(小里)}$ >
- > 建設され東西 4.5km、南北 5.2km の長方形に区画された都城であった。 >
- > 東西 $4.5 \text{ km} \div 370 = 12.1 \approx 12$
- > 南北 $5.2 \text{ km} \div 370 = 14.0 \approx 14$ >

遺跡の説明順は、秋津遺跡(女王国都西端)→石切神社(河内・己百支国)→三嶋(島 本・斯馬國)→イザナギ神宮(伊邪国)→奥 3 号墳(マキムク型前方後円墳・雨滝山西 麓)→佐賀・おつぼ山神籠石(姐奴国)→宇佐→伊予豆彦神社(伊邪分国)→出雲大社で す。

81km の弥生九州方位区画にみえる後漢尺らしき尺がみえます。もうひとつ三嶋関係の方位ライン動画も後でお知らせします。こちらは、呉と深く関わるラ

インです。

Re:玉纏太刀・子持ち勾玉 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 9 日(火)00 時 41 分 58 秒 返信・引用

> No.1430[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

平安京、難波京は同時代の隋(晋)尺の京になるな。 平城京、藤原京は呉尺の京。

平安京は現在の京都府京都市中心部にあたる、山背国葛野・愛宕両郡にまたがる地に建設 され東西 4.5km、南北 5.2km の長方形に区画された都城であった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E5%AE%89%E4%BA%AC> 大宝律令の尺(秦野距離)は呉尺で隋尺の関係は 1.2 倍になる。

呉尺 隋(晋)尺 $35.6 \text{ cm} \div 1.2 = 29.6 \text{ cm}$ (大尺) $29.6 \text{ cm} \div 1.2 = 24.6 \text{ cm}$ (小尺)

呉代、隋代の尺を里に当て嵌めるならば、大里、小里が存在する。

呉尺 隋(晋)尺 $533.5 \text{ m(里)} \div 1.2 = 444 \text{ m(大里)}$ $444 \text{ m(大里)} \div 1.2 = 370 \text{ m(小里)}$

建設され東西 4.5km、南北 5.2km の長方形に区画された都城であった。

東西 $4.5 \text{ km} \div 370 = 12.1 \approx 12$ 南北 $5.2 \text{ km} \div 370 = 14.0 \approx 14$

- > 確かに、難波宮の位置は、仁徳・高津宮を意識したようにみえますね。図参照。
- > 難波大道は、左から 2 晩目のミドリ線上の道です。11km の倍数尺 >
- > 諱は軽(かる)。和風諡号は天万豊日天皇(あめよろずとよひのすめらみこと)。
- > <http://ja.wikipedia.org/wiki/孝徳天皇>
>
- > 父は、オキナガ系の押坂彦人大兄皇子 >
- > 蘇我氏の血を引かない敏達王統の最有力者であって、忍坂部(刑部氏)・丸子部などの独立した財政基盤を有し、王都を離れて水派宮(みまたのみや、奈良県河合町か)を営んでいた >>
- > 忍坂宮時代からの河内・三嶋に基盤があるんですね。図参照。 >
- > 高津宮のその基盤のひとつで、それでそのあたりに難波宮を建て得たのかもしれませんが。 >>
- > ただ、そうすると河内王朝時代を、やはり少なくとも 2 王統で理解する必要がありそうです。

Re:玉纏太刀・子持ち勾玉 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 7 日(日)23 時 39 分 19 秒 返信・引用
編集済

> No.1428[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>> 大雀(おおさざき)仁徳天皇(にんとくてんのう) >> 河内平野における水害を防ぎ、また開発を行うため、難波の堀江の開削と茨田堤(大阪府

寝屋川市付近)の築造を行った

>

- > <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%81%E5%BE%B3%E5%A4%A9%E7%9A%87> >>
- > 難波大道 >
- > 1970 年に岸俊男・足利健亮の研究により、そのルートが具体的に示され
- > 昭和 55 年(1980)大和川今池遺跡の発掘調査で、両側溝を備え、南北直線方向に 伸びる飛鳥時代の道路跡が発見されました。道路幅は側溝芯々幅で 19m もあり、当時の一級官道としての規模を備えた

もので、また発見されたその位置が、難波宮中心線に合致することから、記紀に見える難波宮から飛鳥宮に至る大道に相当するものであると考えられ、"難波大道"と銘々されました。---「今池遺跡と難波大道」詳細は >

- > 道路幅は側溝芯々幅で19m もあり
- > <http://www.k3.dion.ne.jp/~kawatino/wark/nanbaL.htm> >
- > 1980 年に堺市北区常磐町で下水処理場の新設工事中に幅 18 メートルの道路遺構が発見され
- > <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A3%E6%B3%A2%E5%A4%A7%E9%81%93> >
- > 呉尺 隋(晋)尺
- > $533.5 \text{ m(里)} \div 1.2 = 444 \text{ m(大里)}$
- > $444 \text{ m(大里)} \div 1.2 = 370 \text{ m(小里)}$ >
- > 古墳は奈良の南別所付近から古墳間隔は 3.705km(10 小里)で古墳築造
- > 古墳間隔は実測 3.71km となる。晋代頃に古墳造営? >
- > 短里
- > 呉尺 44.4 m 隋(晋)尺 37 m >
- > 難波大道は隋(晋)尺の短里になっている。 >
- > $37 \div 2 = 18.5 \text{ m}$ >
- > 添付図、古墳の空白状況から難波大道の都の幅は 3.7km になるな。

> > >

確かに、難波宮の位置は、仁徳・高津宮を意識したようにみえますね。図参照。 難波大道は、左から 2 晩目のミドリ線上の道です。11km の倍数尺

諱は軽(かる)。和風諡号は天万豊日天皇(あめよろずとよひのすめらみこと)。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/孝徳天皇>

父は、オキナガ系の押坂彦人大兄皇子

蘇我氏の血を引かない敏達王統の最有力者であって、忍坂部(刑部氏)・丸子部などの独立した財政基盤を有し、王都を離れて水派宮(みまたのみや、奈良県河合町か)を営んでいた

忍坂宮時代からの河内・三嶋に基盤があるんですね。図参照。 高津宮のその基盤のひとつで、それでそのあたりに難波宮を建て得たのかもしれませんが。

ただ、そうすると河内王朝時代を、やはり少なくとも 2 王統で理解する必要があるそうです。

『30 代男性のハートをわしづかみ!!かつて熱狂した駄菓子』ランキング 454 人が見えています

『休日ドライブで寄りたい札幌近郊の産直』ランキング 415 人が見えています

『キャンプだけじゃない!「太陽の国」宮崎のうまいもん』ランキング 637 人が見えています

知って得するランキング-ランキングシェア byGMO 太陽光発電が 100 万円安く? - www.tainavi.com 【都内 41 歳男】タイナビで太陽光発電 を見積ると訪販より 100 万安かったです 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する 企業用/紙媒体を電子化する - ebook.digitalink.ne.jp チラシ・カタログ・資料が電子化! 楽に管理できて、作成できる ActiBook スカイゲートの海外航空券 - www.skygate.co.jp オンラインで検索、空席照会。 予約、購入まで可能。24 時間受付中。 Ads by Google Re:玉纏太刀・子持ち勾玉 投稿者:管理人 投稿日:2013 年

4月7日(日)23時13分9秒 返信・引用 編集済

> No.1428[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 仁徳天皇は神宮皇后の孫になる。武内宿禰の年齢から武内宿禰の返し歌
- > は不可能なので現在の仁徳陵の埋葬者は神功皇后が韓半島から連れてきた
- > 漢人ではないか。大小路鉾用胴掛(右側部分)の人物では。渡来人 >>
- > 武内宿禰は神功皇后の三韓征伐に登場している。
- > <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E9%9F%93%E5%BE%81%E4%BC%90> >>
- > 仁徳天皇紀を読む >
- > 誕生 父:応神天皇
- > 母:ナカツヒメ(景行天皇の曾孫) >
- > 和風諡号 オオサザキ(大鷦鷯) >
- > 宮 高津宮(難波) >
- > 武内宿禰の返し歌 >

> <http://kamodoku.dee.cc/nintokuki-wo-yomu.html> >>

再度武内宿禰について考える必要がありそうですね。

■七十三人いる武内宿禰

武内宿禰は現在までに七十三人いる。そして今のところ、その最後が筆者ということになる。この歴代の中には、天皇になった人物もいる。口伝によれば若子という名の武内宿禰がのちに允恭天皇となり、盟神探湯を行ったとある。この人は、雄略天皇=倭王武の父親だが宋書倭国伝の倭王武の上表文の中になる自ら戦って夷狄を討ったという彼の祖「禰」とは武内宿禰を指しているような気がする。

武内宿禰の称号はこの後平群氏に伝わった。途中「紀」姓を名乗ったことがあったが、奈良時代には平群に戻っている。平安末期に最後の女子が清和源氏の義信と結婚してから源氏に伝わるが、戦国時代に季治という人物が息子の長治と絶縁してのちに、娘を越中国にかくまっていた南朝の皇子と結婚をさせた。これ以後は後醍醐源氏となる。江戸時代は武内宿禰の伝承と後南朝小倉宮家の祭祀を受け継いでいた

<http://theoldshinto.web.fc2.com/sukune.html>

「若子」というのが、允恭の名に見える点がありましたが、どうも、末子のことを「若子」というとの見方がありません。

1「若子」というのは一般名詞であり、兄弟が何人かいるうちの末子の男子について古代の通称に用いられている。『記・紀』や系譜資料に見える「若子」をあげてみると、1男浅津間若子宿禰命 仁徳天皇と磐之媛皇后の末男(四男)で、即位して允恭天皇となる(『記・紀』)。2若子宿禰 武内宿禰の末男(七男)と伝える者で、加賀の江沼臣等の祖とされる(『記』及び「紀氏家牒」逸文)。

3大若子命とその弟・乙若子命 大若子命は垂仁朝に越(北陸道)の賊徒阿彦を討伐する功績があったが、そのときに大いに旗(幡)を挙げて戦い勝ったので、大幡主命(おおはたぬしのみこと)の尊称を与えられたと伝える。その弟・乙若子命は伊勢外宮祠官の度会神主の祖とされ、兄弟は伊勢国造の祖・天日別命の後裔と伝える。

<http://www2.ucom.ne.jp/hetoyc15/keijiban/wakugo1.htm>

確かに、「若(稚)」のつく皇子名はどちらかという末男に近いようですが、例外もありそうです。

開化天皇 若倭根日子大毘々命(孝元天皇の三(末?)男)

妃・姫某弟の稚武彦命(次男)長男は彦狭島命

成務天皇 若常日子天皇(八坂入媛命の長男。次男は稚倭根子皇子)

允恭天皇 男浅津間若子宿禰王(仁徳の四男)

雄略天皇 大長谷若建命 (允恭の五男)

清寧天皇 白髮武広国押稚日本根子天皇 (雄略の三男)

星川稚宮皇子 (雄略の次男)

武烈天皇 小長谷若雀命 武烈姉妹 真稚皇女(まわかのひめみこ) - 『古事記』は真若王で男性とする。

継体子:稚子媛(わかこひめ。三尾角折君の妹) 小野稚娘皇女

欽明の子:橘本稚皇子(たちばなのもとのわかみこ)

崇峻天皇:長谷部若雀天皇(欽明第 12 男)

「若」に対するのが「大兄」とか「日子」になるでしょうか。「若」の天皇が王統に多い理由のひとつに、末子相続の件がありますね。反対が長子相続。

末子相続と長子相続の相違は、家系や王統的なものか、あるいは別の理由によるかも課題で すね。

中臣系は「若宮」のように開化系や「若」「中・仲」をアイデンティティーを持ちますね。開化系 はその後継体系ともむすびついて同様な傾向を受け継ぎます。

それで武内宿禰の末男を若子宿禰とする件ですね。

允恭=男浅津間若子宿禰命

仮に若=末子説が正しいなら、少なくとも、双方は、習俗的に、末男に若をつけ、さらに主に末 男継承をする民族系統の大王となるでしょうか。

「大兄」が入ってくるのはもっと後の6世紀の半島系の蘇我・秦・欽明時代でしょう。

これがもし長男相続とすると、その後にもまた崇峻で「若」と末男相続の系統が混じるとなると、 そのあたりで、王統の変化が生じた可能性を感じますが、若がはたして末子だったのかは、ち ょっとまだ判断しがたいですね。王統と関係あるようには感じるのですが。

「ワカミタフリ」ですね。「若」のつく皇子を王につける王統??

Ads by Google Re:玉纏太刀・子持ち勾玉 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 7 日(日)07 時 37 分 45 秒

返信・引用 > No.1427[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

仁徳天皇は神宮皇后の孫になる。武内宿禰の年齢から武内宿禰の返し歌 は不可能なので現在の仁徳陵の埋葬者は神功皇后が韓半島から連れてきた 漢人ではないか。大小路鉾用胴掛(右側部分)の人物では。渡来人

高津宮(難波)の大道は隋(晋)尺のようだな。晋(晋、しん、265 年 - 420 年) [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%99%8B_\(%E7%8E%8B%E6%9C%9D\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%99%8B_(%E7%8E%8B%E6%9C%9D)) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%99%8B>

武内宿禰は神功皇后の三韓征伐に登場している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E9%9F%93%E5%BE%81%E4%BC%90>

仁徳天皇紀を読む

誕生 父:応神天皇

母:ナカツヒメ(景行天皇の曾孫)

和風諺号 オオサザキ(大鷯鷯) 宮 高津宮(難波) 武内宿禰の返し歌 <http://kamodoku.dee.cc/nintokuki-wo-yomu.html>

大雀(おおさざき)仁徳天皇(にんとくてんのう)

河内平野における水害を防ぎ、また開発を行うため、難波の堀江の開削と茨田堤(大阪府寝屋川市付近)の築造を行った

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%81%E5%BE%B3%E5%A4%A9%E7%9A%87>

難波大道

1970年に岸俊男・足利健亮の研究により、そのルートが具体的に示され、昭和55年(1980)大和川今池遺跡の発掘調査で、両側溝を備え、南北直線方向に伸びる飛鳥時代の道路跡が発見されました。道路幅は側溝芯々幅で19mもあり、当時の一級官道としての規模を備えたもので、また発見されたその位置が、難波宮中心線に合致するところから、記紀に見える難波宮から飛鳥宮に至る大道に相当するものであると考えられ、“難波大道”と銘々されました。---「今池遺跡と難波大道」詳細は

道路幅は側溝芯々幅で19mもあり

<http://www.k3.dion.ne.jp/~kawatino/wark/nanbaL.htm>

1980年に堺市北区常磐町で下水処理場の新設工事中に幅18メートルの道路遺構が発見され
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A3%E6%B3%A2%E5%A4%A7%E9%81%93>

呉尺 隋(晋)尺 533.5 m(里)÷1.2=444 m(大里) 444 m(大里)÷1.2=370m(小里)

古墳は奈良の南別所付近から古墳間隔は 3.705km(10 小里)で古墳築造 古墳間隔は実側 3.71km となる。
晋代頃に古墳造営?

短里 呉尺 44.4 m 隋(晋)尺 37 m

難波大道は隋(晋)尺の短里になっている。 37÷2=18.5 m 添付図、古墳の空白状況から難波大道の都の幅は 3.7km になるな。

Re:玉纏太刀・子持ち勾玉 投稿者:管理人 投稿日:2013年4月5日(金)23時04分26秒 返信・引用 編集済
秦野北斗さんへのお返事です。

> 新羅で子持ち土器、七子鏡つか七支刀は同族を表わすシンボルでしょうな。 > 古事記のヤマタノオロチも同様ですな。七国、在ったのでしょうな

>> 七支刀(ななつさやのたち)、七子鏡(ななつこのかがみ)、および種々の重宝を倭国へ 奉った。 >

ちょっと引用 URL の下記の記載は重要です。

なお、吉野裕子は[25]、仁徳天皇と石上神宮との関係について、『古事記』中巻歌謡 48 を、皇子時代の仁徳天皇が七支刀を佩用していた様子を吉野の国主達が歌ったものと推測している。 本牟多能 比能美古 意富佐邪岐 意富佐邪岐

波加勢流多知 母登都流藝 須恵布由 布由紀能須 加良賀志多紀能 佐夜佐夜[26] 品陀(ほむた)の日(ひ)の御子(みこ) 大雀(おおさざき) 大雀(おおさざき) 佩(は)かせる大刀(たち) 本(もと)つるぎ 末(すえ)ふゆ ふゆ木(き)のすからが下樹(したき)のさやさや なお、石上神宮は、朝廷の武器庫であり、多くの武器を宝蔵したともされる。七支刀もその一つ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/七支刀>

#.E4.B8.83.E5.AD.90.E9.8F.A1.E3.81.A8.E3.83.9C.E3.82.B9.E3.83.88.E3.83.B3.E7.BE.8E.E8.A1.93.E9.A4.A8.E6.89.80.E8.94.B5.E9.8A.85.E9.8F.A1

この「末」須加良賀が、先の須賀利横刀に対応するかもしれません。

この歌の意味が難しいのですが、大雀つまり仁徳の佩く太刀について歌っているようにみえます。

冬木というのは葉のない枝だけの木ということでしょうか。手元の剣の部分とは別に、柄の末の部分広がって樹木状になっているということでしょうか。下樹がこすれるように、サヤサヤと音がする？先の玉まき太刀についていた鈴の音と関係するのでしょうか。図 1 参照。引用もとはこちら。

<http://rinkai1129.blog113.fc2.com/?no=153>

末広がりという意味が掛詞になっているはずなので、図 2 のハート型の末広がりタイプつまり玉まき太刀に対してのスカリ太刀との関係ですね。樹木に関しては新羅の樹木冠が有名で、東欧系の樹木信仰とも関わっているように見えます。

確かに末の部分が樹木状に分かれているとしたら、七支刀の形状とも類似する可能性はありそうです。時代的にはおそらくそのころ。

3 番目の画像は、先の由水さんの本からの引用で、四枝槍、鉄鉾、有棘利器です。

これらは七支刀のイメージと似てますね。有棘利器は、勾玉が7つ着いたようなちょうど先の子持ち勾玉にも類似します。

あと「七」の意味ですが、仮に支族や国を意味するとすると、たとえば伽耶 12 国(支族)とか、百済・任那・成務・応神・仁徳朝に関わるタケウチスクネの後裔 7 氏族とか思いつきます。

波多八代宿禰[2](はたのやしろのすくね) - 波多臣、林臣、波美臣、星川臣、淡海臣、長谷部臣、熊懷氏の祖 巨勢小柄宿禰(こせのおからのすくね) - 巨勢臣、雀部臣、輕部臣の祖 蘇我石川宿禰 - 蘇我臣、川辺臣、田中臣、高向臣、小治田臣、桜井臣、岸田臣の祖 平群木菟宿禰(へぐりのつくのすくね) - 平群臣、佐和良臣、馬御織連の祖 紀角宿禰(きのつのすくね) - 紀臣、都奴臣、坂本臣の祖

葛城襲津彦 - 玉手臣、的臣、生江臣、阿藝那臣の祖 若子宿禰(わくごのすくね) - 江野財臣、利波臣、射水臣の祖

<https://ja.wikipedia.org/wiki/武内宿禰>

後に允恭の時代になると、男浅津間若子宿禰王が允恭天皇となるわけですが、おそらく上記の若子宿禰がクーデターかなにかで王になった可能性を感じますね。ここで倭の 5 王の系譜も一度途切れてます。

もっとも「宿禰」のつく集団はおそらく血縁的に同族なんでしょう。任那・百済にも同族がいればはず。成務とタケウチ宿禰が同日生まれなのも、半島系の成務の出自が彼らの 7 氏族から選出されたであろうことを示しています。

彼らは確かに、七支刀、七子鏡を以て、自身の血縁集団の象徴としていた可能性はありそうですね。元のモチーフは、メノラーみたいにもっと古いものだったのかもしれない。

Re:玉纏太刀・子持ち勾玉 投稿者:茨の紀氏 投稿日:2013 年 4 月 5 日(金)13 時 22 分 30 秒 返信・引用

> No.1425[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>七国、在ったのでしょうな 呉・楚を中心に趙(ちょう)・膠西(こうせい)・膠東・川(しせん)・済南の 7 王国が起こした

反乱 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

Re:玉纏太刀・子持ち勾玉 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 5 日(金)01 時 38 分 56 秒 返信・引用 編集 済

> No.1424[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> あと、秦野さん注目の子持ち勾玉なのですが、下図の宝石をたくさんつけた獅子面のバックルがちょうど剣にもつくようなので、類似しているといえそうですね。

子持ち勾玉を獅子面のバックル同様と考えているのは疑問があるな。
なぜ、獅子面のバックル類似なのかな。

新羅王墓出土の黄金剣は、東欧系系譜を引くケルト黄金剣。

東欧のフン族と匈奴、月氏が新羅を建国し、のちに月氏(弓月君)が日本に渡った。 韓国の国旗の意味は、赤は陽、青は陰の意味、太極すなわち宇宙を表す、統一

実の所はフン族と匈奴、月氏の三つ巴から月氏が抜けた二つ巴に成ったのでしょな。

黄金剣はフン族のなごりですな。

子持ち勾玉は同族と領土地図を表わすもの。例ですが、扶桑国が兵を女国に送る場合ですが 九州(阿蘇)の奴国に渡り、伊都国から韓半島、韓半島から陸路シルクロードを移動する。扶桑 国から女国まで 13 万里の移動になる。移動には同族識別と領土地図が必要になる。

新羅で子持ち土器、七子鏡つか七支刀は同族を表わすシンボルでしょな。 古事記のヤマタノオロチも同様ですな。七国、在ったのでしょな

七枝刀(ななつさやのたち)、七子鏡(ななつこのかがみ)、および種々の重宝を倭国へ奉 った。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%83%E6%94%AF%E5%88%80%E4.B8.83.E5.AD.90.E9.8F.A1.E3.81.A8.E3.83.9C.E3.82.B9.E3.83.88.E3.83.B3.E7.BE.8E.E8.A1.93.E9.A4.A8.E6.89.80.E8.94.B5.E9.8A.85.E9.8F.A1>

> 玉纏太刀のスガル太刀とともに、神宝として伝承された続けたのですが、スガルの語源は、 腰細のハチの意味で万葉集に歌われました。尾張の小子部スガル(雷)なども、関係して、継 体・尾張氏関係の伝承に基づく神宝だろうと考えてます。会報で以前論じたとおりです。 >

> それで、そのハチ型の形状の元が、おそらく新羅の神宝剣にあるのではないかと考えてい るのですが、その新羅王墓出土の黄金剣は、東欧系系譜を引くケルト黄金剣ではないかと思 われています。図を添付します。 >

> 下図の引用元は、由水常雄さんの『ローマ文化王国-新羅』です。 >> それで図のように、ローマ系のコーヒカップやリュトンの系譜になるものが、新羅で子持 ち土器になっていくわけですが、この辺は先の七子鏡つか七支刀とも関わってくるでしょう。 似たような刀に4本に枝分かれした槍があります。これも由水さんの本に載ってますね。 >> あと、秦野さん注目の子持ち勾玉なのですが、下図の宝石をたくさんつけた獅子面のバックルがちょうど剣にもつくようなので、類似しているといえそうですね。

>> これらは、古墳時代中期に新羅に流れ込んだ北燕遺民によってもたらされたもので、その 中に東欧系の技術職人が多くいたことによるもので、継体や天智の周囲にいた今来漢人の祖 先なのですが、その辺はまた会報のほうご参照ください。 >> いずれにせよ、これから考古学やる人は由水さんの本は買って一度読んでおいたほうがよいでしょう。ちかいうちに由水さんのこのローマと新羅の技術系譜に関する指摘が学会の主流になるはずですよ。ならないとすると、学会側に問題があるのでしょう。

玉纏太刀・子持ち勾玉 投稿者:管理人 投稿日:2013年4月4日(木)22時48分25秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

> 古墳には副葬品に子持ち勾玉がある。古墳時代の祭祀(さいし)用具しか思いつかないのだ な。 >> こもち-まがたま 【子持ち▽勾玉】

>> 大形の勾玉に、数個の小形の勾玉形の突起を付加したもの。古墳時代の祭祀(さいし)用具と 考えられる。 > <http://kotobank.jp/word/%E5%AD%90%E6%8C%81%E3%81%A1%E5%8B%BE%E7%8E%89> >> 実の所、勾玉は国津神のシンボルになる。子持ち勾玉は領地を表わす。 > 突起は部族都市を表わす。目が韓半島(やまと)、腹の突起がインド、側面の突起がバビロン、 天竺、中国、背の突起は遊牧民。

子持ち勾玉をみると、やはり同時代の玉纏太刀、スガル太刀との兼ね合いを考慮すべきだと 感じますね。

<http://matometanews.com/archives/741266.html>

玉纏太刀は、妙なことに、柄に護拳という手を護る輪がついています。 後代のサーベルにも類似するのですが、

その両者の起源がどこにあるかを探る必要があるで

しょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/護拳>

玉纏太刀のスガル太刀とともに、神宝として伝承された続けたのですが、スガルの語源は、腰 細のハチの意味で万葉集に歌われました。尾張の子部スガル(雷)なども、関係して、継 体・尾張氏関係の伝承に基づく神宝だろうと考えてます。会報で以前論じたとおりです。

それで、そのハチ型の形状の元が、おそらく新羅の神宝剣にあるのではないかと考えている のですが、その新羅王墓出土の黄金剣は、東欧系系譜を引くケルト黄金剣ではないかと見ら れています。図を添付します。

下図の引用元は、由水常雄さんの『ローマ文化王国-新羅』です。

それで図のように、ローマ系のコーヒカップやリュトンの系譜になるものが、新羅で子持ち 土器になっていくわけですが、この辺は先の七子鏡つか七支刀とも関わってくるでしょう。 似たような刀に4本に枝分かれした槍があります。これも由水さんの本に載ってますね。

あと、秦野さん注目の子持ち勾玉なのですが、下図の宝石をたくさんつけた獅子面のバック ルがちょうど剣にもつくようなので、類似しているといえそうですね。

これらは、古墳時代中期に新羅に流れ込んだ北燕遺民によってもたらされたもので、その中 に東欧系の技術職人が多くいたことによるもので、継体や天智の周囲にいた今来漢人の祖先 なのですが、その辺はまた会報のほうご参照ください。

いずれにせよ、これから考古学やる人は由水さんの本は買って一度読んでおいたほうがよい でしょう。ちかいうちに由水さんのこのローマと新羅の技術系譜に関する指摘が学会の主 流になるはずです。ならないとすると、学会側に問題があるのでしょうか。

Ads by Google 方位ライン動画ページ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 4 日(木)06 時 52 分 39 秒

返信・引用 ちょっとお知らせです。先日から論議してきた方位ライン(区画)の説明動画を、

下記ページからすべて見れるようにしました。よろしくご参照ください。後日関連画像もあ わせてすぐ見れるようにする予定です。

<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/houiline.htm> Re:河内・奈良方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 4 日(木)00 時 18 分 50 秒 返信・引用 編集済

> No.1421[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古墳には副葬品に子持ち勾玉がある。古墳時代の祭祀(さいし)用具しか思いつかないのだな。 こもち-まがたま【子持ち▽勾玉】

大形の勾玉に、数個の小形の勾玉形の突起を付加したもの。古墳時代の祭祀(さいし)用具と 考えられる。

<http://kotobank.jp/word/%E5%AD%90%E6%8C%81%E3%81%A1%E5%8B%BE%E7%8E%89>

実の所、勾玉は国津神のシンボルになる。子持ち勾玉は領地を表わす。 突起は部族都市を表わす。目が韓半島(やまと)、腹の突起がインド、側面の突起がバビロン、天 竺、中国、背の突起は遊牧民。

特にバビロンは黙示録に記録され、挿絵がある。

絵の女性が神功皇后で壱與、卑弥呼の弟の娘になる。鷲は三韓征伐の百済を建国したフン族 開口神社 大小路 鉾用胴掛(左側)になる。尚、胴掛の三つ巴の紋は三韓征伐に参加した フン族(ユダヤ)、月氏、慕容を指す。フン族(ユダヤ)は中臣、月氏は新羅建国後に葛城氏により 九州に弓月君として入っている。

「イクシュス」と伊勢神宮のユダヤ文字が理解できましたかな。 イエスはフン族の王子と思われる。ローマがキリスト教を受け入れる事になる理由。

フン族の勢力はハルマゲドンで全ヨーロッパに及びキリスト教国になった模様。

卑弥呼は鮮卑の皇女が正式名、鮮卑は匈奴に属するのではあるばるバビロンから援軍を

送ったがシルクロードの中臣は先着するが、二陣は雄略天皇の時代になる。 子持ち勾玉の円形のボツはサルタヒコ(灯籠)で光通信網だろうな。

>> イクシュス 金銅双魚佩 キリスト 割符…契約 >> 無限記号∞あるいは数字の8…ハ∞一魚の尾=(=魚) ム…寝た9 古代 史-鹿 島町(真野郷)の解説この高島町には継体天皇と縁が深く金銅双魚佩が発見された。 ... あっ た人にそれは誰かここに遣わされたものか在地のものか
...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1722> >>> 魚ハイは、古墳時代の人形埴輪からみえますが、護身剣思想とも関わります。イクツウスなど護符の件もそうですね。継体朝時代が重要でしょう。 >> あと、先の大刀契についてはこの辺が面白いですね。 >> <http://seiwagenjisinjituryu.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/post-ba87.html>

Re:河内・奈良方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 3 日(水)23 時 11 分 3 秒 返信・引用 編集済
> No.1420[元記事へ]

楚の紀氏さんへのお返事です。

- > 秦野北斗さんへのお返事です
- > > そろそろ、古代史の真実を暴露しそうですね。 >
- > イクシュス 金銅双魚佩 キリスト 割符…契約
- > 無限記号∞あるいは数字の8…ハ∞一魚の尾=「イクシュス」(=魚) ム…寝た9 古代 史-鹿島町(真野郷)の解説この高島町には継体天皇と縁が深く金銅双魚佩が発見された。 ... あった人にそれは誰かここに遣わされたものか在地のものか ...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1722>

魚ハイは、古墳時代の人形埴輪からみえますが、護身剣思想とも関わります。イクツウスなど 護符の件もそうですね。継体朝時代が重要でしょう。

あと、先の大刀契についてはこの辺が面白いですね。

<http://seiwagenjisinjituryu.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/post-ba87.html> Re:河内・奈良方位区画 投稿者:楚の紀氏 投稿日:2013 年 4 月 3 日(水)10 時 14 分 30 秒 返信・引用

> No.1419[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です

> そろそろ、古代史の真実を暴露しそうですね。

イクシュス 金銅双魚佩 キリスト 割符…契約 無限記号∞あるいは数字の8…ハ∞一魚の尾=「イクシュス」(=魚) ム…寝た9 古代 史-鹿島町(真野郷)の解説この高島町には継体天皇と縁が深く金銅双魚佩が発見された。 ... あった人にそれは誰かここに遣わされたものか在地のものか

...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1722> 大伴氏【伴】(イ+半)=イクシュス…割符

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%86%8A%E6%9C%AC%E7%9C%8C%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2> 白い亀

中国の律令で定められた魚に似た形の割符 金銅双魚佩の原型の一つだけの魚佩 魚佩 魚佩 (ぎょはい) 腰に下げる魚形の装飾品。 古墳から出土するものは向き合う2匹の魚を表した、板状の金銅製品で、うろこやひれを毛彫りで表しています。出土例は奈良県藤ノ木ふじのき古墳など数例があるだけで、太刀の飾りと推定されるものもあります。 ... http://www.city.habikino.osaka.jp/info/115/bunkazai/iseki/kaisetu/k_gyohai.html

日置 魚佩の全長 20.5cm、幅 6cm。 双竜環頭太刀出土。 長須賀には金鈴塚 ... 魚佩の全長約 20cm、幅 9.5cm。 ...【景教】は、古代東方教会の信徒たちがシルクロードを通して【唐代中国に宣教した キリスト教】である。 ...

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1225>

魚が好きな者は東に渡って日本人となった。 ... 秦氏は、もともとは、景教徒の拠点であった 中央アジアの弓月国に住み、景教(ネストリウス派キリスト教) ... http://m.webry.info/at/love55555/200806/article_3.htm

i=&p=&c=m&guid=on キルギス語やさらに東方のモンゴル語では、テングリは「神」「天」という意味になります。

イクシユス」(=魚)<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1723> 塩水の中に住む魚が、塩化しないのと同じである。それは生命を持っているからである。... かくしてドル離れが進む。... 古代のネストリウス派宣教師たちが、千数百年も前にすでにチベットで福音を宣べ伝えていた痕跡を発見したのです。...

<http://www.kingdomfellowship.com/cgi-bin/diarypro/diary.cgi?date=200801> インドの聖者サドゥー・サンダー・シング師 イエスの福音を記した巻物を発見します。古代のネストリウス派宣教師たちが、千数百年も前にすでにチベットで福音を宣べ伝えていた痕跡を発見したのです。そしてついに、ヒマラヤのとある洞穴で、シング師は、クリスチャンの行者に出会います。中 近東出身のこの行者は主の召しを受け、世界の屋根である最高峰に登って、全人類の救いを求めて執り成すよう命じられ、長い年月を洞穴にこもって祈り続けて来たのでした。年齢百数十歳を超える行者は、東洋においてひそかに進行しているイエスの救いの計画について、シング師に光を与えたのでした。

Re:河内・奈良方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年4月3日(水)00時30分4秒 返信・引用 編集済
> No.1418[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

そろそろ、古代史の真実を暴露しそうですね。

>> 謹請。皇天上帝。三極大君。日月星辰。八方諸神。司命司籍。左東王父。右西王母。五方五帝。四時四氣。捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。請延帝祚。呪日。東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至弱水。千城百国。精治。万歳万歳万歳。 >>

>> つつしみてこふ。こうていじょうてい。さんきょくたいくん。じつげつせいしん。はちほ

うのしょしん。しめいしせき。ひだりはとうおうのふ。みぎはせいおうぼ。ごほうごてい。しじしき。ささぐるにぎんじんをもってし。わざわいをのぞかんことをこふ。ささぐるにきんとうをもってし。ていそをのべんことをこふ。じゅにいわく。ひがしはふそうにいたり。にしはえんにいたる。みなみえんこうにいたり。きたじゃくすいにいたる。せんじょうひゃっこく。せいじ。ばんざいばんざいばんざい。

>> とある。 >> <http://asutorumember08.iza.ne.jp/blog/entry/2958531/>

慎みて請う。皇天上帝。三極大君。日月星辰。八方諸神。司命司籍。左東王父。右西王母。五方五帝。四時四氣。捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。請延帝祚。呪日。東は扶桑に至る。西は燕に至る。南は燕郊に至る。北は弱水(ヤールー川)。千城百国。政治。万歳万歳万歳。

炎光は燕郊でこれは『山海経』海内北経に、「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」の燕の国境ですな。文章から漢江(ハンガン)の様だな。

雄略天皇(ゆうりゃくてんのう)が倭の五王の力を借りて韓半島を制圧したのだらうな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%84%E7%95%A5%E5%A4%A9%E7%9A%87>

大刀契ですか。神功皇后、雄略天皇に見られる魚ですな。これはフン族(匈奴)の紋章の模様。身近なものでキリストの魚、イクトゥスですな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%88%E3%82%A5%E3%82%B9>

開口神社 大小路鉾用胴掛の服装にイクトゥスと蝶があるな。

> しかし大刀契がどのようなものであったかは、史料からある程度、推測することはできる。それは「大刀」と「契」から成っており、そのうち契は、「魚符」とか「魚形」と書かれているのをみると、魚の形をした付属品と考えられる。魚形の飾りと剣がセットとなった例では、奈良県斑鳩町の藤ノ木古墳から、玉纏大刀(たままきのたち)とともに、魚佩(ぎょはい)が出土している。また、伊勢神宮の神宝の玉纏御大刀にもフナ型と呼ばれる二つの金銅製の魚の形をした飾りが付属している。

>> 大刀の方は、櫃の中に納められていた十柄ほどあった節刀の中の二本の「霊剣」を指すも

のとみられる。嘉保元年(一〇九四)十月、堀河院の炎上で、大刀契が焼損したときの記録が『中右記』にあり、切鋒の剣様で長さは二尺二寸、峯(みね)に銘文があり、「北斗」や「青竜」

「白虎」などの文字ないし、形が認められたと記している。

>> <http://www.worldtimes.co.jp/special/yukari/yu021224.htm> >>

Re:河内・奈良方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 2 日(火)23 時 11 分 22 秒 返信・引用

> No.1417[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 謹請。皇天上帝。三極大君。日月星辰。…の文章は「倭の五王」の文章です。
- > 『宋書』倭国伝と同一内容になる。 >
- > 好太王碑の文章と付き合わせる必要が在る。「倭の五王」は蘇我氏に繋がる。
>
- > 『宋書』倭国伝
- > 順帝昇明二年(478 年)、…(海を)渡り海北を平定すること九十五国…の文章 >
- > 我が国の古典として、我等が最も大切にする祝詩の中にも能く其の意味が表れている。例 えば『東文忌寸部、獻横刀時呪』(やまとのふみのいみきべがたちをたてまつるときのじ ゅ)に、 >> 謹請。皇天上帝。三極大君。日月星辰。八方諸神。司命司籍。左東王父。右西王母。五方五帝。四 時四氣。捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。請延帝祚。呪日。東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至 弱水。千城百国。精治。万歳万歳万歳。 >> つつしみてこふ。こうていじょうてい。さんきょくたいくん。じつげつせいしん。はちほう のしよしん。しめいしせき。ひだりはとうおうのふ。みぎはせいおうぼ。ごほうごてい。しじし

き。ささぐるにぎんじんをもってし。わざわいをのぞかんことをこふ。ささぐるにきんとうを もってし。ていそをのべんことをこふ。じゅにいわく。ひがしはふそうにいたり。にしはえん にいたる。みなみえんこうにいたり。きたじゃくすいにいたる。せんじょうひゃっこく。せい じ。ばんざいばんざいばんざい。

> とある。 <http://asutorumember08.iza.ne.jp/blog/entry/2958531/>

↑引用もとの URL のほうは忘れないよう気をつけてくださいね。 ご指摘のように九十五国の表現も、この銘文と同類です。

この祝詞は、かなり古い要素を持っています。「司命司籍。左東王父。右西王母」

の部分なのですが、「司籍」という神が極めてマイナーです。後代の皇帝祭祀にも出てこない

神ですね。「左東王父。右西王母」は三角縁神獣鏡の銘文と同じで、その半島・大陸系の銅鏡製造職人の系統とも関わっていたかもしれません。

「南至炎光。」も特殊表現で、南=赤=火とする漢代の思想が出てきてます。後代にこの語は出 てきません。

「捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。」

の「銀人」というのは、後代の大祓儀で小さな木製の人形を使って、罪・災厄とともに水に流 すその原型です。

「金刀」も天皇の長寿を願うための特殊な刀で、護身剣の思想とも関係するのですが、ともあ れ、この手の儀式は、「皇帝」の側に仕えた集団でないと導入することができないものだろう と考えてます。

そしてそれをもたらしたのが、渡来系の東西漢氏です。彼らは百済経由で元は東晋あたりか ら入ってきた後漢皇帝の末裔を名乗る集団でしたから、それらの儀式を習得することができ たのでしょう。

そして、成務・応神朝の時代に、日本へ渡ってきて、皇帝祭祀を執り行っただと考えるべきかも かもしれません。

同時に各種の儀式道具を造る技術職人でもあったんですね。

おそらく七枝刀を造ったのも彼らでしょう。

先の「金刀」の意味ですが、すべて金で出来た刀というよりは、金製の刺繍や金象嵌の刀の可能性を感じます。

七支刀も金象嵌でした。銘文はこちら。 泰■四年■月十六日丙午正陽造百鍊■七支刀■辟百兵宜供(異体字、尸二大)王■■■■■作

先世(異体字、口人)来未有此刀百済■世■奇生聖(異体字、音又は晋の上に点)故為(異体字、尸二大)王旨造■■■世

その後、頻繁に神功皇后 52(372[20])年 秋九月丁卯朔丙子(9月 10日)条に、百済の使である 久氏(くてい)らが、千熊長彦の引率で来倭し[21]、七枝刀(ななつさやのたち)、七子鏡 (ななつこのかがみ)、および種々の重宝を倭国へ奉った。そして『臣(百済)の西に河があり、水源は谷那(こく)の鉄山(かねのむれ)から出ています。遠く、七日間でも到着できなません。この河の水を飲み、この山の鉄を採り、ひたすら聖朝(ひじりのみかど)に奉りま す』と言った[22]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/七支刀> 七子鏡も同類で、思想的には「七」に関わることが、上の文書の「7日間」にも看とれます。似

たような事例で七星剣がありますね。これは北斗七星の「七」です。 「聖朝」の「聖」は、七支刀の「聖(晋?)」に関わります。

百済の王の父子は並んで額を地につけ、「貴国の恩恵は天地より重いものです。いついかなる時にも決して忘れません。聖王は天上に

あって、月や太陽のように輝いておられます。私めは下に侍って、忠誠の心は山のように不動 です。永遠に西蕃となつて、二心(ふたごころ)は持ちません。」と言いました。 <http://himeluna.exblog.jp/16262647/>

ここでも「聖王」が出てきます。この条文の原典はつまり先の祝詞の「皇天上帝。三極大君。日月星辰」ですね。

おそらく、その時代の王朝の上表分などの文書表現は、古い中国系の漢文を元に、崩して日本 や朝鮮風にアレンジして再利用している可能性を感じます。

蘇我氏も後に漢氏を配下に入れますが、間接的には彼らの影響を受けていたはずで、渡来前 の半島時代には同様な皇帝祭祀をなされる側にあったかもしれません。

だから日本に来てもお天皇と同格の祭祀をしようと考えていたのでしょう。亡命王族の意識というのは難しい部分があり、いっしょに渡来してきた臣下たちはまだ王だと思っている わけですから、それ以前の儀式を日本内でも執り行おうとしたでしょう。その辺の儀式が、 日本のほうにも導入されて、百済・高句麗王族の儀式が徐々に入ってくるんですね。

大刀契は、百済王族のそれで、これを追求していくと、おそらく深い歴史が出てきます。

大刀契は通常、宝鏡(八咫鏡)と同じく内裏の温明殿(うんめいでん=賢所)に辛櫃(か らびつ)に入れて安置されていたようだ。このことは、『本朝世紀』『日本紀略』などに記されている。また『江家次第』には、大刀契が「伝国璽」と表現され、それが新帝のもとに移る時の 様子を、内侍二人が神璽宝剣を採り「少納言二人大舎人、伝国璽櫃を持ち追従」というふうに 記している。

さて、この大刀契の由来についてだが、鎌倉時代、順徳天皇が書き記した『禁秘抄』に「是百 済より渡さる所」と明記されている。また右大臣藤原宗忠の『中右記』にも「これもと、百済国 献ずる所」と百済伝来であることが記されている。この他、『塵袋』『永和大嘗会記』といった史料にも、百済伝来のことが記されている。

しかし大刀契がどのようなものであったかは、史料からある程度、推測することはできる。 それは「大刀」と「契」から成っており、そのうち契は、「魚符」とか「魚形」と書かれているのを

みると、魚の形をした付属品と考えられる。魚形の飾りと剣がセットとなった例では、奈良県 斑鳩町の藤ノ木古墳から、玉纏大刀(たままきのたち)とともに、魚佩(ぎょはい)が出土 している。また、伊勢神宮の神宝の玉纏御大刀にもフナ型と呼ばれる二つの金銅製の魚の形 をした飾りが付属している。

大刀の方は、櫃の中に納められていた十柄ほどあった節刀の中の二本の「霊剣」を指すもの

とみられる。嘉保元年(一〇九四)十月、堀河院の炎上で、大刀契が焼損したときの記録が『中右記』にあり、切鋒の剣様で長さは二尺二寸、峯(みね)に銘文があり、「北斗」や「青竜」

「白虎」などの文字ないし、形が認められたと記している。

<http://www.worldtimes.co.jp/special/yukari/you021224.htm>

Re:河内・奈良方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 2 日(火)07 時 48 分 12 秒 返信・引用 編集済
> No.1414[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

謹請。皇天上帝。三極大君。日月星辰。…の文章は「倭の五王」の文章です。『宋書』倭国伝と同一内容になる。

好太王碑の文章と付き合わせる必要が在る。「倭の五王」は蘇我氏に繋がる。

『宋書』倭国伝

順帝昇明二年(478 年)、…(海を)渡り海北を平定すること九十五国…の文章

雄略天皇(ゆうりゃくてんのう、允恭天皇 7 年 12 月 - 雄略天皇 23 年 8 月 7 日)は、第 21 代 天皇
(在位:安康天皇 3 年 11 月 13 日 - 雄略天皇 23 年 8 月 7 日)。大泊瀬幼武尊(おおはつ せわかたけ
るのみこと)、大長谷若建命、大長谷王(古事記)、大悪天皇、有徳天皇とも。

我が国の古典として、我等が最も大切にする祝詩の中にも能く其の意味が表れている。例え ば『東文忌寸部、獻
横刀時呪』(やまとのふみのいみきべがたちをたてまつるときのじゅ) に、

謹請。皇天上帝。三極大君。日月星辰。八方諸神。司命司籍。左東王父。右西王母。五方五帝。四

時四氣。捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。請延帝祚。呪曰。東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至 弱水。千城百
国。精治。万歳万歳万歳。

つつしみてこふ。こうていじょうてい。さんきよくたいくん。じつげつせいしん。はちほうの しょしん。しめい
しせき。ひだりはとうおうのふ。みぎはせいおうぼ。ごほうごてい。しじしき。 ささぐるにぎんじんをもって
し。わざわいをのぞかんことをこふ。ささぐるにきんとうをも ってし。ていそをのべんことをこふ。じゅにい
わく。ひがしはふそうにいたり。にしはえんに いたる。みなみえんこうにいたり。きたじゃくすいにいたる。せ
んじょうひゃっこく。せいじ。 ばんざいばんざいばんざい。

とある。

>

- > 桓武朝の郊祀は重要ですね。皇帝祭祀で当時盛んでした。 >>
- > それで、問題は隅田八幡社鏡銘文の「斯麻念長寿遣開中費直穢人」の部分です。 >
- > 癸未年八月日十大王年男弟王在意柴沙加宮時斯麻念長寿遣開中費直穢人今州利二人等取 白上同二百
早作此竟 >>> これは三嶋(斯麻)にて、王の長寿を念じているのですが、隅田八幡の真北にあたる石切
神社に本拠をおく「開中費直」つまり河内直の配下の「穢人」つまり漢人に鏡を造らせている 件です。 >
> ここで、「西(河内)文史」の存在があります。西(河内)漢氏の配下にいた史系渡来氏族 と見えますが、
彼ら東西文史が担当する解除(大祓い)儀で、下記の古式の皇帝祭祀用の祝 詞を唱えていることです。
>>「謹請皇天上帝。三極大君。日月星辰。八方諸神。司命司籍。左東王父。右西王母。五方五帝。四 時
四氣。捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。請延帝祚。呪曰。東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至 弱水。
千城百国。精治万歳。万歳万歳。」 > <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/bun.htm> >>

> 平安時代に至るまで、毎年 6 月と 12 月晦日に、この祝詞を以てして、天皇の長寿を念じた わけですが、も
しかすると、先の河内直配下の漢人の史層によって、古墳時代中期ごろから皇 帝祭祀のために導入されていた
ものだったかもしれません。 >

>> 倭王武の上表文との文筆的な癖の共通性がないかどうか、再度確認しておくべきかもしれ ません。 >>
倭王武(雄略天皇)は、宋の昇明 2(478 年)年 5 月、宋の皇帝順帝に上表文を奉っている。 >>「封国は偏遠

(へんえん)にして藩(はん)を外に作(な)す。昔から祖彌(そでい)躬(みづか)ら甲冑を環(つらぬ)き、山川(さんせん)を跋涉(ばっしょう)し、寧処(ね いしょ)に違(いとま)あらず。東は毛人を征すること、五十五国。西は衆夷を服すること六十六国。渡りて海北を平らぐること、九十五国。王道融泰(ゆうたい)にして、土を廓(ひろ)き畿を遐(はるか)にす。累葉朝宗(るいようちょうそう)して歳(としごと)に愆(あやま)らず。』(『宋書』倭国伝) >> >「東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至弱水。千城百国。精治万歳。万歳万歳。」あたりに、用語や観念で共通性がみえますね。 >>「畿を遐(はるか)にす。」は、つまり「京・畿(内)」のような都城・方位区画とその領域を意味しています。

継体関連方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 4 月 2 日(火)00 時 03 分 36 秒 返信・引用 編集済

> No.1415[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > > 交野は、推古天皇の領地がありますね。 >
- > 領地としては小さいな。 >
- > 年代がずれる。 >

> 桓武天皇(かんむてんのう、天平 9 年(737 年) - 延暦 25 年 3 月 17 日(806 年 4 月 9 日))は、日本の第 50 代天皇(在位:天応元年 4 月 3 日(781 年 4 月 30 日) - 延暦 25 年 3 がつ 17 日(806 年 4 月 9 日))。 >

> 推古天皇(すいこてんのう、欽明天皇 15 年(554 年) - 推古天皇 36 年 3 月 7 日(628 年 4 月 15 日)『古事記』では戊子年 3 月 15 日)は、第 33 代天皇(在位:崇峻天皇 5 年 12 月 8 日 (593 年 1 月 15 日) - 推古天皇 36 年 3 月 7 日(628 年 4 月 15 日)36 年、『古事記』では 37 年)。日本初の女帝である >

ちょっと継体関連の方位区画を作成してみました。 下図のとおりです。

説明動画はこちら。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/keitai-houiline.mov>

意外にも先の推古の私部(宮)が、継体関連の領地の中に位置づけられていることに気がきます。推古は継体系ではなく欽明系と言われますからね。

この方位区画は、図のように先日の近畿や屯倉方位区画の延長線上にあるのですが、 継体の宮というのが、そもそもともと皇室領から発していることがわかりますね。 継体の出自自体は、5 世紀代の皇族の延長線上にあった可能性を示しています。

元は忍坂宮に関係したオヲオド王の子孫で、後に畿内北方に継体の親族の屯倉関連の皇族領があったのでしょう。 そこに宮を造営しながら、徐々に南下していくわけです。

それで推古がどうして、継体系の領地を保有していたのか?なのですが、旦那の敏達時代に 賜与された領土で、敏達系の領地に関係していた可能性がありますね。敏達は父母から継体 と欽明の両方の領土を継承していたのでしょう。<http://ja.wikipedia.org/wiki/敏達天皇>

そして、奈良と河内を統合した近畿方位区画つまり当時の畿内領域の北方中心点に位置する

この交野・三嶋・長岡方面に、北郊祀領域や宗廟領域を設けようと考えた可能性もあったか もしれません。

Ads by Google Re:河内・奈良方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 4 月 1 日(月)00 時 51 分 55 秒 返信・引用 編集済

> No.1414[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 交野は、推古天皇の領地がありますね。 領地としては小さいな。 年代がずれる。

桓武天皇(かんむてんのう、天平 9 年(737 年) - 延暦 25 年 3 月 17 日(806 年 4 月 9 日)) は、日本の第 50 代天皇(在位:天応元年 4 月 3 日(781 年 4 月 30 日) - 延暦 25 年 3 がつ 17 日(806 年 4 月 9 日))。

推古天皇(すいこてんのう、欽明天皇 15 年(554 年) - 推古天皇 36 年 3 月 7 日(628 年 4 月 15 日)『古事記』では戊子年 3 月 15 日)は、第 33 代天皇(在位:崇峻天皇 5 年 12 月 8 日 (593 年 1 月 15 日) - 推古天皇 36 年 3 月 7 日(628 年 4 月 15 日)36 年、『古事記』では 37 年)。日本初の女帝である

>> 壬申の乱以来の天武天皇系皇統が断絶して天智天皇系皇統が再興されたことを「新王朝」創業に擬え、「新王朝」の都である長岡京で天に対してその事実を報告する意図があったと言われている。

>>>>>

- ・ > 桓武朝の郊祀は重要ですね。皇帝祭祀で当時盛んでした。 >>
- ・ > それで、問題は隅田八幡社鏡銘文の「斯麻念長寿遣開中費直穢人」の部分です。 >
- ・ > 癸未年八月日十大王年男弟王在意柴沙加宮時斯麻念長寿遣開中費直穢人今州利二人等取 白上同二百旱作此竟 >>

> これは三嶋(斯麻)にて、王の長寿を念じているのですが、隅田八幡の真北にあたる石切 神社に本拠をおく「開中費直」つまり河内直の配下の「穢人」つまり漢人に鏡を造らせている 件です。 >

> ここで、「西(河内)文史」の存在があります。西(河内)漢氏の配下にいた史系渡来氏族 と見えますが、彼ら東西文史が担当する解除(大祓い)儀で、下記の古式の皇帝祭祀用の祝 詞を唱えていることです。
>>「謹請皇天上帝。三極大君。日月星辰。八方諸神。司命司籍。左東王父。右西王母。五方五帝。四 時四氣。捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。請延帝昨。呪曰。東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至 弱水。千城百国。精治万歳。万歳万歳。」

>>> 平安時代に至るまで、毎年 6 月と 12 月晦日に、この祝詞を以てして、天皇の長寿を念じた わけですが、もしかすると、先の河内直配下の漢人の史層によって、古墳時代中期ごろから皇 帝祭祀のために導入されていたものだったかもしれません。 >>> 倭王武の上表文との文筆的な癖の共通性がないかどうか、再度確認しておくべきかもしれません。 >> 倭王武(雄略天皇)は、宋の昇明 2(478 年) 年 5 月、宋の皇帝順帝に上表文を奉っている。 >>「封国は偏遠(へんえん)にして藩(はん)を外に作(な)す。昔から祖彌(そでい)躬 (みづか)ら甲冑を環(つらぬ)き、山川(さんせん)を跋涉(ばっしょう)し、寧処(ね いしょ)に違(いとま)あらず。東は毛人を征すること、五十五国。西は衆夷を服すること六 十六国。渡りて海北を平らぐるごと、九十五国。王道融泰(ゆうたい)にして、土を廓(ひろ)け

らき畿を遐(はるか)にす。累葉朝宗(るいようちょうそう)して歳(としごと)に愆 (あやま)らず。」「(『宋書』倭国伝) >>>「東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至弱水。千城百国。精治万歳。万歳万歳。」あたりに、用語 や觀念で共通性がみえますね。

>>「畿を遐(はるか)にす。」は、つまり「京・畿(内)」のような都城・方位区画とその領域 を意味しています。

Re:河内・奈良方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 31 日(日)23 時 26 分 13 秒 返信・引用 編集済

> No.1413[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- ・ > 街道は大きく分けると南北の 3 道、東西の 3 道になるな。
- ・ > 難波宮も同様であれば堺は幻の京だな。 >
- ・ > 藤原京から平城京の南北の道が上ツ道、中ツ道、下ツ道に相当する。
- ・ > 東西の道が丹比郡の丹比道が長尾街道、竹の内街道、茅渚の道に相当する。 >
- ・ > 丹比郡(たじひのこおり/たぢひのこほり)は、かつて河内国にあった郡である。 >

確かに道の件は重要ですね。地形的条件に左右されつつ、方位区画に沿って造営されたので しょう。後でそれらの道と方位区画を重ねた図をご提示しましょう。 方位ラインそのものも、縦横に伸びる糸に例えられて道の觀念のひとつとして表現されてま す。

> 郊祀場 >

> 隅田八幡社、石切神社には郊祀場はないな。 >> 桓武天皇、文徳天皇の郊祀はどうも、平城京方向の古墳郡と

継体天皇方向の古墳を指すと 思われる。 >

- > 桓武天皇
- > 長岡京の南郊にあたる河内国交野郡(寝屋川市付近)の柏原にて郊祀が行われたものである。 >
- > 文徳天皇
- > 斉衡 3年 11月 22日から翌日にかけて同じく柏原で郊祀が行われている。 >>
- > 郊祀場は河内国交野郡柏原:寝屋古墳(寝屋川市寝屋川公園)>>
交野は、推古天皇の領地がありますね。

<http://www.47news.jp/CN/200312/CN2003120501000518.html>

再度位置確認する必要がありますが、星辰関連の祭祀と関係したでしょう。そしてダイレクとに方位測量に関わってくるかもしれません。

> 天智天皇の郊祀場も同様に古墳と間違えている模様。 >> 壬申の乱以来の天武天皇系皇統が断絶して天智天皇系皇統が再興されたことを「新王朝」創業に擬え、「新王朝」の都である長岡京で天に対してその事実を報告する意図があったと言われている。 >>

桓武朝の郊祀は重要ですね。皇帝祭祀で当時盛んでした。それで、問題は隅田八幡社鏡銘文の「斯麻念長寿遣開中費直穢人」の部分です。

癸未年八月日十大王年男弟王在意柴沙加宮時斯麻念長寿遣開中費直穢人今州利二人等取白 上同二百早作此竟

これは三嶋(斯麻)にて、王の長寿を念じているのですが、隅田八幡の真北にあたる石切神社に本拠をおく「開中費直」つまり河内直の配下の「穢人」つまり漢人に鏡を造らせている件です。

ここで、「西(河内)文史」の存在があります。西(河内)漢氏の配下にいた史系渡来氏族と見えますが、彼ら東西文史が担当する解除(大祓い)儀で、下記の古式の皇帝祭祀用の祝詞を唱えていることです。

「謹請皇天上帝。三極大君。日月星辰。八方諸神。司命司籍。左東王父。右西王母。五方五帝。四時四氣。捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。請延帝祚。呪曰。東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至弱水。千城百国。精治万歳。万歳万歳。」 <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/bun.htm>

平安時代に至るまで、毎年6月と12月晦日に、この祝詞を以てして、天皇の長寿を念じたわけですが、もしかすると、先の河内直配下の漢人の史層によって、古墳時代中期ごろから皇帝祭祀のために導入されていたものだったかもしれません。

倭王武の上表文との文筆的な癖の共通性がないかどうか、再度確認しておくべきかもしれません。

倭王武(雄略天皇)は、宋の昇明2(478年)年5月、宋の皇帝順帝に上表文を奉っている。

「封国は偏遠(へんえん)にして藩(はん)を外に作(な)す。昔から祖彌(そでい)躬(みづか)ら甲冑を環(つらぬ)き、山川(さんせん)を跋涉(ばっしょう)し、寧処(ねいしよ)に遑(いとま)あらず。東は毛人を征すること、五十五国。西は衆夷を服すること六十六国。渡りて海北を平らぐること、九十五国。王道融泰(ゆうたい)にして、土を廓(ひろ)き畿を遐(はるか)にす。累葉朝宗(るいようちょうそう)して歳(としごと)に愆(あやま)らず。」(『宋書』倭国伝)

「東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至弱水。千城百国。精治万歳。万歳万歳。」あたりに、用語や観念で共通性がみえますね。

「畿を遐(はるか)にす。」は、つまり「京・畿(内)」のような都城・方位区画とその領域を意味しています。 Re:河内・奈良方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月31日(日)20時16分54秒 返信・引用 編集済

> No.1412[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

街道は大きく分けると南北の3道、東西の3道になるな。難波宮も同様であれば堺は幻の京だな。

藤原京から平城京の南北の道が上ツ道、中ツ道、下ツ道に相当する。
東西の道が丹比郡の丹比道が長尾街道、竹の内街道、茅渥の道に相当する。

丹比郡(たじひのこおり/たぢひのこほり)は、かつて河内国にあった郡である。『和名抄』には狭山・菅生・黒山・野中・丹上・丹下・田邑・八下・依羅・三宅・土師の 11

郷が記載されている。平安時代後期、狭山・菅生・黒山・野中・丹上・丹下・田邑の 7 郷が丹南郡、八下・依羅・三宅・土師の 4 郷が丹北郡として分割された。さらに、丹北郡から八下郷が八上郡として割置された。現在の松原市・大阪狭山市・堺市東区・堺市美原区の各全域と、大阪市東住吉区・大阪市平野区・八尾市・藤井寺市・羽曳野市・堺市北区の各一部に相当する。

郊祀場

隅田八幡社、石切神社には郊祀場はないな。

桓武天皇、文徳天皇の郊祀はどうも、平城京方向の古墳郡と継体天皇方向の古墳を指すと思われる。

桓武天皇 長岡京の南郊にあたる河内国交野郡(寝屋川市付近)の柏原にて郊祀が行われたものである。

文徳天皇 斉衡 3 年 11 月 22 日から翌日にかけて同じく柏原で郊祀が行われている。

郊祀場は河内国交野郡柏原:寝屋古墳(寝屋川市寝屋川公園) 天智天皇の郊祀場も同様に古墳と間違えている模様。

壬申の乱以来の天武天皇系皇統が断絶して天智天皇系皇統が再興されたことを「新王朝」創業に擬え、「新王朝」の都である長岡京で天に対してその事実を報告する意図があったと言われている。

河内・奈良方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 31 日(日)07 時 11 分 25 秒 返信・引用 編集済
秦野北斗さんへのお返事です。

>『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす。」>

- > 「二至の祀を南北の郊においてす。」の位置を確認しました。現状は山腹のため池。>

- > 南北の郊は南北の郊祀(こうし)、円丘祭(えんきゅうさい)>

- > 古墳を纏めて郊祀ですな。>

>

郊祀(こうし)の件は重要です。先日お話しした隅田八幡社鏡銘文の件で、忍坂宮時代に、宮の真北にあたる三嶋(斯麻)で郊祀を行った件を推定しましたね。おそらくは河内国つまり 当時の京畿領域の北端で天皇の長寿を願って祈念した郊祀の際に造った鏡と銘文だったは

ずです。そして真南にあたる隅田八幡社にも同様な郊祀場や墳丘を造営したであろうことも 想像に難くないでしょう。そして下図のように、隅田八幡社の真北にあたる石切神社は河内 直の本拠でした。後の継体にも関わってきますが詳細は会報で論じたとおりです。

癸未年八月日十大王年男弟王在意柴沙加宮時斯麻念長寿遣開中費直穢人今州利二人等取白 上同二百早作此竟
とりあえず古墳時代中期と推定する河内と奈良の方位区画と説明動画を作成してみました。 下図をご参照ください。

動画はこちらから。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/kinki-houikukaku.mov> 動画中で距離表を提示していますが、この方位区画の距離が先の 11.1km 尺の倍数になってい

ることがお分かりになると思います。また 13.4km にも注目してみてください。 おおむね、先日の河内、奈良、屯倉関連の方位区画の拠点となりますが、斑鳩宮と吉野神宮へ

のラインが特に新しい発見です。

Re:河内方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 30 日(土)18 時 44 分 0 秒 返信・引用 編集済

> No.1409[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす。」「二至の祀を南北の郊においてす。」の位置を確認しました。現状は山腹のため池。 南北の郊は南北の郊祀(こうし)、円丘祭(えんきゅうさい) 古墳を纏めて郊祀ですな。

<http://blog.goo.ne.jp/fineblue7966/e/ffa4f379548be701d54d226a9d722db4> <http://f.hatena.ne.jp/a-kamunabi/20111118170201> <http://f.hatena.ne.jp/a-kamunabi/20111118170202>

最初の神風特別攻撃隊は米海軍の自作自演か 投稿者:ねこ 投稿日:2013 年 3 月 30 日 (土)16 時 34 分 30 秒 返信・引用

最初の神風特別攻撃隊は米海軍の自作自演か

http://park.geocities.jp/j_con4/0204/p043.html#page289
<http://book.geocities.jp/conspiracycalendar/02/Y02/jre026.html#1025>

空母撃沈の状況に食い違いがある。
ここでも日付の語呂合わせがあった。
(仮説を含む)

(http://park.geocities.jp/j_con4/0104/p043.html) Re:河内方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 29 日(金)00 時 42 分 43 秒 返信・引用 編集済

> No.1408[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 平城京と対になる京ですな。地図の黄色の線ですな。 >>> 竹内街道は日本書紀の推古天皇 21 年(613 年)の条に「難波(大阪)より京(飛鳥)に至る大道(おおじ)を置く」と記されていた、日本最古の「官道」。現在の竹内街道は、大部分は 推古天皇時代の官道と重なっている。東側は奈良盆地南部を東西に横切る官道横大路につながっている。かつては丹比道(たじひみち)と言われた。丹比野を横断するのでその名が付いたと推定されている。

>

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%B9%E5%86%85%E8%A1%97%E9%81%93>

竹内街道の件は重要ですね。 百舌・古市古墳群を結ぶ街道をベースにして推古朝に整備されたもので、先の反正柴垣宮南 辺をとる街道ということになるのでしょうか。

そして反正が(丹比)多遅比瑞齒別とのことで、納得ですね。丹比街道と呼ばれたのは、丹比 野を通ったからではなく、反正の宮を通ったからということになるということでしょうか。

タケウチ宿禰と関わってきますね。次の允恭の男浅津間若子宿禰王の宿禰とも関わり、臣下 から王になったのでしょう。そのあたりで皇后の忍坂中姫のための忍坂宮が図のように区画 の東辺に造営されていくわけです。

ライン的には、先の奈良三角縁-1 度偏角方位区画のラインと関係してきます。図を再添付 します。

Re:河内方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 27 日(水)23 時 46 分 52 秒 返信・引用 編集済

> No.1407[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

平城京と対になる京ですな。地図の黄色の線ですな。

竹内街道は日本書紀の推古天皇 21 年(613 年)の条に「難波(大阪)より京(飛鳥)に至る大道(おおじ)を置く」と記されていた、日本最古の「官道」。現在の竹内街道は、大部分は 推古天皇時代の官道と重なっている。東側は奈良盆地南部を東西に横切る官道横大路につながっている。かつては丹比道(たじひみち)と言われた。丹比野を横断するのでその名が付いたと推定されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%B9%E5%86%85%E8%A1%97%E9%81%93>

>> 馬屋門(戸)皇子(うまやとのみこ)とあるのが興味深いところです。 >> 先の奈良・河内方位区画でしきりに皇室陵と関係する四方区画の交点に「戸」が出てくるのですが、どうもこうみると「門」の意味があった可能性を感じますね。 >> つまり、その四方区画の一部が宮殿域の「門」を示していたのかもしれませんが。古くは「戸」と記された。 >> そうすると馬屋門(戸)皇子という名も、どこかの「馬屋」と名付けられた宮の門に関連づけられた名とも解釈できるかもしれません。 >> もちろん、門の前にはご指摘の「大道」もあったことでしょう。そういう地名が皇子名や字 名に今での残っているんですね。

Re:河内方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 27 日(水)23 時 14 分 37 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 推古の大道、地名、等から京はこんなものかな。 >
- > 推定ありですな。 >>>

推古の宮や陵墓は、欽明・河内王朝のライン上にありますね。斉明のように継体・開化系ではないでしょう。

それで、こちらの元興寺伽藍縁起并流記資財帳が、その推古関係の資料なのですが、

http://www004.upp.so-net.ne.jp/dassai1/gangoji/gangoji_frame.htm

馬屋門(戸)皇子(うまやとのみこ)とあるのが興味深いところです。

先の奈良・河内方位区画でしきりに皇室陵と関係する四方区画の交点に「戸」が出てくるのですが、どうもこうみると「門」の意味があった可能性を感じますね。

つまり、その四方区画の一部が宮殿域の「門」を示していたのかもしれませんが。古くは「戸」と記された。

そうすると馬屋門(戸)皇子という名も、どこかの「馬屋」と名付けられた宮の門に関連づけられた名とも解釈できるかもしれません。

もちろん、門の前にはご指摘の「大道」もあったことでしょう。そういう地名が皇子名や字名に今での残っているんですね。

『京都人おすすめのグルメ&スイーツ』ランキング 828 人が見えています

『札幌に行ったらぜひ食べたいおすすめ海鮮丼!!』ランキング 494 人が見えています

『休日ドライブで寄りたい札幌近郊の産直』ランキング 243 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:河内方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 27 日(水)07 時 30 分 59 秒 返信・引用

> No.1405[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

推古の大道、地名、等から京はこんなものかな。

推定ありですな。

- > おそらく三嶋つまり隅田八幡社鏡銘文の「斯麻」あたりが河内国の北辺だったのでしょうか。
- > その時代は、倭王武の上表文にてでくる西側の「京畿」領域ですね。 >
- > その他「戸」も区画を意味する地名ですね。区画の交点には神社や古墳があります。
- > 宮領域は、前後の時代で屯倉になっていることが多いようです。 >

Ads by Google 河内方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 26 日(火)22 時 52 分 27 秒 返信・

引 用 編集済

> No.1404[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > わりと地名が残っているな。 >
- > 痕跡を追ってみるか。 >
- > 比叡山(ひえいざん)とは、滋賀県大津市西部と京都府京都市北東部にまたがる山。大津市と京都市左京区の県境に

そうですね、こちらもちょうと先日の宮の方位区画の地名に注目してみました。

下図が河内の方位区画です。

その説明動画はこちらから。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/kinai-houikukaku.mov>

まだかなりアバウトですが、河内王朝時代から7世紀代まで使用され続けた区画と感じます。

特に「隅田」「角田」はどうも区画の「隅」を意味していたようです。隅田八幡社へ至るラインが西辺となり、関連の「国分」の地名を考慮すると、「河内国」の境界ラインだった可能性を感じます。

こちら河内国の領域図 http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:地図_令制国_河内国.svg

おそらく三嶋つまり隅田八幡社鏡銘文の「斯麻」あたりが河内国の北辺だったのでしょう。その時代は、倭王武の上表文にてでくる西側の「京畿」領域ですね。

その他「戸」も区画を意味する地名ですね。区画の交点には神社や古墳があります。宮領域は、前後の時代で屯倉になっていることが多いようです。

Re:宮・天皇陵方位ライン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月25日(月)22時10分39秒 返信・引用 編集済

> No.1403[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 わりと地名が残っているな。

痕跡を追ってみるか。

比叡山(ひえいざん)とは、滋賀県大津市西部と京都府京都市北東部にまたがる山。大津市と京都市左京区の県境に位置する大比叡(848.3m)と左京区に位置する四明岳(しめいがたけ、838m)の二峰から成る双耳峰の総称である。大比叡の一等三角点は大津市に所在する。高野山と並び古くより信仰対象の山とされ、延暦寺や日吉大社があり繁栄した。東山三十六峰に含まれる。別称は叡山、北嶺、天台山、都富士など。

> また、先日お話した弥生末~古墳時代初期の漢魏洛陽城を燃したと推定した奈良黒田庵戸宮(倭屯倉)の都城區画を参考にして各時代の王朝の都城區画等の推定図も作成してみました。かなりアバウトなものです。

宮・天皇陵方位ライン 投稿者:管理人 投稿日:2013年3月25日(月)02時33分18秒 返信・引用 編集済

> No.1402[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 方位区画を整理すると平城京、飛鳥、斑鳩に集中しているな。 >
- > この辺りが問題になるかな。 >
- > 継体陵は今城塚古墳、斉明陵と天智陵の間に神功皇后陵、この2つは別物だろうな。 >>

とりあえず、先日の宮の方位ラインと、天皇陵の方位ラインを重ねた図を作成してみました。下図の青ラインが宮を結んだ方位ライン、赤ラインが陵墓を結んだ方位ラインです。

アバウトですが、おそらくこの図のような方位区画が古墳時代中期~にあったはずです。例の11.1kmの倍数尺の方位区画でしょうか。

当時も多少偏角があったので、実際はさらに細かくずれています。

確かに宮も陵墓も集中地域があります。山野などの立地条件も絡んでいるでしょう。

また、先日お話した弥生末~古墳時代初期の漢魏洛陽城を燃したと推定した奈良黒田庵戸 宮(倭屯倉)の都城区画を参考にして各時代の王朝の都城区画等の推定図も作成してみました。かなりアバウトなものです。

2枚目の図です。赤やミドリで囲んだ部分が都城区画の外郭内部、および郊祀・宗廟区域、黄色が宮殿域です。

河内の場合は宮殿域が反正朝の柴垣宮(依網屯倉)、仁徳の難波高津宮、その後の忍坂宮、宗廟息が古市・百舌古墳群ではなかったでしょうか。

ちょうど石切神社⇔春日大社のラインが河内の都城区劃の外郭北辺になった可能性を感じます。あと3枚目は先日の忍坂宮関連の方位ラインです。

これらの外郭に囲まれた都城区劃領域内で、宮殿域が王の交替ごとに東西南北隅や中央部へと法則にしたがって占われて移動していったのではないのでしょうか。

その他規模の小さい都城区劃は他にも複数あったのではないかと感じます。

Re:天皇陵方位ライン説明動画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月24日(日)07時12分30秒 返信・引用

> No.1401[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

方位区画を整理すると平城京、飛鳥、斑鳩に集中しているな。この辺りが問題になるかな。継体陵は今城塚古墳、斉明陵と天智陵の間に神功皇后陵、この2つは別物だろうな。

>

- > 神武から文武まで歴代順に天皇陵を追いかけています。 >>
- > 意外に気付かなかったのが、河内の陵墓を結ぶ方位区画(並行ライン区画)ですね。下図 参照。
>> それで、こうみると、ほとんどの天皇陵推定はライン的には整合性があることがわかります >

> 欽明陵は、今の位置で正解でしょう。見瀬丸山ではない。安閑⇔宣化ラインが正しければそうなります。そして天武陵も欽明陵を意識して東西ラインに作ってますね。 >

- > 逆に継体陵は今城塚古墳のほうがライン的には正解のようです。
>
- > その他、いろいろ各天皇陵が意識したラインなり先祖の陵墓というのが見えてきます。 >
- > 支配領域(都城区画?)の東西南北の2拠点を結ぶ並行線を交互に走らせる傾向もあります。 >>
またやはり宮の変遷方位ライン同様に、正方位、-1度偏角、5度偏角など、時代ごとにそのライン偏角の移り変わりも見えてきます。 >> あと、斉明陵と天智陵の間に神功皇后陵が入るのも、何らかの意図を感じます。 >> すこしこの辺も整理する必要がありますね。

天皇陵方位ライン説明動画 投稿者:管理人 投稿日:2013年3月24日(日)00時25分34秒 返信・引用 編集済

> No.1400[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 郊外の野原が郊野、同音に高野山の高野(こうや)何か共通するな。 > 東西の南側の郊外になるな。
>

> 郊祀(こうし)とは、中国において天子が王都の郊外において天地を祀った祭。円丘を築いて併せて皇祖を祀ったことから、円丘祭(えんきゅうさい)とも称する。 > 冬至の際には天子が自ら王都の南郊に至って天を祀り、夏至の際には天子が自ら北郊に至って地を祀る。大唐開元礼などに詳しい記述が残

されている。

>

とりあえず、先日お話して会報に載せた都城区画と郊祀区域に見える始祖廟(欠史天皇陵)について、再度陵墓関係の方位ラインを洗い出して説明動画を作成してみました。

こちらからご覧下さい。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/tennouryou-line.mov>

神武から文武まで歴代順に天皇陵を追いかけています。

意外に気付かなかったのが、河内の陵墓を結ぶ方位区画ですね。下図参照。それで、こうみると、ほとんどの天皇陵推定はライン的には整合性があることがわかります。

欽明陵は、今の位置で正解でしょう。見瀬丸山ではない。安閑⇔宣化ラインが正しければそうなります。そして天武陵も欽明陵を意識して東西ラインに作ってますね。

逆に継体陵は今城塚古墳のほうがライン的には正解のようです。

その他、いろいろ各天皇陵が意識したラインなり先祖の陵墓というのが見えてきます。

支配領域(京域?)の東西南北の2拠点を結ぶ並行線を交互に走らせる傾向もあります。

またやはり宮の変遷方位ライン同様に、正方位、-1度偏角、5度偏角など、時代ごとにそのライン偏角の移り変わりも見えてきます。

すこしこの辺も整理する必要がありますね。

『京都のお坊さん行きつけ?!オススメ飲食店ベスト 9!ここにいけばお坊さんに会える?!』ランキング 671人が見えています

『何か違うんだってば!子育て中の妻が夫に本当に望んでいること』ランキング 150人が見えています

『家で一人ランチに♪これは本当に美味しい!冷凍食品のオススメ』ランキング

411人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:宮の変遷方位ライン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月23日(土)20時21分52秒 返信・引用

> No.1398[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

郊外の野原が郊野、同音に高野山の高野(こうや)何か共通するな。
東西の南側の郊外になるな。

高野山

高野山(こうやさん)は、和歌山県伊都郡高野町にある標高約 1,000m 前後の山々の総称。平安時代の弘仁 10 年(819 年)頃より弘法大師空海が修行の場として開いた高野山真言宗、ひいては比叡山と並び日本仏教における聖地である。現在は「壇上伽藍」と呼ばれる根本道場を中心とする宗教都市を形成している。山内の寺院数は高野山真言宗総本山金剛峯寺(山号は高野山)をはじめ 117 か寺に及び、その約半数が宿坊を兼ねている。

郊祀(こうし)とは、中国において天子が王都の郊外において天地を祀った祭。円丘を築いて併せて皇祖を祀ったことから、円丘祭(えんきゅうさい)とも称する。冬至の際には天子が自ら王都の南郊に至って天を祀り、夏至の際には天子が自ら北郊に至って地を祀る。大唐開元礼などに詳しい記述が残されている。

こう-や[カウ-]【郊野】 郊外の野原

Ads by Google Re:宮の変遷方位ライン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月23日(土)08時21分30秒

返信引用 > No.1398[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

少し、見方を変えて方位の基点は何処かな。『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」

郊祀(こうし)とは、中国において天子が王都の郊外において天地を祀った祭。円丘を築いて併せて皇祖を祀ったことから、円丘祭(えんきゅうさい)とも称する。冬至の際には天子が自ら王都の南郊に至って天を祀り、夏至の際には天子が自ら北郊に至って地を祀る。大唐開元礼などに詳しい記述が残されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%83%8A%E7%A5%80>

二至の祀とは古墳の方位ライン・

南北の郊は南北の郊祀(こうし)、円丘祭(えんきゅうさい)と思われるな。

No.1205 秦野訊 266 年圓丘方丘を並べ、二至(住吉大社、等乃伎神社)を祀る。 南北を郊(茅濡之道、長尾街道)とする。は間違いになるな。

古墳の配置は竹の内街道沿いに約 3.7 km 間隔で 4 基になる。 方位は 90 度になるので 2 基あわせて対角線が 7.4 km とすると 1 辺は 5.36 km。

Re:宮の変遷方位ライン 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 22 日(金)22 時 07 分 23 秒 返信引用 編集済
> No.1397[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- ・ > 方位ラインから神武天皇と欠史八代を外すのが良い。奈良には存在しない天皇。 >
- ・ > 欠史八代は淡海三船が同年代の天皇(日本根子)から和風諡号を創作したようだな。
- ・ > 三角縁神獣鏡の保子が開花天皇、開花天皇の孫が卑弥呼になる。
- ・ > 欠史八代は紀元前 100 年から紀元後 200 年が妥当な年代ですな。 >

とりあえず、欠史 8 代と成務までの宮を結んだ方位ライン図を作成しましたので下記ご参照 くさい。

こうみると、まず 神武→綏靖→安寧 の 3 代で順に時計周りで直角三角形のラインを形成します。

その後、 懿徳→孝昭→孝安→孝霊 の 4 代に同様に順番に次の少し大きな三角を形成します。

先の三角形と、この三角形は並行しています。

そして、 開化→崇神→(神武もしくは懿徳) で、先の三角形と相似形の大きな三角を形成していきます。

最後に、 崇神→垂仁・景行→成務→(開化→神武) で、同様に最も大きな三角を形成していることがわかります。

図のラインの偏角に注目すると、 まず、神武から孝安までは、弥生後期の正方位の測量が見えますね。

その後孝霊から崇神に至るまで、弥生末から古墳時代初期の 5~7 度偏角の並行線が見えて きます。

そして、垂仁・景行・成務のラインは古墳時代中期に見える-1 度偏角となります。

これらは、先日お話した奈良の各種包囲区画の偏角の移り変わりと同じです。

そこで問題は、最初の孝安までの三角形・正方位ラインですね。

欠史の存在の是非については、ここを論議する必要があるでしょう。

宮を後代決める際に、その建てるべき場所を「占う」記載があるのですが、その方術を関係するかもしれません。

なお、先日の上記神武~成務・仲哀までの方位ライン説明動画を判りやすく作成しなおしました。こちらをクリックしてご確認ください。 <http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/miya-line01.mov>

宮の所在は下記のとおりです。

神武天皇 畝傍橿原宮 奈良県橿原市畝傍町
綏靖天皇 葛城高丘宮 奈良県御所市森脇
安寧天皇 片塩浮孔宮 奈良県大和高田市片塩町
懿徳天皇 輕曲峽宮 奈良県橿原市見瀬町・白橿町
孝昭天皇 掖上池心宮 奈良県御所市池之内
孝安天皇 室秋津島宮 奈良県御所市室
孝靈天皇 黒田庵戸宮 奈良県磯城郡田原本町黒田
孝元天皇 輕境原宮 奈良県橿原市見瀬町の牟佐坐神社
開化天皇 春日率川宮 奈良県奈良市本守町の率川神社
崇神天皇 磯城瑞籬宮 奈良県桜井市金屋・志貴御県坐神社
垂仁天皇 纏向珠城宮 奈良県桜井市穴師
成務天皇 志賀高穴穂宮 滋賀県大津市穴太
仲哀天皇 穴門豊浦宮 山口県下関市長府宮 筑紫橿日宮 福岡県福岡市東区香椎

Re:宮の変遷方位ライン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月22日(金)02時01分0秒 返信・引用 編集済
> No.1396[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

方位ラインから神武天皇と欠史八代を外するのが良い。奈良には存在しない天皇。

欠史八代は淡海三船が同年代の天皇(日本根子)から和風諡号を創作したようだな。 三角縁神獣鏡の保子が開花天皇、開花天皇の孫が卑弥呼になる。 欠史八代は紀元前 100年から紀元後 200年が妥当な年代ですな。

三角縁神獣鏡

景初三年陳是作鏡自有經述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫
寿如金石兮

景初三年、陳が自ら経述した鏡を作る。もとは京師(杜)の出、銘は位至三公の吏人、 銘は母人(おものひと)、保子(開花天皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

母人(おものひと)は魏志倭人伝に記されている。

既に年長大であったが夫を持たず(年已長大 無夫壻)、弟がいて彼女を助けていたとの伝 承がある(有男弟佐治國)。王となつてからは、彼女を見た者は少なく(自爲王以來 少有 見者)、ただ一人の男子だけが飲食を給仕するとともに、彼女のもとに出入りをしていた。宮 室は樓觀や城柵を厳しく設けていた(唯有男子一人給飲食 傳辭出入 居處宮室樓觀 城柵嚴 設)。

日本根子が共通する。淡海三船の創作。

孝靈天皇 大日本根子彦太瓊尊 (紀元前 342 年) 孝元天皇 大日本根子彦国牽尊 (紀元前 273 年) 開化天皇 稚日本根子彦大日日尊 (紀元前 208 年)

桓武天皇 日本根子皇統弥照尊 天平 9 年(737 年) 平城天皇 日本根子天推国高彦尊 宝亀 5 年 8 月 15 日(774 年 9 月 25 日) 淳和天皇 日本根子天高讓弥遠尊 延暦 5 年(786 年) 仁明天皇 日本根子天璽豐聡慧尊 弘仁元年 (810 年)

淡海 三船(おうみ の みふね、養老 6 年(722 年) - 延暦 4 年 7 月 17 日(785 年 8 月 30 日))は、奈良時代後期の文人。大友皇子の曾孫。式部卿・葛野王の孫、内匠頭・池辺王の子 姓は真人。はじめ御船王。官位は従四位下・刑部卿。

若いときに僧侶であったこともあり、外典・漢詩にも優れていた。『経国集』に漢詩 5 首を載せ、現存最古の漢詩集『懷風藻』の撰者とする説もある。また、『釈日本紀』所引『私記』には、三 船が神武天皇から元正天皇までの全天皇(弘文天皇と文武天皇を除く)の漢風諡号を一括 撰進したことが記されている。また、779 年(宝亀 10 年)には鑑真の伝記『唐大和上東征伝』 を記した。『続日本紀』前半の編集にも関与したとされる

>> なんぼか、宮の基準となる中心拠点がありますね。このラインは前回あまり詳しく論じなかったもので、少し時間かけて分析しなおしましょう。しばしお待ちください。

>>> Re:宮の変遷方位ライン 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 21 日(木)23 時 12 分 26 秒 返信・引用

> No.1395[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 何処に書いてあるのか、神武天皇から開化天皇まで比定しましたな。 >>
- > 歴史学者にはあきれな。
>
- > まあ、名前が残ったので卑弥呼も満足でしょうな。 >
- > 古墳の基点ですが奈良の南別所山田になりますな。 >

なんぼか、宮の基準となる中心拠点がありますね。このラインは前回あまり詳しく論じなかったもので、少し時間かけて分析しなおしましょう。しばしお待ちください。

Re:宮の変遷方位ライン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 21 日(木)12 時 07 分 41 秒 返信・引用 編集済

> No.1394[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

何処に書いてあるのか、神武天皇から開化天皇まで比定しましたな。

神武天皇 畝傍橿原宮 奈良県橿原市畝傍町
綏靖天皇 葛城高丘宮 奈良県御所市森脇
安寧天皇 片塩浮孔宮 奈良県橿原市四條町 奈良県大和高田市三倉堂・片塩町
懿徳天皇 軽曲峽宮 奈良県橿原市見瀬町・白橿町
孝昭天皇 掖上池心宮 奈良県御所市池之内
孝安天皇 室秋津島宮 奈良県御所市室
孝霊天皇 黒田庵戸宮 奈良県磯城郡田原本町黒田
孝元天皇 軽境原宮 奈良県橿原市見瀬町の牟佐坐神社
開化天皇 春日率川宮 奈良県奈良市本子守町の率川神社

歴史学者にはあきれな。
まあ、名前が残ったので卑弥呼も満足でしょうな。
古墳の基点ですが奈良の南別所山田になりますな。

> 継体時代の宮の位置に近いような気がしますが、とりあえず、先日論議して会報に掲載した 天皇の宮の変遷に関する方位ラインの動画を作成しました。 >

- > まず欠史 8 代から履中天皇までの宮都の変遷を順に追った動画がこちらです。
- > <http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/miya-line01.mov> >>

- > 次に、応神から平安京までの宮都の変遷を順に追った動画がこちらです。(最後は平安京 大極殿の位置を調べているので飛ばしてみてください)

> <http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/miya-line02.mov> >

> これらの動画から宮の変遷が、先祖の王の宮(都)を常に意識した方位ライン(区画)上に造営したことが判ると思います。 >> それを突き止めることで、逆に正確な宮の位置や、その天皇の血統のありかも推測しうるでしょう。

> また欠史8代の宮については、その存在の是非と、後代王族によるの宮設置に関する法 則・概念が理解できると思います。 >> なお、今回推定した宮の一覧は下記のとおりです。よろしくご参照ください。宮の位置推定は、主に下記ページを参照しています。<http://ja.wikipedia.org/wiki/天皇の一覧>

>>

- > 神武天皇 畝傍橿原宮 奈良県橿原市畝傍町
- > 綏靖天皇 葛城高丘宮 奈良県御所市森脇
- > 安寧天皇 片塩浮孔宮 奈良県橿原市四条町 奈良県大和高田市三倉堂・片塩町
- > 懿徳天皇 軽曲峽宮 奈良県橿原市見瀬町・白橿町
- > 孝昭天皇 掖上池心宮 奈良県御所市池之内
- > 孝安天皇 室秋津島宮 奈良県御所市室
- > 孝霊天皇 黒田庵戸宮 奈良県磯城郡田原本町黒田
- > 孝元天皇 軽境原宮 奈良県橿原市見瀬町の牟佐坐神社
- > 開化天皇 春日率川宮 奈良県奈良市本守町の率川神社
- > 崇神天皇 磯城瑞籬宮 奈良県桜井市金屋・志貴御県坐神社
- > 垂仁天皇 纏向珠城宮 奈良県桜井市穴師
- > 景行天皇 纏向日代宮 奈良県桜井市穴師
- > 成務天皇 志賀高穴穂宮 滋賀県大津市穴太
- > 仲哀天皇 穴門豊浦宮 山口県下関市長府宮 筑紫橿日宮 福岡県福岡市東区香椎
- > 応神天皇 軽島豊明宮 奈良県橿原市大軽町 大隅宮 大阪市東淀川区大隅
- > 仁徳天皇 難波高津宮 大阪府大阪市中央区
- > 履中天皇 磐余稚桜宮 奈良県桜井市池之内・稚桜神社
- > 反正天皇 丹比柴籬宮 大阪府松原市上田七丁目・柴籬神社
- > 允恭天皇 遠飛鳥宮 奈良県高市郡明日香村飛鳥
- > 安康天皇 石上穴穂宮 奈良県天理市田町、同市田部
- > 雄略天皇 泊瀬朝倉宮 奈良県桜井市黒崎
- > 清寧天皇 磐余甕栗宮 奈良県橿原市東池尻町・御厨子神社
- > 顕宗天皇 近飛鳥八釣宮 現在の奈良県高市郡明日香村八釣

- > 仁賢天皇 石上広高宮 奈良県天理市石上町

宮の変遷方位ライン 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 21 日(木)06 時 41 分 51 秒 返信・引用 編集済

> No.1391[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 方位ラインを整理すると空白地帯があらわれた。 >
- > 知られていない京が存在していた模様。 >
- > 高槻 高月京 >
- > 富田 屯田(屯倉) >
- > 何かありそうだな。 >>

継体時代の宮の位置が近いような気がします。とりあえず、先日論議して会報に掲載した 天皇の宮の変遷に関する方位ラインの動画を作成しました。

まず欠史 8 代から允恭天皇までの宮都の変遷を順に追った動画がこちらです。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/miya-line01.mov>

次に、応神から平安京までの宮都の変遷を順に追った動画がこちらです。(最後は平安京大 極殿の位置を調べているので飛ばしてみてください) <http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/miya-line02.mov>

これらの動画から宮の変遷が、先祖の王の宮(都)を常に意識した方位ライン(区画)上 に造営したことが判ると思います。

それを突き止めることで、逆に正確な宮の位置や、その天皇の血統のありかも推測しう

しょう。 また欠史 8 代の宮については、その存在の是非と、後代王族によるの宮設置に関する法則・ 概念が理解できると思います。

なお、今回推定した宮の一覧は下記のとおりです。よろしくご参照ください。宮の位置推定は、主に下記ページを参照しています。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/天皇の一覧>

神武天皇 畝傍橿原宮 奈良県橿原市畝傍町

綏靖天皇 葛城高丘宮 奈良県御所市森脇

安寧天皇 片塩浮孔宮 奈良県橿原市四條町 奈良県大和高田市三倉堂・片塩町

懿徳天皇 輕曲峽宮 奈良県橿原市見瀬町・白橿町

孝昭天皇 掖上池心宮 奈良県御所市池之内

孝安天皇 室秋津島宮 奈良県御所市室

孝靈天皇 黒田庵戸宮 奈良県磯城郡田原本町黒田

孝元天皇 輕境原宮 奈良県橿原市見瀬町の牟佐坐神社

開化天皇 春日率川宮 奈良県奈良市本子守町の率川神社

崇神天皇 磯城瑞籬宮 奈良県桜井市金屋・志貴御県坐神社

垂仁天皇 纏向珠城宮 奈良県桜井市穴師

景行天皇 纏向日代宮 奈良県桜井市穴師

成務天皇 志賀高穴穂宮 滋賀県大津市穴太

仲哀天皇 穴門豊浦宮 山口県下関市長府宮 筑紫橿日宮 福岡県福岡市東区香椎

応神天皇 輕島豊明宮 奈良県橿原市大軽町 大隅宮 大阪市東淀川区大隅

仁徳天皇 難波高津宮 大阪府大阪市中央区

履中天皇 磐余稚桜宮 奈良県桜井市池之内・稚桜神社

反正天皇 丹比柴籬宮 大阪府松原市上田七丁目・柴籬神社
允恭天皇 遠飛鳥宮 奈良県高市郡明日香村飛鳥
安康天皇 石上穴穂宮 奈良県天理市田町、同市田部
雄略天皇 泊瀬朝倉宮 奈良県桜井市黒崎
清寧天皇 磐余甕栗宮 奈良県橿原市東池尻町・御厨子神社
顕宗天皇 近飛鳥八釣宮 現在の奈良県高市郡明日香村八釣
仁賢天皇 石上広高宮 奈良県天理市石上町
武烈天皇 泊瀬列城宮 奈良県桜井市出雲の十二柱神社
継体天皇 樟葉宮 大阪府枚方市楠葉丘の交野天神社
筒城宮 京都府京田辺市多々羅都谷
弟国宮 京都府長岡京市今里

磐余玉穂宮 奈良県桜井市池之内 安閑天皇 勾金橋宮 奈良県橿原市曲川町 宣化天皇 檜隈廬入野宮 奈良県高市郡明日香村檜前 欽明天皇 磯城島金刺宮 奈良県桜井市金屋・外山 敏達天皇 百濟大井宮 大阪府河内長野市太井・奈良県北葛城郡広陵町百濟 訖語田幸玉宮 奈良県桜井市戒重 用明天皇 磐余池辺雙槻宮 橿原市東池尻町 221 崇峻天皇 倉梯柴垣宮 奈良県桜井市大字倉橋 推古天皇 豊浦宮 奈良県高市郡明日香村豊浦 小墾田宮 奈良県明日香村の雷山周辺 舒明天皇 飛鳥岡本宮 奈良県明日香村岡

皇極天皇 飛鳥板蓋宮 奈良県明日香村岡
孝徳天皇 難波宮 大阪市中央区
齊明天皇 飛鳥板蓋宮 奈良県明日香村岡
天智天皇 近江大津宮 滋賀県大津市錦織
天武天皇 飛鳥浄御原宮 奈良県明日香村飛鳥

Re: 灯籠(サルタヒコ)、阿毎の岩戸 投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2013 年 3 月 21 日(木) 03 時 48 分 46 秒 返信・引用

> No.1392[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 管理人さんへのお返事です。

光通信

奈良の二上山、金比羅山、巖島の瀬戸内海ルートが現れる。

琴平駅から金比羅宮へと向かう道の途中にある公園(広場?)にある高燈籠。万延元年 (1860) 建立。高さ 28m は日本一。

灯籠の放射方向は 90 度。方位は正方形…。

古事記 灯台ですな。

さて、そのサルタヒコが、阿耶訶(あざか。現在の三重県松阪市※)というところへ行った時に、海で魚を獲(と)っていたところ、ヒラブ貝に手をはさまれて海の底に沈み、溺(おぼ)れてしまいました。

> 先の画紋帯神獣鏡方位ライン拠点の中にみえる神島の八代神社の存在は特異ですね。 >> 図のようにライン的には少しずれた場所に島があるわけですが、そこにあえて測量道具としてのこの鏡を置いている理由ですね。ここが課題です。ライン的には、23.4 度と 90 度の正 方位角を使っているの、太陽測量と見なしうでしよう。 >

- > 神島には、灯台がありますね。標高 171m の灯明山 >

- > また奇妙な祭りもある。この辺に古代測量の残存を見いだすことができないでしょうか。 >
- > [http://ja.wikipedia.org/wiki/神島_\(三重県\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/神島_(三重県))
- > http://www.toba.gr.jp/2009/01/post_457.html >
- > ゲータ祭 神島町 元旦撮影 撮影者 河村数範
- > 元旦の夜明け、東の空が明るくなる頃に、グミの枝を束ねて輪にしたアワ(日輪に見立てた直径2mほどの輪)を島中の男たちが竹で刺し持ち上げ、これを落とす。 >「アワ」を突き上げ、たたき落とす時に、「お天とさまの虫下し」「天に二陽なし」とさけぶ。 > 起源は、新春の太陽の復活を祈る南方からの太陽信仰の北限とも、性的な祭祀とも諸説があり不明である。
<http://www.city.toba.mie.jp/koho/photogallery/matsuri/geeta.html> >> 2メートルもある太陽信仰に係る輪を、可能な限り高くあげる、もとは鏡を高く掲げていた可能性もないでしょうか。その鏡の前に燈明を灯して、光通信をしたのでは。 >

Re: 灯籠(サルタヒコ)、阿毎の岩戸 投稿者:管理人 投稿日:2013年3月20日(水)22時 59分 49秒 返信・引用 編集済

秦野北斗さんへのお返事です。

- > そろそろ、古代の光通信網が見えてきましたな。 >
- > カゴメ唄、天岩戸でおなじみの灯籠(サルタヒコ)ですな。 >
- > 天岩戸は阿毎の岩戸。奈良の灯籠(サルタヒコ)になる。 >>>

先の画紋帯神獣鏡方位ライン拠点の中にみえる神島の八代神社の存在は特異ですね。

図のようにライン的には少しずれた場所に島があるわけですが、そこにあえて測量道具としてのこの鏡を置いている理由ですね。ここが課題です。ライン的には、23.4度と90度の正方位角を使っているので、太陽測量と見なしうるでしょう。

神島には、灯台がありますね。標高 171m の灯明山 また奇妙な祭りもある。この辺に古代測量の残存を見いだすことができないでしょうか。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/神島_\(三重県\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/神島_(三重県)) http://www.toba.gr.jp/2009/01/post_457.html

ゲータ祭 神島町 元旦撮影 撮影者 河村数範 元旦の夜明け、東の空が明るくなる頃に、グミの枝を束ねて輪にしたアワ(日輪に見立てた直径 2m ほどの輪)を島中の男たちが竹で刺し持ち上げ、これを落とす。

「アワ」を突き上げ、たたき落とす時に、「お天とさまの虫下し」「天に二陽なし」とさけぶ。 起源は、新春の太陽の復活を祈る南方からの太陽信仰の北限とも、性的な祭祀とも諸説があり不明である。

<http://www.city.toba.mie.jp/koho/photogallery/matsuri/geeta.html>

2メートルもある太陽信仰に係る輪を、可能な限り高くあげる、もとは鏡を高く掲げていた可能性もないでしょうか。その鏡の前に燈明を灯して、光通信をしたのでは。

方位ラインで幻の京? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月20日(水)19時07分4秒 返信・引用 編集済

方位ラインを整理すると空白地帯があらわれた。知られていない京が存在していた模様。 高槻 高月京 富田 屯田(屯倉)

何かありそうだな。

『関係者が教える!『ひるがの高原牧歌の里』堪能グルメスポット』ランキング 241 人が見えています

『秋田に旅行いくなら一度は行きたい!秋田市、絶品グルメ店』ランキング 183 人が見えています

『名古屋に行ったときに絶対おススメしたい名古屋メシ&スイーツ店』ランキング 14518 人が見えています

知って得するランキング-ランキングシェア byGMO

Ads by Google 灯籠(サルタヒコ)、阿毎の岩戸 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 20 日(水)06 時 53 分 0 秒 返信・引用 編集済

そろそろ、古代の光通信網が見えてきましたな。 カゴメ唄、天岩戸でおなじみの灯籠(サルタヒコ)ですな。
天岩戸は阿毎の岩戸。奈良の灯籠(サルタヒコ)になる。

Ads by Google 灯籠(サルタヒコ) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 20 日(水)06 時 51 分 17 秒 返信・引用 編集済

そろそろ、古代の光通信網が見えてきましたな。 カゴメ唄、天岩戸でおなじみの灯籠(サルタヒコ)ですな。
天岩戸は阿毎の岩戸。奈良の灯籠(サルタヒコ)になる。

呉年号銘・画紋帯神獣鏡方位区画説明動画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 19 日 (火)23 時 08 分 20 秒 返信・引用 編集済

続いて、三角縁以外の神獣鏡の方位区画の説明動画も作成しました。 まず最初に呉年号銘の入った半円方形帯神獣鏡の方位区画についての動画はこちらです。 <http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/gonengoumeikyou-houiline.mov>

遺跡紹介順は、伊都平原遺跡→鳥居原狐塚古墳→安倉高塚古墳のラインです。 最後に距離を出していますので、ご参照ください。その詳細は先日論議したとおりで下図や

会報第 4 号参照ください。

次に、上記神獣鏡と、画紋帯神獣鏡を併せた方位区画の動画はこちらです。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/gamontai-all-sinjuryou-line.mov>

動画での遺跡紹介順は下記のとおりです。

安倉高塚古墳→綾部山古墳→宇那木山 2 号墳→和泉黄金塚古墳→桜井茶臼山古墳→神崎山 1 号墳→塚原古墳→八代神社収蔵(神島)→亀山 2 号墳→馬場平古墳→鳥居原狐塚古墳→稲荷山古墳→台古墳→観音塚古墳→太田南 2 号墳→柳井茶臼山古墳→平原遺跡→祇園山古墳→外之隈 1 号墳→江田船山古墳→国越古墳→迎平 6 号墳→山之坊古墳→西求女塚古墳→大和天神山古墳→珠金塚古墳→衛門戸丸塚古墳→椿井大塚山古墳→藤田山古墳

こちらは、正直今までになく苦労しました。東西ラインは正方位測量なのですが、南北に 10 度などの偏角があり、平行四辺形を形成していきます。今までは正方位か、偏角が東西南北 にありましたが、こちらは両者が組合わさったような今までにないタイプの測量です。

3 世紀代から 6 世紀代まで、おそらく同じ集団による測量支配の実態を示しているでしょう。

具体的には、先日お話した呉系の支援を受けた南方海洋民系の大彦系ですね。九州、伊都平原、兵庫(武庫)、葛城、佐紀楯並古墳群、尾張方面等と関わって行きます。

一部、和邇氏や卑弥呼の出自とも関わる集団なのですが、後に彼らは阿倍・膳氏となり、新 漢人集団を配下に入れるので、埼玉古墳群や江田船山古墳が拠点に出てきます。

11.3~6km 尺がいくらか見えますね。

Re:平安海進と行基図 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 18 日(月)21 時 34 分 33 秒 返信・引用

> No.1386[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

地図は 823 年以降で中心が山城。筒城宮 (京田辺市) - 継体天皇 山城は天智天皇と深い関係があると思わ

れるのですが 667 年(天智天皇 6 年) 天智天皇が近江大津宮に都を定める。 823 年との時間軸に矛盾がありますな。

宮 山城国内には、これまでに度々天皇の住居(宮)が構えられている。

筒城宮 (京田辺市) - 継体天皇 弟国宮 (長岡京市) - 継体天皇 恭仁京 (木津川市) - 聖武天皇 長岡京 (向日市・長岡京市・京都市) - 桓武天皇 平安京 (京都市) - 桓武天皇から明治天皇

継体天皇(けいたいてんのう、允恭天皇 39 年(450 年)? - 継体天皇 25 年 2 月 7 日(531 年 3 月 10 日))は、日本の第 26 代天皇。在位は継体天皇元年 2 月 4 日(507 年 3 月 3 日) - 同 25 年 2 月 7 日(531 年 3 月 10 日)。

>

- > ちょっと先の行基図の件で興味深い事に気が始めてます。 >
- > どうもあの図は加賀国が記されていて、823 年以降のものようです。
- > <http://ja.wikipedia.org/wiki/加賀国> >
- > ただ陸奥の領域、つまり日本の北境がまだ青森方面まで至っておらず、平安中期以前でしょう。
> <http://ja.wikipedia.org/wiki/陸奥国> >> また、図の描き方をみると、道→地形→国名の順で描かれたような気がしますね。道が国境 ラインで途切れてないんです。一筆書きのようにして描いてます。国名はどういうわけか東向きに書いているのですが、たぶんこれは地図の東を上にとってきて、国名を記したせいでしょう。

よう。なぜそうしたのは謎ですが、ちょっと倭人伝同様、方位感覚の狂いも考慮しておくべきかもしれません…。 >

- > あと四国と九州の南部が小さいのは、紙面に入り切らなかったのではないのでしょうか。 >
- > それで、児島湾や東京湾、東海のあたりの海水が内陸まで浸水しているのがわかります。 >
- > 調べて行くと、平安時代は今より 4~6 m 海面が高かったという見方もあるようです。
- > <http://watasumu.blog28.fc2.com/blog-entry-295.html>
>
- > それで、満潮や黒潮の蛇行による潮位も考慮して、海面を 9 M あげた日本地図を下記サイトから産出してみました。

>> <http://flood.firetree.net/?ll=30.7135,134.9121&z=12&m=9> >> こちらをみると、確かに児島湾は島に分離し、東京湾や東海方面もかなり内陸まで浸水しているのが判ります。 > あと、東海・南海沿岸地域は、いわゆる東海・南海地震を引き起こすプレート沈降の影響 であるので、今より若干平野部の標高が変化していた可能性がありますね。 >

平安海進と行基図 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 18 日(月)20 時 51 分 45 秒 返信・引用 編集済

> No.1382[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 「大日本国図」と九州の屯倉拠点を結んだ方位区画を対応させる。
- > 何か見えてくる様な。 >>>

ちょっと先の行基図の件で興味深い事に気が始めてます。

どうもあの図は加賀国が記されていて、823 年以降のものようです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/加賀国>
ただ陸奥の領域、つまり日本の北境がまだ青森方面まで至っておらず、平安中期以前でしょう。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/陸奥国>

また、図の描き方をみると、道→地形→国名の順で描かれたような気がしますね。道が国境ラインで途切れていないです。一筆書きのようにして描いてます。国名はどういうわけか東向きに書いているのですが、たぶんこれは地図の東を上を持ってきて、国名を記したせいでしょう。なぜそうしたのは謎ですが、ちょっと倭人伝同様、方位感覚の狂いも考慮しておくべきかもしれません…。

あと四国と九州の南部が小さいのは、紙面に入り切らなかったのではないのでしょうか。

それで、瀬戸内方面、特に児島湾や東京湾、東海のあたりの海水が内陸まで浸水しているのがわかります。

調べて行くと、平安時代は今より 4~6 m 海面が高かったという見方もあるようです。
<http://watasumu.blog28.fc2.com/blog-entry-295.html>

それで、満潮や黒潮の蛇行による潮位も考慮して、海面を 9 M あげた日本地図を下記サイトから産出してみました。

<http://flood.firetree.net/?ll=30.7135,134.9121&z=12&m=9>

こちらをみると、確かに児島湾は島に分離し、東京湾や東海方面もかなり内陸まで浸水しているのが判ります。
あと、東海・南海沿岸地域は、いわゆる東海・南海地震を引き起こすプレート沈降の影響であるので、今より若干平野部の標高が変化していた可能性がありますね。

Re:銅鐸 角度【測距儀】 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 18 日(月)19 時 10 分 14 秒 返信・引用

> No.1384[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

諏訪→鹿嶋、東西緯線ラインは東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程の東西に五カ月の行程のラインになる。珍しいものでないな。このラインは『北史』倭国伝に見られる。 推測だが、倭国の 1 世紀中葉の建武中元 2 年(57 年)からで以外に古い…。

『後漢書』『東夷傳』建武中元二年 倭奴國奉貢朝賀 使人自稱大夫 倭國之極南界也 光武賜以印 綬

倭國者、古倭奴國也。去京師一萬四千里、在新羅東南大海中、依山島而居。東西五月行、南北三月行。世與中國通。其國、居無城郭、以木為柵、以草為屋。四面小島五十餘國、皆附屬焉。其王姓 阿每氏、置一大率、檢察諸國、皆畏附之。設官有十二等。(『旧唐書』倭国・日本国伝)

倭国とは、古の倭奴国なり。京師から一万四千里、新羅の東南の大海中に在り、山島に依って暮らす。東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程。代々中国と通じている。その国、居住地に城郭がなく、木を以て柵とし、草を以て屋根とする。四面の小島、五十余国、皆、これに附屬している。その王姓は阿每氏、一大率を置き、諸国を檢察させ、皆はこれを畏怖している。官には十二等級を設けている。(堀貞雄の古代史・探訪館より)

>> まとめ:715 年、16 年にかけての時期、席田郡、高麗郡の渡来人移動・配置については、それぞれ伊勢神宮、諏訪前宮、鹿嶋・香取神宮から緯度・経度、距離において、正確な三角法測量をもとに計画的になされていました。特に富士山と東西緯線ラインを目印に …<http://www.geocities.co.jp/sundovani/koma/sokuryou.htm> >>
>> そっきょ-ぎ(ソクキヨ-【測距儀】。>> 目標までの距離を測る装置。長さのわかっている基線の両端と目標とのなす角度を利用して測る。…ポイントの位置(搭載のライン上) 山岩 古墳 寺社 … >>

Re:銅鐸 角度【測距儀】 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 3 月 18 日(月)09 時 57 分 47

秒 返信・引用 > No.1383[元記事へ]

訂正デス m()m、 搭載×→東西○・ポイントの位置(搭載のライン上) 山岩 古墳 寺社 …m(@)m

東西僧房の礎石を一直線に結び、両者の距離の中点をとることで求めた

<http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/ouken/anshoji/survey.html>

軒廊は、南面の礎石 1カ所を確認し、東西 7 尺・南北 9 尺の構造と考えられる。しかし、すでに触れたように、礼仏堂の基壇南端にみられる翼状の張り出しとは位置があわない。図 3 に見られるとおり、礼仏堂の張り出しが軒廊よりも南に位置しているのである。後世の改作かもしれないが、測量調査だけでは結論は得られない。軒廊の礎石は南北両面を確認し、東西 8 尺・南北 9 尺の規模を持つことが判明した。この軒廊の位置についても、東僧房と同様に礼仏堂の基壇南側張り出しとは位置があわない。礼仏堂張り出しが軒廊よりも南に位置している点も東僧房とまったく同じである。建物規模は、確認した礎石から判断して東西 5 間・南北 4 間とみられる。寸法は東西 5 間が 10 尺・10 尺・9 尺・10 尺・10 尺、南北 4 間が 10 尺等間であるから、14.7m×12m と復元できるが、礎石間の精査により若干の変わる可能性がある。

まとめ:715 年、16 年にかけての時期、席田郡、高麗郡の渡来人移動・配置については、それぞれ伊勢神宮、諏訪前宮、鹿嶋・香取神宮から緯度・経度、距離において、正確な三角法測量をもとに計画的になされていました。特に富士山と東西緯線ラインを目印に ...<http://www.geocities.co.jp/sundovani/koma/sokuryou.htm>

> そっきょ-ぎ(ソクキョ-【測距儀】> 目標までの距離を測る装置。長さのわかっている基線の両端と目標とのなす角度を利用して測る。…ポイントの位置(搭載のライン上) 山岩 古墳 寺社 … > 銅鐸 角度【測距儀】. 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 3 月 18 日(月)09 時 42 分 59 秒 返信・引用

袈裟襷文銅鐸/大阪府羽曳野市西浦出土 大阪府羽曳野市西浦小学校の校舎改築現場から見つかり、直ちに市教育委員会が調査した。銅鐸は、幅六五センチ、深さ三五センチの穴に四五度の角度で埋められていた。
<http://bunka.nii.ac.jp/SearchDetail.do?heritageId=202233>

斜 45°<http://www.geocities.jp/yasuko8787/kunimi.htm>

【船】航海(緯度×経度) - 緯度×経度の合体したトコが現在地緯度×経度の基準 航海テキスト 緯度を調べる緯度を調べる道具 緯度の調べ方 ... だからナイジェルやビセンテにとって、北極星を探す北斗七星(柄杓の先っぽの先に北極星がある)も特別な星座です。 <http://www53.atwiki.jp/alonsodeleyva/pages/68.html> 緯度は太陽(夜は北極星が南極星)の高さを調べる 天測航法 で分かる。 だからナイジェルやビセンテにとって、北極星を探す北斗七星(柄杓の先っぽの先に北極星がある)も特別な星座です。

銅鐸の内部角度 <http://www.enjoy.ne.jp/~hisasi/index98-7.html> 「亀甲紋」は正三角形を 6 個組み合わせたものである。それは「銅鐸が 30、60、90 度を測るこ

とができる」と考えれば、正六角形の頂角のある一点からもう二方の点を見る時の角度と一致する。この亀甲紋がはたして銅鐸の角度を意識して作られたのかどうかは定かではないが、少なくともこのことから出雲に航海文化が花開いていた匂いを感じることはできまいか？

、箸墓に引いた直線の傾斜が45 度になることを確かめている際に、神野山が傾斜 45 度の位置にあることに気がきました。

水路部の天文観測機器 <http://uenishi.on.coocan.jp/n102kaiyoukiki.html> 海軍の水路部では海図作成のため古くから天文観測を行い経緯度を決定していました。また 自船の位置を知るためにも天文観測は不可欠でした。そのため明治中期には陸軍にさがしつけ東京に海軍観象台を設置し現在の国立天文台の基礎を固めました。現在は天文観測の役割は終わり人工衛星を利用した航法測地が主になっています。写真上はドイツのアスカニア社製の口径 90 ミリメートル「子午儀」です。製造年は不明ですが1921 年(大正 10)頃と思われます。主に経度を精密に決定するため使用されました。子午線方向にのみ望遠鏡が回転する構造になっており特定の天体が南中する時刻から経度を求めたり赤経が既知の天体の子午線を通過する時刻を観測して経度を決定します。写真中は「天測計算器」と呼ばれ 1941 年(昭和 16)測機舎製です。方位角、高度角の観測値をセットして赤緯、時角(天体が日周運動で子午線を通過後に進行した角度)を読みとること、またその逆も可能です。数値を変換するだけでこの機器で観測するわけではありません。第二次大戦末期に潜水艦に配布されました。[朝尾紀幸: 観測機器が伝える歴史 天測計算器 季刊「水路」第 148 号 日本水路協会 2009.1 p19] 写真下は「天文経緯儀」で1970 年(昭和 45)スイスのケルン社製です。天文経緯儀は測

定地点の経緯度を能率的に求めるもので駆動は垂直面、水平面とも可能で水平目盛、高度目盛ともあります。

そっきょ-ぎ[ソクキヨ]-【測距儀】。目標までの距離を測る装置。長さのわかっている基線の両端と目標とのなす角度を利用して 測る。…ポイント の位置(搭載のライン上) 山岩 古墳 寺社 …

Re:九州屯倉方位区画動画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 17 日(日)19 時 12 分 42 秒 返信・引用
> No.1381[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

「大日本国図」と九州の屯倉拠点を結んだ方位区画を対応させる。
何か見えてくる様な。

>> 遺跡で紹介した拠点の詳細は下図をご参照ください。 >> 特に屯倉関連地名につく「三(宅)」「倉(蔵)」「宮」「御」「神田」の地名に注目してみてください。関連の方位区画上に、それらの地名が、明らかに多く見られることに気付かれると 思います。 >> 尺度は 35~37km の距離が多く見えますが、弥生末の九州方位区画の遺跡のラインを流用 している模様です。宇佐の事例のように若干、尺度が替り拠点にも変化が生じています。そして先の-1 度偏角の方位区画と異なり、ほぼ完全は正方位区画へと変化しています。 >> その拠点上に古墳はほとんど見えず、その代わりに上記の地名や神社、皇室領が見えてくる 点で、その時代の測量拠点の変化がわかります。 >> あとで、もう少し綺麗なラインを引いた動画を作成しなおしたいと考えてますが、とりあ え ず地名に注目しながら、ご覧ください。

九州屯倉方位区画動画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 17 日(日)13 時 59 分 52 秒 返信・引用 編集済
続いて、九州の屯倉拠点を結んだ方位区画の説明動画も作成してみました。こちらからご視聴ください。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/kyusyu-miyake-houikukaku.mov>

遺跡で紹介した拠点の詳細は下図をご参照ください。

特に屯倉関連地名につく「三(宅)」「倉(蔵)」「宮」「御」「神田」の地名に注目してみてください。関連の方位区画上に、それらの地名が、明らかに多く見られることに気付かれると 思います。

尺度は 35~37km の距離が多く見えますが、弥生末の九州方位区画の遺跡のラインを流用し ている模様です。宇佐の事例のように若干、尺度が替り拠点にも変化が生じています。そして 先の-1 度偏角の方位区画と異なり、ほぼ完全は正方位区画へと変化しています。

その拠点上に古墳はほとんど見えず、その代わりに上記の地名や神社、皇室領が見えてくる 点で、その時代の測量拠点の変化がわかります。

あとで、もう少し綺麗なラインを引いた動画を作成しなおしたいと考えてますが、とりあ え ず地名に注目しながら、ご覧ください。

『豊洲駅から歩く【女子ひとりごはん】できるお店』ランキング 245 人が見えています

『え、うそ!?他県民もびっくり!宮崎県あるあるランキング』ランキング 335 人が見えています

『祝★桜開花★お花見に!女子会に!気になるお取り寄せ桜スイーツ 10★』ランキング 368 人が見えています
知って得するランキング-ランキングシェア byGMO

Ads by Google 瀬戸内・河内方位区画動画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 16 日(土)23 時 52 分 30 秒
返信・引用 編集済 続いて、瀬戸内と河内を結んだ方位区画の動画を作成してみました。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/kawachi-miyake-houikukaku.mov>

動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。

仁徳陵→応神陵→崇神陵→志賀高穴穂宮→佐々尾神社(仁徳神社)→久世町・五反廃寺・三崎(白猪屯倉)→作山古墳→造山古墳→児島屯倉(郡)→幡多廃寺→賞田廃寺→弓削・久米→黒田庵戸宮(倭屯倉)→宮塚古墳→三宅八幡社→深草屯倉(稻荷山古墳・深草坊 町)→メスリ山古墳→桜井茶臼山古墳→和泉黄金塚古墳→住吉大社→石

上神宮→伊勢内宮 →鴨都波古墳→佐味田宝塚(ナガレ山古墳)

ちょっと途中で遺跡の場所を忘れて迷っているので、適当に早回しして見てください。

尺度は 11.1km 尺です。途中で出てくる距離表をみると、あきらかに 11.1km の倍数距離が多く見えてきます。

どうもこうみると、河内の-1(~2?)度偏角方位区画は、後代の正方位の屯倉方位区画にリンクするようですね。

ただ、おそらく5世紀半ばの元嘉暦の導入で春分・秋分が正確に出せるようになってから、偏角がでなくなるのですが、その変換期をまたいでいるので、この方位区画には-1(~2?)度偏角と正方位(0.5度?)が混じっているように見えます。

それで、逆に遺跡の成立年代が推定できるでしょう。応神・仁徳陵は、元嘉暦以前の5世紀中葉以前、屯倉の主な方位区画はそれ以後になりそうです。

4世紀前半の景行朝(大彦)時代の春日・和邇系拠点、4世紀中葉の半島系・成務朝(吉備津彦)の志賀高穴穗宮時代、4世紀末~の応神・仁徳といった河内王朝、そして6世紀代の後期屯倉時代まで利用された方位区画です。

Ads by Google Re:最初の日本地図?! 投稿者:管理人 投稿日:2013年3月16日(土)23時13分21秒 返信・引用 編集済

> No.1377[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 棘の紀氏さんへのお返事です。 >> 隋(581年 - 618年)は、中国の王朝。魏晋南北朝時代には東高西低の地形を知っていた模様。 >

- > <http://www.city.koga.ibaraki.jp/rekihaku/2001haru/shougaisho.htm> >
- > 倭国の地図だな、当時は常陸までが倭国で東北は日本でしたな。 >
- > 管理人さん屯倉(みやけ)の特定に使えるそうですね。 >
- > ただし、韓半島南部が無いのが残念ですね。 >>
- > 『隋書』倭国伝 >
- > 倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國、三十餘國、皆自稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。都於邪摩堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東與儋耳相近。

この行基図はよく見るといろいろ面白いことがわかりますね。

まず左上に日本の東西の街道長(距離・里数)が記されてますね。 京から陸奥まで 3587 里 京から長門まで 1978 里

どうも、この数値は図でいう山陽道と、東海道の長さにみえますね。東山道だともっと短いはずですが、6町を1里とした記載をどう解釈すべきか。

次に、街道のたどっていたルートがわかります。

そして「陸奥」のところに、「夷地」の語がみえ、さらにその奥に別に別の領域がある。

つまり「夷」の意味が、あくまで服属している異民族集団という捉え方をしてるんです。その外は服属してない地域のことでしょう。「出羽」はそういう意味では特殊ですね。地図をみるとちょうど「羽」が伸び「出」るように、細長い地域として認識していたようにも見えます。

陸奥に少し入ったところで街道が切れているのも、意味深です。

あと東京湾が異様に大きいのは、現在より海岸線がはるか内陸まで入り込んでいたことの影響もあるでしょう。さきたま古墳群のある行田あたりまで海が来ていましたからね。

ついでにいうと静岡方面もずいぶん内陸まで浸水している。難しいのですが、白鳳南海地震 後の静岡・愛知の海岸線の様子もどのくらい浸水していたかを調べてみたいところです。

そして四国・九州の南部がないのは、これは測量出来なかった地域ではないでしょうか。高知方面へ向かうには、奈良時代でも至難でしたし、鹿児島方面の隼人領域の件もありますね

九州というのは、こうみると9つ国があるので九州なんですね。阿蘇あたりを中心にして、諸国旋回してます。

四国も4つの国。一度愛媛に抜けてから、高知に入るには、当時徳島方面から高知に抜ける道がなかったことと対応しています。

同様に、九州ルートは豊後から一度日田方面を抜けて熊本にぬけて、そこから薩摩経由で宮崎に向かうんですね。

それで秦野さんご指摘の屯倉関連で重要なのは、五機七道の七道、この地図では八道の、特に美作方面に伸びる街道でしょう。これが縮見・白猪屯倉に向かうラインで、彼らは少なくとも出雲に抜けるライン(道)であることに気づいてますね。

常陸国のところに、わざわざ「鹿島」を別に書きこんでいるのも、鹿島が方位区画の拠点だと理解しているからでしょう。こうみると通説の相模から安房に抜ける街道ルートではないですね。甲斐南部・武蔵経由で常陸にぬけて、房総へ向かってます。

成立年代は山城国から各道がでていたので平安京時代以降と考えられているようですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/行基図>

ある意味、キシさんの本にある行基図の解説のように、方位区画をどこかで意識していた図であった可能性はあるでしょう。行基作というわけではなく、ある時期の測量士の認識を示していた可能性を感じます。

ストーンヘンジの尺はキュビット 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月16日(土)10時23分54秒 返信・引用 編集済

ストーンヘンジの尺はキュビットのような。情景が黙示録のバビロンに似ているな。

馬蹄形に配置された高さ7mほどの巨大な門の形の組石(トリリトン)5組を中心に、直径約100mの円形に高さ4-5mの30個の立石(メンヒル)が配置されている

この石はほぞ穴とほぞの継ぎを加工されてから、30個が直径33mの円陣状に立てられ、上に30個の横石が載せられた。

実測 直径約110mの円形 直径33mの円陣状

$37.1\text{cm} \times 3 \times 1000 \approx 110\text{m}$ $37.1\text{cm} \times 3 \times 10 \times 3 \times 10 \approx 33\text{m}$

キュビット 西洋の文化も、キュビットは使われた。ペルシャのキュビットは52~64cm、古代ギリシャでは $\pi\chi\upsilon\varsigma$ (pechys; ペーキウス)と呼ばれ約47.4cm、古代ローマでは cubitus と呼ばれて約44.46cm、アラブでは arsh と呼ばれて48~64cmであった。ユダヤでは ?????(アマ)と呼ばれて46~61cmであるが、これは今日でもユダヤ教で用いられている。

キュビット 里(呉尺) $\div 1.2$ =里(隋(晋)尺) $\div 1000$ =キュビット

$533.5\text{m} \div 1000 = 533.5\text{cm}$ ペルシャ ユダヤ $533.5\text{m} \div 1.2 \div 1000 = 44.4\text{cm}$ (大キュビット) 古代ローマ $44.4\text{cm} \div 1.2 = 37.1\text{cm}$ (小キュビット)

呉尺 隋(晋)尺 $35.6\text{cm} \div 1.2 = 29.6\text{cm}$ (大尺) $29.6\text{cm} \div 1.2 = 24.6\text{cm}$ (小尺)

呉代、隋代の尺を里に当て嵌めるならば、大里、小里が存在する。

呉尺 隋(晋)尺 $533.5\text{m}(\text{里}) \div 1.2 = 444\text{m}$ (大里) $444\text{m}(\text{大里}) \div 1.2 = 370\text{m}$ (小里)

アッティカスタディオンとエジプトスタディオンの比 $185 \div 157.5 = 1.175 \approx 1.2$

Re:最初の日本地図?! 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月16日(土)01時16分0秒 返信・引用 編集済
> No.1375[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

隋(581年 - 618年)は、中国の王朝。魏晋南北朝時代には東高西低の地形を知っていた模様。

<http://www.city.koga.ibaraki.jp/rekihaku/2001haru/shougaisho.htm>

倭国の地図だな、当時は常陸までが倭国で東北は日本でしたな。

管理人さん屯倉(みやけ)の特定に使えるそうだな。

ただし、韓半島南部が無いのが残念だな。

『隋書』倭国伝

倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國、三十餘國、皆 自稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。 都於邪靡堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與 儋耳相近。

倭国は、百済や新羅の東南に在り、水陸を越えること三千里、大海中の山島に依って居する。 三国魏の時代、通訳を伴って中国と通じたのは三十余国。皆が王を自称した。東夷の人は里数 (距離)を知らない、ただ日を以って計っている。 その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。その地形は東高西低。 都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。古伝承では楽浪郡の境および帯方郡から一万二千里、会稽の東に在り、儋耳と相似するという。

Re:奈良都城区劃説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月16日(土)00時28分 36秒 返信・引用 編集済

> No.1374[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

了解ですな。

これだけのもの、インパクトと専門家の抵抗が大きいでしょうな。

やる、価値はあるな。

> 動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。 >>> 孝霊天皇黒田庵田宮(倭屯倉)→懿徳天皇陵→孝元天皇陵→唐子・鍵遺跡→鏡作神社→ 孝元天皇陵→恒例天皇陵→桜井茶臼山古墳→西殿塚古墳(柳本古墳群)→乙女山古墳(馬 見古墳群)→三輪山→石上神宮周辺→各種方位区画拠点→穴師兵主神社→マキムク遺跡

>> 詳細は先述論議したとおりですが、下図も参照ください。特に漢魏洛陽城と重ねた図も添 付します。そしてその郊外の王廟祭祀地域に、欠史の陵墓が並んでいることも理解できると 思います。先日お話したとおり洛陽城の東西市の部分が、マキムク遺跡の「大市」の地名に、唐 子・鍵遺跡、宮古・保津遺跡から黒田庵田宮あたりが、洛陽城の宮殿域になります。 >>

最初の日本地図?! 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年3月15日(金)23時58分59秒 返信・引用

日本で最初に作成された地図として記録が残っているものは、大化の改新(645年)で土地の測量を行なった時の田や国有地を記したといわれる「田図(でんず)」だとい われていますが、残念ながら実物は残っていません。現存しているもので最も古いのは、天平勝宝 3(751)年の「東大寺領近江国水沼村墾田 図」という地籍図(図1)です。これは絵地図で、必ずしも正確なものではありませんが、以 降の村地図に大きな影響を与えたといわれています。 平安時代になると、「行基図」(図2)と呼ばれる筆で書いた日本地図が作られるようになります。行基は奈良時代の僧で、全国をまわって地域の開発につくした人といわれています が、彼が本当に行基図を作成したかどうかは証明されていません。 この行基図は正確な測量に基づいたものではなく、日本列島の形や国の形も非常に大ざっ ぱです。それでも、それぞれの国の位置関係がわかるだけでなく、一目で日本のどの辺りにあ るのかがわかる大変貴重な情報で、江戸時代初期まで何枚も作られました。

昭に質問したと言う。

行者は全国各地の山々 80 座以上も開山したと伝えられる修験道の開祖。江戸後期、朝廷から「神変大菩薩」の称号が送られ、いま大峰山寺わきに「神変大菩薩壹千貳 百年御遠忌」の像が建っている。

江戸後期、朝廷から…?なぜ

奈良都城区劃説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 15 日(金)23 時 13 分 13 秒 返信・引用 編集 済

> No.1373[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 例として、古代史が身近にあることを強調するのはどうですか。 >

例えば、奈良の人が興味を持ちそうな方位区画としては、こちらの都城区画がありますね。 動画を作成してみました。こちらです。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/nara-tojyoukukaku.mov>

動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。

孝霊天皇黒田庵田宮(倭屯倉)→懿徳天皇陵→孝元天皇陵→唐子・鍵遺跡→鏡作神社→孝 元天皇陵→恒例天皇陵→桜井茶臼山古墳→西殿塚古墳(柳本古墳群)→乙女山古墳(馬見 古墳群)→三輪山→石上神宮周辺→各種方位区画 拠点→穴師兵主神社→マキムク遺跡

詳細は先述論議したとおりですが、下図も参照ください。特に漢魏洛陽城と重ねた図も添付 します。そしてその郊外の王廟祭祀地域に、欠史の陵墓が並んでいることも理解できると思 います。先日お話ししたとおり洛陽城の東西市の部分が、マキムク遺跡の「大市」の地名に、唐 子・鍵遺跡、宮古・保津遺跡から黒田庵田宮あたりが、洛陽城の宮殿域になります。

- > 百舌鳥、古市古墳の間隔距離。3.71 km >
- > 釜山(フザン、狗耶韓国)対馬と鰐浦の間隔距離。53 km
- > 徐福と邪馬台国の秦野距離 >

そうですね、河内にも同様な都城区画がありますね。

> 管理人さんの九州方位がいいな。これは九州にはインパクトがあるぞ。 >> 上記 3 件は図とする。簡単な説明をでいいですな。 >

九州はこれからですね。先的那珂八幡、甘木・平塚川添遺跡あたりを洗い出してみたいところ です。

> 理系の論文みたいなペーパー 1 枚+3 件の図と簡単な説明 >

そうですね、図と数値で判りやすければそれでよいのではないかと感じます。

<http://>

Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 15 日(金)14 時 42 分 21 秒 返信・引用

> No.1372[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

了解ですな。

例として、古代史が身近にあることを強調するのはどうですか。

百舌鳥、古市古墳の間隔距離。3.71 km

釜山(フザン、狗耶韓国)対馬と鰐浦の間隔距離。53 km 徐福と邪馬台国の秦野距離

管理人さんの九州方位がいいな。これは九州にはインパクトがあるぞ。

上記 3 件は図とする。簡単な説明をでいいですな。 理系の論文みたいなペーパー 1 枚+3 件の図と簡単な説

明

> そうですね、ただちょっと改訂版を用意する必要がありそうです。 > ページ数が多くなればなるほど、どうしても誤字脱字や補足説明などもできますね。 >> できれば、理系の論文みたいにペーパー 1 枚で終わらせて、どこかの雑誌に投稿するのが ベストです。 >> ただ、方位区画みたいに、いろいろ長い補足説明がないと理解できないケースではどうしても本や電子ブックにする必要もあるでしょう。特に方位区画の図はカラーで図が拡大できる電子ブックのほうがベストですね。それに加えて、次版は方位区画説明 DVD も会報に付属 させる予定です。 >> まだ意見を聴いてないので判らないのですが、たぶん方位区画は動画がないと、その理解 や証明は無理ではないかと感じてます。 >> それをペーパーだけで証明しようとする、各遺跡の緯度・経度と誤差(%)を付記する 必要がありますが、ただ各遺跡間を結ぶ方位区画は南北東西 4 方向から他の遺跡との兼ね 合いで、精度検証しないと行けないので、それをいちいち証明していくと、電話帳サイズになる かもしれません。 >> その点でやはり動画で直感的に「三辺合同」「二辺挟角」で論理を理解していただくのがベストかもしれません。 >> 今までの古代史で、動画が証明題材になったケースは、先の藤井さんの本に付属している 条件異音の際の口の動きを収録した動画 CD くらいではないでしょうか。 >>> スタディオン、キュビットを比較すると里の存在は民族の移動の歴史のようだな。 >> スタディオンは殷、周。キュビットは夏、三苗に成る。 >>>> 殷 1 尺 ≒ 158 mm エジプトスタディオン >> 周 1 尺 ≒ 187 mm アッティカスタディオン

>>>> 殷、周、以前は夏、三苗から夏、三苗はノアの方舟の末裔の可能性がある。 >> キュビットと里は同一と思われる。 >>>> 里も同様に地球周長を 90,000 で割ったのだろうな。 >> 1 里 = 40,000,000m ÷ 90,000 = 444m >>>>

Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 15 日(金)06 時 30 分 51 秒 返信・引用 編集済

> No.1365[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 古代史がここまで追及できたのですから専門家に見てもらいたいものですな。 > まとめて、PDF 原稿をアップして販売しましょうか。 >

そうですね、ただちょっと改訂版を用意する必要がありそうです。 ページ数が多くなればなるほど、どうしても誤字脱字や補足説明などもできますね。

できれば、理系の論文みたいにペーパー 1 枚で終わらせて、どこかの雑誌に投稿するのがベ ストです。

ただ、方位区画みたいに、いろいろ長い補足説明がないと理解できないケースではどうしても本や電子ブックにする必要もあるでしょう。特に方位区画の図はカラーで図が拡大できる 電子ブックのほうがベストですね。それに加えて、次版は方位区画説明 DVD も会報に付属さ せる予定です。

まだ意見を聴いてないので判らないのですが、たぶん方位区画は動画がないと、その理解や 証明は無理ではないかと感じてます。

それをペーパーだけで証明しようとする、各遺跡の緯度・経度と誤差(%)を付記する必 要がありますが、ただ各遺跡間を結ぶ方位区画は南北東西 4 方向から他の遺跡との兼ね合い で、精度検証しないと行けないので、それをいちいち証明していくと、電話帳サイズになるか もしれません。

その点でやはり動画で直感的に「三辺合同」「二辺挟角」で論理を理解していただくのがベス トかもしれません。

今までの古代史で、動画が証明題材になったケースは、先の藤井さんの本に付属している条 件異音の際の口の動きを収録した動画 CD だけではないでしょうか。

- > スタディオン、キュビットを比較すると里の存在は民族の移動の歴史のようだな。
- > スタディオンは殷、周。キュビットは夏、三苗に成る。 >
- > 殷 1 尺 ≒ 158 mm エジプトスタディオン
- > 周 1 尺 ≒ 187 mm アッティカスタディオン >

- > 殷、周、以前は夏、三苗から夏、三苗はノアの方舟の末裔の可能性がある。
- > キュビットと里は同一と思われる。 >
- > 里も同様に地球周長を 90,000 で割ったのだろうな。
- > 1 里=40,000,000m÷90,000=444m >

追伸・三角縁神獣鏡方位区画動画-3 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 14 日(木)23 時 21 分 8 秒
返信・引用 編集済

> No.1370[元記事へ]

先の動画の追伸ですが、こちらの磐舟神社・雪野山古墳・森將軍塚を結ぶライン、東之宮・一輪山・花之谷古墳を結ぶラインを入れた動画の方が理解しやすいかもしれません。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/sankakubuchi-1do-houikukaku-b.mov>

主に物部氏のラインと重なる模様。各古墳についてはこちら参照。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/三角縁神獣鏡>

これでほとんどの三角縁神獣鏡出土古墳が、7 度と-1 度偏角の方位区画に載る事が判ります。なぜそうなるかということ、会報でずっと論じてきたように、前方後円墳と三角縁神獣鏡が測量土台と測量道具の機能も有するからということになるのですね。

『私的新潟ラーメン屋さん』ランキング 381 人が見えています

『八王子駅から歩く!【女子ひとりごはん】できるお店』ランキング 411 人が見えています

『沼津に観光にいくなら・沼津で食べる駿河湾グルメの美味しい店』ランキング 380 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO

Ads by Google 三角縁神獣鏡方位区画動画-3 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 14 日(木)21 時 59 分 59 秒
返信・引用 編集済

> No.1369[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 海表の蕃屏(まがき)、屯倉数 500 ケ所の確定ですな。 >
- > 日本地図の海岸線が各県ほぼ同距離に見える。 >
- > 例外で内陸部があるが後日検討する事で議論したい。 >

日本全国の海岸に分布する方位区画というと、こちらの三角縁神獣鏡-1 度偏角方位区画 がありますね。説明動画を作成しました。ご参照ください。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/sankakubuchi-1do-houikukaku.mov>

遺跡紹介順は下記のとおりです。

千葉・手古塚古墳→真土西古墳→富士山→(東之宮古墳)→花岡山古墳→一輪古墳→出雲 大社→円満寺古墳→伊佐和神社→奥津社古墳→伊勢内宮→新豊院山 2 号墳→椿井大塚山古墳→桜井茶臼山古墳→竹内街道→崇神陵→佐味田宝塚古墳→鴨津波 1 号墳→多武峰周辺→ 広島・中小田古墳

主に東海・関東方面に多いことがわかります。先の関西中心の 7 度偏角ものより時代が明らかに新しいですね。タケウチスクネの時代です。

これが先日の関東-1 度偏角方位区画に重なるのですが、また後で東北・関東の関連方位区画もアップします。どうも森將軍塚、磐舟神社を結ぶ物部方位ラインに接続するようです。

Ads by Google Re:三角縁神獣鏡方位区画動画-1 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 14 日(木)06 時 32 分 7 秒 返信・引用

> No.1367[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

海表の蕃屏(まがき)、屯倉数 500 ケ所の確定ですな。 日本地図の海岸線が各県ほぼ同距離に見える。 例外で内陸部があるが後日検討する事で議論したい。

> 屯倉は日本書紀(継体訓)の文章に「海表の蕃屏(まがき)」..。 >> 文章から国の境界は海岸線の長さで定まると読める。

>>>>>>

国は海岸線の長さで定まり、各国に屯倉が置かれた。だな。 「国毎に初めて一を置きて、海表の蕃屏(まがき)として/日本書紀(継体訓)」 海岸線を測れば 100 km ぐらいになるか。

続いて、年号銘鏡を含んだ三角縁神獣鏡方位区画もアップしました。 動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。

>>>> 墳→白鳥古墳→多武峰→西山古墳→桜井茶臼山古墳→崇神陵→春日率川宮→椿井大塚山古墳 墳です。

神原神社古墳→森尾古墳→西求女塚古墳→椿井大塚山古墳→温江山古墳→宇佐・赤塚古墳

>> どうも先の方位区画と同じ偏角なので、結局は先の動画や方位区画と同じで、三角縁神獣鏡 方位区画の前期は7度に統一できそうですね。そうすると、5度偏角の奈良都城方位区画の時代は、やはり弥生末で三角縁以前となるでしょうか。

三角縁神獣鏡方位区画動画-2 投稿者:管理人 投稿日:2013年3月13日(水)23時18分26秒 返信・引用 編集済

> No.1367[元記事へ] 続いて、年号銘鏡を含んだ三角縁神獣鏡方位区画もアップしました。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/sankakubuchi-7do-houikukaku-2.mov>

動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。

神原神社古墳→森尾古墳→西求女塚古墳→椿井大塚山古墳→温江山古墳→宇佐・赤塚古墳 →白鳥古墳→多武峰→西山古墳→桜井茶臼山古墳→崇神陵→春日率川宮→椿井大塚山古墳 です。

どうも先の方位区画と同じ偏角なので、結局は先の動画や方位区画と同じで、三角縁神獣鏡 方位区画の前期は7度に統一できそうですね。そうすると、5度偏角の奈良都城方位区画の時代は、やはり弥生末で三角縁以前となるでしょうか。

三角縁神獣鏡方位区画動画-1 投稿者:管理人 投稿日:2013年3月13日(水)20時57分11秒 返信・引用 編集済

> No.1363[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 屯倉は日本書紀(継体訓)の文章に「海表の蕃屏(まがき)」..。 >
- > 文章から国の境界は海岸線の長さで定まると読める。 >
- > 国は海岸線の長さで定まり、各国に屯倉が置かれた。だな。 >
- > 「国毎に初めて一を置きて、海表の蕃屏(まがき)として/日本書紀(継体訓)」 >
- > 海岸線を測れば 100 km ぐらいになるか。

海岸線というと、先の三角縁神獣鏡出土古墳を結んだ方位区画がありますね。瀬戸内海海岸線を囲んでいます。 動画を作成してみました。まず7度偏角の方位区画からアップします。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/sankakubuchi-7do-houikukaku.mov>

動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。 椿井大塚山古墳→中小田1号墳→東求女塚古墳→潮崎山古墳→多武峰→桜井茶臼山古墳→

崇神陵→西山古墳→コヤダニ古墳です。それで、推定方位区画を 2 種類作成してみました。1 つ目は正方位区画、2 つ目は 7 度偏角の方位区画です。

以前は 7 度偏角で考えていたのですが、あるいは正方位区画だった可能性もあるのではないかと迷ってます。

三角縁-1 度、7 度偏角の方位区画のほうは、また後でアップします。

同じ方位ライン上の古墳は同范鏡を共有する傾向があります。その当時の遺跡にも同様な偏角があるので、やはり偏角があったのかなと感じているのですが、どうでしょうね。研究を長く続ければ続けるほど、ものごと精密になっていきますね。そして一部はやはり追加・変更されていく、その繰り返しです。

Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 3 月 13 日(水)12 時 41 分 46 秒 返信・引用

> No.1365[元記事へ] 秦野北斗さん管理人さんへのお返事です。 > 周と呉の時期に 1.2 が存在する。何かあったのだろうな。歴史のほころびですな。

呉(ご、拼音:wú、紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年)は、中国の春秋時代に存在した君国の一つ。現在の蘇州周辺を支配した。君主の姓は姫。元の国号は句呉、勾?。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

周(しゅう、紀元前 1046 年頃 - 紀元前 256 年)は、中国古代の王朝。殷を倒して王朝を開いた。また、時代の名前にも使い、「周代(西周、英語:Western Zhou)」と言えば、紀元前 1046 年頃から、遷都して東周となるまでの紀元前 771 年の間のことを指す。国姓は姫(き)。周代において中国高文明が成立したとみられる <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%A8>

呉(ご、拼音:wú、紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年) エゼキエルは紀元前 600 年頃創造の 神を幻視した時、4 つの車輪をみた。

<https://twitter.com/onomaro/status/21726782022>

紀元前 6 世紀、ピュタゴラスは 2,3,5 という数の平方根は全ての形態を創出する根本的 特性であるということを見つけた。

Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 13 日(水)03 時 10 分 4 秒 返信・引用 編集 済

> No.1364[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古代史がここまで追及できたのですから専門家に見てもらいたいものですな。まとめて、PDF 原稿をアップして販売しましょうか。

スタディオン、キュビットを比較すると里の存在は民族の移動の歴史のようだな。スタディオンは殷、周。キュビットは夏、三苗に成る。

殷 1 尺 ≒ 158 mm エジプトスタディオン 周 1 尺 ≒ 187 mm アッティカスタディオン

殷、周、以前は夏、三苗から夏、三苗はノアの方舟の末裔の可能性がある。
キュビットと里は同一と思われる。

里も同様に地球周長を 90,000 で割ったのだろうな。1 里=40,000,000m÷90,000=444m

西洋の文化、古代ギリシャでは π?χυς(pechys; ペーキュス)と呼ばれ約 47.4 cm、古代ローマ では cubitus と呼ばれて約 44.46 cm、アラブでは arsh と呼ばれて 48~64 cm であった。

古代イスラエルでは、第一神殿時代のキュビットは 428 mm であった。第二神殿時代には、一般的には 445 mm のキュビットが使われていたが、宗教的な目的には 437 mm のキュビット が使用されて

その痕跡が大宝律令の尺(秦野距離)は呉尺で隋尺の関係がものごとたり、古墳 方位に影響を残すことに成った。

魏志倭人伝、呉尺の短里、古事記の鏡の大きさは呉尺。古墳距離は呉尺から隋(晋)尺換算、アッティカスタ

イオンになる。

キュビットは、紀元前 6000 年ごろの古代メソポタミアで生まれたとされている。 ノアの方舟(ノアのはこぶね、英語: Noah's Ark)は、旧約聖書の『創世記』(6 章-9 章)

方舟は「長さ 300 キュビット、幅 50 キュビット、高さ 30 キュビット」で 3 つのデッキを持っている。 これらは、総てが地球の円周距離が生んだ距離の様ですな。

エジプトスタディオン 157.5 250,000 スタディアの地球周長を意味し $250000 \times 157.5 = 39375000$

アッティカスタディオン 185 緯度 1 度が 111km: $185.185 \times 60 \times 60 \times 60 = 39960000$

里も同様に地球周長を 90,000 で割ったのだらうな。 $1 \text{ 里} = 40,000,000 \text{ m} \div 90,000 = 444 \text{ m}$

大宝律令の尺(秦野距離)は呉尺で隋尺の関係は 1.2 倍になる。

呉尺 隋(晋)尺 $35.6 \text{ cm} \div 1.2 = 29.6 \text{ cm}$ (大尺) $29.6 \text{ cm} \div 1.2 = 24.6 \text{ cm}$ (小尺)

呉代、隋代の尺を里に当て嵌めるならば、大里、小里が存在する。

呉尺 隋(晋)尺 $533.5 \text{ m(里)} \div 1.2 = 444 \text{ m(大里)}$ $444 \text{ m(大里)} \div 1.2 = 370 \text{ m(小里)}$

アッティカスタディオンとエジプトスタディオンの比 $185 \div 157.5 = 1.175 \approx 1.2$

周と呉の時期に 1.2 が存在する。何かあったのだらうな。歴史のほころびですな。 >あと、キュビットの件は下記の記載があります。

>> それ以外の多くの西洋の文化も、キュビットは使われた。ペルシャのキュビットは 52~64 cm、古代ギリシャでは π?χυς(pechys; ベーキウス)と呼ばれ約 47.4 cm、古代ローマでは cubitus と呼ばれて約 44.46 cm、アラブでは arsh と呼ばれて 48~64 cm であった。ユダヤでは ?????(アマ)と呼ばれて 46~61 cm であるが、これは今日でもユダヤ教で用いられている。 > 古代イスラエルでは、第一神殿時代のキュビットは 428 mm であった。第二神殿時代には、一般的には 445 mm のキュビットが使われていたが、宗教的な目的には 437 mm のキュビットが使用されて >>

- > 古代ローマの長さの単位 [編集] >
 - > 古代ローマの長さの単位(英名) ラテン語名 換算
 - > 1 デジット(digit)
 - > 1 インチ(inch)
 - > 12 分の 1 1?12
 - > 1 パーム(palm)
 - > 1 ペース(foot)
 - > 1 キュビット(cubit)
 - > 1 ステップ(step)
 - > 1 パッスス(pace)
 - > 1 パーチ(perch)
 - > 1 アルパン(arpent)
 - > 1 スタディオン(stadium) stadium
 - > 1 マイル(mile) milliarium
- 1,480 m

- > 1 リーグ(league) leuga -- 7,500 >>
- > <http://ja.wikipedia.org/wiki/キュビット> >
- > 古墳時代の方位区画にしきりに出てくる 11.1km、22.2km 尺は、1 リーグ 2.22km 尺とも対応するでしょう。 >> また先の動画を見ていただくとわかるように、7.3~4km も出てきます。上記の 1 ステップ

digitus 指 1?16 uncia (1 単位の) 0.0246 m palmus 手のひら(palma) 1?4

pes 足 1 cubitus ひじ(cubitum) gradus 歩み、一步

0.296 m 1 1?2 0.444 m 2 1?2 0.74 m

passus 歩み pertica 棹 actus 120

5 1.48 m 10 2.96 m 35.5 m 競走用のトラック (1000 パススごとの)里程標 5,000

原義 ペース換算 メートル

0.0185 m

2,220 m

0.074 m

625 185 m

(step)つまり歩ですね。 >> 三角縁の平均直径は、21.7~22.2cm 前後です。23.7cm というのもあり、測量用の盤龍鏡が 24.5cm ですが、>>

- > ローマキュビットの半分です。 >
- > イスラエルのキュビットは下記のとおりです。 >>>単位 メートル法 聖書箇所 文語訳 口語訳 新改訳 新備考 >アツバオット 約 1.85cm エレミヤ書 52 章 21 節 指 指

指 聖書の中で一番短い長さの単位 >アマー約 44cm 創世記 6 章など キュビト キュビト キ ュ ビ ト

アンマ ひじを曲げたときの角から中指の先までの長さである

> カニイム アンマ

約 300cm エゼキエル書 42 章 16 節 竿 キュビト さ お 1「さお」を 500 キュビトとする説もある 約 45cm ヨハネの黙示録 21 章 17 節など 尺 キ ュ ビ ト

> ペーキュス ペーキュス スタディオン 新しいエルサレムの城壁が 144 ペーキュスで

あった > スタディオン 約 18,500cm 黙示録 14 章 20 節など 町 丁 ス タ ディ オン スタディオン 「基準」という意味である。

- > <http://ja.wikipedia.org/wiki/聖書の度量衡> >>
- > ammah "cubit" ca. 44.63 cm;
- > http://moziani.tripod.com/home/dr_ed07e.htm >>>>
- > アマーが 44,63cm ですね。ペーキュスも 45cm、144 ペーキュスは 64.8m >
- > 最後の黙示録のステディオンはローマ時代のそれでしょう。

共 同 訳 指

>>> ヤタの鏡は、平原鏡の 46.5cm ですが、漢尺の 2 倍長、桜井茶臼山のは、38cm で、19 cm 尺 の 2

倍になりそうですね。 >>> 奈良県桜井市の前方後円墳、桜井茶臼山古墳(全長約 200 メートル、3 世紀末~4 世紀 初め)に副葬された銅鏡が81 枚 ... 枚のほか、※製(ぼうせい)(日本製)の大型内行花 文鏡(ないこうかも んきょう)(直径約 38 センチ)なども含まれていた。

- > <http://blog.livedoor.jp/n2suydof/archives/51311268.html> >>
- > シュメール
- > H. 39 cm (15 1/2 in.), W. 46.5 cm (18 1/2 in.) {{Information |Description={{en|1=Nippur cubit, graduated specimen of an ancient measure from Nippur, Mesopotamia (3rd millennium B.C.) â “exposed in It is a dated and signed receipt written by a scribe called Ur-Amma for the delivery of beer, by a brewer named Alulu. >> Ur-Amma(ウル王朝のアマー)が 39cm、46.5cm ということで しょうか…。ヤタの鏡と桜 井の鏡の直径 46.5cm、 38cm に合いそうですね。 >>

Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 12 日(火)22 時 09 分 19 秒 返信・引用
> No.1358[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 荊の紀氏さんへのお返事です。 >
- > 古代から長さの単位は絶対を求めたのだろうか。 >
- > エジプトスタディオン 157.5 m
- > アッティカスタディオン 185 m >
- > 殷 1 尺 ≒ 158 mm
- > 周 1 尺 ≒ 187 mm >>

>

あと、キュビットの件は下記の記載があります。

それ以外の多くの西洋の文化も、キュビットは使われた。ペルシャのキュビットは 52~64 cm、古代ギリシャでは π?χυς(pechys; ペーキユス)と呼ばれ約 47.4 cm、古代ローマでは cubitus と呼ばれて約 44.46 cm、アラブでは arsh と呼ばれて 48~64 cm であった。ユダヤでは ?????(アマ)と呼ばれて 46~61 cm であるが、これは今日でもユダヤ教で用いられている。古代イスラエルでは、第一神殿時代のキュビットは 428 mm であった。第二神殿時代には、一般的には 445 mm のキュビットが使われていたが、宗教的な目的には 437 mm のキュビット が使用されて

古代ローマの長さの単位 [編集]

古代ローマの長さの単位(英名) ラテン語名 原義 ペース換算 換算

メー ト ル

1 デイジット(digit) 1 インチ(inch) uncia 12 分の 1 1/2 0.0246 m 1 パーム(palm) palmus 1 ペース(foot) pes 1 キュビット(cubit) 1 ステップ(step) 1 パッスス(pace) 1 パーチ(perch)pertica 1 アルパン(arpent) 1 スタディオ(stadium) 1 マイル(mile) milliarium 1 リーグ(league) leuga -- 7,500 2,220 m

digitus 指 1/16 0.0185 m (1 単位の)

手のひら(palma) 1/4 0.074 m

足

1 0.296 m ひじ(cubitum) 1 1/2 0.444 m 歩み、一歩 2 1/2 0.74 m 歩み 5 1.48 m 10 2.96 m

cubitus gradus passus 棹 actus stadium

120 35.5 m 競走用のトラック 625 185 m (1000 パッススごとの)里程標 5,000

1,480 m

<http://ja.wikipedia.org/wiki/キュビット> 古墳時代の方位区画にしきりに出てくる 11.1km、22.2km 尺は、1 リーグ 2.22km 尺とも対応

するでしょう。 また先の動画を見ていただくとわかるように、7.3~4km も出てきます。上記の 1 ステップ (step)つまり歩ですね。 三角縁の平均直径は、21.7~22.2cm 前後です。23.7cm というのもあり、測量用の盤 龍鏡が

24.5cm ですが、ローマキュビットの半分です。

イスラエルのキュビットは下記のとおりです。

単位 メートル法 聖書箇所 文語訳 口語訳 新改訳 新 共 同 訳 備考

アツバオット 約 1.85cm エレミヤ書 52 章 21 節 指 指 指 指 聖書の中で一番短い長さの単位

アマー 約 44cm 創世記 6 章など キュビット キュビット キュビット アンマ ひじを曲げたときの角から 中指の先までの長さである

カニム約 300cm エゼキエル書 42 章 16 節 竿 キュビット さお アンマ 1「さお」を 500 キュビットと する説もある

ペーキウス 約 45cm ヨハネの黙示録 21 章 17 節など 尺 キュビット ペーキウス スタディオン 新しいエ ルサレムの城壁が 144 ペーキウスで

あった スタディオン 約 18,500cm 黙示録 14 章 20 節など 町 丁 スタディオン スタディオン 「基 準」という意味である。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/聖書の度量衡>

ammah "cubit" ca. 44.63 cm; http://moziani.tripod.com/home/dr_ed07e.htm

アマーが 44.63cm ですね。ペーキウスも 45cm、144 ペーキウスは 64.8m 最後の黙示録のステディオン はローマ時代のそれでしょう。

ヤタの鏡は、平原鏡の 46.5cm ですが、漢尺の 2 倍長、桜井茶臼山のは、38cm で、19 cm 尺の 2 倍になり そうですね。

奈良県桜井市の前方後円墳、桜井茶臼山古墳(全長約 200 メートル、3 世紀末~4 世紀 初 め)に副葬された銅 鏡が81 枚 ... 枚のほか、※製(ぼうせい)(日本製)の大型内行花 文 鏡(ないこうかもんきょう)(直径約 38 セ ンチ)なども含まれていた。 <http://blog.livedoor.jp/n2suydof/archives/51311268.html>

シュメール

H. 39 cm (15 1/2 in.), W. 46.5 cm (18 1/2 in.) {{Information|Description={{en|1 =Nippur cubit, graduated specimen of an ancient measure from Nippur, Mesopotamia (3rd millennium B.C.) â “ exposed in It is a dated and signed receipt written by a scribe called Ur-Amma for the delivery of beer, by a brewer named Alulu.

Ur-Amma(ウル王朝のアマー)が 39cm、46.5cm ということでしょうか…。ヤタの鏡と桜 井の鏡の直径 46.5cm、 38cm に合いそうですね。

Re:九州マキムク型古墳方位区画動画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 12 日(火)21 時 09 分 22 秒 返 信・引用

> No.1361[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

見方を変えて…。

屯倉は日本書紀(継体訓)の文章に「海表の蕃屏(まがき)」…。 文章から国の境界は海岸線の長さで定まると読め る。 国は海岸線の長さで定まり、各国に屯倉が置かれた。だな。 「国毎に初めて一を置きて、海表の蕃屏(ま がき)として/日本書紀(継体訓)」 海岸線を測れば 100 km ぐらいになるか。

みやけ 0【<屯倉>/<官家>】〔「み」は接頭語。「やけ」は「やか(宅・家)」の転。稲穀を納める官の倉の意〕

(1)大化前代、大和政権直轄の田畑。自ら畿内に開発したもの、地方豪族が所領の一部を献上 したもの、地方に設定して中央から管理者を派遣して管理したものなどがあつた。(2)「官家」と書く)日本書紀によれば、大和政権が朝鮮南部の諸国に置いた直轄地。うちつ みやけ。

「国毎に初めて一を置きて、海表の蕃屏(まがき)として/日本書紀(継体訓)」(3)朝廷。「一の船枯野と名(なづ)くるは伊豆国の貢ぐ所の船なり/日本書紀(応神訓)」

> タテツキ墳丘墓→宮山展望古墳(三輪)→中山茶臼山古墳→開化天皇陵(宮)→椿井大 塚山古墳→桜井茶臼山古墳→新宝院山古墳→浅間山古墳→分校マエ山古墳→神戸4号墳 (上総国分寺付近)→出雲大社→萩原1号墳→山戸4号墳→愛媛・大久保1号墳 >

- > ここで 183km 尺 61km 尺が見える事に気付きます。おそらく 105km の後漢尺です。 >
- > おおむね正方位ですが、一部椿井大塚山など7度偏角の方位区画と重なります。 >
- > そして、春日系の神社や宮が多く関係してきますね。同時に三輪・山戸といった地名とも 関わります。

>> その辺の詳細は昨年論議したとおりで、また会報第4号をご参照いただきたいのですが、九州のマキムク型の方位区画についての動画は、後でまた提示いたします。

Re:神風特別攻撃隊の実像 投稿者:管理人 投稿日:2013年3月12日(火)18時45分7秒 返信・引用

> No.1357[元記事へ] ねこさんへのお返事です。

- > 神風特別攻撃隊の実像 >
- > http://book.geocities.jp/japan_conspiracy/0202/p003.html#page119
- > http://book.geocities.jp/japan_conspiracy/Y02/jrey2028.html#79B >
- > 出撃の前の晩、酒を飲んで暴れる隊員に、憲兵隊さえも手がつけられなかった。 >

さっそくお知らせありがとうございました。
個人的にちょっと勉強になりました。

連合国側の視点というのも、いろいろ考えさせられますね。

九州マキムク型古墳方位区画動画 投稿者:管理人 投稿日:2013年3月12日(火)06時48分 17秒
返信・引用 編集済

先の本州のマキムク型古墳方位区画動画に続いて、九州のマキムク型古墳方位区画の動画もアップしました。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/makimukugata-02.mov>

動画における遺跡の紹介順は下記のとおりです。 那賀八幡古墳→名島古墳→糸島・稲葉古墳→原口古墳→双水柴山 2号墳→平塚川添遺跡→

下原古墳→宮崎・下屋敷古墳→鹿児島・端陵古墳 その古墳詳細は下記を参照ください。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/纏向型前方後円墳>

尺単位は、11.1km と 10.5km があるような気がしますが弥生末から古墳時代前半まで伸びて いる可能性を感じます。 推定方位区画は下図をご参照ください。

それで、那賀八幡古墳とともに、平塚川添遺跡が中心地として浮かび上がってきますね。 管理人も去年訪問したのを思い出しました。 <http://inoues.net/ruins/hiratuka.html>

『バロメーターは小学生!本当に人気のあるアイドル&芸人&タレント』ランキング 211 人が見えています

『北海道の美味しいジンギスカンのお店ベスト 10』ランキング 328 人が見えています

『吉祥寺☆散歩の途中で寄りたいカフェ』ランキング 1707 人が見えています 知って得するランキング-ランキン
グシェア byGMO Google Chrome ダウンロード - www.google.co.jp より速く、より安全にネットを閲覧
Google が作った無料ブラウザを試そう <埼玉>まるで一戸建て - suumo.jp

憧れのメゾネット!天井も高くて マンションだけど戸建気分です Sony VAIO 最新モデル直販 -
store.sony.jp 人気のスライダーハイブリッド PC に限定 カラー登場!インテル(R)Core(TM)i7 搭載 マコー
ニ・ヨーグルト - www.plants-m.jp

人気の美味しさ/一食(80g)で20 円! 毎日の健康に、簡単手作り Ads by Google マキムク型前方後円墳方位区
画動画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 11 日(月)23 時 13 分 4 秒 返信・引用 編集済

続いてマキムク型前方後円墳に関する方位区画の動画を作成してみました。 こちらです。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/makimukugata-01.mov>

動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。 タテツキ墳丘墓→宮山展望古墳(三輪)→中山茶臼山古墳→開化天皇陵
(宮)→椿井大塚 山古墳→桜井茶臼山古墳→新宝院山古墳→浅間山古墳→分校マエ山古墳→神戸 4 号墳(上
総国分寺付近)→出雲大社→萩原 1 号墳→山戸 4 号墳→愛媛・大久保 1 号墳

ここで 183km 尺 61km 尺が見える事に気が付きます。おそらく 105km の後漢尺です。 おおむね正方位で
すが、一部椿井大塚山など7 度偏角の方位区画と重なります。

そして、春日系の神社や宮が多く関係してきますね。同時に三輪・山戸といった地名とも関 わります。

その辺の詳細は昨年論議したとおりで、また会報第 4 号をご参照いただきたいのですが、九 州のマキムク型の
方位区画についての動画は、後でまた提示いたします。

Ads by Google Re:屯倉方位区画動画修正版です。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 11 日(月)20 時 22 分
36 秒 返信・引用 編集済

> No.1355[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 方位区画の基点にズレがありますな。74 km で区切ると池上・曽根遺跡が… > 以前から規模から屯倉のよう
ですな。 >> 方位区画の一つの案ですな。

時代は屯倉の時代からはるか昔の弥生時代ですから、弥生後期の区画に載っても、屯倉方位 区画には載らな
いでしょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/池上・曽根遺跡>

方位区画上の遺跡や古墳は時代が揃っていますが、時たま吉野ヶ里や出雲大社のように、過去 の古い遺跡が拠点
として利用され続けるケースはあります。

逆に言うと、年代の不明だった遺跡や古墳の年代推定も、その方位区画の是非によって判断 できる点で便利で
す。 Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 10 日(日)21 時 42 分 29 秒 返信・引
用 編集済

> No.1356[元記事へ] 荊の紀氏さんへのお返事です。

古代から長さの単位は絶対を求めたのだろうか。 エジプトスタディオン 157.5 m

アッティカスタディオン 185 m 殷 1 尺 ≒ 158 mm

周 1 尺 ≒ 187 mm

里も同様に地球周長を 90,000 で割ったのだろうか。 1 里=40,000,000m÷90,000=444m

(http://book.geocities.jp/japan_conspiracy/0102/p003.html) Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:荊の紀氏
投稿日:2013 年 3 月 10 日(日)17 時 29 分 27 秒 返信・引用

> No.1346[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 棘の紀氏さんへのお返事です。 >
- > 答えになるかは不明だが、アッティカスタディオンが対応するな
- > 同様の数値が尺に…。 >
- > > $A3 \times 60^3$? >
- > アッティカスタディオン 185
- > 緯度 1 度が 111km:185.185 $\times$ 60
- > $185 \times 60 \times 60 \times 60 = 39960000$ >
- > エジプトスタディオン 157.5
- > 250,000 スタディアの地球周長を意味し
- > $250000 \times 157.5 = 39375000$ >
- > 殷 1 尺 $\approx$ 158 mm
- > 周 1 尺 $\approx$ 187 mm > >

キュービットを表す象形文字は「肘」…ム(私)台

500mm 前後になっている。エジプトのキュービットを表す象形文字は「肘」そのもの 肘を曲げたさまにかたどる。 … ひいて、水神として祭られた天使禹王の意。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/1260>

太古の人は地球周長の 4000 万 m から 40 m を引いた 3999 万 9960 m に相当する単位系を用いていたらしい。この数は 1,2,3,4,5,6,7,8,9, 10, 11, 12, 113, 14, 15、 及 び

18,20,21,22,24,26,27,28,30,33,35,36,37,39,40,42,44,45,52,54, 55,56,60...と多数の約数が存在する。

たとえば虚数累乗が、 -1 、 $-i$ 、 $+1$ で循環するように、この 4 色は 5 以降もずっと 繰り返す。ラジオ体操で「 … 古代ギリシアの陸上競技場はこのスタディオンを基準として 設計されたことからスタジアムという名前が残っている。 <http://metalogue.jugem.jp/?month=201201> 地球から見て公転軌道が 1 つ内側にある金星と 1 つ外側にある火星を考えれば、地球-金

星の会合周期 584 日と、地球-火星の会合周期 780 日の比はほぼぴったり 3:4 である。私 たちの聴覚によって成り立つ音楽における 4 度の音程、たとえばドとファの振動数比もまた 3:4 になっている。また正 6 面体と正 8 面体の中接球を共有させた相貫体で考えれば、この 2 立体の体積比もまた 3:4 になっている。

ピラミッドの建設には 2 種類のキューピッドが用いられていたことをアイザック・ニュー トンも認めているが、この 463mm と 524mm の 2 つの数値の間には円積問題の関係があることが分かった。つまり図に示したように 463mm を 1 辺にとった正方形の面積と、524mm を 直径にとった円の面積と等しいということだ。

1 メートル $\approx$ ダブルキュービット = 60 デジット = 3 フィート = 12 ハンド

冪乗(べきじょう)、または累乗(るいじょう)は、ある一つの数同士を繰り返し掛け合わせるという操作のこと、あるいはそれによって得られる数のことである。単に冪(べき)と もいう。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%AA>

「冪」の文字はもともと「覆う、覆うもの」という意味の漢字である。江戸時代の和算家は略字 として「巾」を用いた [1]。常用漢字・当用漢字に含まれなかったことから 1950 年代以降、出版物などでは仮名書きまたは「累乗」への書き換えが進められた。結果として初等数学の教科書 ではもっぱら「累乗」が用いられ、「冪」や「冪乗」という用語は排除されたが、一方で「降べき 順」「昇べき順」というような用語の一部としては残ったままになっている。

地球 1 周の距離が、約 40000km ですから、 $40000 \div 360 \approx 111$ で、111km になります。緯線上の 距離

は、赤道上の距離に対して、 $\cos(\text{緯度})$ の関係になります。赤道上の 経度 1° は、緯度 1° とほぼ同じですが、日本付近の北緯 35° の緯線上の経度 1 度の距離

...http://www.geocities.jp/geo_net21/map_fusigi/choriho/ido.htm 赤道上の経度 1° は、緯度 1° とほぼ同じですが、日本付近の北緯 35° の緯線上の経度 1 度の距離は、

$111\text{km} \times \cos 35(0.819)$ で、約 90.9km となり、赤道に比べて2割ほど短くなります。

Re:屯倉方位区画動画修正版です。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年3月10日(日)08時24分12秒 返信・引用 編集済

> No.1354[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

方位区画の基点にズレがありますな。74 km で区切ると池上・曽根遺跡が…

以前から規模から屯倉のようですな。

方位区画の一つの案ですな。

それと、方位区画の精度があがれば投稿しましょう。

> こういうのを、どこかで発表するといいいのではないのでしょうか。 天文学史みたいな分野になるでしょうか。ハードルは高いですな。

こちら天文学会。会員になると雑誌投稿できるようです。 <http://www.asj.or.jp/geppou/> こちらは歴史学会です。あまりその辺の知識ないのですが、おそろく投稿できるはず?? <http://www.yoshikawa-k.co.jp> データ、資料面で必要な情報は、管理人のほうでも提供いたします。

>> この動画における屯倉拠点・遺跡の紹介順は下記のとおりです。 > 倭屯倉→牟佐屯倉→平城京→三奈木(宮津)→深草屯倉→三宅八幡社(岩倉)→白猪屯倉?(真庭市久世町五反・三崎)→倉敷→依網屯倉(三宅)→児島屯倉(郡・倉富二間 川)→讃岐国分寺→淡路屯倉(屯倉神社)→春日屯倉(神社)→縮見屯倉?(三奈木市志 染)→飾磨屯倉→白猪屯倉?(久米町)→三豊(神田)→海部屯倉→三好・四国関連 >> 尺のほうは、やはり先の 11~2km 尺が多いですね。図のほうも見やすく修正しましたので、ご参照ください。 >> 特に動画をみるときに距離尺と角度、「三」「倉」「御」「宮」「神田」といった屯倉関連地名に注目してみてください。 >

屯倉方位区画動画修正版です。投稿者:管理人 投稿日:2013年3月10日(日)07時05分48秒 返信・引用

ちょっと先日の屯倉方位区画と説明動画を再度訂正しました。 今度はかなりの自信作です。これを見て方位区画がないと言う人はもういないと思います。

こちらがその動画です。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/miyake-houikukaku.mov>

この動画における屯倉拠点・遺跡の紹介順は下記のとおりです。 倭屯倉→牟佐屯倉→平城京→三奈木(宮津)→深草屯倉→三宅八幡社(岩倉)→白猪屯倉?(真庭市久世町五反・三崎)→倉敷→依網屯倉(三宅)→児島屯倉(郡・倉富二間 川)→讃岐国分寺→淡路屯倉(屯倉神社)→春日屯倉(神社)→縮見屯倉?(三奈木市志 染)→飾磨屯倉→白猪屯倉?(久米町)→三豊(神田)→海部屯倉→三好・四国関連

尺のほうは、やはり先の 11~2km 尺が多いですね。図のほうも見やすく修正しましたので、ご参照ください。

特に動画をみるときに距離尺と角度、「三」「倉」「御」「宮」「神田」といった屯倉関連地名に注目してみてください。

Re:屯倉方位区画説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013年3月9日(土)23時01分16秒 返信・引用 編集済

> No.1349[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> ところで、屯倉の遺跡は発掘されてますかな。 >

細かい話になると長くなるので、下記ご参照ください。

<http://search.yahoo.co.jp/search?p=%E5%B1%AF%E5%80%89%E3%80%80%E9%81%BA%E8%B7%A1&ei=UTF-8&fr=appsfc2>

ともあれ、屯倉の場合は遺跡が出土しなくても、三宅など関連の地名や社名だけでもかなり 正確な位置がつかめるのが特徴的です。神社だと地域はもう限定されますね。字名だとその 地域内で若干の誤差がでてくるでしょう。

先の動画のようにある程度法則性がつかめれば、逆に方位区画から屯倉のあった位置を推定 できるでしょう。

歴史学は、あくまで法則性を見つける学問で、ただ資料や知識を収集提示するだけなら、今の パソコン時代にいたっては研究者でなくても可能です。

やはり新しい論文や本を出すということは、新しい理論や視点が提示されてないと、あまり 書いてもしょうがないと思うんですが、秦野さんの距離関連の指摘には理論的な部分がある ので興味深く感じてます。

Re:屯倉方位区画説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 9 日(土)22 時 00 分 50 秒 返信・引用
管理人さんへのお返事です。 > ところで、屯倉の遺跡は発掘されてますかな。

> この動画における屯倉拠点・遺跡の紹介順は下記のとおりです。 >> 牟佐屯倉→倭屯倉→平城京大極殿→三奈木(宮津)→三宅八幡社→深草屯倉→茨田屯倉 →春日部屯倉→淡路屯倉(屯倉神社)→讃岐国分寺→児島屯倉(郡・倉富二間川)→縮見 屯倉(三奈木市志染)→茨田屯倉→三奈木→白猪屯倉(真庭市久世町)→三宅八幡神社→愛知の三宅関連地名など >> 25km、37km、73km、116~8km の距離尺が出てきます。先の 11.1km 尺かなとも感じるのですが、少し大きいような気がしますね。 >> 正方位で比較的関連地名(三(宅)・宮・御など)も残っているので、かなり判りやすい 方位区画だといえるでしょう。この方位区画上に主な屯倉が載ることは、動画を見ればすぐに理解できるでしょう。 >> あと、平城京が載ってくるのは、やはりここがもともと皇室領だった可能性を示していま すね。秦・蘇我氏関連で開拓してあったところに、藤原・難波宮との南北・東西関係を考慮 しながら、ここに都を置いた可能性があります。先の畿内方位区画動画を見ると、そこにさらに中臣・春日系の諸社も関わってきます。 >

Re:屯倉方位区画説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 9 日(土)21 時 44 分 55 秒 返信・引用

> No.1347[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > スタディオンには 2 種類あり、緯度、行程距離基準の模様。 >
- > 方位ラインはアッティカスタディオン(緯度基準)
- > 古墳、遺跡距離は $185 \times 60 = 11100$ になる。
- > 百舌鳥、古市古墳は $11.1 \div 3 = 3.71\text{km}$
- > $11.1 \div 3 = 3.71$
- > $3.71 \times 1.2 = 4.45(4.36)$ >
- > 行程距離はエジプトスタディオン(行程距離基準)
- > $3.71 \times 1.2 = 4.45(4.36)$
- > $4.45 \times 1.2 = 5.34$ >
- > アッティカスタディオンとエジプトスタディオンの関係は
- > $185 \div 157.5 = 1.175 \approx 1.2$ >
- > アッティカスタディオンとエジプトスタディオンには紛らわしい関係がある。

- > $3.71 \times 1.2 = 4.45(4.36)$ が共通する。
- >
- > 一寸千里の法で 1000 里:43.69 km >
- > アッティカスタディオン 185
- > 緯度 1 度が 111km:185.185 $\times$ 60
- > $185 \times 60 \times 60 \times 60 = 39960000$ >
- > エジプトスタディオン 157.5
- > 250,000 スタディアの地球周長を意味し
- > $250000 \times 157.5 = 39375000$ >

確かに興味深い考察ですね。数値的にはかなりいい線ついているような気がします。 秦野距離とも関係するのではないですかね。

イラン系・東欧系、どちらの測量にもギリシャ・エジプトの尺度が適用されていたでしょう。それが古代中国や南北朝時代の東アジア測量にも影響していたとすると面白い話です。

こういうのを、どこかで発表するといいいのではないのでしょうか。
天文学史みたいな分野になるでしょうか。

こちら天文学会。会員になると雑誌投稿できるようです。

<http://www.asj.or.jp/geppou/>

こちらは歴史学会ですね。あまりその辺の知識ないのですが、おそらく投稿できるはず??

<http://www.yoshikawa-k.co.jp>

データ、資料面で必要な情報は、管理人のほうでも提供いたします。『私的新潟ラーメン屋さん』ランキング

380 人が見えています 『男性の部下☆女性の部下☆両方に好かれる最高の上司の条件』ランキング

184 人が見えています

『富山をまるごと味わいたい!!旅行で行くおすすめのおいしいお店』ランキング 417 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO Google Chrome ダウンロード - google.co.jp/chrome

Google がつくった高速ブラウザ クロームで YouTube も速く 朝食だけで 13kg 痩せ目標 - wpets.jp/
90 種類の野草・野菜・果物 お腹が減りにくい酵素液 4980 円 NTT 東日本フレッツ光《公式》 - flets.com 新生活のはじまりに、单身&かぞく応援 割、家族同士の 2 回線をまとめるとおトク

バカ売れ。シェア 80%の英語教材 - every-e.com 「流し聞くだけ」で英語が口から飛び出す 今、一番売れている英会話教材 EE とは? Ads by Google Re:屯倉方位区画説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 9 日(土)21 時 11 分 26 秒 返信・引用 編集済

> No.1345[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

スタディオンには 2 種類あり、緯度、行程距離基準の模様。

方位ラインはアッティカスタディオン(緯度基準) 古墳、遺跡距離は $185 \times 60 = 11100$ になる。 百舌鳥、古市古墳は $11.1 \div 3 = 3.71\text{km}$ $11.1 \div 3 = 3.71$

$3.71 \times 1.2 = 4.45(4.36)$

行程距離はエジプトスタディオン(行程距離基準) $3.71 \times 1.2 = 4.45(4.36)$ $4.45 \times 1.2 = 5.34$

アッティカスタディオンとエジプトスタディオンの関係は $185 \div 157.5 = 1.175 \approx 1.2$

アッティカスタディオンとエジプトスタディオンには紛らわしい関係がある。 $3.71 \times 1.2 = 4.45(4.36)$ が共通する。

一寸千里の法で 1000 里:43.69 km

アッティカスタディオン 185 緯度 1 度が 111km: $185.185 \times 60 \times 60 \times 60 = 39960000$

エジプトスタディオン 157.5 250,000 スタディアの地球周長を意味し $250000 \times 157.5 = 39375000$

> 牟佐屯倉→倭屯倉→平城京大極殿→三奈木(宮津)→三宅八幡社→深草屯倉→茨田屯倉 →春日部屯倉→淡路屯倉(屯倉神社)→讃岐国分寺→児島屯倉(郡・倉富二間川)→縮見 屯倉(三奈木市志染)→茨田屯倉→三奈木→白猪屯倉(真庭市久世町)→三宅八幡神社→愛知の三宅関連地名など

>> 25km、37km、73km、116~8km の距離尺が出てきます。先の 11.1km 尺かなとも感じるのですが、少し大きいような気がしますね。 >> 正方位で比較的関連地名(三(宅)・宮・御など)も残っているので、かなり判りやすい 方位区画だといえるでしょう。この方位区画上に主な屯倉が載ることは、動画を見ればすぐに理解できるでしょう。 >> あと、平城京が載ってくるのは、やはりここがもともと皇室領だった可能性を示していますね。秦・蘇我氏関連で開拓してあったところに、藤原・難波宮との南北・東西関係を考慮 しながら、ここに都を置いた可能性があります。先の畿内方位区画動画を見ると、そこにさらに中臣・春日系の諸社も関わってきます。 >

Ads by Google Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 9 日(土)14 時 20 分 28 秒

返信・引用 編集済 > No.1343[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

答えになるかは不明だが、アッティカスタディオンが対応するな 同様の数値が尺に…。

> $A3 \times 60^3$?

アッティカスタディオン 185 緯度 1 度が 111km: $185.185 \times 60 \times 60 \times 60 = 39960000$

エジプトスタディオン 157.5 250,000 スタディアの地球周長を意味し $250000 \times 157.5 = 39375000$

殷 1 尺 ≒ 158 mm 周 1 尺 ≒ 187 mm

屯倉方位区画説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 9 日(土)07 時 45 分 46 秒 返信・引用 編集済

> No.1344[元記事へ]

続いて屯倉方位区画の説明動画も作成してみました。 こちらです。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/miyake-houikukaku.mov>

この動画における屯倉拠点・遺跡の紹介順は下記のとおりです。

牟佐屯倉→倭屯倉→平城京大極殿→三奈木(宮津)→三宅八幡社→深草屯倉→茨田屯倉→春日部屯倉→淡路屯倉(屯倉神社)→讃岐国分寺→児島屯倉(郡・倉富二間川)→縮見屯 倉(三奈木市志染)→茨田屯倉→三奈木→白猪屯倉(真庭市久世町)→三宅八幡神社→愛 知の三宅関連地名など

25km、37km、73km、116~8km の距離尺が出てきます。先の 11.1km 尺かなとも感じるのですが、 少し大きいような気がしますね。

正方位で比較的関連地名(三(宅)・宮・御など)も残っているので、かなり判りやすい方 位区画だといえるでしょう。この方位区画上に主な屯倉が載ることは、動画を見ればすぐに 理解できるでしょう。

あと、平城京が載ってくるのは、やはりここがもともと皇室領だった可能性を示しています ね。秦・蘇我氏関連で開拓してあったところに、藤原・難波宮との南北・東西関係を考慮し ながら、ここに都を置いた可能性があります。先の畿内方位区画動画を見ると、そこにさらに 中臣・春日系の諸社も関わってきます。

畿内・横穴墓方位区画説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 8 日(金)22 時 14 分 58 秒 返信・引用

編集済

> No.1343[元記事へ] 追記・ちょっと先の2つの動画短く綺麗に造り直しました(23 時) 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。 >> $A_3 \times 60^3$? > 例えば 2,15;30 は $2 \times 60^1 + 15 \times 60^0 + 30 \times 60^{-1}$ であり、135.5 を表す。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AD%E5%8D%81%E9%80%B2%E6%B3%95>

>> 確かにスタヂオンも気になる数値ではありますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/子午線弧>

続いて会報第4号に記載した横穴墓を結んだ方位区画の動画も作成してみました。こちらです。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/ouketubo-houikukaku.mov>

動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。 珍敷塚古墳→吉野ヶ里遺跡→珍敷塚古墳→大村横穴墓群→塚原古墳群・尾窪横穴墓群→石

貫ナギノ横穴墓群→虚空像塚・江田船山古墳→菊池城→八女古墳群→大川風浪宮 詳細は下図のとおりですが、8 km 尺、12(8)km 尺で、北朝尺時代のものではないかと考えて

ます。 また、畿内方位区画についても作成してみました。こちらです。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaibunka/kinai-houikukaku.mov>

動画における遺跡紹介順は下記のとおりです。

難波宮→難波京南端→明石関(関守稲荷)→平城京南端→名張関(中山神社)→愛発関 (疋田)→名張(関)→逢坂関→鈴鹿関→不破関→丹生比売・酒殿神社→背の山(関)→平城京 →春日神社→石切神社

尺度は 39km(3.9km)、26km で、おそらく 13(0)km 前後の尺で、これも北朝尺ではないかと 考えてます。詳細は下図のとおりです。 上記横穴墓の6世紀半ばの尺より若干こちらの7世紀代の区画のほうが長いのは、やはり時代を下って尺が伸びたからでしょう。

後日、各種方位区画图とその動画をまとめてホームページに整理してアップしたいと思ひます。

Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 3 月 8 日(金)12 時 38 分 9 秒 返信・引用

> No.1342[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

$A_3 \times 60^3$? 例えば 2,15;30 は $2 \times 60^1 + 15 \times 60^0 + 30 \times 60^{-1}$ であり、135.5 を表す。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AD%E5%8D%81%E9%80%B2%E6%B3%95>

> Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 8 日(金)08 時 50 分 2 秒 返信・引用 編集済

> No.1340[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

この尺のなぞ解けますか。 エジプトスタヂオン $157.5 = 3.6 \times 43.69m$ の 3.6 は六十進記数法の痕跡のようだな。

六十進記数の下 2 桁ですな。 $A_3 \times 60^3 + A_2 \times 60^2 + A_1 \times 60^1 + A_0 \times 60^0 + A_{-1} \times 60^{-1} + A_{-2} \times 60^{-2}$

エジプトスタヂオン $157.5 = 3.6 \times 43.69m$ 隋尺? スタジアムの直線走路の長さは $192.27 = 3.6 \times 53.4 m$ 呉尺?

六十進記数法とは、60 を底とする記数法である。真の六十進記数法は 60 種類の数字を必要 とするが、それは多過ぎるため、実際には各桁を十進法で表す方法が普通である。 シュメールおよびその後を継いだバビロニアでは六十進法が用いられた。

Re:緯度1度が111km 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 7 日(木)21 時 56 分 18 秒 返信・引用 編集済

> No.1338[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 棘の紀氏さんへのお返事です。 >
- > 地球の大きさは日本では、呉（春秋）紀元前 585 年頃には知っていた模様。
- > 常識がひっくり返るな。またまた、方位ラインに緯度が絡みましたな。 >

ご意見ありがとうございます。

思うに、24.5cm の魏年号銘三角縁盤龍鏡の径もしくは晋尺が、先の緯度 1 度の 111km、0.1 度で 11.1km に対応するということは、この尺を利用しはじめた 7 度偏角方位区画の時代、そこから正方形区画になるので、変化があったことがわかります。年代的には 3 世紀後半~4 世紀 前半でしょうか。

それ以前は 5 度偏角で東西 10.8km(魏尺 23.4~24.1cm)、南北 12.1km 尺で、さらに九州弥生正方位区画の時代になると、もっと南北が長くなりますね。後漢尺の 23cm、10.5km で 158km 尺。35 度で三角測量した時代で、周ひ算径の中国式測量の可能性もあります。

その後に導入された先の 111km の四方区画の中に、10 等分した細かい格子状の四方区画があり、その距離が 11.1km、さらにその中にまた数等分した格子区画を造ったはずですが、

その区画測量は、先の緯度測量によるものではなく、糸や縄を張って距離を計るタイプの記紀の記載どおりのものだったでしょう。

その短い距離や方位出すのに使われたのが、つまり上記の銅鏡つまり分度器や定規の直径だったと思うのですが、尺単位を 21~3cm から、上記の緯度計算値にあうように 24.5cm 尺に変化した銅鏡を造った可能性を感じます。そのサイズにあたる三角縁盤龍鏡はそういう意味では天文測量用の特注鏡だったと言えるでしょう。

ともあれ、こういうわけで、魏・晋の時代から、中東・欧州系の地球球体説に基づく緯度測量とその道具が導入されて、しばらく 7 世紀代まで使用され続けたということになりそうですね。

その間に北極星測量による偏角の発生を是正するために、太陽測量へと切り替えつつ、さらに暦を正確にして偏角が生じないように改良を加えていったのでしょう。

おそらく中国や日本での尺の長短の変化も、この辺と関わってくるのかもしれませんが。

特に船乗りは、南方に航海するたびに北極星の位置が変化することを体感していたでしょうから、インドや南半球のアフリカまで行ったなら、もう地球が球体であることはすぐに気付いたでしょう。南方系航海集団は特に知っていた可能性を感じますね。

ソロモン王時代には、アフリカ・インド方面まで向かってますから、当然その報告もあったでしょう。その北極星緯度の変化を知らないのは中国とかギリシャとかの定地民だけではなかったのではないのでしょうか。

ただ、それらを体感的に理解していても、理論化するのに、ギリシャ哲学者やヘレニズムの存在が必要だったのかもしれませんが。その理論化のもとで情報が整理され、シルクロード経由で入ってきた中東系サカ・月氏・ゾグド人によって、魏晋南北朝時代に半島へともたらされていく、そんな流れがあったのかもしれませんがね。

Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 3 月 7 日(木)20 時 03 分 31 秒 返信・引用

> No.1329[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 日本古代遺跡の謎と驚異 $\sqrt{\pi}$ の作図 古墳の設計者がストーンヘンジとの位置関係を考慮していた可能性を示唆します。

「白銀比」黄金比 1 対 1.6 に対して、1 対 1.4 30 度、60 度、90 度の直角 3 角形の辺長の比は 1:2: $\sqrt{3}$ であり、ベクトル平衡体はこの直角 3 角形を含む正 4 角形を 4 重に内包している。

<http://metatron.la.coocan.jp/zone-61/torus-010.htm>

西洋の黄金分割比と違い、日本の神聖比は 1 対 $\sqrt{2}$ の比率だという。 <http://blog.chase-dream.com/2013/01/22/3094>

万葉集からギリシャ神話、ケルト神話まで自在に題材をとり、日本と世界、古代と現代をひときく眺めるエッセ

イ八三篇。著者の目を通せば、数千年の隔たりも遠く離れた土地も、行き 来は自在と気づかされる。

http://www.amazon.co.jp/%E5%8F%A4%E4%BB%A3%E5%BE%E9%82%84%E2%80%95%E6%96%87%E5%8C%96%E3%81%AE%E6%99%AE%E9%81%8D%E3%81%AB%E5%87%BA%E4%BC%9A%E3%81%86-%E4%B8%AD%E5%85%AC%E6%96%B0%E6%9B%B8-1949-%E4%B8%AD%E8%A5%BF-%E9%80%B2/dp/4121019490/ref=sr_1_1?ie=UTF8&s=books&qid=1219285525&sr=1-1

黄金比は、正確には 1 対 $(1+\sqrt{5})/2$ で表され、クフ王のピラミッド、アテネのパルテノン神殿、ミロのヴィーナスなど、古来、多くの建築物や芸術作品に取り入れられてきた。身近なところでは、各種カードや名刺、国旗の縦横比が黄金比になっている。一方、白銀比は 1 対 $\sqrt{2}$ で表され、著者によると、この白銀比こそが日本の美と心を解読するための鍵となる。白銀比が用いられている身近な例としては、A 版や B 版といった用紙の縦横比があげられる。 1 対 $\sqrt{2}$ は、正方形の 1 辺と対角線の長さの比であり、丸太から最も無駄なく角材を切り出すときの断面、平安京のような碁盤の目状の都市の区画、 4 畳半の茶室、 1 坪である畳 2 畳、風呂敷など、いたるところに正方形が登場する日本においては、ひととき重要な意味を持つ。また、 1 対 $\sqrt{2}$ は、法隆寺や菱川師宣の見返り美人図などにも現れるという。このように、本書前半は、西洋における黄金比と、日本における白銀比の対比を軸に話が進められていく。黄金比について語るには、もちろんフィボナッチ数列は欠かせない。 <http://blog.chase-dream.com/2013/01/22/3094>

六角形の謎 まず、上下の 2 方向に作ったとしたら、ただ壁ができるだけで、小部屋はできません。正方形の部屋を作る場合は、一定の長さの壁を作り、 90 度ずつ、 3 方向にのばしていき ます。？。六角形の場合は、一定の長さのかべをつくったら、 120 度ずつ、 2 向に伸ばして ... <http://www.nara-wu.ac.jp/fuchuko/curriculum/study/Math/04sousu1/14report/14-22hexagon.htm>

四角形の対角線の伸び方は、 1 と $\sqrt{2}$ 方向は、 $\sqrt{2} \rightarrow 2$ つまり、 1.414 倍 $\longleftrightarrow \uparrow \downarrow$ 方向は、 $1 \rightarrow 1$ つまり、 1 倍 六角形の対角線の伸び方は、 1 と $\sqrt{3}$ 方向は、 $\sqrt{3} \rightarrow 2$ つまり、 $2/\sqrt{3}=1.155$ 倍 $\longleftrightarrow \uparrow \downarrow$ 方向は、 $2 \rightarrow 3$ つまり、 1.5 倍

「日本古代遺跡の謎と驚異」について 3 古代ギリシャに始まる、「与えられた円と等しい面積をもつ正方形を定規とコンパスで 求め よ」という、幾何学三大問題の一、... この作図では、 3 辺の比が「 $1:2:\sqrt{5}$ 」と「 $1:\sqrt{5}:\sqrt{6}$ 」との 2 つの直角三角形が大きな役割を果たしています。 <http://www.geocities.jp/yasuko8787/kyoui3.htm> 古代ギリシャに始まる、「与えられた円と等しい面積をもつ正方形を定規とコンパスで求め よ」という、幾何学三大問題の一、円正化問題に対し、 1882 年リンデマンが作図不能という答えを 出しました。

この作図では、 3 辺の比が「 $1:2:\sqrt{5}$ 」と「 $1:\sqrt{5}:\sqrt{6}$ 」との 2 つの直角三角形が大きな 役割を果たしています。

そこで、太田氏は、次の資料に示すように、「益田岩船→太郎坊宮」を斜辺とする直角三角形の

3 辺の比が 「縦 : 横 = $71.76\text{km} : 36.11\text{km} = 2 : 1.006$ 」より、「 $2:1:\sqrt{5}$ 」とな

ることと、

「大鳥神社→石宝殿」が斜辺の直角三角形では「縦: 横 = $27.30\text{km} : 61.14\text{km} = 1 : 2.240 (= \sqrt{5})$ 」より、 3 辺の比が「 $1:\sqrt{5}:\sqrt{6}$ 」となることを理由に、これらの遺跡が $\sqrt{\pi}$ の求め方を示す というのです。

その際、「益田岩船→太郎坊宮」の意義は、その斜辺上に太安万侶墓があることによって保証 されると見ます。

私は、この「 $1:2:\sqrt{5}$ 」という捉え方に啓発されて、太安万侶墓の作為を明らかにすることができました。

益田岩船と石宝殿との結び付きは、「播磨国風土記」やその他の文献によって解説していますが、割愛します。次の資料でいえば、「益田岩船→石宝殿」の斜辺上に来る仁徳陵がその意義を保証していると

と見ています。

なお、大鳥神社を取り込む根拠は、仁徳陵による示唆のほか、水谷氏が「知られざる古代」で、問題にしている東西の直線の上にあるということや日本武尊を祭る神社だということなど です。

要領を得ぬ紹介ですが、数学を苦手としない方には、興味を持っていただけるのではないで しょうか。

満月が地球の影に入る月蝕は、地上のどの観測点においても同時進行しているので、目印の 星をきめて、月蝕が生ずるときのその星の高さを記録しておけば、二つの地点の経度の違い が求まる。 だから、地球の周囲の長さは、古い時代にすでに正確に計測されていたらしい。 メートル法では、北極から赤道に至る 4 分円弧の 1 千万分の 1 を 1m と定めたので、地球の 極点周囲は 4 万 km になる。これは 216000(=360x600)オリムピック・スタディオンに等しい。 <http://www.geocities.jp/yasuko8787/kyoui.htm>

すなわち、600 オリムピック・スタディオンが緯度 1 度に一致するのは、 地球の周囲の長さがに正確に計測されていた証拠である、というわけです。

また、同書では、イギリスの巨大遺跡ストーンヘンジを、エジプト・ピラミッド時代(紀元前 3000 年頃)の 祭司・科学者たちが、彼らの神学・技術・秘儀・科学を用いて築いたものと見ています。

太田氏は、「序章 人類の歴史は太古のマスタープランに沿ってつくられてきた」において、 まず、 大阪府枚方市の牧野車塚古墳(東経 135.67 度)とイギリスのストーンヘンジ(西経 1.84 度)との 経度の差「135.67-(-1.84)=137.51」度が円周を黄金分割する角度に 一致するといえます。

しかし、牧野車塚古墳は、正確に東西方向に向いている全長 107m の前方後円墳というだけで、 特別な古墳ではないので、この段階では、太田氏が都合のよい地点として選んだのではない か感じます。

ところが、牧野車塚古墳がある緯度は北緯 34.83 度なので、 ストーンヘンジとの経度の差 137.51 度に対する緯線の長さは、12564.93km となり、 これを 4 で割ると、12564.93km/4=3.1412x10000km と円周率が出てきます。

これらの事実は、文献からは想像もつかないことですが、牧野車塚古墳の位置と向きをきめる際、 古墳の設計者がストーンヘンジとの位置関係を考慮していた可能性を示唆します。

身で実践されるというのも、よいのではないかと考えてます。 Re:緯度方位区画説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 7 日(木)19 時 11 分 39 秒 返信・引用

> No.1335[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

スタディオンが何を意味するか不明ですな。 エジプトスタディオン 157.5=3.6x43.69m 隋尺?

スタジアムの直線走路の長さは 192.27=3.6x53.4 m 呉尺?

■地球周長 40000km を 365 で割ると約 109.5km になる。つまり 1 時間に 4.56km 余のペースで 立ち止まることなく太陽を追って赤道をひたすら東進すれば、1 年で元の位置に戻るとい うことだ(※1)。古代ギリシアの陸上競技場はこのスタディオンを基準として設計されたこと からスタジアムという名前が残っている。

■紀元前 450 年頃にオリュンピアで作られた長さ 211 m のスタジアムの直線走路の長さは 192.27 m たった。またデルポイやアテナイでは 178 m、エピダウロスでは 181.30 m と地域に よってスタディオンの値が異なっていた。バビロニアのスタディオンは 184 m、エジプトのそ れは平均 179 m だったことが分かっている。 <http://metatron.la.coocan.jp/zone-62/numb202.htm>

一寸千里の法で 1000 里:43.69 km から 39,360km、隋尺に換算すると厳密には誤差 1.6% エラトステネスがエジプトスタディオン (157.5m)で 39,375km(わずか 1%程度の誤差)

元々は、地球の赤道と北極点の間の海拔ゼロにおける子午線弧長を 1/10000000 倍した長さ を意図し、度量衡学(en)の技術発展を反映して何度か更新された。1983 年(昭和 58 年)に基 準が見直され、現在は 1 秒の 299792458 分の 1 の時間(約 3 億分の 1 秒)に光が真空中を伝 わる距離として定義されている。言い換えると、1 光秒の 299792458 分の 1 である。

この結果は 250,000 スタディアの地球周長を意味し、単位スタディオンをアッティカスタディオン (185m) と仮定すると、これは 46,250km に相当し、現在の値から約 16%大きい。しかし、 エラトステネスがエジプトスタディオン (157.5m) を使ったとすれば、彼の測定値は 39,375km(わずか 1%程度の誤差)であることが分かる。いずれにしても、幾何設定と古代の 状況を斟酌すれば、16%の誤差は称賛に値するもの

である。

地球の大きさ 一寸千里の法で 1000 里:43.69 km 隋尺に換算すると厳密には誤差 1.6% 39,360km になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%90%E5%8D%88%E7%B7%9A%E5%BC%A7>

Re:緯度 1 度が111km 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 7 日(木)13 時 07 分 39 秒 返信・引用

> No.1337[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

地球の大きさは日本では、呉 (春秋) 紀元前 585 年頃には知っていた模様。 常識がひっくり返るな。またまた、方位ラインに緯度が絡みましたな。

ピュタゴラス(BC590~510 年ごろ)のものか…。 中国史籍から日本人は「呉の太伯の子孫」

呉 (春秋) - Wikipedia 呉(ご、拼音:wú、紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年)は、中国の春秋時代に存在した君国の一つ。現在の蘇州周辺を支配した。君主の姓は姫。... また、呉越の激しいライバル争いから呉越

同舟の言葉が生まれた。 ちなみに中国では日本人を「呉の太伯の子孫」と ... 隋尺と呉尺の関係は隋尺の 1 尺 2 寸が呉尺の 1 尺

鏡の大きさは隋尺で年代は晋になる。正確には晋尺だな。 いま議論中の尺は隋尺。隋尺に小里 371 m が存在していた。

これが地球の大きさが基準で、古墳は小里の短里、10 短里間隔に成っている。 奈良の方位ライン、古墳間の距離(3.71km)が緯度 1 度(111km)の 1/3 の倍数

$111 \div 3 = 37.0\text{km}$ $37 \div 10 = 3.71\text{km}$

地球の大きさ 一寸千里の法で 1000 里:43.69 km 隋尺に換算すると厳密には誤差 1.6% 39,360km になる。

魏志倭人伝の行程の距離、測定方法についても議論した。

しかし、陳寿は漢に使えているのに呉尺で記録される。

結論は卑弥呼に聞き記録したのだろう。

> 緯度 1 度が 111km > 日本で最初に地球の大きさを計算したのが、幕末の頃の伊能忠敬であった。彼は幕府の天文方暦局に入って学問に没頭し、幼い頃からの夢であった天文学の研究にも携わった。 > 彼は当初、暦局がある浅草と自分の家がある深川から北極星を観測して、緯度の差が 0.1 度であることを求め、浅草と深川の間の距離が 2km あったことから地球の円周を計算した。 > ところがその値は誤差が大きくて信頼できないことを知り、江戸と蝦夷くらいに離れた場所で観測しなければ正確な値が得られないであろう、と考えた。そこで忠敬は日本地図を 作成するための測量をしながら、江戸から蝦夷地まで行くことを思いついた。 > それから蝦夷地まで行って観測を続けて緯度 1 度が 111km であることを求め、これから地球の大きさを 39,960km と計算した。現在知られている 40,000km に対しての誤差は、僅かに 1/1000 という驚異的な結果であった。 > -yosh'blog 地球の大きさと伊能忠敬-

> <http://homepage3.nifty.com/morrio/back2/inoutadataka/inou.html> > 伊能忠敬とエラトステネスの測定した地球 > BC6 世紀、ミレトスのギリシア人、タレス(※)やアナクシマンドロスたちは最初に神 を否定した。夜空に浮かぶ無数の星を眺めて、地球がまるいことを悟った。やがて月食の日に、地球のまるさの確証を得た。 > ※タレスは皆既日食(日)を知っていた。資料・『歴史』(ヘドロトス著) > ピュタゴラス(※1)は、天球儀(地球と 43 個の星)をアトラスの巨神に担がせた。 エラトステネス(※2)は、地球の大きさを計算した。エラトステネスは、夏至の日のアスワン(エジプト)の井戸を起点(A 点)とした。アレキサンドリアを B 点として、A 点と B 点 の距離(800km)をラクダで測量した。そして、A 点と B 点の距離と同日の B 点(測量 点)の日陰の角度から、地球の大きさを数学的に測定した。その計算値(39690km) と現代科学のそれとの誤差は、わずか 300km であった。 -【NHK ドキュメンタリー「知 への旅」】 > ※1・BC590~510 年頃 > ※2・BC284~192 年頃 >

『【ゆるキャラ GP1 位!】バリィさんのまち愛媛・今治のうまいもん』ランキング 335 人が見えています

『札幌近郊の美味しいパン屋!遠くても行きたくなる』ランキング 447 人が見えています

『京都で女子がランチするなら?ベスト 10』ランキング 81 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO

Ads by Google 緯度 1 度が 111km 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 3 月 7 日(木)11 時 57 分 25 秒 返信・引用

緯度 1 度が 111km 日本で最初に地球の大きさを計算したのが、幕末の頃の伊能忠敬であった。彼は幕府の天文方暦局に入って学問に没頭し、幼い頃からの夢であった天文学の研究にも携わった。彼は当初、暦局がある浅草と自分の家がある深川から北極星を観測して、緯度の差が 0.1 度であることを求め、浅草と深川の間の距離が 2km あったことから地球の円周を計算した。

ところがその値は誤差が大きくて信頼できないことを知り、江戸と蝦夷くらいに離れた場所で観測しなければ正確な値が得られないであろう、と考えた。そこで忠敬は日本地図を作成するための測量をしながら、江戸から蝦夷地まで行くことを思いついた。それから蝦夷地まで行って観測を続けて緯度 1 度が 111kmであることを求め、これから地球の大きさを 39,960km と計算した。現在知られている 40,000km に対しての誤差は、僅かに 1/1000 という驚異的な結果であった。

-yosh'blog 地球の大きさと伊能忠敬- <http://homepage3.nifty.com/morrio/back2/inoutadataka/inou.html> 伊能忠敬とエラトステネスの測定した地球 BC6 世紀、ミレトスのギリシア人、タレス(※)やアナクシマンドロスたちは最初に神を否定した。夜空に浮かぶ無数の星を眺めて、地球がまるいことを悟った。やがて月食の日に、地球のまるさの確証を得た。 ※タレスは皆既日食(日)を知っていた。資料『歴史』(ヘドロトス著) ピュタゴラス(※1)は、天球儀(地球と 43 個の星)をアトラスの巨神に担がせた。エラトステネス(※2)は、地球の大きさを計算した。エラトステネスは、夏至の日のアスワン(エジプト)の井戸を起点(A 点)とした。アレキサンドリアを B 点として、A 点と B 点の距離(800km)をラクダで測量した。そして、A 点と B 点の距離と同日の B 点(測量点)の日陰の角度から、地球の大きさを数学的に測定した。その計算値(39690km)と現代科学のそれとの誤差は、わずか 300km であった。【NHK ドキュメンタリー「知への旅」】

※1・BC590~510 年頃 ※2・BC284~192 年頃

Ads by Google Re:緯度方位区画説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 7 日(木)08 時 13 分 10 秒 返信・引用 編集済

> No.1335[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古墳間の距離を測ると、どうも $3.71 \times 8 = 29.9$ km ではないな。 関東の距離は $3.71 \times 9 = 33.3$ km が良さそうですね。 もしかして、 $3.71 \times 10 = 37.1$ km。

緯度 1 度の長さ 約 111 km $3.71 \times 3 \times 10 = 111$ km

緯度 1 分の長さ 約 1.85 km $3.71 \div 2 = 1.85$ km

緯度 1 秒の長さ 約 30.9 m $3.71 \div 2 \div 60 = 30.9$ m

> どうもそのようですね。地球球面を理解していたのは、ギリシャ哲学者、ヘレニズム文化に触れている必要がありますが、キリスト教時代でも見られます。 > <http://ja.wikipedia.org/wiki/地球球体説> >

> それで緯度 1 度分の距離は 111km とのことで、日本古代の方位測量で頻繁に出てくる 11.1km 尺との関わりを考えはじめました。 >> 地球の子午線弧長は約 40 008km である。すなわち、平均的には

> 緯度 1 度の長さ 約 111 km > 緯度 1 分の長さ 約 1.85 km 緯度 1 秒の長さ 約 30.9 m > <http://ja.wikipedia.org/wiki/緯度> >

>> おそらく北燕・半島経由で東欧系技術職人が入る 6 世紀代は、またキリスト教徒等も入ってきますから、可能性としてあり得ないでしょう。 >> もし仮に地球球体説による測量を理解していたならば、北極星の高度が緯度に比例することを理解していたはずで。それで南北の距離を出したでしょう。東西は 45 度の三角測量で すぐ同距離が出せたはずで。 >> そうすると、当時から 360 度を利用していましたから、36 度

00 分、37 度 00 分といった具合で、整数の緯度数値に古墳や遺跡が並ぶ可能性が出てきます。 >

> そこでその緯度の低い順から関連の遺跡を追った動画を作成してみました。結果としては、やはりあるんです。 > <http://www.michaelbroadcast.net/video/ido-houikukaku.mov> >

> 遺跡紹介順は、九州の横穴墓群からはじまり、鞠智城、周防の蘇我氏の本拠・長府・忌宮神社、畿内の藤原京、平安京、そして関東の古墳や国府へと続きます。最後は東北の福島県の横穴墓のあるあたりですね。 >

> 画面右上の緯度・経度数値に注目してください。33 度、33 度 30 分、34 度、34 度 30 分、35 度、35 度 30 分、36 度、36 度 30 分、37 度、37 度 30 分…に、古墳や宮都が見えてきます。 >> そしてその 10 分の 1 の 0.1 度つまり 11.1km 間隔ごとに細かい古墳や国府等が見えてきます。

>> 諏訪・鹿島はちょっとずれてますが、もしかしたら、4 世紀代あたりからすでに 11.1km 尺は見えるので、その影響によったかもしれません。 >> おそらく東欧系技術系譜を引く新漢人の流入とともに、6 世紀半ばからこの北極星高度と緯度の関係による測量に切り替わった可能性を感じます。ただ、それ以前にも、同様な流れがあったのでしょう。インド方面でもすでに地球球体説は支持されていたようです。 >> すくなくとも、彼らは緯度が高くなるとその分北極星の高度が正確に比例して上がることに気付いていたはずで、そしてそれが 360 度であることもですね。やはり球面であることを理解していたと考えるべきでしょう。緯度方位区画説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 7 日(木)07 時 05 分 20 秒 返信・引用 編集済

> No.1332[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 古代人は相当な精度で地球の大きさを知っていたようだな。
- > 出雲までの距離ぐらいなら、お茶の子さいさいですな。 >
- > 一寸千里の法の別の方法で解くと 1 里は 43 m になる。
- > これを考えると方位ラインの精度は cm 単位と思われる。

>> 誤差 3%程度 >

どうもそのようですね。地球球面を理解していたのは、ギリシャ哲学者、ヘレニズム文化に触れている必要がありますが、キリスト教時代でも見られます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/地球球体説>

それで緯度 1 度分の距離は 111km とのことで、日本古代の方位測量で頻繁に出てくる 11.1km 尺との関わりを考えはじめました。

地球の子午線弧長は約 40 008km である。すなわち、平均的には 緯度 1 度の長さ 約 111 km 緯度 1 分の長さ 約 1.85 km 緯度 1 秒の長さ 約 30.9 m

<http://ja.wikipedia.org/wiki/緯度> おそらく北燕・半島経由で東欧系技術職人が入る 6 世紀代は、またキリスト教徒等も入って

きますから、可能性としてあり得ないでしょう。

もし仮に地球球体説による測量を理解していたならば、北極星の高度が緯度に比例すること を理解していたはずで、それで南北の距離を出したでしょう。東西は 45 度の三角測量ですぐ同距離が出せたはずで、

そうすると、当時から 360 度を利用していましたから、36 度 00 分、37 度 00 分といった具合で 整数の緯度数値に古墳や遺跡が並ぶ可能性が出てきます。

そこでその緯度の低い順から関連の遺跡を追った動画を作成してみました。結果としては、やはりあるんです。 <http://www.michaelbroadcast.net/video/ido-houikukaku.mov>

遺跡紹介順は、九州の横穴墓からはじまり、周防の蘇我氏の本拠・長府・忌宮神社、畿内の藤原京、平安京、そして関東の古墳や国府へと続きます。最後は東北の福島県の横穴墓のあるあたりですね。

画面右上の緯度・経度数値に注目してください。33 度、33 度 30 分、34 度、34 度 30 分、35 度、35 度 30 分、36 度、36 度 30 分、37 度、37 度 30 分…に、古墳や宮都が見えてきます。

そしてその 10 分の 1 の 0.1 度つまり 11.1km 間隔ごとに細かい古墳や国府等が見えてきます。 諏訪・鹿島はちょっとずれてますが、もしかしたら、4 世紀代あたりからすでに 11.1km 尺は見えるので、その影響によったかもしれません。

おそらく東欧系技術系譜を引く新漢人の流入とともに、6 世紀半ばからこの北極星高度と 緯度の関係による測量に切り替わった可能性を感じます。ただ、それ以前にも、同様な流れが あったのでしょうか。インド方面でもすでに地球球体説は支持されていたようです。

すくなくとも、彼らは緯度が高くなるとその分北極星の高度が正確に比例して上がることに 気付いていたはず です。そしてそれが 360 度であることもですね。やはり球面であることを 理解していたと考えるべきでしょう。 紙媒体を電子化するなら? - ebook.digitalink.ne.jp

チラシ・カタログ・資料を電子化! 楽に管理・作成可能。ActiBook Ads by Google Re: 関東方位ライン説明ビデオ
投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2013 年 3 月 6 日(水) 23 時 39 分 31 秒 返信・引用

> No.1333[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古墳の方位と別に何かの方位がありそうですね。古墳群の方位だったり…。 元々、3.71 の倍数ですね。古墳の大きさもほぼ倍数なんですね。

$3.71 \times 3 = 11.1 \text{ km}$ 魏志倭人伝の里は呉尺ですね。議論の尺は隋尺 呉尺: 現在の鯨尺は曲尺で 1 尺 2 寸 5 分である。呉服尺は 1 尺 2 寸 古墳は隋尺で鏡から見ると晋尺になる。

>> 宝塚古墳→保渡田古墳群→天川二子山古墳→西山古墳→春日丘古墳群→石塚神社→丸山・犬塚→高城神社→八幡山古墳→宮塚八角墳→弘法山古墳→大歩古墳(香取神社)→武蔵国府(6 世紀代?)>>

- > おそらく 5~6 世紀の-1 度偏角の時代の方位区画なのですが、11.1km 尺です。 >
- > それで、最後に武蔵国府のやや東方の日吉神社周辺を拠点に入れたのですが、これはこの 武蔵国府の位置がやはり動画のように 53~5km 尺の位置にあり、11.1km 尺の方位区画の一部 のように見えるからです。

Ads by Google Re: 関東方位ライン説明ビデオ 投稿者: 管理人 投稿日: 2013 年 3 月 6 日(水) 23 時 10 分 22

秒 返信・引用 編集済

> No.1332[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 古代人は相当な精度で地球の大きさを知っていたようだな。
- > 出雲までの距離ぐらいなら、お茶の子さいさいですね。 >
- > 一寸千里の法の別の方法で解くと 1 里は 43 m になる。
- > これを考えると方位ラインの精度は cm 単位と思われる。 >>

その辺は微妙ですね。尺単位はやはり 5~6 世紀代の関東方位区画は 11.1km のようです。 こちらはその時代の動画です。先日お知らせした図の動画です。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kantou4.mov>

遺跡紹介順は下記のとおりです。 宝塚古墳→保渡田古墳群→天川二子山古墳→西山古墳→春日丘古墳群→石塚神社→丸山・

犬塚→高城神社→八幡山古墳→宮塚八角墳→弘法山古墳→大歩古墳(香取神社)→武蔵国 府(6 世紀代?)

おそらく 5~6 世紀の-1 度偏角の時代の方位区画なのですが、11.1km 尺です。

それで、最後に武蔵国府のやや東方の日吉神社周辺を拠点に入れたのですが、これはこの武蔵国府の位置が

やはり動画のように 53~5km 尺の位置にあり、11,1km 尺の方位区画の一部の ように見えるからです。

その武蔵国府跡地に、正方位の四方区画とは別に、-1 度偏角の四方区画(区画 E)や道路があるのが判ります。これがもしかすると、古い5~6 世紀代の建物跡ではないかを感じるわけです。古い時代の測量には偏角があるんですね。こちらのページとそこから引用した下図 参照。

<http://komatsu0513.heteml.jp/musasi.html>

先の上円下方墳の東西ラインから割り出した武蔵国府の中心推定地の横にその偏角のある 区画があるのは、この辺が当初の古い国府あるいは郡府の跡地で、その後 7 世紀代になって 南方の大国魂神社方面へ移行した可能性を感じます。

Re:関東方位ライン説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 6 日(水)22 時 56 分 13 秒 返信・引用 編集済

> No.1330[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古代人は相当な精度で地球の大きさを知っていたようだな。
出雲までの距離ぐらいなら、お茶の子さいさいですな。

一寸千里の法の別の方法で解くと 1 里は 43 m になる。 これを考えると方位ラインの精度は cm 単位と思われる。

誤差 3%程度

> そうですね、三角測量がキーだと思います。 >> 関東の方位区画を考える上で出雲まで考慮したほうがよいことも確かです。

> このように、古墳という存在が、通説の首長墓としての機能とともに、測量用の拠点としての機能が同じくらい重要視されていることがわかります。同様に副葬品の銅鏡も王の権力を 示すものとは別に測量道具だったことも明らかになるのですが、これらの測量土台として古 墳の意味を理解できれば、多くの未発見の古墳や遺跡も見つかるであろうこともお判りいただけるでしょう。

Re:関東方位ライン説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 6 日(水)13 時 46 分 3 秒 返信・引用 編集済

> No.1330[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

関東の方位の 1 辺は 33 km より $3.71 \times 8 = 29.68$ km が適当でないか。 $3.71 \times 9 = 33.39$ km?
どうも、継ぎ目が目立ちますな。

九州は 53 km 基準 $53 \div 1.2 \div 1.2 = 37.1 \div 10 = 3.71$ km 奈良は 3.71 km 基準 関東は $3.71 \times 8 = 29.68$ km 基準?

>

- > そうですね、三角測量がキーだと思います。 >
- > 関東の方位区画を考える上で出雲まで考慮したほうがよいことも確かです。 >

関東方位ライン説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 6 日(水)07 時 55 分 43 秒 返信・引用 編集済

秦野北斗さんへのお返事です。

- > どうも、古墳からの方位の確定には最低 3 基は必要だな。 >
- > 関東は引き直しですな。九州は出雲方向と逆方向に西表島方向に伸びている模様。 >
- > まだまだ、推測の域を出ないが… >>

そうですね、三角測量がキーだと思います。

関東の方位区画を考える上で出雲まで考慮したほうがよいことも確かです。

こちらの関東方位区画の動画を作成してみました、最後に出雲大社が出てきますよ。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kantou01.mov>

この動画の遺跡紹介順は下記のとおりです。

多摩の八角墳→山梨の八角墳→岩船柵(神社)→鷺栖神社(行田)→小敷田遺跡(国府 村)→宮塚八角墳→八幡山古墳→三津屋八角墳→牛塚・車塚古墳→吉見横穴→二宮(国 府?)周辺→富士山→玉前神社→寒川神社→曾根神社→富士山→出雲大社

こうみると、6~7 世紀代まで出雲大社が拠点として機能していることがわかります。 また富士山は頂上よりやや北方を拠点にしていますね。やはり今より富士山の形状、特に頂上 部分が北に寄っていた可能性を考慮すべきなのかもしれません。そこを測量の目安にしましょう。

こちら富士山の変遷図 http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Geological_cross-section_of_Fuji.png

また次のような関東の方位区画の動画を作成しました。

こちらは先日の上野三碑関連の方位区画の動画です。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kantou02.mov>

遺跡紹介順は下記のとおりです。

多胡碑(古墳)→伊勢塚八角墳→山上碑(古墳)→金井沢碑(古墳位置推定)→大胡古墳 群→八幡山古墳→胴塚古墳(首塚神社)→伊勢塚八角墳→一本杉八角墳→伊勢塚八角墳→ 蛇穴山古墳→武井廃寺(古墳)→国領→十三宝塚遺跡→ 二宮川勾社(国府?)→大山阿夫利社→十三宝塚

これも 7 世時代のラインで正方位なので理解しやすいと思います。金井沢碑は出土地点が不明で、もっと図のように北東に元々碑文がたっていて、その周辺に古墳がある可能性を感じ ますね。多胡=大胡でオオコと読ませたこともわかります。八角墳や八角形構造物が多いのも特色で、高句麗系の八角系古墳文化に影響された吉士集団と関わりながら、関東各地へと 進出していった経緯を予想できます。

そして、最後の関東方位区画関連の動画が下記のとおりです。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kantou03.mov>

こちらは 2 番目のものと接続するのですが、その遺跡紹介順は下記のとおりです。

大国魂神社(後期・武蔵国府)→埼玉古墳群(前期・武蔵国府)→後期・武蔵国府中心地 (推定)→熊野神社上円下方墳→国立天文台構内上円下方墳→北大谷上円下方墳→甲府・ 加牟那塚古墳(千塚)→後期・武蔵国府中心地(推定)→県(御厨神社)→山ノ上碑(古 墳)→三津屋八角墳→牛塚・車塚古墳

これも会報で紹介した上円下方墳や、国府等を結んだ6~7 世紀の方位区画です。

このように、古墳という存在が、通説の首長墓としての機能とともに、測量用の拠点としての 機能が同じくらい重要視されていることがわかります。同様に副葬品の銅鏡も王の権力を示 すものとは別に測量道具だったことも明らかになるのですが、これらの測量土台として古墳 の意味を理解できれば、多くの未発見の古墳や遺跡も見つかるであろうこともお判りいただけるでしょう。

Re:方位ライン説明ビデオ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 6 日(水)02 時 38 分 45 秒 返信・引用 編集済

西表管理人さんへのお返事です。 どうも、古墳からの方位の確定には最低 3 基は必要だな。 関東は引き直しですな。九州は出雲方向と逆方向に西表島方向に伸びている模様。 まだまだ、推測の域を出ないが…

>> 今回は、秦野さんご興味のある会報第 2、3 号で紹介した弥生九州方位区画と、プサン→鹿島の5度偏角方位ラインについて説明しています。 >> この動画前半の弥生九州方位区画で説明した遺跡順は下記のとおりです。 >> 伊都平原遺跡→宇佐風土記の丘(赤塚古墳)→西都原古墳群→出水方面→伊古遺跡→伊都平原遺跡→須玖岡本遺跡→鎌田原遺跡→伊都平原遺跡→西都原遺跡→吉野ヶ里遺跡→プサン(狗邪韓国)→対馬です。 >

- > 後半は古墳時代初期の(三角縁神獣鏡)5度偏角方位区画ですが、下記の順番です。 >
- > プサン→出雲大社→鹿島神宮→大宮氷川神社→駒ヶ岳神社です。 >
- > このように動画で説明すると、どのくらいの精度を目安にして、管理人がいつも方位ラインの話をしているかがご理解いただけたと思います。(東西に長距離になるとキシさんご指摘のように地球球面に関する曲率の関係で南北にズレがでてきます。)で動画の途中で距離の説明もしています。緯度経度も提示しようと思えば可能です。 >> これらはほんの一例にすぎませんが、このように動画で説明したほうが理解しやすいことも多いと思いますし、ケースによっては直接管理人が講義して現場でみなさんにお見せしながら、これらの電子測量の基礎を説明して、ご自身で実践されるというのも、よいのではない

かと考えてます。

Re: 奈良時代、人工地震と人工火山爆発 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 6 日(水)02 時 37 分 32 秒 返信・引用 編集済

> No.1326[元記事へ] ねこさんへのお返事です。

- > 奈良時代、人工地震と人工火山爆発 >
- > http://book.geocities.jp/japans_conspiracy/02/p005.html#page54
- > <http://book.geocities.jp/conspiracycalendar/02/Y02/jre024.html#0823> >
- > 「大宝律令」は、「大砲律令」に間違いないだろう。

ねこさん、こんにちは。何はともあれ、箱根・富士山噴火は近いようですね。
地震や噴火については、古代史研究者の出番とも言えるかもしれません。

先日の榛名山噴火と埋もれた遺跡のケースもそうですが、富士山頂も若干現在とずれているとのことで、この点は方位ライン面から、逆に古代の噴火口の位置を証明できるかもしれませんが、おそらくライン面では少なくとも5~6世紀の時点では差して今と変わらなかったのではないかと思います。

こちら箱根・富士山の構造と噴火関連。

<http://prepper.blog.fc2.com/blog-entry-266.html>

ともあれ、なんとなく3月末までに何かありそうな予感がします。近い将来、箱根噴火、東海地震あたりで、関東・名古屋・関西と駄目になる可能性を感じますね。

特に噴火で一番困るのは、ライフラインの切断で、関越と東名がしばらく使えなくなると、関東人は長期間食料不足に喘ぐことになるかもしれません。原発も安定しないし、中国も武力

威嚇してくるというご時勢ですから、みなさんも今3月までにできるうちに研究なり論文なりは完成させておきましょう。

方位区画関連動画の追加です。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 5 日(火)23 時 04 分 56 秒 返信・引用 編集済

昨日お知らせしました弥生九州方位区画の動画に加えて、新たに奈良の方位区画の動画も作成してアップしました。

まずこちらは奈良 7 度偏角方位区画の動画です。この方位区画は 4 世紀代と 7 世紀代に 2 回 使用されています。 <http://www.michaelbroadcast.net/video/nara-7dohenkaku.mov>

動画で紹介している遺跡順序は下記のとおりです。

多武峰→中山大塚古墳→桜井茶臼山古墳→崇峻天皇陵→秋津遺跡→孝安陵→齊明陵→マル コ山古墳→高松塚古墳→飛鳥板蓋宮→多武峰→中山大塚→顕宗天皇陵→中山大塚→椿井大 塚山古墳→磐船神社→秋津遺跡→西殿塚古墳→香具山→藤原宮大極殿→宮山古墳→春日神 社となります。

次の動画は下記のとおりで、弥生末期から 3 世紀中葉までの奈良・5 度偏角方位区画、マキ ムク関連の方位区画、崇神陵墓→応神・仁徳陵へと結ぶ方位区画を連続して流しています。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/nara-5dohenkaku-kawachi.mov>

この動画で紹介した遺跡順は下記のとおりです。

多武峰周辺→西殿塚古墳→櫛山古墳→桜井茶臼山古墳→孝安陵→乙女山古墳→西殿塚古墳 →孝安陵→欠史天皇陵→マキムク遺跡→黒塚古墳→西殿塚古墳→耳成山周辺→孝元陵→唐 子・鍵遺跡→黒田庵戸宮・倭屯倉・鏡作神社周辺

→三輪山→崇神陵・西殿塚・箸墓関連ライン→崇神陵→巢山古墳 →崇神陵→仁徳陵→応神陵→ナガレ山古墳→崇神陵→児島屯倉→造山古墳→春日神社方面 です。ちょっと後半遊びすぎましたので、また成務朝時代のライン動画は作り直します？

おそらくこれらの動画をみると、秦野さんやキシさんもみなさんも今まで思っていたより正 確だとお感じになられるのではないかと感じます。藤井さんの動画の件もありますが、動画 で説明すると理解しやすくなると思います。 動画を造っている当人は理解しきっているの、次々と遺跡がラインに載る点に不思議はないのですが、初めての方には驚かれるかもしれません。

そのなぜ偏角があるのか？その尺度になるのか？など疑問も多いと思いますが、その測量 詳細について説明していますので、ご興味有る方はどうぞ会報第 4 号のほうをご購入ください。ご意見、ご感想お待ちしております。

奈良時代、人工地震と人工火山爆発 投稿者:ねこ 投稿日:2013 年 3 月 5 日(火)04 時 35 分 55 秒 返信・引用

奈良時代、人工地震と人工火山爆発

http://book.geocities.jp/japans_conspiracy/02/p005.html#page54

<http://book.geocities.jp/conspiracycalendar/02/Y02/jre024.html#0823>

「大宝律令」は、「大砲律令」に間違いないだろう。 英語でも、律令は、CANON、大砲は、CANNON だ。 偶然ではないだろう。

(http://park.geocities.jp/j_con4/0104/p046.html)

方位ライン説明ビデオ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 4 日(月)22 時 35 分 27 秒 返信・引用 編集済

> No.1324[元記事へ] ちょっと関連の方位区画を説明するためのビデオを作成してみました。

下記のリンクをクリックしてご参照ください。クイックタイムで見れます。

<http://www.michaelbroadcast.net/video/kodaisi/kyuusyu-kasima.mov>

今回は、秦野さんご興味のある会報第 2、3 号で紹介した弥生九州方位区画と、プサン→鹿島

の 5 度偏角方位ラインについて説明しています。

この動画前半の弥生九州方位区画で説明した遺跡順は下記のとおりです。

伊都平原遺跡→宇佐風土記の丘(赤塚古墳)→西都原古墳群→出水方面→伊古遺跡→伊都 平原遺跡→須玖岡本遺跡→鎌田原遺跡→伊都平原遺跡→西都原遺跡→吉野ヶ里遺跡→プサン(狗邪韓国)→対馬です。

後半は古墳時代初期の(三角縁神獣鏡)5度偏角方位区画ですが、下記の順番です。

ブサン→出雲大社→鹿島神宮→大宮氷川神社→駒ヶ岳神社です。

このように動画で説明すると、どのくらいの精度を目安にして、管理人がいつも方位ライン の話をしているか
がご理解いただけるとと思います。(東西に長距離になるとキシさんご指摘 のように地球球面に関する曲率の関
係で南北にズレがでてきます。)で動画の途中で距離の 説明もしています。緯度経度も提示しようと思えば可
能です。

これらはほんの一例にすぎませんが、このように動画で説明したほうが理解しやすいことも 多いと思いますし、
ケースによっては直接管理人が講義して現場でみなさんにお見せしながら、これらの電子測量の基礎を説明し
て、ご自身で実践されるというのも、よいのではないかと考えてます。

『新潟に行ったら一度はいきたい激ウマ!ラーメン店』ランキング 305 人が見えています

『後悔したくない!今なら分かる子供の習い事に大切な 5つの条件』ランキング 690 人が見えています

『こっそり教える!飛騨高山を 10 倍楽しむグルメスポット』ランキング 186 人が見えています 知って得するラ
ンキング-ランキングシェア byGMO 企業用/紙媒体を電子化する - ebook.digitalink.ne.jp チラシ・カタログ・
資料が電子化! 楽に管理できて、作成できる ActiBook

魏志倭人伝を探る - www.rekitan.co.jp 邪馬台国論争に遂に終止符! 魏志の足跡を辿り、古事記から謎を解く
【中国人の方へ】在日ビザ取得 - hosoya-houmu.com 中国人専門の日本滞在ビザ取得代行 女性行政書士によ
る迅速かつ柔軟な対応 埼玉の帰化申請 10 万円のみ - saitama.kika88.com/ 追加料金一切なし。不許可返
金制。 信頼と実績の小林国際法務事務所 Ads by Google Re:関東方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2013 年 3 月 4 日(月)19 時 32 分 45 秒 返信・引用

> No.1322[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

管理人さんの九州の方位ですが、西都原、平原、巖原、昌原と原で繋がる。
古代人の遊びか、意味があるのでしょうか。

Ads by Google Re:関東方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 4 日(月)13 時 11 分 44 秒 返信・引
用 編集済

> No.1322[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古墳を方位ラインに羅列したら結構なものになりますな。

>> 壬生車塚は、かなり大きな円墳のようで、埼玉古墳群にみえる円墳同様に渡来系の予感が します。 >

> 三津屋八角墳はもう少し後の時代で、高句麗系の渡来人(後期の新漢人)が八角形の宗教 文化をもって入っ
てくる 560 年代以降ではないかと思うのですが、その後 7 世紀代にはい って、それらの正方位区画上に八角墳や
上円下方墳と郡府が造営されていたことでしょう。 >

> ただ、会報第 4 号で論じたように、7 世紀代でまた尺度が変化するので、同じ正方位区画で も前半と後半で、
距離が異なる可能性を感じます。先日の上野三碑を結ぶラインもそうです が、6 世紀代の区画を使いながら、
あるいは微調整した可能性があります。高麗郡や多胡郡の 位置、あるいは埼玉古墳群と小敷田遺跡の位置との
ズレとか、その辺に影響してくるとする と、その相違を 区別していく必要もでてきますね。

>> 論理的に、時代毎に相違する尺度と偏角、測量方法、それらを総括的に分析していかないと、

うまく整合性がとれないと思うのですが、その辺も今年は明確にしていきたいところです。

>

Re: 関東方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 3 日(日)22 時 50 分 18 秒 返信・引 用 編
集済

> No.1320[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > そう気を落とさずに、河口や平地など住みやすいところに人が…読みが甘いですぞ。 >
- > 韓半島との関係が深そうですぞ、日高見国らしきものが出てきましたぞ。図参照。 >
- > 中国史籍を整理すると、釜山に邪馬台国が存在している。また、扶桑国も秦野距離で
- > 茨城に存在する。扶桑と邪馬台国(大漢国:やまと国)の距離は一致する。 >
- > 日高見国は御坊だろうな。御坊の遺跡と古墳が何かを指し示すが不明。
- >

おそらく方位区画上の交点に拠点を造ることのほうが、立地条件より優先したのではない かと感じますが、行田あたりだと、かつては港でしたから、やはり港湾拠点としても重要な意

味をもっていたのだらうと思います。

一方、先の5世紀代の-1度偏角の方位区画の拠点到、高崎の保渡田古墳群がありますが、ここは495年と520年の榛名山の噴火で埋まったようです。 <http://pringles.blog23.fc2.com/blog-entry-334.html>

このことから、その偏角の方位区画が使われた時期が逆算できます。520年以前おそらくは495年より前となりますね。弘法山古墳が出てくるのもっと以前でしょう。それで、この方位区画に埼玉古墳群が載らない件について考えて行くと、やはり高崎方面が駄目になって南進したと考える説が妥当かもしれません。

520年の噴火で駄目になって、530年ごろの武蔵国造の乱前後でここに国府を移すんで すね。この辺に環境的な要因が見えてきます。

その後のさらに移動した国府の位置が、先の正方位区画の行田小敷田遺跡周辺ではなかつ たかと感じます。ただここも、やはり方位区画上の重要位置にあたったので、このあたりに造営したと考える べきで、立地的にはもっとよい場所もあったかもしれません。

壬生車塚は、かなり大きな円墳のようで、埼玉古墳群にみえる円墳同様に渡来系の予感がし ます。

三津屋八角墳はもう少し後の時代で、高句麗系の渡来人(後期の新漢人)が八角形の宗教文 化をもって入ってくる560年代以降ではないかと思うのですが、その後7世紀代にはいっ て、それらの正方位区画上に八角墳や上円下方墳と郡府が造営されていたことでしょう。

ただ、会報第4号で論じたように、7世紀代でまた尺度が変化するので、同じ正方位区画でも 前半と後半で、距離が異なる可能性を感じます。先日の上野三碑を結ぶラインもそうですが、6世紀代の区画を使いながら、あるいは微調整した可能性があります。高麗郡や多胡郡の位 置、あるいは埼玉古墳群と小敷田遺跡の位置とのズレとか、その辺に影響してくるとすると、その相違を区別していく必要もでてきますね。

論理的に、時代毎に相違する尺度と偏角、測量方法、それらを総括的に分析していかないと、 うまく整合性がとれないと思うのですが、その辺も今年は明確にしていきたいところです。

あとキシさん紹介の景行と反正の身長尺の件ですね。 景行の時代より、反正の時代のほうが長い可能性もありますが、21cm前後の画像鏡時代の尺 でいくと、2m10cmの大男で、足の長さは80cmとなるので、確かにあり得ない数値ではな いですね。

反正は180cmくらいになるでしょうか。

反正履中あたりは、先日のとおりコーカソイド系の軍人の流入を予想しますので、身長的に はコーカソイド系のバジリク古墳群の 180cmのケース同様に、その辺の数値が出てくる事自 体はおかしくないかもしれせん。

鎌足墓は 160cm前後だったと思いますが、それでも当時としては高身長ですね。

ともあれ、時代毎に尺度と測量法が変化していくので、もっと精密に出して行く必要があります。 そうです。本来は大掛かりなプロジェクト組んで、電子測量の講義を数ヶ月してから、全国の 古墳と遺跡を網羅しながらやらないといけないのですが、ともあれ、我々数人くらいしか実 質的な理解者がいないので、めげずに今年も地道にやっていきましょう。

Re: 関東方位区画 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 3 月 3 日(日)12 時 57 分 1 秒 返信・引用

> No.1319[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

関東以北の群集墓を造営のあり方によって類型化した山田俊輔は、古墳時代中期後半に造営を開始する群集墓と、前代からの伝統的墓域を継承する群集墓の存在を提示した(山田 200-)。
http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/32280/1/BungakuKenkyukaKiyo_54_04_Onomoto.pdf#search=%E9%96%A2%E6%9D%B1%E4%BB%A5%E5%8C%97+%E5%8F%A4%E5%A2%B3

古墳時代中期(5世紀)は、飛躍的に墳丘が大型化した時代で、巨大な前方後円墳が数多く造られるようになりました。... 製のものになり、副葬品も呪術的(じゅじゅつてき)なものから甲冑(かっちゅう)や馬具(ばぐ)といった軍事的なものに変化していきました。

http://www.city.habikino.lg.jp/10kakuka/34shakaikyoku/03bunkazai/04isekishokai/04chuki/t_c_chuki.html 古墳に納められる棺(ひつぎ)も木製から石製のものになり、副葬品も呪術的(じゅじゅつてき)なものから甲冑(かっちゅう)や馬具(ばぐ)といった軍事的なものに変化していきました。

エミシとその時代 1 景行天皇 40 年(110)~持統天皇 6 年(692) - kominato ... 朝廷による蝦夷出兵は『日本書紀』によれば、弥生時代の 12 代・景行(けいこう)天皇の代から古墳時代の 16 代・仁徳(にんとく)天皇、30 代・敏達(びだつ)天皇、32 代・崇峻(すしゅん)天皇、飛鳥時代の 34 代・舒明(じょめい)天皇の代にかけて記録されています。
<http://kominato-kataumi.jimdo.com/%E3%82%A8%E3%83%9F%E3%82%B7%E3%81%A8%E3%81%9D%E3%81%AE%E6%99%82%E4%BB%A3-1-%E6%99%AF%E8%A1%8C%E5%A4%A9%E7%9A%8740%E5%B9%B4-110-%E6%8C%81%E7%B5%B1%E5%A4%A9%E7%9A%876%E5%B9%B4-692/>

『魏志倭人伝』に記された里程に従い、魏の時代の 1 里=434.16m でたどると、朝鮮半島は台湾近くまで垂れ下がり、邪馬台国は日本列島からはるか離れた海の上になってしまう。

<http://yamatai.cside.com/katudou/kiroku275.htm> ところが、対馬と壱岐など、地域が特定できるところで、『魏志倭人伝』の里程と実際の距離を比較すると、1 里=100m くらいであり、魏の時代の 1 里の長さの 1/4 になってしまう。
<http://yamatai.cside.com/katudou/kiroku275.htm>

藤田氏は、「道里というものは、いったん定まると容易に変わらないといえる。したがって、『魏志』の道

里なども無闇に記したものではなく、おそらく魏以前のよほど古い時代の言い伝えではなかったかと考える。漢代の一里は、およそ 400 メートルである。しかし、日本は遠い国であって、漢代では中国本土の尺よりも、さらに古い尺を用いていたのではなかったか。漢尺よりも古い尺は周尺である。」

「魏略時代に書き記された多くの倭韓の里は、すべて今の日本里(一里=約 4 km)の 1/40 という古周尺の尺度(一里=約 100m)で、全部明瞭に説明がつく」

中国最古の天文算術書といわれている『周髀算経』にのっている「里」の一里が、約 76~77 メートルになることについて谷本茂氏の論文がある。(季刊邪馬台国 35 号)

洛陽晋墓遺物の尺度 西暦 300 年ごろの洛陽晋墓からモノサシが発見された。これは、1 尺が 16cm くらいになっていて、魏の 1 尺=24.12cm の 2/3 くらいの長さである。周の時代の小尺と思われる。

『日本書紀』に、日本武尊の身長は 1 丈と書いてある。奈良時代の 1 尺は 30cm なので、1 丈=10

尺で 3m となり、ありえない身長である。しかし、洛陽晋墓で出土したような周尺ならば、1 丈は 160cm となり、普通の人の身長になる。この他にも身長については、『古事記』の垂仁天皇紀に景行天皇の身長が 1 丈 2 寸、反正天皇紀に反正天皇は 9 尺 2 寸と記された例がある。これらの数字も周尺で考えれば説明が付く。

Re: 関東方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 2 日(土)23 時 34 分 31 秒 返信・引用 編集済

> No.1319[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

そう気を落とさずに、河口や平地など住みやすいところに人が読みが甘いですぞ。

韓半島との関係が深そうですぞ、日高見国らしきものが出てきましたぞ。図参照。

中国史籍を整理すると、釜山に邪馬台国が存在している。また、扶桑国も秦野距離で 茨城に存在する。扶桑と邪馬台国(大漢国:やまと国)の距離は一致する。

日高見国は御坊だろうな。御坊の遺跡と古墳が何かを指し示すが不明。

> 確かに秦野さんのおっしゃるように、河口や平地など住みやすいところに人が住んだのは、縄文時代以来、常に考慮すべきなのですが、ただ日本の場合はそれとは別に各種の方位区画があり、その方位区画の拠点を重視するので、かならずしも住みやすくないところにも、古墳や遺跡が出てくるのが特徴なんですね。

>> この件もすでに会報で以前からお話してありますが、いろいろ会報を大教授とか研究者に送っても、また研究会内でもまったく空想としか捉えてもらえないようで、興味なさそうなのが残念ですね。宝の持ち腐れのような気もしますが、我々だけでも、地道に研究進めていきましよう。数十年後には理解してもらえる日も来るかもしれません。 >

Re: 関東方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 2 日(土)23 時 02 分 55 秒 返信・引用 編集済 > No.1318[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。 >> >管理人さんの方位ラインを秦野の方位図で確認すると狭いですぞ。白の囲いになる。 >> 行基図 <http://image.search.yahoo.co.jp/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=%E8%A1%8C%E5%9F%BA%E5%9B%B3> >> 行基図と呼ばれる日本国図では、陸奥・出羽二国の北が津軽大里となっています。その境界線ぞいに「壺石踏(つぼのいしぶみ)」と書き込みのある、なんとも不思議な感じの古地図 ...<A

秦野さん、キシさん、お返事ありがとうございます。

とりあえず、先日の6~7世紀代と推定した方位区画の範囲を拡げてみました。

すでに会報第2号でとりあげた壬生車塚、三津屋八角墳、宮塚八角墳、行田小敷田遺跡(郡府?)を結んだ方位ライン、多摩の稲荷塚・山梨の経塚八角墳(国府?)、岩船神社(冊) 関連方位ラインに加えて、第1号でとりあげた高麗郡、富士山、秦野、房総一宮あたりの方位ラインを組み合わせ推定しています。

距離尺は、先述のように 11.1km 尺です。おそらく、武蔵国造関連のラインでしょう。行田に国造の本拠があったのですが、破れた笠原直小杵が壬生へ逃れて行く、その辺の歴史に関係してきます。

新漢人や吉士とも関わりながら、各地に国造が拠点を造っていった時代のものですね。

確かにキシさんご指摘の各種図法や行基図と方位ラインの関連は重要です。まだ行基図はかなりアバウトな地図ですが、すでに弥生後期時代から、もっと詳細な軍事地図を彼らは持っていたはずで、先日の前漢馬王堆墓の軍事地図のレベルですね。

確かに秦野さんのおっしゃるように、河口や平地など住みやすいところに人が住んだのは、

縄文時代以来、常に考慮すべきなのですが、ただ日本の場合はそれとは別に各種の方位区画があり、その方位区画の拠点を重視するので、かならずしも住みやすくないところにも、古墳や遺跡が出てくるのが特徴なんですね。

この件もすでに会報で以前からお話してありますが、いろいろ会報を大教授とか研究者に送っても、また研究会内でもまったく空想としか捉えてもらえないようで、興味なさそうなのが残念ですね。宝の持ち腐れのような気もしますが、我々だけでも、地道に研究進めていきましよう。数十年後には理解してもらえる日も来るかもしれません。

Re: 関東方位区画 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 3 月 2 日(土)13 時 44 分 32 秒 返信・引用

> No.1317[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>管理人さんの方位ラインを秦野の方位図で確認すると狭いですぞ。白の囲いになる。 行 基 図
<http://image.search.yahoo.co.jp/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=%E8%A1%8C%E5%9F%BA%E5%9B%B3>

行基図と呼ばれる日本国図 では、陸奥・出羽二国の北が津軽大里となっています。その境界 線ぞいに「壺石踏(つば のいしぶみ)」と書き込みのある、なんとも不思議な感じの古地図
...<http://tohokujomon.blogspot.jp/2009/07/blog-post.html> いわゆる行基図(ぎょうきず)。行基式日本図は、国々を丸みをおびた俵の形とし、これを積み 重ね、かつ山城から諸国への経路を示すことで日本を表現することを特色とする。奈良時代 の高僧行基により作成されたと伝えられ、現存する多くの行基図にもその旨記載されている が、もとより後世の仮託。ただしなぜそのように伝えられるようになったかには諸説がある。江戸時代初期まで作成された。本図においても「夫図行基菩薩所図也」との記載が序文にある。 明暦 2 年板は最後に印刷された行基図とされるが、そのものは現存していないため、その写 図である本図は貴重である。各国色別に着色し、上部を東、右を南とする。2 本線で五畿七道 を描く。安房の南方に「らせんこく」(羅刹国)の記載がある。

メルカトル図法(メルカトルずほう) この図法は地球儀を円筒に投影したもので、地軸と円筒の芯を一致させ投影するため経線は

平行直線に、緯線は経線に直交する平行直線になる。ところで正角性を維持するには、横方 向・縦方向の拡大率を一致させる必要がある。緯線はすべて赤道と同じ長さになるので、高 緯度地方に向かうにつれて実際の長さ(地球儀上の長さ)より横方向に拡大される。それに 応じて縦方向(経線方向)にも拡大させるので、高緯度に向かうにつれ距離や面積が拡大さ れることになる。例えば緯度 60 度では、本来の緯線の長さは赤道の半分なので 2 倍に拡大さ れ、したがって経線も 2 倍に拡大されるので、面積は 4 倍に拡大される。より高緯度のグリー ンランドの面積は実際より 17 倍も拡大されている。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%83%AB%E3%82%AB%E3%83%88%E3%83%AB%E5%9B%B3%E6%B3%95> メルカトル図法の大きな特徴は角度が正しい、すなわち十分狭い範囲だけを見ると形が正し い事である。一方で緯度によって縮尺が変化し、特に高緯度地方は著しく拡大されてしまう。 そのため、広い範囲での角度、距離、面積比は正しくない。また極においては、極も赤道と同じ 長さで表現されるので横方向に無限大に拡大され、正角性を維持するため縦方向も無限大 に拡大しなければならない。これは実際には不可能なので、極を表現できない。よってメルカ トル図法では原理的に世界全図を描けない。

Re:関東方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 2 日(土)11 時 32 分 43 秒 返信・引用 編集済

> No.1315[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

管理人さんの方位ラインを秦野の方位図で確認すると狭いですぞ。 白線の囲いになる。

> そこで続いて、関東の主に 5~6 世紀代の古墳を結んだ方位区画を作成してみました。 > すでに以前の会報で論じたラインですが、再度確認すると、会報第 4 号でとりあげた(三 角縁)-1 度偏角方位区画と同じ 11.1km 尺のようです。まだ大雑把なものですが、両図を添 付します。 >>

Re:関東方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 3 月 2 日(土)07 時 07 分 17 秒 返信・引用 編集済

> No.1315[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

方位ラインですが秦野の引き方

1 大型古墳を探す 2 川の河口(何かあるな)を基点に古墳を繋ぐ(注、河口はもう少し検討が必要) 3 大型古墳間距離 3.71 を単位に間隔を等倍に合わせる

以上

古墳には上下関係がありそうだ。

地方の古墳は耳成山、畝傍山の東北ライン?

関東方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 3 月 1 日(金)23 時 12 分 58 秒 返信・引 用 編集済

> No.1314[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 方位区画は 3.71km が単位でその倍数になる。 >> 呉尺 隋(晋)尺 > 533.5 m(里)÷1.2=444 m(大里)

> 444 m(大里)÷1.2=370m(小里) >>>> 6~7 世紀頃の区画ですね。尺度は 11.1km が多いように見えますが、まだなんともいえ ません。

>> 3.71×3=11.1km >

そこで続いて、関東の主に 5~6 世紀代の古墳を結んだ方位区画を作成してみました。すでに以前の会報で論じたラインですが、再度確認すると、会報第 4 号でとりあげた(三角 縁)-1 度偏角方位区画と同じ 11.1km 尺のようです。まだ大雑把なものです、両図を添付 します。

『南カリフォルニアに行くならビーチ!』ランキング 98 人が見えています

『岡山への旅行、おすすめの観光地』ランキング 209 人が見えています

『春の京都旅行 名所近くでカジュアルに使えるお店』ランキング 1069 人が見えています 知って得するランキング-ランキングシェア byGMO 紙媒体を電子化するなら? - ebook.digitalink.ne.jp チラシ・カタログ・資料を電子化! 楽に管理・作成可能。ActiBook Ads by Google

Re:群馬・埼玉方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 28 日(木)23 時 47 分 38 秒 返信・引用 編集済

> No.1312[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

方位区画は 3.71km が単位でその倍数になる。

呉尺 隋(晋)尺 533.5 m(里)÷1.2=444 m(大里) 444 m(大里)÷1.2=370m(小里)

> 6~7 世紀頃の区画ですね。尺度は 11.1km が多いように見えますが、まだなんともいえま せん。

3.71×3=11.1km

- > とりあえず、こちらでも会報第 2~4 号の図をさらに詳細にして方位区画推定してみました。 >
- > まだかなり大雑把ですが、下図のとおりです。 >
>
- > 正方区画でないようです。南北の方が長いタイプで、多胡三碑のように三角測量の痕跡が 見えます。
>> 方位区画の交点に、古墳がない場合でも「~塚」「国領」とか、痕跡が残っています。 >> 南に伸ばして行くと、秦野の大山社や二宮方面に向かうのですが、ある時期の関東の国 造・国府・郡府関係を結んだ方位区画なんです。詳細は会報を読んでもいただきたいのですが、未推定の国・郡府とかいろいろわかってきます。 >

Ads by Google Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:青面金剛 投稿日:2013 年 2 月 28 日(木)23 時 27 分 38 秒 返信・引用

> No.1307[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

「同系言語の方言差」と言われる一方で、「蝦夷は倭人にとって言語の通じない全くの異民族 だった」と、本州に於ける先住民である、蝦夷の存在を認められている訳ですね。

では南河内方言が先住民の言語を受け継いでいる、と言われるのであれば、その先住民が、何 れの流れに属する人達なのかを、示す必要が有るでしょう。

富田市内宮町的美具久留御魂神社や、葛城古道の一言主神社の存在が示す様に、出雲系の人 達なのか。

さらに、出雲と東北弁に共通するズーズー弁の特徴、及び、長脛彦の兄・安日彦が東北の地へ 逃れ、東北の蝦夷を統率していった事から、出雲と蝦夷は同じ流れの民族ではないかと。

出雲連邦王国の最盛期には、北は新潟・石川、東は福島・関東、南は伊豆・三河・伊勢・熊 野、西は北九州まで含みました。

「権威を振りかざしていない」と主張されるのであれば、貴 HP の「4 度に亘って正統なアカデミズムの学会で発表している」の宣伝文句を削除してから言ってください。

> 南河内と長野・静岡・南関東では、言葉が「すぐには」全く通じなかったのは当たり前です。 (^ ^) >> 貴方がどこの方言を母語としているかは知りませんが、遠く離れた地方の山間僻地に住む その土地の方言しか話せない年寄り達の話しを全て理解できるのですか？

>> 日本では明治以降、標準語(東京方言)による義務教育が始まり、大正時代には標準語によるラジオ放送が始まり、そして 1960 年代にテレビが完全普及したことにより、北海道から 沖縄までの全ての日本人が言語形成期から標準語を耳にして育つようになったため、現在の 55 歳以下ぐらいの世代なら東北方言話者と九州方言話者が話しても一応話は通じます。 >> しかし、テレビが普及する以前に言語形成期を終えしまい、しかも生まれ育った土地から 離れたことのないお年寄りの中には、その土地の方言しか話せない人が沢山います。 >> 最近では少なくなりましたが、ほんの 20~30 年前まで、関西方言圏や標準語圏以外の地方 を旅行すると、食堂の隣の席の人々の話が「一言も理解できない」ことがしょっちゅうありま

した。

>> まして、テレビ・ラジオ・義務教育はおろか文字すらなかった古代に、南河内方言話者と 長野・静岡・南関東の方言話者が初めて話をして、すぐに通じるわけがありません。 >> しかし、同系言語の方言差であれば、最初はお互い全く理解できなくても、基本単語が明確 に音韻対応しており、半年・一年と一緒に過ごす時間が長くなれば、イモヅル式に理解できるようになってきます。 > 一見外国語としか思えない琉球語の話者が、明治以降、簡単に本土日本語に同化できたのもその理由によります。

> 私が自説に自信を持っていない?……ほほう、元に本言語学会会長の説を「トンデモ」 だと公言し、それがトンデモであることに気づかない全ての国語学者を敵にまわして喧嘩を 売っている私が、自信を持っていない? >

> 権威を振りかざし……現在「一日本国民」以外の肩書きを一切持っていない私になんの 権威があるのですか? > 「金容雲」だの何だの「大先生方」の権威を振りかざしているのは貴方の方でしょう?

東北・北海道方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 28 日(木)05 時 50 分 39 秒 通報 返信・引用 編集済

> No.1309[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 了解です。 > ところで、方位ですが関東の古墳に対応しないかと考えている。 >

もちろん関東にも、会報第 1 号からずっと掲載しているように、いろいろ方位区画がありま すよ。 ただ、そうですね、今年は関東・東北の方位区画のさらに詳細な区画推定を明らかにしたい ところです。

あと、北海道と東北を結ぶ方位ラインが判りました。 図を添付します。

まず左図ですが、4 C 末の宮城の飯野坂古墳群(雷神山古墳)と、北上川沿いの 5 C 後の角 塚前方後円墳、そして 7 C 前の八戸の阿光坊古墳群を結んだ方位ラインです。

前 2 者間は 112km で、これは先日の 11.1km の 7 度偏角、-1 度偏角時代の尺距離です。 4 世紀前半から後半にかけての方位区画と感じます。

ただ、阿光坊古墳群までの 163km はちょっと尺度が異なるようで、少し角度も異なり、また 時代も降るので何とも言えない感じですね。

おそらく前者はいわゆる前方後円墳体制の終着に位置しており、倭王武の上表文の記載や、 先に 350 年ごろと推定した北史の倭国記載で、その北限を「海」と記した事例に対応するも のと感じます。八戸まで進出した可能性もあり得るとおもうのですが、もう少しその周辺か らもっと古い遺跡がでないかどうか確認する必要があるでしょう。

右図は 7 C 後の丹後平古墳群と、北海道の 7 C の江別古墳群を結んだラインです。 これはおそらく正方位測量もしくは-1 度偏角測量時代のラインで、293km ですから、74 km の屯倉方位区画時代の尺距離のような気がします。近畿の事例のように本来なら 79 km の 7 C 代の尺を考えるべきですが、ただもしかすると古い 6 世紀代

の測量尺で北上していった集団による可能性を感じますね。

丹後平古墳群から、半島系の馬具等が出ているのも、もしかすると屯倉時代の渡来系集団の系統にあった末裔の古墳で、前方後円墳ではなく半島系の円墳を用いた可能性も感じます。先の新漢人等の「日高見国」とも関係するかもしれません。その系統におそらく北海道の江別古墳群もあるはずです。双方円墳で遺物も類似しますね。屯倉に関連して、蝦夷・東北の「郡領」の件も考慮すべきでしょう。「阿倍比羅夫に討たれた肅慎と異なる...翌年には再び蝦夷を討って、後方羊蹄(シリベシ)に至り、郡領を任命して帰った。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/丹後平古墳群> <http://ja.wikipedia.org/wiki/江別古墳群>

もちろんこれらの方位ラインは、先の方位区画の1辺にすぎませんから、実のところ多くの古墳が未発掘のまま埋もれているはずなのですが、ちゃんと方位区画を推定すれば、いろいろ出てくるべき古墳が見つかると思います。

今年は、実際にその推定で新たな古墳を発掘してみるのもいいのではないかなとも感じますが、特に関東八角墳や上円下方墳あたりですね。方位区画面から推定すれば、もっと見つかると思います。

Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月28日(木)01時13分43秒 返信・引用
> No.1308[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

了解です。ところで、方位ですが関東の古墳に対応しないかと考えている。

>> ただ新刊紹介ページは、リニューアルにともない下記の電子ブック販売ページに変更になりましたので、秦野さんのご本の紹介はできなくなったのですが、ただ電子ブックとしてPDF原稿をアップして販売したいという希望がございましたら、お気軽にお知らせください。

Ads by Google Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:管理人 投稿日:2013年2月27日(水)22時45分11秒 返信・引用

> No.1303[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 距離が明確に成ると方位も精度がでまじな。 >
- > これから、隠れたところが明らかになりますな。 >
- > 方位は存在した。ですな。 >

あと、リニューアルに関して追加し忘れていた秦野さんのHPリンクさせていただきました。

<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/>

ただ新刊紹介ページは、リニューアルにともない下記の電子ブック販売ページに変更になりましたので、秦野さんのご本の紹介はできなくなったのですが、ただ電子ブックとしてPDF原稿をアップして販売したいという希望がございましたら、お気軽にお知らせください。 <http://forkn.jp/user/shimoeda/books>

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013年2月27日(水)05時44分40秒 返信・引用

> No.1305[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >>>> 「考古学を科学する会」の「弥生人と日本語の形成-日本語南方系縄文人語起源説-」 > 1系魚川-浜松ライン(系浜線) 南方系縄文人と北方系縄文人の居住境界線

> 紀元前3~5世紀に渡来人が侵入してきて、日本(祖)語を話す南方系縄文人を駆逐し、つつ同化して形成された日本語を話す「弥生人」は、稲作農業によって急激に人口を増やし、100~300年後にはそのフロンティアは系魚川-浜名湖ラインを越えてアイヌ(祖)語を話す北方系縄文人の居住地域に侵入する。

> その頃には、弥生人の人口の方が多く、占領が終わればすぐに家族連れの移民が入ってくるため、男は皆殺し(或いは捕まえて奴隷として売る)、女は捕まえて慰み者にといいことを行っても、「言語乗り移り現象」は起こらない。 > しかし、地名・動植物名などにアイヌ語の影響がのこり、また捕まえた北方系縄文人達の話す「変な日本語」の影響で、発音やアクセント、文法などにも変化が起こる。

>>

- ・ > ☆南河内方言が「先住民言語の影響を受け継いでいる」と一方で言い、>
- ・ > ☆糸魚川-浜名湖ラインを越えた地域では、「言語乗り移り現象」は起こらない、と、また一 方で言い張るのであれば、>> 南河内と長野・静岡・南関東では、言葉が全く通じないほどの異言語同士と成るしや有り

ませんか(笑)。 南河内と長野・静岡・南関東では、言葉が「すぐには」全く通じなかったのは当たり前です。

(^^)

貴方がどこの方言を母語としているかは知りませんが、遠く離れた地方の山間僻地に住むその土地の方言しか話せない年寄り達の話しを全て理解できるのですか？

日本では明治以降、標準語(東京方言)による義務教育が始まり、大正時代には標準語によるラジオ放送が始まり、そして 1960 年代にテレビが完全普及したことにより、北海道から沖縄までの全ての日本人が言語形成期から標準語を耳にして育つようになったため、現在の 55 歳以下ぐらいの世代なら東北方言話者と九州方言話者が話しても一応話は通じます。

しかし、テレビが普及する以前に言語形成期を終えしまい、しかも生まれ育った土地から離れたことのないお年寄りの中には、その土地の方言しか話せない人が沢山います。

最近では少なくなりましたが、ほんの 20~30 年前まで、関西方言圏や標準語圏以外の地方を 旅行すると、食堂の隣の席の人々の話が「一言も理解できない」ことがしょっちゅうありました。

まして、テレビ・ラジオ・義務教育はおろか文字すらなかった古代に、南河内方言話者と長野・静岡・南関東の方言話者が初めて話をして、すぐに通じるわけがありません。

しかし、同系言語の方言差であれば、最初はお互い全く理解できなくても、基本単語が明確に音韻対応しており、半年・一年と一緒に過ごす時間が長くなれば、イモヅル式に理解できるようになってきます。一見外国語としか思えない琉球語の話者が、明治以降、簡単に本土日本語に同化できたのもその理由によります。

- ・ > ----->
- ・ > 河内「かうち、こうち」>
- ・ > 河内...カウリは、カ(カウンデ)...中・真ん中、ウリ...うち(内・氏・国)>
- ・ > 河内は「かう(わ)ち」でもあり、百済語の「カウリ」でもあるため、「中つ国」を指します。

>> 初めて河内王朝を開いた者にとって、その地は、『中つ国』(中心)であったのです。>> 百済、伽耶系は、それぞれ河内や奈良の地名を残しました。地名は、扶余系の民族移動の経路をよく表しているのです。>>【金容雲(キム・ヨンウン)『日本=百済』説』P・41、三五館、2011 年 4 月】>> ----->> 自説に自信の無い研究者程、権威を振りかざし、品格を欠く言葉を乱発するもの。藤井さんの本の改訂の際には、大幅な書き直しが必要とされるでしょう。

私が自説に自信を持っていない?…ほほう、元に本言語学会会長の説を「トンデモだ」と公言し、それがトンデモであることに気づかない全ての国語学者を敵にまわして喧嘩を売っている私が、自信を持っていない?

権威を振りかざし…現在「一日本国民」以外の肩書きを一切持ってない私になんの権威があるのですか?「金容雲」だの何だの「大先生方」の権威を振りかざしているのは貴方の方でしょう?

ホームページリニューアル 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 26 日(火)22 時 20 分 20 秒 返信・引用
管理人です。

ちょっと暇ができたので、研究会のホームページをリニューアルしました。 会報の電子ブック販売も開始しています。 よろしくご参照ください。

<http://www.asahi-net.or.jp/%7Erg1h-smed/>

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:青面金剛 投稿日:2013 年 2 月 25 日(月)22 時 03 分 20 秒 返信・引用

藤井游惟さんへのお返事です。

> 私は日本語は稲作・金属器文明をもたらした渡来人の言語ではなく、先住民である南方系縄文人の言語であり、渡来人の父親と縄文人の母親から生まれた「弥生人」が母親の方の言語を受け継いだのだと言っているのであり、南河内方言も「先住民言語の影響を受け継いでいる」のは当たり前です。

> 「考古学を科学する会」の「弥生人と日本語の形成-日本語南方系縄文人語起源説-」 1 糸魚川-浜松ライン(糸魚川線) 南方系縄文人と北方系縄文人の居住境界線 紀元前 3~5 世紀に渡来人が侵入してきて、日本(祖)語を話す南方系縄文人を駆逐しつつ同化して形成された日本語を話す「弥生人」は、稲作農業によって急激に人口を増やし、100~300 年後にはそのフロンティアは糸魚川-浜名湖ラインを越えてアイヌ(祖)語を話す北方系縄文人の居住地域に侵入する。その頃には、弥生人の人口の方が多く、占領が終わればすぐに家族連れの移民が入ってくるため、男は皆殺し(或いは捕まえて奴隷として売る)、女は捕まえて慰み者にと行うことも、言語乗移り現象は起こらない。しかし、地名・動植物名などにアイヌ語の影響がのこり、また捕まえた北方系縄文人達の話す「変な日本語」の影響で、発音やアクセント、文法などにも変化が起こる。

☆南河内方言が「先住民言語の影響を受け継いでいる」と一方で言い、 ☆糸魚川-浜名湖ラインを越えた地域では、「言語乗移り現象」は起こらない、と、また一方

で言い張るのであれば、

南河内と長野・静岡・南関東では、言葉が全く通じないほどの異言語同士と成るじゃ有りませんか(笑)。

>> 藤井さんの理論は、次の三つに大別されます。 >>> 1、[一定の社会状況においては、外部から侵入してきて、先住民を駆逐した征服民に、先住民の言語が「乗移る」] >>> 2、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも圧倒的に多い場合は、「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」] >>> 3、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも少数ならば、第三の言語「クレオール」化が起こる。]

>> 但し、3 も「一定の社会状況に於いては」です。 > このことも「考古学を科学する会」のレジュメに書いてあるはずですよ。

河内「かうち、こうち」

河内...カウリは、カ(カウンデ)...中・真ん中、ウリ...うち(内・氏・国)

河内は「かう(わ)ち」でもあり、百済語の「カウリ」でもあるため、「中つ国」を指します。

初めて河内王朝を開いた者にとって、その地は、『中つ国』(中心)であったのです。

百済、伽耶系は、それぞれ河内や奈良の地名を残しました。地名は、扶余系の民族移動の経路をよく表しているのです。

【金容雲(キム・ヨンウン)『日本=百済』説』P・41、三五館、2011 年 4 月】

自説に自信の無い研究者程、権威を振りかざし、品格を欠く言葉を乱発するもの。藤井さんの本の改訂の際には、大幅な書き直しが必要とされるでしょう。

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 25 日(月)17 時 26 分 28 秒 返信・引用

青面金剛さんへのお返事です。

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >> 藤井さんの理論は、次の三つに大別されます。 >> 1、[一定の社会状

況においては、外部から侵入してきて、先住民を駆逐した征服民に、先住民の言語が「乗り移る」]

> 2、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも圧倒的に多い場合は、「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」]>> 3、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも少数ならば、第三の言語「クレオール」化が起こる。]

ほほう、私の説をこの程度整理できるまで「ご不自由な頭のリハビリ」が進んだ様ですね。

(^o^)

但し、3も「一定の社会状況に於いては」です。このことも「考古学を科学する会」のレジメに書いてあるはずですよ。

> では、神武による大和政権の樹立以後に、645年の乙巳の変までの期間に、近畿地方から関越線以南までの地域での言語は、上の三つのうち何れに当たるのか、明確にしてください。

「ご不自由な頭のリハビリ」が完全に終わっているなら、レジメを見ればこの答えは自分で出せるはずです。自分で答えが出せないなら、御貴殿は未だに「頭のご不自由な方」なのであり、おつきあいは遠慮させていただきます。<(_ _)>

Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月25日(月)07時32分 13秒 返信・引用

> No.1299[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

距離が明確に成ると方位も精度がでまじな。

これから、隠れたところが明らかになりますな。

方位は存在した。ですな。

>>> たぶん、中国の測量は、通常の長里の4分の1、もしくは8分の1を短里や超短里としたのでしょう。

>> なぜ短里をつくったかという、土地が狭いと長里計算では長過ぎたのかもしれませんが。>> 1里を1800尺とするわけですが、これを450尺、あるいは225尺とするわけですね。>>> おそらく、一寸千里の法で千里を出すとのくらい、実際の千里と異なるか、当時からしっかり把握していたはずと感じます。>>> 後漢尺の時代で、超短里 52.5m 短里 105m、超短里の3倍尺 158mの半分で 79m前後を、その計測上での千里の中間尺単位として理解していた可能性はありますが、>> あまりその中間尺自体は使わなかったのではないかなーと感じます。使ったとすれば、1里=300歩の部分ですね。>> 6尺=1歩 300歩=1里ですから、>> 計測的に 79mを計り出して、それを1度2倍して158mを出す。長里421mの3分の1=140mと近似するので、計算上6分の1尺とみなす。>

- > それで、6尺を1歩としていた部分を、1尺1歩と換算しなおすことなのですが、>
- > そこでさらに200歩と直すことで、先の超短里の 52.5mにたどり着くはずですよ。>
- > もっと便利なのは、半分の100歩にしてしまうことで、そうすると 26.25mですね。それを里単位とすれば、100尺で済むので、理解しやすくなったでしょう。27KM前後の単位がしきりに九州方面の尺度にでてくる件は以前話したとおりです。>> 追記

>

- > ただ、後漢尺の 23.4cm 尺より長い 26.25cm 尺となりますね。>
- > あったとすれば便宜尺でしょう。数値的には古韓尺の 26.8cm にも近いかもしれません。>
- > 秦野さんご指摘の(即ち「十分為寸」「十寸為尺」「一尺二寸為大尺一尺」「十尺為丈」)関連の大尺のひとつでしょうか。> <http://ja.wikipedia.org/wiki/尺> >> で、1.12倍~前後でしょうか。時代の尺長変化によって便宜尺も少し伸びたかもしれません。>> Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月25日(月)07時 09分 51秒 返信・引用 編集済

> No.1301[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

倭王・武は雄略天皇説ですな。この説を秦野は疑っています。 魏志倭人伝を解説で秦野距離で地図を起こすと添付になったのですな。

雄略天皇の雄略天皇は吉備・播磨・伊勢を始め、中部・関東地方にも東征の見方も変わる。 秦野北斗著書、徐福と邪馬台国より

「 東は毛人を(蝦夷、アイヌか)を征すること 55 国。西は衆夷(熊襲、隼人などか)を服すること 66 国。渡って海北を平らげること 95 国。王道は融泰であって、土をひらき、幾をはるかにした。 」

おまけに、東は 55 国。西は衆夷(熊襲、隼人などか)を服すること 66 国。渡って海北を平らげること 95 国の地図を添付します。

『新唐書』日本伝

仲哀死、以開化曾孫女神功為王。次應神、次仁德、次履中、次反正、次允恭、次安康、次雄略、次清寧、次顯宗、次仁賢、次武烈、次繼體、次安閑、次宣化、次欽明。

仲哀が死に、開化の曾孫娘の神功を王とした。次は應神、次は仁德、次は履中、次は反正、次は允恭、次は安康、次は雄略、次は清寧、次は顯宗、次は仁賢、次は武烈、次は繼體、次は安閑、次は宣化、次は欽明。

>> 安東將軍は中国の官職名です。倭王・武は雄略天皇とされます。雄略天皇は吉備・播磨・伊勢を始め、中部・関東地方にも東征していますので、記録には残されていませんが、当時既にディアスポラ(強制分散移住)を用いていた可能性は有ると思われます。 >>> 478 年 昇明 2 年 5 月戊午。倭国王武が使いを遣わし方物を献じた。武をもって安東大將軍とした(倭国王武をもって安東大將軍とした)。『宋書』『順帝紀』『南史』『宋本紀 下』>> 「 東は毛人を(蝦夷、アイヌか)を征すること 55 国。西は衆夷(熊襲、隼人などか)を服すること 66 国。渡って海北を平らげること 95 国。王道は融泰であって、土をひらき、幾をはるかにした。 」 >> 「 梁の武帝即位の際に、倭王武を征東大將軍に昇進させたと記されているが、『日本書紀』によれば、このときすでに倭王武は亡くなっている。 」 >> 邪馬台国の会 >

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:青面金剛 投稿日:2013 年 2 月 25 日(月)06 時 30 分 3 秒 返信・引用 > No.1298[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

安東將軍は中国の官職名です。倭王・武は雄略天皇とされます。雄略天皇は吉備・播磨・伊勢を始め、中部・関東地方にも東征していますので、記録には残されていませんが、当時既にディアスポラ(強制分散移住)を用いていた可能性は有ると思われます。

「478 年 昇明 2 年 5 月戊午。倭国王武が使いを遣わし方物を献じた。武をもって安東大將軍とした(倭国王武をもって安東大將軍とした)。『宋書』『順帝紀』『南史』『宋本紀 下』」

「 東は毛人を(蝦夷、アイヌか)を征すること 55 国。西は衆夷(熊襲、隼人などか)を服すること 66 国。渡って海北を平らげること 95 国。王道は融泰であって、土をひらき、幾をはるかにした。 」

「 梁の武帝即位の際に、倭王武を征東大將軍に昇進させたと記されているが、『日本書紀』によれば、このときすでに倭王武は亡くなっている。 」

邪馬台国の会 倭王武と雄略天皇 稲荷山古墳出土鉄剣銘文

<http://yamatai.cside.com/katudou/kiroku246.htm>

>『宋書』倭国伝の倭の五王の項です。これが、ディアスポラ(強制分散移住)なのかどうかです。 >> …詔を以て武を使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、

> 倭王に叙爵した。

Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 24 日(日)23 時 43 分 2 秒 返信・引用 編集 済

> No.1296[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 一寸千里の法 >

- > 古代里には里は呉尺と隋(晋)尺があり、各々 2 種あり、計 4 種になる。
- > 当時の里は 444 m(大里)で短里は 1/10 里になる。短里=44.4 m >
- > 短里=44.4 m から地球の半径 R=3700km になる。
- > 現在の半径の 58%になる。 >
- > 呉代、隋代の尺を里に当て嵌めるならば、大里、小里が存在する。 >
- > 呉尺 隋(晋)尺
- > $533.5 \text{ m(里)} \div 1.2 = 444 \text{ m(大里)}$
- > $444 \text{ m(大里)} \div 1.2 = 370 \text{ m(小里)}$ >
- > 一寸千里の法で注意する事は地球の半径 R は何処にもない。谷本茂は
- > 仮定で 6357km を使用して短里を 76~77 m としている。 >
- > 古田武彦・谷本茂の間違いを訂正して貰いたいものだ。 >
- > 古代史の「ゆがみ」を正す 古田武彦・谷本茂 より
- > <http://home.b06.itscom.net/kodaishi/page010.html> >

たぶん、中国の測量は、通常の長里の 4 分の 1、もしくは 8 分の 1 を短里や超短里としたので しょう。

なぜ短里をつくったかという、土地が狭いと長里計算では長過ぎたのかもしれませんが。 1 里を 1800 尺とするわけですが、これを 450 尺、あるいは 225 尺とするわけですね。

おそらく、一寸千里の法で千里を出すとどのくらい、実際の千里と異なるか、当時からしっかり把握していたはずとします。

後漢尺の時代で、超短里 52.5m 短里 105m、超短里の 3 倍尺 158m の半分で 79m 前後を、その 計測上での千里の中間尺単位として理解していた可能性はありますが、

あまりその中間尺自体は使わなかったのではないかなーとします。使ったとすれば、1 里 =300 歩の部分ですね。

6 尺=1 歩 300 歩=1 里ですから、計測的に 79m を計り出して、それを 1 度 2 倍して 158 m を出す。長里 421 m の 3 分の 1

=140 m と近似するので、計算上 6 分の 1 尺とみなす。それで、6 尺を 1 歩としていた部分を、1 尺 1 歩と換算しなおすことなのですが、そこでさらに 200 歩と直すことで、先の超短里の 52.5m にたどり着くはずで

もっと便利なのは、半分の 100 歩にしてしまうことで、そうすると 26.25m ですね。それを 里単位とすれば、100 尺で済むので、理解しやすくなったでしょう。27 KM 前後の単位が しきりに九州方面の尺度にでてくる件は以前お話したとおりです。

追記 ただ、後漢尺の 23.4cm 尺より長い 26.25cm 尺となりますね。 あったとすれば便宜尺でしょう。数値的には古韓尺の 26.8cm にも近いかもしれません。

秦野さんご指摘の(即ち「十分為寸」「十寸為尺」「一尺二寸為大尺一尺」「十尺為丈」)関連の 大尺のひとつでしょうか。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/尺>

で、1.12 倍~前後でしょうか。時代の尺長変化によって便宜尺も少し伸びたかもしれません。

<http://>

Ads by Google Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 24 日(日)20 時 53 分 10 秒 返信・引用

> No.1297[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

『宋書』倭国伝の倭の五王の項です。これが、ディアスポラ(強制分散移住)なのかどうかです。

…詔を以て武を使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭王に叙爵した。

なにか、大きな者の存在を感じる。日ユ同祖論も同様でないか。

『宋書』倭国伝

臣亡考濟實忿寇讎、壅塞天路、控弦百萬、義聲感激、方欲大舉、奄喪父兄、使垂成之功、不獲一簣。居在諒闇、不動兵甲、是以偃息未捷。至今欲練甲治兵、申父兄之志、義士虎賁、文武效功、白刃交前、亦所不顧。若以帝德覆載、摧此強敵、克靖方難、無替前功。竊自假開府儀同三司、其餘咸各假授、以勸忠節。」詔除武使持節、都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事、安東大將軍、倭王。

臣の亡き済は、仇敵が天路を塞ぐことを実に憤り、百万の弦を鳴らして訴え、正義の声に感激し、まさに大挙せんと欲するも、突然に父兄が亡くなり、垂成の功をして一簣(モッコ一杯分)も獲れず。諒闇(一年の服喪)に在り、軍装の兵を動かさず、ここに休息するを以て未だ戦勝を得られず。今に至り、甲を練り、兵を治め、父兄の志を述べんと欲し、義士と勇士、文武に功を尽くし、白刃を前に交えるも、また顧みることなし。

もし帝徳の覆載を以てこの強敵を挫き、勝って方難を鎮めるも、前功に替えることなし。密かに開府儀同三司を自ら仮称し、その余も皆、各々に仮授(して頂ければ)、以て忠節を勧め

る。詔を以て武を使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭王に叙爵した。

>> 当時、天皇自身は都と、其の周辺しか巡幸されませんので、東国へ出る事は有りません。そのため、前線へ派遣される征夷大將軍、陸奥鎮守府將軍、征夷大使、征東使、征東大使などに、強力な権限を与えて、討伐と支配を行わせました。>> 代々の將軍達は、ディアスポラ(強制分散移住)を含めた、東北支配のノウハウを継承していったのだと思われます。>> 俘囚の姓としては、空海の父も佐伯で、先住民の血脈です。>> 投降・帰順した蝦夷を以って、対蝦夷討伐の先陣として蝦夷同士を戦わせる「夷をもって夷を制す。」の狡猾な手法も用いられました。>>> 征夷大將軍【せいいたいしょうぐん】>>

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:青面金剛 投稿日:2013年2月24日(日)20時29分13秒 返信・引用

> No.1293[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

当時、天皇自身は都と、其の周辺しか巡幸されませんので、東国へ出る事は有りません。そのため、前線へ派遣される征夷大將軍、陸奥鎮守府將軍、征夷大使、征東使、征東大使などに、強力な権限を与えて、討伐と支配を行わせました。

代々の將軍達は、ディアスポラ(強制分散移住)を含めた、東北支配のノウハウを継承していったのだと思われます。

俘囚の姓としては、空海の父も佐伯で、先住民の血脈です。

投降・帰順した蝦夷を以って、対蝦夷討伐の先陣として蝦夷同士を戦わせる「夷をもって、夷を制す。」の狡猾な手法も用いられました。

征夷大將軍【せいいたいしょうぐん】

<http://kotobank.jp/word/%E5%BE%81%E5%A4%B7%E5%A4%A7%E5%B0%86%E8%BB%8D>> ところで、ディアスポラ(強制分散移住)させることが出来る権力者が居たのですか。

> ジングスカンでもできないな。無理、不可能。ディアスポラ(強制分散移住)は旧ソビエト時代のスターリンの圧制の折にも見られまし

た。

当時、天皇自身は都と、其の周辺しか巡幸されませんので、東国へ出る事は有りません。そのため、前線へ派

遣される征夷大將軍、陸奥鎮守府將軍、征夷大使、征東使、征東大使などに、強力な権限を与えて、討伐と支配を行わせました。

代々の將軍達は、ディアスポラ(強制分散移住)を含めた、東北支配のノウハウを継承していったのだと思われます。

俘囚の姓としては、空海の父も佐伯で、先住民の血脈です。

投降・帰順した蝦夷を以って、対蝦夷討伐の先陣として蝦夷同士を戦わせる「夷をもって、夷を制す。」の狡猾な手法も用いられました。

征夷大將軍【せいいたいしょうぐん】

<http://kotobank.jp/word/%E5%BE%81%E5%A4%B7%E5%A4%A7%E5%B0%86%E8%BB%8D>

>ところで、ディアスポラ(強制分散移住)させることが出来る権力者が居たのですか。 >ジンギスカンでもできないな。無理、不可能。

チンギスハンは、ディアスポラ(強制分散移住)こそ無いものの、馬上からの投げ縄を用いた、「奴隷狩り」は行っていたそうです。 Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月24日(日)19時32分54秒 返信・引用

> No.1289[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

一寸千里の法 古代里には里は呉尺と隋(晋)尺があり、各々2種あり、計4種になる。

当時の里は 444 m(大里)で短里は 1/10 里になる。短里=44.4 m 短里=44.4 m から地球の半径 R=3700km になる。

現在の半径の 58%になる。 呉代、隋代の尺を里に当て嵌めるならば、大里、小里が存在する。

呉尺 隋(晋)尺 533.5 m(里)÷1.2=444 m(大里) 444 m(大里)÷1.2=370m(小里)

一寸千里の法で注意する事は地球の半径 R は何処にもない。谷本茂は 仮定で 6357km を使用して短里を 76~77 m としている。

古田武彦・谷本茂の間違いを訂正して貰いたいものだ。

古代史の「ゆがみ」を正す 古田武彦・谷本茂 より

<http://home.b06.itscom.net/kodaishi/page010.html>

Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月24日(日)08時31分28秒 返信・引用

> No.1289[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

五胡十六国時代に、コーカソイド系を含めた北方遊牧民・尺度が伸びたということも、これは、弥生後期の部族を意味している。五胡十六国時代は燕、秦、夏の国名が目立つ 夏は紀元前 1900 年。秦、燕は紀元前 200 年になる。後は呉越の紀元前 500 年になる。言えることは日本の縄文、弥生部族の末裔だろうな。大宝律令、呉尺の復活になる様だな。言語も同様のルートを通じたと思われる。技術集団、民族の移動になる。

弥生後期は(小里)ですな。弥生前期は呉尺だな。 弥生後期時代の倭・半島尺度の 158km の3分の1 $158 \div 3 = 52.66$ km は(千小短里)斜辺に成っているな。 $3.71 \times 1.41 = 5.25$ km (10 小里)

52.5 km (千小短里)

弥生後期 3 世紀(さんせいき)とは、西暦 201 年から西暦 300 年までの 100 年間を指す。日本では弥生時代末期から古墳時代初期にあたる。

> この三種類の尺が大陸から渡ってきたのが、いったい何時であったのかは分からないが、701 年の『大宝律令』で制度化される。

• > (即ち「十分為寸」「十寸為尺」「一尺二寸為大尺一尺」「十尺為丈」)>

- > 中国北方のほうが長い尺を使う傾向は、かなり昔からあったようですね。 >
- > 中国北方のほうが高身長だというのは考慮すべきかもしれません。 >
- > 先のとおり五胡十六国時代に、コーカソイド系を含めた北方遊牧民が徒民で流入するので、特に後趙のようなコーカソイド系のように、王族を中心に身長が高くなった可能性を感じます。それで手の指の長さが長くなり、尺度が伸びたということも考慮すべきかもしれません ね。
- >> 日本人の場合も、鎌足墓の鎌足の身長は結構高かったそうですね。 >>

Re:「天からの恵」 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月24日(日)08時29分15秒 返信・引用

> No.1288[元記事へ] ワープさんへのお返事です。

この辺りの議論は後半になる。なんせ、今は韓半島でウロウロしているのが現状だな。

フン族、キリスト、密教、聖徳太子がからみますぞ。

> 神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たして くださっているのです。(使徒言行録 14章 17節)

>> サンカラは、サンスクリット語でという意味があり、ここには 自然の恵み、食の恵み、居住 空間の恵み、そのすべてが揃っています

- > アサンガ
- > チベット語訳ではアサンガ(無著)とする。 >
- > 瑜伽唯識論 アサンガ 無著 >
- > 略称《瑜伽論》。著者は漢訳ではマイトレーヤ(弥勒),チベット語訳ではアサンガ(無著)とする>> 瑜伽行基 > 我を瑜伽大権現として 祀るべし」と夢のお告げを受けた行基が、天平 5年に開山したとの伝承である >「此の山は無双の霊地にして、梵刹を開き、三密瑜伽の行を行い、我を瑜伽大権現として祀るべし」と夢のお告げを受けた行基が、天平 5年に開山したとの伝承である[1]。行基が阿弥陀如来・薬師如来の二尊を祀ったのが瑜伽大権現信仰の始まりと伝わる[2]。 > 五流修験道の本山である五流尊瀧院の長床縁由興廃伝によれば、瑜伽山は新熊野那智山と され、五流尊瀧院(本宮)・諸興寺(新宮)・瑜伽山蓮台寺(那智)を新熊野権現 3社としていた。 >> パキスタンの弥勒菩薩立像 - 熊野三山と熊野別当,そして世界遺産・環境 ... > この仏像は、パキスタンのガンダーラ出土の弥勒菩薩立像です。クシャーナ王国時代(2

世紀頃)のものです。弥勒菩薩立像は、失われた純正な仏法を立て直すために、将来、出現 する仏であり、ふだんは兜卒天上に住んでいる菩薩と考えられ >> 弥勒菩薩に興味があります。弥勒信仰には どのような 宗派なのですか ...

> 西暦 300年頃、インドに弥勒という名の仏教学者がいました。すぐれた大乘仏教僧には 敬 称として菩薩号が使われます。 龍樹菩薩、世親菩薩、行基菩薩などなど>> 弥勒菩薩は、未来に下界に降(くだ)って仏となり、衆生(しゅじょう)を救うとされる菩薩 です。...の下で悟りを開き、摩訶迦葉(まかかしよう)から釈尊の衣を受け取り、三度 にわたる 法会(ほうえ)で 300億近くの人を迷いから救うとされます。... 弥勒という名は、一般にサン スクリット語のマイトレーヤ Maitreya の訳語とされていますが、直接には インドのクシャ ン朝の貨幣に現れるミイロ Miirō に由来すると思われます。 ... 西暦 400年 ごろ法顕(ほつけん)はパミール山中で巨大な木造の弥勒像を目撃したことを旅行記に 記しています

> ミイロはイランの太陽神ミスラ Mithra の方言的発音です。ミスラはインド古来の神ミトラ Mitra と起源を同じくし、Mitra(友)の派生語 maitreya(情けある)を通じて、「慈氏」菩薩へ と転化します。ミイロが貨幣に現れる比率は多く、クシャ ン朝下のミイロ信仰の隆盛がうかがわれます。ガンダーラで片岩で刻まれた水瓶(すいびよう)をもつ菩薩は弥勒と思われます。 西暦 400年ごろ法顕(ほつけん)はパミール山中で巨大な木造の弥勒像を目撃したことを旅行 記に記しています。敦煌(とんこう)や朝鮮で見られる弥勒の交脚像、思惟(しい)

像はすでにガンダーラに祖型があります。日本では中宮寺(奈良)と広隆寺(京都)の弥勒菩薩像が有名です。

>> ニューエイジとイルミナティ 666 この「キリスト」は、同じくユダヤ教徒、イスラム教徒、仏教徒とヒンズー教信徒によって待ち受けられると言われ、同じくマイトレーヤ卿として知られています、しかし彼は救世主、イマームマハディ、5番目の「キリスト」は、同じくユダヤ教徒、イスラム教徒、仏教徒とヒンズー教信徒によって待ち受けられると言われ、同じくマイトレーヤ卿として知られています、しかし彼は救世主、イマームマハディ、5番目の仏陀、あるいはクリシュナとしてそれぞれこれらの信者によって知られています。> ベイリーは世界宗教が始まることを非常に明確にします:「精神は古い宗教から消え、そして本当の精神的な光は、結局は自身を地球上の新しい世界宗教として現れる新しい形式に移しています。> ユダヤ教は古くて時代遅れで、そして分離しやすく、新しい宗教によってキリスト教の信頼が同じくその目的を満たしたとすれば、もっと良くない精神的志向の人たちのために本当のメッセージを持っていません;その創設者は新しい福音書とすべての人たちを啓発しようとする新しいメッセージを持って来ようと努めます」。>「テロリズム&イルミナティ」のカナダの著者、デイビッド・リビングストン自身の、Lucis

トラストの役員メンバーは誰を含んでいるかという国際的なボードを通した彼の調査で明らかにしたのは:ジョン・D・ロックフェラー、ノーマン・カズンズ、ロバート・S・マクナマラ、IBMとモスクワへの元アメリカ大使のトーマス・ワトソン・ジュニア、ヘンリー・クローゾン、最高審議会、第33位階、南部 District スコットランド儀式の偉大な海軍中佐と、CFR、ビルダーバーガーグループと3極委員会を含め、ベイリーの組織化を種々の円卓グループに結び付けているヘンリー・キッシンジャーです。

> ニューエイジ運動の主張を調べて研究するとき、懐疑的で、軽べつすることはあまりに簡単過ぎます、しかし(過去の)「ミステリーバビロン」を更新したこの現代のバージョンで、前方ヘリードしているそれらは偉大で強力な人たちと一緒に機能しています。> ニューエイジ、この「精神的な目覚め」は、1つの世界政府に向かうイルミナティのゴールの1つに過ぎないかもしれませんが、しかしそれは主要なものであって、そして彼らの計画の中核となる要素であることが分かるかもしれません。

> Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月24日(日)07時43分26秒 返信・引用

> No.1290[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

ところで、ディアスポラ(強制分散移住)させることが出来る権力者が居たのですか。 ジングスカンでもできない。無理、不可能。

カタカナはヘブライ語話者が殆ど其のまま読めてしまうことから、秦氏の考案によるものだと思います。ひらがなは、「漢字の草書体から採った」と見せかけて、それまでの神代文字の特徴である、丸みを帯びた字体を残しています。これが当時の日本先住民の知恵でしょうか。>> こうみると、2種の縄文人をプラスしたものが半数、弥生・渡来系が3分の1、遊牧民系が1割くらいでしょうか。

>>>> 仮に先のとおり母系で言語が継承されるなら、上記の比率で言語の語彙も出てくるかもしれません。>> ある意味安本氏のデータに近くなりますね。>>>> ただ、官人層の家系はいわゆる寺子屋教育的な部分があって、ぜんぜん異なっていた可能性も感じます。>> 特に近江周辺の新漢人の渡来人が遣隋・唐使で圧倒的な背景には、バイリンガルの教育方針をしたこともあるでしょうし、中国語を交えた言語を話す特殊な地域だったかもしれません

せん。奈良方面はどうだったんでしょうね。

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:管理人 投稿日:2013年2月24日(日)02時32分1秒 返信・引用 編集済

> No.1290[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> カタカナはヘブライ語話者が殆ど其のまま読めてしまうことから、秦氏の考案によるものだと思います。ひらがなは、「漢字の草書体から採った」と見せかけて、それまでの神代文字の特徴である、丸みを帯びた字体を残しています。これが当時の日本先住民の知恵でしょうか。

>> 蘇我大王家の時代には、銅鐸などに絵文字で標す記録方法も用いられました。 >>「秋津真神原入鹿高御座位」=飛鳥の宮殿にて宗我入鹿が大君(おおきみ)として即位された。 >>【大羽弘道『飛鳥王朝の悲劇』p.161、光文社、昭和52年1月31日】 >

そうですね、仮名文字はどう見てもアラム系・ヘブライ文字でしょう。 アラム語とゾフド語にみえる送り仮名理論の応用だと思います。

蘇我・秦氏がもたらした可能性が高いですね。ゾグド系の流民が混じった弁・秦韓人の首長 でしょう。 蘇我氏は半島の王族でしょうから、本来は日本の大王と対等な扱いをうけるべきだと考えて いたはずです。 欽明・継体の正体も知っていて、今我々が思い描くような皇国史観で彼らを論じると蘇我氏 の行動を理解できなくなります。幕府政治みたいな非常に無礼な家臣としか見えないでしょう。これも小学校時代からの皇国史観を前提として考えるという洗脳が抜けきってない証拠 なんですよ。

> 蘇我大王家が倒された2年後、新潟に淳足柵(ぬたりのき)が造られます。つまり、それまでの蘇我大王家は、東国と友好的な交易を深めていた、と考えられます。

>> 篠田謙一氏は、古代に於いて、中部地方までが、蝦夷の勢力圏だったとされ、また安本氏は古日本語系は半島南部から由来しているとの考察です。 >

遺伝子学者の意見が入り始めているのはいいことなのですが、ただそれに日本古代史が着いて行けてないのではないのでしょうか。遊牧民系、欧米系の遺伝子が多いのに、古代史ではその 辺に触れた研究がほとんどないので、遺伝子学者もその辺を迂回させて説明せざるをえない というのが実情でしょう。

縄文や蝦夷の歴史についても同様だと思いますね。蝦夷と本土人、弥生人、渡来人の DNA に ついて、古代史学会レベルで論議して古代史側の一般的な見解をださないと、遺伝子学者の ほうが、先に見越して説明した結果、やや不完全なものが出来てくる可能性があります。ただ、 古代史の研究をするのと同様に、遺伝子の研究を初歩から学んでそれを理解・応用するまで には、かなりの時間がかかるのが課題でしょう。

> 神武の時代、飛騨や熊野にも、大和朝廷に抵抗を続けた先住民が居たとされます。新たな 占領者は、ゲリラ戦を仕掛けられやすい山岳地を避けるものです。そのため、奥飛騨や奥熊野 では、先住民の比率が高くなり、藤井さんの第3理論によると、クレオール化が起こる筈なの ですが、現実にそうと言えますでしょうか？

縄文人の遺伝子が山間部に多い事は確かでしょう。ただ、クレオール化が起きるかどうかは、 きっと藤井さんや、青面さんのような言語の専門家にしか解決できないことかと感じます。 世界的な同様な事例を抽出しながら、推測するしかないのではないのでしょうか。

> また、大きな町を中心に据えた広域文化・経済圏を想定しますと、大きな町の中心部に 於いては、2が適用され、中心部は政治権力者側の言語が支配します(中心部にも、河原沿い に先住民が住む場合がある)。 >

> ところが、其の周辺部に於いては、1の先住民の言語が乗り移り、さらに其の又、外側の 山沿いでは、先住民の人口の方が多し事より、3のクレオール化が起ってしまう。そして、中 心部の人口は次第に増加していく事から、言語のドーナツ化現象が起きてしまう事に成り ますが、果たして其の通りでしょうか？

>> 不動産市場に於けるドーナツ化現象で、安い物件を求める若者の言葉がドーナツ化 する場合は有り得ますが、大きな都市の中心部と周辺部で、言語が食い違う、と言った例は、 極めて少ないと思います。 >

私の地元の札幌や北海道の事例は面白いですよ。アイヌ語の影響はほとんどないですね。完 全にテレビと学校教育で、東京方言と変わリません。訛りもほとんどないですよ。ただ、祖父 の年代になると、東北からの移民が多いので、ズーズー弁になり、聞き取りにくくなります。そ の祖父の代と、先代あたりが入植者なのですが、彼らもアイヌの影響はあまり受けないよう です。

おそらく人口比率や接する機会も少なかったのではないのでしょうか。 むしろアイヌ側で、クレオール化が起こっていた可能性を感じます。なんというか、多数者側 はあまり少数者側に考慮しない、少数者側のほうで影響を受けやすい、そんな予想を感じま す。

だから、山間部でも強者側の集落では、平地部と同じで、弱者側は強者側の影響を被ったかもしれません。ただ、婚姻関係が両者に成立していったならば、そうではないケースが生じるよ うな気がしますね。婚姻関係が、古代の両者においてどのようになっていたか?この辺も もっと明確に古代史側で提示しないといけないでしょ

う。

> 最新の遺伝子学では、父親のY染色体は、其れほど大きな役割は果たしていない、そうです。但し、現在の遺伝子学では、DNAの25%程度しか解明できて無く、残り75%を占めるジャンクDNAは未解明です。 >

> そのジャンクDNAの中に、人類が地球外に居た時代の記憶が残されているとも、黄泉の世界との交信機能が含まれている、とも言われています。 >> 密教の真言マントラなんかは、黄泉の世界からの力を引き出すものですから。

ジャンク部分には、人類の記憶があるという話を聴きますね。おそらくそのうちに科学的に解明されるでしょう。シャーマン的な実験で、古代の人類の記憶を思い出すという話も聴きますが、今の遺伝子学では、自分の記憶は遺伝子に保存できても、親や祖先の記憶は遺伝

されないという常識があって、それがつまり染色体のジャンク部分に、記憶を刻み付けられなかった場合の仮定なのですが、この辺は何とも言えない感じがしますね。案外「絶対」という理論はすくなく、「例外的」なこともしばしばあるので、何につけても、のらりくらりと言ひ抜けるのが、今の時点ではベストな回答ではないかと考えてます。

シャーマン的な世界は、忌部の麻のケースみたいに、しばしばあったことで、おそらくは世界各地でシャーマンが見たものと同じものを、部分的には日本的な習俗に影響されながら、神話世界に体现している可能性も否定はできません。それはもちろん縄文人や弥生人、渡来人においても、その遺伝子系統が同じ時点まで遡れば、どのシャーマンも同じものをみるはずで、少ないとは思いますが、たとえば天地開闢神話あたり、出てくる可能性もなくはないですが、ただ、大陸系宗教文化の影響を、管理的には重視してますけどね。実際はどうなんでしょうね。

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:青面金剛 投稿日:2013年2月24日(日)00時42分43秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

カタカナはヘブライ語話者が殆ど其のまま読めてしまうことから、秦氏の考案によるものだと思います。ひらがなは、「漢字の草書体から採った」と見せかけて、それまでの神代文字の特徴である、丸みを帯びた字体を残しています。これが当時の日本先住民の知恵でしょうか。

蘇我大王家の時代には、銅鐸などに絵文字で標す記録方法も用いられました。

「秋津真神原入鹿高御座位」=飛鳥の宮殿にて宗我入鹿が大君(おおきみ)として即位された。

【大羽弘道『飛鳥王朝の悲劇』p.161、光文社、昭和52年1月31日】

蘇我大王家が倒された2年後、新潟に淳足柵(めたりのき)が造られます。つまり、それまでの蘇我大王家は、東国と友好的な交易を深めていた、と考えられます。

篠田謙一氏は、古代に於いて、中部地方までが、蝦夷の勢力圏だったとされ、また安本氏は古日本語系は半島南部から由来しているとの考察です。

神武の時代、飛騨や熊野にも、大和朝廷に抵抗を続けた先住民が居たとされます。新たな占領者は、ゲリラ戦を仕掛けられやすい山岳地を避けるものです。そのため、奥飛騨や奥熊野では、先住民の比率が高くなり、藤井さんの第3理論によると、クレオール化が起こる筈なのですが、現実にはそうと言えますでしょうか？

また、大きな町を中心に据えた広域文化・経済圏を想定しますと、大きな町の中心部に於いては、2が適用され、中心部は政治権力者側の言語が支配します(中心部にも、河原沿いに先住民が住む場合がある)。

ところが、其の周辺部に於いては、1の先住民の言語が乗り移り、さらに其の又、外側の山沿いでは、先住民の人口の方が多い事より、3のクレオール化が起ってしまう。そして、中心部の人口は次第に増加していく事から、言語のドーナツ化現象が起きてしまう事に成りますが、果たして其の通りでしょうか？

不動産市場に於けるドーナツ化現象で、安い物件を求める若者の言葉がドーナツ化する場合は有り得ます

が、大きな都市の中心部と周辺部で、言語が食い違う、と言った例は、極めて少ないと思います。

最新の遺伝子学では、父親の Y 染色体は、其れほど大きな役割は果たしていない、そうです。 但し、現在の遺伝子学では、DNA の 25%程度しか解明できて無く、残り 75%を占める ジャンク DNA は未解明です。

そのジャンク DNA の中に、人類が地球外に居た時代の記憶が残されているとも、黄泉の世界との交信機能が含まれている、とも言われています。

密教の真言マントラなんかは、黄泉の世界からの力を引き出すものですから。

>> 藤井さんの理論は、次の三つに大別されます。 >>> 1、[一定の社会状況においては、外部から侵入してきて、先住民を駆逐した征服民に、先住民の言語が「乗り移る」]>>

>> 2、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも圧倒的に多い場合は、「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」]>>> 3、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも少数ならば、第三の言語「クレオール」化が起こる。]

>>> またまた面白そうな論議をなされていますね。 >> 征服民がどのくらい被征服民の言語を取り入れたか、押し付けたかは、ひとつには、当て字や仮名文字の関係でわかるのではないのでしょうか。 >> 中国系渡来人が完全に倭人の言語を封殺したとすれば、万葉仮名は生じないはずですね。 完全な中国漢文になっていたでしょう。 >> そうはならなかったので、送り仮名とかいろいろ和風のそれ以前のものが残ってます。 >> 同様な構造が風土記や東歌、あるいは記紀に引用された地方伝承の語彙から、わかってくるかもしれません。

- ・ > 日向神話には多くの南方系の習俗がそのまま記載されてますね。 >
- ・ > そういう意味では安本さんの語彙比較と分布や比率に関する研究は興味深いですね。 >
- ・ > http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn5/005_03nihonngo_no_kigenn.html >
- ・ > 個人的には、やはり扶余語やその親元の遊牧民言語の影響が、もう少しあるんじゃないかなと感じますが、ただそれを解析するための方法の確立が課題ですね。 >> 遺伝子との比較は、最も重要と思うのですが、言語の養育に際して、母系や父系の可能性をさぐるべきではないかと感じます。 >> たとえば、乳児の言語教育は、おそらく母親のそれを学ぶでしょうから、文法構造などは特に母系になる可能性を感じます。 >> 父親はあまり家にいませんが、言葉使いに関してある種の権限はあるかもしれませんね。 >

> 父系で考えるなら、父系継承の Y 染色体の比率が重要で、これは D 系統が大半を占めており、ちょっと日本の場合は、異常なんです。縄文時代後期から末期に入ってきた新縄文人の遺伝子でしょう。次が江南系弥生人のそれで、遊牧民系に多い N、Q 系統は若干数です。

- ・ > [http://ja.wikipedia.org/wiki/ハプログループ_D_\(Y染色体\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/ハプログループ_D_(Y染色体)) >
- ・ > 母系で考えるなら、母系継承のミトコンドリア DNA の分布ですね。
- ・ > http://en.wikipedia.org/wiki/Human_mitochondrial_DNA_haplogroups
- ・ > [http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_M_\(mtDNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_M_(mtDNA)) >
- ・ > 母系のミトコンドリア DNA は、原住民と渡来人の流入比率を比較的よく残しています。
- ・ > http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08_1.mitochondria_karamita_sosennhtml.html >
- ・ > おそらく下図の D 系統が江南系弥生人、M 系統が後期の大陸系縄文人、B・F 系統が前期と思しき南方系縄文人+後にきた南方海洋民、N 系統が遊牧民系でしょう。 >
- ・ > 図の引用元。
- ・ > http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08_1.mitochondria_karamita_sosennhtml.html >

- > こうみると、2種の縄文人をプラスしたものが半数、弥生・渡来系が3分の1、遊牧民系が1割くらいでしょうか。 >> 仮に先のとおり母系で言語が継承されるなら、上記の比率で言語の語彙も出てくるかもしれません。 > ある意味安本氏のデータに近くなりますね。 >> ただ、官人層の家系はいわゆる寺子屋教育的な部分があって、ぜんぜん異なっていた可能性も感じます。 > 特に近江周辺の新漢人の渡来人が遣隋・唐使で圧倒的な背景には、バイリンガルの育ち方をしたこともあるでしょうし、中国語を交えた言語を話す特殊な地域だったかもしれません。奈良方面はどうだったんでしょうね。

Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:管理人 投稿日:2013年2月23日(土)22時41分25

秒 返信・引用 編集済

> No.1287[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 古墳間隔は隋(晋)尺の10小里間隔の模様。 >
- > 隋尺は晋尺(晋、しん、265年 - 420年)だろうな。
- > いい例が三角縁盤龍鏡は晋尺の直径で24.5cmだろうな。 >
- > 魏志倭人伝の地名から当時は呉音が使用されていたので呉尺だろう。
- > 長さは隋尺の1.2倍になる、呉尺の模様。 >
- > 大宝律令の尺(秦野距離)は呉尺で隋尺の関係は1.2倍になる。 >
- > 呉尺 隋(晋)尺
- > $35.6\text{ cm} \div 1.2 = 29.6\text{ cm}$ (大尺)
- > $29.6\text{ cm} \div 1.2 = 24.6\text{ cm}$ (小尺) >
- > 呉代、隋代の尺を里に当て嵌めるならば、大里、小里が存在する。 >
- > 呉尺 隋(晋)尺
- > $533.5\text{ m(里)} \div 1.2 = 444\text{ m(大里)}$
- > $444\text{ m(大里)} \div 1.2 = 370\text{ m(小里)}$ >>

先の尺が伸びる件がありましたね。この原因が未解明でした。

二、公定尺(曲尺)の導入

中国で生まれた尺であるが、元々はアタと同様に手幅で計る尺度であった。これが、徐々に伸びて約30cm台の尺になった様である(その辺りの事情に関しては今回は触れない)。この尺を大尺、本来の短い尺を小尺とし、後者を儀礼用の物としていた。また土地を計測する為の尺として中国北部には長めの尺が存在し、これが日本では高麗尺

と呼ばれたものの様だが、ハッキリはしていない様である。

この三種類の尺が大陸から渡ってきたのが、いったい何時であったのかは分からないが、701年の『大宝律令』で制度化される。(即ち「十分為寸」「十寸為尺」「一尺二寸为大尺一尺」「十尺為丈」)

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Library/8740/column/doryoukou/doryoukou01a.htm#2>

中国北方のほうが長い尺を使う傾向は、かなり昔からあったようですね。

中国北方のほうが高身長だというのは考慮すべきかもしれません。

先のとおり五胡十六国時代に、コーカソイド系を含めた北方遊牧民が徒民で流入するので、特に後趙のようなコーカソイド系のように、王族を中心に身長が高くなった可能性を感じます。それで手の指の長さが長くなり、尺度が伸びたということも考慮すべきかもしれませんね。

日本人の場合も、鎌足墓の鎌足の身長は結構高かったそうですね。

『捕まると悔しい交通違反』ランキング 926 人が見えています

『アラフォーな私が iPhone に入れててヨカット!無料アプリ』ランキング 961 人が見えています

『無料で使える面白いカワイイ役立ち写真アプリ』ランキング 414 人が見えています 知って得するランキング- ランキングシェア byGMO 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する 死者との対話・浄霊・霊視 - spiritualjp.com/ 軽なお気持ちでのご相談は不可、占いではなく真実の霊視となります。新登場 PXI 高速デジタイザ - www.home.agilent.com

アジレントの PXI 高速デジタイザ 豊富な製品ラインナップ トヨタ公式《アクア》 - toyota.jp/aqua/ 優れた燃費性能と操縦性を実現。ハイブリッドカー《アクア》 Ads by Google

「天からの恵」 投稿者:ワープ 投稿日:2013年2月23日(土)22時34分1秒 返信・引用

神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです。(使徒言行録 14章 17節) <http://sskocho.blog89.fc2.com/blog-entry-552.html>

サンカラは、サンスクリット語でという意味があり、ここには自然の恵み、食の恵み、居住空間の恵み、そのすべてが揃っています。 <http://www.kumanolife.com/History/kenshi1.html> アサンガ チベット語訳ではアサンガ(無著)とする。

瑜伽唯識論 アサンガ 無著

略称《瑜伽論》。著者は漢訳ではマイトレーヤ(弥勒),チベット語訳ではアサンガ(無著)とする。
<http://kotobank.jp/word/%E7%91%9C%E4%BC%BD%E5%B8%AB%E5%9C%B0%E8%AB%96>

瑜伽 行基 我を瑜伽大権現として 祀るべし」と夢のお告げを受けた行基が、天平 5 年に開山したとの伝承である。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%91%9C%E4%BC%BD%E5%A4%A7%E6%A8%A9%E7%8F%BE>

「此の山は無双の霊地にして、梵刹を開き、三密瑜伽の行を行い、我を瑜伽大権現として祀るべし」と夢のお告げを受けた行基が、天平 5 年に開山したとの伝承である[1]。行基が阿弥陀 如来・薬師如来の二尊を祀ったのが瑜伽大権現信仰の始まりと伝わる[2]。五流修験道の本山である五流尊瀧院の長床縁由興廢伝によれば、瑜伽山は新熊野那智山とされ、五流尊瀧院(本宮)・諸興寺(新宮)・瑜伽山蓮台寺(那智)を新熊野権現 3 社としていた。

パキスタンの弥勒菩薩立像 - 熊野三山と熊野別当,そして世界遺産・環境 ... この仏像は、パキスタンのガンダーラ出土の弥勒菩薩立像です。クシャーナ王国時代(2 世紀頃)のもので、弥勒菩薩立像は、失われた純正な仏法を立て直すために、将来、出現す

る仏であり、ふだんは兜卒天上に住んでいる菩薩と考えられ

...<http://blogs.yahoo.co.jp/shigeyoayumi/39862471.html>

弥勒菩薩に興味があります。弥勒信仰にはどのような宗派なのですか ... 西暦 300 年頃、インドに弥勒という名の仏教学者がいました。すぐれた大乘仏教僧には敬称として菩薩号が使われます。龍樹菩薩、世親菩薩、行基菩薩などなど。
http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1424606964

弥勒菩薩は、未来に下界に降(くだ)って仏となり、衆生(しゅじょう)を救うとされる菩薩です。...の下で悟りを開き、摩訶迦葉(まかかしよう)から釈尊の衣を受け取り、三度にわたる法会(ほうえ)で 300 億近くの

人を迷いから救うとされます。... 弥勒という名は、一般にサン スクリット語のマイトレヤ Maitreya の訳語とされていますが、直接には インドのクシャ ン朝の貨幣に現れるミイロ Miirō に由来すると思われます。

... 西暦 400 年 ごろ法顕(ほつけん)はパミール山中で巨大な木造の弥勒像を目撃したことを旅行記に記しています 。 <http://www.y-uruwashi.gr.jp/bosatu.html>

ミイロはイランの太陽神ミスラ Mithra の方言的発音です。ミスラはインド古来の神ミトラ Mitra と起源を同じくし、Mitra(友)の派生語 maitreya(情けある)を通じて、「慈氏」菩薩へ と転化します。ミイロが貨幣に現れる比率は多く、クシャ ン朝下のミイロ信仰の隆盛がうかがわれます。ガンダーラで片岩で刻まれた水瓶(すいびょう)をもつ菩薩は弥勒と思われます。 西暦 400 年 ごろ法顕(ほつけん)はパミール山中で巨大な木造の弥勒像を目撃したことを旅行 記に記しています。敦煌(とんこう)や朝鮮でみられる弥勒の交脚像、思惟(しい)像はすでにガンダーラに祖型があります。日本では中宮寺(奈良)と広隆寺(京都)の弥勒菩薩像が有名 です。

ニューエイジとイルミナティ 666 この「キリスト」は、同じくユダヤ教徒、イスラム 教徒、仏教徒とヒンズー教信徒によって待ち受けられると言われ、同じくマイトレヤ卿 と して知られています、しかし彼は救世主、イマームマハディ、5 番目の ...<http://blog.livedoor.jp/genkimaru1/archives/1513612.html>

「キリスト」は、同じくユダヤ教徒、イスラム教徒、仏教徒とヒンズー教信徒によって待ち受け られると言われ、同じくマイトレヤ卿として知られています、しかし彼は救世主、イマーム マハディ、5 番目の仏陀、あるいはクリシュナとしてそれぞれこれらの信者によって知られて います。 ベイリーは世界宗教が始まることを非常に明確にします:「精神は古い宗教から消え、そして本当の精神的な光は、結局は自身を地球上の新しい世界宗教として現れる新しい形式に移 しています。 ユダヤ教は古くて時代遅れで、そして分離しやすく、新しい宗教によってキリスト教の信頼

が同じくその目的を満たしたとすれば、もっと良くない精神的志向の人たちのために本当の メッセージを持っていません;その創設者は新しい福音書とすべての人たちを啓発しよう とする新しいメッセージを持って来ようと努めます」。

「テロリズム&イルミナティ」のカナダの著者、デイビッド・リビングストン自身の、Lucis ト ラストの役員メンバ ーは誰を含んでいるかという国際的なボードを通した彼の調査で明らかにしたのは:ジョン・D・ロックフェラー、ノーマン・カズンズ、ロバート・S・マクナ マラ、IBM とモスクワへの元アメリカ大使のトーマス・ワトソン・ジュニア、ヘンリー・ クローゾン、最高審議会、第 33 位階、南部 District スコットランド儀式の偉大な海軍中佐と、CFR、ビルダーバーガーグループと 3 極委員会を含め、ベイリーの組織化を種々の円卓グ ループに結び付けているヘンリー・キッシンジャーです。 ニューエイジ運動の主張を調べて研究するとき、懐疑的で、軽べつすることはあまりに簡単 過ぎます、しかし(過去の)「ミステリー・バビロン」を更新したこの現代のバージョンで、前方ヘリードしているそれらは偉大で強力な人たちと一緒に機能しています。 ニューエイジ、この「精神的な目覚め」は、1 つの世界政府に向かうイルミナティのゴールの 1 つに過ぎないかもしれませんが、しかしそれは主要なものであって、そして彼らの計画の中 核となる要素であることが分かるかもしれません。

Ads by Google Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 23 日(土)08 時 55 分 27 秒 返信・引用 編集済

> No.1284[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古墳間隔は隋(晋)尺の 10 小里間隔の模様。 隋尺は晋尺(晋、しん、265 年 - 420 年)だろうな。

いい例が三角縁盤龍鏡は晋尺の直径で 24.5cm だろうな。 魏志倭人伝の地名から当時は呉音が使用されていたので呉尺だろう。

長さは隋尺の 1.2 倍になる、呉尺の模様。 大宝律令の尺(秦野距離)は呉尺で隋尺の関係は 1.2 倍になる。 呉尺 隋(晋)尺

$35.6 \text{ cm} \div 1.2 = 29.6 \text{ cm}$ (大尺) $29.6 \text{ cm} \div 1.2 = 24.6 \text{ cm}$ (小尺)

呉代、隋代の尺を里に当て嵌めるならば、大里、小里が存在する。

呉尺 隋(晋)尺 $533.5 \text{ m(里)} \div 1.2 = 444 \text{ m(大里)}$ $444 \text{ m(大里)} \div 1.2 = 370 \text{ m(小里)}$

古墳は奈良の南別所付近から古墳間隔は 3.705km(10 小里)で古墳築造 古墳間隔は実測 3.71km となる。
晋代頃に古墳造営？

『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」と、日本神話の日本武尊、神功皇后三韓征伐の辛卯年(271 年)が重なるんですね。

隋(晋)尺は古墳造営 266 年から使われていた模様。魏志倭人伝は呉尺で里を記録している実測。陳寿は距離を測定していないのではないかな。どうも、卑弥呼以前は呉尺で、壺輿から晋尺。陳寿は卑弥呼に聞いた距離を記録した模様。また、地名は呉音の漢音表記だな。

1 里=10 短里になる。秦野距離、短里=53 m 533.5 m(里)÷1.2=444 m(大里)

大宝律令の大尺 約 35.6cm 高麗尺に由来。土地の計量など。大宝律令の小尺 約 29.6cm(小尺一尺二寸=大尺一尺)

漢代の尺 約 23.09cm 隋代の大尺 約 29.4cm 隋代の小尺

約 24.6cm 唐代の大尺 約 29.4cm 唐代の小尺 約 24.6cm

追加です。弥生後期は(小里)ですね。弥生前期は呉尺だな。弥生後期時代の倭・半島尺度の 158km の 3 分の 1 $158 \div 3 = 52.66$ km は(千小短里)斜辺に成っているな。 $3.71 \times 1.41 = 5.25$ km (10 小里)

52.5 km (千小短里)

弥生後期 3 世紀(さんせいき)とは、西暦 201 年から西暦 300 年までの 100 年間を指す。日本では弥生時代末期から古墳時代初期にあたる。

>

- > この尺は以前お話した三角縁盤龍鏡もしくは晋尺の直径で 24.5cm です。
- > 1 歩が6 尺で 1.47m
- > 1 里が 300 歩で 441m になります。1000 里で 441km
- > それで4 で割った短里計算で 111km の 10 分の 1
- > となるでしょうか。 >
- > 仮に秦野さんの 3.71km が正しいとすると、さらにそれを 3 で割った数値になります。 >
- > 120 分の 1 となりますね。 >
- > 超短里とされる秦野距離 53 KM(千里)と関係あるのでしょうか？>>秦野距離は、以前お話したように、弥生後期時代の倭・半島尺度の 158km の 3 分の 1 で、104~5km の前漢尺関連の短里尺かと考えてます。

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 23 日(土)03 時 45 分 3 秒 返信・引用 編集済

> No.1285[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >> 藤井さんの理論は、次の三つに大別されます。 >> 1、[一定の社会状況においては、外部から侵入してきて、先住民を駆逐した征服民に、先住民の言語が「乗り移る」] >> 2、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも圧倒的に多い場合は、「政治権力が 命令すれば民衆の言語は取り替えられる」] >> 3、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも少数ならば、第三の言語「クレオール」化が起こる。] >

またまた面白そうな論議をなされていますね。

征服民がどのくらい非征服民の言語を取り入れたか、押し付けたかは、ひとつには、当て字や 仮名文字の関係

でわかるのではないのでしょうか。

中国系渡来人が完全に倭人の言語を封殺したとすれば、万葉仮名は生じないはずですね。完全な中国漢文になっていたでしょう。

そうはならなかったので、送り仮名とかいろいろ和風のそれ以前のもので残ってます。

同様な構造が風土記や東歌、あるいは記紀に引用された地方伝承の語彙から、わかってくるかもしれません。日向神話には多くの南方系の習俗がそのまま記載されてますね。

そういう意味では安本さんの語彙比較と分布や比率の研究は興味深いですね。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn5/005_03nihonngo_no_kigenn.html

個人的には、やはり扶余語やその親元の遊牧民言語の影響が、もう少しあるんじゃないかなと感じますが、ただそれを解析するための方法論の確立が課題ですね。

遺伝子との比較は、最も重要と思うのですが、言語の養育に際して、母系や父系の可能性をさぐるべきではないかと感じます。

たとえば、乳児の言語教育は、おそらく母親のそれを学ぶでしょうから、文法構造などは特に母系になる可能性を感じます。

父系はあまり家にいませんが、言葉使いに関してある種の権限はあるかもしれませんね。

父系で考えるなら、父系継承の Y 染色体の比率が重要で、これは D 系統が大半を占めており、ちょっと日本の場合は、異常なんです。縄文時代後期から末期に入ってきた新縄文人の遺伝子でしょう。次が江南系弥生人のそれで、遊牧民系に多い N、Q 系統は若干数です。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/ハプログループ_D_\(Y染色体\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/ハプログループ_D_(Y染色体))

母系で考えるなら、母系継承のミトコンドリア DNA の分布ですね。

http://en.wikipedia.org/wiki/Human_mitochondrial_DNA_haplogroups

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_M_\(mtDNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_M_(mtDNA))

母系のミトコンドリア DNA は、原住民と渡来人の流入比率を比較的よく残しています。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08_1.mitochondria_karamita_sosennhtml.html

おそらく下図の D が江南系弥生人、M 系統が後期の大陸系縄文人、B・F 系統が前期と思しき南方系縄文人+後にきた南方海洋民、N 系統が遊牧民系です。

図の引用もと。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08_1.mitochondria_karamita_sosennhtml.html

こうみると、2 種の縄文人をプラスしたものが半数、弥生・渡来系が3分の1、遊牧民系が1割くらいでしょうか。

仮に先のとおり母系で言語が継承されるなら、上記の比率で言語の語彙も出てくるかもしれません。ある意味安本氏のデータに近くなりますね。

ただ、官人層の家系はいわゆる寺子屋教育的な部分があって、ぜんぜん異なっていた可能性も感じます。特に近江周辺の新漢人の渡来人が遣唐使で圧倒的な背景には、バイリンガルの育ち方をしたこともあるでしょうし、中国語を交えた言語を話す特殊な地域だったかもしれません。奈良方面はどうだったんでしょうね。

Ads by Google Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:青面金剛 投稿日:2013年2月22日(金)00時20分26秒 返信・引用

> No.1282[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

藤井さんの理論は、次の三つに大別されます。

1、[一定の社会状況においては、外部から侵入してきて、先住民を駆逐した征服民に、先住民の言語が「乗り移

る」]

2、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも圧倒的に多い場合は、「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」]

3、[政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも少数ならば、第三の言語「クレオール」化が起こる。]

神武の東征の際、大阪の地に於いて、長脛彦との大激戦が戦われました。最終的に神武が勝ち、長脛彦の兄・安日彦は津軽へ逃れる。神武天皇の時代には大和と摂津にしか、土蜘蛛は現れていません。

では、神武による大和政権の樹立以後に、645年の乙巳の変までの期間に、近畿地方から関越線以南までの地域での言語は、上の三つのうち何れに当たったのか、明確にしてください。

肥沃な平野部では1、俘囚地では2、農耕に適さない山間部では3と分けますか？

奈良は韓国語(新羅語)のナラ(国)。新羅は国立神宮を奈乙(ナウル)神宮と読んでいました。ナウルがナラに変化し、「ナラ(国)」になったのです。

【金容雲「日本=百済」説、P・38、三五館、2011年4月】

> 私は日本語は稲作・金属器文明をもたらした渡来人の言語ではなく、先住民である南方系縄文人の言語であり、渡来人の父親と縄文人の母親から生まれた「弥生人」が母親の方の言語を受け継いだのだと言っているのであり、南河内方言も「先住民言語の影響を受け継いでいる」のは当たり前です。

>> しかし、縄文人語を受け継いだ弥生人の言語には、朝鮮や中国から外来語がどんどん入り込んで変化していったのに対し、西九州の「土蜘蛛」、南九州の「熊襲・隼人」は辺境に在ったが故に弥生人との「暴力的同化」を500~700年間免れ、その間に弥生人達の話す日本語と土蜘蛛や熊襲・隼人の話す日本語の間には一見外国語と思われるぐらいの大きな方言差が生じていた、というだけです。>> それは明治初期、琉球語と本土日本語には一見外国語と思われるぐらいの大きな方言差があったのと同じことです。しかし、土蜘蛛語、熊襲・隼人語、琉球語はもともと日本語と同系言語であったために、中央政府の支配下に入れば、言語的な同化も早かったということです。>>> 藤井さんの理論に、このディアスポラ(強制分散移住)の考え方を取り入れますと、「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」のです。

>> 「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」のは、明治維新後の北海道のように、政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも圧倒的に多い場合だけです。>> アテルイの降伏後、日高見国の住民数万人を主に西日本に強制連行し、官奴婢・私奴婢とし分散移住させたのは、その何百倍・何千倍もの日本語話者の海の中に蝦夷語話者を放り込み、「日本語が話せなければ生活できない」という環境を作り上げるためです。>> しかし、関越線以北の蝦夷の居住地域では、日本語を話す倭人よりも蝦夷語を話す原住民の人口の方が多かったため、何倍もの日本語話者で蝦夷を飲み込んでしまうということができず、故に日本語でもなく蝦夷語でもない第三の言語「クレオール日本語」が発生した…それが東北方言です。

Ads by Google Re: 仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者: 管理人 投稿日: 2013年2月21日(木) 22時33分15秒 返信・引用 編集済

> No.1283[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 古墳の配置は 3.71 km 間隔になる。時間がかかりましたな。 >
- > しかし、古墳距離は何を基準にしているか分からないな。 >
- >> 会報第2号でその王仁の父・馮弘と新羅王墓の遺品に見える馮氏関連の人名について論じたとおり、新羅経由で渡ってきたはずで、それ故に允恭死後に新羅が弔辞を送る記載があるのだと感じます。
>

>

おそらく応神・仁徳陵関連の距離は 11.1km だと思います。3 で割ると秦野さんの 3.71km に なる でしょう。

この尺は以前お話した三角縁盤龍鏡もしくは晋尺の直径で 24.5cm です。 1 歩が6 尺で 1.47m 1 里が 300 歩で 441m になります。1000 里で 441km それで4 で割った短里計算で 111km の 10 分の 1 となるでしょうか。

仮に秦野さんの 3.71km が正しいとすると、さらにそれを 3 で割った数値になります。
120 分の 1 となりますね。

超短里とされる秦野距離 53 KM(千里)と関係あるのでしょうか？

秦野距離は、以前お話したように、弥生後期時代の倭・半島尺度の 158km の 3 分の 1 で 、 104~5km の前漢尺関連の短里尺かと考えてます。

Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 21 日(木)21 時 41 分 24 秒 返信・引用
> No.1281[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古墳の配置は 3.71 km 間隔になる。時間がかかりましたな。
しかし、古墳距離は何を基準にしているか分からないな。

> 会報第 2 号でその王仁の父・馮弘と新羅王墓の遺品に見える馮氏関連の人名について論じたとおり、新羅経由で渡ってきたはずで、それ故に允恭死後に新羅が弔辞を送る記載があるのだと感じます。

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 21 日(木)05 時 31 分 52 秒 返信・引用

> No.1266[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。
相変わらず「ご不自由な頭」は治っていないようですね。

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >>「考古学を科学する会」の「弥生人と日本語の形成-日本語南方系縄文人語起源説-」のレジュメの中で、 >>「東北方言はクレオール日本語」とは、書かれていますが、西日本については、[4 西九州 ライン 倭人(弥生人)と「土蜘蛛」の居住境界線]の中で、長崎県の彼杵半島に朝廷にまつ ろわない「土蜘蛛」の例だけで、分析されてます。 >> 藤井さんのお住まいの地の、目と鼻の先と思われる、葛城古道に在る土蜘蛛塚や土蜘蛛 窟の存在が示す事より、 >> [一定の社会状況においては、外部から侵入してきて、先住民を駆逐した征服民に、先住民 の言語が「乗り移る」]>> との藤井さんの理論によれば、土蜘蛛の言葉が、葛城古道周辺にも残る事にも成ります。 >>「南河内方言のネイティブスピーカー」との藤井さんも、その先住民の言葉の影響を、ある 程度は、受け継いでいる、との事に成ってしまうのでは無いでしょうか。

私は日本語は稲作・金属器文明をもたらした渡来人の言語ではなく、先住民である南方系 縄文人の言語であり、渡来人の父親と縄文人の母親から生まれた「弥生人」が母親の方の言語を受け継いだのだと言っているのであり、南河内方言も「先住民言語の影響を受け継いで いる」のは当たり前です。

しかし、縄文人語を受け継いだ弥生人の言語には、朝鮮や中国から外来語がどんどん入り込 んで変化していったのに対し、西九州の「土蜘蛛」、南九州の「熊襲・隼人」は辺境に在ったが 故に弥生人との「暴力的同化」を 500~700 年間免れ、その間に弥生人達の話す日本語と土蜘蛛や熊襲・隼人の話す日本語の間には一見外国語と思われるぐらいの大きな方言差が生じていた、というだけです。

それは明治初期、琉球語と本土日本語には一見外国語と思われるぐらいの大きな方言差があったのと同じことです。

しかし、土蜘蛛語、熊襲・隼人語、琉球語はもともと日本語と同系言語であったために、中央 政府の支配下に入

れば、言語的な同化も早かったということです。

>藤井さんの理論に、このディアスポラ(強制分散移住)の考え方を取り入れますと、「政治 権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」のです。

「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」のは、明治維新後の北海道のように、政治権力者側の言語を話す人口が、先住民よりも圧倒的に多い場合だけです。

アテルイの降伏後、日高見国の住民数万人を主に西日本に強制連行し、官奴婢・私奴婢とし 分散移住させたのは、その何百倍・何千倍もの日本語話者の海の中に蝦夷語話者を放り込み、「日本語が話せなければ生活できない」という環境を作り上げるためです。

しかし、関越線以北の蝦夷の居住地域では、日本語を話す倭人よりも蝦夷語を話す原住民の 人口の方が多かったため、何倍もの日本語話者で蝦夷を飲み込んでしまうということができ ず、故に日本語でもなく蝦夷語でもない第三の言語「クレオール日本語」が発生した…それが東北方言です。

私とマトモに話をしたいなら、少しは「社会科学」というものを勉強してからにしてください。

Re:仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 21 日(木)03 時 54 分 13 秒 返信・引用 編集済

> No.1280[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> たしかに、秦野の家のポストに入っていました。

さっそくご確認ありがとうございました。

また秦野さんの次作も楽しみにしています！

こう論議を重ねて行くと原稿も溜まって行くものですね。

秦野さんもぜひ過去ログから次作の原稿に活用くださいね。

>

- > 仁徳天皇陵は崇神天皇陵と思われる。古墳時代の権力者は崇神天皇しかいない。 >
- > その他は垂仁、景行天皇、成務天皇が該当する。 >
- > 方墳のがけ崩れから発見されたものは上の絵に示すように、石棺、鎧、兜、ガラスの器など であった。鎧兜は倭国の4~5世紀の物とは思えない金属製(鉄か青銅製か定かではない)で、鎧も兜も鋳で繋いで成型されている。鎧はチョウツウガイで開閉して着用できるように 工夫されていた。鎧も兜も下の絵が示すように、古代中近東の兵士が着ていた形そのものである。 >
- > 欠史八代と卑弥呼 >
- > 魏志倭人伝の女王国は女国の様だ。女王は卑弥呼と読み取れる。 >
- > 鎧、兜は女国の物で日本国製。ガラスの器は卑弥呼がもたらしたローマガラス。 >
- > 続けると、卑弥呼は開花天皇の孫で、開花天皇はフン族、匈奴になる。 >
- > 意外でしょな。欠史八代は総て卑弥呼の家系でフン族、匈奴になり、日本国内に古墳はない。 神武天皇も同様。 >> 仁徳、応神天皇も同様と思われる。

応神陵の倍塚から、やはり北燕製の鞍が出ているようです。

龍文透彫鞍 [編集] 近年朝陽市北票県で発掘された喇嘛洞 IIM101 号墓から出土した龍文透彫鞍は大坂府羽曳野

市誉田丸山古墳(応神陵陪塚)出土の 2 号鞍と細部に至るまでほとんどまったく同一で、丸 山 2 号鞍は北燕の製品である可能性が高いことが判明した(リンク「さわらび通信」参照)。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/朝陽市珠金塚\(しゅきんづか\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/朝陽市珠金塚(しゅきんづか)) 方墳で、盾塚の西側にある。墳頂には、組合せ木棺を納めた二つの粘土槨があった。一方の棺 には、銅鏡、玉類、短甲、衝角付冑、鉄製刀剣、竹櫛、盾などがあり、もう一方の棺にも銅鏡、玉類、 短甲、

鉄製刀剣などがあつた。甲冑はいずれも鋳留式(びょうどめしき)。玉類の中に金製丸玉のものがあつた。鋳留めという新しい技術、金製品もそれ以前には稀なものである。古市丸山古墳(ふるいちまるやまこふん)

円墳で、直径 45 メートルあり、円墳としては大規模。拝所の直ぐ近くにある。金銅製の鞍金具などの馬具(国宝、誉田八幡宮所蔵)が出土した。木製の鞍に金銅製の金具が綴じ付けてある。古墳出土の鞍の中でも最優秀品。横に連なった竜文の透かし彫りがある。伽耶(かや)高霊の古墳出土の文様に酷似しており、乗馬の道具が朝鮮半島からの舶載品を含んでいる。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/誉田御廟山古墳>

ここで気になるのが、前者の鞍が北燕と同一という点です。後者のは大伽耶を経由しているように見えます。

近江の新開古墳のものなどは、朝鮮で1形式を置いた後の改良品とされていて、渡来年代も継体朝ごろと考えられます。

ところが、ダイレクトにきた系統があるとなると、気になるのが年代です。

北燕の年代が407年~36年で、その遺民が半島に流れ込むのが、36年以降ですから、ダイレクトに南下した系統があるとなると、436年以降になるでしょう。

先の方角ライン面では、造山・応神・仁徳のラインは、それほど時間差がないと見てます。その先のナガレ山も同時代で、その先の崇神はだいぶ前の時代でしょう。

そうすると、少なくとも440~50年代に、倭に北燕王族の一部が流入したとして、443年前後に倭王・済がたちますが、この済はそれ以前の讃・珍と血縁関係が表記されず、允恭と考えます。宿禰の称号をもち、元は家臣でしょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/允恭天皇>

それで、元嘉暦がここで導入されるのも、中国系の影響だと思うのですが、皇后が意富富杼王

の同母妹の忍坂大中姫で、この王朝から後の継体朝の血縁面での前提ができあがります。「オオ・オシ」の系譜です。新漢人、つまり北燕遺民と関わります。神功伝承にも関わるかもしれません。その北燕遺民の王族が、会報第2号で石川氏の北燕遺民説に関連して紹介した北燕王・馮弘の皇子が「王仁」というのですが、この「王」氏との兼ね合いも考慮すべきかと感じます。「ワウ・オウ」。近江系の和邇氏は少しつながりを感じますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/忍坂大中姫>

会報第2号でその王仁の父・馮弘と新羅王墓の遺品に見える馮氏関連の人名について論じたとおり、新羅経由で渡ってきたはずで、それ故に允恭死後に新羅が弔辞を送る記載があるのだと感じます。仁徳天皇陵は崇神天皇陵 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月21日(木)00時27分2秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。 たしかに、秦野の家のポストに入っていました。 国会図書館ですか、近い将来、大事になりますから賢明ですな。 仁徳天皇陵は崇神天皇陵と思われる。古墳時代の権力者は崇神天皇しかいない。 その他は垂仁、景行天皇、成務天皇が該当する。

方墳のがけ崩れから発見されたものは上の絵に示すように、石棺、鎧、兜、ガラスの器などで あつた。鎧兜は倭国の4~5世紀の物とは思えない金属製(鉄か青銅製か定かではない)で、 鎧も兜も鋳で繋いで成型されている。鎧はチョウツウガイで開閉して着用できるように工夫されていた。鎧も兜も下の絵が示すように、古代中近東の兵士が着ていた形そのものである。

欠史八代と卑弥呼

魏志倭人伝の女王国は女国の様だ。女王は卑弥呼と読み取れる。

鎧、兜は女国の物で日本国製。ガラスの器は卑弥呼がもたらしたローマガラス。

続けると、卑弥呼は開花天皇の孫で、開花天皇はフン族、匈奴になる。

意外でしょな。欠史八代は総て卑弥呼の家系でフン族、匈奴になり、日本国内に古墳はない。 神武天皇も同様。

仁徳、応神天皇も同様と思われる。

> 棘の紀氏さんへのお返事です。 >>>「渡来人研究(第4号Iプレ版)」拝読(流し読み デスガ)…スバラシイ

論文! >>

- ・ > ありがとうございます。たぶん秦野さんの家のポストにも入っているはずです。 >
- ・ > 他の方にもお贈りしたいのですが、今回は少数印刷だったので、とりあえず今回の会報も 含めて、すべての会報は国会図書館のほうに入れてありますので、お手数ですがそちらでご 覧下さい。

Re:ブラボー 管理人さん 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 20 日(水)22 時 14 分 38

秒 返信・引用 編集済

> No.1277[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

>「渡来人研究 (第 4 号 I プレ版)」拝読(流し読み デスガ)…スバラシイ 論 文!

ありがとうございます。たぶん秦野さんの家のポストにも入っているはずです。

他の方にもお贈りしたいのですが、今回は少数印刷だったので、とりあえず今回の会報も含 めて、すべての会報は国会図書館のほうに入れてありますので、お手数ですがそちらでご覧 下さい。

Re:チャン族のトーテムは「羊」 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 20 日(水)21 時 58 分

35 秒 返信・引用 編集済 棘の紀氏さんへのお返事です。

向氏は高向氏は魏の曹操の末裔を称する渡来人の子孫。の曹操の末裔を称する渡来人の子 孫。 >> 段(だん) ちょっと、先の丁令が後趙に入る件を調べていたのですが、やはり以前お話した徒民の影響 が強いようです。徒民の表を添付します。(引用元:三崎 良章『五胡十六国—中国史上の民族大移動』東方書 店 (2002))

それで後趙時代に、200 万人以上の羌・羯・巴族が、司州つまり洛陽周辺に強制移住させ られています。

羌・羯は先のとおり西方遊牧民でサカ・月氏系を多く含んだ集団です。 巴族は、雲南方面のようですね。
<http://www.baike.com/wiki/巴族>

また後趙時代に関中から関東へ 365 万人が移住させられてます。前趙時代に長安周辺に移 住させられた 20 万人の氏・羌といった遊牧民も、洛陽方面へ移動したでしょう。この手の 都市周辺に移住する遊牧民には技術者や軍人が多かったはずで

あと、氏族が前秦時代に、やはり 75 万人関東つまり洛陽の関より東に移住させられていま す。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/函谷関>

丁令が移動するのは、次の前燕の時代になりますが、前秦の時代にも徒民記載があります。 371 年 1 月、前秦の苻堅は関東の豪傑及び雑夷 15 万戸を関中に、烏桓族を馮翊郡、北地郡に、 丁零族の翟斌を新安郡、澠池郡に移住させた。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/テキ魏>

こうみると、やはり 4 世紀代は西域遊牧民が中国東部から半島方面に影響した可能性を感じ ますね。その影響がおそらく日本にも流れてくるはずで

日本古代史の世界で西域遊牧民の話をする、空想家とみなされそうですが、やはりこの辺 の中国の民族移動の実態を理解しておかないと、理解できないことも多く出てくるだろうと 思います。そこを無理矢理朝鮮と日本だけでこじつけようとすると無理が生じてくるはずで す。

あと、先の本によると、この 4 世紀代の間に、数度に渡って北朝から東晋方面へ数百万単位で、 一般民衆の移住が起きているようですね。当然一部が半島へ流れていきます。4 世紀初頭に 90 万人、351 年の後趙滅亡時、あるいは 383 年の前秦衰退時に多く流民があったよう です。

当然東晋の文化や言語にも影響していったでしょうし、一部は遼東半島へと向かい百濟文化 にも影響が生じたでしょう。また DNA 面でも変化が生じてくるはずで

それで、仁徳朝から武烈朝まで、長谷部、鷦鷯、といった武人、鳥トーテムが見える点が気にな っています。允恭時代にクーデターを予想しているのですが、先の丁令系の翟魏の翟が、雉の 意味らしいんです。

仁徳陵出土との伝承があるローマンガラスが出てますが、その後の新漢人の流入と新沢千塚 のガラス関連の出土とは別に、それより早く渡来した系統があった可能性も考え始めています。丁令は、洛陽東方と、代を挟んでステップロード方面にまたがっており、何らかの同族間 交渉を保ち続けていたかもしれません。

Re:チャン族のトーテムは「羊」投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 20 日(水)21 時 04 分 20 秒 返信・引用
> No.1275[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

>通説では「段」姓だとしているのですが、文字は「段」「政とするケースもあります。段姓は高

向玄理の祖先です。 高向 玄理(たか むこ の くろまろ、生年不詳 - 白雉 5 年(654 年))は飛鳥時代の学者。高向 古足の子。姓 は漢人のち史。冠位は大錦上。高向氏は魏の曹操の末裔を称する渡来人の子孫。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E5%90%91%E7%8E%84%E7%90%86>

高向氏は高向氏は魏の曹操の末裔を称する渡来人の子孫。の曹操の末裔を称する渡来人の 子孫。

段(だん) 1.高低の差があるところ。階段など。 2.区切り、段落。 3.時や、場合。 4.武術などで、技量によって決められる等級。段級位制を参照。 5.近世邦楽、特に三曲の音楽である地歌、箏曲、胡弓楽において(特に段物や手事物)、器楽部分 の楽章的区切りをいう。 6.文楽、歌舞伎、及びその伴奏音楽である義太夫節などの浄瑠璃において、一幕を指す。 7.尺貫法における面積の単位。反とも表記する。1 段・反 - 10 畝 - 991.7355 m² 8.将棋盤の横の列のこと。上から 1 段(目)、2 段(目)...と数える。縦の列は筋と呼ぶ。 9.カメラにおいて変化させる露出の量。露出 (写真)を参照せよ。

「魏志倭人伝」倭国三十国。北イスラエル十部族の移住。ガド、ダン、マナセ、ゼブルン。倭国の 大乱。卑弥呼の女王国。狗奴国=ガド部族の叛乱。族長刺青の男。参考サイト『古代日本とヘブ ライー掃政策』へ
<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~nshzwtc/framepage50.htm> 西澤:取り敢えず、発音の表記が確かなものでない以上、大雑把な仮定ですが、最初の「奴国」 は、ダンに充てたものと思われます。 次の「華奴蘇奴」は、カドス・ダンに充てたもの、ダン部族。(後の解説に拠れば、華奴蘇奴は 「焼畑」の意味に充てたものと判りました。)

「烏奴」の烏は、漢音ヲですから、「倭奴」と同じか、それに近い音と思われるのでユダに充て た表記かも知れません。(上付記同様に、烏奴は「警邏」の意味。) 当時の言語は、今日の日本語のように、アイウエオの従母音がはっきりしたものではなかつ たので、現在はユダと、発音していても、当時は、ヲドとも、ウェドとも、ウイド、或いはイウド とも受け取れるような音だったかも知れません。最後の「狗奴」は、十中八九、ガドに充てたものです。ガド族は、島のユダ王国に敵対した部族 として、隠蔽ヘブライ文にもあります。(狗奴は、「ガド」と「攻撃」の両方の意味が込められたもの。) C:「魏志倭人伝」によると、「狗奴国」とは、卑弥呼の女王国に属さなかった国なんですね。 西澤:島のガド部族が、ユダ王国に敵対したのは、倭国の大乱といわれているその頃のこと

です。当時、刺青をした男が族長(那古)でした。 紀元前のカナンの地にあった時にも、ガド族は、十二部族中、最も戦闘的な部族だったと言 われています。

「魏志倭人伝」の「狗奴国」は、九州にあったと思われますが、ガド族は上野の浅草周辺にも住 み着いていたようです。 浅草神社の紋章は、山型に配置された三立網の紋章です。その配置は、ガド族の天幕の三立配 置の紋章と酷似しているので、恐らく、ヘブライー掃政策によって、天幕が網に変えられたものと考えられます。

C:今のお話にある、ガドや、ダン、マナセ、ゼブルンといった部族は、みな古代北イスラエル に属していた部族ですよね。ということは、北イスラエル十部族も移住して来たということ ですね。

ダン族というのはシンボルが蛇であり、聖書でも「…私はあなたの救いを待ち望む」と書 かれている。 基本的にはダン族は邪悪で忌み嫌われる存在。 日本がドイツと同盟したのは、「ドイツ=イラン=日本」というライン、つまり秦氏のラインである。 <http://oujyujyu.blog114.fc2.com/blog-entry-43.html> 日本がドイツと同盟したのは、「ドイツ=イラン=日本」というライン、つまり秦氏のライン である。

現在はイランと北朝鮮が繋がっているが、これもダン族=秦氏のラインである。 かつて広島には秦王国があり、太平洋戦争を起こしたのも広島=秦氏。 だから広島に原爆が落とされる。 現在の広島は北朝鮮に支配されているが、秦氏=ダン族のネットワークで支配されている

メルカバ ダン族 七 文字のメタトロン(ミットロン)の秘儀(メルカバの秘儀)を形成した。⇒ダン「ユダヤ 神

秘 ...http://homepage2.nifty.com/Mithra/Mithraism_Metatron.html ダン「ユダヤ神秘」ダン「ユダヤ神秘主義-歴史的概観」p130-131; ショーレム『ユダヤ神秘主義』p90-94 このユダヤ秘教派と密接に連動するように、パレスチナからシリア・クルディスタン・イラクにかけてのグノーシス運動の中で、ミトラ=メタトロン=ミカエルを秘...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2850> このユダヤ秘教派と密接に連動するように、パレスチナからシリア・クルディスタン・イラクにかけてのグノーシス運動の中で、ミトラ=メタトロン=ミカエルを秘儀伝授者とする偽典黙示録がつくられた⇒上記「ミトラ、メタトロン、ミカエル、エノクをつなぐ資料」。

http://homepage2.nifty.com/Mithra/Mithraism_Metatron.html

> 段楊爾 だん-ように >>?-? 百済(くだら)(朝鮮)の五経博士。 > 継体天皇 7年(513)百済から来日。任那(みまな)に派遣されていた穂積押山(ほづみの-おし やま)が帰国するときに同行したという。10年漢高安茂(あやの-こうあんも)と交代。百済から日本に交代で赴任した最初の五経博士とされる。 >>> ただ、この段氏は本国に帰国した可能性があるので、高向村主と関係あるかどうか微妙です。 >> 郡首の郡(コオリ)が、半島系とみると、漢高安茂は、その「漢」がつまり「穢」のことで、当時百済に流入していた大漢国の穢人、つまり北燕遺民等と見るべきかと感じます。 >> そうすると段姓も、その関連になりそうですが「漢」がついてないので、もしかすると違う系統かもしれません。 >> これらの七姓漢人は東漢氏の中に入りますが、東漢氏の系譜というのが、興味深く、その祖先の石秋王というのが、山東半島にいた山陽公の劉秋、つまり後漢献帝の子孫で献帝時代から山陽公です。 >> 劉秋の時代の309年に滅ぼされて、おそらく一時離散するのですが、東晋時代になってその劉秋の子孫を捜索しています。 >> 東晋になる際に、南燕が滅んで山東半島が東晋の支配下に戻ったことがその要因になっているのですが、この前後でおそらく東漢氏の祖先の製鉄集団が、東晋の配下に入り、さらに百済、そして倭へと向かったことでしょう。 チャン族のトーテムは「羊」投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年2月18日(月)23時50分14秒 返信・引用

蝦夷 夷エミシ エビス 羌…、“上下に假(いた)る。” 蝦

えび#1 音読みカ ゲ

段 (か)。方言、八に北燕・朝鮮の語であるという。 字源 不詳(説文解字等。「又(=手)」は動作を表す意符であり、この他は「二」印のものを覆い隠す様を表す会意文字(藤堂)、山から切り出した磨く前の玉の原石(白川)などの説あり。

「覆った」「本物でない」「余分な」「余計な」「一時的な」「(本物より)大きい」の意がある。「借りる・貸す」の意は「一時的にやり取りすることからか。」 [編集] 派生字 「覆った」「本物でない」「余分な」「余計な」「一時的な」「(本物より)大きい」 假(=仮):顔を覆って(=仮面)本物でない人

? : 牡おすの豕いのこなり、豕に従ひ、段を聲とす。 <http://jigen.net/kanji/35949>

假 仮(カ、ケ、かり) - 命名字解=めいめい-じかい - FC2<http://mei2jikai.blog113.fc2.com/blog-entry-88.html> 従人段声。一曰至也。『虞書』曰:“假于上下。”=真(まこと)に非(あら)ずなり。“人”と“段(カ)”から成り立ち、“段(カ)”を音とする。... さて、假という漢字を構成する“段(カ)”の成り立ちと字義だが、辞典に記される解釈は大別すると二つに別れる。 、“段(カ)”を音とする。一つ[の説として]曰く、至るなり。『虞書(グシヨ)』に曰く、“上 下に假(いた)る。”と記す。 “段(カ)”の成り立ちと字義だが、辞典に記される解釈は大別すると二つに別れる。 その一つは、岩から切り出した瑕玉(カギョク:きずのある玉石、赤い玉)・璞玉(ハクギョク:あらたま、掘り出したばかりの玉石)で表すとする解釈である。成形前の未完成の玉石ということから、仮の状態を意味するとしている。 二つ目は、上から布や皮を垂らして中の物を被(おお)うさまを表すとする解釈である。

瑕玉(カギョク:きずのある玉石、赤い玉) 赤玉。舜は、褒美として禹へ玄圭(赤黒い玉)を与えました。

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2455>

蝦(カ、えび)は甲殻で中身を被った状態。

瑕(カ、きず)は、玉石本来の輝きを損なっている状態。

[1]かり(仮)。内容が明らかでなかったり定まっていないうこと。仮面。仮説。

[2]真実とは違ったもので表面やうわべを取り繕う偽りの状態。仮の姿。

[3]かりる。一時的に借用する。仮に使う。 [4]かす。一時的に貸す。仮に与える。 [5]仮に。一時的に。 [6]いたる。『虞書(グシヨ)』に曰く、“上下に假(いた)る。”が典拠になった。

羊頭の人象形 羌とは (キョウとは)<http://dic.nicovideo.jp/a/%E7%BE%8C> 意味西方の異民族である羌族のことをいう。また楚の方言で感動詞として使われる。また、す なわち、という意味がある。〔説文解字・巻四〕に「西戎、牧羊人なり」とある。字形諸説ある。

〔説文〕は羊+人の会意で牧羊民族の意としている。ほかに羊頭の人象形で羌族を表すとす る説などがある。羌族は山岳信仰で羊頭の神を祀ったと言われている。〔説文〕は「南方の蠻閩、 虫に従ひ、北方の狄は犬に従ふ。東方の貉、豸に従ひ、西方の羌、羊に従ふ」と、異民族の名に は獣を表す字を含むとしている。殷の近くにいた民族であり、ト辞には羌族を征伐する、羌族 を捕らえる、羌族を生贄に捧げるという文がよく見られる。音訓音読みは、キョウ(漢音)、 訓読みは、ああ、えびす。

羌は、〔字彙補〕に羌の俗字とある。日本語では、キョンという意味がある。〔字彙補〕には姜の 異体字とある。

求は獣の象 形 救とは (キュウとは) [単語記事] - ニコニコ大百科 また絢と通用して履の頭の飾りという 意味がある。〔説文解字・巻三〕には「止むるなり」と ある。〔爾雅・釈器〕に「絢を之れ救と謂ふ」とある。字形: 求+ 支の会意。求は獣の象 形で、支 は叩くという意味。白川静は、求は呪霊をもった獣で、これを叩くことで呪 詛から ...

羌人、秦人、徐福と吉野ヶ里_人民中国 説文解字』の解釈では、「羌は、西戎の牧羊人で、人と羊からなる」とあり、羌の字は人と 羊の 組み合わせと説く。チャン族は、長く移動する間に、2 大系統に分かれた。1 系統は 東 へ向か い、東部の先住民と融合し、漢民族文化を開く先駆けとなっ

...http://www.peoplechina.com.cn/wenhua/2009-11/09/content_228967.htm 羌(チャン)人は、まさに羌笛を吹く人の先祖である。もちろん、2008 年、大地震に襲われた ア壩チベット族チン族自治州のチャン人の先祖でもある。 チャン族は、歴史の極めて長い山地民族であり、紛れもなく華夏族すなわち中華民族の重要 な源のひとつであろう。『説文解字』の解釈では、「羌は、西戎の牧羊人で、人と羊からなる」と あり、羌の字は人と羊の 組み合わせと説く。 チャン族は、長く移動する間に、2 大系統に分かれた。1 系統は東へ向かい、東部の先住民と融

合し、漢民族文化を開く先駆けとなった。『帝王世紀』には「伏羲は成紀に生まれる」とある。 「伏羲」は三皇(中国最古の三人の皇帝。ほかの 2 人は神農と黄帝)の 1 人目で、「成紀」は今

日の甘肅省南部天水地区、古くは「方羌の地」とされる。

「羌」と「姜」が同じ文字であるかを説明している。ここから今日我々がいう炎黄子孫は、実は チャン人の末裔であると分かる。

『史記・六国年表』には「禹は西羌に興る」とあり、また『孟子・離婁下』には「文王は岐周に生 まれ、畢郢で没す、西夷の人である」とある。西夷は間違いなく西羌のことである。そこで歴史 学者の翦伯賛氏は「炎帝の姓は姜.....西戎チャン族の一系統で、西から遊牧して先に中部に 入る」という。彼は秦人の源を論証して、秦は東遷したチャン人と中原の人の末裔であると説 く。「秦の祖先は戎である」という言い方もここから来ている。 イ族・ダイ族・ハニ族などもチャン族の末裔

チャン族のもう 1 系統は、西南へ移動した。今日の中国西南部のイ族(彝族)、ダイ族(? 族)、ペー族(白族)、ハニ族(哈尼族)などは、歴史の記載と風習からみて、チャン族の末 裔であろう。 イ族は「羅羅」と自称するが、『山海経・海外北経』に「羅羅」の記載がある。『漢書・地理志・ 張掖郡・番和』ではチャン人を「羅虜」と呼び、『大明一統志』では四川省のイ族を「羅蛮」、雲南 省西部のイ族を「羅羅」と呼ぶ。『華陽国志』も『後出師表』も雲南省、四川省、貴州省のイ族を

「青羌」と呼ぶ。『蛮書』ではイ族の先祖は「羌虜」とであるとさらにはっきりと指摘している。典 籍を調べれば、「羌戎」と「羅羅」は実際には同一であることが分かる。

中国の倭人は古代チャン人と中国西南地域の先住民との末裔であると思っている。チャン人の優秀な文化を受け継ぎ、発展させた。日本民族の源流が雲南であるかどうかは、わたしは研究したことがないので、勝手な結論を下せない。ただ、チャン文化は東方の民族に無視できない貢献をしたのは確かだと思う。文化の共通性は、各民族がたえず文化を融合させることによって、歴史を動かし文明社会に向かって発展してきたのである。この点から見れば、中華文化だけではなく、日本文化にもチャン人の知恵が浸透していったと考えている。徐福と吉野ヶ里とチャン文化

甲骨文字では、「羊」と「𦍋」は同義語で、チャン族は「羊族」とも言われ、そのトーテムの中にも羊がある。
<http://j.people.com.cn/94475/8073944.html> 中国の学者「中国人は『羊の子孫』と主張 黄教授によると、中華民族の祖先とされている四川省一体に住む少数民族羌(チャン)族に関する記載は、古く殷代(紀元前 17 世紀頃-紀元前 1046 年)の甲骨文字の中に見られる。甲骨文字では、「羊」と「𦍋」は同義語で、チャン族は「羊族」とも言われ、そのトーテムの中にも羊がある。

さらに、古代中国の「羊」と関係する文献・資料を見てみると、「羊」という文字には豊富で

非常に深い文化的意味が付与されていることが分かる。例えば、「美学」の「美」、「吉祥」の「祥」、「榜様(模範の意)」の「様」、「善良」の「善」、「義」などすべてに「羊」という字が含まれている。

「義、善、美、吉祥、模範」などの象徴として、文字文化に烙印を押しているのだ。黄教授は、「これらの文字は、中国人の哲学において、非常に奥深い意義がある」とし、「義」の中の「羊」は崇高であることを、「善」の中の「羊」は「道?」を、「美」の中の「羊」は「美」を、「様」の中の「羊」は「模範」を、「祥」の中の「羊」は「吉祥」を象徴していると指摘する。

黄教授はさらに、「様」という文字に対して独自の解釈を持ち、「中国人は積極的に唱道している『榜様』の『様』の木へんは自然界の『十字架』と見ることができる。『十字架の上の子羊』の象徴と見なされたイエスキリストがクリスチャンから『神の子』として敬慕されているのと同じで、我々が見習うべき模範なのだ」と説明。「東洋と西洋の文化にも共通点があるのは、とても興味深い」と語っている。

<http://j.people.com.cn/94475/8073945.html>

様 倂 さまよう <http://blog.goo.ne.jp/kanji-circle/e/cd59bb18fcb2c9d6c99478ea24a2bf94> 氏”は「いたる・行きつく」の意味。…氏族 鉄製造技術の伝道と共に渡来した羌族・氏族(現在のチャン族) - いにしえ

...http://blogs.yahoo.co.jp/hs_anriver/10215929.html 戦国時代を統一した秦の始皇帝は、羌族や氏族を優遇していたが、漢の時代になって、弾圧を受けるようになり、その一部は山東半島に移住し、朝鮮半島から鉄製造技術をもって、日本に 渡来したと考えられる。

Ads by Google Re:蝦夷塚 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 18 日(月)23 時 11 分 46 秒 返信・引用

> No.1271[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

更に言うと、会報第3号でかきましたが「多胡」は北方の「大胡」と方位ライン、つまり区画的 に結ばれておりもとは「オオコ」という集団名称だったと考えてます。

どうも大胡方面は、ユダヤ?っぽい遺物が多く出るという噂も多いですね。何がユダヤっぽいかわからないのですが、ゾグド人が多かったキリスト教と関係するのではないかと感じ ます。そばにいろいろ宗教的遺跡があります。

ただ、なぜゾグド人が「胡」だけではなく「大・多」をつけるのかが、課題なのですが、新漢人系、さらには継体系譜などでもそれらの文字を呼称としてつける傾向が強くみえてきます。「オ ホ」「オヲ」をなぜその集団は重視するのか?この辺が大きな言語面での課題といえるでしょう。

なおペルシアのことを多治や大食といいます。福島の横穴墓から、その大食調の法器が出て いるのですが、横穴墓が吉士や新漢人と関わります。多治比氏やさらには坂東平氏とも関わ っています。

Re:蝦夷塚 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 18 日(月)22 時 06 分 1 秒 返信・引用 編集済

> No.1270[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

そう、この「~へのお返事です」なんですが、キシさんとか、他の人へのお返事も面倒な場合併 せていたりするの

で、あまりきにしないようにしてください。便宜上のものです。

- > 蝦夷塚には意味があるが… >
- > 日本は東北になり、進めたのは平氏だろうな。当時の地図を添付。 >
- > まあ、新羅と平氏は良く似た物で新羅建国まで遡れば理解できまっせ。 >
- > どこかの偉い人は、百済から文化が来たなどいっているが、属国なんすな。本末転倒。
- > 咸亨元年三月。遣使賀平高麗。爾後繼來朝貢。則天時。自言其國近日所出。故號日本國。蓋 惡其名不雅而改之。 >> 咸亨元年(670年)三月。遣使が高句麗平定を祝賀。以後は続いて朝貢に来る。則天武后 の時、自ら言うには、その国は日の出所に近い。故に日本国と号する。思うに、その名が雅 でないことを憎み、これを改名したのであろう。
- >

それで、ちょっと今年は日本に移住した高句麗・新羅人の件について考えを進めたいと思います。

美濃の新羅郡、新座や、高倉郡、高麗郡、多胡郡いろいろあります。それで多胡郡のやや東方を拠点にした羊大夫伝承の件があります。

中臣羽鳥連の子孫で藤原姓を名乗ってますね。討伐された羊大夫を藤原不比等する説もあります。

<http://www2.ocn.ne.jp/~jamesmac/body270.html>

この辺は会報第2号で詳しく論じたのですが、群馬の八角墳の方位ラインに関わってくるんです。八角墳というのは、皇族と中臣鎌足の墓しかないんですね。

もとは高句麗墳墓の八角形構造で、さらに遡ると石窟寺院の八角天井、そしてキリスト教の八角天井へと連なっていく流れなのですが、その群馬に羊大夫の墓という伝承がありまして、そこから遣唐使のものと思われる十字架が出たという話を、江戸時代の平戸藩主松浦静山が2箇所も書いてます。

それで、当時彼らはその十字架を遣唐使人か秦氏が持ってきたものと推理しているのですが、江戸時代からすでに秦氏がキリスト教徒だと思われていた節があって、広隆寺に黒い十字架があったというマリオレガ文庫に保存された戦国時代の宣教師の記録もあるんですね。

そういうわけで、羊大夫伝承とか、そばにいた羽の生えた空飛ぶ従者がペガサスだといわれるのも、それなりにつながるところがあるのではないかと考えてます。

ただ、高麗郡の若光が、羊大夫を讒言したという伝承記載があって、この辺はちょっと不可解なのですが、多胡郡と高麗郡が別に設置された理由は、高麗人と多胡(オオコ)人に少し相

違があった可能性を感じます。ゾグド人を胡人と中国では呼びましたから、その辺も関係するのかなとも感じのですが、一方その辺に平氏も関わってくることは、先日お話したとおりです。源氏は新羅に関わる。

高麗郡、多胡郡は、もともと元明・元正時代からすでに関わりがあって、それ以前の不比等時代にも関わりが深いので、多胡碑に不比等が出てきたりするのですが、それが一方で多治比氏と関わりながら、桓武・嵯峨時代まで影響していくのですね。

今年はこの辺の流れの中で、先の関東・東北の古墳や遺跡の関係をまじえて、源平や関東の歴史を追っていきたいと思います。 蝦夷塚 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月18日(月)18時47分20秒 返信・引用 編集済

蝦夷塚には意味があるが… 白村江の戦い以後、倭国(瑞穂の国)と日本を統合し名前を日本にしている。

原因は唐に倭国(瑞穂の国)を倭国に改名させられた。もともと、倭国は倭国(瑞穂の国)の属国の名を押し付けられた。プライドに傷が付いた。

用明天皇は「会稽東冶の恥…」の言葉を残している。日本は東北になり、進めたのは平氏だろうな。当時の地図を添付。 まあ、新羅と平氏は良く似た物で新羅建国まで遡れば理解できまっせ。 どこかの偉い人は、百済から文化が来たなどいっているが、属国なんすな。本末転倒。

『唐会要』倭国・日本国伝

永徽五年十二月。遣使獻琥珀瑠璃。琥珀大如斗。瑠璃大如五升器。高宗降書慰撫之。仍云。王國與新羅接近。新羅素為高麗百濟所侵。若有危急。王宜遣兵救之。倭國東海嶼中野人。有耶古。波耶。多尼三國。皆附庸於倭。北限大海。西北接百濟。正北抵新羅。南與越州相接。頗有絲綿。出瑠璃。有黃白二色。其琥珀好者。云海中湧出。

永徽五年(654年)十二月。遣使が琥珀(こはく)と瑠璃(めのう)を献上した。琥珀の大きさは一斗升の如し。瑠璃の大きさは五升器の如し。高宗は降書を以てこれを慰撫した。なお言うには、倭王の国は新羅と近接している。新羅は平素から高句麗や百濟を侵略し、もし危急が生じれば、倭王は宜しく派兵してこれを救う。倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。いずれも倭に従属している。北は大海が限界、西北は百濟と接し、正北は新羅と抵触、南は越州に相接する。絹糸と綿がよく採れる。瑠璃を産出し、黄白の二色がある。その琥珀は逸品である。雲海の中で湧き出る。咸亨元年三月。遣使賀平高麗。爾後繼來朝貢。則天時。自言其國近日所出。故號日本國。蓋惡其名不雅而改之。

咸亨元年(670年)三月。遣使が高句麗平定を祝賀。以後は続いて朝貢に来る。則天武後の時、自ら言うには、その国は日の出る所に近い。故に日本国と号する。思うに、その名が雅でないことを憎み、これを改名したのであろう。

Re: 配石遺構…縄文時代の後期前半に作られる 蝦夷塚? 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年 2月 18日 (月)16時 47分 4秒 返信・引用

> No.1268[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 > 元は新羅用の出迎え騎兵として660人を集めたようにも見えますが、当時日本からみて、新羅をどうみていたのか?、この辺も課題です。獣の国に揶揄していたとか…。ところがその後天皇の騎兵になってしまったという結末がまた面白いのですが、いろいろ創造を膨らますとストーリーもできてくるものです。

羊神 渡来した新羅の神が母子神とすれば、豊比【口羊】(あるいは息長比)

...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2537> 比【口羊】神とは比売神(ひめのかみ)は、神道の神である。

<http://m.weblio.jp/c/%E6%AF%94%E5%92%A9%E7%A5%9E> 大日靈貴尊(アマテラス)を比売神としている神社もある。

卵から生まれた新羅(シルラ)の始祖。「口」の右に「羊」神社の方が元は「姫」の意味だったのかは知りませんが。

<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/2703399.html>

天国津彦神社・天国津比【口羊】神社。祭神は、伊邪那岐尊・伊邪那美尊。創祀年代は不詳。... 往古、天国津彦神社は一之鳥居の西南に、天国津比神社は一之鳥居の西北に鎮座していたが、... 中央にあるのは、天八百萬比神社。祭神は伊邪那美尊。... www.genbu.net/data/etizen/oosio_body.htm - キャッシュ

菊理媛【白山比【口羊】神社】

<http://miko.org/~uraki/kuon/furu/explain/column/miko/his/his00.htm>

理媛神(くくりひめのかみ)は、日本の神。加賀の白山や全国の白山神社に祀られる白山比【口羊】神(しらやまひめのかみ)と同一神とされる。

祭神--豊比【口羊】命 ... ただ、渡来した新羅の神が母子神とすれば、豊比【口羊】(あるいは息長比)とともに母子神として祀られたととれる。 <http://www3.ocn.ne.jp/~tohara/hachiman-kawara.html> 豊比【口羊】

現香春神社の案内には、「第三座豊比命は、神武天皇の外祖母、住吉大神の御母にして、第三の峰に鎮座」とあるという。神武の外祖母とは父・ウガヤフキアヘズを生んだ海神の娘・豊玉姫を指すの だろうが、単なる名前の類似からくる付会であって、トヨタマヒメとトヨヒメを結ぶものはない。また住吉大神の母というのも、住吉三神は黄泉国から帰ったイザナギが筑紫のアワギ 浜で楔ぎしたとき生まれたとする出自(記紀神話)からみて、いかに神話伝承の世界とはいえない疑問がある。 豊比【口羊】とは、字面からみれば“豊国の比売神”を指意味する一般名称であり、それは豊 国の地主神”ともいえる。ただ古代の豊国には、渡来人特に新羅系秦氏が盤踞して

いたから、豊国の地主神を新羅系とみてもおかしくはない(豊国--福岡県東部から大分県一帯を指す古い国名)。

神の子羊(神の小羊、かみのこひつじ)は、イエス・キリストのことを指す表現のひとつ。

...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E3%81%AE%E5%AD%90%E7%BE%8A>.

「山羊のパーン」 パーン (ギリシア神話) - Wikipedia 恐らく、言語上の誤解はホメーロス風諸神賛歌のなかの『パーン賛歌』(第 19 編)から始まったのだろう。『賛歌』によれば、パーンはドリュオプスの娘、あるいはニュムペーとヘルメースの間に生まれたが、山羊の脚、頭に二本の角を生やすという奇妙な姿をしいてい

...[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%B3_\(%E3%82%AE%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%82%A2%E7%A5%9E%E8%A9%B1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%B3_(%E3%82%AE%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%82%A2%E7%A5%9E%E8%A9%B1)) パーンは羊飼いと羊の群れを監視する神で、サテュロスと同じく四足獣のような臀部と脚部、山羊のような角をもつ(→獣人)。何者がパーンの親かは諸説がある。父親はゼウスともヘルメースともいわれ、母親はニュムペーであるといわれている。実際には古形「パオン、Παων、Paon」(「牧夫」の意、現代英語の pasture と同じ接頭辞)から名付けられたものだが、ギリシア語の「パン」(「全ての」の意)としばしば誤って同一視された結果、パーン神は性格と名前が誘惑的なものと思われるようになった。

この神は原初に卵より生まれた両性の神で、原初神エロースの別名で、みずからの娘ニクス(夜)とのあいだに初原の神々、すなわち大地(ガイア)と天(ウーラノス)を生み出した存在である(Protogonus/Phanes)。また「全て」という意味からアレクサンドリアの神話学者、そしてストア派の哲学者たちによって「宇宙全ての神」としてと解釈されるようにもなった

卵から生まれた新羅(シルラ)の始祖. バジンチャン http://www.tv-aichi.co.jp/kandora/sondoku/beginner/glossary_1.html

新羅 - Wikipedia 卵を割ると中から幼児が出てきて育て上げたが、10歳を越える頃には人となりが優れていたことから六村の人たちは彼を王位につけた。卵が瓠(ひさご)ほどの大きさであったため、辰韓の語で瓠を表す「朴」を姓として名乗った。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E7%BE%85> 新羅の前身である辰韓は秦韓とも呼ばれ、中国の秦の人が建てた国だから、新羅は中国民族が建てた国だと主張している

羊,山羊を飼育する畜産民は,子羊が生まれると,一年以内に雄は種付け用を少し残し,後は殺して食べる。日本に渡来したイスラエル族 その 5 | 掲示板 <http://6707.teacup.com/gamenotatsujinn/bbs/1039> 半島南端からの渡来民の総称で、その実体は秦氏と秦人であった。秦氏はイスラエル支族の 1 支流であり、秦人(ハタビト)とは、その支配下にあった諸民族、すなわち西域民族・ツングース族さらに半島在住の倭人らを含む雑多な人的集団を指したものである。ついでに言えば、月海は「朝鮮との連合国家」というが、国家的状態にない半島からの渡来民と、九州原住民との混住状態を「連合国家」というのは過言で、これも俗語として解すべきである。

羊,山羊を飼育する畜産民は,子羊が生まれると,一年以内に雄は種付け用を少し残し,後は殺して食べる。ごくわずかの雄を去勢して群れの先導役にさせる。それを人間支配の技術に転

用するのが去勢の意味。シオン長老の議定書(プロトコール)第 18 議定書より。これこそ

がバーディシャー由来の人間家畜の管理術。『キリスト教は,シリア社会に属していた人々を先祖とする民俗からきたものである。シリア

世界の一半を形づくっていたイランは,ミトラ教を提供した。イシス崇拜は,エジプト世界の 征服された北半分から来たものである。アナトリアの大母神キュベレの崇拜は,多分,当時,宗教を除く他のすべての社会的活動の面において,死滅してからすでに久しい時を経ていた,ヒッタイト(Hittite)社会からもたらされたものとみなされる』

キュベレ'セラピスなどを崇拜する「オリエンタル的諸宗教」(フランツ・キュモン)は:ここでは一応、議論に含めない。古典期ギリシ.....ディオニュソスは雄牛や若山羊という呼称を持ち、伝承でもそうした姿になるとされている。ディオニュソス祭儀では牛や山羊 ...<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/bitstream/2261/26204/1/rel00610.pdf#search=%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%9A%E3%83%AC+%E5%B1%B1%E7%BE%8A>

このような角を生やした両性具有の半人半獣崇拜は、ギリシア神話の酒神・ディオニソス 崇拜、山羊の生殖能力を奉るという自然宗教に端を発するものと考えられます。これが当時は、ローマ・カソリック教会から悪魔崇拜であるという非難を受けるようになり、...<http://www.nifty.com/nahdia/arcana16.html> ウェイト版の「悪魔」は、頭部と四肢は明らかに毛むくじゃら、ケダモノのそれで、コウモリに似た翼、山羊を思わせる角、ロバのような耳からは「有角神バフォメット」「魔王レオナルド」を彷彿とする人もいるのでは。

比【口羊】<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2537> 比【口羊】神とは比売神(ひめのかみ)は、神道の神である。
<http://m.weblio.jp/c/%E6%AF%94%E5%92%A9%E7%A5%9E> 大日靈貴尊(アマテラス)を比売神としている神社もある。

「口」の右に「羊」 神社の方が元は「姫」の意味だったのかは知りませんが。
<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/2703399.html>

山羊神、あるいは、祭司が角のついた仮面をかぶって獣の扮装をして踊り、豊穣な獲物を願うような素朴なシャーマン信仰 ... 犠牲(生贄)のヤギ [編集] ヤギは古くから犠牲にささげる獣(生贄)として使われることが多い。古代のユダヤ教では

年に 1 度、2 匹の牡ヤギを選び、くじを引いて 1 匹を生贄とし、もう 1 匹を「アザゼルのヤギ」(贖罪山羊)と呼んで荒野に放った(旧約聖書 レビ記 16 章)。贖罪山羊は礼拝者の全ての 罪を背負われ、生きたまま捨てられる点で生け贄と異なる。特定の人間に問題の責任を負わせ犠牲とすることをスケープゴート(scapegoat 生け贄のヤギ)と言うのは、これにちなんだ表現である。

悪魔のイメージとヤギ [編集] バフォメットのイメージ 新約聖書(マタイによる福音書)では、ヤギを悪しきものの象徴として扱うくだりがある。ヨーロッパのキリスト教文化においては、ヤギには悪魔の象徴としてのイメージが強いが、これは、ギリシア神話のパンやエジプト神話のアモンのような山羊神、あるいは、祭司が角のついた仮面をかぶって獣の扮装をして踊り、豊穣な獲物を願うような素朴なシャーマン信仰における森林神等、キリスト教の公教化とともに駆逐された先行宗教の、邪神化された “異 教” 神たちのイメージから来たものであろう。ここからやがて、バフォメットのようなヤギ頭の悪魔が考え出され、悪魔崇拝者が好んでヤギの仮面をかぶったりする。また、中世では、悪魔の化身としてのヤギに乗って空を飛ぶ魔女の版画などもある。古くはイソップ寓話にも見るように、オオカミなどに食べられる被捕食者としての弱々しい イメージをもつが、その一方で、中国では、角の形から、ねじくれた性格の象徴にもなっている。

五月新羅人 李長行ら、殺輓羊二、白羊四、山羊一、鷲二を進む

故(カレ)ここに、黄泉比良坂(ヨモツヒラサカ)に追ひ至りて、遥(ハロハロ)に 望(ミ サ)け呼ばひて大穴牟遲神(オホナムチノカミ) この神は、近つ淡海国(アヰミノクニ)の日枝山(ヒエノヤマ)に坐(イマ)し、また葛野(カヅノ)の松尾(マツノヲ)に 坐 して、鳴鑼(...<http://kamnavi.jp/link/kojiki.txt>

怨霊信仰とサタンの陰謀、穢れ of 思想、死穢 ところで、すでにシュメル時代に、白魔術と黒魔術が横行しており、法律で取り締まる ほど だった。... やはり大国主大神が逆手をして怨霊化するという、記紀の記述は怨霊信仰を日本 に定着させるために改竄され、ここを基点として聖徳太子を怨霊として封じ、 仲哀 ...<http://bewithgods.ddo.jp/hope/doc/2-6.html>

Re: 配石遺構…縄文時代の後期前半に作られる 蝦夷塚? 投稿者:管理人 投稿

日:2013 年 2 月 17 日(日)23 時 37 分 37 秒 返信・引用 > No.1265[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

> 一方、末期古墳が造営された地域の南にあたる宮城県中南部では、4 世紀頃から 7 世紀にかけて、前方後円墳をはじめとする古墳が造られており、墳長 168 メートルの雷神山古墳の ような大きな古墳もある。しかし末期古墳が造られた宮城県北部の北上川流域や迫川流域では、古墳時代を通して前方後円墳などのいわゆる古墳の造営は見られない。また、末期古墳の 造営が始まったのは古墳の造営が下火になる 7 世紀以降であり、これらのことから前方後円 墳をはじめとする古墳の造営者と末期古墳の造営者が異なった社会集団に属していたこと がわかる[要出典]。

>

この辺の境界がどの時期でどこだったかが重要ですね。

> 焼印 > 慶雲 4 年(707)3 月 26 日【続日本記】《駒、押印》 > 鉄の印(焼印)を摂津・伊勢など二十三カ国に与え官営の牧馬の駒と小牛に押印した。 <http://sky.geocities.jp/sabutyan66/page018.html> >> この小牛というのが、気になりますね。「使印牧駒犢」 http://www.geocities.jp/growth_dic/honbun/zoukan-6039.html

先の年表の流れだと、700 年前後から牧の増設が進んでいたようですが、それとともに、今 度は子牛を飼い始めたように見えます。

これをキリスト教的にみると、神の刻印を押される信徒のことを羊の群れというんですね。 その主人も子羊と象徴されます。

羊がいないので、山背皇子の件では、その詩歌で山羊と岩として表現するのですが、ここでは

子牛を代わりも用いたという風にも解釈できるかもしれません。

一方獣の刻印は 666 で、確かに 706 年の 660 人の騎兵と見えなくもないですね。

○慶雲 2 年(705)11 月 13 日【続日本記】《騎兵》 ...新羅からの使者を迎えるために諸国より騎兵を挑発した。

○慶雲 3 年(706)10 月 15 日【続日本記】《騎兵》 ...天皇の乗物に随行した騎兵六百六十人の調庸田租を免除。続日本記

☆元明天皇、在位(707~715)

○慶雲 4 年(707)3 月 26 日【続日本記】《駒、押印》 ...給鐵印于摂津・伊勢等廿二国使印牧駒犢。 ...鉄の印(焼印)を摂津・伊勢など二十三カ国に与え官営の牧馬の駒と小牛に押印した。

元は新羅用の出迎え騎兵として 660 人を集めたようにも見えますが、当時日本からみて、新羅をどうみていたのか?、この辺も課題です。獣の国に擲擧っていたとか…。ところが その後天皇の騎兵になってしまったという結末がまた面白いのですが、いろいろ創造を膨ら ますとストーリーもできてくるものです。

藤原京の謎? 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 17 日(日)15 時 58 分 55 秒 返信・引 用

畿内の遺構配置にみる古代の土木技術 (その 1) 都市計画基本線の存在 ... 文献「畿内の遺構配置にみる古代の土木技術 (その 1) 都市計画基本線の存在」の詳細 情報で す。

<http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00044/1990/10-0307.pdf#search=%E5%89%8D%E6%96%B9%E5%BE%8C%E5%86%86%E5%A2%B3+%E4%BE%86%E8%A7%92.+%E3%81%AB30%7E+%E3%80%81+45%E3%80%9D>

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:青面金剛 投稿日:2013 年 2 月 17 日(日)00 時 58 分 24 秒 返信・引用

藤井游惟さんへのお返事です。

「考古学を科学する会」の「弥生人と日本語の形成-日本語南方系縄文人語起源説-」のレジュ メの中で、

「東北方言はクレオール日本語」とは、書かれていますが、西日本については、[4 西九州ラ イン 倭人(弥生人)と

「土蜘蛛」の居住境界線]の中で、長崎県の彼杵半島に朝廷にまつろ わない「土蜘蛛」の例だけで、分析されています。

藤井さんのお住まいの地の、目と鼻の先と思われる、葛城古道に在る土蜘蛛塚や土蜘蛛窟 の存在が示す事より、

[一定の社会状況においては、外部から侵入してきて、先住民を駆逐した征服民に、先住民の 言語が「乗り移る」]

との藤井さんの理論によれば、土蜘蛛の言葉が、葛城古道周辺にも残る事にも成ります。

「南河内方言のネイティブスピーカー」との藤井さんも、その先住民の言葉の影響を、ある程 度は、受け継いでいる、との事に成ってしまうのでは無いでしょうか。

----- > ↓の様なことも、貴方にお送りした「考古学を科学する会」の「弥生人と日本語の形成-日本

語南方系縄文人語起源説-」のレジュメの中でとっくの昔に書いてあります。

>> 先のNHKドラマ『アテルイ』の中でも触れられている様に、投降・帰順した蝦夷を俘囚として、少数の集団に分けて、遠隔地に強制的に移住させる「強制分散移住(ディアスポラ)」の考え方が、藤井さんの第7章には欠落しています。 >>

>> 西日本を中心に点在する、所謂「被差別」の地が、それに当たります。 >>>>「異言語を話す政治的抑圧者(俘囚者)側の人口が、多数派民衆の人口よりも圧倒的に少ない場合は、居住区域を分け、多数派民衆との交流を最小限に押さえて、俘囚地内で自らの言語を保つのが精一杯、それができない場合は、世代交代により俘囚者側が多数派民衆の言語に同化してしまう。」 >>

>> 藤井さんの理論に、このディアスポラ(強制分散移住)の考え方を取り入れますと、「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」のです。 >>>> 藤井さんの本に、このディアスポラ(強制分散移住)の考え方を取り入れた『改訂版』を出される事を、お勧めします。

配石遺構…縄文時代の後期前半に作られる 蝦夷塚? 投稿者:棘の紀氏 投稿 日:2013 年 2 月 16 日(土)23 時 58 分 25 秒 返信・引用

>やはり北海道式前方後円墳の問題が重要ですね。 故伊能先生の話に、石棒の立っている下を掘って、多くの人骨が出た例は小友村の蝦夷塚に

もあったという。綾織村でもそういう話が二か所まであった。(大和書房 1972 より) 北海道西南部で作られる。同じころ、岩手では石を直線状や弧状に並べるものが作られてい

る。http://home.s01.itscom.net/sahara/stone/s_tohoku/032_konsei/032.htm

東北地方北部から北海道にかけて、続縄文文化に伴う墳墓が造られていた

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%AB%E6%9C%9F%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

末期古墳の造営が始まる前、東北地方北部から北海道にかけて、続縄文文化に伴う墳墓が造られていた。墳形は楕円形で、周溝のような墳墓と周囲を隔てる区画はなく、墳丘もはっきりとは確認できない程度のもので、墓壇の規模から遺体を折り曲げて葬る屈葬であったとされる。ある程度の規模の墳丘と周溝を伴い、遺体を曲げることなく葬った末期古墳との違いは明らかである。また、北海道では石狩低地帯で末期古墳が造られている間も、続縄文文化の時代と変わらぬ墳墓が造られ続けていた。一方、末期古墳が造営された地域の南にあたる宮城県中南部では、4世紀頃から7世紀にかけて、前方後円墳をはじめとする古墳が造られており、墳長168メートルの雷神山古墳のような大きな古墳もある。しかし末期古墳が造られた宮城県北部の北上川流域や迫川流域では、古墳時代を通して前方後円墳などのいわゆる古墳の造営は見られない。また、末期古墳の造営が始まったのは古墳の造営が下火になる7世紀以降であり、これらのことから前方後円墳をはじめとする古墳の造営者と末期古墳の造営者が異なった社会集団に属していたことがわかる[要出典]。

牛石遺跡(うしいしせき)は、山梨県都留市厚原字牛石にある遺跡。縄文時代中期末葉の曾利式住居跡を伴う配石遺構 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%89%9B%E7%9F%B3%E9%81%BA%E8%B7%A1> 配石(はいせき)とは、表面のなめらかな河原石などの自然石を目的をもって配置したり、

組合せたりした遺構である。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%85%8D%E7%9F%B3%E9%81%BA%E6%A7%8B> 配石の全体の形はさまざまあり、その性格も集落内の土地区画など日常生活に関わる標識から、埋葬や祭祀など信仰に関わるものまで多岐にわたると考えられる。単独のものは組石(くみいし)とも呼ぶ。配石のうち、石を円形に(ドーナツ状)に配置させるものは環状配石や環状列石と呼ぶ。立石をとまなう場合もある。礫を土坑の中や外に配置した埋葬施設を特に配石墓と呼び、配石によって作られた住居を敷石住居と呼ぶ。ヨーロッパには巨石を並べた配石遺跡があり、ストーンヘンジはその代表例である。日本では縄文時代前期に顕著となり、中期には急増する。環状列石をとまなう著名な遺跡には、秋田県鹿角市の大湯環状列石や青森県青森市の小牧野遺跡、秋田県北秋田市の伊勢堂岱遺跡があり、これらはいずれも縄文時代後期の遺跡である。また、石材資源の豊富な中部地方の山麓地域においても盛んに作られる。

ストーンサークル - Wikipedia 続いて縄文時代の後期前半に秋田県北部や青森県、北海道西南部で作られる。同じころ、岩手では石を直線状や弧状に並べるものが作られている。配石遺構は、縄文 中期後半から後期になると各地で築造され、九州を除いた日本各地で発見例が増え てきて <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AB>...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AB> 血縁・地縁をもった氏族の連合が 40~50 キロほどの距離をおいた領域を占有し、その中心に祭の場を築造したのではないかと考えられている。この遺跡が日本ではじめて公表されたのは 1886(明治 19)年小樽市の忍路環状列石である。東北地方から北海道にかけてのストーンサークルは縄文時代中期後半から後期にかけて作られている。大きさは直径 30m 以上のものと直径 10m 以下のものがあり、大きいものは祭祀の場として作られ、小さいものは竪穴住居の周囲に石を置いたものが多い。直径が 30m 以上のものは、まず縄文時代中期の終わりごろに静岡県、山梨県、群馬県付近で作られる。続いて 縄文時代の後期前半に秋田県北部や青森県、北海道西南部で作られる。同じころ、岩手では 石を直線状や弧状に並べるものが作られている。配石遺構は、縄文中期後半から後期になると各地で築造され、九州を除いた日本各地で発見例が増えてきている。現在までのところ最も古いと考えられているのは長野県諏訪郡原村にある阿久遺跡の配石遺構で、縄文時代前期のものと推定されている。

焼印 慶雲 4 年(707)3 月 26 日【続日本記】《駒、押印》 鉄の印(焼印)を摂津・伊勢など二十三カ国に与え官営の牧馬の駒と小牛に押印した。 <http://sky.geocities.jp/sabutyan66/page018.html>

焼印の使われ方と歴史 筆記用具や紙が登場する遙か前に、人がすでに焚火の燃えさしで地面や壁に絵や記号を書いていました。ペンや筆等の筆記用具は、燃えさしの墨の部分を使いやすく変化させた物といえます。一方、焼印は焦げ跡を強調する方法で、火(熱)の部分を利用する物といえます。

ブランド(Brand)の起源は「焼印を押す」という意味の burned から派生した言葉といわれています。 <http://www.si.suwa.tus.ac.jp/tame/keiei/011.html>

イエスの焼き印 http://blog.livedoor.jp/koichi_uraji/archives/51687798.html ガラテヤの信徒への手紙 6 章 17 節、ガラテヤの手紙の最後の結びの言葉に、パウロは、このように言っています。「わたしは、イエスの焼き印を身に受けているのです。」

「焼き印」とは、ギリシャ語で、「スティグマタ」と言います。英語で stigma は、聖痕、十字架の傷痕、さらにそこから汚名、恥辱、不名誉という意味があります。イエスさまの時代には、奴隷制 度がありました。戦争に負けた民族や国の民は捕虜とされ、奴隷として働かせられました。また、奴隷の売買もされていました。奴隷が逃げ出したり、奪われたりしないように、その奴隷が、主人の所有物であることを表すしとして、焼き印を押したり、入れ墨を入れたりされていました。パウロは、「わたしは、目に見えないイエス・キリストの焼き印をこの体に負っているのです」と言います。それは、わたしはイエス・キリストの奴隷です。わたしの所有者は、イエスさまですと言っています。

スティグマ[ギリシャ語で、奴隷や犯罪者の身体に刻印された徴(しるし)の意]

スティグマ (ギリシア文字) - ウィキペディア - Wikipedia ?, ?(スティグマ)はギリシア文字の一つで Σ(シグマ)と Τ(タウ)との合字。ギリシア数字で 6 を表すのに用いられる。現代ギリシア語では、よく似た文字であるシグマの語末形 "ς" で代用されるが、本来は別の字である。今日の活字体ではスティグマのほうが上の...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%CF%9A>

S はギリシア文字の「スティグマ」[Wikipedia]、最後の A はバビロン文字で 6 を指す「だ」... 三井住友 VISA カード? VISA も 666 とか書いてありますが、「最初の VI がローマ数字、S は ギリシア文字の「スティグマ」[Wikipedia]、最後の A はバビロン文字で 6 を指す」だそうです(最後の A については未確認)。 <http://ayiva.sakura.ne.jp/misc/Y200/javascript/12misc/test-gema.html>

World of 666 - 嘘がまかり通る世の中 あなたは何を信じますか? <http://web177.net/index.php?World%20of%20666> 私たちの "w" のヘブライ語に相当する文字 "VAV"または "ワーウ"です。VAV の数値は 6 です。したがって、ヘブライ語に音訳英語 "www"の数値 666 は、 "VAV VAV VAV"です。聖書に記載され

男性 666 コントロールの世界。彼は私たちの日常生活を支配し、彼は私たち を殺しています。このような場合は、なぜこの記事では、探求し、なぜ宗教的な神話は続く？

Re:瑞穂の国(古代日本は葦原の国)は呉音 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 16 日 (土)23 時 53 分 47 秒 返信・引用 編集済

> No.1262[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

慶雲四(707 年)の文章は合いませんな。 第 15 代天皇(在位:応神天皇元年(270 年 2 月 8 日))

弓月は応神天皇十六年 286 年になる。

>> 天皇は葛城襲津彦(かつらぎのそつひこ)を遣わして、加羅国の弓月の民を召されたが、三年を経ても襲津彦は帰らなかつた。応神天皇十六年、天皇は平群木菟宿禰(へぐりのつぐのすくね)、的戸田宿禰(いくはのとだのすくね)を加羅に遣わした >> 大秦の影響ですが、これはちょっとまだ模索段階なのですが、会報第 1 号でとりあげた下記の記載があります。 >>> 慶雲四年三月廿二日条「庚申。從四位上下毛野朝臣古麻呂。請改下毛野朝臣石代姓爲下毛野 川内朝臣。許之。」

> 慶雲四年三月廿六日「甲子。給鐵印于攝津伊勢等廿三國。使印牧駒犢。」 >>> 下毛野河内は、どこの河内かというと、茨城にも河内郡があって、また先日のお話にあった 物部河内と会津が常陸国の関係で出てくるのですが、これは確かに河内郡と会津となりそうです。会津あたりまで、日高見国の領域だった可能性を感じるのですが、それはともかく、次の条文にみえる、牛・馬に鉄で刻印するという風習ですね。

>

- > 23 国に官営の牧があって、その馬にたいして焼き印するんです。 >
- > 盗難防止になるかもしれませんが…。 >
- > たとえば、キリスト教終末論では、信徒が神の刻印を押されたりするんですね。敵対する獣の民衆も刻印を押される。 >> いろいろその宗教教義なり、政治理念でかなり大掛かりな強制、あるいは自発的…、が あって、そういう部分もなくはないですが、問題は他の視点からも裏付けられるか否かによるかもしれません。 >

配石遺構…縄文時代の後期前半に作られる 蝦夷塚？ 投稿者:棘の紀氏 投稿 日:2013 年 2 月 16 日 (土)23 時 12 分 47 秒 返信・引用

>やはり北海道式前方後円墳の問題が重要ですね。 故伊能先生の話に、石棒の立っている下を掘って、多くの人骨が出た例は小友村の蝦夷塚に

もあったという。綾織村でもそういう話が二か所まであった。(大和書房 1972 より) 北海道西南部で作られる。同じ ころ、岩手では石を直線状や弧状に並べるものが作られてい

る。http://home.s01.itscom.net/sahara/stone/s_tohoku/032_konsei/032.htm

東北地方北部から北海道にかけて、続縄文文化に伴う墳墓が造られていた

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%AB%E6%9C%9F%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

末期古墳の造営が始まる前、東北地方北部から北海道にかけて、続縄文文化に伴う墳墓が造られていた。墳形は楕円形で、周溝のような墳墓と周囲を隔てる区画はなく、墳丘もはっきりとは確認できない程度のもので、墓壇の規模から遺体を折り曲げて葬る屈葬であったとされる。ある程度の規模の墳丘と周溝を伴い、遺体を曲げることなく葬った末期古墳との違いは

明らかである。また、北海道では石狩低地帯で末期古墳が造られている間も、続縄文文化の時代と変わらぬ墳墓が造られ続けていた。一方、末期古墳が造営された地域の南にあたる宮城県中南部では、4 世紀頃から 7 世紀にかけて、前方後円墳をはじめとする古墳が造られており、墳長 168 メートルの雷神山古墳のような大きな古墳もある。しかし末期古墳が造られた宮城県北部の北上川流域や迫川流域では、古墳時代を通して前方後円墳などのいわゆる古墳の造営は見られない。また、末期古墳の造営が始まったのは古墳の造営が下火になる 7 世紀以降であり、これらのことから前方後円墳をはじめとする古墳の造営者と末期古墳の造営者が異

なった社会集団に属していたことがわかる[要出典]。

牛石遺跡(うしいしせき)は、山梨県都留市厚原字牛石にある遺跡。縄文時代中期末葉の曾利式住居跡を伴う配石遺構 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%89%9B%E7%9F%B3%E9%81%BA%E8%B7%A1> 配石(はいせき)とは、表面のなめらかな河原石などの自然石を目的をもって配置したり、組合せたりした遺構である。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%85%8D%E7%9F%B3%E9%81%BA%E6%A7%8B> 配石の全体の形はさまざまあり、その性格も集落内の土地区画など日常生活に関わる標識から、埋葬や祭祀など信仰に関わるものまで多岐にわたると考えられる。単独のものは組石(くみいし)とも呼ぶ。配石のうち、石を円形に(ドーナツ状)に配置させるものは環状配石や環状列石と呼ぶ。立石をとまう場合もある。礫を土坑の中や外に配置した埋葬施設を特に配石墓と呼び、配石によって作られた住居を敷石住居と呼ぶ。ヨーロッパには巨石を並べた配石遺跡があり、ストーンヘンジはその代表例である。日本で は縄文時代前期に顕著となり、中期には急増する。環状列石をとまう著名な遺跡には、秋田県鹿角市の大湯環状列石や青森県青森市の小牧野遺跡、秋田県北秋田市の伊勢堂岱遺跡があり、これらはいずれも縄文時代後期の遺跡である。また、石材資源の豊富な中部地方の山麓地域においても盛んに作られる。

ストーンサークル - Wikipedia 続いて縄文時代の後期前半に秋田県北部や青森県、北海道西南部で作られる。同じころ、岩手では石を直線状や弧状に並べるものが作られている。配石遺構は、縄文 中期後半から後期になると各地で築造され、九州を除いた日本各地で発見例が増え てきて <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AB> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AB>...

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%AB> 血縁・地縁をもった氏族の連合が40~50 キロほどの距離をおいた領域を占有し、その中心 に祭の場を築造したのではないかと考えられている。この遺跡が日本ではじめて公表されたのは 1886(明治 19)年小樽市の忍路環状列石である。東北地方から北海道にかけてのストーンサークルは縄文時代中期後半から後期にかけて作られている。大きさは直径30m 以上のものと直径 10m 以下のものがあり、大きいものは祭祀 の場として作られ、小さいものは竪穴住居の周囲に石を置いたものが多い。直径が 30m 以上 のものは、まず縄文時代中期の終わりごろに静岡県、山梨県、群馬県付近で作られる。続いて 縄文時代の後期前半に秋田県北部や青森県、北海道西南部で作られる。同じころ、岩手では 石を直線状や弧状に並べるものが作られている。配石遺構は、縄文中期後半から後期になると各地で築造され、九州を除いた日本各地で発見 例が増えてきている。現在までのところ最も古いと考えられているのは長野県諏訪郡原村にある阿久遺跡の配石遺構で、縄文時代前期のものと推定されている。

Re: 瑞穂の国(古代日本は葦原の国)は呉音 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 16 日 (土)22 時 51 分 57 秒 返信・引用 編集済

> No.1258[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 「大秦」は弓月君で遙か遠い中近東から韓半島を経由して渡来していますな。
- > これが平氏になる。 >
- > 太伯は呉越の呉が会稽東冶から瑞穂の国に直接船で渡来している。
>
- > 渡来人がいっぱいですな。徐福伝説も同様でしょうな。 >
- > 「大秦」は弓月君の模様。 >
- > キリスト教との関連は「大秦」が解けなければ理解できませんな。 >
- > 月氏(弓月君)が太秦に関係ありですな…。 >
- > 日本書紀に太伯(たいはく)を大伯と書いている。
- > 大来皇女(おおくのひめみこ)は、天武天皇の皇女。大伯皇女とも書く。

>> 太伯は会稽東冶こと上海ですな。 >

弓月の民という言い方もあったような気がしますね。

天皇は葛城襲津彦(かつらぎのそつひこ)を遣わして、加羅国の弓月の民を召されたが、三年を経ても襲津彦は帰らなかった。応神天皇十六年、天皇は平群木菟宿禰(へぐりのつくのすくね)、的戸田宿禰(いくはのとだのすくね)を加羅に遣わした

大秦の影響ですが、これはちょっとまだ模索段階なのですが、会報第1号でとりあげた下記の記載があります。

慶雲四年三月廿二日条「庚申。從四位上下毛野朝臣古麻呂。請改下毛野朝臣石代姓爲下毛野川内朝臣。許之。」
慶雲四年三月廿六日「甲子。給鐵印于攝津伊勢等廿三國。使印牧駒犢。」

下毛野河内は、どこの河内かというと、茨城にも河内郡があって、また先日のお話にあった物部河内と会津が常陸国の関係で出てくるのですが、これは確かに河内郡と会津となりそうです。会津あたりまで、日高見国の領域だった可能性を感じるのですが、それはともかく、次の条文にみえる、牛・馬に鉄で刻印するという風習ですね。

23 国に官営の牧があって、その馬にたいして焼き印するんです。盗難防止になるかもしれませんが…。

たとえば、キリスト教終末論では、信徒が神の刻印を押されたりするんですね。敵対する獣の民衆も刻印を押される。

いろいろその宗教教義なり、政治理念でかなり大掛かりな強制、あるいは自発的…、があって、そういう部分もなくはないですが、問題は他の視点からも裏付けられるか否かによるかもしれません。

Re:ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 16 日(土)22 時 25 分 52 秒 返信・引用

> No.1257[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

↓の様なことも、貴方にお送りした「考古学を科学する会」の「弥生人と日本語の形成-日本語 南方系縄文人語起源説-」のレジュメの中でとっくの昔に書いてあります。

「頭のご不自由」な貴方にはそれすら読めないのですか？

音声学・比較言語学・言語社会学等の大学一年生が履修する「言語学概論」程度で教わる一般言語学のイロハさえ理解しておらず、まともな言語学者には全く相手にされていない金容雲その他の「韓民族至上主義者」の妄説や、NHK のドラマなんぞを真に受けるただの「好事家」(ディレックタント)に過ぎない貴方が、言語学でも社会学でも大学院まで卒業し、「日本語(教育)専門家」として日本政府から認定を受けている私と、言語や言語社会学の問題で対等に論議しようなんざ「100 年早い」のです！

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >> 先の NHK ドラマ『アテルイ』の中でも触れられている様に、投降・帰順した蝦夷を俘囚として、少数の集団に分けて、遠隔地に強制的に移住させる「強制分散移住(ディアスポラ)」の考え方が、藤井さんの第 7 章には欠落しています。 >> 西日本を中心に点在する、所謂「被差別」の地が、それに当たります。 >> 「異言語を話す政治的抑圧者(俘囚者)側の人口が、多数派民衆の人口よりも圧倒的に少ない場合は、居住区域を分け、多数派民衆との交流を最小限に押さえて、俘囚地内で自らの言語を保つのが精一杯、それができない場合は、世代交代により俘囚者側が多数派民衆の言語に同化してしまう。」 >> 藤井さんの理論に、このディアスポラ(強制分散移住)の考え方を取り入れますと、「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」のです。 >> 藤井さんの本に、このディアスポラ(強制分散移住)の考え方を取り入れた『改訂版』を出される事をお薦めします。

>> ----- >>> ↓の様なことは私の本の第七章にちゃんと書いてあります。買って読んでから言ってください。私は言語学者である以前に社会学者なのです。何度も言っているように私は「科学者」です。「科学」を理解できない「頭のご不自由な方」をお世話する介護士やセラピストではありません。というわけで、今後のおつきあいはご遠慮させていただきます。<(_ _)> >> >> >

藤井游惟さんへのお返事です。 >>>>> 敗戦国に於ける学校教育の中で、「それまでの母国語の使用を禁じられたり、差別の問題に拠って使用が憚られたり」したかが、重要な差異です。 >>> 北海道では明治新政府による、日本語の標準語を学校教育の基本とする、文化政策によって、一部の学校を除き、アイヌ語の使用は極めて難しい環境に於かれ、それが暫く長期間続いたため、今日では、アイヌ語の日常会話を流暢に話せる方々は、極めて少数に減ってしまっているのが、現状です。 >>> それに対して、戦後の日本に於ける、学校での英語教育は、必修科目として選択的な強制は、されているものの、一部の進学校やミッション系スクールを除いて、英語の授業以外では、日本語の使用が禁じられている訳では有りません。 >>> 白村江の敗戦後に於ける、占領下に置かれた日本列島の西半分では、それまでの神代文字で書かれた文書に対する、徹底的な焚書に伴ない、それまで話されていた言葉も、次第に口にするのが、難しく成って行った事と思われます。 >>> 太平洋戦争後に於ける、アメリカ占領下の日本では、GHQ 司令部が日本語の使用を禁じたわけでは、有りません。 >>> この二つの大きく異なる条件を、押さえておく事が重要だと考えます。 >

Ads by Google 窮とは(キュウとは) 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 16 日(土)22 時 04 分 6 秒 返信・引用

・キュウ 救=禹…墨子?牧師?) 漢字の【私】ム=△=禹…禾+ム

漢字の【台】△+□=われ 漢字の【和】禾+□=わ…◎壁

漢字は 禹の足跡

けものの足跡 「ジュー」 イソ 10(十) 戎 獣 ジュー Jew (ユダヤ) | 古代史掲示板(清談論議)

τ 星 蒼竜 + Ψ 黄竜?=禹 九 キュウ 球 救 <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1713> 角のあるものをキュウ 龍、角の無いものを子龍、 <http://shikoku-net.co.jp/akaboshi/kaisetsu.htm>

蛟(みずち)…みずから?自ら…私 蛟(みずち)は、本来は、竜の一種を表す漢字である。日本では「みずち」の訓が当てられたが、ミズチ(古語ではミツチ)は本来は、八岐大蛇(八岐大蛇は川の神とされることがある)に代表される日本の水神、蛇神、龍蛇神である。 ... <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%9B%9F> 水虺は五百年たつと化して蛟となり、蛟は千年で化して龍となり、龍は五百年で角を為し、... 宋の洪興祖はこの一節に補注して、「昔、禹が洪水を治めたとき、応竜が尾を引いて、... この ように、応竜には治水や雨乞いに関連する水神 ... http://homepage3.nifty.com/kyousen/china/3k5t/connection/3k5t_ouryuu.html

月氏と禹と(う) 鳩(キュウ)についてですが、例の NHK の DVD の解説書に、月氏が禹(ぐ)氏と記されていることが書いてありました。...「鳩(キュウ、の音の文字は禹に関係 が深い」と考えていますしノア・キリスト教のハトに通じると思います。 <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2632> 中国で「九」は数字の「9」以外に、古代から占いなどでは 0~9 の中の「最大」を意味します。 そのため、時には「無限」の意味で使われます。

【禹】九「九」字義:きゅう. 解字:象形。肘を曲げたさまにかたどる。... ひいて、水神として祭られた天使禹王の意。「属」解字:なし(旧字「属」の解字) ...「禹」は「虫+九」です。虫(き)がオスの竜、九(く)がメスの竜です。 ... <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2583>

、「禹」「正」「台」「久」等諸説あるが、今回は別の近世の反閥資料を参照し「公」としておいた。

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~jirihon/juhou/henbai.html>

四縦五横、禹為除道、蚩尤避兵、令吾周遍天下、帰還故郷、向吾者死、留吾者亡、急々如律令 四縦五横、禹は道を除き蚩尤は兵を避くを為す。吾をして遍く天下を周し、故郷へ帰還せしめよ。 吾に向かうは死し、吾を留むるは亡す。急ぎ急ぐこと律令の如し。

符の上部の格子状の目は所謂「九字法」で知られるものであるが、陰陽道の小反閥ではこの 時「朱雀、玄武、白虎、勾陣(陳)」と縦に切り、後に「帝公、文王、三台、玉女、青龍」と横に切ったようである。尚、「帝公」の「公」に当たる文字は判読が難しく、「禹」「正」「台」「久」等諸説ある が、今回は別の近世の反閥資料を参照し「公」としておいた。

「帝公」の「公」=「禹」「正」「台」「久」等諸説ある

公と私 『説文解字』入門(1) - 今週のコラム|地域情報マガジン Winds ... 2006 年 11 月 27 日. 公と私 - 『説文解字』入門(1)-. 公私の区別は難しい。一人の人間 が それだけ様々な役割や責任を負って暮していると

ということだろう。『説文解字』で「公」(二 篇上 013)を引いてみると、「公 平分也 从八ム 八猶背也 韓非曰 背ム爲公」となつ ...http://www.windsnet.ne.jp/column_n/colum.php?day=20061127280

「公」は題字、「平分也」はその意味で、この場合平等に分配するというほどの解である。「从八 ム」はまた「从八 从ム」と書かれていることもあり、字の作り方を示している。「从」は見慣れ ないが、「従」の一部になっている字で、従うという意味。この場合、「八」と「ム」の両方に従う から会意字だ。

台国

「ム」の項には 𠂇、𠂈、去、参、私、參、公、牟、台、矣、允、弁、𠂉、などの字 「ム」の項には 𠂇、𠂈、去、参、私、參、公、牟、台、矣、允、弁、𠂉、神龜の 背中にあったという文

様 ...<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1562>「我」字義:われ…おのれ…私…台 ム(おのれの意 =自)|世界史掲示板(荊の紀氏) 2012 年 6 月 15 日 - 弋部首解説:これを部首として、くいをういた道具の意を表わす文字が できている。字義:くい、ぼう。解字:象形。... 意符「手+(第二画の横長変形)」と意符と 音符を兼ね た「戈」とからなる「我」=「手」+「戈」:=て+武器=>手の武器=>手 ...

Ads by Google 奈良時代まで日本語の「イ」「エ」「オ」の母音には甲類 (i, e, o) と乙類 (i, ē, ö) の音韻があったとい 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 16 日(土)21 時 45 分 17 秒 返信・引用

躬(みづか)ら 窮の異体字。また使役する、体を曲げるという意味がある。 >「昔から祖彌(そでい)躬(みづか)ら 甲冑(かっちゅう)を環(つらぬ)き、山川(さん せん)を跋涉(ばっしょう)し、寧処(ねいしょ)に違(いとま)あらず。東は毛人を征 すること、五十五国。西は衆夷を服すること六十六国。渡りて海北を平らぐること、九十五国。」

「昔から祖彌(そでい)躬(みづか)ら 甲冑(かっちゅう)を環(つらぬ)き、山川(さん せん)を跋涉(ばっしょう)し、寧処(ねいしょ)に違(いとま)あらず。東は毛人を征す すること、五十五国。西は衆夷を服すること六十六国。渡りて海北を平らぐること、九十五国。」

中国の漢代の《説文解字》では「躬」を「躬」の俗字とするが、唐代の《干禄字書》では、ともに 正字とする。《干禄字書》は顔元孫の手になる楷書による字形の正・俗を分けた最初の字書で あり、その後の字書はすべてこれによる。今日では過去の俗字も常用漢字として大いに利用 されている。... <http://kotobank.jp/word/%E9%A1%94%E5%85%83%E5%AD%AB>

窮とは (キュウとは) [単語記事] - ニコニコ大百科 2012 年 5 月 14 日 - [説文解字]の本字は窮で[説文・卷七]に「極まるなり」とある。字形: 躬 声の形声説、穴 +躬の会意説がある。躬は身体という意味の字。音訓: 音読みはキュウ(漢 音)、グ、グウ(呉音)、訓読みは、きわまる、きわめる。 <http://dic.nicovideo.jp/a/%E7%AA%AE> 意味きわまる、終わる、きわめる、行きつく、行き詰まる、塞がる、不遇、志を遂げられない、貧しい、悪人、という意味がある。[説文解字]の本字は窮で[説文・卷七]に「極まるなり」とあ る。字形躬声の形声説、穴+躬の会意説がある。躬は身体という意味の字。音訓音読みはキュ ウ(漢音)、グ、グウ(呉音)、訓読みは、きわまる、きわめる。 ?は、[漢語大辞典・異体字表]や Unicode にある窮の異体字。また使役する、体を曲げるとい う意味がある。 簡体字は?。

窮の異体字。また使役する、 禹は自然の原理にのっとり、「疎(通すこと)」と「導」という方法で河川の氾濫を防いだ。ま た治水に應龍や息壤、その他様々な龍を使役して工事を行った。 <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Namiki/5216/kami/a/u.html>

体を曲げる 体を曲げてつつむ)とから成る勺(人が体 ... 大禹…台禹?

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/961>「句」字義:くぎり 曲がる 句(曲がる意=

曲)<http://shoukei.blog65.fc2.com/blog-entry-31.html> せむし 「痾」=「疒」+「句」:=やまい+まるい=>(背中の)丸くなる病=>せむし 「岫」=「山」+「句」:=やま+まるい=>山の丸い所=>山頂

佝(キョク) 解字:形声。意符の人(ひと)と、音符の句(曲がる意=句)とから成る。 背の曲がった人の意。 ※ 脛の曲がった 禹も蛇(竜) ... (曲脛)くぐせ、せむし(儻) 魚あり、扁枯、魚婦 という 。 <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/j-keijiban6.htm>

禹も蛇(竜) ... (曲脛)くぐせ、せむし(儻) 魚あり、扁枯、魚婦という。 ...

簡体字は?。【大禹治水】矮?挫的逆?,昨?女神住我家。楼主:?了那个咪的。?表??矮 ? 矮

http://honyaku.yahooofs.jp/url_result?

ctw_=sT,ezh_ja,bT,uaHR0cDovL2JhaWtlLmJhaWR1LmNvbS92aWV3Lzc5MjE2ODcuaHRt 矮は貧乏に低い [1]

[1] 矮??身材矮小,???家庭??,挫???相失?。 低い——身長は矮小で、貧乏な——家庭の貧しさは、——面構えた失敗を挫きます

? . qióng. 貧しい.貧乏; 尽きる.終わる.なくなる; あくまで.徹底的に; 極端に. きわめ て; ひっきりなしに.続けざまに; 懸命に(上海語)<類>拼命 <http://www.ctrans.org/search.php?word=%E7%A9%B7>

矮とは (ワイとは) <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1657> 矮星(わい せい)は、恒星あるいはそれに準じる天体でありながら、ごく小さいものをさす。 矮とは (ワイとは) [単語記事] - ニコニコ大百科 2012 年 2 月 2 日 -[説文解字・卷五・新附]に「短人なり」とある。字形: 形声で声符は委。音 訓: 音読みは アイ(慣用音)、アイ(漢音)、訓読みは、みじかい、こびと。 声符は委 矮」=「矢」+「委」:=や+背を丸め た食糧管理者=>背を丸めた食糧管理者の矢=>背 を丸めて射る矢=>低い位置 から放た ...<http://shoukei.blog65.fc2.com/blog-entry-85.html>

「矮」解字:形声。意符の夫(矢は誤り変わった形。一人前の男)と音符の委(曲がって小 さい意)とから成る。丈が小さい男、「ひくい」意。 委(曲がって小さい意)

倭」は「委(ゆだねる)」に人が加わった字形。音符の委は、「なよやかな女性」を意味し、解字 は「ゆだねしたがう」「柔順なさま」「つつしむさま」、また「うねって遠いさま」。「委」は「禾(= 粟の穂:米や麦に比べると低い)」+「女(なよなよした様)」で、体の曲がった背の ...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%80%AD> 倭(わ、やまと、ワ、ヰ、ウェイ(中国南方音)、ウオー(中国北方音))は、

1.紀元前から中国各王朝が日本列島を中心とする地域およびその住人を指す際に用いた呼 称。紀元前後頃から7世紀末頃に国号を「日本」に変更するまで、日本列島の政治勢力も倭も しくは倭国(わこく)と自称した。倭の住人を倭人(わじん)という。和、倭とも記す。※倭 の政治組織・国家については「倭国」、倭の住人・種族については「倭人」をそれぞれ参照のこと。 2.奈良盆地(のちの大和国)の古名。倭人ないしヤマト王権自身による呼称。「大倭」とも記 す。

奈良時代まで日本語の「イ」「エ」「オ」の母音には甲類 (i, e, o) と乙類 (ĩ, ě, ǝ) の音韻があった といわれる(上代特殊仮名遣い)。「邪馬台国」における「邪馬台」は"yamato"(山のふもと) であり、古代の「大和」と一致する。筑紫の「山門」(山の入り口)は"yamato"であり、音韻のう えでは合致しないので、その点では邪馬台国九州説はやや不利ということになる[3]。

倭国(瑞穂の国)…端求…台…吉(基地)? <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1525>

秦氏 - Wikipedia 隋書』「卷八十一 列傳第四十六 東夷 倭國」に「又至竹斯國又東至秦王國 其人同於 華夏以爲 夷州疑不能明也」と風俗が中国と 笠井倭人「朝鮮語より見た秦・漢両氏の 始祖名」(『考古学論考』所収); ^ 佐伯好郎「太秦(禹豆麻佐)を論ず」(『地理歴史 百号』 ...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%A6%E6%B0%8F>

『日本書紀』で応神天皇 14 年(283 年)に百済より百二十県の人を率いて帰化したと記され る弓月君[1]を秦氏の祖とする[2]。『新撰姓氏録』によれば秦の始皇帝の末裔とされるが[3]、そ の真実性には疑問が呈せられており[4]、その出自は明らかではない。「弓月」の朝鮮語の音訓 が「百済」の和訓である「くだら」と同音であることにより百済の系統とする説[5]、秦の遺民 が朝鮮半島に逃れて建てた秦韓(辰韓)の系統とする説[4]、五胡十六国時代に氏族の苻氏 が建てた前秦の王族ないし貴族の系統とする説[要出典]などがある。また、佐伯好郎は秦氏は景教(キリスト教のネストリウス派)徒のユダヤ人であるとの説をとなえた(日ユ同祖 論)[6]。平安京は碁盤の目のような十字路で構成されている為に景教と関連がある、とも言 われている[要出典]。

『隋書』「卷八十一 列傳第四十六 東夷 倭國」に「又至竹斯國又東至秦王國 其人同於華夏 以爲 夷州疑不能

明也」と風俗が中国と同じである秦王国なる土地(瀬戸内海沿岸付近?)が紹介されていて、これを秦氏と結び付ける説がある。

隋書 列傳倭國傳の秦王国に記された華夏だったかの夏音の夏も、詳しくは、他日とさせていただきますが、中原の殷代までの王統の前代、禹の建国した夏に遡ると遠望されます。

http://e-asia2.board.coocan.jp/?m=reg&q=1&p_id=64_110

矮とは (ワイとは) 俺、私、僕、我、ワイ 穢(ワイ)族系部族の連合体で、獺族(ワイ)・貉族(ハク)・貉族(コマ)などが包含されていたものと想像するが、その連合 ル しんのように禹に関係する漢字が沢山あります「卯」ウには吾・我・われの意味も禹 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/315>

躬(みづか)ら 自らを持するの意味 我・吾・自分に関連する慣用句 <http://www.weblio.jp/content/%E8%87%AA%E3%82%89%E3%82%92%E6%8C%81%E3%81%99%E3%82%8B> 我とは? (副)「われ」に助詞「と」の付いたもの (1)みづから。自分で <http://www.weblio.jp/content/%E6%88%91%E3%81%A8>

我 ワに関する Q&Ahttp://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1042890680

穢(ワイ)族 穢族 と韓(貉)族の連合体であると考えている。日本では、「穢」は「八」「夜」とも表記されたようである。 禹の後『魏志』には、周代の呉国の始祖「太伯」の長子が、 ...<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/51>

「倭」というのは後漢王朝を攻めない種族という意味らしいが、「倭」の音は「穢」に通じ、汚穢、腐臭の意がある <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Namiki/1627/gin/3g.htm> 倭=穢=八=夜という等式 魚の特産国として中国にも知られていた「邪頭味」が「穢頭国」とも表記されていることから、

「邪」とは「穢」のことであり、「穢」が「穢」であることは、後漢時代の許慎(三〇～一二四年)が著した『説文解字』という字典に記されている通りである。「邪」が「穢」であるなら、邪馬台国の「邪」も「穢」を意味すると考えられる。「馬」は馬韓の

「馬」と考えられるから、筆者は、邪馬台国は、朝鮮半島から渡来した穢族と韓(貉)族の連合体 であると考えている。日本では、「穢」は「八」「夜」とも表記されたようである。 禹の後

『魏志』には、周代の呉国の始祖「太伯」の長子が、荊蛮の地に行き、文身断髪してその俗にそま ったと伝え、あるいは『漢書』が、「其の君は禹の後の帝少康の庶子というもの(越王句踐の こと)、会稽に封ぜられ、文身・断髪し、以て蛟竜の害を避く」と記す。

禾 + ム = 私

「倭(イ+禾+女)」の音は「穢(禾+歳)」に通じ 歳 歳の字の初形は「鉞まさかりエツ」の字の右側エツの字です。神に奉げるいけにえ・犠牲を 割(さ)く鉞の形をあらわした象形文字です。のちにエツのマサカリの刃のなかに「歩」の上 下に分けて書く字になりました。『説文解字』2 上には「木星なり」つまり ... <http://blogs.yahoo.co.jp/akasakahiro/58690744.html>

瑞穂の国(古代日本は葦原の国)は呉音 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月16日(土)21時 23分 5秒 返信・引用 編集済

「大秦」は弓月君で遙か遠い中近東から韓半島を経由して渡来していますな。これが平氏になる。

太伯は呉越の呉が会稽東冶から瑞穂の国に直接船で渡来している。 渡来人がいっぱいですな。徐福伝説も同様でしょうな。

瑞穂の国(古代日本は葦原の国)は呉音を使用していた模様。 九州の玄海灘も瀚海を呉音を漢音とし漢音の漢字を当て嵌めている。

対馬の厳原(いずはら)から厳海が魏志の頃の名前で、漢音の玄海にした模様。 同様に大秦は呉音でタイシン、漢音にすると大秦はでタイシン。

大秦、大秦は同音になる。

大[音]ダイ(呉) タイ(漢) 太[音]タイ(呉)(漢)

太伯、大伯は同音になる。「大秦」は弓月君の模様。キリスト教との関連は「大秦」が解けなければ理解できません。月氏(弓月君)が大秦に関係ありですな…。

日本書紀に太伯(たいはく)を大伯と書いている。

大来皇女(おおくのひめみこ)は、天武天皇の皇女。大伯皇女とも書く。

太伯は会稽東冶こと上海ですな。

ディアスポラ(強制分散移住) 投稿者:青面金剛 投稿日:2013年2月16日(土)20時06分 46秒 返信・引用
藤井游惟さんへのお返事です。

先のNHKドラマ『アテルイ』の中でも触れられている様に、投降・帰順した蝦夷を俘囚として、少数の集団に分けて、遠隔地に強制的に移住させる「強制分散移住(ディアスポラ)」の考え方が、藤井さんの第7章には欠落しています。

西日本を中心に点在する、所謂「被差別」の地が、それに当たります。

「異言語を話す政治的抑圧者(俘囚者)側の人口が、多数派民衆の人口よりも圧倒的に少ない場合は、居住区域を分け、多数派民衆との交流を最小限に押さえて、俘囚地内で自らの言語を保つのが精一杯、それができない場合は、世代交代により俘囚者側が多数派民衆の言語に同化してしまう。」

藤井さんの理論に、このディアスポラ(強制分散移住)の考え方を取り入れますと、「政治権力が命令すれば民衆の言語は取り替えられる」のです。

藤井さんの本に、このディアスポラ(強制分散移住)の考え方を取り入れた『改訂版』を出される事をお勧めします。

> ↓の様なことは私の本の第七章にちゃんと書いてあります。買って読んでから言ってください。私は言語学者である以前に社会学者なのです。何度も言っているように私は「科学者」です。「科学」を理解できない「頭のご不自由な方」をお世話する介護士やセラピストではありません。というわけで、今後のおつきあいはご遠慮させていただきます。<(_ _)>

>>> 藤井游惟さんへのお返事です。 >>>> 敗戦国に於ける学校教育の中で、「それまでの母国語の使用を禁じられたり、差別の問

題に拠って使用が憚られたり」したかが、重要な差異です。 >> 北海道では明治新政府による、日本語の標準語を学校教育の基本とする、文化政策によって、一部の学校を除き、アイヌ語の使用は極めて難しい環境に於かれ、それが暫く長期間続いたため、今日では、アイヌ語の日常会話を流暢に話せる方々は、極めて少数に減っているのが、現状です。 >> それに対して、戦後の日本に於ける、学校での英語教育は、必修科目として選択的な強制は、されているものの、一部の進学校やミッション系スクールを除いて、英語の授業以外では、日本語の使用が禁じられている訳では有りません。 >> 白村江の敗戦後に於ける、占領下に置かれた日本列島の西半分では、それまでの神代文字で書かれた文書に対する、徹底的な焚書に伴ない、それまで話されていた言葉も、次第に口にするのが、難しく成って行った事と思われます。 >> 太平洋戦争後に於ける、アメリカ占領下の日本では、GHQ司令部が日本語の使用を禁じたわけでは、有りません。 >> この二つの大きく異なる条件を、押さえておく事が重要だと考えます。

Re:蝦夷戦争 投稿者:管理人 投稿日:2013年2月16日(土)18時50分32秒 返信・引用 編集済

> No.1254[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 蝦夷征討は韓半島の武の話しで、東北の蝦夷とは何の関係もない。どこかの学者が創作したものでしょうな。文章を

> 古墳時代 > 蝦夷についての最も古い言及は、『日本書紀』にあるが、伝説の域を出ないとする考えもある。

しかし、5 世紀の中国の歴史書『宋書』倭国伝には、478 年倭王武が宋（南朝）に提出した上表文の中に以下の記述がある。 >>「昔から祖彌(そでい)躬(みづか)ら甲冑(かっちゅう)を環(つらぬ)き、山川(さんせん)を跋涉(ばっしょう)し、寧処(ねいしょ)に遑(いとま)あらず。東は毛人を征すること、五十五国。西は衆夷を服すること六十六国。渡りて海北を平らぐること、九十五国。」 >> この記述から、この時代には既に蝦夷の存在と、その統治が進んでいた様子を窺い知ることが出来る。日本武尊以降、上毛野氏の複数の人物が蝦夷を征討したとされているが、これは

毛野氏が古くから蝦夷に対して影響力を持っていたことを示していると推定されている。例えば俘囚の多くが吉弥侯部氏を名乗っているが、吉弥侯部、君子部、公子部は毛野氏の部民に多い姓である。 >

>『宋書』倭国伝 >> 順帝昇明二年、遣使上表曰:「封國偏遠、作藩于外、自昔祖彌、躬擐甲冑、跋涉山川、不遑寧處。東征毛人五十國、西服衆夷六十六國、渡平海北九十五國、王道融泰、廓土遐畿、累葉朝宗、不愆于歲。臣雖下愚、忝胤先緒、驅率所統、歸崇天極、道逕百濟、裝治船舫、而句驪無道、圖欲見吞、掠抄邊隸、虔劉不已、每致稽滯、以失良風。雖曰進路、或通或不。」 >。

ちょっとみなさんと興味深い論議をしていたようですね、見落としてました。やはり北海道式前方後円墳の問題が重要ですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/末期古墳> 実家にちかいので見に行ったことがあるのですが、ただこれらは7世紀代からとのことで、

武の時代とは少し異なるようです。

その前に宮城方面に4世紀代からの前方後円墳があるので、これが倭王武の記載に対応するのでしょうか。

北史にも北の境界を海としていて、津軽海峡あたりを示していた可能性を考えてますが、その後、7世紀代になると箱根とか草津、常陸の手前あたりを境界にもってくるんですね。中国側には北の境界は「山」として知らせてます。

その時代、その境界の北東は「日高見国」「日立」だったわけですが、この「日高」は九州の「日高」と関係して、新漢人系多氏等が、関東へ横穴墓を造営しながら移住していったときの名称と考えることは、先日論議したとおりです。

また武蔵国造の乱で負けた笠原直の小杵がやはり栃木方面の壬生へと移動していくのですが、この辺も新漢人との関わりがあって、しかし、7世紀代には境界外となっていたかもしれ

ません。

とすると、日高見国は、蝦夷を主体としながらも、意外にも新漢人といった中国系文化人の影響を受けていた領域だった可能性もできます。

それが新漢人の支援を得た天智時代あたりで、その日高見国吸収に際して、日本号が出てくるわけですが、この後、みなさんご指摘の東歌がでてくるわけです。その作者に関係するのがその今城とすると、近江毛野が磐井との話にでてきたように新漢人と接点が強く、近江から関東に移動する上毛野氏の伝承にも大陸系の伝承があることを考慮すると、その名の「今城」も「新・今来漢人」との関わりで生じて可能性も考慮すべきかもしれません。

彼らは片言なりとも文筆ができるので詩歌が詠めるんですね。

ただ、その東歌自体は、防人の歌だとすれば、その言語がどうであったか?は、もはや言語学者の手に負うしかないわけですが、どのくらい、言語面で蝦夷に倭語や韓・中国語の影響が及ぼされていたか?を考える上で、注目すべき課題かなとは感じます。 蝦夷戦争 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月16日(土)17時24分12秒 返信・引用 編集済

蝦夷征討は韓半島の武の話して、東北の蝦夷とは何の関係もない。どこかの学者が創作したものでしょうな。文章を最後まで読め、また、『宋書』倭国伝は日本に来ていない中国人が書いたもの、真に受けるのもほどほどにしたほうが良い。どうも、古代を研究している人はピント外れが多い。掃き溜めか。

古墳時代 蝦夷についての最も古い言及は、『日本書紀』にあるが、伝説の域を出ないとする考えもある。しかし、5世紀の中国の歴史書『宋書』倭国伝には、478年倭王武が宋（南朝）に提出した上表文の中に以下の記述がある。

「昔から祖彌(そでい)躬(みづか)ら甲冑(かっちゅう)を環(つらぬ)き、山川(さん せん)を跋涉(ばっしょう)し、寧処(ねいしょ)に遑(いとま)あらず。東は毛人を征すること、五十五国。西は衆夷を服すること六十六国。渡りて海北を平らぐること、九十五国。」

この記述から、この時代には既に蝦夷の存在と、その統治が進んでいた様子を窺い知ることが出来る。日本武尊以降、上毛野氏の複数の人物が蝦夷を征討したとされているが、これは毛野氏が古くから蝦夷に対して影響力を持っていたことを示していると推定されている。例えば倭俘囚の多くが吉弥侯部氏を名乗っているが、吉弥侯部、君子部、公子部は毛野氏の部民に多

い姓である。

『宋書』倭国伝

順帝昇明二年、遣使上表曰：「封國偏遠、作藩于外、自昔祖彌、躬擐甲冑、跋涉山川、不遑寧處。東征毛人五十國、西服衆夷六十六國、渡平海北九十五國、王道融泰、廓土遐畿、累葉朝宗、不愆于歲。臣雖下愚、忝胤先緒、驅率所統、歸崇天極、道逕百濟、裝治船舫、而句驪無道、圖欲見吞、掠抄邊隸、虔劉不已、每致稽滯、以失良風。雖曰進路、或通或不。」

順帝昇明二年(478年)、遣使が上表して曰く「封国は残念ながら遠く、藩を外に作り、昔より祖先は自ら甲冑を着け、山川を跋涉し、安らかに暮らす暇なし。東に毛人を征すること五十五国、西に衆夷を服すること六十六国、(海を)渡り海北を平定すること九十五国。王道は安泰に調和し、国土を拡張、京畿を遠く離れる。累代に亘って朝廷を尊び、歳を誤らず。臣は下愚といえども、忝くも後裔を先に残し、統べる所を率いて駆け、崇め帰すこと天を極め、道を百済に直行し、船舶を装備する。然るに高句麗は非道にも併呑を欲して謀り、辺境を略奪し隷属させ、(南朝宋の)劉氏を尊重して已まず、(そのために)いつも延滞させられ、(航行の)良風を失する。道を進むといえども、あるいは通じ、あるいは不通。

臣亡考濟實忿寇讎、壅塞天路、控弦百萬、義聲感激、方欲大舉、奄喪父兄、使垂成之功、不獲一簣。居在諒闇、不動兵甲、是以偃息未捷。至今欲練甲治兵、申父兄之志、義士虎賁、文武效功、白刃交前、亦所不顧。若以帝德覆載、摧此強敵、克靖方難、無替前功。竊自假開府儀同三司、其餘咸各假授、以勸忠節。」詔除武使持節、都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事、安東大將軍、倭王。

臣の亡き済は、仇敵が天路を塞ぐことを実に憤り、百万の弦を鳴らして訴え、正義の聲に感激し、まさに大挙せんと欲するも、突然に父兄が亡くなり、垂成の功をして一簣(モッコ一杯分)も獲れず。諒闇(一年の服喪)に在り、軍装の兵を動かさず、ここに休息するを以て未だ戦勝を得られず。今に至り、甲を練り、兵を治め、父兄の志を述べんと欲し、義士と勇士、文武に功を尽くし、白刃を前に交えるも、また顧みることなし。もし帝徳の覆戴を以てこの強敵を挫き、勝って方難を鎮めるも、前功に替えることなし。密かに開府儀同三司を自ら仮称し、その余も皆、各々に仮授(して頂ければ)、以て忠節を勧めらる。詔を以て武を使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭王に叙爵した。

Re:対蝦夷戦争の真っ最中です 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013年2月16日(土)14時28分 12秒 返信・引用

> No.1252[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

↓の様なことは私の本の第七章にちゃんと書いてあります。買って読んでから言ってください。私は言語学者である以前に社会学者なのです。

何度も言っているように私は「科学者」です。「科学」を理解できない「頭のご不自由な方」をお世話する介護士やセラピストではありません

ん。というわけで、今後のおつきあいはご遠慮させていただきます。<(_)>

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >> 敗戦国に於ける学校教育の中で、「それまでの母国語の使用を禁じられ

たり、差別の問題 に拠って使用が憚られたり」したかが、重要な差異です。 >> 北海道では明治新政府による、日本語の標準語を学校教育の基本とする、文化政策によ って、一部の学校を除き、アイヌ語の使用は極めて難しい環境に於かれ、それが暫く長期間続 いたため、今日では、アイヌ語の日常会話を流暢に話せる方々は、極めて少数に減ってしまっ ているのが、現状です。 >> それに対して、戦後の日本に於ける、学校での英語教育は、必修科目として選択的な強制 は、されているものの、一部の進学校やミッション系スクールを除いて、英語の授業以外では、日本語の使用が禁じられている訳では有りません。 >> 白村江の敗戦後に於ける、占領下に置かれた日本列島の西半分では、それまでの神代文 字で書かれた文書に対する、徹底的な焚書に伴ない、それまで話されていた言葉も、次第に口 にするのが、難しく成って行った事と思われます。 >> 太平洋戦争後に於ける、アメリカ占領下の日本では、GHQ 司令部が日本語の使用を禁じ たわけでは、有りません。

>

- > この二つの大きく異なる条件を、押さえておく事が重要だと考えます。 >>
- >>> 短期間では無理ですが、数十年という時間枠ならば十分に可能だと考えます。 >>>>>> 一人の百済語教師が、20 人程度の寺小屋の様な教室で、午前と午後に読み書き、問 答、唱歌などの授業を 25 年間続けたとすると、 >>>>>> $20 \times 2 \times 25 = 1000$ >>>>>> つまり、千人の教え子を設けることが出来るのです(^^) >>>> ほーお？ 日本では既に義務教育で 60 年以上も英語を教えており、現在 80 歳以下の人間 で英語を習ったことのない人はいないはずです。 >> たかが「学校教育」程度で国民全員の言語を取り替えられるなら、日本はとくに英語が 国語になっているはずです。 >>「寺子屋教育」程度で数百万人の国民の言語を取り替えられたと主張するなら、次回から 私への返信は全て英語で書いてください。 それ以外の場合、二度と返信しません。 > Re:対蝦夷戦争の真っ最中です 投稿者:青面金剛 投稿日:2013 年 2 月 16 日(土)12 時 23 分 8 秒 返信・引用

藤井游惟さんへのお返事です。

敗戦国に於ける学校教育の中で、「それまでの母国語の使用を禁じられたり、差別の問題に 拠って使用が憚られたり」したかが、重要な差異です。

北海道では明治新政府による、日本語の標準語を学校教育の基本とする、文化政策によっ て、一部の学校を除き、アイヌ語の使用は極めて難しい環境に於かれ、それが暫く長期間続い たため、今日では、アイヌ語の日常会話を流暢に話せる方々は、極めて少数に減ってしまっ ているのが、現状です。

それに対して、戦後の日本に於ける、学校での英語教育は、必修科目として選択的な強制は、 されているものの、一部の進学校やミッション系スクールを除いて、英語の授業以外では、日 本語の使用が禁じられている訳では有りません。

白村江の敗戦後に於ける、占領下に置かれた日本列島の西半分では、それまでの神代文字 で書かれた文書に対する、徹底的な焚書に伴ない、それまで話されていた言葉も、次第に口に するのが、難しく成って行った事と思われます。

太平洋戦争後に於ける、アメリカ占領下の日本では、GHQ 司令部が日本語の使用を禁じた わけでは、有りません。

この二つの大きく異なる条件を、押さえておく事が重要だと考えます。

>> 短期間では無理ですが、数十年という時間枠ならば十分に可能だと考えます。 >>>>>> 一人の百済語教師が、20 人程度の寺小屋の様な教室で、午前と午後に読み書き、問答、 唱歌などの授業を 25 年間続けたとすると、 >>>>>> $20 \times 2 \times 25 = 1000$ >>>>>> つまり、千人の教え子を設けることが出来るのです(^^) >> ほーお？ 日本では既に義務教育で 60 年以上も英語を教えており、現在 80 歳以下の人間で 英語を習ったことのない人はいないはずです。 > たかが「学校教育」程度で国民全員の言語を取り替えられるなら、日本はとくに英語が国 語になっているはずです。 >「寺子屋教育」程度で数百万人の国民の言語を取り替えられたと主張するなら、次回から私 への返信は全て英語で書いてください。 それ以外の場合、二度と返信しません。

Re:天岩戸は大神神社 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 16 日(土)08 時 46 分 17 秒 返信・引用 編集済

> No.1249[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

天岩戸伝承

九州は方位ラインが引きやすい、様ですな。

方位ライン上に天岩戸神社を建てたのでしょな。どうも、古代史学者は日本の地名をそのまま、当て嵌めて、これだと断定している。管理人さんも応神の枯野の伊豆国(伊都国)をと読み 伊豆・箱根の伊豆としている。

伊都国、伊豆国から魏志倭人伝の伊都国は呉音表記の「イズ(ヅ)コク」でしょな。

伊[音]イ(呉)(漢)

都[音]ト(漢) ツ(呉)

豆[音]トウ(漢) ズ(ヅ)(呉)

国[音]コク(呉)(漢)

高千穂宮には木花咲耶姫神社、筑紫、日向が書かれているので、一箇所に在ったと思われる。

謡曲「桜川」 氏神の木花咲耶姫(このはなさくやひめ)に我が子の無事を祈り、その行方を尋ねて旅に出ます。

天岩戸神社|高千穂

天岩戸神社の例祭等 春季大祭 西本宮祭 毎年5月2日~3日 秋季大祭 東本宮祭 毎年9月22日~23日 天岩戸夜神楽 33番大公開祭(11月 3日) 天安河原宮祭 10月 21日 国の重要無形民俗文化財である岩戸神楽(高千穂神楽)を奉納。 歴史等 伝承では平安時代に高千穂地方を治めていた、大神太夫惟基(おおがだいたこれもと)が弘 仁三年(812年)に悪夢を見て東本宮を建てたという。 以前は西本宮は「天磐戸神社」、東本宮は「氏社」でしたが、明治 4年(1871年)にそれぞれ

「天岩戸神社」、「氏神社」と改称、その後、昭和 45年(1970年)に両社が合併、現在の天岩戸 神社東西両本宮を称するようになったようです。 天岩戸 ご神体の「天岩戸」自体は西本宮から岩戸川を隔てた東本宮のある対岸にあります。 昔は洞窟だったようですが、今は窪みようになり、生い茂る木に隠れて、どんな形かわからないそうです。

天岩戸神社のバリアフリー情報 → 宮崎県のページ -----

「大秦」は弓月君の模様。

キリスト教との関連は「大秦」が解けなければ理解できませんな。

月氏(弓月君)が大秦に関係ありですな…。

日本書記に太伯(たいはく)を大伯と書いている。

大来皇女(おおくのひめみこ)は、天武天皇の皇女。大伯皇女とも書く。

太伯は会稽東冶こと上海ですな。

> つまり中国にあったネストリウスはキリスト教(景教)のイエスが十字架にかかった際の無損傷説と、損傷説との論議と関係するんです。 >> この点は古代史学会は無視してますが、主神の損傷の是非というのは、西欧ではかなり重要なウエイトを占めるんですね。まだまだ日本の古代史学会はその辺の神道教義の是非について、その本来国際的にみて重要視すべき部分について、十分に論議されてないといえるでしょう。

>>

Re: 対蝦夷戦争の真っ最中です 投稿者: 藤井游惟 投稿日: 2013年2月16日(土)02時27分 56秒 返信・引用

> No.1236[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> 短期間では無理ですが、数十年という時間枠ならば十分に可能だと考えます。 >

> 一人の百済語教師が、20 人程度の寺小屋の様な教室で、午前と午後に読み書き、問答、唱歌などの授業を 25 年間続けたとすると、 >> 20×2×25=1000

>> つまり、千人の教え子を設けることが出来るのです(^^)

ほーお？

日本では既に義務教育で60 年以上も英語を教えており、現在 80 歳以下の人間で英語を習ったことのない人はいないはずです。

たかが「学校教育」程度で国民全員の言語を取り替えられるなら、日本はとっくに英語が国語 になっているはずです。

「寺子屋教育」程度で数百万人の国民の言語を取り替えられたと主張するなら、次回から私への返信は全て英語で書いてください。

それ以外の場合、二度と返信しません。

Re:天岩戸は大神神社 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 15 日(金)23 時 07 分 59 秒 返信・引用 編集済

> No.1248[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 魏志倭人伝には天岩戸の位置が書かれていたんですな。 >
- > 女王国から南 4000 余里は大和葛城山、和泉葛城山を通り土佐の高知までの距離になる。 >
- > 朱儒國なんですな。 >
- > 秦野北斗著書、徐福と邪馬台国の秦野距離になる。 >

天岩戸の位置には、諸説ありますね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/天岩戸>

なお宮崎の天岩戸は、弥生時代の方位ライン上にあります。会報に載せた図参照。3 世紀の北 中島西原遺跡と東西ライン上にあり、この時期に方位区画が存在していたものと考えてます。 間接的に卑弥呼とかかわってきます。

それで、天岩戸伝承ですが、岩戸に籠る前に、天照大神が機織りの梭(尖った棒)でさされて 損傷したとの記載と、天照大神の妹が損傷したという記載があって、論議の種になってます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/天岩戸>

つまり中国にあったネストリウスはキリスト教(景教)のイエスが十字架にかかった際の 無損傷説と、損傷説との論議と関係するんです。

この点は古代史学会は無視してますが、主神の損傷の是非というのは、西欧ではかなり重要なウエイトを占めるんですね。まだまだ日本の古代史学会はその辺の神道教義の是非について、その本来国際的にみて重要視すべき部分について、十分に論議されてないといえるでしょう。

Ads by Google 天岩戸は大神神社 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 15 日(金)22 時 03 分 2 秒 返信・引用 編集済

魏志倭人伝には天岩戸の位置が書かれていたんですな。 女王国から南 4000 余里は大和葛城山、和泉葛城山を通り土佐の高知までの距離になる。 朱儒國なんですな。 秦野北斗著書、徐福と邪馬台国の秦野距離になる。

後漢書

『後漢書』倭傳では以下のとおり記述される。 女王国から南 4000 余里の小人国から東南に船で 1 年で黒齒国に着く。 自女王國南四千餘里至朱儒國人長三四尺 自朱儒東南行船一年 至裸國 黒齒國 使驛所傳 極於 此矣 『後漢書』東夷列傳第七十五倭

大神神社(おおみわじんじゃ)は、奈良県桜井市にある神社。式内社(名神大社)、大和国 一宮、二十二社(中七社)の一社。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁の別表神社。別称として三輪明神、三輪神社とも呼ばれる。

所在地: 〒633-0001 奈良県桜井市三輪 1422

Re:夜海上から測量するために天体観測 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 15 日(金)21 時 24 分 10 秒
返信・引用 編集済

> No.1245[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 日本の京都・奈良や中国の西安(昔の長安)などの緯度 > つく-まい [-まひ] 【突舞/▽柱舞】

> 新月 > 黄道と白道とが離れているあたりで新月となっても太陽と月は見かけ上南北にずれて しまうため日食は起こりません。また、同じく満月となってもやはり月は地球の影から 外れて しまうため月食は起こりません。日食や月食が起こるのは、月が黄道と白道の 交点 ...<http://eclipse.star.gs/dic/amazon.htm> >> 赤道とか黄道とか白道 > これは地球上の南北回帰線の緯度と一致します。 大円同士は必ず球面上の 2 ヶ所で交わ ります。<A

確かに日食・月食の開始時間の差から経度は出せますね。食周期は彼らも理解していたので

すが、問題は東西経度が違えば食がはじまる時間が異なることに気付いていたかどうかです。 また食がくるまで待つ時間のロスが大きい。

東西距離を出すのに簡単なのは山立ての三角測量ですね。南北の緯度差を周ひ算計(ノーモン)で計って、距離を出し、その距離を山立てで三角測量すれば、同じ距離の東西距離をすぐ 出せたはずですよ。山の上で狼煙を炊けばすぐできます。富士山頂がある時期から測量拠点に なってますね。先日の一度偏角の 4 世紀後半代からです。太陽測量に変化してます。

あとは、光通信の件ですね。鹿島から出雲まで、狼煙・光通信で瞬時に合図が届ければ、日出 の時刻の差で東西距離・経度差が計算できたはずですよ。

瞬時ではなくても、その通信にかかる時間をあらかじめ計算しておけば、後でその誤差を差し引きして、正しい距離が出せたでしょう。

ただ、その前提として、東のほうが早く日が出ることに気付いている必要があります。 プトレマイオスはローマ時代にすでに気付いてますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/地球球体説> 気付いていればちょっと知能指数が高ければ、すぐ上記の件は気付くでしょう。

扶余系の文化が仮に先のようにローマ系ユダヤ人とすれば、ある程度、その辺の知識も理解 していたかもしれません。

イエス・キリスト(餅) 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 15 日(金)11 時 12 分 31 秒 返信・引用

>陰陽五行説にのっとって、「木気」を害する「金気」を減することで、間接的に「木 気」を助ける呪術であり、木気の春を招く、吉野裕子先生がおっしゃっていた気がします。 鹿が金畜の代用ならば、これを殺して生首にすることに意味があることかと思えます。それ がなぜ酉の日なのか...しょうしょうわかりかねますが...

御頭祭ではかつて 75 頭の鹿が供えられた=サマリアではかつて過ぎ越し祭りで 75 頭の子 羊を生贄に捧げた。 ・御頭祭は、かつては旧暦 3 月の酉の日(今の 4 月中旬頃)に行われた 。

<http://d.hatena.ne.jp/nmomose/19100101/israel> =過ぎ越し(ペサハ)はユダヤ暦のニースーン(第 1 月)の 15 日から 21 日に行われ、そ れは西暦の 3 月から 4 月にあたる。

キリスト教徒のお祭り、例えば、復活節(イースター)は実は、ユダヤ暦のペサハの日 なの ですが、4 世紀ごろ、キリスト教の宗教会議でユダヤ人の暦を使うのは沽券に かわるとい うわけで、計算式をつくってその日(ほとんど同じ日)を決めることにしたそう です。

過越祭には収穫の「初穂」を献げ、そして五十日後、収穫の季節の終わりにまた感謝の祭を献 げたのです。
<http://homepage1.nifty.com/sorachik/library/ronbun/pentecost.htm>

「酉」は「?({系酉})」(しゅう「: ちぢむ」の意味)で、果実が成熟の極限に達した状態を表して いるとされる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%85%89>

果実は赤く なり、やがて黒く なる。 この頃が成熟期で、木々に鳥が訪れ、果実をついばむ光 景がみられる。http://www.foresternet.jp/app/srch3/get_file/4889

申・酉・戌・亥の四宮で、過咎、疑惑、寡少となります。 <http://www1.kcn.ne.jp/~wm6y-hrt/kaisetu5.htm> この中味を理解する為には正確な割付と分解が必要です。捉え方としては、全体の 81 分法 の内にさらなる 9 法、81 法があってその部分にも全体を含むというイレコ状態になって いる必要があります。

この原理があって初めてどの部分を分割拡大しても元の姿を失わない原型が保てるのです。 おそらく、遺伝子の構成も一方が欠けても元の完全体を再生できるような仕組みになってい るのだと思います。 エジ プト人の生命の再生にける情熱はこうした考えが成り立って始めて、骨や皮膚の一部からでも全体を再現せんとする、彼岸にも似た理念によって支えられていたのです。

この見えざる神の手によって成るものか、生命の神秘に触れずして展開することは不可能な のであります。始まりは終わりなくしては在り得ず、創造が破壊を伴うように、生と再生は死をなくしては 意味がなく、これらは一対 のもろ刃の剣のものの如きようです。

一崎は 57 年で三つに分けて、上元(19 年)中元(19 年)下元(19 年)とします。子 ~卯は始まりであり草創の 期、辰~未は中ほど安定期であり、申~亥は末、凋落と剥奪の期

であります。

いぬ-い【戌亥/乾】。戌亥(いぬい)(西北)も重要で、鬼門以前は、この方位が恐れられたらしい。西北風をアナ ジとかタマカゼと称し、悪霊とともに善神も来る両義的な方位とし、屋敷では稲荷をまつ る。...

<http://kotobank.jp/word/%E6%88%8C%E4%BA%A5> 悪霊とともに善神も来る両義的な方位

イエス・キリストは 12 月 25 日に誕生して 8 日後に割礼を受けたとされ、その日を 1 年の初 めをしたものです。 戌亥(西北) エルサレムの北西・ゴルゴダの丘で、ひとりのユダヤ人が磔の刑に処され ていた。そして、今 まさに息を引きとろうとした瞬間一天は闇と化し、稲妻が群衆を直撃 した。この魔の日蝕こそ地獄の到来の第一歩であったのだ...。 <http://www.amazon.co.jp/%E4%BF%AE%E7%BE%85%E4%B9%8B%E4%BB%8B%E6%96%AC%E9%AD%94%E5%89%A3%E3%80%88%E7%AC%AC1%E9%83%A8-%E6%B1%9F%E6%88%B8%E7%B7%A8-2%E3%80%89%E5%A4%A9%E4%B8%8B%E4%B8%B8%E8%A5%B2%E6%92%83-%E3%82%AB%E3%83%89%E3%82%AB%E3%83%AF%E3%83%8E%E3%83%99%E3%83%AB%E3%82%BA-%E9%B3%B4%E6%B5%B7/dp/product-description/404781802X>

>悪霊とともに善神も来る両義的な方位とし、屋敷では稲荷をまつる。... <http://kotobank.jp/word/%E6%88%8C%E4%BA%A5>

夜海上から測量するために天体観測 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 15 日(金)06 時 26 分 33 秒 返信・引用

日本の京都・奈良や中国の西安(昔の長安)などの緯度 つく-まい [-まひ] 【突舞/▽柱舞】 茨城県南部・千葉県北部で行われる神事芸能。雨ごいのためといわれ、高い柱の頂上などで 蛙に扮(ふん)した舞人が種々の業を演じる。蜘蛛舞(くもまい)の一種。<http://kotobank.jp/word/%E7%AA%81%E8%88%9E>

【蜘蛛舞】:《細い綱を渡る姿をクモ に見立てていう》綱渡りの一種で、室町時代から江戸時代 初めにかけて流行したもの。

民話や伝説に登場する鬼や蜘蛛とは、古代王権の支配下に入ることを潔しとしないこの 国

の先住民族が一方的に貶められた姿であることは良く知られている ...

<http://www.geocities.jp/tadatanome/contents/ogre/oni.html> 特に、鬼の伝承がある地域には必ず鉾山があり、鉄を御神体とする神社も非常に多いという。

蜘蛛舞(くもまい)。二艘船には、笛 や太鼓の祭囃子が奏じられる中、赤装束の舞人が二本 の綱の上での転回を見せます。<http://www.oganavi.com/data/020.php> 本祭は 7 月 7 日ですが祭事全体は一年をかけて行われ

ている 本祭は7月7日

6月7日(旧暦) 6月7日(旧暦)にくも舞が行われると書いている ので、
...http://homepage2.nifty.com/deracine/essay/z_cosmo/12akita02.htm 天王伝承館というこれから見る東湖八坂神社祭の行事を紹介する施設があるというではないか。雨でへこみがちの気持ちがいきなり奮い立ってきた。こんな施設があるなんてまったく知らなかった。出戸浜から歩こうなんて思わなければ、出くわさなかったわけである。さっ そく行ってみただが、無人であたりは真っ暗。どうしたもんかと思ったが、映像の紹介が11時半からあるというので、それまで近くの「スサノオの村」(弥生時代の集落を再現した施設)などがある公園を散策してみる。雨も小降りになってきた感じがする。 大きな池にはくも舞の船の模型も展示されてあった。牛追いの像もある。ここは八坂神社 のお祭を紹介することを大きな目玉にしているようだ。 道の駅にあったくも舞の船の模型 http://homepage2.nifty.com/deracine/photos/cosmo/cosmo12akita10_1.jpg 8月 15日(旧暦) 東湖八坂神社は、およそ 1200 年前に東北を征圧した坂上田村麻呂が創建したといわれる由 緒ある神社で、祭神はスサノオ、今日のお祭もスサノオの八岐大蛇退治の神話にちなんでい る。 まずは神輿巡幸が天王を出発、八郎潟と日本海を結ぶ船越水道に架けられた八竜橋を渡っ て川向こうの船越を巡幸する。神輿が再び天王に戻る途中、八竜橋で停まると、天王から八竜 橋のたもとまで、スサノオに扮した男が牛に乗ってやってくる。また、この水道に浮かべられ た舟の上では、赤装束の八岐大蛇(ヤマタノオロチ)に扮した男が「くも舞(蜘蛛舞)」を演 じる。この時神輿は「くも舞」と掛け合うようにお囃子を演奏する、というのが今日の祭のあらまらしい。 文化元年(1804)8月 15日(旧暦)早朝土崎を出発した菅江真澄は、この日のうちに天王 村に入り、八坂神社に詣でている。そしてこの神社で行われている不思議な祭りについてかなり詳しく書き留めている。6月7日(旧暦)にくも舞が行われると書いているので、この 時実際に見たわけではなく神主から聞いた話を書き留めているのか、または真澄は何度か男 鹿半島を旅しているのか、別の時に実際に見た「くも舞」のことをここに書き残しているのか、

定かではないのだが、菅江真澄は、この時の旅の記録『男鹿の秋風』のなかで「くも舞」についてこう書いている。「湖面には小舟をつなぎあわせて船越の浦の人々が漕いでくる。舟のなかにも屋形山(つく りもの)が飾られ、たいそう賑やかである。神女がひとり、神官が三人乗っている舟のともと へさきには、太く長い柱を二本たて、それに三尺ほどの横木をしばりつけ、ともの柱には白木 綿を一反巻き、へさきの柱には赤い木綿をまいて、そのふたつの柱の横木にかけて二本の縄 をひきまわしてある。体に赤衣をまとい、さした腕貫き(腕にはめる筒形の布)・脚絆・足袋 もみな赤色の木綿で、頭には赤白の麻の糸をふりみだしてかけてかざらし、顔には黒い網をもって仮面のようにつけた者が、二筋のわら縄の上にのぼって、八つの山、八つの谷の間を はいわたり、八つのかめの酒を飲みにきたように、この湖のゆるる波のなかをのたうちまわ るように、のけぞるふるまいをしながら舟を漕ぎめぐってくる。八岐の大蛇のふるまいである。これを土地の人は蜘蛛舞という。」

旧暦では、7月、8月、9月が秋 ですから、8月は仲秋(中秋) (旧暦 8月 15日 仲秋の名月 芋名月)。旧暦では、7月、8月、9月が秋 ですから、8月は仲秋 (中秋)ということになります。8月 15日の満月が仲秋の名月です。http://www.kuidaore-osaka.com/jp/starting_point/senba/9815.html

新月 黄道と白道とが離れているあたりで新月となっても太陽と月は見かけ上南北にずれて しま うため日食は起こりません。また、同じく満月となってもやはり月は地球の影から 外れてし まうため月食は起こりません。日食や月食が起こるのは、月が黄道と白道の 交点 ...<http://eclipse.star.gs/dic/amazon.htm>

赤道とか黄道とか白道 これは地球上の南北回帰線の緯度と一致します。 大円同士は必ず球面上の2ヶ所で交わり ます。<http://www.ffortune.net/fortune/astro/coordinate.htm> 地球の自転軸は公転面に対して約 23度 26分傾いていますので、赤道と黄道の距離も 23度 26分あることになります。これは地球上の南北回帰線の緯度と一致します。 大円同士は必ず球面上の2ヶ所で交わります。赤道と黄道の公転は春秋分点(Equinox)と呼ば れ、太陽が 3月下旬に通過するポイントが春分点、9月下旬に通過するポイントが秋分点です。黄道と白道の交点は昇降点と呼ばれ、占星術の世界では昔からドラゴンと呼ばれていました。 現代では月が昇っていく点を龍頭(Dragon Head)と呼び、降りていく点を龍尾(Dragon Tail)と 呼んでいますが、この名称は歴史的に常に混乱していました。詳しいことについては感受点 概要の龍頭龍尾のところを参照して下さい。黄道・白道・赤道のほかに、もうひとつ重要なものは地平線です。星が地平線より上に出て いるか下に出ているかは常に重要な問題ですので、天体の位置を考える時にこれは無視でき

ません。赤道と地平線のなす角度は緯度と一致します。 このほか、子午線・卯酉線・寅申線・辰戌線についても触

れておくべきでしょう。これらの 名前は東洋の方位の名前に由来します。東洋の方位について詳しいことはこの付近を参照し て下さい。

日本の京都・奈良や中国の西安(昔の長安)などの緯度では、冬至の太陽は辰の方位から昇っ て申の方位に沈み、夏至の太陽は寅の方位から昇って戌の方位に沈みます。そこでこの方位 はひじょうに重視され、古代から寺社の配置などに使用されてきました。中国・日本ではそ のために十二等分の方位が普及したというのもあるでしょう。

地図で我々が知ることのできるものは地理的緯度(或は測地的緯度)といって、観測点において地球楕円体(*1)に立てた法線が地球の赤道面と為す角度である。 これに対して我々が必要なものは、例えば北極星の南北における子午線通過位置 を観測するなどして実際に天体観測によって得られる緯度で、天文緯度という。 これは地理的緯度と約 0.01 度以内程度の差がある。 この他に観測点と地球の中心を結ぶ線が赤道面と為す角度を取る地心緯度という緯度の測 り方もある。

黄道座標で経度が同じになる瞬間 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 15 日(金)03 時 27 分 45 秒 返信・引用

新月とは、月と太陽の黄 経の角度差が 0 度となる瞬間です。新月は、日の出の頃に 昇って、 日の入りの頃に 沈みます。<http://ameblo.jp/notemagic/entry-11404096335.html> 月の満ち欠け 望は満月、朔は新月を意味します。厳密には、満月とは地球の中心から見て月 と太陽が反対側に来る瞬間(黄道座標で経度が 180 度異なる瞬間)、新月とは地球の中心か ら見て月が太陽と同じ側に来る瞬間(黄道座標で経度が同じになる瞬間)を指します。 上 弦の月や 下弦の月も同様です。カレンダーにはこの時刻も記載しています 。
<http://www.astron.pref.gunma.jp/almanac/almanac.html>

夜海上から測量するために天体観測をしよう と した時の歌ではないかと想像しました。 ... 潮の干満差の大きい状態で、新月(旧暦の 1 日頃)や満月(旧暦の 15 日頃)の前後数日 間 の こ と で す 。
http://blog.goo.ne.jp/go-hot-ai2395/e/39542be556af1fb1539f4751f1972c50?fm=entry_awc

『熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかないぬ今は漕ぎ出でな』 これは出陣の歌とされていますが、全く別の状況を歌ったものと考えます。 全く別の状況の歌を、661 年斉明天皇の出征の物語を創った後に、万葉集の時に差し入れた

のではないのでしょうか。 馬鹿馬鹿しいと思われそうですが、これは夜海上から測量するために天体観測をしよう と した時の歌ではないかと想像しました。 現代では測量船なるものがありますが、7 世紀、8 世紀では海上からの測量は難しいと思えます。(陸から海上の船までの距離は三角法で計算できるそうですから、古代でもその程度は 可能でしょう) ですが、藤原広嗣の乱の時の聖武天皇の彷徨とされているのは、実は聖武天皇が測量をして いたものと解釈しています。 <http://blog.goo.ne.jp/go-hot-ai2395/e/a7ac069c832592714d8467869a087ff6> 聖武天皇の東国行幸の目的の推測 2009 年 02 月 28 日

Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 14 日(木)22 時 37 分 51 秒 返信・引用

> No.1242[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> そこで彼らは倭国に乗り込み、允恭大王らの面前で射技を披露、臣下として取り立てら れた-と考えます。これが「戸田宿禰の伝承」の真の意味です。 > おそらく允恭大王は、彼らを「南韓守備の傭兵」として雇い入れたはずであり、これから 的臣氏の南韓守備は、欽明代まで続きます。

的臣の件は重要ですね。九州の石人・楯・的の紋様に関わります。

「十二年秋七月三日、高麗国が鉄の盾・鉄の的を奉った。 八月十日、高麗の客を朝廷でもてなされた。この日、群臣百寮を集めて、高麗の奉った鉄の 盾・的を試した。多くの人のが的を射通すことができなかった。ただ的臣の先祖の盾人宿禰 (たてひとのすくね)だけが鉄の的を射通した。高麗の客たちは、その弓射る力のすぐれた のを見て、共に起って拝礼した。翌日盾人宿禰をほめて、的戸田宿禰(いくはのとだのすく ね)と名を賜わった。同日小迫瀬造(おはつせのみやつこ)の先祖、宿禰臣(すくねのお み)に名を賜わって賢遺臣(さかのこりのおみ)といった。」

盾人宿禰というのが、如何にも石人を想起させます。楯を背負う人の姿ですね。 ただ的戸田宿禰は応神時代にすでにみえてますね。

気長足姫尊 摂政六十二年 襲津彦を遣わして新羅を撃たせる。(『百濟記』が伝えるところ、貴 国は沙至比跪(さちひこ、襲津彦)を使って新羅を撃たせようとしたが、沙至比跪は新羅の 美女に心を奪われ矛先を加羅に向け、加羅を滅ぼしてしまう。百濟に逃げた加羅王家は天皇 に直訴し、天皇は木羅斤資(もくらこんし)を使わし沙至比跪を攻めさせる。沙至比跪は天 皇の怒りが収まらないことを知ると自殺した。)

誉田天皇 十四年 百濟の弓月君(ゆつきのきみ)が誉田天皇に対し、百濟の民人を連れて帰 化したいけれども新羅が邪魔をして加羅から海を渡ってくることができないことを告げる。 天皇は襲津彦を加羅に遣わして百濟の民を連れ帰るように命令するが、三年なんの音沙汰も なくなった。

誉田天皇 十六年八月、天皇は平群木菟宿禰(へぐりのつくのすくね)・的戸田宿禰(いく はのたのすくね)に「襲津彦が帰ってこないのはきっと新羅が邪魔をしているのに違いな い、加羅に赴いて襲津彦を助けろ」といって、加羅に兵を派遣した。新羅の王はその軍勢に怖 じけづいて逃げ帰った。そして襲津彦はやっと弓月氏の民を連れて帰国した。

大鷦鷯天皇 四十一年三月 紀角宿禰(きのつのすくね)に無礼をはたらいた百濟の王族の 酒君(さけのきみ)を、百濟王が襲津彦を使って天皇のところへ連行させる。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/葛城襲津彦>

弓月氏の民は秦氏のことですが、百濟王族の酒君は、つまり秦酒公でしょう。下記の記載が 見えてきます。

5 世紀後半ころの廷臣と伝える人物。《日本書紀》雄略 12 年 10 月条に、天皇が木工闘鷄御田 (つげのみた) を采女を犯したと疑って処刑しようとしたとき、酒公が琴の歌によって天 皇をいさめたという話と、同 15 年条に秦の民が分散して諸氏のもとに駆使されているのを 嘆いて、酒公が天皇に訴えたので、天皇はこれを集めて酒公に賜り、酒公はこれを率いて 絹や縑(かとり)を献じたが、その絹・縑が朝廷にうず高く積まれたので、禹豆麻佐(うず まさ)という姓を賜ったという有名な話がみえ、後者は《新撰姓氏録》や《古語拾遺》にもみ えるが、どこまで事実か確かではない。

<http://kotobank.jp/word/秦酒公>

似たような連行伝承が、木羅斤資の子の木満致にあって、彼が蘇我満智だとされています。つ まり先日のとおり、蘇我氏というのは秦氏の首長で、つまり百濟・秦韓地域を支配した首長 氏の一派なのでしょう。秦韓は新羅慶州ではなく、任那の北にあった百濟と新羅の中間域に あったと想います。

弓月君と酒君がいたのですが、前者が月氏系の弓月国出身者、後者が隣の「塞」サカ族出身者

で微妙な相違があったかもしれません。

Ads by Google Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 14 日 (木)14 時 43 分 37 秒 返信・引用

> No.1241[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> それ以前の秦・燕人流入の時代か。高句麗古墳の三足烏に扶桑木信仰がみえます。

「燕人=和珥氏」 、「和珥氏のルーツ」は燕人であること、彼らが高句麗を経由して来倭したこと、その渡来は 4 段階で把握できることを述べてきました。... 1 王仁(和邇吉師)が「燕人」で あるとする なら、おそらく彼は後燕建国(384)後の混乱時に、祖国を離れたと思われます。 <http://yumiki.cocolog-nifty.com/nautica/2010/08/102-10ac.html> 3「高麗の客」的臣(いくはのおみ)氏の渡来です。 436 滅亡後の「旧燕兵」たちが、高句麗により「客軍」とされ、百濟攻略戦に投入されたこと は解説しました。もとより彼らは高句麗への忠誠心など持ってないから、自分たちの特技を 高く買ってくれる所なら、どこでも喜んで移籍したろう。そこで彼らは倭国に乗り込み、允恭大王らの前で射技を披露、臣下として取り立てられ た-と考えます。これが「戸田宿禰の伝承」の真の意味です。 おそらく允恭大王は、彼らを「南韓守備の傭兵」として雇い入れたはずであり、これからの 臣氏の南韓守備は、欽明代まで続きます。 なお「★89.任那日本府と欽明紀の問題点」では、百濟聖王が、倭国の將軍「的臣」の不実を 欽明大王に訴えていたことを紹介しました。「的臣は何もしていな

いの、手柄を立てたと倭本国へウソの報告を送っている」この非難も、的臣氏が実は「傭兵」だったから-と考えれば理解しやすい。彼らは危険を冒そうとせず、うわべの「点数稼ぎ」に徹しているわけ。これはまったく傭兵らしい行動です。さらに允恭大王は、彼らのうちから側近を取り立てたと考えられ、これが「和珥氏の口子臣=的臣氏の口持臣=中臣イカツオミ」に相当します。この三人は同一人物と見て間違いない。なおこの後で、的臣氏は、すでに倭国で出世していた同族「王仁/わに」にあやかって「和珥氏」に改名したのだと思います。

「河内馬飼」や、鍛冶集団と思われる「凡河内氏」も、やはり彼らの同族と察せられる。後者は「★国造本紀5」のJグループ(天津彦根系)にあたります。

三河国幡豆郡吉良荘(愛知県幡豆郡吉良町)の前期東条吉良氏の第三代吉良経家の子で、奥州管領吉良氏の初代となり、陸奥国の南朝(日本)勢力の鎮撫に努めた。

「鹿島の語源は、船をつなぐ杭を打った「かし」「か」「状」などの字のへんに羊、「し」は哥へんに戈、以下同様。)島」からきているようである。『肥前国風土記』杵島郡の条に、景行天皇が船をとめたとき、船かし(船つなぎの杭)から冷水が自然に湧き出た。または船が泊まったところが、ひとりで一つの島となったので、天皇はこの郡をかし島の郡とよぶがよい、と聞いた。いま杵島(きしま)の郡とよぶのはカシシマが訛ったのである、とみえる。この地は有明海に面し、杵島郡の南隣が藤津郡鹿島とよばれている。したがって、本来は船をつなぎとめる杭を打つ島(場所)を意味するカシシマが、一方はキシマ、他方はカシマに転訛したのである。」・志田諄一『風土記を読む』p 131<http://blog.goo.ne.jp/familyplot1976/e/d9fab6cf06a113969b475b87da9c6b81>「状」などの字のへんに羊、「し」は哥へんに戈 おそらく幡頭神社の沖合に浮かぶ梶島も「かし島」や「か島」の一種なのだろう。梶島は現在、無人島だが、上陸した人のブログを見ると棧橋や古い井戸の跡などが残っているようなので、かつては小さな漁村か何かがあったらしい。ハズ世界が栄えた頃は海民たちの集団がこの島に居住し、浜辺には多くの船が並べられていたのではないかな。

牂 哥戈 船牂[哥戈](かし)の穴から冷水が自然に湧き出た。またはこうもいう。船が泊まった処はひとりで一つの島となった。天皇はご覧になって群臣たちに仰せられるには、「この郡は牂[哥戈]島(かししま)の郡と呼ぶがよい」と。<http://www3.kitanet.ne.jp/~nihirata/20120608.html> 小値賀島には神社の境内ニカ所に弥生遺跡があり、壺形土器などが発見されている。興味深いのは、発掘地点は不明だが、この島には戦前に国宝に指定された中国・春秋時代の蜀の作という環頭(かんとう)太刀があったらしい。ところが、敗戦後アメリカ軍に接収され行方不明となっていてまだ返還されていないという。

ハズセカイ系とは何か(5)【幡頭神社(愛知県西尾市吉良町宮崎)】<http://blog.goo.ne.jp/familyplot1976/e/71572e77a29df5810480d9f89802390e> 大避神社は式外社。社伝によると秦河勝の子孫、赤穂大領秦造のとき河勝を氏神として祀り、天喜三年に正二位、治暦四年に正一位となったという。なお、山城国葛野郡にはやはり秦氏と関係深い式内社の大酒神社がある

現祭神は天照皇大神・春日大神・大避大神の三柱大避大神とは秦河勝のこととされる。旧祭神は秦河勝と秦酒公だった『播磨鑑』(宝暦十二年)によれば、聖徳太子の寵臣として知られる秦河勝は皇極二年九月十二日に蘇我入鹿の乱を避け、難波から生島まで逃れてきた。彼を迎えた坂越の浦人は島に新殿を建てて奉仕し、河勝が没すると亡骸をこの島に葬って祀った。これが大避神社の創祀である。つまり生島は当社の旧社地だったことになる(生島から現在地に社殿が遷ってきた時期は不明)。

ヒョウタンのように2つの丘があるフォルムはベックリンの『死の島』を思わすが、実際にこの島には古墳があり、古代人は冥界として意識していた

生島には円墳があり秦河勝の墳墓として信仰されている円墳があり、築造年代は5C中頃~6C始めなので河勝とは年代が合わないが、当社の祭祀はそもそもこの古墳へのそれから始まったらしい。『赤穂市史』はその被葬者を地域の生産・交易を支配した津長クラスの人物に求めている。ちなみに後世になって河勝の名前が当社の祭祀と結びついたのは、大避神社のある播磨国赤穂郡に秦氏が多く居住していたことが関係していたと思われる。

幡豆郡(はずぐん)は三河国の郡。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%A1%E8%B1%86%E9%83%A1> 古代律令制の三河国の幡豆郡に端を発する。古くは播豆、波豆、芳豆、芳園、者豆、などと表記した。名前の由来は地域内の式内社幡頭(はず)神社に由来するという説や、域内

の磯泊（しはと）郷からハト、ハズに転訛したという説、停泊地を意味する『泊（ハク）』が訛った という説などがある。離島の佐久島(古代名:析嶋)、日間賀島(古代名:比莫嶋)、篠島(古代名:篠嶋)は、旧幡豆郡に属する。出土の木簡に多数の表記あるため、現在旧尾張国の知多郡南知多町に属する日間賀島と篠島は、もとは三河国幡豆郡であった。篠島・析島からは、佐米楚割(さめのすやわり)と呼ばれる、鮫を日干しにして割いた珍味が、朝廷に寄進されていた。

「知多半島の先端部およびその周辺(島々)は奈良の平城京から出した木簡により、古くは幡豆郡に含められていたことがわかっている。〈中略〉伊勢の海を渡る海上ルートは三重県の志摩地域から東に浮かぶ島々を通り、神島・伊良湖岬へ、そこから北上して三河湾を浮かぶ島々をわたり羽豆岬(知多半島最先端)あるいは矢作川河口部へ、というコースが古くから根づよく存在していた。古代の文書資料からも佐久島、日間賀島、篠島もかつて幡豆郡に所属し、また碧南市南部(大浜)、あるいは衣浦(衣ヶ浦)も含めて幡豆郡に含まれていた可能性が考えられている。つまり三河矢作川下流域はもとより、知多半島の三河湾沿岸部および

半島先端部、さらに三河湾に浮かぶ島々と渥美半島先端はひとつの世界であっ

た。」<http://blog.goo.ne.jp/familyplot1976/e/ae59889338b46d92c8dd9c7b116b4498>『延喜式』神名帳にはハズ世界の指標となる神社が二社見えている。ひとつは尾張国知多郡の

羽豆神社で、これは知多半島の最先端に当たる羽豆岬に鎮座している。

もうひとつは、三河国幡豆郡の幡頭神社で、これは西尾市東部の小半島、宮崎の先端部に鎮座する。社地ふきんからは前方に佐久、日間賀、篠の三河三島をはじめ、渥美・知多両半島の先端部が、さらに大気の状態がよければその遠方に伊勢・志摩の山並みが望める。ハズ世界を一望できる絶景の地に、この神社は鎮座しているのだ。

社地から北に 2.5km ほど離れた場所には正法寺古墳という前方後円墳がある。4C 後半~5C 前半に築造されたもので、墳長規模約 94 m は西三河最大とされる。平成 13・14 年に行われた墳丘の発掘調査では三段築の墳丘に葺石が施され、円筒埴輪が巡らされている典型的な畿内型の古墳であることが確認された。

正法寺古墳が立地しているのは舌状台地の端部である。築造された当時、この台地の下は海で、すぐ足許まで波が押し寄せていた。つまりその頃の正法寺古墳は三河湾に向かって突き出た岬の先端にあったのだ。明らかに伊勢と三河を結ぶ舟運からのランドマークになることを意識した立地であり、おそらくその被葬者はハズ世界の王であった人物で、そのような舟運を支配して力と富を蓄えるいっぽう、ヤマト王権が伊勢から東国へ進出する際には海上輸送によってそれを支えたのだろう。古代における幡頭神社の祭祀はこの古墳の被葬者と、彼が従えていた海民の集団に密接な関わりがあったに違いない。社伝によると、ヤマトタケル尊が東征した際、副将軍としてこれにしたがった建稲種命が駿河湾で逝去し、その遺体が当社の鎮座する宮崎に漂着、里人はこれを手厚く葬った。その後、大宝二年(702)に文武天皇が霊夢によってこの地に建稲種命の墳墓があることを告げられ、勅命によって社殿を造営し矛を納めて神体としたのが当社の創祀であるという。

かつて漁民の間では著名な「流れエビス」の信仰が行われていた。漂流死体を「えびす様」として喜び、それを手厚く葬れば豊漁がもたらされるという信仰である。おそらく幡頭神社や尾崎神社の社伝は、こうした信仰や、半島や岬の先端に航海神を祀るというこれまた全国各地に事例の多い海民のそれから生じたものだろう。そこに見られる建稲種命の名前は後世の附会と考える

Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 13 日(水)21 時 24 分 22 秒 返信・引用 編集済

> No.1239[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- ・ > 時間軸を合わせる必要がありそうですね。 >
- ・ > 稻荷山「治天下獲□□□鹵大王世、奉事典曹人名无□□」の剣、鏡を送る、造る事は何か
- ・ > 祝い事があったと見るべきだな。 >>『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」
- ・ > も同様だな。 >

- > 好太王碑(こうたいおうひ)の辛卯年(391 年)は 271 年が適当な年代ではないか。 >
- > 海]を渡り」は残欠の研究から「海を渡り」とされ、日本学会の通説では以下のように解釈される。
>> 百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民 >

ちょっと高句麗の始祖伝承を調べなおしてありますが、どうもユダヤ・キリスト教のような要素が複数みえます。

後漢書の記載の時点で、すでに日光懐胎(マリアと同じ処女懐胎)、その後の馬小屋での王の育成など、この辺はシルクロード系で当時中国に出入りしていたローマ(大秦)系集団との関わりを疑います。扶余人とその系統の弁・秦人はかなり大柄で金属精錬技術に優れていたとありますから、やはりコーカソイド系の可能性があります。

おそらく亀慈国経由で月氏(後のゾグド人)が扶余に移動した経緯で、そのシルクロード系の伝承が流れ込んだのではないのでしょうか。ここで、日光受精というのは、「日」に関する信仰へと移行して、ゾグド系の新漢人等が高句麗経由で南下して渡来する際に、その「日鷹・日鷲」信仰に影響していったのかもしれない。

もともとある時期から扶余方面に太陽信仰があったのではないのでしょうか。扶余を扶桑とした先日(の)僧・ケインの件がありますね。扶桑木信仰がつまり太陽信仰なのですが、実際にある時期に扶余に扶桑木信仰な流れ込んだ経緯があったのではないのでしょうか。楽浪郡時代か、それ以前の秦・燕人流入の時代か。高句麗古墳の三足烏に扶桑木信仰がみえます。

これが後に天岩戸隠れの日神信仰とも関わってくるでしょう。 Re:後ろの正面 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 13 日(水)16 時 27 分 52 秒 返信・引用 編集済

> No.1238[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

秦野です。宜しく。童謡かごめかごめの意味が、少し見えた様ですな。

古事記のアマテラスは神話の文章から鳥になっているが、どんな鳥か不明。ただ、『隋書』倭国伝に「號阿輩雞彌」があり「雞:にわとり」と思っていました。この歌がアマテラスの天岩戸に合うので、読み解くと。確かに「雞:にわとり」

「竹堂隨筆」出来るだけ古いのにする。

「かアごめかごめ。かーごのなかの鳥は。いついつでやる。夜あけのぼんに。 つるつるつっぺえつた。なべのなべのそこぬけ。そこぬいてーたーアもれ。」

「かアごめかごめ。かーごのなかの鳥は」:アマテラス「雞:にわとり」が天岩戸に隠れる。「いついつでやる。夜あけのぼんに。」:いつ出るの、夜が明け次の日の夜になって出た。

「つるつるつっぺえつた。」:しゃべった。 アメノウズメが「貴方様より貴い神が表れたので、喜んでいるのです」

「なべのなべのそこぬけ。」:天岩戸が開いた。「そこぬいてーたーアもれ。」:アメノタチカラオが岩戸の外へ引き出した。「後戸(うしろど)の神と戌亥(いぬい)」から天岩戸は南東方向に向く事になる。

猿楽、日本舞踊、雅楽、祭りに古代の記録が隠されている模様。 また、天岩戸からアマテラスの紋はカゴメ紋の可能性もある。 伊勢神宮のカゴメ紋はアマテラス紋だな。境内に鶏も居るし..

> ----- > 後戸の猿楽はかぐら >> あるいはまた、世阿弥は、こうもいっている。「天鈿女(あめのうずめ)の岩戸での神憑 (かみがかり)の舞いを述べ、その時の神楽あそびが、猿楽の始めであり、....」

>

- > 後戸(うしろど)の神と戌亥(いぬい) >
- > 後の正面とは、岩戸の前に置かれた鏡に映つし出されている、アマテラスの御姿。 >

- > -----

「竹堂隨筆」

竹堂隨筆(ちくどうずいしゅう):文政 3 年(1820 年)頃に編纂) 浅草覺畔院に住した修験僧「行智」の編んだ童謡集で、宝暦・明和年間(1751 年 - 1772 年)頃に 収録された童謡集 「かアごめかごめ。かーごのなかの鳥は。いついつでやる。夜あけのばんに。 つるつるつっぺえつた。なべのなべのそこぬけ。そこぬいてーたーアもれ。」

『隋書』倭国伝

開皇二十年、倭王姓阿每、字多利思比孤、「號阿輩雞彌」、遣使詣闕。上令所司訪其風俗。使者言 倭王以天為兄、以日為弟、天未明時出聽政、跣趺坐、日出便停理務、云委我弟。高祖曰:「此太 無義理。」於是訓令改之。

開皇二十年(600 年)、倭王、姓は阿每、字は多利思比孤、号は阿輩雞彌、遣使を王宮に詣で

させる。上(天子)は所司に、そこの風俗を尋ねさせた。使者が言うには、倭王は天を以て兄 となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、結跏趺坐(けっかふざ=座 禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を停め、我が弟に委ねるという。高祖が曰く 「これはとても道理ではない」。ここに於いて訓令でこれを改めさせる。

『新唐書』日本伝

欽明之十一年、直梁承聖元年。次海達。(次用明、亦曰目「多利思比孤」)、直隋開皇末、始與 中國通。次崇峻。崇峻死、欽明之孫女雄古立。次舒明、次皇極。 其俗椎髻、無冠帶、跣以行、幅巾蔽後、貴者冒錦;婦人衣純色裙、長腰襦、結髮于後。至煬帝、 賜其民錦線冠、飾以金玉、文布為衣、左右佩銀?、長八寸、以多少明貴賤。

欽明の十一年は、梁の承聖元年(552 年)に当たる。次は海達。次は用明、また目多利思比 孤といい、隋の開皇末に、初めて中国と通じた。次は崇峻。崇峻が死ぬと、欽明の孫娘の雄古 (推古)が立った。次は舒明、次は皇極。その俗は椎髻(不明)し、冠帯はなく、裸足で歩き、幅広の巾で後を隠し、貴者は錦の帽子 婦人の衣は純色(鮮明な色)の裙(もすそ)、長い腰襦袢で、髪を後に結う。 煬帝に至り、その民に錦線冠を賜り、金玉で飾り、文様入りの布を衣と為し、左右に銀?を佩 びる、長さ八寸、多少は貴賤が明確となる。

- > > 童謡かごめかごめの意味 >
- > > 3.夜明けの晩に
- > > 夜明けの晩が、夜明け前の晩という意味だとすると。
- > > 暗黒の晩が終わり、希望の夜明けが始まるという事かもしれない。 >
- > > 5.後ろの正面だあれ
- > > この意味は難解である。 >

Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 13 日(水)10 時 01 分 17 秒 返信・引用 編集済

> No.1237[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

時間軸を合わせる必要がありそうですね。

稻荷山「治天下獲□□□鹵大王世、奉事典曹人名无□亅」の劍、鏡を送る、造る事は何か 祝い事があったと見るべきだな。

『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」 も同様だな。

好太王碑(こうたいおうひ)の辛卯年(391 年)は 271 年が適当な年代ではないか。 海]を渡り』は残欠の研究から「海を渡り」とされ、日本学会の通説では以下のように解釈され

る。

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

〈そもそも新羅・百殘は(高句麗の)属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年 (391→271 年)に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。〉

辛卯年 211 年 271 年 331 年 391 年

「割竹型石棺蓋」は中近東の石棺でないか。渡来人の影響では…。

>>「菩提樹蔭絵香篋」は国の重要文化財に指定されている。また、境内には明治時代に玉手山 3 号墳(勝負山古墳)から出土したとされる「割竹型石棺蓋」が置かれており、かつては手水鉢 として使われていた。これも重要文化財に指定されている。 > 最初の小さな門をくぐるとすぐに参道の両側に安福寺横穴群が広がっている。これら横穴 群は、谷間の凝灰岩が露出しているところに掘られており、参道南側、北側に各 16 基、計 32 基確認されている。かつては古代人の住居であるといわれていた時期もあったが、石棺や陶 質棺、陶器などが見つかっており、中には騎馬人物像などの壁画が描かれたものもあり、古墳 時代後期の横穴墓であることがわかっている。大阪府の史跡に指定されている。

後ろの正面 投稿者:青面金剛 投稿日:2013 年 2 月 13 日(水)06 時 40 分 20 秒 返信・引

用 棘の紀氏さんへのお返事です。

後の青面です。北海道の地形も四隅突出型に見えなくもないので、凶相の話を持ち出される のは、心苦しいのですが。出来ましたら、「未広がり」との言葉を使っていたideきたく思います。

後戸の猿楽はかぐら あるいはまた、世阿弥は、こうもいっている。「天鈿女(あめのうずめ)の岩戸での神憑(かみがかり)の舞いを述べ、その時の神楽あそびが、猿楽の始めであり、...。」 後戸(うしろど)の神と戌亥(いぬい)

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/ku/usiinui.html>

後の正面とは、岩戸の前に置かれた鏡に映つし出されている、アマテラスの御姿。

精霊の王/中沢新一

「後戸の神である摩多羅神を中心としてうごめき廻っているのは、理知的な仏教の体系をつ くりだしているものとはまったく異質な、一種の「古層」に属する思考だ。仏教の歴史はたか だか紀元前数百年を遡るにすぎないが、こちらのほうはその百倍もの長い時間を生きてきた人類の思考である。仏教の中に、そのようなとてつもなく古い思考が生き続けている事実 は、隠しておかなければならないことだった。 」

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/wa/seireo07.html>

----- > 童謡かごめかごめの意味

> 3.夜明けの晩に > 夜明けの晩が、夜明け前の晩という意味だとすると。 > 暗黒の晩が終わり、希望の夜明けが始まるという事かもしれない。

> 5.後ろの正面だあれ > この意味は難解である。 Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 12 日(火)21 時 36 分 12 秒 返信・引用

> No.1231[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 百済系の中国人と言えない。亓は阿毎の文字で倭国製(越国:ワニ)になる。 >>「治天下獲□□□鹵大王世、奉事典曹人名无□亓、八月中、用大鐵釜、井四尺廷刀、八十練、□十振、 三寸上好□刀、服此刀者、長寿、子孫洋々、得□恩也、不失其所統、作刀者名伊太□、書者張安也」 >

> ヒミコの鏡は銘文に陳寿の陳があるので楽浪郡、玄菟群を管理していた京師で造られたものですね。卑弥呼の死後、鏡作神社で複製が造られた模様。共通文字が孫、保子、三公になる。 >

和邇氏系譜の姥津媛がヒミコだと思うのですが、その和邇氏の本拠の古墳に先の中平刀が 出るのは偶然ではないように感じますね。

それで江田船山の鉄剣の件ですが、どうも6世紀前後に後から追葬されたものとの見方が有力のようです。稲荷山も同様で、そうすると、「治天下獲□□□鹵大王世、奉事典曹人名无□□」

も、獲□□□鹵大王が天下を治める世より(に)奉事してきた(した)、典曹人の名无□□とな るのでしょうか。

ただ前回の銘文と違うのは「時」がないことですね。刀の長さは21 cm 尺で、画像鏡径が三角縁の小さいサイズの径でしょう。この尺の刀が他にも数本あるようです。柄の長さが1尺 なんです。

確かにご指摘のように、同じ職人系統なら、同じ語を使いそうですね。みなさんご注目の「𠂔」「人」

>> 中平元年(184 年)、後漢において黄巾の乱が起きる。倭国の大乱ですね、不可能ですね。 >>

倭人作ではないでしょう。いろいろ文字体からみても、半島系が有力なようです。

> まあ、間違いの推理も役に立ちます。古市、百舌鳥古墳の並びが玉手山を基準にすると > 逆になり、仁徳天皇陵は崇神天皇になるな。別の方位の基点が天理になり、のこりは継体陵 ですね。 > 天理に何か大きな者が埋葬されている様だな。図添付 >

玉手山の古墳群関連で下記の横穴がありますね。行基関連です。

「菩提樹蔭絵香宮」は国の重要文化財に指定されている。また、境内には明治時代に玉手山 3 号墳(勝負山古墳)から出土したとされる「割竹型石棺蓋」が置かれており、かつては手水鉢 として使われていた。これも重要文化財に指定されている。 最初の小さな門をくぐるとすぐに参道の両側に安福寺横穴群が広がっている。これら横穴群 は、谷間の凝灰岩が露出しているところに掘られており、参道南側、北側に各 16 基、計 32 基 確認されている。かつては古代人の住居であるといわれていた時期もあったが、石棺や陶質 棺、陶器などが見つかっており、中には騎馬人物像などの壁画が描かれたものもあり、古墳時 代後期の横穴墓であることがわかっている。大阪府の史跡に指定されている 。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/安福寺_\(柏原市\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/安福寺_(柏原市))

Ads by Google 対蝦夷戦争の真っ最中です 投稿者:青面金剛 投稿日:2013 年 2 月 12 日(火)21 時 27 分 54 秒 返信・引用

> No.1235[元記事へ]

藤井游惟さんへのお返事です。

「東」歌なるものは、作者が一人も不明で、製作年も判っていないのが多い。「東」歌なるものを 集めたとされるのは、上総大掾であった準皇族、大原真人今城(おおはらのまひといまき)です。

当時、対蝦夷戦争の真っ最中で、対蝦夷宣伝プロパガンダ政策の一環として、利用されたもの ですね。大原今城が部下の小役人に命じて、東国人が書いた様に見せかけたフレームアップ だと考えます。

其の証拠に、対蝦夷征服戦争が終わる 811 年(弘仁 2)と共に、「東」歌なるものは姿を消 しています。

対蝦夷政策史略年表 811(弘仁 2)年まで <http://www.asahi-net.or.jp/~sg2h-ymst/emisi.html>

防人歌が編纂されたのは755 年。八切止夫が解説していた様に、防人制度とは、北九州防 衛なぞ、単なる題目に過ぎず、其の本質は、東国の若者を、強制的な徴兵により、妻から引き離 し、東国の人口を抑制するためであった。

下級兵士が上官の命令無く、歌など書ける訳も無く、書いたものも、太平洋戦争中の兵士 の手紙の如く、当たり障りのないものしか、書けない筈です。

>『万葉集』に収録されている東歌・防人歌は「当時の貧しい庶民の言葉」であることをお忘 れなく。但し、これは当時の関東地方の方言であるため、有坂秀世は「有坂三法則」などの考 察の対象から外していますが、これらが当時の関西の貴族とは全く通じない「別の言語」であ ったというなら、ご自分で韓国人を使って朝鮮語漢字音に

よる発音実験をしてみればよろし。

自分で実験してそういう結果がでたら、YOUTUBE にでもアップして見せてください(^^)

> 仮に白村江敗戦後に百済から亡命してきた人間が 5000 人、日本の人口が 500 万人とし、その 500 万人が日本語とは異なる言語を話していたとして、百済人全員が百済語教師になり、一人が 1000 人の生徒を相手にして、全員を短期間の間に百済語、或いは加羅・新羅語話者に変身させることができたとも言えるのでしょうか?(^^)

短期間では無理ですが、数十年という時間枠ならば十分に可能だと考えます。

一人の百済語教師が、20 人程度の寺小屋の様な教室で、午前と午後に読み書き、問答、唱歌などの授業を 25 年間続けたとすると、

$$20 \times 2 \times 25 = 1000$$

つまり、千人の教え子を設けることが出来るのです(^^)

Ads by Google Re: 記紀百済人記述説 投稿者: 藤井游惟 投稿日: 2013 年 2 月 12 日(火)06 時 16 分 5 秒 返信・引用

青面金剛さんへのお返事です。

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >> 再度、第 6 章を拝見しましたが、「地域差・時代差・階層差・個人差で済んでしまうだろう。」と繰り返して締めくくられている中で、貴族と庶民との階層差は決定的だと思います。記紀万葉に携わった、当時の西日本人口の 0.5(コンマ)何%を対象として『上代才段甲乙書 き分け法則』を設定する、との、条件を但し書きで加えるのならば、藤井游惟さんの説は、大筋に於いて、正しい分析だと思います。

『万葉集』に収録されている東歌・防人歌は「当時の貧しい庶民の言葉」であることをお忘れなく。

但し、これは当時の関東地方の方言であるため、有坂秀世は「有坂三法則」などの考察の対象から外していますが、これらが当時の関西の貴族とは全く通じない「別の言語」であったというなら、ご自分で韓国人を使って朝鮮語漢字音による発音実験をしてみればよろし。

自分で実験してそういう結果がでたら、YOUTUBE にでもアップして見せてください(^^) 六芒星と五芒星は鶴と亀。 投稿者: 棘の紀氏 投稿日: 2013 年 2 月 12 日(火)03 時 17 分 28 秒 返信・引用

サイト内リンク 犬夜叉のかごめは六芒星 桔梗は五芒星、「すべった」は統べると滑るの 2 つの解釈があります。... この五芒星は、鶴の港を象徴して折り鶴の形を星状に配しています。 鶴の折り紙から五 ... 六芒星はダビデの星とも言われ、ユダヤ民族を象徴する <http://www7a.biglobe.ne.jp/~mkun/nazo/star56.htm> 童謡かごめかごめの意味 1. かごめかごめ籠の中の鳥は

「かごめ」がカゴメ籠目の意味だとすると、籠の中には龍がいる。龍は空を飛ぶから、籠の中の鳥と言っても良いだろう。 鳥は→とーりーいは→鳥居→日本を意味するという説もある。 2. いくつか出やる

龍はいつか、籠から開放される。 3. 夜明けの晩に 夜明けの晩が、夜明け前の晩という意味だとすると。 暗黒の晩が終わり、希望の夜明けが始まるという事かもしれない。 4. 鶴と亀が滑った この龍が籠の中から出るのは、鶴と亀が統べた夜明けの晩である。鶴と亀は五芒星と六芒星を意味し、アメリカ、中国、ロシアが世界を統べる(支配する)という意味かもしれない。 5. 後ろの正面だあれ

この意味は難解である。

数的推理 同様に(2)式より e は 5 の倍数、(3)式より e は 2 の倍数でもある。つまり e は $3 \times 5 \times 2 = 30$ の倍数でなければならない。 <http://www.koumuin.ne.jp/semener%20s.html>

360 の約数 | 数学の Q&A【OKWave】 $360 \div 1 = 360 \cdots 1$ と 360 は約数 $360 \div 2 = 180 \cdots 2$ と 180 は約数 $360 \div 3 = 120 \cdots 3$ と 120 は約数 $360 \div 4 = 90 \cdots 4$ と 90 は約数 $360 \div 5 = 72 \cdots 5$ と 72 は約数 $360 \div 6 = 60 \cdots 6$ と 60 は約数 $360 \div 7$ どう見ても割り切れない $360 \div 8 = 45 \cdots 8$... <http://okwave.jp/qa/q5307100.html> $360 \div 5 = 72 \cdots 5$ と 72 は約数 $360 \div 6 = 60 \cdots 6$ と 60 は約数

72 は合成数で、約数は 1,2,3,4,6,8,9, 12, 18, 24, 36,72 の 12 個である。□ 72 の ... □72 度は正 5 角形の中心角であり、その外角でもある。□マヤの 1 ... 春分点が 1 度ずれる(太陽が歳差運動により、黄道に沿って 1 度移動する)のに 72 年を要する。 <http://homepage3.nifty.com/enoch/fo-number2/num72.htm>
<3:4:5>の直角 3 角形の 3 数の和と積の和は(3+4+5)+(3×4×5)=72 になる。

72 はフィボナッチ数列第 12 項の 144、及び 12 番目の平方数の 144 の 1/2 である。 72 時間は 3 日であり、72 ヶ月は 6 年である。 春分点が 1 度ずれる(太陽が歳差運動により、黄道に沿って 1 度移動する)のに 72 年を要する。

72 はその 5 乗数が他の 5 乗数 5 個(この場合は 19, 43, 46, 47, 67)の和で表せる最小の数である(1934917632=72⁵=19⁵+43⁵+46⁵+47⁵+67⁵=2476099+147008443+205962976+229345007+1530125107)。 6 次元空間において 1 つの球に同じ大きさの球が接することができる数は 72 である。 イスラム教には全部で 72 ないし 73 派があり、その内の 1 派を除く全部は地獄に堕ちるとされている。

イスラム教の天獄では男性は 72 人の処女と関係を持つことができるとある。 孔子は 72 歳まで生きた(BC551~BC479)。

ソロモン王の鍵には 72 の悪魔とそれをコントロールさせる術が記されている。

サッカーボールの五角形を五芒星に、六角形を六芒星に変え、隙間を三角形で埋めたような形をしている。 ... <http://www.weblio.jp/content/%E5%B0%8F%E5%A4%89%E5%BD%A2%E4%BA%8C%E5%8D%81%E3%83%BB%E4%BA%8C%E5%8D%81%E3%83%BB%E5%8D%81%E4%BA%8C%E9%9D%A2%E4%BD%93>

<ペンタクロス>とは、五本の直線をクロスさせて造った五芒星図形の事です。 日本文化の DNA を暗示するこの図形が、秘められた日本史の謎を解明します <http://blogs.dion.ne.jp/pentacross/>

Re:四隅突出型墳 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 12 日(火)01 時 42 分 42 秒 返信・引用

> No.1232[元記事へ]

> 管理人さんへのお返事です。昔の人は、肉眼観察だけで、太陽系の惑星と恒星の区別ができたんですね。どうやったの ... 古代の天文学者はこの動きを説明することができず、これらを通常と違う動きで我々...http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1417038094

> Re:四隅突出型墳 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 12 日(火)01 時 40 分 24 秒 返信・引用

> No.1229[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

>緻密な観察の結果として地動説ができたわけですが、古代人が望遠鏡をもっていたかどうか、その辺が課題ですね。太陽黒点の件は、三本足の鳥の件で、おそらく理解できていた節

がありますが、黒点の見える時間の相違となるでしょうか。

古代の人達はどのようにして惑星を見つけたのですか | 天文学の Q&A ... 古代の人達は数ある星の中から、どのようにして木星や土星を見つける事が出来たのでしょうか。なぜこれらを特別な天体と捉えることができたのでしょうか。... 肉眼で観測できる天体の中でも大きさや輝き、あるいは動きが他の天体と違ったからです。特に動き ...<http://okwave.jp/qa/q7455187.html> 毎日夜空を観察していれば、星座を形作っている各恒星に対して、惑星は位置がずれていくのですぐにわかります。だから「惑う星」=惑星と呼ばれます。古くは「遊星」とも呼ばれたようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%83%91%E6%98%9F>

の「惑星・遊星という呼称の由来」参照。

肉眼観察可能な太陽系 5 惑星 約 8 年ぶりに同時に夜空へ -【WRP ... 2012 年 2 月 29 日 - 今週から

数日間にわたり、普段肉眼で観察可能な太陽系の 5 惑星が一夜 に登場する 天体ショーを見ることが出来ます。太陽系に存在する 9 個の惑星の中で、水星、金星、火星、木星、土星の 5 惑星は肉眼で容易に観察可能なため、古代から ...<http://blogs.yahoo.co.jp/watherreportplayer/38776154.html>

Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 12 日(火)00 時 28 分 33 秒 返信・引用 編集済

> No.1230[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」と、日本神話の日本武尊、神功皇后三韓征伐の辛卯年(271 年)が重なるんですね。

百済系の中国人と言えない。𠂔は阿毎の文字で倭国製(越国:ワニ)になる。「治天下獲□□□鹵大王世、奉事典曹人名无□𠂔、八月中、用大鐵釜、井四尺廷刀、八十練、□十振、

三寸上好□刀、服此刀者、長寿、子孫洋々、得□恩也、不失其所統、作刀者名伊太□、書者張安也」>> 若江鏡神社の由緒に神功皇后四年、大和の鏡作神社の文字がある。古墳の埋葬品の鏡を

>> 製作した神社と見るべきだな。>> ちょっと先の張安と若江造の件で見落としていたことがあります。先のとおり「漢」なので すが、「奈率」が百済の官位です。>> したがって、百済系の中国人となります。これが江田船山古墳が出る理由は、その百済王族 の遺品と同類である件ともかかわってくるでしょう。再度引用すると、>

ヒミコの鏡は銘文に陳寿の陳があるので楽浪郡、玄菟群を管理していた京師で造られたもの ですね。卑弥呼の死後、鏡作神社で複製が造られた模様。共通文字が孫、保子、三公になる。

> あと、ヒミコの刀とされる中平刀の銘文が、三角縁などの鏡のそれと類似するという指摘 があって、楽浪方面が指摘されているのですが、その年代が、中平ではなく、後代の太平だと いう説があるんです。>

中平元年(184 年)、後漢において黄巾の乱が起きる。倭国の大乱ですね、不可能ですね。>> 太平元年は中国・呉の年号で、西暦 256 年ですが、全体的にはこの年代のほうが、この刀 の様式には合うと考えられているようです。ただ、下記のサイトの画像をみると「中平」にみ えるんでよね。どう思いますか？

まあ、間違いの推理も役に立ちます。古市、百舌鳥古墳の並びが玉手山を基準にすると 逆になり、仁徳天皇陵は崇神天皇になるな。別の方位の基点が天理になり、のこりは継体陵 ですね。天理に何か大きな者が埋葬されている様だな。図添付

Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 11 日(月)23 時 08 分 22 秒 返信・引用 編集済

> No.1226[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 若江鏡神社の由緒に神功皇后四年、大和の鏡作神社の文字がある。古墳の埋葬品の鏡を > 製作した神社と見るべきだな。>

ちょっと先の張安と若江造の件で見落としていたことがあります。先のとおり「漢」なんです が、「奈率」が百済の官位です。

したがって、百済系の中国人となります。これが江田船山古墳が出る理由は、その百済王族の 遺品と同類である件ともかかわってくるでしょう。再度引用すると、

「治天下獲□□□鹵大王世、奉事典曹人名无□𠂔、八月中、用大鐵釜、井四尺廷刀、八十練、□十振、 三寸上好□刀、服此刀者、長寿、子孫洋々、得□恩也、不失其所統、作刀者名伊太□、書者張安也」

ここで、伊太□とみえるのが、これが播磨の「(韓国)伊太氏(_が入る)」や「射楯」に見える 渡来系製鉄集団と感じます。

「无□𠂔」も同類の渡来系と感じます。もっとちゃんと文字が見えれば、解読できてくるでし ょう。

それで、「不失其所統」の「所統」が、倭の五王上表文の「驅率所統 歸崇天極」になります。よって、武はワカタケル=雄略の可能性が高くなります。

また、「歸崇天極」は、「東西文部の解除」儀の祝詞に見える「三極大君」などの皇帝祭祀用の語に対応してきます。

「謹請皇天上帝。三極大君。日月星辰。八方諸神。司命司籍。左東王父。右西王母。五方五帝。四時四氣。捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。請延帝祚。呪曰。東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至弱水。千城百国。精治万歳。万歳万歳。」

これは、延喜式に見えるのですが、実はかなり古くて、上記の百済系中国人書記官がもってきたのかもしれない。

皇帝祭祀なんです。皇帝のそばで、祭祀をしていたので、こういう祝詞とか護身剣を造れるわけですし、どうみても百済や東晋王族、あるいは北朝系王族のそばにいた技術者集団との見方ができるのではないかと考えてます。それを雄略にも適応したんですね。

> 話は変わりますが、古代の韓半島南部(韓国)の地名は現在の日本の地名が相当数使われていた模様。そのままの地名が韓国に対応すると思われるが、漢字表記の地名が残るだけ。 > 日本書記に任那日本府がいい例ですな。

>> 管理人さんの方位ですが古市、百舌鳥古墳の距離を当て嵌めると少しマトモナモノに成りましたので添付しますな。 >

韓国系の地名が河内方面に見える事例はありうると思います。「百済」などもそうですね。そして、その方角とか配置まで一緒なら、証明も可能になってくるでしょう。

あと、ヒミコの刀とされる中平刀の銘文が、三角縁などの鏡のそれと類似するという指摘があって、楽浪方面が指摘されているのですが、その年代が、中平ではなく、後代の太平だという説があるんです。

http://www.bell.jp/pancho/k_diary-5/2011_07_02.htm

太平元年は中国・呉の年号で、西暦 256 年ですが、全体的にはこの年代のほうが、この刀の様式には合うと考えられているようです。ただ、下記のサイトの画像をみると「中平」にみえるんでよね。どう思いますか？

<http://yamatai.sblo.jp/category/932915-1.html>

Re:四隅突出型墳 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 11 日(月)22 時 43 分 46 秒 返信・引用

> No.1225[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 木星の衛星が木星の表面を通過する時間を異なる 2 か所で測定して、その時間のずれから経度を求める。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A9%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%87%E6%9A%A6%E6%9B%B8> > 伊能忠敬の測量と『ランデ暦書』 [編集]

> 『ランデ暦書』から得られた天文知識は、伊能忠敬による日本測量の際に活用された。 > 忠敬が日本全国を測量しようと考えた当初の目的は、緯度 1 度に相当する子午線弧長を求めることであつた[19]。忠敬は測量中に測定を行い、子午線一度は 28 里 2 分という結果を得た。

ちょっと先ほど図書館にいく機会があり、ちょうどガリレオの描いた太陽の黒点とかのスケッチを集めた新刊が置いてありました。緻密な観察の結果として地動説がでてきたわけですが、古代人が望遠鏡をもっていたかどうか、その辺が課題ですね。太陽黒点の件は、三本足の烏の件で、おそらく理解できていた節がありますが、黒点の見える時間の相違となるでしょうか。

Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 11 日(月)12 時 38 分 51 秒 返信・引用

> No.1226[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんの方位ですが古市、百舌鳥古墳の距離を当て嵌めると少しマトモナモノに成りましたので添付しますな。 <http://userimg.teacup.com/userimg/8220.teacup.com/toraijin/img/bbs/0001226.jpg>

田亞田? 田三つを「ム」三つに簡化した。「𪛗」雷 かみなり …神(示申) 晶>色々 櫛:さかだる 𪛗:傀儡(カイルイ)~操り人形 壘:とりで 壘:さかだる 壘・壘・ 壘:たたむ、たたみ 壘:たたむ、たたみ 壘・累:わずらわせる、かさなる、しきりに 𪛗:雷: かみなり、いかづち、いかずち 晶 礪 譚 藟 𪛗<壘> 𪛗<累>
...<http://blog.goo.ne.jp/kanji-circle/e/9993b409f262d45a7bc2b9d8db6c2bdb>

縄文測量 でしょうか?

双方中円墳 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 11 日(月)12 時 29 分 18 秒 返信・引 用

鏡塚古墳

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/sinkou/maibun.files/iwaseoyama.files/kagamizuka.htm> 古墳時代前期(4 世紀前半)

【案内】摺鉢谷をとりかこむ東側の尾根筋の最も高いところにあります。石船塚古墳から北 へ約 30 m のゆるやかな坂をのぼっていくと古墳が見えてきます。 【外形】双方中円墳。積石塚。全長は約 70 m、高さは約 3.6 m です。 【内部】かつて 6 基の石室があったという説もありますが、現在では不明です。 【出土品】これまでに知られているものは全くありません。

【特徴】猫塚と同じ双方中円墳で、まわりの古墳より少し古く築かれたと考えられます。石 積みは二段築成です。

円丘に 2 つの方丘(長方形又は台形)をつなぎ合わせた形状をしています。方丘部分は円丘 と外部をつなぐ通路が発達したものであると考えられています。 <http://kofun.info/type/9>

墳丘墓 [編集] 遺体埋葬地に土で塚を築く墳丘墓(ふんきゅうぼ)は、弥生時代前期から見られたが、比較 的小規模であった。弥生後期になると墳丘の規模が一気に大きくなり、その後の古墳へとつ な が っ て い く 。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%A5%E7%94%9F%E6%99%82%E4%BB%A3%E3%81%AE%E5%A2%93%E5%88%B6> 古墳時代初頭まで続く墓制とされた方形周溝墓について、近年の土器編年などの研究の進展 によって、初期古墳や前期群集墳としてとらえる考え方が出てきたのに伴って、方形墳(ほ うけいふん)と呼ぶ研究者も現れるようになった。 方形周溝墓は特定の個人墓ではなく、複数の被葬者が見られることから、家族の墓だったと 考えられる。しかし、着装品の有無や赤色顔料の使用の有無などから序列化ができあがって いた。また、いくつもの方形周溝墓が密接して営まれることが多かったようである。溝に埋葬 されることもある。 弥生中期には、周囲の土を削りだし、山や丘陵、尾根の上に造られた方形台状墓も現れ、中部 地方・関東地方へ伝播した。弥生前期の中部・関東では、一度遺体を土壙して骨化させてか ら小型の甕や壺に埋納する再葬が行われていたが、方形周溝墓が伝わると墓制の主流となっ た。

墳丘墓は、水稲耕作などと共に朝鮮半島南部から伝えられたものと考えられているが、北部 九州では方形周溝墓は極めて少ない。福岡県東小田峰遺跡で弥生時代前期初頭の例がある。

墳丘墓は、弥生中期以前の墳丘墓と規模的に一線を画している。そのため、墳丘墓の呼称を弥 生後期の大規模なものに限るべきとする意見が、多数となりつつある。このような墳丘墓は 、 3 世紀中葉過ぎに出現する前方後円墳などの古墳へと発展することになる。墳丘墓にはまだ 地域性が見られたが、古墳は全国斉一的であり、大きな差異は見られなくなっている。このこ とは、3 世紀中盤を画期として、九州から東日本にわたる統一的な政権が確立したことを示 唆している。

Ads by Google Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 11 日(月)09 時 41 分 57 秒 返信・引用 編集済

> No.1224[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

若江鏡神社の由緒に神功皇后四年、大和の鏡作神社の文字がある。古墳の埋葬品の鏡を製作した神社と見るべきだな。

会報第 1 号で掲載したヤマトタケル関連の方位ラインは日本神話の地名を日本の地名に当 てた地図になる。

日本武尊(ヤマトタケル)の諱は小碓尊(命)の諱(おうすのみこと)も含んでいるので説明としてはもう一つですな。ヤマトタケル関連の地名は韓国に在ったとするのが良いのでは…。

話は変わりますが、古代の韓半島南部(韓国)の地名は現在の日本の地名が相当数使われていた模様。そのままの地名が韓国に対応すると思われるが、漢字表記の地名が残るだけ。日本書記に任那日本府がいい例ですな。

管理人さんの方位ですが古市、百舌鳥古墳の距離を当て嵌めると少しマトモナモノに成りましたので添付しますな。

>

> 東大阪市の若江鏡神社が本拠地で、元は河内王朝時代の鏡や刀を造る渡来系職人集団でしょう。 >>
<http://kamnavi.jp/mn/osaka/wakae.htm>

>>

Ads by Google Re:四隅突出型墳 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年2月11日(月)01時23分56秒 返信・引用

> No.1223[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 > いろいろその時代ごとに、元々基盤にある材料なり建築システムの上に、技術的・宗教的な影響が加わって、日本式の形で加工されていくのですが、その転機を与えたものが何だったのか?その辺が渡来人研究会の課題といえるでしょう。

2,100年前 四隅突出型墳丘墓は、弥生時代中期の後半(約 2,100年前)に、中国地方一の大河、江、ごう、の、川をさかのぼった中国山地の山あい誕生しました。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/76301/yosumi.pdf#search='%E5%9B%9B%E9%9A%85%E7%AA%81%E5%87%BA%E5%9E%8B%E5%A2%B3%E4%B8%98%E5%A2%93%E3%81%AF%E3%80%81%E5%BC%A5%E7%94%9F%E6%99%82%E4%BB%A3%E4%B8%AD%E6%9C%9F%E3%81%AE%E5%BE%8C%E5%8D%8A%EF%BC%88'>

アンティキティラ島の機械は、今から約 2100年前(紀元前)に製作されたと考えられており、発見から 1世紀以上も科学界の謎とされており、その秘密はたやすくは明らかにならなかった。

<http://karapaia.livedoor.biz/archives/52033213.html> 腐食し石化の進んだ 81の部品の謎がようやく解明されたのは 2006年 11月のこと。実際に はかなり複雑で精巧にできており、天体運行を計算するために作られた古代ギリシアの歯車式機械であることが判明したという。

木星の 衛星が木星の表面を通過する時間を異なる 2か所で測定して、その時間のずれから 経度 を求める。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A9%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%87%E6%9A%A6%E6%9B%B8)

%E3%83%A9%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%87%E6%9A%A6%E6%9B%B8 伊能忠敬の測量と『ラランデ暦書』 [編集]『ラランデ暦書』から得られた天文知識は、伊能忠敬による日本測量の際に活用された。 忠敬が日本全国を測量しようと考えた当初の目的は、緯度 1度に相当する子午線弧長を求め ることであった [19]。忠敬は測量中に測定を行い、子午線一度は 28里 2分という結果を得た。 しかし忠敬の師匠である至時は、測量では土地の高低差による誤差が生まれる恐れがあり、 自らが書物を元に得た結果とも異なるとして、忠敬の測定値には信頼を置かなかった。だが 後に『ラランデ暦書』を手にした至時は、地球は完全な球体ではなく、南北方向につぶれた扁球形であることを知った[注釈 3]。さらに、『ラランデ暦書』に掲載されていた子午線 1度の値 は忠敬の実測値とほぼ一致しており[20]、このことから忠敬の測定の正確さが確かめられ、 忠敬と至時は喜び合った[21]。 また、『ラランデ暦書』には、ガリレオ衛星の食を利用した経度の求め方が記載されていた。木星の衛星が木星の表面を通過する時間を異なる 2か所で測定して、その時間のずれから経度 を求める。至時はこの方法を理解し、至時の死後は間重富と高橋景保の手によって引き継がれ、食の予報表が作成された[22]。そして文化 2年(1805年)から行われた忠敬一行の西日本測量において、この木星の衛星を使った方式や、あるいは月食などを使った方式により観測を行い、経度が求められた[22]。しかし天候や観測技術の問題があり、さらに浅草の天文台の火災により江戸での観測データが失われたこともあって、忠敬らによる経度の算出は成功 したとはいえない[23][24]。そのため忠敬が作成した大日本沿海輿地全図は、現在の地図と比べると、経度方向に大きなずれが見られる[25]

木星の衛星が木星の表面を通過する時間を異なる2か所で測定して、その時間のずれから経度度を求める。

イタリア人のガリレオ・ガリレイは、オランダからの輸入をもとにした望遠鏡を使用して、木星の衛星が軌道を描くことを観測した。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%95%B0%E5%AD%A6%E5%8F%B2> 十進目盛が刻まれ、細かく精細な目盛りのついた正確な定規や、地平座標における角度を40度あるいは360度法で測るために用いられた貝のコンパス、天球を8ないし12分して計測するための貝製の計測器、航法のために星の位置を計測する計測器などがある。

古代中国でも、天文学者の甘徳が紀元前362年に肉眼で木星の衛星を観察したと席澤宗(Xi Zezong)は主張した。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%A8%E6%98%9F> 木星は古代から知られ観測されてきた。そして多くの文明で神話や信仰の対象となった。英

語 Jupiter は古代ローマ神話の神ユーピテルを語源とする[

中国名で辰星ともよばれる水星は太陽のまわりをめまぐるしく動くので水の要素の星。

<http://www.kahaku.go.jp/exhibitions/vm/resource/tenmon/space/solsys/solsys04.html>

木星はそのどっしりと落ち着いた輝きにたいし、神々の王者ジュピター。

北辰妙見信仰の系譜 1 陰陽道における北辰の概念は、中国のものとほぼ同じで、天地草創の中心に位置する宇宙根元の神とされます。北辰から、日月が生じ、五星(木星、火星、土星、金星、水星)が生まれ、それが五行になったといえます。<http://www.d1.dion.ne.jp/~okmys/myoken1.htm> 北極星の特別な地位 まず、北極星(ポラリス)が、どういう星か、説明しましょう。こぐま座のアルファ星で、ちょうどくまのしっぽの先に当たり、光度2.1等の星です。というよりも、地球の北の地軸の延長線上(天の北極)にあり、一晩中動かない星といえば、誰でも知っていますね?。実際は、天の北極よりも1度近く離れており、小さな半径で日周運動をしているのですが、古来より航海などで北を指す星として、大変重視されてきました。日本では、「子(ね)の星」と呼ばれています。子は十二支の最初ですが、方角でいうと北を指す言葉です。ちなみに、「子午線」というのは、子と、南の方角午(うま)を結ぶ線という意味があります。見かけ上、すべての星(太陽や月も含む)が北極星を中心に運行するので、昔の人々は、この星に特別な地位を与えました。古代中国では、北極星に対する信仰が生まれ、日本にも入ってきて、これから述べる北辰妙見信仰になったのです。

666年天智天皇 妙見信仰が関東地方に伝わったのは、天智天皇の666年から霊亀(716年)に近畿・駿河・甲斐・相模などに住んでいた渡来人(帰化人)を関東地方に移住させたことで、妙見信仰が文化の一つとして関東地方に伝わったようです。そしてこの妙見信仰と、元々この地にあった八幡信仰とが習合して、北辰妙見菩薩という武士団の守護神となっていったようなのです。

<http://blog.livedoor.jp/susanowo/archives/50045217.html>

妙見信仰は、縄文・弥生時代の日本列島でのオリジナルな信仰ではなく、中国などとの関係が深まった時代に遅れて入ってきた「星信仰」であり、「天津甕星」=「天香 香背男」とは別物だといえるのです。

<http://blogs.yahoo.co.jp/shigechanizumo/54300329.html> カカ背」と素直に読めば、「カカ=蛇」なので「蛇の背中」となるところが謎を解く鍵のようです。

エジプトのピラミッドの高さを測るのと同じ方法で、木星までの距離が分かるんだ。

http://www.mathforum.jp/mami/summer/summer_3/index.html 物差しは、地球の半径と地平視差と言う角度。地球の半径はおおよそ6400km、木星の地平視差が観測から約0.00046度と分かったとして、(注:地平視差は天頂と地平線上で木星を観測したときの位置角度のずれ。)

夜に北極星の高度を測れば、それがほぼ現在地の緯度を示すことになる。また、太陽の高度を測定しても緯度を求めることができた。さらに、アストロラーベ、十字桿、背面桿、赤緯表といった、緯度を測るための道具も発明されていた[19]。そのためコロンブスは1492年、緯線に沿って西へと移動することで新大陸を発見することができた[20]。ヴァスコ・ダ・ガマが喜望峯に到達した時は、目的地の緯度が分かっていたため、その付近までまっすぐ南に船を動かして、そののちに東へ舵を取るというルートをとることができた[21]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%8C%E5%BA%A6%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2>

Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013年2月11日(月)00時07分

> No.1222[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- ・ > 日本武尊 諱は小碓尊(命)(おうすのみこと) >
- ・ > 日本武尊(ヤマトタケル)の諱は小碓尊(命)(おうすのみこと)は有明海、筑紫海で
- ・ > 古代には太伯海、大伯(おうす)と言っている。
- ・ > また、古代の九州、韓半島南部、出雲のエリアが若(ワカ)になる。 >
- ・ > 日本武尊の息子(ワカタケル)は九州、韓半島南部、出雲のエリアのタケルと理解できる。
- ・ > 「タケル」という名の意味は、「猛々しく強い男子」 >>

ヤマトタケルの件は、大彦と筑紫国造のから推定して、確かに筑紫にはこの系統は拠点があったでしょう。

会報第 1 号で掲載したヤマトタケル関連の方位ラインを添付しておきます。 後代の伝承要素も多いのですが、正方位区画で尾張・河内・諏訪に拠点があります。

> 銀象嵌鉄刀銘 > 倭王武の上表文には周辺諸国を攻略して勢力を拡張した様子が表現されており、熊本県玉名郡和水町の江田船山古墳出土の銀象嵌鉄刀銘や埼玉県行田市の稲荷山古墳出土の金錯銘 鉄剣銘を「獲加多支鹵大王」、すなわちワカタケル大王と解して、その証とする説が有力である。 >

この鉄剣の刃渡りの長さが先日三角縁の 21.5cm 尺度で4 尺になり、銘文の4 尺と一致します。

茎部は一部欠損し、現存長九〇・九(内茎部六)センチある。各部は刀身長八五・三、刃幅 四、棟厚〇・八、茎部幅二・八、背厚〇・八センチを計る。現重量は一九七五グラムあり、背部 には七十五字の象嵌が残る。「治天下獲□□鹵大王世、奉事典曹人名无□(利力)旦、八月中、 用大鐵釜、并四尺廷刀、八十練、□(九力)十振、三寸上好□(刊力)刀、服此刀者、長寿、子孫 洋々、得□恩也、不失其所統、作刀者名伊太□(和力)、書者張安也」。この文字の他に一方の刀 身側面刀関近くに馬・九旺文、反対側に魚と鳥が象嵌、描かれる。 http://www.um.u-tokyo.ac.jp/publish_db/1996Moji/04/4102.html ここに見える張安は、雄略時代に百済経由で渡来していた南朝系漢人と見なすべきか、別の 北朝系新漢人だったかが課題ですね。 藤井さん(新井さん)ご指摘の「旦」もみえますね。

この470 年代の典曹人

531 年に丈刀人。

214 年 典曹都尉となる 。文官。

http://sangokushi.jp/syoku/detail.php?syoku_id=50

後代6 世紀の新羅に見えるようです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/人制>

元は中国系。

丈刀は武官ですね。

銘文の「張安」は姓氏録に若江造の条文に「漢」として

後漢靈帝苗裔奈率張安力之後也。

とみえます。

東大阪市の若江鏡神社が本拠地で、元は河内王朝時代の鏡や刀を造る渡来系職人集団でしょう。

<http://kamnavi.jp/mn/osaka/wakae.htm>

Ads by Google Re:四隅突出型墳 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 10 日(日)22 時 55 分 21 秒 返信・引

用

> No.1219[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

>>出雲では四隅突出型墳丘墓で、古代出雲の王権が長く続いていたことを物語っています。 >> 玄室の四隅をおとした形。(字通) > 亜は墓室の形で凶礼・凶事の意。悪はその心情。

> 亜の意味と読み方|漢字辞典 > 備考: #1 醜なり、人の局背の形に象る。賈侍中の?に 以為 (おも) へらく、次弟なり、と。 凡そ亜の属は皆な亜に従ふ。(説文解字): #2 陵墓の墓室の平面形。玄室の四隅を おとした 形。(字通): #3 建物や墓をつくるために地下

確かに出雲勢力の進出時期を考える必要がありますね。

墓室の件は、下記サイトの楽浪墓室の変遷過程が興味深いところです。この変遷図は AD150 年前後から変化があったとみなすべきでしょうか。 http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/download.php/KP18A06-424.pdf?file_id=1606

四隅突出型墳丘墓の最盛期がたてつき墳丘墓の時代とすると、その大型化とか、その辺の変 化が何に由来したかが課題ですね。

> 私的に四隅突出型墳は 古代の平板測量の誤差(誤差)の > 定位 > 誤差させる作業である。基準点から既知点を視準して測線を一致させる。 > これら三つのいずれかでもきちんとしていないと、図面に誤差が生じてしまう。また、平 板測量はその性質上細部測量に適しているため、広範囲の測量を行うために図面を書いている途中で平板を度々移動させることがある。 >> 平面測量と平板測量 - BIGLOBE なんでも相談室 >「地球は平ら」と考え、測定結果に対し「地球は丸い」ことに対する補正を行わない測量を 意味します。
<http://soudan1.biglobe.ne.jp/qa4927813.html> >

この辺の墳墓と測量との関係も、重要ですね。前方後円墳やそれ以前のたてつき墳丘墓には、すでに測量拠点としての意味があるので、それなりに適した形で造営する必要があったでしょう。特に後円部が測量上で重要で、平面を保つ必要があったといえそうです。

いろいろその時代ごとに、元々基盤にある材料なり建築システムの上に、技術的・宗教的な 影響が加わって、日本式の形で加工されていくのですが、その転機を与えたものが何だった のか?その辺が渡来人研究会の課題といえるでしょう。

Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 10 日(日)20 時 18 分 3 秒 返信・引用

> No.1221[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

「獲加多支鹵大王」

成務天皇の和風諡号、若常日子天皇(わかたらしひこのすめらのみこと、古事記)。 次が日本武尊になる。成務天皇から若になる模様。日本神話(ヤマトタケル)の地名だが 埼玉県の周辺に多く。また、扶桑国の比企郡から稲荷山古墳の金錯銘鉄剣銘 「獲加多支鹵大王」ワカタケル大王はヤマトタケルの息子ワカタケルが送った褒美 の可能性がある。梅原猛はヤマトタケルの息子がワカタケルに言っているのは正しい。

諡号で探る。

崇神天皇 和風諡号は御間城入彦五十瓊殖天皇(みまきいりびこいにえのすめらのみこと)。 御肇國天皇(はつくくにしらすすめらみこと)と称えられる 垂仁天皇 活目入彦五十狭茅尊(いくめいりびこいさちのみこと)活目尊等と称す 「伊久米伊理毘古伊佐知命(いくめいりびこいさちのみこと)」、『古事記』 景行天皇 和風諡号は大足彦忍代別天皇(おおたらしひこおしろわけのすめらみこと) 大帯日子淤斯呂和氣天皇(古事記)。 成務天皇 和風諡号は稚足彦尊(わかたらしひこのみこと)、 若常日子天皇(わかたらしひこのすめらのみこと、古事記)。 日本武尊 諱は小碓尊(命)(おうすのみこと)

日本武尊(ヤマトタケル)の諱は小碓尊(命)(おうすのみこと)は有明海、筑紫海で 古代には太伯海、大伯(おうす)

と言っている。 また、古代の九州、韓半島南部、出雲のエリアが若(ワカ)になる。

日本武尊の息子(ワカタケル)は九州、韓半島南部、出雲のエリアのタケルと理解できる。「タケル」という名の意味は、「猛々しく強い男子」

成務天皇

成務天皇(せいむてんのう、第 13 代天皇。和風諡号は稚足彦尊(わかたらしひこのみこと)、若常日子天皇(わかたらしひこのすめらのみこと、古事記)。

日本武尊 ヤマトタケル(やまとたける、72 年頃?113 年頃)は、記紀に登場する皇子である。ヤマトタケルノミコト(やまとたけるのみこと)とも呼ばれ、諱は小碓尊(命)(おうすのみこと)。第 12 代景行天皇の皇子・第 14 代仲哀天皇の父とされる。『日本書紀』、『先代旧事本紀』では日本武尊、『古事記』では倭建命と書き、またの名を日本童男・倭男具那命(やまとをぐな)ともいった。また、『尾張国風土記』逸文と『古語拾遺』では日本武命、『常陸国風土記』では倭武天皇、『阿波国風土記』逸文では倭健天皇(または倭健天皇命)と書く。

銀象嵌鉄刀銘 倭王武の上表文には周辺諸国を攻略して勢力を拡張した様子が表現されており、熊本県玉名郡和水町の江田船山古墳出土の銀象嵌鉄刀銘や埼玉県行田市の稲荷山古墳出土の金錯銘鉄剣銘を「獲加多支鹵大王」、すなわちワカタケル大王と解して、その証とする説が有力である。

梅原 猛(うめはら たけし、1925 年 3 月 20 日 -) ヤマトタケルは『古事記』では十二代の景行天皇の皇子である。ところが梅原猛『ヤマトタケル』ではヤマトタケルの息子がワカタケルになっている。このワカタケルは二十一代の雄略天皇になる大長谷の若建の命とは別人である。でもワカタケルの名を登場させることで、梅原は、おそらく雄略天皇を連想させようとしたのだろう。雄略天皇は倭の五王の武ということになっており、順帝の昇明二年に書かれた「倭王の武の上表文」(宋書倭国伝)に次のようにあるので、ヤマトタケルの英雄伝にイメージ的につながると梅原は判断したのかもしれない。

筑紫海 「有明海」という呼称は、明治時代の後期ごろから使われるようになったのではないかとされ

ている。それ以前は、「有明の沖」「筑紫潟」「筑紫海」といった呼称が一部で使われていたとされているが、定かではない。

Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 10 日(日)16 時 11 分 12 秒 返信・引用

> No.1213[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 古市、百舌鳥古墳の被葬者を推定しました。
- > 何かの痕跡が出れば明らかになるでしょうな。 >
- > 現在の仁徳天皇陵は推定だが成務天皇陵。 >
- > 成務天皇(せいむてんのう『古事記』『日本書紀』に伝えられる第 13 代天皇。和風諡号は稚足彦尊(わかたらしひこのみこと)、若常日子天皇(わかたらしひこのすめらのみこと、古事記)。 >> 応神天皇陵は崇神天皇陵

この辺の年代推定は、確かに先の画像分析サイトの墓誌名分析が、面白い試みだとおもいますね。

Re:記紀百済人記述説 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 10 日(日)16 時 05 分 55 秒 返信・引用

> No.1217[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

>> 古墳の埋葬者については、光学的な最新の画像処理技術により、各、古墳・石棺・埋葬物 に標された埋葬者名が明らかにされつつあります。 >> 纏向石塚古墳は火照命墓、高松塚古墳から発掘された海獣葡萄鏡には忍壁親王、同玄室 内にも忍壁親王墓、石舞台古墳には馬子墓、畝傍山山麓の石には神倭伊波禮毘古命、黒塚古墳には大枝王命墓、志賀島出土の金印には常根津日子命、などが判明しています。 >> 学研ムー、2012 年 11 月号、P・73~83、【古墳には被葬者の名前が書かれていた!!】有賀訓(考古調

査士)。

----- >

> 藤井游惟さんがレジュメを送って頂けるという事で、メールアドレスは管理人さんへメールを送る、方法で宜しいのでしょうか。 >

藤井さんの本は、うちには在庫はないですが、 掲示板下のメール投稿ボタンにて、お送り下さっても構いません。

あと、上記画像解析の話は興味深いですね。こちらの HP に詳しく載ってました。

<http://www11.ocn.ne.jp/~jin/KURO.html>

特にこの解析サイトにある黒塚と鏡作神社、つまり黒田庵戸宮は5度偏角方位区画に載りますので、その年代が知りたいところでしたが、管理人の予想年代と対応してくるのがちょっと気にかかっています。

四隅突出型墳 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年2月10日(日)12時32分0秒 返信・引用

>出雲では四隅突出型墳丘墓で、古代出雲の王権が長く続いていたことを物語っています。

玄室の四隅を おとした形。(字通) 亞は墓室の形で凶礼・凶事の意。悪はその心情。 亞の意味と読み方|漢字辞典 備考: #1 醜なり、人の局背の形に象る。賈侍中の?に 以為 (おも) へらく、次弟なり、と。 凡そ亞の屬は皆な亞に従ふ。(説文解字): #2 陵墓の墓室の平面形。玄室の四隅を おとした 形。(字通): #3 建物や墓をつくるために地下に四角く掘った土台を描いたもの <http://jigen.net/kanji/20126>

四隅突出型墳丘墓の最大の特徴が四方向に張り出した墳丘の張り出しです。

http://www.izumo.ed.jp/otsu-sho/2006hp/beforeh17/study/naruhodo/nishidani/s1/4sumi/htm/s_setumei.htm

私的に四隅突出型墳は 古代の平板測量の誤差(誤差)の

定位 誤差させる作業である。基準点から既知点を視準して測線を一致させる。 これら三つのいずれかでもきちんとしていないと、図面に誤差が生じてしまう。また、平板 測量はその性質上細部測量に適しているため、広範囲の測量を行うために図面を書いている 途中で平板を度々移動させることがある。

平面測量と平板測量 - BIGLOBE なんでも相談室 「地球は平ら」と考え、測定結果に対し「地球は丸い」ことに 対する補正を行わない測量を 意

味します。<http://soudan1.biglobe.ne.jp/qa4927813.html> 特定の地点(地面に杭や釘を打つ)の平面座標を求めるのが基準点測量(skeleton survey または control point survey)。その基準点を元に、家や塀などの平面位置を出すのが細部測量(detail survey)。 平板測量は、測量手段による分類で、「平らな板の上でアリゲードを動かして測量を行うもの」であり、 専ら細部測量に使われますが基準点測量に使えないわけではないです。(精度が悪いため、 トータルステーションが普及した時点で事実上絶滅。)

Re:記紀百済人記述説 投稿者:青面金剛 投稿日:2013年2月10日(日)11時29分0秒 返信・引用

> No.1216[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

再度、第6章を拝見しましたが、「地域差・時代差・階層差・個人差で済んでしまうだろう。」と繰り返して締めくくられている中で、貴族と庶民との階層差は決定的だと思います。 記紀万葉に携わった、当時の西日本人口の0,(コンマ)何%を対象として『上代才段甲乙書 き分け法則』を設定する、との、条件を但し書きで加えるのならば、藤井游惟さんの説は、大筋 に於いて、正しい分析だと思います。

他に出雲や東北地方の所謂ズーズー弁なんかも、出雲の地が物部勢力の侵略に遭い、東北 の地に逃げざるを得なかった、民族的な移動の考え方も加えると、より説得力を増すでしょう。白村江の敗戦以後、千三百年もの長い歴史の流れの中で、言葉の違う為政者の下で暮らす より、分かり合える指導者を求めるものだと思いますので。

私共、北国人は寒さや風による体温の低下を避ける為、口を大きく開けない喋り方、つまり、アをオに近い発

音で済ませる傾向が有ります。また、騎馬民族系の方は、鼻に抜ける発

音の特徴を持ちます。

最近では若い女性の中で、口を横に引く「イ」の発音を「エ」で済ます傾向が有ります。NHK の若い女子アナにも。さらに加えてアニメ声やギャル語なんかで話しかけられると頭が痛く成ってしまいます (^_^;7

彼女達は、自分たちの話している言葉こそ、真つ当な日本語だと、言い張ることと思われま す。

何を持って、「正しい」日本語とするのか、その大前提となる定義付けを定めない限り、議論 は深まらない、と考えます。

> 私の説をちゃんと理解しているというなら、第六章で述べていることを否定できない限り、 私の説は崩せないということはわかっているはずです。 >

- > <http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/6shou.html>

>

- > このことを否定する方法は
- > 1 国語学者に転向して、橋本・有坂以来 100 年間蓄積されてきた「上代特殊仮名遣い才段 甲乙書き分け法則」を否定するか、 > 2 生物学者に転向して、奈良時代の人間は、「allophone(異音)」でもなんでも聞き分けられる言語脳をもった現代人とは別種の生物であった、 > とうことを証明する以外にはありません。 >> 1 か 2 の方法で否定して見せてください。 Re:記紀百済人記述説 投稿者:青面金剛 投稿日:2013 年 2 月 10 日(日)09 時 01 分 32 秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

関東の古墳群は金星、明けの明星の方を向いているのに対して、大阪の古墳群は向きがバラバラで、土着の王権では無く、渡来した部族の建てた王権を表しています。

埼玉古墳群 http://kotori888.art-studio.cc/Sakitama_kohun2/HTML/index.html

出雲では四隅突出型墳丘墓で、古代出雲の王権が長く続いていたことを物語っています。

古墳の埋葬者については、光学的な最新の画像処理技術により、各、古墳・石棺・埋葬物に 標された埋葬者名が明らかにされつつあります。

纏向石塚古墳は火照命墓、高松塚古墳から発掘された海獣葡萄鏡には忍壁親王、同玄室内 にも忍壁親王墓、石舞台古墳には馬子墓、畝傍山山麓の石には神倭伊波禮毘古命、黒塚古墳 には大枝王命墓、志賀島出土の金印には常根津日子命、などが判明しています。

学研ムー、2012 年 11 月号、P・73~83、【古墳には被葬者の名前が書かれていた!!】有賀訓(考古調査士)。

> 青面さん、こんにちは。山の民と太陽信仰の件は、関連して 30 年前の小川光三さんの本 『大和の現像』に、三輪山等の山岳信仰と、日の出等の太陽の方角と、箸墓等の方位ラインと

の関係について述べられていますね。

>> その言語関連の詳しいことは藤井さんのご回答を待ちたいとおもいますが、それで小川さんの本を読み返していて、興味深くおもったのは、前方後円墳の形状について、晋書(266 年)条に、円丘と方丘を(今まで別々だったものを)「并べて」祀った記載があることです。そしてこの条文のすぐ前に倭人貢納記載が続くことから、この件に前方後円墳が由来するこ とを指摘しています。 >> 30 年前当時は前方後円墳は 200 年代初頭とのことで、この指摘は無視されたのではな いかと感じるのですが、最近では箸墓も 270~80 年とする見方もあり、彼の指摘が30 年 たって通説となる可能性が出てきているのかもしれませんが。 >> 写真家としてはプロだった小川氏の指摘、この指摘が最初だったとすれば、今の学会はどう反応するのか?そういうところにもちょっと興味がありますね。 >> おそらくその前段階のマキムク型前方後円墳は、ちょっと違う経緯、橋梁部分が方形にな っているようにみえるのですが、そこから飛躍した前方後円墳がでてくる背景には、やはりこの晋 266 年の記載を考えるべきなのかもしれません。 >> 小川氏は太陽の季節別の方角が前方後円墳のバチ型に影

響し、先の山立てとの関係で、そ

の古墳軸の向きを推測し、農耕歳時のカレンダーとしての古墳の意味を指摘しているのです が、ただこの点はちょっと古墳軸の向きが多様すぎて、別の意味もあった(あるいは失われ た)のではないかと感じます。 >

> ともあれ、専門外の人意見が、数十年後に的をえていたことが明らかになるケースもあるようなので、ぜひみなさんも多角的な視点から新意見を出して、本にして発表してほしい と感じます。

藤井游惟さんがレジュメを送って頂けるという事で、メールアドレスは管理人さんへメール を送る、方法で宜しいのでしょうか。

訂正 ○ 異俗(あたしくにのひと)も訳(おさ)を重ねて来(もう)く【『日本書紀』崇神紀】 × 異俗(あたしくにのひと)も重ねて来(もう)く【『日本書紀』崇神紀】 失礼しました<(_)>>

Re:記紀百済人記述説 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 10 日(日)07 時 51 分 19 秒 返信・引用

> No.1214[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >>【『日本史の宝石箱』オリエントの都アスカへの道】に、藤井游惟さんがコメントとリンクを 張って少し後に、貴 HP は目を通しましたし、YouTube に UP された一連の音声付動画も、一通り見聞きました。 >

私の説をちゃんと理解しているというなら、第六章で述べていることを否定できない限り、 私の説は崩せないということはわかっているはずです。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/6shou.html>

このことを否定する方法は 1 国語学者に転向して、橋本・有坂以来 100 年間蓄積されてきた「上代特殊仮名遣い才段甲 乙書き分け法則」を否定するか、 2 生物学者に転向して、奈良時代の人間は、「allophone(異音)」でもなんでも聞き分けられる言語脳をもった現代人とは別種の生物であった、 とうことを証明する以外にはありません。

1 か 2 の方法で否定して見せてください。

Re:記紀百済人記述説 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 10 日(日)07 時 18 分 58 秒 返信・引用

青面金剛さんへのお返事です。

>>『日本列島 3 人類集団の遺伝的近縁性』2012/11/01 > http://www.soken.ac.jp/news_all/2719.html >>「 今回の研究では、個人を単位にした解析と集団を単位にした解析を行なった。前者については、多変量解析の標準的な手法である主成分分析、祖先集団を仮定してそれらの遺伝子 交流を個人ごとに推定する方法のふたつを用いて解析した結果、アイヌ人からみると、彼ら から地理的に大きく離れている琉球人が遺伝的にもっとも近縁であり、両者の中間に位置する本土人は、琉球人に次いでアイヌ人に近いことが示された。 >> また、アイヌ集団が本土人およびおそらく北海道よりももっと北方の人類集団と遺伝子 交流をしてきたことにより、個体間の多様性がきわめて大きいことがわかった。 > 他の 30 人類集団のデータとあわせて比較しても、日本列島人(アイヌ人、琉球人、本土 人)の特異性が示された。 > これは、現在の東アジア大陸部の主要な集団とは異なる遺伝的構成、おそらく縄文人 の系統を日本列島人が濃淡はあるものの受け継いできたことを示している。 >

> 集団を単位とした解析では、アイヌ人と琉球人が統計的にきわめて高い精度でクラスターを形成し、それと本土人、韓国人がそれぞれつながってゆくパターンが同様の高い精度で 支持されている。 >

> 以上から、現代日本列島人は、旧石器時代から縄文時代を通じて居住してきた縄文人の 系統と、弥生時代以降を中心に日本列島に渡来してきた弥生系渡来人の系統の混血であるこ とがはっきりした。 > また、アイヌ人はこれらとはさらに別の第三の系統(ニブヒなどのオホーツク沿岸居住 民)との遺伝子交流があったことがわかった。」

>

そんなことはとっくの昔に考慮に入れています。 紀元前 3~5 世紀頃に、北九州に稲作・金属器文明を携えた渡来人が流入して弥生時代が始まる以前、縄文人には二系統あり、日本祖語を話す南方系縄文人とアイヌ祖語を話す北方系 縄文人糸魚川-浜松ライン(糸浜線)を境界としてすんでおり、北方系は北海道まで、南方系は琉球にまでひろがっていたのです。(但し北方の方は、アイヌ以外に幾つかの異民族もいたようです)

稲作・金属器文明を携えた渡来人が何語を話していたかはわかりませんが、男ばかりでやってきたため、子孫を残すには原住民の女を捕まえて子供を産ませるしかありません。 その北九州の原住民の女が話していたのが日本(祖)語。

1 家庭内で父親と母親の言語が異なる場合、子供は接触時間の長い母親の言語の方を強く受け継ぐ 2 家庭内の言語と社会の言語が異なる場合、子供は同世代の子供とのつきあいから、社会の言語の方を強く受け継ぐ
というのは強固な言語社会学的法則。

渡来人を父、縄文人を母として生まれた混血児(初代弥生人)にはこの両方の法則が働き、父親の言語よりも、母親の日本語を強く受け継いだのです。 生産性の高い稲作農業によって、この日本語を話す混血児の人口が数十年の間に爆発的に増え、この植民地の経営が安定し、女子供を連れた渡来人が三々五々入って来る頃には、その植民地の共通語になっており、渡来人達は政治的には優位でも言語的にはマイノリティー、2~3 世代のうちに日本語に同化してしまい、日本語人口がどんどん拡大再生産されていったというわけです。

この日本祖語を話す南方系縄文人は、糸魚川-浜松から琉球にまで広がっており、渡来系(北方系)の遺伝子が殆ど混じっていない琉球人が、本土日本人(弥生人)との濃密な交流が始まる以前から日本語と同系言語を話していたのが何よりの証拠。

一々説明するのは面倒なので、メールアドレスを教えてください、以前に研究会で発表した際のレジュメをお送りします。

3D スキャナー ATOS - www.marubeni-sys.com 非接触で高精度・高速 3 次元計測 3 次元計測は丸紅情報システムズ 《印刷》高品質・低価格・短納期 - alps-pps.co.jp 《印刷コンシェルジュ》24H 受付/見積無料 大手印刷価格から 10%オフ、後払い可! C3D 日本正規総代理店 SEA - www.seanet.co.jp TRDI 超音波多層流向流速計 ADCP 販売 Benthos 社 C3D サイドスキャンソナー販売 中国ベアリング - www.mitukura.net 年間 100 万個以上の販売実績。在庫量は国内最大級 Ads by Google Re:記紀百済人記述説 投稿者:青面金剛 投稿日:2013 年 2 月 10 日(日)05 時 53 分 44 秒 返信・引用

藤井游惟さんへのお返事です。

【『日本史の宝石箱』オリエントの都アスカへの道】に、藤井游惟さんがコメントとリンクを張って少し後に、貴 HP は目を通しましたし、YouTube に UP された一連の音声付動画も、一通り見聞きました。

まずは、言葉の定義の問題で、日本語とは、現在私達が話しているものを基準と位置づけ、東北蝦夷の言葉は、原日本語とは見做さないのかを、定める必要が有ります。

当時の西日本である和(倭)と百済は、軍事的には同盟国であり、緩やかな連邦国家を形成していた事。また、現代と比べて、国境の意識・概念が希薄で、船を持つ集団にとっては、海流の流れに乗って行き来できる行動圏内が、彼らのグラウンドであった事。

それに加えて、貴族や官僚・軍人などによる記述が殆どの、時の権力層の言葉を分析したところで、一般庶民の視線からは、上擦った異質な世界に思えます。

古代に於いては、貴族と庶民の言葉が異なるのは、半島や大陸の国々にも言えることで、現代までに整えられた発音を基準にしても、当時の西日本で生活していた、一般庶民の枠組み全体にまで適用を拡大するには、無理がある、と思います。

異俗(あたしくにのひと)も重ねて来(もう)く 【『日本書紀』崇神紀】

つまり、「風習が異なる人々の言葉が幾重もの通訳を経て、ようやく都の言葉に至る。」という意味で、そのころ日本列島にあった言葉と風習は、徐々に都のものと調整され、統合した日本語が成立したことを示唆する内容です。

【『日本語の正体』金容雲(キム ヨンウン)P・39、三五館、2009年8月】

-----『日本列島3人類集団の遺伝的近縁性』2012/11/01

http://www.soken.ac.jp/news_all/2719.html

「今回の研究では、個人を単位にした解析と集団を単位にした解析を行なった。前者については、多変量解析の標準的な手法である主成分分析、祖先集団を仮定してそれらの遺伝子交流を個人ごとに推定する方法のふたつを用いて解析した結果、アイヌ人からみると、彼らから地理的に大きく離れている琉球人が遺伝的にもっとも近縁であり、両者の中間に位置する本土人は、琉球人に次いでアイヌ人に近いことが示された。

また、アイヌ集団が本土人およびおそらく北海道よりももっと北方の人類集団と遺伝子交流をしてきたことにより、個体間の多様性がきわめて大きいことがわかった。他の30人類集団のデータとあわせて比較しても、日本列島人(アイヌ人、琉球人、本土人)の特異性が示された。これは、現在の東アジア大陸部の主要な集団とは異なる遺伝的構成、おそらく縄文人の系統を日本列島人が濃淡はあるものの受け継いできたことを示している。

集団を単位とした解析では、アイヌ人と琉球人が統計的にきわめて高い精度でクラスターを形成し、それと本土人、韓国人がそれぞれつながってゆくパターンが同様の高い精度で支持されている。

以上から、現代日本列島人は、旧石器時代から縄文時代を通じて居住してきた縄文人の系統と、弥生時代以降を中心に日本列島に渡来してきた弥生系渡来人の系統の混血であることがはっきりした。また、アイヌ人はこれらとはさらに別の第三の系統(ニブヒなどのオホーツク沿岸居住民)との遺伝子交流があったことがわかった。」

(リンク先のグラフ画像・系統樹、等を参照)

> 中国の清朝のことを考えてください。満州族の清朝は明朝を滅ぼして中国全土を支配下に

おくと、それまで漢民族が野蛮人の風習としバカにしていた弁髪・胡服を漢民族に強制し、「髪を止める者は首を止めず、首を止める者は髪を止めず」とそれを徹底させました。しかし、当時の満州語を話す満州族の人口はたったの100万、中国語を話す漢民族の人口は2億、満州語を漢民族に強制するどころか、中国本土に移住した満州族の方が2~3世代で満州語を話せなくなり、清朝廃帝溥儀は、満州語など3語しか知らなかったそうです。現在では、現在満州族の人口は800万、但し、満州族として登録しておけば少数民族としての優遇を受けられるからで大半は中国語しかはなせず、満州語を母語として話せる者は辺境の村々の年寄りだけで、もう20年もすれば消滅するだろうと言われています。そして、この歌を音読している中国人や韓国人は、自分が何を読んでいるのか全く理解できませんが、日本人が聞くとかなり理解できます。ウソだと思うなら、これらを中国人や韓国人に聞かせてみればわかります。それでも、日本語は白村江以後にできた言語で、中国人や百済人に強制された言語だと仰るのですか？まずは拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」、或いはHPを全部読んで理解してから、意見を言ってください。琉球語や蝦夷語の問題を含む日本語の形成に関しては次に

出版する予定であり、既に原稿は8割方できています。

Ads by Google Re:古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月10日 (日)00時00分47秒 返信・引用

> No.1211[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

古市、百舌鳥古墳の被葬者を推定しました。
何かの痕跡が出れば明らかになるでしょうな。

現在の仁徳天皇陵は推定だが成務天皇陵。

成務天皇(せいむてんのう『古事記』『日本書紀』に伝えられる第 13 代天皇。和風諡号は稚足 彦尊(わかたらしひこのみこと)、若常日子天皇(わかたらしひこのすめらのみこと、古事 記)。

応神天皇陵は崇神天皇陵

崇神天皇(すじんてんのう、『古事記』『日本書紀』に記される第 10 代天皇。和風諡号は『紀』では御間城入彦五十瓊殖天皇(みまきいりびこいにえのすめらのみこと)。また、御肇國天皇 (はつくにしらすすめらみこと)と称えられる。『記』では御真木入日子印恵命(みまきいり ひこいにえ)である。現代日本の学術上、实在可能性が見込める初めての天皇であると言われている。

大泉緑地は景行天皇陵

大泉緑地(おおいずみりよくち)は、大阪府堺市北区にある大阪府営の緑地。約 200 種 32 万 本もの樹木が植えられた大森林公園で、巨大な滑り台が目玉となっている。名称の由来となった大泉池や、花壇、大芝生広場などの憩いのゾーンと、スポーツゾーンなどからなる。

景行天皇(けいこうてんのう、『古事記』『日本書紀』に記される第 12 代天皇。和風諡号は大足 彦忍代別天皇(おおたらしひこおしろわけのすめらみこと)・大常日子淤斯呂和氣天皇 (古事記)。常陸風土記には大足日足天皇。播磨風土記には大常日子天皇、大常日古天皇、大 常比古天皇。日本武尊(やまとたけるのみこと)の父。

垂仁天皇陵は完全に破壊されている。

垂仁天皇(すいにんてんのう、第 11 代天皇。活目入彦五十狹茅尊(いくめいりびこいさちのみこと)・活目尊等と称され、『古事記』には「伊久米伊理毘古伊佐知命(いくめいりびこい さちのみこと)」、『常陸国風土記』には「伊久米天皇」、『令集解』所引「古記」に「生目天皇」、

『上宮記』逸文に「伊久牟尼利比古(いくむにりひこ)大王」と見える。『日本書紀』、『古事記』

に見える事績は総じて起源譚の性格が強いついて、その史実性を疑問視する説もある。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 9 日(土)23 時 10 分 56 秒 返信・引用 編集済

> No.1210[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

埼玉県のとく企郡(ひきぐん)は東女國の郡

『翰苑』卷三十が引用した『魏略』逸文に倭人は太伯の子孫の文章がある。「帯方郡から女國に至る距離は 1 万 2000 里。」は魏志倭人伝の狗耶韓国になる。 どうも、魏志倭人伝では対馬から女王国になるが、実は女王国は女國の模様。 女國は扶桑国と 1 千里の位置を考慮すると、埼玉県が女國の扶桑国になる。 扶桑国に女國の郡があり郡名がとく企郡。女國は東女國で勢力は中インドに及んだ模様。 東女國は対馬から埼玉県になる。埼玉県から以北が日の出る所であったので統合し倭国から日本国

とした。しかし、ややこしいが日の出る所の国名は日本国らしい。

『唐会要』倭国・日本国伝

咸亨元年三月。遣使賀平高麗。爾後繼來朝貢。則天時。自言其國近日所出。故號日本國。蓋惡其 名不雅而改之。

咸亨元年(670 年)三月。遣使が高句麗平定を祝賀。以後は続いて朝貢に来る。則天武後の 時、自ら言うには、その国は日の出る所に近い。故に日本国と号する。思うに、その名が雅でないことを憎み、これを改名したのであろう。

倭人は太伯の子孫 「自帶方至女國万二千余里 其俗男子皆黥而文 聞其旧語 自謂太伯之後 昔夏后小康之子封於 会稽 断髮文身 以避蛟龍之害 今倭人亦文身 以厭水害也」

「帯方郡から女國に至る距離は1万2000里。その男子は皆、顔や体に刺青をしている。その旧語(伝承)を聞くに、倭人は自らを太伯の後裔であると言う。昔、夏后小康の子が会稽 に封ぜられ、断髮・文身をしてもって蛟龍の害を避けた。今の倭人もまた文身をして、水のな

かで害を厭(おさ)えた。」

『翰苑』卷三十が引用した『魏略』逸文

『梁書』によると、僧慧深(けいしん、拼音: Huishēn ホイシェン)が普通年間 (520年?527年)に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北 7000余里に文身国が、その東 5000余里に大漢国があり、大漢国の東 2万余里に扶桑がある。ただし、倭国・文身国・大漢国までについては地の文で事実として書かれているが、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。また、地の文の大漢国と慧深の言う大漢国が同じものかもはっきりしない。(注)秦野距離が一致する。文身国は秦野距離で山東半島になる。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013年 2月 9日 (土)22時56分 39秒 返信・引用

> No.1207[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> >『晋書』泰始二年・266年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」 >> 秦野訳 266年圓丘方丘を並べ、二至(住吉大社、等乃伎神社)を祀る。

> 南北を郊(茅渚之道、長尾街道)とする。図参照 どうも、倭人伝の記載だと、まだ墳墓の段階で、卑弥呼の墓は墳墓だった可能性もあります。

カクがない縦穴式でも粘土カクみたいな簡素なものだったかもしれませんね。

それが、その266年を境に、郊祀墳丘・廟と変化したとすると、始祖を祀る神社とかも付随してきそうなものですね。

箸墓になる段階で、かなり前方部が高くなるようですね。四角い方形の祭祀場がその上に見えますが、後円部にはまた別に丸い祭祀壇が見えます。

方位ラインはかならず後円部をとる鉄則があるのですが、主体はいまだ後円部にあり続けたとみなすべきでしょう。

- ・ > 古墳の配置は竹の内街道沿いに約 3.7 km 間隔で 4 基になる。
- ・ > 方位は 90 度になるので 2 基あわせて対角線が 7.4 km とすると 1 辺は 5.36 km。 >
- ・ > 南側と北側に茅渚之道、長尾街道が通る。長尾街道の終点は住吉大社。
- ・ > 茅渚之道は等乃伎神社。等乃伎(とのき)はどうも佐賀県の筑後川の古名のようなだ。 >
等間隔なら何か意味があるかもしれません。

> 熊本県阿蘇郡南小国町の阿蘇山の外輪山、瀬の本高原に源を発する。大分県に入り、日田市 で玖珠川を併せ西流。福岡県に入り筑紫平野を貫流する。久留米市西部あたりからは福岡県 と佐賀県をまたぐように南西方向に流れるが、流路変更の影響で筑後川の北西側であっても 福岡県であったり、逆に南東側であっても佐賀県であったりすること多い。

この辺の日田関係も重要ですね。 Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013年 2月 9日 (土)22時 01分 30秒 返信・引用 編集済

> No.1206[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

>>相攻撃する状を説く。塞曹エン史張政等を遣わし、因って詔書・黄幢をもたらし、難升米 に拝飯せしめ、檄をつくりてこれを告諭す。 >>「塞曹掾史」は官名であり、「郡の武官であろう」とするとともに、「この官名に類するものは、 前漢の元始三年(西紀三年)八月の紀年を記す『居延漢簡』に塞曹史とみえる
<http://www6.ocn.ne.jp/~hiba/hikigaeru/gama/utagenoframe.htm>

>塞 『居延漢簡』は確かに敦煌方面のそれでしたね。国境警備関連というのはよくわかります。

>「東」の解字、日本のごとで「木にかかる太陽」を象ったものだ
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~kaya2002/10nen/1107wa6.html>

これは面白いですね。「日本」は「日本」の意味にもよく似ている。扶桑木信仰に関係するのでしょうか。 東の国の掛詞だった可能性を感じますね。比企。

男衾郡 → 比企郡 : 小川町大字木部、木呂子、勝呂、靱負およびひばり台ー - 三丁目の一部 (旧竹沢村の一部) 大里郡 → 比企郡 : 小川町大字西古里、鷹巣 秩父郡 → 比企郡 : ときがわ町大字大野、桐平(旧大桐村)

ここで、男衾郡の木部、木呂子、勝呂、靱負、大里郡の鷹巣、この辺がすべて九州の新漢人と秦 氏系の名称ですね。

稲荷木信仰がこの辺にみえます。関係してやはり「日置」郡、日鷹(高)吉士あたりも関わり ますね。

鴻巣の埼玉古墳群ですが、鷹巣というのが、地域的に連続する可能性を感じます。 靱負は大伴系で、先に膳氏配下の大伴部と関わりとすると、だんだん見えてくるものがあり ますね。

その新漢人・吉士集団の「日」に関わる信仰が、後代聖徳太子~天智朝前後で宮中へと入って 行きます。 Re:記紀百済人記述説 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 9 日(土)16 時 34 分 2 秒 返信・引用

> No.1208[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >> 藤井游惟さん、初めまして。こちらこそ、 宜しく申し上げます。

>> 先ず、白村江の敗戦の結果、日本列島は西半分が占領下に置かれ、唐兵二千名が進駐軍と して入り、694 年に占領軍司令部としての藤原京が建てられます。彼らに対して組織的な 抵抗を始めた場合は、18 万もの唐の大軍が日本列島になだれ込む、という武力的な脅迫が 有ったと考えられます。日本原住民は藤原京内で放火を繰り返す、といった、ゲリラ的な抵抗 しか、しばらく出来ませんでした。 >> それに加えて、唐の進駐軍による行軍・視察と共に、それまでの文字だった神代文字で 書かれたものは、古代中国の例の如く、徹底的な焚書に遭ったはずです。 >>> 太平洋戦争の末期に於ける沖縄戦では、「琉球方言を話すものは、敵国のスパイとして処 分する。」という >脅迫の下に、1 千名を超える琉球人が処刑されたとされます。

中国の清朝のことを考えてください。 満州族の清朝は明朝を滅ぼして中国全土を支配下におくと、それまで漢民族が野蛮人の風習 としバカにしていた弁髪・胡服を漢民族に強制し、「髪を止める者は首を止めず、首を止める 者は髪を止めず」とそれを徹底させました。

しかし、当時の満州語を話す満州族の人口はたったの 100 万、中国語を話す漢民族の人口は 2 億、満州語を漢民族に強制するどころか、中国本土に移住した満州族の方が2~3 世代で 満州語を話せなくなり、清朝廃帝溥儀は、満州語など3 語しか知らなかったそうです。 現在では、現在満州族の人口は 800 万、但し、満州族として登録しておけば少数民族としての 優遇を受けられるからで大半は中国語しかはなせず、満州語を母語として話せる者は辺境の 村々の年寄りだけで、もう 20 年もすれば消滅するだろうと言われています。

>> また、戦後の GHQ 司令部らによる、英語必修科目化の強制により、僅か数十年で日本語 の発音は、大きく乱れて来ています。

↓は森博通氏が中国人が書いたとしている『日本書紀 α 群』収録の歌を中国の山東方言の漢字 音でに読ませたものです。 <http://www.youtube.com/watch?v=GrW9HbymQmo>

↓は私が百済人(朝鮮語話者)が書いたとしている『古事記』の同じ歌(若干言葉に違いがありますが)を韓国語漢字音で読ませたものです。

<http://www.youtube.com/watch?v=rxg-RV2OO18>

そして、この歌を音読している中国人や韓国人は、自分が何を読んでいるのか全く理解できませんが、日本人が聞くとかなり理解できます。　ウソだと思うなら、これらを中国人や韓国人に聞かせてみればわかります。

それでも、日本語は白村江以後にできた言語で、中国人や百済人に強制された言語だと仰る　のですか？

> 先に NHK で放送された『アテルイ』の戦いの様に、白村江以後大和朝廷の東北蝦夷との　戦いは激化して行きました。清水寺が対蝦夷攻略の祈願寺で在った様に、琵琶湖までが、原日本　人である、蝦夷の進軍域だったのです。　>

> 敗戦後の占領下に、あからさまに記録を残せるのは戦勝者の側であり、敗者の側は行間　に忍ばせる書き方しか出来ません。記紀万葉の編纂と執筆や筆写に関わった人数を合計して　見ても、当時の日本人人口の 1% にも満たないのでは無いでしょうか。　>

まずは拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」、或いは　HP を全部読んで理解してから、意見　を言ってください。

琉球語や蝦夷語の問題を含む日本語の形成に関しては次に出版する予定であり、既に原稿は　8 割方できています。

私は何度も言っているように「学者」ではなく「科学者」です。

「学者」というのは「単なる物知り」であり、その分野に関して、〇〇先生はこう言っている、×× 先生はこう言っている、という「知識」さえ豊富であればなれます。

「科学者」は、例えノーベル賞の受賞者の言うことであろうと、その理論を裏付け、自分を納得　させられるだけの証拠を提示していない限り、その理論は限り信じません。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re:記紀百済人記述説　投稿者:青面金剛　投稿日:2013 年 2 月 9 日(土)13 時 21 分 15 秒　返信・引用

> No.1199[元記事へ]

藤井游惟さんへのお返事です。　藤井游惟さん、初めまして。こちらこそ、　宜しくお願いします。

先ず、白村江の敗戦の結果、日本列島は西半分が占領下に置かれ、唐兵二千名が進駐軍とし　て入り、694 年に占領軍司令部としての藤原京が建てられます。彼らに対して組織的な抵抗　を始めた場合は、18 万もの唐の大軍が日本列島になだれ込む、という武力的な脅迫が有　ったと考えられます。日本原住民は藤原京内で放火を繰り返す、といった、ゲリラ的な抵抗し　か、しばらく出来ませんでした。

それに加えて、唐の進駐軍による行軍・視察と共に、それまでの文字だった神代文字で書　かれたものは、古代中国の例の如く、徹底的な焚書に遭ったはずです。

太平洋戦争の末期に於ける沖縄戦では、「琉球方言を話すものは、敵国のスパイとして処分　する。」という　脅迫の下に、1 千名を超える琉球人が処刑されたとされます。

また、戦後の GHQ 司令部らによる、英語必修科目化の強制により、僅か数十年で日本語　の発音は、大きく乱れて来ています。

先に NHK で放送された『アテルイ』の戦いの様に、白村江以後大和朝廷の東北蝦夷との戦　いは激化して行きました。清水寺が対蝦夷攻略の祈願寺で在った様に、琵琶湖までが、原日本　人である、蝦夷の進軍域だったのです。

敗戦後の占領下に、あからさまに記録を残せるのは戦勝者の側であり、敗者の側は行間に　忍ばせる書き方しか出来ません。記紀万葉の編纂と執筆や筆写に関わった人数を合計して見　ても、当時の日本人人口の 1% にも満たないのでは無いでしょうか。

> 奈良時代の人口は　500 万人前後と推定されていますが、白村江敗戦で百済人が「大量」に亡　命してきたといっても、記録にあるだけで　3000 人強、記録にないものを含めても 1 万人に満　たなかったはず。500 万人

の日本語話者の海の中にその0.1%前後の3000~1万人程度の百濟語話者が入って来ても日本語の方はビクともしません。せいぜい、百濟語起源の外来語が増える程度で、2~3世代で百濟人の子孫も日本語に同化し、百濟語話者は日本から消え去

ってしまいます。その証拠が、「上代特殊仮名遣い」が740年頃から急速に崩壊していくことです。仮に白村江敗戦後に百濟から亡命してきた人間が5000人、日本の人口が500万人とし、その500万人が日本語とは異なる言語を話していたとして、百濟人全員が百濟語教師になり、一人が1000人の生徒を相手にして、全員を短期間の間に百濟語、或いは加羅・新羅語話者に変身させることができたとも言えるのでしょうか?(^ ^)私は、「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」において、言語的な日朝同系説を「積極的に否定」しているのです。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月9日(土)10時35分34秒 返信・引用 編集済

> No.1205[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

まず、古墳の方位から行きましょう。 >『晋書』泰始二年・266年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」

秦野 266年圓丘方丘を並べ、二至(住吉大社、等乃伎神社)を祀る。 南北を郊(茅渚之道、長尾街道)とする。

図参照

古墳の配置は竹の内街道沿いに約3.7km間隔で4基になる。方位は90度になるので2基あわせて対角線が7.4kmとすると1辺は5.36km。

南側と北側に茅渚之道、長尾街道が通る。長尾街道の終点は住吉大社。茅渚之道は等乃伎神社。等乃伎(とのき)はどうも佐賀県の筑後川の古名のようなだ。

筑後川

熊本県阿蘇郡南小国町の阿蘇山の外輪山、瀬の本高原に源を発する。大分県に入り、日田市で玖珠川を併せ西流。福岡県に入り筑紫平野を貫流する。久留米市西部あたりからは福岡県と佐賀県をまたぐように南西方向に流れるが、流路変更の影響で筑後川の北西側であっても福岡県であったり、逆に南東側であっても佐賀県であったりすること多い。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年2月9日(土)10時29分49秒 返信・引用

> No.1205[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

>相攻撃する状を説く。塞曹エン史張政等を遣わし、因って詔書・黄幢をもたらし、難升米に拝飯せしめ、檄をつくりてこれを告諭す。

「塞曹掾史」は官名であり、「郡の武官であろう」とするとともに、「この官名に類するものは、前漢の元始三年(西紀三年)八月の紀年を記す『居延漢簡』に塞曹史とみえる。

<http://www6.ocn.ne.jp/~hiba/hikigaeru/gama/utagenoframe.htm> 塞

スキタイの末裔 中国名「塞(さい)」<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

東東(私的に夏至・冬至…)曰(太陽)曹〔つかさ・ソウ〕 - 古代文字字典 曹〔つかさ・ソウ〕. soul.gif【解字】会意文字、東東+曰(えつ)。東は橐(たく)の初文。裁判の当事者がそれぞれ提供するものを橐(ふくろ)に入れて並べる形。曰は自己詛盟としての誓約を入れる器。曹はもと裁判用語。
<http://www.kodaimoji.com/dictionary/post-38.html>

>「并」解字:形声。意符の??(人が二人相並ぶ)と音符の二(あるいは一。あわせる、つなぐ意)とから成る。二人を並べ合わせる意。<http://shoukei.blog65.fc2.com/category6-1.html> 東東…並ぶ 司、会意。「人+口」。上部は、人の字の変形、下部の口は、穴のこと。小さい穴からのぞくことをあらわす。視(し)や伺(うかがう)・祠(し、神意をのぞきうかがう→まつる)の原字。転じて、司

...<http://homepage3.nifty.com/giboshi/kaijitbl025.htm> 「東」の解字、日本の中で「木にかかる太陽」を象ったもの

だ <http://www5a.biglobe.ne.jp/~kaya2002/10nen/1107wa6.html> 小林説では百済の義慈王であり、幼名の軽皇子の「kwa」は、つまり馬韓だろう。ちなみに皇位を譲った古大兄皇子の「フル」は huru-hune で天理の布留に定着したフン族である。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 9 日 (土)07 時 57 分 43 秒 返信・引用 編集済

> No.1202[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 言っているのは、古市、百舌鳥古墳の間隔距離で大きさではない。 > 古墳は大きさが目立つが、実のところは、間隔距離なんです。 > 其処が盲点なんですな。

了解しました。仁徳→(11.1km)応神→ナガレ山→崇神陵までは、以前お話したとおり、33.1km で、11.1km、24.5cm の晋尺もしくは盤龍鏡尺ではないかと考えてますが、いろいろ割り算の仕方でも数値が異なる場合もあるので、気をつけたいところですね。先の、乙女山古墳: (104m=21m×5)(130m) 尺 21cm or 130m も、104m=26×4 ともとれたりします。この場合、他の後方部の距離とかを参照することで、尺度がどちらかも明らかになってきます。ひとつだけの資料では判らないときは、サブ視点からの確認手段を用意しておきたいところです。

> >『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」 > 秦野は 266 年は正しいと思っている。卑弥呼は(240 年 - 249 年)年代で円墳になる。 >

> 行き着くところ秦野距離も古韓尺も同一なんですな。短里は公開されていなかったのでしょう。 > 尺、歩、短里、里、が存在した様ですな。 > 円墳の直径は秦野距離から 178 m になる。

>

それで、先の男狭穂塚の件を再度調べて添付の比較図を作成してみました。

左から順に箸墓・男狭穂塚・乙女山古墳・西都原 81 号 墳ですが、男狭穂塚と 81 号墳、および乙女山古墳には造出の位置に共通し、また箸墓と 81 号墳 はバチ型に開く点が共通します。

乙女山古墳と箸墓古墳は先の 5 度偏角方位区画に載ることがあり、葺石・円筒埴輪の件も 考慮すると同時代の成立を考えます。

また、男狭穂塚と 81 号墳も造出部の構造的にみて同系の近い時期で、箸墓古墳の時代と重なる可能性を感じます。西都原古墳は会報第 1 号で論じたように、物部氏と関わる弥生正方位区画と関わりますが、また磐船神社といった 7 度偏角方位区画の拠点とも関わり、弥生末のある時期に、西都原地域に進出した「二ニギ(爾支)」の首長が東遷したかもしれません。それで孝霊朝の物部妃が黒田庵田宮に入る時期を、イヨの時期として、それ以前の時期を卑弥呼の時期というかもしれません。

それで倭人伝を読んで行くと、卑弥呼以て死す。大いにチヨウを作る。径百余歩、徇葬する者、奴婢百余人。この百余の共通性は、何か意味がありますね。

兵には矛・盾・木弓を用う。木弓は下を短く上を長くし、竹箭はあるいは鉄鏃、あるいは骨鏃なり。有無する所、タン耳・朱崖と同じ。倭の地は温暖にして、冬・夏生菜を食す。皆徒跣なり。屋室有り。父母兄弟の臥息処を異にす。朱丹を以てその身体に塗る

朱崖

<http://www.geocities.co.jp/Bookend/3106/DIARIES/D0005B/D0005131.html>

香港のほうですね。風俗記載は、確かに邪馬台国の記載とかなり共通性があります。

卑弥呼以て死す。大いにチヨウを作る。径百余歩、徇葬する者、奴婢百余人。更に男王を立てしも、國中服せず。

更更相誅殺し、当時千余人を殺す。

ここで「更に」という用法がおかしいですね。卑弥呼が死んで男王をたてても「なお更に」との意味にとれそうです。

そして「更に更に」と二回繰り返しているのも、先の連続で捉えられそうです。この「更に」の用法もちょっとどうなんでしょう。

更更相誅殺し、当時千余人を殺す。また卑弥呼の宗女壺与年十三なるを立てて王となし、國中遂に定まる。政等、檄を以て壺与を告諭す。

げき【×檄】 1 古代中国で、召集または説諭の文書。木札を用いたという。めしぶみ。さとしぶみ。 2 自分の考えや主張を述べて大衆に行動を促す文書。檄文。ふれぶみ。 <http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/67450/m0u/>

おかしいですね。まだ張政は倭国にいたはずなのに、イヨにわざわざ文書・手紙を送っています。

当時伊都国から文字の刻まれた土器がでており、文書行政システムがあったことは倭人伝のとおりです。卑弥呼に伊都国が直接文書を送るシステムです。

王、使を遣わして京都・帯方郡・諸韓國に詣り、おろび郡の倭國に使用するや、皆津に臨みて搜露し、文書・賜遺の物を伝送して女王に詣らしめ、差錯するを得ず。

このシステムのもとで、張政は、次の王のイヨに手紙を送ったと考えるべきでしょう。会いはいかないところをみると、張政は、かなりイヨのいた都から離れたところにいた可能性を感じます。あるいは卑弥呼同様にイヨも籠っていたから会えなかったとも解釈できそうですが、どうもそんな感じではない。

もう一度よむと、

相攻撃する状を説く。塞曹エン史張政等を遣わし、因って詔書・黄幢をもたらし、難升米に拝飯せしめ、檄をつくりてこれを告諭す。

ここで、難升米に拝飯させるのは、皇帝が太守にさせるのと同様で、遠いので近い臣下に飯に拝受させる、の意味にとれそうですね。ここで手紙もつくっておく。難升米はやはり、伊都

国あたりの近くにいた可能性を感じます。

壺与、倭の大夫率善中郎将掖邪狗等二十人を遣わし、政等の還るを送らしむ。因って台に詣り、男女生口三十人を献上し、白珠五千粒・青大勾珠二枚・異文雜錦二十匹を貢す。

これがしばらくたって266年の記載との見方がありますね。248年から18年も経って、晋に王朝交替したので、それをききつけてすぐに使いを派遣したとみるべきで、このころにはイヨの政治はかなり安定していたと見えますね。

そして、白珠・青大勾珠は、先の倭人伝の風俗記載と共通します。

18年も張政も掖邪狗も生存していて再び中国へ向かったとの内容ですが、何か変な気がしますね。

その8年、太守王キ官に到る。倭の女王卑弥呼、狗奴國の男王卑弥弓呼と素より和せず。倭の載斯烏越等を遣わして郡に詣り、相攻撃する状を説く。塞曹エン史張政等を遣わし、因って詔書・黄幢をもたらし、難升米に拝飯せしめ、檄をつくりてこれを告諭す。

これは、帯方郡のところに、倭の使者がきて、攻撃されているとの報告を受けたので、それをさらに帯方太守が、わざわざ洛陽の担当官までやってきて、その支援を要求したと解釈すべきでしょうか。

それに対して、皇帝は国境管理軍職の張政を派遣して、伊都国あたりの難升米のところまで行き、女王へ手紙を送った。

それで卑弥呼が死んで、内乱があつて「更更相誅殺し、当時千余人を殺す。」

「当時」は現代の用法では、過去を回想しながら話すケースですね。もしそうならば、この記録を記した人物も、その様を見ていた可能性がでてきます。

「当時」の用法も課題ですね。そこでイヨがたって、乱が治まり、また「政等」が、檄文を送るのですが、ここで「等」となって、

先の太守や難升米なども関わって、イヨのところまで贈らせたように見えますが、 どうもこれは解釈が間違っているようにみえます。

つまり、卑彌呼が死んで(殺して?)、さらに治まらないので、イヨを王となして、さらに張 政がイヨを擁護する(たぶん脅し?)の檄文を国中に知らしめたので、それで国が治まった という読みになるのではないのでしょうか。

卑彌呼以死大作冢徑百餘步徇葬者奴婢百餘人 更立男王國中不服 更相誅殺當時殺千餘人 復立卑彌呼宗女壹与年十三爲王 國中遂定 ←政等以檄告諭壹与

壹与遣倭大夫率善中郎将掖邪狗等二十人送政等還 因詣臺献上男女生口三十人貢白珠五 千孔青大句珠二枚異文雜錦二十匹

あと、これは266年の晋初の倭人朝貢記載じゃないですね。たぶんすぐ乱が収まって、張政 も伊都国あたりから帰っている。

そうすると、魏の影響は247年の時点では、せいぜい伊都国や九州あたりまでしかなかったかもしれません。だから南方的な風俗記載になったのかもしれない。

その後266年に再度朝貢してきたときに、晋のほうでさきのとおり、あれこれ倭人に新し い円丘とか都市とかを見せたり、さらに技師を派遣したりした可能性を感じます。それで奈 良に都城区画が再構築されていく。箸墓から馬具が出てくるのも、その辺の影響でしょうか。 マキムク遺跡の全盛期は3末だそうです。

Ads by Google Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013年 2月 9日 (土)06時 17分 22秒 返信・引用

> No.1203[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

>>『晋書』泰始二年・266年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊において す」 >并。』=「あい従うこと >并」については、『説文解字』で《从(ジュウ=従)部》に分類し、「相従也。从从开声。一曰 从 持二為并。』=「あい従うこと。“从(ジュウ=従)”と“开(ケン)”から成り立ち、“开(ケ ン)”が音。一説に、从(ジュウ)―二人の人が“二”を持つのを“并(ヘイ)” ...<http://mei2jikai.blog113.fc2.com/?mode=m&no=129>

>、“开(ケン)”が音。一説に、从(ジュウ)―二人の人が“二”を持つのを“并(ヘイ)”と為 す。」と記している。

>>并」解字:形声。意符の??(人が二人相 並ぶ)と音符の二(あるいは一。あわせる、つなぐ 意)とから成る。二人を並べ合わせる意 。<http://shoukei.blog65.fc2.com/category6-1.html>

>

ご教授ありがとうございます。参考になりました?

Ads by Google Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年 2月 9日(土)00時 45分 28秒 返信・引用

> No.1201[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 >『晋書』泰始二年・266年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」并。』=「あい従うこと 并」については、『説文解字』で《从(ジュウ=従)部》に分類し、「相従也。从从开声。一曰 从持 二為并。』=「あい従うこと。“从(ジュウ=従)”と“开(ケン)”から成り立ち、“开(ケン)”が音。一説に、从(ジュウ)―二人の人が“二”を持つのを“并(ヘイ)” ...<http://mei2jikai.blog113.fc2.com/?mode=m&no=129>、“开(ケン)”が音。一説に、从(ジュウ)―二人の人が“二”を持つのを“并(ヘイ)”と為 す。」と記している。

mode=m&no=129、“开(ケン)”が音。一説に、从(ジュウ)―二人の人が“二”を持つのを“并(ヘイ)”と為 す。」と記している。

并」解字:形声。意符の??(人が二人相 並ぶ)と音符の二(あるいは一。あわせる、つなぐ 意)とから成る。二人を並べ合わせる意 。<http://shoukei.blog65.fc2.com/category6-1.html>

𡗗(平らにする意=平)=>埋葬所?=>神社 卯杖祭 | 世界史掲示板 ... また、○の変形として、円い意味を表わすことも有る。字義:かこむ。めぐる。解字:指示。四 面を囲った形により囲む。... 𡗗は「刑」の偏のように「干」の横棒が融合した融合型 となる 場合と、「𡗗」の偏のように「干」をただ並べただけの並列型の ... 圭…土 土 △△ 𡗗(平らにする意=平)=>埋葬所?=>神社 二つの字は、共に祭祀用の祭壇の左右に盛られた“盛土”を象(かたど)ったものであり、盛 土が笠ねているのではなく、二つ並んでいることを表している。 丘と丘との間に位置するばしよを「低い場所」、「低地」として指し示すようになった。

上賀茂神社細殿 立砂の謎 <http://www.eonet.ne.jp/~yamauo2005/tatezuna.html> 上賀茂神社の二ノ鳥居をくぐると細殿(ほそどの)と呼ばれる拝殿があり、 その前に左右一対の白砂で作られた奇妙な円錐形の盛砂がある。一体これは何を表しているのだろうか? 神社の案内板には以下の説明がある。

立砂(たてずな) 盛砂(もりずな)とも云い、「たつ」とは神様のご出現に由来した言葉であり 神代の昔ご祭神が最初に降臨された 本殿の後 2km にある 円錐形の美しい形の神山(こうやま)に因んだもので 一種の神籬(ひもろぎ) 即ち神様が降りられる憑代(よりしろ:依代)である。 鬼門・裏鬼門にお砂を撒き清めるのは 此の立砂の信仰が起源で 「清めのお砂」の始まりである。

立砂と細殿の方位 立砂と細殿は鬼門に関係すると言われている。図 3 はその google 航空写真である。 図によれば細殿の参拝方向は、北から時計回りに 38 度で、鬼門(45 度)からかなりはずれて いることがわかる。

しかし、磁北を基準にすると、京都市の西偏角は 7 度であるから、 $38^{\circ}+7^{\circ}=45^{\circ}$ となり、ぴったりと鬼門に一致する。 立砂は、都からの方位が鬼門にあたるかどうかではなく、鬼門の方位そのものを対象にして

いたことが想定される。

神山の山頂の磐座と本宮とを結ぶ一直線上の丸山(153m)の南麓台地(本宮の後方約八 町)に設ける。

御囲には、藤づるの皮で作った径四寸ばかりの円座様のものを取りつける。これを「おすず」と称する。 また、御囲の前面、即ち南庭一間半ばかりの所に、約一間半の間隔を置いて、左右に高さ一尺 程度の立砂を二基設ける。

これは白の御影砂を用いる。

立砂は、都からの方位が鬼門にあたるかどうかではなく、鬼門の方位そのものを対象にして いたことが想定される。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 9 日(土)00 時 16 分 1 秒 返信・引用 編集済

> No.1201[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

言っているのは、古市、百舌鳥古墳の間隔距離で大きさではない。 古墳は大きさが目立つが、実のところは、間隔距離なんですよ。 其処が盲点なんすな。

主な古墳と現在は無くなった古墳を含めて 4 基になる。

埋葬者の可能性は崇神天皇、垂仁天皇、景行天皇、成務天皇、日本武尊、仲哀天皇 日本神話、伝説から日本武尊、仲哀天皇は可能性が低い 4 基は崇神天皇、垂仁天皇、景行天皇、成務天皇でないか?

>『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」 秦野は 266 年は正しいと思っている。卑弥呼は(240 年 - 249 年)年代で円墳になる。

行き着くところ秦野距離も古韓尺も同一なんすな。短里は公開されていなかったのでしょ

うな。 尺、歩、短里、里、が存在した様ですな。 円墳の直径は秦野距離から 178 m になる。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 8 日 (金)23 時 13 分 10 秒 返信・引用 編集済

> No.1200[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 26.7cm 尺の倍数が 53.4cm に成りますな。
- > また、先ほど、古市、百舌鳥古墳で 2.62 km の距離を確認しました。
- > 正確に測定すれば 2.67 km になりますな。 >
- > 新井さんの古韓尺 26.8cm?

あれ、古墳群間は違う尺だったと思いますが、古墳そのものに使用された尺とか、後代 の…とかその可能性はありますね。すでにどなたかそれらの古墳と古韓尺の件話してい たと思いますよ。

それで、ちょっと気になりはじめたのが、先の小川さん指摘の文面です。『晋書』泰始二年・266 年条に「圓丘方丘を并(ナラ)べ、二至の祀を南北の郊においてす」

これが并(ナラ)べと読んでよいかどうか。よいような気がするのですが。 この前の条文が小川氏指摘のイヨの貢納記載です。

それで、266 年以降の前方後円墳(マキムク型除く)成立とすると、黒塚・西殿塚を載せ る 5 度偏角方位区画もそこまでずらす必要がありそうです。

そうすると、卑弥呼の墓はどこいったのか?が課題になりますね。イヨの時代には黒田庵戸 宮の都状区画に入っていたはずです。

ただ卑弥呼はもしかすると、まだ大和に入っていなかったか?この辺が課題でしょう。

男狭穂塚を、ちょっと尺度面から再度考えなおすべきかもしれません。先のとおり後円部が 132 M になるので、一般的な三角縁を 1 尺とした場合の 100 歩=130 M よりやや大 きくなります。これが「余歩」とすべきでしょうか。

西殿塚も同様に 135 M で大きいのですが、これはおそらく三角縁が年号銘鏡とかで大きいサイズだったので、130 歩にしても、少し大きくなったと考えうるかもしれません。

また卑弥呼時代の邪馬台国の位置について考え直す必要がでてきそうですね。再度先日 of 尺 度分析の引用しておきます。

ヒミコの墓の直径「100 余歩」が、先述の(三角縁)景初三年鏡・正始元年鏡・盤龍鏡・ (一般)鏡、あるいは半円浮彫・画紋帯神獣鏡を使用していたと仮定すると、魏尺で推定す る 23.7cm:142m よりかなり短くなる可能性があります。下記のとおりです。

魏尺:(三角縁){ 盤龍鏡:景初三年鏡:正始元年鏡:(一般)神獣鏡 }:(半・画)神獣 鏡
23.7cm:24.5cm:23.0cm:22.6cm:22cm:21cm =142.2m:147m:138m:135.6m:131m:125m
=35.55:36.75:34.5:33.9:32.75:31.25

またヒミコの墓の推定候補としてあげる古墳の(後円部径)(全長)は下記のとおりです。

桜井茶臼山古墳:(110m=22m×5)(207m=110m+(97m= 32m×3)) 尺 32m or 22m 箸墓古墳:(150m=21.4m×7)(278m=150m+(128m=32m×4)) 尺 32m or 21.4m 黒塚古墳:(72m)(130m=72m+58m) 尺 130m 西殿塚古墳:(135m=33.7m×4)(234m=135m+(99m=33m×3)) 尺 33.0m or 33.7m 中山大塚古墳:(67m=22.2m×3)(130m=67m+(63m=21m×3)) 尺 21 or 22.2m or 130m 椿井大塚山古墳:(110m=22m×5)(175m=110m+(65m=22m×3)) 尺 22m 崇神陵:(158m=31.6m×5)(242m=158m+(84m=21m×4)) 尺 31.6m or 21m 男狭穂塚:(132m=22m×6)(175m=132m+(43m=21.5m×2)) 尺 21.5m or 22m 乙女山古墳:(104m=21m×5)(130m) 尺 21cm or 130m

このように、32~3m もしくは 21~2(c)m の尺度が共通して多く見え、これらの古墳の尺 度が、主に一般的な三角縁神獣鏡の直径によって測量されていたことが予想できます。そし

て 3 つの古墳が 130m 尺を出すことから、「径百余歩」が 130m 前後であったことも推定でき ます。 Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 8 日(金)22 時 44 分 21 秒 返信・引用 編集済

> No.1192[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

26.7cm 尺の倍数が 53.4cm に成りますな。 また、先ほど、古市、百舌鳥古墳で 2.62 km の距離を確認しました。 正確に測定すれば 2.67 km になりますな。

新井さんの古韓尺 26.8cm?

>> そう、秦野距離は 53 km とのことで、またこの距離がある時代の半島における「千里」だったと方位区画面からも考えうることは、先日論議したとおりですね。もっとその由来を深める必要があるように感じます。

> これらは方位ラインとか方位区画のこともありますが、先のとおり成務五年秋九月条 に、「令諸國、以國郡立造長、縣邑置稻置。並賜楯矛以爲表。則隔山河而分國縣、隨阡陌以定邑里。因以東西爲日縱、南北爲日横。山陽日影面。山陰日背面。是以、百姓安居。天下無事焉。」と 見えることがあり、これはまた国造・稻置の起源潭です。

>> あと、それでその埼玉古墳群と府中国府跡を結ぶ 50.9km の南北方位ラインの件ですが、その真北に武蔵国分寺があることに気付きました。それでそこまでの距離が 48.2km で、これが 26.7cm 尺になり、新井さんの古韓尺 26.8cm なんです。 >

Re:記紀百済人記述説 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 8 日(金)20 時 44 分 42 秒 返信・引用

> No.1191[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

青面金剛さん

初めまして。 宜しくお願いします。

> 藤井游惟さんの説に、近い内容を、20 年程前に朴炳植(パクビョングシク)が書いています。 >>「記紀は、百済から逃れてきた学者らの手によって、「漢文」で書かれたものであるから(一部の歌などは吏読《りど》=万葉仮名で書かれている)書名も漢文風に読まなければならぬ。だが、それに対する『万葉集』は、慶尚道方言(伽耶・新羅方言)、つまり、ヤマト言葉で書かれているものであるから、書名もヤマト言葉で読まなければ理屈にあわないのである。」

さて、その朴炳植という人の説は私の説とは全く似ておらず、私の説はこの類の「疑似科学 説」を積極的に否定するものです。

私が言っているのは、白村江以前の日本(倭)には読み書きできる人間が殆どおらず、朝鮮人(主に百済人)やたまに中国人を雇って文書事務をやらせていたが、その絶対数が少なすぎて、ごく僅かの文献しか作れなかった。(今日残っている白村江以前で、日本国内で作成で「文字の書かれたもの」

「文章」と呼べるものは、稻荷山古墳鉄剣名と、作成年代が疑わしい「推古記遺文」ぐらいです。ところが 660 年百済滅亡の際の中国人献上、663 年の白村江敗戦による百済人大量亡命によって、日本国内に読み書きできる人材が一気に増え、『記紀万葉』等がその時代に作られた。ところが『記紀万葉』を書いていたのが百済人(朝鮮語話者)と中国人(『日本書紀 α 群』)であったため、そこに借音仮名で記述されている当時の日本語は、朝鮮人の音韻感覚で聞き取った日本語、中国人の音韻感覚で聞き取った日本語であり、それが「上代特殊仮名遣い」というものである、ということです。

日本語と朝鮮語は当時から完全に別の言語であり、百済語・新羅語といったって、それは朝鮮語の枠内の方言差に過ぎません。

朝鮮語に関する私の考えは拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」第七章をご覧ください。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/7shou.html> > 現在の日本語は、白村江以後のものであり、それ以前の原日本語は、北と南へ其々押し遣ら

れて、アイヌ語と琉球語として残っていったのでは、ないのでしょうか。アイヌ語の地名が、日本列島の大部分に分布しているのが、それを物語っていると思われます。 >

岡田英弘氏も同じようなことを言っていますが、失礼ながら、言語社会学者から見れば、全く 噴飯モノというしかありません。

奈良時代の人口は 500 万人前後と推定されていますが、白村江敗戦で百済人が「大量」に亡命 してきたといっても、記録にあるだけで 3000 人強、記録にないものを含めても 1 万人に満たなかったはず。

500 万人の日本語話者の海の中にその 0.1%前後の 3000~1 万人程度の百済語話者が入って 来ても日本語の方はビクともしません。 せいぜい、百済語起源の外来語が増える程度で、2~3 世代で百済人の子孫も日本語に同化 し、百済語話者は日本から消え去ってしまいます。

その証拠が、「上代特殊仮名遣い」が 740 年頃から急速に崩壊していくことです。

日韓併合に伴い、日本に移住してきた在日韓国・朝鮮人の子孫は現在日本の総人口の 1%近 い 100 万人以上もいますが、 3 世以降の世代で朝鮮語を母語として話せる者は殆どいないのをみれば明らかでしょう。

仮に白村江敗戦後に百済から亡命してきた人間が 5000 人、日本の人口が 500 万人とし、その 500 万人が日本語とは異なる言語を話していたとして、 百済人全員が百済語教師になり、一人が 1000 人の生徒を相手にして、 全員を短期間の間に百済語、或いは加羅・新羅語話者に変身させることができたとも言う ので しょうか?(^^)

私は、「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」において、言語的な日朝同系説を「積極的に否定」し ているのです。このこと HP には書いてありませんが、拙著の「おわりに」に書いてありますので、お読みで ないなら拙著をお買い求め頂き、ご参照ください。

また、琉球語とアイヌ語に関しては、拙著の第一章と「おわりに」で触れており、次に出版す る予定です。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re:記紀百済人記述説 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 8 日(金)17 時 47 分 54 秒 返信・引用 編集済

> No.1191[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> 藤井游惟さんの説に、近い内容を、20 年程前に朴炳植(パクビョングシク)が書いてい ます。

> ----- > >《...、「山」の語源が「ラマ=太陽の住むところ」であり、それが「ラマ→ヤマト」と音変化をした からで、「山跡=ヤマト」とは「ラマの国があったところ=日本」という意味なのである。 >

> (中略) >「日本」と書いて「ヤマト」と訓むのは、「太陽・日」のことを、古代朝鮮語で「ラ」と称してい たからである。(同、P・132)》 > > -----

> 一部の神社に残る神代文字の祝詞や、山の民の存在が、生粋の原日本人と、禁じられた文字 文化を顕わしていると考えます。

青面さん、こんにちは。山の民と太陽信仰の件は、関連して 30 年前の小川光三さんの本『大 和の現像』に、三輪山等の山岳信仰と、日の出等の太陽の方角と、箸墓等の方位ラインとの関 係について述べられていますね。

その言語関連の詳しいことは藤井さんのご回答を待ちたいとおもいますが、それで小川さん

の本を読み返していて、興味深くおもったのは、前方後円墳の形状について、晋書(266 年)条に、円丘と方丘を(今まで別々だったものを)「并べて」祀った記載があることです。そしてこの条文のすぐ前に倭人貢納記載が続くことから、この件に前方後円墳が由来するこ とを指摘しています。

30 年前当時は前方後円墳は 200 年代初頭とのことで、この指摘は無視されたのではない かと感じるのですが、最近箸墓も 270~80 年とする見方もあり、彼の指摘が 30 年た って通説となる可能性が出てきているのかもしれない。

写真家としてはプロだった小川氏の指摘、この指摘が最初だったとすれば、今の学会はどう 反応するのか?そういうところにもちょっと興味がありますね。

おそらくその前段階のマキムク型前方後円墳は、ちょっと違う経緯、橋梁部分が方形になっ ていったようにみえるのですが、そこから飛躍した前方後円墳がでてくる背景には、やはり この晋 266 年の記載を考えるべきなのかもしれません。

ともあれ、専門外の人の意見が、数十年後に的をえていたことが明らかになるケースもある ようなので、ぜひみなさんも多角的な視点から新意見を出して、本にして発表してほしいと 感じます。 井 船 橋… 塞(境) 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 8 日(金)11 時 27 分 14 秒 返信・引用

井戸は前述した風土記の黄泉の穴と同じく古い日本人の他界観念にも繋がっていた。

船　うなさか【海境・海界・海坂】**【補説】**舟が水平線の彼方に見えなくなるのは、海に傾斜があ

—<http://dic.yahoo.co.jp/dsearch/0/0ss/101690500000/>

77.sakura.ne.jp/nanawatari/Shrine/dosojin99.html ?塞符 ?塞の神(さえのかみ)。道祖神と同一視される道の安全を確保する神。天狗の原型とされるサルタヒコも、天孫降臨で道案内したことから、塞の神として祀られている。 ?山神(さんじん,やまつみ) ?サルタヒコは山の神とされたりもする。 ?渡御(とぎょ) ?神を御輿に宿して巡幸する神幸祭の渡御行列。サルタヒコが先導する。 ?天孫降臨(てんそんこうりん) ?天照大神の孫ニギが地上に降りてきたこと。サルタヒコが導いた。 ?天上天下(てんじょうてんげ) ?天界と地上。サルタヒコは天と地を照らしていた。 ?照國(てるくに) ?天照國照彦火明(アマテルクニテルヒコホアカリ)。ニギの兄の「ホアカリ」。

ニギハヤヒは物部氏の祖神。<http://www.toho-motoneta.net/index.php?cmd=read&page=%BC%CD%CC%BF%B4%DD%CA%B8%2F%BA%C9%C9%E4&alias%5B%5D=%BC%CD%CC%BF%B4%DD%CA%B8%2F%BA%C9%C9%E4%A1%D6%C5%B7%C2%B9%B9%DF%CE%D7%A1%D7>

謎の磐船伝承地を探る 大きさは共に高さ 5m 程もある大きな塚といい、幸神塚は塞の神を祀っていた所で、二つの塚はこの地を支配した ... 古代の磐船山から高津の一帯は、上町台地上を境に東は玉造江に臨む東成郡、台地西側は大 阪湾を望む西成郡 ... 橋の地域一帯は、まさに 下照比売伝承の霊 地であったといえるでしょう。比賣許曾神社 受けて悩亂す、磐船といふ事もいまだしら ざりし時なれば、人々驚き恐怖して井を掘る事をそれより 止めしと なん 。 http://www.geocities.jp/iko_kan2/nazo-iwafune.html 難波の上町台地と生駒山・葛城の山ろくに伝わる謎の磐船・岩船の伝承地を探ってみるこ とにします。 欽明天皇の代(6 世紀)にこの地に岩船があり、三神がその上に出現されたことから、神社とし

て奉祀するようになったといわれます。 謎の岩船については、神社の 80m 程北側の水田の中に、二つの円い塚が隣接して存在し、東側の塚は「幸神塚」と呼ばれ、西側は「無名塚」でした。 大きさは共に高さ 5m 程もある大きな塚といい、幸神塚は塞の神を祀っていた所で、二つの 塚はこの地を支配した有力者の陵墓だといわれていたようです。 さらにこの塚のまわりを開墾した際、船に似た長大な岩があって、その長さは東塚から西塚まで達する長さ 40m ほどの巨大な石で、この不思議な巨岩は、古代の岩船が難破して沈没したものだとも伝えられています。 難波・河内一帯と東側に連なる生駒・二上・葛城山系周辺にかけた広大な地域は、古くは物部氏の勢力地域、のちには住吉大社の神領地であり、各地には百済・新羅からの渡来氏族であっていた。 渡来氏族であっていた。磐船などの伝承がどのように各地に残されてきたのか、その謎解きは大きな古代史のロマ

ンといえるでしょう。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 8 日(金)10 時 59 分 3 秒 返信・引用

> No.1192[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> あと、それでその埼玉古墳群と府中国府跡を結ぶ 50.9km の南北方位ラインの件ですが、その真北に武蔵国分寺があることに気付きました。それでそこまでの距離が 48.2km で、これが 26.7cm 尺になり、新井さんの古韓尺 26.8cm なんですよ。 >

> 武蔵国分寺周辺は、壬生吉士がかかわっていて、いろいろ関東や群馬、山梨を結ぶ八角墳のラインをみると、新漢人と吉士、おそらくは同根が、関東に進出していく過程で、高句麗古墳群の八角形構造とか新羅の八角系関連構造物や東欧・中東宗教との関わりから、これらが 宮中に導入されていったと考えるのが筋でしょう。そこに関東に基盤のある中臣氏もかかわっていきます。

国分寺 阿波の国分寺として行基菩薩によって開基 http://www.ko-pri.com/88/tokushima/15/15_kokubunji.htm

行基が国分寺に関与したであろうと、前後の事情や業歴から併せて考えられているが、「続

記」にも行基が国分寺創建に関係したとは記されていない。行基の 49 院はかれの私的な活動であり、国分寺事業とは別個のものである。もし彼が関与したのであれば、...<http://bunkazai.hustle.ne.jp/gyouki.htm> 行基が出家したのは、天武 11 年(682 年)15 歳の時である。律令制では一般の人は容易に僧尼になることは出来ず、出家した者も自由な行動は認められなかった。行基は五位の 国守を出している帰化人の中級豪族高志氏に生れたことや、道昭のような有力な僧侶を身近に持っていたことも有り、仏門への道を選んだものと考えられる。

天武 9 年(680 年) 薬師寺が建て始められ、200 人を得度させたが、行基が出家する 2 年前であり、その得度者中には行基は入らない。(井上馨氏は行基が薬師寺で得度を受けたと言っているが、道昭のいた飛鳥寺を出家の場所と考えたほうが妥当であろう。) 行基が出家したとき、道昭は 54 歳で飛鳥寺の禅院で弟子を養成していた事は「続記・道昭伝」に、「天下の行業の徒、和尚に従って禅を学ぶ」と記されている。また社会事業にも努め「天下に周遊して路傍に井を穿ち、諸々の津の済の処に船を儲け、橋を造る。乃ち山背の国の宇治橋は和尚の創造する所のものなり」と伝えられている。道昭は、民間伝道と社会事業に活動するという新しいタイプの僧であつた。行基はこの道昭に随従して廻り、実地に薫陶を受けたに違いない。道昭は文武 4 年 (700 年)7 月 4 日飛鳥寺の禅院で死んだ。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 8 日(金)10 時 44 分 5 秒 返信・引用

> No.1194[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 一方、柿本人麻呂は、筑紫豊人にしか解らない、筑紫豊のマイナーな地名を、歌に詠み込んでいる。筑紫豊馬子時代に九州の半分、筑紫、豊、日向(宮崎県)、大隅などは蘇我氏の支配勢力に組み入れられていたからここに追放されても身の危険はなかったはずだ。 <http://www5.ocn.ne.jp/~toyokazu/jpn/nswana/nsw-02.html>

蘇我氏 飛鳥寺は、この行基上人を至高の例とするように、蘇我氏が滅んでからもかなり長い間、志ある僧侶にとってわが国第一の学問修行の寺であつたのだ。 [http://www.ma-](http://www.ma-frontier.com/2011/04/14/%E9%A3%9B%E9%B3%A5%E5%AF%BA%E3%81%A8%E8%98%87%E6%88%91%E6%B0%8F/)

[frontier.com/2011/04/14/%E9%A3%9B%E9%B3%A5%E5%AF%BA%E3%81%A8%E8%98%87%E6%88%91%E6%B0%8F/](http://www.ma-frontier.com/2011/04/14/%E9%A3%9B%E9%B3%A5%E5%AF%BA%E3%81%A8%E8%98%87%E6%88%91%E6%B0%8F/)

行基は同時に四面宮を開いたといわれている。祭神は、『古事記』にて筑紫島をあらわす一身四面の神である。この神社は上古には温泉神社、中古には四面宮と称されていたが、の神社改正により筑紫国魂神社と改称され、の県社昇格に際して温泉神社に戻した。島原半島中に 10 数の分社がある。 <http://kentei.cc/q/4663490>

雲仙を開山したのは、奈良時代の僧「行基菩薩」(668~749)だと言われています。高野山や比叡山よりも 100 年も早く、今から、およそ 1300 年程前 701 年(大宝元年)に開山したと言われています。満明寺の上にある公園に、知られることなくひっそりと立っています <http://www.dango.ne.jp/unzenvc/history.html> 僧行基は、一切経の

地に堂を建て仏道修業の道場と定め、一切経の経文を筆写しこの地に埋めた(滝に流したとの説もある)と伝えられています。当時の苦行の様子は、一切経の滝や 行基洞、座禅石などに伺い知ることができます。

Ads by Google Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 8 日(金)10 時 21 分 20 秒 返信・引用

> No.1193[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。> ここでは、「日経・日緯」を東西、「日背・日影」を南北とし、藤原京の周囲の位置関係を示しているのですが、先述の成務朝の記載と、その方位・観念に 変化が見えます。

> 作者は人麻呂のようですね。

柿本人麻呂(=山上憶良) 日本書紀の作者の一人は、柿本人麻呂(=山上憶良). 1.柿本人麻呂の暗号 さて、次 は、日

本書紀の作者を探してみましょう。例によって、迷探偵と智導世津翁の問答で 始まります。 迷探偵: どうやって、そんなことができるのか?誰もそんなことを考えた人 ...<http://www.geocities.jp/oden1947/223.html> 人麻呂は、秘密を漏らした角で、死を賜ったのです。 山上憶良と柿本人麻呂の共通点の整理

1.資料 3 に、山上憶良と柿本人麻呂は同時代人である、とある。

2.山上憶良は、「筑豊地方の嘉麻市で、ほとんどの歌を詠んでいる」と、 資料 3 にある。 智導世津翁は、実際に、嘉麻市に行って歌碑を見てきた。 一方、柿本人麻呂は、筑紫豊人にしか解らない、筑紫豊のマイナーな地名を、歌に詠み込んでいる。 よって、二人は筑紫豊人であるという共通点がある。

3.歌の作風がソックリである。

4.山上憶良は資料 3 に、伯耆(ホウキ)守であったとある。一方、 柿本人麻呂は、本説で、五百支国(=五百巳国、イワミ国=石見国、ハハキ国)で死んだ と推理した。 つまり、伯耆国=五百支国(ハハキ国=ホウキ国=イワキ国=イワミ国)である。 五百支国とは、筑紫博多粕屋~日向宗像にあった、魏志倭人伝の「己百支國(イワキ国)」であり、 スサノオ尊が帰りがついていた、母の伊邪那美命の国「ハハキ国」である。

柿本人麻呂(=山上憶良) 日本書紀の作者の一人は、柿本人麻呂(=山上憶良). 1.柿本人麻呂の暗号 さて、次 は、日 本書紀の作者を探してみましょう。例によって、迷探偵と智導世津翁の問答で 始まります。 迷探偵: どうやって、そんなことができるのか?誰もそんなことを考えた人 ...<http://www.geocities.jp/oden1947/223.html> 人麻呂は、秘密を漏らした角で、死を賜ったのです。 山上憶良と柿本人麻呂の共通点の整理

1.資料 3 に、山上憶良と柿本人麻呂は同時代人である、とある。 2.山上憶良は、「筑豊地方の嘉麻市で、ほとんどの歌を詠んでいる」と、

資料 3 にある。 智導世津翁は、実際に、嘉麻市に行って歌碑を見てきた。 一方、柿本人麻呂は、筑紫豊人にしか解らない、筑紫豊のマイナーな地名を、 歌に詠み込んでいる。 よって、二人は筑紫豊人であるという共通点がある。

3.歌の作風がソックリである。

4.山上憶良は資料 3 に、伯耆(ホウキ)守であったとある。一方、 柿本人麻呂は、本説で、五百支国(=五百巳国、イワミ国=石見国、ハハキ国)で死んだ と推理した。 つまり、伯耆国=五百支国(ハハキ国=ホウキ国=イワキ国=イワミ国)である。 五百支国とは、筑紫博多粕屋~日向宗像にあった、魏志倭人伝の「己百支國(イワキ国)」であり、 スサノオ尊が帰りがついていた、母の伊邪那美命の国「ハハキ国」である。

Ads by Google Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 8 日(金)10 時 11 分 34 秒 返信・引用

> No.1192[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。> ここでは、「日経・日緯」を東西、「日背・日影」を南北とし、藤原京の周囲の位置関

係を示しているのですが、先述の成務朝の記載と、その方位・観念に変化が見えます。作者は人麻呂のようですね。

日影

日影皇女に関する注とがセットになった暗号 裏鬼門に八幡宮がある5地点 男狭穂塚と女狭穂塚の不思議(データ) 男狭穂塚(おさほづか)は、宮崎県西都市にある日本最大の帆立貝形古墳。国指定 特別 各天皇陵の位置は、電子国土ポータルで検索した緯度,経度 女狭穂塚→ 高千穂峰」のヒントは、無名氏の「高千穂峯—男狭穂塚(W0.599km、0.7 度)の東北 30 度 線」 ...<http://www.geocities.jp/yasuko8787/0-90808-d.htm>

「上」字型+α

日影皇女に関する注とがセットになった暗号であることの証になるはず

...<http://www.geocities.jp/yasuko8787/2-32.htm>

応神の胞衣を筥に容れ白砂青松の地に埋めたところという伝承がある、筑前国一の宮=筥崎宮が、死罪を贖うために筑紫君葛子が献上した糟屋屯倉と同じ福岡県 粕屋郡にあることから、筑紫君磐井の斬られた地にある、格式の高い神社によって、卑弥呼 ゆかりの地を示唆しているのではないかと考えられます。

決定的な根拠が景行紀にありました。 景行紀に記された邪馬台国所在地を示唆する直線 高良山神籠石—藤山—歴木

浜島書店の高校生向け日本史図説史料には、邪馬台国について、次のような解説と、邪馬台国 の位置ならびに「魏志倭人伝」による邪馬台国の里程が載っています 。 <http://www.geocities.jp/yasuko8787/0q-4.htm>

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 8 日 (金)06 時 48 分 50 秒 返信・引用 編集済

> No.1189[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 魏志倭人伝で短里(秦野距離)で遡ると全羅北道の群山が暦韓国になる。 > (暦韓国は一般訳は韓国になる。) 秦野北斗著書:徐福と邪馬台国参照 >

そう、秦野距離は 53 km とのことで、またこの距離がある時代の半島における「千里」だったと方位区画面からも考えることは、先日論議したとおりですね。もっとその由来を深める必要があるように感じます。

- > 万葉集の(むらやま)が群山と一致、舒明天皇の歌で情景も一致する。 >
- > 全羅北道の群山が「天香具山」、奈良が「天香久山」の様だな。
- > 神話から全羅北道の群山より奈良が古いのが根拠。
- >
- > 呉音「天香久山」(コウク) amano,kouku,yama
- > 漢音「天香具山」(キョウク) amano,kyouku,yama

その香具山関連ですが、先の成務 5 年の記載に関連して下記の万葉集の御井の歌があります。

やすみしし わご大君 高照らす 日の皇子 あらたへの 藤井が原に 大御門 始めたま ひて 埴安の 堤の上に 在り立たし 見し給へば 大和の 青香具山は 日の経 (タテ) の 大御門に 青山と 繁さび立てり 畝火の この瑞山は 日の緯 (ヨコ) の大御門に 瑞山と山さびいます 耳無の 青すが山は 背面(ソトモ)の大御門に 宣(ヨロ)しなへ 神さび立てり 名ぐはし 吉野の山は かげともの 大御門ゆ 雲居にぞ 遠くありける 高知るや 天のみかげ 天知るや 日のみかげの 水こそは 常にあらめ 御井の清水
<http://sylphid.exblog.jp/2890606/>

ここでは、「日経・日緯」を東西、「日背・日影」を南北とし、藤原京の周囲の位置関係を示しているのです

が、先述の成務朝の記載と、その方位・観念に変化が見えます。作者は人麻呂のようですね。

こちら藤原京と三山の見取り図です。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/藤原京>

これらは方位ラインとか方位区画のことでもあるのですが、先のとおり成務五年秋九月条に、「令諸國、以國郡立造長、縣邑置稻置。並賜楯矛以爲表。則隔山河而分國縣、隨阡陌以定邑里。因以東西爲日縱、南北爲日横。山陽曰影面。山陰曰背面。是以、百姓安居。天下無事焉。」と見えることがあり、これはまた国造・稻置の起源譚です。

その「阡・陌」は、どうも空間(南北を指す針の方向)と時間(日出から翌日の日出まで)を示し、それに従って村落を定めたこと、また東西(ライン)を「日縦」とし南北を「日横」とし、さらに立体的に「山」の「影・背」を示し国造等の支配領域を確定する測量地図を作成したことで、人民が安心してくらせるようになった解釈できます。これが先日(2013年)の国府等を結ぶ南北の方位ライン(区画)の意図と考えうるでしょう。

あと、それでその埼玉古墳群と府中国府跡を結ぶ 50.9km の南北方位ラインの件ですが、その真北に武蔵国分寺があることに気付きました。それでそこまでの距離が 48.2km で、これが 26.7cm 尺になり、新井さんの古韓尺 26.8cm なんです。

武蔵国分寺周辺は、壬生吉士がかかわっていて、いろいろ関東や群馬、山梨を結ぶ八角墳のラインをみると、新漢人と吉士、おそらくは同根が、関東に進出していく過程で、高句麗古墳群の八角形構造とか新羅の八角系関連構造物や東欧・中東宗教との関わりから、これらが宮中に導入されていったと考えるのが筋でしょう。そこに関東に基盤のある中臣氏もかかわっていきます。

ただその八角墳ラインは 11.1km 尺でちょっと古い5世紀代の測量道具を使っているんですね。やはりその後の新漢人や吉士集団の渡来した 530 年前後に、古韓尺とか北朝尺への本格的な変化があったように感じます。それでその時代になって埼玉古墳群、たぶん方位ライン面からみるとやや西隣に国府ある、が出てくるように感じますね。

この方位ラインをしっかりと勉強すると、いままで見えてこなかった古墳とか遺跡とか距離単位とか、いろいろ証明できたりするのですが、やはり1年くらい基礎から勉強する必要があります。そしてある程度、古代史面から予測をつけてから引かないといいラインは出てこないのですが、その辺の講習会も開くべきかもしれませんね。

記紀百済人記述説 投稿者:青面金剛 投稿日:2013年2月7日(木)23時51分13秒 返信・引用

藤井游惟さんの説に、近い内容を、20年程前に朴炳植(パクビョングシク)が書いています。

「記紀は、百済から逃れてきた学者らの手によって、「漢文」で書かれたものであるから(一部の歌などは吏読《りと》=万葉仮名で書かれている)書名も漢文風に読まなければならない。だが、それに対する『万葉集』は、慶尚道方言(伽耶・新羅方言)、つまり、ヤマト言葉で書かれているものであるから、書名もヤマト言葉で読まなければ理屈にあわないのである。」

(中略)

「万葉集」は「ヨロズハ=多くの言葉」が「集=マトメラレタモノ=マドミ(現代韓国語では「モドウム」と云う)であり、正しくは「ヨロヅハノマドミ」と訓まなければならないと云うこ

とが明らかになる。」

『出雲族の声なき絶叫《記紀の陰謀と出雲風土記の抵抗》』[朴炳植、P・132、133。新泉社、1991年1月]

----- 《...、「山」の語源が「ラマ=太陽の住むところ」であり、それが「ラマ→ヤマ」と音変化をした

からで、「山跡=ヤマト」とは「ラマの国があったところ=日本」という意味なのである。

(中略)

「日本」と書いて「ヤマト」と訓むのは、「太陽・日」のことを、古代朝鮮語で「ラ」と称していたからである。(同、P・

現在の日本語は、白村江以後のものであり、それ以前の原日本語は、北と南へ其々押し遣られて、アイヌ語と琉球語として残っていったのでは、ないのでしょうか。アイヌ語の地名が、日本列島の大部分に分布しているのが、それを物語っていると思われます。

一部の神社に残る神代文字の祝詞や、山の民の存在が、生粋の原日本人と、禁じられた文字文化を顕わしていると考えます。 Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 7 日(木)21 時 59 分 26 秒 返信・引用 編集済

> No.1185[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

>

- > 美頭良 みとら?…髪(神)の形
- > >美頭良を巻きき。此れより以来、木綿を用て日影等の葛に副へて用るなり。 >
- > 美頭良」と書いて「みずら」と読みます。古代~平安時代にかけて、未成年男子がしていた髪型だそうです。 ま、要するに、こんな髪型なんですけど。
- > ミトラ信仰・マイトレーヤ信仰 > 仏教には、弥勒菩薩が存在し、「弥勒信仰」がある。この弥勒は、サンスクリット語ではマイ

トレヤというが、マイトレーヤとは、ミスラの別名またはミスラから転用された神名である。すなわち「マイトレーヤ」は、ミスラ神の名と語源を同じくする。 > 現世利益? >

ここにみえる「日影」の語も確かにまた先の高橋氏文にみえますね。

インド人の天然パーマが仏像に見えるように、髪型と宗教の関わりというの追求すると面白いかもしれません。

カトリックだと、よくミトラ冠の話がでてきますね。

プロテスタントのことはよくわかりませんが、牧師さんも私服化してるので、あんまりこだわらない系統にも見えますね。

仏教はガンダーラで中東系宗教がかなり混合して成立した経緯があるので、その影響を理解しないと、まともな仏教研究はできないでしょう。

日に関連して、高橋氏文註の下記の記載が重要です。

「次の御代成務天皇の御時に、古事記に、定 2 賜《サダメタマフ》大國小國之國造《オホグニヲ グニノクニノミヤツコ》1、亦定 2 賜國々之堺、及《マタ》大縣小縣之縣主《オホアガタヲアガタ ノアガタヌシ》1、書紀に、五年九月、令 2 諸國 1 以國郡立 2 造長《ミヤツコヲサ》1、縣邑置 2 稻 置 1 云々、則[隔《カギリ》2 山河 1 而分 2 國縣 1 隨 2 阡陌 1 以定 2 邑里 1、因以 2 東西 1 爲

《シ》2 日縦《ヒノタテ》1 南北爲 2 日横《ヒノヨコ》1 云々、など見えたるが如きおほらかなり つる御世のさまにあはせて推《オシ》察るべし、然れば、書紀の此條なるも、【上の條なるも、】 此氏文なるも、上總國と書るは、併《トモ》に後に上下と分たれたる上にて、當時の國體《クニ ガタ》につけて、語傳たるまゝに記せるなり」

成務朝、つまり半島系武内・吉備津彦の時代ですね、ここで日つまり太陽をつかった測量方法に変化していることがわかります。それまではおそらく三角縁の北極星と北斗七星によるタイプの測量で、偏角がありました。この変更で成務朝時代からの方位区画は偏角がほとんどなくなるんですね。ただまだ1度偏角が残るのは、暦計算や倭製三角縁を製造する際の北の出し方に関する問題でしょう。ただ屯倉方位区画時代になるとほぼ偏角も出なくなります

「日」を新漢人系集団が重視するのも、その辺と関わってくるはずで、またこれらは国造・県主・稻置関連領域の

区画境界との関係、つまり先の埼玉古墳群と府中国府を結んだ領域区画の方位ライン等とかかわっていきます。

日の信仰は、確かに先日の扶桑木信仰とか、中東系の信仰、との関わりを考えるべきだと思いますね。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 2 月 7 日(木)21 時 54 分 37 秒 返信・引用 編集済

> No.1188[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 全羅北道ですね。全羅南道の前方後円墳とかかわるでしょうか。 まあ、羅列しますが、少し難解ですぞ。

魏志倭人伝で短里(秦野距離)で遡ると全羅北道の群山が曆韓国になる。(曆韓国は一般訳は韓国になる。)秦野北斗著書:徐福と邪馬台国参照

また、白村江が群山の錦江になる。白村江の戦いの粗筋は任那日本府から二千里の筑紫に天智天皇が上陸。二千里の百済の固麻城へ救助部隊を送る。その後、西走し久知下城に避難。「天香具山」都に百済集結し、錦江から船 600 艘で百済人が脱出した記録。

『隋書』倭国伝の「その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。」その国の境が群山になる。

万葉集の(むらやま)が群山と一致、舒明天皇の歌で情景も一致する。「大和には 群山あれど とりよろふ 天の香具山 登り立ち 国見をすれば 国原は

煙り立ち立つ 海原は かまめ立ち立つ うまし国ぞ あきづ島 大和の国は」(巻 1-2)『隋書』倭国伝

倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國、三十餘國、皆自稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。都於邪摩堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與儋耳相近。

倭国は、百済や新羅の東南に在り、水陸を越えること三千里、大海中の山島に依って居する。三国魏の時代、通訳を伴って中国と通じたのは三十余国。皆が王を自称した。東夷の人は里数(距離)を知らない、ただ日を以って計っている。その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。その地形は東高西低。都は邪摩堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。古伝承では楽浪郡の境および帯方郡から一万二千里、会稽の東に在り、儋耳と相似するという。

群山の近くに伊利があり、崇神天皇(すじんてんのう)。
和風諡号御眞木入日子印恵命(みまき「いり」ひこいにえのみこと)
が一致。

聖徳太子の本名が奇妙に一致する。 為利歌彌多弗利(伊里(利)、伽耶、多弗利) 伊里(利)、伽耶、多弗利:イリ、カヤ、テフリ

当時の倭国(韓半島)の統治状況が浮かび上がる。

崇神天皇と『後漢書』倭人伝の「王に共立…」を整理すると、崇神天皇、男王卑弥弓呼は、共立し治めていたが倭国は大乱となり卑弥呼を立てた事になる。卑弥呼の両親は推測しているので後日。卑弥呼は開花天皇の孫娘。久史八代は卑弥呼の祖先になる。初代は神武天皇。

桓霊間倭國大亂、更相攻伐、曆年無主。有一女子名曰卑彌呼。年長不嫁、事神鬼道、能以妖惑衆。於是共立為王。侍婢千人、少有見者。唯有男子一人給飲食、傳辭語。居處宮室樓觀城柵、皆持兵守衛。法俗嚴峻。

桓帝と霊帝の間(146-189 年)、倭国は大乱、互いに攻伐しており、暦年に亘って君主がいなかった。一人の女子がいて、名を卑弥呼という。年増だが嫁がず、神鬼道に仕え、よく妖術を以て大衆を惑わす。ここにおいて(卑弥呼を)王に共立した。侍婢は千人、会える者は少ない。ただ飲食を給仕し、言葉を伝える一人の男子がいる。暮らしている宮殿、楼観、城柵、いずれも武器を持って守衛する。法俗は峻厳である。

全羅北道の群山が「天香具山」、奈良が「天香久山」の様だな。

神話から全羅北道の群山より奈良が古いのが根拠。

呉音「天香久山」(コウク) amano,kouku,yama 漢音「天香具山」(キョウク) amano,kyouku,yama

久の音は呉音(ク)、漢音で (キユウ)になる。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 7 日 (木)18 時 50 分 42 秒 返信・引用

> No.1187[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

ちょっと追伸です。

>> 崇神天皇(すじんてんのう)。和風諡号は『紀』では御間城入彦五十瓊殖天皇(みまき 「いり」びこいにえのすめらのみこと)。また、御肇國天皇(はつくにしらすすめらみこと) と称えられる。『記』では御真木入日子印恵命(みまきいりひこいにえ)である。現代日本の

学術上、実在可能性が見込める初めての天皇であると言われている。

>>> 諡号・追号・異名 >> 御真木入日子印恵命(みまき「いり」ひこいにえのみこと) -『古事記』 >> 所知初國御真木天皇(はつくにしらししみまきのすめらみこと) -『古事記』 >> 御間城入彦五十瓊殖天皇(みまき「いり」びこいにえのすめらみこと) -『日本書紀』

王朝系譜を整理してみました。

神武 神倭伊波礼毘古命 大彦 日向海人系 最終編纂時の始祖。

綏靖 神渟名川耳尊 武ヌテ河・ヤマトタケル

安寧 師木津日子玉手見命 成務・吉備津彦・半島系「玉手見」箱(田島守)

懿徳 大倭日子鉏友命 応神・大友別⇔「鉏友」 孝昭 御真津日子訶恵志泥命 崇神「御真木入日子印恵」と同一人物「訶」は怒る。神の恵

みに怒り泥を志す人。⇔仲哀と関係。在位・仲哀 8 年⇔崇神 8 年。ある時期の帝紀の始祖。

孝安 大倭帯日子国押人命「押・忍」春日・和邇氏系の祖 孝靈 大倭根日子賦斗邇命「太瓊」⇔「太占」「賦」は歌の意味「斗」(北斗・占術) 物部・ト部氏祖 孝元 大倭根日子国玖琉命「国玖琉」→国引き→大国主 出雲臣・三輪・物部系の祖

開化 若倭根日子大毘々命「大毘々」→「大毘古」(大彦)系の祖 中臣関連。ある時 期の始祖。

崇神 御真木入日子印恵命 邪馬台国の官「弥馬獲支」初期の帝紀の始祖。 垂仁 伊久米伊理毘古伊佐知 崇神と同じ、ただ「伊理毘古」は別系統の伝承。「伊久米」→倭 人伝の「伊聲耆(イショウギ・イセク)」と「難升・米」を合わせたような名→「銀印」を授かる→「印恵」「伊久米」⇔扶余・帯方系「(尉)仇」氏 帯方太守「弓」氏・楽浪漢人(扶余系)?

「(120 年)夫余王は嫡子の尉仇台を遣わして印闕貢獻してきたので、安帝は尉仇台に印 綬金綵を賜った」

あるいは「伊理」は秦野さんご紹介の「入(イリ)」王朝・祖「依慮」(もしくは「位居」「麻余」 か。)と系譜的にどこか関係するかもしれませんね。

Re: 古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 6 日 (水)23 時 13 分 51 秒 返信・引用

> No.1186[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 万葉集の舞台は韓国の群山(クンサン)の模様、また近くに伊里(利)(イリ)がある。 > 崇神天皇の和風諡号から「イリ王朝」は二つの「天香久山」「天香具山」を言っている > のでないか。卑弥呼の年代に「天香久山」「天香具山」が存在した。 >

> 倭国、筑紫、百済、新羅は韓半島に存在した。 全羅北道ですね。全羅南道の前方後円墳とかかわるでしょうか。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/群山市> > 表記が「天香久山」と「天香具山」の二通りあるが、橿原市では名勝に登録されている「香具

山」および地区の名称

> 崇神天皇(すじんてんのう)。和風諡号は『紀』では御間城入彦五十瓊殖天皇(みまき「いり」びこいにえのすめらのみこと)。また、御肇國天皇(はつくにしらすすめらみこと)と称えられる。『記』では御真木入日子印恵命(みまきいりひこいにえ)である。現代日本の学術上、実在可能性が見込める初めての天皇であると言われている。

>

- > 諡号・追号・異名
- > 御真木入日子印恵命(みまき「いり」ひこいにえのみこと) - 『古事記』
- > 所知初國御真木天皇(はつくにしらししみまきのすめらみこと) - 『古事記』
- > 御間城入彦五十瓊殖天皇(みまき「いり」びこいにえのすめらみこと) - 『日本書紀』
- > 御肇國天皇(はつくにしらすすめらみこと) - 『日本書紀』
- > 美萬貴天皇(みまきのすめらみこと) - 『常陸国風土記』 >>

崇神の問題、どうして初めて国を開くとしたのかということ、おそらく欠史が後代挿入される前は、開化か崇神からはじまっていたということですね。

「初國」の語は、そういう意味ではちょっと記紀時代より古い可能性があります。

「所知」というのも、ちょっと他の天皇名とは違いますね。

知らしめるところのスメラミコト。。。

倭人伝の魏王が、難升米に向かって、鏡などの賜与品をもってその徳を知らしめるように命じた、そんな文面と類似します。

何かその点の関連文献から抜き出しているのではないのでしょうか。

古代には天の香具山は韓国と奈良に在った。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月6日 (水)21時10分2秒 返信・引用

万葉集の舞台は韓国の群山(クンサン)の模様、また近くに伊里(利)(イリ)がある。 崇神天皇の和風諡号から「イリ王朝」は二つの「天香久山」「天香具山」を言っている のでないか。卑弥呼の年代に「天香久山」「天香具山」が存在した。

倭国、筑紫、百済、新羅は韓半島に存在した。 韓半島こと大漢国を「やまと」と言った。 倭国は万葉集の舞台になる。魏志倭人伝では暦韓国。 万葉集に唄われている。白村江の戦いの舞台の地になる。 第一巻 : 大和には群山あれどとりよろふ天の香具山 群山:クンサン

天の香具山:母岳山 舒明天皇(じょめいてんのう)

表記が「天香久山」と「天香具山」の二通りあるが、橿原市では名勝に登録されている「香具山」 および地区の名称には「香久山」を、国土地理院の地図では「天香久山」を公式に使用しており、 北側約 2 キロメートルに位置する西日本旅客鉄道の桜井線にある駅も香久山駅である。「天 香久山」「天香具山」どちらが韓国が不明

崇神天皇(すじんてんのう)。和風諡号は『紀』では御間城入彦五十瓊殖天皇(みまき「いり」 びこいにえのすめらのみこと)。また、御肇國天皇(はつくにしらすすめらみこと)と称えられる。『記』では御真木入日子印恵命(みまきいりひこいにえ)である。現代日本の学術上 実在可能性が見込める初めての天皇であると言われている。

諡号・追号・異名 御真木入日子印恵命(みまき「いり」ひこいにえのみこと) - 『古事記』 所知初國御真木天皇(はつ

くにしらししみまきのすめらみこと) - 『古事記』 御間城入彦五十瓊殖天皇(みまき「いり」びこいにえのすめらみこと) - 『日本書紀』 御肇國天皇(はつくにしらすすめらみこと) - 『日本書紀』 美萬貴天皇(みまきのすめらみこと) - 『常陸国風土記』

記紀に伝えられる事績の史実性、欠史八代に繋がる系譜記事等には疑問もあるが、3世紀から4世紀初めに掛けて実在した大王と捉える見方が少なくない。『古事記』は崇神天皇の没年

を干支により戊寅年と記載しているので(崩年干支または没年干支という)、これを信用して318年(または258年)没と推測する説も中には見られる。258年没説を採った場合、崇神天皇の治世は、中国の文献に記載されている邪馬台国の時代と重なることになる。

崇神天皇の和風諡号は「ミマキイリヒコ」、次の垂仁天皇の和風諡号は「イクメイリヒコ」で、共にイリヒコが共通している。イリヒコ・イリヒメは当時の大王・王族名に現れる特定呼称である。「イリ」が後世の創作とは考えにくいことから、これらの大王・王族は実在の可能性が高まり、崇神天皇を始祖とする「イリ王朝」「三輪王朝」説なども提唱されている

万葉集を年代に並べる。状況が読み取れる。

舒明天皇、柿本人麻呂は倭国(韓国)の香具山を唄っている。天智天皇は香具山を畝傍、耳梨山に例え(韓国)の香具山を唄っている。大伴旅人は(韓国)の香具山の故(ふ)りにし里と懐かしんでいる。持統天皇はいにしへの事は知らぬ。(韓国)の香具山はひさしくない。

舒明天皇の歌 「大和には 群山あれど とりよろふ 天の香具山 登り立ち 国見をすれば 国原は 煙り立ち立つ 海原は かまめ立ち立つ うまし国ぞ あきづ島 大和の国は」 (巻 1-2)

柿本人麻呂の歌 「久方の 天の香具山 このゆふべ 霞たなびく 春立つらしも」 (巻 10-1812)

中大兄皇子の歌 天智天皇 「香具山は 畝傍ををしと 耳梨と 相争ひき 神代より かくにあるらし 古(いにしへ)も 然(しか)にあれこそ うつせみも 妻をあらそふらしき」 (巻 1-13)

大伴旅人の歌 「わすれ草 わが紐に付く 香具山の 故(ふ)りにし里を 忘れむがため」 (巻 3-334) 作者不詳

持統天皇の歌 「春過ぎて 夏来たるらし 白たへの 衣干したり 天香具山」 (巻 1-28) 「いにしへの 事は知らぬを われ見ても 久しくなりぬ 天の香具山」 (巻 7-1096)

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 6 日(水)19 時 31 分 31 秒 返信・引用
> No.1184[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 五十七年丁卯十一月、武蔵国知々夫の大伴部の祖、三宅連意由(みやけのむらじおゆ)、木綿を以て蒲の葉に代へて、美頭良を巻きき。此れより以来、木綿を用て日影等の葛に副へて用るなり。 > 纏向の朝廷の歳次癸亥、始めて貴き詔勅を奉りて膳部臣(かしはでのおみ)の姓を賜りて、天つ御食をいはひゆまはりて仕へ奉り来ぬ。今の朝廷の歳次壬戌にいたる迄あはせて三十九代、積年六百六十九歳なり。[延暦十一年]

美頭良 みとら?…髪(神)の形 >美頭良を巻きき。此れより以来、木綿を用て日影等の葛に副へて用るなり。

美頭良」と書いて「みづら」と読みます。古代~平安時代にかけて、未成年男子がしていた髪型だそうです。ま、要するに、こんな髪型なんですけど。(http://ameblo.jp/nhc-blog/entry-10107161801.html ミトラ信仰・マイトレヤ信仰 仏教には、弥勒菩薩が存在し、「弥勒信仰」がある。この弥勒は、サンスクリット語ではマイトレヤというが、マイトレヤとは、ミスラの別名またはミスラから転用された神名である。すなわち「マイトレヤ」は、ミスラ神の名と語源を同じくする。「mitra/miθra」は本来「契約」というほどの意味だが、後には転じて契約によって結ばれた親密な関係にある「盟友」をも意味するようになった。マイトレヤはその派生形容詞/名詞で「友好的な、友情に厚い、慈悲深い(者)」の意味となる。また、弥勒の字である阿逸多 Ajita はミトラの母であるアーディティヤが変化したものとされている。ミスラはクシャーナ朝ではバクトリア語形のミイロ(Miirō)と呼ばれ、この語形が弥勒の語源になったと考えられ[27]、クシャーナ朝での太陽神ミイロは、のちの未来仏弥勒の形成に影響を及ぼす[28]。ミイロの神格は太陽神であるということ 以外不明であるが、定方晟は

マニ教の影響なども考慮して、救世主的側面があったのではな　いかと推測している。

このような比較神話学および比較言語学の系統分析によって、ミトラ教の神話体系が仏教で　は菩薩として受け入れられ、マイトレーヤを軸とした独特の終末論的な「弥勒信仰」が形成さ　れたといわれる[29]。マイトレーヤ信仰または弥勒信仰はのち中国など東アジアに伝わった。　なお仏教の弥勒信仰以外にもインドではミトラ信仰・マイトレーヤ信仰があった。

マイトレーヤは、地球霊系団の最上位の 10 体の意識体の 1 体である。アトランティス　において、聖クサーヌスとして生き、理神論を説いた。オリオンから招聘された方である。天上　界では、エル・ランティを補佐して、神の光を分光する役割を担当している。) ...http://lmr.cc/m_Maitreya1.html

サタンがルシファーと呼ばれる前に、ルシフェルと、エルと呼ばれていた、神の光の天使と呼　ばれていた、彼が戻って来る日を、わたしたちは、永遠の時の流れの中で、待ちわび、彼を迎え　入れていきたいと、その時にみんなが彼が戻って来た時に、抱きしめてやろうと、そのような　思いで、みな九次元の者たちは待っているのです。

それが神の愛なのです。　現世利益？

美頭良　みとら？…髪(神)の形　>美頭良を巻きき。此れより以来、木綿を用て日影等の葛に副へて用なり。

美頭良」と書いて「みずら」と読みます。古代~平安時代にかけて、未成年男子がしてい　た髪　型だそうです。ま、要するに、こんな髪型なんですけど。(http://ameblo.jp/nhc-blog/entry-10107161801.html ミトラ信仰・マイトレーヤ信仰　仏教には、弥勒菩薩が存在し、「弥勒信仰」がある。この弥勒は、サンスクリット語ではマイトレーヤというが、マイトレーヤとは、ミスラの別名またはミスラから転用された神名である。　すなわち「マイトレーヤ」は、ミスラ神の名と語源を同じくする。「mitra/miθra」は本来「契約」　というほどの意味だが、後には転じて契約によって結ばれた親密な関係にある「盟友」をも意　味するようになった。マイトレーヤはその派生形容詞/名詞で「友好的な、友情に厚い、慈悲深　い(者)」の意味となる。また、弥勒の字である阿逸多　Ajita はミトラの母であるアーディティヤ　が変化したものと言われている。ミスラはクシャーナ朝ではバクトリア語形のミイロ(Miir)と呼ばれ、この語形が弥勒の語源になったと考えられ[27]、クシャーナ朝での太陽神ミイロ　は、のちの未来仏弥勒の形成に影響を及ぼす[28]。ミイロの神格は太陽神であるということ　以外不明であるが、定方晟はマニ教の影響なども考慮して、救世主的側面があったのではな　いかと推測している。

このような比較神話学および比較言語学の系統分析によって、ミトラ教の神話体系が仏教で　は菩薩として受け入れられ、マイトレーヤを軸とした独特の終末論的な「弥勒信仰」が形成さ　れたといわれる[29]。マイトレーヤ信仰または弥勒信仰はのち中国など東アジアに伝わった。　なお仏教の弥勒信仰以外にもインドではミトラ信仰・マイトレーヤ信仰があった。

マイトレーヤは、地球霊系団の最上位の 10 体の意識体の 1 体である。アトランティス　において、聖クサーヌスとして生き、理神論を説いた。オリオンから招聘された方である。天上　界では、エル・ランティを補佐して、神の光を分光する役割を担当している。) ...http://lmr.cc/m_Maitreya1.html

サタンがルシファーと呼ばれる前に、ルシフェルと、エルと呼ばれていた、神の光の天使と呼　ばれていた、彼が戻って来る日を、わたしたちは、永遠の時の流れの中で、待ちわび、彼を迎え　入れていきたいと、その時にみんなが彼が戻って来た時に、抱きしめてやろうと、そのような　思いで、みな九次元の者たちは待っているのです。

それが神の愛なのです。　現世利益？

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年　投稿者:管理人　投稿日:2013 年 2 月 6 日(水)18 時 43 分 7 秒
返信・引用　編集済

> No.1179[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。　> 川島町役場の緯度は　36°ジャスト　>>またひとつ方位ラインつくりました。会報第 3 号でもとりあげたのですが、図のような　埼玉古墳群と府中国府跡が完全な南北方位ラインです。尺が 50.9 KM で、28.3cm 尺。隋・　唐尺の手前になるのですが…。　>

- > 埼玉県秩父市吉田町 [緯度:36.003977 経度:139.06716]
- > 埋田遺跡
- > 35.497111, 140.354167 >

秩父も重要ですね。昨晚高橋氏文を読んでいたのですが、下記の記載が秩父関連で面白いです。

五十七年丁卯十一月、武蔵国知々夫の大伴部の祖、三宅連意由(みやけのむらじおゆ)、木綿を以て蒲の葉に代へて、美頭良を巻きき。此れより以来、木綿を用て日影等の葛に副へて用るなり。纏向の朝廷の歳次癸亥、始めて貴き詔勅を奉りて膳部臣(かしはでのおみ)の姓を賜りて、天つ御食をいはひゆまはりて仕へ奉り来ぬ。今の朝廷の歳次壬戌にいたる迄あはせて三十九代、積年六百六十九歳なり。[延暦十一年]

<http://mononobe.digiweb.jp/siryoutakahashi.html>

ここで延暦 11 年で669 年といってますよね。これが792 年なので669 年ひくと、AD 123 年だといってるわけです。1 代が17 年。纏向の朝廷が、いつかも気になるのですが、「巻向日代宮(まきむくのみしろのみや)で天下をお治めになった景行天皇」とすると、300 年代あたりまで伸ばさないといけないでしょう。

そうすると、240 年干支を繰り上げて、363 年とすれば、ぴったりくるようです。

> 万年橋から. 白髭神社由緒. 日枝神社由緒. 高倉の獅子舞 ... 今回は掲示板の紀氏さんの著書にある高麗川にかかる万年橋周辺の遺跡を中心に探索しました。拝島橋を越えて 16 号に乗り一路北上し入間を抜け、407 号に乗り高麗に向かいました。高萩の交差点 ... > <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/koma050326.htm>

よくあの辺も見に行きましたね。もう一度機会があれば行ってみたいですね。上記の鉄剣のでた埼玉古墳群もすぐそばなんですけど、案外近いところに限ってぜんぜん行かないものです？

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 6 日(水)18 時 23 分 53 秒 返信・引用

> No.1178[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

>>>>> 其兎名豆已加利獲居、其兎名多加披次獲居、其兎名多沙鬼獲居、其兎名半豆比 >>>>

> これが朝鮮漢字音なら、日本語では間違いなく「コ乙類」に相当する「?」です。 >

<http://www.youtube.com/watch?v=IwgXLa6UIAE>>>> さらに、/huak-kö/或いは/uak-kö/には/k/音が2 つあり、語源は「ワクコ」(若ク子)ではない でしょうか？

なるほど、k 音が連続すると、そういうこともありえるんですね。魏志倭人伝の邪馬台国の官職に「弥馬・獲支」が見えます。これをミマキイリヒコと見なす件を考えるのですが、先のご指摘のように w 音が飛ぶとすると実質的には「ミマウキ」だった可能性がでてきますね。

あと、倭人伝の書写には「獲」に草冠はついてますね。書写本の成立が遅いのかな？

<http://www.g-hopper.ne.jp/bunn/gisi/gisi.html>

>> そう、先の銘文の「豆」が好太王碑に見えるというのは、藤井さんの説ですか？>> このことを私に教えてくれたのは新井宏氏で、新井氏は自分が最初の発見者だと思って喜んだところ、既に森浩一氏が発見しており、そのことは森博達氏も知っていました。 >> 私の「新説」は、この「豆」が日本語・高句麗(満州語)の音写に使われていることから、これは楽浪郡中国人が作った文字で、「古韓音」も楽浪郡の中国人独特の発音ではないか、という説です。

ありがとうございます。そういえば、私もその新井さんの講演会にいましたが、そのときです

かな…汗

鉄剣銘の写真をみると、たとえば「寺」は他の文字より細くて感じ的に右に寄ってる感じが有り、やはり後の部分でみえる「時」そっくりですから「時」もしくは「侍」とみなすのが正解だと思ふのですが、その辺の文字のバランス論も重要なと感じました。

>> 特に鉄剣銘関連は、どうも音声学面では手つかずのようですよ。1本論文かかれてはいかがでしょうか。
>> たかが古代史学会を騒がすだけのくだらない論文(?)に時間を取られたくありません。(^^)

> 私の『『記紀万葉』百濟人記述説』が世間周知の定説になれば、そのうち誰かが書くでしょう。>> その時までこの HP が残っていれば、「藤井游惟は〇〇年前に既に同じことを言っていた」という証拠になりますので、自分で書かないなら「歴史の証人」になれるよう、大切のこの HP を守ってください。(_)>

そうですね、とりあえず過去ログにはとってありますので、何かあったら参照してみてください。

ㄷ <夷>は「大(人の意)と弓」投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 6 日(水)12 時 51 分 14 秒 返信・引用

「窮(きわ)むるなり。近きを以て遠きを窮むる者なり」「極まるなり」<http://dic.nicovideo.jp/a/%E7%AA%AE>
意味きわまる、終わる、きわめる、行きつく、行き詰まる、塞がる、不遇、志を遂げられない、貧しい、悪人、という意味がある。〔説文解字〕の本字は窮で〔説文・卷七〕に「極まるなり」とある。

端から端…ライン? 極. 出典: フリー多機能辞典『ウィクシヨナリー日本語版(Wiktionary)』. 移動: 案内、検索 ...
元来は木材の一種で、「𠂔」が音符である。もとは、端から端に渡した棟木を意味した。𠂔は、両端に線を引いてその間に人を入れた文字で、頭上から足先までを言う。 <http://ja.wiktionary.org/wiki/%E6%A5%B5>
会意形声。元来は木材の一種で、「𠂔」が音符である。もとは、端から端に渡した棟木を意味し

た。𠂔は、両端に線を引いてその間に人を入れた文字で、頭上から足先までを言う。 きわみ。最も端。 半ㄷ比 漢字に遊ぶ テヨカリワケ(ㄷ巳加利獲居)と、ハテヒ(半ㄷ比) わが国では有名な埼玉県・稲荷山古墳の鉄剣銘文に登場したのが最初です。鉄剣の持ち主であるオワケオミ(呼獲居臣)が先祖八代の人名を列記した中で、三代目 テヨカリワケ (ㄷ巳加利獲居) と、六代目ハテヒ(半ㄷ比)の二人に<ㄷ>の一字が使われてい... 漢字の<夷>は「大(人の意)と弓」で構成されており、もともと<弓に練達>の意味がこめられていた、というのがその根拠でした。 古代中国が四囲の異民族に東夷・西戎・南蛮・北狄の名を冠して自らの中華思想を誇示したことは広く知られています。中国から見ての東夷が朝鮮半島です。 李氏は<夷>と呼ばれた歴史的事実を、プラス発想で民族の誇りとして受け止め、アーチ エリーの金メダルを「当然の勝利」と述べたわけです。

単にテを表音するだけなら、丁や逞など幾らでもあります。文字を大切にしたい古代の人々が 人名に<ㄷ>を宛てる場合は<弓をよくする勇武の人>という尊称のニュアンスをこめたのではないのでしょうか。都の人々はアテルイに<勇武の士>のイメージを重ねていた。

弭 ゆみはず【弓弭/弓筈】とは。意味や解説。弓の両端の、弦の輪をかける部分。弓を射るとき、上になる方を末弭(うらはず)、下になる方を本弭(もとはず)という。銑(つく)。ゆはず。ゆみは ずのみつぎ【弓弭の調】上代、男子が奉った貢物(みつぎもの)。 <http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/225719/m0u/>

とどまる。とどめる。とどまって休む。【弭息】びそく. とどまる。とどめる
...http://www.geocities.jp/growth_dic/honbun/zoukan-5739.html

弓とは [http://dic.nicovideo.jp/a/%E5%BC%93\(%E6%9B%96%E6%98%A7%E3%81%95%E5%9B%9E%E9%81%BF\)](http://dic.nicovideo.jp/a/%E5%BC%93(%E6%9B%96%E6%98%A7%E3%81%95%E5%9B%9E%E9%81%BF)) 弓 - 長さの単位。1 弓 = 6 尺、土地測量では 8 尺

Re:川島町三保谷 富田後遺跡 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 6 日(水)12 時 20 分 50 秒 返信・引用

> No.1180[元記事へ]

棘の紀氏さんの追伸です。

埼玉が呼んでる? 2008.08.07(Thu.) · · · 埼 玉 · 常 世 岐 姫 神 社 など
http://www.geocities.jp/easyclub_choro/tondeb4.htm 保田篤也著「古墳のこころ 古代日本地図・行基図に秘められた国造り達」という本で、付箋 貼ることなく届いたその日に読んでしまったけど、1つだけ気になったのが、「常世岐姫神社」。本文では、秦氏や行基を藤原氏の系統のように書かれてるけど、神社を検索して、やっぱりうやうやしく確信したような。 常世岐姫神社(八王子神社):<http://kamnavi.jp/en/kawati/tokoyoki.htm> 八王子神社:<http://www.norichan.jp/jinja/kenkou/hachiouji.htm> 渡柳常世岐姫神社:<http://blogs.yahoo.co.jp/sunekotanpako/5188086.html> 荒木常世岐姫神

社:<http://blogs.yahoo.co.jp/sunekotanpako/4939587.html> 榎合常世岐姫神

社:<http://blogs.yahoo.co.jp/sunekotanpako/5608211.html> 石上神宮:<http://www1.kcn.ne.jp/~ganes-z/image/tokoyoki.html> 著書で書かれてたのは、八尾市にある「常世岐姫神社」だけど、埼玉県にもあるようで、拝見したブログによると、「荒木常世岐姫神社」「渡柳常世岐姫神社」が行田市、「榎合常世岐姫神社」が深谷市だそう。そういえば、著書にも埼玉県が出てきてましたね、「籠の中の鳥」が出会ったのは、県道(114号)川越越生線の「万年橋」の上、だとか…。 (<http://maps.google.co.jp/maps?q=%E9%B6%B4%E3%83%B6%E5%B3%B6%E5%B8%82&hl=ja&ie=UTF8&ll=35.946362,139.361143&spn=0.019109,0.026264&z=15>) そういえば…籠の鳥「鶴」「鳩」とされているうちの「鶴」にあたる鶴ヶ島市について、伝説が地名の由来であることをお聞きし、とんでもニャ〜で書いたような…。越生といえば、行基ゆかりの「鹿下越生神社」があって…。

うーん、埼玉が呼んでる？

川島町三保谷 富田後遺跡 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年2月6日(水)12時10分49秒 返信・引用

川島町三保谷で発掘調査中の富田後遺跡では、4世紀を中心とするくらしの跡や、ムラの統率者のお墓が数多く見つかっています。また、6世紀の古墳跡と中世の屋敷堀も折

り重なって発見され、当時のこの地の繁栄をしのばせます。

<http://www.saimaibun.or.jp/h18/342.htm>

富田後遺跡には縄文時代から近世までの人々の生活の跡が残されていますが、その中でも最もたくさんの遺構が残されているのが、今から1,700年ほど前の古墳時代前期です。

<http://www.saimaibun.or.jp/h18/342.htm>

越辺川 - Wikipedia ここより埼玉県道 61号越生長沢線に沿い越生梅林を抜け、比企郡鳩山町で鳩川を合わせる。東へ流れ、坂戸市で高麗川を、比企郡川島町で都幾川をそれぞれ合わせ、国道254号落合橋を越えた川島町角泉付近で入間川に合流する。支流、飯盛川が合流する ...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B6%8A%E8%BE%BA%E5%B7%9D>

この越辺川の流域は、古代から渡来系の人々が在住していた場所です。

<http://homepage3.nifty.com/opp/timei.htm>

1 古代この越辺川流域では、古代朝鮮語「オッヒー」が適用される衣一般に強く関係しており、渡来系の人がこの川をそうなずけた。2 古代この越辺川流域では、古代朝鮮語「オッヒー」が転化し和語化していた「おすひ」が意味するところの「頭からかぶって衣類を覆う衣類」に強く関係しており、渡来系の人がこの川をそうなずけた。

3 古代この越辺川流域では、古代朝鮮語「オッヒー」が転化し和語化していた「おすひ」が意味するところの「女子専用の白絹でできた頭からかぶって衣類を覆う衣類」に強く関係しており、渡来系の人がこの川をそうなずけた。私としては、この中では第3説をとりたい。すなわち、キーワードは白絹である。つまり渡来系の人々は、古代この越辺川流域にて養蚕をおこなったと想像します。越辺川周辺の鳩山町などでは、現在でも桑畑を良く見かけます。このような理由において、古代の養蚕技術あるいは養蚕に関係する古代朝鮮語に由来したその他の地名についてさらに調査する必要があります。いずれこの場で明らかにしたいと思います

越辺川右岸の沖積地を臨む台地の縁に42基の古墳が確認されています。

<http://www.town.moroyama.saitama.jp/www/contents/1287035258152/index.html>

Re:白村江の戦い1350周年 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年2月6日(水)11時51分48秒 返信・引用
> No.1177[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。川島町役場の緯度は36°ジャスト >またひとつ方位ラインつくりました。会報第3号でもとりあげたのですが、図のような埼玉古墳群と府中国府跡が完全な南北方位ラインです。尺が50.9KMで、28.3cm尺。隋・唐尺の手前になるのですが…。

埼玉県秩父市吉田町 [緯度:36.003977 経度:139.06716 埋田遺跡 35.497111, 140.354167

位置, 北緯 35度 59分 59秒 東経 139度 24分 3秒 万年橋緯度: 北緯 35度 57'01" 東経

139. 度 2442. <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/699> <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/744> 大場天神山古墳 水戸市大場町 北緯 36 度 19 分 11 秒 東経 140 度 31 分 8 秒 ...

高坂神社古墳埼玉県東松山市. 位置, 北緯 35 度 59 分 59 秒 東経 139 度 24 分 3 秒

<http://www2.ezbbs.net/cgi/reply?id=underbranch&dd=36&re=548> 万年 橋緯度: 北緯 35 度 5701・東経

139.度 2442. <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/699>

高麗川 - 若宮橋の周辺 万年橋(上流から) 坂戸市菅方 若宮橋から 700m 上流。万年橋は毛呂山町(左岸)と坂戸 市(右岸)を結ぶ全長 250m(歩測)の鋼桁橋。 県道 114 号線(... 万年橋の右岸から 300m 南東に鎮座する大塚神社は、旧名が白髭社だったようである。 万年橋から眺め た ...

<http://www.geocities.jp/fukadasoft/bridges/komagawa/wakamiya/index2.html> 万年橋の右岸から 300m 南東に鎮座する大塚神社は、旧名が白髭社だったようである。

高麗川 - 高麗川大橋から終点まで 左岸:坂戸市中里、右岸:坂戸市栗生田 高麗川大橋から撮影。栗生田堰は農業用水の 取水 堰。起伏ゲートを 2 門装備し、右岸へ取水(最大取水量は 約 0.6m³/s)している。建設は大 本組。 栗生田堰は過去には堰の設置に関して下流側の 川島町との間に紛糾 が ...
<http://www.geocities.jp/fukadasoft/bridges/komagawa/river/index.html>

万年橋から. 白髭神社由緒. 日枝神社由緒. 高倉の獅子舞 ... 今回は掲示板の紀氏さん の著書 にある高麗川にかかる万年橋周辺の遺跡を中心に探索しました。拝島橋を越え て 16 号に乘 り一路北上し入間を抜け、407 号に乗り高麗に向かいました。高萩の 交差点 ...

<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/koma050326.htm>

紀氏さんの著書にある高麗川にかかる万年橋周辺の遺跡を中心に探索しました。拝島橋を 越えて 16 号に乗り一路北上し入間を抜け、407 号に乗り高麗に向かいました。高萩の交 差点を越えて、すこし走ると高倉天神という交差点があります。そこをすこし行って脚折月 待戸の交差点を左折して数分走ると高麗川にかかる万年橋で出くわしました。なぜ万年橋が 重要なのかについての詳細は紀氏さんこと保田氏の「古墳のこころ」を読んでいただきたく 感じます。そこでは、要点としては真東は香取(鹿嶋)神宮を望む万年橋を測量起点として カゴメ(六角形)方向に古代の遺跡が造営されていたとのことであります。また籠目の歌を 手がかりに、万年橋を中心にそばの鶴舞、鳩山市、滑川町との関連から、いわゆる「籠の中の鳥 はいついつ出会う…鶴と亀が滑った」という歌詞との対応を考えられています。そこから 外来文化特に鳩とのイメージからキリスト教とのかかわりをご指摘されているのですが、確 かに行ってみると西南の高麗郡方向はもとより、四方よく見渡すことができ、測量起点とし ても絶好の場所であることがわかりました。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 6 日(水)10 時 22 分 31 秒 返信・引用
管理人さんへのお返事です。

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >>>> 其兒名亘已加利獲居、其兒名多加披次獲居、其兒名多沙鬼獲居、其兒名半亘比 >>>

>> 朝鮮漢字音で発音すると「獲居」は/ワケ/ではなく/ワコ/となり、「ワコ(稚子)= 身分の 高い人の男の子供」の意味ではないでしょうか。 >>>> 正確には/huak-kö/ですが、語頭の/h/音はしばしば脱落して/wak/になり、「居」は乙類に相 当するので、アクセントは LH(語尾上げ)だったと思われ、関西方言ならそうなる可能性が あります。

>> ちょっとその辺に関係するのですが、先の鉄剣銘の発音を、さらに手を加えて下記のように考えてみました。 >> で、問題は藤井さんご指摘の「居」なんです。ご指摘のとおり「オ」に近いなら、なんとなくい

いような気がするんですけどね…。 これが朝鮮漢字音なら、日本語では間違いなく「コ乙類」に相当する「?」です。

<http://www.youtube.com/watch?v=IwgXLa6UIAE>> さらに、/huak-kö/或いは/uak-kö/には/k/音が2 つあり、語源は「ワクコ」(若ク子)ではないで

しょうか? > そう、先の銘文の「亘」が好太王碑に見えるというのは、藤井さんの説ですか?

このことを私に教えてくれたのは新井宏氏で、新井氏は自分が最初の発見者だと思って喜んでるところ、既に森浩一氏が発見しており、そのことは森博達氏も知っていました。

私の「新説」は、この「𪛗」が日本語・高句麗(満州語)の音写に使われていることから、これは楽浪郡中国人が作った文字で、「古韓音」も楽浪郡の中国人独特の発音ではないか、という説です。

> 特に鉄剣銘関連は、どうも音声学面では手つかずのようですよ。1本論文かかれてはいかがでしょうか。

たかが古代史学会を騒がすだけのくだらない論文(?)に時間を取られたくありません。(^^) 私の『『記紀万葉』百濟人記述説』が世間周知の定説になれば、そのうち誰かが書くでしょう。

その時までこの HP が残っていれば、「藤井游惟は〇〇年前に既に同じことを言っていた」という証拠になりますので、自分で書かないなら「歴史の証人」になれるよう、大切のこの HP を 守ってください。(_ _)>
<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 6 日(水)07 時 50 分 51 秒 返信・引用 編集 済

> No.1176[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

>> 其兒名𪛗已加利獲居、其兒名多加披次獲居、其兒名多沙鬼獲居、其兒名半𪛗比 >>> 朝鮮漢字音で発音すると「獲居」は/ワケ/ではなく/ワコ/となり、「ワコ(稚子)= 身分の高い人の男の子供」の意味ではないでしょうか。
>> 正確には/huak-kö/ですが、語頭の/h/音はしばしば脱落して/wak/になり、「居」は乙類に相当するので、アクセントは LH(語尾上げ)だったと思われ、関西方言ならそうなる可能性があります。

ちょっとその辺に関係するのですが、先の鉄剣銘の発音を、さらに手を加えて下記のように 考えてみました。

特にこの系譜(表)に見える「加利」は、先のとおり大彦系膳氏の系譜に見える「磐鹿六雁 (カリ)命」との関係がすでに指摘されており、膳氏系譜と鉄剣銘系譜は下記のように対比 できるでしょう。

大彦/大稻興(トウヨ)命/磐鹿六雁(カリ)命(膳祖)/佐白米/余磯(アレシ・高橋祖)

意富比埜/多加利(タカリ)足尼/𪛗已加利(テヨカリ)獲居(稻余・トウヨ)/多加披次 (タカハシ)獲居(余磯・高橋祖)/多沙鬼(タサキ)獲居(高崎)/半𪛗比(ハセツカ イ・丈刀)/加差披余(カサハヨ)(笠原祖)/乎獲居(コワキヨ)臣(笠原直使主(オミ)・小杵(コキ))

で、問題は藤井さんご指摘の「居」なんです。ご指摘のとおり「オ」に近いなら、なんとなくいい ような気がするんですけどね…。

あと、「使主」は「オミ」と読ませて「臣」と同類です。元は半島系です。笠原直の「小杵」もしくは 「使主」=「乎獲居」+「臣」で、その祖父の年代を雄略・丈刀=ハセツカイ=半𪛗比=仲国造で

むすびつけば、ほぼすべて意味がとおります。

>「ホムタワケ」(応神天皇)が「ホムタワコ」即ち「ホムタ王子」の意味ならば、辻褄が合います。 >

> 今まで長く意味のわからなかった「ワケ」が実は「ワコ(稚子)= 身分の高い人の男の子 供」のことだったら、古代史学会では「大発見!」ということになり、一気に名声があがるでしょう。 > 興味があったら、どうぞ自分で研究して論文にし、自分の研究業績にして頂いて結構です。 > 私の説をパクったなどとは言いませんから(^^)。

>

いやー、ちょっとやはり音声言語学はとても私の手に負えませんね。逆に藤井さんに名をあげてもらいたいところです。近いうちに研究会の方位ラインとか・云々の資料データをすべて自由に使えるように、HP 改良したいと思います。著作権は本研究会にあるとのことで、 適当に自己責任で利用してもらったほうが、管理人が下手な文書書くより役に立つでしょう。 関連して、またひとつ方位ラインつくりました。会報第3号でもとりあげたのですが、図の よ うな埼玉古墳群と府中国府跡が完全な南北方位ラインです。尺が50.9 KM で、28.3cm 尺。 隋・唐尺の手前になるのですが…。

> 私にとって、特定の学問分野でしか評価されないチマチマした研究業績なんぞどうでもいいのです。 >『記紀万葉』を書いたのが百済人(及び中国人)だった、ということを完璧に証明しただけで私の名前は歴史に残るはずですから。(^^)

そう、先の銘文の「𐇪」が好太王碑に見えるというのは、藤井さんの説ですか? > それよりも私の説が早く世間周知の説となるよう、お力を貸してください。<(_)_>

特に鉄剣銘関連は、どうも音声学面では手つかずのようです。1本論文かかれてはいかがでしょうか。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 6 日(水)04 時 55 分 25 秒 返信・引用

> No.1174[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

ちょっと面白いことに気づきました。

>

- > 先の鉄剣銘に見える、 >
- > 其児名𐇪已加利獲居、其児名多加披次獲居、其児名多沙鬼獲居、其児名半𐇪比 > 朝鮮漢字音で発音すると「獲居」は/ワケ/ではなく/ワコ/となり、「ワコ(稚子)= 身分の高い 人の男の子供」の意味ではないでしょうか。

正確には/huak-kö/ですが、語頭の/h/音はしばしば脱落して/wak/になり、「居」は乙類に相当するので、アクセントは LH(語尾上げ)だったと思われ、関西方言ならそうなる可能性があります。

「ホムタワケ」(応神天皇)が「ホムタワコ」即ち「ホムタ王子」の意味ならば、辻褄が合います

今まで長く意味のわからなかった「ワケ」が実は「ワコ(稚子)= 身分の高い人の男の子供」のことだったら、古代史学会では「大発見!」ということになり、一気に名声があがるでしょう。興味があったら、どうぞ自分で研究して論文にし、自分の研究業績にして頂いて結構です。私の説をバクッたなどとは言いませんから(^^)。

「古漢音楽浪方言音起源説」も実は私が最初に唱えた説であり、これも国語学会その他の関係 学界で発表すれば「大発見!」ということになり、名声が一気に上がるでしょうが、興味あったら自分で研究して自分の研究業績にして頂いて結構です。私の説をバクッたなどとは言いませんから(^^)。

「大和朝廷」「戦艦大和」の発音だけで「邪馬台・大和別語説は否定できる」という説も邪馬台 国関係の学会で発表すれば「大発見!」ということになり、一気に名声があがるでしょうが、興味あったら自分で研究して自分の研究業績にして頂いて結構です。私の説をバクッたなどとは言いませんから(^^)。

私にとって、特定の学問分野でしか評価されないチマチマした研究業績なんぞどうでもいい

のです。『記紀万葉』を書いたのが百済人(及び中国人)だった、ということを完璧に証明しただけで

私の名前は歴史に残るはずですから。(^^)

それよりも私の説が早く世間周知の説となるよう、お力を貸してください。<(_)_>

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

佐紀盾列方位ライン、弥生方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 6 日(水)02 時 33 分 32 秒 返信・引用 編集済

> No.1174[元記事へ]

ちょっと先に方位測量方式が不明と記した佐紀盾列古墳群の方位測量を洗い出しました。

図のようにこの古墳群の開化天皇陵と、真北の飯岡車塚古墳(京田辺市)、真南に黒田庵戸 宮周辺を結ぶ-1 度偏角の方位ラインが見えます。各距離は 11.7km、15.2km となるので、3 世紀後半と推定した先の 7 度偏角方位区画時代の 11.1km 尺・24.5cm 尺(三角縁盤龍鏡 径)を引き続き継承利用しています。

その飯岡車塚古墳からも石訓・車輪石の出土が確認され南方系と見えますが、測量方法は その際に-7度偏角から-1度偏角つまり正方位測量を目指したものへと変更された可能性があります。

先の南方海洋民系と推定した画紋帯・半円浮彫神獣鏡方位区画や、弥生方位区画以来の正方位測量との関係を予想しますが、この測量は、4世紀後半以降と推定する河内王朝の方位区画へと継承されていきます。

おそらく屯倉方位区画に時代になって、はじめて完全な正方位測量になるので、そのころに三角縁を使わない別の測量方法へ移行したことが予想できます。

それまでは、どうしても真北を出しているつもりでも、偏角がついてしまうんです。

ただ、そうすると、4世紀前半にはいった海洋系集団、つまり大彦系については、後のタケウチスクネの半島系と測量面ではあまり変わらなかった可能性が出てきますね。距離尺も偏角も同じで、大彦系の技術をそのまま半島系も継承したのでしょうか。

それで、弥生末の孝霊朝の黒田宮がまたでてきます。ずっと河内王朝時代も黒田宮を意識して方位区画を構築しているんですね。

その黒田宮の位置が、どうも弥生後期初からの九州・奈良正方位方位区画图にやはり載るようです。再度作成しなおした弥生遺跡の方位区画图を添付します。正方位と5度偏角で、前者に弥生後期の遺跡が載ります。銅鐸掘点がやはりひとつの方位区画の四隅などを決める何かだったようです。5度偏角時代になると、次図のようにマキムク遺跡など弥生末期の遺跡が載ってきます。

紀元50年ごろに奈良に入ってきて、その後ずっと黒田宮周辺、つまり唐子・鍵から保津遺跡周辺に宮殿があったのでしょうか。240年代以降の5度偏角方位区画の都城時代になって、も、まだ黒田宮周辺に宮殿を置いていたようです。

その後崇神朝になって、ようやくマキムクや磯城や春日へ宮を移動しはじめるようです。

AD44年の楽浪の一時的な滅亡が、やはり何か九州、奈良へと移動した中国系集団の起源になっているように感じます。

その後、後漢末の動乱や、卑弥呼の時代にもう一度中国・月氏系集団が入ってきて、奈良に都城を造ったはずですが。

4世紀初頭にまた南方系集団が大挙やってきますが、この時期HLA解析だと、韓国にも南方系集団が大挙やってきているはずですが。何か中国南方から琉球にかけて海進などの大きな移住をもたらす原因があったように感じます。

530年代は、オーストラリア沖の隕石衝突もしくは火山の噴火で1年以上太陽が出なかったため民族大移動が世界各地で起きてます。おそらくこの影響もあって、新漢人や秦氏がやってきたのでしょうか。

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 5 日(火)21 時 05 分 36 秒 返信・引用

> No.1169[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

> 棘の紀氏さんへのお返事です。 >>> 𠂔[休-木+𠂔]・[石+𠂔]はそれぞれ「砥-石」・「低・砥」の異体字で、国字ではない。

- > <http://ksbookshelf.com/nozomu-oohara/Waseikanji2/Waseikanji01.htm> >
- > 「氏」民族、「氏」宿のお話、参考になりました。 >
- > それはともかく、「𠂔」という文字は「氏」を左右反転させた鏡文字だと思います。 >

なるほど、この件は重要ですね。引用ページの[人+𠂔]について下記の記載があります。

W39 230406

苗字に[休-木+𠂔]田(ひきた)がある。「𠂔[休-木+𠂔]・[石+𠂔]」はそれぞれ「砥-石」・「低・砥」の異体字で、

国字ではない。『色葉字類抄(永禄八年写二卷本)』に「カ タフク」また「タル」、『音訓篇立』に「テイ音 チ音 タヒラカニ イタル ヒク カタフク タル ミシカシ タキヒク」とあり、「低」は「タル カタフク」とある。『音訓篇立』の注文から

も「低」の異体字であることがうかがえる。「𠂔」[休-木+弓]参照。

それで、大彦系膳氏の先の系譜に下記の人名がみえます。 ・傾子(かたぶこ)

1 父:膳大磨 2 子供:菩岐岐美郎女、比里古郎女など 3 加夫子とも記す。 4 欽明 31 年北陸に漂着の高句麗の使人を天皇の勅により接待。の記事あり。

先の鉄剣銘に見える、

其兒名𠂔已加利獲居、其兒名多加披次獲居、其兒名多沙鬼獲居、其兒名半𠂔比

のご指摘の「𠂔」が、上記「カタフク」の意味があって、それをまた当て字で「傾(カタブク) 子」として使用していたとすると、ちょっと重要かもしれません。膳氏が高句麗人を接待するのは、配下の新漢人がその系統だからでしょう。次代が下記ですね。

・菩岐岐美美郎女(ほききみみのいらつめ) 1 父:傾子 2 夫:聖徳太子 3 子供:春來女王、長谷王など多数。 4 太子には多数の妃があつたが最も愛された妃とされている。

聖徳太子に先の長谷王、つまり馳使い=丈部=丈刀人がでてきます。太子の母の穴穂部間人 の間人がまた馳使・丈部・土師氏と関わらせる見方がありますね。

この辺は、半分新漢人だと考えたほうがいいでしょうね。

Ads by Google Re: 古代史は石渡信一郎からだ 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 5 日(火)19 時 42 分 11 秒 返信・引用 編集済

> No.1170[元記事へ] むらかみからむさんへのお返事です。

はじめして?、以前も掲示板でお会いしましたね…。 石渡さんの本は、以前読んだ覚えがあります。特に鉄剣銘の 531 年説は斬新でした。

他はちょっと記憶してなかったのですが、下記のご紹介を読むと面白いですね。

> 石渡信一郎は、まず先に、上記 123 を 徹底的に、探究しました。 > 1 古墳や須恵器・土師器・埴輪の絶対年を正しく定めました。 > (過去の気象や磁気の変化を考古学の原則で追及した後に) > 例えば、弥生後期(5 期)は 260 年頃から 350 年頃までとしている事 > 及び 稲荷山古墳 550 年頃 で、鉄剣の辛亥年=531 年

たぶん先のとおりの解釈なら 531 年製造で問題ないと感じます。

特に弥生時代の年代がやはり問題ですね。

3 世紀中葉までの庄内式土器までか、それとも布留 0、1 式の 4 世紀初頭まで入ってしまう のか?この辺がよくわかりません。もっとも土器はすぐにパッと変化するものでもないで しょうし、民衆の生活自体は古墳時代に入ってもあまりすぐには変化なかったかもしれませ んね。

> 結果的に、通説での全古墳の絶対年は 60 年以上古すぎたのです。 > 4 世紀前半は弥生時代で、古墳時代は AD 350 年からなのです。

> では、531 年の根拠は?『完本聖徳太子はいなかった 760 円』より > 1 草冠ぬきの獲の字は 中国でも 6 世紀に初めて使用した。 > 2 発掘関係隊長の斎藤忠も副葬品(銅わん等)から 531 年説。 > 3 稲荷山古墳と同年代の野々上窯の熱残留磁気測定結果。

> 4 少し新しい江田船山古墳履が武寧王の墓の履と文様が似る。 この点もそうですね。とくに 1 は驚きですね。

> 石渡論は辛亥年=531 年で須恵器や土師器や埴輪の年代を求めます。 > 典型例は『須恵器大成(田辺昭三)』を 60 年新しくしている事です。

下記の年代は、ちょっとどうかなーと感ずるのですが…。

>

- > 古墳-----年代----被葬者
- > 1 箸墓-----385 年頃-倭王旨(七支刀)
- > 2 渋谷向山古墳-410 年頃
- > 3 行燈山古墳--430 年頃-倭王讃(宋書)
- > 4 五社神古墳--440 年頃-倭国王珍(宋書)
- > 5 中ツ山古墳--450 年頃-倭国王済(宋書)
- > 6 石津山古墳--475 年頃-倭国王興(宋書)
- > 7 誉田山古墳--510 年頃-倭王武・余昆(宋書)・日十(隅田鏡)
- > 8 大仙古墳---520 年頃-男弟王(隅田鏡)
- > 9 見瀬丸山古墳-570 年頃-獲加多支鹵(稻荷山鉄剣)

今私のほうで考え始めている年代ですが、下記のような感じです。(また変化するかもしれ ません…)

●奈良・九州正方位区画 AD50~ 唐子・鍵遺跡 楼閣建物を描いた土器 弥生中期後半~後期初頭 大和 V-1 式 通説(~

AD 50)古墳時代まで継続利用。 マキムク型前方後円墳(前期) 庄内式

●5度偏角方位区画 三角縁時代 240 年~ マキムク型前方後円墳(後期) 布留 0 式~ 黒塚 難升米 247 年

西殿塚 248 年 桜井茶臼山 箸墓 布留 0/1 式 260 年

●7度偏角方位区画 260~300 年前後 中山大塚、椿井大塚山、乙女山 崇神陵 宮山古墳 ●方位区画不明 南方海人族大彦系の時代 300~50 年

佐紀盾列古墳群

●-1度偏角方位区画 350 年~

佐味田宝塚古墳、鴨都波古墳 メスリ山古墳

造山古墳

応神・仁徳陵・ナガレ山古墳 370~

●後期屯倉正方位区画 530~

安閑陵 稻荷山古墳

●方位区画 27 世紀~

> 私は近日、以上を前書きに『大和民族大移動』という本を買きます。 > 石渡信一郎を東大か京大の古代史教授

に推挙するために。。で、 > 副題は『書紀編集者の良心の呵責を見抜いた石渡信一郎と林順治』 >

期待してお待ちいたします? イエス・キリストの妙法蓮華経 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年2月5日(火)10時06分 29秒 返信・引用

日本語 と ヘブライ語 | Renaissancejapan 大和民族はユダヤ人だった」の著者であるユダヤ人言語学者ヨセフ・アイデルバーグは、カタカナとヘブライ語の驚くほどの類似 ... 河勝(ハタ カワカツ)の氏寺で、別名 キリスト 寺とも呼ばれ、聖徳太子の寄進で建立、聖徳太子自身も 帰依していたと言われます!
<http://wave.ap.teacup.com/renaissancejapan/276.html> 聖徳太子が良く分からない存在であるのは、彼の神道・ヘブライズムがほとんど削除され、後に熱心な仏教徒であったが如く書きかえられているからだと思います。

聖徳太子を仏教の偉大な教主として捏造したのが、唐留学から帰国したエリート僧の道慈で あったと考えれば、全て説明が出来るのではないのでしょうか。 道慈 道慈(どうじ、生年不詳 - 天平 16年 10月 2日 (744年 11月 14日))は、奈良時代の三論宗 の僧。俗姓は額田氏。大和国添下郡の出身。

702年(大宝 2年)唐へ渡り、西明寺に住して三論に通じて、仁王般若経を講ずる高僧 100人 のうちに一人に選ばれた。718年(養老 2年)帰朝し、日本三論宗の第 3 伝とされる。翌 719年(養老 3年)その有徳を賞されて食封 50戸 を賜った。729年(天平元年)律師に任じられ、 大安寺を平城京へ移設することに尽力している。735年(天平 8年)扶翼童子 6人を付与された。翌 736年(天平 9年)大安寺大般若経転読会を始め、739年(天平 12年)には大極殿 最勝王経講説の講師をつとめた。

大宝の遣唐使として 43年ぶりに入唐を果たした道慈は、帰国後に『愚志』という書物を著し て、唐と異なり教典に従っていないことが多い日本の仏教界を批判し、僧尼の質を向上させるために戒師を唐から招請することを提案した。戒師の招請は天平勝宝の遣唐使が帰還する 際に、日本に渡ることを承諾した鑑真の来日によって実現することになる。[1] また、「日本書紀」の編纂にも関与したという説もある、漢詩にも優れ「懷風藻」に入集している。

聖徳太子(574-622)も羅什訳の『妙法蓮華 経』を読んで有名な『法華義疏』を著作された。この ように羅什訳の『法華経』は中国、韓国、日本など東アジアに多大な影響を与えるに至った。 鳩
<http://www.kosaiji.org/pilgrim/china/raju.htm> 鳩摩羅什 (くまらじゅう)

西暦 350頃~409年。「羅什」とも略称される。中国の南北朝時代初期に仏教経典を訳した 僧。インドの貴族の血を引く父と、龜茲(キジ)国の王族の母との間に生れた。7歳のとき母と ともに出家した。はじめ原始経典や阿毘達磨仏教を学んだが、大乘に転向した。主に、中観派 の諸論書を研究した。384年、龜茲国を攻略した呂光の捕虜となり、以後 18年間で涼州での 生活を余儀なくされた。のち、401年に後秦の姚興(ヨウコウ)に迎えられて長安に入った。以 来、10年足らずの間に精力的に経論の翻訳を行うとともに、多くの門弟を育てた。

東アジアの仏教は、鳩摩羅什によって基本的に性格づけられ方向づけられたといつてよい。 主な訳出経論に『坐禅三昧経』3巻、『阿弥陀経』1巻、『大品般若経』24巻、『妙法蓮華経』7巻、『維摩経』3巻、『大智度論』100巻、『中論』4巻などがある。門弟は三千余人に上ったと いう。

ヤハウェの法を護持し、宣べ伝えよ<<9>> ヤハウェの法とは、二種類の法華経と南無妙法蓮華経。すなわち、《釈迦牟尼仏の 妙法蓮華 経》。《イエス・キリストの妙法蓮華経(これはヨハネの黙示録と呼ばれるもの)》。そして、この両者をまとめる 《南無妙法蓮華経》。この南無妙法蓮華経は、天台大師 が ... 神の名 JHVH は、法の名アーメンハレルヤよりも重い。 すなわち、日蓮如来の《人と法に優劣なし》の言葉は予言であり、 今、わたしがこの言葉を成就する。 神の名 JHVH と、法の名南無妙法蓮華経は、わたしヤハウェに於いて優劣なし。

「高天原」の謎! タガーマハランは、約束の地へ向かう途中に存在するアジア大陸の高原であり、天に近く、そして下界を見下ろすことのできる静かな聖地であった ... そして十数年経つ た後、満を持 してアブラハム一家は約束の地へと、タガーマハランから旅立つのです。 <http://www.historyjp.com/article.asp?kiji=52> 大和民族の魂の故郷「高天原」の謎! | 日本とユダヤのハーモニー

Re:古代史は石渡信一郎からだ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年2月5日(火)08時27分 25秒 返信・引用

編集済

> No.1170[元記事へ]

むらかみからむさんへのお返事です。

>【古代史は石渡信一郎から始まる】>と信じています。ぜひ以下の文感想聞かせてください。

石渡 信一郎(いしわたり しんいちろう、1926年 1月 16日 -)は古代史研究家。東京都出身。1953年、東京文理科大学(現筑波大学)文学部英文科卒業。1953年~1977年、東京都立千歳 高等学校教諭。主に以下のような説を主張している。蘇我馬子=聖徳太子(厩戸皇子)は、用明天皇の架空の分身。

石渡信一郎の主張がどんなものか理解できますな。聖徳太子で説明しましょか。通説とは異なりますよ。

『隋書』より聖徳太子の本名は為利歌彌多弗利(伊里(利)、伽耶、多弗利)伊里(利)、伽耶、多弗利:イリ、カヤ、テフリ

伊里(利)、伽耶、は韓国の地名地図参照 多弗利の多(テ)は用明天皇よりとる。

用明天皇:『阿每、多利思、比孤』はアメ、テリシ、ヒコ

多弗利の弗利(フリ)は美川王よりとる。

美川王(びせんおう、生年不詳 - 331年)は、高句麗の第15代の王(在位:300年 - 331年)。姓は高、諱は乙弗、または憂弗(『三国遺事』では湔弗)。好壤王(『三国遺事』では好穰王)とも記される。第13代の西川王の子の咄固(先代の烽上王の弟)の子であり、『魏書』高句麗 伝には乙弗利という名で現れる。300年 9月に先王が廃されて王位に迎えられた。

現在の聖徳太子は地藏になっている。手振り地藏(何とか名前が残る)

http://www.geocities.jp/bowel_of_beelzebub/report/teburi.html

秦野北斗 HP に聖徳太子があるので参照して下さい。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano10.htm>

『隋書』倭国伝(翻訳に一部誤訳あり、完璧でない)

王妻號雞彌、後宮有女六七百人。名太子為利歌彌多弗利。無城郭。内官有十二等:一曰大德、次小德、次大仁、次小仁、次大義、次小義、次大禮、次小禮、次大智、次小智、次大信、次小信、員 無定數。有軍尼一百二十人、猶中國牧宰。八十戸置一伊尼翼、如今里長也。十伊尼翼屬一軍尼。

(60?年)王の妻は雞彌と号し、後宮には女が六~七百人いる。太子を(為)利歌彌多弗利と呼ぶ。城郭はない。内官には十二等級あり、初めを大徳といい、次に小徳、大仁、小仁、大義、小義、大禮、小禮、大智、小智、大信、小信(と続く)、官員には定員がない。軍尼が一百二十人おり、中国の牧宰(国守)のごとし。八十戸に一伊尼翼を置き、今の里 長のようなものである。十伊尼翼は一軍尼に属す。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

古代史は石渡信一郎からだ 投稿者:むらかみからむ 投稿日:2013年2月4日(月)23時59分 0秒 返信・引用

【古代史は石渡信一郎から始まる】と信じています。ぜひ以下の文感想聞かせてください。。

『大和民族大移動』

日本書紀編集者の良心の呵責を見抜いた石渡信一郎と林順治

失礼無礼きわまりない話ですが、あなたが家系図を作成するとして、実は、あなたのおじいさんが泥棒だったら、あなたはどうしますか? 昭和 18年に隣の酒屋から酒5升盗んだ人だと正直に書けないですね。でも、良心の呵責から、なんとかして泥棒行為を書き残したいですね。簡単です。じいさんに弟があり その架空人物が、盗んだ事にしましょう。おっと、じいさんの弟はお墓が無くばれますね。では干支 60年古くして 明

治 16 年に、ひいひいひいじいさんの妹の夫が盗んだ事にしましょう。

書紀は天皇様の見事な万世一系の家系図を書いた推理小説です。太古から日本を統治していた事としたい。でも本当の事も書きたかった。そのため、架空人物を多数創造した。時代も原則 60 年単位で古くした。これが、真実を残すために書紀が取らざるを得なかった編集方針です。もちろん、真実そのままの事も、どうしても書けない真実もありました。

では、架空実在人物が新旧入り混じった小説からの真実の救出法は？ 1 実在したご先祖のお墓や使用物の年代を正しく求めましょう。 2 貴重な金石文を正確に読みましょう。 3 地名や人名の語源を冷静に考えましょう。

この 3 つを追求整理したあとで 初めて日本書紀を読むべきですね。

石渡信一郎は、まず先に、上記 123 を 徹底的に、探究しました。 1 古墳や須恵器・土師器・埴輪の絶対年を正しく決めました。(過去の気象や磁気の変化を考古学の原則で追及した後に)

例えば、弥生後期(5 期)は 260 年頃から 350 年頃までとしている事 及び 稲荷山古墳 550 年頃 で、鉄剣の辛亥年=531 年 2 七支刀・隅田八幡鏡・武寧王陵碑・稲荷山鉄剣を正確に解読した。(すみません。解読結果詳細は石渡氏と林氏の本を読んで下さい。) 3 地名人名の語源を音韻変化の基本原則にのっとり追求しました。

韓(カラ)⇒加夜(かや)・軽(かる)・茶屋(けや)・秦(はた) 大韓(カカラ)⇒大軽(おおかる)・各羅(かから) 南韓(ナムカラ)⇒難波(なには)・長柄(ながら)・中(なか) 東韓(スカラ)⇒菅谷・早良(さわら)・日十(そか)・蘇我(そが) 大東韓(カスカラ)⇒飛鳥・春日・足柄・檀原・八幡(はちはた) 大東韓(キスカラ)⇒一須賀・石川・鬼前(きせ)・去来紗(いざさ) 大東韓(クスカラ)⇒樟葉・太秦・宇治(うじ)・太(ふつ) 昆支(コンキ)⇒誉田(ほむた)

今では信者のむらかみからむですが、石渡論の理解に半年以上です。通説の古墳年代の根拠を知らず、通説年代は当たり前でした。即ち、誉田山も大仙古墳も 5 世紀初頭と 無意識に思っていました。さらに、百済皇子余昆が書紀では昆支だという事を忘却してました。

その昆支が倭の 5 王の武で、誉田山古墳に眠る応神でもある。その弟が継体であり仁徳でもあり仁徳から武列までは架空である。獲加多支鹵は欽明であり継体の子ではなく昆支の子である。その息子がアメノタリシヒコで用明で蘇我馬子で聖徳太子でもある。とくれば、なんでもありの飛んでも説をよくもここまでまじめに書くなあ。石渡信一郎も林順治も トンデル人だ。と思ってしまいますよね。

しかし、音韻変化の原則から『飛鳥の語源は大東韓(かすから)だ』の説明を熱心に 語っている文章の迫力には心を打たれました。で、稲荷山鉄剣の辛亥年=531 年で古代史を語る人は誰もいない。の文章を読んだ時、この理論が他説を圧倒する事に気づきました。通説の古墳年代を無意識に受け入れていた私がトンでいたのです。

なんと、小 6 の私の息子の社会の参考書にも書いてありましたが、通説は稲荷山鉄剣の獲加多支鹵大王を書紀の中の雄略大王として 辛亥年=471 年としてた。これを絶対基準に古墳年代を決めていた。ワカタケルは大泊瀬幼武じゃない可能性の追求が甘いままでした。

おかしな話ですよ。書紀の記述が真実かどうか検討しているのに 書紀の記述の大泊瀬幼武の実在は真実からスタートしていたなんて。

結果的に、通説での全古墳の絶対年は 60 年以上古すぎたのです。4 世紀前半は弥生時代で、古墳時代は AD 350 年からののです。これは寒かった弥生後期 5 期が 260 年~340 年頃でも裏付けれます。『通説の古墳年代を 60 年以上新しくして古代史を見直すべき』との提案が石渡説の基本で他説との相違点で最重要ポイントです。これが理解できないと石渡論はトンでる空想物語になります。

では、531 年の根拠は？『完本聖徳太子はいなかった 760 円』より 1 草冠ぬきの獲の字は 中国でも 6 世紀に初めて使用した。 2 発掘関係隊長の斎藤忠も副葬品(銅わん等)から 531 年説。 3 稲荷山古墳と同年代の野々上窯の熱残留磁気測定結果。 4 少し新しい江田船山古墳履が武寧王の墓の履と文様が似る。

石渡論は辛亥年=531 年で須恵器や土師器や埴輪の年代を求めます。典型例は『須恵器大成(田辺昭三)』を 60 年新しくしている事です。で、全国の主要古墳年代を通説より基本的に 60 年新しく求めます。さらに古鏡&

刀の金石文と中国の文献で実存した人物の中から その生存&死亡時期と照らし、各々の古墳披葬者を選び出します。これで書紀に全く頼っていない石渡論の基本年表が完成します。

古墳-----年代----被葬者 1 箸墓-----385 年頃-倭王旨(七支刀) 2 渋谷向山古墳-410 年頃 3 行燈山古墳--430 年頃-倭王讃(宋書) 4 五社神古墳--440 年頃-倭国王珍(宋書) 5 中ツ山古墳--450 年頃-倭国王済(宋書) 6 石津山古墳--475 年頃-倭国王興(宋書) 7 誉田山古墳--510 年頃-倭王武・余昆(宋書)・日十(隅田鏡) 8 大仙古墳---520 年頃-男弟王(隅田鏡) 9 見瀬丸山古墳-570 年頃-獲加多支鹵(稻荷山鉄剣) 10 太子西山古墳-585 年頃 11 石舞台古墳--620 年頃-阿每多利思比孤(隋書) 12 天武陵(旧)-645 年頃-ワカミタフリ(隋書)

13 持統陵(旧)-645 年頃

で、ここから初めてこの年表を書紀の記述と照らして検証していきます。このとき、先述の音韻変化の原則から求めていた語源が役に立ちます。コンキ⇒ホムタ や スカラ⇒ソガ や ウズ⇒フツは典型例でしょう。こうして以下の本当の大王様の家系図の一覧表が探し出せました。

古墳---被葬年-本名-書紀の中の名前【家系図】 1 箸墓---393-旨-ミマキイリヒコ【初代】 2 渋谷向山-409-?-イクメイリヒコ【1の子】 3 行燈山--438-讃-イニシキイリイコ【2の子】 4 五社神--442-珍-ワカニイリヒコ&ワカタラシヒコ【3の弟】 5 中ツ山--462-済-ホムタノマワカ&尾張連草香【3の孫】 6 石津山--477-興-カワマタナカツヒコ&凡連【5の子】 7 誉田山--507-武・日十・余昆-昆支&ホムタワケ【5の子の婿】 8 大仙---531-男弟-ヲホト&オホサザキ【5の子の婿。7の弟】 9 見瀬丸山-571-ワカタケル-アメクニオシヒラキヒロニワ&蘇我稲目【7の子】 10 太子西山-585-?-ヌナクラノフトマシキ【9の子】 11 石舞台--622-アメノタリシホコ-タチバナノトヨヒ&聖徳&馬子【9の子】 12 旧天武陵-645-ワカミタリフ-善徳&蘇我蝦夷【11の子】 13 旧持統陵-645-?-蘇我入鹿【12の子】

大和民族は『うるわしの土地』を求め大陸から大量に移動してきました。まずは西暦 330 年頃から半島南部を、460 年頃からは百済を通して。1 回目の代表は旨(崇神)、2 回目は武(応神)&男弟(継体)です。で、各々の起因は 1 回目が楽浪郡の崩壊、2 回目は高句麗の南下です。書紀の隠したこの事実は、現代日本人には小説(書紀)よりも奇です。というより、受け入れがたく、石渡論を無礼者と思いますよね。

しかし、考えようによっては当たり前だったのではないのでしょうか？大陸は寒かった。温暖な飢えない日本列島は『うるわしの土地』だった。新羅を置き去り、自ら大和民族大移動し、海を渡り来ていたのですね。さあもう 21 世紀です。石渡論が世に出て 4 半世紀も経ってしまった。ぼちぼち古墳を 60 年新しくして、真実を考え、受け入れませんか？。

隣家の酒樽から酒 5 升分のお金が入ったじいさんの名前の財布が

見つかった。稲荷山古墳の鉄剣・隅田八幡鏡・七支刀のことですよ。じいさんはお酒を飲んでお酒を買いに行き転んだ。よかった。無実です。ひいひいひいじいさんに妹夫妻はいなかった。雄略大王もいなかった。

まだまだまだまだ書きたいことありますが最後にまとめを書きます。

石渡論は古墳年代を正しく求めスタートします。そのあとで書紀です。ところが不幸な通説は架空雄略大王の実在からスタートし迷走中。

石渡信一郎が真にすばらしいのは日本書紀編集者たちが持つ「ひとりの実在人物をふたり・さんにん」と分けざるを得ない苦悩。・架空大王をひとりふたり・30 人 31 人と創造せざるを得ない苦悩。・時代を 60 年 120 年 180 年・神話へと古くせざるを得ない苦悩。すなわち、『真実が書きたい』と言う叫びを痛切に理解している事です。

見事な万世一系の筋書とは異なる飛んでた真実があるのだから 書紀は真実を書けば書くほどでたらめになる自己矛盾を持つ。書紀はでたらめではない。でたらめにならざるを得なかった。石渡説がトンでるのではない。飛ばされた真実を探しているのです。『飛ばして申し訳ないという良心の呵責を持った家系図』も眠るはず。これを見抜き信じるから、真実が救い出せるのです。すばらしいです。

私は近日、以上を前書きに『大和民族大移動』という本を買います。石渡信一郎を東大か京大の古代史教授に推

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 4 日(月)23 時 24 分 11 秒 返信・引用
 > No.1166[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

「氏」民族、「氏」宿のお話、参考になりました。それはともかく、「𠂇」という文字は「氏」を左右反転させた鏡文字だと思われます。

氏宿 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年2月4日(月)20時28分35秒 返信・引用 ティ宿 - Wikipedia

由来と歴史 [編集] 元々はさそり座のはさみの部分であったとも考えられている。後に星座として独立した。このため、黄道十二星座の中では最も新しいものと考えられている。 黄道十二星座の 1 つなので、元々はメソポタミア文明に由来を持つ可能性が高い。 神話 [編集] ギリシア神話では、正義と天文の女神アストライアの所有物で、正義を計る天秤だとされる。かつては秋分点がこの星座にあったので、時を計る天秤だったという説もある。なお隣の 星座であるおとめ座はアストライアをかたどったものとする説がある。

アストラ (astra) は、サンスクリットで「飛び道具」「矢」を意味する語。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%A9>

イスラームは人びとに知性と観察力を駆使するように教えている。それゆえイスラーム拡大期の僅か数年で、偉大な文明や研究施設が隆盛を見た。東洋思想と西洋思想の統合、新旧思想の統合は医学、数学、物理学、天文学、地質学、建築、芸術、文学、歴史などの学問に多大な進歩をもたらした。代数学、アラビア数字(数学の発展に不可欠であった)、ゼロの概念など多くの重要な学問体系がイスラーム世界から中世ヨーロッパに伝えられた。アストロラーベ(天体観測儀)、四分儀、詳細な航海図などヨーロッパ人の新大陸発見を実現させるに至った精巧な機器はいずれもムスリムが開発したものである。

[illegible]

「東テイ(魚是※)人」、呉の東海域に二十余国あったといいます。楽浪海中倭人百余 国とは別表記なので、地理分析からは<東海域の北・倭人/南・東テイ人>となります。※ヒ シコ(カタクチイワシ)、中国ではナマズ また『後漢書』では東テイ人の次に夷州・セン州があって徐福伝説を伝えていることからここは 日本列島を指してい

そうで、ますます<東ティ人=琉球弧諸島人>の可能性が高いと言えます。その東ティ人国群の北端、世界遺産「屋久島」に上陸しました。図 III はそのマップ、南海に浮かぶ 標高差 2000 m の大山塊です。多量の雨と標高差がもたらす亜熱帯から亜寒帯までの豊かな植生は感動もの、中でも圧巻なのが古代杉の大群生です。図 IV はその代表的なウィルソン株と縄文杉、そして宮崎アニメ「もののけ姫」の素材となった 白谷雲水峡「苔むす森」。

私は標高 1200 m のやくすぎランドから麓の安房港まで約 1 時間、折畳自転車でノーキック の大滑走、まさに「ドリームアイランド」です。さてその後の東ティ国と倭国の関係はどうなったのでしょうか、再び中国史書を参照してみま しょう(図 V)。3 世紀『魏志』では既述の如く薩南諸島までは及んでいません。これが5 世紀『宋書』になると 有名な倭武の上表文には「東征毛人 55 国/西服衆夷 66 国」(計 121 国)とあり、『漢

書』の「倭人 100 余国/東ティ人 20 余国」(計 120 余国)との対比が暗示的です。倭武が 中国側の認識に合わせて領土を主張したとすれば、「衆夷 66 国(東ティ 20+倭 46※魏時 での所通倭は九州中北部で30)となります。これを補強しそうなのが7 世紀『隋書』でのタイ(大倭)王・多利思北孤の領土主張「東西五 月行/南北三月行」で、琉球弧まで含まれそうです。これらの分析を総まとめにして地図にプロットしたのが図 VI です。 ※なお多利思北孤の主張視点(倭武も同じ)ではその所在が九州北部でなくては成り立た ず、彼は和の聖徳太子ではないこととなります。また書紀には同時期に「掖玖人が帰化した」と記しており、屋久島が大和の領有地ではなかったことを示しています。 さてこの琉球弧東ティ人と列島倭人との関係は古代どうだったのでしょうか。中国史書には何も記されていませんが、考古学上では弥生・古墳時代は西日本の首長級墓からゴホウラやイモガイといった貝輪加工品が頻出しています(図 VII)。これらの貝は沖縄海 域からでしか採れないもの、驚くべき交易です。墓の主にとってはこの上ない宝物だったこ とでしょう。 そしてもうひとつが「稲の道」(図 VIII)、列島への稲の伝播は、これまでは「弥生時代に半島経 由での伝播」とされてきましたが、近年では「縄文時代から琉球弧経由での伝播」もあって、今 のコメはこの熱帯種と半島温帯種のかけ合わせによる寒冷対応米であることが DNA 鑑定 により解っています。 この交易・伝播の原動力となったのが<黒潮―対馬海流>です(図 VI 参照)。 私たちはつい「陸路での半島経由文化」にしか目を向けない史考をしがちですが、日本文化の 源流を探るには「海路での琉球弧文化」視点も欠かせません。 弥生時代の寒冷化による大陸・半島人流入以前に、縄文時代の海洋交流が列島人文化の骨 格形成に寄与していること、重要です。 で、明日から東ティ人の本拠地・沖縄本島に旅立ちます。<http://blogs.dion.ne.jp/pentacross/>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 2 月 4 日(月)19 時 46 分 0 秒 返信・引用
> No.1164[元記事へ]

> ここに住む中国人達は、太守などの幹部は長安や洛陽などから派遣されてきたとしても、 商人などの一般庶民はその祖先がやってきた山東方言を原型とする中国語を話していたは ずであり、また山東・遼東とは盛んに人の往来があったため、山東方言と楽浪方言は大きく 乖離することはなかったものの、長い年月の間には方言差が生じ、楽浪独特の発音をする漢 字も生じ、また「𪛗」の様な独自の文字も生まれた……それが「古韓音」の原型だと言って いるのです。

𪛗

𪛗・[休-木+𪛗]・[石+𪛗]はそれぞれ「砥-石」・低・砥」の異体字で、国字ではない。
<http://ksbookshelf.com/nozomu-oohara/Waseikanji2/Waseikanji01.htm> 𪛗…砥-石=氏

氏(てい、?音:D?/D?)は、かつて中国の青海湖(現在の青海省)周辺に存在した民族 。チベット系というのが有力で、紀元前 2 世紀ごろから青海で遊牧生活を営んでいた。近くには同じく遊牧を 生業とする羌族がいた。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%82%A4_\(%E6%B0%91%E6%97%8F\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%82%A4_(%E6%B0%91%E6%97%8F)) 自らを古の槃瓠の後裔と称し、春秋戦国時代より現在の陝西省から甘肅省南部にあたる地 域に暮らし、自らの王を戴いていた。

元鼎 6 年(前 111 年)、前漢の武帝によってその地に武都郡が置かれると、氏族は西の青海 湖付近に追いやられ、山間部に暮らすようになったが、一方で中原に残って暮らす者もいた。 後漢の建安年間(196 年 - 220 年)、興国氏王の阿貴、白項氏王の千万にはそれぞれ 1 万あま りの部族があり、建安 16 年(211 年)に馬超に従い曹操に対して乱を起こした(潼関の戦 い)。その後、阿貴は曹操の部将・夏侯淵に攻め滅ぼされ、千万は

西南の蜀へ入ったが、その部族は去ることができず皆曹操に降った。

五胡十六国時代(304年 - 439年)になると、氏族は成漢、前秦、後涼などの国を建てた。中でも前秦の苻堅は他の諸国を次々と傘下に入れて、一時華北を統一した。しかし天下統一を狙って興した南征軍が東晋に大敗し、それがもとで前秦は崩壊してゆき、394年に滅んだ。最後の氏人国家であった仇池が楊堅によって滅ぼされてからは漢人と同化し、史書から姿を消した。一部の氏族は現在のミャンマーに南下し、パガン王朝を建国したという俗説がある。

習俗 [編集] 氏の種族は一つではなく、青氏・白氏・?氏などに分かれており、彼らの氏族トーテムや、服の色などに基づいて部族名としていた。彼らの自称は“盍稚”(がいち)といい、それぞれ王侯がおり、中国から多くの封拜を受けた。氏にはそれぞれ姓があり、中国の姓に似ていた。皆髪を編んでおり、衣服の色は青か絳(あか)である。織布ができ、農業もしながら、豚・牛・馬・驢騾を畜養していた。言語 [編集] 彼らの言語は中国とは異なり、羌や雑胡[1]と同じだが、多くの人々が中国語を理解しており、中国に雑居する者もいた。

結婚 [編集] 婦人は嫁時に衽露を着る。衽露は中国の袍に似ているところがある。多くの点で羌と似ているので、おそらくは両族とも街、冀、?道に在った西戎の子孫だと思われる。

鴟 氏族. 中国では、悪い鳥の代表が鴟梟(シキョウ/ふくろう や みみずく) ... <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2551> テイ魚ってのは、三国志にも出てくる西方のテイ族の崇拝していた神の名前ですよ。羌族の信仰していた禹と同じ神か、似 ... <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1539>

木兎 「禹」を 含む字からはかすかに「白く丸い」意味が読み取れ(偶、螭、蹠、鰐とう)、「ウサギ」で

はないかと予想されます?<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2762> (鴟) (夷)にして死す
<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1423> 羽人(仙人)の姿…ム(座 巫 ひざまずく) http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/old_site/data7.html

鴟とは?動物名。(1)タカ目タカ科の鳥。全長約 60センチメートルで暗褐色。尾の形がタカの尾としては珍しく凹形。全国の低山や海岸などに生息し、動物や魚の死骸などを食べる。ピーヒョロロと鳴きながら輪を描いて滑翔 (かつしよ...<http://www.weblio.jp/content/%E9%B4%9F>

鴟 読み方:トビ(tobi) ワシタカ科の鳥 鷹と鷲(ワシ)には明確な 区別がなく、タカ科の中で比較的小さいものが”鷹”、大きいものが”鷲”と呼ばれています。 <http://park1.wakwak.com/~english/note/name-bird.html>
「わす(輪周)」、「くち(鷹)」など。 http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1026115730 古事記や日本書紀に「天日鷲命(アメノヒワシノミコト)」という神がいることから、上代語に「わし」やその語源である「わす(輪過)」はあったようです。 懐古の思念「輪過 里」 懐古の思念 懐古:昔のことを懐かしく思うこと。 鷹(場合によってはワシ?)を神格化したもの ... 古代名:ヘル、ホル/ギリシア名:ホルス/別称:別綴り:- 性別:男性 ... 力強い猛禽類 である鷹(場合によってはワシ?)を神格化したもの ... <http://www.moonover.jp/bekkan/god/horus.htm>

27664;族は成漢・前秦・後涼などの国を建てた。 - TeaCup 鴟 氏族. 中国では、悪い鳥の代表が鴟梟(シキョウ/ふくろう や みみずく) ... <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2551>

テイ魚ってのは、三国志にも出てくる西方のテイ族の崇拝していた神の名前ですよ。羌族の信仰していた禹と同じ神か、似た ... テイ魚ってのは、三国志にも出てくる西方のテイ族の崇拝していた神の名前ですよ。羌族の信仰していた禹と同じ神か、似た神ということになりますね。 ...

[http://40:巫俊\(ふしゅん\)](http://40:巫俊(ふしゅん)) 人魚は複数の箇所に筆記されていたと思います。どこまでを「人魚」の枠に入れるかにも由ると思いますけど。 テイ魚ってのは、三国志にも出てくる西方のテイ族の崇拝していた神の名前ですよ。羌族の信仰していた禹と同じ神か、似た神ということになりますね。 中国には人面魚を神として崇拝する歴史が新石器時代からあります。

テイ族は低地に住むようになり、遊牧から農耕へと生活をシフトしていった羌族とみられて いる。 ... <http://blog.kodai-bunmei.net/blog/cat24/> チベット系 氏(てい、拼音:Dī/Dì)は、かつて中国の青海湖(現在の青海省)周辺に存在した民族。チベット系というのが有力で、紀元前 2世紀ごろから青海で遊牧生活を営ん

でいた。近くに は同じく遊牧を生業とする羌族がいた。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%82%A4>

古代羌 人(きょうじん) 禹は黄河流域の新石器文化の中で生まれた洪水神を原型とし、その神話は古代羌 人(きょう じん)に受け継がれた。羌はすでに甲骨文に見え、それによる

...<http://www.waseda.jp/student/shinsho/html/67/6717.html> 洪水神禹の神話、殷代の羌人と四川への移動、石中生誕譚、蜀王蠶叢、三星堆文化、羌戈大戦 などが皆 1 系列の物語へと収斂していくようである。

羌人、秦人、徐福と吉野ヶ里_人民中国 説文解字』の解釈では、「羌は、西戎の牧羊人で、人と羊からなる」とあり、羌の字は人と 羊の 組み合わせと説く。チャン族 ... ほかの 2 人は神農と黄帝)の 1 人目で、「成紀」は今日の甘肅 省南部天水地区、古くは「方羌の地」とされる。『史記・補三

...http://www.peoplechina.com.cn/wenhua/2009-11/09/content_228967.htm チャン人、秦人は中華の源の一つ

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 2 月 4 日(月)19 時 42 分 54 秒 返信・引用

> No.1164[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

> さて「頭のご不自由な方」のお相手をするのは疲れました。 暴言を吐く割に歴史では頭の寂しい人ですな。良く見ろ、山東省は「秦の始皇帝はここを治

所に琅邪郡・琅邪郡があった所だ。常識だぞ。

ろうや【琅邪 Láng yá】

中国の古地名。瑯邪,瑯琊,琅?とも書く。春秋時代越王句践(こうせん)が現在の山東省膠 南県南西の地に黄海を望む台館を起こし、諸侯と会盟を行ったという。秦の始皇帝はここ を治所に琅邪郡を置き、28 年(前 219)の泰山封禅ののち琅邪台を設け、秦朝の頌徳碑を建てた(琅邪台刻石)。前漢も今の諸城県を治所に琅邪郡を置き、後漢は今の臨沂(りんぎ)県 を中心に琅邪国とした。東晋・南朝で第一流の名族とされた王導一族は、琅邪・臨沂の出身 である。

呉音も理解できず、勝手な創作をし「上代特殊仮名遣い」とは、お粗末ですな。 Re:白村江の戦い 1350 周年

投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 4 日(月)15 時 16 分 28 秒 返信・引用

> No.1163[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

> 「山東方言音」である根拠は山東から楽浪を通り、日本とでも言いたいのですか。

そのとおりです。 日本で言う「呉音」は山東→(遼東)→楽浪郡(狭義の朝鮮)→百済→日本と伝わってきた と言っているのです。

山東方言を話す中国人が遼東半島の原住民(恐らく満州族)を追い払い、そこからこぼれ出 た中国人が半島北部の平安道を中心とする狭義の朝鮮地域に植民国家を作った。

『史記』によれば「箕氏朝鮮」の建国は紀元前 1122 年だと言われていますが、それは疑わしい としても実在したことは確かで、紀元前 194 年に燕から亡命してきた衛満という人物に乗っ 取られて「衛氏朝鮮」となり、それも紀元前 104 年に漢の武帝によって滅ぼされ、中国直轄の 楽浪郡となったのです。

ここに住む中国人達は、太守などの幹部は長安や洛陽などから派遣されてきたとしても、商 人などの一般庶民はその祖先がやってきた山東方言を原型とする中国語を話していたはず であり、また山東・遼東とは盛んに人の往来があったため、山東方言と楽浪方言は大きく乖 離することはなかったものの、長い年月の間には方言差が生じ、楽浪独特の発音をする漢字 も生じ、また「亅」の様な独自の文字も生まれた……それが「古韓音」の原型だと言っているのです。

アメリカ英語とイギリス英語が違うのと同じです。

楽浪郡が中国の植民地であった時代には中国人と現地人(朝鮮人)の居住地域は明確に分 けられ、そこに住む中国人は移住後何世代経ても中国語を話せたはずですが。 しかし、楽浪郡は 313 年に高句麗に滅ぼされ、そこに住んでいた中国人たちで生き残った者 は、遼東や山東に逃げたり、南の馬韓(百済)に逃げたり、逃げ遅れて高句麗に捕まったりしたでしょう。 高句麗に捕まったり、百済に逃げたりした中国人の中で読み書きできる者

は書記官として採用されたでしょう。

宗主国人であった楽浪郡時代とは異なり、高句麗や百済に逃げた中国人達は、人為的に中国語環境を作ることができなくなり、二世代もすれば高句麗語(満州語の一方言)、百済語(朝鮮語)しか話せなくなったはずであり、この朝鮮語訛りの楽浪方言漢字音が「朝鮮漢字音」

その朝鮮漢字音は日本にももたらされ、稲荷山古墳鉄剣にも「𪛗」の字が用いられている。(朝鮮語学者の藤本幸夫氏は、稲荷山古墳鉄剣銘の「中」という文字の使い方は朝鮮漢文独特の用法であり、この文を書いたのは朝鮮人だったと推定しています)

しかし、それが日本に大きく広まったのは、663年の白村江敗戦による百済人大量亡命以降であり、『記紀万葉』に見られる「上代特殊仮名遣い」こそがなよりの証拠。

しかし、日本にきた百済人達も二世代ほどで日本語しか話せなくなり、その証拠に740年頃から「上代特殊仮名遣い」は急激に崩壊してゆく。日本語しか話せなくなった世代の百済系書記官達の日本語訛りの朝鮮漢字音が、日本でい

う「呉音」だと言っているのです。

>>「古韓音」は別の形で日本に入っている。

どんな形で入ってきたんですか?『記紀万葉』以前に日本国内で作られた「文章」と呼べるもので、現存するのは「稲荷山古墳鉄

剣銘」と成立年代の疑わしい「推古期遺文」ぐらい。

『記紀万葉』、特に『万葉集』に盛んに用いられているからこそ「古韓音」という変わった発音があったことがわかったのではありませんか?(万葉集には「𪛗」の字も盛んに用いられています)>

> 注意してください。山東の地は始皇帝の本拠地ですぞ。

始皇帝の本拠地は黄河最大の支流・渭水流域の「秦」(現在の陝西省)です。子供の頃は人質として隣の「趙」で過ごしていますが、そこも現在の「山西省」です。全土統一後も陝西省の長安(現在の西安)に都をおいています。

故に始皇帝が話していた中国語は陝西方言か山西方言であって、山東方言とは何の関係もありません。

>「それをCDに録音して中国全土に配ったのですか?」そうです。配ったのですな。あほらし……

じゃあ、そのCDを見せてくださいな(^^) > 河内源氏ですか、渡来系ですな。管理人さんと同根ですな。聖徳太子の末裔、ユダヤ系です

な。大秦の一派ですか。弥生人の子孫なら、多かれ少なかれ皆「渡来系」です。

あなたは縄文人の直系子孫なのですか?(^^) さて「頭のご不自由な方」のお相手をするのは疲れしました。

今後のおつきあいはご遠慮させていただきます。<(_ _)>

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 2 月 4 日(月)06 時 50 分 11 秒

返信・引用 > No.1162[元記事へ]

藤井游惟さんへのお返事です。「山東方言音」である根拠は山東から楽浪を通り、日本とでも言いたいのですか。根拠はともかく、「山東方言音」は遭っている。「古韓音」は別の形で日本に入っている。注意してください。山東の地は始皇帝の本拠地ですぞ。「それをCDに録音して中国全土に配ったのですか?」そうです。配ったのですな。

> その朝鮮式漢字音の原型が「楽浪方言音」であり、さらにその原型が「山東方言音」だと言っているのです。 >
>「山東方言音」と「楽浪方言音」の差が「古韓音」と呼ばれる幾つかの漢字の特殊な発音です。

河内源氏ですか、渡来系ですな。管理人さんと同根ですな。聖徳太子の末裔、ユダヤ系ですな 大秦の一派ですか。

源 義隆(みなもと の よしたか、生年未詳 - 平治元年 12 月 26 日(1160 年 2 月 5 日))は、平安時代末期の河内源氏の武将。源義家の七男(六男とも)。森冠者、陸奥冠者、陸奥六郎または陸奥七郎などと号した。七男 であるが、六郎ともいう。官位は無位無官と看做されるむことが多いが、宮内少輔五位 下に任ぜられるとも。義家の子の中で一番の長命であり、一族の長老として尊崇を集める。相

模国毛利庄を領した。

>> ところで、藤井さんの家紋は文章から柏紋、又は梅鉢でしょうな。 >> 私の家紋は鶴の丸であり、遠祖は織田信長の重臣だった森可成、さらにその遠祖は八幡太郎義家の六男とも七男とも言われる「陸奥六郎(七郎)義隆」です。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 4 日(月)05 時 27 分 20 秒 返信・引用

> No.1160[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

- > 藤井游惟さんへのお返事です。 >
- > 上代特殊仮名遣いの統一性からすると「広大な中国では方言によって」は矛盾になる。
- > 単に仮名遣いだけで、音は関係しないと理解できる。
- > 因みに、魏志倭人伝は陳寿が書いたものです。

日本に於ける漢字音の問題と言語そのものの問題を混同しないでください。

『日本書紀 α 群』を書いたのは中国人(薩弘恪など)であり、彼らが話していた「中国語」とは 恐らく山東方言です。 山東方言話者の音韻感覚で日本語を聞き取ったのが『日本書紀 α 群』にある歌 ↓

<http://www.youtube.com/watch?v=GrW9HbymQmo> 『日本書紀 α 群』以外の『記紀万葉』を書いたのは百済人であり、朝鮮語話者の音韻感覚で日本

語を聞き取り、朝鮮式の漢字音でそれを記述したのが「上代特殊仮名遣い」です。

その朝鮮式漢字音の原型が「楽浪方言音」であり、さらにその原型が「山東方言音」だと言っているのです。

「山東方言音」と「楽浪方言音」の差が「古韓音」と呼ばれる幾つかの漢字の特殊な発音です。

> 陳 寿(ちん じゅ、建興 11 年(233 年) - 元康 7 年(297 年))は、三国時代の蜀漢と西晋 に仕えた官僚。字は承祚(しょうそ)。巴西郡安漢の人。俗説では、蜀漢の将陳式の末裔と言われているが、根拠は無い。甥に陳符・陳莅(兄の子)・陳階(弟の子)。『三国志』の著者である。自身の伝は『晋書』にある。

以前の投稿で、魏志倭人伝にある日本語を聞き取ったのが朝鮮人であるのか、中国人であるのか、中国人ならどこの方言を話す者であったかが問題だ、といっているでしょう。

陳寿はその資料を写しただけであり、陳寿自身がどこの方言を話していたかは問題ではありません。

> 漢字の発音は秦時代に始皇帝により統一されたのが一般的。 始皇帝の時代に漢字の発音の統一などできるはずがありません。

始皇帝は漢字の発音を統一し、それを CD に録音して中国全土に配ったのですか? > ところで、藤井さんの家紋は文章から柏紋、又は梅鉢でしょうな。

私の家紋は鶴の丸であり、遠祖は織田信長の重臣だった森可成、さらにその遠祖は八幡太郎 義家の六男とも七男とも言われる「陸奥六郎(七郎)義隆」です。 <http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 2 月 4 日(月)01 時 30 分 5 秒 返信・引用 編集 済

> No.1159[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

> 秦野さんへのお返事です。 >>> 藤井游惟さんへのお返事です。

> 470 年頃と思われる稲荷山古墳鉄剣に用いられている「𪛗」/テ/という漢字は中国にはなく、和製漢字だと思われていましたが、実は 414 年頃に建立されたと見られる高句麗好太王碑文にも用いられています。 >

> 高句麗好太王碑は中国領内にあり、これは「朝鮮語」ではなく「満州語」を音写したもののはずです。 >

> >「𪛗」/テ/という中国にはない特殊な漢字が、日本語・満州語を記述するのに共通に用いられているのがそのなによりの証拠でしょう。

秦野さん、藤井さん、こんにちは。ちょっと面白そうな論議をしてますね。

ひとつは、300 年前代前後の遊牧民南下の問題。280 年ごろにマキムクへその遊牧民系の流れが入ったとすると秦野さんの扶余王の話がかかわってきそうです。

もうひとつは、ワカタケル鉄剣銘の件ですね。なるほど「𪛗」の字が好大王碑文にみえ、それがさらに満州方面の言語と関わるとなる面白いですね。

銘文の内容 [編集]

(表) 辛亥年七月中記、乎獲居臣、上祖名意富比埵、其兒多加利足尼、其兒名𪛗已加利獲居、其兒名多加披次獲居、其兒名多沙鬼獲居、其兒名半𪛗比 (裏) 其兒名加差披余、其兒名乎獲居臣、世々為杖刀人首、奉事来至今、獲加多支鹵大王寺在斯鬼宮 時、吾左治天下、令作此百練利刀、記吾奉事根原也 書かれている文字を解釈すると、

「辛亥の年七月中、記す。ワワケの臣。上祖、名はオホヒコ。其の兒、(名は)タカリのスクネ。其の兒、名はテヨカリワケ。其の兒、名はタカヒ(ハ)シワケ。其の兒、名はタサキワケ。其の兒、名はハテヒ。(表) 其の兒、名はカサヒ(ハ)ヨ。其の兒、名はワワケの臣。世々、杖刀人の首と為り、奉事し来り今に至る。ワカタケ(キ)ル(ロ)の大王の寺、シキの宮に在る時、吾、天下を左治し、此の百練の利刀を作らしめ、吾が奉事の根原を記す也。(裏)」

よく考えてみると、いろいろおかしな系譜だともいえそうです。

大彦系で、膳氏、その子孫の高橋氏が出てきていることは、おそらく「加利」の発音が、膳氏系 図の「磐鹿六雁命」の「雁(カリ)」と関係するでしょう。系譜はこちら。 <http://www17.ocn.ne.jp/~kanada/1234-7-13.html>

「足尼」は、武内宿禰時代の「足尼」の称号で、4 世紀半ばとみます。

大彦→大稻興命→磐鹿六雁命(膳氏祖)→佐白米→余磯(高橋氏祖)

これが、上記系譜では、下記のように対応するでしょう。

上祖名意富比埵→其兒多加利足尼→其兒名𪛗已(テヨ)加利獲居(稻余・トウヨ)→其兒 名多加披次(タカハシ)獲居(余磯・高橋氏祖)

「別(ワケ)」というのは、どうもこうみると、分氏の祖の意味がありそうですね。

そこでその後の系譜ですが、たとえば下記のタサキ別も、タサキ氏の祖と見えるかもれません。次は別がついていないのですが、半を「ハン」と読めればテ(トウ)ヒ氏、そして、カサハヨ を笠原氏、その後ここでまた分氏の祖となったのが、ワワケ臣となるでしょうか。

其兒名多沙鬼獲居→其兒名半𪛗比→其兒名加差披余→其兒名乎獲居臣

この「乎」がどうも「コウにちかいオウ」の音のようです。類似した事例で継体系図の「乎非王」がいて、後代「弘斐王」になります。それで横道にそれて、弘計天皇(をけのすめらみこと)の 弘計(コケイ)が、もしかすると継体系譜のそれと関わってくる可能性を感じます。袁奚天皇

呉音だと「オ・ヲ・ゴ」になってます。 <http://ja.wiktionary.org/wiki/乎>

加差披余を通説どおり、笠原使主とすると、その基盤になる鴻巣にある鴻神社(氷川神社)の「鴻」あたりがちょっと怪しいですね。

確かに武蔵国造の祖が丈部氏で、その子孫がまた笠原氏なので、祖先の時代から丈部人だ という話はよくわかります。

そうすると、笠原の父「其兄名半_三比」が、やはり「ハン(テ・トウ)イ」で「ハセツカ」もしくは「馳刀」

丈部氏が、銘文の大彦系で、壬生氏と関わりますが、ここで「仲国造」が壬生氏なので「半」を「ナカ」と読ませるとまたつながってきます、

丈部は、馳使部(伝令・急使)と言われる職業的部民と解釈されている。東国に多く分布しており平安期以降に氏姓を賜う場合、多くは安倍(阿倍)姓であった。安倍氏は孝元天皇皇子である大彦命を祖としており、その子である建沼河別命と共に四道将軍として崇神十一年に東国に派遣されたとされており氏族の分布もその経路とよく一致している。従って、安倍氏の部民としての丈部氏が建沼河別命の東征に伴って移動土着したものとも推測できる。生部は、丈部より新しく日本書紀の仁徳七年に壬部を定むとあり、また推古一五年にも同様に壬部を定むと記されている。その職種は従来の子代・名代(大王や特定の王族に貢納・奉仕する人民(部民)の総称で、国造支配下の人民を割いてこれにあてる。)を再編し皇子の資養の為に設置し経済的軍事的基盤となしたと考えられている。尚、大生部の大は生部の中での本家筋(最有力一族)に与えられたものとする説が有力である。
<http://www14.plala.or.jp/nikorobin/torimi6.html>

この大生部と、この系譜に見える「多」も間接的に関わるでしょう。

『日本書紀』の記載[1]によると、笠原直(かさはらのあたひ)使主(おみ)と笠原直小杵(おき)は武蔵国造の地位をめぐり争っていた。安閑天皇元年(534年)、小杵は上毛野君(かみつねののみ)小熊(おぐま)の力を借りて、使主を殺害しようとした。使主は大和朝廷に助けを求め、小杵を破った。この結果、使主は大和朝廷から武蔵国造であることを認知された。使主は横淳(よこぬ)、橘花(たちばな。橘樹郡)、多氷(たひ)、倉櫟(くらす。後に久良(くら)郡、さらに久良岐(くらぎ)郡。)の4ヶ所を屯倉として朝廷に献上した。

ここに出てくる多氷(たひ)、倉櫟(くらす。後に久良(くら)郡、さらに久良岐(くらぎ)郡が、どうも鴻巣周辺の先の久伊豆神社とか氷川あたりとかかってくるようです。

また府中かわ川崎にかけての「橘樹郡」が、系譜の「多沙鬼獲居」に似た音になりますね。

それで「小杵(オ(コ)キ)」が、どうも先の「乎獲居臣」の「コワケ(コ・キョ)」にも似てきます。この辺は藤井さんのオ音の発音理論で解けないでしょうか。

先の笠原氏の同族に見える「使主」は渡来系の種族長への称号なので、大彦系膳氏の配下にはいった新漢氏系の首長の系譜の系譜が混じった可能性を感じますね。大彦系に吉士集団が入り込んで難波吉士のケースのように、そのうちに神八井耳の子孫を名乗りだすケースもあって、在来系だったかどうかは微妙な感じがします。

稲荷山にはまだ未発掘の巨大円墳があり、これがどうも新羅系、さらには上記の新漢人系つまり「穢」人とにらんでます。満州に近い地域でしょう。

大彦の年代をこの系譜から推定すると1世代25歳とすると、310年代、30歳とすると260年前後になりそうですが、もしかすると前者の可能性を感じてますが、新漢人の本体が入ったのが530年頃と感じますので、磯城の宮は、どうも「継体最後の526年9月、磐余玉穂宮(いわれのたまほのみや、現在の奈良県桜井市池之内か)に遷す」

および、欽明の別名、志埴嶋天皇・斯埴斯麻天皇の「磯城島金刺宮」ではないかと感じます。

ただ問題は「獲加多支鹵大王寺」の時代に「吾」が「佐治」下との記載で、「吾」を、たとえば、楽浪・秦韓系の自集団の呼称「阿」とか、その系統と類推した三角縁神獣鏡銘文に見える「吾氏」とすると、「私」の意味ではなく「我ら」と見なし得れば解決できるかもしれません。

武烈天皇8年12月8日(507年1月7日))。名は小泊瀬稚鷦鷯尊(おはつせのわかさざきのみこと

この雄略、武烈につく長谷部が、つまり丈部なのですが、彼らと武蔵国造の祖・丈部氏の伝承が深く関わっていたらうことはよくわかります。長谷部が、刑部のケースのように入部として全国に展開し、その領地を守る一族もでてきたでしょう。

「臣世々為杖刀人首奉事来至今獲加多支鹵大王寺」在斯鬼宮時吾左治天下令作此百練利刀 記吾奉事根原也」

で分けるとどうなるか、

臣等は、ワカタケル大王の時(寺)代から今に至る来る(まで)、世世杖刀人の首として、奉 事してきた。

磯城宮に在りしときに、吾等は天下をたすけたことを(記念して?)、この百練利刀に、吾等 の奉事根源を記し造らしめた。(ことによる刀である)

こんな感じの解釈ではないでしょうか。「寺」は「時」でしょう。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 2 月 3 日(日)23 時 11 分 18 秒 返信・引用

> No.1159[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

上代特殊仮名遣いの統一性からすると「広大な中国では方言によって」は矛盾になる。 単に仮名遣いだけで、音は関係しないと理解できる。 因みに、魏志倭人伝は陳寿が書いたものです。

陳 寿(ちん じゅ、建興 11 年(233 年) - 元康 7 年(297 年))は、三国時代の蜀漢と西晋に 仕えた官僚。字は承祚(しょうそ)。巴西郡安漢の人。俗説では、蜀漢の将陳式の末裔と言わ れているが、根拠は無い。甥に陳符・陳莅(兄の子)・陳階(弟の子)。『三国志』の著者である。自身の伝は『晋書』にある。

漢字の発音は秦時代に始皇帝により統一されたのが一般的。

秦野の認識だと「古代言語」は「古韓音」でなくアイヌ語ですな。 歴史で見ると、韓国は紀元前には原野で統治国が無かったことが中国史籍に書かれている。 「古韓音」はアイヌ語、中国語「呉音、漢音」の複合語した古語でしょうな。

> 楽浪郡で独自に変化した「楽浪方言」

楽浪郡は 313 年には高句麗に滅ぼされ、後に高句麗は楽浪郡の跡地に遷都した。楽浪・帯方 の土着漢人達は高句麗・百済の支配下に入り、これらの王国に中華文明を伝える役割を果た した。この文章の「王国に中華文明を伝える役割…」を真に受けていないでしょうな。313 年に応神天皇と仁徳天皇の世代交代が行われる。この辺の経緯は創作ですな。

応神天皇(おうじんてんのう、第 15 代天皇(在位:応神天皇元年 1 月 1 日(270 年 2 月 8 日))。諱は誉田別尊(ほむたわけのみこと)、大軻和気命(おおともわけのみこと)。誉 田天皇(ほむたのすめらみこと/ほんだのすめらみこと)、胎中天皇(はらのうちにましま すすめらみこと)とも称される。

仁徳天皇(にんとくてんのう、日本の第 16 代天皇(在位:仁徳天皇元年 1 月 3 日(313 年 2 月 14 日) - 同 87 年 1 月 16 日(399 年 2 月 7 日))。

「呉音」の認識のズレですが 1000 年がありますな。「呉音」は呉 (春秋)の頃の「呉音」で、中国で は日本人を「呉の太伯の子孫」になる。的外れですな。

> 白村江敗戦によって日本に大量亡命し、日本語しか話せなくなった子孫の「日本語訛りの 朝鮮音」が日本でいう「呉音」です。

呉(ご、拼音:wú、紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年)は、中国の春秋時代に存在した君国の一つ。現在の蘇州周辺を支配した。君主の姓は姫。元の国号は句呉。

ところで、藤井さんの家紋は文章から柏紋、又は梅鉢でしょうな。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 3 日(日)21 時 17 分 41 秒 返信・引用

秦野さんへのお返事です。

- > 藤井游惟さんへのお返事です。 >
- > 上代特殊仮名遣いには疑問がある。

- > どうも、(呉)(漢)(古代言語)の三通り読みが存在している。
- > これをどの様に理解し整理するかですな。

漢字は本来中国語を記述するための文字ですが、広大な中国では方言によって漢字の発音も 異なり、現代でも 1 つの漢字に何十通りもの発音が存在します。

例えば「日本」の発音 1 つをとっても、これだけの差があります。

<http://www.youtube.com/watch?v=XnOY0mt7yV4>

義務教育で標準語(北京語)が教えられ、テレビの普及で誰もが標準語を聞いて育つ現代で すらこうですから、そんなものが無かった三世紀に漢字の発音の方言差がなかったとお考え ですか？

私は日本で言う「呉音」の原型は朝鮮音、さらにその原型は山東方言音だと考え、2010 年 3 月 に「日本中国語学会」でも研究発表しています。

<http://www.chilin.jp/event/kantoo.html>

あなたの言っている「古代言語」とは恐らく「古韓音」のことでしょう。

例えば、『記紀万葉』では、「其」をゴ乙に「己」をコ乙に、「里」をロ乙にあてると 並行し、「宜」 をガに、「移」をヤに あてる、という風に、呉音とも漢音とも思えない発音が少数存在する。

これらは恐らく、山東-遼東方言を原型にしつつ、楽浪郡で独自に変化した「楽浪方言」に於け る発音だと考えられます。

470 年頃と思われる稲荷山古墳鉄剣に用いられている「𪛗」/テ/という漢字は中国にはなく、 和製漢字だと思われていましたが、実は 414 年頃に建立されたと見られる高句麗好太王碑文 にも用いられています。

高句麗好太王碑は中国領内にあり、これは「朝鮮語」ではなく「満州語」を音写したものの は ずです。

313 年に楽浪郡が高句麗によって滅ぼされた際、楽浪郡にいた中国の知識人達はそのまま高 句麗に雇われたり、南に逃げて百済や伽耶、新羅などに雇われて土着し、満州語や朝鮮語しか 話せなくなった子孫の「満州語・朝鮮語訛りの楽浪方言音」が満州漢字音・朝鮮漢字音。

白村江敗戦によって日本に大量亡命し、日本語しか話せなくなった子孫の「日本語訛りの朝 鮮音」が日本でいう「呉音」です。

「𪛗」/テ/という中国にはない特殊な漢字が、日本語・満州語を記述するのに共通に用いられ ているのがそのなによりの証拠でしょう。

>> このように、私は最初から古代史や朝鮮や言語学に関心を持っていたわけでは全くなく、

みんな「たまたま」そうだったというだけですが、このたまたまの経歴が全て拙著「白村江敗 戦と上代特殊仮名遣い」に結びついている…これは「天命」というものでしょう。(^^)

「天命」を帯びている私を甘く見ないでください。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野 投稿日:2013 年 2 月 3 日(日)19 時 24 分 32 秒 返信・引用 編集済

> No.1157[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

上代特殊仮名遣いには疑問がある。 どうも、(呉)(漢)(古代言語)の三通り読みが存在している。 これをどの様に理解し整理するかですな。

3 母音の i, a, u (古代言語)? 4 母音の i, a ~ o, u (呉)の混在? 6 母音の i, e, i, a, o, u (呉)(漢)の混在? 5 母音の現在

例として魏志倭人伝の瀚海をあげます。 魏志倭人伝で瀚海(かんかい)に注目します。現在の名は玄海灘。

また南に瀚海(かんかい)と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る(「又南渡一海千 餘里、名曰瀚海、至一大國」)。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。 3000 の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく。

瀚海は当時の音表記で呉音なので、瀚海はガンカイ。似た地名は巖原(いずはら)

瀚 呉音 : ガン 漢音 : カン

海

[音]カイ(呉)(漢)

巖原

巖 呉音 : ゴン(ゴム) 漢音 : ゲン(ゲム)

原(古代言語)? [音]ゲン(漢) <はら(ばら)>「海原(うなばら)」原=海

瀚海=巖原(巖海)=玄海、ゲン(ゲム) カイ(漢)、ゴン(ゴム) カイ(呉) 言える事は、(呉)(漢)(古代言語)の三通り読みが存在している。

>> このように、私は最初から古代史や朝鮮や言語学に関心を持っていたわけではなく、 みんな「たまたま」そうだったというだけですが、このたまたまの経歴が全て拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」に結びついている…これは「天命」というものでしょう。(^^)>> 私は父方も母方も全て明治以前からの日本人ですが、私をみればわかるように、体毛が薄く、のっぺりした弥生人顔、きっと遠い祖先に白村江帰化人が何人もいて、「歴史の中に埋没した俺たちの名誉を回復してくれ」と子孫の私に乗り移ってきたに違いありません。(^^)>> 私が「天命」を全うできるよう、力を貸してください。<(_ _)>>

白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 3 日(日)05 時 29 分 13

秒 返信・引用 管理人さんへのお返事です。

> 大成洞(daeseong-dong)古墳群と金官伽耶 知見 > 国立金海博物館の説明などを総合すると色々なことが判る。 > 丘陵の上部は王や支配者、貴族の墓。8m 以上の木槨墓もある。傾斜面は身分の低い者の墓。平地には 1~3 世紀の木棺墓と木槨墓が密集している。金官伽耶は 4 世紀頃全盛期を迎えた。 長年大成洞古墳群の発掘調査した韓国慶星大学教授 申敬澈 氏の色々な報告がある。 > 1 紀元前 1 世紀から紀元 2 世紀半までの木棺墓には、支配者と一般大衆の墓とで大きさや 副葬品に格差はない。 > 2 木槨墓出現以前の木棺墓時代が弁韓(狗耶韓国)時代で環濠集落は共同墓地と隣接している。 > 3 伽耶の首長も王家が万世一系ではなく、狗耶韓国と東ネ (トンネ=今の釜山)居?山国(きょしつやまぐに)が政治統合して金官伽耶になった。 4 > 木槨墓時代になると墓地が平地から丘陵に移る。大衆と王族の墓地が分離。支配者の墓が 大きくなり副葬品に財産の集中が分かる。陶質土器 (日本で言う須恵器=大阪陶邑から発掘された陶質土器)が出現する。

ほほう…伽耶の古墳から大阪陶村の須恵器が出た(^^) すると、拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」第一章で述べている倭王朝加羅(伽耶)渡

来説を強化する証拠となりますな。

そんなことより、私が生まれて 2 ヶ月から小学校卒業までを過ごしたのは、何を隠そうこの 「陶邑」の跡地で、学校の名前は「東陶器小学校」、学校から 200m 程度の所に「陶荒田神社」があり、子供のころはごろごろ出てくる須恵器の破片を手裏剣代わりに投げ合って遊んでいた

ものです。(^^) (拙著 P.175 の注 1 参照) また、日本語教師として百済の首都扶余に近い大田に 3 年、釜山にも 1 年住んでおり、金海あ

たりは空港があるのでどんなところかよく知っています。(^^)

但し、 1 陶邑に住んでいたのは父の仕事の関係(両親は東京出身)で地の人間ではなく、そのため に標準語と大阪弁を両方話せる

2 大学は文学部を選んだのは高校が男子校だったので大学は女の子の多いところへ思った

だけで勉強するつもりなど全く無し(卒業に5年かかりました)。第二外国語に中国語を選んだのは、受験勉強にこりてそれ以上横文字とつきあうのはいやだったという理由だけ。まあ、割に歴史は好きでしたが早稲田の日本史学科は競争率が高いので、専攻はそれに近い東洋史にしよう、卒論かかなきゃ卒業できないので、テーマは日本に関係するということ で「元の日本来襲の意図と経過」にしましたが、元ネタの多くは元寇の際の高麗の苦悩を描いた井上靖の小説「風濤」…なぜかここで朝鮮に関係

「早稲田大学東洋史学科卒業」という経歴が結果的に私の本にハクをつける結果になってい ますが、実は勉強など全くしておらず、5年間で「優」はたったの4つ、そのうち2つは「体育」 です…(^^)

3 大学卒業直後に、小室直樹の「アメリカの逆襲」という本を読んで、社会科学のおもしろさ に気づき、会社を2年で辞めて、学士入学。書いた卒論は「宗教としての巨人軍・巨人ファンに見る日本教の倫理と資本主義の精神」というものですが(但し私は熱狂的なアンチ巨人)、指導教授は現在では韓国経済社会学者として有名な人…ここでも何故か朝鮮に関係

4 大学院時代に韓国語を勉強しはじめましたが、その理由は朝7~8時のNHK教育ラジオの語学講座で7時からのフランス語講座と7時40分からのドイツ語講座の間にハンゲル講座があり、その間に寝てしまわない様についてに聞いていただけ。

5 大学院を出て日本語教師になったのは、社会学では食べそうにないので、とりあえず食うための手段として選んだだけ、言語学はそのための日本語教師養成の民間講座で勉強しただけ(但し、今にして思えば、この講座の講師陣は並の大学などより遙かに優れていました)、韓国へ渡ったのは、大学院を出ているということと4の理由で韓国語がある程度できたため、この講座の同級生から「韓国へ行かないか」という話がきて、それに乗っただけ…

6 国際交流基金の試験に受かり、香港に派遣されたのも別に自分から希望したわけではなく、私の経歴を見て、基金の方が勝手に決めただけ…ところが香港やその後台湾に行ったお陰で、中国語には色んな方言があることを知っていた

このように、私は最初から古代史や朝鮮や言語学に関心を持っていたわけではなく、みんな「たまたま」そうだったというだけですが、このたまたまの経歴が全て拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」に結びついている…これは「天命」というものでしょう。(^^)

私は父方も母方も全て明治以前からの日本人ですが、私をみればわかるように、体毛が薄く、

のっぺりした弥生人顔、きっと遠い祖先に白村江帰化人が何人もいて、「歴史の中に埋没した俺たちの名誉を回復してくれ」と子孫の私に乗り移ってきたに違いありません。(^^)

私が「天命」を全うできるよう、力を貸してください。<(_)_>

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

景教のことども. 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年2月3日(日)01時56分22秒 返信・引用

第3章ブッダの囁き 11 墨子の生きた時代は、紀元前468年頃—前375年頃とされている。キュロスの回勅によりユダヤ人のバビロン捕囚解放が行われたのが紀元前530年頃である。墨子の働き盛りの年齢から遡ることほぼ200年になる。<http://www2.tba.t-com.ne.jp/Temzzin/cnt/bunsho/keikyo/bdh11.html> 墨子の生きた時代は、紀元前468年頃—前375年頃とされている。キュロスの回勅によりユダヤ人のバビロン捕囚解放が行われたのが紀元前530年頃である。墨子の働き盛りの年齢から遡ることほぼ200年になる。バビロニアの土木建築技術を修得したユダヤ人が、ペルシャ統治下で職人集団を組織し、乾燥地帯の都市国家を開発整備しながら中国に至るのに十分な時間と言える。「墨子」の記述の中には、敗北し国が消滅する悲哀を記した一節がある。曰く「祖先を祀る祭器は敵の手によって破壊されあるいは奪われて、働き手の男達は奴隷として連去られる。崩れた神殿に残された女や子供たちは飢えに泣き離散する他ない...。」まるでバビロン捕囚を彷彿とさせる記述であるが、墨子とユダヤ王国を結びつけることは性急に過ぎるだろうか？墨子の出自についての諸説には、武士階級説、工人職人説、奴隷出身説などがあるが、バビロン捕囚のユダヤ人はそのいずれにも当ては

まる。

ユダヤ・キリスト教研究 投稿者:管理人 投稿日:2013年2月2日(土)20時05分23秒 返信・引用 編集済
藤井さん、キシさんご意見ありがとうございます。秦野さんはまたご旅行ですか な？

ところで、日ユ同祖論というのは、ちょっと言葉が悪いような気がしますね。どうみてもユダヤ人やヘブライ人の子孫の遺伝子は1パーセントにいないはずですし、その1パーセントが

少なくとも数十パーセント以上に拡大したという経緯があったケースにしか適用できない 概念ではないかと感じます。

現時点では、ヘブライ語・文字借用論とか、そういう名称のほうが偏見を産まなくてよいの ではないかなと感じます。

キリスト教研究でも同様なのですが、ただ、それらが日本の言語・文字・祭祀の確信にダイレクとに影響したケースですね。その場合は研究価値も高まると思います。

類似したケースは、トカラ人のもたらした習俗と宮庭庭園や構築物構造の関係、あるいはインド仏教の伝来、天皇号等への影響などのケースがあるかもしれません。インドから日本への距離より、メソポタミアと日本の距離のほうが短いので、そうするとむしろメソポタミア系の宗教や言語に影響のほうを、真面目に研究すべきだともいえるでしょう。

ただ、ローマ・キリスト教文化の影響については、大秦の記載を考慮する必要がありますね。 先日も山城の長岡京あとから、1-4世紀のローマ系遺物がみつっていますが、下記の記載があります。

後漢書 [編集]「和帝の永元九年(97年)に西域都護の班超が甘英を使者として大秦に派遣した」 大秦の初出である。この後甘英はシリアにまで到達し、地中海を渡って大秦へ赴こうとした が、パルティア人の船乗りにより「大秦までは長ければ二年以上も航海せねばならず、長期間陸地 を見ないために心を病んで亡くなる者さえいる」と言われたために大秦に行くことを諦めた との記述がある[1]。

「桓帝の延熹九年(166年)に大秦国王の安敦(アントン)が遣わした使者が日南郡に訪れて象牙・犀角・玳瑁を献上した。初めて(大秦と漢は)交流を持つことができた[2]。 安敦とはローマ皇帝マルクス・アウレリウス・アントニヌス(位 161年~180年)、または その先代皇帝であるアントニヌス・ピウス(位 138年~161年)の「アントニヌス」の音を写したものと考えられる。ただローマ側の史書には使者を派遣したという記述が見られず、また献上品もインドやアフリカの産物であることからローマ帝国の商人が皇帝の使者と偽って中国との貿易を企てたのではないかと考えられる(『後漢書』は献上物に特に珍奇なものは無かった、間違っ て伝えられたからではないかと思書記している)。なお日南郡とは現在のベトナム社会主義共和国フエ付近に置かれていた後漢の郡である。

魏略 [編集]「大秦には普段は王はおらず、国に災難があった場合には優れた人物を選んで王とする。災難

が終われば王は解雇されるが、王はそれを恨まない」 これは共和政ローマにおける独裁官に関する記述であると考えられる(日本語の『独裁官』 は意訳であって、元の言葉を直訳すると『臨時の王』である)[3]。

面白いのは、商人がローマ皇帝の名前を偽って、インド・アフリカ系の商品をもたらし て交 易したという考え方ですね。

中東商人は、当然ローマも中国のことも知っており、しかも遠い国の宝物のほうが、商品価値 があがることも知っている ので、それを上手く利用したという線でしょうか。蓬萊や扶桑国 の件もそうです。

ただ、上記の魏略のほうに、ローマ独裁官の記載がありますので、やはり公式な使者が届いて いたと考えるべきだとも思いますね。

「大秦には普段は王はおらず、国に災難があった場合には優れた人物を選んで王とする。災難 が終われば王は解雇されるが、王はそれを恨まない」

これは、ローマの法治方法をよく知る人物が使者になっていないと、なかなか受け答えで きる内容ではないでしょう。 中国側から、「王」について問い合わせがあったと考えるべきです。「天皇や人民・公卿はどう している

か?」と同類ですね。

それに対して使者は、彼や臣下・人民は、天皇の徳によって平安元気です。次の王は皇太子の　ワカミタホトリです、とか返答するわけです。

ただ、「羅馬」を使わず、「大秦」という中国側の呼称を使用していることは、もともと「大秦」についての情報は以前からあって、その後使者がやってきて詳細を説明した経緯が予想できる　でしょう。

それで独裁官の件ですが下記です。

ローマにおける行政の長は、毎年　2人任命される執政官であった。しかし、外敵の侵入や疫病　の流行、政治的混乱など、国家の非常事態が発生した場合、権力が分散されているのは非効率　的である。そこでローマは、そういった場合にはただ　1人に強大な権限を与えて事態に対処　させることとした。これが独裁官が誕生した理由である。ただし、任命された者が無制限に権

力を行使しないように、その任期は短期間(通常　6ヶ月)とされていた。独裁官は、ローマの　元老院が非常事態と認定した時、元老院の要請によって執政官が指名した。　<http://ja.wikipedia.org/wiki/独裁官>

この臨時的な独裁官を王と見なしたことが興味深く感じます。そして普段の2人の執政官は　王とはみなしていない。大臣レベルですね。

同様に興味深いのは扶余の政治システムです。

政治体制　[編集] 国には統一的な君王がいる。古い夫余の風俗において、天候が不順で五穀の生育が順調でない時にはその責任を王のせいにし、或いは王を易えるべきだと言い、或いは王を殺すべきだ　とした。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/夫余>

それで騎兵の記載が重要です。

安帝の永初五年(111年)、扶余王が初めて歩兵と騎兵七、八千人で楽浪郡に侵攻し、官吏や　民を殺傷した。後に再び漢に帰服した　永寧元年(120年)、太子の尉仇台(いきゅうだい)を派遣して王宮に詣でて貢献する。　天子は尉仇台に金印を賜る。

弓矢刀矛を武器とし、家々に鎧と武具を備えている。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-fuyo-.htm>

ここに出てくる鎧が、戦闘用だとすると、遊牧民系の習俗が伝わったと考えるべきですね。

馬の背に乗る際の足がかりとして使われたものと思われる片鎧は、紀元前の時代からインド　や中央アジアのステップ地域にはあったが、　騎乗時の保持を目的としたペアでの使用が確　認できる最古の物は、302年・322年に埋葬された鮮卑や東晋の墳墓から出た陶馬俑であり、　実物として最古の物は北燕貴族の馮素弗の副葬品である。5世紀には朝鮮半島や日本でも使　用されていた。

欧州では　7世紀頃になるまで鎧は確認されなかった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/鎧>

橿原考古学研究所発表時の新聞内容　「奈良県桜井市箸中の前方後円墳、箸墓(はしはか)古墳の周濠(しゅうごう)跡から古墳

時代前期(3世紀末―4世紀　初め)の木製輪鎧(わあぶみ)が出土したと、同市教委が30日、発表した。馬具としては国　内最古で、現存する鎧では　世界最古と見られる。わが国の乗馬の始まりを100年近くさかのぼらせる発見で、4世紀　後半―5世紀初めごろに、朝　鮮半島の騎馬軍団に対抗するため導入したとする通説は見直しを迫られることになりそう　だ。」読売新聞 12/1

「輪鎧は、長さ16・3センチ、幅2・7―10センチ、厚さ1・6センチのカシ材で、後円部　南東側の周濠跡の底近くから出　土した。足を入れる輪の部分が欠けていたが、大阪府四条畷(しじょうなわて)市の葺屋　(しとみや)北遺跡で出土した　木製輪鎧(5世紀後半)に類似していたことから、輪鎧と判断された。」

「二十-三十年にわたってたい積して固く締まった層から四世紀初めの大量の土器とともに 出土しており、上の土層から沈み込んだとは考えられないという。」 <http://www.geocities.jp/taru638/page009.html>

これも重要ですね。ただ、その前に弁・秦韓・伽耶方面に馬具が入ってないといけません。下記記載が重要です。

大成洞(daeseong-dong)古墳群と金官伽耶 知見 国立金海博物館の説明などを総合すると色々なことが判る。丘陵の上部は王や支配者、貴族の墓。8m 以上の木槨墓もある。傾斜面は身分の低い者の墓。平地には 1~3 世紀の木棺墓と木槨墓が密集している。金官伽耶は 4 世紀頃全盛期を迎えた。長年大成洞古墳群の発掘調査した韓国慶星大学教授 申敬澈 氏の色々な報告がある。1 紀元前 1 世紀から紀元 2 世紀半までの木棺墓には、支配者と一般大衆の墓とで大きさや副葬品に格差はない。2 木槨墓出現以前の木棺墓時代が弁韓(狗耶韓国)時代で環濠集落は共同墓地と隣接している。3 伽耶の首長も王家が万世一系ではなく、狗耶韓国と東ネ (トンネ=今の釜山)居?山国(きょ

しつやまぐに)が政治統合して金官伽耶になった。4 木槨墓時代になると墓地が平地から丘陵に移る。大衆と王族の墓地が分離。支配者の墓が大きくなり副葬品に財産の集中が分かる。陶質土器 (日本で言う須恵器=大阪陶邑から発掘された陶質土器)が出現する。5 初期の。後期の木槨墓は方形穴に板囲い木槨墓は長方形で深い。四隅に丸木柱を打ち込み、柱の外側に丸太を積み上げて壁を造る。当時は貴重品の鉄てい(鉄地金の延べ板)を敷き詰め被葬者を安置。副葬品を入れ、天板をかぶせ方形(又は長方形)に封土する。金官伽耶以前の王族の墓が方形墓。6 4 世紀以後、金官伽耶時代の木槨墓から中国系とは異なる北方農耕遊牧民文化の副葬品が出土する。騎馬用甲冑・馬具・各種鉄製品・蒙古鉢形冑・桂甲・轡・木芯鉄張り輪鐙が出土。初めて殉葬が確認される。北方系の墓制が前時代の墓をつぶして築造したので大成洞遺跡では、重なった墳墓があった。7 伽耶は青銅器の生産が終わり、鉄器文化の実用社会になり銅鏡が太陽信仰の倭国に移動した。3 世紀から 4 世紀はじめに流入した北方文化の源流は「遼東と高句麗の北方、吉林省北部(現在の黒竜江省)騎馬農耕民族の扶余」と申教授は推定しているが、流入理由には言及していない。この時代地球が寒冷化して、牧草や農耕が出来なくなり遊牧民が南下した。このため各地で紛争が起きている。(五胡の乱)(ゲルマン民族を大移動させた原因のフン族移動も同時代の寒冷化が起因)朝鮮半島の忠清南道に扶余郡等扶余の地名がある。韓半島南部各地に複数移動があったようだ。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/kofun2-hp/kankknkime2.htm>

3 末~4 世紀ごろに、遊牧民系集団が降りてきて、そのまま箸墓方面へ向かった可能性を感じますね。

あと、上記の 1~2 世紀の墓に、支配層と民衆層との格差が少ないという部分が重要で、原始時代で首長がまだ出現していなかったという意味ではなく、ローマの事例のように、高度に発達した共同体社会があったので、格差が少なかったとみるのが正解でしょう。この天は以前から話しているとおりです。

「互いを徒と呼び、秦語に相似している故に、これを秦韓とも呼んでいる。」「市場での売買では、鉄が交換されており、それは中国での金銭使用のようであった[1]。また倭人とも習俗が似ており、男女とも入れ墨をしていたとある[1]。武器は馬韓と同じであった[1]。礼儀がよく、道ですれ違うと、すすんで相手に道を譲った」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/弁韓>

どちらかというと、推理する歴史学者のほうが、野蛮で遅れているので、結果として弁・秦韓から邪馬台国にかけての高度は法治主義・宗教社会や測量技術等を理解できないのではないかと常々感じてます。Re: 藤井游惟さんへのお願いです。投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 1 日(金)07 時 10 分 57 秒 返信・引用

> No.1153[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

追伸

なおこの 2007 年 3 月時点では、私は『日本書紀』にある「トカラ人」の話など全く知りませんでした。

- > 棘の紀氏さんへのお返事です。 >
- > 藤井游惟です。 >

- >> ソグディアナ(粟特) 人也因?商和其他原由居留 高昌
- >> ソグディアナ(ラテン語名"トランスオクシアナ"。中国名"粟特(ぞくとく)")と呼ばれた
- >> 粟特(ぞくとく)">
- > キシさん >
- > この問題に関しては、拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」公刊以前の 2007 年 3 月に
- > Yahoo 掲示板で、>
- > 「日ユ同源説」にも理解を示す
- > 「日本史の宝石箱 オリエントの都アスカへの道 列島古代史学 」
- > <http://blogs.yahoo.co.jp/manase8775>
- > というブログの著者の「manase8775」という方(恐らくネット上でお知り合いなので は?)の質問 >
>
[http://messages.yahoo.co.jp/bbs?.mm=GN&action=m&board=1835208&tid=ffckdc8la4n5af8bb&si](http://messages.yahoo.co.jp/bbs?.mm=GN&action=m&board=1835208&tid=ffckdc8la4n5af8bb&sid=1835208&mid=3754)

d=1835208&mid=3754>> に対し、私(HN こうちゃん)はこう答えています。 >>

[http://messages.yahoo.co.jp/bbs?.mm=GN&action=m&board=1835208&tid=ffckdc8la4n5af8bb&si](http://messages.yahoo.co.jp/bbs?.mm=GN&action=m&board=1835208&tid=ffckdc8la4n5af8bb&sid=1835208&mid=3756)

d=1835208&mid=3756>> そして、この manase さんは、その後を私の説を盛んに援用して、自説を強化しています。 >> 私自身は「日ユ同源説」は支持しませんが、私の『「記紀万葉」百済帰化人記述説』に「確信」を持てば、

- > このように歴史研究に幅広く応用できるのです。 >
- > まずは、私の説を良く理解し「確信」を持ってください。 >>
<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re: 藤井游惟さんへのお願いです。 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 2 月 1 日(金)07 時 05 分 56 秒 返信・引用

> No.1142[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

藤井游惟です。

> ソグディアナ(粟特) 人也因?商和其他原由居留 高昌 > ソグディアナ(ラテン語名"トランスオクシアナ"。中国名"粟特(ぞくとく)")と呼ばれた。 > 粟特(ぞくとく)"

キシさん

この問題に関しては、拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」公刊以前の 2007 年 3 月に Yahoo 掲示板で、

「日ユ同源説」にも理解を示す 「日本史の宝石箱 オリエントの都アスカへの道 列島古代史学 」

<http://blogs.yahoo.co.jp/manase8775> というブログの著者の「manase8775」という方(恐らくネット上でお知り合いなのは?) の質問

[http://messages.yahoo.co.jp/bbs?.mm=GN&action=m&board=1835208&tid=ffckdc8la4n5af8bb&si](http://messages.yahoo.co.jp/bbs?.mm=GN&action=m&board=1835208&tid=ffckdc8la4n5af8bb&sid=1835208&mid=3754)
d=1835208&mid=3754

に対し、私(HN こうちゃん)はこう答えています。

[http://messages.yahoo.co.jp/bbs?.mm=GN&action=m&board=1835208&tid=ffckdc8la4n5af8bb&si](http://messages.yahoo.co.jp/bbs?.mm=GN&action=m&board=1835208&tid=ffckdc8la4n5af8bb&sid=1835208&mid=3756)

d=1835208&mid=3756 そして、この manase さんは、その後を私の説を盛んに援用して、自説を強化しています。

私自身は「日ユ同源説」は支持しませんが、私の『「記紀万葉」百済帰化人記述説』に「確信」を持てば、 このように歴史研究に幅広く応用できるのです。

まずは、私の説を良く理解し「確信」を持ってください。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re: モンゴロイドのルーツ スンダランド・サフルランドが水没した時その大陸にいた人々が世界中に散ったのだ。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 31 日(木)20 時 04 分 3 秒 返信・引用

> No.1150[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 中国の文明はメソポタミア文明から伝わって起きたと考えるべきだろう。 > スンダランド・サフルランドが水没した時その大陸にいた人々が世界中に散ったのだ。 > 日本に来たサフルランド人は縄文文化を育み、中国長江にいて河母渡文明を作り稲作を

発達させ、西方からの青銅 > 器文明を得て長江文明を築いた。 > 一方、水没した時、スンダランドから西に行った人々はインドタミル人となった。 > 太平洋を東に行った人はアマゾン文明を作った。 >

あと、沖縄の海底遺跡の件が重要ですね。 地震地盤が傾いて、沿岸沿いが沈んで海底遺跡になったそうです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/与那国島海底地形>

紀元前 3000~2000 年前とされますが、ただ、10-11 世紀とする見方や、海岸浸食説もあって、結論がでてないようです。

海進の影響を考慮すべきだと思いますが、東ティ人の 20 余国、夷州・壇州、数万家の記載を、この琉球とすると、やや大きすぎるようにも感じます。

會稽海外有東鯤人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬萊神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東冶縣人有入海行遭風、流移至澶洲者。所在絕遠、不可往來。

黄龍 2 年(230 年)正月 注:黄龍元年に孫權は皇帝に即位し黄武から年号を改めた。 魏は合肥に新城を作った。詔を立て祭酒を重んじ、諸子を教学する。將軍衛温を遣わし、諸葛 直は兵万人を海に浮かべ夷と壇州を求む。壇州は海中にありて、長老は秦始皇帝が方士徐福 を遣わし童女数千人を入海させ、蓬萊の仙山に仙薬を求め、この洲に止まり帰らずと伝えり。 代々相伝え今は数万家あり、その上人民は、時に会稽に至り布を売る、会稽の東県の人海上 交易を行い、暴風雨に遭い壇州に流されるものあり。遥か遠くであるので、遂にたどり着くことがなかった。しかし夷州からは数千人が帰りついた。

<http://shimajyo.iza.ne.jp/blog/entry/2520880/>

ここで、後漢書の記載から、すこし進歩しているんですね。 夷州からは数千人が帰ったとの記載が加わって、壇州は、海の中であって、たどり着けない場所、しかし会稽にはたまに来て、特に布を売る記載が追加されますね。

その壇州のほうに、徐福の子孫がいると考えていて、数万家があると考え始めています。

そうすると、夷州は呉側で見つけていた可能性がありますね。帰還しています。 隋書で九州を夷州とみなしている記載と関係するでしょうか。

Re:藤井游惟さんへのお願いです。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 31 日(木)17 時 03 分 47 秒 返信・引用

> No.1149[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

> 私は、日本祖語を話していた南方系縄文人の祖先は、インド・タミールから来たと言って いるのではなく、インドと日本列島の間にある「スンダランド」からやってきた可能性が高い、と言っているのです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/スンダランド>

確かに、氷河期時代の南方系縄文人の流れと、スンダランド、インド南部タミール方面との接点はあったと考えるべきかもしれませんね。

> さらに「日本語の祖語とされる扶余」という説は、私は全面的に否定しています。 > 拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」は、日本語と朝鮮語その他の「ウラル・アルタイ系 言語との近縁関係」を「積極的に否定」する一環な

のです。 > (日本語と朝鮮語は現在「全く別の言語」であるように、1300 年前も全く別の言語であつ たからこそ「上代特殊仮名遣い」と言う現象があらわれたのです) > 拙著の第一章と終わりにを良く読めばそう書いてあるはずです。

確かに扶余系が入る弥生後半以前の日本語に、扶余系の影響がある可能性は低いでしょうし、むしろ江南弥生人が先の縄文系の影響下で日本語が形成されていったと考えるのが筋でしょう。ただその後の扶余系言語の影響がどのくらいだったか?が課題ですね。

> 世界中の言語で、日本語との近縁関係が証明されている唯一の言語は「琉球語」です。 この点は重要ですね。

> これらのことから、琉球人が何時から日本語(琉球語)を話すようになったかと考えれば、 > 琉球に人が住み着いた 2 万年前から、ずっと琉球語を話し続けていたと考えるしかありません。 >

> そして、琉球人には扶余系(北東アジア人)系の遺伝子は殆ど混じっておらず > (多少混じっているとしても、科学技術発達し、日本本土や朝鮮・中国との交流が盛んになった近世・近代に至ってから) > そして、琉球から発掘された縄文時代及びそれ以前の人骨は、スダンランド周辺から発掘 された人骨と酷似しているのです。 >

琉球に扶余系言語が入らないのは納得できますし、縄文系と深く関わることも確かなので すが、 人骨も含めて別の視点からも証明が必要かもしれません。こちらにミトコンドリア DNA に おける北海道(アイヌ)、本土、琉球人の比較表があります。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08_1.mitochondria_karamita_sosennhtml.html

縄文系とおぼしき M7a とは別に琉球には、南方系の B4 が見えます。これが本土にも流入し ているのですが、北海道アイヌにはほとんど見えないようです。この M7a もしくは B のどち らかが、おそらく藤井さんご指摘のスダンランドあるいはオーストロネシア系言語にかかわ っていくと感じます。台湾や広東にも B が多く見えます。

逆にアイヌには、北方系の Y が入っています。 ちなみに本土のみ多いのが N9a と G ですが、前者は以前からお話しているサカ・月氏系の

遊牧民にみえるそれで、いわゆる扶余系言語とのつながりを考えています。

ただ、ひとつ問題なのは、HLA ハプロタイプのほうの分析では、上記中国南部に多い南方系 の遺伝子として本土に見えるのが B 54 ですが、これが入ってきたのが古墳時代と推定され

ている点です。

<http://www.pag1u.net/kodai/hla.html> <http://blog.livedoor.jp/touxia/archives/50929736.html>

そして、この B 54 が一番世界で比率が高いのが沖縄のようです。そしてインドやマレー方 面にはみえず、タイ方面にみえます。下記参照。

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B54>

とすると、おそらく、ミトコンドリアの B 系統は、この B 54 に対応するはずで、古墳時代に 南方から入ってきた海人族の影響を考慮しながら、沖縄言語の特徴を洗い出す必要がでてき ます。

ただ、それ以前に沖縄にはいって、本土、アイヌにみえる M61 あたりが、スダンランドと つながる可能性は否定できません。そして、おそらく M7A といった日本の縄文人のそれと なり、共通した言語的影響を与えたと考えるべきでしょう。

したがって、沖縄と本土の言語を比較する際には、おそらくオーストロネシア系言語とは別 に、もうひとつ古墳時代あたりに入った中国江南系の言語の影響とを区別しながら論じる必 要があるかもしれません。この辺の DNA トラの巻は、ぜひ藤井さんのような言語の専門家 には、いろいろご活用いただきたいですね。

> 松本克己(元日本言語学会会長)の説を「トンデモ」だと公言し、 > それがトンデモだと言うことに気づかない全ての国語学者(大野晋を含む)を徹底的に こき下ろし、 > 場合によっては森博達氏に喧嘩を売るつもりでいる私が >「〇〇大先生の唱える××説は正しい。何となれば××説を唱えているのが〇〇大先生だからである」

> などと研究者の名声や肩書きなんぞにだまされる人間だとお考えですか?(^^) > 私は「学者」ではなく「科学者」です。

まったくそのとおりです(^^)

> 「ヘブライ語と日本語に類似した単語が多い」という理由だけで、> 両者が同源である、近縁関係にあるという説に肯首するわけには行きません。> 現在日本語の「異なり語数」の 50%以上を占めるのは「漢語」即ち「中国語」ですが、> それだけの根拠で日本語と中国語が同系言語だと言えないのと同じです。

これには、やはり上記のような、DNA 解析など、別側面からの明確な裏付けが必要だと思えます。

今の日本人のほとんどは、縄文系ではなく弥生系以降の子孫だと言われてますが、語彙的には多くても、その基本構造がどうだったのか?は、別問題で今後も課題が多いと思いますね

Ads by Google

モンゴロイドのルーツ スンダランド・サフルランドが水没した時その大陸にいた人々が世界中に散ったのだ。
投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 31 日(木)14 時 17 分 17 秒 返信・引用

中国の文明はメソポタミア文明から伝わって起きたと考えるべきだろう。

初めは黄河文明が主で長江などに見られる文明は黄河文明から派生したものと考えられた。

しかし、長江文明は黄河文明とは違う独特のものだったと判ってきた。

同時に二つの地域で独自の文明を育んだ。

そんな事があるはずが無い。それはメソポタミア文明から別々のルートでそれぞれに伝わって発展したと考えるべきなのだ。所が中国の文明はメソポタミアとの関連で語られる事はない。麦の原産地はトルコの山岳地帯にある。トルコの山岳地帯に麦の原種があり、そこからチグリス・ユーフラテスの二つの川が流れており、その二つの川がイラクのメソポタミアに流れている。そこは二つの川によって育まれた肥沃な土地があった。これがメソポタミア文明を発祥させた土台になっている。この文明は 1500 年かかって中国まで伝播した。

中国でも南部の長江文明は黄河文明から発祥した殷周などの北方系民族王朝によって蛮族扱いをされた。

だが、4 千年前には同じように文明を育んでいた。それは西方からの青銅文明の伝播によるものである。中国にも西方を神聖な所とする、漠然とした信仰がある。西王母信仰である。対として後に東王父が追加されたが、西王母が主である。西方からもたらされた、常に文明をもたらししてくれる西方に対する憧れがあったのであろう。南米ブラジルアマゾンに 3000 年前に文明があったらしい。所がその文明は青銅も鉄も持っていなかった。海を隔てていたから青銅器も鉄も伝わらなかったのだ。どうも骨格を見ると日本の縄文人に似ていたらしい。遺体の頭の部分に被せられた土器にヘビが描いてあった。ヘビを信仰していたかも知れない。縄文人もヘビ信仰を持っていた。縄文人と同じルーツを持つ人々だとすれば納得がいく。テレビでドイツの発掘隊が額の上に丸い青銅器の載ったミイラを発掘したと伝えていた。人骨の遺伝子を調べたら中国東北部の人の遺伝子に似ており、モンゴロイドである事は間違いないとか。

丸い青銅器は鏡のように見えた。東洋からの渡航者であった事は間違いなく、鏡を額に載せると言うのも日本の弥生時代や古墳時代の埋葬方式に似ている。2m を越す巨人もいたらしく、180cm の身長は縄文人のものだとすると合わないが、栄養状態がよければ大きくなる可能性も無くはないと言っていた。孔子が2m を越す巨人だった、と言う例も紹介していた。モンゴロイドのルーツ。スンダランド・サフルランドが水没した時その大陸にいた人々が世界中に散ったのだ。日本に来たサフルランド人は縄文文化を育み、中国長江にいて河母渡文明を作り稲作を発達させ、西方からの青銅器文明を得て長江文明を築いた。一方、水没した時、スンダランドから西に行った人々はインドタミル人となった。太平洋を東に行った人はアマゾン文明を作った。サフルランドから北上した人は日本に来ただけではない。朝鮮半島や遼河の奥深くまで渡ったのだ。紅山文化を作ったのはこの人々。そして大陸側に渡ったサフルランド人は大陸で複雑な混血をして中国の少数民族になった。当然西方から青銅文明をもたらしした人々とも混血をしている。日本列島ではこのような弥生時代までは混血は起きず、均質だったと思われる。

そして、シュメール王国から青銅器を伝えられた人が黄河。長江文明を作った。メソポタミアから中国に文明

を伝えたのは遊牧民だ。その遊牧民が中国の支配者になった可能性は高い。文明の伝道者が恩寵だけ与えるなら本当の神様ですが、そうはいかなかっただろう。日本に文化を伝えた弥生人も縄文人の指導的立場になった筈だし、古墳人も同じ。 <http://www.geocities.jp/taru638/page021.html>

Ads by Google Re:藤井游惟さんへのお願いです。 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013年1月31日(木)06時 11分 24秒 返信・引用

> No.1141[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> こちらは、正距方位図法から、日本や朝鮮と、その他の地域の距離と方位を示した図です。 >> こうみると、実はゾグディアナから日本語の祖語とされる扶余に至までの距離と、インド・タミールからの距離は変わらないことがわかります。

>> ただインドの場合はチベット・ヒマラヤやマレー半島を迂回しないとこれないわけですから、むしろ遠いと言えるでしょう。 >> さらに、ゾグディアナ方面は車馬文化ですから、そのスピードもありますし、方角が一定になりますので、案外はやくスムーズにたどりついたことも予想できます。

私は、日本語を話していた南方系縄文人の祖先は、インド・タミールから来たと言っているのではなく、インドと日本列島の間にある「スンダランド」からやってきた可能性が高い、と言っているのです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%B3%E3%83%80%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89>

さらに「日本語の祖語とされる扶余」という説は、私は全面的に否定しています。拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」は、日本語と朝鮮語その他の「ウラル・アルタイ系言語との近縁関係」を「積極的に否定」する一環なのです。(日本語と朝鮮語は現在「全く別の言語」であるように、1300年前も全く別の言語であった

からこそ「上代特殊仮名遣い」と言う現象があらわれたのです) 拙著の第一章と終わりにを良く読めばそう書いてあるはずです。

世界中の言語で、日本語との近縁関係が証明されている唯一の言語は「琉球語」です。しかし、本土日本人と琉球人の大規模かつ密接な交流を示す証拠は、考古学的に考察するしかない縄文時代・弥生時代から、歴史時代に入っても1609年の薩摩藩の琉球侵攻に至るまで全くありません。そして、薩摩藩の琉球侵攻の遙か以前の1531年から琉球では、日本本土から輸入した平仮名を以て「おもろさうし」が編纂されており、薩摩藩侵攻によって、琉球人が「日本語」を話すようになったのではないことは明らかです。

さらに、日本本土では、紀元前3~5世紀から縄文人から弥生人へ「住民の人種的な入れ替わり」が始まり、紀元1世紀ごろには九州から関東に至るまで、弥生人が制圧したことは考古学的に明らかですが、

それが琉球には何の影響も及ぼさなかったことも、また考古学的に明らかです。

これらのことから、琉球人が何時から日本語(琉球語)を話すようになったかと考えれば、琉球に人が住み着いた2万年前から、ずっと琉球語を話し続けていたと考えるしかありません。

そして、琉球人には扶余系(北東アジア人)系の遺伝子は殆ど混じっておらず(多少混じっているとしても、科学技術発達し、日本本土や朝鮮・中国との交流が盛んになった近世・近代に至ってから)そして、琉球から発掘された縄文時代及びそれ以前の人骨は、スンダランド周辺から発掘された人骨と酷似しているのです。

扶余説を含むアルタイ系説(北アジア説)では、琉球語と日本語の近縁関係は説明できません。

そして、スンダランドとインドは地続きであり、陸路でも海路でも移動できます。故に「日ユ同系説」よりは「タミール語説」の方が蓋然性が高い、と言っているだけです。 >>> そこで、藤井さんご引用の大野さんのタミール語・起源説を考えてみると、(これは藤井さんを批判しているわけではないのであしからず)、大野さんという大学者が、「インド・タ

ミール!!」という、みんな「いかにもそれはあり得ることだ!」とかんがえてしまうのですが、もし同じ大野さんが「いやゾグディアナ・月氏説だ!」といえ、どうなるか?という部分があります。 >

> 実は、上記のように近いんです。そしてそのアラム語文化のほうが可能性も高く、合理的です。日本で一番多いHLAはプロタイプも、そのゾグディアナ系です。 >> 問題は、要するに、「大学者さんが言っているから、

そうに違いない「もっともらしく聞こえる」というだけのこととだといえるでしょう。

松本克己(元日本言語学会会長)の説を「トンデモ」だと公言し、それがトンデモだと言うことに気づかない全ての国語学者(大野晋を含む)を徹底的にこき下ろし、場合によっては森博達氏に喧嘩を売るつもりでいる私が「〇〇大先生の唱える××説は正しい。何となれば××説を唱えているのが〇〇大先生だからである」などと研究者の名声や肩書きなんぞにだまされる人間だとお考えですか?(^^)

私は「学者」ではなく「科学者」です。

「ヘブライ語と日本語に類似した単語が多い」という理由だけで、両者が同源である、近縁関係にあるという説に肯首するわけには行きません。現在日本語の「異なり語数」の50%以上を占めるのは「漢語」即ち「中国語」ですが、それだけの根拠で日本語と中国語が同系言語だと言えないのと同じです。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re: 四つ目は「アジール(不可侵)の神としての禹」である。投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 30 日(水)03 時 36 分 33 秒 返信・引用 編集済

> No.1147[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> アジールの神 > エッセネ派の人々は、グノーシス主義者たちと同様流出論者と呼ばれます。

> 彼らの目的のひとつに、彼らの主義に基づいて霊的な秘密の鍵である「モーセの律法」を再解釈することがありました。エッセネ派は、聖書で約束されている「メシア(救い主)の到来」を待ち望む、カバラ主義者であるとも信じられています。 >

> 人が、自分自身の本性である無意識(=原人間=キリストス=キリスト)を通じてのみ、再結合が可能となる、天に引き上げられる、救いが完成されることの本来の意味なのではないかと考えるのです。 >

こちらはいわゆる十字架像と、九州の「ユキを負う」石人、そして横穴墓に刻まれた人像です。「岩戸山歴史資料館」(<http://museum.iwatoyama.com/>)、『日本装飾古墳の研究・図版編』講談社(1973)より引用。

ぱっと見て誰でも両者が似ていることに気付くはずですが。ただ、いままでは仮に思いついても、「なぜ似ているのか?」が証明できませんでした。

ただ、その導入ルートも、一昨年から論議でほぼ解決がついたことの意義が大きいですね。九州・近江へ流れ込んだ新漢人の影響が大きいです。後の宮中祭祀にダイレクトに影響していきます。

人間が「正しいと確信する」プロセスは、まず直感的に「同じである」と認識できること、次にその裏付けが別の側面からも複数とれることかと感じます。

同様にすべての論証は「右からみても左からみても上から見ても同じに見える」、これにつきます。

四つ目は「アジール(不可侵)の神としての禹」である。投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 29 日(火)22 時 04 分 59 秒 返信・引用

>ただのシャーマン祭祀でもないんですね。アジール権施行にも関わるでしょう。アジールの神

>蘇塗にみえるような仏教や旧約聖書に見える罪人をかくまうようなアジール権の発生や、その祭祀官の存在、その辺は突発的に半島南部の天孫たちが創造したものではなく、宗教的にも法制度的にもその当時最も発展したところから導入されたと考えるのが筋でしょう。 >今でも日本には死刑や恩赦はあるものの、アジール領域はないですね。弁辰 12 国による共同統治システムなんかも、ぜんぜん注目されてませんが、周辺諸国の絶対王政と違って、かなり高度な法制度がないとそのような統治は無理でしょう。 >弁秦諸国で祠の「鬼神」が異なるというのも、宗教的な相違を意味していて、関連して卑弥呼の「鬼神」が一樣に弥生時代の稲作信仰のみから理解できないことを示しています。 >ただのシャーマン祭祀でもないんですね。アジール権施行にも関わるでしょう。

禹を「アジールの神」として信仰し、罪を犯すと彼らはその石紐邑の「野中」に逃げこんだ。

<http://www.littera.waseda.ac.jp/tyoukou/kitakawa/densyout.htm>

、禹にはアジール神としての性格もある。アジールとは、聖性によって支えられた避難場、いわば駆け込み

寺である。禹は石のひだから生まれた。その聖なる生地に 逃げ込むと罪をのが れられる、という西南夷とされた後漢時代の羌族に ...<http://gownagownaguinkujira.cocolog-nifty.com/blog/2011/12/post-e43d.html>「羌の源流は三苗、姜氏の別種」と『後漢書』にあるのならさ、なんとなく、アレ?と思うよね。 だって三苗族こそ長江文化の後裔だと言われているじゃない??まあ、これは後漢時代の羌 と殷以前の羌が同じ部族だとしたら話だけど。 馬韓伝で出てくる天君を祭るおまつりってのは、この江南の方の文化を継承しているとも考 えられる。けれども、馬韓のすぐ近くには山東半島があるんだよな。齊の影響かもしれないか らね。それに、殷の時代に生け贄狩りから逃げ延びた人々がいてもおかしくないしな。アジールっ てのもおもしろいね。例えば、現代でいう岩陰祭祀の跡みたいな洞窟みたいなのところに逃げ て、殷の生け贄狩りから逃れたとかね。まあ、そういう記録はないでしょうけど。 殷以前に羌と言われた人々は、文字通り遊牧民だったんだろう。けれども、殷によって強制的 に定住させられたらどうだろう。あるいは、長江文化の人々と同化しながら定住生活を送る ようになったとしたら。逆も考えられるよね。もともとは長江文化をになっていた人々の一 つだったけれども、遊牧民として生きるようになって、それから「羌」と呼ばれるようになって たとかね。 まだ、羌がのっぺりさんだとしてのワケではないけれども、のっぺりしてるから大陸の北の 人たちだとは限らないだよ。東アジア人ってのはスングランドが源流だとも言うじゃな い??マンモスを追って北に行った人々が寒さに適応してのっぺりしたんだろうけど、それ だって元は南だということになる。だからさ、関係ないんだよな。興隆窪だって紅山だって 元々は南から来た人々だってことになる。

「邪悪な妖魔から旅人の安全を守るのが行神であり、漢代では旅に出る際には、この行神を 祭って安全を祈願した。その祈願の儀礼の中に禹歩と称されるものが含まれている。」とも書 いてあるけれど、この行神ってのも猿田彦と似てるじゃない??

、三つ目は「治療者の神としての禹」、四つ目は「アジール(不可侵)の神としての禹」で ある。

<http://mayanagi.hum.ibaraki.ac.jp/students/98ohira.htm>

、「禹」が『史記』夏本紀で記されているように人民から「山川の神」としてあがめられる存在だ ったならば、それをかたどった「禹歩」が民間信仰の世界で強い呪術性を持つに至るのは当然、 予想されるということである。

<http://mayanagi.hum.ibaraki.ac.jp/students/98ohira.htm>

禹を聖域(アジール)の神とする信仰は、羌が岷江上流域に侵入する以前の先住民・戈 人 の信仰に関係がある。戈人には、人は石から生まれ、死ぬとまた石にもどるといふ、岩石地帯 であるこの地域の自然環境から育まれた特殊な観念があっ ...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2019> 禹を"アジールの神"として信仰し、罪を犯すと彼らはその石紐邑の"野中"に逃げこんだ。 ...

<http://www.littera.waseda.ac.jp/tyoukou/kitakawa/densyou.htm>

アジール - Wikipedia も、武力を背景とした統治権力に対抗する「自治都市」として強いアジール性が認められた場 合がある。 ... 統治権力の側はアジールを否定して支配することに熱意を ... こういった圧力 の結果、時代が下るにつれアジールは徐々に狭められていく傾向にあった。 ...

【冉】禹 エッセネ派 | Dr.ヤスダの歴史トピックス エッセネという名は、「医師」を意味する古代シリア語に由来すると考えられています。... エ ッセネ派 ... 禹を"アジールの神" ... そこは役人といえども入り込めない聖域で、 禹の神霊を 恐れるからだという。 ... <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1563> エッセネ派の人々は、グノーシス主義者たちと同様流出論者と呼ば れます。 彼らの目的のひとつに、彼らの主義に基づいて霊的な秘密の鍵である「モーセの律法」を再解 釈することがありました。エッセネ派は、聖書で約束されている「メシア(救い主)の到来」を 待ち望む、カバラ主義者であるとも信じられています。

人が、自分自身の本性である無意識(=原人間=クリストス=キリスト)を通じてのみ、再結 合が可能となる、天に引き上げられる、救いが完成されることの本来の意味なのではないか と考えるのです。

エッセネとは、「敬虔なもの」あるいは耕を中心として厳格・敬虔な宗教生活を営んでいた。 当時には珍しく奴隷制を否定、みずからの労働によって生活の糧を得、それを共有するとい う共産社会を形成していた。その禁欲的な宗教生活は修道院と同様である。宗教観はサドカ イ派よりもバリサイ派に近いが独自の信念と戒律をもっていた。エッセネとは、「敬虔なも の」あるいは「静かなるもの」といった意味と考えられるが語源に関しては諸説がある。1947 といった意味と考えられるが語源に関しては諸説がある。 ... <http://www.nishikobekyokai.or.jp/terms.htm> 農耕を中心として厳格・敬虔な宗教生活を営んでいた。当時には珍しく奴隷制を否定、み

ずからの労働によって生活の糧を得、それを共有するという共産社会を形成していた。その禁欲的な宗教生活は修道院と同様である。宗教観はサドカイ派よりもパリサイ派に近いが独自の信念と戒律をもっていた。エッセネとは「敬虔なもの」あるいは「静かなるもの」といった意味と考えられるが語源に関しては諸説がある。1947

Re:高昌人 口中にお金… 投稿者:管理人 投稿日:2013年1月29日(火)18時27分 59秒 返信・引用 編集 済

> No.1144[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 高昌人 口中にお金…シュメール系?>>、ヒンドゥー教でも、口の中に聖水、金、真珠、薬草等を詰める習慣が>>『旧約聖書』にコーランを加えたものがイスラム教です。次に仏教とヒンドゥー教を見て行きましょう。仏教の創始者は釈迦ですが、実は釈迦自身『一切経』の中で自らの祖先はシュメールだと告白しています。<AH

インド系は、月氏がクシャーナ朝時代に入っているのも、その傾向もあるのではないのでしょうか。

サカは釈迦族の元だったという見方も有力になってきているようですね。月氏の語は、以前はイラン系とされていましたが、トカラ語のようです。

シュメールは、遺伝的には一部の日本人とつながると思うのですが、時代が遡りすぎているので、その中間媒体がないと説得力がないでしょう。

4200年前の櫛目紋土器文化の時代は、そのシュメールのご先祖のいたウラル・アルタイ方面から朝鮮・日本へと土器が移動してますから、そのときにシュメール系の膠着語が日本に入った可能性が否定しません。

ただ、あとからまた紀元前500年善後に遺伝的には別系統の縄文人が来ており、それがメインになっているはずで、ごく一部しか継承されなかった可能性を感じます。

ただもしかすると先のタミール語起源説と関係するかもしれませんね。タミール語も、ウラル・アルタイ語系の日本語、シュメール語と同様膠着語系のようです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/ドラヴィダ語族>

アイヌ語のかかり結びあたりが関係するのでしょうか。

ただ57577は、もっと後の時代の話ではないかとも感じます。

あと、タミールの交差イトコ婚というのが気になりますね。

関連しレビラト婚は有名です。ユダヤ人とか遊牧民系にみえ、兄の妻を弟が継承しますが、資産継承面でも関係してくるでしょうし、血縁維持の関係もそうですね。

ただケースによっては、宗教・法制度的な禁忌が入ってくるわけでして、考え始めると深いことがあります。

比較宗教学をするなら、まずもっとも近い弁・秦韓の法制度や宗教思想をもっと分析すべきでしょう。

蘇塗にみえるような仏教や旧約聖書に見える罪人をかくまうようなアジール権の発生や、その祭祀官の存在、その辺は突発的に半島南部の天孫たちが創造したものではなく、宗教的にも法制度的にもその当時最も発展したところから導入されたと考えるのが筋でしょう。

今でも日本には死刑や恩赦はあるものの、アジール領域はないですね。弁辰12国による共同統治システムなんかも、ぜんぜん注目されてませんが、周辺諸国の絶対王政と違って、かなり高度な法制度がないとそのような統治は無理でしょう。

弁秦諸国で祠の「鬼神」が異なるというのも、宗教的な相違を意味していて、関連して卑弥呼の「鬼神」が一樣に弥生時代の稲作信仰のみから理解できないことを示しています。

ただのシャーマン祭祀でもないんですね。アジール権施行にも関わるでしょう。

また弁秦で鉄を貨幣のように用いているとの記載もありますが、鉄を貨幣のように用いるということがよく考えてみると不可思議です。

何も倭や楽浪郡と交易するだけなら、鉄ティだけ他のものと交換すればいいだけだったでしょうけど、「貨幣のように」用いているの意味が謎です。

少なくとも鉄を加工して、貨幣サイズ?にして、それを無数に増産して、交換交易に用いた可能性を感じます。そこで当然経済感覚もアバウトではなく、経理計算の処理ができなければならなかったでしょう。当然数詞や文字が必要になりますので、それが「秦語」だった可能性もありますね。

それが、対岸の伊都国にも伝わり、倭人伝の文書行政システムへと移行していったのかもかもしれません。

ここで確実に漢字や木簡が使われていないといけないはずですが、その弁韓系の貨幣代わりに用いた鉄片が、どう倭で用いられていったかも課題ですね。

鉄ティが一番その可能性が高いと思うのですが、少なくとも奈良までは伝わっていたはずで、頻繁に伽耶諸国から海運で、交換交易が行われていたとみるべきかもしれません。

その経緯で先の馬韓系の銅鐸祭祀が畿内にも入っていくわけですが、女王国より北には、上記の文書行政システムを担当する「一大率」がいて、これが中国から諸侯に任じた「率」の称号に由来すると、やはり「大」の統率下に「率」が各地に多くいた可能性もでてくるでしょう。吉野ヶ里から出てくる巴型銅器などもその辺と関わるのではないのでしょうか。

おそらく畿内にもその文書行政システムの拠点があったと思いますが、その弥生末期の土器に漢字が見えるのもその一端で、そもそも土器に漢字が記されるということは、原住民が土器に漢字を刻み込んだという意味ではなく、交易商人や上記の在地官が、特定の目的で刻んだと考えるべきでしょう。

それで当然、その文字を読め多筆記官が、弁・秦韓系の秦語や、その系統の漢字なども読めない仕事にならないはずで、かれらが後の大和の十市郡の物部氏の首長とかになっていくと

すると、彼らの系譜なども、もともと漢字で記載されていた可能性もあるのですが、その後、それらの文化が部分的に失われ、再度半島系の武内宿祢の時代を待つことになったのではないかと感じますね。

弥生人は稲作農耕民だったと思うのですが、そこから徐々に貧富の格差が広がって、首長が出現し、縄文シャーマニズムも発展し、さらに城や軍備をいはじめ、後代の在地首長へとなっていた、その後渡来人がやってきて、土器や製鉄、文字文化を伝えて国家が確立していったという今の教科書の記載は、もしかすると、あまり正しくない可能性も出てくるでしょう。

Re:藤井游惟さんへのお願いです。 投稿者:管理人 投稿日:2013年1月29日(火)14時58分 0秒 返信・引用 編集済

棘の紀氏さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。ソグディアナ(粟特)人也因?商和其他原由居留 高昌 > ソグディアナ(ラテン語名"トランスオクシアナ"。 中国名"粟特(そくとく)")と呼ばれた。

<http://www.kobemantoman.jp/sub/152.html> >

- > 粟特(そくとく)"
- > 粟特人 也因?商和其他原由居留 高昌
- > 高昌

- > トルファンのアスターナ古墳から発掘された「伏羲・女媧図」です。

<http://blog.canpan.info/sekireki/archive/39> > 車師前国の王の朝廷がトルファン西方の交河城(ヤール・ホト)に置かれていました。 > 彼らは天山北部の遊牧民でしたが、その後、コーカソイド種の特徴を有し、その文化にはスキタイ・サカ(紀元前8世紀頃に現われた遊牧騎馬民族)以前に存在していたといわれるサルマタイ系統が入っていることが明らかになったといわれています。

ゾグド人つまり月氏系の昭武9姓は、サカ・スキタイのチャリオット・車馬文化ですから、その音に「高車・車師」の語にも、そのイメージが重ねられていることが予想できますね。同様に他の国の国名についても、その様子を音とだぶらせた可能性もあるでしょう。「大秦・烏丸・朝鮮・東鯿国・倭・邪馬台国…」

また、ゾグディアナのクルガン墓からは、中国鏡も出土してますから、ご指摘の中国の図が出てきてもおかしくないですね。中国人そのものいたかもしれない。

ゾグディアナと日本のダイレクトな関わりについては、やはり先のクルガン墓や、その後の新漢人がもたらした石人文化ですね。これはあきらかです。写真添付します。引用もとは「藤川 繁彦『中央ユーラシアの考古学』同成社 (1999/07)です。

九州の石人と比較してみてください。飛鳥の人像とか狛犬とか新羅庭園の亀にも大変よく似ているのが多くあるんですね。

こちら九州の岩戸山古墳の石人。

<http://museum.iwatoyama.com/museum/page/2>

おそらくこれらの石人とか横穴墓、関連の中東系楽器遺物とか、宗教思想、製鉄技術をもたらしたのが、そのゾグド人であったろうことも、すぐに予想がつきます。当然言語的にも影響してくるので、アラム語系の影響が記紀や万葉のどこかに見えてくるのではないかと感じますね。逆に言語だけ見えないとすると、バランス的におかしいんです。正倉院からブラフミー文字とかゾグド文字が出てくるのも当然で、もっと音声言語面で見えてきてもいいはずですよ。

唯物史観というのは、物ばかりおいかけて、そこに付随する観念的なものをすぐ排除して切り離してしまうので、それが欠点とも言われてますね。物だけで伝わってきて、相手がそれを理解してないケースは少ないんです。

ただ、その付随した部分を、指摘すると「妄想」「迷妄」と言われるのが、おそらく過去の古代史学会の姿でしょう。

でも、やはりそれだけでは、解決できないことが多く生じてくるはずで、そこがいわゆる進歩という部分だと思うんですね。

<http://>

Re:高昌人 口中にお金… 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年1月29日(火)12時54分8秒 返信・引用

> No.1143[元記事へ] 高昌人 口中にお金…シュメール系？

>、ヒンドゥー教でも、口の中に聖水、金、真珠、薬草等を詰める習慣が

『旧約聖書』にコーランを加えたものがイスラム教です。次に仏教とヒンドゥー教を見て行きましょう。仏教の創始者は釈迦ですが、実は釈迦自身『一切経』の中で自らの祖先はシュメールだと告白しています。
<http://suisekiteishu.blog41.fc2.com/?mode=m&no=188> シュメールとイスラエルの民が日本に渡来した可能性は多少なりともありそうだと、思っただけならば幸いです。続いて今回は、宗教や文化の側面からも探っていきます。皆さんもご存じのように、キリスト教はフランシスコ・ザビエルが日本に持ち込んだとされますが、ずっと昔、古代の天皇の時代には我が国に入っていた形跡があります。宗教だけではなく、古代の日本には世界のあらゆるものが流れ込み、溶け合って渾然一体となっているのです。そこでまず、ユダヤ教を例に取ります。文献が整っているユダヤ教は『旧約聖書』を原典としています。『旧約聖書』にあるノア方舟は、初回で述べたように、世界最古の文明であるシュメールの洪水伝説が元になっています。そもそもイスラエルは、メソポタミア地方の遊牧民が神に導かれてこの地を強奪し、建国したものです。言い換えれば、『旧約聖書』はシュメールが源となります。

『旧約聖書』にイエスの『新約聖書』を加えたものがキリスト教になります。また『旧約聖書』にコーランを加えたものがイスラム教です。次に仏教とヒンドゥー教を見て行きましょう。仏教の創始者は釈迦ですが、実は釈迦自身『一切経』の中で自らの祖先はシュメールだと告白しています。経典の系図では大須弥小輪王から五十六代目の浄飯王が釈迦の父に当たるのです。

シュメールは sumer ですが、一方、仏教やヒンドゥー教の根本的宇宙観を示す須弥山は sumeru と書きます。この二点から、仏教思想の根本は、実はシュメールにあるとわかります。以上から、世界三大宗教の源流は

シュメールとなるのです。 <http://suisekiteishu.blog41.fc2.com/?mode=m&no=188>

シュメールの言葉の意味を探ってみましょう。(以下は相撲の関連で既にも書いたものです) スヤシュは崇高=神を意味しますから、シュメールは崇高なメール族です。そこで、日本の天皇はスメラミコとも呼びます。崇高な神であるメール族の痕跡は日本にも存在するのです。しかも、スヤシュの意味は日本に入っても変化しませんでした。スヤシュに当てはまる文字は、主、朱、首、須などが挙げられ、主は神やイエスを意味しますし、スサノオの命、主人、首長、神社の朱塗りなど、その多くが崇高や至高といった意味を含み、神と関連する言葉となっています。

シュメールの情報は西欧にも伝えられました。ですから英語にも、summit、super、supreme、supra など同様の意味を持った言葉が出現しています。シュメールに続き旧約の神であるヤハウェ神を見ていきましょう。ヤハウェのヤは、矢幡、八幡、邪馬台国、大和、ヤマタノオロチ、矢、弥など古代の日本にとって重要な地名や事物に当てられています。シュメールに須弥(シュメールに繋がる須とヤハウェに繋がる弥)という漢字が当てられているのには、明確な意味があるのです。

アーリア系とされるミトラ教を見ていきましょう。まず、ミトラ教はキリスト教に大きな影響を与えています。イエスの誕生日は12月25日とされますが、この日は、実はミトラ神の誕生日なのです。イエスの中には、ミトラの神格が流れ込んでいると考えられます。またこの神はインドに入り、弥勒菩薩に変容しました。さらに謎の神である摩多羅神へと変容を遂げていますし、イエスのみならずアマテラスの神格にもミトラは入り込んでいます。ですからミトラは、自ら変容し、且つ神々の変容を媒介する神とご理解ください。以上のように、シュメール人とアーリア系の宗教や占星術は中国に影響を及ぼし、道教や陰陽道に形を変え、日本もそれらを取り入れていくのです。世界の三大宗教(キリスト教、イスラム教、仏教)だけでなく、ユダヤ教や中国、日本の宗教もシュメール人とアーリア系が源流になっていました。(アーリア系も巨丹が父祖の地だという説があります) 遠い昔、言葉や宗教のみならず、あらゆる事象が日本にまでなだれ込みました。その結果、日本には古代から現代に至るまで、途方もない謎が仕掛けられているのです。であれば、それらは当然私たち日本人にまで影響を及ぼしていると考えられます。棘の紀氏さんへのお返事です。

高昌人 口中にお金… 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年1月29日(火)10時20分 7秒 返信・引用

>粟特人 也因?商和其他原由居留 高昌 http://honyaku.yahoofs.jp/url_result?

ctw_=sT,ezh_ja,bT,uaHR0cDovL3d3dy5oaXN0b3J5dGVhY2hpbmcuY24vbHNqeC9zaG93LmFzcD9pZD0zNjM= 口中にお金…

魚の口から取り出した金貨でペテロにちゃんと払わせた

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/ju9.html>

多くの非キリスト者が考えているようにイエスはユダヤ教から脱皮して世界宗教たるキリスト教を目指したのではない。彼はあくまでユダヤ教の中に止まろうとした。例えば神殿への税金は魚の口から取り出した金貨でペテロにちゃんと払わせた。異邦人の女が自分の娘の

病気を直してくれと頼んだ時には「子供達のバンを取って子犬になげてやるのはよろしくない」と断った。

「ギリシア神話」では、三途の川の渡し守である「カロン」という老人に銅貨1枚を払って冥界に旅立つとされました。実際、当時の遺跡からは、口の中に「銅貨」の入った死者の遺骸も発見されたそうです。アステカでは、死者の口に「翡翠」を含ませてから埋葬したと本で読みました。もっとも、これは「お金」ではなくて「死者の魂をジャガーに取られないようにするため」だったそうで、たしか『太陽の子エステバン』でも、「インカでは死んだ人の口の中にヒスイの玉を入れる風習があるの」と、シアが言っていたような気がしますが、「インカじゃなくてアステカの風習なんじゃないの?」と疑問に思ったりもしました。また、韓国かどこかの国では、身内が死んだとき「あの世で裕福に暮らせるように」と玩具のお金を大量に燃やすと聞きました。

「三途の川」→「渡し賃」→「冥界」というのは「仏教」の考え方にも似ていて不思議ですね。もともとギリシアかメソポタミアの神話だったものが東西に広がったのかもしれませんが。

日本書記には、派手な葬儀を戒める埋葬の詔があり、その一文に「珠玉を口に含ませ」とあり実際に太安万侶の墓から真珠が出土しています。現在では、志摩地方の葬儀では、今も死者の口の中に真珠を含ませる習慣が

残っています。 また、中国では送終口中玉という習慣で、口の中に奇数の真珠を含ませる習慣があります。さらに、ヒンドゥー教でも、口の中に聖水、金、真珠、薬草等を詰める習慣が残っている地域があるようです。
<http://okwave.jp/qa/q6970513.html>

Re:藤井游惟さんへのお願いです。 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 28 日(月)23 時 19 分 41 秒 返信・引用

> No.1141[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。ソグディアナ(粟特) 人也因?商和其他原由居留 高昌 ソグディアナ(ラテン語名"トランスオクシアナ"。 中国名"粟特(ぞくとく)")と呼ばれた 。 <http://www.kobemantoman.jp/sub/152.html>

粟特(ぞくとく)" 粟 特 人 也 因 ? 商 和 其 他 原 由 居 留 高 昌
http://honyaku.yahoofs.jp/url_result?ctw_=sT,ezh_ja,bT,uaHR0cDovL3d3dy5oaXN0b3J5dGVhY2hpbmcuY24vbHNqeC9zaG93LmFzcD9pZD0zNjM=

高昌 トルファンのアスターナ古墳から発掘された「伏羲・女媧図」です 。
<http://blog.canpan.info/sekireki/archive/39> 車師前国の王の朝廷がトルファン西方の交河城(ヤール・ホト)に置かれていました。 彼らは天山北部の遊牧民でしたが、その後、コーカソイド種の特徴を有し、その文化にはスキタイ・サカ(紀元前 8 世紀頃に現われた遊牧騎馬民族)以前に存在していたといわれるサルマタイ系統が入っていることが明らかになったといわれています。

車師とは? 漢代から北魏にかけて、西域にあった国。天山山脈の東部のトルファン盆地 に車 師前王国が、その北方に車師後王国があった 紀元前一世紀、漢王朝が車師国と言うオアシス国家があった後に、高昌壁を築き屯田兵を置 いたのが高昌国の起源である。<http://www.ccv.ne.jp/home/tohou/tabi16.htm>

きくし 【麹氏】高昌(こうしょう)国の王家の姓。

>> こうみると、実はソグディアナから日本語の祖語とされる扶余に至までの距離と、インド・タミールからの距離は変わらないことがわかります。 >> ただインドの場合はチベット・ヒマラヤやマレー半島を迂回しないとこれないわけです から、むしろ遠いと言えるでしょう。 >> さらに、ソグディアナ方面は車馬文化ですから、そのスピードもありますし、方角が一定になりますので、案外はやくスムーズにたどりついたことも予想できます。 > 実は、上記のように近いんです。そしてそのアラム語文化のほうが可能性も高く、合理的です。日本で一番多い HLA はプロタイプも、そのソグディアナ系です。 > ただ、実際には、アラム語系統のほうが、合理的で、可能性もあるわけです。

、案外キシさんやみなさんの言っていることのほうが、正しいことも多いわけですから、あそ の辺のことも考慮しながら、楽しくやっていきましょう。 > 以上は、新着順 11 番目から 20 番目までの記事です。

Re:藤井游惟さんへのお願いです。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 28 日(月)21 時 43 分 35 秒 返信・引用 編集済

> No.1136[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

- > 棘の紀氏さんへのお返事 >
- > 棘の紀氏さん、初めまして。
- > こちらこそ宜しく願い致します。<(_)_>
- > 「棘の紀氏」は「イバラノキシ」と読むのでしょうか? すると茨城県か大阪の茨木氏の 方?(^^)>>> 藤井さん初めまして 宜しく願い致します。 >> 「日本は古代ユダヤだけでなく、古代アッシリアなどを合せた現在のイスラエル・イラク・シリア・ヨルダンに相当する領域に日本の原点のかなりの部分があると思います。」 >> ↓ご意見を御願ひします。 >> このところ仕事が忙しく、12 日間休みがなかったので、お返事が遅くなり、申し訳ありません。 >
- > さて、「日ユ同系説」を言語学の側から立証するのは、

- > 大野晋の「タミル語説」を立証する以上に困難だと思います。 >
- > 2つの言語が同系かどうかは、言語面だけでなく、
- > 地理・歴史・考古学・遺伝子人類学等のあらゆる角度から検証していかなければなりません。
>

ちょっとまた論議に横やりを指すようで申し訳ないのですが、ひとつ面白い図を提供いたします。

こちらは、正距方位図法から、日本や朝鮮と、その他の地域の距離と方位を示した図です。

こうみると、実はゾグディアナから日本語の祖語とされる扶余に至までの距離と、インド・タミールからの距離は変わらないことがわかります。

ただインドの場合はチベット・ヒマラヤやマレー半島を迂回しないとこれないわけですから、むしろ遠いと言えるでしょう。

さらに、ゾグディアナ方面は車馬文化ですから、そのスピードもありますし、方角が一定になりますので、案外はやくスムーズにたどりついたことも予想できます。

そこで、藤井さんご引用の大野さんのタミール語・起源説を考えると、(これは藤井さんを批判しているわけではないのであしからず)、大野さんという大学者が、「インド・タミール!!」というと、みんな「いかにもそれはあり得ることだ!」とかんがえてしまうのですが、もし同じ大野さんが「いやゾグディアナ・月氏説だ!」といえ、どうなるか?という部分があります。

実は、上記のように近いんです。そしてそのアラム語文化のほうが可能性も高く、合理的です。日本で一番多いHLAはプロタイプも、そのゾグディアナ系です。

問題は、要するに、「大学者さんが言っているから、そうに違いない」「もっともらしく聞こえる」というだけのこととだといえるでしょう。

それでキシさんご指摘の日ユ同祖論というのは、前に「悪い評判」が先行しすぎており、それでまず聴いた途端にもう拒否反応がでるようになってしまっています。そしてその延長線上に、先の「ゾグド・アラム語起源説も、みなされてしまうでしょう。

ただ、実際には、アラム語系統のほうが、合理的で、可能性もあるわけです。

このような心理学的な偏見を、まず取り除くこと、そういうシステムの構築から始めないと、実は正しい論議や研究はできないでしょう。

これは、かつて戦後の先生たちが、皇国史観を打破するために、そういうシステムを構築しようと考えた節があるのですが、合理的・科学的で偏見のない研究をしてきたつもりでも、やはりそうでないことも多かったということが、上記のような件にもよく見られます。

特に日本人は「大教授の意見」に弱い。その辺が、実は藤井さんの研究が広まる際にも大きな障害となっていることに、気付く必要があるでしょう

そういう意味では、多角的な視点からの研究体制に加えて、その前段階としての「心理学的な公平性」について、再度考えなおし、新たな研究システムを構築していくことが先決です。

人間、24時間、常に合理的にロボットのように生きれるわけでもないし、そうなることを制度的に強制されているわけでもありませんが、強制されているように感じさせる何かが、うごめいていて、その自由性を阻害しているわけです。別に10分くらい非合理的な世界に沈んだって、別にそれは個人の自由と尊厳の中にあります。

むしろ、ひとつの論文や投稿の中に、非合理的なページがすこしくらいあったって構わないわけです。どうせその残りも合ってるかどうかともわからないのが、実のところなわけですし、案外キシさんやみなさんの言うことのほうが、正しいことも多いわけですから、あそこの辺のことも考慮しながら、楽しくやっていきましょう。

> No.1135[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

> 全ての歴史研究者が私の説を確信すれば、歴史学への応用は限りなく広がります。 >> 1 私の『『記紀万葉』外国人記述説』に抵触する歴史学説は全て修正・廃棄を迫られます。 > 例えば『古事記偽書説』は完全に否定されます。

この件は重要です。最近も万葉で古代史本を出している売れっ子作家がたくさんいますから、やはりある人はさらに力を得るでしょうし、またある人は…ですね。藤井さんの本をそういう作家さんのところにもって試みてはいかがでしょう。

> 2 逆に私の説に合致する歴史学説は、その蓋然性が高まります。 > 例えば『日本書紀 β 群山田史三方記述説』の蓋然性は高まります。

これも重要です。森さんの本は、すでに古代史学会でも読むことが必須になってきてますし、それなしで記紀を論じるという人ももういないでしょう。そこに藤井さんの新視点が入ると ということは、ダイレクトに記紀研究に影響するということです。

> 3『日本書紀 α 群』を書いたのは中国人そのもの(日本語は勉強したとしてもネイティブではない)のに対し
> 『日本書紀 β 群』を書いたのは(山田史三方かどうかは別として)、 > 日本育ちで、朝鮮語と共に日本語もネイティブとして話せるバイリンガルの人物だった はずであり、

> 故に『β 群』の記事は疑ってかかる必要が生じます。 >> 『日本書紀』の監修者である舎人親王が、政治的理由から記事の捏造や歪曲を執筆者に頼んだとしても > 日本語を上手く理解できない α 群の執筆者には細かいニュアンスまでは伝えられなかったはず。 > しかし、日本育ちで日本語もネイティブとして話せる β 群の執筆者には以心伝心であり、 > 上手く捏造や歪曲ができたはずです。 >> 特に聖徳太子関連の巻 22 は β 群にあり、聖徳太子の存在やその事績、厩戸皇子との関連に付いては疑ってかかる必要があります。 > (同じことは、森博達氏も言っているようです) >

これも重要ですね。聖徳太子で本をだしている人が山といますから、やはり先のとおり藤井さんの見方によっては、大きく影響を受けることでしょう。

- >> 亡命百済人云々はともかく、その条件異音の古代史面への理論的な応用ですね、 >
- > 「条件異音説」の応用としては次のようなことが考えられます。 >
- > ●「邪馬台国」は「ヤマト国」と読んでよい

>> 古代史学界では、 >> 「邪馬台」は「ヤマト」とも読めるが、この/ト/は上代特殊仮名遣いでは乙類であるのに対し、

- > 「大和」の方の/ト/は甲類であるので、「邪馬台」と「大和」は別の言葉である >
- > という説が広く流布しています。
- > 確か、高校時代に読んだ『日本の歴史第一巻』で井上光貞がそういっており、
- > 2~3 年前に聞いた、大東文化大学の何とか言う教授の講演でもそうっていました。 >
- > (但し、時代別国語学大事典で調べると、「大和」の方の/ト/も乙類であり、
- > 国語学者はそんなことは言っていない。
- > だが、井上光貞や歴史学者にそんな説を吹き込んだのでしょうか？
- > 上代特殊仮名遣いの研究がまだ進んでいなかった戦前に、
- > 国語学者の誰かが「大和」の/ト/は甲類だと勘違いし、それを歴史学者に吹き込んだのかも 知れないし、 > 或いは「大和」の/ト/は大概は乙類であるが、これを甲類で書いた資料も少数あるのかも しれません) >

- > いずれにせよ、「大和」の/ト/が甲類であったとしても、
- > それを以て「邪馬台」とは別の言葉であるという根拠にはなりません。 >
- > これは次のような実験を試してみればすぐ解ります。 >
- > まず「大和朝廷」と言う言葉を5回繰り返して発音してください。
- > 次に「戦艦大和」と言う言葉を5回繰り返して発音してください。
- > (但し、標準語アクセントで) > 「大和朝廷」の「ヤマト」は LHH アクセントとなり、/ト/は唇の開いた乙類となるのに対し、 > 「戦艦大和」の「ヤマト」は HLL アクセントとなり、/ト/は唇の窄まった甲類になります。 >
- > つまり、「ヤマト」の/ト/はアクセントの違いで甲類にも乙類にもなるのであり、
- > /ト/の甲乙を以て別の言葉と見なすことはできません。
- > 歴史学者が言うように、「ヤマト」の/ト/を甲類で書いた資料があるならば、
- > それは当時の方言によるアクセントの違いでしょう。 >
- > このことは「邪馬台国畿内説」論者を力づけることになるかも知れませんが、
- > 私自身は「邪馬台国九州説」であり、「福岡県山門郡」説を支持しています。
- > あの辺りの方言では「ヤマト」は語尾上げの LLH アクセントになるはずですから。 >
- > ただ、私は「邪馬台国論争」などに深く首をつっこむつもりはありませんので、
- > この問題に関してはこれ以上聞かないでください。

これはすごいですね。ほんとにオの音が違う…、素人でも実感できますね。

この「やまと」の語は、古代史特に魏志倭人伝関係の学会では、数分に1度が出てくる言葉です。すから、これが、今までの常識では、まったく気付かない藤井さんの視点にさらされるといいうことは、重要な意味を持てきます。サポート的な形で、ぜひ関係の論議にこれからもご参加いただきたいところです。

- > ●魏志倭人伝の地名・人名の問題 > > 「邪馬台」を魏志倭人伝に出てくる日本語人名・地名の問題ですが、> 日本語を聞き取り、漢字で音写したのが、中国人であったか、朝鮮人であったかが問題になります。
- > > 邪馬台国に中国語ができる日本人がいたとは考えにくく、> また邪馬台国に使者を派遣した楽浪郡に日本語ができる中国人がいたとも考えられませんが、
- > 但し、半島と頻繁に交流していた邪馬台国には朝鮮語ができる日本人はいたはずであり、
- > 楽浪郡にも中国語ができる朝鮮人、朝鮮語ができる中国人ならいたはずで、
- > 日本人と中国人の使者の会話は朝鮮語を媒介に行われたと思われます。 >
- > 1「朝鮮語ができる中国人」が自ら日本の人名・地名を聞き取り、漢字を当てたのなら中国式の借音仮名(仮借文字)、> 2「中国語ができる朝鮮人」が通訳して聞き取り、漢字を当てたのなら朝鮮式の借音仮名です。 >

この辺は、まだ誰も考えたことないのではないのでしょうか。考えても技術がないので分析できないですね。でも誰かがやらないと学問は進まない…。

> ↓は、『日本書紀 α 群』(中国人記述)と『古事記』(朝鮮人記述)の両方に収録されている歌を

- > 中国語(山東方言)で発音させたものです。
- > <http://www.youtube.com/watch?v=GrW9HbymQmo>
- > <http://www.youtube.com/watch?v=SzYpL2HVN7I> >

- > ↓は、同じものを朝鮮語話者に発音させたものです。
- > <http://www.youtube.com/watch?v=iqZJPPst63k>
- > <http://www.youtube.com/watch?v=rxg-RV2OO18> >
- > このように同じ日本語でも、朝鮮人と中国人の聞き取り方は異なるので、
- > その差を計算に入れないと再現される日本語も異なってきます。 >
- > ざっと見た感じでは、『記紀万葉』の借音仮名と魏志倭人伝の借音仮名の用字法はかなり異なるようなので > 私は1ではないかと思いますが、詳しく調べてないのははっきりしたことは言えません。 >> ただ、この問題にも私はこれ以上首をつっこむつもりはありませんので、興味があれば自分で調べてください。 > 上のように、中国人と朝鮮人に魏志倭人伝の人名・地名を発音させて比較すれば、案外簡単にわかるでしょう。 >

この件は「重訳」という言葉が、魏志に出てきます。通訳を重ねたという解釈もあるし、別の見方もあるのですが、ともかくどういう風にそれが行われていたかが課題ですね。

この辺の問題は、後代の渡来人、外交儀礼の問題とも関わってきます。中国系朝鮮人か、朝鮮系中国人か、倭系バイリンガルか、それによって癖がことなり、時に政

治を動かすくらいの問題に発展したりするという、その辺の視点も重要だと思いますね。藤井さんくらいしか解析できないでしょう。

>> まず森重は、体言において感嘆の際にいかなる助詞も付けずに単語がそのまま使われる時、助詞の代わりのような役目で単語の音韻そのものを「イ」音を加重させることがあると説いた。すなわち、「花」であればそれが「花よ」という形を取るのではなく「ハナイ」あるいは「ハйна」「ハйнаィ」と、母音そのものに「イ」を付け加えることによって表現することがあるというのである。ここからア段音にイを加重させたものがエに、ウ段音にイを加重させたものがイに、オ段音にイを加重させたものがオになり、それぞれ乙類と呼ばれる音になった[7]というのが森重説の要旨である。

>> 森重説でも最終的に日本語の母音体系は5母音であったとしている。すなわち、万葉仮名に見られる用字の使い分けは渡来人が日本語にとって不必要であった音声の違いを音韻として読み取ってしまったものだとするものである。森重はそれをあたかもヘボン式ローマ字が日本語にとって必ずしも必要な聞き分けでないsh, ch, ts, fなどを聞き取ったことになぞらえ、上代特殊仮名遣い中「コ」音のみが平安初期にまで残ったにもかかわらず、ひらがなにその使い分けが存在しなかった[8]ことなどを傍証として挙げている。

>> 森重氏の「イ音加重説」はイ・エ段甲乙の説明にはなってもオ段甲乙の説明にはなりません。 > とにかく、拙著の第六章をご理解ください。 > 松本氏が提示したデータは利用していますが、松本氏や森重氏のデータ解釈など全く借用することなく、 > オ段甲乙の書き分けは説明できるのです。

確におっしゃるとおりです。

この辺の音の接続や伸ばしの問題は、ちょうどピアノやバイオリンの奏法に例えると、変調とか、打楽器音の追加とか、省略とか、そういうイメージと重なる感があります。そして奏法にも意識している場合と、勝手にそうなる場合がありますね。

条件によっては、音を追加しても減らしても似たような音が出るケースもありますが、基礎的な部分がぜんぜん異なるケースもあります。

> とにかく、私の説を歴史研究に応用したいのであれば、 > 歴史学者や考古学者はもとより、他の言語学者・国語学者などの言説に惑わされることなく、 > 私の「上代特殊仮名遣い外国人(百済人)記述説」に「確信」を持って頂くことが先決です。 >>

ぜひ皆さんにも読んでいただきたいと思います。

> No.1135[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

> 松本氏、及び「松本異音説」が「トンデモ」だということが理解できない国語学者達の >「条件異音」の理解は「不十分」などという生やさしいものではありません。 > 彼らは、一度もどこかでキチンとこの概念を教わったことがなく、 > 学術用語の「allophone」を「異音」、「conditional allophone」を「条件異音」と漢字で訳すことから、 >「異音」「条件異音」という言葉が醸し出すイメージから勝手な理解をしているだけです。 >

- > 例えば「異音」とは「変な音」「変わった音」だと解釈し
- > 江戸っ子が「ペランメエ」と啖呵を切る時に、/ラ/の舌がプルプル震える現象(トリル)
- > を異音(allophone)と勘違いしている。
- > (当該音素・音節の標準的発音からはみ出した変な音は、
- > 文字通り非標準的発音(non-standard pronunciation)、簡単には「訛音」と言います) >
- > 「条件異音」とは「条件的に音が変化する現象」だと解釈し、
- > 「アメ+カサ→アマガサ」「シロ+カワ→シラカワ」のような意味の変化を伴わない
- > 他の音素・音節への「音韻論的条件的変異現象」(phonemic conditional variation)
- > を条件異音(conditional allophone)と勘違いしている。 >>「異音(allophone)とは、当該言語のネイティブスピーカーの耳には『同じ音』にしか聞こ

えない範囲で異なる音」 > ということは、この「キムチ・ムルギムチ」のビデオのようなものを見せて説明すれば > <http://www.youtube.com/watch?v=R1EBZ7pYCEE> > 言語学に関して全くの素人でも「実感として瞬時に理解できる」のであり、 > こんな初歩的概念 1 つ理解してない言語研究者は、 > 「音声学ちゅうもんを基礎の基礎から勉強し直してこい!」と頭ごなしに怒鳴りつけるだけの問題です。 >>「松本氏の条件異音への紹介・提案を発展」などさせたら、私が世間の笑い者になります。 >>

そう、ここですよ。当事者にはあまりにも当たり前のことが、エリート学者たちにはまったく理解できないという謎のジレンマです。

この辺は、英語の授業にも似てますね。科学英語を理解するくらいのエリート学生が、まったく子供レベルの会話も聞き取れない構造、この辺が藤井さんの事例にも当てはまるので はないでしょうか。

「ドとミの間の音はレ」のような、ミュージシャンなら誰でも理解してあまりにも当たり前すぎて話すのもばかしくなることが、その音の世界を知らない人にとっては、「ドとミの間に ある 799 ヘルツの音域帯にあたる音で云々」という説明になって、それがその世界の通説と なってしまう構造、おそらく藤井さん専門の「条件異音」についても、国文学者の理解には、そ ういう部分があったのではないかと思います。

そして藤井さんの本を、韓国人や中国人の学者に読ませると大絶賛されるのに、日本の学者 にはまったく理解されないという具合でしょうか。

この手の話は、それらの学者さんに「~ヘルツで云々」と 100 年話しても理解されないこと で、実際に自分で 1 度体験させて納得させるしか方法がないようにも感じます。動画の説明 手段はそれに近い方法だと感じますね。

この辺は方位ラインの話でもそうで、こちらは電子地図ソフトで古墳を数メートル単位まで 拡大して、角度を正確に計って「正方形画」だとしているのですが、やはりそのような遠い距 離を正確にはかれるはずがないという先入観が横たわっていて、「妄想」として排除されるこ

ともしばしばです。

さらにいえば、古代日本文化とキリスト教の関わりですね。私も事情あって最大メジャーな 教会信徒ですから、数百回となく聖書とか儀式にあたっていて、彼らの考え方なり観念なり がよく理解できているので、記紀伝承や儀式をみると、すぐにその影響を見て取れるのですが、ただ確かにその世界を体験した人でないと、それがどういう風に影響したのかを直感的 に把握することは難しいかもしれません。

外国人がこれらを見れば、あまりにも当たり前の部分、それが日本でも藤井さんの説を理解できないような、視野が狭い分野の専門家にとっては、まったく非常識な考え方と理解されてしまうのかもしれませんが。この辺は、もっと大きな問題、つまり語学教育とか、教員養成の件とも関わってくるでしょう。

最近もわけあって外人と1ヶ月くらい話す機会があったのですが、あっという間に聞き取れるようになって、それまで理解できなかったような英語の構造そのものも理解できるようになったりすることがありました。

それまで数十年と英文読み続けて、英語ニュースとかも聴いたりしたのですが、どうあがいても聞き取れなかったものが、実際に「体験」することで、あっという間に理解できるようになるわけで、この手の音声面での理解を施すには、やはりある程度懇切丁寧に時間をかけて説明する機会が必要ではないかと感じます。

渡来人研究会の役割は、その「日本だけ・特定の専門家だけ」の視点から脱して、より広い視点を提供することに意義があります。そしてより実践的なプラグマティズムを推奨し、その機会を例会や探索会、会報発行を通して提供することにあります。今年は藤井さんの本が理解されるように、さらに効果的な説得方法を模索してみたいと感じますが、やはり地道に支持者を増やしていくのが、結局は近道と感じますので、めげずにがんばりましょう。

それでその後の言語関連のご投稿の件は、またあとで返答いたします。

Re: 仲哀天皇 4世紀の在位 熊鰐筑紫の 岡県主の祖 投稿者:管理人 投稿日:2013年 1月27日(日)14時10分46秒 返信・引用

> No.1133[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 熊鰐と神武天皇 <http://www.geocities.jp/oden1947/149-1.html> > 実は、伊那谷、大御食神社の 古代文字で書かれた社伝記にも、>『…中沢の 熊鰐(くまわに)に 山の 産物(あらもの にぎもの)を菜らしめ…』とあります。史郎ホームページ[外部リンク]>もし日本書紀の熊鰐と 社伝記の熊鰐に 共通するものがあるとしたら 何だろうと、調べ 始めました。>伊那谷には、他にも 九州の神様が多く祀られたり、壬申の乱での存在、また、馬肉を食べる 習慣や、古墳から出る馬具が、九州の熊本と 酷似していることなど、興味深い事が多くあります。>

先の「天穗日・其の子、大背飯三熊之大人(おおそびのみくまのうし)またの名は武三熊之 大人(たけみくまのうし)」の件ですね。

おそらく「背く」の語からして、忍熊王との関係が気になりますが、タギシミミとか武埴安彦の乱との兼ね合いもあるかと感じます。仲哀も熊襲の矢で殺された話もあって、熊が球磨を意味したかどうかとも気になるところですが、同族でありながら、復命しないで反した皇族と いう構図がみてとれます。「飯」が出雲振根と飯振根の話ともかわりそうで、飯降根は、出雲 降根に殺されますね。航海民系の大彦の大と飯の発音が関係します。

そうすると、この大背飯三熊之大人は、やはり4世紀代の伝承を元にしていて考えるべき でしょうか。

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013年1月27日(日)13時56分 38秒 返信・引用

> No.1134[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

- > 蓋型埴輪には驚きですな。これは、小型の製鉄炉の埴輪で、黒姫山古墳そのものですな。>
- > 甲冑、矢、剣の元の鉄は小型製鉄炉で製造していた模様。>
- > 炉は須恵器の大きいもので堺で製造されたのでは…。

>>> なるほど縦型の炉があったとすると面白いですね。

とりあえず、先日の福岡の西新町遺跡の炉ですね、ちょっと報告書を見る機会があったのですが、住居跡から横倒しのような形で伸びているのが確認できます。古墳時だのそれと似た タイプですね。徳島市とマキムク遺跡にもあります。

<http://inoues.net/ruins/nishijin.html>

西新町遺跡からは、朝鮮各地の土器も見えるそうで、ある種の交易ルート拠点だったように も見えます。

そう考えていくとマキムクという地域は、ただの東西路にある市ではなくて、やはり唐子・ 鍵に隣接する黒田宮時代の後の、崇神朝あたりに、宮廷工房た宮殿が置かれていた可能性を 感じますが、それ以前の市と炉付き施設との接点が見いだせるかどうかも課題です。

少なくともガラス玉とか、土器は焼けたでしょうから、それをそのまま市で売ったり交易商 人がもっていくという具合でしょうか。でも製鉄をした事例も確認されているようで、製鉄 となると目的も変わってきますね。

それなりに、マキムク周辺に宮を置いた記載が多いのにも理由があるのかもしれませんが。三 輪山信仰との関わりでしょうか。本来は田原本町あたりに都をおくのがベストのはずです が、どういうわけか開化も崇神も山辺道方面に宮を置くのが気になりますね。水はけの問題 とか、信仰上の理由とか…。後の飛鳥時代になると南に起き始める。

Re:藤井游惟さんへのお願いです。 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 1 月 27 日(日)06 時 32 分 45 秒 返信・引用

> No.1119[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事

棘の紀氏さん、初めまして。 こちらこそ宜しくお願い致します。<(_)_>

「棘の紀氏」は「イバラノキシ」と読むのでしょうか？ すると茨城県か大阪の茨木氏の方？

(^^)

> 藤井さん初めまして 宜しくお願い致します。 >「日本は古代ユダヤだけでなく、古代アッシリアなどを合せた現在のイスラエル・イラク・シリア・ヨルダンに相当する領域に日本の原点のかなりの部分があると思います。」> ↓ご意見を御願ひします。

このところ仕事が忙しく、12 日間休みがなかったので、お返事が遅くなり、申し訳ありません。

さて、「日ユ同系説」を言語学の側から立証するのは、 大野晋の「タミル語説」を立証する以上に困難だと思います。

2 つの言語が同系かどうかは、言語面だけでなく、 地理・歴史・考古学・遺伝子人類学等のあらゆる角度から検証していかなければなりません。

2 つの言語に含まれる単語が表面的に似ていても、それで両言語が同系だということにはなりません。 例えば

「ザ・シュートはラディカルなコンセプトでナウいサウンドをクリエイトするスーパーユニットである」という文は、単に外来語を多用した「日本語文」であって日本語と英語が同系であることの証明にはなりません。

「日ユ同系説」の最大の問題は、日本人とユダヤ人は遺伝子人類学的に異なるということです 言語は遺伝形質ではなく獲得形質ですから、遺伝子的に異なる民族が同じ言語を用いている ことはありますが (例えば、アメリカでは白人と黒人が同じ言語を話しています) 遠く離れたところに住む民族が同じ言語を話している歴史的経緯が解っていない場合は、 両者の遺伝子的なつながりが最大の手がかりになります。

例えば、マダガスカル島の北部に「マラガシー」という言語を話す民族がいますが、 このマラガシーは、アフリカ系の言語ではなく、インド洋の対岸のインドネシア系の言語で

あり、 いまでもインドネシア人と話をしても多少通じるそうです。 そして、インド洋の海流や風向などを調べれば、 インドネシアから出発した船がマダガスカルに漂着する可能性は十分あり、 何より、マラガシー人とインドネシア人は遺伝子的に近いのです。 要するに、マラガシー人は何時の時代かに意図的にか、偶然にかインドネシアから海流と風に乗ってマダガスカルに漂着したインドネシア人の子孫なので す。

しかし、日本人とユダヤ人は遺伝子的に遠く、 また紀元前 2000 年頃からユダヤ・イスラエルの歴史は解っていますが(その頃日本は縄文 時代)、 日本人とユダヤ人がどこかで大規模に接触したという歴史的・考古学的証拠もありません。

何故遠く離れたところに住み、 遺伝子的にも遠い日本人とユダヤ人が同じ言語を話している理由を説明できない限り、 私は「科学者」として「日ユ同系説」を支持することはできません。 ただ、「事実は小説よりも奇なり」

ということがありますので、今後これらのことが解明される可能性もないとは言えませんので全面否定はしませんが。

むしろ、大野晋のタミル語説の方は、五分五分ぐらいの可能性はあると思っています。

私は、日本語の起源についても独自の仮説を持っており、日本語は日本に稲作・金属器文明をもたらし、弥生時代を開始した渡来人の言語ではなく、12000年以前の氷河期に、地続きだった朝鮮半島(朝鮮地峡)経由で日本列島(日本半島)に入ってきて、糸魚川-浜松以西、琉球に至るまでに広がり、その後の海面上昇によって日本列島に取り残された、「南方系縄文人」の言語だと考えています。(糸魚川-浜松以東、北海道までに住んでいたのは、樺太経由で入ってきたアイヌ祖語を話す北方系縄文人)

この説は「考古学を科学する会」等で何度か発表しており、次に出版する予定です。

では、この日本祖語を話す「南方系縄文人」はどこから来たかといえ、氷河期終結と共に海に沈んだ東南アジアの「スングランド大陸」ではないかと思われ、

実際、考古学的にも南方系縄文人(特に琉球人)の骨格はスングランド周辺の人間の骨格に近いといわれています。

このスングランドに住んでいた同じ言語を話す民族が何らかの理由で分裂し、一方は北上して日本列島に住み着き、一方は船に乗って西に向かい、南インドに住み着いた、と考えれば、日本語とタミル語の関係は説明できます。但し、この仮説も日本人とタミル人が遺伝子的に近い、ということが証明されなければ、歴史的・考古学的に検証することはむずかしいので、五分五分程度の可能性だと思います。

ただ、「日ユ同系説」も、宗教用語に限れば、日本の宗教用語にヘブライ語起源の単語が数多く混じっていることは考えられます。

A.D.1世紀にローマによってパレスチナを追われたユダヤ人の一部が、どういう経路をたどってか中国から朝鮮半島、日本にやってきた。当時の日本は弥生時代が始まったばかりの文明後進国、当時の世界最先端の科学技術を持ったユダヤ人は神様に見えたはずで、彼らを神様、或いはその代理人と見なし、その宗教用語を取り入れた、という筋書きです。

とにかく、私は「学者」ではなく「科学者」ですので、ちゃんとした仮説構成体と、それを立証する客観的証拠がない説に肯首することはできません。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 1 月 27 日(日)05 時 35 分 20 秒 返信・引用
> No.1122[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

>> さて 1>>「異音(allophone)とは、当該言語(方言)の音韻体系において、同一音素(phoneme)の中に包含される異なる単音(phone)」であり、>>簡単に言えば「発音している母語話者本人にも、聞いている母語話者にも『同じ音』にし

か聞こえない範囲内で異なる音」>>逆に言えば、母語話者の耳に「似てはいるが別の音」に聞こえるものは、定義によって異音(allophone)であることから排除されるのです。

> ここが、私も含めてみなさん、うまく理解できないのでしょう(大権威?マツモト氏も含めて..)

> そして藤井さんの本来もっとも主張すべき部分もここですね。>だからその「条件異音」についての松本氏の理解が不十分であることを、アピールしないと いけない…。>>あくまで、古代史への応用、つまり亡命百済人云々というのは、その説明題材のひとつで、歴史的に云々と突っ込まれても藤井さんも困るということですよ。>>>それで、松本氏の条件異音への紹介・提案を発展させるのか、否定して新たに説明しなおすのか?が藤井さんの問われた選択肢だったと理解しています。

松本氏、及び「松本異音説」が「トンデモ」だということが理解できない国語学者達の「条件異音」の理解は「不十分」などという生やさしいものではありません。彼らは、一度もどこかでキチンとこの概念を教わったことがなく、学術用語の「allophone」を「異音」、「conditional allophone」を「条件異音」と漢字で訳すことから、「異音」「条件

異音」という言葉が醸し出すイメージから勝手な理解をしているだけです。

例えば「異音」とは「変な音」「変わった音」だと解釈し、江戸っ子が「ベランメエ」と啖呵を切る時に、/ラ/の舌がブルブル震える現象(トリル)を異音(allophone)と勘違いしている。(当該音素・音節の標準的発音からはみ出した変な音は、文字通り非標準的発音(non-standard pronunciation)、簡単には「訛音」と言います)

「条件異音」とは「条件的に音が変化する現象」だと解釈し、「アメ+カサ→アマガサ」「シロ+カワ→シラカワ」のような意味の変化を伴わない他の音素・音節への「音韻論的条件的変異現象」(phonemic conditional variation)を条件異音(conditional allophone)と勘違いしている。

「異音(allophone)とは、当該言語のネイティブスピーカーの耳には『同じ音』にしか聞こえない範囲で異なる音」ということは、この「キムチ・ムルギムチ」のビデオのようなものを見せて説明すれば

<http://www.youtube.com/watch?v=R1EBZ7pYCEE>

言語学に関して全くの素人でも「実感として瞬時に理解できる」のであり、

こんな初歩的概念1つ理解してない言語研究者は、「音声学ちゅうもんを基礎の基礎から勉強し直してこい!」と頭ごなしに怒鳴りつけるだけ

の問題です。「松本氏の条件異音への紹介・提案を発展」などさせたら、私が世間の笑い者になります。

>ただ、研究会としては、その古代史研究への応用方法が明らかにならないと、目的に合わないことになるので、結局、亡命百済人、渡来人に関する記載に注目が向かうということになります。

私の『『記紀万葉』(上代特殊仮名遣い)言語的外国人記述説』は99.99999.....%確実な説であり、「その言語的外国人とは、日本書紀 α 群は中国人(恐らく山東方言話者)、それ以外は百済人(朝鮮語話者)」という説も99%間違いないでしょう。(新羅人・高句麗人といっても同じ朝鮮語話者であり、朝鮮語ではなく満州語の一方言である「本来の高句麗語」を話す者が当時の日本国内にいたとしても

朝鮮語話者に比べれば数的に微々たるものに過ぎません)

このことをすべての歴史研究者、とりわけ下枝さんに「確信」してもらわなければなりません。(そのためには拙著「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」の第六章をちゃんと理解してもらう必要があります)

全ての歴史研究者が私の説を確信すれば、歴史学への応用は限りなく広がります。

1 私の『『記紀万葉』外国人記述説』に抵触する歴史学説は全て修正・廃棄を迫られます。例えば「古事記偽書説」は完全に否定されます。

2 逆に私の説に合致する歴史学説は、その蓋然性が高まります。例えば「日本書紀 β 群山田史三方記述説」の蓋然性は高まります。

3「日本書紀 α 群」を書いたのは中国人そのもの(日本語は勉強したとしてもネイティブで

はない)のに対し、「日本書紀 β 群」を書いたのは(山田史三方かどうかは別として)、日本育ちで、朝鮮語と共に日本語もネイティブとして話せるバイリンガルの人物だったはずであり、故に「β 群」の記事は疑ってかかる必要が生じます。

『日本書紀』の監修者である舎人親王が、政治的理由から記事の捏造や歪曲を執筆者に頼んだとしても日本語を上手く理解できない α 群の執筆者には細かいニュアンスまでは伝えられなかったはず。

しかし、日本育ちで日本語もネイティブとして話せる β 群の執筆者には以心伝心であり、上手く捏造や歪曲ができたはずで

特に聖徳太子関連の巻 22 は β 群にあり、聖徳太子の存在やその事績、厩戸皇子との関連に付いては疑ってかかる必要があります。(同じことは、森博達氏も言っているようです)

> 亡命百済人云々はともかく、その条件異音の古代史面への理論的な応用ですね、「条件異音説」の応用としては次のようなことが考えられます。 ●「邪馬台国」は「ヤマト国」と読んでよい 古代史学界では、

「邪馬台」は/ヤマト/とも読めるが、この/ト/は上代特殊仮名遣いでは乙類であるのに対し、「大和」の方の/ト/は甲類であるので、「邪馬台」と「大和」は別の言葉である

という説が広く流布しています。確か、高校時代に読んだ「日本の歴史第一巻」で井上光貞がそうっており、2~3年前に聞いた、大東文化大学の何とか言う教授の講演でもそうっていました。

(但し、時代別国語学大事典で調べると、「大和」の方の/ト/も乙類であり、国語学者はそんなことは言っていない。だが、井上光貞や歴史学者にそんな説を吹き込んだのでしょうか？上代特殊仮名遣いの研究がまだ進んでいなかった戦前に、

国語学者の誰かが「大和」の/ト/は甲類だと勘違いし、それを歴史学者に吹き込んだのかも知れないし、或いは「大和」の/ト/は大概是乙類であるが、これを甲類で書いた資料も少数あるのかもしれない)

いずれにせよ、「大和」の/ト/が甲類であったとしても、それを以て「邪馬台」とは別の言葉であるという根拠にはなりません。

これは次のような実験を試してみればすぐ解ります。

まず「大和朝廷」と言う言葉を5回繰り返して発音してください。次に「戦艦大和」と言う言葉を5回繰り返して発音してください。(但し、標準語アクセントで)

「大和朝廷」の「ヤマト」は LHH アクセントとなり、/ト/は唇の開いた乙類となるのに対し、「戦艦大和」の「ヤマト」は HLL アクセントとなり、/ト/は唇の窄まった甲類になります。

つまり、「ヤマト」の/ト/はアクセントの違いで甲類にも乙類にもなるのであり、/ト/の甲乙を以て別の言葉と見なすことはできません。歴史学者が言うように、「ヤマト」の/ト/を甲類で書いた資料があるならば、それは当時の方言によるアクセントの違いでしょう。

このことは「邪馬台国畿内説」論者を力づけることになるかも知れませんが、私自身は「邪馬台国九州説」であり、「福岡県山門郡説」を支持しています。あの辺りの方言では「ヤマト」は語尾上げの LLH アクセントになるはずですから。

ただ、私は「邪馬台国論争」などに深く首をつっこむつもりはありませんので、この問題に関してはこれ以上聞かないでください。

●魏志倭人伝の地名・人名の問題

「邪馬台」を魏志倭人伝に出てくる日本語人名・地名の問題ですが、日本語を聞き取り、漢字で音写したのが、中国人であったか、朝鮮人であったかが問題になります。

邪馬台国に中国語ができる日本人がいたとは考えにくく、

また邪馬台国に使者を派遣した楽浪郡に中国語ができる中国人がいたとも考えられません。

但し、半島と頻りに交流していた邪馬台国には朝鮮語ができる日本人はいたはずであり、楽浪郡にも中国語ができる朝鮮人、朝鮮語ができる中国人ならいたはずで、日本人と中国人の使者の会話は朝鮮語を媒介にして行われたと思われます。

1「朝鮮語ができる中国人」が自ら日本の人名・地名を聞き取り、漢字を当てたのなら中国式の借音仮名(仮借文字)、2「中国語ができる朝鮮人」が通訳して聞き取り、漢字を当てたのなら朝鮮式の借音仮名です。

↓は、『日本書紀 α 群』(中国人記述)と『古事記』(朝鮮人記述)の両方に収録されている歌を中国語(山東方言)で発音させたものです。 <http://www.youtube.com/watch?v=GrW9HbymQmo>
<http://www.youtube.com/watch?v=SzYpL2HVN7I>

↓は、同じものを朝鮮語話者に発音させたものです。 <http://www.youtube.com/watch?v=iqZJPPst63k>
<http://www.youtube.com/watch?v=rxg-RV2OO18>

このように同じ日本語でも、朝鮮人と中国人の聞き取り方は異なるので、その差を計算に入れないと再現される日本語も異なってきます。

ざっと見た感じでは、『記紀万葉』の借音仮名と魏志倭人伝の借音仮名の用字法はかなり異なるようなので私は1ではないかと思いますが、詳しく調べてないのはっきりしたことは言えません。

ただ、この問題にも私はこれ以上首をつっこむつもりはありませんので、興味があれば自分で調べてください。上のように、中国人と朝鮮人に魏志倭人伝の人名・地名を発音させて比較すれば、案外簡単にわかるでしょう。

> まず森重は、体言において感嘆の際にいかなる助詞も付けずに単語がそのまま使われる時、助詞の代わりのような役目で単語の音韻そのものを「イ」音を加重させることがあると

説いた。すなわち、「花」であればそれが「花よ」という形を取るのではなく「ハナイ」あるいは「ハイナ」「ハイナイ」と、母音そのものに「イ」を付け加えることによって表現することがあるというのである。ここからア段音にイを加重させたものがエに、ウ段音にイを加重させたものがイに、オ段音にイを加重させたものがオになり、それぞれ乙類と呼ばれる音になった[7]

というのが森重説の要旨である。> 森重説でも最終的に日本語の母音体系は5母音であったとしている。すなわち、万葉仮名に見られる用字の使い分けは渡来人が日本語にとって不必要であった音声の違いを音韻として読み取ってしまったものだとするものである。森重はそれをあたかもヘボン式ローマ字が日本語にとって必ずしも必要な聞き分けでない sh, ch, ts, fなどを聞き取ったことになぞらえ、上代特殊仮名遣い中「コ」音のみが平安初期にまで残ったにもかかわらず、ひらがなにその使い分けが存在しなかった[8]ことなどを傍証として挙げている。

森重氏の「イ音加重説」はイ・エ段甲乙の説明にはなってもオ段甲乙の説明にはなりません。とにかく、拙著の第六章をご理解ください。松本氏が提示したデータは利用していますが、松本氏や森重氏のデータ解釈など全く借用することなく、

オ段甲乙の書き分けは説明できるのです。

とにかく、私の説を歴史研究に応用したいのであれば、歴史学者や考古学者はもとより、他の言語学者・国語学者などの言説に惑わされることなく、私の「上代特殊仮名遣い外国人(百済人)記述説」に「確信」を持って頂くことが先決です。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:秦野 投稿日:2013年1月27日(日)01時29分53秒 返信・引用 編集 済

> No.1132[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

蓋型埴輪には驚きですな。これは、小型の製鉄炉の埴輪で、黒姫山古墳そのものですな。甲冑、矢、剣の元の鉄は小型製鉄炉で製造していた模様。

炉は須恵器の大きいもので堺で製造されたのでは…。

> 蓋(きぬがさ)型埴輪というのが日葉酢媛陵から出土してます。>> トルほどに土を盛って小さな円形の盛土を造り、その上に7-8個のキヌガサ形埴輪と数個の盾形埴輪を立てていた。とくに土壇中央の最高所に立てられたキヌガサ形埴輪は大きく、稀に見る丁寧さで作られていた(高さ1.5メートル、横幅2メートル)。キヌガサの上部には複雑な直弧文が一周しさらに四個の突出した部分(ヒレ)をも直弧文で飾っていた。盾形埴輪も丁寧な作りで木製の盾を模したものと推測され、周縁全部と中央の二本の横帯をやはり直弧文で飾っていた。なお、盾形埴輪は高さ108センチメートル、最大幅80センチメートルである。これらの一部は石膏模型にされて東京国立博物館(当時は帝室博物館)に残されている[7]。>

- > どこか南方系ですね。>
- > やはり石製腕飾り類は車輪石3、鋏形石3、石釧1があった。>
- > が南方系の感じがします。>

- > 衣笠は高貴な人の持ち物とされています。 >
- > 高句麗古墳群に、似たような笠の絵があります。 >
- > 乙女山古墳からも蓋型埴輪がでています。

仲哀天皇 4世紀の在位 熊罴筑紫の 岡県主の祖 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年 1月 26日 (土)23時 28分 21秒 返信・引用

熊罴と神武天皇 <http://www.geocities.jp/oden1947/149-1.html> 実は、伊那谷、大御食神社の 古代文字で書かれた社伝記にも、

『…中沢の 熊罴(くまわに)に 山の 麿物(あらもの)にぎものを菜らしめ…』とあります。 史郎ホームページ[外部リンク]

もし日本書紀の熊罴 と 社伝記の熊罴 に 共通するものがあるとしたら 何だろうと、調べ始めました。伊那谷には、他にも 九州の神様が多く祀られたり、壬申の乱での存在、また、馬肉を食べる習慣や、古墳から出る馬具が、九州の熊本と 酷似していることなど、興味深い事が多くあります。

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年1月26日(土)22時06分 15秒 返信・引用
> No.1131[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

蓋型埴輪には驚きですな。これは、小型の製鉄炉の埴輪で、黒姫山古墳そのものですな。 甲冑、矢、剣の元の鉄は小型製鉄炉で製造していた模様。 炉は須恵器の大きいもので堺で製造されたのでは…。

> 蓋(きぬがさ)型埴輪というのが日葉酢媛陵から出土してます。 >> トルほどに土を盛って小さな円形の盛土を造り、その上に 7-8個のキヌガサ形埴輪と数個の盾形埴輪を立てていた。とくに土壇中央の最高所に立てられたキヌガサ形埴輪は大きく、 稀に見る丁寧さで作られていた(高さ 1.5メートル、横幅 2メートル)。キヌガサの上部には 複雑な直弧文が一周しさらに四個の突出した部分(ヒレ)をも直弧文で飾っていた。盾形埴輪も丁寧な作りで木製の盾を模したものと推測され、周縁全部と中央の二本の横帯をやはり直弧文で飾っていた。なお、盾形埴輪は高さ 108センチメートル、最大幅 80センチメートル である。これらの一部は石膏模型にされて東京国立博物館(当時は帝室博物館)に残されている[7]。 >

- > どこか南方系ですね。 >
- > やはり石製腕飾り類は車輪石 3、鋏形石 3、石釧 1があった。 >
- > が南方系の感じがします。

>

- > 衣笠は高貴な人の持ち物とされています。 >
- > 高句麗古墳群に、似たような笠の絵があります。 >
- > 乙女山古墳からも蓋型埴輪がでています。

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013年1月26日(土)21時12分 18秒 返信・引用 編集済

> No.1130[元記事へ] 秦野さんへのお返事です。

ちょっとまた崇神の年代について考えてます。

どうも最近の研究だと、現行の崇神陵あたりは4世紀前半にもっていくようですね。それ以前の大和・柳本古墳群も、3世紀後半へもってきています。

それでその後の4世紀後半からの佐紀・馬見古墳群へ接続し、4末~5世紀の河内王朝へと移行する流れを想定しているようです。

それで三角縁=大和・柳本、巴型銅器・石訓などの石製品=佐紀、甲冑=河内王朝という比較構図が指摘

されています。

そうすると、先の大彦系南方航海集団が大和を占拠したのが、佐紀・馬見の時代で、4 世紀中 葉ということになるでしょうか。確かに、この佐紀古墳群は、その前後の偏角のある方位区画 や方位ラインにはいっさい関係してこないんです。明らかにそれ以前の古墳群とは違う測量 方式をとっています。測量道具であった三角縁もこの佐紀からほとんど出てこないのはその せいでしょう。

日葉酢媛関連の話は、天日矛の関係で、崇神・垂仁の死後に入ってくる神話群ですね。大彦の 時代。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/佐紀陵山古墳>

部分的には崇神・垂仁・開化の話もこの 4 世紀中葉ごろの伝承を含んでいるかもしれませ ん。

ただ、やはり卑弥呼・イヨの時代から大きく空いてしまうんですね。

その後武内の時代になって、再度三角縁が測量道具として使われ奈良に-1 度偏角方位区画 をつくり始めるのではないかと感じますが、その後の河内王朝の時代にはもう使われなくな ります。この時代を武内・仲哀(倭武)・神功の時代とすれば、次の河内王朝の時代の前 の伝承となり、整合性ができます。

それで、秦野さんご指摘の大漢、つまり穢人の件ですが、半島に 5 世紀前半に流入してきます。 甲冑をつくる技術をもっていて、一部は早めに渡来する。メインは 6 世紀前半にやってきま す。

さきの筒型銅器の半島での出土は、4 世紀前半から 5 世紀初頭までだそうです。巴型銅器を もたらした集団が 上位集団で、筒型銅器は下層集団とのこと。

巴型銅器は九州系で、弥生時代から半島と行き来してたでしょう。九州・大彦系の象徴だっ たかもしれません。天日矛系も間接的にかかわってくるのでしょうか。

蓋(きぬがさ)型埴輪というのが日葉酢媛陵から出土してます。

トルほどに土を盛って小さな円形の盛土を造り、その上に 7 - 8 個のキヌガサ形埴輪と数個 の盾形埴輪を立てていた。とくに土壇中央の最高所に立てられたキヌガサ形埴輪は大きく、 稀に見る丁寧さで作られていた(高さ 1.5 メートル、横幅 2 メートル)。キヌガサの上部には 複雑な直弧文が一周さらに四個の突出した部分(ヒレ)をも直弧文で飾っていた。盾形埴 輪も丁寧な作りで木製の盾を模したものと推測され、周縁全部と中央の二本の横帯をや はり直弧文で飾っていた。なお、盾形埴輪は高さ 108 センチメートル、最大幅 80 センチメートル である。これらの一部は石膏模型にされて東京国立博物館(当時は帝室博物館)に残されて いる [7]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/佐紀陵山古墳> どこか南方系ですね。

やはり石製腕飾り類は車輪石 3、鋏形石 3、石釧 1 があった。 が南方系の感じがします。 衣笠は高貴な人の持ち物とされています。 高句麗古墳群に、似たような笠の絵があります。 乙女山古墳からも蓋型埴輪がで ています。 http://74589594.at.webry.info/200808/article_22.html

それで先の筒型銅器ですが、槍を入れる入れ物との見方と、儀仗用の棒の上に取り付けたも ののとの見方がある そうです。高句麗古墳壁画にみえるような笠ですね。

三角縁の時代だと、黄幢つまり笠松模様でしょう。塩椎、椎根津彦、タケミカ椎の椎で、蓑笠姿 の老人の蓑笠 か。

下記のサイトに興味深い説明があります。

使持節 二千石以下を殺すことを得。つまり、軍の長官の「太守」をも、殺すことができる大 きな権限を持つ。持節 官位なき人を殺し、若し軍事ならば使持節と同じきことを得。 仮節 唯軍事にのみ軍令を犯す者を殺すことを得。 <http://yamatai.cside.com/katudou/kiroku245.htm>

筒型銅器が、円墳が多く、半島系に加えて、古墳に 1~2 本くらいでてくるのは、槍が一緒 に出土しないなら、やはり上記の儀仗用具とみるべきかもしれません。

それで身分の高い人は、巴型銅器になるか…。

吉野ヶ里から巴型銅器をつくった型がみつかったので、そうすると、自前で臣下の「持節」たちに配った可能性もありそうですね。

その統率システム下に、上記の日葉酢媛の父・タジマモリや、大彦系の呉・南方航海集団が属していた。

だから日葉酢媛陵から蓋型埴輪が出てくる。やはりタジマモリは崇神王朝の後、新王朝をたてたので、娘の日葉酢媛に不老長寿の薬をさしだし、前王朝の垂仁陵に半分それを貢納した。

しかし、しばらく天日矛系は、畿内に入れず足止めされるので、その間畿内を率いていたのは、そうすると大彦系ではなく、その前の崇神系だったとなるでしょうか。大和に入るのに争いがあったかもしれません。神武の話か。

大彦・武ヌテ河(倭武)・タジマモリつまり丹波道主王はそうすると、あまり双方大差がなく九州・半島系だったということになるのでしょうか…。カヤや南方呉人系文化と接点がある。

後に別系統の半島系の吉備津彦・武内が彼らを征伐する。彼らも半島系のはずですが、少し異なる。百済・秦韓系。

それらに対して、先に入っていた崇神・垂仁系のイリ王朝があったことになりそうですね。

ただ、このイリ王朝の時代に、5度偏角方位区画と後の7度偏角方位区画との区切り、つまり都城区画の立て直しがあったはずなのですが、この境目の年代となるのが、中山大塚古墳 椿井大塚山古墳で、魏年号銘鏡をしばらく伝世したのちに、これらの7度偏角に葬ってまゐる。後の崇神陵や乙女山、秋津遺跡あたりは、7度偏角の都城区画の古道にそって構築されたのでしょうか。

この年代を、いつにもってくるか?が課題ですが、欠史・箸墓・桜井・黒塚・西殿塚・マキムク遺跡の時代までは5度偏角で、その後に転機がきます。

238年に年号銘鏡をもらった世代の墓で、死ぬまでに30年前後あったと仮定しても270年ごろ。伝世すれば、もっと後でも大丈夫ですね。

記紀的には孝霊・孝元と開化の時代の王朝交替の後、一時、春日にいて、また大和に戻って崇神の時代になる。

垂仁の時代には、もう天日矛もはいつてきて、殉死の禁止・円目王がでてきて・伝承的には

4世紀中葉。崇神の伝承も同類で、やはり系譜面でしか、3世紀当時の様子は追えないかもしれませんね。

何かこの間に一つ知られてない転機があったように感じます。それで上記の区切りができる。同じ系統の測量をする集団でありながら、都を作り直している。

神話で追うべきですね。大国主(孝霊・元)・天穗日・其の子、大背飯三熊之大人(おおそびのみくまのうし)またの名は武三熊之大人(たけみくまのうし)・天若彦(開化)・味耜高彦根神(あぢすきたかひこねのかみ)・フツヌシ・タケミカヅチ(崇神・垂仁?)・サルタヒコ・アマテラス

味耜高彦根神が、もしかすると、5度偏角と7度偏角の境になるかもしれません。両者よく似ている。

『出雲国風土記』によれば、幼い時、その泣き叫ぶ声が非常に大きかったので、静かになるまで船に乗せて八十島(日本)を巡ったり、高屋を作って梯子をかけそれを上り下りさせたりした。天御梶日女(あめのみかじひめ)との間に雨の神である多伎都比古(たきつひこ)をもうけたとしている。

これはもしかすると、全国を測量しにいったことの暗喩かもしれません。高屋は測量台とか神社。はしごが測量区画。

彼は天若日子の両親がつくった屋を怒って壊します。

鴨氏。御所市のはずれ。

ただちょっとこの辺むずかしいですね。神話解析の必要があります。3次元スキャナー ATOS - www.marubeni-sys.com 非接触で高精度・高速 3次元計測 3次元計測は丸紅情報システムズ 冊子印刷のイニユニック - www.inuuniq.jp 格安のカラー冊子をオフセット印刷。色々な製本と色々な特殊加工が激安。

魏志倭人伝を探る - www.rekitan.co.jp

邪馬台国論争に遂に終止符! 魏志の足跡を辿り、古事記から謎を解く C3D 日本正規総代理店 SEA - www.seanet.co.jp

TRDI 超音波多層流向流速計 ADCP 販売 Benthos 社 C3D サイドスキャンソナー販売 Ads by Google
Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:秦野 投稿日:2013 年 1 月 26 日(土)09 時 23 分 20 秒 返信・引用 編集
済

管理人さんへのお返事です。 高句麗、扶余は阿残で遼東に住む許可を得ていた模様。「台」ではない。

「邪馬壹:やまと」と「邪馬台」、「一大」を説明する。今の所ですな。

「邪馬壹:やまと」は扶桑国では大漢国。中国史籍の邪馬台の位置と一致する。これから「大 漢国、邪馬壹」は「やまと」。魏志倭人伝の邪馬壹は呉音表記で「やまと」になるが、現在は壹の「と」は失われたのだろう。

「邪馬台」は『隋書』倭国伝では「邪馬台」を「都は邪摩堆(ヤマタイ)、魏志の説に則れば、邪馬臺」というなり。」で漢音表記ですな。

「一大」は一大率だろう。言える事は秦野北斗著書、徐福と邪馬台国で説明している。詳細な地図を書いてある。女王国は北方(中部地方)から九州の筑紫、対馬、壹岐に及んでる。 尚、女王国は扶桑国では女国に成っている。

女王国の北方の諸国には「一大率(或るいは一支率)」という官が置かれて国々を監視している。一大率は伊都国にあり、

> あと、語音的には、扶余王の「尉仇台」は、中国側では「位宮」と記されていますね。「タイ」音が抜けています。

> 「邪馬台」「一大」といった「台」は、小さく早口で発せられたのではないのでしょうか。 > 倭語の「イ」が後に抜けるという先の指摘ですね。「ウとかユ」に近くなるのか。

> 「スキタイ・アオルサイ・ゲッタイ・サウロマタイ」の「タイ」音。

『後漢書』高句麗伝

武帝滅朝鮮、以高句麗為縣、使屬玄菟、賜鼓吹伎人。其俗淫、皆絜淨自喜、暮夜輒男女群聚為倡 樂。好祠鬼神、社稷、零星、以十月祭天大會、名曰「東盟」。其國東有大穴、號?神、亦以十月迎而祭

之。其公會衣服皆錦繡、金銀以自飾。大加、主簿皆著幘、如冠幘而無後;其小加著折風、形如弁。

武帝が朝鮮を滅ぼして、高句麗を県とし、玄菟郡に帰属させ、鼓吹の奏者を賜る。 その風俗は淫、皆が清潔に洗淨することを自らの喜びとし、日が暮れて夜になると男女が集まって歌や音楽に興じる。鬼神、社稷、零星を好んで祀る。十月には大いに会して天を祭る、 名を「東盟」という。その国の東に大きな洞窟があり、それを隧神と号し、また十月を迎えると、 これを祭る。 その公の会合では衣服に皆、錦糸の刺繡と金銀を飾り付けている。大加と主簿は皆が幘 (さく)をかぶる。小加は冠幘(御幘冠)のように後部の飾りがない折風(せつふう)帽子 をかぶるが、形は花卉のごとし。

Ads by Google Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 25 日(金)21 時 49 分 2 秒 返信・引用 編集済

> No.1128[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 285 年、鮮卑族の慕容廆に来襲され、扶余は国王の依慮が海に投身自殺するという潰滅的 な打撃を受け、沃沮に避難する。 > 286 年、再び慕容廆が遼東を侵略するが、王子の依羅が西晋の援助で扶余国を再建した。 > この依羅には日本の王朝に関わる奇妙な伝承がある。「慕容廆に敗れた扶余王の依羅が、 数千の民を率いて海を越え、倭人を平定して王となった」というもので、名前のイリから、嵩 神天皇(みまきいりひこ)ではないかとされる。

>> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-5-fuyo.htm> >

疫病の件はさておき、また扶余の件を調べていくと、興味深いことが多くありますね。

麻余が死に、その子の依慮(イロ)が六歳で王に立った。

漢代、扶余王は葬祭に用いる玉匣(宝物箱)を常に玄菟郡に預け、王の葬儀があれば取りに来た。公孫淵が誅伐されたとき、玄菟郡治の庫には、なお玉匣の一具が保管されていた。今の扶余の庫には玉璧・珪・瓚など先祖伝来の遺物があり、伝家の家宝である。古老は、先祖が下賜された印璽には「濊王之印」と彫られているという。国内に濊城という名の古城がある。濊貊の故地で、扶余王は濊城にいと、まるで亡命者のようだと聞いた。そもそも有りえる話である。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-5-fuyo.htm>

このいわゆる王が位を継ぐときの「玉璧・珪・瓚」、日本でいえば三種の神器、が、なぜか玄菟郡に預けて、わざわざ王が死ぬたびに取りにきた理由が気になります。これらは、中国の皇帝が諸侯に封じた際に与えるもので、それで中国からの亡命者のようだと表現する意味もわかるでしょう。

この手のものは、墓に葬るケースとそうでないケースがあるようですね。王の継承に深く関係します。葬儀の際に、とりにきて、正式に「諸侯」であることを、次の王が臣下に見せつけることで、継承が行われたのでしょう。

扶余の習俗をみていくと、日本のそれと明らかに共通性が多いのですが、

夏季は皆、氷で腐敗を防ぎ、人を殺して殉葬する。多いときには百を数える。手厚く葬り、墳墓には槨(木組みの墓室)はあるが棺(かんおけ=石棺)はない。

百の殉死記載が卑弥呼のそれと類似しますね。木槨はあっても、棺桶がないのも、長期間のモガリの間中、氷で腐らせないで、周囲に見せつけることと関係するかもしれません。氷を入れる…。

殷暦の正月には天を祭り、国中が大いに会し、連日、飲食と歌舞に興じる。

殷暦つまり暦をもっている。周暦のこと。

。戦国時代の各国で独自の四分暦が造られ、これらを戦国四分暦という。この頃、年始について三正(夏正・殷正・周正)という考え方が生まれた。夏暦・殷暦・周暦というものがあ

ったとされ夏暦では年始が冬至の2月後、殷暦では冬至の1月後(つまり夏暦の12月)、周暦では冬至の月(夏暦の11月)とし正月が王朝交替ごとに変更され、夏正→殷正→周正→夏正→...と循環されてきたとした。これを受けて周に次ぐ王朝をめざす戦国各国はほとんどが夏正を採用していたが、秦の顓頊暦のように10月を年始とする暦もあった(ただし、正月・2月・3月といった月の配列は夏暦に従っていた)。秦の中国統一により顓頊暦の10月歳首が採用されたが、漢の太初暦改暦以降、夏正が採用され、現在の旧正月もこれを踏襲している

<http://ja.wikipedia.org/wiki/中国暦> この暦を、馬韓が、倭も使っていた可能性を感じますね。

殷暦の計算自体は結構複雑で、少なくとも数字と干支を記録する技術が必要。

<http://www.massangeana.com/mas/koyomi/koyomi3.txt>

紙の発明は漢代でそれ以前は木材等に記録。問題は、どんな文字をつかっていたかですが、漢字の篆書体が有力でしょう。ただ上記のように、遊牧民系の文字を使った可能性もある。匈奴はスキタイ系。

古学による起源 [編集] スキタイは近年、東方起源説が有力になっている[2]。スキタイと匈奴については、墳墓の出土品(金製品など)から漢(中国)-匈奴(ブリャーチャ)-サルマタイ(西北カフカス)の間に交易が行われていたする[3]。

ただ、日本の日文は、平田篤胤の本によれば、壱岐のト部氏系や、九州肥人に伝来し、どうも「思兼神」つまり中臣氏の祖の発案の伝承があり、九州の新漢系氏族が持ち込んだようです。後に白鳳時代までに仮名文字として導入されたアラム語系文字のようです。送り仮名などの用法が、アラム語とゾグド語の組み合わせで当時交易

商人がもちいていたタイプのそれで、日本にそのまま導入。7世紀前に仮名文字になります。その思兼神が発案したのが、天岩戸祭

祀で、おそらくキリスト教の祭祀です。

名を迎鼓といい、この時は法の執行を断ち、囚徒を解く。国に在っては、衣は白を好み、白布の 大袂(広袖)の袍(外套)・袴(はかま)、革鞆を履く。国を出るときは、飾りを縫った絹布の錦 (にしき)や毛織物を好んで着る。大人は狐狸、狢白(尾長猿?)、黒貂(テン)の皮衣を加 え、金銀で帽子を飾る。

恩赦があるのも、法治国家の特徴で、金銀の帽子、つまり冠のようなものを製造できる技術が あったでしょう。隣接した洛陽北部の「白羊」が、同様な金冠をもっていたようです。元は西域 遊牧民系技術。白装束、袴なども日本と同じですね。

あと、語音的には、扶余王の「尉仇台」は、中国側では「位宮」と記されていますね。「タイ」音が 抜けています。「邪馬台」「一大」といった「台」は、小さく早口で発せられたのではないのでしょうか。 倭語の「イ」が後に抜けるという先の指摘ですね。「ウとかユ」に近くなるのか。 「スキタイ・アオルサイ・ゲッタイ・サウロマタイ」の「タイ」音。

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 24 日(木)23 時 27 分 5 秒 返信・引用 > No.1127[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

疫病は扶余の別種が持込んだもの…。

名前のイリから、嵩神天皇(みまきいりひこ)ではないかとされる。 イリに付いて述べる。イリは伊里(利)は魏志倭人伝の暦韓国、白村江で群山(クンサン) に成る。「慕容廆に敗れた扶余王の依羅が、数千の民を率いて海を越え、倭人を平定して王と なった」の倭人を平定して王は誰でしょな。言える事は新漢人(大漢国の人)でしょうな。

百済。元は扶余の別種、「慕容廆に敗れた扶余王の依羅が、数千の民を率いて海を越え、倭人を 平定して王と なった」

朝鮮の古代史『三国史記』や漢の元号の異常な変更、確かに関連有りそうですね。そうすると、中国や韓国で疫病犠牲者の遺体が見つかり、日本書記の記述との関連が 解明されるかも知れませんね。

しかし、崇神天皇の存在を主張する人は在世が3,4 世紀と言う人が多いのも難点です。 紀元後 250 年の箸墓古墳を卑弥呼=天照大神と主張する人もいるくらいですから。

さて科学的な視点では、遺体からの病原菌の検出は可能か?です。 最近、第一次世界大戦の終結の大きな一因となったインフルエンザのウイルスを 当時の遺体から 検出分析する話を聞きましたがその後何のニュースもありません。

<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/5015377.html>

285 年、鮮卑族の慕容廆に来襲され、扶余は国王の依慮が海に投身自殺するという潰滅的な 打撃を受け、沃土に避難する。 286 年、再び慕容廆が遼東を侵略するが、王子の依羅が西晋の援助で扶余国を再建した。 この依羅には日本の王朝に関わる奇妙な伝承がある。「慕容廆に敗れた扶余王の依羅が、 数千の民を率いて海を越え、倭人を平定して王となった」というもので、名前のイリから、嵩 神天皇(みまきいりひこ)ではないかとされる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-5-fuyo.htm>

百済。元は扶余の別種。馬韓の故地にいたが、後に仇台は高句麗に国を破られ、百家で海を済 (渡)る。ゆえに百済と号する。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-5-fuyo.htm>

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 24 日(木)21 時 47 分 45 秒 返信・引用

> No.1126[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 気になるのは、疫病 >

>> あるいは遷都したとか、崇神時代の疫病で大和の皇族は死に絶えたとか…。 >> 崇神時代の疫病ですが、ユダヤと切り離せないペストでないか？

『三国史記』の新羅の 193 年に倭人が飢えてやってきた記載があるそうで、その時代の疫病 に結びつけてますね。
<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/5015377.html>

<http://blog.daum.net/hl2dus/16870533>

新羅本紀第二 「伐休尼師今 十年(193 年) 六月倭人大饑。来求食」

193 年 6 月には倭人が飢饉に見舞われ、食を求めて 1 千余人が新羅に流入したという。 在位 13 年にして 196 年 4 月に死去した。埋葬地は伝わらない。

崇神天皇 5 年(紀元前 93 年)、疫病が流行り、多くの人民が死に絶えた。 崇神天皇 6 年(紀元前 92 年)、疫病を鎮めるべく、従来宮中に祀られていた天照大神と倭大 国魂神(大和天国魂神)を皇居の外に移した。

思うに、1 千支遅らせて、253 年にすると、248 年のイヨ即位から崇神摂政で5 年目で、 ちょうど崇神 5 年の疫病記載にあうでしょう。

ある時期の帝紀編纂者が三国史記まで読んでいた可能性はありますね。疫病だったかどうか はなんともいえませんが、伊勢にもいる月読と疫病神(免疫のほう)との関連はよく知られ ています。

宮中神を外に移動したり、斎宮への派遣関連は、その辺の兼ね合いで生じたのではないでし ょうか。 後代の伝承も混じっているような気はしますね。 Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 24 日(木)21 時 19 分 25 秒 返信・引用

> No.1113[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

まあ文章は背景が理解できないと内容も理解できないもんですな。 気になるのは、疫病 > あるいは遷都したとか、崇神時代の疫病で大和の皇族は死に絶えたとか…。 崇神時代の疫病ですが、ユダヤと切り離せないペストでないか？

>>『新唐書』日本伝 >>>> 仲哀が死に、開化の曾孫娘の神功を王とした。次は應神、 >> おそらく中国側は、神功を皇后ではなく、王とみなしていたので、その出自を記載したのだ と思います。 >「欽明之孫女雄古立。」のケースと同様ですね。皇后紀で伝わっていたはずなのですが、王 とみなした背景は如何。 >>

- > 神功は近江の息長氏系で開化の子彦坐王の系譜に加えられていますね。 >
- > 妃:息長水依比売(おきながのみずよりひめ。天之御影神の女)
- > 丹波道主王(たにわのみちぬしのみこ、旦波比古多多須美知能宇斯王)
- > 日葉酢媛命(垂仁天皇の皇后(後)・景行天皇の母)の父・三河穂別の祖 >
- > この丹波道主王が、先日話したように、タジマモリで、天日矛系です。神功の母も天日矛系 で、結局その辺を意識しています。 >> タジマモリは、垂仁妃を出しますが、垂仁死後にその妃である自分の娘に常世国の長寿の 菓子の半分を差し出します。皇帝の不老長寿を願うものです。 >
- > ここで、女帝が見えてきます。 >
- > 先の卑弥呼死後の開化・崇神=垂仁後の女帝、つまりイヨのことです。
- > 年代推定がおかしいとすれば、大和・柳本古墳の年代を新しくするとか、佐紀を古くする

いう手がありますね。

>> あるいは遷都したとか、崇神時代の疫病で大和の皇族は死に絶えたとか…。 >> 西都原古墳群あたりは、ずっと 3 世紀から 6 世紀まで継続していた様子が伺える点で重要 です。

Re:やまとことばは訓読みが主 投稿者:管理人 投稿日:2013年1月24日(木)20時53分 57秒 返信・引用

> No.1121[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> … > <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1617> > 日本語(大和言葉)とヘブライ語の単語の発音と意味を下記に紹介します。

> カク (書く) - カク (書く) > ナマル (訛る) - ナマル (訛る) > アキナウ(商う) - アキナフ (買う)

こうみると、動詞がおなじという特徴があるようですね。 名刺は高句麗語との対応事例がありました。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/高句麗語>

「入る」は、高句麗語の「ir」ですね。満州語は「ibe」名詞は「イリヒコ」の「イリ」連用形。

約 30 年の期間を経た後も、大野の主張はほとんど変わっていない。唯一の変化は、下 二段の 語末母音が ? から ? に変えられたことである。周知のとおり、奈良朝日本語のキ ヒミ(イ列)、 ケヘメ(エ列)、コソトノヨロモ(オ列)に母音のちがいによる甲乙の区 別があり、甲類の母音は ?、?、? で表され、乙類の母音は ?、?、? で表されるのが普通である。この意味において、大野が エ列乙類の母音を ? あるいは ? としたのは「普通ではない」けれども、これは大した問題ではない。なぜなら音価に甲乙の区別があったことは知られていても、甲乙の実際の音価、とくに乙類のそれはよく分からないからである。 動詞語幹に??が付いて連用形が成立したとい

う考えは、動詞語幹の何たるかを度外視 すれば、基本的に正しかろう。語幹が子音で終わる 動詞の場合、連用形の語末はすべて?? である 4。また語幹が母音で終わる動詞の場合も、??と 先行母音との結合によって?(? <?? + ????+??)、??(<??+??)、??(<??+??)になったと想定すれば、 その本来の語末は??で あったということになる。問題は??の正体である。??はいったい何物 なのか。このことに 関して、大野晋(1953)は次のように述べている。そして今日いふ動詞の活用なるものは、起源に溯つて考察するならば単なる接續のための語 形変化であるとするのは出来ず、終止形の如く動詞の熟合したものがあり、連體形の如く 助詞の 附属したものがあ、命令形の如く間投助詞の熟合し又は附属したものが存在する。これらの事 實は動詞の活用と詞辭の論との関係について種々の示唆を與へるものである。 それでは未然形に

52 アルタイ系具格接辞 ????の後裔(前編) 於ける ?、?、?連用形に於ける ?は何であるかが問われ るが、私は未だそれを何であると断定す … ることが出来ない。未然形に於ける ?(その交替形 ?)は、恐らく、つづく形(切れない形)で … あり、連用形に於ける ?は、恐らく切れる形であつたのではあるまいかと推測するがなほ考 究す べき問題であると思ふ。已然形 ??、????に於ける ??は未然形に ?が附属して成立した形であ るが、これにかん關してもなほ後日を期したい。(5 頁)

....

くめ くぶつつ いしつつ や (25)みつみつし ?久??米?の子が ?頭??推?い 石??推?いもち 撃ちてし?止?まむ みつみつ くめ こら くぶつつ いしつつ よ し ?久??米?の?子??等?が 頭??推?い?石??推?いもち 今撃た らば?良?らし(『古事記』中、

神武) この「い」を筆者は、歌謡の中に生き残った遺物としての具格助詞と見たい。すなわ くぶつつ いしつつ、これはかつて広く用いられた具格助詞「い」の残滓であり、「?頭??推?い 石?推?い?もち」 64 ?????? くぶつつ いしつつ は「?頭??推?で、?石??推?でもって」を意味している、と考えたい。ちなみに、「もち」というこ のは動詞「もつ」の連用形が具格助詞化したもので、「早帰り?来?とま袖持ち涙をのこひ

むせびつつ」(『万葉集』巻 20、4398)のように道具・手段を表すのによく用いられた。これを 具格助詞「い」の後ろに付加して具格的意味の強化をはかったと見なすのはきわ めて自然な ことである。16

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/proj/genbunronshu/23-1/kondo.pdf#search='満州語+活用'>

日本語の動詞が、う段で終わるのは、四段活用のせいですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/四段活用>
<http://okwave.jp/qa/q1049665.html>

どうも昔から動詞はう段で終わるようです。今の韓国語の動詞はタらしく、語尾が変わるのは膠着語の特徴。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/歴史的仮名遣> あと、関連して下記の件が重要です。

神代文字否定派の論拠

神代文字の形を分類すると、だいたい甲骨文字とハングルの二つに大別できるほど良く似ている。ハングルは、朝鮮の京城で一四四三年に創案された表音文字である。神代文字の中で最も有力なものとなされた日文は、明らかにこのハングルに基づいて作られたものである。古代に固有の文字がなかったということについては、平安時代の『古語拾遺』に「上古の世、未だ文字あらず」と記載されている。神代文字で書かれた古い文献のようなものは一つも残っていない。漢字に先立ってすでに固有の文字があったとすれば、わざわざ漢字を輸入して日本語を写したり、それから仮名を発達させたりする必要は考えがたい。仮名は音節文字であるのに、神代文字は一種の単音文字であり、神代文字はその構成におい

て、仮名よりも一層進歩した文字とみなされる。神代文字は四七音ないし五〇音しか書き分けない。奈良時代以前にまでさかのぼると、日本語の音節には「いろは」四七文字では書き分けられない八七種類の音(甲乙二種類の音があり、母音が八つ)があり、それらは五十音図のうちには収められないところの音であった。すなわち、いろは歌や五十音図だけでは示しきれないところの音が上代にはあったのである。これらを「万葉仮名」ではちゃんと書き分けてその区別を守っている以上、もし神代文字が真に仮名以前のものであったとすれば、少なくとも、もっと多くの字体がなければならないのに、いわゆる変体仮名にあたるものさえなく、きわめて整然とした統一をもっているのである。神代文字は多く四七字か五〇字から成っており、それが「いろは歌」や五十音図の影響下に後世偽作されたことを示している。

神代文字肯定派の反論

一方この奈良時代の八母音説に対し反対する意見もある。松本克己は、奈良時代の八母音は漢字という書記法が日本語の発音を微妙に書き分けたことによる一種の虚像であるとして批判し、また、国語学者の森重敏は文法論と語構成の立場から奈良時代の八母音説を否定している。また、佐治芳彦は、平田篤胤の門弟たちが収集した岩窟や石窟に残っている神代文字(ペトリグリフ)について、山田・大野両氏が言及していないことを批判している。

日本人自身が8母音を認識してないとすれば、あいうえおの5音表しかつukらないでしょね。

すくなくとも平安時代の仮名文字成立時には、すでにほとんど認識していなかった。

(無題) 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年 1月 24日(木)19時 41分 36秒 返信・引用 [編集]

レイラインという概念は1921年 6月 30日、アルフレッド・ワトキンスによって提案された。ワトキンスはイギリス中部のヘレフォードシャー州にあるブレッドウォーデン

(en:Bredwardine)を訪れ、近くにある丘陵が連なる地へと車で出かけた。

そのとき、丘の頂上をつなぐ小道同士が一直線につながっているように見えることに気づき、地図を確かめ、それらの場所が一直線に連なっていることを確認した。彼は後に息子にこの体験を「あらゆるものが瞬くように私の中へ入り込んだ」と語った。これを聞いた人の中には、彼の感じた「瞬き」というのはいわゆる神秘的な体験なのだろうと言ったものもいた[要出典]。

しかし、ワトキンスより以前の1870年 9月にウィリアム・ヘンリー・ブラック (William Henry Black)がヘレフォードにあるイギリス考古学協会に「Boundaries and Landmarks(大地に引かれた境界と名所旧跡)」という説を主張していた。その中で、彼は「名所旧跡は、西ヨーロッパ全域に巨大な地理的な線を描くような位置に存在している」という仮説を立てた。ワトキンスが上記のように感じたのは、彼がこの仮説を読み、それを頭の片隅においていたからかもしれない。

古代、イギリスがもっと深い森に覆われていた頃、村と村はこの直線状の道が織り成すネットワークによってつながっており、小高い丘は案内板の役目を果たしていたのではないかとワトキンスは考えた。この考察は1921年 9月にヘレフォードのウールホープクラブ (Woolhope Club、ヘレフォードシャー州の郷土史、考古学などへの支援団体)で公に発表された。ワトキンスの功績は後に1882年発行の同クラブ会誌"G.H.Piper's"に取り上げられ、その中で、次のように書かれた。アスガリッド・ヴァウル山から北のアーサー石までひいた線は、ハタロルの丘、オールドキヤッスル村、ロングタウン城、ユリシェイ城跡、スノッドヒル城を通る。これらの線を考え出したと想像される古代の測量士たちはドッドマン (dodman(カタツムリの男

[1])と呼ばれた。

ワトキンスは自身の考察を『Early British Trackways(古代英国の軌道路)』と『The Old Straight Track(古い直線路)』という本に著した。しかし、考古学学会からは懐疑的な目で見られ一般にはあまり受け入れられなかった。考古学者 O.G.S.カウフォード(en:O. G. S. Crawford)は学術誌『Antiquity』にこの本の宣伝を掲載することを拒み、これが一般の学者に受け入れられない事態を助長した。

2004年ジョン・ブルーノ・エア (John Bruno Hare)は次のように記している。「ワトキンスはレイラインと超自然的なものに関わりがあると主張したことはなかった。彼はレイラインが単に交易や記念碑的な意味合いで作られたものだと思っていたし、大変な昔まで遡ることが

でき、もしかすれば新石器時代、少なくともローマ時代以前に既に存在していたと考えていたただけだ。彼のレイラインに対するこだわりも風景写真への興味や、イギリスの片田舎を愛していた心から自然に芽生えたものだ。古代の英知に対しても努めて論理的であろうとしたし、今日レイライン説が晒されている風当たりには少々残念な思いでいるのではないだろう」[2]。

レイライン説に対する批判的な見方が強い一方で、専門家の中にはワトキンスと同じ考えを持つものもいる。巨石文化の研究者であるアレクサンダー・トム(en:Alexander Thom)は、複数の巨石の配置が直線的かどうかを詳細に検討することで、その巨石群を誰が作り上げたかを推し量ることが出来るのではないかと提案している。しかし、トムは巨石群の直線的配置に対しレイラインという用語を使うことは避けている。西欧人が南ペルーで発見した砂で描かれたナスカの地上絵が、巨石群のなす桁外れに長い直線に関する研究の助けとなっている。

ニューエイジ思想的アプローチ: 不可思議で聖性あるライン [編集] ワトキンスの提唱したレイラインの存在は、次のような作家達に取り上げられていった。

神秘学者のディオ・フォーチュンは1936年に自著である『The Goat-dotted God(山羊足の神)』という小説の中でレイライン説をいくらか紹介した。

大英博物館に所属する二人のイギリス人ダウザー(ダウジングにより地下水脈や鉱脈を探し当てる探求家)ロバート・ブースビー(en:Robert Boothby)とレジナルド・スミス(Reginald Smith)は、レイラインと地下水脈や地磁気の間には関係があるだろうと予想した。ガイ・アングダーウッド(Guy Underwood)は「負」の水の流れとダウジングに影響を与えるアクアスタット(apuastat)との線の交点が生なる地となるという推論を主張した。彼は2つの線の重なりを生なる点の上でいくつも発見し、holy lines(生なるライン)と名付けた。

ナチスドイツの研究者であるヴィルヘルム・トイト (Willhelm Teudt) とヨーゼフ・ハインシュ (Josef Heinsch) らもまた、古代のチュートン民族が生なる地を結んでできる"Heilige Linien"(生なるライン)と呼ばれる桁外れに長い直線のネットワークを作り上げたことを主張した。トイトはニーダーザクセン州のトイトブルクの森(en:Teutoburger Wald)をドイツの中心として en:Externsteine という特定の位置に巨大石群を配置した。ナチは、考古学的あるいは歴史的な事実とは無関係に、古代高度文明とその子孫であるアーリア民族を関連付け優越性を観念化しようとした。詳細は英語版 en:Nazi occultism(ナチにおけるオカルト思想)を読みたい。

1960年代には、まっすぐな線が交差する点があるという考えと世界の様々な地相術的伝統に由来する思想とを関連付けて考えるようになった。ニューエイジ派の地相学者たちによると、レイラインを描くことで大地を"調(ととの)え"られたり、有史以前の交易路を明らかにすることが出来ると言われている。これらの例はジョン・ミッシェルの著作に見ることが出来る。彼は地理的配置に重きを置く風水の考え方に影響を受けていた。ミッシェルは新石器時代の人々は社会の調和が大地の調和に大きく関わっていると考えていたと考えた。その例として、中国や古代ギリシャ、アイルランド、スコットランドの人々は自らの寺院を大地の力が最も強い場所に立てたと主張した。ロスリンにあるロスリン寺院[3]はテンプル騎士団が大地のエネルギーを調整して作った寺院であった。彼らは磁気的な力の分布を的確に把握した人であったし、彼らの残したものの一つとして羅針盤が今も残っている。

懐疑的アプローチ: 確率論的に直線は引けてしまう [編集]

懐疑論者の中には、レイラインというものは存在せず、人間の想像の産物だと主張するものもいる。ワトキンス

がレイラインを発見した時期というのは、イギリス地理院が余暇を楽しむ人たちのために地図を発売し、それまでより地図の値段が安くなり人々が入手しやすくなった時期と重なっている。そのためレイラインの存在が人々の間で広く受け入れられた。

80本の直線がランダムな137点に対して描ける次のようなことを主張する者もいる。イギリスやその他のヨーロッパ諸国では、有史あるいはそれ以前の史跡が高密度に点在しているため、それらを結ぶ直線が引ける(往々にしてそういうものはわざわざ合うように引かれる)というのはごく当たり前のことであるし、おそらくは単に偶然だといえるだろう、と。

右に示した図は、試しにランダムに点を打ちその近くを通る線を引いていくという作業を行ったものだ。このテストの目的は、ランダムな点の間にでもおよそ”正確な”線を引くことが出来る、ということを示すことだ。

ごく自然なこととして、このレイラインというものが人為的でなくとも確率的に発見できるものなのか、それとも確率論を超えた人の意思によって作られたものなのか、これは論議の対象となっている。(数学的な考察に関しては、ランダムに配した点がなす直線を参照されたい。)

レイラインが交易路だとする説に対しては、山岳や河川があり水路や橋を必要とする場合は

特に、目的地間を結ぶ直線状の道というのが必ずしも理想的な経路を描かない、ということを懐疑論者たちは指摘している。

地図に引ける線は全てレイラインと呼べるか [編集]

地図上を眺めればそこにレイラインが浮かび上がってくることは、多くの人が賛同できるだろう。レイラインについて提唱されている古代の魔術的理論の信奉者、そしてそれに対する懐疑派どちらもが巨石群や遺跡をつないだ線が見えるということには同意している。

懐疑派の多くは、ランダムに点描してもレイラインらしく見える直線が引けるという意見と、地図上に直線が見えることは矛盾しないし、矛盾しないが故にこの直線を別な方法で説明する必要もないと考えている。混沌魔術師にはこの統計学的なアプローチと矛盾しない思想を持ち、自身の自然発生説と調和が取れていると主張する者がいる。しかし、多くは上記のような統計学的アプローチは地図上に見える事実をきちんと説明できなければならないと考えられている。詳細な検討は仮説検定、反証可能性、オッカムの剃刀に詳しい。

レイラインという並びの偶然性の真偽を議論するうえで、“直線”というものの定義を正確に行うことは有意義だ。ワトキンスのレイラインの正確な定義として一般に受け入れられているものとして以下が挙げられる[4]。遺跡などの数地点が少なくとも0.25度の円弧に含まれること。ワトキンスはさらに、ラインの偶然性について、

図中に3点だけ描いたとき、その3点が直線をなしている可能性は1/720である。しかし、こうした偶然の一致が起こる確率は打つ点数を増やせば速やかに増大する。ランダムに10点を打ったなら、平均して1本は3点がかかる直線が描けるし、12点打てば2本は引けるようになる。3点がかかる直線が引けるからといって、それがすぐレイラインの存在を証明できるわけではない。しかし、綺麗に整ったそれらしい線が目の前に存在するではないか。レイラインの存在は、少なくともそれらしい4点以上をもって確認すべきである。3点だけなら、価値の下がるほかのもの、直交する道やそれらしい街道などとともに確認するのが効果的だろう。レイラインを地図の上で探していく上では、次のことにも充分注意を払わねばならない。1/10万の縮尺の地図上に幅0.5ミリメートルの線を引いたとして、それは実寸では幅50メートルの線になるのである。また、引いた線が0.25度ずれたとして、その直線を4.5キロ分(すなわち地図上で4.5センチ)延ばせば、地図上では200メートルずれることになる。

論争 [編集]

レイラインと呼ばれているものは遺跡が偶然そう見えるように並んだ結果に過ぎないという、レイラインを認めるうえで否定されなければならないこの仮説を裏付けるために提唱されている前述の理論は、実のところレイライン説を否定する確かな説だというわけではない。しかし、懐疑派の人間に、ランダムに点を打ち直線を引いてみるあのテストに裏付けられた主張は現実に見受けられるレイラインの存在の前に否定されてしまう、と考えさせるにいたっていい。

懐疑派の大半は、もし伝説や逸話などではなく、物理的な、つまり地磁気の存在だとか考古学的な検証だとか

がレイライン上にあるのであれば、自らの懐疑的な立場を再考してもいい、 と思っている。しかし懐疑派はこうした疑う余地のない証拠というものをレイラインは持ち 合わせていないだろうと考えている。

レイラインについては幅広い信仰や理論があるが、それらの多くは反証可能でなく、基本的 に科学的な検証方法に則っていない。中にはレイラインが科学的な根拠をもちうると主張す る人もいるが、そうした説は大半がレイラインに関心のない人や積極的に否定説を唱える 人々の唱えるものである。

学術調査 [編集]

レイライン説についての検証の中では、レイラインが通る地点のいくつかでは地磁気の影響 が平均値よりも強いと言われている。こうした説は『Places of Power(力ある場所)』(en:Paul Devereux 著、ブランフォード社 1990 年発行)と『Lodestone Compass: Chinese or Olmec Primacy?(磁鉄鉱のコンパス:中華文明やオルメカ文明の卓越した技術か?)』 (John B. Carlson,サイエンス,1975)に詳しい。

2月3日(日)東京大学にて WikimediaConferenceJapan2013 を開催します。 投稿者:棘の紀 氏 投稿日:2013 年 1 月 24 日(木)19 時 23 分 35 秒 返信・引用

レイライン レイライン(ley line)は、古代の遺跡には直線的に並ぶよう建造されたものがあるという仮説 のなかで、その遺跡群が描く直線をさす。レイラインが提唱されているケースには古代イギ リスの巨石遺跡群などがある。レイラインの存在は 1921 年にイギリス人のアマチュア考古 学者アルフレッド・ワトキンス(en:Alfred Watkins)によって提唱され、その著書『The Old Straight Track』(古い直線路)によって遺跡の直線的配置性が世間一般の注意を引きつけるこ ととなった。 地図を開けば、遺跡が一行に並んでいるように見える直線を見つけることはそう難しいこと ではない。にもかかわらず、レイラインの存在を認める動きは学術的には主流とは言えない。

その理由としては、レイラインが実在するならば、古代の人々がどうしてそのような直線性 を持たせたのかが不明であり、さらには存在するかに見えるその直線性はまったくの偶然に でも発生するのではないかという疑いをぬぐえないためである。こうした事態について解釈 を試みる領域はいくつかあり、次のとおりである。

考古学: 考古学の新領域である考古測地学は、測地学を有史以前のものに適用し考古学的な 知見を得るものである。近代測地学が優位であるのは一面にはその測量技術がある。測地学 を用いて解析すると、レイラインと呼ばれるものは古代人が測量し、所有権を主張するため に引いたか単に一般的な街道を作ったかしたものであろうと推察される。時代の新古を問わ ず多くの社会において、重要な地点同士を結ぶまっすぐな線は作られており、考古学者はこ うした伝統があることを指摘している。近代的な測量により、地形においてもこうした直線 性があることも確認されている。人の建造物と活動拠点の並びが、人が直線というものを利 用していたということを反映しているのは妥当だといえる。

文明論: 多くの文化において、特徴的な地形を横切る直線というものは発見できる。南米では 山頂を結ぶ直線がしばしば見受けられる。ナスカの地上絵は古代の長大な直線を語る上で有 名な例だといえる。このまっすぐな道というのは今日ではメキシコのテオティワカンにある 遺跡にも存在する。古代の道の上に作られた近代の道は二つの巨大なピラミッドの間を今 は通っていないが。ニューメキシコ州北西のチャコ文明(Chaco Culture)においては、道をまっ すぐに作るために砂岩絶壁を階段状に切り開いている。

ニューエイジ: レイラインやレイライン同士の交点は、風水・ダウジング・UFO のようなも のを含む神秘的、超自然的なエネルギーに共鳴する地点だと考える人々がいる。およそ、UFO はレイラインに沿って航行する(車が道路を利用するように)、という風に。こうした主張 はレイラインが電磁気的なエネルギーを有しているという想像の元に仮定されている。 懐疑派: レイラインの存在に懐疑的な者は往々にしてレイラインを疑似科学に分類する。彼 らは古代文明がレイラインというものを意図的に作ったという説に懐疑的であり、レイライ ンなるものは超科学や疑似科学を必要とすることなしに説明できるだろうと考えている。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 24 日(木)18 時 56 分 56 秒 返信・引用

> No.1117[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

> そして、仕入れなければならない新たな知識は、 > ●音声学に於ける「条件異音(conditional allophone)」の概念 > (拙著第五章) > ●国語学に於ける「上代特殊仮名遣い才段甲乙書き分け法則」

> (拙著第四章) > の2つだけです。

とりあえず、私も上記の2点はなんとか理解しているようです(汗)

> 私の論旨は >> 1 現生地球人類は自分の母語の異音(allophone)は聞き分けられない。(もちろん文字で書き分けることなど不可能) > 異音(allophone)を聞き分けられる者がいるとすれば、自分の母語でそれらを別の音素・音節として区別する言語的な外国人だけである。 > (従って、ある言語の異音を書き分けている文献があれば、それは言語的外国人が書いたものである) >

- > これが、私の説の大前提となる「生物学的法則」です。
- > そして >
- > 2『記紀万葉』においては、日本人(日本語ネイティブスピーカー)には聞き分けられない 異音(allophone)が書き分けられていた。 >> 3 従って、1の生物学的法則に従って、『記紀万葉』を書いていたのは言語的外国人である。 > (もし、『記紀万葉』を書いていたのが日本人(日本語しか話せない日本人)だったと言 うなら、 > 奈良時代の日本人は現代地球人類とは別種の生き物だった、ということになる) >> という実に単純明快なものです。

こちらも、とりあえず理解できているようです…。先に書いたとおりですね?

> さて1>「異音(allophone)とは、当該言語(方言)の音韻体系において、同一音素(phoneme)の 中に含まれる異なる単音(phone)」であり、

> 簡単に言えば「発音している母語話者本人にも、聞いている母語話者にも『同じ音』にしか 聞こえない範囲内で異なる音」 > 逆に言えば、母語話者の耳に「似てはいるが別の音」に聞こえるものは、定義によって異音(allophone)であることから排除されるのです。

>

ここが、私も含めてみなさん、うまく理解できないのでしょうか(大権威?マツモト氏も含め て…)

そして藤井さんの本来もっとも主張すべき部分もここですね。 だからその「条件異音」についての松本氏の理解が不十分であることを、アピールしないとい けない…。

あくまで、古代史への応用、つまり亡命百済人云々というのは、その説明題材のひとつで、歴 史的に云々と突っ込まれても藤井さんも困るということですよ。

それで、松本氏の条件異音への紹介・提案を発展させるのか、否定して新たに説明しなおす のか?が藤井さんの問われた選択肢だったと理解しています。

個人的にはどちらでもよいと思うのですが、日本人として、毎日使っている言葉なので、それ なりにそれを正しく理解しているかどうか、ということも重要で責任ある研究視点とも言え るかもしれません。

ただ、研究会としては、その古代史研究への応用方法が明らかにならないと、目的に合わなく なるので、結局、亡命百済人、渡来人に関する記載に注目が向かうということになります。

亡命百済人云々はともかく、その条件異音の古代史面への理論的な応用ですね、 キシさん紹介の下記の部分は、ちょっと重要と感じてます。

まず森重は、体言において感嘆の際にいかなる助詞も付けずに単語がそのまま使われる 時、助詞の代わりのような役目で単語の音韻そのものを「イ」音を加重させることがあると説 いた。すなわち、「花」であればそれが「花よ」という形を取るのではなく「ハナイ」あるいは「ハ イナ」「ハイナイ」と、母音そのものに「イ」を付け加えることによって表現することがあると いうのである。ここからア段音にイを加重させたものがエに、ウ段音にイを加重させたもの がイに、オ段音にイを加重させたものがオになり、それぞれ乙類と呼ばれる音になった[7]と いうのが森重説の要旨である。

森重説でも最終的に日本語の母音体系は 5 母音であったとしている。すなわち、万葉仮名に 見られる用字の使い分けは渡来人が日本語にとって不必要であった音声の違いを音韻とし て読み取ってしまったものだとするものである。森重はそれをあたかもヘボン式ローマ字が 日本語にとって必ずしも必要な聞き分けでない sh,

ch, ts, fなどを聞き取ったことになぞらえ、上代特殊仮名遣い中「コ」音のみが平安初期にまで残ったにもかかわらず、ひらがなにその使い分けが存在しなかった[8]ことなどを傍証として挙げている。

やまとことばは訓読みが主 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年1月24日(木)10時00分24秒 返信・引用

..

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1617>

日本語(大和言葉)とヘブライ語の単語の発音と意味を下記に紹介します。

ミカド (帝) - ミガドル (高貴なお方) ミコト (尊) - マクト (王、王国) ネギ (神職) - ナギット (長、司) ミササギ (陵、墳墓) - ムトウサガ(死者を閉ざす) アスカ (飛鳥) - ハスカ (ご住所) ミソギ (楔ぎ) - ミソグ (分別・性別) ヌシ (主) - ヌシ (長) サムライ(サムライ) - シヤムライ(守る者) ヤリ (槍) - ヤリ (射る) ホロブ (滅ぶ) - ホレブ (滅ぶ) イム (忌む) - イム (ひどい) ダメ (駄目) - タメ (ダメ・汚れている) ハズカシメル(辱める) - ハデカシテム(名を踏みにじる)

ニクム (憎む) - ニクム (憎む) カバウ (庇う) - カバア (隠す) ユルス (許す) - ユルス (取らせる) コマル (困る) - コマル (困る) スム (住む) - スム (住む) ツモル (積もる) - ツモル (積もる) コオル (凍る) - コル (寒さ、冷たさ) スワル (座る) - スワル (座る) アルク (歩く) - ハラク (歩く) ハカル (測る) - ハカル (測る) トル (取る) - トル (取る) カク (書く) - カク (書く) ナマル (訛る) - ナマル (訛る) アキナウ(商う) - アキナフ (買う) アリガトウ(有難う) - アリ・ガド(私にとって幸福です) ヤケド (火傷) - ヤケド (火傷) ニオイ (匂い) - ニホヒ (匂い) カタ (肩) - カタフ (肩) ワラベ (子供) - ワラッペン(子供) アタリ (辺り) - アタリ (辺り) オワリ (終わり) - アハリ (終わり)

etc.

確かに、これだけ似ていると、ユダヤ人が日本語はヘブライ語に近いと思っても不思議はないと思います。しかしながら、我々日本人は漢字が導入されるまでは、文字を持っていなかったと学校で習っており、最初に示したカタカナとヘブライ語の類似性は理解不可能となってしまいます。

Ads by Google 日本語の起源 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年1月24日(木)06時12分56秒 返信・引用
- Wikipedia

いずれにしても、数詞に加え、「口(古次)」「海(波且)」「深(伏)」「白(尸臘)」「兎(烏斯 含)」「猪(烏)」「谷(旦)」などの類似は印象的であり、更に興味深いのは、中期朝鮮語よりも上代日本語との方が、類似語が見出される割合が大きい(板橋によれば 30%と 42%)

...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E3%81%AE%E8%B5%B7%E6%BA%90> 中国語(古典中国語)との関係

日本は中国を中心とした漢字文化圏に属しており、中国語 (古典中国語)は、古来、漢字・漢語を通じて日本語の表記や、語彙・形態素に強い影響を与え、拗音等の音韻面での影響や、書面語における古典中国語の文法・語法の模倣を通じた文法・語法・文体の影響も見られた。従来、系統的関連性は認められないとされてきた。しかし、身体を表す基本語(目・耳・口などの大和言葉多数)・一部の動詞(倒れる、香る、壊れる 等の大和言葉多数)などの基礎語彙が、朝鮮語に比べ有意に一致点が多いこと、朝鮮語には存在しない「声調」「語声調」が日本語には明確に存在し、日本語が他のアルタイ語族などになり広義の声調言語であること、日本語の従来の文法で軽視されていた係助詞「は」の be 動詞 との類似性があること、日本語の語尾の「である」「です」「ます」などが省略可能な接尾語であることなど、必ずしも中国語とまったく類似点がないわけではない

古代朝鮮半島から旧南満州における言語分布状況がどのようなものだったかは不明な点が多い。そもそも再構成された「高句麗語」が、本当に高句麗の言語だったかについても疑問がある。「魏志東夷伝」や「後漢書」などから推測すると、3世紀後半に鴨緑江以北を本拠地としていた夫余・高句麗の言語がツングース系だった可能性は高い(村山説: 1979年)、肝心の朝鮮半島北部から中部にかけて、3世紀当時どのような言語が分布していたかについては、「魏志東夷伝」などの「中国史書」には全く言及がないのである(金芳漢: 1985年)。「高句麗語」と日本語との系統関係についてもいまだ十分に実証されていない。また、高句麗語は中国語、あるいは契丹語等に起

源や関連性がある事も考えられるが、実証には至っていない

混合言語説 [編集] ロシアの言語学者、エフゲニー・ポリワノフは、特に日本語のアクセント史に関する研究[25]を基に、日本語がオーストロネシア諸語とアルタイ系言語との混合言語であるという説 を初めて提唱した。例えば、「朝」のアクセントは京都方言では a_(低)sa^(高低) という形をし ているが、後半の特徴的なピッチの下降は、朝鮮語の「朝」achΛm との比較から語末鼻音 m の痕跡と解釈される事、また「朝顔」(asagawo)のような合成語に見られる連濁現象(k から g への有声音化)も asam+kawo > asaNkawo > asagawo のような過程から生じた語末鼻音の 痕跡であるとし、日本語の古形が子音終わりを許すものであったと主張した。更にポリワノフは、日本語のピッチアクセントを、アルタイ系言語における位置固定のストレスアクセントとは根本的に異なるものと考え、その起源をフィリピン諸語に求めた。また、日本語の

「真っ黒」(makkuro < ma+ku+kuro) は、接頭辞 ma を伴う形容詞 kuro の不完全重複形で、同一の形式がフィリピンやメラネシア諸語にも見られる事を指摘し、日本語は起源的に「オーストロネシア要素と大陸的なアルタイ的諸言語との混合物(アマルガム)」であると主張した[26]。

村山七郎はポリワノフの先駆的研究を再発見し、混合言語説を展開した。村山は元来、アルタイ比較言語学の立場から日本語系統問題を考究していたが、日本語にはアルタイ起源では説明がつかない語彙があまりに多いという見解に達し、南島語と日本語の比較に注目するようになった。村山によれば、いわゆる基礎語彙の約35%、文法要素の一部が南島語起源であり、このような深い浸透は借用と言えるレベルを超えたもので、日本語はアルタイ系言語と南島語の混合言語であると主張した(1973-1988年)。この見解は、南島言語学の崎山理や板橋義三に継承されている。また、オーストロ・タイ語の研究で世界的に知られるP.ベネディクトは、村山とは異なる独自の観点から日本語とオーストロネシア語の関係について論じた(1985年)。現在、主流の見解は、南島語を基層とし、アルタイ系言語が上層として重なって日本語が形成されたとするものだが、安本美典[27]や川本崇雄(1990年)は、逆にアルタイ系言語が基層で南島語が上層言語であったと主張する。アルタイ単独起源説を主張するS.スタロスティン(2002年)ですら、南島語の基礎語彙への浸透を認めていることから分かるように、古代日本語の形成に南島語が重要な役割を演じたことについては、多くの論者が同意している。しかし、それを単なる借用とみなすのか、系統関係の証拠と見るかについてはまだ合意に至っていない。この説の最大の理論的争点は、混合言語の存在についてであろう。伝統的な比較言語学は混合言語の存在を認めないが、最近の歴史・比較言語学者、社会言語学者の一部には異なる見解も見られる。これは言語学の基礎理論にも関わる問題である。

発音・音韻の対応 [編集] 北インドの多くの言語が三母音(サンスクリット等で母音/半母音として扱われる r や l を除いて)を基礎としており、またヒンディー語等では e, o が常に長母音として扱われるのに 対して、タミル語の基本は a, i, u, e, o の五母音であり、それに長短の別と二重母音(ai と au)が加わることで計 12 の母音を区別する。また子音は有気音と無気音を区別しない他、有声音(日本語で言う濁音)と無声音(同じく清音または半濁音)の間の対立もない。ただ 単語の先頭や同子音が重なった場合に無声音、単語の中途、同系の鼻音の後などに有声音で 発音される傾向があり、これらの点は日本語の連濁と相似である。日本語との差異は、日本語で「ラ行」にあたる音、英語を含む西洋語なら r や l の流音に相当する音に、五種の区別が存在すること[33]、また、反舌音(舌の先を硬口蓋まで反らせて発音する一連の子音)がある[34]。大野説のうち、その根幹にあるのが音韻複合対応に関する対応関係の分析であり、大野は音韻複合対応表をつくっている[35]。以下、概要を記す。タミル語と日本語間の音韻の複合対応については、タミル語内部に a/i, a/u, k/v, v/p, v/m(音価 省略)などの交替形が併存する。そうすると、たとえばタミル語 ca-に対し、日本語 sa-, si- 双方の対応が考えられ、またタミル語 ka-に対し、日本語 ka-, ha-(タミル語 va-より日本語*pa-

>fa->ha-対応)双方の対応が考えられる。同時にタミル語/v/は日本語/w/との対応も考えられる。更には日本語においても「さびしい」と「さみしい」など唇音同士の交替、また「ほどろ」と「はだら」などの交替がある上に、原初の日本語の音韻などを保存していると見られる古代 東国方言では「こころ」を「けけれ」と言うなど、活発な交替がみられる。こうしてタミル語内 部の交替に影響された音韻対応が見られる。

またタミル語 neri という名詞には[(1)規則、原理、(2)方法、(3)教訓、道徳、(4)宗旨、(5)<馬のごとき>歩み、(6)曲がっている]という六つの意味がある。他方、日本語 nori は[(1)規則。法令。法 度、(2)方法。例「そのマ

ジナイやむる法(ノリ)を定む」(神代紀)、(3)教化。例「わが風(ノリ)を万国に光(てら)すこと」(継体紀)、(4)仏法、仏の教え。例「仏にあひ奉りてノリを聞くべし」(うつほ物語)、(5)里程。例「道のノリ 5里なり」(日葡辞典)。道の「歩み」という意味、(6)伸(の)り(刀の反りのこと)。建築・土木で、垂直を基準にした傾斜の度合。また、その傾斜した面。]という意味がある。タミル語の *ner-i* の意味(1)~(6)は、日本語 *nor-i* の意味 (1)~(6)に完全に対応するのである。この場合、タミル語-eはその古形*-a-から a/o 対応したと考えられる[36]。こうしてタミル語と日本語の多義語の間には偶然以上の合致が多く認められる。更には、たとえば倭迹迹日百襲姫(ヤマト・トト・ヒ・モモソ・ヒメ)のような日本の神の名もタミル語で解読できる事例もある。タミル語でツタや蛇瓜の意味を持つ語が日本語では蛇となっている例が多いところから、タミル語で蛇瓜を意味する *tatt-an* は列島内で *toto* に変化し「ヘビ」を意味し、またタミル語 *maimai*[崇拜の意]は日本語 *mom-o* と対応し、日本語に「ももす」という動詞があったと想定し[37]、倭迹迹日百襲姫は、ヤマトの「*toto*(ヘビ)霊を崇拜する 姫」ということになる。そして倭迹迹日百襲姫は日本神話上、ヤマトの蛇巫(へびふ)とされているので、それにふさわしい神名となる。もっともこうした対応は、系統論的観点からは認められない[38]。音韻複合対応の要因については、日本列島にフィリピンや台湾、朝鮮半島と同様に、複数の異言語話者がいたことが考えられる。たとえば隼人は明らかにヤマト言葉とは異なる言語の話者であったとされる

その他 [編集] 厳密な実証科学によらないほかの仮説としては以下のものがある。日本語エジプト起源説 明治時代の本村鷹太郎によって唱えられ、日本語はラテン語やギリシャ語などと同系であるという。日本語ヘブライ語同系論 日ユ同祖論者によって、昭和の初期ごろ。レブチャ語との関連説 医師の安田徳太郎による。ラテン語と日本語の語源的関係 近年与謝野達によって唱えられた日本語の語源を古代ラテン語に求める説[57]

古典言語 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E5%85%B8%E8%A8%80%E8%AA%9E>

古典言語(こてんげんご)とは、古典文学に用いられた言語である。この場合の「古典」とは、年代として古く、亜流ではなく独自の源を持つ伝統を形成し、質量ともに充実したまとまりを擁するものを意味する(カリフォルニア大学バークレー校言語学者 George L. Hart による)[1]。時代を経るにつれ口語が多様化し古典の文語から変化していった結果として、こうした古典言語は母語話者が存在しないか(w:Language deathを参照)、高度のダイグロシアを伴うことが多くなっている。

古典ギリシア語は紀元前 5 世紀から 4 世紀にかけてのアテナイの言語であり、それ自体はギリシア語全体からみたまざまな変種の、単なるちいさな部分集合に過ぎない。「古典」期は通例、「古代」の後に続く文学の開花の時期と対応する(たとえば古ラテン語の後に続く古典ラテン語、原シュメール語の後に続く古シュメール語、ヴェーダ語の後に続くサンスクリット、古代ペルシア語の後に続く中世ペルシア語)。これはある程度用語にかかわる問題であり、たとえば上古中国語は古典中国語に先行するものというよりは古典中国語にふくまれるものとして捉えられる。いくつかの事例では、アラビア語やタミル語のように「古典」の段階が最古の文語の資料と一致する場合もある

Ads by Google 藤井游惟さんへのお願いです。 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 24 日(木)05 時 21 分 53 秒 返信・引用

藤井さん初めまして 宜しくお願い致します。「日本は古代ユダヤだけでなく、古代アッシリアなどを合せた現在のイスラエル・イラク・

シリア・ヨルダンに相当する領域に日本の原点のかなりの部分があると思います。」 ↓ご意見を御願ひします。

ヘブライ語と日本語 http://blog.livedoor.jp/nakasugi_h/archives/55524723.html 「大和民族はユダヤ人だった」の著者であるユダヤ人言語学者ヨセフ・アイデルバーグは、カタカナとヘブライ語の驚くほどの類似性を指摘していました。日本語とヘブライ語の類似表にある単語の一部を紹介したいと思いますが、天皇や祭司に関した言葉、日常生活の言葉にも多く類似点が見られます。日本語(大和言葉)とヘブライ語の単語の発音と意味を下記に紹介します。

ヘブライ語(特にアラム方言)とカタカナの共通点はいずれ時が来れば明らかになると思います。なぜかと言いますと、やまとことば由来の言葉は、漢語由来のものとは規則や性質の違うものであるからです。大きな違いとしてあげられるのは漢語や唐から伝来した漢字経由の

ヘブライ文字(ヘブライもじ。ヘブル文字とも)とは、ヘブライ語やイディッシュ語を表記する ための文字である。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%98%E3%83%96%E3%83%A9%E3%82%A4%E6%96%87%E5%AD%97> 古代のヘブライ語の系統的 な特徴による。/p/,/t/,/k/,/b/,/d/,/g/ の六子音はその位置により異な って発音される(詳細 は複雑なのでここでは概要を述べるにとどめる)。

イディッシュ語会話集 - Wikitravel ??/a: /a/ 日本語のアとほぼ同じ。?/e: /e/ 日本語のエとほぼ同じ。?,??/i: /i/ 日本語のイと ほぼ 同じ。??は?を y の音で発音させる場合に、その前後で用いられる。 ??/o: /o/ 日本
<http://wikitravel.org/ja/%E3%82%A4%E3%83%87%E3%82%A3%E3%83%83%E3%82%B7%E3%83%A5%E8%AA%9E%E4%BC%9A%E8%A9%B1%E9%9B%86> 語の オとほぼ同じ。?,??/u: /u/ 唇を丸く尖らせ て発音する
 ウ。??は?(v) ...

子音だけの ktkr フェニキア文字をギリシャ語に応用したときとおなじようなことは イディッシュ語にもある。イディッシュ語はドイツ語の方言みたいなことばで、ヘブライ 文字でかくんだけど、イディッシュ語としては必要ない文字と半母音の文字を母音 ...<http://toxa.cocolog-nifty.com/phonetika/2011/06/ktkr-1ab1.html> いまのヘブライ文字のもとになったフェニキア文字(むかしのヘブライ文字ともいえる) からギリシャ文字はつくられた。フェニキア文字をギリシャ文字としてつかうときにギリシャ語としては必要ない文字を母音の文字としてつかうようにした。ギリシャ語をあらわすには母音もかく必要があるからだ。母音をあらわす文字がふくまれるギリシャ文字は、そのあとラテン文字とかキリル文字のもとになったわけだけど、とうぜんラテン文字にもキリル文字にも母音の文字がある。

ドイツ語から見たイディッシュ語の特徴(1) - 福岡大学 (Adobe PDF) 2.イディッシュ語の音声と音韻. イディッシュ語で用いられる音は以下の通り。 母音:5 個. この外、複母音として ai(ay), ei(ey), および i(oy)がある。子音:23(24)個 ... ク は このことを踏まえ、イディッシュ語の母音と子音に関して次のようにまとめている。 母 音 ...<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu844/home2/Ronso/Jinbun/L40->

3/L4003_0753.pdf#search=%E3%82%A4%E3%83%87%E3%82%A3%E3%83%83%E3%82%B7%E3%83%A5%E8%AA%9E+%E6%AF%8D%E9%9F%B3'

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 24 日(木)04 時 59 分 55 秒 返信・引用
> No.1117[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

書いていたのは言語的外国人であると思います。（日本の文字文化は、渡来人からであると思うからです。）

古事記はいかに読まれてきたか [著] 斎藤英喜

<http://book.asahi.com/reviews/reviewer/2013012000016.html?ref=chiezou>〈神話〉の変貌 『日本書紀』が宮中で講義され、正史としてよく読まれてきたのに対し、『古事記』は原本が 伝わらず、少ない写本もほとんど読む人がいなかった。いや、読みたい人がいても、伊勢神宮 では神道系の古書の閲覧を禁じ、天皇すら読むことができず、文書も櫃(ひつ)に入れられ 白蛇に護(まも)られていると噂(うわさ)された。それどころか、『古事記』には長年にわ たり偽書疑惑があって、賀茂真淵までが後世の作ではないかと疑っていた。 だが今読み比べれば、教科書みたいで味も素っ気もない『日本書紀』よりも、歌謡やドラマ やファンタジーにあふれた『古事記』のほうが断然面白い。江戸時代によく版本が出てだ れでも読めるようになった『古事記』を、京都の本屋で購入した本居宣長も、一読してそう思 った。『源氏物語』を研究して王朝文学のひらがな文章とロマンチズムに熱中した宣長は、じつ は学問オンリーの堅物ではなく、大都市京都の自由かつ享楽的な環境のすばらしさに惚(ほ)れ込んだ人だったからこそ、『古事記』に描かれたおおらかな古代ロマンに反応できた のだ。そこにあふれる「もののあわれ」こそが「理想の日本」の原点である。 紫式部の感性をもって『古事記』に感動した宣長は、次に、江戸人の合理精神をもって解釈 しにかかった。そのポイントは、『古事記』を日本最古の史書と立証すること、同時に江戸時 代の人々が納得するような自然科学的な読み替えを行うこと。宣長は実際、『古事記』本文に使用された上代特殊仮名遣いに、古代和語が保存されていることを見抜いた。また科学的には、 たとえばアマテラスの岩屋簾(こもり)を日食という天文現象と解き、「太陽中心の暦」がす でに古代日本にあったと主張した。『古

事記』は宣長が創(つく)ったという意見も、まんざら極論ではない。本書からは、京都と古代の新鮮な風が一緒に吹いてくる。

上代特殊仮名遣 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E4%BB%A3%E7%89%B9%E6%AE%E4%BB%AE%E5%90%8D%E9%81%A3> 代日本語の 50 音のうち、イ段のキ・ヒ・ミ、エ段のケ・ヘ・メ、オ段のコ・ソ・ト・ノ・ (モ)・ヨ・ロの 13 音について奈良時代以前の上代には甲類と乙類の万葉仮名の書き分けが見られ、両者は厳格に区別されていたことがわかっている。ただし、モノの区別は『古事記』のみに見られる。またエにも 2 種類の書き分けが見られるが、ア行とヤ行の区別と見られ、上代 特殊仮名遣には含めないのが一般的になっている[1]。なお、甲乙の区別は濁音のギ・ビ・ ゲ・ベ・ゴ・ゾ・ドにもある。 甲乙の差異については、例えば「き」を表す万葉仮名は支・吉・峽・来・棄などの漢字が甲類 の「き」とされ、「秋」や「君」「時」「聞く」の「き」を表す。そして己・紀・記・忌・氣などが乙類 の「き」とされ、「霧」「岸」「月」「木」などの「き」を表す。上代の文献では一部の例外を除いてこのように整然たる仮名の使い分けが見られる。 こうした甲乙の区別は、一々の単語ごとに習慣的に記憶されて使い分けられたものではなく、 上代においては何らかの音韻の区別によるという説が立てられた。例えば母音がアウの 2 音 の他にイエオのみ甲乙の 2 種類に分かれ、8 母音であり、上代日本語は 50 音でなく 87 音(あるいは 88 音)あったとする。そして、平安時代以降になってそのような区別が薄れたため、それぞれ統合されていったと考えるのである。ただし、実際の音価については不明な点も多く、また音素として別だったかについても異論がある[2]。 上代特殊仮名遣が廃れてから「かな」が発達したため、これを表現する仮名文字は存在しない。 そのため、文字上で甲乙の区別をする必要がある時は「甲」「乙」と明記するか、右左の傍線、ローマ字のウムラウト、カタカナ化などで対応している。

特殊仮名遣の発見 [編集] 本居宣長・石塚龍麿 [編集] 上代特殊仮名遣はまず本居宣長によって研究の端緒が開かれた。宣長の著した『古事記』の注 釈書、『古事記伝』には、第一巻の「仮字の事」ですでに「同じ音の中でも、言葉にに応じてそれぞれに当てる仮字が使い分けられている」ことが指摘されている。ただしその指摘はまだ一部に限られており、この宣長の着想をさらに発展させたのが彼の門弟・石塚龍麿による『仮名 遣奥山路』(1798 年頃発表)である。これは万葉仮名の使われた『古事記』『日本書紀』『万葉集』について、その用字を調査したものである。この中で石塚は万葉仮名においては エ・キ・ケ・コ・ソ・ト・ヌ・ヒ・ヘ・ミ・メ・ヨ・ロ・チ・モの 15 種について用字に使 い分けがあると結論づけた。しかし、当時は本文の信憑性に関する批評が盛んでなく、調査に使われたテキストに誤記が含まれていたことや仮名の使い分けが音韻の違いに結びつくという結論付けがなされていなかったこともあり、注目を集めることはなかった。 8 母音説 [編集] 橋本進吉・大野晋 [編集] 宣長・石塚によるこの研究は長く評価されずに埋もれていたが橋本進吉によって再発見さ

れ、1917 年、「帝国文学」に発表された論文「国語仮名遣研究史の一発見——石塚龍麿の仮名 遣奥山路について——」で学会に評価されるようになった。なお橋本以後の研究では石塚龍 麿が指摘したチの使い分けを認めておらず、エ・キ・ケ・コ・ソ・ト・ノ・ヒ・ヘ・ミ・ メ・ヨ・ロ・モの 14 種(および濁音がある場合はその濁音)を古代特有の使い分けと見なしている。この使い分けに橋本は「上代特殊仮名遣」と命名した。なお、「モ」の使い分けは古事記にのみ見られ、これは日本書紀などの後世の史料よりもさらに古い時代の使い分けを残存 しているものと考えられている。

「野」は万葉集などでかつては「ぬ」と読まれていたが、これは「奴」「怒」などの万葉仮名が用い られているからである。橋本はこれを「ノ」甲類と位置づけ、「ヌ」に 2 種あるのではなく「ノ」に 2 種あるものとした。 橋本進吉の弟子に当たる大野晋は、橋本説を受けて上代の母音を 8 母音であるとし、甲類を i, e, o と、乙類を ī, ē, ō と表記する音標記号上の書き分けを行った[3]。 有坂秀世と「有坂・池上法則」 [編集]

有坂秀世は 1934 年の論文「古代日本語における音節結合の法則」で、上代特殊仮名遣いに関する次のような法則を発表した。 1.オ列甲類音とオ列乙類音とは、同一結合単位内に共存することはない。 2.ウ列音とオ列乙類音とは、同一結合単位内に共存することが少ない。特に 2 音節の結合単位については例外がない。 3. ア列音とオ列乙類音とは、同一結合単位内に共存することが少ない。 実際にこの法則が発表されたのは 1932 年の論文「古事記におけるモノの仮名の用法について」であるが、彼がこれに強い確信を持って発表したのは前述の論文である。ほぼ同趣旨の内容 をほぼ同時期に池上禎造も発表したため、これは有坂・池上法則と呼ばれる。母音同士が共存しやすいグループを作り、互いに同グループの母音と共存しやすく他グループの母音とは共存しにくいという傾向はトルコ語などアルタイ語族に見られる「母音調和」現象の名残と され、有坂の法則は日本語がアルタイ語族であることの一つの証左であるとされた。 橋本・有坂らによるこれらの研究により

上代特殊仮名遣は国語学における定説となった。当時の学会では古事記が後世に編纂された偽書であるという説をとる者が少なからずいたが、古事記が他の古史古伝とは違って「上代特殊仮名遣」を有していること、しかも日本書紀 編纂の時点では消滅していた古い使い分けであると思われる「モ」の使い分けを残していることが判明し、古事記が偽書ではなく実際に日本書紀より古い書物であることがほぼ確定した[4]。また、いわゆる古史古伝の竹内文書などに使用されている神代文字も、「上代には 8 母音あったはずなのに、なぜか 5 母音のままで上代の仮名遣いに配慮していない」ということから、そうした仮名遣いの区別がなくなった後世の偽書として否定された[5]。これに関連し橋本は 1942 年、第二次天津教弾圧事件裁判の際検察側の証人として出廷した。

松本は有坂の音節結合の法則について、「同一結合単位」という概念の曖昧さを指摘した上で

甲乙 2 種の使い分けがある母音だけではなく全ての母音について結合の法則性を追求すべきだとして、1965 年の福田良輔の研究をもとに母音を 3 グループに分けて検証を行なった。その結果、従来甲乙 2 種の使い分けがあるとされてきた母音は相補的な分布を示すなどしており、母音の使い分けを行なっていたわけではなく音韻的には同一であったとした[6]。松本はギリシア語での /k/ の表記を引き合いに出し、/k/ について K と ? の二種類の文字が使われていたからと言ってそれがギリシア語で 2 種の子音が意図的に使い分けられていたという事実を示すわけではないことを挙げ、同様に上代特殊仮名遣についても使い分けがそのまま当時の母音体系を正確に表したのではないことを指摘した。その上で松本は日本語の母音の変遷について、

1.i, a, u の 3 母音 2.i, a ~ o, u の 4 母音 3.i, e, i, a, o, u の 6 母音 4.現在の 5 母音 のような変遷を辿ったとし、上代日本語の母音体系は現代と同じ 5 母音であったと結論づけた。

森重敏 [編集]

松本克己の論文の発表は 1975 年 3 月であるが、それと時を同じくして同年 9 月、森重敏は「上代特殊仮名遣とは何か」を発表し、松本とは別の観点から上代特殊仮名遣の 8 母音説に異議を唱えた。発表は 9 月であるがこれが執筆されたのは同年 2 月であり、「定説」であった 8

母音説に対する反論がほぼ同じ時期に執筆されたことになる。まず森重は、体言において感嘆の際にいかなる助詞も付けないで単語がそのまま使われる時、助詞の代わりのような役目で単語の音韻そのものを「イ」音を加重させることがあると説いた。すなわち、「花」であればそれが「花よ」という形を取るのではなく「ハナイ」あるいは「ハ イナ」「ハイナイ」と、母音そのものに「イ」を付け加えることによって表現することがあるというのである。ここからア段音にイを加重させたものがエに、ウ段音にイを加重させたものがイに、オ段音にイを加重させたものがオになり、それぞれ乙類と呼ばれる音になった[7]とというのが森重説の要旨である。

森重説でも最終的に日本語の母音体系は 5 母音であったとしている。すなわち、万葉仮名に見られる用字の使い分けは渡来人が日本語にとって不必要であった音声の違いを音韻として読み取ってしまったものだとするものである。森重はそれをあたかもヘボン式ローマ字が日本語にとって必ずしも必要な聞き分けでない sh, ch, ts, fなどを聞き取ったことになぞらえ、上代特殊仮名遣い中「コ」音のみが平安初期にまで残ったにもかかわらず、ひらがなにその使い分けが存在しなかった[8]ことなどを傍証として挙げている。

上代にはいくつの母音が実際に存在したのか、その具体的な音価は何か、なぜイ段・エ段・

オ段の一部のみに使い分けが見られるのかなどについて、今後も様々な分野からのアプローチが待たれている。

5.^ 日本語には清音と濁音の区別があるが、仮名はかつてそれらを書き分けなかった。また、現代日本語には /oR/ (/o/ の長音) と /ou/ の区別がある(「王」と「追う・負う」)が、現代仮名遣いはそれらを書き分けない(ともに「おう」)。音韻的対立が必ず表記に反映されるわけではない。

6.^ 甲乙の母音が、音環境のどのような違いに従って排他的に現れるのかは、十分明らかにされていない。

7.^ 「ハナイ」「ハйна」「ハイナイ」が「ハネ」「へ(乙)ナ」「へ(乙)ネ」として定着しなかった原因は不明。

8.^ ヘボン式ローマ字 sh, ch, ts, f が表す [ʃ], [tʃ], [ts], [f] は、/s/, /t/, /t/, /h/ の条件異音で、現れる音環境は明確である(/s/: [s] ~ [ʃ], /t/: [t] ~ [tʃ] ~ [ts], /h/: [h] ~ [ç] ~ [ʃ] はそれぞれ相補分布)。他方、「コ」の甲類と乙類が現れる音環境の違いは明らかでない。

じょうだいとくしゅかなづかい【上代特殊仮名遣い】 <http://kotobank.jp/word/%E4%B8%8A%E4%BB%A3%E7%89%B9%E6%AE%8A%E4%BB%AE%E5%90%8D%E9%81%A3%E3%81%84> 奈良時代およびそれ以前の万葉仮名の使用に見いだされる、特殊な仮名遣い。平安時代の 平仮名、片仮名では区別して書き分けることのない仮名<き・ひ・み><け・へ・め><こ・そ・と>の・よ・ろ>《(古事記)ではくもも)とくえ》の13《(古事記)では14)と、それらのうち濁音のある もの<ぎ・び><げ・べ><ご・ぞ・ど>の 7に当たる万葉仮名に、甲・乙 2 類があって、語によって この 2 類は厳格に区別して用いられた事実を指す。

生物学的な条件異音 ある言語において互いに対立しない分節音のうち、音声学的類似性によって音韻論的に同一 のもの(同一音素の音声実現)と推定されるような一連の分節音を異音。それらのうち音 韻環境によって相補分布を示すものが条件異音。それ以外のものが自由異音。で、これは音声 学じゃなくて音韻論の問題。

条件異音と自由異音をどうやって見分けるかっていうのも上に述べたとおり。同じ音韻環境 にそれ以外の異音が現れなければそれは条件異音で、別の異音が現れるのを許すような異音 は自由異音。

結構基本的なことなので、興味・関心の有る方は、まずは教科書とか入門書で調べてみるべ きだよ。その上で分かんないことを聞くようにすれば ？

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 1 月 24 日(木)00 時 42 分 52 秒 返信・引用
> No.1101[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

>> やはり、私自身も第 6 章が何度読んでも理解できてないんですよ。一瞬理解できるので すが、その後すぐ忘れてしまう……。『ウオウオ』の動画部分だけ記憶に残って、本題がな んだったかわからなくなってしまうんですよ。

下枝さん…… 正直言って、哑然・愕然・茫然自失、私は深い虚脱感を感じております…(T_T)

かれこれ 10 年以上に亘って、同じことを何度も説明し、 出版後は拙著を読み、私の講演も聴き、そのビデオを放映し、会誌で取り上げ、 さらに簡単に実験ビデオが見られる HP を見ている方が、 未だに私の言っていることが理解できていとは…(T_T) 一体何がわからないのでしょうか？

、 > 万葉仮名が八母音で記されている。 >↓> 日本人は白鳳・奈良当時も現在もずっと八母音を発している。 >↓> しかし、日本人自身は 5 母音しかないと考えている(た)。実際平安以降になると 5 母音 しか記さなくなつた。 >↓> しかし、渡来人を含めて外国人は今も昔も日本人が 8 母音で発音していることに気付いて (記して)いる。 >↓> こういう結果になるのはなぜか? >↓> それは生物学的な条件異音のためである。『ウオウオ』『トコトコ』実験動画参照。

>↓> 言語学会の~の定説は、これらのことによって証明・覆される。

下枝さんの理解を阻んでいるものがあるとすれば「不必要な歴史的知識」です。 私は何度も『記紀万葉』を書いていたのが日本人でないことを証明するのに、歴史学や考古 学の知識など全く必要ない」と言っているにもかかわらず、このように何とか歴史と絡めて理解しようとする…だから理解できないのです。

歴史に関する知識は一切封印し、一人のタダの日本人(日本語ネイティブスピーカー)に戻 ってください。そして、仕入れなければならない新たな知識は、 ●音声学に於ける「条件異音(conditional allophone)」の概念

(拙著第五章) ●国語学に於ける「上代特殊仮名遣い才段甲乙書き分け法則」(拙著第四章)の 2 つだけです。そして、これらは「高度な専門的知識」でもなんでもなく、 大学一年生が履修する「言語学概論」「国語史概論」程度の授業で習うものであり、「専門外だから理解できない」などと言わないでください。

私の論旨は

1 現生地球人類は自分の母語の異音(allophone)は聞き分けられない。(もちろん文字で書 き分けることなど不可能) 異音(allophone)を聞き分けられる者がいるとすれば、自分の母語でそれらを別の音素・ 音節として区別する言語的な外国人だけである。(従って、ある言語の異音を書き分けている文献があれば、それは言語的外国人が書いたものである)

これが、私の説の大前提となる「生物学的法則」です。そして

2『記紀万葉』においては、日本人(日本語ネイティブスピーカー)には聞き分けられない異音(allophone)が書き分けられていた。

3 従って、1の生物学的法則に従って、『記紀万葉』を書いていたのは言語的外国人である。(もし、『記紀万葉』を書いていたのが日本人(日本語しか話せない日本人)だったと言うなら、奈良時代の日本人は現代地球人類とは別種の生き物だった、ということになる)

という実に単純明快なものです。

さて1「異音(allophone)とは、当該言語(方言)の音韻体系において、同一音素(phoneme)の中

に包含される異なる単音(phone)」であり、簡単に言えば「発音している母語話者本人にも、聞いている母語話者にも『同じ音』にしか聞こえない範囲内で異なる音」逆に言えば、母語話者の耳に「似てはいるが別の音」に聞こえるものは、定義によって異音(allophone)であることから排除されるのです。

異音(allophone)という概念を、本だけ読んで理解しようとするのが難しいかもしれませんが「地球人類は自分の母語の異音(allophone)は聞き分けられない。

異音(allophone)を聞き分けられる者がいるとすれば言語的外国人だけ」ということは、↓「キムチ・ムルギムチ」の発音実験ビデオ1つを見れば誰でも理解できるはず

です。

<http://www.youtube.com/watch?v=R1EBZ7pYCEE>

これを見て理解できませんか？

日本語でいう清音・濁音の区別は韓国語にはなく、キムチの/キ/もムルギムチの/ギ/も「同じ音」にしか聞こえていないのです。だから日本語の「金さん・銀さん」「近郊・銀行」を聞き分けられない。

ところが、清音・濁音を区別する日本人の耳には、この2つは「別の音に聞こえてしまう」のです。そして、あなたがこの2つの単語をカタカナで書くとすればやはり「キムチ・ムルギムチ」と書き分けるでしょう。

「ある言語の異音(allophone)を書き分けている文献があれば、それは言語的外国人が書いたものである」というのはこういうことです。

聞き分けできない韓国人にこの2つの音を書き分けられるわけがありませんし、書き分けたくてもハングルにはこの2つを区別する文字はありません。(韓国人自身が韓国語を表記するために作った文字に、そんな文字は必要ないのです)

これも理解できませんか？

さて、2の『記紀万葉』においては、日本人には聞き分けられない異音(2種類の/O/母音)が書き分けられていた。

ということを実験で証明しているのが第六章です。国語学者達は「奈良時代の日本語(厳密にいうと奈良時代の中央語である関西方言)には

甲乙2種類の/O/母音存在したがその区別は後代に消滅した」と言っています。そして、国語学者が調べたその2つの/O/母音の特性は第四章で述べている通り。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/4shou.html>

しかし、現代日本人、特に奈良時代中央語の直系子孫である関西方言話者の/O/母音の発音を分析してみれば何のことはない、第四章で述べている「オ段甲乙書き分け法則」と全く同じ法則に基づいて、2種類の/O/母音を条件異音(conditional allophone)として規則的に発音仕分けています。

現代日本人は関西人も標準語話者も音声学的に客観的に見れば2種類の/O/母音、2種類のオ段音を発音しわけていることは、この実験だけで解るはず(但し、関西弁や標準語と大きく異なる音韻体系を持つ琉球方言や東北方言でどうなるかは解りませんが)

<http://www.youtube.com/watch?v=jUWPPZZpy2g&feature=youtu.be>

あなたはこの実験を自分の口を用いて追試してみて、同じ現象が起こりませんか？ 同じ現象が起こるなら、あなた自身も無意識のうちに2つの/O/母音を 条件異音(conditional allophone)として発音しわけているのです。

そしてこの実験で現れた2つの条件異音(conditional allophone)は、 第四章で述べている上代オ段甲乙書き分け法則の

唇の開きは乙類の方が大きい オ甲類母音=唇のすぼまった/O/母音=円唇母音 オ乙類母音=甲類より唇の開きの大きい/O/母音

有坂第二法則 同一語幹内でウ段音とオ乙類は共存することが少ない。(ウ段音とオ段甲類が共存 することが多い) 就中、ウ段-オ段二音節語のオ段音は例外なく甲類

有坂第三法則: 同一語幹内でア段音とオ乙類は共存することが少ない。(ウ段音とオ段甲類が共存 することが多い)

という性質と完全に合致しています。

/ウ/の発音が関西方言と異なる標準語話者には有坂第二法則は作用しませんが、 関西方言の真似をして円唇の[u]を用いて/ウオウオ/と発音すれば、接続する/オ/は唇が窄ま りませんか？

このことが理解できませんか？

以下、第四章で述べている様々な上代段甲乙書き分け法則の特性1つ1つについて、 現代人(特に関西方言話者)が全く同じ法則に基づいて、 条件異音(conditional allophone)として2つの/O/母音を発音しわけていることを証明して いるのが第六章。

以下一々説明しませんが、もう一度第六章を読み返せば解ることです。

<http://www.youtube.com/watch?v=jUWPPZZpy2g&feature=youtu.be>

>一瞬理解できるのですが、その後すぐ忘れてしまう……。 「ウオウオ」の動画部分だけ記憶に残って、本題がなんだったかわからなくなってしまうので

すよね…。

オ段甲乙書き分け法則1つ1つや、それらを私が実験によって証明しているかを全部覚える 必要はありません。(私自身、どの法則をどういう実験で証明したかを全部覚えているわけではありません。 忘れた時は、自分の本をもう一度読み返すだけです。)

全体として「現代日本語(関西方言)の /O/母音条件異音発現法則が上代オ段甲乙書き分け 法則と一致している」ということを「その時は理解した」ならそれで結構。 もし、下枝さんが私の説を研究会か何かで説明しなければならないなら、その時もう一度読 み返せば良いことです。

この2つの法則が一致しているということは、『記紀万葉』では日本語の条件異音(conditional allophone)が書き分けられていた ということです。

「ある言語の異音を書き分けている文献があったら、それを書いたのは言語的外国人」なの であり、

『記紀万葉』を書いていたのは言語的外国人であった、ということはこれだけで証明できるの です。

その証拠に、100年ほど後に、日本人自身が日本語を表記するために作った平仮名や片仮名 には、 この2種類の/O/母音、2種類のオ段音を書き分ける文字はないのです。(例外は「ヲ」と「オ」 だけ)

これは、朝鮮語にキムチとムルギムチを書き分ける文字がないのと同様であり、 自らが聞き分けできない2つの音を書き分ける文字を日本人が作るわけがないのです。

大切なのは、 1人は母語の異音(allophone)は聞き分けられない。異音(allophone)を聞き分けられ、書 き分けられる者がいるとすれば言語的外国人だけ。 2『記紀万葉』においては日本語の異音(allophone)が書き分けられていた 3従って『記紀万葉』を書いたのは日本人(日本語ネイティブスピーカー)ではない

という論理を理解することです。 このことに歴史学者・考古学者はもとより、朝鮮語学者も口出しする余地はありません。

従って、拙著第六章で証明している 1 現代日本人も 2 種類の/O/母音を条件異音(conditional allophone)として発音しわけてい る 2 その 2 種類の/O/母音の発現法則が上代特殊仮名遣いオ段甲乙書き分け法則と一致してい る

という事実を、音声学的方法、もしくは国語学的方法で否定(『記紀万葉』を再吟味して「上代 特殊仮名遣い」という現象そのものを否定する)できない限り、 その他の部分をいくら突っついても全て枝葉の問題、私の「上代特殊仮名遣い(『記紀万 葉』)言語的外国人記述説」はビクともしません。

拙著を読み、その中核である第六章をちゃんと理解した人の論評は、必ずこういうものになります。

<http://jimdon.asablo.jp/blog/2010/12/16/5586016> <http://6823.teacup.com/kumagoro/bbs/4000>

<http://www.ne.jp/asahi/issun/original/note27.html>

<http://artjapan.main.jp/blog/2010/09/28/%E3%80%8C%E8%A8%98%E7%B4%80%E4%B8%87%E8%91%89%E9%9B%86%E3%80%8D%E3%82%92%E8%A8%98%E8%BF%B0%E3%81%97%E3%81%9F%E3%81%AE%E3%81%AF%E7%99%BD%E6%9D%91%E6%B1%9F%E4%BA%A1%E5%91%BD%E7%99%BE%E6%B8%88%E4%BA%BA/>

<http://ameblo.jp/1491827/entry-11426783700.html>

逆に、拙論の中核、第六章を理解していない人間は、このようにもっともらしい「タワゴト」を 言う。

http://www.bell.jp/pancho/k_diary-4/2010_1115.htm

(この人は、第六章を理解していないばかりか、稲荷山古墳鉄剣銘の問題など、 私が本の中でちゃんと言及しているにも関わらず、それすら読んでいない)

この論評がこの掲示板に投稿されたものなら、謙虚で相手の立場を尊重する下枝さんなら 「そうですね。確かに……」などとレスをされるでしょうが、 もし、こんな「タワゴト」に対し「一定の理解」などを示すならば、今後のおつきあいはご遠慮 させていただきます。<(_ _)>

私の「上代特殊仮名遣い(『記紀万葉』)言語的外国人記述説」を、音声学的・国語学的には なく、 歴史的・考古学的・朝鮮語学的その他の観点から批判・否定している人間、 それらの観点から否定できている人間は、私の説を根幹を理解していないだけなの であり、

これらの人間の言うことは、全て「タワゴト」なのです。

歴史学者・考古学者・朝鮮語学者・中国語学者その他が口出しできるのはここから先、 「『記紀万葉』において日本語の条件異音を聞き分け、書き分けていた『言語的外国人』とは何

者か？」 という段階になってからです。(逆にその段階に入ると、日本語以外のことは何も知らない 国語学者は発言権を失います)

しかし、史実として確実なのは、『記紀万葉』が成立した 680~750 年頃に日本国内に多数存在 した「言語的外国人」は、 660 年に百済遺臣から献上された 107 人の中国人及びその二世と、 663 年の白村江敗戦によって 3000 人を越える百済人、及びその二世達だけ。

また、百済遺臣から献上された 107 人の「唐人俘虜」は兵士であり、当然男ばかりだったはず で、 子供を作ろうと思えば、日本人の女と結婚するしかありません。

「家庭内で父親と母親の言語が異なる場合、子供は接触時間の長い母親の言語の方を強く受 け継ぐ」

「家庭内の言語と社会の言語が異なる場合、子供は子供同士のつきあいから社会の言語の方 を強く受け継ぐ」

というのは強固な言語社会学的法則であり、 この 2 つの法則が働く「唐人俘虜」の二世達は父親の話す中国語など、しゃべれたとしても片 言ぐらいでしょう。

しかし、『日本書紀』には 666~670 年に近江や東国に配置された 3000 人を越える百済人は

「百済男女」と明記されており、要するに「家族連れ」だったのであり、百済人同士が家庭内や百済人集落内で日本語で会話するわけがなく、日本で生まれた二世達は日本語と百済語のバイリンガルに育ったはずです。

とすれば、特に 700 年代に入ってから作成された『古事記』や『万葉集』を書いた「言語的外国人」とは、人間の寿命から考えて、このバイリンガルの百済人二世としか考えられません。

当時の「百済語」がどんなものだったかは資料が皆無に等しいため全く解りませんが、百済の故地で現在話されている朝鮮語(韓国語)という言語には、まさに日本語の 2 つの /O/ 母音条件異音に相当する /ɯ/・/ɨ/ という 2 つの母音があります。

<http://www.youtube.com/watch?v=bn7eTacBuOg>

そして、朝鮮語の漢字音で万葉集の歌を発音させると、この通り。

<http://www.youtube.com/watch?v=dIyC4ngtz2w>

これだけの歴史的・言語学的傍証証拠がある以上、『記紀万葉』を書いていた「言語的外国人」とは、森博達氏の言う『日本書紀 α 群』を除き、百済人(朝鮮語話者)だったとしか考えられません。

『記紀万葉』を書いていた「言語的外国人」がヘブライ人だったと主張するのはご自由ですが、私の百済人説以上の歴史的・言語学的証拠が提示できるでしょうか？

いずれにせよ、『記紀万葉』を書いていたのが「言語的外国人」であったということは、歴史学・考古学・朝鮮語学などに一切関係なく、国語学者が蓄積してきた上代特殊仮名遣い才段甲乙書き分け法則を音声学的に分析するだけで証明できるのであり、このことを証明している拙著第六章を理解しなければ、拙論を理解したことにはなりません。

何が何でもこの第六章だけは理解して下さい。

>あと、特に古代史面については、その古代史面での条件異音の応用方法をもっと確立しないといけませんね。何か藤井さんのほうでも気付いた点を、古代史学会の雑誌とかに投稿し

てみてはどうでしょう?非常に短いものでいいと思います。

>たとえば、「卑狗(ヒク)+守(マモリ)」を、早口で話してみる。 >すると条件異音で??「K」音が抜けて「ヒナモリ」に近い発音になる。

>それが魏志倭人伝では「卑奴母利」と記されることとなり、さらにその語が記紀にも「ヒナモリ」見られることとなった。

私の説の歴史学への応用に付いては、また稿をあらためます。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re: 鉾山 神社 古墳 礼金として 50 万円 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 23 日 (水)22 時 27 分 57 秒
返信・引用 編集済

> No.1115[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 薩摩の場合、大山祇神社と鉾山との深い関係は、隼人族と鉾山との深い関係が背後にあることをさらに推測することができます http://samuraiworld.web.fc2.com/rediscover_ooyamajinja.htm > 大山祇神社というのは、瀬戸内海の大三島のものが有名ですが、そもそもこの神は隼人と関係の深い神である事はわかりました。とすると、隼人の地元鹿児島には大山祇神社はない

のでしょうか。調べてみますと、霧島市国分の平山近辺には約 9 つほどの大山祇神社があり、谷山の錫山近くに、宮崎県えびの市のクルソン峡の山の中にもあります。クルソン峡の場合は別にして、国分の平山、谷山の錫山にしろ、すべて鉾山のあるところが共通しています。私の考えでは宮崎から熊本にかけての《クルソン峡》もなにか鉾山と関係していると思っています

>>

隼人との兼ね合いが重要ですね。

4 世紀後半の和泉黄金塚古墳から、景初三年銘の画文帯神獸鏡が出土しています。 また三角縁盤龍鏡も出し、これが7 度偏角方位区画の測量道具ですから、おそらく3 世紀代 の大和の王朝の重要拠点だったはずですが、ここは、添付の図のとおり、桜井茶臼山の真西 にあたる領域で、古来からの大和王族の測量拠点だったはずです。もしかすると4 世紀後半 にも再利用されたかもしれませんが。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/和泉黄金塚古墳> <http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/asahi/collection2-6/index.html> http://blogs.yahoo.co.jp/kawakatu_1205/54511298.html
<http://www.eonet.ne.jp/~temb/9/Tonoki/Tonoki.htm>

その後、先の大彦に象徴される呉・海人系集団の領地になったので、その集団のリーダーが もっていた呉系の景初三年銘の画文帯神獸鏡が出土することになったのでしょう。この鏡は その王族に伝承され続けて、しばらく埋葬されなかったと見えます。

この古墳からまた、南方系の石訓や隼人風紋様の入った楯や、巴型銅器がでてきますが、これ が上記の集団の持ち物で、弥生時代から九州にみえ、4 世紀前半からは畿内や半島方面にも 見えていきます。

おそらく、4 世紀代に天日矛、ツヌガラシトといったあたりが、難波・大和に入れなかったのも、これらの集団の支配がしばらく続いていたことを物語っていたのかもしれない。

4 世紀後半になって、やっと武内宿禰に象徴される集団によって、大和の奪還が計られて、成務朝へと移行します。

景行朝の記載もどちらかというと、その集団の伝承を配置した節がありますね。あくまで大(帯)彦は、その南方系集団を象徴する系譜面だけの名称だったのかもしれない。大彦の

子孫には、南方系海洋民らしき氏族が複数みえます。

『筑志国造』阿倍臣と同祖の大彦(オオヒコ)命の五世の孫の田道(タミチノ)命。以上が、安倍氏 系と思 われる国造の 大彦命の後、許曾倍朝臣・名張臣・坂合部首・久々智・伊我水取・難波忌 寸・会加臣。○大鳥膳臣ら。(付会)大彦命の後、膳臣・宇太臣・松原臣・他田 。

坂合部首や阿倍氏は、後代まで難波・筑紫・北陸に勢力を張る航海民で、久々智も難波方面 にみえますが、ククチヒコとみなせれば狗奴国の集団と見えるでしょう。

イヨがこの南方系集団つまり狗奴国に破れた可能性を感じます。それで大和の王族はすっかり失権してしまった。

立て直しまでに、出雲や吉備・九州あたりで勢力を練っていた、そんな感じがします。

その間の系譜が、皇族には日向や出雲の伝承として残っており、大和には残っていなかった ので、先のような記紀記載になったのかもしれない。

Ads by Google 鉾山 神社 古墳 礼金として 50 万円 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 23 日 (水)20 時 33 分 22 秒 返信・引用

「古代人がそのような遠距離を測量できたことはとても信じることができない」と 未だに考えている人も多いのではないかと危惧しています。しかし、常識をはるかに超えた 驚愕する事実にもかかわらず、今のところ、誰も否定することができません。この HP を開設 して皆様からご意見を求め、一年半以上経過していますが、未だに何の反論もありません。鼻 で笑ってこのページを読もうともしない人が多くいることも良く知っています。そこで、H SCP に対して理論的な反論をいただいた方には礼金として 50 万円を差し上げることに しました。ぜひ参加してください。もちろん、その反論は正しい理論的な裏付けが必要ですが どなたでも参加できます。(2012.2.13 礼金を変更)<http://w312.k.fiw-web.net/hscp/>

薩摩の場合、大山祇神社と鉾山との 深い関係は、隼人族と鉾山との深い関係が背後にあるこ とをさらに推測することができます http://samuraiworld.web.fc2.com/rediscover_ooyamajinja.htm 大山祇神社というのは、瀬戸内海の大三島のものが有名ですが、そもそもこの神は隼人と関 係の深い神である事はわかりました。

とすると、隼人の地元鹿児島には大山祇神社はないの

でしょうか。調べてみますと、霧島市国分の平山近辺には約9つほどの大山祇神社があり、谷山の錫山近くに、宮崎県えびの市のクルソン峡の山の中にもあります。クルソン峡の場合 は別にして、国分の平山、谷山の錫山にしる、すべて鉾山のあるところが共通しています。私の考えでは宮崎から熊本にかけての《クルソン峡》もなにか鉾山と関係していると思っています

神社配置は表面的に良く見える神社配置と、その裏に、巧みな神社配置によって鉾山位置も示す二面性を持っている。<http://w312.k.fiw-web.net/hscp/> 矢印で印した先が神社の位置です。神社間のほとんどは極めて正確な直角で結ぶことができます。

神社群の持つ基本法則 1.神社群はHSCP(二つの神社のペアが作る線の端末から直角方向に引いた線の多くが同一の収斂点を持つ規則)または直角収斂則と呼ぶ規則で配置されている。(このときの 収斂点を神社群中心と呼ぶ) 2.神社群中心には神社が存在する場合が多いが、そこに神社がない場合があり、その代わりに遺跡(立石、いわくらを含む)、水源、尖った山の山頂、洞窟、滝などがある。(近年話題の 多くなっているパワースポットと一致する場合もある)。 注;甕岳(宮崎県えびの市)のように、頂上が尖っていない山でも、神社群中心がある場合もある。 3.神社群の配列規則は北海道から沖縄まで同じ規則で配置されている。 4.神社群は互いにHSCP 則を満足する線でチェーン状に結ばれていて、北海道から沖縄、 島嶼まで切れ目なく結ばれている。 5.神社群は神社間を結んだ線が作る干字状パターンで古富士ポイントまたは野迫川ポイント(奈良県吉野郡野迫川村の山中にある)の一点を指している。富士山や野迫川ポイント を目視できない見通し外距離にある神社群でも同一規則を持つ。 6.神社群の位置を決める角度の精度は1度以下(実力は ± 0.2 度)と高い精度を持っている。 神社配列規則から得られた成果の一部 1.神社の配置からは、現存する神社のほとんどは縄文時代にその位置が決まっていたと考えざるを得ない。しかし、その位置に最初から現在のような神社があったとする証拠はまだ 見つかっていない。 2.神社配置規則から見た歴史観は現在の常識的な歴史観から大きく乖離している。しかし、 数学的に見ると全く矛盾はない。これはこれまでの文献や発掘による考古学的手法の限界 を示している。 3.島根県の荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡は神社群中心の位置にあり、古富士線も持つ。 4.日本全国にある鉾山位置の多くは神社配置規則の中に組み込まれている。神社配置は表

面的に良く見える神社配置と、その裏に、巧みな神社配置によって鉾山位置も示す二面性を持っている。例えば、島根県の石見銀山大久保間歩の近傍にも神社群中心がある。 注;石見銀山にある神社群中心の位置は世界測地系で表すと(釜谷間歩に近い)

6.東日本にある石器時代住居跡と国から指定されている配石遺構のほとんどは神社群中心の位置にある。したがって、そこは住居跡ではなく古代の祭祀場か鉾山の位置を示す標識 であったと断定できる。

ストーンサークルの位置は古富士を基本とした干字状パターンの中心端末でもあるのです。ここからは目視できない古富士の位置を参照しています。信じられないようなことですが、ここでも古富士の位置を基本としています。このような理由から、残念なことに、神社の発祥 がどこにあるかについては、まだ決定的な証拠を持ち合わせていません。

、6のストーンサークルの位置は周辺の神社に対して見ると、HSCPの規則が成立し、礼文 島にあった知床稲荷神社と同じように神社群中心の位置にあるだけでなく、知床稲荷神社 からストーンサークルに引いた線は、後に説明する古富士線を中心とした、干字状パターン の上部左側の線に相当しているのです

「古代人がそのような遠距離を測量できたことはとても信じることができない」と未だに考 えている人も多いのではないかと危惧しています。しかし、常識をはるかに超えた驚愕する 事実にもかかわらず、今のところ、誰も否定することができません。このHP を開設して皆様 からご意見を求め、一年半以上経過していますが、未だに何の反論もありません。鼻で笑って このページを読もうともしない人が多くいることも良く知っています。そこで、HSCP に 対して理論的な反論をいただいた方には礼金として50万円を差し上げることになりました。ぜひ参加してください。もちろん、その反論は正しい理論的な裏付けが必要ですがどなたでも参加できます。(2012.2.13 礼金を変更)

>「ワケ」や前期屯倉の世界。…石と鉾石を分けること 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年 1月 23日(水)20時 14分 28秒 返信・引用

藤原氏、また秦氏と 当初から深い結びつきのある和気氏 、

<http://www.mikkyo21f.gr.jp/kukai-ronyu/nagasawa/new-13.html>

4~6世紀、朝鮮半島や中国などから渡来し、農耕・土木・養蚕・機織・鉱山・治水・製銅・精錬・冶金・工芸・酒造・製塩・船運等の技術で富を築き、経済力を背景にヤマト王 権以降の朝廷や西日本各地の地方豪族に大きな影響力をもった渡来系氏族のサポートがあった。また空海には、彼らがもたらした宗教が日本化するかたちで陰に陽に影響を与えてい る。

空海と最も深いかわりをもったのは渡来系氏族の代表格でもある秦(はた)氏であっ た。その秦氏とは、空海の時代、婚姻等を通じて親縁の関係にあった藤原氏、また秦氏と当初 から深い結びつきのある和気氏、さらに空海の母の出自の阿刀(安斗、阿斗、安刀、安都、あ と)氏、そして高野山麓の丹生(にう)氏などとの縁も無視できない。

「弓月」国は、中央アジア、今のカザフスタン東部にあるバルハシ湖の南方に、1~2世紀に存 在したといわれる小さなキリスト教国で、中国語でクンユエといわれる。クンユエには「ヤマトウ」(「神の民」の意)という地名があり、「ヤマトウ」が「やまと」になったともいう。この

「弓月」国の民が、実は景教徒、すなわち空海が留学先の長安で見聞したはずの大秦寺の、ある いは華嚴・密典・サンスクリットの師般若三蔵に聞いたはずの、ネストリウス派キリスト教 の信徒たちであったという。ネストリウス派は、431年エフェソス公会議で異端とされ、ローマからシリア・ペルシ ャへ、そしてシルクロードを経て中国に流浪するのだが、ユダヤ教の色彩が濃く、「弓月」国の 景教徒は古い頃イスラエルを追われた初期のユダヤ系キリスト教徒ではないかともいわれ ている。

秦氏の奉ずる八幡神(やはたのかみ)は、後に弓矢神すなわち武神・軍神となったが、その 原初は銅や鉄を産する神だった。民俗学者柳田国男はこれを鍛冶の神と言ったが、熊手八幡 宮の八幡神は秦氏の治めるこの土地の(領有の)神であるとともにお産の神(産神)であ ったと思われる。八幡宮はみな応神天皇を主祭神とし神功皇后(応神天皇の后)と比売神 (ひめかみ、主祭神の娘等)をとともに祀るのだが、神功皇后が応神天皇の母であることから母子神ともいわれる。 さて秦氏が奉じた八幡神についてである。八幡宮の総本社である宇佐神宮のある大分県宇 佐市のあたりは昔の豊前すなわち「秦王国」で、渡来した秦氏の民が多く住むところであった。

「秦王国」には、常世信仰や山岳信仰や弥勒信仰を含む新羅系仏教が伝わっていた。新羅には 古くから、熊野信仰につながる擬死再生の常世信仰があった。太子や花郎(ふあらん)と呼 ばれる山岳修行者は神が降臨した依り代とみなされ、鉱脈を探索するために山に入り、洞窟 (=穴)などに籠って斎戒修行を行った。そこに仏教の弥勒下生信仰が重なり、彼らに弥勒 菩薩が降臨(憑依)することから、彼らは弥勒の化身だといわれるようになった。 豊前には英彦山という日本の代表的な修験の霊山がある。この英彦山には、弥勒菩薩の浄 土(兜率天)内院の四十九院に付会した四十九窟がある。その英彦山と、英彦山で修行し

「法医」とまでいわれた法蓮という僧(辛嶋氏系宇佐氏の氏寺・虚空蔵寺の座主や宇佐八幡 宮の神宮寺・弥勒寺の別当)と、宇佐八幡宮の八幡大菩薩にかかわる弥勒信仰の伝承には、 秦氏がもたらした新羅の仏教が大きく影を落としていた。

和気氏は、河内国内に展開した秦氏の鍛冶・鑄造の神鐸石別命(ぬてしわけのみこと、垂仁 天皇の皇子)を祖とする。鐸石別命は死後、信貴生駒山地最南端の鷹巣山(高尾山)に葬ら れ、河内の秦氏はこれを高尾社として祀った。後に、備前国の磐梨(いわなし)郡石生(いわ なし)郷を本拠とする磐梨(いわなし)氏(通称、和気氏)が、これをその地に遷座し氏神 とした。

和気清麻呂は本名を磐梨別公(いわなしわけのみみ) [といい、磐梨(いわなし)氏が本 姓、和気清麻呂とは通称である。「わけ」とは「分別する」の意味で、石と鉱石を分けること。そ の「わけ(和気)」氏の本拠地が石生郷で、石生(いわなし)とは石成とも書き、鉱石が金属 に成る(変化する)ことである。通称和気氏は古くからこの地で鍛冶・鑄造(金属の精 錬)を得意として栄えていた。明らかに秦氏の技術者集団とのかかわりがそこに見える。秦氏は備前国のこの地域に早くから展開していた。 ちなみに、清麻呂が、道鏡にからむ宇佐八幡の神託事件で、称徳天皇の勘気に触れて配流さ れた大隈国といい、称徳の死後名誉回復して国司を命ぜられた豊前国とい い、いずれもこの 国に渡来してほどこない秦氏の一族が一番早く勢力を伸ばした九州の拠点地である。しかも清麻呂は、山背国の秦氏がかかわる「高尾山」寺(高雄山寺)を復興している。

「狩場」とは、山の民が狩猟をする場所などと思われがちだが、鉾山とくに銅山のことをいう言葉である。山の民(例えばサンカなど)の隠語だともいう。丹生家信は、宣化天皇(467~539)を祖とする丹治氏から、延暦12年(793)丹生氏に養子として入り丹生総神主家を継いだことが伝えられているが、丹治氏といえば秩父の銅(和銅開珎、708)で知られ、本拠地を河内国丹比郡とし、中央の大伴氏や藤原氏や紀伊国の紀氏にも根を張っていた。今の秩父地方を開墾した「武信」という人は、この家信の子だという説もある。狩場明神については従来この地一帯の土豪の首領だという説があった。興味深いのは、その土豪とは坂上(さかのうえ)氏、首領とは犬甘(いぬかい)蔵吉人のことで、犬甘蔵吉人を犬飼蔵人と読み、坂上氏の先祖である阿智使主(あちのおみ)のあとに蔵人の名が見えるところから、坂上氏の人だという推定である。『紀伊続風土記』には「犬甘蔵吉は阿智使主の後蔵人と見ゆえたる人にて応神天皇廿年阿智使主と共に帰化せしむを同廿二年の事当社へ寄せるたまへるなるへし」という。坂上氏といえば、桓武・平城・嵯峨の三天皇政権の軍人のトップとして蝦夷を征伐し「菟子の乱」を鎮圧した征夷大將軍坂上田村麻呂を思い出すが、坂上氏は紀伊国伊都郡から紀ノ川北方の今の橋本市一帯を本拠とし、丹生都比売神社には(氏子長者として)財政や神馬の管理などで信助を惜しまなかったといわれている。ちなみに、空海と坂上田村麻呂は同じく嵯峨天皇のブレンであった。

「狩場」とは、山の民が狩猟をする場所などと思われがちだが、鉾山とくに銅山のことをいう

言葉である。山の民(例えばサンカなど)の隠語だともいう。丹生家信は、宣化天皇(467~539)を祖とする丹治氏から、延暦12年(793)丹生氏に養子として入り丹生総神主家を継いだことが伝えられているが、丹治氏といえば秩父の銅(和銅開珎、708)で知られ、本拠地を河内国丹比郡とし、中央の大伴氏や藤原氏や紀伊国の紀氏にも根を張っていた。今の秩父地方を開墾した「武信」という人は、この家信の子だという説もある。狩場明神については従来この地一帯の土豪の首領だという説があった。興味深いのは、その土豪とは坂上(さかのうえ)氏、首領とは犬甘(いぬかい)蔵吉人のことで、犬甘蔵吉人を犬飼蔵人と読み、坂上氏の先祖である阿智使主(あちのおみ)のあとに蔵人の名が見えるところから、坂上氏の人だという推定である。『紀伊続風土記』には「犬甘蔵吉は阿智使主の後蔵人と見ゆえたる人にて応神天皇廿年阿智使主と共に帰化せしむを同廿二年の事当社へ寄せるたまへるなるへし」という。坂上氏といえば、桓武・平城・嵯峨の三天皇政権の軍人のトップとして蝦夷を征伐し「菟子の乱」を鎮圧した征夷大將軍坂上田村麻呂を思い出すが、坂上氏は紀伊国伊都郡から紀ノ川北方の今の橋本市一帯を本拠とし、丹生都比売神社には(氏子長者として)財政や神馬の管理などで信助を惜しまなかったといわれている。ちなみに、空海と坂上田村麻呂は同じく嵯峨天皇のブレンであった。

丹生一族と秦氏は、表裏一体の関係にあったのではないだろうか。やがて、水銀の鉾床が次第に掘り尽くされ、水銀の需要も減少するにつれて、秦氏は技術力・経済力を背景にさまざまな産業を興し、朝廷の氏族を支える有力なサポーターとなり、山背国太秦に本拠を構えるようになる。

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013年1月23日(水)18時27分45秒 返信・引用

> No.1111[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 鸕鷀が神功皇后とすると、「開化の曾孫娘の神功を王とした。」が気になる。 >>
- > 『新唐書』日本伝
>
- > 仲哀が死に、開化の曾孫娘の神功を王とした。次は應神、

おそらく中国側は、神功を皇后ではなく、王とみなしていたので、その出自を記載したのだと

思います。「欽明之孫女雄古立。」のケースと同様ですね。皇后紀で伝わっていたはずなのですが、王とみなした背景は如何。神功は近江の息長氏系で開化の子彦坐王の系譜に加えられていますね。

妃:息長水依比売(おきながのみずよりひめ。天之御影神の女)
丹波道主王(たにわのみちぬしのみこ、旦波比古多多須美知能宇斯王)
日葉酢媛命(垂仁天皇の皇后(後)・景行天皇の母)の父・三河穂別の祖

この丹波道主王が、先日話したように、タジマモリで、天日矛系です。神功の母も天日矛系で、結局その辺を意

識しています。

タジマモリは、垂仁妃を出しますが、垂仁死後にその妃である自分の娘に常世国の長寿の菓子の半分を差し出します。皇帝の不老長寿を願うものです。

ここで、女帝が見えてきます。先の卑弥呼死後の開化・崇神=垂仁後の女帝、つまりイヨのことです。

そうするとイヨの出自は、開化系だとの認識があったでしょう。これが開化の子孫・神功のモチーフになります。

開化は先日のように「ワカ」王統の創始者です。「天若彦」のことで、中臣氏等の祖。

この天若彦が、大国主の子でアジスキタカヒコの妹・高媛と結婚して復命しなかったので、すぐ殺されることになります。

その若彦=開化の妃が、前王朝の孝元妃だった物部系イカガシコとなります。

そうすると大国主は物部氏あるいは葛城系ワニ氏のこととなり、ニギハヤヒや難升米とも言えるのですが、さらにいえば中国系のトウ氏や配下の月氏です。

それで、開化が新たに半島・帯方郡方面から派遣された派遣官だった可能性を感じます。そのまま在地に根付いた大国主と結合して復命しなかった。

それでさらに、崇神等が任那方面からやってきて開化を殺し、イヨを女帝として擁立しながら、実権を崇神が握り続ける。

そのうちにイヨが成人したところに崇神=垂仁が死ぬのですが、垂仁死後に、山城の武埴安彦の反乱が起こります。これは崇神・垂仁を暗殺しようとした集団で、神武紀にみえる多芸志比古。出雲・九州風によめば「みみ」がつきます。タギシミニ(多芸志美美命)

★『書紀・旧事』武石彦奇友背命(たけしひこくしもせのみこと)。★『古事記』第四代懿德天皇の第二皇子、多芸志比古命(タギシヒコノミコト)は、血沼之別(チヌノワケ)、多遲麻(タチマ)の竹別(タケノワケ)、葦井(アシヰ)の稲置の祖。兵庫県城崎郡竹野町竹野馬場町、鷹野(タカノ)神社。

<http://gejirin.com/src/Ta/tadima.html>

武石彦奇友背命・多芸志比古が武埴安彦となるわけですが、石=埴輪の概念がみえてきます。新漢人系のゾグド文化の石人が人形埴輪となるのは6世紀でしょう。

先の半島系の丹波道主・タジマモリ系の祖になりそうですね。

神武の神話では、天皇死後に反乱したこの半島系タギシミニを、南方航海民・神八井耳系多氏の大彦・子・武ヌテ河=ヤマトタケルが殺す構図です。ヤマトタケルと物部の方位ラインは弥生時代以来の正方位でした。

そして、討伐後に垂仁に続いて景行(大帯彦=大彦)が立ちます。イヨ死後の270年代~300年ごろでしょうか。するとやはり先日のとおり日向系神武は、神八井耳・大彦系となりますね。

一時期大和に居座って、櫛山古墳とか、鳥の山とか、椿井大塚山の画像鏡とか、いろいろ南方航海民系の遺物を大和に残します。狗奴国の久々知彦の系統ですね。兵庫や伊都を拠点とする。円墳。

その後、再度半島系が大和を奪還して、伊勢・竹内街道を作り、武内宿禰の時代へと移行していくのですが、三角縁1度偏角方位区画として、東海方面へ伸びるその出土古墳等をみていくと、だいたい4世紀半ば~後半になるんですね。再度その区画の古墳を列記しておきます。

手古塚古墳(千葉県木更津市 前期 仿製鏡) 造山古墳(島根県 前期) ※上記2古墳は仿製・同範鏡 真土大塚山古墳(神奈川県平塚市 3世紀末~4世紀半ば) 甲斐銚子塚古墳(山梨県南部 4世紀後半 仿製鏡) 東之宮古墳(愛知県犬山市 4世紀初頭 前方後方墳 仿製鏡) 花岡山古墳(岐阜県大垣市 4世紀後半 中国鏡) 一輪山古墳(岐阜県 前期 円墳) 円満寺古墳(岐阜県海津市 4世紀中葉~後半 中国鏡) 赤門上古墳(静岡県 4世紀後半 佐味田宝塚古墳と同

范鏡) 新豊院山 2号墳(静岡県 前期 中国鏡 箱型木棺 ラインにズレあり。) 椿井大塚山古墳(京都府 前期)

鴨都波 1号墳(奈良県御所市 4世紀中葉 円墳 仿製鏡) 中小田 1号墳(広島市東区 前期 中国鏡) 佐味田宝塚古墳(奈良県 4世紀末~5世紀初 家屋文鏡 三角縁神獣鏡破片 車輪石) 奥津社古墳(愛知県愛西市 中国鏡 西山古墳(香川)と同范鏡)

その前の7度偏角のときは、魏年号銘を含めて3世紀後半。

■魏年号銘鏡の出土古墳 神原神社古墳(島根県雲南市加茂町 景初三年銘) 竹島御家老屋敷古墳 (山口県周南市 正始元年) 森尾字市尾・森尾古墳 (兵庫県豊岡市 正始元年)

■年号銘鏡以外の三角縁出土古墳 桜井茶臼山古墳(奈良県 前期前半)

椿井大塚山古墳(奈良県 前期前半) 西山古墳(香川県善通寺市多度津町 前期前半) 白鳥古墳(広島県東広島市高屋町) 西求女塚古墳(兵庫県神戸市灘区 3世紀後半) 赤塚古墳(大分県宇佐市 3世紀前半) 手古塚古墳(千葉県木更津市)

その間に挟まる呉年号銘鏡+半円方形帯・画紋帯神獣鏡の方位区画の出土古墳時期は下記 のとおり。

●安倉高塚古墳(兵庫県)(半円方形(格)帯神獣鏡) この「赤鳥七年」は 244年の呉年号です。

●鳥居原狐塚古墳(山梨県)(半円方形帯神獣鏡)

柳本天神山古墳 奈良県天理市 画文帯神獣鏡 3世紀後半 椿井大塚山古墳 京都府相楽郡山城町 画文帯対置式神獣鏡 前期 宇那木山2号墳 広島県佐東町 画文帯環状乳神獣鏡 前期(出現期) 外之隈1号墳 福岡県朝倉郡朝倉町 画文帯環状乳神獣鏡 前期(出現期) 迎平6号墳 熊本県一の宮町 画文帯環状乳神獣鏡 後期(円墳) 国越古墳 熊本県不知火町 画文帯環状乳神獣鏡 後期

関連して

櫛山古墳 4世紀後半

鳥の山古墳 4世紀末

ただ、こうみると、呉鏡系の方位区画は、ちょっとスパンが長くて、うまく整理できない感じ です。3世紀末に一度大和に進出したようにみえますが、大和を支配するほどの大きな影響 力を与えたようにも見えないですね。

大和・柳本古墳群が3世紀前半~末、佐紀楯列や馬見は4世紀末~、河内は5世紀~
その間に挟まるはずの4世紀前半の王族の古墳はどこへいったのでしょうか……。

萱生古墳群あたりか。

ちょっと4世紀前半は、文書記録も古墳も少ないとなると、いよいよ謎が深まりますね。大 彦・ヤマトタケルに象徴される時代ではあるのですが、中国文献にもこの時代の記録がほとんどないですね。さきのとおり武内宿祢が入ってくるのが4世紀後半として、イヨの時代が 3世紀後半。

その時代の大和の文化に変化が少なく、ほとんど見極めが着かないという線がひとつの理由でしょうか。

土器片年だと布留式の初期になりそうですね。布留1式あたりかと思いますが、検索しても 該当古墳ができません。1式が箸墓。 <http://www.geocities.jp/thirdcenturyjapan/doki/doki.html>

年代推定がおかしいとすれば、大和・柳本古墳の年代を新しくするとか、佐紀を古くするいう手がありますね。

あるいは遷都したとか、崇神時代の疫病で大和の皇族は死に絶えたとか…。

西都原古墳群あたりは、ずっと3世紀から6世紀まで継続していた様子が伺える点で重要で す。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/西都原古墳群>

その時代を象徴する景行天皇は、婚姻も業績も吉備・日向が主体ですね。最後に近江に入っ て、次の成務・吉備津彦・武内が近江に構えるのは、全体的には西日本系の話の延長線上に あるといえるでしょう。

あるいは、皇族を四道将軍として、全国に分散したので大和にその時代の大型古墳が見えな いという線はどう でしょうか。

「ワケ」や前期屯倉の世界。

景 ケイ 景教 景行天皇 圭ケイ 日かげの意 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 23 日(水)12 時 16 分 53 秒 返信・引用

景行天皇(6) 筑後の国・日高見の国. 秋 7 月 4 日に、筑紫後国の御木(みけ)に着い て、 高田の行宮に滞在 しました。そこに倒れた木がありました。長さは 970 丈。(1.7m×970= 1649m) 群 臣 は そ の 木 を 踏 ん で 往 来 し ま し た。<http://mblog.excite.co.jp/user/himeluna/entry/detail/?id=16438307> 朝日が当たるとその影は杵島(きしま)の山に届き、夕日が当たると、阿蘇山に届きました。」 と

形声。京とは、高い丘に建てた家を描いた象形文字。。田かう大きい意を含む。景は「日+(音 符)京で、大きい意 に用いた場合は京と同系。日かげの意に用いるのは、境(けじめ)と同系 で、明暗の境界を生じること。
<http://homepage3.nifty.com/giboshi/kaijitbl037.htm>

かげ【影/景】とは。意味や解説。《「陰」と同語源》1 日・月・星・灯火などの光。「月の一」「木 陰にまたたく灯火(とも しび)の一」2 光が反射して水や鏡などの表面に映った、物の 形や色。「湖面に雲の一を落とす」3 目に見える 物の姿や形。「<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/39429/m0u/>

「坐」 太陽の光 「」境(かざる) 影 景教 | 日本古代史掲示板(荊の紀

氏)<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2106>【境】「境」は言を以て神に祈り、その感応として「音なひ」のあらわれ る意で、... 日かげ の意

に用いるのは、境(けじめ)と同系で、明暗の境界を生じること。... 神を祭った後に 埋納し たと思われる大量 の壁や圭(末頁の写真 9 を参照)を発見した。 日影をはかる土圭ドケイ (日時計の柱)

景行天皇(けいこうてんのう、垂仁天皇 17 年(紀元前 13 年)- 景行天皇 60 年 11 月 7 日(130 年 12 月 24 日)) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%99%AF%E8%A1%8C%E5%A4%A9%E7%9A%87> 和風諡号 は大足彦忍代別天皇(おおたらしひこおしろわけのすめらみこと)・大帯日子淤 斯呂和氣天皇(古事記)。常陸風土 記には大足日足天皇。播磨風土記には大帯日子天皇、大 帯日古天皇、大帯比古天皇。日本武尊(やまとたけるの みこと)の父。

「タラシヒコ」という称号は 12 代景行・13 代成務・14 代仲哀の 3 天皇が持ち、時代が下って 7 世紀前半に在 位したことが確実な 34 代舒明・35 代皇極(37 代斉明)の両天皇も同じ称 号をもつことから、タラシヒコの称 号は 7 世紀前半のものであるとして、12,13,14 代の称号は

後世の造作と考える説があり、景行天皇の存在性には疑問が出されている。記紀の記事は多 くが日本武尊(やま とたける)の物語で占められ、残るのは帝紀部分のみになり史実性に は疑いが持たれるものの、存在を仮定す れば、その年代は 4 世紀前半かと考えられている。 4 世紀

弓月王国にいたユダヤ人キリスト教徒(景教徒)の秦氏 は、4 世紀に来日して赤穂の坂越 にまず上陸し、のち 京都の太秦に移ったという <http://www.ican.zaq.ne.jp/rekishi/episode17.html> 川守田英二によれば、イザヤは、 「絹の道」3・4 世代かけて、東漸し日本にたどり着いたとい う。ケン・ジョセフによれば、弓月王国にいたユダヤ 人キリスト教徒(景教徒)の秦氏は、 4 世紀に来日して赤穂の坂越にまず上陸し、のち京都の太秦に移ったとい う。

景 影/景 意味日の光、影、景色、風景、様子、明るい、高尚である、仰ぐ、という意味がある。また慶と通じ

て、めでたい、幟と通じて、うちかけ、京と通じて大きい、勅と通じて強い、という意味がある。〔説文解字・卷七〕に「光なり」とある。字形形声。声符は京。<http://dic.nicovideo.jp/a/%E6%99%AF> 景を声符とする漢字には、憬、影などがある。景を構成要素とする会意字に顥などがある。

顥 訓読み:しろい <http://www.weblio.jp/content/%E9%A1%A5> 須 漢音 : シュ(表外)…主? ?で「口の上の須(ひげ)なり」とある。髭は その俗字。 白須 白須が起源(ルーツ)である、清和天皇の子孫で源姓を 賜った氏(清和源氏)武田氏流がある。ほか頼政流、神保氏などにもみられる。語源は、白い砂地、鹿児島は火山灰地、奈良は河 原からきている。地名としては、山梨などに 存在 ...<http://myoji-yurai.net/searchResult.htm?jsessionid=F18003834D53454DFE1F58694F6658B4?myojiKanji=%E7%99%BD%E9%A0%88>

白須八幡宮 縁起祭神 仁徳天皇・応神天皇・神功皇后の三柱若宮白須八幡宮は、伝わるところによりま すと、人皇 71 代後、冷泉天皇の時、甲斐源氏の祖新羅 三郎源義光朝、任に当国に就きし際、 祀官石田道磨朝臣も時の祭祀 ...<http://blogs.yahoo.co.jp/meisuibnosato/19581194.html> 応神天皇・神功皇后 (157)神武天皇の東征、神功皇后の外征、応神天皇の誕生と都遷り. 登場人物: ...神武 天皇から景行天皇までの 12 代は、大和の国の郡に都を建てて、都を他国へ遷す ことはありませんでした。
<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~michimar/heike/1/157.html> しかるに、成務天皇元年(景行天皇 58 年の誤りか)に、近江の国・志賀郡に都が遷りました。

仲哀天皇 2 年には長門の国に遷って、豊浦郡に都を建てました。そこ(実は筑紫の行宮)で天皇が死んだので、後の神功皇后が天皇の位につき、女帝として、鬼界が島、朝鮮王朝の高 麗、内外モンゴル・中国東北省から朝鮮北部に及んだ国「契丹(けいたん)」までを征服しました。

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 23 日(水)08 時 50 分 26 秒 返信・引用
> No.1110[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

壺輿が神功皇后とすると。「開化の曾孫娘の神功を王とした。」が気になる。

> 崇神の件は、先に書いたとおり、崇神は 247 年以降、269 年ごろまでで、先のヒミコの ケースと同様に、イヨとの共立という統治形態をとり、「男王」が少なくとも 10 年程度はい ないと統治は無理で、崇神の統治年代は 68 年ですが、1 千支ひいて 8 年と考えたとおりで すが、倭人伝の「男王」は確かに内乱後の 248 年にイヨが たった記載を考慮すると、開化だ った可能性が高くなりますね。

『新唐書』日本伝

仲哀が死に、開化の曾孫娘の神功を王とした。次は應神、次は仁徳、次は履中、次は反正、次 は允恭、次は安康、次は雄略、次は清寧、次は顕宗、次は仁賢、次は武烈、次は継体、次は安閑、 次は宣化、次は欽明。

欽明之十一年、直梁承聖元年。次海達。次用明、亦曰目多利思比孤、直隋開皇末、始與中國通。 次崇峻。崇峻死、欽明之孫女雄古立。次舒明、次皇極。 其俗椎髻、無冠帶、跣以行、幅巾蔽後、貴者冒錦、婦人衣純色裙、長腰襦、結髮于後。至煬帝、 賜其民錦線冠、飾以金玉、文布為衣、左右佩銀?、長八寸、以多少明貴賤。

> 開化も在位 60 年で信憑性がないのですが、ただ春日宮にワニ氏が移動した件があって、 もしかするとイカガシコの再婚やライン面から考えても 1 年程度、開化の時代があった可能 性を感じるんです。その前の王朝を倒した可能性があります。 >

> それで崇神は、「男王」ではなく、先の魏志にみえる次官の「彌馬+升 あるいは 彌馬+ワ クキ=ワケ」として摂政のようなシャーマン女王より一段低い身分にあったとみなすべきか もしれません。ただ、実質的には実権を握っていた。 >

> 後の中国書籍にもイヨ以後の「男王」が見えますが、これは崇神ではなく、景行、成務あたり ではないでしょうか。

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 23 日(水)03 時 26 分 54 秒 返信・引用
編集済

> No.1109[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > (247 年)頃に卑弥呼が死去、後に「男王が立てられる」は崇神天皇でないか。
- > 崇神の年代は 258 年まで >
- > 泰始元年(265 年) - 倭の遣使が重ねて入貢。『晋書』邪馬台国からの最後の入貢。
- > 臺與 30 歳
- > 魏志倭人伝によると、
- > 女王卑弥呼が死ぬと男子の王が立てられた。邪馬臺國の人々はこれに服さず、内乱状態に なり 1000 人が死んだ。このため再び女王が立てられることになり、卑弥呼の親族の 13 歳の 少女の臺與が王となり、国は治まった。正始 8 年(248 年)に邪馬臺國と狗奴国間の紛争の 報告を受けて倭に派遣された帯方郡の塞曹掾史張政は、檄文をもって臺與を諭した。 >>>> 邪馬台国の「弥馬+升もしくはワクキ」の官職も、崇神「ミマキイリヒコ」「ワケ」との対 応を考えるべきでしょう。 >> 難升の「升」はそこにかかってきます。 >>>> そうすると、崇神の年代は 258 年までのほうが妥当かもしれません。 >>>> 孝元妃・ヒミコが247年に死んで、その後「男王」開化がたつも、収まらず、イヨが引き継ぎ269年ごろまで治めたのかもしれませんが。孝元妃？>>

>> 開化は統治が60年で、業績なしですが、つまり1千支分だけで1年以内に死んだか排された可能性を感じます。 >>

崇神の件は、先に書いたとおり、崇神は247年以降、269年ごろまでで、先のヒミコのケースと同様に、イヨとの共立という統治形態をとり、「男王」が少なくとも10年程度はいないと統治は無理で、崇神の統治年代は68年ですが、1千支ひいて8年と考えたとおりですが、倭人伝の「男王」は確かに内乱後の248年にイヨがたった記載を考慮すると、開化だった可能性が高くなりますね。

開化も在位60年で信憑性がないのですが、ただ春日宮にワニ氏が移動した件があって、もしかするとイカガシコの再婚やライン面から考えても1年程度、開化の時代があった可能性を感じるんです。その前の王朝を倒した可能性があります。

それで崇神は、「男王」ではなく、先の魏志にみえる次官の「彌馬+升 あるいは 彌馬+ワク キ=ワケ」として摂政のようなシャーマン女王より一段低い身分にあったとみなすべきかもしれません。ただ、実質的には実権を握っていた。

後の中国書籍にもイヨ以後の「男王」が見えますが、これは崇神ではなく、景行、成務あたりではないでしょうか。

それで倭の五王の年代推定を、考え直しています。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/倭の五王>

倭王讃が、仁徳(おおささぎ)とすると、在位87年から1千支60年をひいて27年が在位期間。それで438年に讃が亡くなって珍になった記載があるので、逆算して411年ごろ即位。413年にはじめて朝貢します。

次の珍が438年から443年までの5年間の在位で、これが反正(たじひわけ)の在位5年に対応します。ただ、次の履中天皇も在位6年で似たような感じですが、名前の的には反正の「じ」音が珍に近い。

続く済が允恭天皇で、記紀では453年まで。

460~62年までに、済の子・興が立ちます。これが允恭の子・安康天皇とされます。ただ 記紀では454~56年までの在位となり、いささか短いですね。

そして477年前後に興の弟・武が立ちますが、同じく允恭の子で安康の弟・雄略天皇がいるので、彼を武とみなす見方が一般的です。

ただ雄略の記紀の456年~479年までの在位とズレがありますね。 478・9年の武の朝貢には、雄略はギリギリ対応してます。

それで問題は雄略の年代です。雄略の在位年代を 477 年~79 年の 2 年前後とするか、502 年の武まで伸ばすか…。つまり、清寧から武烈までも雄略とする…。あるいは記紀のとおり 456~479 年にするか。どちらにしても在位は 23~5 年前後。

逆に先の讃=仁徳の前の応神の在位が 41 年ですから、讃の即位予想年 411~13 年から 41 年を引いて 370~72 年前後に即位した計算になるでしょう。

百済の(近)照古王(346~375 年)時代に、下記のような応神への献上記載があります。

『古事記』では、応神天皇の治世に百済王照古王が馬 1 つがいと論語などの書物を応神天皇に献上し、阿知吉師(あちきし)と和邇吉師(わにきし)を使者として日本に遣わした、とされている。この照古王が年代から近肖古王に比定されているが、第 5 代の肖古王とする説もある。『日本書紀』にも、肖古王の名があるが、年代からは近肖古王を指すと考えられている。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/近肖古王>

そうするとやはり応神の即位は 370 年前後でしょうか。ここで東漢氏・文氏の祖も派遣されてくる。

その前が神功・仲哀で先のとおり、崇神・イヨ(卑弥呼)として省くと、その前の成務天皇

が、吉備津彦=武内宿禰で半島系になります。330 年~70 年代あたりの歴史でしょうか。 三角縁-1 度偏角方位区画。天日矛・タジマモリ。

その前が景行天皇=大彦で、大和から北陸・東国に勢力を持ち、先の吉備津彦系の関西・九州勢力と張り合っていたはずです。

230 年~370 年代くらいまでの歴史でしょう。南方呉・海人系の集団で、ある時期に大和に入り、しばらく支配していたはずです。呉年号銘・画像鏡方位区画。

その前が先のイヨ・卑弥呼・開化・崇神・垂仁。三角縁(魏年号銘)7 度偏角方位区画。240~270 年

その前が孝靈・孝元。三角縁 5 度偏角方位区画(奈良都城区画)中国系。2 世紀末~240 年。

その前が倭奴国王や、孝安・孝昭。奈良・九州弥生正方位方位区画。紀元前後~2 世紀後半まで。

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 22 日(火)23 時 52 分 48 秒 返信・引用 編集済

> No.1108[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

(247 年)頃に卑弥呼が死去、後に「男王が立てられる」は崇神天皇でないか。 崇神の年代は 258 年まで

泰始元年(265 年) - 倭の遣使が重ねて入貢。『晋書』邪馬台国からの最後の入貢。 臺與 30 歳

倭が辛卯年(271 年)に海を渡り百済・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。 壹與(神功皇后)37~38 歳 日本 応神天皇 2 年

正始 8 年(247 年)頃に卑弥呼が死去すると大きな墳墓がつくられ、100 人が殉葬された。その後男王が立てられるが人々はこれに服さず内乱となり 1000 余人が死んだ。そのため、卑弥

呼の親族で 13 歳の少女の壹與が王に立てられ国は治まった。先に倭国に派遣された張政は 檄文をもって壹與を諭しており、壹與もまた魏に使者を送っている。

魏志倭人伝によると、女王卑弥呼が死ぬと男子の王が立てられた。邪馬壹國の人々はこれに服さず、内乱状態になり 1000 人が死んだ。このため再び女王が立てられることになり、卑弥呼の親族の 13 歳の少女の壹與が王となり、国は治まった。正始 8 年(248 年)に邪馬壹國と狗奴国間の紛争の報告を受けて倭に派遣された帯方郡の塞曹掾史張政は、檄文をもって壹與を諭した。

> 邪馬台国の「弥馬+升もしくはワクキ」の官職も、崇神・「ミマキイリヒコ」「ワケ」との対応 を考えるべきでしょう。

- > 難升の「升」はそこにかかってきます。 >

- > そうすると、崇神の年代は 258 年までのほうが妥当かもしれません。 >
- > 孝元妃・ヒミコが247年に死んで、その後「男王」開化がたつも、収まらず、イヨが引き継ぎ269年ごろまで治めたのかもしれませんが。孝元妃？>> 開化は統治が60年で、業績なしですが、つまり1千支分だけで1年以内に死んだか排された可能性を感じます。

Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013年1月22日(火)16時18分 41秒 返信・引用

> No.1107[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 崇神天皇(すじんてんのう、)は、『古事記』『日本書紀』に記される第10代天皇(在位:崇神天皇元年1月13日(紀元前97年2月17日) - 同68年12月5日(紀元前29年1月9日))。 >

> 記紀に伝えられる事績の史実性、欠史八代に繋がる系譜記事等には疑問もあるが、3世紀から4世紀初めにかけて実在した大王と捉える見方が少なくない。『古事記』は崇神天皇の没年

を干支により戊寅年と記載しているので(崩年干支または没年干支という)、これを信用して318年(または258年)没と推測する説も中には見られる。258年没説を採った場合、崇神天皇の治世は、中国の文献に記載されている邪馬台国の時代と重なることになる。 >

> (崩年干支または没年干支という)、これを信用して318年(または258年)没と推測する説も中には見られる。 >

- > 戊寅年
- > 138年
- > 198年
- > 258年
- > 318年 >

確かに崇神の件は重要ですね。倭人伝の女王国からの238年の使者に「難升米」とともに派遣された「都市牛利(ツジギユウリ)」が見えますが、「十市瓊入」の「瓊」は呉音で「ギョウ」とも読め、両者に語対応性があります。大和の十市郡と関係するでしょう。

さらにいえば、「トヨキイリヒコ」に近い発音です。「遠津、豊城、十市」といった関係ですね。

邪馬台国の「弥馬+升もしくはワクキ」の官職も、崇神「ミマキイリヒコ」「ワケ」との対応を考えるべきでしょう。難升の「升」はそこにかかってきます。

そうすると、崇神の年代は258年までのほうが妥当かもしれません。孝元妃・ヒミコが247年に死んで、その後「男王」開化がたつも、収まらず、イヨが引き継

ぎ269年ごろまで治めたのかもしれませんが。

開化は統治が60年で、業績なしですが、つまり1千支分だけで1年以内に死んだか排された可能性を感じます。

ただ崇神の年代が重なってくるのが問題ですね。崇神は247年以降、269年ごろまでで、

先のヒミコのケースと同様に、イヨとの共立という統治形態をとったとするとどうなるでしょうか。現実的に13歳の少女が政治を司ることは無理で、背後に「男王」が少なくとも10年程度はいないと統治は無理だったでしょう。崇神の統治年代は68年ですが、1千支ひいて8年。

崇神7年にモモソヒメを斎宮に渡して、それ以後、四道將軍派遣くらいしかまともな記録がありません。

そうすると、255年前後にイヨが20歳くらいになり自立して女王として統治しはじめた可能性を感じますね。

その前後で崇神は死ぬか、引退したのでしょうか。
イヨ=モモソヒメではないでしょうか。

それで後代、神功紀を差し込む際に、上記の記録をいろいろ伸ばしたりしながら、一人の皇后 像を造り出していったわけです。

そうすると、イヨが269年に死んで、次の垂仁をどう捉えるかですね。99年の在位がありますが、1千支ひいて39年の在位とするか、この天皇はいなかったとみるべきか。99年と いうのが嘘っぽいですね。

つぎの景行天皇も在位60年で、これも1千支引いて、1年以内に死んでいる計算です。 この天皇を大(帯)彦つまりオオヒコとみるのですが、たぶんすぐに次の成務(吉備津彦= 武内宿祢)に殺されたでしょう。

でも次の成務も在位60年で子孫を残してないので、これも1年以内に殺された可能性を感じますね。

それで先の仲哀にいたるのですが、在位が9年で神功皇后の時代へと引き継がれます。

先のイヨ死後の269年から、垂仁の39年足して310年で、あとそこでストップしたと すると、応神の年代まで空白になってしまうでしょう。

おそらく、上記の天皇の年代記録はなかったかもしれませんね。かなりアバウトな系譜傳承しかなかった。そこで武内宿祢や神功で埋めることになる。

ただ崇神の干支だけはどこかに記録されていて、先の258年だったという線です。

それでどうして干支が4世紀代に記録されなくなったのか?も課題ですが、崇神あたりまでは、中国系の孝霊・元朝の影響で、まだ渡来系2世記録者が残存していたものの、3世くらい になってその辺の細かい暦・文字関連の技術が継承されなくなったという線はどうでしょう か。

4世紀大はおそらく鎖国文化で、あまり大きな変動もない時代です。 Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者: 秦野北斗 投稿日:2013年1月21日(月)23時46分 4秒 返信・引用 編集済

> No.1106[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

崇神天皇(すじんてんのう、)は、『古事記』『日本書紀』に記される第10代天皇(在位:崇神 天皇元年1月13日(紀元前97年2月17日) - 同68年12月5日(紀元前29年1月9日))。

記紀に伝えられる事績の史実性、欠史八代に繋がる系譜記事等には疑問もあるが、3世紀か ら 4世紀初めにかけて実在した大王と捉える見方が少なくない。『古事記』は崇神天皇の没年 を干支により戊寅年と記載しているので(崩年干支または没年干支という)、これを信用し て 318年(または 258年)没と推測する説も中には見られる。258年没説を採った場合、崇 神天皇の治世は、中国の文献に記載されている邪馬台国の時代と重なることになる。

10:崇神天皇前 97-前 30 / 11:垂仁天皇前 29-70 / 12:景行天皇 71-130 / 13:成務天皇 131-190 / 14:仲哀天皇 192-200 15:応神天皇 270-310

(崩年干支または没年干支という)、これを信用して 318年(または 258年)没と推測する 説も中には見られる。

戊寅年 138年 198年 258年 318年

『ハマっていたレミゼのキャスト』ランキング 786人が見えています More....

『2012年 ゆるキャラヒット』ランキング 1320人が見えています More....

『楽しめる北信のスキー場』ランキング 806人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013年1月21日(月)20時50分 36

秒 返信・引用 編集済

> No.1105[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >> 三韓征伐の年代は仲哀天皇と神功皇后、応神天皇になる。応神天皇元年 269 年、神功元年 200 年で 70 年がある。仲哀天皇と神功皇后の年代は住吉大社から逆算 200 年付近だな。これは約 200 年で 300 年未満と理解するのが良いのでは。 > 真相は、日本書記に南北の倭が記録されている。瑞穂の国は南倭と考えるべきだな。

- > 三韓征伐で南倭から北倭に渡たり、南倭と北倭の暦に約 70 年の差を知った。
- > 応神天皇元年から西晋(せいしん)暦 269 年に訂正した模様。
- > 応神天皇以前の年代は掴んでいる。 >

>

ちょっと先の投稿で、ウツシコを孝霊妃と書いてしまったのですが、間違いで孝元妃です。孝元 7 年に皇后になりますが、この 7 年がつまり仲哀 8 年の 8 年間に対応するのではないかと 思います。

それで姪のイカガシコのほうが、叔母より早く皇后になり、孝元即位の翌年に皇后になりま すので、そうすると、イカガシコの即位年あたりを「共立」年代とすれば、さらに 7 年くらい早 くなり、190 年前後までその年代を遡らせうるのではないかと感じます。

197 年前後にウツシコが即位。その時点で孝元は死んだ可能性もありますね。孝元 57 年 までありますが、実際は残りの 50 年はウツシコつまり卑弥呼の時代。

イカガシコ+ウツシコの年代がずっと伸びて神功皇后の年代になったのでしょうか。

問題は 3 年前後の誤差ですね。

神功 66 年をイヨの 266 年ともってきて、さらに 3 年神功の寿命を延ばしている。景初暦の問題は、3 年ではなく 3 日ずれることは指摘されているのですが……。

確かに、西晋からの景初暦の件は、重要ですね。先のとおり、445 年から元嘉暦になり、さらに天武末期から儀鳳暦になります。

どうもこれらの暦法で数日の誤差ができ、中国の干支との間に相違が見えるので、その暦法 が使われたことがわかるということのようです。

ただ 570 年の刀の件は反論が出てますね。

<http://iori3.cocolog-nifty.com/tenkannichijo/2011/09/post-66a2.html>

天武朝の帝紀編纂もしくは書紀編纂時に、允恭以前の干支が、当時使われていた元嘉・儀鳳 暦とのそれ、もしくは中国史蹟に見える干支との差に気付いた可能性があります。庚寅年で 庚寅日が、中国史蹟では、戊寅とかになっ ていて、両者に差があることに気付くという線でし ょうか。

それで暦博士の間で允恭以前の帝紀の干支を直すかどうかの論議がおこって、結果としてつ いでに 1~2 干支伸ばしながら調整することにしたのでしょうか。

神武から安康までは儀鳳暦で、特に下記の論文の閏月と「30 日」に関する指摘は重要ですね。

http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AN10113157/nk_19_37.pdf#search='書紀+儀鳳暦'

ただ、これも儀鳳暦によって、神代から安康までの記載に 30 日が見えないということのよ うですが、また暦計算のなされてない段階で 30 日が設定されていなかったとの話もあり、 そうなのかなーと 感じるのですが……。

あるいは景初暦にも 29 までしかなかったか？

閏月を入れたのは、ある時期の長暦編纂によると考えるのは妥当かもしれません。神功紀にもみえますね。

ただ30日が見えない件は、元嘉暦導入前には、29日までしかない暦を使用していた可能性も感じますね。
<http://www.massangeana.com/mas/koyomi/koyomi4.txt>

景初暦から元嘉暦に変更する際に、3日+で遅れてあって、これは歳差運動の結果なのですが、移行の際に干支も修正したのでしょうか。それで後の元嘉暦との間で相違が起こる。

安康以前の帝紀に干支があったのか？そこが課題ですが、隅田八幡鏡を443年と考えていますが、すると、ちょうど干支が見えて、元嘉暦が445年からになるので、その前に別の暦をつかって「癸未年」「八月」を書き込んでいたことがわかります。

ということは、やはり干支を使っていた。

穢人は、北朝系ですが、あるいは南朝系渡来人による影響も考慮すべきでしょう。

景初暦がもっとも可能性としては高いですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/景初暦>

確かに欠史でも前半あたりは、おそらく架空で、後代の儀鳳暦のみで計算された数値がそのまま導入されたとみるべきですが、その以後、安康までの景初暦？の干支をどうあつかったか？ここが難しいですね。

最終的に3日+αずれていたわけですが、それを知らずに無理矢理信じ込んで計算しようとすると、勝手に寿命が1~2干支分伸びていったという線はどうでしょう…。1干支伸びると、同じ日付けでどのくらい干支が変わるか？29歳が、その干支を信じすぎたために、149歳になってしまうとかいうケースです。

先の3年のズレとか入れると、うまく景初暦と元嘉暦の干支がつながるとか、そういうことはないのかな？ちょっと考えてみたいところです。でもそうすると、神功紀を卑弥呼・イヨ年代に合わせたという仮説が成り立たなくなるので、やはり干支ごとずれたということはなかったのかなと感じます。

Ads by Google Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年1月21日(月)08時16分33秒 返信・引用

> No.1104[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

三韓征伐の年代は仲哀天皇と神功皇后、応神天皇になる。応神天皇元年 269年、神功元年 200年で70年がある。仲哀天皇と神功皇后の年代は住吉大社から逆算 200年付近だな。これは約

200年で300年未満と理解するのが良いのでは。真相は、日本書記に南北の倭が記録されている。瑞穂の国は南倭と考えるべきだな。三韓征伐で南倭から北倭に渡り、南倭と北倭の暦に約70年の差を知った。応神天皇元年から西晋(せいしん)暦 269年に訂正した模様。応神天皇以前の年代は掴んでいる。

好太王碑の碑文

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以末卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

<そもそも新羅・百殘は(高句麗の)属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年(271年)に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。>

住吉神社の総本社 約千八百年前、神功皇后が住吉大神の御加護を得て大いに国威を輝かせられたことにより御鎮祭になりました。

主祭神は以下の4柱で、住吉大神と総称され海の神として信仰される。底筒男命、中筒男命、表筒男命は合わせて「住吉三神」と呼ばれる。第一本宮:底筒男命 (そこつつのをのみこと) 第二本宮:中筒男命 (なかつつのをのみこと)

第三本宮:表筒男命 (うはつつのをのみこと) 第四本宮:息長足姫命 (おきながたらしひめのみこと) - 神功皇后(じんぐうこうごう)に同じ

仲哀天皇(ちゅうあいてんのう)仲哀天皇元 192年 成務天皇 18年(148年)? - 仲哀天皇 9年 2月 6日(200年 3月 8日))は、『古事記』『日本書紀』に記される第14代天皇(在位:仲哀天皇元年 1月 11日

(192 年 2 月 11 日) - 同 9 年 2 月 6 日(200 年 3 月 8 日))。

神功皇后(じんぐうこうごう)神功元年 200 年 成務 40 年(170 年) - 神功 69 年 4 月 17 日(269 年 6 月 3 日))

応神天皇(おうじんてんのう)応神天皇元年 269 年 仲哀天皇 9 年 12 月 14 日(201 年 1 月 5 日) - 応神天皇 41 年 2 月 15 日(310 年 3 月 31 日))から応神天皇元年 269 年

>> おそらくこの辺の天皇の即位年、関連の出来事を記録した書物があって、それが唐代の翰苑に引用され、一部は太宰府に保存されている。梁書もその辺の記録をひいていたとすれば、上記の流れが説明つくかもしれませんがね。 >> やはり神功は、秦野さんご指摘のイヨのみということではなく、卑弥呼+イヨというセットではないでしょうか。 Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 21 日(月)00 時 35 分 50 秒 返信・引用 編集済

> No.1103[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 碑文は神功皇后の三韓征伐
- > 百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民 >
- > 好太王碑の碑文の辛卯年の候補は 211、271、331、391 年になるがこの文章が
- > 神功皇后の三韓征伐であれば、辛卯年は 271 年になる。
- > この年代が特定できれば、日本書記等の曖昧な年代の補正ができる。

ひとつは、実際に息長帯媛が、391 年前後にいたとする可能性ですね。

ただ、やはり息長系の時代はもっと後のような気がします。

やはり、年代を伸ばす際に、架空の女帝を入れる必要があったとすべきかもしれませんが、ただ皇后のままで女帝ではなかったのが疑問です。卑弥呼なら女帝、持統や斉明でも女帝。

あくまで、蘇我氏の祖の武内が活躍して、皇后を擁護する形にしないといけなかったのでしょう。

仲哀ー神功ー応神というのは、神を信じぬ駄目な旦那・出来のいい神に謙虚な奥さん、聖人 君子の息子という組み合わせで、聖書時代のままの構造をとっています。

おそらくこの 3 位一体のまま物語性をあまり崩さず挟み込みたかったのでしょう。ヤマトタケルの白鳥神話と同類の構造です。ただ、その際に、卑弥呼とイヨの年代にかけを思いついた。

それで、卑弥呼関連の書籍にあたった結果、170 年、201 年、269 年という年が目についた。

当時百済三書は応神朝時代に仕入れた経緯があって、新羅本紀の 173 年の卑弥呼記載まで目を通していた。

266 年のイヨの派遣記載も目についた。 3 年のズレがでてきます。

応神 3 年(392 年)が、百済との関係で重要な年になります。百済で辰斯王を殺して阿花王とたてますが、ここに日本の介入があったことになっています。

おそらく 3 年引くと、応神元年なのですが、応神と阿花王即位が同年だと何か都合がわるかったんで、3 年足した。 よって、神功の年も 3 年加算され、266 年のイヨ記載が、269 年のことになった。 そうすると、201 年から政治をとり始めた記載も、198 年だった可能性がでてきます。

そこで広開土王碑の 391 年ですね。 確かに三韓征伐をどこかの記録から持ってきた可能性を感じます。

> 正始 8 年(247 年)頃に卑弥呼が死去する。 > 卑弥呼の親族で 13 歳の少女の壹與が王に立てられ国は治まった。 > 倭が辛卯年(271 年)に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。 > 壹與(神功皇后)37~38 才 > 日本 応神天皇 2 年

ただ確かに卑弥呼の本来年代をあわせるべきなのに、イヨの年代に合わせているのがおかしいですね。

卑弥呼の年代はある意味曖昧に無視されているようにも見えます。本来なら神功+男王+神功+応神の組み合わせにすべきところをそうしなかったのは、また何か意味が有りますね。卑弥呼=神功だと中国側に説明しても、卑弥呼とイヨが2人いたことを向こうは知っているのですぐにバレてしまう。

仲哀が8年なのは、何かその辺と意味があるのでしょうか。

247年に卑弥呼が死んで、255年まで男王、次がイヨという認識があったとしても、どうかな。

大水口宿禰の孝霊妃・ウツシコを卑弥呼と見なす件は先日のとおりですが、次の孝元・開化妃のイカガシコは、よく系図をみると親子じゃないんですね。叔母と姪の関係で、イヨと卑弥呼の関係と一致します。

そうすると、イヨをイカガシコの年代を参照にしていたとすると、下記の記載から推測してみるとどうなるか。

孝元天皇 2年(前 213年)、孝元天皇の妃となった。開化天皇 6年 1月 14日(前 152年 2月 25日)、亡夫孝元天皇と叔母(伯母)・皇后鬱色謎命の皇子である開化天皇の皇后となった。崇神天皇元年 1月 13日(前 97年 2月 17日)、崇神天皇の即位と同日に皇太后となった。

彼女は2回別王の妃になっていて、その間が61年ですね。つまり1干支分伸ばしてます。それから55年後に崇神の皇太后になります。ついでに、ウツシコの動きもみましょう。

孝元天皇 7年 2月 2日(前 208年 3月 20日)、皇后に立てられた。開化天皇元年 1月 4日(前 157年 2月 11日)、皇太后となった。

51年後に皇太后になってます。

これを卑弥呼の年代にあわせるとどうなるか？

247年に死んだことになるので、それから51年引いた年から、皇后になった計算とすると、196~7年前後に皇后になった=記紀の理論上での卑弥呼即位年。これが、先の神功皇后が政治をとりはじめた198年と重なります。

ちなみに孝霊天皇の即位関連をみると下記のようになります。

孝霊天皇(こうれいてんのう、孝安天皇 51年(紀元前 342年)- 孝霊天皇 76年 2月 8日(紀元前 215年 3月 27日))は、『古事記』『日本書紀』に記される第7代天皇(在位:孝霊天皇元年1月12日(紀元前 290年2月19日) - 同76年2月8日(紀元前 215年3月27日))。大日本根子彦太瓊尊(おおやまとねこひこふとにのみこと)・大倭根日子賦斗邇命(『古事記』)。

在位が76年、ここから1干支をひいて、14年、これが実際の在位年ではないでしょうか。

そうすると、その死後、記紀理論上での卑弥呼が即位したと考えると、先の卑弥呼即位年197年から14をひいた183年前後から、この天皇が即位したことになるでしょう。

この183~4年が、ちょうど下記の年代にあたります。桓帝と霊帝の間(146年 - 189年) - 倭国大乱。『後漢書』

光和年間(178年 - 184年) - 卑弥呼が共立され、倭を治め始める。『梁書』年代的にはこの孝霊の即位年のほうが、卑弥呼の共立年代にあいますね。

ただ、「共立」ですから、もしかすると、男王と皇后もしくは女王の共立という見方もありますね。

『梁書』卷 54 列傳第 48 諸夷傳 東夷条 倭:「漢靈帝光和中 倭國亂 相攻伐歷年 乃共立一女子卑 彌呼 爲王 彌呼無夫婿 挾鬼道 能

通説だと、合議の末に、一人の女子を立てたという解釈ですが、もう一人別にたてたという意味にもとれそうですね。

ここで、何か共立とするならば、大国間等での婚姻、王の共立関係云々といった経緯が見えてくるかもしれま

せん。

難しいのですが、たとえば弁・秦韓の事例だと、馬韓からの派遣王と、祭祀王とが別にいました。卑弥呼のシャーマン性を考えると、あるいはそういう見方もできるかもしれません。住む宮も別だったかもしれない。

おそらくこの辺の天皇の即位年、関連の出来事を記録した書物があって、それが唐代の翰苑に引用され、一部は太宰府に保存されている。梁書もその辺の記録をひいていたとすれば、上記の流れが説明つくかもしれませんね。

やはり神功は、秦野さんご指摘のイヨのみということではなく、卑弥呼+イヨというセットではないでしょうか。

『好きなバスケ選手(漫画)』ランキング 533 人が見えています More....

『今年こそ、新年ブログを始めるべき 10 の理由』ランキング 428 人が見えています More....

『2012 年 ゆるキャラヒット』ランキング 1160 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO 冊子印刷のイニユニック - www.inuuniq.jp 格安のカラー冊子をオフセット印刷。 色々な製本と色々な特殊加工が激安。 冊子印刷は冊子印刷.com - www.34insatsu.com

冊子印刷するならココ! 最短翌日発送、冊子印刷専門店

日本人のルーツ汗国(わこく) - www.wakoku.net 我々はどこから日本に来たのか? それは『漢書』地理志の泗水国の汗国 Gaba マンツーマン英会話 - www.gaba.co.jp 初心者から上級者まで。あなたに合った レッスンプランで上達をサポート Ads by Google Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 20 日(日)19 時 52 分 37 秒 返信・引用 編集済

> No.1102[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

神功皇后の存在を否定したいのですな。

碑文は神功皇后の三韓征伐

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

好太王碑の碑文の辛卯年の候補は 211、271、331、391 年になるがこの文章が 神功皇后の三韓征伐であれば、辛卯年は 271 年になる。 この年代が特定できれば、日本書記等の曖昧な年代の補正ができる。

正始 8 年(247 年)頃に卑弥呼が死去する。 卑弥呼の親族で 13 歳の少女の壹與が王に立てられ国は治まった。 倭が辛卯年(271 年)に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。 壹與(神功皇后)37~38 才 日本 応神天皇 2 年

「日本学会による通説により校訂し訳す。」どうも、年代に問題がある。

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

<そもそも新羅・百殘は(高句麗の)属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年(391 年)に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。> しかし、韓国の学会では異説が主 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%BD%E5%A4%AA%E7%8E%8B%E7%A2%91>

辛卯の年

151 年 211 年 271 年 331 年 391 年 451 年

正始 8 年(247 年)頃に卑弥呼が死去すると大きな墳墓がつくられ、100 人が殉葬された。その後男王が立てられるが人々はこれに服さず内乱となり 1000 余人が死んだ。そのため、卑弥呼の親族で 13 歳の少女の壹與が王に立てられ国は治まった。先に倭国に派遣された張政は 檄文をもって壹與を諭しており、壹與もまた魏に使者を送っている。

辛卯年(271 年)応神天皇 2 年ですな。神功は 201 年では 70 年の差は…。 正始 8 年(247 年)神功皇后摂政 47 年、学者さん卑弥呼と神功皇后を取り間違えているな。

- > ただ神功は 201 年から政治をとりますね。ここで仲哀が死んだことになっていて、
- > 桓帝と霊帝の間(146 年 - 189 年) - 倭国大乱。『後漢書』
- > 光和年間(178 年 - 184 年) - 卑弥呼が共立され、倭を治め始める。『梁書』 >
- > 184 年前後で卑弥呼が政治をとり始めたとなると、170 年前後の生まれというのは妥当な線かもしれません。 >
- > ただ神功は 201 年から政治をとりますね。ここで仲哀が死んだことになっていて、 >
- > 孝元天皇が古事記だと 57 歳で死亡、書紀は 2 倍にして 116 歳で死亡。 >
- > 父の孝霊の事例をみると、30 歳を立太子年齢と考えていた節がありますね。 >>
- > あと、皇后の姉妹に虚空津比売命(そらつひめのみこと)がいますが、つまり架空の女性 だとなぞっているのがわかります。

Ads by Google Re:彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 20 日(日)15 時 46 分 57 秒 返信・引用

> No.1099[元記事へ]

> オシホミミ命とは、「投馬国」=「元祖大和」の官名です。 >> 応神天皇は、騎馬民族の大王であると同時に秦氏(イスラエル 10 支族にしてユダヤ人キリスト教徒)だったのである。応神天皇が朝鮮半島から渡来してきた 4 世紀の畿内には邪馬台国と投馬国が平和的な併合を果たした ...<http://ameblo.jp/cpa-togo/page-14.html>

> 祭神は 天忍穗耳 (あめのおしほみみ) 尊ならびに応神天皇。
http://www.geocities.jp/saeranosushi/hiking2012/2012oyashiro_t/oyashiro_t.html >

オシホミミの名は、息長氏つまり新漢氏系のそれですね。オシ、アナホ、穴日…といった語 に特徴があります。

ミミは、日向系の系譜を導入した際に変更したのではないのでしょうか。新漢氏が帝紀編纂に際して、彼らの地盤のある阿蘇・日向方面の系譜を持ち出して、そこに記されていた美美を 耳に変更して、系図を作り上げたという線でしょうか。

おそらく、神武東征、ヤマトタケル、神功・応神記あたりをある時期に新漢氏系の撰者がいろいろ編集して差し入れたように感じます。これはさらにいえば半島から入ってきた聖書伝承です。

もっとも応神・仲哀は系譜的には存在していたと思います。神功はあったかどうか微妙ですね。息長氏系の創作系譜のように見えます。

ただ、年代だけが卑弥呼とイヨに合わせているのには、別の卑弥呼関連の年代史料を用いた可能性を感じます。

170~269 年ですね。この辺は秦野さんの注目されているところですが、確かに 2 人~3 人分の年代を記録した書物があって、それを引用して合わせたことがわかります。先の韓 苑に引用された物部系の卑弥呼関連の書ではないでしょうか。

266 年のイヨの記載を 269 年前後に持ってきているか、やはり 269 年にイヨが死んだのか。

三国史記の 173 年の卑弥呼の新羅への朝貢記載がありますが、これに合わせたのでしょうか。ただ、この記載は、もしかすると干支がひとつあがって 233 年あたりに持っていくという手もありますね。

確かに 3 年ずれてますね。暦の問題でしょうか。 桓帝と霊帝の間(146 年 - 189 年) - 倭国大乱。『後漢書』

光和年間(178 年 - 184 年) - 卑弥呼が共立され、倭を治め始める。『梁書』 184 年前後で卑弥呼が政治をとり始めたとなると、170 年前後の生まれというのは妥当

な線かもしれません。 ただ神功は 201 年から政治をとりますね。ここで仲哀が死んだことになっていて、 孝元天皇が古事記だと 57 歳で死亡、書紀は 2 倍にして 116 歳で死亡。 父の孝霊の事例をみると、30 歳を立太

子年齢と考えていた節がありますね。

あと、皇后の姉妹に虚空津比売命(そらつひめのみこと)がいますが、つまり架空の女性だとなぞっているのがわかります。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 20 日(日)13 時 25 分 29 秒 返信・引用 編集済

> No.1100[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

藤井さん、さっそくご意見ありがとうございます。おかげさまで、いろいろ言語学的な入れ知恵をさせていただき、個人的にはかなり感謝しています。枝葉末節の論議はともあれ、ご指摘のように問題は下記の部分ですよ

ね。
> 「白村江の戦い 1350 周年」を機に、渡来人研究会の皆様をお願いしたいのは、 >> ●藤井説の中核を為す
「上代特殊仮名遣い(記紀万葉)言語的外国人記述説」は、純粋な言語学説であって、

- > 歴史学者や考古学者に口を差し挟む余地はない >
- > ●一方で、藤井説の中核は第六章にあり
- > <http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/6shou.html>
- > その内容は同じ発音実験を自ら行ってみれば、
- > 「専門分野などに関係なく、日本人(日本語ネイティブスピーカー)であれば誰でも理解できる」 >>
ということを広め「騒ぎを起こす」のを手伝ってほしい、ということです。 >

やはり、私自身も第 6 章が何度読んでも理解できてないんですよね。一瞬理解できるのですが、その後すぐ忘れてしまう…。「ウオウオ」の動画部分だけ記憶に残って、本題がなんだったかわからなくなってしまうんですよね…。藤井さんの論点を私が理解した範囲で整理すると、

万葉仮名が八母音で記されている。

↓

日本人は白鳳・奈良当ても現在もずっと八母音を発している。

↓

しかし、日本人自身は 5 母音しかないと考えている(た)。実際平安以降になると 5 母音しか記さなくなった。 ↓ しかし、渡来人を含めて外国人は今も昔も日本人が 8 母音で発音していることに気付いて

(記して)いる。

↓

こういう結果になるのはなぜか？

↓

それは生物学的な条件異音のためである。「ウオウオ」「トコトコ」実験動画参照。

↓

言語学会の～の定説は、これらのことによって証明・覆される。

> 第四章～第八章、特に肝心の第六章を全く理解せずに、 > くだらない論評・批判・反論をしてくる、というのがこれまでのパターンでした。 >

おそらく、上記の論点が理解できず、枝葉末節だけが記憶に残るので、そういうことになるの かもしれません。

何か上記のような論の流れを示す流れ図とか紙を挟んでおくといいのではないでしょうか。

- > それによって、日本・朝鮮・中国の古代史と言語史は革命的に進化し、
- > そして何より一番得をするのは国語学者なのです。 >
- > 宜しくお願い申し上げます。
- >

そうですね、自分たちが毎日に話している言葉の問題なので、もっと専門家だけではなく、一般人も理解してもよい内容かと感じます。

あと、特に古代史面については、その古代史面での条件異音の応用方法をもっと確立しないといけませんね。何か藤井さんのほうでも気付いた点を、古代史学会の雑誌とかに投稿してみてもどうでしょうか?非常に短いものでいいと思います。

たとえば、「卑狗(ヒク)+守(マモリ)」を、早口で話してみる。

すると条件異音で?「K」音が抜けて「ヒナモリ」に近い発音になる。それが魏志倭人伝では「卑奴母利」と記されることとなり、さらにその語が記紀にも「ヒナモ

リ」見られることとなった。

という用なケースだった場合、生物学的な問題で、早口で話す際に「K+M」の発音が「N」に近い音に変化するためにこうなる…。

そこで藤井説の条件異音論によって、ここに導入すると云々という結果がでて、藤井説を使用することは、魏志倭人伝研究においても、重要である…。

とかいう形で説明できると、藤井さんの理論を勉強すべきことに気付く研究者が出てくるかもしれませんね。

すぐには、理解されないかもしれませんが、こちらでも、広まるよう努力してみます。 Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 1 月 20 日(日)09 時 35 分 43 秒 返信・引用

> No.1070[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

「白村江の戦い 1350 周年」を機に、渡来人研究会の皆様をお願いしたいのは、

●藤井説の中核を為す「上代特殊仮名遣い(記紀万葉)言語的外国人記述説」は、純粋な言語学説であって、歴史学者や考古学者に口を差し挟む余地はない

●一方で、藤井説の中核は第六章にあり <http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/6shou.html> その内容は同じ発音実験を自ら行ってみれば、

「専門分野などに関係なく、日本人(日本語ネイティブスピーカー)であれば誰でも理解できる」

ということを広め「騒ぎを起こす」のを手伝ってほしい、ということです。

このことを理解した上での批判・反論であるならばいくらかもお受けしますが、このことを理解した上でマトモな批判・反論をしてきた人間は、これまでプロ・アマ問わず 一人もいません。

拙著にはこれらの実験を収録した CD が添付してありますが、多くの読者はそれをパソコンに落として、パソコンを眺めながら読む、という手続きを面倒臭がり、特に言語ではなく歴史の方に興味がある者は、誰でもすらすら読める第一章~第三章ぐらいまでしか読まず、第四章~第八章、特に肝心の第六章を全く理解せずに、くだらない論評・批判・反論をしてくる、というのがこれまでのパターンでした。

その点で、今回 HP をリニューアルし、発音実験の様子をリアルタイムで見られる様にしたのは成功でした。

早い話、失礼ながら、今回の一連の投稿に於いて、秦野さんは当初、

私の説など歴史学的・考古学的に論破できる思っていたでしょう。

しかし早い段階で、このHPをご覧になり、

「藤井説は歴史学的・考古学的に論破する方法はない」ということをご理解頂いたため、この掲示板をくだらない誹謗・中傷合戦の場にするのを避けられました。

さて、昨日気づいたのですが、一昨日(1月18日)に、アマゾンの拙著のページ

<http://amzn.to/nzA2GW>

こんなレビューが投稿されていました。

http://www.amazon.co.jp/review/R2DOJC64868ND4/ref=cm_cr_dp_title?ie=UTF8&ASIN=4862231470&channel=detail-glance&nodeID=465392&store=books

したり顔で私の説をもっともらしい批判をしている連中が、如何に私の説の中核を理解していないかの好例です。

この評者は、他のバカなレビュアーよりは多少マシですが、やはり私の説の肝心な部分(第六章)を理解していません。

まず、この評者は、私が朝鮮語を根拠にして『記紀万葉』百済人記述説を唱えているのではない、ということが解っていません。

そして、肝心の第六章の実験を見ていないことはこの文から明らかです。

>筆者は独自の見解を支持する例として、言語の音韻体系があまり変わらないという例をいくつか挙げたが、母音は音声の中でも(子音やアクセントに比べ)もっとも不安定な部分であり、母音体系が変わってしまったという例はいくつも見られる。日本語が確かに50年余りで8から5に減ったというのは私もありえないと思うが、過去の百済語を今の朝鮮語と安易に結びつけることはできない。英語の大母音推移も500年ぐらいで完成している(英語も母音自体は変わり続けているが大母音推移の中に上げられる母音の変化の各事例は「完成した」と言えよう)。

他の言語の例などに関係なく、奈良時代と現代の母音が変わっていないことを私は実験によって証明しているのです。

国語学者が上代多母音説の最大の根拠としているのは、「夜」(甲類)と「世」(乙類)が上代特殊仮名遣いで明確に書き分けられていることです。

しかし、現代関西人もちゃんと別の母音でこの2つの単語を発音し分けています。

<http://www.youtube.com/watch?v=5yfy0Vh9SM>

また、強固と言われる有坂第二法則、「同一語幹内でウ段音とオ段乙類は共存しない。特にウ段音-オ段音で形成される二音節に

は皆無」

そして有坂がこの第二法則の例外として挙げているのは「ウシロ」「クシロ」「ムシロ」「ホトトギス」「オヨヅレ」の五語だけです。

そしてこのこともちゃんと実験で証明しています。

http://www.youtube.com/watch?v=3rv_LICJ4-E この評者が、これらのビデオをちゃんと見たのなら、↑の様なことを言うはずがありません。

私の説に「マトモに反論する」ということは、これらの実験が、「夜」と「世」の甲乙書き分けや、有坂第二法則の説明になっていない

ということを更なる実験その他で証明することです。それができないなら、他の言語は知らず、「日本語の母音

は 1300 年間変化していない」という 説は揺らがないのであり、 朝鮮語の問題など関係ありません。

如何にこれまで私が、本文だけナナメ読みして説の本質を理解せぬ輩のくだらない批判にう んざりさせられてきたか、 このレビューを見ただけでお分かりでしょう。

どなたか、このレビューに対し、「第六章をちゃんと読んでから言え」

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/6shou.html>

という趣旨の投稿をしてください。(私はここ数年、アマゾンで買い物をしたことがないので、投稿できません)

どんな方法でもかまいませんから、「白村江の戦い 1350 周年」を機にとにかく「騒ぎ」を起こ し、 私の説が人口に膾炙するようになれば、最初は誤解していても正しく理解する人間が増え、 やがて国語学者達も無視・黙殺を続けられなくなり、正式に「ギャフン」と言わざるを得なく になります。

国語学者さえ「ギャフン」といわせれば、歴史学者・考古学者・朝鮮語学者等の批判は、 例え当を得たものであったとしても枝葉の問題、私の説は定説になります。

それによって、日本・朝鮮・中国の古代史と言語史は革命的に進化し、 そして何より一番得をするのは国語学者なのです。

宜しくお願い申し上げます。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

彌彌は「投馬国」の官名です。投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 20 日(日)00 時 59 分 33 秒 返信・引用

>彌彌は役職になる?。奈良の耳成山が気になる。彌彌=耳 オシホミミ命とは、「投馬国」=「元祖大和」の官名です。

応神天皇は、騎馬民族の大王であると同時に秦氏(イスラエル 10 支族にしてユダヤ人キ リスト教徒)だったのである。応神天皇が朝鮮半島から渡来してきた 4 世紀の畿内には邪 馬台国と投馬国が平和的な併合を果たした ...<http://ameblo.jp/cpa-togo/page-14.html>

2012 年お社巡り(特)生田裔神八社 祭神は 天忍穗耳 (あめのおしほみみ) 尊ならびに応神天皇 。
http://www.geocities.jp/saeranosushi/hiking2012/2012oyashiro_t/oyashiro_t.html

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 20 日(日)00 時 33 分 33 秒 返信・引用
編集済

> No.1097[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

436 年から、高句麗・百済に北燕遺民が流入します。年代が合わない。

建安年間(196 年-220 年)、公孫康により、馬韓、弁韓、辰韓、倭国を討伐される。 3 韓と倭国は無くなり、その後、魏の景初三年(239 年)、公孫淵が誅殺された後、 百済、高句麗、新羅、倭国が現れる。倭国は卑弥呼が奪還した模様。奪還後に上陸したのは壱 興(神功皇后)になる。

魏志倭人伝は景初三年(239 年)に陳寿が来て書いた。古事記の記録によると、韓半島、瑞穂 の国(日本)で呉越音、燕音、が話されていたのだらうな。言える事は、日本語の辞書に呉越音、 燕音が残るが、専門家でも越音、燕音は知らないだらうな。

『三国志魏書』馬韓伝 桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、 遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

桓帝と靈帝の末(146 年-189 年)、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、 多くの民が韓国に流入した。 建安年間(196 年-220 年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張 敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

『梁書』倭国伝

至魏景初三年、公孫淵誅後、卑彌呼始遣使朝貢、魏以為親魏王、假金印紫綬。正始中、卑彌呼死、更立男王、國中不服、更相誅殺、復立卑彌呼宗女臺與為王。其後復立男王、並受中國爵命。

魏の景初三年(239年)、公孫淵が誅殺された後、卑彌呼は初めて遣使を以て朝貢し、魏は親魏王と為し、仮の金印紫綬を授けた。正始中(240-249年)、卑彌呼が死に、改めて男の王を立てたが、国中が服さず、互いに誅殺しあったので、再び卑彌呼の宗女「臺與」を王として立てた。その後、また男の王が立った、いずれも中国の爵命を拝受した。

> 436年から、高句麗・百済に北燕遺民が流入します。 > 5世紀後半になると、百済は段姓の博士などを送り、さらに継体朝になって漢高安茂を送りますが、この「漢」は、つまり当時百済に流入していた北燕・後趙系の中国人、穢人の意味で、段もやはり中国系ですが、後にすぐ東漢人の組織に入ったか、もともと東漢人自体が百済王族系だったので、その流れとも関係してくるでしょう。数段階に渡って漢人が渡来してきます。渡来場所も元は同族でありながら、百済・高句麗・新羅と変化していくようです。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 19 日(土)22 時 55 分 13 秒 返信・引用

> No.1096[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 彌彌那利は総て呉音になる。漢人は呉音が何を示すか知らないと思われる。
- > また、漢人に成ると、呉の字も失われた可能性がある。 >
- > 現在の翻訳。
- > 南へ水行 20 日で投馬国に至る(「南至投馬國水行二十日」)。長官は彌彌(みみ)、副官は 彌彌那利(みみなり)である。推計 5 万戸余。 >
- > 重可千斤=重さはおおよそ 1000 斤(500 キロ).を元に翻訳する。
- > 南至投馬國水行二十日、官曰彌彌、副曰彌彌、那利可五萬餘戸
- > 元文の重に那利が入ると。那:それ、利:聞くから翻訳は >
- > 南へ水行 20 日で投馬国に至る。官、副官の彌彌(みみ)にそれを聞くとおおよそ 5 万戸余。

>> 彌彌は役職になる?。奈良の耳成山が気になる。彌彌=耳 >>彌

- > 呉音 :ミ
- > 漢音 :ビ
- > 訓読み
- > わた-る、ひさ-しい、ひさし、とおい、いよいよ、あまねし、や、いや、ゆ >

ううん、正副同じというのは、ちょっと苦しい感じがしますね。神八井耳の場合は、別、尊と互換性があるので、君に似た称号ではなかったかとも感じます。筑紫米多君などは、百済王族の末多王とかに比する見方もありますね。

436年から、高句麗・百済に北燕遺民が流入します。5世紀後半になると、百済は段姓の博士などを送り、さらに継体朝になって漢高安茂を送りますが、この「漢」は、つまり当時百済に流入していた北燕・後趙系の中国人、穢人の意味で、段もやはり中国系ですが、後にすぐ東漢人の組織に入ったか、もともと東漢人自体が百済王族系だったので、その流れとも関係してくるでしょう。数段階に渡って漢人が渡来してきます。渡来場所も元は同族でありながら、百済・高句麗・新羅と変化していくようです。

君については、おそらく烏孫等にみえる昆彌とも関わって、中国系の「大公」の意味を持ちながらも、キミと読ませた経緯の流れで、九州にそれが伝わっていったのではないかと感じます。穢系の遊牧民の称号と中国系のそれが混じっていたのでしょう。

半島系の九州・吉備津彦勢力が河内王朝へと至る過程で、神武東征神話と関連して「耳」が導入されるのでしょうか、でもそれならば、「君」「公」と素直に記されているものが、なぜか「耳」を使用した背景には、

やはり別の起源があるとみるべきでしょうか。

神八井耳の墓は畝傍山北にあるというので、秦野さん注目の耳成山周辺にあるのではないのでしょうか。

ここが難しいところで、この東征伝承の成立自体は、4世紀以降だったと思うのですが、欠史の始祖廟観念は2世紀からあって、墳墓の位置はそれに関係していた可能性を感じます。始祖病はあの辺ないといけなかったのでしょうか。

それで魏志の投馬国の「ミミ」ですが、下記の説明にちょっと注目したいと思います。

天皇(神武天皇)にはヒメタタライスケヨリヒメ(ヒメタタライズヒメ)との間の子、カムヤイミミ(神八井耳命)、ヒコヤイ(日子八井命)、カムヌナカワミミ(神沼河耳命)の他に、日向にいたところにアヒラヒメ(阿比良比売)との間にタギシミミ(多芸志美美命)、キスミミ(岐須美美命)の二柱の子をもうけていた。天皇が崩御した後、タギシミミはヒメタタライスケヨリヒメを妻にし、その3人の御子を殺そうと計画していた。

ここでも「美美」と書いているのは、もとは音だけが伝わっていて、漢字が後からくっついた可能性を示すでしょう。神八井と武ヌテがわは、後代のヤマトタケルとかその辺のそれを、後からここに入れたためのもので、もとはこの日向系の「美美」と関わるのではないのでしょうか。

「美美」は呉音だと「みみ」漢音だと「びび」。後者だと、先のオースとネシア系のそれと対応しできますよね。

ところが倭人は呉音だったのでミミになった?? 魏志倭人伝の官職は下記のとおりです。

伊都國に到る。そこの長官を爾支(にし、じき)といい、副官は泄謨觚(せつもこ、せつぼこ)・柄渠觚(ひょうごこ、へいきよこ)という。

東南の奴国まで百里ある。そこの長官を兕馬觚(じまこ、じばこ)といい、副官は卑奴母離(ひなもり)という。二万余戸がある。

名曰瀚海 至一大國 官亦曰卑狗 副曰卑奴母離

官有伊支馬 次曰彌馬升 次曰彌馬獲支 次曰奴佳鞮 可七萬餘戸

ここで、長官のヒク、副官のヒナ(ヌ)+モリ(守)がみえますが、おそらく語尾がア行に変化するか、あるいは「k」音が抜けて接続するタイプの言語とみえます。膠着語は、語音が変化せず云々。朝鮮語・日本語もそのひとつ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/膠着語>

文法的機能を表す形態素が、語の内部に分割できない形で埋め込まれる言語のことをいう。英語とかアラム語ですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/屈折語>

、時制や格・数などによって語の形が変わっていないことが分かる。例えば「私は」も「私の」も、単語の形は両方とも tòi であり、意味の違いは語順によって表されている。このように、孤立語に分類される言語は接辞の付加やその他の手段による語形変化の体系を持たず、総合的言語において一般に語形変化で示されるさまざまな文法範疇が、文脈・語順・接置詞などによって表現されるベトナム語、シナ・チベット語

<http://ja.wikipedia.org/wiki/孤立語> それで先の長官は彌彌(みみ)、副官は彌彌那利(みみなり)を考えると、ナリがついても、

その語形そのものが変化してないので、最後の孤立語のようにもみえますね。

ヒナモリのケースは、中国語の尊称「彦(ヒク)」と「守(モリ)」が着く際に、語形や語音が変化していることがわかります。

たぶん、「K」音がぬける。

なにか早口言葉のような感じがしますね。ゆっくり「ひくもり」と話さずに「ひつもり」になる。でも後代見える「ひなもり」が正解だとすると、「ひ・ぬ+もり」が、膠着語のように語尾が変化していった。

後代の たりね(根)、フリね イリね すくね ね(根)が、ひこ(彦)と互換します。

もり(守)も、同系等か。

開化天皇

若倭根子日子大毘々命

先の「美美」とちょっと「毘々」が近いですね。後の書紀では「日日」に改められます。

そこで、先の邪馬台国の官職をみると、 官有伊支馬 次日彌馬升 次日彌馬獲支 次日奴佳鞮 可七萬餘戸

長官が「伊支馬」(一大率・伊都国)の長官、副が「彌馬」がミマ地域の長、「獲支」がワケでその親族。

「升」は倭王の師升や難升のそれで長官職。

「奴佳鞮」も「奴」(国)＋「佳鞮」の支配者

大夫が難升の米 副使が都市の牛利(グリ)

都市を、大和国の十市郡とするとどうなるか。

わかんなくなってきた…。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 19 日(土)20 時 07 分 8 秒 返信・引用
編集済

> No.1095[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

彌彌那利は総て呉音になる。漢人は呉音が何を示すか知らないと思われる。

また、漢に成ると、呉の字も失われた可能性がある。

現在の翻訳。 南へ水行 20 日で投馬国に至る(「南至投馬國水行二十日」)。長官は彌彌(みみ)、副官は彌
彌那利(みみなり)である。推計 5 万戸余。

重可千斤=重さはおおよそ 1000 斤(500 キロ)を元に翻訳する。 南至投馬國水行二十日、官曰彌彌、副曰彌彌、
那利可五萬餘戸 元文の重に那利が入ると。那:それ、利:聞くから翻訳は

南へ水行 20 日で投馬国に至る。官、副官の彌彌(みみ)にそれを聞くとおおよそ 5 万戸余。

彌彌は役職になる?。奈良の耳成山が気になる。彌彌=耳

彌 呉音 :ミ 漢音 :ピ 訓読み わた-る、ひさ-しい、ひさし、とおい、いよいよ、あまねし、や、いや、ゆ

那 呉音 :ナ 漢音 :ダ(表外) 訓読み 常用漢字表内 常用漢字表内の訓読みはありません。 常用漢字
表外 なに、なんぞ、いかん、やす、とも

利 音読み 呉音 :リ 漢音 :リ 訓読み 常用漢字表内 き-く 常用漢字表外 と、とし、のり、み、
りい、かが

耳の名字

耳浦 港 みみうら 味水 祭事 みみず

耳塚 墓 みみずか 耳道 街道 みみどう

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 19 日(土)16 時 04 分 15 秒 返信・引用
編集済

> No.1094[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 魏志倭人伝は言語の入門書にみえますな。陳寿は漢人。 >>「やまと」は呉音の漢音表記ようだ。また、クムガ

ン(錦江、金剛山)は漢音:(クムガン)、呉音:(クムゴン)

- ・ > 錦江、金剛山はクム(?)ゴン(厳:神聖)で(?)神聖。 >
- ・ > クム(?)に心当たりがあるので意味を後日機会があれば確認する。 >
- ・ > 魏志倭人伝に戻ります。名曰瀚海、定説で訳は名は瀚海(カンカイ)。 >
- ・ > この位置は玄海灘になる。対馬に厳原、広島に厳島 >
- ・ > 対馬に厳原(いづはら)の厳海「神聖な海」、広島に厳島(いつくしま)「神聖な島」になる。
- ・ > 対馬は呉音系になるので。厳海は呉音(ゴンカイ)。

なるほど瀚海の発音の件は、そう考えてみると面白いですね。

個人的には、ちょっと投馬国と出雲と神八井耳等にみえるその官職「みみ」との関わりを考え はじめてます。

神八井耳の子孫は、おおむね「君」がついて新漢人系と見えます。後に「公」「真人」になります。 ある時期に九州・山陰、丹波方面に入っていきます。

おそらく阿蘇氏等の中に入り込みながら、在地の称号「耳」を系譜に取り入れたのではないで しょうか。

問題は薩摩か出雲か…。 「みみ」というのは、同じ音の連続で、ちょっと異質な感じがします。

どうも耳はオーストロネシア語のようです。 江南系弥生人の系統もしくは、古墳時代前に入った越に近い文化をもった半島系渡来人でし ょうか。

http://homepage3.nifty.com/rosetta_stone/wissenschaft/AN_2/AN_JP_37_43.htm

百済方面からしきりに南朝の技術者が日本に派遣された記載があります。 その一環で、南朝系の書記官も渡来した可能性があります。

それで先の三母音説なのですが、先のとおり高句麗諸語やそれに対応する倭訓が、三母音主 体に見えることについて、考えを進めてみました。

おそらく母音数が減れば、それだけ表現の幅が狭まるので、音の羅列を長くする必要があっ たのではないかと感じます。

極端な例が2進数で、01001100 といった具合で長くなっていきます。

逆に漢字文化圏では、漢字が意味をもっていて、それを理解する人の間では、前後の文脈だけ で、あるいはそれがなくとも、一文字で意味が理解できたでしょう。「吾」「五」のようなケース ですね。きわめて短い文字文書ですむので、漢文は英語に比べてずっと短いですね。同音異 義語の世界です。

それで、「かみやまといわれひこ」とか「すめらみこと」「かみあがりましぬ」みたいな文章をみ ると、一般的には後代の装飾で名前がどんどん長くなったと考えられがちですが、もともと 長かった可能性も考慮すべきかもしれません。

つまり母音数が少ないので、その分、説明文が長くなるわけです。神の子孫で岩のように… なえらい人。

みたいな意味を3母音で早口で羅列する。漢字世界なら、曹操・関羽・殺 くらいの長さの 文章が、上記のように永遠と長くなるわけです。

そうすると、倭訓導入当初は、扶余・高句麗系の三母音で、早口で三母音でまくしたてるよう な話し方をしたような気がします。口もあまり大きくあけず、eo といった言葉はほとんど使 わず、文脈の前後の解釈で、子音のみで文字記載するアラム語系の世界に近いでしょう。アラ ビア語には現在も3母音しかないようです。

そしてもし扶余・高句麗系の文字があったとしたら、シルクロードのアラム文字系も考慮す べきでしょう。

ここで、シルクロード商人の論理というのを考える必要があります。

この手の交易商人は、交通の要所に構えるだけでなく、より遠いところに拠点を造りたがっ たようです。というのも、遠くのものほど、価値があがるんですね。ローマのものを中国で紹 介すると、皇帝は珍しがって喜ぶ

わけです。

ソロモン朝がアフリカや中国のものを仕入れたり、フェニキア商人がアイルランドまで行ったのも、おそらく遠くの拠点ほど、利益があがることを知っていたからかもしれません。

その論理でいけば、中国という国があると知った時点で、すぐに中国、さらには朝鮮、日本まで交易拠点を造ろうとしたことは想像に難くないでしょう。楽浪郡から四川のものが多く出てくるのも、その遠いものほど価値があるという論理によるような気がします。後代渤海使が日本にしきりにくる理由もその一つかもしれません。

だから、まずシルクロード商人は一気に東の端まで移動するんです。トカラ人なども突然やってきます。

秦氏の大津父が、山城から伊勢まで商売しにいくのも、同じ原理で、交易ネットワークで商売

できることを知っています。彼がオオカミの絡み合うシーンを目撃するのも、スキタイ紋様の世界で、そのハックルなどを日本にもたらししていたことと関係するかもしれません。

それで、出雲から鹿島まで天孫が飛んでいたり、古墳や方位区画の成立も一気にまず東端までいってしまうんですね。それから間を埋めていく。

だから、扶余系、さらにはそれ以前の月氏系のネットワークの延長線上に、弥生末期に流入した集団がいたならば、やはり、まず一気にに行けるところまで南・東へ開拓した可能性を感じます。地道に農地を拓げていく弥生人の考え方とは違います。

おそらくニギハヤヒとか、神武東征の考え方もそれに近く、あまり地道じゃないですね。

その論理で、女王国とか投馬国の位置や領域の広がりを見ると、もしかれらが遊牧民系ならば、その領域がはるかに遠く広がっていた可能性を感じます。まずは遠くでありかつわかりやすいところに拠点を置く。測量し、開拓します。

それから、双方から間にある国を攻撃・併合していくのでしょうか。おそらく航海民の交易商人でも同じ論理があったはずですね。 Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 18 日(金)17 時 12 分 51 秒 返信・引用 編集済

> No.1093[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

魏志倭人伝は言語の入門書にみえますな。陳寿は漢人。

「やまと」は呉音の漢音表記ようだ。また、クムガン(錦江、金剛山)は漢音:(クムガン)、呉音:(クムゴン) 錦江、金剛山はクム(?)ゴン(厳:神聖)で(?)神聖。

クム(?)に心当たりがあるので意味を後日機会があれば確認する。 魏志倭人伝に戻ります。名曰瀚海、定説で訳は名は瀚海(カンカイ)。この位置は玄海灘になる。対馬に厳原、広島に厳島

対馬に厳原(いづはら)の厳海「神聖な海」、広島に厳島(いつくしま)「神聖な島」になる。 対馬は呉音系になるので。厳海は呉音(ゴンカイ)。 陳寿には厳海、呉音:(ゴンカイ)、漢音:(ゲンカイ)を瀚海と記録している。 瀚海には呉音:(ガンカイ)、漢音:(カンカイ)で呉音:(ガンカイ)になるはず。 後世が呉音を漢音:(カンカイ)読みとし、厳海(ゲンカイ)を玄海としたようだな。 陳寿の魏志倭人伝は呉音を漢音表記したと考えられる。 現在の瀚海は玄海なので漢音(ゲンカイ)に成っているな。

厳 名詞 (いつ) 神聖なこと。斎み清められていること。 (いつ) 勢いの激しいこと。威力が強いこと。 形容動詞 (げん) 態度や処置がきびしい。厳格。 (げん) 動かしがたい。

呉音 : ゴン(ゴム) 漢音 : ゲン(ゲム)

瀚 呉音 : ガン 漢音 : カン

又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。方可三百里、多竹木叢林、 有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という、一大国に至る。官もまた卑狗、副は卑 奴母離という。四方は三百里ほど。竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

>

> だからカミヤマトイワレヒコも、ト音が、もっとツとかタ(イ)に近かった可能性もありますね。つまりヒコも魏志倭人伝の「ヒク」。

>> それで秦野さんが「やまと」は、漢人の発音とした点はある意味あってるかもしれません。

>

『2012年おすすめ映画』ランキング 705人が見えています More....

『【初音ミク】【ボーカロイド】気持よくリズムに乗れるミクノ系サウンド』ランキング 622人が見えています More....

『一度は行ってみたい日本の世界遺産』ランキング 659人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO 冊子印刷のイニユニック - www.inuuniq.jp 格安のカラー冊子をオフセット印刷。 色々な製本と色々な特殊加工が激安。 冊子印刷は冊子印刷.com - www.34insatsu.com

冊子印刷するならココ! 最短翌日発送、冊子印刷専門店 《プリントバック》公式印刷通販 -

www.printpac.co.jp 驚愕の印刷品質と価格・送料無料・クレジット簡単決済プリントバック! Gaba マンツーマン英会話 - www.gaba.co.jp 上達効果ならマンツーマン。本気で 英語力をつけたい人に選ばれています

Ads by Google

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 18 日(金)15 時 39 分 13 秒 返信・引用 編集済

> No.1092[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> (倭語の発音)正確に写し取りました。 >> 邪馬台:やまと、ですか。陳寿が音表記したものです。陳寿は漢人ですか。 >

古代の倭訓がどうだったか、課題ですね。下記の説だと、5 母音だったとしてます。 さらにもとは 3 母音……。

8 母音説への反論 [編集]

松本克己 [編集] 古代日本語 8 母音説は広く受け入れられ半ば定説となっていたが、昭和 50 年代に入りこれ に異を唱える学説が相次いで登場する。その端緒が松本克己の「古代日本語母音組織考 -内 的再建の試み-」である。内的再建とは、一つの言語の言語史を他言語との比較からのみ考えるのではなく、その言語内の共時態の研究を通じて求めていこうとするアプローチである。 松本は有坂の音節結合の法則について、「同一結合単位」という概念の曖昧さを指摘した上で 甲乙 2 種の使い分けがある母音だけではなく全ての母音について結合の法則性を追求すべきだとして、1965 年の福田良輔の研究をもとに母音を 3 グループに分けて検証を行なった。 その結果、従来甲乙 2 種の使い分けがあるとされてきた母音は相補的な分布を示すなどしており、母音の使い分けを行なっていたわけではなく音韻的には同一であったとした[6]。松本 はギリシア語での /k/ の表記を引き合いに出し、/k/ について K と ? の二種類の文字が使われていたからと言ってそれがギリシア語で 2 種の子音が意図的に使い分けられていたという 事実を示すわけではないことを挙げ、同様に上代特殊仮名遣いについても使い分けがそのまま当時の母音体系を正確に表したものではないことを指摘した。その上で松本は日本語の母 音の変遷について、 i, a, u の 3 母音 i, a ~ o, u の 4 母音 i, e, i, a, o, u の 6 母音 現在の 5 母音 のような変遷を辿ったとし、上代日本語の母音体系は現代と同じ 5 母音であったと結論づけた。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/上代特殊仮名遣>

3 母音は、先のアラム語系の遊牧民系言語の特徴を感じますね。 月氏はセム語系のアラム語の派生したトカラ語で、アラム系のブラフミー文字をつかってい

たそうです。 月氏が西に移動してインドに入るあたりで、これらの文字ができあがったようです。 一方ホータン・亀慈国あたりにのこったものは、姉妹種のカロシュティー文字を使っていたのでしょ。 その文字

の写真添付します。さきの日文や仮名文字とそっくりですね。同じものもある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/カローシュティー文字>

おそらく仏教が月氏によって漢代にもたらされるあたりで、このカローシュティー文字系統の文字が、中国国内の月氏集団、および扶余方面へ流れた系統へと伝播された可能性を感じます。

それがさらに百済・秦韓へ、そして3世紀代と、後の秦氏によって日本へ伝わり、法隆寺や伊勢、鹿島、出雲大社に保存された。

アラム文字と、ブラフミー文字との音的相違があるようですね。

アラム文字にはブラフミー文字の有気子音 (kh, th) がない。一方ブラフミー文字にはアラム文字の強調子音 (q, ʔ, ʕ) がない。そしてアラム文字の余分な強調子音文字はブラフミー文字の有気音を埋めるために使われたようである (アラム文字の q はブラフミー文字の kh に使われ、アラム文字の ʔ はブラフミー文字の th に使われている)。そしてアラム文字に唯一対応する強調破裂音がなかった、p に関して、ブラフミー文字はその有気音を使い回したようである: ブラフミー文字の p と ph は図形的に非常によく似ており、あたかも同じ出所から取られたように見える。アルファベットの最初の文字も一致する: ブラフミー文字の a はアラム文字のアレフによく似ている[要出典]。

元は扶余系もアラム語遊牧民系の3母音だったのではないのでしょうか。ただ、上記のように、普通の

こちらの扶余つまり高句麗語の表をみると、やはり e o が非常に少ないですね。それがそのまま倭訓になっている。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/高句麗語>

o のほうが e より少しまだ多いのは、上の言語学者のいう経緯によるのかもしれませんが。

3母音だったアラム語系の扶余語が、後に後漢初期に南下して、一部が弁秦韓・倭へと流れていく過程で、楽浪系の中国語の5母音や、江南・弥生系の5母音?との融合で、5母音へと変化していったのではないのでしょうか。

だからカミヤマトイワレヒコも、ト音が、もっとツとかタ(イ)に近かった可能性もありそうですね。つまりヒコも魏志倭人伝の「ヒク」。

それで秦野さんが「やまと」は、漢人の発音とした点はある意味あっているかもしれません。

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 17 日(木)20 時 39 分 52 秒 返信・引用

> No.1091[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

(倭語の発音)正確に写し取りました。

邪馬台:やまと、ですか。陳寿が音表記したものですな。陳寿は漢人ですか。

> 『万葉集』に謀反人として倒れた同母弟の天津皇子を想う歌を 6 首残している。 > 巻第 2 105~106 番(大津皇子がひそかに伊勢神宮に下向してきた時に詠んだ歌) > わが背子を大和に遣るとさ夜深けて 暁(あかとき)露にわが立ち濡れし > 吾勢祐乎 倭邊遣登 佐夜深而 鶏鳴露尔 吾立所露之 > 二人行けど行き過ぎ難き秋山を いかにか君が独り越ゆらむ > 二人行杼 去過難寸 秋山乎 如何君之 獨越武 > 同 163~164 番(大津皇子薨去後、退下・帰京途上で詠んだ歌) > 神風の伊勢の国にもあらましを なにしか来けむ君もあらなくに > 神風乃 伊勢能國尔母 有益乎 奈何可来計武 君毛不有尔 > 見まく欲(ほ)りわがする君もあらなくに なにしか来けむ馬疲るるに > 欲見 吾為君毛 不有尔 奈何可来計武 馬疲尔 > 同 165~166 番(大津皇子を二上山に移葬したときの歌)

- > うつそみの人にあるわれや明日よりは 二上山を弟背(いろせ)とわが見む
- > 宇都會見乃 人尔有吾哉 從明日者 二上山乎 弟世登吾將見
- > 磯の上に生ふる馬酔木を手折らめど 見すべき君がありといはなくに

- > 礪之於尔 生流馬酔木乎 手折目杼 令視倍吉君之 在常不言尔
>
- > 万葉がなではないものも多くみえるので、当時の書記官のものではないかと思います。 >
- > α 群の中でも、正格漢文ではなく変体漢文という人がいますね。 >>「α 群」では、当時の唐の首都長安を中心とする北方音(漢音)にしたがって、(倭語の 発 音)正確に写し取りました。しかも音だけでなくアクセントまで当時の倭語を正確に写し ています。 つまり「α 群」の万葉仮名を中国人が漢音にしたがって発音 ... >>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 17 日(木)16 時 46 分 15 秒 返信・引用

> No.1090[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 大伯皇女が総てを握る。太伯、大伯は現在の上海になる。上海から九州の海を太伯海、大伯 海が有明海、別名が筑紫海ですな。大伯皇女は筑紫海(奄美大島から済州島)で生まれた。韓半 島と日本を頻繁に往来していますな。 >

> 大伯皇女:661~701 天武天皇と大田皇女の子 >> 斉明 7 年(661)、前年に新羅によって滅ぼされた百済の遺臣を救援するため、時の斉明天皇 や中大兄皇子(皇太子。斉明の息子。後の天智天皇)は九州へ向け出陣していました。そして 大伯の父である大海人皇子(中大兄の弟。後の天武天皇)と母の大田皇女(中大兄の娘) もまた従軍していました。大伯皇女はその陣中で生まれたのです。 >

天武朝の件はもう少し調べる必要がありそうですね。特に先の日文の関係で、日嗣の件が重

要です。

681 年(天武天皇 10 年)より天智天皇 2 子の川島皇子・忍壁皇子らが勅命により編纂し、皇室の系譜の傳承を記したとされるが、『旧辞』と共に、天武天皇が稗田阿礼に暗誦させたとされ、のちに記紀の基本史料となつたとされる。一般に、帝紀の内容は皇統譜であるとされる。だが、異説も多く、『古事記』の中・下巻を指するという説 特定の書物を指すのではなく皇室の系譜の傳承を記した書物全般を帝紀と呼ぶとする説 書物になっていない天皇の系譜に関する傳承も帝紀と呼ばれるとの説 帝紀・旧辞は別々の書物ではなく一体のものだったとする学説

などがある。また、帝紀は一般に、『古事記』序文に書かれている『帝皇日嗣』『先紀』 日本書紀欽明天皇 2 年 3 月条に記載がある『帝王本紀』 日本書紀持統天皇 2 年 11 月条に記載がある「古くは『日嗣』と呼ばれた」との注釈がついた「皇祖等之登極次第」 正倉院文書に現れる『帝紀日本書』、『日本帝紀』 日本書紀私記甲本にある『帝王記』

先に「帝紀」と「古字・新字」、そして「日文」との関係を描いたとおりですが、「日嗣」がまた「帝紀」と関わってくるのがわかります。日に王の意味がある。新漢日文と類似する氏族名

に新漢済文が見えます。

百済人味摩之帰化日学于呉得伎楽舞則安置桜井而集少年令習伎楽儻於是真野首 弟子新漢齊 文二人習之傳其儻此今大市首辟田首等祖也

ここに 真野首弟子 まののおびとのでし、新漢済文 いまきのあやひとさいもん の二人が 習 って、その舞を伝えた。これは今、大市首 おほちのおびと、辟田首 さきたのおびと たちの 祖先である。

この記載はペルシャ系のトカラ人の来朝に関連する斉明朝の記載なのですが、百済系の舞楽 を、新漢人等が学ぶ背景には、おそらく踊りを習うという部分とともに、百済語・大陸系言語 を学ばせる、解釈するという意味もあったかもしれません。

『新撰姓氏録』によれば左京諸蕃にこれらの清水首・大市首、大和国諸藩に辟田首がいて、ツヌガアラシトの子孫となってます。ツヌガアラシトは、先述のとおり、任那人で蘇我氏と関わ ってきます。

真野は茨城と滋賀にみえ、製鉄関連です。

「済文」の「済」はおそらく百済の意味で、百済系の文書を読む官人の意味ではないでしょうか。 齊を、山東半島方面の国と見なすこともできそうですが、百済の意味そのものが、その山東から遼西経由できたとの意味なので、やはり百済の意味のように感じますね。

そうすると新漢人日文も日も、「日」国の文を読む官人の意味のようにも受け取れます。日高 見国、日本国…。

あるいは斎宮も齊をもってくるとうなるか?この場合は、神事系の祝詞に書かれた文のよ うな意味になるかもしれません。

あとご指摘の大伯皇女の件ですね。

齐明天皇 7年(661年)に、筑紫に向かう途中の、天智天皇一行の乗った船が、大伯(おお く)の海の上(現岡山県瀬戸内市の沿岸。瀬戸内市はかつての邑久(おく)郡)を通過して いる時に誕生した。『日本書紀』に、天智天皇 6年(667年)の 2月 27日に齐明天皇と間人皇 女を小市岡上陵に合葬し、大田皇女をこの陵の前の墓に埋葬したという記述があるので、2月 27日以前には、大来皇女と大津皇子の母の大田皇女は薨去したと思われる。

航海の途中で産まれるのは、神功の応神出産と類似性がありますね。

実質的に身重の女性が外征に共に向かうのはあり得ない話で、これはこの当時の半島経由で 伝わったキリスト教の身重のマリア伝承の影響ではないかと思います。上宮帝説とかと関係 して、天武 10年の帝紀編纂開始までには、神功紀とともに、挿入されていたことでしょう。

それで万葉集に歌が残っているのですが、なんでこんな歌が残っているのかが疑問なんですよ。

『万葉集』に謀反人として倒れた同母弟の大津皇子を想う歌を 6首残している。 巻第 2 105~106 番(大津皇子がひそかに伊勢神宮に下向してきた時に詠んだ歌) わが背子を大和に遣るとき夜深けて 暁(あかとき)露にわが立ち濡れし 吾勢祐乎 倭邊遣登 佐夜深而 鶏鳴露爾 吾立所霑之 二人行けど行き過ぎ難き秋山を いかにか君が独り越ゆらむ

二人行杼 去過難寸 秋山乎 如何君之 獨越武 同 163~164 番(大津皇子薨去後、退下・帰京途上で詠んだ歌) 神風の伊勢の国にもあらましを なにしか来けむ君もあらなくに 神風乃 伊勢能國爾母 有益乎 奈何可来計武 君毛不有尔 見まく欲(ほ)りわがする君もあらなくに なにしか来けむ馬疲るるに 欲見 吾為君毛不有尔 奈何可来計武 馬疲尔 同 165~166 番(大津皇子を二上山に移葬したときの歌) うつそみの人にあるわれや明日よりは 二上山を弟背(いろせ)とわが見む 宇都曾見乃 人尔有吾哉 從明日者 二上山乎 弟世登 吾將見 磯の上に生ふる馬酔木を手折らめど 見すべき君がありといはなくに 磯之於尔 生流馬酔木乎 手折目杼 令視倍吉君之 在常不言尔

いや、もちろん、歌会の歌なら、そばに百済人とかの筆記官がいて、その読み上げる模様が筆記記録したので残るのでしょうけど、この場合シチュエーションが、戦乱時とかで相違します。

しかし、先の母音を使い分けたような万葉仮名が見えてくるかもしれない点で分析の必要が あります。

これは、筆記官が読み取ったケースとは別に、自分で木簡とか紙面に記したケースがあるか もしれません。それを伝えた人が、また歌会で新たに読み上げる。それを渡来系筆記官が読 み取る。

その伝達経路がまた不明です。この手のプライベートな女性の歌を、女性が大々的に歌会で 宣伝するというのもおかしな話で、おそらく女性の死後に、遺族がその遺文を見つけて、歌会 に提出したとか、斎宮とかに残っていたものを、もってきたとか、従者が提出したとかいうケ

ースでしょう。

その従者が渡来系だと、音韻面でも変化が生じてくるかもしれません。

こちらが万葉がなの一覧表です。

<http://www6.airnet.ne.jp/manyo/main/kana/home.html>

日子と比古は、ともにしっかり甲類でかき分けていることがわかりますね。これが古事記の 時代からすでに統一されているということは、おそらく推古朝あたりのその時代の人々が、すでに聞き分けていたということでしょう。

先の井真成の「井 ぬ」と、多治比氏の祖先の「井戸」伝承、そしてその系統の「猪名」氏の「ぬ」 もやはり、聞き分けているように見えますね。

それで隋書の大王をあらわす「阿毎」氏ですね。この表をみると「あべ」、「阿倍」と同じ「べ」音 であることがわかります。ただ本来は「ばい」音。

あと「毎」を呉音では「マイ」漢音だと「バイ」になり、阿倍「アベ」は漢音、北朝系の発音のようにもみえますね。

万葉がなの「努(ノ)」は呉音で「ヌ」漢音で「ド」です。 でも「男(な)」は、呉音で「ナン」、漢音で「ダン」 奴も、ヌとドの双方つかってますね。 結局、南朝・北朝系の双方を混合して使っていた、なのでしょう。

「都鄙之人取常世虫置於清座。歌舞求福。棄捨珍財。都無所益損費極 甚。於是。葛野秦造河勝惡 民所惑。打大生 部多。其巫覡等恐休其勸祭。時人便作歌曰 。禹都麻佐波。柯微騰母柯微騰。枳 舉曳俱屢。騰舉預能柯微乎。宇智岐多麻須母。」 太秦 は 神とも神と 聞え来る 常世の神を 打ち懲ますも、

「禹」は呉音も漢音もそうほう「う」

「都」は呉音で「つ」漢音で「と」

「佐」は双方「さ」

「波」は双方「は」

「微」は呉音の「み」ですね。漢音だと「び」

「騰」は呉音で「どう」、漢音で「トゥ」

「柯」は双方「か」

「枳」も双方「き」

「舉」は呉音で「こ」漢音で「きょ」

「曳」も双方「えい」

「俱」も双方「く」

「屢」も双方「る」

「預」も双方「よ」

「能」は呉音で「ないの」漢音で「だいで」

「智」は双方「ち」

「岐」呉音で「ぎ」漢音で「き」

「麻」呉音で「め」漢音で「ば」

「須」呉音で「す」漢音で「しゅ」

「母」も呉音で「も」漢音で「ぼう」

この歌は、秦氏とつながりの深い歌で、皇極朝時代(644)の秦氏の活躍を記したものです。

万葉がなではないものも多くみえるので、当時の書記官のものではないかと思います。 α 群の中でも、正格漢文ではなく変体漢文という人がいますね。

<http://bian.in/manase8775/taikarefom.html>

「α 群」では、当時の唐の首都長安を中心とする北方音(漢音)にしたがって、(倭語の 発 音)正確に写し取りました。しかも音だけでなくアクセントまで当時の倭語を正確に写し ています。 つまり「α 群」の万葉仮名を中国人が漢音にしたがって発音 ...

難しいのですが、全体的には、後代の万葉仮名に共通する文字も多く、呉・漢の双方で共通 した音を拾って統一したようにもみえますが、一方で呉音がまだ多く残っていて、唐代のそ れを取り込んでない、そんな感じで

しょう。

新漢人や王辰爾系の書紀がメインの時代ですが、あるいはまだ秦・漢・文氏系の書記官もいたかもしれず、なんともいえない感じですが、当時の書記官の癖や能力をみるのにいい歌ですね。

これらを「古字」と見なすか、その辺の是非も微妙です。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 16 日(水)23 時 16 分 45 秒 返信・引用 編集済

> No.1089[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

天智、天武は漢人系ですが、まさか日本に居たと考えではないでしょうな。 韓半島と日本を頻繁に往来している。状況は万葉集にみられる。

大伯皇女が総てを握る。太伯、大伯は現在の上海になる。上海から九州の海を太伯海、大伯海 が有明海、別名が筑紫海ですな。大伯皇女は筑紫海(奄美大島から済州島)で生まれた。韓半島 と日本を頻繁に往来していますな。

大伯皇女:661~701 天武天皇と大田皇女の子

斉明 7 年(661)、前年に新羅によって滅ぼされた百済の遺臣を救援するため、時の斉明天皇や 中大兄皇子(皇太子。斉明の息子。後の天智天皇)は九州へ向け出陣していました。そして大 伯の父である大海人皇子(中大兄の弟。後の天武天皇)と母の大田皇女(中大兄の娘)も また従軍していました。大伯皇女はその陣中で生まれたのです。

> 天武 11 年 3 月、新字 1 部 44 巻を作ったとあるので、これらの注釈記載は、「古字」と「新 字」の概念を有していた時代の人によるものだったとすれば、天智 6 年、もしくは天武 11 年 の帝紀編纂時に差し込まれた注釈を、書紀編纂時にそのままいじらず残したというケースも ありえますね。

>

- > このときの書記官は、天武側についていた東西漢氏・秦氏系だった可能性もあります。 >
- > 天智のころならば、新漢人系か。 >

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 16 日(水)22 時 28 分 48 秒 返信・引用 編集済

> No.1088[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 扶余、高句麗は阿残になり。阿毎はアイヌ(三苗族)、呉、越ですな。
- > 穢(わい)は阿毎、燕ですな。言語はアイヌ(三苗族)、呉、越、阿毎、燕、秦の混合語
- > 「やまと」はアイヌ語で表記は大漢国、邪馬台ですな。
- > 現在の日本語はアイヌ(三苗族)、呉、越、阿毎、燕、秦、インド、ユダヤの混合語
- > 良く先祖はこれらの言葉を纏めたものですな。 >

この点は難しいですね。言語的な統一がなされたというよりは、英語みたいな統一の公用語 を普及させたというケースはどうでしょうか。要するに現地民はそれぞれの言葉を話させながら、別に扶余系等の言語を統一語として覚えさせる。

年が経つにつれて、その公用語のほうが主流になっていったのではないのでしょうか。 名詞や方言に過去の現地語の残存が残るというケースです。

先の比較表をみると、自分たちの言語を主体にしながらも、現地民の語にあわせて、足りない 音をさらに文字

として新たに造り出した様子がみてとれます。

中には「K」みたいに、音もアルファベットそのままの文字もあります。

祭祀用の古ヘブライ語と新ヘブライ語を目一杯使って、さらに足りない部分に、アルファベット系の別の文字を借用しています。中国語の崩しが入るのは、それでも足りない部分のようです。いろいろ組み合わせ論で文字を苦労して造り出しています。そしてそれが仮名文字へと変化していくのですが、元は外来系の集団が翻訳するために使用して便利だったので、そのまま平安貴族に流用されたケースを感じます。

6世紀の新漢人・秦氏が渡来して継体・欽明朝に入った際に、日本語を覚えるのに使用していたのではないのでしょうか。中国語の漢字も彼らは使えたので、それもあわせて利用した仮名文字をつくったという線です。

出雲大社とか法隆寺とか三女神社とか阿波とかの屯倉拠点と関係してこの文字が出てくるのも、派遣された彼らの影響でしょうか。

そうすると、それ以前に扶余系の5母音の世界があって、アラム系の3母音の彼らが入ってきて、全国の屯倉管理や祭祀官になった同族にそれらの仮名文字表を配って、言語的な教育を施したのかもしれない。

えの使い分けはみえるんですね。lamedの語音を使用しながらも、えを表すbethを下に突っ込んで、変化を出しています。

オとヲの差も書き分けられているのですが、yodを使いつつ、左側に、発音記号として samek=mo、lamed=yu との差でもって、それらの2文字を表現しています。オをモに近い音だと把握して、ヲをヨに近い音として把握していますね。

これが、いわゆる甲乙類の関係で把握していたのか。

ルの文字が、ラ行を表す lesh と う行を表す nun もしくは vav の組み合わせで表現していますね。ルゥーが正解。

ふの部分に、w アルフェベット=英語音をもってきてます。ヒやみの発音もイを表す斜め上から引く線で表されていますね。

それで欽明朝の下記の記載が、これらの漢字以外の文字のことだとされています。

【一書云 其一日茨城皇子 其二日泥部穴穂部皇女 其三日泥部穴穂部皇子 更名住迹皇子 其四日葛城皇子 其五日泊瀬部皇子 一書云 其一日茨城皇子 其二日住迹皇子 其三日泥部穴穂部皇女 其四日泥部穴穂部皇子 更名天香子 其五日泊瀬部皇子 帝王本紀 (すめらみことのふみ) 多(さはに)有古字(ふるきみな) 撰集(えらびさだむ)之 人屢(しばし)經遷易 後人習讀 以意刊(けずり)改 傳寫既多 遂致舛雜(たがひ まよふこと) 前後(さきのち)失次 (ついで) 兄弟參差(あにおととかたがひ) 今則考覈(かむがへあなぐる)古今(いにしへいま) 歸其真正(まこと) 一往(ひとたび)難識者 且(しばらく)依一撰 而註詳(しるす)其異(け) 他(あたし)皆效 (なづらふ)此】次春日日抓臣(かすがのひつめのおみ)女(むすめ)曰糠子(あらこ)。 生春日山田皇女(かすがのやまだのひめみこ)與橘麻呂皇子(たちばなのまろのみこ)

兄弟の順序が違うのは、帝紀を書写した定本がたくさんあって写し間違っただめだといっているのですが、意図的に削ったりしているとのことも気になりますね。

それで、古字がたくさんあって、後の時代の人が、それを習って、読んだものを、意図的に削って改めた。それで誤写が多くなって…。

古字をまず習って読み返す必要があったんですね。漢字なら書記官がたくさんいたので習う必要はなかった。

古字を伝承していたのが、出雲大社とか鹿島神宮とか…神社系の神官という解釈なのでしょう。それを史が習いに行った。

つまり、漢字の帝紀がひとつあって、それを習って読んで、誤写したという意味ではない。

漢字の帝紀として、古字も漢字で、漢字の種類がたくさんあったというわけでもないでしょう。

天武 11 年 3 月、新字 1 部 44 巻を作ったとあるので、これらの注釈記載は、「古字」と「新字」 の概念を有していた時代の人によるものだったとすれば、天智 6 年、もしくは天武 11 年の 帝紀編纂時に差し込まれた注釈を、書紀編纂時にそのままいじらず残したというケースもありえますね。

このときの書記官は、天武側についていた東西漢氏・秦氏系だった可能性もあります。 天智のころならば、新漢人系か。

ただどちらにしても、過去にそういう古字があって、先祖がそれを習って読んだということ を知っている。

新漢人の日文氏もそのひとつの史だったかもしれませんが…日文が古字を意味していたかどうかは課題ですね。

文氏ではない。日+文氏。

4 4 巻は書紀の 30 巻より多いですね。 天皇 1 代で1 巻とすると天武が40 代。4 巻は神代ほか。

たぶんこれは帝紀でしょう。すると、この時代にすでに欠史 8 代は追加されていた。神代の一 部も造られはじめていた。

そこで「新字」1 巻の意味ですが、要するに、それ以前の帝紀に古字で書かれたものも多くあ ったので、あらためて「新字」を制定したということでしょうか。

日子→彦みたいな形で漢字を統一したことを意味する可能性もしかしありますね。 ただ、古字がたくさんあったということは、日子、火子みたいにたくさん会ったという意味

でしょうか。

あるいは違う文字があったのか。

そのためには、習い読む必要があったということを考慮すると、漢字ではない可能性もある。

江戸時代から論議されてきたこの辺のことを、もう少し解明したいですね。そしてこれらの 統一作業の繰り返しで、だんだん日本語が統一されていったのでしょうか。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 16 日(水)16 時 55 分 47 秒 返信・引用
> No.1087[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

扶余、高句麗は阿残になり。阿毎はアイヌ(三苗族)、呉、越ですな。 穢(わい)は阿毎、燕ですな。言語はアイヌ(三苗族)、呉、越、阿毎、燕、秦の混合語 「やまと」はアイヌ語で表記は大漢国、邪馬台ですな。 現在の日本語はアイヌ(三苗族)、呉、越、阿毎、燕、秦、インド、ユダヤの混合語 良く先祖はこれらの言葉を纏めたものですな。

Fujii 史学の研究者は日本の古代語研究ですな。茨城の方言が一致するのではないかな。 茨城は扶桑国、平氏なので色濃い…。

> いや、実は秦野さんには、申し上げるのが遅れて、実に遺憾に感じているのですが、実は私 は Fujii 史学の研究者なのです(笑)

>> ま、こんな具合で、日本語の動詞が最後に来るのも、ある意味朝鮮語や満州語と一緒に、膠 着語云々の件からしても、扶余語の影響が強かったのではないかと感じます。 >> これらは、扶余系南下の紀元後 1 世紀ころからはじまったはずで、3 世紀中葉あたりから、 扶余系の言語に切り替わったのではないかと感じます。これが倭訓の主体となっていたの でしょう。HLAB52/13/44 等の北方遊牧民で現代日本人のメインタイプですね。

>> それ以前は、江南弥生人の時代ですから、江南系の呉音の中国音で、呉太伯の子孫だと倭人 自身が話しますよね。 >> 呉、太伯…、これはちゃんと中国語で理解していて、それを魏使につたえたことは間違い ないでしょう。 >> それ以前の縄文系の言語は、SVO 型で、若干日本語にも影響を与えているようです。 >> 扶余系と前後して楽浪系漢人の影響が、日本にも伝わってくるはずですが、渡来人の中に 東晋・百濟経由で入っ

てきた呉音を話した集団がいて、それが HLAB54 として大きく古墳時代にかかわってくるのですが、沖縄方面にみえず、山東半島経由で百済に渡り、そのまま日本へ渡った可能性が高いでしょう。東漢人等で、応神朝九州・吉備系の文化とかかわっていきます。 >> 彼らの中国語の影響は、漢字文化の流入には貢献しますが、日本語そのものを改変させるほどの影響はなかったのでしょうか。 >> ある時期に、これらのペルシア人がやってきて、日本に住み着いた際に、漢字のそばに、自分たちの仮名文字を書き込んで発音記号としていたものを、その後後代仮名文字に採用したという線がひとつ考えうるかもしれません。 >>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 16 日(水)16 時 20 分 40 秒 返信・引用 編集済

> No.1080[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >> F 史学?なんですか >

いや、実は秦野さんには、申し上げるのが遅れて、実に遺憾に感じているのですが、実は私は

Fujii 史学の研究者なのです(笑)

ま、こんな具合で、日本語の動詞が最後に来るのも、ある意味朝鮮語や満州語と一緒に、膠着語云々の件からしても、扶余語の影響が強かったのではないかと感じます。

これらは、扶余系南下の紀元後 1 世紀ころからはじまったはずで、3 世紀中葉あたりから、扶余系の言語に切り替わったのではないかと感じます。これが倭訓の主体となっていたので しょう。HLAB52/13/44 等の北方遊牧民で現代日本人のメインタイプですね。

それ以前は、江南弥生人の時代ですから、江南系の呉音の中国音で、呉太伯の子孫だと倭人自身話が話してますよね。

呉、太伯…、これはちゃんと中国語で理解していて、それを魏使につたえたことは間違いないでしょう。

2 世紀までの中国語は、タイ方面と同じ SVO 型の孤立語という系統で、その後北朝的な影響で、徐々に変化していったようです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/中国語>

たぶん、弥生人もこの南方系だった可能性を感じますね。ミャオ族の稲作農耕民と一緒に B 46 あたりです。

それ以前の縄文系の言語は、SVO 型で、若干日本語にも影響を与えているようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/アイヌ語>

扶余系と前後して楽浪系漢人の影響が、日本にも伝わってくるはずですが、渡来人の中に東晋・百済経由で入ってきた呉音を話した集団がいて、それが HLAB54 として大きく古墳時代にかかわってくるのですが、沖縄方面にみえず、山東半島経由で百済に渡り、そのまま日本へ渡った可能性が高いでしょう。東漢人等で、応神朝九州・吉備系の文化とかかわっていきます。

彼らの中国語の影響は、漢字文化の流入には貢献しますが、日本語そのものを改変させるほどの影響はなかったのでしょうか。

それから、6 世紀代に北燕遺民が入ってきて、北朝系、東欧系の文化が流入していったと思います。ケルト系 B 7 の流入で、これが日本第 3 位を占めるようになります。ここでラテン語の影響は日本語に加わります。高木神・アマテラス・ヤマトタケル…。

遣唐使の新漢人の中国語は北朝寄りの言語だったのではないかと感じます。それ以前の南朝系中国語とどこか違っていただいでしょう。

これらの北朝系の言語と、先の記紀の継体朝以降の記録を比較すれば、その切り替わりが理解できるかもしれません。

それで秦野さん・きしさんご指摘の秦氏ですね。

楽浪漢人系の秦韓人だと思うのですが、その後の北燕・東欧遺民が新羅・伽耶方面へ流れ込んだ影響も受けた後

に渡来したように見えます。5 末から 6 世紀半ばまでの渡来で、広・法隆寺あたりの文化とダイレクトにかかわってくるでしょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/法隆寺>

法隆寺は、高句麗系の新漢人に影響された太子のものでしょうか、秦氏もそこに深くかかわっていきますね。

先のヘブライ語と比較した法隆寺系の日文は、新漢人つまり新漢人の日文氏や、法隆寺との関わりで入ってきたのではないかと感じます。

法隆寺献物の一つの白檀が、正倉院にあります。ゾグド文字とパフラヴィー文字が記されています。シルクロード商人の名前が刻んであるのですが、もっと西にいくとユダヤ商人の名前も刻まれていることでしょう。

ある時期に、これらのペルシア人がやってきて、日本に住み着いた際に、漢字のそばに、自分たちの仮名文字を書き込んで発音記号としていたものを、その後後代仮名文字に採用したという線がひとつ考えうるかもしれません。

もう一つの可能性は、出雲大社や鹿島神宮の 5 度偏角の方位区画の時代ですね。これもプサン方面から伸びていくのですが、きしさんご指摘のとおり、マキムク遺跡の構造物やその方

位ラインとも関わっていきます。

その出雲大社方面からも、先の日文が出てくるとなると、もっと古い時代から、それらの日文があった可能性も感じますが、これはちょっと微妙ですね。

「水の神」オアンネス 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 16 日(水)15 時 20 分 22 秒 返信・引用

「水の神」オアンネス の画像

http://blogs.yahoo.co.jp/sinagawa50/GALLERY/show_image.html?id=13156875&no=0 目の星は人類の母——天狼星信仰之謎 人類に平和をもたらす真実、その鍵は日本に隠され

ています <http://blogs.yahoo.co.jp/sinagawa50/13156875.html>

目の星は人類の母——天狼星信仰之謎 - Yahoo!ブログ フリーメーソンの支配者ロックフェラーもロスチャイルドも最後の晩餐中だ。... バビロニア人はオアンネスを崇拝し、巨大な神殿を建立する一方で、文明を与えてくれた恩人のことを「気味が悪く、嫌悪すべきもの(モサロス)」と呼んでいたのだ。

<http://blogs.yahoo.co.jp/sinagawa50/folder/885590.html> シュメール神話における主神「エンリル」の暗喩名は「五十」という数字であります。「五十」という数字はシリウス星系の周期を意味する数字であります。そして時代が下るとバビロニアの星座表記には、「矢」、あるいは「弓」、ともに「大犬座(あるいはその一部)」を表す記号となっています。大犬座の首星といえば、シリウスであります。このように「En-lil-ti」の意味は「エン・リルは矢の星である」をも意味することになると考えられます。もちろん「矢」という星は人類の創造主の居場所として、人生そのものを表すことも理解できます。中国語では漢字の「矢」の音価は[shì]であるが、これと同音の字のひとつ「誓」があります。「誓う」を意味する言葉であります。上古の時代では、「矢」は「誓」の一番古い形として使われていました。「神に誓うこと」を

「矢」をもって表していました。「矢」そのものを「誓う」という「誓約の儀礼」に用いられたのであります。「誓」は「矢」を折る形に従い、そして「言」を加えた字形になっています。このように「矢」そのものは「神」と同一視されたのであります。信仰の視点からみると、「光陰矢の如し」のもうひとつ別の訳文は「矢(という星)は時を決める」になります。まさに、「矢」は主星を五十年という周期で廻って、「目の星」と呼ばれ、そ

して「時を決める」役割を果たしているシリウス B をも含めて表しています。

見方を変えてみると、ドゴン族の神話のなかのキーワードとして、「三連星」、「五十」、「目の星」、「半魚人」、「縮退物質」など、同じような概念をシュメール神話のなかに存在することになります。人類最古の文明であるといわれ、メソポタミア文明には「シリウス信仰」の特徴が明らかに含まれています。

シュメール語で「龍」のことを「ウシュムガル」といいます。「ウシュム」は「唯一の」、「ガル」は「偉大な」という意味を持つ言葉であります。「ウシュムガル」は同時に「独裁者」をも表し、権力と結びついていました。すなわち、シュメール人にとって「龍」とは「唯一の偉大な」存在でありながら、「独裁者」でもあります。

双龍 シュメール ヒット | 世界史掲示板(荊の紀氏) 2012 年 1 月 29 日 - 禹は竜(水を司る共工)を討ち、禹の子、啓は二匹の蛇を耳飾りとして、双竜に 龍 伝説の源泉を辿ると最終的にシュメールに行き着くが、シュメール語で龍を「ウシュムガル(唯一の偉大な)」と呼び、シュメール人は「龍」を尊ぶ民族だった。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/853>

オアンネスの左手にオクタント(八分儀)? 投稿者: 棘の紀氏 投稿日: 2013 年 1 月 16 日 (水) 15 時 03 分 29 秒 返信・引用

シュメールの遺跡に発掘された粘土板に記された神話によると、「オアンネス」と呼ばれる海からきた「半魚半人」の生物は、シュメールの人々に農業、都市や神殿の建設、文字、法律、数学、芸術、それに秩序などを、人間の言葉で伝授したという。記述によれば、この生物は魚の身体を持ち、その頭の下には人間の頭があり、尾ひれとともに人間の足も持っていたという。この生物は水陸両棲類で、昼間は人間とともに過ごし、太陽が沈むと、海へ帰ったという。さらに、後のバビロニア時代になると、バビロニアの神官ベロソスは、神殿に保管されていた楔形文字の文書を利用して、『バビロニア史』という歴史書を編纂したといわれています。それによると、ベロソスはバビロニア文明の起源について、次のように記述していました。「バビロニアにさまざまな国の人たちが盛んに集まり、彼らはカルデアに住み着き、野獣のように無法な生活をしていた。一年目にエリュトラ海のパビロニアに接するあの地方から、名を「オアンネス」という動物が現れたが、その全身は魚の体であって、魚頭の下に人頭、また、人の足に類似した足が魚の尾の内側についていたという。その声も言葉もはっきりと聞き取れる人の声で、その再現図は今日にいたるまで保管されている。この『生物』は昼間は人々のなかにあって過ごすことを常としたが、昼間は食べ物を口にせず、あらゆる種類の文字、学問、科学上の識見を人々に授けた。

都市を築き、神殿を建立し、法典を編むことを教え、幾何学的知識の諸原理を説明した。大地の種子を識別させ、果実の集め方を教えた。要するに、彼は人々の礼儀作法を柔和にし、その生活を人間並みにする上で役立つ一切のことを教えたのである。その時代以来、物質的なもので彼の教示に勝るものとしては、実質的には何ひとつ加えられてきていない。そして太陽が沈むと、このオアンネスはふたたび海中へ立ち去り、夜は深海で過ごした。両棲類だったからである」

とかなり具体的に書いていました。(アイザック・プレストン・コリー著『古代拾遺』より) 後の伝承において、オアンネスは「ダゴン」と呼ばれるようになり、聖書にもペリシテ人の崇拝する魚神として登場しています。ダゴンは魚神であるが農耕をつかさどる神として信仰を集めていました。また、『知の起源』によれば、「バビロニア人はオアンネスを崇拝し、巨大な神殿を建立する一方で、文明を与えてくれた恩人のことを「気味が悪く、嫌悪すべきもの(モサロス)」と呼んでいたのだ。ある意味で、これはバビロニアの伝承の正当性を裏つける証拠と言えよう。なぜなら、創作された伝承において、文明の担い手は常に眉目秀麗かつ威風堂々たる神々か英雄だからである」とロバート・テンブルはこのように指摘しています。カッシート時代以後、新バビロニア、新アッシリアの美術には魚の皮を被った人の姿が見られます。「アプカルル」といわれ、バビロニアの伝承によれば大洪水以前に生きていた「七賢人」であるという。魚の皮を被るアプカルルや鷲頭で有翼のアプカルルなどがあり、知恵の神エアに結びついています。病人のそばに立ち、悪魔祓いの儀式を行う神官の中には、魚の皮を被った姿も見られます。魚の皮を被った姿はペルシアにも伝わり、アケメネス朝ペルシア王キュロス二世のパサルガダエの宮殿跡には、人物像の足と被っていた魚の尾の部分が彫られた浮き彫り断片が今でも残っています。シュメール都市国家の中ではもっとも南に位置するエリドゥは、神話では「深淵の都」として知られ、水と知恵の神の都とされています。発掘調査によると、エリドゥの各神殿層は十八層までたどれるが、その第八層神殿では魚の骨がいっぱい詰まった頸の長い「亀型土器」が発見され、第六層神殿内部にはおびただしい魚類の骨が「至聖所」の一角に積み上げられていたのです。このように、メソポタミア文明全体的に見られる、「魚」を聖なる存在とみなす点においては、ドゴン族の神話との類似性を否定できません。

ドゴン族の神話(ドゴンぞくのしんわ)ではマリ共和国のドゴン族に伝わる神話を解説する。ドゴン族はニジェール川流域のバンディアガラ断崖において農耕を営む。その独自の

文化、社会制度、木工彫刻には神話の存在が強い影響を与えている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%89%E3%82%B4%E3%83%B3%E6%97%8F%E3%81%AE%E7%A5%9E%E8%A9%B1> シリウスが登場する神話はドゴン族の小さな集団にしかなく、シリウスの連星に触れる神話はグリオールの取り上げたオゴトメリのものしかなかった[21]。さらにシリウスの連星に触れる

メトン周期の改良。 アンティキティラ島の機械はヒッパルコスの理論に基づいているとされる(あるいはヒッ

バルコス自身がこの装置を発明したのかもしれない)。

氏族 - 中国の民族の一つ。チベット系と いわれて ... 白川静は、氏を小さな把手のある刀の象 形と解しており、氏はそれで底を 削って平らにする意としている。音訓: 音読みはテイ、タイ、
<http://dic.nicovideo.jp/a/%E6%B0%90>

〔説文解字〕には「氏に従ひ、下に一を箸く。一、地なり」とある。〔説文〕は氏を崩れかけた崖と 解しているので、崖が崩れて地に至ると解している。白川静は、氏を小さな把手のある刀の象 形と解しており、氏はそれで底を削って平らにする意としている。

仇池(きゅうち)は、後漢の建安年間に氏人の楊騰率部衆を率いて樹立した地方政権 。西 晋時代の八王の乱期に ... 三国時代、現在の甘肅省一帯に勢力を有した氏王阿貴 匪は、涼州 の马超・韓遂・楊秋らと協力して曹操に対抗していた。しかし相次ぐ敗戦 により ...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%87%E6%B1%A0> 司馬昭の時代になると、氏人の楊飛龍は西晋より征西将軍に封じられ、部衆を率いて「還居略 陽」の故地回復運動を開始した。

楊飛龍の養子になった楊茂搜は 296 年、西晋が八王の乱で乱れ、また同年に発生した齊万年 の乱で関中が乱れると仇池に移り[1]、自ら輔国将軍、右賢王を称し、氏族部衆に擁立され王 位に就いたが、これが地方政権としての仇池の建国である[2]。建国後は仇池公を称し、武都、 陰平の 2 郡を統治した。楊茂搜は西晋に服属しながら関中の混乱を避ける流民を吸収して勢 力を拡大したため、西晋も左賢王として認めざるを得なくなった[2]。

氏族の滅亡 [編集] 楊茂搜の後裔はその後武都、武興、陰平等の政権を樹立したが、580 年に陰平国王の楊法 琛が北周の益州総管王謙の反楊堅の運動に協力したことから楊堅の軍勢により滅亡させら れ、部衆は四散、氏の名称は史書から姿を消していくこととなった。

至るなり、氏に従ひ、下に一を箸く、一は地なり、凡そ氏の屬は皆な氏に従ふ。 (<http://jigen.net/kanji/27664>

阿 豆 利 爲 (ア テ ル イ) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%86%E3%83%AB%E3%82%A4> 阿氏河莊 とは - コトバンク 世界大百科事典 第 2 版 阿氏河莊の用語解説 - 紀伊国在田郡(現、和歌山県清水町)の 莊園。もと左大臣藤原仲平の遺領で、石垣上莊と称したが、992 年(正暦 3)右大弁平惟 仲が買得し、

1001 年(長保 3)白川寺喜多院(のち寂楽寺)に寄進。このころより阿氏河の ...<http://kotobank.jp/word/%E9%98%BF%E6%B0%90%E6%B2%B3%E8%8D%98>

湯浅宗親(ゆあさ むねちか、生没年未詳)は、鎌倉時代後期の武士・御家人。紀伊国阿氏河 莊[1]の地頭となった人物で、著名な紀伊国阿豆河莊百姓訴状(紀伊国阿豆河莊上村百姓等申 状)が出された当時の地頭としても知られる。通称は楠本左衛門尉。湯浅党を形成した湯浅宗重の孫・宗氏(阿豆川[1]宗氏ともいう)の 次男。兄は湯浅宗範、子は湯浅宗国。宗国の子が宗藤である。祖父の湯浅(保田)宗光(通称・七郎左衛門尉、後に出家して浄心と号す)は、宗重の 7 男 として生まれ、父と共に平氏、後に源氏に味方するようになり鎌倉幕府の御家人となった。庶 子でありながら、その才覚を父に認められ、紀伊国保田莊を譲られた後は嫡流を凌いで湯浅一族全体の主導的立場に立つ基礎を築いた。また、甥に当たる明恵上人(高弁)の後援者で もあった。

宗光の 3 男にあたる父の湯浅(阿豆川)宗氏は阿豆川[1]莊の地頭となり、湯浅阿豆川[1]家 の祖となった人物である。

解字: 低-イ (テイ) (氏部 1 画/5 画)の異体字から 変化したものか。一説に 低-イ の古字 ともいう。熟語:【 豆爾波 <てには >】= 豆爾 乎波 (てにをは)【 豆爾乎波 <てにをは >】 (=天爾遠波<てにをは>)(「平古止 ...<http://www21.tok2.com/home/toshinopage/kanji/1ji26.html>

鴟 氏族. 中国では、悪い鳥の代表が鴟梟(シキョウ/ふくろう や みみずく) ... <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2551> テイ魚ってのは、三国志にも出てくる西方のテイ族の 崇拝していた神の名前ですよ。 羌族の信仰していた禹と同じ神か、似 ...<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1539>

ミミズク. うかく 【羽客】 仙人・道士など空を飛ぶことの できる人。 羽人 。
<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2268> 木兎

「禹」を含む字からはかすかに「白く丸い」意味が読み取れ(偶、鴈、鴈とう)、「ウサギ」ではないかと予想されます?<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2762> (鴈) (夷)にして死す
<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1423> 羽人(仙人)の姿…ム(座 巫 ひざまずく) http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/old_site/data7.html

鴈とは?動物名。(1)タカ目タカ科の鳥。全長約 60 センチメートルで暗褐色。尾の形がタカの尾としては珍しく凹形。全国の低山や海岸などに生息し、動物や魚の死骸などを食べる。ピ

ーヒョロロと鳴きながら輪を描いて滑翔 (かつしよ...<http://www.weblio.jp/content/%E9%B4%9F> 鴈 読み方:トビ(tobi)

ワシタカ科の鳥 鷹と鷲(ワシ)には明確な 区別がなく、タカ科の中で比較的小さいものが”鷹”、大きいものが”鷲”と呼ばれています。 <http://park1.wakwak.com/~english/note/name-bird.html> 「わす(輪周)」、「くち(鷹)」など。 http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1026115730 古事記や日本書紀に「天日鷲命(アメノヒワシノミコト)」という神がいる事から、上代語に「わし」やその語源である「わす(輪過)」はあったようです。 懐古の思念「輪過 里」 懐古の思念 懐古:昔のことを懐かしく思うこと。 鷹(場合によってはワシ?)を神格化したもの ... 古代名:ヘル、ホル/ギリシア名:ホルス/別称:別綴り:- 性別:男性 ... 力強い猛禽類である鷹(場合によってはワシ?)を神格化したもの ... <http://www.moonover.jp/bekkan/god/horus.htm>

27664;族は成漢・前秦・後涼などの国を建てた。 - TeaCup 鴈 氏族. 中国では、悪い鳥の代表が鴈(シキョウ/ふくろう や みみずく) ... <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2551> テイ魚ってのは、三国志にも出てくる西方のテイ族の 崇拝していた神の名前ですよ。 羌族の信仰していた禹と同じ神か、似た ... テイ魚ってのは、三国志にも出てくる西方のテイ族の崇拝していた神の名前ですよ。 羌族の 信仰していた禹と同じ神か、似た神ということになりますね。 ... <http://>

『良く観た dance 動画(2012 年)』ランキング 482 人が見えています More....

『安倍新政権に期待する政策 10 選』ランキング 437 人が見えています More....

『今からブログ始めるならオススメ』ランキング 270 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO お薦めの同人誌即売会 pack - www.inuuniq.jp オフセット・オンデマンド印刷対応 格安のお値段で承っています 冊子印刷・文集作成はココ - www.34insatsu.com 早い・安い・超簡単!冊子の印刷専門 最短翌日発送、冊子印刷専門店 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する 家系図、家族の歴史を一冊に - www.e-keizu.com

1500 件以上の実績・10 点セット定額制 お客様の声 232 件(直筆)全国対応可能 Ads by Google スサノヲと徐福 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 16 日(水)13 時 32 分 16 秒 返信・引用

秦の始皇帝の父親は碧眼だったと伝わっています。 つまり西洋人です。 <http://ameblo.jp/yippee-happy/entry-11356739541.html> 彼の地下帝国はエジプト文明の踏襲です。 ダビデ・モーゼにその元をたどることが出来ます。

モーゼ・ダビデを祖神とする古代ヘブライと繋がりを持つ民は中国では「客家」(はっか)と呼ばれました。 この漢字の意味からも分かるようにもともと中国の土着の民族ではありません。 独自の言葉と文化と土着民族とは交わらない独特の住居の構造を作っていました。

徐福はこの客家の独自の文化を携えて日本にやってきました。 移動することは彼らの得意とするところです。 日本全国を移動しました。その先々で「緑」を増やしていきます。 たくさんの植物の種や苗を中国から持って来たと中国側の記録にあります。 土地の人々に「稲作」を教えます。 植樹と食料の確保・増産は彼らの得意とする所です。 徐福は敵を作りませんでした。それどころか外部からやって来たよそ者にも関わらず日本各地で歓迎されているんです。

それ相応の理由がなければそうはなりません…。 徐福が訪れた土地は緑豊かな豊穡の土地に変わって行ったのだと思うのです。

その考えや行動はスサノオによく引き継がれていました。

スサノヲと徐福一行との関係を考えてみましょう。

<http://blogs.yahoo.co.jp/shigechanizumo/21544968.html>

『日本書紀』によれば、スサノヲは、父神のイザナギから大海原を支配せよと命じられています。さらに、新羅との往還物語もできます。スサノヲは、海と深い関係のある神なのです。そして、先にも触れましたが、「船が無いと、この国を治めるのに不便だろう」と言って、船の材料となる樹木を植えさせます。海の支配とその手段である船の建造、それがスサノヲの役割となっているのです。では、それを支える航海術や、建造技術をスサノヲはどこで、誰から手に入れたのでしょうか。その相手は、出雲に到着した徐福一行だったのです。徐福は霊薬を手に入れたと言って東方の海上に船出したのです。当然、船の修復や、帰りの船の建造が予定されています。徐福一行の中には造船技術をもった、腕のいい職人が幾人も乗り込んでいたでしょう。さらに、古代の航海は陸地の遠影を見ながらの、目視航海が普通でした。しかし、徐福一行が乗り出したのは、陸の見えない東シナ海でした。天測や風や海流によって目指す土地にたどり着く高度な航海術が無くては、ただ無謀なだけです。巨大な財産を投資して送り出す始皇帝に対し、その航海技術力をきちんと説明したはずですが、もちろん、その担い手は、中国江南の海人たちでした。彼らは、遠洋航海術に長けていました。あるアメリカの考古学者などは、古代に船を使って南米まで行ったと指摘しています。スサノヲは、出雲で徐福に巡り会いました。そして、これら二つの技術を習得したのです。ここから、古代出雲人の海上での活躍が始まったのです。『記紀』には、出雲と海、航海、海を使った地域間交流の話がいくつも出てきます。宗像との行き来、越との行き来、新羅との行き来などです。いつも出雲のほうから、出かけて行っているのです。つまり、他の地域からは出雲に技術は無く、出雲には出かけて行ける遠洋航海術があったということなのです。ついに、宗像のタギリヒメ、越のヌナカワヒメがオオクニヌシと婚姻関係を結んでいます。この婚姻関係は、徐福一行のおかげで海原(日本海海域)を支配した、古代出雲への服従とも考えられるのです。

Ads by Google 辰韓は秦韓 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年1月16日(水)13時19分16秒 返信・引用

辰韓(しんかん)は、紀元前2世紀末から4世紀にかけて、朝鮮半島南部にあった三韓の一つ。帯方郡の南、日本海に接し、後の新羅と重なる場所にあった地域である。その境は、南にある弁韓と接しており、入り組んでいた。もともと6国であったが、後に分かれて12国になった。そのうちの斯盧が後の新羅になった。辰韓人は穀物と稲を育て、養蚕を生業とし

ていた。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BE%B0%E9%9F%93>『後漢書』辰韓伝[1]、『三国志』魏書辰韓伝[2]、『晋書』辰韓伝[3]によると、秦の始皇帝の労役か

ら逃亡してきた秦人がおり、馬韓はその東の地を割いて、与え住まわせ辰韓人と名づけたという。そのため、その地の言葉には秦語(陝西方言。長安に都があった頃の標準語で、この亡民が秦代~前漢代に渡来したことを物語る)が混じり、秦韓とも書いた。秦人は王にはならず、王族は馬韓人であった。水谷千秋は、辰韓の民の話す言語は秦の人に似ており、辰韓は秦韓とも呼ばれていたため、実際に中国からの移民と考えて間違いない、と述べている[4]。

陳勝の農民一揆は、紀元前209年のことである。さらに、『辰韓は馬韓の東において、その耆老の伝世では、古くの亡人が秦を避ける時、馬韓がその東界の地を割いたと自言していた。(魏志東夷伝)』朝鮮では、国を割いてまで秦の亡民の建国を許している」と記している[5]。また、『三国志』魏書弁辰伝によると、馬韓人とは言語が異なっていたが、弁韓人とは互いに雑居し、風俗や言語は似通っていたという。『後漢書』弁辰伝によれば辰韓とは城郭や衣服などは同じだが、言語と風俗は異なっていたという[6]。また、『北史』新羅伝には、「新羅者、其先本辰韓種也。地在高麗東南、居漢時樂浪地。辰韓亦曰秦韓。相傳言秦世亡人避役來適、馬韓割其東界居之、以秦人、故名之曰秦韓。其言語名物、有似中國人。(新羅とは、その先はもとは辰韓の苗裔なり。領地は高麗の東南に在り、前漢時代の樂浪郡の故地に居を置く。辰韓または秦韓ともいう。相伝では、秦時代に苦役を避けて到来した逃亡者であり、馬韓が東界を割譲し、ここに秦人を居住させた故に名を秦韓と言う。その言語や名称は中国人に似ている。)」との記述がある[7]。中国の歴史学者の李大龍は、新羅の前身である辰韓は秦韓とも呼ばれ、中国の秦の人が建てた国だから、新羅は中国民族が建てた国だと主張している[9]。チャン・セユン成均館大学教授は「中国の教科書には古朝鮮の歴史についての言及がなく、馬韓,辰韓,弁韓に代表される三韓時代に関しては、中国が自国の影響を多く受けたと主張する辰韓を中心に叙述している」と指摘している

[10]。

秦氏系図は仮冒か変造が濃厚であり、本当に始皇帝の裔ならば秦姓でなく嬴姓を名乗るのが自然である。出自としては以下の二つが考えられる。<http://www.myj7000.jp-biz.net/q&a/kikajin.htm> 建国前の新羅地域は秦韓(辰韓)と呼ばれ、「魏略」によれば滅亡後に流浪した秦国人末裔の亡命者の多い地域と伝えられ、高句麗や新羅の圧迫から逃れる目的で来朝して養蚕や酒造の技術を日本に伝えたとの説である。長曾我部系図によれば、「蓋聞。長曾我部氏者。其始祖從異国来。着船於日本伊勢国桑名浦。浦人以扶之。属居子茲。是浦人者桑名彌次兵衛之遠祖也。長曾我部氏発桑名、以赴土佐国。到 本山郷」とある。現在、新羅姓が三重県に多く松阪市に集住、また同市に服部(はとりべ)が奉職していた神

服織機殿神社、神麻績機殿神社が末社を含めて 18 社も占めている。正に伊勢は辰韓系秦氏の上陸地と言える。

もうひとつ考えられるのは、五胡十六国の一つの前秦で氏族の苻健が 351 年長安に入り国号を大秦として翌年皇帝となり、3 代皇帝苻堅は次々と諸国を併合して華北全土に大帝国を築き上げる。

しかし、383 年肥水の戦いで大敗北を喫して長安を放棄して衰退に向かい 394 年後燕に併合される。滅亡後に流浪した前秦国人末裔が百済経由で 396 年の来朝は、氏族が漢土西方出身で年代的にも符合する。

徐福一行は出雲族なり」とする孟憲仁が考証した説がある。また、王輯五は、出雲族は秦系大陸民族であり、考古学的には銅鐸民族であり、徐福集団に比定している。<http://www.rui.jp/ruinet.html?i=200&c=400&m=244018>

熊野の秦氏について新井白石は 1711 年の朝鮮通信使に会い、李氏朝鮮と清帝国の徐福

についての質問に熱田神宮に旧文字が、出雲大社に古文尚書が残っていると答えられています。「元和姓纂」という書物によると徐は瀛姓、伯益の後。とあり徐氏はもともと瀛氏であったことがわかります。秦の始皇帝の姓は瀛であったため、徐福と始皇帝は同族である可能性のあるわけです。瀛(えい)姓は、帝舜に賜ったとされ、その後裔は秦、徐、黄、江という。また、趙も瀛姓という。ということです。『説文解字注』によると、春秋時代の諸侯のうち、秦・

徐・江・黄はみな瀛姓であったとのこと。つまり徐福の同族に秦氏、江氏、黄氏がいて彼らも日本にやってきた可能性があります。もしそうなら秦氏の日本における起源は紀元前 2 世紀にまで遡ることになります。私は紀元前 2 世紀に滅びた秦を脱出した秦氏が 3 世紀まで 500 年間ずっと朝鮮半島に止まっていた、突然やってきたというストーリーに不自然さを感じるのです。もちろん朝鮮半島の秦氏は日本の物部氏と連絡をとりあっていただろうが、秦氏自身が物部氏とともに日本にわたって、本隊がやってくる準備をしていたという気がしてならないです。

最近発見された巻向遺跡の建物と出雲大社の造りの共通点が確認されていますから、出雲大社の創建は弥生時代に遡るかもしれません。そうすると秦氏のルーツも弥生時代に遡るかもしれません。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 16 日(水)12 時 48 分 16 秒 返信・引用 編集済

> No.1077[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 そろそろ、秦氏を明確にしましょうか。

秦氏の秦はシンの意味です。徐福の 3,000 人の童男童女の末裔になる。古事記の国生みは徐福の航海記録になり、かつ日本の記録に成る。阿毎は秦氏と考えても間違いはない。5 世紀に秦氏の「大量渡来」は韓半島から阿毎が帰国したんですな。普通なら戦争になり痕跡が残る。尚、(ヒコ、蛭子、日子、彦、)(ヒルメ、日女、比売、)

徐福(じょふく)とは、中国の秦朝(紀元前 3 世紀頃)の方士。斉国の琅邪の出身

司馬遷の『史記』の巻百十八「淮南衡山列伝」によると、秦の始皇帝に、「東方の三神山に長生不老(不老不死)の霊薬がある」と具申し、始皇帝の命を受け、3,000 人の童男童女(若い男女)と百工(多くの技術者)を従え、五穀の種を持って、東方に船出し、「平原広沢(広い平野と湿地)」を得て、王となり戻らなかったとの記述がある。

> 最近それでも長岡・山城方面から、ローマ系の遺物が出てきてますが、ここに秦氏が関わった可能性を感じま

す。 >> たぶん、新羅にローマ系の遺物がいいるのが、5世紀後半でしょうから、するとそれ以後の 秦氏の山城への移住を想定すべきで、新漢人等と一緒に渡来したなら、6世紀代が妥当でしょう。

>> それでそのころの渡来系古墳が、方墳とか円墳で明らかな特徴があるのに比して、それ以前の方が前方後円墳であり日本のそれと変わらないことが指摘されています。 >> 漢氏の渡来は5世紀にもってこれそうですが、はたして秦氏の「大量渡来」が5世紀代にあったのかどうか、ちょっとまだ確信できない感じです。教科書には、秦氏が5世紀にやってきて…と記載されているのかもしれませんが…。波多氏あたりは、武内宿禰系集団とともに、早めに4-5世紀代には周防方面の秦王国に渡来していただろうと思います。 >

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 16 日(水)11 時 33 分 15 秒 返信・引用
> No.1076[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 F 史学?なんですか

> F 史学の件は、最近になって知ったのですが、試みとしては重要だと思うんですね。 > アマチュア方面の意見をまとめて、ひとつの学会としての意見を提出する、過去にない試みだと思います。 >> ただ、なんというか、秦野さんご指摘のとおり、あまり~のように見えるのがもったいないですね。 >> もっと鑑識眼があれば、F 史学のまるまる氏の論文からの引用という形で、学会でも採用できるのではないのでしょうか。

> ただでさえ、学会側もアイデアに枯渇しているわけですし、それでも毎年数千万ももらっていて、何かまともな成果を出さないと、今の原発利権みたいに批判の嵐にさらされる可能性があったりうわけですね。考古ですでにその兆候がみえはじめていて、予算カットが進んでいますね。

>>> やはり携帯電話の特許みたいに、アマチュアの特許を、業界人が活用できれば、業界人側も結局は得するわけです。 >> ただ、あまりにも F 史学は…、鹿島云々が…という先入観が学者側にはびこりすぎて、アマチュアの論文を読むことすらなくなっているの、結局上記のような結果になっているのでしょうか。 >
> その辺の構造的欠陥の是正から始めるべきだと思いますね。

ヘブライ文字・仮名文字対応表 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 15 日(火)23 時 21 分 54 秒 返信・引用
編集済

ちょっと先日へのヘブライ文字と仮名文字(日文)との比較対応表を作成しなおしてみました。

上:節墨譜文字 下:法隆寺秘蔵文字 です。

こうみると、仮名文字の起源が、アラム語系、特に新・古ヘブライ語によって作成された経緯が明らかになるでしょう。日本語とローマ字の読み書きできる人なら、この対応性が明らかになることはすぐ分かると思います。意外に日本語は遊牧民系(つまりアルファベット)の言語にちかいです。日本人の DNA で一番多いのも遊牧民系ですから、妥当といえば妥当な結論といえるでしょう。過去の通説にとらわれすぎて信じられないだけです。

Re:参考になれば、幸いです。 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 15 日(火)18 時 16 分 20 秒 返信・引用
> No.1075[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> ヘブライ語で神を意味する「ヤ」、「ヨ」という発音 <http://www.asyura2.com/10/senkyo90/msg/522.html> > 18, 古代ヘブライ語に母音がないって本当 ? 19, 母音記号発明の宗教的理由. <http://www.h3.dion.ne.jp/~ivrit/Q&A.htm>

>> ヘブライ語で、羅針盤(=コンパス)は何と発音しますか? > 羅針盤をヘブライ語で言うと、Matzpen(マツペン)となるそうです。ヘブライ文字で は???? と表記されてます。お示しの MPH??は、古代ヘブライ語には母音がなかったため、そのままをアルファベットに写した字体と発音までを

ヘブライ語については、別にイラン系月氏・ヘブライ研究部を研究会の配下につくりたいですね。

どうも、今のヘブライ語はおそらく子音だけあっていて、母音はもしかするとほとんど違うのではないかと感じ始めてます。

それは子音だけ表記して、母音の表記記号なかったことに由来するのですが、旧約聖書が記された紀元前数百年の時代から、ユダヤ人離散の時代に至るまでに、相当母音の発音が変化しているのではないかと感じます。

その点では、万葉仮名みたいに、日本語の場合は、母音も子音も記録されているのでわかりやすいですね。

ただ藤井さんのサイトにあったように、母音の詳細な変化を自身で認識できてないとなると、ヘブライ語の母音の変化の実態を追うとすると、「ヤコブ」の記載事例のように、他の民族が記した記録を元に、類推するしかないのかもしれない。

ヘブライ語の文字系統は、アラム文字なのですが、それが後にアラビア文字・シリア文字や、ゾグド文字、ウイグル文字へと変化していきます。景教碑文にも、中国語とアラム文字が併記されていて、
<http://ja.wikipedia.org/wiki/アラム文字>

サカ・月氏との関わりでは、ゾグド文字、マニ文字あたりが重要でしょう。サカ人はスキタイ諸語で、ゾグド語とは兄弟関係にあります。元はイラン語派

<http://ja.wikipedia.org/wiki/イラン語派> サルマタイ語が特にサカ族との関係で重要そうですね。

http://en.wikipedia.org/wiki/Sarmatian_language

ゾグド語というのは、a i u +e ばかりのように見えますね。 http://en.wikipedia.org/wiki/Sogdian_language

文字のほうはセム語系のアラム語からのように、母音がないもしくは(' Y w)つまりこれで (あいう)を表す云々と書いてあります。

The Sogdian script is the direct ancestor of the Uyghur script, itself the forerunner of the Mongolian script. As in other writing systems descended from the Semitic script, there are no special signs for vowels. As in the parent Aramaic system, the consonantal signs ' y w can stand for the long vowels [a: i: u:] respectively. However, unlike it, these consonant signs would also sometimes serve to express the short vowels (which could also sometimes be left unexpressed, as they always are in the parent systems).[5] To distinguish long vowels from short ones, an additional aleph could be written before the sign denoting the long vowel.[5]

The Sogdian language also used the Manichean script, which consisted of 29 letters.[6]

a i u が主体の言語というのは、たぶん今のヘブライ語もそうでしょうし、沖縄方面とかですね。

ゾグド文字は正倉院にもみえますが、ゾグド人が来たならば、もしかすると、a i u 系の名前 とかが表記されていたかもしれません。e o がない。

奈良時代にきたペルシャ人にグラミダーがいますよね。白鳳期の「けんずはしたつあ(だつ た)」のケースもあります。

ところが、ゾグド語等をつかうサカ・月氏が東遷して半島や日本に至るまでに、現地系の母音、つまり e o を導入したということはないでしょうか。

それを五十音表にすると、まず a i u 系の文字表があって、そこに e o 系の文字を新たに付け加える。

ちょっと時間をかけて分析する必要がありそうです。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 15 日(火)15 時 45 分 23 秒 返信・引用
編集済

> No.1074[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >> 一部歴史に矛盾があるので訂正します。これで聖徳太子と倭国の意味が理解できるでしょうな。 >>

- > 502 年 蘇我 高麗(そが の こま)?

- > 4 世紀後半 渡来したのが蘇我氏 >
- > 498-506 年 武烈天皇
- > 507-531 年 継体天皇 >
- > 540 年ごろ秦氏とともに日本に渡って、欽明朝擁立の原動力となります。間違い。
- > 539-571 年 欽明天皇 >

秦氏の問題は重要です。欽明朝のころに、全国から秦氏を集める記載があるのですが、ここに 秦韓方面の秦氏もはいていたであろうと推測します。

逆に応神~雄略朝とされる百済・秦韓系の秦氏の渡来数が、実際にどのくらいだったか?も いささか疑問をもっています。

結局、後代見える秦氏の数に比して、半島系古墳や遺物が秦氏の本拠からは少ないことがあります。

最近それでも長岡・山城方面から、ローマ系の遺物が出てきてますが、ここに秦氏が関わった可能性を感じます。

たぶん、新羅にローマ系の遺物があるのが、5 世紀後半でしょうから、するとそれ以後の秦氏の山城への移住を想定すべきで、新漢人等と一緒に渡来したなら、6 世紀代が妥当でしょう。

それでそのころの渡来系古墳が、方墳とか円墳で明らかな特徴があるのに比して、それ以前のが前方後円墳であり日本のそれと変わらないことが指摘されています。

漢氏の渡来は 5 世紀にもってこれそうですが、はたして秦氏の「大量渡来」が 5 世紀代にあったのかどうか、ちょっとまだ確信できない感じです。教科書には、秦氏が 5 世紀にやってきて…と記載されているのかもしれませんが…。波多氏あたりは、武内宿祢系集団とともに、早めに 4-5 世紀代には周防方面の秦王国に渡来していただろうと思います。

秦氏と密接な関係があるのは欽明です。この時期に大きな移動の転機があります。

>『古事記』、『日本書紀』によると継体天皇は応神天皇 5 世の子孫であり、父は彦主人王である。近江国高嶋郷三尾野(現在の滋賀県高島市あたり)で誕生したが、幼い時に父を亡くし

たため、母の故郷である越前国高向(たかむく、現在の福井県坂井市丸岡町高棕)で育てられて、男大迹王として 5 世紀末の越前地方(近江地方説もある)を統治していた。近江地方説は間違い。万葉集は韓半島の倭国で歌われている。 >

>

継体がどこから来たかもそうですね。三尾周辺に本拠があり、新漢氏の近江移住とも関わって、関連の墳墓から、新羅・伽耶でみえるような金銀装飾遺物がみえてきます。血縁的には、5 世紀代の忍坂宮の王族に関わると思うのですが、文化的には、6 世紀代の新漢人の影響が つよいですね。

新漢人の記載は、遣唐使に多く見えますが、おそらく東漢氏等との対比でつけられた名称で、ある時期の帝紀に記されていたものでしょう。

それで秦野さんご指摘の韓半島とのむすびつきですが、継体陵関連で、中国式の排水溝が確認されているそうで、これらが半島にみえないとすると、中国系の渡来人がこの時期にやってきた可能性を感じます。中国系の甲冑が、半島で 1 世代をおいて、近江の新漢人系の墳墓から見えてくるのも、やはりコーカソイド系の後趙から北燕にかけての製鉄遺民の流れで、東欧系の金属精錬やガラス碗、製鉄技術がそこにもたらせていき、さらに白鳥・ペガサス伝承みたいなものと一緒に渡来して、ヤマトタケル伝承の白鳥伝承等にみえていくのですが、ここで、中国系の土木技術者、特に墳墓制作等にみえる、宮殿内部の宮廷工房にいたような技術者ですね、彼らが一斉に朝鮮に散らばって日本に来た可能性を感じます。

継体のでた高向は、高向漢人の本拠で、後の遣唐使・遣唐使にのっていくのですが、高向玄理あたりは、いわゆるバイリンガル 2 世ですね。彼ら新漢人が多数乗り込んでいます。

まだかなり言語的には中国系のそれを理解していたはずで、7世紀代前半くらいまでは、新漢人が主体となって遣唐使が派遣されていきます。

ただ、確かに後半になると3世の世代になり、藤井さんのおっしゃるように、言語的能力が足りなくなっていたので、高向玄理などは、老年になっても再派遣されるようなことも起きていたのでしょう。

ここでも藤井さんのバイリンガル理論公式が、古代史解明に役立ってることがわかりますね。

推古朝は新漢人バイリンガルの全盛期で、そのときに古事記や先代旧辞、書紀の一書等が成立した可能性を感じます。すると、見方によれば、もっと言語学的に迫れるかもしれません。

ただ、癖がある…。北燕遺民には、先のとおりコーカソイド系の羯族等が入っていたとすると、言語的にもラテン語的な部分が出てこないといけないわけですが、ちょうど最近ラテン語と日本語の比較研究がはじまったところで、そこそこ相関性が見え始めていることがありますね。

遺伝子的にはケルト系のHLAが、日本の第3位まで登っていて、北陸系の分布あるので、新漢人系の子孫ではないかと感じてます。

たぶん、6世紀末の金銀装飾遺物が、近江や山城方面の古墳から多く出土する背景には、この1世、もしくは2世の寿命がつきて、埋葬されていく経緯で、一部が埋葬され、また一部は上宮家などに伝来したので、結果としては、分割されていくこととなったのでしょう。

教科書に渡来時のことを載せるなら、不確定な5世紀代の渡来時の影響とは別に、新漢人の話を載せるべきだと思いますね。こちらのほうが、影響力が強いですよ。

ただ、問題は新羅古墳から日本の新漢人の古墳にみえる東欧系遺物の話ですね。石窟人や高句麗のそれともかわってきて、ひとつは中国・韓国系の歴史家への配慮、もうひとつは皇室への配慮で、面はさみでわかっているけども触れるのをためらっていて、遠回りにしか発言しない実態があります。

もちろんほとんどの古代史家は、そのことにすら気付いてないのですが、一部の人はちゃんと気付いていて、大御所とかも、1文中の「数文字」くらいその辺をぼかしぼかし触れているというところですよ。藤井さんの大御所のケースと同じです。

結局、その辺のことを大々的に論じると、まず「とりつぶし」にあうでしょうし、マスコミが騒ぎ立てると、学校や研究機関ごとにとりつぶしにあうかもしれません。

こういう半島とか皇室にダイレクトにかかわる研究分野は、すべての職も肩書きも何もなくなっても構わない人がやるべきで、そうでない人は黙って何も書かない、批判もしないというのがよいように感じますし、実際そうなのではないでしょうか…。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 15 日(火)13 時 53 分 15 秒 返信・引用 編集済

> No.1073[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>

- > 国之常立神は「常立=常陸=日立=常陸国」なんですな。 >
- > 古事記は国之常立神、日本書紀は国常立尊で之の差ですな。 >
- > 古事記、日本書紀は阿毎系が書いた。 >
- > 蘇我、中臣は阿毎系でないので言葉が言えるが書けない。倭国、弓月君は阿毎系で日本書紀。古事記は阿毎系が書いている。方言、表記の差でないか。扶桑国の文章から韓半島の倭国、弓月君も日本の倭国も同一言語だが、筆記は異なると思われる。

なるほど、常立国の件は重要ですね。

「底立:は、「常立」の語の意味を理解していない半島渡来後すぐのバイリンガルが、倭人の発音を聴いて、そう記載したとかいう藤井さんの類推ができるかもしれません。

半島渡来の年代から、2 世までの年代を洗い出すとよいかもしれません。

ひとつは 375~420 年代、2 世の時代はしたがって 420~50 年代。
次が 530~40 年代、2 世の時代は 560~600 年代、

さらにいえば、170 年、240 年代あたりも考慮してもよいかもしれません。 倭王武の文章や、ワカタケル関連もそうですね。

>山田史は秦野の歴史と相当異なる。9~10 割は創作だろう。 古田は 10 割だが。 F 史学の件は、最近になって知ったのですが、試みとしては重要だと思うんですね。

アマチュア方面の意見をまとめて、ひとつの学会としての意見を提出する、過去にない試み だと思います。

ただ、なんというか、秦野さんご指摘のとおり、あまり~のように見えるのがもったいないで すね。

もっと鑑識眼があれば、F 史学のまるまる氏の論文からの引用という形で、学会でも採用で きるのではないで しょうか。 たださえ、学会側もアイデアに枯渇しているわけですし、それでも毎年数千万ももらって いて、何かまともな成果を出さないと、今の原発利権みたいに批判の嵐にさらされる可能性 だったありうるわけです。考古ですでにその兆候がみえはじめていて、予算カットが進んで ますね。

やはり携帯電話の特許みたいに、アマチュアの特許を、業界人が活用できれば、業界人側も結 局は得するわけ です。

ただ、あまりにも F 史学は…、鹿島云々が…という先入観が学者側にはびこりすぎ て、アマチュアの論文を 読むことすらなくなっているの、結局上記のような結果になっ ているのでしょう。

その辺の構造的欠陥の是正から始めるべきだと思いますね。 参考になれば、幸いです。投稿者:棘の紀氏 投 稿日:2013 年 1 月 15 日(火)13 時 01 分 35 秒

返信・引用 ヘブライ語で神を意味する「ヤ」、「ヨ」という発音

<http://www.asyura2.com/10/senkyo90/msg/522.html> 18, 古代ヘブライ語に母音がないって本当 ? 19, 母音記 号発明の宗教的理由. <http://www.h3.dion.ne.jp/~ivrit/Q&A.htm>

ヘブライ語で、羅針盤(=コンパス)は何と発音しますか? 羅針盤をヘブライ語で言うと、Matzpen(マツペン)とな るそうです。ヘブライ文字で は???? と表記されてます。お示しの MPH??は、古代ヘブライ語には母音があ なかったため、そのま まをアルファベットに写した字体と発音までを含めた字体とでは、異なるのかも知れませ ん。 http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1433077804

ワダ …水 M…マイム 開拓にはげむ喜び <http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/355>

委陀(ワダ)・南加羅(アリヒシノカラ)・阿羅羅(アララ)の六つの城を 割譲

...<http://www.saturn.dti.ne.jp/~ttshk/framepage12.htm>

日本書紀や他の歌謡との関連で、語られている人は、太子、崇峻天皇(当時はまだ天皇の称号 はなかった)、蘇 我馬子、崇峻天皇の刺殺者である東漢直駒(やまとのあやのあたこま) です。

「記 7」と「紀 6」の歌謡で、一部の歌詞が重複して他が異なっているのは、一つのヘブライ文 をそれぞれで分担し た為です。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)23 時 52 分 26 秒 返信・引用 編集済

> No.1069[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

一部歴史に矛盾があるので訂正します。これで聖徳太子と倭国の意味が理解できるでしょう な。

391 年 高句麗が百済を討って配下に入れたので、その報復として百済・倭を征伐した。

倭の五王 413 年、讃 438 年、珍 443 年、済 478 年、武 502 年 蘇我 高麗(そが の こま)? 4 世紀後半 渡来したのが蘇我氏

498-506 年 武烈天皇 507-531 年 継体天皇

540 年ごろ秦氏とともに日本に渡って、欽明朝擁立の原動力となります。間違い。 539-571 年 欽明天皇

391 年と 540 年の間に「倭の五王:413 年から 502 年の約 100 年間に、中国の南朝と通交した 倭(日本)の五人の王者」が存在する。

以上を整理すると韓半島の歴史だが自然に考えると蘇我氏は倭の五王系で武の子供:蘇我 高麗になる。

その後の継体天皇は韓半島の越国だろう。 製鉄文化は紀元前に存在している。技術は秦から渡来する。 継体天皇の住所が韓半島から出雲風土記の綱引き神話後の日本の福井県に成っている。

『古事記』、『日本書紀』によると継体天皇は応神天皇 5 世の子孫であり、父は彦主人王である。 近江国高嶋郷三尾野(現在の滋賀県高島市あたり)で誕生したが、幼い時に父を亡くした ため、母の故郷である越前国高向(たかむく、現在の福井県坂井市丸岡町高棕)で育てられ て、男大迹王として 5 世紀末の越前地方(近江地方説もある)を統治していた。近江地方説 は間違い。万葉集は韓半島の倭国で歌われている。

『冬の防寒アイテム』ランキング 495 人が見えています More....

『好きなバスケ選手(漫画)』ランキング 533 人が見えています More....

『2012 年おすすめ映画』ランキング 705 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)23 時 42 分

49 秒 返信・引用 編集済 > No.1072[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 古事記に亡命百済人の件でわかるのですが、古事記に見える。古事記のどの部分を言っ ているかが問題です。

日本書記の国生み伝説では前半を述べている。古事記国は後半部分。その後、相互に加筆し たのではないか。出雲勢と黄泉勢の地域差でしょうな。

> 古事記に、森さんが指摘する書き分けが見えるというのが気になるんですね。万葉に見 えるのは、亡命百済人の件でわかるのですが、古事記に見えるというのが…。 >

国之常立神は「常立=常陸=日立=常陸国」なんですな。

古事記は国之常立神、日本書記は国常立尊で之の差ですな。

古事記、日本書記は阿毎系が書いた。

蘇我、中臣は阿毎系でないので言葉が言えるが書けない。倭国、弓月君は阿毎系で日本書記。 古事記は阿毎系が書いている。方言、表記の差でないか。扶桑国の文章から韓半島の倭国、弓 月君も日本の倭国も同一言語だが、筆記は異なると思われる。

> 松本克己氏は上代の自立的単音節語、特に単音節名詞の「子(コ)」「粉(ソ)」「麻(ソ)」「戸 (ト)」「野(ノ)」など殆どが甲類であることを指摘しているが、それはこの/O/を明瞭化に伴う円 唇化で説明できる。

> ↓は関西方言話者の、「その戸」と「能登半島」(上代に於いて、戸は甲類、能登の「登」は乙 類)、「うちの子」と「のこぎり」の発音である。 > 特に、関西方言では単音節名詞は、長音化して「子」は/コー/、戸は/トー/、「野」は/ノー/と いう風に強調して発音されるが、その場合も必ず円唇化して甲類になる。

>> これは、一書でも、高皇産霊尊(たかみむすひのみこと)を使っていて、先代旧辞でも神皇

産霊を使っていることをかんがえると、産巢日神のような「日」「日子」を、「彦」とか「産霊」に 統一したのは、記紀

編纂時ではなく、その前の天智6年、あるいは蘇我時代の編纂の影響と みなすべきでしょうか。 >

様子を見ます。

>朝鮮式山城の件ですね。関連して大野城とか、菊池城がおもしろいですが、吉備方面にもあります。660年代から、710年代まで40年ありますから、日本語に長けたものもできた可能性はありますね。

大野城:千葉県、福井県、愛知県。菊池城 気きませんでした。

>ところが、記紀の編纂に際して、その第四書、正統だった?第1書以外のものを、複数採用した可能性がありますね。 >中には、「底」の音のように、半島系??の撰者によるものもあったりして、それらをまとめる際に、中国人ではなく、神代は山田史等だったので、そのまま見過ごされた…と見なすべきでしょうか。

>山田史は秦野の歴史と相当異なる。9~10割は創作だろう。古田は10割だが。

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)21 時 14 分 36 秒
返信・引用 編集済

> No.1067[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>> 古事記は瑞穂の国の倭人が記録。日本書記は韓半島の倭国の倭人、弓月氏が帰化後記録。 >

古事記に、森さんが指摘する書き分けが見えるというのが気になるんですよ。万葉に見えるのは、亡命百済人の件でわかるのですが、古事記に見えるというのが…。

>「天地開闢 天地(あめつち)の創成、天地の初め」ですが日本書記と古事記を比較すると > 倭人、弓月氏の出身地が読み取れそうですね。 >

天地開闢の条はいいところに注目されましたね。かなり立派な漢文体なのですが、「一書」に天地開闢条の記載に6種もあって、内容が異なるというのがよく考えてみるとおかしな話です。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/天地開闢_\(日本神話\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/天地開闢_(日本神話))

「常立」とすべきところを、第3書だけ「底立」になってますね。「トコ」が「ソコ」になっている。第1もその「底立」を別名で引用してます。

高皇産靈尊(たかみむすひのみこと)が入るのは、新漢人系の扶桑信仰の特徴を持っていて、中臣・大伴とも関わりそうなものですが、第四書だけです。これはどういうことか。「常立」の語です。

なおタジマモリの話は「常世国」ですね。

それらと古事記の位置づけですね。旧辞記。

古事記が高御産巢日神(たかみむすひのかみ)で入ってますね。「常」の字を用いてます。

そうすると、藤井さんの本に出ている下記の記載が関係するでしょうか。 0. とこよ(常夜)/とこよ(常代)

常夜行くの話は確か神功関連ですね。新羅始祖伝承関連・新漢氏系か。

こちらも藤井さんの本から。

ところで、この「/O/」を明瞭に発音しようという意識が働くとも円唇化してしまうという法則は、常に明瞭に発音しなければならないオ段音の単語の /O/は/o/(甲類)になるということである。

松本克己氏は上代の自立的単音節語、特に単音節名詞の「子(コ)」「粉(ソ)」「麻(ソ)」「戸(ト)」「野(ノ)」など殆どが甲類であることを指摘しているが、それはこの/O/を明瞭化に伴う円唇化で説明できる。 ↓は関西方言話者の、「その戸」と「能登半島」(上代に於いて、戸は甲類、能登の「登」は乙類)、「うちの子」と「のこぎり」の発音である。特に、関西方言では単音節名詞は、長音化して「子」は/コー/、戸は/トー/、「野」は/ノー/という風に強調して発音されるが、その場合も必ず円唇化して甲類になる。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/6shou.html>

これは、一書でも、高皇産靈尊(たかみむすひのみこと)を使っている、先代旧辞でも神皇産靈を使っていることをかかんがえると、産巢日神のような「日」「日子」を、「彦」とか「産靈」に統一したのは、記紀編纂時ではなく、その前の天智6年、あるいは蘇我時代の編纂の影響とみなすべきでしょうか。

天御中主が見えるのも、古事記と第四書。

ただ、蘇我時代のは、古事記と関係するような気がしますね。これが、後の第四書と系統を一緒にするならば、

新漢人や渡来系の影響を受けた古事記の成立がまずあって、それからその系統の延長線上に第四書が仕上がる。、そこで一部、文字の統一改変が行われるのですが、日子を彦のようにしてしまう背景には、日本号の成立と関係して、天智・近江朝の関係とみなせれば、やはり天智6年。しかし、第1書がやはり総合的にまとめた経緯があるので、これを天智6年とすべきか、さらに後の天武あたりにもっていくか。

あと、先代旧辞と、古事記の先の類似性は、旧辞とで接点がでてきます。

ところが、記紀の編纂に際して、その第四書、正統だった？第1書以外のものを、複数採用した可能性がありますね。中には、「底」の音のように、半島系??の撰者によるものもあったりして、それらをまとめる際に、中国人ではなく、神代は山田史等だったので、そのまま見過ごされた…と見なすべきでしょうか。

ただ、ちょっと神名が変化している、

第1が第3を引用してまとめているんですよね。第1が、ある時期の公式な記録だった可能性も感じます。これが天智時代のそれとすると、なぜ、それをもとにして記紀を編纂しなかったのか？

天智朝の近江・新漢人が強い時代から、やはり時代が経って、祭祀神の序列や氏族もかわり、さらに書記官も、新漢人主体から、先のとおり不比等と親しかった王辰爾系や、その後…が加わっていき、変化した可能性を感じますね。

- ・ > 白村江ですが百済帰化人の救出作戦で敗戦ではない。
- ・ > 百済帰化人は日本書記を書いていない。
- ・ > 百済帰化人は各地に城を造ったのだろう、彦根城が百済形式の日本最古の城だろう。 >
- ・ > 彦根は渡来系ですな、家紋も田道間守(たじまもり)ですな。 >>

朝鮮式山城の件ですね。関連して大野城とか、菊池城がおもしろいですが、吉備方面にもあります。660年代から、710年代まで40年ありますから、日本語に長けたものもでてきた可能性はありますね。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)19 時 50 分 23 秒 返信・引用 編集済

> No.1068[元記事へ]

藤井游惟さんへのお返事です。

秦野です。「上代特殊仮名遣いに関する画期的研究」に首を突っ込みましょうか。

渡来人の分布と先祖の追跡はできます、知りたい所をお知らせ下さい。 注意することは、日本では過去へ3900年が限界です。 それと、多く混血があるのであしからず。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)19 時 26 分 16 秒 返信・引用 編集済

> No.1068[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

さっそくお返事ありがとうございます。

> 皆様、私の説の中核をご理解頂けた様で、幸いです。 >> 私の『『記紀万葉』言語的外国人記述説』は、歴史学にも考古学にも、そして朝鮮語学にも関係無く、 > 音声学だけで証明できるのであり、この根幹部分の議論

に「専門家」として参加できるのは 音声学者と国語学者だけ。 >

先ほど再度、第4章から拝読させていただき、ようやく藤井さんのおっしゃりたいことがわかってきたように感じます。

確かに、自分の話す母音の詳細な変化を聞き分けられないのに、聞き分けて書き込んでいる記録があるということは、まったく外国人の筆記官が記していないと無理だということも理解できました。

そして、実質的な外国人や2世がいなくなった奈良末期から平安にかけて、その詳細な変化を記録したものもなくなるということも、そのとおりだと思います。

そして日本語も理解しないと行けないわけですから、外人系でも2世バイリンガルあたりがもっとも有力候補と言えるでしょう。

それで、また細かいアクセントや子音の差については、日本人自身でも理解できているものですが、条件母音のような部分にはまず気付けないということも読んでいてなるほどと感じました。

いわば絶対日本人自身が気付けない部分、この部分を記録した人がいるという点が重要ですね。

> そして、これまで言語学者・国語学者・朝鮮語学者・中国語学者を含め、数百人にこの実験をやらせてみましたが、> 12を否定した者はただの一人もいません。

たぶん、そうだと思います。

- > 何百回実験を繰り返しても同じ結果が出るものを音声学者が否定するわけではなく
- > (日本音声学会全国大会でも発表していますが、誰も否定しませんでした)、
- > 残る敵は国語学者だけですが、
- > 「上代特殊仮名遣い」というテーマの専門家を自他共に認める国語学者達が、
- > 実験したすべての人間が肯定しているこの2つの法則の一致を否定する方法はただ一つ。 >
- > もう一度、『記紀万葉』の資料の山を韻書に照らして分析し直し、
- > 橋本進吉以来 100年以上に亘って自らの先達達が苦勞して蓄積してきた
- > 「上代特殊仮名遣いオ段甲乙書き分け」に関するデータの側を自らの手で否定し、
- > 「この2つの法則は一致していない。従って藤井の言っていることは誤りである」
- > ということだけです。(笑)

この手の問題は、実は古代史にもありうることです。ただ幸いにも、データ面での分析は比較的信用に足る形で考証されてきた経緯があり、さすがは日本人だと感じますね。

> 実は、国語学者の中にも拙論を正しく理解し、> 私に対し個人的には「上代特殊仮名遣いに関する画期的研究」と賞賛してくれている者は 沢山いるのですが、> 一方で、古くからの友人ですら、拙著の書評を書いたり、私を研究会やシンポジウムに招いたりして、> 拙論を広めることに力を貸してくれようとはせず、公的には無視・黙殺を貫いています。 > (これまでのところ、公式に拙論の支持ないし評価を表明してくれている国語学者は、> 木簡と漢字音が専門の愛知県立大学教授の犬飼隆氏だけです)

利益にならないことは黙殺するというのは、今の日本社会の常識となっていますが、ただ学問的にはあまりよい傾向ではないですね。利害が自分たちと反しても真実を追求する姿勢のほうが重要です。その辺の純粋なアカデミズムへの志向は一時期合ったように見えるんですけど、権威者が大きくなりすぎている現代では難しいのかもしれないですね。

> 国語学者達が拙論の無視・黙殺を続けている理由は明白、「松本克己の異音説問題」にあります。

- > <http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/9Matumoto.html> >
- > 1975年に発表され、「上代特殊仮名遣い研究の停滞をうち破る画期的新説」

- ・ > 「視野の狭い国語学者の世界に、視野の広い言語学者が風穴を開けた」
- ・ > とともにやされ、それから 40 年近く経った今日でも「有力仮説」として生き残っている
- ・ > 言語学者・松本克己氏の「上代特殊仮名遣いオ段甲乙異音説」は、
- ・ > 実は「異音(allophone)」という概念の完全なる誤解に基づく「トンデモ説」以外の何者でもありません。

>
ともあれ、藤井さんのおっしゃるように、松本さんも先の森さんも、どこをみても渡来系だと は気付いていても、なかなかおおっぴらに渡来系で押し通そうとしない背景には、別の問題 があるように感じます。

特に国語学とか、日本人のアイデンティティーを探究する分野では、結論をより日本的にも っていきたいという思いもあるかもしれませんね。 またそのように「日本人」を刷り込まれてきた教育があるので、なかなか頭が切り替わらない のでしょう。

「視野の狭い国語学者の世界に、視野の広い言語学者が風穴を開けた」という世評に対し猛 反発しながら、 > 40 年近くに亘ってこれが「トンデモ」であることに気づかない国語学者達。 >

> 松本氏は、12 を完全に誤解していますが、他の言語の事例から類推して あまり国語学会にはかかわらないでまだしばらく 10 年くらいそっとしておいてあげて、別

の考古学とか日本古代史で支持者を集めたほうが得策のように感じますよ。

> 松本異音説は、1980 年代以降、上代特殊仮名遣いの概説本には必ず取り上げられており、 > 大学の国文科・日本文学科の授業やゼミでも教えられており、 > いやしくも大学院まで卒業した国語学者・国文学者であるならば、 > 専門分野に関係なく「松本説=異音説」であることぐらいは常識として知っています。

> (今まで「松本説なんて全く知らない」などという国語学者・国文学者に会ったことは ありません)

実のところ、古代史の授業でも、森さんの本をやっと読み始めるくらいで、ぜんぜん藤井さん のおっしゃるような言語体系の話はでてこないんですね。条件異音云々など、いままで思い 浮かびすらしらないですし、それが自分たちが毎日つかっている記紀や万葉に現れているなん て、まったく驚き以外なにものでもないですよ。

ただ、おそらく欧米系の外国人が、日本語と日本の古代史や国文学の世界を理解できたなら 藤井さんと同様な意見をすぐに指摘するだろうと思います。韓国や中国人の研究者で日本国 文学や音声学をしている人はいないのですか?気付かなかったのかな…。

ただ確かに気付いても、専門レベルで論議できるのは、ごく一部で、それ以外は万葉集の云々 が韓国人説みたいな恣意的な形でしか発表できないのかもしれない。

> 国語学者・国文学者であれば誰でも知っていながら、 > 松本説が「トンデモ」であることを指摘した者は一人もいないばかりか > 「へえ、『記紀万葉』では異音(allophone)が書き分けられていたんですか?

> てことは、松本さん、あんた『記紀万葉』を書いていたのは、外国人だったって言うんで すか? > 外国人だったと言うなら、なに人だったんですか? 中国人ですか? 朝鮮人ですか? それ以外ですか?

> なに人が、自らのどういう音韻体系に照らして、この 2 つ母音を別の音素と判断したんで すか?」 > と追求した人間が「一人もいない」ということは、 > 国語学者・国文学者の中に「異音(allophone)」という概念を

> マトモに理解していた人間は「一人もいなかった」ということになります。 > (実際、これまで出会った国語学者・国文学者の中に > 私が教えてやるまで、「異音(allophone)」の概念をマトモに理解していた者は、 > 文字通り、一人もいませんでした)

いや、ほんとに驚くべきですが、誰もいないはずですよ。みなさんびっくりしたでしょう。

何百年何万人が読んでも、みなが同じ視点なら、誰も気付かないということが世の中にはし ばしばあります。

条件異音について気付いている日本人は 1 億人いて、藤井さんともう数人だけかもしれませ ん(笑)

そして気付いても、また疑いはじめて、もとの木阿弥にもどってしまうことでしょう。

> この、国語学(国文学)という学問自体の面目を丸つぶれにする事実を拙論は暴露しているため、

- > 内心では拙論を高く評価している国語学者達も、
- > 「業界の裏切り者」のレッテルを貼られるのを恐れ、無視・黙殺を貫いているのです。
- >
- > 例えば、斯界では有名な G 学院大学の A.S.教授は、
- > 私が 2001 年に「国語学会春期大会」でこの説を発表した際に拙論を高く評価し、
- > その後も私的研究会などでの発表など、色々便宜を図ってくれていたのですが、
- > 拙著出版の 2007 年以降、私の批判は松本氏よりも「国語学」という学問のあり方、国語学者 全て向けられた批判であることが解り、> 最近では拙論普及に力を貸してくれるどころか、露骨に妨害工作までするようになってき

ました。

>

なんか藤井さんの次に話すことを預言してしまっていますが、結構他人のことというのは、門外漢でもある程度勘のいい人なら、この人の学説はこの辺があっていて、ここがまちがっ ている、学会ではこうこう評価されて、こうこうなるだろう、という予測がつけやすいものです。ところが自分の専門になると意外にも気付かないでもがくことになりますね。

やはり別の分野から、積極的に評価・批判できるシステムを造らないと、いつまでたっても 気付かない、気付けない、気付いても権威が重くてかえられない…といった弊害が続く ような気がします。

まともな古代史学会ももう 10 年以上顔出していないですが、報告前から、すでに結果がわか っていたりするものです。だれがどこをどう批判して、どこがどうなって、どう黙殺されてい いたか…。

ただ、そのときは、解明できなくても、10 年経てば新しい資料も出てきたりしますし、別の 見方も出来ることも多いですね。藤井さんの本ではないですが、一度ミスしたらもう終わり というのも、あまりよくないんです。古代史でもおそらく今通説となっていることの、数分の 1はそのうちひっくり返りますよ。

誤植とかミス引用とか小さいミスはしてないんだけど、学会レベルでの大きなミスが起こっ ている…。

特に渡来系の分野はそれが多く起こりえるわけですし、それゆえ、はやい時点で諸外国や諸 分野との連携を強化しながら、その是正に努めるべきだと思います。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)16 時 58 分 8 秒 返信・引用

> No.1065[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

> >秦韓系の蘇我・秦氏系の移動、それ以前にすでに渡来していた武内宿祢系同族が迎え入 れたりする時代のそれで、よく当時の状況を表した用法だと言えるでしょう。秦野さん注目 の弓月君、百濟・秦韓系の秦氏です。

>

> 395 年、王はみずから碑麗(ひれい・沃祖地方)を討伐した。翌 396 年、王は水軍を率いて 百濟国を討った。その理由は、百濟と新羅はもともと高句麗に隷属し朝貢していたが、倭 (注)が辛卯の年(391 年)に海を渡り百濟などを打ち破って臣下としたためである。王は 百濟の多くの城を占領したにもかかわらずなお抵抗したので、漢江を渡り、王城を攻めた。百 濟王は多くの貢物をだし、家臣になることを誓ったので、王の弟などを人質として凱旋した。 >

> 秦王朝の末裔や秦王朝の技術者を引き連れて日本に来た事が分かる。 .<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs> >

>

この碑文の件ですが、392年から即位した百済の「阿莘(アシン)王」(392-405)が、高句麗の圧迫に対して、倭のほうに救援を求めていたことがあり、高句麗側からみると、倭が391年に百済を討って配下に入れたので、その報復として百済・倭を征伐したとの内容になってます。

この391年ごろには、辰斯王が日本に対して失礼なことをしたので、武内宿禰系の集団が百済に向かって、結局百済のほうで詫びてその王を殺して、次の阿莘(アシン)王を建てたとの記載があります。

ただ、391年の時点で、高句麗にかなり攻められて領土をとられていた経緯があり、広開土王の碑文は、征伐する名目を示しているように感じますね。

おそらくその前の吉備の造山古墳を残したであろう吉備津彦の時代から、すでに倭に武内宿禰系集団は進出していたのですが、最終的に阿莘(アシン)王も吉備方面に渡来して東漢氏の阿知使主になり、それらの原動力で河内王朝が成立します。

ただ、百済・秦韓系の王族は、しばらくまだ秦韓地域に居続けて、つまりその秦韓の首長氏が蘇我氏だったのですが、最終的に任那滅亡の前後で、540年ごろ秦氏とともに日本に渡って、欽明朝擁立の原動力となります。

武内宿禰系と蘇我系は元は同じなのですが、一部は4世紀後半には渡来し、最後に渡来したのが蘇我氏ということでしょう。

東漢氏は、375年前後から文字文化を百済にもたらした製鉄・乗馬技術者集団で、西晋・もしくは東晋系司馬氏や羯族の末裔ではないかと考えます。彼らも百済・秦韓を経由して日本に渡る際に武内宿禰系の吉備氏や蘇我氏の配下にはいるので、後に蘇我氏が東漢氏をもって、半分蘇我系の崇峻を殺させるわけです。

ここで、崇峻を蘇我が殺すという先の書紀の改ざん部分ですね、実際にはどう記されていたのか、ここが課題です。

秦韓の首長・蘇我氏的には、先の武内宿禰のケース同様に、同族の一人を殺すことくらい大した問題ではなかったはずですね。実際、当時の歴史書には平然と記載されてあったわけですね。

ただ、それが後の天皇制が確立してきた奈良時代になってくると大きな問題として取り上げられることになったのでしょうか。こちらが崇峻殺害の記録で、次が改ざんが予想される乙史の変の記録。

『日本書紀』の崇峻天皇の五年十一月条に「馬子宿禰、群臣を詐めて曰はく、『今日、東国の調を進る。』という。乃ち東漢直駒(やまとのあやのあたこま)をして、天皇を弑せまつらしむ。是の日に、天皇を倉梯岡(くらはし)陵に葬りまつる。」と出ている。

「同年6月12日、三国の調の儀式の儀式が行われ、皇極天皇が大極殿に出御し、古人大兄皇子が側に侍し、入鹿も入朝した。入鹿は猜疑心が強く日夜剣を手放さなかったが、俳優(道化)に言い含めて、剣を外させていた。中大兄皇子は衛門府に命じて宮門を閉じさせた。石川麻呂が上表文を読んだ。中大兄皇子は長槍を持って殿側に隠れ、鎌子は弓矢を取って潜んだ。海犬養勝麻呂に二振りの剣を運ばせ佐伯子麻呂と葛城稚犬養網田に与えた。」

ここで、外国もしくは東国からの調の儀式に、天皇が参列する点で共通性がみえます。

天皇をおびき寄せる、という要素が必要だったんですね。

後者は後漢書の引用ですが、清流派の2人とそばに皇太后がいて、蘇康等を殺すことになりすます。

前者ももしかすると、中国文献の引用からもってきた件も考慮すべきでしょうか。

まず蘇我氏・秦韓・武内宿禰といった半島系勢力の歴史を、どう消すかが課題となったことは理解できます。

実際に天智・藤原側でかなり気になる記載があったので、これらの部分だけ改ざんしたのでしょう。

蘇我系が悪く映ればそれでよかったのでしょうか。

東漢氏は過去の複数の罪について、天武に詰問されたものの、その件に許しが出たとの記載がありますね。壬

申の乱の行賞の意味もあったでしょう。

677年40天武天皇の東漢直等に出された詔「七つの不可」の話。これは東漢氏は過去に7件の天皇からみて許されない裏切り行為を...

天武は東漢氏を悪くおもってないし、過去の崇峻殺害他の記録があったことを知ってます。

そうすると崇峻殺害自体は、中国文献引用の物語ではなかった可能性が高いでしょう。蘇我が東漢氏に命じたのではなく、別の人が命じていた記録を、蘇我にしたてた。…。

三韓の調の記載は、この崇峻の記載から発展引用させたようにもみえますね。あるいは逆に三韓の調の記載を転用して、東国の調にして挿入したか。

天智朝は、蘇我系と対立する息長・継体系で、さらに元をたどると大彦系や中臣ともかかわってくるのですが、天智朝時代には、蘇我系の歴史は消したかったでしょう。

それで南淵漢人や新漢人日文氏等の新漢人がもたらした中国系の党錮の禁の伝承をそのまま、乙巳の変のところに挿入する。

ただ、これが先の天智6年におこなわれたならば、新漢人系の執筆の癖が、改ざん部分にみえなければならないのですが、あるいは奈良時代になって天智系の意図を組んだ不比等周辺の新漢人か、あるいは山田史だったかもしれない。

河内の山田宿祢が魏に祖先をもってくるのは、遣唐使の日文氏等が祖を魏の曹植を祖に持つてくるのと似た傾向があります。

魏の王昶を祖にもってくるのも、「史」ならではで、中国文献をよく読めないと始祖にもってくることは難しかったでしょう。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/王昶_\(曹魏\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/王昶_(曹魏))

右京の山田造は周靈王をもってきており、周代の系譜知識がないと無理ですね。

おそらく山田氏が東漢氏や秦氏の同族系譜に入らないことも確かで、百済系・高句麗系だったら、姓氏録でそこに分類されるので、そうすると先の新漢人か、あるいは白猪史系の可能性を感じますね。

遣唐使が圧倒的に新漢人が多いのですが、遣新羅使をみると、前半は圧倒的に近江系・新漢人系が多いように見えるのですが、後に吉備方面・白猪史などもみえてきます。

蘇我氏のもとで、白猪三宅設置の記載にでてくるのが、田令・葛城山田直で、要するに屯倉の戸籍をつけた渡来系文官です。

郡、置白猪 屯倉。 敏達紀四年二月壬辰朔 二月 壬辰朔。馬子宿祢大臣還干京師、復命屯倉之事。

◎ 欽明紀十七年七月己卯条 秋 七月甲戌朔 己卯。遣蘇我大臣稻目宿祢等、於備前児嶋郡、置 屯 倉。

以葛 城山田直瑞子、為

田令。脚鈴臨腦ム 11 欽明紀三〇年正月辛卯朔条

葛井連について

『続日本紀』養老四年五月の条に、「白猪史の氏を改めて葛井の姓を賜ふ」とある。葛井氏はもと白猪史だった。

葛井連の葛井は、河内国志紀郡藤井に由来する。

その白猪史だが、延暦九年七月の津連真道らの上表によれば、

渡来した百済の辰孫王(貴須王の孫)の曾孫午定君の三子が分れて白猪史、船史、津史になったとある。

白猪史がのちの葛井連・葛井宿禰、船史がのちの船連・宮原宿禰、津史がのちの津連・菅野朝臣・津宿禰・中科宿禰となった。

延暦十年正月に、葛井連は葛井宿禰を賜姓とある。

<http://achikochitazusaete.web.fc2.com/manyouutorai/fujii/moroai.html>

地理的には先の山田史のところと近いような気もしますね。
近仇首王の孫の(王)辰孫王の子孫になってますが、ここで王姓が出てくる。

そして、その子が先の辰斯王 その子とすると、余姓になりそうですが、王姓。 辰爾がその子になるわけですが、その辺の系譜に疑問も指摘されてますね。 <http://www.k4.dion.ne.jp/~nobk/kwch/ohsinji.htm>

阿知吉士、つまり東漢氏が読んだ王仁は、文忌寸の祖で、百済からきた東漢氏の同系とみて間違いないでしょう。

ただ、それとは別に王辰爾がいたと考えるべきかどうか、その辺が課題ですね。

文宿祢、武生宿祢、桜野首 左京諸蕃漢伊吉 連連出自長安人劉家揚雍也

みたいに、伊吉連氏が遣唐使に乗っていったせいで、長安人に祖を持っていくケースもあり、遣唐使人の知識の広さが伺えます。

伊吉連は、やはり先の山田造と同様に周に祖をもっています。これが書紀に、伊吉博徳の書として引用されていますが、あまり出来のよくない漢文で、しかしそのまま記録として訂正されずに残された。壱岐の海運関連の氏族でもあり、吉士と同様に遣唐使・新羅使で重宝されたのでしょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/伊吉博徳> おおむね近江朝側に着くケースが多かったようですね。

藤原不比等と、先の654年の天智側から派遣された遣唐使人田辺史との関わりも重要で、律令編纂に田辺史が2人も入るには気になるところです。 <http://www.geocities.jp/yasuko8787/o-109.htm>

ここで白猪史が律令編纂に入ってくることがありますが、

上毛野朝臣———下毛野朝臣同祖——多奇波世君の後———左京皇別下 (大泊瀬幼武天皇(雄略)の御世、努賀君の男、百尊は娘の出産のため婿の家に向かい、夜を犯して帰った。応神天皇御陵辺において、馬に乗った人に会い、相共に語り合い、馬を交換して別れた。翌日、換えた馬を見ると土の馬であった。よって、陵辺君の姓を負う。百尊男徳尊、孫斯羅は皇極天皇の御世、河内山下田を賜れ、文書を解くをもって田辺史となる。孝謙天皇の天平勝宝二年、改めて上毛野公を賜う。弘仁元年、改めて朝臣姓を賜う。姓氏録) (田辺史伯孫が応神天皇陵付近で馬を交換した=日本書紀) (天平勝宝二年、田辺史難波に上毛野君の姓を賜う=続日本紀)

姓氏録は、どういうわけか田辺史の伝承だけは載せているんですよね。こうみると、応神朝の百済系の漢氏との関わりも感じますが、斯羅というのが、後の新羅のことで、どうも半島を往来した氏族のようにもみえますね。上毛野氏自身にそういう傾向が

あるでしょう。

山田史の系統的な位置づけは、上記のように整理すると、旧百済系の史の家柄に生まれながらも、遣新羅使などの留学経験を経て、新漢人と同様に大陸的な知識を仕入れていて、不比等との関係で、編纂に関わるようになった。

その辺の影響が、記紀の一部に見えてくるのかもしれませんが。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)15 時 37 分 26 秒 返信・引用
管理人さんへのお返事です。

> 我々は藤井さんの説を細かく批判するほどのことはできないので、むしろそれを他の分野で活用することによって間接的に藤井さんの説が正しいことを証明できればよいのではな いかと感じます。 >

皆様、私の説の中核をご理解頂けた様で、幸いです。

私の『『記紀万葉』言語的・外国人記述説』は、歴史学にも考古学にも、そして朝鮮語学にも関係無く、音声学だけで証明できるのであり、この根幹部分の議論に「専門家」として参加できるのは音声学者と国語学者だけ。

一方に於いて、1 現代日本人は2種類の/O/母音を条件異音(conditional allophone)として規則的に発音し 分

けている 2 その条件異音の発現法則は、関西方言の場合「上代特殊仮名遣いオ段甲乙書き分け法則」と 完全に一致している

かどうかの判断は「身体・知能が正常な日本人(日本語ネイティブスピーカー)であれば誰でもできる」のであり、ただ「上代特殊仮名遣い」という現象に詳しくない人は、 私がこれまでの国語学者の研究を集約して述べている「上代特殊仮名遣いオ段甲乙書き分け 法則」に関し、

「藤井さんはこう言っているが、そのとおりですか？

藤井さんの意図的なデータの捏造・改竄・歪曲・隠蔽などはありませんか？」 と国語学者に確認することが必要なだけです。

拙著第四章

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/4shou.html>

この第四章で私が言っていることに間違いが無ければ、もはや国語学者に尋ねることなど何 もなく、 12 の判断は各自がやることです。

そして、これまで言語学者・国語学者・朝鮮語学者・中国語学者を含め、数百人にこの実験 をやらせてみましたが、 12 を否定した者はただの一人もいません。

何百回実験を繰り返しても同じ結果が出るものを音声学者が否定するわけではなく (日本音声学会全国大会でも発表していますが、誰も否定しませんでした)、 残る敵は国語学者だけですが、「上代特殊仮名遣い」というテーマの専門家を自他共に認める国語学者達が、 実験したすべての人間が肯定しているこの2つの法則の一致を否定する方法はただ一つ。

もう一度、『記紀万葉』の資料の山を韻書に照らして分析し直し、 橋本進吉以来 100 年以上に亘って自らの先達達が苦労して蓄積してきた 「上代特殊仮名遣いオ段甲乙書き分け」に関するデータの側を自らの手で否定し、「この2つの法則は一致していない。従って藤井の言っていることは誤りである」 と言うことだけです。(笑)

実は、国語学者の中にも拙論を正しく理解し、 私に対し個人的には「上代特殊仮名遣いに関する画期的研究」と賞賛してくれている者は沢 山いるのですが、 一方で、古くからの友人ですら、拙著の書評を書いたり、私を研究会やシンポジウムに招いたりして、 拙論を広めることに力を貸してくれようとはせず、公的には無視・黙殺を貫いています。(これまでのところ、公式に拙論の支持ないし評価を表明してくれている国語学者は、 木簡と漢字音が専門の愛知県立大学教授の犬飼隆氏だけです)

国語学者達が拙論の無視・黙殺を続けている理由は明白、「松本克己の異音説問題」にあります。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/9Matumoto.html>

1975 年に発表され、「上代特殊仮名遣い研究の停滞をうち破る画期的新説」「視野の狭い国語学者の世界に、視野の広い言語学者が風穴を開けた」 ともてはやされ、それから 40 年近く経った今日でも「有力仮説」として生き残っている 言語学者・松本克己氏の「上代特殊仮名遣いオ段甲乙異音説」は、 実は「異音(allophone)」という概念の完全なる誤解に基づく「トンデモ説」以外の何者でも ありません。

詳しいことは↑のページを読んでもらえば解りますが、 拙著の第六章の実験を自ら行ってみれば実感としてお分かりのように、

1 人は自分の母語の異音(allophone)は聞き分けられない、 2 異音(allophone)は当該言語では意味弁別に機能しない 3 異音(allophone)を聞き分けられる者がいるとすれば、言語的な外国人だけ

なのであり、「クライ→クロイ」「ハサム→ホソム」「クサイ→クソ」などの、 日本人なら誰でも難なく聞き分けられ、しかも意味弁別に機能している音の違いを「異音 (allophone)」 などと呼んでいる松本説は「トンデモ説」以外の何者でもなく、

「音声学ちゅうもんを基礎の基礎から勉強し直して来い!」と頭ごなしに怒鳴りつけるだけで終わってしまう説。

こんなものを「異音(allophone)」と勘違いする松本氏も松本氏なら、もっとあきれかえるのが、
「視野の狭い国語学者の世界に、視野の広い言語学者が風穴を開けた」という世評に対し猛反発しながら、
40年近くに亘ってこれが「トンデモ」であることに気づかない国語学者達。

松本氏は、12を完全に誤解していますが、他の言語の事例から類推して3異音(allophone)を聞き分けられる者がいるとすれば、言語的な外国人だけということだけは解っており、著書の目立たないところでこっそり「上代特殊仮名遣い用字者は、帰化人(言語的の外国人)書記官だった」と述べており、そこからをつっこまれることを最も恐れていたにも関わらず、

国語学者達は松本説の支持者はもとより、批判者すらこの最大のツッコミどころにすら気づいていないのです。

即ち、「異音(allophone)説」と「外国人記述説」は表裏一体、松本氏の著書は難解なことで有名であり、オモテの「異音(allophone)説」の側からこれが「トンデモ」であることに気づくには何を言っているのかさっぱり解らぬ文章と長時間格闘する根気がいりますが、ウラの「外国人記述説」からツッコミを入れれば、ギリシャ語専攻で朝鮮語も中国語も殆ど、或いは全く知らぬ松本氏はたちまちシドロモドロ、オモテの異音(allophone)説自体がトンデモなのですから、こんな説はあっという間に葬り去られたはずです。

(今の私が1975年当時に居れば、こんな説は発表直後に葬り去っていたはずです)

松本異音説は、1980年代以降、上代特殊仮名遣いの概説本には必ず取り上げられており、大学の国文科・日本文学科の授業やゼミでも教えられており、いやしくも大学院まで卒業した国語学者・国文学者であるならば、専門分野に関係なく「松本説=異音説」であることぐらいは常識として知っています。(今まで「松本説なんて全く知らない」などという国語学者・国文学者に出会ったことはありません)

国語学者・国文学者であれば誰でも知っていながら、松本説が「トンデモ」であることを指摘した者は一人もいないばかりか「へえ、『記紀万葉』では異音(allophone)が書き分けられていたんですか? てことは、松本さん、あんた『記紀万葉』を書いていたのは、外国人だったって言うてんですか? 外国人だったと言うなら、なに人だったんですか? 中国人ですか? 朝鮮人ですか? それ以外ですか? なに人が、自らのどういう音韻体系に照らして、この2つ母音を別の音素と判断したんですか?」

と追求した人間が「一人もいない」ということは、国語学者・国文学者の中に「異音(allophone)」という概念をマトモに理解していた人間は「一人もいなかった」ということになります。(実際、これまで出会った国語学者・国文学者の中に私が教えてやるまで、「異音(allophone)」の概念をマトモに理解していた者は、文字通り、一人もいませんでした)

この、国語学(国文学)という学問自体の面目を丸つぶれにする事実を拙論は暴露しているため、内心では拙論を高く評価している国語学者達も、「業界の裏切り者」のレッテルを貼られるのを恐れ、無視・黙殺を貫いているのです。

例えば、斯界では有名なG学院大学のA.S.教授は、私が2001年に「国語学会春期大会」でこの説を発表した際に拙論を高く評価し、その後も私的研究会などでの発表など、色々便宜を図ってくれていたのですが、拙著出版の2007年以降、私の批判は松本氏よりも「国語学」という学問のあり方、国語学者全て向けられた批判であることが解り、最近では拙論普及に力を貸してくれるどころか、露骨に妨害工作までするようになってきました。

しかし、いくら国語学者や国文学者が拙論の無視・黙殺、妨害工作を図ったところで、私の『「記紀万葉」外国人記述説』は

1 歴史学者・考古学者などが口を差し挟む余地はなく、国語学者が口を差し挟む余地があるのも「上代特殊仮名遣いオ段甲乙書き分け法則」に関するデータに関することだけ 2 一方に於いて、身体・知能に欠陥のない日本人(日本語ネイティブスピーカー)なら、「上代特殊仮名遣いオ段甲乙書き分け法則」に関する知識を新たに仕入れるだけで、自ら発音実験すれば、誰でも理解でき、誰でも納得できるものです。

要は、国語学者や国文学者達に、公式に「ギャフン」と言わせれば好いだけのことであり、彼らが公式に「ギャフン」といえば、日本古代史研究・古代日本語史研究のみならず、朝鮮古代史・朝鮮語史研究、中国古代史・中国語史研究も一挙に進展するのであり、何よりも一番得をするのは当の国語学者達なのです。従来の国語学的方法では研究しつくされ、今では殆ど研究する者のいない「上代特殊仮名遣い」が、
汲めども尽きぬ論文ダネの宝の山に変わるのですから。

「白村江の戦い 1350 周年」の機会を捉え、「我々は言語学には素人だけど、藤井氏の言う『上代特殊仮名遣い 言語的外国人記述説』は正

しいと思う。

専門家であるあなた方国語学者はどう思っているのか？」

と国語学者達にプレッシャーをかけるのにお力を貸して頂ければ幸いです。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)09 時 53 分 36 秒 返信・引用
> No.1064[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

どうもですが、

古事記は瑞穂の国の倭人が記録。日本書記は韓半島の倭国の倭人、弓月氏が帰化後記録。

「天地開闢 天地(あめつち)の創成、天地の初め」ですが日本書記と古事記を比較すると 倭人、弓月氏の出身地が読み取れそうですね。

粗筋は理解済みですが、詳細に行きましょうか。

藤井游惟さんの白村江後ですがのち城文化を築いたようですね。

白村江ですが百済帰化人の救出作戦で敗戦ではない。

百済帰化人は日本書記を書いていない。

百済帰化人は各地に城を造ったのだろう、彦根城が百済形式の日本最古の城だろう。

彦根は渡来系ですね、家紋も田道間守(たじまもり)ですね。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)09 時 15 分 16 秒 返信・引用
> No.1065[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

「秦王国」が登場するのは聖徳太子の文章 600 年。395 年、王はみずから碑麗(ひれい・沃祖 地方)を討伐した。
約 200 年差がある。

395 年以前に三韓征伐あり、文章に渡来の記録がある。一言ですが、秦氏は皆さんが考えているほど謎の氏ではありません。

古事記と伝説に書いてある。言える事は秦氏の歴史が古代の歴史そのものですな。

藤井游惟さんの実力チェック出題の文章を読み返しました。

百済新羅舊是屬民由來朝貢而倭以末卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

文章を再確認すると、好太王碑の碑文の末卯(辛卯)年は 391 年でなく 271 年の模様。

271 年が三韓征伐に成るんですね。神功皇后(壺輿)当時 34 歳?が武内宿祢 6~70 歳と豊受比売命と共に出航し半年掛け対馬の鰐浦。鰐浦で風待ち、風(風雷神)に乗り洛東江を遡り新羅へ…。注 1(日本書記に記録があるが盛衰部隊が参加している)

年代で卑弥呼 248 年頃と神功皇后(壱興) 271 年が結びつきます、驚きですな。 また、卑弥呼鏡、三角縁神獣鏡が結びつきますな。

卑弥呼鏡、三角縁神獣鏡の銘文から三公は武内宿禰。 母人(おもひのひと)が卑弥呼になる。 魏志倭人伝:「王位に就いて以来人と会うことはなく、一人の男子が飲食の世話や取次ぎを していた。」

卑弥呼の弟(表筒男命)の娘が神功皇后(壱興)、豊受比売命。 姉:神功皇后(壱興)、妹:豊受比売命

三角縁神獣鏡の銘文の意味 景初三年陳是作鏡自有経述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫寿如金石 兮 景初三年、陳が自ら経述した鏡を作る。もとは京師(杜)の出、銘は位至三公の吏人、銘は母人(おもひのひと)、保子(開花天皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

陳:陳寿 母:母屋(おもや)の母(おも) 杜地命出:杜(もり)、地命(地名):地名は杜、杜の出 (鎮守の杜:今は神社の杜になっている。本来は京師の杜駐屯地) 京師:韓半島(開城)の樂浪郡から西に 2000 里にある。駐屯地 金石:金印(親魏倭王)

炊火山口神社の祭神、気長足姫命(神功皇后)、豊受比売命、表筒男命から邪馬台国。 伊勢神宮の神宮が 1700 年前の邪馬台国でしような。 伊勢神宮の山口祭で子供が参加している、のちの神功皇后(壱興)。 神功は伊勢神宮の神宮なんですな。

秦野北斗著書、徐福と邪馬台国。魏志倭人伝の行程は正しい。九州に働きかけ空白の伊都国 の確認し、卑弥呼の古墳発掘ですな。

住吉大社の「住吉三神」、古事記が読めそうですな。 第一本宮:底筒男命 (そこつつのをのみこと) 第二本宮:中筒男命 (なかつつのをのみこと) 第三本宮:表筒男命 (うはつつのをのみこと) 第四本宮:息長足姫命 (おきながたらしひめのみこと) - 神功皇后 (じんぐうこうごう) に同じ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BE%9B%E5%8D%AF>

扶余(ふよ)

286 年、再び慕容廆が遼東を侵略するが、王子の依羅が西晋の援助で扶余国を再建した。 この依羅には日本の王朝に関わる奇妙な伝承がある。「慕容廆に敗れた扶余王の依羅が、 数千の民を率いて海を越え、倭人を平定して王となった」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-5-fuyo.htm>

> 395 年、王はみずから碑麗(ひれい・沃祖地方)を討伐した。翌 396 年、王は水軍を率いて 百済国を討った。その理由は、百済と新羅はもともと高句麗に隷属し朝貢していたが、倭(注)が辛卯の年(391 年)に海を渡り百済などを打ち破って臣下としたためである。王は 百済の多くの城を占領したにもかかわらずなお抵抗したので、漢江を渡り、王城を攻めた。百

済王は多くの貢物をだし、家臣になることを誓ったので、王の弟などを人質として凱旋した。

>> 秦王朝の末裔や秦王朝の技術者を引き連れて日本に来た事が分かる。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 14 日(月)03 時 07 分 12 秒 返信・引用

> No.1064[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

>秦韓系の蘇我・秦氏系の移動、それ以前にすでに渡来していた武内宿禰系同族が迎え入れ たりする時代のそれで、よく当時の状況を表した用法だと言えるでしょう。秦野さん注目の 弓月君、百済・秦韓系の秦氏です。

395 年、王はみずから碑麗(ひれい・沃祖地方)を討伐した。翌 396 年、王は水軍を率いて百 済国を討った。その理由は、百済と新羅はもともと高句麗に隷属し朝貢していたが、倭(注) が辛卯の年(391 年)に海を渡り百済などを打ち破って臣下としたためである。王は百済の 多くの城を占領したにもかかわらずなお抵抗したので、漢江を渡り、王城を攻めた。百済王は 多くの貢物をだし、家臣になることを誓ったので、王の弟などを人質として凱旋した。

秦王朝の末裔や秦王朝の技術者を引き連れて日本に来た事が分かる。

.http://8906.teacup.com/toraijin/bbs Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 13 日 (日)22 時 28 分 31 秒 返信・引用 編集済

> No.1063[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >>『隋書』百済伝に「その人は新羅、高句麗、倭などが混在しており、また中国人もいる。」 > 白村江での 1 期の百済帰化人は貴族で。2 期が百済、倭(越を含む)になる。 > これだけだと、β 群

>

- > >百済帰化人は 2 期に別れ、1 期は約 1 万人ぐらいだろう。船の数 600 艘から推定。
- > >2 期は越国、百済、高句麗、倭国の 4 国が出雲から入っている。数十万人の規模。 >
- > α 群は弓月君ではないか。のちの平氏。 >
- > 『日本書紀』
- > α 群(巻第十四~二十一、巻第二十四~二十七)
- > β 群(巻第一~十三、巻第二十二~二十三、巻第二十八~二十九) >

下記の森氏の論部を今読んだのですが、だいたい上記の区別について理解しました。単行本のほうは昔読んだんですけどね…。

[http://ci.nii.ac.jp/els/110002533370.pdf?](http://ci.nii.ac.jp/els/110002533370.pdf?id=ART0002805194&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1358080237&cp=)

[id=ART0002805194&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1358080237&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110002533370.pdf?id=ART0002805194&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1358080237&cp=)

もともと秦野さんご指摘のような半島系渡来人による原文があって、それを書記編纂時に中国人が用法の間違っていている部分を修正し、またさらに後代の政権の意図によって加筆されたものがあったようです。

仮名文字の羅列からアクセントまで区別できるというのは驚きですが、また中国人には理解できそこなっていた倭人の用法もあったとのことで、双方から中国人の唐代北方音での担当が証明されるようです。

森氏も山田史のことは渡来系とみなしているようですが、彼には中国人ほど正確に訂正することはできなかったようですね。半島系渡来人のミスがそのまま残っているようです。

それで推古紀に関しては、十七条の憲法の他にも、後代の加筆の後があり、これは神功皇后記

紀に見える同系の上宮帝説とか、新羅系始祖伝承との関係を会報でもしばしば指摘してきたとおりです。

あと崇峻紀の暗殺部分で、中国人の訂正作業が終わって、別の倭人?に引き継がれている件、ここが中国人が死んだためなのか、別の理由によるのか?が課題です。

蘇我氏が東漢駒に崇峻を殺させる部分ですね。

前例のない天皇殺しの記載で、何か裏がありそうです。重要視されていたはずです。

細かくみていくと、稻荷山鉄剣にもみえる「中」の用法、5・6 世紀の高句麗・新羅系の金石文に見えるのとことですが、応神・神功、孝徳記紀に見えるのは、重要です。新漢人系の高句麗・新羅の流れで、時代的にも一致してくるので、しかも応神・神功は、新羅系の大陸系伝承との影響があり、まず間違いなく新漢人系でしょう。

それで大化元年の詔のそれですから、この改新詔の挿入が、いつおこなれたか?が課題で、先の天智 6 年とすれば、先の新漢人系の近江朝の時代ですから、ひとつにはあり得そうな気もしますが、ただ、あるいは奈良時代に入っても、新漢氏系が残っていて、その用法を使っただけとする件も考慮すべきかもしれません。

又同じく朝鮮俗漢文とされる「之」の用法、これは中国人があえて残した準引用文で、百済本紀の引用と関連づ

けられていますね。欽明と百済・秦韓系の蘇我・秦氏系の移動、それ以前 にすでに渡来していた武内宿禰系同族が迎え入れたりする時代のそれで、よく当時の状況を 表した用法だと言えるでしょう。秦野さん注目の弓月君、百済・秦韓系の秦氏です。

ちょっと電車が発車するので、ここまでしか分析できませんが、もっと時間をかければ、いろ いろ見えなかったものが出てくるはずです。

『2012 年おすすめ映画』ランキング 705 人が見えています More....

『【初音ミク】【ボーカロイド】気持よくリズムに乗れるミクノ系サウンド』ランキング

622 人が見えています More....

『一度は行ってみたい日本の世界遺産』ランキング 659 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 12 日(土)21 時 33 分 21 秒 返信・引用 編集済

> No.1062[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

『隋書』百済伝に「その人は新羅、高句麗、倭などが混在しており、また中国人もいる。」 白村江での 1 期の百済帰化人は貴族で、2 期が百済、倭(越を含む)になる。 これだけだと、β 群

>百済帰化人は 2 期に別れ、1 期は約 1 万人ぐらいだろう。船の数 600 艘から推定。 >2 期は越国、百済、高句麗、倭国の 4 国が出雲から入っている。数十万人の規模。

α 群は弓月君ではないか。のちの平氏。

『日本書紀』 α 群(巻第十四~二十一、巻第二十四~二十七) β 群(巻第一~十三、巻第二十二~二十三、巻第二十八~二十九)

巻第十四 α 群(弓月君と関係のある葛城の一事主。弓月君の歴史?) 大泊瀬幼武天皇(おほはつせのわかたけるのすめらみこと)雄略天皇 眉輪王(まよわのおおきみ)の父の仇 市辺押磐皇子(いちのべのおしわのみこ)を謀殺

即位と諸妃

吉野の獵と穴人部の貢上

葛城の一事主

嶋王(武寧王)誕生

少子部(ちいさこべ)スガル

吉備臣(きびのおみ)たち

今来(いまき)の才伎(てひと)

高麗軍の撃破

新羅討伐

月夜の埴輪馬

鳥養部(とりかいべ)、韋那部(いなべ)

根使王(ねのおみ)の科(とが)

秦のうずまさ

朝日郎(あさけのいらつこ)

高麗、百済を降ろす

天皇の遺言

『隋書』百済伝

其人雜有新羅、高麗、倭等、亦有中國人。其衣服與高麗略同。婦人不加粉黛、女辮髮垂後、已 出嫁則分為兩道、盤於頭上。俗尚騎射、讀書史、能吏事、亦知醫藥、蓍龜、占相之術。以兩手據地 為敬。有僧尼、多寺塔。有鼓角、

箏篳、箏、竽、篳、笛之樂、投壺、圍棋、樗蒲、握槊、弄珠之戲。

その人は新羅、高句麗、倭などが混在しており、また中国人もいる。その衣服は高句麗 とほぼ同じ。婦人は粉黛をせず、娘は辮髪を後ろに垂らし、既婚者は両方に分けて頭上に巻く。 俗は騎射を善くし、書史を読み、官吏は良く仕え、また医薬、蓍龜、觀相術を知っている。両手 を地に着けて敬意を示す。僧尼がおり、寺塔が多い。鼓角、箏篳、箏、竽、篳、笛の樂器があり、投 壺、圍碁、樗蒲、握槊、弄珠の遊芸がある。

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 12 日(土)20 時 38 分 51 秒 返信・引用

> No.1061[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 藤井さんの説が正しいことを証明。 >
- > この件は、相当、歴史を掘り下げる必要があります。
- > どうも、日本の場合は権力者が渡来系で、言葉は民衆と権力者の 2 通りある模様。
- > 例が民衆と宮中言葉になる。 >
- > 白村江から来た百済人が京都、滋賀に入ったのは分かるが、方言は調べようがない。
- > まあ、言える事は天智天皇の宮があった程度ですな。 >>
- > 百済帰化人は 2 期に別れ、1 期は約 1 万人ぐらいだろう。船の数 600 艘から推定。
- > 2 期は越国、百済、高句麗、倭国の 4 国が出雲から入っている。数十万人の規模。 >>
- > 一般の説とは異なる。過小すぎる。当時の国家組織を知れば明確になるのでは。 >

確かにご指摘のとおり、天智時代の百済人の影響は、近江宮周辺との関わりが重要でしょう ね。 天武の時代になると飛鳥に戻って、難波宮を重視しはじめるのですが、その難波宮について は、天智系の桓武が廃止しようとしたのではないかという憶測もあったりします。

どういうわけか天武は新羅方面に積極的に外交するんですよ。百済ではないんです。

もしかすると、藤原不比等のケースが天武に抑圧されていたケースと同様に、亡命百済人の 待遇がどうなっていたかも課題でしょう。この時代、百済系には忌寸は賜られなかったです ね。新漢人にも賜られず、それ以前の古い飛鳥の渡来人、あるいは摂津の吉士集団に賜姓され ていきます。

その後、天智の息子との伝承が残り、天智寄りの不比等の時代になってから、ようやくもしか すると高麗・百済系が優遇始めたのではないのでしょうか。

確かに百済三書や中国文献との比較みたいな作業は、亡命百済人の影響が大きかったので はないかと感じます。

それで大化の改新と、乙巳の変についての倭習の部分、この辺がちょっと重要ですね。

『日本書紀』は純漢文体であると思われてきたが、森博達の研究では、語彙や語法に倭習(和 臭。日本語的発想に基づく誤用や奇用[19])が多くみられ、加えて使用されている万葉仮名 の音韻の違いなどの研究から α 群(巻第十四~二十一、巻第二十四~二十七)と β 群(巻第一~十三、巻第二十二~二十三、巻第二十八~二十九)にわかれるとし、倭習のみみられない 正格漢文の α 群を中国人(渡来唐人であり大学の音博士であった続守言と薩弘恪)が、倭習 のみみられる和化漢文である β 群を日本人(新羅に留学した学僧山田史御方)が書いたもの と推定している[20]。また α 群にも一部に倭習がみられるがこれは原資料から直接文章を引 用した、もしくは日本人が後から追加・修正を行ったと推定されている。特に巻第二十四、巻 第二十五は α 群に分類されるにもかかわらず、乙巳の変・大化の改新に関する部分には倭習 が頻出しており、蘇我氏を逆臣として誅滅を図ったクーデターに関しては、元明天皇(天智 天皇の子)、藤原不比等(藤原鎌足の子)の意向を受けて大きく「加筆」されたのではない かと考える学者もいる[21]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/日本書紀> 逆に言うとあまり不比等の影響はそのくらいしかないということにもなるでしょうか。

お『日本書紀』によれば、推古天皇 28 年(620 年)に聖徳太子や蘇我馬子によって編纂されたとされる『天皇記』・『国記』の方がより古い史書であるが、皇極天皇 4 年(645 年)の乙巳(いつし)の変とともに焼失した。『日本書紀』は本文に添えられた注の形で多くの異伝、異説を書き留めている。「一書に曰く」の記述は、異伝、異説を記した現存しない書が『日本書紀』の編纂に利用されたことを示すといわれている[18]。また『日本書紀』では既存の書物から記事を引用する場合、「一書曰」、「一書云」、「一本云」、「別本云」、「旧本云」、「或本云」などと書名を明らかにしないことが多い。ただし、一部には書名を明らかにしているものがあり、書名をあげて引用されている文献として次のようなものがあるが、いずれも現存しない。

蘇我・太子の時代となると、秦氏や遣唐使の新漢人系・吉士等の文筆によった部分が多いでしょう。

それを元に、中国人の 2 人がどういじったか?も気になるところですが、複数の「一書」書籍を総合させる作業は、彼らが行った可能性を感じますね。ただあまりいじれなかった。

それでも倭習のようなミスがなかったとすると、どういうことか。彼らが監修し倭習・ミスを治したからなのか?元々の新漢人の筆文が中国的に完成されていて倭習つまりミスがなかったのか?

あるいは山田史や不比等の意図をうけた筆者がミスったのか?
具体的にみていかないとわからない感じがですね。

あと暦の話が面白いですね。

また、小川清彦は中国の元嘉暦[29]と儀鳳暦[30]の 2 つが用いられていることを明らかにした。神武即位前紀の甲寅年十一月丙戌朔から仁徳八十七年十月癸未(きび)朔までが儀鳳暦、安康紀三年八月甲申(こうしん)朔から天智紀六年閏十一月丁亥(ていがい)朔までが元嘉暦と一致するという。元嘉暦が古く、儀鳳暦が新しいにもかかわらず、『日本書紀』は、新しい儀鳳暦を古い時代に、古い元嘉暦を新しい時代に採用している。これは、二組で撰述したためと推測されている。

日本には朝鮮半島の百済を通じて 6 世紀頃に伝えられた(『日本書紀』によれば 554 年)。当初は百済から渡来した暦博士が暦を編纂していたか、百済の暦をそのまま使用していたと考えられる。推古天皇 10 年(602 年)に百済から学僧・観勒が暦本などを携えて来日し、帰化人系の子弟らにこれらを学習させた。平安時代の書物『政事要略』には、推古天皇十二年正月朔日に初めて日本人の手によって作られた暦の頒布を行ったとの記述があり、これは元嘉暦によるものであったと考えられる。

持統天皇 6 年(692 年)から(持統天皇 4 年(690 年)からとの説もある)、中国から輸入した新しい暦である儀鳳暦を試用するため元嘉暦との並用を始め、5 年後の文武天皇元年(697 年)からは元嘉暦を廃して儀鳳暦を正式に採用することとなった。

天智六年というのがちょっと気になりますね。

後の時代に、2 組でやったならば、天智元年で別れていいはずでしょう。
これは通説ではどういう説明となっているのかな?

β 群(巻第一~十三、巻第二十二~二十三、巻第二十八~二十九)が、つまり上記の帰化人= 山田史とするとどうなるか?

書記十三 が允恭で、反正・履中がその前に入る。

<http://j-myth.info/nihongi2/index.html>

二十二・二十三が推古・舒明
二十八・二十九が天武
その後三十が持統。

おそらくグループ分けの問題もあるけれど、安康一天智6年までは、渡来系の御方の影響ではなく、もともとあったのではないかと考えたほうが妥当のようにみえますね。暦部分もいじらなかつた。(気付かなかつた?)

そうすると、天智6年あたりに編集がなされていて、その後とりあえず完成。それからまた別に奈良時代にやりなおした。

允恭以前の歴史書は、なかつたわけではなく、安康の時代には445年から中国ではじまつた元嘉暦がダイレクトに伝わって、採用されたということでしょうか。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/元嘉暦> あれれ、554年に暦がはじめて伝わった伝承があるので矛盾しますね。安康の推定年代が454~56なので、そうすると、倭の五王の倭王興の時代もしくは、その少し前に伝わったと考えたほうがよいかもしれませんね。

443年 宋 元嘉 20 済 宋・文帝に朝献して、安東將軍倭国王とされる。(『宋書』倭国伝) 451年 宋 元嘉 28 済 宋朝・文帝から「使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事」を加号される。安東將軍はもとのまま。(『宋書』倭国伝)

7月、安東大將軍に進号する。(『宋書』文帝紀) また、上った23人は、宋朝から軍・郡に関する称号を与えられる。(『宋書』倭国伝) 460年 宋 大明 4 済? 12月、孝武帝へ遣使して貢物を献ずる。 462年 宋 大明 6 興 3月、宋・孝武帝、済の世子の興を安東將軍倭国王とする。(『宋書』孝武帝紀、倭国伝)

倭王済の時代に伝わった可能性があるでしょう。

それで、興が10年安康に遅れるのは、この時期の先日隅田八幡鏡の件で説明した内乱のためかもしれません。

2011年 9月 21日、福岡市西区の元岡古墳群 G6号墳(7世紀中ごろ)で、元嘉暦法による暦日干支推算結果と一致する「大歳庚寅正月六日庚寅(570年 1月 27日)」と刻まれた象嵌大刀が見つかったと福岡市教育委員会が発表した[1]。この銘文が仮に日本で刻まれたものであるとすれば、元嘉暦使用の実例としては日本最古となる。

その前は、倭には暦がなかつたのではなく、景初暦を使っていたのかもしれない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/景初暦>

景初暦(けいしよれき)とは中国暦の一つで、魏の明帝、景初元年(237年)から晋を経て、劉宋の文帝、元嘉二十一年(444年)まで、また北朝の北魏では道武帝、天興元年(398年)から太武帝、正平元年(451年)まで使用された太陰太陽暦の暦法。後漢・魏・西晋の楊偉(ようい)によって作られた。晋王朝成立後の泰始元年(265年)に泰始暦が行われたとされているが、実際は景初暦と同一のものであった。

19年 7閏月の章法を採用し、1太陽年を日(≒365.24688日)、1朔望月を日(≒29.530599日)とする。

でも、あったとすれば、無理に廃止しなくてもよかったでしょう。

おそらく、系譜2千支分伸ばす際に、安康以前のそれを後代どうにかした。

たぶん、景初暦と、その後の元嘉暦との記載法に大きな差があって、後代からも見分けがついたもので、そこを区切りとして、景初暦を排して、儀鳳暦をまぜながら、2千支分伸ばした。

後者を使ったのは、奈良時代の唐人で、亡命百済人の影響ではないでしょう。先の中国人の2人とかその辺ですね。

亡命百済人の影響が出てくるとすれば、その安康から天智6年までの記載になるでしょうか 天智6年がちょうど667年で近江宮へ移動した時期で、整備目的にはいい時期ですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/667年> ただ、そんなに記紀編纂のような余裕の有る時期でもなく、それ以前にあった焼かれなかつ

た書物をまとめたただけだったかもしれません。

天智 9 年までの 3 年間、このあたりが、次の天武に入る前の時代ですから、そこで百済人の 影響が一度薄れたかどうか…。

この手の編纂組織と人種の話はなかなか難しいですね。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 12 日(土)17 時 40 分 31 秒 返信・引用 編集済

> No.1060[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

藤井さんの説が正しいことを証明。

この件は、相当、歴史を掘り下げる必要があります。 どうも、日本の場合は権力者が渡来系で、言葉は民衆と権力者の 2 通りある模様。 例が民衆と宮中言葉になる。

白村江から来た百済人が京都、滋賀に入ったのは分かるが、方言は調べようがない。

まあ、言える事は天智天皇の宮があった程度ですな。 百済帰化人は 2 期に別れ、1 期は約 1 万人ぐらいだろう。船の数 600 艘から推定。

2 期は越国、百済、高句麗、倭国の 4 国が出雲から入っている。数十万人の規模。 藤井さんの一般の説では過小すぎるのではないか。当時の国家組織を知れば明確になるの

では。

『記紀万葉』、特に『日本書紀』は奈良時代律令制国家建設の一環として編纂されたものですが、 当時の日本王朝はそのような重要文書すら中国人と百済人の力を借りなければ作成できな かったということであり、まして多数の文書事務官を必要とする律令制の立案・施行は 3000 人を越える百済帰化人がいなければ不可能な事業だったのです。

> 我々は藤井さんの説を細かく批判するほどのことはできないので、むしろそれを他の分野 で活用することによって間接的に藤井さんの説が正しいことを証明できればよいのではな いかと感じます。 >

> 要するに、倭人(古くは半島・中国系の影響も受けた集団)の細かい発音の相違を、亡命 百済人が聞き分けられたということは、藤井さんの説で証明されているわけですから、逆に 彼らがその倭人の言葉の一部を「聞き分けられなかった」部分も一緒に証明されれば、さら に説得力が出てくるのかもしれませんが。

>> 歌会とか、外国からの使者との応答ですが、書記(史)が別にいて、それが渡来系の場合は、 上記のように、独特の文字表現になって記される可能性があると思ですね。隋使の話した言 葉を、中国書記官が「あわきみ」みたいに記した事例です。 >

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 12 日(土)15 時 25 分 57 秒 返信・引用 編集済

> No.1058[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >> だいたいですが解りました。 >>『記紀万葉』においては日本語の異音(allophone)が書き分けられていた。従って、『記紀 万葉』を書いていたのは言語的外国人である」

>> この点は同感ですな。どうも、「第一巻 : 大和には群山あれどとりよろふ天の香具山」は白 村江(錦江)を唄ったみたいですね。魏志倭人伝の暦韓国。現在の学者は韓国に成っている。

我々は藤井さんの説を細かく批判するほどのことはできないので、むしろそれを他の分野で 活用することによって間接的に藤井さんの説が正しいことを証明できればよいのではない かと感じます。

要するに、倭人(古くは半島・中国系の影響も受けた集団)の細かい発音の相違を、亡命百 済人が聞き分けられたということは、藤井さんの説で証明されているわけですから、逆に彼 らがその倭人の言葉の一部を「聞き分けられなかった」部分も一緒に証明されれば、さらに 説得力が出てくるのかもしれませんが。

歌会とか、外国からの使者との応答ですが、書記(史)が別にいて、それが渡来系の場合は、上記のように、独特の文字表現になって記される可能性があると思ですね。隋使の話した言葉を、中国書記官が「あわきみ」みたいに記した事例です。

ただ記紀の場合は、元々文字に記した記録があるので、あまりその影響は出にくいようにも感じます。

それで系譜面なのですが、秦氏系譜というのは、ちょっと面白い特徴があるんです。

始祖の「弓月君(ユヅキ・キュウゲツ)」が「融通王(ユヅ)」、さらには「普洞王(フトオ)」とかき分けられています。

おそらく系譜面からみると、「普洞王(フトオ)」は後代です。つまり、もともと「ゲ・ケッ」と発音していたものが、「k/g」がぬけてある時期から「ユ・フ」と

変化してしまう。これが、秦氏がまだ朝鮮にいた時代に起きたとすれば、先に呉音系の楽浪漢人あたりの中国音が、その後コリア語になって、「g」が抜けた経緯と対応してくるようにも感じます。これと対応するのが、先の呉音の「解(ゲ・ゲ)」が、コリア語で「ヘ」と読まれるケースです

ね。「g」がある時期から抜けてしまう。

「木(ボク)」も「朴(ぱく)」と変化していくケースです。

ここで語頭に「g」をつけない習俗を仮定すれば、「解(ゲ・ゲ)」が頭につく場合は、「ヘ」へと変化した可能性があります。また「脱解」みたいな語尾につくケースでは、どうなるかも課題です。

脱解尼師今(だっかい にしきん)は、新羅の第4代の王(在位:57年 - 80年)であり、姓は昔(ソク)、名は脱解(タレ)。吐解尼師今(とかい にしきん、?? ??、トヘイサグム)とも記される。第2代の南解次次雄の娘の阿孝(アヒョ)夫人の婿。新羅の王族3姓(朴・昔・金)のうちの昔氏始祖。

発音: タルヘイサグム (タレイサグム) 日本語読み: だっかいにしきん <http://ja.wikipedia.org/wiki/脱解尼師今>

ここで「ルヘ」が「れ」と、略されていますね。語尾に「ヘ」音がつくばあい、そのまま「ヘ」音が失われる可能性を感じます。

そこで、この「解」が姓ではなく修飾語であったか?ということなのですが、遊牧民系で親の名を子が受けつぐケースもあって、「解●」→「△解」となった可能性もなくはないので、姓ではなく、集団を象徴する尊称みたいな位置づけだった可能性は感じますね。「月氏」の「げっ」みたいな感じです。

それで百済の「月支国(げっし)」ですが、同時代の同族が建てた扶余系の「曷思国(かつし)」と同様に、もとは「ケッ・かッ」と呉音に近い形で発音していた可能性を感じます。「し」音があつたはずで、

それが、後に「(は)フッシ、」へと変化していき、しまいに『普洞(は)フトオ』『秦(はた・ぱた)』氏となったのかもかもしれません。

どこか、「g k」音が抜ける背景には、秦氏の祖先が百済から秦韓(新羅)へと移動していく間に、後のコリア語の祖となる半島西部?の民族の発音の影響があったのではないのでしょうか。

「kg」が「h」「ッ」が「ル」になる。

秦韓の首長「蘇馬」「蘇伐」の「ソバツ」も、新羅の国号「ソボル」へと変化していくケースですね。

早口で「っ」としか以前は聞き取れなかったものが、条件異音の逆用で、その後入ってきた違う民族には「タル」としっかり把握されたという線はないのでしょうか。言葉を発する時間 dt を長くするんです。

よく音声の波形を伸ばすと、早口の女性の声から、ゆっくりした男性の声のように変化する際に、「エー、オー」と低く伸びてくケースがあるのを思い出します。高音の「バタ」が伸びると「ホトオー」となる……。

新羅時代とする手もありますが、秦氏が影響を受けたのは、最大で540年前後の最終渡来までで、おそらく新羅は4世紀後半から、北燕遺民の影響で、元々あつた辰韓時代の言語から、さらに中国・遊牧民(東欧)系の影響を受けるはずで、「ル」はその辺の遊牧民系の影響ではないのでしょうか。

コーカソイド系の羯が後趙をたてて、その後北燕へと王朝交替していくのですが、その羯の位置が、どうも月氏系の白羊羌つまり、西域系のチャン族と重なるようです。そして、穢族とせっしていて、一部は後漢代に扶余へ流れ込んだでしょう。羯は虚勢された羊の意味で、その石勒の石氏は月氏の石氏でしょう。

ただ秦氏の系譜に、後の「ル」音はみえないので、そうすると、「g・k」→「h」までのそれ以前の「秦語」?の影響は受けて渡来した可能性を感じます。

その後、日本に渡来して、さらに変化していくのですが、5世紀後半の雄略朝の記載では、まだ「弓月」を、呉音の「ウヅ・マサ」、すでに「k・g」が抜けたまま、訓読みの「月(ツキ・ヅキ)」、「勝(マサル)」が加わってくるのです。

ただその当時の秦氏の始祖系譜には「功幡・神幡(クーバン)」のように「k」音を記した古い記録系譜を持参していて、公孫氏系の武安君なども系譜に入れてあったはずです。

それで楽浪・呉音の影響をうけて、さらにその後弁・秦韓的?に一部変異した渡来系集団は記した文字記録が、記紀に表記されていったとすると、どうなるか?

単純な百済・南朝系ではなくて、もっと古い時代のそれを引きずっている秦氏系と、さらに別に東晋の影響を受けた東漢系とが、当時の文筆を担当していたところに、さらに高句麗系 習俗を理解した王仁系がやってきたりして、そして6世紀に北燕系の新漢人が、彼らに替わって文筆を担当し始めることになったでしょう。

最終的に遣唐使の時代まで新漢人がメインでしたから、そうすると北燕・高句麗系の文筆・言語的な特色を、記紀の継体記紀以降は影響を受けていた可能性があります。北燕遺民は三国特に高句麗・新羅南部で1世代分滞在してからきているので、やはり朝鮮的な言語の影響を受けていた可能性があります。

そして彼らが記した記録を、最後に先の山田史、中国人、亡命百済人がどう理解して記録したのか?

これらの渡来系の流れを理解しつくした言語学者の助けを得ないと、おそらくは正しい解釈は無理でしょう。

会報第2弾…3段? 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年1月12日(土)13時55分2秒 返信・引用

会報第2弾…3段? 音楽CD・イベントDVD・冊子の通販 <http://michael.cart.fc2.com/?ca=2> 『渡来人研究』第3号 渡来人研究会の会報第2弾です。

Re:白村江の戦い1350周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年1月12日(土)09時46分0秒 返信・引用
編集済

> No.1057[元記事へ]

藤井游惟さんへのお返事です。

だいたいですが解りました。

『記紀万葉』においては日本語の異音(allophone)が書き分けられていた。従って、『記紀万葉』を書いていたのは言語的外国人である」

この点は同感ですな。どうも、「第一巻 : 大和には群山あれどとりよろふ天の香具山」は白村江(錦江)を唄ったみたいですね。魏志倭人伝の暦韓国。現在の学者は韓国に成っている。倭国、筑紫、百済、新羅は韓半島に存在し、韓半島こと、大漢国を「やまと」と言った模様。

言語的外国人はユダヤ系。ヘブライ語

白村江の戦いの舞台の地を唄った。

第一巻

大和には、群山あれどとりよろふ天の香具山 登り立ち 国見をすれば 国原は 煙り立ち立つ 海原は 鷗(かまめ)立ち立つ うまし国ぞ あきづ島 大和の国は

群山:クンサン 天の香具山:母岳山 舒明天皇(じょめいてんのう)

> 「人は母語の異音(allophone)は聞き分けられない。異音を聞き分けられる者がいるとすれば言語的外国人だ

け」という『異音』概念の定義上の自明の理「人間の言語脳が持つ生物学的法則」に従って、>『記紀万葉』においては日本語の異音(allophone)が書き分けられていた。従って、『記紀万葉』を書いていたのは言語的外国人である」という答えしか出てこないのです。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 1 月 12 日(土)08 時 54 分 1 秒 返信・引用

> No.1054[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 好太王碑の碑文 >
- > 百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民 >
- > 現代の訳は誤訳と思われる。 ><そもそも新羅・百殘は(高句麗の)属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年(391 年)に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。>

普通に読めばここに書いてある通りです。 秦野さんのように、変わった読み方がお得意な人なら別の意味に解せるのかも知れませんが。

徳川家康が豊臣家を滅ぼす口実にした「方広寺鐘銘事件」において、その鐘銘の中の「君臣豊楽 子孫殷昌」という文言を、林羅山は「豊臣を君と為し、子孫の殷昌を楽しむ」と読んだそうですが、関係代名詞はおろか、句読点すらない漢文は、その気になればめちゃくちゃな読み方ができます。

ここではっきり申し上げておきますが、私の「上代特殊仮名遣い(記紀万葉)言語的外国人 記述説」は、国語学者達が 100 年間蓄積してきた「上代特殊仮名遣い」に関するデータを音声学的に分析するだけで証明できるのであり、歴史学者や考古学者に口を差し挟む余地は無いのです。

このことを述べている拙著の最重要部分は第六章であり、↓で述べていることを、歴史的・考古学的に批判・否定できるというならしてみてください。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/6shou.html>

『日本書紀 β 群』を書いたのが山田史三手であろうとなかろうと、「史」が 100%帰化人氏族であろうとなかろうと、高句麗好太王碑文の意味がどうであろうと、

1 現代日本人は 2 種類の/O/母音を条件異音(conditional allophone)として規則的に発音し 分けている 2 その条件異音の発現法則は、関西方言の場合「上代特殊仮名遣い才段甲乙書き分け法則」と完全に一致している

ということを否定できない限り、「人は母語の異音(allophone)は聞き分けられない。異音を聞き分けられる者がいるとすれ

ば言語的外国人だけ」という『異音』概念の定義上の自明の理「人間の言語脳が持つ生物学

的法則」に従って、『記紀万葉』においては日本語の異音(allophone)が書き分けられていた。従って、『記紀万葉』を書いていたのは言語的外国人である」という答えしか出てこないのです。

上の 12 を否定できない限り、他の部分をいくら突っついてみてもそれは枝葉の問題、私の説の 根幹はビクともしません。

今後、どうしても良い些末な枝葉の問題に一々答える気はありませんので、悪しからず。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 12 日(土)07 時 47 分 5 秒 返信・引用 編集済

> No.1055[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

解の意味は「とく、とける。和解」でしょうな。元は阿残になるので、意味は日本に残るのが自然ですな。武帝の漢四郡を朝鮮に置いた。時の文章みたいですな。

武帝は衛青とその甥の霍去病の両将軍を登用して、匈奴に当たらせ、幾度と無く匈奴を打ち 破り、西域を漢の影響下に入れた。更に李広利に命じて、大宛(現/中央アジアのフェルガナ 地方)を征服し、汗血馬を獲得した。

また南越国に遠征し、郡県に組み入れ、衛氏朝鮮を滅ぼ

して楽浪郡を初めとする漢四郡を朝鮮に置いた。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%B8%9D_\(%E6%BC%A2\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%B8%9D_(%E6%BC%A2))

『三国史記』や『三国遺事』には、解夫妻が治めていたがのちに太陽神の解慕漱が天降ってきたので解夫妻は東に退去して別の国(東夫余)を建てたという。

翻訳(時代背景が見えないので補足してあります。)武帝は夫妻を解き夫余を治めていたが。のちに太陽神の慕漱が来たので夫妻は東夫余を建て

た。

解 とく、とける。 一体化していたものがばらばらになる。また、ばらばらにする。 解体、解剖、分解 結び目やしこりをばらばらにする。 和解 禁じていたことや束縛、役目や責任、体の熱などを取り除く。 解禁、解放、解任、解熱

> また横入りして申し訳ないのですが、秦野さん、これ面白い資料ですよ。「百残」は、例の秦 韓人が呼んだ楽浪遺民「残阿」のことでしょう!

- > なるほど、これで百済と楽浪遺民と秦韓が結びつく。情報ありがとうございます…。 >

- > 碑文の写真見ても百残ですね。 >

- > あと、ついですが、扶余系の解氏の件なのですが、これが朝鮮語の接頭辞とか修飾語?の

「解」で、解氏じゃないという見方があるんです。つまり、下記の解夫妻、解慕漱の名は、解を抜いたのが正解とのことです。 >『三国史記』や『三国遺事』には、解夫妻が治めていたがのちに太陽神の解慕漱が天降ってきたので解夫妻は東に退去して別の国(東夫余)を建てたという。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 11 日(金)21 時 07 分 22 秒 返信・引用 編集済

> No.1054[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>

- > 好太王碑の碑文 >

- > 百残新羅舊是屬民由來朝貢而倭以末卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民 >

- > 現代の訳は誤訳と思われる。 ><そもそも新羅・百残は(高句麗の)属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年(391 年)に海を渡り百残・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。 > >

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/koutaiou/tokushuuchinretsu.htm> >

また横入りして申し訳ないのですが、秦野さん、これ面白い資料ですよ。「百残」は、例の秦韓 人が呼んだ楽浪遺民「残阿」のことでしょう! なるほど、これで百済と楽浪遺民と秦韓が結びつく。情報ありがとうございます…。

碑文の写真見ても百残ですね。

あと、ついですが、扶余系の解氏の件なのですが、これが朝鮮語の接頭辞とか修飾語?の 「解」で、解氏じゃないという見方があるんです。つまり、下記の解夫妻、解慕漱の名は、解を抜

いたのが正解とのことです。

『三国史記』や『三国遺事』には、解夫妻が治めていたがのちに太陽神の解慕漱が天降ってきたので解夫妻は東に退去して別の国(東夫余)を建てたという。

それでいろいろ後代いじられているらしいんです。 広開土王碑には鄒牟となっていて、まだ解が着いてないんです。

東明聖王(とうめいせいおう、(紀元前 58 年 - 紀元前 19 年)は、高句麗の初代(在位:紀元前 37 年 - 紀元前 19 年)とされる指導者であり、東明王とも呼ばれる。姓は高、諱は朱蒙 (しゅもう、チュムン)または鄒牟(すうむ、??、チュム)、衆解(しゅうかい、??、チュン ヘ)とされる[1]。扶余の金蛙王(きんあおう)の庶子とされる。扶余の 7 人の王子と対立し、卒本(ジョルボン 遼寧省本溪市桓仁)に亡命して高句麗を建国、初代指導者となった。[2]。

ただ、「解」が本当に接頭辞とか修飾語で、大した意味をもっていなかったのか?解氏なのか?で、その辺ちょっと迷いはじめてます。「解」で朝鮮読みで「ヘ」もしくは中国語の漢読みで「かい」、呉音だと「け・げ」と読めます。

藤井さんの先の説を参考にすると、呉音に近い読みが正解のように感じるのですが、その辺、どうなのでしょう?

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 11 日(金)20 時 35 分 45 秒 返信・引用 編集済

> No.1053[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

実の所、好太王碑の碑文の日本語訳が知りたいのですな。

言語学者とのこと、失礼ですが実力をお見せ頂けますか。 古代史の魏志倭人伝ですが解読できますか。この文章に白村江が出てきています。

從郡至倭循海岸水行歷韓國乍南乍東到其北岸狗邪韓國七千餘里始度一海千餘里至對馬國其 大官曰卑狗副曰卑奴母離所居絶島方可四百餘里土地山險多深林道路如禽鹿徑有千餘戸無良 田食海物自活乖船南北市糴

好太王碑の碑文

百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以未卯年來渡海破百殘加羅新羅以為臣民

現代の訳は誤訳と思われる。 <そもそも新羅・百殘は(高句麗の)属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年(391

年)に海を渡り百殘・加羅・新羅を破り、臣民となしてしまった。>

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/koutaiou/tokushuuchinretsu.htm>

> また、日本語には関係代名詞や関係副詞がないので、文と文の修飾関係などはわかりにく いかも知れませんが、「白村江の戦い 1350 周年」というテーマの文章で、1 が 2300~2500 年 前のことを言っている 2 に続くわけがないのは文脈上明らかなはずです。 >

> 私も言語学者の端くれ、文章を書く時は、句読点一つ疎かにはしません。 >> これが質問へのお答えです。

『良く観た dance 動画(2012 年)』ランキング 482 人が見えています More....

『安倍新政権に期待する政策 10 選』ランキング 437 人が見えています More....

『今からブログ始めるならオススメ』ランキング 270 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 1 月 11 日(金)17 時 09 分 57 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

秦野さん 初めまして。 藤井游惟です。 宜しく願いいたします。

さて、

> 藤井游惟さんへのお返事です。 >> 質問ですが金属器文明を持つ百済が白村江で日本に逃げた。文章から日

本には金属器文明 がなく…。いっそ、百済が日本を攻めれば日本を属国にできますな。

- > そんな、日本が戦争。唐から見れば、単なる揉め事でしょうな。
- > 真実はもっと大きな物があるのでは。 >
- > 即ち「白村江敗戦」は、2300~2500 年前の稲作・金属器文明を携えた渡来人の流入による。 >

「忌憚なきご意見有り難うございます」と申し上げたいところですが、拙文を何をどう感違い すればこのように読めるのでしょうか？

私の文の構成は、読点によって

1 即ち「白村江敗戦」は、 2 2300~2500 年前の稲作・金属器文明を携えた渡来人の流入による「弥生時代の開始」(第 一次文化大革命)、 3 約 150 年前の西洋近代文明の流入による「明治維新」(第三次文化大革命)に匹敵する、 4 外来文明の流入による日本の「第二次文化大革命」の発端となった出来事であり、 5 日本史(日本列島人類史)の三大ターニングポイントの一つだといえる事件なのです。

と5つの部分に分かれ、23は4を修飾する挿入文であり、1の主語「白村江敗戦」は4に続く のです。

ご引用では >2300~2500 年前の稲作・金属器文明を携えた渡来人の流入による。

となっていますが、正しくは

>2300~2500 年前の稲作・金属器文明を携えた渡来人の流入による「弥生時代の開始」(第 一次文化大革命)、

であって、私は「渡来人の流入による」の後に句読点は打っておらず、従ってこの文が修飾して いるのは後続する

>「弥生時代の開始」(第一次文化大革命)

であることは明らかです。

また、日本語には関係代名詞や関係副詞がないので、文と文の修飾関係などはわかりにくい かも知れませんが、「白村江の戦い 1350 周年」というテーマの文章で、1が 2300~2500 年前 のことを言っている2に続くわけがないのは文脈上明らかなはずです。

私も言語学者の端くれ、文章を書く時は、句読点一つ疎かにはしません。 これが質問への答えです。

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

Ads by Google Re:渤海使 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 11 日(金)14 時 03 分 19 秒 返信・引 用

> No.1051[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

「夏(か、紀元前 2070 年頃 - 紀元前 1600 年頃)(B.C.2000 頃~B.C.1600 とされている意見も ある)は、中国最古と伝承される王朝」の夷から来る者。日本神話には呉越の越が敵になって いる。この文章から瑞穂の国は呉になる…。 >

> 整理すると、夏から来たのがアイヌ。次に呉越の呉。次に秦になる。次に… > 和人はそれ以後の末裔になる。 >

>

アイヌ・靺鞨関連ですが、どうも調べていくと、先の渤海使は航海日数自体は初期の遣使以外は~10 日前後とのことで、ダイレクトに往復していた可能性が高いそうです。

交易目的でお金がかかるので、平安初期に日本からの遣使いは止めになったようですが、嵯 峨朝の前後で、外交方針に大きな転機がおこるのがきになっています。蝦夷・渤海への興味 も薄れていくのですが、何かもっと大きな背後の動きがあるような気がするんですね。

徳政論争で、桓武と百済系菅野真道に、藤原緒継が勝ったあたりで、蝦夷戦争、渤海使… といった百済・高句麗寄りのそれが終わるようです。

何かこの時期に、さらに同様な百済・高句麗系バックボーンの消失があったのではないかと も感じますね。それで、桓武も認めざるを得なくなった…。

たとえば、渤海に出きりしていたウイグル商人の流れがありますね。おそらく 840 年に滅ぶ前に、彼らのルートは変化したかもしれません。そこに月氏系のゾグド九姓がいます。

彼らのしていた交易というのが、ちょっと興味深いです。

唐との間に毎年馬 1~2 万頭⇄絹 10~20 万匹の馬絹交易が行われたが、6 世紀末における東ローマでの絹の市場価格は概ね絹 1 匹が金 1~4kg で、唐国内の絹 1 匹の重さが 25 両・価格 が銀 1 両、銀 10 両が金 1 両に相当した事を考えると、転売による利益は少なくとも 250 倍に 上る。利潤の多くは途中のペルシャ商人やイスラム商人が手にしただろうが、平凡に転売するだけでも大きな利潤があったとされる。それ以外にも東西の交易を積極的に行って商業を営む者も多く、蓄積した資本を元手に唐国内で高利貸や商家などを営みそのまま帰国しない者もいた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/回紇>

つまり、馬から絹、そして金銀へと変化させながら、利益を高めていったんですね。渤海交易で日本側が支払ったのは下記のとおりです。 8 世紀後半以降はもっぱら北方産の獣皮と日本から繊維製品や金・水銀の交易が主目的、

おそらく、渤海について、彼らはウイグル商人に金・水銀を交換したのでしょう。それで欲しいものを手に入れた。

日本側でもそのうちに、その動きにきづいて損していることを指摘した人がいたのかもしれませんが。逆に、高句麗・渡来系は、その交易を押していたでしょう。

この辺の構造は、おそらく山丹交易とか、今も同じでしょうね。

それで渤海に入ったウイグル人の関係で、景教とかマニ教とかもいろいろ渤海にも入ってきたので、平安京の祭りにはしきりに、それらの影響が見えてわけです。

やはり日本国内の動きだけで古代史解明しようとしても、あまりバックの動きが見えてこない感じがします。もう少し視野を拡げる必要がありますね。

Re:渤海使 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 11 日(金)09 時 13 分 1 秒 返信・引用 編集済

> No.1050[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

「おそらく多治比氏が、その「井」姓と関係するのではないかと…」鋭いですな、「井」は夷と 思われる。夷は「夏(か、紀元前 2070 年頃 - 紀元前 1600 年頃)(B.C.2000 頃~B.C.1600 とされている意見もある)は、中国最古と伝承される王朝」の夷から来る者。日本神話には呉越の 越が敵になっている。この文章から瑞穂の国は呉になる…。

整理すると、夏から来たのがアイヌ。次に呉越の呉。次に秦になる。次に…
和人はそれ以後の末裔になる。

> ちょっと、船は船でも遣唐使と桓武の話になるのですが、上記の「丹服」とも絡んで、唐で見つけた井真成墓誌の件で、おそらく多治比氏が、その「井」姓と関係するのではないかと感じます。 >

山丹交易でアイヌを訪ねて樺太に来航している。アイヌを遡りますと…。 アイヌは魏志倭人伝に「女王國の東、海を渡る千余里、また國あり、皆倭種なり」から狩猟、航海はアイヌが勝っていると思われる。なぜか「和人よりもたらされた鉄製品、米、酒等…」で、上から目線で書いている。酒の文章はアイヌでは良く出てくる。アイヌは倭種で先住民でないか。

倭の五王の文章に毛人。また、蝦夷(えみし、えびす、えぞ)は、日本列島の東方、北方に住み、畿内の大和朝廷

によって異族視されていた人々に対する呼称である。時代によりその範囲が 変化している。アイヌは倭種で先住民だが上から目線で「近世の蝦夷(えぞ)はアイヌ人を 指す」。秦野は、そろそろ、アイヌの見方を変えたら…。アイヌの文章に古代の日本の記録が 眠っている可能性がある。

山丹交易(さんたんこうえき)

山丹人は、清朝に貂皮を上納する代わりに下賜された官服や布地、鷲の羽、青玉などを持参し て樺太に來航し、アイヌは獵で得た毛皮や、和人よりもたらされた鉄製品、米、酒等を、山丹人 が持ち込んだ品と交換した。また、アイヌの中には山丹交易をするばかりではなく、清朝に直接朝貢していたものもいた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%B1%E4%B8%B9%E4%BA%A4%E6%98%93>

魏志倭人伝

女王國の東、海を渡る千余里、また國あり、皆倭種なり、また侏儒國あり、その南にあり。人の 長三、四尺、女王を去る四千余里。また裸國・黒齒國あり、またその東南にあり。船行一年にし て至るべし。倭の地を參問するに、海中洲島の上に絶在し、あるいは絶えあるいは連なり、周 施五千余里ばかりなり。

<http://www.g-hopper.ne.jp/bunn/gisi/gisi.html> Re:渤海使 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 11 日(金)00 時 33 分 0 秒 返信・引用 編集済

> No.1049[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 渤海は濊で燕系の阿毎で衛満氏朝鮮になる。毛人(アイヌ)と同族と思われる。蝦夷錦がいい 例になる。 >> 蝦夷錦(えぞにしき)・山丹服(さんたんふく)は、江戸時代にアイヌ民族が沿海州の民 族との交易で入手した、雲竜(うんりゅう)などを織り出した中国産絹や清朝官服のこと である。

>> 濊。南は辰韓、北は高句麗と沃沮に接し、東は大海(日本海)に尽き、今の朝鮮の東は皆、濊 の土地である。戸数は二万。昔、箕子が朝鮮に行き着き、八條の教えを作り、これを教えたので、 門戸を閉じずとも民衆は盗むことをしない。 >

ちょっと、船は船でも遣唐使と桓武の話になるのですが、上記の「丹服」とも絡んで、唐で見つ かった井真成墓誌の件で、おそらく多治比氏が、その「井」姓と関係するのではないかと感じ ます。

元々この氏族の伝承に井戸の話があるんです。

中、奈良朝以前の宮廷の御産の形式の原形は、次に述べる反正天皇のみあれの際の伝説より 来 きた つてゐる。 瑞齒別天皇。去来穗別ノ天皇ノ同母弟也。去来穗別天皇二年。立為二皇太子一。天皇初生二于 淡路宮一。生而齒如二一骨一。容姿美麗。於レ是有レ井。曰二瑞井一。則汲レ之洗二太子一。時 多遲花落二于井中一。因為二太子名一也。多遲花者今虎杖花也。故稱謂二多遲比ノ瑞齒別 天皇一。

右の日本紀の本文によると、産湯の井の中に、虎杖

イタドリ

の花が散り込んだので、多遲比

タヂヒ

といひ、齒がいかにも瑞々 ミヅハ しい若皇子であるから、瑞齒別と稱へた事になつてゐる。だが、元来、多遲比の事に就ては、日 本紀の伝へが、いさゝか矛盾してゐる。恐らく多遲比の名称は、若皇子を御養育した多遲比氏

(丹比 タヂヒ 氏)の名称であつて、つまり、丹比氏が養育し奉つたから、若皇子の御名を多遲比と稱へたのであらう。しかしながら、後世には事実をよそにして、産湯の井の中に多遲 タヂヒ の花が散り込むと云ふ、http://www.aozora.gr.jp/cards/000933/files/24433_14216.html

それで、この墓碑をみると、「丹旌(たんちよう)」と「丹比」を掛詞にしているんですね。

開元二十二年正月□日、乃ち官弟(かんだい)に終わる。春秋三十六。 皇上、□く傷みて、 追崇するに典有り。

詔して尚衣奉御を贈り、葬は官を令(し)て□せしむ。 即ち其の年二 月四日を以て、萬年県(さんすい)の

□原に窆(ほうむ)る。礼なり。嗚呼、素車 (そしゃ)、暁に引き、丹旌(たんちょう)、哀を行う。遠□を嗟(なげ)きて暮日に頹 (たお)れ、窮郊に指(おもむ)きて夜台に悲しむ。其の辞に曰く、□は乃ち天常(てんじょう)、哀(かなし)きは茲(こ)れ遠方なること。形は既に異土に埋もれ、魂は故郷に 帰らんことを庶(こいねが)うと。

<http://www.muian.com/01seisinnseibosi.htm>

おそらくこの死んだ年に来る 734 年の遣唐使が、大使が多治比真人広成ですが、その前の 遣唐使が多治県守なので、その親族で、この多治比真成がいたのではないかと感じます。

多治氏というのが、「成」「真」をつけるケースが多いようです。 下記系譜参照。

<http://www17.ocn.ne.jp/~kanada/1234-7-21.html>

広成、貞成、真継、真宗といったところですね。

多治比の「治比」を、先の井戸伝承にかけて「井」と簡略化したのかもしれませんが。

その碑文を建てたのが、そのときの大使の多治比氏関連だとすれば、碑文の「丹」の意味も理解できそうですし、大使の親族なので、皇帝の側でも特別に官位を授けたようにも見えますね。

それで興味深いのが、桓武妃に、その多治比真宗がでて、そこから先の桓武平氏が出てくることです。

桓武の若い頃の妃が見当たらず、この真宗がかりうじて見えるというのも、上記サイトで指摘していますが、かなり重要です。

たぶん、真宗の父・多治比長野の長野は信濃・高句麗系の関連のような気がしますね。それで高子が嵯峨天皇に嫁いでいますが、この高も、高望王の高と同じでしょう。

多治比豊継(の子)がまた桓武に嫁いで、(長岡)岡成を産んで、岡成の子が嵯峨に嫁いで、 源賢を産みます。

後の武蔵七党の丹党も多治比氏で、『井戸葉栗系図』みたいな「井」とか「丹」の伝承を引き継いでいることがわかります。坂東平氏にも影響しているようです。葉栗は祖先の上殖葉皇子に懸けています。

継体天皇-宣化天皇-上殖葉皇子-十市王-多治比古王-多治比嶋 上殖葉皇子は下記の祖で、「イ」音が見えますね。この「イ」音が、「み」になるのは、なにか藤井

さんの説明にあったような語頭の音変化の関連ではないでしょうか。

丹比公(たじひのきみ)、倭那公(いなのみみ)祖(日本書紀)

韋那君(あなのみみ)、多治比君(たちひのきみ)祖(古事記)

それで、聖徳太子の兄弟の殖栗皇子も似たような系統音を持ちますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/殖栗皇子>

多治は、中国で大食でペルシャの意味がありましたから、穴穂部間人の「ハシ人」の意味にペルシャ人を示す「波斯」人の意味が出てくると、やはり少し関連してくるかなと感じます。

その子の蜷淵(みなぶち)真人が、南淵漢人で、天智と中臣鎌足に教えた遣唐使の南淵靖安・新漢人と関わります。

やはり桓武が新漢氏とか今来神に関わってくるのは、この辺の高句麗経由で渡来した新漢人

の流れが背後にあるような気がしますね。だから多治比氏は、もともとバイリンガルのな性格があって、遣唐使にもしきりに選ばれるのでしょう。一方で冶金・精銅関連の技術もあって、信濃や関東へ進出していったようにみえます。

『2012 年おすすめ 3DS ゲーム』ランキング 220 人が見えています More....

『2012 年鑑賞映画』ランキング 449 人が見えています More....

『2013 年冬休みだよ子ども向けおすすめ映画』ランキング 363 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:渤海使 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 10 日(木)20 時 15 分 33 秒 返信・引用 編集済

> No.1048[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

神武東征、古事記の海幸山幸には亀甲船が出ている。亀甲船は亀で表記される浦島太郎ですな。

海流には本流の横に小さな循環流が存在する。1. 黒潮では本流 4 ノット(約 7.4km/h)に対し 3.黒潮再循環流、流速 0.3 ノット程度の弱い流れがある。

わりと自由になったみたいですね。時間はかかりますが。

航路は出雲以外にもありますから心配なく。

渤海は濊で燕系の阿毎で衛満氏朝鮮になる。毛人(アイヌ)と同族と思われる。蝦夷錦がいい例になる。

蝦夷錦(えぞにしき)・山丹服(さんたんぷく)は、江戸時代にアイヌ民族が沿海州の民族との交易で入手した、雲竜(うんりゅう)などを織り出した中国産絹や清朝官服のことである。

濊。南は辰韓、北は高句麗と沃土に接し、東は大海(日本海)に尽き、今の朝鮮の東は皆、濊の土地である。戸数は二万。昔、箕子が朝鮮に行き着き、八條の教えを作り、これを教えたので、門戸を閉じずとも民衆は盗むことをしない。

> 確かにご指摘の図をみると、南風だけで北陸方面から渤海に帰れたのかどうか気になりますね。 >

Ads by Google Re:渤海使 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 10 日(木)19 時 44 分 54 秒 返信・引用

> No.1047[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 渤海使の航海ルートは新羅と同様のルートになる。海流が参考になる。 >
- > 日本海の流れを見ると新羅から 3.北朝寒流 2.沿海州寒流になり >
- > 渤海使は通常の新羅、対馬ルートになる。

確かにご指摘の図をみると、南風だけで北陸方面から渤海に帰れたのかどうか気になり

ますね。

出雲から新羅沿岸ルートで帰る手もありますが、渤海船が北陸で待機した記載があるようなので、そうすると、北陸から来たときの船で帰ったケースが多かったのでしょう。

こちらのサイトに、東北・北陸・山陰の風向きと強さが列記されています。

<http://www3.pa.hrr.mlit.go.jp/nihonkaikankyo/shizen/kisyo/kaze/kenbetu.html>

こうみると、敦賀から出航すれば、南南東の風にのれそうですが、能登から出航すると、流されて北東へ行ってしまいそうですね。夏は富山からは風が弱くても無理そうですね。

帆の角度を替えて果たして渤海までたどり着けたのか？ また陸地から離れると風の種類も替わるので、正直よくわかんないですね。

海流を利用するなら、渡島沖方面まで一度北上して、そこから渤海方面へ沿岸伝いで逆戻りするケースですね。

Re:渤海使 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 10 日(木)16 時 58 分 44 秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。 渤海使の航海ルートは新羅と同様のルートになる。海流が参考になる。 日本海

の海流を見ると新羅から 3.北朝寒流 2.沿海州寒流になり 渤海使は通常の新羅、対馬ルートになる。

> ちょっと渤海使と新羅使を調べてみました。 >> 光仁・桓武・嵯峨時代に多いのは、先の新漢氏・高句麗系との関係でしょうか。 > それで送使もしたわけですが、嵯峨以降はしなくなったようですね。

> 高麗朝臣が送使に見えるのはおもしろいですね。 >> 720 年(養老 4 年)渡嶋津軽津司諸君鞍男が渤海へ送使だとしたら、一度日本海を北上し、津軽方面から渤海に向かった可能性がでてきます。渤海からリマン海流で南下したという線 なのでしょうか。 >> その際に、蝦夷関連とも交易して帰った可能性を感じますね。 >> それに比して新羅使はまた違う特徴がありますね。桓武・光仁・嵯峨は興味がないようです。天武・持統あたりは逆にですね。 >> 近江系の息長・小野・高向など新漢人がやはり多いのは、元が新羅系だからでしょう。高句麗→新羅へと流れた北燕遺民です。山口忌寸、忌部氏が見えるのは、また何かありますね。新羅経由で入ってきた東欧系の信仰と関わるかもしれません。 >

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 10 日(木)16 時 57 分 27 秒 返信・引用 編集済

> No.1045[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >>>「史姓の氏族は 100%帰化人氏族とみなして良い」としているが、韓国語にアイヌ語が多く 含まれているのはご存知だと思います。矛盾しますな？

>>>

上記の「史」の件ですが、これは藤井さんの論説の本題ではないので、特に議論すべきことで はないと思うのですが、たとえば、『姓氏録』あたりを見ると「史」のカバネを持つのは、渡来 系を示す「諸蕃」に 21 氏と多く見える意外では「神別」にはみえず上毛野氏・トヨキイリヒコ 系の「皇別」にも垂水史と、同じくトヨキイリヒコ系の田辺史、そして御立史だけなんですね。それで最後の御立史は持統朝の話なので除外して、また田辺史も「諸蕃」にもみえるので、除

外すると、1 氏だけしか見えないことがあります。 <http://homepage1.nifty.com/k-kitagawa/data/shoji03.html>

その他、記紀関連の記載等を上記に加えて計算して、百分率で割ると、おそらくは 95 パーセント以上は渡来系氏族で占められるのではないかと感じますから、その辺でそういう「通 説」が出てきたんだと思うんですね。

だからおおよそ先の山田史御方も渡来系とみなして、問題はないだろうと感じます。

ただ別にご指摘のように、韓国語とアイヌ語との関係は興味深く感じます。先日のように、アイヌに多い HLA 遺伝子が、韓国方面にもみえますし、その辺とも何か関わりがあるかもしれません。 Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 10 日(木)15 時 57 分 49 秒 返信・引用

> No.1044[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

「史姓の氏族は 100%帰化人氏族とみなして良い」としているが、韓国語にアイヌ語が多く 含まれているのはご存知だと思います。矛盾しますな？

> しかし、「史姓の氏族は 100%帰化人氏族とみなして良い」というのは日本史学界の 動かし難い定説であり、中国からの帰化人でないなら消去法で朝鮮からの帰化人に決まっ っており、しかもこの山田史三方という人物は若い頃は僧侶で、新羅に留学していたという経歴 まで解っている。

> これは、新羅に留学していたから朝鮮語が出来たのではなく、朝鮮語が出来たから 新羅に派遣されて仏教を学んでいたと考えられ、その没年は解らないが 721 年の日本書紀完 成まで生きていたことは確実であるから、寿命から考えると 663 年の白村江敗戦によって日 本に亡命した百済人の日本生まれの二世で日朝バイリンガルに育った者の一人だと考えら れる。(これは仮説であるが、この仮説が β 群の「倭習」から言語学的に証明できるのであ る)

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 10 日(木)15 時 23 分 2 秒 返信・引用

> No.1040[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

> さて、お気づきでない方も多いと思いますが、今年 2013 年は 663 年の「白村江の戦い」から ちょうど 1350 年目に当たります。(ちょうど、といっても中途半端な数字ですが) >> 1350 年前の白村江の戦いは、一般に考えられているようなちっぽけな事件ではありません。 >

> 白村江敗戦により倭(日本)は、倭王朝創始以来 300 年近く保ち続けてきた半島権益を完全に放棄せざるを得なくなった一方で、白村江敗戦は 3000 人を越える百済の王族・貴族・官僚の日本への大量亡命をもたらし、この大量の百済教養人が日本に漢字文明と当時の先端科学技術を広め、奈良時代の律令制国家「日本」の建設を陰で支える原動力となったのです。

藤井さん、今年もよろしくお願いします。 またいろいろ今回もご解説ありがとうございました。

また先ほど ML でもお返事しましたが、特に亡命百済人の白鳳・奈良当時の文献への影響は とても重要な課題ですね。

いろいろ興味深い点があるのですが、たとえば、ご指摘の下記の点は、古代史の通説と異なり重要です。

中国語学者の森博達氏は『日本書紀の謎を解く』(中公新書 1999)に於いて、正格漢文で書かれた α 群は中国人の述作であるとする一方で、残りの非正格漢文で書かれた β 群は倭人(日本人)の述作であるとし、 β 群のみに見られる「倭習」を指摘している。しかし、これらの「倭習」なるものは、全て「朝鮮習」とみなして構わないのである。

1)山田史三方は朝鮮語話者 まず、森博達氏は、正格漢文の「 α 群」の述作者として、660 年の百済滅亡の際に、倭に救援を求める百済遺臣によって献上された 106 名の「唐人俘虜」の中にいた薩弘恪・続守言等の人物であるとし、これらが『日本書紀』完成前の 600 年代末頃に死去したため、やむなく倭人にその仕事を引き継がせた、としている。

そして、その仕事を引き継いで『日本書紀』を完成させた倭人として「山田史三方」(山田史御方・山田史三手)という人物を挙げている。

しかし、「史姓の氏族は 100% 帰化人氏族とみなして良い」というのは日本史学界の動かし難い定説であり、中国からの帰化人でないなら消去法で朝鮮からの帰化人に決まっておき、しかもこの山田史三方という人物は若い頃は僧侶で、新羅に留学していたという経歴まで解っている。これは、新羅に留学していたから朝鮮語が出来たのではなく、朝鮮語が出来たから新羅に派遣されて仏教を学んでいたと考えられ、その没年は解らないが 721 年の日本書紀完成まで生きていたことは確実であるから、寿命から考えると 663 年の白村江敗戦によって日本に亡命した百済人の日本生まれの二世で日朝バイリンガルに育った者の一人だと考えられる。(これは仮説であるが、この仮説が β 群の「倭習」から言語学的に証明できるのである)

2)語順による誤用 森博達氏は、 β 群の「若急不計」(「もし急いで計らなければ」正格漢文では「若不急計」といった誤りは、日本語の語順に影響されたもので、「日本人特有の誤用」としているが、朝鮮語と日本語の語順はほぼ同じなのであり、これはそっくり朝鮮語の語順に影響された誤用であると考えて構わない。

個人的にはこの点には共感してます。山田史が、渡来系であることは確かで、純粋な倭系氏族と中国人との対比として論じるのに問題はあろうでしょう。

具体的には、山田史については、新羅系と「漢」系があるようにみえます。山田直は葛城系ですが、これは蘇我倉山田石川麻呂との関わりを感じます。蘇我山田石川麻呂が、乙史の変のときに、三韓の宣命を読み上げてますね。呂 http://www.harimaya.com/o_kamon1/seisi/11_20/yamada.html

<http://ja.wikipedia.org/wiki/山田氏> 「漢」は、百済・秦韓系の楽浪漢人系と、百済のもとの扶余系の穢人、さらに別に北燕・大陸

系の新漢等を考慮すべきですが、おそらく山田史は前 2 者の出自ではないかと感じます。古くは渡来系氏族が称したウチ名であり、『新撰姓氏録』には、右京の山田宿祢氏(やまたの

すくね、周霊王の太子晋の子孫と称する)、同じく山田造(やまたのみやつこ、山田宿祢と 同祖)、河内国の山田宿祢(魏の司空王昶の子孫と称する)、同じく山田連(やまたのむらじ、山田宿祢と 同祖)、同じく山田造(山田宿祢と 同祖)、和泉国の山田造(新羅の天佐疑利命(あまのさぎりのみこと)の子孫と称する)が記録されている。平安時代初期の能吏として知られる山田古嗣(やまたのふるつぐ)もこの山田氏に出自していると見られている。

周防守に710年に山田史御方が向かいますが、周防が以前お話しした蘇我氏の拠点で、豊浦宮の語が、蘇我(豊浦大臣)蝦夷と関係してきます。

ここで何をしに周防に山田史が向かったのかも気になりますね。

天皇の詔によると、「周防国の前の国司の従五位上の山田史御方(三方)が、管理すべき官物を盗む罪を犯してしまった。

法律によれば免職にするべきであるが、恩赦で罪はもう許されている。しかし盗んだものを弁償させようとしたが、家には1尺の布もなかった。朕が思うに、御方は、遠く新羅まで留学した。帰国してからは、学問を伝授したので、大学の学生は良く文章ができるようになった。誠にこのような人物をあわれまないと、文章の道が廃れてしまうだろう。そこで特に恩寵を与えて、弁償の徴収はしないこととする」

<http://ameblo.jp/kodaitantei/entry-10466963271.html>

たぶん、山田史の盗もうとした物は、蘇我系の歴史書籍ではなかったでしょうか。乙史の変で、蘇我氏によって過去の皇族系の記録が焼けてますから、それを確認しようとしたのかもしれない。

また周防方面から、新羅や渤海に向かう航海ルートがあったはずですよ。

新羅に留学僧として御方が向かう背景にも、おそらくは新羅とのつながりをみてよいでしょう。

ただ、蘇我系は百済・秦韓の楽浪漢人系で、おそらく言語系統は、後の新羅と異なるでしょう。

山田史(三方)御方を、三方沙弥という万葉詩人だとする見方があるようです。この歌あたりの語系統を、藤井さんのほうで、分析されればよいのではないのでしょうか。

「長歌のもじりと同じ世界を万葉集の歌の中に見つけると、集歌0123の三方沙弥の歌に辿り着きました。ほぼ、もじり歌と集歌0123の歌からの三首が示す世界は同じです。さて、ここで示す三方沙弥は、直接に記録としてその人物を紹介するものではありません。このため、歴史書に「三方沙弥」の同名の記述が無いから正体不明の人物と解説する人もいます。一方、集歌4227の歌の左注から藤原房前(総前)との関係を見出し、続日本紀と懷風藻から山田史三方の通称と見る見方があります。このように議論はありますが、私は、三方沙弥を山田史御方三方と同一人物として、ここでの説明を行なっていきます。山田史三方は仏教僧侶として新羅で学問を修め、後にその学問の才能から還俗し文章学士、博士、大学頭となっています」

<http://blog.goo.ne.jp/taketorinooyaji/e/84f8d0c3099c37129df848a7e3970095>

三方の語に、三を用いたのが気になりますね。「御」を「三」にするのは、ちょうど御田・屯倉を三宅と後代したような、皇族等を意識した「諱」の関係を感じます。

百済王神社の旧神主家である三松氏は百済王氏の後裔を称した。なお、俊哲が坂上田村麻呂の副将軍として日高見国へ遠征したことから、百済王氏の一部かその縁者が北上盆地に定住し、岩手県南部各地に現在でも百済姓を名乗る者が散見される。全体としては近畿から福岡にかけての瀬戸内海沿岸に多い。[要出典]

<http://ja.wikipedia.org/wiki/百済王氏>

これも「御松」氏だったのではないのでしょうか。

蘇我氏・武内宿禰系氏族や秦氏と秦韓、つまりある時期までの百済王族との関わりが重要で紀氏が編纂に入ってくるのもその関係でしょう。

山田史については、仮に山田造・後の宿禰と同系だとすると、下記のようになります。

姓氏録で、坂上氏につぐ地位にあります。かなり渡来系としては優遇されていますね。

<http://homepage1.nifty.com/k-kitagawa/data/shoji03.html> 右京

諸蕃 漢 志我閉連

293

825.825 右京 諸蕃 漢

293

826.826 右京 諸蕃 漢

連 山田宿祢同祖 王安高之後也
長野連 連 山田宿祢同祖 忠意之後也
山田造 造 山田宿祢同祖 忠意之後也

志我閉連については、正六位上 721 年(養老 5 年)。陰陽暦博士 709 年(和銅 2 年) - 730 年 (天平 2 年)。余秦勝 よのやすかつ ? - ? 百済の亡命王族の子孫。正六位上 721 年(養老 5 年)。志 我閉連阿彌陀 しがへのむらじあみだ ? - ? 漢出身。別称「志我閉連阿弥太」とあります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/陰陽師の一覧> 陰陽師というのは、しきりに百済王族系がでてきますので、そこに注目してもよいかと感じ

ます。

そして山田宿祢は「王安高」が祖先となりますが、高句麗つまり楽浪系の王氏が、しばしば日本の古代文献には見えますね。

陰陽史の余秦勝という名も、百済王族と秦韓系の秦氏との兼ね合いでついたような名で、深い意味がありそうです。

こう考えていくと、おそらく山田史は少なくとも、純粋な倭系氏族ではないということが明らかになるでしょう。さらにいえば、藤井さんご指摘の山東半島と朝鮮語の類似、そこへの楽浪郡との関わりも、考慮すべきと感じます。

あと、ご指摘の呉音の関係が興味深いですね。

Re:白村江の戦い 1350 周年 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 10 日(木)13 時 35 分 7 秒 返信・引用
編集済

> No.1040[元記事へ] 藤井游惟さんへのお返事です。

質問ですが金属器文明を持つ百済が白村江で日本に逃げた。文章から日本には金属器文明がなく…。いっそ、百済が日本を攻めれば日本を属国にできますな。 そんな、日本が戦争。唐から見れば、単なる揉め事でしょうな。 真実はもっと大きな物があるのでは。

即ち「白村江敗戦」は、2300~2500 年前の稲作・金属器文明を携えた渡来人の流入による。 そうそう、韓半島から瑞穂の国との交易航路と船の大きさはどれくらい。

大化の改新、白村江敗戦後に屯倉は廃止された模様。疑問ですな。

当時の韓半島の地図を中国史籍から描き起こしましたので参照。

>> 白村江敗戦による 3000 人を越える百済帰化人達が、後の日本国家、日本社会を目に見える形で大きく変えたのです。 > 白村江の戦い 1350 周年にあたり、渡来人研究会の皆様もマクロな目を見開いて、白村江敗戦の意義を論じて行こうではありませんか。 >

沙王権守(びしやおうごんのかみ)河勝 投稿者:荊の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 10 日 (木)10 時 11 分 19 秒 返信・引用

七福神(毘沙門天) 一般に知られる幸福をもたらすとされる七福神のうち毘沙門天を解説する。http://www.geocities.jp/mitaka_makita/kaisetu/bisyamon.html 北方守護の神仏である毘沙門天は、仏教とそれを信じる人々を守る四天王の一人であり、憤怒の相に唐の武人装束をまとい、左手に宝塔、右手に金剛棒(あるいは三叉戟:先が三つになった槍)を持ち、二体の邪鬼を踏みつけている姿で表わされ、古くから武人たちの厚い信仰を得ている。 北方守護の神 毘沙門天のルーツは、インドの前期ヴェーダ時代(紀元前 1500~紀元前 1000 頃)からの古い神で、北の方角を守る神ヴァイシュラヴァナで、これが毘沙門天と訳されており、多聞天と呼ばれる場合もある。また、吉祥天は毘沙門天の妻である。

ヴァイシュラヴァナ (Vaisravana)

大海から生まれたもの」の意で、アイラーヴァナとも呼ばれる。神々が不死の霊水を求めて 大海をかき回した時に ... ヴァイシュラヴァナ (Vaisravana).【解説】 クヴェーラの別名。

<http://contest.thinkquest.jp/tqj2000/30256/ethnology/god/india/index.html>「ヴァイシュラヴァスの 子」の意で、仏教では毘沙門天或いは多聞天といわれる。

神々が不死の霊水を求めて 大海をかき回した...

インドの神話でも世界軸としての山が攪拌棒として用いられ、蛇をそのマンガラ山に 巻き付け紐の代わりに使って大海をかき回す。日本神話でもイザナギとイザナミが天の 沼矛で原初の海を掻き回す。混ぜ合わしたのち色々な物が生まれる。何かが生まれる ため ... 混ぜ合わしたのち色々な物が生まれる。何かが生まれるためには媒体しかない所をかき混ぜて生み出している。混ぜると混じる、交じるの連想から結局は男女が交じることで何かが 生まれるということである。海という女性性を表す対象に、山、矛などの棒状のものや蛇などの長い物が男性性を表しておりまさに男女の交わりを表している。 <http://toi-clinic.com/sinwa/21-40/sinwa-34.html>

白村江の敗戦・帰化人達 投稿者:荊の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 10 日(木)09 時 58 分 18 秒 返信・引用

天智天皇は白村江の敗戦のあと、唐・新羅による報復と侵攻を怖れて北部九州の 大宰府の水城(みずき)や瀬戸内海を主とする西日本各地に古代山城などの防衛砦を 築いた。また北部九州沿岸には、防人(さきもり)を配備した。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BD%E6%9D%91%E6%B1%9F%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84> 新羅は、627 年に百済から攻められた際に唐に援助を求めたが、この時は唐が内戦の最中で 成り立たなかった。しかし高句麗遠征により、高句麗・百済が唐に対して敵対的になったことで、唐と新羅との関係が親密化した。また、善徳女王(632 年~647 年)のもとで実力者となった金春秋(後の太宗武烈王)は、積極的に唐化政策を採用するようになり、654 年に武烈王(~661 年)として即位すると、両国の間はさらに親密化した。『三国史記』新羅本紀によれば、648 年ごろより新羅と唐の間で百済攻撃の相談が行われていたとされ、一方 649 年には新羅から金多遂が倭国に派遣されるなど、倭国に対する外交工作も活発化した。この朝鮮半島の動きは倭国にも伝わり、大化改新最中の倭国内部でも警戒感が高まった。大化改新期の外交政策については諸説あるが、唐が倭国からは離れた高句麗ではなく伝統的な 友好国である百済を海路から攻撃する可能性が出てきたことにより、倭国の外交政策はともに伝統的な友好関係にあった中国王朝(唐)と百済との間で二者択一を迫られることになる[1]。白雉 2 年(651 年)に左大臣巨勢徳陀子が、倭国の実力者になっていた中大兄皇子 (後の天智天皇)に新羅征討を進言したが、採用されなかった。白雉 4 年(653 年)・5 年 (654 年)と 2 年連続で遣唐使が派遣されたのもこの情勢に対応しようとしたものと考えられている。

660 年(斉明天皇 6 年)、新羅からの救援要請を受けて唐が軍を起こし、同年に唐・新羅連 合軍の攻撃によって百済は攻め滅ぼされた。唐は百済の旧領を郡県支配の下に置いたが、すぐに百済遺民による反抗運動が起きた。善徳女王(632 年~647 年)のもとで実力者となった金春秋(後の太宗武烈王)

金春秋 (武烈王)

新羅は、金春秋を遣わして、孔雀と鸚鵡を献った。よりて春秋を「質むかはり」とした。春秋は、「... 金春秋は、654 年新羅 29 代武烈王となる人で、百済・高句麗の滅亡、そして統一新羅

建国に大きな影響力をもった人である。

<http://achikochitazusaete.web.fc2.com/kiki/koutoku/chunchu.html>

金春秋が質としてやってきた理由は、『日本書紀』によれば、 562 年に任那が滅び、それを奪った新羅が任那に替わって調を貢いできた。その任那の地が百済に奪われて、こんどは百済が貢いでくるようになったので、新羅は貢がないでよろしい。その貢物の代わりに質をだしなさいと、646 年 9 月に伝えた。その質が金春秋という。 80 年も前に滅んだ任那の税金をもう払わなくていいから、代わりに質という。あきれるような要求である。

そんな税金免除のために、金春秋は倭国にやってきたというのだ。 百済は執拗に新羅に攻めてくるし、こんなときに女王は亡くなるし、唐はお願いした通り高句麗を攻めてくれているし、 身体がいくつあっても足りん

というこの時期に、税金の質ですか。平和な倭国です。 …

648 年閏 12 月、金春秋は息子金文王も連れて唐に遣わされる。唐の太宗は、宴を催し、春秋を特進し、息子を左武衛將軍に任じ、まさに厚い待遇で迎える。この記事は、『旧唐書』『唐書』『資治通鑑』『冊府元龜』という中国の史料に記されるし、『三国史記』の「新羅本記」にも載る。史実であろう。金春秋は唐の信頼を得て帰国、以後新羅は唐の礼服を着るようになり、また律令も倣ったという。

金春 こんぱる【金春】とは。意味や解説。能楽師の姓の一。シテ方と太鼓方にこの姓がある。金春禅 竹の曾祖父にあたる 26 世毘沙王権守(びしゃおうごんのかみ)の童名によったもの。「金春 流」または「金春座」の略 <http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/83966/m0u/>

金春流 - シテ方:能楽.net 始祖は泰皮勝(はたかわかつ)とされていますが、「金春」というの姓を使い出した人物は皮勝から何と 53 代目も降った金春権守でした。 http://nohgaku.net/2008/06/post_df33.html

金春権守 とは - コトバンク 系図では聖徳太子時代の秦河勝(はたのかかわかつ)を遠祖とし、現家元まで 79 代を数えるが、猿楽の家としては、南北朝時代の毘沙王権守(びしゃおうごんのかみ) (河勝 より 53 世)あたりを流祖とみてよいであろう <http://kotobank.jp/word/%E9%87%91%E6%98%A5%E6%A8%A9%E5%AE%88>

銅鐸 古墳 寺社 造営 秦氏 国造 <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3267> 秦氏は謎の氏族で、日本書紀によれば、応神天皇や仁徳天皇の時代に大挙来日している。巨大な応神陵や仁徳陵も秦氏の土木技術の粋をあつめて造営された。百舌鳥 古墳群・古市古 墳群一体に本拠地をおく土師氏も秦氏の一族であったかもしれない http://www.ican.zaq.ne.jp/rekishi/national_history18.html 高野新笠の母は、土師真妹といい百舌鳥を本拠地として古墳造営に関わっていた土師氏の出 身である。土師一族は、桓武天皇より、大枝(大江)、菅原、秋篠氏を与えられ平安官僚となつてゆく。新王朝の樹立にともない桓武天皇は、天武系の皇城である平城京からの遷都を計画した。こうして 784 年長岡京への遷都が行われる。ところが、遷都の翌年長岡京造営長官であった 藤原種継が暗殺された。背後に桓武天皇廃位計画があることが発覚した。さらに、二度の大 洪水に見舞われ桓武天皇は、再遷都を和気清麻呂の建言によって決意する。こうして選ばれたのが、千年の都となる平安京であった。

丹波国造 - Wikipedia <http://search.yahoo.co.jp/search?fr=slv1-snvai0&p=%E7%A7%A6%E6%B2%B3%E5%8B%9D%E3%80%80%E5%9B%BD%E9%80%A0&ei=UTF-8> 丹波国造(たんばのくにのみやつこ)は、後の令制国の丹波国および但馬国と丹後国、現在の京都府中部および北部から兵庫県北部 … 真偽は不明だが、5 世紀に秦氏が 亀岡市域の桂川の治水工事を行ったため、この辺りの桂川は大堰川と呼ばれている という。

氏(ウチ)や秦氏(はた)、東漢氏(やまとの あや)、西文氏(かわちのふみ)などの代表的な帰化人達に与えられた氏(ウチ)がある。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%8F%E5%A7%93%E5%88%B6%E5%BA%A6> 原始共同体においては、氏族や部族が社会の単位となった。氏姓制度の基盤は、血縁集団としての同族にあったが、それが国家の政治制度として編成し直された。その成立時期は、5~6 世紀をさかのぼらない。同族のなかの特定の者が、臣(おみ)、連(むらじ)、伴造(とものみやつこ)、国造(くにのみやつこ)、百八十部(ももあまりやそのとも)、県主(あがたぬし)などの地位をあたえられ、それに応ずる氏姓を賜ったところに特色がある。伴造(とものみやつこ) 連(むらじ)とも重なり合うが、おもにそのもとでヤマト王権の

各部司を分掌した豪族である。弓削氏(ゆげ)、矢集氏(やずめ)、服部氏(はとり)、犬養氏(いぬかい)、春米氏(つきしね)、倭文氏(しとり)などの氏(ウチ)や秦氏(はた)、東漢氏(やまとのあや)、西文氏(かわちのふみ)などの代表的な帰化人達に与えられた氏(ウチ)がある。連(むらじ)、造(みやつこ)、直(あたひ)、公(きみ)などの姓(カバネ)を称した。大化の改新により、氏姓制度による臣・連・伴造・国造を律令国家の官僚に再編し、部民を公民として、一律に国家のもとに帰属させた。

664 年(天智 3 年)に、「甲子(かつし)の宣」が発せられた。これは、大化以来の官位を改め 大氏(おおうじ)、小氏(こうじ)、伴造氏(とものみやつこうじ)を定め、それぞれの氏上(うじのかみ)と、それに属する氏人(うじびと)の範囲を明確にしようとするものであった。つまり、官位の改定によって、大錦位(大氏)・小錦位(小氏)、つまり律令の四、五位以上位置づけられる氏上をもつ氏を定めたものであり、これによって朝廷内の官位制度

と全 国の氏姓制度とを連動させようとした。さらにこのような氏上に属する氏人を父系による直系親族に限ることとし、従来の父系あるいは母系の原理による漠然とした氏の範囲を限定 することとした。これにより、物部弓削(もののべゆげ)、阿倍布勢(あべのふせ)、蘇我石 川(そがのいしかわ)などの複姓は、これ以後原則として消滅することとなる。

天武朝において氏上に相当する氏が八色の姓に改姓する前段階として、まず連への改姓が行 われ、この連=小錦位以上を基点として、忌寸以上の四つの姓へ改められたことと同様の対 応である。氏上である忌寸以上についても、補足的な氏姓の変更が行われている。氏の名において春日 より大春日、中臣より大中臣への変更、また宿禰から大宿禰への変更が行われるなどしたため、氏姓の制は、全般的に、より緻密に浸透することになった。これらの全般的な特徴として、まず首位の昇叙があり、ついでそれに連なる直系親族のみに 対し氏姓の変更が行われるといった順序により同族の中から有力な者が抽出されるという 点にある。この改賜姓を認可する権限は天皇にあった。

キムヨナって中国人だったんですか？ 韓国の最大姓金氏は金海金氏と

...http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1454909569

辰韓とか、もともと、秦と韓からきた難民が作った国で秦韓がなまったんでしょ。ところで 問題は馬韓なんです。この馬韓は辰韓とは異民族で、言語が違っていたみたいです。韓国の最大姓金氏は金海金氏と慶州金氏に大別されます。新羅の英雄金庾信は新羅法興王の時、新羅に降った金官国(金海)王の子孫です。その金庾信碑に、金官国王族と新羅は同姓で、かつ少昊金天を祖とする同族だとある。

大陸から民族移動してきた穢と貊(檀君神話の虎と熊)が混成して古朝鮮社会を形成しま

した。殷の末、箕子が東走してきて朝鮮社会の指導者となりました(箕子朝鮮)。箕子の後、準の時、燕人衛満に率いられた難民集団が準を騙し討ちして衛氏朝鮮を建国しました。準は南に逃れて韓王を称した。朝鮮に残った準の親族も韓氏を名乗った。韓は、中国の春秋戦国時代にあったけど... 韓国人って中国人だったんだ。

ついでに高句麗、百済は、旧満州にあった扶余に出自してましたよね。新羅は、秦の土木工事を避けてきた難民の辰韓の斯羅国から発展したものですよね。馬韓の辰王は亡命者だったといひます。朝鮮半島は大陸からの難民・移住者の吹き溜り、ちゅうか朝鮮民族は大陸からの難民・移民の集合体ですか？

さて古朝鮮族(濊と貊)はどこから来たのだろうか？ある中国人学者は中国山東省に濊水、濊邑があると指摘している。箕子朝鮮の伝説地は、直隸省・遼寧省・内モンゴル自治区・平壤などにある。古朝鮮族のルーツをたどる時、檀君神話の帝釈天の子桓雄が降臨した太伯山(今の妙高山)と高句麗朱蒙神話の天王郎解慕 漱の降臨した扶余が参考になる。なぜなら桓雄と解慕漱は同一神(カムス)だからである。「三国遺事」北扶余条に引用される古記には天帝解慕漱が大遼医州界に降ったとある。どうやら古朝鮮族の移動ルートは渤海湾沿いを考えねばいけない。

唐を「隣国」、朝鮮諸国(この時代には新羅と渤海)を「諸蕃」、蝦夷・隼人・南島人を「夷狄」と規定する「東夷の小帝国」と呼ぶべきものであった。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%88%E8%89%AF%E6%99%82%E4%BB%A3> 東夷の小帝国 [編集] その中であって日本の律令国家体制では、天皇は中国の皇帝と並ぶものであり、唐と同様、日本を中華とする帝国構造を有していた。それは国家の統治権が及ぶ範囲を「化内」、それが及ばない外部を「化外」と区別すると、さらに化外を区分して唐を「隣国」、朝鮮諸国(この時代には新羅と渤海)を「諸蕃」、蝦夷・隼人・南島人を「夷狄」と規定する「東夷の小帝国」と呼ぶべきものであった[7][8]。律令に規定後、それを自負したり目指したことと、とりわけ唐や朝鮮諸国との関係に実態がともなったかどうかは別の問題である。

渤海 [編集] 713 年、靺鞨族や旧高句麗人(貊族)を中心に中国東北部に建国された渤海とは緊密な使節の往来がおこなわれた。渤海は、唐・新羅の対抗上 727 年(神亀 4 年)に日本に渤海使を派遣して国交を求め、日本に対し臣従するかたちをとった。日本もこれを「蕃国」高句麗の再来

としてその朝貢を歓迎すると[15]、また新羅との対抗関係から、渤海との通交をきわめて重視した後、遣渤海使を派遣した。その渤海も、国力の充実とともに日本に対する「臣従」を必要としなくなり、771 年の渤海使は上表文が無礼であることを日本に非難された。その一方で渤海使も交易に比重を置くようになり、来日の頻度も増えていった。平安時代初期には完全に変質したものとなり、824 年には右大臣藤原緒嗣が渤海使は商人

であるので、今後は外 交使節として扱わないように」と言うほどのものとなった[16]

白村江の戦い 1350 周年 投稿者:藤井游惟 投稿日:2013 年 1 月 10 日(木)06 時 08 分 3 秒 返信・引用

渡来人研究会の皆様、明けましておめでとうございます。「白村江敗戦と上代特殊仮名遣い」著者の藤井游惟です。

さて、お気づきでない方も多いと思いますが、今年 2013 年は 663 年の「白村江の戦い」からちょうど 1350 年目に当たります。(ちょうど、といっても中途半端な数字ですが)

1350 年前の白村江の戦いは、一般に考えられているようなちっぽけな事件ではありません。

白村江敗戦により倭(日本)は、倭王朝創始以来 300 年近く保ち続けてきた半島権益を完全に放棄せざるを得なくなった一方で、白村江敗戦は 3000 人を越える百済の王族・貴族・官僚の日本への大量亡命をもたらし、この大量の百済教養人が日本に漢字文明と当時の先端 科学技術を広め、奈良時代の律令制国家「日本」の建設を陰で支える原動力となったのです。

即ち「白村江敗戦」は、2300~2500 年前の稲作・金属器文明を携えた渡来人の流入による「弥生時代の開始」(第一次文化大革命)、約 150 年前の西洋近代文明の流入による「明治維新」(第三次文化大革命)に匹敵する、外来文明の流入による日本の「第二次文化大革命」の発端となった出来事であり、日本史(日本列島人類史)の三大ターニングポイントの一つだといえる事件なのです。

このことに関しては様々な歴史的・考古学的証拠もありますが、最大の決定的な証拠が白村江から数十年以内に作成された『記紀万葉』の借音仮名日本語表記法から発見された「上代特殊仮名遣い」という現象なのです。

この上代特殊仮名遣いという現象を言語学的(音声学的)に分析すると、その用字法を用いて日本語を表記していた書記官達は、言語的な外国人であった、という結論しか出てこないのです。(なぜ、そうなるかは拙著の第三章~第六章をご参照下さい。特に重要なのが第六章の音声

学的発音実験であり、この実験は日本人(日本語ネイティブスピーカー)なら誰でも自らの口を使って追試、確認できます) <http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/6shou.html>

そして、『記紀万葉』成立当時、日本国内にいた「言語的な外国人」とは少数の中国人と多数の百済人ですが、中国語学者森博達氏によって、正格漢文で書かれた『日本書紀 α 群』は中国人が書いたものであることが明らかにされています。すると、それ以外の『日本書紀 β 群』『古事記』『万葉集』などを書いた「言語的な外国人」とは百済人(朝鮮語話者)としか考えられず、そのことは言語学的にも証明できます。 http://www.youtube.com/watch?v=xPvxfGA_ews&feature=plcp

(朝鮮語に関しては第七章)

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/7shou.html>

(中国語に関しては第八章)

<http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/7shou.html>

『記紀万葉』、特に『日本書紀』は奈良時代律令制国家建設の一環として編纂されたものですが、当時の日本王朝はそのような重要文書すら中国人と百済人の力を借りなければ作成できなかったということであり、まして多数の文書事務官を必要とする律令制の立案・施行は 3000 人を越える百済帰化人がいなければ不可能な事業だったのです。

拙著『白村江敗戦と上代特殊仮名遣い』は、1 歴史的倭王朝加羅渡来王朝説と、2 言語学的な上代特殊仮名遣い(記紀万葉)百済帰化人記述説の二本立てということになりますが、これらはサブテーマであり、トータルテーマは「白村江敗戦は、弥生時代の開始、明治維新と並ぶ日本史(日本列島人類史)の三大ターニングポイントの一つであり、今日我々がイメージする文明国家日本は、白村江敗戦の結果として生まれた」という超マクロな命題です。

白村江敗戦による 3000 人を越える百済帰化人達が、後の日本国家、日本社会を目に見える形で大きく変えたのです。白村江の戦い 1350 周年にあたり、渡来人研究会の皆様もマクロな目を見開いて、白村江敗戦

の意義を論じて行こうではありませんか。 <http://music.geocities.jp/konatarosu/Hakusonkou/Index.html>

『2012 年おすすめ映画』ランキング 334 人が見えています

More....

『冬の防寒アイテム』ランキング 269 人が見えています More....

『居心地のいいクラブ』ランキング 451 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:渤海使 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 9 日(水)20 時 35 分 29 秒 返信・引用
> No.1038[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

構造的に 遣唐使船なみ? ヨットの様に逆風でも進める揚力が働く構造で有るのに比べ、単なる帆かけ舟であった <http://nic.main.jp/?p=7280> 渤海使船・遣渤海使船の規模(渤海使船の構造に関する記録は無く遣唐使船からの類推で す)全長約 30m 幅約 8 m 乗船人員 40~60 人 積載量 150 t と推測されている。 構造 遣唐使船から江戸時代の北前船まで構造的には進化は見られず、たらいに甲板をつけ た様な構造で、完全に海水を遮断出来る甲板構造ではなかった。ヨーロッパの船との構造上 の大きな違いは船底部が竜骨を持たない平底構造であった。重心の位置も高く、海が荒れる と大きく傾き横転する事も多かった。推進力の要である帆の構造も大きな弱点であった。順 風にしか対応できない原始的な帆かけ舟であった。すなわちヨーロッパの帆船がヨットの様に逆風でも進める揚力が働く構造で有るのに比べ、単なる帆かけ舟であった。 航路 朝鮮半島に沿って南下し対馬海流に流され日本海沿岸に達した。東北、北陸、山陰に到 着。出発地は図們江の日本海河口であったと思われる。帰路は日本海を縦断するのでは無く 対馬海流に乗り東北地方の沿岸を北東に進み、北海道、サハリンでリマン海流に乗って現口 シア沿海州沿いに南下したと思われる。

渤海国から日本への第一回目の使者が派遣されたのは 727 年秋のことでしたが、対馬海 流や悪天候に流され今の秋田県北部に漂着、24 人の使節の内 16 人が蝦夷により殺害され てしまい、残った 8 人が渤海王の国書や献上物の貂皮 300 枚を守って 4 カ月かかり平城京 に到着しました。

Ads by Google Re:渤海使 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 9 日(水)16 時 11 分 43 秒 返信・引用
> No.1037[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 渤海の北みち > 渤海国建国時も新羅の位置づけは変わっていないので、渤海使も当然このルート をたどって来航することになる。

どうも夏は南風で北上したようですね。出雲から出航した記載があるようです。 帆の使い方としては、こういう使い方もあるようです。

<http://www.smacj.jp/j146/raceru/ra&ru.htm>

Re:渤海使 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 9 日(水)14 時 23 分 48 秒 返信・引用

> No.1035[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> ちょっと渤海使と新羅使を調べてみました。 >> どうも渤海使というのは、偏西風に乗ってきたようですね。
> 帰路は南風で帰ったらしいのですが、いまいちルートがよくわかりません。

渤海の北みち 渤海国建国時も新羅の位置づけは変わっていないので、渤海使も当然このルート をたどって来航することになる。 <http://www.sce-net.jp/pdf/mado/e-28.pdf#search=%E6%B8%A4%E6%B5%B7%E3%81%A8%E3%81%84%E3%81%86%E5%9B%BD%E5%90%8D%E3%81%AF++%E5%BD%93%E7%84%B6%E3%81%AE%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%AA%E3%81%8C%E3%82%89%E6%AE%8B%E3%81%A3> 渤海使の前半は出羽の国、現在の秋田県に到着することが多く、出航地はロシア沿海州南端 のグラスキノ付近と目されている 渤海 の 北 み ち <http://www.sce-net.jp/pdf/mado/e-28.pdf#search=%E6%B5%B7%E3%81%AE%E5%8C%97%E3%81%BF%E3%81%A1+%E6%B8%A4%E6%B5%B7> 石器時代から縄文時代にかけて、アジア大陸と日本列島との間の人と文化の交流

は北方ルートを経由してなされていたことが北海道から東北北部にかけて発掘される多くの遺跡が物語る。大陸→間宮海峡→樺太→宗谷海峡→北海道→津軽海峡→本州東北地方とたどるルートは陸地が完全に視認できる距離の範囲でつながっており、古代人でも容易に行き来できる。これを新野直吉元秋田大学学長は「海の北みち」と名づけ、東北地方の北部日本海沿いに北方系の白人種の血がもたらされ、これがこの地に美人が多い理由の一つに挙げているのは興味深い。時代が下がって渤海使の交流は船と航海術の進歩によりこれほど大回りしなくても日本海を直接横断して行き来できるようになったが、初期の渤海使が秋田県に多く到着したことから関連づけ、大陸との間の人間および文化の交流における海の北みちの重要性を主張されている。

渤海安息 関連 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013年1月9日(水)13時14分48秒 返信・引用

渤海 安息 関連 パルティアのことについて少し発表します。このパルティアは中国表記では安息国と呼ばれ、漢時代には遼東方面に移住したといわれている。さて、この安息氏と思われる人物が登場するのは好太王のときである。『梁書』高句麗伝 396年、慕容垂が死に、子の宝が立つ。句驪王の安を平州牧に任じ、遼東と帯方の二國王に封じた。安は長吏、司馬、参軍官を置いた。その後、遼東郡を略取した。詳しくは略すが、このとき高句麗は鮮卑、慕容氏の傀儡であった。この安氏こそスキタイ王なのである。中国史にも登場する安羅国とは、この安息氏の国に違いない。慕容氏は高句麗王

に安羅王を指名し、広開土王とも言われるが、倭、百済、新羅の攻撃を防ぎ、高句麗最盛期を築き上げた。私の想像では、彼は応神天皇として九州へ攻め入り、宇佐で秦氏と同盟する。その後、近畿地方まで攻め入り、飛鳥に本拠を構えた。そのとき移住した王族が後の王仁(わに)一族であろう。飛鳥は安氏の住むところで「あすか」である。彼等の東征が神武東征の実態と考えている。

渤海は日本と示しあい、新羅を挟み撃ちにしようと試みる。このときすでに光明子(みんこうし)は亡く、吉備氏、弓削氏らにより仲麻呂は亡ぼされ、鮮卑、慕容氏は日本での地位を失ったと考えられる。これ以後、日本と渤海の関係は文化的な方面に限定され、軍事的な同盟関係は失われた。つまり、これから推察するに、渤海の支配層は鮮卑、慕容氏と考えてもよいのではないだろうか。

渤海の支配層は鮮卑、慕容氏と考えてもよいのではないだろうか。もちろんまだまだ確定するべきではないが。

このように、安羅国は相当大きな勢力を持っていたと考えられるが、韓国の歴史書では相当矮小化されており、到底納得できない。おそらく通常の歴史解説書における百済国がそれに相当すると考えても間違いはないと思っている。なぜなら百済王といわれる武寧王の古墳はスキタイ形式であるし、南部方面には前方後円墳が多く見られる。

渤海使 投稿者:管理人 投稿日:2013年1月9日(水)12時24分56秒 返信・引用 > No.1034[元記事へ]

ちょっと渤海使と新羅使を調べてみました。

どうも渤海使というのは、偏西風に乗ってきたようですね。帰路は南風で帰ったらしいのですが、いまいちルートがよくわかりません。 <http://www.shikagen.net/rekisi/bokkai/bokkai.htm>

シルクロード系の品物も多くもってきたようで、きしさんや秦野さんご指摘のマタラ神などもその関連で入ってきたのかもしれない。日光にありますね。

光仁・桓武・嵯峨時代に多いのは、先の新漢氏・高句麗系との関係でしょうか。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/渤海使>

それで送使もしたわけですが、嵯峨以降はしなくなったようですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/遣渤海使>

高麗朝臣が送使に見えるのはおもしろいですね。

720年(養老4年)渡嶋津軽津司諸君鞍男が渤海へ送使だとしたら、一度日本海を北上し、津軽方面から渤海に向かった可能性がでてきます。渤海からリマン海流で南下したという線なのでしょうか。

その際に、蝦夷関連とも交易して帰った可能性を感じますね。

それに比して新羅使はまた違う特徴がありますね。桓武・光仁・嵯峨は興味がないようです。天武・持統あたりは逆にですね。

近江系の息長・小野・高向など新漢人がやはり多いのは、元が新羅系だからでしょう。高句麗→新羅へと流れた北燕遺民です。山口忌寸、忌部氏が見えるのは、また何かありますね。新羅經由で入ってきた東欧系の信仰と関わるかもしれません。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/遣新羅使>

こうみると、やはり桓武平氏は高句麗・渤海あたりに興味がありますね。

初期は軍事同盟、後半は交易関係とのことですが、

奥州藤原関連の交易の話が重要ですね。

<http://www4.plala.or.jp/kawa-k/kyoukasyo/1-30.htm>

コンスタンティヌス帝とキリスト教 投稿者:荊の紀氏 投稿日:2013年1月9日(水)11時 32分 29秒 返信・引用

前 1世紀 [編集] 63 共和政ローマの将軍のポンペイウスがエルサレムに入城する。ユダヤ地方(イスラエルまたはパレスチナともいう)はローマの支配下に入る。 34 ヘロデ大王、ローマからユダヤ人の王に任命される。 29 オクタ비아ヌス、ローマ初代皇帝となり、ここに帝政ローマが始まる。 7~4 頃 イエスがユダヤ地方(イスラエル)のベツレヘムに降誕する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99%E5%B9%B4%E8%A1%A8>

1世紀 [編集] 27 この頃、洗礼者ヨハネが活動を開始する。イエスはヨハネより洗礼を受け、良き訪れと呼ぶ宣教活動を開始する。 29 または 30 イエスがエルサレムのゴルゴタの丘で磔刑になり、三日目に復活した。 30 復活の後、イエスが弟子たちに大宣教命令を与えた。 35 または 36 ステファノが石打ちの刑で死にキリスト教の最初の殉教者(致命者)となる。 迫害者パウロ(本名サウロ)がイエスの幻を見て回心する。 46 サウロがバルナバとともに第 1 回伝道旅行(キプロス・小アジア)に出発し、途中で名をパウロと改める。 4世紀 [編集] 301 アルメニア王国がキリスト教を国教とする。当時のアルメニアは、ローマ帝国の従属国だが、国家の国教としては世界初。 303 皇帝ディオクレティアヌスがキリスト教禁圧令を出し迫害する。 306 この頃、コーモンのアントニウスがエジプトで隠修士を集め、キリスト教最初の修道院を始める。 312 コンスタンティヌス 1 世、十字架を旗印にしてミルヴィウス橋の戦いに勝利する 313 ローマ皇帝コンスタンティヌス 1 世がミラノ寛容令を発しキリスト教を公認する。

ローマの コンスタンティヌス帝は、臨終の床で洗礼を受けるまではキリスト教徒ではなかったのです。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1064> ユスティニアヌス帝の妻であるテオドラ皇后は、最初は神殿娼婦であり[8]、コンスタンティヌス帝の母である聖ヘレナは、皇后・聖人になる前は娼婦であった <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/tiakio/antiGM/prostitution.html>

ローマの コンスタンティヌス帝は、臨終の床で洗礼を受けるまではキリスト教徒ではなかったのです。 <http://www.asahi-net.or.jp/~nr8c-ab/rkxmas.htm> 当時の最大の宗教勢力はミスラ(ミトラ又はミトラスなど)教でありました。このミスラはもとほはゾロアスター教(拝火教)の大天使で、太陽崇拝の象徴でもありました。このミスラは有翼日輪の姿で表されます。

ミトラ神の謎 投稿者:荊の紀氏 投稿日:2013年1月9日(水)11時 25分 42秒 返信・引用

ミトラス教がローマに出現した時期とキリスト教がローマに出現した時期があまりにも近すぎる。こんな近似をいつまでも放っておけるものじゃない。エッセネ派や死海文

書をめぐる原始キリスト教研究が一段落ちつけば、いよいよミトラ信仰とは何だったか

...<http://1000ya.isis.ne.jp/0445.html>

なぜ誰も闘牛のルーツがミトラ神の牡牛殺しだと言わないだろうか。なぜ誰もアンチキリストのモデルがミトラ神にあったという研究に没入しないのだろうか。ゾロアスター教の神官マゴスの活動とともに、ミトラは小アジアに広まっていく。小アジアにはすでにカルデア人の神官たちがいて、マゴス神官はこれらと交じってカルデア人の占星術をはじめとする密儀をとり入れ、さらにギリシア文化に接してその密儀性を膨らませていった。その密儀はギリシアでは太陽神のおもむきをもっていたが、そこには異様な性格も内蔵されていた。

それが牡牛信仰である。小アジアやヨーロッパにおける牡牛信仰=牛角信仰ほど、謎に満ちたものはない。そもそもモーセが闘ったのが異様なバール神という三日月型の牛角をもつ牡牛信仰だった。しかしながら、その牡牛信仰と「牡牛を屠る神」とは、どこか共通するものがありながら、そこには別の立場の強調というものがある。

太陽と牡牛を秘めたミトラの力にとびついたのは、キリキア海賊たちである。海賊たちはミトラに「牡」の力を見分け、これにあやかった。このころからミトラは戦士神としての色彩を加えていく。プルタークは、かれら海賊たちがリュキアのオリンポス山に風変わりな貢物を持って入り、ある秘密の儀式をしていたが、それはいまでも見られるミトラス神の宗門の儀式に近いものだったと書いている。ついでミトラ神はローマ帝国領内に入っていく。記録にはっきり残っている事績では、アルメニア王ティリダテスがローマ皇帝ネロの戴冠をうけるためにトラキア、イリュリア、イタリア東岸を通してローマに入ったとき、ティリダテスがネロにこう言ったというらしい。「いまや私は陛下のもとに来て、陛下にミトラス神に対するのと同様の礼拝を捧げます」。プリニウスはそのあとのことも少しだけだが、書いている。「ティリダテスはネロを魔法の食事の儀式に導き入れた」。

どうやらネロがミトラ信仰と最初の接触をもった皇帝であることは事実のようだ。これが西暦66年のことである。まったく同じころ、原始キリスト教がローマに入ってきた。このときローマ人たちはイエスが生まれたときに、東方の三博士がマゴス神官の恰好をしてベツレヘムに到着したという伝承を聞く。そのひとつの証左になるが、マタイ福音書のアラビア語版には、「見よ、マゴス神官たちがエルサレムにやってきた。これはゾロアスターによって予言された通りの出来事である」とある。ゾロアスターは土地の言葉ではサオシャントともいう。ローマ市内に出土したラテン語碑文のいくつかには、しばしば「サオシャント万歳」の文字が判読できる。どこかでゾロアスタ

ーの神とミトラ神とが習合したにちがいない。ともかくも、こうしてしだいにアイコンとしてのミトラ神が成長していった。神殿も各地に広まった。そしてその神殿正面には必ずといってよいほどに牛を屠る神像が飾られた。タウロマキアとはその牛屠りを聖化している状態をあらわしている言葉である。この図像を調べることはミトラを解くことであり、ミトラを解くことはのちのキリスト教徒たちがなぜ自分たちのことを兵士ととらえるかという謎を解く。

いまだにミトラ神の謎はその大半を21世紀に残したままなのである。その理由は、多くのミトラ的なものがキリスト教に融合摂取されてしまい、いまだはそのオリジナリティを問うこと自体がキリスト教社会のタブーとなっているからである。できることならば、ぼくはミトラをスペインの闘牛場から復活させたいと、21世紀の最初の冬至が近づく夜に呟きたい。

ミトラ(弥勒)の奥様は、最高神シヴァ神の妻パールヴァティー 投稿者:荊の紀氏 投稿 日:2013 年 1 月 9 日(水)11 時 06 分 21 秒 返信・引用

>

摩多羅神は大唐西域記の中印度、東西南北印度のどこかの神ではないか。

アクシャラカーラ aksharakāla(南インド)の数によってターラ <http://kotobank.jp/word/%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%A9> 北インドでは十数種のターラが用いられる。

チベットの仏像 ターラ菩薩像 ガネーシャ像 チベットの仏像やインドのガネーシャ像など人々に愛されるたくさんの神様。あまり重々しくなく、なぜか惹かれる魅力的なものを集めました。緑ターラ菩薩 優しい表情の緑ターラ菩薩様。蓮の花から生まれた神様です。招福・財運などの願望成就に。緑ターラ菩薩...<http://www.phoocha.com/buddha/buddha.html> 蓮華から生まれたターラ菩薩 ターラは、救いがたき有情(うし

よう)をも救わん、と、聖なる女性の姿をとり、顕現した仏母（ぶつも）。 苦しみの中にいる有情のあまりの多さに観世音菩薩が涙を流し、そのしずくから蓮華が咲き 出で、そこから生まれたのがターラ菩薩なのです。

ドゥルガー(????? durgā)は、ヒンドゥー教の女神。その名は「近づき難い者」を意味する。 外見は優美で美しいが、実際は恐るべき戦いの女神である。10 本あるいは 18 本の腕にそれ

ぞれ神授の武器を持つ。神々の要請によって魔族と戦った。シヴァ神の神妃とされ、パールヴァティーと同一視された。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%89%E3%82%A5%E3%83%AB%E3%82%AC%E3%83%BC> シヴァ神の神妃とされ、パールヴァティーと同一視された。 ドゥルガーは、魔神ドゥルガーを大戦争の末に滅ぼしたとき、記念としてその魔神の名を自らの名前にしたのだという。 シュムバ、ニシュムバととの戦いでは、怒りによって黒くなったドゥルガーの額から女神カーリーを生み出した。この女神はドゥルガー以上に純粋に戦闘 を楽しむ女神とされる。さらにドゥルガーは逆立った髪から 7 人(あるいは 8 人)の戦いの 女神・マトリカスを生み出している。

10 月ごろに行われるドゥルガー・プージャーはドゥルガーを祝う祭であり、とりわけベンガル地方では盛大に執り行われた。

太秦の摩多羅神は唐模様の頭巾をかぶっておられ、その頭巾に北斗七星が描かれる 。

http://hwbb.gyao.ne.jp/akione-pg/Japanese/1_J.html

ターラーにとっては夜こそふさわしい。 ターラーは救いと夜空に輝く星の意味を併せ持った境界神である。偉大なる女神ターラー(TARA)にはサンスクリット語で語源的には川を横切る、運ぶ、超 越するなど、また、解放する、逃れるなどの意味がある。 そして、ターラーが救度菩薩といわれるのも冥界との境界においてこの女神が援助の手をさし のべてくれると信じられているからである。その意味で、ターラーは純粋な「境界神」であり、両性を併せもつ「超性」の菩薩である。

マ(Ma)はインド・ヨーロッパ諸語で母親を意味する基本的音節で、Ma・Ma は母親の 乳房をないし、母親を意味している。 摩多羅神は男女二根の一体神 弥勒菩薩とは、マイトレーヤで、ミスラ教の救世主である。 元々、ミトラス神は、古代インド・イランのアーリア人が共通の地域に住んでいた時代まで さかのぼる古い神ミスラ(ミトラ)であり、イラン、インドの両地域において重要な神であ った。特に『リグ・ヴェーダ』においてはアーティヤ神群の一柱であり、魔術的なヴァルナ神と対をなす、契約・約束の神だった。アーリア人におけるこの神の重要性をよく示しているのがヒッタイトとミタンニとの間で交わされた条約文であり、そこにはヴァルナ、インドラ、アシュヴィン双神といった神々とともにミスラの名前が挙げられている。ミトラ教の 神話体系が仏教では菩薩として受け入れられ、マイトレーヤを軸とした独特の終末論的な

「弥勒信仰」が形成されたといわれる。マイトレーヤ信仰または弥勒信仰はのち中国など東アジアに伝わったことは確かだ。なお仏教の弥勒信仰以外にもインドではミトラ信仰・マイトレーヤ信仰があった。

シヴァ神は、美しい妃パールヴァティと神々の歴で百年間、交わってばかりいた。あきれた 神々が中止を申し入れると、パールヴァティは神々に喰ってかかった。シヴァとパールヴァティの両質の合体によって、とりまく一切の創造と破壊が生じている。パールヴァティはいろいろと変身(アヴァタラー)する。あるときは、トウルガーと呼ばれる戦士、あるときは、カーリーと呼ばれる残忍な復讐の女神に化身した。このパールヴァティの化身、ドゥルガー は忿怒相の”馬頭観音”に似ているとも言われる。カーリーの拳族に、チベットと日本で意外 と影響力を持っていたダキニがいる。ダキニは恐ろしい姿をしているが、チベットでは 内火(内光)を点火するためにダキニを観想する。内火は、シャクティ(女蛇)のエネルギーそのものとされているからだ。なんであれ、歓喜仏とつながるパールヴァティはシャクティー派の絶大な信仰を得ている。また、興味を引くのは、シヴァと、パールヴァティの乗り物は聖牛ナンディンである。牛に坐す神は”牛祭”の様式の原因となっているとも言えよう。(すでに紹介したが、焰摩天もまた水牛に乗っている。)

<http://wiki.livedoor.jp/niwaka368/d/%CB%E0%C2%BF%CD%E5%BF%C0%A4%CF%C3%CB%BD%F7%C6%F3%BA%AC%A4%CE%B0%EC%C2%CE%BF%C0>

ちなみにミトラの奥様に当たるミーシャの苗字(パールヴァティー)はインド神話における最高神シヴァ神の妻であり、絶世の美女という ...http://www1.ocn.ne.jp/~delangel/shousetus_omake_mithra-rig-selcyes.htm

Re: 羅神=「まさに、北極星は女神様でんな」 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 9 日 (水)08 時 08 分 4

秒 返信・引用

> No.1030[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

摩多羅神は大唐西域記の中印度、東西南北印度のどこかの神ではないか。

『溪嵐拾葉集』第 39「常行堂摩多羅神の事」では、天台宗の円仁が中国(唐)で五台山の引声 念仏を相伝し、帰国する際に船中で虚空から摩多羅神の声が聞こえて感得、比叡山に常行堂 を建立して勧請し、常行三昧を始修して阿弥陀信仰を始めたと記されている。

摩多羅神に近い言葉→鬱多羅僧・鬱多羅僧|多羅|多羅葉|多羅樹|修多羅|貝多羅葉|鬱多羅僧|七 多羅樹|多羅菩薩|修多羅供錢

大唐西域記

中印度 波理夜?羅国(パーリヤートラ) 秣菟羅国(マトウラー) 薩他泥湿伐羅国(スターネーシヴァラ) 率禄勤那国(スルグナ) 秣底補羅国(マテプラ) 婆羅吸摩補羅国(ブラフマプラ) - 蘇伐刺拏瞿?羅国(スヴァルナゴートラ、東女国) 瞿?霜那国(ゴヴィシャーナ) 聖醯掣?羅国(アヒチャットラ) ?羅刪拏国(ヴィラサーナ) 劫比他国(カピタカ)

北印度 濫波国 那揭羅曷国(ナガラハル) 健駄邏国(ガンダーラ) 卷第三 烏仗那国(ウツディヤーナ) 鉢露羅国 ?又始羅国(タクシャシラー) 僧訶補羅国(シンハプラ) 烏刺尸国(ウラシャー) 迦湿弥羅国(個失蜜、カシミール) 半斂陟国(パルノーツア) 遏羅闍補羅国(ラージャプラ) 卷第四 磤迦国(タツカ) 至那僕底国(チーナブクテイ) 闍爛達羅国(ジャーランダラ) 屈露多国(クルータ) 設多闍盧国(シャタドル) Re: 羅神=「まさに、北極星は女神様でんな」 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 9 日 (水)07 時 40 分 11 秒 返信・引用

> No.1029[元記事へ]

棘の紀氏からの追伸です。

ごめんなさい、場所をまちがえました。

『2012 年 ゆるキャラヒット』ランキング 619 人が見えています More....

『入るなキケン!ブラックな会社の社員、社風 10 の特徴』ランキング 691 人が見えています More....

『年末年始こたつでオススメ レンタル DVD/BD 映画』ランキング 184 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO Gaba マンツーマン英会話 - www.gaba.co.jp 初心者から上級者まで。あなたに合った レッスンプランで上達をサポート Ads by Google 羅神=「まさに、北極星は女神様でんな」投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 9 日(水)07 時 18 分 46 秒 返信・引用

摩多羅神=非北極星説を唱えている。どちらが正しいのだろうか。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/maramyo02.html>

星宿(星宿神=北極星)

あみぼし【網星】とは。意味や解説。二十八宿の一、亢宿(こうしゅく)の和名。→亢(こう) こう(カウ)【×亢】 二十八宿の一。東方の第二宿。乙女座中の東部の四星をさす。あみぼし。亢宿。

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/71441/m0u/>

反抗の星 (秤宮四足)乙女座に属し、東方を守護す、星象は火珠

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~masamasa/uranai.html/syuku17.htm> この宿に生まれし人、権威や既成に反抗するレジスタンス

自分の主義主張を押し通そうとする強情さは 27 宿中でも 1・2 を争う星。 自分なりの理想や価値基準があり、それを高く掲げて、どんな相手にもどんな状況にもそ れを変える事は絶対にありません。

真面目で善良、曲がった事が嫌い。悪、不正、虚偽を嫌い、真実とか正義を愛し、 そうし た自分に対してバ

力正直な程、忠実です。 プライドが高い為、なかなか信念を変えられず、自分の信念と現実での行動の間で微妙な バランスをとりながら生きている人が多いようです。 人間関係の中で揉まれ、多少逆風を受ける方が生き生きと自分を出す事ができます。 生来の強情さと多少シニカルな性格から自然と、伝統や権威というものに抵抗してしまう。 性格は内向的で、内にこもる抵抗を示し、傍若無人のゴリ押しといったタイプではありません。

反骨精神は強いが、日頃は無口で、むしろ目立たない人が多い。 反骨精神が良い方に作用すれば、陽気で社交的、雄弁で自然と人の中心となる人が多い。 悪い方に作用すると、あれこれと自分の無力さを思い悩むあまり、酒や目先の快楽に溺れて退廃的な生活に身を置くようになります。 元来、反逆の星で自分の身を守る為なら手段を選びません。 気が小さい分、追い詰められると「窮鼠、猫をかむ」ような思いがけない行動をやっているのけます。

亢宿の北にひときわ目立つ「大角」がある。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/101>

亢宿 こうしゅく. 和名は「あみぼし」網星。東方の第二宿で青竜の頸にあたる。おとめ座中の東部の4星をさす。 <http://whatsinaname.wiki.fc2.com/wiki/%E4%BA%8C%E5%8D%81%E5%85%AB%E5%AE%BF%E3%81%AE%E5%90%8D%E5%89%8D?sid=ce1e376e6ed26aac2f01fec026f2166f> 中国では蒼竜(青竜)(東)・玄武(北)・白虎(西)・朱雀(南)の4つの方角(四神)で7宿ごとにまとめられている。各宿には比較的明るい星が西端にあり、これを距星という。

きよせい【距星】 二十八宿の各宿の基準点となる星。 名称:角 星数:2 距星:おとめ座(Vir)α…スピカ

該当星:Virα, Virζ 乙女の麦の穂を持つ手と手を結んだ宿

名称:亢

星数:4 距星:おとめ座(Vir)κ 該当星:Virκ, Virλ, Virι, Virφ おとめ座の羽根と足の部分

名称:星数:4 距星:てんびん座(Lib)α 該当星:Libα, Libι, Libγ, Libβ 天秤座の形に近い

名称:房 星数:4 距星:さそり座(Sco)π 該当星:Scoπ, Scoβ, Scoδ, Scoφ 蠍の両前足と頭の部分

名称:心 星数:3 距星:さそり座(Sco)σ 該当星:Scoσ, Scoα(アンタレス), Scoτ 蠍の心臓の部分

名称:尾 星数:9 距星:さそり座(Sco)μ 該当星:Scoμ, Scoν, Scoλ, Scoκ, Scoι, Scoθ, Scoη, Scoζ, Scoε 蠍の尾の部分(針なし)

名称:箕 星数:4 距星:いて座(Sgr)γ 該当星:Sgrγ, Sgrδ, Sgrε, Sgrη 射手の弓と矢の部分

アルファベットの「y」

スピカから、西に向って θ、γ、η、β とつなぐとおとめの身体。γ から、δ、ε とつなぐと右腕。その先 ζ は、乙女が右手に持つ羽ペンです。プラネタリウムでおとめ座の探し方を紹介するとき は、スピカから西に星をつないで β まで、途中 γ から ε へと伸ばして、アルファベットの「y」を描くように、とお話していました。右手に羽ペン、左手に麦の穂を持つこのおとめ、ギリシャ神話では、正義の女神アストレイア と、農業の女神の姿に見えます。大昔は、人も神も地上で平和に暮らしていたのですが、時代が下るにつれて人間に悪い知恵がつき始め、神々は次第に天へ帰っていきます。正義を司る女神アストレイアは最後まで人間に正義を説きますが、人間が互いに憎みあい、親兄弟同士でまで争うになって、ついにあきらめ、天へ戻っていったといいます。γ・ポリマです。白い星が寄り添っている様子が見られるのですが、離角が小さいので、小さい望遠鏡ではなかなか見ることができない星です。

γ 星(2.8 等)ポリマ - Porrima ローマ神話に出てくる予言と出産のニンフの名前です。 連星系で、黄色い 3.5 等星の二重 星です。 <http://yumis.net/space/star/greece/vir-g3.htm>

ニンフは古代ギリシアで各種の自然物に宿っていると信じられていた若く美しい女性の 精 霊。 <http://www1.icnet.ne.jp/take/3.html>

ギリシア語の nymphe、ラテン語の nympha は花嫁、あるいは結婚適齢期の若い女性を意味する。同じ語が、ハスの花、ヒツジグサ、あるいは貝殻のような女性生殖器のシンボルにも適用された。「ニンフたち」は女神

の古代神殿において、とくに性的儀式のとき、巫女として仕えた。儀式では彼女たちは花咲ける豊穡の神聖なる原理を表し、ときには「神の花嫁」として知られた。Virgin Birth.

中世時代、ニンフという語は、魔女や妖精 fairy に対して用いられた。ともに前キリスト教時代の巫女の系統を引いているからである。自然の精として「ニンフたち」は、太古の時代に「は女神が支配していた自然界のどこかに、自分たちの靈魂を永遠に埋め込んだと信じられていた。したがって水のニンフ、木のニンフ、山のニンフ、地の中、海、「妖精の国」に住むニンフたちがいた。古代ではニンフと性欲は結びつけて考えられたが、この考え方は、多かれ少なかれその後も引き続き保持された。月の狂気が交合の季節の古代のニンフたちに刺激を与えたと考えられたように、今日でも「ニンフォマニア(nymphomania)」「女性の色情狂」は、性的妄想、を意味する語である。<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/tiakio/antiGM/nymph.html>〔ギリシア・神話〕清流や水源、泉の神々の総称である。その中には、ネーレーイスたち NhrhivdeV(海のニンフ)、ナーイアスたち Nai&avdeV(泉・河川のニンフ)、オーケアニスたち=WkeanivdeV(大洋の神オーケアノスの娘)、テティスの姉妹たちがいる。ニンフたちは、英雄を生み育てる。彼女たちは洞穴や湿った場所に住む。このことから、恐

ろしい冥界的な側面を持つことになる。もともと、どんな誕生も、死と関係があるものだし、死も誕生と関係がある。彼女たちの特性が、だんだんと発展していった、無意識中の女性的な側面を代表するようになった。誕生の神、とくに英雄たちの誕生の神であるが、やがて恐怖心のまじった崇敬の念を起させるようになる。彼女たちは、子供を盗んだり、出会った人々の精神を狂わせたりするようになる。「日中は、ニンフたちの出現する時間である。彼女たちに会ったものは、ニンフにあてられて興奮状態に陥る。.....だから日中は水源、泉、木陰に近づかない方がよいといわれる。のちに出来上がった迷信によると、水から出てくる彼女らの姿を見たものは、狂気に陥るといふ。恐怖と魅惑の入りまじった感情にとらわれるからである。ニンフに魅惑されると、狂気にいたり、自己破戒につながるという」(ELIT, 178)。ニンフたちは、英雄的な狂気への誘惑を象徴する。こうした狂気は、戦功や肉欲、その他どんなレヴェルのことがらにおいても起こってくるものである。 (『世界シンボル大事典』)

キリスト教の「父と子と精霊」とは何でしょうか?<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/1729995.html> 神=イエス=聖霊ですね。神は私たちを創造され、救いのためにイエスをこの世に送り、そして天に召され、その代わりに聖霊を送った。この3つが一つになり、切り離す事もできないし、また除く事も出来ないこの3つ(3人)を含めてキリスト教と言っています (キリスト教でも色々な見方があります。エホバの証人の人たちは聖霊を認めていませんと聞いた事があります)

まあ概念的に言葉が違うだけで同じように考えてください。

ダフニス【Daphnis】ギリシャ神話で、シシリアの羊飼。ヘルメスとニンフの子。その美貌で、神々やニンフに愛された。牧歌の創始者とされる。土星の第35衛星。2005年に発見。名はに由来。公転軌道が2番目に土星に近く、環の「キラー」のすき間にある。非球形で平均直径は約7キロ。

盲人】より...片目一つ目【小田 亮】<http://kotobank.jp/word/Aipytos> 【伝承と寓意】西洋では、盲目になることは、通常は見ることを許されぬものを見た人や誓いを破った人に下される神罰と考えることが多かった。ギリシアの神話や伝説には、いっさいの立入り「が許されないポセイダンの聖域に侵入したアルカディアの英雄アイピュトス Aipytos,ほか

の乙女とは恋をしないというニンフとの誓いを破ったダフニス等が盲目とされる話がある。これらの神話や伝説は、見るのが必ずしも知ることにつながらず、かえって傲慢や無知におちいり、罰を受ける結果になることを教えている。...

プシュケー—チョウという名の王女—プシュケと神・エロス。ギリシャ語でチョウを表す「プシュケ」は、ギリシャ神話の神・エロスに愛された美しい王女の名前である。人間だったプシュケは、神である夫・エロスの姿を見ることを許されていなかった。しかしあるとき、夫は恐ろしい怪物かもしれないと不安にかられ、傍らに眠る夫の姿をろうそく「の光で照らして見てしまう。夫は美しい神だった。その後、プシュケはエロスを追って幾多の困難を乗り越え、最後はエロスと正式に結ばれ神々の仲間に入る。神になったプシュケの背には、チョウのような美しい羽根が生えた。「愛を支えるのは見ることでなくても確かめることでなくても、相手を信じる心なのよ」。プシュケは自らの経験から、そう恋人たちにささやく役割を担うという。Ψ プシュケー(希: Ψυχή、アル

ファベット表記:Psyche)とは、古代ギリシャの言葉で、もともと 息(いき、呼吸)を意味しており、転じて生きること(いのち、生命)、また心や魂を意味 するようになった言葉である。 希: Ψυχή はもともと息(呼吸)を意味していた。呼吸は生命のしるしとして最も顕著なものであったので、やがてこのプシュケーという言葉は、生命を意味するようになり、それが転じて、やがて心や魂も意味するようになった[1]。そのような語義になったのも当然[2]と指摘されている。(注※[3])

「プシュケー」という言葉を現代日本語に訳す場合、ひとつの訳語で押し通すことは困難なことが多々ある。同一の文献でも、ある文脈では「いのち」と、ある文脈では「心」あるいは「魂」と訳したほうが適切で、ある文脈ではどちらも解釈可能、ということもある。古代ギリシャ語と現代語では概念の体系自体が異なっているのである[4]。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%82%B1%E3%83%BC> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%82%B1%E3%83%BC> プロティノスは、神秘主義的な方向に進み、一者からヌース(知性)が、ヌースからプシュケーが、そしてプシュケーからヒューレー(質料)が流れ出ると述べた。

新約聖書 [編集] 新約聖書における「プシュケー」は、例えば『マルコによる福音書』3:4、8:35、10:45 のそれは、日本語では「命」と訳しうる。また、マルコ 14:34、ルカなどでは感情の座である[5]。新約聖書の

「プシュケー」という表現は、現代語で言う「精神」と「身体」を合わせた人間を表しているのであって、霊肉二元論ではないので、「人」とか「人々」と訳したほうが自然なくだりも多い[5]。

新約聖書ではプシュケーは Pneuma と対比され、Pneuma のほうは神から与えられる超自然的賜物とされている[5]。例えば、パウロ書簡でもそうで、(ロシア語聖書ではプシュケーは ドウシャ、Pneuma はドゥーフ、という語に訳し分けられている)、Pneuma (ドゥーフ)はパウロ書簡では、心・魂ではなく、それらを越えたところから外的に働く力、としてしるされている[7]。救済は古代ギリシャやグノーシス主義では「神的プシュケーの罪ある肉体(ソーマ)の牢獄(セーマ)からの解放」であったが、新約聖書ではあくまで体の復活としてとらえられている[5]。

ルター [編集] ルターは、ギリシャ語のプシュケーをつねに「いのち」と訳していたという[8]。ヘブライ語聖書の『トーラー』は前3世紀ごろにギリシア語に翻訳(70人訳)されている。それを見ると、ヘブライ語「ネフェシュ()」はギリシア語「プシュケー()」に翻訳されていることを知る。たとえば 創世記 2:7「主なる神は、土の塵で人を形作り、その鼻に命の息(ニシュマツ)を吹き入れられた。人はこうして生きるネフェシュになった」(手島訳)とあるが、その「ネフェシュ」をギリシア語訳者は「プシュケー」と訳する。レビ記 17:11「肉のネフェシュは血の中にある。そして私はあなたの方に対してそれを与え、祭壇の上で、あなたの方のネフェシュを贖うことができるようにした。なぜならそれは血であり、ネフェシュで(人は)贖われるのである」(手島訳)においても同様の対応をギリシア語訳者はしている。「ネフェシュ」も「プシュケー」も語源的にも共に「息」から派生した言葉であるから、それらの言葉を、地上で息をしている動物の「生命」の意味と解するのは妥当であり、それはホメロスの用例にも通じるものである(『イリアス』)。しかし、目には見えない「生命」=「プシュケー」であるがゆえに、この言葉の理解をめぐる古代ユダヤ教の中では論争が起きた、とローマ期のユダヤ人歴史家ヨセフスは伝えている。つまりファリサイ派は、「プシュケー」は地上の生のみに限られた存在ではなく死後にも続く生命であると主張し、それに対して、サドカイ派は、「プシュケー」は地上の肉体が減びると同時に減びる地上的な生命であると反論したという(『ユダヤ古代誌』13:12-16)。この「プシュケー」不滅の論争は、ギリシア哲学者の間にも確認できる。それゆえに死後にも減びない生命「プシュケー」を「魂」…anima…soul として区別する。

「プシュケー」を解説文に含む見出し語の検索結果

http://thesaurus.weblio.jp/content_find/text/0/%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%82%B1%E3%83%BC

プシケ - 日本語 WordNet 意義素類語人の非肉体的部分靈魂・心霊・気魂・性霊・精神・ソウル・ソウル・プシュケー・魂・心・プシケ・プシケー・心魂・魂魄・霊...

>「プシケ」は、ギリシア神話の神・エロスに愛された美しい王女の名前である。

イエスを「主」と呼ぶなら？ルカ 7:46-49 それで、ヘブル語の聖書がギリシャ語に翻訳されたとき、「ヤーウェ」とあるところはギリシャ語で「キュリオス」(主)となりました。今日の日本語の訳でも文語訳で「エホバ」となっていたところは「主」となっています。英語の聖書でも「Lord」と訳され...

霊魂 - Wikipedia ピラミッド・テキストと呼ばれる初期の死者埋葬のテキストでは、死者が行くのは天の北にある暗黒の部分であり、そこで北極星のまわりの星とともに、アク(霊)として永遠の命を生きる、とされた... 旧約聖書では、ネフェシュ(ヘブライ語で「咽喉」の意)と表現される。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9C%8A%E9%AD%82> 霊魂(れいこん、英:Soul、もしくは Spirit)とは、肉体とは別に精神的実体として存在すると考えられるもの[1]。肉体から離れたり、死後も存続することが可能と考えられている、体とは別にそれだけで一つの実体をもつとされる、非物質的な存在のこと[2]。人間が生きている間はその体内にあって、生命や精神の原動力となっている存在[2]、人格的・非物質的な存在[3]。個人の肉体や精神をつかさどる人格的存在で、感覚による認識を超えた永遠の存在[4]。古代エジプトの時代から、人が死ぬと肉体から離れるが、肉体に再び戻ってくる、という考えがあった。古代エジプト [編集]『死者の書』に描かれたオシリスの姿 古代エジプトでは、霊魂は不滅とされ、死者は復活するとされていた。オシリスが死と再生を司る神として尊崇された。自然界のあらゆるものに霊が宿るとされ、霊にも人間と同様に感情や弱点、欠点があると考えられていた[6]。 霊(ヒ)全ての活力の元であり、優れて威力のあるもの。白川静『字訓』によれば、中国で生命の原動力が雨に求められたのに対し(なので雨の字がつく)、日本では太陽光から来ると考えられたので、日と同じヒと呼ばれる。

北極星信仰は妙見信仰などに今日ものこっており、由来をこのようなものだと知った。オシリス信仰はナイル川が氾濫する時期に重なるからだという。 [http://ueshin.blog60.fc2.com/?](http://ueshin.blog60.fc2.com/?mode=m&no=1501)

mode=m&no=1501

北斗七星は、北極星を中心として反時計回りに円を描きながら、季節ごとに位置を変えていきます。... バビロニアでは荷車、エジプトではオシリスの車、イギリスではアーサー王の車とかチャールズの車、中国の漢の時代には帝車と考えられたそうです

...<http://homepage2.nifty.com/turupura/guide/mark/hokutohitisei.htm>

エジプト神名リスト:セラピス(サラピス) ギリシャの最高神であるゼウスと、エジプトで当時、実質の最高神扱いとなっていたオシリスを合体させた神。オシリスが冥界神としての役割ももっていたため、ギリシャの冥界神ハデスの役割も一部融合していた。信仰の中心地し、プトレマイオス朝の首都である

...<http://www.moonover.jp/bekkan/god/serapis.htm>

ヘルメス文書や、エジプト神の再構成セラピスの話は、ごっそりふっとばしましたが、三世紀以降は、西方ミトラ教の...<http://www.mkmogura.com/blog/tag/%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%86%E3%82%A3/page/6> 結果から先に言うが、ボルグ派の影響で、このキリスト教の三位一体をトート、ヘルメス、エノクの三神にしてしまうのである。エジ3神で否定したにもかかわらず、エジプト派の「オシリス・ホルス・イシス」の三位一体と何が違うかと言うと、トート(エジプト神話)、ゾロアスター(ギリシアローマ神話 ゾロアスター)、エノク(エチオピア、イスラーム)、3つで一つのヘルメスにしてしまう。ここはゼウス=キリストを「子」とは認めないセム系ユダヤ人(セト=ゼウスホルス=ゼウスではない派)と、東方ミトラ(ゼウス=木星 太陽ではない派=夜=シュメール)と、それぞれの考え方で微妙にずれるのだが。ボルグの三位一体は、ミトラ(ギリシア神話ローマ神話)、エジプト神話、イスラム神話、全ての宗教の融和である。そこは間違いない。キリスト教の根幹の教義だったのが、「全ての宗教が一つである」という三位一体に変わったのだ。

気が付けば帰一宗教になるわけで、これは、Zeitgeist が今やってることそのものなわけだ。それはそのまま、日本でも、大本教で同じ経緯を経て「神道、仏教、キリスト教」は三位一体となり、大本教に言わせると「神道はキリスト者に至る過程」になるわけ。で、そのキリスト教の先が、帰一教=イルミナティ教。ボルグの思想だけでなく、やったこと、起きたこと、流れを考えれば、帰一教=イルミナティ教は、100%間違いのないことである。

エジプトがギリシアと繋がるためにセラピス神を新たに作りだした手法が参考になるん

じゃないでしょうか？あれは見事な ... で、御存知だとは思いますが、イシスはエジプト最高の女神様で穀物神、月神、復活神、医薬神として、...<http://the-ark-company.com/2012/31.html>「先生、ユダヤ・キリスト教の立場では、古代エジプトと敵対してしまうわけですね？ だけど、モーセはエジプト魔術の使い手だったわけですから、偶像崇拜は別として、彼の学んだエジプト魔術は、ユダヤにも伝わってると思うのですが、どうなんですか？」

「するとい着眼ですね。古代エジプトは魔術の故郷なので、ギリシアやローマなど、地中海世界の魔術はエジプトを押さえておけばいいのですが、もう1つ、今あなたが仰ったように、多神教であるエジプトをよしとしなかったユダヤ・キリスト教系にも密儀的なものがありますね。これを、伝承してる人もいれば、古代エジプトと対立してるはずの密儀と一緒に伝承してる方もおられるようですが、ちゃんと習合できてないみたいですね、キリスト以前のイスラエルの密儀とは」

「お！ ソロモンとかですね?！」

例えば、カトリックの洗礼と聖体拝領という密儀も、生前のキリスト様の血と肉を、パンと葡萄酒という、生々しさを排除した形で摂取するわけですが、これはキリスト様と一体化するという意味において、オシリス密儀と同種の魔術といえるんです」「なるほど~」

異端に悩む女性がユダヤ・キリスト教に異端とされた魔女や古代エジプトに惹かれるのは、

至極、当然だと私は思います」「その先に、イシスがいるってことですね。オシリス神を甦らせてるわけですね! すご

い女性!」

「まさに、女神様でんな」

吉祥天も北天の女神。菅原道真はどうやら北極星とされていたようなのです。天満宮は北極星信仰の最後の封印といってもよいかと思います。それは水の女神の封印と同じ意味を持ちます。

<http://lemurian.blog.shinobi.jp/Entry/153/> 菅原道真はどうやら北極星とされていたようなのです。天満宮は北極星信仰の最後の封印といってもよいかと思います。それは水の女神の封印と同じ意味を持ちます。菅原道真の祖父にあたる菅原清公が吉祥天信仰を持っていたようですが、それだけで道真を北極星とする信仰が広がるはずがありません。古来より存在した北極星信仰に菅原道真が習合したと考えるのが自然だと思います。しかも菅原道真の祟りは雷であらわされますが、それよりも以前、土佐大神が天武天皇に神刀を献上させられた(675年)3年後に賀茂別雷神社(通称上賀茂神社)は創建されています

す。若々しい神鳴りということらしいですが、どこからその神鳴りを持ってきたのでしょうか？天満宮を持ち出せば、雷は北極星の化身なので、北極星信仰のある土地から勧請したと考えるのが理にかなっています。

タナバタは七夕ではなく、棚旗であった可能性があります。棚田の上に旗を掲げることが北極星の女神が降臨することと何か関係があったのです。源頼朝が日光という北極星を信仰し、熱心に八幡神を拝んだのにも理由があるのです。ヤハタとは白旗の女神だったのです。八幡神社がこの国に最も多いのはこういう理由があったのです。

八幡神社のヒメ大神とは北極星だったのです。

Ads by Google Re: 年始の挨拶 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013年 1月 8日(火)20時 33分 27秒 返信・引用

> No.1027[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

「大倭日高見国」大漢国(やまと)の倭国に在った1国が日高見国と理解できる。日高見国の日高に着目すると、武蔵国にやけに高句麗が出てくる。

716年に設置された武蔵国高麗郡高麗郷の地で、当時高麗郡大領に任命された高句麗王族・高麗若光を祭る高麗神社が鎮座する。高麗郡は668年に唐に滅ぼされた高句麗の亡命者を収容した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E9%AB%98%E8%A6%8B%E5%9B%BD>

「常陸、九州、相場」 相場は常陸の国になる。桜児は父将平。平氏の平で九州に着目すると、現在の九州の地名は 筑前、筑後の前後で分け 9 つに分かれる。本来は 9 つの地名が存在したと思われる。注意は 筑紫は韓半島にあり、現在の筑紫は阿蘇のようだ。

桜児は平良文の四男四郎将平の子なり(将平は平将門の弟)、父将平九州肥後筑紫の国司

にて二万八千余町を領す。晩年に及ぶも子なし。御台と共に氏神木花開耶姫命に祈り一子を 授けられる。将平に異母弟将俊あり、桜児七才の折父将平を失う。将俊所領の押領を計り、母 子をなきものにせんとす。忠臣木王丸、母、櫻児、乳母三人を芦屋の浦に隠棲す。母苦悩を訴ふ。 偶々出羽の人商人その地を訪ふ。櫻児身を売り関東に下る。人商人鹿島社に詣んとし磯部社 に至る。磯部寺の住僧専徳法師櫻児を認め、黄金十両錦百疋にて買求め養育十九才に及ぶ。 その頃常陸、相馬の国司平真家も子なく、社参の折櫻子を知り、法師に乞い嗣子となす。母櫻 児を慕ひ狂人となる。菊地、亀川、小嶺の三忠臣、行方を尋ね関東に下り、遂に櫻児を探しあて 目出度母子対面を得たり。深く御神徳を敬す。櫻児将家と称し叔父将俊を討ち、筑紫常陸の両 国の国司を命ぜらる。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1363>

> 国司というのは、結構もともと親族の縁があるところに派遣されるケースも多いんですよ。 > 常陸、九州、相場、日高見国でしょうか。

Re:年始の挨拶 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 8 日(火)14 時 22 分 58 秒 返信・引用

> No.1026[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > どうも扶桑国が浮び上がってきましたな。 >
- > 平将門、佐伯部、渤海_(国)に共通する。平氏は扶桑、弓月君(月氏)? >
- > 謡曲「桜川」 >
- > 常陸、九州、相馬の国司となると云うことで纏められている >
- > <http://sakuragaworld.com/modules/tiny01/index.php?id=11> >
- > > ちょっと源氏の起源についても、気になってます。水源や江南との関係は重要です。

国司というのは、結構もともと親族の縁があるところに派遣されるケースも多いんですよ。 常陸、九州、相場、日高見国でしょうか。

奥州日高に平氏が派遣されてますね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/平将門>

日高の語にみえる「高」の意味が気になります。高木神だとおもうのですが、つまり例の扶桑 木伝承です。

それで興味深いのが、坂東平氏の妙見信仰ですね。将門を救った伝承があるのですが、元はペ ルシャから中国へ流れたもので、北極星、つまり測量関係です。天皇大帝を拝んでます。

おそらく先日はなした天智のときの日本号成立に際して、日高身、扶桑、そしてプレ妙見系の 測量関連ですね、ここで天常立神と関係してきます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/天之常立神> たぶん天皇号も関係し、新皇の語源に影響したかもしれません。
<http://amanohitukukami.blog28.fc2.com/blog-entry-119.html> きしさん大好きな修験道ですね。

それで駒形神社がその神を祀るのも、高麗軍のその駒形神社の例のように「高麗」と関係して くるでしょう。新漢人系ですね。

結局、九州、常陸、相馬の横穴墓の流れと関係してくるのかもしれませんが。ペルシャ系ですね。 ペルシャの大食調の楽器がでてくるのが、その横穴墓で、元は秦野さんご指摘の舞・桜川と の関わってくるでしょう。

> 棘の紀氏さんへ 今年も宜しくお願ひ致します。 >> 倶利伽羅峠で越と平氏がぶつかりましたか。越は倭(夷)になるが…。 > まあ言える事は、白村江の戦い以後の領地争いですな。古代の日本を2分する。日本の日本海側が越、太平洋側が平氏が取った模様。倭国と日本の中央は土着の者こと源氏ですな。 >>> 源氏ヶ嶺城は加賀と越中の国境で、古来より街道があった倶利伽羅峠から南東 1km 程 の源氏ヶ嶺山頂に築かれている。 >> 呉の太伯と源氏は後日ですな。ヘブル語でハラは怒るこーる、怒る…起る? > 腹が立つのはら(腹)はヘブル語のハラかも知れませんな。 >>>>>>>>>>>>>>> 泉」の会意文字で、がけ下の泉から水の流れ出るさま。水源のこと。源は「水+(音符)原」で、 原のもとの意味をあらわす。まるい穴がほげて水のうずまく水源で、まるくうずまいてまわ る意を含む。 >>原 >> ヘブル語でハラは怒るこーる >

秦野さん、きしさん、今年もよろしくです。

ちょっと源氏の起源についても、気になってます。水源や江南との関係は重要です。

清和源氏の祖がいた兵庫の河辺郡というのが、どうも例の呉系大彦系集団の本拠で、航海集団やその港と関わる地です。坂合部や久々知など、神八井耳と連なる九州多氏系の集団ともつながる関係で、多田源氏が出てきた可能性を感じます。

水軍や大陸系交易のバックボーンもあったのではないのでしょうか。伊豆鎌倉も関係してくるかもしれません。

平 清盛と縁の深い広島県呉市> 呉の太伯はこの家の出であり姫氏とされていた。越は禹の苗裔で夏后帝少康の後裔と称した。ともに「夷」であるが「華」の後裔を称した。我が倭も「夷」である。源 水源のこと 会意兼形声。泉は、いずみから水の流れ出るさまを描いた象形文字。原は「厂(がけ)+

九州系の八幡信仰も、応神との兼ね合いで、九州と関係してくる。

この大彦系が、呉系の軍事航海集団と連なるのではないかと考え始めてます。大彦系の基盤は、北陸や関東・東北にもありましたから、阿部氏がそれを受け継ぎますが、武蔵にも基盤があって、そこでその西方の飯能方面にいた高麗氏との対峙が気になってきます。高麗系は新漢人との兼ね合いで、つながって天智・桓武とかかわっていきわけですが、それで坂東平氏との兼ね合いですね。平将門がでる930年代までには、関東で相当な発展があったようにみえます。

元は東漢氏の首長・坂上田村麻呂の遠征から始まるのでしょうか、さらにその前に高麗人や渡来人の入植があって、平氏がその高麗系の領地をもっているのも、関東高麗氏との関わりを感じます。

もともと東漢氏の基盤は利根川沿いに広がっていて、奥州を治めた際に、製鉄関連の拠点も手にいれたはずで、武器を作るには事欠かなかったでしょう。

将門の配下に、坂上氏がいますね。後に三春に入る平姓田村の祖かもしれません。多治氏もおそらく上野の精銅と関係した多治比氏の子孫ではないのでしょうか。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/平将門>

源護の拠点の真壁郡も製鉄関連ですね。

平氏の巖島神社というのは、伊都岐島神社で、斎島とのことですが、佐伯氏の神主がいたようですね。先の伊都国の関連で、武庫、紀伊兵庫とならぶ、先の呉系集団の航海拠点との見方はできないのでしょうか。

安芸の清盛の配下に佐伯がいたとすると、豊後佐伯氏と関係して、宮中や地方の護衛兵を配下に入れたとのことでしょうか。

また、猪名県の佐伯部の者が、仁徳天皇が秘かに愛でていた鹿をそれとは知らずに狩って献上したため、恨めしく思った天皇によって安芸国淳田(ぬた)に移されたのが「(安芸国) 淳田の佐伯部」であるとも伝えている[2]。これらの伝承の史実性はともかくとして、古墳時代の中頃(5-6世紀)には、東国人の捕虜を上記5ヶ国に移住させ、佐伯部と

平安時代以来、「叫ぶ」に由来するとされてきたが[3]、『常陸国風土記』茨城郡条には、土着民である「山の佐伯、野の佐伯」が王権に反抗したことが記されているので、「障(さへ)ぎる者(き)」で、朝廷の命に反抗する者の意味と説くものもあり[4]、別に上記景行天皇紀に「騒い」だとあることに着目し、「大声を発して邪霊や邪力を追いはらったり、相手を威嚇するといった呪術的儀礼に従事」するのが彼らの職掌で、佐伯部は「サハグ部」であるとの説もある[5]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/佐伯部> 将門の基盤が茨城方面というのが気になりますね。

やはり佐伯は隼人などの呉系の航海集団とも関わっていたでしょうから、なんとなく見えてくるものがあります。

先の高句麗系が、シルクロードと交易と接点を持つとすると、渤海が重要になってきますね。唐代にはかなり安定した航海ルートが北陸方面とあったようです。

そうすると、926年の渤海が滅んだのち、一部が日本にも来た可能性を感じますね。サハリンルートと、ダイ

レクトな北陸ルート。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/渤海_\(国\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/渤海_(国))

いずれにせよ、強いバックボーンがないと、政治的にもうまいかないはずで、今年はこの辺の源平のバックボーンをもう少し整理してみたいところです。

Re: 年始の挨拶 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 7 日(月)15 時 43 分 11 秒 返信・引用 編集済

> No.1023[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

棘の紀氏さんへ 今年も宜しくお願い致します。

倶利伽羅峠で越(源氏)と平氏がぶつかりましたか。越は倭(夷)になるが…。 まあ言える事は、白村江の戦い以後の領地争いですな。古代の日本を 2 分する。日本の日本海 側が越、太平洋側が平氏が取った模様。倭国と日本の中央は土着の者こと源氏ですな。

石川県河北郡津幡町倶利伽羅と富山県小矢部市石坂との境に位置する。この倶利伽羅峠を 境にして、東側に砺波平野が、西側に金沢平野が広がっている。

古代より、北陸道がこの峠を通っていた。1183 年、源氏と平氏による戦いがあり、倶利伽羅峠 の戦いと呼ばれている。

> 源氏ヶ嶺城は加賀と越中の国境で、古来より街道があった倶利伽羅峠から南東 1km 程 の 源氏ヶ嶺山頂に築かれている。

呉の太伯と源氏は後日ですな。ヘブル語でハラは怒るこーる、怒る…起る? 腹が立つのはら(腹)はヘブル語のハラかも知れませんな。

>

- > 平 清盛と縁の深い広島県呉市>
- > 呉の太伯はこの家の出であり姫氏とされていた。
- > 越は禹の苗裔で夏后帝少康の後裔と称した。ともに「夷」であるが「華」の後裔を称した。
- > 我が倭も「夷」である。
- > 源 水源のこと
- > 会意兼形声。泉は、いづみから水の流れ出るさまを描いた象形文字。原は「厂(がけ)+泉」の会意文字で、がけ下の泉から水の流れ出るさま。水源のこと。源は「水+(音符)原」で、原 のもとの意味をあらわす。まるい穴がほげて水のうずまく水源で、まるくうずまいてまわる 意を含む。 >原 > ヘブル語でハラは怒るこーる

Re:年始の挨拶 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2013 年 1 月 7 日(月)12 時 06 分 9 秒 返信・引用

> No.1022[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

秦野北斗さんへのお陰で 研究会が順風 宜しくお願い致します。

源 水源のこと 会意兼形声。泉は、いづみから水の流れ出るさまを描いた象形文字。原は「厂(がけ)+泉」の

会意文字で、がけ下の泉から水の流れ出るさま。水源のこと。源は「水+(音符)原」で、原 のもとの意味をあらわす。まるい穴がほげて水のうずまく水源で、まるくうずまいてまわる意 を含む。 原

ヘブル語でハラは怒るこーる <http://blogs.yahoo.co.jp/magtaranomaria/35952200.html> 怒る…起る?

「源起」です。 越中 源氏ヶ嶺城は加賀と越中の国境で、古来より街道があった倶利伽羅峠から南東 1km 程の源 氏ヶ嶺山頂に築かれている。 <http://www.hb.pei.jp/shiro/ecchu/genjigamine-jyo/>

平 清 盛 と 縁 の 深 い 広 島 県 呉 市

<http://www.meimonshu.jp/modules/topics/index.php?page=article&storyid=77>

呉の太伯はこの家の出であり姫氏と思われていた。 <http://kamnavi.jp/ny/nyutu.htm> 越は禹の苗裔で夏后帝少康の後裔と称した。ともに「夷」であるが「華」の後裔を称した。我が倭も「夷」である。

Re: 年始の挨拶 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 7 日(月)08 時 58 分 40 秒 返信・引用 編集済

> No.1021[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

源(ミナモト)、平(ヘイ)のアイヌ語

我々が川の出発点と考えて「水源」「みなもと」と名づけているものをアイヌは川の帰着点と 考えて「べてトク」pet-etok。ミナモトとは一致しない。ミナモト、ヒラは場所、地域を当てた模様。

源:アイヌ語の"ミナ・モト"(笑う・土着の者)

ミナ:笑うという意味。

モト:土着の者。

平:アイヌ語の"ピラ"(崖) 古平(hure pira 赤い崖) アイヌ語でヒラ:崖と思われる。 源氏は豊かな地域、平氏は山岳地域の氏になる。平安京は山岳の荒地の京になる。

Re:年始の挨拶 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 5 日(土)12 時 34 分 16 秒 返信・引用

> No.1020[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

源、平氏は桓武天皇の孫と判明している。と断言しているが家紋をたどれば、矛盾が生じる。

- > どう見ても神社、仏閣の紋が桓武天皇から始まるとは考えられない。 >
- > 平氏:揚羽蝶、鱗など。
- > 源氏:清和源氏のほかにも多数の流派がある。笹竜胆は五三桐の変形 >
- > 起源
- > 桓武天皇の孫が臣籍降下する際に与えられたのが始まりである。最近の研究で「一世王、二世王が源、三世以降が平」だった事が判明している。

> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E6%B0%8F> >

家紋の種類の件は重要ですね。 源氏は後代まで多数臣籍降下で産まれますが、平氏はそれほど多くなかったので家紋が少 ないのでしょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/臣籍降下> 平氏は葛原親王系の桓武平氏のみが残ったようですね。

だから家紋もひとつしかないのでしょう。

臣籍降下で面白いのは、天智系にもどった光仁以降のそれは、真人のカバネではなくて、朝臣 にしている点ですね。 天武時代に制定された真人を嫌ったのか、何かワケがあるでしょう。真人も多かったですが 価値が下がっていたことも確かでしょう。

諸勝(広根朝臣諸勝・787 年 2 月 5 日) 光仁天皇皇子。 岡成(長岡朝臣岡成・787 年 2 月 5 日) 桓武天皇皇子。母は多治比真人長野女の多治比真人真宗。

でも、これはおかしいですね。光仁時代に、皇籍の制度が替わっていないとこうならないはず です。 上記をみると、皇子名がそのまま氏になっています。たぶん、これはもともと皇子名ではない でしょう。

なぜこうなったのか?が課題です <http://ja.wikipedia.org/wiki/光仁天皇>

妻の親族には、当時高野朝臣を授けてますね。

葛木王だった橘諸兄のケースだと、母方の橘宿禰を願ってます。母方の姓を、そのままひきつくと、

光仁の母は、紀朝臣です。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/紀諸人>

結局、光仁以降の皇族は、源朝臣のように、真人は名乗らなくなったわけですが、この辺の事情で、朝臣が一番格上になったのでしょうか。

それで、後にあえて皇族であることを示すために、王とは別に臣籍降下用に源・平姓が新設された。

でもそれにしても、光仁の息子・広根諸勝はおかしいですね。

その息子のひとりが、僧侶で開成というのですが、摂津の勝尾寺の開祖です。この寺に当時はやっていた八幡大菩薩の話がでできますね。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/開成_\(僧\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/開成_(僧))

諸勝も同様に、僧侶だったのではないのでしょうか。高野山、秦氏の勝、最勝王経、長岡京…。孝謙時代の肅正を僧侶として逃れる手はあったでしょうね。在原も、臣籍降下して成功した事例で、難を逃れるの意味があったようです。平氏の平は、平安京の平か、平民の平か。。。

Re: 年始の挨拶 投稿者:秦野北斗 投稿日:2013 年 1 月 4 日(金)17 時 36 分 43 秒 返信・引用 編集済

> No.1019[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

源、平氏は桓武天皇の孫と判明している。と断言しているが家紋をたどれば、矛盾が生じる。どう見ても神社、仏閣の紋が桓武天皇から始まるとは考えられない。

平氏:揚羽蝶、鱗など。

源氏:清和源氏のほかにも多数の流派がある。笹竜胆は五三桐の変形

起源 桓武天皇の孫が臣籍降下する際に与えられたのが始まりである。最近の研究で「一世王、二世王が源、三世以降が平」だった事が判明している。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E6%B0%8F>

> 今年は昨年末にふれた平安時代以降の歴史に焦点を当ててみたいと思います。

> 特に平氏・源氏、関東藤原氏等の起源ですね。 >

源、平氏の起源は…。

『好きなマンガの必殺技』ランキング 725 人が見えています More....

『この冬使ってみたいスキンケア』ランキング 142 人が見えています More....

『好きなバスケット選手(漫画)』ランキング 229 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO Gaba マンツーマン英会話 - www.gaba.co.jp 上達効果ならマンツーマン。本気で 英語力をつけたい人に選ばれています Ads by Google 年始の挨拶 投稿者:管理人 投稿日:2013 年 1 月 4 日(金)13 時 10 分 10 秒 返信・引用 編集済

皆様新年あけましておめでとうございます。 昨年も大変お世話になりました。今年もよろしく願います。また昨年の成果(管理人の意見だけですが)をまとめた会報のほうも仕上がり次第、お知らせいたします。

今年は昨年末にふれた平安時代以降の歴史に焦点を当ててみたいと思います。 特に平氏・源氏、関東藤原氏等の起源ですね。

それでクルジアのけんですが、ここのアマゾン族つまりサウロマタイ文化と、マッサゲタイの文化が、どうも邪馬台国のそれに近い気がしますね。月氏と同じイラン系とスキタイ系との間の子でしょうか、

<http://ja.wikipedia.org/wiki/サウロマタイ> ゲットタイで月氏とみる見方があるそうですが、月支(台)となり、邪馬台の「台」と関係して

くるかもしれません。「支」「台」の変換があるかもしれません。「チ→タイ」ですね。

車に乗る、つまりチャリオット文化、とクルガン墓でも石囲いで木かく墓、それを焼くあたり が、会報第3号でもとりあげたとおり、日本のそれと関係してくるのですが、 火をかける件は、穢・扶余時代にはもうみえなくなっていますね。

東となりのサカ族、サカイも、「タイ」とどのように「イ」をつけます。

ただ中国人には、その「イ」音が聞こえてないのではないのでしょうか。 月氏、サカで終わるわけです。

ゲッチ(い) サカ(い) すきた(い) サウロマタ(い) 後に「台」が扶余系にみえてきます。 百濟者、其先蓋馬韓之屬國、夫餘之別種。有「仇台」者、始國於帶方 ?『周書』卷・列傳第(百濟条)

イラン系の
ゾグドイ人
エンサイ人
もいますね。

アオルソイ(ギリシア語:Aorsoi)は、かつてカスピ海の西部に存在したサルマタイ系遊牧 民族。アオルシ、アオルシー[1]とも言い、紀元前 1 世紀にその存在が確認されている。また、 中国史書に出てくる奄蔡(えんさい、拼音:Yāncài)はその転写であると思われる[2]。

奄蔡国、改名して阿蘭聊国は、地城に住み、康居に属す。土気は温和で、多くの楨、松、白草が

生えている。民俗衣服は康居と同じ。<范曄『後漢書』西域伝> ”とあり、さらに『三国志』烏丸鮮卑等伝(裴注『魏略』西戎伝)に「奄蔡国一名阿蘭」とあるこ とから、のちのアラン人と同じか、もしくはアラン人によって征服されたものと思われる。

このアラン人が、やはり先のマッサゲタイつまり月氏と同じで、荷車の上で生活するのが、特 徴ですね。

解夫婁(かいふる) やがて解慕漱に夫婁という王子が生まれ、彼が成長すると王位を継がせた。 夫婁が王として北扶余を治めていたとき、大臣の阿蘭弗(あらふつ)は奇妙な夢を見た。

「天帝が夢枕に現れ、この地は私の子孫が国を建てるべき場所であるから、汝らは遠慮して立 ち退くのじゃ。東海の沿岸に迦葉原(かはばる)という肥沃な地がある。そこに遷都するが よい」と命じたというのだ。謎めいた話だが、夫婁王は神の御託宣に従って東に遷り、王都を 迦葉原に築いて国号を東扶余に改めた。

扶余の始祖伝種に大臣で、阿蘭弗がみえますね。

アランホトゥ

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/koukurigaisi/kokuri-sinwa1.htm>

後漢時代に阿蘭と改名したとすると、「奄蔡国一名阿蘭」。

ある日、天から不思議な一行が降りてきた。白鳥に乗って羽衣を翻した百人余の天人が、天空 を駆ける五龍車につき従い、清らかな楽の音を高らかに響かせ、艶やかな雲の間をかきわけ て熊心山に降り、そこで十日余りを過ごした後、地上の訖升骨(きっしょうこつ)という城 に降臨した。五龍車に乗っていたのは、天帝の太子の解慕漱と言ひ、鳥羽冠をかぶり、腰には 龍光の剣を差していた。

たぶん、ここで車の乗ってやってきますよね。これが、先のアラン・サカの車でしょう。 その鳥羽冠というのが、サカ人のとんがり帽子かもしれません。

おそらく。月氏が匈奴に滅ぼされて、その後しばらくして、北京周辺からさらに、穢、扶余方面 へ移動していったのではないのでしょうか。一部は四川方面へ流れます。

それで弥生末期に日本に渡ったので、クルガン墓が日本で再現されたのでしょう。

もとはイラン系サウロマタイ族。

ここでヘブライ人とどこかで接していたはず。 「サウロ」は、ヘブライ王サウロを想起させますね。

Ads by Google Re:積石塚(クルガン) 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 31 日(月)23 時 15 分 44 秒 返信・引用 編集済

> No.1017[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

月氏国のあったというキルギスには面白い伝説がある。

- > 「肉の好きな人々はキルギス人となり、魚の好きな人々は日本人になった。」 >
- > 中国史籍で(衛満)朝鮮(阿毎)が匈奴に亡命している。
- > 武帝外征で楽浪郡の(衛満)朝鮮を滅ぼして匈奴打倒になっている。 >
- > 武帝外征で楽浪郡の衛氏(衛満)朝鮮(阿毎)は西へ落ち延びた者と、楽浪郡に残る阿毎が阿 残(扶余、高句麗)に成ったと理解できる。 >
- > キルギスの伝説から月氏国へ落ち延びた者。匈奴とは同族になる。 >
- > 以下の張騫の文章が理解できる。 >
- > 武帝(在位:前 141 年 - 前 87 年)の時代に張騫を使者とした使節団を西域に派遣した。張 騫は匈奴に捕われるなどして 10 年以上かけ、西域の大宛、康居を経て、ようやく大月氏国に たどり着いた。この時の大月氏王はかつて匈奴に殺された先代王の夫人で、女王であった。大 月氏女王は張騫の要件を聞いたが、すでに復讐の心は無く、国家は安泰しており、漢が遠い国 であるため、同盟を組むことはなかった。 >> キルギスは大唐西域記の女国付近。伝説を作り話とする人がいるが秦野は疑問を感じる。 >

>> 公孫淵の陰謀 >> 魏志倭人伝の陳寿は蘇伐刺拏瞿?羅国(スヴァルナゴートラ、東女国)を女王国に書き換え、敢えて里を月とし、公孫淵の追求をかわした。公孫淵は呉の孫権と組み魏と匈奴を倒す陰 謀を企てた模様。 >>

紀元前 13 世紀には、南部に古代の町が出来たそうです。 紀元前 8 世紀頃からは、中央アジアの草原地帯で活動 していた、強力な遊牧国家である、サカ族(スキタイ の一派)の部族社会が北部に出現し、サカ族の墳墓群、 イシク・クル湖からは、青銅器などが発見されている そうです。

紀元前後には騎馬民族の烏孫がこの地を支配していた そうです。烏孫は強大な勢力を誇り、漢の武帝が娘を送って政略結婚させるほどであったとか。 イシク・クル湖の底に沈む集落跡は、サカ族のもの とも烏孫のものとも言われているそうです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/イシク・クル>

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~mkun/nazo/Kyrgyz.htm>

「キルギスと日本と肉と魚の伝説」の伝説は日ユ同祖論(日本ユダヤ同祖論)の小さな支え となっている。 下のキルギスの地図を見て欲しい。遠く離れたキルギスと日本に何らかの関係があるならば、 古代イスラエルのユダヤ民族と日本の間に何らかの関係があっても、不思議ではない。 日本の奈良の正倉院に残るサーサーン朝ペルシア製のガラス器(琉璃碗)は、シルクロード が様々な古代の文明と文化を伝えた時代を物語る遺物として取り上げられる。これも、日ユ 同祖論(日本ユダヤ同祖論)の小さな支えとなっている。

なるほど、この辺きになりますね。 今クルジアが気になっています。今年もおつかれさまでした。

Re: 積石塚(クルガン) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 31 日(月)11 時 40 分 43 秒 返信・引用 編集済

> No.1015[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

月氏国のあったというキルギスには面白い伝説がある。

「肉の好きな人々はキルギス人となり、魚の好きな人々は日本人になった。」

中国史籍で(衛満)朝鮮(阿毎)が匈奴に亡命している。 武帝外征で楽浪郡の(衛満)朝鮮を滅ぼして匈奴打倒に

なっている。

武帝外征で楽浪郡の衛氏(衛満)朝鮮(阿毎)は西へ落ち延びた者と、楽浪郡に残る阿毎が阿残 (扶余、高句麗)に成ったと理解できる。

キルギスの伝説から月氏国へ落ち延びた者。匈奴とは同族になる。

以下の張騫の文章が理解できる。

武帝(在位:前 141 年 - 前 87 年)の時代に張騫を使者とした使節団を西域に派遣した。張騫は匈奴に捕われるなどして 10 年以上かけ、西域の大宛、康居を経て、ようやく大月氏国にたどり着いた。この時の大月氏王はかつて匈奴に殺された先代王の夫人で、女王であった。大月氏女王は張騫の要件を聞いたが、すでに復讐の心は無く、国家は安泰しており、漢が遠い国であるため、同盟を組むことはなかった。

キルギスは大唐西域記の女国付近。伝説を作り話とする人がいるが秦野は疑問を感じる。 公孫淵の陰謀

魏志倭人伝の陳寿は蘇伐刺鞬瞿?羅国(スヴァルナゴートラ、東女国)を女王国に書き換え、敢えて里を月とし、公孫淵の追求をかわした。公孫淵は呉の孫権と組み魏と匈奴を倒す陰謀を企てた模様。

外征 武帝(在位:前 141 年 - 前 87 年)これらの体制と文景の治による多大な蓄積を背景に、宿敵匈奴への外征を開始する。高祖劉邦が冒頓単于に敗れて以来、漢はその孫の軍臣単于が君臨する匈奴に対して低姿勢で臨んでいたが、武帝は反攻作戦を画策する。かつて匈奴に敗れて西へ落ちていった大月氏へ張騫を派遣する。大月氏との同盟で匈奴の挟撃を狙ったが、同盟は失敗に終わった。しかし張騫の旅行によりそれまで漠然としていた北西部の情勢がはっきりとわかるようになった事が後の対匈奴戦に大きく影響した。武帝は衛青とその甥の霍去病の両将軍を登用して、匈奴に当たらせ、幾度と無く匈奴を打ち破り、西域を漢の影響下に入れた。更に李広利に命じて、大宛(現/中央アジアのフェルガナ地方)を征服し、汗血馬を獲得した。また南越国に遠征し、郡県に組み入れ、衛氏朝鮮を滅ぼして楽浪郡を初めとする漢四郡を朝鮮に置いた。これらの成果により前漢の版図は最大にまで広がり、武帝の治世は前漢の全盛期と賞される。高祖劉邦にすら成し遂げられなかった匈奴打倒を達成した武帝は泰山に封禅の儀式を行って、自らの功績を上天に報告した。

衛氏(衛満)朝鮮 準信寵之、拜為博士、賜以圭、封之百里、令守西邊。滿誘亡黨、衆稍多、乃詐遣人告準、言漢兵十道至、求入宿衛、遂還攻準。準與滿戰、不敵也。

準は彼を信じて寵愛し、博士と呼んで尊敬し、圭の地を賜り、この百里を彼に封じ、西辺の令守とした。滿が誘った流民集団が段々と多くなるに及び、使者を派遣して「漢兵がいずれの街道にも満ちあふれ、宿衛に入ること求めています」と虚偽の報告をさせ、帰還してきた準を攻めた。準は滿と戦うも(滿には)敵わなかった。

> クルガンとクムガンの話は面白いですね。 > それぞれの語の意味が双方で対応するかどうかが課題でしょう。

(衛満)朝鮮が関係するならクルガン=クムガンだろう。

Re: 積石塚(クルガン) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 31 日(月)09 時 24 分 36 秒 返信・引用 編集済

> No.1015[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

神功皇后の三韓征伐のころは百済、新羅、倭国、高句麗になる。 注意する事は高句麗は楽浪郡以外に弁韓の地(馬韓の東)を飛び地としている。

>

- ・ > あと、新羅本記に先の穢貊関連の地名がでてきます。
- ・ > 十三年 秋八月 樂浪犯北邊 攻陷朶山城 >
- ・ > 十四年 高句麗王無恤 襲樂浪滅之 其國人五千來投 分居六部 >

- > 十七年 秋九月 華麗・不耐二縣人連謀 率騎兵犯北境 貊國渠帥 以兵要曲河西敗 之 王喜 與貊國結好
>
- > 十九年 秋八月 貊帥獵得禽獸獻之 >>
- > 楽浪人が高句麗に滅ぼされて、秦韓に來た記載がありますね。これが弁・秦の6国。穢扶余 系とは異なる楽浪漢人ですね。 >> どうも、華麗は高句麗とは違うようですね。馬韓とも異なるでしょう。 >
Re:積石塚(クルガン) 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 30 日(日)23 時 21 分 18 秒 返信・引用
> No.1014[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > キルギスの語源は積石塚(クルガン)だそうな。
- > その墓を作った人々をクルガン人という。 >
- > クルガンは金官(クムカン)になったのではないかと >
- > <http://www.geocities.jp/taru638/page048.html> >
- > 韓半島にはクムガンは 2 つあり、金剛山と錦江になる。日本では葛城の金剛山。鹿児島島の錦 江湾。

> 錦江(きんこう、クムガン)は大韓民国南西部の主要河川である。 > 全羅北道長水郡の小白山脈に端を
を發し、全羅北道・忠清北道・忠清南道と大田の道市境・ 忠清南道を通ったのち、忠清南道と全羅北道の道
境を流れ、群山と舒川の市郡境で黄海に注 ぐ。沿岸の江景(カンギョン)や河口の群山は物資の集散地と
して非常に栄えた。 >

クルガンとクムガンの話は面白いですね。

それぞれの語の意味が双方で対応するかどうかが課題でしょう。

あと、新羅本記に先の穢貊関連の地名がでています。

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/sangokushiki/shiragi/010103gen.htm>

十三年 秋八月 楽浪犯北邊 攻陷朶山城

十四年 高句麗王無恤 襲樂浪滅之 其國人五千來投 分居六部

十七年 秋九月 華麗・不耐二縣人連謀 率騎兵犯北境 貊國渠帥 以兵要曲河西敗之 王喜 與貊國結好

十九年 秋八月 貊帥獵得禽獸獻之

楽浪人が高句麗に滅ぼされて、秦韓に來た記載がありますね。これが弁・秦の6国。穢扶余系 とは異なる楽浪漢人ですね。

どうも、華麗は高句麗とは違うようですね。馬韓とも異なるでしょう。

貊國が穢になりそうですが、曲河に近接していた模様です。

貊はパンダの意味だそうですね。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinkan-siragi/siragi.-king3-julii.htm> 積石塚(クルガン) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 30 日(日)22 時 28 分 56 秒 返信・引用

月氏は弓月君

月氏国のあったというキルギスには面白い伝説がある。

「肉の好きな人々はキルギス人となり、魚の好きな人々は日本人になった。」

キルギスの語源は積石塚(クルガン)だそうなの。その墓を作った人々をクルガン人という。

クルガンは金官(クムカン)になったのではないかな？

<http://www.geocities.jp/taru638/page048.html> 韓半島にはクムガンは 2 つあり、金剛山と錦江になる。日本では葛城の金剛山。鹿児島島の錦江

湾。

金剛山(こんごうさん、クムガンさん)は、太白山脈に属する朝鮮民主主義人民共和国(北 朝鮮)江原道にある山。最高峰は毘盧峰で、標高 1,638m である。古来朝鮮半島では、白頭山と 並ぶ名山とされてきた。

錦江(きんこう、クムガン)は大韓民国南西部の主要河川である。全羅北道長水郡の小白山脈に端を発し、全羅北道・忠清北道・忠清南道と大田の道市境・忠清南道を通ったのち、忠清南道と全羅北道の道境を流れ、群山と舒川の市郡境で黄海に注ぐ。沿岸の江景(カンギョン)や河口の群山は物資の集散地として非常に栄えた。

Re:やまと 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 29 日(土)23 時 15 分 14 秒 返信・引

用 > No.1012[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 戦国時代には燕が遼東地方に長城(遼東長城)を築き、秦王朝になって、それを増強して いるが、穢・發・高夷の領域にまで進出した訳ではない。従って、彼らが燕や秦によって故地 を追われたとは思えない。また、扶余・高句麗に領土を侵略されたという記録もない。 > 穢に関しては中国の正史に「穢王」とあり、国家であったことは確実だが、その詳細は伝 えていない。ただし、国家にしては穢の呼称は変転が多すぎる。

>

扶余と穢との関係が重要ですね。接点が見いだせるかどうかですが、羯の羯室というのが、後 趙の仏教政策を次いだ北魏の石窟寺院や横穴墓との兼ね合いを感じます。もとは敦煌・亀慈 の石窟寺院にあり、月氏系です。ただ月氏が岩窟に住んだという記載がまだみあたらない感 じです。

Re:やまと 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 29 日(土)21 時 31 分 55 秒 返信・引 用 編集済

> No.1011[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

穢に関しては呼称が変転し多すぎ特定できない。言える事は、倭国(韓国)に韓と濊が流入し た。注意する事は倭国が大漢国(やまと)の一国になる。これが有名な倭国大乱になる。韓と 濊は文書から韓は朝鮮系の阿毎、濊は燕系の阿毎で同族になる模様。阿毎は倭人。

卑弥呼の登場になる。卑弥呼は開花天皇の孫で阿毎の皇女が大漢国(やまと)を統治する。大漢国(やまと)こと邪馬台国になる。フザン(釜山)の東邑、辺りになる。三角縁神獣鏡の京師の杜で韓半島を統治していたが倭国大乱で倭国へ…。その後、公孫康が京師に着任する。扶余と連合し韓半島を制圧(濊、馬韓、辰韓、弁韓、倭国)。卑弥呼は事前に察知し瑞穂の国(奈良)へ避難する。瀬戸内海は船で覆われたと思われる。卑弥呼を取り逃がした公孫康は呉の孫権に卑弥呼の素性を暴露し、夷州(九州)に追手を送る。公孫康はその後、燕王を名乗る。尚、開花天皇、卑弥呼の正体は後日。金印、親魏倭王の意味が解 ける。

戦国時代には燕が遼東地方に長城(遼東長城)を築き、秦王朝になって、それを増強して いるが、穢・發・高夷の領域にまで進出した訳ではない。従って、彼らが燕や秦によって故地を 追われたとは思えない。また、扶余・高句麗に領土を侵略されたという記録もない。穢に関しては中国の正史に「穢王」とあり、国家であったことは確実だが、その詳細は伝 えていない。ただし、国家にしては穢の呼称は変転が多すぎる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-3-wai.htm>

桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方 郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

桓帝と靈帝の末(146 年-189 年)、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。建安年間(196 年-220 年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張 敞などを派遣

して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

Re:やまと 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月28日(金)23時09分43秒 返信・引用 編集済

> No.1010[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 扶余伝 >『三国志魏書』> 夫餘在長城之北、去玄菟千里、南與高句麗、東與挹婁、西與鮮卑接、北有弱水、方可二千里。戸八萬、其民土著、有宮室、倉庫、牢獄。多山陵、廣澤、於東夷之域最平敞。土地宜五穀、不生五果。其人麤大、性彊勇謹厚、不寇鈔。>> 扶余は長城の北に在り、玄菟郡からは千里、南に高句麗、東に挹婁、西に鮮卑族と接し、北には弱水(アムール河)があり、方形は二千里。土着民の戸数八万、宮室、倉庫、牢獄などがある。丘陵や大河が多く、東夷の領域では最も平坦である。土地は五穀の栽培に適しているが、果実はできない。体形は大柄で勇猛だが、謹厳実直で略奪をしない。>

>『後漢書』高句麗伝> 高句麗、在遼東之東千里、南與朝鮮、濊貊、東與沃沮、北與夫餘接。地方二千里、多大山深谷、人隨而為居。少田業、力作不足以自資、故其俗節於飲食、而好修宮室。東夷相傳以為夫餘別種、故言語法則多同、而跪拜曳一?、行步皆走。>> 高句麗は遼東の東千里に在り、南に朝鮮、濊貊、東に沃沮、北に扶余と接している。> 土地は四方二千里、多くの大山や深い谷があり、人も地形に従って居を構えている。農業は少なく、耕作に努力しても自給自足はできないので、その俗習では飲食を節制しているが、好んで王宮の修

後漢時代になると、高句麗の南に穢が位置してくるんですね。前漢時代には北京の東に穢がいたはずで、遼西に近いところにいたように見えますね。遼西から移動して、後漢初期に成立した扶余・高句麗の南部に入り込んで、勢力を拡げていったのでしょうか。

『魏書』馬韓伝

「桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。」

後漢後半になると、穢・韓が楽浪と争い始めますね。その結果、その南の韓に楽浪遺民が流れこむ。

穢が楽浪と接していたことは間違いなく、楽浪の南が韓、すぐ北か西に穢がいたとみるべきでしょうか。高句麗よりは南に彼らは位置していた。

その時期の流民が倭に流れ込んで楽浪系の中国文化とか関連遺物…をもたらして先の奈良の都城區画ができていったのかもしれない。

それで穢は帯方には属さず、そのかわり倭が属すことになったというのがちょっと気になりますね。穢は降伏したのか？

『三国志魏書』高句麗伝 國人有氣力、習戰鬥、沃沮、東濊皆屬焉。又有小水貊。句麗作國、依大水而居、西安平縣北有小水、南流入海、句麗別種依小水作國、因名之為小水貊、出好弓、所謂貊弓是也。國人は氣力にあふれ、戰鬥に習熟しており、沃沮や東濊は皆、これに服属している。また、小水貊がいる。高句麗の立てた国は大水(鴨緑江)に拠って居を置くが、西安平県の北に小水があり、南に流れて海に注ぐ、句麗の別種が小水に拠って建てた国なので、これの名を小水貊と言う。良質の弓を産する、いわゆる貊弓がこれである。

こうみると高句麗・扶余と同族とみえますが、西安平県に別種がみえますね。晋代に再設置されてますが、遼東郡ですね。安市県が北京なのでその東あたりでしょうか。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/平州_\(遼寧省\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/平州_(遼寧省)) こうみると通説の半島東部沿岸に穢がいたというの見方がどこから出てくるのが気になります

ます。

むしろ半島西北部のほうが、晋代までは記載にあうことになるでしょうか。あるいは穢が複数に分裂して散在していた可能性を感じますね。

(追記)こちらの記載から、魏の年代までには、半島東海岸沿いまで穢の領域が広がっていたことがわかります。

『魏書』穢伝

「濊南與辰韓、北與高句麗、沃沮接、東窮大海、今朝鮮之東皆其地也。戸二萬。昔箕子既適朝鮮、作八條之教以教之、無門戸之閉而民不為盜。其後四十餘世、朝鮮侯准(準)、僭號稱王。陳勝等起、天下叛秦、燕、齊、趙民避地朝鮮數萬口。燕人衛滿、魋結夷服、復來王之。漢武帝伐滅朝鮮、分其地為四郡。自是之後、胡漢稍別。」

もともとは北京周辺で、その後、高句麗・扶余・百済へと分離、さらに半島東部?や秦韓方面へも移行したというかんじでしょうか。真番衆の流れに関係しそうです。

それで絡の羊関連の記載が、先の西にいた羯と関係するかもしれません。

『高夷』

貂、貉ともに高句麗の呼称だと判明したが、高句麗を高夷の後裔だとする説がある。

『逸周書』王會第五十九成周之會 (省略)北方臺正東、高夷獐羊、獐羊者、羊而四角。獨鹿邛邛、邛邛善走者也。孤竹距虛。不令支玄豹。不屠何青熊。東胡黃羆。山戎戎菽、其西般吾白虎黑文。

これは西周初年(紀元前 1046 年頃)、周の成王が洛邑(洛陽)を創建後、諸侯を招いて大会を催したときの記事の抜粋だが、ここに高夷の名が見える。孔穎達(唐代の学者、隋書を編纂)は、王會篇の注釈に次のように記している。「逸周書に記された会議に参加した北方台地の東の高夷とは、高句麗族の源流である」<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-3-wai.htm>

Re:やまと 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 28 日(金)08 時 36 分 32 秒 返信・引用 編集済

> No.1009[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

扶余伝には扶余は長城の北に在り、…から燕長城の北、北には弱水、丘陵や大河が多く…。高句麗伝には高句麗は遼東の東千里に在り、多くの大山や深い谷があり、…。距離を考慮した地図を添付します。距離は秦野距離

『三国志魏書』の距離は狗耶韓国(釜山)から対馬が1000 里になる。吉林省梅河口周辺は遼東から 6~7000 里になる。以下同様。吉林省長春市周辺に「穢」、吉林省梅河口周辺に「發」、遼寧省撫順市周辺に「高夷」がいたが、秦時代には「扶余・高句麗」の領域に代わっている。距離を無視している。

扶余伝 『三国志魏書』 夫餘在長城之北、去玄菟千里、南與高句麗、東與挹婁、西與鮮卑接、北有弱水、方可二千里。戸八萬、其民土著、有宮室、倉庫、牢獄。多山陵、廣澤、於東夷之域最平敞。土地宜五穀、不生五果。其人麤大、性彊勇謹厚、不寇鈔。

扶余は長城の北に在り、玄菟郡からは千里、南に高句麗、東に挹婁、西に鮮卑族と接し、北には弱水(アムール河)があり、方形は二千里。土着民の戸数八万、宮室、倉庫、牢獄などがある。丘陵や大河が多く、東夷の領域では最も平坦である。土地は五穀の栽培に適しているが、果実はできない。体形は大柄で勇猛だが、謹厳実直で略奪をしない。

『後漢書』高句麗伝 高句麗、在遼東之東千里、南與朝鮮、濊貊、東與沃沮、北與夫餘接。地方二千里、多大山深谷、人隨而為居。少田業、力作不足以自資、故其俗節於飲食、而好修宮室。東夷相傳以為夫餘別種、故言語法則多同、而跪拜曳一?、行步皆走。

高句麗は遼東の東千里に在り、南に朝鮮、濊貊、東に沃沮、北に扶余と接している。土地は四方二千里、多くの大山や深い谷があり、人も地形に従って居を構えている。農業は少なく、耕作に努力しても自給自足はできないので、その俗習では飲食を節制しているが、好んで王宮の修築をする。東夷の相伝では扶余の別種とされ、それ故に言語の法則は多くが同じで、跪拜(膝を着けての礼拝)では片足を立て、皆が小走りで歩く。

> 吉林省長春市周辺に「穢」、吉林省梅河口周辺に「發」、遼寧省撫順市周辺に「高夷」がいたが、秦時代には「扶余・高句麗」の領域に代わっている。 > 『史記』匈奴列伝 > 後百有餘年、趙襄子踰句 1、而破並代以臨胡貉(2 貉□濊也。音亡格反)。

> 百有餘年後、趙襄子は句(注記 1 山の名前)を越え、代国すらも破って、胡族と貉(注記 2 貉とは濊なり。亡の発音で反切は格)に臨んだ。 >> 漢使楊信於匈奴。是時漢東拔穢貉、朝鮮以為郡、而西置酒泉郡以隔絕胡與羌通

之路。 > 漢は匈奴に楊信を遣わした。このとき漢は東に穢貉を抜き、朝鮮を郡となして、西に酒泉 郡を置いて、胡族と羌族の通交の道を隔絶した。

>> 諸左方王將居東方、直上谷以往者、東接穢貉?朝鮮 > 諸々の左軍の王將は東方に拠点をおり、上谷郡を行けば、東に穢貉、朝鮮に接する

Re:やまと 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月28日(金)23時09分43秒 返信・引用

> No.1010[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 扶余伝 > 『三国志魏書』 > 夫餘在長城之北、去玄菟千里、南與高句麗、東與挹婁、西與鮮卑接、北有弱水、方可二千里。 戸八萬、其民土著、有宮室、倉庫、牢獄。多山陵、廣澤、於東夷之域最平敞。土地宜五穀、不生五果。其人麤大、性彊勇謹厚、不寇鈔。 >> 扶余は長城の北に在り、玄菟郡からは千里、南に高句麗、東に挹婁、西に鮮卑族と接し、北 には弱水(アムール河)があり、方形は二千里。土着民の戸数八万、宮室、倉庫、牢獄などがある。丘陵や大河が多く、東夷の領域では最も平坦である。土地は五穀の栽培に適しているが、 果実はできない。体形は大柄で勇猛だが、謹厳実直で略奪をしない。 >> 『後漢書』高句麗伝 > 高句麗、在遼東之東千里、南與朝鮮、濊貊、東與沃沮、北與夫餘接。地方二千里、多大山深谷、 人隨而為居。少田業、力作不足以自資、故其俗節於飲食、而好修宮室。東夷相傳以為夫餘別種、 故言語法則多同、而跪拜曳一?、行步皆走。 >> 高句麗は遼東の東千里に在り、南に朝鮮、濊貊、東に沃沮、北に扶余と接している。 > 土地は四方二千里、多くの大山や深い谷があり、人も地形に従って居を構えている。農業 は少なく、耕作に努力しても自給自足はできないので、その俗習では飲食を節制している が、好んで王宮の修

後漢時代になると、高句麗の南に穢が位置してくるんですね。前漢時代には北京の東に穢 がいたはずで、遼西に近いところにいたように見えますね。遼西から移動して、後漢初期に成 立した扶余・高句麗の南部に入り込んで、勢力を上げていったのでしょうか。

『魏書』馬韓伝

「桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方 郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。」

後漢後半になると、穢・韓が楽浪と争い始めますね。その結果、その南の韓に楽浪遺民が流

れこむ。

穢が楽浪と接していたことは間違いなく、楽浪の南が韓、すぐ北か西に穢がいたとみるべき でしょうか。高句麗よりは南に彼らは位置していた。

その時期の流民が倭に流れ込んで楽浪系の中国文化とか関連遺物・をもたらし、先の奈良の都城区画ができていったのかもしれませんが。

それで穢は帯方には属さず、そのかわり倭が属することになったというのがちょっと気になる ますね。 穢は降伏したのか?

『三国志魏書』高句麗伝 國人有氣力、習戰鬥、沃沮、東濊皆屬焉。又有小水貊。句麗作國、依大水而居、西安平縣北有 小水、南流入海、句麗別種依小水作國、因名之為小水貊、出好弓、所謂貊弓是也。 國人は氣力にあふれ、戰鬥に習熟しており、沃沮や東濊は皆、これに服属している。 また、小水貊がいる。高句麗の立てた国は大水(鴨緑江)に拠って居を置くが、西安平県の 北に小水があり、南に流れて海に注ぐ、句麗の別種が小水に拠って建てた国なので、この名 を小水貊と言う。良質の弓を産する、いわゆる貊弓がこれである。

こうみると高句麗・扶余と同族とみえますが、西安平県に別種がみえますね。 晋代に再設置されてますが、遼東郡ですね。安市県が北京なのでその東あたりでしょうか。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/平州_\(遼寧省\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/平州_(遼寧省))

こうみると通説の半島東部沿岸に穢がいたという見方がどこから出てくるのかが気になり ます。 むしろ半島西北部のほうが、晋代までは記載にあうことになるのでしょうか。

あるいは穢が複数に分裂して散在していた可能性を感じますね。 もともとは北京周辺で、その後、高句麗・扶余・百済へと分離、さらに半島東部?や秦韓方面 へも移行したというかんじでしょうか。真番衆の流れに関係しそうです。

それで貉の羊関連の記載が、先の西にいた羯と関係するかもしれません。

『高夷』

貉、貉ともに高句麗の呼称だと判明したが、高句麗を高夷の後裔だとする説がある。

『逸周書』王會第五十九成周之會 (省略)北方臺正東,高夷獐羊,獐羊者,羊而四角。獨鹿邛邛,邛邛善走者也。孤竹距虛。 不令支玄豹。不屠何青熊。東胡黃羆。山戎戎菽,其西殷吾白虎黑文。

これは西周初年(紀元前 1046 年頃)、周の成王が洛邑(洛陽)を創建後、諸侯を招いて大会を催したときの記事の抜粋だが、ここに高夷の名が見える。 孔穎達(唐代の学者、隋書を編纂)は、王會篇の注釈に次のように記している。「逸周書に記された会議に参加した北方台地の東の高夷とは、高句麗族の源流である」<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-3-wai.htm>

『2012 年私の好きな映画十傑』ランキング 3526 人が見えています More....

『酒のあて』ランキング 130 人が見えています More....

『みんな大好き ♪嵐の推しメン』ランキング 377 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:やまと 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 28 日(金)08 時 36 分 32 秒 返信・引用 編集済

> No.1009[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

扶余伝には扶余は長城の北に在り、…から燕長城の北、北には弱水、丘陵や大河が多く…。 高句麗伝には高句麗は遼東の東千里に在り、多くの大山や深い谷があり、…。 距離を考慮した地図を添付します。距離は秦野距離

『三国志魏書』の距離は狗耶韓国(釜山)から対馬が1000 里になる。吉林省梅河口周辺は遼東 から 6~7000 里になる。以下同様。吉林省長春市周辺に「穢」、吉林省梅河口周辺に「發」、遼寧 省撫順市周辺に「高夷」がいたが、秦時代には「扶余・高句麗」の領域に代わっている。距離を 無視している。

扶余伝 『三国志魏書』 夫餘在長城之北、去玄菟千里、南與高句麗、東與挹婁、西與鮮卑接、北有弱水、方可二千里。 戸八萬、其民土著、有宮室、倉庫、牢獄。多山陵、廣澤、於東夷之域最平敞。土地宜五穀、不生五 果。其人麤大、性彊勇謹厚、不寇鈔。

扶余は長城の北に在り、玄菟郡からは千里、南に高句麗、東に挹婁、西に鮮卑族と接し、北 には弱水(アムール河)があり、方形は二千里。土着民の戸数八万、宮室、倉庫、牢獄などがある。丘陵や大河が多く、東夷の領域では最も平坦である。土地は五穀の栽培に適しているが、 果実はできない。体形は大柄で勇猛だが、謹厳実直で略奪をしない。

『後漢書』高句麗伝 高句麗、在遼東之東千里、南與朝鮮、濊貊、東與沃沮、北與夫餘接。地方二千里、多大山深谷、人 隨而為居。少田業、力作不足以自資、故其俗節於飲食、而好修宮室。東夷相傳以為夫餘別種、故 言語法則多同、而跪拜曳一?、行步皆走。

高句麗は遼東の東千里に在り、南に朝鮮、濊貊、東に沃沮、北に扶余と接している。 土地は四方二千里、多くの大山や深い谷があり、人も地形に従って居を構えている。農業は 少なく、耕作に努力しても自給自足はできないので、その俗習では飲食を節制しているが、 好んで王宮の修築をする。東夷の相伝では扶余の別種とされ、それ故に言語の法則は多くが 同じで、跪拜(膝を着けての礼拝)では片足を立て、皆が小走りで行く。

> 吉林省長春市周辺に「穢」、吉林省梅河口周辺に「發」、遼寧省撫順市周辺に「高夷」がいたが、 秦時代には「扶余・高句麗」の領域に代わっている。

> 『史記』匈奴列伝 > 後百有餘年、趙襄子隸句 1、而破並代以臨胡貉(2 貉□濊也。音亡格反)。 > 百有餘年後、

趙襄子は句(注記 1 山の名前)を越え、代国すらも破って、胡族と貉(注記 2 貉とは濊なり。亡の発音で反切は格)に臨んだ。 >> 漢使楊信於匈奴。是時漢東拔穢貉、朝鮮以為郡、而西置酒泉郡以隔絕胡與羌通之路。 > 漢は匈奴に楊信を遣わした。このとき漢は東に穢貉を抜き、朝鮮を郡となして、西に酒泉郡を置いて、胡族と羌族の通交の道を隔絶した。 >> 諸左方王將居東方、直上谷以往者、東接穢貉?朝鮮 > 諸々の左軍の王將は東方に拠点をおいた、上谷郡を行けば、東に穢貉、朝鮮に接する

Ads by Google Re:やまと 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 27 日(木)23 時 04 分 8 秒 返信・引用 編集済

> No.1008[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 穢(ワイ)の古名が燕。穢(ワイ)の首都が大漢国(やまと)。金剛山辺りになる。
- > 大漢国は馬韓、辰韓、弁韓、倭国、穢(ワイ)、楽浪郡を言っている模様。 >
- > 大元封三年(前 108 年)に楽浪郡が大漢国から分離。阿毎が阿残となり扶余、高句麗になる。 >
> 金印、漢倭奴国王印は大漢国の倭奴国の王になる。倭奴国は大漢国の一国にすぎない。 >> その穢の位置が気になりますね。半島の北東辺と描かれることが多いですが、ちょっと疑問を感じ始めてます。

吉林省長春市周辺に「穢」、吉林省梅河口周辺に「發」、遼寧省撫順市周辺に「高夷」がいたが、秦時代には「扶余・高句麗」の領域に代わっている。『史記』匈奴列伝 後百有餘年、趙襄子踰句 1、而破並代以臨胡貉(2 貉□濊也。音亡格反)。百有餘年後、趙襄子は句(注記 1 山の名前)を越え、代国すらも破って、胡族と貉(注記 2 貉とは濊なり。亡の発音で反切は格)に臨んだ。

漢使楊信於匈奴。是時漢東拔穢貉、朝鮮以為郡、而西置酒泉郡以隔絕胡與羌通之路。 漢は匈奴に楊信を遣わした。このとき漢は東に穢貉を抜き、朝鮮を郡となして、西に酒泉郡を置いて、胡族と羌族の通交の道を隔絶した。

諸左方王將居東方、直上谷以往者、東接穢貉?朝鮮 諸々の左軍の王將は東方に拠点をおいた、上谷郡を行けば、東に穢貉、朝鮮に接する。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-3-wai.htm>

扶余とのつながりが強いですね。上谷郡というのは今の北京のことですから、そうすると北京の東に最初いたことになります。

胡族と羌族の通交の道を隔絶した。との記載は、おそらく、トルコ(東胡)と西域の羌つまり 月氏方面との交易ルートを阻んだの意味でしょう。

羌→東胡→穢貉→朝鮮の交易ルートがあったのではないのでしょうか。その穢貉が後に、半島方面へ移動して、扶余族・高句麗、さらには百濟・倭方面へと移動していった経緯を感じます。

そこで先のコーカソイド系の羯族ですが、どうも先日の図のように、洛陽のすぐ北に位置していたようです。おそらくその辺の流れで、南下してきた羌氏の一派が羯だったと思います。

大漢国については、再考する必要があるでしょうか。

『梁書』によると、僧慧深(けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン)が普通年間 (520 年?527 年)に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北 7000 余里(3000km 余、漢代の里 ≒ 434m、以下換算にはこの値を使う)に文身国が、その東 5000 余里(2200km 余)に大漢国があり、大漢国の東 2 万余里(8700km 余)に扶桑がある。

隅田八幡の穢人=漢人として、先の穢をその大漢国として、扶桑を扶余と先日のとおり推定すると、穢つまり大漢国の位置は、先の古い時代の穢の位置、北京北方ということになるかもしれません。穢の領域が気になりますね。扶余・高句麗北方から朝鮮東部沿岸まで伸びていたのか、その辺が課題です。

Re:やまと 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 27 日(木)00 時 53 分 34 秒 返信・引用 編集済

> No.1007[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

穢(ワイ)の古名が燕。穢(ワイ)の首都が大漢国(やまと)。金剛山辺りになる。 大漢国は馬韓、辰韓、弁韓、倭国、穢(ワイ)、楽浪郡を言っている模様。

大元封三年(前 108 年)に楽浪郡が大漢国から分離。阿毎が阿残となり扶余、高句麗になる。 金印、漢倭奴国王印は大漢国の倭奴国の王になる。倭奴国は大漢国の一国にすぎない。

『通典』邊防 武帝元封三年、遣樓船將軍楊僕從齊浮渤海、兵五萬、左將軍荀彘出遼東、討之。朝鮮人相與 殺 王右渠來降。遂以朝鮮為真蕃、臨屯、樂浪、玄菟四郡。今悉為東夷之地。昭帝時罷臨屯、真蕃 以并樂浪、玄菟。

元封三年(前 108 年)、樓船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼 東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、楽浪、 玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、楽浪と玄菟に併 合した。

Re:やまと 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 25 日(火)23 時 03 分 41 秒 返信・引用

> No.1006[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 羯族は 300 年頃で卑弥呼より新しいですな。 >
- > 穢の領地が燕の首都の(やまと)になる。神武天皇は製鉄技術の小型の高炉を持っていた 模様 >> 堺の古墳に甲冑、剣が出土している。 >> 燕人の衛満が魑(まげ)を結び、夷服を着て、何度も往来して、ここの王となる。漢の武帝 が朝鮮を討滅。その地を四郡に分けた。これの後、胡と漢は少し別れた。 >>

ちょっと関連して穢族について調べてみました。その大漢国については、先日扶余周辺の国 と考えたことがありましたが、もしかすると穢ではないかと感じます。後代、隅田八幡鏡の銘 文で穢人をもって漢人と読ませているのがきになります。それで習俗をしらべていくと、お おむね扶余と習俗は同じなのですが、さらに扶余系の習俗を補完する資料が多くみえます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ワイ人> 住居 [編集] その風俗として山や川が重視され、山や川にはそれぞれに所属するところがあって、みだり に他人の山や川に入りこむことは許されない。病気や死者が出ると、そのたびごとにもとの 住家を棄てて、新しい住居を作り直す。 官制 [編集] 大君長はなく、漢代以来、侯邑君、三老といった官があって、下戸(平民)たちを統治している。 服装 [編集] 言葉や風俗はだいたい扶余と同じであるが、衣服に違いがある。男女の上衣はともに曲領 (まるくび)のものをつけ、男子は幅数寸の銀製の花文様を結びつけて飾りとする。 結婚 [編集] 同姓の者は結婚しない。 行事 [編集] 10 月を天の祭りの月とし、昼夜にわたって酒を飲み歌い舞いを舞う。この行事を「舞天」と呼

んでいる。また虎を神として祭る。 刑罰 [編集] 邑落の間で侵犯があったときには、罰として奴隷や牛馬を取り立てることになっている。こ の制度を「責過」と呼ぶ。人を殺した者は死をもって罪を償わされる。略奪や泥棒は少ない。 産業 [編集] 麻布を産し、蚕を飼って繅(まわた)を作る。「楽浪の檀弓(まゆみの木の弓)」と呼ばれる 弓はこの地に産する。海では班魚の皮を産し、陸地には文豹が多く、また果下馬を産出し、漢 の桓帝のときこれが献上された[2]。

日本の式年遷宮の関連で、穢人が死人がでるとすぐ住居を入れ替える点はよく知られていま すね。 衣服の房につける件も日本の神官のそれと同じです。この 2 点はイスラエルの習俗とも共通 します。

それで、上記の穢人が罪を購う際の「責過」が、旧約の「過越」の生け贄を想起させる点で重要 です。

おそらく扶余系の習俗と同系で元はイスラエル方面と感じますが、穢(ワイ)の発音は、倭 (ワ)と関係しないでしょうか。言語系統はかなり近いようです。弁・秦韓の「阿」とも関係 するかもしれません。

あと、先の羯族の件ですが、魏書に出ているので、300年より前、魏の時代まで遡るでしょう。

その羯族の周曷という姓が、三国志の諸葛と関係しそうです。石はエニセイ・ケット人の石の語のようですが、これが石勒の石となります。ケット人からオルドスの匈奴へクルガン文化がつたわって、それがあつた時期に半島・日本へとつたわっていったようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ケット人>

バジリク・タシュティク文化を経由するのですが、石膏のお面というのが、どこか九州の石人文化を想起させますね。新漢人系です。

羯族が二十万人規模で虐殺されたということは、そのくらい多くの人も逃亡した可能性がありますね。

石勒の息子が石虎で、虎トートেমですが、穢にもみえますね。「天王」扶余系は遼西からきますので、南匈奴と接していたでしょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/南匈奴#.E5.8D.81.E4.B9.9D.E7.A8.AE.E6.97.8F> その南匈奴の東端にいたのが、羯族ですから、そうすると、扶余に流れる可能性はくない

のですが、微妙ですね。

Re:やまと 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年12月25日(火)20時20分22秒 返信・引用 編集済

> No.1005[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

羯族は 300年頃で卑弥呼より新しいですな。穢の領地が燕の首都の(やまと)になる。神武天皇は製鉄技術の小型の高炉を持っていた模

様 堺の古墳に甲冑、剣が出土している。

燕人の衛満が魑(まげ)を結び、夷服を着て、何度も往来して、ここの王となる。漢の武帝が 朝鮮を討滅。その地を四郡に分けた。この後、胡と漢は少し別れた。

胡と漢は少し別れた。の漢は大漢(やまと)の意味ではないか。

楽浪人を阿残と呼ぶ;東方人は自分を阿と言うが、楽浪人は本来、その残余の人だと言われる。東方人は自分を阿。阿とは天=阿每(あめ)で扶桑の桑=蘇と阿每の阿が九州の阿蘇となる。

濊南與辰韓、北與高句麗、沃沮接、東窮大海、今朝鮮之東皆其地也。戸二萬。昔箕子既適朝鮮、作八條之教以教之、無門戸之閉而民不為盜。其後四十餘世、朝鮮侯淮(準)、僭號稱王。陳勝等起、天下叛秦、燕、齊、趙民避地朝鮮數萬口。燕人衛滿、魑結夷服、復來王之。漢武帝伐滅朝鮮、分其地為四郡。自是之後、胡漢稍別。

濊。南は辰韓、北は高句麗と沃沮に接し、東は大海(日本海)に尽き、今の朝鮮の東は皆、濊の土地である。戸数は二万。昔、箕子が朝鮮に行き着き、八條の教えを作り、これを教えたので、門戸を閉じずとも民衆は盗むことをしない。その後、四十余代の朝鮮侯淮は王を僭称。陳勝(と呉広が反乱を)起したことで、天下は秦王朝に叛くと、燕・齊・趙の民は戦乱を避けて朝鮮の地に数万人も逃げ込んだ。燕人の衛満が魑(まげ)を結び、夷服を着て、何度も往来して、ここの王となる。漢の武帝が朝鮮を討滅。その地を四郡に分けた。この後、胡と漢は少し別れた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-wai-.htm>

『三国志魏書』辰韓伝

辰韓在馬韓之東、其耆老傳世、自言古之亡人避秦役來適韓國、馬韓割其東界地與之。有城柵 其言語不與馬韓同、名國為邦、弓為弧、賊為寇、行酒為行觴。相呼皆為徒、有似秦人、非但燕、齊之名物也。名樂浪人為阿殘;東方人名我為阿、謂樂浪人本其殘餘人。今有名之為秦韓者。始有六國、稍分為十二國。辰韓は馬韓の東、その古老の伝承では、秦の苦役を避けて韓国にやって来た昔の逃亡者で、馬韓が東界の地を彼らに割譲したのだと自称している。城柵あり。言語は馬韓と同じではない。そこでは国を邦、弓を弧、賊を寇、行酒を行觴(酒杯を廻すこと)、皆のことを徒と呼び合ひ、秦語に相似しているが、燕や齊の名称ではない。楽浪人を阿残と呼ぶ;東方人は自分を阿と言うが、楽浪人は本来、その残余の人だと言われる。今はこの国の名称を秦韓とする。始

めには六国あり、十二国に細分化した。

Re:やまと 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月24日(月)23時16分30秒 返信・引用 編集済

> No.1004[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 紀元前 150年ごろの記録になる。

> 『山海経』に「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」の文章がある。 > 衛氏朝鮮は衛満朝鮮のことになる。神武天皇と神武天皇の末裔が満になる。 > > 古事記に戻るが「ワタツミノカミの娘のトヨタマヒメ(豊玉比売)」の豊玉比売は燕王:ワタツミノカミの娘になり、豊玉比売の子が彦瀲、彦瀲子の神武、神武が鉅燕を継承する。神武東征の内容が理解できますな。やまとは鉅燕の首都になる。満は匈奴になりその末裔が劉豹(匈奴)の劉豹以後、劉豹の子が皇帝になり。漢を統治する。 > 304年には漢は統治されている。よく似た名前はあるな。 >

先の匈奴系で西晋を滅ぼした前趙の件ですが、配下の民族を洗い出すと、軍人で後の後を建てた石勒を出した羯族がコーカソイド系のようなですね。 <http://structure.cande.iwate-u.ac.jp/china/ketsu.htm>

羯族

羯族は、後趙王国を建てた石勒(せきろく)の属する種族である。羯という名称は、彼らが匈奴の南下とともに、上党郡武郷県(現山西省東南部)に住んでいたことから呼ばれている。羯の意味は去勢された羊である。後趙は350年に漢人苻(草冠とる)閔(ぜんびん)に滅ぼされた。苻閔は軍隊を率いて羯族の大虐殺を行い、20万人以上も殺したという。その中には「鼻が高く、髭が多い」ために、まちがって殺されたものが半数近くいたと史書に書かれてある。

どうやら中国の史書で「高い鼻」「深い目」「多い髭」と書かれた羯族はモンゴロイドではなく、インド・ヨーロッパ系の人種であつたらしい。

(中国の歴史3 魏晋南北朝、講談社)

おそらく、虚勢された羊というのが、遊牧民っぽい話です。石勒については下記のとおり。

上党郡武郷(現山西省榆社の西北)の人。羯族の部落小帥・周曷朱の子。父の代理を務め、部人から信頼されていた。当時の羯族は経済的に困窮し、太安年間には并州の飢饉戦乱に遭

って部落離散していた。石勒も流浪の旅に出ざるを得ず、その途中で晋の東嬴公司馬騰に捕らえられ、山東の師懽に売られて奴隷とされた。師懽に認められ、自由の身とされた後、汲桑の馬牧場で働いた。

羯 [編集]

石勒の出身で五胡のひとつとされる羯(けつ)族とは匈奴の一種であり、『魏書』列伝第八十三にて「その先は匈奴の別部で、分散して上党武郷の羯室に住んだので、羯胡と号した。」とあり、『晋書』載記第四(石勒載記上)では「その先は匈奴の別部羌渠の胄(ちゅう:子孫)である。」とあるように、かつて南匈奴に属した羌渠種の子孫が上党郡武郷県(現山西省東南部)の羯室という地区に移住したため、この名がついたという。これについて内田吟風は「羯とは中国人がつけた蔑称であり、彼らが羯室に住んだため、そこにちなんで羯(去勢した羊)」という意味を含めて、羯と呼んだ。』[13]としている。また、E. G. Pulleyblank は「羯とはエニセイ語で石を意味する khes, kit の音訳で、石氏の石はその意識で ある可能性が強く、逆に羯室とは彼らが移住したためについた地名である。』[14]とした。後に羯は匈奴および異民族を指す代名詞となる(羯鼓:かっこ)。

魏の次代には存在が確認されていますね。もう少し前に移動していた可能性があります。 おもったより中国大陸部に匈奴が入っていたようですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/南匈奴>
#E5.8D.81.E4.B9.9D.E7.A8.AE.E6.97.8F

中でも羯が一番東に進出していたので、山東に関わる伝承が出てくるのでしょう。

この集団が、後に朝鮮・日本へ渡り、タタール系の製鉄技術を伝えたという線はないでしょうか。

先の扶余族の始祖解氏の出現は後漢初期で、そこまで羯の内陸進出年代がさかのぼれると、もうすこし面白いのですが羯族の部落小帥・周曷朱は、その扶余王族の曷思国と関係しない でしょうか。

Re:やまと 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 24 日(月)07 時 51 分 3 秒 返信・引用 編集済

> No.1003[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 理解できないようすな。

紀元前 150 年ごろの記録になる。『山海経』に「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」の文章がある。衛氏朝鮮は衛満朝鮮のことになる。神武天皇と神武天皇の末裔が満になる。

古事記に戻るが「ワタツミノカミの娘のトヨタマヒメ(豊玉比売)」の豊玉比売は燕王:ワタツミノカミの娘になり、豊玉比売の子が彦瀲、彦瀲子の神武、神武が鉅燕を継承する。神武 東征の内容が理解できますな。やまとは鉅燕の首都になる。満は匈奴になりその末裔が劉豹 (匈奴)の劉豹以後、劉豹の子が皇帝になり。漢を統治する。

304 年には漢は統治されている。よく似た名前はあるな。

匈奴と倭国等は卑弥呼が多く地名をそのまま残したので糸口になる。

神武東征の進軍ルートは茅渚の海からやまとへ向かう。堺から奈良の古道に茅渚の道があり、堺の海の黒鯛を茅渚と言う。クムガン、金剛山。大和。..。秦野北斗著書:徐福と邪馬台 国の茅渚の道です。

発掘は新しいものが先に出える。歴史は詳細に残り理解できるのは少し前の歴史、目的の古代でない。どうも秦野の DNA は古いみたいだな。

『山海経』海内北経に、「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」
衛氏朝鮮

燕王盧綰反、匈奴、満亡命、聚黨千餘人、魑魅結蠻夷服而東出塞、渡?水、居秦故空地上下鄣、稍役 屬真番、朝鮮蠻夷及故燕、齊亡命者王之、都王險。

燕王の盧綰(ロワン)が背き、匈奴に亡命すると、鬻(まげ)を結び、蛮夷の衣服を着た 満は千余の人々を連れて長城を出て東に逃れ、?水(清川江)を渡り、秦の時代の昔の空地に 居を構えて鄣(長城)を出入し、真番に軽く属していた朝鮮蛮夷や、その地に暮らす昔の燕 や齊からの亡命者らの王となり、王險城(王儉城とも)を都とした。

紀元前 202 年、項羽との熾烈な争いに勝利し、漢帝国を建てた劉邦(高祖)だが、やがて猜 疑心を募らせるようになり、次々と建国の元勳らを誅殺し、遂には幼少からの親友である燕 王の盧綰にも討伐軍を向けた。だが、盧綰は劉邦と戦うことを避け、一族を連れて万余の兵と ともに長城の関所付近に退避した。

満が千余の兵を連れて燕を脱出した時期もこの前後だろう。 鬻を結び、蛮夷の服を着るのは東夷の風習であり、司馬遷は満を、燕に仕えていた東夷の武 将か、従属していた部族長だと考えたようだ。満については姓も官位も伝わっていない。後に 中国の正史には「衛満」と記されるが、満を長城の衛士だと考えたのかもしれない。秦時代の昔の空地が、どの地域を指すのかは不明だが、燕の遼東長城の東端は大同江沿岸 の「満潘汗」、それを秦が補強したが、前漢は新たな長城を築いており、その東端は清川江沿岸 の「?水県」であることから、おそらく清川江と大同江の狭間を指すのだろう。

『漢書』朝鮮伝

朝鮮王満、燕人。自始燕時、嘗略屬真番、朝鮮、為置吏築障。秦滅燕、屬遼東外徼。漢興、為遼 難守、復修遼東故塞、至?水為界、屬燕。燕王盧綰反、入匈奴、満亡命、聚黨千餘人、椎結蠻夷服而 東走出塞、度?水、居秦故空地上下障、稍役屬真番、朝鮮蠻夷及故燕、齊亡在者王之、都王險。

内容は史記と同一だが、史記は「鄣塞」「上下鄣」、注記「地理志では楽浪郡の有雲鄣のこと」とあるが、漢書は「築障」「上下障」としている。障は「障壁=長城」であり、筆者も長城のことだ と考え、満は長城の関所を出入したとした。 また、漢書は?水を「楽浪の?水県」、史記は「地理志では?水の東に出れば塞(長城)外、西南 に至り、楽浪の西から海に入る」と注記がある。現在の大同江のことである。

満は、燕の滅亡で遼東郡の統治体制が乱れ、統治者不在となった清川江と大同江の狭間に 拠点を置き、そこから長城を出入して、燕に従属していた真番や朝鮮などの蛮夷、および燕 や 齊の流民(異民族)などを結集して、

その王になったのだろう。

Re:やまと 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月23日(日)23時27分23秒 返信・引用 編集済

> No.1002[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > やまと >
- > 『梁書』扶桑と『山海経』、『新唐書』日本伝から明確に成る。全貌を整理する。 >
- > 大漢国=大韓国=大和国=邪馬台国=やまと になり韓半島南部の倭国はやまとの 1 国 (ワニの国)になる。倭国=やまと は間違いになる。 > 卑弥呼は匈奴の末裔で、開花天皇の孫、祖孫が鸕鷀こと神功皇后になる。 >

匈奴の件ですが、先日のようにそのハラの概念が漢氏にみえ、そして関連の匈奴の三姓は「攣 鞬氏(れんていし、拼音:Luándī-shì)」と見え、後漢書では「虚連题氏(きよれんていし、拼音:Xūliántí-shì)」と見えます。

これが「蘭氏」と関わり、さらには秦韓の首長「廉斯(レンシ)」とも関わるのではないかと考えはじめています。

おそらく「桜蘭」などの語にみえる、月氏の系統です。この集団が、七枝刀を百済さらには日本へ贈るのですが、元はタタール系で、西匈奴と接していた集団、つまりサカ・月氏から取り入れた技術でしょう。

そこで課題は、どうして南朝の東晋に匈奴系の集団が入り込んだかですね。元々北朝時代の西晋のときに取り込んだものかどうか気になります。

八王の乱末期の304年には匈奴の大首長劉淵により漢(前趙)が河北に建国され、さらに蜀でも成漢が建国されるなど異民族の反乱、いわゆる永嘉の乱が激しさを増した。八王の乱は最終的に306年11月に東海王司馬越によって恵帝が毒殺され(病死説もあるが、毒殺の可能性も示唆されている)、12月にその異母弟である懷帝司馬熾が第3代皇帝に擁立される事で終焉した[1][2][3][4]。以後、西晋では司馬越が政権を握り、彼を主導にして体制の再建が図られ、江南にはその命令で江南軍方面司令官・安東將軍・都督楊州諸軍事に任命された皇族の琅邪王司馬睿が華北第一の貴族王導と共にわずかな供回りを連れて赴任した[5]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/東晋>

おそらく上記のように、一度匈奴が北朝領域を把握していますね。その後、まだ北朝に司馬氏がいて、東晋も山東から江南にかけて支配したということになるのでしょうか。

この辺で匈奴系の配下にいた月氏等の技術民が流れ込んだ、取り残された可能性を感じますね。

東漢氏の配下に先述のように、司馬氏がいます。これは官職の司馬ではなく、司馬王族の末裔なんです。鞍作りも馬の飼育に関わり、製鉄技術と乗馬技術をもたらしした東漢氏として、東晋→百済→仲哀・応神朝へと渡ってくるのですが、その辺の流れでタタール製鉄が入ってくるんでしょう。

やまと 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年12月22日(土)23時53分3秒 返信・引用 編集済

やまと

『梁書』扶桑と『山海経』、『新唐書』日本伝から明確に成る。全貌を整理する。

大漢国=大韓国=大和国=邪馬台国=やまと になり韓半島南部の倭国はやまとの 1 国 (ワニの国)になる。倭国=やまと は間違いになる。神武天皇は韓半島(大韓国)から筑紫城 (瑞穂の国)を統治した。神武天皇の末裔は鉅燕から匈奴に亡命し匈奴となる。統治は女国 (女:アマテラス)と東女国(魏志倭人伝の女王国):瑞穂の国とし、軍事の供給は扶桑国とする。一方、中近東ではユダヤを吸収しフン族になる。フン族の記録は黙示録に記される。末裔の勢力範囲はヨーロッパ、インド、アジアを含むユーラシア帝国を築く。中近東の首都はバビロン、その他 2 箇所。ユーラシア帝国の勢力地図は子持ち勾玉に記録、子持ち勾玉は世界地図に相当する。尚、注

意して欲しい事は匈奴についてはバラバラではなく統率されていた模様。 統率者の記録は卑弥呼が残した記録で欠史八代になる。

卑弥呼は匈奴の末裔で、開花天皇の孫、祖孫が壺輿こと神功皇后になる。

卑弥呼

卑弥呼は公孫淵と扶余により韓半島から筑紫城(瑞穂の国)に追われた。魏志倭人伝、陳寿の 情報は魏からバビロンに通報される。魏は卑弥呼を追いやった公孫淵を司馬懿によって追討 する。一方、フン族は 2 部族を日本に出兵。フン族、鮮卑、月氏は韓半島の扶余を壊滅させる。 フン族は百済、月氏は新羅を建国する。新羅の羅は女国、中印度の羅の模様。また扶桑の桑は 東女国の蘇の模様。

神功皇后

卑弥呼の継承者、壺輿こと神功皇后は百済(フン族)の使者の依頼により、韓半島へ出陣する。 これが三韓征伐になる。三韓征伐の武内宿禰、武振熊命は卑弥呼の三公と思われる。

『山海経』海内北経に、「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」

中印度 波理夜?羅国(パーリヤートラ) 秣菟羅国(マトウラー) 薩他泥湿伐羅国(スターネーシヴァラ) 率禄勤那国(スルグナ) 秣底補羅国(マテプラ) 婆羅吸摩補羅国(ブラフマプラ) - 蘇伐刺拏瞿?羅国(スヴァルナゴートラ、東女国) 瞿?霜那国(ゴヴィシャーナ) 聖醯掣?羅国(アヒチャツトラ) ?羅刪拏国(ヴィラサーナ) 劫比他国(カピタカ)

『新唐書』日本伝

其俗多女少男、有文字、尚浮屠法。其官十有二等。其王姓阿每氏、自言初主號天御中主、至彦瀲、 凡三十二世、皆以「尊」為號、居筑紫城。

その俗は女が多く男が少なく、文字があり、仏教の教えを尊ぶ。その官には十二等級がある。王姓は阿每氏、自ら言うには、初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、およそ三十二世、 皆が「尊」を号として、筑紫城に居住する。

彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次曰綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次孝 靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。

彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は綏靖、次は 安寧、次は懿德、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、次は崇神、次は垂仁、次は景行、次は成務、次は仲哀という。

梁書 『梁書』によると、僧慧深(けいしん、拼音: Huishēn ホイシェン)が普通年間 (520 年?527 年)に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北 7000 余里(373km 余、秦野距離)に文身国が、その東 5000 余里(267km 余)に大漢国(やまと)があり、大漢国の東 2 万余里(1067km 余)に扶桑がある。

これが理解できれば平氏、源氏、倭の五王(蘇我)が明確に成る。 世界帝国の日本の存在は DNA で証明済みのようすな。現在は方向は逆に成っているな 日本も自信を持てばいいのに。韓国は日本を祖とするアトランテス系で阿残(阿:天津神) 平氏、源氏、倭の五王(蘇我)はユダヤの 2 部族で家紋で識別できる。(国津神) 管理人さんはユダヤ部族になる。秦野はアトランテス系(阿:天津神)になるな。 解説は秦野北斗著書:徐福と邪馬台国の秦野距離は古事記、日本書記を読みとける。

徐福がイザナギ、秦の技術者、ブレインがイザナミになる。秦の技術の須恵器は製鉄の高炉技術で古墳に残る円筒埴輪は製鉄高炉で埋葬品の甲冑が良い例。造船は 100 m 級になる日本書 記の記録から推定できる。揚水技術は堺に狭山池がのこる。弥生は BC200 年秦より齎された。 (注)イザナギ、イザナミは古事記から読取れる。「いみな」になる。また、能、雅楽、日本舞踊、祭 りに残されている。白村江、三韓征伐、扶桑、…の記録がのこる。

日本の古代は軍治国家。第一次、二次世界大戦が理解できる。 Re:ウバイド 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 21 日(金)23 時 15 分 17 秒 返信・引用 編集済

> No.1000[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 元は天智系とも関わり、…。天智は 600 年代もっとバック遡る必要がある。 > 結論がはやいのではないかな。300 年代の弓月君…それよりも少し百済、新羅の建国 > まで、遡りませんか。歴史が見えてきますぞ。
>

> 葛原親王、多治比長野の家系が見えてくるかもな。 >

桓武妃高野新笠を遡ると、新(今来)漢人が出てきますね。

京都市北区平野宮本町に鎮座する延喜式名神大社平野神社は高野新笠と縁の深い神社である。平野神社の祭神は今木神、久度神、古開神、比咩神の四座で、平安京遷都によって京都に遷座した。今木神の今木は今来のこと、渡来人を意味する。平城京時代に田村後宮にあった今木大神は高野新笠と山部親王が祭祀していたことが判明している。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/高野新笠>

先述のようにこのうち近江方面の新漢人がまた天智を支えるのですが、その関連の竈神は製鉄と関わるでしょう。今来が今木になるのは、高句麗系の賢木祭祀の件で、これらも新漢氏系です。後に宮殿に導入するんですね。

秦野さん注目のアマテラス・神功皇后の関連祭祀ですね。神功陵のある高野原が、高野新笠の本拠のようですが、おそらく「高」の字がしきりにでてくる背景には、高句麗経由で渡ってきた新漢氏系の渡来人の影響があるのではないかと感じます。

後の平氏の祖となる高見王、高望王、そして先述の巨麻・高麗郡ですね。この辺が奈良時代の女帝たちの領地となっていた背景には、ひとつの接点があるでしょう。

おそらく関連して大伴氏がかかわってきます。大伴親王がいますね。桓武の次の嵯峨の次の代に天皇になります。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/淳和天皇>

この親王にも注目すべきかもしれません。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/高岳親王>

『みんな大好き♪嵐の推しメン』ランキング 377 人が見えています More....

『カウントダウンを過ごしたい場所』ランキング 139 人が見えています

More....

『好きなカップ麺』ランキング 278 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re: ウバイド 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 21 日(金)06 時 21 分 47 秒 返信・引用

> No.999[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

元は天智系とも関わり、…。天智は 600 年代もっとバック遡る必要がある。 結論がはやいのではないかな。300 年代の弓月君…それよりも少し百済、新羅の建国 まで、遡りませんか。歴史が見えてきますぞ。

葛原親王、多治比長野の家系が見えてくるかもな。

>> おそらく平氏が関東に基盤を拓げるにあたっては、この種の金属精錬技術者が背後にいたのではないでしょう。渡来系ですね。 >> 桓武朝時代にも百済系の渡来人の影が見えますが、元は天智系とも関わり、秦野さんが予想するような大陸系の交易集団との関わりがあったかもしれません。

Ads by Google Re:ウバイド 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 20 日(木)23 時 32 分 22 秒 返信・引用

> No.998[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >

- > 平氏の家紋 >

- > 平氏(へいし、たいらうじ)は、「平」を氏・本姓とする氏族。姓(カバネ)は朝臣。家紋は 揚羽蝶、鱗など。
>> 歴史家は気づかないのですな。平氏の家紋はユダヤそのものですな。

>>

平氏の出自については、いろいろ取りざたされてますね。 この人物が祖との見方があるようですが、甲斐の巨麻郡を領しているあたりに、関東高麗郡 に見えるような高麗系の氏族とのつながりを感じます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/葛原親王>

母が多治比氏ですね。この氏族がやはり関東多胡郡といった、高麗系氏族と関わり製鉄、精 銅に関わります。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/多治比長野>

おそらく平氏が関東に基盤を拓げるにあたっては、この種の金属精錬技術者が背後にいたの ではないでしょうか。渡来系ですね。

桓武朝時代にも百済系の渡来人の影が見えますが、元は天智系とも関わり、秦野さんが予想 するような大陸系の交易集団との関わりがあったかもしれません。 Re: ウバイド 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 12月 20日(木)20時 08分 43秒 返信・引 用 編集済

> No.997[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

平氏の家紋

平氏(へいし、たいらうじ)は、「平」を氏・本姓とする氏族。姓(カバネ)は朝臣。家紋は揚 羽蝶、鱗など。

歴史家は気づかないのですな。平氏の家紋はユダヤそのものですな。

揚羽蝶はキリストの復活。青虫がさなぎに成り、蝶になる。

鱗はギザのピラミッドですな。

これらは黙示録に説明されるバビロンが、読み解けていない。

残念。

ウバイド文化はアトランテス文明のポリスなんですな。 ノアの洪水で壊滅するが洪水後に復活している。

> 関連して?今日読んだエジプト王暗殺の記事が興味深いですね。 Re:ウバイド 投稿者:管理人 投稿日:2012年 12月 19日(水)23時 01分 3秒 返信・引 用

> No.996[元記事へ] 荊の紀氏さんへのお返事です。

> ウバイド文化(Ubaid culture, 紀元前 5500 年ごろ - 紀元前 3500 年ごろ)はメソポタミア に誕生した先史文化。イラク南部ジークール県のウル遺跡の西 6 キロメートルにあるテル ・ アル=ウバイド(al-`Ubaid, ??????... <A

関連して?今日読んだエジプト王暗殺の記事が興味深いですね。

<http://www.cnn.co.jp/fringe/35025965.html>

『好きな NBA プレーヤー』ランキング 511 人が見えています More....

『24 の興奮したシーズン』ランキング 396 人が見えています More....

『カラオケで歌ったら迷惑な曲』ランキング 1647 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google ウバイド 投稿者:荊の紀氏 投稿日:2012年 12月 19日(水)00時 44分 54秒 返信・引 用

ウバイド文化(Ubaid culture, 紀元前 5500 年ごろ - 紀元前 3500 年ごろ)はメソポ タミア に誕生した先史文化。イラク南部ジークール県のウル遺跡の西 6 キロメートルにある テ ル ・ ア ル =ウ バ イ ド (al-`Ubaid, ?????... <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

%E3%82%A6%E3%83%90%E3%82%A4%E3%83%89%E6%96%87%E5%8C
%96<http://blogs.yahoo.co.jp/matmkanehara/33356301.html>

『八幡教』が生まれた世界宗教史 - 歴史徒然:ウバイド・倭人(ウワイト) ... 言葉を変えると、ヤマト朝廷の権威の源が『八幡信仰』だったのである。だから全国に3万を超える八幡社があり、それが会社のような働きをもつ「社」の全国組織を形成し、朝廷の名が「八幡徒=ヤマト」と呼ばれてきたのだということが、はっきりわかる。

「すべての宗教はウバイドに遡る」<http://blogs.yahoo.co.jp/kairouwait08/30915620.html> ブログのタイトルは倭人(ウワイト)から名づけました。 http://matmkanehara-momo.blogspot.jp/2009/08/blog-post_13.html

太陽・幸福の女神・吉祥天の崇拜や、神托、巫女、鏡を排斥して厳禁していた。

これを卑弥呼の『鬼道』と比較してみると <http://bloghistorygallery.blog10.fc2.com/blog-entry-1900.html> その指導者はもちろん「男王」である。

Ads by Google Re:2つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月18日(火)23時09分23秒 返信・引用

> No.994[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 108の意味はユダヤ 12部族の各部族に首長 9人が居たのではないかと。 > 12×9=108 >> 仏教やキリスト教における独立した教会組織の代表者。たとえば、イングランド国教会におけるイギリス(イングランド)国王の地位は、いわゆる「国王至上法(首長令)」に基づき「首長」と表現される。

>

この辺が面白いですね。開封からインドに逆戻りしてます。 <http://indo.to/kahkashaan/2007/01/06/北東インドのユダヤ教徒/>

ここの山幸関連との系譜比較が重要。

<http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracame.htm>

イスラエル文化の比較があります。

<http://www5.ocn.ne.jp/~magi9/isracam4.htm>

こちら日本語翻訳ページにての結果

http://honyaku-result.nifty.com/LUCNIFTY/ns/wtf.cgi?XPID=22159_0

Re:2つのクムガン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年12月18日(火)19時36分43秒 返信・引用 編集済

> No.993[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

108の意味はユダヤ 12部族の各部族に首長 9人が居たのではないかと。

12×9=108

仏教やキリスト教における独立した教会組織の代表者。たとえば、イングランド国教会におけるイギリス(イングランド)国王の地位は、いわゆる「国王至上法(首長令)」に基づき「首長」と表現される。

首長(しゅちょう;くびちょう)とは、行政機関(日本の場合は特に地方公共団体)の長を意味する言葉である。広い意味では集団・組織を統率する長を意味するが、国や制度によって、以下のような様々な用法がある。

Re:2つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月17日(月)23時13分19秒 返信・引用

> No.992[元記事へ]

>> 算盤玉がただの装身具だったかどうか気になってきます。 > 二万大塚古墳 第三次発掘調査 概要報告 <http://www.okayama-u.ac.jp/user/arch/nima3gaihou/sousingu.htm>

> チベット密教(仏教)徒に最も好まれている鳳眼菩提樹のお数珠です。108粒のお数珠。 古代(紀元前5~1世紀)の縞瑪瑙とカーネリアンを配しております。その他オールドグラスビーズ(トンボ玉)など。
<http://blogs.yahoo.co.jp/djyxt593/44475650.html> >

>

水晶について、興味を持っています。このカットの鮮やかさは相当硬度の高いもので削ったのでしょうか。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/石英>

どこにでもあるため、砂埃(すなぼこり)にも石英が含まれている。石英はモース硬度7なので、プラスチック・金属・車の塗装などは砂埃で容易に傷ついてしまう。そのため、宝石は石英より硬度の高いものが選ばれていることが多い。これは砂埃などで簡単に傷ついたりしては困るからである(ただし生体起源の宝石である真珠や珊瑚、琥珀などは例外)。日本国内においても各地で産出するが、そのなかでも山梨県甲府市、岐阜県中津川市、愛知県春日井市などで産出されたものが有名である。岩手県矢巾町にある南昌山では宮沢賢治が

水晶を採集していた。

ローマ系のガラス工芸技術に関係するのではないのでしょうか。

<http://www.s-russia.co.jp/archives/01antique-04/1loc-in.html>

火打石としても知られていたようです。こちらの火打石の動画が面白いです。

<http://www.ise-miyachu.co.jp/faq/?p=638>

あと、計算とコンパスの件ですが、下記の記載が重要です。

邪馬台国の卑弥呼が中国・魏から受けたとの説もある三角縁神獣鏡の製作に、「挽型(ひきがた)」と呼ばれる木型が使われていたとみられることが、奈良県立橿原考古学

研究所の調査でわかった。

円形の鋳型を作る際、コンパスのように回転させて使う道具で、謎の多い鏡の製作過程を知る手がかりになると期待される。27日に東京・立正大で開かれる日本考古学協会総会で発表される。

挽型は、鋳型の断面を刻んだ板で、軸を中心に回転させて粘土などを削り、立体的な鋳型にする。同研究所が、それぞれ同じ文様を持つ9組の鏡計36面について、精密なデータを比較。このうち、7組の33面で、挽型の軸を立てた際にできたくぼみとみられる跡や、同心円の凹凸の形状が完全に一致した。

挽型

<http://www.reves-db.jp/NAZO-NAZO/024-D-1-PHOTO.html>

この3次元計測データの一致をうけて水野敏典総括研究員は推論する。

「同じ挽型をこれだけ使い回して何枚も製作している点からも、

従来考えられていたより比較的小規模の製作工房だったのではないか。

少人数の工人が様々な種類の三角縁神獣鏡を短期間に

まとめて製作していた可能性がある。そして中国製も日本製の鏡も

技術的に同じ作り方だったと確認できたことも大きい」

<http://www.rekishijin.jp/rekishijinnews/12-0615/>

これは中郷から日本へ関連の鏡製造技術者が渡ってこないと無理ですね。ごく古墳時代初期に渡ってきている必要があるでしょう。

Re:2つのクムガン 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012年12月17日(月)11時51分46秒 返信・引用

> No.991[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

>算盤玉がただの装身具だったかどうか気になってきます。 二万大塚古墳 第三次発掘調査 概要報告

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/arch/nima3gaihou/sousingu.htm> >算盤玉のような形の物もあります

108の煩惱 複素数 π 1080 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?> チベット密教(仏教)徒に最も好まれていた鳳眼菩提樹のお数珠です。108粒のお数珠。 古代(紀元前5~1世紀)の縞 瑪瑙とカーネリアンを配しております。その他オールドグラ スピーズ(トンゴ玉)など。 <http://blogs.yahoo.co.jp/djyxt593/44475650.html>

縫い目が108個になっています。・1、2、3までのかけ算。1から3まで、それぞれの数を

、その数の分だけ掛け合わせると 108 となります。1を1回、2を2回、3を3回掛けます。

$1 \times 2 \times 2 \times 3 \times 3 \times 3 = 108$. <http://uraomote.2-d.jp/archives/413> とっても不思議な数字

「9」<http://blog.livedoor.jp/kodastyle/archives/52149557.html> 「9」は何かをかけて、バラバラにして足すと「9」に戻ります。

9と言う数。中国ではとても大切にしている数らしいですよ。 > Re:2つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月16日(日)23時13分45秒 返信・引用

> No.990[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > (三角縁四神二獣鏡) >
- > 遺跡名 真土大塚山古墳(平塚市真土字十四ノ域)
- > 大きさ 径 22.1 cm
- > 年代 古墳時代前期(4世紀) >>
- > 説文解字の「咫」に、「周尺の八寸を咫とし、十寸を尺とする」とある。この「周」とは円周のことであり、咫とは円周の単位であった。円周率は約 3.14 であるが、これを 3.2 で近似すると、 径 1 尺の円の円周は 3.2 尺となり、これを 4 咫とした。従って 1 咫は 0.8 尺である。 > 日本の八咫鏡は円周 8 咫、すなわち径 2 尺という意味である。後漢の尺は 23.04cm である から、直径 46cm 前後の円鏡を指し、現在 4 枚の出土例がある。

ご紹介の古墳に、水晶製の算盤玉というのが出土しているのが興味深いです。

砂丘の上に立てられた古墳とのことですね。メソポタミアやギリシャに砂の上に石を置く算 盤があったそうです。 感代の中国にあったようですね。

起源については諸説あるが、アステカ起源説、アラブ起源説、バビロニア起源説、中国起源説 などがある。 メソポタミアなどでは砂の絵に線を引き、そこに石を置いて計算を行っていた「砂そろばん」

の痕跡がある。同様のものはギリシャなどにも残るが、ギリシャ時代には砂だけでなくテーブルの上などにも置いていた。このテーブルを「アバクス (abacus)」と言う。ローマ時代に持ち運びができるように小さな板に溝を作りその溝に珠を置く溝そろばんが発明された。この溝 そろばんが中東を経て中国に伝わり現在の原型となったとも言われている。現存する最古の そろばんは 1846年にギリシアのサラミス島で発見された「サラミスのそろばん」と呼ばれるもので、紀元前 300 年頃のものである。 中国では紀元前の頃から紐の結び目を使った計算方式や、算木を使用した籌(ちゅう)と呼ばれる独自の計算方式があった。これらは紐や竹の棒や木の棒で計算していたものであり、 桁を次々に増やせる利点はあるが珠の形ではない。珠の形になったのは 2 世紀ごろの事と考えられ、『数術記遺』と言う 2 世紀ごろの書籍に「珠算」の言葉がある。なお三国志の武将、関羽 がそろばんの生みの親とする伝説があるが三国時代より前から中国と中東・ローマには交易の痕跡があるため関羽が発明したと言うのは伝説以上のものではない。ただし中国では 良く知られている伝説であり、関帝廟の壁や柱には絵や彫り物のそろばんが描かれている。 1000 年ごろにはアステカにもそろばん状のものが存在していた。珠にとうもろこしの芯が 使われ、紐に通していたと考えられている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/そろばん>

算盤玉がただの装身具だったかどうか気になってきます。こちらその形状。

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/~maibun/tenji39.htm> <http://www.okayama-u.ac.jp/user/arch/nima3gaihou/sousingu.htm>

計算道具として使用したとすると、数が気になる場所ですね。ある程度計算できないと、尺距離の算出も正確にできなかったでしょう。

Re:2つのクムガン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年12月16日(日)00時14分27秒 返信・引用 編集済
> No.989[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古事記を読むと BC200年にアマテラスがイザナギの命令で来ている。当時、中国は年代から秦である。長さの単位はそのまま後漢に引き継がれるため。八咫鏡は径2尺、直径46cm前後で製作された事になるな。アマテラスにより尺が持込まれた模様。八咫鏡は秦鏡で鉄になる。

どうも、1尺のさしを持っていたな。径2尺は1尺のさしの一方を固定し円を書けばよい。古墳になるが、製作年月日が特定できそう。鏡のサルタヒコ(灯籠)の位置が鏡により異なる。また、大きさも異なるため鏡の大きさが古墳の円墳に比例する可能性もあるな。

尚、鏡の東西南北は鏡により異なると思われるがサルタヒコの位置は変わらないと想定すると 北は奈良、南は九州、東は四国、西は出雲。

(三角縁四神二獣鏡)

遺跡名 真土大塚山古墳(平塚市真土字十四ノ域) 大きさ 径 22.1 cm 年代 古墳時代前期(4世紀)

説文解字の「咫」に、「周尺の八寸を咫とし、十寸を尺とする」とある。この「周」とは円周のことであり、咫とは円周の単位であった。円周率は約 3.14 であるが、これを 3.2 で近似すると、径1尺の円の円周は 3.2 尺となり、これを 4 咫とした。従って 1 咫は 0.8 尺である。日本の八咫鏡は円周 8 咫、すなわち径 2 尺という意味である。後漢の尺は 23.04cm であるから、直径 46cm 前後の円鏡を指し、現在 4 枚の出土例がある。

「一寸千里の法」棟上寅七の計算は誤差が大きすぎる。誤差を考慮すると短里は 43 m になる。

短里 76~77 m は誤差のかたまりだな。地球の大きさから短里を計算するなはナンセンスである。実測が一番ですな。

Re:2つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月15日(土)23時17分9秒 返信・引用
> No.987[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

>>八咫鏡が伊都国の46 cm 鏡とすると >1 キュービット = 45.72 センチメートル >>>1 尺=0.8 咫で計算すれば、8 尺になるのでよいのかもしれませんが。

ご紹介の記事は重要ですね。

『説文』の「丈」の説明の検討

「周代は、1尺は8寸であった」という記述にぶつかりました。それは、【小学館日本大百科 全書「丈」の説明
『説文』によれば「丈丈夫也、周以八寸為尺、十尺為丈、人長八尺故曰丈 夫」とあり、周は寸(後漢の尺で実長約 6 寸)を 1 尺とした。】 <http://www6.ocn.ne.jp/~kodaishi/michikusa23ginotanri.html>

そうすると、この寸の長さが、何に起因していたのが気になりますね。

当初の寸は親指の幅を指す身体尺であったと考えられている(これはインチも同様である)。尺は親指と人差指を広げた時の幅であり、元々の寸は尺とは独立に発生したものと考えられるが、周代に尺の 10 分の 1 とされるようになった。漢代には黍一粒の幅を 1 分と定め、10 分を 1 寸とした。尺の長さが変わっても常に

1 尺=10 寸という関係は保たれた。手の象形の左に横線を引いたものが「寸」という文字の元々の形である。これは、手首に親指を当てて脈拍を計る様子を形取ったものであり、そこから親指の幅を指す現在の寸の意味になったという。また、『説文』には「人の手をへだてること一寸、脈拍これを寸口といふ」という記述があり、ここから、手の平の下端から 1 寸の位置で脈を計るため、「寸」の文字がこの長さを表すようになったとする説もある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/寸> 黍の長さを 1 分とすると、王朝尺が伸びていった理由が、黍の大きさが大きくなった??と

ということになるでしょうか。

親指の幅があるいは太くなったというのもおかしいですね。 インチも親指の幅で、麦の長さに関わっています。

あるいはベルクマンの法則で、寒くなっていったので、身長が大きくなり尺度も大きくなったという線はどうでしょうか。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/ベルクマンの法則> 北欧人ほど背が高い…

<http://ja.wikipedia.org/wiki/身長> 気温変化

http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:2000_Year_Temperature_Comparison.png

ちょっとむずかしいかな…。 Re:2 つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 15 日(土)22 時 50 分 34 秒 返信・引用

> No.986[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>「東王父西王母」ですが、扶桑と一致しますな。東王父が東女国、西王母が女国。 >> 三角縁にはまた仏獣鏡は奈良の耳成山から小浜、舞鶴方向になる。この方向にも古代の古道があり約 3.7 km ごとに灯籠が有ったのではないかと。 >

このラインはありそうな感じがしますね。細かく遺跡をみていけば何か道の痕跡が出てくるかもしれません。

あと三角縁神獣鏡の「東王父西王母」の件ですが、先日の盤龍鏡と北斗七星との対応を考慮すると、やはり東西を示す指標だった可能性を感じます。

そばに笠松紋様がありますが、これがまた東西南北の方位を示すかのごとく 4 本程度、連なっています。

ただ、その笠松紋様が数度左にずれるケースも多く、おそらくこれが北極星の天頂からのズレを示していたのではないのでしょうか。図を添付します。

Re:2 つのクムガン 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 12 月 15 日(土)11 時 42 分 10 秒 返信・引用

> No.981[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 棘の紀氏さんへのお返事です。 >八咫鏡が伊都国の 46 cm 鏡とすると 1 キュービット = 45.72 センチメートル

>1 尺=0.8 咫で計算すれば、8 尺になるのでよいのかもしれませんが。 「1 尺=8 寸」説は『周髀算経』の該当部分では妥当ではありません。影長:1 尺 6 寸⇒距離: 16000 里(夏至) 影長:1 丈 3 尺 5 寸⇒距離:135000 里(冬至) 竹空

長:8 尺=80 寸(「日髀の率」の計算) となっていて、明らかに 1 尺=10 寸の制です。 疑問の余地はありません。従って、「1 尺=8 寸」説は史料事実と反します。また、『説文』の文面も古来解釈の分かれている部分で、『小学館日本大百科全書』の説明は一解釈ではありますが、それで確定している訳ではありません。勿論「1 尺=8 寸」を仮説として採用して検討することは構いませんが、該当文献の史料事実と反するとすれば、根拠の乏しい仮説であり、『周髀算経』(上巻)の史料批判には採用できないと判断すべきです。】 <http://8220.teacup.com/toraijin/bbs>

>八咫鏡が伊都国の 46 cm 鏡とすると 1 キュービット = 45.72 センチメートル

>1 尺=0.8 咫で計算すれば、8 尺になるのでよいのかもしれませんが。 「1 尺=8 寸」説は『周髀算経』の該当部分で

は妥当ではありません。影長:1尺6寸⇒距離:16000里(夏至) 影長:1丈3尺5寸=距離:135000里(冬至) 竹空

長:8尺=80寸(「日晷の率」の計算) となっていて、明らかに1尺=10寸の制です。 疑問の余地はありません。従って、「1尺=8寸」説は史料事実と反します。また、『説文』の文 面も古来解釈の分かれている部分で、『小学館日本大百科全書』の説明は一解釈ではありません

が、それで確定している訳ではありません。勿論「1尺=8寸」を仮説として採用して検討することは構いませんが、該当文献の史料事実と反するとすれば、根拠の乏しい仮説であり、『周髀算経』(上巻)の史料批判には採用できないと判断すべきです。】
<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs>

>

『タカハシマイちゃんの好きなコーデ』ランキング 591 人が見えています More....

『歴代 windows』ランキング 533 人が見えています More....

『テンションがアがる OP 曲』ランキング 464 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO

Ads by Google Re:2 つのクムガン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 15 日(土)08 時 15 分 53 秒 返信・引用

> No.985[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

「東王父西王母」ですが、扶桑と一致しますな。東王父が東女国、西王母が女国。 三角縁にはまた仏獣鏡は奈良の耳成山から小浜、舞鶴方向になる。この方向にも古代の古道

があり約 3.7 km ごとに灯籠が有ったのではないかな。

竹之内街道と茅渥之道を灯籠

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs?page=4&>

> こうみると、用明の時代に使用されましたが、元は中国系の可能性もありますね。先日論じた下記の記載を再度引用します。 >

- > 中平六年
- > (189 年)
- > 四獣鏡 中国 1 □ 11.82
- > 「中平六年正月丙午日 吾作明鏡 幽凍三羊 自有己 除不羊 宜孫子 東王父西王母 仙人玉女 大神道 長史買竟 位至三公 古人買竟 百倍田家 大吉 天日月 (右回 り)」 >> 「日本出土の中平鏡には「東王父西王母」の句はない。 > 梅原未治著『漢三国六朝紀年鏡図説』は、この主文の図形が三角縁神獣鏡の獣形に類似して いるという。」 >> やはり中平刀の剣とあわせてヒミコとかかわりそうですね。大神道は、それほど悪い意味 にはみえません。 > 鬼道と神道は、かなり近かったのではないのでしょうか。プレ道教系にも見えます。 >> 三角縁にはまた仏獣鏡があり、ご指摘の仏教の影響も考慮すべきかもしれません。丹波方 面に仏獣鏡がみえますね。神仙思想と丹波の関係が深いですが、その辺も気になります。 >

Ads by Google Re:2 つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 15 日(土)00 時 36 分 30 秒 返信・引用

> No.984[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>扶桑で中インド(女国)との関係が生じたので鬼道について追求します。

>

- > 鬼道は密教、キリスト教、でルーツは神道ではないか。 >>
- > 鬼道 >
- > 鬼道(きどう)とは、邪馬台国の女王卑弥呼が国の統治に用いたとされる。『三国志』魏書 東夷伝倭人条に記述がある。鬼道が何であるかについては、諸説ある。 >> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AC%BC%E9%81%93>

> 神道 >>「神道」という名称については「かながらの道(神道)」と言う意味である。中国の『易経』や『晋書』の中にみえる神道は「神(あや)しき道」と言う意味であり、これは日本の神道観念とは性質が異なる別個のものである。同様のケースに、卑弥呼の時代の宗教感に対し鬼道という表現がなされるが、これは当時の中国における鬼道が道教以外の諸宗教に対して用いられていたことから、日本での呼称とは全くの別物であることが分かる。 >> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E9%81%93> >>

鬼道と神道の区別は重要です。下記紹介の wiki ページの神道条に興味深い記載がありますね。

神道」という名称については「かながらの道(神道)」と言う意味である。中国の『易経』や『晋書』の中にみえる[10]神道は「神(あや)しき道」と言う意味であり、これは日本の神道観念とは性質が異なる別個のものである。同様のケースに、卑弥呼の時代の宗教感に対し鬼道という表現がなされるが、これは当時の中国における鬼道が道教以外の諸宗教に対して用い

られていたことから、日本での呼称とは全くの別物であることが分かる。日本における「神道」という言葉の初見は『日本書紀』の用明天皇紀にある「天皇、仏法を信(う)けたまひ、神道を尊びたまふ」であるが、[11]、このように外来の宗教である仏教と対になる日本固有の信仰を指したものだ。[12] [13]。

こうみると、用明の時代に使用されましたが、元は中国系の可能性もありますね。先日論じた 下記の記載を再度引用します。

中平六年 (189 年) 四獣鏡 中国 1 □ 11.82「中平六年正月丙午日 吾作明竟 幽凍三羊 自有己 除不羊 宜孫子 東王父西王母 仙人玉女 大神道 長吏買竟 位至三公 古人買竟 百倍田家 大吉 天日月 (右回 り)」

「日本出土の中平鏡には「東王父西王母」の句はない。梅原未治著『漢三国六朝紀年鏡図説』は、この主文の図形が三角縁神獣鏡の獣形に類似しているという。」<http://www.ne.jp/asahi/issun/original/mater10.html>

やはり中平刀の剣とあわせてヒミコとかかわりそうですね。大神道は、それほど悪い意味にはみえません。鬼道と神道は、かなり近かったのではないのでしょうか。プレ道教系にも見えます。

三角縁にはまた仏獣鏡があり、ご指摘の仏教の影響も考慮すべきかもしれません。丹波方面に仏獣鏡がみえますね。神仙思想と丹波の関係が深いですが、その辺も気になります。

<http://www21.atpages.jp/skeikas/page186.html> Re:2 つのクムガン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 14 日(金)23 時 48 分 48 秒 返信・引用

> No.977[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

扶桑で中インド(女国)との関係が生じたので鬼道について追求します。鬼道は密教、キリスト教、でルーツは神道ではないか。神道最高神は初代アマテラス。二代目アマテラスは伊勢神宮

鬼道

鬼道(きどう)とは、邪馬台国の女王卑弥呼が国の統治に用いたとされる。『三国志』魏書東夷伝倭人条に記述がある。鬼道が何であるかについては、諸説ある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AC%BC%E9%81%93>

インド密教

概略を説明すると、密教成立の背景には、インド仏教後期においてヒンドゥー教の隆盛によって仏教が圧迫

された社会情勢がある。ヒンドゥー教の要素を仏教に取り込むことでインド 仏教の再興を図ったのが密教である。しかし結果的には、インド仏教の密教化はヒンドゥー 教の隆盛とインド仏教の衰退を変えられなかった。西アジアからのイスラム勢力が北インド を席卷しつつあった時代にあって、やがてインド仏教は、インド北部から侵攻してきたイス ラム教徒政権(デリー・スルタン朝)とインド南部のヒンドゥー教徒政権との政治・外交 上の挟撃に遭うことになる。当時のイスラム教徒から偶像崇拜や呪術要素を理由として武力 的な弾圧を受け、12 世紀におけるインド密教の最後の砦であったヴィクラマシーラ大僧院 の炎上をもって、インドにおける密教は最終段階のインド仏教として歴史的には消滅に追い 込まれる結果になった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%86%E6%95%99>

神道

「神道」という名称については「かながらの道(神道)」という意味である。中国の『易経』や『晋書』の中にみえる神道は「神(あや)しき道」という意味であり、これは日本の神道観念と は性質が異なる別個のものである。同様のケースに、卑弥呼の時代の宗教感に対し鬼道という表現がなされるが、これは当時の中国における鬼道が道教以外の諸宗教に対して用いられ

ていたことから、日本での呼称とは全くの別物であることが分かる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E9%81%93>

神道最高神としての、アマテラスとタカミムスヒ

<http://jderby.blog51.fc2.com/blog-entry-2710.html>

Re:2 つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 14 日(金)22 時 42 分 40 秒 返信・引用

> No.982[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> > 1 尺=0.8 呎で計算すれば、8 尺になるのでよいのかもしれませんが。 > …「一里=300 歩=1800 尺=約 435 メートル」、…… > 髀 卑 卑弥呼 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs> >

ご紹介の穢族のページで、特に「奴」が出てくるのが、倭系の奴国を思わせる名称ですね。

高句麗王国は「絶奴、順奴、濊奴、涓奴、菡婁」の五部族の連合体だったが、これは 元は五つの県侯だったのであろう。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

確かに扶余族は「鹿 トーテム」部族との記載も気になります。

秦野さんはお出かけかな? Re:2 つのクムガン 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 12 月 14 日(金)20 時 36 分 50 秒 返信・引用

> No.981[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 1 尺=0.8 呎で計算すれば、8 尺になるのでよいのかもしれませんが。 …「一里=300 歩=1800 尺=約 435 メートル」、……

髀 卑 卑弥呼 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

Re:2 つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 13 日(木)23 時 07 分 47 秒 返信・引用

> No.980[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> > 和珥 和邇 珥(イ、彝(イ…イ族 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?> >

なるほど、十束剣(とつかのつるぎ)の件は重要ですね。10 尺とすると、2.3~7 メートルに なるでしょうか。

鹿島神宮の刀が近いですね。

直刀・黒漆平文大刀拵(ちよくとう・くろうるしひょうもんたちごしらえ) (附 刀唐

櫃)「布都御魂剣(ふつのみたまのつるぎ)」「平国剣(ことむけのつるぎ)」とも呼ばれる。柄

(つか)・鞘を含めた全長 2.71m、刃長 2.24m の直刀。奈良時代末期から平安時代初期の制 作。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/鹿島神宮>

おそらく八尺鏡同様に、1 柄を 1 尺と考えていたのでしょう。2.24 は三角縁の直径から出し たと思います。こ
こで柄の長さが47 cm で、2 尺にしていますね。

23.5cm 尺をつかっていますが、もしかすると是は後代の柄かもしれません。どちらも三角縁の 尺度だとは思
うのですが。

天之尾羽張剣(伊都之尾羽張剣) [編集]

詳細は「天之尾羽張」を参照 最初に登場するのは神産みにおいてイザナギがカグツチを斬る場面である。この剣
には、「天

之尾羽張」(あめのおはばり)または「伊都之尾羽張」(いつのおはばり)という名前がつい ている(伊都之尾羽張とい
う名前は、その後タケミカヅチの父神の名として登場する)。そ の後、黄泉の国から逃げる際に、十拳剣を後手
(しりへで)に振って追っ手から逃れている。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/十束剣>

あと「伊都之尾羽張」が、伊都国と尾張のことを示しているように見えますね。

鹿島⇔出雲方位の 5 度もしくは 7 度偏角ラインをつくった世代がタケミカヅチとすると、そ の父は伊都国から
尾張にかけて進出した伝承をもっていた可能性を感じます。ニギハヤヒ世 代で物部系、孝霊・元朝?。中臣系の
天若彦(開化)を挟んで、崇神・垂仁朝で、トヨキ入彦、あるいは大彦と武ヌテ河別親子の東国遠征と関係するで
しょうか。

尾張の草薙剣はヤマトタケル伝承ですね。ここで先の大彦・武ヌテ河別=ヤマトタケルで関 わってきます。そう
するとやはり後者となるでしょうか。

八咫鏡が伊都国の 46 cm 鏡とすると、ここでも接点が出てきますね。皇族のシンボルなの でしょう。

測量道具で、その刀を周碑算径の 8 尺棒(ノーマン)の代わりにしたのではないでしょう。 ただ、10 尺とする
と、ここで問題が起きますね。1 尺=0.8 尺で計算すれば、8 尺になるので よいのでしょうか。

Re:2 つのクムガン 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 12 月 13 日(木)11 時 19 分 4 秒 返信・引用

> No.979[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

- > 問題はなぜ手白香皇后の墓がこの辺にあるかですね。 >
- > 母が、春日大娘皇女 >
- > その母:春日和珥童女君 >
- > ここで春日系ワニ氏が出てきますね。

> このワニ氏が、元の在地豪族系で、葛城豪族ともかかわってきます。開化の時代に春日に移 動しますが、この
家系からヒミコがでたであろうことは、以前お話したとおりですが、母系 による継承が気になります。 >

> たとえば娘は母方の地の墓にはいるとか、そういう具合ですね。 >> その辺の習俗を解明していけば、ヒミコ
の墓がどこにあるべきかもわかってくるかもしれ ません。 >>>問題はなぜ手白香皇后の墓がこの辺にあるか
ですね。 >母が、春日大娘皇女 >その母:春日和珥童女君

和珥 和邇 珥(イ、彘(イ…イ族 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

Re:2 つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 12 日(水)23 時 03 分 56 秒 返信・引用 編集済

> No.978[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。
- > お世話になります。m(_ _)m>
- > >越系の祭祀・測量は、北極星関係とみてよいでしょうか。 >
- > 北極星を使った方位角観測
- > それらが妨げになって測量出来ない場合があります。しかし、上空には雲 ... 測量士の 方々 はそれらを「天文測量」と言っているのですが、. 我々一般人の感覚だと、... 時刻も 測るのは、 北極星が完全に天の北極と一致しているわけではなく、. 地球の自転に伴い、 >
<http://www.tawatawa.com/chizu6/page013.html> > >

上記サイト参考になります。ありがとうございます！

問題はそれでヒミコの墓ですね。 尺的には西殿塚古墳が、少し他より大きいんです。先日の表ですが、ほとんどは一般の三角縁 の尺です。西殿塚だけ、すこし大きい中国製の三角縁を使っている可能性があります。

魏尺:(三角縁){ 盤龍鏡:景初三年鏡:正始元年鏡:(一般)神獸鏡 } :画紋帯神獸鏡
 23.7cm:24.5cm:23.0cm:22.6cm:22cm:21cm =142.2m:147m:138m:135.6m:131m:125m
 =35.55:36.75:34.5:33.9:32.75:31.25

またヒミコの墓の推定候補としてあげる古墳

桜井茶臼山古墳:(110m=22m×5)(207m=110m+(97m= 32m×3)) 尺 32m or 22m 箸墓古墳:(150m=21.4m×7)
 (278m=150m+(128m=32m×4)) 尺 32m or 21.4m 黒塚古墳:(72m)(130m=72m+58m) 尺 130m 西殿塚古
 墳:(135m=33.7m×4)(234m=135m+(99m=33m×3)) 尺 33.0m or 33.7m 中山大塚古墳:(67m=22.2m×3)
 (130m=67m+(63m=21m×3)) 尺 21m or 22.2m or 130m 椿井大塚山古墳:(110m=22m×5)
 (175m=110m+(65m=22m×3)) 尺 22m 崇神陵:(158m=31.6m×5) (242m=158m+(84m=21m×4)) 尺 31.6m
 or 21m 男狭穂塚:(132m=22m×6)(175m=132m+(43m=21.5m×2) 尺 21.5m or 22m 乙女山古墳:
 (104m=26m×4)(130m=104m+26m) 尺 26m or 130m

西殿塚古墳に継体天皇の正妃・手白香皇后の伝承がありますね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/手白香皇女>

問題はなぜ手白香皇后の墓がこの辺にあるかですね。

母が、春日大娘皇女

その母:春日和珥童女君

ここで春日系ワニ氏が出てきますね。 このワニ氏が、元の在地豪族系で、葛城豪族ともかかわってきます。開化の時代に春日に移動 しますが、この家系からヒミコがでたであろうことは、以前お話したとおりですが、母系による継承が気になります。

たとえば娘は母方の地の墓にはいるとか、そういう具合ですね。

その辺の習俗を解明していけば、ヒミコの墓がどこにあるべきかもわかってくるかもしれま せん。

Re:2つのクムガン 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012年12月12日(水)04時28分9秒 返信・引用

> No.977[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

お世話になります。m(_ _)m

>越系の祭祀・測量は、北極星関係とみてよいでしょうか。

北極星を使った方位角観測 それらが妨げになって測量出来ない場合があります。 しかし、上空には雲 ... 測量士の 方々 はそれらを「天文測量」と言っているのですが、. 我々一般人の感覚だと、... 時刻も 測るのは、北極星が完全に天の北極と一致しているわけではなく、. 地球の自転に伴い、
<http://www.tawatawa.com/chizu6/page013.html>

太一(北極星=北辰星)越王勾践 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

越系の祭祀・測量は、北極星関係とみてよいとおもいます。 Re:2 つのクムガン 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 11 日(火)23 時 05 分 8 秒 返信・引用

> No.976[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

- > 秦野北斗さんへのお返事です。 >
- > > 金剛山は卑弥呼が命名。 >
- > 卑弥呼は、A:「鬼道に事(つか)え、能(よ)く衆を惑わす」…「鬼神」とは「祖先霊(霊=

ひ)」のこと…祖霊・妙見・信仰 ...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2205> > > 金剛:北斗七星
<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs> >

>

なるほど、卑弥呼、葛城の関係は重要ですね。修験道とも関わるのでしょうか。確かにきしさんご指摘の下記の記載も参考になります。

巫鬼道(北極星・太一・祖霊) 天師道(太陽崇拜) 卑弥呼? 貌ゲイ・ゲ・かたち 大兒(貌)。従人半声。 』=「大兒(貌)? 大きくゆったりと振舞うことなり。」 <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2205>

越系の祭祀・測量は、北極星関係とみてよいでしょうか。

『好きな平成仮面ライダー』ランキング 218 人が見えています More....

『みんな大好き♪嵐の推しメン』ランキング 79 人が見えています More....

『好きな Michael Jackson の楽曲』ランキング 603 人が見えています More....

あなたの評価つくれます。ランキングシェア byGMO Ads by Google

Re:2 つのクムガン 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 12 月 11 日(火)19 時 46 分 58 秒 返信・引用

> No.975[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 金剛山は卑弥呼が命名。 卑弥呼は、A:「鬼道に事(つか)え、能(よ)く衆を惑わす」…「鬼神」とは「祖先霊(霊=ひ)」のこと…祖霊・妙見・信仰 ...<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2205> 金剛:北斗七星
<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

Ads by Google 2 つのクムガン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 11 日(火)06 時 35 分 19 秒 返信・引用 編集済

クムガンは 2 つあり、日本では葛城の金剛山。鹿児島島の錦江湾。これが、古事記。万葉集の解説の糸口になる。

金剛山は卑弥呼が命名。

錦江湾は天智天皇命名。

金剛山(こんごうさん、クムガンさん)は、太白山脈に属する朝鮮民主主義人民共和国(北 朝鮮)江原道にある山。最高峰は毘盧峰で、標高 1,638m である。古来朝鮮半島では、白頭山と 並ぶ名山とされてきた。

錦江(きんこう、クムガン)は大韓民国南西部の主要河川である。全羅北道長水郡の小白山脈に端を発し、全羅北道・忠清北道・忠清南道と大田の道市境・忠清南道を通ったのち、忠清南道と全羅北道の道境を流れ、群山と舒川の市郡境で黄海に注ぐ。沿岸の江景(カンギョン)や河口の群山は物資の集散地として非常に栄えた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%A0%E3%82%AC%E3%83%B3>

Re: 扶桑の家紋 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 10 日(月)23 時 08 分 51 秒 返信・引用 編集済

> No.973[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>

- > 月氏は神功皇后の 286 年ぐらいの出来事になる。 >
- > 全羅南道の前方後円墳は 286 年以降と思われる。以前は円墳。
- > 倭国に集中している。 >>

全羅南道の前方後円墳ですが、出土の金銅製冠はと関係する遺物がでているそうですね。円筒埴輪なども日本的です。5-6 世紀あたりではないでしょうか。

<http://teda.iza.ne.jp/blog/entry/388832/> <http://ja.wikipedia.org/wiki/江田船山古墳>

あと、5 世紀の古墳の件ですが、先日の仁徳陵⇔応神陵⇔崇神陵に関する方位区画を造り直しました。
結果としては、-1 度偏角でこれらの陵墓の後円部を通過します。

崇神から北に成務の穴太宮が載ります。南北 55 km、東西 33 km で距離尺は 11.1 KM、晋尺です。

北西隅は、佐々緒神社周辺での宮前地域で、この神社は仁徳天皇社があります。これが百舌の仁徳陵を意図しつつ、東部の成務宮を意識しているのでしょう。

<http://wiki.livedoor.jp/niwaka368/d/%BA%B4%A1%B9%C8%F8%BF%C0%BC%D2>

-1 度偏角の方位区画は、以前お知らせした三角縁-1 度偏角方位区画があり、時代的に同 時代とすると、4 世紀後半~となるでしょう。

-1 度になった理由は、また鏡の製造時の問題で、北が-1 度ずれて測量できるように製造してあったことと関係するでしょう。

Re:扶桑の家紋 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 10 日(月)00 時 47 分 2 秒 返信・引用 編集済

> No.972[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

朱蒙の文章は地図から淹水(大同江)。鴨緑江は扶余の北で弱水。

朱蒙は遼東の鮮卑族に追われたのでしょうな。

夫余を捨て東南へ逃走した。濊に逃れた模様。

> 朱蒙は友と共に夫余を捨て東南へ逃走した。淹水(大同江)まで来ると橋がなく、追手を恐れ川に向かって「私は太陽の子で河伯(黄河の水神)の外孫である、今日逃走してきたが、追手がいよいよ迫っている、どうすれば渡れるか?」と言うと、魚や鼈(スッポン)が浮かんで橋を作り、朱蒙らは渡ることができた。朱蒙らが渡り終わると魚達の橋は解かれ、追手は河を渡れなかった。

『三国志魏書』

夫餘在長城之北、去玄菟千里、南與高句麗、東與挹婁、西與鮮卑接、北有弱水、方可二千里。戸八萬、其民土著、有宮室、倉庫、牢獄。多山陵、廣澤、於東夷之域最平敞。土地宜五穀、不生五果。其人麤大、性彊勇謹厚、不寇鈔。

扶余は長城の北に在り、玄菟郡からは千里、南に高句麗、東に挹婁、西に鮮卑族と接し、北には弱水(アムール河)があり、方形は二千里。土着民の戸数八万、宮室、倉庫、牢獄などがある。丘陵や大河が多く、東夷の領域では最も平坦である。土地は五穀の栽培に適しているが、

果実はできない。体形は大柄で勇猛だが、謹厳実直で略奪をしない。月氏は神功皇后の 286 年ぐらいの出来事になる。

全羅南道の前方後円墳は 286 年以降と思われる。以前は円墳。倭国に集中している。 Re:扶桑の家紋 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 9 日(日)23 時 17 分 3 秒 返信・引用 編集済

> No.971[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>

- > 扶桑文章の距離の要約から特定しました。文身國:山東省は本心避けたかった。
- > 尚、里:秦野距離 >
- > 文身國は倭國の東北七千餘里
- > 大漢國は文身國の東五千餘里
- > 扶桑は大漢國の東二萬餘里
- > 扶桑は中國の東
- > 扶桑は女國の東千餘里 >>

ちょっと扶余について調べなおしてます。特に扶余系の高句麗の始祖傳承が面白いですね。ちょうど大国主神話の因幡の兔とワニの話でワニの背中を渡って対岸へ向かう話、また旧約の出エジプトの紅海を渡る話をイメージさせます。下記のとおりです。

朱蒙は友と共に夫余を捨て東南へ逃走した。淹水(鴨緑江の東北)まで来ると橋がなく、追手を恐れ川に向かって「私は太陽の子で河伯(黄河の水神)の外孫である、今日逃走してきたが、追手がいよいよ迫っている、どうすれば渡れるか?」と言うと、魚や鼈(スッポン)が浮かんで橋を作り、朱蒙らは渡ることができた。朱蒙らが渡り終わると魚達の橋は解かれ、追手は河を渡れなかった。

東扶余の系図を見ると、

解夫婁王(ヘブル)/ 金蛙王(ヘモス) / 帶素王(タイソ)/ 曷思王(カッシ)22-不詳 / 都頭王 不詳-68

となり、カッシが、月氏を想起させますね。その祖はやはりヘブル人。どうも紀元前後に、その曷思王が開いた曷思国が出てきますね。これが後に高句麗に降伏してますが、高句麗の都慕王・朱蒙は、この曷思王の兄弟ですから、両者はきわめて親しい関係にあるといえるでしょう。同族です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/帶素王>

百済王の温祚も、都慕王の子で曷思王と同年代に生きてますね。彼は南へ向かうわけですが、そこで月支国の北に伯濟国を開いたか、あるいはその月支国そのものを開いて、後代の百済の都としたことが予想できます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/温祚>

解夫婁王(ヘブル)を優台(ウテ)とするのですが、仇台とも言って、慰仇台が後の王号に見えてきます。

この辺は、ユウ、キュウの語がまた月氏特有の発音で、弓月国(ユーズー、キューズ)で、漢読みで「ガツ、カツ」とも読まれるはず。どうもその辺の流れで、さらに百済から秦韓へ流れて、蘇我・秦氏として日本に来るのではないのでしょうか。

Ads by Google Re: 扶桑の家紋 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 9 日(日)01 時 52 分 4 秒 返信・引用 編集済

> No.970[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

扶桑文章の距離の要約から特定しました。文身國:山東省は本心避けたかった。

尚、里:秦野距離

文身國は倭國の東北七千餘里

大漢國は文身國の東五千餘里

扶桑は大漢國の東二萬餘里

扶桑は中國の東

扶桑は女國の東千餘里

文身國:山東省文登市 倭國:韓半島南部 大漢國:朝鮮(北朝鮮+韓国):大漢(韓)国=邪馬台国=大漢(和)国=やまと

扶桑国:常陸(茨城) 女国:東女國、魏志倭人伝の女王国 陳寿は女国と距離(月)を隠した。距離は東西 5ヶ月、南北3ヶ月 卑弥呼への心使いが見えてくる。

扶桑文章

文身國 在倭國東北七千餘里 人體有文如獸 其額上有三文 文直者貴 文小者賤 土俗 歡樂 物豐而賤 行客不齎糧有屋宇 無城郭 其王所居 飾以金銀珍麗 繞屋爲塹 廣一丈 實以水銀 雨則流于水銀之上 市用珍寶 犯輕罪者則鞭杖 犯死罪則置猛獸食之 有枉則猛獸避而不食 經宿則赦之

大漢國 在文身國東五千餘里 無兵戈 不攻戰 風俗並與文身國同而言語異

扶桑國者 齊永元元年 其國有沙門慧深來至荊州 說云 扶桑在大漢國東二萬餘里 地在 中國之東 其土多扶桑木 故以爲名 扶桑葉似桐 而初生如筍 國人食之 實如梨而赤 績其皮爲布以爲衣 亦以爲綿 作板屋 無城郭 有文字 以扶桑皮爲紙 無兵甲 不攻戰 其國法 有南北獄 若犯輕者入南獄 重罪者入北獄 有赦則赦南獄 不赦北獄 在北獄者 男女相配 生男八歲爲奴 生女九歲爲婢 犯罪之身 至死不出…

慧深又云 扶桑東千餘里有女國 容貌端正 色甚潔白 身體

Ads by Google Re:扶桑の家紋 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月8日(土)23時01分0秒 返信・引用
> No.969[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 訂正になるが、文身国は京師。扶桑は常陸。大漢国は金印(漢委奴国王印)から(やまと)邪馬 台国。 > 漢委奴国王印の印字を分解すると、漢と委奴国に分ける。漢は漢(韓)国でこの中に委奴国。 > 整理すると、大漢(韓)国=邪馬台国=大和になる。大和の倭国(わこく)、現在の倭国(わこく)が倭(やまと)になっているが間違いの模様。

>

『梁書』によると、僧慧深(けいしん、拼音: Huishēn ホイシェン)が普通年間 (520年?527年)に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北 7000余里(3000km余、漢代の里 ≒ 434m、以下換算にはこの値を使う)に文身国が、その東 5000余里(2200km余)に大漢国があり、大漢国の東2万余里(8700km余)に扶桑がある。ただし、倭国・文身国・大漢国までについては地の文で事実として書かれているが、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。また、地の文の大漢国と慧深の言う大漢国が同じものかもはっきりしない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/扶桑> ただ原文は下記の通りです。
[http://www001.upp.so-](http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/ryousho/frame/ryousho_frame.htm)

[net.ne.jp/dassai/ryousho/frame/ryousho_frame.htm](http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/ryousho/frame/ryousho_frame.htm)

文身國 在倭國東北七千餘里 人體有文如獸 其額上有三文 文直者貴 文小者賤 土俗 歡樂 物豐而賤 行客不齎糧有屋宇 無城郭 其王所居 飾以金銀珍麗 繞屋爲塹 廣一丈 實以水銀 雨則流于水銀之上 市用珍寶 犯輕罪者則鞭杖 犯死罪則置猛獸食之 有枉則猛獸避而不食 經宿則赦之

大漢國 在文身國東五千餘里 無兵戈 不攻戰 風俗並與文身國同而言語異

扶桑國者 齊永元元年 其國有沙門慧深來至荊州 說云 扶桑在大漢國東二萬餘里 地在 中國之東 其土多扶桑木 故以爲名 扶桑葉似桐 而初生如筍 國人食之 實如梨而赤 績其皮爲布以爲衣 亦以爲綿 作板屋 無城郭 有文字 以扶桑皮爲紙 無兵甲 不攻戰 其國法 有南北獄 若犯輕者入南獄 重罪者入北獄 有赦則赦南獄 不赦北獄 在北獄者

男女相配 生男八歳爲奴 生女九歳爲婢 犯罪之身 至死不出…
慧深又云 扶桑東千餘里有女國 容貌端正 色甚潔白 身體

どうも、最後の大漢国で、慧深の視点が入ったところに間違いが起きたように見えますね。

倭国の東北 7000 里に文身国、その東 5000 里に大漢国という記載は、別に公的に計っているはずで、間違いないでしょう。

文身国は、扶余・辰韓系も刺青をするので、そのあたりではないでしょうか。その関連記載が、扶余のそれと類似します。先日述べたように慧深のいう扶桑の記載も扶余のことでしょう。

その東の大漢国はその東方の扶余関係の民族と見えますね。東沃沮あたりが近いですし、玄菟郡時代に漢に下っているので、後代また「大漢」を称した可能性があるでしょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/沃沮>

Re:扶桑の家紋 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 8 日(土)12 時 38 分 51 秒 返信・引用 編集済

> No.968[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

訂正になるが、文身国は京師。扶桑は常陸。大漢国は金印(漢委奴国王印)から(やまと)邪馬台国。漢委奴国王印の印字を分解すると、漢と委奴国に分ける。漢は漢(韓)国でこの中に委奴国。整理すると、大漢(韓)国=邪馬台国=大和になる。大和の倭国(わこく)、現在の倭国(わこく)が倭(やまと)になっているが間違いの模様。

>箕子朝鮮の話なのですが、馬韓へ逃げたのか、さらに東部の辰韓へ逃げたのが課題ですね。衛満の朝鮮つまり半島北部とは往来しなかったと解釈すると、半島南部にいたことは確かだと思いますが…。

辰韓は馬韓の僻地。箕子朝鮮は追いわれたのでしょうか。

普通年間 (520 年?527 年)は馬韓は百済になる。倭国(瑞穂の国)、大漢国、扶桑この国は何なんだ。大漢国は韓半島を言っていた模様。

大韓民国=大漢民国なのか。大韓民国を秦野が訳すと「やまとたみ国」=「やまと」になる。中国史籍も倭国と大漢国の存在を理解していない。

Re:扶桑の家紋 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 7 日(金)23 時 02 分 23 秒 返信・引用

> No.967[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 倭国の東北 7000 余里に文身国、文身国その東 5000 余里に大漢国。大漢国の東 2 万余里に扶桑がある。 >> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

>> 文章を訂正する。倭国は東北 7000 余里、文身国は東 5000 余里、大漢国から東 2 万余里に扶桑がある。

> お詫び、梁書の扶桑解読に決め手が無くてこずっています。そろそろ結論にします。 >> 文章を訂正から、倭国は東北 7000 余里、文身国は東 5000 余里、大漢国から東 2 万余里に扶桑がある。 >> 秦野の地図から文身国は京師。扶桑は常陸。大漢国は金印(漢委奴国王印)から倭国。

半島と倭関連の記載については、下記の記載に注目しました。

『三国志魏書』馬韓伝 準與滿戰、不敵也。(中略)將其左右宮人走入海、居韓地、自號韓王 2。 注記 2 魏略曰:其子及親留在國者、因冒姓韓氏。準王海中、不與朝鮮相往來。 朝鮮王の準は衛満と戦うも、満には敵わなかった。(中略) その左右の王族を率いて海に逃れ、韓地に居を置いて、韓王を自称した。 注記 2 魏略には、その子や親が国(辰国)に居留し、韓氏の姓を僭称する。準王は海中にあり、朝鮮と相往来しなかった。
<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kudaragaisi/bakan-tsusi.htm>

箕子朝鮮の話なのですが、馬韓へ逃げたのか、さらに東部の辰韓へ逃げたのが課題ですね 衛満の朝鮮つまり半島北部とは往来しなかったと解釈すると、半島南部にいたことは確かだと思いますが…。

扶桑の家紋 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 6 日(木)23 時 22 分 9 秒 返信・引用 編集済

扶桑の家紋

梁書の扶桑は秦野北斗諸書、徐福と邪馬台国の韓半島地図を基に距離を確認し、文章を訂正した。根拠はwiki扶桑の文章に従い地図上を追うと海上になる。

wiki扶桑の文書は誤訳と思われる。倭国の東北 7000 余里に文身国、文身国その東 5000 余里に大漢国。大漢国の東 2 万余里に扶

桑がある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91> 文章を訂正する。倭国は東北 7000 余里、文身国は東 5000 余里、大漢国から東 2 万余里に扶桑

がある。

『梁書』によると、僧慧深(けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン)が普通年間 (520 年?527 年)に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国は東北 7000 余里、文身国は東 5000 余里、大漢国から東 2 万余里に扶桑がある。ただし、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。里:秦野距離

扶桑国、扶桑木の位置から家紋を当てはまることで洲浜紋が扶桑の家紋になる。お詫び、梁書の扶桑解読に決め手がなくてこずっています。そろそろ結論にします。

文章を訂正から、倭国は東北 7000 余里、文身国は東 5000 余里、大漢国から東 2 万余里に扶桑 がある。

秦野の地図から文身国は京師?。扶桑は常陸。大漢国は金印(漢委奴国王印)から邪馬台国(やまと)。

Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 6 日(木)22 時 59 分 7 秒 返信・引用 編集済

> No.965[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 難波がどこかが不明。また、難波宮は年代が合わない。 > 仮に難波を大阪としても、倭国から東北 1 千里は、難波からみての丹波(但馬)の方角は 西北で1千里は超える。田道間守の年代も倭国(瑞穂の国)だったのです。

>> 言える事は、現在の日本は卑弥呼までは夷州(いしゅう)と亶州(たんしゅう)だったのです。卑弥呼から邪馬台国(倭国)になり、用明天皇で倭国が倭国になり、その後に日本に成っている。難波など存在しない。あっても、葦原中国でしょうな。 >> 簡単に話すと古代史の歴史家に騙されているの一言。歴史家は適当な地名を入れ、方向を 無視した結果でしょうな。日本の祭り、神社、正倉院に痕跡がのこる。また、古墳の鎧ですが 埴輪の服装の下に鎧が隠されているのを知る人は少ないでしょうな。歴史家は馬鹿な連中は信用するから騙せるが本音でしょうな。そろそろ、目を覚ましては。洗脳されてますよ。 >

ご指摘の歴史家全体が騙されている可能性がありそうな部分というと、やはり先の天皇系譜 がありますね。

「新唐書」の日本伝

「欽明之十一年、直梁承聖元年。次海達。次用明、亦曰目多利思比孤、直隋開皇末、始與中國通。次崇峻。崇峻死、欽明之孫女雄古立。次舒明、次皇極。永徽初、其王孝德即位、改元曰白雉、獻虎 魄大如斗、碼瑙若五升器。時新羅為高麗、百濟所暴、高宗賜璽書、令出兵援新羅。未幾孝德死、其子天豐財立。死、子天智立。」

「明年、使者與蝦人偕朝。蝦亦居海島中、其使者鬚長四尺許、珥箭於首、令人戴瓠立數十步、射 無不中。天智死、子天武立。死、子總持立。」

「長安元年、其王文武立、改元曰太寶。遣朝臣真人栗田貢方物。朝臣真人者、猶唐尚書也。冠進 德冠、頂有華?四披、紫袍帛帶。真人好學、能屬文、進止有容。武后宴之麟德殿、授司膳卿、還之。文武死、子阿用立。死、子聖武立、改元曰白龜。天寶十二載、朝衡復入朝、上元中、擢左散騎常侍 安南都護。新羅梗海道、更繇明、越州朝貢。孝明死、大炊立。死、以聖武女高野姬為王。死、白壁 立。」

先日指摘したように、天皇の諡等がいろいろ相違しているのですが、この「新唐書」の成立が 1060 年、現存する書紀の現本については、一部を除いて平安後期の書写によることがあり、また古事記の原本も 1300 年代、続日本紀の成立が奈良末期の桓武朝で、その原本も最古のものが鎌倉時代の書写ですから、その間に皇族系譜等

も時の権力者の意向で変更された 可能性があります。

中国側で天皇名を改ざんする理由もないので、そうすると、遣使が間違っただけのもの、あるいは意図的に改ざんしたものを提出したか、それとも上記の諸文献に改ざんがあったかとの選択になりそうです。誤写の可能性もありますが、誤写以上の差が出てますね。特に斉明前後、持統 前後、元明前後、孝謙前後に相違があります。

改ざん理由の一つとしては、天智系、天武系、さらにいえば大彦・息長・継体・新漢氏系、吉備津彦・蘇我・欽明・秦・東漢系の2派閥の対立視点を考慮する必要があるでしょう。後者は秦野さんの半島系とも深くかかわってきます。 Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年12月5日(水)23時10分 56秒 返信・引用 編集済

> No.964[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> しかしそうすると、難波に都があった河内王朝時代の伝承になるでしょうか。

難波がどこかが不明。また、難波宮は年代が合わない。 仮に難波を大阪としても、倭国から東北1千里は、難波からみての丹波(但馬)の方角は西 北で1千里は超える。田道間守の年代も倭国(瑞穂の国)だったのです。

言える事は、現在の日本は卑弥呼までは夷州(いしゅう)と亶州(たんしゅう)だったので す。卑弥呼から邪馬台国(倭国)になり、用明天皇で倭国が倭国になり、その後に日本に成っている。難波など存在しない。あっても、葦原中国でしょうな。

簡単に話すと古代史の歴史家に騙されているの一言。歴史家は適当地名を入れ、方向を無視した結果でしょうな。日本の祭り、神社、正倉院に痕跡がのこる。また、古墳の鎧ですが埴輪の服装の下に鎧が隠されているのを知る人は少ないでしょうな。歴史家は馬鹿な連中は信用 するから騙せるが本音でしょうな。そろそろ、目を覚ましては…。洗脳されてますよ。

> 半島系勢力が、自身を倭(王)と認識していたか、そこも課題ですね。むしろ故郷の半島系 の名前をつけていた可能性もあります。 > 多婆那国は、田道間守「多遲摩比那良岐(たじまひならき)」の略と考えると、「多遲摩」は「多婆」に対応し、また「丹波」に関係します。「那良・岐」は「那」「羅」→国、(干)岐→首長の対応でしょう。全体的には半島系の名称にも見えますね。

HP に倭国が九州北部なら鳥取県付近?。方向は正しいが、完全に距離を無視している。

多婆那国は、丹波国や但馬国を連想させる地名です。ここにいう倭国を九州北部と考えた場合、東北へ千里といえは、鳥取県付近になります。多婆那国の地名も道のりも、スサノオにゆかりの深い山陰地方を示しています。脱解が魚を取って母を養った話は、丹後の浦島太郎を 連想させて興味深いところです。

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~iichirou/sub30.html>

Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:管理人 投稿日:2012年12月5日(水)22時31分 44秒 返信・引用 編集済

> No.963[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 過去ログに多婆那国、筑紫国を特定していますな。倭国は馬韓、弁韓、辰韓に属さないの で地名は中国史籍には明記されていない。記録は神武東征等の記録になる。不思議なんですが 能、日本舞踊にのこる。日本舞踊の家元が若柳で出雲、韓半島南部の若なんですな。越の血筋 になる模様。

>

- > 尚、邪馬台国が倭国(瑞穂の国)に来る前は釜山辺りの任那日本府にあった模様。 >
- > 古代地図の作製は現在の地名から推測するしかない。管理人さんの地図は該当しない。 >
- > 筑紫国:順天[スンチョン] 辺り
- > 多婆那国:蔚山[ウルサン] 辺り
- > 任那日本府:邪馬台国:釜山[フザン] 辺り

多婆那國の件ですが、思うに難波から見ての距離ではないかと感じます。天日矛等が難波に入れなかった記載を考慮すると、倭国から東北1千里は、難波からみての丹波(但馬)の方角、距離ではないでしょうか。ちょうど千里くらいです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/丹波国>

方角的には、丹波より越のほうが正しいかもしれませんが、しかしそうすると、難波に都があった河内王朝時代の伝承になるでしょうか。

当時の河内王朝時代の倭国認識からみて、丹波・越は同国と見てないようにも見えますね。大彦系と吉備津彦系との対立が、まだ続いていたかもしれません。

ただ、また難波の河内王朝側の伝承記載ではなく、丹波・吉備方面に進出していた勢力側の記載を元にしていたかもしれません。その場合は、吉備あたりに彼らの拠点があり、そこから東北1千里の丹波を多婆那國とし、また彼らは倭と自身を区別していたので、倭国のある難波方面と区別をして記載した線もあるでしょうか。

半島系勢力が、自身を倭(王)と認識していたか、そこも課題ですね。むしろ故郷の半島系の名前をつけていた可能性もあります。多婆那國は、田道間守・「多遲摩比那良岐(たじまひならぎ)」の略と考えると、「多遲摩」は

「多婆」に対応し、また「丹波」に関係します。「那良・岐」は「那」「羅」→国、(干)岐→首長の対応でしょう。全体的には半島系の名称にも見えますね。

確かに秦野さんのご指摘のように、半島系地名が倭に移植されるケースはあったかもしれません。

Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年12月5日(水)00時00分45秒 返信・引用編集済

> No.962[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

過去ログに多婆那國、筑紫国を特定していますな。倭国は馬韓、弁韓、辰韓に属さないのので地名は中国史籍には明記されていない。記録は神武東征等の記録になる。不思議なんですが能、日本舞踊にのこる。日本舞踊の家元が若柳で出雲、韓半島南部の若なんですな。越の血筋になる模様。

尚、邪馬台国が倭国(瑞穂の国)に来る前は釜山辺りの任那日本府にあった模様。

古代地図の作製は現在の地名から推測するしかない。管理人さんの地図は該当しない。

筑紫国:順天[スンチョン] 辺り 多婆那國:蔚山[ウルサン] 辺り 任那日本府:邪馬台国:釜山[フザン] 辺り

「脱解尼師今、立。(一云吐解。)時年六十二。姓昔。妃阿孝夫人。脱解本多婆那國所生。其國在倭國東北一千里。…」多婆那國は秦野距離で東北一千里、新羅にあり、現在の蔚山[ウルサン]になる。

筑紫国は任那日本府から朝鮮半島を海岸線に二千余里、南方向に沿った、順天、スンチョン 辺りになる。

管理人さんへのお返事です。

過去ログに多婆那國、筑紫国を特定していますな。倭国は馬韓、弁韓、辰韓に属さないのので地名は中国史籍には明記されていない。記録は神武東征等の記録になる。不思議なんですが能、日本舞踊にのこる。日本舞踊の家元が若柳で出雲、韓半島南部の若なんですな。越の血筋になる模様。

尚、邪馬台国が倭国(瑞穂の国)に来る前は釜山辺りの任那日本府にあった模様。

古代地図の作製は現在の地名から推測するしかない。管理人さんの地図は該当しない。

筑紫国:順天[スンチョン] 辺り 多婆那國:蔚山[ウルサン] 辺り 任那日本府:邪馬台国:釜山[フザン] 辺り

「脱解尼師今、立。(一云吐解。)時年六十二。姓昔。妃阿孝夫人。脱解本多婆那國所生。其國在倭國東北一千里。…」多婆那國は秦野距離で東北一千里、新羅にあり、現在の蔚山[ウルサン]になる。

筑紫国は任那日本府から朝鮮半島を海岸線に二千余里、南方向に沿った、順天、スンチョン 辺りになる。

倭の五王、当時の韓半島南部は文章から以下になる。

海北:扶余、高句麗。注)扶余、高句麗の元は倭国、扶桑、アイヌ、燕の末裔。 毛人:辰韓、新羅、高句麗。注)新羅、高句麗の元は海北と同様。辰韓は別物 衆夷:越、倭国、扶桑。

順帝昇明二年(478 年)、遣使が上表して曰く「封国は残念ながら遠く、藩を外に作り、昔より祖先は自ら甲冑を着け、山川を跋涉し、安らかに暮らす暇なし。東に毛人を征すること五十五国、西に衆夷を服すること六十六国、(海を)渡り海北を平定すること九十五国。王道は安泰に調和し、国土を拡張、京畿を遠く離れる。累代に亘って朝廷を尊び、歳を誤らず。臣は下愚といえども、忝くも後裔を先に残し、統べる所を率いて駆け、崇め帰すこと天を極め、道を百済に直行し、船舶を装備する。然るに高句麗は非道にも併呑を欲して謀り、辺境を略奪し隷属させ、(南朝宋の)劉氏を尊重して已まず、(そのために)いつも延滞させられ、(航行の)良風を失する。道を進むといえども、あるいは通じ、あるいは不通。

> ここで、倭国の東北 1000 里との記載がありますね。 > 丹波とすると、四国あたりに倭国がないと行けない計算です。この倭国の位置解明が重要 でしょう。 >

Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 4 日(火)23 時 06 分 47 秒 返信・引用 編集済

> No.961[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>

- > 文章を地図に描き起こすと添付になる。
- > 白村江の戦いの頃の地図
- > 注)この頃は倭国は倭国になっているのですな、中国は倭国名の存在を知らない。
- > 用明天皇の頃に倭国が明らかになる。用明天皇は会稽の恥で屈辱を記録している。 >
- > 倭国は東海の小島の野人。倭国(瑞穂の国)

ちょっと半島関連で、任那の位置を再確認してみました。まず添付の任那周辺の図をご参照 ください。

そこで崇神天皇 65 年秋 7 月条に「任那者去筑紫國二千餘里北阻海以在鷄林之西南」と記載が ありますが、ここでは筑紫の北 2000 里、「鷄林」の西南に任那が位置するとの記載があります。

『翰苑』(660 年成立)新羅条に「任那」が見え、その註(649 年 ? 683 年成立)に「新羅の古老の話によれば、加羅と任那は新羅に滅ばされたが、その故地は新羅国都の南 700~800 里の地点に並在している。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/任那>

そうすると、『翰苑』註の新羅国都の南 700~800 里の記載と、崇神条の「鷄林」の「西南」、および筑紫の北 2000 里となり、魏志の対馬⇄狗邪韓国の間を 1000 里とする記載に従えば、図の 魏志韓伝の推定国名図をみると、おおよそ「彌・馬」の関連領域に任那が位置していたことが 推測できます。

したがって、任那の語源も同様に魏志韓伝の記載をもとに追ってみると、その図のように 「彌」「邪馬」といった 2 領域が新羅の西南にもともと存在していたことがわかります。つまり、

この 2 領域のことをまとめて、「彌+邪馬+那(国)」で「ミヤマナ」と呼んだとのこととも想定 すべきでしょう。関連して下記の記載があります。

狭義の任那は、狭義の加羅(広義の加羅は伽耶諸国全域の総称だが、狭義では大加羅(=大伽耶、現代の慶尚北道高靈郡)、『日本書紀』では伴跛国ともいう)と同じく「大加羅」をさす という説。加羅諸国の中心的な国は南加羅(金官伽耶)と大加羅の二つであるが、後者は

「金官」という固有名があるのに、前者には固有名がない(その他の加羅諸国もすべて固有名をもつ)。そのため「任那」はもともと大加羅の固有名だったのではないかと考えられていた。古くは『続海東繹史』が三国志東夷伝韓条の弁韓 12 国の一つの弥烏邪馬国が後の大加羅のこ ととし、ミマナは弥烏邪馬が訛ったものとした。李丙熏はこの説を支持した上で「弥烏邪馬」は誤写でもとは「弥馬邪烏」か「弥烏馬邪」が正しかったのではないかと推測した。朝鮮民族 史学の申采浩も任那加羅とは大加羅のことであるとする。しかしその後の研究により、大加羅とは別の国で今の星州にあったと考えられていた「伴跛国」が、実は大加羅の別名で同一の 国であるという説が通説となり、大加羅の固有名は「伴跛」であることが確定視されるようになった。大加羅は最後(562 年)まで残ったので、「562 年に任那の滅亡」という言い方は、狭 義でも広義でも当てはまる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/任那>

おそらく「弥烏邪馬」の語が「邪馬国(台)国」との兼ね合いを考えると正しいように感じますが、ただ邪=那で国名の意味があるとすれば、「弥烏馬+邪」の組み合わせもあり得たでしょう。

それで大カヤ領域との理解のほうがまた妥当な気がしますね。

先の崇神 65 年条に出てきた任那国人「蘇那曷叱知」の記載ですが、
「蘇那・曷・叱知」を、
呉音「すな・がち・しちち」、
漢音「そだ・かつ・しつち」

で読むと、「都怒・我・阿羅・斯等」は「蘇那・曷・叱知」を呉音に読み替えて、日本語の当て字に書き直したであろうことも予想できます。

間に挟まる「阿羅」は「安那」もしくは、「(角が)有り」の倭語のどちらかでしょう。丹波・但馬系の氏族から提出された記録文章に由来する可能性があるでしょう。「安那・安 邪」が入るとすると、やや南へ任那の領域が伸びる可能性があります。おそらくは海岸部ま で領域が伸びていたでしょう。

崇神条の最後にぽつんとこの記載が挿入されて、垂仁紀に移行することを考慮すると、もと

もと崇神・垂仁の間に位置した伝承で、大カヤを意味する「意富加羅国」の王「都怒我阿羅斯 等」が崇神の崩御に立会えなかった伝承の延長上にあった記録ではなかったかと感じます。

それで、新羅の三姓(朴・金・昔)のうち、昔姓の始祖が、丹波からきたとの見方があります。

倭国東北一千里のところにある多婆那国の王妃が妊娠ののち 7 年たって大きな卵を生み、不吉であるとして箱に入れて海に流された。やがて辰韓に流れ着き老婆の手で箱が開けられ、中から一人の男の子が出てきた。箱が流れ着いたときに鵲(カササギ)がそばにいたので、鵲の字を略して「昔」を姓とし、箱を開いて生まれ出てきたことから「脱解」を名とした。長じ て第 2 代南解次次雄の娘(阿孝夫人)の女婿となり、のちに王位を譲られた。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/新羅>

ここで、倭国の東北 1000 里との記載がありますね。丹波とすると、四国あたりに倭国がないと行けない計算です。この倭国の位置解明が重要でしょう。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する Ads by Google Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 4 日(火)02 時 47 分 54 秒 返信・引用 編集済

> No.960[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 越州の件ですが、ちょっと気になりますね。下記の唐代の越州の記載があります。 >>『唐会要』倭国・日本国伝 >

>「永徽五年(654 年)十二月。遣使が琥珀(こはく)と瑪瑙(めのう)を献上した。琥珀の 大きさは一斗升の如し。瑪瑙の大きさは五升器の如し。高宗は降書を以てこれを慰撫した。…瑪瑙を産出し、黄白の二色がある。その琥珀は逸品である。海中で湧き出ると云う。なお云うには、倭王の国は新羅と近接している。新羅は平素から高句麗や百済を侵略し、もし危急が生じれば、倭王は宜しく派兵してこれを救う。

> 倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。いずれも倭に従属している。北は大海が限界、西北は百済と接し、正北は新羅と抵触、南は越州に相接する。」

文章を地図に描き起こすと添付になる。 白村江の戦いの頃の地図 注)この頃は倭国は倭国になっているのですな、中国は倭国名の存在を知らない。 用明天皇の頃に倭国が明らかになる。用明天皇は会稽の恥で屈辱を記録している。

倭国は東海の小島の野人。倭国(瑞穂の国)

以下は韓半島南部の倭国
耶古、波耶、多尼の三国がある。
西北は百済と接し、
正北は新羅と抵触
南は越州に相接する。

秦野北斗著書、徐福と邪馬台国(魏志倭人伝の行程)で明らかです。 推測だが古代史の間違いを訂正するのが怖いだろう。

Ads by Google Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 3 日(月)21 時 58 分 4 秒
返信・引用

> No.959[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 意富富杼王(おおほどのおう)の存在を明確にしたい。意富富杼王は倭国の王になる。 >
- > 継体天皇 507 年には古代の日本は倭国(瑞穂の国)と旧日本に分かれていた。しかし、問題の 越州は旧日本の地になるが、継体天皇年には越州は存在してない。

越州の件ですが、ちょっと気になりますね。下記の唐代の越州の記載があります。

『唐会要』倭国・日本国伝

「永徽五年(654 年)十二月。遣使が琥珀(こはく)と瑪瑙(めのう)を献上した。琥珀の大きさは一斗升の如し。瑪瑙の大きさは五升器の如し。高宗は降書を以てこれを慰撫した。…瑪瑙を産出し、黄白の二色がある。その琥珀は逸品である。海中で湧き出ると云う。なお云うには、倭王の国は新羅と近接している。新羅は平素から高句麗や百済を侵略し、もし危急が生じれば、倭王は宜しく派兵してこれを救う。 倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。いずれも倭に従属している。北は 大海が限界、西北は百済と接し、正北は新羅と抵触、南は越州に相接する。」

ところが、越州は唐代には存在してないんですよ。下記のとおりです。 越州 (広東省)

471 年(泰始 7 年)、南朝梁により設置された越州を前身とする。 隋代 [編集]

605 年(大業元年)、隋朝が陳を滅ぼし中国統一すると越州は祿州と、更に合州と改称されている。607 年(大業 3 年)、郡制施行に伴い合州は合浦郡と改称され下部に 11 県を管轄した。隋朝の行政区分に関しては下表を参照。

越州 (浙江省)

南北朝時代、梁により設置された東揚州を前身とする。陳の時代に一時廃止されたが、まもなく再設置された。 隋代 [編集]

589 年(開皇 9 年)に隋朝が陳朝を平定し東揚州を呉州と改め、さらに 605 年(大業元年)に越州とされた。607

年(大業 3 年)、郡制施行に伴い越州は会稽郡と改称され下部に 4 県 を管轄した。隋朝の行政区分に関しては下表を参照。

こうみると 604 年以前の広東省あたりを示す越州、あるいは 605 年ー 7 年の間に会稽郡 あたりを越州とした伝承記載を、どこからか引用して付加させているようにも見えます。

後者だとちょうど魏志あたりの会稽郡の東に倭があるという記載とも対応してきますが、広 東省までいくと香港のほうでしょうから、ちょっとおかしい記載になるような気がします。

そうすると、607 年の遣隋使がギリギリ間に合うでしょうか。この遣隋使の話だとすると、

「倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。いずれも倭に従属している。北は 大海が限界、西北は百済と接し、正北は新羅と抵触、南は越州に相接する。」

がこの時代の倭の位置となりそうですが、ちょっと九州あたりに寄っているようにもみえま すね。

> 継体天皇(けいたいてんのう、允恭天皇 39 年(450 年)? - 継体天皇 25 年 2 月 7 日(531 年 3 月 10 日))は、日本の第 26 代天皇。在位は継体天皇元年 2 月 4 日(507 年 3 月 3 日) - 同 25 年 2 月 7 日(531 年 3 月 10 日)。 >

> 現在の福井県坂井市丸岡町高棕)で育てられて、男大迹王として 5 世紀末の越前地方(近 江地方説もある)を統治していた。 > (越州からの創作で 507 年には越州は存在しない。) >

> 越前国(えちぜんのくに)は、かつて日本の地方行政区分だった令制国の一つ。北陸道に 位置する。別称は越中国・越後国とあわせて、または単独で越州(えつしゅう)。領域は現在の 福井県嶺北地方(岐阜県郡上市白鳥町石徹白地区を含む)及び敦賀市にあたるが、創設 時には石川県全域をも含んだ。『延喜式』での格は国力で大国、距離で中国。

> (越州は旧日本の地にはない。出雲国の綱引き神話以後に成る。) Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 2 日(日)22 時 26 分 22 秒 返信・引用 編集済

> No.958[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

意富富杼王(おおほどのおう)の存在を明確にしたい。意富富杼王は倭国の王になる。

継体天皇 507 年には古代の日本は倭国(瑞穂の国)と旧日本に分かれていた。しかし、問題の越 州は旧日本の地になるが、継体天皇年には越州は存在していない。

継体天皇(けいたいてんのう、允恭天皇 39 年(450 年)? - 継体天皇 25 年 2 月 7 日(531 年 3 月 10 日))は、日本の第 26 代天皇。在位は継体天皇元年 2 月 4 日(507 年 3 月 3 日) - 同 25 年 2 月 7 日(531 年 3 月 10 日)。

現在の福井県坂井市丸岡町高棕)で育てられて、男大迹王として 5 世紀末の越前地方(近江 地方説もある)を統治していた。 (越州からの創作で 507 年には越州は存在しない。)

越前国(えちぜんのくに)は、かつて日本の地方行政区分だった令制国の一つ。北陸道に位 置する。別称は越中国・越後国とあわせて、または単独で越州(えつしゅう)。領域は現在の 福井県嶺北地方(岐阜県郡上市白鳥町石徹白地区を含む)及び敦賀市にあたるが、創設時 には石川県全域をも含んだ。『延喜式』での格は国力で大国、距離で中国。 (越州は旧日本の地にはない。出雲国の綱引き神話以後に成る。)

>> あと後代、三島方面に継体が進出してくるのも、祖父の代からのこれらの流れがあったと も見えます。このように非常に正確に当時の系譜を記録していたことが伺えます。そしてこ れは先日論じた宮の方位ラインとも関係してくるはずです。 >

Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 2 日(日)02 時 35 分 13 秒 返信・引用 編集済

> No.957[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>> 住吉大社 >

> 南海本線の「住吉大社駅」を下りて、直ぐ西側に「住吉公園」がある。 > かつては黒松の茂る美林で知られていた。
> 更に西には「高灯籠」があり、そこからは「出見の浜」と呼ばれた浜辺で、潮干狩りなどして いたそうです。
> 明治初年まで住吉大社の境内の馬場であったとか。明治政府が大阪に公園を、、、というこ とで「箕面」「天王寺」「住吉」に公園を作った。100 年以上の歴史をもつ公園です。 > 現在は両側に花が植えられた石畳の並木道、桜の公園、心字池、子供の広場、野球場、テニス コートなどがあり市民の憩いの場となっています。 >>
<http://www.geocities.jp/fufuyuyu21/taisha/taisha02.htm>

河内関連ですが、隅田八幡神社の人物画像鏡銘文について、河内関連の方位ラインから考え てみました。

結論からいくと添付の図のようになります。443 年です。 なお銘文は下記のとおりです。

「癸未年八月日十大王年男弟王在意柴沙加宮時斯麻念長寿遣開中費直穢人今州利二人等取 白上同二百旱作此鏡」

「癸未の年八月 日十大王年、男弟王が意柴沙加(おしさか)の宮におられる時、斯麻が長 寿を念じて開中費直(かわちのあたひ)、穢人(漢人)今州利の二人らを遣わして白上同 (真新しい上質の銅)二百旱をもってこの鏡を作る。」

まず継体の祖父の意富富杼王(おおほどのおう)が、その銘文の「男弟王(おおどおう)」と 考えます。

またこの「意富富杼王」の同母妹に「忍坂大中姫」がいます。この忍坂大中姫が住んだのが「忍 坂宮」で、つまり銘文の「意柴沙加宮」です。允恭の妻だったこともあり、後代彼女のために各 地に「刑部」が設置されました。

図の方位ラインの真ん中に、八尾市刑部が位置しています。 この宮から北に 5 度偏角の方位ラインを延ばしていくと、後代の嶋郡の中心地・三島鴨神社

へ至ります。ここがつまり、銘文に見える「斯麻」です。魏志倭人伝では「斯馬国」と記され、先 の 5 度偏角の奈良都城区域との関わりで説明したとおり、石切神社との関連があります。図 参照。

そしてまた先の「忍坂宮」地点から北東へ伸びるラインは、その石切神社、つまり河内郡の中心地で、銘文にでてくる河内直(開中直)の拠点でした。魏志倭人伝の己百知国です。

さらに、先の「忍坂宮」地点から、同様に 5 度偏角で南に延ばした方位ライン上に、この鏡を 保存した隅田八幡神社が出てきます。

正確には、図のように隅田八幡神社から真北に石切神社がきます。おそらくこの地(ライン)が都城区域の「西隅」だったはずです。

このように考えると銘文の意味は、「忍坂宮」にいた「意富富杼王」が、この宮および河内の支配領域の最北端にあたる斯麻(三島)で、長寿を願って「念」じた際に、部下の河内直と漢人 等にそれを記念して特別な鏡を造らせたという内容だったと解釈できます。したがって癸未 年は、允恭天皇の時代の 443 年説が正しいこととなります。

そのほか残りの「八月日十大王年男弟王在意柴沙加宮時」の解釈ですが、「日十大王年」で区切るか、「(大)王年男弟王」をそのまま先の「意富富杼王(おおほどのおう)」とつなげて読むことも可能でしょうか。その場合「大王年男弟王(おおどおう)」となります。

また、先の「意富富杼王」と同母妹の「忍坂大中姫」の母が、「弟日売真若比売命」で、ここで「弟」

の字が出てきます。後代の皇族の習慣で、母の名を受け継ぐケースがあり、銘文で「男弟王」に 「弟」が出てくることとまた対応してきます。つまり「意富富杼王」は「意富弟王」と記載され

た可能性が高くなるでしょう。

ただあるいは「日十大王」をして、允恭天皇「雄朝津間稚子宿禰尊(おあさづまわくごのす くねのみこと)、男浅津間若子宿禰王」を候補に挙げることもできますが、あるいは次の安康 天皇「穴穂天皇・穴穂皇子」を考えてみるのもどうでしょうか。

先述の「穂高見」=「日高見」の変換で、「穴日大王」と訳せれば、近いニュアンスになりますが、 ただ即位年が453

年となるので、銘文の年代より、10 年近く遅くなります。

ただ、允恭妃の「忍坂大中姫」の「中」が、後代の「中天皇」の「中」、つまりつなぎの天皇の意味として捉えられれば、早め允恭が亡くなって、しばらく大中姫が政務をとっていたものの、実権

は同母兄の「意富富杼王」が握っていたので、先のいわゆる都城の郊外で行う皇帝祭祀も、彼が取仕切ったと考ええることも可能かもしれません。

允恭死後、近親相姦を犯した皇太子に群臣が従わないで、先の穴穂皇子に見方して、かなり混乱の様相を呈していたようです。

その穴穂皇子は安康天皇となった後に、「中蒂姫」を后にしていますが、この「中」の意味も先の大中姫と同類の語に見えます。

あと後代、三島方面に継体が進出してくるのも、祖父の代からのこれらの流れがあったとも見えます。このように非常に正確に当時の系譜を記録していたことが伺えます。そしてこれは先日論じた宮の方位ラインとも関係してくるはずです。

Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 1 日(土)23 時 25 分 16 秒 返信・引用
編集済

> No.956[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

灯籠は大きいすな。茅渥之道、竹之内街道の灯籠の痕跡は神社、だんじりを追う方法。さざれ石も一つ方法ですな。

古事記

ニギノミコトが、天から降りようとしていたところ、天から地上へと行く分かれ道のところに、「上は高天原(たかまがはら)を照らし、下は葦原の中つ国を照らす神さま」が居座って、その先へ行かせてくれません。そこで、アマテラスオオミカミとタカギノカミの命令を持って、ニギノミコトは、アメノウズメノミコト(天の岩戸の前で、裸ダンスを演じた女神)にこう言いました。

..「わたしは、この国(葦原の中つ国)の神でサルタヒコといいます。天の神の御子さまが

降りていらっしゃると聞き、ぜひお仕(つか)えしたいと思って、お迎えにやってきました。」

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_05.html

住吉大社

南海本線の「住吉大社駅」を下りて、直ぐ西側に「住吉公園」がある。かつては黒松の茂る美林で知られていた。更に西には「高灯籠」があり、そこからは「出見の浜」と呼ばれた浜辺で、潮干狩りなどしていたそうです。明治初年まで住吉大社の境内の馬場であったとか。明治政府が大阪に公園を、、、ということで「箕面」「天王寺」「住吉」に公園を作った。100 年以上の歴史をもつ公園です。現在は両側に花が植えられた石畳の並木道、桜の公園、心字池、子供の広場、野球場、テニスコートなどがあり市民の憩いの場となっています。

<http://www.geocities.jp/fufuyuyu21/taisha/taisha02.htm>

Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 12 月 1 日(土)22 時 51 分 11 秒 返信・引用

> No.955[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>

- > 竹之内街道と茅渥之道を灯籠(○印)で結ぶライン上に古墳が存在する。 >
- > 古墳の前方方向に進めば竹之内街道、また倭茅渥之道に当たる。 >
- > 灯籠のラインから大泉緑地は古墳だな。街道は矢印の方向に環状をなす。

>

- > 前方後円墳は 266 年から神功皇后(鸕鷀)の時期からになる。 >

- ・ > 創造になるが灯籠で結ぶライン上に古墳を並べるのは意味をもつのでは…。 >

さっそく詳細お知らせありがとうございます。 灯籠が街道沿いに並ぶというのは納得できますね。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/灯籠>

ただ灯籠の年代がどこまで遡れるかが課題でしょう。

こちらはまた銅鐸による音信号通信を追っています。

先の志賀島の綿津見神の件ですが、「古事記」では「阿曇連はその綿津見神の子、宇都志日金 杵命の子孫なり」と記されます。

「宇都志日金杵命」の「杵(タク)」は拍子木ですから、金属製の銅鐸等を想起させますが、春 秋左氏傳の《谷梁傳?莊公二十五年》の范寧注に「杵,兩木相擊。」朔氣傳金杵。」と見えることから、木製と金属製との2種が使い分けられていたことが想定できます。

どうも一日に金の拍子木を使ったのでしょうか。音が違った可能性がありますね。木製より もっと響いたとか。先のとおり、銅鐸の可能性も感じますが。

「宇都志日」ですが、日にちが遷るの意味でしょうか。あるいは太陽が高いところに移動する の意味があるかもしれません。

この「日」が、この神と同神と見なされる「穂高見神」と関係しそうです。「新撰姓氏録」では「安 曇連は綿津豊玉彦の子、穂高見命の後なり」とみえます。

この「穂高見命」は長野の穂高神社が残るように、各地に安曇の地名とともに移行したと思 われますが、日田周辺をかつて日高見と呼んだことがあり、おそらくは安曇族の間で「日高 見」の語も使用されていたのではないかと感じます。

そして常陸にも日高見国の記載が見えることになった背景には、安曇族や、この地の新漢氏

系オオ氏の移住があったと推測すべきでしょう。彼らは九州から関東・東北に至る海岸や河 川沿いに横穴墓と壁画をもたらします。

すると安曇氏が、九州系の中臣・大伴の下にいた新漢人を運んで、その際に高句麗系文化が 伝播した形になりそうですが、もともと安曇氏自体は、古く弥生時代からすでにネットワークがあって、銅鐸文化と関わっていたのではないかと感じます。

いわば海の街道ですね。 Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 12 月 1 日(土)10 時 39 分 34 秒 返信・引用 編集済

> No.954[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 秦野さんの図が何を結んだのかが不明なのでコメントしにくいのですが、何か意味があり そうですね。

意味は 畝傍山から住吉大社、畝傍山から堺市街への竹之内街道。 畝傍山から堺の石津港への茅渚之道。 竹之内街道と茅渚之道を灯籠(○印)で結ぶライン上に古墳が存在する。 古墳の前方方向に進めば竹之内街道、また倭茅渚之道に当たる。 灯籠のラインから大泉緑地は古墳だな。街道は矢印の方向に環状をなす。 前方後円墳は 266 年から神功皇后(孝興)の時期からになる。 創造になるが灯籠で結ぶライン上に古墳を並べるのは意味をもつのでは…。

Re:神社はなぜそこにあるか? 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 30 日(金)22 時 54 分 53 秒 返信・引用

> No.953[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 掲示板に書いたように、このポイントは神社群中心であるだけでなく、周辺の古墳(下記 の両帆立貝式古墳)と二等辺三角形を作る ... 金印ポイントと二つの古墳の作る二等辺 三 角形の辺の誤差は 0.18%しかない。..... それでは、次に図-17 の左側、1 最上位経 王大菩 薩-2 田立建埋根命神社-3 伊弉諾神宮に引いた直角線(図-23 の青線)にも同じ ような幾 何学特性があるかを調べて見ます。 図-29 大泉緑地(赤線は古墳を結ぶ線) ...<http://w312.k.fiw-web.net/hscp/>

>

なるほど、このサイトの中で、特にご指摘の金印とホタテ貝式古墳との方位ライン関係の指摘が重要ですね。偶然そこに金印があったわけではないことを意味しています。

秦野さんの図が何を結んだのかが不明なのでコメントしにくいのですが、何か意味がありそうですね。

それで、志賀島の件ですが、ここはなるほど先の君が代の件の安曇氏の拠点なのですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/志賀島> <http://ja.wikipedia.org/wiki/志賀海神社>

案外古いですね。

しかし、どうしてここに金印を扱う役所がありましたかね。ただ、下記の伝承にあるように、この綿津見大神に一度立ち寄ることが、後の日本の支配者として必要だったことを示しているようにも見えます。つまり金印の継承ですね。

山幸彦と海幸彦の段では、火照命又は火須勢理命(海幸彦)の釣針をなくして困っていた火遠理命(山幸彦)が、塩土老翁の助言に従って綿津見大神(豊玉彦)の元を訪れ、綿津見大神の娘である豊玉姫と結婚している。二神の間の子であるウガヤフキアエズはトヨタマヒメの妹である玉依姫に育てられ、後に結婚して神日本磐余彦尊(神倭伊波礼毘古命・かむやま

といわれひこ)らを生んでいる。綿津見大神の出自は書かれていないが、一般にはオオワタツミと同一神と考えられている。

神社はなぜそこにあるか? 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012年11月30日(金)21時55分10秒 返信・引用

掲示板に書いたように、このポイントは神社群中心であるだけでなく、周辺の古墳(下記の両帆立貝式古墳)と二等辺三角形を作る...金印ポイントと二つの古墳の作る二等辺三角形の辺の誤差は0.18%しかない。.....それでは、次に図-17の左側、1最上位経王大菩薩-2田立建埋根命神社-3伊弉諾神宮に引いた直角線(図-23の青線)にも同じような幾何学特性があるかを調べて見ます。.....図-29大泉緑地(赤線は古墳を結ぶ線) ...<http://w312.k.fiw-web.net/hscp/>

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月29日(木)23時34分3秒 返信・引用 編集済

> No.951[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

サルタヒコが街道の目印になっていたと仮定する。街道のサルタヒコと古墳とは何らかの関係が無ければならない。

大胆に仮定した。街道沿いに存在するのは灯籠だろう。これが正しいのならば、大泉緑地(青の線)は古墳になるな。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する Ads by Google Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:管理人 投稿日:2012年11月29日(木)22時41分26秒 返信・引用 編集済

> No.950[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 現在は電波で同じような方法で区別している。恐れいります。 > 管理人さんの方位はアマテラスの光通信網を追っていますな。 >> どうも、ヨーロッパの歴史は聖書でないでしょうか。ざっと見てもアトランテスまでバックしますな。

>>

先の多紐細紋鏡の凹面鏡の光通信の件ですが、モールス信号的要素が会ったと思いますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/モールス符号>

信号なので、夜の光の点滅による通信があったでしょう。

それで銅鐸と一緒に埋葬されるケースが多いのが気になります。銅鐸は、いわば音のモールス信号を担当したのではないのでしょうか。その多紐細紋鏡同様に、銅鐸が山頂の少し下から出土するのも、なるべく遠くに聞こえさせるためでしょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/銅鐸> 昼間の場合は、光通信は使えないので、狼煙が銅鐸の利用を行った可能性を感じますね。

多紐細紋鏡も銅鐸も、おそらく同じ文化圏です。1世紀に出てきて3世紀になると突然使われなくなるんですね。

呉・馬韓系から、魏・秦韓系・遊牧民へと変化する際に、祭祀とか習俗ごとに変化し、呉音表記から、倭訓の世界へと変化していきます。

その際に測量方法も偏角のあるものに変化し、軍事的な通信網も再整備されたのでしょうか、そして銅鐸は採用されなかったのかもしれませんが。

当時の武器なり道具には、多分に信仰面が付随していたので、両者を切り離して考えるのは無理があるかもしれません。

それで、弥生末期になると、銅鐸そのものも破壊して埋めることになったのでしょうか。ちょっと偶像崇拜を忌避する旧約聖書の世界のような激しさがありますね。そういう場合は、一気に信仰ごと入れ替わるんです。言語も入れ替わる。

その辺を融和的にやる民族と、そうでない民族がいますね。識別できるのでしょうか。

Ads by Google Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月29日(木)00時26分44秒 返信・引用 編集済

> No.949[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

>神功記紀にでてくるように、船の帆に吊るした鏡をかざして、それに灯火の光を反射させて、対岸と敵味方や船の種類を光信号で区別させたのでしょうか。

現在は電波で同じような方法で区別している。恐れいります。管理人さんの方位はアマテラスの光通信網を追っていますな。

どうも、ヨーロッパの歴史は聖書でないのでしょうか。ざっと見てもアトランテスまでバックしますな。

> 阿曇氏が宮中に奉仕する話ですが、先の斉明朝倉宮と大川安曇との関連ではないでしょうか。その辺まで遡れる可能性がありますね。 >> 夜に宮中に差し出す魚を載せた船がやってきますね。おそらく灯火炊いて、港と合図していたはずです。神功記紀にでてくるように、船の帆に吊るした鏡をかざして、それに灯火の光を反射させて、対岸と敵味方や船の種類を光信号で区別させたのでしょうか。

>> 凹面鏡のほうが本当はサーチライト効果でよく光が飛んだはずなのですが、三角縁の時代

には凸面鏡へと変化してしまうのが気になっています。技術が伝承されなかったのか、必要性を感じなくなったのか。 >

サルタヒコ

邇邇芸尊が天降りしようとしたとき、天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国までを照らす神がいた。その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキのように照り輝いているという姿であった。

ホオズキ(橙色)はまるで Na 灯ですな。通常色より透過性はよい。

ヒトの網膜は、緑 - 橙の範囲の光に対し敏感で、視細胞も色より明暗に敏感なので、照明の有効範囲が広がる。微粒子による光の散乱は長波長(赤)ほど小さく、霧や煤塵などが多い空気中の透視性が高くなる

波長による屈折率差が原因で生じる色収差がなく、白色光よりはっきり見える

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 27 日(火)22 時 29 分 24 秒 返信・引用 編集済

> No.948[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんとの議論で古代の状況が明確になりますな。扶桑国の存在、邪馬台国の存在…。質問ですが渡来人研究の渡来人はユダヤを指すのか、匈奴、月氏か、百済、新羅、任那のどれでしょうか。匈奴なら鏡からサルタヒコの位置を追い、勾玉の意味を追求します。日本はさざれ石とアマテラス伝承、遺跡、神社を追えば…理解できる。

どうもこちらこそお世話になります。ま、何でもありですね。もっとも匈奴・ユダヤについては、ちょっと昨日から櫛目紋土器を調べています。

櫛目文土器文化(くしめもんどきぶんか:Comb Ceramic culture または Pit-Comb Ware culture)とは、新石器時代のヨーロッパ北東部、現在のヨーロッパロシア北部とフィンランドを中心とする地域に広まった文化。紀元前 4200 年頃から紀元前 2000 年頃まで続いた。櫛の歯で擦ったような文様のある土器を特徴とするためこの名がある。北・西はスカンジナビア半島中部、東はウラル山脈、南はバルト海南岸、ポーランドのヴィスワ川付近まで分布し、さらにいくつかの下位分類される。基本的に狩猟採集文化と考えられるが、一部は農耕段階であったと思われる。集落は海岸・湖岸に集中し、生業は漁労・狩猟・採集であった。土器は丸底または凸底の壺形土器であった。中にはアスベストを用いた特異なものもある。墓は集落近くに作られ上に赭土がかけられた。特徴的な製品として土偶や、クマなど動物の頭の石像がある。岩石刻画も知られる。櫛目文土器文化の担い手は、地理的に見てインド・ヨーロッパ語族ではなく、フィン・ウゴル語派を話した人々であろうといわれている。

ウラル語族との対応が指摘されています。一部が縄文時代に半島・日本へやってきます。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/櫛目文土器文化_\(ヨーロッパ\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/櫛目文土器文化_(ヨーロッパ)) <http://ja.wikipedia.org/wiki/櫛目文土器時代>

これが、先の Q 系統の可能性があります。もっとも初期のもので、一度縄文期に日本まで達しているのかもしれない。その後、またずいぶん後に月氏によって再度もたらされたのでしよう。

> サルタヒコは灯台、灯籠でしょうな。灯籠は狼煙で光を主にする。さぞかし、距離測定の制度が上がったことでしょうな。秦野北斗著書の徐福と邪馬台国。始皇帝の琅邪から奈良までの距離三万里を測定している。

> 秦野は神功皇后の三韓征伐の航路、宮崎辺りで海上を照らす灯台(サルタヒコ)を見て唄ったのだろう。三韓征伐の場景を想像すると。奈良の邪馬台国を経ち、堺の三国で倭軍と合流し、瀬戸内海を宮崎へ。一方、舞鶴から出雲経由の扶桑軍と宮崎で合流。東征航路で対馬(鰐浦)韓半島南部の邪馬台国(釜山)の対岸 1000 里に陣を取る。奈良を経つこと 6 ヶ月。

> 無形民族文化財の『君が代』の歌詞の意味について教えてください! > 神功皇后が「志賀島に打ち寄せる波が絶えるまで伝えよ」と言われた、福岡県・志賀島(金印が見つかったところ)志賀海神社の無形民族文化財のお祭り(山ほめ祭)で『君が代』以下のような歌詞として伝わっているそうですが?

> http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1043574890 >

先の多紐細紋鏡の出土拠点を結んだ方位ラインを作成してみました。図を添付します。壱岐島に向けて、30 度、60 度、90 度の直角三角形をもって、測量しているのがわかります。おそらくこの鏡の凹面をつかってサーチライト測量したのでしょう。海峡越えの測量です。

河内方面まで 15 度、つまり正方位の測量ラインを延ばしていますが、おそらく紀元前後あたりの年代にそこまで測量したのでしょう。甕棺とかから出てくるのも、その甕棺や関連文化の導入と関係します。元は半島系で中国北部の遊牧民の測量に起源があるといえそうです。九州で正方位測量して、一度河内あたりまではいったんですね。会報第 2 号で書いたとおりです。

あと、なるほど君が代ははじめて全文よみましたが、おもしろいですね。

山誉漁獵祭で読まれる祝詞とのことですね。

山ほめ神事の起源は明らかではありませんが、そのむかし神功皇后が三韓出兵した時、皇后の御前にて志賀の海人たちがこの古くより伝わる山ほめ神事をお見せしたところ、実に面白い儀式であるとして皇后はこの神

事を「志賀の浜に打ち寄せる波が途絶えるまで伝えよ」と厚く庇護され、今に伝えられています。

この神事は阿曇氏が内膳司の長官を務める背景を推察させるものである。
これ以外に、対馬の豊崎の浦で志賀の白水郎が皇后の御膳に奉仕した故事、
志式神社での早魚神事など、安曇族が皇后の食事に関わった伝承がいくつかある。

<http://lunabura.exblog.jp/17623614/>

阿曇氏が宮中に奉仕する話ですが、先の斉明朝倉宮と大川安曇との関連ではないでしょうか。

その辺まで遡れる可能性がありますね。

夜に宮中に差し出す魚を載せた船がやってきますね。おそらく灯火炊いて、港と合図していったはず。神功
記紀にでてくるように、船の帆に吊るした鏡をかざして、それに灯火の光を反射させて、対岸と敵味方や船の
種類を光信号で区別させたのでしょう。

凹面鏡のほうが本当はサーチライト効果でよく光が飛んだはずなのですが、三角縁の時代に凸面鏡へと変化
してしまうのが気になっています。技術が伝承されなかったのか、必要性を感じなくなったのか。

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月27日(火)02時11分25秒 返信引用

> No.947[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

管理人さんとの議論で古代の状況が明確になります。扶桑国の存在、邪馬台国の存在…。質問ですが渡来
人研究の渡来人はユダヤを指すのか、匈奴、月氏か、百済、新羅、任那のどれでしょうか。匈奴なら鏡からサル
タヒコの位置を追い、勾玉の意味を追求します。日本はさざれ石とアマテラス伝承、遺跡、神社を追えば理解
できる。

サルタヒコは灯台、灯籠でしょう。灯籠は狼煙で光を主にする。さぞかし、距離測定の制度が上がったこと
でしょう。秦野北斗著書の徐福と邪馬台国。始皇帝の琅邪から奈良までの距離三万里を測定している。

灯籠の窓の大きさが鏡の大きさになる。現在の灯籠の説明には疑問が残るが。

秦野は神功皇后の三韓征伐の航路、宮崎辺りで海上を照らす灯台(サルタヒコ)を見て唄ったのだらう。三韓征
伐の場景を想像すると。奈良の邪馬台国を経ち、堺の三国で倭軍と合流し、瀬戸内海を宮崎へ。一方、舞鶴か
ら出雲経由の扶桑軍と宮崎で合流。東征航路で対馬(鰐浦)韓半島南部の邪馬台国(釜山)の対岸1000里に陣
を取る。奈良を経つこと6ヶ月。

無形民族文化財の『君が代』の歌詞の意味について教えてください! 神功皇后が「志賀島に打ち寄せる波が絶えるま
で伝えよ」と言われた、福岡県・志賀島(金印が見つかったところ)志賀海神社の無形民族文化財のお祭り(山ほめ祭)
で『君が代』以下のような歌詞として伝わっているそうですが?

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1043574890

君が代は
千代に八千代に
さざれいしの
いわおとなりて
こけのむすまで

あれはや
あれこそは
我君のみふねかや
うつろうがせ身骸に命
千歳という

花こそ

咲いたる
沖の御津の汐早にはえたらむ釣尾に
くわざらむ
鯛は沖のむれんだいほや

志賀の浜
長きを見れば
幾世経らなむ

香椎路に向いたる
あの吹上の浜
千代に八千代まで

今宵夜半につき給う御船こそ
たが御船ありけるよ

あれはや
あれこそは
『阿曇の君』のめし給う
御船になりけるよ

いるかよ
いるか
汐早のいるか

磯良が崎に 鯛釣るおきな

> そう、サルタヒコの話がありましたね。秦野さんご指摘のとおり測量関連でしょう。 >> 先の多紐細文鏡が、凹面鏡で、山腹から出土するのも、先日の八岐大蛇と山越え測量の兼ね 合いで捉えるとよいかもしれません。 >> また多紐細文鏡が中国北方の満州地域で多く出土する件について、遊牧民系の測量との兼ね合いを感じます。 >> ローマのファロス灯台にとりつけられた凹面鏡のケースだと、直径が7メートルもありま すね。 >

- > 120 m もの高さがありますが、ちょうど耳成山くらいの高さになるでしょうか。 >
- > 先の多紐細文鏡をだした高尾山の山頂は 278 m ありますね。 >
- > 測量用の見晴らしがよいことはわかります。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する Ads by Google Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:管理人 投稿日:2012年11月26日(月)23時16分33秒 返信・引用

> No.946[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 三角縁神獣鏡の 3時、5時7時 30分 11時方向に穴倉から狼煙、光の様なものが出てい る。を地図に当てはめる。図添付 >>

- > 穴倉(サルタヒコ)から狼煙の残骸がさざれ石ではないか。 >
- >
- > サルタヒコ >

- > 邇邇芸尊が天降りしようとしたとき、天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国 までを照らす神がいた。その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキのように照り輝いているという姿であった。 >
- > 背長は七尺:2.1 m
- > 八咫鏡:直径 46 cm
- > 鼻長は七咫:40 cm >

そう、サルタヒコの話がありましたね。秦野さんご指摘のとおり測量関連でしょう。

先の多紐細文鏡が、凹面鏡で、山腹から出土するのも、先日の八岐大蛇と山越え測量の兼ね合 いで捉えるとよいかもしれません。

また多紐細文鏡が中国北方の満州地域で多く出土する件について、遊牧民系の測量との兼ね 合いを感じます。

ローマのファロス灯台にとりつけられた凹面鏡のケースだと、直径が7メートルもあります ね。
<http://s-ivy.augustus.to/Pharos.html>

50 KM 先からも光が見えたそうですが、多紐細文鏡の場合は 20 センチほどでしょうか

ら、ずいぶん差があります。

ただサーチライトの形状自体は、添付の米軍のサーチライトのケースのようによく似ていま す。

120 m もの高さがありますが、ちょうど耳成山くらの高さになるでしょうか。 先の多紐細文鏡をだした高尾山の山頂は 278 m ありますね。 測量用の見晴らしがいいことはわかります。

Ads by Google Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 26 日(月)07 時 38 分 53 秒 返信・引用 編集済

> No.944[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

三角縁神獣鏡の 3 時、5 時 7 時 30 分 11 時方向に穴倉から狼煙、光の様なものが出ている。 を地図に当てはめる。図添付

穴倉(サルタヒコ)から狼煙の残骸がさざれ石ではないか。

高野山:さざれ石あり経由地?

二上山:神話からサルタヒコがあった。

舞鶴:経由地が必要?

伊吹山:経由地が必要?

サルタヒコ

邇邇芸尊が天降りしようとしたとき、天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国ま でを照らす神がいた。その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキ のように照り輝いているという姿であった。

背長は七尺:2.1 m 八咫鏡:直径 46 cm 鼻長は七咫:40 cm

- > 弥生中期に銅鐸等と一緒にでてくるようで、半島から中国北部の鏡のようです。 >
- > 紐が2 つあり、中心からずれています。
- > 採火用との見方もあるようですが、サーチライト測量の道具ではないでしょうか。 >
- > 紐が上になる分だけ重心が下がるので、吊るす際に安定したでしょう。 >

- > もっともローマの灯台についての凹面鏡が遠くの船を焼いた記録もあるので、武器だった可能性も感じますが。

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:管理人 投稿日:2012年11月26日(月)00時23分32秒 返信・引用
編集済

> No.944[元記事へ]

あと、だいぶ前に話した凹面鏡をサーチライトとして使用する件ですが多鈕細文鏡が、凹面鏡のようです。 <http://homepage1.nifty.com/o-mino/page840.html> <http://exhibition-s-t-s.blogspot.jp/2011/08/blog-post.html>

弥生中期に銅鐸等と一緒にでてくるようで、半島から中国北部の鏡のようです。

紐が2つあり、中心からずれています。 採火用との見方もあるようですが、サーチライト測定の道具ではないでしょうか。

紐が上になる分だけ重心が下がるので、吊るす際に安定したでしょう。

もっともローマの灯台についての凹面鏡が遠くの船を焼いた記録もあるので、武器だった可能性も感じますが。
この鏡の詳細は下記のとおりです。

<http://homepage1.nifty.com/o-mino/page840.html>

青銅製の舶載鏡で、紀元前 7～前 6 世紀の中国遼寧地方に起源を持つ。朝鮮半島では 29 面以上知られている。日本では 11 面見つかっている。(原の辻と増田遺跡のものは、欠片だけです から、これを入れないと 9 面になる)発見された数が朝鮮の方が、多いためか朝鮮半島を経由 して日本に伝わったと書かれているものや、朝鮮特有の鏡と書かれているものもあるが、中 国から直接もたらされたとも考えられる。 名称が示すように、紐(つまみ)が2 個あるいは3、4 個付いており、円で区画された内・ 外区には直線で幾何学文様が描かれている。又、縁の断面が半円形である。

日本における出土地と埋物状況 1 大阪府柏原市大県(東京国立博物館蔵) 径 21.7 cm 最大の大きさ。 高尾山の山頂から南に続く大県小字切山から出土。30 度近い急斜面のところ。鏡だけが出土。 2 奈良県御所市名柄字宮 神社の西の名柄遺跡から、小型の銅鐸とともに、出土。直径が15.5cm。 柏原市の鏡と同じ鋳型か? 3 小郡若山遺跡 小郡市埋蔵文化財調査センター蔵 2 面出土 4 本村籠(ほんそんごおり)遺跡(佐賀県佐賀郡大和町) 甕棺の中から出土 5 若山遺跡 福岡県小郡市 弥生時代前期末から中期前半の集落跡である小郡若山遺跡の土坑から出土した多鈕細 文鏡二面、甕形土器一箇からなる。面径 16 cm と、15.3 cm の多鈕細文鏡はほぼ完形で鋳上がりも良い。 集落内に掘られた、直径と深さが 40cm 弱の小さな穴で発見された。鏡面をあわせた形で埋 され、水平に置かれていた。穴は土器でふさがされ、土器には穴が開けられていた。 6 原の辻(はるのつじ)遺跡(長崎県壱岐) 弥生時代前期末から中期前半(紀元前 3 世紀末～前 2 世紀ごろ)の多鈕細文鏡の一部と細形銅剣の破片九点などが出土 7 宇木汲田(うきくんでん)遺跡(佐賀県唐津市宇木)弥生早期～後期にかけての集落・ 埋葬施設。前期末～後期に至るまでの甕棺墓 129 基、木棺墓 3 基が見つかった。

12 号木棺墓...多鈕細文鏡一面、細形銅剣・銅矛・銅戈の青銅製武器、銅釧(どうくしろ)、 勾玉、管玉など。 8 吉武高木遺跡--福岡市の西区早良平野にある 弥生前期末から中期初頭の遺跡。 9 増田遺跡か--佐賀市鍋島町。弥生中期初頭甕棺に細片として。

10 長野県??

特にこの「高尾山の山頂から南に続く大県小字切山から出土。30 度近い急斜面のところ。鏡 だけが出土。」の記載が重要です。山の上で使っていた形跡がありますね。

原の辻は港ですから、遠くの船に向けてサーチライト灯台の効果を狙ったのでしょうか。

対馬、壱岐島、釜山あたりの測量を正確にするには、まず火を灯して、光を向こう岸に伝える 必要があるのですが、先日のように、凹面鏡のサーチライトは数十キロ光を飛ばせるので、こ の手の海峡測量にはとってつけ

だったでしょう、

ただこの記載は確かに採火の可能性も感じます。「集落内に掘られた、直径と深さが 40cm 弱 の小さな穴で発見された。鏡面をあわせた形で埋され、水平に置かれていた。穴は土器でふさがされ、土器には穴が開けられていた。」

あとは、神宝のたぐいですね。

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 25 日(日)23 時 55 分 46 秒 返信・引用

> No.943[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >

> 三角縁神獣鏡の縁の歯文帯が洛陽出土の漢代のノーマン(視太陽時)と一致するかが問題で しょうな。 >
ノーマン、羅針盤の可能性はある。どちらも目盛りがあるな。しかし、見方を変えると魏志 倭人伝の文章から三角縁神獣鏡は地図。3 時、5 時 7 時 30 分 11 時方向に穴倉から狼煙、光 の様なものが出ている。京都府相楽郡山城町 椿井大塚山古墳出土 三角縁神獣鏡

>>

三角縁神獣鏡がノーマンとしての機能をもっていた可能性は高いと思います。

北緯 34.50 度での夏至の日の 8 尺の棒の影は約 5 尺 5 寸です。 逆に 1 尺 5 寸の影ができる棒の長さは 2 尺 1.8 寸です。 計算式 影の長さ=棒の長さ X tan(34.50 度) <http://oshiete.goo.ne.jp/qa/6059504.html>

おそらく、1 尺のノーマンを使ったのでしょう。 洛陽あたりの 34.5 度で、影が 0.5 尺前後になりますね。そうすると、鏡の直径は 1 尺前後になるでしょう。

ところが、洛陽より南にいくと、ノーマンの影長が短くなるので、鏡のサイズも 0.5 尺以下で すみませんが、洛陽より北で使う場合は、影が 0.5 尺を超えるので、1 尺以上の鏡の大きさがな いと影が収まらないことになります。

8 尺のノーマンを持ち歩くのが面倒なので 1 尺のコンパクトサイズを作って測量したのか もしれません。

携帯用緯度・距離算出機械ですね。

そういう意味では、先のとおり影長を有効視していたと見えます。

やはりそう考えると、高緯度で製造した場合、1 尺のノーマンを持っていたとしても、鏡の直 径は大きめで作った可能性がありますね。その地で実験して、うまく影が収まるように製造 したでしょう。

そのうちにだんだん、鏡自体を 1 尺と見なすようになったかもしれません。

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 25 日(日)08 時 11 分 39 秒 返信・引用 編集済

> No.942[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

三角縁神獣鏡の縁の歯文帯が洛陽出土の漢代のノーマン(視太陽時)と一致するかが問題で しょうな。 ノーマン、羅針盤の可能性はある。どちらも目盛りがあるな。しかし、見方を変えると魏志倭 人伝の文章から三角縁神獣鏡は地図。3 時、5 時 7 時 30 分 11 時方向に穴倉から狼煙、光の 様なものが出ている。京都府相楽郡山城町 椿井大塚山古墳出土 三角縁神獣鏡

裸国や黒齒国

女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又「有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。」又 有裸國、黒齒國復在其東南、船行一年可至。參問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可五 千餘里。

女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。「その南に侏儒（こびと）国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。」また、その東南に裸国や黒齒国も在り、船で行くこと一年で至るとか。倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上 に在り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。

侏儒国が女王国の南になる。女王国は北。

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:管理人 投稿日:2012年11月24日(土)23時10分5秒 返信・引用 編集済

> No.941[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>> 洛陽焼溝漢墓 >> 河南省洛陽の北郊外にあり、前漢中期から後漢後期までの墓地群です。発掘された墓は225墓で、その内95墓から118面の銅鏡と9面の鉄鏡が出土しています。 >>

<http://kuramotokeisuke.ebo-shi.com/tyugoku.seidoukyou.html>

> 日本の八咫鏡は円周 8 咫、すなわち径 2 尺という意味である。後漢の尺は 23.04cm である から、直径 46cm 前後の円鏡を指し、現在 4 枚の出土例がある。 >>

- > 古代中国の嘉量による尺
- > 漢代の尺
- > 約 23.09cm
- > 隋代の大尺
- > 約 29.4cm
- > 隋代の小尺
- > 約 24.6cm
- > 唐代の大尺
- > 約 29.4cm
- > 唐代の小尺
- > 約 24.6cm
- > 大宝律令の大尺
- > 約 35.6cm >

なるほど、こうみると、唐と隋については、それ以前の尺の延長として、小尺を考慮すべきことがわかりますね。

晋尺時代の 24.5cm から伸びてないのが気になります。

尺度が王朝ごとに、さらにいえば年代に比例して伸びる件について、ちょっと北斗七星の影響を考えはじめています。北斗七星も尺と呼ばれますが、先の歳差運動の影響で、年代を追う ごとに天の北極に移動していくことがありました。だんだん北斗七星が描く円弧は、小さく なっていったはずですが、100 年で0.5度分小さくなる。

夏至の日あたりの北斗七星が最南端にくる時刻に、地平線から北斗七星の柄杓星までの距離を尺とすれば、だんだん長くなっていったかもしれません。

そうすると、また緯度が異なると、当然その北斗七星や北極星の高さも替わるので、尺単位が 変化するようにも見えます。

具体的には南にいくほど、地平線からの距離は短くなり、北へ行くほど長くなる。

それで先の周髀算経の件ですが、下記の記載がありました。

「周髀(髀を英語でノーモンという)は、地上に立てた垂直体で、正午における表の影を測定して、冬至や夏至の日を測定することが古くから行なわれてきた。すなわち、冬至の時は影長がもっとも長く、夏至はもっとも短くなるからである。ところで、使用された表の長さは八尺であり、これに対し夏至の影長は一寸六尺、冬至には一丈三尺五寸となる。」

難しいのですが、前王朝のノーモン長(鏡の直径尺の8倍など)があって、それをつかって8尺を出したとしても、次の王朝が南に遷都して、そこで同じ計算をすると、影の長さは短くなったでしょう。日本の場合は、椿井大塚山が洛陽と同じ位置ですから、ここが重要拠点だったはずですが、ただ都自体はマキムクや黒田宮だったので、ややノーモンで出てくる尺は短くなりますね。

ただ問題は、影としてでてくる尺を有効視する必要があるかどうかですね。わざわざノーモンとなる尺があるのに。

洛陽から長安に遷都すると、すこし南に移動しますね。

こちら漢代のノーモン

http://geocities.yahoo.co.jp/gl/tb7_workshop/view/20060129/1138558204

2本城の南北にノーモンをたててますね。下記参照。 <http://pal.las.osaka-sandai.ac.jp/~suanshu/articles/9Chapters01.pdf#search='周髀算径'>

呉や華南系の鏡の直径、つまり尺度は短いですね。一方で洛陽とか、さらに北の平壤あたりの鏡なら、尺単位が長くなり、大きな鏡ができあがったという感じでしょうか。

周髀算径関連。

<HREF="http://8220.teacup.com/toraijin/bbs?M=JU&JUR=http%3A%2F%2Foshiete.goo.ne.jp%2Fqa%2F6059504.html"><http://oshiete.goo.ne.jp/qa/6059504.html>

そうすると、倭に渡った鏡も、楽浪北部あたりで製造されたなら、大型の鏡になるし、華南でつくられたものならば、小さくなるかもしれません。

先の盤龍鏡が24.5cmとかなり大型サイズで、後代の晋尺クラスまで長いものには、もしかすると何かその辺の製造地の問題があるのかもしれませんがね。日本製鏡に比較的大きなものが出てきます。

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月24日(土)09時22分7秒 返信・引用 編集済
> No.940[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

日本の鏡の記録は天の岩戸の「八咫鏡」直径2尺(46cm前後)が最古でしょな。円周144.5cm前後。どうも、秦尺を使用している。神話には鉄製とある。

高天原の地図から高天原には鉄、銅、水銀の鉱山がある。

尚、高天原の地図は秦野北斗著書から書き起こした古代地図

しん-きょう[-キヤウ]【×秦鏡】『西京雜記』にある、秦の始皇帝が、人の心の善悪や病気の有無を照らして見たという鏡か

ら》人の心の善悪正邪を見抜く眼識。
洛陽焼溝漢墓

河南省洛陽の北郊外にあり、前漢中期から後漢後期までの墓地群です。発掘された墓は225墓で、その内95墓から118面の銅鏡と9面の鉄鏡が出土しています。

<http://kuramotokeisuke.ebo-shi.com/tyugoku.seidoukyou.html>

第2章 天の岩戸

そこで、八百万(やおよろず=たくさんあること)の神様たちは、高天原の安の河原に次々と集まって来て相談をしました。まず、高御産巢日(たかみむすび)の神の子の思金の神 (おもいかねのかみ=思索、思慮の象徴神)に考えさせて、不死鳥である長鳴鳥(ながなき とり)を集めて鳴かせてみました。「次に安の河の川上にあった大きな岩と天の金山から鉄 を採ってきて、鍛冶屋(かじや)の天津麻羅(あまつまら)という人を尋ねて洗練させ、イシコリドメノミコトに命じて鏡を作らせました。」

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_02.html

八咫鏡(やたのかがみ)は三種の神器の一つ。金属鏡であったか、石鏡であったか定かでは なく、発生年代不詳。

神鏡(しんきょう)、賢所(かしこどころ)などともいう。また『日本書紀』には別の名を真 経津鏡(まふつの かがみ)ともいうと記されている。咫(あた)は円周の単位で、0.8 尺で ある。径 1 尺の円の円周を 4 咫としていた。したがって「八咫鏡」は直径 2 尺(46cm 前後)の 円鏡を意味する

中国 説文解字の「咫」に、「周尺の八寸を咫とし、十寸を尺とする」とある。この「周」とは円周のこと であり、咫とは円周の単位であった。円周率は約 3.14 であるが、これを 3.2 で近似すると、径 1 尺の円の円周は 3.2 尺となり、これを 4 咫とした。従って 1 咫は 0.8 尺である。 日本の八咫鏡は円周 8 咫、すなわち径 2 尺という意味である。後漢の尺は 23.04cm であるか ら、直径 46cm 前後の円鏡を指し、現在 4 枚の出土例がある。

古代中国の嘉量による尺 漢代の尺 約 23.09cm 隋代の大尺

約 29.4cm 隋代の小尺 約 24.6cm 唐代の大尺 約 29.4cm 唐代の小尺 約 24.6cm 大宝律令の大尺
約 35.6cm

>> そうすると、たとえば中国で、磁北を出すようにして作られた方位磁針、つまり指南魚を利用し、北が出るようにつくられた盤龍鏡だったとすれば、中国の磁北、つまりその偏角が、日本に導入される結果になるでしょう。 >> それで当時の中国の偏磁気角を調べてみると、下図の偏磁気曲線の点線になります。この 曲線から推定して、日本の偏角とおそらく東西が逆になるはずです。偏磁曲線の表の引用元。 >> これが原因で、日本の方位区画はすべて偏角が、日本の偏磁気角と、東西逆に出てしまった のではないでしょうか。 >> 中国では秦・漢の時代からすでに指南魚・方位磁針によって、磁北を出すことは行われて いました。魏でも正式採用 > されてました。 >> そこで整理すると、中国でまず方位磁針によって磁北を出して、その磁北の角度にしたがって北を産出できる盤龍鏡のような北極星・北斗七星をつかって方位を出す鏡が製造され、それを日本で輸入してそのままそれによってでてきた北を、方位区画や遺跡に使ったので、 そのために、遺跡跡の偏角も、日本の磁気偏角と逆にあたる西よりの偏角で建築されること となったとなります。 >> おそらく 5 度偏角の方位区画を造営した際にも、同様な中国鏡を輸入して行った可能性を

感じます。 > 当時はまだ三角縁ではなかったもので、漢鏡尺によるもうすこし小さいサイズの方位区画と なったのでしょう。 Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 23 日(金)22 時 29 分 29 秒 返信・引用 編集済

> No.939[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 方位盤ですが白村江の頃まで使用されたと思われる船の方位盤。図添付
- > 尚、三角縁神獣鏡は方角入りの地図。鏡の乳が四方になる模様。 >
- > 縮尺は当時は里、尺、寸に対応関係がある。
- > 例、里と歩は 1:300 で対応。
- >
- > 今までの方位と三角縁神獣鏡の四方とは別物でしょうな。 >

すいません、再訂正です。 先の 7 度偏角方位区画の件ですが、その 11.1km を晋尺の 441km に求

める件を先にお話ししました。

ところが、この方位区画の尺元としてあげた先の 24.5cm 尺の三角縁盤龍鏡に、景初 4 年銘のものがあることがわかりました。つまり 240 年前後です。

そうすると、この方位区画上に出てくる魏年号銘鏡の件も考慮して、やはりこの 7 度偏角方位区画は 240 年前後の方位区画と見なすべきかと考えを改めました。

確かに 24.5cm は魏より後の晋尺に近いのですが、景初 4 年ですでに採用されはじめていたということなのかもしれませんし、倭王側でその新サイズの尺を要求して作らせた可能性もあるでしょう。

後の時代の三角縁 0 度偏角方位区画でも、やはり 10.8cm という古い時代の尺を使っている

ことを考慮すると、その王朝が尺として意識した鏡のサイズに左右されたと見えます。かならずしも倭の新しい時代の王朝だから、中国の新しい尺つまり銅鏡を使うとは限らないようです。

それで、また先の盤龍鏡を星図早見盤、つまり方位決定の分度器として使用する方法についてさらに考えてみました。

おそらく下図のように、測量していたはずですが。

まず盤龍鏡の裏面に 2 つ対面して描かれたこぐま座(北極星)をもとに、北を適当に出したはずですが。よくこのこぐま座をみると、実際の星座と左右反対に描かれているのがわかります。つまり鏡に星空を反射させるなどして、北極星から北を出したのでしょう。

また 2 つ描かれているのは、季節によって 180 度そのこぐま座が回転する点と、夜に測量しなければならぬ点から、2 つ描く必要になったわけです。

それで、適当に北極星から北を出したのちに、隣に描かれている北斗七星を、実際の夜空の北斗七星と比較して、その方位を確定したのでしょう。

この際に、三角縁の縁を地面にさして鏡を立てて夜空と図のように照らし合わせた可能性を感じます。

それで北斗七星が夜空を 24 時間で 1 回転するので、ぴったり一致する時間をまって、それで最終的な北を出したと思われます。

なぜそうするかというと、当時の北極星は先のとおり、天頂から 10 度近くずれており、その周りを半径 10 度の円を描いていたので、確実な北を出せなかったからでしょう。

それであらかじめ北斗七星の対応位置を描いておくことによって、北を正確にだせるように工夫したと考えます。

ただその北斗七星の位置、つまりこの鏡が意図するところの真北が、製造時点で 7 度ずらして作られていたので、結局真北が 7 度ずれる 7 度偏角の方位区画が、この盤龍鏡をつかって

測量したところ、つまり全国各地では出てしまったという経緯があったのではないのでしょうか。

そうすると、鏡の製造時点で、どうして 7 度偏角で、北を出すように、この鏡つまり分度器を作ったか?が課題になるように感じます。

先の編磁曲線では、240 年としても、まだ 10 度以上偏角があり、7 度の数値に近づきません。

ただし、日本ではなく、たとえば中国とか半島だと、また同じ時代でも、ぜんぜん偏角が異なります。図を添付します。

先の漢魏洛陽城では、東に 5 度傾けて都城区画を作成していました。

そうすると、たとえば中国で、磁北を出すようにして作られた方位磁針、つまり指南魚を利用して、北が出るようにつくられた盤龍鏡だったとすれば、中国の磁北、つまりその偏角が、日本に導入される結果になるでしょう。

それで当時の中国の偏磁気角を調べてみると、下図の偏磁気曲線の点線になります。この曲線から推定して、

日本の偏角とおそらく東西が逆になるはずです。偏磁曲線の表の引用元。 <http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/wdc/news/0405.html>

これが原因で、日本の方位区画はすべて偏角が、日本の偏磁気角と、東西逆に出てしまったのではないのでしょうか。

中国では秦・漢の時代からすでに指南魚・方位磁針によって、磁北を出すことは行われていました。魏でも正式採用されていました。

そこで整理すると、中国でまず方位磁針によって磁北を出して、その磁北の角度にしたがって北を産出できる盤龍鏡のような北極星・北斗七星をつかって方位を出す鏡が製造され、それを日本で輸入してそのままそれによってでてきた北を、方位区画や遺跡に使ったので、そのために、遺跡跡の偏角も、日本の磁気偏角と逆にあたる西よりの偏角で建築されることとなったとなります。

おそらく5度偏角の方位区画を造営した際にも、同様な中国鏡を輸入して行った可能性を感じ

じます。当時はまだ三角縁ではなかったので、漢鏡尺によるもうすこし小さいサイズの方位区画となったのでしょうか。

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月23日(金)08時49分46秒 返信引用 編集済
> No.938[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

方位盤ですが白村江の頃まで使用されたと思われる船の方位盤。図添付

卑弥呼の三角縁神獣鏡は地図。鏡の乳が意味を持つ。

南の狗奴国の男王卑弥弓呼と不和で戦争状態にあった。狗奴国の位置が理解できる。

また、三公の配置から三公は卑弥呼の防衛に当たった模様。

三公の位置に街道があり、竹之内街道。どうも三公が武内宿禰(たけうちのすくね)と思われる。

神功皇后の三韓征伐に登場する。歴史ですな。

秦野北斗著、徐福と邪馬台国で説明した朱儒国ラインが三角縁神獣鏡の南北ラインだったのですな
距離は秦野距離になる。

尚、三角縁神獣鏡は方角入りの地図。鏡の乳が四方になる模様。

縮尺は当時は里、尺、寸に対応関係がある。例、里と歩は 1:300 に対応。

今までの方位と三角縁神獣鏡の四方とは別物でしょうな。

> それで、先の方位磁針たる指南魚の磁北が、おそらく300年当時で13度前後東にずれていたはずですが、
> さらにそれに±9度北極星のズレが加わることになりますが、直径のズレだと±18度ずれる計算です。
>

Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:管理人 投稿日:2012年11月23日(金)06時26分41秒 返信引用 編集済
> No.937[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 前方後円墳 266年からのものでしょうな。10度偏は崇神、垂仁の頃になるますな。 > 興味は甲冑の副葬品になる。どう見ても西洋甲冑になる。韓半島南部の倭国を奪還時に使用された武器だろう。黒姫山古墳と継体天皇が例になる。

ちょっと訂正すべきことがみつかりました。先の10度偏角方位区画の件なのですが、よく測ってみると、すべて7度偏角でした。すいません。その前の時代の5度偏角方位区画のほうは角度訂正ありません。

先の尺度や距離等には変更ありませんが、先日の偏磁気曲線と、この7度偏角が、どうにも 対応してこないの
で、この偏角が生じる原因を考え直すことにしました。

昨晚の投稿でお知らせしたように、この7度偏角方位区画の測量には、三角縁盤龍鏡が使用 されたことがわか
ります。 ということは、この鏡で測量したはずなので、当然尺度をはじめ偏角を編み出すべき要素が、 この
鏡に存在していなければ行けないはずです。

それで、盤龍鏡の図面を確認したのですが、これが結論からいうと、北斗七星と北極星、カシ オペア座を絵柄に
した、星座早見盤のようなものです。

添付の図をご覧ください。

つまり、この北斗七星からカシオペア座に伸びる直線上に北極星があることを利用して、北 を出したのでしょ
う。

三角縁の背面に水を貯めて、星空を映したかもしれませんし、それにさらに指南魚とか方位 磁針を浮かべた可
能性も感じますが、とにかくそれで方位を確定したはずです。

その際に、7度偏角になるように、設定したのでしょうか。 図でみると、この場合は紐の角度と10度偏角があり
ます。この鏡は10度偏角用だったの かもしれません。

そしてすべての三角縁盤龍鏡が 24.5cm ですから、尺度はどこにいても同じ尺度で距離を算 出できたはずで
す。

ただ、なぜ170年から使用していた5度偏角の方位区画から、100年経って7度偏角へ と移行したのか?につ
いて考える必要があります。

北極星は100年では 0.5度しか移動しません。ただし、北斗七星やカシオペア座の位置や 形が変形するはず
なので、そのあたりとの兼ね合いがないかどうかを調べる必要があります。

こちらのページに古代の北極星の歳差円についての試算がなされています。

<http://blog.goo.ne.jp/himejiitikawa/e/eed21d5be5bf4ab1991f0ae387afb175>

思うに、邪馬台国時代で半径9度のズレが見えますから、それで先の盤龍鏡には北極星のあ るこぐま座が2つ
対面して描かれているのではないかと感じます。

あと盤龍鏡の「●」の紋様が180個並んでいます。つまり1つの「●」で2度の角度が計れます 5度偏角から7度
偏角への移行の際の最小メモリになったかもしれません。

それで、先の方位磁針たる指南魚の磁北が、おそらく300年当時で13度前後東にずれて いたはずで、図3
参照。

さらにそれに±9度北極星のズレが加わることになりますが、直径のズレだと±18度ずれ る計算です。

先の盤龍鏡で10度のズレ角があるのはその辺と関係するでしょうか。

18-13度=5度のズレ、あるいは13-9度=4度のズレ…。

これが170年あたりになると、磁気偏角は東に5度のズレになるので、10度もしくは20度の歳差半径とす
ると、10-5=5度の偏角で、これだと5度偏角の方位区画と一致し てくるんですね。

270年で計算してみると、磁北が東に12度のズレと考えて、また半径9度もしくは直径 18度のズレとすると、
18-12度=6度ならば、7度偏角に近くなりますが、ただ半径9度をつかったとすると、-3度になりますね。

とにかく、7度軸を西に傾ける結果になったはずですから、その辺の計算でもっとすっきり 出てくるのではな
いかなと感じます。まずこの鏡の正しい使い方を解明する必要があります。

Ads by Google Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月23日(金)00時58分8秒 返

信・引用 編集済

> No.936[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

前方後円墳 266 年からのものでしょうな。10 度偏は崇神、垂仁の頃になるますな。 興味は甲冑の副葬品になる。どう見ても西洋甲冑になる。韓半島南部の倭国を奪還時に使用 された武器だろう。黒姫山古墳と継体天皇が例になる。

>265 年以降に埋めた…。 疑問は天皇に近い開花天皇の孫(アマテラス)に貰った鏡を墓に埋めるとは考えられない。 せいぜいレプリカでしょうな。また、枚数が多すぎる。

ところで鏡ですが、洛陽鏡は三角縁神獣鏡の姉妹鏡でしょうな。
三角縁神獣鏡は陳寿がデザインし銘文を書いた模様。鏡には卑弥呼の家系も関係がある。

洛陽鏡の銘文、三角縁神獣鏡に似ていませんか。

三角縁神獣鏡 景初三年 陳是作鏡自 有經述本是京師杜地命出 吏人銘之「位至三公」母人銘之「保子宜 孫」寿如金石兮

洛陽鏡(獣首鏡) 13.18cm 259 年

甘露四年五月十日 右尚方師作竟 青且明 「位至三公」■高官「■子宜孫」 16.67cm 260 年

甘露五年二月四日 右尚方師作竟 清且明 君宜高官「位至三公」「保宜子孫」

<http://6247.teacup.com/toshifjpbbs/7794>

HP 倭国と日本国の関係史

紹興・洛陽・楽浪出土の鏡(三角縁神獣鏡)について述べている。

HP の 910 に間違いがあるので当時の地名にすると、9 紹興は会稽東冶、10 旧楽浪郡は京師 現在の楽浪郡は玄菟郡を言っている。

1 鏡の縁が三角形をしている。 2 半肉彫の神獣の文様をもつ。 3 三角縁の鏡や神獣鏡は紹興(会稽東冶)など江南地方に多い。 4 鏡径は大きく一般的には 20 cm 以上ある。 5 日本からのみ出土する。

6 同范鏡(同型鏡)が多い。 7 近畿地方を中心に広範囲に分布し、500 面ほど出土している。 8 洛陽から、三角縁神獣鏡ではないが日本出土鏡と類似性の強い鏡が出土している。 9 会稽東冶から、三角縁で、日本出土鏡と類似性の強い洛陽出土鏡と似た鏡が出土している。 10 京師から、三角縁神獣鏡ではないが、日本出土鏡と類似性の強い鏡が出土している。

<http://www.ne.jp/asahi/issun/original/note38.html>

卑弥呼の鏡は洛陽、京師から邪馬台国に運ばれる。一方、会稽東冶は紹興(生口:しょうこう)で邪馬台国の繋がりが強い。洛陽、会稽東冶で洛陽鏡(獣首鏡)が製作されたのだろう。

>なるほど、直径が140 M 前後になるというのは興味深いですね。耳成山はどうも火山の ようですね。少し大きいし、高さが100 メートル超えますから、古墳かどうか、別の証明が 必要でしょう。

この件は証明済みです。また、山の上に造るのは慶州でも見られる。考え過ぎですな。 目の前に有るのに見落とすのです。ツタンカーメンの墓と同じです。

上円下方墳、古代大君の御陵と伝わる。かつては天神山とも呼ばれ天神山城があったとされる。1908 年(明治 41 年)、明治天皇の演習統監が行われ、山頂には「明治天皇大演習御統監 地」と記された石柱がある。南麓の池は木原古池遺跡、北西には木原環濠がある。

> もしかすると、その径 100 歩は秦野さんのおっしゃるとおり、案外正確な尺数値に基づく計算値だった可能性も感じますね。魏志倭人伝の研究家はその辺でどういう考えもっているのかな？

魏志倭人伝の解読に成功していないので、考えは無いでしょうな。

Ads by Google Re:ヒミコの墓は円墳 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 22 日(木)22 時 56 分 0 秒 返信・引用 編集済

> No.935[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 【前漢】尺:23.04cm/歩:1.3824m(6 尺)/里:414.72m(300 歩)

- > 【後漢】尺:23.3cm/歩:1.398m(6 尺)/里:419.4m(300 歩)

- > 【魏】尺:23.7cm/歩:1.422m(6 尺)/里:426.6m(300 歩)

- > 尺:24.12cm/歩:1.4472m(6 尺)/里:434.16m(300 歩)

- > 【晋】尺:24.5cm/歩:1.47m(6 尺)/里:441m(300 歩)

>

- > 卑弥呼以死 大作冢 徑百餘歩 狗葬者奴婢百餘人

- > 卑弥呼は死んだ。死後は直径 100 余歩の大きな塚が作られ、奴婢 100 余人が殉葬された。

- > 直径 100 余歩:約 140m 秦野距離:170~180 m

- > 箸墓古墳の円墳部:120 m

- > 耳成山の円墳部:170~180 m >

なるほど、直径が140 M 前後になるというのは興味深いですね。確かに乙女山古墳はちょっと小さいですね。男狭穂塚が132 m でちいかかもしれません。耳成山はどうも火山のようですね。少し大きいし、高さが100 メートル超えますから、古墳 かどうか、別の証明が必要でしょう。

それで、尺度関連で、先の 10 度偏角方位区画の件なのですが、11.1km というのが、考えてみると魏尺より晋尺の 441m のほうが近いことに気づきました。そうすると、265 年以降にこの区画ができた計算になってしまいます。イヨの次の男王あたりの時代ですね。開化・崇神、その次の垂仁か。あるいはそれに替わった大彦系か。

ただ、この区画には3つの魏年号銘鏡を出土した古墳が乗りますから、そうすると、240 年ごろもらった鏡を、しばらく使用して、265 年以降に埋めた計算になるでしょうか。

確かにもらってすぐ死んで埋めたと考えるべきではないかもしれません。中年でもらって、老年で埋めた。

しかし、11.1km の尺度となった 24.5cm の鏡を探す必要がでてきますね。

それで今探すと、10 度偏角方位区画の拠点にでてくる、椿井大塚山、宇佐赤塚古墳、そのほか福岡藤崎古墳、山口宮洲古墳、富雄丸山古墳、野洲大岩山古墳、といった三角縁盤龍鏡が

24.5cm です。(赤塚は 24.8) ちょうど会報第 3 号で載せた磐船社から、富雄丸山、桜井へ向かう物部系のニギハヤヒのラインと関係します。

そうすると、先の 10 度偏角方位区画の図と一致してくることもわかります。同様な鏡のサイズと方位区画が対応する事例は、先日の呉年号銘鏡を含む画紋帯・半円方形

帯神獸鏡方位区画 が、やはり 96km の方位区画で、その鏡のサイズが 21cm でぴったりです。三角縁は 22-3 cm 前後が多いのですが、5 度偏角方位区画の 10.5km あるいは後代の 0

度(-1 度)偏角の 10.8km の方位区画と関係してくるでしょう。

それで、その 10 度偏角方位区画の分布が、図のように山陰・瀬戸内よりなのが気になります。170 年代からの 5 度偏角のときは、狗邪韓国が入ってました。また後の-1 度角のときは 東海が多くはいりましたね。

大彦系を考えると、北陸と息子の武ヌテが別の東海が入ってこないとおかしいでしょう から、そうすると-1度偏角を大彦系のラインとみて、この10度偏角は魏とのつながりが 強かった時代の開化系の時代に造営されたラインと見なすべきかもしれません。

あと、先の呉年号銘鏡関連の方位区画は15度偏角の時代ではないかと感じます。伊都国から兵庫武庫港、山梨に至るラインで、一度、楯築墳丘墓や椿井大塚山や櫛山古墳を経由するラインですから、これが大彦とその後対立した吉備津彦系の方位区画と見なすべきでしょうか。 屯倉関連の地名につながっていくラインで、応神朝へと向かいます。

これがそうすると、呉年号銘のある240-300年代後半までとなるでしょうか。時代が 先の三角縁の年代と重なってくるので、微妙ですね。

ともあれ、そうすると、やはりヒミコの墓は、畿内なら5度偏角の方位区画上にあるはずです 九州や瀬戸内だと、画紋帯鏡あたりの出土古墳を調べるべきでしょう。

ヒミコの墓の直径100余歩が、その呉系の鏡を使用していたとすると、先の魏尺の140mより短い可能性を感じますね。

こういう計算です。

三角縁盤龍鏡の直径:画紋帯の直径=魏尺:呉尺 24.5cm:21cm = 147m:125m

そうすると男狭穂塚は 132mなので少し大きいですね。あるいは通常の三角縁の 21.7-22.1cmの中間値で 22cmを採用すると、

131mなので、これはぴったりです。

畿内で強いて考えるとすると、135mの西殿塚古墳ですね。これが先の5度偏角の東北角にきます。 桜井茶臼山は 110m、箸墓は 150mであわないですね。

もしかすると、その径100歩は秦野さんのおっしゃるとおり、案外正確な尺数値に基づく 計算値だった可能性も感じますね。魏志倭人伝の研究家はその辺でどういう考えもっているのかな？

ヒミコの墓は円墳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月22日(木)13時50分22秒 返信・引用 編集済

ヒミコの墓は円墳 秦野北斗著:徐福と邪馬台国より

【前漢】尺:23.04cm/歩:1.3824m(6尺)/里:414.72m(300歩) 【後漢】尺:23.3cm/歩:1.398m(6尺)/里:419.4m(300歩) 【魏】尺:23.7cm/歩:1.422m(6尺)/里:426.6m(300歩) 尺:24.12cm/歩:1.4472m(6尺)/里:434.16m(300歩) 【晋】尺:24.5cm/歩:1.47m(6尺)/里:441m(300歩)

卑弥呼以死 大作冢 徑百餘歩 狗葬者奴碑百餘人 卑弥呼は死んだ。死後は直径 100余歩の大きな塚が作られ、奴婢 100余人が殉葬された。

【前漢】里:414.72m(300歩):138.24m(100歩) 【後漢】里:419.4m(300歩):139.8m(100歩) 【魏】里:426.6m(300歩):142.2m(100歩)

里:434.16m(300歩):144.72m(100歩) 【晋】里:441m(300歩):147m(100歩)

直径 100余歩:約 140m 秦野距離:170~180m 箸墓古墳の円墳部:120m 耳成山の円墳部:170~180m

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月22日 (木)09時 01分 39秒 返信・引用 編集済

> No.933[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

現在の古墳の年代の特定方法に問題がありそうですね。箸墓古墳では鍔(あぶみ)が副葬された模様。どう見ても、戦闘兵ですね。おまけにヒミコの墓は円墳になる。箸墓古墳はヒミコの墓でない。

炭素年代より偏角は柩の方角になるが偏角の方法が正確でしょうな。

炭素年代は土器ですな、偏角は古墳全体になり正確。耳成山の偏角…。

箸墓周濠出土の土器では 20 ないし数十年ほど古い値が出てしまい、これを補正するために 日本独自の炭素年代校正曲線(JCAL)を作らなければならないと発表していた。

西暦 266 年から 413 年にかけて中国の歴史文献における倭国の記述がなく詳細を把握できないため、この間は「空白の 4 世紀」とも呼ばれている。

ヒミコ死後は直径 100 余歩の大きな塚が作られ、奴婢 100 余人が殉葬された。 > 洛陽城あたりから三角縁がでてますよね。 まあ、卑弥呼の正体が理解できれば、洛陽鏡の銘文が理解できる。現在の漢文の理解度では遡るのは不可能ですな、三角縁神獣鏡の銘文、魏志倭人伝の行程も理解できない学者では。 短文なのに誤訳が目立つ。

卑弥呼は皇女なので、古墳には矢、甲冑の副葬品はないでしょうな。乙女山古墳は可能性ゼロ。

副葬品・埋葬施設後円部の埋葬施設は明らかでないが、良質粘土が点在しているところから 粘土槨ではないかと推測されている。 刀子(とうす)・勾玉(まがたま)・白玉(うすだ ま)などの滑石製模造品などが出土している。 造り出し部の発掘では 2 段目の斜面に葺き 石、その外側に礫を敷き円筒埴輪列、その外側に家形埴輪 2、楕円形円筒埴輪 2 が認められた。

古代の地図を添付。どうも管理人さんは方向を見失うな、地図上の距離は短里です。尺、里で はない。 中国史籍の距離は短里で表記。日本でも尺度の統一までバラバラだったと記憶します。

> そういう意味では確かにご指摘の耳成山と三角縁の関係は重要です。 >> 5 度偏角の西北拠点、乙女山古墳あたりがちょっときになりますが、同類の男狭穂塚あたりに気になってます。ただどちらももっと後の時代とみなされていますから、なんともいえない感じがしますが。 >> 魏の年号銘鏡の出土古墳はすべて 10 度偏角の方位区画に載るのですが、5 度偏角からも かなり古い古墳で、中国製の三角縁を出土するものが多いです。

>> この見分けが非常に難しいのですが、年号銘鏡にしろ、入ってない中国鏡にしろ、墓に納め るまでに、スパンがあります。もともと三角縁の中国鏡があって、その後、年号銘のついたの をさらにもらったという線はあり得るでしょうか。洛陽城あたりから三角縁がでてますよね。 これがもっとも古くて、その後ヒミコがもらった年号銘入りはもう少しあたらしい…。 あり得るかな？

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 21 日 (水)23 時 15 分 27 秒 返信・引用 編集済

> No.932[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 神武天皇頃から越の国(倭の奴国)に成っている。埋葬の形式は鬼神、越といって良い。 >
- > 魏志倭人伝 >
- > 正始 8 年(247 年)頃に卑弥呼が死去すると大きな墳墓がつくられ、100 人が殉葬された。 卑弥呼の墓が方位と中心になっている。 >> 開花天皇だが欠史八代の開花天皇になる。卑弥呼は孫、壹興(神功皇后)が祖孫になる。 > 三角縁神獣鏡の孫の字は卑弥呼になる。また、当時、疫病(ペスト)が流行した模様、当時の祈りが土器等に残った。卑弥呼が造った軍治組織が鎮守の杜。組織が大和朝廷に繋がる。 >> 耳成山の古墳。卑弥呼の墓の噂を世間に流し、卑弥呼の墓を発きますか。本日、縄文土器を見に行き、やけに金印(倭の奴国)が印象に残った。親魏倭王の金印が間もなくお目見えし たいと思われた。 >>

ちょっと尺を調べなおしています。 どうもおかしい尺単位ばかりで、先の方位区画の計算結果とあわなかったのですが、どうも 平均値として尺度を出しているようですね。だいたい諸説でばらつきがあります。 こちらの新井氏の尺度の分布表から、試算しなおしてみました。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/arai-hiroshi/lecture/12.03.31.pdf>

【前漢】 尺:23.04cm/歩:1.3824m(6 尺)/里:414.72m(300 歩)【後漢】 尺:23.3cm/歩:1.398m(6 尺)/

里:419.4m(300 歩)【魏】 尺:23.7cm/歩:1.422m(6 尺)/里:426.6m(300 歩) 尺:24.12cm/歩:1.4472m(6 尺)/里:434.16m(300 歩)【晋】 尺:24.5cm/歩:1.47m(6 尺)/里:441m(300 歩)

そうすると、先の朝鮮方位区画と、九州方位区画で出てきた距離がそれぞれ明らかになって きます。

具体的には 52.5km つまり千里で420 km が、まず双方に見えるのですが、また九州は別に 27.5 で 414km の前漢尺も出てきます。

この2種類でてくるのには、複雑な経緯があっただろうと推定します。

それで、次の先の奈良5度偏角方位区画の時代になると、10.5km 後漢尺が出てくるのですが、 その後の10度偏角で、11.1km の魏尺に移行します。魏の銘文鏡の古墳を結んだラインと同じです。晋尺はもっと長いので、魏の時代です。

そこで問題のヒミコの由来なのですが、ヒミコはおそらく10度偏角の方位区画が造営さ れる前後になくなって いるはずですが。あるいは5度偏角の方位区画上に墓があり、かつ10度偏角の時代の主流となった三角縁を墓におさめている可能性もありますね。前方後円墳に なりきってないホタテ貝式の可能性も感じますね。

そういう意味では確かにご指摘の耳成山と三角縁の関係は重要です。

5度偏角の西北拠点、乙女山古墳あたりがちょっときになります、同類の男狭穂塚あたり に気になってます。ただどちらももっと後の時代とみなされていますから、なんともいえな い感じですが。

魏の年号銘鏡の出土古墳はすべて10度偏角の方位区画に載るのですが、5度偏角からもか なり古い古墳で、中国製の三角縁を出土するものが多いです。

この見分けが非常に難しいのですが、年号銘鏡にしろ、入ってない中国鏡にしろ、墓に納める までの、スパンがあります。もともと三角縁の中国鏡があって、その後、年号銘のついたのを さらにもらったという線はあり得るのでしょうか。洛陽城あたりから三角縁がでますよね。これがもっとも古くて、その後ヒミコがもらった年号銘入りはもう少しあたらしい…。 あり得るかな？

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 20 日 (火)23 時 53 分 19 秒 返信・引用

> No.931[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

神武天皇頃から越の国(倭の奴国)に成っている。埋葬の形式は鬼神、越といって良い。 魏志倭人伝

正始 8 年(247 年)頃に卑弥呼が死去すると大きな墳墓がつくられ、100 人が殉葬された。卑 弥呼の墓が方位と中心になっている。

開花天皇だが欠史八代の開花天皇になる。卑弥呼は孫、甕輿(神功皇后)が祖孫になる。 三角縁神獸鏡の孫の字は卑弥呼になる。また、当時、疫病(ペスト)が流行した模様、当時の祈 りが土器等に残った。卑弥呼が造った軍治組織が鎮守の杜。組織が大和朝廷に繋がる。

耳成山の古墳。卑弥呼の墓の噂を世間に流し、卑弥呼の墓を発しますか。本日、縄文土器を見 に行つて、やけに金印(倭の奴国)が印象に残った。親魏倭王の金印が間もなくお目見えした いと思われた。

>「越人の風俗は鬼を信じます。その祠には必ず鬼があらわれて、しばしば効験をしめします。 むかし、東甌王は鬼を尊敬しましたので、百六十歳にもいたる長寿をたもちましたが、その後 世子孫は、鬼に対する祠りを怠ったために衰微したのです」 >そこで、武帝は越の巫に命じて、越式の祝祠を建立させた。それは台を設けただけのもの で壇はなく、また、天神・上帝・百鬼をまつり、鶏骨をもちいてトウのであった。武帝はこれ を信じ たので、それからは越式の祠や鶏骨のトがおこなわれるようになった。」

>

とも思われますが、あるいは170年代と見なすべきか。

>> 多数の殉葬の記載は、扶余から大加ヤの古墳などでは見えるものの、日本の古墳からは見 えないそうです。

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 20 日

(火)22 時 55 分 30 秒 返信・引用 編集済 > No.928[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 欠史八代は淡海三船が一括撰進した。漢風諡号を付けた。
- > この欠史八代は卑弥呼が持込んだ天皇で記録がない。 >
- > 名前は地名、事績(何々をした等)に成っている模様。管理人さんに同意、 >
- > 孝元天皇の国牽(国引き)は、「出雲の国引き」より古い。
- > 背景が見えないので、卑弥呼の正体が理解できるまで解読不可ですな。
- > 注)日本国内と考えたら大間違いですぞ。 >
- > 神武天皇(じんむてんのう)

ヒミコの件ですが、その祭祀、葬送記載が不可解に感じています。

鬼神の祭祀は越系で、武帝の時代に盛んに取り入れられていますね。後の馬韓の祭祀に見えます。武帝の拡張期に、楽浪などで祭祀が行われた際に、越式のもに入った可能性はないでしょうか。

「越人の風俗は鬼を信じます。その祠には必ず鬼があらわれて、しばしば効験をしめします。むかし、東甌王は鬼を尊敬しましたので、百六十歳にもいたる長寿をたもちましたが、その後世子孫は、鬼に対する祠りを怠ったために衰微したのです」そこで、武帝は越の巫に命じて、越式の祝祠を建立させた。それは台を設けただけのもので壇はなく、また、天神・上帝・百鬼をまつり、鶏骨をもちいてトうのであった。武帝はこれを信じたので、それからは越式の祠や鶏骨のトがおこなわれるようになった。」

晋・文帝の時代にも同様な鬼神に関する記載があります。「冬十月、天子は諸侯が献上のためにあつまったときに、くりかえし以前の命令を発した。

朕は徳が寡いながらも、天序を継承し、わが祖宗の大事業を嗣ぐことができた。…宗廟の恥辱をすすぎ、庶民の難儀を救った。地方を掃討して、呉・会稽に威信を及ぼし、ついに武器を収めて、我が領土を安んじ、天地の鬼神でさえも、捕獲できないものはない。さきの王室の難儀では、身近で事変が起こったが、公の靈威に頼って、難事をおさめた。宗廟は危険にさらされながらも安定することができ、社稷は墜落しながらもふたたび安寧となった。忠義は皇天を正し、功績は天地四方を救った。」

魏の時代にも「鬼神」についての知識が豊富だったことを示していますね。それが魏志にもみえるのです。

ただ弁韓と秦韓では祭祀が異なると書いてありますね。秦韓系が倭に入ったのが、170 年代の孝靈、240 年代の開化の2種類で、おそらくヒミコの祭祀はそれ以前の馬韓系とも思われますが、あるいは170 年代と見なすべきか。

多数の殉葬の記載は、扶余から大加ヤの古墳などでは見えるものの、日本の古墳からは見えないそうです。

http://www.bbweb-arena.com/users/hajimet/heainsa_004.htm 四国八十八ヶ所 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 20 日(火)22 時 30 分 15 秒 返信・引用 編集済

密教の西チベットが四国八十八ヶ所に当たる模様。空海が四国に女国を再現した模様。東女国もあるので難航するぞ。

女国(じょこく)は、中国の正史の中で西チベットに存在したとされる女王国
中印度

波理夜?羅国(パーリヤートラ) 秣菟羅国(マトゥラー) 薩他泥湿伐羅国(スターネーシヴァラ) 率禄勤那国(スルグナ) 秣底補羅国(マテブラ) 婆羅吸摩補羅国(ブラフマプラ) - 蘇伐刺拏瞿?羅国(スヴァルナゴートラ、東女国) 瞿?霜那国(ゴヴィシャーナ)

聖醯掣?羅国(アヒチャツトラ) ?羅刪拏国(ヴィラサーナ) 劫比他国(カピタカ)

『新唐書』日本伝

貞元末、其王曰桓武、遣使者朝。其學子橘免勢、浮屠空海願留肄業、歷二十餘年、使者高階真人 來請免勢等俱還、詔可。次諾樂立、次嵯峨、次浮和、次仁明。仁明直開成四年、復入貢。次文德、 次清和、次陽成。次光孝、直光?元年。

貞元末(805 年)、その王は桓武といい、遣使が来朝。その学子の橘免勢、仏教の空海は留 学を願い、二十余年を経て、使者の高階真人が来朝し、免勢らを伴って帰還することを請う、 詔を以て勅許す。次に諾樂が立ち、次は嵯峨、次は浮和、次は仁明。仁明は開成四年(839 年) にあたり、再び入朝して貢献。次は文德、次は清和、次は陽成。次は光孝、光?元年にあたる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

天若日子 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 20 日(火)21 時 30 分 30 秒 返信・引 用 編集済

天若日子は天、若の日子(彦)になる。 国譲りから天=高天原、若=出雲国と倭国(韓半島南部) 古事記、中国史籍を地図に起こす。 管理人さんが考えている倭国とは異なるでしょうな。

地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 20 日(火)19 時 56 分 41 秒 返信・引用 編集済

> No.927[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

欠史八代は淡海三船が一括撰進した。漢風諡号を付けた。
この欠史八代は卑弥呼が持込んだ天皇で記録がない。

名前は地名、事績(何々をした等)に成っている模様。管理人さんに同意、

孝元天皇の国牽(国引き)は、「出雲の国引き」より古い。 背景が見えないので、卑弥呼の正体が理解できるまで解読不可ですな。 注)日本国内と考えたら大間違いですぞ。

神武天皇(じんむてんのう)

『古事記』では神倭伊波礼毘古命(かむやまといわれひこのみこと)と称され、『日本書紀』では神日本磐余彦尊(かむやまといわれひこのみこと)、始馭天下之天皇(はつくにしらす すめらみこと)、若御毛沼命(わかみけぬのみこと)、狹野尊(さのみこと)、彦火火出見 (ひこほほでみ)と称される。

綏靖天皇 - 神淳名川耳天皇(かむめなかわみみのすめらみこと) 安寧天皇 - 磯城津彦玉手看天皇(しきつひこたまてみのすめらみこと) 懿徳天皇 - 大日本彦耜友天皇(おおやまとひこすきとものすめらみこと) 孝昭天皇 - 觀松彦香殖稻天皇(みまつひこかえしねのすめらみこと) 孝安天皇 - 日本足彦国押人天皇(やまとたらしひこくにおしひとのすめらみこと) 孝靈天皇 - 大日本根子彦太瓊天皇(おおやまとねこひこふとにのすめらみこと) 孝元天皇 - 大日本根子彦国牽天皇(おおやまとねこひこくにくるのすめらみこと) 開化天皇 - 稚日本根子彦大日天皇(わかやまとねこひこおおびびのすめらみこと)

綏靖天皇 - 神、淳名川、耳天皇 猪使(いつかい)氏の祖とされる。 安寧天皇 - 磯城津、彦、玉手看天皇 奈良地名 磯城:日本国内に該当しないかも 懿徳天皇 - 大日本、彦、耜友天皇 奈良地名 師木 孝昭天皇 - 觀松、彦、香殖稻天皇 孝安天皇 - 日本、足、彦、国押人天皇 国に押し入る。 孝靈天皇 - 大日本、根子、彦、太瓊天皇 太瓊(ふとたま) 孝元天皇 - 大日本、根子、彦、国牽天皇 国引き 開化天皇 - 若、倭、根子、日子、大毘々命=若、倭国、祖彦、大日本尊

稚、日本、根子彦、大日日尊

記・紀にみえる安寧(あんねい)天皇の皇子。 「日本書紀」では、母は皇后の淳名底仲媛命(めなそこなかつひめのみこ

と)。猪使(いつかい)氏

の祖とされる。「古事記」では師木津日子命とかき、母は師木県主(しきのあがためし)である波延(はえ)の娘阿久斗比売(あくとひめ)とする。

【磯城】より ...奈良盆地中東部一帯を指す地名。師木、志貴などにもつく。《日本書紀》神武即位前紀に 磯城邑(しきむら)がみえ、兄磯城(えしき)、弟磯城(おとしき)という有力豪族が おり、後に弟磯城が磯城県主となったとある。...

Ads by Google Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:管理人 投稿日:2012年11月19日 (月)23時 04分 17秒 返信・引用

> No.920[元記事へ] 棘の紀氏さん、秦野さん、お返事ありがとうございます。

> 管理人さんへのお返事です。 >若 >>若 (じゃく)。若は諾の初文。若は歌舞して神意を 承ける意。神の応諾するところを諾 という。(http://jigen.net/kanji/35582

なるほど、諾の意味がそうなのは興味深いですね。

孝霊天皇 - 大日本根子彦太瓊天皇(おおやまとねこひこふとにのすめらみこと) 孝元天皇 - 大日本根子彦国牽天皇(おおやまとねこひこくにくるのすめらみこと) 開化天皇 - 稚日本根子彦大日日天皇(わかやまとねこひこおおびびのすめらみこと)

孝霊と孝元は、先の通り大国主系で同じ系統ですが、次の開化で新しくなることについて、ある時期までよく知られていた可能性を感じますね。

「大」→「若・雅」へと交替します。

孝元天皇の息子をみると、大毘古、少名日子建猪心命、そして大毘々(開化) <http://ja.wikipedia.org/wiki/孝元天皇> つまり、少名日子建猪心命が、大国主(中国系の孝霊・孝元王朝)を助けにきた少彦名なの でしょう。ここで「毘」が助けるという意味をもつことと対応してきます。

たぶん、稚日本根子彦大日日天皇、つまり若倭根子日子大毘々と名付けた時期の人物は、その関連伝承をしっていたはずです。だから、「毘」の語を使ったのでしょう。

ところが、書記編者は「日」にかえてしまったんですね。「毘古(子)」も、彦に統一してしまった。

知らなかったか隠したか、どちらかでしょう。

それで若の意味なのですが、「大」に次ぐもので、「若」を神命を承諾するの意味でとると、天孫 降臨を想起させることも確かです。神命に違えれば、矢で射殺されてしまったりしますね。

あと、その論理でいくと「日本根子彦」の後にくる「太瓊」「国牽」「大毘々」がその天皇の事績 を表している可能性があります。

特に「国牽」の「牽」は「ひく」の意味です。つまり国引き神話のことですね。 大国主、国引き神話、そして少彦と いった一連の出雲神話をしってつけているのか、実際にそれに対応する出来事があって、そのようにつけたのか?、その辺が課題となるでしょう。

Ads by Google 若 …右眼は月 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012年11月19日(月)15時26分45秒 返信・引用

右眼は月と為り、四肢五体は四極五岳と為り、血液は江河と為り、筋脈 は地の理と 為り、筋肉は田土と為り、髪髭(はっし)は星辰(せいしん)と為り、皮毛 …北方に鐘山 (しょうざん)在り、山上石首有り、人首の如し、左目日と為り、右目月と為る。 http://j-myth.info/type/taiyou_tsuki_gansei.html 太陽と月が、天や神、原古の世界巨人(せかいきよじん)等の眼から生じたという日月起源

〔じつげつきげん〕神話▲、もしくは天や神の眼であるという表象(ひょうしょう)。天空神(て んくうしん)の両眼であるとする場合のほか、世界巨人(せかいきよじん)型▲において附随

〔ふずい〕する場合とがあり、後者において必須の要素となっていることから、日月眼生(じつげつがんせい)型をその変容(一要素の発展)と見る説がある。ただし、太陽と月が空に輝く存在であることから発生した表象(ひょうしょう)であるから、天空神(てんくうしん)にしる世界巨人(せかいきょじん)にしる、世界を構成する神という共通観念が根底(こんてい)に指摘できる。

内陸アジアのカルムク族の神話 世界はマンザシリ(=マンジュシリ)の肉体の各部からできていて、樹木はその血管より、火は内臓のぬくもりより、土は肉から、鉄はその骨より、水は血から、草は髪から、太陽と月はその両眼から、七つの遊星はその歯から、その他の星はその背骨からできた。チベットの仏教絵画 パドマパニ(Padmapani、観世音菩薩:かんぜおんぼさつ)の右目から太陽、左目から月が出てくる絵がある。

日月を天にかけられた鏡(かがみ)と語っている。『日本書紀』一書においても、鏡(かがみ)を用いて三貴子(さんきし)を生んだという記載があり、日月眼生(じつげつがんせい)型が金属文化の伝播(でんぱ)の流れにおいて変質した可能性が指摘(してき)できる。

――インドでは、『リグ・ヴェーダ』に太陽はミトラ、ヴァルナ、アグニの目と呼ばれている(略)。プルシャ(Purusha)(原人)を祭獣として諸神が祭式を行なった結果、その各部分から万有が開展したと説く。プルシャは千頭・千眼・千足あり、地界を抱擁してなお十指の幅を余し、既存・未存の一切である。諸神が彼を犠牲として祭式を行った時、讃歌・歌詠・韻律・祭祀が生じ、また馬・牛・羊・山羊等の一切の畜類が生じ、その口より婆羅門(ばらもん)が生じ、その双腕(そうわん)より王族、その双腿(そうたい)よりヴァイシャ(農工商階級)、その両足よりシュードラ(奴隷階級)が生じた。更に月はその心臓より、日はその眼より、インドラとアグニとはその口より、風神ヴァーユはその呼吸より生じた。又その臍(へそ)より空界、その頭より天界、その足より地界、その耳より方位が生じたという。

イランでは太陽はアフラ・マズダの目といい、ギリシアではヘシオドスが太陽を《すべてを見るゼウスの目》と呼んだのを始め、オルベウス教では日月はゼウス、つまり宇宙の両眼であると称し、ローマのオウィディウスも太陽を《世界の目》と呼び、マクロビウスはユピテルの目と呼んだ。さらに古代ゲルマンの世界では太陽はオーディン神の目であった。

楔ぎによる三貴子の誕生 【参照】記・上巻 02b-8】【紀・神代 01c-05-06】。

記紀神話では、『古事記』と『日本書紀』一書(六)に日月眼生(じつげつがんせい)型の表象(ひょうしょう)が見られるが、日月の次に、鼻を洗った時に須佐之男(スサノヲ)命▼が生まれたとあることから、中国の盤古(ばんこ)神話▲との共通性が指摘される。ただし、これはあくまでも日月眼生(じつげつがんせい)型や世界巨人(せかいきょじん)型▲の分布域において、その一要素として共通性を有(ゆう)しているのであって、漢籍(かんせき)(古代中国の文献)に見える盤古(ばんこ)神話▲を参考にして編纂者が創作・造作したというようなものではない。神話学者がいう「盤古(ばんこ)神話▲の影響」とは、古代中国において口承(こうしょう)神話として伝承されていた盤古(ばんこ)神話▲がその影響圏下(えいきょうけんか)にある周辺地域にも様々な形で伝播(でんぱ)し、日本も含め各地で様々な語り継がれるに至ったというものであり、漢籍(かんせき)の影響を受けて作爲的に形成されたという意趣(いしゅ)ではない。一部の研究者はそうした意味合いを曖昧(あいまい)にしたまま、神話学においても盤古(ばんこ)神話▲の影響が認められていると説明し、暗に漢籍(かんせき)の影響があるかのように錯覚(さっかく)させているが、これは明らかに自己の反権力イデオロギーのために神話学の知識を悪用(あくよう)したものである。(あるいは単に意趣(いしゅ)を解さなかっただけであらうか)。なお、『日本書紀』本文においては、太陽と月、素戔嗚(スサノヲ)尊▼等は、他の神々と同様に男女神の交合(こうごう)によって生まれており、日月眼生(じつげつがんせい)型の表象(ひょうしょう)は見受けられない。

孝徳天皇(653)大唐に遣わす 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月19日(月)14時02分3秒 返信・引用 編集済

遣唐使船と船の航路、衝突点が理解できないでしょうな、地図を添付します。

どうも事故は対馬海流に乗るのに失敗した操船ミスだな。状況は竹島(済州島)から壱岐方向の船と筑紫(韓半島)に入る遣唐使が側面衝突したのだろう。遣唐使船の全長は100mを超えられると思われる。先導は枯野(烏奴)

船 30 m クラスで伊都国、筑後川から出航した船。 大唐ルートは奈良、堺、宮崎、奄美、筑紫、京師、文身国、大唐になる。

「孝徳天皇(653)四年夏五月十二日、大唐に遣わす大使小山上吉士長丹・副使小乙上吉士駒・ 学問僧道巖・道通・道光・恵施・覚勝・弁正・恵照・僧忍・知聡・道昭・定恵・安達・道 観・学生巨勢臣薬・氷連老人…すべて百二十一人が一つの船に乗った。薩摩の曲と竹島 の間で船が衝突して沈没して死んだ。

「孝徳天皇(654)五年二月大唐に遣わす 孝徳天皇(654)五年秋七月二十四日、吉士長丹らが百済・新羅の送使共に筑紫に着いた。」

押使大錦上高向史玄理・大使小錦下河辺臣麻呂・副使大山下薬師恵日・判官大乙上書直麻呂・宮首阿弥陀・小乙上岡君宜・置始連大伯・小乙下中臣間人連老・田辺史鳥らが二船に分乗した。数ヶ月かけて~高宗帝に拝謁した。東宮監門郭丈挙は、詳しく日本国の地理と国の 初めの神の名などを尋ねた。皆、質問に対して答えた。押使高向史玄理は大唐の地で死んだ」

用明天皇と孝徳天皇とはルートは異なる。

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 19 日 (月)10 時 25 分 37 秒 返信・引用 編集済

> No.923[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

>3 つが3 つまったく異なるというのめかんがえてみると不可解ですね。

三者三様ですな。見ているものは一つですな。

方位がユダヤではカバラ、五運歴年記もカバラになるかな?。

「五運歴年記」

首生盤古、垂死化身:氣成風雲、聲為雷霆、左眼為日、右眼為月、四肢五體為四極五岳、血液為 江河、筋脈為地里、肌肉為田土、髮髭為星辰、皮毛化為草木、齒骨為金石、精髓為珠玉、汗流為 雨澤。身之諸蟲、因風所感、化為黎氓(民)。天地開闢神話

初めに盤古が生まれ、死が近づくと、吐いた息は風雲、声は雷鳴、左目は太陽、右目は月、手足 と胴体は四方の極地や五岳、血は河川、筋と血管は道、皮膚は農地、髮髭は星辰、産毛は草木、 歯と骨は金属、精髓は珠玉、汗と涙は雨や露に化身した。身中の寄生虫は風によって各地に広 まり、多くの民と化した。

>> 事実の曲げ伸ばし > >3 つが3 つまったく異なるというのめかんがえてみると不可解ですね。

>

- > 鬼道はカバラ祭祀の変化形
- > 異端の民を救った宗教改革者
- > 酒吞童子もカバラ行者
- > 秦、藤原と菅公の影にカバラ >
- > >「鬼とは“曲げる”という意味であり、神とは“伸ばす”という意味です。曲げたり伸ばしたりする事が出来るのが調和の神です。 >

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 11 月 19 日 (月)09 時 36 分 37 秒 返信・引用

> No.921[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

事実の曲げ伸ばし

>3 つが3 つまったく異なるというのめかんがえてみると不可解ですね。

鬼道とカバラ祭祀の類似 <http://itsuitsudeyaru.kagome-kagome.com/> 鬼道はカバラ祭祀の変化形 異

端の民を救った宗教改革者 酒呑童子もカバラ行者

秦、藤原と菅公の影にカバラ

>「鬼とは“曲げる”という意味であり、神とは“伸ばす”という意味です。曲げたり伸ばしたり する事が出来るのが調和の神です。

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 19 日 (月)08 時 54 分 35 秒 返信・引用 編集済

> No.919[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

諡号の混乱は淡海三船が一括撰進。古墳も同様、総てが淡海三船。

秦野は淡海三船が言い伝えに従い定めたもの。素直な所は地方豪族の墓だろうな。 だが、魏志倭人伝の卑弥呼の墓は存在する。秦野諸書、徐福と邪馬台国で紹介した耳成山。 耳成山は方位の中心を成す。この地が神話の高天原になる。 尚、彦と比売は国生み神話からの歴史的な名前で 2200 年の歴史がある。

耳成山(みみなしやま)

奈良盆地の南部に位置する奈良県橿原市にある山。山の標高は 139.6 メートルだが、山頂に ある三角点の標高は 139.2 メートルである。大和三山の一つで、最も北に位置する。歴史的風 土特別保存地区と国の名勝に指定されている。

上円下方墳、古代大君の御陵と伝わる。かつては天神山とも呼ばれ天神山城があったとされる。1908 年(明治 41 年)、明治天皇の演習統監が行われ、山頂には「明治天皇大演習御統監 地」と記された石柱がある。南麓の池は木原古池遺跡、北西には木原環濠がある。

神武天皇(じんむてんのう)

『古事記』では神倭伊波礼毘古命(かむやまといわれひこのみこと)と称され、『日本書紀』では神日本磐余彦尊(かむやまといわれひこのみこと)、始馭天下之天皇(はつくにしらす すめらみこと)、若御毛沼命(わかみけぬのみこと)、狹野尊(さのみこと)、彦火火出見 (ひこほほでみ)と称される。

欠史八代は淡海三船が一括撰進した。漢風諡号を付けた。

この八代は卑弥呼が持込んだ天皇で記録がない。

綏靖天皇 - 神淳名川耳天皇(かむめなかわみみのすめらみこと) 安寧天皇 - 磯城津彦玉手看天皇(しきつひこたまてみのすめらみこと) 懿徳天皇 - 大日本彦耜友天皇(おおやまとひこすきとものすめらみこと) 孝昭天皇 - 観松彦香殖稻天皇(みまつひこかえしねのすめらみこと) 孝安天皇 - 日本足彦国押人天皇(やまとたらしひこくにおしひとのすめらみこと) 孝霊天皇 - 大日本根子彦太瓊天皇(おおやまとねこひこふとにのすめらみこと) 孝元天皇 - 大日本根子彦国牽天皇(おおやまとねこひこくにくるのすめらみこと) 開化天皇 - 稚日本根子彦大日日天皇(わかやまとねこひこおびびのすめらみこと)

淡海 三船(おうみ の みふね)

若いときに僧侶であったこともあり、外典・漢詩にも優れていた。『経国集』に漢詩 5 首を載 せ、現存最古の漢詩集『懷風藻』の撰者とする説もある。また、『釈日本紀』所引「私記」には、三 船が神武天皇から元正天皇までの全天皇(弘文天皇と文武天皇を除く)の漢風諡号を一括 撰進したことが記されている。また、779 年(宝亀 10 年)には鑑真の伝記『唐大和上東征伝』を記した。『続日本紀』前半の編集にも関与したとされる。

開化天皇(かいかてんのう)を秦野が訳すと 若、倭、根子日子、大毘々命=若、倭国、祖彦、大日本尊 若(大国)に属する倭国の祖彦、こと大日本の尊

開化天皇が誰か、卑弥呼は何処で生まれたか、は解明しています。 影響は中国、韓国、中近東、地中海に及び、日本の研究者を敵にしますな。 日本の研究者を敵に渡来人研究会報で公開しませんか。

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 19 日 (月)08 時 50 分 43 秒 返信・引用

> No.920[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

先日、日本舞踊公演(若柳)を観て来ました。 越後獅子、三つ面子守

越後獅子は韓半島南部の越国(倭の奴国)を祖とする。時代の特定は家紋になる。 家紋は梅から源氏紋に変わっていく。越後こと加賀源氏の歴史記録。

三つ面子守は三つ巴紋で神功皇后の三韓征伐後の話しになる。応神天皇
子守と三つ面は気長足姫命(神功皇后)・豊受比売命・表筒男命・武内宿禰
子供は応神天皇。劇場は韓半島の筑紫だろう。

古代史の知識が無ければ理解できないだろうな。

雅楽、能、舞踊、祭りには古代史の記録が多くのこる。

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 11 月 19 日 (月)08 時 12 分 56 秒 返信・引用

> No.919[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 若 >若 (じゃく)。若は諾の初文。若は歌舞して神意を 承ける意。神の応諾するところを諾 という。(http://jigen.net/kanji/35582

夏語(雅語)http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_(%E4%B8%89%E4%BB%A3) 雅夏 ワカ(倭夏) 若…

Re:若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 18 日 (日)23 時 08 分 36 秒 返信・引用 編集済

> No.918[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 「天若日子」
- > ----- >
- > 開化天皇から成務天皇は若、伊理(利)が見当たる。 >>
- > 開化天皇 稚日本根子彦大日日尊(わかやまとねこひこおおびびのみこと)・「若倭根子 日子大毘々命」。
>> 崇神天皇 御間城「入(伊理(利))彦五十瓊殖天皇(みまきいりびこいにえのすめらのみこと)」。また、
御肇國天皇(はつくにしらすすめらみこと)と称えられる。『記』では御真木入日 子印恵命(みまきいりひこいにえ)である。 >> 垂仁天皇 活目入彦五十狹茅尊(いくめいりびこいさちのみこと)・活目尊等と称され、

「伊久米」「伊理(利)」毘古伊佐知命(いくめいりびこいさちのみこと)、『常陸国風土記』には 「伊久米天皇」、『令集解』所引「古記」に「生目天皇」、『上宮記』逸文に「伊久牟尼利比古(いく

むにりひこ)大王」

>> 景行天皇 大足彦忍代「別天皇」(おおたらしひこおしろわけのすめらみこと)・大帯日 子淤斯呂和氣天皇。常陸風土記には大足日足天皇。播磨風土記には大帯日子天皇、大帯日古 天皇、大帯比古天皇。日本武尊(やまとたけるのみこと)の父。 >> 成務天皇 稚足彦尊(わかたらしひこのみこと)・「若帯日子天皇」(わかたらしひこのすめらのみこと、古事記)。 >

こうみていくと、書記では、雅、足、彦の組み合わせですが、古事記では若、帯、日子となります。 風土記は古事記にちかいですね。

どうして王号なのに同じ文字で統一しなかったのでしょうか。

古事記のほうが古いのでしょうか、3つが3つまったく異なるというのめかんがえてみる と不可解ですね。

開化天皇 稚日本根子彦大日日尊(わかやまとねこひこおおびびのみこと)・「若倭根子 日子大毘々命」。

だと、前者は日のこだわりがみえますが、彦は日子にはしない。後者は日子以外の日の使用 は避けているようにも見えます。

後者は日本号以前だから倭のままということでしょうか。天智以前か。

そうすると、天智以後、つまり日本国成立以後は、日子を用いず、彦にするように改めたので しょうか。

若も雅に統一。命は尊へ。中国風に修飾しているようにもみえますが…。

たとえば貴人の名前にしようする文字を避けるのは秦野さんお得意の諱がありますね。

淡海の用いた文字も重要ですが、にたような漢字の順位一覧表があったのかもしれませんが。 大日日だけ、日を使用しているのは、毘々命より修飾してよくした結果でしょうか。 毘は助けるの意味ですね。それほど悪くない文字。大毘古は古事記です。書記は大彦、

若は地名(出雲国と倭国(韓半島南部)) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 18 日 (日)21 時 01 分
13 秒 返信・引用 編集済

「天若日子」

第4話 国譲り(くにゆずり)「アメノホヒノカミを遣わせましたが、その後長い間、連絡もよこしません。今度は、どの神を

遣わせるのがよいでしょうか。」

と尋ねると、オモイカネノカミが、言いました。

「天津国玉(あまつくにだま)の神の子のアメノワカヒコ(天若日子)がいいでしょう。」 田道間守と聖徳太子から
辿る。天若日子は神話になる。 田道間守、但馬守

新羅王子と称するアメノヒボコの子孫。古事記と日本書紀では系図が異なり、古事記では多 遲摩比那良岐(た
じまひならき)の息子で多遲麻清日子(たじまきよひこ)の兄だが、日 本書紀では但馬日檜杵の息子である但馬清
彦の息子である。

但馬守は地名(但馬)と名前(守) 聖徳太子

為利歌彌多弗利=伊里(利)伽耶多弗利(いり、かやのてぶり) 聖徳太子は小徳太子。官位から来ている。

為利歌彌多弗利は地名(為利歌彌)と名前(多弗利) 但馬守、聖徳太子と同様なら 天若日子は天、若の日子(彦)に
なる。

国譲りから天=高天原、若=出雲国と倭国(韓半島南部) -----

開化天皇から成務天皇は若、伊理(利)が見当たる。 開化天皇 稚日本根子彦大日日尊(わかやまとねこひこおおび
びのみこと)・「若倭根子

日子大毘々命」。

崇神天皇 御間城「入(伊理(利))」彦五十瓊殖天皇(みまきいりびこいにえのすめらのみこ と)。また、御肇國天皇
(はつくにしらすすめらみこと)と称えられる。『記』では御真木入日 子印恵命(みまきいりひこいにえ)である。

垂仁天皇 活目入彦五十狭茅尊(いくめいりびこいさちのみこと)・活目尊等と称され、 「伊久米」伊理(利)毘古伊佐
知命(いくめいりびこいさちのみこと)、『常陸国風土記』には 「伊久米天皇」、『令集解』所引「古記」に「生目天皇」、
『上宮記』逸文に「伊久牟尼利比古(いく

むにりひこ)大王」

景行天皇 大足彦忍代「別天皇」(おおたらしひこおしろわけのすめらみこと)・大帯日子 淤斯呂和氣天皇。常陸風土記には大足日足天皇。播磨風土記には大帯日子天皇、大帯日古天皇、大帯比古天皇。日本武尊(やまとたけるのみこと)の父。

成務天皇 稚足彦尊(わかたらしひこのみこと)、「若帯日子天皇」(わかたらしひこのすめらみこと、古事記)。

Ads by Google Re:聖徳太子 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 18 日(日)00 時 35 分 28 秒 返信・引用 編集済

> No.916[元記事へ] 追記ですが、ワカ王朝の由来がわかりました。

開化天皇が稚日本根子彦大日日尊(わかやまとねこひこおおびびのみこと)・若倭根日子 子大毘々命(古事記)で、この系統と見て間違いのないでしょう。

開化から崇神・垂仁までの続き、その後大彦系の景行(おおたらしひこ)が入り、さらに戻って先の成務(ワカタラシヒコ)へと戻ります。その後また複雑な入れ替わりがあります。

この王朝の前が孝霊・孝元の 170 年~の巻向式古墳の王朝です。5 度偏角で方測量をしています。黒田宮の時代。大国主・三輪・ニギハヤヒ。(天孫第 1 陣)

次のこの開化から垂仁までの王朝が 240 年~の王朝で、10 度偏角の方位区画をつくりま す。魏の鏡を使った系統。(天孫第 2 陣)。天若日子

添付図のように、開化の春日宮を通過していくラインです。そして、この方位区画の上に、中臣・藤原系の拠点が 7 世紀末に載ってくることがあるので すが、これは、先祖が「ワカ」王朝で、10 度偏角の方位区画を残し、その上に春日系の神社や 拠点を多く残していたことを知っていたので、そのようにしているのでしょう。

その後、大彦系が入ったのちに、成務(若タラシヒコ)つまり吉備津彦にて一時的に王朝を 握りますが、また大彦系の仲哀に征伐されて、成務は子孫を残してません。その後さらに、九州から吉備津彦の後を次いだ河内王朝がはいてきて、さらに継体、欽明の時代へと移行するのですが、その間もずっと「若・雅」の系統を維持し続けていたのでしょう。

なお吉備津彦の弟に吉備武彦がおり、雅武彦(ワカタケヒコ)と記載します。おそらく吉備 津彦と同一人物もしくは同系の集団の首長でしょう。

それで問題の「ワカミタホトリ」が誰だったかなのですが、「アメタリシヒコ」とみなされる用 明の次の崇峻に「若」がつきます。諱は泊瀬部皇子(はつせべのみこ)。『古事記』には長谷部 若雀天皇。

武烈も小泊瀬稚鷦鷯尊(おはつせのわかさざきのみこと)ですね。その王朝の祖仁徳は大雀命(おほさざきのみこと)(『古事記』)、大鷦鷯尊(おほさざき

のみこと)大鷦鷯天皇(おほさざきのすめらみこと)

「泊瀬」や「雀(サザイ)あるいは鷦鷯(ミソサザイ)」と対応します。おそらく応神・仁徳朝 は、成務朝(吉備津彦系)と関係あるのでしょう。吉備と同系の大型古墳を残します。武烈で 切れたのでしょう。502 年の方の倭王武です。

あと、現在推定されている崇峻陵が、その 10 度偏角のラインに載ります。文武陵・飛鳥板蓋 宮のそば、多武峰あたりにも載ってきます。あるいは多武峰北西の赤坂天王山古墳あたりにも崇峻陵と見なす説がありますが、この辺とも関わりがあるかもしれません。

つまり、「若雀(わか・ササギ・ミソサザイ)」が、「若ミタホトリ(止利・鳥)」へと変化 した可能性を感じます。「トリ」の事例としては、鞍作止利(鳥)、あるいは秦韓の首長名「蘇 伐都利」の事例があります。

Ads by Google Re:聖徳太子 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 17 日(土)23 時 07 分 41 秒 返信・引用 編集済

> No.915[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- ・ > 『梁書』高句麗伝と『隋書』倭国伝から聖徳太子の名は為利歌彌多弗利になる。
- ・ > 句驪王乙弗利は句驪王、乙弗利から同様、に名太子、為利歌彌多弗利。 >
- ・ > 『梁書』高句麗伝 「句驪王乙弗利」頻寇遼東
- ・ > 高句麗王の乙「弗利」は頻繁に遼東を侵略した。
- ・ > 『隋書』倭国伝 「名太子為利歌彌多弗利」
- ・ > 太子を利歌彌多弗利と呼ぶ。は誤訳になる。
- ・ > 正しくは、太子を為利歌彌多弗利と呼ぶ。
- ・ > 尚、多は用明天皇 姓は阿每、字は多利思比孤の字の多のようだ。

>

ちょっとそのワカミホトリの「若」の語に注目してみました。 通説だと皇太子で、「若い王」の意味ですが、どうも「若」の語にはそれ以外の皇統を示す意味があるようです。

中臣氏の天児屋の斎名が若彦とされます。幼名は春日彦。春日神・若宮の語とも関係あるでしょう。

関連して天孫降臨伝承では、天若彦が降臨の際に戻らなかったのが矢で射られて死んだ記載 があります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/アメノワカヒコ>

彼の持つ弓矢が天の(天羽々矢と天鹿兎弓)で、ちょうど中臣氏の天児屋と、鹿島神の鹿を あわせたような名になっています。

おそらく、中臣関連の伝承を取り込んでいるはずです。

これがまた神功や大彦関連の伝承にでてくる反乱伝承で、同様に矢で射られて死んだ伝承を 持つ、埴安彦、仲哀と関係するかもしれません。また「若」は「雅」とも書いて、「若常日彦・雅足彦」(成務天皇)のように、大彦と対立した吉備津彦系(渡来人・漢氏系)王統の姓に近い ものだと感じてます。

アメ・タリシヒコではなく、ワカ・タラシヒコなんですね。 欽明系・蘇我系が「天(アメ)」がつきます。 継体系はオオ、オシ ワカは、そうするとどこに入るでしょうか。

その成務の都は志賀高穴穗宮(しがのたかあなほのみや)で『古事記』に「若常日子天皇、近 づ淡海の志賀の高穴穗宮に坐しまして、天の下治らしめしき」とあります。成務天皇を架空と 見る立場からは、天智の近江宮を過去に投影したとの指摘もありますが、さらにいえばこの 中臣氏と関わるのではないのでしょうか。

ちょっと難しいのですが、「若」の語が、近江の新漢氏系の集団ともかかわってくるような 気がしますね。

聖徳太子 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月17日(土)21時32分3秒 返信・引用 編集済

『梁書』高句麗伝と『隋書』倭国伝から聖徳太子の名は為利歌彌多弗利になる。

句驪王乙弗利は句驪王、乙弗利から同様、に名太子、為利歌彌多弗利。

『梁書』高句麗伝 「句驪王乙弗利」頻寇遼東 高句麗王の乙「弗利」は頻繁に遼東を侵略した。 『隋書』倭国伝 「名太子為利歌彌多弗利」 太子を利歌彌多弗利と呼ぶ。は誤訳になる。 正しくは、太子を為里(利)歌彌多弗利と呼ぶ。 尚、多は用明天皇 姓は阿每、字は多利思比孤の字の多のようだ。

為利歌彌多弗利=伊里(利)伽耶多弗利(いり、かやのてぶり) 倭国(韓半島南部)の地名で伊里(利)から伽耶の多弗利、伊里(利)伽耶多弗利。地図添付

多弗利は手振り地蔵として残っている模様。 続けて西宮ミステリースポットねたです。あまやん宅から 10分くらいの西宮市立満池谷墓 地・火葬場にある。通称「手振り地蔵」。深夜になると、こ...

http://www.geocities.jp/bowel_of_beelzebub/report/teburi.html

<http://>

Re:ApehuchiKamui アペフチカムイ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月17日(土)02時 52分 58秒

返信・引用 編集済

> No.913[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 天智と近江の新漢氏・関東勢との関わりには、おそらくこの辺りにも顕著に見えてきます。そして日本号の由来についても、新漢氏の関わった近江・関東や九州方面に起源があるかもしれない。九州と関東に日高見国があるのには、新漢人系オオ氏の移住が絡んでいるかもしれない。

航海ルートは 2 つの内の 1 つです。時系列に整理すると、文章は矛盾していません。質問ですが、九州と関東に日高見国があるのには…が理解できない。具体的な位置の文章を知りたい、秦野の見落としかな。

航海ルートの 1 つ目は航海日数ほぼ 1 年。魏志倭人伝より 航海ルートの 2 つ目は航海日数ほぼ半年。孝徳天皇より

(神武東征、及び神功皇后の三韓征伐航路になる)

『唐会要』倭国・日本国伝では、時系列に整理すると

「孝徳天皇(653)四年夏五月十二日、大唐に遣わす大使小山上吉士長丹・副使小乙上吉士駒・学問僧道巖・道通・道光・恵施・覚勝・弁正・恵照・僧忍・知聡・道昭・定恵・安達・道観・学生巨勢臣薬・氷連老人…すべて百二十一人が一つの船に乗った。薩摩の曲と竹島の間で船が衝突して沈没して死んだ。

「孝徳天皇(654)五年二月大唐に遣わす

孝徳天皇(654)五年秋七月二十四日、吉士長丹らが百済・新羅の送使共に筑紫に着いた。」

押使大錦上高向史玄理・大使小錦下河辺臣麻呂・副使大山下薬師恵日・判官大乙上書直麻呂・宮首阿弥陀・小乙上岡君宜・置始連大伯・小乙下中臣間人連老・田辺史鳥らが二船に分乗した。数ヶ月かけて~高宗帝に拝謁した。東宮監門郭文挙は、詳しく日本国の地理と国の初めの神の名などを尋ねた。皆、質問に対して答えた。押使高向史玄理は大唐の地で死んだ」

『大倭日高見国』の意味を秦野が説明する。扶桑国が明確になる。

> つまり後者の遣唐使が難波京および難波系の吉士集団を使わずに、新漢人系をつかっているのは、難波京の孝徳による派遣ではなく、天智が独自に派遣したものだからではないでしょうか。そこで新たにまた「日本国」について、皇帝に申し述べることとなります。王朝交替の際に、常に倭国は中国へ遣使していますので、その前例に倣い、天智が独自に派遣した可能性を感じます。

Re:ApehuchiKamui アペフチカムイ 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 16 日(金)22 時 44 分 19 秒
返信・引用 編集済

> No.912[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 青面金剛さんへのお返事です。 >>> 大倭の定義付けでは、韓半島や山東半島も含む場合もあると思われます。『大倭日高見国』が韓半島だとするならば、日高見、若しくは日高に相当する地名が、韓半島に在るか、を掲げる必要が有るでしょう。 >> 埼玉県日高市が興味深いのでは。 >>

日高見国の件ですが、それと関係すると思われた遣唐使の日本国記載について再考してみました。

先の『唐会要』倭国・日本国伝では、また 653 年と 654 年の 2 つの遣唐使の記載についての重複についての不自然さが指摘されており、前者を「倭国」の遣唐使、後者を「日本国」の遣唐使とする見方があります。

遣唐使には吉士集団が多くかかわっているのですが、航海に長けた彼らが遣唐使に乗り込むことがありました。

しかし 2 つのうち前者には吉士集団が見えますが、一方に後者には見えません。下記のとおりです。

「孝徳天皇(653)四年夏五月十二日、大唐に遣わす大使小山上吉士長丹・副使小乙上吉士駒・学問僧道巖・道通・道光・恵施・覚勝・弁正・恵照・僧忍・知聡・道昭・定恵・安達・道観・学生巨勢臣薬・氷連老人…すべて百二十一人が一つの船に乗った。室原首御田を送使とした。第二組の大使大山下高田首根麻呂、副使小乙上掃守連小麻呂、学問

僧道福・義尚、すべて百二十人が別の一つの船に乗った。土師連八手を送使とした。秋七月、高田首根麻呂らが薩摩の曲と竹島の間で船が衝突して沈没して死んだ。孝徳天皇(654)五年秋七月二十四日、吉士長丹らが百済・新羅の送使共に筑紫に着いた。」

この遣唐使には吉士集団が多く見えるのに加えて、「薩摩の曲と竹島の間」との不可解な航路 記載があります。竹島を九州(筑紫島)と見なすと、薩摩を南部地域として、その中間地域あたりで座礁した計算になるでしょうか。九州南方を一度迂回して件は、奄美大島経路を考え ていたからでしょう。最後は百済・新羅経由で戻ったものと感じます。この吉士集団が先導 したこの遣唐使は、道昭など飛鳥寺の僧侶や、中臣鎌足の息子・定恵なども乗り込んでおり ますが、仏教僧が多いのが特徴的です。

「孝徳天皇(654)五年二月大唐に遣わす押使大錦上高向史玄理・大使小錦下河辺臣麻呂・副 使大山下薬師恵日・判官大乙上書直麻呂・宮首阿弥陀・小乙上岡君宜・置始連大伯・小乙 下中臣間人連老・田辺史鳥らが二船に分乗した。数ヶ月かけて~高宗帝に拝謁した。東宮監 門郭丈拳は、詳しく日本国の地理と国の初めの神の名などを尋ねた。皆、質問に対して答えた。 押使高向史玄理は大唐の地で死んだ」

こちらの遣唐使には、先の新漢人で滋賀方面にいた高向史玄理が先導しています。文史など 漢人系の集団が見えますが、また中臣間人連など、中臣系の氏族もみえます。

こう考えると、両遣唐使では、吉士集団と新漢人として主導権を分けたと考えるべきかもしれません。吉士集団のほうは、新羅系官位吉士に由来するように、新羅とも接点があるので、新 羅領にたちより、さらにその送使を載せてくることも可能だったのでしょう。また難波吉士 などは、四天王寺に関わるなど仏教に強いつながりをもっています。大彦系の阿部氏の支配 下におり、摂津・瀬戸内・筑紫への航海や北陸方面への航海には、阿部・吉士の航海集団が 実験を握っていたことでしょう。

一方漢人系は新漢人も組み入れたことでしょう。漢氏は河内王朝時代から九州との接点を もっていますが、新漢人の拠点は先のとおり滋賀方面にあります。あるいは瀬戸内ではなく 滋賀から抜けて北陸・山陰経由も考慮すべきでしょうか。

なお後者の遣唐使は 654 年 2 月との記載もあり、ちょうど前年に難波京を去った天智は、 倭飛鳥河辺行宮に移動しますが、その 654 年の遣唐使に河辺臣麻呂がおり、この「河辺」が 河辺行宮と対応してきます。おそらくこの豪族の所有地だった可能性を感じます。同じく遣 唐使の田辺史は毛野氏系で京都に田辺廃寺があります。新漢氏の高向氏の本拠も近江です。 薬師恵日は渡来系の小氏です。

つまり後者の遣唐使が難波京および難波系の吉士集団を使わずに、新漢人系をつかっている のは、難波京の孝徳による派遣ではなく、天智が独自に派遣したものだったからではないで しょうか。そこで新たにまた「日本国」について、皇帝に申し述べることとなります。王朝交替 の際に、常に倭国は中国へ遣使していますので、その前例に倣い、天智が独自に派遣した可能性を感じます。

天智と近江の新漢氏・関東勢との関わりには、おそらくこの辺りにも顕著に見えてきます。 そして日本号の由来についても、新漢氏の関わった近江・関東や九州方面に起源があるかもし れません。九州と関東に日高見国があるのには、新漢人系オオ氏の移住が絡んでいるかもし れません。

Re:ApehuchiKamui アペフチカムイ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 16 日(金)19 時 21 分 37 秒 返信・引用

> No.911[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> 大倭の定義付けでは、韓半島や山東半島も含む場合もあると思われます。『大倭日高見国』 が韓半島だとするならば、日高見、若しくは日高に相当する地名が、韓半島に在るか、を掲げ る必要が有るでしょう。

埼玉県日高市が興味深いのでは。
日高市の海外友好都市

埼玉県日高市は大韓民国京畿道烏山市と 1996 年 10 月 1 日に友好都市関係を締結した。烏 山市はかつて高句麗領内にあった韓国北部の市である。埼玉県日高市と大韓民国京畿道烏山 市とは、友好都市締結をするずっとずっと以前から高句麗が結ぶ縁で結ばれていたのだ。日 高市は、716 年に設置された「武蔵国高麗郡高麗郷」の地がその元祖?である。そのため日高 市には当時高麗郡大領に任命された高句麗王族・高麗若光を祭る

高麗神社が鎮座し、今も

日高の人々に親しまれ信仰されている。日高市のもとになった「高麗郡」は 668 年に唐に滅ぼされた高句麗の亡命者を収容した。それが現在の日高市の始まりである。

日高市の歴史

1889 年 4 月 1 日 - 町村制施行に伴い、周辺村が合併、高麗郡高麗川村、高麗村、高萩村が成立する。

1896 年 3 月 29 日 - 高麗郡が廃止され、入間郡に編入される。 1955 年 2 月 11 日 - 高麗川村・高麗村が合併し、日高町となる。

1956 年 9 月 20 日 - 日高町・高萩村が合併し、日高町となる。 1991 年 10 月 1 日 - 市制施行により、日高市となる。

<http://brog.keiten.net/?eid=405537>

ApehuchiKamui アペフチカムイ 投稿者:青面金剛 投稿日:2012 年 11 月 16 日(金)06 時 54 分 5 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

『景行紀』27 年「東の夷(ひな)の中、日高見国がある。」また、同 40 年 6 月紀「東夷、多く 叛きて、辺境騒ぎ動む。...(中略)...、今、東国安からずして、暴神多く起こる。また、蝦夷悉 (ことごと)に叛きて、...。」

の記述より、日本列島の東部で蝦夷と呼ばれていた人たちが、日高見国を築いていたものと考えられます。

大倭の定義付けでは、韓半島や山東半島も含む場合もあると思われます。『大倭日高見国』が 韓半島だとするならば、日高見、若しくは日高に相当する地名が、韓半島に在るか、を掲げる 必要が有るでしょう。

当時、大和朝廷に対して、東国の日高見国と韓半島が連携しながら行動していた可能性は有 ると思われます。大和朝廷側が、それら双方の敵に対して夷の字を用いたのでは、ないでしょうか。

> 年代は崇神、景行天皇 > 日本書紀『景行紀』は秦野の調べでは韓半島南部の倭国奪回戦で韓半島を攻撃している。

> >『延喜式』『遷却崇神祭』天皇祝詞六月晦大校の『大倭日高見国』は韓半島の国名で高千穂で ないか。 > >「夷」は衆夷? (2 国の背後にいた倭の勢力と対戦)倭の五王より

> > 漢字で記された、根拠となる資料としては、『延喜式』『遷却崇神祭』天皇祝詞六月晦大校 に『大倭日高見国』が見られます。 > > > また、日本書紀『景行紀』27 年の条に、武内宿禰が東国を巡視して、天皇に報告する下り で、「東の夷(ひな)の中、日高見国がある。其の国の人、.....。」

Re:蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 15 日(木)23 時 09 分 25 秒 返信・引用 編集済

> No.909[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 中国史籍を読むには韓半島南部の倭国の存在を無視できない。
- > 高句麗王の乙「弗利」、利歌彌多「弗利」は同一名と思われる。
- > 衆夷:2 国の背後にいた倭の勢力と対戦。倭の五王より。 >
- > 『梁書』高句麗伝 >
- > 晋永嘉亂、鮮卑慕容廆據昌黎大棘城、元帝授平州刺史。句驪王乙「弗利」頻寇遼東、廆不能制。 弗利死、子釗(劉)代立、 > > 晋の永嘉の乱(307 年-313 年)、鮮卑族の慕容廆は昌黎県の大棘城を任され、元帝は平州 刺史に授けた。高句麗王の乙「弗利」は頻りに遼東を侵略したが、廆には制することができな かった。弗利が死に、子の釗が代わって立った。

なるほど、鋭い視点ですね! 太子の時代は高句麗の影響が強くていてます。ただちょっと時代が離れすぎているの

で…。

先の青面金剛さんの「阿部」とアイヌ語の「アビ(火)」の対応のご指摘とも関わるのですが、「阿」音というのが、接頭辞というんでしょうか、その後省略される傾向がみえるような気がするんです。

「阿毎」が「目」になってしまったりですね。ちょっとだけ「あ」と発音する。

それで「弗利」も、フツリが正解で、フリではないのですが、呉音でよむと「ホトリ」です。

後代皇太子のことを、「わかんどほり」というのですが、呉音の読みに変化したようにも見えます。

とすると「フツ」と当初は発音したか記していた可能性を感じます。

たとえば中臣の「フツヌシ」などがいますね。ヌシは高句麗の官制で「主簿」とあり、漢代の官制の名残なのですが、3世紀代の記録で、第5番目の官位にあたるわけですね。日本でも、大國ヌシとか県ヌシの主で、最も古い部類の称号です。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/高句麗>

そうすると、ワカミタフツリは、案外古い可能性を感じますね。ご指摘の4世紀代の官職を参考にするのは悪くないと思います。

以前指摘したとおり、任那・弁・秦韓方面の国(王)号「徐那伐(ソラボル)」「ソボリ」あたりも近い発音なのですが、ちょっと難しいですね。やはり秦韓の首長の蘇伐都利が(ソボトリ)で近いでしょうか。その太子なので、「ワカ」と「御(ミ)」がついて、「ワカ+ミ+トホリ」。漢字で書くと、若御都富利。

にたような事例で仏師の鞍作止利がありますが、鞍作村主は司馬氏で、東晋系技術者集団の王族で元は、西晋時代からの王族ですね。司馬一族で、東漢氏の祖となります。七枝刀の製造を通して、百済にいたり、高句麗圧迫などとあわせて日本までやってきたようです。

Re: 蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月15日(木)21時56

分55秒 返信・引用 編集済 > No.906[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

中国史籍を読むには韓半島南部の倭国の存在を無視できない。高句麗王の乙「弗利」、利歌彌多「弗利」は同一名と思われる。衆夷:2国の背後にいた倭の勢力と対戦。倭の五王より。

『梁書』高句麗伝

晋永嘉亂、鮮卑慕容廆據昌黎大棘城、元帝授平州刺史。句驪王乙「弗利」頻寇遼東、廆不能制。弗利死、子釗(劉)代立、

晋の永嘉の乱(307年-313年)、鮮卑族の慕容廆は昌黎県の大棘城を任され、元帝は平州刺史に授けられた。高句麗王の乙「弗利」は頻りに遼東を侵略したが、廆には制することができなかった。弗利が死に、子の釗が代わって立った。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-kokuri-5ryosho.html>

『隋書』倭国伝

王妻號雞彌、後宮有女六七百人。名太子為利歌彌多「弗利」

王の妻は雞彌と号し、後宮には女が六~七百人いる。太子を利歌彌多「弗利」と呼ぶ。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm> Re: 川床 Pitara ピタラと神

Kamui カムイ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月15日(木)01時34分51秒 返信・引用 編集済

> No.907[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

年代は崇神、景行天皇 日本書紀『景行紀』は秦野の調べでは韓半島南部の倭国奪回戦で韓半島を攻撃している。

『延喜式』《遷却崇神祭》天皇祝詞六月晦大祓の『大倭日高見国』は韓半島の国名で高千穂でないか。

「夷」は衆夷? (2国の背後にいた倭の勢力と対戦)倭の五王より

> 日高見の語源は、川床 Pitara ピタラと神 Kamui カムイより、ピタラカムイ。白村江の敗戦後に、半濁音が禁じられた為、ヒタラカムイ、そして日高見の漢字が当てられたものと考えます。 >> 漢字で記された、根拠となる資料としては、『延喜式』『遷却崇神祭』天皇祝詞六月晦大祓に『大倭日高見国』が見られます。 >> また、日本書紀『景行紀』27 年の条に、武内宿禰が東国を巡視して、天皇に報告する下りで、「東の夷(ひな)の中、日高見国がある。其の国の人は、.....。」。 >> 大和朝廷と日高見国が対峙していた頃は、「夷」の文字が「1 人で 10 人の敵を倒す強者 (つわもの)」の誉め言葉の意味も在った様です。

Ads by Google 川床 Pitara ピタラと神 Kamui カムイ 投稿者:青面金剛 投稿日:2012 年 11 月 14 日(水)23 時 31 分 13 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

アイヌ語の地名は日本列島全体に分布している事から、私は、日高見国は、元々、日本列島全体を意味していた、と考えます。無論、「日高見国」という漢字では無く、神代文字での表記だったと思われます。アカデミズムの国立大学系御用学者は、皇国史観を根底から覆すものとして、認めたがらないでしょうが。

九州や西日本にも日高という地名はあります。縄文(日高見国)人が住む日本列島に半島から、弥生人が流入するにつれ、北と南の両側に次第に押しやられていったものと、考えます。アイヌと琉球人は遺伝学的にも、言語学的にも、生活文化風習の面でも非常に近いものが感じられます。

阿部氏はアイヌ語の火の神(アペフチカムイ)の火(アペ)から由来したものと考えられます。

日高見の語源は、川床 Pitara ピタラと神 Kamui カムイより、ピタラカムイ。白村江の敗戦後に、半濁音が禁じられた為、ヒタラカムイ、そして日高見の漢字が当てられたものと考えます。

漢字で記された、根拠となる資料としては、『延喜式』『遷却崇神祭』天皇祝詞六月晦大祓に『大倭日高見国』が見られます。

また、日本書紀『景行紀』27 年の条に、武内宿禰が東国を巡視して、天皇に報告する下りで、「東の夷(ひな)の中、日高見国がある。其の国の人は、.....。」。

大和朝廷と日高見国が対峙していた頃は、「夷」の文字が「1 人で 10 人の敵を倒す強者(つわもの)」の誉め言葉の意味も在った様です。

Ads by Google Re:蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 14 日(水)23 時 02 分 4 秒 返信・引用 編集済

> No.905[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 日高見国は存在しない。 >> 藤原氏と阿部氏の家紋から天智、天武天皇の頃に勢力を九州から日本へ伸ばした模様。 > どうも、弓月君みたいだな。これが平氏になる。

ちょっと調べてみたのですが、不比等・孝謙の件で、孝謙が阿部内親王と呼ばれていたのに、は、おそらく阿部氏の元で養育されたからではないかと感じます。

不比等のほうは、天智の息子で、車持氏の母という説があり、近江朝よりだったので、天武時代は冷遇されたことは事実です。

先のとおり大彦系の阿部氏が、どうも白鳳時代に蘇我氏とともに、二大派閥をつくっていますね。

あと、新唐書の日本伝のほうで、天豊財が孝徳の子となっているのが気になります。

天豊財重日足姫尊は斉明です。

欽明之十一年、直梁承聖元年。次海達。次用明、亦曰目多利思比孤、直隋開皇末、始與中國通。次崇峻。崇峻死、欽明之孫女雄古立。次舒明、次皇極。

ここまでは問題ないのですが、

永徽初、其王孝徳即位、改元曰白雉、獻虎魄大如斗、碼瑙若五升器。時新羅為高麗、百濟所暴、高宗賜璽書、令出兵援新羅。未幾孝徳死、其子天豊財立。死、子天智立。

永徽初(650 年)、その王の孝徳が即位、改元して白雉という。一斗升(ます)のような大 きの琥珀(こはく)、五斗升のような瑪瑙(めのう)を献上した。時に新羅は高麗と百済 の暴虐の為す所となり、高宗は璽書を賜い、出兵を出して新羅を援けさせた。幾ばくもせず孝 徳が死に、その子の天豊財が立った。死に、子の天智が立った。

ここで天豊財が孝徳の子になっているんですね。さらにみていくと、

明年、使者與蝦夷人偕朝。蝦夷亦居海島中、其使者鬚長四尺許、珥箭於首、令人戴瓠立數十歩、 射無不中。天智死、子天武立。死、子總持立。

翌年、使者が蝦夷人とともに来朝。蝦夷もまた島の中で暮らしており、その使者は鬚の長さ 四尺ばかり、箭を首の耳輪の辺りに構え、人に瓠を載せて数十歩先に立たせ、射って的中せざるはない。天智が死に、子の天武が立った。死に、子の總持が立った。

なるほど、天智の子が天武、天武の子を總持としているところをみると、「子」は適当に次代の 意味でつけたようにもみえますね。本来は天智の弟天武、そして天武の妻持統と記すべきところ です。

持統のこと、しかし「總持」と記しているのもきになります。

總の字は、統ではなく、総ですね。発音はフサです。 <http://ja.wiktionary.org/wiki/總>

先の車持氏の母をもつ不比等を「車持皇子」と後代見なしているのですが、ちょっと気になりますね。

実質的にはこの次代は彼の時代ですし、天智の息子だったならば、特に継承面でも問題はな かったでしょう。その後の記載ですが、

長安元年、其王文武立、改元曰太寶。遣朝臣真人栗田真方物。朝臣真人者、猶唐尚書也。冠進 德冠、頂有華?四披、紫袍帛帶。真人好學、能屬文、進止有容。武后宴之麟德殿、授司膳卿、還之。 文武死、子阿用立。死、子聖武立、改元曰白龜。

長安元年(701 年)、その王の文武が立ち、改元して太宝という。朝臣の真人栗田を遣わし、 方物を貢献した。朝臣の真人は唐の尚書のようなものである。進徳冠を冠り、頂に華?四披があり、紫 の袍に白絹の帯。真人はよく学び、巧みに文章を書き、動作に偉容があった。武后は麟徳殿で の宴席で、授司膳卿を授けて、かれを還した。文武が死に、子の阿用が立った。死に、子の聖武 が立ち、改元して白亀という。

文武の次の元明が、「阿用」と言ってますね。阿陪皇女のことです。阿部氏の元で養育されたの でしょうか。蘇我系ですが。

おそらく中国側には「阿部」で伝えていたのでしょう。娘の元正は省略されて聖武になってま すね。

開元初、栗田復朝、請從諸儒受經。詔四門助教趙玄默即鴻臚寺為師。獻大幅布為贄、悉賞物 賈書以歸。其副朝臣仲滿慕華不肯去、易姓名曰朝衡、歷左補闕、儀王友、多所該識、久乃還。聖 武死、女孝明立、改元曰天平勝寶。

開元初(713 年)、栗田が再び来朝、諸儒に沿った經典を拝受したいと請うた。詔を以て四 門学の助教「趙玄默」を鴻臚寺での師と為した。大きな幅広の布を謝恩の礼として献じ、あら

ゆる賞・物・賈・書を持って帰る。その副の朝臣仲満は中華を慕い、帰らず、姓名を変えて朝 衡という、左補闕、儀王友などを歴任して多くの知識を備え、久しく経って帰還した。聖武が 死に、娘の孝明が立ち、天平勝宝と改元した。

聖武の後に、「女」孝明がでてきますね。これは孝謙のことで、聖武の子ですから、「女」は子 の意味でしょう。ただ母が「光明子」なんですね。「光明」。

ところが、孝謙・高野姫天皇は、別にでてくるので、そうすると、孝明死、大炊立が、孝謙の前 に挟まる形になるので、淳仁が大炊の名前をもつので、そうすると、重祚した称徳時代が高野 姫になるでしょう。

天寶十二載、朝衡復入朝、上元中、擢左散騎常侍、安南都護。新羅梗海道、更繇明、越州朝貢。 孝明死、大炊立。死、以聖武女高野姫為王。死、白壁立。

天寶十二載(753 年)、朝衡が再び入朝、上元中(760-761 年)、左散騎常侍、安南都護に 拔擢した。新羅が海道を塞いだ、改めてデマだと明白になり、越州に朝貢。孝明が死に、大炊が 立った。死に、聖武の娘の高野姫を王となす。死に、白壁が立った。

こうみると、光明子が一時、女帝代わりになっていた時代があるのではないのでしょうか。それで同じく不比等もですね。大彦・阿部系は、北陸ですが、関東勢とも関わりがあることは、埼玉の鉄刀銘文であきらかですね。大彦がでています。

大彦系の皇統というのが、やはり先述のとおり、蘇我時代以前からあったのですが、ある時期に抹消されてしまったと考えると理解しやすくなるかもしれません。この辺は会報第2号で取り上げた羊大夫の関東伝承と関係するかもしれませんね。毛人の世界とも一枚噛むかもしれません。

> 日高見国の存在しない根拠は大和は邪馬台国が語源とする。また、神武東征以前に大和は存在しない。 > 掲示板での議論が浅く十分に説明できていませんな。

> 古代の日本は常陸以北で阿夷奴(矢奴:アイヌ)の地になっている。 > 阿夷奴と毛人は同一と思われる。 > Re: 蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月13日(火)23時56分16秒 返信・引用 編集済

> No.904[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

日高見国は存在しない。

藤原氏と阿部氏の家紋から天智、天武天皇の頃に勢力を九州から日本へ伸ばした模様。どうも、弓月君みたいだな。これが平氏になる。

日高見国の存在しない根拠は大和は邪馬台国が語源とする。また、神武東征以前に大和は存在しない。 掲示板での議論が浅く十分に説明できていませんな。 古代の日本は常陸以北で阿夷奴(矢奴:アイヌ)の地になっている。 阿夷奴と毛人は同一と思われる。

『釈日本紀』は、日高見国が大祓の祝詞のいう神武東征以前の大和であり、『日本書紀』景行紀 や『常陸国風土記』での日本武尊東征時の常陸国であることについて、平安時代の日本紀講筈の「公望私記」を引用し、「四望高遠之地、可謂日高見国歟、指似不可言一処之謂耳(四方を望める高台の地で、汎用性のある語)」としているが、この解釈については古来より様々に論じられている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E9%AB%98%E8%A6%8B%E5%9B%BD>

藤原氏と阿部氏・アイヌの件が触れているのが気になります。どこかにその根拠となる資料があるのでしょうか。無いでしょうな。

青面金剛さん知りませんか。

Re:蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。投稿者:管理人 投稿日:2012年11月13日(火)22時47分56秒 返信・引用

> No.903[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 『宋書』倭国伝の文章を読むと倭の五王時代の韓半島 >

- > 毛人、衆夷、海北の3つに分けている。広開土王の碑文との対応は >>

最後、倭王武の上表文に戻る必要がありますね。毛人は、アイヌ系と考えるのが自然かと感じます。

それでアイヌの件なのですが、先日読んでいたこちらの文書に、ちょっと気になる記載がありました。 信憑ならない書物とのことですが、ただその中で、藤原氏と阿部氏・アイヌの件が触れているのが気になります。

どこかにその根拠となる資料があるのでしょうか。

644年 物部一族は津軽の地に落ち、安東浦を開拓し稲を植える。(これは、守屋の一族とは別系の物部氏と考えられる。)

658年 斉明四年、安倍比羅夫の水軍は津軽を攻めるが敗れ、比羅夫は和の条として安倍の性を荒吐王、

津刈丸(安東)に贈る。

677 年 荒吐王安倍安国は日下將軍を名乗る。

749 年 荒吐系の孝謙天皇(安倍安子)が即位する。これを祝って荒吐一族は黄金を献上 する。孝謙を荒吐系とする理由は祖父の藤原

不比等が荒吐族の継血であることによる。

<http://mario.gnk.cc/tsugaru/sangunshi7.htm#43> 蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 13 日(火)09 時 34 分 28 秒 返信・引用 編集済

『宋書』倭国伝の文章を読むと倭の五王時代の韓半島

毛人、衆夷、海北の 3 つに分けている。広開土王の碑文との対応は

海北:燕と戦闘を交え、410 年には東夫余 毛人:南方の百濟,新羅を攻め, 衆夷:2 国の背後にいた倭の勢力と対戦
『山海経』海内北経に、「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」 蓋国は鉅燕の南、倭の北にあり、倭は鉅燕に属す。 地図にすると蓋国は馬韓(百濟)の様だな。

Re:遠い祖先是、暑い土地を通過して来た 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 12 日 (月)22 時 34 分 56 秒 返信・引用 編集済

> No.898[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> 吉田巖 書誌 > ainu-center.pref.hokkaido.jp/kankou/report/report04.pdf > >アイヌの古老の話では、「我らの遠い祖先是、暑い土地を通過して来た。」

アイヌの古老の話は大きな意味がある。歴史のパズルはアイヌの伝承にあるだろうな。 パズルはアイヌピースを加えて 7 ピース。

1 盤古は誕生した。一万八千年を経て、天地が開ける。 2 9000 年以上前、ヘラクレスの柱の彼方に住む人々とこちらに住む人々の間で戦争が行われた。アトランティスと戦った時代のアテナイ 3 水と空は互いに近づいた。一日ですべてが失われ、4 つの花が我々の肉のすべてを食べつくした。 4 アイヌの古老の話では、「我らの遠い祖先是、暑い土地を通過して来た。」 5 大洋の時代になったとき、400 年が過ぎていた。それから 200 年、次に 76 年が過ぎた。 6 それからすべての人類が失われ溺れて魚になった。 7 大いなる山は洪水に飲み込まれ、水は引かず、50 と 2 つの春の間そこにとどまり続けた。

最終氷期 出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』 (2012/03/06 20:54 UTC 版) 最終氷期(さいしゅうひょうき)は、およそ 7 万年前にはじまり 1 万年前に終了した一番新しい氷期のことである。ヴルム氷期、ウィスコンシン氷期とも呼ばれる。

最終氷期の時に最も氷床が拡大したおよそ 2 万年前を最終氷期の最寒冷期(最終氷期最盛期、Last Glacial Maximum、LGM)と呼ぶ。この時期は氷期の中でも地質学的、地理学的、気候学的にも最も詳しく研究されており、気温や、大気・海洋の状態、海水準低下により変化した 海岸線など緻密な復元が進んでいる。俗に「氷河期」という言葉を使うときはこの時代を指すことが多い。

大洪水 アステカ アステカの神話にはいくつかの異説があり、それらの多くは正確さや信頼性に欠ける問題がある。 大洋の時代になったとき、400 年が過ぎていた。それから 200 年、次に 76 年が過ぎた。それからすべての人類が失われ溺れて魚になった。水と空は互いに近づいた。一日ですべてが失われ、4 つの花が我々の肉のすべてを食べつくした。大いなる山は洪水に飲み込まれ、水は引かず、50 と 2 つの春の間そこにとどまり続けた。しかし洪水が始まる前に、ティトラチャワン(Titlachahuan)はノタ(Nota)という男と妻のネナ(Nena)に「プルケ(pulque)をもう作る必要はない。大きな糸杉をくりぬいて、その月のトソストリ(Tozoztli)を中に入れなさい。水が空に近づこうとしている。」と警告した。彼らが従うと ティトラチャワンがそれを封じ込めながら男に「汝はとうもろこしの穂を一筋食べよ、汝の 妻も同じくせよ。」と告げた。そこで彼らはとうもろこしの穂を互いに一筋食べて外に出る準備をし、水は凧いだ。

-古代アステカ文書 Chimalpopoca 写本、大修道院長 Charles Etienne Brasseur de Bourbourg
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%B4%AA%E6%B0%B4>

Re:関所方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 12 日(月)22 時 09 分 58 秒 返信・引用 編集済

> No.900[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 方位の年代を切れるのはどうでしょうか。再現なく方位が拡大するため >
- > 扶桑 BC400~>
- > 初代アマテラス BC200~>
- > 卑弥呼、神功皇后 AD240~300 年 >
- > 推古天皇(蘇我) AD400~600 年 >
- > 天智天皇 >

確かに今回の関所や畿内を結ぶ方位区画が、どの時代の方位区画に蔵するかが課題ですね。

おそらく、先の関所関連の区画は、黒田宮関連の方位区画に直結します。難波宮大極殿から、石切神社、春日神社へ伸びるライン、春日大社から、南下して石上神宮へ伸びるラインで、桜井方面へ伸びていきます。倭屯倉・鏡作神社あたりもかすめるでしょう。西は児島屯倉方面へと伸びるのです。

これは、かなり古い 170 年-の物部氏系の都城区画で、関係の物部 2 妃がでた孝元・開化の黒田宮時代のそれと関わってくるのですが、この際に石上神宮なども載っていたのです。ただこの時期は先日のとおり 5 度偏角の区画構成の時代ですから、今回のような正方位区画ではないので、やや問題があります。

それで応神朝の方位区画をみると、先のとおり、黒田宮を意識して古墳造営区画をつくって ますが、おそらくは黒田宮そばの倭屯倉を意識しているはずです。この屯倉は渡来系の関わりがある真南の韓牟佐屯倉との方位区画になり、後の欽明の深草屯倉など秦氏系の関わり となります。

そうすると大化改新後の難波京造営に際しては、それ以前のこれらの屯倉方位区画をそのまま流用しながら、もともと古くからあった物部・中臣系の拠点に会わせたとの線を考えます 強いて言えば敵側の蘇我・欽明・秦氏の作った区画をそのまま使用しているんです。大化改新後すぐの畿内制の開始ですから、新たに測量しなおよすほどの余裕はなかったか、もっとそれ以前の問題があったかです。

ただその後、中臣・藤原が意識した区画は、図 2 のとおり、240~の三角縁の魏鏡と関わりがある 10 度偏角のほうで、そこに藤原京大極殿とか、各種の皇族陵が載るのですが、今回の区画には関係してないようです。強いて言えば後の天武の時代のそれとなるでしょうか。

難波京の孝徳を嫌って天智と斉明が飛鳥に向かうわけですが、そのあたりから次の区画への契機が訪れていくのかもしれませんが。関所や駅の構築あたりは、畿内制の区画成立の時点で あったでしょうけど、それはまた後日考えてみましょう。

Re:関所方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 12 日(月)06 時 20 分 15 秒 返信・引用 編集済

> No.899[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

方位の年代を切れるのはどうでしょうか。再現なく方位が拡大するため 扶桑 BC400~ 初代アマテラス BC200~ 卑弥呼、神功皇后 AD240~300 年

推古天皇(蘇我) AD400~600 年 天智天皇

> 平城京は私も考えて先の線を引いたのですが、微妙に北に区画がよっているようです。 >> (追記:平城京は難波京よりおそらく 1 キロほど長く 4.7 km です。つまり 1 キロほど大 極殿が北になり、南端はちょうど難波京の南端と同じようです。郡山城の南の道路あたり が南端ですから、双方をいわゆる記紀の東西両京として意識されて造営された可能性はある でしょう。下記の畿内方位区画が難波京を中心とした場合に、やや東に

延びているのは、奈良を意識したせいだろうとは思いますが。) >> それで関所を畿内以外にも広げて、関所を結んだ方位区画を作成してみました。明確な方位ラインが出てきました。 >

- > 関所と推定値は下記のとおりです。 >
- > 明石関:須磨公園そばの関守稻荷神社
- > 鈴鹿関:三重県亀山市関町新所
- > 不破関:岐阜県不破郡関ケ原町松尾
- > 愛媛関:敦賀市疋田
- > 逢坂関:逢坂 2 丁目の長安寺付近 関所方位区画 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 12 日 (月)04 時 11 分 13 秒 返信・引用 編集済

> No.897[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 難波宮、平城宮を入ると、これでいいのでは。図添付 >

平城京は私も考えて先の線を引いたのですが、微妙に北に区画がよっているようです。

それで関所を畿内以外にも広げて、関所を結んだ方位区画を作成してみました。明確な方位ラインが出てきました。

関所と推定値は下記のとおりです。

明石関:須磨公園そばの関守稻荷神社

鈴鹿関:三重県亀山市関町新所

不破関:岐阜県不破郡関ケ原町松尾

愛媛関:敦賀市疋田

逢坂関:逢坂 2 丁目の長安寺付近 以上は通説どおりで、ほぼ間違いないでしょう。 以下は先のとおり、畿内の範囲として記された場所(境界)です。 名壑の横河(関):三重県名張市薦生の中山神社(春日神社)。

この神社は、奈良時代に春日神を鹿島から勘定した記録があり、東国からの道に当たっていったものと感じます。

<http://www.geocities.jp/miniuzzi0502/jinjanabari/komohara/nakayama.htm>

また 1.5 キロほど東南に名張市中村の観音寺遺跡から大型の建物跡があり、名張川(横 河)をわたる手前(南側)にそれらがあった記録に基づき、このあたりと推定しました。

http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/rekishi/kenshi/asp/Q_A/detail.asp?record=112

紀伊の背の山(関):背の山(兄背山)は存在するのですが、そこから東に 4 キロほどのところ「兄井」の地名があります。ここが難波宮の真南にあたるので、この辺に本来の関所があったのではないかと推定しました。あるいは背の山の位置は、一区画分(3.7 キロ前後)西によっていた可能性があります。

結果としては、添付図のとおりです。

まず難波宮(京)ですが、先の資料に従い、南北に大極殿跡から京域の南端まで 3.5 キロのラインを引いてみました。(本来の難波京の区画は大御殿の北に 0.2 キロ前後プラスした 3.7 キロ前後と感ずる)

そうすると、上記明石関⇔名壑横河(関)が、ちょうどその南端の緯度に一致してきます。 また明石関⇔難波京(南端)までの距離と、同じく紀伊背の山(関)⇔難波京(南端)の距

離は 37 キロで一致します。正方形の区画が見えると思います。 またこの 37 キロは、名壑横河(関)⇔逢坂関との南北方位ラインの距離と同じです。 次にその名壑横河(関)⇔疋田関が、完全な南北方位ラインとなります。

さらに、鈴鹿関から名壑横河(関)に伸ばした方位ラインが、そのまま紀伊背の山関にぶつかります。 鈴鹿関の位置は、難波京(北端)から 18.5 キロ(37 キロの半分)北の東西方位ライン上に載ります。

同様に逢坂関は難波京(北端)から 37 キロの東西方位ライン上に載ります。

そのほか不破関も図のように、難波京(北端)の東西ラインと、紀伊背の山(関)とに、関係した位置にあることがわかります。

これらのことから、おそらくは 37 キロもしくは、3・7 キロ四方の方位区画が存在し、その方位区画メッシュ上の拠点の中から、関としてふさわしい場所を選択して関を構築したことが明らかになるでしょう。そして難波京自体もその 1 区画に位置付けて造営したことがわかります。

なお図の色をつけた部分が畿内です。当時の官人は無断で畿内から出ることは禁じられていました。

これらの方位区画も昔からあるのですが、都城区画としての意味、軍防・支配に関する意味、そして宗教的な霊域としての要素、これらを持ち合わせていただろうことが明らかになります。

Ads by Google 遠い祖先は、暑い土地を通過して来た 投稿者:青面金剛 投稿日:2012 年 11 月 11 日(日)21 時 45 分 30 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。 > 阿夷奴(アイヌ) この字は何を意味するのか? 吉田巖が使用している。

まず、吉田巖は 1963 年に没した、時代の人であること。彼の研究は基礎研究資料としては、貴重なものでは有るが、小学校の生徒から聞き集めたものや、土人保護法下の方面委員として集めたものもあり、個人のプライバシーに係わる箇所が、見受けられる為、個人情報保護が求められる今日に於いては、その出版に際して、十分な配慮が求められる。

彼の著作の題字に「調査」の文字が入っているが、今日のアイヌ研究者がこれを用いようものなら、それだけで、目くじらを立てられることに成ります。

彼は、当時の土人保護法の下で、体制側の枠内での研究者で在ったため、阿夷奴の卑字を使用している事に、違和感が少なかったのだと思われます。

吉田巖 書誌

ainu-center.pref.hokkaido.jp/kankou/report/report04.pdf

アイヌの古老の話では、「我らの遠い祖先は、暑い土地を通過して来た。」

Ads by Google Re:毛人 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 11 日(日)19 時 35 分 6 秒 返信・引用

> No.894[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

難波宮、平城宮を入れると、これでいいのでは。図添付

>

- > 再度先の畿内の四方拠点を結んだ区画を考えてみました。
- > 添付図のとおりです。 >
- > かなりまだアバウトですが、難波京の大極殿の位置が、西北に寄っているのが気になります。 >> 真ん中の長方形域が、中心域でしょう。6.3 キロが東西辺、 >> 全体として 35-38 キロという数字がしばしば出てくるんですね。

>> 難波京自体は、646 年にはあったでしょう。その年代の木簡がでてます。 >> 京畿の語は、京域と畿内域の 2 種の概念を含んだもので、両方とも都の意味ですが、2 つの方位区画を示す言葉です。倭王武の時代には、もう京畿の語がでてますから、相違を理解して いたでしょう。

> 追記:西北に偏る理由ですが、添付の難波宮の京域推定図をみると、大極殿がかなり北に寄っていることがわかります。少なくとも 3 キロ前後、本来の畿内区画の中心から北にずれている可能性を感じます。 >

Re:アイ(ファラオ)(Ay 又は Ai) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 11 日(日)19 時 10 分 14 秒 返信・引用

> No.895[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> たしかに、「楔形文字の本来の発音が不確実である」ことを考慮に入れなければ成りませんが、地名や人名、そして現在残っている各民族語の発音から、類推しなければ、手掛かりも得られない、と思います。

阿夷奴(アイヌ) この字は何を意味するのか? 吉田巖が使用している。 アイ(ファラオ)(Ay 又は Ai) 投稿者:青面金剛 投稿日:2012年11月11日(日)09時35分 14秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

たしかに、「楔形文字の本来の発音が不確実である」ことを考慮に入れなければ成りませんが、地名や人名、そして現在残っている各民族語の発音から、類推しなければ、手掛かりも得られない、と思います。 -----

----- 戸上駒之助『藤原王朝前日本歴史』によりますと、アイヌはアルメニアのクエ族の後裔とされます。 また、樺太アイヌのことをクエとも呼ばれます。KUEは西アジア由来とされます。久延毘古

(王・王子)。

猿田彦も Sardis サルダの王子でアルメニア系ではないか、と窺われます。古にアルメニアは今の三倍の国土を持っていました。

スクナ彦も Suku 国の王子でユーフラテス流域の出身。

今のアルメニアでは、自らのことを、アイまたはハイと呼びます。日本語のハイも、先住民族の縄文蝦夷の側が、アイヌ(アは強く、ヌは弱く発音されるため、カイまたはハイと聞こえる。)の発音をハイまたはカイ(甲斐)と受け取ったのではないかと、推測されます。

ベテルの東にアイという町があります。ヌ nu は複数語尾で多・豊を意味します。

ベテル <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%99%E3%83%86%E3%83%AB>

また、wiki では、アイ (ファラオ)(Ay 又は Ai) - 古代エジプト第 18 王朝のファラオ。

バビロン・アッシリアでは、上界・天のことを Anu と表します。

萱野茂二風谷アイヌ資料館 の館長、萱野志朗氏に書いて頂いた、アイヌのローマ字表記では Aynu です。

http://www.geocities.jp/kayano_museum/index.html

同館の二階階段口にはアリメニアの国旗が掛けられています。館長に聞きますと、「来た人が置いていった。」とのこと。

徳間五次元文庫『隠された聖書の国・日本』p・109 には、六芒星に正三角形を組み合わせたアイヌの簪の写真があります。館長にこのことを聞くと、「今は展示してなく、しまっている。」とのこと。 Re:毛人 投稿者:管理人 投稿日:2012年11月10日(土)23時16分12秒 返信・引用 編集済

> No.891[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 三国山(現在は三国ヶ丘と称される)は神功皇后の三韓征伐と関係がある。どうも、三韓

征伐の出航地が堺で、集結地が三国山。兵士は京畿から集結したと思われる。方位は三角でなく四角ではないか。神功皇后は大和国(奈良)に居た模様。この他に扶桑からの兵士も参加している。 >

> 扶桑(扶桑の議論で明らかになったもの)蘇の字が見られる。 > 魏志倭人伝の女王国より遠くに在って国名だけしか分からない国として斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国

>>> 京(きょう)に近い国々(山城国・大和国・河内国・和泉国・摂津国の令制 5か国)を指す呼称として用いられる。 >

再度先の畿内の四方拠点を結んだ区画を考えてみました。添付図のとおりです。

かなりまだアバウトですが、難波京の大極殿の位置が、西北に寄っているのが気になります。真ん中の長方形域が、中心域でしょう。6.3キロが東西辺、全体として35-38キロという数字がしばしば出てくるんですね。難波京自体は、646年にはあったでしょう。その年代の木簡がでています。

京畿の語は、京域と畿内域の2種の概念を含んだもので、両方とも都の意味ですが、2つの方 位区画を示す言葉です。倭王武の時代には、もう京畿の語がでていますから、相違を理解していただいましょう。

大化改新時の畿内制か、天武時代の難波宮時代の畿内制かの問題もありますが、天智・中臣 時代の南淵漢人等の遣唐使の知識があれば、改新時でも畿内区画の設置は可能だったでしょう。

おそらくはもっと古くから京畿の区画はあったのですが、難波宮を中心においた時代は、上記2種ですから、そのあたりの相違を分析するのが重要です。関所の遺跡とか出てくるといいのですが。

そのほか難波宮から東に伸ばすと石切神社。春日大社がでてきます。物部・中臣のラインです。

追記:西北に偏る理由ですが、添付の難波宮の京域推定図をみると、大極殿がかなり北に寄っていることがわかります。少なくとも3キロ前後、本来の畿内区画の中心から北にずれている可能性を感じます。

図の引用元。

<http://osaka-uemachi.sakura.ne.jp/PDFs/Symposium01.pdf>

Re:アイヌ、琉球は縄文系=本土は弥生人との混血 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月10日(土)10時27分0秒 返信・引用編集済

> No.892[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> アイヌ、琉球は縄文系=本土は弥生人との混血-日本人のDNA解析・総研大など >>> 吉田大洋の『謎の出雲帝国』によると、「アイヌ」という言葉は、シュメール語で「異なった 方言を話す人たち」の意味だそうです。

クナシリ・メナシの戦いの項に「アイヌ人に人口減少をもたらしたのは、和人がもたらした 天然痘」。天然痘、ペストは風土病との事です。文書から弥生人はアフリカ、ヨーロッパ系の人 種になる。弥生人はシュメール？

シュメール語:シュメール、元の単語である sumer は、英語では「スマア」、独語では「ズメア」、仏語では「スュメール」と各言語で異なって発音されるので、楔形文字の本来の発音が不確定であることを考慮すると、日本語表記での長音符の有無は、専ら学者の慣習的な片仮名当字の問題で、学術的な根拠を言及するには無理がある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB>

クナシリ・メナシの戦い 蜂起の後 北見方面南部への和人(シサム・シャモ)の本格的な進出が始まったのはこの戦いの後、幕 府が蝦夷地を天領として、蝦夷地への和人の入植の制限を緩和してからである。松浦武四郎 によると、アイヌ女性が年頃になるとクナシリに遣られ、そこで漁師達の慰み物になったと いう。また、人妻は会所で番人達の妾にされたともいわれている。男は離島で 5 年も 10 年も 酷使され、独身者は妻帯も難しかったとされる。 但し本格的にアイヌ人に人口減少をもたらしたのは、和人がもたらした天然痘などの感染症である。その結果文化4年(1804年)に2万3797人と把握された人口が、明治6年(1873年)には 1万8630人に減ってしまった。アイヌの人口減少はそれ以降も進み、北見地方全体で明治 13年に 955人いたアイヌ人口は、明治 24年には 381人にまで減った。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%8A%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%83%BB%E3%83%A1%E3%83%8A%E3%82%B7%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

天然痘 前史 天然痘の発源地はインドであるとも、アフリカとも言われるが、はっきりしない。最も古い 天然痘の記録は紀元前 1350年のヒッタイトとエジプトの戦争の頃であり、また天然痘で死 亡したと確認されている最古の例は紀元前 1100年代に没したエジプト王朝のラムセス 5世 である。彼のミイラには天然痘の痘痕が認められた。

イスラム アル・ラーズビーが著書『天然痘と麻疹の書』(Kitab fi al-jadari wa-al-hasbah)において麻疹と 天然痘の違いについて言明した。 ヨーロッパ 紀元前 430年の「アテナイの疫病」は「アテナイのペスト」とも呼ばれたが、記録に残された症 状から天然痘であったと考えられる(他に、麻疹、発疹チフス、あるいはこれらの同時

流行と する説もある)。165 年から 15 年間ローマ帝国を襲った「アントニヌスの疫病(アントニヌスのペスト)」も天然痘とされ、少なくとも 350 万人が死亡した。その後、12 世紀に十字軍の 遠征によって持ち込まれて以来、流行を繰り返しながら次第に定着し、ほとんどの人が罹患 するようになる。ルネサンス期以降肖像画 が盛んに描かれるようになったが、天然痘の癍痕 を描かないのは暗黙の了解事項であった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E7%84%B6%E7%97%98>

アイヌ、琉球は縄文系=本土は弥生人との混血 投稿者:青面金剛 投稿日:2012 年 11 月 10 日(土)09 時 45 分 54 秒 返信・引用

アイヌ、琉球は縄文系=本土は弥生人との混血-日本人の DNA 解析・総研大など

「日本人を北海道のアイヌ、本土人、沖縄の琉球人の 3 集団に分けた場合、縄文人に起源があるアイヌと琉球人が近く、本土人は中国大陸から朝鮮半島経由で渡来した弥生人と縄文人との混血が進んだことが確認された。総合研究大学院大や国立遺伝学研究所(遺伝研)、東京 大などの研究チームが、過去最大規模の細胞核 DNA 解析を行い、1 日付の日本人類遺伝学 会の英文誌電子版に発表した。アイヌと琉球人が同系との説は、東大医学部の教官を務めたドイツ人ベルツが1911 年 に初めて論文発表した。頭骨の分析では、狩猟採集生活の縄文人は小さい丸顔で彫りが深く、約 3000 年前に渡来し稲作をもたらした弥生人は北方寒冷地に適応していたため、顔が平たく長い傾向がある。総研大と遺伝研の斎藤成也教授は「ベルツの説が101 年後に最終的に証明された。本土 人は大ざっぱに言えば、縄文人 2~3 割と弥生人 7~8 割の混血ではないか。今後は縄文人の DNA 解析で起源を探るほか、弥生時代に農耕が広がり人口が急増した時期を推定したい」と話している。(2012/11/01-02:19)時事通信」 <http://www.jiji.com/jc/zc?k=201211/2012110100041>

クナシリ・メナシの戦い

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%8A%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%83%BB%E3%83%A1%E3%83%8A%E3%82%B7%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

吉田大洋の『謎の出雲帝国』によると、「アイヌ」という言葉は、シュメール語で「異なった方言 を話す人たち」の意味だそうです。 Re:毛人 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 10 日(土)00 時 04 分 55 秒 返信・引用 編集済

> No.890[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

三国山(現在は三国ヶ丘と称される)は神功皇后の三韓征伐と関係がある。どうも、三韓征 伐の出航地が堺で、集結地が三国山。兵士は京畿から集結したと思われる。方位は三角でなく

四角ではないか。神功皇后は大和国(奈良)に居た模様。この他に扶桑からの兵士も参加して いる。

扶桑(扶桑の議論で明らかになったもの)蘇の字が見られる。 魏志倭人伝の女王国より遠くに在って国名だけしか分からない国として斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼 国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国

京(きょう)に近い国々(山城国・大和国・河内国・和泉国・摂津国の令制 5 か国)を指す呼称として用いられる。

堺市は、摂津国と和泉国に属していました。 堺という地名そのものが、摂津と和泉の「境」ということに由来しています。 江戸時代末期に大和川が現在地に流れることになり、 堺市は大和川の南になり、和泉国にされたのです。 もっと言えば、堺市の一部は河内国にも属しました。 堺市内に三国ヶ丘がありますが、この「三国」とは、摂津、河内、和泉のことです。

社地は摂津、河内、和泉の境の三国山(現在は三国ヶ丘と称される)にあり、三令制国のいづれにも属さない地、方位のない地であるとして、古くから方位、地相、家相などの方災除けの 神社として信仰を集めてきた。現在でも、転勤、結婚などでの転宅や海外旅行などの際に祈願 する参拝者が多い。自分の在所からでかけていく先の方位についてのお祓いをしてもらい、 清めの御砂を頂いて、自分の家の四方に撒く。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B9%E9%81%95%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

Re: 毛人 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 9 日(金)23 時 23 分 35 秒 返信・引用 > No.889[元

記事へ]

下記で指摘した畿内方位区画の関連図と、その距離表を添付します。

Re: 毛人 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 9 日(金)23 時 23 分 35 秒 返信・引用 > No.889[元記事へ]

下記で指摘した畿内方位区画の関連図と、その距離表を添付します。

Ads by Google Re:毛人 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 9 日(金)23 時 16 分 0 秒 済

> No.888[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

返信・引用 編集

- > 京畿
- > 京畿(けいき)は、漢字文化圏で京師(みやこ)および京師周辺の地域のこと。 >
- > 三角縁神獣鏡を見ると「京師」は 240 年に「州師」に変更している。
- > どうも、「京師」の「州師」。「州師」は宰輔が持っている首都(京師)の州師三軍。 >
- > 2.中国歴代王朝の都のこと(長安、北京など)。
- > 京師は洛陽で京畿は長安、北京 >
- > 3. 朝鮮王朝の都のこと。漢城、京城(今の韓国ソウル特別市)。
- > 朝鮮王朝の都は京畿 > >
- > 京畿道 (朝鮮八道)
- > 京畿道(キョンギド、けいきどう)は李氏朝鮮の行政区画、朝鮮八道の一つ。現在の大韓民国の京畿道、ソウル特別市、仁川広域市の大部分、及び朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の開城工業地区を合わせた地域。

日本での京畿の用語を考える上で、確かに京師などの三角縁の銘文記載は重要ですね。

後の時代に、半島でも日本でも畿内制が導入されるのですが、その特色なりを、もとの三角縁を使用していた時代、さらにいえば、先の奈良都城區劃の時代の制度の影響を考慮すべきかもしれません。その中間点に先の倭王武の上表分の京畿の語が位置してきます。

畿内とは以下の 5 国である。近現代の行政区分では、奈良県の全域と、京都府の南部、大阪府の大部分、兵庫県南東部に当たる。なお畿内という地域概念は現在でも存在し地方分権などの行政区分や観光などの産業分野でしばしば取り上げられる。山城国(京都府京都市以南。ただし左京区広河原、右京区京北は山陰道丹波国) 大和国(奈良県)

河内国(大阪府東部) 和泉国(大阪府南西部) 摂津国(大阪府北中部および兵庫県神戸市須磨区以東。ただし高槻市榎田と豊能町牧・寺田は丹波国、神戸市須磨区須磨ニュータウン西部と北区淡河町は山陽道播磨国) 五畿・五畿内とも呼ばれる。ただし、716 年に和泉国が河内国より分離される前は、四畿・四畿内といった。中国とも称される[1]。歴代の皇居のほとんどがこの地方に置かれた。畿内国 [編集] 646 年に発せられた改新の詔には、「およそ畿内とは、東は名壘(名張)の横河より以来(こちら側)、南は紀伊の兄山より以来、西は赤石(明石)の櫛淵[2]より以来、北は近江の狭狭波(さざなみ)の合坂山(逢坂山)より以来を、畿内国とす」[3]という畿内の範囲に関する記述がある。ここにいう「畿内」はのちの 4、5 国をさす畿内ではなく、大和を中心に四囲を示した「畿内国」として定めたと考えられる。このように、畿内の範囲は 646 年(大化 2)当時皇居が置かれていた難波宮(現在の大阪市)、またはより古くから大王の宮殿の多くが置かれた奈良盆地を基準に決められたと考えられる。中央集権制の下で、貴族が朝廷の許可もなく、畿内の外に出る事は律令法によって禁じられていたが、794 年に山城国の畿内北東端にあたる平安京に遷都されて以後は、平安京から山一つ越えただけの近江国や丹波国へ出る事が禁じられ、平安京から数日かかる和泉や大和南部の方が規制が緩いという矛盾が生じ

ていたという。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/畿内>

確かに兵庫方面まで畿内が伸びているのには、難波に都がおかれていた当時の影響もあるでしょう。名張というのは伊賀あたりなのですが、三重西部で、東部の祭司のメッカ・伊勢が入らないんですね。関所の関係で、軍防的な側面もあったのでしょうか。近江も小関の地名があり、関所ですね。

おそらく先日お話したとおり、京(都城)の方位区劃と、畿内の方位区劃があったはずですよ。

それで今地図で調べていますが、確かに明石と名張の距離が難波京から50キロ前後でぴったりです。また近江の逢坂山の位置は、その難波京－名張間の中間点に位置します。同じく紀伊の兄山も、難波京の真南で44キロ地点ですね。

おそらく44-50キロ前後の同心円、およびその範囲内の方形区劃を意図して計画された区劃です。

後で図を添付します。いつもの30分で掲示板読んで即答するパターンでは間に合わない感じです。

Ads by Google Re:毛人 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月9日(金)10時07分19秒 返信 引用 編集済

> No.887[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

京畿

京畿(けいき)は、漢字文化圏で京師(みやこ)および京師周辺の地域のこと。

三角縁神獣鏡を見ると「京師」は240年に「州師」に変更している。どうも、「京師」の「州師」。「州師」は宰輔が持っている首都(京師)の州師三軍。

宰輔(天子を助けて政治を行う者)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%AD%90> <http://www.geocities.jp/reimei12/kani/guntai.htm>
<http://www.geocities.co.jp/Playtown-Denei/9263/juuni/kantokurai.html>

「景初三年」鏡 景初三年、陳是作鏡自有経述、本是「京師」杜地命出、吏人銘之位至三公、母人銘之保子宜孫、寿如金石兮

秦野訳 景初三年、陳が自ら経述した鏡を作る。もとは「京師」(杜)の出、銘は位至三公の吏人、銘は母人(おものひと)、保子(開花天皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

「正始元年」鏡

始元年、陳是作鏡自有経述、本自「州師」杜地命出、寿如金石保子宜孫

秦野訳 始元年、陳が自ら経述した鏡を作る。もとは「州師」(杜)から出る、保子(開花天皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

京師

京師(けいし)とは、東アジアなど漢字文化圏で帝王の都のこと。京都。京城。

1.日本で天皇の都のこと。京(平城京、平安京など)。なお「東京」を「京師」と呼ぶことはない。京師は奈良の耳成山(大和三山)で京畿は耳成山の方位、平城京、平安京、難波宮、飛鳥(明日香)を指す模様。

2.中国歴代王朝の都のこと(長安、北京など)。京師は洛陽で京畿は長安、北京

3.朝鮮王朝の都のこと。漢城、京城(今の韓国ソウル特別市)。朝鮮王朝の都は京畿

京畿道 (朝鮮八道) 京畿道(キョンギド、けいきどう)は李氏朝鮮の行政区画、朝鮮八道の一つ。現在の大韓民国の京畿道、ソウル特別市、仁川広域市の大部分、及び朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の開城工業地区を合わせた地域。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E7%95%BF%E9%81%93_\(%E6%9C%9D%E9%AE%E5%85%AB%E9%81%93\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E7%95%BF%E9%81%93_(%E6%9C%9D%E9%AE%E5%85%AB%E9%81%93)) >

Re: 毛人 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 8 日(木)23 時 15 分 25 秒 返信・引用 > No.886[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>『宋書』倭国伝 >> 興死、弟武立、自稱使持節、都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事、安東大將軍、倭國王。 >> 興が死に、弟の武が立ち、使持節、都督倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸 軍事、安東大將軍、倭国王を自称した。 >> 順帝昇明二年、遣使上表曰:「封國偏遠、作藩于外、自昔祖禰、躬擐甲冑、跋涉山川、不遑寧處。 東征毛人五十國、西服衆夷六十六國、渡平海北九十五國、王道融泰、廓土遐畿、累葉朝宗、不愆于歲。臣雖下愚、忝胤先緒、驅率所統、歸崇天極、道逕百濟、裝治船舫、而句驪無道、圖欲見吞、 掠抄邊隸、虔劉不已、每致稽滯、以失良風。雖曰進路、或通或不。 >> 順帝昇明二年(478 年)、遣使が上表して曰く「封国は残念ながら遠く、藩を外に作り、昔より祖先は自ら甲冑を着け、山川を跋涉し、安らかに暮らす暇なし。東に毛人を征すること五十五国、西に衆夷を服すること六十六国、(海を)渡り海北を平定すること九十五国。王道は安泰に調和し、国土を拡張、京畿を遠く離れる。累代に亘って朝廷を尊び、歳を誤らず。臣は下愚といえども、忝くも後裔を先に残し、統べる所を率いて駆け、崇め帰すこと天を極め、道 を百済に直行し、船舶を装備する。然るに高句麗は非道にも併吞を欲して謀り、辺境を略奪し 隸属させ、(南朝宋の)劉氏を尊重して已まず、(そのために)いつも延滞させられ、(航行 の)良風を失する。道を進むといえども、あるいは通じ、あるいは不通。 >

確かに、先の方がおっしゃるように、毛人やえみし、さらには縄文人の体格や性質について考えることは重要です。

またこの記載は半島を視野に入れて書かれているように感じますね。

特に「道逕百濟、裝治船舫」の部分ですが、「逕」の語は、「みち、こみち、さしわたし、ただちに」の意味ですから、百済に向かう小道をダイレクトに延ばすという感じでしょうか。そのため に船も装備して治めた。それに対して高句麗が邪魔をするという内容だと思います。

あと、上表文にかなり中国的な表現が多く見えますね。京畿、封国、千歳、朝宗…。 歳を誤らないというのも、干支などの記録法がかつてからあって、間違いないの意味で、それなりに自信があるのでしょうか。つまり記紀の記載の記録方法にも関係していると思います。 その干支などの記録方法の伝承が、祖先の時代、つまり古墳時代初期ころからあったことを 意味しているのではないのでしょうか。

毛人 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 8 日(木)21 時 44 分 48 秒 返信・引用 編集 済

『宋書』倭国伝の文章を読むと倭の五王時代の韓半島の地図を添付
地図の裏付けはない。

毛人、衆夷、海北の3つに分けている。広開土王の碑文との対応は

海北:燕と戦闘を交え,410 年には東夫余 毛人:南方の百済,新羅を攻め, 衆夷:2 国の背後にいた倭の勢力と対戦
『宋書』倭国伝

興死、弟武立、自稱使持節、都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事、安東大將軍、倭國王。

興が死に、弟の武が立ち、使持節、都督倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸 軍事、安東大將軍、倭国王を自称した。

順帝昇明二年、遣使上表曰:「封國偏遠、作藩于外、自昔祖禰、躬擐甲冑、跋涉山川、不遑寧處。 東征毛人五十國、西服衆夷六十六國、渡平海北九十五國、王道融泰、廓土遐畿、累葉朝宗、不愆

于歲。臣雖下愚、忝胤先緒、驅率所統、歸崇天極、道逕百濟、裝治船舫、而句驪無道、圖欲見吞、 掠抄邊隸、虔劉不已、每致稽滯、以失良風。雖曰進路、或通或不。

順帝昇明二年(478 年)、遣使が上表して曰く「封国は残念ながら遠く、藩を外に作り、昔より祖先は自ら甲冑を着け、山川を跋涉し、安らかに暮らす暇なし。東に毛人を征すること五十五国、西に衆夷を服すること六十六国、(海を)渡り海北を平定すること九十五国。王道は安泰に調和し、国土を拡張、京畿を遠く離れる。累代に

亘って朝廷を尊び、歳を誤らず。臣は 下愚といえども、忝くも後裔を先に残し、統べる所を率いて駆け、崇め
帰すこと天を極め、道 を百済に直行し、船舶を装備する。然るに高句麗は非道にも併呑を欲して謀り、辺境を
略奪し 隷属させ、(南朝宋の)劉氏を尊重して已まず、(そのために)いつも延滞させられ、(航行 の)良風を失す
る。道を進むといえども、あるいは通じ、あるいは不通。

京畿(けいき)は、漢字文化圏で京師(みやこ)および京師周辺の地域のこと。

『南史』倭国伝

晉安帝時、有倭王讃遣使朝貢。

及宋武帝永初二年、詔曰:「倭讃遠誠宜甄、可賜除授。」

文帝元嘉二年、讃又遣司馬曹達奉表獻方物。

晋の安帝の時(396-418 年)、倭王讃があり、遣使を以て朝貢した。 宋の武帝の永初二年(421 年)に、詔に曰く
「倭の讃、遠来の忠誠を宜しく審査し、除授を 賜うべし」。 文帝の元嘉二年(425 年)、讃がまた司馬曹達を遣わ
し、奉表して方物を献上した。

讃死、弟珍立、遣使貢獻、自稱使持節、都督倭百済新羅任那秦韓慕韓六國諸軍事、安東大將 軍、倭國王、表求除
正。詔除安東將軍、倭國王。 珍又求除正倭清等十三人平西、征虜、冠軍、輔國將軍等號、詔並聽之。

讃が死に、弟の珍が立つと、遣使を以て貢獻し、使持節、都督倭・百済・新羅・任那・秦 韓・慕韓六国諸軍事、安東大
將軍、倭国王を自称し、上表して除正を求めた。詔を以て安東将 軍、倭国王に除した。 珍がまた倭清ら十三
人を、平西、征虜、冠軍、輔国將軍などの号に除正することを求め、詔を 以て、これをいずれも聴き届けた。

■広開土王・こうかいどう...374~413...は、好太王とも永楽太王とも呼ばれる。 南方の百済、新羅を攻め、396
年には百済王の弟や大臣を人質にとり、また 404 年には 2
国の背後にいた倭の勢力と対戦してこれを潰敗させたという。

また西方へは、395 年に中国・燕と戦闘を交え、410 年には東夫余とも争ってこれを討ち 滅ぼし、版図を拡げ、
在位 22 年間をあいだに 64 城 1400 村を獲得したと碑文にかかれてい る。

碑は、高さは 6.34m、幅は、平均 1.59m という巨大な柱状で、414 年に建てられた。

<http://tamrhyouka.hiho.jp/reki-4koukai.html>

Re:アイヌ(相ぬ)語を解読成功した和人(私) 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 11 月 8 日(木)10 時 48 分 58
秒 返信・引用

> No.884[元記事へ]

orionseijin_cacakah さんへのお返事です。

チガーヌ そして ジブシー ロマの民 の考察 <http://blogs.yahoo.co.jp/anecj/29542620.html> スタン・ゲッツのテ
ィア・オールド・ストックホルムを必ずかけてくれます。その時は珍しく私もギムレッ トを注文します。 タン
カレーか・ボンベイか・ビーフィターな夜にしようかな？

アイヌ(相ぬ)語を解読成功した和人(私) 投稿者:orionseijin_cacakah 投稿日:2012 年 11 月 7 日(水)21 時
26 分 30 秒 返信・引用

※ アイヌ民族には文字はないが、アフリカ人奴隷の出身地は、アフリカ全土でも あり、さまざまな言語です。

片言で、親分(奴隷の所有者)のモスクワ民族語を話していたようである。

モスクワ語をローマ字読みして、奴隷の片言ロシア語に、アフリカ人訛りで発音をすると、 アイヌ語である。

・ トカプチ(十勝) トカ・プーチ/Тока-пути(平坦で楽んな「道のり/旅路」)

http://www.geocities.jp/orionseijin_cacakah/ainu-izika-garubohi/tokapuchi.html

◆ マクンベツ[幕別/十勝] http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu-izika-ainu/Makunbetu.html >
イオマンテ と マクンバ

中世の、 1 アフリカ東海岸原産の奴隷 (東欧向けの捕れたて奴隷、後の旧土人保護法の対象人種アイヌ民族) と

2 アフリカ西海岸原産の奴隷 (南米・中米・北米・西洋)の、末裔の違いがあります。

【繁殖学・遺伝学】鎖国の弱い地方がアイヌ顔でパッパラパー

http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu_rosuke/munohge_B_guruppa_beet/papa/a_few-Possia.html

1 パッパラパーは、鎖国の弱い地方のアイヌ顔と学力な、超強力な「優性遺伝 DNA」です。 2 パッパラパーが弱くなっていないで、鎖国の弱かった地方はゴリラ顔と B 型血液型とパッパラパーが、優性遺伝で増え続けてきた証拠でもある。 3 アイヌ人 100%を意味する D2 系遺伝子顔は、パッパラパー遺伝子マーカー顔である。

※ 関東や長野県も D2 が多いですが、明治以降の渡航の自由による上京や、フェロモンが縄文と違うために残酷なことが可能な、中仙道の D2 は山賊(アイヌ顔)です。

※ 2012 年の、全国学力テスト結果 h

http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu_rosuke/munohge_B_guruppa_beet/papa/a_few-Possia.html#2012年の、全国学力テスト結果

平成以前の和人の話を分析したら、アイヌ民族の限度であるアイヌ(相ぬ)語の正体がわかりました。

アイヌ民族たちは、東西冷戦の東側と政治結託し、昭和末期から平成にかけてエスペラント語を「改造・駆使し」、言語を捏造しました。 和人よりも統一された言語はありません。

・ 阿寒 = Окан (露語:アキャン) 太平洋のように広い湖

http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu-izika-garubohi/Akan.html

・ ピリカノカ h http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu-izika-garubohi/Akan.html#ピリカノカ

■ アイヌ語辞典【和人版】 より。 [http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu-](http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu-izika_01_surabahri/ainu_izika.html)

[izika_01_surabahri/ainu_izika.html](http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu-izika_01_surabahri/ainu_izika.html)# 先祖を偽らないフェロモン > 1: アメリカの黒人は、正直者です。 2: ロシア人・東欧も、正直です。 3: アイヌ民族は、先祖を偽ります。 <

・ ♪ラッセーラ (先祖を隠さない正直者の「群れ」。 =「奴隷抜き」の奴隷混血前に日本に来て同化した、モスクワを相手に戦い負けて「落ち武し」た和人の青鬼系) http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu-izika-garubohi/nebuta.html <http://box.c.yimg.jp/res/box-s-xmglmxlxlqjdyiwxxwh7rme7cm-1001?uid=8bdb7210-d7e8-4b2a-a528-b261f8e54992&etag=a3d7dbc41344609859226968>

古代の風水方位盤には、ゴリラ顔以外のユーラシア大陸のすべての人種がある 投稿者: orionseijin_cacacakah
投稿日:2012 年 11 月 7 日(水)21 時 20 分 19 秒 返信・引用

※ 古代の風水方位盤には、ユーラシア大陸のすべての人種が、豚鼻を含め書かれていますが。

ゴリラ顔は 16 世紀の西遊記の孫悟空まで登場しません Wwww

◆ 風水方位盤は「似顔絵=干支」な地図

http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/xoposhow/pu/yorozuHTML/FuhSuiMAP.html# 風水方位盤は「似顔絵=干支」な地図

縄文顔は、「一重まぶた」の朝鮮顔です。 アラブ人もロシア人もアイヌ人も「二重まぶた」の「とても多い人種」です。つまり、アイヌ顔がロマ顔なのが証拠でもあるが、縄文でも先住民族でもない利権泥棒の「ロマの民」なのが、

アイヌ民族というマクンバ系の宗教団体です。

■ クナシリ・メナシの戦い

http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/01_pheromonology/PacOriOtto/kunasihri_menashi.html > 簡単に言うと、山賊行為をしたアイヌ(相ぬ)は処刑をされたが、> 相生(あいおい)は誰も処刑をされていない。>> 屯田兵が、その後、配備をされた理由がわかるだろ?

■ 美しい国 = 女神イザナミのフェロモンが充満。 大和民族の共通の先祖、先祖イザナミ(縄文)。

http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/01_pheromonology/BBS/VenusIzanamisPheromone/JapaneseCoreIzanamiAncestors/GoddessIzanamiFilld.html

Sex pheromone of the goddess Izanami (Jomon) filled country of the Yamato race. And, That means the Ainu Yaga Hag race of the slave race came to Russia from Africa.

■ 旧土人保護法の土人 = 奴隷 = Slave = スラブ民族 = The Slavs(英語)

http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/gorira_type-b/SoutaiseiUari/Slave.html

奴隷 = Slave(英語) ↓ スラブ民族 = The Slavs(英語) ↑

アイヌ民族(アフリカ系ロシア人奴隷)

※ スラブ民族とは、東欧のロシア、および、「ソ連の権力人種」である、東欧のモスクワ民族顔の人種の民族を意味します。

◆ マクンベツ[幕別/十勝] http://www.geocities.jp/orionseijin_cacacakah/ainu-izika-ainu/Makunbetu.html > イオマンテ と マクンバ

中世の、 1 アフリカ東海岸原産の奴隷 (東欧向けの捕れたて奴隷、後の旧土人保護法の対象人種アイヌ民族) と

2 アフリカ西海岸原産の奴隷 (南米・中米・北米・西洋)の、末裔の違いがあります。

<http://box.c.yimg.jp/res/box-s-xmglmxxlxlqjdyiwxxwh7rme7cm-1001?uid=8bdb7210-d7e8-4b2a-a528-b261f8e54992&etag=a3d7dbc41344609859226968>

Re: 扶桑国 平田 篤胤(ひらた あつたね) 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 6 日 (火)23 時 08 分 38 秒 返信・引用

> No.881[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 5 その国の界は東西南北に各数千里、西界と南界いずれも大海に至り >
- > 6 東界と北界は大山があり、限界となし >
- > 7 山の外は、すなわち毛人の国だという >>
- > 『旧唐書』倭国・日本国伝

>> 日本國者、倭國之別種也。以其國在日邊、故以日本為名。或曰:倭國自惡其名不雅、改為日本。或云:日本舊小國、併倭國之地。其人入朝者、多自矜大、不以實對、故中國疑焉。又云:其國界東西南北各數千里、西界、南界咸至大海、東界、北界有大山為限、山外即毛人之國。 >> 日本国は、倭国の別種なり。その国は日の出の場所に在るを以て、故に日本と名づけた。あるいは曰く、倭国は自らその名の雅ならざるを憎み、改めて日本と為した。あるいは日本は 昔、小国だったが倭国の地を併せたという。その人が入朝したが、多くは自惚れが大にして 不実な対応だったので、中国はこれを疑う。また、その国の界は東西南北に各数千里、西界と 南界いずれも大海に至り、東界と北界は大山があり、限界となし、山の外は、すなわち毛人の 国だという。

なるほど、確かに東北はアイヌのすむ毛人の国となるでしょうから、やはり日本(日邊)国 や倭国とは別の地域とみなされているようですね。ただ日高見国であった可能性はあります。 アイヌ・東北と毛人の関連は下記のとおりです。

えみし、毛人・蝦夷の語源については、以下に紹介する様々な説が唱えられているものの、いずれも確たる証拠はないが、「蝦夷」の初出は、日本書紀の景行天皇条である。そこでは、武内宿禰が北陸及び東方諸国を視察して、「東の夷の中に、日高見国有り。その国の人、男女並に椎結け身を文けて、人となり勇みこわし。是をすべて蝦夷という。また土地沃壤えて広し、撃ちて取りつべし」と述べており、5世紀頃とされる景行期には、蝦夷が現在の東北地方だけではなく広く東方にいたこと、蝦夷は、「身を文けて」つまり、邪馬台国の人々と同じく、入墨(文身)をしていたことが分かっている。

文献的に最古の例は毛人で、5世紀の倭王武の上表文に「東に毛人を征すること五十五国。西に衆夷を服せしむこと六十六国」とある。蝦夷の字をあてたのは、斉明天皇5年(659年)の遣唐使派遣の頃ではないかと言われる[7]。後代に人名に使う場合、ほとんど毛人の字を使った。蘇我蝦夷は『日本書紀』では蝦夷だが、『上宮聖徳法王帝説』では蘇我豊浦毛人と書かれており、佐伯今毛人が勤務評定で今蝦夷(正確には夷の字に虫偏がつく)と書かれた例がある[8]。毛人の毛が何を指しているのかについても諸説ある。一つは体毛が多いことをいったのだとして、後のアイヌとの関連性をみる説。もう一つは、鬚が長いことが蝦(えび)と似ているからだとする[9]。中国の地理書『山海経』に出てくる毛民国を意識して、中華の辺境を表すように字を選んだという説もある[10]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/蝦夷>

Re: 扶桑国 平田 篤胤(ひらた あつたね) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 11月 6日 (火)06時 35分 9秒 返信・引用 編集済

> No.880[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

『旧唐書』倭国・日本国伝をどのように理解するかですな。項目はランダム。 1倭国の別種 2倭国は自らその名の雅ならざるを憎み、改めて日本と為した 3小国だったが倭国の地を併せた

4多くは自惚れが大にして不実 5その国の界は東西南北に各数千里、西界と南界いずれも大海に至り 6東界と北界は大山があり、限界となし 7山の外は、すなわち毛人の国だという

『旧唐書』倭国・日本国伝

日本國者、倭國之別種也。以其國在日邊、故以日本為名。或曰：倭國自惡其名不雅、改為日本。或云：日本舊小國、併倭國之地。其人入朝者、多自矜大、不以實對、故中國疑焉。又云：其國界東西南北各數千里、西界、南界咸至大海、東界、北界有大山為限、山外即毛人之國。

日本国は、倭国の別種なり。その国は日の出の場所に在るを以て、故に日本と名づけた。あるいは曰く、倭国は自らその名の雅ならざるを憎み、改めて日本と為した。あるいは日本は昔、小国だったが倭国の地を併せたという。その人が入朝したが、多くは自惚れが大にして不実な対応だったので、中国はこれを疑う。また、その国の界は東西南北に各数千里、西界と南界いずれも大海に至り、東界と北界は大山があり、限界となし、山の外は、すなわち毛人の国だという。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun10-kyutosho.htm>

地図に起しますよ。視点は奈良のようだな。

Re: 扶桑国 平田 篤胤(ひらた あつたね) 投稿者:管理人 投稿日:2012年 11月 6日 (火)01時 51分 6秒 返信・引用 編集済

> No.879[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>

- > 現存の記録では、茲国(きじこく)、扶桑国を循環してしまい日本には至らない。
- > 古事記の高御産巢日神、天之御中主神が総てのようだな。縄文までバックしますか。 >>
- > 昔むかし、この世界で最初に天に現れましたのは、アメノミナカヌシノカミ(天之御中主 神)という神様でした。次に、タカミムスビノカミ(高御産巢日神)とカミムスビノカミ (神産巢日神)という神様が

出現なさいました。この三柱(みはしら。※神様の数は、「柱」で 数えます。)の神様は、そのお姿を地上には、直接現しませんでした。

高御産巢日神の件は、おそらく会報第3号でも触れましたが、九州日田あたりに入った新漢 人系の伝承にある、8つの太陽の話とその壁画、とかかわるでしょう。太陽がたくさんで巢の ようだとの意味と高木信仰との兼ね合いだと考えてます。

> 日本国(にっぽんこく、にほんこく)>>『隋書』東夷伝に、倭王が隋皇帝への国書に「日出ずる処の天子」と自称したとあり、このときの「日出ずる処」という語句が「日本」国号の淵源となったとする主張もある。しかし、「日出 ずる処」について、仏典『大智度論』に東方の別表現である旨の記述があるため、現在、単に文 飾に過ぎないとする指摘もある。

>

それで日本の件なのですが、先の「日本。倭國之別種。以其國在日邊。故以日本國為名。」の「日 邊」の語ですね。よく調べてみると、中国の単語のようで、太陽の近く、遠いの意味と、首都 (日)の近くを表す比喩だとあります。

1. 太陽的旁?。犹言天?。指极?的地方。南朝 宋 劉?《世新?夙惠》:“? 晋元帝 ?? 明帝 :‘汝 意? ?安 何如日??’答曰:‘日?。不?人从日?来,居然可知。’” 唐 李白《望天?山》?:“两岸青山 相?出,孤帆一片日?来。” 宋 ??道《和彦詹??》:“?牕得?意,?出杳冥?。芳草日?路,片云天外 山。”

2. 比?京?附近或帝王左右。唐 ?《送裴延翰下第??滁州》?:“江 上??素?,日??倚丹梯。” 唐 高蟾 《下第后献高侍郎》?:“天上碧桃和露?,日??杏倚云栽。” 宋 ?万里 《送丁卿季吏部赴 召》?:“吾州 史君 五十年,不曾召?来日?。” 清 李?《?箏??兵》:“羽??上九重天,佇望旌旗白 日?。”

<http://www.zdic.net/cd/ci/4/ZdicE6Zdic97ZdicA5300218.htm>

あまり訳がよくないですが、中国語の自動翻訳です。

1. 太陽のそば。まるで空の果てを言います。指のきわめて遠い地方。 南朝 宋 劉義慶 《世新 語・夙惠を言う》:“= 晋元帝 =は聞きます 明るい帝 :‘はなんじのイタリアは言います 長安 日は遠いほうがよいですか?’は答えて言います:‘は日遠いです。いいえ有名人は日辺 から来て、意外にも分かります。’” 唐 李白 《望天門山》詩:“兩岸の青い山は比較的に出て、孤 独な帆の一面の日辺は来ます。” 宋 陳師道《彦詹と遠軒を書く》:“=の遠意をつけて、奥深さ 間を盛んになりだします。芳香ある草日サイド、板の空の外山。”

2. 比喩の首都の近くあるいは帝王は左右します。 唐 趙 gu《裴延に送る筆の下等が帰ってジ ョ州に参拝する》詩:“大きな川 上書物の危ない素業、日辺の戸口は朱色のはしごに寄りか かります。” 唐 高蟾《下等の後で高侍郎を捧げる》詩:“天上の碧桃はと種を現して、日辺の紅 杏は雲に寄りかかって転倒します。” 宋 楊万里《丁卿季吏部に行くことを呼ぶ送る》詩:“吾 州 史君 50 年、かつて召節の将来の辺のことがない。” 点検 李漁《風が誤って・兵を頼む》:“急ぎの手紙は天上の日を飛んで、=望色とりどりの旗白日辺。”

こうみると、「以其國在日邊」は、日の当る浜辺とかにある国という意味ではなく、太陽のよう に遠くにある、天高いところにある国、のような訳だった可能性があります。

ちょうど先の扶桑木信仰の8つの太陽の話も、その関聯で遠くにある太陽の巢、1つだけ先 の上ってきて云々という部分のイメージに近いことがわかります。扶桑の意味もあるでしょう。

それで日邊は、呉音で「にちへん」、漢音で「じつへん」の読みが正解です。日本は「にちほん」「じつほん」です。

わりと近い音になっているのは、偶然ではなく、中国側でその読みまで理解して記載してい るはずです。

おそらく、邊より、本のほうが、さらに遠く太陽に近いという認識ではないでしょうか。

そこで、さらに下記の記載をみると、

南朝 宋 刘??《世?新??夙惠》:“? 晋元帝 ?? 明帝 :‘汝意? ?安 何如日??’答曰:‘日?。不?人从 日?来,居然可知。’

南朝宋のときに、日辺がどこにあって、日は遠いところにある。日辺からくる人?は聞いたこ とがないが、しかし、いと聞く、との問答にみえます。

そして、かつて中国へ日本からの入朝者がいたと、先の隋書にありました。そうすると、南朝 への入朝者は、先日のとおり、倭からも男王が何度も入朝していましたから、そのあたりと関 聯してくるかもしれません。

日辺国があったのではないのでしょうか。それが日本と後代変化していく。

九州日下部あたりは、くさかべで、やや関係性のある語音です。

<http://www.sysken.or.jp/Ushijima/voyage8.htm>

もともとある時代から、九州全体をもって「日」「火」「肥」国とする概念があるように感じます ね。

『古事記』国産み神話においては、隠岐の次、壱岐の前に生まれた筑紫島(九州)の四面の ひとつとして語られ、別名を「建日向日豊久土比泥別(タケヒムカヒトヨクジヒネワケ)」と いったとされる。 次生、筑紫島。此島亦、身一而、有面四。面毎有名。故、筑紫国謂、白日別。豊国、言、豊日別。肥国、 言、建日向日豊久土比泥別。熊曾国、言、建日別。

先の扶桑信仰と関係ある壁画古墳を出すのは、日田あたりですが、もともと日高と呼ばれて いたようです。日高見国。

日高見国が常陸になっていくのは、九州中臣氏等が、常陸や埼玉方面へ入る段階からではな いでしょうか。

>> 亀兹国(きじこく)>> 亀兹は、かつて中国(東トルキスタン)に存在したオアシス都市国家。現在の中華人民共 和国新疆ウイグル自治区アクス地区クチャ県(庫車県)付近にあたり、タリム盆地の北側 (天山南路)に位置した。丘兹、屈兹とも書かれ、玄奘の『大唐西域記』では屈支国(くつしこ く)と記されている。

こちらも遠い国ですね。丘兹、屈兹はクッシで通説どおり月氏のことでしょう。

シルクロードの石窟寺院と九州横穴墓、その壁画の題材などは、第3号で記載したように、深 く関わります。ある時期に新漢人とともに、仏教や大陸西域系の宗教伝承を多く九州各地にもたらしてます。 扶桑木伝承が入り込んだのもそのあたりではないでしょうか。

南宋と高句麗に流れこむ北燕遺民の話がありますが、この遺民がその後九州各地へ入り、さ らに滋賀、茨城・福島方面へと移動していく過程で、大陸系の宗教伝承や壁画を各地に残し ていくことになります。横穴墓の流れですね。アラビア系の楽器なども出てくるのですが、シ ルクロード関聯。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアー カイブを3D デジタイズが革新する Ads by Google Re: 扶桑国 平田 篤胤(ひらた あつたね) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 11月 6日 (火)00時 41分 23秒 返信・引用 編集済

> No.878[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> 日本と倭の問題もそうですね。この記事の元となる資料なり伝聞があったはずですし、日 本・小→倭・大の意味が重要です。日向系・応神あたりの話がもとになっているのではない でしょうか。日向と日辺、の関係ですね。辺というのは海岸沿いを意味するのではないでしょ うか。日本の本はなんでしょうね。

>

現存の記録では、兹国(きじこく)、扶桑国を循環してしまい日本には至らない。

古事記の高御産巢日神、天之御中主神が総てのようだな。縄文までバックしますか。

昔むかし、この世界で最初に天に現れましたのは、アメノミナカヌシノカミ(天之御中主 神)という神様でした。次に、タカミムスビノカミ(高御産巢日神)とカミムスビノカミ (神産巢日神)という神様が出現なさいました。この三柱(みはしら。※神様の数は、「柱」で 数えます。)の神様は、そのお姿を地上には、直接現しませんでした。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami.html

日本国(にっぽんこく、にほんこく)

『隋書』東夷伝に、倭王が隋皇帝への国書に「日出ずる処の天子」と自称したとあり、このとき の「日出ずる処」という語句が『日本』国号の淵源となったとする主張もある。しかし、「日出ずる処」について、仏典『大智度論』に東方の別表現である旨の記述があるため、現在、単に文飾 に過ぎないとする指摘もある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC>

『大智度論』

一般には、基本的な部分は龍樹の著作であり、その解説のために、訳者である鳩摩羅什が大幅な付加を加えたという説が普及している。漢訳は逐語的な注釈が続いていくが、小品般若 経の序品第一の解釈が三十四巻まで続き、それ以降は唐突に抄訳になってしまうことなどから、鳩摩羅什が増広上書きしたとか、あるいは龍樹に仮託して撰述したという極端な説まで 出されている。 小品般若経序品はそれまでの部派仏教の説を網羅し、般若波羅蜜によって見直すべきことを 説いているので、いずれにしても大乘仏教の精髓を中国に伝えようと意図した羅什の手が入 っていることは間違いないようである。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%99%BA%E5%BA%A6%E8%AB%96>

鳩摩羅什(くまらじゅう、くもらじゅう)

サンスクリット:Kumārajīva, ????????, クマーラジーヴァ)、344 年 - 413 年、一説に 350 年 - 409 年とも)、亀茲国(きじこく)(新疆ウイグル自治区クチャ県)の西域僧、後秦の時代に長安に来て約 300 巻の仏典を漢訳し、仏教普及に貢献した訳経僧である。玄奘と共に二大 訳聖と言われる。また、真諦と不空金剛を含めて四大訳経家とも呼ばれる。三論宗・成実宗

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B3%A9%E6%91%A9%E7%BE%85%E4%BB%80>

亀茲国(きじこく)

亀茲は、かつて中国(東トルキスタン)に存在したオアシス都市国家。現在の中華人民共和 国新疆ウイグル自治区アクス地区クチャ県(庫車県)付近にあたり、タリム盆地の北側(天山南路)に位置した。丘茲、屈茲とも書かれ、玄奘の『大唐西域記』では屈支国(くつしこく)と記されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%80%E8%8C%B2>

Ads by Google

Re: 扶桑国 平田 篤胤(ひらた あつたね) 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 5 日 (月)23 時 12 分 45 秒 返信・引用

> No.877[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 平田 篤胤(ひらた あつたね) >> 神代文字で古代の日本を見た模様。扶桑木、扶桑国 >

彼はおそらく我々の知らないような資料を見ていた可能性を感じますね。

当時としてはずば抜けた洞察力をもっていますが、その裏にあった伝承なりを知りたいところ です。

文字関聯はさらに追求していきましょう。

『唐会要』倭国・日本国伝 1>> 日本。倭國之別種。以其國在日邊。故以日本國為名。或以倭國自惡其名不雅。改為日本。或云 日本舊小國。吞併倭國之地。其人入朝者。多自矜大。不以實對。故中國疑焉。 >> 日本。倭国の別種である。その国は日辺に在る故に、日本国を以て名と為した。あるいは 倭国は自らの名が雅ではないことを憎み、日本に改名した、あるいは日本は昔は小国だったが、倭国の地を併呑したという。その人が入朝したが、多くは自惚れが強く、不実な対応だったため、中国はこれを疑う。

日本と倭の問題もそうですね。この記事の元となる資料なり伝聞があったはずですし、日本・小→倭・大の意味が重要です。日向系・応神あたりの話がもとになっているのではない でしょうか。日向と日辺、の関係ですね。辺というのは海岸沿いを意味するのではないでしょ うか。日本の本はなんでしょうね。

扶桑国 平田 篤胤(ひらた あつたね) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 4 日(日)01 時 12 分 16 秒 返信・引用 編集済

平田 篤胤(ひらた あつたね)

神代文字で古代の日本を見た模様。扶桑木、扶桑国

古代は用明天皇以前は倭國、以後は倭國を倭国に改名している。日本列島は倭国と日本に分 かれていた。これは『唐会要』倭国・日本国伝で明らかである。白村江以後、倭国と日本を合 わ せて日本に改名。1 平田 篤胤には倭国の正確な地図がないのが現実で戯言に終わっている。もし、魏志倭人伝の解読に成功していれば答えが出たのですが、惜しかったですな。 秦野書、徐福と邪馬台国参照

『梁書』の要約)の後、注釈で(疑はくはこれ北東に当たるかや、誤ちもつて日本とす。而して、 扶桑の日本の別號なるは當たらず)。扶桑国は倭國(倭国)に属していたが結論。2

神代文字は神功皇后、君が代の記録されているので、古事記も神代文字を書き換えた可能性 もある。

『唐会要』倭国・日本国伝 1 日本。倭國之別種。以其國在日邊。故以日本國為名。或以倭國自惡其名不雅。改為日本。或云日

本舊小國。吞併倭國之地。其人入朝者。多自矜大。不以實對。故中國疑焉。

日本。倭国の別種である。その国は日辺に在る故に、日本国を以て名と為した。あるいは倭 国は自らの名が雅ではないことを憎み、日本に改名した、あるいは日本は昔は小国だったが、 倭国の地を併呑したという。その人が入朝したが、多くは自惚れが強く、不実な対応だっ たので、中国はこれを疑う。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

日本 2 扶桑は日本の異名の一つとされる。1094 年の史書『扶桑略記』のタイトルに初期の用例が見られる。

一方、1712 年の類書『和漢三才図会』は「扶桑」の項で、『三才図会』からの引用(『梁書』の要 約)の後、注釈で疑ハクハ是當ルカニ北東ニ一乎誤チ以爲ニ日本ト一而扶桑ノ爲ルニ日本ノ別號一者不レ當 タラ (疑はくはこれ北東に当たるかや、誤ちもつて日本とす。而して、扶桑の日本の別號なるは當 たらず)

?『和漢三才図会』卷之十四 外夷人物「扶桑」 と、日本説を否定している

平田篤胤 (1776?1843) は、文献で言及される扶桑の独自の文字を神代文字だとして日本説を 強硬に主張した。

扶桑木

なお、愛媛県伊予市の森海岸に露出している郡中層にはメタセコイア等の多くの化石植物が 含まれているが、この化石植物群は古くから扶桑木と呼ばれている。

セコイア 高さ 100m 近くにもなる世界有数の大高木。アメリカ合衆国西海岸の海岸山脈に自生する。

大荒之中 有山名曰孽搖額抵 上有扶木 柱三百里 其葉如芥 有谷曰源谷 湯谷上有扶木 一日方 至 一日方出 皆載於鳥

(大荒(辺境)の中に孽搖額抵(げつよういんてい)という山があり、山の上に扶木がある。 高さは 300 里、その葉はカラシナに似る。温源谷(= 湯谷 ?)という谷があり、湯谷の上に扶 木がある。1 つの太陽が来ると 1 つの太陽が出て行き、太陽はみな鳥を載せている)

?『山海経』海経巻 9 第 14 大荒東經 注)翻訳に問題があるが、状況を表わしている。

Re:阿蘇山 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 11 月 3 日(土)23 時 14 分 43 秒 返信・引 用

> No.875[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 埼玉苗字辞典の渡来人集落ですか。1 古事記のアメノトコタチ(天之常立神)とアメノミナカヌシノカミ(天之御中主神)が明確になりますな。

> 埼玉苗字辞典より 1> 那曷(なか)は奈良と同じで、新羅や任那では国・村を称した。中、長は那曷の佳字にて中村は渡来人集落を称す。 >

- > 那曷(なか):アメノトコタチ(天之常立神):常立国=常陸国
- > 奈良:アメノミナカヌシノカミ(天之御中主神):瑞穂の国=高天原 >
- > 常陸国(ひたちのくに)は、かつて日本の地方行政区分だった令制国の一つ。東海道に位置する。別称は常州(じょうしゅう)。領域は現在の茨城県の大部分に当たる。『延喜式』での格は国力で大国、距離で遠国。 >

確かに常立神の関わりは重要です。特に常陸の件が気になりますね。

7 世紀に成立した。成立時期については、『常陸国風土記』によれば大化の改新(645 年)直後に創設されたことになるが、壬申の乱(672 年)の功臣である大伴吹負が後世の常陸守に相当する「常道頭」「常陸ではない)に任じられたとする記事がある事から、「常陸」という呼称の成立を 7 世紀末期とする考えもある。なお、『常陸国風土記』(逸文)の信太郡の条に「白雉 4 年(653 年)、物部河内・物部会津らが請いて、筑波・茨城の郡の 700 戸を分ちて信太の郡を置き。この地はもと日高見の国なり。」とあり、令制国成立前は日高見国だったとされ

ている。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/常陸国>

そうすると、常道や日高見が語源ということでしょうか。日高のひたかの読みを、強引に常にのせて読ませている感じです。

日高は埼玉にある地名で、会報第 2 号で触れた高麗郡の日高=氷高内親王との関わりを疑うのですが、常の語は常世国との兼ね合いで、遠い意味でしょうか。

大宮は氷川といいますね。日川。これは出雲から鹿島にいたるかなり古いラインの上に乗る神社で、古墳初期あたりまで遡れるはず。日立、日川、日高。確かにご指摘のように高天原、常立あたりの関係を探るのは面白い見方だと思います。

Re:阿蘇山 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 3 日(土)11 時 50 分 52 秒 返信・引 用 編集済

> No.874[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

この辺りになると、手探りから雲を掴むになりますな。蘇伐刺拏瞿?羅国の蘇の由来は?

埼玉苗字辞典の渡来人集落ですか。1 古事記のアメノトコタチ(天之常立神)とアメノミナカヌシノカミ(天之御中主神)が明確になりますな。常陸に東女国:蘇伐刺拏瞿?羅国が在ったのですな。別名は那曷(なか):扶桑国(注 1)。奈良は瑞穂の国=高天原。中印度はタクラマカン、チベットを含む地域になる。月氏は匈奴に属す。匈奴はローマ帝国を崩壊させたフン族でフン族の 1 部族が韓半島の馬韓に百済を建国。蘇我は蘇伐刺拏瞿?羅国より名を取ったフン族の 1 部族で倭の五王の末裔になる。阿蘇山は扶桑と奈良の勢力(注 2)が入り、(天之御中主神):阿毎、(天之常立神):蘇から名を取り阿蘇山になる。大陸へ 窓口になっていた。

注 1) 那曷(なか):扶桑国の位置は後日。秦野書:徐福と邪馬台国の秦野距離が該当する。倭国、東西 5 ヶ月、南北 3 ヶ月の域内になる。

注 2)古代の日本の勢力地図をそろそろ整理が必要かも。

尚、フン族の組織、状況は黙示録参照。

巨大なユーラシア帝国が見えてきませんか。道はシルクロードで終着は奈良。

新羅は月氏が大唐西域記、婆羅吸摩補羅国(ブラフマプラ)に因み、新しい羅国を建国。読みは鶏林から取り新羅(しらぎ)。

埼玉苗字辞典より 1 那曷(なか)は奈良と同じで、新羅や任那では国・村を称した。中、長は那曷の佳字にて中村は渡来人集落を称す。

那曷(なか):アメノトコタチ(天之常立神):常立国=常陸国 奈良:アメノミナカヌシノカミ(天之御中主神):瑞穂の国=高天原

埼玉県(さいたまけん)は、日本の都道府県の一つで、関東地方の中央西側内陸部、東京都の北に位置する県。県庁所在地は県内唯一の政令指定都市であるさいたま市。

常陸国(ひたちのくに)は、かつて日本の地方行政区分だった令制国の一つ。東海道の位置する。別称は常州(しょうしゅう)。領域は現在の茨城県の大部分に当たる。『延喜式』での格は国力で大国、距離で遠国。

大唐西域記

巻第四 磤迦国(ツツカ) 至那僕底国(チーナブクテイ) 闍爛達羅国(ジャーランダラ) 屈露多国(クルータ) 設多囡盧国(シャタドル)

中印度 波理夜?羅国(パーリヤートラ) 秣菟羅国(マトウラー) 薩他泥湿伐羅国(スターネーシヴァラ) 率禄勤那国(スルグナ) 秣底補羅国(マテプラ)

婆羅吸摩補羅国(ブラフマプラ) - 蘇伐刺拏瞿?羅国(スヴァルナゴートラ、東女国) 瞿?霜那国(ゴヴィシャーナ) 聖醯掣?羅国(アヒチャットラ) ?羅刪拏国(ヴィラサーナ)

劫比他国(カピタカ)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%94%90%E8%A5%BF%E5%9F%9F%E8%A8%98>

>「有阿蘇山、其石無故火起接天者、俗以為異、因行禱祭。有如意寶珠、其色青、大如雞卵、夜則有光、云魚眼精也。新羅、百濟皆以倭為大國、多珍物、並敬仰之、恒通使往來。」 >> 阿蘇山があり、その石は故無く火柱を昇らせ天に接し、俗人はこれを異なことだとし、因って祭祀を執り行う。如意宝珠があり、その色は青く、雞卵のような大きさで、夜には光り、魚の眼の精霊だという。新羅や百濟は皆、倭を大國で、珍物が多いとして、これを敬仰して常に通使が往來している。

多いとして、これを敬仰して常に通使が往來している。 Re:阿蘇山 投稿者:管理人 投稿日:2012年11月2日(金)22時39分8秒 返信・引用 編集済

> No.873[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 阿蘇山 >
- > 阿蘇山は阿毎の阿と扶桑(扶蘇)の蘇(そ)で阿毎の蘇の山(阿蘇山)と思われる。
- > 扶桑國の桑(そ)は蘇我の蘇(そ)は同一と思われる。 >

蘇の件ですが、崇神天皇 65 年の「任那國遣蘇那曷叱知、令 朝貢也」とみえます。

蘇那曷叱知を分解すると、

蘇(す・そ)
那(な・だ)

曷(がち・かつ)
叱(しち・しつ)
知(ち)

呉音では

「すながちしちち」

漢音では

「そだかつしつち」

となります。後者と秦氏の勝(かつ)姓との関わりが気になります。勝はもしかするとガチ と読ませていた可能性もありますね。月です。

音的にみると、下記の事例が参考になります、

玄奘三蔵の『大唐西域記』によれば、この東ベンガルの地には奔那伐弾那国(ブンナヴァツ ダナ)、迦摩縷波国(カーマルーパ)三摩??国(サマタタ)、羯羅拏蘇伐剌 那国(カルナス ヴァルナ)などの国々があったとされる。
stupa.web.fc2.com/bangladesh/gaiyou/gaiyou.html

青面さんご指摘のように「ス」音がでてきますね。呉音で記しているのが特徴で、秦韓の祖・蘇伐都利なども、スヴァル…とかいう異国人風の読みだったかもしれません。

なお、その蘇那曷叱知については下記の説明をご参照ください。

中 ナカ 新羅第一代王の朴赫居世(パク・ヒョクコセ)は前漢の孝宣帝五鳳元年甲子 (紀元前五七年)に即位した。朴赫居世を養育した蘇伐都利 ―蘇那曷叱智―蘇弥居―金闕 智の子孫金氏が朴姓の王位を継ぐ。また、日本書紀・崇神天皇六十五年条に「任那国は、蘇那 曷叱知を遣して朝貢らしむ。任那は鷄林(しらぎ)の西南に在り」。垂仁天皇二年条に「任那 人蘇那曷叱智・請ひて、国に帰らんと欲ふと。蓋し先皇の世に來朝して未だ還らざる歟。故に 敦く蘇那曷叱智を賞め、仍りて赤絹一百疋を賚して任那王に賜ふ。然るに新羅人・之を道に 遮りて奪ふ焉。其れ二国の怨み始めて是の時に起る也」と見ゆ。当時の朝鮮語では、蘇は金、那

は国、曷は邑、叱智は地域の首長の意味で、金国君長とか、金(くろがね)の産出する国の邑 長と解される。那曷(なか)は奈良と同じで、新羅や任那では国・村を称した。中、長は那曷 の佳字にて中村は渡来人集落を称す。二字の制度により中井、長井、中江、長江、中尾、長尾、中 野、長野等を称す。武蔵国那賀郡は北武蔵にあり、中央の中郡では無い。中央は多摩郡府中付 近なり。また、延喜式神名帳に入間郡中氷川神社を載せ、三ヶ島村(所沢市)長宮明神社条に

「相伝ふ、当社は神明帳に載たる中氷川神社なりとぞ。中氷川の神号を用ひずして長宮とは号 するや別にゆへあるか、又中宮と云べきを誤り伝へてかく唱ふや」と。また、山口郷氷川村 (所沢市)の中氷川神社も神名帳の中氷川神社なりと云う。この社名は足立郡大宮氷川神 社と奥多摩氷川神社との中央にあるたるに中氷川神社と呼んだと伝えるが附会にて渡来人 集落なり。また、足立郡中川村(大宮市)の中氷川神社も、大宮氷川神社と三室村氷川神社 の中央にあるため中氷川神社と称すと伝えるが附会なり。入間郡福岡村長宮氷川社、埼玉郡 上清久村長宮明神社も中宮の転訛なり。中、仲氏は武蔵国入間郡に多く存す。○群馬県多野郡 鬼石町八戸。○島根県浜田市十四戸あり。仲、中村条参照。 <http://homepage1.nifty.com/joichi/3-5na.html>

こうみると、蘇と金とが同意とのことに注目です。蘇姓から金姓がでて、秦韓から新羅へと移 行するのですが、魏志の秦韓条の臣智などの官職とも関係してきそうですね。やはりこのあたりが蘇我姓の由来と関係してきそうですね。

またそうすると「中」については、中臣も上記の鹿島周辺にいた仲臣・那可臣との関係が指摘 されていますが、元をたどると、秦・弁韓との関わりを疑うべきかもしれません。

秦野さん引用の阿蘇山ですが、蘇に金の意味があったとすると、その金色に光るとかいう意 味と関係するのかなとも感じますが、どうでしょう。ただ半島南部と九州北部との間に、言 語的な共通性がないとなりたないかもしれません。幸い魏志倭人伝には蘇を国名につけ る国・おそらく地域があります。秦韓では自身のことを「阿」と記しました。

「有阿蘇山、其石無故火起接天者、俗以為異、因行禱祭。有如意寶珠、其色青、大如雞卵、夜則有 光、云魚眼精也。新羅、百濟皆以倭為大國、多珍物、並敬仰之、恒通使往來。」

阿蘇山があり、その石は故無く火柱を昇らせ天に接し、俗人はこれを異なことだとし、因って祭祀を執り行う。如意宝珠があり、その色は青く、雞卵のような大きさで、夜には光り、魚の眼の精霊だという。新羅や百済は皆、倭を大國で、珍物が多いとして、これを敬仰して常

に通使が往来している。

阿蘇山 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年11月2日(金)06時40分15秒 返信・引用 編集済

阿蘇山

阿蘇山は阿毎の阿と扶桑(扶蘇)の蘇(そ)で阿毎の蘇の山(阿蘇山)と思われる。扶桑國の桑(そ)は蘇我の蘇(そ)は同一と思われる。

『北史』倭国伝

南北朝時代(439年 - 589年)の北朝にあたる王朝、北魏・西魏・東魏・北齊・北周・隋の歴史を記している。

有阿蘇山、其石無故火起接天者、俗以為異、因行禱祭。有如意寶珠、其色青、大如雞卵、夜則有光、云魚眼精也。新羅、百濟皆以倭為大國、多珍物、並敬仰之、恒通使往来。

阿蘇山があり、その石は故無く火柱を昇らせ天に接し、俗人はこれを異なことだとし、因って祭祀を執り行う。如意宝珠があり、その色は青く、雞卵のような大きさで、夜には光り、魚の眼の精霊だという。新羅や百済は皆、倭を大國で、珍物が多いとして、これを敬仰して常に通使が往来している。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun5-hokusi.htm>

去女王四千餘里又有裸國黑齒國復在其東南船行一年可(女王・卑弥呼国から4000余里に裸国と黒齒国がある。東南に船で一年で着く)?『三国志』魏書東夷伝 倭人条(魏志倭人伝)

扶桑國、在昔聞也。普通中、有道人稱自彼而至、其言元本尤悉、故扞録焉。(中略)

扶桑國者、齊永元元年、其國有沙門慧深來至荊州、説云「扶桑在大漢國東二萬餘里、地在中国之東、其土多扶桑木、故以為名。扶桑葉似桐、而初生如笋、國人食之、實如梨」扶桑国の話は以前はなかったが、普通年間(520年?527年)、扶桑国から来たと 言う者の話を記す。

永元元年(499年)、扶桑国の僧慧深が荊州に来て言った <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

宗賀大王家ならば 投稿者:青面金剛 投稿日:2012年11月1日(木)23時50分27秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

蘇我馬子が大王ならば、すっきり解決するのでは無いでしょうか。

>当時の妹子は大礼で責任者の大徳が居る。遣隋使は航路なので陸路の百済には寄らない良くて寄航。どうも蘇我馬子が大徳と思われる。蘇我馬子の手紙を棄て小野妹子と芝居をした模様。

当時は無線も電話も通じていない時代です。手紙は、直接、当事者に手渡さなければ、分らない筈です。宗賀大王への返書に「蘇我馬子」という卑字を当てていただけで、大王に見せられる代物ではなく、棄てざるを得なかったもの、と思われ ます。

蘇因高という記載記録から、蘇我馬子という卑字と、宗賀大王家であることを隠すために、推古(すいこ)天皇という架空の大王を創出したのでは無いでしょうか。

>豊聡耳(とよとみみ、とよさとみみ) 私の父は、父が話している相手の他に、周囲で3ヶ所までの立ち話を聞き分ける

事が出来ます。 私は其れとは別に、地獄耳の類です。人の噂話が逸早く耳に入ってしまう。

Re:『隋書』の訓令 小野妹子 投稿者:管理人 投稿日:2012年 11月 1日 (木)23時04分0秒
返信・引用

> No.870[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 当時の妹子は大礼で責任者の大徳が居る。遣隋使は航路なので陸路の百済には 寄らない良くて
も寄航。どうも蘇我馬子が大徳と思われる。蘇我馬子の手紙を棄て小野妹子と芝居をした模様。
代償は小野妹子の大徳へ出世の模様。理解できる >

なるほど大礼と大徳がセットで渡航していたとすると面白いですね。

あと、蘇我氏の蘇の件ですが、先におはなしした欽明の息子・宗賀之倉皇子を考えると、皇子名には後代の記紀撰者が卑字を加えることができなかったこと もあるでしょう。蘇我氏の名前自体には卑字を適用できたとしてもですね。

蘇我の倉というのは、蘇我氏と屯倉の深いつながりを示していると思います。

この手の氏族名が皇子名につく場合は、後代は養育氏族のケースが多いのですが ただ氏族名の倉が出てきているのがちょっと不可解ですね。

> 聴政 > 奈良時代・平安時代にあっても、早朝の聴政は続いており、「養老令」の宮衛令 (くえいりょう)には、朝夕の鼓に合わせて宮城の門が開閉されることが定められており、午前 6時半には朝堂の門を開くものとされている。この規定は「大宝

令」の宮衛令以来のものと考えられる。さらに、「延喜式」では、季節による日の 出・日の入りの時刻の変化に応じた門の開閉の時刻を、より詳細に定めている。 >

朝6時はまだよいほうで、下記の朝4時からの記載があります。「朝庭」「朝堂」「朝廷」の用語ともかわってきます。

『日本書紀』大化 3年(647年)条には、孝徳天皇が難波の小郡宮で「礼法」を定めたことが記されている。冠位を有する官人は、毎朝寅の刻(午前 4時ころ)までに朝庭南門の外にならび、日の出とともに朝庭にはいって天皇に再拝し、その あと正午まで朝堂で政務を執ることとしたもので、遅刻した者は入ることができず、また、正午の鐘を聞いたら退庁すべきことが定められている[5]。このとき、

『魏志』倭人伝にも記された古くからの伝統である、両手を地面につけ、ひざまずいておこなう礼法(跪礼(きれい)・匍匐礼(ほふくれい))から、中国ふうの 起ったままお辞儀する礼法(立礼(りつれい))に改められ、後世「難波朝庭の 立礼(なにわのみかどのたついや)」と称された[6]。跪礼・匍匐礼は、『日本書紀』天武紀にもしばしば禁止の詔が出された記事があることから、旧来の慣習は なかなか改まらなかったものとみられる[5]。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/朝庭>

通うだけで1時間との話もありますから、2時には起きて朝したくをしたこと でしょう。4時から会議を開くには灯火の中で仕事をする必要があったでしょう。そして、7時か8時には仕事を終えたのかもしれない。

それゆえ「倭王は天を以て兄となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、結跏趺坐(けっかふざ=座禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を停め、我が弟に委ねるという。」

と話したとの見方が自然です。

早朝、文武百官が朝堂に参列したうえで天皇が政務をみることを朝政(あさまつ りごと)という[1]。転じて、朝廷の政務一般を指す場合もあるが、その場合は「ち ょうせい」と音読するのが一般的である。朝政(あさまつりごと)について、『日本書紀』は、推古朝の「十七条の憲法」8 条に、「群卿百寮 早朝晏退 公事靡監 終日

難盡」[2]の記事を伝えている。また、『隋書』倭国伝にも 600 年(推古 8 年)に隋 に派遣された遣隋使が高祖文帝に倭の風俗について質問された際、「以天爲兄 以 日爲弟 天未明時出聽政 跏趺坐 日出便停理務 云委我弟」[3]と応答したことが記録されており、早朝未明における天皇の聴政(政治を執ること)の事実が示されている。もとより朝早くから政務をはじめることは中国でも古くからおこなわれており、「朝堂」や「朝廷」にみえる「朝」の字は元来、臣下が早朝天子(始皇帝以前 は王、始皇帝以後は皇帝)にまみえるの意であって、これを朝参と称した。ただし、日本の場合は中国の古い習慣によるものではなく、もともと太陽神(日の神)を崇拝する風習があり、まだ夜の明けないうちに政治をおこなう形態がのこったものと思われる[4]。

600 年ごろから 647 年にいたるまでずっと朝 4 時から仕事をしていた計算 ですね。朝 3 時に起きる修道士の世界を想起させますが、結跏趺坐という宗教用語が出てくるのには、その辺の関わりもあるのかもしれない。

あと、これらの制度の改革は大化改新と関わってくるので、注目したいところで す。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/大化改新>

この改新後の当時においても、左大臣の阿部氏と右大臣の蘇我氏が続いているの ですが、これは先に話したとおり、4 世紀代からの阿部・大彦系統(継体・新漢 氏・吉士)と、蘇我・吉備津彦系統(欽明・秦氏、東漢氏)との二大勢力の構図 を、簡単に排除できなかったことを意味しているように感じますね。

そのために、滋賀と河内・飛鳥という両勢力のをこの時代以降も行き来するの でしょう。中臣は内臣として仲介役みたいな立場にはいますが、これも意味 あってのことかもしれません。

『隋書』の訓令 小野妹子 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 11 月 1 日(木)19 時 26 分 45 秒 返信・引用 編集済

『隋書』の訓令 小野妹子

『隋書』倭国伝に開皇二十年(600 年)、倭王、姓は阿每、字は多利思比孤・ 高祖が曰く「これはとても道理ではない」。ここに於いて訓令でこれを改めさせる。

訓令の聴政は奈良時代・平安時代 1192 年頃まで続いている。完全に無視は考え られない。 倭国伝の訓令は倭國は来ていない。遣隋使の事件ですな「小野妹子は隋からもらった手紙(国書の返事)を無くした」。

当時の妹子は大礼で責任者の大徳が居る。遣隋使は航路なので陸路の百済には 寄らない良くても寄航。どうも蘇我馬子が大徳と思われる。蘇我馬子が手紙を棄 て小野妹子と芝居をした模様。代償は小野妹子の大徳へ出世の模様。理解できる

小野妹子は蘇因高と呼ばれた。意味は「蘇我が高(位)を因む」。 因む:かたい約束をする。かたい契りを結ぶ。

倭王は天を以て兄となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、 結跏趺坐(けっかふざ=座禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を停 め、我が弟に委ねるという。

聴政 奈良時代・平安時代にあっても、早朝の聴政は続いており、「養老令」の宮衛令（くえいりょう）には、朝夕の鼓に合わせて宮城の門が開閉されることが定められており、午前 6 時半には朝堂の門を開くものとされている。この規定は「大宝 令」の宮衛令以来のものと考えられる。さらに、「延喜式」では、季節による日の 出・日の入りの時刻の変化に応じた門の開閉の時刻を、より詳細に定めている。

開皇二十年(600 年)、倭王、姓は阿每、字は多利思比孤、号は阿輩雞彌、遣使を 王宮に詣でさせる。上(天子)は所司に、その風俗を尋ねさせた。使者が言う には、倭王は天を以て兄となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて 聴政し、結跏趺坐(けっかふざ=座禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち 政務を止め、我が弟に委ねるという。高祖が曰く「これはとても道理ではない」。ここに於いて訓令でこれを改めさせる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9- zuisho.htm>

Re: 雞彌は穴穗部間人皇女 (木)14 時 49 分 42 秒 返信・引用 編集済

> No.868[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

投稿者:秦野北斗

投稿日:2012 年 11 月 1 日

儒教の五常(仁、義、礼、智、信)と冠位十二階(徳・仁・礼・信・義・智)は似 ているが別物でないか。儒学の知識は『唐会要』倭国・日本国伝 に真人は好く 経史を読み、文章を解し…で理解していたと思われる。冠位十二階の徳が何 を意味するかですな。徳は聴政でないか、聖徳太子(小徳太子)の豊聡耳、10 人が 太子に順番に相談し…。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%81%96%E5%BE%B3%E5%A4%AA%E5%AD%90>

倭王は天を以て兄となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、 結跏趺坐(けっかふざ=座禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を停 め、我が弟に委ねるという。

聴政 奈良時代・平安時代にあっても、早朝の聴政は続いており、「養老令」の宮衛令（くえいりょう）には、朝夕の鼓に合わせて宮城の門が開閉されることが定められており、午前 6 時半には朝堂の門を開くものとされている。この規定は「大宝 令」の宮衛令以来のものと考えられる。さらに、「延喜式」では、季節による日の 出・日の入りの時刻の変化に応じた門の開閉の時刻を、より詳細に定めている。

豊聡耳

ある時、厩戸皇子(聖徳太子)が人々の請願を聞く機会があった。我先にと口を開 いた請願者の数は 10 人にも上ったが、皇子は全ての人が発した言葉を漏らさず 理解し、的確な答えを返したという。この故事に因み、これ以降皇子は豊聡耳（とよとみみ、とよさとみみ）とも呼ばれるようになった。しかし実際には、10 人が太子に順番に相談し、そして 10 人全ての話を聞いた後それぞれに的確な助 言を残した、つまり記憶力が優れていた、という説が有力である。

遣隋使から冠位十二階の徳、礼を推測すると。

大徳、大礼は遣隋使、倭国、伽耶、等の海外官。

小徳、小礼は倭國官 大徳:小野妹子、蘇我馬子 大礼:小野妹子(大礼→大徳に出世している。)

小徳:聖徳太子(608 年に隋、他に倭国、伽耶に渡航した模様)

儒教では、五常(仁、義、礼、智、信)の徳性を拡充することにより、父子、君臣、夫 婦、長幼、朋友の五

倫の道をまっとうすることを説いている。

『唐会要』倭国・日本国伝

長安三年。遣其大臣朝臣真人來朝。貢方物。朝臣真人者。猶中國戸部尚書。冠進德冠。其頂為花。分而四散。身服紫袍。以帛為腰帶。好讀經史。解屬文。容止閑雅可人。宴之麟德殿。授司膳卿而還。

長安三年(703年)。その大臣の朝臣真人を遣わして来朝、方物を貢献した。朝臣真人は中国の戸部尚書のようなものである。冠は進徳冠、その頂を花のようにする。分而四散。身服紫袍。以帛為腰帶。好讀經史。解屬文。容止閑雅可人。宴之麟徳殿。授司膳卿而還。

長安三年(703年)、その大臣の朝臣真人が方物を貢献に来た。朝臣真人は中国の戸部尚書のように、冠は進徳冠、その頂は花となし、分けて四方に散らす。紫の袍を身に着け、白絹を以て腰帶とする。真人は好く経史を読み、文章を解し、容姿は穏やかで優美だった。(則天武后は)これを麟徳殿に於ける宴で司膳卿を授けて帰国させた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

-Re: 雞彌は穴穂部間人皇女 投稿者:管理人 (水)23時 27分 13秒返信・引用 編集済

投稿日:2012年 10月 31日 > No.867[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 其王姓阿每、國号為阿輩雞、華言天兒也、父子相傳、王有宮女六七百人、王長子号 (和)哥弥多弗利、華言太子。》>> 因禮義而標秩、即智信以命官

> 《括地志曰>>「倭國其官有十二等、一曰麻卑兜吉寐、華言大徳、二曰小徳、三曰大仁、四曰小仁、五曰六義、六曰小義、七曰大禮、八曰小禮、九曰大智、十曰小智、十一曰大信、十二曰小信。』>

この官位の並びについての論議が、下記サイトにありますが、興味深く感じます。

http://home.p07.itscom.net/strmdrf/kyusyu_text4.htm

日本の12階は、大小を連続させてシンプルなもので、高句麗や新羅のような古い官制を取り込んだような複雑な構造をしていないのが特徴です。出来立てという感じですね。この辺の複雑化の様相は、別にカバネ制度のほうで日本ではでてきます。

それで「仁・義・礼・智・信」の順序が、中国ではこの並びで常識なのですが、日本では「仁・礼・信・義・智」となっていることが指摘されています。

確かにこうみると儒学の知識がなかったようにも見えますが、日本的に価値観を入れ替わらせたとの見方も出てくるでしょう。

日本的な表現という部分では、「使者が言うには、倭王は天を以て兄となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、結跏趺坐(けっかふざ=座禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を停め、我が弟に委ねるという。」

に対して、

「高祖曰:「此太無義理。』於是訓令改之。」とのべているのですが、

高祖が曰く「これはとても道理ではない」。ここに於いて訓令でこれを改めさせる。」との意味で、そう考えると、中国での常識に乗っ取って、官位を修復したのみならず、倭の使者にも改めるように諭伝えた可能性もでてきますね。

日中働かず、朝方に働くというのが、また奇遇に聞こえたのでしょうか。ただ、確か 白鳳時代の官人は朝くらいに出で昼までには仕事を終えているような記載 があります。伝統なのでしょう。

天が兄で、日が弟との観念がまた興味深いところです。 皇族には、天と日がそれぞれつく名前がありますね。

吉備津彦、異母弟の雅武彦命(若日子建吉備津日子命)

4 世紀代－5 世紀代の天皇には、よく見ていくと、 大、小、若がつく傾向があります。雄略と武烈、大・小

そのうちに継体の次あたりから、大兄などの高句麗系の官職を思わせる名前がでてきますね。

そして欽明にいたって天がつき始めます。 欽明のときに天の概念が皇族名入ってきたのではないのでしょうか。 欽明－阿米久爾意斯波留支比里爾波乃弥己等：天寿国繡帳 「阿每」と同じ発音ですね。天寿国繡帳は先のとおり、中国・高句麗的な技術者からの発音理解なので、中国

人の耳に近いはずです。 欽明の息子は 宣化天皇皇女を娶った妃(おそらく前王朝との仲介役では)

箭田珠勝大兄皇子(やたのたまかつのおおえのみこ、八田王) 淳中倉太珠敷尊(ぬなくらのふとたましきのみこと、敏達天皇・押坂彦人大兄 皇子父)

蘇我系の妃

大兄皇子(おおえのみこ、用明天皇)

一番先の八田王は、勝などの語から考えて、欽明と親しかった秦氏に養育された 可能性を感じます。倉などこの時期の皇族名に多く見えるのは、屯倉関連でしょうか。屯倉を皇室領 地として継承していた皇子なのでしょう。秦氏系なら深草屯倉などですね。ただ この皇子は早死にしています。

よく音をひろうと、はたのたまかつ・おうじで、秦河勝と同類の名称に見えます。 河勝は、聖徳太子に仕え、500 年代後半の出生ですから、その父国勝(丹照)、 この皇子との関係で気になるところです。丹照はタンショウと読み、つまり丹+ 勝のことでは。たむかつ。

太の語は高句麗官制で一番長につける傾向がありますね。

その他 倉皇子(くらのみこ。『古事記』に宗賀之倉王として、母は糠子郎女)

がいます。案外この宗賀の語は、蘇我氏を理解する上で重要かもしれません。

Re: 雞彌は穴穂部間人皇女 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 31 日 (水)07 時 47 分 19 秒
返信・引用 編集済

> No.866[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 >「阿輩雞彌」は中国語で「天児」のことだと書かれている。

これは日本側の中国文の誤訳で「阿輩雞彌」が大王になっている。 翰苑*1 では國号為阿輩雞、国号が阿輩雞なる。と言っている。思い付きですな、文 頭に【今案】がある。 ただ、王長子号(和)哥弥多弗利:和の聖徳太子は正解ですな。 *1 翰苑(かんえん)は 660 年以前に対句練習用の幼学書として書かれたとされている。

こん-あん【今案】いま新しく思いついた考え。「一の我見の安立を捨てて、一向仏 制に順すべきなり」
〈正法眼蔵随聞記・三〉

> 今案、其王姓阿每、國号為阿輩雞、華言天兒也。(翰苑 蕃夷部 倭國) >「阿輩雞」の後ろに「彌」が抜けているが、「阿輩雞彌」は中国語で「天兒」のことだ と書かれている。

阿輩雞彌、自表天兒之稱
今案

其王姓阿每、國号為阿輩雞、華言天兒也、父子相傳、王有宮女六七百人、王長子号 (和)哥弥多弗利、華言太子。》

因禮義而標秩、即智信以命官 《括地志曰

「倭國其官有十二等、一曰麻卑兜吉寐、華言大德、二曰小德、三曰大仁、四曰小仁、 五曰六義、六曰小義、七曰大礼、八曰小礼、九曰大智、十曰小智、十一曰大信、十二 曰小信。」》

http://home.p07.itscom.net/strmdrf/kyusyu_text4.htm

http://home.p07.itscom.net/strmdrf/kyusyu_ref11.htm

原文

開皇二十年、倭王姓阿每、字多利思比孤、號阿輩雞彌、遣使詣闕。上令所司訪其風 俗。使者言倭王以天為兄、以日為弟、天未明時出聽政、跣趺坐、日出便停理務、云委 我弟。高祖曰:「此太無義理。」於是訓令改之。

ウィキペディアの文章、まあ、出鱈目ですな。地位のある学者が書く文章か、疑う。 阿每多利思比孤は天を兄とし、日を弟とし、は現在も残る、寄り合い「夜合(よりあ い)」でないか。

第 1 回遣隋使は、600 年(推古 8)に派遣された。『隋書』にみえるが、『日本書紀』に

は記載はない。因みに、『隋書』の著者は、魏徵(?- 貞観 17 年(643))である。 「開皇 20 年、倭王あり、姓は阿每(アメ)、字(あざな)は多利思比孤(タラシヒ コ)、阿輩雞彌と号す。使いを遣わして闕(けつ)に詣(いた)る。(中略)王の 妻は雞彌と号す。(中略)太子を名づけて利歌弥多弗利と為す(『隋書』卷八十一 列傳第四十六 東夷 倭國)」文帝の開皇 20 年(600 年)は、推古 8 年である。阿每多利思比孤は天を兄とし、日 を弟とし、その名は天より垂下した尊貴な男子という意味で、天孫降臨を思わせる。「阿輩雞彌」はオオキミの音を写したものと見られている。そうすると 6 世紀 末の時点で倭王は国内で「大王(オオキミ)」と称されていたことが分かる。

聖徳太子:多弗利(てふり、てぶり) 日本書記に同音の人物いませんか。

----- Re:雞彌は穴穂部間人皇女投稿者:管理人
投稿日:2012 年 10 月 30 日(火)23 時 07 分 12 秒 返信・引用

> No.865[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 雞彌は用明天皇の妻。 >>

> 阿輩雞彌:天の雞彌一行(600 年)開皇二十年(600 年)、倭王、姓は阿每、字は多利思比 孤、号は阿輩雞彌、王の妻は雞彌。 > 阿輩雞彌:天の雞彌一行(607 年) > 阿輩 臺:天の臺一行(608 年)臺は大和(邪馬台)の台。

>

通説では、阿輩雞彌で大王と読ませるとのことですが、確かに妻が雞彌となると、この説はおかしいですね。

今案、其王姓阿每、國号為阿輩雞、華言天兒也。(翰苑 蕃夷部 倭國)「阿輩雞」の後ろに「彌」が抜けているが、「阿輩雞彌」は中国語で「天兒」のことだと書かれてい

る。 http://home.p07.itscom.net/strmdrf/kyusyu_text4.k

阿輩雞彌を天兒 とすると 阿輩はアマの発音となり、雞彌はコ となるでしょう。

中臣氏らの系譜で祖として天兒屋根がいますが、文字的には天兒屋根命と各事例が多いこと があります。

つまり兒(げい)の発音が正解なのではないでしょうか。 そうすると雞彌は「ケイ・ゲイ」の発音で、矛盾がなくなります。 ただ妃を「ケイ・ゲイ」で発音する事例はあるでしょうか。

この時代先述のように、弟の名が、女性の皇女につく場合はありますね。

逆に男性名に妹がつくこともある。

実際、倭使自身が「天を兄とし、日を弟とす」と話しています。 高句麗の官制で最上位が、太兄ではなかったでしょう。 天(アメ)は姓で、兄・兒+屋が、王号との見方も考えるべきかもしれません。

先の穴穂部皇女ですが、別名が

穴太部間人王、孔部間人公王、間人穴太部王

です。

ここでは「皇女」とは呼ばずに、「王」もしくは「公」ですね。「公」は「キミ」とも読ませます。これは先に指摘したとおり「公主」のことで、中国では皇帝の娘は「公主」と呼びます。それが繡帳 にそのまま編み込まれたのですが、もともとは中国系もしくは高句麗にわたった中国系職人 が、「公主」として、皇女のことを呼んだことに由来するだろうと考えてます。

あと、先の天兒屋の齊名が、若彦というそうです。幼名は春日彦。

天兒屋命。天兒屋根命。カスガ。カスガ守(春日神)。斎名:ワカヒコ。幼名:カスガマロ 。春日殿(サチチ)とアサカ姫(カトリの妹)の子。 <http://gejirin.com/src/A/amanokoyane.html>

もうすこしこの資料の出所を調べたいのですが、皇太子の名が、先の隋書にワカタリシヒコ と記載されていた件を考えると関係があるかどうか調べたいところです。

天若彦は、天孫降臨の際に、戻らなかったのが矢で射られて死んでますが、これが神功や大彦 関連の伝承にてくる反乱伝承で、熊襲の矢で死んだはにやすひことか、仲哀と関係するでしょう。

若は雅とも書いて、ある王統の姓に近いものだと感じてます。大彦の大と同じです。もっとその辺時間をかければ整理できるかもしれません。

Ads by Google ----- 雞彌は穴穂部間人皇女投

稿者:秦野北斗 投稿日:2012年10月30日(火)20時44分22秒 返信・引用 編集済

雞彌は用明天皇の妻。

穴穂部間人皇女と間人皇女は別物で間人皇女は『隋書』倭国伝から見ると聖徳太子より若い 年下になる?。間人皇女は穴穂部間人皇女の名前を貰った模様。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm> 間人皇女(はしひとのひめみこ、生年不詳 - 天智天皇 4年 2月 25日(665年)

穴穂部間人皇女(あなほべのはしひとのひめみこ、推古天皇 29年(622年)

間人皇女(はしひとのひめみこ、生年不詳 - 天智天皇 4年 2月 25日(665年 3月 16日))は飛鳥時代の皇族。間人大后とも。孝徳天皇の皇后。父は舒明天皇、母は皇極天皇(斉明天 皇)。天智天皇の同母妹、天武天皇の同母姉に当たる。

用明天皇(ようめいてんのう、不明 - 用明天皇 2年(587年) 崇峻天皇(すしゅんてんのう、生年不明 - 崇峻天皇 5年(ユリウス暦 592年) 推古天皇(すいこてんのう、欽明天皇 15年(554年) - 推古天皇 36年(628年) 舒明天皇(じょめいてんのう、推古天皇元年(593年)? - 舒明天皇 13年(641年) 皇極天皇(こうぎょくてんのう、

推古天皇 2年(594年) - 斉明天皇 7年(661年) 孝徳天皇(こうとくてんのう、推古天皇 4年(596年) - 白雉5年(654年) 斉明天皇(さいめいてんのう、齊明天皇。在位:斉明天皇元年(655年) 天智天皇(てんちてんのう、推古 34年(626年)- 天智天皇 10年(672年)

阿輩雞彌:天の雞彌一行(600年)開皇二十年(600年)、倭王、姓は阿毎、字は多利思比孤、号は阿輩雞彌、王の妻は雞彌。 阿輩雞彌:天の雞彌一行(607年) 阿輩 臺:天の臺一行(608年)臺は大和(邪馬台)の台。

阿輩雞彌:阿は天(あめ)、輩はやから。天の雞彌一行

用明天皇(ようめいてんのう、不明 - 用明天皇 2年 4月 9日(587年) 穴穂部間人皇女(あなほべのはしひとのひめみこ、推古天皇 29年(622年) 聖徳太子の生母として知られる。 聖徳太子が死去した。推古天皇 30年(622年)

馬子は死去した。推古天皇 34年(626年) 天智天皇(てんちてんのう、推古 34年(626年)- 天智天皇 10年(672年)

Ads by Google ----- Re:「蘇因高」とは小妹子を子音で言い換えたもの。投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年10月 29日(月)21時58分21秒 返信引用編集済

> No.863[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 蘇我と蘇我の蘇は女国の蘇みたいですな。 遣隋使を解読しても韓半島との関係は明らかになるが、目的の蘇我と月氏は出てこない。 超難問ですな。新羅の建国に月氏(弓月君)が係わった。蘇我氏との関係は?。 蘇我氏と月氏(弓月君)は扶桑国を紐解かなければ理解できないようですな。

東造扶桑游紫庭 西至?嶺戲曾城 (東、扶桑に造りて紫庭に遊び、西、崑崙に至りて曾城に戯る)?『宋書』卷22 志第 12 樂志四載及 白紵舞 歌詩三篇之二

女国(じょこく) 女国は、葱嶺の南にあった。その国は代々女を王とし、姓を蘇?、字を末羯といい 東女国は、蘇伐刺拏瞿咀羅

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%B3%E5%9B%BD>

蘇が女国の蘇とすれば、月氏と蘇我氏は別物になる。 新羅の建国、月氏(弓月君)と曾我氏の記録には 200年程度のズレがある。

----- Re:「蘇因高」とは小妹子を子音で言い換えたもの。投稿者:管理人 投稿日:2012年 10月 28日(日)22時40分14秒 返信引用編集済

> No.862[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。 数点下記ご紹介記載で気になる点があります。

> 遣隋使は大徳と大禮がセットになっている模様。 >> 600年 号は阿輩雞彌、王の妻は雞彌から海路になる。
>

雞は「ケイ」の発音で、鶏の意味ですね。 本来は「君・キミ」と記されるべきところが、「ケイミ」と中国人には聞こえたのでしょう。

キ→ケの変化は他に見えるでしょうか。

> 返書の紛失は蘇我馬子の命令か、小野妹子の独断かが問題になる。「蘇因高」から蘇我の高 に因む > から蘇我馬子が訓令を捨てたのでしょうか。小野妹子の百済において紛失は嘘。

確かにこの辺は重要です。

> 開皇二十年、倭王姓阿毎、字多利思比孤、號阿輩雞彌、遣使詣闕。上令所司訪其風俗。使者 言倭王以天為兄、以日為弟、天未明時出聽政、跏趺坐、日出便停理務、云委我弟。高祖曰:「此 太無義理。」於是訓令改之。 >

> 開皇二十年(600年)、倭王、姓は阿毎、字は多利思比孤、号は阿輩雞彌、遣使を王宮に詣でさせる。上(天子)は所司に、そこの風俗を尋ねさせた。使者が言うには、倭王は天を以て 兄となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、結跏趺坐(けっかふざ= 座禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を止め、我が弟に委ねるといふ。高祖が曰く「これはとても道理ではない」。ここに於いて訓令でこれを改めさせる。

>

兄・弟の観念は、高句麗系の官制の影響を考慮すべきでしょうか。「倭王は天を以て兄となし、

日を以て弟となす」「結跏趺坐(けっかふざ=座禅に於ける坐相)し」の用語は、そうすると仏教用語となるでし

ょうか。このときの通訳は遣唐使の僧侶がおこなった可能性を感じますね。高句麗僧か百済 僧だと思うのですが、その僧侶の発音も、先の発音の問題に関係しないでしょうか。

たとえば半島系僧侶だとして、その母国の発音の癖で、オオキミを、アワキミと訛って発音し て伝えたという線ですね。

遣隋使

>> 倭王遣小徳阿輩臺、從數百人、設儀仗、鳴鼓角來迎。後十日、又遣大禮哥多?、從二百餘騎郊勞。 >> 倭王は小徳の阿輩臺を遣わし、從者數百人、儀仗を設け、鼓角を鳴らして來迎した。十日後 にまた、大禮の哥多?を遣わし、二百餘騎を從えて郊外で慰勞した。 >

大禮哥多毘は、額田部連比羅夫とされますが、まずヌ音がぬけてますね。そして部と連といっ たカバネも省いて、毘に名を短縮したのでしょうか。あるいは毘を部とみなせるかですが、氣 になります。

額田というのが、ガク・デンですが、ガタとも読めそうです。ヌカタというのは

>『日本書紀』(巻第 22)によれば、「十五年...秋七月 戊申朔庚戌 大禮小野臣妹子遣於大唐 以鞍作福利為通事」とあり、推古天皇 15年(607年)、鞍作福利らと大唐(当時の中国は隋 の時代)に渡る。推古天皇 16年(608年)に裴世清を伴って帰国。翌年には返書と裴世清の 帰国のため、高向玄理、南淵請安、旻らと再び派遣された。

>

南淵請安と旻に注目ですね。兩人僧侶です。

後者は日文氏の略で、神代文字に見える日文と関係あるでしょうか。

中国系の渡来氏族で[1]、魏の陳思王・曹植の後裔とする系図がある[2]。 608年(推古天皇 16年)、遣隋使小野妹子に従い高向玄理・南淵請安らとともに隋へ渡り

24年間にわたり同地で仏教のほか易学を学び、632年(舒明天皇 4年)8月に帰国。

その後、蘇我入鹿・藤原鎌足らに「周易」を講じた。637年(舒明天皇 9年)に流星が現れた 時には天狗の吠え声と主張し、639年(舒明天皇 11年)に彗星が現れた時には飢饉を予告 するなど、祥瑞思想に詳しかった。

大化の改新ののち、645年(大化元年)に高向玄理とともに国博士に任じられ、649年(大化 5年)高向玄理と八省百官の制を立案している。翌 650年(大化 6年)に白戸国司から白い 雉が献上されると、その祥瑞を説明して白雉と改元された。653年(白雉 4年)5月、病を得 て孝徳天皇の見舞いを受けたが、翌月没した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%BB>

南淵請安は、新漢人ですが、日文とともに、中臣鎌足にかかわっています。

中大兄皇子と中臣鎌子は請安の塾に通う道すがら蘇我氏打倒の計画を練ったと伝えられる。 請安が伝えた知識が大化の改新に与えた影響は大きいですが、彼自身は新政府に加わっておらず、 これ以前に死去したものと思われる。

おそらく、彼が、先の後漢時代に、外戚トウ氏が、蘇氏を排斥した話を、天智と中臣に聞かせた のではないでしょうか。

彼等には漢書の知識があるんですね。蘇氏のことも知っていたでしょう。

あと、日文氏が、魏の曹氏の末裔というのが気になります。

日文は神代文字のもっとも信憑性のあるもので、先日指摘したとおり、アラム系文字でし ょう。

日文を伝承したのでそういう名称がついたとすれば、古い文字記録文献を保持していた可能性を感じます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E5%AD%97%E6%97%A5%E6%96%87%E5%82%B3>

そうすると、この僧は漢字や日文など文字に詳しくあった可能性がでてきますね。経典もすら　すら読めた。多くの中国系知識を得ていたでしょう。通訳にも当たったかもしれません。

----- Re:「蘇因高」とは小妹子を子音で言い換えたもの。投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 28 日(日)09 時 07 分 10 秒 返信・引用編集済

> No.861[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。「蘇因高」遣隋使は大徳と大禮がセットになっている模様。600 年 号は阿輩雞彌、王の妻は雞彌から海路になる。

600 年第 1 回遣隋使派遣の大徳は蘇我馬子、大禮小野臣妹子 (推古 8 年)は『日本書紀』(巻第 22)によれば、「十五年...秋七月 戊申朔庚戌 大禮小野臣 妹子遣於大唐 以鞍作福利為通事」から(推古 15 年)で 7 年ズレがある。

開皇二十年(600 年)に高祖が曰く「これはとても道理ではない」。ここに於いて訓令でこれを改めさせる。の訓令がある。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

大禮小野臣妹子 煬帝の返書は帰路に百済において紛失(紛失に関しては古来より議論がある。)、一時は流刑に処されるが、恩赦されて大徳に昇進。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E9%87%8E%E5%A6%B9%E5%AD%90>

返書の紛失は蘇我馬子の命令か、小野妹子の独断かが問題になる。「蘇因高」から蘇我の高に 因む から蘇我馬子が訓令を捨てたのでしょうか。小野妹子の百済において紛失は嘘。その後、蘇我 馬子に代わり小野妹子が大徳に昇進し、(607 年)の「日出處天子致書日沒處天子無恙云云」になる。(608 年)に裴世清が韓半島南部の倭国、任那の蘇我馬子に会った後に倭國に行っ たのでしょうか。

ちなむ【因む】 1 ある事が何かをよりどころとして成り立っている。関係がある。関連する。「出身地に- んだ芸名」「伝説に- む祭」 2 縁を結ぶ。ちぎりを結ぶ。つながる。「家系(すじめ)も正しければ、君が家に- み給 ふは果吉祥なるべし /読・雨月吉備津の釜」 3 親しくつき合う。交わる。「朝日の如く出頭の果報人、向後- み申さるべし /浄・信田 小太郎」

開皇二十年、倭王姓阿每、字多利思比孤、號阿輩雞彌、遣使詣闕。上令所司訪其風俗。使者言 倭王以天為兄、以日為弟、天明時出聽政、跏趺坐、日出使停理務、云委我弟。高祖曰:「此太 無義理。」於是訓令改之。

開皇二十年(600 年)、倭王、姓は阿每、字は多利思比孤、号は阿輩雞彌、遣使を王宮に詣で させる。上(天子)は所司に、その風俗を尋ねさせた。使者が言うには、倭王は天を以て兄 となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、結跏趺坐(けっかふざ=座 禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を停め、我が弟に委ねるという。高祖が曰く 「これはとても道理ではない」。ここに於いて訓令でこれを改めさせる。

遣隋使 倭王遣小徳阿輩臺、從數百人、設儀仗、鳴鼓角來迎。後十日、又遣大禮哥多?、從二百餘騎郊勞。

倭王は小徳の阿輩臺を遣わし、從者數百人、儀仗を設け、鼓角を鳴らして來迎した。十日後に また、大禮の哥多?を遣わし、二百餘騎を從えて郊外で慰勞した。

『日本書紀』(巻第 22)によれば、「十五年...秋七月 戊申朔庚戌 大禮小野臣妹子遣於大唐 以 鞍作福利為通事」とあり、推古天皇 15 年(607 年)、鞍作福利らと大唐(当時の中国は隋の 時代)に渡る。推古天皇 16 年(608 年)に裴世清を伴って帰国。翌年には返書と裴世清の歸 国のため、高向玄理、南淵請安、旻らと再び派遣された。

『隋書』卷八十一 列傳第四十六 東夷 倭國」には、大業三年(607 年)、隋の皇帝煬帝が激怒し たことで有名な「日出處天子致書日沒處天子無恙云云」との文言がある。『隋書』には国書を 持参した者の名前の記載はなく、ただ使者とあるのみである。 小野妹子は「華道の祖」とされることがある。

----- Re:「蘇因高」とは小妹子を子音で言い換えたもの。投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 28 日(日)00 時 24 分 48 秒 返信・引用

> No.856[元記事へ]

追伸になりますが、思うに、倭人がオヲと話すと、中国系の人にはア・ワの音で解釈する のではないでしょうか。
だから、倭人がオヲキミと発音すると、中国人はアワキミと記すわけです。

ところが遣唐使に乗り込んでいた粟田真人は、もともと中国系渡来人だったので、オオタと倭人が発音していた氏姓を、アワタと表記したのかもしれませんが。

たとえば「やまたのおろち」と記紀に書いてあったとしても、倭人は「やまとのおろち」大和の 蛇神で大物主のことを意味していたかもしれませんが。それを出雲・吉備系の渡来人の多い地 域では、「やまた」にしまったとかいう例です。

先日の東北の阿部氏系の文書で、大彦のことを、「あびひこ」と記しています。これも倭人はお おひこと書いたものが、中国系の人がいて、あびひこ、あびことかたり次いだのでしょうか。 阿部氏・あべ彦なのですが、阿部氏の配下にいたのは、吉士集団で半島系ですね。秦韓系だと すると中国語にちかい。阿部氏は新漢人等とともに、中国とも交流がふかかったのですが、 大彦「おおひこ」を祖先として。しかし「あべひこ」と記載した線がおもいつきます。

倭人のオヲが、アワになるとすると、しかしそのあまオヲド王と記したケースでは、漢字を使 っていたのが、半島系の漢人だったことから、あまりア音に近い文字を当てなかったと考え るとどうなるでしょうか。

そういう意味で、秦野さんの下記の指摘で、我があとおの重複音となっている件が重要です。

>「蘇因高」について、考察するとどうも「蘇因高」は小野妹子でなく蘇我馬子みたいですな。

- > 発音がひどく訛っている。「蘇我(そ〜ぐあ)」 >
- > 蘇 su、因 yin、高 gāo 我 goá 閩南語(びんなんご)
>
- > 「蘇因高」su(y)ingāo >
- > 我孫子(安孫子)(あびこ) 我(あ) a=āo?=oa? >
- > 「蘇因高」su(y)in,gāo = so,gāo 「蘇我(そが)」sog,āo= sogoá =soga >
- > 「兄天押常足日子者。<…小野臣…之祖也>」(『古事記』孝昭天皇段)
- > 「天足彦国押命。此和珥臣等始祖也」(『日本書紀』孝昭 68.01.14)
- > 「大徳小野臣妹子。家于近江国滋賀郡小野村。因以為氏」
- > (『新撰姓氏録』左京皇別下、小野朝臣条。『日本古代氏族辞典』p.135) >

----- Re:弓月君は秦氏の祖では?投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 27 日(土)23 時 28 分 15 秒 返信・引用

> No.858[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 倭王は小徳の阿輩臺を遣わし、従者数百人、儀仗を設け、鼓角を鳴らして来迎した。十日 後にまた、大禮の哥多?を遣わし、二百余騎を従えて郊外で慰労した。 > 既に彼の都に至り、その王、裴世清と相見え、大いに悦び、曰く「我、海西に大隋、礼儀の国 ありと聞く故に遣わして朝貢した。我は夷人にして、海隅の辺境では礼儀を聞くことがない。これを以て境内に留まり、すぐに相見えなかった。今、ことさらに道を清め、館を飾り、以て大使を待ち、願わくは大国惟新の化を聞かせて欲しい」。

> 裴世清が答えて曰く「皇帝の徳は併せて二儀、恩恵は四海に流れ、王を慕うを以て化し、 故に使者を来たらしめ、ここに諭を宣す」。

「阿輩臺」の語が重要ですね。「栗田」なのですが、「あわたい」になってます。 邪馬臺国のそれですね。

それでこの「阿輩」が、先の大王(おおきみ)の発音のときも同じ語をつかってます。 アワがオヲに変化するのですが、ちょうど男弟王の語を想起させます。

中国人はその音の差について見分けがついたことになりそうです。ただ半島人だったら見分けがついたのか？この辺も課題ですね。

>>> 宗我「入鹿」の弟が物部大臣と呼ばれていたり、「入鹿」の祖母が物部守也の妹で、「馬子」の妻が物部の出身である事などから、宗我と物部は、結びつきが強かったと、言えましょう。

歴史教科書の紋切り型の記述で、物部の分家との抗争を大きく取り上げ過ぎるのは、本質を見失います。

だいたい前に書き込んだのですが、後漢の党錮の禁あたりの記載に、蘇氏と、皇后、外戚あたりの抗争の話があります。

大將軍として自らの政權を磐石にしたい竇武と、清流派の雄として賄賂の横行で政府が腐敗することを憎む陳蕃は、宦官排斥で目的が一致した。二人は清流派と目される才能ある人材を数多登用して要職に配置し、政府への掌握力を高めると、建寧元年(168年)五月の日食に因って竇太后に宦官を除きたい旨を伝える。宦官の尽くを廃するのは止めて欲しい、除くなら罪のあるものだけにすべきとの竇太后の返答を得ると、二人は当時省内にあって専權を誇った中常侍の管霸及び中常侍の蘇康等を誅戮した。この成功に気をよくした竇武・陳蕃は続いて曹節等を除きたいと竇太后に諮るが、とめどない要求を危惧する太后はこれを許さず、徒に時間が過ぎていった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/竇武>

中臣と天智の話とここででてくる竇武と陳蕃とが重なってくることも以前、指摘したとおりですが、この竇氏が、とう氏と読みまして穴の意味で、竇武滅亡の際に、配下の月氏とともに日本へ逃亡して、大穴牟持伝承へとつながっていった件も指摘したとおりです。

それでこう再度見直すと、藤氏もトウ氏と読むわけですね。元は中臣氏ですが、神道の氏族柄、非常に古い伝承を語り継いでいた可能性を感じています。藤原氏の拠点をみると、非常に意図的に弥生末期のそれに重ね合わせているのは、ある意味神道の拠点とかかわっていたのではないのでしょうか、物部氏ともかかわってきます。

意図的に、祖先の出自や関連伝承を知り尽くした上で、あえて天智と中臣、蘇我の伝承に混ぜ込んでいる、そんなイメージがわいてきますね。

----- Re:「蘇因高」とは小妹子を子音で言い換えたもの。投稿者:管理人 投稿日:2012年 10月 27日(土)23時04分34秒 返信・引用

> No.855[元記事へ]

青面金剛さんへのお返事です。

> 管理人さんの疑問点へのお返事です。 >>「蘇因高」という場合、「小野妹子」は自分の名前を「おののいもこ」とは言わずに、自分の名前を漢字で中国人に示して、中国人が「しょういんこう」と発音し、その発音を聞いた別の人(中国人)が「蘇因高」と記した、のではと考えられます。 > <http://blog.goo.ne.jp/go-hot-ai2395/e/fb6adf7e933b63efc97d2af1c3b8a532> >

なるほど、小野は「しょうや」とも読めますね。 小野「おの」は訓読みです。

ただ、妹子「いもこ」も訓読みになります。 漢字で読むなら、「まいし」でしょうか。

そう考えると、訓読み、音読みとで、語った可能性がでてきますね。

自分で、「蘇妹子」「そいもこ」と名乗っていた線もまだ捨てがたい気がします。

あと先日指摘したのですが、蘇我氏の近親者に兄弟・姉妹を名前や称号につけるケースが多くみえます。高句麗の官職にも同様に兄弟の官職が多くみえます。小兄、大兄、太兄…。

妹子という名前はちょっと蘇我氏とのつながりも感じますが、父母親類を調べる必要がありそうです。

> 中国の「蘇州」を、私達は「そしゅう」と読んでいます。「江蘇省」を「こうしょう」と読みます。しかし、中国での発音は違うように思えます。

>> 蘇州(Suzhou)となっていますから、「蘇」は「Su」です。

> 江蘇省も、(ピンイン: Jiāngsū)です。略称は蘇(Su)とあります。 >

そうすると、蘇我が須賀すがともかかわってきますね。新羅・出雲・滋賀方面…。

> 三世紀に書かれた三国志は、魏が減んで僅か15年ほどで書き始められ、陳寿の書いた原本は存在せず、唐の時代に版本になるまで幾度となく写本が繰り返され、原本とはかなり違った物となっています。 >

> 中華の宗主国は、周辺の夷狄に対して卑字を当てることが多く。滅んだ「魏」にしても、元々は、発音が同じ別の字では無かったのか、と思うのです。

この辺は難しいですね。後から書き直した場合の癖を見抜く必要がありそうです。蘇我氏だと、宗我、曾賀などの地名音から、だいたい発音だけは理解できます。

意味がとおっていたものが、卑字・当て字に差し替えると、意味が通らなくなるとか、卑賤な意味をもつように語呂合わせの跡がのこったりしそうです。穢麻呂のケースなどですね。

----- Re:弓月君は秦氏の祖では?投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年10月27日(土)22時34分4秒 返信・引用

> No.857[元記事へ]

青面金剛さんへのお返事です。

たしか、蘇我氏は小月氏国系でしたな。蘇我氏の痕跡を洗っていますが頭から聖徳太子の存在を否定するのは好ましくありません。蘇我氏の痕跡はもう少しバックする必要がある。新羅の建国から応神、仁徳天皇まで遡る必要が在るみたいですね。

「蘇因高」は音表記には無理がある。「蘇因高」これは蘇我は高位にちなむ【因む】、要約は「蘇我は偉いのよ」ですね。

裴世清は新羅の名字(李・崔・孫・鄭・薛・裴)にある人物。裴世清を使者にした理由が有りそうですな。裴世清が新羅出身なら蘇我馬子を知っている。では粗筋を書きますと。

『隋書』倭国伝に用明天皇(多利思比孤)の遣使で朝貢している。長い文章添付。遣使は蘇我馬子。「日出ずる處の天子、書を日没する處の天子に致す。恙なきや」云々

翌年、上(天子)は文林郎の新羅出身の裴世清を使者として倭国に派遣した。裴世清は蘇我馬子を訪ねて百済を渡り、南望○羅國(この時点で蘇我馬子に会っている)を経由し、蘇我馬子に用明天皇の居る倭国を聞き、裴世清は經(対馬)都斯麻國から用明天皇に謁見。用明天皇は小徳の阿輩臺(聖徳太子)を遣わし、従者数百人、儀仗を設け、鼓角を鳴らして来迎した。

百済を渡り、南望○羅國に裴世清が立寄る必要があるのか。単純に蘇我馬子を訪ねたと考えるのが自然。

聖徳太子と蘇我馬子の関係は聖徳太子は韓半島(倭国)の覇権はあったが実権は蘇我馬子が持っていたと思われる。これでは天皇もかいませんな。「蘇因高」=「蘇我は偉いのよ」

蘇我馬子(そがのうまこ)

敏達天皇13年(584年)百済から来た鹿深臣が石像一体、佐伯連が仏像一体を持っていた。それを馬子が請うてもらい受け、司馬達等と池邊氷田を派遣して修行者を探させたところ、播磨国で高句麗人の恵便という還俗者を見つけ出した。馬子はこれを師として、司馬達等の娘の嶋を得度させて尼とし善信尼となし、更に善信尼を導師として禅蔵尼、恵善尼を得度させた。馬子は仏法に帰依し、三人の尼を敬った。馬子は石川宅に仏殿を造り、仏法を広めた。

『隋書』倭国伝

大業三年、其王多利思比孤遣使朝貢。使者曰：「聞海西菩薩天子重興佛法、故遣朝拜、兼沙門數十人來學佛法。」其國書曰「日出處天子致書日沒處天子無恙」云云。帝覽之不悅、謂鴻臚卿曰：「蠻夷書有無禮者、勿復以聞。」

大業三年(607年)、その王の多利思比孤が遣使を以て朝貢。

使者が曰く「海西の菩薩天子、重ねて仏法を興すと聞き、故に遣わして朝拜させ、兼ねて沙門數十人を仏法の修学に來させた」。その国書に曰く「日出ずる處の天子、書を日没する處の天子に致す。恙なきや」云々。帝はこれを見て悦ばず。鴻臚卿が曰く「蛮夷の書に無礼あり。再び聞くことなかれ」と。

明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。

翌年、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百濟を渡り、竹島に行き着き、南に○羅国を望み、都斯麻国を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国に至り、また竹斯国に至り、また東に秦王国に至る。その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲となす。疑わしいが解明は不能である。また十余国を経て、海岸に達した。竹斯国より以東は、いずれも倭に附庸している。

倭王遣小徳阿輩臺、從數百人、設儀仗、鳴鼓角來迎。後十日、又遣大禮哥多?、從二百餘騎郊勞。既至彼都、其王與清相見、大悅、曰：「我聞海西有大隋、禮義之國、故遣朝貢。我夷人、僻在海隅、不聞禮義、是以稽留境內、不即相見。今故清道飾館、以待大使、冀聞大國惟新之化。」清答曰：

「皇帝德並二儀、澤流四海、以王慕化、故遣行人來此宣諭。」既而引清就館。其後清遣人謂其王曰：「朝命既達、請即戒塗。」於是設宴享以遣清、復令使者隨清來貢方物。此後遂絶。

倭王は小徳の阿輩臺を遣わし、從者數百人、儀仗を設け、鼓角を鳴らして來迎した。十日後にまた、大禮の哥多?を遣わし、二百餘騎を從えて郊外で慰勞した。既に彼の都に至り、その王、裴世清と相見え、大いに悦び、曰く「我、海西に大隋、礼儀の国ありと聞く故に遣わして朝貢した。我は夷人にして、海隅の辺境では礼儀を聞くことがない。これを以て境内に留まり、すぐに相見えなかった。今、ことさらに道を清め、館を飾り、以て大使を待ち、願わくは大国惟新の化を聞かせて欲しい」。裴世清が答えて曰く「皇帝の徳は併せて二儀、恩恵は四海に流れ、王を慕うを以て化し、故に使者を來たらしめ、ここに諭を宣す」。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

>> 宗我「入鹿」の弟が物部大臣と呼ばれていた、「入鹿」の祖母が物部守也の妹で、「馬子」の妻が物部の出身である事などから、宗我と物部は、結びつきが強かったと、言えましょう。歴史教科書の紋切り型の記述で、物部の分家との抗争を大きく取り上げ過ぎるのは、本質を見

失います。

----- 弓月君は秦氏の祖では?投稿者:青面金剛
投稿日:2012年10月27日(土)20時57分30秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

姓である、昔(ソッカ)・宗我・曾我・嵯峨・相賀・菅などを大声で叫んだ場合、ご指摘の様に、(そ〜ぐうあ)と聴こえる事も有ると思われます。他にも「蘇因高」は、推古(すいこ)から聴こえたのでは、との説も有りますが、推古天皇が実在したのか、疑わしい点も有ります。

入鹿もそうですが、馬子という名は、本名では無いでしょう。大王家を輩出する家柄の子息が、動物染みた卑称をつけられる訳が有りません。

中国人側が記録した、「蘇因高」という文字を基に、蘇我馬子という呼称を就けた可能性は有ると思います。

>「日本書紀」が認めるように、物部氏は天皇家が登場する以前の大和の大王家であった。>推古朝の政治について、聖徳太子と蘇我馬子との二頭政治であるとか

私は、宗(曾)我大王家・四代の功績を移し代える対照として、聖徳太子という架空の人物 が創り出されたものと、考えています。

宗我「入鹿」の弟が物部大臣と呼ばれていたり、「入鹿」の祖母が物部守也の妹で、「馬子」の妻 が物部の出身である事などから、宗我と物部は、結びつきが強かったと、言えましょう。歴史 教科書の紋切り型の記述で、物部の分家との抗争を大きく取り上げ過ぎるのは、本質を見失 います。

----- Re:「蘇因高」とは小妹子を子音で言い換えたもの。投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月

27 日(土)14 時 48 分 14 秒 返信・引用編集済 > No.855[元記事へ]

青面金剛さんへのお返事です。

推古朝の政治について、聖徳太子と蘇我馬子との二頭政治であるとか

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%81%96%E5%BE%B3%E5%A4%AA%E5%AD%90>

「蘇因高」について、考察するとどうも「蘇因高」は小野妹子でなく蘇我馬子みたいですな。 発音がひどく訛っている。「蘇我(そ〜ぐあ)」

蘇 su、因 yin、高 gāo 我 goá 閩南語(びんなんご)「蘇因高」su(y)ingāo 我孫子(安孫子)(あびこ) 我(あ) a=āo?=oa? 「蘇因高」su(y)in,gāo = so,gāo 「蘇我(そが)」sog,āo= sogoá=soga

「兄天押帶足日子者。<…小野臣…之祖也>」(『古事記』孝昭天皇段)「天足彦国押命。此和珥臣等始祖也」(『日本書紀』孝昭 68.01.14)「大徳小野臣妹子。家于近江国滋賀郡小野村。因以為氏」(『新撰姓氏録』左京皇別下、小野朝臣条。『日本古代氏族辞典』p.135)

アフラック公式サイト - www.aflac.co.jp 医療保険・がん保険・生命保険の 資料請求・お見積りはこちらから！
卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを
3D デジタイズが革新する 60 分 500 円の韓国語教室 - kvillage.jp 東京の新宿・新大久保・横浜にある ワ
ンコイン韓国語教室 K Village Tokyo 家系図、家族の歴史を 1 冊に - www.e-keizu.com 家系図作成代行。
10 点セット 定額制 お客様の声 232 件(直筆)全国対応可能 <<アヴェダ>>オンラインショップ -
www.aveda.co.jp/ まもなく送料無料キャンペーン終了間近! 一部製品対象。お得なチャンスはこちら

Ads by Google

-----「蘇因高」とは小妹子を子音で言い換えたもの。投稿者:青面金剛 投稿日:2012 年 10 月 27

日(土)10 時 09 分 14 秒 返信・引用 管理人さんの疑問点への、お返事です。

「蘇因高」という場合、「小野妹子」は自分の名前を「おののいもこ」とは言わずに、自分の名前 を漢字で中国人に示して、中国人が「しょういんこう」と発音し、その発音を聞いた別の中国 人が「蘇因高」と記した、のではと考えられます。 <http://blog.goo.ne.jp/go-hot-ai2395/e/fb6adf7e933b63efc97d2af1c3b8a532>

中国の「蘇州」を、私達は「そしゅう」と読んでいます。「江蘇省」を「こうそしょう」と読みます。 しかし、中国での発音は違うように思えます。

蘇州(Suzhou)となっていますから、「蘇」は「Su」です。 江蘇省も、(ピンイン: Jiāngsū)です。略称は蘇(Su)とあります。

三世紀に書かれた三国志は、魏が滅んで僅か 15 年ほどで書き始められ、陳寿の書いた原本 は存在せず、唐の時代に版本になるまで幾度となく写本が繰り返され、原本とはかなり違っ た物となっています。

中華の宗主国は、周辺の夷狄に対して卑字を当てることが多く。滅んだ「魏」にしても、元々は、 発音が同じ別の字では無かったのか、と思うのです。

月氏の日本への流入ルートは、幾つかの流れが有るものと考えます。北涼・北魏を経て、半島 を南下したものや、

クサン朝を経て、海路で日本列島へ渡って来たものも考えられます。

Ads by Google ----- Re:蘇我との関係投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年10月27日(土)08時09分39秒 返信 引用 編集済

> No.853[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

新漢人、東漢人の漢人は「漢国=韓国」を指す。

裴氏一族の文章に「秦漢より以来、六朝を経て盛んとなり、隋唐に至って全盛を迎えた。五代 以後も、なお余勢を存していた。」。

「秦漢=辰韓」とみるのが自然ではないかな。「漢国=韓国」になる。

志賀島の「漢委奴国王印」は韓半島南部の「委奴国」になる。

秦野著書:徐福と邪馬台国で紹介した「倭の奴国」ですな。

金印:志賀島で発見された「漢委奴国王印」が最も著名

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91%E5%8D%B0>

裴氏一族は往古より以来、三晋の望族となり、なおかつ中国の歴史上でその名望あきらかな 名門貴族となった。裴氏一族は「秦漢より以来、六朝を経て盛んとなり、隋唐に至って全盛を 迎えた。五代以後も、なお余勢を存していた。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A3%B4%E6%B0%8F>

『後漢書』馬韓伝 韓有三種:一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。辰韓在東、十有二國、其北與濊貊接。弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。凡七十八國、伯濟是其一國焉。大者萬餘戸、小者數千家、各在山海間、地合方四千餘里、東西以海為限、皆古 之辰國也。 韓に三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁辰。馬韓は西に在り、五十四国。その北に楽浪郡、南に倭と接している。辰韓は東に在り、十二国、その北に濊貊と接している。弁辰は辰韓の南 に在り、また十二国、その南に倭と接している。およそ七十八国。伯濟は馬韓の一国なり。土地 は合わせて四方四千余里、東西は海で尽きる、いずれも昔の辰国である。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kudaragaisi/bakan-tsusi.htm>

----- Re:蘇我との関係投稿者:管理人 投稿日:2012年10月26日(金)22時54分43秒 返信 引用 編集済

> No.852[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 新羅の名字(李・崔・孫・鄭・薛・裴)を日本の名字に対応させると孫が末裔の可能性が ある。 > 家紋が一致すれば…新羅の家紋は今の所は不明。 >

>

裴という姓が少しきになっています。 裴氏は、中国の名門氏族ですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A3%B4%E6%B0%8F>

裴 世清は先日お話したとおり、隋代に日本に来ています。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A3%B4%E4%B8%96%E6%B8%85>

新羅の名字(李・崔・孫・鄭・薛・裴)は、考えてみると中国の一般的な姓のようにも見えます。 どういう歴史があるのかな？

裴 世清関連の記事で気になったのが、蘇因高がいます。小野妹子なのですが、因高は同じもの、小野は蘇という先にご指摘あった中国の卑字となっているのは、どういうことでしょう。

阿倍 仲麻呂は晁衡(ちょうこう、または朝衡)と名乗りました。 晁は珍しい姓のようです。朝と同じ発音で「チョウ」にこだわったのでしょうか。 阿部氏は同じく遣唐使に多かった吉士集団の長で、オオヒコ系ですね。 もともと航海には長

けていた。外国語について教育を受けうる環境で育ったことでしょう。

それで蘇氏についてしらべていくと、元は蘇国に由来したものと、北魏王族に蘇氏がいるようです。
<http://www.greatchinese.com/surname/042.htm>

そうすると、北魏は蘇姓を卑姓とは思っていなかったように見えますね。

ただ北魏が蘇氏を名乗るが洛陽遷都後となると、493年以降になりますね。

第6代皇帝の孝文帝の時代、馮太后の摂政の下で、儒教的礼制を採用し、均田制を施行し、三長制を確立した。馮太后の死後、親政を開始した孝文帝はさらに急激な漢化政策を進めた。孝文帝の漢化政策は鮮卑の服装や言語の使用禁止、漢族風一字姓の採用などいずれも鮮卑と漢人の融合政策であったが、鮮卑人の国粹的反発・反動を呼び起こし、のちの六鎮の乱の伏線となった[15]。493年、都を平城から洛陽に遷した[15]。

馮太后を出した馮氏は会報第3号で記したとおり、新羅王族と関係が深く、新漢人と深いつながりをもつ氏族です、

馮は馬と文字的にはちがいますがあります。蘇我氏と新漢人とのかわりを考慮していくと、馮氏とのかわりをもう少し追ってみるべきかもしれません。

それでよく小野妹子の出自を調べると、ちょうど近江・滋賀といった新漢人の住む真っ只中にいたことがわかります。

近江国滋賀郡小野村(大津市)の豪族で、春日氏の一族小野氏の出身。系譜は明らかでないが、春日仲君(または仲若子)の子とする系図がある[3]。一般に流布されている小野氏の系図[4]では、妹子を敏達天皇の皇子である春日皇子の子とするが、『日本書紀』雄略紀において

「春日小野臣大樹」との人物が登場し、妹子はこの大樹の後裔と考えられることから、敏達天皇裔とするのは仮冒である[5]。春日仲君の娘老女子が敏達天皇の妃となり春日皇子を産んだことから、小野氏を春日皇子の系統に繋いだものと想定される。本当は、分かっていない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E9%87%8E%E5%A6%B9%E5%AD%90>

新漢人の遣唐使人は実に多いですね。高向漢人など、外国語に堪能な氏族を生み出す基盤があったのでしょう。そこに阿部氏もかかわっていた。

そうすると、ただ偶然に小野妹子が遣唐使に乗り込んだのではなく、そういう地盤と環境から必然的に海外へ出て行く素養があったとみるべきでしょう。

そして小野氏が蘇氏を称したのも、先祖の名、つまり新漢人自体が、もともと北燕遺民ですから、北魏・蘇氏とのかわりもあったかもしれません。ただ493年はちょっと微妙なラインですね。

あと、東漢人には、七姓が見えます。七姓漢人(朱・李・多・白・郭・白・段・高)

段などは半島系ともかわりがあるでしょう。おそらく彼等は桑原・佐太氏など新漢人とかわりがあるのではないかと見ています。【段姓】.....【高向氏】【評氏】【郡氏】【民氏】 <http://www.myj7000.jp-biz.net/clan/03/03004.htm>

ただ高向玄理は、高玄理と普通に名乗ってますね。先祖の姓をなのなら段玄理と名乗るべきだったでしょう。

小野妹子と一緒に出てくる鞍作氏も漢氏系図にでてきますね。

鞍作氏は先日述べたとおり、仏教とのかわりで蘇我氏と深い関係にあったようです。馬ともかわる氏族ですが、司馬姓をもともとっていました。遣唐使の期間中は先祖の司馬氏を名乗ったのでしょうか。

----- Re:蘇我との関係投稿者:秦野北斗 投稿

日:2012年10月26日(金)11時44分52秒 返信引用

> No.849[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

新羅の名字(李・崔・孫・鄭・薛・裴)を日本の名字に対応させると孫が末裔の可能性が ある。

家紋が一致すれば…新羅の家紋は今の所は不明。

突山の高墟村の村長「蘇伐公」月氏(弓月君)の可能性のある名字。

安孫子、孫田、孫、我孫子、孫崎、吾孫子、煤孫、孫野、小孫、安孫

李、李家、李木

崔、崔本、崔村

----- ホムダワケ投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012
年 10 月 26 日(金)08 時 13 分 8 秒 返信・引用

類十七県を率て、来帰リ 応神天皇(おうじんてんのう、仲哀天皇 9 年 12 月 14 日(201 年 1 月 5 日) - 応神天皇 41 年 2 月 15 日(310 年 3 月 31 日))は、第 15 代天皇(在位:応神天皇元年 1 月 1 日(270 年 2 月 8 日) - 同 41 年 2 月 15 日(310 年 3 月 31 日))。諱は誉田別尊(ほむたわけのみこと)、大 鞞和気命(おおともわけのみこと)。誉田天皇(ほむたのすめらみこと / ほんだのすめらみ こと)、胎中天皇(はらのうちにましますすめらみこと)とも称される 。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%9C%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87> 実在性が濃厚な最古の大王(天皇)とも言われるが、仁徳天皇の条と記載の重複・混乱が 見られることなどから、応神・仁徳同一説などが出されている。その年代は、『古事記』の干支 崩年に従えば、4 世紀後半となる。『記・紀』に記された系譜記事からすると、応神天皇は当時 の王統の有力者を合成して作られたものとするのが妥当であるとする説がある。この実在 の不確かさもあり、大王の実像をめぐっては諸説が出されてきた。応神天皇の和風諡号である「ホムダ」は飾りの多い 8 代以前の天皇と著しく違っている事から実在とみなす説、三王朝 交代説における征服王朝の創始者とする説、邪馬台国東遷説にまつわり皇室の先祖として祭 られている神(宇佐八幡)とする説、河内王朝の始祖と見なす説などである。また、日本国外の史料との相対比較から、『宋書』や『梁書』に見える倭の五王の讃に比定する説(ほかに仁徳 天皇や履中天皇を比定する説もある)、『広開土王碑』に見える倭国の朝鮮進出を指揮した可 能性も指摘されている[要出典][誰によって?]。 井上光貞は、確実に実在が確かめられる最初の天皇としている

和爾吉師は文首等の祖。また手人韓鍛(てひとからかぬち)名は卓素(たくそ)また呉服 (くれはとり)の西素(さいそ)二人を貢上りき。『書紀』の十五年八月条と十六年二月条 に同様の記事が見える。また、応神二十年九月条に「倭の漢直の祖阿知使主(あちのおみ)、

其の子都加使主、並びに己が党類十七県を率て、来帰リ」とあって、多くの渡来人があったこ とを伝えている。後世、神功皇后と共に八幡神に付会され、皇祖神や武神として各地の八幡宮に祭られる。

----- 月氏(弓月君)投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 10 月 25 日(木)23 時 12 分 17 秒 返信・引 用 編集済

月氏(弓月君)の「蘇伐公」を含む 6 村が新羅を建国する。その後、誉田天皇に弓月君が女王国 (倭国:瑞穂の国)に帰化したいと嘆願。新羅は勢力を失うので邪魔をした。天皇は襲津彦を 加羅に遣わして百済の民(弓月君)を連れ帰るように命令するが、三年なんの音沙汰もなくな った。因みに蘇我は誉田天皇より後になる。

先是、朝鮮遺民、分居山谷之間爲六村。一曰關川楊山村、二曰突山高墟村、三曰觜山珍支村 (或云干珍村)、四曰茂山大樹村、五曰金山加利村、六曰明活山高耶村。是爲辰韓六部。

これに先立ち、朝鮮の遺民が山谷の間に六村を爲して分居していた。一が關川の楊山村、二 が突山の高墟村、三が觜山の珍支村(あるいは干珍村とも)、四が茂山の大樹村、五が金山 の加利村、六が明活山の高耶村という。これが辰韓の六部を爲す。

高墟村長蘇伐公、望楊山麓、蘿井傍林間、有馬、而嘶。則往觀之、忽不見馬、只有大卵。剖之、 有嬰兒出焉。則收而養之。及年十餘歲、岐嶷然夙成。六部人、以其生神異、推尊之。至是立爲君 焉。辰人謂瓠爲朴、以初大卵如瓠、故以朴爲姓。居西干、辰言王(或云呼貴人之稱)

高墟村の村長「蘇伐公」が楊山の麓を望むと、蘿井の傍の林間に馬がおり、嘶いていた。そこで様子を観に行くと、忽ち馬は見えなくなった。ただ大きな卵があり、これを割ると、嬰兒が出てきた。そこでこの子を拾って養育した。年齢が十余歳になると、幼くして英明で、才学が大人びており、六部の人々はその神異な生まれを以て彼を尊崇しており、ここに至って君主に立てた。辰韓の人々は瓠を朴という。初めには瓠のような大きな卵だったので、朴を姓とした。居西干は、辰韓では王をいう(あるいは貴人の呼称ともいう)。

一が閼川の楊山村

二が突山の高墟村の村長「蘇伐公」

三が觜山の珍支村

四が茂山の大樹村

五が金山の加利村

六が明活山の高耶村

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinkan-siragi/siragi.-king1-kaku.htm>

新羅の六部は匈奴の部ではないか。

楊山村 謁平及梁部(後の中興部) 高墟村 蘇伐都利沙梁部 大樹村?(仇) 禮馬漸梁部・牟梁部(今は長福部) 珍支村 智伯虎本彼部(今は通仙部) 加利村 祇沱(只他) 漢岐部・韓岐部(今は加徳部) 高耶村 虎珍習比部(今は臨川部)

~Vol.21~匈奴(きょうど)

「アジア大陸中央部を内陸アジアといい、東はモンゴル高原、西はカスピ海、南はヒマラヤ山脈、北はシベリアのタイガ(針葉樹林帯)に囲まれ、ゴビ砂漠、カラクム砂漠など、乾燥地帯であり、また高山も多く点在する。

<http://www.kobemantoman.jp/sub/21.htm>

於夫羅の子・劉豹は左賢王となったが、曹操は呼厨泉は鄴に留め置き、劉豹には匈奴を五部に分けてその左部を統括させた。

<http://my3594.net/wiki/%E5%8C%88%E5%A5%B4>

東女国は、「蘇伐刺」髡瞿咀羅ともいい、西羌の別種である。西海中に別の女国があるため、東女と称した。女を王とした。東は茂州・党項と接し、東南は雅州の羅女蛮・白狼夷と界を隔てていた。その広さは東西に 9 日、南北に 20 日、徒歩でかかり、大小に 80 あまりの城があった。秦野距離、東西に 9 日:112 km、南北に 20 日:249 km

結構広い国ですな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%B3%E5%9B%BD>

誉田天皇十四年 百済の弓月君(ゆづきのきみ)が誉田天皇に対し、百済の民人(弓月君)を連れて帰化したいけれども新羅が邪魔をして加羅から海を渡ってくることができないことを告げる。天皇は襲津彦を加羅に遣わして百済の民を連れ帰るように命令するが、三年なんの音沙汰もなくなった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%91%9B%E5%9F%8E%E8%A5%B2%E6%B4%A5%E5%BD%A6>

唐の時代 高祖李淵(在位:618 年 - 626 年)が即位すると、龜茲王の「蘇伐勃駃」(そはつほつかい)は唐に遣使を送って入朝した。蘇伐勃駃が死去すると、子の蘇伐暈(そはつちょう)が代立し、時健莫賀俟利発(しけん・バガイルテベル)と号した。

----- Re:蘇我との関係投稿者:管理人 投稿

日:2012 年 10 月 24 日(水)21 時 52 分 14 秒 返信 引用

> No.845[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 1 昔、まだ新羅が辰韓と呼ばれていた > 2 讃が死に、弟の珍が立つと、遣使を以て貢献した。 > 使持節、都

督倭・百濟・新羅・任那・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭国王を自称 する。 >

- > 12 の文章に矛盾が生じている。
- > 昔、..では新羅が辰韓の属国になる。
- > 讃が死にでは、都督倭・百濟・新羅・任那・秦韓・慕韓六国諸軍事では新羅は属国でない。 >
- > 慕韓六国は、倭・百濟・新羅・任那・秦韓の 5 国。後の 1 国はどこか？

> 新羅は秦韓に属していない模様。 >

確かに新羅と秦韓が同時に併記されている件は重要です。 この年代が400年代でしょうから、まだ秦韓が存在していて、新羅も存在しはじめたころ になりますね。

ご指摘のとおり、秦韓のほうが南の任那領域に近かったことが予想できます。 もっと詳しい位置推定をしたいところです。

----- Re:素戔男尊・素盞鳴尊は里帰り投稿者:管理人 投稿日:2012年10月24日(水)21時48分11秒 返信・引用

> No.847[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

> 第二期新羅王朝の昔(ソッカ)氏王家は出雲連邦王国(越を含む)からの出身で、政争に 敗れた後、再び出雲へ戻ります。 > [『朴炳植、日本古代史を切る』p,183、学研・1991] >

この読みは興味深いですね。

> 蘇は鬼を表す卑字なので、自ら名乗るのものではなく、漢・晋などの中華王権側からの呼 称に因るもので、其のまま全て当てはまるものでは、無いのでは、と思います。

なるほど、そうすると、蘇我氏自身は蘇は鬼を表す卑字として理解していたかどうか気が になりますね。後代の中国系の記紀撰者はまたそれを理解していたのか?も重要です。

----- 素戔男尊・素盞鳴尊は里帰り投稿者:青面金剛 投稿日:2012年10月24日(水)06時19分 42秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

龜慈国の国王名に、白の字を含む者が多いことから、ステップルートで半島北部・沿海州へ 東遷した可能性は高いと思います。

後漢 白霸(91年 - ?) 白英 晋代 白山 白帛純 白震...

半島北部の長白山脈には、白頭山や白山の地名が見られます。日本海を渡れば越の国(白山 王朝)に辿り着きます。

第二期新羅王朝の昔(ソッカ)氏王家は出雲連邦王国(越を含む)からの出身で、政争に敗 れた後、再び出雲へ戻ります。 [『朴炳植、日本古代史を切る』p,183、学研・1991]

素盞鳴は3代続いていたと伝えられます。現在の韓国での昔姓は人口の1パーセント程度で、 大半が日本列島へ渡って来たものと考えられます。

蘇は鬼を表す卑字なので、自ら名乗るのものではなく、漢・晋などの中華王権側からの呼称 に因るもので、其のまま全て当てはまるものでは、無いのでは、と思います。

Re:蘇我氏はアリア系カッシート(月氏族)投稿者:管理人 投稿日:2012年10月23日 (火)22時30分12秒 返信・引用編集済

> No.836[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。 > 蘇我氏は小月氏国系

>> BC 2世紀、匈奴に攻撃され、小月氏国と大月氏国に分かれる。クシャン朝は大月氏の > 有力5部族の一

つが建国を果たした。小月氏国は中国西部に建国その後、蘇我氏に繋がる という。

ご意見ありがとうございます。かねてより蘇我氏とペルシアの関係は指摘されているところ ですね。 そこで大月氏の五部族と、新羅の六部を比較してみました。

五翕侯 居城 『後漢書』『魏書』 休密 翕侯 和墨 城 休密 翕侯 伽倍 国 雙靡 翕侯 雙靡 城 雙靡 翕侯 折薛莫孫 国 貴霜 翕侯 護澡 城 貴霜 翕侯 鉗敦 国 肸頓 翕侯 薄茅 城 肸頓 翕侯 弗敵沙 国 高附 翕侯 高附 城 都密 翕侯 閭浮謁 国

楊山 村 謁 平 及梁 部 (後の中興部) 高墟 村 蘇伐 都利 沙梁 部 大樹 村 ?(仇) 禮馬 漸梁 部・牟梁部 (今は長福部) 珍支 村 智 伯虎 本彼 部(今は通仙部) 加利 村 祇 沱(只他) 漢岐 部・韓岐 部(今は加徳部) 高耶 村 虎 珍 習比 部(今は臨川部)

なんともいえないのですが、キュウ、カツ、コウあたりの語に共通性があるような気がします。

月氏の後裔とみなされる亀慈国に、後代「蘇伐」姓が見えますね。これが秦韓・新羅の「蘇伐」 姓と同類かどうかは課題です。新羅の始祖伝承自体は、案外あたらしい5-6世紀のもので はないかと考えはじめてます。

高祖李淵(在位:618年 - 626年)が即位すると、亀茲王の蘇伐勃駛(そはつほつかい)は 唐に遣使を送って入朝した。蘇伐勃駛が死去すると、子の蘇伐畳(そはつちよう)が代立し、 時健莫賀俟利発(しけん・バガ・イルテベル)と号した。 貞観 4年(630年)、蘇伐畳は遣使を送って馬を献上し、太宗(在位:626年 - 649年)は璽 書を賜い、厚く撫慰し、これより朝貢は不絶となるが、西突厥にも臣従した。安西都護の郭孝 恪が焉耆国を討伐すると、亀茲国は兵を派遣してこれを援助した。 蘇伐畳が死に、その弟の訶黎布失畢(かれいほしつひつ)が代立すると、次第に藩臣の礼を 失っていった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/亀茲> 先日お話したキジル国の女王国の王も蘇伐姓でしたから、ステップルートで半島へ東遷した

可能性もなくはないような気がします。 そして蘇伐氏が、仏教・ペルシア宗教文化に関わる蘇我氏へとなくなっていった。 ただ蘇伐については、後漢時代にすでに「蘇馬是」が官職として出てきます。

「後漢書」光武帝紀、紀元 44年条、東夷の韓国人が、衆を率いて楽浪郡に詣で内附した。 「後漢書」東夷列伝、韓人で廉斯れんしの人、蘇馬是?が楽浪郡に詣で、貢献した。光武帝は、蘇 馬是#を封じて漢廉斯邑君(かんれんしゆうくん)とし、楽浪郡に属させ、四時に朝謁させ

た。」

<http://homepage3.nifty.com/kiya/sehachi/kiya323.htm>

「蘇伐(ソブル)」の語の成立はかなり早い可能性もありますね。

Ads by Google ----- Re:蘇我との関係投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年10月23日(火)21時37分47秒 返信引用 編集済

> No.835[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

新羅の存在について触れます。

1昔、まだ新羅が辰韓と呼ばれていた 2讃が死に、弟の珍が立つと、遣使を以て貢献した。 使持節、都督倭・百濟・新羅・任那・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭国王を自称する。

12の文章に矛盾が生じている。 昔、..では新羅が辰韓の属国になる。 讃が死にでは、都督倭・百濟・新羅・任那・秦韓・慕韓六国諸軍事では新羅は属国でない。

慕韓六国は、倭・百濟・新羅・任那・秦韓の 5国。後の 1国はどこか? 新羅は秦韓に属していない模様。

想定だが、新羅は秦韓から生まれた国でなく、倭国から分かれた国と思われる。 どうも、中国史籍は馬韓と倭国の日本海側の国(弁韓、辰韓、倭国)の見分けが出来なかった ようだ。現在の竹島問題が理解できる。見分けが出来ないようだな。

昔、まだ新羅が辰韓と呼ばれていた頃、辰韓(慶尚北道の慶州府)には楊山村、高墟村、大樹村、珍支村、加里村、高耶村の六村があった。六村の村長は皆が天から山に降りてきた神人で、後に李・崔・孫・鄭・薛・裴の六姓の祖となる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinkan-siragi/siragi-sinwa1-rasei.htm>

讃死、弟珍立、遣使貢獻。自稱使持節、都督倭百濟新羅任那秦韓慕韓六國諸軍事、安東大將軍、倭國王。表求除正、詔除安東將軍、倭國王。珍又求除正倭隋等十三人平西、征虜、冠軍、輔國將軍號、詔並聽。

讃が死に、弟の珍が立つと、遣使を以て貢獻した。使持節、都督倭・百濟・新羅・任那・秦韓・慕韓六國諸軍事、安東大將軍、倭國王を自称する。上表して正式な除爵を求め、詔を以て安東將軍、倭國王に叙爵した。珍はまた倭隋等十三人に平西、征虜、冠軍、輔國將軍号の正式な除爵を求め、詔を以てすべて聞き届けた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun7-sosho.htm>

> 紀元前 69 年、六人の村長は各々の子弟を連れて闊川の岸边に集まり、楊山村の蘇伐村長が「我々には君主がいらない。有徳の人を君主に立て、邦を開き、都を定めようではないか」と言い、

六村を合併して一国に統合する会議を開いた。

>>「楊山村の蘇伐村長」がおそらく 6 部の中心的人物・家柄だったのでしょう。>「六部の祖」> 三国遺事は、上記の前半に「辰韓には昔、六村があった」として説明文を記している。

Ads by Google ----- イランのゾロアスター教ではダエーワは悪神 デウス (dēus) などと同じ語源 投稿者:棘の 紀氏 投稿日:2012 年 10 月 23 日(火)09 時 49 分 9 秒 返信・引用

ヤザタ (Yazata) とは、ゾロアスター教において崇拝される、中級の善神の総称。その名はアヴェスター語で「崇められるに値する者」を意味する。パフラヴィー語ではヤズド (Yazd) と呼ばれる。その多くはインド・イラン共通時代の多神教に由来する自然神で、ゾロアスター教神学においては、アムシャ・スプンタより低位であるとされる。ヤザタは人間に祀られる事を常に欲しており、また、祀られる事によって人間に恩恵を与え と言う。こうした性格はインドのデーヴァと共通しており、ゾロアスター教に取り入れられてなお古い多神教時代の性格を色濃く残していると言える。

デーヴァ (サンスクリット ???, deva) は、サンスクリットで神を意味する語である。女性形は デーヴィー (????, devī)。印欧祖語に由来する。ヒンドゥー教、仏教などインド系の諸宗教で現われる。漢訳仏典では、天部、天、天人、天神、天部神などと訳される。デーヴァが住む世界をデーヴァローカ (devaloka, deva loka) と呼び、天、天界、天道、天上界などと漢訳される。インドのデーヴァはイランのダエーワと同一の語源と言われるが、イランのゾロアスター教ではダエーワは悪神である。

ラテン語のデウス (dēus) などと同じ語源である。

----- 古代インド・イランのミスラ信仰 投稿者: 棘の紀氏 投稿日:2012 年 10 月 23 日(火)09 時 43 分 45 秒 返信・引用

元々、ミトラス神は、古代インド・イランのアーリア人が共通の地域に住んでいた時代までさかのぼる古い神ミスラ(ミトラ)であり、イラン、インドの両地域において重要な神であった。特に『リグ・ヴェーダ』においてはアーディティヤ神群の一柱であり、魔術的なヴァルナ神と対をなす、契約・約束の神だった。アーリア人におけるこの神の重要性をよく示しているのがヒッタイトとミタンニとの間で交わされた条約文であり、そこにはウアルナ、インドラ、アシュヴィン双神といった神々とともにミスラの名前が挙げられている[4]。その後、インドにおいてはミスラの重要性は低下したが、イランでは高い人気を誇り、重要な役割を持ち、多数の神々のなかでも特殊な位置付けであった。ゾロアスターは宗教観の違いからアフラ・マズダーのみを崇拝すべきと考えてミスラをはじめとする多くの神々を排斥したが、後にゾロアスター教の中級神ヤザタとして取り入れられ、低く位置づけられはしたが、『アヴェスター』に讃歌(ヤシュト en)を有した。さらにゾロアスター教がサーサーン朝ペルシア(226 年 - 651 年)の国教となると英雄神、太陽神として広く信仰された[5]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%88%E3%83%A9%E6%95%99>

----- 蘇我氏とゾロアスター教投稿者:棘の紀氏

投稿日:2012 年 10 月 23 日(火)09 時 38 分 9 秒 返信・引用

ヤハウエとゾロアスター教 ゾロアスター教の時代も同じで、本教義に火を崇拝する教えは無かった。しかし、古代の 宗 教を取り入れ、各家庭のかまどの火を通して神の摂理を拝むというささやかな風習を 容認 した。ゾロアスター教では、偶像崇拝は行わず、神を拝むのに神殿も必要なかった
...<http://bewithgods.ddo.jp/hope/doc10/10-9.html>

----- Re:素鵜川・素鷲社(そがのやしろ)投稿者:秦

野北斗 投稿日:2012 年 10 月 23 日(火)07 時 07 分 34 秒 返信・引用

> No.840[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。

関裕二、津田左右吉。どうも古田武彦と同種の古代史 SF 作家ですな。 出雲の謎は日本の謎・関裕二氏

「日本書紀」が認めるように、物部氏は天皇家が登場する以前の大和の大王家であった。『釈日本紀』は、日高見国が大和の祝詞のいう神武東征以前の大和であり。… 神武東征以前に大和なぞ存在しない。 日本は白村江(はくすきえ)以後の改名になる。神武東征は BC で 600 年以上のズレがある。『旧唐書』倭国・日本国伝

日本國者、倭國之別種也。以其國在日邊、故以日本為名。或曰:倭國自惡其名不雅、改為日 本。或云:日本舊小國、併倭國之地。其人入朝者、多自矜大、不以實對、故中國疑焉。又云:其 國界東西南北各數千里、西界、南界咸至大海、東界、北界有大山為限、山外即毛人之國。

日本国は、倭国の別種なり。その国は日の出の場所に在るを以て、故に日本と名づけた。あ るいは曰く、倭国は自らその名の雅ならざるを憎み、改めて日本と為した。あるいは日本は昔、 小国だったが倭国の地を併せたという。その人が入朝したが、多くは自惚れが大にして不 実な対応だったので、中国はこれを疑う。また、その国の界は東西南北に各数千里、西界と南 界いずれも大海に至り、東界と北界は大山があり、限界となし、山の外は、すなわち毛人の国 だという。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun10-kyutosho.htm>

日高見国(ひたかみのくに)

津田左右吉のように、「実際の地名とは関係ない空想の地で、日の出る方向によった連想から きたもの」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B4%A5%E7%94%B0%E5%B7%A6%E5%8F%B3%E5%90%89> ミトラスきょう【ミトラス教 Mithraism】

ペルシア起源の神ミトラス Mithras を祭神とする密儀宗教。ローマ帝国内において 1 世紀後半から 4 世紀中葉まで流行したが、キリスト教の普及とともに衰退した。ミトラスはアーリ ヤ人の古くからの神ミトラとは語源的に関係があるが、信仰内容では著しく異なる。前 1 世 紀に、シリアや小アジアのギリシア化したマズダク教神官(マギ)たちがこの新宗派を樹立し、ローマ帝国成立とともにイタリアやローマ市に流布、さらにブリタニアや北アフリカ、スペイン、ライン・ドナウ両河流域へ広がった。

<http://kotobank.jp/word/%E3%83%9F%E3%83%88%E3%83%A9%E3%82%B9%E6%95%99>

> 戦国時代に復活します。系譜のハッキリしない、近畿地方の武将。蘇我氏が三国国造家出身 だった事を思い出してください。織田信長は最近の発見により、忌部氏の流れだと判明して います。 >

> 蘇我氏がミトラス教徒だということを、念頭に置いて考えてみて下さい。 >> 百済と西日本の倭国は同盟関係に在り、百済から皇子を人質として倭国に迎える代わりに、 百済国へ、援軍を派遣していた。東日本は日高見国で日ノ本と称していました。

----- 素鵜川・素鷲社(そがのやしろ)投稿者:青面

金剛 投稿日:2012 年 10 月 23 日(火)05 時 30 分 4 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。 素鵜川・素鷲社(そがのやしろ)より、関裕二氏は漢字分解でパズルを解き明かしています。

東出雲王家であった富家が、その後、暫くの間、向家を名乗っていた様に、前大王家が祖のま　まの姓を名乗れるのは、難しいでしょう。

戦国時代に復活します。系譜のハッキリしない、近畿地方の武将。蘇我氏が三国国造家出身だ　った事を思い出してください。織田信長は最近の発見により、忌部氏の流れだと判明してい　ます。

蘇我氏がミトラス教徒だということを、念頭に置いて考えてみて下さい。

百済と西日本の倭国は同盟関係に在り、百済から皇子を人質として倭国に迎える代わりに、　百済国へ、援軍を派遣していた。東日本は日高見国で日ノ本と称していました。

----- Re:中国で蘇は鬼を意味します。投稿者:秦野北斗　投稿日:2012 年 10 月 23 日(火)01 時 03 分 56 秒　返信・引用

> No.838[元記事へ] 青面金剛さんへのお返事です。　蘇我の蘇は意味を持つがパズルが解けないのが現実ですな。

日ユ同祖論からすると、ユダヤとの関係がある。かも　フン族の組織、部族等が不明です。秦野は聖書の黙示録がそれを記録した資料と見ています。　扶桑国:蘇伐刺拏瞿咀羅は日本にあります。羌の別種である。　百済の建国は何族。日本は倭国の別種である。　このパズルが解ければ邪馬台国の卑弥呼が匈奴の歴史を残したこと。日本人とはが理解でき　ます。一度、自分で紐解くのも良いのでは…。　尚、アイヌは矢奴で古民族で先祖になる。

日ユ同祖論　主に、日本人とユダヤ人によって提唱されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E3%83%A6%E5%90%8C%E7%A5%96%E8%AB%96>

東女は蘇伐刺拏瞿咀羅またといい、羌の別種である。西海にまた女を王とするものがあるの　で、「東」と称してこれを区別する。東に吐蕃・党項・茂州と接し、西は三波訶と続き、北は于　闐(ホータン)とへだて、東南は雅州羅女蛮・白狼夷と続いた。...

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%B3%E5%9B%BD>

日本。倭國之別種。以其國在日邊。故以日本國為名。或以倭國自惡其名不雅。改為日本。或云日　本舊小國。吞併倭國之地。其人入朝者。多自矜大。不以實對。故中國疑焉。

日本。倭国の別種である。その国は日辺に在る故に、日本国を以て名と為した。あるいは倭　国は自らの名が雅ではないことを憎み、日本に改名した、あるいは日本は昔は小国だったが、　倭国の地を併呑したという。そこ

の人が入朝したが、多くは自惚れが強く、不実な対応だっ　たので、中国はこれを疑う。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

羌　- Wikipedia その後も青海、チベットの周辺で生活し、漢代には西羌と呼ばれ、時に漢の涼州に進入したりした。魏晋南北朝時代に入ると中国に匈奴や鮮卑が移住し始め、羌も同じように陝西に入り、自らの国を建てた。　その後前秦に吸収されるが、前秦　...

こんな小さな島にわざわざ　9000 km も歩いてきますか。　> 日本列島に流入したフン族とは、ハンガリー系と同じと伝えられる、アテルイの側だと、思

われます。

----- 中国で蘇は鬼を意味します。投稿者:青面金剛　投稿日:2012 年 10 月 23 日(火)00 時 08 分　20 秒　返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

管理人さんとは、少し視点が違います。「蘇我」氏の本名は別に在ったのでは無いか、と思える　のです。

屠蘇(屠蘇散、屠蘇延命散)

http://blog.goo.ne.jp/sh_tech/e/ad25ae0aeda9fb20216bd7b1a60b5d2c

「フン族と匈奴は同一か?」という問題に見る各国の視点

http://55096962.at.webry.info/200901/article_32.html

『梁書』では、扶桑国の東千里に女国があり、それは奇怪な民族として伝えられている。どうも、アイヌのことらしい。『扶桑国王蘇我一族の真実(飛鳥ゾロアスター教伝来秘史)』、渡辺豊和、新人物往来社、p.37]

日本列島に流入したフン族とは、ハンガリー系と同じと伝えられる、アテルイの側だと思われれます。

----- Re: 蘇我氏はアーリア系カッシート(月氏族) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 22 日(月)23 時 19 分 20 秒 返信・引用編集済
> No.836[元記事へ]

青面金剛さんへのお返事です。

管理人さんは蘇我氏の蘇は女国の姓「蘇?」でないか。です。

蘇我氏の移動ルートが推定できる。蘇我堅塩媛の名前が気になる。
女国は岩塩をインドと交易して多大な利益を上げた。

月氏どうも、神功皇后の三韓征伐頃で次になる。天皇は襲津彦を加羅に遣わして百済の民(弓月君)を連れ帰るように命令する。

弓月君が月氏なら葛城襲津彦から年代が合わない、月氏は成立しない。
弓月君は古事記、中国史籍から読み解く事になる。
この後に天智天皇、菊池一族、平氏との関係が出てくる。

女国は扶桑国に出てきます。

崑崙が葱嶺の南の女国、扶桑に造りて紫庭が東女国でしょうな。ほぼ特定していますが暫く秘密です。

『宋書』巻 22 志第 12 樂 4(樂志)「白紵舞」歌の 1 つで 東造扶桑游紫庭 西至?嶮戲曾城 (東、扶桑に造りて紫庭に遊び、西、崑崙に至りて曾城に戯る)?『宋書』巻 22 志第 12 樂志四載及 白紵舞 歌詩三篇之二

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

女国は、葱嶺の南にあった。その国は代々女を王とし、姓を蘇?、字を末羯といい、在位は 20 年であった。女王の夫を号して金聚といい、政治をとらなかった。国内の男たちは、ただ征伐のみを仕事とした。

東女国は、蘇伐刺拏瞿咀羅ともいい、西羌の別種である。西海中に別の女国があるため、東女と称した。女を王とした。

狩猟を生業とし、鉾石・朱砂・麝香・牛・馬などを産し、岩塩をインドと交易して多大な利益を上げた。

東女は蘇伐刺拏瞿咀羅またといい、羌の別種である。西海にまた女を王とするものがあるので、「東」と称してこれを区別する。東に吐蕃・党項・茂州と接し、西は三波訶と続き、北は于闐(ホータン)とへだて、東南は雅州羅女蛮・白狼夷と続いた。...

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%B3%E5%9B%BD>

三韓征伐

応神 14 年 百済の弓月君が誉田天皇に対し、百済の民人を連れて帰化したいけれども新羅が邪魔をして加羅から海を渡ってくることができないことを告げる。天皇は襲津彦を加羅に遣わして百済の民を連れ帰るように命令するが、三年、音沙汰もなくなった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E9%9F%93%E5%BE%81%E4%BC%90>

扶桑国:秦野北斗著書、徐福と邪馬台国で特定した扶桑国は間違っています。扶桑国は最近の議論で明らかになった。本文中の秦野距離、魏志倭人伝の行程は妥当している。

蘇我氏はアーリア系カッシート(月氏族)投稿者:青面金剛 投稿日:2012年10月22日 (月)22時11分21秒
返信・引用

蘇我氏は小月氏国系

BC 2世紀、匈奴に攻撃され、小月氏国と大月氏国に分かれる。クシャン朝は大月氏の 有力5部族の一つが建国を果たした。小月氏国は中国西部に建国その後、蘇我氏に繋がると いう。

<http://blogs.yahoo.co.jp/manase8775/3450777.html>

蘇我氏は月氏族

<http://bewithgods.ddo.jp/hope/doc/4-5.html>

月氏

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%88%E6%B0%8F>

月氏は玉(ぎょく:ヒスイ)の産地(タリム盆地)を占めていたので、玉氏が訛って月氏に なったとする説。

飛鳥の都が、シリウスの聖方位を基に築かれているのは、ミトラス教、若しくはゾロアスター 教に拠ってしか説明できない。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを
3D デジタイズが革新する 口臭い対策2秒もいらない - www.w-direct.jp 主人の臭かった口臭も、便臭も今は... さて、たった1秒の口臭対策とは? しわを気にする女優の秘密 - 484364.com 歳をとっても全くしわのない女優さん 秘密は高級エステ?いえ、実は... 分譲一戸建て特集 - kodate.homes.co.jp 住環境の整った美しく閑静な街並みと 住宅街。こだわりの一戸建て特集 ドラマ"エアホステス"配信 - www.showtime.jp タイの人気ドラマを有料配信! 動画サイト ShowTime にまずは登録

Ads by Google ----- Re:蘇我との関係投稿者:管理人 投稿日:2012年10月22日(月)22時02分37秒 返信・引用 編集済

> No.834[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>> 『三国遺事』新羅始祖

>> 前漢地節元年壬子(古本云建虎元年。又云建元三年等。皆誤)三月朔。六部祖各率子弟、?會 於闕川岸上。議曰:我輩上無君主臨理蒸民、民皆放逸、自從所欲。蓋覓有德人、為之君主。立邦 設都乎。 >> 前漢の地節元年(前 69年)壬子[古本では建虎元年(25年)という。また建元三年 (前 138年)などともいうが、皆、誤りである]三月朔(一日)。六部の祖が各自子弟を率い て闕川の岸の上に集った。 > 會議で曰く「我々の上には蒸(多くの)民を統治できる君主がおらず、民どもは皆、放逸 (わがまま)で、自らの欲望に従っている。蓋(思うに)有徳の人を求めて、これを君主と為 し、邦を立て、都を建設しようではないか」。 >

この記載で、特に国のことを邦と記載しているところに注目です。

これは魏志韓伝でも秦韓人が、国を邦と呼んだ記載と一致してきます。要するに劉邦の関係 で漢代は邦の字を用いられなかったのですが、漢代以前に半島に先にわたってきた秦韓人はそ れにこだわらなかったとのことでしょう。

それが『三国遺事』新羅始祖 に見えるということは、この記載が魏志をもとにしたものではないならば、新羅以前の秦韓時代からの習俗を記載していた可能性が高くなります。

このころより、「村」とは別に「都」をたてる件を彼らは知っていたことになります。

紀元前 69年、六人の村長は各々の子弟を連れて闕川の岸辺に集まり、楊山村の蘇伐村長が 「我々には君主がいない。有徳の人を君主に立て、邦を開き、都を定めようではないか」と言い、

六村を合併して一国に統合する会議を開いた。

「楊山村の蘇伐村長」がおそらく6部の中心的人物・家柄だったのでしょう。「六部の祖」 三国遺事は、上記の前段に「辰韓には昔、六村があった」として説明文を記している。

六村 村長

六部

六姓

閼川の楊山村

謁平

及梁部 (後の中興部)

李氏の祖

突山の高墟村 蘇伐都利 沙梁部 鄭氏の祖 茂山の大樹村 ?(仇)禮馬 漸梁部・牟梁部(今は長福部) 孫氏の祖

觜山の珍支村

智伯虎

本彼部 (今は通仙部)

崔氏の祖

金山の加利村 祇沱(只他) 漢岐部・韓岐部(今は加徳部) 斐氏の祖

明恬山の高耶村 虎珍 習比部 (今は臨川部) 薛氏の祖 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinkan-siragi/siragi-sinwal-rasei.htm>

?(仇)禮馬という人名がきになりますね。やはり伝承自体をみていくと馬に関わるものがあるようです。

馬の伝承はやや後から入ってきた可能性を感じます。ペガサスみたいです。

雷光が天地を繋ぐように閃き、その光の下に一頭の白馬が何かに跪拝していた。その馬の前 到一个の卵があった。白馬は人々が近づいて来るのを見ると、長く嘶いて天上に駆け昇った。

治世 61年(西暦 4年)、赫居世王は昇天したが、その七日後、天から遺体がバラバラになって降ってきた。王妃も亡くなったので、人々は二人を合葬しようとしたが、大蛇がそれを妨害したので、仕方なく二人を別々に、王の五体もバラバラに葬った。そこで、王の墓を五陵、または蛇陵という。

この辺もキリストの昇天を思わせる記載で、新羅にローマ文化が入ったあとの伝承でしょう。

『三国遺事』新羅始祖になってはじめて馬の話がでてくるので、その成立年代を考慮する必要があります。会報第2号で記したとおり、2人を墓に葬る記載は、神功皇后にもありますし、墓穴伝承自体は聖徳太子関連伝承にもあります。

蘇我氏と馬関連の強い結びつきは、この辺の秦韓地域に、白馬伝承がはいってきた前後の影響を意味しているのではないのでしょうか。東欧系の金銀・ガラス装飾職人が新羅にはいてくるのが、おそらく5-6世紀ですから、それ以降に蘇我氏が渡来したのではないのでしょうか。

Ads by Google ----- Re:蘇我との関係投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年10月21日(日)22時46分39秒 返信 引用 編集済

> No.833[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 そろそろ、蘇我氏と卑弥呼の正体を明かしましょうか。

卑弥呼は日本に 20年程度居た。開花天皇の孫娘、鮮卑の皇女なんですか。卑弥呼は倭国を公孫康から奪還するため、崇神天皇、垂仁天皇、景行天皇、日本武尊を指揮した模様。最大の援軍は魏志倭人伝の陳寿、魏の司馬懿だろう。古事記に軍と共に天照大神を大和から各地に遷座して、新政権への従属をしいたと記している。伊勢神宮の天照大神が卑弥呼になる。卑弥呼は古田、安本説とは程遠いものですか。

蘇我氏はインド経由で倭国に来た匈奴。別名はフン族、ローマ帝国を崩壊させたフン族なん

ですな。フン族の 2 部族に別れる。1 部族は百済を建国している。1 部族が蘇我氏(倭の五 王)になる。 倭国のユーラシア統治方法は扶桑国、女国(女王国)の文章から理解できる。 フン族はユダヤと結び付き黙示録に搭乘している。そろそろ理解の限界でしょうな。

新羅の新羅始祖

『三国遺事』新羅始祖の文章を訳すと

前漢の地節元年(前 69 年)壬子に六部の祖が岸の上に集った。…時は流れた。 建安年間(196 年-220 年)君主が倭国から倭国に避難し、君主がいなくなった。 有徳の人を求めて、これを君主と為し、都を建設した。 君主は卑弥呼、卑弥弓呼の共立。

『三国志魏書』馬韓伝に韓国の国名がある。これが魏志倭人伝の曆韓国、狗耶韓国になる。 秦野距離から導きだした韓半島地図の倭国(邪馬台国)になる。

『三国遺事』新羅始祖

前漢地節元年壬子(古本云建虎元年。又云建元三年等。皆誤)三月朔。六部祖各率子弟、?會於 闕川岸上。議曰:我輩上無君主臨理蒸民、民皆放逸、自從所欲。蓋覓有徳人、為之君主。立邦設 都乎。

前漢の地節元年(前 69 年)壬子[古本では建虎元年(25 年)という。また建元三年(前 138 年)などともいうが、誤りである]三月朔(一日)。六部の祖が各自子弟を率いて闕 川の岸の上に集った。 會議で曰く「我々の上には蒸(多くの)民を統治できる君主がおらず、民どもは皆、放逸 (わがまま)で、自らの欲望に従っている。蓋(思うに)有徳の人を求めて、これを君主と為 し、邦を立て、都を建設しようではないか」。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinkan-siragi/siragi-sinwal-rasei.htm>

『三国志魏書』馬韓伝 桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、

遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

桓帝と靈帝の末(146 年-189 年)、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、 多くの民が韓国に流入した。

建安年間(196 年-220 年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張 敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

大和朝廷の成立とその勢力拡大と共に、丹波もその勢力下に入るが、当初はまだ土地の神々 や国津神々の信仰は、制限されない自治的な関係であった。しかしその国津神々の信仰も、 それまでの三輪王朝に代わり即位した崇神天皇以後、新たに大和政権の拡大を推し進めた 全国制覇に伴う、天津神々の丹波への降臨をもってその座をゆずる。古事記は、御肇国天皇 (はつくにしらしめすすめらみこと)とよばれた崇神天皇の御代に、軍と共に天照大神を大 和から各地に遷座して、新政権への従属をしいたと記している。丹波何鹿郡には、四道將軍の一人、彦座(うみざ)命の来臨、また丹波道主命の来臨があったといい、伊也神社にまつられているのを見る。こうして丹波は完全に大和朝廷の政権下に入る。

<http://www.nbcayabe.com/kaiki/kunitukami.htm>

----- Re:蘇我との関係投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 10 月 20 日(土)23 時 15 分 7 秒 返信・引 用

> No.832[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 蘇我氏は蘇我「われよみがえる」に総ての意味がある。故郷の倭国に帰ったのですな。 >> そ【蘇】古代インド、「紫蘇」ヒマラヤやビルマが祖のようだ。蘇我氏はインド経由で韓半島 南部の倭国に入った模様。

>> 蘇【蘇】 古代インド > 古代に作られていた乳製品の種類。酥とも書かれる。《政事要略》には、文武天皇 4 年 (700)10 月に蘇を作らせたという記事があり、これが文献上最古の記録と思われる。奈良時代になると平城宮址出土の木簡に〈近江国生蘇三合〉と見え、《正倉院文書》には周防国や但馬国で蘇を作っていたようすがうかがわれる。平安時代になると、大宰府のほか 46 カ国を 6 区分して、毎年順番に蘇を貢進させたことが《延喜式》に見え、これらから、奈良・平安期 にはほぼ全国的に蘇が生産され貢進されていたことがうかがえる。 >>

蘇我の発音ですが、確かにそうすると白鳳時代には、「蘇」に対して、福次的な意味を理解していたと思われますね。

蘇我氏自身も、蘇の意味を、上記のような蘇りや乳製品 意味だと理解していたことでしょう 物部・大伴などに比して、意味がよく理解できないタイプの氏姓です。ワニ氏を思い出しま すね。

なにかその蘇我の語を継承しなければならない理由があったのではないのでしょうか。たとえば先の王号とか国名とかです。

蘇我の語源と先に考えた徐那伐(ソラボル)については、やはり新羅(しらぎ)へ変化し たようです。

六部の村長たちは朴赫居世が 13 歳になったときに、彼を君主に据え、国号を徐那伐(ソラ ボル)と決めました。この徐那伐が後に新羅と呼ばれるようになりました。 <http://www.pusannavi.com/miru/1098/>

那=羅(国の意味)の変換があったもようです。

ちなみに新羅の始祖王、赫居世は都を徐那伐に定め居世干と号しましたが、「伐」は「野 」の意味で固有名詞は「徐那」です。また「干」はミマナの首長の「干」ですから、諸干国の 任那の周縁 に居世干の徐那ができたことが、干と那の字から読みとれます。 <http://www.mekong.ne.jp/column/eguchi/eguchi63.html>

伐(ば)は野の意味で、ば→ぎ・が の変換があったと推測できます。

新羅は〈三国志〉に見られる“斯盧(サロ)”と〈三国史記〉〈三国遺事〉などに見られる“徐伐(ソ ボル)”“徐那伐(ソラボル)”から始まり慶州地方を中心に発達した小部族国家の一つで あっ た。 当時の慶州地方では6つの部族が一団の様に集まって暮らしていた。

秦韓人にとっては、徐伐(そば)が最重要な固有名詞だったのでしょう。 そして秦韓亡きあとも、その流民がそれを受けつぐ必要があったのかもしれませんが。

----- Re:蘇我との関係投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 10 月 19 日(金)21 時 15 分 29 秒 返 信引用

> No.831[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

蘇我氏は蘇我「われよみがえる」に総ての意味がある。故郷の倭国に帰ったのですな。

そ【蘇】古代インド、「紫蘇」ヒマラヤやビルマが祖のようだ。蘇我氏はインド経由で韓半島南部の倭国に入った模様。

そ【蘇】 古代インド 古代に作られていた乳製品の種類。酥とも書かれる。《政事要略》には、文武天皇 4 年 (700)10 月に蘇を作らせたという記事があり、これが文献上最古の記録と思われる。奈良時代にな ると平城宮址出土の木簡に〈近江国生蘇三合〉と見え、《正倉院文書》には周防国や但馬国で 蘇を作っていたようすがうかがわれる。平安時代になると、大宰府のほか 46 カ国を 6 区分 して、毎年順番に蘇を貢進させたことが《延喜式》に見え、これらから、奈良・平安期にはほ ぼ全国的に蘇が生産され貢進されていたことがうかがえる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%98%87>

そ 【×蘇】 [人名用漢字] [音]ソ(漢) ス(呉) [訓]よみがえる 1 生きかえる。よみがえる。「蘇生」
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%98%87%E7%94%9F> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%83%BC%E3%82%BA>

2 草の名。シソ。「紫蘇」ヒマラヤやビルマ

http://www.google.co.jp/search?sourceid=navclient&hl=ja&ie=UTF-8&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&q=%e7%b4%ab%e8%98%87

[名のり]いき

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%84%E3%81%8D>

> 蘇我 高麗(そが の こま)は古墳時代の豪族。蘇我韓子の子。蘇我稲目の父[1]。本名は蘇 我 馬背。母は、高麗毘賣(こまひめ)[2]。母が高麗(高句麗)人だったので、高麗と呼ばれた とする説がある。業績はいっさい不明で『古事記』『日本書紀』にも登場しな

----- Re:蘇我との関係投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 10 月 19 日(金)01 時 54 分 33 秒 返信・ 引用

> No.830[元記事へ] さきの蘇我氏についてですが、新羅の始祖伝承に、蘇伐という氏族の名が見えます。それでこ

の始祖伝承は実は 5 世紀当時の新羅伝承なのだろうとも感じる。

楊山の麓の蘿井(慶州市塔里に比定される)の林で、馬が跪いて嘶いていることに気がついた高墟村の長の蘇伐都利(ソボルトリ)がその場所に行くと、馬が消えてあとには大きい卵 があった。その卵を割ると中から男の子が出てきたので、村長たちはこれを育てた。10 歳を 過ぎるころには人となりが優れていたもので、出生が神がかりでもあったために 6 村の長は彼 を推戴して王とした。このとき赫居世は 13 歳であり、前漢の五鳳元年(前 57 年)のことと いう。即位するとともに居西干と名乗り、国号を徐那伐(ソナボル)といった。

蘇我馬子という名も、この蘇伐都利にまつわる馬の伝承に関係していたのではないでしょう か。そして蘇伐が徐那伐(ソナボル)となった可能性があります。

あと、蘇伐刺拏瞿咀羅というチベットの女国の伝承がありますので、中国史書の記載方式に、 蘇・伐の語があったのでしょうか。

蘇伐都利については、都利の発音で鞍作 止利がいます。

仏師の司馬 達等の息子です。この司馬 達等は、鞍部村主として新漢人なのですが、氏姓が職 業名で、ほかに中国姓をもっていたことになります。それは、魏・晋代の司馬氏に達を名前に つける習俗があったことからわかります。

後に蘇我氏が、鞍作等の僧侶と深くかかわってきて、入鹿は鞍作と呼ばれるのですが、おそらくは元々同族だったのではないのでしょうか。下記の記載をみてみましょう。

《雄略天皇七年 是歲》由是、天皇詔大伴大連室屋。命東漢直掬。以新漢陶 部高貴。鞍部堅貴。画 部因斯羅我。錦部定安那錦。訳語卯安那等、遷居于上桃原。下桃原。真神原三所。く 或本云。 吉備臣弟君還自百濟。献漢手人部。衣縫部。穴人部。 〉

東漢直掬に命じて、新漢である陶部高貴・鞍部堅貴(クラツクリケンキ)・画部因斯羅我・ 錦部定安那錦・訳語卯安那らを、上桃原・下桃原・真神原の三ヶ所に移し侍らせた。」

特に鞍部堅貴とともに記された画部因斯羅我ですが、次の錦部定安那錦・訳語卯安那に「安 那」というカヤ諸国の国名が記されている点に注意すると、ス羅我も新羅(しらぎ)と関係 してくるだろうことが予想できます。徐那伐(ソナボル)が新羅の国号となったとありますが、羅=那の変換を考慮すると、よく理解できるようになるでしょう。

おそらく「そなば」「しらが」といった国が新羅の前身としてあり、これが「そが」の語源となっ た可能性を感じます。

古代日本で、なぜ新羅(しんら)と書いて、「しらぎ」と読ませたのかが、上記の理由で理解で きるようになるでしょう。

ここでひとつ問題となるのが、先の新漢人等が、新羅ではなく百濟からつれて来られた件な のですが、下記の点に注目すべきでしょう。

三国史記では法興王の時代 521 年に中国南朝の梁に使を遣わした新羅王は、姓は募、名は秦 と伝えられる。564 年に北齊の鄴に使を遣わした新羅王は金真興であった。募という姓は慕 韓とも書かれる馬韓のことで、新羅王家が百済系だという「隋東藩風俗記」の伝承が史実であることを示している[要出典]。新羅は 532 年に金官国の王である金仇亥を降し、536 年に初めて 国号を立て建元元年とし、545 年には初めての国史を編纂、554 年には百済の聖王を管山の 戦いで殺し、562 年に加耶国を征服して任那を完全に併合した。その 2 年後の 564 年に金真興 (真興王、チヌン王)が現れるので、金姓は金官国の王家の姓を百済との絶縁の象徴として採用され、金氏の系図もこの頃造られたものであろう[要出典]。

つまり、530 年代までは、魏志の秦韓の制度のとおり、馬韓(百済)から王をいただいていたので、馬韓系の姓を持っていたと考えます。そして名を秦といったのは、秦韓をそのまま意味していたのでしょう。

おそらく欽明朝に諸氏族を呼び寄せた秦氏とも関係してきます。徐那伐(ソナボル)は、その秦韓時代の国号だったのではないのでしょうか。だから蘇我氏は秦氏を配下においていたのかもしれませんが。

彼らの本拠は宇佐や豊浦・下関あたりの本拠があり、秦王国と呼ばれていた地域です。

530 年代にカヤが滅ぶ際に、一緒にやってきた元新羅地域の王族、それが蘇我氏ではなかったかと感じます。

先の記載で興味深いのは、吉備臣と東漢氏とが入れ替わっている件です。先の吉備は甘韓牟 狹の名のとおり、半島系と深くつながっていました。吉備の児島屯倉は後代まで蘇我氏が関わっています。

その後、的戸田氏や平群氏が、半島から引き上げる際につれてきたのは新漢人なのですが、かれらは新羅に東欧系の金銀・ガラス装飾技術をもたらし、また甲冑の製造技術などももたらしているのですが、一方では滋賀・越方面に展開した大彦系の阿部・膳氏等の配下にはいり、

継体朝擁立の基礎となり、また九州・吉備方面に残ったものが、大伴・東漢氏の配下に入り 後の欽明朝の擁立にかかわっていったのでしょう。後に奈良へ入ってくる前後で、彼らの統括者として蘇我氏がでてくるという流れが見えてきます。そこには新羅系の吉士集団も同様にかかわってくることになります。

----- Re:蘇我との関係投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 10 月 18 日(木)23 時 24 分 41 秒 返信 引用

> No.829[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 棘の紀氏さんへのお返事です。 >
- > 行き成り。蘇我氏は、百済の王族か貴族の末裔ではないかという有力な説がだされている。
- > ユダヤ系朝鮮人。これは乱暴ですな。 >
- > http://www.ican.zaq.ne.jp/rekishi/national_history10.html >
- > 倭の五王(わのごおう)とは、413 年 - 478 年の間に少なくとも 9 回は朝貢している。
- > 南朝の東晋や宋に朝貢して「倭国王」などに冊封された倭国の五人の王、すなわち讃、珍、済、興、武をいう。 >
- > 『隋書』倭国伝の本文に倭国の文字がある。文章を読むと… >
- > 倭国と倭国の存在が浮かび上がる。安康天皇…は倭国に属すのでは…。 >
- > 倭国王:用明天皇
- > 姓:阿每(天)、字:多利思比孤(照彦)姓=天照彦(アマテラス ヒコ) >
- > 倭国王:讃、珍、済、興、武 >
- > 地図を添付しますが…地図は少し雑ですな。 >

> 大業三年、其王多利思比孤遣使朝貢。使者曰:「聞海西菩薩天子重興佛法、故遣朝拜、兼沙門 數十人來學佛法。」其國書曰「日出處天子致書日沒處天子無恙」云云。帝覽之不悅、謂鴻臚卿 曰:「蠻夷書有無禮者、勿復以聞。」 >

> 大業三年(607 年)、その王の多利思比孤が遣使を以て朝貢。 > 使者が曰く「海西の菩薩天子、重ねて仏法を興すと聞。 > その国書に曰く「日出ずる處の天子、書を日没する處の天子に致す。恙なきや」云々。帝は これを見て悦ばず。鴻臚卿が曰く「蛮夷の書に無礼あり。再 >
<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm> >

蘇我氏の件ですが、すでに指摘されていますが、母の出自を子につける習慣がみえますね。 蘇我

蘇我 高麗(そが の こま)は古墳時代の豪族。蘇我韓子の子。蘇我稲目の父[1]。本名は蘇我 馬背。母は、高麗毘賣(こまひめ)[2]。母が高麗(高句麗)人だったので、高麗と呼ばれたと する説がある。業績はいっさい不明で『古事記』『日本書紀』にも登場しない。

蘇我 韓子(そがの からこ、生年未詳 - 465 年 5 月)は、古墳時代の豪族。蘇我満智の子で、妻 は高麗毘賣、子に蘇我高麗、弟名子媛がいる。「韓子」であるが男性である(当時は「子」が男 女問わずに用いられた)。母は、満智の妻、「韓兄比賣」または「韓弟比賣」である。「韓子」は母 が韓人である子の通称名[1]である。

さらに細かくみると、兄、弟を女性名詞につける習慣も見えます。

また小・大の区別もつける。小姉君、大兄皇子(用明)

蘇我稲目(そが の いなめ、武烈天皇 8 年(506 年)頃 - 欽明天皇 32 年 3 月 1 日(570 年 3 月 22 日))は、古墳時代の豪族。蘇我高麗の子、蘇我馬子ら 4 男 3 女の父。娘 3 人を天皇に嫁が せた(馬子が葛城県を本居としているため、稲目の妻は葛城氏の出と推測される)。 宣化天皇元年(536 年)大臣となる。同年、天皇の命により凶作に備えるため尾張国の屯倉 の粳を都に運んだ。欽明天皇元年(540 年)欽明天皇が即位すると引き続き大臣となり、娘 の堅塩媛と小姉君を天皇の妃とした。堅塩媛は七男六女を産み、そのうち大兄皇子(用明天 皇)と炊屋姫(推古天皇)が即位している。小姉君は四男一女を産み、そのうち泊瀬部皇子 (崇峻天皇)が即位している。

馬子と馬背(高麗)には、馬を特に重視してつけてますが、馬子を韓子の理論で、馬国出身の 母の子と解釈するとどうなるでしょうか。

孫の入鹿は鞍作の別名をもちますね。これも馬に関わる。

入鹿の父・蝦夷は、豊浦大臣の別名をもちますが、先日注目した田目皇子が豊浦皇子の名を 持ちます。

用明天皇の死後、用明妃で義母の穴穂部間人皇女と結婚してます。 豊浦というのは、下関で仲哀天皇が忌宮神社|穴門豊浦宮をおいた場所となっていますね。 厩戸皇子の馬関連も気になるところです。 馬屋、炊屋、といった建物名も名前につける習慣があります。

ただその時代の風潮もあるので、蘇我氏特有なものとはいえないですし、後代の筆者による 視点もありますから、なんともいえない感じですが、もう少し整理してその特徴を見いだせ ないでしょうか。

----- Re:蘇我との関係投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 10 月 18 日(木)08 時 54 分 41 秒 返 信・引用

> No.827[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

行き成り。蘇我氏は、百済の王族か貴族の末裔ではないかという有力な説がだされている。 ユダヤ系朝鮮人。これは乱暴ですな。

http://www.ican.zaq.ne.jp/rekishi/national_history10.html

倭の五王(わのごおう)とは、413 年 - 478 年の間に少なくとも 9 回は朝貢している。 南朝の東晋や宋に朝貢して「倭国王」などに冊封された倭国の五人の王、すなわち讃、珍、済、 興、武をいう。

『隋書』倭国伝の本文に倭国の文字がある。文章を読むと… 倭国と倭国の存在が浮かび上がる。安康天皇…は倭国に属すのでは…。

倭国王:用明天皇 姓:阿毎(天)、字:多利思比孤(照彦)姓=天照彦(アマテラス ヒコ)

倭国王:讃、珍、済、興、武

地図を添付しますが…地図は少し雑ですな。

大業三年、其王多利思比孤遣使朝貢。使者曰:「聞海西菩薩天子重興佛法、故遣朝拜、兼沙門 數十人來學佛法。」其國書曰「日出處天子致書日沒處天子無恙」云云。帝覽之不悅、謂鴻臚卿 曰:「蠻夷書有無禮者、勿復以聞。」

大業三年(607 年)、その王の多利思比孤が遣使を以て朝貢。 使者が曰く「海西の菩薩天子、重ねて仏法を興すと聞き、故に遣わして朝拝させ、兼ねて沙 門数十人を仏法の修学に來させた」。 その国書に曰く「日出ずる處の天子、書を日没する處の天子に致す。恙なきや」云々。帝はこ れを見て悦ばず。鴻臚卿が曰く「蛮夷の書に無礼あり。再び聞くことなかれ」と。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

安康天皇(あんこうてんのう、履中天皇 2 年(401 年)? - 安康天皇 3 年 8 月 9 日(456 年 9 月 24 日))は、第 20 代天皇(在位:允恭天皇 42 年 12 月 14 日(454 年 1 月 28 日) - 安康天皇 3 年 8 月 9 日(456 年 9 月 24 日))。穴穗天皇・穴穗皇子(あなほのみこ)。中国の『宋 書』、『梁書』に記される「倭の五王」中の倭王興に比定されている

允恭天皇(いんぎょうてんのう、仁徳天皇 64 年(376 年)? - 允恭天皇 42 年 1 月 14 日(453 年 2 月 8 日))は、第 19 代天皇(在位:允恭天皇元年(412 年)12 月 - 同 42 年(453 年)1 月 14 日)。雄朝津間稚子宿禰尊(おあさづまわくごのすくねのみこと)、男浅津間若子宿禰

王(古事記)。中国の歴史書『宋書』、『梁書』に記される倭の五王中の倭王済に比定されている。

雄略天皇(ゆうりゃくてんのう、允恭天皇 7 年(418 年)12 月 - 雄略天皇 23 年 8 月 7 日 (479 年 9 月 8 日))は、第 21 代天皇(在位:安康天皇 3 年 11 月 13 日(456 年 12 月 25 日) - 雄略天皇 23 年 8 月 7 日(479 年 9 月 8 日))。大泊瀬幼武尊(おおはつせわかたける のみこと)、大長谷若建命、大長谷王(古事記)、大悪天皇、有徳天皇とも。

武烈天皇(ぶれつてんのう、仁賢天皇 2 年(489 年) - 武烈天皇 8 年 12 月 8 日(507 年 1 月 7 日))は、古墳時代の第 25 代天皇(在位:仁賢天皇 11 年(498 年)12 月 - 武烈天皇 8 年 12 月 8 日(507 年 1 月 7 日))。 名は小泊瀬稚鷯尊(おはつせのわかさざきのみこと)・小 泊瀬稚鷯天皇(-のすめらみこと、以上『日本書紀』)、小長谷若雀命(『古事記』)。実在した人物かどうかについては議論がある。

----- Re:蘇我との関係投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 10 月 17 日(水)23 時 14 分 32 秒 返信・ 引用

> No.827[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

> 蘇我入鹿は木貴の後裔 > 蘇我入鹿は林太郎鞍作で、林氏は百済国人、木貴の後裔であると所伝される。蘇我の祖は百 済文周王の時代(475 年)に倭国に來た木羅斤資將軍(モクラコンシ)である。木羅斤資は 父は百済高官、母は新羅人だった。高句麗に攻められて危機に瀕したため新羅に援軍を求め 文周王ともに、木羅斤資將軍は新羅に行った。その後、新羅から南に行ったきり、しばらく戻 らなかった。百済將軍が日本に來た理由は密命をもって來た可能性はあるが、倭国の援軍を 引き連れて帰還したのだろう。三国史記では、「南に行けり」といった短い記載のされかたし かない。その木羅斤資が木満致(き・まち)である。木満致(き・まち)の娘が仁徳天皇の 妃となり、「葛城」の姓を賜った。蘇我氏は百済の木氏で、日本で葛城氏となり、後に蘇我氏に 分かれたのである。7 代の馬子の時に最大の実権を握った。

わたしもいろいろ調べてみましたが、確かに、蘇我氏とこの木羅斤資の関係を検証する必要 がありそうです。下記は関連資料です。

始祖・襲津彦の伝承 [編集]『紀氏家牒』によれば、襲津彦は「大倭国葛城県長柄里(ながらのさと。現在の御所市名柄)」

に居住したといい、この地と周辺が彼の本拠であったと思われる。 襲津彦の伝承は、『日本書紀』の神功皇后摂

政紀・応神天皇紀・仁徳天皇紀に記される。何れも将軍・使人として朝鮮半島に派遣された内容であるが、中でも特に留意されるのは、襲津彦の新羅征討を記す神功皇后摂政 62 年条であろう。本文はわずかだが、その分注には『百済記』を引用し、壬午年に新羅征討に遣わされた「沙至比跪(さちひく)」なる人物が美女に心を奪われ、誤って加羅を滅ぼすという逸話が紹介される。従来、この「沙至比跪」と襲津彦を同一人とし、『書紀』紀年を修正して干支 2 連繰り下げて、壬午年を 382 年と解釈すると、襲津彦は 4 世紀末に実在した人物であり、朝鮮から俘虜を連れ帰った武将として伝承化されている可能性などが指摘されてきた[3]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/葛城氏>

木羅斤資 『日本書紀』によれば、応神天皇 25 年(294 年→414 年)に即位。王が若かったので木羅斤資

(もくらこんし)の子木満致(もくまんち)が国政を行ったとある。この木満致を蘇我氏の祖先蘇我満智とする説があるが、類推の域を出ない。また、木羅斤資を百済の将とするが、倭国が派遣した将軍(倭人)とも任那系とも考えられ不明な点が多い。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/久尔辛王>

蘇我満智

(そがの まち、男性)は、古墳時代の豪族。蘇我石川宿禰の子で、武内宿禰の孫にあたる。蘇我韓子の父、蘇我稲目の曾祖父。名は麻智、満知とも。蘇我満智宿禰。履中天皇 2 年、平群木菟宿禰や円大使主とともに執政官となる。『古語拾遺』によれば、雄略天皇代、増大する諸国からの貢物に対応すべく、新たに大蔵が興され、麻智が三蔵(斎蔵・内蔵・大蔵)を管理したという(三蔵検校)。この伝承は、蘇我氏が 5 世紀後半すでに朝廷財政を統括していた史実を伝えている可能性があるが、三蔵のうち斎蔵は実在せず、百済に倣ってクラが内蔵と大蔵に分割される時期は 6 世紀末より遡らないと考えられている。なお、満智を百済の権臣木満致に同一人とし、蘇我氏を百済系渡来人と見る説がある。また、実在を疑う説もある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/蘇我満智>

木満致

日本書紀 卷第十 応神天皇

二十五年(294 年)百済の直支王が薨じた。その子の久爾辛が王となった。王は年が若かったので、木満致が国政を執った。王の母と通じて無礼が多かった。天皇はこれを聞いておよびになった。

——百済記によると、木満致は木羅斤資が新羅を討ったときに、その国の女を娶って生んだところである。その父の功を以て、任那を専らにした。我が国(百済)にきて日本と往き来した。職制を賜わり、わが国の政をとった。権勢盛んであったが、天皇はそのよからぬことを聞いて呼ばれたのである。

http://d.hatena.ne.jp/sasaki_makoto/20100221

----- 蘇我との関係投稿者:棘の紀氏 投稿

日:2012 年 10 月 16 日(火)10 時 17 分 3 秒 返信・引用

蘇我入鹿は木貴の後裔 蘇我入鹿は林太郎鞍作で、林氏は百済国人、木貴の後裔であると所伝される。蘇我の祖は百済 文周王の時代(475 年)に倭国に来た木羅斤資将軍(モクラコンシ)である。木羅斤資は父は百済高官、母は新羅人だった。高句麗に攻められて危機に瀕したため新羅に援軍を求め文周王ともに、木羅斤資将軍は新羅に行った。その後、新羅から南に行ったきり、しばらく戻らなかった。百済将軍が日本に来た理由は密命をもって来た可能性はあるが、倭国の援軍を引き連れて帰還したのだろう。三国史記では、「南に行けり」といった短い記載のされかたしかない。その木羅斤資が木満致(き・まち)である。木満致(き・まち)の娘が仁徳天皇の妃となり、「葛城」の姓を賜った。蘇我氏は百済の木氏で、日本で葛城氏となり、後に蘇我氏に分かれたのである。7 代の馬子の時に最大の実権を握った。 http://hwbb.gyao.ne.jp/akione-pg/Japanese/9_J.html

津国諸蛮には為奈部首 百済人木貴之後也、また摂津国未定雑姓に 為奈部首 伊香 我色乎命 六世孫金連之後也 とある。<http://kamnavi.jp/mn/osaka/inatsu.htm> 吉備津彦、阿蘇津彦など、地名を負ったヒコというのは、原始的な姓であって三世紀から五世紀にかけて、そのあたりの首長に与えられた一種の称号として用いられ、これを称した豪族たちは、のちに国造や県主などの長官の官職についたものも多かった。猪名県が成立したとき、その首長である県主には為那都比古の後裔にあたるものが任ぜられ、彼らは氏族の祖 神

として代々お祀りをしてきたのである。 *1 日本の神々 3 為那都比古神社(松下煌)白水社

百済の高官、木満致(もくまち)と蘇我満智(まち)が同一人物とする説

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%98%87%E6%88%91%E6%B0%8F> 鈴木靖民や山尾幸久らの支持[2]を得た一方、加藤謙吉や坂本義種らが批判[3]したように、史料上の問題点が多い。根拠が不十分であり、現在では支持する研究者は少ない

蘇我氏は、百済の王族か貴族の末裔ではないかという有力な説がだされている。同族である朝鮮半島からきた渡来人の統率者として認められたのではないかと。

http://www.ican.zaq.ne.jp/rekishi/national_history10.html 蘇我氏は、秦氏や文筆を得意とした渡来人の管理を一手に引き受けていることから、蘇我氏は、百済の王族か貴族の末裔ではないかという有力な説がだされている。同族である朝鮮半島からきた渡来人の統率者として認められたのではないかと。古神道家の浅見宗平は、ユダヤ系朝鮮人であると断言している。百済や高句麗の王家は、朝鮮系の民を征服した騎馬民族扶余で在ることが分かっている。古代ユダヤ王国が滅亡して騎馬民族と同化してユダヤ人がシルクロードの東の果ての朝鮮半島の支配者となったのではないかと。そうすると、ユダヤ人は、渡来人として日本にも渡ってきていることになる。百済王より贈られた「七支刀」とユダヤの

「メノラー(七枝燭台)」との類似性が指摘されている。どちらも枝が七つある。「メノラー」は、天地創造が七日で行われたとされる創世記の物語を象徴している「一つの台から七つの枝が出ている燭台(ろうそくを立てる台)」でユダヤ教のシンボルとなっている。蘇我氏に話を戻すと確かに、日本書紀にも、百済人として満智という名がいくつか出てくるので、百済系の名前であることがわかる。さらに、蘇我家七代の系図を順番にならべると、満智-韓子-高麗-稲目-馬子-蝦夷-入鹿となり、母が渡来人の場合に使われていた韓子や朝鮮半島出身を暗示する高麗という名前がつづく。あるいは、百済・新羅・高句麗に対応する名前を後世創作したのではないかととも言われている。

の五王投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年10月16日(火)06時16分21秒 返信・引用編集 済

相愛関係が総て蘇我との関係と見られる。血族関係で何かあった模様。ここから【新漢人】、渡来人の議論になります。

いまきのあやひと【新漢人】 古代帰化人の中の一部の称。〈いまき〉は新参の意で今来とも書く。古代に中国系と称して渡来した人々は一般に漢人(あやひと)と呼ばれたが、そのほとんどが朝鮮半島に居住していたものだった。その中で5世紀後半のころまでのものはおもに漢・魏を源流とする古い楽浪文化を伝え、大陸の学芸・技術をもって朝廷に仕える各種の専門職の小氏となり、その多くは雄略朝のころに東漢(やまとのあや)氏を伴造(とものみやつこ)とする一つの指揮系統の下に組織化された。

倭の五王

倭の五王(わのごおう)とは、413年 - 478年の間に少なくとも9回は朝貢している。南朝の東晋や宋に朝貢して「倭国王」などに冊封された倭国の五人の王、すなわち讃、珍、済、興、武をいう。朝貢の主な目的は、いずれも朝鮮半島での倭国の軍事行動権や経済的利益の国際的承認にあったとされる。

蘇我稲目(そがのいなめ、武烈天皇8年(506年)頃 - 欽明天皇32年3月1日(570年3月22日))は、古墳時代の豪族。蘇我高麗の子、蘇我馬子ら4男3女の父。娘3人を天皇に嫁がせた(馬子が葛城県を本居としているため、稲目の妻は葛城氏の出と推測される)。

Ads by Google ----- Re:能の桜川投稿者:管理人
投稿日:2012年10月15日(月)23時40分46秒 返信・引用 編集済

> No.824[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

間人皇女が夫の息子となる天智と相愛関係にあったという話は重要です。

前に、孝元妃のイカガシコメが、時代の開化天皇にも嫁いだことについて略奪によるものと推定した経緯があ

りました。

しばしば歴史的な事例で前王朝の王の妃を略奪するケースがあるのですが、その理論でいくと、たとえば、先の穴穂部間人も、義理の息子となる田目皇子と再婚してますね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/田目皇子>

宝皇女つまり斉明は、新漢人とつながりが深いとみられる高向王から、孝徳と再婚してます。

その流れでいくと、間人と天智の関係はただの相思相愛だったのか?という疑問がわいてきますね。

> 間人皇女は難問ですな。 >> 間人皇女と天智天皇は仲が良かったのですな。地名で間人「たいざ」天智天皇、和風諡号は 天命開別尊で韓半島の命。間人の位置は古代の韓半島航路:筑紫航路で、舞鶴港になる。間人 を「たいざ」と読むのは韓半島と間人が「対座」しているか。まさか、船で膝を突き合わせの「対 座」でしょうか。 > 天智天皇(てんちてんのう) > 第 38 代天皇。和風諡号は天命開別尊(あめみことひらかすわけのみこと / あまつみことさ きわけのみこと)。

> 間人皇女は軽皇子(孝徳天皇)の皇后となる。しかし、中大兄皇子「天智天皇」と間人皇女 とは相愛の仲であった。 >>

Ads by Google

----- Re:能の桜川投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 10 月 15 日(月)20 時 16 分 47 秒 返信・引用 編集済

> No.823[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 間人皇女は難問ですな。

間人皇女と天智天皇は仲が良かったのですな。地名で間人「たいざ」天智天皇、和風諡号は天

命開別尊で韓半島の命。間人の位置は古代の韓半島航路:筑紫航路で、舞鶴港になる。間人 を 「たいざ」と読むのは韓半島と間人が「対座」しているか。まさか、船で膝を突き合わせの「対

座」でしょうか。 因みに、韓半島航路は舞鶴港から出雲、関門海峡、宮崎、奄美、済州島、筑紫、釜山になる。筑紫 航路は天智天皇の白村江から筑紫の朝倉宮に基づく。尚、航路は、舞鶴港の日本海ルート、堺 の瀬戸内海ルート、土佐の高知ルートが考えられますな。 韓半島と蘇我稲目、聖徳太子の糸口が出て来ましたな。

「間人」地名 京都府京丹後市(旧丹後町)にある「間人(たいざ)」という地名は、穴穂部間人皇女に因 むものと伝えられている。穴穂部間人皇女は蘇我氏と物部氏との争乱を避けて丹後に身を寄せ、宮に戻る際に自分の名を贈ったが、人々は「皇后の御名をそのまま呼びするのは畏れ多い」として、皇后が(その地を)退座したことに因み「たいざ」と読むことにしたという。ただし、『日本書紀』『古事記』などの文献資料には穴穂部間人皇女が丹後国に避難したとの記述はない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A9%B4%E7%A9%82%E9%83%A8%E9%96%93%E4%BA%BA%E7%9A%87%E5%A5%B3>

韓半島の暦韓国。歴史の痕跡ですな。

天皇、香具山に登りて望国(くにみ)したまふ時の御製歌 大和(やまと)には 群山(むらやま)あれど とりよろふ 天(あめ)の香具山 登り立ち 国 見をすれば 国原(くにはら)は 煙(けぶり)立ち立つ 海原(うなはら)は 鷗(かまめ)立ち 立つ 美(うま)し国ぞ 蜻蛉島(あきつしま) 大和(やまと)の国は(万 1-2)

<http://www.asahi-net.or.jp/~sg2h-ymst/yamatouta/sennin/jomei.html> 万葉集(舒明天皇)は韓半島南部、暦韓国(群山(クンサン)、別名は錦江(きんこう、クムガ

ン:白村江)

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8C%A6%E6%B1%9F_\(%E9%9F%93%E5%9B%BD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8C%A6%E6%B1%9F_(%E9%9F%93%E5%9B%BD))

天智天皇(てんちてんのう) 第 38 代天皇。和風諡号は天命開別尊(あめみことひらかすわけのみこと / あまつみことさ きわけのみこと)。

大伯皇女 斉明 7 年(661)、前年に新羅によって滅ぼされた百済の遺臣を救援するため、時の斉明天皇や 中

大兄皇子(皇太子。斉明の息子。後の天智天皇)は九州へ向け出陣していました。そして大伯の父である大海人皇子(中大兄の弟。後の天武天皇)と母の大田皇女(中大兄の娘)もまた従軍していました。大伯皇女はその陣中で生まれたのです。 <http://funabenkei.daa.jp/yononaka/ohku/661.html>

舒明天皇 諱は田村(たむら)。和風諡号は息長足日広額天皇(おきながたらしひひろぬかのすめらみこと)。

茅渟王(ちぬのおおきみ・ちぬのみこ、生没年不詳)は、6世紀後半から7世紀にかけての日本の皇族(王族)。押坂彦人大兄皇子(敏達天皇の皇子)の王子で、母は漢王の妹・大倭王(おおまたのみこ)。舒明天皇の異母兄に当たる。桜井皇子(欽明天皇の皇子)の女・吉備姫王(吉備島皇祖母命)を妃とし、宝女王(皇極天皇・斉明天皇)と軽王(孝徳天皇)を儲けた。茅渟皇子、智奴王とも。

舒明天皇は皇后宝皇女との間に葛城皇子(中大兄(なかのおおえ)皇子、後の天智天皇)、間人(はしひと)皇女、大海人(おおあま)皇子(後の天武天皇)の三人の子を儲けた。

孝徳天皇:和風諡号は天万豊日天皇(あめよろずとよひのすめらみこと)。
諱は軽(かる)

茅渟王は舒明天皇の異母兄に当たる。吉備姫王(吉備島皇祖母命)を妃とし、宝女王(皇極天皇・斉明天皇)と軽王(孝徳天皇)を儲けた。

舒明天皇は皇后宝皇女との間に葛城皇子(天智天皇)、間人皇女、大海人(天武天皇)の三人の子を儲けた。

間人皇女は軽皇子(孝徳天皇)の皇后となる。しかし、中大兄皇子「天智天皇」と間人皇女とは相愛の仲であった。

----- Re:能の桜川投稿者:管理人 投稿日:2012
年 10 月 13 日(土)21 時 38 分 21 秒 返信・引用

> No.822[元記事へ]

> 管理人さんへのお返事です。 >> 滋賀の新漢人は天智天皇時代のものですな。桜川で九州が現在の九州と韓半島南部を含むことを述べました。日本神話にある大八島国の筑紫島(つくしのしま)が九州の5島が済州島にあたり、筑紫島の4国名が白日別(しらひわけ)、豊日別(とよひわけ)、建日向日豊久土比泥別(たけひむかひとよじひねわけ)、建日別(たけひわけ)になり総紀後半の天智天皇が営んだ宮。近江大津宮(おうみのおおつのみや)、大津宮(おおつのみや)とも呼称される。滋賀県大津市錦織の遺跡が近江大津宮の跡とされている。なお、本来の表記は水海大津宮(おうみのおおつのみや)であったという指摘がある。

どうも間人皇女を考える必要がありそうですね。

乙巳の変(645年6月)により皇極天皇が譲位し、軽皇子(孝徳天皇)が即位する。間人皇女はそれに伴い皇后となり、葛城皇子(中大兄皇子、後の天智天皇)を皇太子とし、大化の年号が採用された。

『万葉集』に「中皇命(「なかつすめらみこと」の訓が一般的)」とある人物が間人皇女のことを指すのではないかとする説が荷田春満以来あり、土屋文明などによって広く支持されている

る。さらに「中皇命」の号をもって、母・斉明の崩後に葛城皇子が即位する環境が整うまでの中継ぎとして一時的に皇位に就いていたとする説が押部佳周・小林敏男らによって展開されているが、『万葉集』の註には斉明天皇作との旨が記されているなどの異伝も見られ、必ずしも確証があるわけではない。斉明天皇を中皇命とする説も沢瀉久孝をはじめすくなくない。なお、中皇命については中大兄そのひとを指すのではないかとする東野治之や大平聡らの説も近年提出されている。

天智天皇 4 年 2 月 25 日(665 年 3 月 16 日)に薨去し、斉明天皇陵である越智岡上陵に合葬された。

同じく間人の名を持つ皇女が少し前の時代にいますね。

穴穂部間人皇女(あなほべのはしひとのひめみこ、生年不詳 - 推古天皇 29 年 12 月 21 日 (622 年 2 月 6 日)[1])は、飛鳥時代の皇族。欽明天皇の第三皇女。母は蘇我稲目の娘・小姉君。同母兄に穴穂部皇子がいる。

穴太部間人王、孔部間人公王、間人穴太部王、鬼前太后とも 称す。

聖徳太子の生母として知られる。

おそらく、両者の「間人」は意味的には同じでしょう。

そうすると、まず推古の時代に、この称号が使われた。次にその前例にならって孝徳の時代に も適用された。

ただ中継ぎ天皇の意味とすると、 逆算すると、推古の時代にも「中皇命」がいたことになりそうです。

あるいは中は、中臣の例のとおり、神と人の仲介者とかんがえると、シャーマン的な要素も加 わってくる。

橘豊日尊皇子(のちの用明天皇)の妃であった時に、諸司巡行中、厩の戸口で厩戸王(聖徳 太子)を難なく出産したという『日本書紀』の逸話は有名であるが、これは中国に伝来した キリスト教の異端派である「景教」(ネストリウス派)がもたらした新約聖書の福音書にあ

る「キリストの降誕」を元にしたとの説があるなど、史実かどうか疑われている。実際厩戸は 地名に由来するとの説もある。なお、天寿国繡帳左上の亀形に「部間人公」の 4 字が確認でき るが、これは人名「孔部間人公主」の一部で、穴穂部間人皇女のことだと考えられる。

「公主」というのが、中国風ですね。「公主墓」。公主というのが、どうも皇帝の娘を意味するよ うです。彼女の父・欽明天皇を皇帝とみなしているんですね。欽明は秦氏と深くかかわって ます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/公主> 中国の王朝に使えていた職人の作なのではないでしょうか。

だから西域・中東風の編み方になる。

この時期の皇族は、先の会報に記したとおり、高句麗系の中国人が斑鳩周辺に移住して、その 皮術職人などが、これらの西域風の品々を製造していたようです。

それで間人に献上されたのでしょう。

そうすると、やはり間人は、皇帝ではなかった。穴穂部+間人+公主。

当時のペルシア人、波斯人(はしひと)だという説がありますね。

そうすると、逆にいえば、孝徳の時代にもペルシア人風の王妃がいて、あるいは一時的に天皇 になったという仮定もでてくるでしょう。はてさて如何。

しかし重祚したのは斉明ですが、両者合葬されているというのはちょっと気になりますね。 確かに今でも斉明の八角墳には二つ墓があります。

この斉明女帝がまた重要人物です。どうも最初の夫は高向王で、息子が漢皇子というのです が、おそらく高向漢人のことでしょう。滋賀の新漢人ですね。新羅・東欧系。

どういうわけか、それから天皇の皇后になってしまう。そうとう魅力ある女性だったのか。

この女帝の重祚後の時代に、しきりにトカラ人つまりペルシア人がやってきました。おそらくは中東系の宗教・技術職人で、女帝のほうから呼んだ可能性もありますね。新羅・ペルシ ア風庭園造営、八角墳の造営…。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/皇極天皇> そして、その女帝の息子が、天智と天武ということで、彼らも八角墳に最終的には葬られた。

そもそもは滋賀の新漢人等の影響下にあった女帝と息子なので、遣唐使も新漢人が多く、中 臣鎌足の息子まで派遣されたわけですね。それで天智は近江に行きたがるわけです。

その新漢人は、九州や奈良の大伴氏の配下において、大友皇子などあるいはその辺を関係し ていたかもしれません。

斉明が向かった九州の朝倉宮も、以前話したとおり、屯倉のひとつで、大伴・中臣等の五伴緒 の本拠で、珍敷塚

古墳のような中国的な風習や、高句麗的な影響の強い地ですが、偶然にそこ を選んだわけではなく、おそらくはもともと自分たちの周囲の基盤があった土地に、わざわざ 白村江の戦いにむかう防衛拠点をくんだとみるべきでしょう。

大彦・阿部・吉士系の航海・軍事集団もそこにかかわってくるのですが、河内・吉備系の動きが少し気になりますね。旧渡来人系集団で、吉備・河内、奈良の南部に彼らの拠点があった のですが、最終的には天武方に彼らはついたようです。後期難波宮として表現されてくるの ですが、そののち、また中臣系が復活して奈良へと移動していくのでしょうか。

----- Re:能の桜川投稿者:秦野北斗 投稿

日:2012年10月12日(金)22時35分30秒 返信・引用 編集済

> No.821[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 滋賀の新漢人は天智天皇時代のものですな。桜川で九州が現在の九州と韓半島南部を含む

ことを述べました。日本神話にある大八島国の筑紫島(つくしのしま)が九州の5島が済州 島にあたり、筑紫島の 4 国名が白日別(しらひわけ)、豊日別(とよひわけ)、建日向日豊久 土比泥別(たけひむかひとよじひねわけ)、建日別(たけひわけ)になり総てに別(わ け)が付く。これは垂仁天皇、景行天の子供の皇別命も同様。また、天智天皇の和風諡号は天 命開別尊(あめみことひらかすわけのみこと)、応神天皇、誉田別尊(ほむたわけのみこと)から天智天皇は韓半島南部の命にと思われる。添付地図参照

天智天皇が営んだ宮。近江大津宮(おうみのおおつのみや)は白村江の戦いで韓半島南部の 倭国を失い滋賀に韓半島南部と同様の国を造った。西羅、蒲生の新漢人、百濟人男女7百余人を近江国蒲生(がもう)郡に移住させた…。

天武天皇は天智天皇の死後、672年に壬申の乱で一掃したと思われる。天武天皇は物部の勢力を持つが、天智天皇の勢力は韓半島南部と滋賀周辺の新漢人で戦力 では天武天皇に太刀打ち出来ないでしょうな。筑紫君の残した石人は新漢人でしょうな。

天智天皇(てんちてんのう) 第 38代天皇。和風諡号は天命開別尊(あめみことひらかすわけのみこと / あまつみことさ きわけのみこと)。一般には中大兄皇子(なかのおおえのおうじ / なかのおおえのみこ)と して知られる。「大兄」とは、同母兄弟の中の長男に与えられた皇位継承資格を示す称号で、

「中大兄」は「二番目の大兄」を意味する語。諱(実名)は葛城(かづらき/かつらぎ)。漢風諡 号である「天智天皇」は、代々の天皇の漢風諡号と同様に <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E6%99%BA%E5%A4%A9%E7%9A%87>

垂仁天皇、景行天の皇別命

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/780>

応神天皇 諱は誉田別尊(ほむたわけのみこと)、大軯和気命(おおもわけのみこと)。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%9C%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87>

筑紫島(つくしのしま):九州の島:済州島 胴体が 1つで、顔が 4つある。顔のそれぞれの名は以下の通り。白日別(しらひわけ) 豊日別(とよひわけ) 建日向日豊久土比泥別(たけひむかひとよじひねわけ) 建日別(たけひわけ)

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/816>

西羅古墳群

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/803>

琵琶湖東部の滋賀県八日市市や蒲生郡には多くの渡来人たちが住んでいた。彼らの技術や労 力によってここに ある寺院も建設されたと考えられる。 <http://www.asuka-tobira.com/toraijin/toraijin.htm>

「日本書紀」天智 8年(669年)には、百濟人男女7百余人を近江国蒲生(がもう)郡に移住 させた、
http://yagiken.cocolog-nifty.com/yagiken_web_site/2005/12/post_44bf.html

いまきのあやひと【新漢人】 古代帰化人の中の一部の称。〈いまき〉は新参の意で今来とも書く。古代に中国系と称して渡来した人々は一般に漢人(あやひと)と呼ばれたが、そのほとんどが朝鮮半島に居住していたものだった。その中で 5 世紀後半のころまでのものはおもに漢・魏を源流とする古い楽浪文化を伝え、大陸の学芸・技術をもって朝廷に仕える各種の専門職の小氏となり、その多くは雄略朝のころに東漢(やまとのあや)氏を伴造(とものみやつこ)とする一つの指揮系統の下に組織化された。

近江宮(おうみのみや) 7 世紀後半の天智天皇が営んだ宮。近江大津宮(おうみのおおつのみや)、大津宮(おおつのみや)とも呼称される。滋賀県大津市錦織の遺跡が近江大津宮の跡とされている。なお、本来の表記は水海大津宮(おうみのおおつのみや)であったという指摘がある。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BF%91%E6%B1%9F%E5%AE%AE>

円満寺から、弘文天皇陵のすぐ前にある新羅善神堂を訪ねる。

http://inoues.net/ohtu/ohtu_meguri.html

Re:能の桜川投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 11 日(木)23 時 34 分 8 秒 返信・引用 > No.820[元記事へ]
秦野北斗さんへのお返事です。

> 磐井の乱、物部麁鹿火…等の文章に従い韓半島南部の地図を作成しませんか。 >> 一般の教科書では理解できないのは古事記、日本書記に登場する天皇の年代でしょうな。 > 魏志倭人伝、中国史籍は年代を明記している。対照的なのは日本各地の祭り、能と雅楽にも しっかり記録されているが年代は不明。年代と地図があれば理解は容易になる。 >> 筑紫君薩夜麻は「白村江の戦い」後、現在の薩摩に移住し、韓半島のクンサンの錦江(クムガン)の名を取り、鹿児島湾を錦港湾とした模様。 >

- > [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8C%A6%E6%B1%9F_\(%E9%9F%93%E5%9B%BD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8C%A6%E6%B1%9F_(%E9%9F%93%E5%9B%BD)) >

- > クムガン

- > 金剛山 (朝鮮)と錦江をクムガンと言っている。これは古事記の世界になる。 >

>

- > 磐井の乱(いわいのらん)

- > 物部麁鹿火(もののべ の あらかひ、生年不詳 - 宣化天皇元年(536 年)7 月) >>「白村江の戦い」では、総司令官である九州王朝の天皇「筑紫君薩夜麻(さちやま・倭薩)」が唐軍の捕虜になり、九州王朝側の敗北が決定した、これにより、日本国内での九州王朝の 権威は失墜し、衰退に向かった。注)九州王朝なぞ存在しない。古田の戯言ですな。

九州王朝論についてはよく知らないのですが、ちょっと勉強する必要がありそうですね。 筑紫君薩夜麻が天皇だとすると、それはまた驚きです。

>> 筑紫君 >

> 景行天皇の子供、別皇子(わけのみこ)の末裔に当たるのが自然な見方だな。

筑紫君の残した石人は、滋賀の新漢人のそれで、継体と密接に関わってます。 景行・ヤマトタケル一大彦系として、成務ー吉備津彦、仲哀ー大彦系で、応神ー吉備・日向系。 継体ー大彦系とすると、筑紫君が新漢人を取りこんだ大彦系だと思いますから、仮に九州に王朝があったとすると、大彦系となりそうですね。ただ、応神も九州の大友氏に関わった節があり、ちょっと応神から武烈までの伝承には、後代の操作があるように感じます。

倭の五王が畿内にいた王族とすると、その記録はどこへいってしまったのでしょうか。 いたとすると、吉備・日向系で、後代の大彦系とは異なっていたはずですね。

吉備津彦は、半島勢力、渡来人勢力と深くかかわっていたでしょう。中国・半島文化を有していた。

ちょっとこの辺の歴史地図について考えを進めてみましょう。

----- Re:能の桜川投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 10 月 11 日(木)08 時 22 分 0 秒 返信・引用 編集済

> No.819[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 磐井の乱、物部麁鹿火…等の文章に従い韓半島南部の地図を作成しませんか。

一般の教科書では理解できないのは古事記、日本書記に登場する天皇の年代でしょうな。 魏志倭人伝、中国史籍は年代を明記している。対照的なのは日本各地の祭り、能と雅楽にもし っかり記録されているが年代は不明。年代と地図があれば理解は容易になる。

筑紫君薩夜麻は「白村江の戦い」後、現在の薩摩に移住し、韓半島のクンサンの錦江(クムガン)の名を取り、鹿児島湾を錦港湾とした模様。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8C%A6%E6%B1%9F_\(%E9%9F%93%E5%9B%BD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8C%A6%E6%B1%9F_(%E9%9F%93%E5%9B%BD))

クムガン 金剛山 (朝鮮)と錦江をクムガンと言っている。これは古事記の世界になる。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91%E5%89%9B%E5%B1%B1_\(%E6%9C%9D%E9%AE%AE\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91%E5%89%9B%E5%B1%B1_(%E6%9C%9D%E9%AE%AE))

磐井の乱(いわいのらん)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A3%90%E4%BA%95%E3%81%AE%E4%B9%B1>

物部麁鹿火(もののべ の あらかひ、生年不詳 - 宣化天皇元年(536 年)7 月)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%89%A9%E9%83%A8%E9%BA%81%E9%B9%BF%E7%81%AB>

「白村江の戦い」では、総司令官である九州王朝の天皇「筑紫君薩夜麻(さちやま・倭薩)」が唐軍の捕虜になり、九州王朝側の敗北が決定した、これにより、日本国内での九州王朝の 権威は失墜し、衰退に向かった。注)九州王朝なぞ存在しない。古田の戯言ですな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%9D%E5%B7%9E%E7%8E%8B%E6%9C%9D%E8%AA%AC>

筑紫君 景行天皇の子供、別皇子(わけのみこ)の末裔に当たるのが自然な見方だな。

>

- > ここででてくる薩麻国の文字が、先の薩夜麻と同じ類です。 >
- > ところが薩摩の隼人の併合は、こうみると 702 年で遅いんですね。 >
- > では筑紫君というはどこからきたのか、大彦系の筑紫国造と関係するのか、その辺が課題 かもしれません。

>

----- Re:能の桜川投稿者:管理人 投稿日:2012
年 10 月 10 日(水)23 時 24 分 15 秒 返信・引用

> No.818[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 総てが、白村江の戦いによるものと思われる。その後、倭国から日本に改名。 > 出雲風土記の国引き神話、九州の地名変更、大きいものでは韓半島南を切り離している。 > 気づかないが、倭国に東北 (日本)を加え、日本にしている。また、九州に韓半島南の地名を 持ち込んだ。曆韓国=白村江(クンサン)の錦江を鹿児島の錦江湾(きんこうわん)…。

- > 曆韓国は秦野著書:徐福と邪馬台国でおなじみの名前です。
- > 白村江の戦い(はくすきのえのたたかい、はくそんこうのたたかい)とは、663 年 >
- > 倭国から日本に改名 >
- > 咸亨元年三月。遣使賀平高麗。爾後繼來朝貢。則天時。自言其國近日所出。故號日本國。蓋惡 其名不雅而改之。 >> 咸亨元年(670 年)三月。遣使が高句麗平定を祝賀。以後は続いて朝貢に来る。則天武后

の時、自ら言うには、その国は日の出る所に近い。故に日本国と号する。思うに、その名が雅でないことを憎み、これを改名したのであろう。 >>

筑紫君薩夜麻という名がみえますね。筑紫と薩摩をあわせたような名です。 隋の時代は竹斯の字をつかってましたから、筑紫君の伝承はこの時代のものだと思われます。

薩摩

同時に陸上でも、唐・新羅の軍は倭国・百済の軍を破り、百済復興勢力は崩壊した。白村江 に集結した 1,000 隻余りの倭船のうち 400 隻余りが炎上した。九州の豪族である筑紫君薩夜 麻も唐軍に捕らえられて、8 年間も捕虜として唐に抑留されたのちに帰国を許されたとの記録がある。白村江で大敗北した倭国水軍は、各地で転戦中の倭国軍および亡命を望む百済遺 民を船に寄せ、唐水軍に追われる中、やっとのことで帰国した。当時の唐は至るところで諸民族を征服しており、丁度このころの唐の勢力圏は中華史上最大 のものであった。この時参加した唐の水軍も、その主力は女真族で構成されていたという。

大宝 2 年(702 年)に、日向国から唱更国が設けられた。唱更は、(隼人)辺境を守るという意味である。『続日本紀』8 月 1 日条にある、薩摩多嶺を征討し戸を校して吏を置いたという記事が、唱更国と多嶺国の建置を示すと考えられている。 唱更国は、数年以内に薩麻国に改められた。8 世紀半ば以降のいずれかの時点で薩摩国に改 称した。

7 世紀末の段階で南九州に(全てではなく、飛び石的に)評が設置されていた。それは、文武 天皇 3 年(699 年)南九州や九州西部の島嶼部の人々が、覓国使(べっこし)を侮辱する という事件が起こった時、衣評督である衣君県も加わっていた。<http://ja.wikipedia.org/wiki/薩摩国>

ここででてくる薩麻国の文字が、先の薩夜麻と同じ類です。 ところが薩摩の隼人の併合は、こうみると 702 年で遅いんですね。

では筑紫君というのはどこからきたのか、大彦系の筑紫国造と関係するのか、その辺が課題かもしれません。

Re:能の桜川投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 10 日(水)06 時 42 分 36 秒 返信・引用 編集済

> No.817[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

総てが、白村江の戦いによるものと思われる。その後、倭国から日本に改名。 出雲風土記の国引き神話、九州の地名変更、大きいものでは韓半島南を切り離している。 気づかないが、倭国に東北 (日本)を加え、日本にしている。また、九州に韓半島南の地名を持ち込んだ。曆韓国=白村江(クンサン)の錦江を鹿児島島の錦江湾(きんこうわん)…。 曆韓国は秦野著書:徐福と邪馬台国でおなじみの名前です。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano15.htm> 白村江の戦い(はくすきのえのたたかい、はくそんこうのたたかい)とは、663 年

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BD%E6%9D%91%E6%B1%9F%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

倭国から日本に改名

咸亨元年三月。遣使賀平高麗。爾後繼來朝貢。則天時。自言其國近日所出。故號日本國。蓋惡其 名不雅而改之。

咸亨元年(670 年)三月。遣使が高句麗平定を祝賀。以後は続いて朝貢に来る。則天武後の 時、自ら言うには、その国は日の出る所に近い。故に日本国と号する。思うに、その名が雅でないことを憎み、これを改名したのであろう。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

筑紫、豊国、肥国の分割は後世か何時か不明です。戦国時代の可能性もある？

>> 古代に何かあり、筑紫、豊国、肥国を分割し数字を合せたと思われる。 >> 筑紫は筑前国・筑後国、豊国は豊前国・豊後国、肥国は肥前国・肥後国に分割され日向 国の 7 国と島嶼部の壱岐国・対馬国の 2 国が成立

>> たしかに日向、肥後が分割されてないのは、どうしてでしょうね。人口面か、民族統治面 か…。 >

----- Re:能の桜川投稿者:管理人 投稿日:2012
年 10 月 9 日(火)22 時 30 分 27 秒 返信・引用

> No.816[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 能の世界ですな、桜川。 >> 棘の紀氏の掲示板に気になる。筑紫常陸があります。はて筑紫は何所を指すのか? > 九州日向国桜の氏神の木花咲耶姫の場所が問題になります。古代の九州(こんなでないか 図) >> 古事記に第 1 章 コノハナノサクヤヒメ > ある時、ニニギノミコトは、笠沙の岬(かささのみさき)で、とても麗(うるわ)しく美しい女の人と出会いました。「あなたは、だれですか。」と聞くと、 >「わたしは、オオヤマツミノカミ(大山津見神)の娘で、名前をカムアタツヒメと申します。 またの名をコノハナノサクヤヒメ(木花之咲夜比売)と申します。」

- > とその美女は答えました。 >
- > http://www15.plala.or.jp/kojiki/umisachi_yamasachi/umisachi_yamasachi_01.html >
- > 秦野のイメージでは筑紫は韓半島南部になる。舞台は九州日向国桜は韓半島南部と日本の 常陸になる。古代の九州を見ると筑紫(筑前国・筑後国)、豊国(豊前国・豊後国)、肥国(肥前 国・肥後国)、日向国、(壱岐国・対馬国)、筑紫の宇佐(済州島)の 6 国と『唐会要』倭国・日本国 伝の 3 国を加えると 9 国が桜川の九州に成っていると思われる。 >

カムアタツヒメというのが、阿多隼人を連想させますね。 隼人や日向系をさきの B 54 とみなすと、どうして古墳時代になって、急に中国最南部から

東に向かおうと考えたかが気になります。その遺伝子的にみれば同時に半島南部にも彼らは 進出した。

>『唐会要』倭国・日本国伝 > 永徽五年(654 年)十二月。遣使が琥珀(こはく)と瑪瑙(めのう)を献上した。琥珀の大きさは一斗升の如し。瑪瑙の大きさは五升器の如し。高宗は降書を以てこれを慰撫した > なお言うには、倭王の国は新羅と近接している。新羅は平素から高句麗や百済を侵略し、 もし危急が生じれば、倭王は宜しく派兵してこれを救う。 > 倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。

ここに隼人が見えます。ハヤが元の原住民名でしょう。+人。 ハヤ族は存在するか?速。諫 早、たけハヤ…

>

> 古代に何かあり、筑紫、豊国、肥国を分割し数字を合せたと思われる。 > 筑紫は筑前国・筑後国、豊国は豊前国・豊後国、肥国は肥前国・肥後国に分割され日向国 の 7 国と島嶼部の壱岐国・対馬国の 2 国が成立 > たしかに日向、肥後が分割されてないのは、どうしてでしょうね。人口面か、民族統治面 か…。

能の桜川投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 9 日(火)16 時 27 分 3 秒 返信・引用編集 済

能の世界ですな、桜川。

棘の紀氏の掲示板に気になる。筑紫常陸があります。はて筑紫は何所を指すのか? 九州日向国桜の氏神の木花咲耶姫の場所が問題になります。古代の九州(こんなでないか 図)

古事記に第 1 章 コノハナノサクヤヒメ ある時、ニニギノミコトは、笠沙の岬(かささのみさき)で、とても麗(うるわ)しく美しい 女の人と出会いました。「あなたは、だれですか。」と聞くと、

「わたしは、オオヤマツミノカミ(大山津見神)の娘で、名前をカムアタツヒメと申します。 またの名をコノハナノサクヤヒメ(木花之咲夜比売)と申します。」 とその美女は答えました。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/umisachi_yamasachi/umisachi_yamasachi_01.html

秦野のイメージでは筑紫は韓半島南部になる。舞台は九州日向国桜は韓半島南部と日本の常 陸になる。古代の九州を見ると筑紫(筑前国・筑後国)、豊国(豊前国・豊後国)、肥国(肥前国・ 肥後国)、日向国、(壱岐国・対馬国)、筑紫の宇佐(済州島)の 6 国と『唐会要』倭国・日本国伝の 3 国を加えると 9 国が桜川の九州に成っていると思われる。

『唐会要』倭国・日本国伝 永徽五年(654年)十二月。遣使が琥珀(こはく)と瑪瑙(めのう)を献上した。琥珀の大きさは一斗升の如し。瑪瑙の大きさは五升器の如し。高宗は降書を以てこれを慰撫した。なお言うには、倭王の国は新羅と近接している。新羅は平素から高句麗や百済を侵略し、もし危急が生じれば、倭王は宜しく派兵してこれを救う。倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

古代に何かあり、筑紫、豊国、肥国を分割し数字を合せたと思われる。筑紫は筑前国・筑後国、豊国は豊前国・豊後国、肥国は肥前国・肥後国に分割され日向国の 7 国と島嶼部の壱岐国・対馬国の 2 国が成立

現在は 7 県で古代の 7 国が引き継がれている。都道府県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県 7 県

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%9D%E5%B7%9E>

筑紫常陸の両国の国司を命ぜらる

<http://www.geocities.jp/kanwada35/sakuragawa.htm>

桜川

<http://www.geocities.jp/kanwada35/sakuragawa.htm>

桜川未来塾

http://sakuragawamj.com/?page_id=1429

桜川 あらすじ

九州日向国桜の馬場の桜児は、東国方の人商人にわが身を売り、その身代金と手紙を母に渡し、してくれとたのみ、国を立ちます。母は人商人から手紙を受け取り読んでみると、「母の貧しさを悲しむあまり身を買いました、名残惜しいが、母上もこれを縁に御出家下さい」とあります。驚いてあたりを見ると、もう人商人はいません。母は嘆き悲しみ、氏神の木花咲耶姫(このはなさくやひめ)に我が子の無事を祈り、その行方を尋ねて旅に出ます。

それから三年が経ち、常陸国桜川は丁度桜の季節です。桜児は磯辺寺に弟子入りしており、今日は師僧に伴われて近くの桜川という花の名所にやって来ます。里人は、桜川に流れる花を抄って狂う女がいるから、この稚児に見せてやればよいとすすめます。呼び出された狂女は、九州からはるばるこの東国まで、我が子をもとめてやって来たことを語り、失った子の名も桜児、この川の名も桜川、何か因縁があるのだろうが、春なのにどうして我が子の桜児は咲き出でぬのかと嘆きます。更に、桜を信仰するいわれ、我が子の名の由来、桜を詠じた歌などを語り、散る花を抄い上げ、興じ狂います。僧はこれこそ稚児の母であると悟り、母子を引き合わせます。二人は嬉し涙にくれ、連れ立って帰国します。

Re:羅國投稿者:管理人 投稿日:2012年10月7日(日)06時02分22秒 返信・引用 > No.813[元記事へ]

追伸です。それで先にアシュケナジー・ユダヤ人に一般的にみられる B 38、B 35 が、日韓に見えることを指摘したのですが、下記に詳細の図表を添付いたします。引用もとはこちらのサイト。

<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC54807/pdf/pnas01044-0321.pdf>

これをみると、アシュケナジー・ユダヤ人の遺伝子として、B 38-DR4、B35-DR4、B 44-DR4、B52-DR2、B13-DR7、B14-DR1 があることがわかります。

それで、下記の日韓の遺伝子図表をみると、

B35-DR4、B44-DR4、B52-DR2、B13-DR7 までが、DR 部分までまったく同じであることに気づきます。

したがって、アシュケナジー・ユダヤ人の祖先と、日韓へ流れ込んだであろう遊牧民系の集団とが、おそらくはどこかで同じく暮らしていた可能性が高いことが理解できます。

これらはおそらくある時期にまとまって移動してきたと思われるのですが、そのうち先の年代推定表で時代推定ができてい B-35 と、B-44 を見ると、B-35 は BC400-1000 年、B44 は韓国の推定で BC500 年と算出され

てますね。

また日本人の大腸関連の病気とユダヤ人、英国人の一部にみられるその病気が、B-52に由来することも指摘されてます。 <http://www.ccfj.jp/pdf/ibdnews25.pdf>

おそらく B-52 は、遊牧民系のイ族・羅羅族にもっとも多くみられ、弥生後期に渡来した クルガン墓、木棺、石囲い…といった遊牧民系の特徴を備えた習俗をもったサカ・月氏系 と見てます、

それで、アシュケナジー系ユダヤ人について調べてみると、中東・ドイツ系ユダヤ人となる ようですが、ユダヤ人特有の神経疾患について記載されてますね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%82%B1%E3%83%8A%E3%82%B8%E3%83%A0>

テイ=サックス病およびニーマン・ピック病などの神経系の病気は、神経線維の伝達を早め るので、知能指数を

上げる効果があるとのことも書いてありますが、LSD という先天性の 遺伝病で、HLA タイプの同じ兄弟からの骨髄移植で治療するとか書いてありますね。

http://www.clinchem.org/content/suppl/2011/03/10/clinchem.2009.141622.DC1/Marsden_Newborn_Screening.pdf

先の図表の文献が取り上げている病気は、こちらの皮膚病です。Pemphigus_vulgaris

<http://en.wikipedia.org/wiki/Pemphigus> http://en.wikipedia.org/wiki/Pemphigus_vulgaris

案外こういう遺伝的な病気や特質が、酒や米の消化能力のケースのようにその民族の習俗な り精神性に影響をもたらすこともあるわけですし、ちょうどOS が同じパソコンを使うもの 同士のように、微妙に双方に影響を及ぼしあっているものですから、その辺も考慮しながら 集団の動きを考えていくと、何か見えてくるものもあるかもしれません。Re: 羅國 投稿者: 管理人 投稿日:2012 年 10 月 6 日(土)22 時 42 分 27 秒 返信・引用編集済

> No.812[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >> HLA の整理ですな。HLA の分布は人類の移動が前提になっている。どうも統計的な補正 が必要。LHA も進化し、古い LHA は淘汰されていると思われる。 > 例えばですが、B6 1 が主で次に B 52 が生じると B6 1 の割合が減少する。もし、B6 1 が そのまま存在するならシーラカンスですな。一応ですが大まかな年代を打ちました。 >

確かにもう少し補正しながら、細かく見る必要がありそうです。

先の図をよくみていくと、アイヌ系と思われる B 62 と B 61 があるのですが、この 2 タイプ は番号は近いものの、どうもぜんぜん別の遺伝子のようにです。

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B62>

B62 は分布をみると、チベットと関連し、Y 遺伝子の日本とチベットの固有タイプとされ る D 系統と見えます。アイヌ、本土日本人、韓国にも分布があり、いわゆる縄文人のようです。

ただ、先の年代推定(図 2)だと、B 62 は琉球人にはいないようです。B 61 は、本土にも韓 国・琉球にもいます。

そうすると、縄文人というのは、B 61 を意味していて、一番古い基層となりそうです。

その後 BC1000-700 年ごろに、B 62 がチベット方面からやってきたという計算に なるのでしょうか。案外あたらしい縄文人ですね。これがアイヌのメインタイプになる。韓国の ほうが早く入ってきているようですから大陸経由で琉球をのぞく日本全体に広まったので しょう。

B 44 と B 35、そしておそらくは B 52、B 13 あたりの遊牧民系集団は、紀元前 200-0 年 当たりに、韓国、日本に渡ってきたようです。系統は先のとおりイラン系+中央アジアの遊 牧民。B 35 は日本に渡ったが、B 44 は近世まで韓国本土にとどまり続けたということにな りそうです。B 13 もほとんど日本にはこなかった。下記の詳細な年代推定表をご参照ください。

ハプロタイプ 日本での頻度順位 日本での年代推定 韓国での年代推定 韓国での頻度順位 B52-DR15 1

200or800or1000 年前 5 B44-DR13 2 900 年前 ← 2500 年前 1 B7-DR1 3 200or800or1000 年前 10

B54-DR4 4 1300 年前 ≒ 1400 年前 B46-DR8 5200or800or1000 年前 B62-DR4 6 2600 年前 ≒ 2800 年前 B61-DR9 7,8 3200 年前 → 2400 年前 B35-DR4 9 2400 年前 ≒ 2100 年前

<http://www.pag1u.net/kodai/hla.html>

おそらくこの表を見るに、B 52, B 46、B7 については、何らかの事情で年代推定ができなかったと見るべきかもしれません。下図でみると白い○になってますね。それらはもっと古く入ってきているはずです。

そうでないならば、日本人のメインタイプ1、3、5位は中世以後の渡来人になってしまいくさからね。

B46 は華南ミャオ族のメインタイプで、おそらくは先のとおり弥生人もしくは中国系渡来人のメインタイプです。B52 は、チベット・ビルマ・ロロ族系で、サカ・月氏の遊牧民、弥生末期人。B7 は、中東・東欧系で、6 世紀代に新羅経由で入ってきた新漢人・武具・金属・ガラス職人

人

これらは年代的には団子状になるはずですが、おそらくは、B 44 とともに日本では中世の渡来になってしまっているのがきになりますね。3-600 年あたりまで3 つともさかのぼらせればいいのではないのでしょうか。

それでさらに注目していただきたいのが、図 1 の分布比較です。B52 は、日本と中国に多く、韓国には少ないですね。B44、46-DR8、54、7 は日本と韓国に多く、中国はでほとんどみえない。B46 - DR9 は、逆に中国のみ。

B52 は、先のとおりサカ・月氏系と見えるのですが、中国に滞在した後、ほとんど韓国を通貨するようにして、日本に渡りメインタイプとなったように見えます。日本語の孤立性とも関係しているでしょう。サカのクルガン墓、つまり前方後円墳の形状が、あまり半島に残存を残さないまま日本で復元された、そんなかんじでしょうか。

B54 は、中国のはるか南方から台湾経由で本土にきたようにも見えますが、沖縄方面はそのまま通過したのでしょうか。4-500 年代の渡来人。九州経由で応神期にはいつてきたいわゆる日向族を思い起こしますね。隼人系でしょうか。

ミャオ族に多い B46 - DR8 は、半島でしばらく滞在して中国系の B46-DR9 とは別の系統にしあがった集団と見えます。ある時期に日本に渡来した。弥生人が半島系で中国起源の渡来人。

B7 は、東欧・中東からダイレクトに中国をほとんど経由しないで韓国に渡ってきた人たちで、さらに日本に渡って3位のメインタイプになったようです。ステップルートを通してやってきた東欧ガラス職人集団か。新漢人。

あと興味深いのは、もともとの古い縄文人 B61 が、BC2400 年あたりに、逆に半島で多くなっている点ですね。BC400 年に弥生人に追い出された縄文人が、半島へわたったとかいう経緯でしょうか？山間部に縄文系遺伝子が多いのは、そのためとされますが、海を渡ることはあったのかな？

便秘のお腹にスッキリ習慣 - www.kaitekiorigo.com/ そのポッコリお腹をオリゴ糖が即解決 TV で 2 分に 1 個、楽天 1 位、売れてます! Gaba マンツーマン英会話 - www.gaba.co.jp 初心者から上級者まで。あなたに合った レッスンプランで上達をサポート アウトドア婚活開催中 - www.konkatsu-style.net/ アウトドア系イベント多数!お一人様歓迎 楽しく出会える婚活パーティー 【利用者 250 万人】引越し見積り - www.zubat.net/hikkoshi/ 安心の実績!引越しサイトの《決定版》100 社以上を一括でカンタン見積り比較 口臭い対策 2 秒もいらない - www.w-direct.jp 主人の臭かった口臭も、便臭も今は... さて、たった 1 秒の口臭対策とは? Ads by Google

----- Re:羅國投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 6 日(土)08 時 50 分 59 秒 返信・引用編集 済

> No.811[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

HLAの整理ですな。HLAの分布は人類の移動が前提になっている。どうも統計的な補正が必要。LHAも進化し、古いLHAは淘汰されていると思われる。例えばですが、B61が主で次にB52が生じるとB61の割合が減少する。もし、B61がそのまま存在するならシーラカンスですな。一応ですが大まかな年代を打ちました。

BC1700 B61と62というのがアイヌのメインタイプですね。チベットや、アメリカ原住民と同じタイプで、沖縄はアイヌと同じB61。アイヌのB48ですが、フィリピン台湾アミ族、アラスカ、中米ペルーのインディアンなど、氷河期のころのかなり古い基層タイプと見えます。雲南でもミャオ族にはこのB52は見えないですね。

BC500 B46というのが、ミャオ族など、南方稲作農耕民で弥生人でしょう。タイ、インドネシア愛知

に多いですね。食習慣や自然崇拜アニミズムなどもよく類似しており。B13というのも、北のほうに描かれていますが、実のところニューギニアや台湾がもっとも多く、マレー方面、そして若干ながらモンゴルや中東や日本にもいるという不思議な分布ですが、メインは南方系のようにも見えます。

BC200 B52 中国大陸・朝鮮半島・日本サカ・月氏の一部が、匈奴弥生末から、古墳初期にやってきた集団で、後の渡来人よりも前、3-4世紀ごろの渡来と見えます。ここに日本語や、サカ族などのクルガン墓系の古墳構築の起源がある。B52ですが、これは図のとおり北方遊牧民のそれで、中東や雲南リス・ヌ族方面にも分布があり、日本でのメインタイプになります。B54ですが、沖縄やタイに多い一方で、モンゴル内陸部やチベット・ロシア南部のトバン国(キジール)方面にも沖縄に多いB54ですが

AD400

B7が日本には多いのですが、これはアイルランドから欧州・中東に多いタイプで、なぜかぽつんと日本がそこに割り込んでいる妙なタイプです。アジアでは他にはほとんど見えないようですね。B-38は、ユダヤ人の代表的タイプですね。兄弟種の39は台湾とアイヌ、ニューギニアに多い。B44というのは、ちょっとデータがないですね。兄弟タイプの45は、イタリアに見えるところか書いてあります。

Re:羅國投稿者:管理人 投稿日:2012年10月6日(土)07時37分1秒 返信・引用編集済 > No.810[元記事へ]

あと追伸ですが、B61と62というのがアイヌのメインタイプですね。チベットや、アメリカ原住民と同じタイプで、Y遺伝子のD系統にあたるのでしょうか。

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B62>

それで、沖縄に多いB54ですが、南方系ではありますが、下記の年代推定でみると、案外中世以降にこのタイプが沖縄に入った可能性があり、もともとは日本や韓国のほうが早く古墳時代あたりに入ったタイプと見えます。下図参照。 http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08.html

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B54>

このタイプが入る前の沖縄はアイヌと同じB61のようです。

案外台湾や済州島もそうですが、孤島は古い遺伝子や遺跡が残っているケースが多く、その解析で失われた歴史が見えてくるかもしれません。済州島の支石墓などは華南方面ともつながっていて気になるところです。

あと、HLA-B35というのが、下図に見えますが、日本と韓国で弥生時代中期あたりにはいつてきてますよね。

どうもユダヤ人とかに多いようです。下記参照。B-38の親戚かな？

http://www.google.co.jp/custom?q=%82g%82k%82%60%81@%82a35%81@jew&client=pub-9507087713127311&forid=&ie=Shift_JIS&oe=Shift_JIS&cof=GALT%3A%23008000%3BGL%3A1%3BDIV%3A%23336699%3BVLC%3A663399%3BAH%3Acenter%3BBGC%3AFFFFFF%3BLBGC%3A336699%3BALC%3A0000FF%3BLC%3A0000FF%3BT%3A000000%3BGFNT%3A0000FF%3BGIMP%3A0000FF%3BLH%3A50%3BLW%3A150%3BL%3Ahttp%3A%2F%2Fwww.michaelbroadcast.net%2Fhousou%2Fimages%2Fmichaelbroadcast-logo.gif%3BS%3Ahttp%3A%2F%2Fwww.michaelbroadcast.net%2F%3BFORID%3A1&sa=2
<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC54807/>

またこの検索サイトの内容が気になりますね。

「 HLA Polymorphism in Iraqi Jews15 Apr 1996 ... HLA- B-35(15%), B44 (12,6%), HLA-Cw4 (16%), Cw8 (11.8%). HLA-DRB1*11 (26%), DRB1*-13 (18%), DRB1* (10%) & DRB1*14 (7.0%). HLA Ag of the Iraqi (I) Jews have intermediate frequencies compared with the ...」

http://www.google.co.jp/custom?q=%EF%BC%A8%EF%BC%AC%EF%BC%A1%E3%80%80%EF%BC%A235%E3%80%80jew&hl=ja&inlang=ja&client=pub-9507087713127311&cof=FORID:1%3BGL:1%3BS:http://www.michaelbroadcast.net/%3BL:http://www.michaelbroadcast.net/housou/images/michaelbroadcast-logo.gif%3BLH:50%3BLW:150%3BLBGC:336699%3BLC:%230000ff%3BVLC:%23663399%3BGFNT:%230000ff%3BGIMP:%230000ff%3BDIV:%23336699%3B&oe=Shift_JIS&prmd=ivns&ei=gGRvUONo5JiIB4ezgYgK&start=10&sa=N

B-35に加えて、B-44、B-13といった、先の図の韓国・日本に見えるタイプが記されてます。

北方遊牧民系となりそうですが、その辺でイエメンのユダヤ人の語句も関連で見えますね。

<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/11982641>

おそらくこれらはイラク方面のHLAタイプの話のようですが、それがそのまま極東の韓国・日本へと移動したということになるのでしょうか。先の北方遊牧民のサカ・月氏の遺伝子でしょう。

B-38は、ユダヤ人の代表的タイプですね。兄弟種の39は台湾とアイヌ、ニューギニアに多い。

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B38> <http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B39>

3D スキャナー ATOS - www.marubeni-sys.com 非接触で高精度・高速 3次元計測 3次元計測は丸紅情報システムズ アウトドア婚活開催中 - www.konkatsu-style.net/ アウトドア系イベント多数!お一人様歓迎 楽しく出会える婚活パーティー 異業種交流・出会いなら - event-style.jp/ イベントスタイル[Event-Style] 東京の気軽な出会い・パーティをご提供 "口臭いよ"と言われたら? - www.w-direct.jp 人には聞けない、口が臭い理由... 困った時、1秒で出来る口臭対策は? 英会話の Gaba 公式サイト - www.gaba.co.jp 初心者こそ最適なマンツーマン。 特別レッスンを 2 回分プレゼント中! Ads by Google

----- Re:羅國投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 5 日(金)23 時 12 分 42 秒 返信・引用編集済

> No.808[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 想定だが相当の混血が考えられる。いい例がアイヌで混血により純粋なアイヌは日本に 1 人はいないだろうな。

> 伝統、儀式は残っているが... >>

先のHLA B48ですが、アイヌでは7パーセントとのことで、かなり多いです。しかしどこの国のHLAも多くてもせいぜい10-20パーセントを超えないということは、どこの民族も混血ばかりということでしょう。特に日本は10パーセント越えるのは、先のB52だけですからね。

それでそのアイヌのB48ですが、フィリピン・台湾・アミ族、アラスカ、中米ペルーのインディアンなど、氷河期のころのかなり古い基層タイプと見えます。

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B48>

アミ族と、ペルー人、アイヌ人の衣装などは共通性がありそうですね。文字をもたないところとか、洪水神話もある。フィリピン語に近いというのもHLA的にみると裏付けられそうです。

こちらはアイヌ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%8C> それでB46というのが、ミャオ族など、南方稲作農耕民で、おそらくその後やってきた弥

生人でしょう。タイ、インドネシア方面にも広がってますね。経路は韓国南部経由のようです。愛知に多いで

すね。

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B46>

食習慣や自然崇拜アニニズムなどもよく類似しており、神話類にも関係してきます。 弥生人とミャオ族について関連性があるなら、弥生時代の言葉も、ミャオ語に類似していた 可能性を感じますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%A3%E3%82%AA%E8%AA%9E>

ところが、今の日本語は、ウラル・アルタイ語となるわけですし、これは今の日本のメインタイプの B 52 によるものではないでしょうか。 <http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B52>

チベット・ビルマ方面に流れたイ族・羅羅族などの遊牧民系統ですね。華南の専門家の白鳥 芳郎氏などは、これらの南下した遊牧民をサカ・月氏の流れとみているのですが、文化的にもほぼ間違いないでしょう。

それでサカ・月氏の一部が、匈奴に駆逐された際に、中国大陆・朝鮮半島や日本に逃げ込んだので、今 B 52 がメインタイプとなっているわけですね。

この B 52 は、弥生末から、古墳初期にやってきた集団で、後の渡来人よりも前、3-4 世紀ごろ の渡来と見えます。ここに日本語や、サカ族などのクルガン墓系の古墳構築の起源があるわけですし、ここを見逃している可能性がありますね。

このように弥生人、縄文人=日本語の起源と理解すると無理が生じることがわかります。この弥生末期人、つまりサカ・スキタイ系人種と、その言語習俗と理解しないとなかなか今の 日本のメインな習俗は理解できないかもしれません。

Ads by Google

----- 耽羅は永宗島(ヨンジョンド)投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 5 日(金)20 時 53 分 47 秒 返信・引用編集済

耽羅は済州島ではない。永宗島(ヨンジョンド) 州胡國=済州=耽羅

「新羅」(BC57~AD935)に入朝して「耽羅」という国号を与えられ…。BC57~AD220 には 「新羅」は存在しない。「耽羅」を地理で見ると、『三国史記』に耽羅が 476 年に百済の文周王に 朝貢し、1105 年には高麗の行政区域である耽羅郡に変わった。高麗(こうらい)都は北朝鮮

の開城(ケソン)、馬韓之西に位置する永宗島が「耽羅」に成る。 永宗島は、大韓民国の仁川広域市西方、黄海の京畿湾に浮かぶ島で、仁川国際空港がある。行

政上は仁川広域市中区永宗洞・龍游洞に属する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B8%E5%AE%97%E5%B3%B6> 高麗(こうらい)は、918 年に王建(太祖)が建て、1392 年まで続いた朝鮮半島の国。都は開

城。北朝鮮の開城(ケソン)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E9%BA%97>

文周王(ぶんしゅうおう、生年不詳 - 477 年)は百済の第 22 代の王(在位:475 年 - 477 年)であり、先代の蓋鹵王の子。諱・諡は伝わらない。『三国史記』百済本紀・文周王紀の分 注や『日本書紀』には汶洲王、『三国遺事』王曆には文明王という別名も見られる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%87%E5%91%A8%E7%8E%8B>

済州特別自治道の歴史の起源は石器時代にまで遡る。この時代、人々は洞窟や岩陰の住居で 生活しており、遺物として打製石器、骨刻器などが発見されている。その後の青銅器、鉄器時代の遺物や遺跡には、支石墓(ドルメン)、磨製石器、土器、甕棺墓などが道内全域に分布し ており、済州特別自治道の歴史の起源を探ることのできる貴重な資料になっている。済州は 古くから、島夷(トイ)、東瀛洲(トンヨンジュ)、涉羅(ソブラ)、耽牟羅(タムモラ)、毛 羅(タクラ)などの様々な名称で呼ばれてきた。これらの名称のうち、「東瀛洲」を除くすべてが

「島国」という意味である。済州道の開闢神話である三姓神話によれば、太古に「高乙 那(コウルナ)」、「良乙那(ヤンウルナ)」、「夫乙那(ブウルナ)」という三神人が、漢拏山の 北方の毛興穴(現在の三姓穴)なる地中から生まれ出て、皮の着物を着て狩猟を生業としながら暮らしていた。この三神人たちは、「碧浪国(ビョクラングク)」から五穀の種と仔牛、仔 馬などを携えつつ木舟に乗って済州特別自治道の東方海上に訪れた三人の王女を迎えて婚礼をあげた。この時から彼らは五穀の種を蒔いて農作業を行い、牛や馬を飼いながら暮らしはじめた。その後、「高乙那」の 15 代目の後孫である三兄弟(高厚、高清、高季)が、当時韓国 の古代王朝の一つである「新羅」(BC57~AD935)に入朝して「耽羅」という国号を与えられ、 また、この時から「耽羅」は「新羅」に仕えるようになった。記録によるとこの耽羅国は、高句麗、 百済、新羅に分裂した三国時代には、これらの国と独自に、ときには隷属しながら外交関係 を結んできた。このような関係はその後高麗時代にも継続されるが、耽羅国の独特な文化と 歴史の脈は継承されてきた。1105 年には高麗の行政区画である耽羅郡に変わったが、王の地位はそのまま存続し、実質的な耽羅の統治者としての役割を果たしていた。

<http://japanese.jpdc.co.kr/jeju/information>

『三国史記』では耽羅が 476 年に百済の文周王に朝貢し、498 年に百済の東城王に服属したと あるように、498 年以後は百済に朝貢していた。しかし 660 年百済が唐・新羅連合軍の侵攻 によって突如滅亡すると、耽羅は大混乱に陥った。662 年には新羅に服属したとみられるが、

このとき唐から帰国する日本の遣唐使船がたまたま耽羅に寄港し、唐軍の侵攻を恐れる耽 羅はしばらく日本に朝貢を送り続けたという記録が『日本書紀』にある。また、継体天皇二年 (五〇八)『南海中耽羅人初通百済国』とあり、日本書紀では、百済と初めて通じたのが 508 年と記録されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%80%BD%E7%BE%85> 三国志に現れる 3 世紀の州胡を済州島人(耽羅民族)に比定する説がある。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%88%E5%B7%9E%E5%B3%B6> 馬韓之西、海島上有州胡國 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

----- Re:羅國投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 5 日(金)06 時 17 分 25 秒 返信・引用編集 済

> No.807[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

秦野の想定している倭国の古代国家はユーラシア全域に成って入る。HLA ハプロタイプの 分布がほぼ該当している。HLA の基点を日本に置くことで答えが出る。回答になる。

想定だが相当の混血が考えられる。いい例がアイヌで混血により純粋なアイヌは日本に 1 人 はいないだろうな。 伝統、儀式は残っているが...

> 追伸です。 >> 先の HLA ハプロタイプの図なのですが、かなりアバウトなもので、あまり当てにしすぎて もいけないかなと感じてます。

----- Re:羅國投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 4 日(木)07 時 51 分 43 秒 返信・引用編集済

> No.806[元記事へ] 追伸です。

先の HLA ハプロタイプの図なのですが、かなりアバウトなもので、あまり当てにしすぎて もいけないかなと感じてます。

たとえば B 54 ですが、沖縄やタイに多い一方で、モンゴル内陸部やチベット・ロシア南部の トバン国(キジール)方面にも分布がみえます。 <http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B54>

トバン国

http://en.wikipedia.org/wiki/Tuvan_People's_Republic

B 46 は、だいたい図のとおりで、ミャオ族など中国華南方面に多いですね。韓国南部を経由 して日本にくる。
<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B46>

B 48 については、台湾に多い一方でアラスカ方面にも分布しており、アイヌにも多いことから、縄文人の系統

で、南方起源説と関係するでしょう。ただ沖縄には見えないので、アイヌ= 沖縄説はどうかなという感じです。かなり古い基層タイプですね。 <http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B48>

B 13 というのも、北のほうに描かれてますが、実のところニューギニアや台湾がもっとも多

く、マレー方面、そして若干ながらモンゴルや中東や日本にもいるという不思議な分布ですが、メインは南方系のようにも見えます。 <http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B13>

B 44 というのは、ちょっとデータがないですね。兄弟タイプの 45 は、イタリアに見えとか 書いてあります。 <http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B44>

あと B7 が日本には多いのですが、これはアイルランドから欧州・中東に多いタイプで、なぜかぽつんと日本がそこに割り込んでいる妙なタイプです。アジアでは他にはほとんど見えないようですね。
<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B7>

そして最後に B 52 ですが、これは図のとおり北方遊牧民のそれで、中東や雲南リス・ヌ族方面にも分布があり、日本でのメインタイプになります。<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B52>

ただ同じ雲南でもミャオ族にはこの B 52 は見えないんですね。ミャオは原住民、リス・ヌは北方からきた遊牧民系とみるべきでしょうか。そのちかくのイ族が羅羅とよばれていたようです。リス族はイ族に近いそうです。

<http://www.gesanmedo.or.jp/uli224.html> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AA%E3%82%B9%E6%97%8F>

こうみていくと、日本への民族集団の流れは、実に多彩です。中東・東欧・インドネシア・アラスカと、広範囲な視点でのダイナミックな動きを見ていかないと、なかなか真実には迫れないと思いますね。東アジアだけで、これらの強引に論理づけようとすると、どこかで無理・虚構が出てきます。整数のみではない小数点の世界を覗いているようなものです。白黒だけでは割り切れない、そんな感じがします。

Ads by Google

----- Re:羅國投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 3 日(水)23 時 06 分 24 秒 返信・引用編集済

> No.805[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 棘の紀氏さんへのお返事です。 >
- > 棘の紀氏の、『山海経・海外北経』に「羅羅」の記載がある。 >
- > 羅羅(らら)とは 鳥だが詳細不明。人を食うらしい。新羅の羅は鳥みたいですな。 >
- > 『雉林伝説』民間伝承 2 >
- > 脱解王の治世三年(59 年)、瓠公が月城の西の里を歩いていると、原始林の中に大きな 光が見えた。行ってみると、天から紫色の雲が垂れ下がって、その辺りを覆い、その中で木の 枝に引っ掛かった金色の箱が光り輝いていた。そして、木の下で白い鶏がいて鳴いていた。 > このことを伝えたと、脱解王は自ら出かけて、その箱を開けた。すると中で横になっていた男の子がずっと立ち上がった。

「羅」についてですが、下記のように、「ナ」とも発音することがあるようですね。

ほかに、州胡(チュホ)、渉羅(ソムナ)、純羅(スルラ)、度羅(トラ)という表記も見られる
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%80%BD%E7%BE%85>

済州は古くから、島夷(トイ)、東瀛洲(トンヨンジュ)、渉羅(ソブラ)、耽牟羅(タムモラ)、毛羅(タクラ)などの様々な名称で呼ばれてきた。 <http://japanese.jpdc.co.kr/jeju/information>

任那についても、「彌(邪)馬+那もしくは羅」という組み合わせだった可能性も感じます。

先の小林さんのサイトで「那」を国の意味だとしてましたね。

確かにいつごろからどういう契機で「羅」と呼ぶようになったのか?その辺も課題です。

ウィキペディアの秦王国の文章ですが「南望[身冉]羅國」と「南望耽羅國」に成っている。裴世清(はいせいせい)『隋書』卷八十一 列傳第四十六 東夷 倭國も「南望(身に再)羅國」に成っている。「身冉羅」は創作ではないか、正しくは(身偏に冉)羅國。堀貞夫さん字がないので○にしたな。疑問は何故、○羅國から都斯麻國(対馬)まで行き。都斯麻國、一支國に折り返す必要があるのかを考えるべき。竹島はどこか。秦野は筑紫の宇佐(済州

島)と見ています。 また、經は(ある場所を)通るになる。これは、一度、○羅国に上陸していると読むべきでしょう。この文章の粗筋は裴世清が聖徳太子に会うため、倭国(韓半島南部)の加羅、任那に行つたが太子が不在で加羅の名前が(身偏に冉)羅国に成っていた。裴世清は東の瑞穂の国(女王国、倭國)を目指す事になる。注)現在の解釈では間違いが多く、地図等で確認する事、と当時の背景を読むことが大事ですな。『隋書』倭国伝、秦野訳を追加します。

中国文から○羅国の空白は一文字が正解だと思いますな。迦羅国の新羅名(身偏に冉)羅国は冉の部首から境の国だろう。現在の場所と比較すると西面(ソミョン)にあたる。(身偏に冉)羅国=西羅国、サイラ国の可能性がある。日本語で、にしら。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9D%A2_\(%E6%9C%9D%E9%AE%AE\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9D%A2_(%E6%9C%9D%E9%AE%AE))

西羅古墳群、西羅は地名でサイラ、サイレンと読む

<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/jiten/data/026.html>

それと、唐への航路ですが管理人さんが考えている様な危険な航路ではなく、時間はかかるが安全な航路に成っています。航路は確認済みです。

ウィキペディアの秦王國

明年 上遣文林郎裴清使於倭國 度百濟 行至竹嶋「南望[身冉]羅國」經都斯麻國 迴在大海中 又 東至一支國 又至竹斯國 又東至秦王國 其人同於華夏 以爲夷州疑不能明也 ? 隋書 列傳第四十六 東夷 倭國

明年 上遣文林郎裴世清使倭國 度百濟 行至竹島 「南望耽羅國」 經都斯麻國 迴在大海中 又東 至一支國 又至竹斯國 又東至秦王國 其人同於華夏 以爲夷洲 疑不能明也 ? 北史 卷 94 列傳第 82

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%A6%E7%8E%8B%E5%9B%BD>

『隋書』倭国伝の訳に問題がある。

明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又 東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以爲夷洲、疑不能明也。又經十餘國、達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。 『隋書』倭国伝

翌年、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百濟を渡り、竹島に行き 着き、南に○羅国を望み、都斯麻国を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国に至り、また竹 斯国に至り、また東に秦王国に至る。その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲となす。疑わ しいが解明は不能である。また十余国を経て、海岸に達した。竹斯国より以東は、いずれも倭 に附庸している。

『隋書』倭国伝、秦野訳

明年、上遣文林郎裴清使於倭國度、百濟行至、竹島南望、○羅國經、都斯麻國迴、在大海中。又 東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏以爲、夷洲疑不能明也。又經十餘國達 於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。

翌年、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に渡る。百濟に至り、竹島の南を望み、 ○羅国を経て、都斯麻国を隔て大海中に在り。また東に一支国に至り、また竹斯国に至り、ま た東に秦王国に至る。その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲を疑うことが出来ない。ま た十余国を経て海岸に達した。竹斯国より以東は皆、倭に附庸している。

明年上遣文林郎裴清使於倭國 度百濟行至竹嶋「南望(身に冉)羅國」經都斯麻國迴在大海中 又東至一支國又至竹斯國又東至秦王國 其人同於華夏 以爲夷州疑不能明也 又經十餘國達於 海岸 自竹斯國以東皆附庸於倭 倭王遣小德阿輩臺從數百人設儀仗鳴鼓角來迎 後十日又遣大 禮哥多從二百余騎郊勞 既至彼都 其王與清相見大悅曰我聞海西有大隋禮義之國 故遣朝貢 我 夷人僻在海隅不聞禮義 是以稽留境內不即相見 今故清道飾館以待大使 冀聞大國惟新之化 清

答曰皇帝德並二儀澤流四海 以王慕化故遣行人來此宣諭 既而引清就館 其後清遣人謂其王曰 朝命既達 請即戒塗 於是設宴享以遣清復令使者隨清來貢方物 ？『隋書』卷八十一 列傳第四十六 東夷 倭國

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A3%B4%E4%B8%96%E6%B8%85>

『隋書』新羅伝

其王本百濟人、自海逃入新羅、遂王其國。傳祚至金真平、開皇十四年、遣使貢方物。高祖拜真平 為上開府、樂浪郡公、新羅王。其先附庸於百濟、後因百濟征高麗、高麗人不堪戎役、相率歸之、 遂致強盛、因襲百濟附庸於迦羅國。

その王は本の百濟人で、自ら海に逃れ、新羅に進入し、遂にその国の王となった。 温祚(おんそ)から伝世、金真平(王名=金姓)に至り、開皇十四年(594 年)に遣使を 以て方物を貢獻した。高祖は真平を拜謁し、上開府、樂浪郡公、新羅王の爵位を賜る。 その先祖は百濟に従属し、後に百濟が高句麗を征したが、高句麗人は戎役に堪えられず、相 次いで帰国し、遂に強勢となり、百濟を襲い迦羅國に従属国とする。

Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 3 日(水)06 時 35 分 38 秒 返信・引用 編集済
> No.801[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>>>『隋書』倭国伝 >>> 明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王国。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。 >>> 翌年、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百濟を渡り、竹島 に行き着き、南に○羅國を望み、都斯麻國を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国に至り、

また竹斯国に至り、また東に秦王国に至る。その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲となす 疑わしいが解明は不能である。また十余国を経て、海岸に達した。竹斯国より以東は、いずれ も倭に附庸している。 >>>

> ○の部分は新羅が加羅を奪い取り、迦羅國にしたのでしょうか。

この○の部分ですが、先述のとおり「身冉羅」と記されていたようです。 それで、百濟側の記録だと、この隋使・裴世清が百濟の「南路」を通ったとの記載があるよう ですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A3%B4%E4%B8%96%E6%B8%85>

南路というのがいまいよくわからないのですが、秦野さん予想の西海岸沿いの海路の可能性もあります。

その件は私も考えたのですが、濟州島の位置が予想していたより百濟のすぐ南にあることに 気づきました。身冉羅(シンゼムラ)は、確かに濟州島のことだる耽羅(タムラ)にも似た 文字だといえるでしょう。身=耳になったということでしょうか。

陸路を通った場合と、海路の場合の 2 種類のコースを図にしてみました。下記に添付します。

濟州島・耽羅を南に「望み」ながら、対馬へ向かったとすると、その図のように対馬海流に乗った可能性がありま す。若干遠洋にでて、濟州島近くまで向かうことで海流に乗るという手 ですね。そうすると、対馬の南について、そこから東南方面の壱岐へ、そして竹斯(筑紫)国 へと向かったのでしょうか。

竹島は秦野さんご指摘の濟州島というよりは、やはり筑紫島=竹(斯)島で九州のことか と感じます。

その後「又經十餘國、達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。」となるわけですが、おかしい文 章ですね。十余国も通ってから海岸を始めて見たような解釈になります。

「又經十餘國達於海岸。」「自竹斯國以東、皆附庸於倭。」ではないでしょうか？ つまり「海岸沿いにある国が十余国にも達した。」という解釈で瀬戸内沿岸の諸国の意味です

博多から難波津につくまでの記録もそうです。吉士とその親分の阿部氏が隋使の案内を担当 してますね。筑紫国造が阿部氏系で、難波の吉士集団と組んでいたとすると、陸路より彼等お 得意の航海・つまり瀬戸内沿岸航路を選びそうなものです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A3%B4%E4%B8%96%E6%B8%85>

また「自竹斯國以東、皆附庸於倭」については、やはり対馬と壱岐は倭から半独立した国だっ たというふうに見

えます。竹斯國が倭に入るのかどうかちょっと不明ですが。

あと対馬から見て壱岐を「東」と認識してますね。実際は地図のとおり対馬南岸からみると南 東、北岸からみると真南になるわけです。「東」が「南」に入れ替わるんですね。それで、魏志倭 人伝でも日本のことを、南に長く伸びた島という判断になったであろうことは、以前話したとおりです。

ただ、そうすると竹斯國の「東」にあたる秦王国が、山口方面の周防国だったのか、あるいは 東南の宇佐方面の秦氏の本拠を示していたのか?、この辺も課題です。

「その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲となす。疑わしいが解明は不能である。」との記載 をみると、渡来系の多かった宇佐方面の可能性も感じますね。

>『隋書』新羅伝

> その王は本の百済人で、自ら海に逃れ、新羅に進入し、遂にその国の王となった。 > 温祚(おんそ)から伝世、金真平(王名=金姓)に至り、開皇十四年(594 年)に遣使 を以て方物を貢献した。高祖は真平を拝謁し、上開府、楽浪郡公、新羅王の爵位を賜る。 > その先祖は百済に従属し、後に百済が高句麗を征したが、高句麗人は戎役に堪えられず、 相次いで帰国し、遂に強勢となり、百済を襲い迦羅国に従属国とする。 >>

新羅と海路の関係は重要です。奈良時代に入り新羅が半島が統一してからは、遣唐使は半島 西岸沿いを通れなくなったので、五島列島方面から 10 日前後かけて、中国南部へ向かう危険 な航海に出たようです。

http://homepage2.nifty.com/k-plan/yodan/yodan_54.htm

そうすると、当時の観念としては、奄美経由で中国に向かうことは思いつかなかったと見えますね。おそらく奄美経由は海流が逆なのでしょう。また百済西部沿岸経由が一番安全で、 隋・唐使も同様に考えていたでしょう。

ですから「度百済、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又東至一支國」の訳は、補 足して説明すると、中国から百済に渡って、竹(斯)島(九州)に行き至るには、まず南に 耽羅島(済州島)を望めるところまで行き、そこから対馬へ東に航海する。その間は周囲は 大海ばかりになる。その後、対馬の南岸についた後は、東に壱岐島があり…という感じ でないかと考えます。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3D デジタイズが革新する オルビス大人気化粧水/数量限定 - www.orbis.co.jp 今だけ、4,000 円相当が2,500 円で試せる!《本ページ限定キャンペーン》 出口王仁三郎 関係者 作品 - www7.ocn.ne.jp/~mizu6628/ 王仁三郎・すみこ・直日・日出磨 各作品を取り扱い致しております。 ご希望のホテルあります。 - www.rurubu.travel 日本最大級のサイトだから見つかる。 ホテル・宿が日々増加中 !不良解析/出来栄え評価 - www.konicaminolta.jp/inst... コニカミノルタの形状解析サービス 経験豊富な解析知識で課題解決します Ads by Google

----- Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 2 日(火)22 時 54 分 35 秒 返信・引用 編集済

> No.800[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

>>『隋書』倭国伝 >>>> 明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百済、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。 又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、 達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。 >> 翌年、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百済を渡り、竹島に 行き着き、南に○羅国を望み、都斯麻国を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国に至り、ま

た竹斯国に至り、また東に秦王国に至る。その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲となす。 疑わしいが解明は不能である。また十余国を経て、海岸に達した。竹斯国より以東は、いずれ も倭に附庸している。 >

> それで○の部分ですが、他で調べると「身冉羅(シンゼンラ)國」と出てきます。思うに全羅

(南北道)」のことではないでしょうか。先の魏志の地図をみると、また百済の中部あたりに 「冉路国」がありまし

て、おそらく位置推定が間違っているのだと思いますが、百済の西・中南部に「冉羅(ゼムラ)」という地域があったのでしょうか。

>

○の部分は新羅が加羅を奪い取り、迦羅国にしたのでしょうか。

『隋書』新羅伝

其王本百濟人、自海逃入新羅、遂王其國。傳祚至金真平、開皇十四年、遣使貢方物。高祖拜真平 為上開府、樂浪郡公、新羅王。其先附庸於百濟、後因百濟征高麗、高麗人不堪戎役、相率歸之、 遂致強盛、因襲百濟附庸於迦羅國。

その王は本の百済人で、自ら海に逃れ、新羅に進入し、遂にその国の王となった。 温祚(おんそ)から伝世、金真平(王名=金姓)に至り、開皇十四年(594 年)に遣使を 以て方物を貢献した。高祖は真平を拜謁し、上開府、樂浪郡公、新羅王の爵位を賜る。 その先祖は百済に従属し、後に百済が高句麗を征したが、高句麗人は戎役に堪えられず、相 次いで帰国し、遂に強勢となり、百済を襲い迦羅国に従属国とする。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/siragi-kanbun4-zuisho.htm>

秦野は過去に翻訳と地図を作成しています。注)地図の伽羅は加羅の間違いです。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano10.htm>

> そして、「經都斯麻國、迴在大海中。又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。」と続くので すが、これはそこから対馬を経て、壱岐を経て「竹斯國」に至るまでに、大海が周囲にあるとい う意味ではないのでしょうか。「竹斯國」の東に「秦王国」つまり「周防国」があるというふうにと れますね。

>> また「竹島」に至るまでには、の解釈ですが、古事記に九州のことを「筑紫島」と読んでま

すよね。つまり「百済を横断して、九州に至るまでには」という意味なのではないでしょう か？

Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 2 日(火)20 時 31 分 39 秒 返信・引用 編集済

> No.799[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

先の「鷄林(ケイリン)」の件なのですが、再度魏志から推定した下記添付の地図をみると、「冉奚国(ゼム・ネムケイ)」が見えます。この新羅慶州南部あたりの地域のことを示してい

たのでしょうか。その西南に任那があったという記載なんですね。

- > 任那、伽羅は聖徳太子 608 年に新羅に滅ぼされて名前が変わっている。『隋書』倭国伝
- > の南望○羅國の空白で記録されている。見落としてますな。 >
- > 『隋書』倭国伝
- >
- > 明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。 又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、 達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。 > 翌年、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百済を渡り、竹島に行 き着き、南に○羅國を望み、都斯麻国を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国に至り、また 竹斯国に至り、また東に秦王国に至る。その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲となす。疑わしいが解明は不能である。また十余国を経て、海岸に達した。竹斯国より以東は、いずれも 倭に附庸している。

それで○の部分ですが、他で調べると「身冉羅(シンゼンラ)國」と出てきます。思うに全羅

(南北道)」のことではないでしょうか。先の魏志の地図をみると、また百済の中部あたりに「冉路国」がありまして、おそらく位置推定が間違っているのだと思いますが、百済の西・中

南部に「冉羅(ゼムラ)」という地域があったのでしょうか。だから、「度百済、行至竹島、南望身冉羅國」と記載するものと感じます。これは「百済を渡る

(横断する)して、竹島にいたるまでに、南に身冉羅國(全羅道)を見ながら向かうという 意味に取れます。

そして、「經都斯麻國、迴在大海中。又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。」と続くのですが、これはそこから対馬を経て、壱岐を経て「竹斯國」に至るまでに、大海が周囲にあるという 意味ではないでしょうか。「竹斯國」の東に「秦王国」つまり「周防国」があるというふうにとれますね。

また「竹島」に至るまでには、」の解釈ですが、古事記に九州のことを「筑紫島」と読んでます よね。つまり「百済を横断して、九州に至るまでには」という意味なのではないでしょうか？

さらにここで注目したいのは、隋の時点では「竹斯國」と記している点です。先の唐記載では「筑紫国」になってましたよね。7 末には「筑前筑後国」に分裂するわけですから、やはり「筑紫

国」の記載は、618-7 末までの間の記載になります。

「筑紫国」というおそらくは国造制度以降、さらには律令官制の名が出てくるのは、やはり先 に書き込みした鶏林の語から類推したとおり 670-74 年ごろの記載になるのではないのでしょうか。その「筑紫城」も同様ですね。この時期の記載でしょう。

あと、任那の件ですが、下記の地図をみると、「彌」「邪馬」「奴」といった 3 領域が新羅の西南に もともと存在していたことがわかります。つまり、この 3 領域のことをまとめて、「彌+邪馬 +奴」でミヤマナと呼んだという線はどうでしょうか。

全羅南道方面は地図を見てわかるように、あまり国のない流人の送られた蘇塗のあった地 ですから、倭のほうは比較的進出しやすかったかもしれません。だから、全羅方面に前方後円 墳が多く出てくるのかもしれません。

ただ任那自体は、上記のとおり地域名のような気がしますね。国とか統一した組織としての 任那があったかどうかは疑問があります。

あと、その任那南部にあたるであろう「軍彌国」というのが、ちょっと先の「軍尼(クニ)」の 記載の件で気になります。「彌」という領域の国なのですが。

後に「国」と倭人自身で表記しはじめたので、唐側の記録にも「筑紫国」とか「国」の名称がでて

くるのでしょうか。唐としては、地方組織としての「国」ではなく、独立国と半分認識していた可能性すらあります。ただ、倭のほうでは「国(コク)」ではなく、「軍尼(クニ)」と説明したんですね。そのうちに混合して「国」になった。この辺ちょっと複雑な経緯があるように感じます。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 榎原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する オルビス大人気化粧水/数量限定 - www.orbis.co.jp 今だけ、4,000 円相当が 2,500 円で試せる!《本ページ限定キャンペーン》 出口王仁三郎 関係者 作品 - www7.ocn.ne.jp/~mizu6628/ 王仁三郎・すみこ・直日・日出麿 各作品を取り扱い致しております。 家系図、家族の歴史を 1 冊に - www.e-keizu.com

家系図作成代行。10 点セット 定額制 お客様の声 232 件(直筆)全国対応可能 Gaba マンツーマン英会話 - www.gaba.co.jp 初心者から上級者まで。あなたに合った レッスンプランで上達をサポート Ads by Google

----- Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 10 月 2 日(火)13 時 57 分 6 秒 返信・引用 編集済

> No.798[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

欠史の 2 代目の綏靖天皇、日本には「欠史八代」の記録はなく天皇名だけです。 古代史研究家の常識です。

欠史の 2 代目の綏靖天皇は別名が神渟名川耳尊・神沼河耳命で…は後世の創作になる。 また、「任那者去筑紫國二千餘里北阻海以在鷄林之西南」は鷄林大都督府(けいりんたいと とくふ)は唐が新羅を領土化する…年代に混乱が見られる。注意する点は魏志倭人伝に 開花天皇の孫として卑弥呼が存在する。

任那、伽羅は聖徳太子 608 年に新羅に滅ぼされて名前が変わっている。『隋書』倭国伝 の南望○羅國の空白で記録されている。見落としてますな。

『隋書』倭国伝

明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又 東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、 達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。 翌年、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百濟を渡り、竹島に行き 着き、南に○羅國を望み、都斯麻國を経て、遙か大海中に在り。また東に一支國に至り、また竹 斯國に至り、また東に秦王國に至る。その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲となす。疑わ しいが解明は不能である。また十余國を経て、海岸に達した。竹斯國より以東は、いずれも倭 に附庸している。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

> 任那については。 >>『梁書』は、「任那、伽羅」と表記を変えて併記する。 > 525 年前後の状況を記載した『梁職貢図』百済条は、百済南方の諸小國を挙げているが、す でに任那の記載はない。 >『翰苑』(660 年成立)新羅条に「任那」が見え、その註(649 年 - 683 年成立)に「新羅の古 老の話によれば、伽羅と任那は新羅に滅ぼされたが、その故地は新羅國都の南 700~800 里の 地点に並存している。」と記されている。 >『通典』(801 年成立)边防一新羅の条に「伽羅」と「任那諸國」の名があり、新羅に滅ぼされ たと記されている。

管理人さんは筑紫が特定できていない様ですな。

棘の紀氏が筑紫の糸口を見つけていますな。難解ですぞ。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/1363> Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 1 日 (月)23 時 15 分 32

秒 返信・引用 編集済 > No.797[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>『新唐書』日本伝 >> 其俗多女少男、有文字、尚浮屠法。其官十有二等。其王姓阿每氏、自言初主號天御中主、至 彦瀲、凡三十二世、皆以「尊」為號、居筑紫城。 > その俗は女が多く男が少なく、文字があり、仏教の教えを尊ぶ。その官には十二等級がある。王姓は阿每氏、自ら言うには、初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、およそ三十二 世、皆が「尊」を号として、筑紫城に居住する。 > この文章の阿每氏は聖徳太子でしょうな。初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、彦瀲は 神武天皇の父になる。「天御中主」から彦瀲まで筑紫城に居住する。 > 卑弥呼と同年代は「崇神」。彦瀲子神武立から「欠史八代」はどうなるのですか。

彦瀲とその子・神武の件ですが、先の垂仁朝の五大夫に彦国葺命がいることは以前申したと おりです。それで、彦瀲の別名がウガヤフキアエズ(鵜草葺不合命・盧茲草葺不合尊)で、「彦」「葺」で共通した名称をもってますね。

その彦国葺の放った矢により武埴安彦は胸を貫かれ討たれているのですが、矢を放たれて死 んでいる話は先のところでもみえるんですね。

欠史の 2 代目の綏靖天皇は別名が神渟名川耳尊・神沼河耳命で、これは先日のとおり、オオ ヒコの子の武ヌテガワ別でヤマトタケルのことでしょう。

それで、タギシミミの反逆の際に、この神渟名川耳がそれを察知して、兄弟神八井耳と征伐す るんです。これが、すなわち、上記の武埴安彦のことで、征伐したのがオオヒコとその子の武 ヌテガワ別となります。この辺の構造は出雲伝承の出雲振根のそれと同じです。

おそらく神武から欠史の考昭の前あたりまでは実在しても、後代の垂仁朝時代の出来事をモ チーフにして挿入されていると見て間違いはないかと感じます。

この矢で殺されるタギシミの件なのですが、先のとおり仲哀天皇(タラシナカツヒコ) とみる見方もできるかと感じるのですが、この仲哀も、熊襲の毒矢で死んだという伝承があるようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%B2%E5%93%80%E5%A4%A9%E7%9A%87>

それで次の代の神功のときに、カゴサカ・オシクマの 2 兄弟の反乱がでてくるのですが、これがオオヒコ・武ヌテガワですね。

もどって、綏靖の時代を、景行とすると、次の安寧は成務・吉備津彦の時代で、その次が懿徳 天皇で大日本彦耜友尊(おおやまとひこすきとものみこと)になります。これはおそらく仲 哀の次の応神・つまりオオトモワケのことでしょう。「耜友スキトモ」が「オオトモ」と対応しているんです。

おそらく次の孝昭天皇あたりから、実在当時の記録がでてきます。

あと、任那の件ですが、鶏林の西南という記載が興味深いですね。鶏林については次のようにあります。

鶏林大都督府(けいりんたいととくふ)は唐が新羅を領土化するために設置した軍政機関。都督府制度は唐が周辺の国々を征伐した後、征服した国に設置した統治制度。唐が高句麗と百済を滅ぼした後、旧高句麗領を安東都護府、旧百済領を熊津都督府、新羅を鶏林大都督府として半島全域を藩属国から羈縻州とした為、一時的に朝鮮に国はなくなった。

どうも熊津の名称を考慮すると、新羅の首都近辺が当時・鶏林と呼ばれていたのではないのでしょうか？

それで「任那者去筑紫国二千餘里北阻海以在鶏林之西南」ですが、これ新羅のことを国と記していないんですね。鶏林大都督府時代の記録を元にしているのではないのでしょうか。670-674 年あたりか。

この時期に任那や、筑紫国というのがあったとするとどうなるか？

7 世紀末までに筑前国と筑後国とに分割された。両国とも筑州(ちくしゅう)と呼ばれる。

『古事記』国産み神話においては、隠岐の次、壱岐の前に筑紫島(九州)を生んだとされ、さらにその四面のひとつとして、別名を「白日別(シラヒワケ)」といったとされる。

次生、筑紫島。此島亦、身一而、有面四。面每有名。故、筑紫国謂、白日別。豊国、言、豊日別。肥国、言、建日向日豊久土比泥別。熊曾国、言、建日別。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AD%91%E7%B4%AB%E5%9B%BD>

任那については。

『梁書』は、「任那、伽羅」と表記を変えて併記する。525 年前後の状況を記載した『梁職貢図』百済条は、百濟南方の諸小国を挙げているが、すでに任那の記載はない。

『翰苑』(660 年成立)新羅条に「任那」が見え、その註(649 年 - 683 年成立)に「新羅の古老の話によれば、伽羅と任那は新羅に滅ぼされたが、その故地は新羅国都の南 700~800 里の地点に並在している。」と記されている。

『通典』(801 年成立)边防一新羅の条に「伽羅」と「任那諸国」の名があり、新羅に滅ぼされたと記されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%BB%E9%82%A3>

やはりこの部分の資料引用元は、660-70 年前後のそれかなと感じますね。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する オルビス大人気化粧水/数量限定 - www.orbis.co.jp なくなり次第販売終了!お 1 人様 1 点限り の《本ページ限定キャンペーン》 アフリカ金投資成功の秘訣 - www.shinryotrading.com/goldrush 誰も知らない金投資の成功裏話満載 完全無料メールセミナー期間限定公開 英会話の Gaba 初心者向けプラン - www.gaba.co.jp

英会話初心者の方に、特別レッスンを 2 回分プレゼント中! 3 次元測定、3D 計測は FARO - faroasia.com 携帯型なので現場ですぐに測定可能 世界トップメーカーのスピードと品質 Ads by Google

Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年10月1日(月)08時07分53秒 返信・引用 編集済

> No.796[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 『新唐書』日本伝

其俗多女少男、有文字、尚浮屠法。其官十有二等。其王姓阿每氏、自言初主號天御中主、至彦瀲、凡三十二世、皆以「尊」為號、居筑紫城。 その俗は女が多く男が少なく、文字があり、仏教の教えを尊ぶ。その官には十二等級がある。王姓は阿每氏、自ら言うには、初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、およそ三十二世、皆が「尊」を号として、筑紫城に居住する。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

この文章の阿每氏は聖徳太子でしょうな。初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、彦瀲は 神武天皇の父になる。「天御中主」から彦瀲まで筑紫城に居住する。 卑弥呼と同年代は「崇神」。彦瀲子神武立から「欠史八代」はどうなるのですか。

HP、422 邪馬台国考はフィクション【fiction】作者の想像力によって作り上げられた架空の 物語 尚、筑紫城と『日本書紀』の崇神天皇の筑紫とは別物です。

任那者去筑紫國二千餘里北阻海以在鷄林之西南を秦野が訳します。

任那:『三国志』魏書東夷伝倭人条の項目における狗邪韓国(くやかんこく)にあたり、

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%BB%E9%82%A3>

鷄林:南部のキョンサンブクト(慶尚北道)キョンジュ(慶州)市にある

阻海:海を阻む、防波堤

任那者が筑紫國へ行く距離は二千餘里。北に阻海(防波堤)もって鷄林(慶州)の西南にあり。 筑紫は韓国のスンチョン(順天)になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A0%86%E5%A4%A9%E5%B8%82>

http://www.google.co.jp/search?q=%E3%82%B9%E3%83%B3%E3%83%81%E3%83%A7%E3%83%B3&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&prmd=imvns&tbn=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=gO1oUK3CH6GhmQWu_4CACQ&ved=0CGUQsAQ&biw=1063&bih=862

『新唐書』日本伝

彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次曰綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次孝 靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。 彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。「次は綏靖、次は 安寧、次は懿德、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、」次は「崇神」、次は垂仁、 次は景行、次は成務、次は仲哀という。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

古事記、神々の出現

昔むかし、この世界で最初に天に現れましたのは、アメノミナカヌシノカミ「天之御中主神」 という神様でした。次に、タカミスビノカミ(高御産巢日神)とカミムスビノカミ(神産 巢日神)という神様が出現なさいました。この三柱(みはしら。※神様の数は、「柱」で数えます。)の神様は、そのお姿を地上には、直接現しませんでした。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami.html HP、422 邪馬台国考は創作ですな。フィクション【fiction】作者の想像力によって作り上げ

られた架空の物語

<http://www.marino.ne.jp/~rendaico/yamataikoku/mononobeshi1.htm>

<http://www9.wind.ne.jp/fujin/rekisi/hist01-2.htm> http://www.sukawa.jp/rekisi_03.htm

Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:管理人 投稿日:2012 年 10 月 1 日(月)06 時 15 分 21

秒 返信・引用 編集済 > No.795[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>『新唐書』日本伝 >> 欽明の十一年は、梁の承聖元年(552 年)に当たる。次は海達。次は用明、また目、「多利思比孤」といい、隋の開皇末に、初めて中国と通じた。次は崇峻。崇峻が死ぬと、欽明の孫娘の 雄古(推古)が立った。次は舒明、次は皇極。 > その俗は椎髻(不明)し、冠帯はなく、裸足で歩き、幅広の巾で後を隠し、貴者は錦の帽 子、婦人の衣は純色(鮮明な色)の裙(もすそ)、長い腰襦袢で、髪を後に結う。 > 煬帝に至り、その民に錦線冠を賜り、金玉で飾り、文様入りの布を衣と為し、左右に銀?を 佩びる、長さ八寸、多少は貴賤が明確となる。 >

そう、この「左右佩銀?、長八寸、以多少明貴賤。」の部分が、先の太子時代の腰につけた金花の 記載と同類です。ここでは銀の?(先ほど調べたところでは、たぶん花の意味:【申集上】艸 字部)? ?康熙筆画:23 ?部外筆画:17【漢典】《唐韻》韋委切、音蔦。《玉篇》花榮也。《拾遺記》 西王母進淵淵紅?。《唐書?西域傳》王坐金?楊。)になっているので、金・銀の種別でも身分差 があつた可能性も感じますね。新羅の冠と同じ原理です。

- > >孝徳天皇(654)五年秋七月二十四日、吉士長丹らが百済・新羅の送使共に筑紫に着いた。 >
- > 筑紫は重要な地名になります。詳しく行きたいので質問します。 >
- > 管理人さん筑紫はどこかご存知ですか、九州だと思ってないでしょうな。 >
- > 『日本書紀』の崇神天皇 65 年秋 7 月条には次のような記録がある。
- > 任那者去筑紫國二千餘里北阻海以在鷄林之西南 >

筑紫に関してはおっしゃるとおり「筑紫城」の記載がありますね。

その俗は女が多く男が少なく、文字があり、仏教の教えを尊ぶ。その官には十二等級がある。王姓は阿每氏、自ら言うには、初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、およそ三十二世、 皆が「尊」を号として、筑紫城に居住する。 彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次曰綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次 孝靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。

それで神武と筑紫の関係を検索していて、ちょっと興味深い記録を載せたサイトを見つけました。下記全文。

ある古書に曰く

神武天皇即位前壬子年、日向一族筑紫を越え、邪馬台国(畿内にあったニギハヤヒ・安日彦・長髓彦らの国)を東征せんと兵を挙す。甲寅年、邪馬台国王アビヒコ・ナガスネヒコと摂津 に戦うも、日向一族敗れて退き、南海道に兵を募り、戊午年、再び東征せしも、日向族のヒコイ ツセノミコトは和泉に討たれ、弟なるヒコイナイノミコトは難波に討たれ、第三皇子なるワ ケミケヌノミコトは行方不明と相成る。己未年、第四皇子なるワケミケヌノミコトは日向一 族ヲ統率し、サラニ南海道、韓兵、淡路等の兵合わせて邪馬台国を攻めるに、ナガスネヒコは 重き傷を受けて東国に退き、ツガル アビヒコもまた越に退き、奥州会津にて合軍し、さらに奥州東日流に移りアラハハギゾク で安住し、ここに荒吐族の祖となりぬ。神武帝の乙亥年、荒吐五王一挙して故地邪馬台国を攻め、日向族を誅滅し、天皇を空位ならしめたるも、荒吐族のタギシミミ敗れたるによりて奥 州に退く。荒吐族の大和への遠征は爾来、歴代の帝位に必ずや攻防を繰り返す。 徳帝の在位 時も、荒吐族五王軍は大挙して邪馬台国を攻めるにより亦天皇を空位とあいなす。のち日向 族と和交す と。

<http://www.marino.ne.jp/~rendaico/yamataikoku/mononobeshi1.htm>

<http://www9.wind.ne.jp/fujin/rekisi/hist01-2.htm> http://www.sukawa.jp/rekisi_03.htm

どうも東北安部氏の伝承のようです。神武が日向から筑紫を越えて東征していく様子が描か れているのですが、注目すべきは「邪馬台国王アビヒコ」の記載ですね。

どうも安部氏の祖「オオヒコ」つまり「アビヒコ」を、神武東征前の国王とみなす観念が見て取 れます。

オオヒコは、つまりオオタラシヒコで、景行天皇と見ることは先の述べたとおりですから、や はりタラシが中に

挿入された舒明朝あたりまでは、オオヒコ=景行天皇という認識が、諸豪族にあったのではないかと感じるんですね。それでその子孫の安部氏には特に強く伝承された。

それでそのアビヒコ=オオヒコを征伐したのが神武なのですが、これが先のとおり次の成務天皇=吉備津彦のことと思います。

神武に征伐されて東方へむかったアビヒコとナガスネ彦の兄弟は、会津で合流していますが、これが記紀のオオヒコとタケヌテカワ=ヤマトタケルの会津合流伝承のことを示しているのでしょう。物部系のナガスネヒコに変化させているんですね。

それで、興味深いのは、その後再度奥州から反撃して、天皇位を空位にした記載がある点です。これが成務=神武の子孫がない理由とも受け取れます。そして架空(つまり空位)の天皇 仲哀(足中ヒコ)がはいってきて、その後さらに河内王朝の祖、つまり日向系の応神が入ってくる計算です。

あるいは仲哀=タラシ+ナカツ+ヒコで、タギシ+ミミと変化させて、タラシ=タギシの対応関係を見ることは可能でしょうか。

ここでそのオオヒコ系集団の人物としてタギシミミが出てくるのですが、この人物は神武東征の際に反逆した兄弟という形で出てきてますね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%82%AE%E3%82%B7%E3%83%9F%E3%83%9F%E3%81%AE%E5%8F%8D%E9%80%86>

これは、ちょうど神功が応神を連れて筑紫から帰還する際にでできたカゴサカ・オシクマの2兄弟皇子と対応してきます。さらにいえばオオヒコ・ナガスネヒコ(タケヌテカワ)の兄弟ということになるわけです。

タギシミミの妻というのが、またタタライスケヨリヒメといって、タタラ製鉄関係の外戚氏族のようなのですが、また母親もヒメタタライスケヨリヒメで、同じ系統と見えます。

またホトについて産まれてくる三輪山系の伝承も有しているのですが、この辺がオキナガラシヒメとの兼ね合いで考えを進められないかと感じます。外戚の息永氏については、息が長いでタタラとの関係もありそうです。

そうすると、神武系=応神系で、日向・筑紫・吉備というあたりのテリトリーを本拠としていた集団が浮かびあかってきます。

そしてそれに対立していたのが、オオヒコ・ヤマトタケル系=北陸・東海の安部・膳氏系統ということになるでしょう。

双方が何度か抗争しながら、皇位が入れ替わった歴史があって、白鳳期あたりまでは諸豪族の間で周知の事実だったのでしょう。その後記紀編纂時にうまく隠されたという感じですね。

その上で先の「筑紫城」の記載を考えると、これは日向系の氏族がもっていた記録に関して、中国へ伝達したと考えるべきなのかもしれません。

それでどの時期まで、その東西の勢力争いがあったのか?ここが課題ですね。

「徳帝の在位時も、荒吐族五王軍は大挙して邪馬台国を攻めるにより亦天皇を空位とあいなす。のち日向族と和交す」

とあるのですが、この「徳帝」が何者か?ここも気になるところです。その後、東西勢力に和解があったとの記載です。

河内王朝以後の天皇のことでしょうから、継体朝から考えるべきでしょうけど、孝徳や称徳天皇のことでしょうか。

あるいは懿徳とすると、神武以降3-4代後の天皇になりますから、応神から数えて4代後で、雄略や武列のことかもしれません。部列の時代にやはり空位が生じてますね。そして継体がオオヒコの本拠・越からやってくる。そこで河内王朝との接点ができて、和解が成立したと

いう展開でしょうか。

専門学校の情報が満載 - best-shingaku.net 東京関東新潟の専門学校はこちら ベスト進学でカンタン資料請求 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する 新登場 PXI 高速デジタイザ - www.home.agilent.com アジレントの PXI 高速デジタイザ 豊富な製品ラインナップ オルビス大人気化粧水/数量限定 - www.orbis.co.jp なくなり次第販売終了!お1人様1点限り の《本ページ限定キャンペーン》 犬の食ふん防止サプリメント - pethealth.jp 犬の食ふんは体の中の異常を示しています 手遅れになる前に今すぐ対策を! Ads by Google

----- Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年10月1日(月)00時49分8秒 返信・引用

> No.794[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

直木孝次郎ですが解説に失敗してますな。姓は阿毎、字は多利思比孤は用明天皇で姓はアメ (天)、字はテリシヒコ(照彦)になります。纏めると、アマテラス、ヒコ=天照彦、なんです。因みに、アマテラス、オオミカミ=天照大神。最近ですが話に、古代の古墳の埋葬者に女装した物がある。と聞いたことがありますか これがアマテラス、ルックみたいですね。

『新唐書』日本伝

欽明之十一年、直梁承聖元年。次海達。次用明、亦曰目、「多利思比孤」、直隋開皇末、始與中國通。次崇峻。崇峻死、欽明之孫女雄古立。次舒明、次皇極。其俗椎髻、無冠帶、跣以行、幅巾蔽後、貴者冒錦;婦人衣純色裙、長腰襦、結髮于後。至煬帝、賜其民錦線冠、飾以金玉、文布為衣、左右佩銀?、長八寸、以多少明貴賤。

欽明の十一年は、梁の承聖元年(552年)に当たる。次は海達。次は用明、また目、「多利思比孤」といい、隋の開皇末に、初めて中国と通じた。次は崇峻。崇峻が死ぬと、欽明の孫娘の雄古(推古)が立った。次は舒明、次は皇極。その俗は椎髻(不明)し、冠帯はなく、裸足で歩き、幅広の巾で後を隠し、貴者は錦の帽子 婦人の衣は純色(鮮明な色)の裙(もすそ)、長い腰襦袢で、髪を後に結う。煬帝に至り、その民に錦線冠を賜り、金玉で飾り、文様入りの布を衣と為し、左右に銀?を佩びる、長さ八寸、多少は貴賤が明確となる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

> 孝徳天皇(654)五年秋七月二十四日、吉士長丹らが百済・新羅の送使共に筑紫に着いた。

筑紫は重要な地名になります。詳しく行きたいので質問します。

管理人さん筑紫はどこかご存知ですか、九州だと思ってないでしょうな。

『日本書紀』の崇神天皇 65 年秋 7 月条には次のような記録がある。

任那者去筑紫國二千餘里北阻海以在鷄林之西南

この HP も理解に苦しんでいます。

<http://www.ne.jp/asahi/issun/original/note43.html> Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:管理人 投稿日:2012年9月30日(日)22時32分3秒

返信・引用 編集済 > No.793[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 官位は百済が始まりのようだ。新羅伝:其官有十七等(594年)、倭国伝:十二等級になる (600年)。

- > 『隋書』新羅伝に「その王は本の百済人」なので百済が始まりになる。 >
- > 百済人が遊牧民ルート、キルギスを通過したなら理解できる。百済は何者かですね。 >
- > 『隋書』新羅伝

>> その王は本の百済人で、自ら海に逃れ、新羅に進入し、遂にその国の王となった。 > 温祚(おんそ)から伝世、金真平(王名=金姓)に至り、開皇十四年(594年)に遣使を以て方物を貢献した。高祖は真平を拝謁し、上開府、

楽浪郡公、新羅王の爵位を賜る。 > その先祖は百済に従属し、後に百済が高句麗を征したが、高句麗人は戎役に堪えられず、相次いで帰国し、遂に強勢となり、百済を襲い迦羅国を従属国とする。

新羅の前にその本拠地にいたのは秦韓人ですから、彼等は楽浪移民で百済方面から来ていることには間違いなんでしょう。その辺は先日述べたとおりですね。

> 官には十七等級がある。その一(初め=首=長官)は伊罰干、相国の如く高貴とされる。次は伊尺干、次は迎干、次は破彌干、次は大阿尺干、次は阿尺干、次は乙吉干、次は沙咄干、次は及伏干、次は大奈摩干、次は奈摩、次は大舍、次は小舍、次は吉士大烏、次は小烏、次は造位。 >

こちらでも先日述べたとおり、新羅の吉士や氏(烏知)などの官位を持った氏族制度が 6 世紀 に日本にもたらされています。

先の『唐会要』倭国・日本国伝で気になるのが、先の下記サイトでも指摘していた 653-4 年の 2 つの遣唐使の記載についてですね。 http://www2.ocn.ne.jp/~syoudji/kodaisi_16.html

片方に吉士が多くかかわっているわけですが、この時期は吉士集団など航海に長けた氏族が 遣唐使にかかわってます。そして新漢人等がバイリンガルの形で乗り込んでいるんですね。

2 つのうちひとつは吉士集団が先導していますが、もうひとつはそうでないんですね。これはもしかすると新羅ルート、南海航路など航路や航法に関係してくるかもしれません。

孝徳天皇(653)四年夏五月十二日、大唐に遣わす大使小山上吉士長丹・副使小乙上吉士駒・学問僧道嚴・道通・道光・恵施・覚勝・弁正・恵照・僧忍・知聡・道昭・定恵・安達・道

観・学生巨勢臣薬・氷連老人…すべて百二十一人が一つの船に乗った。室原首御田を送使とした。第二組の大使大山下高田首根麻呂、副使小乙上掃守連小麻呂、学問僧道福・義尚、すべて百二十人が別の一つの船に乗った。土師連八手を送使とした。秋七月、高田首根麻呂らが薩摩の曲と竹島の間で船が衝突して沈没して死んだ。

孝徳天皇(654)五年秋七月二十四日、吉士長丹らが百済・新羅の送使共に筑紫に着いた。

吉士集団が先導したこの 653 年のほうは、道昭など飛鳥寺の僧侶や、藤原定恵なども乗り込んでいるわけですが、到着地の筑紫というのは、吉士集団の親分の阿部氏、つまりオオヒコ系が筑紫国造として本拠地のひとつとしていた場所ともいえます。

オオヒコは先のとおり、日本海側から滋賀方面に、その息子の武ヌテカワ別つまりヤマトタケルは、東海から関東へと勢力を伸ばしていました。日本海航路はオオヒコ=阿部氏のお得意のところだったのでしょう。吉士集団は畿内の淀川方面にも進出してますから、難波津から筑紫、日本海側へぬけて新羅経由で唐に向かうルートを想定しますね。オオヒコ系はおそらく後の時代に新羅系の新漢人を組み入れたのでしょう。

それに対立していたのが、吉備津彦系で、河内王朝の旧渡来人の子孫となるわけですが、これはおそらく百済との関係も考慮すべきなのかもしれません。継体朝あたりで新漢人との入れ替わりがあるわけです。

それで、654 年の遣唐使を見ると、やはり新漢人系がみえるので、いわゆるオオヒコ・新漢人系が、遣唐使全体の航路を担当していたと見るべきかと感じます。

「孝徳天皇(654)五年二月大唐に遣わす押使大錦上高向史玄理・大使小錦下河辺臣麻呂・副使大山下薬師恵日・判官大乙上書直麻呂・宮首阿弥陀・小乙上岡君宜・置始連大伯・小乙下中臣間人連老・田辺史鳥らが二船に分乗した。数ヶ月かけて高宗帝に拝謁した。東宮監門郭丈举は、詳しく日本国の地理と国の初めの神の名などを尋ねた。皆、質問に対して答えた。押使高向史玄理は大唐の地で死んだ」

おそらくそれ以前の太子ころからの遣使でも、同様にオオヒコ・新漢人系で航路を担当していた可能性が高く、新羅ルートだったのではないかと感じますね。

後に百済寄りになった契機はやはり 645 年の天智の影響によるものでしょうか。蘇我氏を駆逐して新羅的な影響力が弱まったのかもしれない。

その蘇我氏についてですが、新羅の始祖伝承に、蘇伐という氏族の名が見えます。それでこの始祖伝承は実は 5 世紀当時の新羅伝承なのだろうとも感じます。

楊山の麓の蘿井(慶州市塔里に比定される)の林で、馬が跪いて嘶いていることに気がついた高墟村の長の蘇伐都利(ソボルトリ)がその場所に行くと、馬が消えてあとには大きい卵があった。その卵を割ると中から男の子が出てきた[2]ので、村長たちはこれを育てた。10歳を過ぎるころには人となりが優れていたもので、出生が神がかりでもあったために6村の長は彼を推戴して王とした。このとき赫居世は13歳であり、前漢の五鳳元年(前57年)のことという。即位するとともに居西干と名乗り、国号を徐那伐(ソナボル)といった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B5%AB%E5%B1%85%E4%B8%96%E5%B1%85%E8%A5%BF%E5%B9%B2>

蘇我馬子という名も、この蘇伐都利にまつわる馬の伝承に関係していたのではないでしょう。さらにいえば、馬ヤドの皇子とも関係してくるでしょう。中東系のキリストの馬小屋生誕伝承ともちょっとかかわる可能性を感じます。

それで、蘇伐というのがとなって徐那伐(ソナボル)となったのでしょうか。あと、蘇伐刺拏瞿咀羅というチベットの女国の伝承がありますが、ちょっと関係性は未確認

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%B3%E5%9B%BD>

そこで重要になってくるのが、次の倭王の名と皇太子の名ですね。

>『隋書』倭国伝 >> 開皇二十年(600年)、倭王、姓は阿每、字は多利思比孤、号は阿輩雞彌、遣使を王宮に詣でさせる。上(天子)は所司に、そこの風俗を尋ねさせた。使者が言うには、倭王は天を以て兄となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、結跏趺坐(けっかふざ=座禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を停め、我が弟に委ねるという。高祖が曰く「これはとても道理ではない」。ここに於いて訓令でこれを改めさせる。

>> 王の妻は雞彌と号し、後宮には女が六~七百人いる。太子を利歌彌多弗利と呼ぶ。城郭はない。内官には十二等級あり、初めを大徳といい、次に小徳、大仁、小仁、大義、小義、大禮、小禮、大智、小智、大信、小信(と続く)、官員には定員がない。 > 軍尼が一百二十人おり、中国の牧宰(国守)のごとし。八十戸に一伊尼翼を置き、今の里長のようである。十伊尼翼は一軍尼に属す。 >

「王、姓は阿每、字は多利思比孤、号は阿輩雞彌」はそのまま帯彦、大王で問題ないのですが、太子の利歌彌多弗利、これがちょっとおかしい。関連の諸説については下記のとおり。

日本では直木孝次郎による多利思北孤は多利思比孤の誤りとする説が通説となっている。また、推古天皇が厩戸皇子(聖徳太子)のことだとする論者もいる。

太子名(固有名詞説と普通名詞説がある)のうち利を和の誤りとする説がある。古来の大和言葉では、原則として「ら行」音は語頭に立たない(万葉仮名では語頭に「r」音が来ない)ことから、「利」を「和」の誤りとして「利歌彌多弗利」を「和歌彌多弗利」とする。また、「和歌彌多弗利」を源氏物語等にもあらわれる「わかんどほり(皇室の血統、皇族)」とする説もある[5]。なお、『翰苑』には「王長子号和哥彌多弗利。華言太子。」とある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%9A%E5%88%A9%E6%80%9D%E6%AF%94%E5%AD%A4>

たぶん、ワカミタフリでよいのだとおもうのですが、「フリ」という部分が、つまり先の新羅の蘇伐都利(ソボルトリ)とか、徐那伐(ソナボル)といった、いわゆるコリア語系の発音のようにもみえるんですね。「彌多弗利(ミタフリ)」が、王に関する称号で、その上に「若」がついている可能性も感じます。

日本語読みになると、それが「ワカンドホリ」に変化したのでしょうけど、「ムドホリ」が、蘇伐都利(ソボルトリ)の発音ともてくるんですね。当時は聖徳太子の時代ですから、彼のことがなんだともおもいますが、蘇我馬子との関係性が重要です。

Ads by Google

----- Re:『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年9月30日(日)18時02分42秒 返信・引用 編集済

> No.792[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

官位は百済が始まりのようだ。新羅伝:其官有十七等(594 年)、倭国伝:十二等級になる (600 年)。『隋書』新羅伝に「その王は本の百済人」なので百済が始まりになる。

百済人が遊牧民ルート、キルギスを通過したなら理解できる。百済は何者かですな。

『隋書』新羅伝

其王本百済人、自海逃入新羅、遂王其國。傳祚至金真平、開皇十四年、遣使貢方物。高祖拜真平為上開府、樂浪郡公、新羅王。其先附庸於百済、後因百済征高麗、高麗人不堪戎役、相率歸之、遂致強盛、因襲百済附庸於迦羅國。

その王は本の百済人で、自ら海に逃れ、新羅に進入し、遂にその国の王となった。温祚(おんそ)から伝世、金真平(王名=金姓)に至り、開皇十四年(594 年)に遣使を以て方物を貢献した。高祖は真平を拜謁し、上開府、樂浪郡公、新羅王の爵位を賜る。その先祖は百済に従属し、後に百済が高句麗を征したが、高句麗人は戎役に堪えられず、相次いで帰国し、遂に強勢となり、百済を襲い迦羅國に従属国とする。

其官有十七等:其一日伊罰干、貴如相國;次伊尺干、次迎干、次破彌干、次大阿尺干、次阿尺干、次乙吉干、次沙咄干、次及伏干、次大奈摩干、次奈摩、次大舍、次小舍、次吉土、次大烏、次小烏、次造位。

官には十七等級がある。その一(初め=首=長官)は伊罰干、相国の如く高貴とされる。次は伊尺干、次は迎干、次は破彌干、次は大阿尺干、次は阿尺干、次は乙吉干、次は沙咄干、次は及伏干、次は大奈摩干、次は奈摩、次は大舍、次は小舍、次は吉土大烏、次は小烏、次は造位。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/siragi-kanbun4-zuisho.htm>

『隋書』倭国伝

開皇二十年、倭王姓阿每、字多利思比孤、號阿輩雞彌、遣使詣闕。上令所司訪其風俗。使者言倭王以天為兄、以日為弟、天未明時出聽政、跣趺坐、日出便停理務、云委我弟。高祖曰:「此太無義理。」於是訓令改之。

開皇二十年(600 年)、倭王、姓は阿每、字は多利思比孤、号は阿輩雞彌、遣使を王宮に詣でさせる。上(天子)は所司に、その風俗を尋ねさせた。使者が言うには、倭王は天を以て兄となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、結跣趺坐(けっかふざ=座禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を止め、我が弟に委ねるという。高祖が曰く「これはとても道理ではない」。ここに於いて訓令でこれを改めさせる。

王妻號雞彌、後宮有女六七百人。名太子為利歌彌多弗利。無城郭。内官有十二等:一日大德、次小德、次大仁、次小仁、次大義、次小義、次大禮、次小禮、次大智、次小智、次大信、次小信、員無定數。有軍尼一百二十人、猶中國牧宰。八十戸置一伊尼翼、如今里長也。十伊尼翼屬一軍尼。

王の妻は雞彌と号し、後宮には女が六~七百人いる。太子を利歌彌多弗利と呼ぶ。城郭はない。内官には十二等級あり、初めを大德といい、次に小德、大仁、小仁、大義、小義、大禮、小禮、大智、小智、大信、小信(と続く)、官員には定員がない。軍尼が一百二十人おり、中国の牧宰(国守)のごとし。八十戸に一伊尼翼を置き、今の里長のようなものである。十伊尼翼は一軍尼に属す。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

> それが太子の時代には日本にもたらされていたのでしょうか。

>> そのサイトで指摘する同じくキルギスの石人やその腰から武器を下げている件に関しての指摘も同様で、この辺は九州石人、つまり新漢人とかかわる北燕移民・新羅系の流れであることは、すでに会報で記したとおりなのでご参照ください。>> この辺の新羅・金銀装飾技術は、東欧系の系譜を引いており、そのキルギシの石人の抱えているお椀というのが、おそらく宗教儀式でつかった聖杯のようにもみえますね。>> もう少しこの辺の遊牧民ルートとの関係をさぐってみたいところです。

Ads by Google

-----『唐会要』倭国・日本国伝投稿者:管理人 投

稿日:2012 年 9 月 29 日(土)22 時 57 分 22 秒 返

信・引用 編集済 > No.791[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 韓国、韓半島には琥珀、瑪瑙のうち琥珀はない。『唐会要』倭国・日本国伝の初歩的な文章読解力の問題のようです。恥ずかしいです。雲海は文章から雲と海に分け、瑪瑙と琥珀の産地の 2 つに対応させるのが自然である。

あと、先の『唐会要』倭国・日本国伝で気になるのは、新羅と衣服が似ているという点ですね

設官十二等。俗有文字、敬佛法、椎髻無冠帶。隋煬帝賜之衣冠。今以錦綵為冠飾。衣服之制、頗類新羅。腰佩金花、長八寸、左右各數枚、以明貴賤等級。

椎髻で冠と帯はない。隋の煬帝がこれに衣冠を賜う。今、錦綵を以て冠を飾る。衣服の作り方は大変新羅に類似している。腰に金製の花を佩びる。長さ八寸。左右に各数枚。これを以て貴賤や等級を明らかにする。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

「腰佩金花」の部分なのですが、この金花をもって身分の等級を区別していたとすると、逆にいえば古墳からの被葬者でその腰佩の種類がわかれば、どのあたりの官位にいた人物も判明するということでしょう。

八寸ですから、 $3 \times 8 = 24$ センチもの大きな花を数個つけていた計算になります。冠用の「金花」についての文章表現は百済の冠についての表現にも見えるのですが、腰佩で2

4 センチはおかしいんですね。http://inoues.net/korea/koushu_museum.html それで、新羅の腰佩を調べたのですが、いわゆる枝垂桜みたいなタイプの複数の小さな花が

並ぶイメージだと、ちょうど長さに合うものがみえます。こちら参照。

http://avantdoublier.blogspot.jp/2009/09/blog-post_22.html

考えてみるとこの手の魚袋をつけた腰佩は日本からもよく出土しているわけですし、この魚袋や小刀までいたる花卉とも思えそうな部分の数で身分を見分けていたのではないのでしょうか?この場合はみな6つですね。1つだけ大きいのが7つですが。

聖徳太子が官位 12 階など、おそらくは新羅の衣服制度を導入していた時期に派遣された遣隋・唐使の衣服の様子を記録していたのでしょう。

12 階の時代は、600 年代初頭になりますから、その後の 630 年代の記録の前にこの時期が来ていることは、つまりいわゆる太子時代の初期の遣使の様子を記録していたと見て間違いないでしょう。

興味深いのは、先のサイトで突厥・キルギスの腰佩と、新羅のそれとの類似性を指摘しているところですね。確かによく似ている。下記サイトから写真を引用添付します。http://avantdoublier.blogspot.jp/2009/09/blog-post_22.html

それが太子の時代には日本にももたらされていたのでしょう。そのサイトで指摘する同じくキルギスの石人やその腰から武器を下げている件に関しての

指摘も同様で、この辺は九州石人、つまり新漢人とかわる北燕移民・新羅系の流れであることは、すでに会報で記したとおりなのでご参照ください。

この辺の新羅・金銀装飾技術は、東欧系の系譜を引いており、そのキルギシの石人の抱えているお椀というのが、おそらく宗教儀式でつかった聖杯のようにもみえますね。

もう少しこの辺の遊牧民ルートとの関係をさぐってみたいところです。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 9 月 29 日(土)07 時 37 分 0 秒 返信・引用 編集済

> No.790[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

韓国、韓半島には琥珀、瑪瑙のうち琥珀はない。『唐会要』倭国・日本国伝の初歩的な文章読解力の問題のようです。恥ずかしいです。雲海は文章から雲と海に分け、瑪瑙と琥珀の産地の 2 つに対応させるのが自然である。

新羅、高句麗、百済と瑪瑙、琥珀を考慮し秦野が訳すと、

永徽五年(654年)十二月。遣使が千葉県銚子市の琥珀(こはく)と富山県の瑪瑙(めのう)を献上した。…。新羅は平素から高句麗や百済を侵略する。東海の倭国に属している 三国(耶古、波耶、多尼)が危急が生じれば、派兵してこれを救っている。三国は、北は大海が限界、西北は百済と接し、正北は新羅と抵触、南は越州に相接する。倭王の国は絹糸と綿がよく採れる。瑪瑙を産出し、黄白の二色がある。その琥珀は逸品である。雲(富山県)、海(千葉県銚子市)に湧き出る。新羅の侵略に高宗は降書を以てこれを慰撫した。地図を添付、倭国の東西 5ヶ月、南北 3ヶ月の範囲。

東西 5ヶ月、南北 3ヶ月は秦野著書:徐福と邪馬台国、魏志倭人伝の解説書より

琥珀 中国の雲南、河南、広西、福建、貴州、日本においては岩手県久慈市近辺や「千葉県銚子市」でも産出される。

瑪瑙 ドイツ、ブラジル、チェコのボヘミア地方で多くとれる。日本では石川県、「富山県」、北海道などに産し、七宝のひとつに数えられている。

永徽五年(654年)十二月。遣使が琥珀(こはく)と瑪瑙(めのう)を献上した。琥珀の大きさは一斗升の如し。瑪瑙の大きさは五升器の如し。高宗は降書を以てこれを慰撫した。なお言うには、倭王の国は新羅と近接している。新羅は平素から高句麗や百済を侵略し、もし危急が生じれば、倭王は宜しく派兵してこれを救う。倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。いずれも倭に従属している。北は大海が限界、西北は百済と接し、正北は新羅と抵触、南は越州に相接する。絹糸と綿がよく採れる。瑪瑙を産出し、黄白の二色がある。その琥珀は逸品である。雲海の中で湧き出る。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

派兵の文章があるので軍事地図を推定しますか。白村江の記録

> しかし、その軍事地図などの機密記録が残っていないことが課題です。断片から推測するしかない。馬王袋墓の軍事地図みたいに、墓や武器庫からの出土遺物から推定するというのも手でしょう。 >

> 日本語だと「云う」になるのですが、中国漢文だと元の「雲」の意味になるのでしょうか。「雲」ですが中国漢で「云」を使用してます。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012年9月29日(土)04時06分26秒 返信・引用 編集済

> No.786[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 台湾・沖縄・奄美ですが、台湾は中国史籍では倭には属していない。沖縄・奄美は中国史籍、魏志倭人伝に明記がある。もしかですが、マユンガナンに相当する伝承があれば倭に属する

ることになる。

>

それで、琥珀の話の次に出てくる倭国と日本国の別記載の件なのですが、下記のサイトがよくまとめていますね。琥珀記事との関連も指摘してます。

http://www2.ocn.ne.jp/~syouji/kodaisi_16.html

> 『旧唐書』倭国・日本国伝 > 倭國者、古倭奴國也。 > (倭国とは、古の「倭奴国」なり) > と、「倭奴国」という国名の固有名詞として、後の「倭国」の呼称の意、としていた。 > 中国の史書に倭国が現れたのは、『後漢書』の安帝紀の永初元年(107年)の記事が初めてである。 > 「會稽海外有東鯤人 分爲二十餘國」 > 会稽の海外に東鯤(てい)の人あり、分かれて二十余国になり、…歳時を以て来たりて 献見する

思うに、中国唐側の倭・日本に対する位置認識が、魏志倭人伝の記載そのままに、九州から 続く南北に長い島と認識していたので、その後九州のはるか東・近畿からやってきたという 話をきいて別の国「日本国」だとして認識したのではないかと感じます。

薩摩隼人や、越州などが出てくるのも、その倭人認識からでしょう。

ところがもともと倭=日本で、今の日本列島なので、新潟・東北方面の琥珀やメノウの話が出てくる。

普通に考えるとそうなのですが、ただ唐側の日本への認識が非常に低いのが気になりますね。こんな地理認識で、よく白村江で日本と戦ったものだという感じになります。九州のみの小国相手を想定して、唐が戦っていた可能性がでてくるんですね。

しかし、軍事的な対外認識はぜんぜん異なる制度をもちあわせているもので、先の前漢の馬王袋墓出土の地図みたいに、正確で繊細な地図を作らないとまともにには戦えない世界です。

おそらくは唐側も日本の地理については、詳細な情報を得ていたでしょうし、白村江の時点で郭ムソウを派遣してさらに詳細な地理情報を得ていたでしょう。

あくまで歴史上の記録から解釈した歴史家の視点では、南北に細長い島ということでも、軍事的な認識はまったく異なっていたのかもしれませんが。

たぶん、白鳳から奈良初期の時点で、日本の地理、人口、食料、軍備、そこから割り出される軍勢力まで把握していたと思うんです。だから無理に併合しようとしなかったと感じます。

ただ、平和ボケした時代の皇帝た官僚だと、案外そういう認識を持ち合わせていなかった可能性もありますね。唐代の中期になれば、あまり拡張意欲もなかったでしょうし、むしろ蛮人の朝貢国があってくれたほうが、中華世界を作り上げるのに都合がよかったりするものです。

やはり古代史は表面上の公式記録だけおっていても何も見えてこないと思いますね。裏の軍事機密・記録なりを探し出していないと、為政者の意図に右往左往することになります。

しかし、その軍事地図などの機密記録が残っていないことが課題です。断片から推測するしかない。馬王袋墓の軍事地図みたいに、墓や武器庫からの出土遺物から推定するというのも手でしょう。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012年9月28日(金)23時10分41秒 返信・引用

> No.788[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さんへのお返事です。 >
- > 「頗有絲綿。出瑪瑙。有黄白二色。其琥珀好者。云海中湧出。」
- > 文章から韓国の山中になる。 >

>

- > 蛇紋石、韓国の春川市原産瑪瑙(めのう)の可能性はある。
- > 探すが、時間がかかりそう、ですな。 >
- > 鉱物学的には「翡翠」と呼ばれる石は化学組成の違いから「硬玉(ヒスイ輝石)」と「軟玉 (ネフライト : 透閃石-緑閃石系角閃石)」に分かれ、両者はまったく別の鉱物である。 >>◇サーペンティン serpentinite (蛇紋石) > 建築材料に使われる蛇紋岩 serpentinite のうち、特に美しいものを蛇紋石 serpentinite と呼び、安価で硬度が低いため彫刻材料に使われます。 > コリアンジェード Korean jade (韓国ヒスイ)の別名のとおり韓国から多量に産出します。 >

韓国にもあるとのこと興味深いですね。鉱物ものは、場所が限定されてます。東京から石油がでないようなものです。もっと詳細調べていきましょう!

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:
秦野北斗 投稿日:2012年9月28日(金)07時12分48秒 返信・引用

> No.787[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

「頗有絲綿。出瑪瑙。有黄白二色。其琥珀好者。云海中湧出。」

文章から韓国の山中になる。

瑪瑙を産出し、黄白の二色がある。その琥珀は逸品である。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

蛇紋石、韓国の春川市原産瑪瑙(めのう)の可能性はある。
探すが、時間がかかりそう、ですな。

鉱物学的には「翡翠」と呼ばれる石は化学組成の違いから「硬玉(ヒスイ輝石)」と「軟玉(ネフライト : 透閃石-緑閃石系角閃石)」に分かれ、両者はまったく別の鉱物である。

◇サーペンティン serpentine (蛇紋石) 建築材料に使われる蛇紋岩 serpentinite のうち、特に美しいものを蛇紋石 serpentine と呼び、安価で硬度が低いため彫刻材料に使われます。 コリアンジェード Korean jade (韓国ヒスイ)の別名のとおり韓国から多量に産出します。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012年9月26日(水)23時10分51秒 返信・引用

> No.786[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>

- ・ > 奄美島は古代から海上航路の要所であった模様。
- ・ > 遣唐使の航路は現在定説の航路とは異なるな。日本神話の東征航路になる。
- ・ > 古代
- ・ > 日本の歴史書に登場するのは 7 世紀で、『日本書紀』には 657 年(斉明天皇 3 年)に「海見 嶋」、682 年(天武天皇 11 年)に「阿麻弥人」、『続日本紀』には 699 年(文武天皇 3 年)に「奄 美」、714 年(和銅 7 年)に「奄美」とあり全て奄美群島のことだと考えられ、当時から日本の 中央と交流があったことがわかる。733 年(天平 5 年)の第 10 回遣唐使は、奄美を経由して 唐へ向かっている。735 年(天平 7 年)に朝廷は、遣唐使の往来上の利便のため碑を南島に 建てた。『延喜式』雑式には規定が書かれており、島名のほか停泊所や給水所が書き込まれ、奄 美群島の各島々にこの牌が建てられたとしているが、未だ発見はされていない。遣唐使の中 に、奄美語の通訳を置くことも記されている。>>>

奄美の件は興味深いですね。先の『唐会要』倭国・日本国伝で瑪瑙を算出するということから、倭の位置を特定できないかと感じます。

遣使が琥珀(こはく)と瑪瑙(めのう)を献上した。琥珀の大きさは一斗升の如し。瑪瑙の 大きさは五升器の如し。高宗は降書を以てこれを慰撫した。

なお言うには、倭王の国は新羅と近接している。新羅は平素から高句麗や百済を侵略し、もし 危急が生じれば、倭王は宜しく派兵してこれを救う。

いずれも倭に従属している。北は大海が限界、西北は百済と接し、正北は新羅と抵触、南は越 州に相接する。絹糸と綿がよく採れる。瑪瑙を産出し、黄白の二色がある。その琥珀は逸品 である。雲海の中で湧き出る。

どうも瑪瑙の主な産出地は石川、富山、北海道方面のようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%83%8E%E3%82%A6#.E7.94.A3.E5.87.BA.E5.9C.B0>

同じく琥珀は、岩手や千葉のようですな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%8F%E3%82%AF#.E7.94.A3.E5.9C.B0>

ただ「雲海の中で湧き出る。」というのがまた気になります。 「頗有絲綿。出瑪瑙。有黄白二色。其琥珀好者。云海中湧出。」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

日本語だと「云う」になるのですが、中国漢文だと元の「雲」の意味になるのでしょうか。

琥珀が海に漂うという西欧の伝承があるようですね。主な日本の古代琥珀の産地自体は岩手とのこと。

<http://www.kuji.co.jp/amber/santi.html>

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月26日(水)09時41分46秒 返信・引用 編集済

> No.784[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

台湾・沖縄・奄美ですが、台湾は中国史籍では倭には属していない。沖縄・奄美は中国史籍、魏志倭人伝に明記がある。もしかですが、マユンガナシに相当する伝承があれば倭に属することになる。

<http://blog.livedoor.jp/ikenankurunaisa/archives/51162996.html>

奄美島は古代から海上航路の要所であった模様。遣唐使の航路は現在定説の航路とは異なるな。日本神話の東征航路になる。古代日本の歴史書に登場するのは7世紀で、『日本書紀』には657年(斉明天皇3年)に「海見嶋」、682年(天武天皇11年)に「阿麻弥人」、『続日本紀』には699年(文武天皇3年)に「奄美」、714年(和銅7年)に「奄美」とあり全て奄美群島のことだと考えられ、当時から日本の中央と交流があったことがわかる。733年(天平5年)の第10回遣唐使は、奄美を経由して唐へ向かっている。735年(天平7年)に朝廷は、遣唐使の往来上の利便のため碑を南島に建てた。『延喜式』雑式には規定が書かれており、島名のほか停泊所や給水所が書き込まれ、奄美群島の各島々にこの牌が建てられたとしているが、未だ発見はされていない。遣唐使の中に、奄美語の通訳を置くことも記されている。997年(長徳3年)、大宰府管内へ「奄美島」の者が武装して乱入、放火や掠奪をしたという(『小右記』)。翌年、大宰府からの追捕命令が貴賀島に発せられている(『日本紀略』)。この貴賀島は現在の喜界島と考えられており、城久遺跡が発見されたことにもより、これが大宰府の出先機関と推定されている。ただし同時期に新羅の入寇も起こっており、新羅と取違えたのではないかという指摘もある。この時代までを「奄美世(あまんゆ)」とも呼ぶ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%84%E7%BE%8E%E7%BE%A4%E5%B3%B6%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2>

台湾は東鯤の末裔と言っているが東鯤は越、呉、アイヌで会稽東冶の東に対し台湾は西に当たる。台湾に振り回されていますな。もしかですが、マユンガナシに相当する伝承があれば倭に属することになる。

<http://blog.livedoor.jp/ikenankurunaisa/archives/51162996.html>

『旧唐書』倭国・日本国伝 倭國者、古倭奴國也。(倭国とは、古の「倭奴国」なり)と、「倭奴国」という国名の固有名詞として、後の「倭国」の呼称の意、としていた。中国の史書に倭国が現れたのは、『後漢書』の安帝紀の永初元年(107年)の記事が初めてである。

「會稽海外有東鯤人 分爲二十餘國」 会稽の海外に東鯤(てい)の人あり、分かれて二十余国になり、……歳時を以て来たりて 献見する

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B0%E6%B9%BE>

沖縄県は戦後の「どさくさ」で伝承が失われた模様。

シーサーしかないのか。?非常に残念。三角縁神獣鏡の最西端の候補地。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C>

>> 越州というのは、州が島々の意味のようですから、台湾・沖縄・奄美のこととも取れますね。すでにこのころには、南方琉球ルートの開拓していたでしょう。>> そうすると、しかしまた「夷州」をもって云々というあの記載は、「越州」とは別という把握 だったということになるのでしょうか。「大和州」もありましたね。>

>>

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月26日(水)02時08分40秒 返信・引用 編集済

> No.784[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

出雲国風土記では身近な島を言っています。管理人さんは屋久島、種子島はないですな… ポケ方では、真面目に出雲風土記の解説者にはまけますな。公に公開している。

http://www.pref.shimane.lg.jp/life/bunka/bunkazai/izumo_fuudo/izumofudoki/fudoki/fudokif/fudo03.html

八束水臣津野命(やつかみずおみつぬのみこと)は、出雲の国は狭い若国(未完成の国)であるので、他の国の余った土地を引っ張ってきて広く継ぎ足そうとした。そして、佐比売山(三瓶山)と火神岳(大山)に綱をかけ、以下のように「国来国来(くにこくにこ)」と国を引き、できた土地が現在の島根半島であるという。国を引いた綱はそれぞれ菰の長浜(稲佐の浜)と弓浜半島になった。そして、国引きを終えた八束水臣津野命が叫び声とともに大地に杖を突き刺すと木が繁茂し「意宇の杜(おうのもり)」になったという。

新羅の岬→去豆の折絶から八穂爾支豆支の御埼(やほにきづきのみさき。杵築崎) 北門(きたど)の佐伎(さき)の国→多久の折絶から狭田(さだ)の国 北門の良波(よなみ)の国→宇波の折絶から闇見(くらみ)の国 越国の都都(珠洲)の岬→三穂埼

『唐会要』中国史籍には、屋久島、種子島、越州を台湾から…。悲しいことに中国史籍には沖縄方面記録はない。

中国史籍だと、越州はベトナム、耶古、波耶、多尼はフィリピン、マレーシア…。が妥当では…

「大和州」は神武東征に出てきます。注)HPの内容の解釈は間違っています。

<http://www.geocities.co.jp/longwindinghistory/jinmutousei.htm> 「夷州」は徐福伝で始皇帝 BC200 年と中国史籍の開皇二十年(600 年)。呉(三国) [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_\(%E4%B8%89%E5%9B%BD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_(%E4%B8%89%E5%9B%BD))

南方琉球ルート、別名は上海ルートになり、伝承はマユンガナシの祭りで残っている。年代は徐福伝に近い始皇帝 BC200 年頃になる。大神(アマテラス)の使い。マユンガナシ 別名はアマテラスの上海買物隊でしょうな。

<http://8220.teacup.com/toraijin/bbs/754> > そうすると、しかしまた「夷州」をもって云々というあの記載は、「越州」とは別という把握

だったということになるのでしょうか。「大和州」もありましたね。

> 越州というのは、州が島々の意味のようですから、台湾・沖縄・奄美のこととも取れますね。すでにこのころには、南方琉球ルートの開拓していたでしょう。

Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人 投稿日:2012 年 9 月 25 日(火)23 時 15 分 47 秒 返信・引用 編集済

> No.782[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 和邇(ワニ)は越の末裔です。『唐会要』倭国・日本国伝の越州になる。 >
- > 新羅は倭国の北岸の狗邪韓国。倭国の極南端(漢委奴国)が越州。 >
- > 永徽五年(654 年)の文章ですが、卑弥呼が指揮を取り「垂仁天皇」「景行天皇」が三韓に向けた凄まじい攻撃を仕掛けた結果は耶古、波耶、多尼の三国になる。 >

『唐会要』の倭国記載はおもしろいですね。九州を中心に描かれているように見えます。耶古、波耶、多尼は、屋久島、種子島というのが通説ですね。隼人がみえます。越州を台湾から

中国南部とすると、沖縄方面が記されていない計算ですが…。

> 『唐会要』倭国・日本国伝 >> 永徽五年(654 年)十二月。遣使が琥珀(こはく)と瑪瑙(めのう)を献上した。琥珀の大きさは一斗升の如し。瑪瑙の大きさは五升器の如し。高宗は降書を以てこれを慰撫した > なお言うには、倭王の国は新羅と近接している。新羅は平素から高句麗や百済を侵略し、もし危急が生じれば、倭王は宜しく

派兵してこれを救う。 > 倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。いずれも倭に従属している。北 には大海が限界、西北は百済と接し、正北は新羅と抵触、「南は越州に相接する」。絹糸と綿がよく採れる。瑪瑙を産出し、黄白の二色がある。その琥珀は逸品である。雲海の中で湧き出る

越州というのは、州が島々の意味のようですから、台湾・沖縄・奄美のこととも取れますね。すでにこのころには、南方琉球ルートの開拓していたでしょう。

そうすると、しかしまた「夷州」をもって云々というあの記載は、「越州」とは別という把握だったということになるのでしょうか。「大和州」もありましたね。

Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 9 月 25 日(火)22 時 04 分 10 秒 返信・引用 編集済

> No.780[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

白村江が気になり再調査です。天武天皇、天智天皇の和風諡号が異なり垂仁天皇の別命から 推測すると天智天皇は別尊=別命で韓半島南部の天皇になる。今まで、秦野は天武天皇、天智 天皇は異母兄弟と思っていた。

天智天皇(てんちてんのう)

和風諡号:天命開別尊(あめみことひらかすわけのみこと)

天武天皇(てんむてんのう)

和風諡号:淳中原瀛真人天皇(あまのぬなはらおきのまひとのすめらみこと)

白村江の経緯が『唐会要』から高句麗、百済、新羅の内乱の様ですな。この内乱は唐も知っていて 頭を痛めている文章がある。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/siragi-kanbun5-kyutosho.htm>

皇極天皇:斉明天皇元年には、高句麗、百済、新羅が使を遣わして朝貢してきた。また、蝦夷と 隼人も衆を率いて内属し、朝献した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9A%87%E6%A5%B5%E5%A4%A9%E7%9A%87>

『唐会要』倭国・日本国伝の永徽五年(654 年)十二月の件ではないか。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

皇極天皇、天智天皇に取っては一大事でしょうな。

皇極天皇(こうぎよくてんのう)

和風諡号:天豊財重日足姫天皇(あめとよたからいかしひたらしひめのすめらみこと)

誕生 594 年 崩御 661 年 8 月 24 日 陵所 越智岡上陵 御名 實女王 異称 天豊財重日足姫尊 父親 茅渟王

母親 吉備姫王

皇配 高向王舒明天皇

子女 漢皇子

天智天皇

間人皇女

天武天皇

皇居 飛鳥板蓋宮

Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月25日(火)08時56分58秒 返信・引用 編集済

> No.781[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

和邇(ワニ)は越の末裔です。『唐会要』倭国・日本国伝の越州になる。

新羅は倭国の北岸の狗邪韓国。倭国の極南端(漢委奴国)が越州。

永徽五年(654年)の文章ですが、卑弥呼が指揮を取り「垂仁天皇」「景行天皇」が三韓に向け た凄まじい攻撃を仕掛けた結果は耶古、波耶、多尼の三国になる。

654年前文は倭王が白村江に派兵してこれを救う意図を則天武后に説明している。 663年白村江の戦い、朝鮮半島の白村江(現在の錦江近郊)で行われた、倭国・百濟遺民の 連合軍と、唐・新羅連合軍(羅唐同盟)との間の、海と陸の会戦のことである。実の所は百 濟遺民の救出。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%89%87%E5%A4%A9%E7%99%BD%E6%9D%91%E6%B1%9F%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

『唐会要』倭国・日本国伝

永徽五年十二月。遣使獻琥珀瑠璃。琥珀大如斗。瑠璃大如五升器。高宗降書慰撫之。仍云。王國 與新羅接近。新羅素為高麗百濟所侵。若有危急。王宜遣兵救之。倭國東海嶼中野人。有耶古。波 耶。多尼三國。皆附庸於倭。北限大海。西北接百濟。正北抵新羅。南與越州相接。頗有絲綿。出瑠 璃。有黃白二色。其琥珀好者。雲海中湧出。

永徽五年(654年)十二月。遣使が琥珀(こはく)と瑠璃(めのう)を献上した。琥珀の 大きさは一斗升の如し。瑠璃の大きさは五升器の如し。高宗は降書を以てこれを慰撫した。 なお言うには、倭王の国は新羅と近接している。新羅は平素から高句麗や百濟を侵略し、も し危急が生じれば、倭王は宜しく派兵してこれを救う。 倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。いずれも倭に従属している。北は 大海が限界、西北は百濟と接し、正北は新羅と抵触、「南は越州に相接する」。絹糸と綿がよく 採れる。瑠璃を産出し、黄白の二色がある。その琥珀は逸品である。雲海の中で湧き出る。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

秦野距離で当時の地図を作成する。

注)秦野著書、徐福と邪馬台国は魏志倭人伝までの内容。

耶古、波耶、多尼、越州は以後になるので明記はない。

これらの国は出雲風土記、国引き神話の国になる。

>> それで思い出すのが、大穴ムジ=大国主と、ワニと白兔の話です。 >> ワニをだましてその背中に乗って向こう岸へ渡ろうとした白ウサギは、かえってワニにや られてしまったわけですが、これは和邇氏とウツシコ・イカガシコ、そして進出してきた孝 霊・元親子との関係にたとえられているのではないかと感じます。 >> 在地系の和邇氏は秦野さんもお感じのとおり、確かに宮廷直属の武装集団のようにも見え ます。難波根子武振熊命や文部氏が出ています。 >> それで和邇氏を利用して、海を渡ろうとしたのは誰か?ということなのですが、白兔はど

うみても女性ですね。ヒミコやイヨのようにも見える。魏へ朝貢しようとした彼女たちの意 図は如何。 。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012年9月25日(火)07時45分49秒 返信・引用 編集済

> No.780[元記事へ] >> 秦野北斗さんへのお返事です。

> 別命は「垂仁天皇」6件から始まり「景行天皇」22件(本人含む)が最大で「日本武尊」0件で終 わる。 >> 「垂仁天

皇」6件から始まり「景行天皇」22件(本人含む)で最大になり、「日本武尊」0件で終止している模様。何か三韓で事件あった模様。「日本武尊」の父が「景行天皇」になるので、日本神話のヤマトタケルはどうも、この頃の記録と思われる。

>>

「別」はそうすると、通説?の景行朝からではなく垂仁朝からはじまったと見るべきかのかもしれせんね。

> 歴史から邪馬台国の卑弥呼が存在している。多分、卑弥呼が指揮を取り「垂仁天皇」「景行天皇」が三韓に向けた凄まじい攻撃を仕掛けたのでしょな。この後に、魏志倭人伝の陳寿の力を借りる。魏が韓半島へ攻撃。卑弥呼の死後、神功皇后(壱與)の三韓征伐になる。 >

先の五大夫の和邇氏の祖・彦国菫命をさらに調べていくと、また興味深いことがわかってきます。

旧大和国添上郡和邇(現天理市和邇町・櫛本町付近) 旧大和国添上、添下両郡 6世紀頃に春日山麓に移住。(春日和邇臣)

先祖は

孝昭天皇 | 天足彦国押人命 | 和邇日子押人命 | 彦国姥津命 姥津媛(開化天皇妃) |
| 伊富都久命 彦国菫命 小篠命 乙国菫命 |
| 【丈部氏祖】【吉田氏祖】 彦忍人命 建耶須禰命 大日納命【飯高氏祖】 (武社国造) |
| 八千宿禰命 難波根子武振熊命 彦汝命 真侶古命 (吉備穴国造)【和邇氏祖】【葦占氏祖】(額田国造)【安那氏祖】【春日氏祖】【猪甘氏祖】【真野氏祖】【壬生氏祖】

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%92%8C%E9%82%87%E6%B0%8F>

どうもこの氏族は葛城系の在地豪族ですね。天足彦国押人命と和邇日子押人命と孝昭天皇 はほぼ同じ人物・王朝でしょう。その娘が後からやってきた孝霊・孝元王朝にとついでる ようにみえます。

その姥津媛(開化天皇妃)がつまりイシコリドメ(姥女)でヒミコではないでしょうか。彦国菫命の父・彦国姥津命がその姥津媛の兄弟ですが、実質的にはおそらく同一人物ですね。

そうするとこの氏族がヒミコ関連の伝承を有しているのではないかと考えました。

先に論じたように、大穴ムジ=大国主=穴師=中国官僚トウ氏=孝霊・孝元との見方をしているわけですが、そこに在地系のウツシコ・イカガシコ、つまりヒミコ・イヨが嫁いでいく わけですね。さらにそこに開化がどこからか進出してきて、彼女たちを略奪するわけです。

それでこの系譜を見ると、「吉備穴国造」という氏族が出てきます。これが先の大穴ムジ、さらにはその大元のトウ氏の「少君・穴伝承」につながるかもしれません。こちらのサイトに吉備 や播磨、八千矛兵主神など、その辺のことが詳しく記載されてます。 <http://www.ten-f.com/hinokuni-to-yasu.html>

和邇氏は後に添上・春日方面へ移動しているのですが、孝元妃のイカガシコとその母ウツシコが開化に略奪されて、おそらく黒田宮から春日の宮へと移動した流れと関係しているので はないでしょうか。

それで結局後代まで外戚氏族としての地位を保つんですね。

それで思い出すのが、大穴ムジ=大国主と、ワニと白兔の話です。

ワニをだましてその背中に乗って向こう岸へ渡ろうとした白ウサギは、かえってワニにやられてしまったわけですが、これは和邇氏とウツシコ・イカガシコ、そして進出してきた孝霊・元親子との関係にたとえられているのではないかと感じます。

在地系の和邇氏は秦野さんもお感じのとおり、確かに宮廷直属の武装集団のようにも見えます。難波根子武振熊命や丈部氏が出ています。

それで和邇氏を利用して、海を渡ろうとしたのは誰か?ということなのですが、白兔はどう みて女性ですね。ヒミコやイヨのようにも見える。魏へ朝貢しようとした彼女たちの意図 は如何。 そしてそこに中国から大国

主・穴師が逃亡してやってくるわけです。

あと、当時の黒田宮は唐子・鍵遺跡から鏡作神社あたりにあったようですが、鏡作神社がちょうど昨日調べたところでは、応神⇔仁徳陵を結ぶ東西方位ライン上にあたるんですね。

おそらく黒田宮時代の中国式都城を、河内に作ろうとした集団がいて、河内の都城の東西に同時に巨大古墳を造営した可能性を感じます。

さらに西に伸ばすと、児島屯倉方面にでるのですが、彼等は吉備から河内への航海ルートも計算しているんです。屯倉造営や四方区画測量と関係しながらですね。

そこで、秦野さん注目の神功皇后がキーになってくるのですが、どうしてこの皇后が応神紀に挟み込まれたのか？ここが課題です。

河内王朝が、黒田宮つまりウツシコ・イカガシコの宮を意識したのと、応神紀に神功皇后の伝承が挟み込まれたことの間には、何かつながりがあるのではないのでしょうか。

先のとおり、河内王朝は尺度も測量も九州系で、まったくそれ以前のヤマトのそれとは異なっていたわけですが、それでもヤマトの王朝との接点を見出す必要があったわけですね。延長線上に自身を位置づける必要があった。

ホムダ・大トモ「別」の「別」の名称もそこと関係しているのかもしれませんが。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月24日(月)21時07分41秒 返信・引用 編集済

> No.779[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

別命は「垂仁天皇」6件から始まり「景行天皇」22件(本人含む)が最大で「日本武尊」0件で終わる。

「応神天皇」2件(本人含む)は神功皇后の三韓征伐で理解できる。

「垂仁天皇」6件から始まり「景行天皇」22件(本人含む)で最大になり、「日本武尊」0件で終止している模様。何か三韓で事件あった模様。「日本武尊」の父が「景行天皇」になるので、日本神話のヤマトタケルはどうも、この頃の記録と思われる。

<http://www15.plala.or.jp/kojiki/yamatotakeru/yamatotakeru.html>

別命を調べると「崇神天皇」0件、「垂仁天皇」6件、「景行天皇」22件(本人含む)、「日本武尊」0件、「成務天皇」0件、「仲哀天皇」0件、「応神天皇」2件(本人含む)になる。

「崇神天皇」0件 「垂仁天皇」6件

活目入彦五十狹茅尊(いくめいりびこいさちのみこと、垂仁天皇) 両道入姫命(ふたじいりひめのみこと、石衝毘売命、垂仁天皇)。日本武尊の妃、仲哀天皇の母 譽津別命 鐸石別命(ぬてしわけのみこと)。和気氏の祖 息速別命 磐撞別命(磐衝別命)。三尾氏の祖 祖別命(おおちわけのみこと、落別王・於知別命・意知別命)。伊賀国造・小槻氏の祖 胆武別命(伊登志別王)

「景行天皇」22件(本人含む)

垂仁天皇の第三皇子、母は日葉酢媛命(ひばすひめのみこと) 大足彦忍代別尊(おおたらしひこおしろわけのみこと、景行天皇) 櫛角別王(くしつのわけのみこ) 忍之別皇子(おしのわけのみこ、押別命) 大酢別皇子(おおすわけのみこ) 武国凝別皇子(たけくにこりわけのみこ) - 伊予御村別・和気公等祖 国乳別皇子(くにちわけのみこ) 国背別皇子(くにせわけのみこ、宮道別皇子) 豊戸別皇子(とよとわけのみこ) 豊国別皇子(とよくにわけのみこ) - 日向国造祖 武国皇別命(たけくにこうわけのみこ) - 武国凝別命と同一人か 大曾色別命(おおそしこわけのみこと) 石社別命(いわこそわけのみこと) 武押別命(たけおしわけのみこと) - 忍之別命と同一人か 曾能目別命(そのめわけのみこと) 襲小橋別命(そのおはしわけのみこと) 色己焦別命(しこりわけのみこと) 武弟別命(たけおとわけのみこと)

手事別命(たごとわけのみこと)

大我門別命(おおあれとわけのみこと)

豊日別命(とよひわけのみこと)
豊手別命(とよてわけのみこと)
大焦別命(おおこりわけのみこと)

「日本武尊」0 件

小碓尊(おうすのみこと、日本武尊) - 仲哀天皇父

「成務天皇」0 件

稚足彦尊(わかたらしひこのみこと、成務天皇)
父は景行天皇、母は八坂入媛命(やさかのいりびめのみこと)

「仲哀天皇」0 件

日本武尊の第 2 子、母は垂仁天皇の皇女・両道入姫命(ふたじいりひめのみこと)。足仲彦天皇(たらしなかつひこのすめらみこと、仲哀天皇)、帯中日子天皇(古事記)。「タラシヒコ」皇后:気長足姫尊(おきながたらしひめのみこと、神功皇后。息長宿禰王の女)誉田別命(ほむたわけのみこと、応神天皇)

「応神天皇」2 件(本人含む) 誉屋別皇子(ほむやわけのみこ、古事記では神功皇后所生)

垂仁天皇より五大夫の一人として武渟川別(阿倍氏の祖)、…は軍隊が必要だったのではな いか。

歴史から邪馬台国の卑弥呼が存在している。多分、卑弥呼が指揮を取り「垂仁天皇」「景行天皇」が三韓に向けた凄まじい攻撃を仕掛けたのでしょ うな。この後に、魏志倭人伝の陳寿の力を借りる。魏が韓半島へ攻撃。卑弥呼の死後、神功皇后(壺 尊)の三韓征伐になる。

ここまで、来ると歴史小説が書けますな。

>> 彦国菴命(ひこくにぶく の みこと、生薨年不詳)は、古墳時代の人物。和邇氏の祖。また 垂仁朝における五大夫の一人。 > 崇神 10 年、武埴安彦命の反乱において四道将軍の大彦命に従い 山背で武埴安彦の軍勢と 戦った。彦国菴の放った矢により武埴安彦は胸を貫かれ討たれている。 > 垂仁 25 年には、垂仁天皇より五大夫の一人として武渟川別(阿倍氏の祖)、大鹿嶋(中臣氏の 祖)、十千根(物部氏の祖)、武日(大伴氏の祖)らと共に訓辞を受け賜った。 >

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012 年 9 月 23 日(日)23 時 01 分 35 秒 返信・引用 編集済

> No.778[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 天日別命:天御中主尊(あめのみなかぬしのみこと)の子孫、天日鷲命(天日別命):神武 天皇

天日鷲というと、五伴緒で、九州に渡来したであろう大伴・中臣・忌部系を想起させますね。

> 誉田別命:神功皇后 ホムダワケはちょっと興味深い別名があります。

諱は誉田別尊(ほむたわけのみこと)、大鞆和気命(おおともわけのみこと)。誉田天皇 (ほむたのすめらみこと/ほんだのすめらみこと)、胎中天皇(はらのうちにましますすめ らみこと)とも称される。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%9C%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87>

大鞆和気(オオトモ)命、大伴氏を想起させますね。大伴氏は会報で記したように九州の装飾古墳に見られるような弓や盾の武具にまつわる伝承を有してます。

鞆「トモ・ホムタ」も武具の一種で、それが応神の伝承にかかわってくるとなるといよいよ面白いですね。

『日本書紀』には、譽田天皇(ほむたのすめらみこと)[2]。この名は、天皇が生まれた時、その 腕の肉が弓具の鞆(ほむた)のように盛り上がっていた事に由来し、ほむたに譽田をあてた ものだという。また、母の神功皇后の胎内にあったときから皇位に就く宿命にあったので、「胎中天皇」とも称された。

同じく下記のウィキの記載に注目です。吉備臣の祖として御友別、近江の安(やす)国造の 祖先として意富多牟和気(おほたむわけ)

『日本書紀』には、吉備臣の祖として御友別(みともわけ)の名が、『古事記』には、近江の安 (やす)国造の祖先として意富多牟和気(おほたむわけ)の名が見えるが、これらの豪族の 名の構成は「ホムダワケ」と全く同じである。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%9C%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87>

吉備と大伴との関係ができましたね。先の流れだと吉備征伐したヤマトタケル・仲哀のラ インにつながってきます。

ただ吉備臣の祖は吉備津彦なので、吉備津彦=成務とすると、その後ヤマトタケルに征伐さ れて、さらにその後、ふたたび吉備津彦系の皇統に戻ったという展開になってしまうのでし ょうか。

ただ吉備津彦を成務天皇として、造山古墳をその墳墓とすると、同じ系統のホムダワケの墳 墓を、応神天皇陵とすれば、双方巨大な理由もわかってくるような気がしますね。渡来系の土 木技術がそこにかかわっていたの でしょう。

その前の景行天皇、ヤマトタケル・仲哀天皇は、敵対勢力のオオヒコ系となり、あまり墳墓は 大きくない。

もともと大伴系のオオトモワケという人物が九州にいて、それがそのまま吉備経由で畿内に 進出して天皇になったので、オオトモ(ホムダ)ワケ天皇となったという線でどうでしょう か。450 年以降の話ではないかと感じます。

個人的には大伴・中臣・五伴緒の話は、もっと後の 500 年代と考えていたのですが、その辺 どうなるのか気になります。応神伝承自体が、もっと後の時代のそれをもってきているよう な気もするんですね。

あと、ちょうど彦国菟命という垂仁時代の「五大夫」のひとりが、五伴緒の諸氏を意味してい るように見えます。

彦国菟命(ひこくにぶく の みこと、生薨年不詳)は、古墳時代の人物。和邇氏の祖。また垂 仁朝における五大夫の一人。 崇神 10 年、武埴安彦命の反乱において四道将軍の大彦命に従い 山背で武埴安彦の軍勢と戦った。 彦国菟の放った矢により武埴安彦は胸を貫かれ討たれている。 垂仁 25 年には、垂仁天皇より五大夫の一人として武渟川別(阿倍氏の祖)、大鹿嶋(中臣氏の 祖)、十千根(物部氏の祖)、武日(大伴氏の祖)らと共に訓辞を受け賜った。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BD%A6%E5%9B%BD%E8%91%BA%E5%91%BD>

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 9 月 23 日(日)22 時 10 分 52 秒 返信・引用 編集済

> No.777[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

どうも、国語辞書 - goo 辞書の別命(特別の命令。別に出される命令。)とは違う見たいですな。 別命と名前の対応を挙げると天日別命は神武天皇。神武東征から韓半島にやまとを築いてい る。

下記の垂仁天皇、景行天皇、神功皇后の関係から韓半島の命を別命の模様。
武渟川別命:武庫港の茅渟川上宮の命になる。

天日別命:天御中主尊(あめのみなかぬしのみこと)の子孫、天日鷲命(天日別命):神武天 皇
<http://kotobank.jp/word/%E5%A4%A9%E6%97%A5%E5%88%A5%E5%91%BD>

豊韓別命:「大彦命」の孫は「豊韓別命」豊韓別命が武渟川別の子。 「大彦命」:垂仁天皇の外祖父に当たる
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%BD%A6%E5%91%BD>

誉田別命:神功皇后

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%9C%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87>

東雲別命:?

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E9%9B%B2>

伊奢沙別命:神功皇后

<http://d.hatena.ne.jp/keyword/%B0%CB%D4%FA%BA%BB%CA%CC%CC%BF>

武国凝別命:景行天皇の第 12 皇子 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%9B%BD%E5%87%9D%E5%88%A5%E5%91%BD>

息速別命:垂仁天皇の第 9 皇子 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%81%AF%E9%80%9F%E5%88%A5%E5%91%BD>

磐撞別命:第 11 代垂仁天皇の第 10 皇子 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A3%90%E6%92%9E%E5%88%A5%E5%91%BD>

>

- > 2)和気氏人物列伝
- > ・11 垂仁天皇
- > 2-1)鐸石別命(めでしわけのみこと)
- > 1 父:11 垂仁天皇 母:淳葉田瓊媛<丹波道主<彦坐王
- > 2 妹:胆香足姫 子供:稚鐸石別命 別名:沼幣別(記)・吉備石旻別
- > 3 和気神社祭神。和気神。和気氏始祖。
- > 4 河内国大県郡高尾山に葬られた。鐸彦神社創始。
- > 5 金属技術集団(秦氏などの渡来人)が奉斎した神。
- > 6 和気氏は精錬に優れていた。 >
- > 2-2)稚鐸石別
- > 1 父:鐸石別命 母:不明
- > 2 子供:田守別
- > 3 吉備磐梨別君姓を賜ったとされる。 >
- > 2-3)田守別
- > 1 父:稚鐸石別 母:不明
- > 2 子供:弟彦王 別名:健真別王 >
- > 2-4)弟彦王
- > 1 父:田守別 母:不明
- > 2 子供:麻己目王 別名:建結別王
- > 3 神功皇后の新羅遠征に従軍。凱旋した翌年に忍熊王の反乱が興った。
- > 皇后は弟彦王に命じて播磨と吉備の境に関(現在:備前市三石)を設けて防がし、反乱は 鎮圧された。この勲功により、藤原県に封じられた。(日本後紀)これが現在の和気町である。以後この地に土着。新撰姓氏録には上記記事の他に吉備磐梨県を賜るとある。 > 4 和気神社配神。 >

Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人 投稿日:2012 年 9 月 23 日(日)00 時 29 分 41 秒 返信・引用
編集済

> No.776[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 武淳川別命を考察すると列記した別命はどれも特定された人物はない。どうも特別の命令、 文章または命令書でないか。命令書は命令を受ける人が行う事になる。命令を祭る事も考えられる。例であるが、

譽田別命は応神天皇になるが枯野船の文章がある。また、神功皇后と応神天皇が対で祭られる。しかし、何処に存在したかは不明である。日本には別命(命令書)があるが応神天皇は存在は疑わしい。結論は武渟川別命は人物としては存在しない。

>

ちょっと別命のいみが理解できないのですが、(オオヒコの息子)武渟川別命=(景行・オオタラシヒコの息子)倭武(ヤマトタケル)とすると、確かにヤマトタケルの実在性が低いといわれていることがありますね。

思うに実在性が低いのではなく、物語的な要素が付加されすぎているので、相対的に信憑性が低く見えるということなのではないかと感じます。

歴史的な事実と、後代の装飾、あるいは前代の伝承的な要素に分類して考える必要があります。

またいぶ系譜が伸びてますね。秦野さんのご指摘のとおり、もっと世代間は短いか、世代差がなかったはずです。吉備津彦は長生きしすぎてますからね。

実在するか否かのひとつの確認法は子孫の数や妻の関係性がありますね。以下はヤマトタケルの親族です。

ヤマトタケルは『日本書紀』、『先代旧事本紀』では景行天皇の第二皇子。『古事記』では第三皇子。母は播磨稲日大郎姫(はりまのいなびのおおいらつめ)。

妃:両道入姫皇女(ふたじのいりひめのひめみこ。垂仁天皇の皇女) 稲依別王(いなよりわけのみこ) - 犬上君、建部君の祖。 足仲彦天皇(仲哀天皇) 布忍入姫命(ぬのしいりひめのひめみこ) 稚武王(わかたけのみこ) - 近江建部君の祖、宮道君等の祖(『先代旧事本紀』)。

妃:吉備穴戸武媛(きびのあなとのたけひめ。吉備武彦の娘) 武卵王(たけかいこのみこ、武彥王・建貝児王) - 讃岐綾君・宮道君の祖。 十城別王(とおきわけのみこ) - 伊予別君の祖。

妃:弟橘媛(おとたちばなひめ。穂積氏忍山宿禰の娘) 9男を生む(『先代旧事本紀』)。 稚武彦王(わかたけひこのみこ)

妃:山代之玖玖麻毛理比売(やましろのくくまもりひめ) 足鏡別王(あしかがみわけのみこ、蘆髪蒲見別王・葦噉竈見別王) - 鎌倉別の祖。

妃:布多遲比売(ふたじひめ。近淡海国造の祖・意富多牟和気の娘) (稲依別王)→ 両道入姫皇女の所生か。

一妻(『古事記』では名は不詳、『先代旧事本紀』では橘媛) 息長田別王(おきながたわけのみこ。『古事記』、『先代旧事本紀』) - 阿波君等の祖(『先代旧事本紀』)。

こうみると、「武」「タケ」という文字が関係者に多用されていることがわかります。後の雄略との関係性を考える説もありますね。

武渟川別命の「武」が、やはりそこにかかわってくる。

なぜ「武」にこだわるのか?ここもキーポイントです。父のオオヒコも、トヨキなども武とついてもいいくらいの武力で征伐してますが、なぜかこのヤマトタケルだけ「武」がついているんですね。

あと、ご紹介のリストにあったヤマトタケルの兄弟の武国凝別命が、ちょっと重要です。伊予の平定に向かっていますが、因支首(いなきのおびと)・和気公の祖で、「別」が見えますね。

そして武渟川別命と類似性のある名前です。「国凝」と「渟川(沼川)」との間には、開拓という共通要素があります。母方が阿部氏でオオヒコ系ですね。オオヒコは武渟川別命の父です。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%9B%BD%E5%87%9D%E5%88%A5%E5%91%BD>

その武国凝別命の子孫である因支首は讃岐国造のようで、また和気氏というのがまた興味深いのですが、吉備・河内方面にかかわってます。鐸石別命(ぬでしわけのみこと)・別名・沼幣別が祖なのですが、これが先の武渟川別命と「ヌテ」の発音で同じです。

このワケ氏と渡来人、吉備とのかかわりが、成務(吉備津彦)を征伐したであろう景行の息子ヤマトタケルと(つまりオオヒコの息子・武渟川別命)、とその息子・仲哀の出現を考えらる上で重要かもしれません。

石別の意味は、また吉備と播磨の境を石で分けるという征伐関連との見方もできそうです。 以下ワケ氏の系譜。系譜の子孫に「健」がついてますね。

2)和気氏人物列伝

・11 垂仁天皇

2-1)鐸石別命(ぬでしわけのみこと)

1 父:11 垂仁天皇 母:淳葉田瓊媛<丹波道主<彦坐王

2 妹:胆香足姫 子供:稚鐸石別命 別名:沼幣別(記)・吉備石无別

3 和気神社祭神。和気神。和気氏始祖。

4 河内国大県郡高尾山に葬られた。鐸彦神社創始。

5 金属技術集団(秦氏などの渡来人)が奉斎した神。

6 和気氏は精錬に優れていた。

2-2)稚鐸石別

1 父:鐸石別命 母:不明

2 子供:田守別

3 吉備磐梨別君姓を賜ったとされる。

2-3)田守別

1 父:稚鐸石別 母:不明

2 子供:弟彦王 別名:健真別王

2-4)弟彦王 1 父:田守別 母:不明 2 子供:麻己目王 別名:建結別王 3 神功皇后の新羅遠征に従軍。凱旋した翌年に忍熊王の反乱が興った。 皇后は弟彦王に命じて播磨と吉備の境に関(現在:備前市三石)を設けて防がし、反乱は 鎮圧された。この勲功により、藤原県に封じられた。(日本後紀)これが現在の和気町である。以後この地に土着。新撰姓氏録には上記記事の他に吉備磐梨県を賜るとある。 4 和気神社配神。

Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月22日(土)20時58分20秒 返信・引用 編集済

> No.774[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

武淳川別命を考察すると列記した別命はどれも特定された人物はない。どうも特別の命令、 文章または命令書でないか。命令書は命令を受ける人が行う事になる。命令を祭る事も考えられる。例であるが、誉田別命は応神天皇になるが枯野船の文章がある。また、神功皇后と応神天皇が対で祭られる。しかし、何処に存在したかは不明である。日本には別命(命令書)があるが応神天皇は存在は疑わしい。結論は武淳川別命は人物としては存在しない。

別命:特別の命令。別に出される命令。

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/199354/m0u/>

天日別命

<http://kotobank.jp/word/%E5%A4%A9%E6%97%A5%E5%88%A5%E5%91%BD>

豊韓別命

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%BD%A6%E5%91%BD>

誉田別命

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%9C%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87>

東雲別命

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E9%9B%B2>

伊奢沙別命

<http://d.hatena.ne.jp/keyword/%B0%CB%D4%FA%BA%BB%CA%CC%CC%BF>

武国凝別命

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%9B%BD%E5%87%9D>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%A5%E5%91%BD>

息速別命

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%81%AF%E9%80%9F%E5%88%A5%E5%91%BD>

磐撞別命

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A3%90%E6%92%9E%E5%88%A5%E5%91%BD>

>> ただ興味深いのは、景行(オオヒコ)の息子のヤマトタケルの息子が仲哀なんですね。オオヒコを討伐したはずの成務;吉備津彦の息子ではない。 >> ふたたびオオヒコ系統に戻っている点が重要です。成務の息子は一人しかいないようです。 和諷奴気王ですが、何も記されていないことを考慮すると、ここで皇統が切れたんですね。 >> 吉備からふたたびオオヒコ系の阿部氏・タカハシ氏の本拠に戻る。そして河内王朝へと移行していくわけですが、この辺の流れを考古的にも追えるのではないのでしょうか。 >>

Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 9 月 22 日(土)07 時 34 分 34 秒 返信・引用 編集済

> No.774[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

この時期、おそらく 250-300 年代は、弁・秦韓・筑紫・出雲・但馬・尾張といった地域にいる同族同士で争奪戦をしていたのでしょう。先日のとおり、三角縁の出土地点を結んだ四方 方位区画が、山陰・尾張におけるその関係を示していました。もう少し出雲神話の裏を見る 必要があるかもしれませんね。

当時の国の名前を地図にして、田道間守(タジマモリ) =但馬守の航海ルートを通ると…。 古事記の日本武尊の話しが壮大な韓半島南部(倭国)と出雲、女王国(瑞穂の国)の姿が見えて くる。

詳細を詰めることで年代が出るが、年代の尺度は卑弥呼、徐福伝説、中国史籍しかない。今、 言える事は神功皇后=壱輿=豊(とよ)になる。また、崇神天皇、垂仁天皇、景行天皇、成務天皇、 仲哀天皇、壱輿は同年代。日本神話のヤマトタケルの文中に登場しているはず。

<http://www15.plala.or.jp/kojiki/yamatotakeru/yamatotakeru.html>

武淳川別命は武淳川の特命文書と思われる。何処で人の名前になったか不明。

> 垂仁天皇三十九年十月、五十瓊敷命が茅淳川上宮で剣一千口を作り石上神宮へ納めたが、 後に五十瓊敷命が石上神宮の神宝を管理するようになった。あるいは、物部首の始祖、春日 臣族の市河が管理したとも伝えられている。

武淳川は武庫港(忠武港)の茅淳川になり、茅淳川上宮(釜山の馬山)。任那日本府(釜山の東邑)

歌謡曲「釜山港へ帰れ」=「忠武港へ帰れ」

http://duarbo.air-nifty.com/songs/2007/09/post_bee9.html

韓国語での「釜山港へ帰れ」では「行ってしまったきり帰ってこない兄弟」を想う歌になった んです。秦野は本来

「忠武港へ帰れ」が帰ってこない兄弟の歌で同じものとする。 どうも、この歌の詩は伝承で 250-300 年代のもので卑弥呼姉弟でないか。根拠は歌の内容が 壮大すぎる。

http://257693.at.webry.info/201204/article_4.html

但馬守の航海ルートは秦野著書、徐福と邪馬台国を基にした航海ルートです。 これが神武東征、ヤマトタケル東征、神功皇后の三韓征伐、白村江の戦いの航海ルートになる。

Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人 投稿日:2012 年 9 月 22 日(土)00 時 41 分 11 秒 返信・引用 編集済
> No.772[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 崇神天皇 >『古事記』は崇神天皇の没年を干支により戊寅年と記載しているので(崩年干支または没年 干支といふ)、これを信用して 318 年(または 258 年)没と推測する説も中には見られる

><http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B4%87%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87>

- > 崇神天皇、垂仁天皇、景行天皇、成務天皇、仲哀天皇
- > 258 年 269 年
- > 卑弥呼 日本武尊 神功皇后 >
- > 崇神天皇(卑弥呼)~仲哀天皇(神功皇后)の 11 年。それと日本武尊を如何に読むかです。舞台 は韓半島南部の釜山(任那日本府)でしょう。 >

さらに考えを進めて、吉備津彦=成務天皇とすると、ちょうど吉備の造山古墳に注目できます。

応神・仁徳陵・につぐ第 4 位の大きさである理由は、天皇陵だからでしょう。 5 世紀初頭から前半と見られているようですが、成務→仲哀→応神の順を考慮するならば、4

末から 5 初の構築で、応神・仁徳陵より少し早いという感じがしますね。 倍塚から半島系遺物が出てきているのは吉備津彦=甘美韓日狭の名に見えるように、半島と

のつながりが深い「天皇陵」だったからとも伺えます。

そうするとその前のオオヒコ=大甕彦=景行陵はどこかになるのですが、オオヒコの拠点は 滋賀から北陸と、筑紫ですね。息子の武沼河は、美濃から河内に入っていく。

おそらく生前から墳墓は作るので、その周辺地域にあったはず。現在の景行陵は、河内の 白鳥陵と東西方位ラインで結ばれているので、マキムクの日代宮との関係も考慮して、その ままでよい可能性もあるのですが。

生まれたところとか、故郷、元の地盤に墓を建てる風習があるのではないかと感じます。吉備 津彦=成務天皇も、故郷や地盤は吉備にあったので、奈良で政治をして死んだのちは吉備に

葬られた。

後の応神が吉備の葉田宮に行幸してますね。これも祖先の成務の故郷と関係しているのではないのでしょうか。この吉備の温羅・阿曹女伝承はやはりオオヒコの際に出てくるニヤスヒ コ・吾田姫の乱とかかわってます。

ただ興味深いのは、景行(オオヒコ)の息子のヤマトタケルの息子が仲哀なんですね。オオ ヒコを討伐したはずの成務;吉備津彦の息子ではない。

ふたたびオオヒコ系統に戻っている点が重要です。成務の息子は一人しかいないようです。 和譚奴気王ですが、何も記されていないことを考慮すると、ここで皇統が切れたんですね。

吉備からふたたびオオヒコ系の阿部氏・タカハシ氏の本拠に戻る。そして河内王朝へと移行 していくわけですが、この辺の流れを考古的にも追えるのではないのでしょうか。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアー カイブを

3D デジタイズが革新する 免疫力を上げる新成分 - www.brolico-research.jp 東京大学が世界で初めて発見
ナチュラル・キラー(NK)細胞を活性化 いぬのきもち公式サイト - www.benesse.co.jp 愛犬のしつけやお世話
の情報誌。 付録などの特典と一緒に毎月お届け 今秋発売の狙い目一戸建て特集 - kodate.homes.co.jp
【関東】早めのチェックがポイント! 2012 秋から販売の一戸建て特集 ご希望のホテルあります。 -
www.rurubu.travel 日本最大級のサイトだから見つかる。 ホテル・宿が日々増加中 !

Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012 年 9 月 21 日(金)23 時 20 分 16 秒 返信・引用 編集済

> No.772[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 武渟川別命はどうも名前でないみたいですな。 >>> 垂仁天皇三十九年十月、五十瓊敷命が茅渟川上宮で剣
一千口を作り石上神宮へ納めたが、 後に五十瓊敷命が石上神宮の神宝を管理するようになった。あるいは、物
部首の始祖、春日 臣族の市河が管理したとも伝えられている。

>

この垂仁の子・五十瓊敷命は、先の鷗渟渟=武渟川別命=ヤマトタケルの対応関係を考える 上で重要ですね。「ヌ
テ」「ウト」「渟」の地名や名称がまとわりついてます。

同 35 年 9 月、河内国に派遣され、高石池や茅渟(ちぬ)池を始め多くの池溝を開く。同様に 広く諸国をま
わり農業を盛んにして人々の生活に安定をもたらし、民から厚く崇敬されたと 伝える。

→沼や河の開拓と関係してますね。それで武沼河別命となった。

同 39 年 10 月、「菟砥川上宮」(うとのかわかみのみや。現在の大阪府阪南市自然田付近 か?)にて剣千振を作
り、石上神宮に納める。垂仁天皇は五十瓊敷命に命じて神宮の神宝を 掌らせる。

→「菟砥川上宮」

墳墓 宇度墓古墳(うどはかこふん。淡輪ニサンザイ古墳とも) 大阪府泉南郡岬町淡輪に所在。5 世紀後半に築造
された全長 200m の大型前方後円墳。五十瓊 敷命の墓と伝えられるが確証はなく、現在宮内庁の管理下にあ
る。最寄り駅は南海本線「淡輪 駅」。

この五十瓊敷命は景行の息子ではなく兄弟となりますが、皇位より武を選んでいる点で、ヤ マトタケルと共通
性があります。

垂仁天皇 30 年、天皇が兄弟に対しそれぞれが欲するものを尋ね、兄の五十瓊敷入彦命は「弓 矢」を欲し、弟の
大足彦命は「皇位」を望み、大足彦命が垂仁天皇の後継者に決まったとされ る。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/
%E4%BA%94%E5%8D%81%E7%93%8A%E6%95%B7%E5%85%A5%E5%BD%A6%E5%91%BD](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E5%8D%81%E7%93%8A%E6%95%B7%E5%85%A5%E5%BD%A6%E5%91%BD)

別名が誉津別命で、ヤマトタケルと同様に白鳥伝承を持っています。

『日本書紀』によると皇子はある日、鵠(くぐい、今の白鳥)が渡るさまを見て「是何物ぞ」と 初めて言葉を発した。
天皇は喜び、その鵠を捕まえることを命じる。湯河板拳(鳥取造の祖) が出雲(一書に但馬)で捕まえて献上し、鵠を
遊び相手にすると、誉津別命は言葉を発する ようになった。ここに鳥取部、鳥飼部、誉津部を設けたとある。

この誉津別命伝承には、また池に関連する話や、出雲大神の話が混じってきてます。 鷗渟渟=武渟川別命=ヤマ
トタケルと考えると、鷗渟渟の「鷗」の意味のなぞも解けますね。

一方『古事記』では、誉津別皇子についてより詳しい伝承が述べられている。天皇は尾張の国 の二股に分かれた
杉で二股船を作り、それを運んできて、市師池、軽池に浮かべて、皇子とと もに戯れた。あるとき皇子は天を往
く鵠を見て何かを言おうとしたので、天皇はそれを見て 鵠を捕らえるように命じた。鵠は紀伊、播磨、因幡、丹
波、但馬、近江、美濃、尾張、信濃、越を飛 んだ末に捕らえられた。しかし皇子は鵠を得てもまだ物言わなかつ
た。ある晩、天皇の夢に何 者かが現れて「我が宮を天皇の宮のごとく造り直したなら、皇子はしゃべれるよう
になるだ ろう」と述べた。そこで天皇は太占で夢に現れたのが何者であるか占わせると、言語(物言わぬ)は出雲
大神の祟りとわかった。天皇は皇子を曙立王、菟上王とともに出雲(現:島根県東 部)に遣わし、大神を拝させる

と皇子はしゃべれるようになったという。その帰り、皇子は肥 長比売と婚姻したが、垣間見ると肥長比売が蛇体であったため、畏れて逃げた。すると肥長比 売は海原を照らしながら追いかけてきたので、皇子はますます畏れて、船を山に引き上げて 大和に逃げ帰った。天皇は皇子が話せるようになったことを知って喜び、菟上王を出雲に返 して大神の宮を造らせた。また鳥取部、鳥甘部、品遅部、大湯坐、若湯坐を設けたという。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AA%89%E6%B4%A5%E5%88%A5%E5%91%BD>

母は丹波道主王ですから、天日矛=タジマモリといった半島系ともかかわりがあったので しょう。

Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 9 月 21 日(金)20 時 56 分 22 秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

武渟川別命はどうも名前でないみたいですな。

この時期、おそらく 250-300 年代は、弁・秦韓・筑紫・出雲・但馬・尾張といった地域にい る同族同士で争奪戦をしていたのでしょう。先日のおとり、三角縁の出土地点を結んだ四方 方位区画が、山陰・尾張におけるその関係を示していました。もう少し出雲神話の裏を見る 必要があるかもしれませんね。

崇神天皇 『古事記』は崇神天皇の没年を干支により戊寅年と記載しているので(崩年干支または没年

干支という)、これを信用して 318 年(または 258 年)没と推測する説も中には見られる

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B4%87%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87>

神功皇后 『日本書紀』などによれば、201 年から 269 年まで政事を執り行なった。夫の仲哀天皇の急死

(200 年)後、住吉大神の神託により <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E5%8A%9F%E7%9A%87%E5%90%8E>

崇神天皇から仲哀天皇は 11 年、この間に日本武尊が存在する。武渟川別命が神話に登場する が対応が問題ですな。どうも武渟川別命の意味は武庫の茅渟川の特別の命令

歌謡曲「釜山港へ帰れ」「忠武港へ帰れ」

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/199354/m0u/>

垂仁天皇三十九年十月、五十瓊敷命が茅渟川上宮で剣一千口を作り石上神宮へ納めたが、後 に五十瓊敷命が石上神宮の神宝を管理するようになった。あるいは、物部首の始祖、春日臣 族の市河が管理したとも伝えられている。

http://www.genbu.net/data/yamato/isonokami_title.htm?print=on

崇神天皇、垂仁天皇、景行天皇、成務天皇、仲哀天皇 258 年 269 年 卑弥呼 日本武尊 神功皇后

崇神天皇(卑弥呼)~仲哀天皇(神功皇后)の 11 年。それと日本武尊を如何に読むかです。舞台 は韓半島南部の釜山(任那日本府)でしょう。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012 年 9 月 21 日(金)18 時 26 分 54 秒 返信・引用

> No.769[元記事へ] hatano さんへのお返事です。

> 武渟川別命の武渟川は何処の川か? > 少し時間が必要だな、暫くお待ちください。木曾三川の一つだろう。 >
> 木曾三川(きそさんせん)とは、濃尾平野を流れる木曾川、長良川、揖斐川の 3 つの川の総 称である。

武渟川別命についてですが、先の投稿どおりの解釈でいけば、次のような関係になります。

飯入根の息子→鷗濡渟 大彦の息子→武渟川別命 大帯彦(景行)の息子→倭建(武)命(ヤマトタケル)

四道将軍として、北陸に向かった大彦は、東海へ向かった息子の武渟川別命と、福島 of 会津で合流した話があるのですが、これがヤマトタケルの東征伐の話とダイレクトに関係しています。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E6%B8%9F%E5%B7%9D%E5%88%A5>

ヤマトタケルと武渟川別命は「タケ」の発音や東海・関東遠征で同一の人物だとわかるんですね。

そうすると、武渟川別命の名につく渟川は「ヌナカワ」で、先のとおり「沼川」と解釈すると、一般名詞の可能性もできます。

ヤマトタケルや飯入根の伝承から沼川を探してみるのもひとつの手ですね。 Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人 投稿日:2012年9月21日(金)03時15分31秒

返信・引用 編集済 > No.769[元記事へ]

hatano さんへのお返事です。

> 武渟川別命の武渟川は何処の川か? > 少し時間が必要だな、暫くお待ちください。木曾三川の一つだろう。 >
> 木曾三川(きそさんせん)とは、濃尾平野を流れる木曾川、長良川、揖斐川の 3つの川の総称である。

その後も、皇子関連調べてみましたが、出雲振根の話を、四道将軍の話と重ね合わせていくと、妙な事実が浮かびあがってきます。

先に垂仁が殺されることを暗示した歌がありましたよね。たぶん、これが次の景行に垂仁が殺されたことを暗示したものだったのではないかと感じます。

「《崇神天皇十年(癸巳前八八)九月壬子(廿七)》壬子。大彦命到於和珥坂上。時尙有少女、歌之曰。く一云。大彦命到山背平坂。時道側有童女、歌之曰。く @瀾磨紀異利寐胡播擲。飢迺餓鳥=[土+鳥]。志齊務苔。農殊末句志羅珥。比売那素寐殊望 みまきいりびこはや おのがををしせむと めすまくしらに ひめなそびすも (K018)く一云。於朋耆妬庸利。于介伽卑=[氏+一]。許呂佐務苔。須羅句=[土+鳥]志羅珥。比売那素寐須望。おほきとよりうかかひて ころさむと すらくをしらに ひめなそびすも (K018 a)く」

景行から一気に九州系が入ってくるわけですが、どうも景行:大垂彦で、四道将軍の大彦とみなせるのではないかと感じます。「帯」は通説どおり、後代の皇族の名称で、後からオオヒコであることを隠すために加えられた。

オオヒコは一代前の崇神朝の皇族ですが、系譜的には一代後の垂仁朝のものとの見方が有力なようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%BD%A6%E5%91%BD>

北陸遠征をしている一方で、九州の筑紫国造の祖でもある点が重要です。

それで再度先の崇神条の出雲話を見ていくと、アナグラムになっていることがわかります。

「出雲臣の遠祖出雲振根が神宝を管理していた。しかし、筑紫の国に行っていたので、会えませんでした。その弟の飯入根が皇命をた承り、弟の甘美韓日狭と子の鷗濡渟に持たせて奉った」筑紫の国から帰った出雲振根は、神宝を天皇に差し出したことを怒り、飯入根を攻め立てます。しかし、我慢ができなくて、飯入根を泳ぎに誘って、武器をとりあげたところで、殺してしまします。この様子を甘美韓日狭と鷗濡渟が朝廷に行って、報告しますと、天皇は、吉備津彦と武渟河別を遣わして出雲振根を殺させました。」

<http://homepage1.nifty.com/o-mino/page1197.html>

出雲振根と飯入根の兄弟争いというのが、垂仁(イクメイリヒコ)と大彦の争いを意味しているようにも見えます。甘美韓日狭と鷗濡渟というのが、吉備津彦と東海の武渟河別のこと

です。「渟」の字が一緒ですね。

出雲振根を大彦とみなすと、大彦が筑紫国造の祖となっていることと重なってきます。

おそらく大彦が大帯彦として景行天皇となり、息子のヤマトタケルとともに、もともとあった九州基盤、新たに遠征した関東基盤を双方確保したのでしょう。350年ごろの話ですね。

垂仁の子・円目王および、その子孫が、もともと伊賀のヒジキワケが担当していた禰宜として、伊勢(伊賀)や宮

廷の祭祀官になっているのも、大彦に敗れた子孫とのことで、王権から 遠ざけられたのかもしれませんが。

あと、吉備津彦と甘美韓日狭との対応関係が重要です。吉備津彦は、彦五十狭芹彦命、比古伊 佐勢理毘古命ともいうのですが、「ヒイサ」と「ヒコイサ(セリ)」との間に、語的な類似性を 感じます。

吉備津彦とともに派遣された武渟河別は大彦の子なのですが、飯入根の子として、鷗濡渟が 出てくる出ですね。そうすると、大彦=飯入根とも見えます。「オホ」が「イヒ」になっているんで すね。

そうすると殺されたのは、垂仁(イクメイリヒコ)ではなく大彦ということになってしまう のですが、イクメ入彦を、イイ入根とみなすとどうなるか。

吉備津彦は稚武彦命(わかたけひこのみこと)または若日子建吉備津日子命と呼ばれるの ですが、これが景行の次の成務天皇の別名と一緒になんですね。稚足彦尊(わかたらしひこの みこと)、若帯日子天皇(わかたらしひこのすめらのみこと、古事記)。

先の出雲条文から推測するに、オオヒコがまずタケハニヤスヒコの乱の察知して、垂仁のと ころに戻るも、すでに殺害されていたか、オオヒコ自身が垂仁を殺害し皇位につく。それでオ オヒコ→オオタラシヒコ(景行)となった。

その後、さらに吉備津彦(ワカタケヒコ)がオオヒコを討って、ワカタラシヒコつまり成務 として即位した。

そういう流れなのではないでしょうか。「帯・タラシ」の部分は後代の舒明朝あたりの「帯」の 用法が、そのまま導入されたようで、つまりもともとはそのまま「オオヒコ」「ワカタケヒコ」 と記されていた可能性があります。

「帯(タラシ)」は後代の皇族の尊称で、「足(帯)根」でのちに皇族の子孫が「宿根、宿禰」を カバネにしたのかもしれませんが。

次の仲哀は「帯・中・ヒコ」で、中間のつなぎ役の意味ですね。「帯」と「帯」をつなぐの意味と とると、「帯・足・タラシ」が後に大王の尊称となったことがわかります。

仲哀の後の応神あたりから、本格的に弁・秦韓から渡来人がやってきたり(後期)屯倉経営 がなされるわけですが、元は吉備津彦あたりからの流れで、吉備津彦を甘美韓日狭とみなす と、「韓」の字に、半島系勢力の意味を見て取れるような気がしますね。丹波道主王、つまり田 道間守→天日矛あたりから、すでにその兆候が見て取れます。

それで、武渟河別と神武天皇条文の建沼河別命とを同一人物とみなし、オオヒコ=神武を唱 える下記のサイトの説はオオヒコ=景行と考える上で重要です。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/oni-megami/oni-megami-3-4.htm>

おそらく、この辺の四道将軍や皇子名は少し入れ替わる可能性もありますが、垂仁期に同族 争いと、王朝交替の転機があっただろうことは確かでしょう。

そしてさらに、先の崇神条の出雲話を見ていくと、

「兄である出雲振根が帰国して弟の処置に対して「なぜもう少し待たなかった。何を恐れて神 宝を差し出してしまったのだ」と責めた。そうして何年かたっても怒りはおさまらず弟を殺 そうという気持ちが湧いてきた。そこで兄は策略でもって弟を撃ち殺してしまった。 甘美韓日狭と鷗濡渟は朝廷に参上して、事の次第を報告し、吉備津彦(きびつひこ・四道将 軍・前述)と武渟河別(たけぬなかわわけ・四道将軍・前述)を派遣して出雲振根を攻め滅ぼしてしまった。それゆえ出雲臣一族は、このことを恐れ、出雲大神(オオクニヌシ神)を しばらくの間祭らなかった。

その時、丹波の氷上の氷香戸辺(ひかとべ)という人物が皇太子の活目尊(いくめのみこ と・のちの垂仁天皇)に「私の子供が、自然に不思議なことを言いました。これは子供の言葉 としては不自然で、あるいは出雲大神が取り憑いた言葉かもしれません。」と申し上げた。 皇太子がそのことを天皇に奏上され、勅を下して出雲大神を祭らせることになったという。」

また崇神天皇の頃に、任那国が蘇那葛叱知(そなかしち)を派遣して朝貢してきたという。

<http://shrine.s25.xrea.com/sujin4.html>

これも、この出雲伝承が、垂仁朝の記録のアナグラムであることを、わざと垂仁に出雲神が乗 移ったという形で表現しているんですね。天皇殺しは記録としては明確に書けなかったの でしょう。ただ出雲系と後の宮廷とは、精力的には過去の敵対関係にあったこともあり、大彦 などの扱い方が異なるんでしょう。

それで任那国の条文を崇神天皇条にもってきている意図も、あるいは任那=ミマキイリヒコ との関係を暗示しているのでしょうか。

こうみると、おおよその年代は 30 年で区切ると、以下のような年代になるのではないでしょ うか

★…考安の時代(-170):秋津宮 ★孝霊・孝元の時代(170-200)、彼等の妃のウツシコ・イカガシコ:つまりヒミコ・イヨ の時代(200-260):黒田宮(唐子・鍵) ★開化(260-290)、崇神(290-320)、垂仁(320-350):磯城・巻向の宮 ★景行(350-380)、成務(380-410)、仲哀・応神(410-):巻向→滋賀→九州→河内

それで★のあたりで王朝交替が起こっているように感じます。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:hatano 投稿日:2012 年 9 月 20 日(木)22 時 31 分 46 秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。

武淳川別命の武淳川は何処の川か？

少し時間が必要だな、暫くお待ちください。木曾三川の一つだろう。

木曾三川(きそさんせん)とは、濃尾平野を流れる木曾川、長良川、揖斐川の 3 つの川の総称 である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%A8%E6%9B%BD%E4%B8%89%E5%B7%9D>

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人 投稿日:2012 年 9 月 20 日(木)02 時 42 分 21 秒 返信・引用 編集済

> No.767[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>『随書倭国伝』では「倭国は邪摩堆に都す、即ち『魏志』のいわゆる邪馬台なる者なり。」という記述がある。『隋書』の「邪摩堆」は『魏志』の「邪馬台」にあたるというのである。しかも、「邪 摩堆」は都の名である。「邪摩堆」の古代中国語音は邪摩堆[jya-muai-tu?] であり、『魏志倭人 伝』の邪馬台[jya-mea-d?]と近い。文脈のうえからも「倭国はやまとに都す」とすべきであろう。

『随書倭国伝』の「邪摩堆」を「やまと」と読むとすれば、『魏志倭人伝』の「邪馬台」も「やまと」で あり、『日本書紀』の「夜摩苔」と同じ「やまと」を指していると考えるのが自然である。>

ちょっと皇子名の件で解明してきた感じがあります。

四道将軍(しどうしょうぐん、古訓:よつのみちのいくさのみこと)は、『日本書紀』に登場す る皇族(王族)の将軍で、大彦命(おおびこのみこと)、武淳川別命(たけぬなかわわけの みこと)、吉備津彦命(きびつひこのみこと)、丹波道主命(たんばみちぬしのみこと)の 4 人を指す[1]。

吉備津彦、丹波道主命(田道間守、但馬)は、地域名が王族の名になっていることがあります ね。

そのひとり、 武淳川別も東海を意味しているようです。

タケヌナカワケ、タケヌナカワケノミコトは『日本書紀』では武淳川別、『古事記』では建 沼河別命と表記される、記紀に登場する人物。武淳川別命。四道将軍の一人。大彦命の子。阿 倍臣の祖。

この将軍は東海に出向いてます。

同時期に淳名城入媛命がいるのですが、崇神天皇と妃尾張大海媛の間に生まれた皇女です。 東海の尾張から嫁入りしているんですね。

淳名城 淳川、これが「ヌナ」音で共通していて、「沼」の意味があるようです。東海地方は沼地 と認識されていたか。

したがって四道将軍の 3 人までが、地域名となるわけです。 それで残りが、大彦、豊城入彦命。後者は東国へ派遣されてます。毛野氏の祖。

豊鍬入姫命の同母兄です。

豊城が、東国の地域を意味する可能性を感じます。東国へ派遣されるというよりは、東国から 入ってきたか？ 基盤は東国にある。

母は荒河戸畔の娘・遠津年魚眼妙媛(とおつあゆめまぐわしひめ)。母方の(支族)氏 族名に「支」あるいは「城」が関係してくるとすると、先の弁・秦韓の「支」の用法と類似します。

豊鍬入姫命を「台与」とする説がありますが、その母のこの遠津年魚眼妙媛(とおつあゆめ まぐわしひめ)にも注目すべきかもしれません。「とおつあゆ」とおゆ「とよ」

「遠い津」という表現が見えますね。東国=遠国=豊国ということではないでしょうか。

ここにも眼を皇族名につける習慣が見えますね。先の円目王、活目王(垂仁)…。同族 でしょう。

また十市瓊入媛命(とおちにいりびめのみこと)がいますね。崇神天皇の皇女。母は、尾張 大海媛。同母兄に八坂入彦命ら、異母兄弟に垂仁天皇、豊城入彦命らがいる。

物部連の「トチネ(十千根、十市根、止智尼、十千尼)」、中臣、伊香連および中村連の「 コヤネ(天児屋根命、天乃古矢根命、天乃子八 ... この内、地名にネがつくものは地域の 軍事的首長であり、トチネは大和国十市地方の、ハリナネは尾張国針名地方の豪族と

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D_\(%E6%A0%B9%E3%80%81%E7%A6%B0\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D_(%E6%A0%B9%E3%80%81%E7%A6%B0))

十市も地域名。物部氏と関係していて、八尺瓊勾玉とも類似しますね。瓊は玉の意味で、女性 名詞なのでしょう。

八坂入彦の八坂も地域名となりそうですが、あるいは八尺のことか？

あと、この豊城入彦命と活目尊(垂仁)の伝承が興味深いです。

『日本書紀』によると、崇神天皇は豊城命(豊城入彦命)と活目尊(いくめのみこと、後の垂 仁天皇)に勅して、共に慈愛のある子でありどちらを後継者とするか決めがたいため、それ ぞれの見る夢で判断すると伝えた(夢占)。豊城命は「御諸山(みもろやま)に登り、東に向 かって槍(ほこ)や刀を振り回す夢を見た」と答え、活目尊は「御諸山に登り、四方に縄を張 って雀を追い払う夢を見た」と答えた。その結果、弟の活目尊は領土の確保と農耕の振興を考 えているとして位を継がせることとし、豊城命は東に向かい武器を振るったので東国を治め させるために派遣された(崇神天皇 48 年正月戊子(10 日)条)。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B1%8A%E5%9F%8E%E5%85%A5%E5%BD%E5%91%BD>

ここに、四方に縄を張ってすずめを追い払うシーンが見えますね。これがいわゆる四方区画 に見える方位測量のことでしょう。領土を確定する役目です。縄を張って都の周囲を数キロ 単位で測量した件は以前説明したとおりですね。

こうみると、やはり山頂から眺めながら測量してますね。そして、スズメの意味するところは、 敵もしくは稲作を害するものの意味で、都市防護、および田地からの収穫に、その測量がかか わっていることを示しているようです。

「豊城」は、(武人、各地の城や津(港)にいる人)、「御間城」「吉備津」

「活目」は、王(都の統治者・測量をする人) 活目の息子が円目王。

と理解するならば、「目」の意味するところが理解できそうです。地方に向かう文人ではなく、 宮廷似奉仕する文人、技術者。目を活かすの意味で、領土(農地)を活かす、振興させる人・

技術者の意味でしょうか。都城・田地・四方区画→碁盤の目。

後者は喪葬令集解古記に遊部(あそびべ)の祖として記載がある。もともと、伊賀の比自支 和氣(ひじきわけ)が天皇の殯宮(あらきのみや、もがりのみや)に奉仕していたが、雄略 天皇が崩御した時に、一族が絶えていた為、たまたま、比自支和氣の娘を妻としていた円目王 が奉仕させられた、という。時の帝(清寧天皇か?)は『手足の毛が八束毛になるまで遊べ』 と勅し、円目王の子孫が、課役を免ぜられ、代々遊部となったという。

また、遊部は垂仁天皇の子孫であるとも言われている。遊部は、天皇の喪に籠もる一番近い 肉親以外で、殯宮に入り、崩御した天皇に 2人 1組で仕える役で、刀と矛を持つのが禰義(ね ぎ)、刀と酒食を持つのが余比(よひ、よし)と言い、死者の魂(凶癘魂:きょうれいのたましい)が荒振らないように鎮魂の儀式を行う。殯宮の外では諸臣が誄(しのび、しのびご と)の儀礼を行う。遊部は大和国高市郡に居住していたと言われ、橿原市四分町が比定されている。遊部と、鳴釜神事に仕える阿曾女との名前に何か共通の意味があるのかは不明。

尚、三重県伊賀市比自岐に比自岐神社が鎮座している。祭神は比自岐神であり、比自支氏の祖らしい。

伊賀に比自山城というのがありますね。中世のものですが、もともと城としての立地はよい 拠点だったのでしょう。 <http://www.geocities.jp/ikomaimie/iga/hijiyama.html>

ただ比自岐、比自支和氣の語をみると、「支・岐」が「枝分かれ」を意味していて、「別」とも共通 した要素があります。やはり支族の意味かな。

ミマキ、トヨキ、ヒジキ…。任那から入ってきた枝分かれ支族、豊・遠・東国の支族、比自 地方からやってきた支族。

ネは地域の政治的英雄的首長に付けられる名称であり、宗教的呪術的首長に付けられた「ミ ミおよびミ」と対照的であるが、両者は並存している。[1] ネを語尾にもつ人名は応神・仁 徳天皇期以前に限られる。古くは「タリネ(垂根)」、「イリネ(入根)」、「タラシネ(帯 根)」、「ヤネ(屋根、八根、矢根)」、「トネ(刀禰、戸根、等禰)」等、さまざまなネの名称があったが、応神・仁徳天皇期以降はスクネ(宿禰、足尼)だけに限られるようになった。これは カバネ制度による影響である。このためネは4世紀以前の古い称号(原始的カバネ)と

結論づけられる。また「ヒコネ(彦根)」や「ネコ(根子)」はカバネ制度以降の名称と考えられる。
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D_%28%E6%A0%B9%E3%80%81%E7%A6%B0%29

「帯・垂・足・宿」「入」「八・屋」「戸・刀」が同類の語のようですね。

「タリ」「イリ」の共通性が重要。小林氏は高句麗の長官職・対濶や、百済の「達」を、垂と関係させてますね。

また出雲国造に「フリネ(振根)」、「イヒイリネ(飯入根)」および「ウマシカラヒネ(可美 乾飯根命)」、尾張氏には「イナダネ(建稲種命、伊那陀宿禰)」、「ハリナネ(尾治針名根)」、「オヅナネ(尾綱根)」および「シリツキネ(志里都岐根)」または「シリツナネ(尻綱根、 志

理

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D_\(%E6%A0%B9%E3%80%81%E7%A6%B0\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D_(%E6%A0%B9%E3%80%81%E7%A6%B0))

初代:天穗日命 11代:阿多命 - 出雲振根。『日本書紀』巻第五「崇神紀」60年の条に出雲臣之遠祖とあり、神宝を崇神天皇に差し出した弟・飯入根を殺し [2]、崇神天皇の命により吉備津彦らに誅殺されたとある。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%87%BA%E9%9B%B2%E5%9B%BD%E9%80%A0>

出雲+振根「フリネ」と飯+入根「イリネ」に注目。これは、ミマキイリヒコ、キビツヒコに関する同系伝承ですね。

「出雲臣の遠祖出雲振根が神宝を管理していた。しかし、筑紫の国に行っていたので、会えませんでした。その弟の飯入根が皇命をた承り、弟の甘美韓日狭と子の 濡淳に持たせて奉った」筑紫の国から帰った出雲振根は、神宝を天皇に差し出したことを怒り、飯入根を攻め立てます。しかし、我慢ができなくて、飯入根を泳ぎに誘って、武器をとりあげたところで、殺してしまします。この様子を甘美韓日狭と濡淳が朝廷に行って、報告しますと、天皇は、吉備津彦と 武渟河別を遣わして出雲振根を殺させました。」

<http://homepage1.nifty.com/o-mino/page1197.html>

どうも飯も揖斐川周辺の地名のこのようですね。ここでは 「地名」+「入」+「彦」あるいは「根」、という形式がわか

ります。

甘美韓日狹は、韓国の同族、濡淳は「ヌテ」で先の東海系の集団でしょうか。つまり武淳河別。兄弟の争いはすると、垂仁(イクメイリヒコ)と豊城イリヒコあたりが類似してきます。

思うに、この大国主の後の出雲伝承に、崇神・垂仁・四道將軍の裏の抗争が表現されているのではないのでしょうか。大国主は先日のおと孝霊・中国官僚のトウ氏および配下の月氏(スクナヒコ)と関係してきます。

この時期、おそらく250-300年代は、弁・秦韓・筑紫・出雲・但馬・尾張といった地域にいる同族同士で争奪戦をしていたのでしょう。先日のおと、三角縁の出土地点を結んだ四方方位区画が、山陰・尾張におけるその関係を示していました。もう少し出雲神話の裏を見る必要があるかもしれませんね。

中高年限定お見合パーティ - www.kekkon-ouen.net 初めての方も安心して参加出来る お見合パーティー資料を無料取り寄せ 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する【靈感占いミーシャ】 - www.misya.co.jp

相手の方の 魂と会話します 口臭対策2秒もいらぬ - www.w-direct.jp 主人の臭かった口臭も、便臭も今は... さて、たった1秒の口臭対策とは? 中高年で結婚をお考えの方 - senior.11-deai.com 中高年専門のお見合い結婚相談所 アイシニア。無料パートナー紹介。 Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月20日(木)00時40分5秒 返信・引用 編集済

> No.766[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 小林さんのサイトは不完全だが、古田武彦の SF よりはましだ

> 小林さんのサイト拝見しました。日=イルでよいのかどうか、その「イリ」の差は考慮しべきかもしれませんね。
>>「ミマキ」「トヨキ」「ヒジキ」の「キ」を「城」とみなしてよいのかどうか疑問です。 >>「比自支」の「支」は当て字ですね。以前説明したように「支」については弁・秦韓方面では

「秦支廉」→「秦(韓)国」の支廉あるいは廉斯という長官職」というふうに、「支族」のような意味合いが見て取れました。 >

『随書倭国伝』では「倭国は邪摩堆に都す、即ち『魏志』のいわゆる邪馬台なる者なり。」という記述がある。『隋書』の「邪摩堆」は『魏志』の「邪馬台」にあたるというのである。しかも、「邪摩 堆」は都の名である。「邪摩堆」の古代中国語音は邪摩堆[jya-muai-tu?]であり、『魏志倭人伝』の邪馬台[jya-mea-d?]と近い。文脈のうえからも「倭国はやまとに都す」とすべきであろう。

『随書倭国伝』の「邪摩堆」を「やまと」と読むとすれば、『魏志倭人伝』の「邪馬台」も「やまと」であり、『日本書紀』の「夜摩苔」と同じ「やまと」を指していると考えるのが自然である。>> 開化あたりで秦韓・月氏の本陣が、それ以前に入っていた中国系・物部集団を、配下月氏の立場から?駆逐した可能性があります。その際に弁・秦韓の政治組織が新たに導入されていく。

>

Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012年9月19日(水)23時15分21秒 返信・引用

> No.765[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> ハングル語で日本は「イル・ボン」。ヘブライ語で(神々の門)が「バブ・イリ」。 > イルとイリ大きな違いがありません。小林昭美さん苦し紛れ、イルは日になり、イリは仕事、 門

- > なのに、イル=イリになり…何を考えたのか分からない。 >
- > 崇神天皇(ミマキイリヒコ)ミマキ:三輪と巻向の依羅彦(イリヒコ)
- > 垂仁天皇(イクメイリヒコ)イクメ??? >

- > <http://www3.ocn.ne.jp/~ocra/> >
- > 日本語の意味？

小林さんのサイト拝見しました。日=イルでよいのかどうか、その「イリ」の差は考慮すべき かもしれませんね。

「ミマキ」「トヨキ」「ヒジキ」の「キ」を「城」とみなしてよいのかどうか疑問です。

「比自支」の「支」は当て字ですね。以前説明したように「支」については弁・秦韓方面では「秦 支廉」→「秦 (韓) 国の支廉あるいは廉斯という長官職」というふうには、「支族」のような意味 合いが見て取れました。

ミマ支族の入彦、トヨ支族…あるいは、ミマ国の長官、トヨ地域の長官…、

トヨは豊国とあるように地名の可能性を感じます。

するとミマは、通説のごとく任那方面なのでしょうか。

もし弁・秦韓方面から王族の渡来があったとしたら、そのまま弁・秦韓方面の合議制的な 政治組織が残っている可能性もありますね。中国系で月氏を連れてきたトウ氏・孝霊の時代 から、その妃を略奪した新王朝の開化・その息子の崇神・垂仁へと受け継がれていく流れで す。

開化あたりで秦韓・月氏の本陣が、それ以前に入っていた中国系・物部集団を、配下月氏の 立場から？駆逐した可能性があります。その際に弁・秦韓の政治組織が新たに導入されてい く。

その微妙な相違がどこに見えてくるかを考古面を含めて捉える必要があるかもしれません。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 9 月 19 日(水)00 時 40 分 59 秒 返信・引用 編集済

> No.764[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

ハングル語で日本は「イル・ボン」。ヘブライ語で(神々の門)が「バブ・イリ」。 イルとイリ大きな違いがあります。小林昭美さん苦し紛れ、イルは日になり、イリは仕事、門 なのに、イル=イリになり…何を考えたのか分からない。

崇神天皇(ミマキイリヒコ)ミマキ:三輪と巻向の依羅彦(イリヒコ)

垂仁天皇(イクメイリヒコ)イクメ???

<http://www3.ocn.ne.jp/~ocra/>

日本語の意味？

>>> ヒルコ(水蛭子、蛭子、日子、彦(ヒコ)):「イリヒコ」

>> ヒルメ(日女、比売、姫(ヒメ)):「イリヒメ」 >>>

- > 日=「イル」は、朝鮮語系となりますね。
>
- > 日+彦(中国語の美男子を表す尊称)で「イルヒコ」となるでしょうか。 >>
- > しかし「入る(イル)」は訓読みですね。漢語では「ニュー」 >
- > ミマキイリヒコは、御間城入彦ですが、御間城は当て字で、「ミマキ」も訓読みでないと統一 性がないことになります。 >
- > ミ+マキ と分割して、マキムクの地名と重ねてみる件はどうでしょうか。 >
- > 宮で追ってみると、 >
- > ●崇神天皇(ミマキイリヒコ) >

- > 磯城瑞籬宮(シキ、ミズ(ガ)キ)
- > 師木水垣宮(上同) >
- > ●垂仁天皇(イクメイリヒコ) >
- > 纏向珠城宮(マキ+ムク、タマキ)
- > 師木玉垣宮(シキ、タマ(ガ)キ} >>

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
 投稿日:2012年9月18日(火)23時13分27秒 返信・引用

> No.763[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> バブ・イリ(神々の門)、イリとは門。秦野の調べでは、神功皇后の三韓征伐でユダヤが入り、イリの名を残した模様。ピンと来ないでしょうな。 >

> ヒルコ(水蛭子、蛭子、日子、彦(ヒコ)):「イリヒコ」 > ヒルメ(日女、比売、姫(ヒメ)):「イリヒメ」 >

日=「イル」は、朝鮮語系となりますね。 日+彦(中国語の美男子を表す尊称)で「イルヒコ」となるでしょうか。
 しかし「入る(イル)」は訓読みですね。漢語では「ニュー」

ミマキイリヒコは、御間城入彦ですが、御間城は当て字で、「ミマキ」も訓読みでないと統一性がないことになります。

ミ+マキ と分割して、マキムクの地名と重ねてみる件はどうでしょうか。 宮で追ってみると、 ●崇神天皇
 (ミマキイリヒコ) 磯城瑞籬宮(シキ、ミズ(ガ)キ)

師木水垣宮(上同)

●垂仁天皇(イクメイリヒコ)

纏向珠城宮(マキ+ムク、タマキ) 師木玉垣宮(シキ、タマ(ガ)キ}

垂仁(活目)の息子に円目王がいますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%86%E7%9B%AE%E7%8E%8B>

活目(イクメ)

円目(ツブラメ)

同義語のようです。 円大使主は、葛城円のこと。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%91%9B%E5%9F%8E%E5%86%86>

この時期に 眉輪王(目弱王)がみえます。

目=眉を皇族の名につける観念が見て取れますね。

そうすると葛城系が気になりますね。

あと、ワケ(別)は、崇神の息子あたりから見える「皇別」の意味のようです。 この「別」も訓読み。 ただ、同じく「彦」は、魏志の時代から見える「呉音」。 ミマキ、トヨキの「キ」は「城(シロ)」の訓読みを使わないで、漢音を使っているのが紛らわ

しいですね。当て字の可能性あり。

日代宮(ヒシロ)

円王関連で、比自支和気(ヒジキワケ)という皇族? 賀見えますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%86%E7%9B%AE%E7%8E%8B>

「比自支」(ヒジキ)が、「ミマキ」「トヨキ」の「キ」と関連する可能性があります。「殯宮」で「アラキ」の宮。

尚、三重県伊賀市比自岐に比自岐神社が鎮座している。祭神は比自岐神であり、比自支氏の祖らしい。神社が今も存在することから、一族が絶えたのが間違いなのか、円目王と妻の子孫が殖え、奉斎したのか不明。また、何故か、葛城地方の土神の剣根命も合祀されており、名が似ている円目王と葛城円大臣との関係も、雄略天皇に関係しているだけに、興味深い。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月18日(火)00時37分16秒 返信・引用

> No.762[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

バブ・イリ(神々の門)、イリとは門。秦野の調べでは、神功皇后の三韓征伐でユダヤが入り、イリの名を残した模様。ピンと来ないでしょうな。

日本神話に対応させます。見る限りユダヤ人でしょうな。

ヒルコ(水蛭子、蛭子、日子、彦(ヒコ)):'イリヒコ' ヒルメ(日女、比売、姫(ヒメ)):'イリヒメ'

「偉大な神々(アムナキ)の家」と呼び、そしてその建てられるべき町を、それにちなんで「バブ・イリ」すなわちバビロンと命名しようとした。

<http://6707.teacup.com/gamenotatsujinn/bbs/594>

武帝の時代、頻繁に朝貢に訪れたが、太康六年(285年)、慕容廆(ぼようかい)によって扶余は全軍が撃破され、王の依慮(イロ)は自殺し、子弟は逃れて沃沮に保護された。皇帝は詔を発して「扶余王は代々忠孝を守り、悪賊によって滅ぼされたことは甚だ遺憾に思う。もし、遺された類族をもって国を復興するなら、それに助力をしてやり、存立できるようにしてやれ」と命じたが、司奏護の東夷校尉「鮮于嬰」が扶余の救援に向かわず、機略の好機を失したので、詔を以て嬰を罷免し、何龕(かずい)に代えた。翌年、扶余王を継いだ依羅(イリ)は遣使を龕に派遣し、復興のために故国に戻る救援を嘆願した。龕は兵を召集し、督郵の賈沈以にこれを送らせた。慕容廆は賈沈以の皇軍と戦うも、大敗して軍勢を撤退したので、依羅は復興が叶った。以後も慕容廆は毎度のように扶余人を拉致しては中國で売った。帝はこれを哀れに思い、

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-fuyo-.htm>

>

- > 確かに秦野さんご指摘のイリ王朝と扶余の件は重要。 >
- > 崇神王朝(三輪王朝)(イリ王朝)
- > 崇神王朝は大和の三輪地方(三輪山麓)に本拠をおいたと推測され三輪王朝ともよばれている。水野祐は古王朝と呼称した。この王朝に属する天皇や皇族に「イリヒコ」「イリヒメ」など「イリ」のつく名称をもつ者が多いことから「イリ王朝」とよばれることもある。この名称はこの時期に限られており、後代に贈られた和風諡号とは考えられない。崇神天皇の名はミマキイリヒコイニエ、垂仁天皇の名はイクメイリヒコイサチである。他にも崇神天皇の子でトヨキイリヒコトヨキイリヒメなどがいる。ただし、崇神・垂仁天皇らの実在性には疑問視する人も多い。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり 投稿者:
管理人 投稿日:2012年9月17日(月)23時10分52秒 返信・引用

> No.761[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 中嶋神社の住所(兵庫県豊岡市三宅1)を見ると、タヂマモリは三宅の役人(新羅人)の模様。垂仁天皇が三宅の役人に命じ、非時香菓を常世の国へ取りに行かせた。のが話しの筋道みたいだ。田道間守(タジマモリ)=但馬守

(三宅の役人)

垂仁朝と屯倉とのかかわりは重要ですね。

> タヂマモリの死後、常世の国は済州島で韓半島南部の筑紫に属したために、韓半島南部の筑紫の大宰府に祀られた。しかし、白村江の戦い以後、九州の筑紫に移されたと思われる。太宰府天満宮「道真公は、承和12年(845)」、貞観元年(859年)吉田神社(京都市)、に成ったと思われる。

>> タヂマモリは新羅から渡ってきたアメノヒボコの曾孫である。 >

秦韓系の天日矛=但馬守=丹波道主王=垂仁・崇神朝のメイン集団
という流れになるでしょうか。

確かに秦野さんご指摘のイリ王朝と扶余の件は重要。

崇神王朝(三輪王朝)(イリ王朝) 崇神王朝は大和の三輪地方(三輪山麓)に本拠をおいたと推測され三輪王朝ともよばれている。水野祐は古王朝と呼称した。この王朝に属する天皇や皇族に「イリヒコ」「イリヒメ」など「イリ」のつく名称をもつ者が多いことから「イリ王朝」とよばれることもある。この名称はこの時期に限られており、後代に贈られた和風諡号とは考えられない。崇神天皇の名はミマキイリヒコニエ、垂仁天皇の名はイクメイリヒコイサチである。他にも崇神天皇の子でトヨキイリヒコ・トヨキイリヒメなどがある。ただし、崇神・垂仁天皇らの実在性には疑問視する人も多い。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8E%8B%E6%9C%9D%E4%BA%A4%E6%9B%BF%E8%AA%AC>

垂仁は

活目入彦五十狭茅
伊久米伊理毘古伊佐知命

崇神は

御間城入彦五十瓊殖
御眞木入日子印恵命

共通部分は「入彦(イリヒコ)+ 五十(イソ)」 イソは多いの意味で、サチは幸、ニエも収穫のことでしょうか。

崇神の子で垂仁の兄弟、彦五十狭茅命が、活目入彦五十狭茅 とほぼ同じ名を示しています。その上に「活目入」がつくと、尊称になるのでしょうか。

イクメとミマキは、同類語である可能性が高いですね。

御真津比売命(みまつひめのみこと)は、ミマ+津、ミマキイリ彦はミマ+城。
施設・地名ですね。

「イリ」が、王およびその副王の称号とみて間違いないでしょう。

> 新羅は神功皇后が286年に三韓征伐で倭国に服従する。一方、済州島は筑紫の宇佐、常世の国は韓半島南部の筑紫に属している。

どちらかというと神功皇后は、後代のワケ王朝と関係が深いように見えますが…。

応神王朝(河内王朝)(ワケ王朝) 応神王朝は天皇の宮と御陵が河内に多いことから河内王朝ともよばれている。この王朝に属する天皇や皇族に「ワケ」のつく名称をもつ者が多いことから「ワケ王朝」とよばれることもある。河内王朝は上記の王朝交替論のなかでも大きな位置を占める。その理由は、前後の二つの王朝を結ぶ位置に河内王朝が存在するからである。水野祐は中王朝と呼称し、一般に初期大和政権、第2次大和政権などと呼ばれる王朝である。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗

投稿日:2012年9月16日(日)22時53分53秒 返信・引用 編集済

> No.760[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

三角縁の図に描かれた神仙思想を理解していたことになりそうですね。同時に漢書の解説もしていた。実の所は、神仙思想は垂仁天皇より400年はバックする。神仙思想は秦の始皇帝になる。三角縁は卑弥呼で240年どう見ても三角縁の図とは関係ない。

中嶋神社の住所(兵庫県豊岡市三宅1)を見ると、タヂマモリは三宅の役人(新羅人)の模様。垂仁天皇が三宅の役人に命じ、非時香菓を常世の国へ取りに行かせた。のが話しの筋道みたいだ。田道間守(タジマモリ)=但馬守(三宅の役人)

タヂマモリの死後、常世の国は済州島で韓半島南部の筑紫に属したために、韓半島南部の筑紫の大宰府に祀られた。しかし、白村江の戦い以後、九州の筑紫に移されたと思われる。太宰府天満宮「道真公は、承和12年(845)」、貞観元年(859年)吉田神社(京都市)、に成ったと思われる。

タジマモリは新羅から渡ってきたアメノヒボコの曾孫である。

『梁書』新羅伝 新羅者、其先本辰韓種也。新羅、その先祖は元の辰韓の苗裔である。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/siragi-kanbun1-ryosho.htm>

新羅は神功皇后が286年に三韓征伐で倭国に服従する。一方、済州島は筑紫の宇佐、常世の国は韓半島南部の筑紫に属している。 <http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano8.htm>

タヂマモリは、菓子の神として中嶋神社(兵庫県豊岡市)に祀られている。中嶋神社の分霊が太宰府天満宮(福岡県太宰府市)、吉田神社(京都市)など全国に祀られており、菓子業者の信仰を集めている。

<https://plus.google.com/102305615118950379407/about?gl=jp&hl=ja#102305615118950379407/about?gl=jp&hl=ja>

現在の歴史は時間軸がメタメタだな、橘が温州みかんに成っている。

魏志倭人伝 日本にはタチバナと沖縄にシークワサーが原生していたが、3世紀の日本の様子が書かれた『魏志倭人伝』には「有薑橘椒蕒荷不知以爲滋味」(生薑、橘、山椒、茗荷があるが、それらを食用とすることを知らない)と記されており、食用とはされていなかったと考えられる。

橘本神社 元は現在地の北の「六本樹の丘」に鎮座していた。六本樹の丘は田道間守が常世の国から持ち帰った橘の木を最初に植えた地と伝えられる。創建の年代は不詳であるが、永享9年(1437年)と記された神社の棟札が残っている。天正17年(1589年)、白河法皇が熊野行幸の際に当社で一夜を明かし「橘の本に一夜のかりねして入佐の山の月を見るかな」と詠んだ。

<http://kannyonama.com/shopdetail/012000000001/>

>> 済州島と不老不死の薬の関係は『日本神話』の大八島で通過している。不老不死の薬の検索ルートの一つの島で石碑がある。非時香菓は伝承だな、垂仁天皇が「徐福伝説」を知り田道

間守に命じて済州島の橘を求めたのだろう。

>>> 垂仁天皇は、崇神天皇の時代ですから、そうすると三角縁の図に描かれた神仙思想を理解していたことになりそうですね。同時に漢書の解説もしていた。 >> 一般的にはタジマモリの話は、古墳時代の新羅からの渡来人によるものと考えられている のでしょうが、案外古い可能性を感じますね。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人

投稿日:2012年9月16日(日)00時26分23秒 返信・引用 編集済

> No.759[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 済州島と不老不死の薬の関係は『日本神話』の大八島で通過している。不老不死の薬の検索 ルートの一つの島で石碑がある。非時香菓は伝承だな、垂仁天皇が「徐福伝説」を知り田道間 守に命じて済州島の橘を求めたのだ

ろう。 >

垂仁天皇は、崇神天皇の時代ですから、そうすると三角縁の図に描かれた神仙思想を理解していたことになりそうですね。同時に漢書の解読もしていた。

一般的にはタジマモリの話は、古墳時代の新羅からの渡来人によるものと考えられているの でしょうが、案外古い可能性を感じますね。

> タチバナ(橘、学名:Citrus tachibana)は、ミカン科ミカン属の常緑小高木。別名はヤマト タチバナ、ニッポンタチバナ。

近縁種にはコウライタチバナ(C. nipponokoreana)があり、萩市と韓国の済州島にのみ自生する(萩市に自生しているものは絶滅危惧 IA 類に指定され、国の天然記念物となっている)。

なるほど済州島の近縁種があるというのは面白いですね。

> 。タチマモリは半分を垂仁天皇の皇后に献上し、残りを垂仁天皇の御陵に捧げ、悲 A>>

垂仁天皇の皇后は未亡人の意味なのでしょうけど、この垂仁末期ころの妃は日葉酢媛命に限定されていきます。ところが、32 年に早死にしているので、それ以後に妃を娶らないかぎり、記紀の記載とあわない。

皇后(前):狭穗姫命(彦坐王の女)。垂仁天皇 5 年に焼死したとされる 皇后(後):日葉酢媛命(丹波道主王の女)、娘に倭姫(斉宮)

丹波道主王命の娘が多くこの時期にとついでいるわけですが、この丹波道主王というのが、田道間守と語的に関連してきます。「タジマ・但馬」⇔「丹波」、「道主」⇔「守」

「古事記に拠ると、天日槍の子但馬諸助(もろすけ)或いは多遲摩母呂須玖(もろすく)→多遲摩斐泥(ひね)→但馬日槍杵(ひならき)或いは多遲摩比那良岐→田道間守(但馬 清彦或いは清日子は田道間守と兄弟です。)」

<http://blogs.yahoo.co.jp/korealobby/14640642.html>

但馬国(丹波国)と三角縁・神仙思想、新羅・秦韓あたりを追いかけてみたいところです。 出石神社・天日矛の神宝、石上神社・倭姫・物部の神宝には、相関性があるのでは。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 9 月 15 日(土)21 時 12 分 5 秒 返信・引用 編集済

> No.758[元記事へ]

どうり管理人さんへのお返事です。

垂仁天皇は不老不死の薬といわれた非時香菓(ときじくのかぐのこのみ)= 橘をもってくるように田道間守(たじまもり)に命じた。コウライタチバナから「常世の国」は済州島と思 われる。済州島の名前は「筑紫の宇佐、常世の国、竹島=筑紫島、済州島」と変化したようだな。

済州島と不老不死の薬の関係は『日本神話』の大八島で通過している。不老不死の薬の搜索ルートの一つの島で石碑がある。非時香菓は伝承だな、垂仁天皇が「徐福伝説」を知り田道間守 に命じて済州島の橘を求めたのだろう。

田道間守(たじまもり)が菓子の神に成ったのは、済州島の橘を加工して不老不死の薬として大衆化したのだろう。当時の橘菓子が不老不死の薬になる。道理で、現代まで橘菓子が生き残った訳が理解できますな。ところで不老不死の橘菓子はきくかな…?

タチマモリは、日本の古墳時代の人物。菓子の神としても崇敬される。『古事記』では多遲麻毛 理、『日本書紀』では田道間守と表記される。新羅から渡ってきたアメノヒボコの曾孫である 。 11 代垂仁天皇の命により、非時香菓(ときじくのかぐのこのみ)を求めて常世の国(祖先 の国である新羅のこととも)に渡った。10 年かかって葉付きの枝と果実付きの枝を日本に 持ち帰ってきたが、垂仁天皇はすでに亡くなっていた。タチマモリは半分を垂仁天皇の皇后 に献上し、残りを垂仁天皇の御陵に捧げ、悲しみのあまり泣き叫びながら亡くなったという。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%83%82%E3%83%9E%E3%83%A2%E3%83%AA>

タチバナ(橘、学名:Citrus tachibana)は、ミカン科ミカン属の常緑小高木。別名はヤマトタチバナ、ニッポンタチバナ。日本に古くから野生していた日本固有のカンキツである。和歌山県、三重県、山口県、四国、九州の海岸に近い山地にまれに自生する。近縁種にはコウライタチバナ(C. nipponokoreana)があり、萩市と韓国の済州島にのみ自生する(萩市に自生しているものは絶滅危惧IA類に指定され、国の天然記念物となっている)。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%83%81%E3%83%90%E3%83%8A>

和菓子のルーツは意外な不老不死の薬だが現在は下記と成ってますな。菓子、縄文時代において栗の実を粉状にしたものを固めて焼いたと見られる。中国から穀類を粉にして加工する製法の食品が伝わり、これが唐菓子。室町時代から安土桃山時代にかけて茶道の隆盛に伴い、点心としての菓子が求められはじめた。中国では肉類を用いて作られている羊羹や饅頭。日本では仏教の影響下、肉類ではなく小豆や豆類など植物性の素材に置き換えて作られるようになった。これが後に、和菓子の方向性を決定したとも考えられている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8F%93%E5%AD%90>

「徐福伝説」 昔のヨーロッパ人は日本を黄金の国ジパングと呼んでいました。金がざくざくあり、不老不死の薬もあり、日本は夢のような国だと思われていたようです。 (注)黄金の国ジパングは機会あれば話します。

Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人 投稿日:2012年9月14日(金)23時11分52秒 返信・引用

> No.756[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>> [編集] 日本における蓬莱 >> 日本では浦島伝説の一つ『丹後国風土記』逸文では「蓬山」と書いて「とこよのくに」と読み、文脈にも神仙などの用語が出てくると、田道間守の話や他の常世国伝承にも不老不死など神仙思想の影響が窺えることから理想郷の伝承として海神宮などと習合したとも思われる。 >>>

田道間守の話がおもしろいですね。守というのは、先のとおり「ヒナモリ」などの、3-4世紀の最も古い呼称の部類に入ります。いつ神仙思想が三韓や日本に伝わったかが課題。

タチマモリは、日本の古墳時代の人物。菓子の神としても崇敬される。『古事記』では多遲麻毛理、『日本書紀』では田道間守と表記される。

新羅から渡ってきたアメノヒボコの曾孫である。11代垂仁天皇の命により、非時香菓(ときじくのかぐのこのみ)を求めて常世の国(祖先の国である新羅のこととも)に渡った。10年かかって葉付きの枝と果実付きの枝を日本に持ち帰ってきたが、垂仁天皇はすでに亡くなっていた。タチマモリは半分を垂仁天皇の皇后に献上し、残りを垂仁天皇の御陵に捧げ、悲しみのあまり泣き叫びながら亡くなったという。

タチマモリが持ち帰った「非時の香菓」は、記紀では現在の橘のこととしている。「タチバナ」という名前自体、タチマバナ(田道間花)が転じたものとする説もある。当時「菓」といえば果物のことであったが、この説話からタチマモリは菓子の神「菓祖」として信仰されている。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%83%82%E3%83%9E%E3%83%A2%E3%83%AA>

東京で人気のインテリア家具屋 - www.crastina.co.jp デザイナーズ家具やモダン家具など 人気家具が 600 点以上! クラスティーナ 大正ロマン時代家具 古家具 - www.retoro-kagu.com 大正時代の雰囲気そのままだ時代家具/古家具に囲まれる生活を 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する レトロな日本のアンティーク家具 - www.rafuju.jp 古き良き時代を思わせるレトロで おしゃれなアンティーク家具が超お買得! 伊藤英明と空をダイブ - www.youtube.com/user/ 驚きの 360 度パノラマ体験! コカ・コーラゼロでハートに自由を。 Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月14日(金)21時20分59秒 返信・引用

> No.755[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

秦の始皇帝、紀元前 2 世紀に、「東方の三神山に長生不老(不老不死)の霊薬…」 東方の三神山とは、蓬莱・方丈・

会稽の海の外に東鯤人があり、二十余国に分かれている。また、夷洲および澶洲がある。伝 承によると、秦の始皇帝が方士の徐福を遣わし、数千人の少年少女を連れて海に入った。蓬萊 山の神仙を探し求めたが、出会え

ず、徐福は誅罰を畏れて敢えて帰らず、遂にこの島に留まつた。代々に相伝し、数万家を有した。人民は時に会稽に至り交易する。会稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して澶洲に至る者がいる。絶海の遠地に在り、往来すべきではない。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

理想郷の伝承として海神宮の説明は後日になるが、これに相当する話は存在する。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012年9月13日(木)23時07分57秒 返信・引用 編集済

> No.753[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 夷州亶州在海中、長老伝言、秦始皇遣方士徐福将男童女数千人入海、求蓬莱及仙薬……」 >> 夷州亶州は海の彼方にあり長老は言伝える。秦始皇は方士を遣わす。徐福将と男童女数千人渡航する。蓬莱及仙薬を求め…。

>

蓬莱山について調べてみました。

[編集]『山海経』における記述 中国最古の地理書『山海経』の「海内北経」に、「蓬莱山は海中にあり、大人の市は海中にあり」と記されている[1]。「市」とは蜃気楼のことで、実際、山東省の蓬莱県は、蜃気楼の名所で古来より有名である[2]。

[編集] 五神山の一山として 仙人が住むといわれていた五神山の一つ。五神山には蓬莱の他に、「方丈」(ほうじょう)「瀛州」(えいしゅう)「岱輿」(たいよ)「員峯」(いんきょう)があり、そのうちの「岱輿」及び「員峯」は流れて消えてしまったとされている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%93%AC%E8%8E%B1>

興味深いのは、山東の蜃気楼現象で、ブロッキン現象がおきて、大きな人や市場が海のかなたに見えたことがあったようです。

この伝承がおそらく先の黄海を渡り済州島に至る巨人伝承と関係しているのでしょう。 そのうち、三神山は壺の形をしていたとされており、いわゆる蜃気楼の形と一緒です。

<http://kotobank.jp/word/%E4%B8%89%E7%A5%9E%E5%B1%B1>

そのうち「方丈」が、「蓬莱山」と語法的に関係あるようです。

「瀛州」というのが、後の「夷州亶州」伝承へと発展していったのではないのでしょうか。

なお「亶州」の亶は、あついでほしいままの意味で、本来はセンシュウと読んだのでしょうか。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E4%BA%B6>

「瀛州」の「瀛」は海の意味。はるか海のかなたというイメージですね。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E7%80%9B>

あと、下記の記載も、日本古代の常世観念を理解するうえで重要です。 なお、他の二山の、「方丈」とは神仙が住む東方絶海の中央にあるとされる島で、「方壺」(ほう

こ)とも呼ばれる[3]。 瀛州はのちに日本を指す名前となった[4]。「東瀛(とうえい)」ともいう。魏晋南北朝時代の487年、「瀛州」は、行政区分として制定される。

または台湾を指すとされる。台湾は、蓬莱仙島と中国語では呼ばれる。

[編集] 日本における蓬莱 日本では浦島伝説の一つ『丹後国風土記』逸文では「蓬山」と書いて「とこよのくに」と読み、文脈にも神仙などの用語が出てくこと、田道間守の話や他の常世国伝承にも不老不死など神仙思想の影響が窺えることから理想郷の伝承として海神宮などと習合したと思われる。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月13日(木)19時41分13秒 返信・引用 編集済

> No.752[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

マユンガナシ

秦野書、徐福と邪馬台国で黒齒國の位置を書きました。黒齒國の状況がマユンガナシで読め たみたいですな。

梁書に倭儒國から黒齒國 裸國へは船行可一年。どうも、船長約 109 メートル、幅 9 メートルで毎年、旧暦 9 月頃に倭儒國を出航する。荷物は五穀、銅鉄を土産にする。大神(アマテラス)の使いであ ると語り、自分等は小男、女であるから使者として使い走りしているのだ…。

目的は交易になる。交易港は会稽東冶。倭国の商品は水銀、不老不死の薬?、および珍品。 購入品は衣類等、詳細不明。 黒齒國は交易の中継点になり、重要な島になる。

『北史』倭国伝

其國境、東西五月行、南北三月行、各至於海。

その国境は東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程、 黒齒國は倭国の領土ないにある。図を添付
<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun8-nansi.htm>

概要 川平では毎年、旧暦 9 月頃の戊戌(つちのえいぬ)の日の夜、マユンガナシの祭祀をする。 特異な伝承「桴海の真世ん加那志は神の国の話をしてくれる。一番偉い大神様は身の丈、十丁[一丁(町)は約 109 メートル]。幅五間[一間は約 1.8 メートル]もある丸丸とふとった大神であると語り、自分等は小男、女であるから使者として使い走りしているのだ」と言っていた。

<http://www.flet.keio.ac.jp/~shnomura/mayun/mayunganashi.html>

梁書 『梁書』卷五十四 列傳第四十八 諸夷傳 東夷条 倭では以下のとおり記述される。 南に小人国がありその南に黒齒国がある。倭から 4000 余里。船で 1 年で着く。 其南有倭儒國 人長三四尺 又南黒齒國裸國 去倭四千餘里 船行可一年至 ?『梁書』卷五十四 列傳第四十八 諸夷傳 東夷条 倭

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月13日(木)01時05分56秒 返信・引用 編集済

> No.752[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

時代は下り三国時代の『臨海水土志』の中に「夷州在浙江臨海郡の東南、離郡二千里、土地無 霜雪、草木不枯、四面皆山、衆山夷所居。山頂有越王射的正白、乃是石也。」及び「部落間互不相 属、各号為王、分割土地……」という記載があり、この場合の夷州は台湾を指すものと考えられるが、孫権伝説の中に、「夷州亶州在海中、長老伝言、秦始皇遣方士徐福将男童女数千人入 海、求蓬莱及仙薬……」という記載もあり、地名としての夷州が台湾を指す言葉として確定し てはいなかったとも思われる。しかし、『臨海水土志』には別に、

秦野が中国文を訳します。

「夷州在浙江臨海郡の東南、離郡二千里、土地無霜雪、草木不枯、四面皆山、衆山夷所居。山頂 有越王射的正白、乃是石也。」

夷州は浙江臨海郡の東南にあり。郡から二千里、土地は霜雪なく草木は枯れず、四方みな山、 人は山夷に暮らす。山頂を盛んに超えるのは、まさに白い石なり。注)王射=旺射の様だな

夷州在浙江臨海郡…は「霜雪なく草木は枯れ四方みな山」と「山頂を盛んに超えるのは、ま さに白い石なり」。阿蘇山でないか。四方みな山はカルデラで外輪山の模様、また、山頂を超え るのは、まさに白い石は火山弾ですな。尚、台湾には目立った火山活動はない。

「夷州亶州在海中、長老伝言、秦始皇遣方士徐福将男童女数千人入海、求蓬莱及仙薬……」 夷州亶州は海の彼方にあり長老は言伝える。秦始皇は方士を遣わす。徐福将と男童女数千人

渡航する。蓬莱及仙薬を求め…。

夷州亶州在海中…は夷州、亶州の 2 つになるが台湾は 1 つの島で文章と一致しない。

余談だが越はテン王国の様だ、現在のベトナム、三国志では蜀、辺りに居た模様。倭奴国も越 みたいだ。金印が蛇に成っている。これが大月氏に成る。越は台湾にはいないのだから？。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012 年 9 月 12 日(水)23 時 06 分 7 秒 返信・引用

> No.751[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 済州島に良く似た犬が居ますな。マンクス >
- > <http://ameblo.jp/gsgsgrfwr/day-20110924.html> >
- >

なるほど、確かに慶州の東京犬と、済州島犬には、容姿が似てますね。尻尾が短いだけでなく、 耳の形や目の形など、特徴があります。

この済州島犬は、先の遺伝子図のとおり、特殊なエスキモー犬で、済州島や珍島犬、対馬方面 にしかいないようです。新羅南部の東京犬も、そういう意味ではこの韓国南部から対馬にかけての文化圏といえそうですし、5-6 世紀の新羅の形象埴輪はその南部のカヤ方面と関係 して分布があります。

とすると、臨海水土志で夷州の山頂に越王が射た岩があるとの記載をどう理解するかが課題 ですね。

越王勾践が山東半島に都を遷した時代がありますね。、「東南の蓬莱山」伝承は重要。

<http://www.flet.keio.ac.jp/~shnomura/mayun/mayunganashi.html>

東シナ海の理想の国 ここで東シナ海地域における理想の国に関してひとつの原風景を えがいてみよう。それは次のようになる。東方あるいは東南の彼方に理想の国がある。そこに は原初の偉大な大神(女神)がいる。そこに向けて移住した最初の人びとは越人である。その 移動は春秋時代からはじまっていた。紀元前 468 年、越王勾践が遷都した山東半島琅邪はその拠点のひとつとなった。彼らのめざしたところは蓬莱山(蓬莱島)である。『史記』淮南・衡 山列伝には方士徐福が秦始皇帝の命を受けて、「東南の蓬莱山」をめざし、終に帰らなかった と記されている。徐福は、平原広澤[湿地]を得て、その王となったというのである <http://www.flet.keio.ac.jp/~shnomura/mayun/mayunganashi.html>

このサイトの巨神と岩枕の伝承がまた興味深いところです。 巨神伝承の広がり これは東シナ海周辺地域にみられる原初の巨神伝承である。たと

えば、広西省都安の布努瑶族は密洛陀(ミルトゥオ)という女神をまつ。この女神は巨人 である。「天地の間」に屹立し、「東海」もその足を濡らすことがないという。済州島にもソルム ンデハルマンという巨大な女神がいて、漢拏山(ハルラサン)を枕にして寝るという伝承がある *4。また朝鮮半島辺山半島格浦(キョクポ)水聖堂(スソンドン)の女神も黄海を歩く巨女である。さらに浙江省の普陀山島にも老婆姿の観音について、次のような伝承がある。すなわちその老婆 が石を投げたら大岩となった。これをくり返すうちにひとつの埠頭を作ってしまった。ここ にはやはり巨神の伝承がある*5。観音は海の女神たちの系譜の上に形成された航海神であるから、上述の巨女と一連のものである。こうしてみると、ニライからの使者マユンガナシも 東シナ海の前原初的な海の巨神から派生したものといえるであろう。

漢拏山の岩枕と、越王がいた夷州の山頂にある岩と何か相関性を見出せないでしょうか？

ともあれ、夷州を考えるにあたり、3 世紀当時の呉の臨海郡からみた台湾の風土記載とは別に、それ以前の夷州・越王・蓬莱山関連の伝承に留意する必要があるのかもしれない。

Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年9月12日(水)00時33分35秒 返信・引用 編集済

> No.749[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 濟州島に良く似た犬が居ますな。
<http://ameblo.jp/gsgsgrfwr/day-20110924.html>

濟州島は基は倭国に属している。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas

檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する 専門学校の情報が満載 - best-shingaku.net 東京関東新潟の専門学校はこちら ベスト進学でカンタン資料請求 プライベートクラウドなら
- www.microsoft.com 《マイクロソフト》クラウド導入で、コスト削減!一元管理も可能に 家系図、家族の歴史を 1冊に - www.e-keizu.com

家系図作成代行。10点セット 定額制 お客様の声 232件(直筆)全国対応可能 トイプードル専門 子犬販売 - poodle.breeders.jp ブリーダー価格でトイプードルを販売 引渡し後 30日間の無償健康保証付き!
Ads by Google

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月11日(火)23時46分58秒 返信・引用 編集済

> No.749[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

『隋書』倭国伝に犬と阿蘇山の文章がある。当時には知られていた模様ですな。 夷洲在臨海東南、去郡二千里。が台湾とすると、台湾と韓国の距離と日本の位置関係、歴史を 考慮しますと慶州の固有犬種「東京狗」が存在しない。「東京狗」は台湾犬になる。

夷洲在臨海東南、去郡二千里ですが会稽の臨海郡(台湾との最短距離)からすると台湾まで四千里で距離が合わない。 <http://baike.baidu.com/view/200201.htm>

『隋書』倭国伝の犬は「弥生犬」ですな。色と後ろ姿はどう見ても麕:のろ、だがな。

孫権の 229年の夷州と亶州の捜査を行なっている。…公孫淵の内幕を真実と信じ。 捜査時期は「弥生犬」と、のろ鹿から夏毛は、赤褐色と思われる。夏ですな?。(注)ただし、捜査の時期が鹿の夏毛時期であればの話。冬毛は、灰褐色

『隋書』倭国伝

每至正月一日、必射戲飲酒、其餘節略與華同。好棋博、握槊、樗蒲之戲。氣候溫暖、草木冬青、土地膏腴、水多陸少。以小環挂鷗○項、令入水捕魚、日得百餘頭。俗無盤俎、藉以櫛葉、食用手鋪之。

性質直、有雅風。女多男少、婚嫁不取同姓、男女相悅者即為婚。婦入夫家、「必先跨犬」、乃與夫相見。婦人不淫妒。

毎回、正月一日になれば、必ず射撃競技や飲酒をする、その他の節句はほぼ中華と同じである。囲碁、握槊、樗蒲(さいころ)の競技を好む。気候は温暖、草木は冬も青く、土地は柔らかくて肥えており、水辺が多く陸地は少ない。小さな輪を河鵜の首に掛けて、水中で魚を捕らせ、日に百匹は得る。俗では盆や膳はなく、櫛葉を利用し、食べるときは手を用いて匙(さじ)のように使う。性質は素直、雅風である。女が多く男は少ない、婚姻は同姓を取らず、男女が愛し合えば、すなわち結婚である。妻は夫の家に入り、「必ず先に犬を跨ぎ」、夫と相見える。婦人は淫行や嫉妬をしない。

死者斂以棺槨、親賓就屍歌舞、妻子兄弟以白布製服。貴人三年殯於外、庶人卜日而瘞。及葬、置屍船上、陸地牽之、或以小輿。「有阿蘇山」、其石無故火起接天者、俗以為異、因行禱祭。有如意寶珠、其色青、大如雞卵、夜則有光、云魚眼睛也。新羅、百濟皆以倭為大國、多珍物、並敬仰之、恒通使往來。

死者は棺槨に納める、親しい来客は屍の側で歌舞し、妻子兄弟は白布で服を作る。貴人の場合、三年間は外で殯(かりもがり=埋葬前に棺桶に安置する)し、庶人は日を占って埋葬する。葬儀に及ぶと、屍を船上に置き、陸地

にこれを牽引する、あるいは小さな御輿を以て行なう。「阿蘇山があり」、その石は故無く火柱を昇らせ天に接し、俗人はこれを異となし、因って祭祀を執り行う。如意宝珠があり、その色は青く、雞卵のような大きさで、夜には光り、魚の眼の精霊だという。新羅や百済は皆、倭を大国で珍物が多いとして、これを敬仰して常に通使が往来している。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

Ads by Google -----

Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人 投稿日:2012年9月11日(火)22時24分19秒 返信・引用 編集済
> No.748[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 孫権の 229 年の夷州と亶州の捜査を行なっている。…公孫淵の内通を真実と信じ。 >> 当時の公孫淵の所在は韓半島になる。台湾には魅力がないのでは。

確かに魏の背後を取る策略とすれば、台湾はあまり意味がないかもしれません。倭については、230-40 年だの呉の年号鏡が入ってますから、当然呉の政権中枢武も倭の存在を知っていたでしょう。漢書等も読んでいるはずですね。しかし読んでいれば、夷州と亶州と倭との相違には気がついたはず。

> 浙江省の東南は九州になる。台湾は地図を見れば南になる。 >> 文章に、「山頂有…離郡二千里」は、末廬国=郡とすると、末廬国から二千里は阿蘇山になる。台湾は連山になり目立つ山はない。

三国時代の『臨海水土志』の中に「夷州在浙江臨海郡の東南、離郡二千里、土地無霜雪、草木不枯、四面皆山、衆山夷所居。山頂有越王射的正白、乃是石也。」

その臨海郡は、会稽ですね。確かに東南に台湾があります。距離的にも二千里前後でしょう。

<http://baike.baidu.com/view/200201.htm>

有犬、尾短如麕尾状。此夷舅姑子婦臥息。共一大牀、略不相避。地有銅鐵、唯用鹿格爲矛以戰鬪、摩礪青石以作(弓)矢鏃。取生魚肉雜貯大瓦器中、以鹽鹵之、歷月所日、乃啖食之、以爲上肴

- > 日本の「弥生犬」を忘れていませんか。新羅に短い尻尾は弥生犬でないか。
- > 尾短如麕尾状:尾は短く、のろの如し、しっぽ >
- >> 麕のろ:ノロジカ。
- > シカ科の哺乳動物。中国や朝鮮に住む。
- > 鹿より小さく角が短い。
- > 夏毛は、赤褐色、冬毛は、灰褐色。

犬関連、私も調べてみました。

麕のろ:ノロジカですが、尻尾が極端に短いんですね。これと同類の尻尾を持つ犬はやはり、先の新羅の「東京犬」しかみあたらない感じです。弥生犬の尻尾はやはり長すぎる。東京犬とノロ鹿の写真を参照。

遺伝的には、台湾の犬は中国のそれと同類のようですね。済州島の犬が特殊なようです。写真が出てこない…。エスキモー犬らしいのですが…。

http://www.geocities.jp/ikoh12/kennkyuuno_to/003_1nihonnkenn_no_ru-tu.html

銅のほか、鉄が採れるのは特徴的です。新羅南部の秦韓地域も鉄が取れましたが、台湾や沖縄で古代に製鉄をしたという記載が見当たらないんですね。渡来人の遺伝的子には、台湾と韓国南部は関連性があります。

HLA パプロタイプの B 54、B46 あたり。図参照。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08.html

4HLA – A24-B54-DRB1*0405(DR4)

本土日本人 3,1%、沖縄人 6,1%、韓国人 1,2%、中国朝鮮族 0,9%、中国満族 1,2%、シベリア・ブリアート人 1,3%

このハプロタイプは、文献(a)では、国内では、南方に偏っており、沖縄での最多ハプロタイプであり、南九州・南四国・東海・神奈川でも比較的多いとされ、中国南部でも多いとさ

れていましたが(つまり江南などの南方出自を窺わせる)、文献(c)では何とシベリアのブリアート・モンゴルや、中国満族(満州族)でも、認められ、このハプロタイプの起源も南方系とはいえなくなりました。以前は、このハプロタイプを、江南出自の百越の一派で、あるいは水稻耕作をもたらした集団とも考えていたのですが、とりあえず、不明とせざるを得ません。「夏人」のハプロタイプである可能性も含め、いろいろと考えていますが、周辺諸民族の頻度、特にチベット族などのそれが解らないと決定困難だと思います。

5HLA – A2-B46 – DRB1*0803(DR8)

本土日本人 2,2%

このハプロタイプの分布は、文献(a)では、1、2、3と類似していると報告されていますが、文献(b)の頻度は、2,16%と本土日本人で5番目の頻度(文献(a)でも5番目の頻度)ですが、文献(c)では記載なく、詳細は不明です。ただこのハプロタイプに極めて類似したハプロタイプが中国南部、四川省やタイ、ヴェトナムの集団で最も多いとされていることが、文献(a)に記載されています。 <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/sakura-komichi/kodaishi/hn2602/5.htm>

南方海洋民と一緒に犬がやってきた可能性。犬の尻尾の遺伝は父系だそうで、外見が母系であまり当てにならないようです。

ただ「山頂有越王射的正白」とあるので、「越」の近くだとは思いますが。阿蘇山ではないでしょう。夷州は台湾周辺が妥当といえれば妥当でしょうね。亶州は琉球奄美方面になるでしょうか。

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年9月11日(火)00時47分14

秒 返信・引用 編集済 > No.747[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 孫権の229年の夷州と亶州の捜査を行なっている。…公孫淵の内通を真実と信じ。 当時の公孫淵の所在は韓半島になる。台湾には魅力がないのでは。

> 夷州を台湾とする見方があるようです。 >> 時代は下り三国時代の『臨海水土志』の中に「夷州在浙江臨海郡的東南、離郡二千里、土地無霜雪、草木不枯、四面皆山、衆山夷所居。山頂有越王射的正白、乃是石也。」及び「部落間互不相属、各号为王、分割土地……」という記載があり、この場合の夷州は台湾を指すものと考えられるが、孫権伝説の中に、「夷州亶州在海中、長老伝言、秦始皇遣方士徐福将男童女数千人入海、求蓬莱及仙薬……」という記載もあり、…。

浙江省の東南は九州になる。台湾は地図を見れば南になる。

文章に、「山頂有…離郡二千里」は、末廬国=郡とすると、末廬国から二千里は阿蘇山になる。台湾は連山になり目立つ山はない。

また、『後漢書』倭人伝と同様に徐福将男童女数千人入海、求蓬莱及仙薬……は徐福伝説…日本になるのでは…。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

>> 夷洲在臨海東南、去郡二千里。土地無霜雪、草木不死。四面是山谿。人皆髮穿耳、女人不穿耳。土地饒沃、既生五穀。又多魚肉。有犬、尾短如麕尾狀。此夷舅姑子婦臥息。共一大牀、略不相避。地有銅鐵、唯用鹿格爲矛以戰鬪、摩礪青石以作(弓)矢鏃。取生魚肉雜貯大瓦器中、以鹽鹵之。歷月所日、乃啖食之、以爲上肴

>> 特に尾の短い犬の記載が決め手になるかもしれません。 >

> 新羅に短い尻尾の犬の土偶があるようです。 日本の「弥生犬」を忘れていませんか。新羅に短い尻尾は弥生犬でないか。

尾短如麕尾状:尾は短く、のろの如し、しっぽ

http://www.google.co.jp/search?q=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%8A%AC&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&prmd=imvns&tbn=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=eBhPUPWDDLKgiAfrxoHYBg&ved=0CDoQsAQ&biw=1063&bih=862

麕:(鹿より小さく角が短い。夏毛は、赤褐色、冬毛は、灰褐色)、 尾状:(Tail)【可算名詞】 (動物の)尾,しっぽ、「弥生犬」

<http://www.youtube.com/watch?v=p8DdM-yNcNo> <http://www.dog-directory.net/group/japan/>
<http://www.city.fujiidera.lg.jp/9,1129,98,149.html>

麕のろ:ノロジカ。

シカ科の哺乳動物。中国や朝鮮に住む。

鹿より小さく角が短い。

夏毛は、赤褐色、冬毛は、灰褐色。

<http://>

----- Re:伊都国は筑紫野あたり投稿者:管理人
投稿日:2012 年 9 月 10 日(月)22 時 39 分 22 秒 返信・引用 編集済

> No.746[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。 > 佐賀まで来たので、伊都国を追いたいと思います。伊都国は筑紫野あたり

>> 孫権の 229 年の夷州と亶州の捜査を行なっている。どうも、吉野ヶ里遺跡の状況から吉野ヶ里、辺りで、激しい戦闘があったと思われる。 > 当時の荒廃状況は魏志倭人伝の文章に「草木が茂り、前を行く人が見えない。」を伝えてい る。 > また、吉野ヶ里遺跡の北墳丘墓が戦死者でないか。

> 孫権は 229 年(黄龍元年)に呉王朝の初代皇帝に即位した。即位の翌年、陸遜の反対にも かかわらず、兵 1 万をもって、夷州と亶州の捜査を行わせた。しかしこの捜査は失敗に終わり、 孫権は部下を処刑した。233 年 3 月、顧雍・陸遜・張昭ら重臣の諫止を聞かず、公孫淵の内通 を真実と信じ、彼に九錫の礼物と策命書を届けるのに兵 1 万を動員した。

夷州を台湾とする見方があるようですね。

呉では 229 年に孫権が皇帝を名乗り、一時代に一人だけの名目だった皇帝が同時に三人並ぶ ことになった。230 年に呉は海を渡って夷州(いしゅう)と亶州(たんしゅう)に兵を出したという記録 があり(夷州には辿り着いたが、亶州には辿り着けなかった)、これは台湾(夷州)と沖縄 諸島(亶州)ではないかと考えられているが、日本ではないかとも考えられている。

この頃、呉の呂岱は交州に出兵して、この地の独立勢力の士氏一族を滅ぼして、この地を呉の 直轄とし、南海交易の利益を占めた。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E5%9B%BD%E6%99%82%E4%BB%A3_\(%E4%B8%AD%E5%9B%BD\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E5%9B%BD%E6%99%82%E4%BB%A3_(%E4%B8%AD%E5%9B%BD))

時代は下り三国時代の『臨海水土志』の中に「夷州在浙江臨海郡の東南、離郡二千里、土地無 霜雪、草木不枯、四面皆山、衆山夷所居。山頂有越王射的正白、乃是石也。」及び「部落間互不相 属、各号為王、分割土地……」という記載があり、この場合の夷州は台湾を指すものと考えら れるが、孫権伝説の中に、「夷州亶州在海中、長老伝言、秦始皇遣方士徐福将男童女数千入 海、求蓬萊及仙藥……」という記載もあり、地名としての夷州が台湾を指す言葉として確定し てはいなかったとも思われる。しかし、『臨海水土志』には別に、

夷洲在臨海東南、去郡二千里。土地無霜雪、草木不死。四面是山谿。人皆?髮穿耳、女人不穿耳。 土地饒沃、既生五穀。又多魚肉。有犬、尾短如麕尾状。此夷舅姑子婦臥息。共一大牀、略不相避。 地有銅鐵、唯用鹿格爲矛以戰

鬩、摩礪青石以作(弓)矢鏃。取生魚肉雜貯大瓦器中、以鹽鹵之 歷月所日、乃啖食之、以爲上肴

という記述もあり、このような土地はあらゆる意味で台湾島の特徴に合致し、またそれ以外 でこのような地域を中国南部の沿岸の島嶼に見出すことは困難であるため、台湾が少なく ともこの時代には中国文明の認識する範囲に含まれていたことは明らかであると言える。

隋王朝の 603 年に書かれた文献には、台湾への探検の記録が記載されている[要出典]。だが、 当時の中国の文献において、台湾は琉球、留仇、流虬、琉求、瑠球と呼ばれていた。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B0%E6%B9%BE>

特に尾の短い犬の記載が決め手になるかもしれません。台湾を琉球と呼んでいたのは初耳で すね。

新羅に短い尻尾の犬の土偶があるようです。

<http://u1sokuhou.ldblog.jp/archives/50351281.html> 2005 年 5 月、「新羅土偶展」が開催された慶尚北道慶州市の慶州博物館。慶州文化院郷土文化 研究所の一行と共に博物館を訪れたチェ教授(当時、徐羅伐大学ペット管理科教授)は、新 羅古墳群から出土した人・ウマ・ウシなど 5-6 世紀のものと推定される土偶を目にした瞬間、ハッとした。目の前には太く短い尾を持つイヌの土偶が数十個も並んでいた。

チェ教授は「大学の愛犬テーマパークで学生の実習用に飼育していた 20 種のイヌの中に、土 偶とよく似ているイヌがいた。飼育士たちはよく『韓国原産の犬種』と言っていたが、聞き流 していた。ところが、土偶を見た瞬間『慶州原産のイヌ』だと確信し、保存しなければという使命感に駆 られた」と語った。

この日以来、尾が太く短い東京狗にすっかりほれ込んだチェ教授が最初に行った作業は、歴 史に埋もれていたこのイヌの「生きた証し」を探ることだった。地元の郷土歴史家から入手し た『三国史記』『東京雑記』『増補文献備考』など古書数十冊をめくり「慶州周辺に生息する尾 の短い犬を東京狗という」などの記録を発見した。また、ソウル大学内にある歴史的記録物の 所蔵庫「奎章閣」で、1930 年代に日本の歴史家が撮影した写真も発見した。チェ教授は「文献

を見ると、東京狗は韓国原産犬種のうち最も歴史が古く、最も多く登場している」と話す。

夷洲を九州とする見方もありますね。尻尾の短い犬の分布が、秦韓⇄北九州あたりに見える とおもしろいのですが…。

明年 上遣文林郎裴清使於倭國 度百濟 行至竹嶋 南望[身冉]羅國 經都斯麻國 迴在大海中 又東 至一支國 又至竹斯國 又東至秦王國 其人同於華夏 以爲夷州疑不能明也

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%A6%E7%8E%8B%E5%9B%BD>

----- 伊都国は筑紫野あたり 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 9 月 9 日(日)18 時 38 分 21 秒 返 信・引用 編集済

佐賀まで来たので、伊都国を追いたいと思います。伊都国は筑紫野あたり

孫権の 229 年の夷州と亶州の捜査を行なっている。どうも、吉野ヶ里遺跡の状況から吉野ヶ 里、辺りで、激しい戦闘があったと思われる。 当時の荒廃状況は魏志倭人伝の文章に「草木が茂り、前を行く人が見えない。」を伝えている。 また、吉野ヶ里遺跡の北墳丘墓が戦死者でないか。

推測だが戦闘は、博多から伊都国、奴国、吉野ヶ里の筑紫野、太刀洗あたりに成る。

捜査団は卑弥呼の追っ手なので、邪馬台国の行程を聞き諦めた模様。

注)魏志倭人伝の翻訳には間違いはあるが支障はないので訂正しない。

南へ水行 20 日で投馬国に至る(「南至投馬國水行二十日」)。長官は彌彌(みみ)、副官は彌 彌那利(みみなり)である。推計 5 万戸余。 南に水行 10 日と陸行 1 月で女王の都のある邪馬台国に至る(「南至邪馬壹國、女王之所都、 水行十日陸行一月」)。

孫権は 229 年(黄龍元年)に呉王朝の初代皇帝に即位した。即位の翌年、陸遜の反対にもか かわらず、兵 1 万をもって、夷州と亶州の捜査を行わせた。しかしこの捜査は失敗に終わり、 孫権は部下を処刑した。233 年 3 月、顧雍・陸遜・張昭ら重臣の諫止を聞かず、公孫淵の内通

を真実と信じ、彼に九錫の礼物と策命書を届けるのに兵 1 万を動員した。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%AB%E6%A8%A9>

魏志倭人伝「草木が茂り、前に行く人が見えない。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>
佐賀県神埼郡・吉野ヶ里遺跡

http://www.google.co.jp/search?q=%E5%90%89%E9%87%8E%E3%83%B6%E9%87%8C%E9%81%BA%E8%B7%A1+%E5%87%BA%E5%9C%9F%E5%93%81&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&prmd=imvns&tbm=isch&tbo=u&source=uni v&sa=X&ei=Q1xMUL_CJtGcmQXJyoGgDg&ved=0CDUQsAQ&biw=1063&bih=862

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 9 月 9 日(日)14 時 07 分 24 秒 返信・引用

> No.744[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>>

- > 烏紋は雑賀氏の家紋、どう理解しますか。 >
- > 八咫烏(やたがらす、やたのからす)は、日本神話で、神武東征の際に、高皇産靈尊によって 神武天皇の元に遣わされ、熊野国から大和国への道案内をしたとされる烏である。一般的に 三本足のカラスとして知られ古くよりその姿絵が伝わっている。
> 烏 紋 > 古代中国では太陽の化身として崇められた、 > 日本では熊野神社の神使であり神官鈴木一族の代表紋。

なるほど、熊野鈴木氏はススキ=穂積氏=物部ニギハヤヒ一族のことなんですね。

確かにニギハヤヒの働きは八咫烏と同様に先導役の意味がありそうです。ニギハヤヒが「日」を用いるのも、先の扶桑木の 10 の太陽伝承との兼ね合いで捕らえると何かでてくるかもしれ ません。「速い日」というのが、先に上ったひとつの太陽を想起させますね。

そうすると、八咫烏伝承の流入は、もっと古い時代ということになるのでしょうか。再考の 余地がありそうですね。

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 9 月 8 日(土)12 時 53 分 29 秒 返信・引用

> No.743[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>> これらが九州の朝倉・大川方面の地域伝承にかかわってくるはずです。安曇族経由で諏訪 や各地へ伝播していく。神武伝承を理解するうえで、この辺の要素に留意しておく必要があ るかもしれません。

烏紋は雑賀氏の家紋、どう理解しますか。

八咫烏(やたがらす、やたのからす)は、日本神話で、神武東征の際に、高皇産靈尊によって 神武天皇の元に遣わされ、熊野国から大和国への道案内をしたとされる烏である。一般的に 三本足のカラスとして知られ古くよりその姿絵が伝わっている。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AB%E5%92%AB%E7%83%8F>

烏 紋

古代中国では太陽の化身として崇められた、

日本では熊野神社の神使であり神官鈴木一族の代表紋。

<http://www.harimaya.com/kamon/column/karasu.html>

諸国の雑賀氏

<http://www.iris.dti.ne.jp/~min30-3/magoichi/saigaichizoku4.htm>

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 9 月 7 日(金)23 時 21 分 37 秒 返信・引用 編集済

> No.742[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 扶余は長城の北に在り、玄菟郡からは千里、南に高句麗、東に?婁、西に鮮卑族と接し、北 には弱水があり、方
形は二千里。土着民の戸数八万、宮室、倉庫、牢獄などがある。丘陵や大河 が多く、東夷の領域では最も平坦で
ある。土地は五穀の栽培に適しているが、果実はできない。 体形は大柄で勇猛だが、謹厳実直で略奪をしない。
(堀貞雄の古代史・探訪館より)

>> やはり牢獄の記載、力強い(人⇔家畜)の記載が、先の慧深の「扶桑国」記載と共通性があり ます。慧深は、魏
志東夷伝や山海経を呼んでいたと思いますね。切り離しが重要です。

>> 下有湯谷 湯谷上有扶桑 十日所浴 在黑齒北 居水中 有大木 九日居下枝 一日居上枝 > (下に湯谷
があり、湯谷の上に扶桑があり、10 の太陽が水浴びをする。黒齒国の北であり、 大木は水中にあり、9 の太陽
は下の枝に、1 の太陽が上の枝にある)

扶桑というのは水中にあるわけですね。太陽に乗る三本足のカラスの話はヤタカラスの件で もおなじみですが、
下記の高句麗系の伝承との比較が気になります。

[編集] 朝鮮

太陽の中に描かれた三足鳥の高句麗の壁画。左は竜、右は鳳凰。 三足鳥(??? Samjokgo サムジョゴ)は高句麗の
建国神話などに見られる。また、火鳥ともす る。『淮南子』に「昔、広々とした東海のほとりに扶桑の神樹があり、
10 羽の三足鳥が住んでい た.....」と見える。扶桑は古くは高句麗のあった地域とされ、この 10 羽の 3 本足
の鳥が順番 に空に上がり、口から火を吐き出すと太陽になるという。また「日中有鳥 而月中有蟾蜍」と の記
述もあり中国の 3 本足鳥は太陽そのものの象徴であった。『芸文類聚』にも記述されてい る。

高句麗の天孫は、三足鳥の羽根を飾った父(太陽の化身)により身籠もった卵から生まれ、 三足鳥は王族の象徴
であるとされる。古墳壁画にも 3 本足の鳥三足鳥が描かれている。

[編集] 日本 詳細は「八咫鳥」を参照

日本では三足鳥が八咫鳥(ヤタガラス)と呼ばれ同一視される。神武東征において神武天皇を 導く役割を与えら
れている。

[編集] その他 三足鳥はエジプト神話の壁画に見られる[2]。これはリュキアやパンフィリアの三足巴から 考
え出されたとされる[1]。

また、ギリシャ神話のアポロンの鳥である鳥座を描いたものでは時にカラスが 3 本足の姿で 描き表される。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%B6%B3%E7%83%8F>

三本足カラスの元の起源はエジプトあたりじゃないですかね。海・陸のシルクロードなどを 通って、東アジアに
もたらされた。

その後、高句麗経由で、再度北九州に三本足カラスとか、10 個の太陽伝承、扶桑木伝承が漢 字文化や仏教・大
陸宗教とともにもたらされたのが、記紀に記されていたという感じがし ます。

高木神は、機織と関係ありますね。別名が高御産巢日神で太陽神とも関係する。日の巢⇔扶桑 木の上にある多
くの太陽??

高皇産霊神は、『日本書紀』では、天地初発条一書第四に「又曰く～」という形式で登場してい るに過ぎない神であ
り、その他では巻十五の「顕宗紀」において阿閉臣事代が任那に派遣され 壱岐及び対馬に立ち寄った際に名前が

登場する程度ではある。また、『延喜式』『祝詞』『出雲国神賀詞』には、「神王高御魂命」とされている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%82%AB%E3%83%9F%E3%83%A0%E3%82%B9%E3%83%93>

航海神との関係がありそうです。

天津国玉神の子である天稚彦(あめのわかひこ)が、天孫降臨に先立って降ったが復命せず、問責の使者・雉(きざし)の鳴女(なきめ)を射殺した。それが高皇産靈神の怒りに触れ、その矢を射返されて死んだという。

雉とそれを射殺すというところが、扶桑木と太陽を射る、カラスの話と類似します。

高木神の機織娘が天忍穗耳命と結婚しているのは、九州・中臣・大伴との関係で重要。

熊野も航海関係ですね。

これらが九州の朝倉・大川方面の地域伝承にかかわってくるはずです。安曇族経由で諏訪や各地へ伝播していく。神武伝承を理解するうえで、この辺の要素に留意しておく必要があるかもしれません。

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 9月 7日(金)05時 01分 32秒 返信 引用 編集済

> No.741[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

扶余は韓半島の玄菟郡、千里で倭国からは北九千里になる。秦野距離。「黒齒国」、「女王国」韓半島南部を除く倭国」は確定済みです。「扶余」と「扶桑」は名前は良く

似ているが別物です。また、地図を見る限り、誤訳があり「扶桑の東 1000 余里に女国があり、倭国の東北 7000 余里に文身国。正しくは「女王国の東 1000 余里に扶桑があり、文身国の東北 7000 余里に倭国。」になる。扶桑木も同様に誤訳ありですな。

夫餘在長城之北、去玄菟千里、南與高句麗、東與婁、西與鮮卑接、北有弱水、方可二千里。戸八萬、其民土著、有宮室、倉庫、牢獄。多山陵、廣澤、於東夷之域最平敞。土地宜五穀、不生五果。其人?大、性彊勇謹厚、不寇鈔。(三国志魏書)

扶余は長城の北に在り、玄菟郡からは千里、南に高句麗、東に婁、西に鮮卑族と接し、北に弱水があり、方形は二千里。土着民の戸数八万、宮室、倉庫、牢獄などがある。丘陵や大河が多く、東夷の領域では最も平坦である。土地は五穀の栽培に適しているが、果実はできない。体形は大柄で勇猛だが、謹厳実直で略奪をしない。(堀貞雄の古代史・探訪館より)

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano2.htm>

下有湯谷 湯谷上有扶桑 十日所浴 在黑齒北 居水中 有大木 九日居下枝 一日居上枝 (下に湯谷があり、湯谷の上に扶桑があり、10の太陽が水浴びをする。黒齒国の北であり、大木は水中にあり、9の太陽は下の枝に、1の太陽が上の枝にある)

「観音ボダラク」補陀落渡海 金光坊は補陀洛山寺(小説では補陀落寺)の住職である以上、ある年齢に達したら渡海しなくてはならないとわかっている。しかし、その日が近づくと、次第に死ぬのがいやになってくる。渡海の日。金光坊は小舟に閉じ込められ、沖に曳航されてゆく。..

伝承から「黒齒国」の先、インド辺りを目指したのでしょう。仏教の渡海ブームは鑑真辺りから始まるのでしょうな。鑑真が「扶桑国」を目指した逆ルートになる。補陀落渡海は罽賓国(ガンダーラ・カシミール近辺)と僧侶は無茶をするな。三蔵法師が天竺(天竺と言えばインドだが、三蔵はどうも密教なのでチベットでないか。)..

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%91%91%E7%9C%9F> <http://www.sakai.zaq.ne.jp/piicats/hudaraku.htm>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%94%B5%E6%B3%95%E5%B8%AB> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E9%81%8A%E8%A8%98>

Re: 扶桑木の位置 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 9 月 6 日(木)22 時 52 分 46 秒 返信・引用 編集済

> No.740[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 中国の東方にある。「扶桑の木」が多いことからその名がある。扶桑の葉は桐に似て、生え始めはタケノコのように、扶桑国人は食用にする。実は梨のようで赤く、その皮を績いで布にして衣類や綿にしたり屋根を葺いたりする。文字はあり、扶桑の皮でできた紙に書く。城郭はなく、兵士や武装はなく、戦争をしかけない。

>> 扶桑国は管理人さんの故郷の近くです。ひょっとしたら食べいかも?。 >

おそらく5世紀代の中国入朝の僧慧深が述べた「扶桑国」は、先の高句麗と同じ「対盧」(官名)を使う共通性から見ても、高句麗東方の扶余やその東の沃沮とみるべきかと感じます。

そのほか、扶余との共通点としては、金銀を多く産出すること、酒宴の習俗、恩赦や死刑や奴婢に関する記載、牛など家畜の関連など多くあります。「南山」に死刑のものを葬る記載→南北の牢獄記載?

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%AB%E4%BD%99>

また沃沮との共通点としては、沃沮の伝承に、東方にある女ばかりの国の話があり、これが扶桑国の東にある「女国」の話として伝わったのでしょうか。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B2%83%E6%B2%AE>

おそらく慧深は、「扶余」と「扶桑」との関連で同意と解釈するようなフシがあったのではないのでしょうか。

倭国の東北 7000 余里に扶桑国があるというのは、扶桑の東 1000 余里に女国=倭国とすると、だいたい渤海周辺一帯太方面が怪しいところですね。

ただ、「山海経」のいう「扶桑」はまたぜんぜん南方の国の記載のようにも見えます。

『山海経』によると、東方の海中に黒齒国があり、その北に扶桑という木が立っており、そこから太陽が昇るという。

下有湯谷 湯谷上有扶桑 十日所浴 在黑齒北 居水中 有大木 九日居下枝 一日居上枝 (下に湯谷があり、湯谷の上に扶桑があり、10の太陽が水浴びをする。黒齒国の北であり、大木は水中にあり、9の太陽は下の枝に、1の太陽が上の枝にある) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

黒齒国は、先のとおりインドネシア方面に実在した「黒齒国」のことで、その北にある水上生活集団が、扶桑国でしょうから、ベトナム方面かと考えましたね。

「黒齒国」は「女王国」の東南 4000 里、

「黒齒国」は「扶桑国」の南。

あと、その10個の太陽の話は、中国系の渡来人で、九州に壁画古墳を残した集団を追う上で重要な要素となりそうです。彼等は北燕系の渡来人だと思うのですが、ちょうど僧慧深と年代がちかいんですね。

当時、「扶桑」とか「観音ポダラク」の伝承が高句麗・渤海方面に流れた仏教にあって、その影響で「扶桑」を逆に自国のことと考えこんだ僧侶がいたとすると、なんとなく上記の「扶桑国」の成立した経緯がわかってくるかもしれません。

「扶桑木」の伝承を、九州に見出すことができるかもしれません。会報でもひとつふたつ大木の伝承を紹介しましたね。大川・朝倉方面の高木神関連、大木を抜いて吉凶を占うという大伴・秦氏系伝承も、扶桑木と仏教・大陸系宗教との兼ね合いで捉えられれば、何かわかるかもしれません。

Ads by Google

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 9 月 5 日(水)23 時 53 分 18 秒 返信・引用 編集済

> No.739[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 朝鮮の奴婢制度

奴婢は主人の所有物であり、売買・略奪・相続・譲与・担保の対象となった。奴婢の交換価値は、奴婢制度が法的に廃止された甲午農民戦争の当時で、美貌の婢一人以上を含む奴婢五人で牛一頭であった。箕子朝鮮に始まった奴婢制度は、箕子朝鮮から馬韓に受け継がれた。

箕子朝鮮の年代は三千年前とされているが相当なサバを読んでいる。特定済みです。しかし、美貌の婢とは…興味がある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%B4%E5%A9%A2%E6.9C.9D.E9.AE.AE.E3.81.AE.E5.A5.B4.E5.A9.A2.E5.88.B6.E5.BA.A6>

いつか暇が出来たら扶桑国に行くか、扶桑の葉は桐に似て、実は梨のようで赤く、…を確認したい。生え始めはタケノコのように、扶桑国人は食用にする。食べたい。

中国の東方にある。「扶桑の木」が多いことからその名がある。扶桑の葉は桐に似て、生え始め

はタケノコのように、扶桑国人は食用にする。実は梨のようで赤く、その皮を績いで布にして衣類や綿にしたり屋根を葺いたりする。文字はあり、扶桑の皮でできた紙に書く。城郭はなく、兵士や武装はなく、戦争をしかけない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

扶桑国は管理人さんの故郷の近くです。ひょっとしたら食べれるかも？。

Ads by Google

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:管理人 投稿日:2012年 9月 5日(水)22時 54分 51秒 返信・引用 編集済

> No.738[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >> 大川周辺の開拓状況が3-4の要素分離を知る方法。当時の状況は扶桑国を知ることによって理解できる。『旧唐書』倭国・日本国伝だけでは不十分で理解出来なかった。一転させたのが、距離(秦野書、徐福と邪馬台国)からあっさり、位置を確認しました。これからすると魏志倭人伝の調査した家族、戸のほぼ2倍程度が総てと思われる。 > 結論は大川周辺は原野で白村江、百済から逃れた人が土地を与えられ住み着いた。住人は百済系の人で朝廷との関係も深いと思われる。菊池一族が良い例ではないか。 >>

扶桑国について下記の記載が興味深いですね。南北の牢獄というのは、朝鮮半島の蘇塗の伝承と関係しないでしょうか。「対盧」は高句麗の官名にもある。「高句麗の末期に大対盧の位にあった淵蓋蘇文はクーデターを起こし」

永元元年(499年)、扶桑国の僧慧深が荊州に来て言った。「扶桑国は大漢国の東二万余里(8700km余)、中国の東方にある。「扶桑の木」が多いことか

らその名がある。扶桑の葉は桐に似て、生え始めはタケノコのように、扶桑国人は食用にする。実は梨のようで赤く、その皮を績いで布にして衣類や綿にしたり屋根を葺いたりする。文字はあり、扶桑の皮でできた紙に書く。城郭はなく、兵士や武装はなく、戦争をしかけない。南北2つの監獄があり、軽罪の者は南獄、重罪の者は北獄に入る。南獄には恩赦があるが北獄にはない。北獄では男女を番わせ、生まれた男児は8歳・女児は9歳で奴婢とし、罪人自身は一生出られない。貴人が有罪となれば、穴の中に座らせ、酒宴を開いて処刑し、その上に灰を撒く。初犯なら当人が責を受けるだけだが、再犯なら子と孫、三犯なら7世に及ぶ。国王の名は乙祁。貴人(「祁貴人」が王の名の可能性あり)の第1位は大対盧、第2位は小対盧、第3位は納咄沙と呼ぶ。国王が行くときには鼓笛を従える。その衣の色は年により変わり、甲乙年は青、丙丁年は赤、戊己年は黄、庚辛年は白、壬癸年は黒である。牛の角は非常に長く、20斛(540kg、1斛≒57kg)以上を運ぶ。馬車、牛車にくわえ、鹿車がある。中国人が牛を飼うように、扶桑国人は鹿を飼い、乳から乳製品を作る。桑、梨、フトモモがある。鉄はないが銅(青銅か)はあり、金銀はふんだんにある。市場では税金がかからない。結婚するときは、婿が女の家へ行き、門外に建物を作り朝夕掃除する。女が喜ばなかったら取り壊し、喜べば成婚となる。結婚式は中国とほぼ同じである。

親の喪には 7 日間絶食する。祖父母は 5 日間、兄弟姉妹おじおばは 3 日間である。死者の霊を 神像とし、朝夕拝む。(先王が死んで?)王の跡継ぎが立ったときには、3 年間国事に関わら なかった。 かつては仏教はなかったが、大明 2 年(458 年)、罽賓国(ガンダーラ・カシミール近辺)か ら 5 人の僧が来て仏典と仏像をもたらし出家を勧めたので、風俗は変化した」 また慧深はこうも言った。「扶桑の東 1000 余里(430km)に女国があり、(以下略、一部意 訳))

?『梁書』巻 54 列伝第 48 諸夷 海南 東夷 西北諸戎 扶桑國[10] <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 9 月 5 日(水)06 時 42 分 44 秒 返信・ 引用 編集済

> No.737[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

大川周辺の開拓状況が3-4 の要素分離を知る方法。当時の状況は扶桑国を知ることで理 解できる。『旧唐書』倭国・日本国伝だけでは不十分で理解出来なかった。一転させたのが、 距離(秦野書、徐福と邪馬台国)からあっさり、位置を確認しました。これからすると魏志倭人 伝の調査した家族、戸のほぼ 2 倍程度が総てと思われる。 結論は大川周辺は原野で白村江、百済から逃れた人が土地を与えられ住み着いた。住人は百 済系の人で朝廷との関係も深いと思われる。菊池一族が良い例ではないか。

1. 帯方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000 余里で倭国の 北岸の狗邪韓国(くやかんこく)に到着する(「從郡至倭、循海岸水行、歴韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七千餘里」)。

2. 始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る(「始度一海千餘里、至對馬國」)。大官は卑狗 (ひこ)、副官は卑奴母離 (ひなもり)。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、

海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

3. また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る(「又南渡一海千餘里、名曰瀚 海、至一大國」)。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000 の家族が住める。 田畑はあるが足りず、市へいく。

4. また海を 1000 余里渡ると末廬国に至る(「又渡一海千餘里、至末廬國」)。4000 余戸が有る。 草木が茂り、前を行く人が見えない。魚や、アワビを捕るのを好み、皆が潜る。

5. 東南へ 500 里陸行すると伊都国に到着する(「東南陸行五百里、到伊都國」)。 長官は爾支(にき)、副官は泄謨觚(せもこ)と柄渠觚(へくこ)。1000 余戸が有る。 世、王が居る。皆は女王国に属する。帯方郡の使者の往来では常に駐在する所。

6. 東南に 100 里進むと奴国に至る(「東南至奴國百里」)。長官は兕馬觚(しまこ)、副官は 卑奴母離。2 万余戸が有る。

7. 東へ 100 里行くと不弥国に至る(「東行至不彌國百里」)。長官は多模(たも)、 副官は卑奴母離。1000 余の家族が有る。

8. 南へ水行 20 日で投馬国に至る(「南至投馬國水行二十日」)。長官は彌彌(みみ)、 副官は彌彌那利(みみなり)である。推計 5 万戸余。

9. 南に水行 10 日と陸行 1 月で女王の都のある邪馬台国に至る(「南至邪馬臺國、女王之所都、 水行十日陸行一月」)。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳鞮があり、推計 7 万余戸。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

扶桑国は日本に存在(古代の日本を指す)。紀元前 150 年ぐらいから 500 年まで奴婢制度が続 いた模様。先に述べた鑑真の渡航目的は扶桑国の奴婢制度を辞めさせ、仏教を広める。 その後、仏教により倭国は衰退して行く。

扶桑国の状況から倭国の人口は女が多く、男が少ない。『旧唐書』倭国・日本国伝は正しく伝えている。

其訴訟者、匍匐而前。地多女少男。頗有文字、俗敬佛法。並皆跣足、以幅布蔽其前後。貴人戴錦帽、百姓皆椎髻、無冠帶。婦人衣純色裙、長腰襦、束髮於後、佩銀花、長八寸、左右各數枝、以明貴賤等級。衣服之制、頗類新羅。

その訴訟をする者は、這って前に進み出る。その地には女が多く男が少ない。甚だ文字を知り、俗人は佛法を敬う。併せて皆が裸足で、幅広の布でその前後を隠す。貴人は錦の帽子を載せ、百姓は皆が椎髻(?)、冠も帯もない。婦人の衣は鮮やかな色の裙(スカート)、長い腰襦袢、髪を後に束ね、銀製の花を佩びる、長さ八寸、左右に各々数枝、以て貴賤、等級を明らかにする。衣服の制はとても新羅に類似している。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun10-kyutosho.htm>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

> 神功皇后の三韓征伐伝承のモデルは、ヒミコ、斉明、聖母マリアといったラインでしょうか。一部、葛城ソツヒコ関連の記録がそこに紛れ込んでくる。その辺の3-4の要素をどう分離していくか、この辺が課題です。

>>

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:管理人 投稿日:2012年 9月 4日(火)22時 49分 32秒 返信・引用

> No.736[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 管理人さん知っていたんですかな。 >
- > お船祭り
- > お船祭り(おふねまつり、おふなまつり)
- > 茨城県北茨城市(佐波波地祇神社)→お船祭り (佐波波地祇神社)
- > 千葉県館山市(相浜神社)→お船祭り (相浜神社)
- > 長野県安曇野市(穂高神社)→お船祭り (穂高神社)
- > 長野県安曇野市(熊野神社)→お船祭り (熊野神社)
- > 長野県下諏訪町(諏訪大社)→お船祭り (諏訪大社)
- > 長野県松本市(須々岐水神社)→お船祭り (須々岐水神社)
- > 三重県鳥羽市(青峰山)→御船祭 (青峰山)

須々岐水神社のそれは、高句麗系渡来人がかかわってくる点で、白村江との関係で重要ですね。ここは伺ったことがあります。

「日本後紀」延暦 18年 12月甲戌条に、高句麗から渡来した信濃国人卦婁真老(外従六位下)は「須々岐」の姓を与えられたとある。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%8A%E8%88%B9%E7%A5%AD%E3%82%8A_\(%E9%A0%88%E3%80%85%E5%B2%90%E6%B0%B4%E7%A5%9E%E7%A4%BE\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%8A%E8%88%B9%E7%A5%AD%E3%82%8A_(%E9%A0%88%E3%80%85%E5%B2%90%E6%B0%B4%E7%A5%9E%E7%A4%BE))

安曇氏と亡命百済・高句麗人の件をもう少し掘り下げる必要があります。

安曇氏

古代日本を代表する海人族として知られる有力氏族で、発祥地は筑前国糟屋郡阿曇郷(現在の福岡市東部)とされる。古くから中国や朝鮮半島とも交易などを通じて関連があったとされ、後に最初の本拠地である北九州の志賀島一帯から離れて全国に移住した。この移住の原因として、磐井の乱や白村江の戦いでの安曇比羅夫の戦死が関係しているとの説がある [要出典]。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E6%9B%87%E6%B0%8F>

先の大川の風浪宮の阿曇氏の伝承は、北九州の安曇氏のそれと見て間違いなさそうですね。時代はやはり白鳳で、そこに一部九州系の応神・神功伝承がかかわってくる。

記紀に登場し、「日本書紀」の応神天皇の項に「海人の宗に任じられた」と記され、「古事記」では「阿曇連はその綿津見神の子、宇都志日金柝命の子孫なり」と記されている。その他、「新撰 姓氏録」では「安曇連は綿津豊玉彦の子、穂高見命の後なり」と記される。

律令制の下で、宮内省に属する内膳司(天皇の食事の調理を司る)の長官(相当官位は正六位上)を務める。これは、古来より神に供される御贄(おにえ)には海産物が主に供えられた為、海人系氏族の役割とされたことに由来する。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E6%9B%87%E6%B0%8F>

重要なのは、安曇氏が内膳司として宮中に入り込んでいることです。秦・膳・小子部・土師 氏・大伴など、宮中へ奉仕者としてもぐりこむ氏族の伝承は、比較的多く記紀に記載される傾向があります。

それで九州の地方伝承や祭祀が、宮中に入り込んで、白鳳時代に記紀の原型が完成していく ですね。

神功皇后の三韓征伐伝承のモデルは、ヒミコ、斉明、聖母マリアといったラインでしょうか。一部、葛城ソツヒコ関連の記録がそこに紛れ込んでくる。その辺の3-4の要素をどう分離 していくか、この辺が課題です。

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年 9月 4日(火)00時 06分 33秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

お船祭りは白村江を模倣した祭りの様だな。気が付かないだけですな。三韓征伐の渡来人、倭の五王、等のメンバーが揃っていますな。秦野は古代人の記録を残す知恵には頭が下がる。おみごと。

三韓征伐、卑弥呼を模倣した祭りが残っている。

管理人さん知っていたんですかな。

お船祭り お船祭り(おふねまつり、おふなまつり) 茨城県北茨城市(佐波波地祇神社)→お船祭り (佐波波地祇神社) 千葉県館山市(相浜神社)→お船祭り (相浜神社) 長野県安曇野市(穂高神社)→お船祭り (穂高神社) 長野県安曇野市(熊野神社)→お船祭り (熊野神社) 長野県下諏訪町(諏訪大社)→お船祭り (諏訪大社) 長野県松本市(須々岐水神社)→お船祭り (須々岐水神社) 三重県鳥羽市(青峰山)→御船祭 (青峰山)

http://www.google.co.jp/search?q=%E3%81%8A%E8%88%B9%E7%A5%AD%E3%82%8A&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&prmd=imvns&tbm=isch&tbo=u&source=uni v&sa=X&ei=KcNEUOfpN7HzmAWPxIG4CQ&ved=0CEYQsAQ&biw=1063&bih=862

>> 思うに、阿曇連磯良丸、少童命(ワタツミノミコト)の阿曇連は、白鳳時代、白村江の戦いなどで活躍した阿曇氏と感じますね。伝承の成立は、したがってそのころでしょう。

> 白村江に参戦した安曇 比羅夫が有名。 >

> したがって先の神功皇后の三韓征伐の帰途に、この葦原ノ津によったという伝承は、白村江と朝倉宮・斉明女帝あたりの関係を想起します。 >> この辺の伝承が記紀に紛れ込んで、神功皇后の伝承に一枚噛んだ可能性を感じますね。「葦原」の語も、このころに紛れ込んだのか?その辺が課題ですね。

>> しかし、仮にそうだとすると、どうして宮中の伝承に、九州の港の大川・朝倉周辺の海人系伝承が紛れ込んでいくのか?その辺も課題ですね。天智・天武・唐・百済…、とこの地の関係に留意してみたいところです。考えすぎかな? >

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:管理人 投稿
日:2012年 9月 3日(月)23時 07分 47秒 返信・引用

> No.734[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 葦原の国を分けると葦原ノ津(九州)、豊葦原中国(出雲)、葦原中国(堺と奈良)になる。 > 風浪宮の概要は理解にズレがある。三韓征伐の方向からすると、帰途(き-と【帰途】)帰りみち。帰路。「一につく」の意味はややこし

いが、三韓征伐の航路に戻ったと理解する。海流を考慮すれば、その後、対馬の鰐浦。また、192 年は相当ずれている。 >

思うに、阿曇連磯良丸、少童命(ワダツミノミコト)の阿曇連は、白鳳時代、白村江の戦いなどで活躍した阿曇氏と感ずる。伝承の成立は、したがってそのころでしょう。

白村江に参戦した安曇 比羅夫が有名。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%89%E6%9B%87%E6%AF%94%E7%BE%E5%A4%AB>

したがって先の神功皇后の三韓征伐の帰途に、この葦原ノ津によったという伝承は、白村江 と朝倉宮・斉明女帝あたりの関係を想起します。

この辺の伝承が記紀に紛れ込んで、神功皇后の伝承に一枚噛んだ可能性を感じますね。「葦 原」の語も、このころに紛れ込んだのか?その辺が課題ですね。

しかし、仮にそうだと、どうして宮中の伝承に、九州の港の大川・朝倉周辺の海人系伝承 が紛れ込んでいくのか?その辺も課題ですね。天智・天武・唐・百済…、とこの地の関係 に留意してみたいところです。考えすぎかな?

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 9 月 3 日(月)01 時 13 分 40 秒 返信・ 引用 編集済

> No.733[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

葦原の国を分けると葦原ノ津(九州)、豊葦原中国(出雲)、葦原中国(堺と奈良)になる。 風浪宮の概要は理解にズレがある。三韓征伐の方向からすると、帰途(き-と【帰途】)寄りみち。 帰路。「一につく」の意味はややこしいが、三韓征伐の航路に戻ったと理解する。海流を考慮 すれば、その後、対馬の鰐浦。また、192 年は相当ずれている。

葦原ノ津(大川榎津)(九州) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A2%A8%E6%B5%AA%E5%AE%AE>

豊葦原中国(出雲) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%91%A6%E5%8E%9F%E4%B8%AD%E5%9B%BD>

葦原中国(堺と奈良) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%91%A6%E5%8E%9F%E4%B8%AD%E5%9B%BD>

葦原ノ津(大川榎津)大川=免寸河(とのきがわ)、扶桑木が目標になった?

『山海経』海経第 4 卷 第 9 海外東経 大荒之中 有山名曰孽搖顓臾 上有扶木 柱三百里 其葉如芥 有谷曰源谷 湯谷上有扶木 一日方 至 一日方出 皆載於鳥

(大荒(辺境)の中に孽搖顓臾(げつよういんてい)という山があり、山の上に扶木がある。 高さは 300 里≒16 km、その葉はカラシナに似る。温源谷(= 湯谷 ?)という谷があり、湯谷 の上に扶木がある。1 つの太陽が来ると 1 つの太陽が出て行き、太陽はみな鳥を載せてい る)

注)秦野距離で換算 高安山=古僧都山、淡道島=筑後川の中洲、扶桑木=大川の厳島神社辺りに在った模様。大御水は中洲の弁財天神社の湧き水だろう。 免寸河(とのきがわ)=筑後川の古名 扶桑木の高さは 300 里 ≒16 km、は扶桑木から高安山の頂上までの距離が 16 km に成っ ている。誤訳ではないか。 扶桑木の高さは計算で約 40 m

> 風浪宮が重要ですね。 >> 神功皇后が三韓征伐からの帰途、192 年に筑後国葦原ノ津(大川榎津)に寄った時、阿曇 連磯良丸に少童命(ワダツミノミコト)を祀ったのがはじまりで、千八百余年の由緒を持つ。 地元では「おふろうさん」の名で親しまれている。 >>>「葦原ノ津」の語源はどこまでさかのぼれますかね?「葦原中津国」と関係すると面白いのですが。「中津」「那珂津」…。 >> ちなみに「阿曇連磯良丸」の「丸」は中世の文書の用法ですね。元は「麻呂」。伝承の起源は、も しかすると阿部仲麻呂、推古朝の渡来人のシキマロあたりの時代かな?>

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 9 月 2 日(日)23 時 12 分 33 秒 返信・引 用 編集済

> No.732[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>> 福岡県の大川市について記述しています。 1986 年から 1994 年まで大韓民国の忠清南道に 存在していた大川(テチョン)市については「保寧市」をご覧ください。 >> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%B7%9D%E5%B8%82> >

風浪宮が重要ですね。

神功皇后が三韓征伐からの帰途、192 年に筑後国葦原ノ津(大川榎津)に寄った時、阿曇連 磯良丸に少童命(ワダツミノミコト)を祀ったのがはじまりで、千八百余年の由緒を持つ。 地元では「おふろうさん」の名で親しまれている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A2%A8%E6%B5%AA%E5%AE%AE>

「葦原ノ津」の語源はどこまでさかのぼれますかね?「葦原中津国」と関係すると面白いので すが。「中津」「那珂津」…。

ちなみに「阿曇連磯良丸」の「丸」は中世の文書の用法ですね。元は「麻呂」。伝承の起源は、も しかすると阿部仲麻呂、推古朝の渡来人のシキマロあたりの時代かな?

----- Re: 扶桑木の位置 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 9 月 2 日(日)06 時 06 分 57 秒 返信・ 引用 編集済

> No.731[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 秦野北斗さんへのお返事です。 >>> 大川の古代史は重要ですね。今月はその辺の 5-6 世紀、九州地域と時代に焦点あててみ しましょう。

> 福岡県の大川市について記述しています。1986 年から 1994 年まで大韓民国の忠清南道に存在していた大川(テチョン)市については「保寧市」をご覧ください。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%B7%9D%E5%B8%82> 韓国の錦江(白村江)の近くに大川(テチョン)市がある。現在の「保寧市」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BF%9D%E5%AF%A7%E5%B8%82> さて家具の歴史ですな、韓国家具と日本の家具どちらが古いかです。

http://www.google.co.jp/search?q=%E9%9F%93%E5%9B%BD%E3%80%80%E5%AE%B6%E5%85%B7&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&prmd=imvns&source=lnms&tbn=isch&sa=X&ei=TXZCUNcOjPeYBYvrgLgH&ved=0CAoQ_AUoAQ&biw=1063&bih=862

Re:扶桑木の位置投稿者:管理人 投稿日:2012 年 9 月 1 日(土)22 時 56 分 8 秒 返信・引用 > No.730[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 大川の古代史は重要ですね。今月はその辺の 5-6 世紀、九州地域と時代に焦点あててみま

しょう。

> 福岡県大川市 >>『山海経』の扶桑木を使い、日本書紀の長さ十丈(約 30m)の船(枯野:からぬ)を建造した所が大川市になる。応神天皇の頃の 270 年、今から 1700 年前の話になる。大川市の基幹産業が 家具・建具との事、伝統は守られていますな。尚、長さ十丈(約 30m)の船は遣唐使船に相当す る。 >> 福岡県の南西部、福岡市から西鉄電車とバスを乗り継いで 1 時間強である。市の西部を筑 後川が北東から南西へと流れ、これが家具の町を形成した主因である。また市の中心部を花 宗川が流れ、筑後川へ注いでいる。西部は佐賀市諸富町および川副町に接している。木工関連 産業や商業施設が多数集積しており、独立した経済圏を形成している。 > 市域全体が筑後平野の一角をなしており、地形は平坦である。 >

Ads by Google

----- 扶桑木の位置投稿者:秦野北斗 投稿

日:2012年9月1日(土)09時51分19秒 返信・引用 編集済

福岡県大川市

『山海経』の扶桑木を使い、日本書紀の長さ十丈(約 30m)の船(枯野:からぬ)を建造した所が 大川市になる。応神天皇の頃の 270 年、今から 1700 年前の話になる。大川市の基幹産業が家具・建具との事、伝統は守られていますな。尚、長さ十丈(約 30m)の船は遣唐使船に相当する。

福岡県の南西部、福岡市から西鉄電車とバスを乗り継いで 1 時間強である。市の西部を筑後川が北東から南西へと流れ、これが家具の町を形成した主因である。また市の中心部を花宗川が流れ、筑後川へ注いでいる。西部は佐賀市諸富町および川副町に接している。木工関連産業や商業施設が多数集積しており、独立した経済圏を形成している。市域全体が筑後平野の一角をなしており、地形は平坦である。

家具・建具(大川市の基幹産業) 2012 年(平成 24 年)の現在も家具の生産高日本一を維持している。大川市とその近隣(福岡県柳川市、大木町など)地域に家具関連の企業が密集している。輸入家具に頼らざるを得ない状況にあるが、市内を見渡すと必ず家具関連の施設が目に入るほどで、特に大川家具工業団地と呼ばれる企業の密集地帯は大川市を代表する企業の倉庫や工場がずらりと並んでいる。大川市だけでなく、隣接地域にも家具関連の企業が非常に多いが、住宅様式の変化による据付け家具の増加、低価格な外国産の家具の登場、少子化による学習機の需要の減少、結婚の様式の変化に伴う婚礼家具などの需要が低下した現在、市内や周辺木工所などでは、廃業や倒産の連鎖が問題となっている。そこで、産官学連携などを行って、インテリア産業の復興を模索している。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%B7%9D%E5%B8%82>

『山海経』海経第 4 巻 第 9 海外東経 大荒之中 有山名曰孽搖顓臾 上有扶木 柱三百里 其葉如芥 有谷曰源谷 湯谷上有扶木 一日方至 一日方出 皆載於鳥

(大荒(辺境)の中に孽搖顓臾(げつよういんてい)という山があり、山の上に扶木がある。高さは 300 里≒16 km、その葉はカラシナに似る。温源谷(= 湯谷 ?)という谷があり、湯谷の上に扶木がある。1 つの太陽が来ると 1 つの太陽が出て行き、太陽はみな鳥を載せている)

応神天皇(おうじんてんのう、(在位:応神天皇元年 1 月 1 日(270 年 2 月 8 日) - 同 41 年 2 月 15 日(310 年 3 月 31 日))。

日本書紀 応神天皇の処 五年冬十月伊豆国に命じて船を造らせた。長さ十丈の船ができた。ために海に浮かべると 軽く浮かんで早く行くことは、走るようであった。その船を名づけて枯野といった。

Ads by Google

----- 竹島問題投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 31 日(金)20 時 46 分 48 秒 返信・引用編

集済 竹島問題では韓国と日本がおかしく成っていますな。魏志倭人伝の行程で使した秦野距離で『三国史記』の原文から読み取る。

現在の鬱陵島は『三国史記』の于山国の鬱陵島ではない。鬱陵島は秦野距離で七百里あり、于山国の百里とは別物である。于山国の地方一百里は現在の竹島になる。

朝鮮半島の古地図にある、南の島が子山になる。鳥取藩主と交渉は竹島の南側は我国の地と言っている。竹島の東側を鬱陵島、竹島の南側を松島=子山島。以下

「松島(現在の竹島)は即ち子山島、此れ亦我国の地(子山島は朝鮮領)」と認めさせたと 朝鮮側に証言したとされる。

http://bakusai.com/thr_res/acode=11/ctgid=137/bid=1149/tid=1164333/tp=1/

現在韓国は松島=子山島を実効支配下に置いている。明らかに違反です。

于山国のことが記されている『三国史記』の原文

『三国史記』卷第四 新羅本紀 智証麻立干紀 十三年夏六月 于山国帰服 歳以土宜為貢 于山国在溟州正東海島 或名鬱陵島 地方一 百里 恃嶮不服 伊滄異斯夫 為何瑟羅州軍主 謂于山人愚悍 難以威來 可以討服 乃 多造 木偶師子 分載戰船 抵其国海岸 誑告曰 汝若不服 則放此猛獸踏殺之 国人恐懼 則降

翻訳『三国史記』卷第四 新羅本紀 智証麻立干紀 (智証麻立干)十三年(512年)夏六月、于山国が服属し毎年土地の産物を貢いだ。于山国 は溟州(現在の江原道江陵市)のちょうど東の海の島にあり、別名を鬱陵島という。外周は 百里ほどで、渡航が困難なことを恃みにして服従しなかった。何瑟羅州の軍主となった伊滄の異斯夫が言うには、于山人は愚かで凶暴である。威嚇するのは難しいが計略をもってすれば服従させることができる。そこで木製の獅子の像を多く造り戦艦に分けて載せその国の海岸に着くと、誑かして「お前たちももし服属しなければ、すぐにこの猛獣を放ち踏み殺させるぞ。」と告げると、于山人は恐れ慄きすぐに降伏した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%8E%E5%B1%B1%E5%9B%BD>

----- 用明天皇は天照彦、アマテラス ヒコ投稿者:

秦野北斗 投稿日:2012年8月31日(金)08時01分41秒 返信・引用編集済

九州王朝説(きゅうしゅうおうちょうせつ)は、古田武彦によって提唱された。これも、邪馬台国同様の妄想です。『新唐書』日本伝に「用明、また目多利思比孤といい」の文章が有る。用明天皇が目多利思比孤になる。正式名は『隋書』倭国伝に「姓は阿每、字は多利思比孤、」が九州王朝に結び付くらしい。和田家文書(わだけもんじょ)を真に受けた模様。

日本語に当てはめるなら

用明天皇:「阿每、多利思、比孤」はアメ、テリシ、ヒコ :天照彦:アマテラス ヒコ

古田武彦の参考書である、和田家文書は創作本で真実の記録でない。当時の、1927-1999年に知られていた歴史に創作を加えたもの。を真に受けたのが真相。冗談を真に受けた事になる。古田武彦は妄想歴史家ですな。

倭は後日説明する。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%9A%E5%88%A9%E6%80%9D%E6%AF%94%E5%AD%A4>

和田家文書とは、青森県在住の和田喜八郎が自宅から「発見」とされる、東日流外三郡誌 など、主に津軽地方に関する江戸時代に編纂された歴史書とされる文書群の総称である。いわゆる古史古伝のなかでは著名なものである。

『新唐書』日本伝 次用明、亦曰目多利思比孤、直隋開皇末、始與中國通。次崇峻。崇峻死、欽明之孫女雄古立。次舒明、次皇極。

次は用明、また目多利思比孤といい、隋の開皇末に、初めて中国と通じた。次は崇峻。崇峻か死ぬと、欽明の孫娘の雄古(推古)が立った。次は舒明、次は皇極。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

『隋書』倭国伝 開皇二十年、倭王姓阿每、字多利思比孤、號阿輩雞彌、遣使詣闕。開皇二十年(600年)、倭王、姓は阿每、字は多利思比孤、号は阿輩雞彌、遣使を王宮に詣でさせる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

----- 古田説は妄想投稿者:秦野北斗 投稿

日:2012年8月28日(火)20時25分46秒 返信・引用 編集済

古田は魏志倭人伝、三国志は読み解いていないな。中国史籍の『隋書』倭国伝を見ると、都於邪靡堆(都は邪靡堆)がある。どう読んでも邪靡堆(やまたい)である。また距離だが、『三国志魏書』倭人伝(通称:魏志倭人伝)の陸行一月を読み解けば東西五月行、南北三月行の距離が読めるはず。これも、東西五月行南北三月行について分らないと言っている。なぜ、結論が「邪馬台国はなかった」と成っているのか不明。南北三月は、つぎの南北に縦貫する線だそう。そろそろ妄想は辞めて欲しいものだ。

『隋書』倭国伝 倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國 三十餘國、皆自

稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。都於邪靡堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與儋耳相近。

倭国は、百済や新羅の東南に在り、水陸を越えること三千里、大海中の山島に依って居する。三国魏の時代、通訳を伴って中国と通じたのは三十余国。皆が王を自称した。東夷の人は里数(距離)を知らない、ただ日を以って計っている。その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。その地形は東高西低。都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。古伝承では楽浪郡の境および帯方郡から一万二千里、会稽の東に在り、儋耳と相似するという。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

『三国志魏書』倭人伝(通称:魏志倭人伝)

南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日、陸行一月。官有伊支馬、次曰彌馬升、次曰彌馬獲支、次曰奴佳鞮、可七萬餘戸。

南に邪馬壹国の女王の都に至るには、水行十日、陸行一ト月。官には伊支馬があり、次を彌馬升といい、その次が彌馬獲支、その次が奴佳鞮という。七万余戸ほどか。

古田史学を簡潔に紹介します

<http://www.geocities.jp/pujo106blue/index.html>

東西五月行南北三月行について

この「東西五月行」が「九州」だけにとどまるものではなく、四国から本州へとつながる日本

列島の全体を指していることはいうまでもない。……<中略>……問題はつぎの「南北三月行」だ。ズバリ答えよう。これは、つぎの南北に縦貫する線をいっているのだ。対馬

-壱岐-九州-種子-屋久-奄美諸島-(沖縄諸島)「東西」の場合の「東端」が青森県までか、北海道までか。それともさらにその北や東北につら

なる島々をもふくむか、それは明らかではない(一方、関東地方まで、ということもありうる かもしれぬ)

----- Re:テン王国投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年8月27日(月)07時50分32秒 返信・引用

> No.725[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。

>「後漢書」南蛮伝に「交足止(し)の南、越裳国あり」とあるが、この越裳国は BC334 越が楚に討たれ、南方に逃れて建国したもので、ベトナム南部である。 > 周代の頃は揚子江下流域にいた越人を指す。

歴史から日本には呉越の呉は来ている。越の文章もあるが、ここと言った越のものが無かった。テン王の金印の鈕(つまみ)部分が蛇とは…。難問解決です。日本神話の文章と一致しました。棘の紀氏さんこのテン王の金印、情報、頂きます。

『晋書』倭人伝

倭人在帶方東南大海中、依山島為國。地多山林、無良田、食海物。舊有百餘小國相接、至魏時、有三十國通好。戸有七萬。男子無大小、悉黥面文身。自謂太伯之後、又言上古使詣中國、皆自稱大夫。

倭人は帯方郡東南の大海中に在り、山島に拠って国を為す。土地には山林が多く、良田はなく、海産物を食す。旧来は百余の小国が互いに接していたが、魏の時代に至って、三十国が通好してきた。戸数は七万。男子は大小なく、悉く顔と身体に刺青をしている。自ら太伯(呉の始祖。断髪文身をしたと言われる)の後裔だといい、また、上古に使者が中国に詣でると、皆が大夫を自称したという。

金印

http://museum.city.fukuoka.jp/je/html/221-230/222/222_01.htm

----- テン王国投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年
8 月 26 日(日)10 時 16 分 59 秒 返信・引用

四川雲南貴州の倭人の王国 「論衡」の記述 <http://www.esri.jp/~nobu/asia/shiryou/yunnan/yun31.htm> ・周時天下太平にして、越裳(えっしょう)白雉(はくち)を献じ、倭人ちょうそうを貢す。(第八儒増編)・ちょうそうは倭より献ず。(第十三超奇編)・成王時、越裳、雉を献じ、倭人、暢を貢す。(第十九恢国編) 越裳や越裳は越人のこと
「後漢書」南蛮伝に「交足止(し)の南、越裳国あり」とあるが、この越裳国は BC334 越が楚に 討たれ、南方に逃れて建国したもので、ベトナム南部である。 周代の頃は揚子江下流域にいた越人を指す。

----- Re:獨島は、「倭族」に属する国だ。投稿者:
秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 26 日(日)02 時 05 分 56 秒 返信・引用編集済

> No.723[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

> この頃の日本は、邪馬台国の時代にあたる。卑弥呼は 239 年大夫難升米らを魏朝第三代 皇帝明帝曹叡 (曹叡=曹操の孫) の都洛陽に遣わし、天子に朝献することを求め、「親魏倭王」の称号と「金印紫綬」などを賜り、また「銅鏡百枚等」を賜っている。そして 248 年頃に卑弥呼は死んだ。この時に下賜された「金印紫綬」が発見されれば、邪馬台国所在地問題は一挙に解決するだろう。

秦野は邪馬台国の場所と卑弥呼の墓、現在卑弥呼が祭られている所を知っています。 また、呉越の件も解明済み。テン王国に関しては知りません。

韓半島はもともと、紀元前 150 年ぐらいに神武天皇が世襲した物で日本に属します。 中国史籍と古事記に文章がある。古事記の神話が一番、詳しい。

竹島問題は韓国、新羅の末裔が騒いでいるんです。古代史を紐解けば韓国美人の謎がとけま すよ。ここだけの話です。

秦野著書、徐福と邪馬台国に書きました。信じないだろうな。

古事記の神話は校正中です。

宮内庁に内緒で盗掘するか、みんな箸墓に目が行っている。卑弥呼の墓は無防備で一枚看板 が立っているのみ。とは言っても遺品は鏡約 30 枚と金印程度、あるか、無いか保障なしです。 利が少ないのでやめときます。

----- 獨島は、「倭族」に属する国だ。投稿者:棘の
紀氏 投稿日:2012 年 8 月 25 日(土)23 時 39 分 11 秒 返信・引用

蜀・巴は、テン王国と同じ習俗を持つ鳥越憲三郎氏のいう「倭族」 に属する国だ 。

<http://www.iris.dti.ne.jp/~min30-3/kodaisi/wajinn2.htm>

三国時代 魏・蜀・呉(下記に述べる呉とは異なる。)の三国時代に入ると、蜀を手に入れた前漢景帝 の子中山靖王劉勝の子孫と称した劉備玄德の宰相、諸葛亮孔明が 225 年に軍を発向し、軍を 三軍にわけ各地の地方豪族を討伐した後、建寧で合流してテン地区に入りテン王国の都であ

るテン池を陥落させた。諸葛は紀元前 400 年頃から続いたテン王国を滅亡に導いた。この後 テン王国の民は、在地に残るものも当然あっただろうが、蜀や呉の各地へ流亡者となって散 って行ったと考えることができる。なお、蜀の英傑諸葛亮孔明は 234 年に没した。劉備や諸葛 孔明は蜀に入ったが、蜀人や巴人ではない。仮説だが、蜀人や巴人は、元謀原人系の子孫、す なわち「倭族」であると考えている。

この頃の日本は、邪馬台国の時代にあたる。卑弥呼は 239 年大夫難升米らを魏朝第三代皇 帝明帝曹叡 (曹叡=曹操の孫) の都洛陽に遣わし、天子に朝献することを求め、「親魏倭王」の 称号と「金印紫綬」などを賜り、また「銅鏡百枚等」を賜っている。そして 248 年頃に卑弥呼は 死んだ。この時に下賜された「金印紫綬」が発見されれば、邪馬台国所在地問題は一挙に解決 するだろう。

----- 扶桑国(扶桑木の位置)投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 25 日(土)15 時 18 分 53 秒 返信・引用 編集済

扶桑国について調べると鑑真が出てきたので扶桑国に立寄る。

扶桑木の位置

『山海経』によると、東方の海中に黒齒国があり、その北に扶桑という木が立っており、そこから太陽が昇るという。下有湯谷 湯谷上有扶桑 十日所浴 在黑齒北 居水中 有大木 九日居下枝 一日居上枝 (下に湯谷があり、湯谷の上に扶桑があり、10 の太陽が水浴びをする。黒齒国の北であり、大木は水中にあり、9 の太陽は下の枝に、1 の太陽が上の枝にある)

『山海経』海経第 4 卷 第 9 海外東經 大荒之中 有山名曰孽搖顓臾 上有扶木 柱三百里 其葉如芥 有谷曰源谷 湯谷上有扶木 一日方至 一日方出 皆載於鳥

(大荒(辺境)の中に孽搖顓臾(げつよういんてい)という山があり、山の上に扶木がある。高さは 300 里≒16 km、その葉はカラシナに似る。温源谷(= 湯谷 ?)という谷があり、湯谷の上に扶木がある。1 つの太陽が来ると 1 つの太陽が出て行き、太陽はみな鳥を載せている)

『宋書』卷 22 志第 12 樂 4(樂志)「白紵舞」歌の 1 つで

東造扶桑游紫庭 西至崑崙戲曾城 (東、扶桑に造りて紫庭に遊び、西、崑崙に至りて曾城に戯る)?『宋書』卷 22 志第 12 樂志四載及 白紵舞 歌詩三篇之二

『梁書』によると、僧慧深(けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン)が普通年間 (520 年?527 年)に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北 7000 余里≒370 km に文身国が、その東 5000 余里≒260 km に大漢国があり、大漢国の東 2 万余里 ≒1000 km に扶桑がある。ただし、倭国・文身国・大漢国までについては地の文で事実として書かれているが、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。また、地の文の大漢国と慧深の言う大漢国が同じものかもはっきりしない。注)秦野距離で換算

古事記 仁徳天皇の処にに書かれている この御世に、免寸河の西に一つの高樹ありき。その樹の影、旦日に当たれば、淡道島に逮び、夕日に当たれば、高安山を越えき。故、この樹を切りて船を作りしに、甚捷く行く船なりき。時にその船を號けて枯野と謂ひき。故、この船をもち旦夕淡道島の寒泉を酌みて、大御水献りき。この船、破れ壞れて塩を焼き、その焼け遺りし木を取りて琴に作りしに、その音七里に響みき。ここに歌ひけらく、

日本書紀 応神天皇の処 五年冬十月伊豆国に命じて船を造らせた。長さ十丈の船ができた。ためしに海に浮かべると 軽く浮かんで早く行くことは、走るようであった。その船を名づけて枯野といった。

秦野の徐福と邪馬台国でおなじみの黒齒国ですがその国の東方に扶桑国があるとのこと、『山海経』を信じたが扶桑国の文身国(ぶんしん国)、『梁書』扶桑国の文身国の目印が扶桑木。扶桑木は古事記の大木のような。大木の表記は古事記にある。免寸河の西に一つの高樹あり

き。その樹の影、旦日に当たれば、淡道島に逮び、夕日に当たれば、高安山を越えき。

まず、免寸河(とのきがわ)*1 の位置を特定する。日本書紀 応神天皇の処 五年冬十月伊豆国に命じて船を造らせた。この伊豆国=伊都国、徐福と邪馬台国で説明した 魏志倭人伝の行程でおなじみの伊都国で近くに筑後川が流れている。どうもこの筑後川の古名が免寸河のようです。扶桑木は筑後川沿に在った大木になる。*1 堺の等乃伎神社に枯野(からぬ)古事記を表記してある。

大木の位置は、古事記に、この樹を切りて船を作りしに、甚捷く行く船なりき。時にその船を 號けて枯野と謂ひき。故、この船をもち旦夕淡道島の寒泉を酌みて、大御水献りき。筑後川の中洲に弁財天を祭る神社がある。古事記に、その樹の影、旦日に当たれば、淡道島に 逮び、夕日に当たれば、高安山を越えき。旦日:あくる日。また、あくる朝。太陽は東から昇るため、淡道島=中州にかかる。夕日:夕日は高安山を越えき、夕日は西方向なの

で高安山は東にある。

整理すると

高安山=古僧都山、淡道島=筑後川の中洲、扶桑木=大川の厳島神社辺りに在った模様。 大御水は中洲の弁財天神社の湧き水だろう。 免寸河(とのきがわ)=筑後川の古名 扶桑木の高さは 300 里≒16 km、は扶桑木から高安山の頂上までの距離が 16 km に成って いる。誤訳ではないか。

扶桑木の高さは計算で約 40 m

Re:お盆休み投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 24 日(金)16 時 55 分 36 秒 返信・引用 編集済

> No.720[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 管理人、しばらく休暇ですな。 竹島問題を少し古代史を交えたお話しです。

竹島問題は韓国、新羅の末裔が騒いでいるものです。歴史を遡れば日本には逆らえないのが 現実。つまらない島より、友好を取ればいいのに。そろそろ、古代史を明らかにする必要があ りますな。

663 年に天智天皇が百済救出劇を錦江=白村江で行った。白村江の戦い、当時の記録で船 400 艘を失い 600 艘の船で帰還している。日本の弱腰はこの頃からでこれ以後国名を倭国から日 本に変更、理由は則天武后が中国史籍で述べている。

どうも、新羅の末裔(韓国人)は貪欲だな。歴史を遡ると弁韓の連中になる。辰韓は加羅、任那 で倭国の同盟国。新羅の位置は釜山の東から北は慶州。倭国の領地に住み着いた。

白村江の経緯は当時、韓半島には百済、高句麗、新羅、倭国の 4 国が有った。この内の百済、高 句麗、新羅、3 国の戦争が耐えないので唐が手を焼いていた。唐は新羅と手を組み百済、高句麗、を討伐し、百済、高句麗を管理下に置くことに成った。百済の窮地を知った天智天皇は蘇 我の協力を求めたが得られず、乙巳の変を起こす。歴史では大化の改新になる。大化の改新で 得た資金が百済救出劇の錦江の船 1000 艘になる。天智天皇は自ら筑紫(釜山から西へ 2000 里)から上陸し、任那日本府へ進撃後、百済救出港の錦江へ逃走進軍する。錦江で救出船を待つが、救出船の黒歯が遅れ、唐、新羅軍に包囲される。遅れた黒歯は強行作戦で錦江へ突入する。当時の記録で船 400 艘を消失し、600 艘は百済を救出し帰還する。新羅軍は救出を何もせず見送った。尚、救出者は数万になるだろう。

尚、天智天皇は舒明天皇と百済の王族との間に生まれた天皇
白村江=錦江、群山市(クンサンシ)は大韓民国全羅北道西北部
錦江(きんこう、クムガン)は大韓民国南西部の主要河川である。

魏志倭人伝では群山は曆韓国に成っている。倭国と百済(馬韓)の国境。 群山は万葉集に歌われる。第一巻 : 大和には群山あれどとりよるふ天の香具山 韓半島南部は倭国=大和だったのでな。

卑弥呼の頃の古代の地図、秦野距離は秦野著書 徐福と邪馬台国 参照 HP 秦野北斗の古代史 参照

竹島

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%B9%E5%B3%B6_\(%E5%B3%B6%E6%A0%B9%E7%9C%8C\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%B9%E5%B3%B6_(%E5%B3%B6%E6%A0%B9%E7%9C%8C))

対馬

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%BE%E9%A6%AC>

白村江の戦い

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BD%E6%9D%91%E6%B1%9F%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

《全系統家系図》 - aijim.com 全ての直系ご先祖様を調査します。 完全定額、カード分割 OK 家系図、家族の歴史を 1 冊に - www.e-keizu.com 家系図作成代行。10 点セット 定額制 お客様の声 232 件(直筆) 全国対応可能 プライベートクラウドなら - www.microsoft.com 《マイクロソフト》クラウド導入で、コスト削減!一元管理も可能に 先祖の事を知るためには? - www.kakeizu.me 古い戸籍を読み解く技術が必須です。

収集から家系図への表現までお任せ! 韓国ドラマ"華麗なる遺産" - www.showtime.jp 人気の韓国ドラマを有料配信! 動画サイト ShowTime にまずは登録 Ads by Google

----- お盆休み投稿者:管理人 投稿日:2012 年 8 月 15 日(水)22 時 03 分 12 秒 返信・引用

ちょっと管理人はお盆休み+夏休みに入りまして、しばらく実家方面に帰省予定なので、また 9 月頭になってから書き込みを再開いたします。皆様もよい休暇をお過ごしください。

Ads by Google

----- Re:渡来人研究会の規模投稿者:管理人 投稿日:2012 年 8 月 12 日(日)15 時 08 分 22 秒 返信・引用

> No.718[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> そろそろ、魏志倭人伝、古事記の輪郭を掴みます他ので、どこかの研究会に入り >> 一般に公開したい所です。ところで、渡来人研究会の規模はどれくらいでしょうか。 >

すいません、土日はバタバタしていてゆっくりお返事できない感じです。 規模のほうは全国ネットで30 人前後です。趣味の方から専門家まで多彩な顔ぶれがそろってます。メーリングリストでイベントや会報関連の連絡調整をしています。

ご希望の方につきましては、下記ページをお読みいただいて、必要事項をフォームでお知らせいただいておりますので、ご参照ください。 <http://www.asahi-net.or.jp/%7Erg1h-smed/contact.htm>

秦野さんのご参加を楽しみにしております。 管理人

----- 渡来人研究会の規模投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 12 日(日)08 時 53 分 46 秒 返信・引用

秦野北斗の質問です。 そろそろ、魏志倭人伝、古事記の輪郭を掴みます他ので、どこかの研究会に入り 一般に公開したい所です。ところで、渡来人研究会の規模はどれくらいでしょうか。

----- Re:紀氏と岸が同族?投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 11 日(土)20 時 58 分 18 秒 返信・引用 編集済

> No.716[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 『新唐書』日本伝

仲哀死、以開化曾孫女神功為王。次應神、次仁德、次履中、次反正、次允恭、次安康、次雄略、次 清寧、次顯宗、次仁賢、次武烈、次繼體、次安閑、次宣化、次欽明。

仲哀が死に、開化の曾孫娘の神功を王とした。次は應神、次は仁德、次は履中、次は反正、次 は允恭、次は安康、次は雄略、次は清寧、次は顯宗、次は仁賢、次は武烈、次は繼體、次は安閑、 次は宣化、次は欽明。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

神功=神功皇后、開化の曾孫娘の文章。 『日本書紀』などによれば、201 年から 269 年、この時代に存在するのは、卑弥呼、壹興のみに

なる。神功皇后=壹興、壹興は 13 歳で政権を握っている。 (注)年代のズレは大きい中国史籍で補正可能。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E5%8A%9F%E7%9A%87%E5%90%8E>

注意点は卑弥呼、神功皇后=壹興は邪馬台で政治を行った模様。

神功皇后の三韓征伐の武内宿禰と開化天皇が問題になる。

神功皇后=壹興は開化の曾孫娘になり、卑弥呼は孫に当たる。

三角縁神獸鏡の文章から。「銘之保子宜孫」、「銘之位至三公」

保子:開化天皇、三公:武内宿禰になる。

保子は「单于」より上位の統率者になる。

卑弥呼は匈奴である。「単于」は二十数代の記録がある。一方、畝傍山の欠史八代の記録。 卑弥呼は欠史八代の記録を残したので、「単于」と欠史八代に継承矛盾が生じる。 結論は、「単于」の上にもう一つ位が在った模様。

景初三年陳は作鏡自有経述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫寿如金石 兮

景初三年、陳が自ら経述した鏡を作る。もとは京師(杜)の出、銘は位至三公の吏人、銘は母人 (おもひと)、保子(開花天皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

>>>「部」は確かに匈奴、鮮卑など遊牧民系の組織のようにも見えますが、曹操が5部を匈奴 内にわざわざ制定しているあたりに注目です。 >>>

- >> 匈奴の組織に、記録にない組織があり、それを卑弥呼が知っていた模様。
- >> 徐福と邪馬台国で紹介した畝傍山の欠史八代がどうも、記録にない組織の可能性もある。 >
- > 匈奴の政治体制 >>「匈奴の大首長は「単于」(ぜんう、たんう)と呼ばれる[23]。単于の直轄地(単于庭)は領 国中央の代郡、雲中郡北方にあった。単于の下には屠耆王(賢王)[24]、谷蠡王、大将、大都尉、大当戸、骨都侯[25]と呼ばれる官位があり、それぞれ左右に分かれて領土を統括した。諸大臣 の官は世襲であり、呼衍氏、蘭氏、その後に須薊(須卜)氏が加わり、この三姓が匈奴の貴種 であった。左方の王や将たちは東方に住み、上谷郡から東の地域を管轄し、濊貉や朝鮮と境 を接した。右方の王や将は西方に住み、上郡以西を管轄し、月氏、氏、羌の諸侯と境を接し た。」。

----- Re:紀氏と岸が同族?投稿者:管理人
投稿日:2012年8月9日(木)22時57分30秒 返信引用 編集済

> No.715[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>「部」は確かに匈奴、鮮卑など遊牧民系の組織のようにも見えますが、曹操が5部を匈奴内 にわざわざ制定しているあたりに注目です。 >> 匈奴の組織に、記録にない組織があり、それを卑弥呼が知っていた模様。

> 徐福と邪馬台国で紹介した畝傍山の欠史八代がどうも、記録にない組織の可能性もある。 >>

匈奴の組織というと、東漢氏の「ハラ」の血縁概念が、遊牧民系、特にツングース系の「ハラ」と 比較されてますね。下記参考。ツングース→高句麗→百済系か。

「3 父系的・ハラ」氏族的・畑作=狩猟民文化(北東アジア・ツングース方面) 弥生初期に満州、朝鮮方面からツングース系統のある種族によって日本に流入 粟や黍を焼畑で栽培しながらも狩猟も行った アルタイ語系の言語を最初に日本に持ち込んだのはこの種族 (櫛目文土器・穀物の穂摘み用半月系石器) 日本語のウカラ、ヤカラ、ハラカラなど同属集団を意味する言葉ハラ=カラは ツングース諸語において外婚的父系同属集団を呼んだ語ハラ(Hala)に系統を引く。」 <http://mutsu-satoshi.com/2011/05/17/%E5%B2%A1%E6%AD%A3%E9%9B%84%E3%80%80%E3%80%8E%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%96%87%E5%8C%96%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E6%A7%8B%E9%80%A0%E3%80%8F%EF%BD%9E%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%88%97%E5%B3%B6%E3%81%AB%E4%BC%9D/>

ただ「ハラ」の導入が、弥生初期か、古墳時代中期の渡来人の時代か?その辺があいまいです ね。

「ともかく「から」とは何かをみてみよう。『時代別国語大辞典』(上代編)(5)の「から」には、同じ【柄】という字をあてた項(どちらも名詞)が 2つある。 から【柄】(1)植物の茎や幹。(2)道具の柄。 から【柄】(1)血縁。血のつながり。ウガラ・ハラガラ・ヤカラなどの語の中に残る。(2)生まれつき。素性。その物にそなわっている本来の性格。山カラ・国カラなど、複合語 の形で残る。助詞カラはこの意味から転じていったものであろう。複合語と認められる例に は助詞とみても理解できる場合が多く、その限界は曖昧である。

また、『日本国語大辞典』をみると、「から【柄】」の語源説が下記のように出ている。

(1) ツングース諸族における外婚的父系同族組織のハラ(xala)に系統をひくもの(日本民族の起源=岡正雄)。また、一族を意味する満州語のハラ(hala)、ツングースのビラル、クマル、興安嶺方言のカラ(kala)、オロチ、ゴルジ、ソロンの方言のハラ(xala)と同じ起源 (日本語の起源=大野晋)。

(2) カラ(体)、また、コラ(子等)の転義(大言海)。 (3)「系」の字音カに、ラ行音を添えたもの(日本語源考=与謝野寛)。」 <http://sendan.kaisya.co.jp/kotobak200310.html>

「清の皇帝からフルハ川・松花江沿いの寧古塔 (ニングタ)付近の土地をあたえられてそこに 住む農耕民のイラン・ハラ(三つの氏族の意)とよばれる住民についてふれているが、これ は移動後のデュチェル人ではないか、ないしはこれをふくむものではないかと思われる。同 書に、これは以前は魚皮韃子(ユビタズ)と混住していたが、真の満洲人であるとあり、この点 が注目される。デュチェル人は、おそらく野人女直の一派といえるものではなかったろうか。そしてその言語は、広義の満洲語の一方言ではなかったろうか。」
<http://ethnos.exblog.jp/m2009-06-01/>

「イラン・ハラ」 依蘭県

「依蘭とは「依蘭哈喇」の略称であり、満州語で「三姓」を意味する「イランハラ」の音写。意識した三姓という旧称も存在する。」

ここで「姓」のことを、「ハラ」と呼んでいるのが興味深いですね。

匈奴の政治体制

「匈奴の大首長は「单于」(ぜんう、たんう)と呼ばれる[23]。单于の直轄地(单于庭)は領国 中央の代郡、雲中郡北方にあった。单于の下には屠耆王(賢王)[24]、谷蠡王、大将、大都尉、 大当戸、骨都侯[25]と呼ばれる官位があり、それぞれ左右に分かれて領土を統括した。諸大臣 の官は世襲であり、呼衍氏、蘭氏、その後に須薊(須ト)氏が加わり、この三姓が匈奴の貴種

であった。左方の王や将たちは東方に住み、上谷郡から東の地域を管轄し、濊貉や朝鮮と境 を接した。右方の王や将は西方に住み、上郡以西を管轄し、月氏、氏、羌の諸侯と境を接し た。」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%88%E5%A5%B4>

ここに「蘭氏」とみえますね。これが先の「依蘭」と関係するかもしれません。

また「骨都侯」という官職が、カバネ=「骨」との件でちょっときになりますね。

----- Re: 紀氏と岸が同族? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 7 日(火)23 時 33 分 38 秒 返信引用

> No.714[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

曹操が5部の年代(155年-220年)で卑弥呼の年代になる。「部」は確かに匈奴、鮮卑など遊牧民系の組織のようにも見えますが、曹操が5部を匈奴内に

わざわざ制定しているあたりに注目です。

匈奴の組織に、記録にない組織があり、それを卑弥呼が知っていた模様。

徐福と邪馬台国で紹介した畝傍山の欠史八代がどうも、記録にない組織の可能性がある。

- > (紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年)呉越 >
- > ・ 原始的カバネ;呉系(彦、守、耳)・・・? >
- > (紀元前 200 年頃)徐福 >
- > (220 年-265 年)卑弥呼 >
- > ・百済・高句麗の官位・官制 >>
- > 卑弥呼が持ち込んだのが「部」「臣」「連」・・・匈奴の組織? >

----- Re: 紀氏と岸が同族? 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 8 月 7 日(火)23 時 11 分 11 秒 返信引用 編集済

> No.713[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > (紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年)呉越 >
- > ・ 原始的カバネ;呉系(彦、守、耳)・・? >
- > (紀元前 200 年頃)徐福 >
- > (220 年-265 年)卑弥呼 >
- > ・百済・高句麗の官位・官制 >>
- > 卑弥呼が持ち込んだのが「部」「臣」「連」・匈奴の組織? >

「部」は確かに匈奴、鮮卑など遊牧民系の組織のようにも見えますが、曹操が5部を匈奴内にわざわざ制定しているあたりに注目です。

参考

匈奴の組織

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E5%8C%88%E5%A5%B4#.E4.BA.94.E9.83.A8.E5.8C.88.E5.A5.B4>

朝鮮諸国の「臣」と「連」の関係ですが、下記の魏志の図を再度確認してみましょう。

「臣」がつくのは、百済の「月支国」周辺の国だけで、「臣下」の支配領域を意味しているようです。その周囲や地方の重要拠点に「牟慮(ムロ)」が出てくるわけですね。これが「連(ムラジ)・村主」になる。

この月支国のすぐ北方に「大石索国」があるのですが、これが漢氏に見える「大石村主」の語源でしょう。これがいわゆる「牟慮」の領域に入るんですね。つまり「村主」。同じくそのそばに見える「桑外国」は、同様「桑原村主」に対応してくるかもしれません。

こう考えると、東漢氏は百済の月支国周辺の住民だった可能性があります。百済国内の混乱期に、日本へ流れ込んだ可能性があることは、以前お話したとおりです。

ただ、時期的にはそれは5世紀なんですね。魏志の時代から上記のように臣・連の原型はあるのですが…。

「主」をつけるのは、日本独特のようにも見えます。「県」が中国の後漢時代の郡県制度によるものと感じますが、日本ではその「県」の後に「主」をつける。「大国主」の「国」は、「県」が導入される前の魏志の倭人伝に見えるいわゆる「国」ですが、前漢代は一時「郡国制」だったようです。戦国・秦時代は「郡県制」。

「使主」「村主」も、朝鮮語では「使者」「村長」などの意味であったとしても、日本人的には、「主」として名づけなおした。

「主(ヌシ)」とは、どこからきたんでしょうね。

「大物主」「水沼県主」…。

領域や組織を支配しているものの意。

<http://ja.wiktionary.org/wiki/%E4%B8%BB>

「主簿」は、漢時代の官職ですね。出納帳簿の文官となるでしょうか。

主簿是中國古代官職名称,属于文官。此官?大概?始于漢朝,主管文書簿籍及印鑑,即起草一些文件、管理档案、以及各?印章等,大致相当于?代的秘?一?。中央機關及郡?官署均置此官,以典?文?,?理事?。?的主簿地位?次于功曹,

<http://zh.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%BB%E7%B0%BF>

「主」の流入経緯は、やはり「大国主」伝承とかかわる後漢末の先のトウ氏・月氏関連ではないでしょうか。

----- Re: 紀氏と岸が同族? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 6 日(月)23 時 27 分 16 秒 返信・引用 編集済

> No.712[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 整理すると下記になる。 (紀元前 1700 年頃)夏の三苗族、
・古事記、日本神話からになる。神、尊、・

(紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年)呉越 ・ 原始的カバネ;呉系(彦、守、耳)・? (紀元前 200 年頃)徐福
(220 年-265 年)卑弥呼 ・百済・高句麗の官位・官制

卑弥呼が持ち込んだのが「部」「臣」「連」・匈奴の組織?

魏志倭人伝(秦野著書:徐福と邪馬台国)を元に古事記、日本書記を読み解いている。 この、年代と卑弥呼の年代を基準として中国史籍に照らし合わせている。 言えることは、管理人さんより、秦野が非常に有利なのです。古事記の国生みの航路、神武東征の航路、中継点、航海時間も同様です。 東征の航路があるので一部紹介する。中継点は裸国で島の周囲郷里 5000 里これは島を一周 し 方向転換している。進行方向は済州島、神武東征の地名を当て嵌めると、通説より一致する。

Re:紀氏と岸が同族?投稿者:管理人 投稿日:2012 年 8 月 6 日(月)21 時 13 分 48 秒 返 信・引用

> No.710[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 卑弥呼が持ち込んだのが「部」「臣」「連」・匈奴の組織?

一般的に「渡来人」という場合、卑弥呼よりさらに後の集団になりますね。 秦野さんの場合、そこが抜けているので問題あります。

通説は下記のとおりです。

原始的カバネ 「原始的カバネ」とはヤマト王権が成立する以前から在地の首長や団体名に使われたと思わ

れる名称である。[2] 代表的な原始的カバネとしては「ヒコ(彦、比古、日子)」、「ヒメ(比売、日女、媛)」、「ネ(根、禰)」、「ミミおよびミ(耳、見、美)」、「タマ(玉、多模)」、「ヌシ (主)」、「モリ(守)」、「トベ(戸部、戸畔)などがある。これらの原始的カバネは名称の語 尾に付くもので、今日でも「ヒコ」や「ミ」など人名の語尾によく使われているものもある。

カバネの制度化 ヤマト王権が確立するとカバネが制度化され、王権との関係・地位を示す称号となる。最初にカバネを制度化したのは成務天皇と伝えられ、国造(くにのみやつこ)、県主(あがたの ぬし)、ワケ(和気、別)、稻置(いなぎ)などが定められた。允恭天皇の時代には臣連制が導入され、公・君(きみ)、臣(おみ)、連(むらじ)、直(あたい)、首(おびと)、史(ふひ と)、村主(すぐり)などが定められた。この改革により以前のワケ(和気、別)はキミ (君、公)姓に、国造・県主はアタイ(直)姓に改められた。臣連制の中で最も有力な者には 更に大臣(おおおみ)、大連(おおむらじ)の姓が与えられた。その他のカバネとしては、百 済滅亡後に亡命してきた百済王族に与えられた王(こにきし)などがある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%90%E3%83%8D>

その後の順番は、おそらく

ー 2 世紀;呉系の弥生人 (彦、守、耳)

2 世紀末ー 4 世紀:中国系ー物部・大国主、弁・秦韓系ー天孫降臨 (部制・県(主) 制)

5-6 世紀:百済系ー東漢氏、牟婁・村(主)(ムラ・スグリ)→連(ムラジ)、使(主)

(オミ)→臣(オミ))(部民制)、 弁・秦韓系ー秦氏、(氏(ウジ)・伴造制) 6 世紀中盤ー:北燕(高句麗→新羅)系ー新漢氏、吉士(キシ・吉知)集団 ((首・史(ヒト))→人制) 7 世紀末:八色の姓

そこで、参考までに、先の新羅に続いて、百済・高句麗の官位・官制を調べてみました。

百済の官位・官制

官位

佐平(さへい) - 一品官。その担当する職務によって、6種類に規定される。 内臣佐平(ないしんさへい) - 宣納(王命の伝達)の担当 内頭佐平(ないとうさへい) - 庫蔵(財政)の担当 内法佐平(ないほうさへい) - 礼儀(儀式)の担当 衛士佐平(えいしさへい) - 宿衛兵(王の禁軍、近衛兵)の担当 朝廷佐平(ちやうていさへい) - 刑獄(司法)の担当 兵官佐平(へいかんさへい) - 外兵馬(対外軍事)の担当

達率(たつそつ) - 二品官 恩率(おんそつ) - 三品官 徳率(とくそつ) - 四品官 扞率(かんそつ) - 五品官 奈率(なそつ) - 六品官 将徳(しょうとく) - 七品官 施徳(しとく) - 八品官 固徳(ことく) - 九品官 季徳(きとく) - 十品官 対徳(たいとく) - 十一品官 文督(ぶんとく) - 十二品官 武督(ぶとく) - 十三品官 佐軍(さぐん) - 十四品官

振武(しんぶ) - 十五品官 克虞(こくぐ) - 十六品官

官庁 内官 - 前内部、穀内部、内ケイ部(ケイは「?」=まだれく广に京)、外ケイ部、馬部、刀部、功德部、薬部、木部、法部、後宮部 外官 - 司軍部、司徒部、司空部、司寇部、點口部、外舎部、綱部、日官部、市部
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BE%E6%B8%88#.E5.AE.98.E5.88.B6>

こうみると、日本の部民制度の元に、百済系の部制を考慮する必要があるそうですね。 中国文化圏の影響を強く受けてます。

続いて、高句麗の官位は下記のとおりです。

相加(そうか) 対盧(たいろ) 沛者(はいしゃ) 古鄒加(こそうか) 主簿(しゅぼ) 優台(ゆうだい): "于台"と書く場合もある。 丞(じやう)

使者(ししゃ)
皁衣(そうい)
先人(せんじん)

大対盧(だいたいろ)
太大兄(たいだいけい)
烏拙(うせつ)
太大使者(たいだいししゃ)
位頭大兄(いとうだいけい)

大使者(だいししゃ)
大兄(だいけい)
褥奢(じよくしゃ)
意侯奢(いこうしゃ)
小使者(しょうししゃ)
小兄(しょうけい)
翳属(えいぞく)
仙人(せんじん)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E5%8F%A5%E9%BA%97#.E5.AE.98.E5.88.B6>

「対盧」は、魏志の百済、新羅地域に見える集団「牟盧(ムロ)(国)→連」に対するの意味があるのでしょうか。

「烏拙(うせつ)」などの「烏」は遊牧民系の特徴ですね。

「使者」を重視するのは、「使主(オミ)」によって率いられた漢氏の特徴と関係します。

「皁衣(そうい)」は、茶色い衣服(下層の官人)の意味で、新漢氏系の氏族にも「皁衣」に関する氏族名を持つものがありますね。

「兄」を重視するのは、特徴的です。

「仙人(せんにな)」が最下級にきてますが、ちょうど日本の「人」が同じく最下級に来るの と相関性があります。

おそらく、新漢氏が、北燕から高句麗経由で、新羅、日本へと渡ってくる過程で、1 世代分朝鮮 三国で職人として移住している間に、高句麗・新羅系の官位・官制になじんで、それをそのまま日本に持ち込んだ可能性がありますね。

あと、新羅官位の「造」については、もっと前の秦氏の渡来時点で持ち込まれていた可能性が ありそうです。ただ新羅官位の「吉士」とその集団は新漢人と同時代でしょう。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3D デジタイズが革新する 家系図、家族の歴史を 1 冊に - www.e-keizu.com 家系図作成代行。10 点セット 定額制 お客様の声 232 件(直筆)全国対応可能 第 1 話無料配信中《期間限定》 - axn.co.jp

《LOST》のヒットメーカーによる 最新ドラマを日本初放送!/AXN 格安ホテルは【じゃらん】 -

www.jalan.net 日本最大級の情報で あなたのワガママ きっと叶います!格安プランも満載。 あなたの家の家系図を作成 - www.5f.biglobe.ne.jp/~kakeizu/ 4 系統を調査。品質価格にご満足頂だけます。サンプル和紙を無料送付! Ads by Google

----- Re: 紀氏と岸が同族? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 5 日(日)21 時 14 分 49 秒 返信引用 編集済

> No.702[元記事へ] 空豆さんへのお返事です。 空豆さんは家紋から菊池一族。菊池一族は平氏になっている。また、旧姓は鈴木と思われる。鈴木と同紋を持つ。 岸さんから先祖は北海道にいて、出羽地方に帰ったとのこと。 鈴木も北海道にある。旧姓は鈴木で岸の名前は出羽豪族の可能性もある。 江戸末期の出羽武士。岸または鈴木の子孫と思われる。 <http://libir.soka.ac.jp/dspace/bitstream/10911/874/1/KJ00005454597.pdf>

Ads by Google

----- Re: 紀氏と岸が同族? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 5 日(日)06 時 06 分 18 秒 返信引用 編集済

> No.709[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

官位制度

官位制度は歴史の流れの特定には必須になる。管理人さんは渡来人の渡来の順番を考えますか。

秦野の順番は以下です。

夏の三苗族、アトランテス

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B9>

呉越

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

徐福

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%90%E7%A6%8F>

卑弥呼

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%91%BC>

卑弥呼が持ち込んだのが「部」「臣」「連」・匈奴の組織?

>> 新羅の存在は、その先祖は元の辰韓の苗裔である。馬韓伝には新羅の存在はない。 >> 新羅は『南史』のいう魏の時代とは三国魏(220 年-265 年)に誕生した国になる。 >> 倭国と新羅の年代を考慮すれば倭国が古く、ま

た、階級等が類似する。

>> 新羅に階級等の記録が残っただけで、倭国の階級を取り入れたと考えるが自然。 >> 確かに新羅の骨品制の開始の年代は、私もかなり怪しいと感じるのですが、倭から、弁・辰 韓に制度が導入されたという意見には、根拠が足りないように感じますね。 >>> 新羅の官位制度 >『三国史記』新羅本紀によれば、建国の当初のころは「大輔」という官名が最高位のものとして確認されるが、第 3 代儒理尼師今の 9 年(32 年)に、下表の 17 階級の官位(京位)が制定 されたとする。枠外の官位としては、第 23 代法興王の 18 年(531 年)に宰相に相当するもの として「上大等(上臣)」が設けられた。

> 魏志の時代の渡来人と、この 5-6 世紀の渡来人の時代については、ゴッチャにして研究 すると混乱が生じると感じます。特に新漢人はまったく別ものですから、それ以前のものと、頭を切り替える必要があるでしょう。 >

----- Re:紀氏と岸が同族?投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 8 月 4 日(土)22 時 54 分 1 秒 返信・ 引用 編集済

> No.708[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 新羅の存在は、その先祖は元の辰韓の苗裔である。馬韓伝には新羅の存在はない。 > 新羅は『南史』のいう魏の時代とは三国魏(220 年-265 年)に誕生した国になる。 > 倭国と新羅の年代を考慮すれば倭国が古く、また、階級等が類似する。 > 新羅に階級等の記録が残っただけで、倭国の階級を取り入れたと考えるが自然。

確かに新羅の骨品制の開始の年代は、私もかなり怪しいと感じるのですが、倭から、弁・辰 韓に制度が導入されたという意見には、根拠が足りないように感じますね。

新羅の官位制度

『三国史記』新羅本紀によれば、建国の当初のころは「大輔」という官名が最高位のものとして 確認されるが、第 3 代儒理尼師今の 9 年(32 年)に、下表の 17 階級の官位(京位)が制定さ れたとする。枠外の官位としては、第 23 代法興王の 18 年(531 年)に宰相に相当するもの として「上大等(上臣)」が設けられた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AA%A8%E5%93%81%E5%88%B6>

日本の「臣」「連」の原型は、魏志にも見えるとおり、馬韓を中心とした伝統的な支配制度によ るものでしょう。特に「臣」関連の痕跡が見えるは、先のとおり馬韓の月支国周辺領域のみで、それが後の倭へと移行した。その経緯は、もしかすると後代の百済からの影響かもしれま せん。4-5 世紀前後でしょうか。

その後、百済・新羅方面へ流れ込んだ北燕移民が、新漢人として 6 世紀ごろに日本に流れ込 む経緯で、新羅の職人階級の「造」「吉士」「烏知(ウジ)」といった制度が、そのまま雄略から 継体朝ごろに成立したと見てます。

前者は魏志の時代からありますから、倭・弁・辰韓との相互的な交流による影響で成立し た可能性も感じますが、後者は新羅成立後の話で、倭に影響されて任那にいた集団が、新羅の 官職制度に影響を与えるほどであったならば、秦野さんのような倭→新羅へという制度 の導入可能性もありえなくはないかもしれません。

ただ任那関連の記事を読むと、「奈率」のような百済系の官職を、物部などのバイリンガル氏 族がつけている経緯があり、新羅に対してはどうだったのか?その辺も課題ですね。

魏志の時代の渡来人と、この 5-6 世紀の渡来人の時代については、ゴッチャにして研究す ると混乱が生じると感じます。特に新漢人はまったく別ものですから、それ以前のものと、頭 を切り替える必要があるでしょう。

----- Re: 紀氏と岸が同族? 投稿者:秦野北斗 投
稿日:2012 年 8 月 4 日(土)06 時 04 分 24 秒 返 信・引用 編集済

> No.707[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

新羅の存在は、その先祖は元の辰韓の苗裔である。馬韓伝には新羅の存在はない。 新羅は『南史』のいう魏の時 代とは三国魏(220 年-265 年)に誕生した国になる。 倭国と新羅の年代を考慮すれば倭国が古く、また、階級等 が類似する。 新羅に階級等の記録が残っただけで、倭国の階級を取り入れたと考えるが自然。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/siragi-kanbun1-ryosho.htm>

『羅井伝説』(朴氏の始祖伝説) 三国遺事、三国史記では五鳳元年(前 57 年)甲子とするが、『南史』のいう魏の時代とは三 国魏(220 年-265 年)、宋の時代とは南朝宋(420 年-479 年)の時代にあたる。 文頭に記したように干支の該当年を倍数する必要がある。従って、甲子年は「前 57 年、西暦 3 年、63 年、123 年、183 年、243 年、303 年」にあたるが、三国魏の時代に該当するのは「243 年」である。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinkan-siragi/siragi-sinwa1-rasei.htm>

『後漢書』馬韓伝

韓有三種:一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。辰 韓在東、十有二國、其北與濊貊接。弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。

韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁辰という。馬韓は西に在り、五十四カ国、その北 に樂浪、南に倭と接する。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun2-gokanzho.htm>

地が上げられる。筑後川の北部から見ると、対岸の岸(きし)になる。

>>> 弓月君は月氏で匈奴に属するので、匈奴はフン族、ヨーロッパの鷲(紋章)の羽を家紋とした 模様。

> 先の新羅骨品制に注目する必要があるそうですね。烏や羽の意匠はご指摘のとおり、遊牧 民系の特徴です。再度下級官よく見てみると、 >> 14 吉士 きつし/キルサ 稽知(ケジ)、吉次(キルチャ)

>

- > 15 大烏 だいう/テオ 大烏知(テオジ)彼日(ピイル) >

- > 16 小烏 しょうう/ソオ 小烏知(ソオジ) >

- > 17 造位 ぞうい/チョウイ 先沮知(ソンジヨジ) >>>

- > 大烏知(テオジ)、小烏知(ソオジ) >

- > コリア語の読みになってますが、おそらく、元の発音は「ウジ」でしょう。 >>「氏」の概念自体は中国系のそれなのですが、読みが朝鮮時代のそれを背負っているんですね。どちらかというと血縁組織より、職人の官職や階級に近い。 >> 日本では、それ以前にも、似たような官職や階級制度は存在していて、「守」などはかなり古いもので、魏志倭人伝にもでてきますね。「ヒナモリ」 >>「県 (アガタ・ヌシ)」などもかなり古い。中国官制の由来。 >> こうみていくと、「臣」「連」は三韓全域に漢・魏の古い時代からあった概念に由来した制度 を導入したもので、その後、(東・新)漢・秦氏が5-6 世紀に渡来したころに、新羅・カヤ 経由で、「吉士」「造」「氏」などの制度がもたらされたというラインが浮かんでくるように感じます。 >> こちろん、それ以後も、あるいはそれ以前も、新羅や百済の官位制度は影響を及ぼしているのですが、骨品制の起源を追えば、大伴・中臣・忌部といった渡来集団の故地が見えてくる 可能性を感じますね。

----- Re:紀氏と岸が同族?投稿者:管理人
投稿日:2012 年 8 月 3 日(金)21 時 06 分 2 秒 返信・ 引用 編集済

> No.706[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 弓月君 > 古代の朝鮮から渡来した人々の集団の首長とされる伝説的人物。融通王とも。『日本書紀』によると、応神 14 年に弓月君が百済から渡来し、率いる 120 県の人々が新羅人の邪魔により、加羅(加耶)に留まっていると報じたので、葛城襲津彦が加羅に遣わされた。同 16 年になって 平群木…

> 秦野は筑後川の南部、菊池一族の地が上げられる。筑後川の北部から見ると、対岸の岸(き し)になる。 >> 弓月君は月氏で匈奴に属するので、匈奴はフン族、ヨーロッパの鷲(紋章)の羽を家紋とした模 様。

>

先の新羅骨品制に注目する必要があるそうですね。烏や羽の意匠はご指摘のとおり、遊牧民 系の特徴です。再

度下級官よく見てみると、

14 吉士 きつし/キルサ 稽知(ケジ)、吉次(キルチャ) 15 大烏 だいう/テオ 大烏知(テオジ)彼日(ピール) 16 小烏 しょう/ソオ 小烏知(ソオジ) 17 造位 ぞうい/チョウイ 先沮知(ソンジョジ)

「造位」というのが、日本に伝わって、「造」(ミヤッコ)になるわけですが、これは伴造部民制 度の造で、技術職人の階級を意味しています。「秦造」

「宮子」もしくは「御奴(ヤッコ)」で、もともと宮廷領域で働く技術部民的な意味があったの ではないでしょうか。

「造」は、日本でも新羅でも、農民・部民より少し上の階級で、伴の支配下にあたる。大伴氏等の神別・連系氏族になりますね。

「連」は先日お話したとおり、魏志の三韓伝の地名にみられる「牟口(ムロ)」に関係し、王都 (月支国)周辺に住む「臣」集団とともに、それらの「牟口」集団がいたことがありました。

その関連で、新羅の骨品制に組み込まれた「吉士」「造」の下層技術者集団が、日本に渡ってき て、それらの制度を伝えたので、そのまま「骨品」つまり日本でいう「カバネ」制度ができあが ったと考えるのが筋でしょう。

九州の大伴氏の支配下に、それらの秦・漢氏の「造」集団がいたわけですが、大伴氏はいわゆる五部(伴緒)ということで、おそらく 5-6 世紀初めに宮廷に入り込んだ外来系集団の長で す。そこから、阿部なども出てくる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%B4%E9%80%A0>

彼等は伴造制度とともに、「氏」という組織を有していたわけですが、「ウジ」という発音が、考 えてみると、先の下級階層の「烏(ウ)」や「知(ジ)」の名称と重なってくるようにも見えま す。

大烏知(テオジ)、小烏知(ソオジ)

コリア語の読みになってますが、おそらく、元の発音は「ウジ」でしょう。

「氏」の概念自体は中国系のそれなのですが、読みが朝鮮時代のそれを背負っているんですね。 どちらかという と血縁組織より、職人の官職や階級に近い。

日本では、それ以前にも、似たような官職や階級制度は存在していて、「守」などはかなり古い もので、魏志倭人伝にもでてきますね。「ヒナモリ」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%83%A8%E6%B0%91%E5%88%B6>

「県 (アガタ・ヌシ)」などもかなり古い。中国官制の由来。

こうみていくと、「臣」「連」は三韓全域に漢・魏の古い時代からあった概念に由来した制度を 導入したもので、その後、(東・新)漢・秦氏が5-6 世紀に渡来したころに、新羅・カヤ経 由で、「吉士」「造」「氏」などの制度がもたらされたというラインが浮かんでくるように感じま

す。

もちろん、それ以後も、あるいはそれ以前も、新羅や百済の官位制度は影響を及ぼしているの ですが、骨品制の起源を追えば、大伴・中臣・忌部といった渡来集団の故地が見えてくる可 能性を感じますね。

> ルーツを辿ると、紀氏と岸は別族で関係がない。

そうですね、「棘の紀氏」さんのニックネームの由来は、単に彼が「茨城」に住んでいるという ことなのかもしれま せん(笑) >>

----- Re:紀氏と岸が同族?投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 3 日(金)06 時 36 分 0 秒 返 信・引用 編集済

> No.705[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

弓月君 古代の朝鮮から渡来した人々の集団の首長とされる伝説的人物。融通王とも。『日本書紀』に よると、 応神 14 年に弓月君が百済から渡来し、率いる 120 県の人々が新羅人の邪魔により、加 羅(加耶)に留まって

いると報じたので、葛城襲津彦が加羅に遣わされた。同 16 年になって平 群木… <http://kotobank.jp/word/%E5%BC%93%E6%9C%88%E5%90%9B>

120 県の人々を受入れたのは何処か、になる。 秦野は筑後川の南部、菊池一族の地が上げられる。筑後川の北部から見ると、対岸の岸(き

し)になる。

弓月君は月氏で匈奴に属するので、匈奴はフン族、ヨーロッパの鷲(紋章)の羽を家紋とした模 様。

バックルにもよく見ると羽がある。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B7%B2_\(%E7%B4%8B%E7%AB%A0\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B7%B2_(%E7%B4%8B%E7%AB%A0))

ルーツを辿ると、紀氏と岸は別族で関係がない。

----- Re:紀氏と岸が同族?投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 8 月 2 日(木)22 時 43 分 23 秒 返 信引用 編集済

> No.702[元記事へ]

空豆さんへのお返事です。

> 出羽山形の『幾志』という地名から発祥した岸氏について、家紋が丸に違い鷹の羽云々と云 うときは管理人様が紀氏様のように先ずは菊池氏系の可能性が高いと判断されるのが王道のようです。 >

> ですが、「キシ」という地名のつく所には吉士が多く居住していた事が多いという情報もあり、(>『名草の神々と歴史 その四 majime-rekisi4』

確かに紀伊方面にキシの地名がありますね。 船とのかかわりが強いようですが、淀川北岸の吉志部神社に伺ったおりには、当地の登り窯 で焼かれた瓦が、はるか奈良飛鳥方面まで船で運ばれていった経緯を聞いた覚えがあります。

> 出羽山形の地には聖徳太子が蜂子皇子を逃がした云々という逸話に何か関係ありそうな 周辺のロマンもあり、(>『四天王寺は官人的体質の氏族が創建した准官的寺院:加藤謙吉「四天王寺と難波吉士」 (1)』

吉志舞は四天王寺で舞われていたそうで、後代平安期の儀式書にいたるまで、阿部氏と吉志、 吉志舞との関係が継承されていたようです。難波吉士は特に吉士集団の中心的な存在で、遣 唐使においても、船の管理から、文献記録にいたるまで多彩な才覚を発揮していたようです。

> 戦士系吉士が水軍で出羽山形辺りに飛び石的に居ついて、そこから山形周囲に広がって行 った可能性もあるかも知れないなと考えております。(>『皇位継承 骨肉の争い 有間皇子のクーデター』

阿部水軍の蝦夷遠征の拠点に、出羽方面があったことは想像に難くない感じがします。いつ ごろから水軍のような、「戦闘的」な性格が付随してきたのかが課題です。7 世紀の対外関係 の悪化とかによるものか、あるいはもっと以前から、たとえば5 世紀末から 6 世紀初頭の新 漢人が滋賀・畿内方面へ流れ込んでくる時期の壁画古墳に描かれた水軍・盾などの時代の ものの関係するの、その辺の見極めも課題です。

遣唐使には、新漢人等と、吉士集団がセットになって派遣されている例が多く、7 世紀初頭~ 中葉にかけての当時、彼等の関係がどういうことになっていたかも記になります。

膳(タカハシ)氏、阿部(アエ)氏との同族関係は注目すべきですね。膳氏は継体とかかわ って、新漢人とかかわってくる巫女祭祀関連の氏族です。

そうすると新漢系、つまり朝鮮各国に流れ込んだ北燕遺民と、吉士集団とのかかわりを論じ る必要があります。 ですが、吉士については、いまいち自身把握しきれてない感じです。

東漢・秦・吉士は、渡来系のセットで、後に天武のときに忌寸を賜るわけですが、新漢系と百 濟亡命渡来人は賜らないんですね。

あと、難波・日鷹吉士は、日下部吉士との兼ね合いも感じますが、「日」に関係しているのがミ ソです。

>>紀氏様の家紋と出身地が分かれば > いえいえ結構です、私もいま親族の調査を進めておりますが、けっこういろいろ公開されるのを嫌がるものなんですよ。 > 紀氏様にも一寸いじけてしまったりしてなんかご迷惑お掛けしました。

こちらの紀氏さんの件は、本名が違うのもしてますし、あまり気にしないほうがよいです、 ソラマメさんへの返答を、彼は別の掲示板ですでに答えておられるようです。実際会うと穏

やかでよい方です。

> 吉士系岸氏は「吉志の舞」とか「朝鮮系紀氏」や「安倍氏」などが家系として散見され、 > また、意外に朝鮮王朝とか古代世界キシュ王とか古代ユダヤ王族(サウル王の父親な名前 が「キシ」)とかも関係あるかも知れないなあとロマン的思いを馳せてしまっております。

吉士舞と関係する盾伏舞などは、武等的なイメージがありますね。

彼等が大陸にいた時代にできた舞でしょうか。横穴墓から剣舞である大陸系のアラビア (大食調)の揮脱舞の法器が出土しているように、当時大陸西域系の剣舞が、伝わっていて、 一部が日本にもつたわっていたことはよく知られてます。

残念ながら、どちらも舞も見たこともないですし、内容もイメージもよくわからないのですが、接点がでくるとおもしろいです。各種舞の詳細。 <http://homepage2.nifty.com/amanokuni/ama-wazaogi.htm>

あと、新羅の骨品制に、吉士が見える件はよく知られてますが、さらに詳細な分析が必要です ね。

「一伐 14 吉士 きつし/キルサ 稽知(ケジ)、吉次(キルチャ)」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AA%A8%E5%93%81%E5%88%B6>

かなり下層の官人にあたるわけですが、最後に「ジ」の音がつくのは、下層の官職の特徴のようです。

稽知(ケジ)、吉次(キルチャ) 一尺 15 大烏 だいう/テオ 大烏知(テオジ) 彼日(ピール) 16 小烏 しょうう/ソオ 小烏知(ソオジ) 阿尺 17 造位 ぞうい/チョウイ 先沮知(ソンジヨジ)

最後の「造」なんていうのは、伴造制度の「造」と同意でしょう。 7 一吉浪 いつきつさん/イルギルチャン 乙吉干(ウルギルガン)

などでも「吉」の語でてきてますが、たぶん「吉」に意味があるんです。これらの骨品制の語は、 おそらく「伊」とか「伐」とか、それぞれが法則性にそって、配置されているように見えます。

たぶん、6 番目以上は、いわゆる真骨という血縁組織のみから推挙されていて、それ以外の下 層の人たちは、7 番以降の序列になるわけですね。それでそのなかで一番上にあたるのが「吉 浪」であることを考慮すれば、4 頭品の中で一番上にあたるのが、「吉士」、「吉次」となるので、 だいたいその一番上の官が「吉」であることが類推できそうです。

「造」という技術職人のちょっと上の官職、吉士はその辺ですね。何か技術系、船とか金銀装 飾品とか甲冑、瓦とか、その辺の製造職人、そのあたりとの関係でとらえてみてはいかがでしょうか。

----- 卑弥呼の神獣鏡?投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 2 日(木)21 時 19 分 34 秒 返信・引用 編集済

管理人さんへ 奈良県上牧町で画紋帯神獣鏡が出土しましたな。1 面だけど。 管理人さんの方位からすると、耳成山から難波宮のラインになる。

----- 鑑真投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 2 日(木)20 時 47 分 41 秒 返信・引用

鑑真 鑑真(がんじん、鑒真、?真、Jiàn zhēn 688 年(持統天皇 2 年) - 763 年 6 月 25 日(天平宝字 7 年 5 月 6 日))は、奈良時代の帰化僧。日本における律宗の開祖。俗姓は淳于。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%91%91%E7%9C%9F>

『山海経』、天竺へ向かおうとした、倭国の東北 7000 余里と扶桑との関係は否定できない。 後世に「正しく仏法を伝えた上で、多くの僧を輩出するつもりだった。」は創作で真意は

扶桑、天竺で仏法を習うのが目的だったのでしょうな。

後世では 唐の僧で、日本律宗の開祖。上海の北、長江河口の揚州(ようしゅう)出身。701 年、13 歳の時 に父に連れられ大雲寺を訪れた際、仏像を見ているうちに身体の奥底から感動が込み上げ てきて出家したという。律宗や天台宗をよく学び、揚州・大明寺の住職となった。そんなあ る日、鑑真のもとへ 2 人の日本人僧侶が面会を求めてきた。

<http://kajipon.sakura.ne.jp/kt/haka-topic25.html>

以下は行動です。 1.『山海経』舟山群島の東沖に黒齒国があり、その北に扶桑

2. 751 年、鑑真は揚州に戻るため海南島を離れた。その途上、端州の地で米叡が死去する。 動揺した鑑真は広州から天竺へ向かおうとしたが、周囲に慰留された。 天竺:当時、天竺(崑崙)に扶桑があった模様。

3.『梁書』普通年間 (520 年?527 年)に扶桑という国から梁へやってきたという。 扶桑の所在地については、倭国の東北 7000 余里

『宋書』巻 22 志第 12 樂 4(樂志)「白紵舞」歌の 1 つで 東造扶桑游紫庭 西至?嶠戲曾城 (東、扶桑に造りて紫庭に遊び、西、崑崙に至りて曾城に戯る)?『宋書』巻 22 志第 12 樂志四 載及 白紵舞 歌詩三篇之二

Re:紀氏と岸が同族?投稿者:空豆 投稿日:2012 年 8 月 2 日(木)07 時 10 分 43 秒 返信・ 引用

管理人さん秦野北斗さんへのお返事です。 暫くご無沙汰すると言いながらまたまた顔を出してしまい申し訳ありません。

こちらのご掲示板が余りにも検索でヒット多いもので、 私のような迷える羊となったご後続に道標を少しでも残しておいてあげたいと思ひまして 臨時復活です。

出羽山形の『幾志』という地名から発祥した岸氏について、家紋が丸に違い鷹の羽云々と云う

ときは管理人様がた紀氏様のようにまずは菊池氏系の可能性が高いと判断されるのが王道 のようです。

ですが、「キシ」という地名のつく所には吉士が多く居住していた事が多いという情報もあり、

(『名草の神々と歴史 その四 majime-rekisi4』 <http://www.kamnavi.jp/kinokuni/majime-rekisi4.htm>) 出羽山形の地には聖徳太子が蜂子皇子を逃がした云々という逸話に何か関係ありそうな周 辺のロマンもあり、(『四天王寺は官人的体質の氏族が創建した准官的寺院:加藤謙吉「四天王寺と難波吉士」 (1)」
<http://blog.goo.ne.jp/kosei-gooblog/e/4322c6fe42d8dc57d677732ab27ddb63>) 戦士系吉士が水軍で出羽山形辺りに飛び石的に居ついて、そこから山形周囲に広がって行っ た可能性もあるかも知れないと考えております。(『皇位継承 骨肉の争い 有間皇子のクーデター』 <http://www.kitohan.sakuraweb.com/hivun-data/arima-ouji-setwumei-002.htm>) >>紀氏様の家紋と出身地が分かれば いえいえ結構です、私もいま親族の調査を進めておりますが、けっこういろいろ公開される のを嫌がるものなんです。 紀氏様にも一寸いじけてしまったりしてなんかご迷惑お掛けしました。

吉士系岸氏は「吉志の舞」とか「朝鮮系紀氏」や「安倍氏」などが家系として散見され、 また、意外に朝鮮王朝とか古代世界キシ王とか古代ユダヤ王族(サウル王の父親な名前が 「キシ」)とかも関係あるかも知れないなあとロマン的思いを馳せてしまっております。

しょうじき、なんか訳の分からない山の麓一帯辺りから発生した集団の名前でその後山 伏とか下忍とかやって暗殺とか稚児誘拐を生業としていたらしいとかいう話だと、「なんだ ろうなあ、うちの先祖...?」と、どうして良いか分からない危険な気分になってしまい夢もロ マンありません、はっきりしないうちはロマンを抱きたいものなんです(笑)

それではご後続の為に書きたい事も書かせて頂きましたしそろそろ失礼させていただきますお 騒がせしました、管理人様がたも夏の暑さ厳しいおりお体にお気をつけ下さいませ、ありがとうございました。

先祖の事を知るためには? - www.kakeizu.me 古い戸籍を読み解く技術が必須です。 収集から家系図への表現までお任せ! 沖縄離島の写真・動画 - dor39.jp 沖縄離島が近く感じられる観光ナビ 口コミ情報・撮れたて動画で離島を体感 BIGBANG と一緒にゲーム - www.hangame.co.jp <<BIGBANG>>とおえかきの森、大富豪 で一緒に遊ぼう! トヨタが全国でフェス開催 - aquafes.jp/ あしたの『いいね!』を作るフェス。 未来はきっと変えられる。 家電・家具の処分、どうすれば? - www.666900.com そんなお悩み解決します! プロに 任せれば、アッという間に片付けます Ads by Google

----- 紀氏と岸が同族?投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年8月1日(水)22時41分45秒 返信・引用 編集済
紀氏のルーツが武内宿禰なら神功皇后の三韓征伐になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%80%E6%B0%8F>

棘の紀氏の家紋と出身地が分かれば、空豆さんと同族が明確になる。 魏志倭人伝を読み解いているので、武内宿禰が家紋を造ったが問題になる。 まあ、言える事は棘の紀氏の紀氏が本名を使用している? えらい所に飛び火しました。

棘の紀氏の協力が問題になる・・

Ads by Google

----- Re:神田大館緯度:40.経度:140 投稿者:管理人 投稿日:2012年8月1日(水)21時14分22秒 返信・引用
> No.699[元記事へ] みなさん、こんばんは。出張から戻りました。
阿部氏とキシ集団の間で、興味深い情報交換がなされていたようですね。

キシについては、雅楽の源流となった吉志舞について調べられると阿部氏との従属関係がみえてきます。

「吉志舞(きしまい)とは大嘗祭などで、安倍氏の当主等が監督して、闕腋袍(けってきのほ)等、主に武官の服装で、踊られた舞楽。吉師舞、吉士舞等とも表記される。舞い方自体は 伝承されていない。楯節舞(たてふしまい:楯伏舞、楯臥舞等とも表記)と同じものと考えられる。伝説では、神功皇后が新羅征伐後、凱旋し、安倍氏の祖先によって、大嘗祭で踊られたものであるという。また、住吉大社には、神功皇后帰還の時、出迎えた、現在堺市にある七道浜の住人が、傘を被って踊ったものが起源であり、住吉踊りはこの伝統を継承している、との伝承がある。

吉師とは大和朝廷にて外交や水軍などに関係した氏族を指し、渡来系のものが多かったと いう。安倍氏は吉師と関係があった。」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%89%E5%BF%97%E8%88%9E>

----- Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者:空豆 投稿日:2012年8月1日(水)14時35分42秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

この猛暑の折、わざわざ幾度もありがとうございます。 そうですか...それで杏葉紋をお示しになられたのですね。 素人にとりましては理由も分からず秦野北斗様がいきなりあれこれご提示されて、それが流刑だとか付いていたりするものですから当惑致しまして。 余り見かけた事のないお話が多いですが、やはり秦野北斗様のお説を学んでみる価値はあるな興味深いなという点をいろいろと感じました。 同和云々につきましても、秦野北斗様が当方をサンカや同和と繋がった秦一族の可能性が高

いと判断されての事でしたか、 しょうじき戸惑い何かの作業員さんかと思ってしまいました、初めにまるで荒らし巣窟のような紀氏様の方の掲示板の方を拝見してしまったもので。

やっぱり蛇の道は蛇と申しますか、その道の方にお伺いするといろいろと知ってらっしゃる ものですね、マーキングされた地図とか次々と出て来るのもなんか凄いです。 ただ、秦野北斗様のご提示くださった全国に散在

した幾志という地名が、それぞれネット検索しても出て来ませんしマーキングされた地図も「...これをどうやって確かめれば良いのか?」と、ただでさえ見慣れない事を仰る方に対して私のような素人は警戒し不安になるもので参考 文献ソース資料名を付すなどして頂くとありがたいのです。 難しいでしょうなと紀氏様に仰ってたのに秦氏系とは何かお気を使わせてしまったようで 申し訳ないです。 秦氏は好きで当方的にはまあまあ菊池氏上ですが、確かに最上忍者屋敷番(←なんです かね?忍者屋敷番って)十人扶持とかを一番身を落としていた時にやっていた者もいたかも などという話は聞きましたが、 なんか忍者サンカさんとか同和さんとかエタ非人さんとか正直落ち込みます、同和さんやえ た非人さんには申し訳ありませんが。

遠い現地に行つての調査に希望を託しております。 願望より正確性ですよね。

何はともあれ、これから仕事の関係が忙しくなりますので暫くご無沙汰させていただきます あ りがとうございました。

----- Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者: 秦野北斗 投稿日:2012 年 8 月 1 日(水)00 時 03 分 44 秒 返信・引用 編集済

> No.697[元記事へ] 空豆さんへのお返事です。 ユダヤとの関係は理解しています。 > 巷間では私のように天照御大神=イエス・キリスト=稲荷大明神と考える者も多いので

すよ。 天照御大神=イエス・キリストではない。別の形で存在しています。ここでは控えます。

平家の家紋、揚羽蝶、三つ巴それとカゴメ紋(ダビデ星)は同紋です。 揚羽蝶はキリスト教の復活

三つ巴は勾玉で三族を表わす。 雅楽に神功皇后の三韓征伐で踊りが伝承されています。

これらの筋から読み解くとアマテラス=卑弥呼でないのです。 アマテラス=神功皇后=壱興で、卑弥呼はアマテラスの伯母になる。

また、伊勢神宮の内宮が卑弥呼を祭ってある事はご存知ですか。 三角縁神獣鏡の銘文に孫の字がありますが、これが卑弥呼を表わしている。

まあ、定説とは異なりますな。徐福と邪馬台国で魏志倭人伝の行程を書きました。 邪馬台国の位置、卑弥呼の墓をピンポイントで明記。宮内庁が怒るでしょな。

余談ですが伊勢神宮内宮の建物ですが魏志倭人伝の邪馬台国です。 古事記の国生みが魏志倭人伝の行程になる。また、行程の逆航路が東征ルートになる。 東征では神武東征が有名。

都合よく『No1 平安京遷都』に渡来系一族の秦氏があります。

<http://www.bekkoame.ne.jp/~gensei/ten/hidecross.html>

京都は当時山背国葛野つまり山のむこうにある国として必ずしも人々が居住するには適当 ではない場所であった。あえてここに新しい都造りがなされた背景には藤原氏とは別の一族 の影響力があった。それは、この地域にはやくから住み着いていた渡来系一族の秦氏である。

当時、京都は原野であった。渡来系一族に与えている。秦氏とは異なります。間違ってますな。 秦氏には 2 種類あります。それぞれ家紋があり、茗荷と杏葉。これらは同族になる。 菊池一族です。岸さんの先祖の可能性がある。

注意して貰いたいのは、顛末が明確でなく、方向ちがいが多いのです。

『イエス・キリストは、御稲荷さんで天照大神ですか?』[yahoo!知恵袋] >『No1 平安京遷都』 >『漢字と聖書』[ヒグレ博士の聖書と日本] >『空海と景教』

>『祇園祭は八坂神社のお祭りである』

----- Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者: 空豆 投稿日:2012 年 7 月 31 日(火)21 時 45 分 11 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

ですが秦野北斗様、下記リンク先を拝見されたり『天照御大神 イエス・キリスト』やはたまた稲荷大明神を組み合わせてご検索されてみますと、 巷間では私のように天照御大神=イエス・キリスト=稲荷大明神と考える者も多いのです よ。

早稲田大学の佐伯好郎博士も秦氏=原始キリスト教云々説を言っておられますし、 現に加茂神社の山車には神社と申しましてははっきりと古代ユダヤ絡みの絵が描かれてい るのは衆目の目にする所ですし、 稲荷大明神=イエス・キリスト説もあり、漢字にもノアの箱舟の故事が表される等の説や、 はたまた空海密教も実はキリスト教説や法隆寺云々、それらそれぞれに書籍も多いものを、 整合性をもってきちんとご説明論破されない以上は、SF と断じて解明済みと仰られるのは 早期に過ぎ逆に秦野北斗様が変な目で見られてしまうようですよ？

『イエス・キリストは、御稲荷さんで天照大神ですか?』[yahoo!知恵袋]

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1239211792『No1 平安京遷都』

<http://www.bekkoame.ne.jp/~gensei/ten/hidecross.html>

『漢字と聖書』[ヒグレ博士の聖書と日本]

<http://www.reocities.com/heartland/lane/7662/nihon/kanji.htm>

『空海と景教』

<http://www.ne.jp/asahi/davinci/code/history/japan/index4.html>

『祇園祭は八坂神社のお祭りである』

http://www.geocities.jp/general_sasaki/kyoto-koiyama-ni.html

先祖のルーツをお尋ねさせて頂いていますのに、いきなり全然関係ないように思えます流刑 だとか同和とかまるでSF とかも、 正直いつもの反日本人とか何かの草(在日工作員)さん達との応酬戦パターンで、秦野北斗様のご書籍買わせて頂くの止めました。ありがとうございました。

----- Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者: 秦野北斗 投稿日:2012 年 7 月 31 日(火)19 時 20 分 3 秒 返信・引用編集済

> No.695[元記事へ]

空豆さんへのお返事です。

紀氏さんの説はまるで SF ですな、時間と次元を超越している。夢物語です。

天照大御神、素戔鳴尊、武内宿禰..これらは秦野が神話を読み解いて明白になっている。 紀氏さんの天照大御神(一説では稲荷大明神イエス・キリスト)は出鱈目ですな。

菊池の分布図は赤色のところですよ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8F%8A%E6%B1%A0%E6%B0%8F>

菊池が東北に住む経緯を短く話す。 中国史籍で卑弥呼の頃の倭国を東西 5 ヶ月、南北 3 ヶ月になっている。

その後、天智天皇のときに、白村江以降ですが東北の日本を倭国に統一後、名を日本にしてい る。

この地に入ったのが菊池になる。その後、平氏と結び付いている。..源平になる。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano15.htm>

> 同和関係は調査時と共に最近、正体を確認しますと熱心な在日朝鮮系で然も何故か同和系 だったりする人達の悪意的工作がネット上で活発で、 > 第三者に対してことさらに出自を卑しめて見せたり、ごじゃっぺにしようとして来ますの で気をつけます、ありがとうございます。

----- Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者: 空豆 投稿日:2012 年 7 月 31 日(火)09 時 28 分 10 秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。

ありがとうございます。安倍さんの家紋と同和云々の注意点、親戚に聞く時に参考にします。でも知る限りでは親戚の奥さん筋も何故か不思議とご由緒ある名族のご武家筋が殆どです が...

安倍さんは私が好きな安倍貞任のご後裔という噂で、 そうならば天照大御神(一説では稲荷大明神イエス・キリスト)の右のみずら(一説では正妻 マグダラの MARIA)の勾玉(母胎)から生まれた第二子の天之穂日命のご子孫で武内宿禰を生んだ大彦命のご末裔、

という事になりますので同族でも不満ではありませんが、正直に紀氏筋を確定したいという気持ちが強いのです、かっこいいから。紀氏は大王だったとか伊勢神宮のご神体の御鏡も実は紀氏のが先に作られたものだったの 本とか実は紀氏は素戔鳴尊を祖神としている等の記事を見ますと、キシ=キシユ=ギルガメッシュ説話時代世界古代バビロニアやイシン王国以降の正統派王 である事や、

素戔鳴尊=スサ(古代シュメールの首都)の王であり、 それらの事と神武天皇のご苦戦の様子を鑑みますと現天皇家もそのご神器の少なくとも一 部は紀氏のもののレプリカだし当初は古代からの世界の正統派王家キシユ王家の威光であった紀氏の後ろ盾が必要だったように感じますもので。安倍系キシは古代ユダヤ王国の王の父であるキシの一族で悪魔崇拝者達の目を欺く為にバ

フォーマットの姿にしたり淫婦という事にして隠匿された古代ユダヤ貴族マグダラの MARIA を輩出したベニヤミン族と繋がっているようですが。この紀氏と同系に確定したいという焦りが、私がこの方面で殆ど無知であります事と共に 管理人様がたとの温度差の大きな要因でしょうね。

同和関係は調査時と共に最近、正体を確認しますと熱心な在日朝鮮系で然も何故か同和系 だったりする人達の悪意的工作がネット上で活発で、 第三者に対してことさらに出自を卑しめて見せたり、ごじゃっぺにしようとして来ますので 気をつけます、ありがとうございます。

----- Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者: 秦野北斗 投稿日:2012 年 7 月 31 日(火)00 時 21 分 52 秒 返信・引用 編集済

> No.693[元記事へ] 空豆さんへのお返事です。 安倍晋三氏の家紋は梶紋
<http://www.ippongi.com/2009/01/16/kaji/>

家紋を聞くのに注意が必要です。同和は家紋がない。同和は古代どうも奴婢(兵士)で皇族に仕えた者は家紋を持つが 地方豪族の奴婢(兵士)は持っていない。深く聞かない。また、一族を隠すため、家紋を変えている者もいる。この人たちは正規の紋は大事に守っている。家紋は墓に記している。この家紋は少し変えてある。

同和地区は古墳、遺跡、神社敷地に多い。逆に遺跡を探したければ同和地区になる。

>>安倍晋三氏とも親しい事等の趨勢に鑑みまして、 >> 出羽山形の幾志(岸)は、木の国の紀氏に連なる本流系と考えております。 >

> そういえば、かつて安倍晋三氏の親の代で安倍晋三家のルーツが蝦夷の方だとのこと発言があり、 > 出羽山形の幾志(岸)氏にこそ親しく寄って来られるので、おそらく出羽山形の幾志氏は安倍家ルーツにごく近い紀氏ではないかと推測できるのです。

> 安倍晋三氏にお伺いした方が出羽岸氏については早い気がします。まあ何れ親戚筋にあた ってみます。 >

----- Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者: 空豆 投稿日:2012 年 7 月 30 日(月)15 時 14 分 48 秒 返信・引用

秦野北斗さん、管理人さんへのお返事です。 >安倍晋三氏とも親しい事等の趨勢に鑑みまして、

> 出羽山形の幾志(岸)は、木の国の紀氏に連なる本流系と考えております。

そういえば、かつて安倍晋三氏の親の代で安倍晋三家のルーツが蝦夷の方だとのこと発言があり、 出羽山形の幾志(岸)氏にこそ親しく寄って来られるので、おそらく出羽山形の幾志氏は安倍 家ルーツにごく近い紀氏ではないかと推測できるのです。 安倍晋三氏にお伺いした方が出羽岸氏については早い気がします。まあ何れ親戚筋にあたっ てみます。

Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者:空豆 投稿日:2012 年 7 月 30 日(月)14 時 15 分 1 秒 返信・引用

秦野北斗さん、管理人さんへのお返事です。 あれ?秦野北斗様がこちらの管理人様ではなかったのですね。紀氏様もそうですが、どうも誤解を生じてしまっているようで...この暑さですからね。

出羽山形の岸氏はもともと山形にあった蜂子皇子ゆかりの地にして月山派日本刀発祥出羽 三山羽黒山麓周辺の幾志という地から発生した岸氏の一大ルーツで、 この辺りに盤居して中世には宇多天皇源氏佐々木氏系を与力して最上郡の神田の大館にこ

もっていたようです。

国立博物館等にも関連品が展示され、また第二次大戦中前後にも 3 万何千石や 1 万何千石 所有者が複数いた事や安倍晋三氏とも親しい事等の趨勢に鑑みまして、 出羽山形の幾志(岸)は、木の国の紀氏に連なる本流系と考えております。 与力していた源氏佐々木公が若干 10 代にも関わらず最上軍人十万に兵糧攻めされて早く降伏してくれと言われながらも超長期善戦の末に降参したのち、 最上氏庄内藩改易時に秋田佐竹藩に移った岸氏等や私のように更に近隣県に移った者もおりますが、基本は出羽山形幾志のルーツ解明で良いと考えております、 確かに新潟やその周辺の岸氏も無関係ではないですが。

ご紋に付きましては残念ながらもう暫くあとになりそうですし、 また昨今は親しい親族間でも第三者への公開は個人情報云々で渋られる事も多く残念ながら お約束いたし兼ねます。

また何かありましたらご投稿させていただきます、ありがとうございました。

先祖の事を知るためには? - www.kakeizu.me 古い戸籍を読み解く技術が必須です。 収集から家系図への表現までお任せ! 一般公開できない物件情報 - www.media-saitama.jp 独自ルートで仕入れた埼玉・千葉西部 の極秘物件を無料会員様限定で公開中 25 分 129 円のスカイプ英会話 - www.rarejob.com 忙しいあなたに最適!深夜や土日も OK 1 対 1 のオンライン英会話。レアジョブ 家系図、家族の歴史を 1 冊に - www.e-keizu.com 家系図作成代行。10 点セット 定額制 お客様の声 232 件(直筆)全国対応可能 あなたの家の家系図を作成 - www.5f.biglobe.ne.jp/~kakeizu/ 4 系統を調査。品質価格にご満足頂戴 けます。サンプル和紙を無料送付! Ads by Google

----- Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者: 秦野北斗 投稿日:2012 年 7 月 30 日(月)06 時 24 分 9 秒 返信・引用

> No.690[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 出羽は岸さんの親戚、奥さんの家紋情報待ちです。 扶桑は出羽とは別ものです。 済州島関連です。年代は呉越から鑑真までのなる。

『山海経』を見る限り、扶桑木はあるが扶桑国まで言っていない模様。『梁書』の扶桑という国から梁へやってきたという。…大漢国の東 2 万余里は大漢国=中国 で中国内国境から東 2 万余里になる。文身国の文身=分身、とすれば。日本にも大漢国、扶桑

国のが存在したことになる。文身国=扶桑国、

棘の紀氏へ家紋のルーツは種族の移動が大きく関係します。難解でしょうな。「善知鳥」(うとう)も神話の雉、白鳥、鳩に入り可能性がある。

> ちょっと今日と明日も出張で留守にしますので更新できません。 > 謎解き、難解すぎますね。出羽について、扶桑との関連で語りたいのかなーとは理解するのですが、それ以上解読できません。私もちょっとスランプかな?? >> 日本海側か蝦夷征伐に船で出かけた阿部氏と吉志氏の従属関係を追うと何かでてくるか もしれません。

Ads by Google

----- Re:神田大館緯度:40.経度:140 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 7 月 30 日(月)01 時 01 分 9 秒 返信・引用

> No.689[元記事へ]

ちょっと今日と明日も出張で留守にしますので更新できません。 謎解き、難解すぎますね。出羽について、扶桑との関連で語りたいのかなーとは理解するので すが、それ以上解読できません。私もちょっとスランプかな?? 日本海側か蝦夷征伐に船で出かけた阿部氏と吉志氏の従属関係を追うと何かでてくるかも しれません。

----- Re: 神田大館 緯度: 40. 経度:140 投稿者: 棘の紀氏 投稿日:2012 年 7 月 29 日(日)10 時 03 分 1 秒 返信・引用

> No.681[元記事へ]

お返事です。

> 緯度: 40. 経度:140 坂上田村麻呂 、慈覚大師

【杏葉紋大澤と抱き茗荷紋大澤の関係】http://homepage2.nifty.com/babo/gyouyou_myouga.html 都賀郡大澤城とは何処か?都賀郡大澤城は見当たりません。しかし、河内郡大沢村(現在の今市市大沢)には、江戸時代に徳川将軍が日光社参の途中 休息する為に造られた大沢御殿という史跡がある。これは、天正年間に塩谷氏の家臣、大澤 隼人正康勝が築いたと伝わる大沢城を利用して御殿を築いたと言われている。しかし、大澤 隼人正康勝は、塩谷郡川崎城の家老であったとの記録が残っており、これは、同じ隼人を名の 石井隼人助忠政改め大澤 隼人助忠政と大澤隼人正康勝が数百年の年月を超えて取り違え られているのではないだろうか?即ち、大沢御殿は、大澤隼人助忠政が住んだ大沢城跡を利 用して築き、大澤隼人正康勝との関係は間違いではないかと思う。つまり、「下野塩谷郡 大澤系譜」で記された都賀郡大澤城は間違いで、河内郡大沢村の大 澤城が正しいのではないだろうか?つまり、「下野塩谷郡 大澤系譜」で示される名字大澤 のルーツ(名字の地)は大澤城のあった河内郡大沢村すなわち、現在の栃木県今市市大沢に 違いないだろうと思う。

埼玉県越谷市東大沢 緯度:35.896、経度:139.7878 緯度:36.8608、経度:140.6278 花園神社は、茨城県北茨城市の神社。征夷大將軍・坂上田村麻呂の創建とも、慈覚大師の 開 基 ...http://www.city-kitaibaraki.jp/modules/sight/index.php?content_id=27

浄山寺は、貞観 2 年(860)慈覚大師が創建 尊浄山寺. 住所, 〒 343-0801 埼玉県越谷市大字野島 32 緯度経度, E139°46'2.017 N35°40' 23.624 ...

N3540 23.624 E139462.017

緯度:35.7781694 経度: 139.9035972 小茂田北向神社は、児玉郡美里町小茂田にある北向神社で、延暦 15 年(796)7 月に坂上田 村麻呂が創建したと伝えられる五社(沼上北向神社・阿郡志河輪神社・北十条北向神社・小茂田北向神社・古郡北向神社)のうちの二社と比定されています。江戸時代には小茂田 村の鎮守社となっていました。明治 40 年に近在の神社を境内に遷座したといひます。坂上田村麻呂が創建したと伝えられる五社(沼上北向神社・阿郡志河輪神社・北十条北向 神社・小茂田北向神社・古郡北向神社)のうちの二社と比定されています。

越谷の歴史 解説と写真(古代~近代) 越谷市公式ホームページ 2011 年 4 月 1 日 - その後、大和朝廷により国や郡が設けられ、当時、越谷は元荒川を境に武蔵 国と下総国 、綾瀬川を境に武蔵国埼玉郡と足立郡に分けられていました。このころ大相模郷 に天平 勝宝 2 年(750)に大聖寺が、貞観 2 年(860)に野島の浄山寺が創建

<http://www.city.koshigaya.saitama.jp/kanko/rekisi/kaisetsuphoto/rekisi1.html>...<http://www.city.koshigaya.saitama.jp/kanko/rekisi/kaisetsuphoto/rekisi1.html> 今から約 4~5000 年前、縄文時代後期のころ、越谷を含む約 10 メートルの等高線までの地は 海の中にありました。やがて今から約 3000 年前になると、地球の気温が現在のような温度に 下がり、海が後退し河川によって運ばれた土砂によって沖積地が形成されました。人々は丘陵地や台地から稲作に適した沖積地に移り住み、自然堤防に集落を構え農業を 始めるようになりました。こうした中で、越谷に人々が住みつくようになったのは、大相模地 区の見田方の地から竪穴式住居跡が発見され、数多くの土器や装飾具、モミなどが出土した ことから、古墳後期から古代にかけてと推定されます。

その後、大和朝廷により国や郡が設けられ、当時、越谷は元荒川を境に武蔵国と下総国、綾瀬川を境に武蔵国埼玉郡と足立郡に分けられていました。このころ大相模郷に天平勝宝 2 年 (750)に大聖寺が、貞観 2 年(860)に野島の浄山寺が創建されたと伝えられています。

青森県青森市安方 2-7-18 善知鳥神社 大同 2(807)年坂上田村麻呂により再建。寛永 18(1641)年津軽藩の祈願所、青森総鎮守となる。明治 6(1873)年に県社に昇格した。善知鳥は、この地にいた鳥の名前であり、青森の古名でもある。 青森県青森市安方 緯度:40.82583874613573 経度: 140.74644693623716

社伝によると、第十九代允恭天皇の御代、善知鳥中納言安方(うとうちゅうなごんやすかた)が当国の夷人山海の悪鬼を誅罰平定し、

この地を治めた時に、霊験あらたかな神々を祭ったのが初め。 善知鳥は、烏頭とも書かれる場合がある。 善知鳥中納言安方は、当地の人々に漁獵・耕作を教え、青森市の前身である、善知鳥村を拓いた人物と考えられており当社が、青森市発祥の地と云われている。

能「善知鳥」(うとう)シテ 武田 孝史 旅の途中山に寄った僧は老人に呼び止められ、陸奥外の浜への伝言を頼まれる。証拠の品に片袖を受け取り僧が向ったのは、一年程まえに死んだ獵師の家だった。約束通り供養する僧と妻子の前に、獵師の霊が現れる。 善知鳥あらすじ 諸国一見の僧が陸奥(青森県)の外の浜に行く途中、越中(富山県)の立山に立ち寄る。山 上の地獄さながらの有様を見て、その恐ろしさにおののきつつ下山すると、麓で一人の老人に出会う。老人は、「陸奥へ行くのであれば、去年の秋に死んだ外の浜の獵師 <http://happ.hc.keio.ac.jp/event04/0526/arasuji.htm>...<http://happ.hc.keio.ac.jp/event04/0526/arasuji.htm> 諸鳥の中でも親子の愛情が深いと言われる善知鳥を殺した罪を懺悔する。 冥土で化鳥となった善知鳥に追いかけて地獄の責め苦を受ける様を見せ、どうか自分を助けてほしいと僧に弔いを頼みつつ亡霊は消え失せる。

三内丸山遺跡 東緯度: 40.8116359 経度: 140.6955882. 三内丸山遺跡が栄えたとされる紀元前 2000 年から 3500 年といえば初期王朝時代から古王国時代。上下エジプトが統一されつつあった時期、我らが縄文人も独自の文明を築いていたのです。 http://www.thoth.jp/j_ruin02.html

----- 扶桑と鑑真投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 7 月 29 日(日)08 時 12 分 8 秒 返信・引用編 集済

海南島 海南島(かいなんとう、ハイナンとう、ハイナントオ、Hǎinán Dǎo)は南シナ海北部の島である。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%B7%E5%8D%97%E5%B3%B6>

歴史 古くから珠崖と呼ばれ、三国・呉の時代に珠崖郡が成立した。唐代の李徳裕、宋代の蘇軾などが流刑され、また、唐代に鑑真が漂着した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%B7%E5%8D%97%E7%9C%81>

鑑真 鑑真(がんじん、鑒真、?真、Jiàn zhēn 688 年(持統天皇 2 年) - 763 年 6 月 25 日(天平宝字 7 年 5 月 6 日))は、奈良時代の帰化僧。日本における律宗の開祖。俗姓は淳于。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%91%91%E7%9C%9F>

枝道にそれます。鑑真が目指したのは扶桑のようだな。鑑真さんやりますな。 1.『山海経』舟山群島の東沖に黒齒国があり、その北に扶桑

2. 751 年、鑑真は揚州に戻るため海南島を離れた。その途上、端州の地で栄叡が死去する。 動揺した鑑真は広州から天竺へ向かうとしたが、周囲に慰留された。 天竺:当時、天竺(崑崙)に扶桑があった模様。

3.『梁書』普通年間 (520 年?527 年)に扶桑という国から梁へやってきたという。 扶桑の所在地については、倭国の東北 7000 余里

『宋書』卷 22 志第 12 樂 4(楽志)「白紵舞」歌の 1 つで 東造扶桑游紫庭 西至?嶮戲曾城 (東、扶桑に造りて紫庭に遊び、西、崑崙に至りて曾城に戯る) ?『宋書』卷 22 志第 12 樂志四 載及 白紵舞 歌詩三篇之二

まめますと、鑑真さん、扶桑へいきたいな…。鑑真、扶桑へ行く、止めろ。 『山海経』に東方の海中に黒齒国があり、その北に扶桑。鑑真さん、あるな、よし、船で行こう、

海南島に漂着。あれ？黒潮に乗れなかったのです。 次に『宋書』に東、扶桑に造りて紫庭に遊び、西、崑崙に至りて曾城に戯る。天竺へ行くぞ。

鑑真、扶桑へ行く、止めろ。

次に『梁書』倭国の東北 7000 余里(3000km 余、漢代の里 ≒ 434m、以下換算にはこの値を使う)に文身国が、その東 5000 余里(2200km 余)に大漢国があり、大漢国の東 2 万余里 (8700km 余)に扶桑がある。

文身国でもいい、行くか。倭国へ行くぞ。 鑑真、扶桑へ行く、止めろ。

大伴古麻呂は密かに鑑真を乗船させた。行っちゃった。鑑真さん、ところで扶桑はどこですか。 まあいいか奈良で暮らすか、行くところもないし。

扶桑は現在のチベットの近くにあります。九州の佐賀は文身国なんです。

『山海経』によると、東方の海中に黒齒国があり、その北に扶桑という木が立っており、そこから太陽が昇るという。 下有湯谷 湯谷上有扶桑 十日所浴 在黑齒北 居水中 有大木 九日居下枝 一日居上枝 (下に湯谷があり、湯谷の上に扶桑があり、10 の太陽が水浴びをする。黒齒国の北であり、大 木は水中にあり、9 の太陽は下の枝に、1 の太陽が上の枝にある)

『山海経』海経第 4 卷 第 9 海外東經 大荒之中 有山名曰孽搖顓臾 上有扶木 柱三百里 其葉如芥 有谷曰?源谷 湯谷上有扶木 一日方 至 一日方出 皆載於鳥

(大荒(辺境)の中に孽搖顓臾(げつよういんてい)という山があり、山の上に扶木がある。 高さは 300 里(130m)、その葉はカラシナに似る。温源谷(= 湯谷 ?)という谷があり、湯谷 の上に扶木がある。1 つの太陽が来ると 1 つの太陽が出て行き、太陽はみな鳥を載せてい る)

『宋書』卷 22 志第 12 樂 4(樂志)「白紵舞」歌の 1 つで 東造扶桑游紫庭 西至?嶠戲曾城 (東、扶桑に造りて紫庭に遊び、西、崑崙に至りて曾城に戯る)

?『宋書』卷 22 志第 12 樂志四載及 白紵舞 歌詩三篇之二

『梁書』によると、僧慧深(けいしん、拼音: Huìshēn ホイシェン)が普通年間 (520 年?527 年)に扶桑という国から梁へやってきたという。扶桑の所在地については、倭国の東北 7000 余里(3000km 余、漢代の里 ≒ 434m、以下換算にはこの値を使う)に文身国が、その東 5000 余里(2200km 余)に大漢国があり、大漢国の東 2 万余里(8700km 余)に扶桑がある。ただ し、倭国・文身国・大漢国までについては地の文で事実として書かれているが、扶桑についてはその位置も含め、慧深の証言という形で書かれている。また、地の文の大漢国と慧深の言 う大漢国が同じものかもはっきりしない。 注)漢代の里は対応しない。秦野距離が該当する。

浙江省

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%99%E6%B1%9F%E7%9C%81> 748 年、舟山群島 舟山群島から出航、黒潮に乗れず海南島に漂着。

751 年、鑑真は揚州に戻るため海南島を離れた。その途上、端州の地で栄叡が死去する。動揺 した鑑真は広州から天竺へ向かおうとしたが、周囲に慰留された。この揚州までの帰上の間 鑑真は南方の気候や激しい疲労などにより、両眼を失明してしまう(鑑真が渡日前に失明し ていたという説は鑑真の伝記である「唐大和上東征伝」を主に論拠としている。しかし、最近 の研究では渡日翌年に書かれた東大寺の良弁に經典の借用を申し出た鑑真奉請経巻状は弟子の代筆説より鑑真の直筆説の可能性が高くなったことから、渡日後も完全には失明はしていなかったとする説もある)。

752 年、必ず渡日を果たす決意をした鑑真のもとに訪れた遣唐使藤原清河らに渡日を約束し た。しかし、当時の玄宗皇帝が鑑真の才能を惜しんで渡日を許さなかった。そのために 753 年 に遣唐使が帰日する際、遣唐大使の藤原清河は鑑真の同乗を拒否した。それを聞いた副使の 大伴古麻呂は密かに鑑真を乗船させた。11 月 17 日に遣唐使船が出航、ほどなくして暴風が襲 い、清河の大使船は南方まで漂流したが、古麻呂の副使船は持ちこたえ、12 月 20 日に薩摩坊 津の秋目に無事到着し、実に 10 年の歳月を経て仏舎利を携えた鑑真は宿

願の渡日を果たす ことができた。

----- Re:ピラミッドの嘘投稿者:管理人 投稿
日:2012年7月28日(土)23時11分32秒 返信 引用 編集済

> No.683[元記事へ] 空豆さんへのお返事です。

> なるほど、まだパッと見ですが幾志(岸)氏が何やら意図的に幾志という地名を記して移動 し、 > 自分達の
ルーツなり辿って来た道...高天原の一つでしょうか、を指し示している可能性が 管理人様がたにご教示されて
いるようにお見受けしました。興味深いです。

>> 紀氏様のピラミッド云々につきましては、このようなものが不慣れで未知の単語もあり、 まだちょっと理
解し難く何を仰っているのか分かりませんが、 > これからよく検討させて頂きたいと存じます、ありがとうござ
いました。 >

そうですね、まず掲示板の投稿者さんの文面の解読からしはじめないといけないのが難点 です。たぶんその投
稿文面の解読より、古事記の解読のほうがやさしいでしょう(笑)…。 どんな相手でも、わかりやすく持論を伝える
努力が大切です。

-----『山海経』 扶桑投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月28日(土)22時30分5秒 返信・引

用 編集済 山海経、古事記、日本書紀を読むと枯野、扶桑、大木が一致するので読み解きました。

秦野著書:徐福と邪馬台国で扶桑国を徳之島としましたが、チベットの近くで該当せず。 佐賀市、小城市を含む
地域は文身国、吉野ヶ里も含む可能性がある。次号で訂正します。 しかし、扶桑木は存在している。

山海経

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%B1%E6%B5%B7%E7%B5%8C>

黒齒國在其北 爲人黒 食稻啖蛇 一赤一青 在其旁 一曰 在豎亥北 爲人黒首 食稻 使蛇 其一蛇赤 下有湯谷 湯谷
上有扶桑 十日所浴 在黒齒北 居水中 有大木 九日 居下枝 一日居上枝

黒齒國、其の北に在り。人と爲り黒し。稻を食し蛇を啖う。一は赤、一は青。其の旁に在り。一 に曰く、豎亥*1
の北に在り。人と爲り黒き首。稻を食し蛇を使う。其の一の蛇は赤し。

下に湯谷*2 有り。湯谷の上に扶桑、有り。十の日の浴(ゆあみ)する所。黒齒の北に在り。 水中に居す。大木*3
有り。九の日は下の枝に居し、一の日は上の枝に居す。

古事記、日本書紀

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

古事記 仁徳天皇の処にに書かれている この御世に、免寸河(とのきがわ) *5 の西に一つの高樹ありき。その樹
の影、旦日に当たれば、 淡道島に逮び、夕日に当たれば、高安山を越えき。故、この樹を 切りて船を作りしに、
甚捷く行く船なりき。時にその船を號けて枯野と謂ひき。故、この船を もち旦夕淡道島の寒泉を酌みて、大御水
献りき。 この船、破れ壊れて塩を焼き、その焼け遣りし木を取りて琴に作りしに、 その音七里に響みき。こ
こに歌ひけらく、

日本書紀 応神天皇の処 五年冬十月伊豆国*4 に命じて船を造らせた。長さ十丈の船ができた。ためしに海に浮
かべる と、軽く浮かんで早く行くことは、走るようであった。その船を名づけて枯野といった。 ---船が軽く
早く走るのに、枯野と名づけるのは、道理に合わない。もしかすると軽野と いったのを、後の人がなまっただ
なかろうか。この注釈は間違いで烏奴(からぬ)になる。 烏は案内、奴は兵士で護衛船になる。

*1 太章と豎亥. タイショウとジュガイは朱崖(しゅがい)や儋耳(たんじ) (海南島)に対応 太章=儋耳(九州)、豎
亥=朱崖(韓半島) 図添付、倭国の比較に用いられる。 この文章は黒齒國と朱崖の北側の人は食性が似ている。
と言っている。

『三国志魏書』倭人伝(通称:魏志倭人伝)

種禾稻、紵麻、蠶桑緝績。出細紵、縑綿。其地無牛馬虎豹羊鵲。兵用矛、楯、木弓。木弓短下長上、竹箭或鐵鏃或骨鏃、所有無與儋耳、朱崖同。

水稻、紵麻(カラムシ)の種をまき、養蚕して絹織物を紡ぐ。細い紵(チヨマ=木綿の代用品)、薄絹、綿を産出する。その地には、牛・馬・虎・豹・羊・鵲がいない。矛、楯、木弓を用いて戦う。木弓は下が短く上が長い、竹の箭(矢柄)あるいは鉄、あるいは骨の鏃、有無するところが儋耳(ダンジ)や朱崖(シュガイ。ともに海南島の地名)に同じである。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

*2 佐賀県小城市小城町栗原湯谷。湯谷の名前は意外と古いな。 *3 免寸河(とのきがわ)の西に一つの高樹、扶桑木ありき…の太木(計算では約 40 m) *4 伊豆国=伊都国、徐福と邪馬台国参照、魏志倭人伝の伊都国 *5 免寸河(とのきがわ)は筑後川の 1600 年前の古名

----- Re:ピラミッドの嘘投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 7 月 28 日(土)18 時 33 分 52 秒 返信・引用 編集済

> No.683[元記事へ] 空豆さんへのお返事です。 空豆さん、新潟は源氏の地になっているので、木瓜、桐 親戚等の家紋が分かればお知らせ下さい。 新潟までの道のりをお知らせします。

----- Re:ピラミッドの嘘投稿者:空豆 投稿
日:2012 年 7 月 28 日(土)17 時 42 分 52 秒 返信・引用

>>680、>>681 管理人様がわざわざありがとうございます。

なるほど、まだパッと見ですが幾志(岸)氏が何やら意図的に幾志という地名を記して移動し、自分達のルーツなり辿って来た道...高天原の一つでしょうか、を指し示している可能性が管理人様がたにご教示されているようにお見受けしました。興味深いです。

紀氏様のピラミッド云々につきましては、このようなものが不慣れで未知の単語もあり、まだちょっと理解し難く何を仰っているのか分かりませんが、これからよく検討させて頂きたいと存じます、ありがとうございました。

----- ピラミッドの嘘投稿者:棘の紀氏 投稿
日:2012 年 7 月 28 日(土)15 時 22 分 39 秒 返信・引用

ピラミッドの嘘 ギザ、マチュピチュ、モアイ像はそうした回転軸の基では赤道に相当する大円を形成します。そしてその回転軸を天空に延長した方向に何がしかの星があれば、それは地球にいる人類からは不動の星となります。その星を赤道から深夜眺めると何時も地平線上の固定点で眺められるのです。つまりこの星を地平線上に眺めることのできる場所は、ギザ、マチュピチュ モアイ像に限らず、同一大円上にあるのです。私にはそれを満足する恒星があるのか無いのか分かりません。そもそも現生人類の時代以降で地球の回転軸がかくも大きく傾いた時期があったのかどうか定かではありません。というわけでこれは妄想の類というべきでしょう。

http://blog.livedoor.jp/oibore_oobora/archives/51772800.html これらの 5 つの地点は地球上つまり球面上にあります。その球面を平面に展開するならば、その上でこれら三点を結ぶ線が直線状になるとは限りません。そこで、まずはエジプトのギザの周辺に他の 4 点がどのように配列されているかを調べてみます。それには、本ブログで 高・蘇我聖方位算出で用いてきた球面三角法を用います。 まずは、エジプトのギザとペルのマチュピチュの位置関係を球面三角法で算出します。

神田大館緯度:40.経度:140 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 7 月 28 日(土)15 時 13 分 48 秒 返信・引用

秋田県. 市区町村名:大館市. 大字町丁目名:沼館字神田表 <http://ido.imacle.info/Detail.aspx/Index/847414> 緯度: 40.286482. 経度:140.539970.

インターネット礼拝放映 - www.church.gr.jp/ ブログ・重荷をおろして更新中 メルマガで聖書の言葉も毎日配信 わくわくゲームチャンネル - www.youtube.com/BandaiNamcoKids 《安心・安全》に楽しめる キッズ向け YouTube チャンネル! 過去帳作成サービス - hoshonin.jp/kakocho/index.htm 戸籍調査により行政書士が過去帳を作成 江戸時代までさかのぼれます。 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 橿原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する 格安ホテルは【じゃらん】 -

www.jalan.net 日本最大級の情報で あなたのワガママ きっと叶います!格安プランも満載。 Ads by Google

----- Re:出羽岸氏のルーツについて投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012年7月28日(土)14時56分 47秒 返信・引用 編集済

> No.679[元記事へ]

空豆さんへのお返事です。

鷹の羽と杏葉紋が表と裏になる。裏紋が神社で使用されている

注)表裏は秦野北斗の分類です。表は戦う人(戦士)裏は祈る人(聖職者) 表裏とも同族です。杏葉紋と茗荷紋は見分けがつかない。図添付

杏葉紋大澤と抱き茗荷紋大澤の関係

http://homepage2.nifty.com/babo/gyouyou_myouga.html 幾志(キシ)の推測ですが管理人さんの方位図から九州の熊本になる。

図添付

キシの地名はほぼ全国にある。古代に遡ると大阪府富田林市の喜志になる。

徐福と邪馬台国で説明している。茅渟(ちぬ)の道(古代の道)がある。黄泉側の岸(喜志) から葦原を通り、高天原にはいる古道。 <http://9127.teacup.com/19syoucha/bbs/131>

現在不明の熊本の幾志になる。熊本は方位図から。

キシの地名はほぼ全国にある。

幾志:兵庫県川辺郡猪名川町南田原 幾志:徳島県鳴門市大麻町大谷 幾志:広島県広島市安佐北区口田南 2丁目所在の山 岐志:福岡県糸島郡志摩町

喜志:大阪府富田林市

喜志:鹿児島県西之表市国上

貴志:兵庫県三田市

岸:埼玉県川越市

吉志:福岡県北九州市門司区

岸:神奈川県足柄上郡山北町

岸:東京都武蔵村山市

岸:静岡県島田市

Ads by Google

----- Re:出羽岸氏のルーツについて投稿者:空豆
投稿日:2012年7月28日(土)11時45分12秒 返信・引用

秦野北斗さんへのお返事です。 わざわざありがとうございます。

成る程、そういう事になりますか、 祖父の残した侍の着る袴に付いていたご紋が丸に違い鷹の羽でしたがそれが表なのか裏なのか分かりません。

ただその辺の岸は元々は幾志(キシ)という地名の所にいて、 鮭延氏に与力していた神田大館という館跡があるという事は分かっております。 薄々感じてはありましたが自分のやるべき事が分かりました、ありがとうございました。

----- Re:出羽岸氏のルーツについて投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012年7月28日(土)10時02分 39秒 返信・引用

> No.675[元記事へ] 空豆さんへのお返事です。 出羽地方で江戸末期に丸に違い鷹の羽紋の武家では、菊池の末裔の可能性が限界です。 先祖、奥さん、地域の情報が必要です。 理由は家紋には浦と表があります。また、血縁で家紋のデザインの融合が見られます。 以外ですが皇族との関係もありますよ。 余談ですが、岸は古く、堺の喜志は神代のものです。岸和田も同系? <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%96%9C%E5%BF%97%E9%A7%85>

> 管理人さま初めまして失礼させていただきます。 > 出羽地方で江戸末期に丸に違い鷹の羽紋の武家をやっていた岸氏のルーツ特定を模索している者です。

----- Re:出羽岸氏のルーツについて投稿者:管理人
人 投稿日:2012年7月27日(金)22時19分35秒 返信・引用 編集済

> No.675[元記事へ] 空豆さん、はじめまして。管理人です。

> 会員様の掲示板リンク先の紀氏様の旧掲示板の方にもキシ族にはお詳しいかと思い書き込ませて頂いたのですが、よく見直して見ますと特に掲示板2の方がイルミナティー云々等の何やら危険な感じのします工作員系(私のこれまでのネット経験では確かに自殺体仕立てあげ等も行うたちの悪い物騒な反日韓国工作員暴力団員系な感じですが...紀氏様はご無事なのでしょうか)の荒らしがひどくご放置状態のご様子ですので、こちらにもご投稿させて頂きました。

まー、工作員さんもキシさんを襲っても何の意味も見出せないでしょうし、もともとキシさんもああいいう方なので、まだご無事だと思います…。

家紋については、私も門外漢なので、専門の秦野さんにお任せいたします。今後ともよろしく お願いします。

----- Re:出羽岸氏のルーツについて投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012年7月27日(金)19時27分 18秒 返信・引用 編集済

> No.675[元記事へ] 空豆さんへのお返事です。

秦野北斗です。宜しく。 管理人さんに代わりお答え致します。

鷹の羽紋のどの辺りのルーツを特定するのですか。家紋は AD240 年ぐらいに基点がある。 管理人さんの渡来人が、もたらしたものです。渡来人はユダヤに成りますな。

出羽地方は BC200 年、AD600 までバックすれば、鷹の羽が理解できる。 江戸末期の出羽地方と九州が関係しているので、菊池の末裔の可能性はある。 菊池氏、源平の関係を解く必要がありますな。

永正十五年(1518)、大友氏を継いだ義鑑は、菊池氏重臣に迫って武包を追放させると、同 十七年、弟の重治を菊池に入れ肥後守護としてしまった。重治は隈府城に入ったが、やがて鹿子木親員、田島一族の支持を得て隈本城に落ち着いた。これは、菊池家中における実力者である隈部・赤星・城氏らを、重治が嫌った結果でもあった。かくして、肥後守護となった重治であったが、次第に大友宗家から自立する動きを見せはじめた。しかし、菊池氏の重臣らは義武に同調せず、追いつめられた義武は肥前の有馬氏を頼って 肥後から逃れ去った。肥後守護職は義鑑が補任されたが、その後も義武は相良氏や島津氏を 恃んで、義鑑との対立を続け隈本への復帰を画策した。そのようななかの天文十九年 (1547)、義鑑が二階崩れの変で横死すると、義武は鹿子木氏・田島氏らの協力を得て隈本 城に復帰した。一方、義鑑のあとを継いだ義鎮は家中の混乱を治めると、城氏、小代氏らの支持を得て、肥後に進攻すると翌年には肥後の中北部を征圧し、義武を隈本城から追い出した。 義武は相良晴広を頼ったが、義鎮は相良氏に働きかけて義武を豊後に呼び寄せ、天文二十三年(1544)、その途中で殺害した。ここにおいて、菊池氏は名実ともに滅亡したといえよう。ところで、宇土為光の謀叛によって肥後を逃れた能運は、妻子を弟重房に依頼して日向国 米良の山中に落した。米良に拠点をおいた幼主は成長ののち菊池姓を隠し、天姓米良と改め 米良石見守重次と称した。その後、米良の領主として戦国時代に身を処し、近世に生き残った。 子孫は表交代寄合の一家となり、代々、大名並の扱いを受け幕末に至った。、明治維新後、男爵を授けられ華族に列した。

http://www2.harimaya.com/sengoku/html/kikuti_k.html

> 管理人さま初めまして失礼させていただきます。 > 出羽地方で江戸末期に丸に違い鷹の羽紋の武家をやっていた岸氏のルーツ特定を模索している者です。・ > 何かお分かりでしたら是非お教え下さい、またここできいた方が良いという所がありまして是非お教え頂ければ幸いです。

----- 出羽岸氏のルーツについて投稿者:空豆 投稿日:2012年7月27日(金)09時49分55秒 返信引用

管理人さま初めまして失礼させていただきます。 出羽地方で江戸末期に丸に違い鷹の羽紋の武家をやっていた岸氏のルーツ特定を模索している者です。 会員様の掲示板リンク先の紀氏様の旧掲示板の方にもキシ族にはお詳しいかと思いきや、お返事いただきましたが、よく見直して見ますと特に掲示板2の方がイルミナティー云々等の、何やら危険な感じのします工作員系(私のこれまでのネット経験では確かに自殺体仕立てあげ等も行うたちの悪い物騒な反日韓国工作員暴力団員系な感じですが、...紀氏様はご無事なんでしょうか)の荒らしがひどくご放置状態のご様子ですので、こちらにもご投稿させていただきました。 何かお分かりでしたら是非お教え下さい、またここできいた方が良いという所がありまして是非お教え頂ければ幸いです。

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年7月26日(木)21時27分48秒 返信引用 編集済

> No.673[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 済州島を探ります。

古事記、国引き神話、倭国・日本国伝から呉越(紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年)の行方は会稽 東冶(上海:徐福と邪馬台国、参照)之東に同舟している。航路は季節と海流により韓半島南

のモッポと九州の佐賀、出雲に別れている。

古事記の記録、国生み神話では済州島は日本に成っている。越は韓半島南、呉は佐賀、出雲になる。ヤマタノオロチ(八岐大蛇)神話の意味は呉から見たもので、越の国(中国)の山岳に住み、盗賊(蛇頭)になる。これを日本側の読みでは、八岐大蛇=越の国の盗賊(蛇頭)になる。

粗筋は徐福の 1 回目の航海が BC210 年、2 回目佐賀に上陸 BC200 年になる。どうも 1 回目の 航海の船が奪われ、出雲を襲った模様。徐福は大鯨(ワニ)と言っている。ワニは出雲まで出雲の酒を盗みに 8 年近く来ていたのだろう。日本神話の八岐大蛇はササノオと日本軍(奴婢)がワニを撃退。その後ササノオは韓半島南部に上陸。大国主になる。大国主の領地は現在の北九州、出雲、モッポ(倭の奴国)、釜山、(邪馬台国=任那日本府)になる。アマテラスが欲しがるのが解りますな。

定説によれば、「わに」は、元来サメ類を指す名称であり、

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AF%E3%83%8B>

呉(ご、拼音:wú、紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年)は、中国の春秋時代に存在した君国の一つ。現在の蘇州周辺を支配した。君主の姓は姫。元の国号は句呉。日本人を「呉の太伯の子孫」
[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

『唐会要』倭国・日本国伝(神功皇后の三韓征伐の頃) 倭國東海嶼中野人。有耶古。波耶。多尼三國。皆附庸於倭。北限大海。西北接百濟。正北抵新羅。南與越州相接。

倭国は東海の小島の野人。耶古、波耶、多尼の三国がある。いずれも倭に従属している。北は大海が限界、西北は百濟と接し、正北は新羅と抵触、南は越州に相接する。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

国引き神話(白村江の戦い当時の神話) 新羅の岬→去豆の折絶から八穗爾支豆支の御埼(やほにきづきのみさき。)北門(きたと)の佐伎(さき)の国→多久の折絶から狭田(さだ)の国 北門の良波(よなみ)の国→宇波の折絶から闇見(くらみ)の国 越国の都都の岬→三穗埼

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E5%BC%95%E3%81%8D%E7%A5%9E%E8%A9%B1>

呉越同舟(ごえつどうしゅう)(紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年)

http://www.spc.jst.go.jp/enjoy/kotowaza/kotowaza_006.html

第5章 ヌナカワヒメとの恋 (BC180 頃) その後、オオクニヌシは、越の国の沼河

http://www15.plala.or.jp/kojiki/Okuninushi/okuninushi_05.html

Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿日:2012年7月25日(水)23時07分14秒 返信・引用 編集済

> No.672[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> ヨセフも人身売買の話になる。通貨が存在しなければ不可能です。 >

>> >彼らはヨセフを穴から引き上げ、銀二十シケルでヨセフをイシマエルびとに売った。 >

>>> 一つ気になるのは、話しの中に、人身売買が出てきます。これはユダヤの特徴で中国史 籍にもある。

確かに人身売買の記載は、ヨセフ物語と竇氏の伝承とを結びつける重要な要素といえそうですね。「穴から助けられる」と「人身売買」とが共通項になってます。

「少君は十あまりの家々をつぎつぎに転売され、宜陽(河南省宜陽県西)まで流れて来た。その主人の下では、(買われてきた)多数の少年たちが、山に入って炭をつくっていた。ある夜、あまりに寒いので、百人あまりの少年たちは崖下の穴で寝ていたところ、崖が崩れ、みな圧死してしまった。ただ少君一人だけが助かった。」

中東、中国では人身売買があったのでしょうか。だから転売の記載が出てくるわけですね。しかし倭にはあったかどうか、そういう習慣がなかったとすると、その部分が大国主や白兔の伝承では、違う要素と置き換えられたり、省かれた可能性を感じます。

大国主は、最初「奴隷」を意味する「袋を担ぐ人」と表現され、その後は穴から助かった後、逃げ延びてますね。

白兔は、卑賤な「袋を担ぐ人」が、後に八上姫を得て栄光に預かることを予言した。

奴隷制=人身売買と訳すると、倭にはしっかりした奴隷制の概念がなかったので、「卑賤な仕事をする人」という表現方法をとったのかもしれませんが。そうかんがえると、やはりかなりしっかりと旧約や竇氏の伝承あたりの元テキストを読んだ上で、倭人向けに翻訳した可能性も感じなくはないですね。

なんというか、あいまいな感じで省略されてないんです。そこそこのテキストを「翻訳」もしくは「伝承」したフシがある。どうでしょうか。

インターネット礼拝放映 - www.church.gr.jp/ ブログ・重荷をおろして更新中 メルマガで聖書の言葉も毎日配信 格安ホテルは【じゃらん】 - www.jalan.net 日本最大級の情報で あなたのワガママ きっと叶います!格安プランも満載。 うさぎの森 - www.usamori.com 日本初のアメリカンラビット専門店 3,500円以上、送料無料で! レジストリクリーナー - Systweak.com/Free-Scan 今日 PC をスピードアップ&最適化! マイクロソフト公認 無料スキャン 無料オンライン聖書講座 - sites.google.com/a/bbnmedia.org 聖書が教える神とは?救いとは? 修了証を発行します Ads by Google

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年7月25日(水)00時57分39秒 返信・引用 編集済

> No.671[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 ヨセフも人身売買の話になる。通貨が存在しなければ不可能です。 > 人身売買は、どこでも昔からありますから…。 ちょっと、軽く見ているのでは、…貨幣が存在したのですか。

鑄造貨幣は紀元前 7 世紀にリディア王国で作られたエレクトロン貨といわれている。また、中国では原始貨幣をかたどった鑄造貨幣が作られた(貝貨・刀貨・布貨)。金属は保存性・等質性・分割性・運搬性など貨幣としての必要な条件を満たしていることが普及につながった。古代エジプトでは鑄造貨幣は対外交渉の際の決済通貨として用いられる程度であり、本格的に鑄造貨幣が流入するのはアレクサンドロスによる征服以降であった。ローマ帝国は 兵士の給与に銀貨を大量に用いたため

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

%E8%B2%A8%E5%B9%A3#.E8.B2.A8.E5.B9.A3.E3.81.AE.E6.AD.B4.E5.8F.B2

>彼らはヨセフを穴から引き上げ、銀二十シケルでヨセフをイシマエルびとに売った。

>> 一つ気になるのは、話しの中に、人身売買が出てきます。これはユダヤの特徴で中国史籍 にもある。 >

> 神功皇后の三韓征伐の頃になるが、人身売買の記録がある。多分、ユダヤだろう。 >>

> 人身売買は、どこでも昔からありますから…。 >

Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿日:2012年7月24日(火)23時16分59秒 返信・引用 編集済

> No.670[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。 > BC170~180年ぐらいの話ですが、旧約伝承が大国主や白兔の伝承になる可能性がある

のか疑問です。伝承ルート、人の移動が明確でない。なぜ渡来人が来たか目的は…。

>> 渡来人は徐福伝説、呉越同舟、神功皇后の三韓征伐は明記されている。古事記の話しがヨセフの物語に成ったと言えませんか。

ヨセフの話は、いわゆる創世記なので、紀元前1000年以前の話で、古事記成立以前と感じます。

> 一つ気になるのは、話しの中に、人身売買が出てきます。これはユダヤの特徴で中国史籍にもある。 > 神功皇后の三韓征伐の頃になるが、人身売買の記録がある。多分、ユダヤだろう。 >

人身売買は、どこでも昔からありますから…。

それで、昨日最後の部分であいまいにしていた部分ですが、ヨセフが兄弟や父に渡す袋に杯を入れる件と、同じく彼らを救済するための食料を与えるシーンとが出てきます。くじ引きのようにして、杯の入った袋をもらった兄弟のうちの一人がヨセフのもとに残り、奴隷となる約束でした。

これが姉が少君に湯のみ道具で体を洗い食料を与えるシーンと対応してくるようです。

「少君はこたえた。 「姉さんが宮中に召される日に、伝舎(公務用の旅館)の中で、ぼくはお別れしました。最後に、姉さんは湯浴みの道具をお役人から借りて、ぼくの身体を洗ってくれました。食物ももらって、食べさせてくれました。それから、姉さんは旅立ったのです」

つまり、「杯」というのが、「湯のみ茶碗」に変化しているんです。そして両方に共通した要素として、食料を与えるという要素がでてくるんですね。「杯」の話は、月氏や秦韓関連の記載にしばしば出てきます。

これら旧約のヨセフ物語と、竇氏の伝承は、共通項が多いだけではなく、その順番も一緒なので、いよいよ相関性が高いと言えるでしょう。

おそらく、中国語に翻訳した旧約聖書を、竇氏が持っていた可能性を感じます。元は彼らが支配していた月氏のものだったのでしょう。

月氏は、ご存知のとおり、インドからアフガン経由で仏教を漢代に中国にもたらしめます。その際に、中東の宗教者と一緒に連れてきた可能性がたかいですね。

案内役は中東系のシルクロード商人だったでしょうから、彼らの伝承も仏教伝来の際にもたらされた。仏教自体、かなり中東宗教を含有してますから、その中にイスラエル・ユダヤ系の商人や遊牧民がいてもおかしくないでしょう。

そうして、月氏が仏教や中東の宗教を持ってきたので、結果として中国の高級貴族だった竇氏の元に、それらの西域系の伝承が混じってくる。その竇氏が、170年代に山東半島経由で都落ちして朝鮮・倭へと逃亡したので、大国主の話に、ヨセフ伝承や竇氏の伝承が混じってくるわけです。

大国主の伝承というのは、旧約聖書そのものを元テキストとして引用したのかどうか、そこが課題です。旧約に影響された竇氏屋月氏の伝承を元テキストにした可能性もありますね。その見極めが課題。

渡来の目的は、日本の場合、迫害逃亡とか離散のケースがどうも多いです。海を渡るほどの危険性を考えると、そうとう切羽詰まってきたかとなりますが、ただ天孫降臨として計画的にわたるケースもあります。最初の契機は大国主のスサノオからの逃亡、次の契機は天孫降臨による侵略、その辺が記紀神話に記されているのかも

しません。

Ads by Google

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月24日(火)08時25分9秒 返信引用 編集済

> No.669[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> やはりこの竇氏の伝承は、サカ・月氏からもたらされた旧約伝承をアレンジしたもので、それが、さらに大国主や白兔の伝承へと変化していったとみるべきでしょう。

BC170~180年ぐらいの話ですが、旧約伝承が大国主や白兔の伝承になる可能性があるのか疑問です。伝承ルート、人の移動が明確でない。なぜ渡来人が来たか目的は…。

また、渡来人が来たすら明確でない。唯一の可能性である徐福伝説、呉越同舟、神功皇后の三韓征伐の3点をあげるが反応がない。古事記、中国史籍に明記されているのに理解しようとしないのに大国主や白兔の伝承へと変化は考えにくい。

渡来人は徐福伝説、呉越同舟、神功皇后の三韓征伐は明記されている。古事記の話しがヨセフの物語に成ったと言えませんか。

一つ気になるのは、話しの中に、人身売買が出てきます。これはユダヤの特徴で中国史籍にもある。神功皇后の三韓征伐の頃になるが、人身売買の記録がある。多分、ユダヤだろう。

武帝時、頻來朝貢、至太康六年、為慕容廆所襲破、其王依慮自殺、子弟走保沃沮。帝為下詔曰：「夫餘王世守忠孝、為惡虜所滅、甚愍念之。若其遺類足以復國者、當為之方計、使得存立。」有司奏護東夷校尉鮮于嬰不救夫餘、失於機略。詔免嬰、以何龕代之。明年、夫餘後王依羅遣詣龕、求率見人還復舊國、仍請援。龕上列、遣督郵賈沈以兵送之。廆又要之於路、沈與戰、大敗之、廆眾退、羅得復國。爾後每為廆掠其種人、賣於中國。帝愍之、又發詔以官物贖還、下司、冀二州、禁市

夫餘之口。

武帝の時代、頻りに朝貢に訪れたが、太康六年(285年)、慕容廆(ぼようかい)によって扶余は全軍が撃破され、王の依慮(イロ)は自殺し、子弟は逃れて沃沮に保護された。皇帝は詔を発して「扶余王は代々忠孝を守り、悪賊によって滅ぼされたことは甚だ遺憾に思う。もし、遺された類族をもって国を復興するなら、それに助力をしてやり、存立できるようにしてやれ」と命じたが、司奏護の東夷校尉「鮮于嬰」が扶余の救援に向かわず、機略の好機を失したので、詔を以て嬰を罷免し、何龕(かずい)に代えた。翌年、扶余王を継いだ依羅(イリ)は遣使を龕に派遣し、復興のために故国に戻る救援を嘆願した。龕は兵を召集し、督郵の賈沈以にこれを送らせた。慕容廆は賈沈以の皇軍と戦うも、大敗して軍勢を撤退したので、依羅は復興が叶った。以後も慕容廆は毎度のように扶余人を拉致しては中國で売った。帝はこれを哀れに思い、また、詔を発して官物で彼らを買戻し、下司、冀の二州で扶余の生口(奴隷)の売買を禁じた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-fuyo-.htm>

人身売買の元祖はユダヤ?

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%BA%E8%BA%AB%E5%A3%B2%E8%B2%B7>

> 本当かどうかを、姉は弟に再確認しているんですね。これがヨセフの物語で、兄弟たちに何度も疑念を抱くかのようにして質問するシーンとかさねってきます。 >> その際に袋に入れた杯のシーン、兄弟や父を救済するための食料を与えるシーンとが出てきます。これが大国主が袋担がされていた件と関係してきます。

Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿日:2012年7月23日(月)23時08分59秒 返信引用 編集済

> No.668[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 兎は、かつてはこの門歯の特徴をもってネズミと同じ齧歯目の中に位置づけられていた。 >> 第4章セリビメ > オオクニが、原っぱに入ると、その回りに火を放ったのです。どこから逃げ出せばいいのか、オオクニシが迷っていると、一匹のねずみが地面の穴から出て来て、…

> どうも、大国主を救った一匹のねずみは因幡の白兔のようですな。 >

そうですね、ネズミとウサギとの関係は先のとおり重要です。

竇氏の伝承を再度見直しながら、大国主・旧約・ヨセフ物語との接点をさらに洗い出してみました。

まず、少君は幼少時に「誘拐」されて行方不明になってます。これがヨセフが行方不明になった点と共通しますね。

「竇皇后の兄は竇長君、弟は竇広国、字を少君という。少君の家は貧しかった。彼は四、五歳の 幼児のときに、誘拐されて行方知れずになった。」 <http://www.geocities.jp/wtbdh192/html/toukougou.html>

そして奴隷となって転々とする。穴の落ちて助かるのは、大国主・ヨセフと共通項。 ヨセフ物語。

<http://www.ne.jp/asahi/petros/izumi/2008msg/080420.html>

「少君は十あまりの家々をつぎつぎに転売され、宜陽(河南省宜陽県西)まで流れて来た。 その主人の下では、(買われてきた)多数の少年たちが、山に入って炭をつくっていた。 ある夜、あまりに寒いので、百人あまりの少年たちは崖下の穴で寝ていたところ、崖が崩れ、 みな圧死してしまった。ただ少君一人だけが助かった。」

さらに、占いをして、自身が王になることを予告しているのですが、これはヨセフが自分が見 た夢で、他の 11 人の兄弟が自分に仕えるようになる(高官となる)ことを、父や兄弟に解 き明かしたことと対応します。夢占いが卦と表現されているわけです。

「そこで、自分で占ってみると、『数日以内に、侯爵になれる』という卦(け)がでた。」

そして、シンデレラストーリーで少君は、王宮に入るのですが、離れ離れになった姉弟が対面 する感動シーンと、ヨセフが兄弟と対面するシーンと対応する件は以前指摘したとおりです。

桑の実を採ろうとして、から落ちる話がちょっと木になりますね。 似たような神話があったような…。

たとえばウサギがワニの背中から落ちるとか…。サルカニ合戦の類話に、木から落ちる

「かご」と、「穴」の話があります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%95%E3%82%8B%E3%81%8B%E3%81%AB%E5%90%88%E6%88%A6>

「それから、主人の家族にしたがって長安におもむいた。たまたま、ひとの噂に、今度、皇后に なった女性は、故郷は観津で、姓は竇だと聞いた。それは自分と同じなので、もしかしたら、宮 中にあがった姉ではないかと考えた。少君は、幼いときに攫われたけれど、生まれた県の名と 姓はおぼえていたからである。また、かつて姉といっしょに桑の実を採ろうとして、樹から落 ちたこともおぼえていた。そこで、そのことも書き記して竇皇后に上書した。」

それで、注目すべきは、姉が弟の体を洗っていることです。これが八百神がウサギの裸身に塩 水をかけたり、大国主がその後、それを癒す方法を授けたりするシーンと重なって着ます。

「竇皇后は夫の文帝に告げて許しを得ると、少君を宮中に召して尋ねた。少君が詳細にのべた 内容は、みな本当のことだった。 竇皇后はさらに尋ねた。 「ほかになにか覚えているかえ？」

少君はこたえた。 「姉さんが宮中に召される日に、伝舎(公務用の旅館)の中で、ぼくはお別れしました。最後

に、姉さんは湯浴みの道具をお役人から借りて、ぼくの身体を洗ってくれました。食物ももら って、食べさせてくれました。それから、姉さんは旅立ったのです」 竇皇后は、その話を聞いたとたん、弟のところへ走り寄り、かたく抱きしめ、大声をあげ て泣きだした。二人とも涙があふれてとまらない。左右に侍していたお付きの人びとも、皆も らい泣きして、床につっ伏していたのであった。」

本当かどうかを、姉は弟に再確認しているんですね。これがヨセフの物語で、兄弟たちに何度も疑念を抱くかのようにして質問するシーンとかさねってきます。

その際に袋に入れた杯のシーン、兄弟や父を救済するための食料を与えるシーンとが出てき ます。これが大国主が袋担がされていた件と関係してきます。

やはりこの竇氏の伝承は、サカ・月氏からもたらされた旧約伝承をアレンジしたもので、それが、さらに大国主や白兔の伝承へと変化していったとみるべきでしょう。

Ads by Google

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月23日(月)21時05分0秒 返信引用

> No.666[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

兎は、かつてはこの門歯の特徴をもってネズミと同じ齧歯目の中に位置づけられていた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%B5%E3%82%AE>

因幡の白兔 稲羽の素兎(いなばのしろうさぎ)は日本神話(古事記)に出てくるウサギのこと。このウサギの出
てくる物語の名として用いられることもある。『古事記』では「稲羽之素菟」と表記されている。一般に「因幡の白
兔」と表記される。

第4章スセリビメ オオクニが、原っぱに入ると、その回りに火を放ったのです。どこから逃げ出せばいいのか、
オオクニシが迷っていると、一匹のねずみが地面の穴から出て来て、

http://www15.plala.or.jp/kojiki/Okuninushi/okuninushi_04.html

どうも、大国主を救った一匹のねずみは因幡の白兔のようすな。

Ads by Google -----

Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年7月23日(月)07時09分44秒 返信引用

> No.666[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

イソップ童話の「ウサギとカメ」、因幡の白兔が元の可能性がある。

内容が通説と異なるが、古事記、日本書記の情景が言っている。年号は相当歪められているため、当てにならないのが現状。

卑弥呼が韓半島南部から奈良に来て、240年に死んでいます。その後を壺與(神功皇后)が継ぐ。神功皇后は
三韓征伐で韓半島南部へ行くと百済、新羅、高句麗、倭国の四国に成っていた。百済、三羽鷲が扶余を征圧し
ていた。もし、当時の匈奴の歴史を知りたければ欠史八代と匈奴の歴史をトレースすればよい。名前では不可
能で時間軸で探るのがよい。 秦野もトレースしましたが煙に巻かれました。恥ずかしいですな。

三羽鷲(ユダヤ、月氏、鮮卑)は匈奴に属し、当時の勢力域は韓半島から中央アジア、インド、エジプト、イスラ
エルに至り、ローマと国境を接していた。この情景が黙示録に描写されている。 最終はハルマゲドンでヨー
ロッパ、アフリカまで勢力域を拡大している。痕跡はヨーロッパの国旗、ユダヤ人の分布になる。

> 根之堅州國は、そうするとエジプト(デルタ三角州地帯)、その主がヨセフということで 落ち着きそうですね。

>> 旧約聖書には、詩篇 104 章 18 節、箴言 30 章 26 節などで、住処を岩の中に作る、知恵ある動物と
して、コニー (Coney) という名で登場している[2]。マルティン・ルターがこれをヘブライ語からドイツ語に
翻訳する際、ハイラックスをウサギと誤訳している[3]。

>> また、レビ記 11 章 5 節には、「これは反芻するが、蹄が割れても分かれてもいないから」食べ ても、死
体に触れてもいけない穢れた動物として、ウサギ、ラクダ等と共に出る。反芻動物で あると誤解されたのは「常
に口を動かしている為」か、「胃袋が反芻動物とよく似ているため」 と考えられる。 >> また、ウサギが知恵あ
る動物とみなす習慣が世界的に、特に中東にあったようですね。後代

のイソップ童話の「ウサギとカメ」の話も同類です。

> それで、ウサギはワニをだまして、向こう岸に渡ろうとする知恵を示すのですが、最後でし くじるわけですね。

>> それがシンデレラストーリーと重なりあって、ヨセフや竇氏、大国主の話ができあがってくる。

>> 非常に相関性の高い物語群だといえるでしょう。 古代史掲示板 渡来人研究会の古代史掲示板です。

Reload

投稿者 題名

内容 タグが利用可能です。(詳細) ファイル 1 ファイル 2

ファイル 3 アップロード可能な形式(各 1MB 以内): 画像(gif,png,jpg,bmp) 音楽(mmf,mld) 動画(amc,3gp,3g2) URL

[ケータイで使う] [BBS ティッカー] [書込み通知] [teacup.>歴史 | 画像] [検索] キーワード: 日本古代史 古代史 渡来人 -----

[PR] [teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット]

----- 全 644 件の内、新着の記事から 10 件ずつ表示します。 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 |《前のページ

| 次のページ》

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿日:2012 年 7 月 22 日(日)23 時 09 分 12 秒 返 信・引用 編集済

> No.665[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 稲羽之素菟(いなばのしろうさぎ)「根之堅州國(ねのかたすくに)の元瑞穂の者」 >> 稲羽の意味は根の国の 1 つ根之堅州國(ねのかたすくに)の國名 >

素菟=元瑞穂の者 > 稲羽之素菟=根之堅州國の元瑞穂の者 >>

根之堅州國は、そうするとエジプト(デルタ三角州地帯)、その主がヨセフということで落ち着きそうですね。

<http://www.ne.jp/asahi/petros/izumi/2008msg/080420.html>

ウサギというのは、旧約レビ記では、不浄な生き物らしいです。

旧約聖書には、詩篇 104 章 18 節、箴言 30 章 26 節などで、住处を岩の中に作る、知恵ある動物 として、コニー (Coney) という名で登場している[2]。マルティン・ルターがこれをヘブライ 語からドイツ語に翻訳する際、ハイラックスをウサギと誤訳している[3]。

また、レビ記 11 章 5 節には、「これは反芻するが、蹄が割れても分かれてもいないから」食べ

ても、死体に触れてもいけない穢れた動物として、ウサギ、ラクダ等と共に出る。反芻動物で あると誤解されたのは「常に口を動かしている為」か、「胃袋が反芻動物とよく似ているため」 と考えられる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%83%83%E3%82%AF%E3%82%B9>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%B5%E3%82%AE%E3%81%A8%E3%82%AB%E3%83%A1>

一方で旧約ではウサギを蔑視する。これが、また八百神のウサギに対する態度と関係しているかもしれません。

また、ウサギが知恵ある動物とみなす習慣が世界的に、特に中東にあったようです。後代 のイソップ童話の「ウサギとカメ」の話も同類です。

それで、ウサギはワニをだまして、向こう岸に渡ろうとする知恵を示すのですが、最後でしく じるわけですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%A0%E5%B9%A1%E3%81%AE%E7%99%BD%E5%85%8E>

最後に「兎が大穴牟遲神に畏み言うことには、「八十神は八上比売を決して得られない。袋を 背負っていても、あなた様が獲得なさる」と畏み申した。」

この部分は、大国主同様に、「袋」を背負わされた末弟・ヨセフの説話と関係してます。

なぜ裸のウサギが出てきたか?という部分について、おそらく兄弟神に着物を剥がれるという要素と、知恵がありながら蔑視されている生き物(つまり知恵ある憎らしい末弟・後の奴 隷)、この辺の要素がからみあっているんです。

それがシンデレラストーリーと重なりあって、ヨセフや竇氏、大国主の話ができあがってくる。

非常に相関性の高い物語群だといえるでしょう。

リクルート運営のパートナー紹介 - partner-channel.com/twincue スペックより価値観で選ぶパートナー 紹介サービス!まずは無料会員登録 中高年限定の結婚相談所 - senior.11-deai.com アイシニアは 50 才以上を対象にした 中高年専門のお見合い結婚相談所です 格安ホテルは【じゃらん】 - www.jalan.net

日本最大級の情報で あなたのワガママ きっと叶います!格安プランも満載。 お見合いパーティ開催中 - www.2400.co.jp シャンクレールは面倒な会員登録 不要!首都圏限定お見合いパーティ 《第 2 回 神南 CRUISE 開催決定》 - jinnan-cruise.jp 渋谷区神南を舞台としたおシャレ街コン。 2012 年 8 月 18 日(土)開催。参加者募集中! Ads by Google

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 7 月 22 日(日)16 時 30 分 19 秒 返 信引用

> No.664[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

だいぶ、イナバの白ウサギのイメージが変わりますな。

稲羽之素菟(いなばのしろうさぎ)「根之堅州國(ねのかたすくに)の元瑞穂の者」

稲:[名のり]ね、根の国(ねのくに) 羽:[接尾]助数詞。鳥やウサギを数えるのに用いる。「一」「二」

稲羽の意味は根の国の 1 つ根之堅州國(ねのかたすくに)の國名

素:[名のり]しろ・すなお・もと 兎:[補説]に擬して、一羽二羽とも数える。 兎(うさ:宇佐)で一羽二羽は鳥を数える。 鳥はアマテラス=瑞穂の関係者。きじ、もず、とび等がある。

素兎=元瑞穂の者

稲羽之素菟=根之堅州國の元瑞穂の者

Ads by Google

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 7 月 21 日(土)22 時 37 分 32 秒 返 信引用 編集済

> No.663[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> >『日本書紀』においては、本文でない一書にある「ヤマトノオロチ退治」の次がすぐ「大国主 の国づくり」の話となっている。

> イナバの白ウサギ >> オオクニヌシのたくさんの兄弟の神さまたちはみな、イナバ(因幡=現在の鳥取県東部)に住むたいへん美しいと評判のヤガミヒメ(八上比売)と結婚したがっていて、いっしょに 連れ立ってイナバへ行った時に、この神さまたちは、オオクニヌシにたくさんの荷物の袋を 背負わせ、家来(けらい)のようにして連

れて行きました。 >

白兎の話が、どこから来たが課題ですね。

先のとおり、大国主の「穴+迫害話」と、創世記のヨセフの「穴+迫害話」は、相関性があるの ですが、そうすると白兎の話にも相関性がある可能性があります。

具体的には、ヨセフは迫害時に着物を剥ぎ取られているんですね。それをヤギの血が浸して いる。

同様に白兎も、毛皮を剥ぎ取られています。そこに大国主がやってくる。主人公と被害者が 入れ替わっているのですが、元テキストは同じでしょう。

下記はその創世記です。

さて、ヨセフが兄弟たちのもとへ行くと、彼らはヨセフの着物、彼が着ていた長そでの着物を はぎとり、 彼を捕えて穴に投げ入れた。その穴はからで、その中に水はなかった。 こうして彼らはすわってパンを食べた。時に彼らが目をあげて見ると、イシマエルびとの隊 商が、らくだに香料と、乳香と、もつやくとを負わせてエジプトへ下り行こうとギレアデから やってきた。 そこでユダは兄弟たちに言った、「われわれが弟を殺し、その血を隠して何の益があろう。 さあ、われわれは彼をイシマエルびとに売ろう。彼はわれわれの兄弟、われわれの肉身だから、 彼に手を下してはならない」。兄弟たちはこれを聞き入れた。 時にミデアンびとの商人たちが通りかかったので、彼らはヨセフを穴から引き上げ、銀二十 シケルでヨセフをイシマエルびとに売った。彼らはヨセフをエジプトへ連れて行った。 さてルベンが穴に帰って見たが、ヨセフが穴の中にいなかったの、彼は衣服を裂き、兄弟たちのもとに帰って言った、「あの子はいない。ああ、わたしはどこへ行くことができよう」。彼らはヨセフの着物を取り、雄やぎを殺して、着物をその血に浸し、その長そでの着物を父に 持ち帰って言った、「わたしたちはこれを見つけましたが、これはあなたの子の着物か、どう か見さだめてください」。 父はこれを見さだめて言った、「わが子の着物だ。悪い獣が彼を食ったのだ。確かにヨセフは かみ裂かれたのだ」。そこでヤコブは衣服を裂き、荒布を腰にまとして、長い間その子のために嘆いた。子らと娘 らとは皆立って彼を慰めようとしたが、彼は慰められるのを拒んで言った、「いや、わたしは 嘆きながら陰府に下って、わが子のもとへ行こう」。こうして父は彼のために泣いた。て、かの ミデアンびとらはエジプトでパロの役人、侍衛長ポテバルにヨセフを売った。

> ヤガミヒメ(八上比売)を漢字を日本語で読むと、「ヤマタの姫」

>> 八:「ヤマタ」はヤマタノオロチ(八岐大蛇、八俣遠呂智、八俣遠呂知)は日本神話に登場 する >

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月21日(土)11時10分35秒 返 信・引用 編集済

> No.662[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> ちょっと神話伝承の世界は、時代と空間が、右往左往しすぎて、船酔いしそうな感じです。

大穴牟遲神(大国主神)の名前は由緒が有るんでしょうな。呉越同舟までバックでは右往左 往しますな。

少し定点をしぼり「イナバの白ウサギ」。注は現在の地名は該当しません、劇場は出雲、済州島、 韓半島南部(韓国)になる。BC170 ぐらい

『日本書紀』においては、本文でない一書にある「ヤマタノオロチ退治」の次がすぐ「大国主の 国づくり」の話となっている。

こんにちでは、「稻羽之素菟(いなばのしろうさぎ)」が「淤岐島(おきのしま)」から「稻羽 (いなば)」に渡ろうとして、「和邇(ワニ)」を並べてその背を渡ったが、「和邇」に毛皮を剥 ぎ取られて泣いていたところを「大穴牟遲神(大国主神)」に助けられる、という部分的な あらすじが広く親しまれている。

イナバの白ウサギ

オオクニヌシのたくさんの兄弟の神さまたちはみな、イナバ(因幡=現在の鳥取県東部)に 住むたいへん美しいと

評判のヤガミヒメ(八上比売)と結婚したがって、いっしょに連れ立ってイナバへ行った時に、この神さまたちは、オオクニヌシにたくさんの荷物の袋を背

負わせ、家来(けらい)のようにして連れて行きました。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/Okuninushi/okuninushi_02.html

因幡の白兔

稲羽の素兔(いなばのしろうさぎ)は日本神話(古事記)に出てくるウサギのこと。このウサギの出る物語の名として用いられることもある。『古事記』では「稲羽之素菟」と表記されている。一般に「因幡の白兔」と表記される。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%A0%E5%B9%A1%E3%81%AE%E7%99%BD%E5%85%8E>

ヤガミヒメ(八上比売)を漢字を日本語で読むと、「ヤマタの姫」 八:「ヤマタ」はヤマタノオロチ(八岐大蛇、八俣遠呂智、八俣遠呂知)は日本神話に登場する

る

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A4%E3%83%9E%E3%82%BF%E3%83%8E%E3%82%AA%E3%83%AD%E3%83%81>

上:自分または相手の目上の近親者に対する尊敬の意を表す。「父一様」「姉一」

稲羽の素兔(いなばのしろうさぎ)「根之堅州國(ねのかたすくに)の元瑞穂の者」

稻:[名のり]ね、根の国(ねのくに) 羽:[接尾]助数詞。鳥やウサギを数えるのに用いる。「一」「二」 素:[名のり]しろ・すなお・もと 兔:[補説]に擬して、一羽二羽とも数える。

濟州島「淤岐島(おきのしま)」
余談

著書:徐福と邪馬台国、徐福伝説の定説では濟州島に立寄っている。しかし、神話を読むと濟州島には立寄っていないのです。徐福と日本神話(校正中)で述べたい。神話の解説は濟州島がキーポイントになる。濟州島が「筑紫の宇佐」、日本書記の韓半島南部の筑紫、九州の筑紫、…。

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿
日:2012年7月20日(金)23時08分21秒 返信引用

> No.661[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 呉越春秋、辺りのと思われる。 >
- > 呉(ご、拼音:wú、紀元前 585年頃 - 紀元前 473年) >
- > ちなみに中国では日本人を「呉の太伯の子孫」とする説があり、それが日本にも伝えられて 林羅山などの儒学者に支持された。徳川光圀がこれを嘆いて歴史書編纂を志したのが『大日本史』執筆の動機だったといわれている。 > ちょっと神話伝承の世界は、時代と空間が、右往左往しすぎて、船酔いしそうな感じです。 もう少し定点を定めて議論したいところですね。

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年7月19日(木)23時14分51秒 返信引用

> No.660[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

呉越春秋、辺りのと思われる。

呉(ご、拼音:wú、紀元前 585年頃 - 紀元前 473年)

ちなみに中国では日本人を「呉の太伯の子孫」とする説があり、それが日本にも伝えられて 林羅山などの儒学者

に支持された。徳川光圀がこれを嘆いて歴史書編纂を志したのが『大日本 史』執筆の動機だったといわれている。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

- > そこにまた碧浪国の姫が出てくるわけですね。倭の可能性が有りますね。 >
- > 毛皮の世界から、文化的な人間世界への移行が暗に示されている点が面白いですね。 >
- > 農耕民からみた視点の神話を有しているのは、農耕民系の支配者が入ってきたせいでしょう。 >> この神話の元テキストは案外中国系かもしれませんね。魏志みたいな…。

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人
投稿日:2012年7月18日(水)22時57分42秒 返信引用

> No.659[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 濟州島の神話 > 濟州島には昔、人が住んでいなかった。ところがある > 日、高氏、梁氏、夫氏という3人の神が地面から忽然と > 姿をあらわしたのである。3人の神は獣皮でできた服を > 着て、肉を食べ、狩猟を行った。その3人の神はやがて

> 碧浪国から訪れた3人の王女と結婚し、農耕、牧畜を > 始め、ついに人間世界を作り出したのだった。 >

国海という点では、山幸神話より、イザナギ神話のほうが近いような気がしますね。

旧約でいれば創世記にあたる部分ですね。

創世記だと、もともと人間はいなくて、アダムの骨からイブを作り出して、2人から人類が開始。

3人というのが、確かに島の勢力分布図に関係していると見て間違いないでしょう。高氏は高句麗系、梁氏は山東系とすると、残りの夫氏は、百済・夫余系という意味でしょうか。そこにまた碧浪国の姫が出てくるわけですね。倭の可能性が有りますね。毛皮の世界から、文化的な人間世界への移行が暗に示されている点が面白いですね。農耕民からみた視点の神話を有しているのは、農耕民系の支配者が入ってきたせいでしょう。この神話の元テキストは案外中国系かもしれませんね。魏志みたいな…。

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月18日(水)08時24分7秒 返信引用 編集済

> No.658[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

濟州島の神話と海幸と山幸の共通点から古事記の第5話 海幸と山幸、第3話 オオクニヌシ多分、同一と思われる。統率者の系統、伝承でしょうな。

海幸と山幸は神武天皇(アマテラス)、オオクニヌシは大国主(スサノオ)。

竇氏の「穴」伝承も、「他の埋もれた百人」、ヨセフの話では、「11人の兄弟とその迫害」を結び付けると、「地面から忽然と姿をあらわしたのである。」の項になる。しかし、年代が合わない。

始皇帝の年代より以前になり、長城の建設で「他の埋もれた百人」と同様の事件があったみたいですね。船で脱出、濟州島が話しのようなですな。「11人の兄弟とその迫害」は対象にならない。

第5章 エピローグの高千穂(たかちほ)の宮に580年の場所、年代は特定している。現在の高千穂とは違っている。また、580年も神武から韓半島の統治を失った年代になる。こうして、ヤマサチヒコ(ホオリノミコト。別名=アマツヒコヒコホデミノミコト。天日高日子穗穗出見命)は、高千穂(たかちほ)の宮に580年の間お住みになりました。そのお墓は、高千穂の山の西にあります。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/umisachi_yamasachi/umisachi_yamasachi_05.html

海幸と山幸

兄のホデリノミコトは、ウミサチヒコ(海幸彦)という名前で
弟のホオリノミコトは、ヤマサチヒコ(山幸彦)という名前で、

ワタツミノカミの娘のトヨタマヒメ(豊玉比売)

「わたしが、この船を押し流し、しばらくすると海の上に潮(しお)の流れる道が現れます。その道を進んで行くと、魚のうろこのように造られた宮殿にたどりつきます。それは、ワタツ ミノカミ(綿津見之神。海を支配する神)の宮殿です。その宮殿の門まで行くと、そばの井戸 の近くに神聖な桂(かつら)の木があります。あなたは、その木の上に座っていれば、ワタツ ミノカミの娘がそれを見て、何かよいことを考えてくれるはずです。」

濟州島の神話

濟州島には昔、人が住んでいなかった。ところがある
日、高氏、梁氏、夫氏という3人の神が地面から忽然と

姿をあらわしたのである。3人の神は獣皮でできた服を
着て、肉を食べ、狩猟を行った。その3人の神はやがて
碧浪国から訪れた3人の王女と結婚し、農耕、牧畜を
始め、ついに人間世界を作り出したのだった。

高氏、梁氏、夫氏という3人の神 = 山幸

碧浪国から訪れた3人の王女 = トヨタマヒメ(豊玉比売)

余談ですが、魏志倭人伝の行程が理解できると古事記、日本の古代史が簡単に読めますな。 濟州島は国生みで訪れている。なんと、当時、島には4国あった。 濟州島の神話は 3国、1国は宇佐のようだな。難解でしょうな。

濟州島の神話は 3国

白日別(しらひわけ)

豊日別(とよひわけ)

建日別(たけひわけ)

1国は宇佐 建日向日豊久土比泥別(たけひむかひとよじひねわけ)

どうも、添付図が大国主の穴でないか、濟州島の観光スポット
でかいな、どんなネズミが居たのか？

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿

日:2012年7月17日(火)22時54分0秒 返信引用

> No.657[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

出張から戻りました。

- > 日本神話のを見直すとどうも、大陸規模になる。
- > また、大国主は濟州島を舞台にしているが、もとは何か探すと?。 >>
- > 大穴牟遲神の穴は濟州島の三姓穴でないか?。 >
- > 濟州島には昔、人が住んでいなかった。ところがある日、3人の神が地面から忽然と姿をあらわしたのである。 > このとき3人の神が湧き出てきたとされる3つの穴が、現在の濟州島濟州市二徒1洞に位置する「三姓穴(別名、毛興穴)」である。3人の神はそれぞれ高乙那、梁乙那、夫乙那という 名前を持ち、獣皮の服を着て、狩猟生活を > して肉を食べたといわれる。 >

世界中に「穴」の話はあまたありますから、問題はその「穴」伝承の種類や用法ですね。

大穴牟遲神の「穴」伝承は、「八百神・兄弟からの迫害」と関係してます。 同様に先の竇氏の「穴」伝承も、「他の埋もれた百人」 ヨセフの話では、「11人の兄弟とその迫害」

これらは、共通項を多く持っているわけです。ただ単に「穴」だということではないんですね。 おそらくこれらの伝承の背景には、ある共通した「元テキスト」が存在するんです。

もうひとつ3つの伝承に共通した要素としては、「一番下っ端、つまり奴隷」ということです ね。

奴隷が、ある日突然、王宮に召されるんです。シンデレラストーリーなわけですが、それが一 種の感動をもたらす。そうすると、強いインパクトで、後世へと伝承が引き継がれることにな ったのでしょう。

「元テキスト」とその構造、インパクト…その辺の洗い出しから合理的に洗い出して作業 が必要です。

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月17日(火)14時56分10秒 返 信・引用

> No.656[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

第5話 海幸と山幸

http://www15.plala.or.jp/kojiki/umisachi_yamasachi/umisachi_yamasachi_01.html

日本神話のを見直すとどうも、大陸規模になる。

また、大国主は済州島を舞台にしているが、もとは何か探すと？。

済州島の神話

http://www.koparis.com/~hatta/special/special_001_02.htm

大穴牟遲神の穴は済州島の三姓穴でないか？。

済州島には昔、人が住んでいなかった。ところがある日、3人の神が地面から忽然と姿をあらわしたのである。このとき3人の神が湧き出てきたとされる3つの穴が、現在の済州島済州市二徒1洞に位置する「三姓穴(別名、毛興穴)」である。3人の神はそれぞれ高乙那、梁乙那、夫乙那という 名前を持ち、獣皮の服を着て、狩猟生活をして肉を食べたといわれる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%88%E5%B7%9E%E5%B3%B6#.E8.80.BD.E7.BE.85.E5.9B.BD.E4.B8.89.E5.A7.93.E7.A5.9E.E8.A9.B1>

海幸と山幸は海洋国家、大陸国家に相当すると考えられる。 海洋国家:アトランティス

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%B7%E6%B4%8B%E5%9B%BD%E5%AE%B6> 大陸国家:クルガン
仮説 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E9%99%B8%E5%9B%BD%E5%AE%B6>

クルガン仮説

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%AB%E3%82%AC%E3%83%B3%E4%BB%E8%AA%AC#.E3.82.AF.E3.83.AB.E3.82.AC.E3.83.B3.E6.96.87.E5.8C.96.E3.81.AE.E6.8B.A1.E5.A4.A7.E6.AE.B5.E9.9A.8E>

アトランティス

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B9>

----- 以上は、新着順1番目から10番目までの記事です。12345678910 | 前のページ |

次のページ》

/65 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] RSS

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿日:2012年7月13日(金)22時59分48秒 返信・引用 編集済

> No.655[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>> ヨセフの話、光武帝等の話しは現在の日本の歴史では夢ですな。 > 現在でも外国の神話を自国の神話になどできないのが現実。 > 明治にやっと世界に出た事になっている。

まー、そういってしまうと、邪馬台国の話もそうなんですが、時間がさかのぼるほど、また距離が遠くなるほど、証明が難しくなりますね。

それでも、方位ラインのような厳密な精度でなされたものを見つければ、証明へ近づけます。新羅に入ったローマ系の金銅製品の系譜解明あたりが、中東・西欧世界と日本とのつながりを証明する上で、一番たやすいのではないのでしょうか。二番目が月氏・スキタイ系のクルガン墓ですね。

これらの流れが理解される時代になれば、旧約・新約世界との関係も徐々に見えてくるでしょう。時間がかかると思います。

> 伊勢神宮外宮の風宮をギリシャの神と結び付けている人がいましたな。

- > 実のところは、台風で神功皇后の三韓征伐の神。
- > 級長戸辺命も諱(いみな)でしょうな。 >
- > 伊勢神宮外宮 別宮・風宮(かぜのみや)
- > 級長津彦命(しなつひこのみこと)・級長戸辺命(しなとべのみこと)の風神を御祀りしている >
風神の話も有名ですね。

あと、明日から17日まで出張で留守にします。また18日ごろ書き込みます。しばしお休みください。

ネットショップの始め方 - allabout.co.jp 手順・費用等、オープンまでの流れを紹介。今なら、開業ガイドブック無料 全国霊能者情報 口コミなど - att7.jp 国内最大級の霊的知識集合体 全国の霊能者情報をリストアップ 中高年のお見合パーティー - www.kekkon-ouen.net 安心の結婚相談所主催! 中高年対応のお見合パーティー詳細資料が無料 わずか 1分、SEO 対策費見積 - www.seohikaku.net SEO 対策に強い大手 23社へ無料見積り まずは SEO 費用を知ろう。 結婚相談所人気の 10社を比較 - kekkonsoudanjo-ex.jp 結婚相談所に入会するその前に 結婚相談所人気 10社 失敗しない選び方 Ads by Google

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年7月13日(金)06時01分41秒 返信・引用 編集済

> No.654[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

ヨセフの話、光武帝等の話しは現在の日本の歴史では夢ですな。
現在でも外国の神話を自国の神話になどできないのが現実。
明治にやっと世界に出た事になっている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%8E%E6%B2%BB>

現在より言葉が通じ、交易が出来れば可能でしょうな。すべて考え過ぎ？。

伊勢神宮外宮の風宮をギリシャの神と結び付けている人がいましたな。

実のところは、台風で神功皇后の三韓征伐の神。

級長戸辺命も諱(いみな)でしょうな。

伊勢神宮外宮 別宮・風宮(かぜのみや) 級長津彦命(しなつひこのみこと)・級長戸辺命(しなとべのみこと)の風神を御祀りしている

<http://k-kabegami.com/isejinguhanasyobu/14.html>

どう、魏志倭人伝。古代の日本を読み解くかですな。

風宮。>> スサノオ神話でもそうですが、「迫害されて穴に落ちる」と「逃亡→新天地」というのがひとつのキーワードになってますね。 >> ヨセフの話では、迫害主は「11人の兄弟」。大国主では同じく兄弟たる「八百神」となるわけですが、その中間点に位置するのが、竇氏の伝承と言えるでしょう。ここに「百人」が出てきてます。 >>>「竇皇后の兄は竇長君、弟は竇広国、字を少君という。少君の家は貧しかった。彼は四、五歳の幼児のときに、誘拐されて行方知れずになった。 > 少君は十あまりの家々をつぎつぎに転売され、宜陽(河南省宜陽県西)まで流れて来た。 その主人の下では、(買われてきた)多数の少年たちが、山に入って炭をつくっていた。 > ある夜、あまりに寒いので、百人あまりの少年たちは崖下の穴で寝ていたところ、崖が崩れ、みな圧死してしまった。ただ少君一人だけが助かった。そこで、自分で占ってみると、 >『数日内に、侯爵になれる』という卦(け)がでた。」 >

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿
日:2012年7月12日(木)23時16分3秒 返信 引用 編集済

> No.652[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 古事記、スセリビメの場面は、スサノオは済州島に居たことになっている。 >> その後、大国主は韓半島南部、ヌナカワヒメとの恋 … >

スサノオ神話でもそうですが、「迫害されて穴に落ちる」と「逃亡→新天地」というのがひとつのキーワードになってますね。

ヨセフの話では、迫害主は「11人の兄弟」。大国主では同じく兄弟たる「八百神」となるわけですが、その中間点に位置するのが、竇氏の伝承と言えるでしょう。ここに「百人」が出てきてます。

「竇皇后の兄は竇長君、弟は竇広国、字を少君という。少君の家は貧しかった。彼は四、五歳の幼児のときに、誘拐されて行方知れずになった。 少君は十あまりの家々をつぎつぎに転売され、宜陽(河南省宜陽県西)まで流れて来た。 その主人の下では、(買われてきた)多数の少年たちが、山に入って炭をつくっていた。 ある夜、あまりに寒いので、百人あまりの少年たちは崖下の穴で寝ていたところ、崖が崩れ、 みな圧死してしまった。ただ少君一人だけが助かった。そこで、自分で占ってみると、 『数日内に、侯爵になれる』という卦(け)がでた。」

宜陽は光武帝の基盤となった地域のように、ここに流れてきた「集団」には、それなりの意図があったのでしょいうね。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E9%99%BD%E5%B8%82_\(%E6%B2%B3%E5%8D%97%E7%9C%81\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E9%99%BD%E5%B8%82_(%E6%B2%B3%E5%8D%97%E7%9C%81))

> 大国主は多くの別名を持つ。これは神徳の高さを現すと説明されるが、元々別の神であった神々を統合したためともされる。 >> 大国主神(おおくにぬしのかみ) - 大国を治める帝王の意

> 大穴牟遲神(おおなむち)・大穴持命(おおあなもち)・大己貴命(おほなむち) - 大国主の若い頃の名前 > 大汝命(おほなむち)-『播磨国風土記』での呼称 > 大名持神(おおなもち)

> 八千矛神(やちほこ) - 矛は武力の象徴で、武神としての性格を表す > 葦原醜男・葦原色許男神(あしはらしこ

を) -「しこを」は強い男の意で、武神としての性

格を表

「色許・シコ」は、先の物部系の 2 人の后妃(孝元・開化)に見える「ウツシコ・イカガシコ」との関係で捉えるべきでしょう。

やはり孝霊・孝元あたりが、大国主の原型と見ることもできそうです。もちろん、もっと前か らヨセフや出エジプト神話のような逃亡伝承はあるんですが、そこに複数の実在した人物が 重なることで、微妙に物語と主人公が変化していくのでしょうか。

170 年の政変で敗れた竇氏と配下の月氏が、山東・遼東の交易ルートを伝って、一気に倭ま で逃げ込んだ、その迫害から逃亡までの流れが、どこかしらスサノオ・オオクニヌシの話に 反映しているのではないのでしょうか。

相当なスピードで、一気に月氏集団が移動したので、突然月氏・サカ系のクルガン幕が奈 良・九州に出現するわけですね。スサノオ・八百神が追いつけない土地、それが倭だったの でしょうか。

一緒に来たのが、ウツシコ、イカガシコの母子と物部一匠集団ということなのかな。

葦原醜男・葦原色許男神(あしはらしこを) の「葦原」は「葦原中国」のことなのでしょうけど、鬱色許・伊香賀色許との関係で、「芦原」と「鬱・伊香賀」は、どういう対応関係にあるかが

気になるところです。

それで話は飛んで、卑弥呼が祀っていた「鬼神」というのが、どうも越の信仰によるもので、文帝・武低あたりの祭祀と関係しているようなんですね。「天地鬼神」。

「冬十月、天子は諸侯が献上のためにあつまったときに、くりかえし以前の命令を発した。

朕は徳が寡いながらも、天序を継承し、わが祖宗の大事業を嗣ぐことができた。

...

宗廟の恥辱をすすぎ、庶民の難儀を救った。地方を掃討して、呉・会稽に威信を及ぼし、ついに武器を収めて、我が領土を安んじ、天地の鬼神でさえも、捕獲できないものはない。 さきの王室の難儀では、身近で事変が起こったが、公の霊威に頼って、難事をおさめた。 宗廟は危険にさらされながらも安定することができ、社稷は墜落しながらもふたたび安 寧となった。

忠義は皇天を正し、功績は天地四方を救った。」

http://www.geocities.jp/ymsksi/sin/_tXk_bou.htm

「越人の風俗は鬼を信じます。その祠には必ず鬼があらわれて、しばしば効験をしめします。 むかし、東甌王は鬼を尊敬しましたので、百六十歳にもいたる長寿をたもちましたが、その後 世子孫は、鬼に対する祠りを怠ったために衰微したのです」

そこで、武帝は越の巫に命じて、越式の祝祠を建立させた。それは台を設けただけのもの で壇はなく、また、天神・上帝・百鬼をまつり、鶏骨をもちいてトうのであった。武帝はこれ を信じたので、それからは越式の祠や鶏骨のトがおこなわれるようになった。」 <http://www.geocities.jp/hanxiaowudi/64.html>

桃太郎もそうですが、「鬼」という概念は中国的なんじゃないでしょうか。それを祀っていた 卑弥呼は、何者だったのか?その辺が気になる場所ですね。

----- 古田武彦氏の講演会投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 7 月 12 日(木)20 時 04 分 34 秒 返信引用

邪馬台国論争 そろそろ終止符を打つべきです。 邪馬台国は魏志倭人伝、中国史籍から奈良の大和三山、畝傍山になる。 邪馬台国の建物は現在に残されている。伊勢神宮の内宮そのものになる。 卑弥呼の墓は耳成り山、円墳になっている。伊勢神宮のカゴメ紋は存在する。 親魏倭王の金印は、耳成り山、または伊勢神宮にあると思われる。 秦野の感想だが、やたらと、古田氏は九州にこだわり、まともに内容を理解せず発表している。 九

州王朝なぞ古事記を正しく読めば存在しないこと明らかである。早くきずいてもらいたい。秦野著書:徐福と邪馬台国に魏志倭人伝の行程、韓半島を説明 魏志倭人伝の質問をすればどんな説明をするか…興味のある方は、たぶん総崩れでしょう。

■ 愛知サマーセミナー 2012 ■

1 日 時 : 2012 年 7 月 15 日(日) 13 時 10 分~16 時 10 分 2 場 所 : 愛知東邦高校 B 棟 2 階 B 101 名古屋市名東区平和が丘 3 丁目 11 番地 地下鉄「一社駅」徒歩 12 分

3 演 題 : 「真実の学問とは何か ~「邪馬台国」と「九州王朝」論 ~

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 7 月 11 日(水)23 時 45 分 45 秒 返 信・引用 編集済

> No.651[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

劉武(りゅう ぶ、?-紀元前 144 年)は、前漢の皇族。文帝の子で景帝の同母弟。

この頃は遼東は燕の領地に成っていた。

劉武から見れば遼東は偏狭の地で問題視されていなかったが現実です。

古事記、スセリビメの場面は、スサノオは済州島に居たことになっている。

その後、大国主は韓半島南部、ヌナカワヒメとの恋…

倭奴国を支配下に置く。その後、国譲りとなる。

天武天皇の命で稗田阿礼が古事記の部分に入れたとなれば話はかりかいできる。? ただし、年代は BC170 年ぐらいの話になる。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/Okuninushi/okuninushi_01.html

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_01.html

大国主の話と年代で数十年の差で桃太郎の話がある。桃太郎の話はアマテラスの天岩戸、事件後の話になる。

内容は単純で伝承になる。秦野は大国主の話は伝承にあたると考える。

良く似た伝承、むかし話があれば劉武であるか?確認できる。

大国主は多くの別名を持つ。これは神徳の高さを現すと説明されるが、元々別の神であった 神々を統合したためともされる。

大国主神(おおくにぬしのかみ) - 大国を治める帝王の意 大穴牟遲神(おおなむぢ)・大穴持命(おおあなもち)・大己貴命(おほなむち) - 大国 主の若い頃の名前 大汝命(おほなむち)-『播磨国風土記』での呼称 大名持神(おおなもち) 八千矛神(やちほこ) - 矛は武力の象徴で、武神としての性格を表す 葦原醜男・葦原色許男神(あしはらしこを) - 「しこを」は強い男の意で、武神としての性格 を表す 大物主神(おおものぬし) 大國魂大神(おほくにたま) 顕国玉神・宇都志国玉神(うつしくにたま) 国作大己貴命(くにつくりおほなむち)・伊和大神(いわおほかみ)伊和神社主神 -『播磨 国風土記』での呼称 所造天下大神(あめのしたつくらしおほかみ)-『出雲国風土記』における尊称 幽冥主宰大神 (かくりごとしろしめすおおかみ)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%9B%BD%E4%B8%BB>

大国主の妻、須世理姫(スセリビメ)の名は諱(いみな)に成っている。諱に何故かイザナミ が出てくる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%82%BB%E3%83%AA%E3%83%93%E3%83%A1>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AB%B1>

>>『通典』邊防 >

>> 元封三年(前 108 年)、樓船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、楽浪、玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、楽浪と玄菟に併合した。

>

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 7 月 11 日(水)23 時 04 分 32 秒 返信引用 編集済

> No.650[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 武帝(ぶてい、紀元前 156 年 8 月 10 日 - 紀元前 87 年 3 月 29 日)>> かつて匈奴に敗れて西へ落ちていった大月氏へ張騫を派遣する。大月氏との同盟で匈奴の挟撃を狙ったが、同盟は失敗に終わった。しかし張騫の旅行によりそれまで漠然としていた北西部の情勢がはっきりとわかるようになった事が後の対匈奴戦に大きく影響した。 >

先の竇皇后と弟・竇少君の穴伝承と、大穴牟遲の「穴」伝承の関連ですが、「少君」を「少名彦」とすると、「大穴牟遲」は兄の「長君」で大きい君の意味になるでしょうか。

あるいは「字」もしくは「姓」が「穴+牟遅」という推理がなりたちます。「穴=竇」ですから、「竇+牟遅」という人物が周囲に出てくるとよいわけです。

竇皇后の末っ子に「劉武(ム)」がいますね。当時かなりの勢力を誇っていたようです。「大 国」を領有する=「大國主」か？

「梁王は皇太后の産んだ末っ子であることから愛されており、下賜は莫大であった。また景帝 にとって最も親しく、功績もあり、豊かな大國を領有していた。梁王は大きな苑を作り、城を 拡張して宮殿を造った。また、天子の旗を賜り、車千台に騎兵一万人を従え、先払いを出すなど、天子に匹敵する態度であった。また羊勝・公孫詭・鄒陽といった各地の豪傑や遊説の徒

を招き、武器や弩を数十万制作し、膨大な金銭を蔵し、宝物は首都よりも多かった。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8A%89%E6%AD%A6>

その梁王国というのも、やはり河南省の一番東側で山東半島に近いところにあります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B2%B3%E5%8D%97%E7%9C%81>

どうもこの辺の地域が、当時もっとも文化的に栄えていたと考えてよいでしょう。

「そのとき、竇氏が産んだ男児がもっとも年長だったので、太子とした。娘の嫫を長公主(の ちの館陶公主。文帝の孫の武帝を皇帝にたてるとき、力を尽くすことになる)とした。その翌年、竇氏の末っ子の劉武を代王に封じた。そのあと梁国にうつして、梁の孝王とした。」

「代王(国)」というのは、山西省東部で山東半島に近いところです。匈奴とも接していた。

この代国と、長安や西域との間を、何度も当時の皇帝や外戚、竇氏などが行き来しているのが 気になります。月氏とのかかわりを感じるんですね。

代王が文帝となり、その子が景帝。そして武帝へとつながるわけですね。 >『通典』邊防

> 元封三年(前 108 年)、樓船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は 遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、楽浪、玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、楽浪と玄菟に併合した。

結局、武帝の時代になると、先の代国・梁国の東部から、さらに山東半島、そして海を渡って 遼東半島へと勢力を伸ばしていくんですね。当然、月氏の製鉄や各種技術者・商人も移動していく。月氏移動の時代的な流れはこんな感じではないでしょうか。

> フン族は匈奴に属するとの事なので大月氏の領地は匈奴内。 >> 大月氏は弓月君で入っている。管理人さん詳しい所を知りませんか。 >

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月11日(水)08時02分25秒 返信引用 編集済

> No.649[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 竇太后の勢力が武帝を擁立してますね。武帝が月氏と同盟を結ぼうと考えた背景に、ある いは月氏と深いつながりをもっていた竇氏の影響を考慮すべきかもしれません。BC 200年 ごろには、中国・半島西部方面に存在していた秦・商人ネットワークとかかわっていたかも かもしれません。

少し、武帝と大月氏、匈奴について説明します。対匈奴戦に大きく影響した…。

武帝(ぶてい、紀元前 156年 8月 10日 - 紀元前 87年 3月 29日)

かつて匈奴に敗れて西へ落ちていった大月氏へ張騫を派遣する。大月氏との同盟で匈奴の挟撃を狙ったが、同盟は失敗に終わった。しかし張騫の旅行によりそれまで漠然としていた北西部の情勢がはっきりとわかるようになった事が後の対匈奴戦に大きく影響した。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%B8%9D_\(%E6%BC%A2\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%B8%9D_(%E6%BC%A2))

『通典』邊防 武帝元封三年、遣樓船將軍楊僕從齊浮渤海、兵五萬、左將軍荀彘出遼東、討之。朝鮮人相與殺王右渠來降。遂以朝鮮為真蕃、臨屯、樂浪、玄菟四郡。今悉為東夷之地。昭帝時罷臨屯、真蕃以并樂浪、玄菟。

元封三年(前 108年)、樓船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、樂浪、

玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、樂浪と玄菟に併合した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm> 武帝は元封三年(前 108年)に韓半島を攻撃して朝鮮を真蕃、臨屯、樂浪、玄菟の四郡にして

いる。韓半島南部の住人がどうも大月氏で、武帝により大月氏は西域に追いやられた。

文章、「この時の大月氏王はかつて匈奴に殺された先代王の夫人で…」の匈奴は武帝でないか。秦野は匈奴と大月氏は親戚関係にあると見ている。

訂正すると

一方、前漢では日々匈奴の侵入に悩まされていたため、遂に西方の月氏と共同で匈奴を撃つべく、武帝(在位:前 141年 - 前 87年)の時代に張騫を使者とした使節団を西域に派遣した。張騫は匈奴に捕われるなどして10年以上かけ、西域の大宛、康居を経て、ようやく大月氏国にたどり着いた。この時の大月氏王はかつて「武帝」に殺された先代王の夫人で、女王であつた。大月氏女王は張騫の要件を聞いたが、すでに復讐の心は無く、国家は安泰しており、漢が遠い国であるため、同盟を組むことはなかった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%88%E6%B0%8F>

フン族は匈奴に属するとの事なので大月氏の領地は匈奴内。

大月氏は弓月君で入っている。管理人さん詳しい所を知りませんか。

図は鮮卑になるが詳しい事は鮮卑の皇女、卑弥呼に聞くしかないな。
卑弥呼は匈奴、鮮卑の歴史を邪馬台国、身近に祀り記録を残した。
陳寿の魏志倭人伝で主要の航路と古道が明確になる。徐福と邪馬台国参照。

どうも、九州の菊池が大月氏=弓月君に成りそうだ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8F%8A%E6%B1%A0%E6%B0%8F>

Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿日:2012年7月10日(火)23時20分55秒 返信・引用 編集済

> No.647[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 大穴牟遲神(おおなむち)・大穴持命(おおあなもち)・大己貴命(おほなむち) - 大 国主の若い頃の名前 >

- > 大国主は BC180 ごろの話し、と思われるな。
>
- > 意味は大穴牟遲神・大穴持命(おおあなもち) >
- > 牟遲=持=もち、で同じ言葉だな。神話どうりのお名前です。 >

どうも竇氏自体は前漢の武帝の時代には、すでに外戚の地位にあったようです。

<http://www1.kcn.ne.jp/~ssumika/siki/honki02.html>

竇太后の勢力が武帝を擁立してますね。武帝が月氏と同盟を結ぼうと考えた背景に、あるいは月氏と深いつながりをもっていた竇氏の影響を考慮すべきかもしれません。BC 200 年ごろには、中国・半島西部方面に存在していた秦・商人ネットワークとかかわっていたかもしれません。

> 今度は、音の鳴りひびく矢を広い野原の中にはなち、それをオオクニヌシに探してこいと 命令しました。オオクニが、原っぱに入ると、その回りに火を放ったのです。どこから逃げ出せばいいのか、オオクニシが迷っていると、一匹のねずみが地面の穴から出て来て、 >「内はほらほら、外はすぶすぶ」(外から見ると穴はすぼまってるけど、中はほら穴だよ。) >

なるほど、穴ムジ・穴師の「穴」の語源が、この穴に落ちた伝承だとすると面白いですね。

この神話は、いわゆる旧約のヨセフの穴に落ちた話に原型があります。12 人兄弟の末弟で、いつも袋を担がされていたヨセフが、兄弟の迫害にあつて穴に落とされて殺されそうになっ

た話ですね。

それが、同じく末弟で袋を担がされていて、兄弟・八百神に迫害されて、殺されかけたときに、この穴に落ちて助かったという伝承になります。きわめて相関性が高く、偶然ではありえない部類です。

後にヨセフの子孫から 12 支族の 2 支族が出てくる。どこかでこのヨセフ伝承と穴ムジ伝承 とは、結びつく接点がないといけないんですね。

仮に「穴」に関する伝承を、先の「竇」氏およびその配下にいた月氏が持っていたとすれば、伝 承を媒介した可能性が出てきます。

その「穴」関連の伝承を、竇氏、サカ・月氏あたりから探し出してみたいところです。

追記

竇氏の伝承に穴に関する伝承がありました。皇后になった姉と、そこをたずねた(過去に穴に 落ちて救われた)弟の感動の再会に関する伝承があるのですが、まさにこれは、旧約聖書の 王宮に入ったヨセフとそこで再会した(過去に弟を穴に落としたり)兄弟の話とが見事に一致してきます。

全文を下記のサイトから引用掲載します。

<http://www.geocities.jp/wtbdh192/html/toukougou.html>

漢文帝の後、竇(とう)皇后の数奇な出会い

近年、2007 年 6 月に、山西省のレンガ工場で、強制労働させられていた数百人の少年 (童工)たちが救出された事件があった。みな皮膚病、暴行による傷を受けていたが、まだ千人 以上の少年が、ひそかに隠匿され、見つかっていないという。 はるか昔の中国、漢の文帝の後、竇皇后の弟も、同じ境遇にあった。 秦の始皇帝の死後、天下は混乱し、さらに項羽と劉邦の戦いで、中国全土は大きな戦禍をう けた。劉邦がふたたび天下を統一したが、劉邦の死後、呂太后は人豚を作って専制をつづけた。 呂太后の死後、周勃(しゅうぼつ)や灌嬰(かんえい)ら

の開国の功臣たちは、劉邦の息子　のなかから、温厚で賢明な人物を皇帝に擁立した。文帝である。ここでようやく朝野にわたっ

て平和な時代が来た。文帝とその子の景帝の四十年間は、ひたすら民間を休息につとめさせた。このような平和で満ち足りた時期は、長い中国の歴史で、わずか二回しかなかった。もう一回は、はるか後の清朝、西暦1700年代前後の数十年間である。ともあれ、その文帝は紀元前一八〇年に即位した。資治通鑑の前一七九年の項には以下の　ような記述がある。

資治通鑑 文帝前元年

三月、文帝は太子劉啓(のちの景帝)の母竇(とう)氏を皇后にたてた。竇皇后は、清河郡の觀津(かんしん。河北省武邑県東)の人である。弟の竇広国は、字を少君といい、幼いとき誘拐されて売られてしまい、十余の家を転売された。姉が皇后になったと聞いたので、上書して出生をのべた。竇皇后が召して、問いただすと、事実だったので、田畠住宅や金銭を厚く賜り、長安城内の邸宅に兄の長君とともに住むことになった。

絳侯(こうこう)の周勃と將軍灌嬰(かんえい)たちは相談していった。「わしらの生死は、この兄弟お二人の手にかかっている。二人とも賤しく低い身分の出だから、

良い輔佐役と顧問を選ばねばならぬ。さもないと、お二人はまた呂后一族のまねをすることになる。これはまことに国家の大事だぞ」そこで知識人の中から人格高潔で節操があるものを選び、兄弟と同居させた。竇長君と竇少君は、それからというもの、温和で謙譲心のある君子となり、じぶんの身分が高いからといって、他人に驕ることはなかった。

史記・外戚世家 竇皇后の数奇な出会い

呂太后のとき、竇氏は良家の子女ということで(実際には竇氏は下記に記されているように、良家の出ではない。有力者は金品を役人に贈って逃れてしまうので、竇氏のように貧しい家が娘を差し出すことになる)宮中に入り、呂太后に仕えることになった。あるとき呂太后は、若い宮女を五人ずつ皇族の王たちに賜うことにした。竇氏も名簿の中に含まれていた。竇氏の家は清河にあったので、故郷に近い趙国に行きたいとおもった。そこで担当の宦官にたのんだ。

「どうか必ず、わたくしを趙国へ行く名簿に入れてください」一宮女のいうことなど、いちいち覚えているはずはない。はたして宦官は間違え、代国に送る名簿に入れてしまった。名簿が奏上されると、呂太后は許可をあたえた。

行くときになって、はじめて間違っていることが判り、まだ少女だった竇氏は、その宦官を恨み、行きたくないと泣き叫んだ。だが、人々に無理強いされて、ようやくおもむくことになったのである。代国の王(のちの文帝)は五人の宮女のうち、竇氏だけを寵愛し、娘の嫖を生んだ。そのあと、男子二人(のちの景帝と梁の孝王)を生んだ。正妻の王妃も四人の男子を生んだが、代王が皇帝にならないうちに、王妃は死去した。王妃の四人の子も、代王が皇帝となったときに、つぎつぎと死んでしまった。代王が皇帝となって数か月たつと、大臣たちは太子をたてるよう奏上した。そのとき、竇氏が産んだ男児がもっとも年長だったので、太子とした。娘の嫖を長公主(のちの館陶公主。文帝の孫の武帝を皇帝にたてるとき、力を尽くすことになる)とした。その翌年、竇氏の末っ子の劉武を代王に封じた。そのあと梁国にうつして、梁の孝王とした。竇皇后の両親は、早くに死去しており、觀津に葬られていた。(中略)

竇皇后の兄は竇長君、弟は竇広国、字を少君という。少君の家は貧しかった。彼は四、五歳の幼児のときに、誘拐されて行方知れずになった。少君は十あまりの家々をつぎつぎに転売され、宜陽(河南省宜陽県西)まで流れて来た。その主人の下では、(買われてきた)多数の少年たちが、山に入って炭をつくっていた。ある夜、あまりに寒いので、百人あまりの少年たちは崖下の穴で寝ていたところ、崖が崩れ、みな圧死してしまった。ただ少君一人だけが助かった。そこで、自分で占ってみると、『数日内に、侯爵になれる』という卦(け)がでた。それから、主人の家族にしたがって長安におもむいた。たまたま、ひとの噂に、今度、皇后になった女性は、故郷は觀津で、姓は竇だと聞いた。それは自分と同じなので、もしかしたら、宮中にあがった姉ではないかと考えた。少君は、幼いときに攫われたけれど、生まれた県の名と姓はおぼえていたからである。また、かつて姉といっしょに桑の実を採ろうとして、樹から落ちたこともおぼえていた。そこで、そのことも書き記して竇皇后

に上書した。(自分で書けるはずがないので、主人の家族に書いてもらったのだろう) 竇皇后は夫の文帝に告げて許しを得ると、少君を宮中に召して尋ねた。少君が詳細にのべた内容は、みな本当のことだった。

竇皇后はさらに尋ねた。

「ほかになにか覚えているかえ？」

少君はこたえた。

「姉さんが宮中に召される日に、伝舎(公務用の旅館)の中で、ぼくはお別れしました。最後に、姉さんは湯浴みの道具をお役人から借りて、ぼくの身体を洗ってくれました。食物ももらって、食べさせてくれました。それから、姉さんは旅立ったのです」

竇皇后は、その話を聞いたとたん、弟のところへ走り寄り、かたく抱きしめ、大声をあげて泣きだした。二人とも涙があふれてとまらない。左右に侍していたお付きの人びとも、皆もらい泣きして、床につつ伏していたのであった。

<http://www.geocities.jp/wtbdh192/html/toukougou.html>

結婚人生相談 寂静院 - saikika.com/ 比企郡嵐山 昔ながらの仲人業 人生に迷ったら相談を多数の成婚実績 全国霊能者情報 口コミなど - att7.jp 国内最大級の霊的知識集合体 全国の霊能者情報をリストアップ 東京で婚活&安心結婚相談所なら - www.br-ways.com 会員 67000 名。60 日間入会費用全額返金制度。お見合無料。成婚実績豊富なウエーズ 当会男性平均年収 810 万 - ayers-r.co.jp 本当に結婚したい人の為の結婚相談所 2011 年 2 月 1 日現在の登録男性平均 中高年のお見合パーティー - www.kekkon-ouen.net 安心の結婚相談所主催!中高年対応の お見合パーティー詳細資料が無料 Ads by Google

----- 古田武彦氏講演会投稿者:ブジョー 106 投稿日:2012 年 7 月 10 日(火)22 時 43 分 0 秒 返信・引用

名古屋で開催される古田武彦氏の講演会のお知らせです。

主催者側の都合により、会場が隣の講義室に変更になりました。
間違えないでくださいね。

■ 愛知サマーセミナー 2012 ■

1 日 時:2012 年 7 月 15 日(日) 13 時 10 分~16 時 10 分 2 場所 : 愛知東邦高校 B 棟 2 階 B 101 名古屋
市名東区平和が丘 3 丁目 11 番地 地下鉄「一社駅」徒歩 12 分 3 演 題 : 「真実の学問とは何か ~「邪馬
壹国」と「九州王朝」論 ~

4 参加費 : 無料

http://www.geocities.co.jp/furutashigaku_tokai/index.htm

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 7 月 10 日(火)15 時 34 分 33 秒 返 信・引用 編集済

> No.646[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

大穴牟遲神(おおなむち)・大穴持命(おおあなもち)・大己貴命(おほなむち) - 大国 主の若い頃の名前

大国主は BC180 ごろの話し、と思われるな。 意味は大穴牟遲神・大穴持命(おおあなもち) 牟遲=持=もち、で
同じ言葉だな。神話どうりのお名前です。 管理人さん、ちょっと、考え過ぎですな。

> 穴師(アナシ・アナムジ)が、ももとの原型でしょう。 >>「竇氏」の「竇」の字は、分解すると、「穴(アナ)」+「士
(シ)」+「四(シ)」+「貝」で、ちょっと「アナシ」に近い読みになりますね。

> ...

今度は、音の鳴りひびく矢を広い野原の中にはなち、それをオオクニヌシに探してこいと命 令しました。オオ

クニが、原っぱに入ると、その回りに火を放ったのです。どこから逃げ出せばいいのか、オオクニシが迷っていると、一匹のねずみが地面の穴から出て来て、

「内はほらほら、外はすぶすぶ」(外から見ると穴はすぼまってるけど、中はほら穴だよ。)

http://www15.plala.or.jp/kojiki/Okuninushi/okuninushi_04.html

竇武(168 年)は神話と比較すると年代が合わない。

建寧元年(168 年)八月に入り、…竇氏は殆ど滅ぼされたが、竇武の孫の竇輔のみは奇遇を得て生き延びることができた。彼は後に後漢末にあつて荊州牧の劉表に従事として引き立てられ、次いで荊州を収めた曹操のところへ向かうことになる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%87%E6%AD%A6>

> これが物部・日矛と、大物主・穴師との協働関係として、代々続いてきた月氏とのかかわりを間接的に表現していったのかもしれませんが。 >

Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿日:2012 年 7 月 9 日(月)22 時 13 分 15 秒 返信引用 編集済

> No.645[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

先の大穴牟遲神(おおなむぢ)・穴師坐兵主神社について考えてます。

穴師(アナシ・アナムジ)が、もともとの原型でしょう。

「竇氏」の「竇」の字は、分解すると、「穴(アナ)」「土(シ)」「四(シ)」「貝」で、ちょっと「アナシ」に近い読みになりますね。

160 年代に中国のトップ官僚にいた「竇武」は、その後、170 年前後に「党錮の禍」で一族ごと滅亡の憂き目にあつてます。名門一族ですから、相当数の枝氏がいたはずで、後代まで山東近くに拠点があつたようですから、そのまま山東半島経由で、朝鮮半島方面へ逃亡した可能性も感じますね。

その「竇武」を和風に分解すると、「アナム」になりますね。つまり「アナムジ」

それで「竇氏」について、見落としている部分がありました。光武帝のときに、月氏を率いて協力した「竇融」は、その後「将作大匠(しょうさくたいしょう)

う)」に任命されてます。

将作大匠(しょうさくたいしょう)は秦、前漢の官職名。宮殿や宗廟等の造営を司る。元は「将作少府」といった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%86%E4%BD%9C%E5%A4%A7%E5%8C%A0>

ここで、造宮、つまり都城の構築にかかわってくるのですが、これは後代の日本の渡来人高麗氏のケースのように、この官職の背後には、土木技術者がついているケースがあります。

そして間接的に、先の弥生奈良の都城区画と関係してくるようになります。おそらく宗廟・墳墓造りにもかかわつたでしょう。そこに月氏のクルガン墓系の土木技術が混じつた可能性もあります。

この官職はまた、宮殿関連のほか、鏡などの意匠・道具造りにもかかわつた可能性を感じますね。

「景帝の中 6 年に将作少府から将作大匠に改称した。武帝太初元年に東園主章を木工と改称した。成帝陽朔 3 年には中候と左右前後中校の 5 丞を廃止した。

後漢においては光武帝の建武中元 2 年に一旦廃止されて謁者が領することとされたが、章帝の建初元年に復活した。」

そして、「木工」と称されるようになった点も、日本の木工寮で従事した渡来人のケースと同様で、彼らが神殿造りや祭祀用の刀を作っていました。その原型は漢代にあつたかもしれませんが。そして彼らも祭祀用の鏡・刀を造っていた。官営工房=物部。

- ・ > 地図から特定しています。人間はそう簡単に故郷は離れないものです。

- > 「弓月」は韓半島から九州に入っている。葛城氏との関係は控える。 >
- > 「弓月」:月読命(ツクヨミノミコト)とイザナギノミコトの末裔
>

もともと竇氏は、光武帝以前から、西域に拠点があったようです。竇融は、祖先の地に戻ることを希望しています。一方で山東半島近くの領地にも子孫の代まで住み続けていたようですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%87%E6%AD%A6>

系譜があります。

<http://kanso.cside.com/touki-6.htm>

党錮の禍での一族滅亡の後、魏の時代まで生き残って曹操の下にいた子孫もいますね。魏と 友好関係にある。

160年代の竇武は、先のとおり蛇に変身する伝承をもっていたわけですが、これが大物主の蛇二変身する伝承と相関性があるように感じます。

「物主」は「物部の主」、「弓月氏の主・竇氏→穴師」で「アナムジ」という対応はどうでしょうか。

> 物部氏:国狭立尊(くにのさたちのみこと) >> 常陸国:常立国、日立国 (ひたち)=アメノトコタチ(天之常立神)
> 若狭国:狭槌国=国狭槌尊(くにさつちのみこと)

おそらく彼らは仮に倭まで逃亡してきたとしても、2世代くらいは漢字の読み書きができたであろうと推定します。

おそらく先祖の伝承や記録文書も携えていた。「穴+土+四+貝」の漢字構造を理解していた。

そうすると、弥生末期なのにもかかわらず、中国的な伝承を残していくわけです。たぶん、後漢書に記されるような竇氏の伝承や系譜まで把握していたかもしれません。そして、都城造 営や意匠製作など得意な分野の技術をそのまま継承して、奈良で最終的に中国洛陽文化を再構築したという線です。

これが物部・日矛と、大物主・穴師との協働関係として、代々続いてきた月氏とのかわり を間接的に表現していったのかもしれません。

中高年世代の再婚なら - senior.11-deai.com 中高年専門結婚相談所アイシニアで 幸せな再婚。資料請求申込みはこちら 全国霊能者情報 口コミなど - att7.jp 国内最大級の霊的知識集合体 全国の霊能者情報をリストアップ 中高年専門の結婚相談所 - konkatsu-ex.jp 中高年の方もまだ間に合います! 人気の結婚相談所 10社の資料を無料急送 129 円のマンツーマン英会話 - www.rarejob.com ワールドビジネスサテライト 日経新聞などでも紹介された英会話 霊的な悩みを解決 - www.shinkiko.com/blog/Sites/ 宇宙からのエネルギー 真気光が魂に 浸透し、様々な霊的問題を解決します Ads by Google

----- Re: 月氏・傭兵・鍛冶 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 7 月 9 日(月)08 時 09 分 46 秒 返信 引用 編集済

> No.644[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

地図から特定しています。人間はそう簡単に故郷は離れないものです。「弓月」は韓半島から九州に入っている。葛城氏との関係は控える。

「弓月」:月読命(ツクヨミノミコト)とイザナギノミコトの末裔

イザナギノミコトは、「わたしは、これまで多くの子を生んだが、一番最後に貴い三人の子どもたちを得た。」とお喜びになりました。そして、ご自分の首にかけていた玉の首かざりを ゆらゆらと鳴らせながらアマテラスオオミカミに授け、「あなたは、天を支配しなさい。」とおっしゃいました。次にツクヨミノミコトに「あなたは、夜の国を治めなさい。」といい、スサノオノミコトには、「あなたは、海原を治めなさい。」とおっしゃいました。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami_07.html

物部氏:国狭立尊(くにのさたちのみこと)

常陸国:常立国、日立国 (ひたち)=アメノトコタチ(天之常立神) 若狭国:狭槌国=国狭槌尊(くにさつちのみこと)

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano1.htm>

> 先の月氏を率いていた竇融について、語呂合わせですが、考えてみました。 >> 歴史 > 元の穴師坐兵主神社は、垂仁天皇 2 年に倭姫命が天皇の御膳の守護神として祀ったとも、景行天皇が八千矛神(大国主)を兵主大神として祀ったともいう。旧鎮座地は「弓月岳」であるが、比定地には竜王山・穴師山・巻向山の 3 つの説がある。祭神の「兵主神」は現在では中殿に祀られ、鏡を神体とする。神社側では兵主神は御食津神であるとしているが、他に天鈿女命、素盞鳴尊、天富貴命、建御名方命、大己貴神の分身の伊豆戈命、大倭大国魂神とする説がある。 >

> 巻向坐若御魂神社の祭神「若御魂神」は稲田姫命のことであるとされる。現在は右社に祀られ、勾玉と鈴を神体とする。元は巻向山中にあった。若御魂神については、和久産巢日神のことであるとする説もある。」

Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿日:2012 年 7 月 8 日(日)23 時 55 分 57 秒 返信・引用 編集済

> No.643[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 鍛冶屋(かじや)の天津麻羅(あまつまら)という人を尋ねて洗練させ、イシコリドメノミコトに命じて鏡を作らせました。また、タマノオヤノミコトに命じて五百もの勾玉(まがたま)を貫いた玉の緒の飾りを作らせました。また、アメノコヤネノミコト(天児屋命)とフトダマノミコト(太刀玉命)とを呼び、天の香具山の牡鹿の死体から抜いた肩の骨を、採ってきた樺(かば)の木で焼いて占わせました。

>> 天津麻羅(あまつまら)は、日本神話に登場する鍛冶の神である。『古事記』にのみ登場し、『日本書紀』には登場しない。「神」「命」などの神号はつけられていない。 > <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E6%B4%A5%E9%BA%BB%E7%BE%85> >

> 天津麻羅の意味、まだ候補がありそうですね。 >>

先の月氏を率いていた竇融について、語呂合わせですが、考えてみました。「竇」は「穴」の意味で、訓読みで「穴(アナ)」となります。

少彦名の相方となる大国主の別名は「大穴牟遲神(おおなむち)・大穴持命(おおあなもち)・大己貴命(おほなむち)大名持」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%9B%BD%E4%B8%BB>

同じく「穴師」という語がありますね。

「穴師坐兵主神社(あなしにますひょうずじんじゃ)は、奈良県桜井市にある神社である。式内社で、旧社格は県社。

元は穴師坐兵主神社(名神大社)、巻向坐若御魂神社(式内大社)、穴師大兵主神社(式内小社)の 3 社で、室町時代に合祀された。現鎮座地は穴師大兵主神社のあった場所である。

歴史 元の穴師坐兵主神社は、垂仁天皇 2 年に倭姫命が天皇の御膳の守護神として祀ったとも、景行天皇が八千矛神(大国主)を兵主大神として祀ったともいう。旧鎮座地は「弓月岳」であるが、比定地には竜王山・穴師山・巻向山の 3 つの説がある。祭神の「兵主神」は現在では中殿に祀られ、鏡を神体とする。神社側では兵主神は御食津神であるとしているが、他に天鈿女命、素盞鳴尊、天富貴命、建御名方命、大己貴神の分身の伊豆戈命、大倭大国魂神とする説がある。

巻向坐若御魂神社の祭神「若御魂神」は稲田姫命のことであるとされる。現在は右社に祀られ、勾玉と鈴を神体とする。元は巻向山中にあった。若御魂神については、和久産巢日神のことであるとする説もある。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A9%B4%E5%B8%AB%E5%9D%90%E5%85%B5%E4%B8%BB%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

「穴師」というのが、中国的な感じがします。「雨師」などブレ道教神と、鏡との関連がありそう

です。「弓月岳」の「弓月」は、いわゆる月氏の西域拠点「弓月」地域と奇しくも一致してくる。

「大穴牟遲神」と「少名彦」の「天乃羅摩・カガミ」船、との組み合わせは、奥が深そうです。マキムクとダイレクトに

かかわってくるでしょう。皇族を奈良に案内した航海民・塩土爺と の対比関係。

そしてマキムク式古墳は、「天津麻羅(アマツマラ)」を祖とする物部氏とかかわってくる。

その穴師坐兵主神社は、いわゆる天日矛とも関係するのですが、日矛を作ったのが石凝姥命 (いしこりどめ)。ここで彼女を祖とする鏡作氏=物部氏とかかわってくるわけです。

∴ゆえに「少名彦」の「天乃羅摩・カガミ」船は、物部氏の祖「天津麻羅」と相関関係にある。ということが証明されるわけですね。「羅摩」=「麻羅」

月氏を率いていた「竇」=「穴」氏とその配下にいたであろう月氏・スキタイ系鏡造集団について、さらに分析する必要があります。

Ads by Google

----- Re: 月氏・傭兵・鍛冶 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 7月 8日(日)07時 09分 50秒 返信 引用 編集済

> No.642[元記事へ]

いみな管理人さんへのお返事です。

鍛冶屋(かじや)の天津麻羅(あまつまら)という人を尋ねて洗練させ、イシコリドメノミ コトに命じて鏡を作らせました。また、タマノオヤノミコトに命じて五百もの勾玉(まがた

ま)を貫いた玉の緒の飾りを作らせました。また、アメノコヤネノミコト(天児屋命)とフトダマノミコト(太刀玉命)とを呼び、天の香具山の牡鹿の死体から抜いた肩の骨を、採ってきた樺(かば)の木で焼いて占わせました。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_02.html

天津麻羅(あまつまら)は、日本神話に登場する鍛冶の神である。『古事記』にのみ登場し、『日本書紀』には登場しない。「神」「命」などの神号はつけられていない。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E6%B4%A5%E9%BA%BB%E7%BE%85>

天津麻羅の意味、まだ候補がありそうですね。

天津神の天津 麻羅:麻乱=乱麻、羅=乱 快刀乱麻(かいとうらんま) こじれた物事を非常にあざやかに処理し解決すること。鋭利な刃物で、もつれた麻糸を断ち 切るように物事を処理する意から。▽「快刀、乱麻を断たつ」の略。「快刀」は鋭利な刃物。「乱 麻」はもつれた麻のこと。

快刀羅麻(かいとうらんま)から羅麻=麻羅。天津麻羅 こじれた物事を非常にあざやかに処理し解決すること。鳥を捕らえる網。洒落? 羅:鳥を捕らえる網。網にかけて捕らえる。「雀羅(じゃくら)・網羅・爬羅剔抉(はらてつけつ)」アマテラスは鳥と呼ばれていた模様。

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/206559/m0u/> <http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/228757/m0u/> 語源は唐

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/idiom/%E5%BF%AB%E5%88%80%E4%B9%B1%E9%BA%BB/m0u/>

北齊書、唐(とう、拼音:Táng、618年 - 690年、705年 - 907年)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E6%96%89%E6%9B%B8>

稗田阿礼の古事記には国の説明で名産を記す事がある。出雲では酒が入る。出雲の酒は 2200年以前のものとアイヌ酒と同様と思われる。ものは韓国のマッコリだろう。マッコリ(???) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%83%E3%82%B3%E3%83%AA>

>何をしたのは書かれていない。回答は、名まえに書き込まれている模様。諱(いみな)のようだ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AB%B1> 天津麻羅の諱を記すと以下になる。岩戸に隠れたアマテラスを連れ出す方法を提案し解決した天津神 イザナギ、イザナミ、…総て諱になっている。

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿
日:2012年7月7日(土)23時01分56秒 返信引用

> No.641[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 古事記に戻らなければ話しの筋道が理解できない。 >

確かに古事記は弥生時代の伝承を多く伝えているようですね。

●天津麻羅

『古事記』では岩戸隠れの段に登場する。「鍛人(かめち)天津麻羅を求(ま)きて」とあるだけで、何をしたのは書かれていない。その前に「天の金山の鉄(はがね)を取りて」とあることから、伊斯許理度売命(いしこりどめ)が鏡を作るための製鉄を行ったとも考えられる。また、『日本書紀』の本文には、天鈿女命(あめのうずめ)が茅纏の矛を手にしたという記述があり、それを作った者の記述がないことから、天津麻羅は矛を作ったとも考えられる(第一の一書では石凝姥命(いしこりどめ)が日矛を作ったとある)。」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E6%B4%A5%E9%BA%BB%E7%BE%85>

結局、天津麻羅は、鏡作り集団の物部氏の象徴で、同時に矛などの武器も造っていたものと感じます。マキムク式的那珂八幡古墳の出土遺物に対応してきますね。半島から海を渡ってやってきた集団。

古事記のほうが、原型で物部系、書紀のほうは後代の儀式的影響を受けているように見えます。

『先代旧事本紀』の天孫降臨の段では、「倭(やまと)の鍛師(かなち)等の祖、天津真浦(あまつまうら)」「物部造等の祖、天津麻良(あまつまら)、阿刀造等の祖、天麻良(あめのまら)」とあり、これらは天津麻羅と同神と考えられる。また、神号がついていないことから、天津麻羅は一神の名ではなく鍛冶集団(またはその祖神)の総称ではないかとする説もある。」

●天乃羅摩船

「大国主の国造りに際し、波の彼方より天乃羅摩船(アメノカガミノフネ)に乗って来訪した神。国造りの協力神・常世の神・医薬・温泉・禁厭(まじない)・穀物霊・知識・酒造・石など多様な姿を有する。『古事記』によれば、大国主の国土造成に際し、天乃羅摩船に乗って波間より来訪し、オホナムチ(大己貴)大神の命によって国造りに参加した。『日本書紀』にも同様の記述があり、『記』『紀』以外の文献では多くは現れない神である。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%83%8A%E3%83%93%E3%82%B3%E3%83%8A>

天乃羅摩船と書いて、(アメノカガミノフネ)と読ませているのは非常に奇異ですね。「鏡」と掛詞にしています。本来は「アマノ+ラマ」

「マラ・ラマ」で「鏡」の意味があったのでしょうか。「ミラー」

「ミラー(英:Mirror)とは鏡のことである。光の反射によって自身の姿や周りの映像を反転させて写す道具のこと。

その語源はラテン語の「mirāre」という単語であり、これは「驚く」を意味する。そこから「見る」の意味も含まれるようになり、現在の「反射させた物」「鏡」「手本」などの意味になったのは中英語以降である」

<http://dic.nicovideo.jp/a/%E3%83%9F%E3%83%A9%E3%83%BC>

「石」の意味を持ち合わせているところが、また石凝土姥を想起させます。

「、鵝(ひむし・蛾)の皮の服を着ている」と高御産巢日神の「わが子のうち、指の間から落ちた子」という記述から」

ガチョウの毛は非常に軽いらしいですね。先の前漢の馬王堆墓の婦人ミイラが着ていた絹の衣服が、非常に軽かったのと同様で、もしかすると皮を着る原始人という意味ではなく、むしろ非常に発達した技術者を意味していた可能性も感じます。

「鏡」「衣服」

- > 次にツクヨミノミコトに「あなたは、夜の国を治めなさい。」といい、>
- > スサノオノミコトには、「あなたは、海原を治めなさい。」とおっしゃいました。>>
- > こうして、それぞれの神は、イザナギノミコトから命じられた国を治められましたが、スサノオノミコトだけは、海原の国を治めずに、ヒゲが胸元までのびたおとなになっても、泣きさわいでいました。その泣く有様は、ものすごく、緑の山々が枯山になり、海や川の水が乾ききってしまうほどでした。

なるほど、こう読むと確かに、スサノオは日本のことを示しているようにも見えますね。治め切れてない。そうすると「天津」は、半島・大陸とのことになるでしょうか。

月氏・スキタイについて、bC200年代の流れと、今回の後漢初期の流れ、区別が課題ですね。

----- Re:月氏・傭兵・鍛冶投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月7日(土)03時39分3秒 返信引用 編集済

> No.640[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 古事記に戻らなければ話しの筋道が理解できない。

『新唐書』日本伝から言えるのとは古事記は天御中主、彦瀲に至り、およそ三十二世、筑紫城に居住していた頃の話。神武東征は筑紫城から大和州に移って統治の過程を言っている。国生みは古事記になる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintoshoh.htm>

初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、およそ三十二世、皆が「尊」を号として、筑紫城に居住する。彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は開化、次は崇神、崇神と卑弥呼は同年代と思われるので年代 240 年ぐらいになる。大和州に移って統治した年代は 10 代平均 42 年で 420 年から約 BC180 ぐらいになる。

BC180 ぐらいの伝説が徐福伝説と後漢書に明記されている。秦野書:徐福と邪馬台国で取り上げている。翻訳に問題があり修正している。「」が誤訳部分

<http://inoues.net/mystery/jyofuku.html>

會稽海外有東鯁人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬萊神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東冶縣人有入海行遭風、流移至澶洲者。所在絕遠、不可往來。

会稽の海の外に東鯁人があり、二十余国に分かれている。また、夷洲および澶洲がある。伝承によると、秦の始皇帝が方士の徐福を遣わし、数千人の少年少女を連れて海に入った。蓬萊山の神仙を探し求めたが、出会えず、徐福は誅罰を畏れて敢えて帰らず、遂にこの島に留まった。代々に相伝し、数万家を有した。人民は時に会稽に至り交易する。「会稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して澶洲に至る者がいる。絶海の遠地に在り、往来すべきではない」。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

イザナギノミコトが徐福になる。当時 BC200 年の痕跡を辿ることが出来る。国生み、の状況が読み解ける。詳細は徐福と日本神話(校正中)で回答としたい。古事記の世界へ行きましょう。

稗田阿礼:1300 年の封印が解かれる。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A8%97%E7%94%B0%E9%98%BF%E7%A4%BC>

月氏:イザナギノミコト、ツクヨミの末裔と思われる。家紋は抱き茗荷、杏葉(ぎょうよう)。月氏は杏葉を使った模様。

注)現在は抱き茗荷と杏葉(ぎょうよう)の判別は不可と思われる。家紋:茗荷と杏葉

<http://www.otomiya.com/kamon/plant/myouga.htm> <http://www.otomiya.com/kamon/kibutsu/gyoyou.htm>

イザナギノミコトは、「わたしは、これまで多くの子を生んだが、一番最後に貴い三人の子どもたちを得た。」とお喜びになられました。

ご自分の首にかけていた玉の首かざりをゆらゆらと鳴らせながらアマテラスオオミカミに授け、「あなたは、天を支配しなさい。」とおっしゃいました。

次にツクヨミノミコトに「あなたは、夜の国を治めなさい。」といい、スサノオノミコトには、「あなたは、海原を治めなさい。」とおっしゃいました。

こうして、それぞれの神は、イザナギノミコトから命じられた国を治められましたが、スサノオノミコトだけは、海原の国を治めずに、ヒゲが胸元までのびたおとなになっても、泣きさわい でおりました。その泣く有様は、ものすごく、緑の山々が枯山になり、海や川の水が乾き ってしまうほどでした。この悪い神が起こした乱暴な物音は、ハエのように世界に満ち満ち してしまったので、あらゆる災い(わざわい)ごとが次々と起こりました。そこでイザナギノミコトが、「なぜ、お前は、命じた国を治めないで、泣きさわいでいるのか。」とお聞きになると、スサノオは、「わたしは、お母さんのいる黄泉の国へ行きたくて、泣いております。」と答えたので、イザナギノミコトは、たいへんお怒りになり、「それならば、お前は この国 にいてはならない。」とおっしゃって、スサノオノミコトを海原の国から追いはらわれてしまいました

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami_07.html

> この物部系、つまり鏡作氏の鉄鏡を造った製鉄技術が、つまり中国皇帝に先の金銀の文字 を刻んだ鉄鏡を差し出した製鉄技術で、もとをたどれば、月氏・スキタイ系というラインで はないでしょうか。だからギリシャ的な製鉄神話を持っていた。 >

> スキタイ・ローマといった陸・海のシルクロード商人と製鉄技術者、そして傭兵・官営工 房との関係ですね。その辺の人脈・血脈・信仰をたどることが重要です。 月氏・傭兵・鍛冶投稿者:管理人 投稿日:2012年7月6日 (金)22時34分46秒 返信・引用 編集済

> No.639[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。 > 外国人傭兵では説得力、関連性が弱いため

>

- > 光武帝は結果でこの状況に至る行程がある。しかし、文章が有るものですな。 >
- > 光武帝は武帝まで遡る。三公は匈奴、月氏の階級? >>
- > 元封三年(前 108 年)、楼船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は 遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、楽浪、 玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、楽浪と玄菟に併 合した。 >

外国人傭兵については、案外侮れないものがあったようです。 西晋は、匈奴や鮮卑を傭兵に雇い入れていたそうで、そのことで返って内情が、外部の周辺民 族へ流れだして、攻め入られることもあったようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%8D%E8%B6%99>

後代の安祿山のケースのように、経済力を持ち合わせて頭角を現すものもいたことでしょう。

大国主を支援しにきた少彦名のケースのようにですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%83%8A%E3%83%93%E3%82%B3%E3%83%8A>

天乃羅摩船に乗ってきたわけですが、これが羅摩=ローマにとっても読めるか?? 先日出てきた物部系譜の天津摩羅は、外来系の鍛冶集団ですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E6%B4%A5%E9%BA%BB%E7%BE%85> いわゆる一目神信仰と関係するのですが、この辺はギリシャの片目の鍛冶神と関係します。

この物部系、つまり鏡作氏の鉄鏡を造った製鉄技術が、つまり中国皇帝に先の金銀の文字を 刻んだ鉄鏡を差し出した製鉄技術で、もとをたどれば、月氏・スキタイ系というラインでは ないでしょうか。だからギリシャ的な製鉄神話を持っていた。

スキタイ・ローマといった陸・海のシルクロード商人と製鉄技術者、そして傭兵・官営工房 との関係ですね。その辺の人脈・血脈・信仰をたどることが重要です。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3D デジタイズが革新する 家系図、家族の歴史を 1冊に - www.e-keizu.com 家系図作成代行。10点セッ

ト 定額制 お客様の声 191 件(直筆)全国対応可能 歴史 周辺ホテル - travel.rakuten.co.jp

おすすめ順 お客様の評価や料金順で 歴史 周辺ホテル 《楽天》 定額 37,000 円から家系図を作成 - office-tanaka.jp/ プレゼントにも最適な家系図セット ご自身のルーツ探し、ご先祖供養に 中高年男がピンピン、生涯現役に - pr-kouraininjin.com

50 オー 80 才男性 必見! あの日々 が甦る 金氏高麗人參 2625 円 Ads by Google

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 7 月 6 日(金)06 時 09 分 45 秒 返 信・引用

> No.638[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 言語と血縁関係で行きましようか。 外国人傭兵では説得力、関連性が弱いため 光武帝は結果でこの状況に至る行程がある。しかし、文章が有るものですな。 光武帝は武帝まで遡る。三公は匈奴、月氏の階級?

『通典』邊防 武帝元封三年、遣樓船將軍楊僕從齊浮渤海、兵五萬、左將軍荀彘出遼東、討之。朝鮮人相與 殺 王右渠來降。遂以朝鮮為真蕃、臨屯、樂浪、玄菟四郡。今悉為東夷之地。昭帝時罷臨屯、真蕃 以并樂浪、玄菟。

元封三年(前 108 年)、樓船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼 東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、樂浪、玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、樂浪と玄菟に併 合した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

> 古代中国だと、外国人傭兵を宮中に雇い入れるケースがあり、あるいは倭から貢納された 倭人が、後にバイリンガルとして、後に翻訳に携わったこともあったのではないのでしょうか。 >>「建武 8 年(32 年)夏、光武帝が隗囂を親征すると、竇融は河西 5 郡太守、羌の小月氏など で構成される歩兵・騎兵数万と、輜重車 5 千輛を率い、第一城(安定郡高平県)に到着した。 その際、竇融は光武帝と会見する際の儀礼等について、事前に使者を派遣して問い合わせ、光 武帝から感心されている。光武帝も、竇融を引見する上では特別な儀礼をもって歓待し、竇融 の弟竇友は奉車都尉、従弟の竇士は太中大夫に任命されている。竇融軍が光武帝軍に加わったことで、隗囂軍は大いに崩れ、光武帝が進軍する先で隗囂側の城は次々と投降した。光武帝 は竇融の功勞に報いるため、詔を下して、4 県を封土として安豊侯に封じ、一族や梁統らの配 下もそれぞれ侯に封じられている。」

>「位は特進となり、建武 23 年(47 年)には、行衛尉事兼領將作大匠となり、城門校尉となっ ていた弟の竇友と共に禁軍を率いている。竇融の一族は、「一公、二侯、三公主、四二千石(級 の高官)[5]」を同時に得たと言われ」 >

> その「三公」というと、時代は下りますが、魏の「位至三公鏡」の銘文を思い出しますね。鏡職 人の先祖に三公にいたったものがいたりすると、そういうところに影響もでてきたかもしれ ません。

Re:倭人伝官職記載投稿者:管理人 投稿日:2012 年 7 月 5 日(木)23 時 06 分 58 秒 返信・ 引用 編集済

> No.637[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >

- > 古事記、日本書記、立派な日本の歴史。中国史籍も同様です。 >
- > ただ言える事は難解で理解できないだけですな。 >
- > ちょっと考えませんか。魏への手紙は日本語?、言語をどうしたか。 >
- > 言語の裏づけが無い。こんな単純なことが明確にされていない。 >
- > その前に渡来人もこの調子だと、あても無く狭い日本に逃げてきた腰抜けになる。 >>

確かに言語の壁をどう越えたかが気になりますね。

古代中国だと、外国人傭兵を宮中に雇い入れるケースがあり、あるいは倭から貢納された倭 人が、後にバイリンガルとして、後に翻訳に携わったこともあったのではないのでしょうか。

同様な事例としては、古代中国で、月氏が宮中の警備にあたっていたケースがありますね。

先の竇融は、月氏を率いて光武帝の軍隊に入ってますが、後に彼の一族が宮殿を護衛していたようです。

「建武 8 年(32 年)夏、光武帝が隗囂を親征すると、竇融は河西 5 郡太守、羌の小月氏などで 構成される歩兵・騎兵数万と、輜重車 5 千輜を率い、第一城(安定郡高平县)に到着した。その際、竇融は光武帝と会見する際の儀礼等について、事前に使者を派遣して問い合わせ、光武帝から感心されている。光武帝も、竇融を引見する上では特別な儀礼をもって歓待し、竇融の 弟竇友は奉車都尉、従弟の竇士は太中大夫に任命されている。竇融軍が光武帝軍に加わった ことで、隗囂軍は大いに崩れ、光武帝が進軍する先で隗囂側の城は次々と投降した。光武帝は 竇融の功労に報いるため、詔を下して、4 県を封土として安豊侯に封じ、一族や梁統らの配下 もそれぞれ侯に封じられている。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%87%E8%9E%8D>

車馬は、もともと西方遊牧民の得意分野だったようです。その輜重車 5 千輜の意味は、月氏の 影響でしょう。後に竇融の弟竇友は奉車都尉とされているのも、その車馬によるものですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%AA%E3%82%AA%E3%83%83%E3%83%88>

彼らが最初に至った「安定郡高平县」というのは、山西省の東部で、山東半島にも近いですね。ここまで月氏がやってきていたことの傍証になります。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E5%B9%B3%E7%9C%8C> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%B1%E8%A5%BF%E7%9C%81>

また安豊侯に封じられてますが、安豊は安徽省で、呉の領域になりますが、ここも山東半島へ 近い所に位置します。

月氏の兵士の一部が、そのままこのあたりに移住したケースもあったのではないのでしょうか。そして宮中でも月氏が傭兵として存在し続けていた。

「位は特進となり、建武 23 年(47 年)には、行衛尉事兼領将作大匠となり、城門校尉となっ ていた弟の竇友と共に禁軍を率いている。竇融の一族は、「一公、二侯、三公主、四二千石(級 の高官)[5]」を同時に得たと言われ」

その「三公」というと、時代は下りますが、魏の「位至三公鏡」の銘文を思い出しますね。鏡職 人の先祖に三公にいたったものがいたりすると、そういうところに影響もでてきたかもしれ ません。

<http://yamatai.cside.com/katudou/kiroku250.htm>

また安徽省は、ちょうど呉の画像鏡の製造地に近い気がします。後漢時代の画像鏡や神獣鏡 は、スキタイ系を思わせる神獣紋様や、車馬の画像などの特徴がありますね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AD%E5%AE%89%E5%B8%82>

元は月氏・スキタイ系の精銅・鉄技術が影響していたものと感じますが、その経緯は、宮中 にいた月氏傭兵や、その関連技術者が、官営工房に入ったあたりから生じているのではない でしょうか。

そして、月氏ネットワークで、都城区画の造営や設計も行っていて、あるときに山東省経由で、 朝鮮当部の楽浪郡、さらには秦韓方面へと、鏡作りの技術者や商人が流れていって、最終的に 北九州・奈良の都城へと向かい、スキタイ系のクルガン墓を、前方後円墳としてもたらした という線が思い浮かびます。

竇融の一族と月氏、宮中護衛・官営工房とのかかわり、そのあたりを分析していくことが、重要な幹事がします。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する 分銅鍔と衛府太刀 - www.samurai-jpn.com/index_jp.html 細太刀(ほそだち)を復元しました。 全て手作りです。 口臭い対策 2 秒もいらない - www.w-direct.jp 主人の臭かった口臭も、便臭も今は... さて、たった 1 秒の口臭対策とは? 家系図、家族の歴史を 1 冊に - www.e-keizu.com

家系図作成代行。10 点セット 定額制 お客様の声 191 件(直筆)全国対応可能 しわを気にする女優の秘密 - 484364.com 歳をとっても全くしわのない女優さん 秘密は高級エステ?いえ、実は... Ads by Google

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月4日(水)23時16分12秒 返信引用 編集済

> No.636[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

古事記、日本書記、立派な日本の歴史。中国史籍も同様です。

ただ言える事は難解で理解できないだけですな。

ちょっと考えませんか。魏への手紙は日本語?、言語をどうしたか。

言語の裏づけが無い。こんな単純なことが明確にされていない。

その前に渡来人もこの調子だと、あても無く狭い日本に逃げてきた腰抜けになる。 秦野北斗さんへのお返事です。

> 年代の特定ができず、混乱していますな。 >> 国生みの年代は簡単に特定できますがどの様に理解するかだ。

>>『新唐書』日本伝より>> その俗は女が多く男が少なく、文字があり、仏教の教えを尊ぶ。その官には十二等級がある。王姓は阿毎氏、自ら言うには、初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、およそ三十二世、皆が「尊」を号として、筑紫城に居住する。 >> 彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は綏靖、次は安寧、次は懿德、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、次は崇神、次は垂仁、次は景行、次は成務、次は仲哀という。 >

確かに年代推定難しいですね。 おそらく弥生時代初期に中国江南からやってきた弥生人・O2系統、その支配者を、上記の 神武以降の皇族とみるのは、無理があるのではないかと考えてます。

AD170年前後にマキムク式古墳や先の鉄器をもたらした集団が、これらの神話の主で、江南 O2 系統ではないでしょう。クルガン墓などかなり騎馬民族的な習俗をもっています。 秦人の王族とその移住の歴史。

縄文海進時代の記憶を残すイザナギの国産神話は、弥生時代の在住民族、淡路島・伊邪国関係のものではないかと感じはじめてますが、上記の皇族の祖先の伝承とは結びつかないよう に感じます。

仮にそうだとすると、孝安・孝靈あたりで、在地弥生系から渡来系へと一度血統が入り替わるはずです。

問題は、その入れ替わりの年代を 170 年ごろとみなしてよいかどうかですね。

中国の前漢から後漢の間の混乱期、黄巾の乱のときに、中国の人口が半減してます。それだけ 逃亡民もいたということで、半島への流入もかなりのものだったでしょう。その時期なら、日本へ移住してくる集団がいてもおかしくない。弥生人の初期の流入もそういう経緯があった のではないでしょうか。

しかし 170 年前後に移住してくるとすると、民衆の移住というよりは、桓・靈の間の倭国 騒乱に潰れ込んで進出した軍事行動のようにも感じるんですね。

移住目的が、天孫降臨に近い。

ただ、具体的な軍事進出の記載が、中国側の記録にないんですね。

この時代の中国の有力者で、地方征伐した將軍というと、西域の征伐した張奐などもあります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%B5%E5%A5%90>

また党錮の禁の時代にあたり、政権中枢部にも混乱があって、政敵に敗れて地方に逃れるものもいたでしょう。

竇武 の例もそうですね。桓帝時代の外戚の大將軍。竇太后の父。字は游平

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%87%E6%AD%A6>

彼に関しては、日食にちなんだクーデターの話が面白いですね。そこに竇太后が絡んでくる。 やられたのが「蘇

康」で、ちょうど中大兄と中臣、斉明天皇、蘇我氏の関係に類似しているところが、また面白いところです。

「二人は清流派と目される才能ある人材を数多登用して要職に配置し、政府への掌握力を高めると、建寧元年(168年)五月の日食に因って竇太后に宦官を除きたい旨を伝える。宦官の尽くを廃するのは止めて欲しい、除くなら罪のあるものだけにすべきとの竇太后の返答を得ると、二人は当時省内にあって専権を誇った中常侍の管霸及び中常侍の蘇康等を誅戮した。」

彼は竇融の代から西域を治めてますが、蛇の話がちょっとオオムノヌシ伝承との対比で興味深いです。

「後漢の頃、定襄郡(山西省)の太守竇奉の妻が武(竇武)という男児を産んだとき、一緒に蛇を一匹産んだ。奉(竇奉)はその蛇を野原へ持って行って放した。その後、武(竇武)は成長して、天下に名の聞こえた人物となった。やがて母が死に、これから埋葬をしようというとき、弔問客がたくさん集まっているところへ、草むらの中から一匹の大蛇が出て来た。そして一目散に棺のところまで来ると、そこにうずくまって天を仰いだりうなだれたりしたうえ、頭を棺に打ちつけて血涙を流し、いかにも悲しみに耐えないという様子であったが、やがて立ち去った。当時の人々は、これは竇家の栄える印だと考えたのであった。[2]」

竇融

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%87%E8%9E%8D>

この人物は、光武帝の耳朵に、西域方面の遊牧民を配下に多く取り込んでますね。「建武8年(32年)夏、光武帝が隗囂を親征すると、竇融は河西5郡太守、羌の小月氏などで

構成される歩兵・騎兵数万と、輜重車5千輛を率い、第一城(安定郡高平县)に到着した。」

おそらく、この手の西域方面に深くかかわっていた有力家系があって、その周囲にいた月氏などのスキタイ系遊牧民・製鉄・銅技術者が、あるときに半島に流れて、そのままスキタイ系クルガン墓を、前方後円墳として日本にもたらしたという線も模索すべきかもしれません。

ともあれ、先の日田の鉄鏡は、曹操が手にいれたいと望むほどのもので、相当な有力者でないと、手に入れることはできなかったでしょう。

しかもその鏡をつくっていた鏡職人まで配下にいたわけですから、洛陽の政権中枢に関していた人物と、その支配下集団がやってきた可能性も感じはじめてます。そういう集団がいないと、洛陽を模した先の都城区画を奈良に造ることも無理だったでしょう。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する Gaba 夏の短期集中プラン - www.gaba.co.jp 英会話を1ヶ月で集中学習。確かな上達実感で夏の間にスキルアップ なぜ日本人は英語が苦手? - EQenglish.jp 毎朝3分!元ANA同時通訳が解説 英会話上達のコツや海外文化を配信中 韓国語はヘイコリア - www.heykorea.com ヘイヘイヘイ元気が出る楽しい韓国語 人生初の韓国語 50%割引中 満足度の高いビクラ浄水器 - vikura.jp 性能はもちろん、価格、デザインで売れてる vikura 浄水器。メーカー直販 Ads by Google

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年7月3日(火)19時27分10秒 返信引用 編集済

> No.634[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

年代の特定ができず、混乱していますな。

国生みの年代は簡単に特定ですがどの様に理解するかだ。

『新唐書』日本伝より

其俗多女少男、有文字、尚浮屠法。其官十有二等。其王姓阿每氏、自言初主號天御中主、至彦瀲、凡三十二世、皆以「尊」為號、居筑紫城。

その俗は女が多く男が少なく、文字があり、仏教の教えを尊ぶ。その官には十二等級がある。王姓は阿每氏、

自ら言うには、初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、およそ三十二世、 皆が「尊」を号として、筑紫城に居住する。

彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次日綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次 孝靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。

彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は綏靖、次は 安寧、次は懿德、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、次は崇神、次は垂仁、次 は景行、次は成務、次は仲哀という。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

初めの主は天御中主と号し、彦瀲に至り、およそ三十二世、皆が「尊」を号として、筑紫城に居 住する。彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。

『新唐書』日本伝から言えるのとは古事記は天御中主、彦瀲に至り、およそ三十二世、筑紫城に 居住していた頃の話。神武東征は筑紫城から大和州に移って統治の過程を言っている。国生 みは古事記になる。

、次は開化、次は崇神、崇神と卑弥呼は同年代と思われるので年代 240 年ぐらいになる。 大和州に移って統治した年代は 10 代平均 42 年で 420 年から約 BC180 ぐらいになる。

Re:倭人伝官職記載投稿者:管理人 投稿日:2012 年 7 月 2 日(月)22 時 53 分 37 秒 返信・ 引用 編集済

> No.633[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> そこで、八百万(やおよろず=たくさんあること)の神様たちは、高天原の安の河原に 次々と集まって来て相談をしました。まず、高御産巢日(たかみむすび)の神の子の思金の 神(おもいかねのかみ=思索、思慮の象徴神)に考えさせて、不死鳥である長鳴鳥(ながな きどり)を集めて鳴かせてみました。次に安の河の川上にあった大きな岩と天の金山から鉄 を採ってきて、鍛冶屋(かじや)の天津麻羅(あまつまら)という人を尋ねて洗練させ、イ シコリドメノミコトに命じて鏡を作らせました。

>

- > 巻向遺跡は古事記の言葉から神話の安の河原になる。 >
- > 鉄の精錬技術は神話から創造すると方向は逆になる。または出雲からになる。 >
- > 遺跡は年代の新しい物ほど、目立つ。年代から奈良の鏡は腐食し残らないだろうな。 >

ちょうど、昨日は邪馬台国山陰説の田中さんの論文を読み直しました。

意外に国産み伝承は古いらしいです。縄文海進時の陸地や島の形状が記載されているそうで、 児島湾や出雲大社周辺なども、今と違って、島になっていたようですね。

高天原についても諸論ありますね。

大鳥信仰と、鉄鍛冶の話は、先のとおり、弁辰・辰韓の大鳥・鉄関連の習俗記載と関係してき そうです。天の金山は、そうすると弁辰韓ですかね。

イシコリドメノミコトは、先のとおり、物部系・孝元・開化妃のウツシコメ・イカガシコメ。

すると北九州経由で、奈良まで鉄テイを運んで、そこで鉄鏡を造ったという線になるでしょ うか。

鉄鏡は、魏と関係しそうです。高位者の持ち物とのこと。九州日田のから漢鏡が出土してます。

「金銀を象眼した鉄鏡は、日本国内ではこの金銀錯嵌珠龍紋鉄鏡しか出土していない。また、 中国の三国時代に書かれた『曹操集訳注』には、魏の曹操が金錯鉄鏡を持っていたと記されて おり、この種の鉄鏡は高位の支配層の所持物であったと考えられる。このような希少な鉄鏡 がなぜ日田で出土したのかは不明であり、様々な仮説が唱えられている。例えば、九州国立博 物館の河野一隆・文化交流展示室長は、伊都国との争いに敗れた奴 国の王族が持ち込んだと する仮説を提唱している[1]。また、一般には受け入れられている説ではないが、邪

馬台国の卑弥呼または台与の所持品であるとする説や、この鏡が八咫鏡であるとする説もある。」
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91%E9%8A%80%E9%8C%AF%E5%B5%8C%E7%8F%A0%E9%BE%8D%E7%B4%8B%E9%89%84%E9%8F%A1>

最終的に彼らは奈良に中国式の都城を造るわけですが、案外、鉄による貨幣経済・物流の進んだ弁辰、底に関連する楽浪・帯方との間でも、そこそこの高位官職にいたものが、倭に進出してきた可能性を感じます。

金銀で文字を刻みこんでいる、漢代の書体、ただならん代物ですね。

ダンワラ古墳。「発見者によれば、石棺からは鉄鏡と同時に鉄刀、轡が出土し、近辺からは碧玉製管玉、水晶製切子玉、ガラス製小玉なども出土したという。また、日田市から出土した帯の金具である金錯鉄帯鉤(きんさくてつたいこう)3点も、一説には同じ古墳から出土したともいう。」

先の都城区画の宮殿域・唐古鍵遺跡そばの鏡作神社と、このダンワラ古墳出土関連遺物との対比で、イシコリドメや高天原との関係を浮かび上がらせることはできないでしょうか。

轡は馬具ですから、馬がないとされている弥生時代には珍しいですね。明らかに大陸系で、しかも大陸にいた当時のものをそのまま持ち込んだケースのように感じます。その被葬者の時代

代に、半島で馬に乗っていて、一時的に馬ごと北九州に運んだケースも想定すべきでしょうか。

鉄・馬・漢字といった古墳時代に中期にならないと出てこないものを、一時的に彼らがもっていた可能性が大ですね。最終的に奈良に都城区画も造って、祭祀の円丘壇も設けている。

元は北九州にも拠点があったはずですが。伊都国を支配下に置かないと難しい。半島からダイレクトに出雲へ船で先に流れる件もありえなくはないですが、ドウカー。

ちなみに日田と吉野ヶ里は、完全な東西方位ラインの関係にあります。つまり日田が弥生時代中期ごろからのかなり古い重要拠点であったことがわかります。図参照。日田周辺をもう少し洗い出す必要がありそうですね。

あと、関係して日田の珍敷塚と、大村の壁画古墳との間にも南北方位ラインがあるのですが、おそらく後代の屯倉方位区画との兼ね合いを考えるべきかもしれません。

なお、吉野ヶ里はいわゆる奴国(その南部に奴国領域・諸国がある)だと考えてます。「奴」の「ド」音ですが、ヌではなくて、「ド」と呼んだ可能性を考えてます。「宇土遺跡」-「烏奴国」「面土王」。

- > 『奴婢』 >
- > 話は奴婢ですが傭兵の可能性もある。雇われ兵、または兵を職業にしている者。
- > 屯倉の三宅さんに家紋を聞いたら見当たらないとの事、同和も家紋は持たないとの事です。
- > 三宅さんは公傭兵と思われる。どうも、家紋にきずいていない、知らない家紋が有るみたいだ。
- > 傭兵=奴婢が成立するのではないか。
- > 公傭兵は家紋(雁がね)
- > 私傭兵は家紋(なし)=同和 >>

Ads by Google

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月1日(日)18時26分12秒 返信引用 編集済

> No.632[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 問題は古事記に以下の文章がある。

そこで、八百万(やおよろず=たくさんあること)の神様たちは、高天原の安の河原に次々と集まって来て相談をしました。まず、高御産巢日(たかみむすび)の神の子の思金の神 (おもいかねのかみ=思索、思慮の象徴神)に考えさせて、不死鳥である長鳴鳥(ながなきどり)を集めて鳴かせてみました。次に安の河の川上にあった大きな

岩と天の金山から鉄を 採ってきて、鍛冶屋(かじや)の天津麻羅(あまつまら)という人を尋ねて洗練させ、イシコリドメノミコトに命じて鏡を作らせました。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_02.html

卷向遺跡は古事記の言葉から神話の安の河原になる。

鉄の精錬技術は神話から創造すると方向は逆になる。または出雲からになる。

遺跡は年代の新しい物ほど、目立つ。年代から奈良の鏡は腐食し残らないだろうな。

『奴婢』

話は奴婢ですが傭兵の可能性もある。雇われ兵、または兵を職業にしている者。 屯倉の三宅さんに家紋を聞いた見当たらないとの事、同和も家紋は持たないとの事です。 三宅さんは公傭兵と思われる。どうも、家紋にきざいていない、知らない家紋が有るみたいだ。 傭兵=奴婢が成立するのではないか。

公傭兵は家紋(雁がね) 私傭兵は家紋(なし)=同和

日本の武士も古い段階においては傭兵的要素を多分に有していたと言われている。律令制の

衰微に伴って軍団に替わって設けられた健児も庸・調の免除を受けた上に兵糧などの名目 で多額の金米が支給されていた。その後、軍団制が復活するものの、その実態は徴兵制的なもので、のちから傭兵的制度に移行していくことになる。大同 4 年 6 月 11 日の太政官符には徴兵された 者が「兵士料(兵士銭)」を納めてこれを免れ、代わりに兵士となるものを雇用している実態 が明らかにされている。また、地方官となった受領達には一般的には自分達を守る兵力を有 していなかったために武芸に優れたものを一時的に「郎党」として雇い入れている事が あった。『枕草子』には除目の際に受領の候補者とされる人の下に人が集まってきたが、受領にな れなかったと聞いて散っていったという描写があるが、こうした人の中には「郎党」となって その経済的恩恵の分け前に預かろうとした人達も含まれていたと考えられている。『雲州消息』にも「参議藤原某より前將軍平某へ護衛の兵を借り受ける」書簡の文例が載せられている が、これもこうした傭兵的な慣習の存在を裏付けている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%82%AD%E5%85%B5>

> 須恵器や登り窯、鉄との関係は重要ですね。5 世紀台になってからとされたましたが、どう も博多湾沿いの福岡市中央区西新町の 3 世紀台の遺跡から、竈が見つかったようです。 > また周辺から鉄ティや、半島系土器や三角縁神獣鏡も出土し、マキムクの鍛冶工房との関係 もしてきされてます。

>> 鉄ティと三角縁、マキムク式はセットでしょう。マキムク式古墳の推定方位区画推定図と、 北九州のマキムク式古墳を結ぶ方位ライン図を再添付しておきます。那珂八幡周辺に初期の 測量拠点があります。 >> やはり少数ながら、弥生末期に天孫集団として、弁韓領域から、製鉄技術をひっさげてマキムク式古墳をつくりつつ、九州から奈良にかけて進出していった集団がいたであろうことが わかります。

Re:倭人伝官職記載投稿者:管理人 投稿日:2012 年 7 月 1 日(日)09 時 27 分 18 秒 返信・ 引用 編集済

> No.631[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 最近、須恵器に興味があり、須恵器を見に堺市博物館に言ったときの事です。須恵器の須 恵は鉄の意味との説明があり、オットー以外…。須恵器の産地は堺ですな。鉄は出雲。

>

須恵器や登り窯、鉄との関係は重要ですね。5 世紀台になってからとされたましたが、どう も博多湾沿いの福岡市中央区西新町の 3 世紀台の遺跡から、竈が見つかったようです。 <http://inoues.net/ruins/nishijin.html>

また周辺から鉄ティや、半島系土器や三角縁神獣鏡も出土し、マキムクの鍛冶工房との関係 もしてきされてます。

那珂八幡古墳など、マキムク式の古墳があるので、総合して考えると、弥生末期の半島系の集団が、上陸した場所として理解すべきなのかもしれません。

弁辰韓の記載に、家の西に竈を置く記載が見えます。

『南齊書』加羅國伝 「弁辰與辰韓雜居、亦有城郭。衣服居處與辰韓同。言語法俗相似、祠祭鬼神有異、施灶皆在戸西。

其瀆盧國與倭接界。十二國亦有王、其人形皆大。衣服絜清、長髮。亦作廣幅細布。法俗特嚴峻。」

弁辰は辰韓に雜居し、城郭をも有する。衣服、住居は辰韓に同じ。言語、法俗は相似するが、祠に鬼神を祭祀するのは異なる、皆が家の西にかまどを置く。その瀆盧国は倭と境界を接する。十二国にも王がおり、身体は皆大きい。衣服は清潔、総髪である。また広い幅の細布を作る。刑罰における法俗は特に峻厳である。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

もしこれらの遺跡の竈の位置が西側だったなら、なおさら弁秦韓との関係が強まりますね。そして、奈良へ向かった集団の祖先もそこから来たであろうことが想定できそうです。

鉄ティと三角縁、マキムク式はセットでしょう。マキムク式古墳の推定方位区画推定図と、北九州のマキムク式古墳を結ぶ方位ライン図を再添付しておきます。那珂八幡周辺に初期の測量拠点があります。

やはり少数ながら、弥生末期に天孫集団として、弁韓領域から、製鉄技術をひっさげてマキム

ク式古墳をつくりつつ、九州から奈良にかけて進出していった集団がいたであろうことがわかります。

後代、5世紀になった同じ弁秦韓から大量に秦氏が流れこんで、須恵器や登り窯、製鉄技術をもたらし、河内王朝の原動力となっていたのでしょう。

先のとおり、彼らが倭訓をもたらしたとすると、「秦語」が混じっていたはずで、それをまた弥生末の皇族とともに、後代の秦氏ももっていた可能性があります。その共通性が見えてくると面白いですね。

竈を西に配置する件については、竈神信仰との兼ね合いを考えはじめてます。

中国や東南アジア、さらにはオリンポスまで竈神信仰はあるわけですが、ただ西に配置するという記載はまだ見当たらない感じです。何か意味がありそうですね。マキムク遺跡の甕類が西??にあるという話を昨日読みました。

寺島しのぶ絶賛のスキンケア - www.dhc.co.jp/ たるみや年齢が気になる肌にコエンザイム Q10!今だけお得 +送料無料 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する 耳で覚える韓国語 - www.espritline.co.jp スピードラーニング韓国語 しゃべる・はなすを体験してみよう! 出版社向け統合システム - www.kowa-dev.co.jp 中小規模向けの出版システムをオーダーメイドで開発します。韓国語はヘイコリア - www.heykorea.com ヘイヘイヘイ元気になる楽しい韓国語 人生初の韓国語 50%割引中 Ads by Google

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年7月1日(日)06時01分20秒 返信引用 編集済

> No.630[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

最近、須恵器に興味があり、須恵器を見に堺市博物館に言ったときの事です、須恵器の須恵は鉄の意味との説明があり、オットー以外。須恵器の産地は堺ですな。鉄は出雲。

戦闘状況を匈奴の画像で再現しています。 須恵器

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A0%88%E6%81%B5%E5%99%A8>

堺市博物館

<http://www.city.sakai.lg.jp/hakubutu/>

> その鉄を産出したのが弁辰。 >>「国は鉄を産出し、韓、濊、倭など皆、これを採りに来る。諸貨の売買には皆、鉄を用いる。中国で金銭を用いるがごとくである。また二郡に供給する。」 >> 彼らは鉄の産出と、鑄造の技術を持っています。鉄ティにも加工できた。 >> どうも分布をみると、弁辰にも多く鉄の遺物があるようで、辰韓人とは別に、弁秦人の製鉄技術の可能性を感じますが、それを楽浪・帯方郡に供給していたとすると、やはり中国系の製鉄技術を、彼らは知っていた可能性を感じます。 >> 彼らは貨幣価値をしっていて、中国の貨

幣を借用せずに、独自に鑄造するということは、相 当な経済感覚をもちあわせていたことも予想できます。
>> 朝鮮北辺へ流れ込んだ燕の流民と、出土する貨幣の話を以前しましたが、弁辰の法治主義 に加えて、養蚕、製鉄技術は、楽浪・真番系でもかなり高い水準にあったのでしょうか。 >> 彼らはそれで秦語をはなしていたわけですね。 >> やはり銅鐸祭祀をした馬韓・弥生中期以降の倭人集団とは、弁秦系はかなり文化的に異なる感じがします。

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:管理人 投稿
日:2012年6月30日(土)23時12分50秒 返信 引用

> No.629[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> そと【蘇塗】 >> 古代朝鮮の南部に住んだ馬韓族にみられた宗教的行事。一種のアジールとも解されている。蘇塗という語が史料に初見するのは《三国志》魏志・韓伝である。原史料がきわめて簡単で「諸 国、各々別邑有り、之を名づけて蘇塗と為す。大木を立て鈴鼓を県(か)け鬼神に事(つ か)う。諸亡、逃れて其の中に至れば、皆之を還さず」という短い説明だけのため、その解 釈をめぐる異論が多い。橋本増吉は蘇塗は別邑のことで、この別邑が一種のアジールであるとした。… >> 蘇塗の解釈に疑問がある。 >> 問題は奴婢、「王となってより会った者は少ない、千人の婢が側に侍り、」の婢の文字がある。 これは奴婢の婢でないか。婢が女兵士ならば奴は男兵士で奴婢は兵士の総称になる。以下の 文章は大きく変わる。 >

魏志等の漢字について、いわゆる蔑視した語が多様されている件を考慮せねばならないでしょう。

「卑、奴、邪、倭、鮮…」

ある意味、原住民の語の発音に対する当て字とも見えますが、たまにそうではないものもある。

その辺の見極めが問われてきますね。 諏訪の御柱と蘇塗のいわゆるソッテとのかかわりは重要です。

銅鐸集団と、その後の鉄器集団、そして鉄ティをもたらし最後の集団とで、3分類できない かと考え始めてます。

諏訪に入ったのは銅鐸集団、紀元前後あたりでしょうか。呉・江南・馬韓系の祭祀をもって いた。

ちょっと別資料をあたっているのですが、その後、弥生後期に鉄器をもたらし集団が九州に 上陸、さらに古墳時代初頭に、瀬戸内経由で、航海集団を利用して、鉄ティを畿内に運び始めたのでしょうか。

畿内の鉄ティの分布をみると、先にお話したとおりで、摂津経由と、河内経由があるようです。 しっかりした水運経路がないと運べなかったのでしょうかね。

その鉄を産出したのが弁辰。

「国は鉄を産出し、韓、濊、倭など皆、これを採りに来る。諸貨の売買には皆、鉄を用いる。中国 で金銭を用いるがごとくである。また二郡に供給する。」

彼らは鉄の産出と、鑄造の技術を持っています。鉄ティにも加工できた。

どうも分布をみると、弁辰にも多く鉄の遺物があるようで、辰韓人とは別に、弁秦人の製鉄技 術の可能性を感じますが、それを楽浪・帯方郡に供給していたとすると、やはり中国系の製 鉄技術を、彼らは知っていた可能性を感じます。

彼らは貨幣価値をしっていて、中国の貨幣を借用せずに、独自に鑄造するということは、相当 な経済感覚をもちあわせていたことも予想できます。

朝鮮北辺へ流れ込んだ燕の流民と、出土する貨幣の話を以前しましたが、弁辰の法治主義に 加えて、養蚕、製鉄技術は、楽浪・真番系でもかなり高い水準にあったのでしょうか。

彼らはそれで秦語をはなしていたわけですね。

やはり銅鐸祭祀をした馬韓・弥生中期以降の倭人集団とは、弁秦系はかなり文化的に異なる感じがします。

ただ蘇塗の習俗自体は、弁秦でも継承されているところをみると、もともと真番時代に彼ら がもっていた習俗

が馬韓に伝わった可能性も感じますね。馬韓の蘇塗・アジールは、僻地に 設置。一方、弁秦のそれは中心地に配置している点で、少し相違がある。

あと、後漢書 107 年の倭王記載は、どうも「倭面土地王帥升」が正解のようですね。

<http://yamatonokuni.seesaa.net/article/32720152.html>

「面」は「メン・ベン」と読むので、「弁(ヘン・ベン)」韓とかかわるかもしれません。「土 (ト・ド)」は「奴」国か。

ちょっともう少し調べてみます。

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 6 月 30 日(土)17 時 48 分 12 秒 返 信・引用 編集済

> No.628[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 そと【蘇塗】

古代朝鮮の南部に住んだ馬韓族にみられた宗教的行事。一種のアジールとも解されている。 蘇塗という語が史料に初見するのは《三国志》魏志・韓伝である。原史料がきわめて簡単で「諸 国,各々別邑有り,之を名づけて蘇塗と為す。大木を立て鈴鼓を県(か)け鬼神に事(つ か)う。諸亡,逃れて其の中に至れば,皆之を還さず」という短い説明だけのため,その解 釈をめぐる異論が多い。橋本増吉は蘇塗は別邑のことで,この別邑が一種のアジールであるとした。…

<http://kotobank.jp/word/%E8%98%87%E5%A1%97>

蘇塗の解釈に疑問がある。

問題は奴婢、「王となってより会った者は少ない、千人の婢が側に侍り、」の婢の文字がある。 これは奴婢の婢でないか。婢が女兵士ならば奴は男兵士で奴婢は兵士の総称になる。以下の 文章は大きく変わる。

>各国にあった蘇塗の北方地域のことになりますが、蘇塗という場が、いわゆる先日の図で しめした「蘇塗」国の南部にあり、その北部に、逃亡者や奴婢が住んでいたので、こういう記載 になったと考えるべきかと感じます。

漢靈帝光和中、倭國亂、相攻伐歷年、乃共立一女子卑彌呼為王。彌呼無夫婿、挾鬼道、能惑衆、 故國人立之。有男弟佐治國。自為王、少有見者、以婢千人自侍、唯使一男子出入傳教令。所處宮 室、常有兵守衛。

漢の靈帝の光和中(178-184 年)、倭国は乱れ、何年も戦さを続けたので、卑彌呼という 一人の女性を共立して王とした。彌呼には夫婿はなく、鬼道を身につけ、よく衆を惑わすので、 国人はこれを立てた。国政を補佐する弟がいる。王となってより会った者は少ない、千人の婢 が側に侍り、ただ一人の男子に教令の伝達のため出入させている。暮らしている宮殿には常 に兵がいて守衛している。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun4-ryosho.htm>

神話の古代航路を考えると航路で繋がる。

諏訪大社には、明治初期まで御使御立座神事という行事があり、神使(おこうさま)という 少年が御杖柱と呼ばれる小さな柱を携えて、大社の周辺を巡りました。この御杖柱には、鉄の 鈴が吊るされていたといえますから、蘇塗の柱にそっくりです。もしこの御杖柱が御柱のミニチュアだとすれば、韓国の蘇塗と諏訪の御柱とは、何らかの関連があるのではないかと想像したくなります。

御杖柱と鉄鐸 (守矢神長家資料館)

http://www.tohyamago.com/event/onbasira_roots/index.php

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 6 月 29 日(金)23 時 01 分 13 秒 返信・ 引用 編集済

> No.627[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 文中の「大木を立てて鈴や鼓を懸け」これが銅鐸でないか。
- > 夏、秋祭りとの関係がありそう…。 >>

- ・ > 常以五月下種訖、祭鬼神、群聚歌舞、飲酒晝夜無休。其舞、數十人俱起相隨、踏地低昂、手足相應、節奏有似鐸舞。十月農功畢、亦復如之。信鬼神、国邑各立一人主祭天神、名之天君。又諸国 各有別邑。名之為蘇塗。立大木、縣鈴鼓、事鬼神。諸亡逃至其中、皆不還之、好作賊。其立蘇塗之 義、有似浮屠、而所行善惡有異。其北方近郡諸国差曉禮俗、其遠處直如囚徒奴婢相聚。

>> 常に五月に種をまき、鬼神を祭り、群衆で歌舞し、昼夜休みなく飲酒する。その舞いは数十人でともに相手に従って大地を高低に踏み、手足の動作をあわせ、音頭は銅鐸の舞に似ている。十月、収穫をおえると、また再びこの通りにする。鬼神を信じ、国邑で各一人を天神の祭の司祭に立て、これを天君と呼ぶ。また諸国の各々に別邑があり、これを蘇塗という。大木を立てて鈴や鼓を懸け、鬼神に仕える。諸々の亡命者は逃げると、その中に入り、皆、ここから帰らず、好んで賊となる。その蘇塗を立てる儀式は浮屠(仏教)に似ており、所行の善悪には異なりがある。その北方近郷の諸国は礼俗の習熟に格差があり、その遠くに住む者達は囚人や奴婢の集団のようである。 >

馬韓はやはり稲作農耕民の地域なので収穫祭が重要だったのでしょうね。卑弥呼と同じく鬼神を祀っていますが、山東半島系の大陸宗教の影響を感じます。

見落としていたのですが、「その北方近郷の諸国は礼俗の習熟に格差があり、その遠くに住む者達は囚人や奴婢の集団

のようである。」

の記載の意味が気になります。

各国にあった蘇塗の北方地域のことになりますが、蘇塗という場が、いわゆる先日の図でしめした「蘇塗」国の南部にあり、その北部に、逃亡者や奴婢が住んでいたのも、こういう記載になったと考えるべきかと感じます。

先の図のとおり、蘇塗地域の北方には、いつも「不斯」という国が見えることがありました。かつての地域拠点ではないかと考えたのですが、習俗に遅れが見えると解釈するとその理由がわかりません。おそらくここまでは行かない領域のことではないでしょうか。

日本において蘇塗のアジュール領域があったとすると、阿蘇や奈良のはずれの山岳地帯を考えます。その南部のほうに祭祀場があり、北部は逃亡民居住地域だったとすると、どうなるか。葛城一言主神社、石上神宮とか、三輪山あたりの構造も気になりますね。

そのほか、ちょっと弁辰伝で気になる点をみつけました。

まず刺青の習俗ですが、後漢書には「其國近倭、故頗有文身者。」とあり、「その国は倭に近い故に全身に刺青を施している者も少

しいる。」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

次に魏書では、「今辰韓人皆褊頭。男女近倭、亦文身。便歩戰、兵仗與馬韓同。其俗、行者相逢、皆住讓路。」

「今、辰韓人は誰もが扁平な頭をしている。男女は倭に近く、全身に刺青もする。歩兵戦に慣れており、兵器は馬韓と同じ。その習俗は、路上で行き交えば、皆、道を譲りあう。」

まず弁辰人と、それ以前からいた辰韓人の2種類があって、これは先の図のとおり、斜線で領域がくぎられていたことがあります。

それで、そのうちの「辰韓人」については、匈奴にみられるように頭を扁平にする習俗があり、全身に刺青もしていたようですね。歩兵戦に優れるのも、北方騎馬民族との兼ね合いを予想します。フヨ系かな？

「以大鳥羽送死、其意欲使死者飛揚。」の葬送記載も、遊牧民系の習俗に見えますね。牛馬に乗る件もそうです。

あと、

『後漢書』弁辰伝では、

弁辰與辰韓雜居、城郭衣服皆同、言語風俗有異。其人形皆長大、美髮、衣服絜清。而刑法嚴峻。其國近倭、故頗

有文身者。

弁辰と辰韓は雑居しており、城郭、衣服などいずれも同じで、言語と風俗は異なる。その族は背が高く大きく、美しい髪、衣服は清楚である。刑罰法令は厳格。その国は倭に近い故に全身に刺青を施している者も少しいる。

とあるのですが、弁辰と辰韓で、言語・習俗が違くと述べてます。弁辰のほうが体格も大きく、進んだ法治制度を持っていたように見えます。ただ、辰韓や倭と違って、その全員が刺青をしていたわけではなかった。

おそらくこの弁辰人のほうが、楽浪移民だったものと考えerわけですが、そう考えていくと、馬韓人と、辰韓人、そしてこの弁辰人の3種類の人種の言語を区別しながら、その魏志の三韓・倭国の国名や官職を分類しないとイケないだろうことがわかります。

馬韓系は、「卑弥」「卑離」等の文字を多用して鬼神を祀る稲作農耕民の習俗。三韓を納める「辰王」を出す。

辰韓系は、漢代以前に流入した遊牧系民族で、言語ももしかするとツングース系等だったかもしれませんか。倭に近い刺青の習俗も持つ。国名に「己柢、勤耆、冉奚、軍彌、如湛、戸路、州鮮、優由」などの複合語(当て字)を使う。

そして弁秦人は、楽浪経由でやってきた体格の大きい別人種で、衣服は清潔、法治主義。騎馬の習俗走らないようですね。「彌邪馬奴」という語を国名に用いる。

おそらく、まず弥生中期に上記のうち、馬韓系の農耕民が九州北部にやってきて、銅鐸祭祀や鬼神祭祀をもたらしたのでしょう。言語は江南系の呉音。

その後、弥生末に弁秦人がやってきて、邪馬台国の基礎を築いた。言語は「倭訓」

そして最後に、古墳時代中期に、辰韓・新羅系の影響が倭にももたらされ、牛馬や騎馬戦術がもたらされていく。「北方遊牧民系の言語」

魏志倭人伝の資料が、その弁秦人がくる以前のものならば、呉音系の文字しか出てこないかもしれませんか。

逆にそれ以降の3世紀末~4世紀のものも含むなら、そこに「倭訓」の要素が加わってくるかと感じます。

昨日から皇族や物部・海部氏の系譜を調べはじめているのですが、共通する記載傾向がありますね。

初代の始祖が、やや装飾された呉音表記。2-5代目は呉音表記の当て字。弥生中期

5-8代目あたりから、倭訓が混じってきて、表記の意味も理解できるようになる。170-350年代

それ以降は、当て字ではなく、漢字でしっかり名を表記してその意味自体も理解している。古墳時代中期。

物部氏

http://www.harimaya.com/o_kamon1/syake/kinki/s_isogam.html

海部氏

<http://kodai.sakura.ne.jp/konohitogahimiko/303-futatunokeifu.htm>

皇族(前後に代数が伸びている点に注意)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9A%87%E5%AE%A4%E3%81%AE%E7%B3%BB%E5%9B%B3%E4%B8%80%E8%A6%A7#.E9.BB.8E.E6.98.8E.E6.9C.9F.EF.BC.88.E5.88.9D.E4.BB.A3.E3.81.8B.E3.82.8915.E4.BB.A3.EF.BC.89>

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年6月29日(金)07時04分55秒 返信引用 編集済

> No.626[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

銅鐸:次の文章から盆踊りが思い浮かぶ。

文中の「大木を立てて鈴や鼓を懸け」これが銅鐸でないか。
夏、秋祭りとの関係がありそう…。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%86%E8%B8%A%E3%82%8A>

常以五月下種訖、祭鬼神、群聚歌舞、飲酒晝夜無休。其舞、數十人俱起相隨、踏地低昂、手足相應、節奏有似鐸舞。十月農功畢、亦復如之。信鬼神、国邑各立一人主祭天神、名之天君。又諸国 各有別邑。名之為蘇塗。立大木、縣鈴鼓、事鬼神。諸亡逃至其中、皆不還之、好作賊。其立蘇塗之 義、有似浮屠、而所行善惡有異。其北方近郡諸国差曉禮俗、其遠處直如囚徒奴婢相聚。

常に五月に種をまき、鬼神を祭り、群衆で歌舞し、昼夜休みなく飲酒する。その舞いは数十 人でともに相手に従って大地を高低に踏み、手足の動作をあわせ、音頭は銅鐸の舞に似てい る。十月、収穫をおえると、また再びこの通りにする。鬼神を信じ、国邑で各一人を天神の祭の 司祭に立て、これを天君と呼ぶ。また諸国の各々に別邑があり、これを蘇塗という。大木を立てて鈴や鼓を懸け、鬼神に仕える。諸々の亡命者は逃げると、その中に入り、皆、ここから帰ら ず、好んで賊となる。その蘇塗を立てる儀式は浮屠(仏教)に似ており、所行の善悪には異なり がある。その北方近郷の諸国は礼俗の習熟に格差があり、その遠くに住む者達は囚人や奴婢 の集団のようである。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

>> あとぜんぜん話は変わって、今マキムク遺跡の本を読んでいたのですが、埋められた銅鐸

にも2種類あって、弥生中期の古いものは、土中から完全な状態で見つかり、弥生後期の新しいものは破碎されているとのこと。 >> この辺も、170年前後の半島系集団の進出との兼ね合いを感じますね。

>> 江南系の鐸を鳴らすような祭祀が元にあって、その後来た集団はそれを継承しなかった可能性を感じます。
>

- > 三韓の蘇塗の祭祀で鳴らす楽器と、銅鐸は違う起源ということになるのでしょうか。 >
- > 半島系だったとしたら、それらはむしろ継承されてしかるべきですね。 >
- > 物部・葛城鴨といった先住・南方系集団と銅鐸祭祀は関係しそうですが、これはそうすると呉・江南系の祭祀だったのかな。

半島系は秦語、あるいは訓読みで話していたのか？

この問題は簡単で、魏志倭人伝の陳寿が話していた言語でしょうな。三角縁神獣鏡の文章に は現在の日本語に近い。アイヌ語?も含まれている模様。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%B3%E5%AF%BF> > 彼らは呉音で話していて、後にきた半島系は秦語、あるいは訓読みで話していたのか?あ

るいは秦語だけで、さらに後に訓読みがはいったのか?_この辺がやはり課題ですね。

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:管理人
投稿日:2012年6月28日(木)23時07分17秒 返信・引用 編集済

> No.625[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。 > 過去に議論したものですが、どうも名前は表音になっている。

>> 例ですが、竹斯国(つくし国)、竹島(つく島)都斯麻国(つしま国)

そうですね、この段階では、まだ音読みで訓読みではないようです。

しかも呉音ですね。記紀は魏志に見える官職を、呉音で記してます。漢音ではない。「弥馬獲支」だと、漢音では「ミバカクシ」、しかし記紀関連では呉音で「ワクキ・ワケ」となる。

どうしてそうなるのか?なのですが、倭人は呉音で話していたからだと思います。

ただ、漢字で官職名や国名を、漢や魏側に文書で提出した際には、「弥馬獲支」と書いたという 可能性がありますね。

そうでないとすると、どういうケースになるかな…。

> 東南へ 500 里陸行すると伊都国に到着する(「東南陸行五百里、到伊都國」)。長官は爾支 (にき)、副官は泄謨觚(せもこ)と柄渠觚(へくこ)。1000 余戸が有る。世、王が居る。皆 は女王国に属する。常方郡の使者の往来では常に駐在する所。 >

> 大官:爾支(にし)=螺 > 副官:柄渠觚(ひちこ)日刀子 >

この件については、「柄渠觚」のような特殊文字を使う背景には、ヘイ、キョウ、セツなど、複雑 な発音が混じっていたことによると考えてます。秦語の事例のように、単純な倭人の呉音で はなかったのでしょうか。

後に倭人のほうで、単純化して記録した可能性は感じますが。

あとぜんぜん話は変わって、今マキムク遺跡の本を読んでいたのですが、埋められた銅鐸に も2種類会って、弥生中期の古いものは、土中から完全な状態で見つかり、弥生後期の新しい ものは破砕されているとのことでした。

この辺も、170 年前後の半島系集団の進出との兼ね合いを感じますね。

江南系の鐸を鳴らすような祭祀が元にあって、その後来た集団はそれを継承しなかった可能性を感じます。

三韓の蘇塗の祭祀で鳴らす楽器と、銅鐸は違う起源ということになるのでしょうか。 半島系だったとしたら、それらはむしろ継承されてしかるべきですね。

物部・葛城鴨といった先住・南方系集団と銅鐸祭祀は関係しそうですが、これはそうする と呉・江南系の祭祀だったのかな。

彼らは呉音で話していて、後にきた半島系は秦語、あるいは訓読みで話していたのか?ある いは秦語だけで、さらに後に訓読みがはいったのか?_この辺がやはり課題ですね。

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 6 月 28 日(木)18 時 08 分 40 秒 返 信引用 編集済

> No.623[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 過去に議論したのですが、どうも名前は表音になっている。例ですが、竹斯国(つくし国)、竹島(つく島)都斯麻国(つしま国)

明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又東 至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、達 於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。『隋書』倭国伝

翌年(608)、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百済を渡り、竹島 『竹島(つく島)=済州島』に行き着き、南に○羅国を望み、都斯麻国『都斯麻国(つしま国)= 対馬 国』を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国に至り、また竹斯国『竹斯国(つくし国)=筑 紫国(博多)』に至り、また東に秦王国に至る。その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲と なる。疑わしいが解明は不能である。また十余国を経て、海岸に達した。竹斯国より以東は、い

づれも倭に附庸している。 ランダムに対応させると。表音に変更しています。

伊支馬:(いしば)=石場 弥馬升:(いばし)=伊橋 弥馬獲支:(いばほし)= 岩星 奴佳?:(のじた)=(野路田)

始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る(「始度一海千餘里、至對馬國」)。大官は卑狗(ひ こ)、副官は卑奴母離(ひなもり)。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険し く、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

大官:卑狗(ひこ)=比子 副官:卑奴母離(ひのもり)=日野森、桧森

また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る(「又南渡一海千餘里、名曰瀚海 至一大國」)。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000 の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく。

また海を 1000 余里渡ると末廬国に至る(「又渡一海千餘里、至末廬國」)。4000 余戸が有る。草木が茂り、前を行く人が見えない。魚や、アワビを捕るのを好み、皆が潜る。

東南へ 500 里陸行すると伊都国に到着する(「東南陸行五百里、到伊都國」)。長官は爾支 (にし)、副官は泄謨觚 (せもこ)と柄渠觚(へくこ)。1000 余戸が有る。世、王が居る。皆 は女王国に属する。帯方郡の使者の往来では常に駐在する所。

大官:爾支(にし)=螺

副官:泄謨觚(いもこ)妹子

副官:柄渠觚(ひちこ)日刀子

> 彼らは大和に入る前に九州で「ヒコ・ワケ・ミミ」といった集団と混合・婚姻しているはずです。だからその尊称がそのまま皇族の名前に引き継がれていく。

>> あと、伊都国の長官「泄謨觚(セツボクコ)・柄渠觚(ヘイヒョウコ)」、奴国の長官「シ馬 觚(シマコ)」なのですが、これが「觚(コ・杯の意味)」が、弁秦韓の記載に共通するんですよね。 >> 秦韓の「右渠帥」、「弓を弧(コ)」と呼ぶ。「行酒を行觴(酒杯を廻すこと)と称し、互いを 徒と呼び、秦語に相似している故に、これを秦韓とも呼んでいる。」 >> 逆に副官の「卑奴母離」は、馬韓の「卑離」「卑彌」国関係の名称に共通性があります。 >> 馬韓系と弁秦韓系の住民が混合していたという線でいかがでしょうか。馬韓系のほうが早くやってきて、先住していたところに、あとから楽浪・弁秦韓系の「徐・阿」集団がやってくる。 >> 邪馬台国の女王「卑弥呼」、その南の狗奴国王「卑弥弓呼」は、名称的には馬韓系かもしれませんが、秦弁韓の習俗では王は、自分たちでは擁立せずに、馬韓の月支国の王族を擁立してましたからね。 >> だから、伊都国や、奴国には、長官がいても王はいないわけです。 >> そして魏志の記載にも、混乱がおきた際には、合議制のもとで、どこからか女王をもってきて擁立する考え方が出てくるわけですね。弁秦的だといえます。 >>> これは、魏志の行程とは別の行程に成っていると考えるのが自然です。 >>>

----- Re:倭人伝官職記載投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 6 月 28 日(木)12 時 28 分 1 秒 返信・引用 編集済

> No.623[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

方位は存在した。天岩戸は奈良の三輪山山麓

九州の方位と奈良の方位が相似すれば相互に補完できる。を前提に 九州の天岩戸、天香久山から天岩戸は奈良の三輪山山麓になる。 古事記の文章から地名を地図上にプロットすると同様の位置になる。 倭人伝官職記載
投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 28 日(木)08 時 31 分 57 秒 返信・引用 編集済

> No.622[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 帯方郡から糸島→大三島→淡路…、方向は正しいが、九州をバイパスしています。
- > 九州の方位の意味がなくなる。吉野ヶ里あたり(秦野の伊都国)に都が存在したのだが? >
- > 対海国:対馬、一大国(壱岐島)、末廬国(博多)、
>
- > 末廬国(博多)の特定 >

とりあえず、官職記載に注目して、国の位置特定を考えてみました。

対馬國に至る。その大官を卑狗(ヒク)と日い、副を卑奴母離(ヒナモリ)と日う。

一大國に至る。官は亦卑狗と日い、副を卑奴母離と日う。

又一海を渡ること千余里、末盧國に至る。

東南のかた陸行五百里にして、伊都國に至る。官を爾支(ジシ・ニキ)と日い、副を泄謨觚 (セツボクコ)・柄渠觚(ヘイヒョウコ)と日う

東南のかた奴國に至ること百里。官をシ馬觚(シマコ)と日い、副を卑奴母離と日う。 東行して不彌國に至ること百里。官を多模(タボ・タモ)と日い、副を卑奴母離と日う。

南のかた投馬國に至る。水行二十日。官を彌彌と日い、副を彌彌那利(ミミナリ)と日う。

南、邪馬壹國(邪馬台國)に至る。女王の都する所なり。水行十日、陸行一月。官に伊支馬 (イシバ・イキマ)有り。次を彌馬升(ミマショウ)と日い、次を彌馬獲支(ミマカクシ・ミマワクキ)と日い、次を奴佳テ(ヌカデイ)と日う。

まず対馬國 一大國 奴國 不彌國 にみえる「卑奴母離」ですが、「夷守(ヒナモリ)」の地名が、福岡南部~日向に見えるので、おそらくは対馬方面から九州西南部にかけての官職だったものと感ずる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%83%8A%E3%83%A2%E3%83%AA>

次に対馬國 一大國「卑狗」ですが、こちらも狗奴国の「狗古智卑狗」とあわせて、九州全域に 共通した官職だったものと考えます。これは後代の皇族の名前につく「ヒコ」へと継承されて いったのでしょう。

そして投馬國の「彌彌」「彌彌那利」ですが、こちらも後代の皇族に見える「耳」のようですね。 下記サイトに詳細説明してありますが、「天忍穂耳、神沼河耳 神八井耳 息石耳、耳成山」等の名 称を考慮すると、九州西部から南部・日向系の官職名に見えます。

後に南方系の航海集団・ニニギ・ニギハヤヒとともに葛城・物部関連で、先に瀬戸内・大和 に入った集団の官職ではないかと感ずる。したがって「投馬国」は、九州西南部・出水の私 の推定どおりではないかと感ずる。

<http://www.dai3gen.net/mimitari.htm>

それで残りですが、特に邪馬台國の官職に注目すると、を彌馬獲支(ミマカクシ・ミマワク キ)というのが、後代の皇族等の名前に見える「ワケ」ではないでしょうか。

別(/和気/和希/穫居)と書きますが、「穫居」がかなり近い発音を有しています。彌馬は別 に意味があるようです。

「 「彌馬升(ミマショウ)」も、同様に漢書に見える倭国王・「帥升」、魏への使い「難升米」とあ

わせて、「升」が官職だったろうことが伺えます。後に尊称となったかもしれません。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B8%A5%E5%8D%87> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A3%E5%8D%87%E7%B1%B3>

次使の「都市牛利」も同様な論理でいけば、「都市」を納める官職とみなせます。都城區画があ って、そこに「大市」があったという先の推定どおりですね。

あと、「奴佳テ(ヌカイデイ)」は、奴國の官職でしょう。

そして長官の「伊支馬(イシバ・イキマ)」ですが、弁秦韓の官職と同類ではないでしょうか。 「拘 邪秦の支廉」と同類の官職です。

「辰王は月支國に治し、臣智は優呼として、臣雲遣の支報・安邪[足叔]の支漬・臣離兒の不 例・拘 邪秦の支廉の号を加う」

これは王とは別の祭祀官職と推定したのですが、その弁秦韓と同じ「邪馬」系統に属する邪 馬台國でも、同様な王と祭祀官との統治システムがあったのではないかと感ずる。

意味合い的には、「秦支廉」あるいは「廉斯」のケースでは「秦韓」地域の「廉という支族」の祭祀 長の意味とすると、「伊」という地域の「馬という支族」の祭祀長となるでしょうか。「伊邪」「伊 支」「斯馬」といった邪馬台國周辺諸國の名称とも重なってきます。

そうすると邪馬台国の官職が、皇族の尊称へと変化していった過程が伺えるのでして、おそらくはニギハヤヒ集団の後にやってきた半島系天孫集団の官職名に、それらが由来すると考へるべきかもしれません。

彼らは大和に入る前に九州で「ヒコ・ワケ・ミミ」といった集団と混合・婚姻しているはず です。だからその尊称がそのまま皇族の名前に引き継がれていく。

あと、伊都国の長官「泄謨觚(セツボクコ)・柄渠觚(ヘイヒョウコ)」、奴国の長官「シ馬觚

(シマコ)」なのですが、これが「觚(コ・杯の意味)」が、弁秦韓の記載に共通するんですよ ね。

秦韓の「右渠帥」、「弓を弧(コ)」と呼ぶ。「行酒を行觴(酒杯を廻すこと)と称し、互いを徒 と呼び、秦語に相似している故に、これを秦韓とも呼んでいる。」

逆に副官の「卑奴母離」は、馬韓の「卑離」「卑彌」国関係の名称に共通性があります。

馬韓系と弁秦韓系の住民が混合していたという線でいかがでしょうか。馬韓系のほうが早く やってきて、先住していたところに、あとから楽浪・弁秦韓系の「徐・阿」集団がやってくる。

邪馬台国の女王「卑弥呼」、その南の狗奴国王「卑弥弓呼」は、名称的には馬韓系かもしれませんが。秦弁韓の習俗では王は、自分たちでは擁立せずに、馬韓の月支国の王族を擁立してました からね。

だから、伊都国や、奴国には、長官がいても王はいないわけです。

そして魏志の記載にも、混乱がおきた際には、合議制のもとで、どこからから女王をもってき て擁立する考え方が出てくるわけですね。弁秦的だといえます。

> これは、魏志の行程とは別の行程に成っていると考えるのが自然です。 >

そうですね、おそらく宇佐から魏年号銘の三角縁が出ているところを見ると、宇佐方面は当初から邪馬台国の支配下にあつたであろうことが推定できますから、糸島半島から瀬戸内 に移動する際に、そこに立ち寄った可能性が高いです。そのまま陸路で1ヶ月という線もありですね。

帰りは、奈良から出て行くのには、標高差からみて船のほうが楽だったかもしれません。

Ads by Google ----- Re:倭人伝国名記載図訂正
投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月28日(木)02時21分32

秒 返信・引用 編集済 > No.621[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>先の糸島→大三島→淡路・摂津三島経由だと、奈良盆地で木津川沿いの椿井大塚山そばまで船でいけるはずで
す。

帯方郡から糸島→大三島→淡路…、方向は正しいが、九州をバイパスしています。九州の方位の意味がなくなる。吉野ヶ里あたり(秦野の伊都国)に都が存在したのだが？

対海国:対馬、一大国(壱岐島)、末廬国(博多)、
末廬国(博多)の特定

一大国(壱岐島)から 1000余里渡る。古代の距離測定の信頼性は方位で確認済みです。 1000余里最低単里で 50数kmになり、唐津、糸島は外れる。 また、唐津辺りには同和地区、軍治施設があり上陸は不可です。
注)奈良にも同和地区が多い。軍治施設が点在した模様。

上陸は志賀島(しかのしま)方向、博多しかない。当時は案内人が付いたと思われる。

1.また南に瀚海と呼ばれる海を 1000余里渡ると一大国に至る(「又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國」)。官は対馬国と同じ。300余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく。

2.また海を 1000 余里渡ると末廬国に至る(「又渡一海千餘里、至末廬國」)。4000 余戸が有る。 草木が茂り、前を行く人が見えない。魚や、アワビを捕るのを好み、皆が潜る。

>重量物を積んだケースでは、陸行より水行のほうがよかった

これは、魏志の行程とは別の行程に成っていると考えるのが自然です。

当時の境界は対馬の厳原と安芸の宮島、厳島と思われる。「厳」が国境を表わす字になる。 厳原の管理を行うのが伊都国。厳島は女王国(奈良)になる。

分かりやすく書くと、対馬(厳原)で入国許可を貰い末廬国(博多)に入り。伊都国で再度、 厳島、女王国(奈良)の入国許可を貰う。伊都国→奴国→不彌国の港から古代航路で投馬国経 由で厳島。厳島から陸路で女王国(奈良)。当時は案内人が付いたと思われる。

秦野著作:徐福と邪馬台国で魏志の行程は説明している。

> それよりは、水行 10 日で糸島から奈良まで船で向かってしまったと考えたほうがよいように感じます。 >

> 別に陸行ルートは、邪馬台国内の瀬戸内北岸経由で向かうことが可能で、それが陸行 1 月 だったということです。

>> 牛馬のない世界ですから、重量物を積んだケースでは、陸行より水行のほうがよかったでしょうけど、水流や風向きでその双方を使い分ける必要があったかもしれません。 >

----- Re:倭人伝国名記載図訂正投稿者:管理人
投稿日:2012 年 6 月 27 日(水)22 時 24 分 53 秒 返信・引用 編集済

> No.620[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 古代の海上航路の特定が問題になりましたな。注意することは海流、潮流の速度と > 風向きです。船はジャンク型、帆船になる。

> 南に水行 10 日と陸行 1 月で女王の都のある邪馬台国に至る(「南至邪馬壹國、女王之所都、 水行十日陸行一月」)。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳鞮があり、推計 7 万余戸。 >

- > よくま、誤訳してますな。あきれています。修正すると以下です。
- > 「南至、邪馬壹國、女王之所都水行十日陸行一月」
- > 南に至る。邪馬台国、女王之所は合わせて水行 10 日+陸行 1 月。 >

>

思うに、帯方郡から、奈良の都城区画までは、水行だけで十分ではないかと感じます。

先の糸島→大三島→淡路・摂津三島経由だと、奈良盆地で木津川沿いの椿井大塚山そばまで船でいけるはずで

す。
三島あたりの標高は 8 メートルで、そこから大塚山まで 35 メートル前後まで川をさかのぼります。こちらで標高を調べることができます。 http://wisteriahill.sakura.ne.jp/GMAP/GMAP_ALTITUDE/index.php

あるいは、河内(己百支国)から、羽曳野経由で、奈良の三宅町の都城区画中心地まで向かうことも可能です。

ただこの場合、羽曳野までは 15 メートル前後ですが、山地を抜けるさいに 50 メートルを超えるので、船でそこを超えるには、工夫が必要だったでしょう。

おそらく三宅町に唐古遺跡があって、宮殿があったでしょうから、ここが港として後代倭屯倉として機能した背景には、河内からの物流のルートがあったからと理解すべきかもしれません。

あとは、先の河内郡の中心地・石切神社周辺まで船で向かい(8 メートル)そこから生駒山地を越えるルートですね。これは陸路になりますから、超えるのにまる 1 日かかったでしょう。

ともあれ、こういうわけで、奈良まで向かう分には水行だけで十分なので、魏志の水行 10 日に加えて陸行 1

月を加えるには、別の理由を見出さないといけないことになります。

下記のサイトに、遣唐使の日程を推定しているのですが、難波から那珂港までを20日と計算しています。
<http://www.mikkyo21f.gr.jp/kukai-life/cat35/post-134.html>

瀬戸内航路で20日とすると、岡山あたりで陸行に乗り換えたという線しか、水行10日+

陸行1月の記載と一致してこないように感じますね。

銅鏡100枚を積むと、数百キロに荷物を積んだでしょうから、それなりに歩みも遅くなっただけかもしれません。その辺船で進めれば楽だったでしょう。

いずれにせよ、摂津経由なら、椿井大塚山周辺で一度銅鏡をすべて下ろして、人力車に寄せかえる必要があったでしょうね。

斯馬国と己百支国が、女王国の傍らの国として記載されているのには、奈良の都城區画にいたる2つのルートがあったということを示しているように感じます。そこからやや離れて淡路、四国、明石海峡の「伊邪国」があったのでしょうか。

岡山から陸路に乗り換えるとすると、この伊邪国が邪魔したからという経緯になるかと思うのですが、はたしてそうだったか?が課題です。おそらく伊邪も、斯馬も、己百支もすべて、鴨葛城系の航海集団の支配下にあったような気がしますね。

それよりは、水行10日で糸島から奈良まで船で向かってしまったと考えたほうがよいように感じます。

別に陸行ルートは、邪馬台国内の瀬戸内北岸経由で向かうことが可能で、それが陸行1月だったということです。

牛馬のない世界ですから、重量物を積んだケースでは、陸行より水行のほうがよかったでしょうけど、水流や風向きでその双方を使い分ける必要があったかもしれません。

----- Re:倭人伝国名記載図訂正投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年6月27日(水)10時47分44秒 返信・引用 編集済

> No.619[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古代の海上航路の特定が問題になりましたな。注意することは海流、潮流の速度と風向きです。船はジャンク型、帆船になる。

古代の人は伝説、雅楽で記録しているが、誰も気づいていない。

徐福伝説

佐賀から鹿児島、宮崎ルート。水行20日は佐賀から大分県宇佐まで。和歌山から静岡、小笠原 日本海側の青森 <http://www.asukanet.gr.jp/tobira/jofuku/jofuku.htm>

この航路の空白部分を埋めるのが古事記の国生みになる。

以前に紹介したが興味が示さなかった。

神々の出現

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami.html

大きな地名は神々の出現の地名は現在でも使われている。航路の一部は秦野著:徐福と邪馬台国で紹介している。

水行10日 大分県宇佐市の宇佐神宮の呉橋(くれはし)は多分、広島県の呉、までの航路でしょう。呉橋の参道:宇佐神宮の呉橋から鷹居八幡神社(たかいはいちまんじんじゃ)で駅館川(やつかんがわ)を下り、厳島、呉の航路。

宇佐神宮の創建 宇佐神宮の比売大神は豊受比売命が創建している。 応神天皇(一之御殿)、比売大神(ひめの

おおかみ/二之御殿)、神功皇后(三之御殿)

神功皇后=開化天皇玄孫=杵築

応神天皇=杵築の子供、父は仲哀天皇

比売大神=豊受比売命=杵築の妹

表筒男命(うわつつのおのみこと)=杵築の父、卑弥呼の弟

畝火山口神社の神功皇后、豊受比売命、表筒男命は卑弥呼の弟、娘を祭る。杵築=神功皇后が 卑弥呼の後を継ぐ事から邪馬台国は畝火になる。この神社には竜神が住む、竜神が卑弥呼

注)住吉三神、神々の誕生とは別物

<http://www.k3.dion.ne.jp/~kodaira/soo1102.htm> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%8F%E5%90%89%E4%B8%89%E7%A5%9E>

宇佐神宮は全国に 4 万社あまりある八幡様の総本宮です。 八幡大神(応神天皇)・比売大神・神功皇后をご祭神にお祀りし、 725 年に創建されました。 皇室も伊勢の神宮につぐ第二の宗廟(そうびょう)として御崇敬になり、 一般の人々にも鎮守の神として古来より広く親しまれてきました。

<http://www.usajinguu.com/> 南に水行 10 日と陸行 1 月で女王の都のある邪馬台国に至る(「南至邪馬壹國、女王之所都、

水行十日陸行一月」)。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳鞮があり、推計 7 万余戸。

よくま、誤訳してますな。あきれています。修正すると以下です。 「南至、邪馬壹國、女王之所都水行十日陸行一月」 南に至る。邪馬台国、女王之所は合わせて水行 10 日+陸行 1 月。

こんな訳じゃあ、ずーと、ここは何処ですな。

> そして邪馬台国の奥地にある女王の所在地までは、水行 10 日、もしくは陸行 1 月という ことのように感じますね。

----- 倭人伝国名記載図訂正投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 27 日(水)08 時 12 分 11 秒 返信・引用 編集済

> No.618[元記事へ]

ちょっと先ほどの倭人伝国名記載図を訂正しました。

魏志倭人伝の「斯馬国」推定地を、摂津・島本町から、すこし南西にある三島鴨神社の位置に 変更しました。

また興味深いラインが出てきてます。図 1 のとおりです。

摂津三島鴨神社から、河内郡の中心地・物部氏の石切神社つまり「己百支(カワチ))国」へラインを伸ばし、さらに伸ばすと葛城一言主神社へ至ります。ここから秋津遺跡にかけて が、大和の都城区画の西端にあたるのでしょうか。

それでそのライン上には、また当麻山口神社と二上神社が載ります。

物部・葛城・当麻・鴨系の氏族が見えてくるのですが、これがいわゆるニギハヤヒ・在地系 集団だったのでしょう。一足先に大和へ入った集団で、呉と結んだ南方系航海集団と関連してきます。

その摂津の三島鴨神社から今度は、このラインに垂直にした 15 度偏角のラインを、西に伸ばしていくと、伊予今治の大三島にある大山祇神社へ至ります。また東に伸ばすと鹿嶋神宮 です。

なお 15 度偏角のラインは、以前お知らせした呉年号銘鏡の出土地点を結んだラインと同じ偏角です。図 2 参照。

さらに、西へ伸ばすと糸島半島へ至ります。

おそらく糸島半島にある稲葉古墳群が、マキムク式古墳で年代的にあうのではないかと感じます。
<http://www.jpn-hayashi.com/cgi-bin/pjlist.cgi?mode=%8C%C3%95%AD%8CQ&sub1=&choice1=%88%EE%97t&choice2=&choice3=&area0=%8E%A9%8E%A1&area1=%95%9F%89%AA%8C%A7&title0=%88%EE%97t&title1=%8C%C3%95%AD%8CQ&item2=&item0=1&item1=&browser=99&column=24&font=20&screen=240&life=>

それでその古墳の周辺にある地名に「志摩師吉」という地名が見えます。これが、おそらく魏志の伊都国見える官職「泄謨觚(セマコ)」、奴国に見える官職「シ馬觚(マコ)」と関係するのではないのでしょうか。

つまり、この糸島半島自体は、やはり「伊都国」で、「斯馬国」ではないということかもしれません。

ともあれ、呉・南方系航海集団が瀬戸内の実権を握っていたものと思われます。

それで邪馬台国を構成した半島系集団は、彼らの航海技術に頼らざるを得なかったため、彼らの支配領域を国として遣しながら、支配を広げていったと考えるのが筋かもしれません。これが皇族の東征と塩土爺の話になったのでしょうか。

今回の糸島→瀬戸内海路と、先の大分→伊予→淡路→河内への陸・海路併用ルート、それに瀬戸内北岸の陸路を通る3つのルートとがあったのではないのでしょうか。

※ただ、どうも先の大分・柳川の三島神社自体は中世に勧請したもので、あまり参考にならないようです。

そして邪馬台国の奥地にある女王の所在地までは、水行10日、もしくは陸行1月というここのように感じますね。倭人伝国名記載図訂正投稿者:管理人 投稿日:2012年6月27日(水)08時12分11秒 返信引用編集済

> No.618[元記事へ] ちょっと先ほどの倭人伝国名記載図を訂正しました。

魏志倭人伝の「斯馬国」推定地を、摂津・島本町から、すこし南西にある三島鴨神社の位置に変更しました。

また興味深いラインが出てきてます。図1のとおりです。

摂津三島鴨神社から、河内郡の中心地・物部氏の石切神社つまり「己百支(カワチ))国」へラインを伸ばし、さらに伸ばすと葛城一言主神社へ至ります。ここから秋津遺跡にかけてが、大和の都城区画の西端にあたるのでしょうか。

それでそのライン上には、また当麻山口神社と二上神社が載ります。

物部・葛城・当麻・鴨系の氏族が見えてくるのですが、これがいわゆるニギハヤヒ・在地系集団だったのでしょうか。一足先に大和へ入った集団で、呉と結んだ南方系航海集団と関連してきます。

その摂津の三島鴨神社から今度は、このラインに垂直にした15度偏角のラインを、西に伸ばしていくと、伊予今治の大三島にある大山祇神社へ至ります。また東に伸ばすと鹿嶋神宮です。

なお15度偏角のラインは、以前お知らせした呉年号銘鏡の出土地点を結んだラインと同じ偏角です。図2参照。

さらに、西へ伸ばすと糸島半島へ至ります。

おそらく糸島半島にある稲葉古墳群が、マキムク式古墳で年代的にあうのではないかと感じます。
<http://www.jpn-hayashi.com/cgi-bin/pjlist.cgi?mode=%8C%C3%95%AD%8CQ&sub1=&choice1=%88%EE%97t&choice2=&choice3=&area0=%8E%A9%8E%A1&area1=%95%9F%89%AA%8C%A7&title0=%88%EE%97t&title1=%8C%C3%95%AD%8CQ&item2=&item0=1&item1=&browser=99&column=24&font=20&screen=240&life=>

それでその古墳の周辺にある地名に「志摩師吉」という地名が見えます。これが、おそらく魏志の伊都国見える官職「泄謨觚(セマコ)」、奴国に見える官職「シ馬觚(マコ)」と関係するのではないのでしょうか。

つまり、この糸島半島自体は、やはり「伊都国」で、「斯馬国」ではないということかもしれません。

ともあれ、呉・南方系航海集団が瀬戸内の実権を握っていたものと思われます。

それで邪馬台国を構成した半島系集団は、彼らの航海技術に頼らざるを得なかったので、彼らの支配領域を国として遺しながら、支配を広げていったと考えるのが筋かもしれません。これが皇族の東征と塩土爺の話になったのでしょうか。

今回の糸島→瀬戸内海路と、先の大分→伊予→淡路→河内への陸・海路併用ルート、それに瀬戸内北岸の陸路を通る3つのルートとがあったのではないのでしょうか。

※ただ、どうも先の大分・柳川の三島神社自体は中世に勧請したもので、あまり参考にならないようです。

そして邪馬台国の奥地にある女王の所在地までは、水行10日、もしくは陸行1月というここのように感じますね。

観光タクシー 福井・石川 - www.anaba.jimusho.jp 県内観光地へ40%割引の観光タクシー、県産そば粉使用のそば専門店へご案内 Ads by Google

----- Re:倭人伝国名記載図 投稿者:管理人
投稿日:2012年6月26日(火)23時13分7秒 返信引用 編集済

> No.617[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 方位を繋ぐと海上航路になる。伝説の神功皇后伝説を辿ると堺、瀬戸内海を通り、九州の筑後川、韓半島までたどり着く。 >

先の図にでてきた斯馬国と推定した三島について調べてみました。

三島神社の分布が、ちょうど先の図の四国伊予・九州大分・柳川方面へ伸びるラインと一致します。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E5%B3%B6%E7%A5%9E%E7%A4%BE>「伊予大三島の大山祇神社が伊豆の三嶋大社と関係のある神社である。」

日本各地の三島神社 大山祇神社(総本社) - 愛媛県今治市 ※三三島 三嶋大社(総本社) - 静岡県三島市 ※三三島 三嶋神社 (平塚市) - 神奈川県平塚市

三島鴨神社 - 大阪府高槻市 ※三三島 三嶋神社 (西条市) - 愛媛県西条市 三島神社 (四国中央市) - 愛媛県四国中央市 三島神社 (徳島市) - 徳島県徳島市 三嶋神社 (梶原町) - 高知県梶原町 三島神社 (臼杵市) - 大分県臼杵市 三島神社 (柳川市) - 福岡県柳川市

その祭神・大山祇ですが、塩土爺、鴨氏も絡んで航海集団ですね。彼らが瀬戸内航路を知っていたのでしょうか。

よって斯馬国が、三島方面である可能性が高まったといえるかもしれません。

あと、倭人伝国名と首都の件ですが、たとえば北の「斯馬国」と「邪馬台国」との間には「馬」の共通文字がありますね。

同様に、東の「伊邪国」と「邪馬台国」との間には「邪」が共通します。

東西南北の隣接する国名、地域名、集団名等を、共有している可能性はありますね。どちらが親になるかの問題もあるでしょう。

「己百支国」の場合は、上記3つの国の中点にあたるので、拠点を意味する「支」の文字が出てくるのでしょうか。枝分かれという意味もありますね。あるいは「支」と「斯」が共通するのか。

いずれにせよ、法則性がある国名がついているので、それを解読すれば、自ずから位置が推定できるはずです。

----- Re:倭人伝国名記載図 投稿者:管理人
投稿日:2012年6月26日(火)08時21分3秒 返信引用 編集済

Re:倭人伝国名記載図投稿者:管理人 投稿日:2012年6月26日(火)08時12分21秒 返信引用

> No.614[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 > 提案、韓半島、九州、奈良の方位をまとめて考えたらどうですか。

>

そうですね、とりあえず奈良まで伸ばした図を作成してみました。図 1 参照。

近畿方面についてですが、まず魏志倭人伝の国名順に追っていくと、女王国の傍らに続くと 記載される「斯馬国」について、摂津・三島の嶋下・上郡を比定してみました。

そこから真南にラインを伸ばすと、河内(カワチ)国の中心地で、物部・穂積氏の拠点・石 切神社に至ります。ここが「己百支国」(コヒヤクチ)ですね。河内と古代物部のつながりは 神武東征のとおり深いです。

ここから真東に伸ばすと、秋津宮のあった秋津遺跡周辺にでます。つまり奈良の都城区画の 西端にぶつかります。

そして、そこから、真西にラインを伸ばすと、淡路島の伊弉諾神宮にぶつかります。 ここが次順の「伊邪国」。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%8A%E5%BC%89%E8%AB%BE%E7%A5%9E%E5%AE%E5%AE>

それで、先の石切神社から、この伊弉諾神宮の延長線上に出てくるのが、伊予国(つまり先 「伊邪分国」)でしょう。

さらにこのラインを伸ばしていくと、九州の水沼県主の拠点・筑紫の大川周辺に出ます。 おそらくここが「都支(ツキ)国」および、「彌奴(ミヌ)国」なのでしょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E6%BD%B4%E9%83%A1> 県主・かなり古いですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9C%8C%E4%B8%BB%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7>

また、さらに伸ばすと、「嬉野市」に出ます。これが「姐奴国」ではないでしょうか。前方後方墳 が多いそうです。「宮古」の地名があり、「田」の文字が書かれた遺物が出土されているそうです。

<http://www.anotsu.net/anotsu/tansaku/mannaka/walking/hase03.html>

ここから北にラインを伸ばした武雄市が「不呼(ブコ)国」、南東へ伸ばした地点が「好古都 (クウクツ)国」、つまり菊地で奴国の古い中心都市です。

こう見ると、先の 15 度角の斜線ライン上に、倭人伝の国名がその記載順で並んでいたこと が推定できます。

三島から秋津に伸びるラインは 5 度角なので、意味するところは、先の奈良の 5 度角四方区 画・都城区画に、三島摂津からのラインがダイレクトに結びついているということです。図 3 参照。

おそらく魏志の筆者は、この偏角に添った地図を見たか、実際に現地にいた人物の関連記録 を本に作成したのでしょう。

その記録では、奈良の 5 度角四方区画に、女王の都城拠点があり、そこからまず北上して三島 の航海氏族に案内されて、帰還するルートがあったということではないでしょうか。

同様に、河内経由でも帰還できたのですが、途中で淡路島によって、さらにその淡路島のイザ ナギの分国、四国の伊予により、宇佐経由で、奴国、佐賀・松浦方面へと抜けるルートがあり、 そのルートを記録した可能性があります。

なお、伊予分国については、伊予豆彦神社があったそうで、位置推定が模索されているよう ですが、ここは出雲大社の真南にあたる地域で、おそらく伊予市の北方、三津港周辺になるので はないかと感じます。伊予豆彦神社の創建伝承が孝霊天皇の時期で、ちょうど時代がぴった りです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%8A%E8%B1%AB%E8%B1%86%E6%AF%94%E5%8F%A4%E5%91%BD%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

とりあえず、邪馬台国の領域を黄色円で推定してみました。図 2 参照。先の三角縁 5 度偏角四 方区画と、三角縁 10 度偏角四方区画を重ねてみました。黄緑色のラインで、三角縁神獣鏡の 出土拠点を結んだラインです。

この宇佐から伸びる領域が、つまり邪馬台国で、いわゆる(女)王の支配拠点はその中を東 に遷っていったので

しょう。

魏志の記載ルールに従い、まず半島側の北・対馬から順に伊都・奴国へと南へと記載し、次にその南にあたる邪馬台国を記載し、そしてその後さらに、その南にあたる南九州や四国の諸国を記載していったのではないかと感じます。最後に薩摩方面を記載して、奴国(領域)を女王国と接する境界線として記したという感じです。

あと、秦野さんが、継体天皇の陵墓に注目したのは、いい視点だと思います。三島は後代まで凡河内氏のもとで、おそらく独立した自由貿易都市のような地域だったかもしれません。河内や伊予・伊都も同様な拠点であり、何かそれらの港湾都市は、大国が勝手に支配できないような暗黙のルールがあったものと感じますね。

それらの拠点には、伊都や伊和・武庫の事例のように、円墳が出てくるケースがあるようで、前方後円墳ではないところがミソです。聖域ですかね。

----- Re:倭人伝国名記載図投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月26日(火)00時29分28秒 返信引用

> No.613[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 提案、韓半島、九州、奈良の方位をまとめて考えたかどうか。

倭人伝国名記載図投稿者:管理人 投稿日:2012年6月25日(月)23時14分14秒 返信引用 編集済

続いて、先の三韓伝での国名記載方式を応用して、倭人伝の国名記載について、考えてみました。最新の図を添付します。

考え方ですが、下記のようになります。まだ試行錯誤段階でアバウトです。方角は先のとおり、東西南北が逆になるケースがあったと推定しました。色分けした楕円で、関係諸国を分類しています。

ピンク円:奴国領域

緑円:「不斯」(漢代の都)の領域

青円:「邪馬」(台)国の領域

黄円:「蘇塗」(阿蘇)領域。

オレンジ円:「キュウ・ク」熊襲の領域。

紫円:鬼国の領域。

水色円:「牟廬」(馬韓王族の遠戚)の支配領域

次に斯馬國有り。:「不斯」(漢代に置かれた中心拠点)+「馬」山地にあった国。次に己百支國有り。:「支」(城・拠点)の巳の方角にあった地域、河内か。次に伊邪國有り。:「伊」領域と「邪」→「ザ:子」(北→南)の方角の国。西南に伊邪分国あり。淡路島を伊邪ナギの第1の国産国とし、第2の国を四国とみなす文献記載がある。兵庫の「伊和」から南西方面。先の「蓋し伊邪国なり」つまり淡路・四国含めてすべて伊邪国という見方。

次に郡支國有り。:都と「支」城とのある中心拠点。筑紫・宇佐方面か?次に彌奴國有り。:奴国(中心地)からみて「彌」未つまり「未」南西→北東方向にある国。水沼県主のいた八女北方面。次に好古都國有り。:奴国領域のかつての「古い」中心の「都市」。菊池か?次に不呼國有り。:「不斯」領域の国。「呼」→「甲」北東→南西方向にあった国。なお、「不彌国」は「不斯」領域の「彌→未」南西→北東にあった国。つまり伊都国の北東。佐賀・武雄方面か?次に姐奴國有り。:奴国(中心地)からみて「姐」→「辰」(シン)もしくは「震」西北方向にある国。佐賀方面?

次に對蘇國あり。:「蘇塗」領域の周辺国。阿蘇周辺か?次に蘇奴國有り。:「蘇塗」領域にあり、かつ奴国領域にある国。次に呼邑國有り。:「邑・ユウ・キュウ」領域絡み手、「呼」→「甲」南西方角にあった国。邑は漢代の王から支配を認可された国。「邑君」。湯布院方面か?次に華奴蘇奴國有り。:「蘇奴国」と「華奴国」の隣接国。「華(カ)→乾(カン)」西北→東南方角か?

次に鬼國有り。:「鬼」の方角(丑寅)北東→南西に位置していた国。次に為吾國有り。:「イフ」次に鬼奴國有り。:奴国(中心地)からみて「鬼」方向にある国。次に邪馬國有り。:「馬」山間部の「邪」つまり「子」の方角・北→南に

あった国。次に躬臣國有り。:「キウ・ク」領域の「臣」臣下の領域。「児湯(コユ)郡」日向方面

か? なお狗奴国は、奴国(中心地)からみて「狗・戌」→北東→南西方向にある国。有明湾南東方 面? 次に巴利國有り。:中心拠点「利」から南西→北東「巳」の方角にあった国。「巴」は二つ巴の弓 形を意味する。隼人の盾の模様と関係?熊襲領域か? 次に支惟國有り。:「支」つまり城・「キウ領域」の中心拠点のそばにあった国。椎葉郡方面か? 次に烏奴國有り。:奴国(中心地)からみて「烏」つまり酉・東→西方向にある国。宇土方面 か? 次に奴國有り。此れ女王の境界の尽くる所なり。:奴国の領域は、上記の「奴」のつく国すべて を含む複合円だったのでは。その複合円と女王国(領域)がどこかで接していたことを示す。

末盧国は、三韓の「盧」領域の国の子孫か?元は「牟盧(ムロ)」で、馬韓王族の遠い縁戚の領 域を意味した。 投馬國は、「馬」山地領域の「投」との組み合わせ。出水方面か? 一支国は、「イ」領域の「支」(城)のあった国(島)。壱岐島。対馬は、「対」の「山」のあった(島)。対馬。

Ads by Google

----- Re:魏志朝鮮三国国名地図投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 6 月 25 日(月)05 時 46 分 22 秒 返信・引用 編集済

> No.611[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 詳細は不明ですがいい線ですな 中国史籍の百済の図と比較します。

韓半島の国名で最近きずいたのですが、馬韓、弁韓、辰韓と記入。 しかし、倭国、狗耶韓国、曆韓国と国になっている。新羅も国でない。 韓半島で国として存在したのは倭国だけになる。余談でした。

> ちょっと馬韓西部に国が多く、半島全土に均一に国が散らばらない件について、地形図を 重ねてみました。そうすると、山地部には国がないことがわかります。 >> 馬韓はやはり土地が広く澄みやすいところだったので、逆に辰韓は山地が多くすむ には難しかったようです。

>> また弁韓に多く見える「邪+馬」の地名についてですが、「馬」のほうは、確かに「山」を意味 する可能性がありますね。 >> あと、「路」の国名については、もしかすると「峠道」などの意味があったかもしれません。 >> 基本的に「不斯」「支」といった各領域の中心拠点は、平野の中心部にあると見てよいでしょう。 >> アジール聖域「楚塗」は微妙ですね。流刑地としての孤島か、あるいは小高い丘などといった祭祀用の地域のような気がします。 >> とにかく、方形区画とは別に、地形によってその地域の国数が左右される件と、地形が国名 に影響する件を、国名解析の条件に加えておきたいところです。

Re:魏志朝鮮三国国名地図投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 24 日(日)07 時 15 分 6 秒 返信・引用 編集済

> No.607[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 国と郡が対応していると考え、対応させる。 >
- > 行政区分ですが百済:馬韓に百済が 5 城を造り、分割している。 >
- > 馬韓、弁韓、辰韓:5 道、倭国: 2 道、新羅:1 道で対応するかも?

とりあえず、先の三韓の国名地図を、方位区画に沿った形で仕上げました。 図を添付します。

だいぶ三韓の国の構造がわかってきました。

まず東西南北に 4 箇所程度、主要な統治拠点が配置されてます。斜線は先のとおり、弁辰韓の 領域教会線です。

それぞれの中心地に「不斯」(紫色の範囲)もしくは「支」(赤色)のつく国名がきます。ワイ にも、「不治ワイ候」の語が見えますね。楽浪東部の不耐城とも関係して、「支」「斯」の語が中心 拠点や城を意味していた可能性を感じます。

その中心地南部に「楚塗」(黄色)つまりアジール聖域を設けるケースもあります。

またその中心周辺に「臣」(ピンク)の領域があり、さらにその周囲に「(牟+)盧」(ムロ) (薄黄緑)の領域が取り囲みま

す。これは先のとおり、王族・臣下と縁戚の領地関係でしょう。日本でいう「臣」「連(ムラジ)」の関係です。

それで、さらにその周囲に、十二支の名をつけ、中心拠点からの方角を示した国名が配置されます。具体的には、「癸=酉」「彌=未」「馬=午」や「離」「乾」といった具合です。図2の方位表を ご参照ください。

なお、馬韓・辰韓の名称は、おそらく楽浪からみて「午=馬」の方角つまり南を馬韓、「辰」の方角つまり南東を辰韓としたのでしょう。

同様に「卑+離」は、馬韓南部の「卑」領域からみて「難」=南の方角、弁秦の「邪+馬」は「邪」領域からみて「馬」=南の方角を示していたのかもしれませんが。

ところが興味深いことに、それよりさらに細かい国名の方位は、その東西南北が逆転して名前がつけられていることに気づきます。図3参照。

たとえば「狗邪国」は、「邪馬」領域にたいして、「戌=狗」つまり北西方向を、さらに逆転した南東方向に位置しているように、「狗」のつく地名はすべて、その中心拠点に対して、南方に位置しています。

同様な事例は、「冉奚國」の例だと、「奚」つまり東の方角を逆転して西の方角に着たりする事例からもあきらかです。

これはたとえば、「南」を聖方位とした漢王朝・楽浪郡時代にできた大きな区分と、後の王朝との関係などで、記名方法に変更があった可能性を感じます。

「古」と記した国名と、その中心拠点との方位関係が、よく国名を見ていくと逆転している可能性も感じ始めます。弁辰の「彌凍国」の事例など。

そのほか地図上の西海上に、ウィキで推定しきれてなかった国名を列記しておきました。ある程度、法則性が見えてきたので、それらの国が方位区画のどの辺にあったかを推定することができると思います。

同様に、倭人伝の国名記載にも、上記と同様な表記名が多く見えることがあり、同様な論理で国名がつけられていた可能性があります。そうすると、逆にその国名から、おおよその位置や方角も推定できてるかもしれません。

3D スキャナー ATOS - www.marubeni-sys.com 非接触で高精度・高速 3次元計測 3次元計測は丸紅情報システムズ 初音ミクプロジェクト始動 - plus.google.com 人気ボカロ Pの曲作りを生中継 詳しくは Google+ で 美顔器 45000 円が【980 円】 - www.kenkoucorp.com 累計 62 万台突破!芸能人や読モも愛用の美顔器がジェルとセットで特別価格 中高年男がピンピン、生涯現役に - pr-kouraininjin.com 50 オー 80 才男性 必見! あの日々 が甦る 金氏高麗人参 2625 円 耳で覚える韓国語 - www.espritline.co.jp スピードラーニング韓国語 しゃべる・はなすを体験してみよう! Ads by Google

Re:魏志朝鮮三国国名地図投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月23日(土)17時37分19秒 返信・引用 編集済

> No.604[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 まるで、パズルですな。 現在、大韓民国の郡は、八十七+ 済州郡 馬韓:五十余国、弁韓:十二國、辰韓:十二國、合計:七十四余国 倭国:十三國+済州郡

国と郡が対応していると考え、対応させる。

広域市が百済が 5 城+1 城に対応するかも?

行政区分ですが百済:馬韓に百済が 5 城を造り、分割している。

馬韓、弁韓、辰韓:5 道、倭国: 2 道、新羅:1 道で対応するかも?

尚、済州特別自治道は古事記から 4 国在った。済州郡の合併まで区割りは維持されていた模様。これは、驚く事ではない、日本の都道府県の区割りも古代から変化はない。

1 つの特別市(???):ソウル特別市 6 つの広域市(???):釜山・大邱・仁川・光州・大田・蔚山 8 つの道(?):行政区分

京畿道 江原道 忠清北道 忠清南道 全羅北道 全羅南道 慶尚北道 慶尚南道
済州特別自治道

礼山郡 醴泉郡 任実郡 麟蹄郡 義城郡 宜寧郡 陰城郡 蔚州郡 蔚珍郡 鬱陵郡 沃川郡 甕津郡 (仁川広域市) 加平郡 康津郡 江華郡 機張郡 槐山郡 軍威郡 錦山 郡 求礼郡 谷城郡 固城郡 高城郡 (江原道) 居昌郡 高敞郡 高興郡 高靈郡 山清

郡 新安郡 淳昌郡 舒川郡 星州郡 丹陽郡 潭陽郡 達城郡 鎮安郡 長水郡 長城郡 昌寧郡 長興郡 曾坪郡 鉄原郡 清原郡 旌善郡 青松郡 清道郡 青陽郡 漆谷郡 鎮川郡 珍島郡 泰安郡 南海郡 河東郡 (慶尚南道) 陝川郡 咸安郡 咸陽郡 咸平郡 平昌郡 和順郡 華川郡 扶安郡 横城郡 扶餘郡 海南郡 報恩郡 宝城郡 洪城郡 洪川郡 奉化郡 務安郡 茂朱郡 楊口郡 楊平郡 襄陽郡 驪州郡 靈岩郡 寧越郡 燕岐郡 靈光郡 漣川郡 盈徳郡 永同郡 英陽郡 完州郡 莞島郡 (廢郡)昌原郡 (廢郡)東萊郡 (廢郡)南済州郡 (廢郡)北済州郡

済州郡・旌義郡・大静郡・莞島郡を合併し、済州郡が発足。

馬韓

爰襄国、牟水国、桑外国、小石索国、大石索国、優休牟涿国、臣漬沽国、伯済国、速盧不斯国、日華国、古誕者国、古離国、怒藍国、月支国、咨離牟盧国、素謂乾国、古爰国、莫盧国、卑離国、占卑国、臣罽国、支侵国、狗盧国、卑彌国、監奚卑離国、古蒲国、致利鞠国、冉路国、兒林国、駟盧国 内卑離国、感奚国、萬盧国、辟卑離国、曰斯烏旦国、一離国、不彌国、支半国、狗素国、捷盧国、牟盧卑離国、臣蘇塗国、莫盧国、古臘国、臨素半国、臣雲新国、如來卑離国、楚山塗卑離国、一難国 狗奚国、不雲国、不斯漬邪国、爰池国、乾馬国、楚離国、おおよそ五十余国が在る。

弁辰亦十二國、又有諸小別邑、各有渠帥、大者名臣智、其次有險側、次有樊濊、次有殺奚、次有邑借。有己祗國、不斯國、弁辰彌離彌凍國、弁辰接塗國、勤耆國、難彌離彌凍國、弁辰古資彌凍國、弁辰古淳是國、冉奚國、弁辰半路國、弁辰樂奴國、軍彌國(弁軍彌國)、弁辰彌烏邪馬國、如湛國、弁辰甘路國、戸路國、州鮮國(馬延國)、弁辰狗邪國、弁辰走漕馬國、弁辰安邪國(馬延國)、弁辰漬盧國、斯盧國、優由國。

現在の郡を対応させると。

馬韓:五十余国 → 四十郡 ふしぎと大きな変化はしていない 弁韓:十二國 → 五郡 辰韓:十二國 → 一郡 倭国:二十五余国 → 三十九郡+済州郡 注)二十五余国は推定値

韓国地図を見ると弁韓、辰韓には幹線道路がない、偏狭の地になっている。 歴史から変化を推測すると、卑弥呼が韓半島南部を脱出すると弁韓、辰韓が倭国に流れ込み 新羅を打ち立てたのだろう。

馬韓 扶餘郡 礼山郡 醴泉郡 麟蹄郡 義城郡 陰城郡 沃川郡 甕津郡 加平郡 江華郡 槐山郡 軍威郡 錦山郡 舒川郡 星州郡 丹陽郡 曾坪郡 鉄原郡 清原郡 旌善郡 青陽郡 漆谷郡 鎮川郡 泰安郡 平昌郡 華川郡 横城郡 報恩郡 洪城郡 洪川郡 奉化郡 茂朱郡 楊口郡 楊平郡 襄陽郡 驪州郡 燕岐郡 漣川郡 永同郡 完州郡 40

弁韓 蔚州郡 鬱陵郡 高城郡 青松郡 英陽郡 5

辰韓 盈徳郡 1

倭国 任実郡 宜寧郡 蔚州郡 康津郡 機張郡 求礼郡 谷城郡 固城郡 居昌郡 高敞郡 高興郡 高靈郡 山清郡 新安郡 淳昌郡 潭陽郡 達城郡 鎮安郡 長水郡 長城郡 昌寧郡 長興郡 清道郡 珍島郡 南海郡 河東郡 陝川郡 咸安郡 咸陽郡 咸平郡 和順郡 扶安郡 海南郡 宝城郡 務安郡 靈岩郡 寧越郡 靈光郡 莞島郡 39

----- Re:魏志朝鮮三国国名地図投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年6月23日(土)12時59分57秒 返信・引用 編集済

> No.604[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古代の主要な都市を方位から想定すると。 中国、九州の方位を見ると、中国では北京、九州では吉野ヶ里で筑後川辺りに都があったよ

うだな。伊都国の存在と思われる。韓半島では韓半島ではソウル辺りにハンガン(漢江)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E4%BA%AC%E5%B8%82>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%89%E9%87%8E%E3%83%B6%E9%87%8C%E9%81%BA%E8%B7%A1>

http://www.konest.com/contents/spot_mise_detail.html?id=1902

奈良の方位を見ると、難波宮になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A3%E6%B3%A2%E5%AE%AE>

後はエルサレム中近東、インド、チベットになる。シルクロードです。

----- Re:魏志朝鮮三国国名地図投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 6 月 23 日(土)08 時 15 分 12 秒 返信・引用 編集済

> No.604[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

3割あたればいい世界、合格ですよ。卑弥呼、匈奴の実態はこんな物でないです。 漢字、アイヌ語は苦手なので、別の方法を取りたい。管理人さんの方位。

方位ですが、九州と奈良の地名と配置がよく似ているとのことは有名ですな。

韓半島と九州の方位図を合わせると何か見えて来ますよ。注目は奈良の配置と韓半島の都の 配置です。韓半島の地図の城は百済の城です。城は推測した場所です。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kudara-kanbun2-shusho.htm>

平原:江華島(カンファド)、出水:光州月桂洞古墳

西都原:慶州歴史遺跡、宇佐:金剛山

Re:魏志朝鮮三国国名地図投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 23 日(土)06 時 49 分 47 秒 返信・引用 編集済

> No.603[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > どうも、国名がはっきりしない。 >
- > 日本の地名にアイヌ語が潜んで居るのはご存知とおもいます。
- > 韓国語もアイヌ語が多く見当たります。馬韓、辰韓、弁韓、も同様と思われる。 >
- > 有己祗國、不斯國、弁辰彌離彌凍國、弁辰接塗國、勤耆國、難彌離彌凍國、弁辰古資彌凍國、弁辰古淳是國、冉奚國、弁辰半路國、弁辰樂奴國、軍彌國(弁軍彌國)、弁辰彌烏邪馬國、如湛國、弁辰甘路國(カンロ国)、戸路國(トロ国)、州鮮國(馬延國)、弁辰狗邪國、弁辰走漕馬國(スソマ国)、弁辰安邪國(馬延國)、弁辰瀆盧國、斯盧國、優由國。

国名の語源ですが、先に注目した馬韓の月支国そばに見えた「牟+盧」の組み合わせについて は、どうも「無慮県」という地名が、遼東にあるので、それと関係した地名かもしれません。

★「後漢書~地理志」

遼東郡、無慮県、醫無慮いむりよ山。遼東属国、無慮。

★「漢書」注

無慮県、醫巫閭いふろ。

★「周礼」

戦国燕はその姿に驚いて山神を祭った。

<http://homepage3.nifty.com/kiya/sehachi/kiya31a.htm>

同じく斯盧国など辰韓に東部に見える「廬」という地名についても、下記のようにありますね。

廬氏燕 秦が弱体化するとともに自立(廬氏燕)。 漢の諸国統一で燕王廬綰ろわんは匈奴に亡命した。 このとき、燕国の家臣の衛満は箕子朝鮮(秦の古の空地)を奪った(衛氏朝鮮)。

どうも辰韓自体は、殷の時代に由来するようで、秦人が朝鮮東南部に流れてくるよりはるか 前から存在していたようです。

■箕子朝鮮(箕子殷、辰云#殷) ↑ 云#(+[さんずい])

★「契丹古伝~第 37 章」

伯の裔を日馬辰云#氏と為り、叔の裔を干靈辰云#氏と為る。干靈は岐して、干來と為り二千 海を隔てて望む。干來は又分かれて高令と為ると云う。 ……淮委氏と沃委氏(沃阻)は、藩を嶺東に列して、辰のために郭を守った。潘耶は兵を亞 府閭に觀して漢を制した。

この文章で「馬」「委」「邪」といった倭人に関連する語が見えるのに注目です。北方の沃阻とや はり語源面で倭人は関係があります。

その辰韓の地域に、楽浪から秦人が紀元前後に流入して弁秦韓地域ができたのでしょう。その際に、辰韓地域と彼らの間で、境界線が敷かれたんですね。それが先の斜線ラインだったの でしょう。

それで、楽浪にもともといた秦人は、おそらく下記の「番韓人」、つまり楽浪南部にいた「真番 衆」と関係していたことでしょう。楽浪・秦韓人に見られる「阿」という自分たちを表す呼称 が下記のとおりで多く系譜に見えます。

■徐于餘の番韓 「桓檀古記~馬韓世家、上」馬韓の阿羅斯の時、高登が開城に拠って背く。馬韓は海城(遼寧省海城県)の褥薩じょくさつ、徐于餘に破れ、位を譲った。

[推定系図私案 ver.0.1]2003.01.11 卑#王徐于餘の後孫系譜 1 2 3 4 >—徐于餘—阿洛—率帰—任那 | 5
6 7 8 9 魯丹—馬密—牟弗—乙那—麻休 | 登那—奚壽—奧門婁—婁沙—伊伐—阿勒—麻休(または沐)
—多斗—奈伊—次音—不理—餘乙 —奄婁—甘尉—述理—阿甲—固台—蘇台爾—馬乾—天韓—老勿—道乙—述
休—沙良—地韓—人 韓—西蔚—哥索—解仁(または山韓)—水韓

結局彼らは、徐于餘—阿洛—率帰—任那 とあるように、中国の徐州(山東半島)方面から、 百家商人としてやってきて、その後、「阿洛」つまり、楽浪に居住したのちに、「任那」つまり弁 秦韓へ移住した経緯を示したことが、この系譜から伺えます。

楽浪南部にいた番韓人は、後に佰・百濟へと国名を変更していくようですが、馬韓領域と、楽 浪領域の中間に位置してますね。この佰濟人と、月支国の王とが同系かどうか?そこが課題 です。

三韓にアジール領域・楚塗の習俗をもたらしたのが、どちらだったのか?が気になってます。

先のページで、下記の「熊伯多」が、つまり佰・百濟と関係するのではないのでしょうか。

■熊伯多の馬韓

[推定系図私案 ver.0.1]2003.01.11 熊伯多の後孫系譜 1 2 3 4 5 >—熊伯多—慮德利—弗如来—杜羅門—
乙弗利—

ここでもうひとつ注目したいのが、「如来」という語です。 これは、馬韓南部の「卑離」領域に見える「如来卑離国」と関係しそうです。

「弗如来」という語が、仏教っぽいですね。当時・倭にもたらされた鏡に、三角縁仏獣鏡という のがあるのですが、仏像が描かれているんですね。おそらく漢代に山東方面に仏教がすでに 入っていたせいでしょう。経由地

の朝鮮にも仏教や中東習俗が流れ込んだ可能性も否定できない感じです。

「弗・如来」の語は、法華經の方便品にみえる「舍利弗。如来知見。」に類似します。 法華經の中国流入・翻訳が漢代ですから、微妙なラインですね。中東の一神教的要素も見え ます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B3%95%E8%8F%AF%E7%B5%8C> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A3%E6%B3%95%E8%8F%AF%E7%B5%8C> http://www.kujhoji.or.jp/youten/sub14_2_05.htm

インド経由でシルクロードを通過して、山東経由で朝鮮へやってきた中東商人の流れではない でしょうか。

三韓のアジール領域「楚塗」について、魏志では「仏教の習俗に似ている」と書いてあるのも、 中東系のアジール概念が、インドに渡り、さらに中国経由で朝鮮南部に伝わったという経緯 を、暗示しているのではないでしょ

うか。

最終的に、それが、銅鐸の祭祀領域として、倭国出雲や奈良に伝わったわけですね。

ただ、あくまでまだ直観段階です。

私も秦野さんの倭奴国・歴韓国説を否定はしませんし、むしろそれに近いものが見えてきて いるようにも見えます。

ただわれわれ神ではないので、完全に正しいということはありません。せいぜい3割 あたればいい世界です。ともかく、まずは振らないとあたらない。

常に修正を余儀なくされているわけですし、たとえ本に書いたあとでも、やはり多少の修正 は常にすべきだとおもいますよ。

> 戸路國(トロ国):アイヌ語解「トロ=to-rok=水溜り(海・湖・沼)・座る=水が 滞留している(ところ)」で説明できると考えています。山岳の瀨のような場所の国でしょ う。どうも、この辺りは専門家に任せたい。 >

あと 正確には「戸」ではないようです。似た文字ですけど、漢字で出てこないですね。ぜんぜん 意味がちがったりするので、原文確認しなおしてみてください。

免疫力を上げる新成分 - www.brolico-research.jp 東京大学が世界で初めて発見 ナチュラル・キラー(NK)細胞を活性化 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタル化が革新する しわを気にする女優の秘密 - 484364.com 歳をとっても全くしわのない女優さん 秘密は高級エステ?いえ、実は... 多言語・大規模・短納期・低料金 - straightword.jp 音声収録・テキストコーパス制作の ご依頼は(株)ストレートワードまで! 中高年男がピンピン、生涯現役に - pr-kouraininjin.com 50 オー 80 才男性 必見! あの日々 が甦る 金氏高麗人参 2625 円 Ads by Google

Re:魏志朝鮮三国国名地図投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月22日(金)22時27分31秒 返信・引用 編集済

> No.602[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 どうも、国名がはっきりしない。

たしか、ヤマトはやまの奥の湖、だったはず。アイヌ語 倭国の倭は海人族がワニのワで倭国、木花之咲夜比売(コノハナノサクヤヒメ) 豊玉姫神(トヨタマヒメ)もワニになる。

この2つが倭国:ヤマトになる。北朝鮮の金剛山(カムラムサン)の近くに湖がある。 カムラムサンはアイヌ語そのものです。古事記に明記されている。

日本の地名にアイヌ語が潜んで居るのはご存知とおもいます。 韓国語もアイヌ語が多く見当たります。馬韓、辰韓、弁韓、も同様と思われる。

有已祗國、不斯國、弁辰彌離彌凍國、弁辰接塗國、勤耆國、難彌離彌凍國、弁辰古資彌凍國、弁辰古淳是國、冉奚國、弁辰半路國、弁辰樂奴國、軍彌國(弁軍彌國)、弁辰彌烏邪馬國、如湛國、弁辰甘路國(カンロ国)、戸路國(トロ国)、州鮮國(馬延國)、弁辰狗邪國、弁辰走漕馬國(スソマ国)、弁辰安邪國(馬延國)、弁辰瀆盧國、斯盧國、優由國。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%8C%E8%AA%9E>

戸路國(トロ国):アイヌ語解「トロ=to-rok=水溜り(海・湖・沼)・座る=水が滞留している(ところ)」で説明できると考えています。山岳の瀬のような場所の国でしょう。　どうも、この辺りは専門家に任せたい。

<http://www.geocities.jp/jihyoutei/k050307-1.htm>

秦野は四方の存在を否定していません。四方は存在しています。

>> 弁辰韓の領域というのが、この斜線の南から南東までの角度にあたる直角三角形であった　ことがわかりますね。

>> あと、馬韓南部の「卑離」あたりの領域がもう少し現在の推定より東に伸びるのでしょう。

魏志弁秦韓伝国名投稿者:管理人　投稿日:2012年6月22日(金)07時13分20秒　返信・引用　編集済

> No.599[元記事へ] 続いて、弁韓・秦韓伝の国名記載についても地図に落としてみました。

下図のとおりです。

参考にしたサイトは、またウィキペディアの韓国版です。

http://en.wikipedia.org/wiki/Byeonhan_confederacy http://en.wikipedia.org/wiki/Jinhan_confederacy

弁秦関連は、馬韓と異なり後代までカヤ諸国として24国が継続しましたので、比較的位置　推定は信用できると思います。

原文は下記のとおりです。

有己柢國、不斯國、弁辰彌離彌凍國、弁辰接塗國、勤耆國、難彌離彌凍國、弁辰古資彌凍國、　弁辰古淳是國、冉奚國、弁辰半路國、弁(辰)樂奴國、軍彌國(弁軍彌國)、弁辰彌烏邪馬國、如　湛國、弁辰甘路國、戸路國、州鮮國(馬延國)、弁辰狗邪國、弁辰走漕馬國、弁辰安邪國(馬延　國)、弁辰瀆盧國、斯盧國、優由國。

また興味深い結果が出てます。　まず図のとおり、馬韓のときと同様に、方形区画上に国が位置していたであろうことが、ラインの引き方から推定できました。

またその方位区画において、西北から南西に伸びる灰色の斜線を書きこみましたが、この斜　線より南の諸国については、「弁辰」と国名の前に表記していることがわかります。

おそらくその斜線より北は辰韓とみなしていたのでしょう。　なお赤線は、また馬韓のときと同様に、国名の記載順にラインを引いていったものです、

傾向としては、楕円で示した「路」「邪+馬」「彌」「慮」といった主要国(関連集団)の領域ごと　にまとめて記載されています。

ただ、その主要国と別の主要国の記載の合間に、なぜか辰国の1国をはさんで記載する様式　が見えます。赤ラインでみると、一度弁辰領域から北へ抜けるんですね。

ちょっと難解ですが、たとえば中国の調査団の訪問順で、辰韓の首都・慶州などにまず拠点　をおいて、そこから弁辰のもろもろの主要国領域へ、複数回にわけて調査した行程を、そのまま伝記にあらわしたという可能性も感じます。

あと、馬韓と同様に「不斯(侯国)」と「楚塗(アジール)」の領域が見えるのですが、馬韓の　ケースと違うのは僻地ではなく、その弁辰の中心地に配置している件です。

たとえば他国のケースでも、イスラエルの罪人が逃げ込むアジール領域の場合は、国が狭く　国外に追放できなかったのも、逆に祭祀のいる聖域に罪人を匿うシステムを造った経緯があります。それに近いアジール形態を有しているといえるでしょう。

そして「不斯」という漢代の中心拠点、その「楚塗」のそばにあるというのも、この地の重要　性を示すものでしょう。

あと馬韓のケースでは、中心の月支国の周囲に「臣」の領域がありました。その周囲には、「牟」「慮」という2領域があったのですが、「牟慮(ムロ)」となっているケースもありました。

今回も「慮」の領域が、東海岸沿いに見えるのですが、思うにこれらは後代の日本における「臣」「連(ムラジ)」の原型を示しているのではないのでしょうか。

日本でも「臣」のほうが王族に近い集団で、「連」は祖先を同じくする神別集団ですね。これらのシステムは、何度かあった馬韓・百濟方面からの王族の逃亡や日本への進出と関係して、もたらされた可能性を感じてます。

ただ、今回の弁辰方面には「臣」は見えないこと、弁辰の記載に、王は馬韓の月支国から取ると書いてあることを考慮すると、いわゆる当時の権力者・王族は馬韓にいて、祭祀の副王が先の弁辰の中心「不斯」領域にいたという線で解決できるのではないのでしょうか。

ただ、辰韓の中心地は慶州ですから、今回の弁辰の中心地とは異なり、別の統治システムで動いていた可能性が高いように感じます。

そして弁辰の国名は倭人伝の国名記載に使用される文字と高い相関性を有してますね。

倭人伝の国名列記方法も、馬韓・弁新韓と同様な方式だった可能性がありますね。方位区画に沿って、主要な国・関係領域ごとの列記していく方法です。

この結果を踏まえて再度、倭人伝の国名を推定していきたいところです。

Ads by Google

----- Re:魏志馬韓伝国名投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年6月22日(金)00時24分10秒 返信 引用 編集済
> No.598[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

どう見ても出鱈目ですな。古代史を研究する気があるのか疑う。

距離も検討せず、出鱈目に書いた地図に、中国史籍の国を並べた模様。

この調子だと弁韓、辰韓は日本海側に羅列しそうですな。

「牟」「慮」「卑+離」という3集団も偶然ならんだのでしょうか。

方位ラインは古墳、遺跡が基準に成るとみますが、馬韓の大きさは
どう見ても、中国史籍に合わない。

中国史籍 馬韓五十四力国 楽浪の南 倭の北 辰韓の東 土地は合計四千余里(約 210 km)。東西は海が限界

土地は合わせて四方四千余里、東西は海で尽きる。ですがね。

辰韓十有二国

弁辰十有二国

大国は万余戸

小国は数千家

各々に山海の間に在り

地図を起こすと、別物になる。馬韓:土地は東西(約 120 km)。南北(約 260 km) 四方に在らず。辰韓:土地は東西(約 100 km)。南北(約 120 km) 四方。弁韓:土地は東西(約 100 km)。西南(約 200 km) 各々に海岸に接する。距離が特定できないので山と海の間で海岸になっている。中国史籍の文章のから弁辰は5500km²程度だが 42000km²程度、7~8倍近く誇張されている。まあ、お国感情でしょうな。日本も九州が中心と思っている研究者もいますし…。

倭人伝国名記載の変更はしないのが適切です。根拠に説得性がないより、神経を疑われますよ。 > それによって先の倭人伝国名記載の推定を、訂正するかどうか考えてみたいと感じます。

多々疑問があります。倭と韓を帯方に帰属させた。倭はどこへ行った。韓国の研究者に聞いた いな?。どうせ、水掛論で中国史籍が間違っているでしょうな。ボヤキになつた。

桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

桓帝と靈帝の末(146年-189年)、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。

建安年間(196年-220年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

Re:魏志馬韓伝国名投稿者:管理人 投稿日:2012年6月21日(木)22時39分19秒 返信・引用

> No.597[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 馬韓を明確にするため、韓半島の地図を描きませんか。 >> 中国史籍では馬韓の地図は帯方郡が基準になるので、中国史籍を元に魏志倭人伝を逆にトレースする。 > 帯方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って歴韓国、南へ、東へ、7000余里で倭国の北岸の狗邪韓国(くやかんこく)に到着する(「從郡至倭、循海岸水行、歴韓国、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七千餘里」)。 >

とりあえず先の馬韓伝の国名地図に、方位ラインと、その主要国の領域を同心円で示してみました。図を添付します。

図に示したように、馬韓の中に、「牟」「廬」「卑+離」という3集団がまずあった模様。

またその中心に王がいる「月支国」があり、その周囲に「臣」という集団の居住領域があったのでしょう。後代の日本の皇族系氏族「臣」と関係するかもしれません。

それで、後の百済になる「伯濟国」は、この当時は帯方郡の南に接しており、中国書籍のいうところの位置にあったのでしょうか。おそらく馬韓とは別の国として存在していた。

あと、「不斯」という国が複数みえるのですが、これはおそらく前漢時代の朝鮮各地に置かれた侯国の名残だろうと思います。しっかり当時の方位ライン上に載ってますね。

そして、先の犯罪者が逃げ込むアジール領域「楚塗」の地名を持つ国は、かなりはずれの領地にあることがわかります。その楚塗を管理する国名がついており、そばに列記されていたので、そこにラインが伸びているのがわかると思います。

こう見ると、そこそこ合理的に馬韓伝が記載されていて、その国推定の位置もいい線をついているであろうことがわかります。

おそらく馬韓の主要な国と、その関係諸国(領地)をまとめて記載しているんです、それら

は主に北から南へと順に記載されていったのでしょうか。

これと同様な記載方法が、倭人伝の国名列記にもみられる可能性があります。残りの弁秦伝についても、それが証明できれば、なおさらその可能性が高まるでしょう。

それによって先の倭人伝国名記載の推定を、訂正するかどうか考えてみたいと感じます。

Ads by Google

----- Re:魏志馬韓伝国名投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月21日(木)19時40分4秒 返信・引用 編集済

> No.594[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 馬韓を明確にするため、韓半島の地図を描きませんか。

中国史籍では馬韓の地図は帯方郡が基準になるので、中国史籍を元に魏志倭人伝を逆にトレースする。 秦野書:徐福と邪馬台国の再確認ですな。距離は秦野距離

『後漢書』倭人伝の一万二千里は陸路になっている。海上ルートが混乱の元だが背景が当時の状況を理解する材料になる。皮肉なものです。

帯方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って歴韓国、南へ、東へ、7000 余里で倭国の北岸の狗邪韓国(くやかんこく)に到着する(「從郡至倭、循海岸水行、歴韓国、乍南乍東、到其北岸狗邪韓国七千餘里」)。

1、北岸狗邪韓国:PUSAN(釜山)から西へ GWANGJU(光州)方向へトレース 2、GWANGJU(光州)から北へ海岸沿い Jeonju(全州)、7000 余里、約 370 km。

港が Gunsan(群山)、歴韓国になる。

3、Jeonju(全州)から内陸へ Taejon(大田)、 Suwon(水原)、漢江河口の Kanghwa-do(江華島)、12000 里、約 640 km。 Kanghwa-do(江華島)が帯方郡になる。

<http://www.sizenken.biodic.go.jp/flyway/site/Korea/Han.html> 4、Kanghwa-do(江華島)の対岸の Kaesong(開城)になる。

帯方郡の分割

後漢末期の混乱期になると、遼東地方で台頭した公孫氏が楽浪郡にも勢力を伸ばしその支配下に収めた。3 世紀初頭には公孫氏の 2 代目、公孫康が郡南部の荒地を分離して再開発し、帯方郡を設置している。ただし、名目上は楽浪郡から帯方郡を分置したといっても、実際には帯方郡のほうが大きく楽浪郡はそれに比べて主役の座を譲った格好になった。

楽浪国 『三国史記』によると 30 年以前のある段階で楽浪郡は独立して「楽浪国」となっていた。その

頃の楽浪王は崔理という人物であった。高句麗は 37 年に楽浪国を滅ぼして併合したが 44 年に後漢が水軍を派兵して奪還、楽浪郡を再建したという。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A5%BD%E6%B5%AA%E9%83%A1>

『後漢書』倭人伝

倭在韓東南大海中、依山島為居、凡百餘國。自武帝滅朝鮮、使驛通於漢者三十許國、國皆稱王、世世傳統。其大倭王居邪馬臺國。樂浪郡徼去其國萬二千里、去其西北界拘邪韓國七千餘里。其地大較在會稽東冶之東、與朱崖、儋耳相近、故其法俗多同。

倭は韓の東南、大海中の山島に拠って暮らす。およそ百余国。前漢の武帝が朝鮮を滅ぼしてより、漢に使訳(使者と通訳)を通じてくるのは三十国ほど。国では皆が王を称することが代々の伝統である。その大倭王は邪馬臺國に居する。楽浪郡の境界から、その国までは一

万二千里。その西北界の拘邪韓国から七千余里。その地は凡そ会稽郡東冶の東に在り、(海南島の)朱崖や儋耳と相似しており、その法俗も多くが同じである。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

----- Re:魏志馬韓伝国名投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 6 月 21 日(木)09 時 04 分 29 秒 返信・引用 編集済

> No.594[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

桓、靈之末、韓滅彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓滅、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

桓帝と靈帝の末(146 年-189 年)、韓と熾が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。

建安年間(196 年-220 年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張敞などを派遣して後漢

の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

馬韓の国の分布は島国もあると思われるので、主要都市で 15 ケ国程度で構成。 韓国の 50 数ヶ国が黄海側の海岸線に分布は無理がある。約 20 ケ国程度？倭国を含めると約 30~40 ケ国程度？。地図がないと水掛け論になるな。

----- Re:魏志馬韓伝国名投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 6 月 21 日(木)08 時 17 分 11 秒 返信引用 編集済

> No.594[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 百濟(馬韓)、倭国、新羅の図と比較すると理解できる。

日本の場合、奈良、常陸、出雲は 3700~2400 年は居住地域は変化していないと思われる。 同様なことは韓半島にも言える。韓半島は 2400 年ぐらいでないか。 馬韓地図を比較すると、辰韓と弁韓は p'ohang になる。 Kunsan から倭国になるので、相当、大雑把ですな。古代の地名と同名が各地に有るのです。

最近、九州の筑後川の古名らしきものが出てきました。免寸河(とのきがわ)の様です。

枯野の船で文書から位置は特定したが、問題は山海経との一致です。 最大の注目は扶桑国の特定です。

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

馬韓

> 有爰襄國、牟水國、桑外國、小石索國、大石索國、優休牟涿國、臣漬沽國、伯濟國、速盧不斯國、日華國、古誕者國、古離國、怒藍國、月支國、咨離牟盧國、素謂乾國、古爰國、莫盧國、卑離國 占離卑國、臣覺國、支侵國、狗盧國、卑彌國、監奚卑離國、古蒲國、致利鞠國、冉路國、兒林國、駟盧國、内卑離國、感奚國、萬盧國、辟卑離國、白斯烏旦國、一離國、不彌國、支半國、狗素國、捷盧國、牟盧卑離國、臣蘇塗國、莫盧國、古臘國、臨素半國、臣雲新國、如來卑離國、楚山塗卑離國、一難國、狗奚國、不雲國、不斯漬邪國、爰池國、乾馬國、楚離國、凡五十餘國。

----- Re:魏志馬韓伝国名投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 21 日(木)06 時 22 分 33 秒 返信引用

> No.593[元記事へ] 先ほどの馬韓伝の国名地図ですが、画像がボケていて失礼しました。

下記に鮮明なものを添付いたします。

赤いラインは、下記の馬韓伝の国名順にラインを引いていったものです。

馬韓地域を、北部、中部、南部の三つの地域にわけて、北から記載していることがわかります。

そして最南部や、東部については、特定の中心都市から、放射状にラインを伸ばして記載していることがわかります。殖民地みたいな感じでしょうか。

そのほか、おそらく方位ラインに沿って、国名を記載しているように感じます。かなり意図的に書かれており、デタラメではないようです。

>> 有爰襄國、牟水國、桑外國、小石索國、大石索國、優休牟涿國、臣漬沽國、伯濟國、速盧不斯國、日華國、古誕者國、古離國、怒藍國、月支國、咨離牟盧國、素謂乾國、古爰國、莫盧國、卑離國 占離卑國、臣覺國、支侵國、狗盧國、卑彌國、監奚卑離國、古蒲國、致利鞠國、冉路國、兒林國 駟盧國、内卑離國、感奚國、萬盧國、辟卑離國、白斯烏旦國、一離國、不彌國、支半國、狗素國、捷盧國、牟盧卑離國、臣蘇塗國、莫盧國、古臘國、臨素半國、臣雲新國、如來卑離國、楚山塗卑離國 一難國、狗奚國、不雲國、不斯漬邪國、爰池國、乾馬國、楚離國、凡五十餘國。

>

Re:魏志馬韓伝国名投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 6 月 21 日(木)00 時 42 分 28 秒 返信引用 編集済

> No.592[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

110 年-189 年頃の馬韓の地名になっている。中国史籍を訳せばいいのに
<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

公孫 淵(こうそん えん、Gongsun Yuan、生年不詳 - 238 年(景初 2 年 8 月 23 日))は、中国 三国時代の武将。字は文懿か。遼東の地で自立し燕王と称したが、魏の司馬懿によって追討されて滅んだ。

ユダヤ系の匈奴+鮮卑+大月氏が馬韓を制圧する。国名を百済とする。 管理人さんの渡来人ですな。このあとに倭の五王、ユダヤ系の匈奴が流れ込む。

(卑弥呼が韓半島南部撤退後に大和タケルが韓半島の倭国を一部奪還している。) 240-249 年頃に国名は百済に成っている。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-fuyo-.htm>

多分だが同じ国名は存在しないだろう。地名として残るぐらいですな。 白村江の戦い後、韓半島から撤退している。出雲風土記の綱引き神話が該当する。

百済から新羅になる。 中国史籍を訳せばいいのに、内容は多く出鱈目です。

- > 参照したサイトはこちらの韓国のウィキです。
- > http://en.wikipedia.org/wiki/Mahan_confederacy >
- > 全体的に北から順に南へ記載していく記載方式がわかりますね。
- > ただ海岸沿いに国が多すぎる気もしますし、南部に国が少ないですね。 >
- > 有爰襄國、牟水國、桑外國、小石索國、大石索國、優休牟涿國、臣漬沽國、伯濟國、速盧不斯

國、日華國、古誕者國、古離國、怒藍國、月支國、咨離牟盧國、素謂乾國、古爰國、莫盧國、卑離國、占離卑國、臣鬻國、支侵國、狗盧國、卑彌國、監奚卑離國、古蒲國、致利鞠國、冉路國、兒林國、駟盧國、内卑離國、感奚國、萬盧國、辟卑離國、曰斯烏旦國、一離國、不彌國、支半國、狗素國、捷盧國、牟盧卑離國、臣蘇塗國、莫盧國、古臘國、臨素半國、臣雲新國、如來卑離國、楚山塗卑離國、一難國、狗奚國、不雲國、不斯漬邪國、爰池國、乾馬國、楚離國、凡五十餘國。

----- 魏志馬韓伝国名投稿者:管理人 投稿

日:2012 年 6 月 20 日(水)23 時 03 分 52 秒 返信・引用 編集済

> No.591[元記事へ] 続いて魏志馬韓伝の国名について、先の倭人伝の国名記載の記載順方式を確認するため、
図

にしてみました。 参照したサイトはこちらの韓国のウィキです。

http://en.wikipedia.org/wiki/Mahan_confederacy

全体的に北から順に南へ記載していく記載方式がわかりますね。

ただ海岸沿いに国が多すぎる気もしますし、南部に国が少ないですね。

有爰襄國、牟水國、桑外國、小石索國、大石索國、優休牟涿國、臣漬沽國、伯濟國、速盧不斯國、日華國、古誕者國、古離國、怒藍國、月支國、咨離牟盧國、素謂乾國、古爰國、莫盧國、卑離國、占離卑國、臣鬻國、支侵國、狗盧國、卑彌國、監奚卑離國、古蒲國、致利鞠國、冉路國、兒林國、駟盧國、内卑離國、感奚國、萬盧國、辟卑離國、曰斯烏旦國、一離國、不彌國、支半國、狗素國、捷盧國、牟盧卑離國、臣蘇塗國、莫盧國、古臘國、臨素半國、臣雲新國、如來卑離國、楚山塗卑離國、一難國、狗奚國、不雲國、不斯漬邪國、爰池國、乾馬國、楚離國、凡五十餘國。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

あと、魏志の馬韓伝の国名に倭人伝の国名記載との重複が見られることを指摘したサイトを 見つけました。秦野さんの半島説とも関係してくるのでしょうか？

<http://d.hatena.ne.jp/kl117cr233/20120225/1330194822>

<http://>

----- Re:倭人伝国名図投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年6月20日(水)01時11分4秒 返信 引用 編集済

> No.590[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

そろそろ、古代史の扉を開きたい。古代史の背景から、九州説は捨てるのが正しい。古田氏は 単里を定義し、その距離を無視している。また、都合の悪い記述、孫権 229年(黄龍元年)に 呉王朝の初代皇帝に即位し、即位の翌年、陸遜の反対にもかかわらず、兵 1万をもって、夷州 と亶州の捜査を行わせた。卑弥呼の存命中の話しは知る所と思われる。なぜ、話題に出さない のか疑う。これ以上、九州説にこだわると、唯一の古代史の糸口を失うことになる。韓国が反 発するのは目に見えているが歴史は歴史で受け止めことを望みたい。

> 倭國 >> 憑山負海 鎮馬臺以建都 分職命官 統女王而列部 卑弥娥惑翻叶群情 臺與幼齒 方 諸衆望 文身點面 猶稱太伯之苗 阿輩雞弥 自表天兒之稱 因禮義而標秩 即智信以命 官 邪屈伊都 傍連斯馬 中元之際 紫綬之榮 景初之辰 恭文錦之獻 > ----- > 倭國 >

山に憑き海を負い、馬臺に鎮し以って都を建つ。職を分かち官を命じ、女王に統(す)べ て部を列す。卑弥娥は惑翻(わくほん)して群情(ぐんじょう)に叶う。臺與は幼齒に して、方(まさ)に衆望に諸(かな)う。文身點(鯨)面し、猶(なお)太伯の苗と稱す。 阿輩雞弥は、自ら天兒の稱を表す。禮義に因りて秩を標す。 即ち智信を以って官を命ず。 邪は伊都に届き、傍ら斯馬に連なる。中元の際、紫綬の榮あり。景初の辰、文錦の獻を恭ず

秦野 公孫摸に追われ、東の倭国、奈良に卑弥呼と弟が来て、官僚組織を魏の組織に改革し*1、邪馬 台(ヤマト)を治める。崇神天皇は官僚組織が叶うと何か翻訳に戸惑っている。臺與を見て、見 目良いと蒙古班を見て太伯の血筋を引くといを言う。阿輩雞弥、臺與の父は娘をほめる。礼

儀に従い、官に命じる(紫綬:天皇の名で授与される)。伊都(伊都国)、斯馬(対馬国)、…に知 らせる。 *1 組織は公孫の侵略に対抗する組織になる。魏志倭人伝の一大率がそれに当たる。

倭國の文章に臺與が登場するので女王が卑弥呼になる。臺與は伊勢神宮の山口際の子供と 思われる。この臺與が後の神功皇后、開花天皇の曾孫になる。卑弥呼は臺與は伯母になり開 花天皇の孫。三角神獸鏡の銘文の孫の字が卑弥呼になる。

秦野の調べでは、天皇の血筋を引く卑弥呼は、堺に上陸し、輿に乗せられ奈良まで送られてい る。現在、その習慣が祭りとして残っている。

また、文中で国名を特定しているが、その他の国は韓半島から魏志倭人伝の行程の国名と、一 大率(軍治)の国を記入している。主要国の出雲国、摂津国、河内国、和泉国の文字が無い。

九州、伊都国の国々:対馬国、一大国、末盧国、伊都国、奴国、不弥国、投馬国、邪馬台国 注)邪馬台国は韓半島の南か韓半島の東か判断できない。 一大率の中部地方の国々:遠くに在って国名だけしか分からない国として斯馬国、己百支国、 伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼 国、爲吾国、鬼奴国、 邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国があり、

以前、HP に住吉大社文書が出ていたのを見たが、文章が見当たらない。 内容は韓半島から対馬、関門海峡(出雲国)を通り、瀬戸内海で狗奴国の男王卑弥弓呼と別れ、 男王卑弥弓呼は徳島へ、卑弥呼、三公、卑弥呼の弟は奈良に向かう…。

古事記から伊都国、宇佐は BC200 年から瑞穂の国(東の倭国)に属している。 また、東征ルートは存在している。東征ルートは徐福の佐賀から鹿児島周り、日向の逆航路に なる。東征ルートは日向から東方向に黒潮を突き切ると逆送流に乗り、魏志倭人伝の裸国(奄 美)、裸国だけ島の周回距離 5 千里が記録されている。これは航路の反転場所を表わす。反転 方向は済州島、韓半島になる。

倭人伝国名図投稿者:管理人 投稿日:2012年6月19日(火)22時07分5秒 返信引用編 集済

秦野さん、情報ありがとうございます。

かなりまだアバウトですが、先の『翰苑』の国名記載を参考にしながら、魏志倭人伝の国名を 考えてみました。

最終的に邪馬台国が東に遷った後の図です。 図 1 が全体図、図 2 は九州を拡大した図です。

考え方としては、青の楕円で示したように、伊都国の南、奴国の東に邪馬台国が割り込む形で、瀬戸内・方面へと邪馬台国が拡大していった様子を描いてます。

また図 2 に見える九州の有明海を囲むピンクの楕円は、邪馬台国の元となった奴国の領域をしめしています。その国名には「奴」がついてます。

そして具体的な国名についてですが、まず図 1 のように、北九州から山陰・奈良にいたる女王国があります。これは 5 度偏角の三角縁神獣鏡方位区画にみられる領域と仮定しました。後に 10 度偏角(魏年号銘鏡)方位区画も類似した分布を示しています。図 3 参照。

それで、『翰苑』の注釈に沿って、女王のいる奈良から、四国経由で九州に戻るルートを考えてみました。

「次に斯馬國有り。次に己百支國有り。次に伊邪國有り。」

斯馬(シマ)國は、河内の「嶋」の地名。あるいは淡路島。

己百支(キヒャクチ)國は、高知。

伊邪(イヤ)國は、四国西部の伊予地域。

その西南 1 日に伊邪分国があると『翰苑』の注釈は書いてましたね。屋久島方面でしょうか。あるいは伊邪国を、伊邪ナミ神話の残る淡路島、あるいはその北方の兵庫の伊和とみなして、

西南の淡路島・四国全体を、伊邪分国とみなす手もあります。

その場合は、己百支(キヒャクチ)國は、巴百支国(ハヒャクチ)との『翰苑』の記載にしたがい、速吸(明石海峡)あたりを推定する手もあります。

それで、その後は魏志の国名列記順に従い、図 2 のように九州へ移動して、「次に都支國有り。次に彌奴國有り。次に好古都國有り。」となります。魏志の国名列記順に進んでいきますと、下記のように南下していきます。

都支(ツキ)國は、筑紫から宇佐地域。

彌奴(ミヌ)國は、水沼県主のいた八女北方地域。

好古都(クウクツ)國は、その南の菊池から対岸「伊古」遺跡のある地域。

その後、「次に不呼國有り。次に姐奴國有り。」は、対岸の佐賀長崎方面ですね。

不呼(ブク)國は、佐賀の神口ウ石のある武雄方面。 姐奴(シヤヌ)國は、佐賀・伊古方面。

次にまた有明海を渡って南東にあたる阿蘇山周辺地域ですが、「蘇」の語がつきます。「次に対蘇國あり。次に蘇奴國有り。次に呼邑國有り。次に華奴蘇奴國有り。」

対蘇(タイソ)國は、大分から阿蘇にかけての地域。「タイ」がそのまま大分の「大」と関係します。あるいは「そのそばにあったかもしれない「邪馬台」の「タイ」と関係したか？

蘇奴(ソヌ)國は、阿蘇山の西の奴国側です。 呼邑(コユウ)國は、阿蘇山西部の玖珠・湯布院方面。 華奴蘇奴(ケヌソヌ)國は、蘇奴国と隣接する東部地域のことでしょう。

そして、さらに南下していきます。「次に鬼國有り。次に為吾國有り。次に鬼奴國有り。次に邪馬國有り。」

鬼(キ)國は、阿蘇山南部地域

為吾(イワ)國は、その東部にあたる高千穂・岩戸地域。

鬼奴(キヌ)國は、鬼國に隣接する奴国側の西部沿岸地域。

邪馬(ヤマ)國については、八女方面と、日向方面の 2 種類を推定してみました。

そして、残りですが、これはさらに南下して、鹿児島方面になります。

「次に躬臣國有り。次に巴利國有り。次に支惟國有り。次に烏奴國有り。次に奴國有り。此れ女王の境界の尽くる所なり。」

躬臣(キウジン)國は、宮崎・西都原(ヒュウガ南部)方面。児湯(コユ)郡と呼ばれて

おり、「クウ・キウ」の発音の地名が、鹿児島から宮崎にかけて見えます。熊襲もそうですね。

狗奴(クヌ)國も、その東部・有明海側の熊襲地域を意味していたのではないのでしょうか。

巴利(ハリ)國と、支惟(シユイ)國は、椎葉(シイバ)と呼ばれる鹿児島北部の山岳地域です。烏奴(ウド)國は、その西部の有明湾側で、宇土市の境目遺跡がある地域です。

そして振り出しの奴国へと有明湾を北上して到達します。

なお投馬(トウマ)国については、水行 20 日とのことで、有明湾南部・鹿児島北部の出水地域を考えてみました。四方区画の西南端にあたります。脇本遺跡のあたりでしょうか。

こうみると、北から順に東から西に国名を追いながら、ジグザグに南下させていく国名記載方法があるように見えるのですが、その辺は魏志倭人伝でも、対馬、壱岐、松浦、伊都、奴国、不弥の東南へ向かう記載とも関係しそうですし、朝鮮の国名列記方法と比較してみると何かで出てくるかもしれませんね。

マンションってどう買うの - www.suumocounter.jp マンション購入の不安や疑問を解消! 1 時間で学べる無料講座<SUUMO>> WiMAX 使い放題 2,999 円 - wimax-broad.jp ワイマックス使い放題定額, 端末 0 円

WEB 限定プラン! 即日発送可 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する 賃貸ならアットホーム - www.athome.co.jp 毎日更新! 全国約 140 万件の物件情報 写真や間取り図を豊富に掲載 二子玉川 自由が丘が生活圈 - www.co-plus.co.jp/top.html 等々力溪谷コーポラティブハウス 等々力溪谷隣接の自由設計マンション Ads by Google ----- Re:「翰苑」と卑弥呼関連投稿者:

秦野北斗 投稿日:2012 年 6 月 19 日(火)20 時 01 分 31 秒 返信・引用 編集済

> No.586[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

奈良が理解できないので 53 m 基準で引き直しました。

武庫川が範囲にはいりました。応神の武庫港が思い浮かびます。

九州と奈良を比較すると秦野の調べでは奈良の三輪山=天岩戸になる。九州の天岩戸とがほぼ一致する。ふしぎな物です。

----- Re:「翰苑」と卑弥呼関連投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 6 月 19 日(火)06 時 34 分 34 秒 返信・引用

> No.586[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 伊都国を追加、古墳ベースです。

----- Re:「翰苑」と卑弥呼関連投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 6 月 18 日(月)23 時 48 分 55 秒 返信・引用 編集済

> No.586[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

斯馬を対馬ではなく、糸島半島は考えなくてよいのでは。方位について、九州、奈良を考察すると、共通するのが四方、円なんです。どうもこれは、曼荼羅になる。

「翰苑」と卑弥呼関連投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 18 日(月)04 時 37 分 55 秒 返信・引用 編集済

> No.581[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 三角縁神獣鏡のルーツを見ましょう。 >
- > 三角縁神獣鏡の銘文(この年代には卑弥呼は存在していない。) >

- > 中平六年(189年)、四獣鏡、中国、中平六年正月丙午日 吾作明鏡 幽渌三羊 自有己 除不羊 宜孫子 東王父西王母 仙人玉女 大神道 長吏買鏡 位至三公 古人買鏡 百 倍田家 大吉 天日月 (右回り) >> 三羊: 羊 祐(よう こ、221年 - 278年)

??

> 三角縁神獣鏡の銘文(この年代には卑弥呼は存在した。) >> 景初三年(239年)陳是作鏡 > 景初三年 陳是作鏡 自有經述 本是京[β市] 杜地□(命)出 吏人□□(銘之) 位至三公 母人銘之 保子宜孫 壽如金石兮

>

銘文などヒミコの関連資料ですが、だいぶ解けてきました。

まず下記の「翰苑」の記載に注目しました。

翰苑 卷第卅 蕃夷部 より 倭國 本文のみ

倭國

憑山負海 鎮馬臺以建都 分職命官 統女王而列部 卑弥娥惑翻叶群情 臺與幼齒 方諧 衆望 文身點面 猶稱太伯之苗 阿輩雞弥 自表天兒之稱 因禮義而標袂 即智信以命官 邪屈伊都 傍連斯馬 中元之際 紫綬之榮 景初之辰 恭文錦之獻

倭國

山に憑き海を負い、馬臺に鎮し以って都を建つ。職を分かち官を命じ、女王に統(す)べて 部を列す。卑弥娥は惑翻(わくほん)して群情(ぐんじょう)に叶う。臺與は幼齒にし て、方(まさ)に衆望に諧(かな)う。文身點(鯨)面し、猶(なお)太伯の苗と稱す。阿輩雞弥は、自ら天兒の稱を表す。禮義に因りて袂を標す。即ち智信を以って官を命ず。邪は伊都に届き、傍ら斯馬に連なる。中元の際、紫綬の榮あり。景初の辰、文錦の獻を恭ず

http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/kannenn/kannenn_mame.html

「女王に統(す)べて部を列す。」という部分ですが、この手の政治的な関与は魏志のシャーマン・ヒミコの条文にはない記載です。同時代の別の邪馬台国に関する資料を引用している 可能性があります。

それで、「卑弥娥は惑翻(わくほん)して群情(ぐんじょう)に叶う。」とありますが、「卑 弥娥」の「娥」という語は、秦~晋の時代においては、月下美人のような美女のことを意味して いたようです。

「帝堯の女、舜の妻、娥皇(ガコウ)の字(あざな)なり。秦晋にては、好きを~という。女+ 娥声」

<方言 1>に「秦晋の間、およそ好くして軽き者を娥という」とある。彦(*発音記号)が美男子を意味し、顔が輪郭のかどばった明瞭なカオを表すように、我声

のコトバも明瞭に浮き出る意を含む。

はっきりかど立つことより、美しく目立つ意となる。

宜や義と同系のコトバ。

後漢代に曹娥という美人の巫女の話があったようです。 また美男のことを「彦」といったようです。

http://1st.geocities.jp/ica7ea/kanji/161_5.html

思うに、「卑弥娥」という語は、当時の観念からすると、「卑弥という娥(美人)」という意味だったのでしょうか。

同様に、魏志や記紀の皇統譜に多く見える「彦」の人名・官職が、美男を意味する尊称だった可能性があります。そうすると、中国系の文化を有した集団の子孫だったと言えるかもしれません。

「<詩経、羔裘>の「邦の彦なり」とはその用例。」とのことですが、邦の語は、漢代以降は劉邦の名前と被るので、禁止されてますね。詩経は周代のものだそうです。

とすると、邪馬台国周辺の魏志に見える「彦」の語源は、かなり古い可能性があります。おそらく弥生前期の江南系渡来人とともに、呉音がもたらされた経緯で入ってきた尊称ではないでしょうか。

それで先の翰苑の記事に戻って、「臺與は幼齒にして、方(まさ)に衆望に諧(かな)う。」と記されている点にも注目したいと思います。「齒」は弱い、若い、の意味ですから、先の「卑弥娥」が、美人で、「惑翻(わくほん)」つまり惑わす。そして「群情(ぐんじょう)に叶う」と情動的な部分で惹き付けた有様を歌っているのと対照的です。詩歌などでの対比文の練習用の本だと思います。

いわゆる魏志の「ヒミコ」と「イヨ」のことなのですが、熟した女性と、若い女性、この比較は、ちょうど日向神話に見える、塩土爺の年長の娘「磐長姫」と、美人の妹「木ノ花咲夜姫」との対比に一致してきます。ニニギは結局、後者を選んだ故に、日本人の寿命が短くなったと書いてあるとおりです。

もうひとつ、同様な対比が、先日の物部系の2人の皇后、つまり孝元天皇の妃・鬱色謎命(ウツシコメ)と、孝元・開花妃の伊香色謎命(イカガシコメ)の件です。

よく文字を見ると、鬱色謎というのは、「ウツクシ」とも絡んで、謎めいた色気のある美人という風にとれます。先の「翰苑」の卑弥の記載に似てきますね。

また伊香色謎命ですが、「香」の文字は、実は中国音では、「キョウ・コウ」です。色は「ショク・シキ」謎は「バイ・ベイ」。

「イヨ」の発音と「イコウ」の発音が近いことに気づきます。

この2妃は、作鏡神社で祀る「石凝姥女」と「シコ」の発音で一致してくることから、物部氏に伝わった鏡に関係した祖先の女性をモチーフにした伝承とみなすことができる件は先に説明したとおりです。

それで、2妃の父・祖父にあたるのが、物部系のニギハヤヒの孫・大木口宿禰なのですが、大和神社とかかわりながら、水とのかかわりを持つ点に注目です。大和神社は先の2姉妹の父・航海に詳しい塩土爺と関わります。

また兄弟を見ると、2妃とも同じ名前の兄弟がいることがわかります。そして、伊香色謎命の兄弟に、「彦太忍信命(ひこふつおしのまことのみこと)」「比古布都押之信命」が見えるのですが、先の中国の美男尊称「彦」+「フツ」+「押し」の組み合わせです。

ここではじめて物部系の祀神「フツヌシ」の関連名称がでできます。「ミカ・ツチ」と「フツ・ヌシ」はセットで、派遣されてます。

そしてこの兄弟「比古布都押之信命」は、葛城系氏族と関係してくるようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BD%A6%E5%A4%AA%E5%BF%8D%E4%BF%A1%E5%91%BD>

「命は玉垂神社(福岡県筑後市)・伊萬里神社(佐賀県伊万里市)・梅田神社(京都府福知山市三和町)・大湊神社(福井県坂井市)・新田神社(徳島県徳島市)で祀られている。」

鹿児島から佐賀にかけてのラインが見えますね。この鹿児島⇔佐賀ラインは、先のマキムキ式古墳の方位区画メッシュにおいて、一番西端の基点ラインとして出てきたものと相関性を感じます。庄内式の170年前後の開始ラインです。

これらの神社を結んだ四方区画方位ライン図を添付します。図 1-2

葛城一言主社、高知県物部の磐舟神社(天忍穂別神社)といったあたりが、予想される方位区画・方位ライン上にできますね。

松浦方面に拠点があるのは、魏志の「マツラ国」記載とも関係しそうです。そのラインを伸ばしていくと、壱岐・対馬を通過してプサン方面へと伸びていきます。

再度、マキムク式前方後円墳の方位区画メッシュを添付しておきます。図3あと、京都府福知山市三和町といった、三輪信仰の地名が出てきてますね。

このように見ていくと、孝元・開化と物部系の2皇妃伝承は、「翰苑」に引用された「ヒミコ」「イヨ」の2女王の伝承と相関性があったことが伺えます。そして、日向神話のニニギに嫁いだ2姉妹とも関係する。

その仲介役をしたのが、彼女たちの父である塩土爺、物部氏の水口宿禰(ニギハヤヒ?)と なるでしょう。ある時期に、王・妃・爺・フツヌシ・ミカヅチの組み合わせで、奈良方面へと開拓していったものと感じます。

基点は 170 - 80 年ごろの倭国大乱に乗じて、九州方面から軍屯して筑紫からさらに日向に入り、その間に在地系の航海集団の2妃を娶りながら、徐々に 240 年代までに、奈良・関東へと軍屯領域を拡大して、5度偏角の軍事地図を作成していったのでしょう。

「翰苑」の記載でもうひとつ興味深いのが、女王国の位置について、「邪は伊都に届き、傍ら斯馬に連なる。」とあることで、邪馬台国が、九州糸島半島の伊都国と

接し、対馬にも隣り合っていることがあります。

要するに九州の宇佐以东とみなす夷州もしくは大和州の話をしているのでしょう。

ただ、おそらく 170 年当時は、まだ奴国周辺に女王国があったものの、後に領域が拡大していくにあたって、全国の軍屯地図が完成し、その中心にあたる奈良に遷都して日本版・洛陽城を造営したとの見方が筋かと感じます。秦野さんのヒミコ移動説も関係してきますね。

魏志の女王国記載は、最初の奴国、その後の日向・西都原にあった時の伝承と、その後奈良に遷都した後の伝承のふたつを混ぜて書いたので、方位や距離がマチマチになっているのではないのでしょうか。

その後者の伝承が、今回注目した「翰苑」の引用伝承なのではないのでしょうか。

あと、その記載に「職を分かち官を命じ、女王に統(す)べて部を列す。」とあるのですが、「部」というのが、つまり「物部」の「部」のことで、物部氏の文献を下にしている可能性があります。その伝承文献が、どういうわけか中国にも伝わっていたので、「翰苑」が引用したという線

です。

「翰苑」は 660 年以前の唐代の書物ですが、先のサイトに引用の諸文献が掲載されてます。遣隋・唐使あたりが、倭のほうから物部・中臣系(天兒の語が見える)の文書を持ち込んだ可能性も感じますね。大宰府に一部が残っているようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BF%B0%E8%8B%91>

Ads by Google ----- Re:秦韓の習俗投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 6 月 17 日(日)20 時 19 分 9 秒 返信・引用

> No.580[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 三角縁神獣鏡のルーツを見ましょう。 三角縁神獣鏡の銘文(この年代には卑弥呼は存在していない。)

中平六年(189 年)、四獣鏡、中国、中平六年正月丙午日 吾作明竟 幽凍三羊 自有己 除不羊 宜孫子 東王父西王母 仙人玉女 大神道 長吏買竟 位至三公 古人買竟 百 倍田家 大吉 天日月 (右回り)

三羊:羊 祐(よう こ、221 年 - 278 年)

羊 祐は、中国晋の武将。字は叔子。羊儒の曾孫、羊統の孫、羊衡の子。母は蔡氏(蔡邕の娘、墨 藪によると字は貞姫)。異母兄に羊甞(母は孔融の娘)がおり、同母の兄姉に羊承・羊徽瑜 がいる。従弟に羊琇。妻は魏の夏侯霸の娘である。

羊 祐が三公になったのでは…。

三角縁神獣鏡の銘文(この年代には卑弥呼は存在した。)

景初三年(239年)陳是作鏡 景初三年 陳是作鏡 自有經述 本是京[β市]杜地 □(命)出 吏人□□(銘之)位
至三公 母人銘之 保子宜孫 壽如金石兮

<http://www.ne.jp/asahi/issun/original/mater10.html> Re:秦韓の習俗投稿者:管理人 投稿日:2012年6月17日
(日)08時00分19秒 返信・引用

> No.579[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 周是作竟,田氏,爲氏,呂氏は同一銘文 >> 周是作竟 三角縁神人車馬画像鏡 中国浙江省紹興市 1 ■ 21.97
周是作竟四夷服 多賀家人 息 胡虜殄滅天下復 風雨時節五穀孰 長二親得天力 傳告后世樂無極 (右回り) >

この出土地の中国浙江省紹興市は、いわゆる上海周辺のことですよね。胡虜殄滅の語を見て も、軍隊向けの鏡
のようにも見えます。神人車馬というのは、戦車っぽいですね。秦韓に車 牛・馬の記載があります。元は楽浪系。

>

- > 青盖作、周是作に四夷服の銘文。 >>
- > 青盖作鏡四夷服 周是作竟四夷服 青盖作竟自有紀 >
- > 柏原市国分茶臼山古墳盤龍鏡の銘文 >「青盖作鏡四夷服多賀国家人民息胡虜殄滅天下復風雨時節五穀
孰長保二親得天力伝吉后世 楽母極」(WEBより) >> ソウルの崇田大学校蔵の二神四獣鏡の銘文 >
「青盖作竟自有紀 上有東王公西王母 青龍在左白虎居右 仙人子喬赤松子 長保二親宜孫子 大吉昌」
(WEBより) > 四夷服は四夷に服する。でないか。柏原市、ソウルで出土している。四夷と倭国の関係あ
り ですね。 >>
- > 夷(い、えびす)
- > 東夷。古代中国東方の異民族の総称。また転じて、古代日本の東方の異民族。 >

このソウルの鏡はきわめて重要ですね。引用のサイトの記載だと、山東にも同類の鏡があり、 山東⇔ソ
ウル方面⇔日本へのルートが指摘されてます。

「この鏡の踏み返し鏡として山東省で三角縁神人車馬画像鏡(21cm)が採取(王仲殊氏 本)されている。
鏡文は「呉胡傷里周仲作鏡四夷服多賀国家人民息胡虜殄滅天下復風雨時節 五穀孰長保二親得天力」と解
読され、旅順鏡とは文頭の「製作地製作者」が異なるのみとなっ ている。」

http://e-asia2.board.coocan.jp/?m=delconfirm&id=73_49

「呉胡傷里周仲作」というのが呉との関係を考える上で重要。

三角縁神人車馬画像鏡は、先の洛陽城出土の三角縁と見える四獣鏡とも同類ですね。洛陽⇔ 山東⇔朝鮮
南東部⇔弁秦 12 国(の一国である狗邪韓国)⇔倭という商業ルートが見えます。

呉・上海方面の鏡職人が関わってくるとなると、先日の呉年号銘鏡方位区画の件も気になっ てきますね。彼ら
も結局同じルートで倭と交易していた公算になるでしょうか。

<http://sky.geocities.jp/sabutyan66/page003.html>

倭の女王は 238 年当時、魏と呉に二股かけていたのか?という疑問も感じます。 先の「傳告后世樂無極」の後
が、女王だとすると、呉系の職人には未亡人・后として説明して

いた可能性がありますね。魏には、独身のシャーマン・ヒミコ?? でも、同時期に別々の地域で二人の女王がいた
という線はいかがでしょうか。 九州ではヒミコ、奈良では孝霊の未亡人・皇后イシコリドメ。 関連して、先の
倭人のイレズミ習俗の件で、興味深い記載を見つけました。

『日本書紀』景行紀に、筑紫の土蜘蛛討伐と熊襲討伐の話があり、景行天皇が大和に帰還する と、東国から戻っ
てきた武内宿禰が、次のように言上したという。

「東国のいなかの中に、日高見(ひたかみ)国があり、その国の人は蝦夷(えみし)と呼ばれ、男も女も髪を椎(つち)のような形に結って、体には刺青(いれずみ)をした勇敢な者達です。また土地は肥えていて広大です。是非攻略すべきです」 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/oni-megami/oni-megami-1-3.htm>

このことから、奈良の皇族集団およびその住民は、おそらくイレズミをしてないことがわかります。

イレズミをしていたのは、女王国の男子、朝鮮半島周辺海域の倭人、東国のアイヌ系となりそうです。奈良の原住民はどうだったでしょう…。

吉野の原住民・国栖の話が重要ですね。土蜘蛛とも呼ばれて、手足が長く小柄な縄文種です。縄文人同様に木の実を食べてくらしています。

葛城というのも、葛をクズということと関係するようで、奈良の南部は、彼らの領域だったのでしょう。

興味深いのは、常陸国風土記にも、国栖の話が見えることですね。行方郡・当麻郷の話が載っていますが、思うに、先にお話した葛城の古墳作り集団、当麻氏のことで、後から出雲からやってきた野見宿禰等の墓作り集団、つまりゼネコンに取って代わられたようです。常陸にも、その辺の伝承がある。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/oni-megami/oni-megami-1-3.htm>

おそらく、縄文系の沖縄・アイヌ系はイレズミしてましたし、その後の弥生系も倭人としてやはりイレズミの習慣をうけついでいた可能性はあります。

弥生後期にやってきた弁秦系の皇族集団だけは、イレズミをしていなかったのでしょう。

しかし女王国はみな男子は全身にイレズミをしていたわけですから、皇室の支配領域=女王国とすると、習俗に違いができて矛盾します。この辺は魏志倭人伝の女王国についての南方的な習俗記載とも関係してきますね。

ただし、奈良の弥生人も、皇族集団がやってきてすぐにイレズミの習俗をやめたとしても、体にしみこんでますから、大部分はイレズミが入ったまま過ごしていたことでしょう。それを魏の使者がみると、やはりみなイレズミをしているという結果にはなりかねないですね。イレズミが見えなくなるのは次世代以降となるのでしょうか。

ともあれ、洛陽⇄山東⇄朝鮮南西部⇄弁秦韓⇄日本へのルートの間に、先のゼネコン・商人集団の拠点があったと思うのですが、後代、開封にユダヤ人コミュニティがあったようです。

山東半島の付け根に開封という都市があるのですが、ここに前漢武帝の時代にインドから、西域経由でやってきたというユダヤ人集団「猶太」の公式記録があります。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%96%8B%E5%B0%81%E3%81%AE%E3%83%A6%E3%83%80%E3%83%A4%E4%BA%BA>

960年ごろまでには成立しており、後にマテオ・リッチが報告しています。ただ、イスラエル10支族系ではなく、バビロン捕囚後のいわゆるユダヤ人で、特に興味深い

のは、バビロン捕囚直後のエズラ記までしか持っていないことです。比較的早い時点で離散したユダヤ人のようにも見えますね。

伝承どおり、紀元前には中国に渡っていたかもしれません。

あと、亜麻布でミイラ化する習俗が取り上げられてますね。これは新約聖書のイエスの埋葬記載に見える、ユダヤ人独特の習俗です。おそらく中国の彼等がユダヤ系とみなされるのは、その辺もあるのでしょう。

おそらく、紀元後60年ごろに、ユダ王国が滅んで、ローマの各地にユダヤ人が離散する以前に、彼等が分かれ出たのではないのでしょうか。その離散後だとすると、逆にローマ的な習俗を持っている可能性があります。

特に亜麻布・麻を重視する忌部・中臣・皇族系の祭祀と関係してくるかもしれません。

後代の中臣・皇族の墓は、麻と漆でつくった夾紵棺という棺桶を出土していますが、この辺ちょっと中東の習俗と関係ありそうですね。 <http://katora888.fc2web.com/sakitamakohungun/HTML/page019.html>

<http://www.geocities.co.jp/technopolis-Mars/5614/usi1.html>
http://inri.client.jp/hexagon/floorA3F_hb/a3fhb600.html

月額 1,889 円の ADSL - bb-adsl.jp YahooBB バリユープラン登場! 今なら 1 ヶ月無料でさらにおトク 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 橿原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する WiMAX 使い放題 2,999 円 - wimax-broad.jp ワイマックス使い放題定額, 端末 0 円 WEB 限定プラン! 即日発送可 耳で覚える韓国語 - www.espritline.co.jp スピードラーニング韓国語しゃべる・はなすを体験してみよう! インターネット徹底比較 - hikakunet.jp 《今月限定》申込者全員最大 82,000 円 1 番おトクな回線をご紹介します。 Ads by Google

----- Re:秦韓の習俗投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 6 月 17 日(日)01 時 08 分 14 秒 返信・引用

> No.578[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 周是作竟,田氏,爲氏,呂氏は同一銘文

周是作竟 三角縁神人車馬画像鏡 中国浙江省紹興市 1 ■ 21.97 周是作竟四夷服 多賀家人息 胡虜殄威天下復 風雨時節五穀孰 長二親得天力 傳告后世樂無亟 (右回り)

田氏作竟 三角縁神人車馬画像鏡 中国浙江省紹興市 1 ■ 21.21 田氏作竟四夷服 多賀國家人 民息 胡虜殄威天下復 風雨時節五 長保二親得天力 山人高赤杏子 (右回り)

田氏作竟 三角縁神人靈獸画像鏡 中国浙江省紹興市 1 ■ 17.27 田氏作竟四夷服 多賀國家人 民息 胡虜殄 (左回り)

東王公 三角縁神人靈獸画像鏡 中国浙江省紹興市 1 ■ 18.63 東王公 西王母

西王母 三角縁獸帯神人龍虎画像鏡 中国浙江省紹興市 1 ■ 19.39 西王母 白虎

爲氏作竟 三角縁神人龍虎画像鏡 中国浙江省紹興市 1 ■ 18.48 爲氏作竟四夷服 多賀國家人 民息 胡虜威盡天下復 (右回り)

呂氏作竟 三角縁神人車馬白虎鏡 中国浙江省紹興市 1 ■ 22.42 呂氏作竟四夷服 多賀國家人 民息 胡虜殄威天復 風雨時節五穀孰 長保二 (右回り)

青蓋作、周是作に四夷服の銘文。

青蓋作鏡四夷服 周是作竟四夷服 青蓋作竟自有紀

柏原市国分茶臼山古墳盤龍鏡の銘文

「青蓋作鏡四夷服多賀國家人民息胡虜殄滅天下復風雨時節五穀孰長保二親得天力伝吉后世 楽母極」(WEB より)

ソウルの崇田大学校蔵の二神四獸鏡の銘文 「青蓋作竟自有紀 上有東王公西王母 青龍在左白虎居右 仙人子喬赤松子 長保二親宜孫子 大 吉昌」(WEB より)

http://e-asia2.board.coocan.jp/?m=delconfirm&id=73_49

四夷服は四夷に服する。でないか。柏原市、ソウルで出土している。四夷と倭国の関係ありで すな。

夷(い、えびす)

東夷。古代中国東方の異民族の総称。また転じて、古代日本の東方の異民族

Re:秦韓の習俗投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 16 日(土)07 時 59 分 15 秒 返信・引用 編集済

> No.575[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 地皇年間(A.D.20-22)に 1000 人運ぶ?巨大船、時代は 300 年はずれるが巨大船は存在してい たな。おそ

らく、ジャンクだろう。 >> そのとき新羅の調の使が武庫に宿っており、そこから失火した。その延焼で多数の船が焼 けたので新羅の人を責めた。新羅王はこれを聞き、犬いに驚いてすぐれた工匠を奉った。

後の新羅は、秦韓の技術を継承していた可能性はありそうです。 その新羅から贈られた猪名部の造船技術は、当時の日本の木造建築技術にも影響を及ぼして ましたね。

朝鮮東岸の秦韓方面から、西岸の楽浪まで、最終的には 1 万 5 千人も運んでいるわけですが、 当時、秦韓から鉄ティを、各地に運送するルートがあったはずです。倭も楽浪も韓も、それを

もらいにきたと書いてますね。

途中の馬韓方面では、馬・牛を輸送に使うことがないとの記載があるので、それらの重量物 を運ぶのは主に船だったのでしょう。帯方経由での三角縁神獣鏡 100 枚の輸送も、楽浪から 弁韓経由で北九州へずっと船で乗り入れた可能性を感じます。

もともと鉄や武器を運ぶ海運ルートがあって、それに乗っかって取引したでしょうから、あ まりいい加減なルート記載はしてなかったと思いますね。船が沈没すれば、双方にとって大 損失になります。

> 馬韓と倭国の国境、非武装地域の可能性がある。アジール:慶州の古墳群を考慮すると可 能性もある。 >> 方位ですな。下記が遺跡と古名の対応になる。

>

ご指摘の支石墓群は、どうも江南系の先の弥生人の先祖 O 系統が、山東半島経由で朝鮮東部 に向かい、その後、北九州へ流れた経緯で、稲作と一緒にもたらされたようです。支石墓群は、 江南地域に多いようですね。

昔からその航海ルートはあったのでしょうか。

ただ、先の蘇塗・アジールをもたらしした集団が入ってきたのは、だいぶ後の弥生中期ごろ、鉄 器・青銅器技術とともに、同じルートでもたらされたもので、前者とは別系統のように感じ ます。

「三国史記~新羅本紀・赫居世」ある日、高墟村長の蘇伐ソブル公(都利)は楊山の麓を眺め ると蘿井の近くの林に馬がいなっている。近づくと大きな卵があり、割ってみると中から 児がでた。卵が瓠のようで、辰人たちは瓠を朴と呼ぶので朴を姓とした。」

ここで「瓠を朴と呼ぶ」とありますが、「瓠 カク」を「朴 ハク」と発音してます。 秦韓人の言語は、力行がハ行に変異する言語のようですね。

同様に後漢書の記載によると秦韓人の言語では、下記のように見えます。

酒(シュ)を觴(ショウ)と呼ぶ。 弓(キュウ)を弧(コ)と呼ぶ。 賊(ゾク)を寇(コウ)と呼ぶ。 国(コク)を邦(ホウ)と呼ぶ。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-sinkan.htm> つまり、ウ音がオ音へ、力行がハ行へと変化してます。

それで他の言語の事例として、たとえばアラム系のヘブライ語を調べてみると、特に「カフ」 という発音をするようで、力行の口の形で、ハ行の発音をするそうです。 <http://blogs.yahoo.co.jp/biblebridge/6161689.html>

その「秦語」というのが、中国の秦のことだったのか、あるいはさらに中国西方のアラム・イ ラン語系の遊牧民のことだったのか?この辺もさらに分析する必要がありそうですね。

> どうも馬韓は秦の支配下のようで、楽浪郡の力が強かった。捕虜の数も理解できる。 > 楽浪郡は現在のケソンになる。開城の文字は名残だろうな。河口なので肥沃でしょうな。 >

後の馬韓に秦韓人は混入したわけですが、先のとおり、馬韓の習俗に犯罪者が逃れる蘇塗 (ソト)というアジールの記載があります。

このようなアジール権が古代に記録で見えるのは、エジプト、ギリシャ、イスラエルとのこと ですから、そのどこかの地域に蘇塗の原型があった可能性があります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%B8%E3%83%BC%E3%83%AB%E6%A8%A9>

アジールの特徴としては、犯罪者の「逃れの町」、宗教的な聖地、自由貿易都市、緩衝地帯等があったそうですが、その弁秦韓のアジールを見ていくと、イスラエルのアジールと興味深い一致があります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%80%83%E3%82%8C%E3%81%AE%E7%94%BA>

「〔人々は〕鬼神を信仰していて、各国の都にはそれぞれ一人を立てて天神を祭らせている。この〔人物〕を名づけて天君といっている。また諸国には、それぞれ特別な地域があり、蘇塗とよばれている。」

まずこの「蘇塗」も、「逃れの町」も、宗教的な聖地です。

蘇塗には 1 人づつそこに天君という祭司がおり、また弁秦 12 支国(邑)の各都市ごとに、蘇塗が置かれた。

⇒ イスラエルの場合も、12 支族の住む 48 の町のうち、6 つが逃れの町(アジール)に指定さ

れた。各 12 支族の町には、レビ人という祭祀支族がいた。

その「逃れの町」には、レビ人が住むことが指定されていたようです。そして、そこに犯罪者が 入るためには、まずその司祭に來た理由を大声で叫ぶことから始まります。また各支族の領地の境界線の役目を果たしたケースもありました。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%82%A7%E3%82%B1%E3%83%A0>

http://blogs.yahoo.co.jp/holy_shimizu/61232934.html

かりに、蘇塗があった地域を推定するならば、やはり秦野さんご推測のように、各国の緩衝地帯にあった可能性が高いでしょう。都市から少し離れたところですね。

次に、イスラエルの「逃れの町」のケースによると、その時代の大祭司が死ぬと、逃れの町から 犯罪者は恩赦で地元に戻れたようです。

その大祭司と祭司はレビ支族から選出され、政治を担う王とは別でした。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E7%A5%AD%E5%8F%B8>

弁秦の場合も、王は自分たちでは選ぶことをせず、常に馬韓からいただいていますね。そして副王として、先のとおり廉(支人)が選出されていました。

そうするとその副王たる廉(レム)が、各国の祭司・天君をまとめる大祭司職であれば、なおさらレビ人と機能が一致してくることになります。

あと、弁秦国人は、同族であり、その統治システムも同じであることは、下記の記載からわかります。

最初は 12 国で、後に政治・行政上理由などで 24 区に 2 倍にしたのでしょう。方位区画関連でも、領域を追えるかもしれません。

『後漢書』弁辰伝 「弁辰と辰韓は雜居しており、城郭、衣服などいずれも同じで、言語と風俗は異なる。その族は背が高く大きく、美しい髪、衣服は清楚である。刑罰法令は嚴格。その国は倭に近い故に 全身に刺青を施している者も少しいる」

倭人はみな弥生時代からみなイレズミをしていたので、外国人からみれば非常に見分けやすかったです。逆にいえば、倭にやってきた大陸系の渡来人を追うには、そのイレズミの習慣の有無で、記紀の文献記載を追えば判明しそうです。ヒミコのいた邪馬台国や馬韓方面はイレズミしてましたよね。

ただどうもそれ以降の大和朝廷の記載には入れ墨が見えないようです。

また旧約聖書レビ記の記載は興味深いですね。「死人のために身を傷つけてはならない。また身に 入れ墨をしてはならない。私は主(しゅ

)である。」

<http://homepage3.nifty.com/yoshihito/irezumi.htm>

いわゆる天孫のいた地域が、弁秦だったから、入れ墨が見えないのではないのでしょうか。全身に 入れ墨をする倭人習俗を取り入れなかった可能性があります。確かに後代の埴輪などには 入れ墨は見えないようです。

ともかく、弁秦の厳格な法治主義がどういう風に、その人々の習俗なり行動を制限していた

のか?その辺をもと明らかにしてみたいところです。

医薬品特許明細書翻訳 - www.science-t.com/ 英中台韓に対応 高リピート率の実績 医薬分野と特許の精通者が翻訳します WiMAX 使い放題 2,999 円 - wimax-broad.jp ワイマックス使い放題定額, 端末 0 円 WEB 限定プラン!即日発送可 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する 中年男がピンピン、生涯現役に - pr-kouraininjin.com 50 才 - 80 才男性 必見! あの日々 が甦る 金氏高麗人参 2625 円 IGES,STEP,Parasolid,ACIS - www.dmv.co.jp 双方向変換,編集,検証を低価格で! 今すぐに全機能がご試用になれます Ads by Google ----- Re:秦韓の習俗投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 6 月 15 日(金)11 時 26 分 19 秒 返信・引用 編集済

> No.574[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

地皇年間(A.D.20-22)に 1000 人運ぶ?巨大船、時代は 300 年はずれるが巨大船は存在していたな。おそらく、ジャンクだろう。

そのとき新羅の調の使が武庫に宿っており、そこから失火した。その延焼で多数の船が焼け たので新羅の人を責めた。新羅王はこれを聞き、犬いに驚いてすぐれた工匠を奉った。

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

馬韓と倭国の国境、非武装地域の可能性がある。アジール:慶州の古墳群を考慮すると可能性もある。

方位ですな。下記が遺跡と古名の対応になる。

1、やまとの神域(神武東征) 2、帯方郡 3、倭の奴国(越)4、辰韓(新羅の位置は倭地になる め慶州市西北にズレる)

1、金剛山(こんごうさん、クムガンさん)は、太白山脈に属する朝鮮民主主義人民共和国 (北朝鮮)江原道にある山。最高峰は毘盧峰で、標高 1,638m である。

2、江華の支石墓群 仁川広域市江華郡(江華島)の支石墓群。約 120 余基が広い範囲に散在する。北方式。

3、高敞の支石墓群 全羅北道高敞郡にある支石墓群。約 1,764 メートルの範囲に 442 基の支石墓が群集する。韓国最大の支石墓密集地域である。北方式と南方式が混在する。

4、慶州市西北の路西洞一帯の平地に密集されている路西里(ロソドン)古墳は、新羅時代の古墳群

> ▼廉斯齒#>「三国志魏書~東夷伝」韓条、魏略の引用、(新の)王莽(A.D.9-23)の地皇年間(A.D.20-22)に、辰韓で副頭領の右渠帥をつとめていた廉斯齒#は、漢人で戸来(高麗)と呼ばれて捕らわれている者を連れて楽浪郡の含資県に出頭した。郡は廉斯齒#に案内させて辰韓に進入し、廉斯齒#は捕らわれていた 1000 人と既に死亡していた 500 人分の贖罪を得て楽浪郡に凱旋した。楽浪郡はその功績を表彰したが、その子孫は後漢の安帝の時代(106-125 在位、後漢第 6 代)までに はかなりの世代に達し、建光 4(124)年に楽浪郡はその子孫を改めて官に任命した。 > ↑齒#(+金) >> かれらは一度秦韓(辰国)から、楽浪へ引き戻されてます。そのときに 1000 人運ぶ?巨大 船を使用してます。 >>「[含資]県が[鑑と戸来]のことを楽浪郡に報告すると、[楽浪]郡は[廉欺]鑑を通訳に任じた。[鑑と戸来]は[岑]中より大船に乗って[出発し]、辰韓の地に入った。[>「蘇馬是#を封じて漢廉斯邑君かんれんしゅうくんとし、楽浪郡に属させ、四時に朝謁ちょうえつさせた。

秦韓の習俗投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 15 日(金)08 時 42 分 58 秒 返信・引用編

集済 > No.573[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 韓は帯方郡の南に在り、東西は海で尽きる。南に倭と接し、地積は四千里ばかり。韓には 三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁韓。辰韓とは昔の辰国なり。馬韓は西に在る。その民は 土着し、種を植え、養蚕を知っており、綿布を作る。各邑落には長帥(邑落の長)がおり、大首領は自らを臣智と称し、その次が邑借で、山海の間に散在

しており城郭はない。

>

馬韓・秦韓の位置が特に重要ですね。 秦韓の官職について追っていくと、妙な事がわかってきます。

「王莽の地皇年間(20-22)に、廉欺の鎡は辰韓の右渠の家臣であったが、」 秦韓には、廉欺、廉斯という官職・人種が存在したようです。

●廉斯 後漢は、末期には、楽浪郡に深く侵入した。 「後漢書」光武帝紀、紀元 44 年条、東夷の韓国人が、衆を率いて楽浪郡に詣で内附した。

「後漢書」東夷列伝、韓人で廉斯れんしの人、蘇馬是#そばしらが楽浪郡に詣で、貢献した。光武帝は、蘇馬是#を封じて漢廉斯邑君かんれんしゆうくんとし、楽浪郡に属させ、四時に朝謁ちようえつさせた。 ↑是#(+言べん)

<http://homepage3.nifty.com/kiya/sehachi/kiya323.htm>

蘇馬是#が官職として出てきます。三国史記の「ソブル」のことでしょう。

▼蘇伐ソブル 「三国史記~新羅本紀・赫居世」ある日、高墟村長の蘇伐ソブル公(都利)は楊山の麓を眺める

と蘿井の近くの林に馬がいななっている。近づく大きな卵があり、割ってみると中から児がでた。卵が瓠のようで、辰人たちは瓠を朴と呼ぶので朴を姓とした。

「戸来」(コライ)、「蘇伐」(ソブル)に注目。

▼廉斯齒# 「三国志魏書~東夷伝」韓条、魏略の引用、(新の)王莽(A.D.9-23)の地皇年間(A.D.20-22)に、辰

韓で副頭領の右渠帥をつとめていた廉斯齒#は、漢人で戸来(高麗)と呼ばれて捕らわれている者を連れて楽浪郡の含資県に出頭した。郡は廉斯齒#に案内させて辰韓に進入し、廉斯齒#は捕らわれていた 1000 人と既に死亡していた 500 人分の贖罪を得て楽浪郡に凱旋した。楽浪郡はその功績を表彰したが、その子孫は後漢の安帝の時代(106-125 在位、後漢第 6 代)までに はかなりの世代に達し、建光 4(124)年に楽浪郡はその子孫を改めて官に任命した。 ↑齒#(+金)

かれらは一度秦韓(辰国)から、楽浪へ引き戻されてます。そのときに 1000 人運ぶ?巨大船 を使用してます。

「[含資]県が[鎡]と戸来のことを楽浪郡に報告すると、[楽浪]郡は[廉欺]鎡を通訳に任じた。 [鎡]と戸来は[岑]中より大船に乗って[出発し]、辰韓の地に入った。[

「蘇馬是#を封じて漢廉斯邑君かんれんしゆうくんとし、楽浪郡に属させ、四時に朝謁ちようえつさせた。」

<http://shashino.xxxxxxxx.jp/kanden.html>

あと、下記の官職記載が重要です。

「辰王は月支国[に都をおき]統治していて、臣智あるいは特殊な呼称として臣雲(新国)の遺 支報、[并辰]安邪[国]の跂支、漬臣離児(臣漬活)[国]の不例、[并辰]拘(狗)邪[国]の秦 支廉」

この条文はかなり難解なのですが、最後の「秦支廉」は、秦韓国の「支廉」という特殊官職という意味です。「支廉」のように、「支」を入れるのがこの集団の慣例で、「廉支」のように順序が逆 になることもあります。「月支」「遺支の報」「安邪[国]の跂支」支族という意味では?「支廉」 は「レム支族」という意味かもしれません。

> どうも馬韓は秦の支配下のように、楽浪郡の力が強かった。捕虜の数も理解できる。

> 楽浪郡は現在のケソンになる。開城の文字は名残だろうな。河口なので肥沃でしょうな。 >

後の馬韓に秦韓人は混入したわけですが、馬韓の習俗に蘇塗(ソト)という興味深いアジール的な記載があります。

「[人々は]鬼神を信仰していて、各国の都にはそれぞれ一人を立てて天神を祭らせている。この[人物]を名づけ

て天君といっている。また諸国には、それぞれ特別な地域があり、蘇塗とよばれている。〔そこでは〕大木を立てて、その木に鈴や鼓をかけて、鬼神に仕えている。さまざまに逃亡者がその地域に逃げ込めば、〔逃亡者を〕けっして外部に追い出したりはしない。〔このような風習があるので、この地方の人々は〕しばしば〔秩序に反し〕害になることを行なう。

〔馬韓で〕蘇塗を作る意味は、仏教に似たところがあるが、行っていることの善悪は異なるところがある。」

その蘇塗はおそらく山野にあって旧約聖書の「逃れの町」のような場で、「大木を立てて、その木に鈴や鼓をかけて、鬼神に仕えている」とあることは、また先の奈良の都城區画において、區画四隅外れの山地部に、銅鐸が埋められていたことと関係ありそうですね。卑弥呼は鬼道に使えてましたが、鬼道は鬼神・天神を祀っていたのでしょ

う。なお、この「蘇塗」にみられるようなアジールの習俗の初現は、旧約聖書の下記の記載でしょう。仏教系もしくは、この手の中途系習俗がシルクロードでサカ・月氏等によって伝えられ「蘇塗」になったという線考慮すべきでしょう。

「逃れの町(のがれのまち)は、旧約聖書で、ユダヤ人の領土に設置するよう神から定められた、過失で殺人を犯してしまった人が復讐から逃れて安全に住むことを保証された町のこと

民数記 35 章には、エジプトから上ってきたユダヤ民族が得るはずの領土において『ヨルダン川の東側に三つの町、カナン人の土地に三つの町を定めて、逃れの町としなければならない。これらの六つの町は、イスラエルの人々とそのもとにいる寄留者と滞在者のための逃れの町であって、誤って人を殺した者はだれでもそこに逃れることができる』とある。

逃れの町に滞在することが認められるのは、敵意や怨恨でなく、故意でもないことが条件であり、後日改めてイスラエルの共同体による裁判を受け、過失であったことが認められねばならない。逃れの町に避難した人は、その時の大祭司が死ぬまでの間、そこに留まらねばなら

ず、それまでは元の住所に帰ることはできない。また、逃れの町以外の場所においては、被害者の遺族が直接加害者を殺す血の復讐の権利が認められている。

申命記 19 章、ヨシュア記 20 章にも同様の記述があり、申命記 19 章では逃れの町に入って生き延びられる条件として、たとえば隣人と柴刈りに行き、木を切ろうとして振り上げた斧の頭が外れて死なせたような場合が示されている。」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%80%83%E3%82%8C%E3%81%AE%E7%94%BA>

そして、各都市には「天君」という大祭司がいたようですね。政治をつかさどる首長と違うようです。祭政分離してます。

なお、これらの弁秦 12 国(24 国)を開いた上記の集団の元は、衛滿に追い出された大陸系亡命商人でしょうから、蘇塗や天神祭祀が在地の習慣ではないことは間違いないでしょう。

犯罪者を保護するアジール権を思いつく要素・環境を割り出す必要がありますね。突然に倭・韓で生じる発想とは考えにくいです。

法治国家の残像が見えます。弁韓は特に法律に厳しいという記載がありますね。おそらく倭人とは人種も習俗も異なる集団でしょう。この弁韓の中の狗邪韓国・ブサン地域がいわゆる高天原だったのではないかと感じます。

『後漢書』弁辰伝

弁辰與辰韓雜居、城郭衣服皆同、言語風俗有異。其人形皆長大、美髮、衣服絜清。而刑法嚴峻。其國近倭、故頗有文身者。

弁辰と辰韓は雜居しており、城郭、衣服などいずれも同じで、言語と風俗は異なる。その族は背が高く大きく、美しい髪、衣服は清楚である。刑罰法令は厳格。その国は倭に近い故に全身に刺青を施している者も少しいる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

月額 1,889 円の ADSL - bb-adsl.jp <<YahooBB 新規申込受付>> 今なら 1 ヶ月無料でさらにおトク 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas

檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する 中高年男がピンピン、生涯現役に - pr-kouraininjin.com 50才 - 80才男性 必見! あの日々 が甦る 金氏高麗人参 2625円 WiMAXが《月額 2,999円》 - wimax-broad.jp

さらに今なら WEB 限定、端末0円! 最短即日発送ですぐ使えます。 HDD 復旧 3分自己診断 - Ino-inc.com まずは HDD トラブルの原因をチェック 3分自己診断で対処法をお教えします Ads by Google

----- Re:都城区画・秦氏・屯倉四方区画投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月15日(金)07時 43分35秒 返信・引用編集済

> No.572[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 少しずつ訳しましょう。まず地図。

韓在帶方之南、東西以海為限、南與倭接、方可四千里。有三種、一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁韓。辰韓者、古之辰國也。馬韓在西。其民土著、種植、知蠶桑、作綿布。各有長帥、大者自名為臣智、其次為邑借、散在山海間、無城郭。

韓は帶方郡の南に在り、東西は海で尽きる。南に倭と接し、地積は四千里ばかり。韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁韓。辰韓とは昔の辰国なり。馬韓は西に在る。その民は土着し、種を植え、養蚕を知っており、綿布を作る。各邑落には長帥(邑落の長)があり、大首領は自らを臣智と称し、その次が邑借で、山海の間に散在しており城郭はない。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

秦野書:徐福と邪馬台国の馬韓の地図になる。

辰韓、耆老自言秦之亡人、避苦役、適韓國、馬韓割東界地與之。其名國為邦、弓為弧、賊為寇、行酒為行觴、相呼為徒、有似秦語、故或名之為秦韓。

辰韓、古老は秦の逃亡者で、苦役を避けて韓国に往き、馬韓は東界の地を彼らに割譲したのだと自称する。ここでは国を邦、弓を弧、賊を寇、行酒を行觴(酒杯を廻すこと)と称し、互いを

徒と呼び、秦語に相似している故に、これを秦韓とも呼んでいる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-sinkan.htm>

どうも馬韓は秦の支配下のように、楽浪郡の力が強かった。捕虜の数も理解できる。楽浪郡は現在のケソンになる。開城の文字は名残だろうな。河口なので肥沃でしょうな。

史籍の韓国は馬韓、弁韓、辰韓を合わせ言っている。

----- Re:都城区画・秦氏・屯倉四方区画投稿者:管理人 投稿日:2012年6月14日(木)23時08分29秒 返信・引用

> No.571[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 鏡の文章を読みましようか…。 >
- > 『三国志魏書』馬韓伝 >
- > 桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。 >

200年前後に一度軍事進出があったことは間違いなさそうですね。この文章を見るに、韓は、楽浪の民を、捕虜として南の韓方面へ連れ帰ったと解釈できます。だから、その後、公孫氏等が彼らを取り戻しに、韓・倭の地まで捜索にいったという内容です

おそらく捕虜になったのは技術系の部民だったのではないのでしょうか。

彼らはその後、どこか遠くへ逃れたのでしょうか。九州よりもむしろ、奈良方面かもしれない。だから倭

を探してもなかなかみつからなかったとも解釈できます。

> 鏡は中平六年(189年)で桓帝と靈帝の末(146年-189年)から 建安年間(196年 -220年)この時代背景を元に四獣鏡を訳せないかな…。

文献では下記の記載が気になります。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

注記3 魏略に曰く、初め右渠が破れる前、朝鮮の宰相の歴谿卿が右渠を諫めたが用いられず、東の辰国に亡命した、そのとき彼に随行して国を出た住民が二千余戸、また、朝鮮の貢蕃(属国)とは互いに往来しなかった。

王莽の地皇年間(20年-22年)、廉斯(れんし=地名)の鑑(さく)は辰韓の右渠帥となり、楽浪郡の土地が肥沃で、人民は豊かで安楽に暮らしていると聞き、逃亡して降伏すること を望んだ。(そして、鑑が)その邑落を出ると、田中で雀を追いかけている一人の男と出会ったが、言葉が韓人とは違っていた。彼に問うと、男が言うには「我らは漢人で、名を戸来と言い、我らは仲間の千五百人と材木の伐採しているところを韓に襲われ、全員が断髪され、奴隷にされた。もう三年にもなるかな」と応えた。鑑は「私は今から漢の楽浪郡に降るところだが、おまえは行きたくないか?」と言った。戸来は「よし。(行こう)」と応えた。

以前も説明しましたが、この辰韓で右渠帥になった言葉の異なる本土からきた「戸来」という亡命移民、2千戸ですね。隣国とは交渉しなかったようですが、これが最終的に倭に来る秦 韓の一派ですね。

断髪は倭にも見える海人系の風習ですね。倭に近い韓の地でしょう。

楽浪から、韓・秦韓方面へ、数度、捕虜や移住があった中で、徐々に技術系部民が倭の地に彼らが渡っていったのでしょう。そのあたりの歴史を銘文がしるしていたかどうか?この辺が 課題です。

----- Re:都城区画・秦氏・屯倉四方区画投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月14日(木)06時

35分19秒 返信・引用編集済 > No.570[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

鏡の文章を読みましょうか…。

『三国志魏書』馬韓伝

桓、靈之末、韓濊彊盛、郡縣不能制、民多流入韓國。建安中、公孫康分屯有縣以南荒地為帶方郡、遣公孫模、張敞等收集遺民、興兵伐韓濊、舊民稍出、是後倭韓遂屬帶方。

桓帝と靈帝の末(146年-189年)、韓と濊が強勢となり、郡県では制することができず、多くの民が韓国に流入した。 建安年間(196年-220年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張 敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と濊を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

この文章が倭の大乱、卑弥呼の登場になる。

景初三年陳是作鏡自有經述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫寿如金石 今 景初三年、陳が自ら経述した鏡を作る。もとは京師(杜)の出、銘は位至三公の吏人、銘は母人(おものひと)、保子(開花天皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

卑弥呼は京師(杜)に居た。その後、公孫模に倭国を追われている。… 鏡は中平六年(189年)で桓帝と靈帝の末(146年-189年)から 建安年間(196年-

220年)この時代背景を元に四獣鏡を訳せないかな…。 銘文を訳すと卑弥呼の素性が出てきました。倭の大乱

の平定時に作られた鏡のようです。

> 四獣鏡中国 1□11.82 >「中平六年正月丙午日 吾作明鏡 幽凍三羊 自有己 除不羊 宜孫子 東王父西王母

仙人玉女 大神道 長吏買竟 位至三公 古人買竟 百倍田家 大吉 天日月 (右回 り)」 >>「日本出土の中平鏡には「東王父西王母」の句はない。

> 梅原末治著『漢三国六朝紀年鏡図説』は、この主文の図形が三角縁神獣鏡の獣形に類似しているという。」

Re: 都城区画・秦氏・屯倉四方区画 投稿者:管理人 投稿日:2012年 6月 13日(水)22時 13分52秒 返信・引用編集済

> No.569[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > ゼネコン集団の特定にはいりましょうか。 >
- > 前方後円墳、屯倉はほぼ同年代とおもわれる。 >
- > 問題は前方後円墳は何を表わすのかが問題ですな。 >
- > 秦韓系の秦氏の家紋は茗荷紋(みょうがもん)杏葉紋(ぎょうよう)と思われる。
- > 注意点は杏葉紋良く似ている。 >

そうですね、漢魏洛陽城の設計図を、奈良にもたらした物部系のゼネコン集団の特定については、彼らの癖を見抜くことが重要ですね。

こちらは銅鏡や鉄剣の銘文に注目してみました。 銘文一覧。

<http://www.ne.jp/asahi/issun/original/mater10.html>

全体的にみていくと、銅の産出地、および洛陽にいた有名な書家に加わったかどうか、記載されています。要するに、どこのダイヤで、誰がサインしたか?、それで価値が変わったのでしょうか。

ところが、田舎向けには、正直なところ、どこからどういう書家書いても同じなので、手間

隙省いているケースがあるようです。楽浪郡から直接倭に下賜ケースなどですね。ともあれ、工房ごとに、銘文の美辞麗句にクセがあります。今回注目したのは、下記の銘文です。

中平六年 (189年) 四獣鏡 中国 1□11.82「中平六年正月丙午日 吾作明鏡 幽凍三羊 自有己 除不羊 宜孫子 東王父西王母 仙人玉女 大神道 長吏買竟 位至三公 古人買竟 百倍田家 大吉 天日月 (右回 り)」

「日本出土の中平鏡には「東王父西王母」の句はない。梅原末治著『漢三国六朝紀年鏡図説』は、この主文の図形が三角縁神獣鏡の獣形に類似しているという。」<http://www.ne.jp/asahi/issun/original/mater10.html>

「仙人玉女 大神道」が気になります。玉女は、山幸神話に出てきた玉碗を持つ侍女を思い出しますね。西王母・東王父は、山幸神話では石凝姥女、塩土爺。

また「大神」と、「神」をとりあえている点が、鏡の中では珍しく、ある意味日本的です。「大神 =三輪」。

比較的、日本の信仰形態に近いものを感じます。さらにいえば物部・鏡作氏のそれですね。

中平年間で忘れてはいけませんが、中平刀です。

「中平□□ 五月丙午 造作支刀 百練清剛 上応星宿 □□□□」

解釈 [編集]文の内容は、「中平□年五月丙午の日に、この銘文を入れた刀を造った。よく鍛えた鋼の刀であるから、天上では神の御意にかなない、下界では災いを避けることができる。」と いう意味である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%89%84%E5%89%A3%E3%83%BB%E9%89%84%E5%88%80%E9%8A%98%E6%96%87>

特に「丙午」「百練」の用語は、後代の七枝刀の時代まで引き継がれているようです。朝鮮百濟方面に、古来からの鏡や剣を作る中国系技術職人の末裔がいたのではないのでしょうか。

「泰■四年■月十六日丙午正陽造百鍊■七支刀■辟百兵宜供供(異体字、尸二大)王■■■■作 この七枝刀が物部氏の本拠石上神宮にあるのも偶然ではなく、同じネットワーク、つまり信

仰に属する人たちのものだからかもしれません。それで、こちらのサイトに中平刀の銘文の書体が掲載されます。そのまま引用ですが、

「だがこの刀を発掘した金関恕氏は、次のように推理する。銘文の字体は後漢の官営工房の作 ではないとする。後漢時代の官営工房による字体は、様式化された隷書体であるとする。これ に対し鉄刀の字体は、稚拙ではないが様式化されていない。したがって字体は洛陽の官営工 房の象徴では無く、この鉄刀は後漢王朝からの下賜ではなかろうとする。遼東の公孫度がこ の刀を作り、卑弥呼の使いに託したのであろうとする。」

とのこと。楽浪方面の工房の可能性を感じますね。 当時の官営工房の銘文書体との比較写真も掲載されています。その図を下記にそのまま引用添 付させていただきます。 <http://yamatai.sblo.jp/category/932915-1.html>

それで、この鉄剣銘の書体をみると、円弧が多く左右対称で、いわゆる秦時代の篆書体に似た クセを持っているように感じました。図 2 参照。

「金文から更に字形の整理が進み、方形を志向しているものが多い。文字の形は天地が長い長 方形の辞界に収まるように作られる。点画は水平・垂直の線を基本とし、円弧をなす字画は すみやかに水平線・垂直線と交差するように曲げられる。画の両端は丸められ、線はすべて 同じ太さで引かれる。 このため金文と違って上下左右の大きさのバランスが整っており、極めて理知的で謹厳な印 象を与える文字に進化している。一方曲線を主体とするため有機的な趣きを併せ持ち、独特 の雰囲気を持つ書体となっている。 また、後世の漢字のようにへんとつくり、かんむりとあしのように部首分けが容易なのも特 徴である。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AF%86%E6%9B%B8%E4%BD%93>

先日お話したとおり、魏志によると、楽浪人は東南に移動した秦韓人と同族で、秦韓人から 「残阿」と呼ばれた集団でした。自分たちのことを「阿」というんですね。

彼らはまた秦の亡命移民で、「国」のことを「邦」と呼ぶように、漢代で使用不可能だった「劉 邦」の「邦」の字を平気で使っていました。いわゆる漢以前の中国系集団とみられることも以前お話ししました。

それで、先の中平鏡もそうですが、「吾作」の「吾」は、「吾・我」の意味で、つまり楽浪・秦韓人 の呼称「阿」である件も以前説明したとおりです。

この「吾作」が後に三角縁神獣鏡のメイン製造者になるわけですね。

この自分たちのことを「吾・阿」と呼ぶ集団が、秦・漢の時代にどこにいたのか？これが、後 の物部・秦氏につながるゼネコン集団とそのネットワークを探すためのキーワードになり そうです。 吾作による銘文鏡は2つあるようですが、そのひとつが次のものです。

吾作明竟…用青同至海東 三角縁四神二獣鏡 大阪府柏原市国分寺町向井山 茶臼山古墳 1 ● 22.3 吾作明竟 眞大好 浮由天下□(敖)四海 用青同 至海東 (左回り)「吾作明竟」の銘のある三角縁神獣鏡は非常に多い

<http://www.ne.jp/asahi/isshun/original/mater10.html>

つまり、朝鮮・日本方面へネットワークを広げている集団であったことが伺えます。 この銘文の中の「浮由天下 □(敖)」の語は、下記のとおり、方格規矩四神鏡にもみえます。

もしこの語がこの集団の先の「吾作」集団の特徴だったとしたら、元は尚方・洛陽の官営工 房に出入りしていた集団とも受け取れるかもしれません。

方作竟 (眞大巧) 方格規矩四神鏡 中国河南省洛陽市 8号後漢墓 1 □ 19.8 尚方作竟眞大巧 上有仙人不知老 渴[；欠]玉泉飢食棗 浮由天下敖四海 宜 子孫 (右回り)

方格規矩鏡は前漢から後漢末まで作成されてますが、その時代は彼らの一部も長安・洛陽に 出入りしていたことでしょう。

方格規矩鏡は、いわゆる定規とコンパスを象徴化しながら、当時の中国人の世界観を表現したもので、そのまま土木現場で、尺定規・コンパスとして使用されていたのではないかと感じます。

後に雲南に流れたサカ・月氏の末裔がもたらした銅鼓などに刻まれた精銅紋様のうち、三角鋸歯紋を周囲に配して、分度器の機能を持たせたものも出現してきます。

<http://www.kyohaku.go.jp/jp/dictio/data/kouko/houkaku.htm>

秦時代には、彼らゼネコンは、測量や軍事地図作成、都城・宮殿造営もしていたかもしれませんが、漢代でもその仕事をゼネコンとして、引き受けていたかもしれません。

もし彼らが秦の宮殿造営の知識を得ていたなら、先のとおり、その門に使用されていた磁石の知識もあったわけですし、ある日、尺定規・分度器たる鏡と、その磁石を組み合わせ、羅針盤たる三角縁神獣鏡を作り出した、そんなこともありえるのではないのでしょうか。

ともあれ、秦時代からの「吾・阿」という技術者集団の痕跡を追ってみる、その辺が解明のキーとなりそうです。

そして、特に秦の書体が、どうして丸く線対称なのか？中東・シルクロード系のアラム文字との比較などから、そのクセを見抜けるかどうか、以前行った神代文字の解析も含めて、その辺秦野さんの家紋解析と同様に、集団の信仰と表現方法を知る上で重要になってくることでしよう。

月額 1,889 円の ADSL - bb-adsl.jp YahooBB バリュープラン登場! 今なら 1 ヶ月無料でさらにおトク
WiMAX 使い放題 2,999 円 - wimax-broad.jp ワイマックス使い放題定額, 端末 0 円 WEB 限定プラン!
即日発送可 日本最古の神前結婚式 - www.yanagiwedding.jp 伊弉諾・伊弉冉の夫婦神の御前で執り行われる日本最古の神前結婚式 Google+ をはじめよう - www.google.com ウェブ上の情報共有をもっと簡単に
いますぐ Google+ を使ってみる Ads by Google

----- Re:都城区画・秦氏・屯倉四方区画投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 6 月 12 日(火)22 時 56 分 4 秒 返信・引用編集済

> No.568[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

ゼネコン集団の特定にはいりましょうか。

前方後円墳、屯倉はほぼ同年代とおもわれる。

問題は前方後円墳は何を表わすのが問題ですな。

秦韓系の秦氏の家紋は茗荷紋(みょうがもん)杏葉紋(ぎょうよう)と思われる。
注意点は杏葉紋良く似ている。

茗荷の分布 東アジア(中国、朝鮮半島、台湾、日本)に分布し、日本では関東地方以西の暖地の林縁などに自生するが、湿気の多い土地を好む。

<http://www.otomiya.com/kamon/plant/myouga.htm>

杏葉の分布 杏葉の起源は西方にあり,南北朝時代に中国に伝えられたので,漢代の馬装には杏葉がない。

<http://www.otomiya.com/kamon/kibutsu/gyoyou.htm>

ゼネコン集団の特定のため方位を地図に置き換えました。

方位をは外すとどうも当時湿地等、農業に適していない所。 大和川の架け替えを考慮すべきかも…。

> 屯倉方位区画については、以前お話したとおり、秦韓系の秦氏について考える必要がありますね。 >

- > 秦氏は、精銅技術と、都城造営技術を持ち、つまりゼネコン集団だったわけです。

>

- > それが、河内の大型古墳や上記の宮や都城の造営に関わっていった。 >
- > 秦野さんの家紋から古代を類推する方法も興味深いのですが、秦氏から、天孫集団の原型、つまり秦韓時代の彼らの技術や信仰を逆算できるのではないのでしょうか 都城区画・秦氏・屯倉四方区画投稿者:管理人 投稿日:2012年6月12日(火)21時52分 54秒 返信・引用 編集済
秦野北斗さんへのお返事です。
- > 1『日本書紀』には、茨田堤を築造してほどなく、茨田屯倉(まむたのみやけ)が立てられ たとある。茨田堤によって水害が防がれたことにより、茨田地域が開墾され、屯倉として設定 されたのだと考えられている。 >
- > 2 奈良県磯城郡三宅町 >
- > 3 大阪市住吉区我孫子 >
- > 4 難波宮(なにわのみや)は、飛鳥時代・奈良時代の難波(現在の大阪市中央区)にあった古代宮殿。 >
- > 5 平城宮(へいぜいきゅう、へいじょうきゅう)
- >> 6 平安京は現在の京都府京都市中心部にあたる、

屯倉方位区画については、以前お話したとおり、秦韓系の秦氏について考える必要がありますね。

秦氏は、精銅技術と、都城造営技術を持ち、つまりゼネコン集団だったわけです。それが、河内の大型古墳や上記の宮や都城の造営に関わっていった。

秦野さんの家紋から古代を類推する方法も興味深いのですが、秦氏から、天孫集団の原型、つまり秦韓時代の彼らの技術や信仰を逆算できるのではないのでしょうか。

物部氏は先のとおり、鏡作り、精銅技術をもち、おそらくは漢魏洛陽城のコピーを奈良に作る だけのゼネコン集団だったと思います。彼らも楽浪から秦韓・伊都経由で渡ってきた秦氏の 同族でしょう。

ニニギ・ニギハヤヒ、天孫、そして最後に渡ってきたのが秦氏という流れですね。

秦氏は神道のとりまとめ役のカモ氏とも深いつながりを持っていますし、八幡・稲荷信仰など 神道に深くかかわっていくのも、もともと物部・中臣の神道と同系だったからといえるので はないのでしょうか。おそらくは遊牧民が使ったアラム(ヘブライ)・ゾグド系の神代文字を つかって、土木測量・記録も行ってた。

それで、興味深いのが、奈良の佐味田宝塚古墳出土の三角縁神獣鏡と、よく類似した銘文、形 状をした画像鏡が洛陽から出土しているそうです。図 1 参照。

<http://homepage1.nifty.com/sawarabi/seian.rakuyou/24rakuyou/24rakuyou.htm>

官営工房の「尚方」と「●氏」作の相違があるそうです。

<http://homepage1.nifty.com/sawarabi/seian.rakuyou/mokuji/kojousizuisou.htm>

ただ洛陽城でも、唐代の洛陽城の老城のほうで、漢魏の洛陽城とは距離があるのが課題です。 図 2 参照。

http://heartland.geocities.jp/zae06141/han_history01.html

おそらく魏年号銘入りなどの三角縁は魏鏡で、ヒミコ向けに彼らの測量道具の希望を入れて 特注させたので しょう。枚数が多いので各地の工房に製造させて、短期間で仕上げ、使用者に 持ち帰らせたと思いますね。

特注品というのは、製造業とかやるとわかるのですが、案外手元に残さないんですね。あまり 重要性もないし、地元や他では売れないので、せいぜい原盤と鋳型を 1 枚くらい残して、あとは全部倭に贈ったことでしょう。

後のコピー鏡は、物部鏡連あたりが、秦韓あたりから材料を仕入れて、奈良や那珂八幡などに あった同族の工房で、造ったのではないのでしょうか。初期は秦韓あるいは彼らの同族がいた 帯方・山東半島地域でで作った可能性も感じますね。

ただ、洛陽城など、魏代の都城造営に、三角縁を方位磁針・定規として使用したならば、その 都城周辺から、出土する可能性も感じます。

中国都城の面白いところは、秦の阿房宮などでは磁石で門を閉じているとの件です。

「まず東西五十歩、南北五十丈の阿房宮前殿が築かれ、その上には一万人が座ることができ、下には五丈の旗が立てられた。木蘭が梁に使用され、磁石が門に使用された。」

<http://homepage1.nifty.com/sawarabi/seian.rakuyou/mokuji/kojousizuisou.htm>

秦代だけで数百の宮殿が造営されていますね。それだけゼネコン集団が関わったということ です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E6%88%BF%E5%AE%AE>

すでに漢。魏の時代には方位磁針が一般化していたので、その辺の磁石関連の知識は豊富だったのでしょう。製造も簡易に行っていた。その一部が軍隊の羅針盤として使用され、ヒミコの時代に軍隊率いてむかった張氏等によって倭にも伝えられたという線です。ただそれ以前にも方位磁針は南方系で伝わっていた可能性を感じますが…。

山東半島から洛陽までは、そんなに離れてないんですね。距離的には九州→奈良間くらいじゃないでしょう。

日本全国に方位区画メッシュ(軍事地図)を測量・作成できるくらいの彼らですから、洛陽・山東・秦韓といった同族間コミュニケーションや、測量などお手のものだったと感ぜます。中国全土にもゼネコンネットワークをもっていて、日本のと同様な方位区画メッシュを

つくって、軍事地図などの測量していたはずですよ。それで都城の造営も担当していた。

これらの都城造営のゼネコン技術とそのネットワークが、山東半島経由で、後の百済地域、秦韓方面へと流れていたとすると、逆に後代の秦氏の屯倉拠点や池溝・都城造営技術を解析することで、中国本土のそれとの接点を見出すことができるのではないかと感ぜます。

間接的には、慶州、プサンあたりの遺跡や都城構築の様相にも関わってくるかもしれません。漢氏も百済系由なので、彼らの製鉄技術の解析も重要。

それらのゼネコン技術を解明する上で、手がかりとなりそうなのは、やはり尺と偏角ですね。時代とともに、彼らの使う尺も変化していったでしょうし、しかしながら、一部倭や秦韓で分離した系統は、古い尺にこだわった可能性もあります。

再度屯倉拠点を結んだ方位区画メッシュの尺度と偏角を求める必要がありそうです。偏角は0でしたが…。尺はまだ未確定でしたね。図添付しておきます。

----- Re:倭人伝国名・人名投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月12日(火)18時24分13秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

方位は存在しますな。1~7 総てをカバーした。

1『日本書紀』には、茨田堤を築造してほどなく、茨田屯倉(まむたのみやけ)が立てられた とある。茨田堤によって水害が防がれたことにより、茨田地域が開発され、屯倉として設定されたのだと考えられている。

2 奈良県磯城郡三宅町

3 大阪市住吉区我孫子

4 難波宮(なにわのみや)は、飛鳥時代・奈良時代の難波(現在の大阪市中央区)にあった古代宮殿。

5 平城宮(へいぜいきゅう、へいじょうきゅう)

6 平安京は現在の京都府京都市中心部にあたる、

7 継体天皇陵、古市、百舌鳥

基準は耳成山(古代大君の墓)

余談ですが古代に大通信網(狼煙、光)を構築したのではないかと。一部、地方に灯籠、さざれ石があるが名残りではないかと。下図が根拠です。

----- Re:倭人伝国名・人名投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月11日(月)22時26分56秒 返信・引用 編集済

> No.564[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

高千穂、日向は韓半島にありました。

古の邪馬台国は狗邪韓国付近で東邑になる。任那日本府が在った模様。

『日本書紀』の崇神天皇 65 年秋 7 月条には次のような記録がある。

任那者去筑紫國二千餘里北阻海以在鷄林之西南

任那者と任那日本府者になり、筑紫國は二千餘里の位置になる。 図添付。魏志倭人伝、日本神話、神武東征から導き出したものです。

図から言えることは現在の神武東征、日本神話の解釈が間違いなのです。 韓半島ルートを読み解かなければこの問題は解けない。 言えることは欠史八代は匈奴。源氏、平氏は渡来人になる。

管理人さんの興味のある屯倉を管理したのは韓半島、渡来系のようだ。

管理人さんの先祖は倭の五王、聖徳太子、蘇我系。源氏、になる。

これから歴史を紐解き先祖を確認しましょうか。

ニュースです、先祖が屯倉=三宅家を継いだ方に会い話しをしています。現在、家紋を調査中。 判ればお知らせします。今の所、先祖は岡山とのこと。母方が三つ割り梅。 三つ割り梅:韓半島の筑紫、越になる。東北の越はこの連中みたいです。

できれば、越地域の人の家紋を知らせてくれませんか。できればですよ。 高句麗、扶余、は烏家紋? 倭国は梅、沢瀉(おもがた)家紋?

> 高天原を、方位ライン面でみると 5 度偏角のラインはプサン、狗邪韓国に基点があります から、秦韓・プサン方面に想定するのが妥当かと感じます。高千穂は、日向方面でしょうね。

倭人伝国名・人名投稿者:管理人 投稿日:2012年6月11日(月)20時52分1秒 返信・引用 編集済

> No.562[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 倭在韓東、南大海中依山島為居、凡百餘國。自武帝滅朝鮮、使驛通於漢者三十許國、國皆稱王、 世世傳統。其大倭王居邪馬臺國。樂浪郡徼去其國萬二千里、去其西北界狗邪韓國七千餘里。其 地大較在會稽東冶之東、與朱崖、儋耳相近、故其法俗多同。 >

とりあえず、魏志倭人伝に戻る必要がありそうですね。

高天原を、方位ライン面でみると 5 度偏角のラインはプサン、狗邪韓国に基点がありますか ら、秦韓・プサン方面に想定するのが妥当かと感じます。高千穂は、日向方面でしょうね。

その高天原から派遣されたニギハヤヒ、ともに「ニギ」がついておりますが、以前お話 したとおり、伊都国の官職「爾支」とのかかわりを考えてます。そして、先のとおり奈良の弥生 後期の 5 度角都城区画にニギハヤヒの子孫・物部氏(鏡作)が深くかかわってきます。

先にお知らせしたとおり、この時期がマキムク式古墳が展開する時期に重なり、170 年ごろ とすると、マキムク式前方後円墳を結んだライン拠点に、糸島や那珂八幡が出てくる件がありました。糸島から鹿児島方面へ方位区画の西端のラインを結んでましたね。鹿児島は庄内 式です。

ただ、那珂八幡周辺のマキムク式古墳を結ぶラインは、偏角なしの正方位ラインでした。同じ くタテツキと関連のマキムク式古墳のラインも正方位、そのほか加賀→前橋へのマキムク式 古墳は正方位です。図 1 の正方位角メッシュを参照。

それでも一部、糸島→鹿児島、千葉→会津、5 度偏角のものもありました。図 2 の 5 度角メッシュ参照。どちらかのメッシュのほうが古いのですが、おそらく 5 度角のほうが古いのではないかと感じます。かなり長

い期間マキムク式が造られたようです。

マキムク式でも那珂八幡古墳は、銅矛の鋳型が出土しているように、青銅器の職人集団と関係している模様です。物部氏の鏡作と関係しそうですね。物部氏の中でも鏡作連というのが土佐に見えます。

ただ同時に三角縁も出土していて、時代的にはかなり新しい部類になる。そうすると、那珂八幡に正方位区画をつくった時期は、かなり新しい可能性があり、それより古い糸島のマキムク式に原点を求めるべきかもしれないように感じてます。

糸島=伊都国の爾支(ニギ)の速日(ハヤヒ)の意味で、彼ら物部氏の拠点は伊都国にあったかもしれません。伊都平原墓から、巨大な内向花紋鏡が出てますが、これらも鏡作りの技術がないと無理だったでしょう。ヤタノカガミ。

ヤタノカガミと、石凝姥命(イシコリゴメ)、そして先の物部系の孝元・開化妃の関係ですが、物部系の孝元妃・ウツコメ、孝元・開化妃・イカガシコメのほかに、開化妃の姥津媛(オケツヒメ)という和珥氏の祖が見えます。

この「姥」も、先のとおり、ウツシコ、イカガシコから派生したと思われる石凝姥命(イシコリゴメ)のイメージに関係しているのでしょう。「シコ」「ゴ」が女性名の末尾に来る。

「姥」の発音は正確には「ボ」で、祖母、乳母、あるいは老女の意味のようです。

したがって、孝元・開化時代の妃の総称に、物部系の作鏡氏の伝説上の鏡を作る女性が深く関係し、その女性が進の奈良後期の都城にかかわっていたと思われます。

こうみると、ウツシコ、イカガシコは母子で、イカガシコは、孝元・開化で重婚ですから、複数の女性、親族関係があったものを、象徴化して一人の女性:石凝姥命へと表現した可能性が あります。

ウツシコは、開化元年に皇太后になるとともに、すぐ死んでますね。開化はイカガシコを前代の孝元から奪った略奪王朝の可能性があります。すると、思うにその母・ウツシコは、最終的には開化に殺されたという可能性もあるでしょう。相当な年齢だったでしょうから、老衰の可能性もなくはないですが……。

その石凝姥命は、籠ったアマテラスを洞窟からひっぱり出すのに鏡をつかっていた。

先日お話した日本語やヘブライ語の数詞を並べたひふみ歌に、「女神をどうやって引き出すのか?」という主題になっている件がありましたね。都城や古墳の測量には数字計算は必須で、数詞を覚える必要がありました。そして鏡による基準尺・分度器も必須だった。大陸系の集団です。

それで、ニニギとニギハヤヒの件ですが、ニニギは航海に長けた塩土爺に先導されることが ありますね。

塩土爺は山幸彦(ヒコ)にも羅針盤という航海の知恵を授けた。

また、彼はタケミカツチも先導しているのですが、「ツチ」というのがキーになりそうです。

ミカ(土器)+ツチ、シオ(塩)+ツチ。

塩土爺と似た役割を果たす倭国造の祖・椎根津彦は、天香具山の土をとってきて、「土器」をつくり神を祀って勝利する。

またその椎根津彦は神武から「椎の木の小槌」を受けられ、水先案内となった。

こうみると、塩土爺は、大陸(山幸)からやってきた天孫集団を、案内した在地の航海集団の長で、九州方面と深くかかわったことが推測できます。後に奈良にも一緒に入っていた。

筒型土器や鏡をつかった羅針盤をもたらした知恵ある海の老人、同じく鏡をつかって女神を誘い出す知恵ある老婆。

ニニギに、イワナガヒメとコノハナサクヤヒメの姉妹を差し出したオオヤマツミがいますが、足名椎命・手名椎命の父であり、先と同様「ツチ」を名前につける習慣ある集団の伝承でしょう。

その足名椎命・手名椎命の娘・奇稻田姫は、八岐大蛇退治において、素戔鳴尊によって大へびから矢透けだされ

る。オオヘビは在地の土豪の象徴。

スサノオの退治や刀剣神話は、タケミカヅチのそれと関係するでしょう。

「ツチ」「ツチ」を尊称とする集団の神話のように見えますね。元は大陸・中東系の伝承を持つ 先住集団。吉備、北九州と関係しながら、天孫集団とともに大和に入る。

「椎」をもってツチと読ませるわけですが、「ツイ」が漢音ですね。椎の木のことで、神社の木の ような大木になるようです。

先の神武が与えた「椎の木の棹」という意味が、そのまま尊称になっているのではないでしょう か。魏が難升米等に与えた將軍への棹ですね。漢も与えたでしょう。前期古墳から出土す る。

伊都国など、女王国の派遣官がいた国の長官、將軍に与えられた可能性があります。物部氏と 関係してくるので、三角縁神獣鏡の紋様にもセイ・ショウといった、同様な將軍への笠松型 の旗が刻まれ続けるのかもしれませんが。老年の東王父・西王母、そして旗の組み合わせです ね。

いずれにせよ、彼らは楽浪や魏から航海の案内人として任命された將軍たちで、しばしば女 王国の意向を仲介しながら独立性を保って狗邪韓国との間を行き来していたのでしょう。

その上で、女王国がそれでは、どこからどうやって彼らに接していたのか?が次の課題にな ってきます。

<http://kotobank.jp/word/%E6%A4%8E%E6%A0%B9%E6%B4%A5%E5%BD%A6>

月額 1,889 円の ADSL - bb-adsl.jp YahooBB バリュープラン登場! 今なら 1 ヶ月無料でさらにおトク 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 橿原考古学研究所のデジタルアー カイブを 3D デジタイズが革新する WiMAX が《月額 2,999 円》 - wimax-broad.jp さらに今なら WEB 限定、端末 0 円! 最短即日発送ですぐ使えます。 《婚活なら》エキサイト恋愛結婚 - wedding.excite.co.jp 3,500 人以上のリアルな婚活体験談公開中. 国内最大級の安心婚活サイト。登録無料! Ads by Google

----- Re:奈良弥生都城区画図投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 6 月 10 日(日)19 時 07 分 29 秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。 分かりやすく訳すと下記になる。

倭在韓東、南大海中依山島為居、凡百餘國。自武帝滅朝鮮、使驛通於漢者三十許國、國皆稱王、 世世傳統。其大倭王居邪馬臺國。樂浪郡徼去其國萬二千里、去其西北界拘邪韓國七千餘里。其 地大較在會稽東冶之東、與朱崖、儋耳相近、故其法俗多同。

『倭國は韓東と韓南大海中の山島に拠って暮らす。』およそ百余国。前漢の武帝が朝鮮を滅ぼ し、漢に使訳(使者と通訳)を通じてくるのは三十国ほど。国では皆が王を称することが 代々の伝統である。大倭王は邪馬臺国=拘邪韓国に居する。楽浪郡の塞から、邪馬臺国まで は一万二千里。倭の西北国境は拘邪韓国から七千余里。倭は凡そ会稽郡東冶の東、(海南島 の)朱崖や儋耳と相似しており、その法俗も多くが同じである。

桓靈間倭國大亂、更相攻伐、曆年無主。有一女子名曰卑彌呼。年長不嫁、事神鬼道、能以妖惑衆。

於是共立為王。侍婢千人、少有見者。唯有男子一人給飲食、傳辭語。居處宮室樓觀城柵、皆持兵 守衛。法俗嚴峻。

桓帝と靈帝の間(146-189 年)、『韓南の倭國大乱、互いに攻伐しており、曆年に亘って君 主がいなかった。』一人の女子がいて、名を卑彌呼という。年増だが嫁がず、神鬼道に仕え、よ く妖術を以て大衆を惑わす。ここにおいて(卑彌呼を)王に共立した。侍婢は千人、会える者 は少ない。ただ飲食を給仕し、言葉を伝える一人の男子がいる。暮らしている宮殿、楼観、城柵、 いずれも武器を持って守衛する。法俗は峻嚴である。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

話は韓半島南の倭國、現在の韓国なんです。

>ところが、魏志倭人伝のヒミコのイメージは、まず周辺諸国が争って大混乱があり、その後 中和策として、女王を立てたという感じです。さらに、ヒミコは宮殿に 1000 人の侍女ともも に籠り、誰も姿を見たことないと記されてます。ちょっと矛盾がありますね。 >

Re:奈良弥生都城区画図投稿者:管理人 投稿日:2012年6月10日(日)06時20分29秒 通報 返信・引用 編集済

> No.560[元記事へ] ちょっと追伸です。先の鏡作神社の件ですが、物部氏の祖を祀っており、そばの保津・宮古遺跡の保津も、物部氏系の穂積氏のことのようです。

先の都城区画の東北隅に石上神宮が出てくるのも、やはりこの時期に物部氏の影響力が強かったためではないかと感じます。

この都城の主と見える孝霊の息子・孝元の妃は物部系の鸕色謎命で、その息子の開化の妃も 物部系の伊香色謎命です。伊香色謎命は父の孝元の妃でもありますから、時に征服による王朝交替のケースでこういうことが起こります。

この鸕色謎命は古事記では内色許売命で、「ウツシコメ」です。伊香色謎命も、「イカガシコメ」で、鏡作り神社で祀る女神、「イシコリドメ」の発音と相関性があります。

思うに、鏡等を作る「物部」氏から、孝元が妃をもらっていた。さらいには物部氏と同族だったという線でいかげでしょうか。つまり物部氏の祖ニギハヤヒ・孝霊が 170 年ごろに、高間ヶ原から第 1 陣として奈良に進出したという具合です。

後に第 2 陣は魏年号銘鏡を持って 10 度偏角で奈良を開拓しなおすようですが、その前陣だった可能性を感じますね。

それでヒミコと女王国なのですが、この時期は孝霊・孝元といった軍事的な才能をもった強い首長の姿が見えてきます。そして中国式の都城を作り、大宮殿で闊歩する感じですね。

ところが、魏志倭人伝のヒミコのイメージは、まず周辺諸国が争って大混乱があり、その後中和策として、女王を立てたという感じです。さらに、ヒミコは宮殿に 1000 人の侍女とともに 籠り、誰も姿を見たことないと記されてます。ちょっと矛盾がありますね。

強いていえば、先の孝元の妻ウツシコメが、ヒミコも関わった「鏡」と関係してますし、開化の時代には皇太后になってますが、なってから 1 年以内に死んでます。

どちらかというと、ヒミコのイメージは、後の時代に斎宮に籠ったモモソヒメのイメージが強いことは確かです。

あと、孝霊以前の前王朝は、孝安・孝昭といった葛城方面の王朝のようですが、南方中国系とのつながりを感じることは以前お話ししたとおりです。

奈良第 1 陣 170~のニギハヤヒ・物部系の孝霊・孝元以後、第 2 陣の 240 年ごろからの開化?・崇神の時代に至り、魏年号銘鏡・10 度偏角の方位区画を造営し始めるわけですが、この魏年号銘三角縁神獣鏡は、やはりヒミコと深く関わっていると感じます。

そうすると、ヒミコ晩年にあたるこの時期に、ヒミコは本陣の高天原にいたでしょうけど、奈良に入ったかどうかは微妙ですね。証拠がない感じです。

信仰面では、先の第 1 陣の弥生後期の時代、5 度偏角の測量で、すでに出雲→元伊勢・籠→鹿島神宮を造営し、そのラインができあがってますから、後の本陣が来てもあまり変化なかったかもしれません。図 1 参照。

その後、10 度角の時代になって、諏訪大社や東海方面へと勢力を広げていき、最後の~440 年までの 0 度角の時代に伊勢内宮という最大拠点が出来上がります。図 2・3 参照。

崇神の時代に、斎宮ができあがってくるのが、そのプレ段階の 240~330 年に元伊勢から移動を繰り返して、外宮あたりに鎮座する、その前後だと思います。ヒミコの時代よりやや後ですね。

女王国=奈良ニギハヤヒ王国といえるかどうかは、現時点では判断が難しい感じがします。奈良のほうが下手をすると文化的に発展していた可能性すらありますね。

Re:奈良弥生都城区画図投稿者:管理人 投稿日:2012年6月9日(土)22時37分32秒 返信・引用 編集済

> No.559[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 畝傍山に邪馬台国があり、卑弥呼が中国の皇帝にもらった龍のマントをつけ祭祀 > を行った模様。畝傍山山口神社に水神が眠っています。いい例かも。 > 神社の手洗い場の龍、あれ、名前をわせたな。卑弥呼が龍になったのか? > 三角縁神獣鏡の銘文と結び付きますな。

ヒミコの信仰形態を考えることは重要ですね。 たぶん、龍のマントの記事は、だいぶ後代の斎明女帝の話です。唐と敵対していた時代で、唐 = 龍と象徴したんですね。

ただ、弥生期の倭人の信仰を理解する上で、中国系の水神信仰はよく見られるようです。奈良 の弥生中期ころの土器に、手足のない竜が描かれているようです。瀬戸内でも同様な紋様を 記した武器が出土している。

おそらく秦の時代や、前漢武帝の拡張期あたりで、九州から瀬戸内、奈良方面まで進出した中国系集団がいたのでしょう。彼らは正方位の編角なしの測量を九州、奈良に残してます。南方 海人系だったかもしれません。海人と水神である竜信仰とは切っても切れない関係にあるようですね。山幸と竜宮城の話もそうです。

それで、問題のヒミコの信仰ですが、鬼道と書いてあります。つまり中国のプレ道教系ですね。

「倭國乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす。名付けて卑弥呼という。 鬼道に事え、能く衆を惑わす。」

またヒミコといわれるモモソヒメの話を見ると、原住民系の大物主をヘビにたとえているのがわかります。そのヘビ神を見てモモソヒメはびっくりするんですね。箸でホトをついて死 んでしまう。箸というのも思えば中国文化です。

「男子は大小と無く、皆黥面文身す。古よりこのかた、その使の中國に詣るや、皆自ら大夫と称 す。夏后小康の子、会稽に封ぜらるるや、断髪文身して以て蛟龍の害を避く。」「諸国の文身 各々異なり、あるいは左にしあるいは右にし、あるいは大にあるいは小に、尊卑差あり。」

思うに、孝霊・モモソヒメがやってくる前にいた奈良の人々は、土器に描かれたような手足 のない竜、ヘビ信仰をもっていた。大和神社などに見られる水神信仰でしょうか。

それで後から吉備方面からやってきた桃太郎、つまり孝霊の別名ですが、そのヘビ信仰やその刺青に驚いたんですね。だからモモタロウとか、関連のスサノオ神話では、鬼や大ヘビ退治 の話が出てくるのでしょうか。ヘビ= 原住民なんです。

孝霊は、先のごとくその後奈良に中国式の都城を造営して、南方の郊外に、中国式の円丘壇を 設けて、道教祭祀をしたのでしょう。始祖廟も作った。

「宮室・楼観・城柵、厳かに設け、常に人あり、兵を持して守衛す。」

よく方位ラインをみていくと、西北の孝霊陵から、南郊の神武陵にラインが伸びてます。その ラインをさらに伸ばすと、息子の孝元陵にぶつかります。神武陵という始祖廟を新たに設置 したんですね。同様に 2 代のスイ靖陵等も造営したのでしょう。5 代のイ徳陵は畝傍 山にラインが伸びてます。

これらは孝霊の時代に道教的な祭祀壇、始祖廟としてここにまとめて設置されたのではない かと感じます。

その墳墓の形態は、原住民のものと異なって、道教的なホタテ貝式の円丘壇だったかもしれ ません。

「朱丹を以てその身体に塗る、中國の粉を用うごとし。食飲にはヘン豆を用い、手もて食う。 その死するや棺有れども槨無く、土を封じてツカを作る。」

唯この記載は、思うに当時的大王級の葬送方式を垣間見たもので、弥生原住民系のそれでは なく、後からきた孝霊などの系統の儀式を見た可能性を感じます。朱を棺内に塗りたくって いたのでしょう。

その皇帝祭祀を密接に関わっていたのが、ご指摘の神獣鏡や画像鏡の紋様だったのかもしれ ません。

240 年ごろになると、さらにリニューアルして、三角縁神獣鏡がもたらされる。

> 景初三年陳是作鏡自有經述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫寿如金 石兮 >> 景初三年、陳が自ら經述した鏡を作る。もとは京師(杜)の出、銘は位至三公の吏人、銘は母人 (おもひと)、保子(開花天

皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

おそらくこれらの銘文の意味を、孝霊以降の大王は理解していたでしょう。「京師」からやってきたという意味ですね。京師というのは、洛陽を意識しているのでしょうか。

「徐州」銘鏡も同様に、山東半島との経緯で、材料が朝鮮・日本の製造地へもたらされたことを記載させているんですね。

この時代になると、魏年号銘鏡方位区画のように、5度から10度偏角へとシフトしてきますので、信仰面でも変化が生じていたかもしれません。

5度角の瀬戸内拠点から、10度角になり東海地方へ拠点が伸びていく時期ですが、東海系の前方後方墳というのが、ひとつ影響を与えてきた可能性はありますね。

ヒミコ晩年の時期になるわけですが、ホタテ貝式から、前方後円墳へ、そして三角縁神獣鏡へと変化していきます。

それで、そのプレ段階の孝霊の宮殿横にあった鏡作神社、おそらくは官営工房、の信仰形態が、そのままその時期の信仰を象徴している可能性があります。

http://www.town.tawaramoto.nara.jp/03_sightseeing/old-shrine/shrine_kagamitsukuri.html

祭神は、天照国照日子火明命、石凝姥命、天児屋根命ですが、最後の天児屋根命は、古代の宮都や信仰拠点を知りつくしていた藤原系ですので除外して、その前のホノアカリ、石凝姥命に注目すべきかもしれません。

「イシコリドメは、日本神話に登場する神である。作鏡連(かがみづくりのむらじ)らの祖神とされている。『古事記』では伊斯許理度売命、別名 櫛石窓神、豊石窓神、『日本書紀』では石凝姥命と表記されている」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%B7%E3%82%B3%E3%83%AA%E3%83%89%E3%83%A1>

鏡作連は後代まで神道祭祀の中心にいた氏族と見えるわけですが、「窓」に関係しているのが興味深いところです。石凝姥命、櫛石窓神は、奇しい方法で、石をこり固めて窓を作るという意味に取れますが、窓=外の世界の景色を映すもので、岩穴に竈ったアマテラスに、外の世界を見せた鏡というイメージでしょうか。

鏡と外界の世界観は、ちょうど先日の山幸神話における井戸とそこに映し出される常世世界との対比で興味深いところです。ホノアカリ日向神話的な要素が絡んで来る。

山幸神話は以前お話したように、魔法の釣り針を手に入れて、自由に紅海して常世国までたどり着けるようになったという、方位磁針・羅針盤入手の裏神話なのですが、またモモソヒメの大物主神話も、三輪山から糸を引っ張って測量したという、同じく測量技術系の裏神話でした。

それで、神話や信仰と、航海・測量や古墳・都城造営などの技術とが一体化しているのが、おそらく孝霊以降の道教系信仰の特徴だと思うのですが、技術職人が神話を伝承し儀式を執行したので、そういう裏ができたという線も伺えます。

おそらく当時は文字の読み書きや、伝承をしうるのは、それらの技術職人の系譜だったでしょうから、必然的に技術職人の家の伝承が正確性をもっていたのでしょうか。それで記紀神話にもよく取り入れられた。

外見的には古代中国の都城にみられるような皇帝祭祀の形態を、その都城や古墳をもって表現したもの、内では南ロシアのクルガン墓にみられるような、先祖伝来の葬送習俗を維持し続けたという線ですね。

魔法の釣り針で洪水引き起こしたりするあのあたりの神話群です。

表面的な技術や言語と、内面的な風習とが一致しない二面性、ずっと後代までその傾向がみられるのですが、元はその辺の技術・商人集団の二面性に関わっていたのではないのでしょうか。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する ホテルをお探しの方、必見 - www.choice-hotels.jp Tポイント3倍キャンペーン実施中 《コンフォートホテル》海外で考古学ボランティア - www.projects-abroad.jp ルーマニアやペルー考古学発掘プロジェクト。冒険好きにはぴったり 奈良 観光タクシー - www.yamatokotsu.co.jp

奈良公園コース A2 時間 30 分 14750 円 4~7 名ゆったりとジャンボタクシー 桧木で手作り結婚指輪
体験。 - www.handmade-ring.com/ 2 人で手作りする、世界にただ一組の 結婚指輪。先輩カップル 3000
組突破! Ads by Google

----- Re:奈良弥生都城区画図投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 6 月 9 日(土)10 時 34 分 39 秒 返信・引用 編集済

> No.558[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

畝傍山に邪馬台国があり、卑弥呼が中国の皇帝にもらった龍のマントをつけ祭祀 を行った模様。畝傍山山口神社に水神が眠っています。いい例かも。 神社の手洗い場の龍、あれ、名前をわせたな。卑弥呼が龍になったのか? 三角縁神獣鏡の銘文と結び付きますな。

景初三年陳是作鏡自有経述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫寿如金石 兮

景初三年、陳が自ら経述した鏡を作る。もとは京師(杜)の出、銘は位至三公の吏人、銘は母人 (おもひのひと)、保子(開花天皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

陳:銘文の文脈から魏の明帝、または陳寿 孫:宜孫、宜しい孫を約し孫 母:母屋(おもや)の母(おも) 杜地命出:杜(もり)、地命(地名):地名は杜、杜(もり)の出 (鎮守の杜:今は神社の杜になっている。本来は京師の杜駐屯地) 京師:韓半島(開城)の楽浪郡から西に 2000 里にある。駐屯地 金石:金印(親魏倭王)

駐屯地の倉を屯倉と言ったなら主要な神社が屯倉になる。正倉院も鎮守の杜か?

秦野北斗書:徐福と邪馬台国 魏志倭人伝の解説書が方位との関係が出てきました。

奴国、不弥国に屯倉らしき物がある。

雑談ですが、天理教は卑弥呼を真似たみたいだな。場所も近くにある。

- > どうも漢代以降、南の郊外のこの地域で、皇帝が祭祀を執り行っていたようです。
- > 始祖関連の祭祀もあった模様。詳細はこちら参照ください。 >>
- > このことから都城があったことが明らかになってくることでしょう。
- > 秦野さんのおっしゃるとおり、中国に限らず古代都市機能を追求してみるのはいいい案だと 思います

Re:奈良弥生都城区画図投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 9 日(土)09 時 01 分 49 秒 返 信・引用

> No.557[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 奈良・弥生遺跡分布図、関連の 5 度編角方位区画図、漢魏洛陽城図の意味は漢魏洛陽城の 都市機能の詳細が奈良になる。エルサレムも漢魏洛陽城も同一になり、奈良の治安、統制でエルサレムの治安、統制が推測できる事になる。 >

> 古代の中国、バビロン、エルサレム、韓半島が繋がってきましたな。

先の図で、欠史 8 代の陵墓が、都城の南に位置する外れの四方区画にまとまっている点があります。先の都城予想図から、その部分を拡大した図を添付します。

それで、先の漢魏洛陽城の図をみると、その部分に「園丘」という語が見えます。

どうも漢代以降、南の郊外のこの地域で、皇帝が祭祀を執り行っていたようです。 始祖関連の祭祀もあった模様。詳細はこちら参照ください。

<http://www.kagemarukun.fromc.jp/page016g.html>

「天を祀る円丘は南郊壇、地を祀る方丘は北郊壇」とのことで、どこかしら古墳と似てますよね。

これらの都城祭祀は、またベトナムや朝鮮などにも早くから伝わっていたようです。3世紀代の日本にそれらの都城祭祀観念が伝わること自体は不思議ではないかもしれません。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%A3%87>

そうすると、先に孝霊時と推定できる都城区画の南にある欠史の陵墓地域は、そういう中国的な都城・祭祀観念から設けられたと考えるべきかもしれません。

このことから都城があったことが明らかになってくることでしょう。秦野さんのおっしゃるとおり、中国に限らず古代都市機能を追求してみるのはいいい案だと思います。

Ads by Google ----- Re:奈良弥生都城区画図投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月9日(土)08時31分35秒 返信・引用 編集済

> No.556[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 奈良・弥生遺跡分布図、関連の5度編角方位区画図、漢魏洛陽城図の意味は漢魏洛陽城の都

市機能の詳細が奈良になる。エルサレムも漢魏洛陽城も同一になり、奈良の治安、統制でエルサレムの治安、統制が推測できる事になる。

古代の中国、バビロン、エルサレム、韓半島が繋がってきましたな。奈良の巻向が桃源郷になるとは誰も知らない。漢魏洛陽城図から中国の桃源郷(巻向)が明らかになるかも。混乱するので戯言(たわごと)にしてください。

> この都城の主だったであろう孝霊の娘モモソヒメは、はたしてヒミコだったのか、あるいは別人なのか、秦野さん的には別人とのことですが、もう少しその辺の伝承を細かく分析してみたいところです 奈良弥生都城区画図投稿者:管理人 投稿日:2012年6月9日(土)07時37分12秒 返信・引用 編集済

> No.555[元記事へ] 先日提示しました奈良・弥生遺跡分布図、関連の5度編角方位区画図、漢魏洛陽城図を、1つ

のまとめてみました。下図のとおりです。

こうみると、三輪山・欠史8代の陵墓を結ぶ方位区画と、漢魏洛陽城の区画が見事に一致することがわかります。

おそらく、奈良の弥生後期の孝霊前後の首長墓伝承が、そのまま記紀に記載されたためかと感じます。元は、日本版洛陽城を造営したことによるものでしょう。

後代の桜井茶臼山あたりの古墳も、この5度編角の都城区画に載ってしばらく造営され続けた模様。石上神宮なども関係してきそうです。

またマキムクにあった「大市」も、「洛陽小市」の位置と重なってます。そばに、地方へ通じる大道があったようです。

特に宮殿関連の遺跡として興味深いのは、弥生遺跡のうち、保津・宮古遺跡の北側あたりが宮殿域にあたり注目です。

宮古という地名自体気になるのですが、おそらく孝霊の黒田庵戸宮の位置そのものが、洛陽城の宮殿位置にあったと推定できます。後代、倭屯倉(宮家)へと継承されていったのでしよう。

そして、宮殿域の東にあたる唐古・鍵遺跡や清水風遺跡から、楼閣を描いた土器が多数出るのも、そこにあった土器工房と、そこから見えた宮殿楼閣群を示したものと感じます。

その清水風遺跡は弥生後期だそうですね。都城の年代が後期に限定されてくるだろうと感じます。

そしてまたそばに鏡作神社があるのですが、こちらもおそらく官営工房だったのでしょう。

そのほか、洛陽城の場合は、東西に走る大道が3つほどあり、図のように一番北の道は、宮殿域のすぐ南を通過し、中央の道は中山大塚あたり、つまり柳本古墳群から、馬見古墳群へかけての道、一番南の道が、マキムクの大市を通過する道だったように見えます。

これらの道は、方位区画の中で正確に複数分割されたものなので、実際には先日のようにもっと細かい区画メッシュで示せるのですが、見やすくするために今回は省いています。

このように、弥生時代後期から末期にかけて、奈良南部に中国式の都城が造営されたことが伺えるのですが、邪馬台国やヒミコとどうかかわってくるのかが課題ですね。

この都城の主だったであろう孝霊の娘モモソヒメは、はたしてヒミコだったのか、あるいは別人なのか、秦野さんの的には別人とのことですが、もう少しその辺の伝承を細かく分析してみたいところです。

Ads by Google ----- Re:奈良・弥生遺跡方位区画・追伸投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月8日(金)11時 12分19秒 返信・引用編集済

> No.554[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

これは常識です。地理的に考えても韓半島と比較し日本には魅力はない。こんな東の離れ小島に三国志の魏が金印、三角縁神獣鏡 100枚も送る馬鹿げている。

おまけに日本は中国の省にも相当しない。

その日本に漢魏洛陽城のミニチュアを造る。秦野の見所、2つ、奈良の平城京、難波宮を中心に難波京を推古天皇が造った模様。

管理人さんの構想から日本が軍治強国でなければ成立しない。

楽浪郡あたりから派遣された軍人と技術者の可能性を感じます。開化の奈良北部の春日宮を経て、垂仁・崇神で、桜井・柳本方面へ宮が移動 唐古・鍵遺跡の 2階建て以上ある複数の建造物や、宝物倉 王族の墓を作ったり、ゼネコンみたいに巨大建造物の構築や原料の輸送

これらの歴史の糸口が魏志倭人伝になる。卑弥呼の存在は中国史籍にあり、状況も記録されている。管理人さんは過去の歴史家による洗脳から逃れられないみたいですな。

『「邪馬一國」はなかった』、中国史籍に都は邪摩堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。邪摩堆=邪馬臺=ヤマタイ、なんです。文章は総て創造 SF小説ですな。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

孝霊の娘が倭トビモモソヒメは別物です。10度編角の意味はさざれ石の広角です。さざれ石は狼煙台の残骸になる。耳成山=エルサレムの神殿から 7方向に 10度編角で灯火されていた模様。その跡地に世界遺産『エルサレム旧市街と城壁』岩のドームが建造される。

方位は 10度編角で存在する。見方で 4角、8角形に見えるが基本は 10度編角の 3角形 最近、方位を詳細に確認すると 10~14度編角、想定を覆す必要が生じるな。これが連結され、奈良、出雲、九州、中部、韓国等の通信網を形成する。始まりはアマテラス時代に三輪山を中心とした基本網が形成される。その後、卑弥呼の耳成山通信網(神社、屯倉網)、古墳、宮殿になる。三角縁神獣鏡は倭国、やまとのシンボル、子持ち勾玉は国津神、剣は兵士になる。現在の古墳名は天皇陵でないものがある。日本書紀から仁徳、応神は地方豪族の古墳だろう

> 彼らは、クルガン墓に、石囲木カクをつくって、船型の木棺に、漢鏡を埋葬していたわけで すし、紀元前後の楽浪や秦韓南部の墓制と関係してくるわけですから、そういう商業ルート

で動いていた技術者集団の流れで、三角縁や古墳、宮都造営のあり方を見ていけば、関係性がいろいろ出てくるんじゃないかと感じますね。 >

Re: 奈良・弥生遺跡方位区画・追伸 投稿者:管理人 投稿日:2012年 6月 8日(金)08時 12分48秒 返信・引用編集済

> No.553[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 奈良、漢魏洛陽城、エルサレムは同一ですな。卑弥呼が幼少の頃に訪ねている模様。 >
- > 古事記、日本書記に状況を明確に書かれているが理解できないのが現実。
- > もし、蘇我が天智天皇に付いていれば神話を改ざんしたでしょうな。白村江の戦い以後、
- > 神武東征は日数に改ざんが見られる。

ヒミコの問題は、このあたりで解決しておく必要がありますね。

先の図のように、孝霊陵とその息子の孝元陵のラインが、外郭に関わってきます。そして三輪山ですね。神武陵は、孝霊・孝元ラインの上に載りますが、後から載せたものと感じます。図を参照下さい。

この5度偏角ラインの成立時期は、後期の弥生遺跡拠点と重なるわけですから、1世紀半ば頃から3世紀の半ば頃という定義になりますね。

先の編磁気曲線で、西の5度傾くのは、AD 100年前後、東に5度は170年ごろでしたね。

おそらく後者ではないかと感じてます。

そこで孝霊の娘が倭トトビモソヒメで、三輪山と関係してくるわけですが、仮にヒミコだとして、この時期の天皇陵がどこにあったかという、上記のとおり外郭の四隅になるわけですから、オオキミ扱いを受けていたとすると、外郭の四隅周辺にあった可能性も出てきます。三輪山麓とかですね。

その後、時代が下って魏年号鏡を出土した古墳を結び、10度偏角の四方区画が出てきます。

秦野さんは10度偏角のほうがご興味あるようですね。

おそらくは、その時期に再度奈良盆地を測量しなおすような出来事があったのでしょう。

三角縁神獣鏡という新タイプの磁気コンパスも魏に造ってもらって、狼煙・測量台の前方後円墳も、ホタケ貝式からリニューアルしてます。系統的には同じなのですが、なぜかリニューアルしたんですね。

それまでの漢様式の洛陽城タイプの都作りから、魏様式に変化したのかもしれませんが。

孝霊の田原本町の黒田庵戸宮、つまり唐古・鍵遺跡の南部から、息子孝元の宮は真南に移動して橿原あたりに出てきます。ヒミコ時代の後期でもありますね。

唐古・鍵遺跡というのは、どうも洪水の跡があるようで、水はけの問題があったようですね。四方区画的には中心に位置して、開拓当初はいい拠点だったのかもしれませんが、住むのに問題があった。

それで土壌がしっかりしていて、北方からの軍事的な脅威にもやられにくい南部へと移動した線が思いつきます。当時はクヌ国との抗争も激しかったでしょう。

その後、開化の奈良北部の春日宮を経て、垂仁・崇神で、桜井・柳本方面へ宮が移動していきます。

この時期では、洛陽城のような大きな条坊都市と、天皇の住む宮とが一致していなかった可能性を感じますね。以前、黒田庵戸宮付近は、垂仁の倭屯倉まで続いていますし、唐古・鍵遺跡も古墳時代まで続くようです。

そこにあった鏡作神社は、元は官営工房の名残でしょう。官営工房というのは、都城の中でも、比較的中心部にあるケースが多いようです。

唐古・鍵遺跡の2階建て以上ある複数の建造物や、宝物倉も近くにあるはずで、勾玉の入った鉄製の箱が出土した件は重要だと感じます。 <http://www.karako-kagi-arch-museum.jp/img/mcPDF/mc01.pdf>

洛陽城の復元イメージと、その詳細。

http://heartland.geocities.jp/zae06141/luoyang_wall_north_east.html

http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/138939/1/jor011_004_317.pdf> そうそう、参考ですがチベットのポタラ宮も同一と思われます。古代には天竺と言ってい

た。内緒ですがインドでないんですな。

7世紀のポタラ宮も確かに大きいですが、洛陽城も大きいですね。素人が見よう見まねでできるレベルじゃなくて、建築職人集団がいないとできないレベルです。

146-189年の倭国大乱の時期に、中国の技術者集団を引っさげて、奈良に乗り込んだ集団がいたであろうことを予想できますね。

楽浪郡あたりから派遣された軍人と技術者の可能性を感じます。

宮都造営の技術者というのは、思うに開拓地に行かないと仕事がないでしょうから、必然的に軍隊とともに軍屯生活をしたのではないのでしょうか。

あるいは副業を持っていて、王族の墓を作ったり、ゼネコンみたいに巨大建造物の構築や原料の輸送まで行った。輸送する造船あたりまで手を出していた可能性すら感じますね。

また商業換算ができないと生きていけなかったかと感じます。戦乱時には軍事技術者として、安定期には商人集団として二面性をもっていたことでしょう。

そうして、長安から楽浪郡までアチコチを巡り歩いていたのでしょう。それで倭国大乱に乗じて、新規の開拓地を見出すとともに、奈良までやってきたという線はいかでしょうか。その後は、ホタテ貝式古墳造営とかをしながら、全国各地を軍事測量したり、地方都市の拠点作りをしたりしていたのかもしれませんが。

方位区画というのも、戦乱時には軍事・通信拠点で、安定時には商業ルートだった可能性を感じます。

それで先の弥生前期の奈良の遺跡方位区画に銅鐸拠点が出てきてましたが、全部四方区画つまり都城の外郭の四隅の端にあったのは、おそらく軍事的な意味もあったのではないかと感じます。戦乱時に音を鳴らして知らせるドラですね。高いところに位置したほうがよく伝わったでしょう。普段は必要ないので隠しておいた。

あと、マキムクの大市に、全国各地の土器が出てくるというのも、要するに土器の中に各地の

特産物が入っていたから、そういう結果になるわけですし、交通網が確立されていたのでしょう。特にお隣の東海や吉備からは随時文物が集まっていた。

そこに商業ルートや、運送業者、商人集団が絡んでくるわけですね。

おそらく170年ごろの孝霊・ヒミコ?の画期と、そのときにできたマキムク型古墳との間には、相関性があるだろうと感じます。そして、サカ・月氏系のクルガン墓、木棺関係を持ち込んだ。

ゾグディアナの月氏(昭武九姓)のゾグド商人の動きと、中国の漢・魏王朝の宮都造営とか、いろいろもっと詳しく調べていけば、そのうち日本に渡ってきた技術者集団の動きと重なってくるのではないのでしょうか。

彼らは、クルガン墓に、石囲木カクをつくって、船型の木棺に、漢鏡を埋葬していたわけですし、紀元前後の楽浪や秦韓南部の墓制と関係してくるわけですから、そういう商業ルートで動いていた技術者集団の流れで、三角縁や古墳、宮都造営のあり方を見ていけば、関係性がいろいろ出てくるじゃないかと感じますね。

土地価格 査定 60秒でスグ - sell.yeay.jp 住所を選ぶと厳選 6社の土地価格査定を比較できる!/利用は無料/全国対応 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する トヨタが全国でフェス開催 - aquafes.jp/ あしたの『いいね!』を作るフェス。 未来はきっと変えられる。 ペッパーランチ豪華キャンペーン - www.pepperlunch.com ワールドジュシーカットステーキで ツアーが当たる。詳しくはこちら 奈良で結婚 [nalayome](http://nalayome.com) - www.nalayome.com 奈良で結婚がしたくなる結婚式会場から ドレスショップ二次会まですべてサポート

Ads by Google ----- Re: 奈良・弥生遺跡方位区画・追伸 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 6月 8日(金)05時

25分17秒 返信・引用 > No.552[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 奈良、漢魏洛陽城、エルサレムは同一ですな。卑弥呼が幼少の頃に訪ねている模様。

古事記、日本書記に状況を明確に書かれているが理解できないのが現実。

もし、蘇我が天智天皇に付いていれば神話を改ざんしたでしょうな。白村江の戦い以後、神武東征は日数に改ざんが見られる。

そうそう、参考ですがチベットのポタラ宮も同一と思われます。古代には天竺と言っていた。 内緒ですがインドでないんですな。

> また、漢魏洛陽城を 1.5 倍サイズに直して重ねたものが図 3 ですね。昨晚最後に提示した弥生後期遺跡方位区画も、図 3 とほぼ同じ 1.5 倍サイズの漢魏洛陽城の図を重ねて一致させたものです。先の孝霊陵や孝元陵、三輪山あたりを外郭の枠線に用いるケースになります。 >

> おそらく漢魏洛陽城の 1.5 倍サイズで造営したと見て間違いないでしょう。 >> その設計図を元に、縮尺を立地にあわせて変化させたのかもしれませんが。マキムク型の古墳も、全国で縮尺が異なってますが、どれも相似形というのは、設計図が同じだからでしょう。 造営も担当した集団もおそらくほとんど同じですね。彼らは招待されて動けるだけのパスポートを持っていた。 奈良・弥生遺跡方位区画・追伸投稿者:管理人 投稿日:2012年6月7日(木)07時07分12秒 返信・引用 編集済

> No.549[元記事へ] 下記の弥生時代後期遺跡方位区画と、漢魏洛陽城の図を重ねる件で、先の図から 2 区画ほど

北へ。1 区画ほど西へ移動して重ね直した図も、添付してお知らせいたします。 弥生後期の遺跡分布の様子から、位置を推定しなおしてみました。

この図を見ると、ちょうど「洛陽小市」が、マキムク遺跡そば、つまり「大市」に重なることがわかります。別途「洛陽大市」という名も反対の内郭西側にあったようですね。

また、この図を見ると、保津・宮古遺跡の東側、唐古・鍵遺跡の南側にあたり、西田原本町駅あたりに、大極殿が予想できるのですが、ちょうどここが垂仁期に「倭屯倉」があった「三宅町」と重なってきます。

この周囲には、鏡作神社など、石凝姥命関連の古い信仰拠点が見えるようです。

http://www.bell.jp/pancho/kasihara_diary/2007_06_17.htm

保津・宮古遺跡。後期の遺跡が多いそうです。

http://www.yayoi.sakuraweb.com/cyber-mizuho/iseki/2_hozumiyako.htm

唐古・鍵遺跡。楼閣風の建物を描いた絵画土器が多く出土するそうです。下記の記載からして、この近くに都城の中心となった宮殿があった可能性を感じます。

「そのうちの二つの土器の破片に「楼閣」が描かれている。楼閣とは、2 階建て以上の高い建物 のこと。巻き込んだ屋根飾りを付けた建物が 6 棟あり、格式の高い建物である。その中でも 「楼閣」は巻き込んだ屋根飾りがたくさん付いているので一番格式の高い建物であることが 推測できる。建物の絵を描いた土器は西日本の各地で 46 例見つかっており、そのうち 15 例 がこの遺跡から出土した土器で、屋根飾りを付けた建物の絵はこの遺跡で 6 例、隣村の清水

風(天理市)で 1 例あるのみ。」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%94%90%E5%8F%A4%E3%83%BB%E9%8D%B5%E9%81%BA%E8%B7%A1#.E5.BC.A5.E7.94.9F.E6.99.82.E4.BB.A3.E5.BE.8C.E6.9C.9F>

あと、その近くの田原本町黒田には、孝霊天皇の黒田庵戸宮がありますね。 ここが孝霊の皇女・倭迹迹日百襲姫命の故郷であるこの庵戸宮が、卑弥呼ゆかりの地とされる点も興味深いところです。おそらくこの伝承は屯倉伝承ともつながっています。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BA%B5%E6%88%B8%E5%AE%AE>

そのほか、大極殿は少し高い位置にあったそうです。盛り土があったはずですね。 倭屯倉のあった三宅町は、微高地だったので、そこに蔵としての屯倉を置き、周辺の低湿地を開発して田地とし、倭屯倉を造ったとのことですが、この辺も気になりますね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%AF%E5%80%89>

この辺の中国都城の特徴と、奈良の地名・遺跡との対比も、方位区画と都城の関係性を検討 するうえでヒントになるかもしれません。

カメラレンズを超高額で買取中 - www.camera-takakuureru.com テレビにも出演。月間買取 10000 件突破
出張・宅配買取、査定も完全無料です 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する 大阪南エリアの新築一戸建て - www.fuji-ie.com 月々 6 万円台の支払い。45 坪超の 庭付・一戸建て生活。《フジ住宅》 ヨーロッパ鉄道地図 - www.RailEurope-Japan.com ヨーロッパに やすく 旅行を してください! 美顔器 45000 円が【980 円】 - www.kenkoucorp.com 累計 62 万台突破! 芸能人や読者も愛用 の美顔器がジェルとセットで特別価格 Ads by Google ----- 奈良・弥生遺跡方位区画・再修正
投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 7 日(木)06 時 23 分 5 秒 返信・引用編集済

> No.547[元記事へ] ちょっと先の奈良・弥生遺跡の方位区画について、さらに再修正しました。

弥生遺跡を前期~(赤丸)のものと、中期~(水色丸)、後期~(ピンク丸)の 3 種類に分類して、方位区画の検証をしました。前期からと思われる銅鐸拠点は(黄色丸)のままです。

年代は下記サイト参照。

<http://www.yayoi.sakuraweb.com/cyber-mizuho/deta/tyuuwa.html#toudaiziyama>

この件は、それらの拠点を結ぶ方位ラインが複数見えませんでしたので、そこから区画を割り出しました。

その結果、前期と中期のものは、図 1 のような編角なしの正方方位区画となるようです。これは おそらく九州の弥生中期の方位区画と同類でしょう。

この区画に後期~のピンク丸拠点が入らないことがわかります。 また後期~のものは、図 2 のとおりです。この場合ピンク丸の拠点を中心に、一部前期から末

期まで利用された他の拠点(赤・水色)も含まれてます。ただ銅鐸拠点(黄色丸)は含まれない模様です。

先のとおり、斜め 5 度の偏角を持つ方位区画です。

そして、その後期の方位区画に先のとおり、漢魏洛陽城の図を重ねてみました。図 3 参照。

10 キロ四方の外郭、および内郭の区画・道路が、方位区画に一致することが判ります。

この漢魏洛陽城図を、東向きにして重ねたり、先の弥生前・中期の方位区画に重ねたりしてみたのですが、どうしても一致しない模様でした。

こう考えていくと、漢魏洛陽城、あるいはその相似形にあたる楽浪方面の城郭都市の構造・造営に詳しいものが、そのまま日本に渡ってきて測量し、ここに中国式の宮都を造営した可能性を感じます。

唯一つ違うのは、洛陽城が東 5 度の偏角なのに対し、こちらは西 5 度の偏角になっていることです。

そのほか、いわゆる大極殿の位置ですが、漢魏洛陽城では中心からやや北にあるようです。図 4 の「金市」の南あたりになるのでしょうか。

今回の弥生後期遺跡方位区画を調べた感じでは、その部分にあたる遺跡はまだ掘られていないのではないかと感じます。もし、都城があったと仮定したならば、古墳はその周囲には少ないでしょう。

王族の墓があったとしても、それは外郭にあたる四方区画の四隅あたりにあるはずです。

ただ今回示した図については、あるいは東西・南北に、数区画分ズレる可能性は考慮しておくべきでしょう。それに従い予想される大極殿の位置も変わってくると思います。

Re:奈良・弥生遺跡ライン投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 6 日(水)22 時 56 分 31 秒 返信・引用 編集済

> No.546[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 方位には説明の根拠とするものがないのか。 >>>

ちょっとこれは作業仮説の初期段階ですが、先の奈良の弥生遺跡を結んだ方位区画に、下記 4 の図のように、漢魏洛陽城のそれを重ね合わせてみました。

もちろん、この図が東や南に反転する可能性があります。方位区画上の遺跡から出土する 遺物や道路の種別

等を区分できれば、下記のようになる可能性としてはありえなくはないか など感じ始めてます。

卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを
3D デジタイズが革新する 注文住宅を 1000 万円台で - www.suumocounter.jp <<来場者 3 万組突破>>
お金も土地も ダンドリも家づくりのプロに無料相談 3D CAD 連携/熱流体解析 - www.env-simulation.com

3D CAD データ連携により、迅速な解析 シミュレーションが可能です! ヨーロッパ鉄道地図 - www.RailEurope-Japan.com ヨーロッパに やすく 旅行を してください! 無料地図 - maps.inbox.com
地図・距離・道案内を入手する 無料地図ツールバーを使おう!

Ads by Google ----- Re:奈良・弥生遺跡ライン投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 6 月 6 日(水)22 時 49 分 25 秒 返信・引用

> No.544[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 方位には説明の根拠とするものがないのか。
>> この時代から、さらに方位区画に編角が出てきて、三輪、マキムク方面へと中心がシフトして
いくのは、弥生末期でしょう。

>>> ただ、今までの分析だと、四方区画の中心点よりは、むしろ交点のほうに重要拠点を配置する傾向が強い
ことがありますね。 >> おそらく、軍事拠点というのは、東西南北にいかにも正確に早く移動する、狼煙など
で情報伝達するという機能がありますから、必然的に交点のほうが重要度が高く効率的になるので しょう。
軍事測量拠点と思われる古墳は交点に多いです。 >> 逆にそこから外れた中心点などは、信仰拠点とか、他の
意味合いが出てくるかもしれません。その辺の分類も課題ですね。

----- 奈良・弥生方位区画の訂正投稿者:管理人
投稿日:2012 年 6 月 6 日(水)22 時 25 分 37 秒 返信・引用 編集済

ちょっと先ほどの奈良の弥生遺跡を結んだ方位区画の件ですが、奈良北部の遺跡もみまし て、西に 5 度角傾
けたほうが、整合性があることに気づきました。修正図を添付します。

やや東西に長い四方区画になりそうです。図 2 の 5 度偏角四方区画の南北を 2 分割したサイ ズでし
ょうか。

西に 5 度編角になると、弥生中期というよりは末期のラインになる可能性を感じます。 ちょうどマキムク遺
跡の西 5 度偏角と一致してくる時期でしょう。

それで、先の方方位区画の中心に国府や国分寺等の拠点を置いた件ですが、狼煙台となる古墳 は四方区画の四
隅に、また政庁や信仰拠点は、中心点にという具合でなされたかもしれませ ん。

後代の屯倉方位区画を見ると、たとえば奈良の場合は、倭屯田がでてきますが、盆地の中心 部にありますよね。
おそらく四方区画でも中線上に位置していた可能性があります。

四方区画の中心点に位置することのメリットは、四方区画の端にある古墳から狼煙などで 信号が上げられた
場合、東西南北と一度に 4 方向の情報を得ることができる点です。軍防的 には中心のほうがいいわけですね。

ただ交通か物資輸送という点では、四方区画の四隅に走る道路から、新たに中心にむけて道 を延ばさなければ
ならないので、ややデメリットになります。

こう考えると、同じ屯倉四方区画でも、港などについては、そのまま四隅のほうが交通の便が いいでしょうし、
逆に宮都・政庁などでは中心部に位置したほうが軍防上でもよいでしょう。

ただ四方区画の立地が平野なら、中心に拠点を置くことが可能ですが、山地だと限られてき ます。

ケースバイケースで種別していく必要がありそうです。 Re:奈良・弥生遺跡ライン投稿者:管理人 投稿日:2012
年 6 月 6 日(水)07 時 17 分 49 秒

返信・引用 編集済 > No.543[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 百舌(仁徳)、古市(応神)、耳成山は三角形を形成される。 >
- > この三角形は四方を2つ重ねで八角形の1角をなす。図 >
- > 邪馬台国は20年程度の国なので遺跡等の痕跡は確認できないと思う。 >
- > どうも、方位は断片が残せれる。耳成山の東側に古墳があれば八角形が成立する。 >

ちょっと、最近方位区画について考えはじめてから、三角形や八角形ラインの原型が、四方区画メッシュにあることが多く、その件をまず考慮するようになりました。

そこで今回も、先の図から発展させて、奈良の弥生遺跡を結んで方位区画メッシュを作成しなおしてみました。図1のとおりです。

こう見ると、奈良南部の弥生遺跡が、方位区画のライン上に並ぶことがわかります。

弥生中期の測量形式を元にはしていると思いますので、その方位区画に編角はないはずです。

条坊制みたいな道があって、その交点上に居住していたのかもしれませんが。

中国の条坊制の都城を想起しますが、ただ先に示した漢魏洛陽城などは5キロ四方区画ですから、サイズ的には2倍くらいはありますね。

でも、北九州~奈良の弥生中期の遺跡はかなり中国色が強いので、その辺の文化的影響があったらうと感じます。その中国都市における宮・城の位置や方角なども考慮しておきたいところです。

この時代から、さらに方位区画に編角が出てきて、三輪、マキムク方面へと中心がシフトしていくのは、弥生末期でしょう。

あと、先のとおりこの方位区画の中心点に位置した耳成山西部、畝傍駅前の春日神社付近ですが、どうも大和国分寺があったようです。奈良時代の総国分寺ではなくて、それ以前の国府・国造関連の古い中心拠点でしょう。

<http://www.7kamado.net/k7-yagti.html> <http://komatsu0513.heteml.jp/yamato.html>

おそらく400年ごろまで、5度角の方位区画に続く、(三角縁)0度角四方区画は維持されていたでしょうから、当然その四方区画の中心がどこにあったかも把握していただろうと感じます。そして400年以降の屯倉方位区画でも、その拠点としてしきりに国分寺がでてくるので、そのころの名残かもしれません。

ただ、今までの分析だと、四方区画の中心点よりは、むしろ交点のほうに重要拠点を配置する傾向が強いことがありますがね。

おそらく、軍事拠点というのは、東西南北にいかにも正確に早く移動する、狼煙などで情報伝達するという機能がありますから、必然的に交点のほうが重要度が高く効率的になるでしょう。軍事測量拠点と思われる古墳は交点に多いです。

逆にそこから外れた中心点などは、信仰拠点とか、他の意味合いが出てくるかもしれません。その辺の分類も課題ですね。

Ads by Google ----- Re:奈良・弥生遺跡ライン投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月5日(火)23時46分31秒 返信・引用

> No.542[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

百舌(仁徳)、古市(応神)、耳成山は三角形を形成される。

この三角形は四方を2つ重ねで八角形の1角をなす。図

邪馬台国は20年程度の国なので遺跡等の痕跡は確認できないと思う。

どうも、方位は断片が残せれる。耳成山の東側に古墳があれば八角形が成立する。

>>> 基点は三輪山でなく、耳成山になる。

良・弥生遺跡ライン投稿者:管理人 投稿日:2012年6月5日(火)22時58分50秒 返信 引用 編集済

> No.541[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 重大なミスをした模様です。
- > どうも、三輪山基準では、一部の古墳がこぼれる。 >
- > 前方後円墳は AD266 から、アマテラスは BC200 なので明らかに違う。
- > しかし、奈良意外はアマテラスの方位を使用していると思われる。

>> 基点は三輪山でなく、耳成山になる。

さっそくお返事ありがとうございます。 以前から耳成山周辺は重要ポイントではありましたが、四方区画の方位ラインが、耳成山を 掠めないで、なんとも言えない感じがしていました。

先の奈良の 0度角、5度角、10度角の四方区画の中心点を見ると、耳成山の南西、畝傍駅すぐ 北側あたりに来るもようです。図1、2(5度角方位区画)を参照。

それで周囲の弥生遺跡を調べてみました。図3参照。

<http://www.yayoi.sakuraweb.com/cyber-mizuho/iseki/nara03map.html>

http://www.city.kashihara.nara.jp/kankou/own_bunkazai/bunkazai/mukashi_iseki/yayoi.html

おそらく唐古・鍵遺跡から四分遺跡へ伸びる南北方位ライン、中曽司遺跡と坪井・大福遺跡 を結ぶ東西方位ライン、マキムク遺跡から、南西へ忌部山遺跡を経由して、鴨都波遺跡や秋津 遺跡へ伸びる斜めライン、同じく多遺跡から南東へ伸びる方位ラインの交点が、上記の3方位区画の中心点になるようです。

この中心点に「何か」があった可能性は高いと感じますね。今は春日神社がありますが、春日 神社は藤原時代まで継承された方位区画の拠点に多く見えます。

この畝傍駅、八木駅あたりの遺跡情報を集めてみたいところです。

Ads by Google ----- Re: 羅針盤と方位磁針 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年6月5日(火)20時00分50秒 返信 引用 編集済

> No.540[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

重大なミスをした模様です。 どうも、三輪山基準では、一部の古墳がこぼれる。

前方後円墳は AD266 から、アマテラスは BC200 なので明らかに違う。 しかし、奈良意外はアマテラスの方位を使用していると思われる。

基点は三輪山でなく、耳成山になる。

>> あと、ご紹介の五色塚古墳は、4末~5初のようなので、佐味田宝塚等と同時期とすると、(ほぼ垂直に) たった方位区画の時期で、応神・仁徳陵墓を結ぶ東西方位ラインが、編角なしなのと対応していた河内王朝の方位区画と対応することでしょう。 >> 見た感じ、秦野さんの引かれた五色塚の淡路方面への方位ラインは垂直に近いようですか、いい線いっているのかもしれませんが、その古墳軸の角度はちょっとつきすぎている感じがですね。別の方位ラインを意識している可能性を感じます。 >

----- Re: 羅針盤と方位磁針投稿者:管理人 投稿日:2012年6月5日(火)06時37分34秒 返信 引用 編集済

> No.539[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 注目は三輪山、応神、仁徳の古墳をカバー点と明石の五色塚 >> 12345 の編磁曲線から世代が推定される。
>

- > 4 仁徳、同年代は百舌、五色塚、古市古墳
- > 3 応神、同年代は古市古墳 >
- > 三輪山は秦野の調べではアマテラスの天の岩戸事件の場所です。 >

秦野さん、情報ありがとうございます。

河内の古市、百舌古墳群の件なのですが、以前の調べでは、古墳軸そのものは、方位区画とは別で、古墳単体で、その当時の編磁曲線にあわせて造営されてものと考えてました。図 1,2 を ご参照下さい。

要するにかなり河内の古墳群の各古墳については、それぞれで古墳軸に細かいズレがあり、そのズレごとに方位区画を造営しなおしたというよりは、河内の場合 400 年以降ですから、南北を正方位とした方位区画がひとつあって、それと独立して古墳軸の角度が決まったのではないか見てます。

ただ、箸墓の事例のように、三輪山から伸びる方位ラインに影響されて古墳軸がそろえられたように、他の方位ラインに影響されていた可能性を考慮してもよいかと感じます。

後代の高崎方面の古墳群等は、図 3 のように、方位区画メッシュよりも、古墳群同士を結ぶ方位ラインの方向に影響されて、古墳群内の各古墳の古墳軸が設定されていくようです。

ただもともとは、その古墳群内にある始祖的な古墳の古墳軸にあわせて設定されていたはずなので、その始祖的な古墳の古墳軸が、そこに引かれる方位ラインとともに、その地域の方 位区画に沿ってなされていたとするならば、秦野さんご指摘のような方位区画との関連で、古墳軸が設定された可能性もありえるかと考えます。

河内については、もう少し方位区画を洗い出してみる必要があるかもしれません。すでに河内王朝以前にも、古墳はあったでしょうし、その古墳は大和・柳本地域とともに、5

度角、10 度角の方位区画メッシュに沿っていたものと感じます。

あと、ご紹介の五色塚古墳は、4 末~5 初のようなのですから、佐味田宝塚等と同時期とすると、ほぼ垂直にたった方位区画の時期で、応神・仁徳陵墓を結ぶ東西方位ラインが、編角なしなの

と対応していた河内王朝の方位区画と対応することでしょう。

見た感じ、秦野さんの引かれた五色塚の淡路方面への方位ラインは垂直に近いようですが、いい線いっているのかもしれませんが、その古墳軸の角度はちょっとつきすぎている感じがですね。別の方位ラインを意識している可能性を感じます。

----- Re: 羅針盤と方位磁針投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2012 年 6 月 4 日(月) 20 時 05 分 7 秒 返信 引用 編集済

> No.538[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

注目は三輪山、応神、仁徳の古墳をカバー点と明石の五色塚

12345 の編磁曲線から世代が推定される。

4 仁徳、同年代は百舌、五色塚、古市古墳

3 応神、同年代は古市古墳

三輪山は秦野の調べではアマテラスの天の岩戸事件の場所です。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_02.html

> 秦野さんご指摘の 10 度ではなかったのですが、三輪山に注目している件はいい線ついて いると思います。
>> 編磁曲線で 5 度になる時代は、先のとおり東偏角なら AD 170 年前後、もしくは西偏角で AD 110 年？前後ではないかと感じます。

>> 確かに秦野さんの図のように、その東西偏角をワンセットで考えていくと、そこからまた何か出てくるかもしれませんね。

>> ともあれ、今のところこの辺の方位区画と偏角に関する理解者が、我々 2 人+キシさんだけでは、どうにも学会での理解は及ばないでしょう。そろそろ研究会報を 6 月末をメドに仕 上げねばなりません、理解者が増えることを願いたいところですね。

Re:羅針盤と方位磁針投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 4 日(月)07 時 50 分 26 秒 返 信・引用 編集済

> No.537[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > やっと、方位ラインの尻尾をつかみました。
- > 編磁曲線が説明できるかが問題です。 >
- > 方位ライン
- > 基点は三輪山
- > 角度は約 10 度
- > 距離は 350 里、700 里、4000 里位になる。 >
- > 管理人さんの方位ラインど妥当性を確認お願いします。 >

秦野さん、情報ありがとうございます。 三輪山については、方位ライン面でも注目している方がいますね。

有名なのは会報でも紹介した、小川氏などが指摘する西殿塚→桜井茶臼山の 5 度角ライン上に、三輪関係の神社が載る件です。その 2 古墳と箸墓との距離が等しい(中点)件は、会報で 私のほうでも指摘しました。

それで、三輪山とマキムク遺跡についてですが、いわゆる「山立て」という形で狩谷氏あたり が注目しているようですね。

図にしてみました。先日の 5 度角四方区画の中にすべてのマキムク遺跡や古墳が納まること、三輪山と関係して造営されていることから理解できると思います。

勝山、矢塚?、箸墓、ホケノの古墳軸や、マキムク遺跡が西に 5 度傾いている件も、5 度角の方位区画に組みこまれていたことが明らかになります。

(ただ矢塚、ホケノの古墳軸は 10 度角の時代かもしれませんね。石塚の古墳軸の角度は、桜井茶臼山→居城の 18 度角と関係しているように見えます。角度差やその構築順序から造営された時代が推定できるでしょう。)

箸墓の位置は、西殿塚と桜井茶臼山の方位区画の中間ライン上に作成されたことがわかります。確かホケノ山もそのライン上に作成されているはずです。

また箸墓は桜井茶臼山から居城(推定)跡とのライン上に置かれたことがわかります。

勝山・矢塚古墳も、三輪山や居城を目印に、おそらくはその宮都の「道」に沿って造営された のでしょう。

この居城が、三輪山を意識していたことは、桜井→居城ラインの編角と、三輪山→西殿塚の偏角が、18 度で同じこと(平行線)であることから理解できます。

秦野さんご指摘の 10 度ではなかったのですが、三輪山に注目している件はいい線ついてい ると思います。

編磁曲線で 5 度になる時代は、先のとおり東偏角なら AD 170 年前後、もしくは西偏角で A D 1 1 0 年?前後ではないかと感じます。

確かに秦野さんの図のように、その東西偏角をワンセットで考えていくと、そこからまた何か 出てくるかもしれませんね。

ともあれ、今のところこの辺の方位区画と偏角に関する理解者が、我々 2 人+キシさんだけ では、どうにも学会での理解は及ばないでしょう。そろそろ研究会報を 6 月末をメドに仕上げねばなりません、理解者が増えることを願いたいところですね。

Ads by Google ----- Re: 羅針盤と方位磁針 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 6 月 3 日(日)20 時 28 分 18 秒 返信引用 編集済

> No.536[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

やっと、方位ラインの尻尾をつかみました。 編磁曲線が説明できるかが問題です。

方位ライン 基点は三輪山 角度は約 10 度 距離は 350 里、700 里、4000 里位になる。

管理人さんの方位ラインど妥当性を確認お願いします。

羅針盤と方位磁針 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 3 日(日)05 時 20 分 32 秒 通報 返信引用 編集済

先の方位区画の件で、その編角がその当時の磁気偏角と、東西逆になるケースがある件について、考察してみました。

どうも方位磁針の中でも、船で使う羅針盤は、その東西が逆になっているようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B9%E4%BD%8D%E7%A3%81%E9%87%9D#.E6.AD.B4.E5.8F.B2>

なぜそうなるかという、船の場合は、特定の進行すべき方角を示す必要がある、東西を 逆にする必要があります。

つまり、0-440 年までの方位区画が、当時の磁気偏角に対して東西逆になっている理由は、 船の羅針盤をそのまま宮都・方位区画測量に適用したためかもしれません。宮都=鳥船と いう観念があったのではないのでしょうか。

そして、宮を建て替えて測量する度に、指南魚をつかって、次に進むべき方角を占ったという 感じです。

その際に前王朝の遺跡の軸となった方位を元にして、指南魚の向きを考慮したのか、あるいは北極星などで真北を基礎にして、その編角を決めたかも課題です。

なお、当時の指南魚(磁気コンパス)は、以前お知らせしたように、分度器・尺を決める測量 道具である三角縁神獣鏡の背面に水を溜めて、その上に磁気針を加えた竹製の魚を浮かべる ことで、方位磁針の役割を果たしたもののと思われます。図 1 参照。

そして、仮に羅針盤のように方位測量したケースでは、前提となる基礎角(真北など)と、指 南魚(方位磁針が指す向き)を記録して、そのズレ分をそのまま東西逆に移動させることで、 最終的な方位が出てきます。

たとえば、三角縁神獣鏡を使った場合は、図 1 のように 2 つの方角を決めて、その後、その鏡 ごと反時計回りに差分角をズラせば、簡単に最終的に求めたい方位を得ることができます。

あと、三角縁神獣鏡以前の鏡、つまり背面に水を溜めることのできない鏡(分度器・定規)をつかって、方位磁針・羅針盤を作成するには、別の方法を用いる必要がありました。

その方法ですが、以前お話ししたとおり、山幸神話から類推することができます。図 2 参照。 まず大地の上に、鏡をおきます。 次にその鏡の上に、底の抜けた筒型埴輪をかぶせます。 そして、その筒型埴輪の中に水を注ぎ、その上に先の指南魚を浮かべる方法です。

そうすると、指南魚の姿が、底の鏡に映し出されるので、その指南魚が指し示す方角を、鏡の 表面、もしくは背面にある鋸歯紋(分度器)等に記すことで、その後、筒型埴輪をはずして、 先の印を元にラインを決めることができます。

この件は、筒型容器の底が抜けて土管状であり、その底部の直径に当時の三角縁等の鏡の直 径に近いものがあること(20~40 センチ等)、そして山幸神話から証明できます。

以前ご紹介したように、山幸神話では、魚に変身した山幸の姿を、水に映し出した井戸(壺・ 碗)がありました。そして、その姿は(左右・上下も?)逆になっていましたね。また井戸 (壺)には、なぜか水がたまらないと記されています。

要するに井戸とか壺というのが、鏡を底部にはめた筒型容器のことで、山幸=魚というのが、 その上に浮かべた指南魚のことだったのでしょうか。鏡に映る姿は、みな普通は左右逆なはず です。(背面の凹面鏡をつかった場合は上下左右逆)

そして筒型容器と鏡の間に隙間があるので、水がたまらず抜けていき、また山幸の姿は左右 逆に映し出されたと考えます。

山幸神話が軍事測量と葬送儀礼をあらわした神話であることは、以前紹介したとおりです が、古墳や宮都の建築にかかわった氏族(山幸等を祖とするホノアカリ系の土師氏)などが その伝承を後代まで携えていたので、記紀に記載されていたのでしょう。

そして羅針盤方式で測量した宮遺跡や方位区画のケースでは、磁気偏角が左右逆になり、通 常の方位磁針方式で測量したケースでは、古墳軸のケースのように、磁気偏角にそって東西 に傾くことになったのでしょう。

このような測量道具と手段の相違が、編磁曲線との相違にかかわってくる件も、考慮しながら分析を進めていきたいところです。

偏磁気角と方位区画投稿者:管理人 投稿日:2012 年 6 月 1 日(金)06 時 09 分 57 秒 返信・ 引用 編集済

ちょっと編磁気曲線について、調べなおしていて、気になる注意点がいくらかありました ので、先に報告しておきます。

まず、0 年~400 年までの偏角(0 度~15 度)までについては、古墳や宮都、方位区画を 測量する際に、東西を逆にしているケースが多いことです。

また、それらの年代においては、2 回ずつ同じ編角になる時期があります。 詳細は下図 1 を参照ください。

★0 年-400 年までの間

●0 度角(マキムク型古墳(-1 度角)方位区画、三角縁 0 度角方位区画:佐味田宝塚古墳、 伊勢内宮等) 140 年、440 年

●5 度角(三角縁 5 度角方位区画(図 2);欠史 8 代陵墓、西殿塚、黒塚等、マキムク遺跡、 出雲大社→鹿島神宮) 170 年、400 年

●10 度角(三角縁 10 度角方位区画:椿井大塚山、桜井茶臼山、諏訪前宮、秋津遺跡(図 3)等) 220 年、370 年

●15 度角(画紋帯・呉年号銘方位区画) 270 年

次にその後の年代の方位区画ですが、こちらは古墳や都、方位区画を測量する際に、先のように東西を逆にするケースは少ないようです。

★400 年~700 年まで(関連遺跡)

●0 度角 440 年

●5 度角 470 年

●10 度角(藤原京、多武峰、文武陵、春日神社等の遺跡・図 2 の 10 度角方位区画を参照) 500 年、700 年

●15 度~20 度角(斑鳩宮)

550 – 650 年

あと、前期古墳の古墳軸は、割かし図 1 のように磁気偏角にあわせたものが多いですが、後期 古墳になると、古墳群ごとに、そこに引かれる方位ラインの関係で、複雑な方位を示し始める ことになります。

図 1 の円で囲んだ部分の軸の動きに注目してください。徐々に年代とともに、編角を傾けて いく様子がわかります。

上記のような感じですが、年代的に合うところと、大幅にずれる部分とがあり、その辺の是非 が課題でしょう。

ともあれこのように、同じ偏角を持つ方位ライン、方位区画でも、数回重なる時期があること を留意しながら、解析を進めていきたいところです。

Ads by Google ----- 古田武彦氏講演会の訂正投稿者:ブジョー 106 投稿日:2012 年 5 月 31 日(木)23 時 04 分 10 秒 返信・引用

古田武彦氏の講演会の時間が間違っていましたので、お詫びして訂正します。

■愛知サマーセミナー 2015■ 日時 : 2012 年 7 月 15 日(日)13 時 10 分~16 時 10 分 場所 : 愛知東邦大学・東邦高校

http://www.geocities.co.jp/furutashigaku_tokai/index.htm

----- Re: 画紋帯・半円方形帯神獣鏡方位区画
投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 31 日(木)22 時 58 分 5 秒 返信・引用編集済

> No.531[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 屯倉の変化 >
- > 応神天皇から天智天皇までに諸国=入部、で 524-500=24 増加している。
- > 屯倉では 24/3=7 は増加している。これが、方位ラインに変化を与えたのでは。
- > 370 年の変化になる。 >

方位区画の件ですが、先の画紋帯・呉年号銘鏡神獣鏡の方位区画に修正(黄色・水色線)を加えました。
下図参照。 15 度編角になる模様です。

編角については、2 種類あり、方位磁針を利用した際は、長短あわせて「すべてのライン」が 5 度、10 度と傾きがでます。逆に 0 度というラインがでてこないんです。

ところが、今回の場合は、東西方位ラインのように 0 度角のラインがあり、幾何学的な要素に よって、最終的に軸を 15 度傾けた四方区画となっています。

魏・三角縁神獣鏡の方位ラインは前者で、呉・画紋帯神獣鏡の屯倉方位ラインは後者になります。

拠点が増えても同じことで、その拠点は、角っこがなくなれば、次はラインの上に追加されて いきます。傾き等は変化しません。

> 庄内式土器はまるで卵ですな、アマテラスは鳥が好きで雉、百舌、鳶(外山)、鳩、白鳥、烏(鴉) が神話に出てくる。… >>

>

庄内式土器は、先のサイトによると、九州から畿内に流れたほうが自然との見解ですね。 鹿児島に庄内式土器が出ている時点で、その可能性を感じます。

方位区画の最西端の軍屯拠点をまず鹿児島と佐賀を結ぶ南北方位ライン上に作成したので しょう。

その際に、土器が出てくるということは、屯倉のごとく、古墳だけではなく人を移住させたん ですね。田も耕したでしょうし、鵜飼や犬飼もいたかもしれません。軍屯村ができた可能性 を感じます。その伝統が、後代の屯倉のシステムにも影響を及ぼしていったことでしょう。

トリといえば葛城のカモ、ヤタガラスのネットワークも気になる場所ですね。

----- Re: 画紋帯・半円方形帯神獣鏡方位区画
投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 31 日 (木)22 時 20 分 22 秒 返信・引用

> No.530[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 屯倉の変化

応神天皇から天智天皇までに諸国=入部、で 524-500=24 増加している。 屯倉では 24/3=7 は増加している。これが、方位ラインに変化を与えたのでは。 370 年の変化になる。

応神天皇(310 年 3 月 31 日) 薪として塩を焼かせた。五百籠の塩が得られた。それをあまねく諸国に施された。そして船を 造ることになり、諸国から五百の船が献上された。 諸国:500

天智天皇(672 年 1 月 7 日)「及び其の屯倉、猶古代(むかし)の如くにして、置かむや不や」とのたまふ。臣、即ち恭(つつし)

みて詔する所を承りて、奉答(こたへ)而曰(まう)さく ... 故、入部五百二十四口・屯倉一百八

十一所を獻る』とまうす」とのたまふ」屯倉の数については、天智のところで、181 という数値 が出てきてます。入部:524

庄内式土器はまるで卵ですな、アマテラスは鳥が好きで雉、百舌、鳶(外山)、鳩、白鳥、烏(鴉)が 神話に出てくる。..

>> あと、古墳を管理したのは、後代は陵戸ですね。陵戸は賤民扱いされていきます。この辺は、 秦野さん注目の同和地区と関係してくるのでは? > <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA>

%94%E8%89%B2%E3%81%AE%E8%B3%A4 > 画紋帯・半円方形帯神獣鏡方位区画投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 31 日(木)08 時 30 分 12 秒 返信・引用編集済

呉からの影響を再度考えるために、画紋帯神獣鏡の方位区画を作成しました。

参考にした鏡は下記のサイトにあります。 三角縁神獣鏡と画紋帯神獣鏡の関係、先に触れた庄内式土器の移動について興味深い見解を 述べてます。 <http://yamatai.cside.com/katudou/kiroku238.htm>

(1) 画文帯神獣鏡 奈良県天理市柳本天神山古墳 0.8579 2.1293 (2) 画文帯神獣鏡 奈良県天理市柳本天神山古墳 0.8599 2.1266 (3) 画文帯神獣鏡 奈良県天理市柳本天神山古墳 0.8612 2.1256 (4) 画文帯神獣鏡 奈良県天理市柳本天神山古墳 0.8439 2.0993 (5) 画文帯対置式神獣鏡 京都府相楽郡山城町椿井大塚山古墳 0.8221 2.0658 (6) 画文帯環状乳神獣鏡 広島県佐東町宇那木山 2 号墳 0.8527 2.1113 (7) 画文帯環状乳神獣鏡 福岡県朝倉郡朝倉町大字山田字外之隈 1 号石棺 0.8437 2.0950 (8) 画文帯環状乳神獣鏡 熊本県一の宮町迎平 6 号墳 0.8511 2.1065

(9) 画文帯環状乳神獣鏡 熊本県不知火町国越古墳 0.8518 2.1091

それで上記の出土古墳を結んだラインが図 1 です。 垂直を交えた法則性のあるラインを構成しており、岡山の楯築墳丘墓から伸びるラインに、

並行・垂直の関係が見出せます。35 度・55 度角のラインです。

このラインに、先日紹介した呉年号銘を持つ半円方形帯神獣鏡の方位区画を重ねてみると、 さらに判りやすくなります。図 2 です。西都原古墳、糸島の平原古墳もライン上に出てくるよ うです。

図 2 の青いラインと赤いラインの長さに注目すると、これらの四方区画の構造がわかります 35 度と 55 度、90 度の直角三角形を使う、同じ測量方式をこれらの呉から神獣鏡を分配 された氏族は行ったゆえに、こういう

結果になっているようです。

35度というのは、いわゆる緯度のことで、おそらくは棒の影から距離を出す周碑算径を使った測量法ではなかったかと感じます。鏡で角度と尺を算出した。

呉から贈られた件については、下記のサイトに、呉年号銘と同じ古墳から、呉の胎土と同じ陶磁片が見つまっていることから判ります。 <http://sky.geocities.jp/sabutyan66/page003.html>

これに対して、魏の三角縁神獣鏡を使って測量したグループは、5度角、10度角と、偏磁曲線に影響された測量をするので、まったく異なる方位区画になります。図3参照。そして呉の長方形区画に対して、正方形の区画ですね。

これらの方位区画の差は、おそらくは鏡という測量道具と、その用い方の相違によって、必然的に2種、3種の方位区画ができてきたものと感じます。

そして鏡が測量道具だったことを間接的に証明してくれます。

ただ時期的にも、領域的にも、上記の魏系・呉系の測量方法が重なっている件について、どう考えるべきかがひとつの課題です。

特に楯築墳丘墓は、先のマキムク式前方後円墳のラインでも活用されてます。椿井大塚山の例のように、三角縁と画紋帯を両方出すケースもありますね。

全体的には、今回の画紋帯・呉年号銘方位区画は、九州・瀬戸内と南に偏っているように見えますし、逆に魏年号銘三角縁のラインは、北に偏っているのですが、どっちつかずの領域もあったのかもしれませんが。

ルートのには半島経由と、琉球経由で2種類あったでしょうから、分布に偏りがあってもおかしくはないでしょう。

後代の技術職人の系譜に、その2種の系統が見えるかもしれません。

古墳を造ったのは、土師氏等ですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%9F%E5%B8%AB%E6%B0%8F>

天穂日命の末裔。魏と方位磁針にかかわる山幸神話を持っていた可能性があります。野見宿禰と埴輪の関係。埴輪は出雲・吉備系でしょうか。

野見宿禰のライバルは、葛城の当麻氏。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BD%93%E9%BA%BB%E8%B9%B4%E9%80%9F>

もしこの氏族が、呉系の古墳造営・軍事測量技術を持っていたことがわかってくると面白いですね。それまでの殉死の風習はヒミコの墓のそれとも関係してきます。

葛城氏については、銅関連、剣の名前も見えますね。銅鏡・剣も造っていたのでは？

<http://kamnavi.jp/mn/katuragi.htm>

また、手足が長い土蜘蛛の表現は、南方・琉球人系の特徴を想起させます。おそらく魏の支援を受けて奈良に入り込んだニギハヤヒ・天孫集団と戦った相手でしょう。河内経由で、瀬戸内・四国・九州南部と連携していたかもしれません。

あと、古墳を管理したのは、後代は陵戸ですね。陵戸は賤民扱いされていきます。この辺は、秦野さん注目の同和地区と関係してくるのでは？ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E8%89%B2%E3%81%AE%E8%B3%A4>

施設の駐車場監視の決定版 - www.bouhancamera-navi.com 犯罪を99%未然に防ぐ! TVマスコミで大絶賛
09年度12回放映 大面積ナノパターン検査装置 - www.scivax.com/ マクロ光学系で金型及び転写フィルム等の欠陥や不均一性を短時間で検査します。新築のことなら《クラソア》 - clasoa.jp

アットホームの新築住まいさがしサイト 《クラソア》がオープン! 3D スキャナー ATOS - www.marubeni-sys.com 非接触で高精度・高速 3次元計測 3次元計測は丸紅情報システムズ 生駒市の新築一戸建情報 - www.mito-juken.co.jp 買い物施設や学校が徒歩圏に揃う! ソレイユ東生駒 翠光台

Ads by Google ----- 古田武彦講演会のお知らせ
投稿者: プジョー 106 投稿日: 2012 年 5 月 31 日(木) 03 時 07 分 59 秒 返信・引用

ついに名古屋で古田武彦講演会が開催されます。名古屋ではこれが最後の講演会になると思います。ぜひ参加してください。日時: 2012 年 7 月 15 日(日) 13 時 10 分~14 時 30 分 場所: 愛知東邦大学・東邦高校
http://www.geocities.co.jp/furutashigaku_tokai/index.htm

Re: 纏向型前方後円墳方位区画投稿者: 管理人 投稿日: 2012 年 5 月 31 日(木) 00 時 28 分 38 秒 返信・引用
編集済

> No.527[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> アマテラス、天孫、国津神これが古代史の最重要項目になるので。 >> その後、大物主の子である比売多多良伊須気余理比売(ヒメタタライスケヨリヒメ)を皇 后とし、日子八井命(ヒコヤイ)、神八井耳命(カムヤイミミ)、神沼河耳命(カムヌナカワ ミミ、後の綏靖天皇)の三柱の子を生んだ。大物主の子: 国津神 >>> 卑弥呼は開花天皇の孫。公孫氏に押され、韓半島から奈良に待避: 卑弥呼は国津神。 >

ちょっと国津神について考えめぐらしてます。

先の纏向型前方後円墳の方位区画の分析を進めてますが、吉備方面の纏向型前方後円墳の拠 点に、(総社市)三輪、山戸(4号墳)の名称が見えます。

吉備の纏向型前方後円墳については、図 1 のように、中山茶臼山古墳、タテツキ墳丘墓、宮山 展望古墳が、東西方位ライン上に載ります。

それで、奈良方面に視点を移すと、纏向型前方後円墳のある地域から、北にラインを伸ばして いくと、大和神社を経由します。この南北ラインと、先のタテツキから伸びる東西ラインとの 交点を A とします。

タテツキ O 点から、この A 点までが 183 キロ。

また、同様に四国・鳴門の萩原 4 号墳から北へ伸ばした南北ラインと、先のタテツキから伸 びる東西ラインとの 億点を B とすると、タテツキ O 点から B 点までが 62 キロです。

つまり、先の O から A 点までの距離の三分の 1 が B 点となります。 そこで三分割の方位区画が予想されます。

また先の A 点から、静岡の新豊院山 2 号墳を通る南北ラインとの交点までがやはり 181 キ ロです。

その新豊院山 2 号墳自体は、A 点より北に位置する椿井大塚山古墳と東西方位ラインで結ば れており、年代も布留 0 式にあたり、纏向型前方後円墳でも新しい部類、おそらく 240 年直 前ごろの拠点でしょう。

ともあれ、62 キロ前後の方位区画メッシュが予想されるわけです。

それで、さらに九州方面に視点を移すと、図 2 のような方位ラインがでてきます。 糸島の稲葉古墳と、那珂八幡古墳が東西方位ライン上にあります。

また端陵古墳(鹿児島県薩摩川内市)と、杵島山古墳(佐賀県武雄市)が南北方位ライン で結ばれます。後者は庄内式ですから、纏向型前方後円墳の方位区画拠点の中でも、かなり古 い年代のものと思われます。まず最初にきめた最西端のラインです。

あと、下原古墳(大分県国東市)と、双水柴山 2 号墳(佐賀県唐津市)も東西ラインのよう ですが、ややズレがあり、時代も布留 0 式で、最後のほうにできた拠点でしょう。

ただ、この東西ラインと、先の端陵古墳→杵島山古墳の南北ラインとの交点から、その杵島 山古墳までの距離が 158 KM で、弥生中期の九州方位区画にでた距離と同じ、前漢尺に なります。

弥生中期の測量拠点を再利用した可能性があります。

そうすると、170 年ごろに、この纏向型前方後円墳を作成しはじめたころには、九州と吉備(四国)、畿内の 3 拠点を中心に測量しはじめたであろうことが予想されます。

三輪・大物主の開拓世界。国津神ですが、しかし後にやってくる半島系集団と同じ祖先を持つ遊牧民系(クルガン墓)を持つタイプの集団です。これを第 2 陣とします。

第 1 陣は弥生中期に半島から渡来して九州各地に吉野ヶ里のような拠点をつくって測量していった集団。

その後、魏の支援を受けて本陣第 3 弾のニギハヤヒ・ニニギが、240 年ごろにやってきたのでしょう。

奈良に進出したニギハヤヒは、ホノアカリのことで、日向に進出したニニギと兄弟ですね。ホノアカリは、おそらく先のとおり、磁気コンパスをもって船でやってきた山幸彦神話に関する集団でしょう。

彼らは日向で、コノハナサクヤやイワナガヒメといった女王集団とニニギは接点を持ちます。

一方でニギハヤヒは、奈良の大物主と接点を持つ。両方ともシオツチオジが関係してますね。三輪神道。

彼らは 240 年~70 年ごろにかけて、魏の年号銘鏡を持ち込んで、10 度編角の方位区画を作成していったのでしょう。これが第 4 陣で、物部神道。諏訪・磐舟神社。

そしてその軍事測量が終わったところを見計らって、第 5 陣の天孫がやってきます。5 度編角のラインをもって、軍事測量しなおしていく。タケミカヅチ、出雲、元伊勢・籠神社、鹿島神道。270 年~330 年ごろにかけて測量を終えます。天孫降臨。

さらにその後、第 6 陣がやってきて、0 度角の測量を開始します。これが伊勢内宮へ進出する伊勢神道。

330 年~400 年の間に、全国を軍事測量。アマテラス。日神・月神。

秦野さんのおっしゃるとおり、ヒミコは、170 年代の第 2 陣で渡来した国津神(大物主)系だったかもしれません。後の天孫・アマテラス系と区別すべきですね。

そして、最後に 400~やってきて屯倉拠点をづくり測量していったのが第 7 陣の秦氏集団でしょう。彼らも元をたどれば、同族ですね。ただし、第 8 陣の継体・新漢人系はまったく別です。

そうすると、7 回くらいにわけて、半島から同じ祖先を持つ集団が渡来してきて、その回数ごとに軍事測量をしなおしていったという歴史が浮かびあがってきます。さらに南方からも呉に支援された集団もやってきた。

そのうちのひとつの流れに属していたのが、いわゆるヒミコなんですね。方位区画の種類をもっと厳密に区別していければ、年代と種類、まだ見つかってない古墳や遺跡などもいろいろわかってくるでしょう。

Ads by Google ----- Re: 纏向型前方後円墳方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 30 日(水)09 時 21 分 23 秒 返信・引用 編集済

> No.526[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 >神話にでてくるような、ボンヤリとした人たちじゃないんですね。

どうも、古代史家は難物ですな。一方でボンヤリとし、中国史籍も疑い。教育では空想をのべる。難物です。魏志倭人伝の文章も誤訳し、距離は測ればいいのに文献から… 秦野の古代遺跡と同和地区の関係も黙殺ですか。天皇がユーラシア帝国の末裔は論外でしょう。

アマテラス、天孫、国津神これが古代史の最重要項目になるので。

古事記は徐福が佐賀に上陸、宮崎・国生みは航海ルートと船団の顛末記になる。

アマテラスにより各国への光通信網が成立する。(これは製鉄技術の応用で当時は夜会議を行っていた。日本に寄合いの語源は夜会うと思われる。)

倭王は天を以て兄となし、日を以て弟となす、天が未だ明けない時、出でて聴政し、結跏趺坐(けっかふざ=座禅に於ける坐相)し、日が昇れば、すなわち政務を停め、我が弟に委ねるという。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

天孫で韓半島南部の筑紫に上陸している。 神武東征で韓半島北部の大和州に移って統治する。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

その後、大物主の子である比売多多良伊須気余理比売(ヒメタタライスケヨリヒメ)を皇后 とし、日子八井命(ヒコヤイ)、神八井耳命(カムヤイミミ)、神沼河耳命(カムヌナカワミ ミ、後の綏靖天皇)の三柱の子を生んだ。大物主の子:国津神

その後匈奴に亡命する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E6%9D%B1%E5%BE%81>

韓半島を通じ物資とも交流が盛んになっていた模様。国津神系が各国を治める。

卑弥呼は開花天皇の孫。公孫氏に押され、韓半島から奈良に待避:卑弥呼は国津神。

三韓征伐で韓半島に帰国、菟輿:神功皇后、開花天皇の曾孫 (魏、匈奴の力で韓半島に帰国、三韓征伐となっている。) 古墳: 国津神のシンボル、三角縁神獣鏡、勾玉、剣を埋葬する。 子持ち勾玉は勢力範囲を表わす。

白村江以後、韓半島を撤退。国津神の力が衰える。

国津神系の統治地区が同和地区を形成したのではないか。古代史は同和の歴史になる。

同和地区に存在する。どう考えますか。

1.吉野ヶ里遺跡も同和地区になっている。 2.大和三山も同和地区になっている。 天香久、山畝傍、山耳成山
3. 仁徳御陵(にんとくごりょう) 4.伊勢神宮

5.各地の古墳、遺跡 古墳、遺跡から公家・僧侶・神主・検校・役者、穢多、非人などは嘗ての支配層の模様。

このサイトをマークしていれば、参加して下さい。直接、聞けば誤解が無くなりますよ。

> というのも、軍事測量の是非すら、日本の古代史家は思いつきもしないからなんです。彼ら は先読みして、かなり戦略的に動いてます。神話にでてくるような、ボンヤリとした人たちじ ゃないんですね。裏でしっかり記録を残しながら、表向きでは民衆を緩和するようなたとえ 話を用いているはずです。

>> その辺は、今後の屯倉・渡来系技術集団の研究でも出てくると感じます。

纏向型前方後円墳方位区画投稿者:管理人 投稿日:2012年5月30日(水)06時51分33秒 返信・引用 編集
済

> No.525[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 秦野はさざれ石にこだわっています。方位ラインは何かを基準に造られたのは間違いない。 > 方位ラインはアマテラスの狼煙、光通信網に沿って方位ラインが引かれたと考える。 >> 穀物ぐらが屯倉となり、古墳は三角縁神獣鏡(卑弥呼(開花天皇の孫))、勾玉、剣をシン ボルにした。これが国津神で同和地区に成ったのではないか。国津神地区が同和地区になる。 >

そうですね。アマテラス、天孫、国津神といった記紀伝承・神話と、方位区画の関連付けを最 後にしておきたいところです。

先の魏年号銘鏡出土古墳を結ぶ10度偏角のライン拠点に、宇佐や、物部氏の本拠、磐船神社 や、諏訪前宮が出てきたことは、ニギハヤヒ、タケミナカタの世界と関係してきます。

240~60年代に、ニギハヤヒのごとく宇佐経由で、奈良に軍事進出した勢力がいたので しょう。そして10度偏角の軍事測量を全国にしていたわけです。

その後、プサンから、5度偏角の測量をする集団が270年ごろにやってきます。 10度偏角のニギハヤヒと同族なのですが、時代が下って偏磁曲線の角度が変化したので、 5度偏角で全国を測量しなおしたようです。いわゆる天孫、タケミカツチですね。

彼らは出雲から籠、鹿島にいたるまで、神社信仰の拠点も作っていったのでしょう。

元は秦韓・楽浪(帯方)人で、さらに元は山東半島と百済地域を行き来した商人・遊牧民系 集団の末裔ですね。

高間ヶ原はそうすると、秦野さんのおっしゃるように半島にあった可能性もありますが、ただ、また九州かもしれない。

そして、最後に330年~400年の間で、0度角の方位区画を全国に作成していくわけですが、偏磁気曲線のラインがただしければ、450年くらいまでいかないと0度にならない んですね。ちょっと編年との関係が気になってます。

しかしながら、それでは240年以前のプレ三角縁時代はどうだったのか？ そこも課題です。

170年ごろには纏向型前方後円墳という、プレ前方後円墳がすでにあって、中には三角縁 を出土するものまであります。

そこで、纏向型前方後円墳の方位区画を推定してみました。図1が、それらの古墳を結んだライン、図2がそこから推定した方位区画です。

纏向型前方後円墳の拠点はこちらのウィキサイトを参照しました。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BA%92%E5%90%91%E5%9E%8B%E5%89%8D%E6%96%B9%E5%BE%8C%E5%86%86%E5%A2%B3>

時期 墳墓名 所在地 旧国 墳丘長 (m) 纏向諸古墳に 対する規模 墳墓群 主な出土遺物 (参考)

※双方中円墳 楯築弥生墳丘墓 岡山県倉敷市 備中 72 - 水銀朱、ヒスイの勾玉、鉄剣、 ガラス製小玉、管玉 庄内式 (3C 中葉以前) 纏向石塚古墳 奈良県桜井市 大和 96 - 纏向古墳群 弧文円板、 朱塗鶏形木製品

庄内式 纏向矢塚古墳 奈良県桜井市 大和 96 - 纏向古墳群 庄内式 纏向勝山古墳 奈良県桜井市 大和 110 - 纏向古墳群 木製の刀剣把手、団扇 庄内式 東田大塚古墳 奈良県桜井市 大和 (96→110) - 纏向古墳群 庄内式 ホケノ山古墳 奈良県桜井市 大和 80 - 纏向古墳群 銅鏃 60、鉄鏃 60、素環頭大刀、 刀剣類、画文帯神獣鏡 3 庄内式 神門 4号墳 千葉県市原市 上総 49 1/2 庄内式 宮山 岡山県総社市 備中 38 1/3 剣、刀、有稜鏃

庄内式山戸4号墳兵庫県姫路市播磨 1/4 庄内式 萩原 1号墳 徳島県鳴門市 阿波 27 1/4 萩原墳墓群 画文帯神獣鏡 庄内式 柁島山(かばしまやま) 佐賀県武雄市 肥前 1/4 内行花文明光鏡、素環頭刀子、 勾玉、管玉 布留0式 (3C 後~4C 初) 石名塚古墳 奈良県天理市 大和 111 × 1.2 柳本古墳群 布留 0式 中山茶臼山古墳 岡山県岡山市 備前 120 × 1.2 布留 0式 原口古墳 福岡県筑紫野市 筑前 80 1/1 三角縁神獣鏡、直刀、鉄斧、 管玉・丸玉 布留 0式 那珂八幡古墳 福岡市博多区 筑前 75 3/4 三角縁神獣鏡、勾玉、管玉、 ガラス製小玉 布留0式浅間山 毛野 2/3 布留 0式 端陵(はしのりょう) 鹿児島県薩摩川内市 薩摩 54 2/3 布留0式臼ヶ森福岡県会津坂下町陸奥 1/2 布留 0式 稲葉 福岡県糸島市 筑前 1/2 稲葉古墳群 布留0式小田部(おだっぺ)千葉県市原市上総円部 221/3 管玉3、ガラス玉300 布留 0式 新豊院山 2号(しんぼういんやま) 静岡県磐田市 遠江 34 1/3 新豊院山古墳群 三角縁神獣鏡 布留0式分校マエ山(ぶんぎょうまえやま)石川県加賀市加賀 1/3 布留 0式 矢藤治山(やとうじやま) 岡山県岡山市 備前 35.5 1/3 方格規矩鏡 1、勾玉 1、 ガラス小玉 50、鉄斧 布留 0式 名島古墳 福岡市東区 筑前 30 1/3 三角縁神獣鏡 布留 0式 双水柴山(そうずいしばやま)2号 佐賀県唐津市 肥前 34.7 1/3 布留0式下屋敷1号宮崎県新富町日向 1/3 下屋敷古墳群 布留0式大久保1号愛媛県西条市伊予 1/4 布留 0式 下原(しもばる) 大分県国東市 豊後 25 1/4

> 管理人さんの方位ラインと一致すると言ってよい。 >> 尚、方位ラインの古墳の空白地域、未確認は同和地区で置き換える。

奇しくも秦野さんが初期前方後円墳の分布ラインとやや共通性があります。

まず彼らは鹿児島から糸島に向けて、最西端の南北ラインを測ってます。

その後、九州の那珂八幡・板付あたりを基点に、東西・南北へと纏向型前方後円墳を造営。

そして、岡山の吉備津神社周辺地域から、東の奈良桜井・マキムク方面へとラインを伸ばしたのでしょう。

さらに、福井と前橋に東西ラインを引いて、最後に千葉・福島まで拠点を伸ばして、方位区画メッシュを完成させました。東海にも拠点があります。

弥生中期の方位区画よりワンサイズ大きいようです。弥生中期のそれも糸島から宇佐方面へ東西ラインを伸ばしていますが、今回は国東半島東部まで伸ばさねばならないほど、サイズが大きくなりました。前漢尺から後漢尺へとサイズ変更したせいではないかと感じます。

この方位区画の中心点として、奈良、特に橿井大塚山周辺が出てきます。

要するに、この170年~230年前後にかけて、全国に纏向型前方後円墳を作成して、軍事測量しながら、地図を作っていたはずで。

そして測量が終わって、だいたいの列島の農作可能地域の大きさを割り出して、その中心に都を構える件を思いついた。それでまずニギハヤヒを240年ごろに奈良に派遣して、拠点を拡大したのちに、270年ごろに、天孫本陣が奈良に移動したのではないのでしょうか。

その間に呉の支援を受けたクヌ国との抗争もあったことでしょうし、ニギハヤヒの子孫もあるいは記紀どおりなら、謀反を起こしたかもしれませんね。

ともあれ、170年~240年までのこの纏向型前方後円墳の方位区画には、後の時代のそれに見えるような偏角がないのも特徴です。正方位の弥生時代以来のオーソドックスな測量をしていますね。

そうすると、やはり魏の時代にはいつ、正式に方位磁針が軍隊で利用されるようになってから、その方位磁針の測量による偏磁角が生じ始めたことがわかります。だから魏鏡のラインには、10度の偏角が出るのにたいし、同時期の呉年号銘鏡のラインには、偏角がないんです。

それは、先のとおり三角縁の背面に水を溜め指南魚(磁気コンパス)を浮かべて、方位磁針の役目をになっていたからだといえるでしょう。

結局、今回の纏向型前方後円墳の方位区画も、西都原方面の下屋敷古墳から糸島へと斜線を延ばしていくと、ブサンにたどりつくことがあり、秦韓・楽浪の影響下にあったと考えられます。

だから纏向型前方後円墳には、北方遊牧民系のクルガン墓にみえるような要素が多く残るんですね。秦韓南部の遺跡と一致してくることでしょう。

この時期は楽浪の軍事指導のもとで、楽浪・秦韓人といった「残阿・阿」人が、軍隊として借り出されて、那珂八幡方面に移動した後、纏向型前方後円墳をつくりながら、全国へ軍屯していった可能性を感じます。

その後、魏の時代になって、240年代に再度進出し、宇佐赤塚を拠点に、同様に10度偏角の軍事地図をつくっていったのでしょう。

すると、女王国はどこにあったか?が課題になるわけですが、これは秦野さんのおっしゃるような半島かもしれないし、九州かもしれないわけです。

ただ、240年~に拠点を奈良に移動したでしょうから、女王国もそこに移動したかもしれないわけですね。

後代の魏志の編者が、いつの時代の女王国の位置情報を手にいれて編集したのか?も課題になってくることでしょう。

ともあれ、記紀神話が案外、その当時の出来事をそのまま記録している可能性が高いような気がしますね。

なぜ、高いのか?も実は課題なのですが、神話伝承とは別に、しっかりした歴史記録がある時期まで存在した可能性も考慮すべきではないでしょうか。

彼らの方位測量の結果を見る限り、我々が想像するような、旧石器時代の原始人や稲作農耕民に毛が生えた人たちではないんです。古代史家の知能指数が彼らに比して、下回っていると、彼らの技術精度の高さは永遠に理解できないでしょう。

というのも、軍事測量の是非すら、日本の古代史家は思いつきもしないからなんです。彼らは先読みして、かな

り戦略的に動いてます。神話にでてくるような、ボンヤリとした人たちがじゃないんですね。裏でしっかり記録を残しながら、表向きでは民衆を緩和するようなたとえ話をうっているはずです。

その辺は、今後の屯倉・渡来系技術集団の研究でも出てくると感じます。

お墓の値段と基礎知識 - www.misatosekizai.co.jp/ 未来に受継ぐお墓の事お考えですか? お墓・霊園カタログ
ご請求はコチラ=無料 ペット葬儀・火葬の常憲社 - www.jyokensha.com/ 東京, 埼玉, 千葉の方はお気軽に ご
連絡ください, 真心, 丁寧, 低料金 曹洞宗霊園 - www.m-heart.co.jp 曹洞宗霊園でお探しの方へ [資料請求無
料] カメラレンズを超高額で買取中 - www.camera-takakuureru.com テレビにも出演。月間買取 10000 件突
破 出張・宅配買取、査定も完全無料です 霊園がここまでお洒落に - criptastyle.com えっ これが霊園? 今
までにない美しさ 女性の皆様にご支持いただいています。 Ads by Google

----- Re:三角縁方位区画まとめ投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 5 月 29 日(火)23 時 24 分 26 秒 返信・引用 編集済

> No.524[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

秦野はさざれ石にこだわっています。方位ラインは何かを基準に造られたのは間違いない。 方位ラインはアマ
テラスの狼煙、光通信網に沿って方位ラインが引かれたと考える。

穀物ぐらが屯倉となり、古墳は三角縁神獣鏡(卑弥呼(開花天皇の孫))、勾玉、剣をシンボルにした。これが国
津神で同和地区に成ったのではないかと。国津神地区が同和地区になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E6%B4%A5%E7%A5%9E%E3%83%BB%E5%9B%BD%E6%B4%A5%E7%A5%9E>

子持ち勾玉が管理人さんの方位ラインモデル。古墳の配置は丸印のさざれ石。さざれ石に沿って勾玉が古墳にな
る。図はユーラシアと方位ラインモデル

管理人さんの方位ラインと一致すると言ってよい。

尚、方位ラインの古墳の空白地域、未確認は同和地区で置き換える。

>> こちらで列記されたほとんどの三角縁神獣鏡を出土した古墳が、高精度で上記の3つの方位区画上に載る
ことがわかります。 >> 上記3つの方位区画は、10度角→5度角→0度角の順で新しくなると思われますが、
時代的に被る部分があったかもしれません。 >> また九州・瀬戸内・近畿→瀬戸内東部・近畿→近畿・東海西部
と、メイン拠点が東進していく様子が伺えます。 > この辺の推移が何によるものかは、支配領域や軍屯・測量
の進展具合などが思い浮かびますが、なお考察の余地がありそうです。 >>>

三角縁方位区画まとめ投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 29 日(火)06 時 03 分 7 秒 返信・引用 編集済

秦野さんご指摘の三角縁神獣鏡分布図を見ると、どの出土古墳でもラインが引けそうな感じに見えるかもしれ
ませんが、下記のように多角的に分析していくと、そうではなく、精密な方位ラインが引かれていったことが判
ります。

とりあえず、5世紀代の渡来人・屯倉の話に移る前に、その前の三角縁神獣鏡を出土した先の3つの方位区画の
まとめを再度しておきます。特に10度角:一番古い方位区画に、宇佐赤塚古墳と諏訪前宮が入ったのが重要
です。

1 10度偏角-三角縁神獣鏡(魏年号銘入+α:238年~70年ごろ)の方位区画(図・1) ●出土地点リスト

■年号銘鏡

神原神社古墳(島根県雲南市加茂町 景初三年銘)

竹島御家老屋敷古墳(山口県周南市 正始元年)

森尾字市尾・森尾古墳(兵庫県豊岡市 正始元年)

■年号銘鏡以外の三角縁出土古墳 桜井茶臼山古墳(奈良県 前期前半) 椿井大塚山古墳(奈良県 前期前半) 西山

古墳(香川県善通寺市多度津町 前期前半) 白鳥古墳(広島県東広島市高屋町) 西求女塚古墳(兵庫県神戸市灘区 3 世紀後半) 赤塚古墳(大分県宇佐市 3 世紀前半) 手古塚古墳(千葉県木更津市) 赤門上古墳(愛知県浜松市 4 世紀前半) ラインにズレあり)

●神社関連 諏訪前宮

25 度偏角－三角縁神獣鏡の方位区画(260 年～330 年ごろ?)(図・2)

●出土地点リスト 中小田 1 号墳(広島市東区 前期・ホタテ貝式・中国製三角縁) 潮崎山古墳(広島県福山市新市町 4 世紀中葉・三神五獣鏡) 造山古墳(島根県安来市 前期) 奥三号墳(香川県さぬき市寒川町 中国鏡・三神五獣鏡 竪穴式 割竹形木棺) 西山古墳(香川県善通寺市 中国鏡) 東求女塚古墳(兵庫県神戸市東灘区 4 世紀後半) 手古塚古墳(千葉県木更津市 前期 仿製鏡) コヤダニ古墳(兵庫県洲本市 前期 中国鏡・三神五獣鏡)

西殿塚古墳(奈良県 前期)

黒塚古墳(奈良県 前期)

椿井大塚山古墳(京都府木津川市 前期)

桜井茶臼山古墳(奈良県 前期)

乙女山古墳(奈良県 ホタケ貝形)

考安・神武・靖陵(奈良県)

●神社関連

出雲大社

籠神社

駒ヶ岳神社

氷川神社

鹿島神宮

熊野大社

●そのほか

ブサン(狗耶韓国)

30 度偏角(正方位)－三角縁神獣鏡の方位区画(330 年?～400 年ごろ)(図・ 3)

●出土地点リスト

手古塚古墳(千葉県木更津市 前期 仿製鏡)

造山古墳(島根県 前期)

※上記 2 古墳は仿製・同範鏡

真土大塚山古墳(神奈川県平塚市 3 世紀末～4 世紀半ば) 甲斐銚子塚古墳(山梨県南部 4 世紀後半 仿製鏡) 東之宮古墳(愛知県犬山市 4 世紀初頭 前方後方墳 仿製鏡) 花岡山古墳(岐阜県大垣市 4 世紀後半 中国鏡) 一輪山古墳(岐阜県 前期 円墳) 円満寺古墳(岐阜県海津市 4 世紀中葉～後半 中国鏡)

赤門上古墳(静岡県 4 世紀後半 佐味田宝塚古墳と同範鏡) 新豊院山 2 号墳(静岡県 前期 中国鏡 箱型木棺)ラインにズレあり。

椿井大塚山古墳(京都府 前期) 鴨都波 1 号墳(奈良県御所市 4 世紀中葉 円墳 仿製鏡)

中小田 1号墳(広島市東区 前期 中国鏡) 佐味田宝塚古墳(奈良県 4世紀末~5世紀初 家屋文鏡 三角縁神獣鏡破片 車輪石) 奥津社古墳(愛知県愛西市 中国鏡 西山古墳(香川)と同範鏡)

●神社関連

寒川神社
伊勢内宮

●その他 富士山頂

上記古墳の主な出展元は、下記のウィキペディア「三角縁神獣鏡」項目です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%A7%92%E7%B8%81%E7%A5%9E%E7%8D%A3%E9%8F%A1>

こちらで列記されたほとんどの三角縁神獣鏡を出土した古墳が、高精度で上記の3つの方位 区画上に載ることがわかります。

上記3つの方位区画は、10度角→5度角→0度角の順で新しくなるとは思われますが、時代 的に被る部分があったかもしれません。

また九州・瀬戸内・近畿→瀬戸内東部・近畿→近畿・東海西部と、メイン拠点が東進していく様子が伺えます。この辺の推移が何によるものかは、支配領域や軍屯・測量の進展具合などが思い浮かびますが、なお考察の余地がありそうです。

グルコサミンをお探しなら - www2.kobayashi.co.jp "公式・小林製薬"グルコサミン 1760mg 厳選した成分を独自配合

カメラレンズを超高額で買取中 - www.camera-takakuureru.com テレビにも出演。月間買取 10000件突破 出張・宅配買取、査定も完全無料です 不動産売却 優良 6社を比較 - sell.yeay.jp 業界最大級。利用実績 120万人突破。カンタン 1分入力で実際の売却額を比較 大阪 霊園マスコミ取材多数 - e-saikaku.co.jp マスコミも注目の大阪の霊園 駅近く 警備員 花屋常設。公園のような霊園 世界地図のおもしろい読み方 - jikogaku.jp 電子書籍だから買ったらずすぐ読める! 電子書籍書店の自己ガク Ads by Google

----- Re:三角縁(0度角)方位区画投稿者:管理人
投稿日:2012年5月29日(火)02時51分7秒 返信・引用

> No.522[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 古墳の所在地は総て同和地区に成っている。古代に何か事件があったのか。 >

とりあえず、現代の同和地区より先に、古代史掲示板なので、5~7世紀の渡来系技術集団の 分布を調べてみましょう。

下記のページに、秦野さん注目の高石地区と渡来人のことも載ってます。 この辺のリストを分布図に落としていけば、何か出てくるかもしれません。 http://www.geocities.jp/ku_da_ra/ETC/osaka-timei.htm#43

「古代以来の地名、高石から市名がとられた。渡来人、高志(こし)の住したところで、高志が 高志(たかし)⇒高石と転訛された。高師、高脚とも書かれた。高石神社は、高志氏の祖神を 祭る。」

Re: 三角縁(0度角)方位区画 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 5月 28日(月)21時 31分 50秒 返信・引用 編集済

> No.521[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 三角縁神獣鏡の方位ラインですが三角縁神獣鏡の分布を見つけたので添付します。

http://web.me.com/abukuma/Study/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%8F%B2/%E3%82%A8%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%AA%E3%83%BC/2009/9/27_%E4%B8%89%E8%A7%92%E7%B8%81%E7%A5%9E%E7%8D%A3%E9%8F%A1%E3%81%AE

%E5%88%9D%E6%9C%9F%E5%88%86%E5%B8%83%E3%81%8B%E3%82%89%E3%81%BF
%E3%81%9F%E3%83%A4%E3%83%9E%E3%83%88%E3%81%AE%E5%9B%BD%E3%80%85%EF
%BC%88%EF%BC%91%EF%BC%89.html

疑問点は質問で答えます。古墳の所在地は総て同和地区に成っている。古代に何か事件があったのか。

> 先の三角縁神獣鏡を出土した遺跡を結ぶ方位区画(10度偏角、5度偏角)に続きまして、0度角の方位区画を作成してみました。

> それで、三角縁神獣鏡とは何だったのか?を考えていくと、やはり当初は大国の権威の後ろ盾+測量道具だったろうと思います。コンパスと、尺の基礎単位を提供したんです。それが、そのうちに葬送観念や鏡信仰へと変化していく、その辺で最終的にあるものは埋葬され、あるものは神社に保管されていったのでしょうか。

>> 徐々に古墳や道具の意味合いも変わっていくわけですが、それが次に河内王朝以降にどう変化していくのか?その辺が課題ですね。

三角縁(0度角)方位区画投稿者:管理人 投稿日:2012年5月28日(月)04時34分54秒 返信・引用 編集済

先の三角縁神獣鏡を出土した遺跡を結ぶ方位区画(10度偏角、5度偏角)に続きまして、0度角の方位区画を作成してみました。

なお先と同様に、下記ウィキサイトから三角縁の出土古墳を調べてます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%A7%92%E7%B8%81%E7%A5%9E%E7%8D%A3%E9%8F%A1#.E4.B8.AD.E5.9B.BD.E5.9C.B0.E6.96.B9>

まず注目した方位ラインは、手古塚古墳(千葉県木更津市)と島根県造山古墳を結んだ東西方位ラインです。この2つの古墳からは、仿製鏡で同じ鋳型で造られた同範鏡は奈良県の河合古墳も出土しています。

そしてその方位ライン上に、富士山、寒川神社のほか、三角縁を出土した真土大塚山古墳(平塚)、甲斐銚子塚古墳、東之宮古墳(愛知県犬山市)、岐阜県大垣市の花岡山古墳、一の輪古墳が載ります。

またその花岡山古墳から南にラインを伸ばすと、円満寺古墳(岐阜県海津市南濃町)に至ります。

おそらく出雲大社方面へ伸ばしたかったのでしょうか、やや北方へずれている模様。-1~2度前後傾いています。偏磁気曲線の関係か、人為的なものかの区別が課題です。

先の5度角方位区画等でもそうなのですが、三角縁を出土した古墳を結ぶ東西方位ライン上の拠点では、同範鏡が出るケースが見えるようです。

おそらく当時の政権側で、測量を行う氏族、あるいは地方豪族に、時期を決めて同範鏡を造って、複数枚を分配するのでしょうか。そして、東西に散っていき、方位ラインを作成しながら、軍事測量と開拓を行っていくわけです。最後に古墳にその豪族?と一緒に、鏡も埋葬してしまうのでしょうか。

それで二つ目の0度角ラインですが、こちらは、椿井大塚山を基点にして、静岡の赤門上古墳 新豊院山 2号墳へと伸びるラインです。備前車塚は近いですが、多分ミスラインです。

椿井大塚山古墳は、先の10度角、5度角、そしてこの0度角と、3世代にわたって長く拠点として利用され続けたことがわかります。洛陽とこの古墳が同じ緯度だったせいか、桜井茶臼山とともに、最重要測量拠点として位置づけられていたのでしょうか。

そして、3つ目のラインですが、こちらは鴨都波1号墳(奈良県御所市)、中小田1号墳(広島市東区)を結んだ東西方位ラインです。こちらを東に伸ばすと、伊勢内宮に至ります。

そしてその伊勢内宮から北に方位ラインを伸ばしすと、奥津社古墳(愛知県愛西市)が載ります。

なお、鴨都波1号墳から北にラインを伸ばすと、佐味田宝塚古墳に至り、奈良の四方区画を形成することは以前示したとおりです。図を再度添付します。

おそらくこれらの0度方位区画は、出土古墳の年代からして、4世紀前半~後半にかけてと思われる。

先の 10 度偏角、5 度偏角より新しいラインでしょう。最後の三角縁神獣鏡出土ラインですね ほぼ正方位の区画になっているのですが、東海地方から関東に出土が多いのが特徴的です。

10 度、5 度角は、関西が多かった。 尺度は 10.8 KM 四方でしたが、ただちょっと短い可能性あります。魏尺以降のそれですね。

この後、5 世紀に入り、九州系の河内王朝の時代になり、屯倉方位区画へと移行していくこと となります。

ともあれ、このように三角縁神獣鏡を出土した古墳が、全国に渡る方位区画メッシュの拠点 となっていることは、当初から古墳の存在目的が、軍事・測量目的だったことを示しています。 計画的に造営・配置されていきました。

ただ興味深いのは、先の 5 度角方位区画では、一番北側の方位ラインに、出雲・鹿島大社等の 神社配置がみえ、そしてこの 0 度角では、伊勢内宮なども出てくるようになります。

徐々に軍屯拠点の色合いから、信仰拠点の要素が加わってくる、それとともに、魏・呉という 大国の影響下から逃れて、政権の安定が増すとともに、皇室の形成がなされていったものと 感じます。

それで、三角縁神獣鏡とは何だったのか?を考えていくと、やはり当初は大国の権威の後ろ 盾+測量道具だったろうと思います。コンパスと、尺の基礎単位を提供したんです。それが、 そのうちに葬送観念や鏡信仰へと変化していく、その辺で最終的にあるものは埋葬され、あ るものは神社に保管されていったのでしょうか。

徐々に古墳や道具の意味合いも変わっていくわけですが、それが次に河内王朝以降にどう変化していくのか?その辺が課題ですね。

Ads by Google ----- Re:三角縁(5 度角)方位区画
投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 28 日(月)03 時 46 分 43 秒 返信・引用

> No.519[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 同和地区=古代史の古地図になる。 >> 秦野の提案ですが、同和地区を用いて、方位の検証をしませんか。
>

ちょっと年月がちすぎている、現代の同和地区の分布から、古代の屯倉拠点に配置された 渡来人・技術民の痕跡を求めるには、難しいような気がします。秦野さんのほうで、ぜひ取り組んで見てください。

----- Re: 三角縁(5 度角)方位区画 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 5 月 27 日(日)08 時 53 分 32 秒 返信・引用 編集済

> No.518[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 同和地区=古代史の古地図になる。

秦野の提案ですが、同和地区を用いて、方位の検証をしませんか。

<http://yubin.senmon.net/search/?q=%E9%AB%98%E7%9F%B3%E5%B8%82%E5%90%8C%E5%92%8C%E5%9C%B0%E5%8C%BA>

> 先の魏の年号銘入りの三角縁神獣鏡を出土した古墳等を結んだ方位区画(10 度偏角) に続いて、その他の三角縁神獣鏡の出土古墳を結んだ方位区画を調べてみましたところ、5 度角の偏角が確認できました。図を添付します。 >

> 三角縁の出土古墳は下記参照。 > <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%A7%92%E7%B8%81%E7%A5%9E%E7%8D%A3%E9%8F%A1> >>

>> その後に出てくる屯倉経営は、皇室の成立や、その辺の半島との勢力交替とかかわってくることでしょう。そして最後に河内王朝、秦氏の渡来への流れができていきます。 >> 10 度→5 度→0 度と 3~4 回、全国の方位区画が刷新されるわけですが、河内王朝の 0 度方位区画の前に、350 年代にプレの 0 度の三角縁出土古墳を結ぶ区画ができてくるのは以前お知らせしたとおりですが、その辺と前期屯倉とのかわりも重要です。 三角縁(5 度角)方位区画投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 27 日(日)08 時 38 分 18 秒 返信・引用 編集済

先の魏の年号銘入りの三角縁神獣鏡を出土した古墳等を結んだ方位区画(10 度偏角) に続いて、その他の三角縁

神獸鏡の出土古墳を結んだ方位区画を調べてみましたところ、5 度角の偏角が確認できました。図を添付します。

三角縁の出土古墳は下記参照。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%A7%92%E7%B8%81%E7%A5%9E%E7%8D%A3%E9%8F%A1>

先の年号銘入りの三角縁を出土した古墳より、やや新しい 4 世紀前半代の前期古墳が多い ようです。

この 5 度角の方位区画については、畿内の方位区画で以前紹介したとおりで、西殿塚、黒塚、考安陵墓など久史 8 代の墓、桜井茶臼山、等を結んだ東西 10・5KM、南北 12KM の方 位区画でした。図を再度添付します。

それで、またこの 5 度角の方位区画(ライン)は、プサン→出雲大社→籠神社→駒ヶ岳神社 →大宮氷川神社→鹿島神宮を結ぶ、古代神道の拠点を結ぶラインでもあります。

この方位区画の成立は、先の年号銘鏡の時代(238-60 年ごろ?)の後にあたる、日本製の 三角縁コピー鏡が流行する年代、つまり(270-330 年)前後に成立した区画と考えます。

なお椿井大塚山古墳は、10 度角の方位区画から、この 5 度角の方位区画でも拠点として再利用されてます。その大塚山と同じタイプの鏡を出土する古墳が、この方位ライン上に並んで いるのが特徴的です。

10 度角から、5 度角へ、偏角が変わったのは、偏磁気曲線の傾きが時代とともに少なくなった ためでしょう。

図を見てわかるように、まだこの時期はプサンつまり秦韓が、その倭の軍屯経営に介入して いることがわかります。元は魏の帯方郡の影響下にあったのしょうけど、西晋が 316 年滅 んで、半島への影響力を失った後は、秦韓勢力が肩代わりしたかもしれません。

ただ、倭のほうにメインの集団は移行したでしょうから、実質的には倭の独立経営になった 可能性が高いですね。

その後に出てくる屯倉経営は、皇室の成立や、その辺の半島との勢力交替とかかわってくる ことでしょう。そして最後に河内王朝、秦氏の渡来への流れができていきます。

10 度→5 度→0 度と 3~4 回、全国の方位区画が刷新されるわけですが、河内王朝の 0 度方 位区画の前に、350 年代にブレの 0 度の三角縁出土古墳を結ぶ区画ができてくるのは以前お 知らせしたとおりですが、その 辺と前期屯倉とのかかわりも重要です。

NEC の PC 購入検討中の方へ - www.necdirect.jp 無料で 3 年間メーカー保証付だから安心 最新 Intel® Core™ i7 搭載 PC もお買得 Ads by Google

----- Re:朝鮮方位ライン投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 5 月 27 日(日)08 時 27 分 11 秒 返

信・引用 > No.516[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 管理人さん、同和地区に存在する。どう考えますか。

1. 吉野ヶ里遺跡も同和地区になっている。
2. 大和三山も同和地区になっている。 天香久、山畝傍、山耳成山
3. 仁徳御陵(にんとくごりょう)

同和地区=古代史の古地図になる。

>> おそらく、渡来系職業部民の名残でしょう。皮職人と部落の関係などについて聞いた覚え があります。
>> 屯倉の経営に、軍事拠点という役目を持たすと、兵器等の製造も携わってきますから、どう しても金属や皮関連の技術者が住み込む必要がでてくると思うんですね。それが後代まで継 承されていく仮定で差別問題が小いてくる、そういう流れではないかと感じます。

----- Re:朝鮮方位ライン投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 5 月 27 日(日)08 時 13 分 34 秒 返信・ 引用

> No.514[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 屯倉の遺跡がありましたよ。 >
- > 茅渚(ちぬ)の道(堺、富木を通り奈良に抜ける道)
- > 特定方法は簡単で、遺跡は同和地区に存在する。同和は今の兵士=奴婢と思われる。
- > 秦野書:徐福と邪馬台国で特定している地域

> 末廬国、伊都国、奴国、不弥国、投馬国、・、邪馬台国 > すべてが同和地区に成っている。 > 大阪府高石市
取石:同和地区 > 等乃伎神社:「枯野」

おそらく、渡来系職業部民の名残でしょう。皮職人と部落の関係などについて聞いた覚えが あります。

屯倉の経営に、軍事拠点という役目を持たすと、兵器等の製造も携わってきますから、どうしても金属や皮関連の技術者が住み込む必要がでてくると思うんですね。それが後代まで継承 されていく仮定で差別問題が小いてくる、そういう流れではないかと感じます。

Re:朝鮮方位ライン投稿者:管理人 投稿日:2012年5月26日(土)22時52分57秒 返信 引用 編集済

> No.513[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 現在の古代韓半島図は距離を測定せず、この辺りだろうと書かれている。 > 楽浪、玄菟、が入れ替わっている。明確なのは楽浪、帯方ですが中国史籍では対岸のはずが 数百キロ離れ、燕長城付近になっている。燕長城付近は玄菟郡になる。 > 大まかですが当時の地図を作成していますので提供します。 >> 注、倭国の領域は楽浪の対岸、帯方郡から南に 4000 里、曆韓国から南になる。 >

お返事ありがとうございます。

再度先の朝鮮四方区画から、私なりに距離を推定してみました。

まず千里というのが、先の四方区画の 1 辺とみなします。52.6 KM ですね。

それで三韓の大きさは「方可 4 千里」ですから、帯方郡(南端?)を、ソウル(漢城)と仮定 すると、その南の4×4の四方区画領域になります。「方可」は「一辺」の意味でしょう。

それで狗邪韓国(プサン・金山)までの距離は、先の朝鮮四方区画图でいえば、漢城から南

に4つ、東に3つ四方区画を足した距離で、「7 千里」。半島の西沿岸沿いの海路を仮定してま すから、そういう距離計算になるんですね。

そこからプサン→対馬→壱岐→平原までの斜めライン、もしくは、プサン→松浦までの南北 ラインが3千里。す。松浦があえて出てくるのは、方位区画の方角上で南北にあたるからではないでしょうか。プサン、平原間で若干、方位区画の誤差を修正しているはずです。

ここまでの7千里+3千里で1万里。 すると最後の1万2千里までいたるには、2千里足りず、下記のとおり、平原→宇佐間が四方

区画二つ分で2千里ですね。あるいは松浦→吉野ヶ里まで2千里等・・。 関係図を作成しましたので、添付しておきます。

いずれにせよ、女王国の都もしくは、境目は宇佐から吉野ヶ里=奴国、(八女?)あたりの半 円ラインに位置していたものと感じます。

そして前漢代以前から知られていた四方区画の距離を、元に大まかに計算していたわけです。

Ads by Google ----- Re:朝鮮方位ライン投稿者:
秦野北斗 投稿日:2012年5月26日(土)16時39分32秒 返 信・引用 編集済

> No.511[元記事へ] 屯倉の遺跡がありましたよ。

茅渟(ちぬ)の道(堺、富木を通り奈良に抜ける道) 特定方法は簡単で、遺跡は同和地区に存在する。同和は今の兵士=奴婢と思われる。 秦野書:徐福と邪馬台国で特定している地域 末廬国、伊都国、奴国、不弥国、投馬国、邪馬台国 すべてが同和地区に成っている。

大阪府高石市取石:同和地区

等乃伎神社:「枯野」

<http://www.norichan.jp/jinja/shigoto/tonogi.htm>

池上曾根遺跡が該当する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%A0%E4%B8%8A%E3%83%BB%E6%9B%BD%E6%A0%B9%E9%81%BA%E8%B7%A1>

屯倉は同和地区に存在することになる。

屯倉の数については、天智のところで、181 という数値が出てきてます。

「及び其の屯倉、猶古代(むかし)の如くにして、置かむや不や」とのたまふ。臣、即ち恭(つつし)みて詔する所を承りて、奉答(こたへ)而曰(まう)さく … 故、入部五百二十四口・屯倉一百八十一所を獻る』とまうす」とのたまふ」

----- Re:朝鮮方位ライン投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年5月26日(土)09時30分21秒 返信・引用 編集済

> No.511[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

現在の古代韓半島図は距離を測定せず、この辺りだろうで書かれている。 楽浪、玄菟、が入れ替わっている。明確なのは楽浪、帯方ですが中国史籍では対岸のはずが数 百キロ離れ、燕長城付近になっている。燕長城付近は玄菟郡になる。 大まかですが当時の地図を作成していますので提供します。

注、倭国の領域は楽浪の対岸、帯方郡から南に 4000 里、暦韓国から南になる。

>> 『通典』邊防 >> 元封三年(前 108 年)、楼船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、楽浪、玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、楽浪と玄菟に 併合した。 > それで、あとその漢城(ソウル)と、王儉城(平壤)、そしてプサンを結んだ対角線ライン を境界線にして、3~4 つの地域区分をしていた可能性があります。

>> たとえば、楽浪、玄菟、帯方…といった具合ですね。漢代の楽浪郡条の各地域名の配列 でも、グループ化されていることも、その辺と関係していることでしょう。東部、南部…。 >

----- 朝鮮方位ライン投稿者:管理人 投稿
日:2012年5月26日(土)07時53分15秒 返信・引用 編集済

秦野北斗さんへのお返事です。

>> 『通典』邊防 > 元封三年(前 108 年)、楼船將軍の楊僕は齊から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、楽浪、玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、楽浪と玄菟に 併合した。 >> 武帝は衛氏朝鮮が何讎を殺害した罪を責め、水陸あわせて五万の大軍を派遣した。 > 衛氏朝鮮の王族や大臣が漢朝に内応し、国王の右渠は殺害された。だが、地方豪族や民衆 によって王儉城は、その後も一年以上も死守されたが、結局は漢軍に討滅された。 > 衛氏朝鮮は滅び、漢朝は衛氏朝鮮の故地に諸郡を設置して、植民地経営に乗り出した。

> 衛氏朝鮮:燕の亡名者の衛満 > すでに侯準は王を僭称していたが、燕の亡名者の衛満がすべてを奪い取る。

> 注記1 魏略に曰く。昔、箕子の後裔の朝鮮侯は、周朝の衰退を知った燕が自ら王と尊称 して、東の地(朝鮮の

領地)を略奪しようとしたので、朝鮮侯もまた王を自称して、周の宗室を尊んで兵をあげ、燕を迎撃しようとしたが、大夫の禮が諫言したことで止めた。

> 禮を西に遣わして燕を説くと、燕は進撃を止め、攻撃をしなかった。その後、朝鮮侯の子孫がやや驕慢で暴虐だったので、燕は秦開將軍を派遣して、その西方を攻め、二千余里の地を奪い取って、満潘汗を以て国境とした。朝鮮は衰弱した。 >

- > 『史記』朝鮮列伝
- > 朝鮮王満者、故燕人也。自始全燕時、嘗略屬真番、朝鮮、為置吏、鄣塞。 >
- > 朝鮮王の満とは、昔の燕の国民である。燕は全盛期の初めから真番と朝鮮を服属せしめ、統治官を置いて鄣(楽浪郡有雲鄣)を塞いでいたことがある。

ちょっと朝鮮の古代地図を元に、朝鮮の方位区画について、以前のものと比較しながら、再度作成しなおしてみました。図添付します。

52.6 KM 前後の正方形区画でしょう。九州の弥生中期の方形区画と同じ単位です。漢城(ソウル)と、王儉城(平壤)の距離が南北にて 158 KM になります。東西は 105 KM。

事例としては宇佐(赤塚遺跡)→平原間が 105.2 KM で、52.6 KM の 2 倍になってます。同じく宇佐→西都原間が 158 KM で、52.6 KM の 3 倍長。

成立は前漢尺なので、その前後だと思うのですが、王儉城は箕子(キシ)朝鮮の時代にはあり、BC 194 以前となりそうです。

ただ九州の弥生中期の遺跡を結んだ先の四方区画の成立は、BC50~AD 50 年前後だと思いますので、やや時代差があるように感じますね。

1 回目の渡来がBC 200 年前後で、先の武庫港の弥生遺跡が出てくるころでしょうか。2 回目が、高句麗に圧迫されて、楽浪人が秦韓地方へ南進したAD50 年ごろ。一気に北九州まで南下した集団がいたかもしれません。

これらの朝鮮から九州に渡って伸びた四方区画の一部は、後代、九州・河内系の河内王朝に再利用されて、屯倉の四方区画単位と重なっていったものと感じますが、ただ尺がすでに変化していた可能性があり、以前調べたときは、それが 73 KM 前後でしたよね。そして平原も屯倉四方区画の拠点には出てきません。

弥生時代の朝鮮・九州の四方区画と、後代の屯倉の四方区画とは、正方位の正方形区画で、拠点こそ若干重なる部分があるものの、尺がまったく異なり、まったく別に作り変えた物と理解したほうがよいでしょう。

似ているようで、微妙に違う、その辺の区別をしていくことが重要です。

それで、あとその漢城(ソウル)と、王儉城(平壤)、そしてプサンを結んだ対角線ラインを境界線にして、3~4 つの地域区分をしていた可能性があります。

たとえば、楽浪、玄菟、帯方…といった具合ですね。漢代の楽浪郡条の各地域名の配列でも、グループ化されていることも、その辺と関係していることでしょう。東部、南部…。

----- Re:魏年号銘鏡方位ライン投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 5 月 25 日(金)11 時 16 分 11 秒 返信・引用 編集済

> No.509[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 方位、屯倉の輪郭が古代と結びつきます。

方位はさざれ石の分布とほぼ一致します。さざれ石が灯籠になった模様。ウィキペディアで

は「日本には飛鳥時代に仏教が伝来したのと同時に灯籠が伝来した。」これも、本末転倒している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%81%AF%E7%B1%A0>

サルタヒコが光を主にする狼煙台。形が変わり灯台になる。

その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキのように照り輝いてい るという姿であった。

これが君が代の詩になる。神功皇后の東征、三韓征伐で唄われたと思われる。当時は通信、 灯台で古代航路に点在する。明石、厳島、宮崎、出雲…。

また、主要中継拠点、主要都市「屯倉」で九州は方位から 4 点になる。 さぞかし、大通信網を有していたのでしょう。尚、子持ち勾玉の小さい丸印がサルタヒコと思

われる。

BC108 に楼船將軍の楊僕…が、サルタヒコ、光を主にする狼煙台を駆使した戦略で地方豪 族や民衆によって王儉城は、その後も一年以上も死守された

これを統率したのが大月氏、三韓征伐後、葛城氏の力で九州に入っている。 大月氏は徐福の末裔で、神武東征を勧める。 添付 HP は距離が不完全なため地図は大きなズレがあるが内容はほぼ正しい。

<http://www.geocities.jp/pikupopodemi/rekisi/ronbun/rakurou100803.htm>

『通典』邊防 武帝元封三年、遣樓船將軍楊僕從齊浮渤海、兵五萬、左將軍荀彘出遼東、討之。朝鮮人相與 殺 王右渠來降。遂以朝鮮為真蕃、臨屯、樂浪、玄菟四郡。今悉為東夷之地。昭帝時罷臨屯、真蕃 以并樂浪、玄菟。

元封三年(前 108 年)、楼船將軍の楊僕は斉から渤海を渡り、兵は五万。左將軍の荀彘は遼 東から出撃し、右渠を討った。朝鮮人は右渠を殺して降伏してきた。朝鮮を真蕃、臨屯、樂浪、 玄菟の四郡となした。今はすべて東夷の地。昭帝の時、臨屯と真蕃を廃して、樂浪と玄菟に併 合した。

武帝は衛氏朝鮮が何讎を殺害した罪を責め、水陸あわせて五万の大軍を派遣した。 衛氏朝鮮の王族や大臣が漢朝に内応し、国王の右渠は殺害された。だが、地方豪族や民衆 によって王儉城は、その後も一年以上も死守されたが、結局は漢軍に討滅された。 衛氏朝鮮は滅び、漢朝は衛氏朝鮮の故地に諸郡を設置して、植民地経営に乗り出した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

衛氏朝鮮:燕の亡名者の衛満

侯準既僭號稱王、為燕亡人衛滿所攻奪 1 注記 1 魏略曰:昔箕子之後朝鮮侯、見周衰、燕自尊為王、欲東略地、朝鮮侯亦自稱為王、欲 興兵逆擊燕以尊周室。其大夫禮諫之、乃止。使禮西說燕、燕止之、不攻。後子孫稍驕虐、燕乃遣 將秦開攻其西方、取地二千餘里、至滿番汗為界、朝鮮遂弱。

すでに侯準は王を僭称していたが、燕の亡名者の衛満がすべてを奪い取る。 注記 1 魏略に曰く。昔、箕子の後裔の朝鮮侯は、周朝の衰退を知った燕が自ら王と尊称し て、東の地(朝鮮の領地)を略奪しようとしたので、朝鮮侯もまた王を自称して、周の宗室を 尊んで兵をあげ、燕を迎撃しようとしたが、大夫の禮が諫言したことで止めた。 禮を西に遣わして燕を説くと、燕は進撃を止め、攻撃をしなかった。その後、朝鮮侯の子孫 がやや驕慢で暴虐だったので、燕は秦開將軍を派遣して、その西方を攻め、二千余里の地を奪 い取って、満潘汗を以て国境とした。朝鮮は衰弱した。

高句麗建国、年代の特定に問題がある、世界遺産どうなるか?

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/koukurigaisi/koukuri-tsusi-2-kenkoku.htm>

『史記』朝鮮列伝

朝鮮王満者、故燕人也。自始全燕時、嘗略屬真番、朝鮮、為置吏、鄣塞。

朝鮮王の満とは、昔の燕の国民である。燕は全盛期の初めから真番と朝鮮を服属せしめ、 統治官を置いて鄣(樂浪郡有雲鄣)を塞いでいたことがある。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

> あと屯倉の件ですが、魏の屯田制が重要です。軍屯ですね。呉のそれもありますが、呉は将 軍たちの私有地的な性格が強かったそうです。新は国有地を目指した。 > <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%AF%E7%94%B0> >

>

- > > 天智のところで、181 ですか、入部五百二十四口。ほぼ、枯野と一致する。 > >
- > 下に再度屯倉の方位区画を添付します。
>
- > 1 国あたり 3~4 分割してますね。50 国×3 で 150~180 というところでしょうか。 >
- > 国あたり三つの御宅、領域の意味もあったか? > >
- > >「倭の五王」のころ、より(五世紀の初めごろ)近畿に「屯倉」の設置が相次ぎます。(「履 中」「安康」「清寧」の代)また、これらの屯倉は「堤」「池」「水田」などの整備事業を伴うもので、 屯倉に収納するべき「稲」などの「産品」を安定的、継続的に収集する体制を整えていることが わかります。(池を造り、そこを猟場にして、鳥を(鳥肉を)献上させる等) > >
- > > 食糧増産の新田のイメージですな。
- > > 第 15 代応神天皇の時、帰化人を率いて韓人池を造る。
- > > 狭山池 (大阪府):狭山池は造成でいど。狭山池を造ったのは 400 年はバックするのでは。 > >
- > 屯倉が軍屯とすると、結果としては開拓と食料自給率の向上にはつながっただろうと感じ ます。 > 軍を維持するのに食料が必要です。

Re:魏年号銘鏡方位ライン投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 24 日(木)22 時 56 分 55 秒 返信・引用

> No.506[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 公孫氏ですが、朝鮮は魏の支配下でなく、管理下が正しいのでは。 > > 公孫氏は魏志倭人伝の陳寿が皇帝に卑弥呼の事を報告。直後、司馬懿により斬首、虐殺され た。遼東の成年男子 7000 人を虐殺、虐殺されたのは扶余と思われる。卑弥呼は韓半島の倭国 に帰る予定であった。

> >

情報ありがとうございます。なるほど、公孫氏と呉との関係は、考える必要なさそうですね。 すると呉年号銘鏡およびその支援は、やはり台湾琉球経由とみてよいかと感じます。

朝鮮半島南部を、仮に秦野さんのご指摘のとおり、倭の支配下と考えると、238 年当時、邪馬 台国は魏にしたがってますから、いよいよ呉と半島南部の倭人地域、そして邪馬台国が関係 を持つ可能性は低いですね。

呉の支援は、邪馬台国の南にあったとされるクヌ国にもたらされたと考えるのが筋でしょう。

そして呉の支援を受けて、クヌ国は、呉年号銘鏡に見える 238~44 年以降 60 年ごろまで?伊 都平原から兵庫の武庫、そして山梨にいたるまでの支配を一時的に行ったのかもしれませんが。 その前後で、山陰から畿内を中心にした邪馬台国と争奪戦を繰り返した。

思うに魏の軍人張氏が 260 年まで 20 年近くも魏に戻れなかったのは、ヒミコ死後の邪馬台 国内の騒乱に加えて、クヌ国が伊都国という朝鮮への架け橋を支配下に置いてしまったので、 それを奪還するまで、戻れなかったという線が浮かびますね。

もともとは、伊都国は魏志倭人伝のごとく、邪馬台国の支配下にある国だったのですが、ヒ ミコ死後の騒乱で、一時的に南のクヌ国の占領下に置かれたと考えると、クヌ国と邪馬台国 の位置関係の推移がわかります。

クヌ国は、琉球・南九州から四国太平洋岸にかけてを支配しており、卑弥呼死後に北九州を 支配下におき、さらに吉備、武庫、そして東海へと海伝いに雪崩れ込んだ。

そうすると少なくともイヨの墓は畿内にあった可能性が高いですね。すでに九州にはなかつ たでしょう。

クヌ国は、その後魏の支援をうけた邪馬台国に 260 年ごろに、平原を譲り渡し、呉が劣勢になる 70 年ごろには東海、南九州、四国南部などを残して撤退したかもしれません。

畿内の方位区画を見るに、238 年~40 年の魏年号銘鏡ラインと同じ偏角をもつ 10 度傾いた 椿井大塚山を含む四方区画とは別に、5 度傾いた西殿塚、欠史 8 代、黒塚、乙女塚、秋津遺跡の 方位区画があります。

このラインを先の 10 度角の方位区画からみて、偏磁気曲線で 30-50 年くらい前、もしくは 後の方位区画とみなせるでしょうか、どうとらえるかが課題です。

170~200 年の方位区画とみなすのは、黒塚や西殿塚の年代からして無理があるかもしれません。むしろ 260~300 年前後の区画のように感じますね。同じ 5 度偏角の四方区画が、全国 に張り巡らされていたことでしょう。

その後、崇神陵や、鴨都波古墳、佐味田宝塚、竹ノ内街道といった畿内の三角縁神獣鏡出土古 墳を結んだ、正方位区画が出てきます。300 年~。これは軸を傾けないタイプの測量で、それ以 前の畿内のそれとは異なりますね。

ただこれを 330 年~400 年前後の方位区画とみなせれば、偏磁気曲線が 0 度に近かった時期 なので、そのまま正方位区画に変更したという線も想定できます。そうすると支配者や測量 士の変更があったということにはならないかもしれません。

年号銘のある呉・魏鏡と、その後のコピー鏡との年代を分けたほうがいいかもしれません。 年号銘鏡はあくまで、その年号に近い時代に埋められている可能性が高いです。呉や魏の影 響をモロに受けている時代。

ただ秦野さんのおっしゃるとおり、支配下にあったわけではなく、「管理下」にあったとみな すべきでしょう。選択の自由があった。

> このあとに渡来人(匈奴:フン族、大月氏)、が韓半島に入る。卑弥呼が関係している。 >

おそらく大月氏・サカ族が半島に入るのは、弥生中期です。紀元前後あたりの遊牧民系の木 棺などがすでに出てきます。

実際に彼等が海峡を渡って北九州に来るのが、同じく木棺墓や石囲い…が出てくる AD 170 年前後~で、ヒミコと関係してくるでしょう。

伊都国・平原は、弥生末の円墳が出てきて支配者が変わり、倭製の北方系の内行花紋鏡や木 棺などが出てくるので、そうすると、170 年ごろに、上記大月氏の第 1 陣が北九州に上陸。

その後、マキムク・ホタテ貝式古墳を、西都原方面や四国・畿内に造営しながら、全国進出。 ニギハヤヒの畿内進出。

ただ、平原は、円墳のままでホタテ貝・マキムク型にはならなかったことを考慮すると、あく まで南方文化を維持したまま、邪馬台国からは独立を保っていた。三角縁も出さない。だから 倭人伝でも伊都国は女王国の属国とは描かれてないのでしょう。

それから、238 年~44 年にかけて、呉の支援をうけた南方クヌ国集団に平原は支配下におか れて、タテツキ墳丘墓や瀬戸内武庫港なども、その南方海人系集団の影響下に置かれた。呉系 の神獣鏡が入ってくる。その衰退後、また邪馬台国の支配下に置かれる。

楽浪(後の百済地域)・秦韓の渡来人が、影響を及ぼしてくるのが、高句麗で圧迫されて南 下した AD 1 世紀、その時期に第 1 派がすでに、朝鮮南部や北九州に流れ込んでいるはずで すね。木棺墓？

最後の波が、古墳中期の秦氏。その後 5 世紀後半から 6 世紀にかけて、北燕移民と東欧系職人 集団新漢人がやってくる。

270~300 年代に、崇神陵のように古墳が大型化する件ですが、思うに魏と再度交流が生じて、 呉・クヌ国の衰退があって、畿内勢力の自立基盤が整ったせいではないでしょうか。特にあ たらしい集団がやってきたというわけではないかもしれません。あえて言うなら、魏の影響 が強くなったということでしょうか。

流れる的にはそんな感じかと思います。

出口王仁三郎 関係者 作品 - www7.ocn.ne.jp/~mizu6628/ 王仁三郎・すみこ・直日・日出磨 各作品を取り扱い致しております。 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを3Dデジタイズが革新する ご存知ですか?お墓のこと - www.shonan-ls.co.jp/stone/ 弊社の、お墓へのこだわりをご紹介 お客様の想いをかたちに。湘南造園(株) 霊園がここまでお洒落に - criptastyle.com

えっ これが霊園?今までにない美しさ 女性の皆様にご支持いただけてます。 鳥取の結婚相談所を比較 - www.kekkon-ouen.net 失敗しない結婚相談所選びは まず各社資料を比べてから!資料急送 Ads by Google

----- Re:魏年号銘鏡方位ライン投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年5月24日(木)00時45分56秒 返信・引用 編集済

> No.505[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 済州島は古事記の国生み神話で訪れている。済州島には4国存在している。 屯倉の意味ですが、

[常用漢字][音]トン(漢)[訓]たむろ 多くの人が群がり集まる。たむろする。「屯営・屯所/駐屯」[名のり]みつむら・より [難読]屯倉(みやけ)

群:むらのくら:屯倉

天智のところで、181 ですか、入部五百二十四口。ほぼ、枯野と一致する。

「倭の五王」のころ、より(五世紀の初めごろ)近畿に「屯倉」の設置が相次ぎます。(「履中」「安康」「清寧」の代)また、これらの屯倉は「堤」「池」「水田」などの整備事業を伴うもので、屯倉に収納するべき「稲」などの「産品」を安定的、継続的に収集する体制を整えていることがわ

かります。(池を造り、そこを猟場にして、鳥を(鳥肉を)献上させる等)

<http://www2.ocn.ne.jp/~jamesmac/body008.html>

食糧増産の新田のイメージですな。 第 15 代応神天皇の時、帰化人を率いて韓人池を造る。 狭山池 (大阪府):狭山池は造成でいど。狭山池を造ったのは 400 年はバックするのでは。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E7%94%B0> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%86%85%E5%AE%BF%E7%A6%B0>

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8B%AD%E5%B1%B1%E6%B1%A0_\(%E5%A4%A7%E9%98%AA%E5%BA%9C\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8B%AD%E5%B1%B1%E6%B1%A0_(%E5%A4%A7%E9%98%AA%E5%BA%9C))

公孫氏ですが、朝鮮は魏の支配下でなく、管理下が正しいのでは。

公孫氏は魏志倭人伝の陳寿が皇帝に卑弥呼の事を報告。直後、司馬懿により斬首、虐殺された。遼東の成年男子 7000 人を虐殺、虐殺されたのは扶余と思われる。卑弥呼は韓半島の倭国 に帰る予定であった。

景初 2 年 8 月 23 日、公孫淵父子をはじめ廷臣を斬首、更には遼東の成年男子 7000 人を虐殺 した。その首は堆く積まれ京観(高楼)と呼ばれた。公孫淵の首は洛陽に送られ、洛陽に留まっていた兄の公孫晃の一族も死を賜ることになり、遼東公孫氏は滅亡した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AC%E5%AD%AB%E6%B7%B5>

このあとに渡来人(匈奴:フン族、大月氏)、が韓半島に入る。卑弥呼が関係している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%88%E6%B0%8F>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%B3%E6%97%8F>

> 朝鮮で呉と結んでいた公孫氏が滅んだのが238年ですから、それ以後は朝鮮は魏の支配 下に入ったとみるべきかもしれません。魏系の軸を傾けた測量と方位区画の作成がなされたことでしょう。

----- Re:魏年号銘鏡方位ライン投稿者:管理人
投稿日:2012年5月23日(水)22時47分36秒 返信・引用 編集済

> No.504[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 屯倉は韓半島を考慮すべきではないか。筑紫国、安芸国…が存在するようだ。
- > 屯倉の数は<応神紀>諸国、1 国に 1 屯倉で 1 船なら五百になる。
- > 魏志倭人伝で約 100 国、韓半島の百済、倭国で約 50 国、計 150 国ぐらいかな。
- > 屯倉と国の対応関係は…。 >
- > 1 大化前代における朝廷の直轄領および直轄の農業経営地。屯倉(とんそう)。
- > 「一を来目(くめ)の邑(むら)に興(た)つ」<垂仁紀> >
- > 来目皇子(くめのみこ)推古天皇 10 年(602 年)2 月、任那を滅ぼした新羅に対する新羅 征討計画の際、新羅征討将軍として軍二万五千を授けられる。4 月に軍を率いて筑紫国に至り
- > 2 (官家)大和朝廷が朝鮮半島南部に置いたという官府。実体は不明。うちつみやけ。
- > 「百済の国は、日本国(やまとのくに)の一として、ありくこと久し」<雄略紀> >
- > 3 朝廷。
- > 「一の船の名、枯野は、伊豆の国の貢(たてまつ)る船なり」<応神紀>
- > 屯倉の船の名、枯野は、伊都国の貢(たてまつ)る船なり

>

> 枯野 >> 諸国から五百の船が献上された。

なるほど、屯倉の数と船の数との関係は面白いですね。

「及び其の屯倉、猶古代(むかし)の如くにして、置かむや不や」とのたまふ。臣、即ち恭(つつし)みて詔する所を承りて、奉答(こたへ)而曰(まう)さく … 故、入部五百二十四口・屯倉一百八十一所を獻る』とまうす」とのたまふ」

屯倉の数については、天智のところで、181 という数値が出てきてます。ただ海に面していない屯倉も少数あったでしょうから、船の数から推測するとアバウトになり

ます。

百済官家の件は重要です。九州の弥生中期の正方位の方位区画は、朝鮮半島にもあったことは以前申したとおりです。前漢の武帝の時代あたりから、朝鮮経由で倭に軍事測量進出した際に作成されたものでしょう。もちろん、それ以前から百済方面へ渡った山東半島の集団によって、作成されていた可能性もあります。

ただ、問題は、先日示した呉年号銘鏡の方位区画自体は、弥生時代末期、古墳時代初期に入ってから、台湾・琉球経由で吉備・畿内・東海方面へと作成されたものでしょう。年号銘をみるに 238 年~244 年以降、20 年くらいの間に作成された方位区画とみるべきかと感じます。

そして、それが後代の屯倉方位区画へと発展していく。

そうすると、同じ九州に類似した正方位の四方区画が、弥生中期と末期~古墳初期に、2 回作成された可能性がでてくるということですね。

伊都国を拠点としている点は、重なるのですが、それ以外の拠点がかさなるかどうかは、確認作業が必要です。

また後者が朝鮮半島と関係していたかどうか?そこも課題ですね。

朝鮮で呉と結んでいた公孫氏が滅んだのが238 年ですから、それ以後は朝鮮は魏の支配下に入ったとみるべきかもしれません。魏系の軸を傾けた測量と方位区画の作成がなされたことでしょう。

しかし、同時期に日本では呉に支援された呉年号銘鏡を有する集団の方位区画が伊都から、武庫、山梨へと作成されていた。

朝鮮南部に呉と結んだ公孫氏がなんとか居残っていて、伊都も彼等の支配下だったというケースなら、27年前後で呉年号銘鏡を朝鮮で受け取り、それで日本各地に軍事進出、測量していったと考えるかもしれませんが、朝鮮半島で滅亡した、あるいは完全に追い出されたとすれば、呉から鏡を受け取るルートは、台湾、琉球経由が有力になります。

ただもうひとつ可能性があるとしたら、呉→済州島→伊都の東西方位ライン、つまり航路ですね。

済州島の円墳や文化が、平原、呉年号銘鏡を出した円墳とかかわるかどうか?そこも調べどころです。

済州島自体は、魏志に州胡として把握されていますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B7%9E%E8%83%A1>

倭の支配下にも入っていた時期があるのでしょうか。

http://kankoku-020115.tripod.com/cheju_do4_3incident/miscellany/saishuutouryokou.html

漢、韓、倭と関係しているので、中国から直接くるルートも知っていた可能性はあります。

ただ、呉から東に500キロもあるので、その距離を乗り越えられる船でないと行き来できなかったでしょう。

呉としては、台湾、琉球、鹿児島経由で、その地の海洋民族を軍隊として使ったのではないかなと思いますが、その州胡に気づくことができれば、直接呉の本国から軍隊を倭に送ることも大型船なら可能だったかもしれません。

ともあれ、その辺は物証が必要ですね。台湾の遺跡と楯築墳丘墓を結ぶ物証については、再度写真添付しておきます。

----- Re:魏年号銘鏡方位ライン投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年5月23日(水)08時30分21秒 返信・引用 編集済

> No.503[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 屯倉は韓半島を考慮すべきではないか。筑紫国、安芸国…が存在するようだ。

継体天皇二十二年条 筑紫国:1 個所<糟屋> 安閑天皇元年条 武蔵国:4 個所<横渟・橘花・多氷・倉櫟> 上総国:1 個所<伊甚>

安芸国:1 個所<廬城部> 安閑天皇二年五月条 筑紫国:2 個所<穂波・鎌> 豊国:5 個所<みさき・桑原・肝等(かと)・大抜・我鹿(あか)> 火国:1 個所<春日部>

播磨国:2 個所<越部・牛鹿> 備後国:8 個所<後城・多禰・来履・葉稚・河音・婀娜胆殖・婀娜胆年部> 阿波国:3 個所<春日部> 紀国:2 個所<経湍(ふせ)・河辺> 丹波国:1 個所<蘇斯岐(そしき)> 近江国:1 個所<葦浦>

尾張国:2 個所<間敷・入鹿> 上毛野国:1 個所<緑野> 駿河国:1 個所<稚贄>

http://homepage2.nifty.com/toka3aki/history/iwai_7.html

屯倉の数は<応神紀>諸国、1 国に 1 屯倉で 1 船なら五百になる。魏志倭人伝で約 100 国、韓半島の百濟、倭国で約 50 国、計 150 国ぐらいかな。屯倉と国の対応関係は…。

1 大化前代における朝廷の直轄領および直轄の農業経営地。屯倉(とんそう)。「一を来目(くめ)の邑(むら)に興(た)つ」(垂仁紀)

来目皇子(くめのみこ)推古天皇 10 年(602 年)2 月、任那を滅ぼした新羅に対する新羅征討計画の際、新羅征討將軍として軍二万五千を授けられる。4 月に軍を率いて筑紫国に至り <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%A5%E7%9B%AE%E7%9A%87%E5%AD%90>

2 (官家)大和朝廷が朝鮮半島南部に置いたという官府。実体は不明。うちつみやけ。「百濟の国は、日本国(や

まとのくに)の一として、ありくこと久し」〈雄略紀〉

3 朝廷。「一の船の名、枯野は、伊豆の国の貢(たてまつ)る船なり」〈応神紀〉 屯倉の船の名、枯野は、伊都国の貢(たてまつ)る船なり

<http://dic.yahoo.co.jp/dsearch/0/0na/17767400/>

枯野

諸国から五百の船が献上された。

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

魏年号銘鏡方位ライン投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 22 日(火)23 時 12 分 42 秒 返信・引用 編集済

ちょっと、先の呉年号銘鏡の方位ライン(区画)に続いて、魏の年号銘鏡を出土した地点 を結んだ方位ライン(推定区画)を作成してみました。

魏の年号銘鏡の出土地点で大枠を出して、年号銘のない三角縁の出土地点で詳細を推定して ます。

年号銘鏡についてはこちら参照。

詳しい分析は後で報告しますが、桜井茶臼山が拠点に出てきており、いわゆる畿内に見えた 10 度角の方位区画の延長線上の四方区画メッシュと考えるようです。椿井大塚山を通るラインです。

年代は正始元年、景初三年ごろで、240 年代前後ですね。 ちょうど先の赤烏年号銘鏡の年代と重なってきます。

このライン(四方区画)は九州にはほとんどかからないようです。北九州市最北部はかかる か?下関まで。

中国・瀬戸内から畿内にかけてがメインように感じます。

その後、後代、方位区画の軸角度が15 度角に変化して、関東方面へと移動していく模様。奈良に見えた四方区画の偏角の変化と対応しているのでしょうか。

比較してみると、先の呉年号銘鏡の四方区画のほうが、やや南方に位置しているのがわかり ますね。

クヌ国とヤマタイ国のラインでしょうか。ただ瀬戸内・畿内・東海で両者が交じり合うこと を考慮すると、その辺の争奪関連が課題でしょう。

NEC の PC 購入検討中の方へ - www.necdirect.jp お得なクーポン詳細はこちら! Intel® Core™ i7 搭載 PC もお買得 Ads by Google ----- Re: 呉年号
鏡方位ライン投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 22 日(火)20 時 47 分 50 秒

返信・引用 編集済 > No.501[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 屯倉は韓半島にも存在したみたいですな。

来目皇子(くめのみこ)「屯倉を来目(くめ)の邑(むら)に興(た)つ」〈垂仁紀〉 「倭屯倉の古墳群」

<http://www.kashikoken-yushikai.jp/reikai/reikai1006.html>

『日本書紀』には、茨田堤を築造してほどなく、茨田屯倉(まむたのみやけ)が立てられたと ある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8C%A8%E7%94%B0%E5%A0%A4>

依網屯倉

<http://www.city.matsubara.osaka.jp/10,150,51,258.html>

《「み」は接頭語。「やけ」は「やか(家・宅)」の音変化》 1 大化前代における朝廷の直轄領および直轄の農業経営地。屯倉(とんそう)。

「一を来目(くめ)の邑(むら)に興(た)つ」〈垂仁紀〉

来目皇子(くめのみこ)推古天皇 10 年(602 年)2 月、任那を滅ぼした新羅に対する新羅征 討計画の際、新羅征 討将軍として軍二万五千を授けられる。4 月に軍を率いて筑紫国に至り <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%A5%E7%9B%AE%E7%9A%87%E5%AD%90>

2 (官家)大和朝廷が朝鮮半島南部に置いたという官府。実体は不明。うちつみやけ。「百済の国は、日本国(やまとのくに)の一として、ありくこと久し」(雄略紀)

3 朝廷。「一の船の名、枯野は、伊豆の国の貢(たてまつ)る船なり」(応神紀) 屯倉の船の名、枯野は、伊都国の貢(たてまつ)る船なり

<http://dic.yahoo.co.jp/dsearch/0/0na/17767400/>

白村江の損害から船舶 400 隻、兵 10,000 人、馬 1,000 頭 ジャンク船は大型船で単純に 1 隻、兵 250 人、2.5 頭が乗る。遣唐使船より遥かに大きい、船頭等を入れると 5 百人は超えるのではないか。

>> 猪名部御田の御田というのも、屯倉のことですね。伊都と同じく、武庫はもっとも重要な軍 事港のひとつだったでしょう。 >

- > 1 応神までの船:枯野(30 メートル級帆船)古墳の船型埴輪。
- > 2 それ以後の猪名部の船:50 人乗り?
- > 3 白村江以降の亡命百済人による 150 人乗りジャンク船(遣唐使船)
- > の 3 種があったのではないのでしょうか。
- > 2 の船は、飛鳥や斑鳩の塔とか、その辺の構造と関係するかもしれませんね

Re:呉年号鏡方位ライン投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 22 日(火)07 時 32 分 56 秒 返 信・引用 編集済

> No.500[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 屯倉、さざれ石の位置がほぼ一致してきましたな。 いえ、実は私もプサン→出雲→鹿島の 5 度角ラインと一致してくるのではと期待したのです

が、似ているようで、角度も遺跡も異なる別もののようです。

それで先の四方区画メッシュで示した、伊都平原古墳、武庫川沿いの 3 つの特徴を洗い出す必要があります。

安倉高塚古墳

http://blog.goo.ne.jp/tommz_1938/e/2d80d827ec9242ab72fd1fd8dcd525

鳥居狐塚古墳

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B3%A5%E5%B1%85%E5%8E%9F%E7%8B%90%E5%A1%9A%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

ともに呉年号銘鏡、円墳、竪穴式石室で、しかも朱を塗っており、またホウ製の内行花紋鏡を 出しております。後者は割竹型木棺もあり、この辺は平原の 4 号墳や楯築墳丘墓とも共通しているといえるでしょう。4 世紀代とされていますが、もう少し古い可能性を感じますね。吉備 系の筒型埴輪が出ているようです。

それで、いわゆる前方後円墳・三角縁の体制に乗っかってない点も重要です。

難しいのですが、1170 年ごろのマキムク型古墳の全国展開、その後の 3 世紀中葉?の 2 前方後円墳の全国展開、そしてこの 3 円墳+呉年号銘鏡の全国展開、これらの 3 種をどう捉 えるか?が課題です。

おそらく、呉の影響を受けた台湾人を中心とした軍隊が、石訓などの海洋的な文化をもたら した流れに、3 が入るだろうと感じるのですが、ただ、ホウ製の内行花紋鏡を所有しているの は、伊都国を支配した件と関係してくるのではないかと感じます。この軍港を支配下に置い たときに、混合した?のかかもしれません。

伊都の軍港、武庫水門、枯野船と伊豆の背景には、呉の支援を受けた南方系集団が見えてきます。

その測量方法は、弥生時代の九州と同じで南北を正軸とした長方形四方区画。これらは後の九州とつながるを持つ河内王朝、屯倉制度へと引き継がれます。

それとは別に魏の測量は、畿内に見えるような数度角度がずれている偏磁気曲線によるもので、河内王朝の直前までその測量方法がとられてました。

先ほど魏志を読んでいて気づいたのですが、サイシュウ島の記載がありますね。本来は朝鮮の南西と記すべきところを、西にある島と書いているのが気になります。軸が傾いていてかなりアバウトなんです。

その距離もしかすると、魏の内部における政治的な影響を受けているのかもしれませんが。下記のサイトが面白いです。 <http://plaza.rakuten.co.jp/sailmssn/24000>

そうすると、倭人から聞き出した距離と国名、方位の部分だけが、逆に正しい可能性があるんですね。倭人は前述のように、弥生時代からきっちり南北を軸にとって測量してますから。

河内王朝以降は、また南朝・百済よりに戻るのではないのでしょうか。呉の地方将軍が私有民を屯田させた形跡、それが屯倉制とつながっていくんでしょう。九州から出てきたチュウアイあたりからはじまるんです。那津官家で後期屯倉ですね。部分的に継体以降にも受け継がれる。

> 屯倉、さざれ石は大化の改新までの歴史みたいですな。 >>「屯倉」は『日本書紀』の表記。『古事記』『風土記』木簡では「屯家」「御宅」「三宅」「三家」とも表記される。「官家」もミヤケと読まれることもあり、後に「郡家」はコオリノミヤケ、五十戸家がサトノミヤケと読まれた可能性がある。ミヤケのミは敬語、ヤケは家宅のことで、ヤマト政権の直轄地経営の倉庫などを表した語である。それと直接経営の土地も含めて屯倉と呼ぶようになった。屯倉は、直接経営し課税する地区や直接経営しないが課税をする地区も含むなど、時代によってその性格が変遷したらしいが、詳しいことは分かっていない。大化の改新で廃止された。

しかし、そうすると、呉の支援を受けた海人系が、吉備経由で、東海・山梨まで支配を広げて測量したのちに、前方後円墳・三角縁体制を築いていった魏系で、最終的に畿内へ移動した勢力とどういう対峙の仕方をしていたのか？その辺がいまいちわからないですね。

あと、武庫の安倉高塚古墳、山梨の鳥居狐塚の距離がちょうど 300 KM ジャストである点に興味を感じてます。

100KM というのは、メートル法ですが、子午線の弧の長さの 100 分の 1 なんです。

難しいのですが、周碑算径で、影の長さから緯度と距離を割り出してますよね。

南北の距離が100 キロでてくれば、これはもう子午線を分割したとしか考えられない数値で、緯度計算してたことがわかるのですが、斜線で300KM なので、その辺微妙なところ です。

おそらく、日本でも畿内の測量は、それを使っているのですが、あるいは弥生中期の時点で、

使っていた可能性があるかもしれません。九州の四方区画はやや南北に長いんですね。畿内のように正方形区画ではない。

ただいづれにしろ、高度な計算が必要で、文字がないとできないものですから、とても原住民ができるレベルではないんです。軍事測量をするにしても、現地人の軍隊とは別に、中国の軍 中枢部から、測量部隊が派遣されないと、おそらく不可能だったでしょう。前漢の馬王タイ墓の九州サイズの四方区画軍事地図の正確さ、あれをつくれる優秀な技師ですね。

造船にしても、密閉構造から材質まで、かなり高度なものをもっていたはずです。先の武庫に拠点をいた新羅系の猪名部御田の話がおもしろいですね。

http://www.konishi.co.jp/html/fujiyama/itaminorekishishi/Part_1/page10.html

船のみならず楼閣まで造っているところを見ると、相当な技術者です。

猪名部御田の御田というのも、屯倉のことですね。伊都と同じく、武庫はもっとも重要な軍事港のひとつだったのでしょう。

- 1 応神までの船;枯野(30メートル級帆船)古墳の船型埴輪。
- 2 それ以後の猪名部の船:50人乗り?
- 3 白村江以降の亡命百済人による150人乗りジャンク船(遣唐使船)

の3種があったのではないのでしょうか。

2の船は、飛鳥や斑鳩の塔とか、その辺の構造と関係するかもしれませんね。

新羅系、エンタシス…。

ローズの香りで吐息から美しく - www.wakasa.jp 《わかさ生活ソフィアローズ》吐息・体からバラの香りをすぐに実感! 2012年の金環食 Year - createthefuture.jp/ 吉田美和が歌った《時間旅行》の金環食 Year、ついに到来 "格安航空券"まだ決まってる? - www.skygate.co.jp 6月から燃油代が上がるその前に! 格安航空券【バーゲン中】/SKYGATE DELL-公式サイト個人 - www.dell.com 毎週替わるキャンペーン実施中。インテル® Core™ 搭載 PC 多数。土地価格 査定 60秒でスグ - sell.yeay.jp 住所を選ぶと厳選 6社の土地価格査定を 比較できる!/利用は無料/全国対応

Ads by Google ----- Re: 呉年号鏡方位ライン投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2012年5月21日(月)06時39分6秒 返信・引用 編集済

> No.499[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

屯倉、さざれ石の位置がほぼ一致してきましたな。

韓半島、新羅から屯倉に物資が送られ、古墳増築に使用されたみたいですな。

ほぼ海岸から内陸に少しの所、古墳が見られる。さざれ石が屯倉と一致すれば さざれ石を探せば古代豪族、古墳、遺跡…に繋がるはず。

まだ、古代豪族を見逃していますな。

屯倉、さざれ石は大化の改新までの歴史みたいですな。

「屯倉」は『日本書紀』の表記。『古事記』『風土記』木簡では「屯家」「御宅」「三宅」「三家」とも表記される。「官家」もミヤケと読まれることもあり、後に「郡家」はコオリノミヤケ、五十戸 家がサトノミヤケと読まれた可能性がある。ミヤケのミは敬語、ヤケは家宅のことで、ヤマト 政権の直轄地経営の倉庫などを表した語である。それと直接経営の土地も含めて屯倉と呼ぶようになった。屯倉は、直接経営し課税する地区や直接経営しないが課税をする地区も含む など、時代によってその性格が変遷したらしいが、詳しいことは分かっていない。大化の改新で廃止された。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%AF%E5%80%89>

中期には巨大古墳が次々と作られたが、後期には前方後円墳を中心とした群集墳が出現する。豪族ら生活共同体の墳墓であり、中央の他に地方にも経済的集団が存在してきていることを示しているのである。

いいかえれば、律令体制が確立していたといえる現象なのです。

<http://web1.kcn.jp/sendokohun/kohunkiso.htm#終焉> 「屯倉」は『三韓征伐(新羅征伐)』に始まり、『白村江の戦い(663年)』で終止符を打った。

古墳も同様みたいですな。

> その後、先の呉年号銘鏡を出土した古墳を結んだ方位ラインについて、方位区画メッシュを作成してみました。かなり試行錯誤の線が残り、雑な図ですが、下記添付します。 >> 兵庫・武庫の 安倉高塚古墳と 山梨の

鳥居狐塚古墳、伊都国・平原遺跡を結んだライン が、斜め線です。

> ほとんどこの方位区画作成当時の遺跡が残っていないように見えます。ただ後代の一部の屯倉地名と関係しているようで、その集団の開拓地が伝領された可能性を感じます。 >> さらに想像をたくましくすれば、一時は伊都や吉備、畿内、山梨まで呉系の勢力が圧倒した 可能性を感じます。238 年~260 年くらいまででしょうか。

>> 確かに垂仁朝あたりから、伝説的には屯倉がみえるんですね。少なくとも、その時代の四方 区画はすでに実在してますから、その四方区画の開拓に際して、後の屯倉制に関係するよう な軍事屯田システムがあった可能性も感じます。 >> もう少し魏と呉の影響について考えてみたいところです。 。

Re:呉年号鏡方位ライン投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 21 日(月)02 時 42 分 17 秒 返 信・引用 編集済
> No.498[元記事へ] その後、先の呉年号銘鏡を出土した古墳を結んだ方位ラインについて、方位区画メッシュを作成してみました。かなり試行錯誤の線が残り、雑な図ですが、下記添付します。

兵庫・武庫の 安倉高塚古墳と 山梨の鳥居狐塚古墳、伊都国・平原遺跡を結んだラインが 斜め線です。

それを、西から 8 分割してます。1 方位区画の東西距離は 96 KM 前後、南北は 145(7.2)Km 前後です。

ほとんどこの方位区画作成当時の遺跡が残っていないように見えます。ただ後代の一部の屯倉 地名と関係しているようで、その集団の開拓地が伝領された可能性を感じます。

強いていえば、楯築墳丘墓が、ちょうど西から 4 番目の方位区画の中線上に載るように見えました。 48 KM 前後の四方区画の可能性もあります。

以前楯築墳丘墓の上に立つ鏡岩と、台湾の遺跡のそれとがまったく同じ形であることを述べ たとおりですが、これらの方位区画に、呉鏡、つまり呉系の測量方法を見出す線は、妥当かも しません。

楯築墳丘墓

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A5%AF%E7%AF%89%E9%81%BA%E8%B7%A1>

上記の呉年号銘鏡については、半円方形帯神獣鏡で、同じくその鏡を出土した北和城南古墳 の出土遺物を見ると、下記サイトによると、車輪石 鋏形石 石釧といった遺物を出土する 集団に分類されるそうです。

<http://asilka.blog61.fc2.com/blog-entry-802.html>

鳥の山古墳などのグループに入るそうで、どうも南方系中国人のグループのようですね。 櫛山古墳が入っているのが楯築墳丘墓と同じ双方中円墳である点で、興味深く感じます。

半円方形帯神獣鏡(北和城南古墳出土)

<http://www.narahaku.go.jp/collection/464-4.html>

鳥の山古墳

<http://www.kashikoken.jp/from-site/sima.htm>

鳥居狐塚古墳

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B3%A5%E5%B1%85%E5%8E%9F%E7%8B%90%E5%A1%9A%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

それで、ひとつの仮説なのですが、おそらく 238 年~244 年前後に、これらの呉年号銘を 得た集団と、邪馬台国に属する魏と結んだ集団がいて、2 分割していたという線です。クヌ国 論ともかかわってくるかもしれません。

台湾・琉球経由で、吉備に入り込み、さらに兵庫・武庫の港、そして東海を越えて、山梨方面 まで拡大していった可能性を感じます。

畿内の初期古墳が、ある時期から吉備系の影響を受け始めるようですが、何か関係あるかも しません。

ちょっと秦野さんの半島・ヒミコ論とほとんど重ならない感じですが、魏と呉との間での 倭国争奪戦があった可能性を感じますね。

魏も呉も、前漢代からの軍事測量技術を駆使していたわけですから、支配領域に方形区画を 組んで軍事地図を作成するのは当然といえるでしょう。ただもしかすると、拠点や尺度が異 なったかもしれません。

240 年代の呉鏡があるということは、その時代に呉から支援を受けていた集団がいたと いうことで、それが6 年以上続いていたとみるべきかもしれません。

さらに想像をたくましくすれば、一時は伊都や吉備、畿内、山梨まで呉系の勢力が圧倒した可 能性を感じます。238 年~260 年くらいまででしょうか。

その後、何らかの契機があって、呉系が劣勢に入った可能性を感じます。呉が弱まる 270 年 ごろには、呉の後盾を失っていた可能性も感じますね。

あと、呉の将軍が、私的な世襲が認められ屯田兵を有していたという点が気になります。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_\(%E4%B8%89%E5%9B%BD\)#.E5.AD.AB.E4.BA.AE.E3.83.BB.E5.AD.AB.E4.BC.91](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_(%E4%B8%89%E5%9B%BD)#.E5.AD.AB.E4.BA.AE.E3.83.BB.E5.AD.AB.E4.BC.91)

開拓したまま本国に戻らなかった連中もいたのではないのでしょうか。
意外に屯倉制の起源は古いかもしれません。

確かに垂仁朝あたりから、伝説的には屯倉がみえるんですね。少なくとも、その時代の四方区 画はすでに実在してますから、その四方区画の開拓に際して、後の屯倉制に関係するような

軍事屯田システムがあった可能性も感じます。 もう少し魏と呉の影響について考えてみたいところです。

NEC の PC 購入検討中の方へ - www.necdirect.jp 無料で 3 年間メーカー保証付だから安心 最新 Intel® Core™ i7 搭載 PC もお買得 Ads by Google

----- Re: 呉年号鏡方位ライン投稿者: 秦野北斗
投稿日: 2012 年 5 月 20 日(日) 22 時 13 分 23 秒 返信・引用 編集済

> No.497[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

伊豆の国は伊都国が正しいのでは、応神天皇と伊豆の年代が合わない。

応神天皇(おうじんてんのう、仲哀天皇 9 年 12 月 14 日(201 年 1 月 5 日) - 応神天皇 41 年 2 月 15 日(310 年 3 月 31 日))

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%9C%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87> 現在の駿河・伊豆・遠江の三国が成立するのは大宝元年(701 年)頃である。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%8A%E8%B1%86%E5%9B%BD>

> 三十一年秋八月、群卿に詔していわれるのに、「官船の枯野は、伊豆の国から奉ったもので あるが、いまは朽ちてきて用に堪えない。しかし長らく官用を勤め、功は忘れられない。その 船の名を絶やさず、後に伝えるには何かよい方法はないか」と。群卿は有司に命じて、その船 の材を取り、薪として塩を焼かせた。五百籠の塩が得られた。それをあまねく諸国に施された。そして船を造ることになり、諸国から五百の船が献上された。それが武庫の港に集まった。そ のとき新羅の調の使が武庫に宿っており、そこから失火した。その延焼で多数の船が焼けた ので新羅の人を責めた。新羅王はこれを聞き、犬いに驚いてすぐれた工匠を奉った。これが猪 名部らの先祖である。

> 枯野の件ですが、伊豆国の話なので、伊豆半島と解釈されてますが、伊都国とかかかわるとす ると又興味深いですね。 >

神功皇后の三韓征伐で新羅は戦わずして降服して朝貢を誓い。神功皇后は任那日本府を置き、 応神天皇が統治する。日本への物資輸送のため、伊都国(九州、太刀洗)に護衛に使用する枯野 の建造を依頼。魏志倭人伝に登

場する伊都国、位置等は徐福と邪馬台国参照。

武庫港は魏志倭人伝の卑弥呼が韓半島、倭国(邪馬台国)を脱出した港になる。皮肉に歌が残る。釜山港へ帰れ、兄弟が甦った釜山港…が卑弥呼と弟になる。釜山港は忠武港(統営市(トンヨンシ)は大韓民国慶尚南道の市)に歌の作詞を盗用、編曲。これらから忠武港付近で新羅の近くになる。

韓半島の状況を整理する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%B1%E5%96%B6%E5%B8%82>

<http://www.geocities.co.jp/collegeLife-Labo/6084/Pusanhang.htm>

住吉大神の神託で再び新羅征討の託宣が出たため、対馬の和珥津(わにづ)を出航した。お腹に子供(のちの応神天皇)を妊娠したまま海を渡って朝鮮半島に出兵して新羅の国を攻めた。新羅は戦わずして降服して朝貢を誓い、高句麗・百済も朝貢を約したという。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E9%9F%93%E5%BE%81%E4%BC%90>

筑紫へ凱旋してきた神功皇后は、俄に産気づき皇子を産み落とす。

<http://inoues.net/tenno/oujin.html>

筑紫:二千余里は秦野距離が対応する。「任那は筑紫国を去ること二千余里、北は海に阻まれていて、鷄林の西南に在り」

<http://www.ne.jp/asahi/isshun/original/note43.html>

任那=任那日本府:任那日本府は忠武港付近で新羅の近くになる。武庫港=鎮海湾 馬山 市?

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%BB%E9%82%A3%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%BA%9C>

三韓からの護衛船の集積地が地名として残ったのが武庫でないか。屯倉を繋げば集積港と古代の航路が出現しますよ。

- ・ > 兵庫とも関係し、いわゆる軍事港をもった屯倉でしょう。
- ・ > 枯野が速いのは、新たに導入した帆船だったからでしょう。
- ・ > 日本近海は偏西風が吹くので、地方へ向かうのには速かったはずです。 >
- ・ > 昨日示した風向きをみると、新潟方面の北東への風向きが強いですね。
- ・ > 蝦夷遠征でも早くついたでしょう。 >
- ・ > 逆に瀬戸内海は風が弱い上に、潮流がマチマチで帆があっても、時間がかかるかもしれません。
>> 水深が平均 38メートルと浅いのも気になりますね。巨船だと、港で座礁する可能性を感じます。
>
- ・ > 諸国から船が集まったのは、神戸の武庫という港になりますね。 >
- ・ > 兵庫とも関係し、いわゆる軍事港をもった屯倉でしょう。 >
- ・ > 河内王朝なのに、難波・住吉津の話として描かれてないのがミソです。おそらく潮流と地形の関係で、神戸から出たほうが便が良いんでしょう。戦争では数日の遅れが命取りになりますからね。 > 武庫以降は陸路をつかった可能性も感じます。

>> その辺の瀬戸内海流の知識は、弥生時代からあったでしょうから、武庫あたりの遺跡を探れば、邪馬台国のありかもわかってくるかもしれません。不呼国というのがありますね。

> これが、邪馬台国とダイレクトにつながってくる方位区画かもしれませんね。 > 後日またその区画を作成してご提示しましょう。。

----- 呉年号鏡方位ライン投稿者:管理人 投稿
日:2012年5月19日(土)22時00分12秒 返信・引用 編集済

> No.496[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>> 三十一年秋八月、群卿に詔していわれるのに、「官船の枯野は、伊豆の国から奉ったものであるが、いまは朽ちてきて用に堪えない。しかし長らく官用を勤め、功は忘れられない。その船の名を絶やさず、後に伝えるには何かよい方法はないか」と。群卿は有司に命じて、その船の材を取り、薪として塩を焼かせた。五百籠の塩が得られた。それをあまねく諸国に施された。そして船を造ることになり、諸国から五百の船が献上された。それが武庫の港に集まった。そのとき新羅の調の使が武庫に宿っており、そこから失火した。その延焼で多数の船が焼け たので新羅の人を責めた。新羅王はこれを聞き、犬いに驚いてすぐれた工匠を奉った。これが 猪名部らの先祖である。

> 枯野は伊豆の国=伊都国で建造され、五百籠の塩を諸国に配ると五百の船が献上された。 > 枯野の語源:枯=鳥、八咫鳥:案内人。 >

枯野の件ですが、伊豆国の話なので、伊豆半島と解釈されてますが、伊都国とかかわるとする と又興味深いですね。

日本書紀 応神天皇の処 五年冬十月伊豆国に命じて船を造らせた。長さ十丈の船ができた。ためしに海に浮かべると

軽く浮かんで早く行くことは、走るようであった。その船を名づけて枯野といった。

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

耐用年数が、示されてますね。応神 5 年築造~31 年解体で、25 年前後で官船の寿命がくる ことをしめてます。邪馬台国時代からになると、200 年以上つかった計算になりますが、 ちょっと無理があるような気がしますね。確かにうちの先祖の江戸時代からの家屋はありますけど、海の場合は嵐も多いですし…。

枯野が速いのは、新たに導入した帆船だったからでしょう。 日本近海は偏西風が吹くので、地方へ向かうのには速かったはずですよ。

昨日示した風向きをみると、新潟方面の北東への風向きが強いですね。
蝦夷遠征でも早くついたのでしょう。

逆に瀬戸内海は風が弱い上に、潮流がマチマチで帆があっても、時間がかかるかもしれせん。

http://www.cgr.mlit.go.jp/ctc/tech_dev/kouryu/T-Space/ronbun/pdf/19_okayama/3-1.pdf

水深が平均 38 メートルと浅いのも気になりますね。巨船だと、港で座礁する可能性を感じます。

諸国から船が集まったのは、神戸の武庫という港になりますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%BA%AB>

兵庫とも関係し、いわゆる軍事港をもった屯倉でしょう。

河内王朝なのに、難波・住吉津の話として描かれてないのがミソです。おそらく潮流と地形 の関係で、神戸から出たほうが便が良いんでしょう。戦争では数日の遅れが命取りになりますからね。 武庫以降は陸路をつかった可能性も感じます。

その辺の瀬戸内海流の知識は、弥生時代からあったでしょうから、武庫あたりの遺跡を探れば、邪馬台国のありかもわかってくるかもしれません。不呼国というのがありますね。

<http://homepage1.nifty.com/moritaya/gisi.html>

C14 法でBC 245 と推定される大型建造物の跡があるそうです。

<http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/chronicles/visual/01kodai/kodai1-c3.html>

伊和志津神社(兵庫県)

<http://kamnavi.jp/ym/hiboko/isosi.htm>

伊都国、県主と関係し、屯倉(三宅)経営にも一枚噛んでいますね。天日矛と新羅。
兵庫県に銘文鏡が多いのが気になりますね。

<http://www.ne.jp/asahi/issun/original/mater10.html>

安倉高塚古墳(兵庫県)(半円方形(格)帯神獣鏡) □(赤)鳥七年□□(太歳)在丙午 昭如日中 造□(作)明□(竟) 百□
(幽)璋 服者

富貴 長樂未央 子孫□□(番昌) □□□(可以昭)明 (右回り) この赤鳥七年は244年の呉年号。安倉は先のとおり屯倉の倉のことでしょう。重要拠点。

山梨の狐塚古墳(半円方形帯神獣鏡) 赤鳥元年五月廿五日丙午 □□□□(造作明竟) □□□□(百漣清銅) □□(服者)
君侯 宜

□(子)孫□(壽) 萬年 (右回り) 赤鳥元年は238年。

それで、興味深いことに、この安倉高塚古墳と、狐塚古墳、そして伊都の平原古墳が、1直線の 方位ライン上に
のることが判りました。図を添付します。

その距離が、平原→高塚:493KM 高塚→狐塚:299KM で、約5:3になってます ね。

おそらく、呉系の技術職人が、238年前後には到来して、測量行って、そこに測量に使用し た鏡を埋めている
んです。

弥生中期からすでに九州の弥生遺跡各拠点を測量しつつしていたことは、前述したとおりで すが、その後、こ
の時期までには、全国に測量を拡大していたのでしょう。

ポイントは、15度傾いていることですね。そして5:3の距離尺。 おそらく瀬戸内から山梨までを、東西10分
割した例の方位区画があるんです。 南北に6分(比率)。(90度÷15度) 後で探せば弥生末期~古墳初期の遺跡
がその方位区画の各点から出てきます。

これが、邪馬台国とダイレクトにつながってくる方位区画かもしれませんね。 後日またその区画を作成してご
提示しましょう。

Ads by Google ----- Re:ケルト人のDNA投稿
者:秦野北斗 投稿日:2012年5月19日(土)10時27分46秒 返 信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

枯野は官船、護送船のようです。五百龍の塩は諸国に配られ、神社に祭られ塩が神体になる。 鴉=鳥神社で話
しを聞くと祭るのは船との事。応神天皇の依頼で建造したのは伊都国 (九州 の太刀洗)。太刀洗には神功皇后
の伝説が多い、朝倉も同様。枯野は伊都国から有明海、対馬海 流にのり韓国釜山(武庫の港)まで一直線になる。
鴉=鳥神社にはふしぎと卑弥呼が登場する。

注意点は鳥系神社は船を祭る。また、八咫鳥は高句麗、雑賀の家紋。中近東に八咫鳥の紋が見 られるとのこと。
この頃には韓半島は百済になっている。官船、護送船はユダヤの提案で建造 されたのか。

護送船団は海軍の成立にまで遡ることができる古い戦術である。帆走軍艦の時代においても ドッガー・バンク
海戦や第 3 次ウェサン島海戦など、護送船団をめぐる大規模な海戦が発 生している。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AD%B7%E9%80%81%E8%88%B9%E5%9B%A3>

> 三十一年秋八月、群卿に詔していわれるのに、「官船の枯野は、伊豆の国から奉ったもので あるが、いまは朽
ちてきて用に堪えない。しかし長らく官用を勤め、功は忘れられない。その 船の名を絶やさず、後に伝えるに
は何かよい方法はないか」と。群卿は有司に命じて、その船 の材を取り、薪として塩を焼かせた。五百龍の塩が
得られた。それをあまねく諸国に施された。 そして船を造ることになり、諸国から五百の船が献上された。そ
れが武庫の港に集まった。そ のとき新羅の調の使が武庫に宿っており、そこから失火した。その延焼で多数の
船が焼けた ので新羅の人を責めた。新羅王はこれを聞き、犬いに驚いてすぐれた工匠を奉った。これが猪 名

部らの先祖である。

枯野は伊豆の国=伊都国で建造され、五百龍の塩を諸国に配ると五百の船が献上された。

枯野の語源:枯=烏、八咫烏:案内人。

<http://9127.teacup.com/19syoucha/bbs/95>

野=奴、どうも兵士のようなだ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A5%B4>

高木神の命令で八咫烏が遣わされ、その案内で熊野から大和の宇陀に至った。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E6%9D%B1%E5%BE%81>

> 箱舟の年代がC14 法でBC3000 年ですから、そうすると、その時代にすでに国家プロジェクトを組めるだけの文明地域があって、その残骸があそこに残っていると理解すべきなのかもしれません。 >

> 確かに徐福の秦の時代なら可能だったかもしれませんね。ただそれ以前の弥生人の祖先の 江南遺跡の時代に、それが可能だったか?そこも課題でしょう。 >

Re:ケルト人の DNA 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 19 日(土)09 時 09 分 10 秒 返 信・引用

> No.493[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

国力、古事記に神々の出現がある。文章から日本は連合国状態とよめる。範囲は常陸から沖縄、徐福伝説では九州から青森になる。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami.html

<http://www.asukanet.gr.jp/tobira/jofuku/jofuku.htm>

昔むかし、この世界で最初に天に現れましたのは、アメノミナカヌシノカミ(天之御中主 神)という神様でした。次に、タカミムスビノカミ(高御産巢日神)とカミムスビノカミ (神産巢日神)という神様が出現なさいました。この三柱(みはしら。※神様の数は、「柱」で 数えます。)の神様は、そのお姿を地上には、直接現しませんでした。

天之御中主神 統率者で今の天皇?

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami.html

和船はモノコック構造、ジャンクも竜骨(キール)が無いので同系。外壁を「すりあわせ」で 防水したようすな。材料はふんだんにあった模様。文章に鬱蒼(うっそう)とする…。 檜原の地名から檜林が思い浮かぶ。

貞観十五年十一月。使至。太宗矜其路遠、遣高表仁持節撫之。表仁浮海、數月方至。自云路經 地獄之門。親見其上氣色蓊鬱。又聞呼叫鎚鍛之聲。甚可畏懼也。表仁無綏遠之才。與王爭禮。不 宣朝命而還。由是復絕。

貞観十五年(641 年)十一月。使者が到着。太宗はその道程の遠さを哀れむ。高表仁に節を 持たせて派遣し、これを慰撫した。表仁は海を乗り出し、数カ月で到達した。(帰国した高表仁が)道は地獄の門を経て、その上に気色(風雲の気色=天気の様子)は 鬱蒼(うっそう)とする(天空に激しく雲が巻き起こる)のを目撃し、鎚(金槌)で殴られているような絶叫が聞こえ、甚だしい恐怖を感じたと言った。 表仁には慎みと遠慮の才覚(外交の才能)がなく、王と礼式で争い、朝命を宣下もせずに

帰還した。ここに再び通交が途絶えた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

純和風木造橋の宇治橋は、長さ 101.8 メートル、幅 8.4 メートル。長さ 4.2 メートル、幅 36 セ ンチ、厚

さ 15センチのヒノキの渡り板 600枚を「すりあわせ」とよばれる船大工独得の造船技術で並べ、橋脚は水に強いケヤキ材 3本立 13組を使用、そのほか擬宝珠(ぎぼし)16基 が取り付けられる。来年秋までの完成を目指して工事を進め、新橋完成までは仮橋を建設して代用する。

<http://iseshima.keizai.biz/headline/503/>

和船 日本は船舶の設計思想において西洋の船と大きく異なる形の発展を遂げた。すなわち、西洋の船が応力を竜骨や肋材で受け、外板は応力を負担しない構造であったのに対し、日本の船舶は古代の丸木舟以来、外板が応力を受け持つモノコック構造だったのである。船形埴輪に見られる古墳時代の準構造船、平安時代の遣唐使船、諸手船、明治時代の打瀬船、あるいは丸子船や高瀬舟など内水面で使われた船舶に至るまで、日本の船舶は全てこのような設計思想のもとに建造されていた。和船とは、こうした基本構造のもとに、日本各地の風土や歴史に応じて多種多様な発展を遂げた船舶の総称なのである。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B8%86%E6%8E%9B%E3%81%91%E8%88%9F>

ジャンク(戎克、英: Junk) 船体中央を支える構造材である竜骨(キール)が無く、船体が多数の水密隔壁で区切られていることによって、喫水の浅い海での航行に便利で耐波性に優れ、速度も同時代のキャラックやキャラベル・ガレオンと比べ格段に優った。また、横方向に多数の割り竹が挿入された帆によって、風上への切り上りに優れ、一枚の帆全体を帆柱頂部から吊り下げることによって、横風に対する安定性が同時代の竜骨帆船と比べ高く突風が近づいた時も素早く帆を下ろすことを可能にしている。この二つが大きな特徴である。

菱垣廻船と樽廻船

<http://www.geocities.jp/shimizuke1955/371bezai1.html>

> 船体と国力について考えてみる必要がありそうですね。先の鄭和の件でも、明の国力があったから造れたわけです。 >> 白村江の数百隻も、ひとつの港で製造したわけではなく、全国各地の豪族に作らせたので、可能だったのかもしれませんが。木材や人員など、かなり負担がかかります。

----- Re:ケルト人のDNA 投稿者:管理人 投稿日:2012年5月19日(土)04時16分55秒 返信引用

> No.492[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 神風 >> 古くは日本書紀の垂仁紀において、「神風(かみかぜ)の伊勢の国は常世の波の敷浪の帰する国なり。この国に居らむと思ふ」という倭姫命(ヤマトヒメノミコト)が天照大神から受けた神託などに登場する。ここでの「神風の」は伊勢にかかる枕詞である。 >> 神功皇后 >> 1 神功一年冬十月三日、鰐浦から出発された。その時風の神は風を起こし、波の神は波を上げて海中の大魚はすべて浮かんで船を助けた。風は順風が吹き、帆船は波に送られた。舵や櫂を使わないで新羅に着いた。 > その時、船をのせた波が国の中にまで及んだ。これは天神地祇がお助けになっているらしい。 > 新羅の王は戦慄して、なすべきを知らなかった。多くの人を集めているのに、「新羅の建国以来、かつて海水が国の中まで上がってきたことは聞かない。天運が尽きて、国が海となるか

も知れない」と。 > ~~皇后のもっておられた矛を、新羅王の門にたて、後世の印とした。その矛は今も新羅王門にたっている。

ちょっと風について調べてみました。 全国各地の風向きです。

<http://www3.pa.hrr.mlit.go.jp/nihonkaikankyo/shizen/kisyo/kaze/kenbetu.html>

面白いのは、対馬の厳原港の風向きが、年間を通じて北北西の風であることですね。しかも結構強い。帆船を使えば、南へ向かうのに加速できたかもしれません。対馬海流の東向きに流れに対抗して、南進するには、帆を使うとよいことになりますね。

逆に朝鮮へ向かうときは、人力が必要ということになるでしょうか。

あと上記の神風は台風とかじゃないですかね。朝鮮に向かう台風を利用できれば、早く着いたでしょうけど、その前に帆が折れちゃうんじゃないかな…。

----- Re:ケルト人のDNA 投稿者:管理人 投稿
日:2012年5月18日(金)22時09分17秒 返信引用 編集済

> No.492[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 巨大船 >> 伊勢神宮に神風、神功皇后で時風の神は風を起こし、波の神は波を上げて海中の大魚はすべて浮かんで船を助けた。どうも、対馬の鰐浦から台風の風に乗って新羅に至った模様。 > 帆船なので船体の強度は相当なものである事は間違いない。

> 新羅は倭国にある。釜山、狗耶韓国の洛東江(らくとうこう、ナクトンガン)の上流にあったようだ。

船体と国力について考えてみる必要がありますね。先の鄭和の件でも、明の国力があったから造れたわけですね。

白村江の数百隻も、ひとつの港で製造したわけではなく、全国各地の豪族に作らせたので、可能だったのかもしれない。木材や人員など、かなり負担がかかります。

それで枯野の記載でも、

三十一年秋八月、群卿に詔していわれるのに、「官船の枯野は、伊豆の国から奉ったものであるが、いまは朽ちてきて用に堪えない。しかし長らく官用を勤め、功は忘れられない。その船の名を絶やさず、後に伝えるには何かよい方法はないか」と。群卿は有司に命じて、その船の材を取り、薪として塩を焼かせた。五百艘の塩が得られた。それをあまねく諸国に施された。そして船を造ることになり、諸国から五百の船が献上された。それが武庫の港に集まった。そのとき新羅の調の使が武庫に宿っており、そこから失火した。その延焼で多数の船が焼けたので新羅の人を責めた。新羅王はこれを聞き、犬いに驚いてすぐれた工匠を奉った。これが猪名部らの先祖である。

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

とありますから、諸国にまた中型船を作らせてますね。それで500隻になった。

そうすると、河内王朝の時代には、そこそこの国力があったといえるわけです。30メートル級の枯野は十数年くらいつかったのでしょうか。そうとうな大きさなので、薪としても役立った。

先の120メートル級の鄭和の船を見るに、特殊木材の量がどのくらい必要だったかが気になります。先の写真をみるとだいたい想像がつくでしょう。また構造的にもその数百トン???に耐えられる強度が必要になるわけですし…さらには密閉型にするための接着とか…も必要です。

だから、思うに縄文人の数メートルの丸木船理論の延長で100メートル級の巨大船を作り

出して、それをつかって太平洋を渡ったと考えるのは、ちょっと無理ではないかと感じます。

まさに前方後円墳を作り出すくらいの国家的なプロジェクトと技術がないと、まず造りえないでしょうから、そうすると、かなり造ったり維持できる時代は限られてくるわけです。加えて、維持するだけでも、枯野のように朽ちてきますし…。

そう考えると、アララト山にあるノアの箱舟が130メートル級だというには、その背後に国家的なプロジェクトがなければ無理だったと理解できるかもしれません。1つの家族が数十年かけて造り出すというのには無理がありますね。木を切るにも、金属製のノコギリがほしいでしょうし。。。

箱舟の年代がC14法でBC3000年ですから、そうすると、その時代にすでに国家プロジェクトを組めるだけの文明地域があって、その残骸があそこに残っていると理解すべきなのかもしれません。

確かに徐福の秦の時代なら可能だったかもしれませんね。ただそれ以前の弥生人の祖先の江南遺跡の時代に、それが可能だったか?そこも課題でしょう。

----- Re:ケルト人のDNA 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年5月18日(金)06時37分18秒 返信引用 編集済

> No.491[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 巨大船

伊勢神宮に神風、神功皇后で時風の神は風を起こし、波の神は波を上げて海中の大魚はすべて浮かんで船を助けた。どうも、対馬の鰐浦から台風の風に乗って新羅に至った模様。帆船なので船体の強度は相当なものである事は間違いない。新羅は倭国にある。釜山、狗耶韓国の洛東江(らくとうこう、ナクトンガン)の上流にあったようだ。

<http://www.yado.co.jp/kankou/nagasaki/tushima/waniura/waniura.htm> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B4%9B%E6%9D%B1%E6%B1%9F> 神風

古くは日本書紀の垂仁紀において、「神風(かみかぜ)の伊勢の国は常世の波の敷浪の帰する国なり。この国に居らむと思ふ」という倭姫命(ヤマトヒメノミコト)が天照大神から受けた神託などに登場する。ここでの「神風の」は伊勢にかかる枕詞である。

神功皇后

1 神功一年冬十月三日、鰐浦から出発された。その時風の神は風を起こし、波の神は波を上げて海中の大魚はすべて浮かんで船を助けた。風は順風が吹き、帆船は波に送られた。舵や櫂を使わないで新羅に着いた。その時、船をのせた波が国の中にまで及んだ。これは天神地祇が助けになっているらしい。新羅の王は戦慄して、なすべきを知らなかった。多くの人を集めていうのに、「新羅の建国以来、かつて海水が国の中まで上がってきたことは聞かない。天運が尽きて、国が海となるかも知れない」と。~~皇后のもっておられた矛を、新羅王の門にたて、後世の印とした。その矛は今も新羅王門にたっている。

http://www2.ocn.ne.jp/~syouji/kodaisi_12-B.html 神功皇后の三韓征伐を秦野が整理しました。(鰐浦から新羅まで) <http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano8.htm>

----- Re:ケルト人のDNA 投稿者:管理人 投稿日:2012年5月18日(金)01時25分47秒 返信引用 編集済

> No.490[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>> 巨大船は伊勢神宮の宇治橋ぐらい。船大工が工事にあたる。 > 100 m クラスなので間違いないでしょう。

100メートル級と簡単にいいいますが、イメージするととんでもないサイズですよー。

14世紀の鄭和の船が、120メートルあったそうです。アララト山のノアの箱舟と同サイズ。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%84%AD%E5%92%8C>

添付のコロンブスの船との比較がその大きさを物語ってます。

もっともこのくらいのサイズなら、安全にアフリカやアメリカまでいけるということにもなりますが、倭人はそこまで行く必要はなかったのでは？

ただ、大西洋を渡った中東Q系統、後のマヤ人は、このクラスに乗った可能性はあります。 >> 枯野(からぬ)は応神天皇の船で中型船になる。遣唐使船と同型

>

この船は十丈ですから、30メートル船とみて間違いないでしょう。遣唐使船サイズはありますね。

>> 中国史籍に聖徳太子の項で、『隋書』倭国伝に巨大船と思われる文章がある。 >

遣隋使の船は、せいぜい先の30メートル級の大型船、100人前後を乗せて、数セキで向かったもので、結果としては数百人の倭人が朝貢する結果になったのでしょう。巨大船ではないと思います。

----- Re:ケルト人のDNA 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年5月17日(木)22時59分12秒 返信引用 編集済

> No.485[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

古事記では仁徳天皇のところ、日本書紀 応神天皇の処に書かれており、… 今のところ、文章を信用するしかない。 <http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

巨大船は伊勢神宮の宇治橋ぐらい。船大工が工事にあたる。 100 m クラスなので間違いないでしょう。

> 枯野(からぬ)は応神天皇の船で中型船になる。遣唐使船と同型

中国史籍に聖徳太子の項で、『隋書』倭国伝に巨大船と思われる文章がある。

倭王遣小德阿輩臺、從數百人、設儀仗、鳴鼓角來迎。後十日、又遣大禮哥多?、從二百餘騎郊勞。 既至彼都、其王與清相見、大悅、曰:「我聞海西有大隋、禮義之國、故遣朝貢。我夷人、僻在海隅 不聞禮義、是以稽留境内、不即相見。今故清道飾館、以待大使、冀聞大國惟新之化。」清答曰:

「皇帝德並二儀、澤流四海、以王慕化、故遣行人來此宣諭。」既而引清就館。其後清遣人謂其王 曰:「朝命既達、請即戒塗。」於是設宴享以遣清、復令使者隨清來貢方物。此後遂絶。

倭王は小德の阿輩臺を遣わし、從者數百人、儀仗を設け、鼓角を鳴らして來迎した。十日後 にまた、大禮の哥多?を遣わし、二百余騎を從えて郊外で慰勞した。 既に彼の都に至り、その王、裴世清と相見え、大いに悦び、曰く「我、海西に大隋、礼儀の国 ありと聞く故に遣わして朝貢した。我は夷人にして、海隅の辺境では礼儀を聞くことがない。 これを以て境内に留まり、すぐに相見えなかった。今、ことさらに道を清め、館を飾り、以て大使を待ち、願わくは大国惟新の化を聞かせて欲しい」。 裴世清が答えて曰く「皇帝の德は併せて二儀、恩恵は四海に流れ、王を慕うを以て化し、故 に使者を來たらしめ、ここに諭を宣す」。 既に裴世清は引き上げて館に就く。その後、裴世清が人を遣わして、その王に曰く「朝命は 既に伝達したので、すぐに道を戒めることを請う」。ここ於いて宴を設け、裴世清を遣わして享受させ、再び使者を裴世清に随伴させて方物を

貢獻させに來た。この後、遂に途絶えた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

> サイズ的には、遣唐使船サイズのもの、白村江の時点であったようです。その亡命百済人 の技術で、南海航路に耐えられる大型のジャンク船をつくって、遣隋・唐使に向かったとのこ と。 >

- > 全長 30 m、120-150 人乗りの帆船。 >
- > 7 世紀百済の造船技術が、いつごろ、どこからやってきたかがキーでしょう。
- > 南朝系で、5~6 世紀ごろには、その程度の大型船を築造する技術はあったかもしれませ んね。 > 三国時代まで遡るかどうかは、証拠を集める必要があるでしょう。 >>

----- Re:ケルト人の DNA 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 5 月 17 日(木)22 時 52 分 4 秒 返 信引用

> No.484[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 匈奴=フン族は黙示録を見る限り、イスラエル、トルコ、エジプトは勢力範囲内と思われる。 仮説になるが、聖書のキリストの誕生に際し、東洋の 3 博士が東洋、バビロン方向から来た。 バビロン方向なら 3 博士はフン族の使いになる。そのキリストを殺したローマはフン族の脅 威に曝される。この脅威から逃れるためキリスト教に改宗したと考えるのが自然である。

フン族が現れたのが370 年ですから、キリスト教改宗が313 年であわないように感じま す。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%B3%E6%97%8F>

> 匈奴がユダヤを支配下に置いたと思われる。 確かにフン=匈奴の領域に、匈奴に滅ぼされた Q1 系の月氏=イスラエル?の分派がいた

可能性はありそうです。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_\(Y-DNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_(Y-DNA))

ドンガン人に、日本・朝鮮へ流れた Q1A1 の遺伝子が見えるようです。

http://en.wikipedia.org/wiki/Dungan_people <http://www.geocities.jp/intelljp/ugur/jetysu.htm>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%89%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%B3%E4%BA%BA>

イリ河の流域で、月氏の元となった弓月(クウゲ)人がいた地域あたりからきたようです。

----- Re:ケルト人の DNA 投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 5 月 17 日(木)22 時 14 分 19 秒 返 信・引用

> No.483[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 枯野(からぬ)は応神天皇の船で中型船になる。遣唐使船と同型 >>
- > 巨大船は三国志の赤壁に登場せる船でしょうな。
- > レッドクリフが有名です。卑弥呼の時代ですから赤壁にも倭人が参加していたかも。

>> 白村江も赤壁と同様かも。現在の学者が考えているより遥かにスケールは大きい。 > 巨大船は枯野の 3 倍は有ったのではないかな。 >

三国志の赤壁も、よく読んでみると船に火をつけたかどうか、怪しいようです。 あと、こちらに当時の船を復元した模様が記載されてます。

<http://inoues.net/science/war.html>

サイズのには、遣唐使船サイズのもの、白村江の時点であったようです。その亡命百済人の 技術で、南海航路に耐えられる大型のジャンク船をつくって、遣隋・唐使に向かったとのこと。

<http://www1.cts.ne.jp/~fleet7/Museum/Muse019.html> 全長 30 m、120-150 人乗りの帆船。

7 世紀百済の造船技術が、いつごろ、どこからやってきたかがキーでしょう。 南朝系で、5~6 世紀ごろには、その程度の大型船を築造する技術はあったかもしれません ね。 三国時代まで遡るかどうかは、証拠を集める必要があるでしょう。

[PR] 人の DNA 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 17 日(木)20 時 08 分 37 秒 返信・引用

> No.481[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

匈奴=フン族は黙示録を見る限り、イスラエル、トルコ、エジプトは勢力範囲内と思われる。 仮説になるが、聖書のキリストの誕生に際し、東洋の 3 博士が東洋、バビロン方向から来た。

バビロン方向なら 3 博士はフン族の使いになる。そのキリストを殺したローマはフン族の脅 威に曝される。この脅威から逃れるためキリスト教に改宗したと考えるのが自然である。

匈奴がユダヤを支配下に置いたと思われる。

中国史籍に別種の文字が見られる。扶余の別種、倭の別種がユダヤになる。

『唐会要』百濟伝 百濟者。本扶余之別種。當馬韓之故地。其後有仇台者。為高麗所破。以百家濟海。因號百濟焉。大海之北。小海之南。東北至新羅。西至越州。南渡海至倭國。北渡至高麗。其王所居。有東西兩 城。

百濟。元は扶余の別種。馬韓の故地にいたが、後に仇台は高句麗に国を破られ、百家で海を 濟(渡)る。ゆえに百濟と号する。大海の北、小海の南、東北に新羅、西に越州、南の海を渡れ ば倭国に至る。北には高麗。王の居城は東西に両城あり。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-5-fuyo.htm>

日本。倭國之別種。以其國在日邊。故以日本國為名。或以倭國自惡其名不雅。改為日本。或云日 本舊小國。吞併倭國之地。其人入朝者。多自矜大。不以實對。故中國疑焉。

日本。倭国の別種である。その国は日辺に在る故に、日本国を以て名と為した。あるいは倭 国は自らの名が雅ではないことを憎み、日本に改名した、あるいは日本は昔は小国だったが、 倭国の地を併呑したという。その人が入朝したが、多くは自惚れが強く、不実な対応だっ たので、中国はこれを疑う。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun12-tokaiyo.htm>

"格安航空券"まだ決まってない? - www.skygate.co.jp 6月から燃油代が上がるその前に! 格安航空券【バーゲン中】/SKYGATE 中国語を活かせるハイクラス転職 - www.bizreach.jp 年収 1000万円~3000万円の案件多数 最大級の転職情報でキャリアアップ 美しい中国語 "B-Chinese" - www.b-chinese.com/ 飯田橋|池袋|新橋|新宿|神田,マンツー マンと少人数,会話中心、高品質低料金

大学院 ヒトの生物学 - hbp.tsukuba.ac.jp/ 筑波大学大学院・学術分野横断型 学位プログラム・給付型奨学金 FUN 学院 中国語教室 - chn.fun-gaikokugo.com 国分寺駅隣一橋学園駅徒歩 3分 月 8千円~,無料体験レッスン受付中 Ads by Google -----

Re:ケルト人のDNA 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年5月17日(木)18時57分33秒 返信引用 編集済
> No.482[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 枯野(からぬ)は応神天皇の船で中型船になる。遣唐使船と同型 <http://blogs.yahoo.co.jp/white70red/31873659.html>

巨大船は三国志の赤壁に登場せる船でしょうな。 レッドクリフが有名です。卑弥呼の時代ですから赤壁にも倭人が参加していたかも。

白村江も赤壁と同様かも。現在の学者が考えているより遥かにスケールは大きい。 巨大船は枯野の 3倍は有ったのではないか。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B5%A4%E5%A3%81%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%89%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%83%95>

>> 第一派:1万余人。船舶 170余隻。指揮官は安曇比羅夫、狭井檳榔、朴市秦造田来津。豊璋王を護送する先遣隊。661年 5月出発。 >> 第二派:2万 7千人。軍主力。指揮官は上毛野君稚子、巨勢神前臣譯語、阿倍比羅夫(阿倍 引田比羅夫)。662年 3月出発。

>> 第三派:1万余人。指揮官は廬原君。 >>

----- Re:ケルト人のDNA 投稿者:管理人 投稿日:2012年5月17日(木)01時34分52秒 返信引用

> No.479[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 白村江戦いの巨大船、距離と航路 >
- > 2300 km 福井県舞鶴小浜~出雲~奄美大島~筑紫(韓国南部)
- > 1900 km 奈良~堺~奄美大島~筑紫(韓国南部)
- > 800 km 福岡県太刀洗(伊都国、奴国)~筑紫(韓国南部) >
- > 第一派:1万余人。船舶 170余隻。指揮官は安曇比羅夫、狭井檳榔、朴市秦造田来津。豊璋王を護送する先遣隊。661年 5月出発。 > 第二派:2万 7千人。軍主力。指揮官は上毛野君稚子、巨勢神前臣譯語、阿倍比羅夫(阿倍引 田比羅夫)。662年 3月出発。
- > 第三派:1万余人。指揮官は廬原君。
- > 損害 船舶 400隻、兵 10,000人、馬 1,000頭
- > 戦力 倭国軍 42,000人 倭国船舶 800余隻 >
- > 巨大船の残骸を探すしかない。錦江沖を探せばあるかも。その前に歴史が明確に成ったら 都合の悪い人が居るかも。

計算してみると50人ほど乗れる船だったようですね。 損害をこうむった船の半数は死んだものの、半数は脱出した計算でしょうか。 馬が1席あたり2頭くらい載っていたようですね。將軍の馬?あるいは馬専用の船があったかもしれません。

先の古墳の船型埴輪から類推する船が規模からして近い感じがします。

軍事的に巨大船は、小回りが聞かず不利だったでしょうし、火災ですぐダメになった可能性 があります。 川を遡るのにも、向いてませんね。

巨大船の用途は、あくまで人員輸送だけで、戦闘用むしろ中型船のほうが有利です。 巨大船の痕跡を探すとしたら、戦闘に巻き込まれない地域ですね。

----- Re:ケルト人の DNA 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 17 日(木)01 時 21 分 29 秒 返信引用 編集済

> No.480[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

匈奴ユダヤ 1 部族に属します。 >

匈奴=フン族との説が有力ですね。フン族の容貌の記載が、どうも寒冷適応した C 系統に見えます。 胴長短足で、眼が細く、頭が大きいタイプで、通説では日本人の半数を占める弥生人のメイン タイプとされてました。

ただ、どうもその C 系統は、縄文時代からいたようで、同じく縄文人のメインタイプD 系統と 同じころの派生した旧人類の末裔と見えます。

もともと北方に住んでしており、氷河期という極限の寒さの中で、寒冷適応したものと思わ

れます。 胴長で手足を短くすることで熱が逃げないようにしており、また顔の皮膚に脂肪分を蓄える ことで、寒さに強くなったようです。

ただおそらく、シュメール・イスラエル系の Q 系統と、C 系統との間に大きな時代差があり、 匈奴=ユダヤ説は難しいかと感じます。

そうすると弥生人の O 系統は、本来どういう風貌だったのか?が課題になるのですが、旧来 のショウユ顔論から打って変って、江南の中国人の容貌に近いと考えるべきなのかもしれま せん。

顔の長さは縦に長いのですが、眼がやや横向きに離れており、背は 165 センチくらい、眼は二重まぶた?の可能性もありますね。毛は中国人と同じくらいでしょう。

> ヨハネの黙示録と聖書から BC 数十年から匈奴(フン族)のバビロンが存在する。 > バビロンの 1 万 2 千スタディオン 2220 km に 7 つの教会とハルマゲドン >「メギドの丘」がある。

黙示録のバビロンは、古代ローマの 7 つの丘を重ね合わせたものですね。
バビロン

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%83%93%E3%83%AD%E3%83%B3>

七つの丘

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%81%AE%E4%B8%83%E4%B8%98>

----- Re:ケルト人の DNA 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 15 日(火)23 時 13 分 12 秒 返信引用 編集済

> No.478[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

卑弥呼、魏志倭人伝の大筋と意味が理解できると思われます。 日本にはほぼ総ての DNA が存在します。人種のるつぼです。 言語もほぼ全世界の言語とくにユダヤが多くなるのが自然です。 管理人さんの先祖もこの文中の匈奴ユダヤ 1 部族に属します。

ヨハネの黙示録と聖書から BC 数十年から匈奴(フン族)のバビロンが存在する。 バビロンの 1 万 2 千スタディオン 2220 km に 7 つの教会とハルマゲドン 「メギドの丘」がある。

260~270 年バビロンで卑弥呼*1 の知らせを知り 2 部族を倭国に向わす。 375 年バビロンを捨て、ハルマゲ

ドンから地中海を挟みヨーロッパ、中近東にユダヤの 10 部 族を引連れ散った模様。ユーラシア大帝国の誕生になる。記録に無い。

倭国に向かった 1 部族が大月氏とシルクロードで合流し、ぼようかい(慕容廆)と連合、扶余を撃破。韓半島を占領し、馬韓の地に百済を建国。

百済から神功皇后に三韓に来るように依頼する。三韓征伐になる。 三韓に 3 羽の鷲がとまる。匈奴ユダヤの 1 部族、大月氏、慕容廆になる。

神功皇后は開花天皇の曾孫になる。

卑弥呼*1:鮮卑の皇女で先でも述べた匈奴へ亡命した神武天皇の末裔になる。三国志に登場する匈奴の単于。於夫羅の孫にあたる。開花天皇=於夫羅、卑弥呼は開花天皇の孫になる。 三角縁神獣鏡の保子の保は豹は羌渠(きょうきょ)の意味か。保子=於夫羅 <http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano17.htm>

バビロン バビロンはメソポタミア地方の古代都市。市域はバグダードの南方約 90km の地点にユーフラテス川をまたいで広がる。語義はアッカド語のバビリム Bab-ilim(神の門)に由来し、マルドゥクを守護神とした。ウル第 3 王朝崩壊後のイシン・ラルサ時代の群雄割拠をこの都市に開かれたバビロン第 1 王朝第 6 代の王ハンムラビが制して以後、メソポタミア下流域の重要都市として浮上した。これ以後のメソポタミア下流域、すなわちシュメールとアッカドの地を、ギリシア語で「バビロンの地」を意味するバビロニアの地名で呼ぶ。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%83%93%E3%83%AD%E3%83%B3>

フン族(フンぞく、Hun)は、ヴォルガ川東方から現れた遊牧民の集団で、370 年頃にヨーロッパへ移住して大帝國を築いた。彼らは恐らく 300 年程前に中国の北隣に居住していた匈奴の子孫であり、テュルク系民族のユーラシア大陸にまたがる最初の拡張であろう。フン族の起源と言語(en)は数世紀にわたり議論の的になっている。現在の学説では彼らの指導者たちの名はテュルク諸語で表されているとされている。彼らの主な軍事技術は騎乗弓射である。フン族は民族大移動を誘発し、西ローマ帝国崩壊の要因となった。フン族はアッティラの元で統一帝國を築いたが、453 年に彼が死ぬとその翌年に帝國は瓦解した。同じ名称の後裔または後継者がおおそ 4 世紀から 6 世紀に東ヨーロッパと中央アジアの一部に住んでいたと記録されている。フン族の末裔が 8 世紀前半にカフカスで記録されている <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%B3%E6%97%8F>

ゲルマン民族の大移動 ゲルマン民族の大移動(げるまんみんぞくのだいいどう)とは、4 世紀から 5 世紀にかけてヨーロッパと北アフリカで起きたゲルマン人の大移動のこと。この大移動をもって、ヨーロッパの古代と中世の画期とされる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B2%E3%83%AB%E3%83%9E%E3%83%B3%E6%B0%91%E6%97%8F%E3%81%AE%E5%A4%A7%E7%A7%BB%E5%8B%95>

ハルマゲドン ハルマゲドン(アルマゲドン、ハーマゲドンと表記される場合もある、希:ἡραγεδών、英:Armageddon、日本語では世界最終戦争)は、アブラハムの宗教における、世界の終末における最終的な決戦の地を表す言葉のカタカナ音写。ヘブライ語で「メギドの丘」を意味すると考えられている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%83%AB%E3%83%9E%E3%82%B2%E3%83%89%E3%83%B3>

> 新羅にケルト的な金銀ガラス装飾をもたらした東欧人、新漢人と感じるのですが、ただ Y-DNA 的には、R+系統は日本には見えないようですから、矛盾が生じてきます。Y-DNA の分析手段に間違いがないかどうか…。ないとなると、日本にわずかに見える中東 Q 系統だったのか?謎が深まるところです。

----- Re:ケルト人の DNA 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 15 日(火)18 時 12 分 15 秒 返信・引用 編集済

> No.477[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

巨大船の存在、【天の鳥船】国譲りに登場する。軍船 伊弉諾尊(いざなきのみこと)・伊弉冉尊(いざなみのみこと)

が生んだとする。

1 古事記の国生み これは瀬戸内海から八丈島、奄美経由の済州島、佐渡島まで航海している模様。 徐福伝説の地を網羅する。結論、国生み=徐福伝説になる。

<http://www.asukanet.gr.jp/tobira/jofuku/jofuku.htm>

2 古事記の国譲り 葦原中国平定(あしはらのなかつくにへいてい)は、天津神が国津神から葦原中国の国譲りを受ける日本神話の説話である。国譲り(くにゆずり)ともいう。 粗筋は出雲国:現在の北九州から岡山、韓国南部のモップから慶州まで。出雲国をアマテラスが瑞穂の国に遣せと言い指揮下に収めた。天孫降臨は韓半島の話になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%91%A6%E5%8E%9F%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E5%B9%B3%E5%AE%9A>

3 神武東征 神武東征(じんむとうせい)は、初代天皇であるカムヤマトイワレビコ(神武天皇)が日向 を発ち、大和を征服…。注)神武東征は正しく翻訳されていない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E6%AD%A6%E6%9D%B1%E5%BE%81>

4 神功皇后の三韓征伐 三韓征伐(さんかんせいばつ)とは、『古事記』『日本書紀』に記載されている、仲哀天皇の后で応神天皇の母・神功皇后が行ったとされる新羅出兵を指す。新羅が降伏した後、三韓の残り二国(百済、高句麗)も相次いで日本の支配下に入ったとされるためこの名で呼ばれる

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E9%9F%93%E5%BE%81%E4%BC%90>

5 天智天皇の白村江戦い 663 年(天智 2 年)8 月に朝鮮半島の白村江(現在の錦江近郊)で行われた、倭国・百済遺民の連合軍と、唐・新羅連合軍(羅唐同盟)との間の、海と陸の会戦のことである。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BD%E6%9D%91%E6%B1%9F%E3%81%AE%E6%88%A6%E3%81%84>

身近な所、5 天智天皇の白村江戦いで説明する。

朝鮮半島南部:筑紫の朝倉(韓国南部)に上陸(任那日本府から南に 2 千里) 現在は奴国に筑紫の朝倉の地名が移されている。 白村江:錦江は鹿児島湾:錦江湾。魏志倭人伝の暦韓国(群山、クンサンの錦江) 群山は万葉集の「むらやま」なんですな。

http://www.geocities.jp/kakitutei_pickup/asakura/konomaru2.html

白村江戦いの巨大船、距離と航路

2300 km 福井県舞鶴小浜~出雲~奄美大島~筑紫(韓国南部) 1900 km 奈良~堺~奄美大島~筑紫(韓国南部) 800 km 福岡県太刀洗(伊都国、奴国)~筑紫(韓国南部)

第一派:1 万余人。船舶 170 余隻。指揮官は安曇比羅夫、狭井檳榔、朴市秦造田来津。豊璋王を護送する先遣隊。661 年 5 月出発。 第二派:2 万 7 千人。軍主力。指揮官は上毛野君稚子、巨勢神前臣譯語、阿倍比羅夫(阿倍引田比羅夫)。662 年 3 月出発。

第三派:1 万余人。指揮官は廬原君。 百済遺民の救出作戦、倭国と百済の国境、暦韓国(群山、クンサンの錦江)(天智天皇が百済と倭国のハーフだった模様、百済とは血縁になる。)

白村江に集結した 1,000 隻余りの倭船のうち 400 隻余りが炎上した。九州の豪族である筑紫 君薩夜麻も唐軍に捕らえられて、8 年間も捕虜として唐に抑留されたのちに帰国を許された との記録がある。白村江で大敗北した倭国水軍は、各地で転戦中の倭国軍および亡命を望む 百済遺民を船に乗せ、唐水軍に追われる中、やっとのことで帰国した。

損害 船舶 400 隻、兵 10,000 人、馬 1,000 頭 戦力 倭国軍 42,000 人 倭国船舶 800 余隻

巨大船の残骸を探すしかない。錦江沖を探せばあるかも。その前に歴史が明確に成ったら都合の悪い人が居る

かも

Re:ケルト人の DNA 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 15 日(火)06 時 20 分 3 秒 返信・引用 編集済

> No.477[元記事へ] ちょっとまた先の HLA-B7 の件で調べていて妙なことに気づきました。

アイルランドにもっとも多いのですが、ケルト人とのかかわりを考えてます。 アイルランドの歴史。

<http://blog.goo.ne.jp/bosintang/e/243f161cc43eae5850a48975b7f9525>

韓国人とちょっと似た性質があるようです。大陸的な文書の記録、文化保存。伝道。 韓国人にも B7 が多く見えます。

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B7>

大西洋に浮かぶ島アゾレス諸島にも多いようです。 スペイン移民?原住民?アトランティスとはどうかかわるか?

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%BE%E3%83%AC%E3%82%B9%E8%AB%B8%E5%B3%B6>

カメルーンにも多いのですが、カメルーンには、Y-DNA の分布に特徴があって、R+系統 という、後の新コーカソイド R 系統の祖先が見えます。下図参照。

興味深いのは、インドにも少数ながら R+系統が見えることです。

R+は印欧語の祖先集団の可能性を感じます。そして、それに対応するアイルランドの HLA-B7 も、古いタイプの新コーカソイド、つまりケルト人の可能性があるといえるでしょう。

そして、この B7 が日本人の中で2 番目に多い HLA タイプとなるのが不思議ですね。

新羅にケルト的な金銀ガラス装飾をもたらした東欧人、新漢人と感じるのですが、ただY-DNA 的には、R+系統は日本には見えないようですから、矛盾が生じてきます。Y-DNA の分析手段に間違いがないかどうか…。ないとすると、日本にわずかに見える中東 Q 系統だったのか?謎が深まるところです。

Google+ を使ってみよう - www.google.com/+ ウェブ上の情報共有をもっと簡単に Gmail アカウントで今すぐはじめよう "格安航空券"まだ決まってる? - www.skygate.co.jp 6 月から燃油代が上がるその前に! 格安航空券【バーゲン中】/SKYGATE ステンレス製、壁面緑化金具 - www.asano-metal.co.jp/ 都市緑化の未来を考える ASANO の 壁面緑化ワイヤーブラケットシステム 住友林業のペットと住む家 - sfc.jp/ie ペットと快適に暮らすための注文住宅 の工夫をご紹介!カタログはこちら 50 代からのタクシー求人 - taiyomotors-taxi.co.jp 太洋モータース(東京都)では 未経験者のドライバーを歓迎! Ads by Google

----- Re:ケルト人の DNA 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 14 日(月)22 時 07 分 50 秒 返信・引用

> No.476[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 徐福の船が神武東征、神功皇后の三韓征伐に使用された模様。 >> 神武東征、神功皇后の三韓征伐は文章から帆船になる。

> 天の鳥船系、大型ジャンク船:ノアの方舟クラスでないか。 >>【天の鳥船】国譲りに登場する。軍船 > 伊弉諾尊(いざなのみこと)・伊弉冉尊(いざなみのみこと)が生んだとする。

秦野さん、こんにちは。だいたい土日は出かけてます。

ただ、徐福の時代から、神功まではかなり時代差がある野が気になりますね。

準構造船

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/111122/art11112214120003-n1.htm>

「見つかったのは、船べりの一部(長さ 1.2 メートル)や船体の側板、船内の仕切り板など数十点で、いずれもスギ材。湾曲した部材やほぞ穴の形状などから準構造船の一部と判断 した。全長十数メートルの中型船で、

5~10 人乗りと推定している。

準構造船は、縄文時代以来使われた丸木舟を改良し、側面や前後に板材を組み合わせて大型化した構造。弥生時代末(約 1800 年前)から導入され、古墳時代には大陸との交流などに使われたという。」

崇山古墳

<http://www1.kcn.ne.jp/~uehiro08/contents/parts/84.htm>

新開古墳

http://www.pref.shiga.jp/edu/sogo/kakuka/ma07/treasure_of_water/images/wot_18.pdf

「埴輪の船端の片方は失われているが、復元された全長は 115cm で、船底の刳り舟部分は約 100cm を測る。船幅は舷げん側そく板ばん上部で 27cm、船底では 12.5cm。高さは船端で 23cm、船体中央で 13.8cm であり、全長約 15~20 m、船幅約 2m の大型準構造船を精巧に模したものと推定されている。船端の構造は舷側板を固定する縦板という部材が船底の刳り舟部分から立ち上がり、刳り舟の船端に直接取り付け付いた状態で大きく突出している。船体上半部をつくる舷側板は線刻によって 2 段に表現され、オールを装着するためのピボットという突起が船体上端の左右対称位置に 7 箇所ずつ付けられている。国内で出土している船形埴輪の多くもピボットを表現しているが、その数は 4~6 対、7

対のピボットを持つこの埴輪は中でも最大級のものである。また、この埴輪からは船の内部構造も見取れる。船底の中央には縦方向に仕切り板状の構造物が 5~6 の高さでつくられていて、その上面には直行する向きの横板が、舷側板が乗る刳り舟上端部分に取り付く位置に設置されている。その数はピボットと同じ 7 箇所、オールを漕ぐ際に腰を据えるためのものと見られる。この船形埴輪に表現された実物の大型準構造船には 50~60 人が乗れたという見方がある。」

これが、東欧系を含有して渡来してきた新漢人の船でしょう。 50 人乗れるそうですね。オール付の帆船。

宝塚 1 号墳出土船形埴輪

<http://www4.airnet.ne.jp/sakura/haniwa.html>

> 参考 > ノアの方舟「長 133.5m、幅 22.2m、高 13.3m」

尋常じゃないサイズ。船を造るのには、沖合いに木組みを作る必要がありますね。 > クフ王第一の船は全長 42.32 m、全幅 5.66 m

洪水時に、ピラミッドからの脱出用の緊急ボート。王族だけ乗ればいいので、それほど大きい必要がない。

>> ジャンク (船) 大型ジャンク船は 600~2000 トンで、交易用に荷卸用の起重機や柴舟と呼ばれた浅瀬で用いる小舟などが搭載された。乗組員数は 100~200 人。

> 匈奴の勢力はヨーロッパまで達する。 >> 匈奴(漢音:きょうど、呉音:くぬ、拼音:Xiōngnú)は、紀元前 4 世紀頃から 5 世紀にか

けて中央 匈奴の祖先。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%91%B7%E7%B2%A5>

フン族

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%B3%E6%97%8F>

ここに描かれているフン族の容貌が、チンギスカンのような眼の細い、小柄で頭の大きないわゆる C 系統の様に良く似てます。朝青竜みたいな感じ。日本にも 10 パーセントくらいいるでしょうゆ顔タイプです。

ブルガール人 「ブルガリア王家がアッティラの子孫であると信じていたことを示している。ブルガール人はおそらくフン族の民族同盟の主要構成員であったであろう。フン族とブルガール人の文化には幾つかの類似があり、例えば人工的頭蓋変形の習慣などの考古学的証拠は、両者の強い連続性を示唆する。フン族とブルガール人の最も特徴的な武器(複合弓や長く垂直の両刃の剣など)はその外観がほとんど同じである。何人かの学者

はチュヴァン語(ブルガール語の 後裔であると信じられている)はフン語(en)に最も近い同族言語であると仮説を立てた [37]。』

ブルガール人は、日本人と HLA タイプでかなり共通性がありますね。ちょっと注目。

----- Re:ケルト人の DNA 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 13 日(日)00 時 22 分 45 秒 返 信・引用 編集済

> No.475[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

ローマやインド、アフリカ、朝鮮、日本、米大陸まで幅広く分布を説明します。 一気に黙示録のバビロンに接近します。

徐福の船が神武東征、神功皇后の三韓征伐に使用された模様。

神武東征、神功皇后の三韓征伐は文章から帆船になる。

天の鳥船系、大型ジャンク船:ノアの方舟クラスでないか。

【天の鳥船】国譲りに登場する。軍船 伊弉諾尊(いざなぎのみこと)・伊弉冉尊(いざなみのみこと)が生んだとする。

<http://www.weblio.jp/content/%E5%A4%A9%E3%81%AE%E9%B3%A5%E8%88%B9>

参考 ノアの方舟「長 133.5m、幅 22.2m、高 13.3m」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8E%E3%82%A2%E3%81%AE%E6%96%B9%E8%88%9F>

クフ王第一の船は全長 42.32 m、全幅 5.66 m <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%95%E7%8E%8B%E3%81%AE%E8%88%B9>

ジャンク (船) 大型ジャンク船は 600~2000 トンで、交易用に荷卸用の起重機や柴舟と呼ば れた浅瀬で用いる小舟などが搭載された。乗組員数は 100~200 人。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%82%AF_\(%E8%88%B9\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%82%AF_(%E8%88%B9))

古事記の内容は省き、神武東征からにする。詳細は徐福と日本神話(現在校正中)

『新唐書』日本伝 彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次曰綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次孝靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。 彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は綏靖、次は 安寧、次は懿德、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、次は崇神、次は垂仁、次 は景行、次は成務、次は仲哀という。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

古事記より ワタツミノカミの娘のトヨタマヒメ(豊玉比売) ワタツミノカミ=鉅燕の王『山海経』

参照 ヤマサチとトヨタマヒメの子:ナギサタケウガヤフキアエズノミコト ナギサタケウガヤフキアエズノミコトとタマヨリヒメの子:イツセノミコト(五瀬命)、イ ナヒノミコト(稲冰命)、ミケヌノミコト(御毛沼命)、ワカミケヌノミコト(若御毛沼 命) 神武天皇=ワケミケヌノミコト=カムヤマトイワレビコノミコト(神倭伊波礼比古命)

『山海経』第十二「海内北経」 蓋国 在鉅燕南倭北 倭属燕 「蓋(ケイ)国は鉅燕(きょエン)の南、倭の北に在り、倭は鉅燕に属す。」

神武東征航路を図でしめす。徐福と邪馬台国の裸国で済州島方向に島を一周し方向転換する。 この後、大和州。神武天皇の末裔は匈奴に亡命する。

匈奴の勢力はヨーロッパまで達する。

匈奴(漢音:きょうど、呉音:くぬ、拼音:Xiōngnú)は、紀元前 4 世紀頃から 5 世紀にかけて中央ユーラシアに存在した遊牧民族および、それが中核になって興した遊牧国家(紀元前 209 年 - 93 年)。モンゴル高原を中心とした中央ユーラシア東部に一大勢力を築いた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%88%E5%A5%B4>

フン族 フン族(フンぞく、Hun)は、ヴォルガ川東方から現れた遊牧民の集団で、370 年頃にヨーロッパへ移住して大帝国を築いた。彼らは恐らく 300 年程前に中国の北隣に居住していた匈奴の子孫。 秦野:聖書と付き合わせると BC 数十年には到達していた模様。ユダヤとの接点になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%B3%E6%97%8F>

ケルト人の DNA 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 12 日(土)22 時 19 分 29 秒 返信・引用 編集済

あと、遺伝子関係で、先の会報で触れて、今までひとつ手付かずだったものがあります。日本人の 6.5 パーセントを占める HLA ハプロタイプに、DR-B 7 というのがあります。

アイルランドに最も多く、ローマやインド、アフリカ、朝鮮、日本、米大陸まで幅広く分布しています。

3] Ireland South 17.6 [3] Ireland Northern 17.3 [3] Australia New South Wales 12.0 [3] Croatia 9.7 [3] Azores S. Maria & Miguel 9.0 [3] Cameroon Beti 8.6 [3] Saudi Arabia Guraia and Hail 8.3 [3] Azores Central Islands 8.0 [3] France South East 7.2 [3] Cameroon Bamileke 7.1 [3] Portugal Centre 7.0 [3] Italy North pop 1 6.7 [3] Japan Central 6.5 [3] Czech Republic 6.1 [3] Uganda Kampala 5.9 [3] Mali Bandiagara 5.8 [3] Senegal Niokholo Mandenka 5.8 [3] India Mumbai Marathas 4.9 [3] Zambia Lusaka 4.6 [3] Zimbabwe Harare Shona 4.6 [3] South African Natal Zulu 4.5 [3] Romanian 3.7 [3] South Korea (3) 3.5 [3] Shijiazhuang Tianjian Han, China 3.4 [3] India North Delhi 3.3 [3] Kenya Luo 2.5 [3] China Guangzhou Han 2.4 [3] Mexico Chihuahua Tarahumara 2.3 [3] Sudanese 2.3 [3] Singapore Javanese Indonesians 2.0 [3] Spain Eastern Andalusia Gipsy 2.0 [3] New Caledonia 1.9 [3] Oman 1.7

[3] USA Alaska Yupik Natives 1.6 [3] China Beijing 1.5 [3] Tunisia 1.5 [3] Argentina Toba Rosario 1.2 [3] Singapore Chinese Han 1.2 [3] USA Arizona Pima 1.1

[3] American Samoa 1.0 [3] Japan Ainu Hokkaido 1.0 [3] Kenya Nandi 1.0 [3] Portugal South 1.0 [3] Singapore Riau Malay 1.0 [3] Singapore Thai

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B7>

思うにアイルランドのケルト人、ガラテア人の遺伝子かと思われますが、5 世紀代の新羅に突然現れるケルト紋様・文化、日本でいう継体朝の新漢人の流れだろうと考えます。

おそらくシルクロードより北方のステップロードを通ってきたと思われ、あるいはその間に北方遊牧民の遺伝子、ツングース系 N 系統や中東系 Q と混じった可能性もあります。

古代においては、一番後の大きな流れです。日本人の 6.5 パーセントとなるので、現在でいえば 900 万人に上るわけですから、相当な数です。山陰から近畿・北陸方面へ流れ込むルートで、最後は船を使っています。

興味深いのは、インドやアフリカ方面へも流れていることです。海のシルクロードでしょうか。

当時のこれらの東欧からのケルト系金銀装飾・ガラス器は、商人経由でシルクロード、ステップロードのほか、海路も使用したようです。

構造船で帆もついていたでしょう。神功皇后の帆付の船ですね。

この HLA 系統が異常に多いのは、元の集団数が、当時朝鮮を南下した北燕遺民として多かったのに加えて、継体朝以降の日本において、中枢で大きな権力を握り続けて後代まで至ったことによる可能性を感じます。

弥生末に到来した月氏・スキタイ系の HLA-B52 にとってかわる形で、この B7 が各地に進出していき、横穴墓などを各地に残していきながら、勢力を広げていったものと感じます。

いわゆるケルト人、聖書で言うローマ・ガラテア人で、ケルト化したキリスト教をもたらしています。この最後の流れを見逃さないようにしたいところです。

Ads by Google ----- Re:人骨と DNA 分岐投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 12 日(土)22 時 02 分 21 秒 返信・引用

> No.473[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 氷河期の海流は現在とは異なるはず、南極、北極の氷河は拡大している。 >
- > 人類の移動は最低で 3 つ。 >
- > 1 洪水以前 BC3000 年
- > 2 洪水以後 BC3000 年
- > 3 倭国の大陸への進出 BC150 古事記と中国史籍で説明 >
- > 1 洪水以前 BC3000 年 >
- > 『クリティアス』のアトランティス伝説をどう説明するかです。 >
- > 9000 年前 (即ち紀元前 9560 年頃) に成立 >
- > ヘラクレスの柱 (ジブラルタル海峡) の入り口の手前の外洋であるアトラスの海 (? τλαντικός πελαγος, 大西洋)

> 巨大船ルート、南米-ヨーロッパの大西洋ルート、日本-南米の太平洋ルートの可能性はある。 >

巨大船の移動の痕跡を見出すとすると、条件をつくらないといけませんね。

- 1、大海はさんでかなり隔てた地域に、同じ遺伝子種が存在する。
- 2、文化・技術などで、多くの共通点が存在する。
- 3、その文化・技術が、巨大船を造れるだけの高度なものである。

これらの条件を満たしているのが、イスラエルとマヤの Q 系統の共通性です。

アジア系縄文人の C 系統は、技術面で問題があるのと、そもそも航海した痕跡が薄いです。やはり氷河期の 1 万年前以上に氷河の上を渡ったと見るべきでしょう。

ただ、弥生系 O 系統は、その可能性はありそうですね。日本に渡るには、氷河期後ですから、船がないと渡れません。大型かどうかは、微妙ですが、それほど大きくなくても、日本へは渡れたと思います。大型船を開発するよりは、小型船を多数造って渡ったほうが効率がよかったですかもしれません。

台湾のヤミ族などのカヌータイプの小型船を弥生人が使った可能性を感じます。銅鐸などにその紋様が見えます。

ただ、徐福の船は大きかったかもしれませんね。

弥生末から古墳時代くらいになると、海のシルクロードも整備されて、ローマから東南アジア方面を大型船が行き来していたかもしれません。

----- Re:人骨と DNA 分岐投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 5 月 10 日(木)21 時 37 分 41 秒 返

信・引用 編集済 > No.469[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 現在判明、日本での稲作は陸稲が 6700 年前、水稲が 2500~2800 年前である。 >
- > 朝寝鼻貝塚の 6000 年前の地層からイネプラントオパールが発見
- > BC3000 アイヌ人上陸。5000 年前
- > 栽培穀物は、後期・末期(炭素年代測定で 4000~2300 年前)
- > BC1700 三苗上陸。3700 年前
- > BC 585 呉 (春秋)、2600 年前 日本最古の水田址遺跡は約 2500 年前

- > BC 200 徐福上陸。2200 年前 >
- > 稲作適応した O 系統は、南西諸島経由で、数度九州南部・西部あたりに上陸していた可能性はあり。朝鮮半島では、1500 年程前の水田稲作(水稻)までしか確認されていないため、朝鮮半島から稲作ルートはない。後は南西諸島で上海(寧波)の沖になる。 >

ちょっと気になったので、再度ミトコンドリア・MT-DNA を調べなおしてみました。

どうもその MT-DNA の X 系統というのが、イスラエル・マヤ・シュメール系に見えた Y-DNA の Q1 系統に対応するようです。中東から、北米への分布が一致します。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_X_\(mtDNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_X_(mtDNA))

この系統は、特にドゥルーズ派と呼ばれるイスラム異端に多いそうです。イスラエルからトルコ南部にかけて分布が濃く、そこから北米大陸へと移住していったので しょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%89%E3%82%A5%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%82%BA%E6%B4%BE>

MT-DNA は母系なので、男女で船で移住していったことが想定されます。やはり Q 系統同様に、その祖先はアルタイ人と関係してますね。

それで、米大陸に見える MT-DNA の A,C,D 系統というのが、Y-DNA でいう大陸 原住民 C のそれでしょう。かなり古い時点でベーリング海峡を越えて渡ってます。

http://en.wikipedia.org/wiki/Human_mitochondrial_DNA_haplogroups

M 系統はそれより古く、縄文人の一部に多いタイプ。Y-DNA でいう北から来た N 系統で しょうか。

http://www.geocities.jp/ikoh12/kennkyuuno_to/011_1mtdna_akei_karamita_keitou_to_kakusan.html

それで MT-DNA の D 系統というのが、Y-DNA でいう江南・弥生人の O 系統となるよ うです。元は雲南方面で しょうか。新モンゴロイドですね。

あと、B と F 系統ですが、モンゴロイドとは違う系統で、東南アジア系のようですね。Y-DNA でいうと、縄文・沖縄系に多い D 系統。アジアのもっとも古い部類かも知れません。

そして残りの N(N9A)系統ですが、これが中東人に多いタイプで、日本にも 15 パーセントくらいいるんですね。スキタイ人等遊牧民の遺伝子のように感じます。

先のドゥルーズに多い X 系統もその親戚です。N9 系がそれらの日本にもいるスキタイ北方 遊牧民で、N1 系がユダヤ人等、X 系統はイスラエル・マヤ系統となるで しょうか。

別の HLA ハプロタイプでも、DR-B52 がやはり同様な北方遊牧民のそれで日本に 10 パーセントくらいいるんですが、Y-DNA だけは Q 系統として日本人にもいるものの、おそ らく 1 パーセントに満たない。

こう比較して考えていくと、本来ならばその中東系 Y-DNA の Q 系統は、日本でも 10 パーセントくらいいないとバランスがおかしいですね。

可能性としては、ごく少数派で権力を握っていた Q 系統の女子が、他の原住民の首長に嫁いで重宝されて繁殖していったのに比して、男子のほうは同族婚姻しかなかったので、広ま らなかったとかいう線になるで しょうか。その繁殖率の低さとか、サンプル数とか、他の要素 も考慮しておきたいところです。

ともあれ、MT-DNA が、母系であることは、D 系統を弥生人と仮定して、現在 50 パーセント近くになっていることを考慮すると、男女で一緒にわたってきて、縄文人とあまり混じら ずに大量繁殖したように見えます。

それでさらにいえば、日本神話が、どの系統の神話だったのか？

つまり秦野さん注目のアマテラス、天孫降臨ですね。

つまりこの神話の権力者が、Y-DNA でいえば江南 O 系統の王朝の話だったのか、あるいは Q 系統遊牧民のそれだったのか？その辺で、ずいぶんその推定年代も変わってくるで しょう。

Ads by Google ----- Re: 人骨と DNA 分岐 投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2012 年 5 月 9 日(水) 23 時 58 分 52 秒 返信引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

今までの常識、古事記は神話で意味が分からないでしたが時間軸を合わせれば、古代のありさま、地図と航路を合わせれば国生みの島々が明確になる。

現在の古代史の常識が崩れる。秦野も驚いています。 現在判明、日本での稲作は陸稲が 6700 年前、水稲が 2500~2800 年前である。

朝寝鼻貝塚の 6000 年前の地層からイネプラントオパールが発見 BC3000 アイヌ人上陸。5000 年前

栽培穀物は、後期・末期(炭素年代測定で 4000~2300 年前) BC1700 三苗上陸。3700 年前 BC 585 呉 (春秋)、2600 年前 日本最古の水田址遺跡は約 2500 年前 BC 200 徐福上陸。2200 年前

稲作適応した O 系統は、南西諸島経由で、数度九州南部・西部あたりに上陸していた可能性 はあり。朝鮮半島では、1500 年程前の水田稲作(水稲)までしか確認されていないため、朝鮮半島から稲作ルートはない。後は南西諸島で上海(寧波)の沖になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A8%B2%E4%BD%9C#.E6.97.A5.E6.9C.AC.E3.81.B8.E3.81.AE.E4.BC.9D.E6.9D.A5>

第 1 章 神々の出現

(天之常立神): 常陸の神

(宇摩志阿斯訶備比古遲神): 日向の神?

第 7 章 スサノオ

イザナギノミコトは、…… アマテラスオオミカ: 天を支配しなさい。(高天原: 筑紫城『新唐書』日本伝) ツクヨミノミコト: 夜の国を治めなさい。(九州: 筑紫=伊都国?) スサノオノミコト: 海原を治めなさい。(有明海: 筑紫海)

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

第 1 章 アメノワカヒコとキジ 千五百年も長く続いている、…

第 1 章 神々の出現 昔むかし、この世界で最初に天に現れましたのは、アメノミナカヌシノカミ(天之御中主神)という神様でした。次に、タカミムスビノカミ(高御産巢日神)とカミムスビノカミ

(神産巢日神)という神様が出現なさいました。この三柱(みはしら。※神様の数は、「柱」で 数えます。)の神様は、そのお姿を地上には、直接現しませんでした。

その次に、日本の国がまだ海に浮かぶ脂のごとく、くらげのようにただよっていた時に葦 (あし)の芽が萌え上がるように現れたのは、ウマシアシカビヒコジノカミ(宇摩志阿斯訶 備比古遲神)とアメノトコタチ(天之常立神)という神様でした。これらの五柱の神様は、コトアマツカミ(別天つ神)といって、それぞれ独身(ひとりみ)で現れた天の神様たちです。

(天之常立神): 常陸の神

(宇摩志阿斯訶備比古遲神): 日向の神?

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami.html

第 7 章 スサノオ イザナギノミコトは、「わたしは、これまで多くの子を生んだが、一番最後に貴い三人の子どもたちを得た。」とお喜びになられました。そして、ご自分の首にかけていた玉の首かざりを ゆらゆらと鳴らせながらアマテラスオオミカミに授け、「あなたは、天を支配しなさい。」とお しゃいました。次にツクヨミノミコトに「あなたは、夜の国を治めなさい。」といい、スサノ オノミコトには、「あなたは、海原を治めなさい。」と

おっしゃいました。

アマテラスオオミカ:天を支配しなさい。 ツクヨミノミコト:夜の国を治めなさい。 スサノオノミコト:海原を治めなさい。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami_07.html

第1章 アメノワカヒコとキジ

さて、アマテラスオオミカミは、「千五百年も長く続いている、この豊かな葦原の水穂の国(あしはらのみずほのくに=日本

の国)は、わたしの息子であるアメノオシホミミノミコト(天忍穗耳命)が治める国です。」

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_01.html

> それ以前の系統は縄文人。D・C 系統で、弥生人の O 系統とはまったく関係ないでしょう。 > 稲の DNA 的には、南西諸島経由の熱帯ジャポニカ。 >> そうすると、稲作適応した O 系統は、南西諸島経由で、数度九州南部・西部あたりに上陸していた可能性はありますね。

>> ただ、千五百年というのは、どうですかー……。 >

----- Re:人骨と DNA 分岐投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 5 月 9 日(水)22 時 13 分 3 秒 返信・ 引用

> No.467[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> さて、アマテラスオオミカミは、 > 「千五百年も長く続いている、この豊かな葦原の水穂の国

> 紀元前 1700 年頃夏王国は殷(いん)に敗れ、岡田英弘氏の夏人:夷(い)説に従うと、 (上海)会稽山、寧波を中航し、夷洲(四国)、高天原(たかまがはら)に來たことになる。 > どうやら、寧波を東に黒潮に乗り夷洲のようです。寧波出航は数百隻を想定すると、海流は 複雑で対馬海流、黒潮は北太平洋海流に繋がるため、散在したと思われる。

>

なるほど、千五百年というのは、どこから出てきたのか気になりますね。 「豊葦原千五百秋瑞穂国」
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%91%A6%E5%8E%9F%E4%B8%AD%E5%9B%BD>

ただ、1500 年前は怪しいですね。 弥生人タイプが出てきたのが春秋時代で BC 700-500 です。 それ以前の系統は縄文人。D・C 系統で、弥生人の O 系統とはまったく関係ないでしょう。 平定最初にでてくるのは、

天忍穗耳の派遣 [編集]天照大御神は、「葦原中国は私の子の正勝吾勝勝速日天忍穗耳命(あめのほしおみみ)が治めるべき国だ」と言い、天忍穗耳命に天降りを命じた。しかし、天忍穗耳命は天の浮橋に立って下界を覗き、「葦原中国は大変騒がしい状態で、とても手に負えない」と高天原に上ってきて、天照大御神に報告した。

どうも個人的には、紀元後の倭国大乱の時代を感じさせますね。

瑞穂の国という言葉は、どうも稲作と関係ありそうですから、やはり弥生系とのかかわりを 感じます。

<http://6102.teacup.com/sankaku/bbs/546>

ただ、確かに日本への稲作の伝来は、C14 法あたりを見ると、BC 3000 前後のようですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A8%B2%E4%BD%9C#.E6.97.A5.E6.9C.AC.E3.81.B8.E3.81.AE.E4.BC.9D.E6.9D.A5>

稲の DNA 的には、南西諸島経由の熱帯ジャポニカ。

そうすると、稲作適応した O 系統は、南西諸島経由で、数度九州南部・西部あたりに上陸していた可能性はありますね。

ただ、千五百年というのは、どうですかー…。

Re: 人骨と DNA 分岐 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 8 日(火)23 時 42 分 56 秒 返信・引用
編集済

> No.466[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

古代帝国「秦王朝」に夷洲、澶洲の記録がある。また、古事記に琉球、出雲、常陸がある。地図に当てはめると。琉球、出雲が呉。夷洲が三苗(夏)。澶洲がアイヌ人。どうも瑞穂の国(高天原)が中央集権となっている。渡来人に近づきました。卑弥呼、壺與(神功皇后)は匈奴の末裔になる。

常識では信じ難いでしょうな。古事記の文書を訳します。日本の古代史の闇の部分が見えてきます。

古事記、日本書紀の神、尊は諱(いみな)になる。

古事記:国之常立神(くにのとこたちのかみ)、日本書紀:国常立尊(くにのとこたちのみこと) 翻訳:常陸国の神。
常立=常陸=日立=常陸国

古事記:豊雲野神(とよぐもぬのみこと)、日本書紀:豊斟淳尊(とよぐもぬのみこと) 翻訳:豊宇野(豊酒)の神=出雲国
豊=豊前国、豊後国。斟(酒盛り(斟浅))、淳(留まる)=産物で示している。出雲=酒、雲野=宇野。北九州から岡山付近まで。

日本書紀:伊弉冉尊(いざなみのみこと) 翻訳:かれ大きく堂々と承知する。伊=かれ、弉=大きく堂々としている、諾=よし、承知する。高千穂、宮崎の諱(いみな)。85 艘で澶洲に向かう。巖島(おのころ)・

古事記:伊邪那岐神(いざなぎのみこと) 翻訳:かれ瑯邪(ろうや) ゆったりとしてわかれる。伊=かれ、これ、邪=瑯邪(ろうや)、那=ゆったりとして、岐=わかれる 黄泉の国、堺でイザナミとイザナギが別れるときの諱(いみな)。注)イザナミは 2 名居る この後、国生み神話になる。・

諱からイザナギは瑯邪(ろうや)、徐福になる。アマテラス、スサノウはヒルメ、ヒルコになる。

尚、八岐大蛇は BC585 呉(春秋)の呉越、越が韓国のモッポに居たのをスサノウが倒している。八岐大蛇の意味は八岐は越の地名と盗賊(蛇頭)の造語、八岐大蛇になる。

BC3000 アイヌ人上陸。Y-DNA C、D 系統 縄文

天地(空・島)とカムイの始まり 昔、この世に国も土地もまだ何もない時、ちょうど青海原の中の浮き油のような物ができ、これがやがて火の燃え上がるように、まるで炎が上がるように、立ち昇って空となった。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%9C%B0%E9%96%8B%E9%97%A2_\(%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%8C%E7%A5%9E%E8%A9%B1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%9C%B0%E9%96%8B%E9%97%A2_(%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%8C%E7%A5%9E%E8%A9%B1))

中国史籍にアイヌ人と思われる文章がある。女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒(こびと)国が在り、身長は三、四尺、

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm> BC1700 三苗上陸。Y-DNA O、N、C、D 系統 縄文

下記の文章は紀元前 200 徐福上陸。Y-DNA O、N、C、D 系統 弥生。三苗の上陸は古事記に記録が残る。常陸を境に日本国と倭国(瑞穂の国)に分かれている。中国史籍の東西 5 ヶ月、南北 3 ヶ月で明確に成っている。

さて、アマテラスオオミカミは、「千五百年も長く続いている、この豊かな葦原の水穂の国

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_01.html

紀元前 1700 年頃夏王国は殷(いん)に敗れ、岡田英弘氏の夏人:夷(い)説に従うと、(上海)会稽山、寧波を出航

し、夷洲(四国)、高天原(たかまがはら)に来たことになる。　どうやら、寧波を東に黒潮に乗り夷洲のようです。寧波出航は数百隻を想定すると、海流は複雑で対馬海流、黒潮は北太平洋海流に繋がるため、散在したと思われる。

http://books.google.co.jp/books?id=hEdLD8-zzD8C&pg=PA163&lpg=PA163&dq=%E5%B2%A1%E7%94%B0%E8%8B%B1%E5%BC%98+%E5%A4%B7%E7%BC%88%E3%81%84%E7%BC%89&source=bl&ots=Hpa_I9vTC&sig=feMFQuiCap5m0BqWW0-6gjnZrVE&hl=ja&sa=X&ei=jROpT7H_LunJmAWvyNXhBA&ved=0CGwQ6AEwCQ#v=onepage&q&f=false

%88%E3%81%84%E7%BC%89&source=bl&ots=Hpa_I9vTC&sig=feMFQuiCap5m0BqWW0-6gjnZrVE&hl=ja&sa=X&ei=jROpT7H_LunJmAWvyNXhBA&ved=0CGwQ6AEwCQ#v=onepage&q&f=false

紀元前　200 徐福上陸。

『後漢書』『隋書』倭国伝倭人伝を手がかりとして推察してみる。

會稽海外有東鯤人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人　入海、求蓬萊神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會　稽東冶縣人有入海行遭風、流移至澶洲者。所在絕遠、不可往來。

會稽海の外に東鯤人(ひしこ人)あり、二十餘國。他に夷洲(いしゅう)、澶洲(た　んしゅう)。秦始皇は傳言し徐福將童男女數千人を遣わす、蓬萊神仙を求められず、責めをお　それ帰らず、この島に止まり、数万家を賜わる。東鯤人、會稽市に至る時、會　稽東冶縣人、遭風航行し澶洲に至り絶遠する。往來できず。

紀元前　585 呉　(春秋)、呉上陸。Y-DNA O、N、C、D 系統 縄文　紀元前　200 徐福上陸。Y-DNA O、N、C、D 系統 弥生

丸木舟は、古代シュメル、アトランテスの末裔を馬鹿にしている。

三内丸山遺跡も徐福が影響を与えたと考えるのがただしい。今までの古代史の歴史家は退場　ですな。

> これも海流の関係で、琉球方面や半島西部から丸木舟が流れついたときに、西部沿いに北　上していったせいかもしれません。　>> 彼等はしばらくその九州の西部沿岸地域や、瀬戸内西部で開拓した後に、徐々に機を見て　東遷したように感じます。

----- Re:人骨と DNA 分岐投稿者:管理人　投稿日:2012 年 5 月 8 日(火)15 時 55 分 0 秒　返信・ 引用　編集済

> No.465[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 弥生人の遺伝子　>
- > 下戸の分布で数値が小さいほど下戸(弥生人の遺伝子)が多い地域です。　>
- > http://pub.ne.jp/luckfield/?entry_id=2390945 >
- > アイヌは D 系統の上戸。常陸が境界になる、東北と九州の鹿児島に分布。　>
- > 倭人は下戸。　>
- > 日本神話の天地開闢、当時の日本の地図です。この地図は日本神話の文章に隠されていた　ものを書き写したものです。これが倭国になる。邪馬台国の領地と一致する。図添付、徐福と　邪馬台国より秦野さんご紹介のサイトにある頭骨の縦横比の分布図が興味深いですね。

対馬でも南北で、その比率が違って、北九州よりも、下関から上陸、瀬戸内方面へ向かった経　緯が見えます。

思うに漂着系の渡来は、海流に強く左右されるのではないのでしょうか。　対馬北部から、リマン海流で東に向かって下関についてしまったケースですね。

オールも帆もない丸木船だと、どうしても海流に乗ると、そう行くしかないなかったのかも　もしれません。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%BE%E9%A6%AC%E6%B5%B7%E6%B5%81>

南へ向かうのは、もう少し後の漢・魏の構造船の時代でしょう。それで、もうふとつ気になるのは、鹿児島や長崎の「西部」方面に多いこと。

これも海流の関係で、琉球方面や半島西部から丸木舟が流れついたときに、西部沿いに北上していったせいかもしれません。

彼等はしばらくその九州の西部沿岸地域や、瀬戸内西部で開拓した後に、徐々に機を見て東遷したように感じます。

その際に、個人行動として、勝手に弥生人が進出していったというよりは、軍事的に団体行動で、縄文人の領地に進出していった可能性を感じます。山陰や四国南東部、九州南東部には、あまり進出できなかったように見えますね。

稲の生育の問題とも関係するかもしれません。九州南部の火山灰地はまず稲作に向かないでしょうし。また四国南部はそもそもそこに行くことが自体が難しいです。

----- Re: 人骨と DNA 分岐 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 5 月 7 日(月)19 時 15 分 40 秒 返信引用 編集済

> No.464[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 弥生人の遺伝子 下戸の分布で数値が小さいほど下戸(弥生人の遺伝子)が多い地域です。 http://pub.ne.jp/luckfield/?entry_id=2390945 アイヌは D 系統の上戸。常陸が境界になる、東北と九州の鹿児島に分布。 倭人は下戸。

日本神話の天地開闢、当時の日本の地図です。この地図は日本神話の文章に隠されていたものを書き写したものです。これが倭国になる。邪馬台国の領地と一致する。図添付、徐福と邪馬台国より

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano1.htm>

BC3000 アイヌ人上陸。Y-DNA C、D 系統 古縄文 BC1700 三苗上陸。Y-DNA O、N、C、D 系統 縄文 紀元前 585 呉 (春秋)、呉上陸。Y-DNA O、N、C、D 系統 縄文 紀元前 200 徐福上陸。Y-DNA O、N、C、D 系統 弥生

>> D 系統の縄文系の Y-DNA は精子の濃度が薄く、繁殖率が低いそうです。弥生系は濃度が濃かったわけですね。また稲作農耕民という、安定した環境が繁殖をさらに増やした可能性を感じます。 >>> ただ、ひとつ気になるのは、弥生人が最初に繁殖したはずの北九州より、本州のほうが、先の下戸遺伝子の割合が高いことです。この辺はキシさんご指摘の邪馬台国問題ともかかわってくるかもしれません。 >

----- Re:人骨と DNA 分岐投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 7 日(月)16 時 14 分 41 秒 返信引用 編集済

> No.463[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 再度 Y-DNA 図を見直すと O 系統はない。

> 別の遺伝子、下戸遺伝子で見ましょう。南米の分布はモンゴロイドで下戸遺伝子を持つ > モンゴロイドでも新モンゴロイドは特に酒に弱い。 >

下戸遺伝子というのは、面白いですね。他の Y-DNA の遺伝子系統や、同じ NO 系でもシベリア方面の N 系統ではなく、見た感じ O 系統特有で、特に稲作農耕民の遺伝子と見受けました。

アルコール分解のみならず、米食に適応した日本人は、血液中の血糖が高くなる食物を食べ続けるとすぐ糖尿病になるそうです。

全体的に米食に適応する形で、腸が長くなり、緩やかな食物分解をする仕組みへと遺伝子が変異していったように感じます。それが稲作農耕民 O 系統の特徴でしょう。

確かに、九州、北海道といった縄文系が残っている地域には、少ないことを考慮すると弥生人 = O 系統の図式が明らかになりそうですね。

弥生人骨の分析では、玄界灘方面に少数に弥生人が漂着し、その後弥生人特有の繁殖率の高さで、徐々に数で

圧倒していったそうです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BA%BA#Y.E6.9F.93.E8.89.B2.E4.BD.93.E3.81.AB.E3.82.88.E3.82.8B.E7.B3.BB.E7.B5.B1.E5.88.86.E6.9E.90>

D 系統の縄文系の Y-DNA は精子の濃度が薄く、繁殖率が低いそうです。弥生系は濃度が 濃かったわけですね。また稲作農耕民という、安定した環境が繁殖をさらに増やした可能性 を感じます。

ただ、ひとつ気になるのは、弥生人が最初に繁殖したはずの北九州より、本州のほうが、先の 下戸遺伝子の割合が高いことです。この辺はキシさんご指摘の邪馬台国問題ともかかわって くるかもしれません。

Re: 人骨と DNA 分岐 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 6 日(日)21 時 43 分 59 秒 返 信・引用編集済

> No.461[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 徐福を調べていた時に、下戸遺伝子を知り今回の議論に提示します。

再度 Y-DNA 図を見直すと O 系統はない。

別の遺伝子、下戸遺伝子で見ましょう。南米の分布はモンゴロイドで下戸遺伝子を持つモンゴロイドでも新モンゴロイドは特に酒に弱い。

下戸遺伝子

欧米のコーカソイド、アフリカのネグロイドにはほとんど D 型は検出されなかったが、モンゴロイドである東洋の黄色人種、南北アメリカのインディアンでは検出されている

http://www.athome-academy.jp/archive/biology/0000000176_all.html 新モンゴロイド、紀元前 3 世紀(弥生時代)以降に渡来した説

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B4%E3%83%AD%E3%82%A4%E3%83%89>

Y-DNA と下戸遺伝子の対応。

1 A、B、F、ネグロイド(Negroid)は、人種のひとつ。黒人(Black)、黒色人種 2 R、I、J、C、D、コーカソイド(白色人種)、北アフリカ・ヨーロッパ・西アジア・アラブ・南アジアなど 3 C、D、オセアニアに見られるオーストラロイド、

4 Q、O、N、C、D、モンゴロイド(黄色人種) 東アジア・東南アジア・ポリネシア・南北アメリカ大陸など

アセトアルデヒド脱水素酵素の分類

AA 型(酒が飲めない「下戸タイプ」) モンゴロイドにのみ 5%程度存在する。 AG 型(酒に弱いタイプ) モンゴロイドにのみ 35%程度存在する。 GG 型(酒に強い、あえて言えば「上戸タイプ」) ネグロイド(黒人)・コーカソイド(白人)はほぼ全てこのタイプ。モンゴロイドでは 60%程度存在する。

なお、人類の元々の遺伝的タイプは GG 型であり、AA 型及び AG 型は突然変異によるハプロタイプである。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8B%E6%88%B8>

モンゴロイド(Mongoloid)は、かつての形態人類学上の「人種」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B4%E3%83%AD%E3%82%A4%E3%83%89>

分布 人類集団の分類の新しい学説で「モンゴロイド」は、先述の通り南北アメリカ人と東ユーラシア人に二分され、太平洋諸島の先住民であるモンゴロイドも東ユーラシア人に分類される。但しアジアでもシベリア極東部北部とその周辺の「モンゴロイド」はこの学説に従えば、東ユーラシア人のほか、南北アメリカ人に属する集団も人口は少数だが古くから居住する。

この遺伝子は 2 万年程前に突然変異によって生じたとされ、特に新モンゴロイドに特有であり、この遺伝子を持つということは、「新モンゴロイド」であるか、かつて混血がおこったことの証明となる。

推測ですが下戸遺伝子から長江文明と黄河文明は異質。

アステカの洪水伝説。アステカは三苗の国で長江文明に属する。

大洋の時代になったとき、400 年が過ぎていた。それから 200 年、次に 76 年が過ぎた。それからすべての人類が失われ溺れて魚になった。水と空は互いに近づいた。一日ですべてが失われ、4 つの花が我々の肉のすべてを食べつくした。大いなる山は洪水に飲み込まれ、水は引かず、50 と 2 つの春の間そこにとどまり続けた。

紀元前 2600 年頃?大洋の時代になったとき、(青海省:大洋?) 紀元前 2375 年頃 400 年が過ぎていた。(三苗の国、夏) 紀元前 1975 年頃 それから 200 年。(夏王国) 紀元前 1776 年頃 次に 76 年が過ぎた。(夏→殷)

紀元前 1700 年頃 それからすべての人類が失われ溺れて魚になった。(殷) 注)秦野が三苗の国、夏を元に年代を記入する。

<http://ja.wikibooks.org/wiki/%E9%BB%84%E6%B2%B3%E6%96%87%E6%98%8E%E3%83%BB%E9%95%B7%E6%B1%9F%E6%96%87%E6%98%8E>

>> やはり、DNA が突然変異以外にも急速に環境適応していく要素を含んでいるように感じます。 >>>

----- 参問倭地 参問…山門 サン(太陽)参道 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 5 月 6 日(日)09 時 21 分 28 秒 返信・引用

山門郡を邪馬台国の比定地とした。<http://mugentoyugen.cocolog-nifty.com/blog/2008/12/post-0bc7.html> 山門の地名の語源は、「山が相対していて門のようになっているところ」から来るものと考えられ、地形を形容する普通名詞的なものだったようだ。とすれば、山門をヤマトと発音したとしても、どこの山門か、ということが問題になる。

真東を向いた参道から登った太陽の光が参道と

...<http://www.geocities.jp/yasuko8787/80621.htm>

ラムセス二世(在位 紀元前 13 世紀)の坐像があるこの神殿では、春分・秋分の日朝に限って、日光が65m 奥の至聖所まで届く構造になっているからです。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re:人骨と DNA 分岐投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 5 日(土)22 時 12 分 46 秒 返信・引用 編集済

> No.460[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 魏志倭人伝に船行一年、何かノウハウを持っていたようだ。 >
- > 『三国志魏書』倭人伝(通称:魏志倭人伝) >
- > 女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。又 有裸國、黑齒國復在其東南、船行一年可至。参問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可五 千餘里。 >
- > 女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒 (こびと)国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。また、その東南に裸国や黒齒国 も在り、船で行くこと一年で至るとか。倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上 に在り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。

>

長距離航海の件ですが、先に紹介した蒸留法は、BC 5 年ごろから使用されはじめたようです。

<http://www.nihon-buchi.jp/training-evaporation.8822.0.html>

「次に、今から 2500 年以上前に、ギリシア人の船乗りたちが外海の船上で羊毛を使った凝結 法を編み出しました。船が遭難し、海水から飲料用の真水を作る必要に迫られたのです。彼ら は海水を熱し、鍋の上に羊毛を乗せてそこで蒸気を凝結させました。この「羊毛凝結装置」は

古代から近代まで広く用いられ、それまでの「粘土鉢タイプ」に比べると大きな進歩でした。 」

それ以前は、おそらく雨水を溜めた可能性が高いですね。

> 南米で縄文土器が発見

やはり D 系統メインの縄文系に、C 系統が入っていた可能性も考慮すべきでしょうか。北米 に C 系統が見えますね。南米には、今再度 Y-DNA 図を見直すと O 系統はないようです。失 敬。

そうすると弥生系も O 系統なのかな？ 弥生人骨は、江南の江蘇省徐州近郊の梁王城遺跡の人骨と類似するそうです。

<http://www.asukanet.gr.jp/tataki/yayoizin2.html>

「日中共同調査団による 5 年前(1997年)の調査で、中国の新石器時代人(4000 年 ~5000 年前)は日本の縄文人、弥生人いずれにも似ていないことが明らかになっていた が、今回(1997年)の研究で、紀元前約 500 年の春秋時代末期に、弥生人タイプの「春 秋時代人」がすでに出現していたことが明らかになったのは、予期せぬ大きな発見であった。」

<http://www.asukanet.gr.jp/tataki/yayoizin3.html>

DNA 的にも近い。

ただ、梁王城遺跡の BC 4000 年ごろのその人骨は 180 センチもあったそうですね。クロマニ ヨン人サイズです。NO 系ですね。

<http://www.recordchina.co.jp/group/g20558.html>

抜歯の風習などを考慮すると、やはり弥生人は O 系統なのでしょうか。

確かにネアンデルタール人関連の C 系統の文化に、稲作農耕はないですね。中国の南に多い O 系統が出現してからのものでしょうか。その O 系統とか稲作が出てくるのが、BC 4000 年で、NO 系でクロマニヨンと同じく 180 センチ近くあったものの、徐々に時代とともに 身長が低くなっていったのかもしれませんが。

> 洪水伝説から、紀元前 2600 年頃に青海省、夏王国、紀元前 1776 年頃~紀元前 1700 年 頃の 76 年に中国脱出を計画し、ノア箱舟クラスの船を建造、寧波から脱出したのではないか。

北米に C 系統がみえるだけなので、やはり C 系統は氷河期ベーリング海経由で北米へ渡った 縄文人の親戚とみて間違いないでしょう。

中国の O 系統が達したの、インドネシアまでのようです。

そうすると、縄文時代には、C と D 系統という 2 種類いて、その後続縄文時代になって、北か らオホーツクの N 系統が入ってきた。また弥生時代には O 系統が、その後も古墳時代にも O 系統が流れこんだという流れで、問題ないかと感じます。

> 紀元前 1700 年、日本組は徐福と邪馬台国で紹介している茅渟の道を通り奈良に入っ ている。古事記より。高天原は奈良になる。後日説明。

徐福の伝承は、徐州から出て行った弥生人の古い伝承と関係がありそうですね。後の百済地 域経由で日本に入ってくる O 系統の流れで、春秋時代に、百済へ船でわたっていったかもし れません。その移民の長い歴史の流れに沿って最後に渡ったのが徐福だったというわけです。

今でも韓国に徐という姓の人がいます。

NO系のクロマニヨン人は 4 万年前からあって、BC 3000 年ごろまでに、O と N に分離した のでしょうか。そもそも NO と O,N に、それほどの形質差があったかどうか疑問でしたが、先の江南弥生人の人骨の変遷をみていくと、結構環境適応で、人骨が変化する可能性を感じました。

日本人が胴長なのは、米の消化のために、腸が長いのですが、そもそも米を主食にしはじめたのは、せいぜい BC 12000 年くらいからでしょうから、そうするとたった 12000 年で、大

きく体系が環境適応してしまったことになりますよね。突然変異は 500 年に一度といいますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B4%E7%A8%B2%E8%80%95%E4%BD%9C#.E8.B5.B7.E6.BA.90>

やはり、DNA が突然変異以外にも急速に環境適応していく要素を含んでいるように感じます。

----- 以上は、新着順 1 番目から 10 番目までの記事です。1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 |《前のページ|

次のページ》

Re: 人骨と DNA 分岐 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 5 日(土)00 時 33 分 55 秒 返信・引用 編集済

> No.459[元記事へ] 魏志管理人さんへのお返事です。 魏志倭人伝に船行一年、何かノウハウを持っていたようだ。『三国志魏書』倭人伝(通称:魏志倭人伝)

女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。又有 裸國、黑齒國復在其東南、船行一年可至。參問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可五千 餘里。

女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒(こ

びと)国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。また、その東南に裸国や黒齒国も在り、船で行くこと一年で至るとか。倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上に在り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

北米には O 系統はない。どう理解すればいいのか問題です。太平洋を 415 日 (50 と 2 つの春の間そこにとどまり続けた。) 近く日にちを要している。結果、到達したのは数名でしょう。DNA は O 系統と Q 系統が混血し、Q 系統に飲み込まれたのでは。 BC1700 年に日本を通過した可能性が高い。帆船の可能性はある。

アステカ(中国(上海)から日本、南米への旅立ち)BC1700 年 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%B4%AA%E6%B0%B4>

南米で縄文土器が発見

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1041750560 洪水伝説から、紀元前 2600 年頃に青海省、夏王国、紀元前 1776 年頃~紀元前 1700 年頃

の 76 年に中国脱出を計画し、ノア箱舟クラスの船を建造、寧波から脱出したのではないかと。紀元前 1700 年、日本組みは徐福と邪馬台国で紹介している茅渟の道を通り奈良に入ってい

る。古事記より。高天原は奈良になる。後日説明。

アステカの洪水伝説 大洋の時代になったとき、400 年が過ぎていた。それから 200 年、次に 76 年が過ぎた。それからすべての人類が失われ溺れて魚になった。水と空は互いに近づいた。一日ですべてが失われ、4 つの花が我々の肉のすべてを食べつくした。大いなる山は洪水に飲み込まれ、水は引かず、50 と 2 つの春の間そこにとどまり続けた。

紀元前 2600 年頃?大洋の時代になったとき、(青海省:大洋?) 紀元前 2375 年頃 400 年が過ぎていた。(三苗

の国、夏) 紀元前 1975 年頃 それから 200 年。(夏王国) 紀元前 1776 年頃 次に 76 年が過ぎた。(夏→殷)

紀元前 1700 年頃 それからすべての人類が失われ溺れて魚になった。(殷) 注) 秦野が三苗の国、夏を元に年代を記入する。

南米の歴史が見えますな。

諸王国の成立前夜 紀元前 2500 年頃になると、現在のペルーのリマ市北方のスーペ谷に、カラル (Caral) という石造建築を主体とする遺跡が現れる。遺跡の年代は、紀元前 3000 年から 2500 年ごろと推定されている。しかし、発掘され現在復元されている遺跡群は、すでに非常に精緻なつくりをしているため、さらに遡る可能性もある(一部、形成期と呼ばれる紀元前 1800 年以降の遺跡も復元されている)。海岸遺跡は干しレンガ製が多いが、この時期の遺跡には海岸遺跡の中でも石造建築がある。カラル遺跡からは、かなりの量の魚介類が出土している。また、ペルー北海岸にワカ・プリエッタの村落跡やアルト・サラベリー、中央海岸のカスマ谷にワイヌナ、中央海岸地帯にアスペロ、同じく中央海岸地帯でリマの北方にエル＝パライソといった神殿跡が築かれる。エル＝パライソは U 字型に建物が配置され、その一辺が 400m に達するものである。一方山間部では、小型の神殿が建てられるようになる。紀元前 3000 年頃に、北高地サンタ川上流にラ＝ガルガーダの神殿、紀元前 2500 年頃には、コトシュ遺跡(ペルー、ワヌコ県)に、交差した手をモチーフにした 9m 四方の「交差した手の神殿」が築かれた。しかし、いずれも、当時はまだ土器を持たない時代といわれており、土器の誕生以前にこのような神殿群を誕生させたところに、アンデス文明の特徴があるともいえる。王の存在を強く認めるようなものは今のところ出ていない。この時期を、アメリカ合衆国の編年では、先土器時代と区分することもある。

紀元前 1800 年頃になると、土器の利用が始まることが確かめられる。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%87%E3%82%B9%E6%96%87%E6%98%8E>

> ただ、それ以前にご指摘の中国の O 系統が、同じく太平洋経由で南米へ渡った可能性がありそうです。北米には O 系統はないところみると、インドシナ経由で渡った気がします。 >> ちょうど東北の震災で漂流したバイクが 1 年かかってカナダに到着したそうですが、漂流 となると半年から 11 年はかかりそうです。

>> 1 年持つ備蓄米と、雨水を溜めたり、海水を蒸留する装置が必要ですね。

>> ただ帆船だったら、もう少し早くつく可能性を感じます。南米で縄文土器が発見 DNA 分岐とミランコビッチサイクル
投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 30 日(月)23 時 04 分 7 秒 返信・引用編集済

> No.448[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- ・ > ネアンデルタール、クロマニヨン。P 系統コーカソイド、ネアンデルタールになる。
- ・ > シュメル王朝、アトランティス、シュメール、はクロマニヨンが築いたのでは。 >
- ・ > イスラエル:ネアンデルタール P→クロマニヨン R
- ・ > マヤ:ネアンデルタール P→マヤ Q 先のミランコビッチサイクルで、もうひとつ 4 万 1 千年周期の地軸角変化のサイクルがあり

ます。これが人種の分岐に関係している可能性があります。

4 万年前に後期旧石器時代が始まるころですね。それ以前のネアンデルタールなどから、クロマニヨン人が主流になります。このころにミランコビッチ曲線でも気温変化があります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A7%E7%9F%B3%E5%99%A8%E6%99%82%E4%BB%A3>

これは、アトランティスの時代のそれです。12930 年まで続いたでしょう。 Y-DNA 系統でいえば、F から分岐した G,H,I,J, K のいわゆるアトランティスの

5 部族世代ですね。クロマニヨン人は言語や火の使用があった模様です。

それ以前の C,DE,F は、ミランコビッチ曲線からいえば、8 から 9 万年前~12 万年あたりまでの気

候変動の時期のそれでしょう。ネアンデルタール人系統と考えます。いわゆる ネグロイド以外のコーカソイドと、モンゴロイドは、このネアンデルタール人を經由しているの、系統図からいけば、ネグロイド系の A,B 分岐以降になり、上記の 3 種となるわけ です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%87%E3%83%AB%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%AB%E4%BA%BA>

このネアンデルタール系は小柄ながら筋肉質で、前後に細長い頭部などコーカソイドと特徴 が類似しているそうですが、縄文系に多い D 系の諸特徴ともかかわってくると思います。

そして 1 万 2930 年の激変以降は、新石器時代に入り、K から別れて L,M,NO,P の時代になるのですが、これが楽園追放のアダムから、ノアまでの人類です。金属器の使用を開始してますね。急激な温度上昇の後の時代なので、クロマニヨン人より、体毛とかは薄くな ったのではないのでしょうか。

最後に BC 2760 年ごろのノア洪水の後、アジア方面では、NO から N と O,中東・欧州・シ ベリア方面では、P から Q と R が分岐して、人類の主役へと登場していくのですが、ここで文 字の使用が出てきます。数式の計算などもし始めるわけですね。鉄器も使用し始める。

このように考えると、ミランコビッチサイクルの地軸角・公転軌道変化による日射量変化に よる気候変動が、大きく人類の生存可能性とかかわりつつ、遺伝子形質の変化へと導いたも のと感じるのですが、その変化時期にはおうし座流星群の重力母天体による隕石の衝突や、 洪水の多発で人類が壊滅する事態があって、さらにその形質変化を保存することにつなが ったのでしょうか。

ただ、ネアンデルタール人のほうが、クロマニヨン人より脳容量が大きいそうで、かならずし も古いから知能が低いというわけではないようです。言語能力もサルの時代から、すでに準 備がなされていたようです。

人類の知的な部分の発展については、やはり文字使用の貢献が大きいですね。記憶領域が大 幅に開放されて脳負担が減ったのとともに、詳細な情報を後代に伝達することが可能になり ました。

あと、これらのミランコビッチサイクルを、年輪みたいに人の DNA 等が記憶している可能 性を感じます。特定の時期がくると、突然の気候変化にむけて先回りして、環境適応のために DNA も変異しやすくなったりするのではないのでしょうか。

次に変異する箇所も決まっているかもしれません。脳の言語野のどここの部分とかいう 具合にですね。もっともその辺はあるいは神の領域ですから、DNA 以外の準備要素がある のかもしれません。

Ads by Google ----- Re:惑星の位置推定投稿者:
秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 30 日(月)14 時 53 分 48 秒 返 信・引用

> No.449[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

問題のミランコビッチサイクルには何処らかの外力が必要になる。また、シリウス方面から は到達時間 3600 年で地球に接近するのが前提になる。1 光年もあれば不可能でしょう。仮に、惑星ニビル が地球に接近し、楕円起動であるなら。太陽が楕円起動を支えることが出来るかです。難しい ですな。

> ちょっと先の太陽系がシリウス方面を回るといいう 87 万年周期は、こちらも怪しいよう です。 > そこに銀河系を上回る重力星がないといけないそうで…。同様にフォトンベルト周期 もマユツバです。

- > それで再度、急激な温度差をもたらす周期について考えなおしてみました。
- > やはり下図のミランコビッチサイクルが、かなり高精度でその温度変化と対応してます。 >
- > 黄色線の日射量の変化と、温度変化の曲線が見事に対応しています。 >
- > もう少し詳細な離心率の周期がわかるといいのですが…。 >

----- Re:惑星の位置推定投稿者:管理人
投稿日:2012 年 4 月 30 日(月)13 時 52 分 23 秒 返信・ 引用 編集済

> No.448[元記事へ]

ちょっと先の太陽系がシリウス方面を回るという 87 万年周期は、こちらも怪しいようです。そこに銀河系を上回る重力星がないといけないそうで…。同様にフォトンベルト周期も マユツバです。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%88%E3%83%B3%E3%83%99%E3%83%AB%E3%83%88)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%AB%E7.8F.BE.E5.9C.A8.E3.81.BE.E3.81.A7.E3.81.AE.E6.B2.BF.E9.9D.A9>

それで再度、急激な温度差をもたらす周期について考えなおしてみました。やはり下図のミランコビッチサイクルが、かなり高精度でその温度変化と対応しています。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%AB%E7.8F.BE.E5.9C.A8.E3.81.BE.E3.81.A7.E3.81.AE.E6.B2.BF.E9.9D.A9>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%AB%E7.8F.BE.E5.9C.A8.E3.81.BE.E3.81.A7.E3.81.AE.E6.B2.BF.E9.9D.A9>

黄色線の日射量の変化と、温度変化の曲線が見事に対応しています。「上から 3 つの要素は日射量を決定づける要因だ。歳差運動 (Precession)の周期は 3 つあり、そ

れぞれ 1 万 9000 年、2 万 2000 年、2 万 4000 年である。自転軸の傾斜角 (Obliquity) の変化は周期 4 万 1000 年。公転軌道の離心率 (Eccentricity) 変化

は周期 9 万 5000 年、12 万 5000 年、40 万年。この結果、北緯 65 度における日射量は複雑な変化を示すことが計算できる。」

「巨視的に見れば 10 万年単位で変化が見られるわけであるが微視的に見れば「歳差の因子」と自転軸の傾きの変化によってその年ごとの日射量に変化する。本来の意味でのミランコビッチサイクルの日射量は 2 万~4 万年で増減をくりかえすため、70 万年前から 2 万~4 万年単位で氷床の規模がおおきく変化しなくなった理由については未だによくわかっていない。」

おそらく急激な氷床消失と温度変化は、CO2 の温暖化効果の関係でしょう。ただではなぜその極端な温度変化をもたらすときに、彗星も一緒にやってくるのか、そこが

課題です。

際差運動による地軸の傾きについては、章動といって、かなり詳細が動きがわかっています。18.6 年周期がでてるそうです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AB%A0%E5%8B%95>

また次の要素自転軸の傾斜角の変化が4万1千年ですね。23.4 度になっていることも、先の小惑星の最差運動の分布グラフにみられるような確率論で処理できるかもしれません。

この2番目の要素は、グラフでみると、温度変化では、底上げ的な効果をもっています。大きな変動には関係してないわけです。

そうすると、最後のミランコビッチサイクルの要素、離心率の変化ですが、よくグラフをみていくと、実は最差運動の変化率周期と対応していることがわかります。

そうすると、最差運動と離心率とが、同じ要因によって決定付けられていることが何に由来するのか?そこが課題です。

離心率について。

「天体の軌道の一部が母天体の大気中を通過する場合には、その軌道は抗力によって減衰 (decay) する。すなわち、近点を通過するたびに天体は大気と擦れあってエネルギーを失う。これにより、天体の運動エネルギーがちょうど最大に達する点でエネルギーを失うため、天体の軌道は 1 周ごとに離心率が小さくなる(円軌道により近づく)。最終的には軌道は円軌道に近づき、螺旋軌道を描いて大気中に落下する。」

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BB%8C%E9%81%93_\(%E5%8A%9B%E5%AD%A6\)#.E8.BB.8C.E9.81.93.E9.81.8B.E5.8B.95.E3.81.AE.E8.A7.A3.E6.9E.90](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BB%8C%E9%81%93_(%E5%8A%9B%E5%AD%A6)#.E8.BB.8C.E9.81.93.E9.81.8B.E5.8B.95.E3.81.AE.E8.A7.A3.E6.9E.90)

水星ももっと昔は離心率が大きかったそうですから、徐々に太陽風などの影響で、その割合が小さくなっていったのかもしれません。火星はまだ大きいそうですね。外部から動いてきた彗星的な軌道要素があります。

ただ惑星でも、地球や金星、木星…といった大型のものは、太陽系初期の時点から存在していたものですから、

本来は、離心率は0でないといけないはずで。

だから、外的な第3の重力要因が働く必要がでてきます。

特に、離心率における、9万5千年と12万5千年、この二つの周期が大きく関係しています。おそらく後者12万5千年のほうが、大きな影響力もってます。

この12万5千年で、地球の軌道を大きく引っ張る要素が、その時期の彗星衝突にも関係してくるのでしょう。そして、急激な温度変化をもたらし、CO2排出とともに、さらに大きなギャップをもたらした。

ただ、それは非常に周期的で、大気温度変化もほぼ誤差がない範囲で行われることを考慮すると、ランダムな隕石や彗星衝突は付随的なものでメインな要因ではなく、常に地球の軌道から一定の距離をもって同じ重力で影響してくる何ものか?の可能性を感じますね。

太陽が他の星を回る件で考慮すると、離心率は変わらないように感じます。逆に太陽の周りを別の星が回ると過程すると、離心率、歳差運動の周期も理解しやすくなるでしょう。

12.5万年と9.5万年の周期をもつ2つ伴星が回っていると考えると、合理的かもしれません。

太陽の伴星については、テューケーがありますが、180万年とちょっと上記のサイクルには合わないようです。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%83%A5%E3%82%B1%E3%83%BC_\(%E4%BB%AE%E8%AA%AC%E4%B8%A%E3%81%AE%E6%83%91%E6%98%9F\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%83%A5%E3%82%B1%E3%83%BC_(%E4%BB%AE%E8%AA%AC%E4%B8%A%E3%81%AE%E6%83%91%E6%98%9F))

かといって、1000年~周期で地球と同規模の新惑星では、周期的にもあわないし、重力的な影響も少ないでしょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%83%91%E6%98%9FX#.E5.A4.A9.E7.8E.8B.E6.98.9F.E3.83.BB.E6.B5.B7.E7.8E.8B.E6.98.9F.E3.81.AE.E8.BB.8C.E9.81.93.E3.82.92.E8.AA.AC.E6.98.8E.E3.81.99.E3.82.8B.E3.81.9F.E3.82.81.E3.81.AE.E6.83.91.E6.98.9FX>

各惑星の離心率をみると、金星 0.007→地球 0.017→火星 0.093 の順でまず離心率が大きくなりますね。水星も 0.206 と大きい。

また、木星と天王星が 0.047~8 で同じ、土星は 0.056 で少し大きい。しかし海王星は 0.009 と小さい。

<http://www.asahi-net.or.jp/~zq9j-hys/Data2.htm>

軽い星ほど離心率の変化が大きいと仮定すると、土星軌道あたりに伴星がやってくると、計算にあうかもしれません。

同じく土星の軌道傾斜角が妙に大きいですね。

歳差運動を起こさせるということは、25~30度の太陽系の惑星自転軸の傾きとも関係してこないといけないのですが、その伴星の軌道傾斜角がその25~30度だとわかりやすい。

海王星に行くに従い、30度近くに深くなっていくことを考慮すると、その近くを通過することになりそうです。

9万5千年のものと、12万5千年の2種類の伴星で、それぞれ上記の2つの要因に別々に影響を与えている可能性も感じます。

侵入時にカイパーベルトから、多くのチリを抱えてくるので、その時期に地球でも隕石の衝突が多発する結果になるのかもしれません。

恒星の伴星には、現在観測されているところでは、3種類くらいあって、褐色矮星や中性子星の可能性もあります。

仮に中性子星だとすると、電磁波を発散するので、遺伝子にも多くの突然変異をもたらす契機になりますね。

あと、12万5千年と9万5千年とで別々な2つの星ではなく、ひとつの星による複数の周

期と捉えることも考慮してみたいところです。5で割ると 25:19 です。 625 1250 2500 3125 5000 年周期

なら、双方で割り切れます。 もう少し詳細な離心率の周期がわかるといいのですが…。

<http://www.asahi-net.or.jp/~zq9j-hys/Data2.htm>

Ads by Google ----- Re:惑星の位置推定投稿者:

秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 30 日(月)09 時 25 分 4 秒 返 信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

ネアンデルタール、クロマニヨン。P 系統コーカソイド、ネアンデルタールになる。 シュメル王朝、アトランティス、シュメール、はクロマニヨンが築いたのでは。

イスラエル:ネアンデルタール P→クロマニヨン R マヤ:ネアンデルタール P→マヤ Q

P は存在するのか？

> P 系統は、パレスチナ周辺に分布しているので、フランスのクロマニヨンは、違う可能性が あります。 > 石器で狩猟生活をする、180 センチのコーカソイドに近いタイプとのことですね。欧州 に多い I,J の祖先ではないでしょうか。

>> ご紹介の氷河期のグラフの件は、人類の突然変異を考える上で、むしろ温度変化が跳ね上 がる時期に注目したほうがよいように感じます。 >> 13000 年前の急激な温度変化は、彗星衝突と周期的な温度変化とが一致していること

に興味を持ちますね。11 万年くらいの周期があるように見えます。

>> あるいは 87 万年の太陽系公転周期(シリウス周辺の)を 8 でわって、108750 年周期？>

----- Re:惑星の位置推定投稿者:秦野北斗 投稿

日:2012 年 4 月 29 日(日)18 時 19 分 24 秒 返 信・引用 編集済

> No.445[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 どうも、うまく並べられない。管理人さん少し力を…。

ネアンデルタール人の絶滅は氷河期と惑星ニビルの接近が同時に起きた 2 万年と一致して いる。(洪水で消滅) 今世紀の惑星ニビル接近は 4320 年、2000 年近くあるので安全です。人類の科学進歩に期待す る。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%87%E3%83%AB%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%AB%E4%BA%BA>

> P 系統は、パレスチナ周辺に分布しているので、フランスのクロマニヨンは、違う可能性が あります。 > 石器で狩猟生活をする、180 センチのコーカソイドに近いタイプとのことですね。欧州 に多い I,J の祖先ではないでしょうか。

>> ご紹介の氷河期のグラフの件は、人類の突然変異を考える上で、むしろ温度変化が跳ね上 がる時期に注目したほうがよいように感じます。 >> 13000 年前の急激な温度変化は、彗星衝突と周期的な温度変化とが一致していること に興味を持ちますね。11 万年くらいの周期があるように見えます。

>> あるいは 87 万年の太陽系公転周期(シリウス周辺の)を 8 でわって、108750 年周期？>

----- (無題)投稿者:2chshop 投稿日:2012 年 4 月

29 日(日)17 時 32 分 46 秒 返信・引用

2chshop <http://1-1.su/1E0> <http://1-1.su/1E1> sea <http://1-1.su/1Hw> 59

----- Re:惑星の位置推定投稿者:管理人 投稿

日:2012 年 4 月 29 日(日)14 時 44 分 8 秒 返信・ 引用

> No.444[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > クロマニヨン人はシュメールになり DNA:P になる。 >
- > 後期旧石器時代に属し、約 4 万 - 1 万年前のものと考えられる。 >

- > クロマニヨン人(クロマニヨンじん、Cro-Magnon man)とは、南フランスで発見された人類化石に付けられた名称である。1868年、クロマニヨン (Cro-Magnon) 洞窟で、鉄道工事に際して 5 体の人骨化石が出土し、古生物学者ルイ＝ラルテ(Louis Lartet) によって研究された。 >

P 系統は、パレスチナ周辺に分布しているので、フランスのクロマニヨンは、違う可能性があります。

石器で狩猟生活をする、180 センチのコカソイドに近いタイプとのことですね。欧州に多いI,Jの祖先ではないでしょうか。

ご紹介の氷河期のグラフの件は、人類の突然変異を考える上で、むしろ温度変化が跳ね上がる時期に注目したほうがよいように感じます。

13000 年前の急激な温度変化は、彗星衝突と周期的な温度変化とが一致していることに興味を持ちますね。11 万年くらいの周期があるように見えます。

あるいは 87 万年の太陽系公転周期(シリウス周辺)のを 8 でわって、108750 年周期？

----- Re:惑星の位置推定投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 4 月 29 日(日)08 時 36 分 40 秒 返信引用 編集済

> No.442[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

ネアンデルタール人

約 20 万年前に出現し、2 万数千年前に絶滅した(2 万に惑星ニビルとニアミスしている) DNA:P 以前の型？

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%87%E3%83%AB%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%AB%E4%BA%BA>

クロマニヨン人はシュメールになり DNA:P になる。

後期旧石器時代に属し、約 4 万 - 1 万年前のものと考えられる。

クロマニヨン人(クロマニヨンじん、Cro-Magnon man)とは、南フランスで発見された人類化石に付けられた名称である。1868年、クロマニヨン (Cro-Magnon) 洞窟で、鉄道工事に際して 5 体の人骨化石が出土し、古生物学者ルイ＝ラルテ(Louis Lartet) によって研究された。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%AD%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A7%E3%83%B3%E4%BA%BA>

----- Re:惑星の位置推定投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 4 月 28 日(土)22 時 50 分 32 秒 返信引用 編集済

> No.442[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

DNA が読めますよ、シュメール:P、イスラエル:P→Q、マヤ:P→Q3 アフリカ→シュメール→南米。紀元前 3000 年(ノアの洪水)でアジア、ヨーロッパへ移動、DNA が激変した模様。

「シュメル王朝表」に聖書と同様の表記がある。アルリム 二万八千八百年統治、アラルガル 三万六千年統治、二万八千八百年+三万六千年=六万四千八百年統治。シュメル王朝、アトランティス、シュメール、これらは同族みたいだな。

「シュメル王朝表」と呼ばれる記録が角柱として残っている。王権が天から降って、まずエリドゥにあった。エリドゥではアルリムが王となり、二万八千八百年統治した。アラルガルは三万六千年統治した。二王は六万四千八百年統治した。…大洪水が地を洗い流したのち王権が天から降り、それはまずキシュにあった。…キシュは戦いで敗れ、王権はエアンナに移された。そこでは太陽神ウトゥの子、メスキアグガシエルが王と大祭司を兼ね、三百二十四年統治した。…ウルクは戦いで敗れ、その王権はウルに移された。ウルではメスアンネパダが王となり、八十年統治した。…四人の王が百七十七年統治した。ウルは戦いで敗れた。…

エリドゥ

アルリム 二万八千八百年統治

アラルガル 三万六千年統治 二万八千八百年+三万六千年=六万四千八百年統治 大洪水(惑星ニビルの小惑星によりアトランティス、アテナイ消滅) 太陽神ウトゥ=ノア(バビロンにシュメル王朝復興=シュメール) メスキアグガ シェル 三百二十四年統治

メスアンネバダ 八十年統治
四人の王 百七十七年統治

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB>

哺乳形類の起源は、中生代三畳紀後期といわれる。約 2 億 2,500 万年前の地層から、現在知られる最古の哺乳形類、アデロバシレウスが発見されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%93%BA%E4%B9%B3%E9%A1%9E>

人類の進化(じんるいのしんか、英語:human evolution)、あるいは人類の起源とは他の生物種と異なる独立種としてのホモ・サピエンス(ヒト)が誕生するまでの生物学的進化の過程である。この記事では、霊長類(サル目)の出現から、ホモ・サピエンスまでの進化系統 について扱う。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%BA%E9%A1%9E%E3%81%AE%E9%80%B2%E5%8C%96>

----- Re:惑星の位置推定投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 4 月 28 日(土)16 時 37 分 31 秒 返信・ 引用 編集済

> No.439[元記事へ]

秦野さん、キシさん、情報ありがとうございます。 > 結論にちかずいてます。ゼカリア・シッチンは思考方法に問題がある。

> 惑星 X の規模は相当大きいみたいです。 ちょっとシッチンの説は、キシさんご紹介のサイトを読んでいて、いよいよ怪しい感じがし

ました、気をつけたいところです。 > まとめると、銀河系は渦で共鳴した渦の流れ。楕円形軌道で周期 3,600 年

> この条件を満たすものはカルマン渦の渦になる。カルマン渦は対の渦が存在する。 カルマン渦の件は重要です。金星と地球、天王星と海王星との自転方向がカルマン渦のよう

に、逆になっていることに興味を感じます。

小惑星でも、自転方向が分かれるのですが、どちらかというと順転が多いものの、その逆転 との比率が重要です。下記のサイトの分布図をみると、綺麗に左右対称になっていて、2;1 に分かれてます。

http://www.hayabusa.isas.jaxa.jp/j/index_29.html

さらに詳しくみると、25 度~30 前後に倒したものが多く、次に 65 度前後に分布の中心 があります。

これらは、太陽系の惑星が、25~30 度に自転軸を倒していることと共通性があるようです。

正確には、遠い惑星ほど角度がきつくなります。 カルマン渦をみると、メインの順回転の渦の横に、反作用で逆回転の渦ができますね。 おそらく太陽系の中にも同様な構造があるのでしょう。

それが2:1 になるか、3:2 になるかは、反発係数のようなものが影響するのだと思うの ですが、軌道共鳴を通して、整数比になる可能性を感じます。

それで、下記のサイトに、銀河系、太陽系、太陽系がシリウス座を中心にして回っている公転 周期を比較してま

す。
226800000 年=銀河系の 1 回転 =36 ニネヴェ定数周期(6300000×36) =288 シリウス周期(787500×288)
=8750 惑星歳差運動周期(25920×8750)

<http://metatron.la.coocan.jp/zone-62/numb030.htm>

シッチン・ニビルの類よりは、はるかに正確に計算してますし、そこそこ信憑性もあります。

そして、問題はシュメール人やマヤ人がその途方もない天文数値を熟知していたということ です。

管理人の予想が間違いなければ、シュメールは P→Q 系統、マヤはだいたい後に渡米した Q3 系統です。イスラエルは、その Q 系統から枝分かれしているはずですが、彼等がどこから知恵 を仕入れたのか?特に天文計算をするだけの数学的な能力を、突然開発しているところに興味を感じます。

まず望遠鏡や天文台が必要ですね。それから計算するための数字・文字が必要。数式計算の 知識も必要ですし …。それがつまり新石器時代人からの突然変異で起源前 3000 年前後に確立されたと すると、石器をつかってやっと火をおこしはじめた人たちとの極端なギャップに悩まされる ことになります。

その大きな矛盾をどう解決するかが課題です。

> 銀河系の渦状腕をカルマン渦の流体の渦の列とする。うずは流れの中央部に向かい渦をつ くる。これが連星をつくる。連星の起動を共通するのが惑星「ニビル」になる。

<http://>

----- Re:惑星の位置推定投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 4 月 28 日(土)15 時 56 分 25 秒 返 信・引用 編集済

> No.438[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

ゼカリア・シッチン

シッチンの説は理解できない。

シッチンのシュメール宇宙論の解釈によれば、太陽系内に、長い楕円形軌道をした 3,600 年 周期の仮説上の天体が存在するという。この惑星は「ニビル」(バビロンの宇宙論では惑星マ ルドゥクに伴っている惑星として表現)とよばれていた。シッチンによれば、ニビルは、火星 と木星の間に存在していたと考えられる惑星ティアマトと衝突し、地球、小惑星帯、彗星を形 成したという。なお、ティアマトはまた、メソポタミア神話の文書のひとつエヌマ・エリシ ュにおいては、女神として描かれている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BC%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%BB%E3%82%B7%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%B3>

ハレー彗星から惑星「ニビル」を推測する。海王星の軌道長半径から太陽系は約 60 AU、惑星 「ニビル」の遠日点距離はハレー彗星の近似で公転周期 3661 年 1705 AU、または 1220 年 568 AU になる。暗黒物質は太陽系の 28.5、9.5 倍の距離になり、暗黒物質と太陽系は連星を成して いると思われる。尚、太陽系の近くには恒星がなく、近くのアンドロメダ銀河 254 万光年にな

る。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%AD%E3%83%A1%E3%83%80%E9%8A%80%E6%B2%B3>

ハレー彗星 遠日点距離 35.08231205 AU 公転周期 75.3 年

海王星 軌道長半径 30.06896 AU

惑星「ニビル」 公転周期 3661 年:遠日点距離 1705 AU(ハレー彗星で近似) 公転周期 1220 年:遠日点距離 568 AU(ハレー彗星で近似)

暗黒物質. <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9A%97%E9%BB%92%E7%89%A9%E8%B3%AA>

> もう少し厳密に法則性とその数値を割り出し、それから未知の惑星の推定をしてみたいと 感じてます。

----- RE>ゼカリア・シッチンは思考方法に問題がある。投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 4 月 27 日(金)22 時 21 分 58 秒 返信・引用

ゼカリア・シッチンの「ニビル-アヌンナキ説」 2011 年 7 月 26 日 - ゼカリア・シッチン、ラエリアン・ムーブメントはフリーメーソン 故ゼカリア・シッチンの「ニビル-アヌンナキ説」の虚構性が暴かれています
<http://ameblo.jp/syamonno0358/entry-10966280770.html> ゼカリア・シッチンがなぜ正しいことを言っていると断定できるのか、その根拠の一つでも いいから知りたいのです。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 以上は、新着順 1 番目から 10 番目までの記事です。1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 [《前のページ》
次のページ》

/44 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] RSS

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]惑星の位置推定投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 27 日(金)09 時 46 分 43 秒 返信 引用 編集済

追加で惑星 X の周期推定をおこなってみます。 ちょうど下記のサイトに、惑星同士の軌道共鳴から、考えた惑星 X と周期が示されてます。

http://space.geocities.jp/drjfw841/public_html/1_planetX/1Files/1_main.htm

内惑星の距離(軌道)は、チチウス・ボーデの法則の $0.4+0.3 \times 2$ の N 乗の距離によって、惑星の位置が決まるようですが、こちらのサイトによると、さらにその方が発見した土星まで

の距離、9.55 AU を基礎単位として、その 2 の 4 分の N 乗の距離で、惑星 X を含んだ外惑星の 距離が規定されるとのことのようです。

それでまず、内惑星を規定している 0.3 AU という値に注目してみました。 1AU は 1.5 億 KM

実質的に、太陽から土星までは、0.3 AU が 32 個+水星までの距離 0.4 AU 入る距離にあたります。

そこで先の銀河系を回る太陽の速度と、移動距離を換算すると、 銀河の速度が、600 KM/S で、地球(太陽)が1年に 189 億 km 進むとあります。

銀河系内での太陽の公転速度が、その 217km/s ですから、1 年につまり 68.354 億キロ進むこととなります。

1.5(1.4956)億 KM が1AU として、45.56 AU ですね。 この 1 年の間に、太陽は 13.38 回自転します。 ということは、1 回自転するごとに、3.405(3.395)AU 進んでいることとなりますね。 また銀河系の進む速度にあわせると 9.40 AU 進むこととなります。

思うに、太陽の 1 自転する間に進む距離、この 3.4 AU(太陽系の公転速度)、および 9.4 AU(銀河系の公転速度)が、 差分 AU 水星 0.387 0.387 0.35×1

金星 0.331 0.718 0.35×2 地球 0.282 1.0 0.34×3 火星 0.52 1.52 0.52/0.34=1.53 木星 3.68 5.2 5.2/3.4=1.52 土星 4.35 9.55 4.35×3.5=15.2

天王星 9.65 19.22 9.65=9.4AU×1

海王星 10.89 30.11 上記のように、太陽の 1 自転で進む距離、3.4~3.5 AU および、その 10 分の 1 の 0.34 が惑星の

軌道距離に影響していることがわかります。

またその太陽の自転周期と、月の公転周期が一緒です。 したがって月は太陽が1回自転する間に、3.5 AU の距離を進みながら、1回のS字軌道(波 長)を進むことになります。

難しいのですが、太陽の軌跡上に周期的に残された重力物質の密度とベクトルが、その惑星 にとって順方向か逆方向かで、減速・加速がおき、その結果として、軌道共鳴で徐々に 3.4~5 AU を元にした惑星の距離に収まっていくなのではないのでしょうか。

もう少し厳密に法則性とその数値を割り出し、それから未知の惑星の推定をしてみたいと感じています。

Ads by Google ----- Re:軌道共鳴とプレートテクトニクス投稿者:管理人 投稿日:2012年4月26日(木)22時 14分15秒 返信・引用編集済

> No.436[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 。 > 古代シュメール、ニビルの 3661年周 > 過去 1万 2千年間の気候変化では 1220年周期(小気候変化周期)>ニビルの 3661年周で 21回、1220年周期で 63回目に地球と交差する。 > 過去 45万年間の気候変化と氷床量の変化 3661年×21回=7万 7千年周期(中気候変化周期)>過去 5億年間の気候変化では 2億年周期、7万 7千年周期で 325回(大氷期周期)>ニビルの3661年を 3660年周期で線を引く、基準は BC3000(ノアの洪水)

ニビルの真偽の件は、なんとも判別しにくい感じですが、シッチン説への反論もあるようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BC%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%BB%E3%82%B7%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%B3>

シュメール語については、孤立言語だそうですが、膠着語系で、動詞が最後にくるあたりは、ウラル・アルタイ語との関係を想起させます。シベリアのアルタイから南下したQ系統と、イスラエルのQ1~3系統と、、シュメールはご指摘のとおり、深いつながりがあるでしょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB%E8%AA%9E>

エデンの園などの話は、旧約聖書と共通してますね。

印欧系神話がシュメール神話が元になっているとすると、印欧系のR系統とイスラエルQ系統の祖、つまりP系統がシュメールとかかわってくるのでしょうか。

あと、先日問題になった銀河系と太陽系の距離関係ですが、ちょっと銀河系が予想外の形態 をしていることがわかってきました。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8A%80%E6%B2%B3%E7%B3%BB>

まず、銀河系に対する太陽系の大きさは、銀河系を 130 KM とみなすと、2ミリほどしかない そうです。予想外に太陽系は小さいですね。

また、銀河系の形が、いわゆる円型らしく、その中心部も棒状で 45度+-10度も傾いて妙な形になってます。

さらに、外延部も回転速度が同じだそうです。

つまり、扇風機の羽みたいに、中心部から外延部にある太陽系まで、固着している変形円盤だ とかんがえると理解しやすいかもしれません。

その銀河からの重力は、太陽を 217 KM/S で引っ張って回転させているようです。ただその

重力源の方向は、銀河の中心からではなく、円型の羽のくっついている方向のようです。重力 というのは、おそらく物質の濃度の濃い方向に強く働くのでしょう。

確かに銀河系中心部のほうが重力自体はつよいのですが、太陽に近接する円腕のほうが、さらに濃度が濃いのでそちらにひきつけられるのでしょう。

また銀河系自体も 600 KM/S で動いているものですから、結果として、1年に地球と太陽は、冥王星までの距離の4.5倍も動いているそうです。

その太陽が切り開いた重力物質の海の痕跡の上を、さらに他の惑星が踏み越えていく形になりまして、その重力物質の濃度の濃さやベクトルが残存するとすれば、それらは惑星から見えて、周期的に変化するので、結果としてそれらの惑星の公転軌道に減速や加速がおき、軌道共鳴というのが起こるのではないのでしょうか。

惑星軌道が整数倍の距離で決定されていくのも、そのような太陽がらせん状に振動しながら進んでいく軌道、その周期と距離との兼ね合わせで決定が行われるのではないかと感じはじめてます。量子力学だとプランク定数の倍数となるわけですが、似たような原理です。

ともあれ、地球の軌道が、銀河系の腕のような重力源から傾いているものですから、通常は銀河と太陽との間にある重力の影響を受けてないように見えるのですが、ある時期にその間に入り込むことがあって、そうすると、普段は起こりえない地震とか、放射線や磁場の問題が起こりうるかもしれません。

あと、惑星Xつまりニビルが太陽の伴星だとすると、あるいは銀河との重力関係で、銀河の公転面と角度をとみにしている可能性も感じます。イメージしづらいのですが、銀河の周期と太陽の周期との軌道共鳴の周期をとっていると考えるのが自然でしょう。

ただ問題は扇風機の羽のように、太陽系も銀河そのものと一緒に回転してしまうので、結果として太陽系が銀河の周りを回転しているという表現が不適切になるかもしれません。位置的には回転してもぜんぜん変わらないということですね。

銀河を1回転する周期、つまり銀河そのものの回転周期が2億2500~5000年といいますが、ご指摘の気候変動の2億年周期が関係してくるかもしれません。

またシュメール石板によると、BC2000年前後にウルが突然「悪しき風」で滅んでいるようです。そのころ彗星衝突で東北大津波が起こってますが、関係あるかもしれません。彗星

による放射線災害でしょうか？

あと、684年に白鳳大地震があります。先に紹介したとおり、地震や噴火も771年周期で見えました。

科学的な測定法として、彗星や惑星などの周期とその災害・物質から、古代の年代を測定する科学が確立してもよいのではないかと感じます。

----- Re:軌道共鳴とプレートテクトニクス投稿
者:秦野北斗 投稿日:2012年4月26日(木)09時22分25秒 返信・引用編集済

> No.435[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

再考しました。古代シュメール、ニビルの3661年周 過去1万2千年間の気候変化では1220年周期(小気候変化周期)ニビルの3661年周で21回、1220年周期で63回目に地球と交差する。過去45万年間の気候変化と氷床量の変化 3661年×21回=7万7千年周期(中気候変化周期)過去5億年間の気候変化では2億年周期、7万7千年周期で325回(大氷期周期)ニビルの3661年を3660年周期で線を引く、基準はBC3000(ノアの洪水)

上記からAD660年に大きな変化が考えられるので確認する。650年ぐらいに天変地異が遭ったみたいです。古代史では倭国(やまと)が韓半島南部を放棄したころ。白村江の戦いがある。また、大化の改新。これらからノアの洪水はBC3000と見て良い。BC2800~3000年の3000年寄り、シュメールが参考になる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%8C%96%E3%81%AE%E6%94%B9%E6%96%B0>

どうも、シュメールはノアの末裔ではないか。年代が合う。

「シュメル王朝表」と呼ばれる記録が角柱として残っている。王権が天から降って、まずエリドゥにあった。エリドゥではアルリムが王となり、二万八千八百年統治した。アラルガルは三万六千年統治した。二王は六万四

千八百年統治した。…大洪水が地を洗い流したのち 王権が天から降り、それはまずキシュにあった。…キシュは戦いで敗れ、王権はエアン ナに移された。そこでは太陽神ウトゥの子、メスキアグガシエルが王と大祭司を兼ね、三百二十四年統治した。

太陽神ウトゥ=ノア?。エリドゥまで遡れば 13万2800年 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB>

----- Re:軌道共鳴とプレートテクトニクス投稿者:管理人 投稿日:2012年4月25日(水)22時15分22秒 返信・引用編集済

> No.434[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 過去 5億年間の気候変化では 15000万年周期、4000万年周期過去
- > 45万年間の気候変化と氷床量の変化 10万年周期
- > 古代シュメールの記録から気温変化 1200年周期は削除。約 3,600年周期 >
- > 一部の書籍に於いて、古代シュメール人が「ニビル」と呼んだ、約 3,600年周期で太陽系と 垂直方向の楕円
- > 「ニビル」が正しいなら 600~800年に何かが確認されているはず。大宝律令あたりになる。
- > ニビルの約 3,600年周期は歴史上の災害、異常現象から特定する方法しかない。
- > 削除した、候補の 1200年周期、…を再考か。
- > 次の接近は 4200~4400年になる。寿命がないので確認はあきらめます。 >

ニビルの件ですが、どうもシュメールの粘土板の星は、BC2320年のそれを元にしてい るとすると、そのrはハレー彗星ではないかという感じもします。ちょっと怪しいです…。

それで再度おうし座流星群の母天体、エンケ彗星を調べてみました。3.3年周期なのですが、木星の周期に軌道共鳴しています。7:2です。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%B3%E3%82%B1%E5%BD%97%E6%98%9F>

実質的に木星周期と同じとみなしてよいかと考えました。木星周期は 11.86155年です。エンケ彗星は、木星と 7:2の周期で会合してます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%A8%E6%98%9F>

それで木星周期と地球の周期の公倍数ですが、130回木星が周回すると、1542.0015年で、地球と会合します。

それで、木星が 2回回ると、エンケ彗星が 7回回って会合するわけですから、2で割って、 771.00075年が、地球とエンケ彗星の会合周期になるかと感じます。

BC 2001年の東北大津波をエンケ彗星接近によるものと過程すると、次に BC 1230年にまた会合した計算になります。すると、ちょうど出エジプトの年が 1230年なので、重なってきますね。

さらに 459年は、バビロン捕囚からユダヤ人が帰還した年にあたります。

次が AD312年 1083年、富士山噴火 1854年 安政東海地震

と続きます。

逆に、2001年の771年前は、2772年ですが、あるいはこのあたりにノア洪水をもっていく手 もあります。

12930年の衝突についても、下記のサイトでエンケ彗星の母天体となった彗星が、現在のエンケ彗星の軌道に入り込んで、崩壊した後、その残骸が地球に降り注いだ可能性を指摘しています。

<http://ameblo.jp/parasaurolophus4u/entry-10602452621.html>

ただ、このエンケ彗星、つまりおうし座流星群の周期は、だんだん速くなってきているとのことで、当初から一

定の周期だったかどうかは微妙です。

あと、軌道共鳴の要素としては、地球の各周期を見ると理解しやすくなりそうです。

歳差運動 (Precession)の周期は 3 つあり、それぞれ 1 万 9000 年、2 万 2000 年、2 万 4000 年である。 自転軸の傾斜角 (Obliquity) の変化は周期 4 万 1000 年。 公転軌道の離心率 (Eccentricity) 変化は周期 9 万 5000 年、12 万 5000 年、40 万年。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%AB>

太陽の自転周期

27 日 6 時間 36 分(赤道) 28 日 4 時間 48 分(緯度 30 度) 30 日 19 時間 12 分(緯度 60 度) 31 日 19 時間 12 分(緯度 75 度)

銀河系を一周する時間 2.2×10^8 年 月の公転周期

27 日 7 時間 43.1 分

要するに月の公転周期は、太陽の自転周期と共鳴関係にあるようです。 また月の自転周期は地球との共鳴関係。

金星と地球の会合周期 $583.92 \text{ 日} \times 5 \div 365 = 7.9998904$ となります。地球と金星も重力的に軌道共鳴の関係にあるのでしょうか。 公転周期は 224.701 日、自転周期は 243.0187 日 で太陽との軌道共鳴関係に近いです。

木星に対するエンケ彗星の関係は、地球に対する金星の関係と共通性があります。 難しいのですが、捕獲と軌道変化と公転スピードとの関係にあるのではないのでしょうか。

逆に、それをたどれば、どの星はどこからきてどういうふうに捕獲されたかがわかるかもしれません。

量子力学だと、プランク定数というのがあって、ある一定の整数比で、軌道・周期が徐々に共鳴していく過程が生じます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AF%E5%AE%9A%E6%95%B0>

その安定するまでの間に、彗星のごとく火花を散らして余分なエネルギーを消散していくわけですね。

同様にその軌道共鳴で安定するまでの過程を観察することで、いつどこからこの星がきて、まだ安定しきれていないとか、そういうこともわかってくるかもしれません。

エンケ彗星や、月と金星はまだ安定しきってない感じがしますね。

----- Re:軌道共鳴とプレートテクトニクス投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 24 日(火)22 時 37 分 51 秒 返信・引用編集済

> No.433[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 秦野なりに整理しました。この辺りが限界かな。

過去 5 億年間の気候変化では 15000 万年周期、4000 万年周期過去 45 万年間の気候変化と氷床量の変化 10 万年周期 古代シュメールの記録から気温変化 1200 年周期は削除。約 3,600 年周期

一部の書籍に於いて、古代シュメール人が「ニビル」と呼んだ、約 3,600 年周期で太陽系と垂直方向の楕円軌道で動いている巨大な惑星が太陽系の中心部へ向かっていることが報告されている、とされている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%83%91%E6%98%9FX>

周期的に気温変化が生じている。変化は太陽との距離と仮定すれば、太陽系の公転方向に太陽と 6 個の惑星(水星、金星、地球、火星、木星、土星)。 公転方向の直角に惑星 X「ニビル」の軌道があると仮定する。大胆に地球軌道と金星の間を約 3600 年周期で通過すれば、地球軌道に影響を与える。隕石の落下と氷期と関係がある程度予想は可能になる。また、プレートテクトニクスも説明できるかも。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%BC>

%E3%83%88%E3%83%86%E3%82%AF%E3%83%88%E3%83%8B%E3%82%AF%E3%82%B9

「ニビル」が正しいなら 600~800 年に何かが確認されているはず。大宝律令あたりになる。ニビルの約 3,600 年周期は歴史上の災害、異常現象から特定する方法しかない。削除した、候補の 1200 年周期、…を再考か。次の接近は 4200~4400 年になる。寿命がないので確認はあきらめます 軌道共鳴とプレートテクトニクス投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 24 日(火)15 時 28 分 40 秒 返信・引用編集済

> No.431[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。 つづいて周期について調べてみました。

> 周期の特定 >> 軌道の変化は長周期軌道ほど激しく、数百年を越える公転周期は、回帰間隔としては意味がある数字とはみなされない。公転周期が数千年を越えると、摂動などを計算に入れても、本当に次に回帰するかどうかの判断は難しい。

- > ここで、想像して、気候変化の周期と地球と同じ物質を元に惑星間の衝突がいいのでは。
- > 説明できないので図にします。衝突周期性は確率になる。
- > 仮説ですが月も 4000 万年前にニアミスで地球に捕まり、現在に至る、のでは。
- > 近くに人類の兄妹がいるかも。

>

- > 過去 5 億年間の気候変化では 15000 万年周期、4000 万年周期
- > 過去 45 万年間の気候変化と氷床量の変化 10 万年周期
- > 1 万 2000 年間の気温変化 1200 年周期
- > 気温 11 年の太陽活動周期 (黒点周期)>
- > 図は渦巻き銀河に修正が必要みたいですな。

おうじ座流星群の軌道を調べていたのですが、ちょっと面白いサイトがありました。

<http://homepage2.nifty.com/s-uchiyama/meteor/article/tau-resonance.html>

流星群というのは、木星などの質量星に近づくと、公転速度が増加したり減少したりするそうです。それで木星などの軌道周期の整数比で共鳴現象が起きてくるので、同じ流星群の軌道の中でも、密度の濃いところとそうでないところができるそうです。

また、月の公転周期が自転周期と一緒にのも、重力星の影響で、徐々にそうになっていったそうです。軌道共鳴。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%87%AA%E8%BB%A2%E3%81%A8%E5%85%AC%E8%BB%A2%E3%81%AE%E5%90%8C%E6%9C%9F>

さらに、月は地球の側にいつも引かれているので、重心がずれていて、ダルマ起こしのよう

なっているとのこと。おそらく月ができた自転から固まるまでの間に重心が地球に引かれたせいでしょう。

それでハタとひらめいたんですが、地球のプレートテクトニクス説をみていると、最初は大 陸がみな集まって、一方に偏っている、つまり陸地がダルマ起こし状態で少し膨らんでいたのではないかと感じます。

ひとつその原因としてまず考えうるのは、太陽を回る公転周期とその自転周期が月のように一致していたのかもしれない。

ところが、あるときに先の月を排出した星の衝突、ジャイアントインパクトがあって、それがもとで今のようになり、24 時間で自転し始めた。それで、片側だけに傾いていた陸地部分が、自転 方向へとマントル対流がおき、遠心力で移動しはじめたという考えです。

ただ、そうすると、ひとつ問題があって、大陸がひとつにまとまっていた、つまり Gondwana 大陸時代には、動植物もいて、比較的新しい時代になってしまうことです。また自転しないと、片側だけ熱されつづけるので、動植物が生きれないことですね。

それで考えをまた進めて、かつてはもっと地球と月が以前は近づいていたので、地球は月の 引力を受けて、片側が膨らんでいた。それでその引力で Gondwana 大陸部分が盛り上がって いたという考えです。

すると月が 24 時間で地球を公転しないといけなかったわけですが、その後徐々に地球との 距離が離れていくにしたがって、自転速度を緩め現在のようになった。そして大陸のほうも、 徐々に分散しはじめたという考えです。今でも月は離れつづけており、地球の自転速度も、月 のそれにあわせて遅くなっているそうですね。

しかし、そうすると当時は毎日日食が起こっていた地域があったわけですし、生理周期も起 こらなかったかもしれないです。また月がどこからやってきたのかが課題になるでしょう。

ともあれ、そういう共鳴周期というのが、星の間には働いており、いつも重力のつよい側の軌 道・回転周期の整数比になることがあります。実際、地球や金星などの惑星の公転周期や自 転周期には、整数比が顕著にみられます。これも太陽や木星、あるいは他の重質量星のそれに 軌道共鳴した結果と感じます。

そして、その延長線上で論議されるのが、惑星 X の存在ですね。太陽系の惑星は、太陽や木星

などの質量星の周期に軌道・回転共鳴しているのですが、それに影響する第 3 の惑星がある という考え方です。

たとえば下記のサイトのような事例です。

<http://amanakuni.net/uchu/31.html>

ただ、現実には観測されてないので、あまり現実味がないのですが、確かにデータをみると、外 惑星に共鳴をもたらししているような、巨大質量星があるように感じます。

すくなくとも、実際におうし座流星群の母天体のような巨大彗星が存在して、それが 500 年く らいの周期でやってきていることは確かですから、その周期と質量に注目したいところです。

そのおうし座流星群は、おうし座に見えるので、そういう名前になっているわけですが、おそ らく同じおうし座方向から、別のかかなり長い周期でその母天体もやってくるはずですよ。

それでおうし座のギリシャ神話をみると、プレアデス星団の話に、先のアトランティスの語 源アトラスと妻の海の妖精、そしてその間に生まれた息子と海神ポセイドンの話が出てきま す。石を積み上げ続ける話は、洪水を避けるためにつくったピラミッドを思わせますね。 http://www.sci-museum.kita.osaka.jp/~kato/8mus_pla/seiza/tau/2.html

おそらくおうし座流星群の隕石が、世界で何度も洪水をもたらした原因だとわかっていたの ではないでしょうか。そしてたまたま母天体そのものもやってきた。

その母天体はおそらく、多くの新しい隕石を、太陽系最外部にあるカッパベルトあたりから もってくるでしょうから、その天体がくるときは、通常より濃密な流星群が生じるはずですよ。 先の共鳴現象とは一致してこないものでズレが生じるでしょう。

かなり古い流星群であるのにもかかわらず、流星の数が一向に減らないのは、母天体が定期 的にその軌道に流星を付け足しているからで、そうすると母天体はそこそこの重力をもって ないといけない計算です。

そのような重力星となるには、地球のような質量が必要でしょう。月は重力が弱いのでひき つけられません。

ひとつだけ小惑星が母天体となっているケースがありますが、元は彗星で散らばるものが散 らばりきった残骸だとの説ですね。

おうし座の母天体も、まだ散らばりきってない彗星とも考えられなくもないですが、ともあ れそうとうなシロモノである予感がします。この星の重力と周期とを探りたいところです。

Ads by Google ----- Re: アトランティス神話と
マヤ暦と聖書 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 24 日(火)11 時 11 分 43 秒 返信・引用

> No.431[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> BC2001 年には疑問がある。BC2800~3000 年に破壊され日本には人はいないはず。三 陸、アラスカは氷河が削ったのではないかと。しかし、アラスカで 524 m、ノアの洪水は > 1000 m は超えている。ノアの洪水で唯一助かったのはエジプト、現在のイスラエル、中国 の青海省(チベット)みたいです

お返事ありがとうございます。ただ、おそらくかなり古い後期旧石器時代からのD系統というアイヌ・沖縄系の祖先が多く残ってますから、何らかの形で日本では洪水を乗り越えた種がいたものと感じます。中国では逆にD系統は高地のチベットにしか残ってないわけです。

津波の高さですが、海底の深さ以上の津波が起こりうるかどうか疑問があります。石を池に投げ込んでみるとわかるのですが、浅い池だといくら大きな石を投げ込んででも波の高さには限界が生じてきます。それにくわえて、直径はどうみても数百メートル以下ですから、せいぜい数百メートルではないかと思うんですね。

それで海岸部へ全滅でしょうけど、長野の奥地あたりにたむろしていた縄文人は案外生き残った可能性があります。

約 4,000~3,600 年前長野の遺跡があります。BC 2700 年のノア洪水はここにはあまり影響しなかった可能性を感じます。 <http://www.hi-ho.ne.jp/mizuno/isekivisit/kitamura.html>

縄文晩期(3,000~2,300 年前)になると関東地方以西の人口減少が著しいそうですね。
<http://www.justmystage.com/home/rarememory/suwajyou8/suwa.htm>

確かに諏訪地方は約 3 千年前から約 2 千年前に至る長期間空白が生じたとのことは、BC 2001 年の大洪水が天竜川を遡ったということでしょうか。

> ここで、想像して、気候変化の周期と地球と同じ物質を元に惑星間の衝突がよいのでは。 > 説明できないので図にします。衝突周期性は確率になる。 > 仮説ですが月も 4000 万年前にニアミスで地球に捕まり、現在に至る、のでは。 > 近くに人類の兄妹がいるかも。

月の起源ですが、ジャイアントインパクト説が有力だそうです。

地球の物質組成と、月のそれが似ているので、いろいろ計算した結果、地球に他の惑星がぶつかって、月が飛び出たということのようです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%82%A4%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%B%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%AF%E3%83%88%E8%AA%AC>

それが原因で、今の 24 時間とか、23.4 度の偏角、プレートテクトニクスを発生させるマントル対流がおこったらしいのですが、このインパクト以前の周期は、ご指摘のとおりぜんぜんことになっていたかもしれません。

それでプレートテクトニクスの件ですが、こちらの図がわかりやすいです。

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Plates_tect2_ja.svg

この中に、大陸をもたないプレートがいくつかあるんですね。

下図参照。

大陸というのは、どうも必ずプレートの進む側に、陸地や海溝ができる傾向があるようです。陸地がないのは、沈み込む傾向が強いのかもかもしれません。

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Plates_tect2_ja.svg

また植生や動物の連続性を示した図もご参照ください。下記サイトから引用。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%88%E5%A2%83%E7%95%8C>

沈んだ大陸を探す上で、ちょっとこのプレートテクトニクスを考慮してみたいところです。

----- Re: アトランティス神話とマヤ暦と聖書

投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 23 日 (月)21 時 21 分 3 秒 返信・引用編集済

> No.430[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

ツングースカ大爆発は空中爆発とあるが、これだけの物が落ちたら痕跡がないはずがない。地球と同じ物質であつた考えるのが自然。軽い物質だったと思われる。

> 追伸です。1908 年のツングースカ大爆発の際は、どうも隕石ではなく、彗星の空中爆発 だったとの説が有力だそうです。 > 2000 キロ四方を焼き尽くしてますが、落下はしてないんですね。このケースでは海上であつても津波が起こるかどうかは微妙です。

BC2001 年には疑問がある。BC2800~3000 年に破壊され日本には人はいないはず。三陸、 アラスカは氷河が削ったのではないか。しかし、アラスカで 524 m、ノアの洪水は 1000 m は超えているな。ノアの洪水で唯一助かったのはエジプト、現在のイスラエル、中国 の青海省(チベット)みたいです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%82%B8%E3%83%97%E3%83%88>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%83%A9%E3%82%A8%E3%83%AB>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%83%99%E3%83%83%E3%83%88>

> 津波については、BC2001 年の隕石の際は、三陸の 600 メートルの斜面を津波が遡 ったようですが、津波の高さ自体はその半分以下だったようです。 > アラスカで520 メートル津波が遡った記録がありますが、大規模の砂崩れが影響している模様。

周期の特定

軌道の変化は長周期軌道ほど激しく、数百年を越える公転周期は、回帰間隔としては意味がある数字とはみなされない。公転周期が数千年を越えると、摂動などを計算に入れても、本当 に次に回帰するかどうかの判断は難しい。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%A8%E6%9C%9F%E5%BD%97%E6%98%9F>

ここで、想像して、気候変化の周期と地球と同じ物質を元に惑星間の衝突がいいのでは。 説明できないので図にします。衝突周期性は確率になる。 仮説ですが月も 4000 万年前にニアミスで地球に捕まり、現在に至る、のでは。 近くに人類の兄妹がいるかも。

過去 5 億年間の気候変化では 15000 万年周期、4000 万年周期 過去 45 万年間の気候変化と氷床量の変化 10 万年周期 1 万 2000 年間の気温変化 1200 年周期 気温 11 年の太陽活動周期 (黒点周期)

図は渦巻き銀河に修正が必要みたいですな。

> ただ、かなり地球軌道とおうし座流星群(母天体含)の軌道の関係は複雑なようなので、 素人目には判断が難しいものがあります。 >> しかしその周期が特定できれば、洪水神話の時代特定や周期性についても、判別しやすくなるはずです

Re:アトランティス神話とマヤ暦と聖書投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 23 日(月)11 時 02 分 10 秒 通報返信・引用編集済

> No.429[元記事へ] > 秦野北斗さんへのお返事です。

>

- >> 彗星衝突
- >> モヘンジョダロから紀元前 2500 年になるが BC2800 または BC3000
- >> から BC2800 付近になる。モヘンジョダロの正確な年代がカギになる。
- >> 彗星衝突の記録上の落下位置を図にした。秦野は衝突はもう少し多く太平洋、南米にも 落下していると思っている。どうも、伝説と状況から隕石は鉄系でなく。地球と同様の土石系 ではないか。
>> 日本の古事記の BC1700 年の記録には人の居た記録がなく、来た、のみである。 >>

追伸です。1908 年のツングースカ大爆発の際は、どうも隕石ではなく、彗星の空中爆発だ ったとの説が有力だそうです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%84%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%82%AB%E5%A4%A7%E7%88%86%E7%99%BA>

2000 キロ四方を焼き尽くしてますが、落下はしてないんですね。このケースでは海上で あつても津波が起こるかどうかは微妙です。

津波については、BC2001年の隕石の際は、三陸の600メートルの斜面を津波が遡ったようですが、津波の高さ自体はその半分以下だったようです。 <http://iwabuchikunito.jp/archives/tag/%e5%a5%a5%e5%b7%9e>

アラスカで520メートル津波が遡った記録がありますが、大規模の砂崩れが影響している模様。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AA%E3%83%84%E3%83%A4%E6%B9%BE%E5%A4%A7%E6%B4%A5%E6%B3%A2>

先の12900年の衝突の研究かもおうし座流星群の注意を指摘していますが、上記サイトに よれば、ツングースカもおうし座流星群とのことで、三陸大津波もそうだとすれば、このおうし座流星群が、地球軌道と大きく重なる時期が、洪水伝承の時期として注目すべきかもしれません。

周期的には、12930-2680年-2012=8238の約数2067、1033、515年等、

2680-2001=679年 あたりが、彗星衝突周期になるかもしれません。

ただ、かなり地球軌道とおうし座流星群(母天体含)の軌道の関係は複雑なようなので、素人目には判断が難しいものがあります。

しかしその周期が特定できれば、洪水神話の時代特定や周期性についても、判別しやすくなるはずです。

Re:アトランティス神話とマヤ暦と聖書投稿者:管理人 投稿日:2012年4月22日(日)23時26分11秒 通報返信・引用編集済

> No.427[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 彗星衝突 > モヘンジョダロから紀元前2500年になるが BC2800または BC3000 > から BC2800付近になる。モヘンジョダロの正確な年代がカギになる。 > 彗星衝突の記録上の落下位置を図にした。秦野は衝突はもう少し多く太平洋、南米にも落下していると思っている。どうも、伝説と状況から隕石は鉄系でなく。地球と同様の土石系ではないか。

- > 日本の古事記の BC1700年の記録には人の居た記録がなく、来た、のみである。 >
- > たぶん、日本(太平洋から日本海に津波は突き抜ける。韓半島も同様)
- > インド(津波はヒマラヤまで達したと思われる。)壊滅しただろう。 >

お返事ありがとうございます。年代的にはご紹介の各地の伝承を比較して、2800年前後が想定できそうですね。

下記の記載が気になります。

ヨセフスによる「ユダヤ古代誌」ニムロデは、もし神が再び地を浸水させることを望むなら、神に復讐してやると威嚇した。水

が達しないような高い塔を建てて、彼らの父祖たちが滅ぼされたことに対する復讐するとい うのである。人々は、神に服するのは奴隷になることだと考えて、ニムロデのこの勧告に熱心に従った。そこで彼らは塔の建設に着手した。.....そして、塔は予想よりもはるかに早く建った

ラビ伝承 ノアの子孫ニムロデ(ニムロド)王は、神に挑戦する目的で、剣を持ち、天を威嚇する像を塔の頂上に建てた <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%83%99%E3%83%AB%E3%81%AE%E5%A1%94>

ハムの子なので、エジプトの王ではないでしょうか。

それでクフ王のピラミッドの中に、大きな船が格納されていることがあります。洪水を避ける目的で、山の少ないエジプトにピラミッドを造った可能性を感じます。そして、脱出用の船をピラミッド内に格納したのかもしれない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%95>

そうするとエジプトも洪水に襲われている可能性が高いですね。

エジプト原始王朝時代(紀元前 4200 年頃-紀元前 3150 年) エジプト初期王朝時代(紀元前 3150 年-紀元前 2686 年) エジプト古王国(紀元前 2686 年-紀元前 2181 年)

2686 年以前が洪水の時代として怪しいところです。2686 年~のジェセル王がピラミッドを つくりはじめた背景には、洪水の記憶があった可能性が高いです。

2700 年ごろに洪水をもってこれれば、先のアダム→ノア(600 歳)8225 年 + 2700 年 + 2012 年で、12937 年で、彗星衝突の C14 推定年代 12920~30 年とぴったり一致します。正確 には起こったのは 2680~90 年前後ではないでしょうか。

ご紹介のシュメールの 2900~2750 年は、この数値に近いです。 モヘンジョダロの場合は、洪水後の文明になるかと感じます。

1800 年の洪水は、次の東北を襲った 2001 年のそれではないでしょうか。200 年ずれてれば、 確かにご指摘のとおり、文明の始まりが 2700 年まで近づきますね。

落下地点ですが、12900 年の彗星落下は、北アメリカ~大西洋、インド洋で数百メートル級の 津波、 3100 年~2700 の彗星の落下地点は、大西洋から地中海周辺で数百メートル級の津波 2001 年は、東北・太平洋岸で数百メートル級

であった可能性を感じます。

数十メートルクラスの津波はよく起こります。 アララト山のは箱舟が見つかったのはかなり上の氷河部分ですが、よく山の形をみるとな だらかな傾斜を描いており、おそらく数百メートルクラスの津波が、山の斜面を遡った可能 性があります。

アララト山

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%83%A9%E3%83%88%E5%B1%B1> ピラミッドの高さが50~150 メートルなのも、そのクラスの津波を想定したものと考えうる

かもしれません。

なお巨大隕石衝突のシュミレーションがありますが、これはちょっと当てはまらないよう です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E6%AE%BB%E6%B4%A5%E6%B3%A2> バ ベ ル の塔
投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 22 日(日)07 時 37 分 59 秒 通報返信・引用編集 済

> No.426[元記事へ] 先の追記ですが、バベルの塔の話で、アスファルトと煉瓦の使用が記載されていました。アス

ファルトは先のとおり、エジプトのピラミッドでも接着剤として使用されております。

それで、思い出したのですが、ピラミッドの石が、実はコンクリートだという説があるんです。 下記のサイトによると、古代ローマ時代にはコンクリートで多くの神殿を作ったそうですが、 1950 年代までその強度を超えることができなかったとか。アルカリ性の物質を混ぜて強度 を上げることに気づいていたそうです。

<http://wired.jp/wv/2009/11/06/%e3%80%8c%e8%b6%85%e3%82%b3%e3%83%b3%e3%82%af%e3%83%aa%e3%83%bc%e3%83%88%e3%80%8d%ef%bc%9a%e3%83%94%e3%83%a9%e3%83%9f%e3%83%83%e3%83%89%e3%81%ae%e7%9f%b3%e3%81%a8%e3%80%81%e7%b1%b3%e8%bb%8d%e3%81%ae/>

それでエジプトのピラミッドの石も科学分析で、ジオポリマー・ベースのセメントで、非常に速乾性で強度の強いものだそうです。米軍などでも研究されており、おそらく間違いない でしょう。

つまりバベルの塔の話にでてくる「煉瓦」というのは、コンクリート工法のことを示している と感じます。そしてイスラエル人はその技法を知っていたので、旧約聖書にその詳細を記載 できたんですね。

先のアララト山で見つかったノアの箱舟の詳細構造を知っているのも同様に彼等の技術・ 船だったからと感じます。

それで先のとおり、Y-DNA の Q と R 系統の祖先にあたる P 系統が、非常に高度な文明を 保持していたことが

想定できます。このP系統については、パレスチナに多いのですが、一部 北米にも Q3 系統に混じって見えるんです。

ある時期にエジプト・パレスチナ方面から Q 系統が移動していった際に、一緒にわたっていったのか、あるいはアトラティス洪水直後にそのまま、グリーンランド経由で渡ったのか？ その辺も課題ですね。

マヤの BC 8 世紀代から現れるピラミッドにも、アスファルトやコンクリートが使用されていないかどうか、その辺も調査してみたいところです。アーチ天井などの技術はエジプトのそれとも共通します。

ただマヤの 20 進法はちょっと特殊で、沖縄・アイヌ系に見えるので、これはそれ以前に北 米・中南米に住んでいた古い C 系統のものかもしれません。一応シュメール方面にも 20 進 法はあったようですが…。絵文字はエジプトと共通しますね。ただエジプトの絵文字に 比べて、アニメチックに驚くほど象徴化されています。

アニメ化の要素には、目、鼻、口、表情といった用紙を決まったルールで、概念化しないといけません。しかも描き安いように、直線や曲線の角度を調節するわけですね。

アルファベットや漢字が、やはり描き安いようにそういう調節をしています。エジプトの 絵文字や漢字はやや抽象化しきれてない感じがします。

言語面でも英語は単純化していますが、20 進法を使うフランス語は、女性名詞などやや複雑ですね。

バベルの塔崩壊前の統一言語が、どういう言語だったか、文字だったか？を想定すれば、起 源が遡りやすくなるかもしれません。

あと、ひとつの DNA 分岐が起こると、その分岐系統ごとに違う構造の言語や文字を使用する傾向が見えます。

Y-DNA の染色体自体には、言語・知能に関する情報があるとは聞いたことがないので すが、言語にも変異率があるというのを聞いたことがあります。特定の時間で、突然変異が起 ころそうです。

FOXP2 という脳に影響する遺伝子が、言語の発生や変異に関して影響を与えているよう です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/FOXP2>

ただ、ネアンデルタール人も同じ遺伝子タイプだそうで、これ以外の変異要素が加わらない といけないことを考慮すると、生理学的な変異というよりは、外部環境・集団の思想・統率 関連からの言語系統分岐も想定すべきでしょう。印欧語でも、変化の激しい環境におかれる と言語の変異も多く起こるようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A8%80%E8%AA%9E>

なにか、アトランティス時代にはなかったような外部環境、特に周辺民族との接触が激しく なるような要素があったのではないのでしょうか。

たとえばアトランティス大陸とか、離れ小島とか、シベリア北部、グリーンランド…と孤立 して存在していた系統が、突然多くの人種が群雄割拠しているパレスチナにやってきたた めに、言語的にも刺激を受けて、分岐していったという具合ですね。習俗的な変化も同時に起こ ったことでしょう Re: アトランティス神話とマヤ暦と聖書 投稿者:管理人 投稿日:2012

年 4 月 21 日(土)23 時 11 分 11 秒 返信・引用 > No.425[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 > 歴史は連続性があるので、また別の見方があります。未だ在ります。

> バベルの塔の事件がノアの時代かアブラハムの時代かが問題になる。 お返事ありがとうございます。なるほど、そういう方法がありましたね。

- > 洪水後のアテナイの状況です。 >
- > 『クリティアス』アトランティスと戦ったアテナイの洪水後の状況 >
- > アテナイのアクロポリスも遥かに広い台地であったが、デウカリオンの災害から逆算して 三つ目に当たる彼の洪水により多くの森が失われ、泉が枯れ、今日のような荒涼とした姿 になってしまった。また洪水のたびに山岳に住む無学の者ばかりが生き残るため、今日アテ ナイには当時の統治者の名前ぐらいしか伝わっていない。 >

3 回の洪水というのが気になります。山岳民しか残らないというのも、信憑性がありますね。アララト山の箱舟の件も考慮しておきたいところです。

>> バベルの塔(ノアを基準にする。) BC2800~2450 年。または、BC3000~2650 年 > 神話とする説が支配的だが、一部の研究者は紀元前 6 世紀のバビロンのマルドゥク神殿に 築かれたエ・テメン・アン・キのジググラト(聖塔)の遺跡と関連づけた説を提唱する。 >

> 1.バベルの塔の建設、ピラミッドの建設はアトランティス人とする。 > 2.バベルの塔の物語は旧約聖書の「創世記」11 章にあらわれる。そこで語られるのは下記の ような記述である。位置的にはノアの物語のあとでアブラハムの物語の前に置かれている。 > 1.2. から、物語の位置的にはノアの物語のあとでアブラハムの物語の前に置かれている。こ れからノアの死後まで見れば、(BC3000 だと、BC2650 年) ではジェセル王が階段ピラミッド 造営と重なるので不適になる。 >

- > 古王国時代(第 3 - 6 王朝) >
- > 中央政権が安定。
- > 首都:メンフィス
- > 紀元前 2650 年頃、ジェセル王が階段ピラミッド造営。 バベルの塔=ピラミッド説に賛同です。

今調べていて両者とも、石(煉瓦)の接着剤にアスファルトの利用という共通項があるよう です。

http://www.tajima-ohyohkakoh.jp/product/tile_index.shtml

そう考えていくと、確かに 2650 年ころをバベルの塔の時代とみなすべきですね。 ただ、問題は下記のとおり、BC 3150 年、2986 年、2686 年の区分をどうとられるかです。

エジプト初期王朝時代(紀元前 3150 年-紀元前 2686 年) エジプト古王国(紀元前 2986 年-紀元前 2181 年)

セム・ハム・ヤペテと、言語の分散についても、洪水後の世界で遺伝系統が分岐していった ことと関係あるかもしれません。Y-DNA のパレスチナにあった P 系統から、Q(イスラ エル等のセム系民族)と R(インド・ヨーロッパ語族:ヤペテ)に分岐したことと対応して きます。

ハムはエジプトのことですね。ご紹介の説話で、ハムがノアの裸を見るシーンが、イブがヘビ にそのかされて、禁断の果実に手を出すシーンを想起させます。エジプトではヘビ神が重 要視されてますね。そして後に物語のとおり、ヒクソスの支配下に置かれることになりました。

ともあれ、3150~00 年ごろと 2800 年前後との 2 回に分けて、それぞれのイベントをとらえる 件も考慮してみたく感じます。

無料オンライン聖書講座 - sites.google.com/a/bbnmedia.org 聖書が教える神とは?救いとは? 修了証を発行します 電子聖書はビジュアルバイブル 21 - www.vb21.net マーカーペン,付箋紙など豊富な編集機能 スマートフォン版も好評発売中!

キリスト教書籍 - www.nagoya-christian.com/ 困惑する現代に変わらない神のことは 聖書の真理があなたを自由にします ねこのきもち公式サイト - www.benesse.co.jp 愛猫との関係作りやお世話の雑誌。 付録などの特典と一緒に毎月お届け 5 分でできる星占い - Madamgabriella.com/Astrology 最強無料星占い 恋愛・仕事・金運を的中させます Ads by Google

----- Re: アトランティス神話とマヤ暦と聖書
投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 21 日 (土)17 時 01 分 20 秒 返信・引用編集済

> No.424[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

歴史は連続性があるので、また別の見方があります。未だ在ります。 バベルの塔の事件がノアの時代かアブラハムの時代かが問題になる。

洪水後のアテナイの状況です。

『クリティアス』アトランティスと戦ったアテナイの洪水後の状況

アテナイのアクロポリスも遥かに広い台地であったが、デウカリオンの災害から逆算して三つ目に当たる彼の
大洪水により多くの森が失われ、泉が枯れ、今日のような荒涼とした姿に なってしまった。また洪水のたびに
山岳に住む無学の者ばかりが生き残るため、今日アテナイには当時の統治者の名前ぐらいしか伝わっていない。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/
%E3%82%A2%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B9](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B9)

大洪水後 ノア:600 歳

その後ノアは葡萄を栽培していたが、あるときワインで泥酔して裸で眠ってしまった。ハムは父の裸を見て兄
弟たちを呼んだが、セムとヤペテは顔を背けて父の裸を見ずに着物で覆った。ノアはこれを知るとハムの息子
カナンを呪い、カナンの子孫がセムとヤペテの子孫の 奴隷となると予言した。(ノアがなぜハムではなく息子の
カナンを呪ったのかは諸説ある。 恐らく選ばれた人であった「ハム」の悪い面を受け継いだ人であったのかもしれ
ない。)

創世記の中で、「ノアの物語」を含む天地創造からバベルの塔にいたる物語は原初史といわれ 史実を述べている
というよりは世界の事物の意味、由来についてのユダヤの見解を述べてい る部分と通常は考えられている。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8E%E3%82%A2_\(%E8%81%96%E6%9B%B8\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8E%E3%82%A2_(%E8%81%96%E6%9B%B8))

バベルの塔(ノアを基準にする。) BC2800~2450 年。または、BC3000~2650 年 神話とする説が支配的だが、
一部の研究者は紀元前 6 世紀のバビロンのマルドゥク神殿に築 かれたエ・テメン・アン・キのジググラト(聖塔)
の遺跡と関連づけた説を提唱する。

バビロン ノア:950 歳、350 年(BC2800 だと、BC2450 年)(BC3000 だと、BC2650 年) 都市バビロンの記録は
前 3 千年紀末に登場する。ここにアムル人がバビロン第 1 王朝を建設 し、前 18 世紀に第 6 代の王ハンムラ
ビがメソポタミアを統一した。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%83%93%E3%83%AD%E3%83%B3>

1.バベルの塔の建設、ピラミッドの建設はアトランティス人とする。 2.バベルの塔の物語は旧約聖書の「創世
記」11 章にあらわれる。そこで語られるのは下記のような記述である。位置的にはノアの物語のあとでアブラ
ハムの物語の前に置かれている。 1.2. から、物語の位置的にはノアの物語のあとでアブラハムの物語の前に置
かれている。こ れからノアの死後まで見れば、(BC3000 だと、BC2650 年)ではジェセル王が階段ピラミッド
造営と重なるので不適になる。

古王国時代(第 3 - 6 王朝)

中央政権が安定。 首都:メンフィス 紀元前 2650 年頃、ジェセル王が階段ピラミッド造営。 紀元前
2600 年頃、スネフェル王がヌビア、リビア、シナイに遠征隊派遣。 紀元前 2550 年頃、クフ王、カフラー王、
メンカウラー王がギザの 3 大ピラミッド造営。 セパトによる直接的支配が徐々に進む(上エジプトが先行し、
下エジプトでの体制整備は 遅れる)

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E4%BB
%A3%E3%82%A8%E3%82%B8%E3%83%97%E3%83%88](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E4%BB%A3%E3%82%A8%E3%82%B8%E3%83%97%E3%83%88)

天地開闢神話の盤古は誕生につながる。天と地は九万里離れた。これが青海省とバビロンの 距離になる。青海
省は黄河、長江、メコンの源流になる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinwa/sinwa-1-banko.htm>
<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano20.htm>

ミャオ族と夏の建国に関する伝説に就いては、他の史書での記載と対応させると、以下の様 になる。 紀元
前 26 世紀頃、神農時代、華夏の君主・黄帝が蚩尤(『路史』によると羌が姓とされる)民 族の討伐作戦を行い、涿
鹿で破った。戦いは黄河の台地で行われた。、(BC3000 だと、BC2650 年)では重なるので不適になる。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_\(%E4%B8%89%E4%BB%A3\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_(%E4%B8%89%E4%BB%A3))

> 先のノア洪水の年代について、BC3123 か、2800 かでちょっと悩みはじめてます。ノアの箱 舟の C14 年代が 2800 と出しているのが気になるんですね。

> また、ノアが洪水後に漂着したとされているアララト山(現トルコ領)からフェルナン・ ナヴァラ氏が持ち帰った木材破片であるホワイトオークはアララト山周辺 1000 キロ以 内には存在しないという事実が科学鑑定で判明し、それが実際に当時使われた箱舟の資材 である可能性が高いとされている。

> 構造地形学者である金子史朗博士によると、ノアが住んでいた地方のシュルツパクの町 には洪水層が認められ、考古学者の調査では洪水層の下に彩色土器その他の生活用具が散 乱している様子から「人々があわただしく家を捨て、創皇と逃げのびた気配が、感じとられ る」と述べておられる(『ノアの大洪水』P.47)。そしてその年代は紀元前 2800 年頃と推 定されるという。」

Re:アトランティス神話とマヤ暦と聖書投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 21 日(土)07 時 17 分 17 秒 返信・引用編集済

秦野北斗さんへのお返事です。

> アトランティス王朝、アダムの子供の生きた年は合わせて九百三十歳なので、アダム王朝: > 八百年、セツ:八百七年、…、ノア:四百五十年と思われる。計算は後に記します。

>> アダム 800 年 セツ 807、エノス 815、カイン 840、マハラレル 830、ヤレド 800、エノク 300、メトセラ 782、レメク 595、ノア 450-350(洪水まで)合計 6669 年 洪水は紀元前 2800 年これを合わせと紀元前 9469 年

>> アダムは百三十歳になって、自分にかたどり、自分のかたちのような男の子を生み、その名 をセツと名づけた。 > アダムがセツを生んで後、生きた年は八百年であって、ほかに男子と女子を生んだ。 > であった。そして彼は死んだ。 >> 百三十歳+八百年=九百三十歳 アダム:八百年

なるほど、考えてみると、確かに子供が生まれる前の期間を差し引きするのが、時間計算では 自然ではありますね。

ただ、365 歳とか 777 歳という数値をみると、適当につじつまあわせで寿命年数を合わせた感じがするんです。

つまり寿命をそのまま足し算していくと、特定の数値期間が出てくるようになっていたとい う考えです。

再度整理すると アダムからノアのひとつ前の人物までは

$930+912+905+910+895+962+365+969+777 = 7,625$ 年です。 アダムは 600 歳で洪水に会いましたので、 $7625+600 = 8,225$ 年

になります。

これに、マヤ暦の開始年(つまり世界各地の洪水神話の年代)を足すと、 $8225+3114 = 11,339$ 年 になります。

今の西暦に換算すると、 $11339+2012 = 13,351$ 年

となります。 先の彗星衝突推定年代 12900 年前と、451 年の差まで近づきます。

マヤ暦の 3114 年ではなく、先の彗星衝突の数値、3123 年を採用すると、460 年差になります。 それで、彗星衝突の 12900 年の数値ですが、正確な数値を調べる必要があります。

下記の報告書では、特に C 14 法の数値で、12920、12930 年前の数値が出ていますようです。

<http://www.pnas.org/content/104/41/16016.full>

下記の報告書を読むかぎり、北米周辺に墮ちた可能性がありますね。クレーターが出てこないのは、海岸部に落ちたせいではないでしょうか。大西洋方面に津波をもたらした可能性も 感じます。

日本語

<http://homepage3.nifty.com/a-kitamura/Firestone%20et%20al.%202007.pdf>

12900 年ごろに、彗星の数千の破片が北米大陸に落ちたそうです。現在でもおうし座流星群 が人類に危険とのこと。 <http://www.afpbb.com/article/environment-science-it/science-technology/2715642/5569963>

そうすると、430 年差くらいまで近づく計算です。 ノアの 600 年目の航海記事を見捨て、ノアの前の人物で区切れば、12760 年になりますので、

150 年差まで近づけます。 思うに、伝承記録としては、人名?とその寿命以外、ほとんど暦数値以外の内容は伝わらなか

ったのではないのでしょうか。欠史 8 代みたいな感じです。 しかもその数字もあいまいで、寿命に 365 年とか、777 年という適当な数値を入れて暗にある

特定の開始年数計算式であることを後代に示しているように感じます。

それで、アトランティス、ノア洪水ともに彗星衝突と考えられるわけですが、彗星や隕石の衝突が増える原因のひとつに、それらの流星群の元となった母天体の存在があります。この母 天体から隕石の断片が分かれて、大きなクレーターや、洪水などを起こすようです。

それらは周期性をもって地球に近づいており、時に地球の軌道とあうと、天体衝突の危険性 が非常に高くなるそうです。

<http://www.spaceguard.or.jp/asute/a22/Asher22H/Asher22.html>

たとえばおうし座流星群の母天体は、BC2000 年前後に地球軌道と交差したそうですが、BC2001 年に数百メートルの津波を東北にもたらした彗星が推定されてます。 <http://iwabuchikunito.jp/archives/88>

AD5 世紀ごろにも交差があって、イギリス方面の災害記録があるとのこと。BC3000 年ごろの天体記録にも影響しているとか。3123 年のノア洪水を引き起こした彗星衝突と も関係してくるのでしょうか。

こと座流星群の母天体は 416 年周期でやってくるサッチャー彗星です。

<http://www.maruse.ne.jp/ryusei/observe/shower/lyr/>

その他の流星群の母天体はこちら。ハレー彗星もそのひとつです。

<http://www.nao.ac.jp/phenomena/20090000/other.html>

ただ、多くの母天体は比較的短い周期で回っているようで、やはりそう考えると、おうし座流星群の元の母天体エンケ彗星か、こと座流星群の母天体サッチャー彗星が、怪しいと感じます。

エンケ彗星自体は 3.3 年周期ですが、元は巨大なひとつの彗星の断片との見方もあるそうです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%B3%E3%82%B1%E5%BD%97%E6%98%9F>

<http://www.spaceguard.or.jp/asute/a37/html/con37-R09a01.htm>

サッチャー彗星と流星群の出現も突発的で、気になるのですが、流星群の出現事態は 59 年 周期で、木星と土星が関係しているそうです。 <http://www.astroarts.co.jp/news/2008/04/07lyrids/index-j.shtml>

それで、アトランティスと、ノアの洪水をもたらした母天体を考えると、上記のふたつのうち のどちらかではないかと考えました。

2 つの彗星衝突時期を差し引きすると、 12925-5135=7790 年

となります。

この年数の公約数が、上記の母天体の周期となるでしょう。

$\div 2 = 3895 \div 3 = 2597 \div 4 = 1947 \div 5 = 1558 \div 6 = 1298 \div 7 = 1113$

$\div 15 = 519 \div 15 = 487 \div 19 = 410$

先の彗星衝突があった bc 3123 年から 2001 年を差し引くと、1122 年程度周期の約数を感じ ます。

1122 を 12 をかけると 13451 年になります。先の旧約聖書の数値 13,351 年に近いですね 。 1114 年ならば、

ピッタリくるのですが、上記の7分割の 1113 年とも関係してくる。

あと先の7万年前の彗星衝突とも関係してくるでしょう。

難しいですが、母天体と地球軌道との交差周期と、これらの突発的な彗星によるカタストロフィーとは密接に関係して起こっているのではないかと感じます。

Ads by Google ----- Re: アトランティス神話とマヤ暦と聖書 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 21 日 (土)00 時 17 分 59 秒 返信・引用編集済

> No.419[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 氷期あけの地球の第一文明、島の大きさは アトランティスは縦 2600 km 横 1300 km の島でグリーンランドに匹敵する。

平原は北海道の 2 倍:島の南側の中央には一辺が 3000 スタディオン(約 555km)、中央に おいて海側からの幅が 2000 スタディオン(約 370km)の広大な長方形の大平原が広がり、 その外側を海面から聳える高い山々を取り囲んでいた。山地には原住民の村が沢山あり、樹 木や放牧に適した草原が豊かにあった。

(英語: Greenland、デンマーク語: Grønland、グリーンランド語: Kalaallit Nunaat、「人の島」の意)は、北極海と北大西洋の間にある世界最大の島。

船のイメージは中国のジャンクが適当ではないか。 ノアの方舟は輸送船、現在のタンカーではないか。「長 133.5m、幅 22.2m、高 13.3m」となる。 河川や沿岸を航行する小型のものから、450~1300 総トン程度で耐波性に優れた大型の外洋 航行用のものまで多様な用途の船舶が造られた。10~18 世紀に使われた大型ジャンク船は 600~2000 トンで、交易用に荷卸用の起重機や柴舟と呼ばれた浅瀬で用いる小舟などが搭載 された。乗組員数は 100~200 人。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%82%AF_\(%E8%88%B9\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%82%AF_(%E8%88%B9))

1405 年、永楽帝の命を受けた鄭和は、東南アジアからインドのカリカットまで航海する。 その後も、6 回航海し、アラビア半島、アフリカの東岸まで達した。鄭和の航海ルートは長躯 壮大だが、船団も超弩級である。長さ 150 メートル、幅 60 メートルの超大型ジャンク船を旗 艦とし、船舶 62 隻、2 万数千人の乗員で構成された。大航海時代に先駆けて、このような大船 団がインド洋を航海したことは驚嘆に値する。

<http://www.benedict.co.jp/Smalltalk/talk-121.htm> N,O,Q,R、+I,J の一部は、おそらく BC2800 年付近のノアの洪水時代以降です。

この辺りの DNA で正しいでしょうな。

これがバベルの塔に繋がる。一方は聖書に従いエジプト方向。一方は中国の青海省になる。

> アトランティス時代、つまり 1 万 2900 年以前の Y-DNA 系統を調べてみると、まず G、H、I、J、K の 5 種類が想定できます。ポセイドンの 5 人の男子ではないでしょうか。 >> H はインド南部に、G はイラン方面に、I と J はアラブ・ペルシア方面、K は東南アジア方面に、まだ残存してます。これらのほとんどはアトランティス洪水で滅んだのでしょうか。

>> その K から、さらに L、M、NO、P といった新世代がでてきます。そしてこれらも BC 3123 年のノアの洪水で滅びます。 >

- >> ノアの方舟は輸送船、現在のタンカーではないか。
- >> 「長 133.5m、幅 22.2m、高 13.3m」となる。 >
- > おそらく BC1000 年代のイスラエルの船にイメージのモチーフがあるのでしょうか。ソロモン時代のタルシシシュ船をイメージしますね。ある時期にそれによって中南米までいったのかもしれませんが。 >

----- Re:アトランティス神話とマヤ暦と聖書投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 20 日(金)23 時 03 分 59 秒 返信・引用編集済

> No.417[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 天が地から取り去られたのち、 > 地が天から分けられたのち、

> 人の名が定められたのち、 > アン(天神)が天を運び去ったのち、 > エンリル(大地神)が地を運び去ったのち、
> アン、エンリル、エンキ(水神)、そしてニンフルサグ(豊穡の女神)が、 > 黒い頭(人間)を創造したのち、 >
草木が地においしげり、 > けもの-野の四足獣がたくみにつくりだされた。

旧約聖書にも、かなり周辺のシュメール文化が影響しているようですね。距離的には吉備と 奈良くらいしか離れてないですから、影響しあって当然かと感じます。

> 2.アトランティス伝説 >「時は古代の政治家ソロンより 9000 年の昔。ヘラクレスの柱の向こうにアトランティ スという島があった。海神ポセイドンの五組の男子が王となって支配し、王の中の王である アトラスの名をとってアトランティスと呼ばれた。その国は農産物や、金属などの地下資源 に富み、港は世界各地からの船でにぎわい、繁栄を極めた。アトランティスの首都ポセイドニアには、…。

アトランティス時代、つまり 1 万 2900 年以前の Y-DNA 系統を調べてみると、まず G、 H、 I、 J、 K の 5 種類が想定できます。ポセイドンの 5 人の男子ではないでしょうか。

H はインド南部に、G はイラン方面に、I と J はアラブ・ペルシア方面、K は東南アジア方面に、まだ残存しています。これらのほとんどはアトランティス洪水で滅んだのでしょうか。

その K から、さらに L、M、NO、P といった新世代がでできます。そしてこれらも BC 3123 年のノアの洪水で滅びます。

そして生き残った NO からアジア方面に N、O が、P からアラブ・欧州へ Q、R の分岐が起こり、現在の世界のメイン遺伝子となります。

ちなみに、アトランティス時代以前の C、DE(YAP)、F の 3 種は、BC70000 年前 後に分岐したもので、前期旧石器時代人と見ます。その F から、新たに 4 万年~1 万 3 千年前 にかけてアトランティスの 5 人の息子(集団)が支配したとすると、F がインドから南西ア

ジアにわずかに今も分布していることを想定し、また G、H、I、J、K の 5 集団も同様な分布を示していることを考慮すると、アトランティスは、インド洋周辺と考えるのが妥当です。

ただ、アトランティスという大陸がひとつあって、そこに F の 5 系統の子孫がいたと推定することもできますが、あるいは中東・インド方面全体に及んだ洪水の話だった可能性も考慮しておきたいところです。当時はまだ氷河期で寒かったので、多くは赤道方面に住んでいたのかもしれませんが。

その赤道方面から追い出されるような事態が起こったので、楽園追放神話が出てきたのかもしれないですね。

その原因は彗星衝突なのですが、後のノアの洪水のときも彗星衝突で、ふたつには相関性があります。具体的に計算した結果としては、約 2580 年周期の小惑星と彗星群だろうと感じています。これは別記します。

> ノアの方舟は輸送船、現在のタンカーではないか。 >「長 133.5m、幅 22.2m、高 13.3m」となる。 >

おそらく BC1000 年代ごろのイスラエルの船にイメージのモチーフがあるのでしょうか。 ソロモン時代のタルシシュ船をイメージしますね。ある時期にそれにのって中南米までいったのかもしれない。

----- Re: アトランティス神話とマヤ暦と聖書
投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 20 日 (金)21 時 34 分 16 秒 返信・引用編集済

管理人さんへのお返事です。

アトランティス王朝、アダムの生きた年は合わせて九百三十歳なので、アダム王朝: 八百年、セツ:八百七年、…、ノア:四百五十年と思われる。計算は後に記します。

アダム 800 年 セツ 807、エノス 815、カイン 840、マハラレル 830、ヤレド 800、エノク 300、メトセラ 782、レメク 595、ノア 450-350(洪水まで)合計 6669 年 洪水は紀元前 2800 年こ

れを合わせと紀元前 9469 年

『ティマイオス』 神官は、古来より水と火により人類滅亡の危機は何度も起こってきており、ギリシアではせっかくある程度文明が発達しても度重なる水害により都市とともに教養ある支配階級が絶滅してしまうため、歴史の記録が何度も失われてしまったが、ナイル河によって守られているエジプトではそれよりも古い記録が完全に残っており、デウカリオン以前にも大洪水が何度も起こったことを指摘する。また、女神アテナと同一視される女神ネイト (Neith)が神官達の国家体制を建設してまだ 8000 年しか時間が経っていないが、アテナイの町はそれよりさらに 1000 年古い 9000 年前 (即ち紀元前 9560 年頃) に成立しており、女神アテナのもたらした法の下で複数の階層社会を形成し、支配層に優れた戦士階級が形成されていたことを告げる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B9>

議論するものです。

アダムは百三十歳になって、自分にかたどり、自分のかたちのような男の子を生み、その名を セツと名づけた。アダムがセツを生んで後、生きた年は八百年であって、ほかに男子と女子を生んだ。 であつた。そして彼は死んだ。

百三十歳+八百年=九百三十歳 アダム:八百年

セツは百五歳になって、エノスを生んだ。
セツはエノスを生んだ後、八百七年生きて、男子と女子を生んだ。
セツの年は合わせて九百十二歳であつた。そして彼は死んだ。

百五歳+八百七年=九百十二歳 セツ:八百七年

… ノアの文章はアダム、セツより、推測する。

ノアは五百歳になって、セム、ハム、ヤベテを生んだ。

「ノアはセム、ハム、ヤベテを生んだ後、四百五十年生きて、男子と女子を生んだ。」
ノアの年は合わせて九百五十歳であつた。そして彼は死んだ。

五百歳+四百五十歳=九百五十歳 ノア:四百五十歳

その造り方は次のとおりである。すなわち箱舟の長さは三百キュビト、幅は五十キュビト、高さは三十キュビトとし、

ノアは洪水の後、なお三百五十年生きた。
九百五十歳-三百五十=六百

六百一歳の一月一日になって、地の上の水はかれた。ノアが箱舟のおおいを取り除いて見ると、土のおもては、かわいていた。

<http://bible.e-lesson1.com/2bible1.htm>

----- Re: アトランティス神話とマヤ暦と聖書
投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 20 日 (金)06 時 26 分 9 秒 返信・引用

管理人さんへのお返事です。 遡ります。訳聖書のヘブライ語に翻訳

天が地から取り去られたのち、 地が天から分けられたのち、 人の名が定められたのち、 アン(天神)が天を運び去ったのち、 エンリル(大地神)が地を運び去ったのち、 アン、エンリル、エンキ(水神)、そしてニンフルサグ(豊穡の女神)が、 黒い頭(人間)を創造したのち、

草木が地においしげり、
けもの-野の四足獣がたくみにつくりだされた。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%80%E3%83%A0%E3%81%A8%E3%82%A4%E3%83%B4>

大よその年代が出ましたな。ブライ語の翻訳から船出の詩ではないか。

アトランティスの船出、ノアの洪水に出てくる箱舟を探します。

2.アトランティス伝説 「時は古代の政治家ソロンより 9000 年の昔。ヘラクレスの柱の向こうにアトランティス

という島があった。海神ポセイドンの五組の男子が王となって支配し、王の中の王であるアトラスの名をとってアトランティスと呼ばれた。その国は農産物や、金属などの地下資源に 富み、港は世界各地からの船でにぎわい、繁栄を極めた。アトランティスの首都ポセイドニア には、…。

<http://www.crc-japan.com/research/atlanthis/index.html>

ノアの方舟は輸送船、現在のタンカーではないか。 「長 133.5m、幅 22.2m、高 13.3m」となる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8E%E3%82%A2%E3%81%AE%E6%96%B9%E8%88%9F>

> またアトランティスの年代と聖書の記載について考察してみました。 >> 以前も紹介しましたが科学的な成果によると、今から 12900 年の地層に、彗星衝突で 10 年 で 7.7 度も下がる時期があったことが確認されていますね。 >> 思うにアダムの追放神話は、アトランティス神話のような彗星衝突、洪水によって、故地を追われたことと関係してくるのではないのでしょうか。 >> そしてイスラエルの祖先が、かなり精度の高い暦を保持し続けていたことが推測できます。 3114 年、もしくは 3123 年という数値も知っていた可能性がありますね。

----- アトランティス神話とマヤ暦と聖書投稿者:
管理人 投稿日:2012 年 4 月 20 日(金)04 時 50 分 31 秒 返信・引用編集済

またアトランティスの年代と聖書の記載について考察してみました。

以前も紹介しましたが科学的な成果によると、今から 12900 年の地層に、彗星衝突で 10 年で 7.7 度も下がる時期があったことが確認されていますね。

「この時期はヤングドリマス期(およそ 1 万 3000 年前)と呼ばれ、約 10 年のあいだに気温が約 7.7℃ 以上下降したということがわかっている。これは氷期から間氷期に移行する時の急激な温暖化によって、北半球の氷床が溶解し、大量の淡水が大西洋に流入して海洋・気候のシステムに大きな影響を与えたためと言われていたが、米科学アカデミー紀要(電子版)にメキシコや米国などの研究チームが発表する論文によると、チームはメキシコ中部のクイツェオ湖にある 1 万 2900 年前の地層を分析。通常は見られない、急激な加熱と冷却によりできたダイヤモンドの微粒子などが含まれていたことから、山火事や火山噴火ではなく彗星などの空中爆発や地上への衝突が起きたと結論づけた。」と朝日新聞は報じている。」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%80%E7%B5%82%E6%B0%B7%E6%9C%9F>

それで聖書の人名と寿命から、年代を計算してみました。ちょっと先の秦野さんの年齢計算 結果とあわないのですが、先日ご紹介した聖書の人名と寿命についてのサイトから年齢を得ています。 http://on-linetrpgsite.sakura.ne.jp/column/post_64.html

アダムからノアのひとつ前の人物までは $930+912+905+910+895+962+365+969+777 = 7,625$ 年です。

アダムは 600 歳で洪水に会いましたので、 $7625+600 = 8,225$ 年

になります。

これに、マヤ暦の開始年(つまり世界各地の洪水神話の年代)を足すと、 $8225+3114 = 11,339$ 年 になります。

その 3114 年については、その 9 年前の紀元前 3123 年 の 6 月 29 日にオーストリア上空付近 で小天体が爆発し、地球の環境に多大な影響を与えたと推測されているそうです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%80%E5%85%83%E5%89%8D%E5%8D%E3%B9%B4%E7%B4%80>

大英博物館に保存されていた、アッシリアで紀元前 700 年頃に作られたとみられるディスク 状の粘土板は、

古代シュメール文明の天文に関する遺物をコピーしたものとみられている。粘土板には、星座や惑星の他に、まっすぐなラインがひかれていて、「白い石の鉢のようなものが、凄まじい勢いで上空を横切っていった」とある。これを、小惑星が落下前に上空を横切っていった道筋を示したものではないかと考えたアラン・ボンド、マーク・ヘンプセルという二人の天文学者が、星の位置関係から割り出したところ、紀元前 3123 年の 6 月 29 日に観測されたものだということがわかったのだという。

<http://d.hatena.ne.jp/lithos/20091208/1260259096>

今の西暦に換算すると、 $11339 + 2012 = 13,351$ 年

となります。先の彗星衝突推定年代と 451 年の差まで近づきます。

おそらくアダムが楽園から追放されて年代を想定すると、930 歳の彼の人生のうち、451 歳は、半ばになるでしょうか。

思うにアダムの追放神話は、アトランティス神話のような彗星衝突、洪水によって、故地を追われたことと関係してくるのではないのでしょうか。

そしてイスラエルの祖先が、かなり精度の高い暦を保持し続けていたことが推測できます。3114 年、もしくは 3123 年という数値も知っていた可能性がありますね。

Re: Q 系統と分岐年代 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 19 日(木)13 時 40 分 16 秒 返信・引用 編集済

> No.413[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 天地開闢神話の盤古がヴェルム氷期の年代には疑問があるでしょうな。まず神話伝承について、2 種類に分けて考える必要がありそうです。

1 つ目は文字記録。2 つ目は口頭伝承です。後者は、古くなれば当然伝承もゆがんでいきます。

ただ、それを補う要素として、伝承する人数が多いこと、伝承する集団が祭祀家などしっかりしていること、その伝承家系がどこまでどのくらい残存していたか?の 3 要素を考慮しておきたいところです。

祭祀家 1 家系で 500 年伝承するより、100 家系で 500 年伝承したほうが、お互い確認しあえるので、伝承の正確性は増すでしょう。

個人的には推測ですが、1 家系・6 世代・200 年くらいは正確に口頭伝承しうる能力を持っていると感じます。1000 年伝承するには 5 倍で 5 家系が残存する必要がある。500 0 年なら、25 家系。1 万年なら 50 家系必要になりますね。

ただ、あくまで祭祀の口頭伝承システムがしっかりしていたらの話ですが、当然その間に戦乱や離散で多くはぼやけていくことでしょう。文化的な変遷があれば、言語も表現も変わってきますね。

でも運がよければ、同一民族・言語・習俗の中で、伝承され続けるケースもあるかもしれません。中国はその可能性を感じます。あるいは安全で変化のすくないニューギニアみたいな離れ小島。

また人口面でも中国(東アジア)は起源前 4 世紀の時点で 1 億人いますから有利です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E4%B8%8A%E3%81%AE%E6%8E%A8%E5%AE%9A%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E4%BA%BA%E5%8F%A3>

> ヴェルム氷期の入口 > 紀元前 26 世紀頃、神農時代、華夏の君主・黄帝が蚩尤(『路史』によると羌が姓とされる) 民族の討伐作戦を行い、涿鹿で破った。戦いは黄河の台地で行われた。

中国の記録は文字発生後ならば、話は変わってきます。BC2500 年ごろなら、かなり信憑性が高いでしょう。そういう点から見ても、BC3000 年ごろの洪水神話はあったと思います。

> ヴェルム氷期の出口 > アトランティス紀元前 9560 年頃の紀元前約 1 万年の根拠は聖書になる。 > アトランティスは氷期明けの第一文明になる。

こちらは上記のように途中まで口頭伝承ですから、当然相当なゆがみがあると思います。ほとんどの伝承は失

われているでしょう。ただ彼等の持っていた暦の精度と、その利用法次第 ですね。

そういう意味では 60 干支は、覚えやすくかつ意外にも正確です。最近も BC660 年まで コンピューターで遡れることが証明されましたからね。

要するに、360(365)、12、10 の公倍数、公約数の計算ができれば、2500 年は確実に暦に係争することができるといことです。

1 万年はその 4 倍ですから、60 干支をつかっていれば、計算式で遡れる可能性があります。 聖書のユダヤ暦はどうでしょうか。BC3671 年までは遡れますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A6%E3%83%80%E3%83%A4%E6%9A%A6>

メトン周期

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%83%88%E3%83%B3%E5%91%A8%E6%9C%9F>

19 太陽年で 7 閏日を挿入、219 年に 1 日を矯正します。中国から東遷した可能性が指摘 されてます。

うまくいけば、2190 年で 10 日ずれる、1 万年で 13240 年で 60 日、2 ヶ月ずれます 6570 年で 1 ヶ月。

難解ですが、この手の暦システムで、はるか遠くの祖先の年代を継承した可能性を感じます。

ネットショップの始め方 - allabout.co.jp 手順・費用等、オープンまでの流れを 紹介。今なら、開業ガイドブック無料

1 枚で土日含む 2 回入園可能 - www.tokyodisneyresort.co.jp ディズニー"スプリング W パスポート" インターネット限定! 6/15 迄販売中 ゴスロリファッション学ぶ - vantan.com <<バンタン>>専門コース誕生! 好きな まずは<<無料パンフレット請求>> 住友林業のペットと住む家 - sfc.jp/ie ペットと快適に暮らすための注文住宅 の工夫をご紹介! カタログはこちら GeneChip 受託解析サービス - www.gene-lab.com マイクロアレイのグローバルスタンダード GeneChip で、網羅的に発現解析 Ads by Google

----- Re:Q 系統と分岐年代投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 18 日(水)23 時 57 分 25 秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

天地開闢神話の盤古がヴェルム氷期の年代には疑問があるでしょうな。

ヴェルム氷期の入口 紀元前 26 世紀頃、神農時代、華夏の君主・黄帝が蚩尤(『路史』によると羌が姓とされる)民族の討伐作戦を行い、涿鹿で破った。戦いは黄河の台地で行われた。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_\(%E4%B8%89%E4%BB%A3\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_(%E4%B8%89%E4%BB%A3))

天地は鶏子(卵殻の中身)のように渾沌としていた、そのなかで盤古は誕生した。一万八千 年を経て、天地が開けると、 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinwa/sinwa-1-banko.htm>

ヴェルム氷期の入口は紀元前 26 世紀頃に記録されたと仮定すると一万八千年は紀元前約 2 万年になる。

ヴェルム氷期の出口 アトランティス紀元前 9560 年頃の紀元前約 1 万年の根拠は聖書になる。 アトランティスは氷期明けの第一文明になる。

聖書のアダムとイブを知っていますか。アダムの家系を聖書からピックアップします。 アダム 800 年 セツ 807、エノス 815、カイン 840、マハラレル 830、ヤレド 800、エノク 300、メトセラ 782、レメク 595、ノア 600(洪水まで)合計 7169 年 洪水は紀元前 2800 年これを 合わせと紀元前 9969 年。注) 例、アダム 800 年は一つの王朝とする。

これらはアトランティスの王朝と思われる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A7%E7%B4%84%E8%81%96%E6%9B%B8>

アトランティスの位置はアステカの伝説を元に中国の夏と古事記の記録紀元前 1700 年が一 致する。あとは、

ノアの洪水の波の方向、隕石の痕跡等(モヘンジョダロ)から推定した。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano29.htm>

もし、アトランティスの仮定が崩ればノアの洪水、エデンの園、ユダヤの子孫、ミャオ族、古事記…が振り出しに戻る。アトランティス、黙示録の大バビロンの四方、統治システムの12区割り。アトランティスの10王で10区割り…が振り出しに戻ることになる。

Re: Q 系統と分岐年代 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 18 日(水)22 時 03 分 53 秒 返信引用 編集 済

> No.409[元記事へ]

キシさん、秦野北斗さんお返事ありがとうございます。

> 天地開闢神話に盤古が…です。年代が正しければ一万八千年はヴュルム氷期の入口になる。盤古はヴュルム氷期になる。『ティマイオス』のアトランティス紀元前 9560 年頃、約 1 万 年前が氷期の出口で氷期の状況が以下。氷期には一日に九回変化し、地殻変動等が生じた。とのこと。

盤古神話は、確か華南・雲南方面に広がっていますよね。弥生時代の稲作のルーツと関係しているはず。普通に考えると、初期の弥生人の祖先でO 系統となるでしょうか。

18000 年という年代数値が気になりますね。どこから出てきたのか……。盤古神話と伏羲の話がむすびつくなから、3000 年代の洪水とのかかわりも感じますが、どうなんでしょうか。

> 仮説だが、氷期には相当な地殻変動等が生じている模様。200 万年からビーバー氷期、リス 氷期、ミンデル氷期、ギュンツ氷期、ドナウ氷期、ヴュルム氷期までに 6 氷期。生命 DNA に与えた影響は無視できないのではない。

そうですね、日本海の積雪の重さだけでも、地震に大きく影響するといいますから、氷河の重さからの開放はかなり噴火や地震を引き起こしただろうと感じます。CO2 も排出して温室効果で一気に気温と海水面が上がったことでしょう。

> アトランティス よく考えてみると、アトランティスの洪水を 12000 年代といい始めた根拠を知りたいところですね。

ただ上記のとおり科学的にも間違いなくその過程で、洪水?に見舞われているだろうことは想像できます。

大陸が沈むというのも海面上昇の可能性もありますよね。

氷河期の海面は現在より 140 メートルも低かったはずですが、それが縄文時代に入るときには現在の水面まで上がったわけですね。その上がり方のグラフは下記のサイトに乗ってます。途中 1 万 5 千年前後に一気に上昇する時期があります。

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Post-Glacial_Sea_Level.png

すでにそのころには、現在まで残る多くの人種系統がありましたから、何らかの伝承にその記憶が残っていてもおかしくはないと感じます。

最終氷期の地図が下記のサイトにありますが、沈んだ部分を見ると、東南アジア方面や、沖縄 方面、イギリス方面があり、この辺にさきの DNA の系統がすんでいたとしたら、彼等は速かれ遅かれ住処を失ったことでしょう。

<http://galapagojp.exblog.jp/13718165/>

先の Y-DNA 系統図を見ると、ニューギニアあたりに M 系統という孤立した人種が見えます。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_M_\(Y-DNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_M_(Y-DNA))

3 万 8 千年前には分岐したそうですが、ちょうど海面が上昇していくのを体験した系統でしょう。M1 という分岐系統には、3800 年代から分岐が生じてますが、このニューギニアあたりの神話に、あるいはいわず

ムー大陸時代の洪水記憶が残っている可能性を感じますね。

S 系統も同様にニューギニアで孤立してますが、不可思議な感じです。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_S_\(Y-DNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_S_(Y-DNA))

よくわからないのですが、ニューギニアという小さな島で2つも大きな系統分類が起こって、そこだけにしか残ってないのが不自然です。もっと大きな人口と、それを保持できる大陸が必要でしょう。

同様に、沖縄ー台湾のライン、一部はミャオ神話とも関係してくると感じます。

それでアトランティスですが、同じ理論でいくと、インド南部にしか見えないHという孤立系統があります。年代的には2万5千年~4万5千年で先のM系統と同時代ようです。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_H_\(Y-DNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_H_(Y-DNA)) 一説には、インド南部にレムリア大陸があったという話もあるそうですね。秦野さんご指摘のマダガスカルも絡んでくる。インド南部のタミル人の伝承を基にした大陸図が下記サイトに出てます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AC%E3%83%A0%E3%83%AA%E3%82%A2>

レムリアとアトランティスは違うのかもしれませんが、やはりこの辺にも1系統を養うだけの大きな大陸があったかもしれませんね。H系統がアフリカ方面にみえてくれば、もっと可能性が高まると思います。

それで上記の系統が、洪水に見舞われた種だとして、先の1万5千年前後の海面上昇を味わったのか、あるいはそれ以前の初期の海面上昇を味わったのかがわかってくると、分子時計の年代があつてかどうかとも判明してくるでしょう。

オーダージャージ3着から - www.valette.jp/ 最高の着心地と共に最短 20 日でお届け オーダーサイクルシャージのパレット

最新ネット証券ランキング 2012 - kabu.zaitu-labs.com 業界最大級の最新ネット証券比較。最適なネット証券が必ず見つかる！口臭対策2秒もいらない - www.w-direct.jp 主人の臭かった口臭も、便臭も今は...さて、たった1秒の口臭対策とは？ステロイドは使わずに - mozu7867.com みんなのアトピー対策、楽天ダブル1位 子供もOK。自信があるから返金保証 ゴルフ場予約は楽天 GORA - gora.golf.rakuten.co.jp 楽天 GORA は日本最大級のゴルフ場予約 サイト!24 時間簡単予約 Ads by Google

----- Re:アトランティス伝説の謎投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 18 日(水)17 時 06 分 6 秒 返信・引用

> No.410[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

アトランティスはマダガスカル島なんです。紀元前 2800 年に一夜にして消滅したんです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B9>

<http://homepage2.nifty.com/watcher/cult8frame.htm>

フェニキア人とは時代が会いません

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%8B%E3%82%AD%E3%82%A2>

> 海の民はイタリア半島の住んでいたという説も有るし、フェニキア人だったという説も有ります。アトランティスの子孫は、伝統的にギリシアとエジプトが嫌いだったはず。なぜならそこと戦闘中に祖国が滅んだからです。ギリシアとエジプトにとってはいい迷惑です

----- アトランティス伝説の謎投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 4 月 18 日(水)15 時 12 分 59 秒 返信・引用

海の民はイタリア半島の住んでいたという説も有るし、フェニキア人だったという説も有ります。アトランティスの子孫は、伝統的にギリシアとエジプトが嫌いだったはず。なぜならそこと戦闘中に祖国が滅んだか

らです。ギリシアとエジプトにとってはいい迷惑 です ...<http://www.pipi.jp/~exa/kodai/atlan.html>

敵対国家としてアトランティスの伝説 イエスは、当時、国民を目覚めさせた。そこでサンヘドリンと金融泥棒は彼を磔にしたのである。 ユダヤ人とキリスト教徒は、人種的憎悪をかきたてるために利用されてきた。
<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: Q 系統と分岐年代 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 4 月 18 日(水)12 時 19 分 5 秒 返信引用 編集済

> No.408[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

天地開闢神話に盤古が…です。年代が正しければ一万八千年はヴェルム氷期の入口になる。盤古はヴェルム氷期になる。『ティマイオス』のアトランティス紀元前 9560 年頃、約 1 万年 前が氷期の出口で氷期の状況が以下。氷期には一日に九回変化し、地殻変動等が生じた。と のこと。

天地は鶏子(卵殻の中身)のように渾沌としていた、そのなかで盤古は誕生した。一万八千 年を経て、天地が開けると、陽(あきら)かで清らかな部分は天となり、暗く濁れた部分は地 となり、盤古はその中間に在って、一日に九回変化した。天では神、地では聖となる。天は日に 一丈高くなり、地は日に一丈厚くなり、盤古は日に一丈背が伸びた。このようにして一万八千

年を経て、天は限りなく高く、地は限りなく深くなり、盤古は伸長を極めた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinwa/sinwa-1-banko.htm>

仮説だが、氷期には相当な地殻変動等が生じている模様。200 万年からビーバー氷期、リス氷 期、ミンデル氷期、ギュンツ氷期、ドナウ氷期、ヴェルム氷期までに 6 氷期。生命 DNA に与え た影響は無視できないのではないか。

アトランティス

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%B9>

氷期

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~nkazu/yama/hyouga.htm>

> その後も Y-DNA の Q 系統について調べてます。 > その前に、分子時計推定が、2 万年前より下ると古代史の成果より古くなる件について、考 えてみました。 > 10 万年前から氷河期が2 万年前に終わり、地球が温暖化していくのですが、その際に植 物が北方地域まで繁殖するようになり、酸素濃度が高まったのではないかと感じます。酸素 濃度が高まった時代は、巨大な昆虫がでてきたりして、生物も大型化します。 > 長時間、数世代にわたって強い地磁気を脳に浴び続けたと過程すると、何らかの精神面で の変化が遺伝子にも出てくるのではないのでしょうか…。

----- Q 系統と分岐年代投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 4 月 18 日(水)07 時 36 分 11 秒 返信引用 編集済

その後も Y-DNA の Q 系統について調べてます。

その前に、分子時計推定が、2 万年前より下ると古代史の成果より古くなる件について、考 え てみました。

10 万年前から氷河期が2 万年前に終わり、地球が温暖化していくのですが、その際に植物 が北方地域まで繁殖するようになり、酸素濃度が高まったのではないかと感じます。酸素濃

度が高まった時代は、巨大な昆虫がでてきたりして、生物も大型化します。

<http://toki.2ch.net/test/read.cgi/scienceplus/1312985601>

そうすると、同時に活性酸素も増え、呼吸によって遺伝子を傷つける割合も高まったことで しょう。

<http://www3.tokai.or.jp/katu/sanso.html>

同時に遺伝子に突然変異が起こる確率も高くなります。すると、遺伝子の分岐も早くなるわけ です。それが2 万年前から予想された分子時計の遺伝子変異確率の増加により、速いテンポで変化が起こる原因かと感じます。だから、Q 系統などの分岐年代がはるかに下って 30 00 年代となるわけです。

その氷河期を引き起こすサイクルは、ミランコビッチサイクルといって、地球の公転・自転 軸等を掛け合わせた サイクルによって日射量が変わることから生じています。 ちょうどそのサイクルが2 万年前からの温暖化に一致してきます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%AB>

おそらくこのサイクルの年代、つまり 10 万年前、4 万年前、2 万年前に、Y-DNA も変化 をしていると思われます。大きな気候変化へ適応していったわけですね。

また CO2 も氷河期末期に一気に増加したようです。

<http://www.47news.jp/CN/201204/CN2012040401002030.html>

ただもっとも大きな変化が現れはじめたのは、そのグラフによれば1 万年前からで、ここか ら一気に気温が跳ね上がっていくわけです。その変化に応じて体格や呼吸システム、MT- DNA などのエネルギーシステムも変化を余儀なくされたのでしょう。この時期の大洪水も その一端です。

だから 1 万 2 千年前に、大きな Y-DNA の分岐があってしかるべきなのですが、最終ライ ンの N,O,Q,R の分岐は、その後の紀元前 3000 年ごろの洪水後と考えます。もちろん分子時計推定が狂っているので、定説と年代は会いません。

あと、活性酸素の増加にともない、遺伝子への損傷からくる変異確率が高まったとともに、 遺伝子を壊すわけだから当然寿命も縮まったと感じます。やはり遺伝子の劣化が、主な寿命

の要因のようです。

その損傷した遺伝子を排除するシステムもあるのですが、それが弱いと変異遺伝子が増えて ガンや病気になり、強すぎると今度は耐性劣化で寿命が短くなることがラット実験で確認 されてます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%B0%E8%83%9E%E5%91%A8%E6%9C%9F%E3%83%81%E3%82%A7%E3%83%83%E3%82%AF%E3%83%9D%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%88>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%88>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/P53%E9%81%BA%E4%BC%9D%E5%AD%90>

なお、人間の寿命については、呼吸回数や体重に関係する寿命曲線で決定されるといわれて ますが、他の動物に比してかなり長寿命で例外的とのこと です。

<http://www.obihiro.ac.jp/~rhythms/LifeRh/02/Mammals01.html>

人間だけ鼻ではなく口呼吸できるのですが、口から吐くことで、体内で生じた活性酸素を効 率よく吐き出せるのではないかと感じます。それによって寿命が延びるのではないかと考え はじめてます。正確には鼻から吸うほうが、肺での酸素取り込みもよくなり免疫力がつくの で、さらに長寿命になるはず です。

ともあれ、それで寿命が氷河期より短くなったので、旧約聖書をはじめ古代史書の多くで、寿 命が短くなる記載が出てくるのは、その辺と多少関係あるのかもしれない。 http://on-linetrgsite.sakura.ne.jp/column/post_64.html

それで主題の Q 系統なのですが、先の R 系統と、インド・ヨーロッパ語族の分布が一致して いることとともに、クルガン仮説があります。 紀元前 3000 年ころから、クルガンのあった黒海北方地域から、欧州やインド等へ文化が 流れたというものです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%AB%E3%82%AC%E3%83%B3%E6%96%87%E5%8C%96>

またチャリオット(戦争に使った馬車)の拡大も、紀元前 2000 年ごろから同様な地域 拡大をしていることが指

摘されてます。こちらは鉄器文化、ヒッタイトと深くかかわります。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%AA%E3%82%AA%E3%83%83%E3%83%88>

よくその発祥地を見てみると、添付の図のように Q 系統のその地域の濃い分布と深くかかわることがわかります。それが同時代に周辺にいた R、O 系統にも影響を与えていったのでしょう。

このヒクソスの文化は BC1500 年にはエジプトを支配するまでに発展するわけですが、元は BC2000~3000 年代に洪水後に発生したもので、鉄器や文字の使用開始ともかかわってきます。

中東の P 系統から分かれた Q 系統は、一度その黒海北方、あるいはシベリア方面へ移動し、そこで鉄器や文字を開発、その後、再南下してエジプト・インド方面へと移動していったものと考えます。

その過程で一部が北米大陸へと移住したのですが、ここは通説では 1 万数千年前の氷河期にベーリング海峡を渡って行ったことになってます。

でもよく Q 系統を分析すると、渡ったのは Q 系統でもかなり新しい系統で、Q1A3-1 というものです。古い Q 系統はシベリア方面にいますが、そういう細かい分岐が出てこない時代のものなんですね。

それで Q1A3 は先のごとくイエメンのユダヤ人と同じですから、エジプト周辺に BC1000 年まではいたはずです。

北米の Q 系統をみると、また中東の P 系統も一緒に連れていっていることがわかります。シベリアの古い Q 系統には P 系統との同伴は見えません。

おそらくは C 系統や O 系統が占めていた北米・南米大陸に、起源前 5 世紀ごろに Q1A3 系統と P 系統が一緒にわたっていき、そこでピラミッドや暦、絵文字を残して、その後の時代に、欧州人の R 系統もグリーンランド経由で渡っていったことでしょう。かなり後の時代の話ではないかと感じます。

こうみていくと Q 系統が BC3000 年ごろに、黒海北方に突如現れた理由を知る必要がありそうですが、文字や鉄器の使用など、際立って知的になっており、脳関連の突然変異すら想定すべきかもしれません。

それでさらにその黒海周辺にいた Q1 系統の祖地をさぐると、元はシベリア中央の最北部にいて、ちょうど今現在地磁気における北極がある場所と重なってきます。

こちらは地磁気変化のアニメーション。

<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/igrf/anime/index-j.html> <http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/earthsci/shibuya/ButlerJ0.1.7.3.pdf>

地磁気と各種精神病発生については有意な研究報告が多くあります。

<http://www.tdk.co.jp/techmag/magnetism/zzz08000.htm>
<http://blog.goo.ne.jp/drmoriwoborder/e/8895b53a11dd1478d565bbf101cb3ac6>
<http://plaza.umin.ac.jp/JPS1927/fpj/topic/topic120-1-66.htm>

長時間、数世代にわたって強い地磁気を脳に浴び続けたと過程すると、何らかの精神面での変化が遺伝子にも出てくるのではないのでしょうか…。

Ads by Google ----- Re:Q 系統とイスラエル投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 17 日(火)22 時 10 分 13 秒 返信・引用 編集済

> No.405[元記事へ] 秦野さん、キシさん、情報ありがとうございます。

> Y-DNA の Q 系統とペストの分布が合わないのだから R、Q は紀元前 2 万年より古いのではないか。

ユダヤ人とペストの関係は、下記の件ですね。

http://inri.client.jp/hexagon/floorA4F_ha/a4fha401.html

確かにクリミア半島で感染させられたユダヤ人が、その後航海で行き着いたところにペストが発生したわけで

すが、現在の分布と対応するかということそうでもないように感じます。

またいわゆるユダヤ人(ユダ族の末裔)と、イスラエルの 10 部族とは別なので、Q 系統の 分布とベストの分布と
が合わないほうが正解です。

> Y 染色体ハプログループ: > B, E: サハラ砂漠以南にアフリカの家系に見られ ます。 > E, G, H, I, J, R :
ヨーロッパ、中東、西アジアの家系から見られます。 > C, D, N, O, Q, R: アジアの集団で見られます。 > P,
Q, F: インディアンの家系に見られ ます。

先にご紹介いただいた遺伝子分布図を比較しなおしてありますが、時代ごとに勢力分布が綺麗に 分かれていたよう
ですね。人種的な世代交代を感じます。

A, B, C は前期旧石器時代人(20~4 万年前)

D, E, F は後期旧石器時代人(4 万年前~1 万年前)クロマニヨン人、湊川人等

G, H, I, J, K, L, M, S, T, P, +D, E の一部は新石器時代人(1 万 2 千年前~30 00 年前)アトランティス後の人類、
縄文人?

N, O, Q, R, +I, J の一部は、おそらく BC3000 年のノアの洪水時代以降です。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_N_\(Y-DNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_N_(Y-DNA))

R(特に R1A)系統は、分布的にいっていわゆるインド・ヨーロッパ語族なのですが、そ の始まりはやはり最後の
BC5000~3000 年ごろでしょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%AB%E3%82%AC%E3%83%B3%E6%96%87%E5%8C%96>

同じく O 系統の祖・伏羲も 3000 年の洪水以降の祖。

それぞれの時代で、世界を東西南北と分割支配していったのでしょうか。(ただ北米・南米の世代交替は、特に Q
系統については例外的な感じがします。)

全体的に分子時計推定は、時代が下るとともに、歴史の実態とあわなくなっていくますね。

突然変異の割合が、だんだん時代が下るとともに、高くなってきているとか、寿命や交配の年 齢が変化してい
たなど、環境的な要因があるのではないのでしょうか。

1 万年前に氷河期が終わって、大きく環境が変化したことは確かです。気温が上がり海面が 上がり始めて、空
気中の成分も変化したでしょうし、おそらく遺伝子を損傷して突然変異を させる紫外線量も変化したかもし
れません。

十支族…? フェニキア人(皮膚はかなり白かったらしい) と古代ユダヤ人 投稿 者: 棘の紀氏 投稿日: 2012 年 4
月 17 日(火)09 時 46 分 59 秒 返信・引用

「イ」を「ワ」に変え…イ族→ワ族? 燕(エン) エン (エン)はヘブライ語で「 泉」を意味します。「ヤ」は神の呼び名で
す。つまり「エンヤー」 は「神の泉」を意味します。<http://historyjp.com/article.asp?kiji=132> モーセ祭りから虫祭
りへ 大和朝廷によって、移住秦氏の「秦」の和名音には「はた、はだ」が正式に採用されたことによ り、「機織」も
「ハタ」と呼ばれるようになりました。これは移住秦氏が、機織りに大きな力を 発揮し、貢献し認められたこと
によるでしょう。絹織物に最も重要なのは、蚕の養殖です。蚕 とは敢えて云うなら虫です。 皇極天皇の 644
年には、秦河勝が虫祭りを行ったことが記されています。この虫祭りとは、 モーセ祭りであることは、別述し
ました。モーセを「モセ」に縮め、母音を変え「ムシ」とし、漢 字の「虫」を充て、新たな日本語彙「虫(むし)」の造語
が誕生したのです。 この「虫」は、機織りの蚕に引っ掛けたものでしたが、これらの事柄は、秦河勝がユダヤ教徒
であったことを暗黙に示し、それを隠蔽したものです。記述は、秦河勝が虫祭り、即ちモーセ 祭りを行ってい
た者を懲らしめた話になっていますが、事態はそうではなく、河勝のそれは 相当に自暴自棄の行動に等しかっ
たように見受けられます。 舎人親王は、その後部に、虫について書き連ねることによって、隠蔽は確実なもの
になりました。

(イスラエル 12 支族の各シンボルマーク)

<http://ameblo.jp/chanu1/entry-10864951486.html> ◆ルベン族.....優れた威厳と優れた力の持ち主。水のような奔放性。少数派。 ◆シメオン族.....暴虐性。国中に散らされる。

◆ユダ族.....獅子のように獲物によって成長する。王権と指導力。繁栄。自己防衛。 ◆ダン族.....己の民を裁く。マムシのような狡猾さ。 ◆ナフタリ族.....牝鹿のような美人系。善良さ。優雅さ。恵みに満ち足りる。 ◆ガド族.....防衛的。勇敢さ。正義感。最良の地を見つける。 ◆アシェル族.....王の食卓に美味を供える。穏やかさ。 ◆イッサカル族.....たくましいロバのよう。労働。苦役を強いられる。 ◆ゼブルン族.....海辺に住む。そこは舟の出入りする港となり、その境はシドンに及ぶ。 フェニキア人は、自らのことを「シドンの人」と呼び、自らの国を「レバノン」と呼んでいた。この地域の自然とその位置のために、フェニキア人は、貿易と交渉に従事する 場所を海(地中海)に求めた。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E4%BB%A3%E3%83%AC%E3%83%90%E3%83%8E%E3%83%B3%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2>

フェニキア人と古代ユダヤ人 2004 年 4 月 16 日 - イスラエル人がパレスチナに入植してから、主にダン族とゼブルン族が フェニキア人 とともに世界航海に乗り出し、イギリスやスペイン、ポルトガルに植民地を作った。彼らは、入植地に入ると、巨石建造物を築いた。ヨーロッパ大陸やイギリスに...<http://tak0719.web.infoseek.co.jp/qanda3/507Qg23xABbY17931.htm> セム族に属するフェニキア人は紀元前 1000 年以前から世界を航海し、貿易に携わっていた 古代の商業民族である。後にハム族と混血して黒人の血が入ったが皮膚はかなり白かったらしい。

◆ベニヤミン族.....オオカミのように好戦的。主に愛される者。 ◆マナセ族&エフライム族.....大自然の祝福。膨大な恩恵。生産の祝福。地の果て果てまで、 国々の民をことごとく ●『ツロの王フラムの父はティルス人で青銅工芸の職人であり、母はダン族(イスラエル人)である。ダン族について、創世記にヤコブの記載がある、ヤコブはダン族についてこう言っている。「ダンは、道端の蛇。小道のほとりに潜む蝮(まむし)。馬のかかとをかむと、乗り 手はあおむけに落ちる。主よ、わたしはあなたの救いを待ち望む」(創世記 49・17)。ティルスについては、エゼキエル書やイザヤ書に、はっきりとサタンであることが記されている。さらに、「フラム」という名は、彼がイスラエルの初代の王サウルと同じベニヤミン族に属 する者でもあることを示している(歴代誌上 8・5)。イスラエル 12 部族は、混血することとを固く禁じられていたが、ソロモンは彼を神殿建設の中心人物に任命した(1756 年版

『フリーメーソン憲章』によれば、ソロモン神殿の建設に際しフリーメーソンの伝統に従って、 ツロの王ヒラムとソロモン王との間で最高会議が創られた。これが唯一のグランドマスター とマスターロッジの起源であるという。ソロモン王が不在の場合は神殿建設の最高責任者であるフラム(ヒラム・アビフ)を代理グランド・マスターに指名し、不在でなくとも首席大

首長として、2 人の王と同等の権力と尊敬を付与されたという。彼らは中世にはキリスト教 の大聖堂、修道院、宮殿などの建築、増築、修復などのプロジェクトを担い、彫像や建築の技術 にまつわる秘密を伝達する集会所として『ロッジ』に集まり、その活動拠点とした)』 (預言終末「フラムの子ら」より)

<http://homepage2.nifty.com/elianay/index21.html>

鳩 鳩はヘブル語ヨナー(嘆くの意味、泣き声の哀調に由来している。) http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1058458310 ヨナ(ヘブライ語、ヨナー)という名には、「はと」という意味があります。ヨナは、ゼブルンの領地のガリラヤのガト・ヘフェルの預言者アミタイの子でした。 http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1179148376

ガテ・ヘフェル. 出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』. 移動: 案内, 検索. ガテ・ヘフェル(英語:Gath Hephher)は、旧約聖書に登場する町の名前である。「掘った 井戸の ぶどうしぼり場」というヘブライ語が由来である。 預言者ヨナの出生地であると言 ...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AC%E3%83%86%E3%83%BB%E3%83%98%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%AB>

ゼブルン族　ゼブルン族(ゼブルンぞく)はイスラエルの　12 部族の一部族である、ヤコブの第　10 子であり、
レ　ア　の　子　で　は　第　6 子　で　あ　る　。　<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BC%E3%83%96%E3%83%AB%E3%83%B3%E6%97%8F>　ゼブルンはアッシリア王ティグラテ・ピレセル　3 世
の侵略により危機に陥り、住民の多くは、　他に強制移住させられた。しかし、残ったゼブルン族、南ユダ王国
のヒゼキヤ王時代に過ぎ越　祭に出席した。　イエス・キリストの育ったナザレはかつてゼブルンの所有地であっ
た。

烏　　烏　カラス…悲劇的な意…アアー　カラストロフィ(かたすとりふい): (ギリシャ語における) 自然界および人
間社会の大　変動。おおむね悲劇的な意も持つ。　「カラス」を古代ヘブライ語で考えると、「カラス」が、黄泉の
国を　表すようである。　... <http://plaza.rakuten.co.jp/5dolphins/diary/201202230000/> 黄泉の国　戦闘と破
壊　バイブ　[Badbu]: ◇ケルトカラスの女神。フルネームは、バイブ・カファ(「戦闘のカラス」の

意)。アルスター地方の戦闘と破壊の女神。パウチカムイ: ◇アイヌパウチは「淫魔」もしくは　「淫魔」と訳される。
パウチは性の象徴であり、一条まとわぬ姿で世界中を踊り　...<http://divas.entity.nomaki.jp/list/list5.html>

馬主来(ばしくる) - 釧路市　アイヌ語の「パシクル」(カラス) パシクル湖の名前の由来なのですがこんな言い伝え
があるそうです。「昔、この島を支配し　ていた神様が舟に乗って　各地を見回りしていました。　この沼に來
た　ところ、濃霧を吐く魔　神が　海面一面海霧で包んでしまいました。　舟を崖に着けることが出来ずに困っ
ていると　霧の中から鳥の鳴き声がしました。　その声を頼って舟を寄せたところ　無事岸に着ける事が出来まし
た。　それ以来、ここをパシクル(鳥)というようになったそうです」

彼らは、入植地に入ると、巨石建造物を築いた。ヨーロッパ大陸やイギリスに残る巨石遺構は　その名残である。
近年、オーストラリアで古代フェニキア人の遺構が発見された。恐らく、日　本各地に残る巨石遺構、ストーン・
サークルは彼らの手によるのであろう。　<http://www.ensignmessage.com/archives/mariners.html> 聖書によれ
ば、アブラハムは到着した場所でまず石を積み上げて祭壇を築いて礼拝したとい　う。巨石遺構は古代フェニキ
ア人とユダヤ人の礼拝場所だったのではないだろうか。　日本で鳳凰と呼ばれる鳥は英語でフェニックスである
が、これはフェニキアが語源である。　神輿の上につけられた鳳凰にフェニキア文化の名残を見ることができ
るだろう。九州にフェ　ニキア起源と呼ばれる地名があるとされている。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re:Q 系統とイスラエル投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 4 月 17 日(火)08 時 06 分 1 秒　返信・引用　編集済

> No.403[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

Y-DNA の Q 系統とペストの分布が合わないので　R,Q は紀元前　2 万年より古いのではないか。

専門家でもバラバラですな。　父性　DNA 系統(Y 染色体)

母性　DNA 系統(ミトコンドリア)

Y 染色体ハプログループ: B, E:サハラ砂漠以南にアフリカの家系に見られ　ます。　E, G, H, I, J, R :ヨーロッ
パ、中東、西アジアの家系から見られます。　C, D, N, O, Q, R:アジアの集団で見られます。　P, Q, F:インデ
ィアの家系に見られ　ます。

mtDNA ハプログループ: L1, L2, L3--サハラ砂漠以南のアフリカの家系　H, I, J, K, T, U, V, W, X--ヨーロッパ、
北アフリカ、西アジアの白人グループ。　A, B, C, D, E, F, G, M--アジア人、オセアニア、およびインディアン

> また Y-DNA の Q 系統を追ってます。　> Q1B 系統は、どうもアシュケナジー系ユダヤ人に 5 パーセント普
遍的にみられるとのこ　とで、いわゆるユダヤ人の遺伝子と見て間違いないでしょう。　。

----- Re:Q 系統とイスラエル投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 4 月 17 日(火)07 時 22 分 55 秒　返信・引用　編集済

> No.403[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

DNA はこの辺が限界の様です。秦野はアフリカ、北米、南米の　DNA が異常に変化が無い　ヨーロッパ、ア

ジアが混乱している。見方を変えて、ペストで地域を絞り込みたい。 ユダヤ=ペストになる。黙示録にも見当たる。

ペスト、黒死病と呼ばれ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9A%E3%82%B9%E3%83%88>

第四項 七の器 第 16 章 16:2 斯て第一の天使、往きて其器[の物]を地上に注ぎしかば、獣の印章を有せる人々、及び其 像を拝したる人々の身に、悪性の甚しき腫物生じたり。

<http://bible.salterrae.net/raguett/html/revelation.html>

ちょうど和人がアイヌに対してやったように、白人入植者たちはアボリジニを「野蛮人」(本当は白人こそ野蛮人であった)と見下し、抵抗するものは虐殺しながら、入植地を増やして いく。白人が持ち込んだ天然痘のような病気や梅毒によってもアボリジニの人口は激減した。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~kamishin/Ainurekishi.htm>

もし、ユダヤが来ていればペストが付き物になる。

http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k01_g3/k01_51/k01_51.html

。

Q 系統とイスラエル投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 17 日(火)06 時 15 分 12 秒 通 報 返信・引用 編集 済

また Y-DNA の Q 系統を追ってます。 Q1B 系統は、どうもアシュケナジー系ユダヤ人に 5 パーセント普遍的にみられるとのこと で、いわゆるユダヤ人の遺伝子と見て間違いないでしょう。

<http://groups.yahoo.com/group/Ashkenazi-Q/> http://www.familytreedna.com/public/Jewish_Q

同時に分岐した Q1A 系統ですが、Q1A3 と Q1A6 に、イエメン系ユダヤ人が見えます。

このイエメンというのは、エチオピアと紅海をはさんで向かい合っており、いわゆるシバの 女王がいたシバ王国のユダヤ人と見えます。もとはソロモンの息子との伝承があり、かなり 古いイスラエル支族ですね。

Q1A 系統は、先のとおり A1~A7 まで分岐が確認されており、A1 はサカ・月氏・朝鮮・日本へ、A2 はパレスティン・トルコに残存します。

Q1A3 はイエメンのユダヤ人ですが、一部は、北・南米に渡り、インディオのメイン遺伝子 になりました。通説では 1 万数千年前の氷河期にベーリング海を渡ったとしていますが、実 際はイエメンのユダヤ人と遺伝的にきわめて近く、分岐の度合いからいっても、イエメン、つ まりエジプトにイスラエル人が移動したのちの紀元前 1500 年以降に、何らかの事情で 大陸にわたった集団と感ずります。

その理由としては、マヤ文明やそれ以前の原古典期(BC5 世紀~)が、ピラミッドと絵文 字を作っている件が、エジプト的なのにくわえて、イシュタル神と類似した、イシュテル神 を崇拝していることがあります。双方女神で、月の神です。イシュをもって、神とする向きがみ えます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%BB%E3%83%81%E3%82%A7%E3%83%AB>

したがって、おそらくヒッタイト(ヒクソス)系の文化を持ちながら、エジプトに移住して きた集団の末裔と理解すべきでしょう。いわゆるヤコブの隣人です。

このように考えていくと、Q1 系統の A1~A7 はヤコブの息子のおそらくはイスラエル王 国の 10 支族、Q1 系統の B 系統は、ユダ王国、つまりユダ族と理解できるかもしれません。

ただその A3 系統の一部はシバの女王、エチオピアのユダヤ人として、出エジプトに参加せ ずに、そのままエジプト周辺に残った可能性を感じます。そして BC5 世紀ごろに、南米大陸 へと船で渡っていったのでしょう。一部はまたインド南部方面へと航海しています。

ユダ王国の集団がヤコブの祖父・アブラハムとその子イサクを諸伝承に残すのに対し、イス ラエル王国ではヤ

コブの伝承を残すのには、ちょっとともと系統が異なっていたということも考慮すべきかもしれません。元は同じ遺伝子なのですが、ヤコブから出た 10 支族と、その前のイサク・アブラハムから出たユダ族という具合です。

その Q1 系統が A と B に分かれたのは、そのアブラハムが、シュメールのウルにいた時代だったと思うのですが、BC1700 年前後でしょうか。

その前は Q1 系統と Q2 系統とがあったはずですが、Q2 系統というのは現在は残存してないようです。Q1 系統は、はるか北のシベリア方面にみえます。

本当はもっと Q1、Q2、Q3、Q4…とあったのではないかと感じるのですが、何らかの理由で Q1 しか残らなかったのでしょうか。これが紀元前 3000 年ごろのノアの洪水でしょうか。彼等はパレスチナから北方のアラト山まで逃げてますね。

その祖先の Q 系統は、またパレスチナ・インド方面にみえてますが、さらにその大元はパレスチナに多い P 系統となります。P 系統から現在の西欧人のメインタイプ R 系統とこの Q 系統が分岐するわけですが、その年代が 1 万 3 千年前のアトランティス洪水の時期かと考えます。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_\(Y-DNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_(Y-DNA))

ただどうも分子時計というのは、あまり当てにならないような気がしてきました。特に 1 万 3 千年以降の細かい分岐や変異にはまったく当てにならない感じがします。

分岐や突然変異をもたらす外部環境要素をやはり考慮すべきです。

ともあれ、Q1A 系統をイスラエル 10 支族、Q1B 系統をユダの 1 支族とすることで、整合性がとれてくるのですが、さらに細かい分類ができないのでしょうか。

Q1A 系統のうち A1 はシルクロードの北方遊牧民へ移動していますが、A2 はパレスチナ・パキスタン・インド、A3 はパレスチナ南部からインド方面とイエメン(エチオピア)、A6 もイエメン(エチオピア)、A7 はインドです。

[http://de.wikipedia.org/wiki/Haplogruppe_Q_\(Y-DNA\)](http://de.wikipedia.org/wiki/Haplogruppe_Q_(Y-DNA))

Q1A 系統が 7 支族まで見えていることは、Q1B 系統の分岐が 1 支族と少ないのと比して対照的です。分岐後も、しばらくの間、同支族間でしか結婚しないと、部族単位での保護がなされることで、このような分岐の結果が後代へ維持され続ける条件になったのではないのでしょうか。Re:突然変異・分子時計投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 16 日(月)21 時 20 分 19 秒 返信・引用

> No.400[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> この展開では神話、中国史跡、古事記の内容を満たさない。 > アトランティスの 1 万年、とノアの洪水の大型船の存在は無視できない。また、紀元前 2600 年からのエジプトのピラミッド。バベルの塔。…。 >> ノアの洪水は、『聖書』研究者など多くの見解では(『聖書』にある年代をそのまま計算すると)、西暦前 2370 年(紀元前 3000 年ころとも)に起こったとされている。

さっそくお返事ありがとうございます。先のシュメール王朝表の件で、洪水記載があったのを見過ぎていました。どうも、よく調べてみると、20 万年くらい前に祖先をもってきているようです。アフリカ発祥のご指摘の「L」の時代ですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB%E7%8E%8B%E5%90%8D%E8%A1%A8>

その後、BC2900 年~2750 年ごろに、洪水神話が出てくるようです。この辺は旧約聖書の洪水神話や、マヤ暦とも関係してきそうです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%B4%AA%E6%B0%B4%E3.82.B7.E3.83.A5.E3.83.A1.E3.83.BC.E3.83.AB>

そうすると 20 万年前に今の人類が発生した後、7 万年前、1 万 3 千年前、そしてこの 3000 年前に大きなカストロフィーがあった可能性を感じます。その際に人種が削減あるいは、突然変異等が起こったのでしょうか。

あと、先にとりあげた南米についてですが、キープという結び目からなる文字があり、縄文人 や中国の伏羲が使用したとのことです。ちょうど南米にアジア系の O の遺伝子が多く見える ので、中国・縄文系モンゴロイドが航海等で渡った可能性を感じます。

あるいは北米に渡った同じく古モンゴロイド系の C によってもたらされたかですね。日本に 見える O 系統は縄文系ではない弥生・渡来系といわれてますから、C かもしれません。

ただ、この伏羲は紀元前 3000 年ごろの洪水神話と関係した人物ですから、やはり新しい 分岐である O 系統のほうが適切でしょうか。

O 系統の分岐時期は、おそらく Q、R 系統の発生時期と同じ段階のはずです。

R 系統の現在メインのコカソイドも同じ段階になりますね。

思うに、O、Q、R、N といった最終段階の分岐事態は、1 万 3 千年前にすでにあって、しばらく 原型が維持されたのちに、さらに細かい分岐が数度あったのでないでしょうか。

おそらく、Q1A3 が北米大陸に渡った時期には、すでにベーリング海峡の氷河はなく、船で 渡ったと考えるべきでしょう。

思うにこの系統はサウジ南部やインド南部方面へ向かってますから、船を使っていた可能性 が高いでしょう。そうすると、日本近海を経由してアラスカ、北米へと航海したか、あるいは 欧州からグリーンランド、カナダ方面へと渡ったかのどちらかになります。

縄文時代の暖かい時期ですから、北へ向かうのは苦ではなかったでしょう。

ただマヤ文明が出てくるのが遅くて紀元前 400 年ごろですから、それがこの Q1A3 系統 だとすると、かなり遅い時代の航海民となりそうです。絵文字や暦、ピラミッドは、エジプト に近い地域の集団と考えるべきでしょうね。

そう考えると Q 系統自体の発生は、1 万 3 千年前の縄文期で、その後、温暖化していき、シベ リアが温暖な時期に、コリャック・エスキモーのいたあたりに向かったのでしょう。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_\(Y-DNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_(Y-DNA))

その後また寒冷化とともに南下してアラム海、中東方面へと移動、まだこの時点では Q から Q1、2? 系統が分岐していたところでカザールや北インド方面にいたものと感じます。

その後洪水などのカタストロフィが BC3000 年ごろに発生して、はじめて Q1A、Q1 B の分岐がおこり、セム語系…の分岐があったのかもしれません。

そうすると、その後 BC1500 年ごろに、最後の分岐があって、Q1A1、A2.A3 とい った分岐が起こったのではないのでしょうか。

そしてそのうちの Q1A3 は北米へと向かったわけですね。Q1A1 はアジアへ向かいスキ タイ人に、Q1A2 はイラン、トルコ、パレスチナに残留したのでしょう。

1500 年~3000 年くらいの周期で、カタストロフィーがあるごとに分岐が起きている

のではないのでしょうか。

それで最後の分岐系統は、おそらく出エジプト時代を経験しているので、ピラミッドなどの 土木技術や高度な暦計算を保持していたのかもしれません。

Q1A1 は北イスラエル、Q1A2 は南ユダとすると、北米へ向かった Q1A3 というのが 謎ですが、エジプトに残留したのではないのでしょうか。だから絵文字を保有したままなのか もかもしれません。

難しいですね。この分岐段階を 1 段階繰り上げるか、下げるかで、ずいぶん解釈が変わってきます。

----- Re:突然変異・分子時計投稿者:秦野北斗

投稿日:2012 年 4 月 16 日(月)06 時 23 分 46 秒 返信・引用 編集済

> No.399[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

DNAの「L」は 200 万年前でしょう。

> Rは、その後のアトランティスの生き残りでしょうね。M、Nが日本で多く見えるのは、比較的多く生き残ったと考えるべきかもしれません。

この展開では神話、中国史跡、古事記の内容を満たさない。アトランティスの1万年、とノアの洪水の大型船の存在は無視できない。また、紀元前 2600 年からのエジプトのピラミッド。バベルの塔。…。

ノアの洪水は、『聖書』研究者など多くの見解では(『聖書』にある年代をそのまま計算する と)、西暦前 2370 年(紀元前 3000 年ころとも)に起こったとされている。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8E%E3%82%A2%E3%81%AE%E6%96%B9%E8%88%9F>

文明を破壊するために、天誅として神々によって起こされた大洪水(洪水神話、洪水伝説)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%B4%AA%E6%B0%B4>

>> Q1A1,A2、B1は、北のほうにいた感じですね。ヒクソスの文化とも接していたので はないでしょうか?陸のシルクロードと関係してます。 >

- > Q1A3は、南にいた感じです。海のシルクロードとの関係はどうでしょう。 >
- > だんだん分類できそうな感じがしてきましたね。 >>

突然変異・分子時計投稿者:管理人 投稿日:2012年4月16日(月)04時27分23秒 返信・ 引用 編集 済

先の続きで、Y-DNAのQとR、その親元のPについて調べています。 Pというのは、中東からカスピ海方面に広がっていた遺伝子で、下記の図で白く記されています。

そこから2種類のQとRが中東地域に生まれたはずなのですが、Rは中東からインドにと どまり、Qはおそらくイエメンなどユダヤ系に多いので、中東にとどまった部類と、カスピ海 からスキタイ・月氏として、中国、日本へと渡った系統があったものと考えます。さらにその 一部ははるか北米大陸へと旅立っていったようです。

北米の遺伝子を調べていくと、このQタイプとCタイプともうひとつくらいしかありません。 Cタイプは中国・日本に多く、チンギスハンの遺伝子と同じです。古いタイプの寒冷適応した一重まぶたの人たちと感じます。生殖機能が縄文系より高いので、初期の弥生人やチンギスハンの子孫は巨大化しました。

<http://galapagojp.exblog.jp/13813238>

おそらくこのC系統の人たちは、先の大洪水のあった1万2000年代ごろに、北米大陸に 渡ってきたようです。原住民でいわゆるモンゴロイド・インディアンですね。文字のないアステカ文明です。一部、中国人と同じOタイプのモンゴロイドも海を渡って?南米へ到着します。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%B9%E3%83%86%E3%82%AB%E6%96%87%E6%98%8E>

その後、インカ文明を作った人たちが紀元前400年ごろにやってきます。こちらは絵文字を持ち、ピラミッドをつくり、暦を計算する能力を持っています。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%A4%E6%96%87%E6%98%8E>

勘ですが、中東・エジプトの文明と関係ある集団と感じます。Q系統ではないでしょうか。ただ、このQ系統の人たちはウラル方面から、ベーリング海峡、もしくはカナダ方面へと海を越えたと思いますが、氷河期にわたたたとすると、やはり1万2千年前になるのかどうか…。

一方Rの人たちは、キルギス、アルタイ、ドイツ、インド南部、カメルーンにごく少数ながら離散していったも

のと見えます。さらにそこから派生した R1 グループが、今の欧州のコカソイド多数派を形成していきます。

そうすると、P から、Q と R が分岐した年代が先の 1 万 2 千年前後とすべきなのかもしれません。ただ、分子時計推定は 2~3 万年くらいだそうです。

こちら正確な分岐図と、分子時計推定の詳細。

http://en.wikipedia.org/wiki/Human_Y-chromosome_DNA_haplogroup

ただ、100 万年で 2~4 パーセント変異するという分子時計論も、あまり信用できないように、紫外線などの環境の変化も考慮しないといけないでしょう。こちら参照。 <http://blog.kodai-bunmei.net/blog/2011/02/001205.html>

判断が難しいのですが、モンゴロイドの寒冷適応などのケースを考慮すると、突然変異というよりは、ある種の変化機能が生物に備わっていて、突然の環境変化に適応する能力があるということなのではないでしょうか。

その環境変化の際には、またその種も先のとおり激減するわけですから、それほど変異がなくても、ごく少数の種類だけが残る形となり、そこで分岐が見かけ上生じるのかもしれない。

ただ先の系統樹で、主な人種の祖先を 7 万年前に持ってきているのは、先の絶滅の件を考慮すると、正解だと思います。

その後も何度か環境異変と突然変異、人口削減があって、最後の変化が 1 万 2 千年前の大洪水ということになるでしょうか。そこで Q と R、あるいは O と N などの種が残ったので、そういう分岐図になったのかもしれない。

その Q 系統が、いわゆるノアの子のセム系統のことで、そのほかヤベテ(R・コーカソイド)、ハム(在来集団)へと変化していったのではないのでしょうか。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BB%E3%83%A0%E3%83%A4%E3%83%9A%E3%83%86>

その Q 系統の詳細分類を探るには、周辺の古代史に出てくる種族系統を洗い出す必要があります。

古代イスラエルの記録は、起源前 1200 年代のエジプト記録に見えるそうで、北部イスラエルのヤコブ系と南部ユダ系・アブラハム・イサク系で、伝承が分かれるとのこと。

それ以前のヒクソスがエジプトを支配していた前 1700~1500 年代に、イスラエル人がいた可能性が高いようです。ヤコブの名前がヒクソス・セム語系として見えるそうです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E4%BB%A3%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%83%A9%E3%82%A8%E3%83%AB>

アブラハムのほうは、ウルから来たといえますから、ウルのあったシュメール王国の支配民族を調べる必要があります。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%83%AB>

シュメールは、セム語系といわれるウバイド文化の継承で、紀元前 8000 年にはあったようです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB>

ヒクソスはヒッタイトと強くつながるようですが、旧約聖書ではヘテ人として別人種として取り扱ってますね。ヘテ人ウリヤとダビデの話が有名です。かなり近い領域に両国はあったのでしょう。 http://www.aquila-priscilla.com/Believe_in_hope/uriah.htm

そのヘテ人はカナンの原住民でハム系のようです。

http://web.mac.com/biogeochemistry/sacellum/genesis/chapter_11.html

あと、ヒッタイトの古代記録「シュメル王朝表」が、先の 7 万年前からはじまった人類と、エジプトの王権とのかわりを述べていて、大変興味深いです。

「シュメル王朝表」と呼ばれる記録が角柱として残っている。王権が天から降って、まずエリドゥにあった。エリドゥではアルリムが王となり、二万八千八百年統治した。アラルガルは三万六千年統治した。二王は六万四千八百年統治した。……大洪水が地を洗い流したのち王権が天から降り、それはまずキシュにあった。……キ

シュは戦いで敗れ、王権はエアンナに移された。そこでは太陽神ウトゥの子、メスキアグガシエルが王と大祭司を兼ね、三百二十四年統治した。……ウルクは戦いで敗れ、その王権はウルに移された。ウルではメスアンネパダが王となり、八十年統治した。……四人の王が百七十七年統治した。ウルは戦いで敗れた。……

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%83%AB>

要するに7万年前の人類絶滅から、その後64800年の新生人類がまずあって、そこで2回統治がかわっていると
言います。その後に出てくる「キシュ」というのはエジプトのことでしょう。それでBC1700~1500年の間、エジプトをヒクソス王が支配していた歴史を述べているようにも見えます。そしてその王権も敗れて…という歴史記録です。

それでQ系統ですが、Q1Aは、コリャック、エスキモー(原始タイプ?)

Q1A1は、カザールから日本にかけてのスキタイ遊牧民、

Q1A2は、イラン、レバノン、トルコ

Q1A3は、サウジアラビア、インド、チベット

Q1A3Aは、南・北米

Q1A3Bは、イエメンのユダヤ人

Q1B1は、カザール、中国、アシュケナジー他のユダヤ人

となります。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_\(Y-DNA\)#The_Americas](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_(Y-DNA)#The_Americas)

Q1A1,A2、B1は、北のほうにいた感じですね。ヒクソスの文化とも接していたのではないのでしょうか?陸のシルクロードと関係してます。

Q1A3は、南にいた感じです。海のシルクロードとの関係はどうでしょう。だんだん分類できそうな感じがしてきましたね。

Ads by Google ----- Re:MT-DNA と日本人
(続)投稿者:管理人 投稿日:2012年4月16日(月)00時38分51秒 返信・引用 編集済

> No.397[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 今までDNAを断片的に追っているが、DNAの変化、混血、突然変異を考えなければ本来の道筋が掴めない。今までのDNAには混乱がみられる。

今戻りました、突然変異の原因に、気候の変化を考慮しておきたいところですね。特にミトコンドリアは熱量の発生に関係するといえます。Y染色体は精巣、子供数の関係ですね。

> まるで、人類の壮大なDNAパズルを解こうしていますな。 > 秦野は2万年までの歴史しか確認していない。2万年より先を解くにはDNA、アトランティスの大西洋方向を検討する必要が在るみたいですな。

アトランティスについては、1万2900年前に、下記のような海水面の変化があったそうです。

「この時期はヤングドリラス期(およそ1万3000年前)と呼ばれ、約10年のあいだに気温が約7.7℃以上下降したということがわかっている。これは氷期から間氷期に移行する時

の急激な温暖化によって、北半球の氷床が溶解し、大量の淡水が大西洋に流入して海洋気候のシステムに大きな影響を与えたためと言われていたが、「米科学アカデミー紀要(電子版)にメキシコや米国などの研究チームが発表する論文によると、チームはメキシコ中部のクイツェオ湖にある1万2900年前の地層を分析。通常は見られない、急激な加熱と冷却によりできたダイヤモンドの微粒子などが含まれていたことから、山火事や火山噴火ではなく彗星などの空中爆発や地上への衝突が起きたと結論づけた。」と朝日新聞は報じている。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%80%E7%B5%82%E6%B0%B7%E6%9C%9F>

10 年間、まさに洪水だったでしょうね。数百メートル単位でのアップダウンがあったこと でしょう。 生き残ったのがノアということかな。

> DNA の変化、混血、突然変異を追います。 > アトランティスはマダガスカル島です。アトランティスは 2 万年前ヴルム氷期を生き残り 13 万年前リス氷期、70 万年前ギュンツ氷期、200 万年前ビーバー氷期 >
> DNA は 200 万年前で A~Z まで変化している。しかし、幸いなことに追う歴史は 1 万年、変化 は混血程度だろう。

これは 20 万年までで OK です。あの地図の単位は 1000 年単位のように。 ただ、7 万年前に人類が 2000 人まで減ったという最新の米国の調査報告があるそうです

http://gigazine.net/news/20080425_extinction_70000_years/

したがって、今の人類はその時期と、アトランティスの生き残りの歴史でしょう。

> 中東のイエメン系ユダヤ人に見える Q1A6、南米方面の Q1A3。Q1A6 はシベリア 居残り組み、Q1A3 はヨーロッパ、シベリアから直接、大西洋、北極海を越え南米に入った 者。70 万年前ギュンツ氷期の先住民ですか。Q1A6 の勢力ですが DNA 地図より広がっ たのではないかな。陸路、大西洋航路のみか。

> 尚、アトランティスの頃には太平洋、大西洋航路はあった模様。 Y-DNA の年代ですが、こちらのサイトの系統図をご参照ください。

思うに A-F が 20 万年前で、次の分岐が 7 万年前の G-K、そして L-P までは 1 万 3 年 前、その後さらに、Q と R が分岐したという形でしょうか。中東からカスピ海周辺に分布する P から Q と R(コーカソイド)が分岐します。

D、E といった古いタイプは、日本とチベット周辺でうまく生き残ったようですね。Q,R 内 でのさらなる分岐は出エジプトとか、その前の紀元前 3000 年前後の環境異変、ヒクソス 関連の出現等を想起させます。 ヒクソスとイスラエル人の共通性についてはこちら。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%82%AF%E3%82%BD%E3%82%B9>

> 問題は DNA の R,N,M がどの年代に属するかです。氷期で線を引く。 >「R」は 2 万年前ヴルム氷期、「N」は 13 万年前リス氷期、「M」は 70 万年前ギュンツ氷期 >

MT-DNA の M、N は、7 万年前の生き残りのようです。150 人でアフリカを出たとのこ と。

http://www.geocities.jp/ikoh12/kennkyuuno_to/011_1mtdna_akei_karamita_keitou_to_kakusan.html

R は、その後のアトランティスの生き残りでしょうね。M、N が日本で多く見えるのは、比較 的に多く生き残ったと考えるべきかもしれません。

----- Re:MT-DNA と日本人(続)投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 15 日(日)08 時 11 分 37 秒 返信・引用 編集済

> No.396[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

今まで DNA を断片的に追っているが、DNA の変化、混血、突然変異を考えなければ本来の道 筋が掴めない。今までの DNA には混乱がみられる。

まるで、人類の壮大な DNA パズルを解こうしていますな。 秦野は 2 万年までの歴史しか確認していない。2 万年より先を解くには DNA、アトランティ スの大西洋方向を検討する必要があるみたいですな。

DNA の変化、混血、突然変異を追います。 アトランティスはマダガスカル島です。アトランティスは 2 万年前ヴルム氷期を生き残り 13 万年前リス氷期、70 万年前ギュンツ氷期、200 万年前ビーバー氷期

DNA は 200 万年前で A~Z まで変化している。しかし、幸いなことに追う歴史は 1 万年、変化は 混血程度だろう。

中東のイエメン系ユダヤ人に見える Q1A6、南米方面の Q1A3。Q1A6 はシベリア居 残り組み、Q1A3 はヨーロッパ、シベリアから直接、大西洋、北極海を越え南米に入った者 。 70 万年前ギュンツ氷期の先住民ですか

な。Q1A6の勢力ですがDNA地図より広がったのではない。陸路、大西洋航路のみか。尚、アトランティスの頃には太平洋、大西洋航路はあった模様。

問題は DNA の R,N,M がどの年代に属するかです。氷期で線を引く。「R」は 2 万年前ヴュルム氷期、「N」は 13 万年前リス氷期、「M」は 70 万年前ギュンツ氷期

>日本にきた Q1A1 と、南米方面の Q1A3、そして中東のイエメン系ユダヤ人に見える Q 1A6 で分岐。

> この辺の遺伝子タイプと言語の対応関係も分析の手がかりになりそうです。 >> このように、MT-DNA の「N9A」「N1A」「X」、Y-DNA の「Q」、HLA ハプロタイプの「DR-B52」が、中東からヒマラヤ北方を經由して、中国雲南経由で、朝鮮・日本へといたる同様な分布を示しており、おそらくはその担い手はサカ・月氏、そして弥生中期からの渡来人の動きと考えることができます。 >> そしてそのサカ・月氏は、またイスラエルと関係していたことも、上記 3 つの遺伝子が分

布を見る限りそう考えるのが妥当だといえるでしょう MT-DNA と日本人(続)投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 15 日(日)05 時 08 分 19 秒

返信・引用 編集済 その後 MT-DNA について調べていますが、もうひとつ日本人に多い N9A というタイプに注目してみました。

このタイプは、沖縄や北海道の MT-DNA にただひとつみられないタイプで、「渡来系弥生 人」の集団と考えることができます。下記サイト参照。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08_1.mitochondria_karamita_sosennhtml.html

この遺伝子は、また上記によると、韓国・山東・遼寧に見えるところで、先の山東→百済→秦韓→北九州・出雲のラインが想起されます。

また「N9a」は、中東からヒマラヤの北を通して東アジアに広がったとみられるグループだ という。日本人では 4.6%と多くはない。中国南部や台湾の先住民に多く、「こうした地域で緩やかに広がり、やがて日本に入ってきたのだろう」と篠田は言う。」 http://globe.asahi.com/feature/110501/02_1.html

ちょうど、先の月氏のルートと一致してきます。それで N9A を持つ集団を検索すると、ロシアのウラル周辺のバシキール人が持っていることがわかります。 <http://www.eupedia.com/forum/showthread.php?25613-Identifying-the-original-Indo-European-mtDNA-from-isolated-settlements> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%82%B7%E3%82%AD%E3%83%BC%E3%83%AB%E4%BA%BA>

<http://en.wikipedia.org/wiki/Bashkirs>

あるいはハンガリーの古代人骨にも見えるようです。

<http://racehist.blogspot.jp/2011/09/east-asian-mtdna-in-neolithic-hungary.html>「Alföld (N1a, N9a, D1/G1a1, H?. The reported M/R24 is a partial result)」

ここに見える「N1a」は、ユダヤ人に多いタイプで、D1 はチベット・遊牧民に見えるタイプです。

元はブルガリア人のようです。これは先の HLA ハプロタイプで、日本で 10 パーセントを占める DR-B52 の分布と対応してきます。 http://www.excite-webtl.jp/world/english/web/?wb_url=http%3A%2F%2Fwww.imninalu.net%2FHuns.htm&wb_lp=ENJA&wb_dis=

この N9A が属する「N」集団に、ユダヤ人に多い N1B や X などにも属しております。「X」

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_X_\(mtDNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_X_(mtDNA)) X の分布は、先の Y-DNA の「Q」の分布と、北米と中東に分布する点で類似します。また月氏のいたあたりに分布の残存が見えますね。

このウラル・アルタイ系の遊牧民集団が、おそらくは弥生中期から古墳時代に入ってきたことにより、はじめてウラル・アルタイ系の膠着語からなる現在の日本語文法が確立したのではないでしょうか。

縄文系と思われるアイヌ語は、抱合語に属し、シベリア方面の言語のようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E3%81%AE%E8%B5%B7%E6%BA%90>

ただ、SOV の語順や、母音調和に共通性があるとのことで、あるいは N9A の兄弟遺伝子 N 9B が、アイヌ・本土・琉球人、つまり縄文系に見えることと関係しているかもしれません。 <http://www.dai3gen.net/ainutoku.htm>

この辺の遺伝子タイプと言語の対応関係も分析の手がかりになりそうです。

このように、MT-DNA の「N9A」「N1A」「X」、Y-DNA の「Q」、HLA ハプロタイプ の「DR-B52」が、中東からヒマラヤ北方を経由して、中国雲南経由で、朝鮮・日本へとい たる同様な分布を示しており、おそらくはその担い手はサカ・月氏、そして弥生中期からの 渡来人の動きと考えることができます。

そしてそのサカ・月氏は、またイスラエルと関係していたことも、上記 3 つの遺伝子が分布 を見る限りそう考えるのが妥当だといえるでしょう。

Ads by Google ----- MT-DNA と日本人投稿者:
管理人 投稿日:2012 年 4 月 14 日(土)23 時 48 分 4 秒 返信・引 用 編集済

> No.394[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 問題の北南米のインディアン系統になります。 > これはアイヌ、三苗でしょう。縄文文化の持つ主ですな。
紀元前 1700 年ごろ北米へ移動し た。 >

いえ、実は Q 系統は、縄文には見えないんです。北米にも渡ってますが、インディアンのメイ ンタイプではなく、全体的に少ないんですね。そしてミャオとも違います。

シベリアの Q 集団は、どうもウラル・アルタイ方面から北上したものだそうです。北米に向 かったのは、さらにその一派でしょうか。全体数が少なく限られているところが、また月氏等 の少数民族の遺伝子にふさわしい感じがしますね。

>> 移動ルートはイスラエル方面と中国方面、北米方面へ向かったのは正しい。注目点は中国、 北米ルートは黒潮、北太平洋海流で日本の常陸沖を通過する。 > 常陸沖で日本、朝鮮、dungan 人、カザール人、ユダヤ人と移動。その後、ユダヤ人、カザール人 dungan 人、朝鮮、日本の道筋になる。 >

続いてミトコンドリア DNA も調べてます。 ただこちらは母系とのことで、特に遊牧民のような移動が激しい集団では、ほとんど追えない感じがします。ユダヤ人内でも、かなりバラバラで、もともと統一性がないようです。 http://www.nature.com/ejhg/journal/v15/n4/fig_tab/5201764t1.html#figure-title

http://www.excite-webtl.jp/world/english/web/?wb_url=http%3A%2F%2Fmiriamhakedosha.blogspot.jp%2F2008%2F03%2Fsons-of-jacob-dna-and-jews.html&wb_lp=ENJA&wb_dis=

上記の Mt-DNA の遺伝子としては、日本人の中に見える B 系統がちょっと興味深い動き をしています。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_B_\(mtDNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_B_(mtDNA))

シベリア・アルタイ人をはじめ、中国南部、東南アジア、日本、そして北米まで、どうも海を渡 って動いている模様。女性が平気で航海しているところに驚きを感じます。男女での集団移 住の習慣をもってますね。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08_1.mitochondria_karamita_sosennhtml.html

ルート図を添付します。

この図だとその後、本州から北海道を抜けて、北米大陸へと向かってますが、日本古代史上、 そういう極寒地域へわざわざ向かう流れはありえないように感じます。もっとも山海経の記 載はこの流れですが…。

つまり、北米へ向かったのは、それ以前にシベリア・アラスカ経由で渡った別集団ではない でしょうか

----- Re:Y 染色体と日本人とユダヤ人投稿者:秦
野北斗 投稿日:2012 年 4 月 14 日(土)19 時 39 分 36 秒 返信・引用編集済

> No.393[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

答えになるか、疑問ですが。アルタイ系語族、少数ながら日本、朝鮮、中国、dungan 人、カザール人、そしてユダヤ人は匈奴の勢力範囲で理解できます。

問題の北南米のインディアン系統になります。 これはアイヌ、三苗でしょう。縄文文化の持つ主ですな。紀元

前 1700 年ごろ北米へ移動した。

> 問題は Q なのですが、こちらがアルタイ系語族、少数ながら日本、朝鮮、中国、dungan 人、カザール人、そしてユダヤ人に見られます。亜派は北南米のインディアン系統になります。

移動ルートはイスラエル方面と中国方面、北米方面へ向かったのは正しい。注目点は中国、北米ルートは黒潮、北太平洋海流で日本の常陸沖を通過する。常陸沖で日本、朝鮮、dungan 人、カザール人、ユダヤ人と移動。その後、ユダヤ人、カザール人、dungan 人、朝鮮、日本の道筋になる。

匈奴との関係は『山海経』海内北経に、「蓋国在鉅燕南倭北倭属燕」という一節がある。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

「蓋国在鉅燕南倭北、倭属燕」の訳は文章の燕は鉅燕になる。

「蓋国は鉅燕の南、倭の北にあり、倭は鉅燕に属する」

燕(えん、紀元前 1100 年頃 - 紀元前 222 年) [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

鉅燕は燕以後になり、紀元前 222 年-)「朝鮮」を更に討って朝鮮半島北部も領有。

> あるいは、シベリア・カスピ海に本拠があり、ここから三手に分かれて、イスラエル方面と中国方面、北米方面へ向かったとの解釈ができるえしょうか。ただそうすると、カスピ海からイスラエル方面などの断絶理由が、よく説明できないんですね。この辺もう少し他のデータも考慮して詰めてみたいところです

Y 染色体と日本人とユダヤ人投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 14 日(土)17 時 37 分 28 秒 返信・引用 編集済

先の HLA ハプロタイプ続いて、Y 染色体のほうも調べてみました。日本人のメインは、中国と同じ O、サブで縄文系の C、D が出てきます。ごく少数ですが N、Q というタイプがあります。N はシベリア系です。

問題は Q なのですが、こちらがアルタイ系語族、少数ながら日本、朝鮮、中国、dungan 人、カザール人、そしてユダヤ人に見られます。亜派は北南米のインディアン系統になります。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_\(Y-DNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_(Y-DNA)) <http://www.taiwandna.com/ChineseNingxiaPage.html>
http://www.enotes.com/topic/Human_Y-chromosome_DNA_haplogroup

それでカザール人というのは、祖先がクシャーン人、つまり大月氏になります。

http://en.wikipedia.org/wiki/Hazara_people

また dungan 人も、カシュガル出身で、元は疏勒です。この疏勒の扁平頭の風習が、秦韓にも見えましたね。

http://en.wikipedia.org/wiki/Dungan_people

Kashgar は Kash(クシュ)+gar(山)の意味でしょう。クシュは月氏の関連地名です。

<http://en.wikipedia.org/wiki/Kashgar>

したがってカスピ海周辺にいた月氏と、日本人の一部、そしてユダヤ人との男系 Y 染色体での共通性がでけるようです。

分布の特徴として、イスラエル周辺地域と、そのカスピ海沿岸地域に断絶があり、飛び地となっていることがあります。図参照。

同じ Q でも、日本に来た Q1A1 と、南米方面の Q1A3、そして中東のイエメン系ユダヤ人に見える Q1A6 で分岐があります。 http://www.enotes.com/topic/Human_Y-chromosome_DNA_haplogroup

イエメン系のユダヤ人についてはこちら。

http://en.wikipedia.org/wiki/Yemenite_Jews#Rise_of_Islam_in_Yemen

日本語訳

http://www.excite-webtl.jp/world/english/web/?wb_url=http%3A%2F%2Fen.wikipedia.org%2Fwiki

%2FYemenite_Jews%23Rise_of_Islam_in_Yemen&wb_lp=ENJA&wb_dis=

サウジアラビアの南に位置しており、イスラエル時代のソロモン王とシバ女王の伝説、および紀元前後の移住伝承があるようです。

おそらくかなり古いユダヤ人で、立地的にも混血の割合が少ないのではないかと感じます。

そのほかのアシュケナジー・セファラディー系ユダヤ人は、Q1B1というグループに属します。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_\(Y-DNA\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Haplogroup_Q_(Y-DNA)) ただこのグループも、カザール、パキスタン、ウイグル、北西中国に見えることを考慮すると、十分にQ1A1とQ1B1とを区別できるかどうかの疑問があります。本拠のカスピ海周辺で混在していた可能性もありますね。

飛び地になっている分布は、おそらくは(強制)移住などの結果かと感じます。

イエメン系ユダヤの伝承を考慮すると、まず紀元前数世紀のイエスラエル方面に、北方シベリア方面からのQ1A+B遺伝子の流れがあり、その後、強制移住で10支族が月氏のいたカスピ海方面へ移動、その後月氏の活動で、中国、朝鮮、日本へと移動したというケースが想定できます。

あるいは、シベリア→カスピ海で、ここから二手に分かれて、イスラエル方面と中国方面へ向かったとの解釈ができるでしょうか。ただそうすると、カスピ海からイスラエル方面までの断絶理由が、よく説明できないんですね。この辺もう少し他のデータも考慮して詰めてみたいところです。

----- Re:黒海周辺の遊牧民遺伝子投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年4月14日(土)16時10分55秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

信じ難いですが、秦野の調べでは、大バビロンの主は匈奴+ユダヤで総称フン族と見ています。大バビロンには紀元前数十年に到達し、聖書のキリスト誕生に際し、使い3博士を送っている。大月氏、鮮卑も匈奴に属している。状況は黙示録参照。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A8%E3%83%8F%E3%83%8D%E3%81%AE%E9%BB%99%E7%A4%BA%E9%8C%B2>

黙示録の挿絵の女性が鸞、神功皇后になる。住吉での事、三韓征伐に辺り、鸞が三羽、三韓に鳥が止まったので来い(文章が見当たらない)。鸞はフン族のシンボルになる。神功皇后と匈奴の関係は古事記の諱(いみな)を読めば明らかになる。

「HLA-B52」はハルマゲドンでゲルマンの大移動が生じた以後の遺伝子になる。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B2%E3%83%AB%E3%83%9E%E3%83%B3%E6%B0%91%E6%97%8F%E3%81%AE%E5%A4%A7%E7%A7%BB%E5%8B%95>

白フン族-エフタル <http://translate.google.co.jp/translate?hl=ja&langpair=en%7Cja&u=http://www.silk-road.com/artl/heph.shtml>

----- 黒海周辺の遊牧民遺伝子投稿者:管理人
投稿日:2012年4月14日(土)13時05分39秒 返信・引用

> No.390[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 黙示録の四方です >
- > これを 12 等分している。 >
- > 12 等分はイスラエルの 12 部族分 >

アジア関連の四方区画のアイデアを探る上で、興味深いところですね。こちら英語ですが、ユダヤ人のDNA関連サイト。 <http://69.89.31.55/~taiwandn/JewishPage.htm>

個人的には、日本人の 10%を占める最多ハプロタイプ「HLA-B52」と共通性の高い、クルド人、ブルガリア原住民、雲南リスヌ族、アシュケナジー系ユダヤ人、あたりの痕跡を調べたいところです。北方遊牧民の遺伝子と想定されてます。 <http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B52>

このHLAの兄弟タイプに、B 51 があるのですが、ブルガリア原住民、クルドには共通して

見られるものの、日本、雲南、アシュケナジーには見えないんですね。アラブ系ユダヤ人、沖縄人には見えるようです。

双方、中国北部、インドには多数分布してます。おそらく南米・南アフリカは移民の影響と感 じます。インドへの影響は、大月氏のクシャーナ朝や、中東商人のインド移住にも関係してき そうです。

そうすると、ブルガリアからクルドにかけての黒海沿岸に、これらの遊牧民遺伝子 B5(B 51、52)の巣があったわけですが、そこから B 52 だけが、東方に向かい、雲南経由で日本 に渡ってきたことが想定できます。リス・ヌ族は前漢代に月氏等の遊牧移民と接触してます。

アシュケナジー系ユダヤ人と日本人には B 52 が、アラブ系ユダヤ人・イラン人と沖縄人には B51 が見えることは、どういうことを意味しているのでしょうか。ただ一部のアシュケ ナジーは、51 を持っているので、ある時期にアラブ系ユダヤ人と共通性があったといえる でしょう。

思うに、B52 に、アシュケナジーと西欧人とのリンクが見えることは、おそらくアシュケナ ジーの周辺にいた集団が、欧州にそれらの遺伝子を運んだとみるべきかもしれません。アシ ュケナジーのほうが、含有する割合が高いんですね。そして、一方では、月氏・サカといった 遊牧民によって、雲南リス・ヌ族へ運ばれていった。

同様にアラブ系ユダヤ人と沖縄との関係も、いわゆる海のシルクロードかもしれません。

ともあれ、この黒海周辺にいた遊牧民遺伝子には、ふたつの流れがあって、明確に縄文ではな い弥生人(中期以降)、それ以降の渡来人、一部の沖縄人にリンクしていることがわかりま す。黒海周辺の遊牧民族の洗い出しが欠かせません。

日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催！Ads by Google ----- Re:朝鮮
四方区画投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 14 日(土)07 時 28 分 40 秒 返信・ 引用

> No.388[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 黙示録の四方です これを 12 等分している。 12 等分はイスラエルの 12 部族分

----- Re:朝鮮四方区画投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 4 月 13 日(金)21 時 24 分 40 秒 返信・ 引用 編集済

> No.388[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

管理人さんの帯方郡、楽浪郡は大きくずれています。 玄菟郡=平壤、楽浪郡=開城になる。地図添付。

記録では馬韓の 4000 里四方 倭国の東西 5 ヶ月、南北 3 ヶ月 黙示録のバビロン 1500 マイル(2400 km)四方 正確には 1 万 2 千スタディオンで 2220 km になる。

四方の記録はこれくらいでしょう。

尚、倭国、バビロンは常識では理解できない 朝鮮四方区画投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 13 日(金)08 時 55 分 10 秒 返信・引用 編集済

秦野北斗さんへのお返事です。 > 百済の五方五部は馬韓を 9 等分し、適地に城を置き統治した模様。屯倉はこの方位 70 k

m 程度を基準にして適地に役所「伊奈利」、屯倉を置き統治。九州も同様に 9 等分したと思わ れる。これは、方位と秦野距離を知らないといけない。

屯倉時代のものではないのですが、弥生時代中期の朝鮮の四方区画を再作成してみました。 以前の会報で掲載した図とともに添付いたします。

具体的には、現在でいう平壤→ソウル(漢城)→釜山→伊都平原→吉野ヶ里→西都原へと 伸びる 55 度角の方位ラインを元にした四方区画です。

158 km が1 単位として見えてきます。 これは 27.5、53、78、420 km あたりの倍数(約数)ですが、以前お知らせしたとおり、漢尺で

す。

遼東を抜けて、遼西あたりまでラインが延びてます。遼東のジョウ平城が、ラインに乗ります が、ここは公孫氏が立てこもったことで有名です。また百済の祖先が遼西から海を渡ってやってきたとの伝承について、あるいは遼東・西・山東にいたるこれらの四方区画をたどって 渡ってきた可能性を感じます。

おそらくは先に紹介した前漢代の馬王堆墓出土地図のように、九州くらいの四方区画での精密な測量軍事地図が作成した一環で、いわゆる方数千里の四方区画ができていったものと感 じますが、今回の作図で平壤とソウル関連のラインで、正方形の四方区画が発見できたこと は、そのことを示していると感じます。

ただ思うにこれらの四方区画測量は、中国・朝鮮・日本全土にあったというよりは、もっと 西方から存在していた可能性を感じてます。方角を見失わないで遠隔地を最短距離で駆け抜 ける遊牧民の知恵かもしれません。ある方向に草原を数千里馬で走れば、確実な時間で次の 拠点までたどりついたことでしょう。軍事的には、そういう駐屯地を持って、お互いの領域支配を認識しあっていたのかもしれない。

旧約聖書では国境にミッパという石を重ねた標識を建てておいたことが記されていますが、 そういう目標物を、草原に正確に測量してたてておいたのではないのでしょうか。

あと、秦野さんご指摘の後の屯倉時代の四方区画と尺度が同じかという疑問があり、日本 の場合は、九州の弥生時代の四方区画の一部を利用する形で、別の尺度で形成してますから、 秦野さん作成のような 70 km 前後の四方区画もありえたのではないかと感じますね。城の

位置を正確に割り出したいところです。

霊園と墓石の本プレゼント - bosan.net/info/index.html 20 万円より。継承者なくても大丈夫。 世界最大の牛久大仏が見守る大霊園 クリシュナの愛の浄霊 - aiarashi.lovin.ch/krishna 多くの実績があります。 効果がない場合、代金はお返しします トランシーバー無線機なら - www.ontheway.co.jp/ レンタル実績 No.1 の安心をお届け。 創業 20 年目。即納、1 台から対応 OK。 永代供養 納骨堂 室内墓 - www.ishiho.co.jp/reien/jyakusyuden/ 一霊 5 万円管理費等無し。 永代にわたり供養いたします。 永代供養納骨堂・琉璃殿 - www.ruriden.jp 古代ガラス琉璃により光輝く納骨堂 永代供養納骨堂完成・琉璃殿 Ads by Google ----- 十字(田)は大地すなわち永遠を意味していた。投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 4 月 13 日(金)08 時 53 分 49 秒 返信・引用

ケルト十字架 アイルランドで多見される十字架を円環で繋いだケルト十字架の紹介、その中で有名な ム ルダク遺蹟のケルト十字架、そこに描か ... 星などを、メキシコでは世界の中心である 宇宙樹 を表し、中国でも四角のなかの十字(田)は大地すなわち永遠を意味していた 。 <http://www3.ocn.ne.jp/~tohara/ail-keruteros.html> 円環 ケルト十字架は、その上部の十字部分が円環で繋がっている。円環の起源については諸説があり、異教の太陽崇拝の名残とも、東方から伝えられたマルティーズ・クロスの外円とも いわれ、またナンセンスな説としては十字の横木を受け止め支えるためという説さえある。 ケルト十字架そのものは7 世紀初頭頃に始まったようだが、それが堂々たる背の高い石 造十字架に発達したのは8 世紀だという。例えば9 世紀頃の聖書写本に残る教会敷地図で は、礼拝堂を中心とした聖域の四隅にハイクロスが立ち、ダブリンでは二股に分かれた辻に 今も立っているという。またアラン諸島のイニシュモア島では、街角の広場に立っていた。 これらはいずれも境界に立てられたハイクロスである。そこに見られるケルト十字架は、 単にキリストのシンボルとしての、あるいは信仰の証としての十字架というより、聖と俗の 境界、人や物とともに魔的なものも行き交う境界にあって、四方を見張る魔除けという異教 的役割を併せもっているといえる。それは、わが国の村境や巷の辻に立っていた道祖神像に 通じるものがある。

アイルランドで異教的なものといえば、渦巻文・組紐文の根底にある靈魂不滅・輪廻思想 を意味するが、靈魂不滅とは生命の循環であり、それは回転する円へと連なっていく。ケルト 人が持っていた靈魂観をあらわす究極のシンボルが、回転する円すなわち靈魂の輪廻を象つ た円環ということができる。

十字のシンボルは、その後も多くの地域でいろんな意味をもって生き続けてきた。例えばアッシリアでは天空神アヌの象徴として太陽や星を表し、ギリシャでは太陽神アポロンの象徴であり、ローマでは星の煌めきを表していた。またアメリカ大陸では、天水を配分する神あるいは四方からの風・太陽・星などを、メキシコでは世界の中心である宇宙樹を表し、中国でも四角のなかの十字(田)は大地すなわち永遠を意味していた。

死は再生に連なるという輪廻観をもつアイルランドのドルイド僧たちは聖地・タラの丘の周りを左旋しながら祈ったという。古代にあって、死とは母なる大地への回帰であり、新たな再生への第一歩である故に、たとえ左旋が死を意味するとしても、その死は再生を前提とした死であり、活力・豊穡を示す右旋マンジを含むものだったといえる。なお、仏教で輪廻を表す卍は左旋卍で表されることが多い。

いずれにしろ卍は、回転・循環・再生を意味する文様であって、それは回転によって円・ウロボロスの円となるが、それは始めも終わりもない永遠の回転すなわち輪廻を表す。

キリスト教国教化(313)以前のローマでは、ヨコよりタテが長い所謂ラテン十字架は罪人の処刑具として使われていた。そこでの十字架は、“聖なるもの”ではなく“穢れたもの”だったのだが、それを聖なるものへと転換したのがイエス・キリストである。宗教的には、聖と穢は盾の両面であり、聖から穢、穢から聖へという価値の転換は容易に起こりうることだが、紀元30年頃のエルサレムで、十字架の上で死んだイエスが3日後に救世主・メシアとして復活したという奇跡、それを神の子イエスにしてはじめて起こし得た唯一回の奇跡であると信じることからしよっぱつしたキリスト教によって、ラテン十字架は救済を象徴するシンボルとして認識されたといえる。そこには、それまでの十字がもっていた循環・輪廻・再生という観念が異教的観念として否定され、世界は神による創造から終末・最後の審判まで直線的に推移するという観念がもたらされ、その直線的時間のなかでの生と死は、それまでの表裏一体のものから異なる時空における個別の存在へとかわっていったといえる。その個別現象である生と死が、イエス・キリストの死からの復活という唯一無二の奇跡によって一体となったと信じることから、十字架はキリスト教の象徴となったのであり、それを形にして示すのが、十字架の上から下までを貫く長い柱である。

エロヒム・丁令投稿者:管理人 投稿日:2012年4月12日(木)23時09分10秒 返信・引用 編集済

秦野さん、キシさん、情報ありがとうございます。今日はこちらは、ヤハウェとエロヒムについて調べていました。

エロヒム【Elohim】 <http://kotobank.jp/word/%E3%82%A8%E3%83%AD%E3%83%92%E3%83%A0>

<http://www.pauline.or.jp/hajimete/hajimete3.php>

いろいろ調べていたのですが、北イスラエルのほうは、エロヒムを、南ユダでは、ヤハウェの神名を主に使っていたのではないかと感じます。

エロヒムが複数形であることは重要です。

イスラエル10支族の流民ならば、エロヒムの語が残る可能性が高いのに対し、ユダ・キリスト経の移民はヤハウェを使ったかもしれせん。

たとえば秦氏の祀った八幡神をヤハウェ信仰と結びつける向きがありますが、この場合は後者の子孫ということになります。

ところが、エリ、エール、エロヒムを使うケースでは、それ以前のイスラエルの10支族に関係するかもしれません。

そういう視点から突厥の官職を見直していくと、ちょっと興味深い感じです。

【官職】 可汗……………最高主権者 葉護(ヤクブ)……………設とともに可汗に次ぐ地位 設・殺(シャド)……………帝国の西、東の統括配者 俟利発(イルテベル)・俟斤(イルキン)……………支配下部族長の称号(主にトルコ系部族長) 吐屯・吐屯発(トドン)……………監察・徴税 (契丹・室韋などに派遣例あり)

葉護(ヤクブ)というのが、イスラエルの部族長・ヤコブに聞こえますね。

俟利発(イルテベル)・俟斤(イルキン)の語が、キシさんご紹介の「Er+kin」とすると、この片もちょっと興味深い

ところす。

あと、屯倉の課税を想起させる吐屯・吐屯発(トドン)が派遣された契丹・室韋は、朝鮮・日本にかなり近いところにいましたから、お互い相関性があったかもしれません。

突厥の本拠は、トルコで、ゾグド語の使用を考慮するとアルタイ山脈以西にあったかと感じます。製鉄職人を取り込んでますが、タタールと深いつながりがありますね。

そのタタールは、先日紹介したように、出雲にたたら製鉄をもたらした。

突厥の元は丁令で、高車とも呼ばれ、トルコの意味。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%81%E9%9B%B6>

ゾグディアナに、BC3世紀からおり、おそらくは位置的にみて、先の月氏「弓月国」と接していただろうと感じます。彼等の技術者を支配し取り込んだ可能性もありますね。

この丁令あたりが、後代ステップロードで新羅への東欧文化の輸送に一躍かっていたと考えられてますが、その延長線上で日本にやってきたという線でいかがでしょうか。

馬は予想外に速い伝達速度を持っています。

本気で結婚したいあなたへ - www.p-a.jp 会員数 120%増、お見合い実施率 98.8%!成婚率で選ぶ結婚相談所 全国クリスチャン結婚出会 - petero.jp 100%洗礼を受けたクリスチャン限定 クリスチャン新聞に取材受けました。 日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催 ! 洋風デザインのガラス墓 - www.lundgrenmonuments.jp 女性やお子様のお墓として 選ばれている特別なお墓

文京区小石川の名刹 傳通院 - www.saiseiki.net 徳川家ゆかりの墓所。新区画受付 開始。詳しくは彩石までお問合せを Ads by Google ----- Re:突厥投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年4月12日(木)19時24分9秒 返信・引用編集 済

> No.381[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

百済の五方五部は馬韓を 9等分し、適地に城を置き統治した模様。屯倉はこの方位 70 km 程度を基準にして適地に役所「伊奈利」、屯倉を置き統治。九州も同様に 9等分したと思われる。これは、方位と秦野距離を知らないことができない。

----- 俟斤(イルキン:Erkin)...俟(イ) (とまって待つ)斤「父」一族の統率者の意。投稿者:棘の 紀氏 投稿日:2012年 4月12日(木)12時11分55秒 返信・引用

父。矩(く)なり。家長の率いて教うる者なり。又(ゆう)に従(したが)いて杖(つえ)を挙ぐ。

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3108>

俟利発(イルテベル)・俟斤(イルキン)……支配下部族長の称号(主にトルコ系部族長)

<http://heartland.geocities.jp/zae06141/irandata123.html> 吐屯・吐屯発(トドン)……監察・徴税(契丹・室韋などに派遣例あり)

統吐屯(トントウダウン:官名)

>俟斤(イルキン:Erkin)...五つの弩失華部を統領する官職。 俟(イ)已(やめる)は、止(とまる)・俟(イ) (とまって待つ)に当てた用法。 矣

「ム」の項には 宏、公、去、参、私、参、公、牟、台、矣、允、弁、弘、などの字がありますが、

日本漢字文献における「矣」の用法と、比較 するために、古典中国語における用法をまとめる。

http://www.kanken.or.jp/incentive_award/pdf/23/lee.pdf#search=矣 解字'。「已」「嘗」「既」等時間をあらわす副詞と共起することが多い。 吾見其人矣、吾聞其語矣。(論語・季氏)

巳蛇. 十二支の中で、ウマとヘビはみな「火」の性格であり、ウマは陽の火、ヘビは陰の火である。

<http://japanese.china.org.cn/japanese/ja-12sx/content.htm> 矣也

蛇の象形」「也」の字源 | 漢字・字源・漢和辞典のブログ 2005 年 8 月 17 日 -【197】「也」の字源.

2005.08.17 Wednesday. この字の部首、わかりますか。一 画 ということでわかるかもしれませんが、「乙」です。『説文解字』では、「女陰の象形」とし ま すが、古来から異論が多く、「蛇の象形」とする説が強いようです。「水差しの象形」と する説 も ...

【ウマ】は陽の火、ヘビは陰の 火 <http://japanese.china.org.cn/japanese/ja-12sx/content.htm> ヘビは十二支の中で「巳」とも言われ、「巳」は個人の奮闘という意味がある。方位は南東であ る。一日の時間で言えば、午前 9 時から 11 時までである。四季から見れば、ちょうど美しい 新緑の初夏の 5 月である。この時は、6 月の田植えを控えた時期であり、万物がすくすく伸び ようとする季節でもある。

【斤】[解字] 曲がった柄の先に刃をつけた手 おのの象形文字。「 斤・斧」は「父」の象徴と いうことのようにですね <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3108>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- >五方五部も興味深いところです。投稿者:
棘の紀氏 投稿日:2012 年 4 月 12 日(木)11 時 33 分 47 秒 返信・引用

四方に中央を加えて、五方(ごほう)という。5 方位の発想は、特に 古代中国の五行思想に 由来すると言われ、五行と片手の指(五指)に因んだ... <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

%E6%96%B9%E4%BD%8D 時計と太陽を使った方位測定 [編集] 野外において目標物が存在せず、アナログ時計を所持している場合は太陽の向きと時計の短 針(時針)から方角を割り出すことができる。北半球の中緯度地域の場合、太陽の方向に短 針を合わせ、短針と文字盤の 12 時の位置との二等分角が南を示す。南半球の中緯度地域では 逆に北を示すが、北・南半球とも高緯度地域や低緯度地域ではこの方法で正確に方角を割 り出すのは困難である。 六方に四隅を加えた 10 種類の方位は十方(じっぽう)と総称され、八角柱(=十面体)で 形容される。

三方に二隅を加えた五種類の方位は五方(ごほう) 畿内の五芒星. 西日本に張り巡らされた結界 封ぜられた聖獣がひそかに解放の時を 待つ ... 神宮寺--明日香は、111Km(1 緯度長)で、黄金比率が採用 ... けっか、以上出てきた大中小の 菱十字形のそれぞれが、ほぼ黄金比率等倍されていることが分かった。

<http://uumusou.yamanoha.com/watch/gobo.html>

古代ペンタクロス文化 pentagram: 古墳時代 2012 年 3 月 19 日 - これは仁徳陵五芒星の内五角形のサイズにメサホ塚五芒星がスッポリと 収まる関係(黄金比の 2 乗:2.618)で、私はこれ 図 V は両島の位置関係を見たものです が、約 140km 東西した全くの「同緯度」という関係にあります(島長は約 6 倍)。
http://blogs.dion.ne.jp/pentacross/archives/cat_177588-1.html

五つの聖地を結ぶと、そこには、1 辺が 170km の巨大な五芒星が現れる。日本には神社が無 数にあるから、うまい位置にある神社を結べば、同じような形が描けると思うかもしれない だが、この五芒星の内に隠されたものと、それぞれの聖地の関連性、ライン上のスポットを見 れば、これが間違いなく人工的なレイラインで、明確な意図を持っていることがわかる。 <http://www.ley-line.net/gobou/gobou01.html>

2000 年前に形作られたと思われる五芒星。この五芒星に内接する五角形の頂点には平安京 があり、底辺の真中には飛鳥京、そして中心には平城京がある。その平城京では、出雲大社と 伊勢、富士山と伊弉諾神社を結ぶ長さ 350km のラインも交差している。すべての中心として、平城京は築かれ、他の古代から中世都市もこの五芒星を基準に創建されているわけだ。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re:突厥投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年
4 月 11 日(水)23 時 20 分 54 秒 返信・引用編集 済

> No.381[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>> 五部制については、ご指摘のとおり遊牧民系に多いようですね。 > 高句麗五部が有名ですが、百済の五方五部も興味深いところです。

百済の五方五部

自晉以後、吞并諸國、據有馬韓故地。其國東西四百里、南北九百里、南接新羅、北拒高麗千餘里、西限大海、處小海之南。國西南海中有三島、出黃漆樹、似小榎樹而大。六月取汁、漆器物若黃金、其光奪目。自晉代受蕃爵、自置百濟郡。『通典』百濟

晋より以後、諸國を併吞し、馬韓の故地を占領した。その国、東西に四百里、南北に九百里、南に新羅と接し、北に高麗と千余里、西は大海(黄海)に極まり、小海(楽浪湾)の南に居住する。国の西南の海中に三島あり、黄色の漆の樹があり、小さな榎樹に似た大さである。六月に樹脂を取り、漆器物を黄金に塗り、その光に目を奪われる。晋代より蕃爵(属国の爵位)を受け、自から百濟郡を置く。

百濟者、其先蓋馬韓之屬國、夫餘之別種。有仇台者、始國於帶方。故其地界東極新羅、北接高句麗、西南俱限大海。東西四百五十里、南北九百餘里。治固麻城。其外更有五方:中方曰古沙城、東方曰得安城、南方曰久知下城、西方曰刀先城、北方曰熊津城。『周書』百濟伝 百濟とは、その源流は思うに馬韓の属国で、扶余の別種。仇台という者がおり、帶方郡に於いて国を始めた。故にその地の境界は、東は新羅に極まり、北は高句麗に接し、西南は大海(黄海)を以て限界とする。東西に四百五十里、南北に九百余里。固麻城に治する。その外に更に五方があり「中方は古沙城、東方は得安城、南方は久知下城、西方は刀先城、北方は熊津城」という。

(堀貞雄の古代史・探訪館より Re:稲荷・帆船・十字架投稿者:管理人 投稿日:2012年4月10日(火)22時41分37秒 返

信・引用 編集済 > No.377[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 諱(いみな)「伊奈利」+「木」の訳で奈が見当たらない。韓国語では奈良=クニ=国になる。この事から奈良=ヨイクニが適切になる。 >> 奈良=ヨイクニ、とすれば「伊奈利」は「この国うまくいく」+「木」方位になる。

>

諱の概念は、今調べてみると、漢字文化圏では常識なのですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AB%B1>

「例えば、漢の初代皇帝劉邦の諱は「邦」であったため、漢代には「邦」の字は全く使用できなくなり、以後「国」の字を使うことが一般化、戦国時代に「相邦」と呼ばれていた役職は相国と なった。」

ちょうど思い出すが、先日の魏志の秦韓人についての記載で、彼等が「国」のことを「邦」と記す件が記載されていたことと対応します。つまり、彼等が漢以前の流民だということがわかってきますね。

そうすると、諱の概念も、弥生中期もしくは、渡来人等による漢字文化流入時に入っていたか もしれません。

「屯倉」とか「屯田」は、別に「宮家・御田」と本来書いたはずなのですが、ある時期から「三宅・三田」に変化してますね。この辺もその諱の影響かもしれません。天皇名のほか神名はどうだったのでしょうか？

それで「伊奈利」は、風土記伝承的には「稲成り」ですが、「伊奈利神社」は意外に少ないんですね。みな「稲荷神社」です。ごく古いものだけ「伊奈利」の語を使用してます。

もし神名に諱が導入されたとすれば、そういう変化もありうるかもしれません。さきのウィキの記載では、奈良中期あたりから、諱の概念が出てくるようですね。

ただ、ご指摘のとおり、「伊奈利」自体が「諱」だったこともありえなくはないですね。日本では「忌み名」となりそうですが、「忌」の語は、古代においては「イム」と「ユ・ユユシキ」

の二つの読み方があります。後代のように「忌」の意味に、忌まわしいの意味はなく、もともとは祭祀の意味でしたので、天武時代の祭祀氏族には、「忌寸(イミキ)」が賜られたようです。

この「忌寸」もどういうわけか「伊美吉」と書く氏族もいて、ちょっと不思議なんです。カバネと諱の件も考えねば

ならないかもしれません。

仮に先の十字架に掲げられていた「INRI」(ユダヤ人の王、ナザレのイエス「 IESUS NAZARENUS REX IUDAEORUM 」(イエースス・ナザレヌース・レークス・ユダエオールム))札から、「伊奈利」になったとすると、王名だから諱が適用されるでしょうか…。

「忌利」になりそうですが、「ナザレ」の音をとれば、「イナレイ」で「稲霊」もおかしくはないですね。イ奈霊なら、風土記伝承と一致します。

またご指摘のとおり、「奈良(ナラ・ダリョウ・ナロウ)」と「ナザレ」は奇しくも地名となります。

ラテン語と日本語はちょっと共通性が指摘されてるんです。語格の変化に共通性があって、後期ローマ時代あたりのそれだそうです。多分東欧系移民を包括していた新漢人等の影響でしょう。

あと「IUDAEORUM」(ユダエオールム)でユダヤ人のことを示すんですね。「イウダ」で「ユダ」族の意味なのでしょう。仮に彼等がその発音と意味を理解していたとしたら、当然「イウ」と「ユ」の置き換えがあった可能性を感じますね。つまり「忌(イ・ユ)」「弓(月君・ユツ

キミ)」です。

「寸」には、コリア語で「国(村?)」の意味があったようです。それで「忌寸」で、「忌」という「国」を象徴とした首長の意味にも取れなくもない感じです。

忌部の下にいた忌寸の氏族名を列举すると、秦・漢・文氏、「倭・葛城(玉祖)・河内・大 河内・難波(キシ)の(国造)」、紀酒人、大隈(隼人)となります。

畿内の国造祭祀は、先の榊木に鏡をかけて、山や船の上で掲げるタイプのそれでしょう。渡来系も同様だと思いますが、紀伊の酒人と、隼人の首長が入ってくるのが面白いですね。紀伊は 紀国造・国懸神、日向の関係です。

祭祀氏族でも、ト部とか系統の異なるのは入ってきてませんね。多分彼等は祭祀・宗教的に 一緒なんです。それを天武も知っていたので、そういうカバネを賜ったんですね。

忌部・イムベ・イミキベ、ユキベ、ユユシキベ。

----- Re: 稲荷・帆船・十字架投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2012 年 4 月 10 日(火) 18 時 25 分 40 秒 返信・引用

> No.376[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 では、「伊奈利」+木、の諱(いみな)から読み解きます。

> 昨日の続き、稲荷神の件ですが、「稲荷木」という地名が多く見えます。秦野市の八幡神社の そばにもあり、その緒ほか埼玉方面の各社を見るに、秦氏系と見えます。 >> もともとは「稲荷」+「木」の概念があったのでしょう。正確には伊奈利+木なんです。

諱(いみな)「伊奈利」+「木」の訳で奈が見当たらない。韓国語では奈良=クニ=国になる。この事から奈良=ヨイクニが適切になる。

奈良=ヨイクニ、とすれば「伊奈利」は「この国うまくいく」+「木」方位になる。 > 山城秦氏のイナリ伝承では、「伊奈利」の語を使っております。稲荷はやや後代になりそう

です。

稲荷・帆船・十字架投稿者: 管理人 投稿日: 2012 年 4 月 10 日(火) 06 時 52 分 29 秒 返信・引用 編集済

> No.375[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

秦野は稲荷を諱(いみな)から読み解きます。

>

- ・ > 伊呂巨(具))(いろこ(ぐ))を訳すと、この呂はおおき(そな-える)

- ・ > 呂は地名(夏代から周代にかけ存在した国)、それから派生した姓。
- ・ > 呂は秦以前の国になる。この時代に日本は瑞穂の国である。
- ・ > 呂=瑞穂の国の八百万の神 >
- ・ > 稲荷神は瑞穂の国の八百万の神の総称のようだな。屯倉の神ではないか。 >
- ・ > 屯倉、稲荷は接近していますな。神功皇后が関係していますな。 >

昨日の続き、稲荷神の件ですが、「稲荷木」という地名が多く見えます。秦野市の八幡神社のそばにもあり、その緒ほか埼玉方面の各社を見るに、秦氏系と見えます。

もともと稲荷+木の概念があったのでしょうか。正確には伊奈利+木なんです。

山城秦氏のイナリ伝承では、「伊奈利」の語を使っています。稲荷はやや後代になりそうです。下記参照。

<http://www3.ocn.ne.jp/~tohara/inari-densyou.html>

「その子孫の代になって、先祖の過ちを悔いて、社の木を根こじに引き抜いて家に植えてこれを祀った。いまその木を植えて根つけば福が授かり、枯れると福はない、という」

このような木にかかわる祭祀を行っているのですが、これが死と復活を表すキリスト教伝承であることは会報で記載したとおりです。

またこれらの伝承で、モチを穀霊とみなす点が、種無しパンをキリストの体・聖霊とみなすミサ概念と一致してきます。そのモチを矢で射るは、イエスを十字架につけて刺し殺すの意味です。

それでアマノイワト儀式の祭祀氏族、忌部氏についてしらべていくと、やはり木に関して興味深い伝承が多く見えます。

そもそもこの忌部氏は、どうも同族同士でも各地で先祖が異なり、フトダマの元で統括され

た宗教部民と考えたほうがよいでしょう。その中に、讃岐忌部の祖として、手置帆負命(タオキホオイ)という木の神が出てきます。

<http://tetsutanaka.blog58.fc2.com/blog-entry-91.html>

手置帆負命は、天照大神が天の岩屋に隠れてしまわれた時、彦狭知命(ひこさしりのみこと)と共に天御量(あまつみはかり)をもって木を伐り、瑞殿(みずのみあらか)という御殿を造営した。天児屋命(あめのこやねのみこと)らが祈りを捧げ、天鈿女命(あめのうづめのみこと)が舞を奏したところ、天照大神は岩屋を出て、この瑞殿に入られた。後年この間に天降りした大国主命(おおくにぬしのみこと)の笠縫として仕えたとされる。

また、同書「造殿祭具の斎部」条には、「手置帆負命が孫、矛竿を造る。其の裔、今分かれて讃岐国に在り。年毎に調庸の外に、八百竿を貢る。」とあります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AE%83%E5%B2%90%E5%BF%8C%E9%83%A8%E6%B0%8F>

手置帆負命が、矛竿を作ることが記されていますが、笠と関係していますね。復活したアマテラスが最初に向かったのは「瑞殿(みずのみあらか)」で笠縫と関係してきます。三輪山の麓に瑞垣宮・笠縫の地名があることと関係してくるでしょう。

そもそもこの「手置帆負」の名称を意味を考えると、「手を置く+帆を背負う」氏族の意味に解せます。

帆というのは、船の帆で、当時はどうも古墳壁画などにも帆船が描かれているとおり、帆を使っていた模様です。下記サイト参照。図を添付します。

<http://blog-imgs-46.fc2.com/z/a/r/zaru3386/e5622735.jpg>

そうすると、「手置帆負神」の「帆を負う」というイメージが、ちょうど十字架型の帆の木組みを背負う姿に取れるはずです。そしてそこに手を置くというのも、腕を十字架につけた様子に対応してきます。

またこの天岩戸開きの儀式では、賢木・榊(サカキ)の上枝、中枝、下枝にそれぞれ鏡、玉、刀をかける様子が描

かれており、この辺は会報でも記したとおり、神功皇后の船にも同様な木を立てていたことがわかります。

その櫓は、帆・マストを構成する木でもあり、1本のマストに、三本横木があって、その横木に帆と神宝を掲げたのではないのでしょうか。実は十字架でも、三本横木を渡すんです。図を添付します。

なお神功紀には、「帆船」つまり帆船の記載があります。

「大きな風 順(おいかぜ)に吹きて 帆船(ほつま)波に随う(したがう) 舵楫 (かじかい)を 労(いたづ)かずして すなわち 新羅に到る」 <http://www7a.biglobe.ne.jp/~yurusu240/nihonsyoki-funenokiroku.htm>

もちろん、香具山や磯城山に同様な櫓をかける際には、帆はなく、桝組みだけ3本の枝が出た 木を、この氏族やそばにいる狭知、御量…が整形して、十字架型の祭祀道具を作ったので しょう。

イエスの十字架刑の際にも、十字架を背負ってあるく男が出てくるのですが、「手置帆負」と は、そのイメージです。

このようなことから考えて、秦氏の持ち込んだ伊奈利伝承において、木を抜いてまた植えなおして復活したら吉とする儀式は、十字架刑を意味していたものと考えます。

そして「伊奈利(イナリ)」の語源に、十字架にかけられた「INRI(インリ)」の札を意味 していたという説にも、そこそこ妥当な解釈だろうと感じてます。

「INRI」は古代の十字架に使われた文字で、「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」の略です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/INRI>

群馬の羊大夫の墓といわれる古墳から、「INRI」銘の札が出土した件が、江戸時代の松浦 静山の「甲夜子話」に2箇所も記されているには、それなりの理由があるだろうと感じます。

このように、ご指摘の稲荷・神功・瑞穂の国は、秦氏の伝承を通して密接につながっていく ことがわかりますね。

日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催！ NEC 得選街 NEC 公式サイト - club.express.nec.co.jp/Store 第2世代インテル® Core™ i3 ノート PC が期間限定でお買得 神様はあなたを愛してる - knowinggod-japan.jesus.net/ 哀れみ深い父なる神様 計画がある神様 ころの旅人 歩き遍路 - www.kokotabi.net 現在、毎月 1000 名以上のお客様が 当社「歩き遍路ツアー」に参加中! 見積積算連動電気設備 CAD - denki-cad.com 簡単操作と 3 way サポートでスグ使える 図面を書くと見積積算が自動簡単作成 Ads by Google

----- Re: 稲荷・ツキヨミ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 9 日(月)22 時 51 分 4 秒 返信 引用

> No.374[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

> ちょっと先の続きで稲荷神を再度調べなおしてます。 >> 稲荷は、稲成りの意味で、会報で紹介したとおり、『山城国風土記』逸文に、伊奈利社(稲荷 社)の縁起として次のような話を載せてます。 >> 秦氏の祖先である伊呂具秦公(いろぐの はたの きみ)は、富裕に驕って餅を的にした。するとその餅が白い鳥に化して山頂へ飛び去った。そこに稲が生ったので(伊弥奈利生ひき)、それが神名となった[13]。伊呂具はその稲の元へ行き、過去の過ちを悔いて、その木を根ごと抜いて屋敷に植え、それを祀ったという[13]。また、稲生り(いねなり)が転じて「イナリ」となり「稲荷」の字が宛てられた[22]。

秦野は稲荷を諱(いみな)から読み解きます。

伊呂巨(具))(いろこ(ぐ))を訳すと、この呂はおおき(そな-える) 呂は地名(夏代から周代にかけ存在した国)、それから派生した姓。 呂は秦以前の国になる。この時代に日本は瑞穂の国である。 呂=瑞穂の国の八百万の神 稲荷神は瑞穂の国の八百万の神の総称のようだな。屯倉の神ではないか。

稲荷大神は欽明天皇が即位(539年または531年)する前のまだ幼少のある日「秦(はた)の大津父(おおつち)」という者を登用すれば、大人になった時にかならずや、天下をうまく治めることができる」と言う夢を見て、早速方々へ使者を遣わして探し求めたことにより、和銅4年(711年)二月初午の日に秦(はた)の伊呂巨(具)(いろこ(ぐ))が鎮座した。諸蕃(渡来および帰化系氏族)のうち約3分の1の多数を占める「秦氏」の項によれば、中国・秦の始皇帝13世孫、孝武王の子孫にあたる功德王が仲哀天皇の御代に、また融通王が応神天皇の御代に、127県の秦氏を引率して朝鮮半島の百済から帰化したという記録があるが、加羅(伽耶)または新羅から来たのではないかと考えられている(新羅は古く辰韓=秦韓と呼ばれ秦の遺民が住み着いたとの伝承がある)。また一説には五胡十六国時代に前秦の王族ないし貴族が戦乱の中、朝鮮半島経由で日本にたどり着いたという説もある。

屯倉、稲荷は接近していますな。神功皇后が関係していますな。

>>ともあれ、後代、この忌部の配下にいた秦・漢・文・畿内の国造・隼人の首長らは、みな忌寸というカバネを賜っているのですが、彼等は天の香具山とか、葛城忌寸のいた葛城山の玉祖神社あたりで、この鏡や玉を立てた木を立てて祭祀していたのかもしれませんが。神功皇后は船の上でもやっていますね。>>この辺は、また屯倉方位ラインと測量にも関係してくるかもしれませんが、同時に秦・漢・中臣等がもたらしたキリスト教祭祀も行われていたと考えるべきかもしれません。> 稲荷・ツキヨミ投稿者:管理人 投稿日:2012年4月9日(月)03時45分23秒 返信・引用 編集済

ちょっと先の続きで稲荷神を再度調べなおします。

稲荷は、稲成りの意味で、会報で紹介したとおり、『山城国風土記』逸文に、伊奈利社(稲荷社)の縁起として次のような話を載せてます。

秦氏の祖先である伊呂具秦公(いろぐの はたの きみ)は、富裕に驕って餅を的にした。するとその餅が白い鳥に化して山頂へ飛び去った。そこに稲が生ったので(伊弥奈利生ひき)、それが神名となった[13]。伊呂具はその稲の元へ行き、過去の過ちを悔いて、そこの木を根ごと抜いて屋敷に植え、それを祀ったという[13]。また、稲生り(いねなり)が転じて「イナリ」

となり「稲荷」の字が宛てられた[22]。豊後国風土記にも同様な伝承があり、白鳥がモチになってさらに数千のイモになって、みな

で食べたという伝承です。

稲荷神が、宇迦之御魂神(ウカノミタマ)、御饌津(ミケツ)神として、保食神とみなされるのは、この豊後秦氏の伝承に原型があり、さらに元をたどれば、ミサで白いハト=キリスト・聖霊が、御聖体(種無しパン・モチ)になり、それを信徒が分けて食べたという儀式によるものです。

また倉稲魂尊(うがのみたまのみこと)とも書紀に記されており、屯倉とのかかわりが見えてきます。

先の中臣系譜で興味深いのは、宇佐津臣(うさつおみ)、大御氣津臣(みけつおみ)の名が見えることです。

また中臣氏には、大鳥信仰があります。ヤマトタケルの白鳥信仰とかかわりながら、中臣が祀っているところに、中臣・尾張・北九州とのかかわりが見えてみます。クマソ征伐をした景行と息子ヤマトタケル神話は会報で記したとおり、聖書引用です。 <http://www3.ocn.ne.jp/~tohara/izumi-ootori-11.html>

それで、白鳥はキリスト教では三位一体神(父と子と聖霊)のうちの聖霊にあたり、白いハトで表現されていました。役割は父・子なる神と地上の人間との仲介者で、奇しくも中臣の役割と一致してきます。中臣はサニワとして神功皇后紀にみられるように、神の言葉を仲介する託宣を役目としています。

こう考えると、秦氏と中臣氏は同じキリスト教信仰で結びついていたことが想像できます。

それで、先のツキヨミを考えると、その件を考慮していくと理解できるようになるでしょう。

もっとも、月読神社は秦氏の氏社松尾大社のそばにあり、秦氏とのかかわりがあるのですが、刀を持った騎馬人像になっている点は、秦氏の祖・弓月君のイメージとダブってきます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%84%E3%82%AF%E3%83%A8%E3%83%9F>

また「ツキヨミ」とも記されるようで、先の神八井耳関連に見られる、いわゆる「倒語」の可能性もあります。

<http://www.geocities.jp/yasuko8787/z176.htm>

あと、スサノオとツキヨミは、大宜津比売神(オオゲツヒメ)という食神を切り殺すのですが、これが外宮のトヨウケ、ウケモチと関係してきます。そして稲荷神とも混合しており、大年 神系譜という、秦氏の祖神や韓神・ソオリ神などの大陸神の系譜に列記されていくこととなります。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%B9%B4%E7%A5%9E>

このオオゲツヒメが切り殺されたのちに、農作物ができたりするあたりにも、先の豊後・秦 氏のモチ的、つまりミサ伝承と大きくかかわってくるといえるでしょう。

そして御「ゲツ・ケツ」の「ケツ」の音が、「狐」をあらわす「ケツ」へと変化して、三狐(ミケ ツ)神と記されて、白い狐が稲荷社に出てくるようになってくるのですが、この間には白鳥 の白、神の体としての食べ物、そして(深草・稲荷山の)屯倉(三宅)、(三位一体神)の要素が加わって言った様子が伺えます。そして鎌足の生誕伝承に「白い狐」がでてくるんですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%82%AA%E3%82%B2%E3%83%84%E3%83%92%E3%83%A1>

そう考えていくと、月神の(ゲツ)にも、食神の「ケツ」の要素が入った可能性もあります。

それで、先の稲荷神の別名ウカノミタマも、この大年神系譜も、スサノオと神大市比売との間に生まれたことになっており、先の新羅・出雲系のソシモリ伝承とかとつながってきて、最終的には宮中八神、榊神と関係してくるわけですが、その間に秦氏・漢氏・中臣氏がかかわ っていたであろうことは想像に難くないでしょう。

その動機は宮・屯倉経営に彼等がかかわったことからはじまってくるのですが、同じく彼等 がかかわった三蔵の事例のように、祭政が十分に分離していなかったことにより、屯倉拠点 に、神社や三神信仰が紛れ込んでいく結果となったのではないのでしょうか。

紀伊・四国の屯倉方位ラインを作成予定ですが、過去の方位ラインを考慮していくと、三木 関連などおそらくは忌部氏の拠点が浮かびあがってくると思います。忌部は秦・漢氏を率い て神殿構築をしましたし、後代まで大嘗祭に重要な役割を果たしてます。

忌部の祖のフトダマの役割を見ていくと、八咫瓊勾玉や八咫鏡などを下げた天の香山の五百箇真賢木(いおつまさかき)を捧げ持ち、アマテラスが岩戸から顔をのぞかせると、アメ ノコヤネとともにその前に鏡を差し出します。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%88%E3%83%80%E3%83%9E>

この鏡をかけた木をもって、アマテラスとは別の神だと言って、アマテラスを驚かせたわけ ですが、実は鏡に映った自分の姿で、アマテラスを象徴しているんです。

つまり、先の稲荷・モチ的伝承に出てくる白鳥が留まった木で、十字架のことかと感じま す。

忌部は、木造建築を担当してますが、木に関するこのような道具も作成していたのでしょう。 鏡や玉自体は、石コリ部や、玉祖部がつくっていました。ただフトダマ(布刀玉)は、忌部の 持ち物で、大きな玉の意味かもしれませんが。先に秦氏の祖先としてあげた、サカ・月氏系の集 団では、大きな勾玉のような玉を馬にぶら下げる習慣があったようです。もしかすると先祖 伝来のものだったかもしれませんね。

ともあれ、後代、この忌部の配下にいた秦・漢・文・畿内の国造・隼人の首長らは、みな忌 寸というカバネを賜っているのですが、彼等は天の香具山とか、葛城忌寸のいた葛城山の玉 祖神社あたりで、この鏡や玉を立てた木を立てて祭祀していたのかもしれませんが。神功皇后 は船の上でもやってますね。

この辺は、また屯倉方位ラインと測量にも関係してくるかもしれませんが、同時に秦・漢・ 中臣等がもたらしたキリスト教祭祀も行われていたと考えるべきかもしれません。

神様はあなたを愛してる - knowinggod-japan.jesus.net/ 哀れみ深い父なる神様 計画がある神様 日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催 ! 見積積算連動電気設備 CAD - denki-cad.com

簡単操作と 3 way サポートでスグ使える 図面を書くで見積積算が自動簡単作成 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 榎原考古学研究所のデジタルアー カイブを 3D デジタイズが革新する

犬養孝 万葉集 CD - family-music.co.jp 犬養孝万葉集を CD で楽しめます。 今なら送料無料でご案内
Ads by Google ----- Re:猿女投稿者:管理人 投
稿日:2012年4月8日(日)23時11分19秒 返信・引用編集済

> No.372[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 1.鎮守の社は卑弥呼が持ち込んだものだろう。三角縁神獣鏡の銘文にもとは京師(杜)の出 (杜)が該当する。

神社自体は、弥生時代からある高床式神殿だと考えてますが、ある時期から柱がひとつ余分 に加わるようになった点に注目したいと考えてます。

>> 2.問題は神社の壁代、よく目にするのが白蝶鳥摺型の蝶と燕。図添付 >> 蝶-1.は家紋に、「蝶紋(ちょうもん)」がある。平氏の一族やそれを称する一族、末裔を称 する一族などによって用いられることがあった。 > 平氏を称した公家のほかに、織田氏、関氏、谷氏などが用いている。蝶紋を用いた大名で知 られる池田氏のもの、織田氏から下賜されたものである。

織田氏は、もともと忌部氏ですね。谷氏は漢氏系です。

> 蝶-2.はまた、キリスト教で死者の中からの復活、すべてのクリスチアンの希望のシンボル です。

復活の観念が重要です。アマテラスも、復活してこなかったら、あの神話は未完成でした。 > 燕-1.燕 (春秋)、燕国

> 燕-2.『山海経』 >「蓋國在鉅燕南 倭北 倭屬燕」(山海経 第十二 海内北經)

> 蓋国は鉅燕の南、倭の北にあり。 倭は燕に属す。

> 結論ですが古事記は山海経の燕=鉅燕、韓半島北部が終点。蝶はユダヤに落ち着く。 > 屯倉は神社とほぼ同年代だろう。屯倉は 3世紀にユダヤが入り古代エジプトの通貨を導入 したのではないか。A.D.350頃 大和朝廷 国土統一 >

エジプトの件が、以前から出雲のスサノオ・大国主神話との兼ね合いで気になってます。

根堅洲国というのが、旧約聖書でいうエジプトのことで、そこに向かうスサノオ=イスラエル人、そしてそこから脱出する大国主もイスラエルのこと。迫害と末弟…、この辺の詳細 は長くなるので割愛しますが、ようするに、スサノオ・大国主といった新羅系で出雲に流れ た神話は、旧約の出エジプト伝承と関連しているのだろうと感じます。

屯倉方位ラインの拠点・出雲大社、新羅北部からの流れも、ご指摘のとおり旧約文化圏で しょう。

ただ、いわゆるギリシャ系の竜退治、ヤマタノオロチ…がかかわってくるとすると、東欧 文化が新羅に入った5世紀後半以降の流れになって、後期屯倉で話が変わってきます。

新羅南部・秦韓から出雲の流れは弥生中期以降ですが、新羅北部からの流れは東欧系北燕 人の流れと読んでます。ソシモリは北部ですね。

あと、スサノオを祭る須佐神社周辺の開拓と関係しているようですが、須佐神社のあるところ「佐田」の地名が残り、これは漢・秦氏系の地名です。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A0%88%E4%BD%90%E7%A5%9E%E7%A4%BE_\(%E5%87%BA%E9%9B%B2%E5%B8%82\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A0%88%E4%BD%90%E7%A5%9E%E7%A4%BE_(%E5%87%BA%E9%9B%B2%E5%B8%82))

それでちょっと中臣氏の系譜を、調べてみると、妙なことに気がつきます。

天兒屋(アメノコヤネ)は、どうもアマツヒコネと同様に、「根」は接尾詞で、元は「コヤ」だけ でしょう。その父親は「ココド」

それで同じ神とされる思兼神は八意思金神ともかかれて、これは神八井耳と通じて、新漢 氏・多氏系那珂臣氏と混合してきます。詳しく見ていくと、

天兒屋根命(あめのこやね)、天押雲(あめのおしくも)、宇佐津臣(うさつおみ)、大御氣 津臣(みけつおみ)、国摩大鹿島(くにうずおかしま)、雷大臣(いかつおおみ)、忍見 (おしみ)、中臣鎌子、中臣勝海(?-587)、稗田阿礼(),

中臣鎌足(614-669)、

<http://www.marino.ne.jp/~rendaico/rekishi/kodaishico/shinwaico/nakatomishico.htm>

となり、宇佐→伊勢(外宮)→鹿島→尾張(小子部雷)・忍見(漢氏の製鉄拠点・屯倉)との移動が見えます。屯倉展開のラインです。鎌子の鎌ですね。

山階や三島は、秦・深草・三島屯倉とのかかわりでしょう。天智とも屯倉や宮で接点をもっていたと類推します。勝海などの勝系の名称も、秦氏と一枚噛んでいる気がしますね。

難しいのですが、中臣・忌部氏等の五伴緒は、継体・欽明の後期屯倉の始まりとともに、北九州から全国展開していた秦・新漢氏系の流れに乗って現れてきた集団で、彼等の中に特に祭祀に携わっていた専門氏族がいて、そのピックアップされた祭祀氏族が、中臣・忌部・猿女へと変化していったのではないのでしょうか。実務的な部分は秦・漢・蘇我等が担当した。

ただ春日については、春日部、開化とのかかわりで、時代が気になるのですが、深草屯倉から阿波・春日部神社(屯倉)へ延びるラインをみると、やはり後期屯倉の時代かなと感じます。

深草屯倉の本拠は、稻荷山で、秦氏の氏神・稻荷神です。稻荷神は会報で記したように、宇佐方面の新漢氏・秦氏の伝承で、「INRI」神で、キリスト教のことと見てます。

鎌足の出生譚に、鎌を加えた白い狐が出てくるのはおもしろいですね。稻荷神と製鉄神が結合しているようにも見えます。神八井耳、思金神、この辺の結合イメージです。「ヤイミミ」神。豊聡耳。

神八井耳はこちら。

<http://homepage1.nifty.com/moritaya/kokuzou4.html>

----- Re:猿女投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年
4月8日(日)20時57分25秒 返信・引用編集 済

> No.371[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

神社について気になるので調べてみました。

秦野が神社、鎮守の杜を整理すると。

1.鎮守の杜は卑弥呼が持ち込んだものだろう。三角縁神獣鏡の銘文にもとは京師(杜)の出の(杜)が該当する。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano17.htm>

2.問題は神社の壁代、よく目にするのが白蝶鳥摺型の蝶と燕。図添付

蝶-1.は家紋に、「蝶紋(ちょうもん)」がある。平氏の一族やそれを称する一族、末裔を称する一族などによって用いられることがあった。平氏を称した公家のほかに、織田氏、関氏、谷氏などが用いている。蝶紋を用いた大名で知られる池田氏のものは、織田氏から下賜されたものである。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%83%A7%E3%82%A6>

蝶-2.はまた、キリスト教で死者の中からの復活、すべてのクリスチャンの希望のシンボルです。

<http://translate.google.co.jp/translate?hl=ja&langpair=en%7Cja&u=http://www.religionfacts.com/christianity/symbols/butterfly.htm>

燕-1.燕(春秋)、燕国 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%87%95%E5%9B%BD>

燕-2.『山海経』「蓋國在鉅燕南 倭北 倭屬燕」(山海経 第十二 海内北經) 蓋國は鉅燕の南、倭の北にあり。倭は燕に属す。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%80%AD%E3%83%BB%E5%80%AD%E4%BA%BA%E9%96%A2%E9%80%A3%E3%81%AE%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E6%96%87%E7%8C%AE>

結論ですが古事記は山海経の燕=鉅燕、韓半島北部が終点。蝶はユダヤに落ち着く。屯倉は神社とほぼ同年代だろう。屯倉は3世紀にユダヤが入り古代エジプトの通貨を導入したのではないかと。A.D.350頃 大和朝廷国

土統一

燕(えん、紀元前 1100 年頃 - 紀元前 222 年)注)『山海経』海内北経に、「蓋国在鉅燕南倭北。倭属燕。」という一節がある。蓋国の位置について

述べた文であるが、蓋国は朝鮮半島南部に在った国で後の辰国と同じ地域とみられる。また 「属する」の意味も、普通に倭は燕の属国だったという 注)山海経では鉅燕なので、紀元前 222 年以降の年代になる。

古代エジプトの通貨 貨幣には貴金属が使われた。初期には金属を秤で量ってやりとりされたが、後期には鑄造貨幣が用いられた。興味深い例としては、小麦などの穀物を倉庫に預けた「預り証」が、通貨として使われたこともある。現在の通貨と違うのが、穀物は古くなると価値が落ちるということである。したがって、この通貨は長期保存の出来ない、時間の経過とともに貨幣価値の落ちていく通貨である。結果として、通貨を何かと交換して手にいれたら、出来るだけ早く他の物と交換するという 行為が行われたため、流通が早まった。その結果、古代エジプトの経済が発達したといわれ、この事例は地域通貨の研究者によって注目されている。また、ローマの影響下で貨幣が使われるようになった結果、『価値の減っていく通貨』による 流通の促進が止まり、貨幣による富の蓄積が行われるようになりエジプトの経済が没落したという意見もある。

http://www.imes.boj.or.jp/cm/htmls/nenpyo_kodai.htm

ヤマト王権(ヤマトおうけん)とは、3 世紀から始まる古墳時代に「王」「大王」(おおきみ) などと呼称された倭国の王を中心として、いくつかの有力氏族が連合して成立した政治権力、政治組織である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%AF%E5%80%89>

参考

現在は神社の由来等は明確でなく、だろう、になっている。

1.神社(じんじや・かむやしろ)とは、神道の信仰に基づき作られた、恒設の祭祀施設。一方で神社によっては式年遷宮の習わしがあり(代表例は伊勢神宮)、必ずしも同じ社が恒設される物ではない。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

2.鎮守の森 鎮守の森(ちんじゅのもり)とは、日本において、神社に付随して参道や拝所を囲むように 設定・維持されている森林である。鎮守の杜とも。

3.ちん-じゅ【鎮守】 1 兵士を駐在させて、その地をしずめ守ること。 2 鎮守神のこと。また、その神を祭った神社。「村の一の祭り」 <http://dic.yahoo.co.jp/dsearch/0/0na/12241000/>

> サロメとともに墓穴を見に行ったマグダマリヤと、アマノウズメを比較する向きがよく ありますね。 > 5 世紀ころのキリスト教会の特徴として、三位一体説(父と子(イエス)と聖霊)があり、また教会を持って神の体とする観念など、この影響が記紀神話にあらわれてくる時期をひとつのキーポイントと考えてます。 >> そもそもは、天岩戸儀式自体は、思兼神の発案で、中臣の祖のアマノコヤネと同一視されて ます。 > 常世思兼神、思兼神、八意思兼神、八意思金神で、知恵袋の意味とともに、常世の神ともされ ている外国神の可能性があります。 >> 信之阿智祝の祖でもあるのですが、阿智は阿智使主、吉備等にみられる阿智女、アチ・オチ 音とかかわり、漢・秦人系を想起させます。 >> 高木神の子で、高木神は中臣・忌部等の五部神の氏族にとっての祖神にあたり、北九州の 朝倉から日田にかけての地域と関連があり、宮や屯倉と間接的につながってくることでしょ う

Re:猿女投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 8 日(日)07 時 01 分 50 秒 返信・引用編集済 > No.370[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > アマノウズメの諱(いみな)を紹介します。 >
- > かみのいえ(うま)をかわりつぐ。かみのかんざしのおんな。 >
- > 古事記、日本書紀は対になっている。 >
- > 中臣氏の天児屋命(アメノコヤネ)と天宇受賣命(アマノウズメ)=かみのいえ(うま)を かわりつぐ。との関係が出てきます。どうも、アマノウズメの弟子を思わせる。 > いえ=うま、がイエスを創造させる。

>

サロメとともに墓穴を見に行ったマグダラマリアと、アマノウズメを比較する向きがよくありますね。
家と柱、キリスト教とのかかわりは重要です。

5世紀ころのキリスト教会の特徴として、三位一体説があり、また教会を持って神の体とする観念など、この影響が記紀神話にあらわれてくる時期をひとつのキーポイントと考えてます。

たとえばアマテラス・ツキヨミ・スサノオの三神 あるいは宗像・住吉三神、先の屯倉と関係する三女神社……

それで、柱をもって神を象徴させるのも特徴ですが、三柱をもってひとつの神をあらわすという思想が、実にキリスト教的なんです。

先に紹介した那津屯倉の遺構でも、三本柱を束ねていることが発見されてます

<http://www.okunomasao.com/nakagawa.html>

また同じく屯倉方位ラインの基礎拠点・出雲大社でも、三本柱を束ねた遺跡が出土してます。

http://inoues.net/mystery/izumo_nazo.html

伊勢神宮などでも、心柱といって、特徴的な構造あります。

<http://www2.city.moriyama.shiga.jp/iseiseki/ise5.htm>

屯倉を後代、三宅と書かせるのですが、屯倉関連の地名には、やたら三が出てくるのには、その思想面で、一癖あるのではないかと考えてます。秦・漢氏の宮廷にあった三蔵の三もそうですね。

もっとも、アマテラス・ツキヨミについては、伊勢の日神・月神と言われていますが、スサノオ については、新羅のソシモリと呼ばれる牛頭山のある地域と関連して、出雲へ流れた地方伝承との見方が有力です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%98%87%E5%BF%97%E6%91%A9%E5%88%A9>

後代、かなり強引に三神をセットに仕立て上げた感じがおり、6~7世紀ごろの中臣・忌部・秦氏等の持つ宗教思想的な影響を感じます。

> 中臣氏 > 古代の日本において、忌部氏とともに神事・祭祀をつかさどった中央豪族で、古くから現在の京都市山科区中臣町付近の山階を拠点としていた。天児屋命(アメノコヤネ)を祖とする。姓(かばね)は連(むらじ)、八色の姓制定後の姓(かばね)は朝臣(あそみ・あそん)。

確かに天児屋命(アメノコヤネ)という名称には、家を持って神をあらわすという基本理念が見えますよね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%85%90%E5%B1%8B%E5%91%BD>

その神殿を作るのは、後代まで忌部の支配下にいた木工にたけた秦氏でした。先のサイトにある伊勢神宮の建造物の復元図に、高倉倉庫の屋根から1本外に柱が伸びる特殊構造が見えますよね。

<http://www2.city.moriyama.shiga.jp/iseiseki/ise5.htm>

初期のキリスト教建築のバジリカ様式にも同様な柱があって、ちょっと類似性を感じました。

http://www.jfe-steel.co.jp/museum/jfe_pipe/collection/paris/youshiki/store.html

図を添付します。

深草屯倉にかかわる秦氏と欽明天皇については、即位前紀に特異な記載が記されてます。そもそも即位前紀に、秦氏の伝承が入る自体おかしいのですが、秦大津父の行動がまた興味深いです。

伊勢へ秦大津父が商売しにいった帰りに、2匹の狼が血を出して争うのをみつけて、その仲裁したのちに、手を洗い、口を注いでます。

この手洗い口注ぎが、今の神道の儀式的の根源なんです、秦氏が深く実践していたことが想定できます。

<http://d.hatena.ne.jp/ORIGIN/05391001>

アマテラス等三神の誕生も、禊で両目鼻を注いだことによるものですが、これもひとつの儀式を意味していたものと思われますし、イザナギの禊も同様ですね。

手洗いの習慣については、2世紀ころには、ミサの際に司祭が手洗いをして心身を清める習慣が慣例化していたようです。 <http://hvri.gouketu.com/ashorthistory.htm>

もとはユダヤ教の禊の習慣を引き継いだものですが、手洗いに焦点があたるところに、秦氏の儀式の特徴があるんですね。下記引用。

「ラバボつまり手洗いがその明らかな例です。どの典礼でも、司式者は信者が祭壇にささげたものを神にささげる前に、手を洗いますが、これは明らかに尊いものに関する細心の注意であり、尊敬の印です。聖トマスによると「わたしたちはきれいな手でなければ尊いものに触れようとしません。ですから、汚れた手でこれほどにも偉大な秘蹟に近づくことはふさわしくないように思われます」。2手洗いはほぼ間違いなく魂を清める印になりました。これは他のどの宗教の儀式的な手洗いについても言えることです。もともと、手洗いの際に唱えられる特定の祈りはありませんでしたが、司祭がそのときに清めを願う祈りを唱えるのは当然のことでした。そして、典礼儀式書にその祈りが取り込まれるようになるのです。詩編二十六にある「主よ、わたしは手を洗って、罪のないことを示し...」こそ正にそのために打ってつけでした。

た。ミサの儀式のほとんどはこのような純粋に実際の動作から発達しました。最初の二世紀に見られる純粋な儀式的動作は、祈りのために跪くとか立つ動作、平和の抱擁などのある種の姿勢ですが、これらはすべてユダヤ教から相続したものです。」

ユダヤ人の禊の習慣については、神道儀式との比較がよくなされています。

<http://d.hatena.ne.jp/ORIGIN/05391001>

そもそも、天岩戸儀式自体は、思兼神の発案で、中臣の祖のアモノコヤネと同一視されています。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%A2%E3%82%A4%E3%82%AB%E3%83%8D> 常世思兼神、思兼神、八意思兼神、八意思金神で、知恵袋の意味とともに、常世の神ともされていて外国神の可能性がります。

信之阿智祝の祖でもあるのですが、阿智は阿智使主、吉備等にみられる阿智女、アチ・オチ音とかかわり、漢・秦人系を想起させます。

高木神の子で、高木神は中臣・忌部等の五部神の氏族にとっての祖神にあたり、北九州の朝倉から日田にかけての地域と関連があり、宮や屯倉と間接的につながってくることでしょう。

【みらいチャート】で FX - www.central-tanshifx.com 未来のチャート形状を自動予想! 簡単 FX なら"セントラル短資 FX" 先祖の事を知るためには? - www.kakeizu.me 古い戸籍を読み解く技術が必須です。 収集から家系図への表現までお任せ! 熱分析と赤外分光分析技術 - www.therm-info.com

ナノスケール分解能の赤外 スペクトルや熱転移温度測定 衝撃 ツタヤ 1ヶ月 0円 - www.discas.net ネットでレンタル、ポストに返却 入会金・送料・延滞料ぜんぶ無料! 日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催! Ads by Google

----- Re:猿女投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年4月8日(日)00時16分10秒 返信・引用編集

済 管理人さんへのお返事です。

> ちょっと先日の猿田彦関連で、猿女氏について興味を持ちました。 >> 先の古語拾遺の文章にも、祭祀氏族としての猿女氏が重視されてますが、

アマノウズメの諱(いみな)を紹介します。 かみのいえ(うま)をかわりつぐ。かみのかんざしのおんな。 古事記、日本書記は対になっている。

中臣氏の天児屋命(アメノコヤネ)と天宇受賣命(アマノウズメ)=かみのいえ (うま)をかわりつぐ。との関係が出てきます。どうも、アマノウズメの弟子を思わせる。 いえ=うま、ガイエスを創造させる。

天宇受賣命(アマノウズメ)古事記 天 あま かみ 宇 うま のき いえ 受 うける つぐ

賣 替 かわる かみのいえ(うま)をかわりつぐ。

天鈿女命(アマノウズメ)日本書記 天 あま かみ 鈿 かんざし 女 おんな

かみのかんざしのおんな。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%8E%E3%82%A6%E3%82%BA%E3%83%A1>

中臣氏

古代の日本において、忌部氏とともに神事・祭祀をつかさどった中央豪族で、古くから現在の京都市山科区中臣町付近の山階を拠点としていた。天児屋命(アメノコヤネ)を祖とする。 姓(かばね)は連(むらじ)、八色の姓制定後の姓(かばね)は朝臣(あそみ・あそん)。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E8%87%A3%E6%B0%8F>

> 実はこの猿女が、イエスが葬られた墓穴を最初に覗きにいった乙女・サロメであろうと考 えてます。その墓穴は、岩に掘られた墓で大きな石でふさがれていたんですが、彼女たちが覗 きにいくと、すでに開いていたんですね。 > マリア・サロメの夫はクロパといって、復活したイエスを最初に目撃した 2 人の男性の一人なのですが、エマオへの道端でイエスにあって、彼はそのイエスを自宅に招待します。

----- 猿女投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 7 日(土)22 時 36 分 11 秒 返信・引用編集済

> No.368[元記事へ] みなさん、いろいろ情報ありがとうございます。

徐福の話も地球の裏側まで行くとまたロマンチックですし、氷河期の話も興味深いですが、 とりあえず、また話を日本古代史に戻しましょう。

> 話しも、古事記、日本神話に入ります。総ての謎が解けます。 >> 伊耶那岐命=イザナギノミコトは諱(いみな) > この諱(いみな)の解釈しだいで古事記が解読できるか、出来ないかのキーポイントになる。

ちょっと先日の猿田彦関連で、猿女氏について興味を持ちました。

先の古語拾遺の文章にも、祭祀氏族としての猿女氏が重視されてますが、

<http://homepage1.nifty.com/moritaya/inbe.html>

岩穴にこもってしまったアマテラス大神を、引っ張り出すのに、この猿女が一役買うことにな ります。

そして、どういうわけかこの猿女氏だけは、女性の巫女を祭祀に差し出すことになってます。

実はこの猿女が、イエスが葬られた墓穴を最初に覗きにいった乙女・サロメであろうと考 えてます。その墓穴は、岩に掘られた墓で大きな石でふさがれていたんですが、彼女たちが覗 きにいくと、すでに開いていたんですね。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%82%A2_\(%E3%82%AF%E3%83%AD%E3%83%91%E3%81%AE%E5%A6%BB\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%82%A2_(%E3%82%AF%E3%83%AD%E3%83%91%E3%81%AE%E5%A6%BB))

マリア・サロメの夫はクロパといって、復活したイエスを最初に目撃した 2 人の男性の一人 なのですが、エマオへの道端でイエスにあって、彼はそのイエスを自宅に招待します。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%9E%E3%82%AA>

実は、猿女の旦那猿田彦も、先のとおり道案内の神として有名です。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%AB%E3%82%BF%E3%83%92%E3%82%B3>

アマテラス神話では、女性が重要な役割を担うという、他にみられない特色があるのですが、 この辺の猿女の影響があるのではないのでしょうか。

猿田の名称ももともと猿女の旦那から来ていたのかもしれませんが。

イエスの墓穴の石を取り除くには、巨人のような力をもった2人の天使が出てくるわけです。このイメージと身長2メートルの猿田彦のイメージとが一致してきます。(神話では手力男と石戸別ですが…)

アマテラスあたりの神話や儀式を読み解くには、キリスト教伝承を考慮することなしでは、おそらく片手落ちになります。

そこにかかわったのが、中臣・忌部・猿女・秦氏・新漢氏なのですが、中臣については、常陸の那珂臣が深くかかわっているという説があります。この辺をもう少し探してみたいところ

です。

----- Re:中臣鎌足について投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年4月7日(土)15時10分58秒 返信引用 編集済

> No.365[元記事へ] 皇国の護国運動家さんへのお返事です。

話しも、古事記、日本神話に入ります。総ての謎が解けます。

伊耶那岐命=イザナギノミコトは諱(いみな) この諱(いみな)の解釈しだいで古事記が解読できるか、出来ないかのキーポイントになる。

考昭天皇は任那に居ません。名まえで住所が分かれば苦労しません。確か欠史八代のはず。

古田武彦氏の任那を何処と言っているのでしょうか。任那は任那日本府、釜山のマサン市ですか。

> 顔を見ればわかりますが、藤原氏はアイヌ系の顔をしているのです。ですから、渡来人説にはあまり那得できません。資料の少ない古代のことですから、これ以上の推論は控えておきますが…。

> そういえば、最近古田武彦氏が「考昭天皇は任那にいた」という説を唱えています。ご参考になれば幸いです。(ならないかもしれませんが)

----- Re: 山東半島 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年4月7日(土)14時52分18秒 返信引用 編集済

> No.366[元記事へ]

皇国の護国運動家さんへのお返事です。

> 唐突ですが、山東半島出身者と似たDNAの身長2メートルほどの人骨が南米ボリビアで見つかっています。ボリビア、エクアドル、チリでは日本に似た遺跡も見つかっています。 >> そこで私は、徐福が南米にも来たのではないかと推測しています。徐福がアメリカに来たという説はすでに欧米の研究者が唱えていたようです。

最近、同和、アイヌをよく耳にします。わたしだけでしょうか。頭に浮ぶのは、邪馬台国の住所が字、伊都国も字、同和も字になる。アイヌは矢奴、同和は奴婢、ともの兵士である。数日前に旅行で佐賀の呼子にいったのですが、同和地区がありました。沖に壱岐です。魏志倭人伝の定説では末盧国(佐賀県唐津市付近)正規に港は福岡県糸島方向の博多、唐津では兵士の餌食になります。思うに、古代史からアイヌ、同和を見直さなければならぬと、聞こえてきます。

秦野はヴェルム氷期から現代までの記録を紹介する。どうも混乱が見られる。

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~nkazu/yama/hyouga.htm>

旧約聖書のノアの洪水とアステカの神話が的確に描写していると思っています。歴史は紀元前2800年頃のノアの洪水、アトランティス消滅になる。隕石の落下は10数個地球に落ちたみたいです。たぶん、日本は太平洋から日本海に津波が抜けたと思われる。壊滅です。南米も壊滅状態。一部、アトランティスのノアと難を逃れた者は、エジプト、青海省へ逃れた。記録ですがエジプトは聖書に、青海省は天地開闢神話になった。以下に概要を記します。尚、徐福は紀元前200年で南米には該当しない。ボリビア、エクアドル、チリは日本のアイヌと同族の三苗、夏でしょう。

その痕跡はモヘンジョダロ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%83%98%E3%83%B3%E3%82%B8%E3%83%A7%E3%83%80%E3%83%AD>

洪水の状況は、有史以前の地球に近代人の知らない超古代文明が栄えていたが、核戦争により滅亡したとする説。または、四大文明および同時代の文明が核戦争により滅亡したという説。異口同音でアステカの神話では、一日ですべてが失われ、4つの花が我々の肉のすべてを食べてつくした。大いなる山は洪水に飲み込まれ、

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E4%BB%A3%E6%A0%B8%E6%88%A6%E4%BA%89%E8%AA%AC>

エジプト、青海省へ バベルの塔の記事は旧約聖書の「創世記」11章にあらわれる。位置的にはノアの物語のあとでアブラハムの物語の前に置かれている。そこで語られるのは以下のような物語である。もともと人々は同じ1つの言葉と話していた。シンアルの野に集まった人々は、煉瓦とアスファルトを用いて天まで届く塔をつくってシュム(ヘブライ語、慣習で「名」と訳されている。名譽・名声の意味も有る)を高く上げ、全地のおもてに散るのを免れようと考えた(偽典の

「ヨベル書」によれば、神はノアの息子たちに世界の各地を与え、そこに住むよう命じていた)。神はこの塔を見て、言葉が同じことが原因であると考え、人々に違う言葉と話させるようにした。このため、彼らは混乱し、世界各地へ散っていった(『創世記』の記述には「塔が崩された」などとはまったく書かれていないことに注意)。『創世記』の著者は、バベルの塔の名前を「混乱」を意味する「バラル」と関係づけて話を締めくくっている。

Wikipedia

三苗の殷からの脱出。アステカ アステカの神話にはいくつかの異説があり、それらの多くは正確さや信頼性に欠ける問題がある。大洋の時代になったとき、400年が過ぎていた。それから200年、次に76年が過ぎた。

それからすべての人類が失われ溺れて魚になった。水と空は互いに近づいた。一日ですべてが失われ、4つの花が我々の肉のすべてを食べてつくした。大いなる山は洪水に飲み込まれ、水は引かず、50と2つの春の間そこにとどまり続けた。しかし洪水が始まる前に、ティトラチャワン(Titlachahuan)はノタ(Nota)という男と妻のネナ(Nena)に「プルケ(pulque)をもらって作る必要はない。大きな糸杉をくりぬいて、その月のトソストリ(Tozoztli)を中に入れなさい。水が空に近づこうとしている。」と警告した。彼らが従うとティトラチャワンがそれを封じ込めながら男に「汝はとうもろこしの穂を一筋食べよ、汝の妻も同じくせよ。」と告げた。そこで彼らはとうもろこしの穂を互いに一筋食べて外に出る準備をし、水は引いた。Wikipedia

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano25.htm>

年代を逆算すると 紀元前 10000 年頃 ヴェルム氷期が終わる。アトランティス文明誕生 紀元前 2800 年頃 ノアの洪水、アトランティス消滅 紀元前 2600 年頃?大洋の時代になったとき、(青海省:大洋?) 紀元前 2375 年頃 400 年が過ぎていた。(三苗の国、夏) 紀元前 1975 年頃 それから 200 年。(夏王国) 紀元前 1776 年頃 次に 76 年が過ぎた。(夏→殷)

紀元前 1700 年頃 それからすべての人類が失われ溺れて魚になった。(殷) 古事記に紀元前 1700 年からの歴史があると記録がある。 紀元前 200 年からは古事記の解読で説明します。

黒潮 最大流速は最大で 4 ノット(約 7.4km/h)にもなる 対馬海流は黒潮の 1/4 で 1 ノット(約 1.8km/h) 寧波から夷洲(四国) 1600 Km 216 h で単純に 9day 補正大体 2 倍で 18day 寧波から常陸 2100 km 283 h で単純に 12day 補正大体 2 倍で 24day 寧波から東北(秋田)2700 km 1500 h で単純に 63day 補正大体 2 倍で 126day

常陸沖から南米航路。 寧波からアステカ(メキシコ)17000 km 17000/415/24=1.7 km/h 0.94 ノット 神話より、日にちは 50 と 2つの春の間、1年 50日:415日

大まかですが秦野北斗の古代史にまとめています。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/cult8frame.htm>

----- 山東半島投稿者:皇国の護国運動家 投稿
日:2012 年 4 月 7 日(土)12 時 45 分 5 秒 返信・引用

唐突ですが、山東半島出身者と似た DNA の身長 2 メートルほどの人骨が南米ボリビアで 見つかっています。ボリビア、エクアドル、チリでは日本に似た遺跡も見つかっています。

そこで私は、徐福が南米にも来たのではないかと推測しています。徐福がアメリカに来たという説はすでに欧米の研究者が唱えていたようです。

----- Re:中臣鎌足について投稿者:皇国の護国運動家 投稿日:2012 年 4 月 7 日(土)12 時 41 分 40 秒 返信・引用

> No.349[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 国の護国運動家さんへのお返事です。 >> 秦野の知る所はアイヌ人、アイヌ語でアイ=矢、奴=兵士から矢奴と理解できる。 > アイヌの神話、歌に矢、鳥(鶴)、名まえの伝承があり、古代の状況と照らし合わせると、魏志倭人伝の倭人に相当すると見ています。年代は紀元前 1700 年、三苗(ミャオ族) >

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano20.htm> > 注)神話は「三五曆記」に”天と地は九万里離れた。の里は秦野距離になります。 >

そうですか。参考になりました。有難うございます。

さて、そうすると、やはり「倭人=アイヌ」ということになる。アトランティスは大西洋なので 直ちに関係を断言はできませんが…。

顔を見ればわかりますが、藤原氏はアイヌ系の顔をしているのです。ですから、渡来人説には あまり那得できません。資料の少ない古代のことですから、これ以上の推論は控えておきますが…。

そういえば、最近古田武彦氏が「考昭天皇は任那にいた」という説を唱えています。ご参考に なれば幸いです。(ならないかもしれませんが)

----- Re: 漢氏系譜 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 7 日(土)11 時 29 分 15 秒 返信・引用 編集済

> No.361[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>> 宮崎県都城市は徐福に与えられた地になります。徐福の家計をおったのでは。徐福の家計 もこれに属するのではないかと。意外です。遼東半島は前 280 年代は燕の地になる。注意する ことは、不老不死の薬はどうもこの頃ぐらいに瑞穂の国から秦に伝わったようだな。 >

> 失礼しました。遼東半島ではなく、山東半島の間違いです(^_^)>

山東半島は連雲港市で徐福の故郷らしい。

江蘇省の東北部にあつて黄海に面し、北は山東省日照市、西は徐州市、淮安市、南は淮安、塩城市に隣接。気候は海流の影響で温暖で、年平均気温は 14℃、年間降水量は 930mm。全体に海沿いの平坦な土地だが、西部には山地があり、その最高点である南雲台山の玉女峰(標高 625m)は江蘇省の最高点でもある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%80%A3%E9%9B%B2%E6%B8%AF%E5%B8%82>

「山海経」に興味深い記述がある。琅邪(山東省臨沂市付近)から三万里、君子国。琅邪は臨沂市を意味する。臨沂市から東方三万里(里単位は秦野距離)で奈良になる。秦野距離は実測に基づく距離、秦野著書、徐福と邪馬台国参照。

「山海経」には、「君子国も不死国もともに東方にある」とされ、「外国図」には、それが琅邪から三万里…。HP では里を間違え十和田湖になっている。 http://judea.naritacity.com/journal_main_110114.asp

大月氏、弓月、弓削も同一みたいですな。魏志倭人伝の狗邪韓国の卑弥弓呼素も狗=弓であり、弓+大月氏=弓月になる。大月氏は古事記の月読命(ツクヨミノミコト)みたいですな。

【嶋津氏系図】から嶋津氏が月読命の家系とは、驚きです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%84%E3%82%AF%E3%83%A8%E3%83%9F>

伊耶那岐命=イザナギノミコトは諱(いみな) この諱(いみな)の解釈しだいで古事記が解読できるか、出来ないかのキーポイントになる。

イザナギノミコトは、「わたしは、これまで多くの子を生んだが、一番最後に貴い三人の子どもたちを得た。」とお喜びになりました。そして、ご自分の首にかけていた玉の首かざりを ゆらゆらと鳴らせながらアマテラスオオミカミに授け、「あなたは、天を支配しなさい。」とおっしゃいました。次にツクヨミノミコトに「あなたは、夜の国を治めなさい。」といい、スサノオノミコトには、「あなたは、海原を治めなさい。」とおっしゃいました。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami_07.html

> 面白いのは、元となった斎蔵の概念が、ユダヤやキリスト教社会の神殿税に似ている件で すね。祭政が分離してなかったの、租税が神への捧げものと一緒になっていたともいえる のですが、中国や朝鮮のそれとは違う、宗教色の濃い税制が基礎になってます。 >

> 屯倉に溜められた稲は、場合に依じては貸し出されたり、災害用の備蓄食料になったので しょう。一部は秦氏らの元へと入っていったかもしれません。そして徐々に彼等が力を蓄え ていくことになります。 >

> 戸籍をつけ始めたのも、このころですが、北朝系の戸籍システムだそうです。これは会報で 紹介した北燕系の新漢人の影響かと感じます。

----- 近蓋婁王投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 4 月 7 日(土)10 時 52 分 40 秒 返信・引用

蓋鹵王・近蓋婁王 【(婁)高い建物

倭王 済 451 安康 454 -456 455 蓋鹵王即位ガイロ(近蓋婁、ヒ有王の長男) 雄略 456-479 --

<http://www.ne.jp/asahi/woodsorrel/kodai/kodai/g01.files/06/kudara.html> 128 蓋婁王即位ガイル(己婁王の子) 孝安 137-175

165 新羅の将軍が百済に逃亡し引き渡しをめぐって新羅と争う 日食

166 肖古王即位ショウコ(素古、蓋婁王の子)(神功紀に引用) 167 新羅を攻撃 170 日食

孝霊 175-204 188 新羅を攻撃 189 日食 199 新羅へ侵入

孝元 204-225 210 靺鞨が侵入 212 日食 214 靺鞨と戦闘

214 仇首王即位キュウシュ(貴須、肖古王の長男 身長七尺という) 216 靺鞨が侵入 218 新羅を攻撃 221 日食

222 新羅を攻撃 日食

224 新羅が侵入

234 沙伴王即位サハン(仇首王の長男、幼少のため古尔王が継承)

234 古尔王即位コニ(蓋婁王の第 2 子) 開化 225-248

238 天地を祭るために太鼓と笛を用いる 240 新羅を攻撃 246 魏と高句麗が合して侵入 247 干ばつ多発

崇神 248-273 255 新羅を攻撃

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- エビス信仰という新しい福神信仰投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 4 月 7 日(土)10 時 22 分 9 秒 返信・引用

蓋鹵王 鹵字は塩を産出する西方内陸部の塩鹵地を意味する。... 説文解字』は具体的な 地名 として 安定郡鹵県(現甘肅省)を挙げている。また引伸し ... また、近蓋婁王とも記され、『日本書紀』には加須利君(かすりのきみ)、『宋書』には余慶(余は百済王の姓)の名で http://oshiete.goo.ne.jp/search_cse/result/?MT=%E9%B9%B5&mt_opt=a&qatype=qa&st=all&sr=norm&tf=all&good=0&dc=10&type=html&code=utf8

蓋鹵王(がいろおう、?-475 年)は、百済の第 21 代の王(在位:455 年 - 475 年)。先代の ? 有王の長子であり、

『三国史記』によれば諱は慶司。また、近蓋婁王とも記され、『日本書紀』には加須利君(かすりのきみ)、『宋書』には余慶(余は百濟王の姓)の名で ... 鹵」字は塩を産出する西方内陸部の塩鹵地を意味する。東方すなわち沿岸部の塩鹵地を「斥」といい、西方すなわち内陸部の塩鹵地を「鹵」と呼んだ。『

甘肅省には仰韶(ぎょうしょう)文化と馬家窯文化があり、その歴史は 5 千年です。

<http://japanese.cri.cn/781/2009/08/26/Zt1s145888.htm>

「塩」は中国最古の調味料であり、中華料理発祥の要素のひとつです。古書「淮南子(えなんじ)」によりますと、今を遡ること約六千年前の仰韶文化時代に、中国に散在していた部族の中で、伏羲氏と神農氏に挟まれた場所で勢力を張っていた宿沙氏が、はじめて海水から塩を製造しました。宿沙氏は塩の製造で天下にその名を知られ、死後は「塩の神様」として崇められて、安邑という場所に「塩宗」廟が建立されたといえます。この安邑が現在の山西省運城市にあたります。

「商売の神様」関羽もここで生れた。

中国では塩の起源は発酵が帝禹によって、はじまった。炎帝のときに、宿沙(しゅくさ)氏が初めて海水を煮て塩を作ったといわれる。、「古えの善く漁する者は宿沙渠子」(姓氏急就篇)とされるので、漁撈にすぐれた部族の出とみられる。また、宿沙は夙沙に通じるが、夙沙氏とは古代の国名に因む姓氏で、やはり神話上の炎帝(神農)のときの諸侯に夙沙氏があり、その地域はいま山東省附近。

宿氏は風姓に出自し、伏羲(ふくぎ)の後で古代の国名を氏としたものであり、古代の宿国はいまの山東省の東平県の東にあったとされる。伏羲とは三皇の一人に数えられる神話伝承上の帝王であり、風姓はその子孫が名乗った姓である。 <http://shushen.hp.infoseek.co.jp/kodaisi/sionokami/siokami2.htm> リンク先

河南省偃師市の二里头遺跡(数カ所の宮殿跡も見つかったとされる

江南に興った越も夏后帝少康の庶子無余が会稽に封じられたのが起源といわれる。越については、有名な越王勾践の父の允常まで歴代を明らかにせず、越が鳥トーテミズムをもった模様である

呉にも鳥トーテミズムらしきものがみられるので、楚昭王と越王勾践娘と同系統の種族との

混血があった。韓地と同様に、鳥霊信仰と複合した鬼神(祖霊や穀霊)のマツリが農耕儀礼として行われ、鳥杆(ちょうかん。杆頭に木や石の鳥形をつけて立てたもの)と大木を立てて銅鐸を打ち鳴らし、その音色にのって舞い踊る舞踊は越国の代表でもある。

B.C.320 年、恵文王は遊歴して北河に至った。B.C.318 年、楽他が秦の相になった。韓・趙・魏・燕・斉が匈奴と連合して秦を攻めた。秦は庶長の樗里子に命じて修魚(韓)に戦わせ、韓の将・申差を虜にし、趙の公子渴、韓の太子奂を破り、首を斬ること八万二千に ...<http://www.geocities.jp/shokatusei/DongZhou/Qin/2.html>

BC.310 年、秦の武王は、魏の襄王と臨晋で会盟した。蜀の宰相の陳荘を誅殺した。武王は張儀・魏章を放逐した。張儀、魏章がみな東に出て魏に赴いた。義渠、丹、黎を伐った。南公掲が死んだ。張儀、魏章がみな東に出て魏に赴いた。義渠、丹、黎を伐った。

東夷を伐った結果肅慎が來賀したのか、二つの事績が別事項なのか 不明だが、前者と考えるのが妥当だろう。<http://adat.blog3.fc2.com/?mode=m&no=1604> 東夷は現在の中国の東北部(北朝鮮の北方一帯)を指していることになる。、「左伝」の「東夷」は明らかに全て「禹貢」の「島夷」と同じである。〈全集〉は「東夷」を「越」の地に比定している。

越は楚の真東にある。「島」と「東」の漢音が同じことでもあるので、地理上の意味を付して、「島夷」を「東夷」と言い替えたのではないだろうか。 轅濤塗の進言の中に「東夷の者どもにも兵威を見せ、海に沿って帰る」とあるが、これをよんでふと思ったことがある。この場合の出港地は呉と越の間の湾(現在の杭州湾)と思われる。古い時代から重要な港として使われていたようだ。もしかすると、ここが「白村江の戦」での唐の水軍の出港地ではなかっただろうか。

島夷とは? 中国で南方の異民族の呼称。古くは揚子江流域の住民、秦漢以後は貴州・雲南の住民をさすなど時代によって対象が異なる。 <http://www.weblio.jp/content/>

%E5%B3%B6%E5%A4%B7

三国志魏書~烏丸鮮卑東夷伝「海境島夷の条、身内が死ぬと川に入り禊ぎ払ひする 風習を 「洗浴そうよく」と記した。... (島根県安来市島田町), 伊弉冉いざなみ, = 新宮神社 古代丹

後王国はあった <http://homepage3.nifty.com/kiya/sehachi/kiya333.htm> 廉斯齒#は、漢人で戸来(高麗)と呼ばれて捕らわれている者を連れて楽浪郡の含資県に出頭し

た。郡は廉斯齒#に案内させて辰韓に進入し、廉斯齒#は捕らわれていた 1000 人と既に死亡していた 500 人分の贖罪を得て楽浪郡に凱旋した。楽浪郡はその功績を表彰したが、その子孫 は後漢の安帝(106-125 在位、後漢第 6 代)の時代までにはかなりの世代に達し、建光 4(124)年 に楽浪郡はその子孫を改めて官に任命した。

↑齒#(+[金] 島夷 ? 夷神信仰が結びつき、瀬戸内海 を往来する漁民や海軍、商人たちの厳島詣でも盛んになった。 室町幕府も厳島神社を 重視し、足利尊氏や義満が厳島詣でを行っている 。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8E%B3%E5%B3%B6%E8%A9%A3>

夷(エビス)とは外国人を意味する言葉であり、本来は外国から移り住んで幸を齎す客神 (まれびと)であったと思われる。柳田國男氏の研究の中にも、エビス神は言葉が分からない ので、大きな音をたてて呼び出し、願い事をするといったことが書かれていた記憶がある。 つまり日本生まれの外人神のようであり、後には、オオクニヌシ神の子神のコトシロヌシ があてられ、商都・大阪の今宮戎神社にまつられて、エビス信仰という新しい福神信仰が生み出されるという不思議な経過をたどる。 <http://www.araki-labo.jp/shiso26.htm>

漢氏系譜投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 7 日(土)08 時 21 分 6 秒 返信・引用編集済 秦氏に続いて漢氏の系譜も調べてみました。もとより秦氏と漢氏の系譜には、同様な地名

や氏族名が多いんですね。ハタ・サタ…スグリ…という具合です。 秦韓、弁韓(アヤ国)あたりの地域的に近かったことによるものと感じます。 東漢氏の系譜を見ていくと、また興味深いことがわかってきます。

継体のときの、任那割譲の際にも東部地域の「娑陀(サダ)」「滯沙(タサ)」という地名が 出てくるのですが、この辺もハタ・サタといった秦・漢氏のそれと対応してくることを考慮 すると、500 年代初頭にも、彼等が渡来してくる転機があったとみなしうでしょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%AF%A7%E7%8E%8B>

ただ、新羅本紀と百濟本紀の記載を読んでいくと、やはり秦・漢氏の各名称ともに百濟の語 音に近いように感じます。おそらくは、楽浪・帯方から、秦韓・弁韓へと流れた移民だからで しょう。

後代の新羅と秦韓はおそらく別の民族系統で、語音系統もかなり異なります。秦韓が新羅に 圧力を加えられた歴史があるような気がします。ただ、6 世紀の新漢人は新羅と深くつなが

りを持つのですが、それは北燕人が新羅にも流れ込んだことによるもので、東漢氏のそれと はまた別です。

それで、問題の東漢氏の系譜ですが、下記のとおりになります。

後漢靈帝—延王—石秋王—阿智使主(阿知王)—都賀使主(高貴王)—志努直—坂上駒子直 —弓束直—首名直—老—
—大國—犬養—荊田麻呂—田村麻呂 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9D%82%E4%B8%8A%E6%B0%8F>

またちょっと面白い解釈をしているサイトがあったので、下記引用します。

後漢靈帝劉宏—廢帝、弟獻帝劉協—石秋王劉延(庶流)—劉夏(帯方太守)—劉昇(近習司 馬)—劉照(阿知使主)—高尊王(本号高尊王。都加使主、阿多倍、東漢掬。妻皇極天皇皇女) —山木(母皇極天皇皇女)、弟●坂上志努(母同。弟爾波伎[母同])—田部阿素奈、弟志多(子 に火撫鞠子、倉門馬手[倉門、林の祖]、吳原熊古、石占阿利[石占、蔵人の祖]、弟阿良(子に兎 子、河原鹿子)、弟刀禰(子に蔵垣根猪[蔵垣、棕垣の祖]、畝火大人、荒田井佐留[荒田井、荒井 の祖]、弟鳥(酒人祖)、弟●駒子直(蘇我馬子の命により崇峻天皇を暗殺し、その口封じのため蘇我馬子の娘と密通したという汚名を着せられ処刑された。弟白石韋久佐

<http://blog.goo.ne.jp/kunikuzushi/e/553b9ba8d499be621fc1195762ec0b4a>

どう解釈したのかわかりませんが、劉夏(帯方太守)というのは、つまり魏志倭人伝の帯方 太守で、元は山東半島の人です。彼が三角縁神獣鏡の製造にかかわったという下記のサイト の説が面白いです。 <http://syoki-kaimei.blog.so-net.ne.jp/2011-07-18-3>

また「高尊王」とあるのが、どこかしら「公孫氏」を思わせますね。
あと「田部」とか「倉門」とかいう名は、屯倉時代のそれでしょう。

ただ、東漢氏の始祖の阿智使主は、記紀によれば、百済の阿知吉士とも見られ、百済の王から 派遣した人々と考えることがあります。近肖古王といいまして、375 年あたりまで生き ています。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BF%91%E8%82%96%E5%8F%A4%E7%8E%8B>

百済本紀を読むとわかるのですが、この王以前の王記載はちょっと信憑性が低いんですね。系譜はあったと思うのですが、文字がなかったとの記載があるようです。

その後に出てくる王名が興味深い。

近肖古王 346-375 / 近仇首王 375-384 / 枕流王 384-385 / 辰斯王 385-392 / 阿莘王 392-405 / 腆 支王 405-420 / 久尔辛王 420-427 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BF%91%E8%82%96%E5%8F%A4%E7%8E%8B>

「仇首(キュウシュ)」「辰斯(シンチ)」「阿莘(アチン)」といったあたりは、先の秦氏の系 譜で紹介した「弓月(キュウゲツ)君」「亀慈(キュウジ)」といった名称に似てきます。

おそらくは、馬韓の「月支国」、真番郡にあった「辰王辰国」あたりにみられた言語系統と一致 してくるのだろうと感じます。元は「百済」は、伝承どおり遼西から渡ってきた百家の意味で 間違いないでしょう。

また阿莘(アシン)王 392-405 の時代に、高句麗にやられて、倭に救援を求めるのですが、こ の時期が、ちょうど阿智使主や阿多倍(ツカ使主)が使わされてくる時期で、「阿」がつくい わゆる楽浪・秦韓系の言語的な特色を備えている点に注目です。

息子の腆支王は、日本に人質として送られて育ってますから、この前後の流れと、阿智使主ら が、百済方面から任那を抜けて秦韓・弁韓を経由して、日本へ渡ってきた経緯とが深く関係 していると思うんです。

元は七枝刀を送った近肖古王 346-375 あたりに、ひとつの真番郡の後継の月支国、百済あた りに文化的な転機があったのでしょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%83%E6%94%AF%E5%88%80>

それで高句麗に圧迫されて救援を請うために、わざわざこの刀を造って送ったということに は、もっと深い意味があるような気がします。

七枝刀と、イスラエルの七枝燭台(メノラー)との類似性は常々言われてますが、同族的な 共有観念の意味合いがあったのではないのでしょうか。

http://www.ican.zaqa.ne.jp/euael900/national_history10.html

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/hp/hp740.htm>

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/hp/hp740.htm> <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8C%AC%E9%89%84>

タタラ製鉄、タタール

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%AB> <http://www.oct-net.ne.jp/~hatahata/tetunomiti.html>

「砂鉄と木炭を混ぜて鉄を得るには高温を維持しなければなりません。それには人工的に風 を送る「鞆・吹子(ふいこ)」が不可欠です。日本書紀には「天羽鞆(あまのはぶき)」という皮袋 の鞆が登場します。これは鹿の皮を全剥にして作ったとされています。この皮袋の鞆は、もと もとタタールから中国・朝鮮半島と経由して日本に伝えられたと考えられています。

<http://homepage1.nifty.com/finemeat/column.htm>

秦氏は精銅技術を、東漢氏が製鉄(鍛造)を伝えたことになってますが、漢氏という技術集団を提供すること、本来の意図があったのかもしれませんが。

その鍛造技術は、先のサイトがいうような三角縁神獣鏡の材料等と同様に、山東半島経由の同族からもたらされたもので、元をたどると西域の遊牧民が有していた技術とかかわってくるのでしょう。

同様に百済が馬を送るのも、やはり乗馬技術の伝来を意味していて、東漢氏がそれを主に後代担当したのですが、東漢氏の系譜には、遊牧民的なハラの概念があって、特殊なものです。

漠然としていて複雑な話になりましたが、山東半島から百済・秦韓方面を経由して日本へ渡ってくるひとつの商業ルートがあって、そこを通過して西域の遊牧民や商業民が何度となく行き来していった、その辺の流れを理解していくと、同じく山東半島にいた徐福や始皇帝の意図も読めてくるのではないかと感じます。

----- Re:武安君と公孫氏と秦氏投稿者:管理人

投稿日:2012年4月7日(土)07時23分43秒 返信・引用 編集済

> No.359[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 宮崎県都城市は徐福に与えられた地になります。徐福の家計をおったのでは。徐福の家計もこれに属するのではないかと。意外です。遼東半島は前280年代は燕の地になる。注意することは、不老不死の薬はどうもこの頃ぐらいに瑞穂の国から秦に伝わったようだな。

失礼しました。遼東半島ではなく、山東半島の間違いです(^_^;) 皇室の家計というと、屯倉制度の租税の件があります。

九州各地の屯倉から粳や米を分配して、那津官家をつくった記載があるので、屯倉に倉があったことは間違いないでしょう。公庫遺跡からも、倉の跡が出ているそうです。 <http://www.okunomasao.com/nakagawa.html>

古語拾遺などの記載をもとにすると、前期屯倉から後期屯倉に変わって、秦氏・漢・文氏等が出納、帳簿付けをはじめたので、皇室に入る租税が増えて、宮廷内に大蔵を作ったとあります。内蔵は三国の調を収め、斎蔵がまず最初にあったとのこと。 <http://homepage1.nifty.com/moritaya/inbe.html>

面白いのは、元となった斎蔵の概念が、ユダヤやキリスト教社会の神殿税に似ている件ですね。祭政が分離しなかったことで、租税が神への捧げものと一緒になっていたともいえるのですが、中国や朝鮮のそれとは違う、宗教色の濃い税制が基礎になってます。

ローマ・ユダヤの税制はこちら参照。

http://www.geocities.jp/todo_1091/bible/jesus/039.htm

屯倉方位ラインに、出雲大社などの神殿が拠点として深くかかわってくるのも、日本独特の特色だと感じます。屯倉設営に皇室への租税と、後代の神戸に見えるような神社への租税、さらに郡家官僚への租税など、三十にもなる租税が重なっていった可能性も感じますね。

屯倉に溜められた稲は、場合に応じては貸し出されたり、災害用の備蓄食料になったのでしよう。一部は秦氏らの元へと入っていったかもしれません。そして徐々に彼等が力を蓄えていくことになります。

戸籍をつけ始めたのも、このころですが、北朝系の戸籍システムだそうです。これは会報で紹介した北燕系の新漢人の影響かと感じます。 <http://www.okunomasao.com/nakagawa.html>

>【嶋津氏系図】>>【始祖】嶋津左兵衛少尉惟宗忠久【本貫】日向國諸縣郡嶋津莊>>【世系】嶋津氏は秦の始皇帝の苗裔秦氏の支流惟宗氏に出づ。惟宗廣言の子忠久が日向國諸縣郡嶋津莊(現宮崎県都城市)の地頭に任ぜられて氏と為す。>>【家紋】丸に十文字> この武安君が、別名で「白起」、もしくは「公孫起」といいます。前280年代の秦の英雄で、楚を征伐した際に「武安君」の名称を賜ってます。

島津も秦氏系ですね。

----- Re:武安君と公孫氏と秦氏投稿者:秦野北斗

投稿日:2012 年 4 月 6 日(金)23 時 54 分 57 秒 返信・引用

> No.358[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

宮崎県都城市は徐福に与えられた地になります。徐福の家計をおったのでは。徐福の家計もこれに属するのではないか。意外です。遼東半島は前 280 年代は燕の地になる。注意することとは、不老不死の薬はどうもこの頃ぐらいに瑞穂の国から秦に伝わったようだな。

會稽海外有東鯤人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬萊神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東冶縣人有入海行遭風、流移至澶洲者。所在絕遠、不可往來。

會稽海の外に東鯤人(ひしこ人)あり、二十餘國。他に夷洲(いしゅう)、澶洲(たんしゅう)。秦始皇は傳言し徐福將童男女數千人を遣わす、蓬萊神仙を求められず、責めをお

それ帰らず、この島に止まり、数万家を賜わる。東鯤人、會稽市に至る時、會稽東冶縣人、遭風航行し澶洲に至り絶遠する。往來できず。

> ちょっと、先の秦氏の系図にでてきた武安君を調べてます。系譜的にはすべての秦氏はこの武安君の子孫になるわけです。こちら参照。

【嶋津氏系図】

【始祖】嶋津左兵衛少尉惟宗忠久【本貫】日向國諸縣郡嶋津莊 【世系】嶋津氏は秦の始皇帝の苗裔秦氏の支流惟宗氏に出づ。惟宗廣言の子忠久が日向國諸縣

郡嶋津莊(現宮崎県都城市)の地頭に任ぜられて氏と為す。【家紋】丸に十文字> この武安君が、別名で「白起」、もしくは「公孫起」といいます。前 280 年

代の秦の英雄で、楚を征伐した際に「武安君」の名称を賜ってます。

>

- > その後、武安県が遼東半島の根元に設置されて、後代まで名称が残ったようです。 >
- > なぜ秦氏が彼を祖先に持っているのか?考えてみると不思議ですよ。 >
- > おそらくこの裏には、以前お話した西域→四川→洛陽→遼東半島→朝鮮東部(楽浪・帯方)→秦韓国へと至る商人の流れがあると感じます。 >> 大津父も商売人なのですが、狼が2匹格闘するという典型的な遊牧民伝承を欽明紀に残しており、シルクロード商人を疑います。 >> 正倉院にゾグド文字の記した香木が残っていますが、これもシルクロード商人の名残で、宮廷に出入りしていたであろうこともうかがわせます。 >> 秦氏の実質的な始祖「功満王」の「コウバン」には、「弓月」と同様に何かその集団を象徴するような深い意味があるはず。武安君と公孫氏と秦氏投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 6 日(金)22 時 48 分 24 秒 返信・引用 編集済

ちょっと、先の秦氏の系図にでてきた武安君を調べてます。系譜的にはすべての秦氏はこの武安君の子孫になるわけです。こちら参照。

<http://www.k2.dion.ne.jp/~tokiwa/keifu/keifu-kore-shimadu.html>

この武安君が、別名で「白起」、もしくは「公孫起」といいます。前 280 年代の秦の英雄で、楚を征伐した際に「武安君」の名称を賜ってます。

その後、武安県が遼東半島の根元に設置されて、後代まで名称が残ったようです。なぜ秦氏が彼を祖先に持っているのか?考えてみると不思議ですよ。

おそらくこの裏には、以前お話した西域→四川→洛陽→遼東半島→朝鮮東部(楽浪・帯方)→秦韓国へと至る商人の流れがあると感じます。

これらの流れは、戦国・秦代には成立していて、楽浪南部に「真番衆(秦・辰蕃)」を形成するにいたった流れがあることは、以前お話ししました。

そこに、公孫氏が絡んでくる。公孫は源氏と同じ皇族の氏姓ですが、公孫大娘という人が、漢代の宮廷で、コダツ舞という西域の剣舞を踊ったり、後代の常陸公孫氏も四川系の遺物を多く出土しているように、いろいろ商人と関係があるようです。

なぜ秦氏がこの公孫起を始祖にしているか?ですが、思うに楽浪公孫氏、さらにいえば、楽浪の親戚秦韓とのつながりから、秦韓にいる時代に、すでに武安君という公孫氏の祖先を知っていたからなのかもしれません。

この公孫起は、白起ともいい、時代は下りますが、先の亀慈国の王族「白」姓とも関係してきます。

類推するに、もともと秦は西域の接点がありますから、この秦地域から亀慈国等の元となった「弓月」国、つまり月氏の商人が国内を出入りしていて、楚を撃った際に、公孫起とともに、武安県に移住。その後、秦の滅亡を前後して、遼東半島経由で、朝鮮東部に海を渡って移住して、真番衆(後の馬韓)を形成し、後・楽浪郡に属し、紀元前後の高句麗の圧力で、秦韓地域へ移住。その一方で楽浪の親戚、および公孫氏の常陸と接点を保ちながら、徐々に日本へと渡来していき、540年代に一気に秦韓ごと、宇佐方面へ移住して秦王国を形成、その前後で、深草屯倉にいた秦大津父の助力で、欽明に取り入って、全国展開していったとの流れが見えてきます。

その間、ずっと西域とは商人経由で接点を保ちつづけていたのではないのでしょうか。いわゆるシルクロードですが、別に戦争が起こったから、それがなくなるということもないわけですし、一度確立すれば、半永久的に道というのは続くものです。

あと、秦大津父の名称が、すこし面白いですね。秦の大津(深草屯倉)にいた「父」という存在を意味しています。「父」をもって集団の長とするのは、ちょうどキリスト教でいう「司祭・ファザー」に似た概念を思い起こさせます。

大津父も商売人なのですが、狼が2匹格闘するという典型的な遊牧民伝承を欽明紀に残しており、シルクロード商人を疑います。

彼の経済基盤があるから、欽明は即位できたんですね。始皇帝と同じで、いつの時代も王の擁立には商人のバックボーンがものを言うようです。

正倉院にゾグド文字の記した香木が残っていますが、これもシルクロード商人の名残で、宮廷に出入りしていたであろうこともうかがわれます。

あと、それで亀慈国の前漢の最初の王が「絳賓(コウヒン)」というのですが、これが秦氏の実質的な始祖「功満・神幡・蟹幡(コウバン)」ではないかと考えたことがありました。

それで古代イスラエルの世襲祭祀が、「コーヘン」というんですね。「Kagan」等ともいうそうです。レビ族ともいうそうです。「神幡」の文字が祭祀を意味していたとすると、共通性がでています。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%98%E3%83%B3>

同様に、秦酒君、秦公酒についても、「サカ」つまり月氏と同じサカ人が意識されているように感じます。

秦氏の実質的な始祖「功満王」の「コウバン」には、「弓月」と同様に何かその集団を象徴するような深い意味があるはずです。

日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催! 出口王仁三郎 関係者 作品 - www7.ocn.ne.jp/~mizu6628/

王仁三郎・すみこ・直日・日出磨 各作品を取り扱い致しております。 中高年男性の健康にノコギリヤシ - www2.kobayashi.co.jp <<公式・小林製薬>>有用性・成分を 徹底研究した独自の配合バランス 英語で努力するのはアホらしい - every-e.com 英語教材部門第1位/流して聞くだけ!「簡単・速効」で格段に上達する英語教材
Ads by Google

----- Re: 秦氏と亀慈国 投稿者:管理人 投稿日:2012年 4月 6日(金)21時 57分 14秒 返信・引用

> No.356[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 大月氏は中央アジアにいたが、なぜ倭国に入ったか時期とルートが明確でなかった。 > 徐福の秦と管理人さんの秦との関係は末裔になるかも。

さっそくお返事ありがとうございます。 徐福も、始皇帝も、遼東・斉方面には縁があるようですね。

始皇帝は、商人の融資で出世した父親の子ですから、おそらくは西域商人がバックにいたものと感じます。彼等は、西域から朝鮮までのルートを知っていたでしょうから、斉に地盤がある徐福に話をもちかけたという線でいかがでしょうか。

そう考えると、確かに斉の人ですから、朝鮮東部経由で、日本へ渡るのが自然ですね。

百工を派遣したというのも、そもそも計算づくだったのではないのでしょうか。当時の支配層が、あまり無謀なことをするとは思えません。不老不死とか…は伝承の話で、裏に斉方面の当時の航海の実態を反映しているのではないかと感じます。

> 文章は飛びますが、神武東征からの話になります。北九州は出雲の一部になっている。 > 熊野神社だけでも14座を数えますから、(田村誠一著 神武東征は伯耆から)出雲は、イザナギ(白狄人)の勢力が、伯耆より強かったことが判ります。 >

キシさんの紹介記事を読むと、熊野方面に秦氏が多いそうですね。高倉下や三山など、こ

ちらも先日お話した屯倉関連でしょう。 > 馬韓の地が百済になっている。百済は扶余の別種と中国史籍で言っている、ユダヤと大月

氏はシルクロードを超え百済に入った2部族みたいだな。

馬韓の辰王は、月支国から出るというのも、考えてみるとおかしな話です。数十国もあるのに、なぜ月支国だけなのか?邪馬台国みたいな感じですね。祭祀王や祭祀氏族との関連も感じさせます。

やはり月支国は、百済から来た弓月君と関係し、つまり月氏系なのではないのでしょうか。

> 秦王国(はたおうこく、しんおうこく)は、中国史における隋代を扱った歴史書である『隋書』国または土地の名称。

> 秦王国は現在の北九州になる。弓削神社(ゆげじんじゃ)が熊本県熊本市と八尾市に在るのは理解できる。秦王国は月氏だろう。月氏ももとは韓半島に居た部族である。月氏は匈奴、鮮卑と親戚関係にある。

つまり「秦王」という名称がなければならぬわけですが、「辰王」国ではないですかね。秦韓の遺跡がある時期に一斉になくなるそうですが、こちらに移住したのではないのでしょうか。「月支国」と本来は記されそうなのですが、「勝」の音で残った可能性があります。「勝崎屯倉」とみえますよね。「国埼」半島とみると、「勝」に「国」の意味があることがわかります。

秦国勝、秦川勝というのも、韓国語でいう「村人」スクリと読ませて、大きな地域の拠点を示している可能性を感じます。「豊後国」=「豊後勝」みたいな感じですね。

----- Re: 秦氏と亀茲国 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 4月 6日(金)20時 09分 38秒 返信 引用 編集済

> No.353[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

大月氏は中央アジアにいたが、なぜ倭国に入ったか時期とルートが明確でなかった。
徐福の秦と管理人さんの秦との関係は末裔になるかも。

文章は飛びますが、神武東征からの話になります。北九州は出雲の一部になっている。 熊野神社だけでも14座を数えますから、(田村誠一著 神武東征は伯耆から)出雲は、イザナギ(白狄人)の勢力が、伯耆より強かった

ことが判ります。

<http://homepage1.nifty.com/o-mino/page687.html>

大月氏国というパミール高原を越えた西方の遠国から朝貢があった。

<http://geocities.yahoo.co.jp/gl/siroztatsunosuke/comment/20090417/1242540167> > 弓月君を、後代融通王としているので、ウズマサの音とあわせて、日本での読みは「ユミツ

キ」から「ユツ」と理解すべきかと考えます。 馬韓、弁韓、辰韓も終わり、百済、新羅、高句麗に韓半島も様変わりですね。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano7.htm>

馬韓の地が百済になっている。百済は扶余の別種と中国史籍で言っている、ユダヤと大月氏 はシルクロードを超え百済に入った 2 部族みたいだな。

秦野も見逃していました。

秦王国(はたおうこく、しんおうこく)は、中国史における隋代を扱った歴史書である『隋 書』国または土地の名称。

秦王国は現在の北九州になる。弓削神社(ゆげじんじゃ)が熊本県熊本市と八尾市に在る のは理解できる。秦王国は月氏だろう。月氏ももとは韓半島に居た部族である。月氏は匈奴、 鮮卑と親戚関係にある。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%93%E6%9C%88%E5%90%9B](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%93%E6%9C%88%E5%90%9B%E6%9C%88%E6%B0%8F) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%88%E6%B0%8F>

> 音的には「弓削」のほうが近いのですが、弓削氏はどうも、守屋の母方の氏族の名で、宇佐神 宮と関係してくるようです。秦氏系では? > 秦氏の伝承だと、応神の時代に、新羅が邪魔をするので、日本から遠征軍を派遣して、よう やくたどりついたことになってますが、本来はこの仲哀の新羅遠征計画と伝承的にかかわっ てくるのでしょう。

> あと、弓月国との関係を指摘する説があるのですが、「クンユエ(クウゲウエ)」国のこ とで、確かに資治通鑑に疏勒国とともに、「弓月部」という名称が見えます。 >> 「軍還,至疏勒南,弓月部復引吐蕃之衆來」

> トバンを率いてますね。唐代の記載なので、なんともいえませんが、先日紹介したサイトで 記載されていた秦韓人が、頭を変形させる習俗が、ちょうど疏勒と関連してくることを考慮 していくと、この辺とのかかわりを考慮してみてもよいかと感じます。 >

> あと、月氏の諸侯の名称に、上記「キュウ」「ミ」音が多く見えます。 > もう少し調べてみます。 >

----- ワダ …水 M…マイム 開拓にはげむ喜び
投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 4 月 6 日(金)09 時 57 分 13 秒 返信・引用

マイム・マイムの「mayim(マイム)」とはヘブライ語で「水」を意味する言葉。もっとも有名 と思われるサビにあたる部分の歌詞『Mayim mayim be-sasson』は旧約聖書からの 借用であり、 直訳すると「喜びの水」となる。

直訳すると「あなた方は水を汲む」という意味である。シオニズム運動によって全世界 から 現在のイスラエルの地に戻ってきたユダヤ人が「国を建て、新しい息吹きのもとに 未開不毛 の地に希望の「水」をひいて開拓にはげむ喜び」をあらわした歌であるとされて いる ... <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%83%A0%E3%83%BB%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%83%A0> 「国を建て、新しい息吹きのもとに未開不毛の地に希望の「水」をひいて開拓にはげむ喜び」

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 于闐(クウタン・ホータン)投稿者:棘の紀氏
投稿日:2012 年 4 月 6 日(金)09 時 49 分 6 秒 返信・引用

ワダ (ホータン)和田

やはり秦氏（呉系楚人）にはミャオ族が色濃い。.... クサ、クス、クソ、コソ、コウド、コウヅ、コウノ、コウヌ、ノオ、サカ、サク、サワ シヅ、シャク、タク、ヤク、ワ、ワタ、ワダ、ワラ、マラ、ミノ。神
...<http://www.eonet.ne.jp/~temb/6/Zyomon3.htm>

熊野町に「ワタ」「ワダ」の地名の 異常な集中がみられること

<http://kamnavi.jp/log/kam1301.htm>

掲示板 setoh 秦と和田 h13.2.19「ワタ」「ワダ」の地名は海人と深い関係があるとあり(「ワタ」は海の意)、同 P 248~9 に掲

載されているある西日本の地図をみると新宮から熊野川に沿った地域、すなわち本宮町と熊野町に「ワタ」「ワダ」の地名の異常な集中がみられること、5 熊野本宮も熊野川の流域にあったこと、熊野本宮大社の神主、熊野連は平安後期には和田氏と称していたこと、等です。なお、三峰神社がある三峰山の荒川を挟んだ対岸に竈三柱神社という神社がありますが、こゝはもともと和田神社という神社があったのを、遷座してきた竈三柱神社に乗っ取られたもので、和田神社は海(ワタ)神社で海人の痕跡ではないかと思っています(秩父郡内で「ワタ」「ワダ」は他に秩父郡小鹿野町に和田という大字が2ヶ所あります)。

バタが日本語の ワタ、ワダになったと考えたという。 ... <http://e-asia2.board.coocan.jp/?m=listtop>

エジプトの”wadaur”が、日本語のワダツミの”ワダ”の由来と説明されていました。シルクロードの都市名：ホータンに当てた漢字の”和田”が、海に囲まれた日本に來ると、海の意味の”ワダ”に当てられているのは面白いと思いました。 <http://asyura.com/0411/idletalk12/msg/194.html> 英語の”water”の祖語となったヒッタイト語の”wa-ata-r”は、エジプトの”wadaur”に由来し、ウル語の ada (海)に行き着くという。このエジプトの”wadaur”が、日本語のワダツミの”ワダ”の由来と説明されていました。

ワダツミのワダの由来は書かれている。ウル語の ada (海)が エジプトに入り、wadaur (w 海 ウル語で)となり、そこから wada が来たと言う。同じ言葉が西のヒッタイト語(欧州語の祖語)に入り wa-ata-r となった。<http://www7a.biglobe.ne.jp/~monadon/bun052.htm> 木(ki)はウル語の gis^(ギシュ、木)から、gis^=>gi => ki となったもので、アイヌ語も gi

=> ni (木)という gn(グニュー)法則に則った変化をしており、日本とは兄弟にあたる。水はどうか。アッシリア語の me (水)とシュメール語の id (水)が同義語重複して、me + id => mid => miz => mizu となった。海の例はなかったが、ワダツミのワダの由来は書かれている。ウル語の ada (海)がエジプトに入り、wadaur (w 海 ウル語で)となり、そこから wada が来たと言う。同じ言葉が西のヒッタイト語(欧州語の祖語)に入り wa-ata-r となった。英語の water のご先祖である。英語のウォーター(Water)は、波を意味する W 音です。低周波をワウと言うでしょう。実は ヒエログリフのワウ wau(三本波 m は決定詞で読まない)は、エジプト語で波という意味があります。波をワと考えると、波(わ)立つ水=ワタツミ、すなわち海神(わだつみ=海)になります。ワタはウォーターのスペルの語源ですね。ワダ・ウルはエジプト語で海と いう意味ですが、ウルは後で説明します。

仏教が西域に伝来した後、于闐は小乗仏教の中心地の一つになった。西暦 3 世紀、朱士行が 于闐を訪れ、大乘仏教が主要な地位を占める ...<http://dsr.nii.ac.jp/narratives/discovery/02/>

中国では于闐{ウテン}Yutian と音写した。なおサンスクリット語ではクスターナ Kustana(「地の乳」と呼ばれたので、中国語ではこれ ...

『ピラミッドと繋がるのだろうか?』ホータン(于闐 うてん) ?(于) <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/639> 巨丹(新疆・ウイグル自治区のホータン)

「巨」は「規巨(矩)なり」とあり、「工に従い手もてこれを持つに象る」と説明されています。

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2586>

瓢箪はホータン=巨丹となります。次に伏羲と女媧は崑崙に住んでいたとされ、かつ伏羲は 胡盧で瓢箪を意味しています。 ... <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/211> 崑崙と玉の産地、ホータン(和田)との間に「天帝の丘」が位置する事になる。そこで私は試みに GOOGLE EARTH で崑崙とホータンとの間にそれらしきもの

が在るかを探してみた。するとそこに四辺形の「天帝の丘」とも見える遺跡が? 崑崙山脈北面、その麓の奥まった丘の上に造られた四辺形の人工造形物。その周辺には在るべき建設重機や搬送機の痕跡、更に人の痕跡すらない。それはピラミッドの底辺の形に似て、方や3500mの崑崙の丘の上。方やピラミッドはエジプト、ナイルの平地。『ピラミッドと繋がるのだろうか?』

月氏の先祖判明 - どんでん返しの卑弥呼の墓・邪馬台国―― 10・1 倭 ...

2011年 5月 19日 ... のちに、于闐国は、和田(ホータン、又はコータン)という。ここには、牛頭山があるから、はたして、禹氏が月氏なのか、どうか。わからない。2 昭武九姓に曹氏が居て、昭武九姓の先祖は月氏という。(新唐書西域伝) 康、安、曹、石、米、何、火 ...
<http://blog.goo.ne.jp/nanamihantaro/e/8d4690e144b73216f455ebdb80b6ffca>

論 ひとまず、2と3から、月氏の先祖は、3の帝舜有虞氏であるから、虞(グ)氏が、始祖です。虞氏から別れた九姓をひとまとめして、月氏という集団が生まれたのです。これを小月氏と言う。(小:九の意味)だから、昭武九姓というのであろう。

一方の匈奴に追われたのは、大月氏で、クシャン王朝の大夏翕族に、つながってゆきます。大夏:バクトラ:トカラですが、中国では、大月氏という。この証拠は、230年、魏へ朝貢したヴァースデーバです。

1については、江上波夫の影響もあったのであろう。先学は、月は、肉月の義にとられるなど、月氏を禹氏としている。しかし、禹と禺は、内部に属しているから、禹に近い漢字で、語家族です。すると、夏王朝の夏后氏に近いのです。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 | 《前のページ | 次のページ》

----- 秦氏と亀茲国 投稿者:管理人 投稿
日:2012年 4月 6日(金)06時 54分 22秒 返信・引用 編集済

また続いて秦氏の系譜を追ってます。先の秦氏の始祖・弓月君の件で、西域の弓月国の件を紹介しましたが、この国について調べていくうちに、亀茲国に関連性を見出すことができそうです。

弓月(クンユエ)国は、疏勒(シャロク)国と関連して出てくる弓月部の記載から考えて、疏勒国のそばにあったものと推定できます。

それで、疏勒国の東隣に亀茲国があります。亀茲で「キュウジ」、あるいは西欧文献で「クウガ」となります。

これは「弓月」「キュウグェツ」とかなり近い発音で、おそらくは同族だろうと感じます。元は月氏「ゲェシ」と同祖でしょう。

追記→「最近の研究で、新たに新疆[4]で出土したウイグル語訳の『慈恩伝』の中に、焉耆、亀茲を大月氏の遺留部族と記した箇所が見つかった」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%9C%88%E6%B0%8F>

それで、秦氏の始祖「弓月君」を調べていくと、先の「融通(ユウツウ)王」のほかに、「功智王」との記載があるんです。「クウチ」ですね。発音が極めて近い。

それでその系譜に出てくる秦氏の祖先名と、亀茲国の王名を比較していくと、また共通性が出てきました。

●秦氏系譜 「功満王(神秦、神機、蟹幡、蟹満、功満。弟助解君[河内、秦姓]—然能解公—武安君...秦姓氏)

—融通王(功智王。弓月君)—真徳王(弟普洞王[浦東君。仁徳天皇の御世に波陀姓を賜う]、弟雲師王[河内、大里史]、弟武良王[摂津、秦人、辟秦、簀秦画師 和泉、秦忌寸、秦{日+兼}])—布止古。」

<http://red.ribbon.to/~menorah/hata.html>

●亀茲国系譜 前漢時代 絳賓 丞徳...絳賓の子

後漢時代 則羅...莎車に立てられる 身毒...匈奴に立てられる 建...匈奴に立てられる 尤利多(? - 91年) 白霸(91年 - ?)...班超に立てられる 白英 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%80%E8%8C%B2>

あと、だいふ後の時代になりますが、唐代に蘇伐勃駼、蘇伐疊という王がでてきます。蘇我をイメージさせるのは気のせいでしょうか。このころには、クムトゥラ・キジール石窟にみられるような有名な仏教国でした。

要するに、

系譜上の始祖「功満王」は、「コウ(カイ)バン」と読み、亀茲国の最初の王「絳賓(コウヒン)」

次の「弓月君、功智王」は「キュウチ(ゲ)」で、「弓月・亀茲国」の始祖のこと。

続く「真徳(シントク)王」は、亀茲国の2代目「丞徳(ショウトク)王」、もしくは後漢時代の「身毒(シンドク)王」

そして、「普洞王」は浦東の発音から比して「ホ・フトウ」「ウトウ」の読みで、「于闐(クッターン・ホータン)」のこと。仁徳記にあるように、秦氏の「ハダ」姓の原型となった。

「武良王(ウリョウ・ウロウ)」は、亀茲国の6代目「尤利多(ウリタ)王」となります。傀儡王は排除されてますね。

その他、「武安君」は、秦の時代(前278年)の人名で、「武安県」を河北省にあり、遼東半島の根元あたりにおいてます。始皇帝の故郷だそうです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%AE%89%E5%B8%82>

「雲師王」の雲師は、西域の「車師国」を想起しますが、あるいはコリア語で「ウ(ン)サ」と呼んでおり、ちょっと宇佐関連で気になります。「雲を呼ぶ雲師(ウンサ)(青龍)(東)」

<http://blogs.dion.ne.jp/kazshin2007/archives/7014903.html>

まだ推測の域を出ませんが、亀茲国周辺から、秦氏の祖先がやってきた可能性を感じます。亀茲国あたりの中国文献を祖先との関連で読んでいたこともありうるでしょう。もちろん、秦時代の徐福伝承にも一枚噛んでくると思いますので、この辺もう少し追求していきましょう。

Ads by Google ----- 弓月君投稿者:管理人 投稿日:2012年4月5日(木)23時05分7秒 返信・引用編集済

ちょっと秦氏の系譜にある弓月君に注目しています。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%93%E6%9C%88%E5%90%9B>

弓月君を、後代融通王としているので、ウズマサの音とあわせて、日本での読みは「ユミツキ」から「ユツ」と理解すべきかと考えます。

ただ、漢音だと、ぜんぜん違うんですね。

「弓月」は漢音だと「キュウゲウェツ」、呉音だと「クウグワツ」が正解です。「融通王」も「ユツウ」「ユウトオ」王が正解です。

音的には「弓削」のほうが近いのですが、弓削氏はどうも、守屋の母方の氏族の名で、宇佐神宮と関係してくるようです。秦氏系では？

久米とともに、屯倉に関連してきます。

融通王の父親は、姓氏録に、仲哀8年にきたとある功満王です。ここでも仲哀・那津官家、秦氏のかかわりがでてきますね。8年は、新羅遠征の決断に、仲哀が迷いを生じた時期です。翌年すぐ天罰でなくなるのですが、ここには聖書的な伝承が含有されています。

秦氏の伝承だと、応神の時代に、新羅が邪魔をするので、日本から遠征軍を派遣して、ようやくたどりついたことになってますが、本来はこの仲哀の新羅遠征計画と伝承的にかかわってくるのでしょうか。

それで功満王は、呉「クマン」、漢「コウバン」です。

融通王以下、真徳王(シントク)、普洞王(フツウ、ホトゥ)、雲師王(ウンシ)、武良王(ムロウ、ブリョウ)です。

思うに、呉音と漢音で、秦氏の読み方が異なるのではないのでしょうか。

秦氏の集団名は上記の祖先の名称を考慮すると、呉音だと、ユツウ、漢音でハ(ホ)タ(トゥ)の可能性がありま

す。

秦+勝(集団名)でユヅマサと読ませたのも、雄略紀ころの呉音表記の影響ではないでしょうか。その後時代が下って、漢音になったのでしょうか。

あと、弓月国との関係を指摘する説があるのですが、「クンユエ(クウゲウエ)」国のことで、確かに資治通鑑に疏勒国とともに、「弓月部」という名称が見えます。

「軍還,至疏勒南,弓月部復引吐蕃之衆來」

<http://www24.atwiki.jp/tsugan/pages/69.html>

トバンを率いてますね。唐代の記載なので、なんともいえませんが、先日紹介したサイトで記載されていた秦韓人が、頭を变形させる習俗が、ちょうど疏勒と関連してくることを考慮していくと、この辺とのかかわりを考慮してみてもよいかと感じます。

あと「勝」も呉漢で「ショウ」ですが、「カツ・ガチ」と関係あると思います。「マサ」と読ませたり、朝鮮読みでスグリと読ませますが、ちょっと違う起源があるでしょう。「月(ガチ)」に近い。

いずれにせよ、「弓月」+「勝」が、集団の象徴的な名称で、なんらかの区別があって、「クユ+ツ+ゲ」…あたりが元の名称ではないかと感じます。

あと、月氏の諸侯の名称に、上記「キュウ」「ミ」音が多く見えます。

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%88%E6%B0%8F#.E5.A4.A7.E6.9C.88.E6.B0.8F_2

もう少し調べてみます。

----- Re:秦氏投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 5 日(木)21 時 59 分 4 秒 返信・引用編集済

管理人さんへのお返事です。

司馬遷の『史記』の巻百十八「淮南衡山列伝」によると、秦の始皇帝に、「東方の三神山に長生不老(不老不死)の靈薬がある」と具申し、始皇帝の命を受け、3,000 人の童男童女(若い男女)と百工(多くの技術者)を従え、五穀の種を持って、東方に船出し、「平原広沢(広い平野と湿地)」を得て、王となり戻らなかったとの記述がある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%90%E7%A6%8F>

秦野書、徐福と邪馬台国で古事記に結び付けるためこの項をいれた。

『後漢書』『隋書』倭国伝倭人伝を手がかりとして推察してみる。

會稽海外有東鯷人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬萊神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會

稽東冶縣人有入海行遭風、流移至澶洲者。所在絕遠、不可往來。

會稽海の外に東鯷人(ひしこ人)あり、二十餘國。他に夷洲(いしゅう)、澶洲(たんしゅう)。秦始皇は傳言し徐福將童男女數千人を遣わす、蓬萊神仙を求められず、責めをおそれ帰らず、この島に止まり、数万家を賜わる。東鯷人、會稽市に至る時、會稽東冶縣人、遭風航行し澶洲に至り絶遠する。往來できず。

遭風は遭遇航行になる。

その後、クニノトコタチノカミ(国之常立神)とトヨクモノカミ(豊雲野神)の二柱の神様が独身で現れました。その次からは、ご夫婦の神として五組の神々が現れました。そのうちの最後に現れましたのは、イザナギの神と(伊耶那岐命=イザナギノミコト)とイザナミの女神(イザナミノミコト=伊耶那美命)のご夫婦の神様です。(以上、クニノトコタチの神からイザナミの女神までを「神代七代(かみよななよ)」といいます。※ご夫婦の神は、二柱で一代です。)

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami.html

クニノトコタチノカミ(国之常立神)は地名になっている。 国之常立=常立之国=常陸の国、一部を紹介します。
地名は現在も使用されている。 <http://homepage2.nifty.com/watcher/cult8frame.htm>

伊耶那岐命=イザナギノミコトは諱(いみな) この諱(いみな)の解釈しだいで古事記が解読できるか、出来ないかのキーポイントになる。

クイズですな。伊耶那岐命を読み解けますか。

徐福と日本神話を校正中です時間がかかりそうです。

>ただ、実際に徐福の子孫であったかどうかは、これは、もう徐福という集団の秦時代の習俗 なり言語なりを洗い出して、その痕跡を求めないと始まらないように感じます。何か決定的 な特徴が必要だと思えますね。
>

>弓月君投稿者:管理人 投稿日:2012年4月5日(木)23時05分7秒 返信・引用編集済

ちょっと秦氏の系譜にある弓月君に注目しています。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%93%E6%9C%88%E5%90%9B>

弓月君を、後代融通王としているので、ウズマサの音とあわせて、日本での読みは「ユミツキ」 から「ユツ」と理解すべきかと考えます。

ただ、漢音だと、ぜんぜん違うんですね。

「弓月」は漢音だと「キュウゲウエツ」、呉音だと「クウグワツ」が正解です。「融通王」も「ユツ ウ」「ユウトオ」王が正解です。

音的には「弓削」のほうが近いのですが、弓削氏はどうも、守屋の母方の氏族の名で、宇佐神宮 と関係してくるようです。秦氏系では？

久米とともに、屯倉に関連してきます。

融通王の父親は、姓氏録に、仲哀8年にきたとある功満王です。ここでも仲哀・那津官家、秦 氏のかかわりがでてきますね。8年は、新羅遠征の決断に、仲哀が迷いを生じた時期です。翌 年すぐ天罰でなくなるのですが、ここには聖書的な伝承が含有されています。

秦氏の伝承だと、応神の時代に、新羅が邪魔をするので、日本から遠征軍を派遣して、ようやくくたどりついたことになってますが、本来はこの仲哀の新羅遠征計画と伝承的にかかわって くるのでしょうか。

それで功満王は、呉「クマン」、漢「コウバン」です。

融通王以下、真徳王(シントク)、普洞王(フヅウ、ホトゥ)、雲師王(ウンシ)、武良王(ム ロウ、ブリョウ)です。

思うに、呉音と漢音で、秦氏の読み方が異なるのではないのでしょうか。

秦氏の集団名は上記の祖先の名称を考慮すると、呉音だと、ユヅウ、漢音で ハ(ホ)タ(ト ウ)の可能性がありま

す。
秦+勝(集団名)でユヅマサと読ませたのも、雄略紀ころの呉音表記の影響ではないでしょうか。その後時代が下って、漢音になったのでしょうか。

あと、弓月国との関係を指摘する説があるのですが、「クンユエ(キュウゲウエ)」国のこと で、確かに資治通鑑に疏勒国とともに、「弓月部」という名称が見えます。

「軍還、至疏勒南、弓月部復引吐蕃之衆來」

<http://www24.atwiki.jp/tsugan/pages/69.html>

トバンを率いてますね。唐代の記載なので、なんともいえませんが、先日紹介したサイトで記 載されていた秦韓人が、頭を变形させる習俗が、ちょうど疏勒と関連してくることを考慮し ていくと、この辺とのかかわりを考

慮してみてもよいかと感じます。

あと「勝」も呉漢で「ショウ」ですが、「カツ・ガチ」と関係あると思います。「マサ」と読ませたり、朝鮮読みでスグリと読ませますが、ちょっと違う起源があるでしょう。「月(ガチ)」に近い。

いずれにせよ、「弓月」+「勝」が、集団の象徴的な名称で、なんらかの区別があって、「キュ+ツ +ゲ」…あたりが元の名称ではないかと感じます。

あと、月氏の諸侯の名称に、上記「キュウ」「ミ」音が多く見えます。

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%88%E6%B0%8F#.E5.A4.A7.E6.9C.88.E6.B0.8F_2

もう少し調べてみます。

Ads by Google ----- Re: 秦氏投稿者: 秦野北斗
投稿日: 2012 年 4 月 5 日(木) 21 時 59 分 4 秒 返信・引用編集済

管理人さんへのお返事です。

司馬遷の『史記』の巻百十八「淮南衡山列伝」によると、秦の始皇帝に、「東方の三神山に長生不老(不老不死)の霊薬がある」と具申し、始皇帝の命を受け、3,000 人の童男童女(若い男 女)と百工(多くの技術者)を従え、五穀の種を持って、東方に船出し、「平原広沢(広い平野と湿地)」を得て、王となり戻らなかったとの記述がある。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%90%E7%A6%8F>

秦野書、徐福と邪馬台国で古事記に結び付けるためこの項をいれた。

『後漢書』『隋書』倭国伝倭人伝を手がかりとして推察してみる。

會稽海外有東鯤人、分為二十餘國。又有夷洲及澶洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬萊神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東冶縣人有入海行遭風、流移至澶洲者。所在絕遠、不可往來。

會稽海の外に東鯤人(ひしこ人)あり、二十餘國。他に夷洲(いしゅう)、澶洲(たんしゅう)。秦始皇は傳言し徐福將童男女數千人を遣わす、蓬萊神仙を求められず、責めをおそれ帰らず、この島に止まり、数万家を賜わる。東鯤人、會稽市に至る時、會稽東冶縣人、遭風航行し澶洲に至り絶遠する。往來できず。

遭風は遭遇航行になる。

その後、クニノトコタチノカミ(国之常立神)とトヨクモノカミ(豊雲野神)の二柱の神様が独身で現れました。その次からは、ご夫婦の神として五組の神々が現れました。そのうちの最後に現れましたのは、イザナギの神と(伊耶那岐命=イザナギノミコト)とイザナミの女神(イザナミノミコト=伊耶那美命)のご夫婦の神様です。(以上、クニノトコタチの神からイザナミの女神までを「神代七代(かみよななよ)」といいます。※ご夫婦の神は、二柱で一代です。)

http://www15.plala.or.jp/kojiki/izanagi_izanami/izanagi_izanami.html

クニノトコタチノカミ(国之常立神)は地名になっている。 国之常立=常立之国=常陸の国、一部を紹介します。地名は現在も使用されている。 <http://homepage2.nifty.com/watcher/cult8frame.htm>

伊耶那岐命=イザナギノミコトは諱(いみな) この諱(いみな)の解釈しだいで古事記が解読できるか、出来ないかのキーポイントになる。

クイズですな。伊耶那岐命を読み解けますか。

徐福と日本神話を校正中です時間がかかりそうです。

> ただ、実際に徐福の子孫であったかどうかは、これは、もう徐福という集団の秦時代の習俗なり言語なりを洗い出して、その痕跡を求めないと始まらないように感じます。何か決定的な特徴が必要だと思いますね。
>

>

----- Re:秦氏投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 5 日(木)21 時 09 分 20 秒 返信・引用

> No.347[元記事へ] 秦野さん、護国運動家さん、こんばんは。

> 秦氏の分布図と徐福伝説がある地域が一致します。また、古事記の国生みも同一航路です。 > これらを結びつけるのが魏志倭人伝になる。秦野書、徐福と邪馬台国は古事記の糸口になっている。秦氏と方位ラインは重なる理由が理解できます。

確かに比較してみると、分布図似ているような気がしますね。航海に関係しているの、海沿いなのはわかりますが、秋田方面に分布があるのは特徴的です。

秦氏は移配の関係で、秋田方面の文献からも確認されていますが、その辺とのかかわりでとらえてはいかがでしょう。運動家さんのアイヌとのかかわりも出てくるかも？

そもそも中国系の伝承は、秦氏自身を取り込んでいるフシがあります。秦の始皇帝を始祖に持っていたりしていますよね。その始皇帝系譜などの文献自体は、中国から仕入れているわけですが、すでに秦韓時代から持ち合わせていた可能性も考慮すべきでしょう。

始皇帝系譜を知るためには、史記・漢書関連の文献が必要でしょうし、日本に渡来してきてから、調べるとなると、遣隋・唐使の時代を待ったか、独自のルートで中国へ向かって仕入れるなど、いくらか選択肢があったはずだと思います。

当然、徐福の伝承もそれらの文献に入っていたと思いますね。

ただ、実際に徐福の子孫であったかどうかは、これは、もう徐福という集団の秦時代の習俗なり言語なりを洗い出して、その痕跡を求めないと始まらないように感じます。何か決定的な特徴が必要だと思いますね。

----- Re:中臣鎌足について投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 5 日(木)20 時 53 分 19 秒 返信・引用

> No.348[元記事へ] 国の護国運動家さんへのお返事です。

秦野の知る所はアイヌ人、アイヌ語でアイ=矢、奴=兵士から矢奴と理解できる。アイヌの神話、歌に矢、鳥(鶴)、名まえの伝承があり、古代の状況と照らし合わせると、魏志倭人伝の倭人に相当すると見えています。年代は紀元前 1700 年、三苗(ミャオ族) <http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano20.htm> 注)神話は「三五暦記」に”天と地は九万里離れた。の里は秦野距離になります。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano21.htm>

> これについて、渡来人説もありますが、アイヌ人の可能性もあるのではないのでしょうか？>> アイヌ人は今はほとんどいませんが、昔はかなりいたと思います。天孫族との伝承は信用できないので。

中臣鎌足は神功皇后の三韓征伐と関係すると思われます。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano7.htm> <http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano8.htm>

----- 中臣鎌足について投稿者:皇国の護国運動家 投稿日:2012 年 4 月 5 日(木)20 時 03 分 59 秒 返信・引用

これについて、渡来人説もありますが、アイヌ人の可能性もあるのではないのでしょうか？

アイヌ人は今はほとんどいませんが、昔はかなりいたと思います。天孫族との伝承は信用できないので。

----- Re:秦氏投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 5 日(木)13 時 44 分 42 秒 返信・引用編集 済

> No.346[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

方位ラインが古事記、古代の総てを矛盾無く説明が出来る。

秦氏の渡来を説明したい。秦野も解読で驚くことがおおくあった。始まりは紀元前 200 年に 来た徐福の末裔になる。アマテラス、スサノウ、ツキヨミも同船している。

秦氏の分布図と徐福伝説がある地域が一致します。また、古事記の国生みも同一航路です。 これらを結びつけるのが魏志倭人伝になる。秦野書、徐福と邪馬台国は古事記の糸口になっている。秦氏と方位ラインは重なる理由が理解できます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%A6%E6%B0%8F>

<http://www.asukanet.gr.jp/tobira/jofuku/jofuku.htm> http://blogs.yahoo.co.jp/kawakatu_1205/49047870.html

> 屯倉方位ラインを見るに、秦氏の本拠深草をはじめ、各屯倉の周囲に実に秦氏の痕跡が多く 見える。池溝の後も多く見えて、後の応神陵につながるような、大規模の土木建築技術の萌芽が見えてきます。 >

> しかしながら、屯倉の展開は、継体前期あたりでもっとも盛んになるわけですから、1~2 世紀のスパンで、秦・蘇我…とともに、西日本・北九州からの文物の流れを考慮しないと

いけないのかもしれませんが。神功から継体・欽明まで一貫して秦氏の商業・土木…の影響 が見えてきます。

彼等はおそらく秦韓とは渡来後も交流を続けていたことでしょう。欽明期になって深草の秦 氏が台頭してくるわけですが、そこにも深草屯倉という存在が見えてきます。稲荷山そばで すが、屯倉四方区画の方位ライン的には稲荷山がライン拠点になっています 秦氏投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 5 日(木)07 時 21 分 37 秒 返信・引用編集済

> No.345[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > > 「新芽」「若芽」「水」の イメージを表す言葉です 例えば、赤ちゃんを「みどりご」 >
- > 聖書と応神天皇の関係はあるが、これは後日になります。 >
- > 聖書のキリスト誕生の三博士が東バビロンから赴いている。 >
- > <従来から疑問と興味を持っていた記事>

確かにキリスト教の影響を考慮せねばなりませんね。

仲哀から神功、応神にかけて、4 世紀末から 5 世紀初頭にかけての時期に、秦氏が北九州にや ってくるとともに、大陸系の文化がどっと流入してきた感じがします。

屯倉方位ラインを見るに、秦氏の本拠深草をはじめ、各屯倉の周囲に実に秦氏の痕跡が多く 見える。池溝の後も多く見えて、後の応神陵につながるような、大規模の土木建築技術の萌芽 が見えてきます。

法隆寺というある意味、大陸系の寺院から先の日文が見えることも、あるいは秦氏等の影響 を考慮せねばならないかもしれません。

アマテラスの話には、先の隠れた女神を誘い出すというヘブライ的な部分とともに、会報に も記したように、弓削負関連の話などキリスト教的な部分も散見しています。

弓削も屯倉周辺に多く見える地名ですが、ただ弓削そのものは、北九州の新漢人と深くかか わっており、秦氏よりさらに後に 5 世紀末からの継体時代にやってきた集団とみなすべきで、 ちょっと話が厄介になってきます。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%8F%E5%A7%93>

しかしながら、屯倉の展開は、継体前期あたりでもっとも盛んになるわけですから、1~2 世紀のスパンで、秦・蘇我…とともに、西日本・北九州からの文物の流れを考慮しないと いけないのかもしれませんが。神功から継体・欽明まで一貫して秦氏の商業・土木…の影響 が見えてきます。

彼等はおそらく秦韓とは渡来後も交流を続けていたことでしょう。欽明期になって深草の秦 氏が台頭してくるわけですが、そこにも深草屯倉という存在が見えてきます。稲荷山そばで すが、屯倉四方区画の方位ライン的

には稲荷山がライン拠点になっています。

最後の同族を、秦韓あたりから日本に招集しています。

その間に、秦韓地域には、新羅・高句麗・百濟方面から多くの中国・遊牧民文化が流れ込んでいたでしょうから、多彩な文化性をもって当然しかるべきですね。

欽明が大和の磯城嶋に都を遷すときに、秦(7053戸)・漢人らの帰化人の戸籍を記している点も、宮や屯倉の構築と、人民管理が同一視されていることをうかがわせます。下記の記載をよく読んでいただきたいのですが、

《欽明天皇元年(五四〇)正月甲子【十五】》元年春正月庚戌朔甲子。有司請立皇后。詔曰。立正妃武小広国押盾天皇女石姫為皇后。是生二男。一女。長曰箭田珠勝大兄皇子。仲曰訖語田淳中倉太珠敷尊。少曰笠縫皇女。〈更名狭田毛皇女。〉

珠勝大兄、狭田毛皇女にも秦氏「勝」関連名称が見えます。「語田淳中倉太珠敷尊」の名には、屯倉の倉もでてきますが、秦氏と三倉の関係は切っても切れない関係にあります。

《欽明天皇元年(五四〇)二月》二月。百濟人己知部投化。置倭国添上郡山村。今山村己知部之先也。

この時期になっても、まだ百濟から、「己知」の名称をもつ山城秦氏の同族がやってきてますね。

《欽明天皇元年(五四〇)三月》三月。蝦夷。隼人。並率衆帰附。《欽明天皇元年(五四〇)七月己丑【十四】》秋七月丙子朔己丑。遷都倭国磯城郡磯城嶋。仍号

為磯城嶋金刺宮。《欽明天皇元年(五四〇)八月》八月。高麗。百濟。新羅。任那。並遣使獻。並修貢職。『召集秦人

漢人等諸蕃投化者。安置国郡。編貫戸籍。秦人戸数惣七千五十三戸。以大蔵掾為秦伴造。

「諸蕃投化者」というのは、先の「百濟人己知部投化」と同じで、「投化」は欽明紀特有の表現であらうこと考慮すると、あるいは5世紀最初の秦氏の第1陣が渡来してから、継続して6世紀中葉にいたるまで移民が続いていたことを意味しているのかもしれませんが。

それで全国の国郡、おそらくは屯倉周辺に安置されたという解釈です。そうすると、最終的に秦氏が全国展開したのは、欽明期に入ってからということになるんですね。

秦氏の異動にはこうみると、非常に長いスパンがあって、540年代になると、新羅は400年代後半からの東欧系のガラス・金銀装飾関連の文化にどっぷりつかってますし、さらにその後の535年のクラウチア火山の噴火で世界的な大移動が起こったこともあり、中東から中国でも、キリスト教徒やユダヤ・ゾグド商人を巻き込んだ大移動があったことでしょう。

おそらく欽明期の秦氏招集についても、この火山の影響による大陸での食料不足や、戦乱逃避などもあったかもしれません。

そんななかで、アマテラス神話が徐々に形成されていき、複雑な宗教要素を含有していったとみなすべきかもしれません。その要素をひとつひとつ抽出してみたいところです。

日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催！結婚式。全部含んで 39800 円 - www.st-aqua.jp 少人数・2人だけの挙式プランも人気! 東京ベイ 浜松町 サンアクアチャペル トヨタレンタカー - rent.toyota.co.jp/

近くで見つかる、全国約 1,200 店舗。プリウスなど車種指定 OK! "航空券"まだ決まってない? -

www.skygate.co.jp そんな貴方に大ニュース! <<SKYGATE>>【本日入荷】の格安航空券バーゲン中 口臭い対策 2秒もいらない - www.w-direct.jp 主人の臭かった口臭も、便臭も今は... さて、たった1秒の口臭対策とは?

Ads by Google ----- Re: サザレ イーシェ・モシア(イエス・キリスト)「新芽」や「若枝」投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年4月4日(水)09時33分55秒 返信・引用

> No.344[元記事へ] 棘の紀氏さんへのお返事です。 >「新芽」「若芽」「水」のイメージを表す言葉です 例えば、赤ちゃんを「みどりご」 聖書と応神天皇の関係はあるが、これは後日になります。 聖書のキリスト誕生の三博士が東バビロンから赴いている。

<従来から疑問と興味を持っていた記事> ●応神天皇の諡号「誉田天皇広幡八幡麿」(ホムタノスメラミコト・ヒロハタ・ヤハタマ ロ)とは、ヘブライ語で「ユダ族が豊かに住む王国の丘陵にて、都を立ち上げ、栄光の神を奉れ!」という信仰を宣言し、人々を激励する言葉だった。 ●「ホムタワケ」とはヘブライ語で、「城壁を直ぐに建てよ」、「新しい神殿を立ち上げよ」、つまり「神の都(神殿)を新たに造営せよ」という意味なのです。 ●任那(ニンナ)という呼び名は、主浦(nim-nae)という場所の朝鮮語による訓読みであると考えられていますが、実はその語源はヘブライ語の(nimnah、ニンナ)です。この言葉はヘブライ語で「帰属する」、「仲間に数えられる」を意味します。正に、日本に都を建設する噂を 伝え聞いたイスラエル系の同胞が、約束の地に結集することを象徴するにふさわしい、帰属 意識を高潮させる言葉です。 ●任那を含む伽耶諸国の伽耶(カヤ)という言葉も「命と希望」を意味する言葉として選別された(khay-yah、カヤ)が語源です。この言葉はヘブライ語で単に「生きる!」ことを意味するだけでなく、言葉を数字に置き換えることができるヘブライ語では「十八」となることから、その数字は「幸運!」を意味するようになりました。

<http://www.naritacity.com/bbs/bbs/BBSDispMessage.asp?ThreadNo=31>

サザレ イーシェ・モシア(イエス・キリスト)「新芽」や「若枝」投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012年4月4日(水)08時52分43秒 返信・引用

「新芽」「若芽」「水」のイメージを表す言葉です 例えば、赤ちゃんを「みどりご」

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

神が選ばれる|黄金律 真のリーダー育成

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 神代文字・追伸 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年4月4日(水)07時58分2秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。 整理すればヘブライ文字が読めますな。

> さっそくお返事ありがとうございます。そうですね、語音の変化を抽出すると、 >>「ヒ」→「ハイ」「フ」→「ファ」「イツ」→「ツィア」「ム」→「マ」「ナナ」→「ナナネ」「コ」「コノ」→「カケネ」「トオ」→「タウオ」

天の八衢は特定済みです。 明石方向の神功皇后ラインになる。

>>>> 天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国までを照らす神がいた。その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキのように照り輝いているという姿であった。

猿田ヒコは古事記の項に記録がある。炉の内部で石をまっ赤に焼く…。 「この山に赤いイノシシがいる。これをわしらが追い出すから、お前はこれを待って、捕まえ

ろ。もし、失敗したら必ずお前の命をもらうぞ。」 とオオクニヌシに言うと、イノシシに似た大きな石を火でまっ赤に焼いて、山の上から転がして落としたのです。オオクニヌシは、落ちて来た火石をつかもうとして、無惨にもその熱に 焼かれて死んでしまいました。すると、オオクニヌシのお母さんの神が嘆き悲しみ、高天原に昇って、カミムスビノミコト(神産巢日命)にご相談されました。そこで、カミムスビノミコトは、オオクニシを生き返らせるために、キサガイヒメ(キサ貝比売。キサ貝=赤貝のこと。)とウムガイヒメ(蛤貝比売。蛤=はまぐり)を遣(つか)わせました。キサガイヒメは、自分の身を削り、ウムガイヒメが それを受けとめたのを母の母乳のように、オオクニシの体にやさしく塗ったところ、まことに美しい青年に復活したのです。(※古代の火傷(やけど)の治療方法)

http://www15.plala.or.jp/kojiki/Okuninushi/okuninushi_03.html

> なるほど、猿田ヒコは、ご指摘のとおり、炉関連の装置のように見えますね。八街の話は、確かに方位ラインと深くかかわっているように感じます。 >> こちらは煙突をつけた埴輪製造装置です。この辺もヒントになるのではないのでしょうか。

Re:神代文字・追伸投稿者:管理人 投稿日:2012年4月4日(水)06時27分11秒 返信 引用 編集済

> No.339[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんの言っている「ひふみ歌」はヘブライ語の訳で正しいです。 >>「HAIAFA·MI·YOTSIA·MA·NAANE·YKAKHENE·TAW O」(ハイアフ ミヨツァ マナーネ ヤーヘーナタウオ) > と発音されます。その意味は、 >「だれが女神様を出すのでしょうか。誘いに、いかなる言葉をかけるのでしょうか」なので す。」 > >「ひふみよ いむなや こともちろらね しきる ゆみつわめ そをたはくめか うおゑ にさりへて のます あせえほれけ」

さっそくお返事ありがとうございます。そうですね、語音の変化を抽出すると、「ヒ」→「ハイ」「フ」→「ファ」「イツ」→「ツィア」「ム」→「マ」「ナナ」→「ナナネ」「ココ

ノ」→「カケネ」「トオ」→「タウオ」

となります。 日本語でいう「イ・ウ・エ・オ行」が、ヘブライ語では「ア行」に変化しているようです。

難しいのですが、ヘブライ文字にはいわゆる母音表記がないので、子音だけ共通要素として 残って、母音はそれぞれ独自のつけ方をしたと解釈できるかもしれません。

昨日の比較文字表を見ると、もっと何か出てきそうな感じはあります。

>>> 天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国までを照らす神がいた。その神の 鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキのように照り輝いているという 姿であった。 >

> サルタヒコ > 鼻の長さ七咫(ナナアタ=約 1.2m)もあり、背の丈は七尺(約 2.1m)あまりで、身長は七尋(ナナヒロ=約 12.6m)近く。しかも、口と尻は明るく光っていて、目は八咫鏡(直径 46cm 前後)のように円く大きく、真っ赤なホオズキのように照り輝いている。 >> サルタヒコは文章から 2.1 m×12.6 mのドーム状、鼻は煙突で 1.2 m、口と尻から燃料を投入し、目(直径 46cm 前後)×2 から真っ赤なホオズキ色の光を出す灯籠、狼煙。 > 材質は石灰質系のさざれ石、山頂に置かれる。中心は三輪山の大神神社のなる。

>>「ひふみ歌」はサルタヒコに隠れたアマテラスを出すことになる。鏡でサルタヒコの目から 覗くとアマテラスがいたので、安の川原(箸墓)に集まり八百万が協議する。ドンちゃん騒ぎでアマテラスの興味を引き岩戸、サルタヒコから外に出す。サルタヒコに点火し光通信が 復活、この頃は葦原中国、黄泉、四国、巖島、宮崎ぐらい。中国史籍にサルタヒコらしい物が登場する。これには、手こずっている。

なるほど、猿田ヒコは、ご指摘のとおり、炉関連の装置のように見えますね。八街の話は、確かに方位ラインと深くかかわっているように感じます。

こちらは煙突をつけた埴輪製造装置です。この辺もヒントになるのではないのでしょうか。

<http://www.f-tougei.co.jp/photo/14183/haniwa/yaki1.html>

NEC 得選街 NEC 公式サイト - club.express.nec.co.jp/Store 第2世代インテル® Core™ i3 ノート PC が期間限定でお買得 日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催 ! トヨタレンタカー - rent.toyota.co.jp/

近くで見つかる、全国約 1,200 店舗。 プリウスなど車種指定 OK! 残念だった私を変えた英会話教材 - every-e.com 3年連続「日本一」がさらに圧倒的進化! 「使える英語」だけが簡単・速効で上達 "航空券"まだ決まてない? - www.skygate.co.jp そんな貴方に大ニュース! <<SKYGATE>>【本日入荷】の格安航空券バーゲン中

Ads by Google ----- Re:神代文字・追伸投稿者: 秦野北斗 投稿日:2012年4月3日(火)19時43分11秒 返信 引用 編集済

> No.338[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 管理人さんの言っている「ひふみ歌」はヘブライ語の訳で正し

いです。

「HAIAFA・MI・YOTSIA・MA・NAANE・YKAKHENE・TAW O」(ハイアフア ミヨツツア マナーネ ヤーヘーナ
タウオ) と発音されます。その意味は、「だれが女神様を出すのでしょうか。誘いに、いかなる言葉をかけるの
でしょう」なのです。」

「ひふみよ いむなや こともちろね しきる ゆゑつわぬ そをたはくめか うおゑに
さりへて のます あせえほれけ」

「この神歌は天照大神が天の岩戸に隠れましたとき「天鈿女命」が岩戸の前で楽しげに神舞 を舞うときに謡われ
た歌です。」

「だれが女神様を出すのでしょうか。誘いに、いかなる言葉をかけるのでしょうか」 なのです。」

屯倉方位ラインから遡ります。方位ラインは「さざれ石」の分布とほぼ一致している。 方位ラインがあり、細分化
され屯倉方位ラインに成ったと思われる。「さざれ石」がサルタヒコの残骸であることは話したがピンとこない
模様。

>> 邇邇芸尊が天降りしようとしたとき、天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中 国までを照らす神が
いた。その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオ ズキのように照り輝いているという姿
であった。そこで天照大神と高木神は天宇受売命(あ めのうずめ)に、その神の元へ行って誰であるか尋ねるよ
う命じた。その神が国津神の猿田 彦で、邇邇芸尊らの先導をしようと迎えに来たのであった。

サルタヒコ 鼻の長さ七咫(ナナアタ=約 1.2m)もあり、背の丈は七尺(約 2.1m)あまりで、身長は七尋(ナナ
ヒロ=約 12.6m)近く。しかも、口と尻は明るく光っていて、目は八咫鏡(直径 46cm 前後)の ように円く大
きく、真っ赤なホオズキのように照り輝いている。

サルタヒコは文章から 2.1 m×12.6 m のドーム状、鼻は煙突で 1.2 m、口と尻から燃料を投入 し、目(直径
46cm 前後)×2 から真っ赤なホオズキ色の光を出す灯籠、狼煙。 材質は石灰質系のさざれ石、山頂に置かれる。
中心は三輪山の大神神社のなる。サルタヒコは相当な大きさ、道をふさぐのは理解できる。その後、茅渟の道
を通り、韓半島へ 向かう。

後は神武天皇の登場…。

方位ラインとの関係は、三輪山から小浜方向はアマテラスライン、明石方向が神功皇后ライ ンになる。ほぼ奈
良、堺の古墳はカバーしている。サルタヒコで光通信の通信ノウハウを探すと「いろは歌」を語順に通信したと思
われる。

「ひふみ歌」はサルタヒコに隠れたアマテラスを出すことになる。鏡でサルタヒコの目から覗

くとアマテラスがいたので、安の川原(箸墓)に集まり八百万が協議する。ドンちゃん騒ぎ でアマテラスの興味
を引き岩戸、サルタヒコから外に出す。サルタヒコに点火し光通信が復 活、この頃は葦原中国、黄泉、四国、
巖島、宮崎ぐらい。中国史籍にサルタヒコらしい物が登場 する。これには、手こずっている。

ヘブライ語との関係は古事記の解読が必要になる。古事記の 20%は話したな。

> コンピューター認識で、文字を OCR でスキャンしたりしますが、その辺の情報データ変 換を駆使すれば、
おのづから、どの文字とどの文字に相関性があるかは見えてくるはずです。 だれかそういうソフトつくってく
れないかな？

HOME 研究会詳細 分野別情報 研究報告 探索記録 掲示板 リンク集 新刊紹介 渡来人研究会古代
史掲示板ログ 21

Re: 神代文字・追伸 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 3 日(火)07 時 58 分 3 秒 返信・引 用 編集
済 > No.336[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 神武東征は畝傍山を中心に宮崎から畝傍山にした。また、古墳は畝傍山を中心に比定した 模様。意外です。
尚、ヘブライ文字は神功皇后で解決します。

宮崎つまり日向の位置は重要ですね。 先の日文系の文字について調べていますが、阿比留家伝来のそれらの文字についての下記の ウィキの記載に、当家とのかかわりで、肥・薩摩方面がかかわってくるようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E6%AF%94%E7%95%99%E8%8D%89%E6%96%87%E5%AD%97>

宣長をはじめ、だいたい勘の鋭い連中が神代文字を解析しているのもわかるような気がします。

昨日サンプルにした。「節墨譜文字」については、

清原宣賢(吉田兼俱の子)は『日本書紀抄』(1527 年)において「其字形、声明(シャウミヤ ウ)ノハカセ(墨譜と書く。声明の楽譜の事)二似タリ」と、神代文字の形を具体的に述べて いる。「節墨譜文字」という呼び名はここから来ている。

とのことですよ。

「釈日本紀」に「此書(文字)今図書寮ニアリ。其ノ字体頗ル梵字ニ似タリ」という記述がある ことは、平安期には、おおむね成立していたと見るべきでしょう。

また

「歴史的仮名遣いである為に濁音や半濁音を表す文字はなく、「ん」に相当する文字も存在し ない。」

との点も文字の系統をさぐる上で重要です。

濁音のない世界を、調べてみると面白いことがわかってくるかもしれません。

たとえば「アマテラス」「サルタヒコ」「スサノオ」「ヤマタノオロチ」「カミヤマトイワレヒコ」 といった具合ですね。確かに上古音には、すくなくとも「パ」行が少ないような気がします。

何かその辺の濁音関連から、この文字の系統や使用されていた時代、関連伝承が抽出できな いでしょうか。

下記の下ヘブライ語の発音を見ると、「バ行」が「ウァ行」になって濁音が抜けるようです。 ただ「ガ」「ダ」行はあるようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%98%E3%83%96%E3%83%A9%E3%82%A4%E6%96%87%E5%AD%97>

それで日本神話の名称を見ていくと、「バ」行に相当する語が出てこないんです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%B2%A9%E6%88%B8>

「ハ」行について

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%AF%E8%A1%8C#.E6.BF.81.E9.9F.B3>

ハ行がもともとなかったとか、バ行が元だったとか、ハ行に上古音にはいろいろ説があるよ うですね。

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~kinosita/essayj11.htm>

あと、先の神代文字とヘブライ文字との比較をしていて気づくのは、ア行、つまりヘブライ語 同様に、母音に相当する神代文字にちょっと問題があります。ア行の文字が、そのままラ、ワ、 ヤ行に置き換わるようなフシがみえます。

「バ行」が「ウァ行」に変化するフシが、上古のそれに見えるかどうかひとつ課題です。「ハ タ・パタ氏」→「ウァタ氏」という具合ですね。

それでひふみ歌をのした三女神社の神代文字等を見るかぎりでも濁点は見えないですね。 ただ魏志倭人伝の記載をみると、やはり濁音系は少ないようです。

<http://www.g-hopper.ne.jp/bunn/gisi/gisi.html>

うまく整理がつかない感じですが、この辺の視点からも神話伝承を読んでみてください。

あと、「法隆寺秘蔵文字」と新古ヘブライ文字との対応表もつくってみました。先の「節墨譜文字」とほとんど同じですが、部分的に「節墨譜文字」より、ヘブライ文字に近い文字がみえます。ただ一方で、遠いものもでてきており、本来は双方をミックスしたものが、基礎の文字だったのではないかと感じます。

アラム文字とも比較していますが、個別の文字の角度の傾きや伸ばし具合など、いろいろ考慮していくと、やはり古ヘブライ文字が近いように感じます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E3%83%98%E3%83%96%E3%83%A9%E3%82%A4%E6%96%87%E5%AD%97>

文字の一致率を比較する数式をつくれればいいのではないのでしょうか。

コンピューター認識で、文字をOCRでスキャンしたりしますが、その辺の情報データ変換を駆使すれば、おのづから、どの文字とどの文字に相関性があるかは見えてくるはずですが、だれかそういうソフトつくってくれないかな？

日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催！トヨタレンタカー - rent.toyota.co.jp/ 近くで見つかる、全国約 1,200 店舗。プリウスなど車種指定 OK! 文庫大賞開催/小説作品募集中 - www.nihonbungakukan.co.jp 大賞作品は全国無料出版! 日本文学館 心揺さぶる力作を募集。締切 4/30 まで 残念だった私を変えた英会話教材 - every-e.com 3 年連続「日本一」がさらに圧倒的進化! 「使える英語」だけが簡単・速効で上達 "航空券" まだ決まってない? - www.skygate.co.jp そんな貴方に大ニュース! <<SKYGATE>> 【本日入荷】の格安航空券バーゲン中 Ads by Google ----- Re: 神代文字・追伸 投稿者: 管理人 投稿日: 2012 年 4 月 2 日(月) 23 時 08 分 57 秒 返信・引用 > No.332[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- ・ > さざれ石 神話を要約します。 >
- ・ > 猿田彦神社の『サルタヒコを送り届けて』の文章と猿田彦神社のさざれ石が結びつく。
- ・ > ニニギノミコトは、アメノウズメノミコトにこう言いました。
- ・ > サルトヒコの神を送って行ってあげなさい。
- ・ > アメノウズメノミコトは、サルタヒコを送り届けて帰って来る。
- ・ > 天皇にゆかりの深い神社、三重県松坂市にサルタヒコの神を祭る。
- ・ > 海で魚を獲(と)っていたところ

先の「ひふみ歌」で隠れている女神を誘い出すというテーマが、ユダヤの同様な「ひふみ歌」の意味にある点で神話的な部分から解明できないのでしょうか。

ひふみ歌と、その碑文がある三女神社は、女神というテーマで深く結びついてます。三の意味は、三宅の三です。

それで女神関連の神話というとアマテラスの岩戸簞りで、上記のサルタヒコやアマノウズメも重要な役目を担ってます。

三女神信仰は、宗像、宇佐方面に広がり、宗像の信仰は宮中に入ります。アマテラス信仰も伊勢と関連しながら、宮中に入ってくるわけですが、女神を誘い出すというテーマが、それらの伝承に入っていたとみるべきでしょう。

そしてその意味は、ひふみ歌のごとく、測量・数詞関連にもかかわってくる。

> 邇邇芸尊が天降りしようとしたとき、天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国までを照らす神がいた。その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキのように照り輝いているという姿であった。そこで天照大神と高木神は天宇受売命(あめのうずめ)に、その神の元へ行って誰であるか尋ねるよう命じた。その神が国津神の猿田彦で、邇邇芸尊らの先導をしようと迎えに来たのであった。

これらの神話伝承には、今まで見てきたとおり、測量の題材が実に多いですね。キシさんお得意の中国の古代

神話や文字成立にも、測量題材が実に多いようです。

ひふみよ…で、数詞の意味もかね合わせる点が、アラム語の特徴とよく似ています。 普通は数詞は、別の文字や意味を持ちます。「一、二、三、456」

だから数詞を持って意味を成すひふみ歌が訓読みの世界では容易に想像できるわけですね。 神話のひとつひとつのシーンに隠された意味があるように感じます。

----- Re: 神代文字・追伸 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 2 日(月)21 時 43 分 20 秒 返信・引用 編集済 > No.331[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

だんだんと、方位ラインが整理できて来ました。仁徳、応神、畝傍方位ラインは卑弥呼、神功 皇后(甕與)の方位ラインです。中国史籍と日本書記、古事記の矛盾は淡海三船の創作で生じている。考えは単純で畝傍山(神功皇后)を中心に神功皇后の子、応神、仁徳の順に並べ。諡号 淡海三船による一括撰進した。神武東征は畝傍山を中心に宮崎から畝傍山にした。また、古墳は畝傍山を中心に比定した模様。意外です。尚、ヘブライ文字は神功皇后で解決します。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B7%A1%E6%B5%B7%E4%B8%89%E8%88%B9>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E7%9A%87%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7>

高野山にも日本国の国歌である「さざれ石」がありました! : 仮設トイレの ... blog.kantanwc.com/e362681.html - キャッシュ お役に立ちませんでしたか?ログインして検索すると blog.kantanwc.com を結果からブロックできます。 blog.kantanwc.com

blog.kantanwc.com の結果をすべてブロック 2011 年 5 月 16 日 ? 日本国 国歌の「さざれ石の巖(いわお)となりて」という「さざれ石」が 高野山にもありました… 見た目にはきれいな石ではないが… 3 年前に九州に旅した時に

「霧島神社」にも大きな「さざれ石」があったと記憶している… 日本全国に「さざれ石」は ...

<http://blog.kantanwc.com/e362681.html> 何処の「さざれ石」を奉納したか不明。近くにサルタヒコが有った模様。

> もっともユダヤ人は後代まで新古ヘブライ文字の双方を使用していたそうなので、その辺 も考慮しなければなりません、ともあれ、明確な対応関係が見て取れるかと感じます。 >> 秦韓あたりから秦氏等が渡来して、その後奈良時代に至るまでに、どこかでヘブライ文化 が流入したと考えるのが妥当な感じがします。その辺の新旧を、もう少し追求してみたいと ころです。

>>

----- 聖なる北緯 43 度線【干】字状パターン

地域メッシュ 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 4 月 2 日(月)15 時 53 分 18 秒 返信・引用 聖なる北緯 43 度線【干】字状パターン 2005 年 5 月 1 日 - ... だが、そこから、古代聖地の多くが巨石や環状列石で、ある種の石は常磁性を持ち、そうした石は地球や宇宙と共振する。... この古代の聖地が北緯 43 度線上にあり、 同じく 43 度線上にある札幌の先、銭函に本拠地を置くカルト教団を巡る ...<http://sds.crazyflight.org/?p=39>

「人間キリスト」の復権話は秘密結社シオン修道士会(シオンは、シオニズムの語源になった エルサレムのこと)やダヴィンチが伝えようとしたことなのだが、そこから、古代聖地の多くが巨石や環状列石で、ある種の石は常磁性を持ち、そうした石は地球や宇宙と共振する。それは 40 億年につながる生命の鋳型だったのではないかと大きく展開するのだが、その 媒介項のキー・スポットが、レンヌ・ル・シャトーであり、43 度線なのだ。

古代の聖地が北緯 43 度線上にあり、同じく 43 度線上にある札幌の先、銭函に本拠地を置く カルト教団を巡るキリストの遺体争奪と再生を SF 仕立てで書いたのが「レックス・ムンデ ィ」だ。 遺体争奪と再生はともかく、北緯 43 度線は確かに不思議で、奇跡の水で知られるルルドも、 西欧有数の巡礼地とされるスペイン北部のサンチャゴ・デ・コンポステーラも、そこに至る 巡礼路も北緯 43°線上なのだ。それを宮下さんに知らせ

た。そうしたら、とんでもない偶然が おこり始めた。宮下さんが、「まほろば」の位置を調べてみたら、札幌をとりまく大きな三つの 山といくつかの主要な神社との関係が見えてきたのだ。

神社はなぜそこにあるか？ ストーンサークルの位置を世界測地系で示すと北緯 43 度 53 分 58 秒 49 東経 144 度 44 分 15 秒 14 ここでも、この遺跡の位置が図-9 の 7 から 10 に示した洞窟の位置によって 決められています。すなわち、図-8 で示した神社群中心である知床稲荷神社と縄文 遺跡 <http://w312.k.fiw-web.net/hscp/>「★荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡の位置は HSCP によって事前に予測できた。」 図-3 北海道と東北にある縄文遺跡などが作る正確な二等辺三角形 ストーンサークルの位置を世界測地系で示すと 北緯 43 度 53 分 58 秒 49 東経 144 度 44 分 15 秒 14

ここでも、この遺跡の位置が図-9 の 7 から 10 に示した洞窟の位置によって決められています。すなわち、図-8 で示した神社群中心である知床稲荷神社と縄文遺跡であるストーンサークルの位置が全く同じ思想で決められていることとなります。しかも、6 のストーンサークルの位置は周辺の神社に対して見ると、HSCP の規則が成立し、礼文島にあった知床稲荷神社と同じように神社群中心の位置にあるだけでなく、知床稲荷神社からストーンサークルに引いた線は、後に説明する古富士線を中心とした、干字状パターンの上側左側の線に相当しているのです。

ストーンサークルの干字状パターンは理解していただけたでしょうか？ この干字状パターンの T 字状部分を示したものがエレキジャック サイエンス No.1 135 P 図 5 になります。礼文島神社群中心・朱円環状土籬・古富士

「古代人がそのような遠距離を測量できたことはとても信じることができない」と未だに考 えている人も多いのではないかと危惧しています。しかし、常識をはるかに超えた驚愕する 事実にもかかわらず、今のところ、誰も否定することができません。この HP を開設して皆様 からご意見を求め、一年以上経過していますが、未だに何の反論もありません。鼻で笑ってこのページを読もうともしない人が多くいることも良く知っています。そこで、HSCP に対して理論的な反論をいただいた方には礼金として 50 万円を差し上げることになりました。ぜひ参加してください。もちろん、その反論は正しい理論的な裏付けが必要ですがどなたでも 参加できます。(2012.2.13 礼金を変更)

先住民の縄文人とピクト人では石造文化(大湯・アチャ平参照)や小人伝説が共通します。 次に寒冷化とともに大陸から弥生人やケルト人の流入があり、先住民文化を呑み込みます http://blogs.dion.ne.jp/pentacross/archives/cat_177585-1.html ★そしてその文化の延長上にある天文知見のひとつに伊勢内宮の「20 年遷宮(19 年周期)」があり、それを私の五芒星論で解説したのが図 IV で、ピクト人の「地を這う月周期」にも見られたもの。 ★この周期は古代マヤ人にも知見されており、こうした知見は高度な文明を持つ古代人なら 共通して入手できたようです。

ピクト人は入れ墨が特徴で、<picture>の語源となっている」というもの。 縄文人の入れ墨風習は真脇遺跡などから確認され、魏志倭人伝には「倭人はゲイ面文身(入れ墨のこと)をしている」との記述があります。

222.49 度:137.51 度=1.6180:1=φ:1 ... 大阪府枚方市の牧野車塚 古墳(東経 135.67 度)とイギリスのストーンヘンジ(西経 1.84 度)との経度の差「135.67-(-1.84)=137.51」度が円周を黄金分割する角度に一致するといえます。

<http://www.geocities.jp/yasuko8787/kyoui.htm>

黄金比と、に關係して日本美を思 <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/j-keijiban17.htm> ... 地域メッシュ(ちいきメッシュ)とは、統計に利用するために、緯度・経度に基づいて地域を ほぼ同じ大きさの網の目(<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/3183>

干 十干の語源と意義このぐるぐる回すというみから転じて十干が一巡してもとに 戻ろうと する十干の最後の 字にあてたとも云われていますが、後漢の「説文解字」によります と「 水、 四方より地中に 流入する形」とあり、また 1 人の足に象(かたど)る」ともあります。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/912>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 忍路環状列石の造られた時期は今から約 3500 年 前の縄文時代の後期です。投稿者:棘の紀 氏 投稿日:2012 年 4 月 2 日(月)14 時 56 分 9 秒

返信・引用 タムガリは、カザフスタンのアルマトイ州にある峡谷である。最大都市アルマトイからは 北 西に約 180 km のところにある。一帯には紀元前 14 世紀以降に描かれた 5000 点に のぼる岩 絵(線刻画)群が残されており、周辺に残る住居跡や祭祀場跡と推測... 2004 年には、中央アジアに残る岩絵群の中で、初めてユネスコの世界遺産リストに登録され た。 緯度:43.80 経度:75.54. 音江環状列石(おとえかんじょうれっせき)は、北海道深川市音江に所在する縄文時代の 環 状 列 石 群 で あ る 。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9F%B3%E6%B1%9F%E7%92%B0%E7%8A%B6%E5%88%97%E7%9F%B3> 緯度 043°42' 経度 142°05'

1 度=60 分=3600 秒と分割して表現する(0.1 度は 6 分となる)。

朱円環状土籬遺跡(ストーンサークル)が オクシベツ川手前にあります。道指定の文化財 に指定された、約 3,000 年前の縄文 時代後期の遺跡です 。 http://www.abashiri.pref.hokkaido.jp/ab-tssku/portal/shari/07_03.htm 朱円 25 遺跡は 、北緯 43°54'14"、東経 144°45'55"付近、

忍路環状列石の造られた時期と発見 忍路環状列石の造られた時期は今から約 3500 年 前の 縄文時代の後期です。 <http://www.mmjp.or.jp/OTARU/kyoyou/jstone.html> 小高い山は「三笠山」と呼ばれており、その為古くは三笠山環状石籬(現在は忍路環状列石) と呼ばれていました。近代になり、一部手を加えられ、造られた当時とは異なった所がありま す。

緯度経度は[43.19 ,140.87]

環状列石. 国指定史跡鷲ノ木遺跡の環状列石は、縄文時代後期前半(およそ 4000 年前)に 造られました。
http://www.town.hokkaido-mori.lg.jp/edu/stone/post_13.html 鷲ノ木 5 遺跡から出土した道内最大の環状列石(ストーンサークル) 緯度 042°04' 経度 140°35' 浜町(はまちょう) A 遺跡縄文時代後期のストーン・サークルや 甕棺墓 (かめか んぼ) など様々な形態の墓が発見されたことです。

<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1885>

地鎮山環状列石 北海道余市郡余市町米町 忍路環状列石の造られた時期は今から約 3,500 年前の縄文時代の後期です。 ... 明治 19 年の 報告(渡瀬 1886)には、小高い山は「三笠山」と呼ばれており、その為古くは三笠山環状石籬(現 在は忍路環状列石)と呼ばれていました。 ... 小樽市忍路 2 丁目の詳細地図のページです。緯度経度は[43.19 ,140.87] <http://www.mmjp.or.jp/OTARU/kyoyou/jstone.html>

忍路環状列石の造られた時期と発見 忍路環状列石の造られた時期は今から約 3500 年 前の 縄文時代の後期です。 <http://www.mmjp.or.jp/OTARU/kyoyou/jstone.html> 小高い山は「三笠山」と呼ばれており、その為古くは三笠山環状石籬(現在は忍路環状列石) と呼ばれていました。近代になり、一部手を加えられ、造られた当時とは異なった所がありま す。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 庚申の主神は、「申(猿)」から猿田彦神 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 4 月 2 日(月)13 時 25 分 44 秒 返信・引用

ヒンドウの孫悟空といえませんが「ラーマヤナ物語」を想起します。「マハーバーラタ」と 並 ぶ二大神話でヒーロー、ラーマ王子の冒険譚です。このヒーローの冒険の旅に随従 するのが 猿猴ハヌマンタなのです。ハヌマンタは主人公の怪我を癒す ... http://www.tkfd.or.jp/news/india2/36_20021001_1.shtml 事記、日本書紀に登場するサルタヒコが存在についてあらためて語る必要はないでしょう。 天孫ニギノミコトを擁して降臨の道を拓いた空翔ける猿神です。 ハヌマンタの活躍は彼を神格化に導いたのです。街の辻や街道の難所にはハヌマンタの祠堂 が随所にあります。なにより交通にまつわる人びとの厚い信仰をあつめ ています。日本史でいう馬借、車借に携わる人びとの崇敬を特に強く ... ハヌマンタは? インドの英雄譚「ラーマヤナ」はウァール・ミキというひとが書いたこ となっています。その存在は学者によって 3000 年前とも 2500 年ともいっています。 時代を設定することはいまのところ容易くはないようです。

道に関わるこの共同体は、ハヌマンタへの信仰がことのほか強いのです。

インドのヒンドウ・アイデンティティを発揮する物語を受け取った海の道の国々、例えばス リランカでは、換骨奪回して自らの物語にしました。他人の物語を借用し自らの文脈に当て 嵌めたのです。猿の文脈を通して自ら

のアイデンティティを培養したのです。それがひいては 共通の文化思考を分かち合うことに連なっているのです。それは決して直線で航路を走るものではありません。あちこちに寄り道し、そこで新たな文脈を蓄え、そこでもなにかを所産 として置いたでしょう。こうした何代にも渉った生活のなかから物語は醸成され育まれたのです。それが海の道の実態です。伝播の早さと文化として定着する早さにはズレがあるので す。

猿猴 軒轅 西岐には 3つの宝物があった。「七香車」という軒轅黄帝が使ったという乗った人の意思 により動くもの。「醒酒氈」という毛氈で酒に酔った人が横になるとたちまち正気になる というもの。「白面猿猴」で歌い舞う猿である。 <http://arielfortune.seesaa.net/article/107503559.html>

軒猿(のきざる)とは、忍者の一種で、戦国期には、上杉謙信を中心に『けんえん』とも 呼ば れていた。
<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1903> 猿~庚申信仰の猿(告げに行く) これには天台宗の修験者などが庚申に関わったことから、比叡山の地主神、山王(日吉大社)の神使「猿」の影響もあつてのことと思われる。... 庚申信仰(特に猿田彦神)は道祖神信仰とも 習合し、庚申塔は道標の役も担うようになった。 ...
<http://www15.plala.or.jp/timebox/top/07sinsi/fukuda/saru/saru-2-1.html>

人間の体の中には「三尸(さんし)の虫」という虫がいて、60日に一度くる庚申(コウシン・カノエサル)の日の夜、人が寝ている間に体から抜け出して天帝にその人の罪過を告げ に行く。 庚申の「申(サル)」から「猿」が庚申の神使とされた。これには天台宗の修験者などが庚申に関わったことから、比叡山の地主神、山王(日吉大社)の神使「猿」の影響もあつてのことと 思われる。なお、神道の庚申の主神は、「申(猿)」から猿田彦神とされたともいわれる。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 神代文字・追伸 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 4月 2日(月)07時 02分 46秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

ペテログリフはあるが、神社にある理由が不明、古事記に入ります。 方位ラインのさざれ石からです。

さざれ石 神話を要約します。 猿田彦神社の『サルタヒコを送り届けて』の文章と猿田彦神社のさざれ石が結びつく。

<http://blogs.yahoo.co.jp/sanaemac/27139090.html>

猿田彦神社

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8C%BF%E7%94%B0%E5%BD%A6%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

ニニギノミコトは、アメノウズメノミコトにこう言いました。 サルトヒコの神を送って行ってあげなさい。アメノウズメノミコトは、サルタヒコを送り届けて帰って来る。 天皇にゆかりの深い神社、三重県松坂市にサルタヒコの神を祭る。 海で魚を獲(と)っていたところ

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_06.html

邇邇芸尊が天降りしようとしたとき、天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国ま でを照らす神がいた。その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキ のように照り輝いているという姿であった。そこで天照大神と高木神は天宇受売命(あめの うずめ)に、その神の元へ行って誰であるか尋ねよう命じた。その神が国津神の猿田彦で、邇邇芸尊らの先導をしようと迎えに来たのであった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%AB%E3%82%BF%E3%83%92%E3%82%B3>

以上の文章からさざれ石はサルタヒコの残骸です。サルタヒコはのろしで光通信を目的とした物。用途は灯台、サーチライトで光はホオズキ、橙色。光通信距離は常陸、出雲、韓半島。常陸、伊勢、及び大和葛城、和泉葛城、四国高知、巖島、九州の大通信網が存在した模様。現存しているのが灯籠です。

> 下記に引用した三女神社のペテログリフを、同じく先に紹介した神代文字総覧サイトの中 にある「節墨譜文字」、「法隆寺秘蔵文字」あたりの五十音文字表から解析してみました。 >> どうも、「イロハニホヘト…」という「ひふみ祝詞」のようです。神道で、盛んに唱えられた 祝詞だそうで、いつの時代かに、石碑として刻まれたのでしょう。

>> したがって、その「ひふみ歌」が成立した時期までには、おそらくはヘブライ語の文字・数 詞・関連詩文、神話伝承等が日本に入っていて、その影響で、屯倉方位ライン上にあって宇 佐・秦氏の影響圏内の安心院・三女神社

で、このような碑文が刻まれたと解釈すべきかもしれません。 > 秦韓あたりから秦氏等が渡来して、その後奈良時代に至るまでに、どこかでヘブライ文化 が流入したと考えるのが妥当な感じがします。その辺の新旧を、もう少し追求してみたいと ころです。 >>

神代文字・追伸 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 2 日(月)06 時 23 分 17 秒 返信・引用 編集済
下記に引用した三女神社のペテログリフを、同じく先に紹介した神代文字総覧サイトの中に ある「節墨譜文字」、
「法隆寺秘蔵文字」あたりの五十音文字表から解析してみました。

どうも、「イロハニホヘト…」という「ひふみ祝詞」のようです。神道で、盛んに唱えられた祝 詞だそうで、いつの時代かに、石碑として刻まれたのでしょうか。

下記にそのカナ文字とペテログリフとの対応図を添付します。

こちらは「ひふみ祝詞」関連。

<http://www2.odn.ne.jp/~nihongodeasobo/konitan/iroha.htm>
http://www.geocities.jp/sizen_junnosuke/kotodama_mein.html 神代文字総覧
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~choreki/sinmoji.htm#f>

「ひふみよ いむなや こともちろね しきる ゆみつわぬ そをたはくめか うおゑに
さりへて のます あせえほれけ」

「この神歌は天照大神が天の岩戸に隠れましたとき「天鈿女命」が岩戸の前で楽しげに神舞 を舞うときに謡われた歌です。」

面白いのは、先日紹介したユダヤ人のヨハネ・アイデルバーグも、イスラエルの同様な「ひふ み歌」について類似性を指摘した上で、下記のように、その歌が女神が隠れたことを指摘して いる点です。

<http://www2.biglobe.ne.jp/~remnant/032kodai.htm>

「アイデルバーグ氏は、これはじつに美しいヘブル詩文だ、といいます。これはヘブル語では、「HI·FA·MI·YO·TSIA·MA·NANE·Y·KAKHENA·TAW O」とつづられ、「HAI·FA·MI·YOTSIA·MA·NAANE·YKAKHENE·TAW O」(ハIAファ ミヨツァ マナーネ ヤーヘーナタウオ)と発音されます。その意味は、「だれが女神様を出すのでしょうか。誘いに、いかなる言葉をかけるのでしょうか」 なのです。」

したがって、その「ひふみ歌」が成立した時期までには、おそらくはヘブライ語の文字・数 詞・関連詩文、神話伝承等が日本に入っていて、その影響で、屯倉方位ライン上にあって宇 佐・秦氏の影響圏内の安心院・三女神社で、このような碑文が刻まれたと解釈すべきかもしれ

れません。

そこで、さらにこの神社の「ひふみ歌」と、前述の「節墨譜文字」をメインにして、新古ヘブライ 文字との対応表を作成してみました。

この文字も、先の阿波文字や、出雲・伊勢系の日文とも同じ系統の文字なのですが、添付の対 応表を参照していただくとわかるように、先日の阿波文字との対応表にくらべて、新ヘブラ イ文字と対応する割合が大きいことに気づきます。

もっともユダヤ人は後代まで新古ヘブライ文字の双方を使用していたそうなので、その辺も 考慮しなければなりません。ともあれ、明確な対応関係が見て取れるかと感じます。

秦韓あたりから秦氏等が渡来して、その後奈良時代に至るまでに、どこかでヘブライ文化が 流入したと考えるのが妥当な感じがします。その辺の新旧を、もう少し追求してみたいとこ ころです。

婚活には価値観の一致が重要? - twincue.com 価値観の一致に注目したリクルートの 新しい婚活サイト! まずは無料診断 《母乳が良く出る》ハーブティー - www.amoma.jp 助産師が開発。母乳不足や母乳促進対策! 定期購入で送料無料。30 日間の返品保証付 ベビーマッサージスクール - ihta.or.jp 赤ちゃんコミュニケーション サイン・食育・すべてが学べる IHTA トヨタレンタカー - rent.toyota.co.jp/ 近くで見つかる、全国約 1,200 店舗。 プリウスなど車種指定 OK! 残念だった私を変えた英会話教材 - every-e.com 3 年連続「日本

一」がさらに圧倒的進化!「使える英語」だけが簡単・速効で上達 Ads by Google

----- Re: 神代文字 投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 4 月 2 日(月)00 時 54 分 29 秒 返信・引用 編集 済 > No.329[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 神代文字はペテログリフのようです。文字の対応はひらがな。神話を遡ると 1 万年バック できるのが根拠です。根拠は後日説明にします。今は方位でしたな。 >

さっそくお知らせありがとうございます。縄文?ペテログリフが各地の神社に残っているようですね。何かの位置や地図を示したような幾何学文様も多く見えます。

ご紹介いただいたペテログリフ関連の画像群の中で、下記サイトの三女神神社のペテログリフに、アラム系と見える特徴を見ました。

<http://f35.aaacafe.ne.jp/~shinri/petoro.html>

この神社については、昨晚の九州の屯倉方位ラインの四方区画作成の際に、屯倉拠点として 浮かびあがってきた知った「安心院」という場所にあるとのことで、「三女」の意味にも、屯倉 (三宅)の意味があったことであろうことも推定できます。

予想通り、かなり古い神社ですね。他にも奇妙な石造物がみられるそです。

<http://www.niigata-u.com/files/oita2009/090228e1.html> <http://www3.ocn.ne.jp/~tohara/usa-sanmyou.html>

ただ先の屯倉方位ラインに乗る拠点だと考えると、秦氏関連の 5 世紀代が疑われます。この三女神神社の日文は、見たところ阿波文字や出雲・伊勢・法隆寺のそれと同系であり ながら、かなり明確にアラム・古ヘブライ系文字の特徴を浮かび上がらせています。

この碑文がどのような状況で存在していたのかを調べてみたいところです。

Re: 神代文字 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 2 日(月)00 時 05 分 23 秒 返信・引用 編集 済
管理人さんへのお返事です。

神代文字はペテログリフのようです。文字の対応はひらがな。神話を遡ると 1 万年バックで できるのが根拠です。根拠は後日説明にします。今は方位でしたな。

最も古いものはウクライナの「カメンナヤ・モグリャ」にあるもので、旧石器時代(約 10,000 から 12,000 年前)のものといわれている。7,000 から 9,000 年前頃には絵文字や表意文字の ようなものが現れ始めた。この頃は世界中で岩面彫刻はまだ一般的であったが、いくつかの 文化では 20 世紀になって西洋の文化が入ってくるまで、使用し続けていた。ペテログリフは、 南極大陸を除く世界中で見つかっている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9A%E3%83%88%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%AA%E3%83%95>

http://www.google.co.jp/search?q=%E3%83%9A%E3%83%88%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%95&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&prmd=imvns&tbm=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=IWt4T9baLOLPmAXptNDpDw&ved=0CDwQsAQ&biw=1046&bih=893

>> バハラ地方 の少数ユダヤ人の間には、10 部族は長年アジア大陸を流浪し、あげくのはて に「中国の かなたの神秘的な国」に定着した、との伝説があります。..... イワレ」——やはり日本 語 では意味がないが、アラム語で「ヘブル」を意味する「IWRAA」が少し訛ったものと考え ら れる。祇園祭では、「舟車」といって舟の形をした山車が、町内をめぐる。また神輿には、 鳩に似た小鳥の彫刻や、榊の小枝をくわえた鳥の模型がついています。

>> 祇園関連は、中世に近い時点での伝来なので、別のカテゴリーに入れるべきでしょう。その ころには新羅商人がアラビアで活躍している文献もあるくらいですから、ユダヤ商人の影響 が日本にあっても何の不思議もありません。 >>> ただご紹介の「ヲシテ」の文字を見ていると、先日紹介したサイトにあった沖縄人とアイヌ

人との間に見えるイレズミ文様の共通性を想起させます。実際幾何学的な文字構造が、イレズミそっくりです。

>> そういう意味では、この文字には、古い起源があるかもしれません。秦野さんのアトランティス文字のそれと同様と感じます。 >

----- 神代文字 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 1 日(日)23 時 05 分 2 秒 返信・引用 編集済 > No.324[元記事へ]

キシさん、秦野さん、さっそく文字についての情報ありがとうございます。

> バハラ地方 の少数ユダヤ人の間には、10 部族は長年アジア大陸を流浪し、あげくのはてに「中国の かなたの神秘的な国」に定着した、との伝説があります。..... イワレ」——やはり日本語 では意味がないが、アラム語で「ヘブル」を意味する「IWRAA」が少し訛ったものと考え られ る。祇園祭では、「舟車」といって舟の形をした山車が、町内をめぐります。また神輿には、鳩

に似た小鳥の彫刻や、櫛の小枝をくわえた鳥の模型がついています。

祇園関連は、中世に近い時点での伝来なので、別のカテゴリーに入れるべきでしょう。そのころには新羅商人がアラビアで活躍している文献もあるくらいですから、ユダヤ商人の影響が 日本にあっても何の不思議ありません。

> 縄文時代の『ヲシテ』という記号のような文字で書かれた古文書『秀真伝(ホツマツタ エ)』のなかに、イザナギとイザナミが民の言葉の乱れを直すため 弥生」...「弥(い や)」は「いよいよ」

縄文関連は気になってます。YAP の関係で、遺伝子的に縄文人とイスラエルの祖先とは近い関係にありますが、ただ1万年とかそういうスパンの話なので、双方に同様な文字が伝わるかどうか疑問はあります。

ただご紹介の「ヲシテ」の文字を見ると、先日紹介したサイトにあった沖縄人とアイヌ人 との間に見えるイレズミ文様の共通性を想起させます。実際幾何学的な文字構造が、イレズミそっくりです。

そういう意味では、この文字には、古い起源があるかもしれません。秦野さんのアトランティス文字のそれと同様と感じます。

ただ、先日紹介した神代文字のうち、阿波文字・出雲・伊勢・法隆寺にみられた文字系統は 幾何学系の文字の崩しではないと理解してます。こちら参照 。 <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~choreki/sinmoji.htm#g>

左右非対称の文字で、漢字の崩しとも違う、別の起源があります。ア・ワ・ヤ行...などの 発音と、その対応した文字構造にしっかりした対応性があり、それらの文字が、捏造されたものとは違うこともわかります。そしてがな文字と共通性がある。

アラム系文字と解釈する理由は、その辺にもありまして、もっと科学的に分析すれば、しっかりとした発音と文字構造との対応を提示できると感じてます。下記に再度、古(新)ヘブライ文字とかな文字の対応表を添付しておきます。

入ってきたのは、弥生中期から5世紀までの間でしょう。この文字系統に絞って情報いただきたいと感ずるので、よろしくです。

----- Re: 九州屯倉方位ライン図 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 1 日(日)22 時 44 分 7 秒 返信・引用 編集済 > No.326[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 今戻りました、土日は大体どこか出向いてます。

> 秦野の提案ですが、方位ラインの大まかな線をさざれ石(これが何の残骸かは日本神話 で)を目印にして、あとは古墳、遺跡、宮で線を引く、距離単位 53 km、?km でどうでしょう か。

>

- > 韓国にもさざれ石が有ると思うが、ただ、保存されているか問題です。
- > 古墳を繋なぎ方位ラインを推測するしかない。さざれ石がみつければな。 >

- > さざれ石ラインと屯倉関連の四方区画の比較図を添付。 >

比較してみると、よく一致してますね。西日本の屯倉方位ラインは、25 km~29 km の四方 区画のようですから、確かに 2 倍して 53 km という線もできますね。

さざれ石という素材は、ある意味もっとも風化しにくい神道の遺物かもしれません。
古い神社には、もしかするとみなあったのではないのでしょうか。

屯倉の四方区画は、おそらく出雲・伊勢・宇佐…と言った古い弥生中期以降の神社を含んだ方位ラインをベースにしています。それらの神社で共通の素材があれば、当然一致してくるはずですね。

さざれ石の持つ本来の意味について、もう少し考えを進めていきたいところです。

----- Re: 九州屯倉方位ライン図 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 1 日(日)20 時 52 分 10 秒 返信・引用 編集済 >
No.322[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 秦野の提案ですが、方位ラインの大まかな線をさざれ石(これが何の残骸かは日本神話で)

を目印にして、あとは古墳、遺跡、宮で線を引く、距離単位 53 km、?km かどうか。 韓国にもさざれ石が有ると思うが、ただ、保存されているか問題です。

古墳を繋なぎ方位ラインを推測するしかない。さざれ石がみつければな。
さざれ石ラインと屯倉関連の四方区画の比較図を添付。

> そのほか、四方区画上に位置する由布院、安心院なども、かなり古い皇室領の可能性を感じますね。 >>
ただ四方区画の 1 辺が 25 キロ~あり、畿内の 23 キロ~より広いのが気になってます。尺 が変わったのか、弥生時代の四方区画に合わせたのが課題です。

> 先日紹介した宮の方位ライン図で、大和から宮の領域が徐々に東進し、春日、近江方面へと 南北へ拡大していく過程で、急に仲哀から九州へ宮を飛ばして、その後河内へ戻る経緯があります。 >

> 正確に測量するためには、四方区画の基準点の東西のどちらかをまず決めなければならぬ いわけでして、どちらかということ大和のそれ以前の四方区画と、この屯倉関連の四方区画は マッチしない傾向があります。 >

> 一方で北九州の四方区画には、弥生中期のものとマッチしており、出雲大社へのラインも その延長線上で出てくるように感じます。 >> 以前紹介したブサンからの出雲や吉備、伊勢に向かう 5 度角ラインについても、結局はこれらの四方区画メッシュのの交点を、結んだ結果として、90 度角が整数分割されて、5 度という整数地が出てきたものと感じます。

>> つまりそれは韓国でも同様な四方区画メッシュが存在するということを意味しているの でして、秦氏(それ以前は秦韓地域)からの渡来人と測量関連についても考慮していく必要 があるでしょう。 >

----- Re: 屯倉方位ライン修正版 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 1 日(日)19 時 26 分 9 秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

渡来人の記録は古事記にあります。2200、2600、3700 年でその文字は現在に引継がれています。 例として、常陸は 3700 年前の発音が引継がれています。よく見ると、結構あります。

せいぜい遡って 2200 年、古事記で十分でしょう。

秦野北斗の古代史で日本地図の一部を紹介しています。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano1.htm>

世界の伝説、神話を遡ると、カタカナ、ひらがな、は神代文字『アトランティス系』でヘブライ 文字、アトランティス文字に該当する。シルクロードは範囲内です。

カタカナはヘブライ文字

ひらがなは古代ヘブライ文字、アトランティス文字

> 一般的に、渡来人の影響で、文字文化が日本に伝わり、蘇我氏等のもとで、仏教導入から、戸籍作成などをして、屯倉拠点を展開していったとされてます。

> その矛盾を埋めるためには、弥生土器に記された文字片とか神社の磐に刻まれた文字を探さなければなりませんが、とりあえずは神代文字として残存が多少把握できる、そこをたどるしかないようです。 >

> 今回秦野さんの訪問された出雲大社・宇佐・伊勢神宮や法隆寺に、上記の神代文字が残っているそうですから、そのあたりに記された文字資料と、測量・神話伝承との兼ね合いを、解明していきたいところです。 >

> おそらくシルクロード系で伝わったアラム語系の文化が、弥生末期と、5~6世紀の渡来人の時代に2回前後かかわってきていると感じてます。測量の種類とも対応してきます。

----- 縄文時代の『ヲシテ』という記号 投稿者:
棘の紀氏 投稿日:2012年 4月 1日(日)09時 10分 54秒 返信・引用 >アラム語系の文化が、弥生末期と、5~6世紀の渡来人の時代に2回前後かかわってきていると感じてます。ヘブライ文字はアラム文字に由来するため、日本語や英語などと違って、子音を表す表記はあっても、母音を表す表記はないことが多く、言語の習得にはある程度の慣れが必要である。古代にパレスチナに住んでいたヘブライ人(ユダヤ人)が母語として用いていた言語古典

ヘブライ語(または聖書ヘブライ語)と、現在イスラエル国で話される現代ヘブライ語がある。現代ヘブライ語はヘブライ語で「イヴリット(イヴリット)」と呼ばれ、古代の聖書ヘブライ語は "Lashon HaKodesh" あるいは「聖なる言葉」すなわち「神の言語」という名前で知られていた。古典ヘブライ語はユダヤ人が世界離散(ディアスポラ)する以前には次第に話されなくなっており、後の時代の離散ユダヤ人は、かわってアラビア語・ラディーノ語・イディッシュ語などの諸言語を日常的に用いた。そのためヘブライ語は二千数百年の間、ユダヤ教の言葉として聖書(ヘブライ語聖書)やミシュナーなどの研究・儀式・祈り、別々の言語を話す遠隔のユダヤ人共同体同士がコミュニケーションを取る場合などに使われるのみであった。

バハラ地方の少数ユダヤ人の間には、10部族は長年アジア大陸を流浪し、あげくのはてに「中国の かなたの神秘的な国」に定着した、との伝説があります。..... イワレ——やはり日本語では意味がないが、アラム語で「ヘブル」を意味する「IWRAA」が少し訛ったものと考えられ

る。<http://www2.biglobe.ne.jp/~remnant/032kodai.htm> シルクロード内の絹の取引などは、ユダヤ商人がほぼ独占していました。A.D.3世紀には、すでに中国の開封に、ユダヤ人コミュニティがありました。A.D.12世紀にはそこにユダヤ教会堂もあり、中国のユダヤ人社会は最近まで存在していたことが知られています。ですから彼らの一部が、古代の日本に渡来した可能性も、充分考えられるわけです。

祇園祭では、「舟車」といって舟の形をした山車が、町内をめぐります。また神輿には、鳩に似た小鳥の彫刻や、櫛の小枝をくわえた鳥の模型がついています。これらのことは、ノアの箱舟や、箱舟にオリーブの小枝をくわえて戻ってきた鳩の話を、思い起こさせるものであるわけです(創世 8:11)。

「HAIAFA・MI・YOTSIA・MA・NAANE・YKAKHENE・TAWO」(ハイアフア ミヨツツア マナーネ ヤーヘーナ タウオ)と発音されます。その意味は、「だれが女神様を出すのでしょうか。誘いに、いかなる言葉をかけるのでしょうか」なのです。日本語では全く意味のない「ひい、ふう、みい…」が、ヘブル語として見れば、非常によく意味の通る言葉になるのです。

縄文時代の『ヲシテ』という記号のような文字で書かれた古文書『秀真伝(ホツマツタエ)』のなかに、イザナギとイザナミが民の言葉の乱れを直すため 弥生」…「弥(いや)」は「いよいよ」ますますの意。... また、アメノコヤネノミコトの「コヤネ」は、古代ヘブライ語で「祭司」を意味するという。<http://blog.goo.ne.jp/niyatsuku2>

【ヲシテ文献】漢字渡来前の日本を探る【ch 桜】6-1 http://www.youtube.com/watch?v=Dm8zldpBVdu&feature=player_embedded <http://www.youtube.com/watch?v=fZZqcr1CmJg&feature=relmfu> <http://www.youtube.com/watch?v=sFy96NceeGY&feature=relmfu> <http://www.youtube.com/watch?v=2gaGgU5JGBk&feature=relmfu> <http://www.youtube.com/watch?>

----- Re: 九州屯倉方位ライン図 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 4 月 1 日(日)08 時 45 分 53 秒 返信・引用 > No.322[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

屯倉方位ラインとさざれ石のラインがほぼ一致している。 古代のある時から方位ラインで領地を正確に区割りしたみたいですね。

> 続いて九州の屯倉に関する方位ライン図を作成してみました。秦野さんが訪問されてきた 出雲、宇佐なども出てきます。その方位ライン図を添付いたしますので、よろしくご参照ください。 >

> 本州とは仲哀時代の福岡の香椎宮から出雲大社に延びるラインで連結されています。 >> 宇佐の赤塚古墳周辺なども基点としており、先日紹介した弥生中期の四方区画とも連結してきます。 >> 本州の屯倉方位ライン同様

九州屯倉方位ライン図 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 4 月 1 日(日)07 時 56 分 56 秒 返信・引用 編集済 続いて九州の屯倉に関する方位ライン図を作成してみました。秦野さんが訪問されてきた出 雲、宇佐なども出てきます。その方位ライン図を添付いたしますので、よろしくご参照ください。

本州とは仲哀時代の福岡の香椎宮から出雲大社に延びるラインで連結されています。

宇佐の赤塚古墳周辺なども基点としており、先日紹介した弥生中期の四方区画とも連結して きます。

本州の屯倉方位ライン同様に、四方区画およびライン上に、「三」「倉」や「宮」などの皇室関連 の地名が見えます。

特に注目したいのは、斉明女帝の朝倉宮の位置についてで、朝倉市東部に見える三奈木あたりの地名が、ひっかかりました。朝倉山との関係で東部地域に注目です。

朝倉の意味は、もともと屯倉があったということだったのでしょうか。その宮基盤があつては じめて、あそこに遷都できたわけですね。

そのほか屯倉の位置推定もしました。

推定根拠の詳細は今回は割愛しますが、特に宇佐元宮の築上郡あたりも四方区画に出てき ており、「桑原屯倉」= 桑原勝;秦氏関連など秦氏との兼ね合いが見られます。また「勝崎屯 倉」は、国東半島のことではないでしょうか。

そのほか、四方区画上に位置する由布院、安心院なども、かなり古い皇室領の可能性を感じ ますね。

ただ四方区画の 1 辺が 25 キロ~あり、畿内の 23 キロ~より広いのが気になってます。尺が 変わったのか、弥生時代の四方区画に合わせたのが課題です。

そのほか、注目すべきは、香椎宮という仲哀天皇の宮が出てきたことです。

先日紹介した宮の方位ライン図で、大和から宮の領域が徐々に東進し、春日、近江方面へと南 北へ拡大していく過程で、急に仲哀から九州へ宮を飛ばして、その後河内へ戻る経緯があり ます。

これらの仲哀が九州北部に宮を移動した行動記載の背景には、関連の四方区画メッシュの測 量拠点を西の一番端に持っていったということを暗示しているのかもしれない。

正確に測量するためには、四方区画の基準点の東西のどちらかをまず決めなければならな いわけですし、どちらかというと大和のそれ以前の四方区画と、この屯倉関連の四方区画は マッチしない傾向があります。

一方で北九州の四方区画には、弥生中期のものとマッチしており、出雲大社へのラインもそ の延長線上で出てくるように感じます。

以前紹介したプサンからの出雲や吉備、伊勢に向かう 5 度角ラインについても、結局はこれ らの四方区画メッシュのの交点を、結んだ結果として、90 度角が整数分割されて、5 度という 整数地が出てきたものと感じます。

つまりそれは韓国でも同様な四方区画メッシュが存在するということを意味しているので、秦氏(それ以前は秦韓地域)からの渡来人と測量関連についても考慮していく必要があるでしょう

----- Re: 屯倉方位ライン修正版 投稿者:管理人
投稿日:2012年 4月 1日(日)02時 09分 26秒 返信引用 編集済 > No.320[元記事へ]

秦野さん、お帰りなさい!

> 家族旅行で鳥取、出雲、福岡、甘木、宇佐に行ってきました。移動中のことですが舞鶴若狭自動車道で古墳が2つ目に付きました。それも、山のど真です。方位ラインが走っている可能性はあるのでは。 >

> どうも、さざれ石が方位ラインに成っている可能性があるみたいです。

そうでしたか、なんだか留守の間作成していた屯倉方位ラインをたどるような旅ですね! 舞鶴に三宅神社があり、屯倉とのかかわりが指摘されています。

河内南部にも、桜井、依網屯倉がありますが、この時代になると国分寺など寺院関連も、拠点となってくるようです。

一般的に、渡来人の影響で、文字文化が日本に伝わり、蘇我氏等のもとで、仏教導入から、戸籍作成などをして、屯倉拠点を展開していったとされてます。

確かにこれらの精密な測量をするには、どこの四方区画にどういう宮や寺があって、そこまでの距離がいくらのような、文章と図面を記す技術が必要になってきます。そして文字の導入によって、記録という作業が可能になると論じられてきました。

屯倉の方位ラインの正確さは文字文化あつてのことと考えるのですが、ただ下記のような全国にわたり四方区画の方位測量は、弥生中期からすでに同様な精密さをもって存在し続けてます。

「日向のどここのだれだれさんのところの古墳と、その四方区画では。距離が 100 尺で…で」という、先に紹介した前漢の馬王堆墓のような、軍事測量図が存在していたはずで、そこには当然文字も記されていたと思います。

しかし文献史学でも考古学でも、渡来人以前の文字の使用は否定していますから、矛盾が起こってくるんですね。

その矛盾を埋めるためには、弥生土器に記された文字片とか神社の磐に刻まれた文字を探さなければなりませんが、とりあえずは神代文字として残存が多少把握できる、そこをたどるしかないようです。

今回秦野さんの訪問された出雲大社・宇佐・伊勢神宮や法隆寺に、上記の神代文字が残っているそうですから、そのあたりに記された文字資料と、測量・神話伝承との兼ね合いを、解明していきたいところです。

おそらくシルクロード系で伝わったアラム語系の文化が、弥生末期と、5~6世紀の渡来人の時代に2回前後かわってきていると感じてます。測量の種類とも対応してきます。

----- Re: 屯倉方位ライン修正版 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年 3月 31日(土)20時 51分 49秒 返信引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

家族旅行で鳥取、出雲、福岡、甘木、宇佐に行ってきました。移動中のことですが舞鶴若狭自動車道で古墳が2つ目に付きました。それも、山のど真です。方位ラインが走っている可能性はあるのでは。

どうも、さざれ石が方位ラインに成っている可能性があるみたいです。

> その単位となる四方区画については、残存地名から類推して、正方区画の可能性を考えはじめました。22.5 KM 前後の四方区画です。 >> 同様な全国に渡った四方区画は、おそらくは弥生中期ころからの測量で、何度か作成されていたものと感じますが、具体的に地名が残っている点では、屯倉関連の四方区画が特に理解しやすいです。

屯倉方位ライン修正版 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 31日(土)08時 27分 36秒 返信引用

編集済 キシさん、情報ありがとうございます。また文字の件は今晚あたりに…。 屯倉の方位ラインについて、さらに修正してみました。 図を添付いたします。拡大してご覧ください。

青色文字が、屯倉関連の地名です。「三」倉などの屯倉をあらわす地名が今でも多く残っているようです。また「御(厨・津)」「代」など、皇室の所領をあらわす地名も多いようです。府 中など国府とのかかわりも見えますね。

その単位となる四方区画については、残存地名から類推して、正方形区画の可能性を考えはじめました。22.5 KM 前後の四方区画です。

同様な全国に渡った四方区画は、おそらくは弥生中期ころからの測量で、何度か作成されていたものと感じますが、具体的に地名が残っている点では、屯倉関連の四方区画が特に理解しやすいです。

屯倉自体は、これらのメッシュ図の方位ライン上に載ることは間違いないと思われますが、具体的にどの屯倉がメッシュのどこに載るかについては、もう少し調査を進めてみたいと思います。

引越してどこが安い? - hikoshizamurai.jp TVCM 放送中! アリさん、サカイなど 130 社から最大 10 社無料見積 ネット婚活の新サービス - twincue.com 価値観のあうパートナー候補を ネット上でご紹介! まずは無料診断 成功"ミルクから完全母乳"に - www.amoma.jp 母乳育児期の母乳不足やドロドロ母乳に! 助産師が開発したハーブティー。1796 円~ 残念だった私を変えた英会話教材 - every-e.com 3 年連続「日本一」がさらに圧倒的進化! 「使える英語」だけが簡単・速効で上達 "航空券" まだ決まってない? - www.skygate.co.jp そんな貴方に大ニュース! <<SKYGATE>> 【本日入荷】の格安航空券バーゲン中 Ads by Google

----- 中国周辺の文字 投稿者: 棘の紀氏 投稿日: 2012 年 3 月 30 日(金) 10 時 57 分 21 秒 返信・引用 2001 年 7 月 8 日 - L6 パスバ文字
「アラム文字」+「ヘブライ文字」----- | 「カロシュティ文字」 ◆「エジプト」 ... L2 ソグド文字-----「3 古代ウイグル文字」 | 「モンゴル文字」----- | 「710 満州文字」
... <http://homepage3.nifty.com/~sirakawa/Coin/C002.htm>

殷の時代の文字、殷代文字(BC1300 頃)についてですが、右に甲骨文字の写真 があります。 今から 3300 年 ... さて、10、11、12 世紀くらいになりますと、遼という国では 契丹文字、西夏 国では西夏文字、金という国では女真文字が作られました。

<http://www.manabi.pref.aichi.jp/general/10022587/0/kouza/section4.html>

片仮名の字形・字源 一片仮名の発達史 則天文字の成立とわが国への将来 書のある 風景 日本のカタカナは、新羅の口訣が起源 だった

http://www26.atwiki.jp/crescent_castle/pages/183.html

自国語を記すのに使った事がカタカナの発明なのであるが、それを抜きにして起源を語って も仕方が無い。新羅も高麗も口訣を自国語を現すのに使う事は結局無かった。漢文で記し、自 国の固有語は全て漢字に音写した。そして、結局、仮名が漢字を崩したモノである以上、カタ カナの起源は中国で終了する。

仮 名 の 登 場 [編 集] [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%AE%E5%90%8D_\(%E6%96%87%E5%AD%97\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%AE%E5%90%8D_(%E6%96%87%E5%AD%97)) やがて奈良時代の末ごろより仏教の經典を講読する僧侶の間で、經典の行間に漢字の意味や 音をある種の表音文字でもって書き加える例が見られるようになる。この文字は漢字の一部 や画数の少ない漢字などから作られ、要するに借字である漢字の形を変えたものであるが、これが現在の片仮名の源流である。また一方では都が平城京から平安京に遷されたのち、借 字から現在の平仮名の源流となるものが現れる。これは借字としての漢字を草書よりもさらに崩した書体でもって記したものである。その平仮名を数字分の続け字すなわち連綿にすることによって意味の区切りを作り出し、長い文章でも綴ることが可能となった。これによっ て『土佐日記』などをはじめとする平仮名による文学作品が平安時代以降、発達するようになる。 借字が「かな」と呼ばれるようになったのは、漢字を真名(まな)といったのに対照してのものである。古くは「かりな」と読み、撥音便形「かんな」を経て「かな」の形に定着した。また片 仮名の「かた」とは不完全なことを意味し、漢字に対して省略した字形ということである。[真名(まな)

ヘブライ語でマナとはパンの事を言い、パンを入れるための壺を「マナの壺」言う。

<http://blogs.yahoo.co.jp/leg1723/27169518.html>

日本語のルーツ 第13章 仮名文字に潜むヘブライ語の影 日本語と

...http://judea.naritacity.com/journal_japan_050515.asp また日本語で愛をマナと読んだ理由も神の賜物に係しているかもしれません。もしそうならば、仮名文字とヘブライ語に何らかの共通点があるはずですが、これは単なる偶然でしょうか？紀元前8世紀、国家の崩壊後、イスラエルの民が日本に移住を開始したとするならば、仮名文字の創生にあたってヘブライ文化が多大な影響を与えた可能性を否定できません。日本と中国との文化交流が深まり、漢字文字や宗教文化が矢継ぎ早に国内に流入しつつある奈良、平安時代においては、中国の優れた文化を日本に導入することは国家の至上命令でもありまし

た。そして政権争いの渦中、遣唐使を例に多くの学者が大陸に旅立つ過程において、漢字文化は学問の基本として既に認知されていたものの、同時に漢字とは別に日本語の発音に適した自国の文字を創作することが望まれたのではないのでしょうか。そこでヘブライ語の子音を参考にして、読みが同じで形状が類似している漢字をまず選び、それをくずして仮名文字を描いたと考えられます。こうして表面的には中国の漢字文化に由来しているように見せかけながらも、実際にはその背面下でヘブライ文化が息吹いていることを、見事に隠蔽したのです。すなわち、仮名文字とは、イスラエル文化を国民の知らぬ内に上手に流用するための、究極の手段であったのです。

西日本の屯倉方位ライン 投稿者:管理人 投稿日:2012年3月30日(金)07時17分23秒 通報 返信・引用 編集済 また先日続き、さらに拡大版の屯倉方位ライン図を作成してみました。

かなりまだアバウトではありますが、東西20.5km、南北43kmほどの四方区画を、全国へと拡大しき、その四方区画の頂点もしくは線上に屯倉を配置していった模様です。

そこに仲哀天皇の穴門豊浦宮や、橿日宮→出雲大社ラインもかかわってくることがわかりました。

現在でも「三(宅)」の着く地名、春日部関連、秦・蘇我関連、池溝など、顕著な特徴が見えます。

各屯倉の詳細は、また後で報告しますが、とりあえずは、試作版のライン図を添付しますので、よろしくご参照ください。

屯倉関連の方位ライン 投稿者:管理人 投稿日:2012年3月28日(水)06時30分18秒 返信・引用 編集済 先日から天皇の宮の四方区画について、徐々に範囲を奈良から近畿へと拡大していく過程を

紹介してきましたが、その延長線上で、屯倉についての方位ラインを作成してみました。

屯倉については、皇室の直轄領として宮との関連も指摘されてきたところです。時代的には、5世紀ごろから現れはじめていますが、先の宮の範囲が河内や近江へと拡大していくことと関係しているものと感じます。

今回見つけた方位ラインは、京都の稲荷山そばの深草屯倉(皇極期・深草坊町)から、東南へラインが伸びて、淡路屯倉(仲哀期・南あわじ市榎列屯倉神社)、春日部屯倉(安閑・阿波・春日部神社)が一つ目です。

次に、深草屯倉から西にラインを伸ばして、縮見屯倉(清寧・神埼群福崎町南田原)、白猪屯倉(欽明・久米南町加茂神社)になります。

そして、縮見屯倉は、淡路屯倉と南北ラインで結ばれ、同じく讃岐国分寺と児島屯倉、白猪屯倉も、南北ラインで結ばれて、73kmの四方区画を形成していることがわかります。

上記のライン拠点は、主に推定地となりますが、根拠は下記のとおりです。春日部・深草屯倉は伝承のとおりです。

白猪屯倉については、北東の久世町が有力視されてますが、ライン的には屯倉進出と関係する久米・弓削の地名が残るこのあたりかと感じます。久世町と白猪屯倉については下記をご参照ください。

<http://limestone.blue.coocan.jp/outdoor/iroiro/kuse/kuse.htm>

児島屯倉は、児島湾北部の倉田(倉富)二間川の地名が残り、そこがこの四方区画の中間地点になります。あるいはこのライン上にある児島湾南岸の「郡」という地名も、有力視されているところですよ。

なお讃岐には屯倉記載がないのですが、その代わりに讃岐国分寺が四方区画の拠点として、代用されたものと感じます。

縮見屯倉については、ライン的な側面からこの神埼郡南田原の田崎神社周辺を割り出したのですが、東南500メートルほどのところに、播磨風土記の古戦場となり、製鉄との関連すると見られる八千種の地名が残っております。そして、赤石(明石)郡の縮見山との記載がありますので、明石北方の山ろくでありますから、条件的にはよい場所です。播磨風土記については下記をご参照ください。

<http://kamodoku.dee.cc/seineiki-kensouki-ninkenki-wo-yomu.html>

そのほか、紀伊や尾張方面の屯倉にもライン関係がみてとれそうですが、また後日まとめて報告します。

全般的には、秦氏・蘇我氏の影響が強く見えてきます。

ただ屯倉もこのように先の天皇の宮の四方区画が拡大していく過程で、生じてきた概念かと感じますので、皇室の方位ラインの拠点、つまりたとえていえば「陣取りゲーム」としての位置づけが強く、かならずしも農業、製鉄、交通、軍事に適した場所ではないようです。

結果として、今までの屯倉制研究でも、皇室の直轄領であるということ以外の統一した見解が出せずじまだったのでしょう。

しかし、このように四方区画の概念、方位ラインの詳細を明らかにすることによって、今まで不明確だった拠点の位置なども正確に割り出すことができいくものと感じます。

まず弥生時代からの測量・方位ライン作成、四方区画の設定、尺度の問題などに関する当時の王族の基本的な理念の理解をすることが大切です。その上ではじめて、宮や屯倉などの領域設定に関する考え方も理解でき、整合的な結果もついてくことと感じます。

----- ゾグド文字と仮名文字 投稿者:管理人
投稿日:2012年 3月 27日(火)20時 53分 57秒 返信・引用 編集済 その後も、かな文字の原型らしき神代文字・日文・阿波文字等と、中東の文字を比較しているのですが、先に比較したヘブライ文字と同様アラム語系のゾグド文字が、かなり近いことがわかります。図を添付します。こちら引用元。
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/museum/pdf6/kanjikanren14.pdf>

よく見ると、中に仮名文字がたくさんあって文章がそのまま読めてしまいそうです。

正倉院にゾグド文字を記した遺物が伝わっていますが、この辺のアラム文字系統と、仮名文字以前の文字との関係をもう少し追及してみたいところです。

刀の尺と古代文字 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 27日(火)07時 26分 54秒 返信・引用 編集済 尺の手がかりを考えていく上で、鏡につづいて、他の遺物の尺度も考慮してみました。

四方区画の中心拠点である桜井茶臼山などの遺物をみていたのですが、この古墳には複数の副室があるようで、武器庫としての役割もあったようですね。その中には、測量道具も多かったのではないかと感じます。
<http://www.nara-np.co.jp/20110614103812.html>

その玉杖の形もどこかしら測量の時に使う棒に似ていますが、先日おはなしした測量に使う糸を巻くリール代わりにぴったりの土器が奈良市佐紀陵山古墳にあります。キヌガサ型土器というのが、周囲に糸を巻けるような構造をしていますね。下記サイト参照(添付図もこのサイトから引用)

<http://www.kashikoken.jp/museum/permanent/kofun/kofun-top.html>

それで鉄件の長さに着目してみました。後漢の中平年間の銘文の入った刀があるそうで、ヒミコに賜与された「五尺刀」といわれているようです。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%89%84%E5%89%A3%E3%83%BB%E9%89%84%E5%88%80%E9%8A%98%E6%96%87>

その刀の長さが110 cmとのことですので、この長さが6尺で正しいとすると、1尺が22cmで、戦術のとおりに、主な三角縁神獣鏡の直径(1尺)と一致してきます。ただ、この尺長は前述のとおりに、日本(楽浪?)特有の尺です。

ただ中平刀自体は中国の下賜品というよりは、雑なつくりなので、楽浪あたりの製造だと言われているようで

すね。

そしてその 22cm 尺が、先の四方区画の長さにも関係してくるわけですが、22.2 cm という尺度は、他に中国にも日本にも見当たらず、先のとおり、中東の宗教キュビト尺 45 cm の 半分を導入してようやく近似できた背景があります。

そこで、楽浪・秦韓特有の秦語と呼ばれた言語文化を思い出し、文字も特有のものを使用していたのではないかと考えはじめました。

それらは、弥生中・末期あたりから、出雲や倭にも流れ込んでいったことでしょうし、それらがブサンからの方位ラインや、その上に現れる出雲、伊勢、鹿島…といった主な神道の源流とも重なってくるように感じます。

それで、測量をするためには、どうしても数字と角度を表す文字が計算に必要なことも確かなので、どこかに日本固有の文字の痕跡がないかを調べてみました。

とりあえず、上記の神社に、神代文字、特に日文というのが散見しているそうで、そこそこ似たような特徴を持っていることがわかります。

記紀の記載によると、大化前代に文字がなかったわけではなく、多くあったので、ある時期に統一したということが書いてあるんですね。

「また欽明天皇紀ノ本註に、帝王本紀多有古字云々[帝王本紀二多二古字有り云々]と見(みえ)たる文の論ひ」
<http://kstin.fc2web.com/kamiyomozi.html>

それで残っているのが、上記の文字だけだとすると、やはりその文字が弥生末期あたりから入り込んだ文字文化によるものかと感じます。

下記のサイトから、いろいろ怪しい神代文字を排除していき、そこそこ信用できそうなものに、阿波文字というものがありました。出雲、伊勢系の文字とも共通性があるそうです。
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~choreki/sinmoji.htm#f>

後代のひらがなやカタナとあきらかな共通性が見えるのですが、おそらくは 7 世紀台には成立していた万葉仮名(真名仮名)あたりが編纂される際に、手本にした文字だろうと感じます。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%87%E8%91%89%E4%BB%AE%E5%90%8D>

しかしながら、数詞の特殊性と、中東の宗教キュビト尺との近似性を考慮して、こちらも思い切ってヘブライ文字との比較をしてみました。

すでに、ユダヤ人研究者のほうで比較はなされているようで、かなり類似性が見えるそうです。
<http://www.naritacity.com/journal/japan/images/heburai0511.gif>

ただ、どうも先日の数詞の件も考慮すると、古ヘブライ語と今のヘブライ語にはだいぶ音の違いがあるようですので、その辺も考慮しながら、音の関係に留意して比較表をつくってみましたので、添付の図をご参照ください。

阿波文字と、古ヘブライ文字、ヘブライ文字の 3 種を比較してます。大きい白の四角が古ヘブライ文字、小さいものがヘブライ文字です。

なお、数詞については、下記のヨセフアイデルバーグ氏の古代歌の発音に留意してみました。「アイデルバーグ氏は、これはじつに美しいヘブル詩文だ、といいます。これはヘブル語では、「HI·FA·MI·YO·TSIA·MA·NANE·Y·KAKHENA·TAW

O」とつづられ、「HAIAFA·MI·YOTSIA·MA·NAANE·YKAKHENE·TAW O」(ハイアフア ミヨツツア マナーネ ヤーヘーナタウオ)と発音されます。」 <http://www2.biglobe.ne.jp/~remnant/032kodai.htm>

阿波文字はこちら。

http://miko.org/~uraki/kuon/furu/text/sindaimonji/awa/awa_list.htm

個人的には、偶然とは思えない近似性が見えるように感じます。アラム語、もしくはヘブライ語が、古代のある時期の日本語に影響したとみるのが自然でしょう。

以前お話したように、日本で一番多いHLAハプロタイプ(dr-b 52)は、中国雲南や、クルド人やイスラエル人の多数に見えるそれと同じですが、だいたいHLAで共通している集団は、言葉系統も近いことが多いようです。

逆にまったく関係性が見出せないとなると、科学分析が間違っているということになるでしょう。

どこかで言語的な共通要素を、中国シルクロードあたりの遊牧民やアラム・セム語系の商人 経路で受け取ったと考えるのが妥当ではないかと感じます。

それが、弥生時代末期に、ロシア南部のバジリク古墳群に見られるのと同様な構造の古墳を、朝鮮南部や日本で作り出す過程で、それに付随する技術や文化もあらわになってきた。

そして古墳や宮都を作る際に、どうしても計算式が必要で、文字を使う必要があったので、古い神道の神社に、アラム・セム語系の文字が残ったということのような気がします。

特にそれらの中東言語と日本語の数詞が、中国のようにゼロの概念を使わない点、数詞が仮名と一緒にしている点(たとえばヤ音をもって八の意味をもたせる等)など、構造的に似ている部分が多いことに気づきます。もう少し中東方面まで視野にいれて、研究比較してみてもよいような気がします。

中年男性の健康にノコギリヤシ - www2.kobayashi.co.jp <<公式・小林製薬>>有用性・成分を徹底研究した独自の配合バランス 引越してどこが安いの? - hikkoshizamurai.jp TVCM 放送中!アリさん、サカイなど 130社から最大10社無料見積 NEC 得選街 NEC 公式サイト - club.express.nec.co.jp/Store 第2世代インテル R Core? i3 ノート PC が期間限定でお買得

日本刀販売 飯田高遠堂 - www.iidakoendo.com 創業明治 13 年、美術刀剣専門店の老舗 買取、評価鑑定もお任せください 日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催! Ads by Google

----- Re: 宮方位ライン図の修正 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 3 月 27 日(火)06 時 19 分 30 秒 返信・引用 > No.308[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 秦野は 3/31 まで休養で旅行しますので投稿を休みます。 > 上記読み落としていました。了解しました。よいご旅行を!!

宮方位ライン図の修正 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 26 日(月)07 時 45 分 21 秒 返信・引用 編集済 昨晚最後にお知らせした宮関連の方位ライン図ですが、一部ミスがあったので訂正したものと差し替えました。

また先日紹介した 5 度角の四方区画ラインも、椿井大塚山が載る 10 度角の四方区画ライン の上に、追加しておきました。これにより、田原本町に孝霊(宮)が出てくる意味がわかると思います。その拡大図も添付いたします、

本当は、先日もうひとつ示した 4 世紀半ばと推定した 0 度角の三角縁神獣鏡の出土古墳を結んだ四方区画ラインがあるのですが、図がややこしくなるので省略しています。

ただ、この四方区画ラインが 1 辺 10.8 km を基礎にしているので、 $10.8 \times 6 = 64.8$ km で、図に示した成務(宮)までの東辺の距離 65.4 km に近似してきます。

したがって、10 度角の四方区画→5 度角→0 度角へと、四方区画の軸を東に倒して言った様子が伺えますが、これが偏磁曲線の動きと一致してくることがわかります。

つまり数度四方区画を作り直してその軸を倒しながら、徐々に北方へと進出して言った様子が伺えますね。

そして突然、仲哀で九州へ行き、河内へと宮は移動していきます。

Ads by Google ----- Re: 三輪山伝承と宮 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 26 日(月)00 時 33 分 8 秒 返信・引用 編集済 > No.304[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 方位ラインと鏡の関係は 1 万分の 1 の尺度みたいです。

1 cm が 1 km に対応する。 三角縁神獣鏡は 23.8 cm 鏡の円周が斜辺 75 cm、16.8 cm 鏡の円周が辺 53 cm の 2 種類。 欠史八代の方位ラインに挑戦しました。結果は後漢鏡になり

後漢鏡は 23.1 cm 鏡の円周が斜辺 72.7 cm 後漢鏡は 13.2 cm 鏡の円周が斜辺 41.5 cm 後漢鏡は 12.2 cm 鏡の円周が斜辺 38.5 cm

仁徳、応神陵がはいる。図を添付します。少し計算がずれるのは勘弁です。

>あと、ロードメーターの件もお知らせありがとうございます。なるほど、そうすると「尺」と「円」がやはり四方区画にダイレクトにかかわってくる計算ですね。やはり鏡の円周と考える

のが自然です。

>> 直径 1 尺の鏡の円周は 0.8(尺)×4 という観念がありました。鏡をロードメーター代わり にして、5 回回転させると、16 尺を得ることができます。それでうまく公倍数をつかっていけば、整数値の尺距離がだせたかもしれませんね。少しこの辺課題がありますが、よかったら 計算してみてください

三輪山伝承と宮 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 25 日(日)23 時 15 分 38 秒 > No.303[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 方位ラインもう少しおきいのでは。 >> 根拠は、三角神獣鏡の半分の距離になっている。

>> この辺、数日かけてもう少し整理してみたいと思います。 秦野さん、さっそく情報ありがとうございます。

おそらく、崇神の後、成務に至る 4 世紀代に、先の四方区画をもうひとまわり大きくしようと した形跡が見えます。下記の図をご参照いただきたいのですが、開化・崇神期までの 33 キロの四方区画から、成務のときに、2 倍の 65 キロまで伸ばしていることがわかります。ただ 基点はいつも桜井茶臼山古墳です。

先ほど帰りの電車で古事記をまた読み直していたのですが、崇神天皇の時代になると、山代 での反乱伝承を、越に向かおうとした大彦が退治する話がでできます。この時期から後に、北 方へと領域を広げようとした名残だと思います。

この図の最後に出てくる成務の後には、九州、河内へと宮が移っていくことになります。区切り があるのですが、あくまでその後も大和の宮との関係は方位ラインに出てきますので、王権 の継承が維持され続けたとみるべきでしょう。

それで、先ほど読んでいて興味深くおもったのは、崇神記の三輪山伝承です。

三輪山まで糸を伸ばしていく 伝承がありますよね。その際に勾というリールみたいに糸を巻 く道具がでてくるんです。それでその 3 回り分だけ糸が残っていたので、三輪にしたというん ですね。これが、つまり測量道具だと思うんです。

今も建築で糸はつかいますが、縄より糸のほうが正確に長さを出すことができます。そして リールを使えば、そのリール径を知っておくことで、どのくらい糸が伸びて行ったかをする こともできます。

崇神のいた桜井茶臼山古墳北方の金屋の宮から、三輪山までは 1.8 km、マキムクからだ と 3.3 km ありますが、その位の長さの糸と専用リールを用意していた可能性を感じます。

ミリ単位の鏡の直径(尺)の数値が、はるか KM 単位の四方区画にまで反映していった背景 には、正確にミリ単位で距離を計れる道具があったことを意味してます。縄や綱では太すぎ てミリ単位にはなりませんから、やはり糸でしょう。

それで戸口の鍵穴から、糸が出て行くんですね。今の測量でもそうだとおもいますが、糸はデ コボコの地面を這うより、少し空中に浮かしたほうが正確に距離がでます。

またその鍵穴というのが、後代の観念もまじっていると思うのですが、前方後円墳を暗示し ていたのでしょうか。

その古墳で区切られた四方区画を家、そして四方の辺を戸、四方の角で基点となる古墳を鍵穴と記したのではないのでしょうか。鍵穴から糸が抜ける=古墳の上を方位ラインが通過していくという意味にも取れます。

先の山代の親族の反乱や、次の垂仁の代の反乱伝承の際にも、「前戸」「後戸」、それを通して「行き違い」が生じて、争いが起きてくる様子が描かれているのですが、当時も支配領域・区分での行き違いもあったことでしょう。測量面でも偏磁の関係で、四方区画の角度が変わっ

てくるので、宮の動きにもジグザグな行き違いがおきてきてます。

あと、ロードメーターの件もお知らせありがとうございます。なるほど、そうすると「尺」と「円」がやはり四方区画にダイレクトにかかわってくる計算ですね。やはり鏡の円周と考える

のが自然です。

直径 1 尺の鏡の円周は $0.8(\text{咫}) \times 4$ という観念がありました。鏡をロードメーター代わりにして、5 回回転させると、16 尺を得ることができます。それでうまく公倍数をつかっていけば、整数値の尺距離がだせたかもしれませんね。少しこの辺課題がありますが、よかったら計算してみてください。

Ads by Google ----- Re: 周髀算経 投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2012 年 3 月 25 日(日) 20 時 07 分 11 秒 返信・引用 > No.301[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 方位ラインもう少しおおきいのでは。 根拠は、三角神獸鏡の半分の距離になっている。

> しかし、第 6 代の孝安の室秋津島宮あたりから、偏磁曲線を持つ方位ラインに変化する。そしてその時代の古墳を結ぶ四方区画にも偏角が出てくるわけですね。 >

> この秋津遺跡周辺からでたという庄内式土器が 200 年代初頭といえますから、それ以前に数代この辺に豪族の遺跡があった可能性はあるでしょうし、その 200 年前後から、測量方法に変化がでてきて、あるいはニギハヤヒ的な集団が移住があったのかもしれませんが。そしてその後 260 年代以降にさらに椿井大塚山や桜井茶臼山古墳等に三角縁をもたらしした集団がやってきたのでしょうか。

>> この辺、数日かけてもう少し整理してみたいと思います。

----- Re: 周髀算経 投稿者: 秦野北斗 投稿日: 2012 年 3 月 25 日(日) 10 時 05 分 33 秒 返信・引用 編集済 > No.301[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 方位ラインと三角縁神獸鏡をロードメーター円周の直径 2 倍、1 倍で一致する。 どうか、三角縁神獸鏡から見ると全部で 3 通りの方位ラインが有るみたいですな。

秋津遺跡周辺の方位ラインは 11.1 km、33.3 km で斜辺 35.1 km $35.1 \text{ km} / 1 \text{ 万} = 35.1 \text{ cm}$ 以前 1/10 万は 1/1 万のミスです。 $35.1 / \pi = 11.17 \text{ cm}$ どうも鏡の円周の半分の模様。 全円周は $35.1 * 2 / \pi = 22.34 \text{ cm}$ 、該当の三角縁神獸鏡は

山口県新南陽市 竹島古墳出土 正始元年銘三角縁神獸鏡 明治 21 年発見 22.8 cm 群馬県高崎市柴崎 柴崎古墳出土 正始元年銘三角縁神獸鏡 東京国立博物館 22.6 cm 大分県宇佐市高森 赤塚古墳出土 三角縁神獸鏡(4 号鏡) 大正 10 年調査 京都国立博物館蔵 22.2 cm

$33.3 \text{ km} / 1 \text{ 万} = 33.3 \text{ cm}$ $33.3 / \pi = 10.6 \text{ cm}$ どうも鏡の円周の半分の模様。 全円周は $33.3 * 2 / \pi = 21.2 \text{ cm}$ 、該当の三角縁神獸鏡は

京都府相楽郡山城町 椿井大塚山古墳出土 三角縁神獸鏡 京都大学文学部博物館蔵、21.5 cm 大分県宇佐市高森 赤塚古墳出土 三角縁二神二獸鏡 大正 10 年調査 文化庁蔵、21.8 cm

注) 周髀算経に従うと 1 寸は夏至、冬至の日の水面に写る太陽の直径になる。 周髀算経の計算の際に大気の屈折が大きく影響した。これから、大気温度で数ミリ変化したと推定される。

欠史 8 代の古墳の年代が明らかになりそうですな。

> ともあれ、昨晚記載した宮を結ぶ方位ラインで気になっているのは、開花天皇の春日宮の 記載です。ここが上記の椿井大塚山と、桜井茶臼山や崇神天皇陵などの拠点を結ぶ偏角をもつ南北方位ライン上にあることがわかりました。 >

> だから、開花天皇前後の年代が、上記の周髀算経で緯度を測って拠点とした椿井大塚山古墳の年代と同時代ということになるわけですし、4世紀末あたりになるのではないかと考え始めてます。 >

> また欠史 8代の記載と、昨晚のその欠史等の宮を結ぶ方位ラインと、関連四方区画との関連を見るに、おそらく大和の豪族たちの始祖伝承と、それらは深くかかわっているように感じます。

Re: 周髀算経 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 3月 25日(日)10時 05分 33秒 返信・引用 編集済
> No.301[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 方位ラインと三角縁神獣鏡をロードメーター円周の直径 2倍、1倍で一致する。

どうやら、三角縁神獣鏡から見ると全部で 3通りの方位ラインが有るみたいですな。

秋津遺跡周辺の方位ラインは 11.1 km、33.3 kmで斜辺 35.1 km $35.1 \text{ km} / 1 \text{ 万} = 35.1 \text{ cm}$ 以前 1/10 万は 1/1 万のミスです。 $35.1 / \pi = 11.17 \text{ cm}$ どうも鏡の円周の半分の模様。 全円周は $35.1 * 2 / \pi = 22.34 \text{ cm}$ 、該当の三角縁神獣鏡は

山口県新南陽市 竹島古墳出土 正始元年銘三角縁神獣鏡 明治 21 年発見 22.8 cm 群馬県高崎市柴崎 柴崎古墳出土 正始元年銘三角縁神獣鏡 東京国立博物館 22.6 cm 大分県宇佐市高森 赤塚古墳出土 三角縁神獣鏡(4号鏡) 大正 10 年調査 京都国立博物館蔵 22.2 cm

$33.3 \text{ km} / 1 \text{ 万} = 33.3 \text{ cm}$ $33.3 / \pi = 10.6 \text{ cm}$ どうも鏡の円周の半分の模様。 全円周は $33.3 * 2 / \pi = 21.2 \text{ cm}$ 、該当の三角縁神獣鏡は

京都府相楽郡山城町 椿井大塚山古墳出土 三角縁神獣鏡 京都大学文学部博物館蔵、21.5 cm 大分県宇佐市高森 赤塚古墳出土 三角縁二神二獣鏡 大正 10 年調査 文化庁蔵、21.8 cm

注)周髀算経に従うと 1寸は夏至、冬至の日の水面に写る太陽の直径になる。 周髀算経の計算の際に大気の屈折が大きく影響した。これから、大気温度で数ミリ変化したと推定される。

欠史 8代の古墳の年代が明らかになりそうですな。

> ともあれ、昨晚記載した宮を結ぶ方位ラインで気になっているのは、開花天皇の春日宮の 記載です。ここが上記の椿井大塚山と、桜井茶臼山や崇神天皇陵などの拠点を結ぶ偏角をもつ南北方位ライン上にあることがわかりました。 >

> だから、開花天皇前後の年代が、上記の周髀算経で緯度を測って拠点とした椿井大塚山古墳の年代と同時代ということになるわけですし、4世紀末あたりになるのではないかと考え

始めてます。

>> また欠史 8代の記載と、昨晚のその欠史等の宮を結ぶ方位ラインと、関連四方区画との関連を見るに、おそらく大和の豪族たちの始祖伝承と、それらは深くかかわっているように感じます。

----- Re: 周髀算経 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 25日(日)07時 48分 7秒 返信・引用 編集済 > No.300[元記事へ]

秦野さん、さっそく情報ありがとうございます。

> 1.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る(「始度一海千餘里、至對馬國」)。大官は卑狗 (ひこ)、副> よって、8尺の棒に対する影の長さの差 1寸は、地上の距離にして千里にあたる。

- > これが「一寸千里の法」である。

>

- > 里:76.66 m >
- > また、夏至の日には1尺6寸であった棒の影は冬至の日には13尺5寸である。
- > 里:43 m

そうすると、下記のキシさんの紹介サイトなども参照すると、魏志の北九州の里の記載は、上記の夏至の76.6mと一致するようですから、短里をつかったか、倭人の側から聞いたという線になりそうですね。

ただ弥生中期からの北九州の遺跡を結んだ距離は、前述のとおり、前漢尺ですから、1里420mで一致してこないことになります。

そうすると選択肢としては、魏もしくは、その直前あたりに大陸からやっていた測量士のほうで、あえて長里を使用せずに、周髀算経による短里数値を記載したということになるでしょう。

周髀算経を使う場合の特徴は、まず基点を洛陽と同じ緯度におくことですから、ほぼ同緯度の椿井大塚山や磐舟神社あたりに拠点を置くことは相違ないところです。

そうすると、論理的には、魏の集団たちは奈良までやってきた計算になるのですが、ただおそらく測量は使者ができるようなものではない大規模なものなので、軍隊といったほうがよいでしょう。

ただ、夏至の日に測量しないといけない点ですね。

ともあれ、昨晚記載した宮を結ぶ方位ラインで気になっているのは、開花天皇の春日宮の記載です。ここが上記の椿井大塚山と、桜井茶臼山や崇神天皇陵などの拠点を結ぶ偏角をもつ南北方位ライン上にあることがわかりました。

だから、開花天皇前後の年代が、上記の周髀算経で緯度を測って拠点とした椿井大塚山古墳の年代と同時代ということになるわけですし、4世紀末あたりになるのではないかと考え始めてます。

また欠史8代の記載と、昨晚のその欠史等の宮を結ぶ方位ラインと、関連四方区画との関連を見るに、おそらく大和の豪族たちの始祖伝承と、それらは深くかかわっているように感じます。

それらが、以前に磐船から桜井方面へと入ったニギハヤヒの子孫によるものなのか、ヒミコのいた女王国なのかはわかりませんが、昨日の宮の方位ラインをみるかぎり、神武の宮から開化・崇神・成務といったあたりに、あきらかな比例的な連続性のある方位ラインであります。

そして、その延長線上に椿井大塚山がでてくることを考慮すると、周髀算経で椿井大塚山を緯度測定した出来事が、魏の測量士というよりは、むしろ欠史8代のころ、つまり弥生中期～末ごろに入っていた集団が行った可能性もあるうでしょう。

しかし一方で椿井大塚山古墳と桜井茶臼山を結ぶラインが三角縁を多く出土して、特異性がある件を考慮すると、前任者と後任者との間に、共通の周髀算経等の測量的な接点がないといけないことになります。

170年代のホタテ貝式古墳と、250年代の前方後円墳との接点のようなものでしょうか。同じ木棺・鏡・朱などの接点です。

大和の在地豪族の件は、ニギハヤヒというよりは大国主というべきかもしれませんが、上記の欠史8代から成務にいたる宮の方位ラインは、また徐々に角度を西に倒していく、先の偏磁曲線との兼ね合いも見えます。測量方法として指南魚(方位磁針)を使用した可能性もあるでしょう。

逆にそれ以降に河内に宮が移ったころからは、そのような偏磁曲線の影響が見えてこないことを考慮すると、宮造営には、指南魚による南北軸の設定は排除されたとみるべきでしょう。だから河内の四方区画にも、偏角はないんですね。

正確には神武からの初期の数代の宮は、45度ラインで偏角を持ってない可能性も感じます。そしてその四方区画にも、偏角のない南北軸をもっているようです。

しかし、第6代の孝安の室秋津島宮あたりから、偏磁曲線を持つ方位ラインに変化する。そしてその時代の

古墳を結ぶ四方区画にも偏角が出てくるわけですね。

この秋津遺跡周辺からでたという庄内式土器が 200 年代初頭といいますから、それ以前に数代この辺に豪族の遺跡があった可能性はあるでしょうし、その 200 年前後から、測量方法に変化がでてきて、あるいはニギハヤヒ的な集団が移住があったのかもしれませんが。そしてその後 260 年代以降にさらに椿井大塚山や桜井茶臼山古墳等に三角縁をもたらしした集団がやってきたのでしょうか。

この辺、数日かけてもう少し整理してみたいと思います。

----- Re: 周髀算経 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 25 日(日)00 時 05 分 3 秒 返信・引用 編集済 どうも、里は地球規模の「一寸千里の法」では答えはでない。実測が 1 番です。

1.始めて海を 1000 余里渡ると対馬国に至る(「始度一海千餘里、至對馬國」)。大官は卑狗(ひこ)、副官は卑奴母離(ひなもり)。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。 2.また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る(「又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國」)。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000 の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

周の地(たぶん都の地)において、夏至の日の南中時に地面に垂直に立てた 8 尺の長さの棒の影の長さは 1 尺 6 寸である。これに対し、ここから南に千里行ったところで同様の計測を行えば棒の影の長さは 1 尺 5 寸。周から北に千里行ったところで同様の計測を行えば棒の影の長さは 1 尺 7 寸であった。よって、8 尺の棒に対する影の長さの差 1 寸は、地上の距離にして千里にあたる。これが「一寸千里の法」である。

里:76.66 m

また、夏至の日には 1 尺 6 寸であった棒の影は冬至の日には 13 尺 5 寸である。よって、夏至の日には太陽は周の地から南 1 万 6 千里の彼方の真上にあり、冬至の日には南へ 13 万 5 千里の地の真上にある。

里:43 m

夏至以後、棒の影はだんだんと長くなって行き、南中時にちょうど 6 尺になる日がある。このとき、長さが 8 尺で穴の直径が 1 寸の竹筒で太陽を見れば穴と太陽の大きさが一致する。このことから、太陽の真下までの距離は 6 万里、太陽の高さは 8 万里、観測者から斜めに 10 万里の彼方に太陽はある。(3:4:5 の直角三角形に関するピタゴラスの定理が使用されている) 太陽の直径は、10 万里に 1/80 を乗ずることにより 1250 里と求められる。

太陽の直径:1205 里 里は 76.66~43 m で 50 m 付近になる。

の方位ライン 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 24 日(土)22 時 04 分 3 秒 返信・引用 編集済 > No.298[元記事へ]

秦野さん、キシさん

いろいろ情報ありがとうございます。今都内から戻りました。電車の中で古事記を読み直していたのですが、欠史 8 代の記載を読んでいて、その宮都との位置関係で、ちょっと先日お知らせした古墳等を結んだ四方区画とつながりが見出せるように感じましたので、今神武から欽明までの宮を結んだ方位ラインを作成してみました。簡易的な図を添付します。後日、もっと詳細な図を提供します。

宮の位置推定はウィキペディアを参考にしています。宮一覧はこちら。

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~itou/tennou.pdf>

結果としては、欠史の時代から、非常に法則性に則って宮が移動して行った様子が伺えました。そして先の 4 つの四方区画とも一致してきます。

橿原→秋津→磯城→春日→滋賀へとまず西へと移動していくわけですが、ジグザグかつ並行ラインにて、徐々に偏角を弱めながら距離を伸ばしていくんですね。その後、河内に飛んで、また大和に戻って、枚方へ飛ぶ。そ

して桜井、飛鳥へと移動していくのですが、これらがすべて先の四方区画や、特定の方位ラインの上に乗っていることが、下記を見ていただければおわかりになるかと感じます。

特に並行な方位ラインと、直角三角の方位ラインが主にみえますが、何か宮を造営する際の法則、下記の中国の測量関連書などと同様に、基礎となる書のようなものがあつたはずで。

暦関連で先ほど面白かつたのは、神武の即位した BC660 年の干支が、コンピューターで正確に 660 年しかないことが特定されたとの件です。おそらくは BC660 年までの暦計算ができたことがわかりますし、基礎となる計算書もあつただろうと感じます。 http://homepage2.nifty.com/yamakatsu/cal_koyomi_kigensetsu.html
この種の法則性を理解していかないと、真実を見過ごしたり、逆にだまされたりしてしまうことでしょう。

2,3 日いただければ、だいたい先の古墳や遺跡を結ぶ四方区画ラインと、上記の宮の方位ライン、その偏角と時代推定あたりは結論がでるかと感じます。しばしお待ちください。

引越してどこが安い? - hikkoshizamurai.jp TVCM 放送中!アリさん、サカイなど 130 社から最大 10 社無料見積 "航空券"まだ決まってない? - www.skygate.co.jp そんな貴方に大ニュース!<<SKYGATE>>【本日入荷】の格安航空券バーゲン中 NEC 得選街 NEC 公式サイト - club.express.nec.co.jp/Store 第 2 世代インテル R Core? i3 ノート PC が期間限定でお買得 なぜ有名人の歯は白い? - n-garden.com 知ってる人は知ってる白い歯の秘密... 歯が白い人が行う 30 秒の習慣は? 正月飾り - 辰の干支すず -
www.rakuten.co.jp/shoutokukougei/ 素焼きの二十四年干支 辰の干支すずで新年を迎えましょう Ads by Google ----- Re: 四方区画の尺度 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 24 日(土)18 時 54 分 16 秒 返信・引用 編集済 > No.293[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。「一寸千里の法」今までの定説と違う方法で算出した。私の頭では定説は誤差が多く、対応できなかった。言え

ることは寸の大きさは井戸に写る太陽の大きさでしょう。 どうも尺の距離が不明。文章から 1 寸:1 千里と断定しているふしがある。

周の地(たぶん都の地)において、夏至の日の南中時に地面に垂直に立てた 8 尺の長さの棒の影の長さは 1 尺 6 寸である。これに対し、ここから南に千里行ったところで同様の計測を行えば棒の影の長さは 1 尺 5 寸。周から北に千里行ったところで同様の計測を行えば棒の影の長さは 1 尺 7 寸であった。よって、8 尺の棒に対する影の長さの差 1 寸は、地上の距離にして千里にあたる。これが「一寸千里の法」である。

里は 76.66 m になる。参考にした文章は以下。

周の地(たぶん都の地)において、夏至の日の南中時に地面に垂直に立てた 8 尺の長さの棒の影の長さは 1 尺 6 寸である。これに対し、ここから南に千里行ったところで同様の計測を行えば棒の影の長さは 1 尺 5 寸。周から北に千里行ったところで同様の計測を行えば棒の影の長さは 1 尺 7 寸であった。よって、8 尺の棒に対する影の長さの差 1 寸は、地上の距離にして千里にあたる。これが「一寸千里の法」である。また、夏至の日には 1 尺 6 寸であった棒の影は冬至の日には 13 尺 5 寸である。よって、夏至の日には太陽は周の地から南 1 万 6 千里の彼方の真上にあり、冬至の日には南へ 13 万 5 千里の地の真上にある。夏至以後、棒の影はだんだんと長くなって行き、南中時にちょうど 6 尺になる日がある。このとき、長さが 8 尺で穴の直径が 1 寸の竹筒で太陽を見れば穴と太陽の大きさが一致する。このことから、太陽の真下までの距離は 6 万里、太陽の高さは 8 万里、観測者から斜めに 10 万里の彼方に太陽はある。(3:4:5 の直角三角形に関するピタゴラスの定理が使用されている) 太陽の直径は、10 万里に 1/80 を乗ずることにより 1250 里と求められる。

----- Re: 四方区画の尺度 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 3 月 24 日(土)14 時 05 分 29 秒 返信・引用 > No.293[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。「一寸千里の法」

今までの定説と違う方法で算出した。私の頭では定説は誤差が多く、対応できなかった。言えることは寸の大きさは井戸に写る太陽の大きさでしょう。

どうも尺の距離が不明。文章から 1 寸:1 千里と断定しているふしがある。夏至の日には 1 尺 6 寸:南 1 万 6 千

里

冬至の日には13尺5寸:南へ13万5千里と断定です。夏至(げし)と冬至(とうじ)は黄道は天の赤道に対して23度4分傾いている。この角度

から算出すると。里は43mになる。参考にした文章は以下。

周の地(たぶん都の地)において、夏至の日の南中時に地面に垂直に立てた8尺の長さの棒の影の長さは1尺6寸である。これに対し、ここから南に千里行ったところで同様の計測を行えば棒の影の長さは1尺5寸。周から北に千里行ったところで同様の計測を行えば棒の影の長さは1尺7寸であった。よって、8尺の棒に対する影の長さの差1寸は、地上の距離にして千里にあたる。これが「一寸千里の法」である。また、夏至の日には1尺6寸であった棒の影は冬至の日には13尺5寸である。よって、夏至の日には太陽は周の地から南1万6千里の彼方の真上にあり、冬至の日には南へ13万5千里の地の真上にある。夏至以後、棒の影はだんだんと長くなって行き、南中時にちょうど6尺になる日がある。このとき、長さが8尺で穴の直径が1寸の竹筒で太陽を見れば穴と太陽の大きさが一致する。このことから、太陽の真下までの距離は6万里、太陽の高さは8万里、観測者から斜め

に10万里の彼方に太陽はある。(3:4:5の直角三角形に関するピタゴラスの定理が使用されている)太陽の直径は、10万里に1/80を乗ずることにより1250里と求められる。

----- 北緯 35度06分59秒 投稿者:棘の紀氏
投稿日:2012年 3月24日(土)11時28分25秒 返信・引用 沼津古墳群 遺跡名, 神明塚古墳, 墳形, 前方後円墳 周堀. 規模, 全長 54m 高さ 5m? 出土品, 不明. 所在地, 静岡県沼津市松永, 築造時期, 5世紀半. 座標, 北緯 35度 06分 59秒 東経 138度 49分 21秒, 被葬者, 不明 在地豪族? 築造時期 6世紀半

下呂石製石器が、旧石器時代 3万 8千年前の静岡県沼津市にある井出丸山(いで まるや ま)遺跡から発見されているという...http://www.musublog.jp/blog/fuhgetsu/?entry_id=12108

釜山の先史時代は、1万 5千年前の旧石器時代だとされ、また、釜山という名前が歴史上 初め て登場するのは、それから随分後の朝鮮時代だと言われています。 <http://www.pusanavi.com/special/5003826> 先史時代・三韓時代・伽耶・三国時代 紀元前から紀元後6世紀までの釜山の文化、歴史を垣間見れる博物館が釜山には3つあります。

福泉博物館(東萊温泉)釜山の鉄器文化が見られる博物館。約 2000年前の古墳が発見されたこの場所に博物館が建てられました。古墳からは、当時の日本との活発な交流を示す遺跡品や伽耶時代のものが多数発掘され、展示されています。また、野外展示館を設置しており、当時の発掘された古墳が そのままの形で展示されているので、目でみるだけでなく、体験できる博物館になっているのが特徴です。

やはり日本と釜山は近い場所。2000年前の日本と釜山はどのような交流をしていたのか。伽耶はどのような国家だったのか。

糸島市前原西; 緯度経度: 北緯 33度 33.6分 東経 130度 11.5分; そこから海を通った先には 能古島、そして伊都国の糸島へと続いていて、レイラインになっているようだった。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/658>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- >ブサンなりに似たような四方区画があれば、そこを拠点にして 投稿者:棘の紀氏 投稿日: 2012年 3月 24日(土)11時 11分 56秒 返信・引用
ブサン 北緯35度06分、東経129度02分付近 東萊から約 2000年前の遺跡 東萊(トンネ)は李朝時代の学校や城、役所の建物など歴史的な建造物がたくさん残る町です。東萊から約 2000年前の遺跡が発掘されました。東萊区福泉洞(トンネ区ポッチョン 洞)の古墳郡です。伽耶時代の遺跡や日本との活発な交流について知ることのできる、貴重な出土品がたくさん発掘されたそうです。

<http://www.pusanavi.com/miru/1060/>

福泉洞古墳群は、韓国慶尚南道釜山廣域市東萊區福泉洞に所在する。礼安里遺跡と ほぼ同時 代、4紀初頭か

ら 7 世紀代にかけて 営まれた古墳群である。長さ約 700m、幅 80-100m のなだらかな丘陵上に、古墳約 100 基が集中している。

福泉洞古墳群は、東?邑城から下りてくる丘陵の上にある古墳群である。丘陵の もっとも高いところは 62.5m、長さ 700m、幅 80~100m である。以前はもっと長かったとされる。発掘で 170 基が発見されたが、造営時期が 4 世紀初頭から 7 世紀までの長期に 亘り、...http://www.bbweb-arena.com/users/hajimet/busangaya_002.htm

韓国の東萊福泉洞古墳群から出土しています。 6.まとめ 1 弥生時代の大溝を検出した。この溝は弥生時代中期末以前に掘削され、古墳時代前期には埋まっていたと考えられます。
<http://www.ss.ij4u.or.jp/~hsumi/docs/tusin/honbun/tusin7.html> 調査地点は「鏡」と考えられる文字が書かれた土器が出土した八龍 I-3・11 地区のすぐ 西側にあたります。

土器は弥生時代中期末から古墳時代前期(約 2000~約 1600 年前)までのものがありますが、弥生時代終末から古墳時代前期(約 1750 年~1600 年前)までのものが ほとんどのようです。その下の層では土器の出土は極端に少なくなります。出土した土器は 弥生時代中期末から弥生時代後期(約 2000~1800 年前)のもので、土器の出土状況から、この大溝は弥生時代中期末以前に掘削され、古墳時代前期には埋ま っていたと考えられます。

6.まとめ 1 弥生時代の大溝を検出した。この溝は弥生時代中期末以前に掘削され、古墳時代前期には 埋まっていたと考えられます。 2 この大溝は昭和 49~54 年に発見された大溝に続くもので、総延長約 150m となる。

3 この大溝の北側からは住居跡などが発見されており、南側からは甕棺などのお墓が発見さ れていることから、この溝が住居域と墓域の境界となっていたと考えられます。 4 今回の調査では大溝の西側の続きが確認できなかったため、集落の周りを囲む環濠であるかどうかは確認できませんでした、今後の課題として大溝の西側の続きを確認する必要がありますが、これについては平成 11 年度に引き続き実施する予定です。 5 陶質土器の高杯が出土したことは、近畿地方に一つの政権が確立された古墳時代になっ ても、弥生時代に対外交渉の窓口であった伊都国の性格が受け継がれていることを示しています。

伊都国では、王都があったとされる三雲・井原遺跡の中の三雲八龍遺跡などでも弥生 時代 中期後半(約 2000 年前)以前に掘られた大溝を確認しているが、環濠集落の存在 が明確に なったのは、今宿五郎江遺跡が初めて。今宿五郎江遺跡の調査では、中国・... http://itoshima-np.co.jp/back/bunkazai/2006/bunkazai_06.html

耶馬台国への道。帯方郡から奴国まで 要旨 郡はソウル近辺。狗邪韓国は釜山近辺。対馬国は対馬。一支国は壱岐。末盧国 は唐津市。伊都国は前原市。奴国は福岡市と、ここまでの推定は間違いない。そこで これらの国の場所 を現在の地図にあてはめ、距離や方位の精度を検証する。<http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-kat/yamatai1/03gunn.htm> 郡はソウル近辺。狗邪韓国は釜山近辺。 対馬国は対馬。一支国は壱岐。末盧国は唐津市。伊都国は前原市。奴国は福岡市と、ここま で の推定は間違いない。そこでこれらの国の場所を現在の地図にあてはめ、距離や方位の精度 を検証する。

唐津市から前原市、前原市から福岡市はやや北東に寄る東である。 [http://www.max.hi-](http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-kat/yamatai1/04houi.htm)

[ho.ne.jp/m-kat/yamatai1/04houi.htm](http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-kat/yamatai1/04houi.htm) 方位の認識に、明らかに 40 度から 60 度くらい、一定方向への誤差が在る。

一里が 70 から 80 m くらいの、短里という別の尺度があった。[http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-](http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-kat/yamatai1/05kyori.htm)
[kat/yamatai1/05kyori.htm](http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-kat/yamatai1/05kyori.htm)

皆さんを、邪馬台国の場所探しを中心にした、魏志倭人伝なぞ解きの旅に、お誘いする。

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-kat/gisi/index.html>

日帝は土地調査事業当時、東京を原点とした大三角点を連結して対馬を経て、巨済島と釜山 絶影島に大三角本点を設置して、これを約 600 個の三角点に連結した朝鮮測量体系を構築し たが、100 年過ぎた今でもそのまま維持されている。 <http://nihon9999.blog77.fc2.com/blog-entry-9208.html>

釜山(プサン)・・・ プサンメティコス 1 世(紀元前 664-610

年)http://www.geocities.jp/kmt_yoko/Dyn.26.html ホルス名 : アアイブ、二女神名 : ネブアー、黄金のホルス名 : ケヌー、誕生名 : ペスメテク「(メ チェク・ワインの商人)」を意味する、本来はメチェク神の人」の意か?), 即位名 : ウアフイブ ラー。 父サイス侯ネコ 1 世(ヘロドトス『歴史』第二巻 152 章)。妻メヒトエンウセヘト(ヘリオポリスの神官長ホルサーイシスの娘)。娘たちはアメン神妻ニトクリスと他二名の王女。息子はおそ らくネコ 2 世。治世年数 55 年。

ネコ 1 世はエサルハッドン王(アッカド語でアッシュル・アッヘイディナ)とアッシュルバ ニパル王(アッカド語でアッシュル・バーニ・アプリ)によってサイスとメンフィスの支配者 として認められ、ブサンメティコス 1 世はアッシリア名ナブシェズィバンニでアトリビスの 支配者として任命されました。ネコ 1 世はデルタ諸侯とともにクシュ王朝のタヌタマニ王と 戦って、命を落としました。アッシリアによるクシュの王の駆逐およびアッシリア自体のバ ビロニア王国とエラム王国(王都スサは紀元前 640 年に陥落)に対する長期間の戦いのもつれ から、ブサンメティコス 1 世は政治活動の余地を大いに獲得し、リュディア王ギゲスの支持 とイオニア人とカリア人の傭兵たちの雇用によって実権の強化に成功しました。657 エラム王国(王都スサは紀元前 640 年に陥落)

秦氏 ヒッタイト ヒッタイト帝国とスサの王の謎: 神仙組外典【新世紀創造理念】天の岩戸

...<http://shinsengumi3.seesaa.net/article/144848894.html>

2010 年 3 月 28 日 - スサの王」とはあまりにも現代の日本語過ぎるが、実際にスサノオがエラムのスサと関係がある事は信憑性が高い。... シュメール王国は、エラム王国の侵攻を受けて 滅亡 したという説もあるが、シュメール王国とアッカド帝国の地にバビロニア ... ヒッタイトの首都は「ハットウシャ」である。これを漢字に当てると「八頭蛇」となるのは偶然ではないはずだ。 極単純に考えると、ヒッタイト帝国(龍文明)を退治して製鉄文明を手に入れたのが、「スサ ノオ」だと考えられる。 シュメールに隣接するエラムの首都を「スサ」といい、スサの王が「スサノオ」という説がある。

、ヒッタイト帝国は、現在のトルコの辺りに存在した。そして恐らく、ハッティは蛇神信仰の民族だった。『日月神示』では、泥海の地球を創り固めたのが

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 四方区画の尺度 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 3 月 24 日(土)08 時 33 分 45 秒 返 信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

何か尺で見落としているような気がする。

尺は指矩、鯨尺を見るかがり、円筒形を測っている。尺、寸は円筒の尺度になる。

指矩 指矩(さしがね、指金とも)は、工具の一種。金属製で目盛りがついており、材木などの長さ を測るのに使われる。L 字型をしており、両方の辺に目盛りがある。また、内側にも目盛りがある。角は直角を測るために使われる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8C%87%E7%9F%A9>

鯨尺 曲尺とは別に、用途別の尺も使われた。着物の仕立てに使われた鯨尺(くじらじゃく)・呉 服尺などである。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%BA>

以前、管理人さんが言っていた。三角縁神獣鏡、ロードメーター説、で正しいか疑問ですが図 を添付します。偶然の一致か、または縮尺 10 万分 1 の作図コンパス?

★愛知県犬山市 東之宮古墳出土 三角縁神獣鏡 京都国立博物館蔵、直径 23.8cm ★京都府福知山市天田 天田広峯遺跡出土 景初四年銘盤龍鏡 昭和 61 年調査 京都府

福知山市教育委員会蔵、直径 16.8cm <http://inoues.net/enjoy/mirrorindex.html>

> 前漢尺は 23.1 cm、周尺は 19.9 cm で、その間くらいに位置してます。エジプトは 19 cm や 17 cm だそうです。フィートは 30 cm。 >> それでいろいろ見ていると近いと感じたのは、キュビトです。特に古代イ

スラエル時代の宗教用のキュビトが 437 mm で、その2分の1が三角縁神獣鏡の直径に一致してきます

Re: 四方区画の尺度 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 24日(土)04時 11分 33秒 通報 返信・引用 編集済 > No.288[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> さざれ石のある場所と方位ラインがほぼ一致するみたいですね。 > 位置と神話から灯台も選択肢になる。
> 霧島神宮は徐福と邪馬台国の航路になる。

秦野さん、さっそくさざれ石関連、お知らせありがとうございます。 神社にも、中臣・物部・忌部氏などの系統があって、それぞれに独特の角度の方位ラインがあるようです。

その辺は会報のほうをご参照いただきたいのですが、徐福伝承を証明するとすれば、やはり 秦(前漢)時代の尺度で、27.65 cmあたりから、方位ラインを抽出していくとよいと感じます。九州の弥生遺跡はこの尺度です。ただ、楽浪系のような気がしますが、そこに秦系であるプラス要素が出てくると面白いですね。

祖国固有の尺度を維持しようとする意識が古代人にあったような気がするんです。宗教的な 尺度とか、その宝物とかに由来する長さは、ヤタノ鏡みたいな感じで伝承に残るケースもあります。

それで三角縁神獣鏡の22cm(21.9~22.2あたりがメイン)についても、キシさんではないですが、中国はもとより、エジプトや中東まで尺度を調べてみました。

前漢尺は23.1cm、周尺は19.9cmで、その間くらいに位置しています。エジプトは19cmや 17 cm だそうです。フィートは 30 cm。

それでいろいろ見ていて近いと感じたのは、キュビトです。特に古代イスラエル時代の宗教 用のキュビトが437 mm で、その2分の1が三角縁神獣鏡の直径に一致してきます。

詳細はこちら参照。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%88>

単なる偶然かもしれませんが、ただ木棺・石囲木カク、鏡の埋葬…の前方後円墳の形態 は、ロシア南部のバジリク古墳群など中東遊牧民のそれや、その系統の遊牧民文化を残す新 羅南部の墳墓と、類似していることがあり、その辺は会報にも紹介掲載したとおりです。

その墳丘の築造方法というのが、半島経由で伝わってきて、日本でも応用されたとなると、やはりその古墳の尺度も、同類の道具や基準を使った可能性が高いと感じます。

その定規や分度器代わりにしたのが、鏡の可能性もあり、実際クルガン墓からは、漢代の中 国鏡が多く出土しています。

同様に、それらの遊牧民文化を携えた集団が日本に渡ってきて、墳丘墓築造の際のモノサシ としていた鏡を、三角縁神獣鏡とその直径に刻み込んだとすれば、あるいは中東遊牧民の尺 度が出てくる可能性もあります。つまり宗教キュビト尺だったとのことですね。

もうひとつ、測量で重要なのは数字、角度や円などの幾何学用語です。これがないと測量でき

ません。それらを示す文字も必要でしょう。それで、日本語の数詞には、ふたつ種類があって、ウィキペディアによると下記のとおりです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BC%A2%E6%95%B0%E5%AD%97>

ひとつめは呉音で「イチ、ニ、サン、シ、ゴ、ロク、シチ、ハチ、ク、ジュウ、ヒャク、セン、マン、ニジュウ」

朝鮮語の数詞もやや近いですが、呉音が一番近いようです。

この呉音で、先の弥生末から古墳時代初期でも数えていたとすると、背後に呉系の技術職人の測量が見えてくることでしょう。

もうひとつの読みが訓読みです。「ひと、ふた、み、よ、いつ、む、なな、や、ここの、とお、もも、ち、よろず、はた」

それで先のキュビトと同じイスラエル関連では、「HI·FA·MI·YO·TSIA·MA·NANE·Y·KAKHENA·TAWO」と読むらしいです。下記のサイトをご参照ください。一部引用します。

<http://www2.biglobe.ne.jp/~remnant/032kodai.htm>

「アイデルバーグ氏は、これはじつに美しいヘブル詩文だ、といいます。これはヘブル語では、「HI·FA·MI·YO·TSIA·MA·NANE·Y·KAKHENA·TAW O」とつづられ、「HAI·FA·MI·YOT·SIA·MA·NA·NE·Y·KAKHENA·TAW O」

(ハイアフア ミヨツツァ マナーネ ヤーヘーナタウオ)と発音されます。その意味は、「だれが女神様を出すのでしょうか。誘いに、いかなる言葉をかけるのでしょうか」なのです。」

あんまりよくできた話で、もうすこし真偽を確認してみたいと思うのですが、歌というのはイロハ歌同様にかなり古い起源を伝承することが多いようです。

そして訓読みとひらがなには、東アジアには共通性が乏しく、かなり特殊性があります。

ある時期に、それらが大和に入ってきたのでしょう。特に数字関連、つまり建築測量や宗教関連で用いられたはずで。

魏志倭人伝の倭についての記載を読む限りでは、「(イチ)大率」など、先の呉音数字等の使用がしばしば見えます。また同時に扶余系と思しき地名が見えるのですが、ところが記紀時代になると、急に上記の訓読みに変化してしまいます。

前漢・楽浪系と思われる弥生中期の九州の遺跡の測量は、前述のとおり前漢尺の測量数値です。呉音とのかかわりは、その前か後の時代に強くあったことでしょう。

その後、まったく別の北方遊牧民系の文化が、ホタテ貝式古墳の出てくる170年前後から入りはじまり、3世紀末までには、かなり強く奈良の古墳や遺跡に影響していくようです。

それとともに、その時代の奈良の四方区画の尺度にも、先述のように変化が出てくるわけですね。

もし、弥生中期の九州の遺跡の測量・建築技術とは別の、まったく異なる測量や技術が出てきたとすれば、当然、底にかかわった技術職人にも入れ替わりがあったでしょうし、あるいはそこに使用される数字や幾何学用語にも変化があったかもしれません。

「カムヤマトモソヒメ」「イツセノミコト」「ヤオヨロズ」「タケウチ」などの用語も、どうみても呉音では読めない名称ですので、それらの人物伝承ができたと見える4世紀前半までには、訓読みをする技術集団が大和にはいないといけな計算になります。

この測量に用いた数詞や幾何学用語が、どの時点で入れ替わったのか?その辺も今後の研究課題かもしれません。魏志倭人伝や、記紀神話に見える数詞や幾何学用語、地名、宗教用語の比較から、呉音と訓読みとを分離して時代を特定していく作業が必要です。

四方区画の尺度 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月23日(金)07時50分56秒 通報 返信 引用 編集 済 また測量方法について考えてます。 昨晩は500メートルほど離れたマンションの部屋の光を眺めていたのですが、ちょうど1

度分角度が東西に傾くと、その部屋の明かりひとつ分(3メートル)くらいの誤差がでるようです。

同様に 200メートル規模の古墳の墳丘上に円筒埴輪を並べて、それに火を入れて、500メートル離れたところから、各円筒埴輪との位置と角度を測ることで、1度の範囲内で測量を可能になったのでしょうか。

まず最初に平地をならして、100メートルくらいの綱をつくって、それを10回使って1キロ程度の基本距離を測定したことでしょう。

その後は、その基本距離の両端から、90度と45度の三角測量を行って、その連続で特定方向へと距離を伸ばしていったものと感ずます。その角度を測るのが三角縁神獣鏡の鋸歯紋の分度器メモリですね。

そこで問題は、その100メートルくらいの綱を作るに際して、何をモノサシにしたかです。先にお知らせした

各地の遺跡を結んだ四方区画には、(九州(弥生中期)・奈良)10.5 KM、

(奈良)10.8 KM、(河内・奈良)11.1 KMと3つの距離尺度が見えました。これらは、それぞれ、後漢の 1里 420 M÷4=10.5、魏の 1里 432 M÷4=10.8、隋の小尺(前王朝

の尺)444 M÷4=11.1 に由来するものと考えます。(1里は 1800 尺です)

ただ 1里を 4で割った件については、開拓すべき地域の距離に合わせたのか、あるいは別の理由かが問題ですが、ともあれその当時の 1里の元となった 1尺を示す定規、どこから仕入れる必要があったのでしょうか。

たとえば、平原鏡の直径が 46センチで、後漢の 1尺 23 cmの 2倍だといわれています。また三角縁神獣鏡の直径を調べていくと、21.7~22.4 cmが圧倒的におおく、次に 23.7~24.1 のものが少々見えるようです。

前者は前漢尺 23.1 cmと周尺 19.9 の間で、後者は魏尺 24.0 cmに近いです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BA%A6%E9%87%8F%E8%A1%A1>

そして、この鏡の直径:21~2 cmを 5倍すると、105~110 cmという上記の九州・奈良の 四方区画の関連数値がでてきます。したがって、鏡の直径を 1尺として理解していたことも考えうるでしょう。

同様に前・後漢鏡の直径も下記のサイトから調べてみたのですが、こちらはバラツキがありました。13.5~7 cm前後の鏡、97~100 cmなどが多いようです。 <http://www.yamatobunko.co.jp/kagami/kankyoku/list4/list4.htm>

もっとも、その九州の弥生遺跡を結ぶ四方区画の基準単位に、27.5 kmというものがあり、これが前漢尺 27.65 cmと一致するので、その半分の 13.5 cm前後の鏡を、当時測量基準に使用した可能性を感じます。

このように、中国から仕入れた鏡などから 1尺を取り出して、基準距離を作り出していったと思います。

そして綱と鏡と筒型埴輪を使った三角測量とで、どんどん距離を測っていったのですが、海を越えるような、難解な測量については、やはり 1尺の棒をたてて、その日影の長さで、緯度と距離を測る周碑算径の理論が応用されたと見るべきでしょう。

洛陽と椿井大塚山古墳の緯度が同じことを考慮すると、同じ尺棒を使ったことによっても感じますし、そうすると、椿井大塚山古墳から奈良に伸びる 10度傾いた四方区画に使った道具 鏡などの種類も限定されてくるかもしれません。

おそらく狗邪韓国・プサンから、奈良までの距離を正確に出すためには、対馬・壱岐島経由で、まず先の狼煙火をつかった測量で正しい方角を割り出して、周碑算径でさらに福岡の緯度を割り出し、福岡から、出雲や奈良までの東西距離を三角測量で伸ばしていくしか方法はなかったでしょう。

すでに弥生時代に楽浪郡経由で成功しているので、会報で記したような遼東から楽浪郡から九州各地まで伸びる正確な方位ラインが存在しているわけですね。

同様に、出雲や奈良北部の物部の本拠磐船神社、そして椿井大塚山周辺まで、その弥生中期の時点で伸びていたかどうか?それも課題です。おそらく下記のプサンから伸びる方位ラインは、その辺の是非とかかわってきます

----- Re: 光通信 投稿者:管理人 投稿日:2012
年 3月 22日(木)22時 39分 59秒 返信・引用 編集 済

> No.285[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

> ごく身の回りにあるもの灯籠。灯籠(とうろう)は、日本の伝統的な照明器具の一つ。「灯」の字は旧字体で「燈」とも、「籠」の字は異体字で「籠」とも書く。この記事の中では固有名詞以外「灯籠」で統一する。 >

なるほど、そうすると、すでに先の神話に灯籠が暗示されているわけですね。ヤマタノオロチ といえば出雲・吉備で円筒埴輪と深い関係があります。見えてきましたね!

>> さざれ石が灯籠の残骸ならば糸口になる。実の所、三輪山にさざれ石があるんです。 > さざれ石、カルシウムの塊。方位で遡るのはどうでしょうか。 >

円筒埴輪に火を入れる際の色を、カルシウム分のある細石でオレンジにするということです ね。確か吉備津神社あたりにもさざれ石があったような気がします。

ご指摘のように、石灰の産地をつなげば何かでてくるかもしれません! 先のプサンからの 5 度角の方位ラインを再度掲載しておきます。

Digi-Key - www.digikey.jp

在庫の有無、価格および仕様をその場で確認。高品質の部品およびサービス 卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 榎原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新する 引越してどこが安い? - hikkoshizamurai.jp

TVCM 放送中! アリさん、サカイなど 130 社から最大 10 社無料見積 トヨタレンタカー - rent.toyota.co.jp/ 近くで見つかる、全国約 1,200 店舗。 プリウスなど車種指定 OK! レーザー関連機器・装置 - www.sun-ins.com/

材料加工・理化学・R&D 用レーザー ・オプトエレクトロニクスならサン Ads by Google

Re: 光通信 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 22 日(木)22 時 23 分 48 秒 返信・引用 管理人さんへのお返事です。

ごく身の回りにあるもの灯籠。灯籠(とうろう)は、日本の伝統的な照明器具の一つ。「灯」の字は旧字体で「燈」とも、「籠」の字は異体字で「籠」とも書く。この記事の中では固有名詞以外は「灯籠」で統一する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%81%AF%E7%B1%A0>

http://www.google.co.jp/search?q=%E7%81%AF%E7%AF%AD&hl=ja&rlz=1T4GGHP_jaJP458JP458&prmd=imvns&tbm=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=_SNrT7uGIszGmQWt58G3Bg&ved=0CHcQsAQ&biw=1046&bih=893

さざれ石が灯籠の残骸ならば糸口になる。実の所、三輪山にさざれ石があるんです。 さざれ石、カルシウムの塊。方位で廻るのはどうでしょうか。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%95%E3%81%96%E3%82%8C%E7%9F%B3>

Re: 光通信 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 22 日(木)21 時 48 分 17 秒 返信・引用 編集 済 > No.283[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそく貴重な情報ありがとうございます!

> カルシウム、石灰が高温で橙赤色の光を出す、これが光源でホウズキ色と表現した模様。 > 橙赤色は透過性がよい。光源に最適です。

なるほど、赤めの色を使うという手もありますね。暗くても距離が伸びたほうがいいはずで す。

。 > それに、緑色から黄色にかけての波長域(530~590nm)は人間の目の感度が最も良い部分で

もあるのだ。 > 霧の際、カーブなどで対向車にいち早く発見されやすいという点でも黄色は有効だ。 >

霧というのも、ステージとかでよくある煙幕とレーザービームの演出とかを想起させます。

私個人としては、先のホウズキ色の目をして山々に尾を伸ばすヤマタノオロチというのが、 光線が延びる様子と考えてもよいかと感じました。鏡石の光かもしれないし、他の光かもしれないが、赤かったかもしれませんね。

ともかく、どこの地域の古墳を見ても、どういう角度の方位ラインにしても、尋常ではない精度を示しているの で、どこの古墳にもある材料で、光通信をしたと考えるべきでしょう。上記 の石灰あたりは簡単に手にはいり そうです。

それで遺物関連でおもいつくのは、やはり先の円筒埴輪と鏡、勾玉あたりですね。

円筒埴輪の窓みたいに横についている●や▼穴、これがホオズキの目に見えるかもしれません。

複数の円筒埴輪を古墳の上にずっと 30 センチ間隔くらいで一直線に並べるんですね。

それでその●や▼窓の部分を、南なら南にすべて向けておく。ただし、その角度を 1 度くらい ずつずらしておきます。

それを 1 キロ先から、測量士が視認して、どの埴輪が一番よく見えるかを合図で答えれば、30 センチ、1 度レベルでの精密な測量が可能になるかもしれません。その際に方形部の軸の 向きは、宮都や城からもっとも適切な向きにしておく必要があります。

そのために、方位ラインや古墳軸と、宮都や住居建築かわる先の四方区画の角度とがかか わってくるはずで

す。

またその光る埴輪の配列で暗号通信も可能だったでしょう。

その埴輪を並べる最初のマウンドは、過去につくった古墳とか、これからつくるべき古墳の 土台で、木々の高さを少し超えるくらいでよいでしょう。15 メートルもあればOk です。

ただ、注意点は円筒埴輪や鏡を並べる際に、まず高さが一緒であること、次に方向の規則性 です。後円墳の円形部分に並べる場合は、その円形に並べる際の規則があって、向きも後円墳 の中心点に対して、並行に向けるとか、それなりの工夫がないと測量できないでしょう。前方 部に並べる場合はも同様ですね。

円筒埴輪の変わりに鏡を並べる方法もあったかもしれません。その場合は複数鏡を並べる 必要があるので、埋蔵数も多くなるでしょう。

勾玉を凸レンズとして使う件は、今ちょっとビー球とかオハジキを買ってきて、懐中電灯で 照らしてやってみたんですが、やはりレンズ効果を出すのはかなり難しいように感じました。

----- Re: 光通信 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 3 月 22 日(木)19 時 55 分 17 秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

カルシウム、石灰が高温で橙赤色の光を出す、これが光源でホウズキ色と表現した模様。 橙赤色は透過性がよい。光源に最適です。

第 2 族元素(アルカリ土類金属) カルシウム - 橙赤色(橙緑色) ストロンチウム - 深赤色、460 nm(紫色) バリウム - 黄緑色(青緑色)

ラジウム - 洋紅色

るつぼ、耐火材 多孔質のカルシア(酸化カルシウム)は 2000 °C まで使用でき、触媒作用・吸収・汚染が少ない。

精錬

酸素と結びつきやすい性質から、古来より蛍石(フッ化カルシウム)が融剤として銅の精錬 に用いられた。

紫外線<紫色<青色<緑色<黄色<橙色<赤色<赤外線 400nm 以下 400nm 450nm 530nm 590nm 600nm 630nm 700nm 以上

の順に波長が長くなる。ただし、紫外線と赤外線は人間の目には直接は見えない。 変な話だが、赤外線撮影をすると洋服が透けて見えるのは、赤外線は波長が長く透過性が 高い(=回折しやすい)為である。 テレビリモコンもこの赤外線の光が使われている。

つまり、波長が長いほうが光が通りやすいなら、黄色より赤色を使うほうがいいことになる が 赤色は交通においては、信号やテールランプに用いる色なので、前方を照らす補助灯に用い ることは出来ない。 それに、緑色から黄色にかけての波長域(530~590nm)は人間の目の感度が最も良い部分でもあるのだ。 霧の際、カーブなどで対向車にいち早く発見されやすいという点でも黄色は有効だ。

<http://homepage3.nifty.com/lumogen/column/car/foglamp.html>

----- Re: 光通信 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年 3月 22日(木)19時 14分 18秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。
方位ラインは凄いですな。それでは『精度の高い測量をする装置』を古事記から拾います。

色をホオヅキと言っている。大きさは鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡、なにを思い浮かべますか。

1『高天原も葦原の中国も自然に明るくなったのです。』 2『天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国までを照らす神がいた。その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキのように照り輝いているという姿であった。』 3『その目は、ホオヅキの花のように真っ赤で、ひとつのからだに頭と尾が八つづつある大蛇(だいじゃ)です。』 4『わたしは、この国(葦原の中つ国)の神でサルタヒコといいます。』 5『海で魚を獲(と)っていたところ、』 6『鏡を差し出してアマテラスオオミカミにお見せしました。』

色をホオヅキと言っている。ホオズキ(鬼灯、酸漿)は、ナス科ホオズキ属の多年草。またはその果実。カガチ、ヌカヅキとも言う。花言葉は「偽り」。黄色透明、鬼灯

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9B%E3%82%AA%E3%82%BA%E3%82%AD>

そのとき金属ごとの自由電子の性質の微妙な違いにより、入射光の一部を吸収する金属もある。金は可視光の中の青の波長域を吸収するためその補色の黄金色に輝く。銅は青～緑の波長域を吸収するため赤みがかって見える。亜鉛やカドミウムは橙～赤の波長域を吸収するため青っぽく見える。

「あなた以上の尊い神がいらっしゃるので、われわれはみな喜んで笑い、楽しんでおりました。」と申し上げている間に、アメノコヤネノミコトとフトダマノミコトは、鏡を差し出してアマテラスオオミカミにお見せしました。すると、その姿が鏡に映ったので、アマテラスオオミカミは、ますます怪しいと思って、少し戸から出て外をのぞかれたところ、隠れていたタヂカラオノミコトがアマテラスオオミカミの手をとって引き出し、すぐにフトダマノミコトが注連縄(しめなわ)を天の岩屋戸の入り口に引き渡し、「もう、ここから中へは、帰ることはできません。」と申し上げました。こうして、アマテラスオオミカミが、天の岩屋戸から出てこられたので、『高天原も葦原の中国も自然に明るくなったのです。』

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_02.html

「はい。それはもう恐ろしい怪物です。『その目は、ホオヅキの花のように真っ赤で、ひとつの

からだに頭と尾が八つづつある大蛇(だいじゃ)です。』そのからだには、コケや杉やヒノキの木などが生え、その長さは八つの谷と八つの山ほどもあり、その腹は、いつも血がしたたて、ただれています。」

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo_03.html

邇邇芸尊が天降りしようとしたとき、天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国までを照らす神がいた。その神の鼻長は七咫、背長は七尺、目が八咫鏡のように、またホオズキのように照り輝いているという姿であった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%AB%E3%82%BF%E3%83%92%E3%82%B3>

『わたしは、この国(葦原の中つ国)の神でサルタヒコといいます。』天の神の御子さまが降りていらっしゃると聞き、ぜひお仕(つか)えしたいと思って、お迎えにやってきました。」

「ニギノミコトよ、あなたは、この鏡をわたくしの魂(たましい)だと思って、わたしを拝むように、これを大切にお祭りしなさい。またオモイカネノカミよ、そなたは、ニギノミコトのことをよく助けてやり、そして政治を行いなさい。」今も伊勢神宮(いせじんぐう。三重県伊勢市)にお祭りされています。(また、以上のニギノミコトと同行した神さまたちは、アマテラスオオミカミの「天の岩戸」神話に登場する神々です。)アメノイワトワケノカミは、「天の岩戸」が神となったもので、天皇の宮殿の門をお守りになっています。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_05.html

さて、そのサルタヒコが、阿耶訶(あざか。現在の三重県松阪市※)というところへ行った時に、『海で魚を獲(と)っていたところ、』ヒラブ貝に手をはさまれて海の底に沈み、溺(おぼ)れてしまいました。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_06.html > ともあれ、何か非常に精度の高い測量をする

装置があったとしか考えられません。この辺
の検証をしていきましょう。

3つの四方区画 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 22日(木)09時 34分 0秒 返信・引用 編集済
昨晚は三角縁神獣鏡を出土した古墳を結んだ奈良の四方区画を紹介しましたが、先の3つの同様な四方区画
との比較で、時代順を確認してみたいと思います。

昨日お知らせした四方区画は、佐味田宝塚古墳や、鴨都波古墳、崇神陵をメインにしており、思うにかなり遅
い時代、4世紀中葉あたりの四方区画ではないかと考えはじめてます。三角縁を使い終わってあまり必要なくな
ったので、そのまま四方の墓に埋めたままになったという線も考えうるかもしれません。

尺は 10.8 km の魏尺ですが、南北を偏角なしで正方位としてしており、それ以前の偏角が出るタイプの測量
から、変化した後のもののよう感じます。

それで、再度先日紹介した 10 度角傾いた四方区画と、5 度角のものとを比較しまして、その 四方区画の拠点
となった古墳の年代を確認してみました。

10 度角のほうは、椿井大塚山、中山大塚、桜井茶臼山、崇神陵、秋津遺跡、物部の本拠・磐舟 神社がメインにな
ります。この四方区画の延長線上に、西殿塚、室宮山古墳、顕宗陵がでてきます。後代の物部・中臣がこのライ
ンを管理していたようです。11.1 KM の尺です。

5 度角のほうは、西殿塚、黒塚、桜井茶臼山、乙女塚(ホタテ貝式)、櫛山古墳(双方中円 墳)、孝安・神武・綏靖・孝
元陵、となり、尺は東西:10.5 KM、南北 12.1 km です。

考古年代的には、西殿塚より中山大塚・椿井大塚山のほうが古い部分そうですが、尺的には 短いほうが古いとい
われますね。10.5 km は漢尺で、11.1 km は、河内の古墳と同じ尺で4世紀代でしょうか。

宮山古墳、秋津遺跡は、西殿塚から中山大塚を経由する斜めラインを後代知っていたので、その延長線上に造
営できたという線になるでしょうか。

桜井茶臼山古墳はいつも基点として動かない感じです。中心地域の真東に位置してます。孝 安陵も同様キーと
なる古墳です。

マキムク遺跡も双方、マキムク小学校の北東部のホタテ貝式古墳の少し北を通過してますね。 この辺で遺跡を
掘るべきではないでしょうか。

なにか一筆書きみたいな論理で、合理的にどちらが古いかを証明できるはずなのですが、どなたかこのクイズ
解いてくれませんか?3つの四方区画を再度添付しておきます。

----- Re: 光通信 投稿者:管理人 投稿日:2012
年 3月 22日(木)08時 23分 9秒 返信・引用 編集済 > No.278[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> プサン→出雲の方位ライン、古事記を読むと順天-出雲の方位ラインが読み解ける。 > これは、東征航路が明
確にならないと理解できないのです。 >> 少し、踏み込みましょうか。 地図は雑です。

とりあえず、その前に光通信や測量技術の方法を確定したいところです。 というのも、上記のように海を超える
ラインになってくると、その技術の論証がないと、説得力がないかと感じてます。

> 光通信の設備は現在も存在し、残骸が東征航路に存在するのが現実です。 > 君が代の詩がこれにあたります。
>

いろいろ昨晚も考えてみましたが、やはり今までの電子地図を使って数十の古墳と方位ライ ンを見てきた結果
としては、1キロで2メートル以内の誤差の範囲内で測量できる方法を彼らが持っていたと理解するしかない
ほど精度が高いです。

1キロで1度の誤差ができれば、 $2\pi R=360$ 度で、15メートル以上ズレができます。それをさらに10分の1に減らす分度器を作成することも、測量することも不可能です。

できるとすれば、光通信しかないでしょう。先のサーチライトで1キロの光線を飛ばして、ダイレクトに印をつけるしかありません。

縄文時代のストーンサークル関連で、山の上に立てる鏡岩で光通信をしたとの説が有名です。秦野さんご指摘の君が代の件もそのあたりのことでしょうか？

それで、確かに吉備のタテツキ遺跡の上にたつ石柱の断面をみると、凹レンズ効果を出すのにふさわしい方物面があるんです。下記に写真を添付しますが、台湾の同様なものはもっと光輝いてました。鏡岩を反射させたという線は考えてみたいです。

もうひとつは、さっき実験していて驚いたのですが、凸レンズ効果があります。具体的には、懐中電灯の光の前に、虫眼鏡を置くと、はるかに遠くへ綺麗な光を飛ばすことができます。凹面鏡を使った現代でいえばレーザー光線に近い原理です。

筒型埴輪あたりで整形した炎を、鏡で反射して一定方向へ飛ばし、その鏡の前に、セキエイ系のレンズ効果を持つ大きな勾玉とか玉を置くことで、遠くへ光を飛ばすことはできないでしょうか。

下記のサイトに、昨日お知らせした三角縁を出土した四方区画の秋津遺跡や佐味田古墳群から出土した勾玉類が見れます。セキエイ系の透明度の高い勾玉もあるようです。メガネのレンズみたいな形してますね。

<http://www.yamatobunko.co.jp/tonbodama/magatama/list4/magatama04.htm>

また下記のキシの情報に関係しますが、バビロニア時代にすでにレンズをつかった望遠鏡があって、金星の満ち欠けや木星の衛星を見ていたようです。どこかでレンズ効果を知っていた可能性も考えてみたいですね。三種の神器の伝承をもう少し解析してみたい気もします。

ともあれ、何か非常に精度の高い測量をする装置があったとしか考えられません。この辺の検証をしていきましょう。

----- 光通信 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年3月21日(水)23時36分19秒 返信・引用 編集済 プサン→出雲の方位ライン、古事記を読むと順天-出雲の方位ラインが読み解ける。これは、東征航路が明確にならないと理解できないのです。

少し、踏み込みましょうか。地図は雑です。

徐福と邪馬台国の女王国より北方にある、遠くに在って国名だけしか分からない国として斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国があり、小浜の近くになります。ここから日本海を九州に下るとを出雲になる。古事記の国譲りの項になる。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_01.html

魏志倭人伝の裸国の周囲距離。女王国より北方の国、倭奴国、奴国、が理解できるでしょう。現在、徐福と日本神話を整理中です。方位ラインも考慮します。

光通信の設備は現在も存在し、残骸が東征航路に存在するのが現実です。君が代の詩がこれにあたります。

神武東征も見直す必要がある。

「三角縁」四方区画 投稿者:管理人 投稿日:2012年3月21日(水)21時38分16秒 返信・引用 編集済 > No.276[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > プサン→出雲の方位ライン何かでできそうですね。 >
- > 仁徳・応神陵は東西方位ライン、「太陽の道」竹之内街道、茅渟の道が両者を繋いでいる。 >
- > 茅渟の道は百済、神宮皇后伝説が多い。竹之内街道は羽曳野、河内源氏、堺で交わる。 >

- > まるで、クイズですな。

さっそくお返事ありがとうございます。まったくそのとおりです。

先ほどから、三角縁神獣鏡を多く出した奈良の古墳を結ぶ四方区画を作成してみたところ、さらにもうひとつ四方区画が出てきました。

出土古墳については下記参照。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%A7%92%E7%B8%81%E7%A5%9E%E7%8D%A3%E9%8F%A1>

具体的には、先の秋津遺跡そばにある「鴨都波 1 号墳」(三角縁 4 枚出土)、真北にある馬見 古墳群の佐味田宝塚古墳(三角縁+銅鏡 36 枚~出土)、そこから真東に崇神天皇陵、そして真南にメスリ山古墳(神獣鏡破片・武器用の石室有)方向へと伸びる、1 辺 108 キロ の四方区画です。

108 キロは魏尺ですね。それで、その斜辺上に、ちょうどマキムク遺跡中心部にある「マキ ムク小学校」下を通過します。

また中心地点から真東に伸ばすと、桜井茶臼山古墳(三角縁+銅鏡 13 枚以上)に出ます。さらに伸ばしていくと伊勢の多気駅周辺にでるのですが、この地域は伊佐和神社があるように、いわゆる斎宮の地です。かなり古い伝承をもってます。

そして同じく中心から西の伸ばしていくと、秦野さんご指摘の竹之内街道があります。いわゆるタケウチスクネの世界ですね。

崇神天皇陵の後円部とメスリ山の後円部に 30 メートルくらいズレがあり、桜井茶臼山と中心地点にも同程度のズレがあるので、若干四方区画がズレる可能性があります。

四方区画の成立自体は、3 世紀末から 4 世紀前半ではないかを感じるのですが、三角縁神獣鏡がもっとも多く製造されて、使用されていた時代と見受けられますね。

そして、何か四方区画にこの鏡がダイレクトにかかわっていることも伺えます。鴨都波や佐味田宝塚古墳は必ずしも大きな古墳とはいいがたいのですが、鏡を埋蔵しておくには、重要な測量拠点だったのでしょうか。被葬者の権威=鏡の枚数という公式だけでは、ちょっと理解しづらい部分があります。

三角縁神獣鏡と測量の関係については、先ほどからまた反射実験をしています。複数の鏡を同時に高く掲げて測量した可能性もあります。そのほうが目立つでしょう。ご指摘の三輪山

も奈良を一望するにはいい地点です。

あと狭山池などの池ですが、たとえば火を燃やしたさいに、それが映ることによる水面鏡効果というのがありますね。古墳の周壕にためた水も同様な効果があるかもしれません。古墳上に並べた筒型埴輪などで燃やした火を反射できるかどうかは、ちょっとやってみないとわからない感じがですが…。

確かに筒型埴輪列に火を入れれば、夜のモニュメントとしては見事なものでしたでしょうし、その古墳の軸がその埴輪列によって矢印のようにして示されるので、山の上からその「矢印」を確認することで、その地の地理を正確に把握できるかもしれません。もう少しこの辺模索してみたいところです。

Digi-Key - www.digikey.jp

在庫の有無、価格および仕様をその場で確認。高品質の部品およびサービス 引越してどこが安いの? - hikkoshizamurai.jp TVCM 放送中! アリさん、サカイなど 130 社から最大 10 社無料見積 日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催! トヨタレンタカー - rent.toyota.co.jp/

近くで見つかる、全国約 1,200 店舗。プリウスなど車種指定 OK! 学研の科学実験をネットで - gakken.jp/netgk/kagaku/ 楽しい理科実験セットを毎月お届け PC・タブレットへ実験動画を配信 Ads by Google -----

Re: 西殿塚5度角ライン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 3月 21日(水)16時 33分 57秒 返信・引用 > No.269[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 プサン→出雲の方位ライン何かでできそうですな。 仁徳・応神陵は東西方位ライン、「太陽の道」竹之内街道、茅渟の道が両者を繋いでいる。

茅渟の道は百済、神宮皇后伝説が多い。竹之内街道は羽曳野、河内源氏、堺で交わる。 まるで、クイズですな。

>> 方位ラインは六角形ではないか。うまく説明ができない。 >> 妄想か。どうも、時代の流れで方位ラインを追加したと考えるのが自然かもしれない。 >> 仁徳・伊勢ラインの件ですが、ちょっと六角形にしては辺の長さが異なりすぎますので、それはないと感じます。ただ、確かに110KMの尺にするために、秦野さんの東西に伸ばしたい気持ちはわかります。でもその地点に該当する古墳がありません。 >> それで、先に会報で記したとおり、仁徳・応神陵は東西方位ラインにあります。おそらく考古の方は、ご存知な方もいらっしゃるでしょう。また奈良(飛鳥)と伊勢のラインも、「太陽の道」とのことで、かなり有名です。 >> ただ、問題は、まだ研究レベルに達していないことです。方位は東西で正しいのですが、距離や尺の件がアバウトな理解で終わってます。伊勢(神宮)と仁徳陵の緯度とでは、南北に2キロ以上も誤差があります。当時の測量誤差は大きくても、100メートル以内です。 >> そこで、仁徳→応神陵と、先日ご紹介した巢山→崇神陵ラインを結合しまして、東西の方位ライン図を作成してみました。

----- 古事記、黄泉の国 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 3月 21日(水)12時 55分 47秒 返信・引用 編集済 海原の国を追放されたスサノオノミコトは、「よし、それならアマテラスオオミカミに申し上げて、黄泉の国に行こう。」と言って、天に昇られました。しかし、その時に、山や川が大荒れの嵐になり、国中が揺れ動きました。そこで、アマテラスオオミカミは、大変驚いて、

「わたしの弟が、天に昇ってくるのは、まちがいに善い心を持ってくるのではないでしょう。わたしの国を奪おうと思っているのかもしれない。」とおっしゃて、髪をふりほどき、左右の耳のところに輪を巻き、その髪の輪にも、鬘(かずら)にも、左右の手にもたくさんの勾玉(まがたま)がついた玉の緒(お)を巻きつけ

ました。(男の髪型にした。)そして、背中には矢が千本入る筒をかつぎ、腰にも五百本入る筒を、腕には威勢のよい音が出る鞆(とも)をつけ、弓を振り立てて、力強く庭を踏みつけ、淡雪のように大地を蹴散らし、男のような威勢のいい声で叫びながら、スサノオを待ち受けた。

「おまえは、どういうわけで昇って来たのか!」「わたしは、やましい心を持ってはいません。ただ、お父さんが、わたしが泣きわめく理由をき

かれたので、わたしは、お母さんのいる黄泉の国へ行きたいと答えました。しかし、お父さんは、それでは、お前はこの国いてはいけないとおっしゃて、追い払われてしまったのです。そこで、これから黄泉の国へ行く理由をお姉さんに報告しようと思ってここに参りました。謀反の心などはありません。」

要約、スサノオは茅渟の道を歩いて瑞穂の国のアマテラスに会いに行く。

http://www15.plala.or.jp/kojiki/amaterasu_susanoo/amaterasu_susanoo.html <http://>

----- Re: 西殿塚5度角ライン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 3月 21日(水)12時 01分 40秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

仁徳・応神陵は東西方位ライン、秦野は方位ラインで囲まれる範囲を国と見えています。 方位は国境。伊勢から狭山池まで 106 km になる。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8B%AD%E5%B1%B1%E6%B1%A0_\(%E5%A4%A7%E9%98%AA%E5%BA%9C\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8B%AD%E5%B1%B1%E6%B1%A0_(%E5%A4%A7%E9%98%AA%E5%BA%9C))

狭山池は古代に川を堰き止めて池としたと思われる。(垂仁)古事記にまで遡る。 当時、黄泉の国、葦原中国、瑞穂の国が記されている。

<http://www.city.osakasayama.osaka.jp/10,598,31,138.html>

方位ラインは古墳、遺跡を元に展開している。古墳より以前は古墳がないので狭山池を遺跡
と考え方位ライン引くのも選択肢になる。

日本神話で黄泉の国、葦原中国、瑞穂の国の境が明確でなかった。方位ラインで説明ができそう。茅渟の道は徐福と邪馬台国で紹介した道です。地図添付 日本神話が結びつけば鏡の配置がみえる。ひとつは三輪山になる。

> 仁徳・伊勢ラインの件ですが、ちょっと六角形にしては辺の長さが異なりすぎますので、それはないと感じます。ただ、確かに110KMの尺にするために、秦野さんの東西に伸ばしたい気持ちはわかります。でもその地点に該当する古墳がありません。 >

> それで、先に会報で記したとおり、仁徳・応神陵は東西方位ラインにあります。おそらく考古の方は、ご存知な方もいらっしゃるでしょう。また奈良(飛鳥)と伊勢のラインも、「太陽の道」とのことで、かなり有名です。
>

> ただ、問題は、まだ研究レベルに達してないことです。方位は東西で正しいのですが、距離や尺の件がアバウトな理解で終わってます。伊勢(神宮)と仁徳陵の緯度とでは、南北に2キロ以上も誤差があります。当時の測量誤差は大きくても、100メートル以内です。

> あと、ご指摘のプサン→出雲の方位ラインも、すでに一部で知られているのですが、会報に紹介掲載した図を添付しますので、よろしくご参照ください。確かにプサンを基点とした集団がいて、秦野さんおっしゃるとおり、「高天原」を想起させてくれますね。そこで示した3つの方位ラインにでてくる「5度角」というのが、何なのか?そこも課題です。

>

----- 縄文・弥生測量?『五芒星測量』投稿者:棘の
紀氏 投稿日:2012年 3月 21日(水)02時 38分 56秒 返信・引用 五角形の館跡、もしくは居住跡ではないかというのが、米通りの遺跡だが、五角形というのは縄文時代から、かなり ...
<http://dostoev.exblog.jp/16698525/> 縄文時代の住居跡は円錐形のイメージが強いようだが、四角形・五角形・六角形などの住居跡も多く発見されているよう。

近畿の主要神社を結ぶと『五芒星』が浮かぶと Twitter で話題に|| ^^ |秒 ...

2011年 11月 9日 - 実際にそれらを線で結んだ状態が GoogleMAPに掲載されているのだが、確かにまるで 測量系でも使用したかのように綺麗な『五芒星』が浮かんでいるのだ。1000年以上も前の古代の人は意識して作ったのだろうか。 gobou 畿内の大五芒星
...<http://www.yukawanet.com/archives/4007514.html>

共形変換と2角のずれ <http://homepage1.nifty.com/metatron/zone-02/253.htm> 黄金比を形成する角度と正4面体の2角との間のずれは、12で閉じた黄金比の流れ方を 13でさらなる展開方向を持たせるための、振動の幅として解することはできないだろうか。

金星は、黄道の引かれた天を渡りつつ、八年毎に完璧な五芒星を描く。

<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~midearth/bessatsured/hoshi/planetsearen3.htm>

ダ・ヴィンチ・コードは、いろいろな蘊蓄に満ちていて、しかしその全部が本当ではないらしく、批判もされてるけれど、この金星が黄道に沿って五芒星のラインを辿るというのは、ほんとのことだ。で、昔の人もそれを知っていたから、☆の形は素晴らしいものとして扱われた。それが今でもいろんな方面に残っている。五芒星、五角形というのは、元は金星と結びついた 図形として捉えられていた。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

凹面鏡と光通信・追記 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 21日(水)02時 29分 50秒 通報 返信・引用 編集済 > No.270[元記事へ]

ちょっと簡単な凹面鏡の実験をしました。アルミ缶の底面に、ちょうど三角縁神獣鏡の背面にいた角度の

凹面鏡があり、また同じく表面に凸面鏡になることに気がついたので、その目の前にて、ライターで火をともし、どの程度反射するか実験してみました。

結果は、良好で、ある程度の放物面が形成されれば、多少濁っていても、よく光を集めて光線を形成するようです。スプーンなどででもできましたが、やはりレンズ効果なので、御碗状であることが欠かせません。

逆に缶の凸面部はまったく反射しませんでした。光が周囲に拡散してしまうようです。

小型のマメ電球でも、同様に凹面鏡がついているので実験しましたが、50メートルは飛ぶようです。業務用なら、12v バッテリークラスの明るさのもので、1キロ~16キロも飛ぶと書いてあります。

下記サイトの動画参照。

<http://www.kddl.com/kyoryoku110.html> <http://www.nice-tech1.com/> <http://www.shinwa-musen.co.jp/serchlight.htm> <http://www.anandenki.co.jp/disaster/ultrahighbeam.html>

古代の灯台で凹面鏡反射を利用した事例では、ローマ時代のアレクサンドリアの140メートル以上あったというファロス灯台が有名です。木を燃やして、凹面鏡で反射させて、遠くの船を焼いたともいわれるほどだったそうです。50キロ先からも見えたとか。

<http://www.bibalex.jp/Ancient/02/02008.html>

戦国時代の烽火と鏡を使用した光通信も同様なものだったのでしょうか。

昨日紹介した四方区画内の斜線上に位置した奈良の耳成山(139メートル)とか、香具山(152メートル)、畝傍山(198メートル)あたりに、この手の凹面鏡反射装置を置けば、周辺遺跡に向けての方位ラインの作成も容易だったかもしれません。古墳の上から照射する場合は、ある程度の高さが必要ですね。火を燃やす筒型器台の上に鏡を置くとかしながら、やったのではないのでしょうか。

凹面鏡でよい光線を形成するためには、鏡のすぐそばまで火を近づける必要があるようです。またそれほど、強い曲面が必要というわけではなく、メガネのレンズくらいの角度でも十分です。もちろん、磨きがかかっていればいるほど強く反射します。

ひとつ実験で気づいたのは、縦長の炎の形を丸く整形する必要があります。円筒型の土器で火を炊いて、その側面にある丸い穴あたりから出る光をうまく反射できれば、綺麗な光線ができるかもしれません。

また遠くへ飛ばすには、火の大きさと鏡の直径が必要そうですが、平原のような大きな鏡でなくても、ある程度大型でかつ持ち運びやすい凹面をもつ三角縁神獣鏡は測量や航海にベストな大きさだったのかもしれない。こげている三角縁があれば証明可能ですが、黒いシミのついたのはたまに見かけますね。

それで山の斜面に、サーチライトのような光線が当たって、その当たった円形の反射部の模様などから、さらに細かく方位を確定できれば、ベストな測量ができたでしょう。そのためには、反射しない部分を作っておく必要がありますが、神獣像とか、鋸歯紋はどのように反射するのでしょうか。

あと、三角縁にも、平面的なものや、御碗型のものまでバリエーションが多くあり、表面も曲面を残しているものから、階段状のものもありますので、それぞれで実験してみないとわからない感じです。また山幸神話のように、鏡の変わりによく光る玉碗等を使う手もありますね。

初期の中国製のほうが、曲面の角度が強かったようですが、後代になると三角縁の部分が発展してきます。水を入れる容量が大きくなるよう改良されていったように見えるのですが、反射面ではどうだったのかが課題です。

下記の図は、240年代銘文が残る中国製の曲面が残っている三角縁神獣鏡(レプリカ)と、米軍の初期の凹面鏡を使ったサーチライト、そして三角縁神獣鏡断面の変遷図です。

----- 凹面鏡と光通信 投稿者:管理人 投稿
日:2012年 3月 20日(火)21時 56分 30秒 返信・引用 編集済
下記にて、プサンからの方位ラインを紹介いたしましたが、どうやって海をまたいで測量できたのか?その辺のことが気になりだろうと感じます。秦野さんご指摘の光通信はひとつの手段として有効です。

先の会報でも、鏡と狼煙火を利用した戦国時代の光通信の件は、すでに紹介しましたが、いまいち仕組みが理解できずじまいでした。

ただちょっと先ほど凹凸面鏡について調べていて、思いついたことがあります。

三角縁神獣鏡は、よく言われるように凸面鏡です。人の顔が伸びて映るので、別の利用法があったらと指摘されています。

ところが、裏側は凹面鏡にもなるんです。それでサーチライトというのが、凹面鏡を使うそうです。下記参照ください。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%87%B9%E9%9D%A2%E9%8F%A1>

思うに鏡の裏側をメインで使ったのではないのでしょうか。

もうひとつ調べていて気づいたことは、凹面鏡で人の顔を映すと、上下左右が反対になることがあります。スプーンがそうですね。 http://starfort.cocolog-nifty.com/voorlihter/2008/02/post_22dc.html

それで先日三角縁神獣鏡の関連神話として紹介した山幸彦の井戸の話があります。その井戸は顔の左右が反対に映る井戸だと記されている点がありました。

その井戸の中には、山幸彦や海底の神仙世界が広がっているのですが、思うに三角縁神獣鏡の背面の凹面鏡の像を意味していたのではないのでしょうか。そうすると、三角縁にした意味も理解できるかもしれない。光が拡散しすぎないように、縁を高くした可能性もあります。形がサーチライトそっくりです。

サーチライト

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%81%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%88>

この戦国時代のように、この鏡の前にともし火を炊いて光通信をしたという原理が浮かんできますね。それで測量すれば、かなり精度の高い測量が可能だったかもしれません。その辺は、ちょっと実験してみないとなんともいえない感じがしますが、よかったら実験してみてください。

もともとは、三角縁神獣鏡の原型は、先日説明しましたとおり、中国の神人画像鏡にあると感じます。

この画像鏡は、その前の漢代の規ク鏡系で、定規を鏡に描いたものでした。それに南方系の三角鋸歯紋を、360度周囲に刻み付けたものですが、これで定規と分度器の組み合わせいに

対応します。

その上に、さらに四神像を入れて東西南北を示すようにして、さらに三角縁神獣鏡の時代に至って、背面を凹面にすることで、水を入れて水平を出せるようにもしたのでしょう。

そして、その水面の上に方位磁針たる指南魚を浮かべて、コンパスの役割も加えたわけです。

同時に、上記のサーチライト効果を加えることで、完璧な測量をすることが可能になったのかもしれません。もちろん、灯台代わりにもなったでしょうし、会報で触れた神功皇后紀に見える船のマストにかけた鏡と通信との関係も思い浮かびます。

サーチライトがないと、やはり海をまたぐ測量は無理だったでしょう。

このように、この鏡が500面以上も増産された理由には、王権の誇示という以外に、古墳の造営や、土地(軍事)測量、通信をさせることへの測量道具の貸与という意味もあったことでしょう。電子地図で見るときの、その古墳測量の正確さを、すぐにお伝えできないのがもどかしいところですが、後日またビデオ動画にして、その一部始終をご紹介します。10キロ離れていても100メートルの誤差もでないことがすぐお分かりになると思います。新しい技術を活用していきましょう。

Ads by Google ----- Re: 西殿塚5度角ライン
投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 20日(火)20時 23分 49秒 返信・引用 編集済 > No.268[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 方位ラインは六角形ではないか。うまく説明ができない。 > 妄想か。どうも、時代の流れで方位ラインを追加したと考えるのが自然かもしれない。

仁徳・伊勢ラインの件ですが、ちょっと六角形にしては辺の長さが異なりすぎますので、それはないと感じます。ただ、確かに 110KM の尺にするために、秦野さんの東西に伸ばしたい気持ちはわかります。でもその地点に該当する古墳がありません。

それで、先に会報で記したとおり、仁徳・応神陵は東西方位ラインにあります。おそらく考古の方は、ご存知な方もいらっしゃるでしょう。また奈良(飛鳥)と伊勢のラインも、「太陽の道」とのことで、かなり有名です。

ただ、問題は、まだ研究レベルに達してないことです。方位は東西で正しいのですが、距離や尺の件がアバウトな理解で終わってます。伊勢(神宮)と仁徳陵の緯度とでは、南北に2キロ以上も誤差があります。当時の測量誤差は大きくても、100メートル以内です。

そこで、仁徳→応神陵と、先日ご紹介した巢山→崇神陵ラインを結合しまして、東西の方位ライン図を作成してみました。

ただ、南北に少しズレがあります。古墳群としてとらえたほうがよいかもしれません。百舌→古市→馬見→柳本古墳群という対応ですね。

また尺がことになっております。百舌→古市は、110KMの魏以降の時代尺ですが、馬見→柳本は100KMです。

もともと、この4箇所には、古い測量墓があって、そこに配置された氏族群のうちで、河内に勢力を持つものが出てきたという可能性を感じます。

それで大和を模したものの、測量する時代をくだるにつれて延びる時代「尺」が異なるので、計りなおした。それで、少しずつ古墳の位置も変化しているという可能性も感じます。測量誤差と計りなおしの件は、キシさんの本に、アイデアが出されているので、ご参照ください。

誤差が出てくる原因は、先の四方区画のケースのように、軸が東西にぶれることや、キシさんご指摘の地球が丸いことによる歪みなどもありえますね。周碑算径と緯度誤差の件もあるでしょう。

その辺の測量関連を無視して、古墳の位置に関する論議はできないだろうと感じます。この辺のことも、科学的に取り組むべき時期にさしかかってきたといえるでしょう。

あと、ご指摘のブサン→出雲の方位ラインも、すでに一部で知られているのですが、会報に紹介掲載した図を添付しますので、よろしくご参照ください。確かにブサンを基点とした集団がいて、秦野さんおっしゃるとおり、「高天原」を想起させてくれますね。そこで示した3つの方位ラインにでてくる「5度角」というのが、何なのか?そこも課題です。

----- Re: 西殿塚5度角ライン 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年 3月 20日(火)11時 50分 57秒 返信・引用 編集済 > No.266[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

方位ラインは六角形ではないか。うまく説明ができない。

妄想か。どうも、時代の流れで方位ラインを追加したと考えるのが自然かもしれない。

>> 下記に先の10度角の四方区画の拡大図を添付いたします。 > 特に図の下方に見える 秋津(宮)遺跡→孝安陵→斉明→文武→板蓋宮→多武峰あたり の10度角ラインや、対角線上に見える多武峰→香具山→藤原宮→国分寺・春日ラインあたりに注目してみてください。 >> このラインは藤原・中臣関連が多く見えます。そのあたりで欠史の陵墓がどう捉えられるれていたかですね。

----- Re: 西殿塚5度角ライン 投稿者:秦野北斗

投稿日:2012 年 3 月 20 日(火)09 時 51 分 26 秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。 著書、徐福と邪馬台国で紹介した卑弥呼と伊勢神宮の関係です。もう少し詳しく。

畝火山口神社に、気長足姫命(神功皇后)・豊受比売命・表筒男命を祀り、から
表筒男命は卑弥呼の弟、その娘が気長足姫命と豊受比売命になる。
この神社の場所が邪馬台国になる。

卑弥呼の死後、伊勢神宮内宮に卑弥呼を祭ったのが甕與こと気長足姫命(神功皇后)、天照 大御神(あまてらす
おおみかみ)になる。ヤマトタケルの項の天照大御神は甕與。

甕與の姿が伊勢神宮山口際に登場している。子供がいますよ、甕與でしょう。

<http://www.ne.jp/asahi/maroudo/somin/contentsshikinensenguu/yamaguchisai/yamaguchisai.html>

神功皇后の三韓征伐で韓半島から連れてきたのが藤原・中臣関連なんです。 本系は依然として中臣を称し、
代々神祇官・伊勢神官など神事・祭祀職を世襲した。 説明に労力があるが卑弥呼方位ラインに乗るのです。藤
原・中臣関連は渡来人になる。

- > 秦野北斗さんへのお返事です。 >
- > > 欠史の陵墓が多いのは卑弥呼が韓半島から持ってきたものです。
- > > 方位ラインに現れるんですな。卑弥呼の鬼道に關係している模様。 >
- > 欠史の関連ですが、今回調べてみて、伝承によるものと、「祖先」の存在性によったものがあるよう
に感じました。 >> どの欠史の墳墓も、ライン的に見て非常に正確に構成されてます。正確な位置に、
架空の祖先の墓を配置したか、もともとそこに祖先がいたのか?のどちらかですね。 >> あとは通説
だと飛鳥・奈良時代の創作となりますが、欠史の陵墓に向けて、方位ラインが 走っているケースがあり
ます。孝安のケースもそうですね。 >> 下に先の 10 度角の四方区画の拡大図を添付いたします。
> 特に図の下方に見える 秋津(宮)遺跡→孝安陵→斉明→文武→板蓋宮→多武峰あたり

の 10 度角ラインや、対角線上に見える多武峰→香具山→藤原宮→国分寺・春日ラインあ

----- Re: 西殿塚 5 度角ライン 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 3 月 20 日(火)08 時 44 分 50 秒 返 信・引用 編集済 > No.265[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 > 欠史の陵墓が多いのは卑弥呼が韓半島から持ってきたものです。

> 方位ラインに現れるんですな。卑弥呼の鬼道に關係している模様。 欠史の関連ですが、今回調べてみて、伝
承によるものと、「祖先」の存在性によったものがある

ように感じました。

どの欠史の墳墓も、ライン的に見て非常に正確に構成されてます。正確な位置に、架空の祖先の墓を配置したか、
もともとそこに祖先がいたのか?のどちらかですね。

あとは通説だと飛鳥・奈良時代の創作となりますが、欠史の陵墓に向けて、方位ラインが走 っているケースがあ
ります。孝安のケースもそうですね。

下に先の 10 度角の四方区画の拡大図を添付いたします。 特に図の下方に見える 秋津(宮)遺跡 →孝安陵
→斉明→文武→板蓋宮→多武峰あたりの 10 度角ラインや、対角線上に見える多武峰→香具山→藤原宮→国
分寺・春日ラインあたり に注目してみてください。

このラインは藤原・中臣関連が多く見えます。そのあたりで欠史の陵墓がどう捉えられるかですね。

見積積算連動電気設備 CAD - denki-cad.com 簡単操作と 3 way サポートでスグ使える 図面を書くとも見積
積算が自動簡単作成 防災グッズ30点セット即日発送 - www.pro-bousai.jp

地震の時に女性でも運べる非常持出し袋。 お客様の声 200 件掲載。全国送料無料。 "息臭い"悩む人にバカ
売れ - www.greenhouse-e.com <<120 万袋突破>>テレビ CM で人気爆発! 今だけ、"お試し価格"で試してみ
ては? 奈良のお見合パーティー - www.kekkon-ouen.net

初めての方も安心して参加出来る お見合パーティー資料無料お取り寄せ 卑弥呼の鏡を再現する -
www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを 3D デジタイズが革新す
る Ads by Google -----

Re: 西殿塚 5 度角ライン 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 20 日(火)07 時 58 分 33 秒 返信・引
用 編集済 > No.264[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

欠史の陵墓が多いのは卑弥呼が韓半島から持ってきたものです。 方位ラインに現れるんですな。卑弥呼の鬼道
に関係している模様。 今、追っている、黒塚、巻向遺跡北東部、耳成山北部、神武陵、靖陵、畝傍山 の 2~3
世紀代の四方区画は卑弥呼方位ラインみたいですね。 卑弥呼方位ラインは大陸の方位ラインに成るので欠史
の陵墓の特定に重要になる。 知らないうちに、日本を出た模様。

- > 東北の斜線上に、黒塚、巻向遺跡北東部、耳成山北部、神武陵、靖陵、畝傍山と並びます。 >
- > 西北斜線上には、香具山神社があるようです。 >
- > また予想される中心地点から、5 度角南に伸ばすと、孝元陵にぶつかります。 >
- > おそらくは後代に知られることのなかった 2~3 世紀代の四方区画と感ずるのですが、ライン上に欠史の陵墓が多いのに驚かされます。 >> なぜ 5 度傾くのか、先の 10 度角の事例とともに謎ですが、方位磁針にともなう偏磁曲線を見ると、西に 10 度傾くのは、600 年代です。その前は紀元前でしょうか。 >> 一方、東に 10 度傾くのは、230 年代、5 度傾くのは 170 年代前後でしょう。 >

> あと、偏磁曲線の特徴のひとつに、サイン曲線なので、短時間に東西へすばやく変化する時期と、あまり変化が見えない時期があります。

----- 西殿塚 5 度角ライン 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 20 日(火)07 時 37 分 3 秒 返信・引用 編集済
そこで最後に、会報で掲載しました西殿塚古墳と桜井茶臼山を結ぶ西に 5 度傾いた方位ラインについて、その四方区画を作成してみましたので、お知らせいたします。

東西 10.5 km、南北 12.1 km の四方区画です。これも漢尺ですが、先の 10 度角のものより 短く、つまり古いということになりそうです。

東北角に西殿塚、西北は謎のホタテ貝型古墳の乙女塚古墳、西南角は孝安陵です。

東北の斜線上に、黒塚、巻向遺跡北東部、耳成山北部、神武陵、靖陵、畝傍山と並びます。

西北斜線上には、香具山神社があるようです。

また予想される中心地点から、5 度角南に伸ばすと、孝元陵にぶつかります。

おそらくは後代に知られることのなかった 2~3 世紀代の四方区画と感ずるのですが、ライン上に欠史の陵墓が多いのに驚かされます。

なぜ 5 度傾くのか、先の 10 度角の事例とともに謎ですが、方位磁針にともなう偏磁曲線を見ると、西に 10 度傾くのは、600 年代です。その前は紀元前後でしょうか。

同じく西に 5 度角傾くのは、450 年前後と、150 年前後となるでしょうか。

あるいは、東西を逆に考えて、東に 10 度傾くのは、230 年代、5 度傾くのは 170 年代前後でしょう。

なお、偏磁曲線の特徴のひとつに、サイン曲線とのことで、短時間に東西へすばやく変化する時期と、あまり変化が見えない時期があります。

250 年代までは、すばやく変化していたものの、それ以降 350 年ごろまでは、あまり変化 がなかった模様です。その辺も都市の偏角の修正に関係していたかもしれません。

指南魚の角度が変わるたびに、南北を修正するために宮を移す必要があったのかもしれませんが再度その偏磁曲線と栃木の古墳の古墳軸との関係図も添付しておきます。ご参照ください。

----- Re: 奈良の方位ライン図 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 3 月 20 日(火)07 時 25 分 28 秒 返信・引用 > No.262[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

女王(アマテラス)の光通信ルートの方角ラインみたいですね。 このラインは後、4 つあります。巖島ライン、出雲-高千穂ラインの合計 5 つ 他に 2 つ程度あった模様、記録に乏しい。

- 1 奈良の三輪山、大和葛城、和泉葛城、徳島県阿南市、高知市浦戸湾
- 2 奈良の三輪山、小浜湾
- 3 巖島ライン
- 4 出雲国ライン

5 出雲-高千穂ライン 6 九州の宮崎ライン? 7 高千穂-九州ライン?

どうも、卑弥呼以前、以後で分かれるみたいですね。 指南車、指南魚と陳寿が鍵を握りそうです。

簡単に図にしました。

> (追記:昨晚掲載した図および下記の説明文を一部訂正しました。10 度傾いた 11.1 キロの四方区画で、後代の中臣氏がこの方位ラインについて知っていたようです。) > 桜井茶臼山・椿井大塚山などもっとも古い部類の奈良の古墳を含有したラインで、秋津遺 跡同様に、西に 10 度傾くのがミソです。後の時代に、もう少し東に倒した西殿塚のラインも あるので、その方形区画も出てくることでしょう。

>> このラインは、磐船神社や富雄丸山・鳥見山など物部氏系のラインではありますが、詳しくは会報のほうをご参照ください。

>> あとで、もう少し詳細な四方区画図を提供いたします。 >>

----- Re: 奈良の方位ライン図 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 3 月 19 日(月)23 時 13 分 5 秒 返 信・引用 編集済 > No.261[元記事へ]

(追記:昨晚掲載した図および下記の説明文を一部訂正しました。10 度傾いた 11.1 キロの四方区画で、後代の中臣氏がこの方位ラインについて知っていたようです。)

秦野北斗さんへのお返事です。

> 狭山池-畝傍山-伊勢神宮内宮、桜井茶臼山→崇神陵→中山大塚→椿井大塚山へ向かう方位 ラインは日本神話、徐福伝説にかかわる方位と場所になります。桜井茶臼山→椿井大塚山の 延長が小浜に抜けます。狭山池-畝傍山-伊勢神宮内宮の方位ラインで狭山池から日本海側へ 引くと小浜に行き着きます。これらは小浜ラインになる。壮大な日本神話になります。しかし、 方位ラインは凄いですね。ちなみに卑弥呼の墓、耳成山は高さでピラミッドより 7 m 低いですが 世界最大の墓だろう。

とりあえず、もう少し古い西に 10 度傾いた四方区画も見つけました。

三つの四方区画が重なって構成されています。 一番南の四方区画は 11.1 キロの正方区画です。

桜井茶臼山・椿井大塚山などもっとも古い部類の奈良の古墳を含有したラインで、秋津遺跡 同様に、西に 10 度傾くのがミソです。後の時代に、もう少し東に倒した西殿塚のラインもあるため、その方形区画も出てくることでしょう。

このラインは、磐船神社や富雄丸山・鳥見山など物部氏系のラインではありますが、詳しくは 会報のほうをご参照

ください。

あとで、もう少し詳細な四方区画図を提供いたします。

----- Re: 奈良の方位ライン図 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 3 月 19 日(月)22 時 09 分 27 秒 返信・引用 管理人さんへのお返事です。

狭山池-畝傍山-伊勢神宮内宮、桜井茶臼山→崇神陵→中山大塚→椿井大塚山へ向かう方位ラインは日本神話、徐福伝説にかかわる方位と場所になります。桜井茶臼山→椿井大塚山の延長が小浜に抜けます。狭山池-畝傍山-伊勢神宮内宮の方位ラインで狭山池から日本海側へ引くと小浜に行き着きます。これらは小浜ラインになる。壮大な日本神話になります。しかし、方位ラインは凄いですな。ちなみに卑弥呼の墓、耳成山は高さでピラミッドより 7 m 低いが世界最大の墓だろう。

仁徳天皇陵古墳 全長 486 m、高さ 35.8 m クフ王のピラミッド全長 230 m、高さ 146 m 秦の始皇帝陵(中国)全長 350 m、高さ 76 m

卑弥呼の墓 全長 500 m、高さ 139 m http://www.city.sakai.lg.jp/city/_rekibun/mozu/ancient/index.html

>ただ3世紀代のラインについては、奈良には別に存在している件も会報で紹介したとおりですが、下記に添付しておきます。桜井茶臼山→崇神陵→中山大塚→椿井大塚山へ向かう方位ラインです。 >

>この方位ラインは、北から数度西に傾いた、いわゆる指南魚つまり方位磁針を使用したタイプの設計をしています。 >>それに対して、今回取り上げた四方区画は、きっちり東西南北を計ったもので、測量方法に相違があります。

----- Re: 奈良の方位ライン図 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 3 月 19 日(月)21 時 24 分 5 秒 返信・引用 編集済 >No.259[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>堺の方位ラインの位置がほぼ狭山池になりそうだ。狭山池-畝傍山-伊勢神宮内宮 >ほぼ 106 km になる。

>>秦野も遺跡方位ラインを引きました。管理人さんとほぼ同じで斜め 16.0 km は 300 里になる。

>

お返事ありがとうございます。私のほうで使用しているものは、電子地図データなので、距離・方位ともにほぼ間違いありませんので、確認しなおさなくても大丈夫です(^_^)

ただ、ご指摘の仁徳→伊勢間の遺跡や尺・距離関係は重要ですね。

尺度的には、今回の四方区画の距離は、九州の四方区画と同様に前漢時代あたりの尺度で、楽浪・秦韓移民系のそれと感ずります。

また以前お知らせした九州の四方区画に比して、やや南北の比率が短くなっています。角度が2度くらい変化しており、これはもしかすると先に論議した周碑算径の件で、基準とする緯度によって、できあがってくる影の長さの変化することと関係するのではないのでしょうか。九州のほうが奈良に比して、やや南に位置しているので、南北に長く伸びたのかもしれない。

ただ、確かに畿内説を考慮すると、邪馬台国の中心地やヒミコの墓が、これらのラインの上にあってもおかしくはないのかもしれませんが、問題はこれらの四方区画の遺跡の年代ですね。崇神陵・槇山古墳・メスリ山・宮塚・秋津遺跡等は、どれも4世紀代です。

おそらく、同時期に一気に計画して、四方に古墳を作り出した可能性を感じます。後代の関東の八角墳と方位ラインの関係で同様な事例があることは、会報で記載しましたが、今まで通説のように、大和→…馬見→…というふうに、王朝や王宮が順に地域を変えて交代していったという段階説だけでは、理解しがたいように感じます。非常に計画的に古墳が配置されています。

3世紀代にこの方位ラインをもっていくとしたら、やはり同じ方位ライン上に乗るマキムク遺跡との関係を確

認していくしかないでしょう。

ただ3世紀代のラインについては、奈良には別に存在している件も会報で紹介したとおりですが、下記に添付しておきます。桜井茶臼山→崇神陵→中山大塚→椿井大塚山へ向かう方位ラインです。

この方位ラインは、北から数度西に傾いた、いわゆる指南魚つまり方位磁針を使用したタイプの設計をしています。

それに対して、今回取り上げた四方区画は、きっちり東西南北を計ったもので、測量方法に相違があります。

ただ秋津遺跡の住居角度には、やはり偏角ができていますから、マキムク遺跡の同様な偏角を持つ住居跡と共通性があります。

もともと2つの測量方法をしていて使い分けをしていたのか?あるいは4世紀台から使い分けができたのか?その辺も課題です。

あと、添付していなかった秋津遺跡周辺のラインの拡大図を添付しておきます。

----- Re: 奈良の方位ライン図 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年 3月 19日(月)19時 45分 29秒 返信・引用 編集済 > No.255[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 堺の方位ラインの位置がほぼ狭山池になりそうだ。狭山池-畝傍山-伊勢神宮内宮 ほぼ 106 kmになる。 秦野も遺跡方位ラインを引きました。管理人さんとほぼ同じで斜め 16.0 km:300 里になる。

ラフに引くと東西:200 里、南北:250 里、斜め:320 里どうも 1 km 程度の誤差が出る。

- > ちょっと徹夜して、奈良の古墳と遺跡を結んだ方位ライン図を作成してみました。
- > 先の秋津遺跡の関連も理解しやすくなると思います。 >
- > 東西 10・5 キロ、南北 12・7 キロ(斜め 16.0)の四方区画になります。
- > 10・5 キロは先に論議したように里:420/4 の漢尺です。 >
- > 55 度角の直角三角形も、先の九州の遺跡方位ラインの角度と同じですので、緯度と太陽の関連で測量したのかもしれませんが。 >> ご指摘の孝安陵等もラインに載ってくるでしょうし、後代の石舞台や飛鳥の宮関係も載ってくることを考慮すると、そのラインに乗る畝傍山・耳成山・甘糟丘と関連づけられて伝承された可能性を感じます。 >> 下記ご指摘の秋津(宮)遺跡の中心部の位置は、これらの方位ラインのどれかに乗ってく

ると感じますので、よろしくご参照ください。後日もう少し誤差を修正した図をご提供いたします。 >

-----「指南亀」 戦国時代(紀元前 5 世紀末以降)
投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012年 3月 19日 (月)13時 22分 54秒 返信・引用 木を亀の形に削り、お腹の部分に磁石を取り付け、さらに小さな穴をあけて、この部分に竹を削ったものを差し込んでささえ、非常に小さな摩擦力で、自由に指南亀が動けるようにした んですな。こうして磁針は水から離れたと中国の本にはあります(ヨーロッパでは糸で吊る したそうですが、どこでも同じようなことをしたのではないのでしょうか)。だいたいこれは 戦国時代(紀元前 5 世紀末以降)には使われていたといえます。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 奈良の方位ライン図 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012年 3月 19日(月)06時 51分 55秒 返信・引用 編集済 > No.255[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 おみごと、日本神話に入りたいぐらいです。図を添付します。 アマテラスは日本神話で、…。

注)仁徳陵-伊勢神宮の方位ラインの仁徳陵は年代が合わないので堺の辺りに 方位にあたる遺跡が存在する。

奈良の方位ライン図 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 19 日(月)06 時 36 分 13 秒 通報 返信・引用 編集済 ちょっと徹夜して、奈良の古墳と遺跡を結んだ方位ライン図を作成してみました。 先の秋津遺跡の関連も理解しやすくなると思います。

東西 10・5 キロ、南北 12・7 キロ(斜め 16・0 キロ)の四方区画になります。 10・5 キロは先に論議したように里:420/4 の漢尺です。

55 度角の直角三角形も、先の九州の遺跡方位ラインの角度と同じですので、緯度と太陽の 関連で測量したのかもしれない。

奇しくもキシが下記でご指摘いただいた 10:12 の曲尺関連と一致してきます。

嵯山古墳、崇神陵の東西ラインをはじめとして、メスリ山古墳、宮塚古墳、マキムク石塚古墳、そして秋津遺跡を載せたラインですので、おそらくそれらの遺跡年代以前に作成されたもの と感じます。

ご指摘の孝安陵等もラインに載ってくるでしょうし、後代の石舞台や飛鳥の宮関係も載って くることを考慮すると、そのラインに乗る畝傍山・耳成山・甘糟丘と関連づけられて伝承さ れた可能性を感じます。

下記ご指摘の秋津(宮)遺跡の中心部の位置は、これらの方位ラインのどれかに乗ってくる と感じますので、よろしくご参照ください。後日もう少し誤差を修正した図をご提供いたし ます

Re: 秋津島宮の関連施設が出土している 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 19 日(月)01 時 44 分 40 秒 返信・引用 編集済 > No.251[元記事へ]

曲学の徒さん、秦野さん

こんばんは。都内に出かけてました。 秋津遺跡について情報ありがとうございます。

> 秋津遺跡から特異な遺構が出土していることはご存知と思う。 > 樫考研はこの遺構の年代を四世紀前半とする。 > だが私はそこから出土している多孔銅鏃などの年代から、三世紀前半にさかのぼると考え ている。 > ここは秋津嶋宮の伝承地である。秋津島宮もしくはその関連施設であっても不思議は無い。 > そして秋津島宮は六代孝安の宮である。私は「男弟ありて佐けて国を治む」とする男弟は孝 安と考えている。 > 秋津島宮は卑弥呼の王宮でもある。

ひとつ方位ライン面から、情報提供できます。 この秋津遺跡から東 300 メートルほどの地点から、北東 52 度角方向にて、纏向石塚古墳 へ至る方位ラインが、考安天皇陵の南部(曲学さんご指摘の円丘部分)、威徳天皇陵、畝傍 山、耳成山を通過することがわかります。耳成山は秦野さんも注目されているそうですね。先 ほど秦野さんの著作読み終えました。

またそのライン周辺に、神武・綏靖陵もあるので、何らかの関連伝承による位置推定なので はないかと感じます。

詳細は図を添付しますのでご確認ください。

あともうひとつ情報提供できるとすると、前述の偏磁曲線の関係で、この遺跡が磁北を 10 ~15 度、西に傾けていることがあります。

先述の偏磁曲線つまり方位磁針との兼ね合いを感じますが、秋津宮遺跡の住居の立替時期 と、その向きとの対応関係が出てくれば、あるいは年代推定も可能になってくるのではない かと感じます。後代の方位磁針を使った住居建築の事例では、時代とともに、その角度が変化 することが知られています。

Ads by Google ----- Re: 日本一の古墳であることを実証するプロジェクト 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 18 日(日)18 時 04 分 48 秒 返信・引用 > No.252[元記事へ]

曲学の徒さんへのお返事です。

御所市玉手山は小さい、秦野は尾根幅 500 m、墳丘は直径 180 m 程度の円墳を見つけている。 奈良のど真

中です。秦野著書、徐福と邪馬台国で紹介している。

> 写真は御所市玉手山、孝安天皇陵の隣の尾根である。 > 尾根の中心に築かれる墳丘は直径 22m 程度の円墳である。 > だが私は尾根全体が墓域と考えている。尾根の裾は人為的に整形されている。 > 日本一の円墳と考えている。それを実証するプロジェクトを立ち上げる。 > 興味のある方は応援してくれ。

----- 日本一の古墳であることを実証するプロジェクト 投稿者:曲学の徒 投稿日:2012 年 3 月 18 日(日)13 時 14 分 6 秒 返信・引用 写真は御所市玉手山、孝安天皇陵の隣の尾根である。 尾根の中心に築かれる墳丘は直径 22m 程度の円墳である。 だが私は尾根全体が墓域と考えている。尾根の裾は人為的に整形されている。 日本一の円墳と考えている。それを実証するプロジェクトを立ち上げる。 興味のある方は応援してくれ。

<http://yamatai.sblo.jp/article/42520853.html>

----- 秋津島宮の関連施設が出土している 投稿者:曲学の徒 投稿日:2012 年 3 月 18 日(日)13 時 07 分 7 秒 返信・引用 秋津遺跡から特異な遺構が出土していることはご存知と思う。 榎考研はこの遺構の年代を四世紀前半とする。 だが私はそこから出土している多孔銅鏃などの年代から、三世紀前半にさかのぼると考えて いる。 ここは秋津嶋宮の伝承地である。 秋津島宮もしくはその関連施設であっても不思議は無い。 そして秋津島宮は六代孝安の宮である。私は「男弟ありて佐けて国を治む」とする男弟は孝安 と考えている。 秋津島宮は卑弥呼の王宮でもある。 発掘調査は継続して行われるこの調査に注目してくれ。

<http://yamatai.sblo.jp/>

----- 3 種類の尺の中の「4:5」及び「5:6」 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 3 月 18 日 (日)09 時 01 分 13 秒 返信・引用 鯨尺は約 37.88cm、呉服尺は約 364mm、曲尺は約 30.303cm である。通常「尺」といえば曲尺の ことを言い、1 尺=10 寸である。鯨尺は「曲尺 1 尺 2 寸 5 分」と言われ、曲尺:鯨尺=100: 125=4:5 である。呉服尺は「曲尺 1 尺 2 寸」と言われ、呉服尺:曲尺=1:1.2=5:6= 10:12 の比を有している。 <http://8906.teacup.com/toraijin/bbs/post/exec/>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 訂正;マキムク古墳群の古墳軸 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 18 日(日)08 時 34 分 52 秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

まず、古墳をかたずめます。 秦野の案です。 大胆に仮定を行い、古墳の年代をだす。 東向きを仮定し、偏磁曲線から年代をだす。 東南、北西も同様に偏磁曲線から年代をだす。 (注)今までの年代は無視する。地域により磁北がずれる、中央構造線上は特に注意です。 応神陵、西都原 81 号は磁北がずれの可能性がある。

この辺は管理人さんよろしく。 年代が特定し 500 年の正確な位置を出す。たぶん倭の五王の頃になるはず。

東向きは 266~500 年、東南、北西は 500~古墳終焉まで。 この頃には家紋がありましたので、古墳の東、東南、北西向きの年代から地域、先祖の特定が

可能になる。源氏、平家、賀集団に纏まると思われる。

山幸彦の神話は解説はほぼ終わっています。釣り針はどうも燕の代物らしい。釣り針の南方航 海民の要素は考えなくてよい。

山幸彦の釣り針は銅製の可能性がある。海幸の釣り針は鉄製。燕まで行くことになる。
古事記の説明は後日。

http://kiyond.blogspot.jp/2010/10/blog-post_10.html

縄文時代には前期から釣針や銚、魚網などの漁具が出土していることから漁撈の存在が確認 され、シカの角などをを用いた釣針が出土している。古事記の海幸山幸の話には 山幸が釣り針 を借りる話が登場する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%A3%E3%82%8A%E9%87%9D>

磁石は釣り針製作時の副産物ではないか。結構、焼入れと複雑です。

<http://www.harihide.co.jp/page4.html#%EF%BC%94%EF%BC%89>

管理人さんの内容を確認しました。鉄などの強磁性体に磁力をかけても弱い磁石になりますが、キュリー点以上に加熱し磁力をかけたまま冷ましていくと、その磁力を記憶して永久磁石になります。

<http://okwave.jp/qa/q381384.html>

> あと応神陵のように、南を向いている古墳は珍しいんです。西都原 81 号とか、そんなに滅多にありません。

> 主に東と北向きで、倍塚に東が多いことを考慮すると、東向きは女性墓の可能性と感じてましたが、しかし、大和の場合は、ハシハカも崇神も景行も東向きですので、難しいですね。 >

> 関東には東向きの中型古墳も多いですし、男性墓ではないとも言いきれない。古墳軸の向きが、その古墳群が属する方位ラインに影響されていることは確かですが、その性差の件は、振り出しに戻すべきかもしれません。

Re: 訂正;マキムク古墳群の古墳軸 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 18 日(日)05 時 47 分 56 秒
通報 返信 引用 編集済 > No.246[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 長崎のユダヤ人墓だが、キリスト教とは墓の作り方で違っている。竿石と寝墓を思わせる墓石。墓石は、同じ大きさのものが全くない。故人の身長に合わせて作っているのだろうか。方位がすべて東向であったのが印象的だ。

墳墓と方位の関係は、宗教との兼ね合いでも重要ですね。ご存知のとおり、漢代の指南車や、3 世紀に現れた指南魚の指南は、中国の漢王朝が南を神聖視していたことにあります。

指南魚については、こちら参照。

http://www.neomag.jp/magnet_history/history_3.html

<http://www.tdk.co.jp/techmag/inductive/200807/index.htm>

それで磁石をどうやって作成したか?なのですが、鉄を一度熱して、南北に置いたのちに、冷やすと磁石と化すようです。ちょうど山幸等の 3 兄弟が、それぞれ火の燃え盛る様子をイメージしていて、最後の冷えたときに山幸が生まれた話と類似します。

ただ山幸の神話自体は、インドネシアなどの南方海洋民に伝わる神話と共通性が高いようです。

<http://www.mahorobapq.com/hpgen/HPB/entries/136.html>

またその中に出てくる竹細工の話は、奈良方面には竹は珍しいそうで、隼人が持ち込んだとの説があり、説得力があります。西都原など日向方面の地方伝承を題材にしていることは確かでしょう。

<http://www63.tok2.com/home2/ahonokouji/sub1-48.html>

釣り針の話自体は、中国にも、中東にもあるようですが、下記のエジプトの神官が箱を海に流す話と、釣り針=さそり座との兼ね合いは興味深いところです。オリエントの水がめをもつ乙女(座)と、さそり座(釣り針)との兼ね合いも、山幸神話に出てくる水を汲む乙女と、山幸彦との関係で重要です。釣り針を飲み込んでいたのは赤い鯛でした。 <http://yumis.net/space/star/sco.htm>

そう考えていくと、方位磁針=山幸彦の神話には、南方航海民の要素に加えて、海のシルクロードを通ってきた中東・インド系集団の要素も追ってみたい感じがします。

その山幸神話が、南方系神話と異なる部分をさがしていくと、井戸の代わりに、玉碗が出てくることがありますね。

三角縁神獣鏡を、再度よく見直していくと、鏡というよりは、(指南魚を浮かべるための)水を入れるための深皿、御碗にちかいことがわかります。下記のサイトで、他の中国鏡と比較すれば、その相違がよくわかると思います。 http://www.murakami-kaimeido.co.jp/kokyo/kan/kan_09.html

特に近いのは、やはり三角鋸歯紋を持つ画像鏡です。この辺に、山幸神話のモチーフを見出せないかと考えた

のですが、上記の2つの画像鏡においては、比目魚がいるほか、東王父が壺をすすめている?像があるようです。

ただその辺ではっきりした関連は見出せませんが、先のマキムク古墳群の古墳軸と偏磁気曲線との兼ね合いを考慮すると、170年ごろには、ホタテ貝式古墳(舟型木棺)や、古墳軸の

方向を決定する指南魚(方位磁針)、それを浮かべる壺+(方位を決める鏡)のセットが出てこないといけません。

後の平原方面の北漢系の鏡とは別に、この時期は山東・楽浪南部経由でも南方系の鏡が、出土することもありますから、すでにこの時期に、その鏡や金属精錬技術と一緒に、方位磁針たる指南魚が、琉球・北九州から日向つまり後代の隼人地域に近いところまで届いていた可能性を感じます。そして、日向神話に、山幸神話として、鉄や指南魚の話が混ざりこんだ、そんな感じでしょうか。

>> 古墳を前方後円墳にしたのは266年で、これ以後にユダヤ人を確認している。中国史籍、伝

説の解読から堺(百済)、羽曳野に居た模様。266年以前は円墳、一部、天皇家で例外あり >

魏の影響が強くて、ホタテ貝式から、前方後円墳に変化するのが、ご指摘の時期ではないでしょうか。それ以前の170年代にヒミコが即位したじめところから、別のやや南方系の中 国文化が入っているかもしれません。海のシルクロードを考慮しておきたいところですね。

あとご指摘の羽曳野・古市古墳群の古墳軸の方向と偏磁曲線との相関図もついでに会報から添付しておきます。

古墳数が多く、年代も長いので、こちらは百舌古墳群より、多様な角度を示しています。四角で囲んだ各部分が、その古墳群の中で、同一の始祖(鏡を使った)と思われるカテゴリーです。

偏磁曲線と古墳軸の向きとの関係がもっともわかりやすいのは、5→6→8→12のカテゴリーで、古墳の年代が下るにつれて、古墳軸を西に倒していく様子 がわかります。

同じく

13→15→16→20のカテゴリーでも、同様な変化が見えますね。

あと、ちょっと考古調査結果と異なるかもしれませんが、2→7→4→3のカテゴリーも同様に、古墳軸の倒れ方からいっても、この順番ではないか と感じます。ホタテ貝式?の7は古いでしょうし、2はもっと古いまったく応神陵よりずっと古い別もの

でしょう。こう見ると確かに古市に、秦野さんご指摘のようなかなり古い古墳があるようにも感じます。

あと応神陵のように、南を向いている古墳は珍しいんです。西都原81号とか、そんなに滅多にありません。主に東と北向きで、倍塚に東が多いことを考慮すると、東向きは女性墓の可能性と感じてましたが、しかし、大和の場合は、ハシハカも崇神も景行も東向きですので、難しいですね。

関東には東向きの中型古墳も多いですし、男性墓ではないとも言いきれない。古墳軸の向きが、その古墳群が属する方位ラインに影響されていることは確かですが、その性差の件は、振り出しに戻すべきかもしれません。

----- 参考? 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012年3月18日(日)01時04分5秒 返信・引用 参考? 神社だけでなく、山も地殻も都市も直角三角形や直線が出来る!? 何と言うことだ!! 自然法則を神と言うならば、日本は、見えざる法則の国、「神の国」ということになるかも? <http://hinatabokkomura.com/yomoyama/nishinihonplot1.pdf#search=>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 訂正;マキムク古墳群の古墳軸 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年3月18日(日)00時37分29秒 返信・引用 管理人さんへのお返事です。

前方後円墳は大きく分けると東向き、東南、北西の3種類になる。東向き 長崎のユダヤ人墓だが、キリスト

教とは墓の作り方まで違っている。竿石と寝墓を思わせる

墓石。墓石は、同じ大きさのものが全くない。故人の身長に合わせて作っているのだろうか。 方位がすべて東向であったのが印象的だ。

<http://www.hakaishi.jp/tomb/tomb/07-8.html>

仏教は東南、北西。秦野の先祖の墓は北西になる。
東南

<http://www.asakawadera.net/haka/ohaka.html>

北西

<http://www.hakaishi.jp/tomb/tomb/02-22.html> 古墳を前方後円墳にしたのは 266 年で、これ以後にユダヤ人を確認している。中国史籍、伝説

の解説から堺(百済)、羽曳野に居た模様。266 年以前は円墳、一部、天皇家で例外あり どうも、東向きはユダヤ系で東南、北西は瑞穂の国、倭国系になる。

東向きは 266~500 年、東南、北西は 500~古墳終焉まで。

----- 訂正;マキムク古墳群の古墳軸 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 17 日(土)23 時 02 分 26 秒 返信・引用 編集済 ちょっと今マキムク古墳群の古墳軸の角度を再確認していたのですが、会報で引用掲載した 図と古墳の番号や古墳軸の角度等に間違いがあることに気づきました。とりあえず誤解がおきないように、正しい図を添付します。

これによれば、古墳軸は、石塚、ホケノ山、東田、矢塚、勝山、箸墓の順に、東に倒していく様子 が伺えます。

おそらくは年輪年代などの考古的な年代調査の結果とも類似しているようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BA%8F%E5%90%91%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E7%BE%A4>

偏磁気曲線と比較図を参考にしていくと、一番古いものと、最後の箸墓までは、かなり時代差 がありますね。

----- Re:「110 ではなく、106 キロ」間の「108」に 拘りました… 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 17 日(土)20 時 57 分 29 秒 返信・引用 編集済 > No.239[元記事へ]

> 棘の紀氏さんへのお返事です。 >> ペンタの肩から肩までの距離 5.325 km でほぼ秦野距離の 100 里に当たる。前方後円墳形 は秦野距離を基準にしている。ダブルペンタ構造が何処まで対応するかが問題になる。

百舌古墳群と、五房星ラインの件ですが、個人的な方位ラインの経験からいくと、古墳時代 当時の方位ラインは、縦横斜め、せいぜい三角どまりではないかと考えてます。

要するに、五・六角形とかを採用する場合は、中国の風水占術関連に深くかかわってこない といけません。測量するだけなら、そこまでは必要ないですし、円形はコンパスで足りる計算 です。

ただ古事記を見ていくと、五行説に応じて、神名が配置されていくこともあり、当然紙の上に は、五角形の図を描いていたであろうことは想像に難くないですね。問題は、それが、仁徳な りの伝承にかかわってくるかどうか、その辺の是非が気になることです。

後の飛鳥時代になると、六角から八角まで古墳の形にもバラエティーが出てきますが、その 端境期があるのかどうか、その辺も課題ですね。

あと余談ですが、百舌の方位ラインと古墳軸の傾きについては、下記を会報に掲載した図を ご参照ください。

あまり築造年代に差がないので、古墳群内の各古墳軸の向きにも差が出てない模様です。 ただ、図のように 2→4→6→8 と時代が新しくなるにつれて、やはり西に古墳軸を倒してい

くのがわかります。これも偏磁曲線と対応している一例です。感じ的には仁徳陵が東に一番 傾いているので、これが始祖古墳で最も古い感じですね。

----- Re: 指南魚 投稿者:管理人 投稿日:2012
年 3月 17日(土)20時 07分 35秒 返信・引用 編集

済 > No.242[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそくお返事ありがとうございます。

> 了解。方位ライン、指南車、指南魚つまり方位磁針は掲示板の成果です。 > 管理人さんの成果が大きいので、お任せします。

> 秦野は方位ラインで日本神話の糸口が明確になりました。徐福と日本神話で方位ラインを 使用しても宜しいでしょうか。それと、秦野距離と著書の紹介してくれば十分です。

了解しました。方位ライン関係は、方位線関連でいくら類似した書籍もあるかと感じますが、会報のほうで、とりあげた方位ラインについては、そのまま「渡来人研究・第 号…論文」と引用をつけていただければ、引用については一向に構いません。そうすれば、 他の方も国会図書館の雑誌検索で、会報の詳細を調べることができるようになります。

こちら秦野さんの著作『徐福と邪馬台国』について、引用する場合は、かならず引用をつけ させていただきます。加えて秦野距離、および関連のご意見についても、第 4 号で概略を紹介 させていただきます。

また、研究会 HP の新刊紹介ページにて、秦野さんの著作を紹介させていただきました。下記 ご確認ください。アマゾンにリンクしてあります。 <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/sinkan.htm>

> 徐福と邪馬台国の文中の単里等を引用して下さい。管理人さんの単里も説明には必須になります。古事記の文中に 6 国、方位ラインは 5 つと韓半島に 1 つ計 6 つ。必要な範囲で提供し

ます。

了解しました。また詳細は後日別途連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

----- Re: 指南魚 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 3月 17日(土)19時 35分 26秒 返信・引用 > No.240[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

了解。方位ライン、指南車、指南魚つまり方位磁針は掲示板の成果です。 管理人さんの成果が大きいので、お任せします。

秦野は方位ラインで日本神話の糸口が明確になりました。徐福と日本神話で方位ラインを 使用しても宜しいでしょうか。それと、秦野距離と著書の紹介してくれば十分です。

徐福と邪馬台国の文中の単里等を引用して下さい。管理人さんの単里も説明には必須になります。古事記の文中に 6 国、方位ラインは 5 つと韓半島に 1 つ計 6 つ。必要な範囲で提供します。

> なるほど、面白い視点だと思います、3 世紀初頭の磁北は、東に少し傾いているはずですが。 >> ともあれ、方位ラインにしる、指南魚つまり方位磁針にしる、会報ですでに指摘しましたが、もう少しみなさんにとっても引用しやすいように、どこかでまとめて公表しないと、いつ までたってもその技法をつかって論を先に進めないでしょう。

>> 昨年から今年にかけて、おかげさまで会報第 3 号の論証が不足していた部分も、だいふ埋 まってきたように感じます。とりあえず、その成果をまとめて春に第 4 号で記したいとは考えていますが、秦野さんやキシさんは、最近の成果をまとめて記事にして投稿してみませんか？

>> あるいは今回の対談形式のまま、記事にまとめてみるというのも面白そうです。最終的にはそれらもまとめて本にしたいですね。 >> ちょっとそんなことも考えはじめてます。

----- Re:「110 ではなく、106 キロ」間の「108」
に 拘りました… 投稿者:秦野 北斗 投稿日:2012 年 3月 17日(土)18時 20分 6秒 返信・引用 >
No.238[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

ダブルペンタ構造(前方後円墳形)説を堺の地名に入れ確認したところ、結果はメタメタでした。

ダブルペンタ構造が前方後円墳に対応するかは疑問である。秦野はダブルペンタ説は候補から外す。

> メートル法では赤道から北極までの距離を 10000km と定義したために、グラード度で緯度を表せば1グラード度がそのまま地表の 100km に対応している。したがって 23.4 度のところにある南回帰線(北回帰線)は 26 グラード度だから赤道から 2600km のところに位置しているし、 $<90-23.4=66.6>$ 度の南極圏(北極圏)もまた、極から半径 2600km の円(正確には地球表面)の中にある地域のことだということもすぐ分かるのである。

>

----- Re: 指南魚 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 17 日(土)17 時 33 分 46 秒 返信・引用 編集 済 > No.236[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > つい先ほど、指南魚と偏磁で補正…、ひらめき、 >
- > 魏志倭人伝の東西南北の測定に指南魚を使用していたら偏磁曲線の補正が必要なのでは。 >
- > また、伊都国から奴国で数度のズレがある、これは、地域特有の磁気の偏りと思われる。 >
- > 指南魚はいろいろ疑問とヒントを提供してくれます。まさに指南魚ですな。

なるほど、面白い視点だと思います、3 世紀初頭の磁北は、東に少し傾いているはずです。

ともあれ、方位ラインにしろ、指南魚つまり方位磁針にしろ、会報ではすでに指摘しましたが、もう少しみなさんにとっても引用しやすいように、どこかでまとめて公表しないと、いつまでもたってもその技法をつかって論を先に進めないでしょう。

昨年から今年にかけて、おかげさまで会報第 3 号の論証が不足していた部分も、だいぶ埋まってきたように感じます。とりあえず、その成果をまとめて春に第 4 号で記したいとは考えていますが、秦野さんやキシさんは、最近の成果をまとめて記事にして投稿してみませんか？

あるいは今回の対談形式のまま、記事にまとめてみるというのも面白そうです。最終的にはそれらもまとめて本にしたいですね。

ちょっとそんなことも考えはじめてます。

----- Re:「110 ではなく、106 キロ」間の「108」に 拘りました… 投稿者:秦野 北斗 投稿日:2012 年 3 月 17 日(土)16 時 08 分 14 秒 返信・引用 編集済 棘の紀氏さんへのお返事です。

ペンタの肩から肩までの距離 5.325 km でほぼ秦野距離の 100 里に当たる。前方後円墳形は 秦野 距離を基準にしている。ダブルペンタ構造が何処まで対応するかが問題になる。おそれ いました。尚、添付の図は借用しています。

http://blogs.dion.ne.jp/pentacross/archives/cat_177597-1.html

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

> 図 III をご覧ください。巖島神社の構造にダブルペンタ構造(前方後円墳形)を乗せたもの ですが、前方部逆五芒星の先端に「海の大鳥居」が、後円は入り江周囲に沿って、そして後円部 の五芒星構造に沿って「本殿の位置や回廊筋」が造られていました。 > 巖島神社では「古墳時代から続く神秘図形に内在する陰陽様式に従っての儀式が営々と行 われていた」こととなります

> メートル法では赤道から北極までの距離を 10000km と定義したために、グラード度で緯度を表せば1グラード度がそのまま地表の 100km に対応している。したがって 23.4 度のところにある南回帰線(北回帰線)は

26 グラード度だから赤道から 2600km のところに位置しているし、 $<90-23.4=66.6>$ 度の南極圏(北極圏)もまた、極から半径 2600km の円(正確には地球表面)の中にある地域のことだということも すぐ分かるのである。

>

----- 以上は、新着順 1 番目から 10 番目までの記事です。1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 |《前のページ | 次のページ》

/25 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

「110ではなく、106キロ」間の「108」に 拘りました… 投稿者:棘の紀 氏 投稿日:2012 年 3 月 17 日 (土)12 時 15 分 19 秒 返信・引用 >仁徳→伊勢ラインの正確な距離はご指摘の 110 ではなく、106 キロです。

<http://8906.teacup.com/toraijin/bbs?>

メートル法では赤道から北極までの距離を 10000km と定義したために、グラード度で 緯度を表せば1 グラード度がそのまま地表の 100km に対応している。したがって 23.4 度のところにある南回帰線(北回帰線)は 26 グラード度だから赤道から 2600km のところに位置しているし、 $<90-23.4=66.6>$ 度の南極圏(北極圏)もまた、極から半径 2600km の円(正確には地球表面)の中にある地域のことだということも すぐ分かるのである。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

日本医療事務センター - www.29-4153.com 医療と福祉ならニック教育講座(NIC) 通学も通信も OK。全国で説明会開催 ! 引越してどこが安い? - hikkoshizamurai.jp TVCM 放送中! アリさん、サカイなど 130 社から最大 10 社無料見積 無料地図 - maps.inbox.com 地図・距離・道案内を入手する 無料地図ツールバーを使おう! トヨタレンタカー - rent.toyota.co.jp/ 近くで見つかる、全国約 1,200 店舗。プリウスなど車種指定 OK! 着付け教室探しは - www.keikotomanabu.net ケイコとマナブ net スクール・講座の検索&予約情報が満載 Ads by Google ----- 指南魚 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 17 日(土)11 時 04 分 38 秒 返信・引用 つい先ほど、指南魚と偏磁で補正…、ひらめき、

魏志倭人伝の東西南北の測定に指南魚を使用していたら偏磁曲線の補正が必要なのでは。 また、伊都国から奴国で数度のズレがある、これは、地域特有の磁気の偏りと思われる。 指南魚はいろいろ疑問とヒントを提供してくれます。まさに指南魚ですな。

----- Re: ハシヤスメ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 17 日(土)08 時 48 分 7 秒 返信・引用 編集済

> No.230[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

「邪馬壹国」「邪馬臺国」の"壹、臺"台の字には根拠があります。卑弥呼の出生がかかわってくる。 日本神話の議論の後で述べたい。秦野は卑弥呼の両親の特定まで遡っています。お楽しみ に…。

> 魏志倭人伝では「邪馬壹国」と表記されているが、『後漢書』には「邪馬臺国」とある。「 邪馬 台国」の通称は、「邪馬臺国」の"臺"の字を、"台"をもって代用したものである。また 、耶馬台国 とも記述される。 弥生時代の 1~3 世紀に倭国にあったと推定されている。

----- Re: 古墳軸と偏磁気曲線 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 16 日(金)22 時 35 分 12 秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

古墳時代の平均、寿命は 100 年で 3~4 世代になるな。指南魚、指南車 徐福と邪馬台国の狗奴国を再考しています。徳島では漠然すぎる。この際、中国史籍、日本神

話から周囲 500m ぐらいまで絞りたいものだ。

女王(アマテラス)の光通信ルートが奈良の三輪山、大和葛城、和泉葛城、徳島県阿南市、高知 市浦戸湾を繋ぐ、距離は 4000 余里になる。高知市浦戸:侏儒国、徳島県阿南:狗奴国。地図を 描かなければ説明できない。図を添付

いきなり日本神話に入りました。ニニギノミコトが、天から降りようとしていたところ、天か ら地上へと行く分かれ道のところに、上は高天原(たかまがはら)を照らし、下は葦原の中 つ国を照らす神さまが居座って、その先へ行かせてくれません。この文章が光通信

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_05.html

裸国や黒齒国

女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。又有 裸國、黒齒國復在其東南、船行一年可至。參問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可五千 餘里。

女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒(こ びと)国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。また、その東南に裸国や黒齒国も在 り、船で行くこと一年で至るとか。倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上に在 り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。

>> 第 2-B 群ならば、92 号(西へ傾く)→100 号(やや東へ傾く)→95 号(東へ)→ 99 号(西へ戻る) >

- > 第 1-A 群ならば、72 号(西)→35 号(東)→13 号(東)→46 号(西に戻る) >

- > 第 2-A 群ならば、81 号(西)→91 号(やや東)→83 号(西に戻る) >

古墳軸と偏磁気曲線 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 15 日(木)23 時 03 分 49 秒 返信・引用 編集済 先ほど指南魚つまり方位磁針が指す向きと、古墳軸の向きとの対応関係についてお知らせいたしました。

続いて、偏磁気曲線との兼ね合いについてお知らせいたします。

下記の最初の図は西都原古墳群です。古墳とその古墳軸の向きが矢印で示されてます。

またこの古墳群の編年表を合わせて、添付いたします。編年表の上に描かれた曲線が、偏磁 (気)曲線です。時代によって東西に 15 度前後まで磁北の向きが変化していきます。オレンジ色の部分は、最近の研究で81 号などのホタテ貝式古墳を 3 世紀代まで遡らせた場合の

偏磁曲線です。

これらの両図を見ると、81 号、92 号といったホタテ貝式の古墳がもっとも古いのですが 他の古墳に比べて西に古墳軸を傾けていることがわかります。そして同じ向きを男狭穂塚も 向いていることから、この古墳が通説とは異なり、初期のホタテ貝式古墳であることがわかります。

その後、編年表によれば、35 号、13 号、90 号あたりが、4 世紀前半から中葉にかけてに なり、偏磁曲線どおりに、古墳軸を東に傾いていきます。

ところが、その後 4 世紀末になると 99 号、109 号、46 号と、それぞれまた再び西に古墳 軸を傾けはじめるのですが、これも偏磁曲線が西に傾いていく動きと対応しています。

そして最後に時代が下った女狭穂塚がでてきて、偏磁曲線どおりに大きく古墳軸を西に傾い た形となるので、隣の男狭穂塚とはぜんぜん向きが異なるように見えるわけです。

ただし、西都原にある複数の古墳群があるので、それぞれの古墳群で使用した鏡(角度)も 異なるかもしれませんし、前述のとおり、始祖的古墳の古墳軸の角度が当初から異なる場合 もありますので、その辺も考慮すべき

でしょう。

古墳群ごとにみればもっとわかりやすいでしょう。つまり、下記のようになります。

第2-B群ならば、92号(西へ傾く)→100号(やや東へ傾く)→95号(東へ)→99号(西へ戻る)

第1-A群ならば、72号(西)→35号(東)→13号(東)→46号(西に戻る) 第2-A群ならば、81号(西)→91号(やや東)→83号(西に戻る)

ともあれ、このような形で、同じ古墳群に属する古墳軸の角度も、偏磁曲線の傾きにしがたがって、東西に微妙に変化していくことがあります。

そしてその古墳軸の角度変化を分析することで、古墳の年代が逆算されていくので、先の男

狭穂塚など、内部が公開されない古墳についてもある程度年代を特定することができるようになってきます。他の古墳群の事例も多くありますが、詳細は会報をご確認ください。

トヨタレンタカー - rent.toyota.co.jp/ 近くで見つかる、全国約 1,200 店舗。 プリウスなど車種指定 OK!
卑弥呼の鏡を再現する - www.marubeni-sys.com/infinite-ideas 檀原考古学研究所のデジタルアーカイブを
3D デジタイズが革新する ケイコとマナブで資格検索 - www.keikotomanabu.net スクール・講座の検索&予約なら ケイコとマナブ.net。 ウェブエンジニアの求人は - www.workport.co.jp IT 業界で働く人の為の人材紹介会社 無料で個別相談会を毎日開催中 リクルートの薬剤師求人 - recruit-yakuzaishi.jp 平均 5 件の求人を素早くご紹介! 高給与、好条件の新着求人を毎日追加 Ads by Google

----- Re: 指南魚 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 15 日(木)20 時 36 分 18 秒 返信・引用 編集 済 > No.231[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >> 徐福と邪馬台国で紹介している卑弥呼の墓、円墳ですが、仁徳陵から伊勢神宮の方位ライン上にあるのに驚いている所です

まだ前半しか読んでませんが、秦野さんご指摘の仁徳→伊勢ラインの正確な距離はご指摘の 110 ではなく、106 キロです。この辺もヒントになるのではないのでしょうか?彼らは予想以上に方位や距離には厳密ですからね…。

> 話しは変わりますが、キシさんの著書『古墳のころ』とは、多く議論することになると思います。もう方位ラインでぶつかっていますな。

方位ラインと古墳軸との関係について、この際、今後の論議のために、もう少し詳しく説明をしておきたいと思います。

下記最初の添付図は、会報に掲載した高崎方面の各古墳群における古墳軸と、方位ラインとの関係です。

まず古墳群の中でも、始祖的な古墳の古墳軸の向きが、方位ライン、おそらくは秦野さんご指摘の「道」と関連して決定されます。

次にその始祖的な古墳の古墳軸を元にして、同じ古墳群(四角で拡大した部分)の中にある親族の古墳の古墳軸の向きも決定されていきます。

その際、古墳群の各古墳は、方位ラインに対して、水平、もしくは垂直に古墳軸をもっていきます。

このようにして、古墳軸が古墳群単位で整然と整っていくことがお分かりになれるかと感じます。

その上で、さらにその古墳軸の決定法の詳細を下記に説明いたします。

2 番目の添付の図でいきますと、まず古墳を造成する予定地に三角縁神獣鏡もしくは、水を入れた壺をおき、その背面もしくは容器に水を満たしておきます。

次にそこに方位磁針である「海幸が与えた魔法の釣り針」を口に加えた指南魚を浮かべます。

そしてその指南魚が指す磁北と、あらかじめ鏡で決めておいた「北」を示す印(黄色の丸印)とをあわせます。

最後に、以前始祖の古墳を造営さいた際に、その古墳軸の「磁北に対しての」向きを記しておいた目印(赤い丸印)とをあわせることで、子孫の古墳も、始祖の古墳と同じ古墳軸の向きで造営することができるわけです。

この方法を使えば、いちいち古墳群のほかの古墳を作る際に、始祖の古墳軸の向きを計らなくても、鏡か壺ひとつ用意すれば、すぐに同じ向きで作成できるはずです。

ところが、ひとつだけ欠点があって、指南魚の示す磁北は時代によって、東西 15 度近くずれちゃうことがあります。

したがって子孫の古墳の向きも、すこしづつバラバラの向きを示していくこととなります。それが前方後円墳の古墳軸の角度がバラバラな理由のひとつだと考えてます。そしてその磁北のズレ具合を調べて、偏磁曲線と対比することで、その古墳の時代が特定できるわけです。

あとでひとつ古墳群と古墳軸の向きについてのわかりやすい事例をお知らせいたします。 > 日本神話の文章中に相当数の光通信に関する項目を発見しています。期待してください。楽しみにしてます！

----- Re: 指南魚 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 15 日(木)19 時 15 分 5 秒 返信・引用 > No.229[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

徐福と邪馬台国で紹介している卑弥呼の墓、円墳ですが、仁徳陵から伊勢神宮の方位ライン 上にあるのに驚いている所です。

話しは変わりますが、キシさんの著書『古墳のころ』とは、多く議論することになると思います。もう方位ラインでぶつかっていますな。

魏志倭人伝で少し議論して、問題がなければ、古事記、日本神話にはいります。

> 方位ラインは古墳軸と関係してきますが、そのラインは、つまりヤタノカラスが飛ぶ道でして、あるいはそれにそう形で人間の歩く道もあったかもしれません。キシさんの著書『古墳のころ』に、目印としての古墳のあり方について書いてありますので、ご参考にされるとよい かと感じます。

日本神話の文章中に相当数の光通信に関する項目を発見しています。期待してください。

> いまだに、なぜそこまで高いのかは、わからないのですが、何かそれを可能にする「手段」があったんですね。個人的には鏡にその手段のヒントを追ってます。火をつかった狼煙通信は 弥生時代から、鏡を加えた光通信も中世にはあったのですが、その辺との兼ね合いも重要です。秦野さんも機械にかかわるお仕事をされているとのことで、その経験を生かされれば、何か見えてくるものがあるのではないかと期待いたします。

----- ハシヤスメ 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 3 月 15 日(木)11 時 34 分 39 秒 返信・引用 □ × 記号 四角 バツ…▽△…互 Re: 指南魚 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 14 日(水)23 時 28 分 16 秒 <http://8220.teacup.com/toraijin/bbs> □ × ▽△…しゃれこうべ 虎塚 - 民族学伝承ひろいあげ辞典 - Yahoo! ブログ http://blogs.yahoo.co.jp/kawakatu_1205/41184004.html

意味: おたがい、たがいに、交互に、入り乱れる、たがえる、間違える、甲殻動物、古代の 生贄の 獣を吊るす木架、縄巻き、という意味がある。[説文解字]の本字は?で、「以って 縄を収む可き なり」とある。互は、?の異体字として載っていて「?、或ひは省す」とある ...<http://dic.nicovideo.jp/a/%E4%BA%92>

[漢字]互と牙. 2 日前に「互」と「亙」を取り上げた。「互」と似た字に「互」がある。点対称 だが線 対称ではない、何やら幾何学的な字だ。「互」の字源は、説文解字では「縄を巻く ための器」を表した象形字とされ、そこから「交互に」という意味が生じた ...<http://d.hatena.ne.jp/akehyon/20110324>

「耶」はもとは「邪」の別体であり、「牙」が「耳」に変化したようだ。…邪馬台国(耶馬台 国)

魏志倭人伝では「邪馬壹国」と表記されているが、『後漢書』には「邪馬臺国」とある。「 邪馬台 国」の通称は、「邪馬臺国」の"臺"の字を、「台」をもって代用したものである。また 、耶馬台国と も記述される。 弥生時代の 1~3 世紀に倭国にあったと推定されている。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%82%AA%E9%A6%AC%E5%8F%B0%E5%9B%BD>

▽△▽△▼△…齧むしば(齒+禹) 牙 きば 意味;牙部は『牙』字のみ。《解字》象形。二本の柱に切り込みを入れ、かみあわせてつないださまを描いたもの。<http://www.k3.dion.ne.jp/~masatono/every/kanzi/syousai5.htm>

エ(呉) [解字] 画像が古い字形で、画像(カク) が音を表わし、界(カイ) 解字. 会意兼形声。与 は牙(ガ)の原字と同形で、かみあった姿を示す。 <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2619>

亘 -『命名字解=めいめい-じかい』は - FC2 2009 年 6 月 28 日 - 説文解字』は、「求亘也(求めてめぐるなり)」、「古文回,象亘回形(古文 の回る形を かたどって“亘”とする。)」,「上下、所求物也(上下の横線は、捜し求める物なり)」と記されている。 ◆また、辞書によって「亘」と「互」という二つの漢字を別々の...<http://mei2jikai.blog113.fc2.com/blog-entry-61.html>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 指南魚 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 15 日(木)10 時 47 分 50 秒 返信・引用 編集 済 > No.228[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

先ほどようやく秦野さんの本が届きました。まだ昨年刊行したばかりなのですね! 後でじっくり拝読させていただきます

> 古墳の方向は古道の道しるべを指南している模様です。古代の難波宮から奈良への道(茅渟 の道)と竹之内街道の方向が古墳の方向とほぼ一致する。

添付の図を拝見しました。古道と古墳軸との関連は、非常に面白い視点だと感じますね。

方位ラインは古墳軸と関係してきますが、そのラインは、つまりヤタノカラスが飛ぶ道でして、あるいはそれにそう形で人間の歩く道もあったかもしれません。キシさんの著書『古墳の ころ』に、目印としての古墳のあり方について書いてありますので、ご参考にされるとよい

かと感じます。

> 古墳も古代の道の道しるべならば。未発見の古道が発見できるかも。

個人的には、そこに注目しています。方位ラインで見えていくと、どうしてもここにこういう遺 跡があるべきだということが多々あるんですね。考古学者がまじめに方位ラインについて考 えはじめれば、もっとお宝探しは楽しくなりますよ。発掘コストの無駄も省けるでしょう し…。

> それと方位ラインですが仁徳陵から伊勢神宮に走っている。距離約 110 km、約 54×2 km

ちょっと調べさせていただきました。南北に2~3 キロずれているので、なんともいえないが、100 メートル圏内までに収まってくれば、方位ラインの可能性が高くなります。10 年前までは人工衛星でも 10 メートルの誤差が出たというのに、古代の測量士が100 メートルにつけるなんて無理と考えがちなのですが、調べれば調べるほど、恐ろしく精度が高い ことに気づかされていきます。

いまだに、なぜそこまで高いのかは、わからないのですが、何かそれを可能にする「手段」があったんですね。個人的には鏡にその手段のヒントを追ってます。火をつかった狼煙通信は 弥生時代から、鏡を加えた光通信も中世にはあったのですが、その辺との兼ね合いも重要です。秦野さんも機械にかかわるお仕事をされているとのことで、その経験を生かされれば、何か見えてくるものがあるのではないかと期待いたします。

> 思うに、方位ラインで囲まれる範囲は一つの国ではないか。4 方の遺跡は何を意味するか が問題です。

境目に方位ラインにかかわる古墳や遺跡があるという点は同感ですね。有名なところでは、旧約聖書とかでも、国の境目に石を積んで目印にした記載などもありますし、古代史の詩歌 あたりにもその辺のことは描かれていることでしょう。

古代の道が整理されてない時期で、土地の境がはっきりしない場合は、何かが目印にならな いといけなはず

なんですね。それがないと、部族同士の争いにもなりかねないですし、収穫の是非にもかかわってくる。大きく目立つ必要があると思います。

----- Re: 指南魚 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 3月 14日(水)23時 28分 16秒 返信・引用 編集済 > No.227[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 購入ありがとうございます。話が早くなります。

古墳の方向は古道の道しるべを指南している模様です。古代の難波宮から奈良への道(茅渟の道)と竹之内街道の方向が古墳の方向とほぼ一致する。

三蔵法師の砂漠で行き倒れた獣の骨や、亡くなられた方々のお骨を道しるべにして… の文章を思い出す。

古墳も古代の道の道しるべならば。未発見の古道が発見できるかも。 それと方位ラインですが仁徳陵から伊勢神宮に走っている。距離約 110 km、約 54×2 km

思うに、方位ラインで囲まれる範囲は一つの国ではないか。4方の遺跡は何を意味するかが 問題です。

> 秦野さん、こんばんは。昨日アマゾンで秦野さんのご本を注文しました。明日あたり届く予定です。 >>> 古墳の形状が指南魚、また船なのか。

>>>> どうも、古墳の方向は古道の道しるべを指南している模様。近い内に地図を添付します。 >> 確かに古墳の形=指南魚かどうかは、微妙ですね。初期のホタテ貝式古墳は、形状が鏡型で その周りを水(海の意?)で埋めたように見えます。そこに円墳の上にある墓室まで向かう 低い橋がかかっている、その橋の部分が徐々に高く長くなっていったのが、前方後円墳と理解してます。 >

> おそらくはご指摘のとおり、その橋までは、人が向かう道があったと感ずますし、あるいは 街道に通じていたかもしれません。 >> ただだんだん橋部だったはずの前方部が、高くなっていき、橋としての機能別なものに変わるんですね。中国の古墳の方形壇みたいな形になって、祭祀の場のようにも見えます。

。

Re: 指南魚 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 14日(水)20時 41分 6秒 返信・引用 編集済 > No.226[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

秦野さん、こんばんは。昨日アマゾンで秦野さんのご本を注文しました。明日あたり届く予定です。

> 古墳の形状が指南魚、また船なのか。 >> どうも、古墳の方向は古道の道しるべを指南している模様。近い内に地図を添付します。方 位も…

確かに古墳の形=指南魚かどうかは、微妙ですね。初期のホタテ貝式古墳は、形状が鏡型で その周りを水(海の意?)で埋めたように見えます。そこに円墳の上にある墓室まで向かう 低い橋がかかっている、その橋の部分が徐々に高く長くなっていったのが、前方後円墳と理解してます。

おそらくはご指摘のとおり、その橋までは、人が向かう道があったと感ずますし、あるいは 街道に通じていたかもしれません。

ただだんだん橋部だったはずの前方部が、高くなっていき、橋としての機能別なものに変わるんですね。中国の古墳の方形壇みたいな形になって、祭祀の場のようにも見えます。

しかしながら、最後まで方位ラインと前方後円墳の関係では、会報で記したとおり、かならず 方位ラインは後円部を通過しています。前方部はあくまでもその橋の延長線なのですが、そのかわり、いつも特定の方位を指南してます。

おそらくその方位に向けて整然と近親者が並んで儀式をしたはずですね。祖先の古墳を向いた方位ラインにあるものは、祖先を敬う儀式をしたかもしれません。

もともとは特別なモガリ場のないケースでは、棺をその橋・前方部を渡って円墳部分の頂上に埋葬したでしょうから、前方部には棺が向かう道としての役割もあったでしょうし、棺が進む方角=常世の国のある方角というこ

ともありえたかもしれません。それが方位磁針たる指南魚の指し示す山幸彦が向かった常世国という見方もできそうです。

鏡とか壺、井戸というのは、山幸神話を元にすれば、この世の世界に対するあの世の世界なので、山幸の顔を反対に映し出すわけです。鏡に映る自分の姿は、もはや異次元のあの世の姿なんですね。それで古墳の被葬者の周りに鏡や壺を並べて、被葬者を映し出すことで、あの世の演出する、そんなイメージもできるかもしれません。映し出すのは、鏡でなくても、壺でも長い井戸型の土器でもいいわけです。

ただ、三角縁の場合は、黒塚のケースだと、鏡の背面を被葬者にむけているんですね。あの世を演出するなら、表面のほうがいいと思うのですが、父母のいる神仙世界を見せたかったのでしょうか。この辺の表裏の是非は統計を取らないとなんともいえません。

ともあれ先の中国史籍に、船形木棺を引きつったり担いでいる倭人の姿が描かれていることには注目すべきで、特定の道をずっと引きずって、古墳まで運んだことは確かです。お神輿をかつぐ祭りみたいですね。ご指摘のとおり、その辺の道との関連を調べていけば、何かわかってくるかもしれません。

Ads by Google ----- Re: 指南魚 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012年 3月 13日(火)23時 57分 25秒 返信・引用 編集済 > No.225[元記事へ]
管理人さんへのお返事です。

古墳の形状が指南魚、また船なのか。

どうも、古墳の方向は古道の道しるべを指南している模様。近い内に地図を添付します。方位も…

>> その山幸神話にある出エジプトを思わせるような潮の満ち干きによる退治伝承も、あるいは

は中東から華南方面は流れたそれらの伝承とどこかで関係してくるのかもしれませんが。

>> それが後の齊の地域に伝わっていった、そこから出てきた方士占術や諸葛孔明の兵法とかにも関係したかもしれませんが、そこに方形壇における皇帝祭祀も一枚噛んでいるので、長沙の馬王堆墓のような方形壇をした墳墓の様相も影響していったのかもしれませんが。 >> ただ、基本的な葬送観念は、山幸彦・指南魚伝承だったので、古墳時代末期まで前方後円墳の形がかわらず、主に磁北を向いていたものと感じます。 >> ところがその後、ある時期から方墳や八角墳に取って代わられる出来事があって、その辺からまた葬送観念も変化していった、鏡とか指南魚の意味が、忘れ去られてしまったので、いまいち詳しい記載がなされていないのではないのでしょうか。

Re: 指南魚 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 13日(火)03時 32分 42秒 通報 返信・引用 編集済 > No.223[元記事へ]

ちょっとフロに入っていて、あれこれ指南魚と山幸神話の関係でわかってきたことがあるので、とりあえず忘れぬ前にメモしておきます。

一つ目は、豊玉毘売命の侍女がもっていた容器に種類があることです。古事記および書記一書で、それぞれ持ち物が違うんですね。玉の碗だったり、壺だったり、井戸だったりする。

どれも結局は女性の顔を映すもの、かつまた指南魚を浮かべるための器とのことで、同じ機能なのですが、氏族や地域の系統でことなるので、伝承も少しづつ異なっているのでしょう。

元は三角縁神獣鏡の背面を、水を入れる器代わりにしたと考えているのですが、一方で壺はその器とする系統もあったのでしょう。だから、初期古墳から三角縁と特殊器台つまり「壺」は一緒に出土しないんですね。機能が同じなんです。

後代、装飾古墳の事例で、やはり鏡が出土しなくなった代わりに、鏡の絵つまり同心円紋が描かれはじめる事例が指摘されているそうです。

二つ目は、山幸彦に浮き木と縄を結んでカゴや小船に浮かべる件ですね。これも先のとおり鉄針が刺さった指南魚とみなしうることがありましたが、思うに古墳の形自体が魚に類似していることと関係あるのではないのでしょうか。

初期の前方後円墳は、三角縁神獣鏡とともに、船型の木棺が出てきます。船に入った埋葬者= 山幸彦(の子孫:皇族)という観念があったのではないのでしょうか。

ただ個人的には、初期のホタテ貝式古墳の形は、男狭穂塚やそれを模した鬼の磐屋古墳のよう、鏡をイメージしたのではないかと考えてますが、そのうちに方形の橋の部分が大きくなって魚形へと変化していきます。

そしてその魚形の古墳=指南魚であり、指南魚の指す磁北に向けて、古墳の軸をあわせることで、被葬者=山幸彦が、常世の国(海神の国)へと旅立つことを示したのかもしれない。

ただ、会報でも書きましたが、よく古墳軸をみていくと、しばしば同じ古墳群に、他の古墳の向きと垂直になっている古墳が見つかります。おそらく、女性の被葬者ではないかと感じて いるのですが、ここにも何か葬送観念があるのでしょうか。

山幸彦と、妻の豊玉ヒメの関係は、鉄針+魚に対するおなかを広げているワニの関係なんで すね。この正反対の観念が、垂直に軸を向けていることと関係してくるのかもしれない。出土人骨の性別がわかれば証明されると思います。

この山幸神話は、現実世界と常世の国という、生死を意味した葬送観念と強く結びついて いるのではないのでしょうか。後代、これらは崇神条の埴輪・石棺・土師氏関連や、さらには黄泉 平坂と横穴石室あたりに取って代われるのですが、それ以前の主流な葬送儀式と結びついて いたのでしょうか。

だから、何気ない日向の山幸神話が、天皇家の祖先伝承の最後という最も重要な部分にダイレクトに割り込んでくるわけです。その点で隼人や関係氏族と葬送儀礼の関係は重要です。

ともあれ、初期古墳の古墳軸は、このようなわけで、三角縁神獣鏡や壺に浮かべた指南魚の向きとかかわってくるのが、会報で示したとおり実測データともそこそこ一致してくるので す。

この辺は、栃木の古墳の事例を示した図を添付します。曲線が磁北の角度変化をあらわしたもので、それにあわせるように、同一古墳群の古墳軸が時間とともに、((反)時計回り)に 変化していく様子が伺えると思います。

しかしながら、やや次代が下ると、磁北に加えて、始祖となる祖先の古墳の向き(方位ライン)を考慮し始めるので、さらに古墳軸の向きが複雑な様相を呈してくることになります。

この辺は、遁甲占術の世界にも似ていて、日時・干支・といういろんな要素が加わって、数 重の複合円から割り出された方角を、善しとする世界に似てきます。一部は三角縁神獣鏡の 鋸歯紋が数重にもなっていることと関係してくるのかもしれない。漢鏡の元は八卦などとも 関係する方位盤の意味もあったかと感じます。そしてその方位を元に、測量をしていったわけですね。

会報で紹介した華南系の民族では、三角鋸歯紋の重文様を刻んだ銅鼓や神殿祭祀がありますが、海と三角縁神獣鏡と指南魚・山幸彦との関係も重要です。

その山幸神話にある出エジプトを思わせるような潮の満ち干きによる退治伝承も、あるいは 中東から華南方面は流れたそれらの伝承とどこかで関係してくるのかもしれない。

それが後の齊の地域に伝わっていった、そこから出てきた方士占術や諸葛孔明の兵法とかにも関係したかもしれませんし、そこに方形壇における皇帝祭祀も一枚噛んでいるので、長沙 の馬王堆墓のような方形壇をした墳墓の様相も影響していったのかもしれない。

ただ、基本的な葬送観念は、山幸彦・指南魚伝承だったので、古墳時代末期まで前方後円墳の 形がかわらず、主に磁北を向いていたものと感じます。

ところがその後、ある時期から方墳や八角墳に取って代わられる出来事があって、その辺か

らまた葬送観念も変化していった、鏡とか指南魚の意味が、忘れ去られてしまったので、いま 詳しい記載がなされていないのではないのでしょうか。

----- Re: 訂正 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 13 日(火)02 時 28 分 13 秒 返信・引用 > No.222[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- ・ > 方位に興味があるので、素人ですがおおよその線を引きました。
- ・ > 検討が不十分なのでミスってるかもしれません。 >
- ・ > 韓半島が面白い。釜山、モッポ、クンサン、百済の固麻城になる。
- ・ > クンサン:白村江、モッポ:倭奴国、釜山、百済の固麻城は新羅と接している

なるほど、韓国にもありそうですね。私は韓国の遺跡には無知ですが、秦野さんのように知識のある方が、まじめに方位ラインについて調べ始めれば、いろいろ出てくると思います。

もう少し方位ラインへの理解者が増えてきたら、一度電子地図から方位ラインの引き方についての講習会でも開きたいところです。古代人の測量は数十キロ離れていても、100メートル圏内でピタッとあわせてきますよ。狂っているとしたら、おそらく古代人のミスではなく、おおよそは、われわれの理解がミスしているか、本来の遺跡の場所を発掘し切れてないかのどちらかです。

----- Re: 指南魚 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 3月 12日(月)22時 46分 38秒 返信・引用 > No.221[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

山幸神話は魏志倭人伝終了後、秦野も議論したい。磁石も面白いですな。海神の娘の豊玉毘売命が海神の娘、…。

> 指南魚と引用画像についてはこちら。(図のヒシャクの部分は、鏡の丑の部分に覆いかぶさるよう上下が逆にとりつけられていたのでは?) >

- ・ > それで、再度、会報で紹介した山幸神話と、方位磁針との関係を調べてみました。
>
- ・ > まず古事記のみですが、下記のような記載があります。 >「教えられた通り綿津見神の宮殿へ行き、そこで待っていると、海神の娘の豊玉毘売命の侍女が水を汲みに外に出て来た。火遠理命が水が欲しいと求めたので、侍女は水を汲み器に入れて火遠理命に差し上げると、火遠理命は水を飲まずに首にかけていた玉を口に含んでその器に吐き入れた。すると玉が器にくっついて離れなくなったので、侍女は玉のついた器を豊玉毘売命に差し上げて、事情を話した。不思議に思って外に出てみた豊玉毘売命は、火遠理命を見て一目惚れした。」 >>
- ・ > この箇所の器から離れない玉というのが、つまり磁石のことではないかと考えます。
- ・ > 書記のほうでは、玉の器(壺)と表現されています。 >
- ・ > それで、今回気づいたのは、山幸彦自体を浮き木に糸でつるしてカゴのような容器にいれて水に沈める記載があるんです。 >「そして海辺に行き、彷徨い嗟嘆(なげ)いていると、一人の長老(おきな)がたちまちに現れた。自ら塩土老翁と名乗り、「君はこれ誰ぞ。何の故にかここに患(うれ)うるや」と尋ねたので、彦火火出見尊は詳しくその事情を話した。老翁が袋の中の玄櫛(くろくし)を取り、地面に投げつけると、五百箇竹林(いほつたかはら)と化成了。そこで竹を取り、大目籠(おおまあらこ)を作り、彦火出見尊(ほほでみ)を籠の中に入れ、海に投げ入れる。あるいは、無目堅間(まなしかたま)(竹の籠)を以ちて浮木(うけき)(浮かぶ木舟)を作り、細い縄で彦火出見尊を結びつけて沈めたとする、とある。 >>すると、海の底に自ずから可怜小汀があり、浜の尋(まにま)進むと、すぐに海神の豊玉彦(とよたまひこ)の宮に辿り着いた。」 >>> 大目籠、無目堅間と呼ばれる容器に、細い縄で山幸彦を、水に浮かぶ木に結びつけて、沈

めるんですね。そのおかげで自然と無事航海できたという内容なんです。羅針盤=航海の関係ですね。 >> 山幸彦は彦火火出見尊とも呼ばれて、火の燃え盛る様子をイメージしていると言われますが、いわゆる製鉄関連だと思えます。その最後に出来上がったのが山幸彦、鉄のことなので、神話でも鉄の刀から1000本の鉄針を作る話が出てくるのでしょうか。鉄;鉄の針=山幸彦 なんです。そしてその山幸が容器から離れない磁石のような玉を吐き出すわけです。

>> そして、その鉄針は、下記の伝承のように、赤魚のノドに刺さっていたのですが、これが先の指南魚なんです。魚型の木片に磁化された鉄針が刺さっています。 >>「海神は海の魚たちをすべて集め、その釣針を求め尋ねると、一尾の魚が「赤女(あかめ) 久しく口の疾(やまい)有り。或は云う、赤鯛。疑うらくはこれが呑めるか」と答えた。そこで赤女を呼んでその口を見ると、釣針がまだ口の中にあった。」 >> 古事記では特に下記のように呪術的な要素も表現しています。針を手を持っていく表現に 留意したいところです。 >>「海神は釣針と鹽盈珠(しおみちのたま)・鹽乾珠(しおひのたま)を火遠理命に差し出し、「この釣針を兄に返す時、『この針は、おぼ針、すす針、貧針、うる針(憂鬱になる針、心が 落ち着かなくなる針、貧しくなる針、愚かになる針)』と言いながら、手を後に回して渡しなさい。」 >『此鉤者、淤煩鉤、須須鉤、貧鉤、宇流鉤』云而、於後手賜【於煩及須須、亦宇流六字以音 >> また書記の一書では、先の玉碗が、鏡のように左右逆に顔を映し出すことが見えます。 >>「あるいは、豊玉姫の侍者が玉壺に水を汲もうとしたが、満たすことができなかった。井戸の中を覗き込むと、逆さまに人の咲く顔(笑顔)が映っていた。そこで仰ぎ見ると、一人の美しい神がいて杜樹に寄り立っていた。」 >> これが三角縁神獣鏡の背面に水を溜めた様子を表現したのではないかと先の会報で考えました。その玉碗・つまり鏡が砕け散るというこんな記載もあります。 >>「門の前に一つの良い井戸があり、井戸のほとりに百枝(ももえ)の杜樹(かつらのき)があった。そこで彦火火出見尊その樹に跳び昇りて立る。すると海神の女(むすめ)手に玉 鏡(たまのまり)を持ちやって来て水を汲まんとする。人の影が井戸の中にあるのを見て、

仰ぎ見るや、驚いてお椀を落とした。お椀は砕け散ったが、顧(かえりみ)ずして帰り戻り、父(かそ)母(いろは)に、「妾、一人の、井の邊(ほとり)の樹の上に在るを見たり。」 >> どこか多くの三角縁神獣鏡が破砕されている様子を想起させますね。砕け散るのを無視して 常世の国の父母、つまり西王母・東王父?に報告することで、その鏡に映し出された墓の主もその世界へ案内されるわけです。

>> よって、山幸神話というのは、羅針盤をもって航海した民族の伝承によるものだといえる でしょう。それが神武天皇の祖先にあたるわけですし、先述の椿井大塚山古墳から釣り針と 三角縁神獣鏡がたくさん出てくる所以と考えます。 >> そしてその三角縁神獣鏡の背面に水をいれて、さらに指南魚を浮かべることで、羅針盤を つくりだしたのでしょう。 >>> もともと鏡は、先のとおり定規だったものの、それに魏の時代になって新たに方位磁針の 要素を背面に加えることで、活用性が広がって、古墳の方位決定や測量に関係していったのだらうと感じますね。 >>>>>

----- Re: 訂正 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 12 日(月)22 時 26 分 48 秒 返信・引用 編集 済 > No.220[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

方位に興味がでたので、素人ですがおおよその線を引きました。
検討が不十分なのでミスってるかもしれません。

韓半島が面白い。釜山、モッポ、クンサン、百済の固麻城になる。

クンサン:白村江、モッポ:倭奴国、釜山、百済の固麻城は新羅と接している 尚、常陸は引いていません。方位は54の倍数

指南魚 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 12 日(月)21 時 20 分 4 秒 返信・引用 編集済 > No.219[元記事へ]

キシさん、秦野さん、情報ありがとうございます。まさに九州のみならず、奈良・朝鮮でも同様な精密な測量があったと感じます。

>> 指南車は磁石の応用 で、車に載せた木製の人形が挙げている右手の指が、いつも南を指すようになっていました >>> 中国で発明された、紀元 3 世紀ころの「記里鼓車」、つまり走行計です。日本では卑弥呼(ひみこ)のころです。車の回転を歯車で縦 ... 後世、指南車とともにいろいろな人によって改良 されました。
【1 里】 このころの中国の 1 里は

指南車の構造には驚かされますね。ただ思うに日本での測量に使ったのは、やはり指南魚の ほうではないかと感じます。

指南魚というのは、容器の中に水を溜めて、そこに磁石となっている鉄針を魚型の木片の中に差し込んだものを浮かべて、糸に結びつけた魚が、南北を指すという、いわゆる羅針盤です。魏の時代にありました。

指南魚と引用画像についてはこちら。(図のヒシヤクの部分は、鏡の丑の部分に覆いかぶさるよう上下が逆にとりつけられていたのでは?) <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/tetsu/070218.htm>

それで、再度、会報で紹介した山幸神話と、方位磁針との関係を調べてみました。まず古事記のみですが、下記のような記載があります。

「教えられた通り綿津見神の宮殿へ行き、そこで待っていると、海神の娘の豊玉毘売命の侍女が水を汲みに外に出て来た。火遠理命が水が欲しいと求めたので、侍女は水を汲み器に入れて火遠理命に差し上げると、火遠理命は水を飲まずに首にかけていた玉を口に含んでその器に吐き入れた。すると玉が器にくっついて離れなくなったので、侍女は玉のついた器を豊玉毘売命に差し上げて、事情を話した。不思議に思って外に出てみた豊玉毘売命は、火遠理命を見て一目惚れした。」

この箇所の器から離れない玉というのが、つまり磁石のことではないかと考えます。書記のほうでは、玉の器(壺)と表現されています。

それで、今回気づいたのは、山幸彦自体を浮き木に糸でつるしてカゴのような容器にいれて水に沈める記載があるんです。

「そして海辺に行き、彷徨い嗟嘆(なげ)いていると、一人の長老(おきな)がたちまちにしめて現れた。自ら塩土老翁と名乗り、「君はこれ誰ぞ。何の故にかここに患(うれ)うるや」と尋ねたので、彦火火出見尊は詳しくその事情を話した。老翁が袋の中の玄櫛(くろくし)を取り、地面に投げつけると、五百箇竹林(いほつたかはら)と化成了。そこで竹を取り、大目籠籠(おおまあらこ)を作り、火火出見尊(ほほでみ)を籠の中に入れ、海に投げ入れる。

あるいは、無目堅間(まなしかたま)(竹の籠)を以ちて浮木(うけき)(浮かぶ木舟)を作り、細い縄で彦火火出見尊を結びつけて沈めたと言う、とある。

すると、海の底に自ずから可怜小汀があり、浜の尋(まにま)進むと、すぐに海神の豊玉彦(とよたまひこ)の宮に辿り着いた。」

大目籠籠、無目堅間と呼ばれる容器に、細い縄で山幸彦を、水に浮かぶ木に結びつけて、沈めるんですね。そのおかげで自然と無事航海できたという内容なんです。羅針盤=航海の関係ですね。

山幸彦は彦火火出見尊とも呼ばれて、火の燃え盛る様子をイメージしていると言われますが、いわゆる製鉄関連だと思います。その最後に出来上がったのが山幸彦、鉄のことなので、神話でも鉄の刀から1000本の鉄針を作る話が出てくるのでしょうか。鉄;鉄の針=山幸彦なんですね。そしてその山幸が容器から離れない磁石のような玉を吐き出すわけです。

そして、その鉄針は、下記の伝承のように、赤魚のノドに刺さっていたのですが、これが先の指南魚なんです。魚型の木片に磁化された鉄針が刺さっています。

「海神は海の魚たちをすべて集め、その釣針を求め尋ねると、一尾の魚が「赤女(あかめ)久しく口の疾(やまい)有り。或は云う、赤鯛。疑うらくはこれが吞めるか」と答えた。そこで赤女を呼んでその口を見ると、釣針がまだ口の中にあった。」

古事記では特に下記のように呪術的な要素も表現しています。針を手を持っていく表現に留意したいところです。、『此鉤者、淤煩鉤、須須鉤、貧鉤、宇流鉤』云而、於後手賜【於煩及須須、亦宇流六字以音】

「海神は釣針と鹽盈珠(しおみちのたま)・鹽乾珠(しおひのたま)を火遠理命に差し出し、「この釣針を兄に返す時、『この針は、おぼ針、すす針、貧針、うる針(憂鬱になる針、心が落ち着かなくなる針、貧しくなる針、愚かになる針)』と言いながら、手を後に回して渡しなさい。」

また書記の一書では、先の玉碗が、鏡のように左右逆に顔を映し出すことが見えます。

「あるいは、豊玉姫の侍者が玉壺に水を汲もうとしたが、満たすことができなかった。井戸の中を覗き込むと、逆さまに人の咲う顔(笑顔)が映っていた。そこで仰ぎ見ると、一人の美しい神がいて杜樹に寄り立っていた。」

これが三角縁神獸鏡の背面に水を溜めた様子を表現したのではないかと先の会報で考えました。その玉碗・つまり鏡が砕け散るというこんな記載もあります。

「、門の前に一つの良い井戸があり、井戸のほとりに百枝(ももえ)の杜樹(かつらのき)があった。そこで彦火火出見尊その樹に跳び昇りて立る。すると海神の女(むすめ)手に玉 鏡(たまのまり)を持ちやって来て水を汲まんとする。人の影が井戸の中にあるのを見て、 仰ぎ見るや、驚いてお椀を落とした。お椀は砕け散ったが、顧(かえりみ)ずして帰り戻り、 父(かそ)母(いろは)に、「妾、一の人、井の邊(ほとり)の樹の上に在るを見たり。」

どこか多くの三角縁神獸鏡が破碎されている様子を想起させますね。砕け散るのを無視して 常世の国の父母、つまり西王母・東王父?に報告することで、その鏡に映し出された墓の主 もその世界へ案内されるわけです。

よって、山幸神話というのは、羅針盤をもって航海した民族の伝承によるものだといえるで

しょう。それが神武天皇の祖先にあたるわけですし、先述の椿井大塚山古墳から釣り針と三 角縁神獸鏡がたくさん出てくる所以と考えます。

そしてその三角縁神獸鏡の背面に水をいれて、さらに指南魚を浮かべることで、羅針盤をつ くりだしたのでしょう。

もともと鏡は、先のとおり定規だったものの、それに魏の時代になって新たに方位磁針の要 素を背面に加えることで、活用性が広がって、古墳の方位決定や測量に関係していったのだ ろうと感じますね。

金属挽物加工なら三鎮工業 - www.sanshin-i.com/ 1 個の試作品から月 400 万個の 量産品までご提供いたします 高性能の放射線量測定器 - ambient.ne.jp 世界 TOP クラスの技術力で放射能を 正確に測定する放射線量測定器 レンタル最大手の野沢園 - www.nozawaen.co.jp/ 東京最大手のレンタル業者です 世田谷に 2000 坪の大農場を完備 無料地図 - maps.inbox.com

地図・距離・道案内を入手する 無料地図ツールバーを使おう! アントンパールの密度計 - www.anton-paar.com 携帯型から高精度密度・濃度計まで 液体の品質管理に最適です Ads by Google

----- Re: 訂正 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 12 日(月)17 時 19 分 46 秒 返信・引用 > No.218[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

でかい、これはただ事ではない。これと同じ事が奈良でもあったのか。秦野は魏志倭人伝の 通過地点と思っていた。まず、魏志倭人伝をかたづけ、古事記から古代史の大筋を書きたい。 お付き合い宜しく。

先の九州方位ライン図で、宇佐(赤塚遺跡)から鎌田原遺跡までの距離が間違っていました ので、訂正しました。 56.9 KM が正解です。 >

- > 須玖岡本遺跡→(27.7 KM)鎌田原→(56.9 KM)宇佐(赤塚)
>
- > 27.7×2=56.4 となります。 >
- > したがって下記のとおり、27.5~7 KM を 1 単位として宇佐を基点にして東西を計っている ことがここでもわかります。 >

----- Re: 慈石 1 里はおよそ 650 メートル? 一里は約、七五~九〇メートルの範囲? 投稿 者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 12 日(月)17 時 07 分 23 秒 返信・引用 棘の紀氏さんへのお返事です。

慈鳥と磁石はて、銅鐸の舞が『三国志魏書』馬韓伝に出てくる。 烏 踊り、盆踊りのルーツなのか。

『其舞、數十人俱起相隨、踏地低昂、手足相應、節奏有似鐸舞。』『その舞いは数十人でともに相手に従って大地を高低に踏み、手足の動作をあわせ、音頭は銅

鐸の舞に似ている。』

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

>、「カラスの漢字は、烏、鴉、慈鳥をあてることが普通です。」>> 慈鳥の由来は、「カラスに反哺(はんぼ)の孝あり」といわれ、カラスの子どもが成長すると、親に餌を運んで慈しむことから、育てもらった親を養う孝行な鳥という言い伝えがあるから。

>「烏 踊り(からすおどり)」について

> 烏踊りは、長野県北部から新潟県南部一帯に広く分布する民族芸能の一つであります。中世長野県北部
....手を叩き、地を踏む動作は、修験道における善霊を目覚めさせ、悪霊を踏み鎮めるとする「反閉」(へんぱい)の考え方にあると思われます。「反閉」(へん ...

> この踊りの名称については、元来山岳信仰に源をもつ修験道では、カラスを神の使いとしてきたことから、それに因んでこの名前がついたのではないかと見られています。> 野良着姿に手ぬぐいで頬かぶりをした男性が、酒を酌み交わしながら「踏む」「蹴る」の動作が中心の素朴な踊りで、前唄、中唄、後唄からなっているので、七五三踊りともいわれています。

棘の紀氏の1里、「三舎を避(さ)く」、一丈八尺はバラバラですよ、どこかで線を引いたら。

■林冲の丈八蛇矛の長さ いったい何メートル? ■ 蛇矛の長さ、一丈八尺を宋代の尺寸法で計算してみます。宋代の1尺は30.9センチとも一説には32.9センチともいわれています。1尺の長さが30.9cmのとき1丈8尺の長さは、 $30.9 \times 18 = 556.2\text{cm}$ 。あるいは、1尺の長さが32.9cmのとき1丈8尺の長さは、 $32.9 \times 18 = 592.2\text{cm}$ 。ということになり、林師範の蛇矛の長さは、5メートル半から6メートル位と考えられます。ちなみに張飛オリジナルの丈八蛇矛の長さは、後漢代の1尺の長さ23.75センチ、三国曹魏の1尺が24.12センチということから、1尺の長さが23.75cmのとき1丈8尺の長さは、 $23.75 \times 18 = 427.5\text{cm}$ 、もしくは、1尺の長さが24.12cmのとき1丈8尺の長さは、 $24.12 \times 18 = 434.16\text{cm}$ です。こちらの方が武器としては手ごろな長さですよ。参考までに現代中国の1尺は、33.33センチなので $33.33 \times 18 = 599.94$ となり、ほぼ6メートルとなります。

<http://my3594.net/wiki/%E8%9B%87%E7%9F%9B>
http://homepage2.nifty.com/tonglaya/shuihu/labo/labo_02.html

> 指南車は磁石の応用で、車に載せた木製の人形が挙げている右手の指が、いつも南を指すようになっていました

> 中国で発明された、紀元3世紀ころの「記里鼓車」、つまり走行計です。日本では卑弥呼(ひみこ)のころです。車の回転を歯車で縦 ... 後世、指南車とともにいろいろな人によって改良

されました。【1里】このころの中国の1里は

>【1里】> このころの中国の1里はおおよそ650メートルです。> 30里を1舎(しゃ)(20キロ弱)と呼んで、軍隊が1日に進軍する行程(こうてい)でした。日本でも、相手を恐れたり相手に敬意を表して近づかないとき、比較にならないときなどに「三舎を避(さ)く」と使われます。>> 方角を指し示す方法で、われわれが普通に想像できるものは唯一「磁石」だけであろう、だが今日にあって明らかなことは、いずれも木製の原始的な噛み合わせ式の歯車だけで設計され制作されたことである。このような機械をいかにして作ることが可能であったのだろうか?

>>、「長里」が記里鼓車を使用しなくても計測可能だったのは里値算出の方法が「日行〇〇里」という“時間計算”だったからだ

>【足輪各徑六尺圍一丈八尺足輪一周而行地三步以古法六尺為步三百步為里】> 周知の通り、一里は三〇〇歩。一步の歩幅は平均して二五~三〇センチメートル。“一尺一步”で概算スルと一里は約、七五~九〇メートルの範囲にナルが、換算の誤差を最小限に抑える為に本書では魏時代の“六尺一步”での一里430メートルの“六分の一”約、70メートルとスル。>、『魏志倭人伝』の里値が「短里」である決定的証拠を提示して置く。>

----- 訂正 投稿者:管理人 投稿日:2012年3月12日(月)14時21分26秒 返信・引用 先の九州方位ライン図で、宇佐(赤塚遺跡)から鎌田原遺跡まで

の距離が間違っていましたので、訂正しました。56.9 KM が正解です。

須玖岡本遺跡→(27.7 KM)鎌田原→(56.9 KM)宇佐(赤塚) $27.7 \times 2 = 55.4$ となります。したがって下記のとおり、27.5~7 KM を 1 単位として宇佐を基点にして東西を計っていることがここでもわかります。

----- 慈石 1 里はおよそ 650 メートル？一里は約、七五~九〇メートルの範囲？投稿者: 棘の紀氏 投稿日:2012 年 3 月 12 日(月)12 時 12 分 46 秒 返信・引用 「慈」「磁-石」「心」=ひきつける+ ところ=>ひき付ける心=>情深い心 ...
<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/2693>、「カラスの漢字は、烏、鴉、慈鳥をあてることが普通です。」

慈鳥の由来は、「カラスに反哺(はんぼ)の孝あり」といわれ、カラスの子どもが成長すると、親に餌を運んで慈しむことから、育ててもらった親を養う孝行な鳥という言い伝えがあるから。

<http://www.kanshin.com/keyword/971438>

「烏 踊り(からすおどり)」について 烏踊りは、長野県北部から新潟県南部一帯に広く分布する民族芸能の一つであります。中世 長野県北部 手を叩き、地を踏む動作は、修験道における善霊を目覚めさせ、悪霊を踏み鎮めるとする「反閉(へんぱい)」の考え方にあると思われます。「反閉(へん ...
<http://www2.ocn.ne.jp/~terase/hitorigoto/hitorigoto12.htm> この踊りの名称については、元来山岳信仰に源をもつ修験道では、カラスを神の使いとして きたことから、それに因んでこの名前がついたのではないかと見られています。野良着姿に手ぬぐいで頬かぶりをした男性が、酒を酌み交わしながら「踏む」「蹴る」の動作が 中心の素朴な踊りで、前唄、中唄、後唄からなっているので、七五三踊りともいわれています。手を叩き、地を踏む動作は、修験道における善霊を目覚めさせ、悪霊を踏み鎮めるとする「反閉(へんぱい)」の考え方にあると思われます。「反閉(へんぱい) 支那の夏の始祖、兎が行ったとされている歩き方で「兎歩(うほ)。呪術的歩行法で道教が起源といわれている。日本では「反閉」として伝えられ、神道、仏教、陰陽道、修験道 などに取り入れられている。基本は、後ろの足が前の足を追い越さない足運びで、また足を地から離さない、すり足のような歩みであり、力士が踏む四股などもこの流れにあるといわれている。

「兎歩(うほ) 禹歩 散米・祝詞・禹歩(反閉)などは古 神道に由来するものである。<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%B0%E9%99%BD%E5%B8%AB>

反閉(へんぱい)』<http://plaza.rakuten.co.jp/onmyojikobako/2003> 反閉とは、その場の邪気を払い、気を鎮め整える呪術的な作法全般をさす。歩行法そのものを反閉と呼んだりする。「禹歩(うほ)」とも呼ばれ、相撲の四股や神道の所作にも通ずる。禹歩には様々なバリエーションがあるが、共通している事は三、七、九などの北斗七星や日月の運行、易の八卦などに関わりの深い歩順で行われる。

大宝年間に(701~704)に修験の祖・役小角(えんのおづめ)が念仏を唱えながら踊ったのが始まりとも、大同年間(806~809)に羽黒山の修験者(=山伏)が、悪霊退散、衆生済度の念仏踊りとして始めたとも伝える。
<http://gomenmachi.d2.r-cms.jp/about/> 踊りは 8 人が基本。一人が白面、他は青・赤・黒の面をつける。この 4 色は四季・方位を表すとともに悪魔を降伏させ、人々を救済する「明王」を表す。

兎歩(うほ)」という北斗七星の形や八卦の意味を込めた歩行法反閉は、神楽や能楽などに 取り入れられている反閉の原点である北斗七星の形を踏んでいる天地の ... (陰陽五行の思想を 礎とする)の歩行呪術法禹歩を受け継ぎ、日本の陰陽道に取り入れたものを反閉と呼ぶ。 <http://seirios2772.blog115.fc2.com/blog-entry-31.html> 北斗七星の型に方位的なパワーがあるかどうかは、全くわかりません。中国の風水でも、そんな術は聞いたことがありません。基本は東西南北と季節の運行と、地形・地質であり、天にある立体空間を地上に投影したところで、なにか意味があるのか？仲間内に通じるサインのようなものでしかないのでは？と思ってしまうのですが.....。でも、まだ明かされていない秘術があるのかも知れず、何とも言えません。

指南車は磁石の応用で、車に載せた木製の人形が挙げている右手の指が、いつも南を指すようになっています。<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/j-keijiban4.htm>

中国で発明された、紀元 3 世紀ころの「記里鼓車」、つまり走行計です。日本では卑弥呼(ひみこ)のころです。車の回転を歯車で縦 ... 後世、指南車とともにいろいろな人によって改良されました。【1 里】このころの中国

の 1 里は ...<http://pddlib.v.wol.ne.jp/photo/stamp/kirikosha.htm>【1 里】

このころの中国の 1 里はおよそ 650 メートルです。 30 里を 1 舍(しゃ)(20 キロ弱)と呼んで、軍隊が 1 日に進軍する行程(こうてい)でした。 日本でも、相手を恐れたり相手に敬意を表して近づかないとき、比較にならないときなどに「三舍を避(さ)く」と使われます。

方角を指し示す方法で、われわれが普通に想像できるものは唯一”磁石”だけであろう、だが 今日にあって明らかなことは、いずれも木製の原始的な噛み合わせ式の歯車だけで設計され 制作されたことである。このような機械をいかにして作ることが可能であったのだろうか? http://members.jcom.home.ne.jp/proton-news/1_past%20tals/4000y/1_4/kirikosha1.html

、「長里」が 記里鼓車を使用しなくても計測可能だったのは里値算出の方法が「日行〇〇里」という“時間計算”だったからだ。 <http://www1.ocn.ne.jp/~gengoman/MyPage/menu1.html>【足輪各徑六尺圍一丈八尺足輪一周而行地三步以古法六尺為歩三百歩為里】 周知の通り、一里は三〇〇歩。一步の歩幅は平均して二五~三〇センチメートル。“一尺一步”で 概算スルと一里は約、七五~九〇メートルの範囲にナルが、換算の誤差を最小限に抑える為に 本書では魏時代の“六尺一步”での一里 430 メートルの“六分の一”約、70 メートルとスル。、『魏志倭人伝』の里値が「短里」である決定的証拠を提示して置く。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 指南針 和銅 6 年(713 年)の続日本記?
投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 3 月 12 日(月)11 時 34 分 58 秒 返信・引用 コンパス(磁気コンパス)・方位磁石・指南針とも呼ばれますが、旅(航海)をするのに欠かせない道具も、中国で発明されました 11 世紀の書物、『夢溪筆談』(正確には「真貝日誌 送」)にその記述が載っています 当初の方位磁針は 24 方位でしたが、後に現在と同じ 32 方位に変わりました <http://momotaroublog.blog39.fc2.com/blog-entry-161.html>

談に指南針の起源就得上推至戦国時代、當時有一種稱為「司南」的指南器具、那就是指南針 的雛形。 羅針盤に言及する起源は就き上げることができて戦国時代に至ることを押して、当時、1 種 の「古代の簡単な磁石」と呼ぶガイド器具があって、それなら羅針盤の最初の形態です。 http://honyaku.yahoofs.jp/url_result?ctw_=sT,ezh_ja,bT,uaHR0cDovL2NvbnRlbnQuZWZWR1LnR3L3ByaW1hcnkv29jaWV0eS9rc19jay9jdWx0dXJlL3RocmVlL25ld19wYWdlXzEyLmh0bQ==

和銅 6 年(713 年)の続日本記にある「近江の国より慈石を献ず」という記述が最初ようです。 中国から技術を次々に取り込み始めた奈良時代に磁石も 海を渡って伝わったようです。

<http://www.ecs.shimane-u.ac.jp/~nawate/ssh/node1.html>

磁石の歴史 歴史家による磁石の発見の記述は、その時代があまりに古いため正確な年代までは確定されていないようです。鉄を引き付ける力に驚き、不思議な石として注目された背景には、先ずは、鉄の生産が先にあったこととなります。鉄は、古く、現在のトルコのある辺り、ヒッタイト文明により日常的に使われるようになったと言われています。大体、紀元前 700 年かそれ以上前です。 磁石の歴史は 3000 年と言いますから、まだ、人類が鉄を生産すると言うよりも、鉄を含む 鉱石を利用していた時代から知られていたということになりそうです。中国で、鉄製のも のを引き付ける不思議な石は、母親が子供を抱くようにやさしく慈しむ様に例えられ、「慈 石」と名付けられました。また、その石が出土する地域は、慈州と呼ばれることになりました。(当時は慈県) 春秋戦国時代は紀元前 700 年から 200 年ころですが、その時分には磁石を利用した「指南 車」という方位磁石が使われていたようです。当時は、司南と書いたようですが、現在のよ うな針を持つ形状ではなく、ラーメンの汁をすくう、蓮華のような形のものが利用されていたそうです。一方、地中海のクレタ島では紀元前 600 年頃、羊飼いが杖の先の鉄を引き付ける石を発見 していたようです。当時のギリシャでは lodestone (loadstone)と呼ばれていました。この石は、マケドニアの Magnesia 地方や、トルコのある小アジア、イオニア地方のやはり Magnesia と いうところで良く採れたので、磁石のことをだんだんと Magnet と言うようになりました。今、英語で magnetic と言うと、「磁気の」という意味に加えて、「人を引き付ける、魅力的 な」という意味が加わっています。磁石がものを引き付ける様子から派生した意味ですが、中国と同じく磁石は魅力的なものとしてとらえられていたのでしょう。日本ではどうかと言うと、和銅 6 年(713 年)の続日本記にある「近江の国より慈石を献ず」という記述が最初のように

うです.中国から技術を次々に取り込み始めた奈良時代に磁石も海を 渡って伝わったようです.その後,だいぶ たった 1700 年代,貝原益軒の大和本草に外国か らたくさん輸入されるようになった記述が登場します.また, 奥州南部藩大槌村から大きな磁鉄鉱が産出されたのも江戸時代です.その地は現在は釜石市として知られています.

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

Re: 会報 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 12 日(月)06 時 03 分 46 秒 返信・引用 編集済 > No.214[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 > 方位ライン、秦野は古事記の文章に同様のものが存在するのを確認しています。

> 中国史籍にも、同様の文章がある。まだ、実証確認はしていない。

さっそくお知らせありがとうございます。記紀でもすでに見えますが、いつの時代も測量し てたようですから、神話や、中国・朝鮮文献にも、方位ライン、つまり測量記載はあるはずだ と感じますね。

それで、再度九州の方位ラインと遺跡距離を確認してみました。その方位ラインの最新図を 添付いたします。

わかりにくいと思うのですが、縦横斜めの方位ラインと、その上に乗る遺跡、そしてライン上 の数値がその遺跡間距離です。以前把握して数値よりさらに正確な数値がでてきて、ちょっと 1 里の距離解釈が変わりそうです。

要約すると、九州の弥生中期の遺跡を結ぶ方位ラインの四方区画は、下記の数値(距離)を 「7 倍」あるいは数等分した距離に相当します。下記のようにそれらの距離が多数出てきてま

す。東西を基礎距離として、それに特定の角度をつけて測量したようです。

(東西)15.0×7=105KM → 30 → 6 (斜辺)27.5×7=192.5KM → 55 → 11 (南北)22.57×7=158KM

6:11(斜辺)の直角三角形(55 度角)

27.5~7KM ×3 = 82.5KM ×5 = 412.5KM が 1 単位

ということになります。したがって、先の引用資料によれば、前漢後半の尺が。その 412.5 キロメートルに該当するとおもわれますので、これらの弥生中期の遺跡年代と一致してきます。 先の楽浪漢人の流れでしょう。

>【周・春秋戦国・前漢(BC10~1 世紀)】 > 寸:2.25cm/尺:22.5cm/丈:2.25m/歩:1.35m/里:405m

>【新・後漢(1~3 世紀)】 > 分:0.2304cm/寸:2.304cm/尺:24.12cm/丈:2.304m/ > 歩:1.3824m(6 尺)/里:414.72m(300 歩)

>【魏(3 世紀)】 > 分:0.2413cm/寸:2.412cm/尺:23.04cm/丈:2.412m/ > 歩:1.4472m(6 尺)/里:434.12m(300 歩)

ただ、問題は魏の測量は、上記の前漢代・弥生中期のそれとまったく違うということですね 434KM やその 8 分割のルート値で76.5KM、ここにはやはり周髀算経の 8 尺関連 の数値も関係しそうですし、そして指南魚・車という、漢代にはなかった方位磁針が絡んで くるので、奈良の古墳や遺跡の方位は、東西にブレは始めるわけです。

方位ラインの痕跡を見つけるのは、あらゆる時代で測量してますから、実はたやすいのですが、方位磁針を使用したかどうかの証明は正直、まだ十分な確信を得てません。

ご指摘の指南車もあったでしょうし、魏の文献にはすでに方位磁針が見えるものの、それを 軍事測量や風水関連で使ったかどうか、その辺の裏づけが取れてないんです。何か頭を一ひねりしたいところですね。

あと、秦野さんのご本を一両日中に購入いたします。また研究会の HP のほうでも、推薦図書 として紹介させていただきたく感じてますので、よろしくお願いします。

Ads by Google ----- Re: 会報 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 12 日(月)01 時 27 分 40 秒 返信・引用 > No.212[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 方位ライン、秦野は古事記の文章に同様のものが存在するのを確認しています。

中国史籍にも、同様の文章がある。まだ、実証確認はしていない。 少し、公開すると、出雲から漢半津の筑紫、瑞穂の国から黄泉、葦原中国。

> あと、下記の椿井大塚山関連の方位ライン、九州各地の遺跡を結んだ方位ラインについて は、会報ページから PDF 版がダウンロードできるので、2 号、3 号あたりをご参照ください。

----- Re: 1 里の長さ 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 12 日(月)00 時 20 分 31 秒 返信・引用 編集済 直径管理人さんへのお返事です。

周髀算経、「一寸千里の法」は置いて、現実に戻ろう、 ウォークメジャーを考えましたが、非現実的である。

鏡の直径を確認するとウォークメジャーに該当しない。 <http://inoues.net/enjoy/mirrorindex.html>

<http://www.webshiro.com/syouhinsetumei2/M939M-17F.html> 「一寸千里の法」も誤差を考えると非現実的。

www6.ocn.ne.jp/~kodaishi/michikusa23ginotanri.html これらを満たすものは指南車、ウォークメジャー、方位、距離計算等に耐える。

機械技術者の馬鈞(200 年-265 年ころ)も古代中国で際立つ人物である。馬鈞は絹の機織機 を改良し、機械式チェーンポンプを設計して庭園に給水し、水転百戯(目隠しをした大きな 水車を動力に動く大きく複雑な人形芝居)を創作、魏の明帝に献上した。しかし馬鈞最大の 発明は指南車であろう。これは複雑な構造の機械式羅針盤車である。これは各々異なる速度 で回転する車輪に同じトルクを配分する差動歯車を組み込んでいるが、これは現代の自動車 がすべて装備している機構である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A6%AC%E9%88%9E>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8C%87%E5%8D%97%E8%BB%8A>

魏志倭人伝の方位、距離は現実のものと理解できる。

指南車の車輪の径、56 cm ぐらいと思われる。わりとコンパクトです。尚、径は秦野距離を基 準。

----- 会報 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 11 日(日)22 時 59 分 47 秒 返信・引用 あと、下記の椿井大塚山関連の方位ライン、九州各地の遺跡を結んだ方位ラインについては、 会報ページから PDF 版がダウンロードできるので、2 号、3 号あたりをご参照ください。

渡来人研究会の会報ページ

<http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/kenkyuu.htm>

Re: 1 里の長さ 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 11 日(日)22 時 25 分 33 秒 通報 返信・引用 編集済 > No.207[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

今日は早めに戻りましたので、引き続き、キシさんご紹介の下記の三瓶精二氏の論説を読み 進めてます。

<http://home.c07.itscom.net/sampe/wijin/wijin.html>

紀元前 2 世紀ころの下記の算術書の測量理論を参考にされているようですね。下記に三瓶氏 の論説の要点を引用しておきます。

周髀算経

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%A8%E9%AB%80%E7%AE%97%E7%B5%8C>

「第 1 に太陽の影を測定して距離を計算する方法です。夏至の太陽が高く昇った時に 8 尺の 棒を垂直に立てるとその影は 16 寸になる。南に行きこの 8 尺の棒の影が 1 寸縮んで 15 寸 になる地点と 16 寸の地点の間を 1,000 里とする。同じように北に行き影が 1 寸伸びて 17 寸になる地点との間を 1,000 里とすると定義していることです。」

※夏至の太陽が基準とされているようです。理論的には緯度と影の長さとの関係は問題ない そうですね。特に周髀算経で「8 尺、16 寸」という 8 の倍数が出てきていることが、先に掲 示板で指摘した長里・435/8×(1.414・ルート)=短里:77 メートルとなる原因かもしれません。

「夏至に 8 尺の棒の影が 16 寸となる地点は北緯 34 度 46 分付近となります。これに近い 古い都市は、黄河に沿って点在する都市がいくつかあります。洛陽もその中の一つです。 地軸の傾きを 23.452 度として、夏至に北緯 34 度 46 分から南に影が 1 寸短くなる 地点までの 1 里の長さは約 76.8 メートルです。北緯 40 °から南に影が 1 寸短くなる地 点までの 1 里の長さは約 73.5 メートルになります。北緯 30 °から北に影が 1 寸長くな る地点までの 1 里の長さは約 78.6 メートルになります。これらは、理論上のもので太陽 の影が最短になる日と時間に測定した場合です。このように、丸い地球上では緯度により影 の長さが違ってきます。 このように、「周髀算経」の 1 里の長さは緯度による変化があるために、南北に移動すると 伸縮する里をメートルに換算して検証することは適当ではありません。」

※そうするとやはり洛陽あたりが定規(鏡)の基準だったのかもしれないですね。 ちなみに上記の基点・洛陽の 34 度 46 分は日本でいえば奈良の橿井大塚山あたりになりますから、あそこにひとつだけポツンと大塚山古墳があったり、それが桜井方面からの方位 ライン上に乗っていて、大量の鏡が出たりしていることと関係あるかもしれません。鏡=定 規という観点からもうすこし周髀算経を手がかりに考えを整理してみます。

----- Re: 1 里の長さ 投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 3 月 11 日(日)13 時 16 分 51 秒 返信・引用

> No.209[元記事へ]

わたしも、その影をもたらす太陽光の角度とか時期とか、その辺の精密な情報が知りたいよ うに感じます。この辺は数学問題なので、数式が出れば、あとはそこにすぐに緯度と時期を入 力して回答の是非が出てくるはず です。毎週日曜はちょっと出かけますでは、今日はこの辺 で失礼します。

----- Re: 1 里の長さ 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 3 月 11 日(日)07 時 00 分 47 秒 返信・引 用 編集済 棘の紀氏さんへのお返事です。

影(寸)と 1 里の長さの間に対応が確認できないですな。

地 名	北 緯	影(寸)	1 里の長さ
北 京	40 度 00 分	23.77	73.5 メートル
福 洲	26 度 05 分	3.67	79.5 メートル

一寸千里の問題点はこの計算は近似であり誤差を考慮しなければならない、地球の大きさ にたいし一寸は整数になっている。最大の問題は年代で寸が変化している。 総て、都合よく理解している。北 京と福 洲の差、影(寸)何処まで正しいのですか。

<http://www6.ocn.ne.jp/~kodaishi/michikusa23ginotanri.html>

> 地 名 北 緯 影(寸) 1 里の長さ > 北 京 40 度 00 分 23.77 73.5 メートル > 洛 陽 34 度 46 分 16.00 76.8
メートル > 沙里院 38 度 33 分 21.58 74.6 メートル > 釜 山 35 度 08 分 16.54 76.6 メートル > 呼 子
33 度 32 分 14.22 77.5 メートル > 唐 津 33 度 28 分 14.13 77.5 メートル > 小 城 33 度 17 分 13.86
77.6 メートル > 宮原町 32 度 26 分 12.66 > 人 吉 32 度 08 分 12.21 78.1 メートル > 川内市 31 度 48
分 11.76

> 紹 興 30 度 00 分 9.18 78.6 メートル > 福 洲 26 度 05 分 3.67 79.5 メートル

----- Re: 1 里の長さ 投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 3 月 10 日(土)23 時 07 分 29 秒 返信・引用 編集済 > No.207[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

さっそく情報ありがとうございます。

> 影の測定から南北の距離を計算する方法が、文献記録と矛盾しないか検証する必要がある と考えます。「魏志倭人伝」は格好の材料です。私が後日の挿入と考えた部分を除いて検証した結果は全く矛盾しないことが明らかとなりました。 > 中国の魏の時代にはこの測量法が行われていたことが証明されたと考えます。

なるほど、かなり説得力がありそうな論説ですね。

すると九州の遺跡は 76.5 ですから、プサンの少し北あたりの数値を元にした定規を使った ということになるでしょうか。秦韓から狗邪韓国あたりですね。

あと当時の測量精度を考える上で、先の前漢・長沙の馬王堆墓出土の軍事地図の測量精度を 確認したいと考えてます。17~19 万分の 1 の地図と高精度で重なるそうですが、いまい ち地理がわからないので、うまく重ねられないんです。

下に現在の地図と、その出土地図を添付しておきます。重なるかどうか実験してみてください。最後の図は、その縮尺の九州地図です。当時の軍事測量がいかに広大な地域を正確に測 量していったかがお分かりなるかと感じます。そして弥生時代中期の九州にも同じ技術が導 入されて測量されていたわけです。

----- 1 里の長さ 投稿者:棘の紀氏 投稿
日:2012 年 3 月 10 日(土)22 時 38 分 0 秒 返信・引用 1 里の長さ 地名 北緯影(寸) 1 里の長さ 北京 40 度 00 分 23.77 73.5 メートル 洛陽 34 度 46 分 16.00 76.8 メートル 沙里院 38 度 33 分 21.58 74.6 メートル 釜山 35 度 08 分 16.54 76.6 メートル 呼子 33 度 32 分 14.22 77.5 メートル 唐津 33 度 28 分 14.13 77.5 メートル 小城 33 度 17 分 13.86 77.6 メートル 宮原町 32 度 26 分 12.66 人吉 32 度 08 分 12.21 78.1 メートル 川内市 31 度 48 分 11.76 紹興 30 度 00 分 9.18 78.6 メートル 福州 26 度 05 分 3.67 79.5 メートル <http://home.c07.itscom.net/sampe/wijin/wijin.html> 影の測定から南北の距離を計算する方法が、文献記録と矛盾しないか検証する必要がある と考えます。「魏志倭人伝」は格好の材料です。私が後日の挿入と考えた部分を除いて検証した結果は全く矛盾しないことが明らかとなりました。 中国の魏の時代にはこの測量法が行われていたことが証明されたと考えます。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 地理について「一里=435 メートル」
投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 10 日 (土)22 時 31 分 39 秒 返信・引用 編集済 > No.202[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそく情報感謝します!

> 今回、里について検討します。どうも、文献データは政権の影響が見え隠れしていますな。 実際の距離があり、掛け率で分配があったと考えるべきではないか。【周・春秋戦国・前漢 (BC10~1 世紀)】~【明(14~17 世紀)】までの里を見ると里は 405~559.8m まで 154 m 増加している。領土の拡大と政策によるもと考えると政権ごとに領地の拡大が生じることになる

>【周・春秋戦国・前漢(BC10~1 世紀)】 > 寸:2.25cm/尺:22.5cm/丈:2.25m/歩:1.35m/里:405m

>【新・後漢(1~3 世紀)】 > 分:0.2304cm/寸:2.304cm/尺:24.12cm/丈:2.304m/ > 歩:1.3824m(6 尺)/
里:414.72m(300 歩)

>【魏(3 世紀)】 > 分:0.2413cm/寸:2.412cm/尺:23.04cm/丈:2.412m/ > 歩:1.4472m(6 尺)/里:434.12m(300 歩)

なるほど、こう見ると、魏の尺度の数分の 1 がやはり九州諸遺跡に関係する尺度に近くなりますね。でもあの遺跡は弥生中期のもので、本来は漢代もしくは以前のものが使われるべきですね。

ただ、大工が使う曲尺というのがあって、これはあまり変化しなかったそうです。 漢代は 23.09cm
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%BA%E6.AD.B4.E5.8F.B2>

あと、先の435を8で割ってルートで77になる件ですが、8に関する観念としては、八尺 鏡の件があります。

「従って 1 咫は 0.8 尺である。日本の八咫鏡は円周 8 咫、すなわち径 2 尺という意味である。後漢の尺は 23.04cm であるから、直径 46cm 前後の円鏡を指し、現在 4 枚の出土例がある。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%92%AB> 23.04cm の鏡の 8 倍もしくは 8 分の 1 あたりを、1 つの測定の基準単位として、九州で測量し

ていったのではないのでしょうか。

そうすると、鏡は大工の定規とかコンパスとかいう使用法になりますね。鏡を車輪みたいに 転がしていけば、正確な距離が測れたはずで。角度は周囲の文様なり、キョ歯紋で計ればい いわけですね。

----- 偶然でしょうか？ 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 3 月 10 日(土)22 時 28 分 8 秒 返信・引用 一里=580 m(600 m に近いです!) 2005 年 10 月 14 日 11:15:40 いばらの紀氏 古代中国に一里 580 m で古代の地球の円周 4 万 6250km を割った数=582.49 582.49 で 4 万 6250km を割った数=79.400 79.4……79.4 km……ビンゴでしょうか？偶然でしょうか？

「奈良→伊勢間の距離が80 キロであり、伊勢→白山仲居社までは 80*2 の 160 キロの 単位である。三春→一関も 160 キロであり、三春は旧百済のソウルに、一関は旧高句麗・平壤と同緯度である。80 キロの尺単位が、ソウル→平壤間の緯度差にあるとすると、レイラ インの基礎単位が大陸起源の可能性もあるだろう。」……

レイラインの基礎単位が大陸起源 でした? <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/keijiban10.htm>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 1 里 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 3 月 10 日(土)22 時 04 分 31 秒 返信・引用 里とは (リとは) [単語記事] - ニコニコ大百科 2011 年 9 月 23 日 「爾雅・釈言」に「里、邑なり」とある。そこから行政区画の単位、長さの単位に用いられるようになった。「説文解字」には、「居るなり」とある。また裏と通用して、う ら、?と通用し て憂える、という意味がある。字形: 田+土の会意。土は土地神のこと ……<http://dic.nicovideo.jp/a/%E9%87%8C> さと、むら、居るという意味がある。「爾雅・釈言」に「里、邑なり」とある。そこから行政区画 の単位、長さの単位に用いられるようになった。「説文解字」には、「居るなり」とある。また裏 と通用して、うら、?と通用して憂える、という意味がある。字形田+土の会意。土は土地神の

ことで、田にある社を表す。「説文」に「田に従ひ、土に従ふ」とある。音訓音読みはリ、訓読みは、 さと。

禹里羌族郷 <http://www.littera.waseda.ac.jp/tyoukou/kitakawa/iseki.htm> 「夏」は二里頭文化に比定される http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1367924113

魏志倭人伝と短里『周髀算経 …… さて、若き自然科学研究者、谷本氏の発見は、この『周髀算経』の中で用いられている里単位が 計算によって確認できる、という一点にあった。それは「一里=約七六~七 メートル」だった。これはわたしがかつて『邪馬台国』はなかった』でしめした魏晋(西晋) 朝短

…<http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/tyosaku14/atogaki.html> 谷本氏は、『周髀算経しゅうひさんけい』という、周代の天文算術の資料を漢末(魏の 直前) にまとめて注釈を付けたものから、そこで使われている里をストレートな数学計算 で一里 は約七六ないし七七メートル程度であると割り出しました。

<http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/tyosaku8/tanri5.html> わたしの魏・西晋朝短里説は、今度の中国旅行で確信をもったのですが、わたしが「短里は 約七七メートル」という結論に到達した経緯についてのべてみたいと思います。それは韓伝 で韓地を「方四千里」と表現していることです(図 3)。この場合、南北は測定しにくい。というのは、帯方郡との境がどこかというのがまず確定できないし、その上南岸部が倭地である と繰り返し「韓伝」でのべられているからです。それに対して東西は、両方とも海をもって限 りとなすとあるのではっきりしています。しかも両海岸線は、多少の浸食はあるとしても、三 世紀から今日までそう大きな変化があったとは思えない。地形的には安定していたと考えられますから、誤差をたっぷりとして計算してみると、三〇〇~三六〇キロで、それを四千里で 割ると一里が七五~九〇メートルになります。

里は元々は古代中国の周代における長さの単位であった。1里は1800尺(360歩、6町)四方の面積を表しており、後にこの1辺の長さが距離の単位「里」となった。

<http://www3.kitanet.ne.jp/~nihirata/20110503.html> 平均をとって「1里=約76.5メートル」とすると、千里は76.5km。これなら現実的な値である。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

Re: 楽浪考古 投稿者:管理人 投稿日:2012年3月10日(土)21時53分26秒 返信・引用 編集済
> No.200[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> その辺の資料はないのでしょうか。未だ整理していないのです。資料そのものが古代史です。秦野が家紋に興味をもったのは、神武東征の解読中のことです。先祖に遡る手法は古代の人種移動と種族の特徴を整理します。その後、先祖から大事にしている家紋で特定するのです。

さっそくお返事ありがとうございます。平安初期から家紋が作成されはじめた理由は、ご指摘のとおり、源氏の発生や、系譜観念の変化が影響していると感じます。それ以前から、類似したものがあったらうと感じますね。

それなりに、その氏族なり家なりの象徴が、家紋に刻まれているはずですが。五七桐紋は、七支刀にも似てますが、百済・新羅の樹木冠を想起いたします。田村後宮をとおしての桓武・嵯峨が百済と深いつながりがあるのも関係しているかもしれません。ご紹介いただいた「胡蝶の舞」の写真にも、舞人の頭に似たようなものが見えますよね。

その百済については、通典に興味深い記載があります。

<http://www.ceres.dti.ne.jp/~alex-x/kanseki/tuden.html>

まず、先に倭韓関連で、特に注目したい記載を下記に列挙しておきます。

●馬韓条

馬韓最大、共立其種爲辰王、都目支國。

※目支國は月支國とも書かれてますね。

撃破朝鮮王準、居秦故空地上下障、稍役屬真蕃、朝鮮諸夷、反故燕、齊亡命者王之、都王險。

※「真番」を「真蕃」と書き換えてます。「燕、齊亡命者」とありますが、齊はや山東半島にあるので、あるいは、直接海をわたって朝鮮中部に渡ったケースも想定すべきでしょう。

遼東太守即約滿爲外臣、保塞外、以故滿得兵威財物、侵降其旁小邑、真蕃、臨屯皆來服屬、地方數千里。傳子至孫右渠、所誘漢亡人滋多、

※「真蕃、臨屯皆來服屬」とあることから、「真蕃」に加えて「臨屯」も、特定集団の名称だったことがわかります。

●辰韓条

以大鳥羽送死、其意欲使死者飛揚。

※これは四川・雲南方面の習俗で、元は月氏・サカなどの遊牧民系が、中国南西部に南下したことからあります。その残りがチベットに分離・南下した小月氏。

後漢光武建武中、韓人廉斯人蘇馬[言是]等詣樂浪貢獻。【[言是]音是】帝封蘇馬[言是]爲漢廉斯邑君、使屬樂浪郡、四時朝謁。

※「韓人廉斯人蘇馬[言是]」の「廉斯(レンシ)人」についてですが、先の月氏の城が「監氏 (ラン)氏」です。韓人というのは馬韓でしょうから、「月支国」から「辰王」を出すとの記載と 関係しそうです。

大月氏の都は『漢書』では監氏(ランシ)城、『後漢書』では藍氏城、『魏書』では盧監(ロラ ン)氏城から薄羅(バクラ)城となっている。

于?の「尉遲(うっち)氏」も月氏姓との説があり、中国の官人として各地で進出していました。 于?関連。
<http://dsr.nii.ac.jp/narratives/discovery/02/>

大者名臣智、其次有險側、次有樊 wai[偏水旁歳]、次有殺奚、次有邑借。 ●百済条

百済、即漢末夫餘王尉仇台之後、【後魏時百済王上表云:「臣與高麗先出夫餘。」】初以百家濟 海、因號百済。晉時句麗既略有遼東、百済亦據有遼西、晉平二郡。【

※扶余の王族は「尉」氏。「初以百家濟海、因號百済」ですが、「済」に「渡る」の意味があります

が、別に「百済亦據有遼西」とあるのが気になります。高句麗よりさらに西北に拠点があるとのことで、「百家濟海」の「百家」は、あるいは中国系の亡命移民あるいは商人集団を指していた可能性を感じます。

●新羅条

其俗呼城曰「健牟羅(ケンムラ)」、其邑在内曰「喙評(クアイヘイ)」、【喙、呼穢反】、在外曰「邑勒」、亦中國之言郡縣也。國有六喙評、五十二邑勒。

※この辰韓の「評・邑」制度は、中国の郡・県(ケン)制度をもとにしており、日本の郡評制 度と関係するか。「健牟羅(ケンムラ)」は日本の「ムラ」?

先の辰韓条の「大者名臣智、其次有險側、次有樊 wai[偏水旁歳]、次有殺奚、次有邑借。」と比較 すると、險側が健牟羅、樊 wai が喙評(クアイヘイ)、邑勒が邑借と対応。

秦韓人の元はおそらく伝承どおり、楽浪・中国系。

官有十六等、其一日伊罰于、貴如相、次伊尺于、次迎于、次破彌于、次大河尺于、次河尺于、次乙 吉于、次沙大河尺于、次沙咄于【咄、都骨反】、次及伏于、次大奈摩、次大舍、次小舍、次吉土、次 大烏、次小烏、次達位。外有郡縣。

「次吉土、次大烏」は、吉土集団と関連。烏は先の秦韓の葬送觀念に関係するか。

●日本条

有軍尼百二十人、猶中國牧宰。八十戸置一伊尼翼、如里長也;十伊尼翼屬一軍尼。

※「軍尼」は辰(秦)韓の軍彌国(弁軍彌国)と同音。

倭王姓阿每、名多利思比孤、其國號「阿輩[奚佳]彌」、華言天兒也、 ※「阿每(アバイ)」「阿輩[奚佳]彌」は「アハイ(スイ)ビ(ビ)」は「アワミ」か。

王遣小徳阿輩臺、從數百人、設儀仗、 ※「阿輩臺(アバタイ)」は「粟田・アワタ」(真人)のこと。 秦韓人は自分たちのことを「阿」とよび、仲間のことを「徒」と呼ぶ。

※首冠進徳冠、其頂有花、分而四散、

4つの分かれた花卉条の樹木冠をかぶっていたということか。百済・新羅の樹木冠、先の桐 紋に類似?

----- Re: 地理について「一里=435メートル」

投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 3月 10日 (土)11時 13分 53秒 返信・引用 編集済 今回、里について検討します。どうも、文献データは政権の影響が見え隠れしていますな。 実際の距離があり、掛け率で分配があったと考えるべきではないか。【周・春秋戦国・前漢 (BC10~1世紀)】~【明(14~17世紀)】までの里を見

ると里は 405~559.8m まで 154 m 増加している。領土の拡大と政策によるもと考えると政権ごとに領地の拡大が生じることになる。【唐(7~10 世紀)】には歩が 300→360 歩に成っている。何か、政策変更あったと思われる。尚、政策で変化するなれば、実際の里とはズレが生じている。しかし、地図上の距離は変化しないので政権里(文献データ)とは別物と考えるのが自然。地図上の距離は単里を使用していたと考えるのがよい。ややこしい。

里(り)は、尺貫法における長さの単位である。現在の日本では約 4km、中国では 500m、朝鮮では約 400m に相当する。里は元々は古代中国の周代における長さの単位であった。1 里は 1800 尺(360 歩、6 町)四方の面積を表しており、後にこの 1 辺の長さが距離の単位「里」となった。1 尺を 30cm とすると 1800 尺は 540m となる。その後、時代により変動があるが、今日の中国では 500m を 1 里としているので、周代の里に戻ったことになる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%8C>

【周・春秋戦国・前漢(BC10~1 世紀)】 寸:2.25cm/尺:22.5cm/丈:2.25m/歩:1.35m/里:405m【新・後漢(1~3 世紀)】 分:0.2304cm/寸:2.304cm/尺:24.12cm/丈:2.304m/ 歩:1.3824m(6 尺)/里:414.72m(300 歩)【魏(3 世紀)】 分:0.2413cm/寸:2.412cm/尺:23.04cm/丈:2.412m/ 歩:1.4472m(6 尺)/里:434.12m(300 歩)【隋(6~7 世紀)】 分:0.2951cm/寸:2.951cm/尺:29.51cm/丈:2.951m/ 歩:1.7706m(6 尺)/里:531.18m(300 歩)【唐(7~10 世紀)】 分:0.311cm/寸:3.11cm/尺:31.1cm/丈:3.11m/ 歩:1.555m(5 尺)/里:559.8m(360 歩)【宋・元(10~14 世紀)】 分:0.3072cm/寸:3.072cm/尺:30.72cm/丈:3.072m/ 歩:1.536m(5 尺)/里:552.96m(360 歩)【明(14~17 世紀)】 分:0.311cm/寸:3.11cm/尺:31.1cm/丈:3.11m/ 歩:1.555m(6 尺)/里:559.8m(360 歩)

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1324898093

>> ふとおもいついたのですが、先の短里の話の続きで、斜辺 76.5 メートルの正辺が 54.1 メートルとすると、その 8 倍が 432.8 メートルになりますよね。 >> あるいは 76.9 メートルにして、54.4 で、435.2 ですね。 >> 何かその辺の関係なのではないでしょうか。8 倍(あるいは 2 倍・4 倍)に意味が見出せるかどうかですが…。

Re: 地理について「一里=435 メートル」 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 10 日 (土)00 時 23 分 32 秒 返信・引用 編集済 > No.195[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

朝鮮最古の史書『三国史記』(1145 年成立)の新羅本紀には、第四代の王について、つぎのように書かれています。

「脱解尼師今、立。(一云吐解。)時年六十二。姓昔。妃阿孝夫人。脱解本多婆那國所生。其國在 倭國東北一千里。…」

多婆那國は秦野距離で東北一千里、新羅にあり、現在の蔚山[ウルサン]になる。

>『三国史記』には「倭国の東北千里」とあります。 > 倭国とは日本のことですが、弥生時代においては、北九州の国々を主として倭国(一部 朝鮮半島南端部を含む)と呼んでいたようです。 > それは、『三国志』の東夷伝を読めばわかります。 > だとしますと、北九州を起点にして「東北へ千里」の場所で脱解尼師今は生まれたことになります。

Ads by Google ----- Re: 楽浪考古 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 9 日(金)23 時 56 分 36 秒 返信・引用 編集済 > No.198[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

その辺の資料はないのでしょうか。未だ整理していないのです。資料そのものが古代史です。 秦野が家紋に興味をもったのは、神武東征の解読中のことです。先祖に遡る手法は古代の人 種移動と種族の特徴を整理します。その後、先祖から大事にしている家紋で特定するのです。 揚羽蝶は神功皇后の紋になる。一例ですが雅楽(胡蝶の舞)に出てくる。紋を元に神功皇后が 遊戯し伝えている模様。揚羽蝶は中近東、ヨーロッパではキリストの復活になる。三韓征伐は 復活になる。家紋は歴史の痕跡になっていると言えます。早く古代史を整理したいもの

です。『釜山港へ帰れ』の詩が其のもののように感じる。

参考ですが、中近東にはヤタガラスの紋が沢山あるとのことですよ。

> 平安初期までは確実にさかのぼれるようですから、奈良時代の紋章の様子がわかってくると、家紋研究も古代史学に入れそうですね。その辺の資料はないのでしょうか。

----- Re: 地理について「一里=435メートル」

投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 9日

(金)22時 53分 6秒 返信・引用 編集済 > No.195[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

> で、千里とはどのくらいかといいますと、仮に昔のシナの里を使っていたとしますと、魏の時代の里は、> 「一里=435メートル」> ーなので、

> 「千里=435キロメートル」ふとおもいついたのですが、先の短里の話の続きで、斜辺76.5メートルの正辺が54.1

メートルとすると、その8倍が432.8メートルになりますよね。あるいは76.9メートルにして、54.4で、435.2ですね。

何かその辺の関係なのではないでしょうか。8倍(あるいは2倍・4倍)に意味が見出せるかどうかですが…。

Re: 楽浪考古 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 9日(金)22時 03分 5秒 返信・引用 編集済
秦野北斗さんへのお返事です。

> 興味深いのは兄弟なんです。卑弥呼と弟ではないか。ま、プサンについては、どうしてもあそこを通らないと、日本へは簡単にはこれなかったでし

ようからねー。

> 76.5メートルが秦野距離を証明します。76.5を斜辺の長さとするとなりの長さは54になります。方位ラインは東西、南北を正確に測ったのでしょうか。簡単な作図を添付しました。

> 方位ラインは大切だが正確に方位を知ってほしい。秦野の超短里が短里なんです。なるほど、ご指摘の54メートルがそれでは正解ですね。あとは、その公倍数やルート関連と

なるでしょうか。

斜辺と正辺との関係は、九州の遺跡において相互依存の関係にあります。まだオフレコですが、次回の会報あたりで詳細図をお知らせできると思います。

> 管理人さんの先祖は蘇我、聖徳太子系、源氏の可能性がある。どうりで只者でない。>> 常陸の少し上ですな、五七桐、桐紋は蘇我、聖徳太子系です。源氏にもなる。堺の羽曳野が河内源氏で木瓜紋の家紋がありました。宗教は仏教系でしょうか。

家紋はちょっと先ほど調べてみてびっくりしました。思ったより古くまで遡れるようですね。

その五七桐も嵯峨天皇あたりから使用されていたとのことですよ。三春田村氏は渡来系漢氏の族長坂上田村麻呂の子孫を称して、代々使用してきたらしいのですが、田村麻呂は、ちょうど嵯峨天皇の前の桓武時代の人です。

奇しくも後代の皇室の副紋、征夷大將軍の紋章というのは、田村麻呂にぴったりですね。

ちなみにうちの先祖の土地は、確かに常陸から北に向かって先の原発のあるところから内陸に向かい、三春田村に向かう途中の土地で、熊沢天皇とかで有名な南朝系の土地です。真言宗ですが…曾祖父は宮大工とのこと。今でも江戸時代の木造家が残ってます(ただ避難区域なので…)。

蘇我まで遡れるとするとまた面白いですね!

五七紋の七の枝分かれした房が、石上神宮の七支刀をイメージさせる感じで、百済とかかわりを感じさせます。菊紋も百済と関係深いですね。

> 因みに揚羽蝶紋は平氏で源氏より 200 年は古い、中部に多い 平安初期までは確実にさかのぼれるようですから、奈良時代の紋章の様子がわかってくると、

家紋研究も古代史学に入れそうですね。その辺の資料はないのでしょうか。

----- Re: 楽浪考古 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 3 月 9 日(金)21 時 20 分 45 秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

『釜山に帰れ』失礼、『釜山港へ帰れ』の間違いです。 ***日本語***

1.椿咲く春なのに、あなたは帰らない たたずむ釜山港に、涙の雨が降る 熱いこの胸に顔うずめて、もう一度
幸せ噛みしめたいのよ トラワヨ 釜山ハンへ、逢いたいあなた

2.行きたくてたまらない、あなたのいる街へ さまよう釜山港に、汽笛が胸を突く きっと伝えてよ、かもめさ
ん、今も信じて耐えてる私を トラワヨ 釜山ハンへ、逢いたいあなた

韓国語

1.花咲く椿島に春は来たけれど 兄弟が去っていった釜山港に かもめだけが悲しく鳴いてるよ 五陸島を回る
連絡船ごとに、咽を枯らして呼んだけど答えない 私の兄弟よ 帰って来い、釜山港へ、愛しい私の兄弟よ

2.行きたい、声がかかるまで叫んだこの街は なつかしくてさまよった、長い長い日の夢だったさ いつも言葉
ないあの波達も、ぶつかって悲しんで行く道をふさいださ 帰ってきた、釜山港へ、愛しい私の兄弟よ

<http://blogs.yahoo.co.jp/candy211jp30000/28991562.html>

興味深いのは兄弟なんです。卑弥呼と弟ではないか。

76.5メートルが秦野距離を証明します。 76.5 を斜辺の長さとするとも辺の長さは 54 に なります。方位
ラインは東西、南北を正確に測ったのでしょうか。簡単な作図を添付しました。

> 会報にも掲載しましたが、吉野ヶ里・岡本・平原・宇佐風土記の丘の赤塚方形周溝墓群は、ともに方位ラインの
上にありまして、そのほか九州の弥生遺跡は 76.5 メートルを単位と した短里で割り切れる距離に正確に位置
してます。

方位ラインは大切だが正確に方位を知ってほしい。秦野の超短里が短里なんです。

> もちろん、それらは魏志の長里でもなくて、秦野さんの超短里でもないわけですし、紀元前 のある時期に、そ
れらの遺跡を作った集団が使っていた尺度を考えてます。ご指摘の伊都国 もそこに関係してくることでしょう。

管理人さんの先祖は蘇我、聖徳太子系、源氏の可能性がある。どうりで只者でない。

常陸の少し上ですな、五七桐、桐紋は蘇我、聖徳太子系です。源氏にもなる。堺の羽曳野が河内 源氏で木瓜紋の
家紋がありました。宗教は仏教系でしょうか。

因みに揚羽蝶紋は平氏で源氏より 200 年は古い、中部に多いと秦野は見ている。神宮皇后も 揚羽蝶紋なんで
す。平氏と関係があります。

木瓜紋(もっこうもん)は、日本の家紋や模様のひとつ。藤紋、片喰紋、鷹の羽紋、桐紋と合わ せて五大紋と呼ば
れる。

桐紋(きりもん)とは、ゴマノハグサ科の桐をもとにした家紋の総称である。桐花紋(とう かもん)とも呼ばれる。
足利幕府では小判などの貨幣に刻印され、これ以来皇室や足利幕府や豊臣政府など様々な政 府が用いており、

現在では日本国(1945 年から現在)の紋章として用いられている。

揚羽蝶紋 平氏(へいし、たいらうじ)は、皇族が臣下に下る際に賜る姓の一つ、「平朝臣」を 姓とする賜姓皇族。家紋は揚羽蝶、鱗など。

> そうですね、墓の紋章は忘れましたが、うちの先祖は福島の新井村氏です。今原発の件で、 親戚がみな疎開しているあたりですね。たぶん、下記の家紋、五七桐だと思うのですが… (^_^;)。

Re: 楽浪考古 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 9 日(金)08 時 29 分 1 秒 返信・引用 編集 済
> No.194[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 陳寿のすごさを垣間見ました。また、狗耶韓国の位置と卑弥呼の痕跡が『釜山に帰れ』の詩 に隠されているのはご存知ですか。

その詩は知らないですね~(^_^;) > 高句麗が楽浪を滅亡は衛氏朝鮮の記録でこれが馬韓になった模様です。武帝との取引が考

えられます。

馬韓の件は課題ですね。扶余やその系統の高句麗・馬韓と楽浪との間で取引があったことは確かでしょう。郡を撤退させて、その代わりに「侯」扱いに格上げしましたからね。

> 提案ですが秦野書、徐福と邪馬台国を読みませんか。議論は倭国に戻りたい、伊都国と邪馬 台国の住所が両者とも字になっている。古事記の国生み、神武東征を紐解きたいですね。

今金欠なので、秦野さんの HP のほうを後で確認させていただきます。とりあえず、それでは 弁韓と北九州に戻りましょう。

日本の方形周溝墓について、先の韓国中西部の方形周溝墓とどう関係するのかが気になって ます。 また同じく北九州の弥生遺跡にみられる前後漢鏡と楽浪との兼ね合いですね。

会報にも掲載しましたが、吉野ヶ里・岡本・平原・宇佐風土記の丘の赤塚方形周溝墓群は、 ともに方位ラインの上にあります、そのほか九州の弥生遺跡は 76.5 メートルを単位と した短里で割り切れる距離に正確に位置しています。

もちろん、それらは魏志の長里でもなくて、秦野さんの超短里でもないわけですし、紀元前の ある時期に、それらの遺跡を作った集団が使っていた尺度を考えてます。ご指摘の伊都国も そこに関係してくることでしょう。

平原・岡本・赤塚には方形周溝墓が見えますし、銅鏡や木棺がそこに関係してきます。

吉野ヶ里は BC4 世紀台からとかなり古いようですが、弥生中期に大型墳丘墓があらわれて きますね。

それらが、もし先の BC2 世紀ごろとされる朝鮮中西部の方形周溝墓と木棺の組み合わせ と関係してくるとなると、楽浪南部にいた真番郡(衆)あるいは馬韓あたりと関係してくる かもしれません。

ただ平壤方面からは前漢鏡が出土しないとすると、遼東とのかかわりか、あるいは山東半島 経由で先の半島中西部に位置した地域(楽浪南部か真番郡)とのかかわりで、前漢鏡が倭の その地域にもたらされた可能性を感じます。

いずれにせよ、彼らはどこからか方形周溝墓と割竹型木棺、前漢鏡という組み合わせを持って、やってきて、近畿や伊勢方面にまで足を運んでいったわけですが、きわめて正確な測量を 行うことができたわけです。そしていわゆる短里を使っていた…。

朝鮮中西部は馬韓地域にもさしかかるので、扶余系の墓制とのかかわりも調べてみたいところですが、一方で山東方面の漢墓との関わりの方が有力かもしれません。

扶余については「諸加が死ねば、夏季は皆、氷で腐敗を防ぎ、人を殺して殉葬する。多いときには百を数える。手厚く葬り、墳墓には櫛(木組みの墓室)はあるが棺(かんおけ=石棺)は ない。」

とあり、棺を持たないようですし、方形周溝墓が他の扶余系の韓地域から出てこないことを 考慮すると、違う感じがしますね。馬韓というのは、扶余の諸加のひとつにある馬加ではない でしょうか。

古い話だと、稲作について、すでに山東半島と朝鮮中西部へのルートがあったようです。

<http://www.2u.biglobe.ne.jp/~itou/hon/inasakutoraimin.htm>

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn3/003_03suidenninasaku_no_jitunenndai.html

それで、弥生中期のころですが、下記のサイトに朝鮮のある時期からの青銅器が山東半島の 鉾山からもたらされた鉛を原料にしており、それらが弥生中期の北九州の遺跡に影響を与え たことが明示されてます。

<http://syoki-kaimei.blog.so-net.ne.jp/2011-10-08-3>

そうすると、楽浪南部から馬韓北部との間にあった真番郡(衆)あたりにて、海上ルートで 山東半島から商人が運んでくるものを受け取るシステムがあって、それが後に真番の親戚で ある秦韓・金官カヤ(狗邪韓国)経由で、北九州や出雲瀬戸内方面へと流れていくケースが

あったのではないのでしょうか。

もっとつきつめると雲南・四川・長沙方面の商業ルートともかかわってくるので、楽浪郡か ら四川系の漆器ばかりが出てくることになるのでしょう。先の HLA の流れとも一致してく ることと感じます。

> これらは神武兄弟とその末裔の歴史です。ピンとこないと思います。私の先祖もどうも韓 半島に行き卑弥呼の年代に瑞穂の国に帰ってきた模様。糸口は家紋です。1700 年はバックで きる。 > 管理人さんの家紋があればお知らせください。簡単ですが先祖を調査します。だいたいです がね。

そうですね、墓の家紋は忘れましたが、うちの先祖は福島県の三春田村氏です。今原発の件で、 親戚がみな疎開しているあたりですね。たぶん、下記の家紋、五七桐だと思うのですが… (^_^;)。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%B0%E6%9D%91%E6%B0%8F>

Ads by Google ----- 地理について「一里=435

メートル」投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 3 月 9 日(金)07 時 55 分 22 秒 返信・引用 『三国史記』には「倭国の東北千里」とあります。 倭国とは日本のことですが、弥生時代においては、北九州の国々を主として倭国(一部朝鮮半島南端部を含む)と呼んでいたようです。 それは、『三国志』の東夷伝を読めばわかります。だとしますと、北九州を起点にして「東北へ千里」の場所で脱解尼師今は生まれたことにな ります。

北九州から東北へ進みますと、(日本海の孤島を別にしますと)人間の住んでいる場所で、 王様のいそうな場所といえますと、日本列島の日本海側だけです。 で、千里とはどのくらいかといえますと、仮に昔のシナの里を使っていたとしますと、魏の 時代の里は、

「一里=435 メートル」 ——なので、「千里=435 キロメートル」 ——となります。 これを地図上で計りますと、鳥取から丹後のあたりになります。 <http://www.asahi-net.or.jp/~xx8f-ishr/tabana=tango.htm>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 楽浪考古 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 8 日(木)23 時 22 分 56 秒 返信・引用 > No.193[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

秦野の考えは単純で魏志倭人伝の行程を距離で割り出す方法です。今回、漢四郡の位置を探 るのは考えていませんでした。中国史籍の威力を知りました。

陳寿のすごさを垣間見ました。また、狗邪韓国の位置と卑弥呼の痕跡が『釜山に帰れ』の詩に 隠されているのはご存知ですか。

> それでその契機としては、全氏は AD37 年に、高句麗が楽浪を滅亡させたという記載を あげてます。おそらくこの辺が、馬韓に遅れて秦韓人が南下する記載に至ったものと感じま す。

高句麗が楽浪を滅亡は衛氏朝鮮の記録でこれが馬韓になった模様です。武帝との取引が考え られます。

提案ですが秦野書、徐福と邪馬台国を読みませんか。議論は倭国に戻りたい、伊都国と邪馬台国の住所が両者とも字になっている。古事記の国生み、神武東征を紐解きたいですね。

>そして、後漢初頭の楽浪の高句麗による攻撃によって、馬韓の東を裂くかたちで、朝鮮東南部領域へと移住していったのでしょうか。

>もちろん別の流れも複数あって、あるいは朝鮮中南部の方形周溝墓と倭人の弥生文化との兼ね合いもあったのかもしれませんが、秦野さんのその辺の課題ともかかわってくるのではないのでしょうか。

これらは神武兄弟とその末裔の歴史です。ピンとこないと思います。私の先祖もどうも韓半島に行き卑弥呼の年代に瑞穂の国に帰ってきた模様。糸口は家紋です。1700年はバックできる。

管理人さんの家紋があれば知らせてください。簡単ですが先祖を調査します。だいたいですがね。

----- 楽浪考古 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 8日(木)22時 25分 29秒 返信・引用 編集済 > No.192[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>> ハプロタイプHLA-A24-B52-DRB1*1502(DR15)ではこの辺に多いから、こんなかな、では何の説明のものならない。文献、歴史で流れを掴んでからHLAで初めて確認できるのです。へたをすると、本末転倒、子供と親がひっくり帰ります。管理人さんのHLAの流れは秦野の古代史の流れとは多く違う。 >

さっそくお返事ありがとうございます。HLAにしても、確かに文献・歴史の流れを元に、双方でつきあわせて考えていくことが重要ですね。

もうひとつ、昨日から考古面で、楽浪・韓・倭の動きを追ってます。

田村晃一氏の『楽浪と高句麗の考古学』と、全浩天氏『楽浪文化と古代日本』を読み始めました。

確かに、漢四郡の資料が少なく、四郡の位置推定は困難を極めているようです。

管理人が注目している「真番郡」についても、北在説と南在説があり、はっきりと決着がついてないようですね。ソウル周辺との見方にも十分な論証には至ってないようです。「真番旁衆国」が後に「真番旁辰国」と書き換えられていて、辰国が東部にあったことからして、その位置が推定されているそうです。

次の「臨屯郡」ですが、郡治が東・県、そこが嶺東七県であるから、おおむね半島中央部の背梁山脈の東だろうとのこと。ただ資料が少ないのでなんともいえない感じですね。

また帯方郡については、「昭明王」の記載が入った遺物や、「守長岑長王」(墓)が北朝鮮の南西部にある黄海南道信川郡とのことです。

それで先の楽浪郡条をみると、それらが「南部都尉」の収める地域となっていることを考慮すると、楽浪郡の位置がわかってきますし、それに併記された「帯方」の地名、さらには帯方郡の位置ともかかわってきます。ただ時代によって楽浪や帯方の領域も拡大縮小してますから、その辺との兼ね合いが課題です。

その他、前漢代の北西部から出た「明刀銭」や、遼東から出て帯方郡と関係するという「逸民合資王君」銘の墓の存在は、亡命移民とのかかわりで重要でしょう。

前者の関連では、燕の亡命移民が、北朝鮮北部の鴨緑江付近に集まったことが指摘されていたそうですが、この辺は商人たちが「朝鮮・真番の利」を求めて集まった場所でもあり、高句麗と関係する原住民がそれを扱ったとの見方もあるそうです。

それで楽浪「残阿」と秦韓「阿」の関係ですが、こちらは考古的にも木カク墓の構造から明確なつながりが見えるそうです。一部は金官カヤ(つまり狗邪韓国)方面へとその流れがあるそうです。

それでその契機としては、全氏はAD37年に、高句麗が楽浪を滅亡させたという記載をあげてます。おそらくこの辺が、馬韓に遅れて秦韓人が南下する記載に至ったものと感じます。

あと、倭とのかかわりですが、全氏によると「遼東－楽浪郡」と「平壤－楽浪郡」の2種があり、岡本遺跡や前原遺跡の前・後漢鏡との比較で、これらの鏡が平壤から出土しないことを考慮すると、遼東出土のそれらとの兼ね

合いを考えるのが自然であることを指摘しています。

また日本の方形周溝墓(前3世紀~)と、韓国中西部にある忠清南道(前2~1世紀)の41基の方形周溝墓との比較が重要です。木棺の痕跡があるとのことで、楽浪や日本のそれ

とのかかわりを指摘してます。

上記を整理していくと、燕の時代にすでに貢納記載がある「真番」については、秦末の燕などからの亡命移民というよりは、それ以前からの「真番の利」を求めた商人集団との兼ね合いがあって、それが後に前漢時代の楽浪郡そばに真番郡が出来上がる契機となったものと感じます。

そして、後漢初頭の楽浪の高句麗による攻撃によって、馬韓の東を裂くかたちで、朝鮮東南部領域へと移住していったのでしょう。

もちろん別の流れも複数あって、あるいは朝鮮中南部の方形周溝墓と倭人の弥生文化との兼ね合いもあったのかもしれませんが、秦野さんのその辺の課題ともかかわってくるのではないのでしょうか。

----- Re: 真番郡 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年 3月 7日(水)23時 05分 47秒 返信・引用 編集 済 > No.191[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

ハプロタイプHLA-A24-B52-DRB1*1502(DR15)ではこの辺に多いから、こんなかな、では何の説明のものならない。文献、歴史で流れを掴んでからHLAで初めて確認できるのです。へたをすると、本末転倒、子供と親がひっくり帰ります。管理人さんのHLAの流れは秦野の古代史の流れとは多く違う。

>「このハプロタイプが、日本人最多であり、且つ、北九州、山陽、近畿で更に高頻度であることから、弥生時代開始前後に、遼河流域周辺から、半島西岸を一気に南下して、半島南部に到達し、更に間を措かずに、主力が渡海して北九州~山口方面に上陸・移住し、瀬戸内から近畿に弥生文化とともに拡がって、ついに国家形成・民族形成・日本語を形成するに至った集団「倭人」の民族移動を表わすものと考えています。」

簡単な話が、なぜこんな小さな島国に多種のHLAが存在するかです。常識の範囲では説明ができません。

秦野の古代史の流れに対応させると50世代が限界のようすな。百世代から数百世代はオーバーです。

Re: 真番郡 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 7日(水)22時 14分 43秒 返信・引用 編集済 > No.189[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> これまでに述べた事は総が日本人の先祖の歴史なんです。管理人さんの先祖も登場させてますよ。総て、古事記が起源になる。

日本人のルーツという部分については、私のほうでは、先の会報で記したとおり、HLAハプロタイプの分析を重要視してます。下記のサイトで、朝鮮・日本のHLAを紹介しているのですが、<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/sakura-komichi/kodaishi/hn2602/5.htm>

1ハプロタイプHLA-A24-B52-DRB1*1502(DR15)

日本で一番多いこのHLAが、かなり今まで紹介してきた扶余・韓・倭(の邪馬台関連?)族の動きと似ていますね。

「このハプロタイプが、日本人最多であり、且つ、北九州、山陽、近畿で更に高頻度であることから、弥生時代開始前後に、遼河流域周辺から、半島西岸を一気に南下して、半島南部に到達し、更に間を措かずに、主力が渡海して北九州~山口方面に上陸・移住し、瀬戸内から近畿に弥生文化とともに拡がって、ついに国家形成・民族形成・日本語を形成するに至った集団「倭人」の民族移動を表わすものと考えています。」

こちらは各国(地域分布図・表)

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B52>

ただ、この分布表を見ると、チベットから四川・雲南省方面に多く、次に北京、そして南韓国、日本へというルートが描けます。

この辺は、先の四川→洛陽→楽浪(真番郡)→韓国南部(秦韓)→出雲方面への移動ルートともよく似てます。

それ以前は、おそらくこのHLAの分布からいくと、クルド・イスラエル・北インドにかなり多いことを考慮すると、その辺の中東・遊牧民ともかわってますね。

非常に分布域が広く、ローマ方面やアフリカの南部にまで足を広げているのですが、かなり移動距離の多い民族集団だと感じます。

4HLA – A24-B54-DRB1*0405(DR4)

こちらは沖縄から九州南部、静岡。神奈川へと移動していった南方の航海民族系でしょう。いわゆるオーストロネシア言語を有した海人系ですね。

こちらは分布地域(国)

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B54>

5HLA – A2-B46 – DRB1*0803(DR8)

本土日本人 2,2%

「このハプロタイプの分布は、文献(a)では、1、2、3と類似していると報告されていますが、文献(b)の頻度は、2,16%と本土日本人で5番目の頻度(文献(a)でも5番目の頻度)ですが、」

これは中国に圧倒的に多く、中国系の(弥生)渡来人ですね。分布図はこちらです。

<http://en.wikipedia.org/wiki/HLA-B46>

あと、上記の諸HLAの移動ルートを、図にしたものが下記サイトにありましたので添付しておきます。

http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_08.html

>> 建安年間(196年-220年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と?を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。 >

> 旧民は総が日本人の先祖、卑弥呼も同様です。公孫康に追われたのです。

----- Re: 真番郡 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年 3月 7日(水)13時 26分 34秒 返信・引用 > No.188[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

これまでに述べた事は総が日本人の先祖の歴史なんです。管理人さんの先祖も登場させてますよ。総て、古事記が起源になる。

> 建安年間(196年-220年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と?を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

旧民は総が日本人の先祖、卑弥呼も同様です。公孫康に追われたのです。

> 注記1 魏略に曰く。……漢は盧綰(ろわん)を燕王に任じた。朝鮮と燕の国境は?水と定めた。盧綰は漢に背いて匈奴に入り、燕人の衛満は胡服を着て亡命、東の?水を渡り、準を訪れて降伏し、西界に居住して昔中国から朝鮮に亡命してきた人々を集めて藩屏(はんぺい = 宗室の守護)としたいと準を説いた。準は彼を信頼して寵愛し、博士として敬い、圭の百里を食邑として授けて、西辺の令守とした。満が誘った亡命者たちが徐々に衆をなすに及んで、偽の情報を持たせた使者を準に遣わし、「漢兵が十道に至り、宿衛に入ることを求めている」と

準に告げさせ、帰還した準を攻めた。準は満と戦うも、満には敵わなかった。

----- Re: 真番郡 投稿者:管理人 投稿日:2012
年 3月 7日(水)07時 46分 47秒 返信・引用 編集済 > No.186[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそくご意見ありがとうございます。

> 楽浪四郡の位置は現在の比定とは相当ずれています。 >> 楽浪四郡を中国史籍から描きました。

ありがとうございます。 > 滄海郡が京師、馬韓は衛氏朝鮮の領地ようです。衛満朝鮮の満がない、何処へ行ったのか？

この辺、ちょっと引用の馬韓伝とその注釈を読んでいるのですが、注釈のほうに興味深い記 載がありますね。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

より。

注記1 魏略に曰く。…漢は盧綰(ろわん)を燕王に任じた。朝鮮と燕の国境は?水と 定めた。盧綰は漢に背いて匈奴に入り、燕人の衛満は胡服を着て亡命、東の?水を渡り、準を訪 れて降伏し、西界に居住して昔中国から朝鮮に亡命してきた人々を集めて藩屏(はんぺい= 宗室の守護)としたいと準を説いた。準は彼を信頼して寵愛し、博士として敬い、圭の百里を 食邑として授けて、西辺の令守とした。満が誘った亡命者たちが徐々に衆をなすに及んで、偽 の情報を持たせた使者を準に遣わし、「漢兵が十道に至り、宿衛に入ることを求めている」と 準に告げさせ、帰還した準を攻めた。準は満と戦うも、満には敵わなかった。

おそらく、この中国からの亡命者を集めた満が、扶余方面に向かったのではないかと感じま す。「徐々に衆をなす」という語が、後の「真番旁衆」を想起させますが、ただここでは楽浪の東 部?の出来事なので、楽浪南部とされた「真番郡」と関係するかどうか疑問ですね。扶余の

ほうが近い。

注記3 魏略に曰く、初め右渠が破れる前、朝鮮の宰相の歴谿卿が右渠を諫めたが用いられ ず、東の辰国に亡命した、そのとき彼に随行して国を出た住民が二千余戸、また、朝鮮の貢蕃 (属国)とは互いに往来しなかった。

「貢蕃」の用語が見えますね。「真番」にちょっと似た語ですが逆の意味になりますね。東とさ れている辰国に向かった二千戸が真番か?確かに秦野さんご指摘のとおり、東に辰韓が位置 しています。

王莽の地皇年間(20年-22年)、廉斯(れんし=地名)の?(さく)は辰韓の右渠帥となり、 楽浪郡の土地が肥沃で、人民は豊かで安楽に暮らしていると聞き、逃亡して降伏することを 望んだ。(そして、?が)その邑落を出ると、田中で雀を追いかっている一人の男と出会った が、言葉が韓人とは違っていた。彼に問うと、男が言うには「我らは漢人で、名を戸来と言ひ、我らは仲間の千五百人と材木の伐採しているところを韓に襲われ、全員が断髪され、奴隷に された。もう三年にもなるかな」と応えた。 ?は「私は今から漢の楽浪郡に降るところだが、おまえは行きたくないか?」と言った。 戸来は「よし。(行こう)」と応えた。

ここで出てくる「戸来(コ・グ・ライ)」という人物が、後の(辰)秦韓人の記載と同様に、 他の韓人とは別の言葉を話していると記載してます。元は漢人で集団を大きな意味している ようです。

?は戸来を連れて辰韓を出て、含資県に詣でると、県は郡に伝え、郡は?を通訳として、?中から 大船に乗って辰韓に入り、戸来を迎え受けた。とともに降った仲間の千人を奪還したが、すでに残り五百人は死んでいた。?は辰韓に諭して言った。「汝ら五百人を還せ。もし返還しなければ、楽浪郡は万余の兵を船に乗せて、汝を攻撃しに来るだろう」

辰韓は「五百人はすでに死に、我は人数に値する弁償をするしかない」と言った。

辰韓は一万五千人、弁韓は布を一万五千匹、それぞれが提出した。?は値を徴収して郡に還る。 郡は?の功義を表し、冠?(かんさく=帽子の名)と田と家宅を賜う。子孫は数世、安帝の延光

四年(125年)に至って、故事に対して再び除を受ける。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

なぜかこの「戸来」の背後にある集団を巡って、楽浪と辰韓・弁韓との間に大きな騒乱が起きている様子が伺えます。

思うにこの「戸来」に象徴される異国語(秦語?)を話す集団は、金属精錬のような何か特殊な技術を持っていて、その技術者争いを象徴した伝承なのではないでしょうか。

後に公孫氏が、やはりかつて真番郡のあった帯方郡を再開拓し、倭・韓に遠征してまで、「旧民」を探していますね。

建安年間(196年-220年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と?を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

この「旧民」を探すことに、大きな利益なり意義があったので、あえて倭まで遠征したということは、ただの漢人ではなかったと周囲からもみなされていたことがわかります。

ただ後韓末になると、そのほとんどはするとどこかへ移住してしまったということになるのでしょうか。秦韓と楽浪・帯方との同族つながりも薄れていたのかな?

ともあれ、この辺の秦韓人の動きを追う上でも、漢四郡や周辺民族の位置や敵対・同族関係を確認しておくことが重要ですね。公孫氏については、図書館から楽浪の本を数冊借りてきたので、また何かわかり次第お知らせいたします。

Re: 真番郡 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 7日(水)07時 46分 47秒 返信・引用 編集済 > No.186[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそくご意見ありがとうございます。

> 楽浪四郡の位置は現在の比定とは相当ずれています。 >> 楽浪四郡を中国史籍から描きました。

ありがとうございます。 > 滄海郡が京師、馬韓は衛氏朝鮮の領地ようです。衛満朝鮮の満がない、何処へ行ったのか?

この辺、ちょっと引用の馬韓伝とその注釈を読んでいるのですが、注釈のほうに興味深い記載がありますね。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

より。

注記1 魏略に曰く。…漢は盧綰(ろわん)を燕王に任じた。朝鮮と燕の国境は?水と定めた。盧綰は漢に背いて匈奴に入り、燕人の衛満は胡服を着て亡命、東の?水を渡り、準を訪れて降伏し、西界に居住して昔中国から朝鮮に亡命してきた人々を集めて藩屏(はんぺい=宗室の守護)としたいと準を説いた。準は彼を信頼して寵愛し、博士として敬い、圭の百里を食邑として授けて、西辺の令守とした。満が誘った亡命者たちが徐々に衆をなすに及んで、偽の情報を持たせた使者を準に遣わし、「漢兵が十道に至り、宿衛に入ることを求めている」と準に告げさせ、帰還した準を攻めた。準は満と戦うも、満には敵わなかった。

おそらく、この中国からの亡命者を集めた満が、扶余方面に向かったのではないかと感じます。「徐々に衆をなす」という語が、後の「真番旁衆」を想起させますが、ただここでは楽浪の東部?の出来事なので、楽浪南部とされた「真番郡」と関係するかどうかが疑問ですね。扶余のほうに近い。

注記3 魏略に曰く、初め右渠が破れる前、朝鮮の宰相の歴谿卿が右渠を諫めたが用いられず、東の辰国に亡命した、そのとき彼に随行して国を出た住民が二千余戸、また、朝鮮の貢蕃(属国)とは互いに往来しなかった。

「貢蕃」の用語が見えますね。「真番」にちょっと似た語ですが逆の意味になりますね。東とされている辰国に向かった二千戸が真番か?確かに秦野さんご指摘のとおり、東に辰韓が位置しています。

王莽の地皇年間(20年-22年)、廉斯(れんし=地名)の?(さく)は辰韓の右渠帥となり、楽浪郡の土地が肥沃で、人民は豊かで安楽に暮らしていると聞き、逃亡して降伏することを望んだ。(そして、?が)その邑落を出ると、田中で雀を追ひ払っている一人の男と出会ったが、言葉が韓人とは違っていた。彼に問うと、男が言うには「我らは漢人で、名を戸来と言い、我らは仲間の千五百人と材木の伐採しているところを韓に襲われ、全員が断髪さ

れ、奴隷に された。もう三年にもなるかな」と応えた。 ?は「私は今から漢の楽浪郡に降るところだが、おまえは行きたくないか?」と言った。 戸来は「よし。(行こう)」と応えた。

ここで出てくる「戸来(コ・グ・ライ)」という人物が、後の(辰)秦韓人の記載と同様に、 他の韓人とは別の言葉を話していると記載しています。元は漢人で集団を大きな意味している ようです。

?は戸来を連れて辰韓を出て、含資県に詣でると、県は郡に伝え、郡は?を通訳として、?中から 大船に乗って辰韓に入り、戸来を迎え受けた。とともに降った仲間の千人を奪還したが、すでに残り五百人は死んでいた。?は辰韓に諭して言った。「汝ら五百人を還せ。もし返還しなければ、楽浪郡は万余の兵を船に乗せて、汝を攻撃しに来るだろう」

辰韓は「五百人はすでに死に、我は人数に値する弁償をするしかない」と言った。

辰韓は一万五千人、弁韓は布を一万五千匹、それぞれが提出した。?は値を徴収して郡に還る。 郡は?の功義を表し、冠?(かんさく=帽子の名)と田と家宅を賜う。子孫は数世、安帝の延光 四年(125 年)に至って、故事に対して再び除を受ける。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

なぜかこの「戸来」の背後にある集団を巡って、楽浪と辰韓・弁韓との間に大きな騒乱が起こっている様子が伺えます。

思うにこの「戸来」に象徴される異国語(秦語?)を話す集団は、金属精錬のような何か特殊 な技術を持っていて、その技術者争いを象徴した伝承なのではないでしょうか。

後に公孫度が、やはりかつて真番郡のあった帯方郡を再開拓し、倭・韓に遠征してまで、「旧 民」を探していますね。

建安年間(196 年-220 年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張敞 などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と?を討伐したが、旧民は少ししか見 出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

この「旧民」を探すことに、大きな利益なり意義があったので、あえて倭まで遠征したということ、ただの漢人ではなかったと周囲からもみなされていたことがわかります。

ただ後韓末になると、そのほとんどはするとどこかへ移住してしまったということになるで しょうか。秦韓と楽浪・帯方との同族つながりも薄れていたのかな?

ともあれ、この辺の秦韓人の動きを追う上でも、漢四郡や周辺民族の位置や敵対・同族関係 を確認しておくことが重要です。公孫氏については、図書館から楽浪の本を数冊借りてき たので、また何かわかり次第お知らせいたします。

Ads by Google ----- Re:「其國」とは「邪馬臺國」。
投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 7 日(水)06 時 40 分 50 秒 返信・引用 >No.168[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。 棘の紀氏さん、馬韓は衛氏朝鮮の領地ようです。衛満朝鮮の満がない、何処へ行ったのか? 衛満朝鮮の満、何処へ行ったか捜査できませんか。

> 少々 お付き合いください。 >「邪馬臺國」「拘邪韓國」の位置関係。 > 其大倭王居邪馬臺國 樂郡浪徼 去其國萬二千里 去其西北界拘邪 韓國七千餘里 其地大較在 會稽・東冶之東」における「邪馬臺國」「拘邪韓國」の位置 関係。説文解字に「徼」は『循(め ぐ)るなり』とある。 「去」は『行く

----- Re: 真番郡 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 6 日(火)22 時 52 分 2 秒 返信・引用 編集 済 >No.185[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

楽浪四郡の位置は現在の比定とは相当ずれています。

楽浪四郡を中国史籍から描きました。

滄海郡が京師、馬韓は衛氏朝鮮の領地ようです。衛滿朝鮮の滿がない、何処へ行ったのか？

魏志倭人伝の行程で水行を取った理由は臨屯郡(名称不明)公孫淵をさけ、海上ルートを取った模様。

帯方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000 余里で倭国の北岸の狗邪韓国(くやかんこく)に到着する(「從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七千餘里」)。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

> まず扶余系の馬韓・弁韓・後の邪馬台国の支配層が南下して、その後、秦韓系が東部へと遅れて南下する。そして秦韓は宗教も言語も、扶余系と異なるので秦語と記載されたようです。 > それでどうも玄菟郡は、秦野さんのおっしゃるとおり、もっと楽浪・遼東よりだったようですね。

> 楽浪の遺物で興味深いのは、四川系の漆器が多いことです。四川から先の馬王堆王墓のあった長沙、あるいは長安・洛陽経由で、山東半島から海を渡って楽浪にいたる商業ルートがあったものと感じます。

<http://>

----- Re: 真番郡 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 6 日(火)22 時 19 分 37 秒 返信・引用 編集済 > No.183[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそくお返事ありがとうございます! > 狗邪韓国の名称は夫余語系説ですが、夫余以前の名称です。 扶余族南下の件ですが、いつ南下したかについて調査中です。

漢書の楽浪条(東部都尉配下)にみえている扶余と華麗(高句麗・加羅)+原日本語は、言語的に同族だそうで、後漢初期に、何らかの理由で南下したようです。技術的にもずば抜けていたので、勢力がすぐに広がったのかもしれない。

ただ、その際には、まだ真番郡・後の楽浪郡にいた秦韓の同族は、秦韓地域へは南下していなかったのかもしれませんが。 だから、馬韓条に、秦韓人が遅れて南下してくる記載がでてくるのでしょう。

まず扶余系の馬韓・弁韓・後の邪馬台国の支配層が南下して、その後、秦韓系が東部へと遅れて南下する。そして秦韓は宗教も言語も、扶余系と異なるので秦語と記載されたようです。

それでどうも玄菟郡は、秦野さんのおっしゃるとおり、もっと楽浪・遼東よりだったようですね。 下記のウィキの図が正しいのではないかと感じます。 http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Map_of_The_east_barbarian_0.png

この地図を見ると予想以上に「真番郡」つまり後の帯方郡が南に延びていることがわかります。 そして倭のほうは、逆に韓半島へ予想以上に進出していたとするならば、あるいは、双方はかなりダイレクトなつきあいをした可能性も感じますね。

おそらく秦韓・弁韓がその間に入って、仲介役をしていたことかと思いますが、帯方と秦韓とのつながりがどのくらいだったか、その辺が課題です。

> 卑彌呼と公孫氏が主役になる。扶余と公孫度が結びつく。当時の韓半島は馬韓、辰韓、弁韓、?、倭=倭国=やまと。 > 倭国の大乱(146-189 年)、卑彌呼が京師から三公と共に来て卑弥弓呼と共立し、倭国の大乱を収める。建安年間(196 年-220 年)扶余と公孫度が韓(馬韓)、?を討伐。つぎに、倭、韓(辰韓、弁韓)を討伐。帯方に帰属させた。

> 建安年間(196 年-220 年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張敞などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と?を討伐したが、旧民は少ししか見出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

公孫氏の件はとても重要です。特に上記の公孫度の倭、韓討伐の実態が気になります。

200 年ごろを境に、平原・ホタテ貝式…といった墳墓形式に変化がおきてくるのには、あるいは公孫氏の進出を考慮すべきなのかもしれませんね。

楽浪の遺物で興味深いのは、四川系の漆器が多いことです。四川から先の馬王堆王墓のあった長沙、あるいは長安・洛陽経由で、山東半島から海を渡って楽浪にいたる商業ルートがあ

ったものと感じます。

だから楽浪の文化は、多分に華南系の影響も受けていて、それが楽浪の親戚・秦韓へと流れ ていったのかもしれませんが。そのルートも課題です。

その秦韓の影響は、吉岐や出雲系にもみられるとのこと、元は華南系とされ、出雲に多い銅 鐸との関連も気になります。

銅鐸に見えるようなドンソン文化系の文様は、多かれ少なかれ画像鏡・画紋帯神獸鏡等にも 影響していて、特に三角鋸歯紋などは顕著です。山東の銅鏡製造ともながら、海を越えて楽浪 にその技術者たちが進出していく。それで三角縁神獸鏡が製造されていく過程で、さらに秦 韓方面へと製銅技術者が移動していくわけですね。

秦韓の彼らは、楽浪人を同族である「残阿」と呼んだのですが、一部は新羅東岸から海流に乗 って、倭の出雲方面に渡ったのでしょうか。だから似たような銅鐸を作ることができた。

そして、残ったものは、後代5世紀に、秦氏として渡ってきて、その製銅技術を伝播したのか もしれません。

最終的には渡来人研究会なので、秦氏に論を進めたいのですが、まずはその前に楽浪・公孫 氏と秦韓・弁韓・倭との関係をもう少し洗い出しておきたいところですね。

----- Re: 真番郡 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年 3月 6日(火)01時 38分 54秒 返信・引用 編集 済 管理人さんへのお返事です。

狗耶韓国の名称は夫余語系説ですが、夫余以前の名称です。 この際、迷路に入っているので、卑弥呼の大筋を紹介します。

卑弥呼と公孫氏が主役になる。扶余と公孫度が結びつく。当時の韓半島は馬韓、辰韓、弁韓、?、 倭=倭国=やまと。 倭国の大乱(146-189年)、卑弥呼が京師から三公と共に来て卑弥弓呼と共立し、倭国の大 乱を収める。建安年間(196年-220年)扶余と公孫度が韓(馬韓)、?を討伐。つぎに、倭、韓(辰

韓、弁韓)を討伐。帯方に帰属させた。 注意点は旧民は少ししか見出せなかった。卑弥呼と旧民は狗耶韓国から瑞穂の国(日本)へ脱

出。

229年(黄龍元年)卑弥呼を追って、公孫淵は孫権が派遣。夷州と亶州の捜査(文章から九州 を夷州と思っている。)。ここから、魏志倭人伝の行程になる。邪馬台国は卑弥呼の脱出 220年から卑弥呼 248年の 28年間、存在した国なんです。だが、当時の重要な状況を沢山残している。

魏志倭人伝の行程は徐福と邪馬台国で公開しています。この本の内容から古事記に入るが脱 線しているのが現実。

都は邪摩堆、魏志の説に則れば、邪馬臺。表音で邪馬臺は邪摩堆(ヤマタイ)で古田は大間違い ですな。邪馬臺は存在し、神社に成っている。神社は卑弥呼の弟とその娘を祭っている。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

扶余は昔、玄菟郡に帰属していた。漢末、公孫度が海東に勇を馳せて、外夷を威服させたとき、 扶余王の尉仇台は遼東郡に帰属した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-fuyo-.htm>

桓帝と靈帝の間(146-189年)、倭国は大乱、互いに攻伐しており、暦年に亘って君主がい なかった。一人の女子がいて、名を卑弥呼という。年増だが嫁がず、神鬼道に仕え、よく妖術を 以て大衆を惑わす。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

建安年間(196年-220年)、公孫康、屯有県以南の荒野を分けて帯方郡とし、公孫模や張敞 などを派遣して後漢の遺民を集めるため、兵を挙げて韓と?を討伐したが、旧民は少ししか見 出せなかった。この後、倭と韓を帯方に帰属させた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm> 孫権は 229年(黄龍元年)に呉王

朝の初代皇帝に即位した。即位の翌年、陸遜の反対にもか

かわらず、兵 1 万をもって、夷州と亶州の捜査を行わせた。しかしこの捜査は失敗に終わり、孫権は部下を処刑した。233 年 3 月、顧雍・陸遜・張昭ら重臣の諫止を聞かず、公孫淵の内通を真実と信じ、彼に九錫の礼物と策命書を届けるのに兵 1 万を動員した。結果は家臣の予想通り、公孫淵は孫権が派遣した使者を斬り、恩賞を奪った上で魏に寝返ってしまった。激怒した孫権は自ら公孫淵征伐を行おうとしたが、薛綜ら側近達の諫止により思いとどまった。また佞臣とされる呂壹を側近として重用したり(後に悪事が露見して処刑)、王表という神を信じて福を求めたりするなどの失敗が目立つようになった。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%AB%E6%A8%A9>

その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。その地形は東高西低。都は邪靡堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun9-zuisho.htm>

>> もうお解かりとおもいますが、クンサンから南が倭国、音表記で邪馬壹(ヤマト)に成るの です。狗奴国は狗耶韓国(狗=弓、耶=邪)、弓邪韓国の男王卑弥弓呼素と不和、卑弥呼 >> 弓邪韓国と卑弥弓呼の弓が共通する。狗耶韓国と卑弥弓呼が結びつきました。 >

>> この弓奴国、倭奴国から倭国の武器は弓のようです。アイヌに関係があるのですが、アイヌ語で矢をアイと言います。整理するとアイヌ=矢奴になる。アイヌ文化に古代史が眠っている可能性がある。 <http://>

----- Re: 真番郡 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 5 日(月)22 時 57 分 31 秒 返信・引用 編集済 > No.174[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> もうお解かりとおもいますが、クンサンから南が倭国、音表記で邪馬壹(ヤマト)に成るので す。狗奴国は狗耶韓国(狗=弓、耶=邪)、弓邪韓国の男王卑弥弓呼素と不和、卑弥呼 > 弓邪韓国と卑弥弓呼の弓が共通する。狗耶韓国と卑弥弓呼が結びつきました。

> この弓奴国、倭奴国から倭国の武器は弓のようです。アイヌに関係があるのですが、アイヌ語で矢をアイと言います。整理するとアイヌ=矢奴になる。アイヌ文化に古代史が眠っている可能性がある。

弓音と狗音について、ちょっと面白い記載があります。 秦野さん注目の扶余関連の記載に、「官職の名称はすべて六畜の名でよんでおり、馬加、牛加、猪加、狗加の諸加とその下に位置する大使、大使者、使者の諸使がある。」とあります。

ここで「馬」「狗(ク・コウ)」の語が見えますね。「狗」は犬の意味です。

それで、また関連の言語系統についてなのですが、

「夫余語系説...比較言語学的研究により、『三国史記』所載の高句麗地名から抽出した高句麗語語彙が、ツングース語系より多く日本語や中期朝鮮語語彙に多く共通するとして、アルタイ祖語は夫余・日本・朝鮮・韓共通語とテュルク・モンゴル・ツングース共通語の二つに分離し、前者が原始韓語と原始夫余語とに分かれ、ついで原始夫余語が高句麗語と原始日本語とに分かれたとする説」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%AB%E4%BD%99>

があるそうです。私も同感で先の楽浪の東部都尉下の各国の名称が、倭や三韓のそれに近い ことがあります。だから元の「狗」の語源は、扶余から南下した流民の言葉にあると感ずる ね。

また体格非常に大きいとの記載も、弁韓人の特徴と一致してくるのですが、あるいは遊牧民・トルコ系の可能性も感ずる。

扶余というと、朝鮮北東部の未開人のイメージあったのですが、どうもそうではなく、三国時代の東夷でもっとも先進の文化と技術を持っていた国のようです。

金銀・製鉄・養蚕・法律・祭祀・衣食住・どれをとっても隣国のそれとは比較にならない感じがします。どこかの先進国に属していた亡民と考えるが筋で、実際亡民の伝承があるそうです。

刑罰・血縁関連でちょっと特徴があって、殷歴の正月(2月4日ごろ?)の祭天、その際の

罪人の解放とか、「12倍」の刑罰、妬みによる極刑、レビラト婚。

殷歴

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E5%85%AD%E6%9A%A6>

葬送・祭祀関連は、日本の邪馬台国や古墳時代のそれと共通性が強いですね。

「有力者が死ぬと、夏期であればみな氷を用い、人を殺して殉葬する。多い時には殉葬者が数百人に達する。死者を厚葬し、遺体を納める棺(ひつぎ)があるが槨(かく)はない。また、喪に停すること5月、久しきを以って米とする。

殉葬が多いのは女王国の記載と一致してきますし、モガリの期間も類似します。「棺(ひつぎ)があるが槨(かく)はない。」も魏志の記載と一致。

「その亡くなった者を祭るのに「生」と「熟」がある。喪主は速やかなるを欲せずして他人がこれを強制し、常に諍引してこれを節とする。男女は皆純白の喪服を着用し、婦人は布面衣(布製のベール)を着用し、環珮(腰に付ける環状の玉)を去らす。これらのことは大体中国と似ている。」

祭服に白を重視するのも神道のそれと似てます。ベールのあたりも、先進国の習俗を想起させますね。

当地で取れる大きな玉関連の記載は、三種の神器にあるヤサカニの勾玉を想起させます。おむね神道祭祀は扶余経由で着ているのではないのでしょうか。

あと、アイヌと弓の関連は、扶余の隣国の?婁に弓の記載が多くあります。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8C%B9%E5%A9%81>

扶余とは、食物や玉の関連は同じなのですが、その他は非常に異なるようで、扶余の特殊性を浮き立たせます。

----- Re: 真番郡 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 5日(月)20時 53分 36秒 返信・引用 編集済 > No.173[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 楽浪四郡の位置は現在の比定とは相当ずれています。とりあえず、今漢書の楽浪郡条に見える各地域を再確認してます。

それで条文の最後のほうに見える東部都尉が治めた「不而・華麗・邪頭昧・蠶台・夫租・前莫」といった地域は、玄菟郡にあたると解釈されてようです。

ワイヤ扶余の地域です。ただ名称からみると、カヤや邪馬台国のそれとも近いものがあり、その秦野さんご指摘の位置関係や、その南下の動きが気になるところですね。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B2%83%E6%B2%AE>

後漢時代初期に、夷狄(?貊・沃沮)の間で争いが続き、不耐以外の侯国は滅びたとのことです。それで扶余人が百済・新羅方面へ流れて三韓ができあがったわけですね。

その大元はするとその条文にある「華麗」。「邪頭昧・蠶台」も同様に朝鮮各地に散ったとすると、邪馬台国のルートもわかってくるかもしれません。

特に習俗的な部分で、後の日本と共通するのは、「病氣や死者が出ると、そのたびごとにもとの住家を棄てて、新しい住居を作り直す。」は式年遷宮との関連が指摘されてます。神社の木造建築が、その辺の地域の記載と似てますね。

また「男女の上衣はともに曲領(まるくび)のものをつけ、男子は幅数寸の銀製の花文様を結びつけて飾りとする。」の記載は気になりますね。曲袖とか袖飾りも、どうなのでしょう。

君主を持たない記載も、弁・秦韓の制度と類似します。

あと、沃沮関連で、『三国志』東夷伝東沃沮の条の倭人記載が気になります。「その地の風俗では毎年7月に

童女を選んで海に沈めます。『海の彼方に、女ばかりで男のいない国もあります。』の部分、魏志倭人伝で女性が多いとの記載と一致しますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B2%83%E6%B2%AE>

おそらく、たとえば先の扁平頭の習俗で注目された疏勒では、六指の子供しか育てないような習俗もあったそうで、あるいは上記にある童女の生贄など、そういう産児・養育にかかわる問題で、男子がいなくなった可能性も感じます。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%96%8F%E5%8B%92>

それで楽浪郡条に戻って、南部都尉が治めた「渾灞」「提奚」といったあたりは、楽浪郡でもかなり南のほうにあって、おそらくは「真番郡」の下にあったものと感じます。そしてそれらの地域の住民も、秦韓方面へ流れて、「軍彌國(弁軍彌國)」、「冉奚國」となっていたのでしょうか。

これらの国が南下した背景には、やはり楽浪郡支配の縮小と、扶余・高句麗の騒乱があったのかもしれませんが。ただ後の馬韓となる原住民がいたので、東部や南部を裂いてもらいながら南下することになったのでしょうか。

そうすると元は楽浪支配時代の前漢文化・前漢方言つまり秦語に影響された人たちだったとも思われますし、前漢時代の墳墓の形式も有していたのかもしれないですね。一部は倭にも渡っていった。弥生中期から、九州北部・瀬戸内の遺物に変化が出てくるのもその関連かと感じます。

馬王堆漢墓 投稿者:管理人 投稿日:2012年 3月 5日(月)01時 21分 30秒 返信・引用 編集 済

返信・引用 編集済 ちょっと真番郡関連で調べていて興味深い墳墓があったので、紹介いたします。華南の長沙という地域にある前漢代の馬王堆漢墓という墳墓です。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A6%AC%E7%8E%8B%E5%A0%86%E6%BC>

%A2%E5%A2%93 先の漢書で長沙国の条項に、「秦に置かれた郡…王莽曰、?(テン)蛮」という注釈記載があったので、「真番」と類似する名称とのことで注目しました。

「?蛮」というのは、近くの雲南省にある「?(テン)国」関連の南方民族を意味しているものと感じます。

サカ・月氏等の遊牧民族が、匈奴に撃たれて、中国西南部に南下して、後のロロ(羅羅)つまりミャオ系(タイ・ビルマ)の民族へと発展していたと考えられています。日本人の遺伝子や習俗と非常に近い民族です。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%83%B3_\(%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E5%8F%B2\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%83%B3_(%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E5%8F%B2))

それで、?(テン)国地域にも、遊牧民系の木カク墓が出土あるのですが、この長沙の馬王堆漢墓の木カク墓の構造との比較が気になります。

「3 墓の墓はいずれも墳丘、北側についた斜坡式の墓道、やや南北に長い長方形[17]をした堅穴式の墓坑(墓壙)、その底部に木板で構築された槨室(墓室)からなる」

説明しにくいので、そのサイトの説明文と添付図を見ていただきたいのですが、前方後方(円)墳によく似ているんですね。三段築成の感じとか、堅穴墓・木カク…。

この大元は、すでに会報で触れたサカ・月氏のクルガン墓の木カク墓等と関係してくるのだらうと感じますが、あるいは楽浪・秦韓・邪馬台国地域へ流れたそれとも比較すべきなのかもしれません。

また出土の遺物が面白いです。特に長沙地方南部を記した地図があるのですが、やはり南を上にした地図で、九州ほどもある広大な領土なのにもかかわらず忠実かつ正確に測量され再現されていることがわかります。地図も添付しておきます 参考文献。「馬王堆三号漢墓出土駐軍図が現代に伝えること」

<http://www.lib.meiji.ac.jp/openlib/issue/kiyou/no3/pdf/matuza.pdf>

おそらく、楽浪・邪馬台国関連の地図も同様なものであったかと感じます。アバウトな認識のものではないんですね。

あと、秦韓条に出てくる民族楽器「瑟(しつ)」が出土しているそうです。文化的な部分できになりますね。後代伽

耶 12 国は琴でその連帯を示しました。

そのほか「馬王堆」の用語ですね。「堆」は、先の「北史」で「邪馬台国」について「邪摩堆に居す」と書き直したその用法と関係してくるかもしれません。小高く盛り上がった土地を意味して いるのではないのでしょうか。

この古墳がつくられた同じ前漢代に、秦から逃れてきたという「真番旁衆(国)」が楽浪南部 にやってきたわけです。その「真番」の意味がいまいちつかめないのですが。あるいは「秦や? の蛮族」の意味だったかもしれません。

「?(テン)蛮」のようにしばしば「夷・狄・蛮」という表現を当時の文人は使ってます。玄菟 郡は玄菟城があるので、その関連かと感じますが、黒いウサギの意味ですね。現地の風俗や種 族に関係した名称がつけられた可能性を感じます。

真番の「真」は、「秦」「辰」と記されたものの、元は何を意味していたのか?その辺が課題です。

Ads by Google ----- 訂正 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 5 日(月)00 時 19 分 36 秒 返信・引用 編集済 先に引用しました漢書・楽浪郡条に写し間違いがあり訂正しました。失礼しました。「邪頭 昧(ヤトウバイ)」が正解です。訂正よろしくお願いします。

それで、楽浪郡条をよく見ると「帯方」がすでに見えることがありますね。帯方の位置関係を 考える上で重要です。

あと、同じく先の文中で触れた烏孫の王号「昆弥」は、「クニ」より「キミ」のほうが意味的には 近いかもしれません。

----- Re: 真番郡 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 4 日(日)21 時 41 分 17 秒 返信・引用 編集済

> No.172[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 狗耶韓国と狗奴国の関係、漢字を表音として解いてみました。

もうお解かりとおもいますが、クンサンから南が倭国、音表記で邪馬壹(ヤマト)に成るので す。狗奴国は狗耶韓国(狗=弓、耶=邪)、弓邪韓国の男王卑弥弓呼素と不和、卑弥呼 弓邪韓国と卑弥弓呼の弓が共通する。狗耶韓国と卑弥弓呼が結びつきました。

倭国=邪馬壹=やまと 狗奴国=弓奴国、倭奴国 狗耶韓国=弓邪韓国=弓奴国+邪馬壹(倭国=やまと)+韓半島
卑弥呼=鮮卑弥呼=鮮卑皇女 卑弥弓呼素=彦弓皇子(卑弥弓呼は卑弥弓呼素、漢文翻訳で不自然になったので卑弥弓呼素 とする。)

其八年、太守王?到官。倭女王卑弥呼與狗奴國男王卑弥弓呼素不和、遣倭載斯・烏越等詣 郡、…

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%BC%93%E5%91%BC>

この弓奴国、倭奴国から倭国の武器は弓のようです。アイヌに関係があるのですが、アイヌ語 で矢をアイと言います。整理するとアイヌ=矢奴になる。アイヌ文化に古代史が眠っている 可能性がある。

<http://inoues.net/ruins/sakitama.html>

四国の狗奴国とも関係があります。

>「軍彌國(弁軍彌國)」でしょう。そばに見える「提奚国」も、同じく「冉奚國」と関連するか と感じます。さらに一緒に見える「不而」は「不斯国」、最後に出てくる「蠶台(ソングイ)」「華 麗(カレイ)」「邪頭昧(ヤトウバイ)」は、ヤマタイ国やカラ諸国の名称と似てきますね。 あと、「鏤方国(ロウホウ)」は、「ラクロウとタイホウ」をあわせたような名称ですね。中間地

点を意味していたのかもしれません。

<http://>

----- Re: 真番郡 投稿者:秦野北斗 投稿

日:2012 年 3 月 4 日(日)07 時 52 分 39 秒 返信・引用 編集 済 管理人さんへのお返事です。

楽浪四郡の位置は現在の比定とは相当ずれています。中国史籍から特定すると現在の楽浪郡 が玄菟郡、楽浪郡は開城ケソンで帯方郡が江華島になる。秦野距離で特定、当時の文章の帯 方郡の帯水は漢江下流の帯方郡の前の江、の意味になる。他の郡は特定していない。

> こちらのサイトが楽浪四郡の位置について理解しやすいです。

京師は楽浪郡へ 2000 里、玄菟郡も 2000 里程度と思われる。魏志倭人伝から三角縁神獣鏡は 京師また玄菟郡で製作された模様。玄菟郡を楽浪郡と間違えている。画紋帯神獣鏡も三角縁 神獣鏡も神獣鏡でしょう。三角縁神獣鏡は卑弥呼のために陳寿が制作した鏡、特注ですな。 注意することは三角縁神獣鏡の銘文には皇帝に相当する保子(開花天皇)が記されている。 中国の一般人は持つことはできない。まあ一般人は画紋帯神獣鏡が限度でしょう。尚、開花 天皇は日本神話、古事記の説明が必要。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano2.htm>

> それで、楽浪郡と画紋帯神獣鏡との関係について興味深いサイトを見つけました。 > 特にホケノ山古墳などから出る画文帯同向式神獣鏡は、ほとんど楽浪と日本しか出土がない ようで、「吾作」の銘文があるそうです。同様に楽浪の木カク墓と、初期古墳との関連も指摘 されてます。

Re: 真番郡 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 4 日(日)06 時 42 分 4 秒 返信・引用 編集済 > No.171[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 馬韓伝、扶余伝を見る限り方位があり、方可となる。 >
- > 『三国志魏書』馬韓伝
- > 韓在帶方之南、東西以海為限、南與倭接、方可四千里。
- > 韓は帯方郡の南に在り、東西は海で尽きる。南に倭と接し、地積は四千里ばかり。

秦野さん、さっそく馬韓関連の位置についてお知らせありがとうございます。 一辺 4 千里とのことでは了解です。 弁辰韓の位置も、その四方の東部にあるとのことですね。

とりあえず、まずは漢・魏の時代の朝鮮諸国の位置関係をおさらいしておきたいと思います。 こちらのサイトが楽浪四郡の位置について理解しやすいです。

<http://inoues.net/study/rakuroh3.html>

それで、楽浪郡と画紋帯神獣鏡との関係について興味深いサイトを見つけました。

<http://homepage2.nifty.com/mononoke-kofun-room/HP/shiten3yamatai.htm>

特にホケノ山古墳などから出る画文帯同向式神獣鏡は、ほとんど楽浪と日本しか出土がない ようで、「吾作」の銘文があるそうです。同様に楽浪の木カク墓と、初期古墳との関連も指摘さ れてます。

「吾」は日本でいれば「ワレ・我」の意味で、楽浪と秦韓では先のとおり「(残)阿・ア」(自分 たちを意味する)ということになりますね。「吾作」というのは、自分たちで作った鏡という 意味かもしれません。それが三角縁へと移行していく。

漢書の楽浪条文をみていくと、その西方に「渾灞(コンニ)」という地名が見えます。これが

秦韓条に見える 「軍彌國(弁軍彌國)」でしょう。そばに見える「提奚国」も、同じく「冉奚國」と関連するかと

感じます。さらに一緒に見える「不而」は「不斯国」、最後に出てくる「蠶台(ソングイ)」「華麗 (カレイ)」「邪頭昧(ヤトウバイ)」は、ヤマタイ国やカラ諸国の名称と似てきますね。 あと、「鏤方国(ロウホウ)」は、「ラクロウとタイホウ」をあわせたような名称ですね。中間地 点を意味していたのかもしれませんが。

弁辰条

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-benkan.htm>

この辺の事例をいくつか解析していくと、伝承どおり、楽浪と秦韓に同じ民族が分かれていますのがわかります。楽浪から、秦韓へ移ったので、秦韓の人は楽浪人を「残阿」と呼ぶわけですね。その楽浪条文を添付しておきますので、ご参照ください。

結局、上記の楽浪・秦韓に見える「コンニ(ミ)」は、日本で言う「クニ」です。西域の烏孫では 王のことを「昆弥」というそうです。月氏は「キュウミ(キジク・ソウビ)候」と見えますね。 亀慈国も(キュウジ)。

ある時期から、自分たちのことを「吾(ゴ)」と書いて「ア・ワ(レ)」と呼ぶ集団が、日本に 渡ってきたわけですね。神武や天日矛の関連で「吾田」「吾平ヒメ」という名称が出てくるのも、 その辺と関係してきます。

もともと倭は弁韓との関係が強く、同じ鬼神(道教神)を祀っていた女王国や九州諸国ですが、その背後に楽浪郡の影響があって、さらに後に楽浪から移動した秦韓国の影響もできて、そして邪馬台国時代末期に、帯方の影響を受けた秦韓のが急に強く迫ってきて、上記の ような初期古墳や木カク墓、画紋帯・三角縁神獣鏡が出回るようになっていくようです。

そして、秦韓と弁韓は、習俗は似ているものの、祭祀だけは違うと書いてあるとおり、異なる 宗教だったようですから、祭祀や葬儀の仕方も変わってくるわけですね。古墳の形状も変化 していくことでしょう。

その辺をもう少し詳細につきつめるためにも、確かに楽浪・三韓倭の位置を確認しておきたいところです。

Ads by Google ----- Re: 真番郡 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 3 月 3 日(土)23 時 28 分 21 秒 返信・引用 編集 済 管理人さんへのお返事です。

A,B,C ではありません。D 方可四千里を中国語で説明すると一辺四千里の四角をさす。 別の文章で完全な四角でない旨の文章がある。また、実測すると、 韓は帯方郡の南に在り、『東西は海で尽きる。』南に倭と接し、より 韓半島を東西に距離を測ると 219 km で 4100 里になる。 帯方郡から南 4000 里が暦韓国(クンサン)になる。現在のクンサンから南が倭国になる。 D「方可四千里」方は方位で可はできるの意味。東西、南北に 4000 里。1 辺、212 km

馬韓伝、扶余伝を見る限り方位があり、方可となる。

『三国志魏書』馬韓伝

韓在帶方之南、東西以海為限、南與倭接、方可四千里。

韓は帶方郡の南に在り、東西は海で尽きる。南に倭と接し、地積は四千里ばかり。

『三国志魏書』扶余伝 夫餘在長城之北、去玄菟千里、南與高句麗、東與?婁、西與鮮卑接、北有弱水、方可二千里。扶余は長城の北に在り、玄菟郡からは千里、南に高句麗、東に?婁、西に鮮卑族と接し、北には 弱水(アムール河)があり、方形は二千里。秦野北斗の古代史、扶余は長方形になっている。 二千里の四角が正しいようだ。近い内に修正する。議論の成果です。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano4.htm> >>> 「從郡至倭、循海岸水行、歴韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七千餘里」 >>

- >> 「韓在帶方之南、東西以海為限、南與倭接、方可四千里。」 >
- > の件ですが、 >
- > A「方可」を「面積」ととると 1 辺が63 里の四方区画。
- > B「方可」を差し渡し(斜辺)ととると、1 辺が2800 里で東西の沿岸巡航距離は 56 00 里。 > C「方可」を四方区画の 2 辺の合計と捉えと、1 辺が2000 里。 >> 秦野さんの的には、C ということになるでしょうか。

----- 弁韓 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 3 日(土)22 時 52 分 42 秒 返信・引用 編集済 続いて、弁韓についても調べはじめてます。参考まで。

『三国志魏書』弁辰伝

弁辰亦十二國、又有諸小別邑、各有渠帥、大者名臣智、其次有險側、次有樊?、次有殺奚、次有 邑借。

有已祗國、不斯國、弁辰彌離彌凍國、弁辰接塗國、勤耆國、難彌離彌凍國、弁辰古資彌凍國、 弁辰古淳是國、冉奚國、弁辰半路國、弁辰樂奴國、軍彌國(弁軍彌國)、弁辰彌烏邪馬國、如 湛國、弁辰甘路國、戸路國、州鮮國(馬延國)、弁辰狗邪國、弁辰走漕馬國、弁辰安邪國(馬延 國)、弁辰?盧國、斯盧國、優由國。

こうみると、弁韓 12 国と辰韓 12 国は地域的にも、重複しているように見えますね。制度面 でも同様なので、一緒に 6 国が 12 国に分割されたりするのでしょうか。

そして特に下記の記載が興味深いです。

国は鉄を産出し、韓、?、倭など國出鐵、韓、?、倭皆從取之。諸?買皆用鐵、如中國用錢、又以供給 二郡。

皆、これを採りに来る。諸貨の売買には皆、鉄を用いる。中国で金銭を用いるがごとくである また二郡で供給する。

「以供給二郡」の訳ですが、「二郡(楽浪・帯方郡)に供給する」という意味ではないでしょうか。帯方までの供給輸送ルートが確立しているんです。

商人が何度となく行き来しているわけですね。倭とも馬韓とも同様に、だから九州からは山 のように鉄器がでてくるのでしょうか。対馬・壱岐経由で九州の隅々まで運ぶ輸送ルートがしっかりと確立してあるんです。

鉄器の出るところは弁秦・辰王と常にかかわりをもっていたでしょうし、見返りも送っていったはずで、その輸送ルートの目安が、その時代の九州各地に見られる厳密な方位ラインと いうことかもしれませんね。

----- Re: 真番郡 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 3 日(土)22 時 03 分 34 秒 返信・引用 > No.166[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>「從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七千餘里」 >>「韓在帶方之南、東西以海為限、南與倭接、方可四千里。」

の件ですが、

A「方可」を「面積」とすると 1 辺が 63 里の四方区画。 B「方可」を差し渡し(斜辺)とすると、1 辺が 2800 里で東西の沿岸巡航距離は 5600 里。 C「方可」を四方区画の 2 辺の合計と捉えると、1 辺が 2000 里。

秦野さんの、C ということになるのでしょうか。

----- 「其國」とは「邪馬臺國」。投稿者:棘の紀氏
投稿日:2012 年 3 月 3 日(土)21 時 45 分 25 秒 返

信・引用 少々 お付き合いください。 「邪馬臺國」「拘邪韓國」の位置関係。 其大倭王居邪馬臺國 樂郡浪徼去其國萬二千里 去其西北界拘邪 韓國七千餘里 其地大較在會 稽・東冶之東」における「邪馬臺國」「拘邪韓國」の位置 関係。説文解字に「徼」は「循(めぐ)るなり」とある。 「去」は「行く」。 http://kusegakunoto.progoo.com/bbs/kusegakunoto_topic_pr_5297.html

【其】『説文解字』『 甲骨文編』『金文編』に「其」では掲載されず、「箕」として掲載。『甲骨文編』『金 文編』などをまとめた『古典文字字典』には「其」は「箕」の籀文とある。 <http://tonan.seesaa.net/article/215597114.html>

し 【×其/×汝】 [代]《格助詞「が」を伴って「しが」の形で用いられる》 1 中称の指示代名詞。それ。 2 二人称の人代名詞。おまえ。 3 反射代名詞。その者自身をさす。おのれ。

おのれ【己】一説に「紀」の本字…紀氏【箕氏】姫氏…ひめこ…ヒミコ?【起】の原字 己(き)は、ふせた線がおきあがるさまで、己(き)は、ふせた線がおきあがるさまで、起の 原字。また己型のしるしとみても よい。記は「言+(音符)己」で、手がかりを引きおこすことばや目じるしのこと。。また己型のしるしとみても よい。記は「言+

(音符)己で、手がかりを引きおこすことばや目じるしのこと。

<http://homepage3.nifty.com/giboshi/kaijitbl021.htm>

【越人】は夏人の末裔を自称していた。 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_\(%E4%B8%89%E4%BB%A3\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%8F_(%E4%B8%89%E4%BB%A3))【箕子】、去りて朝鮮に之く。... 越人は無壬を共立して越君の後と認め、禹の祭祀を復活した

とされています。

【己】おのれ 意味;《解字》象形。古代人が すき(農具)に使った曲がった木を描いたもの。 のち耜(シ)(すき)以(イ)(工具で仕事を する) ...<http://www.k3.dion.ne.jp/~masatono/every/kanzi/syousai3.htm> 鋤(すき)を用いて耕作する人のことをいう。

己おのれ。曲がり 木の鋤 蛇の意...禹に関連! | 日本古代史掲示板 ... そうでないと人は「私」という存在になれない。 <http://www.ibjcafe.com/i/talk/content/tarzan/column/2/1030.html> 「私」という字の右にあるムは、もともと鋤(すき)を用いて 耕作 する人のことをいう。 禹王はみずからもっこや鋤を手にとり、全土の川を幾度と ...

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- Re: 三韓 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 3 日(土)21 時 10 分 52 秒 返信・引用 編集済 > No.162[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

秦野さん、こんばんは。 > 徐福伝説を読むと、注意するところは九州の宮崎まで痕跡があることです。

> 結論は九州は「夷州」でも「?洲」ないのです。「夷州」「?洲」が目的地になっている。。 確かに、「平原広沢の王となって中国には戻らなかった」との記載は、琉球諸島というよりは、

もっと広い地を想起させるものがあります。 「夷州」「?洲」「大和州」の問題は、再度新唐書を確認しておきたいところです。

日本、古倭奴也。去京師萬四千里、直新羅東南、在海中、島而居、東西五月行、南北三月行。國無 城郭、聯木為柵落、以草茨屋。左右小島五十餘、皆自名國、而臣附之。置本率一人、檢察諸部。

其俗多女少男、有文字、尚浮屠法。其官十有二等。其王姓阿每氏、自言初主號天御中主、至彦 瀲、凡三十二世、皆以「尊」為號、居筑紫城。

京師から日本までの距離を「萬二千里」から「萬四千里」へ変化させてますね。洛陽・長安間 を二千里と数えたのでしょうか。

「置本率一人、檢察諸部。」で魏志の「一大率」が「本率」へ変化する。

「一大率」と「大倭」はともに魏志によれば、倭の檢察官で、「大」に共通性がある。

後に「倭」は「日本」と書き換えられたので、「大倭(率)」の官職名も「本率」へと移行したとの 類推ができますね。

「一」を「日」と意味交換できれば、理解しやすくなるかもしれません。 詳しくはないのですが、両方ともコリア語では「イル」と読むそうです。 壱岐は「一大国」、伊都国にいたのは「一大率」で、韓国南岸に近いことを考慮すると、あるいは

「一大」の用語にすくなくコリア語的な要素が入った可能性も考慮すべきかもしれません。

下記のサイトで、「大率」と記紀に記された「帥」の語を比較しています。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~kodaira/sono102.htm>

ちなみに、「渠帥」は、魏志等で朝鮮・匈奴関連でよく出てくる言葉で、「首長」の意味です。

キシさんご指摘の「日は自己詛 盟としての誓約を入れる器。」との件は、時代的な解釈が含まれてないので、あまり参考にならない感じです。漢字の解釈については、その時代と地域を限定して、お知らせいただけると

助かります。

----- Re: 真番郡 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 3 月 3 日(土)19 時 45 分 48 秒 返信・引用 編集
済 > No.163[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 紀元前 200 年より紀元前 108 年の朝鮮半島に興味ありそうですね。『三国志魏書』馬韓伝

韓在帶方之南、東西以海為限、南與倭接、方可四千里。有三種、一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁韓。辰韓者、古之辰國也。馬韓在西。其民土著、種植、知蠶桑、作綿布。各有長帥、大者自名為臣智、其次為邑借、散在山海間、無城郭。

韓は帶方郡の南に在り、東西は海で尽きる。南に倭と接し、地積は四千里ばかり。韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁韓。辰韓とは昔の辰国なり。馬韓は西に在る。その民は土着し、種を植え、養蚕を知っており、綿布を作る。各邑落には長帥(邑落の長)がおり、大首領は自らを臣智と称し、その次が邑借で、山海の間に散在しており城郭はない。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm>

魏志倭人伝に戻りましょう。 秦野距離、単里を提供します。約 53 m、正確な値は徐福と邪馬台国参照。『帶方郡から狗邪韓国までの距離と行程』

自郡至女王國萬二千餘里。 郡より女王国に至るには(636 km)一万二千余里である。 女王国の境界が狗邪韓国であるので、狗邪韓国から歴韓國(群山クンサン)、帶方郡までは 636 km になる。

『歴韓國から狗邪韓国までの距離と行程』『誤訳の修正』

帶方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、(371 km)7000 余里で倭国の北岸の狗邪韓国(くやかんこく)に到着する 「從郡至倭、循海岸水行、歴韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七千餘里」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E5%BF%97%E5%80%AD%E4%BA%BA%E4%BC%9D>

文章の区切りにミスがある。訂正し約されている所を補充する。以下になる。 「從郡至倭、循海岸、水行歴韓國、乍南(到其南岸倭奴国)、乍東到其北岸狗邪韓國七千餘里」

帶方郡から倭国に至る。海岸を循う、水行で歴韓國、南へ南岸倭奴国、東へ北岸の狗邪韓国 (くやかんこく)に到着する(371 km)7000 余里。

狗邪韓国(釜山)から倭奴国(木浦)、歴韓國(群山)まで 371 km

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%A4%E5%B1%B1%E5%B8%82>

『馬韓、倭国の大きさ』

韓在帶方之南、東西以海為限、南與倭接、方可四千里。

韓は帶方郡の南に在り、東西は海で尽きる。南に倭と接し、地積は四千里ばかり。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm> 方可四千里は 212 km の四角になる。その他は倭国になる。

たぶん、グーグルアースで確認すると思われるので、地図を提供します。正確な値は徐福と邪馬台国参照。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano3.htm>

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano4.htm> <http://>

----- Re: 遭風 箕氏 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 3 月 3 日(土)18 時 14 分 56 秒 返信・引用 > No.164[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

失礼ですが、質問の内容と投稿内容に相当のズレがあります。 混乱の元になるので日本古代史揭示版、世界史揭示板で頑張ってください。

----- 遭風 箕氏 投稿者:棘の紀氏 投稿

日:2012年 3月 3日(土)09時 06分 2秒 返信・引用 振り分けになった袋 =東東+日(えつ) 曹は中国律令官制においておおむね六部の下に置かれる所司である。周辺諸王朝では へり くだって中国王朝の六部にあたるものを曹としている。 日本 の律令官制においては 近衛府 における将曹、鎮守府における軍曹などもっぱら軍制における官職である。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9B%B9>

曹(つかさ・ソウ).sou1.gif【解字】会意文字、東東+日(えつ)。東は?(たく)の初文。 裁判の当事者がそれぞれ提供するものを?(ふくろ)に入れて並べる形。日は自己詛 盟とし ての誓約を入れる器。曹はもと裁判用語。 <http://www.kodaimoji.com/dictionary/post-38.html> 漕《字源》。声符は「曹(そう)」。「曹」の本字は「𠂔」で「?+日(えつ)」。「東」は袋の形。「日」は 誓約を入れる器。「曹()」は、裁判の当事者がそれぞれ提供するものを袋に入れて 並べる 形。 裁判用語で、法曹が原義。 http://www.geocities.jp/growth_dic/honbun/zoukan-4166.html

?(?)の意味は?中日辞典。 ? 振り分けになった袋 ?? 同前。... <http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/cj/27288/m0u/>
「東」は袋の形。「日」は誓約を入れる器。…二通り(分ける)の東…会(合)う 地 点

日の出・日の入り の方角。春分・秋分、冬至と夏至の中間、同じ (太陽の中心で日出・日没 を考えたとき)、日の出...真東 日の入り...真西。夏至、1年の中でもっとも高い、1年の中で もっとも 昼が長く夜が短い、日の出...北より 日の入り...<http://www.max.hi-ho.ne.jp/lylle/taiyo2.html> 春・秋、夏や冬の南中高度が緯度によってどのくらいになるのか、地球の外から見て考えて みましょう。 太陽は遠いので、太陽光線は地球の公転面に対し、ほぼ平行にやってきます。 春分と秋分の南中高度... 90°-観測地点の緯度

古代の日本人は、冬至から夏至までの朝日の昇る方位を東とみて「日の立つし」といい、冬至 から夏至の夕日の落ちる方位を西とみて「日の横し」といった 。 <http://bittercup.blog81.fc2.com/blog-date-20120120.html> イギリスの古代遺跡のストーンヘンジは、紀元前 2800~2200年頃から建設されたとみられ、 その中軸線は夏至の日の出方位にある。

栃木県小山市梁の縄文時代後期前半から晩期前半の寺野東遺跡にもみられる。 石敷遺構と環状盛土遺構上の円形盛土遺構を結び、冬至の日の出と夏至の日没が観測で きるといい、ストーンヘンジの夏至の日の出、冬至の日没とは逆だが、どちらも同じ用途の遺 構である。 二重の環状列石のある縄文後期の青森市中牧野遺跡についても夏至の日の出と関係してい た可能性がある。 縄文時代中期の竪穴住居は円形で、なかには冬至の朝日が射し込む家があり、円形羨道墓や 円形墓と似ている。

三柱鳥居の地は、松尾山の日崎峯に没する冬至の夕日と、愛宕山に落ちる夏至の夕日の「日 照る」地であることは、大和の鏡作坐天照御魂神社が三輪山や二上山などから昇り落ちる朝 日・夕日とかかわるのと同じである。このような冬至・夏至の朝日・夕日線は、聖なるラインであり、農耕文明にとって豊饒予知 の場所(聖地)であり、古代の「まつりごと(祭政)」の場所でもあった。

八=風()。「虫(龍・蛇)」の甲骨文字は「𪚩」。凡は八から発生した文字。梵天(凡天 ⇒ 風天)と風 神は同じ(...<http://kaze.world.coocan.jp/4moji.htm>

風神 私 的 解字「風」【禹】一門+凡「箕」穀物の殻を風にとばす…恵みを ワ ケ ル ...
<http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1918> 箕伯とは風伯・風の神の意味とされるから、箕氏は鍛冶氏族であったものか。... 韓の地の説 明として最初にあげられる「梁山」は、禹が治水をした地であるから、陝西の韓原西北の梁山 にちががなく、この辺りが韓侯の起源・出身の地とされよう。 ...
<http://shushen.hp.infoseek.co.jp/kodaisi/fusou-g/fusosiso1.htm>

紀氏 丹生都比売 姫氏 箕氏(巳=蛇=虫 ム氏 禹…牛?) 笠氏 ... 神話と歴史をつなぐ夏王朝 や実在が ... <http://8628.teacup.com/toraijin/bbs/1886>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 真番郡 投稿者:管理人 投稿日:2012年

3月 3日(土)08時 00分 40秒 返信・引用 編集済 ちょっと秦韓関連で、調べたことがあったので追記しておきます。

辰国つまり秦韓の起源ですが、ウィキによると、

辰国(しんこく)は紀元前 3世紀~紀元前 2世紀の間朝鮮半島南部の一部を領有したとされる鉄器時代国家。民族系統は不明。

『史記』では「真番旁衆国」または版本により「真番傍辰国」、『漢書』では「真番辰国」。したがって、辰国の前身や起源は真番郡とも考えらる。『資治通鑑』では「辰國」として登場する。『三國志』においては「辰韓者古之辰國也」とあり

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BE%B0%E5%9B%BD>

このように、前漢代の真番郡が起源らしいです。漢四郡についてはこちら。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BC%A2%E5%9B%9B%E9%83%A1>

それで、箕氏朝鮮について調べてみると、「朝鮮王否は秦に服属した(紀元前 214年)。その子の準王(箕準)の代になると、秦の動乱

により燕・斉・趙から朝鮮へ逃亡する民が増加したため、王は彼らを西方に居住させたと いう。」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AE%95%E5%AD%90%E6%9C%9D%E9%AE%AE>

とあるごとく、秦に追われて朝鮮半島には、燕・斉・趙の人民が亡命した伝承記録がすでに あったので、後代の魏志の著者が「秦語に相似しているが、燕や斉の名称ではない。」と注釈を 入れたようです。

また秦語というのは、どうも秦地域の言葉ではなく、前漢代の長安を首都としていたときの 標準語だそうで、その前漢代に亡命してきた移民なので、古い前漢・秦訛りを、後代秦韓地域 に残したと考えうるかもしれません。

おそらく彼らは前漢代にどこからか漢四郡の真番(ソウル近辺)に移動したのでしょう。 ところが真番郡廃止とともに、北の楽浪(ピョンヤン方面)に残るものと、東南の秦韓地域 へと移住するものがでてきたものと考えます。

そして 「楽浪人を阿残と呼ぶ;東方人は自分を阿と言うが、楽浪人は本来、その残余の人だと言われる。」

とあるのも、その民族分離のことを指しているものとみるべきかもしれません。

倭人には呉の訛りが見えるのと同様に、秦韓人には前漢の訛りが見えたので、その辺の聞き 分けを著者はよく捕らえているようですね。

もっとも、秦にアイデンティティーを持ち、起源前後の秦韓地域の遺跡からも遊牧民系の遺 物が多くでてきていることを考慮すると、先の扁平頭の習俗のごとく、彼らがどこかしら前 漢代の西域の亀慈・月氏・サカあたりの遊牧民族だった可能性も否定できないわけです。

まずはこの真番国について、調査を進めることが、その起源の解明につながるのではないかと感じます。ソウル周辺の前漢代の城柵とか土城あたりの諸遺跡ですね。

一部は弥生時代中期の北九州から瀬戸内あたりの遺跡や遺物と絡んでくることでしょうし、 当時のきわめて精度の高い方位ライン形成ともかかわってくるかもしれません。

Re: 三韓 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 3月 3日(土)06時 39分 12秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

徐福伝説を読むと、注意するところは九州の宮崎まで痕跡があることです。 結論は九州は「夷州」でも「?洲」な いのです。「夷州」「?洲」が目的地になっている。

<http://www.asukanet.gr.jp/tobira/jofuku/jofuku.htm>

筑紫は九州の筑紫とみていますが、韓半島にも存在します。これは、あとで、

> 筑紫・秦王国より東を倭とする、それ以西は中国と風俗がにていて「(東)夷の州」と解釈した例の記載が、やはりその辺で響いてきます。九州が「夷州」ではないでしょうか。倭王武は「西夷」と言ってますね。

Ads by Google ----- Re: 三韓 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 3 月 3 日(土)03 時 23 分 26 秒 返信・引用 編集済 > No.160[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 会稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。と理解していただきますな。文中の『遭風』を整理する。

> 清代沿海帆船に搭乗した日本漂流民(松浦 章)の文章から遭を遭遇としている。 > 十一月初一日在洋遭風??失舵、直訳:11 月初一日に大海で舵を失い、マストが折れ、に遭遇し、航行をする。から『入海行遭風』は何者かに遭遇し出帆と理解するのが妥当と思われる。 >> 全文を訳すと、以下 >> 会稽東冶縣人有入海行遭風、流移至?洲者。直訳:會稽東冶縣人、?洲者に遭遇、?洲者の水先 案内で入海行し?洲にいたる。尚、航行し風に遭い、漂流して…は誤訳になる。

おそらく、「者」は「てへり」という読みで、「と言う」との意味だと思います……。

<http://kotobank.jp/word/%E3%81%A6%E3%81%88%E3%82%8A>

それから「大和州」の件が気になってます。

>> 1.東?人があり、二十余国 九州 >> 2. 夷洲 四国 >> 3. ?洲 本州 >>

思うに、まず「?洲」があって、次に「夷洲」があり、これらは東?人。その東に「大和州」があって 倭人の島という觀念があったのではないのでしょうか。

もっとも「大和州」の件は、だいたい後代の話だとも思いますけど、「大倭州」みたいな島を表す ことばがあったかもしれません。

「海東諸国紀」という 1400 年代の朝鮮の記録に、「大倭州」が見えますね。もっとも「紀伊 州」「近江州」とあるので、大和国のことだと想いますけど、ちょっと他にも面白い記載があります。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%B7%E6%9D%B1%E8%AB%B8%E5%9B%BD%E7%B4%80>

ここでも、先の「彦瀲」の子の神武の名前を「狭野」と言ってますね。スサノオでしょうか。

それで話はもどって、女王国より北には「一大率」後の「本率」という軍隊がいて、それ以外の ところもしくは、全体に「大倭」という文官が派遣されていたわけです。

魏率とか、奈率とかの率で、本率は、本の率と言う意味ですね。それで「日本」という語が出て くるのが気になります。小さい日本が倭を併合したという旧唐書ところです。「日本率」とすれば、日本という領域を治めた官職とも理解できます。

対馬や伊都国にあった「一大」の用語が、後に「本」に変化する。日本は「ジツホン」、呉音で「ニ ッホン」「伊都(イツ)」から「ジツ」…。

筑紫・秦王国より東を倭とする、それ以西は中国と風俗がにていて「(東)夷の州」と解釈した例の記載が、やはりその辺で響いてきます。九州が「夷州」ではないでしょうか。倭王武は「西夷」と言ってますね。

----- Re: 三韓 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 2 日(金)23 時 44 分 44 秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

『入海行遭風』

会稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。と理解していただきますな。文中の『遭風』を整理する。

清代沿海帆船に搭乗した日本漂流民(松浦 章)の文章から遭を遭遇としている。 十一月初一日在洋遭風??失舵、直訳:11 月初一日に大海で舵を失い、マストが折れ、に遭遇し、 航行をする。から『入海行遭風』は何者かに遭遇し出帆と理解するのが妥当と思われる。

全文を訳すと、以下 會稽東冶縣人有入海行遭風、流移至?洲者。直訳:會稽東冶縣人、?洲者に遭遇、?洲者の水先案

内で入海行し?洲にいたる。尚、航行し風に遭い、漂流して…は誤訳になる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm> これから、徐福に注目する。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%90%E7%A6%8F>

清代沿海帆船に搭乗した日本漂流民 松浦 章 十一月初一日在洋遭風??失舵、任風漂流、至十二月初四日、漂収琉球國大島屋喜内縣洋面。と あるように、潮州府澄海縣の人々が商船に搭乗し、砂糖類を積載して廣東崖州直隸州陵水縣

より出帆して天津へ行き交易して、さらに渤海沿海の寧遠州へ寄港して豆類を購入して帰帆 する途中に海難に遭遇して琉球國に漂着した。また、

>會稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。 >

- > この文章の『入海行遭風』の訳に総てが隠されている。

- > 管理人さんは『入海行遭風』をどう訳しますか。

>>

- > 1.東?人があり、二十余国 九州

- > 2. 夷洲 四国

- > 3. ?洲 本州 >

- > 會稽海外有東?人、分為二十餘國。又有夷洲及?洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人 入海、求蓬?>神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會 稽東冶縣人有入海行遭 <http://>

----- Re: 日+京】景行…景教天皇?光の
信仰? 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 2 日 (金)21 時 51 分 32 秒 返信・引用 編集済
> No.155[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

キシさん、情報ありがとうございます。いつもながら思わず削除してしまいそうになるので すが、下記の引用は重要です。

> 後漢書に、 >「和帝の永元九年(97 年)に西域都護の班超が甘英を使者として大秦に派遣した」 >>

「桓帝の延熹九年(166 年)に大秦国王の安敦(アントン)が遣わした使者が日南郡に訪 れて象牙・犀角・玳瑁を献上した」 > 安敦とはローマ皇帝マルクス・アウレリウス・アントニヌス(位 161 年~180 年)、また

はその先代皇帝であるアントニヌス・ピウス(位 138 年~161 年)の「アントニヌス」の音を 写したものと考えられる。ただローマ側の史書には使者を派遣したという記述が見られ ず、…」

ローマとベトナム方面とのかかわりが見えて面白いですね。南海のシルクロードでしょう。 もちろんその売買を担当した人たちには当然ユダヤ商人も多くいたでしょうね。ベトナムか ら海路で上海つまり会稽方面へ向かったのではないのでしょうか。琉球・九州・朝鮮南部方面 へ流れついたこともありえたかな?

ただ、この手の使者の航海は、漂流じゃないんですね。しっかり前提となる航路が航海民なり 商人によって確立されていて、安全性が確認されてこそ、宝物を抱えて向かえるわけです。

日南郡

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E5%8D%97%E9%83%A1>

韓国の博物館とかいくと、海のシルクロードは積極的に評価されてますね。その辺あまり興 味ないのは、日本くらいでしょう。

> 魏略には >「大秦には普段は王はおらず、国に災難があった場合には優れた人物を選んで王とする。災 難が
終われば王は解雇されるが、王はそれを恨まない」と書かれており、これは共和政ローマ における独裁官に關する
記述であると考えられる。 ...[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%99%AF%E8%A1%8C
%E5%A4%A9%E7%9A%87](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%99%AF%E8%A1%8C%E5%A4%A9%E7%9A%87)

古代の新羅地域の共和制のあり方は、由水さんの本を読んで以来、興味深く感じてます。秦韓 の辰王との関連
ですね。馬韓の王が、天下りみたいに来て辰王になったらしいですが、 ちょうどユダヤ人地域にきたロー
マの派遣官ピラトとかが来たようなものでしょう。血族 的な祭祀王、合議制の議長、この辺の是非がきになる
ところです。

秦韓の民族意識とか、官職関連だと、
「相呼為徒、有似秦語、故或名之為秦韓。」

お互いを「徒」つまり「ともがら」と意識している点も面白いところです。普通は上下の身分差 があったり、いろ
ろあるものですが、平等的な観念が集団内にひろがっていたことが伺え そうです。

「有城柵屋室。諸小別邑、各有渠帥(ゴスイ・キョスイ)、大者名臣智(シンチ)、次有儉側 (ケンソク・シキ)、次有樊?
(ハン(ボン)ギ?)、次有殺奚(セツゲ・サイケイ)、次有 邑借(イフシャ・オフシャ)」

中国的な名称が混じってますが、後の研究課題。

「始有六國、稍分為十二國。」 国をすべて二つに分離するあたりが、かなり整った集団支配形態だったことが伺
えます。軍 隊組織のような感じですね。地理的条件・勢力云々で国を分割してないことは確かです。

あと魏略は魏の時代の文献を拾ったものらしく、下記の点が注目されているとのこと。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E7%95%A5>

「自帶方至女國万二千余里 其俗男子皆黥而文 聞其旧語 自謂太伯之後 昔夏后小康之子 封於 会稽 断
髮文身 以避蛟龍之害 今倭人亦文身 以厭水害也」

旧語に聞こえたというのも、九州各地の中国語の名残を聞いたからでしょう。太伯の後とい うのも、呉と習俗
的なつながりを示すものと感じますが、残念ながらキシさんご指摘の金星 のことではなさそうです(^_^;)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%AA%E4%BC%AF%E3%83%BB%E8%99%9E%E4%BB%B2>

----- Re: 三韓 投稿者:管理人 投稿日:2012 年
3 月 2 日(金)20 時 51 分 0 秒 返信・引用 編集済 > No.152[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 秦野さん、さっそく情報ありがとうございます。

> 会稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。 >> この文章の『入海行遭風』の
訳に総てが隠されている。

- > 管理人さんは『入海行遭風』をどう訳しますか。 >>
- > 1.東?人があり、二十余国 九州
- > 2. 夷洲 四国
- > 3. ?洲 本州 >
- > 會稽海外有東?人、分為二十餘國。又有夷洲及?洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人 入海、求
蓬?>神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會 稽東冶縣人有入
海行遭

>風、流移至?洲者。所在絶遠、不可往來。 この?洲というのは、中国の會稽から海流と風で流されてた
どり着く場所と感じますね。

つまり、夷洲より先に一番最初に流れ着く場所になるでしょう。

そうすると、?洲のほうが中国にちかくて琉球、夷洲は次で先の中国文献で記しているように、 筑紫・秦王国より西か南の領域となるでしょうか。

> 彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は綏靖、次 は安寧、次は懿徳、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、次は崇神、次は垂仁、 次は景行、次は成務、次は仲哀という。

この新唐書の話はおもしろいですね。過去にも読んだ覚えがありますが、天皇の記載に記紀 と多くの相違があります。

「大和州」という書き方がまた先の関連で気になりますね。古い大和の水の多い風景を思い 起こさせます。

「彦瀲」は「彦波瀲武??草葺不合尊(ひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと)」の略のよ うですが、筑紫城の記載からみても、魏志に見える対馬・壹岐…の官職「卑狗(ヒコ)」 と関係するように感じます。

後代の「別(ワケ)」も、皇族の分枝の意味だそうです。この新唐書の記載に、「真人」のカバネを、官職によるものと記載している点が重要です。古代の称号は多かれ少なかれ、官職や役職 に関係してます。

崇神天皇の別名「ミマキイリヒコ」の「ミマ」も装飾的な意味があるとされてますが、「ミマ」は 魏志の女王国に出てくる官職「彌馬」かもしれません。「彌馬」のいた城?。親族の「トヨキイリ ヒコ」の「トヨ」にも意味があります。「豊」という地名が対馬や九州北部にありますね。

さらにいえば、ニギハヤヒの「ニギ」は以前お話したとおり、伊都国の官職「爾支」ですね。「入」は、出雲の豪族にもついている名称で何か共通した意味がある。確かに通説のように「侵

入」の意味かもしれません。

こう考えていくと、これらの名称は、300 年代の天皇名にしても、100 年前の魏志の時代 のそれをそのままひきづっているように見えますね。

王号などは、匈奴の事例などでも何百年も継承されていくものでしょうから、よほど文化・ 言語的な入れ替わりがないかぎり、引き継ぐのは当然だとも感じます。

邪馬台国時代末期に、九州北部の豪族たちが、奈良の大和に進出した可能性は高いと感じま すね。そして断片的な情報が、天孫降臨・神武系あたりに残っているかもしれない。

系譜とか氏姓なんていうのは、ある意味一番の残りやすいもののひとつで、もっとも集団の アイデンティティーの根幹にいたる部分ですから、あまりでっちあげたくないという心理も 当然あるでしょう。旧約聖書などでもそうですね。その辺を犯すのは、逆に今度は不敬という 観念にいたってきます。

----- Re: けい-せい【景星】太白(たいはく・金星の異称) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 2 日(金)20 時 02 分 40 秒 返信・引用 編集済 棘の紀氏さんへのお返事です。

日本書紀に記された大伯海、船路をご存知ですか。金星ではありません。

日本書紀は記す。「御船(みふね)、大伯海に至る。時に大田皇女、女子を産む。よりて、この皇 女を名付けて、大伯皇女と云う」と。時に斉明女帝の七年、この時、女帝は百済救援のために自 ら大軍を率いて西に向かう。その大船団には、皇太子はじめ王族の子女ことごとくが乗船し 親征に従った。大伯皇女はその船路の途上で生まれたのであった。

<http://www.k4.dion.ne.jp/~nobk/okym/ohku.htm>

----- けい-せい【景星】太白(たいはく・金星の異称) 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 3 月 2 日 (金)14 時 20 分 44 秒 返信・引用 めでたいことの前兆として出るといわれる星。瑞星(ずいせい)。 <http://kotobank.jp/word/%E6%99%AF%E6%98%9F>

瑞星(ずいせい) めでたい兆しを示すという星。星の輝きは太陽や月ほどに 大き くないが、人々の心にほのかで優しい光を与えてくれる。その光は何光年ものかな たから 地球に届き、輝きは途絶えることはない。
<http://yougo.jp/book/zuisei/zuisei.html>

景星(けいせい) …おめでたいことの兆しとしてあらわれるという星、瑞星 源氏星 … オリオン座の β 星・リゲルのことで、青 … 鎮星(土星の異称)、太白(たいはく・金星の 異称)、辰星 (しんせい・水星の異称)の五つの星 いかがですか…? <http://culturewakaraku.blog6.fc2.com/blog-entry-162.html>

太白(たいはく・金星の異称)

土蜘蛛はカップパドキアの ネストリウム派のキリスト教徒と同じように、岩山に穴を開けて 住んでいた(=土蜘蛛) また蜘蛛の巣は穴 … 神紋はイシュタル神の菊 。
<http://blog.goo.ne.jp/konanhina/e/2728aefeca79bd439f30f942646b6967> 徐福は斉(中国)出身...

斉の姓は姜(きょう)~京氏斉は後に田斉(田氏) 丹生都姫の一族と京氏で 京丹(生都)の後(裔)

イ シ ュ タ ル は 金 星 を 象 徴 と す る 女 神 で あ り 、 金 星 を 模 した 図 形 が そ の ... <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%82%BF%E3%83%AB> イシュタル (Ishtar) は、古代メソポタミアにおいて広く尊崇された性愛、戦、金星の女神。イシ ュタルはアッカド語名であり、シュメール語におけるイナンナに相当する。

イナンナ(Inanna orIninni). inanna.jpg シュメールの豊穡、愛、戦いをつかさどる太女神 。アッカ ドのイシュタルに同じ。天の神アン/アヌとともにウルクに主聖域をもつ。ドゥムジ/タン ムズの配偶女神。バビロニア時代には、「暁の明星、宵の明星(金星)の 女神」 ...<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/tiagio/antiGM/inanna.html> 天の神アン/アヌとともにウルクに主聖域をもつ。ドゥムジ/タンムズの配偶女神。バビロ ニア時代には、「暁の明星、宵の明星(金星)の女神」とされる。 古来数千年にわたってメソポタミア地方全域で広く信仰され、マッサト(「王女様」の意)、 テリトゥ(「並外れたた強さ」の意)など多くの称号をもつ。随従は獅子。 イナンナは、大地が持っている生命の血の源泉だった。彼女は、あらゆる井戸と河と泉を、彼 女の「血」で満たした。豊穡の女神としてのイナンナは、彼女と同格のバビロニアの太女神イ シュタルと同じように、自分の夫ドゥムジ(タンムーズ)を救うために、年に一度、冥界へ下 っていくた。イナンナは、ナンナ、ナナ Nana、あるいはアンナと称して、アッティスの聖なる処 女母、バルデル Balder の花嫁、さらにはキリスト教徒が「神の祖母」と呼んだ聖母マリアの母 親などになった[2]。

ヒッタイト人は、イナンナのことをイナラスと呼んだ。

イシュタルの話はイナンナをベースにしており、ヒッタイト人はイナンナをイナラスと呼び、 ハッティ族の国は、彼女は毎年処女性を回復し、プルリ祭りのとき、聖王の花嫁になる と し た。 このプルリの祭りはユダヤ人ではプリム祭りになり、聖王に

...<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/3232261.html>

イシスは良妻賢母型ですが、イシュタルは、聖書では「バビロンの大淫婦」と呼ばれている。 バビロンの聖典では「緑の牧草を芽生えさせたもう御方、人間達の女王よ 万物を創造され、 生きとし生けるものを正しく導きたもう御方、母イシュタルよ <中略> おお わが神よ 我にわが行いを知らしめたまえ、我に休息の場所をもたらしたまえ。我が罪を許し、我が面 をあげさせたまえ。 おお 崇むべきお方よ、救済と生命と正義をくだされたまい。」となっ ている。

なんかターラと同じ概念ですね。 ちなみにターラは日本では摩多羅神になっています。

回答者:nacam 回答日時:2007/08/07 04:11 イシスもイシュタルもどちらも大地母神です。 元々は、同じ神(シュメールのインナン)だと思えますが、ローマ時代以降、特にキリスト教 が国教となってからは、イシュタルが悪魔(アスタロテ)となってゆくのに対し、イシスは 聖母(褐色のマリア)となってゆきます。 出生は同じでも、育ちが違うため、全く別の神といってもよいかと思えます。

なお、ギリシャ神話のディメテルやアルテミスなども同じ出生だと思われます。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 日+京】景行…景教天皇?光の信仰? 投稿
者:棘の紀氏 投稿日:2012 年 3 月 2 日 (金)13 時 49 分 14 秒 返信・引用

【「京」=「亠」+「口」+「小」:=小さい口を隠す=>塙で囲って(よそ者が入らないように)小 さな入り口を隠した村落=>塙で囲まれた集落=>囲われた部族の村=>みやこ

「京」解字:象形。高い丘の上に家が立っている形にかたどる。特に貴族の多くは小高い丘 の上に住んでいたことから、高い、大きいなどの意に用いる。

「京」=「亠」+「口+小」:=かくす+小さい口=>隠された小さな入り口=>入り口の小さ い部族の囲=>塙で囲われた村=>村=>みやこ

「景」解字:形声。意符の日(ひ)と、音符の京(明るい光の意=炯)とから成る。太陽の 明るい光の意。

景教とは中国語で光の信仰 という意味であり、景教教会を唐の時代、大秦寺という名称で建 造 さ れ た 。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%AA%E3%82%A6%E3%82%B9%E6%B4%BE> 中国へは、唐の太宗の時代にペルシア人司祭「阿羅本」(アラボン、オロボン、アロベン等複数 の説がある)らによって伝えられ、景教と呼ばれた。景教とは中国語で光の信仰という意味 であり、景教教会を唐の時代、大秦寺という名称で建造された。

中国の「大秦寺」と京都の「太秦寺」は関係ないと言われ方もおられますが、広隆寺は 帰化人 系の氏族である秦(はた)氏の氏寺であり、秦氏自身、自らを秦の始皇帝の子孫 と名乗って いるとも言われ、妙なところで、秦(はた)と秦(しん)の始皇帝が結ばれることに ...<http://homepage1.nifty.com/o-mino/page1176.html>

後漢書に、「和帝の永元九年(97 年)に西域都護の班超が甘英を使者として大秦に派遣した」 大秦の初出である。この後甘英はシリアにまで到達し、地中海を渡って大秦へ赴こうとした が、パルティア人の船乗りに「大秦までは長ければ二年以上も航海せねばならず、長期間陸地 を見ないために心を病んで亡くなる者さえいる」と言われたために大秦に行くことを諦めた との記述がある。

「桓帝の延熹九年(166 年)に大秦国王の安敦(アントン)が遣わした使者が日南郡に訪れ

て象牙・犀角・玳瑁を献上した」 安敦とはローマ皇帝マルクス・アウレリウス・アントニヌス(位 161 年~180 年)、または その先代皇帝であるアントニヌス・ピウス(位 138 年~161 年)の「アントニヌス」の音を写 したものと考えられる。ただローマ側の史書には使者を派遣したという記述が見られ ず、……」 魏略には

「大秦には普段は王はおらず、国に災難があった場合には優れた人物を選んで王とする。災難 が終われば王は解雇されるが、王はそれを恨まない」と書かれており、これは共和政ローマに おける独裁官に関する記述であると考えられる。 この二つのことから、大秦はローマ帝国のことを云うらしいです。 中国の「秦」は、上に述べたように、中国の春秋時代の国の名前です。 国の名前の他には、中国の西安の大秦寺に景教碑というものがあります。この碑の上の部分 に、「大秦景教流行中国碑と書かれています」景教は、東方のキリスト教がペルシャ国から入 唐し栄えたキリスト教で(『景教の研究』佐伯好郎著)とされています。(635 年) 中国の大秦寺は、当初、多くのペルシア人やシリア人が来唐したことで波斯胡(ペルシア)寺 と呼ばれていましたが、主メシアの教えの源が、ローマ帝国領のシリア、ユダヤ、エルサレム であることを知って大秦寺と改称(745 年)されました。(『景教』川口彦著) 現在では、中国 では、景況が衰退してしまいましたので、景教の詳しいことはよく解っていないようです。 大秦寺と似た寺が京都にあります。「太秦寺」です。読み方は「うずまさてら」です。別名は、広 隆寺、秦公寺です。

景行天皇(けいこうてんのう、垂仁天皇 17 年(紀元前 13 年)- 景行天皇 60 年 11 月 7 日(130 年 12 月 24 日))は、『古事記』『日本書紀』に記される第 12 代天皇(在位:景行天皇元 年 7 月 11 日(71 年 8 月 24 日) - 同 60 年 11 月 7 日(130 年 12 月 24 日))。和風諡号は大足 彦 ...<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%99%AF%E8%A1%8C%E5%A4%A9%E7%9A%87>

太白」を倭人は「をしろぼし」と読んだ。景行天皇の名は「大帯日子オシロワケの天皇」なので、(金星の名が入って

いる)、この頃、筑紫は呉越の民族が大いにその勢力を競っていたものとみえる。

<http://lunabura.exblog.jp/17251761/> 羽白熊鷲と神功皇后の戦いのもとをたどっていくと、景行天皇の九州制圧が出て来ます。その景行天皇の名前「オシロワケ」に金星の名が入っている事は、羽白熊鷲と同様に金星をシンボルとしている人だという事です。敵対するクニの人同士に金星の名がついていたというのは何か暗号めいています。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- プラントオパールは、長江河口の河姆渡遺跡 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012年 3月 2日 (金)13時 32分 25秒 返信・引用 民族の指紋 <http://blog.goo.ne.jp/isaq2011/e/2b9daf7ae86d251fba8f095f83f6a967> 装飾古墳の本場である熊本平野の遺跡・遺物を見てみよう。古くは、菊池川流域は九州で最大というよりも日本列島で最も多く、稲のプラントオパールが分布する。時代的にも鬼界カルデラ噴火以降の中断期間を除けば、縄文前期から晩期にかけて継続的に出土している。ここで出土したプラントオパールは、長江河口の河姆渡遺跡で大量に出土した炭化米と同じ熱帯ジャポニカである。

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 入海行遭風 投稿者:棘の紀氏 投稿日:2012年 3月 2日(金)13時 24分 19秒 返信・引用 海流が育んだ 稲作伝播ルート 日本列島 ... 2 水田稲作の渡来経路は「長江下流—松菊里遺跡—北九州」である。

<http://blog.goo.ne.jp/isaq2011/c/89d784efbea274bf6ff3fc47b149e6bc>

入海行遭風、流移至?洲者。所在絶遠、不可往來。会稽の海の外に東?人があり、二 ... 海流面からみれば、九州南部からの黒潮関係や大分方面とのつながりもあったかもしれません。 <http://www.asahi-net.or.jp/~rg1h-smed/keijiban20.htm>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/> 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 | 《前のページ | 次のページ》

----- Re: 三韓 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 3月 1日(木)23時 34分 55秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

身近な文章です。 秦野著書 徐福と邪馬台国で魏志倭人伝の行程の触り文、と秦野著書 徐福と日本神話整理中の内容になる。

1.徐福は紀元前 200 年の人、 2.会稽東冶縣人有入海行遭風、流移至?洲者。 会稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。

この文章の『入海行遭風』の訳に総てが隠されている。 管理人さんは『入海行遭風』をどう訳しますか。

1.東?人があり、二十余国 九州 2. 夷洲 四国 3. ?洲 本州

會稽海外有東?人、分為二十餘國。又有夷洲及?洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬?神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東 冶縣人有入海行遭風、流移至?洲者。所在絶遠、不可往來。

会稽の海の外に東?人があり、二十余国に分かれている。また、夷洲および?洲がある。伝承によると、秦の始皇帝が方士の徐福を遣わし、数千人の少年少女を連れて海に入った。蓬?山の神仙を探し求めたが、出会えず、徐福は誅罰を畏れて敢えて帰らず、遂にこの島に留まった。代々に相伝し、数万家を有した。人民は時に会稽に至り交易する。会稽東冶県の人が海に入っ て航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。絶海の遠地に在り、往来すべきではない。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

以下の文書、彦瀲の子の神武まで解読し、古事記、日本書記と結び付けます。

彦瀲子神武立、更以「天皇」為號、徙治大和州。次曰綏靖、次安寧、次懿德、次孝昭、次天安、次孝 靈、次孝元、次開化、次崇神、次垂仁、次景行、次成務、次仲哀。

彦瀲の子の神武が立ち、改めて「天皇」を号とし、大和州に移って統治する。次は綏靖、次は 安寧、次は懿徳、次は孝昭、次は天安、次は孝靈、次は孝元、次は開化、次は崇神、次は垂仁、次は景行、次は成務、次は仲哀という。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintosho.htm>

>> 現在の年代を元に探るのは不可能なので、新しくアマテラス辺りから年代の線を引きましょうか。 >> 秦あたりからどうでしょうか。紀元前 200 年 >

Ads by Google ----- Re: 三韓 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 3 月 1 日(木)22 時 13 分 56 秒 返信・引用 > No.150[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 管理人さんへのお返事です。 >> 現在の年代を元に探るのは不可能なので、新しくアマテラス辺りから年代の線を引きましょうか。 > 秦あたりからどうでしょうか。紀元前 200 年

了解です。確かに秦韓の文化を考える上で、再度秦からざっとおさらいしておく必要がありますね。

秦 <http://ja.wikipedia.org/wiki/秦>

始皇帝廟

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A7%8B%E7%9A%87%E5%B8%9D%E9%99%B5>

辰韓

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BE%B0%E9%9F%93>

秦韓伝

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/sankan-sinkan.htm>

秦韓伝で秦との関連でつながりを持ちそうなのは、秦語、城柵、牛馬の使用、製鉄技術、養蚕、

瑟(しつ=弦が 25 本か 16 本の琴)といったあたりです。 瑟

http://kasuya.s327.xrea.com/koto/cyclopedia/koto1_03.html

養蚕とアマテラス神話

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%82%A4%E3%82%B3>

そのほか

「その頭を扁平にするため、皆でこれを石に押し付ける」の習俗

「そこでは国を邦、弓を弧、賊を寇、行酒を行觴(酒杯を廻すこと)と称し、互いを徒と呼び、 秦語に相似している」

非常に興味深いサイトがあります。下記引用します。 秦韓人の祖先とダイレクトに結びつくかもしれません。

扁平頭と長髪(2)「辰韓人、亀慈人、?沙國(カーシャ)は、扁平頭の習俗を保つ人々でした。」

<http://blog.livedoor.jp/nanamihantaro/archives/5237031.html>

「2、大唐西域記 カシュガル地域の?沙國[ヤルカンド]の風俗 ヤルカンドは、西域北道、西域南道の交差点で、南道への近道です。?沙國は、莎車(ヤルカンド)です。玄奘は、帰途、パミール南の瓦罕谷(ワハン渓谷)を登って、ヤルカンドへ行きました。 ?沙國の風俗は、生まれた赤子の頭を押さえて扁平にする。容貌は卑しく、文身[いれずみ]をし、碧い眼をしている。

なお、カシュガルは、喀什?爾、喀什と書くが、大唐西域記の解説地図は、カシュガル表記ですが、実際はその南のヤルカンドです。ここも現在のカシュガル地域です。なお、カシュガルは、 疎勒地区も含む。 現在はウイグル人が多く住む。ウイグル人は、混血で目が碧いが顔色は黄色いと、紀行文で司馬遼太郎はいう。

3、和田(コータン) 玄奘は、643 年、瞿薩旦那国(クスタナ)に着く。昔の于?国、和田(コータン、ホータン)です。

クスタナは、梵語ゴースターナの音訳で、「地乳」の意という。(長沢和俊) 地の乳は、秦人に似た言語「乳」を五穀という。辰韓を想起します。 また、楚国の人も、乳と書いて穀という。

上記の年代差が 800 年以上あります。 扁平頭にする風習は、そんじょそこらに無い変わった連中です。

4、亀慈人は、子供が生まれると頭を木に押し付けて、平べったい頭に作ろうとする。妙な風 習で、辰韓人に同じです。

5、西突厥の顔と髪 627 年、東ローマ(ビザンツ)のヘラクレイオス帝と西突厥可汗軍は、現在のグルジア国、トビリシを包囲した。一回目の攻撃でのトビリシ人の突厥人描写。 西突厥の姿は、長い髪 of 弁髪。かぼちゃ顔、二目と見られぬ醜い、まつ毛の無い、だだっぴろ い顔の人と描写する。 退却する突厥に対し、城壁に大きなカボチャを載せて、「ヤーイ、かぼちゃ顔の人よ、帰って王にお辞儀するがよい」という。 髪を長く伸ばして、垂らす女の姿の太群が去って行った。女:男のこと。

突厥族の中に、カボチャ顔の人あり。これも珍しい。 頭を平たくして、前から見れば、デコが大きく見える扁平頭と関係あり。 玄奘は、631 年ころ、西突厥の王に会った。髪 of 長さ一丈ばかりという。

秦の国から逃れる人々 前 221~前 205 年、秦の苦役で、西域へ行った人も、在ったのではないか。 また、広東省へ行く人、斉の山東半島僻地に留まった人もあったのではないか。当然、日本に も秦氏は、来ています。[姓氏録]

382 年、前秦の苻堅がいう。慶州新羅は、どうして長い髪をしているのですかと聞いて、いぶか しがる。秦書の逸文(太平御覧四夷部に所引) この時は、日本百済が通訳としてゆくが、このくだらは「高麗、新羅、?、中つ国人」です。韓国の ペクジュ(百済)ではない。

また、日本では、300 年代、武内宿禰が率いる軍も長髪で、長髪を才槌頭(長髪を二つに分け て、木槌の状)にしていた。髪をほどけば、弓矢を髪に隠せるのでした。この頭髪は、韓にも居

ました。

<http://blog.livedoor.jp/nanamihantaro/archives/2011-06.html>

----- Re: 三韓 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 1 日(木)20 時 54 分 30 秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

現在の年代を元に探るのは不可能なので、新しくアマテラス辺りから年代の線を引きましょ うか。 秦あたりからどうでしょうか。紀元前 200 年

> ニギハヤヒ、天孫降臨神話にも、遊牧民的な風習がでてくるようですが、それ以外で当時の 様子を描いているとすると、神武天皇条以前を探るしかないかもしれません。

----- Re: 三韓 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 3 月 1 日(木)03 時 07 分 50 秒 返信・引用 編集済 > No.148[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 やはり崇神天皇の年代を知りたいところですね。258 年即位か 318 年か。先の件で、仮に 286 年とすると、318 年のほうが妥当ですね。

ただ先の埴輪の話は、人物や馬などの形象埴輪が出てくるのがだいぶ後ですので、300 年 代とみるべきでしょう。 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%83%8B%E3%83%AF>

石棺の話も同様で、3 世紀代のマキムク・柳本は割竹型木棺ですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%B2%E7%AB%B9%E5%BD%A2%E6%9C%A8%E6%A3%BA>

> 神功皇后(じんぐうこうごう、成務 40 年(170 年) - 神功 69 年 4 月 17 日(269 年 6 月 3 日)) > 卑弥呼(ひみこ、170 年頃 - 248 年頃)は、『魏志倭人伝』等の中国の史書に記されている倭 国の王(女王)。邪馬台国に都をおいていたとされる。封号は親魏倭王。後継には親族の壹與 が女王に即位したとされる。

> 秦野の調べでは卑弥呼の死後、邪馬台国に壹與が居た模様。その後、邪馬台国は神社になり 現存している。言えることは神功皇后の年代が間違っていることです。286 年は重要な意味を 持つ。 > また、この神社に神功皇后が祭られている。

>

神功皇后はこうみると、確かにヒミコを模している感じがしますね。在位期間が伸びている のは、秦野さんご指摘のイヨとのダブりのせいとなるでしょうか…。

> 京師の東六千里,京師は三角縁神獣鏡の銘文に出てくる地名。 > 神功皇后、卑弥呼の年代が合わない。この矛盾を解くため邪馬台国の位置が重要に成る。 > 三角縁と、円筒型埴輪が、同じ古墳から出てこないという話は、興味深いところです。 埋葬時の双方の機能が同じなのでしょう。 聖域区画の関連で捉えられているようですね。

こうみると、邪馬台国時代末期に最初に割竹型木棺や三角縁、前方後円墳をもたらした集団 と、崇神天皇に象徴される集団とは別ものだった可能性も感じます。

現在の崇神・景行陵墓の年代で正解なのかもしれません。任那の名称もおそらくは 4 世紀 代に入ってからでしょうね。

とすると、基本的には 3 世紀代のことを知るには、開化か神武天皇、山幸条あたりを探らない といけないということになるでしょうか。もちろん、部分的には崇神以降の記紀記載にも現 れてくる可能性はあると想うのですが…。

ともかく、初期の前方後円墳、終末期の弥生墳丘墓に出てくる割竹型木棺とか石囲木カク・

鏡…が、紀元前後の朝鮮新羅地方の南部にルーツがあり、さらにそれらはサカ族などの 遊牧民系の遺物を含んでいる、いわゆる「秦人」的な様相をしていることについて、まずはその手がかりを探したいと思います。

その秦人の文化が流入したのだが、邪馬台国時代末期と想いますが、崇神よりさらに前の流れとして、楽浪・帯方系のそれとともに流れ込んでいるはずです。

女王国に居座った魏軍や公孫氏の影響かもしれません。だいたい当時の軍の募集は現地徴 集でしょうから、そうすると、京師から派遣される將軍とか太守以外の兵士は、楽浪・帯方 人つまり秦韓と同じ人種の「阿残」といわれた人たちも多かったことでしょう。

すでに一部の秦韓人は、弥生時代に倭国にもわたってきていて、木カクとか木棺墓を残して いったことでしょう。平原とか、タテツキとか…ですね。朱とか水銀の利用も考えてみると 秦の始皇帝墓の水銀とかを思い起こします。

ニギハヤヒ、天孫降臨神話にも、遊牧民的な風習がでてくるようですが、それ以外で当時の 様子を描いているとすると、神武天皇条以前を探るしかないかもしれません。

----- Re: 三韓 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 1 日(木)00 時 19 分 49 秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

相変わらず鋭いですな、神功皇后の伝承そのものです。

神功皇后(じんぐうこうごう、成務 40 年(170 年) - 神功 69 年 4 月 17 日(269 年 6 月 3 日))

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E5%8A%9F%E7%9A%87%E5%90%8E>

卑弥呼(ひみこ、170 年頃 - 248 年頃)は、『魏志倭人伝』等の中国の史書に記されている倭国 の王(女王)。邪馬台国に都をおいていたとされる。封号は親魏倭王。後継には親族の壹與が 女王に即位したとされる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%91%BC>

京師の東六千里,京師は三角縁神獣鏡の銘文に出てくる地名。 神功皇后、卑弥呼の年代が合わない。この矛盾を解くため邪馬台国の位置が重要に成る。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano17.htm>

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano2.htm>

秦野の調べでは卑弥呼の死後、邪馬台国に壱與が居た模様。その後、邪馬台国は神社になり 現存している。言えることは神功皇后の年代が間違っていることです。286 年は重要な意味を 持つ。 また、この神社に神功皇后が祭つられている。

>> 286 年、再び慕容?が遼東を侵略するが、王子の依羅が西晋の援助で扶余国を再建した。 >> この依羅には日本の王朝に関わる奇妙な伝承がある。「慕容?に敗れた扶余王の依羅が、 数千の民を率いて海を越え、倭人を平定して王となった」というもので、名前のイリから、嵩 神天皇(みまきいりひこ)ではないかとされる。

HOME 研究会詳細 分野別情報 研究報告 探索記録 掲示板 リンク集 新刊紹介

渡来人研究会古代史掲示板ログ 20

----- Re: 三韓 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 3 月 1 日(木)00 時 19 分 49 秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

相変わらず鋭いですな、神功皇后の伝承そのものです。

神功皇后(じんぐうこうごう、成務 40 年(170 年) - 神功 69 年 4 月 17 日(269 年 6 月 3 日))

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E5%8A%9F%E7%9A%87%E5%90%8E>

卑弥呼(ひみこ、170 年頃 - 248 年頃)は、『魏志倭人伝』等の中国の史書に記されている倭国 の王(女王)。邪馬台国に都をおいていたとされる。封号は親魏倭王。後継には親族の壹與が 女王に即位したとされる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%91%E5%BC%A5%E5%91%BC> 京師の東六千里,京師は三角縁神獸鏡の銘文に出てくる地名。

神功皇后、卑弥呼の年代が合わない。この矛盾を解くため邪馬台国の位置が重要になる。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano17.htm>

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano2.htm>

秦野の調べでは卑弥呼の死後、邪馬台国に壱與が居た模様。その後、邪馬台国は神社になり 現存している。言えることは神功皇后の年代が間違っていることです。286 年は重要な意味を 持つ。 また、この神社に神功皇后が祭つられている。

>> 286 年、再び慕容?が遼東を侵略するが、王子の依羅が西晋の援助で扶余国を再建した。 >> この依羅には日本の王朝に関わる奇妙な伝承がある。「慕容?に敗れた扶余王の依羅が、 数千の民を率いて海を越え、倭人を平定して王となった」というもので、名前のイリから、嵩 神天皇(みまきいりひこ)ではないかとされる。

----- Re: 三韓 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 29 日(水)23 時 38 分 44 秒 返信・引用 編集済 > No.145[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 秦野さん、さっそく情報ありがとうございます。

> 286 年、再び慕容?が遼東を侵略するが、王子の依羅が西晋の援助で扶余国を再建した。 > この依羅には日本の王朝に関わる奇妙な伝承がある。「慕容?に敗れた扶余王の依羅が、数 千の民を率いて海を越え、倭人を平定して王となった」というもので、名前のイリから、嵩神 天皇(みまきいりひこ)ではないかとされる。

> <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-5-fuyo.htm> >

なるほど、この依羅の話は重要ですね!依羅の復興劇との関係、下記の大依羅神社と依羅吾 彦、神功皇后の伝承ともかわりがあるのではないのでしょうか。ここでも前述の「吾」→「ア」 の関連が出てきますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E4%BE%9D%E7%BE%85%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

>> 京師の東六千里,京師は三角縁神獸鏡の銘文に出てくる地名。 > この件もきわめて重要!

----- Re: 三韓 参考? 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 29 日(水)23 時 16 分 5 秒 返信・引用 編集済 > No.144[元記事へ]

棘の紀氏さんへのお返事です。

> 百済など半島南部の三韓 > 騎馬民族説の江上氏は、この辰王こそが、邪馬台国を侵攻した「崇神天皇」だと主張する。 >> 彼らは、1 世紀末ごろに北方大陸から 南下して朝鮮半島に入り、そこで高句麗を建国

キシさん、こんばんは。さっそく情報ありがとうございます。 確かにあまり参考にならない感じでしたが、上記の崇神天皇との関連は重要だと感じます。

実在性の件ですが、次代の垂仁天皇条に、非常に興味深い記載が多くあるそうですね。 ウィキの記載を元に見ていくと、 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%96%8B%E5%8C%96%E5%A4%A9%E7%9A%87>

垂仁天皇元年 1 月即位。翌 2 年 2 月に狭穗姫を立后、10 月、纏向に遷都した。 ※はじめてマキムクが出てきますね。

同 28 年、殉死の禁令。 同 32 年 7 月、日葉酢媛が薨去。野見宿禰の進言に従い、殉死の風に替えて埴輪を埋納する (埴輪の起源説話)。『古事記』に「石祝(棺か)作りを定め、土師部(はにしべ)を定めたま いき」とある。石棺を作る部民や赤土で種々の器を作る部民を定めたというのである。

※この辺の記事は、卑弥呼の時代の殉死との関係、初期の古墳にない埴輪の設置、同じく石 棺の作成など、どこか 4 世紀代当時のことをそのまま記しているような感があります。

同 35 年、河内国の高石池や茅渟(ちぬ)池を始め、諸国に多くの池溝を開いて、農業を盛ん にしたと 伝える。

※池溝開発も、同様に古墳の周壕をイメージさせますね。

同 90 年 2 月、田道間守に命じて、常世国の非時香菓(ときじくのかぐのこのみ)を求めさせ る。

※始皇帝と徐福の話を想起させる話です。常世国は伊勢から見て東海沖にあったといえますね。

わりと垂仁天皇条はこの辺に史実性があると想うんです。マキムク・柳本古墳群の時代の話 のように感じます。その時代の文献なり伝承なりがあったのではないのでしょうか。

それで問題の前代の崇神天皇条ですが、またウィキの記載をもとに推論していきましょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B4%87%E7%A5%9E%E5%A4%A9%E7%9A%87>

『古事記』は崇神天皇の没年を干支により戊寅年と記載しているので(崩年干支または没年 干支という)、これを信用して 318 年(または 258 年)没と推測する説も中には見られる 。

258 年没説を採った場合、崇神天皇の治世は、中国の文献に記載されている邪馬台国の時代 と重なることになる。

※この指摘は重要です。ヒミコ死後の男王との関係を想起させます。

江上波夫は「ミマキイリヒコ」の「ミマキ」を韓半島の任那(ミマナ)＝「ミマ」の「キ」(城)に 住むという意味と推測し 崇神天皇 3 年(紀元前 95 年)9 月、三輪山西麓の瑞籬宮(みづかきのみや)に遷都。

※任那方面からやっていて、三輪山方面に入った最初の王とのことでしょうか。

都は磯城瑞籬宮(しきのみづかきのみや、奈良県桜井市金屋の志貴御県坐神社が伝承地)。 『古事記』には、「師木の水垣宮(みづかきのみや)に坐しまして、天の下治めらしめしき」と

ある。

※ここでも桜井茶臼山古墳および、その背後あたりの地域が、やはり最初にでてくるんでし ょうね。奈良の方位ライン面と関係してきます。

崇神天皇 7 年(紀元前 91 年)2 月、大物主神、倭迹迹日百襲姫命に乗り移り託宣する。

※三輪山祭祀と女性巫女が強調される時代のことだったのでしょ

倭迹迹日百襲姫命の予言から武埴安彦(たけはにやすびこ、孝元天皇の皇子)の叛意を知る こととなる。武埴安彦は山背から、その妻吾田媛は大坂からともに都を襲撃しようとしたが 天皇は五十狭芹彦命(吉備津彦命)の軍を遣わして吾田媛勢を迎え討ち、一方の安彦勢には、大彦命と彦国葺(ひこくにぶく、和珥氏の祖)を差し向かわせ、これを打ち破った。10月、畿内は平穏となり、四道将軍が再び出発。

※武埴安彦や、大タタネコ、次の垂仁の最初に出てくる天の日矛は、ともに埴輪・土器技術を もたらした大陸系渡来人を暗示していると感じますし、吾田媛も、次の日矛と関連して吾田 の地名がでてきます。

吾田は「アタ」で、「ア」は前述の秦韓・楽浪人でつかっていた自分(自民族)＝「阿」＋「田」 (領地)という意味でしょうね。だから瀬戸内方面から攻めてくるのかもしれませんが。

これらの反乱伝承は、ヒミコ後の男王の時代におきた騒乱を想起させますね。倭迹迹日百襲 姫命の予言というのもヒミコやイヨという女性巫女の託宣かもしれません。

崇神天皇 60年(紀元前 38年)7月、飯入根(いいいりね)が出雲の神宝を献上。兄の出雲 振根が飯入根を謀殺するが、朝廷に誅殺される。

※興味深いのは、出雲の豪族にも「入」の名称がついていることです。崇神やその親族からなる「入」王朝の背景には、出雲方面とつながりを持つ新羅・任那集団の血縁があったのかも かもしれません。

崇神天皇 65年(紀元前 33年)7月、任那国が蘇那曷叱知(そなかしち)を遣わして朝貢し た。

※任那系の氏族伝承をここであえて取りこんでいるのでしょうか。

こう見ていくと、これらの条文は、後代の王朝の造作という見方よりは、当時の元記録があっ て、それに則って編集していったようにも感じるわけです。そして任那・秦韓が邪馬台国時代の最後に影響を与えていく様子が見て取れるように感じますね。それらの流れは偶然ではないでしょう。必然的にここに、任那に関係した王が出てくるわけです。韓国南部のその時期 の考古面との兼ね合いも重要ですね。

----- Re: 三韓 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 2月 29日(水)22時 49分 46秒 返信・引用 編集 済 管理人さんへのお返事です。

もう少しバックします。糸口は 扶余(ふよ) 286年、再び慕容?が遼東を侵略するが、王子の依羅が西晋の援助で扶余国を再建した。

この依羅には日本の王朝に関わる奇妙な伝承がある。「慕容?に敗れた扶余王の依羅が、数千 の民を率いて海を越え、倭人を平定して王となった」というもので、名前のイリから、嵩神天皇(みまきいりひこ)ではないかとされる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/tungus/tungus-5-fuyo.htm>

『百濟(遼西扶余)』

『新唐書』百濟伝

百濟、扶余別種也。直京師東六千里而瀛、濱海之陽、西界越州、南倭、北高麗、皆踰海 乃至、其東、新羅也。王居東、西二城、官有内臣佐平者宣納號令、内頭佐平主帑聚、内法佐 平主禮、衛士佐平典衛兵、朝廷佐平主獄、兵官佐平掌外兵。有六方、方統十郡。大姓有八: 沙氏、燕氏、劬氏(一)、解氏、貞氏、國氏、木氏、●氏。

百濟は扶余の別種なり。京師の東六千里、濱海の北、西は越州、南に倭、北に高句麗、どれも 海を越えて至る。その東は新羅なり。王は東に居する、西に二城。(中略)六方あり、方は十郡 を統べる。貴種の姓は、沙氏、燕氏、劬氏、解氏、貞氏、國氏、木氏など八姓。

京師の東六千里、京師は三角縁神獸鏡の銘文に出てくる地名。

>> 建元元年(479年)、使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・(慕韓)六国諸軍事、安 東大將軍に新に進め、倭王の武の号を鎮東大將軍に叙した。 >> 武が七国諸軍事として自称したケースと異なり、百濟が入ってないの

は、南朝と百済の關係によると言われてますね。 >

- > それで問題は秦韓のルーツです。辰国とも記されて、秦の流民だとも言われます。 >
- > さらには、同じく秦から逃れた徐福との關係まで取りざたされているようです。 >
- > 弥生時代の北九州は先の国名表記のように、馬韓南部、特に弁韓の国名表記に強い相関性があったわけですが、またその後の秦韓の影響も探ってみたいところです。 >

----- 三韓 参考? 投稿者:棘の紀氏 投稿

日:2012年 2月 29日(水)10時 49分 21秒 返信・引用 百済など半島南部の三韓 騎馬民族説の江上氏は、この辰王こそが、邪馬台国を侵攻した「崇神天皇」だと主張する。

彼らは、1世紀末ごろに北方大陸から南下して朝鮮半島に入り、そこで高句麗を建国

<http://www.geocities.co.jp/Bookend-Ohgai/6832/jud.html> 紀元 1世紀頃の朝鮮半島に、「馬韓」「辰韓(秦韓)」「弁韓」の三韓が誕生した。飛鳥説によれば、この秦人の中に、謎の渡来人「秦氏=原始キリスト教徒」が含まれていたという。 <http://shinsengumi3.seesaa.net/article/149730178.html>

新世紀創造の為に...<http://shinsengumi3.seesaa.net/article/149730178.html>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 三韓 投稿者:管理人 投稿日:2012年 2

月 28日(火)22時 37分 32秒 返信・引用 編集済 > No.141[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

百済人と見られる黒齒常之の話はちょっと面白いですが、時代が降りすぎているので、なんともいえない感じですね。

> 狗奴国、朱儒国の位置は終わりにします。

了解です。次に、邪馬台国時代に影響を与えた三韓の影響について、掘り下げてみたいと思います。特に、邪馬台国時代から古墳時代の渡来人が来るまでの流れについて興味があります。

建元元年(479年)、使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・(慕韓)六国諸軍事、安東

大將軍に新に進め、倭王の武の号を鎮東大將軍に叙した。

武が七国諸軍事として自称したケースと異なり、百済が入ってないのは、南朝と百済の關係によると言われてますね。

それで問題は秦韓のルーツです。辰国とも記されて、秦の流民だとも言われます。さらには、同じく秦から逃れた徐福との關係まで取りざたされているようです。

弥生時代の北九州は先の国名表記のように、馬韓南部、特に弁韓の国名表記に強い相関性があったわけですが、またその後の秦韓の影響も探ってみたいところです。

『三国志魏書』辰韓伝

辰韓在馬韓之東、其耆老傳世、自言古之亡人避秦役來適韓國、馬韓割其東界地與之。有城柵 其言語不與馬韓同、名國為邦、弓為弧、賊為寇、行酒為行觴。相呼皆為徒、有似秦人、非但燕、齊 之名物也。名樂浪人為阿殘;東方人名我為阿、謂樂浪人本其殘餘人。今有名之為秦韓者。始有 六國、稍分為十二國。

辰韓は馬韓の東、そのこの古老の伝承では、秦の苦役を避けて韓国にやって来た昔の逃亡者 で、馬韓が東界の地を彼らに割譲したのだと自称している。城柵あり。言語は馬韓と同じではない。そこでは国を邦、弓を弧、賊を寇、行酒を行觴(酒杯を廻すこと)、皆のことを徒と呼び 合い、秦語に相似しているが、燕や齊の名称ではない。楽浪人を阿残と呼ぶ;東方人は自分を 阿と言うが、楽浪人は本来、その残余の人だと言われる。今はこの国の名称を秦韓とする。始めには六国あり、十二国に細分化した。

秦との語的な相関性が指摘されてますね。「阿」を持って自分(自らの民族)を示すというのも、後代の「阿毎」氏を

考えていく上でちょっと気になります。「阿残」は楽浪人とのことです ね。

Re: 黒齒国 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 28 日(火)09 時 06 分 21 秒 返信・引用 編集 済 管理人さんへのお返事です。

狗奴国、朱儒国の位置は終わりにします。 黒齒國は朱儒国からと会稽東冶(上海)の2点から示されている。

会稽東冶 人民は時に会稽に至り交易する。

朱儒国 その東南に裸国や黒齒国も在り、船で行くこと一年で至るとか。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

『山海經』 東は黒齒に着く 西教沃民 東至黒齒枝 会稽東冶(上海)の東に黒齒国(沖縄)がある。白村江の戦いの黒齒常之の国のようにです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%BB%92%E6%AD%AF%E5%9B%BD>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%BB%92%E6%AD%AF%E5%B8%B8%E4%B9%8B>

解答を出します。朱儒国は四国の土佐、狗奴国は徳島です。沢山、古墳がありますな。 韓半島南部の余波でしょう。狗奴国と卑弥呼の戦争は後日。

黒齒國、其の北に在り。人と爲り黒し。稻を食し蛇を啖う。この習慣は現在も沖縄に残っている。ベトナム、フィリピン、ですか。

徐福と邪馬台国を纏める際に、奄美、沖縄は容易であったが扶桑の特定、徳之島は今も悩む ところである。『宋書』を読むと、どうも卑弥呼の幼少時代を描いた歌詩で、扶桑は邪馬台国を 示す可能性がある。 徐福と邪馬台国に魏志、中国史籍をまとめてある。

『宋書』卷 22 志第 12 樂 4(樂志)「白紵舞」歌の 1 つで 東造扶桑游紫庭 西至?嶮戲曾城 (東、扶桑に造りて紫庭に遊び、西、崑崙に至りて曾城に戯る)

?『宋書』卷 22 志第 12 樂志四 載及 白紵舞 歌詩三篇之二 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%89%B6%E6%A1%91>

<http://>

黒齒国 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 28 日(火)03 時 56 分 11 秒 通報 返信・引用 編集済 > No.139[元記事へ]

その後、黒齒国について調べてみたのですが、意外にも中国文献にしばしば出てくる国のよう で驚きました。

山海経や淮南子にもすでに見えるとのこと。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%BB%92%E6%AD%AF%E5%9B%BD>

それで漢代の山海経の話というのが、かいつまんで言うと、中国の伝説上の皇帝・禹の命令 で東海にある南北の地域を部下に歩かせたことが記載されているようです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%B1%E6%B5%B7%E7%B5%8C>

その部下の行程で、南の最初の国が黒齒国でして、稲をつくって蛇を食べるとのことです。

それから順に北上して、最後のほうに毛人の国がでてくるのですが、これはいわゆるアイヌ 人と見てよいかもしれません。

その間に、南から順に、湯谷・扶桑(水上の大木の上に住む)、雨師妾(蛇・亀を操る黒い 人)、玄股(げんこ)の國(漁民・鵜飼の国)と入ります。

おそらく、ベトナム方面の水上生活者から、フィリピン、そして日本へと北上していく過程を 示しているのでしょう。カメを飼うという屋久島の海ガメが有名ですね。鵜飼の話は神武 天皇条に見えるようです。神武条は先の朱儒記載の件も考慮すると、中国文献の比較が重要

ですね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B5%9C%E9%A3%BC%E3%81%84>

黒齒國、其の北に在り。人と爲り黒し。稻を食し蛇を啖う。一は赤、一は青。其の旁に在り。一に曰く、豎亥の北に在り。人と爲り黒き首。稻を食し蛇を使う。其の一の蛇は赤し。下に湯谷有り。湯谷の上に扶桑(ふそう=扶桑樹)有り。十の日の浴(ゆあみ)する所。黒齒の北に在り。水中に居す。大木有り。九の日は下の枝に居し、一の日は上の枝に居す。雨師妾(うししょう)、其の北に在り。其の人と爲り黒し。兩手に各(おのおの)一蛇を操る。左耳に青蛇有り、右耳に赤蛇有り。一に曰く、十日の北に在り。人と爲り黒身人面。各(おのおの)一龜を操る。玄股(げんこ)の國、其の北に在り。其の人と爲り魚を衣しを食す。兩の鳥を使い之を夾む。一に曰く、雨師妾の北に在り。毛民の國、其の北に在り。人と爲り身に毛を生ず。一に曰く、玄股の北に在り。勞民國、其の北に在り。其の人と爲り黒し。或に曰く、教民。一に曰く、毛民の北に在り。人と爲り面・目・手・足、盡く黒し。

http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/sengaikyo/frame/kaigaitoukyo_frame.htm

とすると、やはり案山子さんのおっしゃるように黒齒國は、インドネシア・ニューギニア方面と見て間違いなさそうです。

それで、後漢書だと、女王國の南に4千里で朱儒國があつて、その朱儒國からさらに東南に船行1年で黒齒國に至ると記してありますね。ニューギニアあたりが黒齒國となるのでしょうか。

おそらく朱儒國は、縄文系とおぼしき小人のいる島國ですから琉球方面が妥当かもしれません。

そして、そこから北の4千里にあるところが女王國となるわけです。

この千里は、いわゆる狗邪韓国から対馬までの距離、あるいは女王國から海を渡って東の狗奴國までの距離のことですから、そうすると距離的にみて、九州南部⇔奄美・沖縄間あたりを想定するのが妥当かと感じますね。

ただこの黒齒國は、倭國ではないので、やはり倭全体を示す「周旋可五千餘里」には入らないことでしょう。

女王國より東に海を渡ること千余里で拘奴國に至る。いずれも倭種とはいえども女王には属していない。女王國より南に四千余里で朱儒國に至る。その人の身長は三〜四尺。朱儒より東南に航行すること一年で裸國と黒齒國に至る。使訳の伝える所はこれに尽きる。

----- Re: 小笠原諸島 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 2月 27日(月)23時 13分 51秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

この件はしらべました。徐福伝説になる紀元前200年に航海している。

<http://www.asukanet.gr.jp/tobira/jofuku/jofuku.htm> HPには小笠原も出てきます。尚、説明文は再考が必要である。

古代の航海術は巧みで海を知り尽くしている。黒潮に流されずに小笠原までたどり着けるのか、その辺が課題です。との事ですが、船には櫂と帆があり、長期航海1年は可能。驚くことに、再循環流を知っていた模様。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%BB%92%E6%BD%AE>

> 実は私も海流の件、気になってました、なるほど、北からの親潮に乗るという手がありましたね! >> あとは、下記八丈島のページにも書いてましたが、黒潮に流されずに小笠原までたどり着けるのか、その辺が課題です。

>> 鳥島をはさんでいるとはいえ、距離がありすぎますね。漂着するだけの一方通行ではなかったかとも感じるわけですが、それにしても小笠原の石野遺跡が、数百に上る土器片・石器類などそこそこしっかりした弥生遺跡であるのが気になります。ただ、沖縄からの影響は、黒潮による漂着でしょうね。

----- Re: 小笠原諸島 投稿者:管理人 投稿日:2012年 2月 27日(月)22時 21分 51秒 返信・引用 編集済 > No.137[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

さっそく情報ありがとうございます!

- > <http://imagic.qee.jp/kairyuu.html> >
- > 陸と島沿いに向かえば、1500~2000 キロなぞ、存在できない。
- > 小笠原は常陸沖からのルートしかない。古代は漂流航行に近い。 >

実は私も海流の件、気になってました、なるほど、北からの親潮に乗るという手がありました ね!

あとは、下記八丈島のページにも書いてましたが、黒潮に流されずに小笠原までたどり着けるのか、その辺が課題です。

鳥島をはさんでいるとはいえ、距離がありすぎますね。漂着するだけの一方通行ではなかったかとも感じるわけですが、それにしても小笠原の石野遺跡が、数百に上る土器片・石器類 などそこそこしっかりした弥生遺跡であるのが気になります。ただ、沖縄からの影響は、黒潮 による漂着でしょうね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E9%87%8E%E9%81%BA%E8%B7%A1>

----- Re: 小笠原諸島 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 2 月 27 日(月)22 時 15 分 47 秒 返信・引用 管理人さんへのお返事です。

海上ルートを考える場合は海流を考慮しなければ、めためたになる。

<http://imagic.qee.jp/kairyuu.html>

陸と島沿いに向かえば、1500~2000 キロなぞ、存在できない。 小笠原は常陸沖からのルートしかない。古代は漂流航行に近い。

>>> ちなみに、斜線(いわゆる「可」)だけで1280 キロメートルあります。陸と島沿いに向かえば、1500~2000 キロになるでしょう。案山子さんのいう長里で4・5 千里、船行 1 年の世界に似てきますね。

----- 侏儒國 投稿者:管理人 投稿日:2012 年
2 月 27 日(月)01 時 24 分 26 秒 返信・引用 編集済 ちょっと侏儒國について調べています。 下記のサイトに、神武天皇条に見える土蜘蛛を侏儒と呼んだ記載について、魏志とのかかわりで論じてます。
<http://www.inoues.net/mystery/kokusikoku.html>

『己未年春二月壬辰朔辛亥、命諸將練士卒。是時層富県波丘岬有新城戸畔者。<丘岬此云塙介 佐棄。>又和珥坂下有居勢祝者。<坂下此云瑳伽梅苔。>臍見長柄丘岬有猪祝者。此三処土蜘蛛並恃其勇力、不肯来庭。天皇乃分遣偏師皆誅之。又高尾張邑有土蜘蛛。其為人也。身短而手足長、与侏儒相類。皇軍結葛網而掩襲殺之。因改号其邑 葛城。』

侏儒が小柄で手足が長いとしていることは、縄文人の典型的な特徴で、寒冷適応で胴長短足 になった弥生人と異なる風貌の縄文人が、弥生人に追われて山地に隠れたことは DNA 的にも証明されてますね。また沖縄やアイヌにも縄文種の痕跡が色濃く見えます。

特に下記のサイトの沖縄とアイヌのイレズミの共通性については、かなり驚かされました。

<http://www.y-asakawa.com/nihon-tansaku%202007-2008/ainu2.htm>

とすると、侏儒がたくさんすむ島というのは、縄文種が残っていた沖縄方面のような気がします。女王国の南四千里ですね。

それで黒齒国と裸国は、女王国から見て東南ではるか遠く船行 1 年かかる小笠原諸島。ポイ

ントは黒齒国と裸国の 2 つの大きな島があったことですね。伊豆諸島や、小笠原諸島のこと でしょうか?

三宅島は結構たくさん弥生遺跡があるようです。

<http://www.syougai.metro.tokyo.jp/iseki0/iseki/list/ruins/13381/381ruins.htm>

八丈島は縄文遺跡だそうですね。

<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/gaiyo/history/history.html>

其の南の青ヶ島の伝承もちょっと面白いです。

http://www.geocities.jp/gotos_room/_geo_contents/_aogashima.html

その南の小笠原諸島は、先述の石野遺跡が弥生時代です。

そうすると、狗奴国についての記載も、後漢書にしたがえば女王国から見て海を渡って東千 里にある四国…、魏志に従えば同じく女王国の南に隣接する鹿児島方面…などと なることでしょうか。

そして、女王国を支点として、放射上に「其の」と記載を入れながら、周囲の国を記載している 可能性があります。

これは伊都国あたりの条文でも見られる記載法で、魏志では中心となる 1 点(国)を支点に して放射状に記載していく特長があるようです。

「女王国の東、海を渡る千余里、また國あり、皆倭種なり、また侏儒國その南にあり。人の長三、 四尺、女王を去る四千余里。また裸國、黒齒國あり、またその東南にあり。船行一年にして至 るべし。倭の地を参問するに、海中洲島の上に絶在し、あるいは絶えあるいは連なり、周施五 千余里ばかりなり。」

----- 小笠原諸島 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 26 日(日)23 時 49 分 44 秒 返信・引用 編集 済 案山子さん、秦野さんこんばんは。

女王国、狗奴国から東南にあたる珠儒国、黒齒国・裸国の位置ですが、小笠原諸島に 1 世紀 代の遺跡が確認されているそうです。

石野遺跡

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E9%87%8E%E9%81%BA%E8%B7%A1>

1 世紀代については C14 法などを元にしており、そこそこ信憑性が高いと感じます。 弥生人の行動領域を考える上でも重要です。

その小笠原・硫黄島方面までのルートをイメージしてみました。図を添付します。

ちなみに、斜線(いわゆる「可」)だけで1280 キロメートルあります。陸と島沿いに向か えば、1500~2000 キロになるでしょう。案山子さんのいう長里で4・5 千里、船行 1 年の世界に似てきますね。

----- Re: このパズルは解けますか。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 26 日(日)22 時 53 分 3 秒 返信・引用 編集済 > No.131[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。 案山子さんはパズルは解けませんでした。 倭国の広さは東西 5 ヶ月、南北 3 ヶ月になる。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun11-sintoshoh.htm>「南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日陸行一月」の一月を秦野距離で地図にする。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano1.htm>

裸国や黒齒国

女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。又有 裸國、黒齒國復在其東南、船行一年可至。参問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可五千餘里。

女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒(こ びと)国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。また、その東南に裸国や黒齒国も在 り、船で行くこと一年で至るとか。倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上に在 り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。

要約・船で行くこと一年で裸国や黒齒国に至る。裸国は絶海の中央の島、周囲は五千余里 ほど。

1 单里=187×1000 m÷4000=47 m 誤差 15%とすると 40~54 m、より 200~270 km 近似直径を直径とする。周囲=円周の長さ=3.14×直径より、直径 63~86 km 種子島:52 km、屋久島:24 km、奄美:69 km、沖縄:104 km、台湾:370 km、 以上から、裸国は奄美:69 km、黒齒国は沖縄。これで、朱儒国、狗奴国、邪馬台

国が特定でき ますな。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun1-gisi.htm>

- > 倭地は「周旋可五千余里」です。 >
- > 「又有侏儒國在其南人長三四尺去女王四千里 >
- > 又有裸國黑齒國復在其東南船行一年可至」の領域が「周旋可五千余里」におさまります か? >>> どうも、議論にはならないようだ。 > それでは、失礼させていただきます。

<http://>

----- Re: 訂正 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 26 日(日)21 時 24 分 49 秒 返信・引用 編集 済

管理人さんへのお返事です。 晋(晋、しん、265 年 - 420 年)

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun3-sinzho.htm> 卑弥呼は(ひみこ、170 年頃 - 248 年頃)に死んでいる。

卑弥呼が死に、墓が作られた。(『梁書』では正始年間(240 年 - 249 年)に卑弥呼死亡) 男の王が立つが、国が混乱し互いに誅殺しあい千人余が死んだ。 卑弥呼の宗女「壹與」を 13 歳で王に立てると国中が遂に鎮定した。女王位についた壹與は掖邪狗ら 20 人に張政の帰還を送らせ、掖邪狗らはそのまま都に向かい男女の生口 30 人と白珠 5000 孔、青大句珠 2 枚、異文の雜錦 20 匹を貢いだ

晋(晋、しん、265 年 - 420 年)17 年の差は何か? 倭人は騒乱となり、女子を立てて国王とした。

晋書の卑彌呼は壹與の間違いになる。

どうも、魏志倭人伝は三国時代の蜀漢と西晋に仕えた官僚が書いた最重要機密に相当する 文章と思われる。

不知正歳四節、但計秋收之時以為年紀。人多壽百年、或八九十。國多婦女、不淫不?。無爭訟、犯 輕罪者沒其妻孥、重者族滅其家。舊以男子為主。漢末、倭人亂、攻伐不定、乃立女子為王、名曰 卑彌呼。

一年の歴や四節を知らない、ただ、秋の収穫時を以て年紀としている。人の多くが百歳、あるいは八~九十歳の長寿である。国には婦女子が多く、淫乱ではなく嫉妬もしない。争訟はなく、軽い罪を犯した者は妻子を没収し、重罪ではその家系を族滅する。旧来は男子を君主 とした。後漢末期、倭人は騒乱となり、戦が鎮静しないので、女子を立てて国王とした。名を卑 彌呼という。卑彌呼は壹與の間違い

----- 訂正 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 26 日(日)12 時 25 分 57 秒 返信・引用 先に引用した中国文献の注釈年代が狂ってましたので、修正・訂正しておきました。何であ

あいう狂い方してるのかなー…。

----- Re: このパズルは解けますか。 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 26 日(日)11 時 36 分 52 秒 返信・引用 > No.124[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 案山子さんへのお返事です。 >
 - > これでは、日本に 2~3 世紀大航海時代が存在した事になる。
 - > フィリピン、オーストラリアは日本領になる。? >
- 「参問倭地絶在海中洲島之上或絶或連周旋可五千余里」を 無視しての解釈は成立しない。
- 倭地は「周旋可五千余里」です。 「又有侏儒國在其南人長三四尺去女王四千里
- 又有裸國黑齒國復在其東南船行一年可至」の領域が「周旋可五千余里」におさまります か?

どうも、議論にはならないようだ。 それでは、失礼させていただきます。

Re: 案山子説は成立しない 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 26 日(日)11 時 30 分 48 秒
返信・引用 編集済 > No.123[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>>> 案山子さん、読みが浅い。 > 読みの問題ではありません。 秦野北斗さんは方里に付いて何も理解していない。 > ほうり ほうー 1【方里】 > 縦横が一里の面積。一里四方は日本語の表記です。 > 方里とは、面積を表わす単位です。 たから、

「方一里」は「三項七十五畝」です。 一畝は廣 15 歩、従十六歩の方形の面積です。 百畝をもって一項です。

何だったら、検算をして見ましょうか? 一歩=六尺、一尺≒24cm での三項七十五畝と 方一里(一里=1800 尺、一尺≒24cm)の面積は同じになるでしょう。

三項七十五畝≒0.184112 平方キロで、一方里は、約 0.186624 平方キロ。

- > 中国語の解釈は方里=方一里
- > 地合方四千餘里、=方四千餘里になり一に四千餘が入る。
- > 地合は四千餘里四方。←日本語です。縦横が四千餘里の面積 >
- > 「地合方四千餘里」とは三国

九章算術を勉強することをおすすめします。

----- 中国諸文献から 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 26 日(日)03 時 49 分 19 秒 通報 返信・引用 編集済 ちょっと話がそれますが、魏志の後代の史書が、後漢書のようにたまたに古い文献を拾っていることがありましたので、調べてみて、興味深い記事を見つけたので、列記しておきます。

●晋書から 魏の時代に至って、三十国が通好してきた。戸数は七万。

※女王国に属する 30 国は独自に?通好もしていたのでしょうか。戸数に狗奴国のそれは入らず。

宣帝が公孫氏を平定すると、その女王は遣使を帯方郡に送って朝見。その後貢献は絶えなかった。文帝が相となると、また数回やって来た。前秦の初め、遣使が重ねて入貢した。

※前秦のはじめ(350 年代?)にも、邪馬台国の後続王朝が入貢している点に注目。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun3-sinzho.htm>

●梁書から

正始中(240-249 年)、卑彌呼が死に、改めて男の王を立てたが、国中が服さず、互いに誅殺しあったので、再び卑彌呼の宗女「臺與」を王として立てた。

その後、また男の王が立った、いずれも中国の爵命を拝受した。

※イヨと倭の五王の間?の男王記載に注目。

晋の安帝時(396-418 年)、倭王讃がいた。讃が死に、弟の彌が立った。彌が死に、子の済が立った。済が死に、子の興が立った。興が死に、弟の武が立った。

齊の建元中(479 年~)、武を持節、督倭・新羅・任那・伽羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、鎮東 大將軍に除した。高祖が即位すると、武の号を征東大將軍に進めた。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun4-ryosho.htm>

●南齊書から 建元元年(479 年)、使持節、都督倭・新羅・任那・伽羅・秦韓・(慕韓)六国諸軍事、安 東大將軍に新に

進め、倭王の武の号を鎮東大將軍に叙した。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun6-nansai.htm>

●北史から その国境は東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程、各々が海に至る。その地形は東が高く西が低い。邪摩堆で暮らす、魏志に則れば、言うところの邪馬臺である。

※邪馬台国の地形全体について記してます。ヤマタイが正音か?地形に關係。山關連。

再び卑彌呼の宗女「臺與」を立てて王とした。その後、再び男の王が立ち、それぞれが中国から 爵位を拝命した。江左(江東)は、晋、宋、齊、梁を経て、朝聘は絶えなかった。

※ここにも臺與の後続の男王がしっかり記載されており、南朝の記録に記載され続けたこと が伺えます。

死者は棺槨に納める、親しい来客は屍の側で歌舞し、妻子兄弟は白布で服を作る。貴人の場合、三年間は殯(かりもがり=埋葬前に遺体を棺桶に安置する)をし、庶人は日を占って埋葬する。葬儀に及ぶと、屍を船上に置き、陸地にこれを牽引する、あるいは小さな御輿を以て 行なう。

※古墳の葬儀を考える上で重要。日時を占ってますね。すると船型木棺は陸地を引きづられたのか?その傷跡があるのでは?

翌年、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百済を渡り、竹島に行き着き、南に○羅国を望み、都斯麻国を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国に至り、また竹斯 国に至り、また東に秦王国に至る。そこ的人是華夏(中華)と同じ、以て夷洲となす。疑わし いが解明は不能である。また十余国を経て、海岸に達した。竹斯国より以東は、いずれも倭に

附庸している。

※九州東部より東の(竹斯+秦王国+10 余国が倭に「附庸」とのことですが、いわゆる 対馬・壱岐島を倭に属さないと見ているのかもしれませんが。

また九州北部を「夷洲」としてしていますね。これは先の東?人伝にでてきた「夷洲」でしょうか。するとペアの「?洲」はすると本州のことか?東夷の意味が、中華と關係あるということかもしれません。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun5-hokusi.htm>

●宋書から

讃が死に、弟の珍が立つと、遣使を以て貢獻した。

使持節、都督倭・百済・新羅・任那・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭国王を自称 する。

興が死に、弟の武が立ち、使持節、都督倭・百済・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事、安東大將軍、倭国王を自称した。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun7-sosho.htm>

※ここに出てくる「武」王については、先の南齊書にでてきた「武」の「七国諸軍事」ではなく、「六国諸軍事」としてある点で相違がある。任那・加羅に分離して記載されている点に注目。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun7-sosho.htm>

----- 单里 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 25 日(土)23 時 52 分 10 秒 返信・引用 編集済 单里、九州と馬韓とは近くなのでそう変わらない事を前提にすいそくしました。 1 单里=187×1000 m÷4000=47 m 誤差 15%とすると 40~54 m、秦野距離に近い値です。

會稽海外有東?人、分為二十餘國。が九州になる。古事記の地図では琉球になる。注意すること は、馬韓の 20 数カ国から仮定だが面積が等しいとすると。九州(35,000 平方 Km)。一辺 187km 馬韓 地合方四千餘里。一辺 4000 里

會稽海外有東?人、分為二十餘國。又有夷洲及?洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬?神仙不得、

徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東冶縣 人有入海行遭風、流移至?洲者。所在絕遠、不可往來。

会稽の海の外に東?人があり、二十余国に分かれている。また、夷洲および?洲がある。伝承によると、秦の始皇帝が方士の徐福を遣わし、数千人の少年少女を連れて海に入った。蓬?山の 神仙を探し求めたが、出会えず、徐福は誅罰を畏れて敢えて帰らず、遂にこの島に留まった。 代々に相伝し、数万家を有した。人民は時に会稽に至り交易する。会稽東冶県の人が海に入っ て航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。絶海の遠地に在り、往来すべきではない。

> 馬韓の面積と国数を見る限り、過密すぎるので成立しない。古代には九州で 20 数力国あつ た。 > 馬韓の国数から九州ぐらいの広さが必要。九州(35,000 平方 Km)。 >

> ●馬韓 > 狗盧国、卑彌国、監奚卑離国、辟卑離国、一離国、不彌国、狗素国、捷盧国、牟盧卑離国、莫盧国、如來卑離国、楚山塗卑離国、一難国、狗奚国、不斯濱邪国、乾馬国、楚離国、 >> ●弁辰韓 > (弁辰)樂奴国、彌烏邪馬国、狗邪国、走漕馬国、安邪国(馬延国)、?盧国がある。 > (辰韓)軍彌国(弁軍彌国斯盧国)

不思議なことにこの単里いたる所に出てくる。

----- Re: 案山子説は成立しない 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 2 月 25 日(土)23 時 10 分 29 秒 返信・引用 編集済 > No.126[元記事へ]

みなさん、ご意見ありがとうございます。

秦野さん、イメージ図拝見しました。確かに、女王国が対馬の事例のように長細くて、周辺諸 国との方位が異なってくるケースも考慮したいですね。 それで、侏儒國なのですが、よく読んでみると、女王国の東にある倭種の国の南となるかもしれ ません。女王国からみると東南ですね。

女王國の東、海を渡る千余里、また國あり、皆倭種なり、また侏儒國あり、その南にあり。人の 長三、四尺、女王を去る四千余里。また裸國・黒齒國あり、またその東南にあり。船行一年にし て至るべし。倭の地を参問するに、海中洲島の上に絶在し、あるいは絶えあるいは連なり、周 施五千余里ばかりなり。

とすると、たとえば九州あるいは近畿の女王国の東にある本州中部・関東地方の南で、伊豆 大島とかその辺を意味していたかもしれません。東南の黒齒国などもそうですね。この倭国 の5千里は長里でないと理解できないかもしれません。

方位の問題に加えて、1里の単位が、それぞれ大きくことなるので、対象とする地域も数倍に まで膨れ上がっているものと感じます。77と430では、大きく異なりますからね。

倭人から聞いた部分についての「里」や方角と、魏や漢が実測して把握した「里」の単位・方角 とを、まずしっかり把握しないと、混乱してしまうことでしょう。

倭人の使っていた里は、おそらく古い時代の呉のもので、短里でしょう。それに対して魏の使 者が計ったのは長里。

とすると、朝鮮・対馬・壱岐までの記載が長里で、それ以降が倭人から聞いた短里と仮定す ると、実際の魏志や後漢書が想定していた九州の大きさは、かなり大きな九州像ができてし まうわけですね。だから、はるか南のほうまで延びてしまった倭国がでてくるんでしょうね。実 際にははるかに小さな現在の九州内陸の方形区画が正解だったかもしれません。

もうひとつ、ぜんぜん違うのですが、後漢書の「大倭王」、魏志の「大倭」という警備官の存在が 気になります。はじめます。

倭というのは蔑称と言われてますが、倭人は自分で自分の国を「倭」(ワ)と言っていたこと も明らかにありますね。

それで「大倭」=「大和」で、「邪馬台」=「ヤマト」だという見方も出てくることでしょう。 後代も「倭直」のように「倭」をもって「ヤマト」と読ませてますね。

ともあれ、女王国の属国 30 国には、「大倭」という官がいて、さらに女王国より以北には「一 大率」という軍隊も

置いて警備させていたわけですね。

「大倭」と「一大率」が両方いたのか？あるいは片方だけなのかも気になりますが、「大」の字をもってして、ひとつの役職を指し示しているようにも見えます。まとめる、統括するとかいう意味ですかね。

つまり「魏率…」の「率」です。中国的な支配地域と、倭人の支配地域があって、それぞれは、女王国の北と南で大きく様相が異なっているとも受け取れます。

尊卑各々差序あり、相臣服するに足る。租賦を収む、邸閭あり、國國市あり。有無を交易し、大倭をしてこれを監せしむ。女王國より以北には、特に一大率を置き、諸國を檢察せしむ。諸國これを畏憚す。常に伊都國に治す。國中において刺史の如きあり。

こう読むと、「大倭」というのは、税を監督する文官のようにも見えます。一大率は武官ですね。ニラミが聞くとここに派出所を作ったわけですね。南のほうには、たいした脅威がなかったのか、あるいは海を隔てていたとか、あまり従わない国だったので、武官は置かなかった…。問題の狗奴国もそうですね。この南北の差がキーかもしれません。

あと、お手数ですが引用は短くまとめてくださると助かります。よろしくお願いします。

----- Re: 案山子説は成立しない 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 25 日(土)22 時 27 分 38 秒 返信・引用 編集済 > No.119[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 パズルの回答です。イメージ図を日本に当てはめて下さい。

中国史籍の翻訳に所どころに難を感じますが地図で補正しています。

秦野距離で測れば狗奴国の位置が解る。狗奴国と卑弥呼の戦闘が激しく狗奴国には古墳が山ほどあり、食生活にも影響がみられる。

> 秦野さん、案山子さん、ご意見ありがとうございます。 >> 狗奴国がどこにあったのか？なぞが深まるのですが、イメージ図を作成したので、紹介いたします。 >> 対馬あたりで南北の軸がずれて、すこし北西に軸が傾いた見方をしているのではないかと疑ってます。 >> それで東治の東も、九州南部から中部あたりになってきて、女王国の東も四国・近畿方面になるかもしれません。 >> 沖縄は、女王国の南4千里に位置していた朱儒国となりますね。 >> それで、台湾・沖縄方面を論じるうえでは、やはり海南島・九州・琉球とともに、東?人に ついても忘れてはならないでしょう。 >>>> 會稽海外有東?人、分為二十餘國。又有夷洲及?洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、求蓬?神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東治縣人有入海行遭風、流移至?洲者。所在絕遠、不可往來。 >>> 会稽の海の外に東?人があり、二十余国に分かれている。また、夷洲および?洲がある。伝承によると、秦の始皇帝が方士の徐福を遣わし、数千人の少年少女を連れて海に入った。蓬?山の神仙を探し求めたが、出会えず、徐福は誅罰を畏れて敢えて帰らず、遂にこの島に留まった。代々に相伝し、数万家を有した。人民は時に会稽に至り交易する。会稽東冶県の人が海に入って航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。絶海の遠地に在り、往來すべきではない。 >

>>>「会稽の海の外」「会稽東冶県の人」という形で、会稽の觀念が出てきてますね。夷洲および?洲という2種類の「洲」は島の意味です。徐福伝承が記されていて、「絶海の遠地に在り、往來すべきではない。」としています。「数万家」はかなりの人数。時折会稽東治にやってくるだけの航海能力があるようですね。?はイワシの意味だそうです。漁民を感じさせますね。 >> 二十余国あるということは、そこそこ国をつくるだけの人口が、その島にないといけない計算ですから、そう考えていくと、琉球方面と見るのが、妥当かなと感じます。 >> ただ魏志では、これらの国のことを、朱儒国としたのかもしれませんが。 >> それで狗奴国は、数万戸で構成される大国ですから、やはり沖縄・九州・四国のような大きな島ではなかったかを感じるんですね。ただ島という記載がないので、九州・四国方面が妥当な感じがします。 >> 狗奴国が、女王国の東にあったのか、南にあったのかですが、四国という地域は、高知方面に青銅器関連の遺跡が多くあって、徳島方面にいくと、ホタテ貝式古墳なども出てきますよね。 >> 海流面からみれば、九州南部からの黒潮関係や大分方面とのつながりもあったかもしれません。九州南部から四国にかけての遺跡関連のつながりを調べてみたいところです。 >> そして両国の抗争の地は、海を挟んでいたのか、あるいは陸の境界だったのか？この辺も気になるところです。 >

----- Re: 案山子説は成立しない 投稿者:秦野北
斗 投稿日:2012 年 2 月 25 日(土)16 時 52 分 53 秒 返信・引用 編集済 > No.119[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

鋭い、もう少しです。夷洲か?洲か、ですな。

> 會稽海外有東?人、分為二十餘國。又有夷洲及?洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入 海、求蓬?神仙不
得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東 冶縣人有入海行遭風、流移至?洲
者。所在絕遠、不可往來。 >

>> 会稽の海の外に東?人があり、二十余国に分かれている。また、夷洲および?洲がある。伝 承によると、秦
の始皇帝が方士の徐福を遣わし、数千人の少年少女を連れて海に入った。蓬? 山の神仙を探し求めたが、出会えず、
徐福は誅罰を畏れて敢えて帰らず、遂にこの島に留まっ た。代々に相伝し、数万家を有した。人民は時に会稽
に至り交易する。会稽東冶県の人が海に 入って航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。絶海の遠地に在
り、往來すべきではない。 >>>「会稽の海の外」「会稽東冶県の人」という形で、会稽の觀念が出てきてま
すね。夷洲および? 洲という2種類の「洲」は島の意味です。徐福伝承が記されていて、「絶海の遠地に在り、往來
すべきではない。」としてます。「数万家」はかなりの人数。時折会稽東冶にやってくるだけの 航海能力があるよ
うですね。?はイワシの意味だそうです。漁民を感じさせますね。 >> 二十余国あるということは、そこそこ国
をつくるだけの人口が、その島にないといけない 計算ですから、そう考えていくと、琉球方面と見るのが、妥当
かなと感じます。 >> ただ魏志では、これらの国のことを、朱儒国としたのかもしれませんが。 >> それで狗
奴国は、数万戸で構成される大国ですから、やはり沖縄・九州・四国のような大 きな島ではなかったかを感じる
んですね。ただ島という記載がないので、九州・四国方面が 妥当な感じがします。 >> 狗奴国が、女王国の東
にあったのか、南にあったのかですが、四国という地域は、高知方面 に青銅器関連の遺跡が多くあって、徳島
方面にいくと、ホタテ貝式古墳なども出てきますよ ね。 >> 海流面からみれば、九州南部からの黒潮関係や
大分方面とのつながりもあったかもしれま せん。九州南部から四国にかけての遺跡関連のつながりを調べてみ
たいところです。

>> そして両国の抗争の地は、海を挟んでいたのか、あるいは陸の境界だったのか?この辺も 気になるところ
です。 >

----- Re: このパズルは解けますか。 投稿者:秦
野北斗 投稿日:2012 年 2 月 25 日(土)16 時 32 分

46 秒 返信・引用 編集済 > No.122[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。

これでは、日本に 2~3 世紀大航海時代が存在した事になる。 フィリピン、オーストラリアは日本領になる。?

>>> 案山子さんの回答ですが具体的な場所はどこですか?、九州では広すぎる。 >>>「其南有狗奴國 男子為
王 其官有狗古智卑狗 不屬女王」とあるので、 > 九州を刺しています。大きさは、 >「倭女王卑彌呼與狗奴國男
王卑彌弓呼素不和」と「女王卑彌呼」と「男王卑彌弓呼」を並 列記述していますので、卑彌呼の都が「距國五百里爲
都」にそうなら卑彌弓呼の「距國五百 里爲都」の都も存在するでしょう。その都は九州全土を飲み込みます。(五
百里≒216km) >>> 拘奴国の位置問題です。拘奴国に『九州』を入れます。 >>>「自女王國東度海千餘里至拘
奴國 雖皆倭種 而不屬女王」 > から、異存有りません。 >>>> この問題の注意点は『東南に裸国や黒齒国も在
り、船で行くこと一年で至るとか。』侏儒 国が存在します。 >>> 後漢書 >「自女王國南四千餘里至朱儒國
人長三四尺」の「朱儒國」は

- > 「自女王國」が「其地大較在會稽・東冶之東」の沖縄・糸満に当たるので
- > 其処から南へ 4000 里(約 1,728km)ですからフィリピンを刺している。 >
- > 「自朱儒東南行船一年 至裸國・黒齒國 使驛所傳 極於此矣」
- > については、結論だけで

- > 至裸國・黒齒國はオーストラリアに迄至る。
- > 行船一年は距離換算して約 3888km になる。 >>>>>>>

----- Re: 案山子説は成立しない 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 25 日(土)16 時 00 分 27 秒 返信・引用 編集済 > No.121[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。 案山子さん、読みが浅い。

ほうり はうー 1【方里】 縦横が一里の面積。一里四方は日本語の表記です。

中国語の解釈は方里=方一里 地合方四千餘里、=方四千餘里になり一に四千餘が入る。 地合は四千餘里四方。←日本語です。縦横が四千餘里の面積

>「地合方四千餘里」とは三国の田畑の総面積を記述したものです。

----- Re: このパズルは解けますか。 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 25 日(土)13 時 52 分 49 秒 返信・引用 > No.117[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 案山子さんの回答ですが具体的な場所はどこですか?、九州では広すぎる。 >「其南有狗奴國 男子為王 其官有狗古智卑狗 不屬女王」とあるので、九州を刺しています。大きさは、「倭女王卑彌呼與狗奴國男王卑彌弓呼素不和」と「女王卑彌呼」と「男王卑彌弓呼」を並列 記述していますので、卑彌呼の都が「距國五百里爲都」にそうなら卑彌弓呼の「距國五百里 爲都」の都も存在するでしょう。その都は九州全土を飲み込みます。(五百里≒216km)

> 拘奴国の位置問題です。拘奴国に『九州』を入れます。 >「自女王國東度海千餘里至拘奴國 雖皆倭種 而不屬女王」 から、異存有りません。

>> この問題の注意点は『東南に裸国や黒齒国も在り、船で行くこと一年で至るとか。』侏儒国 が存在します。

> 後漢書 「自女王國南四千餘里至朱儒國 人長三四尺」の「朱儒國」は 「自女王國」が「其地大較在會稽・東冶之東」の沖縄・糸満に当たるので 其処から南へ 4000 里(約 1,728km)ですからフィリピンを刺している。

「自朱儒東南行船一年 至裸國・黒齒國 使驛所傳 極於此矣」 については、結論だけで 至裸國・黒齒國はオーストラリアに迄至る。 行船一年は距離換算して約 3888km になる。

>

----- Re: 案山子説は成立しない 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 25 日(土)11 時 56 分 12 秒 返信・引用 編集済 > No.118[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

- > 韓半島には馬韓(案山子説では対馬の半分)
- > 「地合方四千餘里」の面積は一辺が四千里ではありません。
- > 「地合方四千餘里」とは、縦・横一里の正方形、4000 個に相当する面積です。
- > ですから、「地合方四千餘里」を平方キロに換算すると、
- > 1800 尺×24cm の二乗で 0.432km×0.42km×4000=746.496 平方キロ
- > に、成ります。 >

秦野北斗さん勇み足ですよ。「地合方四千餘里」は、三国の総地積ではありません。「方里」とは「田畑」面積積算に使われていたものです。 ですから、「地合方四千餘里」とは三国の田畑の総面積を記述したものです。

とりあえず。

----- プラズマの風(太陽風) 投稿者:棘の
紀氏 投稿日:2012年 2月 25日(土)11時 24分 16秒 返信・引用 太陽活動が沈静化する極小
期(ソーラー・ミニマム)には、黒点が消滅し、コロナは赤道 方 向に長く伸びて見えます。逆に、太陽活
動が 魏志』によれば、247年と 248年の間 に、邪馬

台 国 の 女 王 ・ 卑 弥 呼 が 死 ん で い ま す 。 247年 卑 弥 呼 、 魏
に

...http://www.h2.dion.ne.jp/~mogiseka/article/071118solar_eclipse_sun_worship.htm

『日本書紀』、『古事記』のこの物語が、実際に起こった皆既日食を神話化したものであること は、想像できます。
アマテラス信仰の成立に影響を与えたその日食は、いつ、どこで起こった のか? 実は、3世紀の北九州で皆既
日食が起こっているのです。 247年3月24日の日食ですが、皆既日食が見られるのが北九州以西。近畿地方
では日没 が早いため、部分日食のまま太陽が沈んでしまいます。つまり、岩戸隠れが中途半端に終わる。こ
れでは卑弥呼の神格化は起こらない。

邪馬台国は、北九州にあったのです。

魏志倭人伝の時代の方位とは <http://www.geocities.jp/oden1947/houi.html> 倭国方位標準線. 本項で考察した
ところ、魏志倭人伝の時代の方位とは、太陽の運行線 (黄 道)を経度緯度の基準にした方位であることが解り
ました。... 図 1-2 参照しかし、磁石の 北は、地軸が太陽方向に傾いているために、それより東にぶれます。
この傾きの ... 本項で考察したところ、魏志倭人伝の時代の方位とは、太陽の運行線(黄道)を経度緯度の 基準
にした方位であることが解りました。 それと直角が、南北の方角です。 したがって、現在の方位と30度ほど、
ずれています。 (4)魏志倭人伝時代と現代の「南北」

故に、現代の地図から見れば、魏志倭人伝時代の「北」とは、約30度、西に傾くのです。図1-1参照 魏志倭人
伝時代の方位の「北」とは、壱岐→対馬と平行になりました。これで、図1と整合しま した。

地球の磁場の変動、原因は海流か ...[http://www.nationalgeographic.co.jp/news/news_article.php?](http://www.nationalgeographic.co.jp/news/news_article.php?file_id=82599137)

file_id=82599137 太陽から放出される太陽風(荷電粒子の流れ)を地球上の生命体が直接浴びると害を被る 恐
れがあるが、高度数千キロの宇宙空間にまで広がる地球の磁場が盾の役割を果たしている。 最も有力な説であ
るダイナモ理論によると、この地球の磁場は核の対流運動によって生じ ているとされる。地球の中心核は内核
と外核に分かれており、自転している固体の内核の外 側で、液体である導電性の外核は対流運動を行っている
という。 地球の磁場は、棒磁石の周囲に形成される静的な磁場と違って方向が常に変動している。 航海士は
数世紀も前の時点で既に、方位磁針が指す北の方向はそのときの所在地によって微 妙にずれることを発見して
いた。

2世紀から 3世紀の日本に、邪馬台国は存在しました。といっても、当時 ... 1:邪馬台国には 7万余戸の家
あったとあるが、それほど大きな国は、当時大和にしかありえない。...からのプ ラズマの風(太陽風)が激しく
大量に吹き出して宇宙空間へ流れ出している。 <http://www.enjoy.ne.jp/~ubik/ozon.htm>

<http://help.yahoo.co.jp/group/toraijinkenkyuu/>

----- 以上は、新着順 1番目から 10番目まで
の記事です。1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 |《前のページ | 次のペ
ージ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入 力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検 索した動画を記事に埋め込むことが
できます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チ ャット] [お
絵かき twitter] RSS

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

----- Re: 案山子説は成立しない 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 2 月 24 日(金)22 時 50 分 9 秒 返信引用 編集済 > No.118[元記事へ]

秦野さん、案山子さん、ご意見ありがとうございます。

狗奴国がどこにあったのか?なぞが深まる場所ですが、イメージ図を作成したので、紹介 いたします。

対馬あたりで南北の軸がずれて、すこし北西に軸が傾いた見方をしているのではないかと疑 ってます。

それで東治の東も、九州南部から中部あたりになってきて、女王国の東も四国・近畿方面に なるかもしれません。

沖縄は、女王国の南 4 千里に位置していた朱儒国となりますね。

それで、台湾・沖縄方面を論じるうえでは、やはり海南島・九州・琉球とともに、東?人につ いても忘れてはならないでしょう。

會稽海外有東?人、分為二十餘國。又有夷洲及?洲。傳言秦始皇遣方士徐福將童男女數千人入海、 求蓬?神仙不得、徐福畏誅不敢還、遂止此洲、世世相承、有數萬家。人民時至會稽市。會稽東冶縣 人有入海行遭風、流移至?洲者。所在絕遠、不可往來。

会稽の海の外に東?人があり、二十余国に分かれている。また、夷洲および?洲がある。伝承 によると、秦の始皇帝が方士の徐福を遣わし、数千人の少年少女を連れて海に入った。蓬?山の神仙を探し求めたが、出会えず、徐福は誅罰を畏れて敢えて帰らず、遂にこの島に留まった。 代々に相伝し、数万家を有した。人民は時に会稽に至り交易する。会稽東冶県の人が海に入っ て航行し風に遭い、漂流して?洲に至る者がいる。絶海の遠地に在り、往来すべきではない。

「会稽の海の外」「会稽東冶県の人」という形で、会稽の観念が出てきますね。夷洲および?洲 という 2 種類の「洲」は島の意味です。徐福伝承が記されていて、「絶海の遠地に在り、往来す

べきではない。」としてます。「数万家」はかなりの人数。時折会稽東治にやってくるだけの航 海能力があるようですね。?はイワシの意味だそうです。漁民を感じさせますね。

二十余国あるということは、そこそこ国をつくるだけの人口が、その島にないといけない計 算ですから、そう考えていくと、琉球方面と見るのが、妥当かなと感じます。

ただ魏志では、これらの国のことを、朱儒国としたのかもしれません。

それで狗奴国は、数万戸で構成される大国ですから、やはり沖縄・九州・四国のような大き な島ではなかったかと感じるんですね。ただ島という記載がないので、九州・四国方面が妥 当な感じがします。

狗奴国が、女王国の東にあったのか、南にあったのかですが、四国という地域は、高知方面に 青銅器関連の遺跡が多くあって、徳島方面にいくと、ホタテ貝式古墳なども出てきますよね。

海流面からみれば、九州南部からの黒潮関係や大分方面とのつながりもあったかもしれま せん。九州南部から四国にかけての遺跡関連のつながりを調べてみたいところです。

そして両国の抗争の地は、海を挟んでいたのか、あるいは陸の境界だったのか?この辺も気 になる場所です。

Ads by Google ----- 案山子説は成立しない

投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 24 日(金)13 時 53 分 50 秒 返信引用 編集済 馬韓の面積と国数を見る限り、過密すぎるので成立しない。古代には九州で 20 数力国あった 馬韓の国数から九州ぐらゐの広さが必要。九州(35,000 平方 Km)。

韓半島には馬韓(案山子説では対馬の半分)「地合方四千餘里」の面積は一辺が四千里ではありません。「地合方四千餘里」とは、縦・横一里の正方形、4000 個に相当する面積です。 ですから、「地合方四千餘里」を平方キロに換算すると、

1800 尺×24cm の二乗で 0.432km×0.42km×4000=746.496 平方キロ

に、成ります。

●馬韓 狗盧国、卑彌国、監奚卑離国、辟卑離国、一離国、不彌国、狗素国、捷盧国、牟盧卑離国、莫盧国、如來卑離国、楚山塗卑離国、一難国、狗奚国、不斯漬邪国、乾馬国、楚離国、

●弁辰韓 (弁辰)樂奴国、彌烏邪馬国、狗邪国、走漕馬国、安邪国(馬延国)、?盧国がある。(辰韓)軍彌国(弁軍彌国斯盧国)

----- Re: このパズルは解けますか。 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 24 日(金)13 時 33 分 38 秒 返信・引用 > No.116[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。 案山子さんの回答ですが具体的な場所はどこですか?、九州では広すぎる。 拘奴国の位置問題です。拘奴国に『九州』を入れますた。

1.魏志倭人伝では『女王国より、特に南の『九州』の男王卑弥弓呼と不和で戦争状態にあつた。』 1.『後漢書』倭人伝『女王国より東に海を渡ること千余里で『九州』に至る。』

ヒントは拘奴国は女王国に属さない。案山子さんは「拘奴國」は「女王國」内に在るが、「不屬 女王」。

この問題の注意点は『東南に裸国や黒齒国も在り、船で行くこと一年で至るとか。』侏儒国が 存在します。

『九州』『三国志魏書』倭人伝
女王国より、特に南の拘奴国。

その南に侏儒(こびと)国が在り、女王国から四千余里。
また、その東南に裸国や黒齒国も在り、船で行くこと一年で至るとか。

『後漢書』倭人伝
女王国より東に海を渡ること千余里で拘奴国に至る。
女王国より南に四千余里で朱儒国に至る。
朱儒より東南に航行すること一年で裸国と黒齒国に至る。

> この行程地図では、九州が抜けている。つまり、「拘奴國」は九州です。 >>「邪馬壹【臺】國」卑彌呼と「拘奴國」卑弥弓呼が戦争状態にあったと云う解釈も事実無 根でしょう。地理条件的にそのような状況を想定することに無理がある。

>>>1.『後漢書』の問題点。 >「不屬女王」との記述は有っても「不屬女王国」という記述は有りません。 >「拘奴國」は「女王國」内に在るが、「不屬女王」。

----- Re: このパズルは解けますか。 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 24 日(金)13 時 08 分 55 秒 返信・引用 秦野北斗さんへのお返事です。

> 拘奴国の位置問題です。 >> 1.魏志倭人伝では『女王国より、特に南の拘奴国の男王卑弥弓呼と不和で戦争状態にあつた。』 >

- > 1.『後漢書』倭人伝『女王国より東に海を渡ること千余里で拘奴国に至る。』 >
- > ヒントは拘奴国は女王国に属さない。 > 1. 志倭人伝ではの問題点。

「其南有拘奴國」の「其」とは 「自女王國以北」に在る「次有斯馬國~ 次有奴國 此女王境界所盡」ことです。此处で云う「自女王國」とは「對海【馬】國」で沖縄本島を刺します。 その「以北」は、「狗邪韓國」の領域である台湾・八重山諸島です。

秦野北斗さんに UP していただいた。反転地図をみてください。 八重山諸島(「狗邪韓国」)の南に在るのは、先ず南千余里で「對海【馬】國」、更に千余里南で 一大国、更に南で末盧国ですが、一大国の差し渡しは三百里ですから、 この行程地図では、九州が抜けている。つまり、「狗奴國」は九州です。

「邪馬臺【臺】國」卑彌呼と「狗奴國」卑弥弓呼が戦争状態にあったと云う解釈も事実無根 でしょう。地理条件的にそのような状況を想定することに無理がある。

>1.『後漢書』の問題点。 「不屬女王」との記述は有っても「不屬女王國」という記述は有りません。 「狗奴國」は「女王國」内に在るが、「不屬女王」。

>『後漢書』倭人伝 >O「倭在韓東南大海中、依山島為居、凡百餘國。自武帝滅朝鮮、使驛通於漢者三十許國、國皆稱 王、世世傳統。其大倭王居邪馬臺國。樂浪郡徼 去其國萬二千里、去其西北界拘邪韓国七千餘 里。其地大較在會稽東冶之東」

「樂浪郡徼」の「徼」に起点の意はありません。 この起点は後漢の国都長安(一応)です。 「樂浪郡徼」は長安からどの方向へ向かったかの通過地点を示したものです。

長安⇒錦州市(1,323.391km)⇒丹東市(295.621km)⇒平壤(179.419km)⇒糸満市 (1,439.365km) 長安~糸満市は 3,237.796km で約 7494.9 里。 7494.9 里から「?國五百里爲都」の五百里を引くと 6994.9 里。 六千九百九十四.九里は去其西北界拘邪韓国七千餘里と同数値である。

----- Re: このパズルは解けますか。 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 24 日(金)00 時 16 分 11 秒 返信・引用 > No.113[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 拘奴国の位置問題です。 >> 1.魏志倭人伝では『女王国より、特に南の拘奴国の男王卑弥弓呼と不和で戦争状態にあった。』 >> 1.『後漢書』倭人伝『女王国より東に海を渡ること千余里で拘奴国に至る。』 >> ヒントは拘奴国は女王国に属さない。

これはかなり難問ですね…(^.^、

後漢書は、400 年代のものですが、かなり後漢当時の文献を拾っているようです。 倭についての記載も、そこそこ信用できるだろうと感じます。後漢末の霊帝あたりまで編纂 が続いていたようですし、東夷伝が記されたのも最後の最後ではないかと感じます。

拘奴国の位置が南と東で相違するのには驚きました。
漢代に女王国の東にあったものが、魏の時代に南になる…。

『後漢書』倭人伝 > 倭は韓の東南、大海中の山島に拠って暮らす。 そこの大倭王は邪馬臺国に居する。楽浪郡の境界から、その国までは一万二千里。その西北 界の拘邪韓国から七千余里。その地は凡そ会稽郡東冶の東に在り、(海南島の)朱崖や?耳と 相似しており、その法俗も多くが同じである。

倭の西北界に拘邪韓国が来るのは、特に異論ない感じです。拘邪韓国は、すると倭の一部だったのでしょうか。翻訳の仕方が気になります。

拘邪韓国から 7 千里というのは面白いですね。楽浪から拘邪韓国までが 5 千里、そこから女王国までが 7 千里という計算ですね。だいたい楽浪境界から、拘邪韓国までの距離にプラス アルファくらいで、届くことになりそうですから、三千里を拘邪韓国からマツロ国・伊都国までの距離と換算すると、あと 4 千里南?にある計算でしょうか。西都原とか吉備あたり…?

ところが、拘奴国の位置が変わってしまうのが不思議です。

海を渡って東千余里の同じ記載は魏志にもあるものの、拘奴国とは断定しなくなっているん ですね。

魏志では南に変化させてしまっている…。

女王国の位置や拘奴国の位置が、時代によって変化移動したのか?あるいは方位の見方が変わったのか…。

後漢書ですでに台湾の記載は別にあるので、これはこれでいいと思うんです。

>『女王国より東に海を渡ること千余里で拘奴国に至る。』いずれも倭種とはいえども女王 には属していない。女王国より南に四千余里で朱儒国に至る。その人の身長は三~四尺。朱 儒より東南に航行すること一年で裸国と黒齒国に至る。使訳の伝える所はこれに尽きる。

「使訳の伝える所」という記載がおもしろいですね。やはり後漢書のこれらの記載は、倭人か らの又聞きの話です。水行・陸行の話が出てくるのは、魏の時代で、使者が現地に行った見聞 録からでしょうね。

あと、倭奴国が、倭の極南界としているのも驚きです。魏志の記載ならば、奴国はその北にある国々の中で最北界?になってますから…。いずれにせよ、界の国が奴国であることに は変わりません。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/wakoku-kanbun2-gokan.htm>

ちょっと頭をひねる必要がありそうですね。フロに入って考えて見ます。

----- Re: 魏志の倭韓国名の共通性 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 2 月 23 日(木)23 時 18 分 54 秒 返信・引用 > No.110[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 おっしゃる通り。中国史籍の文章に従います。 新羅=新盧は馬韓より別れた。また、秦からの亡命者を辰韓に住ませた。… 辰韓と倭国が接していた。状況証拠ですな。

●馬韓

狗盧国、狗素国、狗奚国、(弁辰韓)狗邪国、(倭国)狗奴国
捷盧国、莫盧国、(新羅)新盧、牟盧、(倭国)末盧国、楚一難国、不斯瀆邪国、
(弁辰韓)安邪国、乾馬国、(弁辰韓)走漕馬国、(倭国)投馬国、
不彌国、卑彌国、(辰韓)軍彌国、(倭国)不弥国、
監奚卑離国、辟卑離国、山塗卑離国、如來卑離国、卑離国、
一離国、楚離国、

●弁辰韓 (弁辰)樂奴国、彌烏邪馬国、狗邪国、走漕馬国、安邪国(馬延国)、?盧国がある。 (辰韓)軍彌国(弁軍彌国斯盧国)

●倭国 対馬国、一大国、伊都国、奴国、邪馬台国、斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、

可能性もありますね。 東北の南部鉄瓶は辰韓の伝統を引継ぐみたいです。秦野の古代史から出てきた結果です。

> これらのことから、それらの地域が、奴国・邪馬台国と同系の文化圏にあったことがあき らかになるでしょう。同じ意味を持つ慣用句が国名になっている可能性もありますね。

----- このパズルは解けますか。投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 2 月 23 日(木)21 時 30 分 29 秒 返信・引用 編集済 拘奴国の位置問題です。

1.魏志倭人伝では『女王国より、特に南の狗奴国の男王卑弥弓呼と不和で戦争状態にあった。』

1.『後漢書』倭人伝『女王国より東に海を渡ること千余里で拘奴国に至る。』 ヒントは拘奴国は女王国に属さない。

魏志倭人伝 女王国より北方にある、対馬国、一大国、末盧国、伊都国、奴国、不弥国、投馬国、邪馬台国の他に、遠くに在って国名だけしか分からない国として斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、

好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬 国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国があり、女王国はこれら 20 数カ国を支配していた。 日本列島の全てを支配した訳ではなく連合領域外の国々もあり、『特に南の狗奴国の男王卑 弥弓呼と不和で戦争状態にあった。』

『後漢書』倭人伝

倭在韓東南大海中、依山島為居、凡百餘國。自武帝滅朝鮮、使驛通於漢者三十許國、國皆稱王、世世傳統。其大倭王居邪馬臺國。樂浪郡徼去其國萬二千里、去其西北界拘邪韓國七千餘里 其地大較在會稽東冶之東、與朱崖、?耳相近、故其法俗多同。

倭は韓の東南、大海中の山島に拠つて暮らす。およそ百余国。前漢の武帝が朝鮮を滅ぼしてより、漢に使訳(使者と通訳)を通じてくるのは三十国ほど。国では皆が王を称することが代々の伝統である。その大倭王は邪馬臺國に居する。樂浪郡の境界から、その国までは一万二千里。その西北界の拘邪韓國から七千余里。その地は凡そ会稽郡東冶の東に在り、(海南島の)朱崖や?耳と相似しており、その法俗も多くが同じである。

『自女王國東度海千餘里至拘奴國。』雖皆倭種、而不屬女王。自女王國南四千餘里至朱儒國、人長三四尺。自朱儒東南行船一年、至裸國、黑齒國、使驛所傳、極於此矣。

『女王國より東に海を渡ること千余里で拘奴國に至る。』いずれも倭種とはいへども女王には属していない。女王國より南に四千余里で朱儒國に至る。その人の身長は三~四尺。朱儒より東南に航行すること一年で裸國と黒齒國に至る。使訳の伝える所はこれに尽きる。

----- Re: 千余里 投稿者:案山子 投稿日:2012年 2月 23日(木)13時 19分 23秒 返信・引用 > No.109[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>

- >> 後漢書の
- >> 「去其西北界拘邪韓國七千餘里」
- >> 「自女王國東度海千餘里至拘奴國 雖皆倭種 而不屬女王」
- >> 「拘」を追求する必要がある。 >

後漢書の「拘邪韓國」は魏志倭人伝の「對海【馬】國」にあたなり、
後漢書の「拘奴國」は魏志倭人伝の「一大國」にあたる。

全て、「自」の正しい解釈による。

----- Re: 千余里 投稿者:案山子 投稿日:2012年 2月 23日(木)12時 47分 23秒 返信・引用

> No.107[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

>> 折角地図を Up して頂いたのですが、>> 残念ながら、「反時計方向に 90 度」のちずでした。 >

反転地図 UP ありがとうございます。

倭人伝には、「始度一海千余里 至對海【馬】國」「又南渡一海千余里名曰瀚海 至一大國」「又渡一海千余里至末廬國」と、有ります。つまり「其北岸拘邪韓國」から千余里(432km~444km)の南下を三回繰り返しています。

「其北岸拘邪韓國」を現台湾・満州郷(北緯 22 度 02 分 38 秒)として 千余里(緯度的に 4 度、約 444km)南下した地点は会稽東冶で現福州市(北緯 26 度 04 分 28 秒)、その東は沖縄・糸満市(北緯 26 度 07 分 25 秒)、所謂、ここから差し渡し 400 里が對海【馬】國。

会稽東冶・現福州市(北緯 26 度 04 分 28 秒)から、千余里(緯度的に 4 度、約 444km)南下した地点は会稽・現紹興市(北緯 29 度 59 分 45 秒)、その東は口之島(北緯 29 度 57 分 46 秒)所謂此処から差し渡し 300 里が一大國。

一大國である口之島(北緯 29 度 57 分 46 秒)から、千余里(緯度的に 4 度、約 444km)南下した地点は北緯 34 度の末廬國、末廬國は北緯 33 度 57 分 28 秒に位置する下関市。

末廬國(下関市)から東南五百里(216km)に伊都国がある。伊都国の位置は現出雲です。「東南陸行五百里到伊都國」

秦野北斗さんへの UP して下さった地図でその位置を追うと 上記のようになる。

陳寿は、日本列島を時計方向に 90 度反転させて記述している。

----- 魏志の倭韓国名の共通性 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 2 月 23 日(木)05 時 38 分 56 秒 返信・引用 編集済 > No.109[元記事へ]

下記の馬韓・弁辰伝についての追記ですが、やはり倭国の領域に近づくとも国名も類似してくるようです。下記に抽出した国名が特に倭の 30 国の国名や官職名と、語的な共通性があります。具体的には「狗」「卑(離)」「一」「邪」「馬」「奴」「盧」「邪馬」「不彌」といったあたりです。

●馬韓 狗盧国、卑彌国、監奚卑離国、辟卑離国、一離国、不彌国、狗素国、捷盧国、牟盧卑離国、莫盧国、如來卑離国、楚山塗卑離国、一難国、狗奚国、不斯瀆邪国、乾馬国、楚離国、

●弁辰韓 (弁辰)樂奴国、彌烏邪馬国、狗邪国、走漕馬国、安邪国(馬延国)、?盧国がある。(辰韓)軍彌国(弁軍彌国斯盧国)

これらの倭国 30 国名との共通性は、馬韓では国名順の後半にあたる(おそらく)南部、弁韓では全体的に見えます。

これらのことから、それらの地域が、奴国・邪馬台国と同系の文化圏にあったことがあきらかになるでしょう。同じ意味を持つ慣用句が国名になっている可能性もありますね。

----- 以上は、新着順 11 番目から 20 番目までの記事です。1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 《前のページ | 次のページ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] [お絵かき] [twitter] [RSS]

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

----- Re: 千余里 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 22 日(水)21 時 17 分 40 秒 返信・引用 > No.108[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。 さっそくお返事ありがとうございます。

- > 後漢書の
- > 「去其西北界拘邪韓國七千餘里」
- > 「自女王國東度海千餘里至拘奴國 雖皆倭種 而不屬女王」
- > 「拘」を追求する必要がある。 >
- > 魏志の「狗邪韓國」と後漢書の「拘邪韓國」
- > 違いを明確にする事と、

- > 魏志の
- > 「女王國東渡海千余里復有國皆倭種」
- > の「復有國皆倭種」と後漢書の
- > 「拘奴國」の「倭種」の相違と二国のロケーションを明確にする事。

狗の音については、私も狗邪韓国と狗奴国との間に類似性を感じてますが、ただ他の諸国で 狗の語を持つ国もあるようで、その辺との兼ね合いが課題かもしれません。下記に魏志韓伝 に記された諸国を列記しておきます。ご参照ください。

●馬韓

爰婁国、牟水国、桑外国、小石索国、大石索国、優休牟?国、臣漬沽国、伯濟国、速盧不斯国、日 華国、古誕者国、古離国、怒藍国、月支国、咨離牟盧国、素謂乾国、古爰国、莫盧国、卑離国、占卑 国、臣鬱国、支侵国、狗盧国、卑彌国、監奚卑離国、古蒲国、致利鞠国、冉路国、兒林国、駟盧国、 内卑離国、感奚国、萬盧国、辟卑離国、曰斯烏旦国、一離国、不彌国、支半国、狗素国、捷盧国、牟 盧卑離国、臣蘇塗国、莫盧国、古臘国、臨素半国、臣雲新国、如來卑離国、楚山塗卑離国、一難国 狗奚国、不雲国、不斯漬邪国、爰池国、乾馬国、楚離国、おおよそ五十余国が在る。

●弁辰韓 弁辰もまた十二国、また諸々の小さな別邑があり、各自に渠帥(首領)がおり、大首領は

臣智と言ひ、その次に險側、次に樊?、次に殺奚、次に邑借がいる。 (弁辰には)彌離彌凍国、接塗国、古資彌凍国、古淳是国、半路国、樂奴国、彌烏邪馬国、甘路

国、狗邪国、走漕馬国、安邪国(馬延国)、?盧国がある。

(辰韓には)已祗国、不斯国、勤耆国、難彌離彌凍国、冉奚国、軍彌国(弁軍彌国)、如湛国、 戸路国、州鮮国(馬延国)、斯盧国、優由国がある。

●州胡国条 馬韓の西、海上の島に州胡国がある。その族人は背が低く小さく、髪がなく、衣服は毛皮で、 上着はあるが下穿きはない。巧みに牛や豚を飼育する。船で往来し、韓で交易する。

引用:<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/bakan-kanbun1-gisi.htm> 一応通説では、弁辰条の狗邪国が狗邪韓国とされてますね。

馬韓伝にも狗盧国、狗奚国が見えます。

Ads by Google ----- Re: 千余里 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 22 日(水)14 時 15 分 1 秒 返信・引用 管理人さんへのお返事です。 >> 当然、狗奴国も、どこかに朝貢したかもしれませんし、王の変遷もあったかもしれません。 狗奴国がイヨの時代以降もなおまだ存在し続けた可能性も感じますよね。 >

後漢書の

「去其西北界拘邪韓國七千餘里」

「自女王國東度海千餘里至拘奴國 雖皆倭種 而不屬女王」

「拘」を追求する必要がある。

魏志の「狗邪韓國」と後漢書の「拘邪韓國」

違いを明確にする事と、

魏志の

「女王國東渡海千余里復有國皆倭種」

の「復有國皆倭種」と後漢書の

「拘奴國」の「倭種」の相違と二国のロケーションを明確にする事。

> また、90 度反転させて図を見ると、いろいろ考えさせられます。

>> 呉から倭に向かおうとするならば、確かに朝鮮半島よりも、台湾、琉球経由で行こうとする だろうこともよくわかりますし、DNAの流れがそれを裏付けているようです。 > 台湾ルートは公孫氏の時代並びに魏の時勢は封鎖されていたのです。 その検閲にあたっていたのが魏志の一大卒です。

魏志の狗邪韓國は八重山諸島と台湾ですで、「自女王國以北其戸道里可数得略載」の「次有斯馬國」から「次奴國」の 21 カ国です。

----- Re: 千余里 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 2 月 22 日(水)14 時 13 分 21 秒 返信・引用 編 集 済 > No.105[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。

案山子さんの中国語の解釈には相当な問題をかかえています。

皇、大也、從自王、自、始也、始王者三皇、大君也、自讀若鼻、今俗以始生子為鼻子是

(皇、大也、自・王に從ふ、自は始也、始めて王たりし者は三皇なり、大いなる君也、自は讀み て鼻の若くす、今の俗に始めて生まるる子を以て鼻子と為すは是れなり)。

> 清代段玉裁『?文解字注』に > 鼻也。象鼻形。此以鼻訓自。而又曰象鼻形。王部曰。自讀若鼻。今俗以作始生子為鼻子是。 > とあるように、 > 数人の子が有り、『始生子』が『鼻子』で「自」に当たる。 > 幾つかの「郡」が有ってその最初の「郡」が「自郡」。 > 又「自郡」と記述する時その視点は国都である。 > 「自帶方郡」と記述する時、視点は「帶方」で「起点も帶方」です。 > その「視点、起点である帶方」から幾つかの「郡」通過して「女国」に至るを、 > 「自帶方至女國」と記述される。 > 「帶方」から「韓国」方向への「郡」は存在しませんから、必然的に行程方向は大陸へ向かう。

『始生子』が『鼻子』で「自」に当たる。間違い、「自讀」がセットで「自」接尾辞で「自讀」は自から 読む 「自帶方至女國」の「自」は介詞、帶方から…になる。

自の品詞

副詞

みずから、おのずから。

介詞

(文語 移動の起点)~から、~より。

(文語 時間の起点)~から、~より。

从/從 対語 至:~まで

接尾辞

(動詞に前置し「自ら~する」の意の動詞を形成)

動詞の前 抗議電話自全国紛紛打来。(抗議の電話が全国からかかってくる。) 本航班自北京飛往東京羽田机场。(本機は北京より東京羽田空港へ向かいます。)

動詞の後 来自農村的青少年。(農村より来た青少年。)"自.....而....."

自上而下(上から下へ) 自左而右(左から右へ) 自遠而近(遠くから近くへ) から/.....より

自入冬以来,我總是咳嗽。(冬になってから,わたしはずっと咳き込んでいる。) 今天是自入夏以来最熱的一天。(今日は夏になってから最も暑い日である。)

自古以来,女人的敵人就是女人。(昔から、女性の敵は女性である。)

自明日起實施執行新規定。(明日より新規定を實施執行する。)

> 清代段玉裁『?文解字注』に > 鼻也。象鼻形。此以鼻訓自。而又曰象鼻形。王部曰。自讀若鼻。今俗以作始生子

爲鼻子是。 > とあるように、 > 数人の子が有り、『始生子』が『鼻子』で「自」に当たる。 > 幾つかの「郡」が有ってその最初の「郡」が「自郡」。 > 又「自郡」と記述する時その視点は国都である。 > 「自帶方郡」と記述する時、視点は「帶方」で「起点も帶方」です。 > その「視点、起点である帶方」から幾つかの「郡」通過して「女国」に至るを、 > 「自帶方至女國」と記述される。 > 「帶方」から「韓国」方向への「郡」は存在しませんから、必然的に行程方向は大陸へ向かう。

案山子さんへのお返事です。

>>> 台湾から北緯 39 度までを時計方向に 90 度反転させた地図を UP して頂けるとありがたいのですが。 >>>

> 折角地図を Up して頂いたのですが、 > 残念ながら、「反時計方向に 90 度」のちずでした。

----- Re: 案山子説の邪馬台国は平泉 投稿者: 案山子 投稿日:2012 年 2 月 22 日(水)13 時 45 分 19 秒 返信・引用 編集済 > No.102[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> どうも、理解できない。対馬国と馬韓を比較すると対馬国は馬韓の 2 倍になる。 > 魏志には「對海【馬】國」の地積記述は有りません。「方可四百里」は「對海【馬】國」の差し渡し距離です。「對海【馬】國」の地積記述が有りませんから馬韓との地積比較は不可能です。

> 魏志は帶方郡を基点にしているので、案山子説の > 邪馬台国は平泉になる。当時、常陸以北は倭国に属していないので、候補外になる。 > 案山子は、平泉を邪馬壹【臺】國に比定したことはありません。平泉は女王国と男王国の境界 とおいています。

----- Re: 千余里 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 22 日(水)12 時 26 分 3 秒 返信・引用 編集済 > No.100[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 自帶方至女國」帶方から女國に至る。万二千餘里。これはもろに韓国です。 > 「自」は一般的には『……より』と翻訳され起点を意味すると言われていています。 起点とすることは問題ありませんが『……より』という解釈には問題があります。

清代段玉裁『文解字注』に 鼻也。象鼻形。此以鼻訓自。而又曰象鼻形。王部曰。自讀若鼻。今俗以作始生子爲鼻子是。 とあるように、 数人の子が有り、『始生子』が『鼻子』で「自」に当たる。 幾つかの「郡」が有ってその最初の「郡」が「自郡」。 又「自郡」と記述する時その視点は国都である。

「自帶方郡」と記述する時、視点は「帶方」で「起点も帶方」です。 その「視点、起点である帶方」から幾つかの「郡」通過して「女国」に至るを、「自帶方至女國」と記述される。

「帶方」から「韓国」方向への「郡」は存在しませんから、必然的に行程方向は大陸へ向かう。

> 帶方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000 余里で倭国の 北岸の狗邪韓国(くやかんこく)に到着する(「從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到 其北岸狗邪韓國七千餘里」)。 は、魏志であり魏略の原文ではありません。また、魏志の原文は、「自郡至女王國萬二千余里」で、『帶方』との記述はありません。

「自女王國」と「女王國」も同じ様に峻別して解釈しなければなりません。「自女王國」が「對海【馬】國」ですから「女王國」との記述は邪馬壹【臺】國と同義です。

----- Re: お願い 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 22 日(水)11 時 46 分 44 秒 返信・引用 > No.99[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>>> 台湾から北緯 39 度までを時計方向に 90 度反転させた地図を UP して頂けるとありがたいのですが。

> 折角地図を Up して頂いたのですが、

残念ながら、「反時計方向に 90 度」のちずでした。 -----

Re: 千余里 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 22 日(水)08 時 55 分 49 秒 返信・引用 編集済
> No.101[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

専門家は古代の遺物を見て、FS 小説に負けない創造をする。しかし、お粗末な者が多い。

台湾、琉球経由は古代、紀元前に大きなもので 3 回有った。縄文ストーンサークルも説明できるが後日にしたい。案山子説の問題点は、魏志倭人伝の邪馬台国への行程は 2 世紀なので、航路、道程を考えると、存在しない。この際、岩手県も登録したら。

秦野著書、徐福と邪馬台国の邪馬台国が平泉とよく似ているです。片田舎状態まさに夏草や 兵どもが夢の跡 (なつくさや つわものどもが ゆめのあと)なんです。帯方群、伊都国、倭奴 国…同様。芭蕉の碑がまるでストーンサークルです。案山子説もわるくないな。

誰も場所、地名と卑弥呼は誰かを特定していない。しかし、秦野は邪馬台国、墓を見ることができたので幸せかもしれない。以下、歴史の放浪者。

(比定地) 福岡県 (提唱者) 新井白石 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 外国之事調書 (比定地) 福岡県 (提唱者) 星野悟 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) 田油津媛の先代 (著書) 日本国号考

(比定地) 福岡県 (提唱者) 久米邦武 (場所・地名) 博多 (卑弥呼?) 筑紫国造 (著書) 住吉社は委奴の祖神
(比定地) 福岡県 (提唱者) 橋本増吉 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) 一女酋 (著書) 邪馬台国及び卑弥呼に就いて

(比定地) 福岡県 (提唱者) 津田左右吉 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) 一女酋 (著書) 邪馬台国の位置について (比定地) 福岡県 (提唱者) 井上光貞 (場所・地名) 九州北部 (卑弥呼?) 天照大神 (著書) 日本の歴史

(比定地) 福岡県 (提唱者) 和辻哲朗 (場所・地名) 九州北部 (卑弥呼?) 天照大神 (著書) 日本古代文化 (比定地) 福岡県 (提唱者) 植村清二 (場所・地名) 久留米市・三井郡 (卑弥呼?)

(著書) 邪馬台国・狗奴国・投馬国 (比定地) 福岡県 (提唱者) 榎一雄 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) (著書) 魏志 倭人伝の里程記事について (比定地) 福岡県 (提唱者) 牧健二 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国問題の解決のために (比定地) 福岡県 (提唱者) 喜田貞吉 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) 大和朝廷配下の九州の王 (著書) (比定地) 福岡県 (提唱者) 藤間生大 (場所・地名) 北九州 (卑弥呼?) (著書) 埋もれた金印 (比定地) 福岡県 (提唱者) 阿部秀雄 (場所・地名) 筑後川流域 (卑弥呼?) (著書) (比定地) 福岡県 (提唱者) 重松明久 (場所・地名) 京都郡 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国の研究 (比定地) 福岡県 (提唱者) 坂田隆 (場所・地名) 田川市・京都郡 (卑弥呼?) (著書) 邪馬一国の歴史 (比定地) 福岡県 (提唱者) 実吉達郎 (場所・地名) 九州北部 (卑弥呼?) (著書) 動物から推理する邪馬台国 (比定地) 福岡県 (提唱者) 大林太良 (場所・地名) 北九州沿岸 (卑弥呼?) シャーマン (著書) 邪馬台国 (比定地) 福岡県 (提唱者) 木村俊夫 (場所・地名) 甘木市 (卑弥呼?) (著書) 邪馬一国とその周辺 (比定地) 福岡県 (提唱者) 中堂観恵 (場所・地名) 八女郡 (卑弥呼?) 日の御子 (著書) 邪馬台国 (比定地) 福岡県 (提唱者) 中島河太郎 (場所・地名) 北九州 (卑弥呼?) 巫女 (著書) 女王国探検 (比定地) 福岡県 (提唱者) 田中卓 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) (著書) 海に書かれた邪馬台国 (比定地) 福岡県 (提唱者) 大谷光男 (場所・地名) 北九州 (卑弥呼?) シャーマン (著書) 研究史金印 (比定地) 福岡県 (提唱者) 森浩一 (場所・地名) 北部九州 (卑弥呼?) 豪族 (著書) 日本の古代文化 (比定地) 福岡県 (提唱者) 松本清張 (場所・地名) 博多一帯 (卑弥呼?) 巫女 (著書) 古代史疑 (比定地) 福岡県 (提唱者) 安本美典 (場所・地名) 甘木市・朝倉郡 (卑弥呼?) 天照大神 (著書) 邪馬台国への道 (比定地) 福岡県 (提唱者) 村山義男 (場所・地名) 甘木市 (卑弥呼?) 天照大神

(著書) 邪馬台国と金印 (比定地) 福岡県 (提唱者) 古田武彦 (場所・地名) 福岡市 (卑弥呼?) (著書) 邪馬

台国はなかった (比定地) 福岡県 (提唱者) 奥野正男 (場所・地名) 博多・吉野ヶ里 (卑弥呼?) (著書) 吉野ヶ里遺跡の謎 (比定地) 福岡県 (提唱者) (場所・地名) 甘木朝倉に及ぶ (卑弥呼?) (著書) (比定地) 福岡県 (提唱者) 松田正一 (場所・地名) 太宰府市近辺 (卑弥呼?) (著書) まぼろしではない邪馬台国 (比定地) 福岡県 (提唱者) 川野京輔 (場所・地名) 北九州 (卑弥呼?) シャーマン (著書) 邪馬台と出雲 (比定地) 福岡県 (提唱者) 山村正夫 (場所・地名) 筑後川流域 (卑弥呼?) 女酋巫女 (著書) 日本のクイレオパトラ (比定地) 福岡県 (提唱者) 日影丈吉 (場所・地名) (卑弥呼?) 巫女 (著書) 女王 国の展望 (比定地) 福岡県 (提唱者) 高倉盛雄 (場所・地名) 朝倉郡 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国は筑紫にあった (比定地) 福岡県 (提唱者) 佐治芳彦 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬一国 抹殺の謎 (比定地) 福岡県 (提唱者) 村山健治 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) 教祖族長 (著書) 誰にも書けなかった (比定地) 福岡県 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国 (比定地) 福岡県 (提唱者) 鯨清 (場所・地名) 北九州 (卑弥呼?) 天照大神 (著書) 卑弥呼は天照大神である (比定地) 福岡県 (提唱者) 吉田修 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) シャーマン (著書) 邪馬台国の終焉と復活 (比定地) 福岡県 (提唱者) 佐藤鉄章 (場所・地名) 太宰府 (卑弥呼?) (著書) 隠された邪馬台国 (比定地) 佐賀県 (提唱者) 藤沢偉作 (場所・地名) 筑紫平野 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国は沈まず (比定地) 熊本県 (提唱者) 白鳥庫吉 (場所・地名) 菊池郡山門 (卑弥呼?) (著書) (比定地) 熊本県 (提唱者) 近藤芳樹 (場所・地名) 菊池郡山門 (卑弥呼?) 九州の 一豪族 (著書) 征韓起源 (比定地) 熊本県 (提唱者) 藤井甚太郎 (場所・地名) 阿蘇郡 (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 邪馬台国の所在に就いて (比定地) 熊本県 (提唱者) 藤芳義男 (場所・地名) 阿蘇郡蘇陽町 (卑弥呼?) 百襲

姫 (著書) 倭日の国 (比定地) 熊本県 (提唱者) 古屋清 (場所・地名) 玉名郡江田村 (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 江田村の古墳 (比定地) 熊本県 (提唱者) 安藤正直 (場所・地名) 下益城郡佐俣町 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台は福岡県山門郡 (比定地) 熊本県 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) に非ず (比定地) 熊本県 (提唱者) 工藤篁 (場所・地名) 人吉市 (卑弥呼?) ? (著書) (比定地) 熊本県 (提唱者) 鈴木武樹 (場所・地名) 山鹿市 (卑弥呼?) (著書) 日本古代史 99 の謎 (比定地) 熊本県 (提唱者) 李鉦埼 (場所・地名) 八代市 (卑弥呼?) インドの王女 (著書) Time of India (比定地) 熊本県 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 卑弥呼渡来の謎 (比定地) 熊本県 (提唱者) 黛弘道 (場所・地名) 山門郡 (卑弥呼?) (著書) (比定地) 熊本県 (提唱者) 石崎景三 (場所・地名) 東九州 (卑弥呼?) (著書) 鉄 剣と鏡が語る (比定地) 熊本県 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国 (比定地) 熊本県 (提唱者) 岩下徳蔵 (場所・地名) 菊池川流域 (卑弥呼?) 豪族の娘 (著書) 稲の道の果てに (比定地) 熊本県 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国はあった (比定地) 大分県 (提唱者) 大羽弘道 (場所・地名) 周防灘沖合海中 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国は沈んだ (比定地) 大分県 (提唱者) (場所・地名) (知珂島) (卑弥呼?) (著書) (比定地) 大分県 (提唱者) 山本武雄 (場所・地名) 別府湾岸 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国の地理像 (比定地) 大分県 (提唱者) 富来隆 (場所・地名) 宇佐市 (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 魏志「邪馬台」の位置に (比定地) 大分県 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 関する考察 (比定地) 大分県 (提唱者) 久保泉 (場所・地名) 宇佐市 (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 邪馬台国の所在とゆくえ (比定地) 大分県 (提唱者) 高木淋光 (場所・地名) 宇佐市 (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) (比定地) 大分県 (提唱者) 伊勢久信 (場所・地名) 宇佐市 (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) (比定地) 大分県 (提唱者) 安藤輝国 (場所・地名) 宇佐市 (卑弥呼?) 応神天皇一族 (著書) 邪馬台国と豊王国 (比定地) 大分県 (提唱者) 横堀貞次郎 (場所・地名) 中津市 (卑弥呼?) (著書)

(比定地) 大分県 (提唱者) 神西秀憲 (場所・地名) 宇佐神宮領地内 (卑弥呼?) (著書) 伝説で解く邪馬台国 (比定地) 大分県 (提唱者) 市村其三郎 (場所・地名) 宇佐市 (卑弥呼?) ? (著書)

(比定地) 大分県 (提唱者) 高橋ちえこ (場所・地名) 宇佐市 (卑弥呼?) 巫女 (著書) 深き誓いの邪馬台国 (比定地) 大分県 (提唱者) 平塚弘之 (場所・地名) 宇佐市 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国への行程

(比定地) 長崎県 (提唱者) 宮崎康平 (場所・地名) 島原半島 (卑弥呼?) (著書) まぼろしの邪馬台国 (比定地) 長崎県 (提唱者) 野津清 (場所・地名) 東彼杵郡 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国ここに在り

(比定地) 長崎県 (提唱者) 恋塚春男 (場所・地名) 佐世保市 (卑弥呼?) (著書) 真説邪馬台国 (比定地) 長崎県 (提唱者) 鈴木勇 (場所・地名) 大村湾東岸 (卑弥呼?) 天照大神 (著書) 邪馬台国は大村だった

(比定地) 宮崎県 (提唱者) 林屋友次郎 (場所・地名) 日向地方 (卑弥呼?) (著書) 天皇制の歴史的根拠 (比

定地) 宮崎県 (提唱者) 小田洋 (場所・地名) 延岡市構口 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台末廬(席田郡)説

(比定地) 宮崎県 (提唱者) 尾崎雄二郎 (場所・地名) 日向 (卑弥呼?) (著書) (比定地) 宮崎県 (提唱者) 高津道昭 (場所・地名) 霧島山周辺 (卑弥呼?) 巫女 (著書) 邪馬台国に雪は降らない (比定地) 宮崎県 (提唱者) 清水正紀 (場所・地名) 西都原 (卑弥呼?) 天照大神 (著書) 新説邪馬台国

(比定地) 宮崎県 (提唱者) 原田常治 (場所・地名) 西都市 (卑弥呼?) 天照大神 (著書) 古代日本正史 (比定地) 鹿児島県 (提唱者) 本居宣長 (場所・地名) 九州南部 (卑弥呼?) 熊襲の女首長 (著書) 馬戎慨言

(比定地) 鹿児島県 (提唱者) 鶴峰戊申 (場所・地名) 薩摩国・大隅国 (卑弥呼?) 熊襲の女首長 (著書) 襲国偽僭考 (比定地) 鹿児島県 (提唱者) 吉田東伍 (場所・地名) 薩摩国・そお (卑弥呼?) (著書)

(比定地) 鹿児島県 (提唱者) 那珂通世 (場所・地名) 大隅国姫木 (卑弥呼?) (著書) (比定地) 鹿児島県 (提唱者) 加治木義博 (場所・地名) 鹿児島 (卑弥呼?) (著書)

書) 異説・日本古代国家 (比定地) 鹿児島県 (提唱者) 王仲殊 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 日本の三角縁神獣鏡について (比定地) 鹿児島県 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) (比定地) 鹿児島県 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) (比定地) 鹿児島県 (提唱者) 提唱者 (場所・地名) 場所・地名 (卑弥呼?) 卑弥呼は誰? (著書) 著書・論文 (比定地) 鹿児島県 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 舎人親王 (場所・地名) 大和国(奈良県) (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 日本書紀 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 松下見林 (場所・地名) (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 異称日本伝 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 伴信友 (場所・地名) (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 中外経緯伝草稿 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 内藤虎次郎 (場所・地名) (卑弥呼?) 倭姫命 (著書) 卑弥呼考 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 稲葉岩吉 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 漢委奴国王印考 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 高橋健二 (場所・地名) (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 考古学上より見たる (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 末松保和 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 倭国に関する魏志 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 中山平次郎 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国及奴国 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) に関して (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 梅原末治 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 考古学上より見たる (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 上代の近畿 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 三宅米吉 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国について (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 山田孝雄 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 狗奴国考 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 藤田元春 (場所・地名) (卑弥呼?) 倭百日日倭姫命 (著書) 漢委奴国考 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 鈴木俊 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 倭人伝

の史料的研究 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 笠井新也 (場所・地名) 近畿内 (卑弥呼?) 倭百日日襲姫 (著書) 邪馬台国は大和である (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 橘良平 (場所・地名) (卑弥呼?) 倭彦命 (著書) (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 志田不動麿 (場所・地名) 大和国(奈良県) (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 上田正昭 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 日本古代国家成立史の研究 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 直木孝次郎 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 国家の発生 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 原田大六 (場所・地名) 畿内 (卑弥呼?) 倭百日日襲姫 (著書) 邪馬台国論争 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 田辺昭三 (場所・地名) 大和 (卑弥呼?) (著書) 謎の女王卑弥呼 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 由良哲次 (場所・地名) 大和 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国と大和 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 山尾幸久 (場所・地名) 大和 (卑弥呼?) (著書) 日本古代王権の成立過程について (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 小林行雄 (場所・地名) 大和 (卑弥呼?) (著書) 古墳の発生の歴史的意義 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 樋口隆康 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国問題 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 岡崎敬 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国問題 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 浜田敦 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 魏志倭人伝などに… (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 和歌森太郎 (場所・地名) (卑弥呼?) 倭百日日襲姫 (著書) 私観邪馬台国 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 肥後和男 (場所・地名) 大和三輪山麓 (卑弥呼?) 倭百日日襲姫 (著書) 邪馬台国は大和である (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 三品彰英 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台の位置 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 大庭脩 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 親魏倭王 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 鳥越憲三郎 (場所・地名) 大和郡山 (卑弥呼?) 物部氏一族 (著書) 古事記は偽書か

(比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 新妻利久 (場所・地名) 飛鳥 (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) やまと邪馬台国
(比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 佐原真 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 坂田隆
(場所・地名) (卑弥呼?) 倭姫命 (著書) 卑弥呼をコンピュータで探る

(比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 田口賢三 (場所・地名) 大和 (卑弥呼?) 神功皇后 (著書) 邪馬台国の誕生
(比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 青木慶一 (場所・地名) 大和 (卑弥呼?) 倭百日日 百襲姫 (著書) 邪馬台の
美姫

- (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 山口修 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) ふたつ の邪馬台国
- (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 西嶋定生 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書)
- (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 謝銘仁 (場所・地名) (卑弥呼?) (著書)
- (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書)
- (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書)
- (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) 提唱者 (場所・地名) 場所・地名 (卑弥呼?) 卑弥 呼は誰? (著書) 著
書・論文 (比定地) 奈良県(近畿) (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) (比定地) 滋賀県 (提唱者) 小島
信一 (場所・地名) 滋賀県琵琶湖畔 (卑弥呼?) 神 功皇后 (著書) 女王国家 (比定地) 京都府 (提
唱者) 江戸達郎 (場所・地名) 京都府京都市 (卑弥呼?) 神功 皇后 (著書) 京都新聞紙上 (比定地)
徳島県 (提唱者) 古代阿波研究会 (場所・地名) 阿波国(徳島県) (卑弥 呼?) 神功皇后 (著書) 邪馬
壱国は阿波だった (比定地) 和歌山県 (提唱者) 立岩巖 (場所・地名) 吉野から紀州一帯 (卑弥呼?)
(著書) 邪馬台国新考 (比定地) 山梨県 (提唱者) 奥平里義 (場所・地名) 山梨県逸見高原 (卑弥呼?)
(著書) 新日本誕生記 (比定地) エジプト (提唱者) 木村鷹太郎 (場所・地名) エジプト (卑弥呼?) (著
書) 日本太古小史 (比定地) ジャワ・スマトラ (提唱者) 内田吟風 (場所・地名) インドネシア (卑弥
呼?) 神功皇后 (著書) 朝日新聞紙上 (比定地) 北九州と大和 (提唱者) 海渡英祐 (場所・地名) 畿内
(卑弥呼?) (著 書) 二つの邪馬台国 (比定地) 四国松山 (提唱者) 浜田秀雄 (場所・地名) 愛媛県
(卑弥呼?) (著書) 切丹秘史と瀬戸内の

(比定地) 四国松山 (提唱者) (場所・地名) (卑弥呼?) (著書) 邪馬台国 (比定地) 長野県 (提唱者) 武智鉄二
(場所・地名) 諏訪地方 (卑弥呼?) 南シベリア族 の女王 (著書) 月刊歴史と旅 (比定地) 愛媛県 (提唱者)
大森忠夫 (場所・地名) 愛媛県川之江市一帯 (卑弥 呼?) (著書) 邪馬台国伊予説 (比定地) 大阪府 (提唱
者) 大熊規短男 (場所・地名) 大阪市 (卑弥呼?) (著書) 神社考古学 (比定地) 大阪府 (提唱者) 泉隆式 (場
所・地名) 難波 (卑弥呼?) (著書) 邪馬台 国の原点倭 (比定地) 石川県 (提唱者) 能坂利雄 (場所・地名) 羽
昨市 (卑弥呼?) 能登ヒメ (著書) (比定地) 滋賀県 (提唱者) 大内規夫 (場所・地名) 野洲市 (卑弥呼?) 天照
大神 (著書) (比定地) 総国(上総・安房) (提唱者) 鈴木正知 (場所・地名) 千葉県 (卑弥呼?) 巫 女 (著書) 邪
馬台国に謎はない (比定地) 千葉県 (提唱者) 伊藤邦之 (場所・地名) 我孫子市布佐 (卑弥呼?) (著 書) 邪
馬壱国 > 呉から倭に向かおうとするならば、確かに朝鮮半島よりも、台湾、琉球経由で行こうとする だろう
こともよくわかりますし、DNA の流れがそれを裏付けているようです。 >> あと楯築古墳の石柱の件は、問題
は墳丘の上にあることなんですね。そばだったなら私も 縄文ストーンサークルで処理したんですけどね…。

----- 案山子説の邪馬台国は平泉 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 2 月 22 日(水)01 時 19 分 53 秒 返信・引用 編集済 案山子さんへのお返事で
す。

どうも、理解できない。対馬国と馬韓を比較すると対馬国は馬韓の 2 倍になる。 案山子説には矛盾が多すぎ
る。ところで、洛陽ルートの朝貢は壱輿だと記憶します。 卑弥呼は帯方郡までの記録です。魏志は帯方郡を基
点にしているので、案山子説の 邪馬台国は平泉になる。当時、常陸以北は倭国に属していないので、候補外に
なる。

「對海【馬】國」は、現沖縄本島・糸満から沖永良部島迄ということになります。 沖縄本島に 1492.907 平方キロ
の円

「方可四百里」は面積を記述したものではありません。 對海【馬】國の差し渡し距離です。 四百里は
 $\approx 432\text{km} \times 0.4 = 172.8\text{km}$ になります。

韓半島には馬韓 「地合方四千餘里」の面積は一辺が四千里ではありません。「地合方四千餘里」とは、縦・横一里
の正方形、4000 個に相当する面積です。 ですから、「地合方四千餘里」を平方キロに換算すると、 1800 尺
 $\times 24\text{cm}$ の二乗で $0.432\text{km} \times 0.42\text{km} \times 4000 = 746.496$ 平方キロ に、成ります。

----- Re: 千余里 投稿者:管理人 投稿日:2012
年 2 月 21 日(火)22 時 46 分 39 秒 返信・引用 編集 済 > No.98[元記事へ]

案山子さん、秦野さん さっそくお返事ありがとうございます。

> 翰苑 卷第卅 蕃夷部 より 倭國 >>「魏略曰 女王之南 又有狗奴國 女男子爲王 其官曰拘右智卑狗 不属女王也
自帶 方至女國 万二千餘里 」 >

この唐代の文書はおもしろいですね。「拘右智卑狗」と記しており、「ククチヒコ」ではなく「キ ユウチヒコ」と読ま
せていることがわかります。「ク」ではなく「キウ」なんですね。この差は 個人的に大きな意味を感じてます。

「女男子爲王」とあるのも、魏志の「男王ヒミクコ」だけの記載から進化しており、魏志と別の 文献があったのでは
ないかと感じます。

先日の文献『隋書』倭国伝で、女王国だけではなく、属国である 30 余国の「諸王」も、それぞれ 王を自称してい
るとの記載も、魏志から「進化」しているケースでした。

魏の時代も、女王ヒミコが死んだのちに、イヨが就くまでの間、一時諸国がバラバラになって いた時代があり、
あるいはこの時代に諸王が、女王国同様に魏に同時に朝貢等をした可能性 もあるでしょうし、その記載がどこ
か魏志以外の文献にあった可能性も感じます。

当然、狗奴国も、どこかに朝貢したかもしれませんし、王の変遷もあったかもしれません。狗 奴国がイヨの時
代以降もなおまだ存在し続けた可能性も感じますよね。

また、90 度反転させて図を見ると、いろいろ考えさせられます。

呉から倭に向かおうとするならば、確かに朝鮮半島よりも、台湾、琉球経由で行こうとするだ ろうこともよく
わかりますし、DNA の流れがそれを裏付けているようです。

あと楯築古墳の石柱の件は、問題は墳丘の上にあることなんですね。そばだったなら私も縄 文ストーンサーク
ルで処理したんですけどね…。

----- Re: 千余里 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 2 月 21 日(火)18 時 59 分 7 秒 返信・引用 > No.98[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。 自帶方至女國」帯方から女國に至る。万二千餘里。これはもろに韓国です。

帯方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000 余里で倭国の北 岸の狗邪韓国
(くやかんこく)に到着する(「従郡至倭、循海岸水行、歴韓國、乍南乍東、到其 北岸狗邪韓國七千餘里」)。

> 翰苑 卷第卅 蕃夷部 より 倭國 >>「魏略曰 女王之南 又有狗奴國 女男子爲王 其官曰拘右智卑狗 不属女王也
自帶 方至女國 万二千餘里 」 >

- > の「自帶方至女國」の起点は「帯方」ですね。
- > 「帯方」から大陸へ、大陸から台湾そして女國=倭国ですね。
- > 「自帶方至女國」という記述は韓国を経由していません。 >

----- 以上は、新着順 21 番目から 30
番目までの記事です。1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 |《前のページ | 次の
ページ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] [お絵かき] [twitter] [RSS]

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

----- Re: お願い 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 21 日(火)18 時 30 分 26 秒 返信・引用 > No.97[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。

> 台湾から北緯 39 度までを時計方向に 90 度反転させた地図を UP して頂けるとありがたいのですが。
>> 宜しくお願い致します。

>>

Ads by Google ----- Re: 千余里 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 21 日(火)14 時 07 分 14 秒 返信・引用 編集 済 > No.93[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 同じく楯築の弧帯文石あたりとともに、台湾ルートでの邪馬台国への文化・測量技術の伝来も、最近考えは始めているところです。 >

翰苑 卷第卅 蕃夷部 より 倭國

「魏略曰 女王之南 又有狗奴國 女男子爲王 其官曰拘右智卑狗 不属女王也 自帶 方至女國 万二千餘里 」

の「自帶方至女國」の起点は「帯方」ですね。「帯方」から大陸へ、大陸から台湾そして女國=倭国ですね。「自帶方至女國」という記述は韓国を経由していません。

----- お願い 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 21 日(火)13 時 27 分 45 秒 返信・引用 秦野北斗さん

恐れい入りますが、台湾から北緯 39 度までを時計方向に 90 度反転させた地図を UP して頂けるとありがたいのですが。

宜しくお願い致します。

----- Re: 千余里 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 21 日(火)13 時 17 分 17 秒 返信・引用 > No.92[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>

- > 案山子説には無理がある。 >
- > 韓半島には馬韓があるが、以下の文章の説明ができますか。 >
- > 案山子説で地図をかくと添付になる。倭国も馬韓に含まれる、ありえない。 >
- > 『後漢書』馬韓伝 >

> 韓有三種:一日馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。…… > 地合方四千餘里、

「地合方四千餘里」の面積は一辺が四千里ではありません。「地合方四千餘里」とは、縦・横一里の正方形、4000 個に相当する面積です。ですから、「地合方四千餘里」を平方キロに換算すると、1800 尺×24cm の二乗で 0.432km×0.42km×4000=746.496 平方キロ に、成ります。

----- Re: 千余里 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 21 日(火)13 時 08 分 51 秒 返信・引用 > No.93[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

- > もうひとつ気になるが、会稽・東冶の位置です。 >
- > 計其道里當在会稽東冶之東
- > <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%9A%E7%A8%BD%E9%83%A1> >

計其道里當在会稽東冶之東 の会稽東冶は、 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%B6%E7%9C%8C> で、

遺跡は↓ <http://heartland.geocities.jp/zae06141/fukusyuu.html>

会稽東冶之東は北緯 26 度の沖縄。

> 緯度的には、奄美大島と鹿児島の間くらいになるはずです。 > は、会稽で越、呉の国都があった所。越は、会稽東冶に、呉は建康へ国都をうつしている。

建康は北緯 32 度 03 分 37 秒で西都市(32 度 06 分 31 秒)と一致し、会稽山は、北緯 35 度 34 分 27 秒で出雲大社(北緯 35 度 24 分 07 秒)とほぼ同緯度。

----- Re: 千余里 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 20 日(月)21 時 40 分 31 秒 返信・引用 > No.93[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

魏志倭人伝の会稽東冶は上海になります。内容は単純で海南島と相似であると書いてある。要約すると韓国南部と九州が海南島に相似する。古代史の専門家はまともに理解しない、困った人達です。

> もうひとつ気になるが、会稽・東冶の位置です。 >> 計其道里當在会稽東冶之東

ストーンサークルは魏志倭人伝より遙か昔の話しになります。測量技術は現在より進んでい と思われる。ストーンサークルは世界各地に有るといってよい。聖書の天地創造より少し 現代よりでしょうか。まあ、邪馬台国とは関係はありません。

> この手のストーンサークルは太陽観測と関係があるといわれてますね。 >> 同じく楯築の弧帯文石あたりとともに、台湾ルートでの邪馬台国への文化・測量技術の伝 来も、最近考えは始めているところです。

----- Re: 千余里 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 20 日(月)20 時 48 分 23 秒 返信・引用 編集 済

> No.92[元記事へ] 秦野北斗さん 案山子さんへのお返事です。

またいろいろ情報ありがとうございます。私も秦野さん同様に韓国関連の記載をどう解釈するかがきになりました。

もうひとつ気になるが、会稽・東冶の位置です。 計其道里當在会稽東冶之東

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%9A%E7%A8%BD%E9%83%A1>

緯度的には、奄美大島と鹿児島の間くらいになるはずです。

案山子さんご指摘のとおり、彼らはわれわれが予想する以上に見事な測量をしています。 方位も距離もそれほどずれてないのでしょう。

台湾まではいかないのではないかというのが、今のところの感想です。

ただ、台湾の遺跡に、吉備の楯築遺跡の石柱と、よく似た板岩石柱があります。両遺跡の石柱 の写真添付します。 <http://www.kitombo.com/gimon/0729.html>

<http://www.sairosha.com/tabi/nazo/tatetuki.htm>

この手のストーンサークルは太陽観測と関係があるといわれていますね。

同じく楯築の弧帯文石あたりとともに、台湾ルートでの邪馬台国への文化・測量技術の伝 来も、最近考えはじめているところです。

<http://>

----- Re: 千余里 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 20 日(月)18 時 52 分 48 秒 返信・引用 編集済 > No.91[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。 案山子説には無理がある。 韓半島には馬韓があるが、以下の文章の説明ができますか。 案山子説で地図をかくと添付になる。倭国も馬韓に含まれる、ありえない。 『後漢書』馬韓伝

韓有三種:一曰馬韓、二曰辰韓、三曰弁辰。馬韓在西、有五十四國、其北與樂浪、南與倭接。 辰韓在東、十有二國、其北與?貊接。弁辰在辰韓之南、亦十有二國、其南亦與倭接。凡七十八國、 伯濟是其一國焉。大者萬餘戸、小者數千家、各在山海間、地合方四千餘里、東西以海為限、皆古 之辰國也。馬韓最大、共立其種為辰王、都目支國、盡王三韓之地。其諸國王先皆是馬韓種人焉。

韓には三種あり、一に馬韓、二に辰韓、三に弁辰という。馬韓は西に在り、五十四カ国、その 北に樂浪、南に倭と接する。辰韓は東に在り、十有二国、その北に?貊と接する。弁辰は辰韓の 南に在り、また十有二国、その南はまた倭と接する。およそ七十八国、伯濟はその一国である 大国は万余戸、小国は数千家、各々に山海の間に在り、土地は合計四千余里、東西は海が限界 で、いずれも昔の辰国である。馬韓が最大、その苗裔を辰王として共立し、都は目支国、三韓の 地の大王である。その諸国王の先祖は皆、馬韓の血族である。

「韓は帯方郡の南、東西は海をもって限りと為し、南は倭と接している。広さはおよそ四千里 四方。三つの国があり、一は馬韓といい、二は辰韓といい、三は弁韓という。辰韓は昔の辰国 である。(魏志韓伝)」辰国の辰は東南を表し、朝鮮半島東南の国という意味のようです。

秦野の HP:秦野北斗の古代史に解答があります。

----- 千余里 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 20 日(月)14 時 30 分 51 秒 返信・引用 地平線からの北極星の角度が緯度とほぼ同じであることが知られていたため、 緯度を計測することは比較的容易であった。 さて、会稽での地平線と北極星の角度はほぼ 30 度、又、 会稽東冶が存在した福州市での地平線と北極星の角度は 26 度。 会稽の北緯は 30 度で会稽東冶の北緯 26 度その緯度差は 4 度で 二点間は 4 度×111 km=444 km。 千里は約 432 km で会稽~会稽東冶間の距離にほぼ一致する。 故に 会稽・会稽東冶の東に当たる、口之島と糸満市間の緯度差は千余里である。 会稽東冶の東に当たる、糸満市から緯度的に 4 度南下した北緯 22 度が 台湾・満州郷に当り、会稽の東に当たる口之島から緯度的に千余里(432 km)北上した 地は北緯 34 度の下関にあたる。 北緯 34 度から緯度的に 4 度北上した北緯 38 度は、帯方(沙里院)の東にほぼ一致する。 故に 始度一海千余里 至對海【馬】國 又南渡一海千余里名曰瀚海 至一大國 又渡一海千余里 至末廬國 の至對海【馬】國は沖縄、一大國は種屋久島で末廬國は下関にあたる。

----- Re: 邑 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 20 日(月)12 時 34 分 2 秒 返信・引用 > No.88[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 文中で出発地が洛陽⇒長垣⇒威海市…ですが、本文は帯方郡になっている。

>

「從郡至倭」並びに「自郡至女王國萬二千余里」の「郡」を「帯方郡」とするのは、誤りでしょう。

清代陳昌治刻本『?文解字』 從:隨行也。从?从,从亦聲。慈用切 清代段玉裁『?文解字注』 隨行也。以从?。故云隨行。齊風。並驅從兩肩兮。傳曰。從,逐也。逐亦隨也。釋詁曰。從,自也。其 引伸之義也。又引伸訓順。春秋經從祀先公。左傳曰順祀先公。是從訓順也。

清代陳昌治刻本『?文解字』 自:鼻也。象鼻形。凡自之屬皆从自。棹,古文自。疾二切 清代段玉裁『?文解字注』 鼻也。象鼻形。此以鼻訓自。而又曰象鼻形。

王部曰。自讀若鼻。今俗以作始生子爲鼻子是。

> 距離ですが一般には単里ですが里になっている。根拠があるのですか。 > 魏尺の原器が出土していますがいずれも一尺は約 24cm 前です。

> 韓半島が女王国になる。誰が神武天皇か?。 > 意味が解りません。

- > 洛陽 長垣 218 km
- > 長垣 威海市 690 km
- > 威海市 沙里院 289 km
- > 沙里院 濟州島 690 km
- > 濟州島 台湾満州郷 1370 km
- > 長垣から台湾満州郷迄 3039 km 里:434 m >

以上は、新着順 31 番目から 40 番目までの記事です。1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 |《前のページ | 次のページ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] [お絵かき twitter] RSS

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

----- Re: 邑 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 20 日(月)11 時 45 分 56 秒 返信・引用 > No.87[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 沖縄本島に 1492.907 平方キロの円をかきました。こんなものですか。 > 大変失礼致しました。1492.907 平方キロは 14,929.07 平方キロの書き間違いです。

> 何か、理解できない。地図から半分は海です? > 「方可四百里」は面積を記述したものではありません。 對海【馬】國の差し渡し距離です。 四百里は $\approx 432\text{km} \times 0.4 = 172.8\text{km}$ になります。

糸満から沖永良部迄 178.618 km ですから 「對海【馬】國」の差し渡しは、現沖縄本島・糸満から沖永良部島迄ということになります。

魏尺・一尺の原器が 3 点ほど出土していますが、いずれも一尺約 24cm 前。 魏尺から追うと、一里=1800 尺

一尺=24cm 一里=432m。

画像地図、有難うございます。

Ads by Google ----- Re: 邑 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 2 月 19 日(日)17 時 55 分 0 秒 返信・引用 編集済 > No.85[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。

秦野は頭が悪いのか、理解できない。案山子説を地図で表記しました。 文中で出発地が洛陽⇒長垣⇒威海市…
ですが、本文は常方郡になっている。 距離ですが一般には里里ですが里になっている。根拠があるのですか。
韓半島が女王国になる。誰が神武天皇か？。

洛陽 長垣 218 km 長垣 威海市 690 km 威海市 沙里院 289 km 沙里院 濟州島 690 km 濟州島 台湾満州
郷 1370 km 長垣から台湾満州郷迄 3039 km 里:434 m

>>ところで倭国の大きさはご存知ですか。今の歴史家は誰も知らないはずですが >>「從郡至倭循海岸水行歴
韓國乍南乍東到其北岸狗邪韓國 七千余里」の行程は、 > 洛陽⇒長垣⇒威海市(迄 715.978km)→沙里院(迄
337.781km)→濟州島(迄 561.657km)→台湾満州郷(迄 1,392.369 km)

>

- > 長垣から台湾満州郷迄、約 3,007.785km≒六千九百六十二里≒七千余里。 >
- > 「其北岸狗邪韓國」とある「狗邪韓國」の領域の南端が現・台湾満州郷で
- > 北端は「会稽東治【冶】之東」、所謂北緯 26 度より南の宮古島迄。 >>>「參問倭地絶在海中洲島之上
或絶或連周旋可五千余里」の「周旋可五千余里」の「可」は差し 渡しであるから、 >「倭地」の一方の端は、
「狗邪韓國」の領域である現・宮古島と「会稽東治【冶】之東」との境界 で、他の一端は「自郡至女王國萬二千
余里」である北緯 39 度の現・平泉である。(平泉を中心 とした直径 2160km(五千里)の円を描くとそ
の弧は宮古島をかする。) >
- > 倭地の「周旋可五千余里」内、にある、女王国と倭国。
- > 女王国は、「会稽東治【冶】之東」現沖縄本島から北緯 39 度の現・平泉迄。
- > 倭国は「会稽之東」、所謂北緯 30 度の種屋久島から北緯 39 度の現・平泉迄。 >>>>

----- Re: 邑 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 2 月 19 日(日)17 時 24 分 16 秒 返信・引用 > No.86[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。 沖縄本島に 1492.907 平方キロの円をかきました。こんなものですか。

何か、理解できない。地図から半分は海です？ 沖縄の全長は約 102Km

1492.907 平方キロ=3.14×r×r r=21.8 km

> 案山子は、方里の解釈の根拠を九章算術の方里においています。 > 方里とは「廣・一里、從一里」ですから、
(1800 尺×24cm)の二乗です。 > 方里 400 個の集合面積が「方四百里」です。 >「方可四百里」という解釈は全
く別解釈です。 >「可」は差し渡しですから、「方可四百里」とは直径 400 里の円に名依存する正方形の対角線
に相当するでしょう。

- > 「方可四百里」に相当する面積は、
- > 一辺が 122.188km になりますので、1492.907 平方キロになりますが、
- > 「方可四百里」は面積を記述したものではありません。
- > 「對海【馬】國」の両端の差し渡し距離です。
- > 「方可四百里」の國邑は列島では沖縄本島以外に存在しません。

- > 故に、「對海【馬】國」とは沖縄本島を刺します。 >
- > とりあえず。 >>

----- Re: 邑 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 19 日(日)14 時 50 分 0 秒 返信・引用 > No.79[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 魏志倭人伝は単里になる。『四百里』を一辺『四百里』の正方形は里と考えます。 > 中国史籍は単里になっている。 >

>案山子さんの一里=1800 尺×24cm=432m で計算すると >方四百里は一辺:400×432m=172800=172.8 km
>九州:162 km×240 km

案山子は、方里の解釈の根拠を九章算術の方里にしています。 方里とは「廣・一里、従一里」ですから、(1800 尺×24cm)の二乗です。 方里 400 個の集合面積が「方四百里」です。「方可四百里」という解釈は全く別解釈です。

「可」は差し渡しですから、「方可四百里」とは直径 400 里の円に名依存する正方形の対角線に 相当するでしょう。「方可四百里」に相当する面積は、一辺が 122.188km になりますので、1492.907 平方キロになります。が、「方可四百里」は面積を記述したものではありません。「對海【馬】國」の両端の差し渡し距離です。「方可四百里」の國邑は列島では沖縄本島以外に存在しません。 故に、「對海【馬】國」とは沖縄本島を刺します。

とりあえず。

----- Re: 邑 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 19 日(日)13 時 39 分 0 秒 返信・引用 > No.78[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

>ところで倭国の大きさはご存知ですか。今の歴史家は誰も知らないはずですが

「從郡至倭循海岸水行歴韓國乍南乍東到其北岸狗邪韓國 七千余里」の行程は、 洛陽⇒長垣⇒威海市(迄 715.978km)→沙里院(迄 337.781km)→濟州島(迄 561.657km)→台湾滿州郷(迄 1,392.369 km)
長垣から台湾滿州郷迄、約 3,007.785km≒六千九百六十二里≒七千余里。

「其北岸狗邪韓國」とある「狗邪韓國」の領域の南端が現・台湾滿州郷で 北端は「会稽東治【治】之東」、所謂北緯 26 度より南の宮古島迄。

「參問倭地絶在海中洲島之上或絶或連周旋可五千余里」の「周旋可五千余里」の「可」は差し渡し であるから、

「倭地」の一方の端は、「狗邪韓國」の領域である現・宮古島と「会稽東治【治】之東」との境界で 他的一端は「自郡至女王國萬二千余里」である北緯 39 度の現・平泉である。(平泉を中心とした直径 2160km(五千里)の円を描くとその弧は宮古島をかする。)

倭地の「周旋可五千余里」内、にある、女王国と倭国。 女王国は、「会稽東治【治】之東」現沖縄本島から北緯 39 度の現・平泉迄。 倭国は「会稽之東」、所謂北緯 30 度の種屋久島から北緯 39 度の現・平泉迄。

----- Re: 邑 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 19 日(日)00 時 39 分 24 秒 返信・引用 編集済 > No.83[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

鋭い、おっしゃる通り、倭人も単里で測定しています。おまけに中国語も話しています。『三国 志魏書』倭人伝に記録があります。当時の倭人は距離を知り尽くし、1 月で歩ける距離を知っていたのが現実の様です。これから言える事は倭人の行動範囲は現代人のスケールを遥かに 超えたものと考えるべきです。倭人伝に『船で行くこと一年で至るとか。』一年の航行を可能 としている。航行距離は大きいものではない(特定済みです)。単里は歴史が古く紀元前 2 万年ぐらいに定められたものらしい。里数 77 メートルは間違っている。神話に出てく

る。本来、歴史は連続するものです。古事記のアマテラス(女王)、大国主の国譲り、スサノオ、神武天皇、神功皇后。これらを考察に入れなければ…。そう深刻に考えなくてもいい、魏志倭人伝の女王国は古事記の初代アマテラス(女王)を指している。難解ですか。

『三国志魏書』倭人伝(通称:魏志倭人伝)

女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。又有裸國、黑齒國復在其東南、『船行一年可至』。參問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可五千餘里。

女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒(こびと)国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。また、その東南に裸国や黒齒国も在り、『船で行くこと一年で至るとか。』倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上に在り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。

>「三国魏の時代、通訳を伴って中国と通じたのは三十余国。皆が王を自称した。東夷の人は里数(距離)を知らない、ただ日を以って計っている。その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。」

>

>> 随書のこの記載は面白いですね。女王国に属しているのにもかかわらず、各国は王と自称したとあることは、いわゆる倭国がかなり緩やかな連合国だったことを意味してます。ここの部分は、魏志とは別の記録を引用してますね。しかし同じくらい古い倭について記した文献。魏志は省略されているとの秦野さんの意見と関連するかもしれません。>> ただ、この里数を知らないで日数で距離を示すという記載は、7世紀当時のもので、もはや中国式の測量技術も廃れ忘れられたころの話かと感じます。しかし魏・漢の時代はしっかり把握していたと考えてます。>> この隋書の記事も、倭人に距離つまり日数をあえて尋ねているんですね。自分ではもはや計ってません。>> でも、魏使は多少は簡易的な測量をした可能性はあります。方位とか日数とかですね。> しかし正確な方位に基づく面積の測量は、これは人手も半端ではないですし、できる時期も限られてきます。精度の高い里数 77 メートルとかは、倭人との大掛かりな協力体制、あるいは過去に倭にやってきた中国人?の測量結果に頼らざるを得なかったという感じがします。

Re: 邑 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 18 日(土)23 時 05 分 53 秒 返信・引用 編集済 >
No.81[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

さっそく情報ありがとうございます。

「三国魏の時代、通訳を伴って中国と通じたのは三十余国。皆が王を自称した。東夷の人は里数(距離)を知らない、ただ日を以って計っている。その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。」

随書のこの記載は面白いですね。女王国に属しているのにもかかわらず、各国は王と自称したとあることは、いわゆる倭国がかなり緩やかな連合国だったことを意味してます。ここの部分は、魏志とは別の記録を引用してますね。しかし同じくらい古い倭について記した文献。魏志は省略されているとの秦野さんの意見と関連するかもしれません。

ただ、この里数を知らないで日数で距離を示すという記載は、7世紀当時のもので、もはや中国式の測量技術も廃れ忘れられたころの話かと感じます。しかし魏・漢の時代はしっかり把握していたと考えてます。

この隋書の記事も、倭人に距離つまり日数をあえて尋ねているんですね。自分ではもはや計ってません。

でも、魏使は多少は簡易的な測量をした可能性はあります。方位とか日数とかですね。しかし正確な方位に基づく面積の測量は、これは人手も半端ではないですし、できる時期も限られてきます。精度の高い里数 77 メートルとかは、倭人との大掛かりな協力体制、あるいは過去に倭にやってきた中国人?の測量結果に頼らざるを得なかったという感じがします。

----- (無題) 投稿者:-安価卸売り、 投稿

日:2012 年 2 月 18 日(土)23 時 04 分 4 秒 返信・引用 -安価卸売り、★★ホームページ作成 有り
難うございました。 立派な HP が出来上がり、感激&感謝です。

協力は楽しいです これからも宜しくお願いします。

<http://oul.cc/bb> <http://oul.cc/bc>

----- Re: 邑 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年
2 月 18 日(土)22 時 34 分 32 秒 返信・引用 編集済 > No.80[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

陳寿は皇帝の使いで邪馬台国に来たとなると、護衛兵と共に来たと考えべきです。 観光ツアーで行ってき
ました。現地の人が何里と言っていました。では、『隋書』には距離を知 らないを書いてあるぞ?。どちらかが嘘
を言っている。陳寿は茶を濁したのでしょうか。陳寿 は茶を濁す様なら死罪でしょう。『隋書』を見る限り、陳
寿は最低でも海南島まで行っている。 文章はよく描写できています。

陳 寿(ちん じゅ、建興 11 年(233 年) - 元康 7 年(297 年))は、三国時代の蜀漢と西晋に 仕えた官僚。字
は承祚(しょうそ)。巴西郡安漢の人。俗説では、蜀漢の将であった陳式の末 裔と言われているが根拠は無い。
甥に陳符・陳苙(兄の子)・陳階(弟の子)。『三国志』の 著者である。自身の伝は『晋書』にある。

『隋書』倭国伝

倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國、三十餘國、皆 自稱王。夷人不知
里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。 都於邪摩堆、則魏志所謂邪馬臺
者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與? 耳相近。

倭国は、百済や新羅の東南に在り、水陸を越えること三千里、大海中の山島に依って居する。 三国魏の時代、
通訳を伴って中国と通じたのは三十余国。皆が王を自称した。東夷の人は里数 (距離)を知らない、ただ日を
以って計っている。 その国の境は東西に五カ月、南北に三カ月の行程で、各々が海に至る。その地形は東高西
低。 都は邪摩堆、魏志の説に則れば、邪馬臺というなり。古伝承では楽浪郡の境および帯方郡か

ら一萬二千里、会稽の東に在り、?耳と相似するという。

> ただ、その測量を行ったのは、弥生時代中期に入った集団のもので、魏の使者が計ったもの ではありません。
魏の使者の多くは文官ですから、測量自体することは無理だったろうと感 じます。どこからか過去に計った数
値を聞いたのでしょうか。ただその後、魏の軍隊が入ったと したら、測量の可能性はあったと感じます。

>> 同様に「方数百里」の記載も、彼らが計ったわけではなく、どこからか聞いたものだろうと 感じます。 >>
その場合は、「方」の用法も、過去のおそらくは漢代の書き方を参考にすべきかもしれませ ん。 >> 対馬とい
う島をよく調べていくと、南北の長さが50 キロ近くあるのに比して、東西が5 キロくらいしかないんですね。
>

- > また壱岐島との比較でも面積は4 倍くらい違うわけです。 >
- > ただ魏志では、
- > 「對海【馬】國・方可四百余里」
- > 「一大國…方可三百里」 >>
- > これも対馬にいくとわかるのですが、対馬というのは、2 つの島なんですね。途中で橋を渡 ります。
>> 名前の意味自体は魏志の時代から対になった二つの島という意味なのでしょう。 >> 対馬の記
載には、船に乗って南北を行き来する記載があるのですが、壱岐島には南北には いくものの、船に乗
る件はできません。対馬が2 つの島で船に乗らないと両方いけないか らでしょう。壱岐は丸い島で
すからね。 >> 対馬国の都があった島だけ測量した可能性も考慮すべきではないでしょうか。 >>
それで案山子さん注目の「方可」の語ですが、仮に方形区画の斜線を意味するとしたら、さ

らに壱岐島と対馬のどちらかの島の測量値が近くなりそうです。

>> 対馬の南北の長さは、壱岐島までの間の海の長さに等しいくらいで、いわゆる 1 千里もあるわけです。
> 魏志では、この 1 千里を省略してしまったのでありまして、明らかにおかしいですね。 >> もともと、南の島、あるいは北の島は、距離計算から除外して考えていたので、そういう省略が起きてしまったと考えることができるのではないのでしょうか。 >> 魏の使いはいつもどちらかの島にしか行ってないんです。 > あえて対馬のところで「土地は陰しく深林多く、道路はきんろくのかみちの如し。」と記しているのも、陸行が困難であるから、船で直接、壱岐に行くように諭しているようにも見えます。 >>

----- Re: 邑 投稿者:管理人 投稿日:2012 年
2 月 18 日(土)21 時 50 分 58 秒 返信・引用 編集済 > No.79[元記事へ]

秦野北斗さん、案山子さんへのお返事です。

そう、方里の問題がありましたね!
面積か、距離か…。

個人的には、陸行で示された九州諸国の距離は、76・5 メートルで測量されたことを確認しています。

ただ、その測量を行ったのは、弥生時代中期に入った集団のもので、魏の使者が計ったものではありません。魏の使者の多くは文官ですから、測量自体することは無理だったろうと感じます。どこからか過去に計った数値を聞いたのでしょうか。ただその後、魏の軍隊が入ったとしたら、測量の可能性はあったと感じます。

同様に「方数百里」の記載も、彼らが計ったわけではなく、どこからか聞いたものだろうと感じます。 その場合は、「方」の用法も、過去のおそらくは漢代の書き方を参考にすべきかもしれません。

対馬という島をよく調べていくと、南北の長さが 50 キロ近くあるのに比して、東西が 5 キロくらいしかないんですね。

また壱岐島との比較でも面積は 4 倍くらい違うわけです。

ただ魏志では、
「對海【馬】國…方可四百余里」
「一大國…方可三百里」

これも対馬にいくとわかるのですが、対馬というのは、2 つの島なんですね。途中で橋を渡ります。
名前の意味自体は魏志の時代から対になった二つの島という意味なのでしょう。

対馬の記載には、船に乗って南北を行き来する記載があるのですが、壱岐島には南北にはいくものの、船に乗る件はできません。対馬が 2 つの島で船に乗らないと両方いけないからでしょう。壱岐は丸い島ですからね。

対馬国の都があった島だけ測量した可能性も考慮すべきではないでしょうか。

それで案山子さん注目の「方可」の語ですが、仮に方形区画の斜線を意味するとしたら、さらに壱岐島と対馬のどちらかの島の測量値が近くなりそうです。

対馬の南北の長さは、壱岐島までの間の海の長さに等しいくらいで、いわゆる 1 千里もあるわけです。 魏志では、この 1 千里を省略してしまったのでありまして、明らかにおかしいですね。

もともと、南の島、あるいは北の島は、距離計算から除外して考えていたので、そういう省略が起きてしまったと考えることができるのではないのでしょうか。

魏の使いはいつもどちらかの島にしか行ってないんです。

あえて対馬のところで「土地は陰しく深林多く、道路はきんろくのかみちの如し。」と記しているのも、陸行が困難であるから、船で直接、壱岐に行くように諭しているようにも見えます。

----- 以上は、新着順 41 番目から 50 番目ま

での記事です。1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 |《前のページ | 次のページ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] [お絵かき] [twitter] RSS

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

----- Re: 邑 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 18 日(土)14 時 34 分 35 秒 返信・引用 > No.77[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。

魏志倭人伝は単里になる。『四百里』を一辺『四百里』の正方形は里と考えます。 中国史籍は単里になっている。

案山子さんの一里=1800 尺×24cm=432m で計算すると 方四百里は一辺:400×432m=172800=172.8 km 九州:162 km×240 km

古田の単里=77 m 方四百里は一辺:400×77 m=30800=30.8 km 対馬(厳原):24 km×25 km

伯爵で九州の領地は、これは1つの国ですな。伯爵の領地としては対馬 (厳原):24 km×25 km ぐらいが妥当でしょう。中国史籍に従い単里に訂正です。注、古田の単里=77 m は間違っていますので注意してください。実際もっと小さい。

尚、領域を円で示されてますが、魏志倭人伝の文書には四方、方位+直線距離で記されている。 円はありません。

> O 尊卑謂公?伯子男也。大小謂方五百里,·の領地を計算すると大きすぎるので、方四百里で九州ぐらいの大きさになる。「對海【馬】國」「一大國」は小島ですな。 >>『方四百里で九州ぐらいの大きさになる。』の『四百里』を一辺『四百里』の正方形と解釈すればその面積は約三万ヘーホーキロになる。

- > が、『方四百里』とは『方里』が『400 個』との解釈が正しいだろう。 >>
- > 今有田。廣一里。従一里。問「為田幾何」。答曰「三頃七十五畝」。
- > 案。此術「廣・従、里数相乗。得積里」。
- > 方里之中`有三頃七十五畝。……九章算術
- > 『方四百里』
- > 一里=1800 尺×24cm=432m
- > 方一里=432m×432m÷1000000=0.186624 平方キロ
- > 方四百里=0.186624×400=74.6496 平方キロ 。 >
- > 「方可四百余里」の「方可」は「差し渡し」なら、直径が四百里の領域を刺すことになる。
- > 一里=1800 尺=432m
- > 四百里=432m×400÷1000=172.8km
- > その領域は、

- > $(172.8\text{km} \div 2) \times ((172.8\text{km} \div 2) \times \pi) = 24,927.863$ 平方キロ。 >

Ads by Google ----- Re: 邑 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 18 日(土)14 時 14 分 15 秒 返信・引用 編集済 > No.76[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。

『新唐書』日本伝に『日本は小国で、倭に併合された』の文章がある。咸亨元年(670 年)に併合、魏志倭人伝(240 年)に北海道はありえない。ところで倭国の大きさはご存知ですか。今の歴史家は誰も知らないはずですか？。

『新唐書』日本伝

咸亨元年、遣使賀平高麗。後稍習夏音、惡倭名、更號日本。使者自言、國近日所出、以為名。『或云日本乃小國、為倭所并』、故冒其號。使者不以情、故疑焉。又妄夸其國都方數千里、南、西

盡海、東、北限大山、其外即毛人云。

咸亨元年(670 年)、遣使が高麗平定を祝賀。後にやや夏音(漢語)を習得し、倭名を憎み、日本と改号した。使者が自ら言うには、国は日の出ずる所に近いので、国名と為した。あるいは、『日本は小国で、倭に併合された』故に、その号を冒すともいう。使者には情実がない故にこれを疑う。またその国都は四方数千里だと妄りに誇る、南と西は海に尽き、東と北は大山が限界となり、その外は、すなわち毛人という。

> 秦野北斗さんへのお返事です。 >>> 女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。又有裸國、黑齒國復在其東南、『船行一年可至。』參問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可五千餘里。 >>> O 女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒(こびと)国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。また、その東南に裸国や黒齒国も在り、『船で行くこと一年で至るとか。』倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上に在り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。 >

- > 『女王国から四千余里。』の解釈は「去」を『さる』としていますね。
- > 「去」は『行く』と解釈するのが正しいでしょう。
- > ですから、上記の起点は「侏儒國」で着点が「女王」です。
- > 「去女王四千餘里」は『(侏儒國)より行く女王、四千餘里。』です。
- > 「侏儒國」はフィリピン・ルソン島になるでしょう。
- > この「女王」とは「次有奴國 此女王境界所盡」の「女王」を刺しています。
- > 又、「女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。」の「女王國」とは >「自郡至女王國萬二千余里」の「女王國」です。「女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。」の位置は北海道です。

----- Re: 邑 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 18 日(土)12 時 47 分 16 秒 返信・引用 編集済 > No.71[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

O 尊卑謂公?伯子男也。大小謂方五百里、…の領地を計算すると大きすぎるので、方四百里で九州ぐらいの大きさになる。「對海【馬】國」「一大國」は小島ですな。

『方四百里で九州ぐらいの大きさになる。』の『四百里』を一辺『四百里』の正方形と解釈すればその面積は約三万ヘーホーキロになる。

が、『方四百里』とは『方里』が『400 個』との解釈が正しいだろう。

今有田。廣一里。從一里。問「為田幾何」。答曰「三頃七十五畝」。案。此術「廣・從、里数相乗。得積里」。方里之中`有三頃七十五畝。……九章算術『方四百里』

一里=1800 尺×24cm=432m 方一里=432m×432m÷1000000=0.186624 平方キロ 方四百里=0.186624×400=74.6496 平方キロ。

「方可四百余里」の「方可」は『差し渡し』なら、直径が四百里の領域を刺すことになる。一里=1800 尺=432m 四百里=432m×400÷1000=172.8km その領域は、

$(172.8\text{km} \div 2) \times ((172.8\text{km} \div 2) \times \pi) = 24,927.863$ 平方キロ。

----- Re: 邑 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 18 日(土)12 時 00 分 59 秒 返信・引用 編集済 > No.70[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> 女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。又 有裸國、黑齒國復在其東南、『船行一年可至。』參問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可 五千餘里。 >

○ 女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒(こ びと)国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。また、その東南に裸国や黒齒国も在り、『船で行くこと一年で至るか。』倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上に 在り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。

『女王国から四千余里。』の解釈は「去」を『さる』としていますね。

「去」は『行く』と解釈するのが正しいでしょう。 ですから、上記の起点は「侏儒國」で着点が「女王」です。「去女王四千餘里」は『(侏儒國)より行く女王、四千餘里。』です。「侏儒國」はフィリピン・ルソン島になるでしょう。この「女王」とは「次有奴國 此女王境界所盡」の「女王」を刺しています。 又、「女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。」の「女王國」とは

「自郡至女王國萬二千余里」の「女王國」です。「女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。」の位置 は北海道です。とりあえず。

----- Re:『三国志魏書』倭人伝の訳 投稿者:秦野 北斗 投稿日:2012 年 2 月 17 日(金)23 時 58 分 25 秒 返信・引用 編集済 > No.74[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 思うに海路を使うと方位観念がずれるのではないのでしょうか。陸行の場合はしっかり方位 を把握できますが、海の場合は、目印によって左右されますし、距離感覚がつかめないのでしょう。

方位には間違いは見当たりません。不彌國は「東行至不彌國百里」平塚川添遺跡になります。 投馬国と女王国は「南至投馬國水行二十日」の文章の読み方です。

沖縄までに行くのは少なくとも半年はかかる。水行二十日では行けない。日数は魏志の文章 にあります。現代の古代史の学者は古事記との関連性も無視している。女王国はアマテラス 国を言っている、理解できないでしょうね。

> ただ奈良の古墳をみると、主体であるはずの後円部を北や東にするケースが多く、南に向 いているケースは少ないんですね。そこに漢代から引き継がれた方位観念が、すこし変化し ているように感じるんです。 > 皇帝は北にいますので北が上になります。オーストラリアなら南でしょう。後円部を北や東

にするケースが多く、これは日の出の方向から北が定まるので、やっぱり北です。

>

----- Re:『三国志魏書』倭人伝の訳 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 17 日(金)22 時 08 分 27 秒 返信・引用 編集済 > No.73[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> おっしゃる通りです。行程で島内の 100 里未満は表記が無いんです。著書、徐福と邪馬台 国で苦しめられました。著書では文章の欠落部を追加しています。結構、省略されていますよ。しかし、松浦にこだわると方位に矛盾がでますよ。上陸地は博多ですから…。

特に対馬の南北間の行程の省略が大きいですね。対馬の長さを軽くみると、その後大きく方 角が変わってしまうわけですが、案山子さんも引用されたように、「方百里」の測量記載は、かなりアバウトです。対馬はどうみても方形にはならないですから。本来なら「南北二百里」と 記されるべきところを、「方」としてしまっているところに、あまりこの島のことを詳しく 理解してない感じが見て取れます。

松浦については、唐津の半島の先っぽですね。壱岐島には一番近いことは確かです。もっとも 博多のほうが便利だとは思いますが、どうだったんでしょうね。

興味深いのは、マツロ国に上陸してから、伊都国まで陸路を用いている件です。海路のほうが 楽だとも思うのですが、どういうわけか陸行している。

マツロ国というのが、昔王がいたとの記載にあるとおり、ある程度女王国から独立した立場 にあった可能性を感じてます。マツロ国の首都をあえて訪問しないといけなような理由が あったのでしょうか。あえて訪問する代わりに、安全に陸路で送迎してもらうことができた のかもしれません。いつも最短距離を行けるというわけではなかったのでしょうか。

> 魏志の測量は方位を使用。南、北は日の出を使ったと思われる。これが混在するので注意、 見分ける方法は距離ができれば方位。距離が出なければ日の出でいいのでは。狗耶韓国は日の

出の北、倭奴国は日の出の南、九州は南、奈良は北になる。

確かに対馬・壱岐・松浦の方位が、ここまでいい加減だと、方位を何で測ったかが気になります。伊都国にいたるまでの方位は対馬で狂って、東南を南と考えていた節がありますね。ご指摘の日の出などアバウトな方位観念で旅した可能性はあります。

ただ個人的には、伊都→不彌、伊都→奴国の方位は間違っていないんです。過去の測量結果に基づく正確な情報をどこかで聞いて記載してます。ただ、投馬国と女王国の方位記載はまたア バウトな記載になっており、どのくらいずれているかは未知数です。距離と行程は魏志の記 載にあるとおり、全部把握してあるけれど、省略しているとのことなんです。

思うに海路を使うと方位観念がずれるのではないのでしょうか。陸行の場合はしっかり方位を 把握できますが、海の場合は、目印によって左右されますし、距離感覚がつかめないのしょう。

> どうも、測量集団は方位磁石を使用したのでは、また、海上の距離も測定している。当時を 知らない現代人は古代人を馬鹿にしているみたいです。 >

方位磁針を魏が使用していた件は会報でも記載したとおりですが、当時魏の時代になって、 コンパスの記載が正式に出てくるようになります。すでに漢代から類似するものはあったの ですが、実用化されたのは魏の時代で、特に軍事行動と関連して使用されたと見てます。

ローマでもそうですが、いつもコンパスが必要なのは、航海もしくは軍隊ですね。方角のわか らないところに行く必要のない一般人は必要ないんです。

ただ方位磁針というのは、磁北の編年誤差があって、時代とともに最大 15 度程度真北から ずれてしまうんです。時代経過による東西誤差でいけば最大で30 度まで変化可能です。

そうすると、東西観念が大きくずれる可能性はあります。会報で記したとおり、奈良の古墳は 磁北が時代によって大きく変化しているのですが、これは方位磁針の使用に頼ったせいだと 解釈してます。それらをもたらしたのは魏の軍隊もしくは魏の使人たちでしょう。張氏も長 く女王国にいましたからね。

ただ、魏の時代の磁北は東に 15 度ほどずれていたはずなんです。もしこの 15 度東を真北 として測量したとすれば、南の女王国は九州南部よりさらに西にないといけないうんです。 沖縄とか…。

この辺の地磁気編年がどの程度頼りになるかどうかとか、魏の時代にどの程度、軍隊や航海でコンパスが導入されたかは、今後の課題だろうと感じています。

>三角縁神獣鏡は上が日の出の北、下が南になり、銘文は魏志倭人伝と同じ内容になっている。悲しいことに、銘文の翻訳に失敗している。

三角縁も、会報で記したとおり、方位磁針である指南魚を浮かべるための水がめだつたと考えているわけですが、東西南北を、魏や倭がどう考えていたかは未知数です。西王母・東王父は東西を示しますね。漢代は南を重視しましたから、「左東王父」となるわけです。

彼らは方位磁針を見るときに、われわれと違って、北極星を背にして、南をみながら、聖なる方位だと考えたかもしれません。地図も南が上になっていたことでしょう。

ただ奈良の古墳をみると、主体であるはずの後円部を北や東にするケースが多く、南に向いているケースは少ないんですね。そこに漢代から引き継がれた方位観念が、すこし変化しているように感じるんです。

----- Re:『三国志魏書』倭人伝の訳 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 2 月 17 日(金)00 時 19 分 52 秒 返信・引用 編集済 > No.72[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>とすると、距離としては、狗邪韓国から対馬の北端までの間の海の距離、そして対馬の南端から壱岐の北端までの距離、壱岐の南端から松浦の北端までの距離が記されていると看做す

べきかもしれません。

おっしゃる通りです。行程で島内の100里未満は表記が無いんです。著書、徐福と邪馬台国で苦しめられました。著書では文章の欠落部を追加しています。結構、省略されていますよ。しかし、松浦にこだわると方位に矛盾がでますよ。上陸地は博多ですから…。

志賀島(しかのしま)の金印との関係は無視ですな。志賀島は、福岡県福岡市東区に所属する島。博多湾の北部に位置し、海の中道と陸続きである。松浦は博多湾の南部方向で逆ですな…。

>それ以前に九州に入った漢系系の測量集団はしっかり南北を理解してますし、おそらくは邪馬台国自身も南北の観念はしっかり理解していたはずですよ。理解していなかったのは魏使だけということになるでしょうか。
>

>この辺の要素は、さらに詳しく抽出して、本来の方位を確認していく必要があるでしょう。

著書、徐福と邪馬台国で徐福が始皇帝の命で佐賀に来ている。この当時は北斗七星、(北極星)航海に使用、日の出の2方法で現在と変わらない。北前舟は北斗七星を使って航海をしている。徐福は始皇帝の命で日の出を追って2回航海している。魏志の測量は方位を使用。南、北は日の出を使ったと思われる。これが混在するので注意、見分ける方法は距離ができれば方位。距離が出なければ日の出でいいのでは。狗邪韓国は日の出の北、倭奴国は日の出の南、九州は南、奈良は北になる。どうも、測量集団は方位磁石を使用したのでは、また、海上の距離も測定している。当時を知らない現代人は古代人を馬鹿にしているみたいです。

尚、三角縁神獣鏡は上が日の出の北、下が南になり、銘文は魏志倭人伝と同じ内容になっている。悲しいことに、銘文の翻訳に失敗している。

----- Re:『三国志魏書』倭人伝の訳 投稿者:管理
人 投稿日:2012 年 2 月 16 日(木)22 時 38 分 50 秒 返信・引用 編集済 > No.68[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

ご指摘のとおり、松浦までの距離の短さは確かに気になりますね。

>海沿いに回った距離は史籍の文中に2千里余り(行程)と記述があります。当時の港の名前も確定しています。言える事は、松浦ルートは存在しないのです。また、陳寿は壱岐(一支国)の大きさを測っています。距離数値は秦野距離で換算しています。添付

おそらく狗邪韓国から対馬までの距離についてですが、対馬北部から南部まで陸行している ものと考えます。

同様に壱岐も南北に陸行してから、松浦(唐津方面)へと向かうので、両島の陸路の記載が あるんですね。

とすると、距離としては、狗邪韓国から対馬の北端までの間の海の距離、そして対馬の南端から壱岐の北端までの距離、壱岐の南端から松浦の北端までの距離が記されていると看做すべきかもしれません。

それでも、やや距離差が大きいですけど、島の長さを含まない分、3つの距離差は少なくなります。

そうすると、やはり魏使は、毎回海路と陸行を、倭国側の船を借りて行き来したように見え ますね。

それで松浦に寄ったかどうかですが、個人的には、松浦、つまりマツロ国は唐津の半島だと思 うんです。

そこで伊都国を、その東南だといっているのが気になります。本来なら東にあたるはずで すよね。

狗邪韓国、対馬、壱岐の方角についても、本来東南であるべきところを、南と記載したので、東 であるべきところも、東南になってしまった、そういうふうにも見て取れます。

対馬で狂うんですよ。対馬に行くといわれるのですが、南北に長く伸びていて、北岸から見る

(考える)韓国・壱岐と、南岸から見る(考える)韓国・壱岐とは全然方角が異なるんで す。

ところが、対馬という長い島を、短い小さな島だと勘違いすると、韓国・壱岐の方角がここで 大きくずれてしまうのでしょうか。

この辺の方角の狂いは、魏の使いの特有のミスだと思います。

それ以前に九州に入った漢系(漢)の測量集団はしっかり南北を理解してますし、おそらくは 邪馬台国自身も南北の観念はしっかり理解していたはずで。理解していなかったのは魏使 だけということになるのでしょうか。

この辺の要素は、さらに詳しく抽出して、本来の方位を確認していく必要があるでしょう。

----- Re: 邑 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 16 日(木)20 時 05 分 58 秒 返信・引用 編集済 > No.69[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。

>「先王之制。尊卑有大小。从?。尊卑謂公?伯子男也。大小謂方五百里,方四百里,方三百里, 方二百里,方百里也。」とあります。 >「邑」を説文解字により解釈するなら、 >「對海【馬】國」の「尊卑」は「?」で「大小」は「方四百里」。

>「一大國」の「尊卑」は「伯」で「大小」は「方三百里」。 > となり、「方可四百余里」「方可三百余里」は実測数値ではないでしょう。

「先王之制。尊卑有大小。从?。尊卑謂公?伯子男也。大小謂方五百里,方四百里,方三百里,方 二百里,方百里也。」

尊卑謂公?伯子男也。大小謂方五百里,の領地を計算すると大きすぎるので、方四百里で 九州ぐらいの大きさになる。「對海【馬】國」「一大國」は小島ですな。当時の公?伯子男の領地が わかれば、 韓半島の倭奴国の地位がわかるかも。公爵・侯爵・伯爵クラスになるか。

秦野は驚きました。

----- Re: 邑 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 16 日(木)19 時 27 分 14 秒 返信・引用 編集済 > No.69[元記事へ]

案山子さんへのお返事です。

- > >陳寿は壱岐(一支国)の大きさを測っています。 >
- > 「對海【馬】國…方可四百余里」
- > 「一大國…方可三百里」
- > は、邑の「尊卑有大小」が記述されている。
- > 「尊卑有大小」とは

- > 清代段玉裁『文解字注』に >「先王之制。尊卑有大小。从?。尊卑謂公?伯子男也。大小謂方五百里,方四百里,方三百里,方二百里,方百里也。」とあります。

>「邑」を説文解字により解釈するなら、 >「對海【馬】國」の「尊卑」は「?」で「大小」は「方四百里」。 >「一大國」の「尊卑」は「伯」で「大小」は「方三百里」。 >となり、「方可四百里」「方可三百里」は実測数値ではないでしょう。

女王國東渡海…、では状況から陳寿は行ってない。文中に參問倭地と尋ねたとある。しかし、「對海【馬】國…方可四百里」「一大國…方可三百里」では、それらしい文章はない。

女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。又有裸國、黑齒國復在其東南、『船行一年可至。』參問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可五千餘里。

女王國の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒(こびと)国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。また、その東南に裸国や黒齒国も在り、『船で行くこと一年で至るとか。』倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上に在り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。

帯方郡より倭に至るには、海岸に沿って水行、韓国を経て、南へ行ったり、東へ行ったりして、北岸の狗邪韓国に到ること七千余里。初めて一海を渡り、千余里で對馬国に至る。その大官は卑狗、副は卑奴母離という。極めて陰しい島に住み、『四方は四百里ほど。』土地は山が陰阻で、深い林が多く、道路は獣や鹿の小道(獣道)。千余戸あり、良田は無く、海産物を食べて自活しており、船で南北の市(物々交換の場)に出かけて、糴(てき=穀物を買求める)する。

又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國、官亦曰卑狗、副曰卑奴母離。『方可三百里、』多竹木叢林、有三千許家、差有田地、耕田猶不足食、亦南北市糴。

また、南に一海を渡ること千余里、名を瀚海という、一大国に至る。官もまた卑狗、副は卑奴母離という。『四方は三百里ほど。』竹木の密林が多く、三千ほどの家があり、農地はあるが不足しており、耕作しても食べるには足らないので、また南北に物々交換に出かける。

「先王之制。尊卑有大小。从?。尊卑謂公?伯子男也。大小謂方五百里,方四百里,方三百里,方二百里,方百里也。」

この文章はなにを言っているのですか。訳すと、先の王制では尊卑(身分などが尊いことと卑しいこと)大小があり、?から公爵・侯爵・伯爵・子爵・男爵の順に、大小は四方五百里、四方四百里…四方百里なり。?=王都でしょうか。領地分けでしょうか。尊卑には大官はないが?。

----- 以上は、新着順 51 番目から 60 番目までの記事です。2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 《前のページ | 次の

ページ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] [お絵かき] [twitter] [RSS]

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

----- 邑 投稿者:案山子 投稿日:2012 年 2 月 16 日(木)14 時 19 分 24 秒 返信・引用 >陳寿は壱岐(一支国)の大きさを測っています。

「對海【馬】國…方可四百里」「一大國…方可三百里」は、邑の「尊卑有大小」が記述されている。「尊卑有大小」

とは 清代段玉裁『文解字注』に

「先王之制。尊卑有大小。从?。尊卑謂公?伯子男也。大小謂方五百里,方四百里,方三百里,方 二百里,方百里也。」とあります。「邑」を説文解字により解釈するなら、「對海【馬】國」の「尊卑」は「?」で「大小」は「方四百里」。「一大國」の「尊卑」は「伯」で「大小」は「方三百里」。 となり、「方可四百余里」「方可三百余里」は実測数値ではないでしょう。

Ads by Google ----- Re:『三国志魏書』倭人伝の
訳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 15 日(水)23 時 30 分 33 秒 返信・引用 編集済 >
No.67[元記事へ]

ぎし管理人さんへのお返事です。

燕王盧綰反、匈奴、滿亡命、聚黨千餘人、?結蠻夷服而東出塞、渡?水、居秦故空地上下?、稍役屬 真番、朝鮮蠻夷及故燕、齊亡命者王之、都王險。

燕王の盧綰(ロワン)が背き、匈奴に亡命すると、鬻(まげ)を結び、蛮夷の衣服を着た 満は千余の人々を連れて長城を出て東に逃れ、?水(清川江)を渡り、秦の時代の昔の空地に 居を構えて?(長城)を出入し、真番に軽く属していた朝鮮蛮夷や、その地に暮らす昔の燕や 齊からの亡命者らの王となり、王險城(王儉城とも)を都とした。

南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日、陸行一月。官有伊支馬、次曰彌馬升、次曰彌馬獲支、次 曰奴佳?、可七萬餘戸。

南に邪馬壹国の女王の都に至るには、水行十日、陸行一ト月。官には伊支馬があり、次を彌 馬升といい、その次が彌馬獲支、その次が奴佳?という。七万余戸ほどか。

上の2文書を比較します。翻訳には少し問題があるがおおむね理解できるので秦野も使用し ています。 文中の『都』には名詞と副詞があります。ご存知でしょうね。

齊亡命者王之都、王險。齊からの亡命者らの王の都、王險城(王儉城とも)
女王之所、都水行十日、陸行一月。女王の所、都水行十日、陸行一ト月。

齊亡命者王之都と女王之所で都=所になる。女王之所、都..は副詞と考えるのが自然です。

> 私も秦野さんご紹介の地図をみながら、かなりアバウトな距離数値だと感じてました。 > 帯方から狗邪韓国まで7千余里という数値は、おそらく海沿いに回った距離ではなく、内 陸の距離を示しているものと感じます。魏以前の時代から、すでにそこまでの距離は測量で 確定していたことでしょう。それを陳寿が引用したのでしょうね。

海沿いに回った距離は史籍の文中に2千里余り(行程)と記述があります。当時の港の名前も 確定しています。言える事は、松浦ルートは存在しないのです。また、陳寿は壱岐(一支国)の大 きさを測っています。距離数値は秦野距離で換算しています。添付

----- Re:『三国志魏書』倭人伝の訳 投稿者:管理
人 投稿日:2012 年 2 月 15 日(水)20 時 30 分 1 秒 返信・引用 編集済 > No.66[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそく御返事ありがとうございます。 > 壱岐から松浦は六百里しかないんです。

私も秦野さんご紹介の地図をみながら、かなりアバウトな距離数値だと感じてました。 帯方から狗邪韓国まで7千余里という数値は、おそらく海沿いに回った距離ではなく、内陸 の距離を示しているものと感じます。魏以前の時代から、すでにそこまでの距離は測量で確 定していたことでしょう。それを陳寿が引用したのでしょうね。

たとえば漢書の朝鮮関連の記載に下記のようにあります。 「以故滿得兵威財物侵降其旁小邑 真番・臨屯皆來服屬方數千里」

すでにこの時点で、かなりまだアバウトですが、測量記載がありますね。

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/dassai/shiki/chousen/gen.htm>

同様に、ご指摘の「南至邪馬壹國、女王之所都」の「都」に関する記載についても、中国文献の記載の仕方を分析していくと、わかってくるかもしれません。上記の続きでこんな記載もあります。

「滿亡命 聚黨千餘人 ?結蠻夷服而東走出塞 渡水 居秦故空地上下? 稍役屬眞番・朝鮮 蠻夷及故燕・齊亡命者王之 都王險」

「燕王の盧綰(ロワン)が背き、匈奴に亡命すると、鬻(まげ)を結い、蠻夷の衣服を着た滿 は千余の人々を連れて長城を出て東に逃れ、?水(清川江)を渡り、秦の時代の昔の空地に居 を構えて?(長城)を出入し、眞番に軽く属していた朝鮮蠻夷や、その地に暮らす昔の燕や齊 からの亡命者らの王となり、王險城(王儉城とも)を都とした。」 <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kochosen/kochosen4-eisichosen.htm>

----- Re:『三国志魏書』倭人伝の訳 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 2 月 14 日(火)22 時 48 分 53 秒 返信・引用 編集済 > No.65[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 帯方郡から狗邪韓国までが七千余里+対馬まで1千余里+壱岐まで1千余里+松浦まで 1千余里+伊都国まで500里+奴国(すなわち女王国の属国の北限の境界にある国)まで100里で、おおよそ1万2千里という意味だろうと感じます。ソ連のウラジオストク州 からモスクワまでのような感じでしょう。

帯方郡から狗邪韓国まで1万2千里、壱岐から松浦は六百里しかないんです。1万2千里の 意味は水行で歴韓国、歴韓国から陸行になる。歴韓国が基点で狗邪韓国までが7千里になる 後の 5千里は歴韓国から帯方郡の陸路の距離です。魏志は海岸に 2千里沿い。陸行で 5千里 (海岸に 2千里+歴韓国から海岸 3千里)になる。何か事情があった模様です。

> それとは別に女王国の都するところまでが陸行1ヶ月、水行10日かかったわけですね。

南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日、陸行一月。官有伊支馬、次曰彌馬升、次曰彌馬獲支、次 曰奴佳?、可七萬餘戸。

南に邪馬壹国の女王の都に至るには、水行十日、陸行一ト月。官には伊支馬があり、次を彌馬升といい、その次が彌馬獲支、その次が奴佳?という。七万余戸ほどか。

『都する』をミヤコと読んでいませんか?、『女王之所』は『女王の所』でミヤコとは言っていない。これは、行程を読み解かないと読めない。『女王之所都、水行十日、陸行一月』を中国語を 熟知した人でも『女王の都に至る』と訳している。この訳は間違いです。これじゃ一生かけて もたどり着かない。400年のなぞは理解できる。

----- Re:『三国志魏書』倭人伝の訳 投稿者:管
理人 投稿日:2012 年 2 月 14 日(火)04 時 11 分 3 秒 返信・引用 > No.64[元記事へ]

秦野さん さっそく情報ありがとうございます。特に引用の下記の箇所は行程を考える上で重要です。

帯方郡より倭に至るには、海岸に沿う、水行で歴韓国、南へ(倭奴国)、東へ北岸の狗邪韓国に 到ること七千余里。

陸路を使わずに沿岸航路をたどってます。これがおそらく当時の魏の船の航路方法なのでし ょう。ただ海流に乗らないので手漕ぎで遅いわけです。沿岸に何度も立ち寄って数十日かけ て狗邪韓国へと向かったのでしょう。

「一海を渡り、千余里」からすると、確かに船の速度から本来の距離をだいたい割り出してま すね。

「船で南北の市(物々交換の場)に出かけて、糴(てき=穀物を買求める)する。」を読む と、まだ対馬までは南北の観念は東西に逆転してないわけです。

次の壱岐についても同じで

「又南に一海を渡ること千余里、…一大國に至る。…竹木そう林多く、三千ばかりの家有り。やや田地有り、田を耕せどなお食足らず、亦南北に市てきす。」

この場合も、南北は、松浦と対馬との間にある南北の観念で、まだ方位がここでも逆転してないわけですね。

「郡より女王國に至ること萬二千余里」も、

帯方郡から狗邪韓国までが七千余里+対馬まで1千余里+壹岐まで1千余里+松浦まで1千余里+伊都国まで500里+奴国(すなわち女王國の属国の北限の境界にある国)まで100里で、おおよそ1万2千里という意味だろうと感じます。ソ連のウラジオストク州からモスクワまでのような感じでしょう。

それとは別に女王國の都するところまでが陸行1ヶ月、水行10日かかったわけですね。その間の属国のことを「以北」としているので、ここでもまだ南北の観念が見えます。

もちろん途中で陸路を通った可能性もあります。

ただ、そうすると船を乗り捨てなければならないわけですし、完全に現地人の案内に寄らないとたどり着けないことになるでしょう。多くの鏡や宝物を運ぶには、船が便利ですが、陸路を使う場合は、人手が必要です。

ともあれ「使訳(通訳を連れた使節)が通じるのは三十国。」ところを経由しないとダメですね。

同様に女王國への行程も、主に沿岸航路沿いに、使訳が通じる国を経由して、数十日かけて向かったものと感じます。

「乍南乍東」は、おおむねの意味で、かならずしもいつも同じ方角ではないといっているのでしょう。

【乍ち】たちまち非常に短い時間の内に行われるようす。またたく間に。すぐに。ある物事・行為が急に起こるようす。にわかに。【乍ら】ながら～しつつ。二つの動作が平行して行われ

ることを表す。

興味深いのは、投馬国と女王國については、「南」としか方角が記されていない点です。「乍南乍東」とは記さなかったんですね。だから、この両国の方位は、おおむね伊都国もしくは不彌国から「南」だった。

ただし、投馬国は船だけで20日かけて向かうのに対して、女王國は陸行で1月、加えて(もしくは)水行で10日かかる場所。その相違は地形的な条件が絡んでいます。

確かに対馬について、「土地は山が陰阻で、深い林が多く、道路は獣や鹿の小道(獣道)。」とあることを考慮すると、以前ご指摘いただいたとおり、他の諸国は、そこまではひどくない「道」であったと感じます。

この国の道だけがひどいので、こういう形でピックアップされているのでしょうね。

-----『三国志魏書』倭人伝の訳 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年2月13日(月)22時58分10秒

返信・引用 『三国志魏書』倭人伝(通称:魏志倭人伝)の翻訳であるが、翻訳に一部不備があるので修

正している。(倭奴国)の存在は中国史籍の文章は当時、存在する国は記入するが無くなった国は空白としている。乍南乍東は文法から導かれる。

倭人在帶方東南大海之中、依山島為國邑。舊百餘國、漢時有朝見者、今使譯所通三十國。

倭人は帯方郡の東南の大海中に在り、山島に拠って邑落国家を為している。昔は百余国、漢代には朝見する者があり、今は使訳(通訳を連れた使節)が通じるのは三十国。

從郡至倭、循海岸、水行歷韓國、乍南(倭奴国)、乍東到其北岸狗邪韓国、七千餘里。始度一海、千餘里至對馬國。其大官曰卑狗、副曰卑奴母離。所居絶島、方可四百餘里、土地山險、多深林、道路如禽鹿徑。有千餘戸、無良田、食海物自活、乖船南北市糴。

帯方郡より倭に至るには、海岸に沿う、水行で歴韓国、南へ(倭奴国)、東へ北岸の狗邪韓国に到ること七千余里。初めて一海を渡り、千余里で対馬国に至る。そこの大官は卑狗、副は卑奴母離という。極めて険しい島に住み、四方は四百余里ほど。土地は山が陰阻で、深い林が多

く、道路は獣や鹿の小道(獣道)。千余戸あり、良田は無く、海産物を食べて自活しており、船で南北の市(物々交換の場)に出かけて、糴(てき=穀物を買求める)する。堀貞雄の古代史・探訪館より

状況を添付

----- Re: 枯野 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 11 日(土)23 時 31 分 48 秒 返信・引用 > No.62[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 本件は、韓半島の京師、帯方群から邪馬台国までの行程を纏めて出版『徐福と邪馬台国』して ます。 > 古事記の解説は終わり、校正しています。 >

> また、秦野さんのご本を近いうち拝読させていただきたく感じてます。 魏志倭人伝の行程と邪馬台国、卑弥呼の墓の所在を明らかにしています。

本の疑問、問題点を聞かせて下さい。

----- Re: 枯野 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 11 日(土)23 時 08 分 37 秒 返信・引用 編集済 > No.61[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそく御返事ありがとうございます。

> 水行 10 日は潮流から 1~0.5Knot:1.8~0.9km/h で 200Km 程度。意外でしょう。 > 魏志倭人伝は中国から陳寿が来て文章にしている。いろんな事情があり陸行(月)、水行(日)としている。中国史籍を読み解けば、陳寿、卑弥呼の事情を知ることができる。

中国文献のあり方については、私も興味深く感じてます。特に漢書・魏志の時代のほかの諸国についての書き方ですね。

魏書(列伝)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AD%8F%E6%9B%B8>

魏志・東夷伝

http://yumiki.cocolog-nifty.com/station/2006/05/post_e624.html

魏志・韓伝

<http://kamodoku.dee.cc/gishi-kanden.html>

ちょっと時間がかかりそうなので、ピックアップして読み進めたいと思います。

尚、道は獣道に慣れない人なら…。これは、大きな間違いです。通常の街道です。現在もこの道を使用している。名まえは変わり、現在は国道に成っている。途中から…線(茅渟(ちぬ)の道)なり、道幅は 5 m はある。国道?号線は伏せておきます。楽しみが無くなるため。

本件は、韓半島の京師、帯方群から邪馬台国までの行程を纏めて出版『徐福と邪馬台国』して ます。 古事記の解説は終わり、校正しています。

また、秦野さんのご本を近いうち拝読させていただきたく感じてます。

----- Re: 枯野 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 11 日(土)00 時 31 分 27 秒 返信・引用 編集済 > No.60[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 邪馬台国までは魏志では、陸行 1 月(OR、+、水行 10 日)。それが、南北 3 ヶ月、東西は 5 ヶ月の記載に変化する。

> 九州から茨城までを東西として 5 ヶ月とすると、1 ヶ月でいける距離は、5 分の 1 で、せいぜい岡山くらいまでとなるでしょうか。 > 当時の道は獣道でしょうし、主に沿岸沿いや坂道を多く歩いたでしょうから、我々の

想像 よりはるかに時間がかかるのかもしれませんが。獣道に慣れない人なら、1日にせいぜい15キロ程度でしょう。1月・450キロがいいところではないでしょうか。

水行 10日は潮流から 1~0.5Knot:1.8~0.9km/hで 200Km程度。意外でしょう。魏志倭人伝は中国から陳寿が来て文章にしている。いろんな事情があり陸行(月)、水行(日)と している。中国史籍を読み解けば、陳寿、卑弥呼の事情を知ることができる。

九州から茨城まで:約 1000km、5分の1で:約 200km。せいぜい広島です。感覚で1月・450キロですか、1単里で 64m近いです。しかし、正確でなければ、命取りに成りますよ。魏志 倭人伝、中国史籍の距離に対応します。正確でなければ、魏志倭人伝の帯方郡、京師まで辿れる。中国史籍の韓半島の新羅、百済、扶余の位置が判明します。注意が必要なのは、東西5ヶ月、南北3ヶ月は直線距離です。またも、意外でしょう。陸行1月(OR、+、水行 10日)は行程距離、道のりです。

尚、道は獣道に慣れない人なら…。これは、大きな間違いです。通常の街道です。現在もこの道を使用している。名まえは変わり、現在は国道に成っている。途中から…線(茅渟(ちぬ)の道)なり、道幅は 5mはある。国道?号線は伏せておきます。楽しみが無くなるため。

本件は、韓半島の京師、帯方群から邪馬台国までの行程を纏めて出版『徐福と邪馬台国』して ます。古事記の解説は終わり、校正しています。

----- Re: 枯野 投稿者:管理人 投稿日:2012年
2月 10日(金)23時 00分 5秒 返信・引用 編集済 > No.59[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 あらら、拙い会報のほうもすでに拝読いただいているとのこと、ありがとうございました

(*^_^*) それで先の旧唐書の

「京師から一万四千里、新羅の東南の大海中に在り、山島に依って暮らす。『東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程。』

の部分なのですが、帯方からの距離は、魏志の記載から変化してないんですよね。新羅という 国名が新たにでてきており、その後新たな距離情報が入りこんでます。先日の新羅の文献を 引用しましたね。

それにしても3ヶ月、5ヶ月というのは、魏志で陸行1月とか水行10日とかいう記載との 対応でどうなるのか、その辺が課題です。

ただ東西5ヶ月については、唐代になれば、馬や駅宿のある時代の話ですから、いささか長すぎる感じもします。

そうすると、やはりもっと古い時代で、馬を使わない徒歩や、小型船での距離感覚によるのか かもしれません。

ご指摘の徒歩と距離換算の件は、そういう意味で重要です。馬や大型ガレー船での距離・時間感覚ではないのでしょうか。

したがって、魏志も旧唐書も、ともに徒歩での距離感覚を、わざと記載しているのではないかと感じます。

邪馬台国までは魏志では、陸行1月(OR、+、水行 10日)。それが、南北3ヶ月、東西は5ヶ月の記載に変化する。

九州から茨城までを東西として5ヶ月とすると、1ヶ月でいける距離は、5分の1で、せいぜい岡山くらいまでとなるでしょうか。

当時の道は獣道でしょうし、主に沿岸沿いや坂道を多く歩いたでしょうから、我々の想像より はるかに時間がかかるのかもしれませんが。獣道に慣れない人なら、1日にせいぜい15キロ程度でしょう。1月・450キロがいいところではないでしょうか。

また、水行は風向きや海流の向き、船の構造によって、大きく時間が異なってくると感じます。

----- 以上は、新着順 61番目から 70番目ま

での記事です。3 4 5 6 7 8 9 10 11 12《前のページ | 次のページ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] [お絵かき] [twitter] RSS

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

----- Re: 枯野 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 10 日(金)02 時 10 分 20 秒 返信・引用 編集 済 > No.58[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 距離の件ですが、海にある沖縄などの孤島を入れて測量するとなると、相当高度な測量技術がないと、正しい距離数値を出せないかと感じます。3 ヶ月・5 ヶ月と日程として書いて

あるのも、アバウトであることを意味してますね。

> ただ個人的には、邪馬台国時代には、すでに海をもすべて考慮した精度の高い測量技術を持っていたと考えてますので、不可能ではなかったと感じます。詳細は研究会の会報あたりにて記しているので、参考まで。

3 ヶ月・5 ヶ月と日程…、は日程でなく距離で現在のメートル法に換算可能です。参考ですが 1 月は 7000 里です。魏志倭人伝の 1 月で、どこにも書いてないですよ。唯一、知る方法は実測しかない。詳細な里は徐福と邪馬台国を参照

高い測量技術を…詳細は研究会の会報、どうも研究会の会報は未だ子供です。参考にも成らない。どうも、根拠が万葉集、伝承が中心です。注意点は、万葉集の詩は韓半島で歌ったもので日本には該当しない。秦野の調べでは魏志倭人の距離測定はセンチメートル (cm)まで測定している。

研究会の研究が進み、自信を持った専門家が、常方郡さえ特定ができず、玄菟郡を楽浪郡と言っている。日本に在りもしない欠史八代の古墳を奈良に比定している。現実は大陸に散在している。

Ads by Google ----- Re: 枯野 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 9 日(木)22 時 48 分 10 秒 返信・引用 編集済 > No.57[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

さっそく御返事ありがとうございます。距離の件ですが、海にある沖縄などの孤島を入れて測量するとなると、相当高度な測量技術がないと、正しい距離数値を出せないかと感じます。3 ヶ月・5 ヶ月と日程として書いてあるのも、アバウトであることを意味してますね。

> 古田、安本、鷲崎、桂川光和…説では中国史籍の文中の距離表記を地図に書き起こせない。

完全に間違っていると言ってよい。秦野はこれまでの説とは違う方法で古代史を紐解きたい。

>

ただ個人的には、邪馬台国時代には、すでに海をもすべて考慮した精度の高い測量技術を持っていたと考えてますので、不可能ではなかったと感じます。詳細は研究会の会報あたりにて記しているので、参考まで。

----- Re: 枯野 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 8 日(水)23 時 17 分 55 秒 返信・引用 編集済 > No.56[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 呉人が、台湾、沖縄経由で、九州南部から北部へ、吉備、畿内へと入っていくルートがあった ようですね。

おっしゃる通り、呉人、越人のルートは存在しています。秦野の調べでは台湾、沖縄経由はない。呉人は直接、九州南部になっている。越人は日を改めて…。

> 魏志の方位がおかしいことは、後代気付いたので、ちゃんと修正してますね。南が逆さまになった日本地図の話が出てこないようです。ただ、一大率という警察・軍隊の話は、よく把握 できていなかったのでしょうか。

ちゃんと修正してますね。一大率という警察・軍隊の話は、よく把握できていなかった。？この件は魏志倭人伝と古事記、日本神話。の解説して明らかになりますが、専門家、一般人で 解説した話は聞いていないのですが？。解説できれば、同じ土俵で秦野は話をしたい。

古田、安本、鷲崎、桂川光和…説では中国史籍の文中の距離表記を地図に書き起こせない。 完全に間違っていると言ってよい。秦野はこれまでの説とは違う方法で古代史を紐解きたい。

----- Re: 枯野 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 8 日(水)10 時 42 分 19 秒 返信・引用 編集済 > No.55[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 秦野さん、こんにちは。ここ数日パソコンが調子悪く、昨晚も書き込み終えた途端に文書が

消えてしまいました(・_・;)

> 西日本の森や林は当時の生活圏を表わしている。秦野書、徐福と邪馬台国で倭国、『東西に 五カ月の行程、南北に三カ月の行程。』の中部地方以西が地図上(添付)に描かれた。樹木の分布と三角縁神獣鏡の分布と一致する。不思議ですね。現在、徐福と邪馬台国で紹介した、茅渟 (ちぬ)の道(日本最古の道)を調べています。

呉人が、台湾、沖縄経由で、九州南部から北部へ、吉備、畿内へと入っていくルートがあったよ うですね。

> 倭国とは、古の倭奴国なり。京師から一万四千里、新羅の東南の大海中に在り、山島に依つ て暮らす。『東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程。』代々中国と通じている。その国、居 住地に城郭がなく、木を以て柵とし、草を以て屋根とする。四面の小島、五十余国、皆、これに 附属している。その王姓は阿每氏、一大率を置き、諸国を檢察させ、皆はこれを畏怖している。 官には十二等級を設けている。(堀貞雄の古代

史・探訪館より)

この文書は、漢書から魏志…と抜き書きしている感じが見受けられます。

魏志の方位がおかしいことは、後代気付いたので、ちゃんと修正してますね。南が逆さまにな った日本地図の話が出てこないようです。ただ、一大率という警察・軍隊の話は、よく把握で きていなかったのでしょうか。

> 椎根津彦(しいねつひこ、『日本書紀』)、槁根津彦(さおねつひこ、『古事記』)は同じもの

を言っている。『書記』では天皇が勅で椎の棹を授けて…、椎根は『椎の棹』の椎、槁根は『椎 の棹』の棹=槁。秦野が知る限り『日本書紀』と『古事記』は対に成っている。

日本における節刀関連の文書のはじまりが見えるというになるでしょうか。椎根津彦は重要 です。

あと、「塩筒老翁」と神武東征のイメージこそが、後に記紀に出てくる海の老人の原型だと思 いますね。「筒」の字を当てているのがまた興味深いところです。

同じくイザナギの息子で、住吉三神が、やはり「底筒男命」のように、「筒」を名前に入れてます ね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%8F%E5%90%89%E4%B8%89%E7%A5%9E>

住吉は、元は「住江」とのことで、「スミ」というところにあった港のことだったのでしょう。

上記の呉とか隼人と結びつけるなら、安住・安曇、大隈といった「スミ」音の意味あたりまで 追求したいところですが、元の根っこは弥生時代の発音にあって、後代の「澄んだ水」とかい う、文献学者の解釈では不十分であることをしめじみ感じますね。古代史やる人は、まず魏志 倭人伝の読みからやらなければならないということな

のでしょう。

----- Re: 枯野 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 7 日(火)21 時 18 分 26 秒 返信・引用 編集済 > No.54[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

>『魏志倭人伝』に記された樹木名は、クス、シイ、タブ、クヌギ、カシ、カエデなど、西日本の森 や林を、構成する極めて一般的な樹木である。

>『其木有、(だん)・杼(ちょ)・予樟(よしょう)・(じゅう)・櫪(れき)・投(と う)・檀(きょう)・烏号(うごう)・楓香(ふうこう)。其竹、篠(じょう)・(か ん)・桃支(とうし)。有、薑(きょう)・橘(きつ)・椒(しょう)・何(じょうか)・ 不知以為滋味』

西日本の森や林は当時の生活圏を表わしている。秦野書、徐福と邪馬台国で倭国、『東西に五 カ月の行程、南北に三カ月の行程。』の中部地方以西が地図上(添付)に描かれた。樹木の分布 と三角縁神獣鏡の分布と一致する。不思議ですね。現在、徐福と邪馬台国で紹介した、茅渟 (ちぬ)の道(日本最古の道)を調べています。

倭國者、古倭奴國也。去京師一萬四千里、在新羅東南大海中、依山島而居。東西五月行、南北 三月行。世與中國通。其國、居無城郭、以木為柵、以草為屋。四面小島五十餘國、皆附屬焉。其王 姓阿每氏、置一大率、檢察諸國、皆畏附之。設官有十二等。(『旧 唐書』倭国・日本国伝)

倭国とは、古の倭奴国なり。京師から一万四千里、新羅の東南の大海中に在り、山島に依って 暮らす。『東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程。』代々中国と通じている。その国、居住 地に城郭がなく、木を以て柵とし、草を以て屋根とする。四面の小島、五十余国、皆、これに附 属している。その王姓は阿每氏、一大率を置き、諸国を檢察させ、皆はこれを畏怖している。官 には十二等級を設けている。(堀貞雄の古代史・探訪館より)

>それで、塩椎爺、椎根津彦の「椎」の木は、どうもその「杼」とのことです。

椎根津彦(しいねつひこ、『日本書紀』)、槁根津彦(さおねつひこ、『古事記』)は同じもの を言っている。『書紀』では天皇が勅で椎の棹を授けて…、椎根は『椎の棹』の椎、槁根は『椎 の棹』の棹=槁。秦野が知る限り『日本書紀』と『古事記』は対に成っている。

シオツチノオジの文章は古事記を読み解けば理解できる。心配はない、難解ですが理解でき ます。

シオツチノオジ(シホツチノヲヂ)は、日本神話に登場する神であり塩竈明神とも言う。『古 事記』では塩椎神(しおつちのかみ)、『日本書紀』では塩土老翁・塩筒老翁、『先代旧事本 紀』では塩土老翁と表記する。別名 事勝因勝長狭神(ことかつくにかつなぎさ)。

『日本書紀』の天孫降臨の説話において、日向の高千穂の峰に天降ったニニギが笠狭崎に至っ た時に事勝国勝長狭神が登場し、ニニギに自分の国を奉っている。一書では、事勝因勝長狭神 の別名が塩土老翁で、イザナギの子であるとしている。 海幸山幸の説話においては、ホデリ(海幸彦)の釣針を失くして悲嘆にくれるホオリ(山幸彦)の前に現れる。ホオリから事情を聞くと小舟(または目の詰まった竹籠)を出してホオ リを乗せ、そのまま進めば良い潮路に乗って海神の宮に着くから、宮の前の木の上で待って いれば、あとは海神が良いようにしてくれと告げる。

『日本書紀』本文の神武東征の記述では、塩筒老翁が東に良い土地があると言ったことから

神武天皇は東征を決意したとある。

----- Re: 枯野 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 6 日(月)22 時 50 分 0 秒 返信・引用 編集済 > No.53[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそく情報ありがとうございます。

- > > 枯野の船を焼いて塩を作るという話が面白いですね。
- > > 製塩をするのに、大量の木材が必要だと言っているわけです。 >

- ・ > 当時の船の材料は檜・杉・樫・椎で造られている?。 >

魏志倭人伝に記された植物について研究したサイトがありました。
こちら参照ください。

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-kat/gisi/namae.htm>

上記サイトより引用

要旨 『魏志倭人伝』に記された樹木名は、クス、シイ、タブ、クヌギ、カシ、カエデなど、西日本の森や林を、構成する極めて一般的な樹木である。

『其木有、(だん)・桴(ちょ)・予樟(よししょう)・(じゅう)・樫(れき)・投(と う)・檀(きょう)・烏号(うごう)・楓香(ふうこう)。其竹、篠(じょう)・(か

ん)・桃支(とうし)。有、薑(きょう)・橘(きつ)・椒(しょう)・何(じょうか) 不知以為滋味』

それで、塩椎爺、椎根津彦の「椎」の木は、どうもその「桴」とのことです。

上記サイトによると、「また桴とは機織りの横糸を走らせる『ひ』のことでもある。察するに『ひ』を作った材である

う、器具材としては、小径で曲がったコナラよりシイの方が適材である。したがって桴とはシイのことである。

わが国のシイにはコジイ(ツブラジイ)とスダジイがあるが、どちらであるかは定かでない。いずれも高さ25mに達する高木であり、上記のクスと共に西日本の照葉樹林を構成する代表的樹木でもある。」

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/m-kat/gisi/bunnpu.htm>

こちらにその分布図がまとめられています。特に注目したいのは、 楓香(カエデ)と目される(イロハモミジ)の分布で、鹿児島方面が入ってないことです。

全体的には西日本の特性をもちながらも、鹿児島以北、その辺に絞られてくるのでしょうか。(追記:一部誤記を修正しました)

----- Re: 枯野 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 2月 6日(月)15時 35分 15秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

> 枯野の船を焼いて塩を作るという話が面白いですね。 > 製塩をするのに、大量の木材が必要だと言っているわけです。

当時の船の材料は檜・杉・樫・椎で造られている?。 弦楽器はトンコリ系:アイヌに伝わる伝統的なでカラフトアイヌが用いていた五弦琴(三

弦や六弦の物もある)。

エゾマツ材は淡黄色で着色した心材がない。木目もまっすぐに通っており美しく、建築材料 に多く用いられる。また繊維が長く製紙用原料(パルプ材)にも非常に適している。切削な どの加工も容易で、家具、箱材、楽器(ピアノ、バイオリン、ギター等)、経木、マッチの軸、碁 盤など様々な用途に利用されている。

----- 枯野 投稿者:管理人 投稿日:2012年 2月 4日(土)22時 53分 59秒 返信・引用 編集済 > No.51[元記事へ]

秦野さん、またいろいろ情報ありがとうございます。

枯野の船を焼いて塩を作るという話が面白いですね。 製塩をするのに、大量の木材が必要だと言っているわけです。

最近聞いた話で、倭と朝鮮の間で、鉄と塩を交換していた可能性があるそうです。岩塩も九州 の山地では採れ

たそうです。

木材は倭つまり日本のほうが取れやすかったかもしれませんね。　また琴の話は、6世紀前後の話になりますが、カヤ琴の話が有名です。　そう考えていくと、任那と応神・仁徳との関わりは、重要かもしれません。

あと、補佐役という視点からいくと、コノハナサクヤヒメとセット出てくる塩土翁の存在が　あります。その塩の意味は、潮から転じて潮流のことだとか、製塩の神としても祀られるとのこと。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%82%AA%E3%83%84%E3%83%81%E3%83%8E%E3%82%AA%E3%82%B8>

古事記では「塩椎」とも書かれていて、「椎」は、堅いシイの木のことだそうです。塩と木・船の　関係が見て取れますね。書紀では「塩土」になって、製塩土器を思わせるように変化していく。

似たような船頭役をする人物に、宇豆毘古・シイネツヒコ(椎根津彦)というのがいます。

<http://gejirin.com/src/U/utuhiko.html>

九州南部の隼人から北部の大分、畿内にまで関係する重要人物です。「椎の竿の末を持たせて　タケヒトの船に引き入れた」とのことで、別のところでも、蓑笠姿の翁として、香具山から、埴　輪の土を持ってくる。

上記の流れで考えると、「海の老人」、製塩土器との関わりも考えうるでしょうし、黄幢を持つ　て船で乗り込んだ人物、ニギハヤヒやニギとの関わりも感じさせますね。

何か実在するイメージを元にして、できあがった人物像だろうと感じます。

----- Re:「掖邪狗」=武内宿禰？ 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年　 2 月　 4 日(土)12 時　 48 分　 38 秒　 返信・引用　 > No.50[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。　検索するのが速いですね。

> 枯野(からぬ)の船というと、伊豆国に応神天皇がそれをつくらせた伝承が残っているよう　ですね。秦野さんの
的には、すると伊豆=伊都ということでしょうか。

地名は表音に成っている。魏志倭人伝:対馬国(つしまこく)、『隋書』倭国伝:都斯麻国　(つしまこく)がよい例です。

日本書紀、この文章の枯野(からぬ)は長さ十丈(30 m)になる。遣唐使船クラスになる。　どうも、鳥船(とりふね)、八咫鳥、鳥奴が混在している。鳥の意味は案内人を指すと思われ、　神社数は五百籠の塩から　500 社になる。

諸国から五百の船が献上された。それが武庫の港(釜山の忠武港)に集まった。釜山=狗耶　韓国で新羅と倭の境界に位置する。任那日本府はこの辺になる。

仁徳天皇の詩はどこで歌われたか未だ特定、出来ない。韓半島は間違いないが。

日本書紀 応神天皇の処　五年冬十月伊豆国に命じて船を造らせた。長さ十丈の船ができた。ためしに海に浮かべると　軽く浮かんで早く行くことは、走るようであった。その船を名づけて枯野といった。　---船が軽く早く走るのに、枯野と名づけるのは、道理に合わない。もしかすると軽野と　いったのを、後の人がなまめたのでなかろうか。

三十一年秋八月、群卿に詔していわれるのに、「官船の枯野は、伊豆の国から奉ったものであ　るが、いまは朽ちてきて用に堪えない。しかし長らく官用を勤め、功は忘れられない。その船　の名を絶やさず、後に伝えるには何かよい方法はないか」と。群卿は有司に命じて、その船の　材を取り、薪として塩を焼かせた。五百籠の塩が得られた。それをあまねく諸国に施された。　そして船を造ることになり、それが武庫の港に集まった。そのとき新羅の調の使が武庫に宿　っており、そこから失火した。その延焼で多数の船が焼けたので新羅の人を責めた。新羅王は　これを聞き、犬いに驚いてすぐれた工匠を奉った。これが猪名部らの先祖である。　前に枯野船を塩の薪にして焼いた日に、あまりものの焼け残りがあった。その燃えないのを　不恩議に思って献上した。天皇は怪しんで琴を造らされた。その音はさやかで遠くまで響い　た。このとき天皇が歌っていわれるのに、

枯野塩焼其余、琴作、搔弾由良之門、　カラヌヲ、シホニヤキ、シガアマリコトニツクリカキヒクヤ、ユラノトノ
門中海岩触立浸欄木亮々　トナカノイクリニ、フレタツ、ナヅノキノ、サヤサヤ。　「枯野」を塩焼きの材として

焼き、そのあまりを琴に造って、かき鳴らすと、由良の瀬戸の海岩(海中の石)に触れて、生えているナズの木が、潮に打たれて

古事記 仁徳天皇の処にに書かれている この御世に、免寸河の西に一つの高樹ありき。その樹の影、旦日に当たれば、淡道島に逮び、夕日に当たれば、高安山を越えき。故、この樹を 切りて船を作りしに、甚捷く行く船なりき。時にその船を號けて枯野と謂ひき。故、この船を もち旦夕淡道島の寒泉を酌みて、大御水献りき。この船、破れ壊れて塩を焼き、その焼け遣りし木を取りて琴に作りしに、その音七里に響みき。ここに歌ひけらく、

枯野を 塩に焼き 其が余り 琴に作り かき弾くや 由良の門の
門中の海石に 觸れ立つ 浸漬の木の さやさや
とうたひき。こは志都歌の歌返しなり。

----- Re:「掖邪狗」=武内宿禰? 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 2 月 3 日(金)21 時 06 分 35 秒 返 信・引用 編集済 > No.49[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

枯野(からぬ)の船というと、伊豆国に応神天皇がそれをつくらせた伝承が残っているようで すね。秦野さんのには、すると伊豆=伊都ということでしょうか。

枯野の船について

<http://homepage2.nifty.com/mino-sigaku/page410.html>

それで武内宿禰の件について、もう少し調べてみたいところです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A6%E5%86%85%E5%AE%BF%E7%A6%B0>

景行・成務・仲哀・応神・仁徳天皇と五代に仕えて、紀・巨勢・平群・葛城・蘇我氏などの 中央諸豪族の祖ともされる人物ですね。

また景行や応神など、九州、朝鮮との関わりも出てきます。

この人物の寿命が200~300 と延びたのは、記紀の年代を延ばしたことと関係があり そうです。

葛城の宮山古墳に、彼と息子のソツヒコの伝承があり、盾・ユキ型の埴輪や、長持形石棺があるとのことで、山陰・北九州とのつながりを感じさせますね。 http://inoues.net/club/katuragi_kodo2_6.html
http://74589594.at.webry.info/200807/article_8.html http://wiki.livedoor.jp/ksg_recon/d/%BC%BC%B5%DC%BB%B3%B8%C5%CA%AF

<http://www.jpn-hayashi.com/cgi-bin/pjdetail.cgi?mode=&title0=%8E%BA%8B%7B%8E%8C%C3%95%AD&choice0=k4400010&printer=&photoview=02&index=194&brower=99&colum=24&font=20&screen=240&life=>

前方部と後円部に、埋葬施設が複数あり、石棺・木棺と種類も分かれていて、珍しいタイプの 古墳あだと感じます。三角縁や割竹形木棺など、古い要素もあり、武内宿禰のような「長い歴史変遷」を集約した古墳のように見えます。

----- 以上は、新着順 71 番目から 80 番目までの記事です。4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 《前のページ | 次のページ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

----- Re:「掖邪狗」=武内宿禰? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 2 日(木)21 時 02 分 4 秒 返信・引用 編集済

> No.48[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> そうすると、彼女の古墳の形態は、古墳時代中期のものになってしまうかもしれませんよ。ね。その前に死んだヒミコの墓の形態とは大きく異なるかもしれません。むしろ、先に死んだであろう「掖邪狗」とかの墓のほうが、古い形態を保っているのかもしれない。

卑弥呼の古墳は円墳です。1 年ほど前に行ってきました。確かに円墳でした。 壱輿は前方後円墳、五社神古墳(神功皇后陵)。でしょう。

日本人なら一生に一度は、卑弥呼と壱輿の祭られている所へ行きます。あとは推理してください。注、誰も卑弥呼と壱輿が祭られている事は知りませんな。

尚、神功皇后の応神天皇は韓半島、任那日本府で死んだと思われる。 枯野(からぬ)の船の詩から九州の伊都国に船を作らせ…。名を枯野(からぬ)と言う、『からぬ』は八咫鳥の鳥と奴を合わせ『鳥奴』。建造の目的は多分、航路の防衛兵、今の海上保安庁 ですね。この船が、任那の港、武庫で新羅の役人が火を出し、炎上、消失。応神天皇が怒り、新羅王が船の修理のため、船大工を派遣している。

Ads by Google ----- Re:「掖邪狗」=武内宿禰?
投稿者:管理人 投稿日:2012 年 2 月 2 日(木)19 時 50 分 26 秒 返信・引用 > No.47[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

さっそく御返事ありがとうございます。個人的に気になっているのは壱輿の寿命ですね。王としての在位期間も考慮せねばなりません。

13 歳で即位して、たとえば80 歳まで生きたとすると、310 年ころ死んだと仮定します。

>

- ・ > 8~18 年 男の王が立つが、国が混乱し互いに誅殺しあい千人余が死んだ。 >
- ・ > 266 年 壱輿=神功皇后 13~23 歳 >
- ・ > 286 年 33~43 歳で三韓征伐、55~65 歳?「掖邪狗」=武内宿禰? >

そうすると、彼女の古墳の形態は、古墳時代中期のものになってしまうかもしれませんね。その前に死んだヒミコの墓の形態とは大きく異なるかもしれません。むしろ、先に死んだであろう「掖邪狗」とかの墓のほうが、古い形態を保っているのかもしれない。

ただもちろん、譲位(あまりない)あるいは、討伐されたりして死んでしまったこともありうるでしょうから、なんともいえませんが。

だから、古墳の形態が新しいからといって、その時代の中心人物だったとは限らないわけでして、難しいものを感じます。

-----「掖邪狗」=武内宿禰? 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 2 月 2 日(木)19 時 34 分 2 秒 返信・引用 編集済 > 特に注目したいのは「難升米」が5 年程度見えたのちに消えたのに比して、その後の「掖邪 狗」が20 年近く在職し続け

ていることですね。

卑弥呼以後の歴史の流れを推測しました。 5 年程度「難升米」、 20 年近く「掖邪狗」この点に注目すると。 248 年 卑弥呼の死

8~18 年 男の王が立つが、国が混乱し互いに誅殺しあい千人余が死んだ。 266 年 𪛗輿=神功皇后
13~23 歳

286 年 33~43 歳で三韓征伐、55~65 歳?「掖邪狗」=武内宿禰?

----- Re: 金印 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 31 日(火)22 時 11 分 17 秒 返信・引用 編集 済 > No.45[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> そこでですが、次に卑弥呼以後の時代、250 年~350 年代について話を進めてみたい と思います。ご指摘のとおり、私も韓半島との関わりが強くなる時期ではないかと見ていま す。

250 年~350 年代 250 年代の前と後では韓半島は様変わりしています。

韓(馬韓+弁韓+辰韓)+?は百済と高句麗に、倭に新羅が居候している。 これは魏志倭人伝の距離を秦野は秦野距離と命名した。 秦野距離を中国史籍に当てはめると当時の状況が明確になる。 現在の韓半島の古代地図は曖昧でこの辺、あの辺で制作している。

まあ言える事は、魏志倭人伝の単里が分らなければ古代史は解けません。 秦野は神功皇后を調べていて、陸行 1 月と単里を知った。

この頃に『日本書紀』、『先代旧事本紀』では日本武尊、『古事記』では倭建命 ヤマトタケルが韓半島に現われる。(日本では関東、名古屋をウロウロしている。) 神話でヤマトタケルが𪛗輿=神功皇后をアマテラスと呼んでいる。

----- Re: 金印 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 31 日(火)20 時 03 分 31 秒 返信・引用 編集済 > No.44[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

そこでですが、次に卑弥呼以後の時代、250 年~350 年代について話を進めてみたいと 思います。ご指摘のとおり、私も韓半島との関わりが強くなる時期ではないかと見ています。

> 倭奴国王は韓半島の倭国に送ったお墨付きで大きな意味はない。 >>> 糸島市の神社に「漢委奴国王」の金印が宝物として伝わっていたというのも、奴国の印を 扱っていた役所が、外交・政務の中心地、伊都国だったからではないでしょうか。ただ女王が ここにいたわけではないので、政務と王(ミコ)が、完全に居住地ともども分離していたこ とが伺えます。 >> 韓半島から引き上げるとき、糸島市の神社に祭ったのでしょうか。伊都国とは別物、 >

204 年前後に公孫氏が帯方郡を建てた際に、韓・?族を撃って、「是より後、倭・韓遂に帯方 に属す」との記載がありますね。その後 238 年に公孫氏が敗れて、魏が帯方郡を吸収してい くわけですが、徐々に大陸との関わりが強くなっていく時期だろうと感じます。

景初 2~3 年に、韓・?に「邑君・長」の称号を与えて「印綬」を授けながら冊封関係を広げて いく。

倭国も当然、周囲の韓・?の動きを察知していたでしょうし、それで難升米を派遣した。 正始元年(240 年)に、太守となった弓遵は、魏の詔書・金印紫綬を配下の梯粵に持たせて 卑弥呼のもとへ送ってます。

卑弥呼に鏡を大量に配布するよう命じているのも、冊封支配を広める狙いもあったのでし ょう。この鏡は女王国から「倭種」を治めるため、「倭国中」全域に配布されたこととでしょう。 だから、島根でも桜井でも出てくる。

その後、245 年に「難升米」に黄幢を賜与。

247 年に卑弥呼は、太守王?に「載斯烏越(サイシウエツ)」を使者として派遣して、狗奴国 との戦いについて報告。

太守は塞曹掾史張政らを倭国に派遣した。

女王に就いた壹与は、帰任する張政に「掖邪狗」ら 20 人を同行させ、掖邪狗らはそのまま都に 向かい男女の生口 30 人と白珠 5,000 孔、青大句珠 2 枚、異文の雑錦 20 匹を貢いだ。(266 年)

神功皇后紀にて 「六十六年。く 是年。晋武帝泰初二年 晋起居注云 武帝泰初二年十月 倭女王遣重訳貢獻
」

そして 150 年の空白の 4 世紀があり、(413 年)の倭王讃による朝貢記事。 特に注目したいのは「難升米」が 5 年程度見えたのちに消えたのに比して、その後の「掖邪狗」

が 20 年近く在職し続けていることですね。

「難升米」は、247 年までに、女王国からいなくなったかに見えます。桜井あたりで黄幢や鏡 を抱えたまま墓に眠っている可能性もあるでしょう。大和に先に入り込んだ物部氏の祖・ニギハヤヒかもしれません。

伊都國の官を爾支「ニキ」、副を「泄謨觚(エ(セチ)ボク・ボコ)・柄渠觚(ヒョウゴク・ヘイゴコ)」があるのですが、その「ニギ」という発音がニギハヤヒを思い起こさせますね。

この国について、「世王有るも皆女王國に統属す。郡の使の往来して常に駐る所なり。」という のも、ここから使者が派遣されたことによるものでしょう。王もいて、ある程度女王国から独立した立場にあったのかもしれませんが。スイスみたいなものでしょうか。だから女王国は奴 国が「北限」なんですね。

ただ、張政も掖邪狗と同様に 20 年も女王国にいたことになりそうです。もっともヒミコや イヨが、大和まで向かったかどうかは不明ですが、千人の侍女をかかえた籠り症のヒミコが 大和まで行ったかどうかは疑問がありますね。行ったとしたら次のイヨ以降ではないでしょうか。

そして空白の 4 世紀に入るわけですが、下記のページに、2~3 世紀の任那地域と北九州と の関係、その後の 3~4 世紀の畿内との遺物関係が指摘されてます 。 http://www.geocities.jp/ikoh12/honnronn4/004_03.html 巴型・筒型銅器も出ているそうですが、巴型銅器は吉野ヶ里から復元されているように、北九州もので、ある時期から任那地域の首長にも渡されたように感じますね。

確かにこれらの銅器が、茨木・交野の前期古墳から出てくるのも、北九州・任那地域からの 畿内への移動を示すようにも見えますし、舟形木棺とか朱の関連も同様な大陸遊牧民系の流れかと感じてます。

このあたりは、やはり 313 年の高句麗が楽浪郡を占領して、帯方郡の流民が三韓地域に流れ込んだこととも関係しているでしょうし、それ以前の流れもあったらうとかんじます。

----- Re: 金印 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 30 日(月)23 時 25 分 36 秒 返信・引用 編集

済 > No.43[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 続いて下記で触れました魏王から見た、女王、難升米への対処の仕方の相違についてです。 >「景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣わし郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを 求む。太守劉夏、使を遣わし、将って送りて京都に詣らしむ。

京都は皇帝の都になるか？京師は帯方郡から 2000 里の位置にある。京師はもと、卑弥呼の居た杜。難升米は三公かもしれない。文章より京師、京都の行程になる。三公は三角縁神獸鏡で説明済み。

> その年十二月、詔書して倭の女王に報じていわく、「親魏倭王卑弥呼に制詔す。帯方の太守 劉夏、使を遣わし汝の大夫難升米・次使都市牛利を送り、汝献ずる所の男生口四人・女生口 六人・班布二匹二丈を奉り以て到る。

生口は杜氏(とうじ)、卑弥呼は酒を送った。当時は高価なもので皇帝も懐かしい酒である。この件を話すと、古事記からの話なので整理がつかないため、省略する。

> 汝がある所遥かに遠きも、乃ち使を遣わし貢獻す。これ汝の忠孝、我れ甚だ汝を哀れむ。今 汝を以て親魏倭王となし、金印紫綬を仮し、装封して帯方の太守に付し仮綬せしむ。汝、それ

種人を綏撫し、勉めて孝順をなせ。

> 汝が来使難升米・牛利、遠きを渉り、道路勤勞す。今、難升米を以て率善中郎將となし、牛利を率善校尉となし、銀印青綬を仮し、引見勞賜し遣わし還す。 > 今、絳地交竜錦五匹・絳地スウ栗ケイ十張・セン絳五十匹・紺青五十匹を以て汝が獻ずる所の貢直に答う。また、特に汝に紺地句文錦三匹・細班華ケイ五張・白絹五十匹・金八両・五尺刀二口・銅鏡百枚・真珠・鉛丹各々五十斤を賜い、皆装封して難升米・牛利に付す。

絳地交竜錦五匹:これが竜のマントか。これを着て雨乞いをしたみたいですね。 神社の竜の手洗いはこれでしよう。奈良の卑弥呼像はマントを着けたものが情けない鳥になっている。

> 還り到らば録受し、悉く以て汝が國中の人に示し、國家汝を哀れむを知らしむべし。故に鄭重に汝に好物を賜うなり」と。 > 女王である卑弥呼には、「金印紫綬」を授け「親魏倭王」とし、「種人を綏撫」するよう命じていますね。「綏撫」は、静かに安らかに治めるとの意味だそうです。文書による統治を感じさせます。

答えは卑弥呼の出生にある。金印、親魏倭王の訳:魏に親しい倭王、魏を親とする倭王、この訳に総てが隠されている。

> だから倭奴国王の金印も、同様に楽浪郡の太守等が直接出向いて授けた、もしくは奴国の王が直接やってきて授かったのかもしれませんが。

倭奴国王は韓半島の倭国に送ったお墨付きで大きな意味はない。

> 糸島市の神社に「漢委奴國王」の金印が宝物として伝わっていたというのも、奴国の印を扱っていた役所が、外交・政務の中心地、伊都国だったからではないでしょうか。ただ女王がここにいたわけではないので、政務と王(ミコ)が、完全に居住地ともども分離していたことが伺えます。

韓半島から引き上げるとき、糸島市の神社に祭ったのでしょう。伊都国とは別物、

----- 金印 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 30 日(月)22 時 18 分 13 秒 返信・引用 編集済 続いて下記で触れました魏王から見た、女王、難升米への対処の仕方の相違についてです。

「景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣わし郡に詣り、天子に詣りて朝獻せんことを求む。太守劉夏、使を遣わし、將って送りて京都に詣らしむ。

その年十二月、詔書して倭の女王に報じていわく、「親魏倭王卑弥呼に制詔す。帯方の太守劉夏、使を遣わし汝の大夫難升米・次使都市牛利を送り、汝獻ずる所の男生口四人・女生口六人・班布二匹二丈を奉り以て到る。

汝がある所遙かに遠きも、乃ち使を遣わし貢獻す。これ汝の忠孝、我れ甚だ汝を哀れむ。今汝を以て親魏倭王となし、金印紫綬を仮し、装封して帯方の太守に付し仮綬せしむ。汝、それ種人を綏撫し、勉めて孝順をなせ。

汝が来使難升米・牛利、遠きを渉り、道路勤勞す。今、難升米を以て率善中郎將となし、牛利を率善校尉となし、銀印青綬を仮し、引見勞賜し遣わし還す。

今、絳地交竜錦五匹・絳地スウ栗ケイ十張・セン絳五十匹・紺青五十匹を以て汝が獻ずる所の貢直に答う。また、特に汝に紺地句文錦三匹・細班華ケイ五張・白絹五十匹・金八両・五尺刀二口・銅鏡百枚・真珠・鉛丹各々五十斤を賜い、皆装封して難升米・牛利に付す。

還り到らば録受し、悉く以て汝が國中の人に示し、國家汝を哀れむを知らしむべし。故に鄭重に汝に好物を賜うなり」と。

女王である卑弥呼には、「金印紫綬」を授け「親魏倭王」とし、「種人を綏撫」するよう命じていますね。「綏撫」は、安らかになるようにしずめおさめること。慰めいたわることの意味だそうです。文書による統治を感じさせます。

また、大夫と呉風に自称した難升米・牛利には、中郎將等の官職のほか、「銀印青綬」を授けてます。もちろん、

その印字には、その文字が刻まれていたはずです。

それで金印は「帯方の太守に付し 倭綬せしむ」、銀印と鏡の類は難升米・牛利にそのまま持つて行かせています。

ここから帯方の太守が直接、卑弥呼に会いに向かったことがわかるのですが、「金印」を授ける際の取り決めなどが、中国側にあって、王もしくは太守から直接、当人に授けなければならないような何かがあったのではないのでしょうか。

結局、社長の印鑑を、部長に渡してどこかで彼等が悪用されては困るというようなことかもしれない。

逆に、鏡の類は、倭国中に示せとあるので配って配布しても構わないということだったので しょう。

だから倭奴国王の金印も、同様に楽浪郡の太守等が直接出向いて授けた、もしくは奴国の王 が直接やってきて授かったのかもしれない。

金印が、その後の王に継承された可能性は感じます。次の王やイヨには授けてないんですね。 もちろん、その間にやってきた使者には「印綬」はしているケースもあります。

しかしそうすると、後漢代に渡された倭奴国時代の金印を卑弥呼が継承していたとしても、 魏から見るとそれは無効だったとも受け取れますし、魏はそのことを知っていたのかどうか、 知っていたとしても、新たに金印を渡す必要があったとのことは理解できます。

ただ、次の晋代にはいって、その金印が有効だったかどうかはまたわからないところですね。

420 年代に入って、宋から倭王の讃がやはり「除綬」されているわけですが、その後の王は 「除綬」はされていないですね。ここでも金印を授かったのかもしれない。

ともあれ、金印が継承されたとすれば、鏡のように王の墓から出ることはありえないわけ して、どこかの官庁があった場所とか…で出土するだろうと感じます。

糸島市の神社に「漢委奴國王」の金印が宝物として伝わっていたというのも、奴国の印を扱っ ていた役所が、外交・政務の中心地、伊都国だったからではないでしょうか。

----- Re: 表音 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 30 日(月)21 時 26 分 41 秒 返信・引用 編集済 > No.41[元記事へ]

秦野さん、さっそく御返事ありがとうございます。

>邪馬台国は奈良に 20 年程度存在した国です。卑弥呼は卑弥呼の母と同年代に死んでいます。 ……
BC200 年に大きい歴史の変化、縄文から弥生が沖縄にもあった事を暗示しているのでは。

ご指摘のこの件について、もうすこし深く掘り下げてみたいと感じました。

まず、小氷期による倭国大乱の様子について考えてみたいところです。

「その國、本また男子を以て王となし、住まること七、八十年。倭國乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす。名付けて卑弥呼という。鬼道に事え、能く衆を惑わす。年 已に長大なるも、夫婿なく、男 弟あり、佐けて國を治む。王となりしより以来、見るある者少 なく、婢千人を以て自ら侍せしむ。ただ男子一人あり、飲食を給し、辞を伝え居処に出入す。宮 室・楼觀・城柵、巖かに設け、常に人あり、兵を持して守衛す。」

下記はウィキの記載より。

建武中元二年(57 年) - 倭奴国が金印を授与される。『後漢書』

永初元年(107 年) - 倭国王の帥升が安帝に拝謁を願う。『後漢書』

倭国、男性を王とした七、八十年

桓帝と靈帝の間(146 年 - 189 年) - 倭国大乱。『後漢書』

173 年 - 倭の女王卑弥呼が、使者を送って、新羅に交際を求める(二十年 夏五月 倭女王卑彌 乎 遣使来 聘)。朝鮮半島の『三国史記』新羅本紀:光和年間

(178 年 - 184 年) - 卑弥呼が共立され、倭を治め始める。『梁書』

こう見ていくと、秦野さん注目の倭奴国というのが、後の倭国と関係してくるのように感じますね。

先の魏志の国名一覧でも「奴」のつく国が、個人的には奴国周辺に多くあったと考えてます。

そのうちに「倭国王の帥升」という記載が出てきますが、こちらは先述したとおり、女王国時代の「難+升(官職)+米」「弥馬+升」と類似の「帥升」の語を使用していることを考慮すると、女王国の原型となった国と組織であった可能性を感じます。「升」という語は、他の魏志の国には出てこないんですね。

AD 50 年前後あたりが、ひとつの倭人地域での変動の時期だったのではないのでしょうか。もちろん弥生人の先祖自体は BC200~年あたりにやってきたものと感じます。

彼等は、室・楼観・城柵を設けるなど、大陸的な建築技術を有していた軍事・技術者集団ではなかったと考えてます。

ただ、ヒミコについては、「王となりしより以来、見るある者少なく」とあり、おそらくは政治も戦にもでかけず、完全に籠っていたようです。だから見る人もいない。249 年ごろにヒミコが死ぬまで 50 年近く籠っていたことになるのでしょうか…(._.;

あと、王でありミコである卑弥呼と、官職の長である難升米等とでは、魏王の対処の仕方も異なっているようです。それはまた別記いたします。

----- Re: 表音 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 29 日(日)10 時 31 分 26 秒 返信・引用 > No.40[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 古代史上の興味がある内容でした。アトランティス(7000 年で消滅)の歴史が見えそうです。

> それで与那国島の海底遺跡なのですが、先の表面照射年代測定法だと 1 万年前とのことで、 いろいろ沈んだのかがきになるところですね。 > こちらの台湾のほうにも、与那国同様な海底遺跡があるそうで、確か以前聞いた話だと、回廊で与那国島までつながっているとのこともあるそうですから、同時代のものでしょう。

氷期は 1 万年前に終了。その後の第一文明がアトランティス(7000 年で消滅)、のアトランティスが与那国まで来てたようですね。アトランティス消滅から 1100 年後になるが神話に約 400 日かけ中南米まで行った。記録がある。アトランティスは中南米を知っていたんでしょう。

>ただ、台湾側でも 1 万 2 千年前と言っているのですが、どこにその根拠があるのか気になる ところです。また洪水神話が台湾にもあるそうです。

神話の中南米への出航地の近くですからあるでしょう。

> 最近スフィンクスの年代が1 万年前だという新説が流れたのを思い出しますが、実のところ、そこまで古くないとの見方もあるそうです。

スフィンクス。エジプトは洪水から逃れた。その後、紀元前 2500 からピラミッドの建造が始まっている。もしですが、エジプトがアトランティスのポリスなら 1 万年前の可能性もある。 スフィンクスの場所にポセイドーンの神殿が在ったことになる。

> ともあれ、邪馬台国の時代の小氷期で海面が低い時期に、与那国島の海底遺跡の一部が地表に顔を出していたということは、確かであろうと感じますね。 > 木村さんという方が、邪馬台国沖縄説で、先の海底遺跡を炭素年代法で、BC200 年ころ から作られたものだと話しているそうです。

> その木村教授が、先の表面照射年代測定法の詳細結果を記した方なので、それなりの根拠があるのかなとも感じます。下記のページに、地震による遺跡の地形の傾きとか、その辺の説明がなされてます。

邪馬台国沖縄説には悪いが邪馬台国は奈良に 20 年程度存在した国です。卑弥呼は卑弥呼の母と同年代に死んでいます。木村さんの話しと歴史の流れを整理すると、BC200 年に大 きい歴史の変化、縄文から弥生が沖縄にもあった事を暗示しているのでは。しかし、海底遺跡 との関係は整理できない？。

----- Re: 表音 投稿者:管理人 投稿日:2012 年
1 月 29 日(日)07 時 12 分 44 秒 返信・引用 編集済 > No.38[元記事へ]

秦野さん、さっそくお返事ありがとうございます。

それで与那国島の海底遺跡なのですが、先の表面照射年代測定法だと 1 万年前とのことで、 izzogoro 沈んだのか
がきになる場所ですね。

こちらの台湾のほうにも、与那国同様な海底遺跡があるそうで、確か以前聞いた話だと、回廊 で与那国島まで
つながっているとのこともあるそうですから、同時代のものでしょう。

<http://mypaper.pchome.com.tw/phantomuk/post/1321387236>

ただ、台湾側でも 1 万 2 千年前と言っているのですが、どこにその根拠があるのか気になる 場所です。また
洪水神話が台湾にもあるそうです。

最近スフィンクスの年代が 1 万年前だという新説が流れたのを思い出しますが、実のところ、 そこまで古くな
いとの見方もあるそうです。 <http://www.moonover.jp/bekkan/ooparts/2.htm>

ともあれ、邪馬台国の時代の小氷期で海面が低い時期に、与那国島の海底遺跡の一部が地表 に顔を出していた
ということは、確かであろうと感じますね。

浅瀬の地域は、その後の温暖化の時代に海が侵食してきて水没したので、山幸神話みたいな 話が出来たのかも
しれません。

もうひとつは、白鳳大地震の際のときに高知の海岸沿いが水没したように、地震で土地の隆 起や水没が起こる
ケースです。

木村さんという方が、邪馬台国沖縄説で、先の海底遺跡を炭素年代法で、BC200 年ころか ら作られたものだ
と話しているそうです。 <http://dairoku126.exblog.jp/15078179/>

その木村教授が、先の表面照射年代測定法の詳細結果を記した方なので、それなりの根拠が あるのかなとも感
じます。下記のページに、地震による遺跡の地形の傾きとか、その辺の説明 がなされてます。

<http://www.yonaguni.jp/iasekiyouchikei-kenkyu-siryoku-3.htm>

それで遺跡全体のはじまりは 1 万年前、この遺跡の一部に、3800 年前と、1600 年前、 600 年前の 3 期に別れ
て、構築の跡があるとの見方は興味深い場所です。

確かに AD400 年以降は、温暖化による海進で、遺跡自体はまた沈んでいたかもしれませ んね。AD1400 年あ
たりは、先のグラフでいけば、やはり小氷期なので、遺跡は顔を出し ていたのでしょう。

とすると、邪馬台国時代に、この遺跡が再活用されていた件はありうるかなと感じます。アー チ門が沖縄のグ
スクに似ているそうです。

個人的には、その遺跡の 40 度傾いて立てられている石垣の並びと、九州各地の弥生時代~ の神籠石の並び具合
との比較をしてみたい感じがします。こちら女山神籠石。

<http://www.geocities.jp/bicdenki/newpage47.htm>

ここに魏志倭人伝のひとつの国があった可能性も考えてみたいですね。

HOME 研究会詳細 分野別情報 研究報告 探索記録 掲示板 リンク集 新刊紹介 渡来人研究会古代
史掲示板ログ 19

Re: 表音 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 28 日(土)23 時 29 分 9 秒 返信・引用 > No.37[元
記事へ]

管理人さんへのお返事です。 > また沖縄邪馬台国説について一昨日調べていて、与那国の海底遺跡の件があり
ました。

秦野の調べでは奄美大島、沖縄に三角縁神獣鏡が配られているのですが、興味があれば探す のも いいかも。

尚、破片らしきものはあったの噂は聞いてます。

三角縁神獣鏡 100 枚、奄美大島、沖縄に 2 枚、九州は 20 枚、中部は 20 枚、中国地方、近畿に 58 枚だいたい数字です。

Ads by Google ----- Re: 表音 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 28 日(土)22 時 57 分 21 秒 返信・引用 編集 済 > No.37[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> また沖縄邪馬台国説について一昨日調べていて、与那国の海底遺跡の件がありました。

> 1 万年前くらいの宮殿遺跡らしいのですが、2000 年前くらいに一度地表に出てきてい るとのことで、ちょうどこの時期が上記の小氷期で、海面が後退した時期と重なるのではな いかと感じました。 >

> だからといって、それが宮殿として再活用されたというわけでもないのでしょうけど、海 岸地形や遺跡が海進によって、変っていくいい事例ではないかと思います。

秦野はあまり話したくないのですが、現在の技術では、回避できないのです。隕石の衝突です。 その状況を神話が伝承しています。アトランテスは起源前 2~3000 年に 4 発の隕石で島の 7 割が吹き飛び、沈み、泥の海に成っています。他はモヘンジョダロ、与那国、..がこの直撃を 受けたと思われる。

旧約聖書を上げますが他にも神話があります。

旧約聖書の『創世記』のノアの洪水

神は地上に増えた人々が悪を行っているのを見て、これを洪水で滅ぼすと「神と共に歩んだ 正しい人」であったノア(当時 500~600 歳)に告げ、ノアに箱舟の建設を命じた。 箱舟はゴフェルの木でつくられ、三階建てで内部に小部屋が多く設けられていた。箱舟の内 と外は木のヤニで塗られた。ノアは箱舟を完成させると、家族とその妻子、すべての動物のつ

がい箱舟に乗せた。洪水は 40 日 40 夜続き、地上に生きていたものを滅ぼしつくした。水は 150 日の間、地上で勢いを失わなかった。その後、箱舟はアララト山の上にとまった。 40 日のあと、ノアは鴉を放ったが、とまるところがなく帰ってきた。さらに鳩を放したが、同 じように戻ってきた。7 日後、もう一度鳩を放すと、鳩はオリーブの葉をくわえて船に戻って きた。さらに 7 日たって鳩を放すと、鳩はもう戻ってこなかった。

ノアは水が引いたことを知り、家族と動物たちと共に箱舟を出た。そこに祭壇を築いて、焼き 尽くす献げ物を神に捧げた。神はこれに対して、ノアとその息子たちを祝福し、ノアとその息 子たちと後の子孫たち、そして地上の全ての肉なるものに対し、全ての生きとし生ける物を 絶滅させてしまうような大洪水は、決して起こさない事を契約した。神はその契約の証とし て、空に虹をかけた。

? 旧約聖書『創世記』より

ノアの方舟がたどり着いたところは、今のアララト山(現在のトルコ共和国東端の標高 5.165m の山)の山頂、あるいは山腹だと記されている。またアララト山にノアの方舟の痕跡 を見たと証言する者たちが、昔から今に至るまで多い。また、アララト山とイランのザグロス 山脈の中腹のどこかであると言う説も存在する。

ノアの洪水は、『聖書』研究者など多くの見解では(『聖書』にある年代をそのまま計算する と)、西暦前 2370 年(紀元前 3000 年ころとも)に起こったとされている。

記録では 4~5000 m の津波が生じたことになる。日本なら太平洋から日本海に津波は抜ける 当時の住民は壊滅したでしょう。

今の内にノアの方舟バージョンの家を造るか、しかし、隕石の直撃には無意味になる。因みに隕石の大きさは直径 100 km クラスに達する。数は神話から最低 7 発以上で、1 発直撃すれば東京でも数秒で蒸発する。無理か。神頼みですな。

----- Re: 表音 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 28 日(土)20 時 42 分 46 秒 返信・引用 編集済 > No.35[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

ご指摘のなかで、特に氷河期や、縄文海進、邪馬台国時代の小氷期について考えていくことは 重要かと感じます。

こちらのページに邪馬台国時代の寒さ、つまり海面の低下具合の図が示されています。

<http://d.hatena.ne.jp/it-tosyo/20090712/1247406468>

それで、邪馬台国時代は現在より2メートルくらい海面が低かったようで、それがだんだん暖かくなり、AC300年前後になると、1メートルくらい上昇していくんですね。古墳時代になるとさらに1メートルくらい上昇する。ところによっては海岸線も変化します。

それで邪馬台国の記載をみると、冬夏と野菜がとれるとありますから、やはり寒い時期にもかかわらず、海流などで暖かった場所を考えるべきかなと感じています。

また沖縄邪馬台国説について一昨日調べていて、与那国の海底遺跡の件がありました。

<http://www.yonaguni.jp/iasekiyouchikei-kenkyu-mokuji.htm>

表面照射年代測定法というので、年代測定したそうです。

<http://www.yonaguni.jp/20040104-ryuudai.htm>

1万年前くらいの宮殿遺跡らしいのですが、2000年前くらいに一度地表に出てきていたとのことで、ちょうどこの時期が上記の小氷期で、海面が後退した時期と重なるのではないかと感じました。

だからといって、それが宮殿として再活用されたというわけでもないのでしょうけど、海岸地形や遺跡が海進によって、変っていくいい事例ではないかと思います。

----- Re: 訂正 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 1月 28日(土)14時 49分 50秒 返信・引用 管理人さんへのお返事です。

>それで倭国(島部分)の周囲を5000里と申しているのも、朝鮮半島7000里に比して、倭国が5000里と申しているのではないのでしょうか…。ただいわゆる一般論ですので…例外があっても構いません。

倭国(島部分)の周囲を5000里の根拠は次の文章です。よく、倭国(島部分)の周囲を5000里と言っている。これは下記の裸国の周囲の距離で秦野が実測するとほぼ五千里ありました。五千里で正解です。

女王國東渡海千餘里、復有國、皆倭種。又有侏儒國在其南、人長三四尺、去女王四千餘里。又有裸國、黑齒國復在其東南、船行一年可至。參問倭地、絶在海中洲島之上、或絶或連、周旋可五千餘里。

女王国の東に海を渡ること千余里、また国がある。いずれも倭人である。その南に侏儒(こびと)国が在り、身長は三、四尺、女王国から四千余里。また、その東南に裸国や黒齒国も在り、船で行くこと一年で至るとか。倭の地と比較して訊いてみると、絶海の中央の島の上に在り、隔絶あるいは連結し、周囲を旋回すること五千余里ほど。

引用元:『三国志魏書』倭人伝(通称:魏志倭人伝)

----- Re: 表音 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 1月 28日(土)14時 28分 0秒 返信・引用 編集済 管理人さんへのお返事です。

>不思議なのは、ミャオ族や、北方遊牧民、さらには中東・アイルランド系に多いHLAまで出てくるところですね。我々が想像するよりも、ずっと激しい動きがあったものと考えてます。

HLAが多い理由は、総てが天地開闢神話が暗示している。文中の『天と地は九万里』里は秦野距離になる。秦野が確認した所を大筋で述べる。2万年前に最終氷期に入り、1万年前に終了した。一番新しい氷期(ヴェルム氷期、ウィスコンシン氷期)の状況が『盤古神話』に記録されている。2万年の確認は文中の『一万八千年を経て』、『天と地は九万里』の地点に来た時期が紀元前2500年から2万年前になる。氷期は1万年前に終了。その後の第一文明がアトランテス(7000年で消滅)、創世記をへて、三苗に至る。創世記、他の洪水伝説はアトラ

ンテス消滅の 原因を記している。また、古事記に三苗から来た年代の記録がある。秦野はまだ古代史の入口に立っているだけ、これからの議論が古代史を明らかにすることを信じたい。

天地開闢神話 堀貞雄 古代史探訪館より

漢語の史籍に神話という用語はない。十九世紀末、日本人学者が英語の「a myth」を神話と 翻訳したもので、古代中国では神の神秘の教えを説いた經典を神書、老莊の説いた道(宇宙 の原理)を示した教えを「神道」と称したが、「神話」という表現はない。 漢語では神は「神、精神、神経、顔色、注意力、非凡、利口」を意味し、神話には荒唐無稽な話、 神道には奇怪な言動という側面がある。従って、表題は神話ではなく、「伝承」としたほうが適切かもしれないが、現在では日本語の「神話」が中国にも導入されて、一般的に使用されているので表題とした。

『盤古神話』(中国) 盤古神話は倭国や古朝鮮の「天地開闢神話」の原典だが、「三五曆記」「五運歴年記」「述異 記」などに記述があったようだが、早くから散逸しており、現在では「芸文類聚」「太平御覧」な どの逸文から断片的に物語を観るしかない。

「三五曆記」 天地渾沌如?子、盤古生其中。萬八千?、天地開辟、陽清為天、陰濁為地、盤古在其中、一日九變。神於天、聖於地。天日高一丈、地日厚一丈、盤古日長一丈。如此萬八千?、天數極高、地數極深、盤 古極長。后乃有三皇。數起于一、立于三、成于五、盛于七、處于九、故天去地九萬里。

天地は鷄子(卵殻の中身)のように渾沌としていた、そのなかで盤古は誕生した。一万八 千年を経て、天地が開けると、陽(あきら)かで清らかな部分は天となり、暗く濁れた部分は 地となり、盤古はその中間に在って、一日に九回変化した。天では神、地では聖となる。天は日 に一丈高くなり、地は日に一丈厚くなり、盤古は日に一丈背が伸びた。このようにして『一万 八千年を経て』、天は限りなく高く、地は限りなく深くなり、盤古は伸長を極めた。後に及んで 三皇が出る。一にして数え始め、三にして立ち、五にして成り、七にして盛んとなり、九にして 場所が定まる。それ故に、『天と地は九万里』離れた。

「五運歴年記」 首生盤古、垂死化身:氣成風雲、聲為雷霆、左眼為日、右眼為月、四肢五體為四極五岳、血液 為江河、筋脈為地里、肌肉為田土、髮髭為星辰、皮毛化為草木、齒骨為金石、精髓為珠玉、汗流 為雨澤。身之諸蟲、因風所感、化為黎氓(民)。

初めに盤古が生まれ、死が近づくと、吐いた息は風雲、声は雷鳴、左目は太陽、右目は月、手 足と胴体は四方の極地や五岳、血は河川、筋と血管は道、皮膚は農地、髮髭は星辰、産毛は草 木、齒と骨は金属、精髓は珠玉、汗と涙は雨や露に化身した。身中の寄生虫は風によって各地

に広まり、多くの民と化した。

最終氷期(さいしゅうひょうき)は、およそ 7 万年前にはじまり 1 万年前に終了した一番新 しい氷期のことである。ヴュルム氷期、ウィスコンシン氷期とも呼ばれる。 最終氷期の時に最も氷床が拡大したおよそ 2 万年前を最終氷期の最寒冷期(最終氷期最盛 期、Last Glacial Maximum、LGM)と呼ぶ。この時期は氷期の中でも地質学的、地理学的、気候 学的にも最も詳しく研究されており、気温や、大気・海洋の状態、海水準低下により変化した 海岸線など緻密な復元が進んでいる。俗に「氷河期」という言葉を使うときはこの時代を指す ことが多い。

----- Re: 訂正 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 28 日(土)08 時 30 分 9 秒 返信・引用 編集済 > No.33[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

郡から女王国まで1万2千里とありまして、その後に風俗記載になるので、やはり会稽>の 東との記載は、女王国の記載と思われます。訂正いたします。

女王国の意味はアマテラスを指します。日本神話、日本書記、記録しています。この件は、古代 航路で総て解決しますので、まとめて、amazon.co.jp 秦野北斗で発刊します。尚、魏志倭人伝の 行程は徐福と邪馬台国で発刊済みです。

日本書記で卑弥呼をアマテラスと言っている。壺與がアマテラスを祭る所、伊勢を探してい る。最近、見つけた。

注、アマテラスの意味を明確にする必要がありそうですね…。

> おそらく帯方郡(ピョンヤンあたり)から、7000里で、プサンにいたり、そこから、3千里で松浦へ、そして2千里で奴国、つまり女王国の北辺の支配領域に至るとの意味だと思います。 > ただ、「女王の都するところ、南、邪馬壹國(邪馬台國)に至る。女王の都する所なり。水行 十日、陸行一月。」かかるということでしょう。

『女王の都(みやこ)する所』は誤訳で、都は中国語で合わせてになる。以下、水行十日、陸行一月で行程が 2つあります。 1つは水行十日、1つは陸行一月です。

>あと、伊都国に軍(警察)をおいたとして、女王国より北方を監察するとすると、対象地域 は、九州説だと九州中北部のこと、畿内説だと山陰・山陽のこととなり、任那説?とするとその 地域となりそうですが、伊都のある糸島半島という地域が、果たしてそれらの地域を軍隊 で治めるのに適した場所かどうかが課題になると思います。ケースに寄っては北九州や下関 吉備のほうがよかったですよね…。

一支国(一大国)に一大率の兵を置いていたので糸島半島で防衛しなくてもいいので は… 伊都国は現在の大宰府より東南方向の太刀洗(兵士の剣を洗う、適切な地名です。因みに奴国 はここです。)までに在った。ここが総本部、軍隊は奴国にあった。古代史の問題点は距離を言 いながら完全に無視している。距離は秦野距離で狗耶韓国から郡、京師まで遡れる。北九州や 下関、吉備は該当しない、北九州は泰王国になる。さぞ、沢山の遺跡(年代は紀元前 200~紀元 700 年)が出るでしょうな。

泰王国は弥生時代が中心で縄文遺跡の該当地域でない模様

----- 訂正 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 28 日(土)03 時 28 分 56 秒 返信・引用 編集済 >No.31[元記事へ]

先の投稿で一文を読み飛ばしてました。 その南に狗奴國有り。男子を王となす。その官に狗古智卑狗有り。女王に属せず。郡より女王

國に至ること萬二千余里。>> 郡から女王国まで1万2千里とありまして、その後に風俗記載になるので、やはり会稽の東

との記載は、女王国の記載と思われます。訂正いたします。 会稽の東というのは、正確には南九州になります。沖縄方面は南に行き過ぎですね。

おそらく帯方郡(ピョンヤンあたり)から、7000里で、プサンにいたり、そこから、3千 里で松浦へ、そして2千里で奴国、つまり女王国の北辺の支配領域に至るとの意味だと思います。

ただ、「女王の都するところ、南、邪馬壹國(邪馬台國)に至る。女王の都する所なり。水行十 日、陸行一月。」かかるということでしょう。

つまり今の日本でいえば韓国から首都東京までは遠いものの、同じ国にある九州の福岡ま ではもっと近いのと同様ですね。

それで倭国(島部分)の周囲を 5000 里と申しているのも、朝鮮半島 7000 里に比して、 倭国が5000 里と申しているのではないのでしょうか…。ただいわゆる一般論ですの で…例外があっても構いません。

あと、伊都国に軍(警察)をおいたとして、女王国より北方を監察するとすると、対象地域は、 九州説だと九州中北部のこと、畿内説だと山陰・山陽のこととなり、任那説?とするとその 地域となりそうですが、伊都のある糸島半島という地域が、果たしてそれらの地域を軍隊で 治めるのに適した場所かどうかは課題になると思います。ケースに寄っては北九州や下関、 吉備のほうがよかったですよね…。

----- Re: 表音 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 27 日(金)23 時 27 分 28 秒 返信・引用 管理人さんへのお返事です。

> 松浦を示す末廬国についても、「末」は呉音で「マチロ・マツロ」なのでして、漢音の「バチリ ヨ」> ではないことなども、呉音文化圏が広まっていたことお傍証になるかと感じます。

呉音でなく中国語(普通話)に対応させ翻訳する。 表音で末廬は mo lu:もる、まら、もる、まる、もら

検索:馬羅島(まらとう)【韓国】馬羅島(マラとう)とは、大韓民国の済州島から南に 11km 離れた所に位置する絶壁の島。韓国最南端。

済州島の地名、馬羅をあて馬羅国=末廬国。気がつきませんでした。 金印:漢委奴国王印から推測すると、倭奴国の対岸の島が馬羅島(済州島)の関係から博多を 馬羅国、末廬国と言ったようすな。

筑前国那珂郡志賀島村:聖徳太子のころは筑紫国になっている。
当時、済州島は倭国の領土で魏志倭人伝の行程で説明済み。

----- Re: 表音 投稿者:管理人 投稿日:2012 年
1 月 27 日(金)21 時 41 分 26 秒 返信・引用 編集済 > No.30[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

そうですね、呉音で、魏の使いと会話していたのではないかと感じます。彼等が向こうにいても、自分の名前や漢字を毎回間違いなく伝えているので、「難升」という官職の「米」という 男だと、相手にも伝わっているのでしょう。

後代の「アマタラシヒコ…、セインコウ」とは少し違う感じがします。この時代になると 訓読みの完全な当て字になってますからね。

松浦を示す末廬国についても、「末」は呉音で「マチロ・マツロ」なのでして、漢音の「バチリ ヨ」ではないことなども、呉音文化圏が広まっていたことお傍証になるかと感じます。

ただ問題はいつ呉音の文化が入ってきたかですね。 ご紹介のとおり、弥生時代のある時期かと感じるのですが、HLA ハプロタイプのほうを、以前から調べています。

骨髓バンクでサンプル数が多いので、比較的正確な分布データが期待できます。

<http://blog.livedoor.jp/touxia/archives/50929736.html#> <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/sakura-komichi/kodaishi/hn2602/5.htm>

その年代推定

<http://www.pag1u.net/kodai/hla.html>

この辺を調べていくと、人種的な動きが読めますから、秦野さんのおっしゃる倭人の動きとも関係してくることでしょう。すでにご存知でしたかな…?

不思議なのは、ミャオ族や、北方遊牧民、さらには中東・アイルランド系に多いHLAまで出てくる場所ですね。我々が想像するよりも、ずっと激しい動きがあったものと考えてます。

あとご紹介の三角縁神獣鏡の問題、これはとても重要です。

一般には、漢字文化圏ではないから、銘文は理解できていなかった。それで漢字が左右逆になったような鏡が出てくるという説ですが、かならずしもそうとは言いきれない部分もある んですよ。

少なくとも呉音を理解していた九州北部方面での文化圏では、それが通用しなかったことも 考慮しておくべきでしょう。分布地域と、その銘文の反転とかズレとかある度合いなども調べてみるとよいのかもしれない。

景初三年

<http://bell.jp/pancho/travel/izumo/kanbara%20jinja.htm>

関連記事

http://www.bell.jp/pancho/k_diary-3/2010_0201.htm

ただ、その前に邪馬台国がどういう地域にあったのか?について考えてみると、先ほど読んでいてほとつの考えが浮かんできました。

邪馬台国の南の狗奴国の後に、風俗記載が列記されている件ですね。会稽の東に位置する 云々の部分です。文章的にみて、これは狗奴国の風俗ではないでしょうか。

<http://www.g-hopper.ne.jp/bunn/gisi/gisi.html>

また女王国というのは、別に北に 30 国余りがあって、これも一応女王国の属国で、全体として邪馬台国とも見えます。旧ソ連とか戦国時代みたいなものですね。日本国の中に、和泉国があるのと同様です。中には以前、マツラ国のように、官職のほかにも、王がいた国もあった。

これらの属国は一大率という伊都国の警察が監視して巡回していたわけです。そして彼等が外国との交渉もしていたわけですね。

ところが、その女王国の南?のほうには、「大倭」という別の警察がいることになっていて、いわゆる「倭」という別の国の習俗とかが記載されているのです。

おそらく秦野さんも、この辺の分離に疑問を感じて、任那地域にまで踏み込まれたのではないのでしょうか。

そして神獸鏡をいつどこが受け取って、どう配ったかという問題へと進んでいくわけですね。陳是作鏡自有経述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫寿如金石兮

>

----- Re: 表音 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 27 日(金)03 時 33 分 28 秒 返信・引用 編集 済 管理人さんへのお返事です。

> 表音の問題は、まだ迷いはあるのですが、ある時期に九州全域に呉音の漢字文化圏が広まり、それで> 地名が呉音表記になったものを、後に魏からの使人がきて、漢音で表記しなおしたり、その後の大和> 朝廷の漢音表記にしたがい、読み替えられた線で考えはじめています。

一大国は一大国=一大率=一大率国(最大の駐屯地)、ある時期に九州全域に呉音の漢字文化圏が広まり、…。ある時期の特定が必要です。

私の調べでは、九州全域より大きく日本に渡来した。年代はだいたいです。以下

紀元前 1700 年(三苗,夏) 紀元前 400 年(呉) 紀元前 200 年(秦)

紀元前 160 年(大陸へ進出) 紀元後 220 年(卑弥呼) 紀元後 280 年(ユダヤ) 紀元後 500 年(ユダヤ) 紀元後 700 年 鎖国 詳細は日本神話、中国史籍に書いてあります。近い内に日本神話、卑弥呼をまとめ出版します。

もともと漢字圏、その後ユダヤなんです。日本語の古語は三苗語でしょう。

卑弥呼は陳寿と通訳なしで話、文章を交わしている。魏志倭人伝に伊都国の項、壺輿にもそれらしい文章がある。

例を挙げると、三角縁神獸鏡の文章に見られる。母、杜、地命(地名)などは倭国で使われていた模様。三角縁神獸鏡は京師、狗耶韓国から 14000 里が理解できないと読めない。徐福と邪馬台国参照。

母:母屋(おもや)の母(おも) 杜地命出:杜(もり)、地命(地名):地名は杜、杜の出 (鎮守の杜:今は神社の杜になっている。本来は京師の杜駐屯地)

三角縁神獸鏡(卑弥呼の鏡)

鏡の銘文を誰も正確に読んでいないので、秦野が鏡の銘文を読みます。説明のため(言+名)を銘と記している。

景初三年陳是作鏡自有経述本是京師杜地命出吏人銘之位至三公母人銘之保子宜孫寿如金石 兮

景初三年、陳寿が自ら経述した鏡を作る。もとは京師(杜)の出、銘は位至三公の吏人、銘は母人(おもひのひと)、保子(開花天皇)の孫(卑弥呼)、金印(親魏倭王)をもって祝う。

陳:陳寿 孫:宜孫、宜しい孫を約し孫 母:母屋(おもや)の母(おも) 杜地命出:杜(もり)、地命(地名):地名は杜、杜の出 (鎮守の杜:今は神社の杜になっている。本来は京師の杜駐屯地)

京師:韓半島(開城)の楽浪郡から西に 2000 里にある。駐屯地 金石:金印(親魏倭王) HP 秦野北斗の古代史、卑弥呼より

陳寿は魏志倭人伝に表音表記したと考えるのが自然でしょう。
結論を言えば、魏志倭人伝の人名、国名は表音になる。

----- 以上は、新着順 91 番目から 100 番目
までの記事です。 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 | 《前のページ

| 次のページ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] [お絵かき] [twitter] [RSS]

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

- 表音 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 26 日(木)22 時 40 分 31 秒 返信・引用 編集済

さっそく秦野さん、御返事ありがとうございます。表音の問題は、まだ迷いはあるのですが、ある時期に九州全域に呉音の漢字文化圏が広まり、それで地名が呉音表記になったものを、後に魏からの使人がきて、漢音で表記しなおしたり、その後の大和朝廷の漢音表記にしたがい、読み替えられた線で考えはじめています。

伊支、一大国、一大率→数字の「一」 都市牛利(ツジグリ)→都市という官職(都市の支配者)の牛利という男性 掖耶狗(ヤクヤク)→掖(掖久島?)という地名の耶狗という男性(航海人?)という具合ですね。漢字の意味が混っています。

通常は漢音で、掖耶狗(エキヤク)と読ませてますが、呉音表記で(ヤクヤク)という連続が正解だと思います。というのも、同じ音が連続する確率が少ないことがあり、ヤクとヤクとの必然的な関係でそうなったと感じるんです。

ただ、後の時代の読みは、それを漢音表記に直して、記紀に載せていると思われるので、逆算していく必要があるかもしれません。

邪馬台国では、文書行政がありましたから、部分的には漢字を使っていたのかもしれませんが。地名を書いた地図や地名を、そのまま文書で魏の使人等に手渡した可能性もあります。

Ads by Google ----- Re: 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 26 日(木)21 時 02 分 26 秒 返信・引用 > No.27[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 名前は表音ではないか、『隋書』倭国伝から地名を抜き出す。

竹斯国(つくし国)、竹島(つく島)都斯麻国(つしま国)の名前は表音になっている。

明年、上遣文林郎裴清使於倭國。度百濟、行至竹島、南望○羅國、經都斯麻國、迴在大海中。又東至一支國、又至竹斯國、又東至秦王國。其人同於華夏、以為夷洲、疑不能明也。又經十餘國、達於海岸。自竹斯國以東、皆附庸於倭。『隋書』倭国伝

翌年(608)、上(天子)は文林郎の裴世清を使者として倭国に派遣した。百済を渡り、竹島 『竹島(つく島)=済州島』に行き着き、南に○羅国を望み、都斯麻国『都斯麻国(つしま国)=対馬国』を経て、遙か大海中に在り。また東に一支国に至り、また竹斯国『竹斯国(つくし国)=筑紫国(博多)』に至り、また東に秦王国に至る。その人は華夏(中華)と同じ、以て夷洲となす。疑わしいが解明は不能である。また十余国を経て、海岸に達した。竹斯国より以東は、い

ずれも倭に附庸している。

では「伊支馬、弥馬升(ミメショウ)、弥馬獲支(ミメワクシ)、奴佳?(ヌケダイ)を訳すと。

伊支馬=いしば 石場(いしば) 弥馬升=いばし 伊橋(いばし) 弥馬獲支=いばほし 岩星(いわほし) 奴佳?=のじて 野路田(のじた)

----- Re: 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 25 日(水)21 時 49 分 34 秒 返信・引用 編集済 > No.26[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

そうですね、神楽や風習というのは、元のまま持続させようという意識が働き変らないこと が多いですから、古い形を維持していることも多いかと感じます。

先の八女津姫関連でも、八女津姫神社で伝等行事が受け継がれているそうです。

<http://www.yokaocha.com/yametuhimezinja.htm>

女王国の習俗がどういうものだったかについては、千人ものミコがヒミコに侍っていて、一 人だけ男性の侍者がいるという記載に興味を感じてます。

他の国が男王と立てていることを考慮すると、非常に特殊な形であり、なんらかの伝承が残 っている可能性も感じてます。先の八女(邪馬?)の語も、「八=たくさんの女たち」とも見 えますね。

女性たちによる政治の時代が、邪馬台国のある一時期だけあったはずです。 女王国の官の名前も女性を意味していた可能性はないでしょうか。

「伊支馬、弥馬升(ミメショウ)、弥馬獲支(ミメワクシ)、奴佳?(ヌケダイ)があり、推計 7 万余戸。」

長官(伊支馬)は、王たるヒミコとは別人だったのでしょうか。

伊支馬は、一番目の馬→女?

弥馬升、弥馬獲支は、弥馬+升 弥馬+獲支 で、

魏への使人「難升米(ナンショウマイ)」「都市牛利(ツジグリ)」「掖邪狗(ヤクヤク)」あたりの語と関係してきます。

「升」の字は他には見えず、この国で特有の意味を持つ「漢字」だったはずです。 「掖邪狗(ヤクヤク)」は「獲支(ワクシ)」に近いですね。あるいは後代書紀で「掖久」をもって屋久島(ヤク)を意味してますから、「掖久」(ヤクク)と読めるかもしれません。

ただ、「難+升」になっており、「弥馬+升」ではないんですね。これは男女の性差とも関係して くるでしょうか?

「難→男」という具合にですね。難も男も呉音では、「ナン」だそうです。 「弥馬→女」とすると、後代の「ヒメ」などの語も思い浮かびますね。

ともあれ、男女の性差と、特殊な女性祭祀集団の政治形態、この辺が、後代の伝承なり習俗・ 儀式にどこかの地域の風習にみえないかどうか、その辺も関心事でありますし、それらしき

ものもなくはないようです。

本当におっしゃるとおり、ヒミコの祭祀場の目の前を知らずに通り過ぎている可能性があり ますね。

----- Re: 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:秦野 北斗 投稿日:2012 年 1 月 24 日(火)20 時 53 分

18 秒 返信・引用 編集済 > No.25[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴 蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国の位置は分かる が。国名は変わり、特定は不可能、無理。

出雲風土記は 1300 年、魏志倭人伝は 1700 年この時間の壁は大きい。しかし、この壁も秦野の 調べでは、誰もが知る。雅楽、だんじり、は古く、1700~2200 年の歴史がある。祭りはこの当たりが起源かも。もしかすると、諏訪のだんじりが糸口に成るかも。

魏志倭人伝の国は総て、地名は失われるが、痕跡は残すが総ての人は通り過ぎてしまう。よい例は邪馬台国である。目の前に在るのに気づかず、通り過ぎてしまう。

1. 帯方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000 余里で倭国の 北岸の狗邪韓国(くやかんこく)に到着する(「從郡至倭、循海岸水行、歷韓國、乍南乍東、到 其北岸狗邪韓國七千餘里」)。
2. 始めて海を 1000 余里渡ると対海国に至る(「始度一海千餘里、至對海國」)。大官は卑狗(ひこ)、副官は卑奴母離(ひなもり)。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は 険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。
3. また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る(「又南渡一海千餘里、名曰瀚 海、至一大國」)。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000 の家族が住 める。田畑はあるが足りず、市へいく。
4. また海を 1000 余里渡ると末廬国に至る(「又渡一海千餘里、至末廬國」)。4000 余戸が有る。 草木が茂り、前を行く人が見えない。魚やアワビを捕るのを好み、皆が潜る。
5. 東南へ 500 里陸行すると伊都国に到着する(「東南陸行五百里、到伊都國」)。長官は爾支(にき)、副官は泄謨觚(せもこ)と柄渠觚(へくこ)。1000 余戸が有る。世、王が居る。皆 は女王国に属する。帯方郡の使者の往来では常に駐在する所。
6. 東南に 100 里進むと奴国に至る(「東南至奴國百里」)。長官は?馬觚(しまこ)、副官は卑 奴母離。2 万余戸が有る。
7. 東へ 100 里行くと不弥国に至る(「東行至不彌國百里」)。長官は多模(たも)、副官は卑 奴母離。1000 余の家族が有る。
8. 南へ水行 20 日で投馬国に至る(「南至投馬國水行二十日」)。長官は彌彌(みみ)、副官は 彌彌那利(みみなり)である。推計 5 万戸余。
9. 南に水行 10 日と陸行 1 月で女王の都のある邪馬台国に至る(「南至邪馬臺國、女王之所都、 水行十日陸行一月」)。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳?があり、推計 7 万余戸。

----- Re: 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 24 日(火)03 時 28 分 17 秒 返信・引用 編集済 > No.24[元記事へ]

秦野さん、さっそくお返事ありがとうございます。

私も伊都国、一大率との関係に注目しています。「一大国」をもって「壺岐(イチキ)島」を意味しているのでして、「伊都」も、「一の都」の意味かもしれません。 定冠詞「伊」=「一」となりますね。

ここには「一」という明確な漢字が使用されており、魏志倭人伝にも、文書をもって各国を収めているとの記載を考慮すると、もともと漢字を使用した文化圏だったのではないかと考え始めてます。

漢字一文字をもって、拠点や地域名を表記しているんですね。それに定冠詞がついてくる。

またその漢字に「都」「一」「率」「郡」…と意味があるようです。「侏儒国」をもって、シュジュ=小人としているのも、あるいは現地の中国語とその意味を理解した住民がそう名づけて読んでいた可能性も感じます。

そうすると、「己百」は、「己を知れば百戦危うからず」のことわざかもしれません。その後の「支」は拠点の意味でしょうか。だから「己百支」「郡支」は、そういう防御なり、官があった町

ということになるかと感じます。

それで、私は九州説、畿内説のどちらが…という見方はないのですが、たとえば九州説に沿って、九州の地名で探していくと、

その前の「斯馬国」は「斯」+定冠詞「馬」で、九州北部の糸島にある「志麻」のこととすると、定冠詞「馬」に「島」の意味が見て取れます。「対馬」も同様に「対になった島」とも読めますね。

また、続く国名を順に追っていくと、定冠詞「対」+「蘇」、「蘇」+定冠詞「奴」という国があるのですが、蘇という地域は、いわゆる「阿蘇」かもしれません。

彌奴国は、「彌」+定冠詞「奴」ですが、書紀の景行天皇上に、水沼(水間)県主の伝承があります。八女津姫という山奥に住む姫のことが記載されていて、これは「八女」の伝承となります。「八女」=「邪馬国」ですね。

<http://inoues.net/yametuhime.html>

八女地方の山奥の台地にいたミコだから、「邪馬+台」国というふうに理解することなども可能かもしれません。

あと、呼邑国(クオウ)については、あるいは西都原あたりを児湯(コユ)と延喜式で読ませていることを考慮すると、日向(ヒュウガ)の地名に関係してこないかと感じます。呉音から漢音にかえて「クユウ」と読ませると、響きが近くなります。

そのほか「好古都国」→「高来郡」(島原・諫早)「投馬」→「薩摩郡」(鹿児島)なども浮かびます。

そしてご指摘のとおり、後代の伝承から意味を解釈していく努力が重要です。

上記の例だと、仮に「彌奴」で「水沼」とするならば、定冠詞「彌」は水、「奴」は「沼地・池」などと解釈できるでしょう。

同じく「邪馬」が「八女」なら、定冠詞「耶」は「八」で「たくさんの」の意味ですね。

また「斯馬」「対馬」から「馬」が「島」の意味だとすると、「八女」はもともと「たくさんの島のあたる地域」で、その八女(邪馬)地方の山奥の「台地」にあったので、「邪馬+台」国になったのかもしれない。

ともあれ、これらの国名は、倭人伝に書いてあるとおり、位置も方角もわかっていたもので、省略したものでありますから、筆者のほうでは特定の配列で並べたと考えるべきかと感じます。

後代の延喜式などは、諸道にしたがって、並べてますが、この倭人伝の国名も同じく、並び順を見て、類似の地名が出てくることを考慮すると、やはりそう考えざるを得ない感じがします。秦野さんもその辺、注目されているのではないのでしょうか。

ただ、並べ方と対象とする地形で、ジグザグだったり、直線的だったりすると思います。

たとえば、九州から畿内に向かう場合は、直線的配列、九州北部から、南部に向かう場合は、ジグザグ配列になることも予想できますね。

そういう方位視点からみると、「對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国」の配列は、「蘇」という地域を中心においてあるものの、呼邑という部分が挟み入っているように見えます。

同じく、「鬼国、爲吾国、鬼奴国」の配列でも、「鬼」という地域の元で、爲吾が挟み込まれています。

その前の伊都国周辺の諸国の記載は、伊都から放射線状に、国名を示していると考えているのですが、同様な論理である中心拠点から、放射状等に配列した可能性も考慮してみたいところです。

あと、後代の延喜式などは、下記のような道順になってます。

<http://homepage2.nifty.com/toka3aki/geography/kokugun9.html>

この辺の配列順も、もう少し注目していきたいところです。下記は倭人伝の国名。

斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国

----- Re: 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 1 月 23 日(月)20 時 57 分 25 秒 返信・引用 > No.23[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

魏志倭人伝の国名は、まず、魏志倭人伝の行程を読み取り、古代の地域を明確にした後なら可能です。秦野は行程を読み解きましたので、その他の国、女王国より北方は、結論を言えば、物部の地である。民衆の伝承しか特定の方法がない様に思う。どうも、一大率は出雲国と異なり、奴から別物のようだ。伊都国、出雲国、一大率、は古事記、日本神話で述べたい。

定かではないが、他の HP より 己百支國 イワキ 石城国(福島県) 都支國 タキ 多紀国(丹波国多紀郡) 彌奴國 ミノ 美濃国(岐阜県) 鬼奴國 キノ 毛野国(栃木・群馬県)

女王国より北方に一大率がある。遠くに在って国名だけしか分からない国として斯馬国、己百支国、伊都国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国があり、女王国はこれら 20 数カ国を支配していた。

----- 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 1 月 23 日(月)01 時 52 分 29 秒 返信・引用 編集済 ちょっと魏志倭人伝の国名を、呉音(ウィクショナリーより)で調べてみました。忘れぬうちにメモしておきます。

「次に斯馬(シメ)國有り。次に己百支(キヒャクシ)國有り。次に伊都(イヤ)國有り。次に郡支(グンシ)國有り。次に彌奴(ミノ)國有り。次に好古都(コウクツ)國有り。次に不呼(フク)國有り。次に姐奴(シャヌ)國有り。次に對蘇(タイス)國あり。次に蘇奴(スヌ)國有り。次に呼邑(クオウ)國有り。次に華奴蘇奴(ケヌスヌ)國有り。次に鬼(キ)國有り。次に為吾(イグ)國有り。次に鬼奴(キヌ)國有り。次に邪馬(ヤメ)國有り。次に躬臣(クウジン)國有り。次に巴利(ヘリ)國有り。次に支惟(シユイ)國有り。次に烏奴(ウヌ)國有り。次に奴(ヌ)國有り。此れ女王の境界の尽くる所なり。」 (<http://www.g-hopper.ne.jp/bunn/gisi/gisi.html> より)

★傾向(下記の定冠詞は、位置・立地・拠点等を示す語ではないか?)

●~+奴(ヌ) 彌奴(ミノ) 姐奴(シャヌ) 對蘇(タイス)→ 蘇奴(スヌ) 華奴蘇奴(ケヌスヌ) 鬼(キ)→ 鬼奴(キヌ) 烏奴(ウヌ)→ 奴(ヌ) 狗奴(クヌ)」 ●~+支(シ) 己百支(キヒャクシ) 郡支(グンシ)

●~+馬(メ) 斯馬(シメ) 邪馬(ヤメ) 邪馬+台?(ヤメダイ) 對馬(タイメ) 投馬(ツメ)

●イ+~

伊都(イヤ) 為吾(イグ) 伊都(イツ) 一大(イチダ)(+率(シュチ))

●タイ+~ 對蘇(タイス) 對馬(タイメ) 邪馬+台?(ヤメダイ)

●都(ツ)

伊都(イツ) 好古都(コウクツ)

●ク(コ)+~ 好古都(コウクツ)→ 不呼(フク) 躬臣(クウジン)→ 巴利(ヘリ)→ 支惟(シユイ) 呼邑(クオウ)

●フ+~

不彌(フミ) 不呼(フク)

●その他 末盧(マチル)

●中国人が命名? 侏儒(スニユウ)→体が小さいの意 裸(ラ) 黒齒(コクシ)

倭(イ)

----- Re: 出雲国の領地 投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 1 月 22 日(日)23 時 53 分 32 秒 返信・引用 編集済 > No.21[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 秦野さん、お返事ありがとうございます。 > 人名は変わりますが官職でどうでしょうか。

官職の紹介ありがとうございます。 あと、狗奴国が抜けてました。 理論的には、この国と投馬国の位置がわかれば、同じ方角にある邪馬台国の位置も特定できる点で重要です。

狗奴国には、官職として、狗古智卑狗という官職があります。私はてっきり後代の「ヒコ」との兼ね合いで、人名だと思っていたんです。

でも狗古智+卑狗(官職)です。副官の卑奴母離もいたかもしれませんね。

別に男王の名前がでており、男王・卑弥弓呼(ひみここ・ひこみこ)とのことですよ。

ヒコの官職名は、前述の対馬~伊都・奴国方面のそれと同系であることを想定して、かつ邪馬台国とは対立する別国の官制ということを考慮すると、ともあれ、文化圏として同じ地域に、これらの国があったと感じます。

邪馬台国の南のこの国が、北の諸国と同じ官職を有しているということも、挟まれているはずの邪馬台国を考える上で重要です。

そこでさらに人名に焦点を移していくと、ヒミコ、ヒミココで、やはり両国は、極めて近い文化圏にあります。

あと、鹿児島方面のニニギ、ヒコホデミあたりの記紀の人名と共通性があります。 伊都国の長官は「ニキ」ですし、他の長官「ヒコ」もそうですね。

----- Re: 出雲国の領地 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 1 月 22 日(日)00 時 51 分 26 秒 返信・引用 編集済 > No.20[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。 人名は変わりますが官職でどうでしょうか。

大官 對海國:大官は卑狗(ひこ)、副官は卑奴母離(ひなもり)。

一大國:官は對馬国と同じ。

長官 伊都國:長官は爾支(にき)、副官は泄謨觚(せもこ)と柄渠觚(へくこ)。

奴國:長官は馬觚(しまこ)、副官は卑奴母離。 投馬國:長官は彌彌(みみ)、副官は彌彌那利(みみなり)

官 邪馬壹國:官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳?

> あと、最後の奴佳?の「?」の字は、漢書の匈奴の記載にみられる漢字で漢書、史記の時代による当て字?の用法と考えると、倭人伝の著者が、あるいは魏より古い時代の書物に当たった可能性も考慮すべきかもしれません。

奴佳?の「?」は匈奴、鋭い、そのとおりです。陳寿はこんな所に潜ませていたんですな。官職ですが大官、長官、邪馬壹國は官、理由:卑弥呼は独自に兵を持っていた。兵は陳寿作の三角縁 神獸鏡の三公の吏人、です。 HP 秦野北斗の古代史、卑弥呼参照

古代の倭国の組織は国、群条(杜)、郷で形造られ、各国に大官、または長官を置いたようですね。 中枢は天皇、秦野はここまで、はまる、とは考えていませんでした。

----- Re: 出雲国の領地 投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 1 月 21 日(土)22 時 32 分 36 秒 返信・引用 編集済 > No.19[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそく、秦野さん、投馬国について、ご説明ありがとうございます。 > 投馬国と出雲国は別ものです。 私も投馬国=出雲説には、いささか疑問を抱いています。

「南に投馬国がある。海上を 20 日かかる。(水行 20 日) 大官を弥弥(みみ)、次官を弥弥那利(みみなり)という。

50,000 余戸の人々が住む。」 個人的には、ぜんぜん違う地域に興味を持っているのですが、ともあれ、官の名前に今回は注

目してみたいと思います。

ミミという長官の名前があり、ナリ(那利)と言う語をもって、「副」の意味を成しているようにも見えます。

それで官職のほうを、魏志倭人伝から拾ってみると、だいたい共通文化圏が見えてくるようです。

こちら倭人伝本文です。

<http://www1.ocn.ne.jp/~matsuo3/books/gishiwajinden.htm>

対馬から、奴国、不弥国あたりまでは、副官に「卑奴母離」、官名に「~コ」が出てくるので、同一文化圏だとわかります。

ところが投馬国になると、大官を弥弥(みみ)、次官を弥弥那利(みみなり)となりますから、構造的には似ているものの、言語的に異なる感じがします。

また邪馬台国になると、「官に伊支馬あり、次を弥馬升といい、次を弥馬獲支といい、次を奴 佳?という」

とありますから、これは弥馬升と弥馬獲支の構造が、投馬国の弥弥と弥弥那利の構造と類似しているでしょう。これらは同一の文化圏にあるのではないのでしょうか。

前者の文化圏では、ヒコ→ヒコモリにならず、ヒコ→ヒナモリになっていることは、言語的な用法で、おそらく条件によって、「コ」から「ナ」へと、音韻が変化しやすいことを意味しているのだと思います。

ところが、後者の文化圏では、前部の名称について音韻の変化なしに、ダイレクトに「ミミ+ナリ」とつなげているところを見ても、違う言語圏だろうと感じます。

この辺の差を、朝鮮語文化圏、オーストロネシア語文化圏、元日本語文化圏で追えば地域が特定できるかもしれないと、今調べてみて感じますね。…

また、ご指摘のように、出雲と投馬国…が隣国とかであることを想定する場合も、同様な官職名などの近似性が出てきてもよいかもしれません。

あと、最後の奴佳?の「?」の字は、漢書の匈奴の記載にみられる漢字で漢書、史記の時代による当て字?の用法と考えると、倭人伝の著者が、あるいは魏より古い時代の書物に当たった可能性も考慮すべきかもしれません。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%94%E3%83%86%E3%82%A4%E4%BE%AF>

----- 以上は、新着順 101 番目から 110 番目までの記事です。4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 |《前のページ

次のページ》

/13 新着順 投稿順

現在この掲示板は、記事からはメールを送れない設定になっています。メールアドレスを入力して投稿した場合、管理人は管理画面の投稿の管理の投稿者名からメールが送れます。検索した動画を記事に埋め込むことができます。 ※掲示板設定で、[画像の貼付][動画の貼付]を共に許可している必要があります

[teacup.] [無料掲示板] [プレミアム掲示板] [みんなの掲示板] [無料ブログ] [チャット] [お絵かき] [twitter] [RSS]

teacup.AUTO BBS Lv2-Free

[PR]

----- Re: 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:管理人
人 投稿日:2012 年 1 月 25 日(水)21 時 49 分 34 秒 返信・引用 編集済 > No.26[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

そうですね、神楽や風習というのは、元のまま持続させようという意識が働き変らないこと が多いですから、古い形を維持していることも多いかと感じます。

先の八女津姫関連でも、八女津姫神社で伝等行事が受け継がれているそうです。

<http://www.yokaocha.com/yametuhimezinja.htm>

女王国の習俗がどういうものだったかについては、千人ものミコがヒミコに侍っていて、一 人だけ男性の侍者がいるという記載に興味を感じてます。

他の国が男王と立てていることを考慮すると、非常に特殊な形であり、なんらかの伝承が残 っている可能性も感じてます。先の八女(邪馬?)の語も、「八=たくさんの女たち」とも見 えますね。

女性たちによる政治の時代が、邪馬台国のある一時期だけあったはずです。 女王国の官の名前も女性を意味していた可能性はないでしょうか。

「伊支馬、弥馬升(ミメショウ)、弥馬獲支(ミメワクシ)、奴佳?(ヌケダイ)があり、推計 7 万余戸。」

長官(伊支馬)は、王たるヒミコとは別人だったのでしょうか。 伊支馬は、一番目の馬→女? 弥馬升、弥馬獲支は、弥馬+升 弥馬+獲支 で、

魏への使人「難升米(ナンショウマイ)」「都市牛利(ツジグリ)」「掖邪狗(ヤクヤク)」あたりの語と関係してきます。

「升」の字は他には見えず、この国で特有の意味を持つ「漢字」だったはず。 「掖邪狗(ヤクヤク)」は「獲支(ワクシ)」に近いですね。あるいは後代書紀で「掖久」をもって屋久島(ヤク)を意味してますから、「掖久」(ヤクク)と読めるかもしれません。

ただ、「難+升」になっており、「弥馬+升」ではないんですね。これは男女の性差とも関係して くるでしょうか?

「難→男」という具合にですね。難も男も呉音では、「ナン」だそうです。「弥馬→女」とすると、後代の「ヒメ」などの語も思い浮かびますね。

ともあれ、男女の性差と、特殊な女性祭祀集団の政治形態、この辺が、後代の伝承なり習俗・ 儀式にどこかの地域の風習にみえないかどうか、その辺も関心事でありますし、それらしき ものもなくはないようです。

本当におっしゃるとおり、ヒミコの祭祀場の目の前を知らずに通り過ぎている可能性があり ますね。

インバーター - www.mitukura.net/ 圧倒的な安さ(価格表付) 三菱・富士・東芝 パソコン修理はバスターズ - www.pc99.co.jp 東京・埼玉・名古屋に店舗あり 緊急の修理は出張修理専門店へ ノート PC 分解とは? - www.keyman.or.jp

図解でノート PC 分解を理解 キーマンズのノート PC 分解解説 パソコン液晶修理が¥9800 - pc-pier.com/ 宅配パソコン修理サービス、液晶修理 診断見積り無料・最短 1 日修理¥9800~ 高性能インバーターの販売 - www.alteplatz.co.jp 未来舎・電菱製サイン波インバーター エクセルティック製など豊富な品揃え
Ads by Google

----- Re: 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 1 月 24 日(火)20 時 53 分 18 秒 返信・引用 編集済 > No.25[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴 蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国の位置は分かる が。国名は変わり、特定は不可能、無理。

出雲風土記は 1300 年、魏志倭人伝は 1700 年この時間の壁は大きい。しかし、この壁も秦野の 調べでは、

誰もが知る。雅楽、だんじり、は古く、1700~2200年の歴史がある。祭りはこの当たりが起源かも。もしかすると、諏訪のだんじりが糸口に成るかも。

魏志倭人伝の国は総て、地名は失われるが、痕跡は残すが総ての人は通り過ぎてしまう。よい例は邪馬台国である。目の前に在るのに気づかず、通り過ぎてしまう。

1. 帯方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000余里で倭国の北岸の狗邪韓国(くやかんこく)に到着する(「従郡至倭、循海岸水行、歴韓國、乍南乍東、到其北岸狗邪韓國七千餘里」)。

2. 始めて海を1000余里渡ると対海国に至る(「始度一海千餘里、至對海國」)。大官は卑狗(ひこ)、副官は卑奴母離(ひなもり)。絶島で400余里四方の広さ。1000余戸が有る。山は険しく、道は獣道のように、林は深く、良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

3. また南に瀚海と呼ばれる海を1000余里渡ると一大国に至る(「又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國」)。官は対馬国と同じ。300余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく。

4. また海を1000余里渡ると末廬国に至る(「又渡一海千餘里、至末廬國」)。4000余戸が有る。草木が茂り、前を行く人が見えない。魚やアワビを捕るのを好み、皆が潜る。

5. 東南へ500里陸行すると伊都国に到着する(「東南陸行五百里、到伊都國」)。長官は爾支(にき)、副官は泄謨觚(せもこ)と柄渠觚(へくこ)。1000余戸が有る。世、王が居る。皆は女王国に属する。帯方郡の使者の往来では常に駐在する所。

6. 東南に100里進むと奴国に至る(「東南至奴國百里」)。長官は馬觚(しまこ)、副官は卑奴母離。2万余戸が有る。

7. 東へ100里行くと不弥国に至る(「東行至不彌國百里」)。長官は多模(たも)、副官は卑奴母離。1000余の家族が有る。

8. 南へ水行20日で投馬国に至る(「南至投馬國水行二十日」)。長官は彌彌(みみ)、副官は彌彌那利(みみなり)である。推計5万戸余。

9. 南に水行10日と陸行1月で女王の都のある邪馬台国に至る(「南至邪馬臺國、女王之所都、水行十日陸行一月」)。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳?があり、推計7万余戸。

----- Re: 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:管理人 投稿日:2012年1月24日(火)03時28分17秒 返信・引用 編集済 > No.24[元記事へ]

秦野さん、さっそくお返事ありがとうございます。

私も伊都国、一大率との関係に注目しています。「一大国」をもって「壹岐(イチキ)島」を意味しているのでして、「伊都」も、「一の都」の意味かもしれません。定冠詞「伊」=「一」となりますね。

ここには「一」という明確な漢字が使用されており、魏志倭人伝にも、文書をもって各国を収めているとの記載を考慮すると、もともと漢字を使用した文化圏だったのではないかと考え始めてます。

漢字一文字をもって、拠点や地域名を表記しているんですね。それに定冠詞がついてくる。

またその漢字に「都」「一」「率」「郡」…と意味があるようです。「侏儒国」をもって、シュジュ=小人としているのも、あるいは現地の中国語とその意味を理解した住民がそう名づけて読んでいた可能性も感じます。

そうすると、「己百」は、「己を知れば百戦危うからず」のことわざかもしれません。その後の「支」は拠点の意味でしょうか。だから「己百支」「郡支」は、そういう防御なり、官があった町

ということになるかと感じます。

それで、私は九州説、畿内説のどちらが…という見方はないのですが、たとえば九州説に沿って、九州の地名で探していくと、

その前の「斯馬国」は「斯」+定冠詞「馬」で、九州北部の糸島にある「志麻」のこととすると、定冠詞「馬」に「島」の意味

が見て取れます。「対馬」も同様に「対になった島」とも読めますね。

また、続く国名を順に追っていくと、定冠詞「対」+「蘇」、「蘇」+定冠詞「奴」という国があるの ですが、蘇という地域は、いわゆる「阿蘇」かもしれません。

彌奴国は、「彌」+定冠詞「奴」ですが、書紀の景行天皇上に、水沼(水間)県主の伝承があります。八女津姫という山奥に住む姫のことが記載されていて、これは「八女」の伝承となります。「八女」=「邪馬国」ですね。

<http://inoues.net/yametuhime.html>

八女地方の山奥の台地にいたミコだから、「邪馬+台」国というふうに理解することなども可能かもしれません。

あと、呼邑国(クオウ)については、あるいは西都原あたりを児湯(コユ)と延喜式で読ま せていることを考慮すると、日向(ヒュウガ)の地名に関係してこないかと感じます。呉音 から漢音にかえて「クユウ」と読ませると、響きが近くなります。

そのほか 「好古都国」→「高来郡」(島原・諫早)「投馬」→「薩摩郡」(鹿児島)なども浮かびます。

そしてご指摘のとおり、後代の伝承から意味を解釈していく努力が重要です。

上記の例だと、仮に「彌奴」で「水沼」とするならば、定冠詞「彌」は水、「奴」は「沼地・池」などと 解釈できるでしょう。

同じく「邪馬」が「八女」なら、定冠詞「耶」は「八」で「たくさんの」の意味ですね。 また「斯馬」「対馬」から「馬」が「島」の意味だとすると、「八女」はもともと「たくさんの島のあ

る地域」で、その八女(邪馬)地方の山奥の「台地」にあったので、「邪馬+台」国になったのか かもしれません。

ともあれ、これらの国名は、倭人伝に書いてあるとおり、位置も方角もわかっていたもので、 省略したものでありますから、筆者のほうでは特定の配列で並べたと考えるべきかと感じま す。

後代の延喜式などは、諸道にしたがって、並べてますが、この倭人伝の国名も同じく、並び順 を見て、類似の地名が出てくることを考慮すると、やはりそう考えざるを得ない感じがしま す。秦野さんもその辺、注目なされているのではないのでしょうか。

ただ、並べ方と対象とする地形で、ジグザグだったり、直線的だったりすると思います。

たとえば、九州から畿内に向かう場合は、直線的配列、九州北部から、南部に向かう場合は、ジグザグ配列になることも予想できますね。

そういう方位視点からみると、「對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国」、の配列は、「蘇」という 地域を中心においてあるものの、呼邑という部分が挟み入っているように見えます。

同じく、「鬼国、爲吾国、鬼奴国」の配列でも、「鬼」という地域のもので、爲吾が挟み込まれてい ます。

その前の伊都国周辺の諸国の記載は、伊都から放射線状に、国名を示していると考えている のですが、同様な論理である中心拠点から、放射状等に配列した可能性も考慮してみたいと ころです。

あと、後代の延喜式などは、下記のような道順になってます。

<http://homepage2.nifty.com/toka3aki/geography/kokugun9.html>

この辺の配列順も、もう少し注目していきたいところです。下記は倭人伝の国名。

斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑 国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、 邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国

----- Re: 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:秦野
北斗 投稿日:2012 年 1 月 23 日(月)20 時 57 分 25 秒 返信・引用 > No.23[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

魏志倭人伝の国名は、まず、魏志倭人伝の行程を読み取り、古代の地域を明確にした後なら可 能です。秦野は行程を読み解きましたので、その他の国、女王国より北方は、結論を言えば、物 部の地である。民衆の伝承し

か特定の方法がない様に思う。どうも、一大率は出雲国と異なり、奴から別物のようだ。伊都国、出雲国、一大率、は古事記、日本神話で述べたい。

定かではないが、他の HP より 己百支國 イワキ 石城国(福島県) 都支國 タキ 多紀国(丹波国多紀郡) 彌奴國 ミノ 美濃国(岐阜県) 鬼奴國 キノ 毛野国(栃木・群馬県)

女王国より北方に一大率がある。遠くに在って国名だけしか分からない国として斯馬国、己百支国、伊邪国、都支国、彌奴国、好古都国、不呼国、姐奴国、對蘇国、蘇奴国、呼邑国、華奴蘇奴国、鬼国、爲吾国、鬼奴国、邪馬国、躬臣国、巴利国、支惟国、烏奴国、奴国があり、女王国はこれら 20 数力国を支配していた。

----- 魏志倭人伝の国名(呉音) 投稿者:管理人
投稿日:2012 年 1 月 23 日(月)01 時 52 分 29 秒 返信・引用 編集済 ちょっと魏志倭人伝の国名を、呉音(ウィクショナリーより)で調べてみました。忘れぬうちにメモしておきます。

「次に斯馬(シメ)國有り。次に己百支(キヒヤクシ)國有り。次に伊邪(イヤ)國有り。次に郡支(グンシ)國有り。次に彌奴(ミヌ)國有り。次に好古都(コウクツ)國有り。次に不呼(フク)國有り。次に姐奴(シャヌ)國有り。次に對蘇(タイス)國あり。次に蘇奴(スヌ)國有り。次に呼邑(クオウ)國有り。次に華奴蘇奴(ケヌスヌ)國有り。次に鬼(キ)國

有り。次に爲吾(イグ)國有り。次に鬼奴(キヌ)國有り。次に邪馬(ヤメ)國有り。次に躬臣(クウジン)國有り。次に巴利(ヘリ)國有り。次に支惟(シユイ)國有り。次に烏奴(ウヌ)國有り。次に奴(ヌ)國有り。此れ女王の境界の尽くる所なり。」 (<http://www.g-hopper.ne.jp/bunn/gisi/gisi.html> より)

★傾向(下記の定冠詞は、位置・立地・拠点等を示す語ではないか?)

●~+奴(ヌ) 彌奴(ミヌ) 姐奴(シャヌ) 對蘇(タイス)→ 蘇奴(スヌ) 華奴蘇奴(ケヌスヌ) 鬼(キ)→ 鬼奴(キヌ) 烏奴(ウヌ)→ 奴(ヌ) 狗奴(クヌ)」 ●~+支(シ) 己百支(キヒヤクシ) 郡支(グンシ)

●~+馬(メ) 斯馬(シメ) 邪馬(ヤメ) 邪馬+台?(ヤメダイ) 對馬(タイメ) 投馬(ツメ)

●イ+~

伊邪(イヤ) 爲吾(イグ) 伊都(イツ) 一大(イチダ)(+率(シュチ))

●タイ+~ 對蘇(タイス) 對馬(タイメ) 邪馬+台?(ヤメダイ)

●都(ツ)

伊都(イツ) 好古都(コウクツ)

●ク(コ)+~ 好古都(コウクツ)→ 不呼(フク) 躬臣(クウジン)→ 巴利(ヘリ)→ 支惟(シユイ) 呼邑(クオウ)

●フ+~

不彌(フミ) 不呼(フク)

●その他 末盧(マチル)

●中国人が命名? 侏儒(スニユウ)→体が小さいの意 裸(ラ) 黒齒(コクシ)

倭(イ)

----- Re: 出雲国の領地 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 22 日(日)23 時 53 分 32 秒 返信・引用 編集済 > No.21[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 秦野さん、お返事ありがとうございます。 > 人名は変わりますが官職でどうでしょうか。

官職の紹介ありがとうございます。あと、狗奴国が抜けてました。理論的には、この国と投馬国の位置がわかれば、同じ方角にある邪馬台国の位置も特定できる点で重要です。

狗奴国には、官職として、狗古智卑狗という官職があります。私はてっきり後代の「ヒコ」との兼ね合いで、人名だと思っていたんです。

でも狗古智+卑狗(官職)です。副官の卑奴母離もいたかもしれませんね。

別に男王の名前がでており、男王・卑弥弓呼(ひみここ・ひこみこ)とのことです。

ヒコの官職名は、前述の対馬~伊都・奴国方面のそれと同系であることを想定して、かつ邪馬台国とは対立する別国の官制ということを考慮すると、ともあれ、文化圏として同じ地域に、これらの国があったと感じます。

邪馬台国の南のこの国が、北の諸国と同じ官職を有しているということも、挟まれているはずの邪馬台国を考える上で重要です。

そこでさらに人名に焦点を移していくと、ヒミコ、ヒミココで、やはり両国は、極めて近い文化圏にあります。

あと、鹿児島方面のニニギ、ヒコホデミあたりの記紀の人名と共通性があります。伊都国の長官は「ニキ」ですし、他の長官「ヒコ」もそうですね。

----- Re: 出雲国の領地 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 1月 22日(日)00時 51分 26秒 返信・引用 編集済 > No.20[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。人名は変わりますが官職でどうでしょうか。

大官 對海國:大官は卑狗(ひこ)、副官は卑奴母離(ひなもり)。

一大國:官は對馬国と同じ。

長官 伊都國:長官は爾支(にき)、副官は泄謨觚(せもこ)と柄渠觚(へくこ)。 奴國:長官は?馬觚(しまこ)、副官は卑奴母離。 投馬國:長官は彌彌(みみ)、副官は彌彌那利(みみなり)

官 邪馬壹國:官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳?

> あと、最後の奴佳?の「?」の字は、漢書の匈奴の記載にみられる漢字で漢書、史記の時代による当て字?の用法と考えると、倭人伝の著者が、あるいは魏より古い時代の書物に当たった可能性も考慮すべきかもしれません。

奴佳?の「?」は匈奴、鋭い、そのとおりです。陳寿はこんな所に潜ませていたんですな。官職で

すが大官、長官、邪馬壹國は官、理由:卑弥呼は独自に兵を持っていた。兵は陳寿作の三角縁 神獸鏡の三公の吏人、です。 HP 秦野北斗の古代史、卑弥呼参照

古代の倭国の組織は国、群条(杜)、郷で形造られ、各国に大官、または長官を置いたようですね。 中枢は天皇、秦野はここまで、はまる、とは考えていませんでした。

----- Re: 出雲国の領地 投稿者:管理人 投稿日:2012年 1月 21日(土)22時 32分 36秒 返信・引用 編集済 > No.19[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。 さっそく、秦野さん、投馬国について、ご説明ありがとうございます。 > 投馬国と出雲国は別ものです。 私も投馬国=出雲説には、いささか疑問を抱いています。

「南に投馬国がある。海上を 20 日かかる。(水行 20 日) 大官を弥弥(みみ)、次官を弥弥那利(みみなり)という。 50,000 余戸の人々が住む。」

個人的には、ぜんぜん違う地域に興味を持っているのですが、ともあれ、官の名前に今回は注目してみたいと思います。

ミミという長官の名前があり、ナリ(那利)と言う語をもって、「副」の意味を成しているようにも見えます。

それで官職のほうを、魏志倭人伝から拾ってみると、だいたい共通文化圏が見えてくるよう です。

こちら倭人伝本文です。

<http://www1.ocn.ne.jp/~matsuo3/books/gishiwajinden.htm>

対馬から、奴国、不弥国あたりまでは、副官に「卑奴母離」、官名に「~コ」が出てくるので、同一 文化圏だとわかります。

ところが投馬国になると、大官を弥弥(みみ)、次官を弥弥那利(みみなり)となりますか ら、構造的には似ているものの、言語的に異なる感じがします。

また邪馬台国になると、「官に伊支馬あり、次を弥馬升といい、次を弥馬獲支といい、次を奴 佳?という」

とありますから、これは弥馬升と弥馬獲支の構造が、投馬国の弥弥と弥弥那利の構造と類似 しているでしょう。これらは同一の文化圏にあるのではないのでしょうか。

前者の文化圏では、ヒコ→ヒコモリにならず、ヒコ→ヒナモリになっていることは、言語的な 用法で、おそらく条件によって、「コ」から「ナ」へと、音韻が変化しやすいことを意味している のだと思います。

ところが、後者の文化圏では、前部の名称について音韻の変化なしに、ダイレクトに「ミミ+ナリ」とつなげているところを見ても、違う言語圏だろうと感じます。

この辺の差を、朝鮮語文化圏、オーストロネシア語文化圏、元日本語文化圏で追えば地域が特 定できるかもしれないと、今調べてみて感じますね。…

また、ご指摘のように、出雲と投馬国…が隣国とかであることを想定する場合も、同様な 官職名などの近似性が出てきてもよいかもしれません。

あと、最後の奴佳?の「?」の字は、漢書の匈奴の記載にみられる漢字で漢書、史記の時代による 当て字?の用法と考えると、倭人伝の著者が、あるいは魏より古い時代の書物に当たった可 能性も考慮すべきかもしれません。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%94%E3%83%86%E3%82%A4%E4%BE%AF>

----- Re: 出雲国の領地 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 21 日(土)01 時 39 分 6 秒 返信・引 用 管理人さんへのお返事です。

> 邪馬台国関連だと、投馬国を出雲のことだとする説がありますが、秦野さんはその辺どう 思われますか?

未公開ですが日本神話では豊雲野国が出雲国の正式名です。領土は韓国南部に及んだ模様。 投馬国から巖島(出雲国)まで水行 10 日に成る(秦野北斗書、徐福と邪馬台より)。また、出雲国 (九州側)は投馬国の隣りに成っている。出雲国は首都になるのでは?。

投馬国と出雲国は別ものです。

>出雲郡の杵築郷(支豆支里)に杵築(出雲)大社があったようで、隣の>出雲郷ではなか ったとことにちょっと興味を感じてます。

出雲國風土記を元に地図を描くと豊雲野国の数十分の 1 に成っている。 出雲國風土記 國之大體 '首震尾坤 東南西山 北属海

東西一百卅七里一十九歩 南北一百八十三里一百九十三歩

郡条(杜)は十郷程度を合わせた、16Km 程度の地域になる。統廃合が在ったのでしょう。 杜は駐屯地の意味のようです。

>出雲神話の起源を考えると、青銅器時代からの西部のものと、鉄器時代の東部のもの とが、どう結合していったのか、その辺がちょっとキーになるかと感じ始めてます。

日本神話の国生みの痕跡です。日本神話は真実の記録のようです。整理中です。

>古事記に稜威母(イズモ)、後に出雲となるわけですが、先の支豆支(キズキ)と杵築の事 例のように、神話伝承

に絡ませて、神社系の用語を重ねた節がありますね。

古事記を元に訳すと、稜威母(イズモ):アマテラスが威嚇する隅の隣に合う国。

----- Re: 出雲国の領地 投稿者:管理人 投稿
日:2012年 1月 20日(金)22時 38分 48秒 返信・引用 編集済 > No.17[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

さっそくお返事ありがとうございます。

> 出雲国に出雲郡条、日本神話に出雲、出雲国は首都？

とのことですが、出雲郡の杵築郷(支豆支里)に杵築(出雲)大社があったようで、隣の出雲郷ではなかったことにちょっと興味を感じています。

後代の国府は意宇郡にあったそうです。青銅器が多く出土する出雲西部と、鉄器が多く出土する東部との2拠点があったようです。

東部の米子のあたりは昨年訪問しましたが、大陸系の渡来人との関わりが強い地域と見受けられました。

出雲神話の起源を考えると、青銅器時代からの西部のものと、鉄器時代の東部のものと、どう結合していったのか、その辺がちょっとキーになると感じ始めてます。

古事記に稜威母(イズモ)、後に出雲となるわけですが、先の支豆支(キズキ)と杵築の事例のように、神話伝承に絡ませて、神社系の用語を重ねた節がありますね。

邪馬台国関連だと、投馬国を出雲のことだとする説がありますが、秦野さんはその辺どう思われますか？

----- 以上は、新着順 1番目から 10番目までの記事です。 123 | 《前のページ | 次のページ》

/3 新着順 投稿順

----- 出雲国の領地 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012年 1月 20日(金)06時 39分 14秒 返信・引用 編集済 出雲国風土記から領地を描きました。

出雲国に出雲郡条、日本神話に出雲、出雲国は首都？ 参考程度です。

Ads by Google

----- Re: 出雲国風土記 投稿者:管理人 投稿
日:2012年 1月 19日(木)22時 52分 22秒 返信・引用 > No.15[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

秦野さん、さっそく詳細情報ありがとうございます。

8郡ではなく、10郡でしたね。失礼しました。八はご指摘のとおり、たくさんの意味だと思っています。

> 出雲風土記の郡条と距離の関係了解しました。

また > 10郡条は杜(神社)を中心に形成されている模様。

この点、重要だと思います。今特に、楯縫郡について調べてみました。

杵築大社という神社の神事道具として楯を造ることと関係があるそうです。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A5%AF%E7%B8%AB%E9%83%A1>

その杵については、ちょっと管理的には今別件で興味を持っている部分なのですが、ともあれ、先の意宇郡と杜の関係のように、神社や神話伝承との兼ね合いが、郷名に影響している様子を見て取ることができますね。

ご指摘の白村江など、後代の歴史事象との兼ね合いを考えていくことも重要です。

----- Re: 出雲国風土記 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 19 日(木)20 時 51 分 10 秒 返信・引用 編集済 > No.14[元記事へ]

管理人さんへのお返事です。

> 意宇郡、仁多郡は、氏族名等の「音」を示しているように感じます。楯縫郡というのは、職業 部民の感じを受けますね。盾を製作する部族という具合でしょうか。

見直しました。

出雲風土記の意宇郡条、仁多郡条、計 10 郡条に秦野距離を適応し測った所。出雲風土記 は郡条から郷までの里歩を羅列している模様。

10 郡条:玖郡条、意宇郡条、島根郡条、秋鹿郡条、楯縫郡条、出雲郡条、神門郡条、飯石郡条、 仁多郡条、大原郡条

10 郡条は杜(神社)を中心に形成されている模様。 尚、郡条と郷の特定は神社を基点に秦野距離で測ればだいたい場所が出てくる。 注)郡条、郷は田畑、原野の可能性が大きい。 魏志倭人伝の行程(徐福と邪馬台国)の経験からです。伊都国、奴国等は田畑に成っている。

八束水臣津野命は人物でなく、八束水臣津野命詔で詔(みことのり)ですな。 八百(やお):百の八倍。はっぴやく。また、非常に数の多いこと。

内容は八百(やお)の杜(神社)を水伯(水神)に仕える津野(水軍港)とする。でしょう。これが、日本神話、八岐大蛇、白村江の戦いに関係が出てくるのです。

見直しが正解みたいです。ここに訂正と反省します。秦野北斗

----- Re: 出雲国風土記 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 18 日(水)18 時 27 分 33 秒 返信・引用 編集済 > No.13[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

さっそくご意見ありがとうございます。「シモ=管理人」です。

先の出雲の八束水臣津野命の八束というのは、なるほど八つの郡とすることになるのですね。そしてご指摘のとおり、水伯(水神)の停泊する所(人)との兼ね合いで解釈できそうです。

> 韓半島との交易、と移住を描いた神話と思われる。 とのご意見にも同感ですね。

それで八郡の名前の由来をもう少し詳しく調べてみたいところですが、

意宇郡、仁多郡は、氏族名等の「音」を示しているように感じます。楯縫郡というのは、職業部 民の感じを受けますね。盾を製作する部族という具合でしょうか。

この手の意味がはっきりする漢字を入れているケースでは、おそらくは後代の移住者によってつけられた名称だと思います。

それらの集団を束ねて、最後に杖を突きたてて鎮守の杜をつくったのが、八束水臣津野命と いう航海氏族だったということでしょう。 細かくみていくと、だんだんその人物なり集団の姿が復元してきますね。

----- Re: 出雲国風土記 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 1 月 17 日(火)22 時 51 分 8 秒 返信・引用 > No.11[元記事へ]

シモさんへのお返事です。 八束水臣津野命は次となる。 1.八束(はちたば)とは次の郡条 意宇郡条 島根郡条 秋鹿郡条 楯縫郡条 神門郡条 飯石郡条 仁多郡条 大原郡条 2.水臣津野命是水(水神=水伯)、臣(つかえる)、津野(津=港、停泊する所) 水伯(水神)の停泊する所

以上から八郡条是水伯(水神)の停泊する所、と成る。 韓半島との交易、と移住を描いた神話と思われる。水(水神=水伯)、杜(もり)は卑弥呼に関係

あり。 >「意宇の杜(おうのもり)」豊後国風土記は大陸的な伝承要素を多く含有してます。 八束水臣津野命は出

雲国の統率者(大国主)では、少し難解です。

----- 魏志倭人伝の解説書 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 1 月 17 日(火)19 時 13 分 42 秒 返信・引用 編集済 魏志倭人伝の行程は現在の記
本では間違いが多く役に立たない。

秦野の著書、徐福と邪馬台国で現在の誤訳を訂正し、これを元に三角神獸鏡の銘文、日本神話、卑弥呼、神功
皇后、変わった所で黙示録、…の解説を行っている。 出雲風土記は神武天皇の解説中に読み取り、意外に出雲
風土記が白村江と関係がある。

魏志倭人伝は紀元前 1700 年からの日本の歴史を暗示している。この本、徐福と邪馬台国は 魏志倭人伝の解
説書であり古代史の入門書になる。

----- Re: 出雲国風土記 投稿者:シモ 投稿
日:2012 年 1 月 16 日(月)22 時 36 分 39 秒 返信・引用 > No.7[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

なるほど、カヤ地域を引っ張って自国の領土にする、あるいは島根方面を…という視点は とても面白い感じがし
ます。

八束水臣津野命という名前は、たくさん「八」の水(地域?)をつかみとるの意味に解せそう ですね。水が挟まって
いるという部分がキーでしょうか。

個人的には、「大地に杖を突き刺すと木が繁茂し」意宇の杜(おうのもり)」になったとい う」という話が、今調べて
いる豊後国風土記逸文との関連で興味を感じました。これらは大 陸的な伝承要素を多く含有してます。

----- Re: 継体天皇 投稿者:シモ 投稿日:2012
年 1 月 16 日(月)22 時 30 分 57 秒 返信・引用 > No.5[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

さっそく情報ありがとうございます。特に下記の部分が興味深いです。

鎌倉時代の『釈日本紀』に引用された『上宮記』逸文という史料によって知ることが出来る。こ れによると、男子
の直系は「凡牟都和希王(ほむたわけのおおきみ・応神天皇) — 若野毛二 俣王 — 大郎子(一名意富富等王) — 乎
非王 — ?斯王(=彦主人王) — 乎富等大公王(=継 体天皇)」とされる。

「ワケ」、「ヲオ(ド)」、「ヌシ」、「オオキミ(王)」あたりの発音の是非が、気になりますね。

たぶん、もともとは、名前しかなくて、後から「王」を適当につけたのではないかと感じます。 だから「オオキミ
王」とかいう変な名称が出てくる。かなり古い文献を元にしているのではな いでしょうか。

あと、越と朝鮮南部、朝鮮南部から山陰、滋賀方面への流れは、海流面から考慮してもとても 重要ですね。

----- Re: 魏志倭人伝の行程 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 1 月 16 日(月)21 時 25 分 18 秒 返信・引用 編集済 > No.8[元記事へ]

シモさんへのお返事です。

> 個人的な興味は、韓国南岸から対海国までの「方位」が示されていない点、同じく壱岐に至る までの方位が「南」
になっている点。

魏志倭人伝は韓半島の倭奴國を基準に、倭奴國を極南界、北を北岸の狗邪韓国としている。南 へ、東へは正規
の東西南北です。魏志倭人伝には倭奴國の記入はないが、場所を文章で暗示し ている。

> そこに挟まる海は何を示すのか? この海は日本神話にも出てきます。日本神話、卑弥呼で説明します。

> 「また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る」 > 壱岐から末盧国に至る方位が示されてな
い点です。

謎を解く鍵になるのは、倭奴國の金印です。 > この理由を解明したいと考えてます。 疑問があれば、協力しま

す。期待します。

----- Re: 魏志倭人伝の行程 投稿者:シモ 投稿日:2012年 1月 16日(月)20時 11分 2秒 返信・引用 > No.6[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

秦野さん、ご意見ありがとうございます。 ちょうど先日、都内の古代史例会で下記行程についての議論を聞いていたところでした。

個人的な興味は、韓国南岸から対海国までの「方位」が示されてない点、同じく壱岐に至るまでの方位が「南」になっている点、そこに挟まる海は何を示すのか？

「また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る」 壱岐から末盧国に至る方位が示されてない点です。

この理由を解明したいと考えてます。

----- 出雲国風土記 投稿者:秦野北斗 投稿

日:2012年 1月 16日(月)20時 09分 51秒 返信・引用 国引き神話(くにびきしんわ)は、出雲国に伝わる神話の一つである。『古事記』や『日本書紀』には記載されておらず、『出雲国風土記』の冒頭、意宇郡の最初の部分に書かれている。八束水臣津野命(やつかみずおみつぬのみこと)は、出雲の国は狭い若国(未完成の国)であるので、他の国の余った土地を引っ張ってきて広く継ぎ足そうとした。そして、佐比売山(三瓶山)と火神岳(大山)に綱をかけ、以下のように「国来国来(くにこ くにこ)」と国 を引き、できた土地が現在の島根半島であるという。国を引いた綱はそれぞれ菰の長浜(稲 佐の浜)と弓浜半島になった。そして、国引きを終えた八束水臣津野命が叫び声とともに大地に杖を突き刺すと木が繁茂し「意宇の杜(おうのもり)」になったという。

新羅の岬→去豆の折絶から八穂爾支豆支の御埼(やほにきづきのみさき。杵築崎) 北門(きたど)の佐伎(さき)の国→多久の折絶から狭田(さだ)の国 北門の良波(よなみ)の国→宇波の折絶から闇見(くらみ)の国 越国の都都(珠洲)の岬→三穂埼 ウィキペディア

秦野は地図でしめします。

インバーター - www.mitukura.net/ 圧倒的な安さ(価格表付) 三菱・富士・東芝 心霊相談所 - sinreisoudanjyo.jimdo.com/ 福岡にて心霊相談等承っています メール 電話相談 無料 末期がんからの克服 - www.npo-tougou.com/ なぜフコイダンで癌治療に使うのか 今注目のフコイダン療法レポート 酵素液で"断食ダイエット" - www.beautyplanning.jp 体験者が絶賛!絶対痩せたい方へ 体にうれしいプチ贅沢始めませんか? レイキとオーラの関係 - www1.bbweb-arena.com/reiki/ レイキヒーリングの習得 オーラの流れを実感、天使との出会い

Ads by Google

----- 魏志倭人伝の行程 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年 1月 15日(日)22時 49分 10秒 返信・引用 編集済 魏志倭人伝の行程を公開します。 秦野北斗 詳細は徐服と邪馬台国を参照

HP 秦野北斗の古代史 6 魏志倭人伝の行程 距離は実測し秦野距離とし換算している。陸行 1 月の確認のため、倭国の大きさの地図を添

付。

1. 帯方郡から倭国に至るには水行で海岸を循って韓国を経て南へ、東へ、7000 余里で倭国の 北岸の狗邪韓国(くやかんこく)に到着する(「従郡至倭、循海岸水行、歴韓國、乍南乍東、到 其北岸狗邪韓國七千餘里」)。

2. 始めて海を 1000 余里渡ると対海国に至る(「始度一海千餘里、至對海國」)。大官は卑狗(ひこ)、副官は卑奴母離(ひなもり)。絶島で 400 余里四方の広さ。1000 余戸が有る。山は 険しく、道は獣道のように、林は深く、

良い田畑がなく、海産物で自活。船で南北岸の市へいく。

3.また南に瀚海と呼ばれる海を 1000 余里渡ると一大国に至る(「又南渡一海千餘里、名曰瀚海、至一大國」)。官は対馬国と同じ。300 余里四方。竹、木、草むら、林が多い。3000 の家族が住める。田畑はあるが足りず、市へいく。

4.また海を 1000 余里渡ると末盧国に至る(「又渡一海千餘里、至末盧國」)。4000 余戸が有る。草木が茂り、前を行く人が見えない。魚やアワビを捕るのを好み、皆が潜る。

5.東南へ 500 里陸行すると伊都国に到着する(「東南陸行五百里、到伊都國」)。長官は爾支(にき)、副官は泄謨觚(せもこ)と柄渠觚(へくこ)。1000 余戸が有る。世、王が居る。皆は女王国に属する。帯方郡の使者の往来では常に駐在する所。

6.東南に 100 里進むと奴国に至る(「東南至奴國百里」)。長官は馬觚(しまこ)、副官は卑奴母離。2 万余戸が有る。

7.東へ 100 里行くと不弥国に至る(「東行至不彌國百里」)。長官は多模(たも)、副官は卑奴母離。1000 余の家族が有る。

8.南へ水行 20 日で投馬国に至る(「南至投馬國水行二十日」)。長官は彌彌(みみ)、副官は彌彌那利(みみなり)である。推計 5 万余戸。

9.南に水行 10 日と陸行 1 月で女王の都のある邪馬台国に至る(「南至邪馬壹國、女王之所都、水行十日陸行一月」)。官に伊支馬、弥馬升、弥馬獲支、奴佳?があり、推計 7 万余戸。 ウィキペディアより

『旧唐書』倭国・日本国伝

倭國者、古倭奴國也。去京師一萬四千里、在新羅東南大海中、依山島而居。東西五月行、南北三月行。世與中國通。其國、居無城郭、以木為柵、以草為屋。四面小島五十餘國、皆附屬焉。其王姓阿每氏、置一大率、檢察諸國、皆畏附之。設官有十二等。

倭国とは、古の倭奴国なり。京師から一万四千里、新羅の東南の大海中に在り、山島に依つて暮らす。東西に五カ月の行程、南北に三カ月の行程。代々中国と通じている。その国、居住地に城郭がなく、木を以て柵とし、草を以て屋根とする。四面の小島、五十余国、皆、これに附属している。その王姓は阿每氏、一大率を置き、諸国を檢察させ、皆はこれを畏怖している。官には十二等級を設けている。

----- 継体天皇 投稿者:秦野北斗 投稿
日:2012 年 1 月 15 日(日)19 時 33 分 20 秒 返信・引用 編集 済 継体天皇

秦野著作、徐福と邪馬台国で韓半島の地図を読み取り。越の特定、地図添付

越は韓半島南部越国(倭奴国)、(モッポ)『日本書紀』では、男大迹王として 5 世紀末の越前地方(近江地方説もある)を統治していた。

上記文章から韓半島南部に越(倭奴国)になる。その名は出雲風土記、国引き神話にも登場する。越前地方(近江地方説もある)でなく、韓半島南部越国(モッポ)

注、『日本書紀』の解釈に間違いが多く、地名は韓半島南部に存在する。しかし、総て日本の地名を当てはめている。韓半島南部の筑紫は白村江のキーポイントになるが、九州の筑紫になっている。

『日本書紀』によれば応神天皇 5 世の孫(曾孫の孫)で父は彦主人王(ひこうしのおおきみ)、母は垂仁天皇 7 世孫の振媛(ふりひめ)である。ただし、応神から継体に至る中間 4 代の系譜について『記紀』では省略されており、辛うじて鎌倉時代の『釈日本紀』に引用された

『上宮記』逸文という史料によって知ることが出来る。これによると、男子の直系は「凡牟都和希王(ほむたわけのおおきみ・応神天皇) — 若野毛二俣王 — 大郎子(一名意富富等王) — 乎非王 — ?斯王(=彦主人王) — 乎富等大公王(=継体天皇)」とされる。『上宮記』逸文は 近年、黛弘道の研究によって推古朝の遺文である可能性も指摘

され、その内容の信憑性や実際の血統については前述の通り議論が分かれているものの原帝紀の編纂(欽明朝か)と同じ頃に系譜伝承が成立したものと思われる。

『古事記』、『日本書紀』によると継体天皇は応神天皇 5 世の子孫であり、父は彦主人王である。近江国高嶋郷三尾野(現在の滋賀県高島市あたり)で誕生したが、幼い時に父を亡くしたため、母の故郷である越前国高向(たかむく、現在の福井県坂井市丸岡町高棕)で育てられて、男大迹王として 5 世紀末の越前地方(近江地方説もある)を統治していた。

『日本書紀』によれば、506 年に武烈天皇が後嗣定めずして崩御したため大連(おおむらじ)・大伴金村らは越前に赴いて、武烈天皇とは血縁の薄い男大迹王をやマト王権の大王に推戴した。これを承諾した王は、翌年 58 歳にして河内国樟葉宮(くすばのみや)において即位し、武烈天皇の姉(妹との説もある)にあたる手白香皇女(たしらかのひめみこ)を皇后とした。

ウィキペディア 彦主人王に接近したい。

----- ヒコ・クサカ 投稿者:管理人 投稿

日:2012 年 1 月 15 日(日)01 時 52 分 52 秒 返信・引用 編集済 秦野さん、こんにちは。さっそく日下部についてご意見ありがとうございます。

日下部で「クサカベ」と読みますが、もとはそうすると「ヒコ+ベ(部民)」ということになりそうですね。沙本毘古王。彦坐王、日子坐王…、確かに「ヒコ」が強調されているように感じます。

仁徳天皇の大草香・若草香王の部民との説もありますが、こちらは「クサカ」の読みに変化していて、クサカという地名なり氏族のもとで育った皇子、という感じもします。

あと雄略天皇の時の日下部連使主の記事が、比較的信憑性があるように感じます。この反乱伝承と、垂仁の時の伝承が類似性を持っていることを考えると、後者から、前者の伝承が派生したのではないかと感じます。

おそらく宮中・地方等の相違で伝承、天皇の代は異なるものの、実は同じものという具合ですね。

ヒコと呼ばせて、また別のところではクサカと呼ばれた。それぞれ話す言葉が違うとかいう線もないでしょうか。時代によるかもしれません。

隅田八幡鏡の銘文で

「癸未年八月日十大王年男弟王在意柴沙加宮時斯麻念長寿遣開中費直穢人今州利二人等取 白上同二百早作此竟」
男弟王がいわゆるヲヲド王で継体なのですが、継体の父親が彦主人王と言うんですね。継体 自身も袁本杼命・男大迹王・彦太尊と言うらしいのですが、

その「日十大王年」とあるのも、「ヒコ大王」の年と読めれば、「日十」「彦」「ヒコ」という連関が出てくると思うんです。

だから「日下」とかいて、「ヒコ・ヒカ」と読ませた可能性があって、継体のころの読みの中で、欽明の時代になって朝廷で使えはじめたという線になるのでしょうか。

オキナガ・ワニは新漢人と極めて関わるの深い系統で、滋賀・吉備・そして九州日田・八女 方面へと流れた、その辺の話ではないかと感じます。

それで白鳳時代になると草壁王、草香部キシとかいう氏族が出てくるのですが、日下の読み

を、和風に変えている、避けている、忌んでいる…という線で、仁徳紀のあたりに、草 香…が代替えされて記載されていく…。

ヒコと、後代のクサカは、宮中でも使う言語が変ってきたことを示すのかもしれませんが。もちろん、この辺は推論にすぎませんが、勘としてそんなことを考えてみました。

----- 日下部氏 投稿者:秦野北斗 投稿日:2012

年 1 月 14 日(土)22 時 41 分 27 秒 返信・引用 日下部氏

起源にはいくつかの説がある。開化天皇の孫・狭穗彦王に始まる、但馬国造の日下部君の後裔。(『古事記』、『大

日本史』孝徳天皇の孫・表米親王(日下部表米)に始まる、日下部宿禰の後裔。(『朝倉始末記』)

狭穂彦王(さほひこのみこ、生年不詳 - 垂仁天皇 5 年(紀元前 24 年)10 月没)とは、記紀に おける皇族(王族)。『日本書紀』では狭穂彦王、『古事記』では沙本毘古王。彦坐王の子で、開化天皇の孫に当たる。日下部連・甲斐国造の祖。母は春日建国勝戸売の娘、沙本之大閼見戸 売(さほのおおくらみとめ)。同母の兄弟に葛野別・近淡海蚊野別の祖袁邪本王、若狭耳別の祖室毘古王、垂仁天皇皇后狭穂姫命がいる。ウィキペディア

彦坐王(ひこいますのみこ、生没年不詳)は、記紀に伝えられる古墳時代の皇族(王族)。彦 坐命、日子坐王、彦今簀命とも。開化天皇の第 3 皇子。母は姥津命の妹・姥津媛命(ははつひ めのみこと)。崇神天皇の異母弟、景行天皇の曾祖父。神功皇后の高祖父にあたる。 ウィキペディア

三角縁神獣鏡:開化天皇の孫は卑弥呼とその弟になる。卑弥呼(170 年頃 - 248 年頃)『新唐書』日本伝:開化天皇の曾孫は神功皇后(じんぐうこうごう)、(170 年-269 年)

日下部氏は開化天皇とは考えづらい。それより、彦坐王、日子坐王、日子、ヒルコ(水蛭子、蛭 子神、蛭子命)えびす(ゑびす)夷、戎、胡、蛭子、恵比須、恵比寿、恵美須に当たると思われる。

----- 日下部氏 投稿者:管理人 投稿日:2012 年 1 月 12 日(木)17 時 48 分 45 秒 返信・引用 編集済 先の九州オフ会で、日田市刃連(ゆきい)町の法恩寺山古墳群に向かいました。ここは、日下部氏との関わりが指摘されています。

『豊後国風土記』日田郡 鞆編(ゆきあみ)郷の条に、日下部君の祖である 邑阿自(おうあじ)が この村に宅を構えたとあります。

その辺の詳細はこちら参照。

<http://www.e-obs.com/heo/heodata/n663.htm>

この古墳群には装飾壁画をもつものもあります。

<http://www.hita.ne.jp/~city/isn/hoon2.htm>

日下部氏の詳細。

<http://homepage2.nifty.com/amanokuni/kusakabe.htm>

日下部氏と当地の装飾古墳がどうつながっていくのか？そこが課題ですが、ご意見お待ちしております。

Re:人骨と DNA 分岐投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 4 日(金)22 時 45 分 39 秒 返信・引用

> No.458[元記事へ]

秦野北斗さんへのお返事です。

> O 系統はアステカ(中国(上海)から日本、南米への旅立ち)BC1700 年 > この当時に太平洋航路を知り、大型船を持っていた。 > ノアの末裔、箱舟=ジャンクと考えたい。 >

秦野さんのサイトで引用されているウィキのアステカの洪水神話は重要です。その洪水に出くわした男ノタ「NOTA」は、旧約の洪水に出くわしたノアのことですね。ノタとノアの語の類似性は、確率的に偶然ではありえないでしょう。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B4%AA%E6%B0%B4%E7%A5%9E%E8%A9%B1>

エジプト・エチオピア周辺にいたイスラエルの Q3 系統が、ノアの洪水神話を中南米に運んだものと感じます。そしてマヤの Q3 系統の祖先になったのでしょうか。

おそらく、エチオピア周辺にいた Q 系統はジャンク船をもっていたので、中南米まで渡れたと見て間違いのないでしょう。

ただ、それ以前にご指摘の中国の O 系統が、同じく太平洋経由で南米へ渡った可能性があり ますね。北米には

○系統はないところみると、インドシナ経由で渡った気がします。

ちょうど東北の震災で漂流したバイクが1年かかってカナダに到着したそうですが、漂流と となると半年から11年はかかりそうです。

1年持つ備蓄米と、雨水を溜めたり、海水を蒸留する装置が必要ですね。

ただ帆船だったら、もう少し早くつく可能性を感じます。

コロンブスは2ヶ月で大西洋渡ってますね。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%B3%E3%83%96%E3%82%B9#.E3.80.8C.E6.96.B0.E5.A4.A7.E9.99.B8.E3.80.8D.E4.B8.8A.E9.99.B8>

先日のとおり、神功皇后の船には帆がついてました。

アララト山の船のサイズがタンカーサイズですから、帆があれば、結構遠洋で出かけた可能性はあります。

> BC200年徐福伝説と関係している。N、O、> 古事記の基点は BC200年、下文より水穂の国は BC1700年からになる。> 水穂の国は C,D、N、O、Q

徐福の船は、船団ではないようですね。記載がないのでなんともいえませんが、3000人と五穀の種を乗せているのは、ノアの箱舟と同じタンカータイプの感じがします。

船団だとしたら、ちょっと違う書き方になるでしょう。五穀の種を乗せるというのは、なんとも旧約のノアの箱舟っぽい書き方ですね。旧約聖書の伝承していたのではないでしょう か? <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%90%E7%A6%8F#.E5.87.BA.E8.88.AA.E5.9C.B0>

いわゆる斉の地域にいた商人集団で、後に百済に渡るのですが、先のごとく、月氏の末裔 Q1 系統、インド・四川方面の同族と海のシルクロードでつながっていた可能性を感じます。

徐福の話は、その流れの話なのではないでしょうか。

Ads by Google ----- Re:人骨と DNA 分岐投稿者:秦野北斗 投稿日:2012年5月4日(金)00時05分9秒 返信・引用 編集済

管理人さんへのお返事です。

古事記の年代が明らかになるため、現在の知れている年代と大きくズレが生じます。 原因は卑弥呼の持ち込んだ欠史八代で年代特定に失敗している点です。 これから、年代の特定は中国史籍を使用します。

○系統はアステカ(中国(上海)から日本、南米への旅立ち)BC1700年 この当時に太平洋航路を知り、大型船を持っていた。 ノアの末裔、箱舟=ジャンクと考えたい。

<http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano23.htm> <http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano25.htm>

呉 (春秋) 司馬遷の『史記』紀元前 585年頃 - 紀元前 473年 日本に来ている。N、O、中国史籍と古事記に記されている。

BC200年徐福伝説と関係している。N、O、古事記の基点は BC200年、下文より水穂の国は BC1700年からになる。 水穂の国は C,D、N、O、Q

第1章 アメノワカヒコとキジ

さて、アマテラスオオミカミは、「千五百年も長く続いている、この豊かな葦原の水穂の国(あしはらのみずほのくに)=日本

の国)

http://www15.plala.or.jp/kojiki/kuniyuzuri/kuniyuzuri_01.html

Q1 系統の月氏は中国史籍 BC108 年に出てくる。月氏はどうも倭人 C,D、N、O、Q のようです。AD250~300 年 G,H,I,J、K(5 部族世代):ユダヤ(アトランティス)とシルクロードで混ざる。C,D、N、O、G,H,I,J、K、Q から Q1 系統が生まれた模様。

P、Q 系統がアトランティス以前に大西洋、太平洋を渡り南米に到達していた事になる。その後アトランティス。BC 2680~3000 のノア洪水で壊滅。Q 系統は一部、日本で生き残る。

H 系統は思わぬところに出現するかも。ユダヤ:G,H,I,J、K(5 部族世代)過去の痕跡ですな。

> インダス文明のモヘンジョダロは、どうもシュメール系のようですね。ドラビダ語を話していたそうですが、そのドラビダ語が、エラム語とかシュメール語、ウラル語、日本語系統とつながるようです。 >

- > エラム語
- > モヘンジョダロ
- > インダス文字
- > ドラヴィダ語
- > 年代からみて BC 2680 のノア洪水の生き残りですね。
- > Q 系統でしょうか。 >
- > 親元の P→Q 系統はウラル・アルタイ、シュメール、Q1 系統はアジアの月氏、Q2 系統はイスラエル、Q3 系統はエジプト・エチオピア・マヤでしょうから、その系統の文化の流れが南インドへ流れこんだのでしょうか。 >> しかし、ドラヴィダ語族は 2 億人もいるそうで、H 系統の領域ですね。H 系統はアトランティス時代のそれですから、P、Q 系統よりはるかに前ですし、C,D 系統よりは後の 4 万年前 - 1 万年前までの後期旧石器時代人・クロマニヨン人の領域となりそうです。

----- Re:人骨と DNA 分岐投稿者:管理人
投稿日:2012 年 5 月 3 日(木)22 時 04 分 6 秒 返信 引用 編集済

> No.456[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。 > 長江文明はアトランティスと同様に惑星ニビルで壊滅。

長江文明は古いですね。BC 7000-5000 ですから、O 系統発生前の C 系統と D 系統、F、K 系統あたりの文化となるのでしょうか。金属器こそないものの、カマドや土器とか、織機、笛があるのにも驚きです。

- > 縄文人 D、弥生人 C 系統と言っている D、C 系統は古縄文人ではないか。
- > モヘンジョダロの生き残り。東南アジア、中国、日本、千島に移動。 >
- > その後、NO から N と O、シベリア、青海省(アジア):天地開闢神話
- > 盤古神話、古代苗族

> 天地開闢神話 >

インダス文明のモヘンジョダロは、どうもシュメール系のようですね。ドラビダ語を話していたそうですが、そのドラビダ語が、エラム語とかシュメール語、ウラル語、日本語系統とつながるようです。

エラム語

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%A9%E3%83%A0%E8%AA%9E>

モヘンジョダロ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

%E3%83%A2%E3%83%98%E3%83%B3%E3%82%B8%E3%83%A7%E3%83%80%E3%83%AD
インダス文字

[http://ja.wikipedia.org/wiki/
%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%80%E3%82%B9%E6%96%87%E5%AD%97](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%80%E3%82%B9%E6%96%87%E5%AD%97)

ドラヴィダ語

[http://ja.wikipedia.org/wiki/
%E3%83%89%E3%83%A9%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%83%80%E8%AA%9E](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%89%E3%83%A9%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%83%80%E8%AA%9E)

年代からみて BC 2680 のノア洪水の生き残りですね。 Q 系統でしょうか。

親元の P→Q 系統はウラル・アルタイ、シュメール、Q1 系統はアジアの月氏、Q2 系統はイスラエル、Q3 系統はエジプト・エチオピア・マヤでしょうから、その系統の文化の流れが 南インドへ流れこんだのでしょうか。

しかし、ドラヴィダ語族は 2 億人もいるそうで、H 系統の領域ですね。H 系統はアトランティス時代のそれですから、P、Q 系統よりはるかに前ですし、C,D 系統よりは後の 4 万年前－ 1 万年前までの後期旧石器時代人・クロマニヨン人の領域となりそうです。

そうすると彼等の持つ洪水伝承はアトランティス時代のもので、その後ずっと空白があって、ノア洪水の後になってきたやってきた集団の文化となりそうですから、そうすると H 系統と

は別になりそうですが。

難しいですね、中東の Q 系統の文化と言語を携えながらも、原住民のドラヴィダ語族のそれを採用したのかもしれない。結局インダス文明は、その遺跡だけしか広まらなかったわけですね。遺跡の感じをみると、マヤやエジプト、シュメールのそれですし、人物像にもその系統の顔立ちに見えます。

それで、どうしてドラヴィダ語と日本語に共通性があるかなのですが、そもそもウラル・アルタイ語から派生したシュメールやエラム語、ドラビダ語の一部が、シベリアの Q 系統のそれで、その一派として Q1 系統として少数ながら朝鮮・日本へ渡っていった系統がいて、その月氏系の Q 系統が支配者になってしまったので、日本ではウラルアルタイ語が、基本文法 になってしまったのではないのでしょうか。

ただ単語そのものは、原住民の縄文 D、弥生 O 系統の単語を借用したのでしょう。彼等はおそらく本来は、中国系の文法を使用していたはず。一部アイヌ系にみられるツングース語なども混じっていたかもしれません。

ただ支配者層となった騎馬民族の Q1 系統は、ウラル語系だったので、最後に動詞がやってくる膠着語となったのでしょう。

こうみると、Q 系統は、神殿やピラミッドのような大きめの構造物をつくる技術があったように見えますね。

日本で突然、月氏系のクルガン墓そっくりな前方後円墳が出てくるのにも、一枚噛んでいる可能性を感じます。

方位ライン測定の件もそうですが、突然にああいうのは造れないと思うんです。測量や数学ができないといけません。

とにかく、BC3000 以降の Q、O 系統の大きな特徴として、文字と数字と幾何学の使用があり、その結果、非常に緻密で、数世代にもわたる技術の継承・積み重ね、発展が起こったものと感じます。

文字がないと、どうしてもアバウトな世界になりますね。縄文・弥生時代には文字がなかったもので、あまり変化や積み重ねが生じなかったのでしょう。

弥生末から古墳時代初期にかけて、急にその蓄積された技術や緻密さがでてくるんですね。おそらく神代文字はあったと思います。文字や数字・幾何学計算なしで、大型古墳の尺の使用や方位測量は無理でしょう。

おそらくきわめて緻密な設計図、労働量と人数・食料の計算、暦との兼ね合いなどが無いといけません。それは後代にも伝承されていたはず。

シメールは楔形文字ですね。エラム語もそれに近いそうです。 彼等は石板に掘り込んだわけですが、日本の場合は木板に書き込んだ可能性を感じます。ほとんど残らないでしょうね。

----- Re: 人骨と DNA 分岐 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 5 月 2 日(水)23 時 06 分 45 秒 返信引用 編集済

> No.455[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

長江文明はアトランティスと同様に惑星ニビルで壊滅。 長江文明(ちょうこうぶんめい)とは中国長江流域で起こった古代文明の総称。黄河文明と共に中国文明の代表とされる。文明の時期として紀元前 14000 年ごろから紀元前 1000 年頃 までが範囲に入る。後の楚・呉・越などの祖になっていると考えられる。

河姆渡遺跡

<http://www.kahaku.go.jp/special/past/japanese/ipix/5/5-24.html> 縄文人 D、弥生人 C 系統と言っている D、C 系統は古縄文人ではないか。

モヘンジョダロの生き残り。東南アジア、中国、日本、千島に移動。

その後、NO から N と O、シベリア、青海省(アジア):天地開闢神話 盤古神話、古代苗族 天地開闢神話

天地は鶏子(卵殻の中身)のように渾沌としていた、そのなかで盤古は誕生した。一万八千 年を経て、天地が開けると、陽(あきら)かで清らかな部分は天となり、暗く濁れた部分は地 となり、盤古はその中間に在って、一日に九回変化した。天では神、地では聖となる。天は日に 一丈高くなり、地は日に一丈厚くなり、盤古は日に一丈背が伸びた。このようにして一万八千 年を経て、天は限りなく高く、地は限りなく深くなり、盤古は伸長を極めた。 後に及んで三皇が出る。一にして数え始め、三にして立ち、五にして成り、七にして盛んとなり、九にして場所が定まる。それ故に、天と地は九万里、離れた。

九万里が単里(秦野距離)になる。約 4800 km バビロンから青海省の距離になる。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinwa/sinwa-1-banko.htm>

『古代苗族』 三苗 4 は江淮、荊州に在り、何度か乱を起した。 注 4;馬融は「国名なり」と言う。正義左傳に古より諸侯は王命を聴かず、虞に三苗あり、夏 に觀扈あり。孔安國が言うには「縉雲氏の後裔を諸侯となす。饕餮(食欲で貪る)と号する」。 呉起が言うには「三苗の国、左に洞庭湖、右に彭蠡」。案ずるに「洞庭は湖名(湖南省)、岳州巴陵の西南一里に在り、南に青草湖が連なる。彭蠡は湖名(江西省鄱陽湖)、江州潯陽県の 東南五十二里に在る。天子は北に在る故に、西に在る洞庭湖を左とし、東に在る彭蠡を右とする。今、江州、鄂州、岳州、三苗の地である」

夏(か、紀元前 2070 年頃 - 紀元前 1600 年頃)は、中国最古と伝承される王朝。夏后ともいう。 夏・殷・周を三代という。『史記』『竹書紀年』など中国の史書には初代の禹から末代の桀まで 14 世 17 代、471 年間続いたと記録されている。殷に滅ぼされた。従来、伝説とされてきたが、 近年、考古学資料の発掘により実在可能性が見直されてきている。

『古代苗族』と夏は紀元前 2600 年頃からになる。 <http://homepage2.nifty.com/watcher/hatano20.htm>

移動経路 D、C 系統は海伝い N、O 系統はシルクロード

> それらの集団の民族創造神話は、突然変異がX染色体に、骨と神経系・脳とに、総合的に行われた時点からはじまっていて、アダムとイブの骨の話じゃないですが、相当に特徴をもっている可能性があります。その脳構造にて必然的に適した形で、表現されていくのかもしれない

ません。

>

----- Re:人骨と DNA 分岐投稿者:管理人 投稿日:2012 年 5 月 2 日(水)19 時 23 分 42 秒 返信引用 編集済

> No.454[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > 渡来系の記録を列記します。まず、天地開闢神話から議論しますか。 >
- > NO から N と O,シベリア、青海省(アジア):天地開闢神話
- > 盤古神話、古代苗族
- > <http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinwa/library.htm>

特に渡来系については、NO,N と O について論議する必要があります。ただそれ以前の縄文人 D、弥生人 C 系統を前提にしておきたいところです。

こちらのサイトに朝鮮系遺伝子の話が出てます。古朝鮮や高句麗は、縄文系と同じD 系統の ようですね。 <http://blog.livedoor.jp/plus10a/archives/1153574.html#>

C 系統は、チンギス칸と同様ないわゆるしょうゆ顔で北方の満州あたりの遺伝子と同じで す。

これらの C,D という旧人系の 2 系統が弥生末期までに存在していたのでしょうか。そこにクロマニヨン・中国系の O 系統がやってくる。

文化的にも今までの弥生人のそれとはまったく異なる中国的な伝承を多くもってきたこと でしょう。

同じ中国から来た O 系統でも、中国北方系の O2B が多いようです。華南・ミャオ系は O2A とすると、天地開闢・盤古神話は彼等がもっていたかもしれません。

それで遺伝子系統と文化・知的な部分の比較をするさいに、Y-DNA の持つ意味を理解し ておく必要があります。

遺伝子座の突然変異の発生頻度は 17 世代だそうです。500 年くらいでしょうか。

<http://www.shikikaku.jp/explan/b-3.html>

XY 染色体は性染色体ですが、X 染色体は特に神経系のネットワーク作り、骨の形成にかかわってきます。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/X%E6%9F%93%E8%89%B2%E4%BD%93>

つまり脳と頭蓋骨の関係なのですが、これらはどちらか片方だけが大きくなっても小さくな っても機能しません。脳が小さいのに、頭蓋骨が大きいと水頭症みたいなおかしい頭の形に なるでしょう。

要するに、片方だけが突然変異するということはありませんということです。両方一緒に変 異しないとバランスが崩れるはずです。

だから X 染色体の神経構築部分と、骨形成部分は、一緒に突然に変異したはずで

さらに発展させると、脳に基づく精神構造と、骨の形成は一致するのであり、旧人系の脳に、 新人系の頭蓋骨が結合することはありませんでしょう。だから骨相をみると、性格がよくわ かります。しょうゆ顔の人は、弥生時代の農耕民族のように繊細で地道ですが、寒冷適応もあ ってあまりハデな行動に出ないとかいう感じです。

それで、下図のように、X 遺伝子は Y 遺伝子と異なり、母系でも遺伝しますから、最初にネアンデルタール人の世界にクロマニヨン人が男性が突然変異でできあがったとすると、その X Y のうちの X 遺伝子が優性遺伝た ったら、男性のみに出現し、そのうちに女性にも出現する ようになったはずで

劣性遺伝なら、おそらくここまでクロマニヨン系は広まらなかったでしょう。人類は相変わ らずネアンデルタール系の世界になってたはずで

たぶん、その脳と頭蓋骨の遺伝子は、縄文・弥生系と渡来系とでは混じらないので、今のどの 人の顔をみても、ほとんどどれか 3~4 種類の顔付に分類できるはずで

もちろん、肌の色とか、米食に適した長い腸を持つ内臓器官とか、体温調節する MT-DNA などは、かなり入り 混じっているはずですが、頭蓋骨と脳の構造だけは、元の創造当時のセッ トでないと、水頭症とかを引き起こ して、生存可能性が低くなるはずで

ただ、それは Y 染色体とは関係ないので、たとえば Y 染色体で D 系統の人が、本来 C 系統がもっていた頭蓋骨や脳構造を有している可能性があります。

ほかの民族と混じらない隔離・孤立した民族集団でないかぎり、混じっていくはずです。

それで渡来人がもたらした X 染色体、つまりクロマニヨン系と脳と頭蓋骨が、仮に優性遺伝 だったならば、そのうちに、みんな日本人がそのクロマニヨン人と同じ精神構造と骨格へと 統一されていくはずですが。

確かに江戸時代の人骨などをみると、クロマニヨン人系のそれに近づいているようですが、なおまだ縄文・弥生系の人が多く見かけることを考慮すると、完全な優性遺伝かどうかは疑問があります。

ともあれ、おそらく日本列島にわたってきた当初は、まだあまり混合してない状態でやって きているはずですから、現代日本人の骨相をみれば、だいたいどこからどういう民族がやってきて混合したかも確認できるはずですが。

そこで、まず D 系統、C 系統、O 系統、N 系統で、成立した当初の骨相(脳・精神構造)を探る 必要があります。

たとえば中南米のマヤ文明 Q 系統の骨相は、石像をみればすぐわかります。それ以前にいた 南方人的・アボリジニ的な石像とはぜんぜん違います。中東人に近い顔付きですね。エジプトのファラオ像にも似てますが、シュメール人の風貌との比較できそうです。

マヤ人の石人像

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Chac_Mool1.jpg

それ以前のオルメカ文明の石人像

http://members3.jcom.home.ne.jp/dandy2/works/works_14_2_f.html

また D 系統のアイヌ人の骨相は、彫りがふかく頭が大きく身長が低いなど、ネアンデルタール人の骨相を残しています。文字を使わない点も良く似てます。

N 系統は、シベリア方面から北海道・東北にわってきた続縄文人のようですが、他の D 系の縄文人とはまったく異なる系統のようです。ウデヘ族の親戚のようですね。

<http://www.okhotsk.org/news/oho-tukujin.html>

ウデヘ族はツングース語族で、元はウラル方面に多い N 系統も考慮したいところですが…。今のアイヌ語がツングース系との見方があるそうです。ミシハセと関係するようですね。

<http://blogs.yahoo.co.jp/rayciska/5641041.html>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%84%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%BC%E3%82%B9>

骨相を洗い出すのは大変かもしれません。日本に 10 パーセントくらいいる顔立ちのはずです。

それでさらにその頭蓋骨に収まった脳の構造、つまり精神構造まで類推してみたいところですが。

知的な部分では、先のような前頭葉の発展関係がありますが、精神構造を探る上では宗教観なども影響してくるかもしれません。

Q 系は、後のユダヤ教やシュメール、マヤに見られるような体系的で文字・数学とかかわる 宗教観ですね。

R 系は印欧語族なので、ギリシャ神話のような人物主体の感じでしょうか。

NO 系は。中国古代の伏羲・盤古神話や、ツングース系のシャーマニズムでしょうか。

C、D 系は、ネアンデルタール人のような壁画装飾や、縄文人の土偶祭祀にみられる宗教観かな？

特に前頭葉の発達、精神性や自立性・創造性ともかかわってくるので、宗教観に特徴が出てくる可能性があります。

それらの集団の民族創造神話は、突然変異が X 染色体に、骨と神経系・脳とに、総合的に行われた時点からはじまっていて、アダムとイブの骨の話じゃないですが、相当に特徴をもっている可能性があります。その脳構

造にて必然的に適した形で、表現されていくのかもしれ ません。

----- Re: 人骨と DNA 分岐 投稿者:秦野北斗
投稿日:2012 年 5 月 2 日(水)15 時 51 分 45 秒 返 信・引用 編集済

> No.453[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。 渡来系の記録を列記します。まず、天地開闢神話から議論しますか。

NO から N と O,シベリア、青海省(アジア):天地開闢神話 盤古神話、古代苗族
<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/sinwa/library.htm>

アステカ(中国(上海)から日本、南米への旅立ち)BC1700 年 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%B4%AA%E6%B0%B4>

古事記 日本書紀 BC1700 から AD600 年(日本の神話 BC200 から BC130 年?)

・呉 (春秋) 司馬遷の『史記』紀元前 585 年頃 - 紀元前 473 年 [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_\(%E6%98%A5%E7%A7%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%91%89_(%E6%98%A5%E7%A7%8B))

・徐福伝説 BC200 年 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%90%E7%A6%8F>

・中国史籍

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sadabe/kanbun/kanbun-mokuji.htm>

L,M.地中海(ユダヤ):黙示録 BC 数十~AD400 年 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A8%E3%83%8F%E3%83%8D%E3%81%AE%E9%BB%99%E7%A4%BA%E9%8C%B2>

L,M.地中海(ユダヤ)が倭国(日本)に渡来する。

>> Y-DNA 系統 の移動行程を推測する。紀元前 1700 年まで >> 20 万年前 >> A ネアンデルタール >
> B クロマニヨン

>> 6 万年前 >> F シュメル王朝、 >> C,DE:モヘンジョダロ >> G,H,I,J, K(5 部族世代):アトランティス
>> 紀元前 3000 年シュメール、(ノアの洪水、バベルの塔) > おそらく数万・数千年と非常に長いスパンで、同じ生活習慣を送りつづけていた縄文・弥生系に比して、渡来系が入ってきて、まったく異なる歴史を次々と塗り替え始めた背景には、上記のような気質の違いがあったものと感じます。 >> 結局のところ、Y-DNA 自体は交じり合わないものの、他の遺伝子は複雑に混合して、今の日本人が構成されていることを考慮すると、骨相も江戸時代あたりになると、かなりクロ マニヨンのようになっていきますね。 >> 日本人が持つその旧人と新人のふたつの性質の混合と分離を明らかにしていくことで、後の歴史展開も読めてくるかもしれません。

>

----- 人骨と DNA 分岐投稿者:管理人 投稿
日:2012 年 5 月 2 日(水)12 時 50 分 50 秒 返信・引 用 編集済

> No.452[元記事へ] 秦野北斗さんへのお返事です。

- > Y-DNA 系統 の移動行程を推測する。紀元前 1700 年まで
- > 20 万年前
- > A ネアンデルタール
- > B クロマニヨン
- > 6 万年前
- > F シュメル王朝、
- > C,DE:モヘンジョダロ
- > G,H,I,J, K(5 部族世代):アトランティス

- > 紀元前 3000 年シュメール、(ノアの洪水、バベルの塔)
- > L,M.地中海(エジプト)
- > NO から N と O,シベリア、青海省(アジア)
- > P から Q と R が分岐、東欧、南米
- > 紀元前 1700 年 >

さっそくお返事ありがとうございます。 ちょっと上記のご指摘は、時代を新しく見積もりすぎているような感じがしますが、頭蓋骨 の比較から考えてみました。

20 万年前~2 万年前までのネアンデルタール人の頭蓋骨と現生人類(クロマニヨン人) のそれとの比較。
ネアンデルタール系は、非常に彫りが深く、また脳容積が大きい。 http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Sapiens_neanderthal_comparison.jpg

縄文人とみなされる港川人の頭蓋骨。Y-DNA の D 系統。非常に濃い顔。

<http://research.kahaku.go.jp/department/anth/s-hp/s2.html>

弥生人の頭蓋骨との比較。Y-DNA の C 系統。チンギスカンの顔。

<http://www.kahaku.go.jp/special/past/kao-ten/kao/hensen/hensen02.html>

古墳時代人の頭蓋骨。O 系統、中国系の顔。

<http://www.kahaku.go.jp/special/past/kao-ten/kao/hensen/hensen02.html>

それでやはり、4 万年前からのクロマニヨン人発生以前の C,D 系統の頭蓋骨は、同時代の ネアンデルタール人の骨格に良く似ていることがわかります。

おそらくは、A・B のネグロイドから分岐した C,D,E、F 系統の世代にネアンデルタール人が属しており、特に欧州方面に多かった E 系統あたりがどうかと感じます。その時代の C、D 系統は、今でも日本人の大半を構成していますが、かなり古い系統だといえるでしょう。

古墳時代に入ってきた中国系のメイン遺伝子 O 系統の骨格は、クロマニヨン人のそれと非常に良く似ています。

同じくアイヌ系に多い N 系統ですが、こちらは北海道方面の縄文時代人あるいは、オホーツク文化人の骨格と関係するかもしれません。エミシにも新旧二種類いるということですね。 N 系統は O 系統と同じく、クロマニヨン以降の分岐です。 <http://www.sapmed.ac.jp/medm/7-30.html>

そうすると、日本人の大半は、C と D 系統ですから、旧人の子孫となりそうですね。180 センチでコーカソイド的な骨格を持つクロマニヨン人、新人の子孫は、後にやってきた O、N 系統で、これらが日本人の残り半分を構成してます。

旧人、新人という定義の仕方が悪いと思いますね。ともに人類なわけですから。

脳容積もむしろネアンデルタール系のほうが大きいですし、記憶力もよかったかもしれませんね。

ただクロマニヨンのほうがやや前頭葉の発達が見えそうです。

前頭葉は、自発性や総合的な判断能力・発想性に関する部分ですが、この辺で両者に相違があるのかもしれませんが。会話・コミュニケーション能力、長期記憶等とも関係しているようです。

前頭葉

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%8D%E9%A0%AD%E8%91%89>

おそらく数万・数千年と非常に長いスパンで、同じ生活習慣を送りつづけていた縄文・弥生系に比して、渡来系

が入ってきて、まったく異なる歴史を次々と塗り替え始めた背景には、上記のような気質の違いがあったものと感じます。

結局のところ、Y-DNA 自体は交じり合わないものの、他の遺伝子は複雑に混合して、今の日本人が構成されていることを考慮すると、骨相も江戸時代あたりになると、かなりクロマニヨンのようになっていきますね。

日本人が持つその旧人と新人のふたつの性質の混合と分離を明らかにしていくことで、後の歴史展開も読めてくるかもしれません。

----- Re: DNA 分岐とミランコビッチサイクル
投稿者:秦野北斗 投稿日:2012 年 5 月 1 日 (火)21 時 45 分 16 秒 返信・引用編集済

> No.451[元記事へ] 管理人さんへのお返事です。

Y-DNA 系統の移動行程を推測する。紀元前 1700 年まで 20 万年前 A ネアンデルタール B クロマニヨン

6 万年前

F シュメル王朝、 C,DE:モヘンジョダロ G,H,I,J, K(5 部族世代):アトランティス 紀元前 3000 年シュメール、(ノアの洪水、バベルの塔) L,M.地中海(エジプト) NO から N と O,シベリア、青海省(アジア) P から Q と R が分岐、東欧、南米 紀元前 1700 年

> あと、これらのミランコビッチサイクルを、年輪みたいに人の DNA 等が記憶している可能性を感じます。特定の時期がくると、突然の気候変化にむけて先回りして、環境適応のために DNA も変異しやすくなったりするのではないのでしょうか。 >

> 次に変異する箇所も決まっているかもしれません。脳の言語野のどここの部分とかいう具合にですね。もっともその辺はあるいは神の領域ですから、DNA 以外の準備要素があるのかもしれません。